2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ（日）〈＊A〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安達　太郎	

テーマ

言語的特徴からキャラクターを考える

授業の到達目標

1）マンガやアニメの登場人物のキャラクターを日本語学的な手法で分析することができるようになる。
2）データ収集と分析，グループ討論，レジュメの作成，口頭発表という一連の作業をとおして，「勉強」とは違う「研究」のあり方を理解する。
3）他の受講生の発表に対して積極的に質問を行うことによって，ゼミに対する能動的な関わり方を身につける。

授業の概要

ある種の言語的特徴が特定の人物類型に結びついているという現象は「役割語」と呼ばれて，注目を集めている。この授業ではこの概念を活用してマンガやアニメの登場人物のキャラクター分析を行っていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

参考書にあげた図書や論文集に挑戦してください。専門書ではありますが，マンガやアニメ，小説といった分析対象を身近に感じながら研究の最前線に触れることができます。

内　容

第1回　導入：役割語からマンガやアニメを見る
第2回　役割語による分析例
第3回　グループワーク（1）
第4回　グループワーク（2）
第5回　グループプレゼンテーション
第6回　個人発表のためのグループワーク（1）
第7回　個人発表のためのグループワーク（2）
第8回　個人発表のためのグループワーク（3）
第9回　受講生による報告（1）
第10回　受講生による報告（2）
第11回　受講生による報告（3）
第12回　受講生による報告（4）
第13回　受講生による報告（5）
第14回　受講生による報告（6）
第15回　ゼミのまとめ／レポートの書き方

履修上の注意点

グループでの活動を重視します。発表があたっていないときでも，さまざまな役割を果たすことを求めます。

教科書

参考書

ヴァーチャル日本語　役割語の謎
著者：　金水敏
出版社：岩波書店
出版年：2003年　　ISBN：978-4000068277

役割語研究の地平
著者：　金水敏編
出版社：くろしお出版
出版年：2007年　　ISBN：978-4874243961

役割語研究の展開
著者：　金水敏編
出版社：くろしお出版
出版年：2011年　　ISBN：978-4874245224

a10201a110

〈役割語〉小辞典

著者: 金水敏編

出版社: 研究社

出版年: 2014年　　ISBN: 978-4767491134

日本語社会のぞきキャラくり

著者: 定延利之

出版社: 三省堂

出版年: 2011年　　ISBN: 978-385365251

成績評価

試験・レポート（ 30% ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 40% ）
参加度（ 30% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ（日）＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　重松　恵美	

テーマ

近現代小説の研究

授業の到達目標

1. 小説作品および参考文献の読解。
2. 調査研究、資料収集。
3. 収集資料と考察の整理。発表資料の作成。
4. 意見発表と意見交換。

授業の概要

近現代小説についての研究発表と質疑応答を行なう授業。発表担当者は、テキストを読解し、参考資料を収集し、問題点を整理して、発表資料を作成し、口頭発表する。発表後は全員で作品および発表内容について討論する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストを熟読すること。その際必ず国語辞典等を参照すること。
レジュメ等の配布資料をファイリングし、参考資料として活用すること。

内　容

第1回　導入1（自己紹介、発表作品と日程の決定）
第2回　導入2（作品読解と調査研究の方法）
第3回　導入3（レジュメの作り方、発表準備）
第4回　発表1　芥川龍之介「杜子春」
第5回　発表2　梶井基次郎「冬の日」
第6回　発表3　太宰治「ヴィヨンの妻」
第7回　発表4　宮沢賢治「風の又三郎」
第8回　発表5　前半まとめ、レポートの書き方
第9回　発表6　宮沢賢治「注文の多い料理店」ほか
第10回　発表7　太宰治「桜桃」ほか
第11回　発表8　芥川龍之介「蜘蛛の糸」ほか
第12回　発表9　芥川龍之介「トロッコ」ほか
第13回　発表10　梶井基次郎「檸檬」ほか
第14回　発表11　梶井基次郎「城のある町にて」
第15回　発表12　後半まとめ、レポート提出

履修上の注意点

テキストを持参しない場合、意見交換に参加しない場合は、欠席とみなす。
やむを得ない事情で発表を欠席する場合は事前連絡し、日を改めて発表すること。

教科書

蜘蛛の糸
著者:　芥川龍之介
出版社:　角川春樹事務所（ハルキ文庫）
出版年:　2011　　ISBN:　978-4-7584-3540

檸檬
著者:　梶井基次郎
出版社:　角川春樹事務所（ハルキ文庫）
出版年:　2011　　ISBN:　978-4-7584-3544

桜桃
著者:　太宰治
出版社:　角川春樹事務所（ハルキ文庫）
出版年:　2011　　ISBN:　978-4-7584-3547

a10201a112

注文の多い料理店

著者: 宮沢賢治

出版社: 角川春樹事務所(ハルキ文庫)

出版年: 2012 ISBN: 978-4-7584-3656

参考書

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 40% ） 授業中発表等（ 40% ）

参加度 （ 20% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ（日）＜＊C＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　林　久美子	

テーマ

異界の人気者を古典文学でつかまえる

授業の到達目標

・酒呑童子や玉藻の前、スサノヲなど、ゲームで有名になっているキャラクターがどこから来たかを知る。
・日本の歴史や風土と精神文化について考える。
・古典文学に触れてみる。

授業の概要

リストアップされたキャラクターから各自で好きなものを選び、神話や伝説、文学作品においてそれぞれがどのように語られているかを調べ、発表する。
なお、1回を学外研修とする場合があります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

現代語訳で構わないので作品の本文を読んでください。レジュメはLAのチェックを受け、発表後教員のコメントを受け取る。

内　容

第1回　進め方についての解説とキャラクターの選択
第2回　図書館ガイダンス
第3回　発表　1
第4回　〃　2
第5回　〃　3
第6回　〃　4
第7回　〃　5
第8回　〃　6
第9回　〃　7
第10回　〃　8
第11回　〃　9
第12回　〃　10
第13回　〃　11
第14回　〃　12
第15回　まとめ

履修上の注意点

事前の連絡なく発表をキャンセルした場合は単位を認めることができません。発表準備は早めにすること。

教科書

参考書

日本異界絵巻
著者:　小松和彦、宮田登ほか
出版社: ちくま文庫
出版年: 1999　　ISBN:

日本妖怪異聞録
著者:　小松和彦
出版社: 小学館ライブラリー
出版年: 1995　　ISBN:

古事記 ほか
著者:
出版社: 新編日本古典文学全集
出版年: (1997)　　ISBN:

a10201a113

御伽草子集　ほか

著者:

出版社: 日本古典文学全集

出版年: (1974)　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 60 ）

参加度 （ 40 ）

参加度には受講態度(積極性)を含みます。

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ（日）＜＊D＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾西　正成	

テーマ

書の基本の総合的学習

授業の到達目標

書を理解し、書を学んでいくためのさまざまな方法や問題など、基本的な知識、技法の修得をめざす。

授業の概要

書の基本に関する講義と実習。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

多くの書に接し鑑賞する機会を持つこと。特に古典の臨書をしっかりすること、書の参考書を多く読むこと。

内　　容

第1回　ガイダンスと研究倫理について。
第2回　書学習のための心構え。書道における用語の説明
第3回　書とは何か。書の性格。
第4回　書とは何か。書の特徴。
第5回　書の今日的意味。これからの書。
第6回　書の線、造形について
第7回　墨の魅力。墨色について
第8回　姿勢、執筆、用筆、運筆の研究。
第9回　筆について。
第10回　表具について。
第11回　臨書と創作について
第12回　鑑賞学について
第13回　京都に残された書人の名品鑑賞（美術館等）
第14回　現代の書人の作品鑑賞（美術館等）
第15回　まとめ。※なお、この授業では必要に応じて学外授業および外部講師による講演会を行うことがあります。

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業および外部講師による講演会を行うことがあります。

教科書

書の古典と理論
著者:　全国大学書道学会
出版社: 光村図書
出版年:　　ISBN:

参考書

授業で紹介
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 60 ）　　授業中発表等　（ 10 ）
参加度　（ 30 ）
レポート、授業での取り組み、出席率など総合的に判断して評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ（日）〈＊A〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　重松　恵美	

テーマ

近現代小説の研究

授業の到達目標

1．小説作品および参考文献の読解。2．調査研究、資料収集。3．収集資料と考察の整理。発表資料の作成。4．意見発表と意見交換。

授業の概要

近現代小説についての研究発表と質疑応答を行なう授業。発表担当者は、テキストを読解し、参考資料を収集し、問題点を整理して、発表資料を作成し、口頭発表する。発表後は全員で作品および発表内容について討論する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストを熟読すること。その際必ず国語辞典等を参照すること。レジュメ等の配布資料をファイリングし、参考資料として活用すること。

内　　容

第1回　導入1（自己紹介、発表作品と日程の決定）
第2回　導入2（作品読解と調査研究の方法）
第3回　導入3（レジュメの作り方、発表準備）
第4回　発表1　芥川龍之介「杜子春」
第5回　発表2　梶井基次郎「冬の日」
第6回　発表3　太宰治「ヴィヨンの妻」
第7回　発表4　宮沢賢治「風の又三郎」
第8回　発表5　前半まとめ、レポートの書き方
第9回　発表6　宮沢賢治「注文の多い料理店」ほか
第10回　発表7　太宰治「桜桃」ほか
第11回　発表8　芥川龍之介「蜘蛛の糸」ほか
第12回　発表9　芥川龍之介「トロッコ」ほか
第13回　発表10　梶井基次郎「檸檬」ほか
第14回　発表11　梶井基次郎「城のある町にて」
第15回　発表12　後半まとめ、レポート提出

履修上の注意点

テキストを持参しない場合、意見交換に参加しない場合は、欠席とみなす。やむを得ない事情で発表を欠席する場合は事前連絡し、日を改めて発表すること。

教科書

蜘蛛の糸
著者：　芥川龍之介
出版社：角川春樹事務所（ハルキ文庫）
出版年：2011　　ISBN：978-4-7584-3540

檸檬
著者：　梶井基次郎
出版社：角川春樹事務所（ハルキ文庫）
出版年：2011　　ISBN：978-4-7584-3544

桜桃
著者：　太宰治
出版社：角川春樹事務所（ハルキ文庫）
出版年：2011　　ISBN：978-4-7584-3547

注文の多い料理店
著者：　宮沢賢治
出版社：角川春樹事務所（ハルキ文庫）
出版年：2012　　ISBN：978-4-7584-3656

a10201a250

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）	授業中発表等 （ 40% ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ（日）＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　林　久美子	

テーマ

異界の人気者を古典文学でつかまえる

授業の到達目標

・酒呑童子や玉藻の前、スサノヲなど、ゲームで有名になっているキャラクターがどこから来たかを知る。
・日本の歴史や風土と精神文化について考える。
・古典文学に触れてみる。

授業の概要

リストアップされたキャラクターから各自で好きなものを選び、神話や伝説、文学作品においてそれぞれがどのように語られているかを調べ、発表する。
なお、1回を学科講演会に振り替えるほか、学外研修を行う場合があります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

元ネタは、現代語訳で構わないので本文を読んでください。

内　　容

第1回　進め方についての解説とキャラクターの選択
第2回　図書館ガイダンス
第3回　発表　1
第4回　〃　2
第5回　〃　3
第6回　〃　4
第7回　〃　5
第8回　〃　6
第9回　〃　7
第10回　〃　8
第11回　〃　9
第12回　〃　10
第13回　〃　11
第14回　〃　12
第15回　まとめ

履修上の注意点

事前の連絡なく発表をキャンセルした場合は単位を認めることができません。発表準備は早めにすること。

教科書

参考書

日本異界絵巻
著者:　小松和彦、宮田登ほか
出版社:　ちくま文庫
出版年:　1999　　ISBN:

日本妖怪異聞録
著者:　小松和彦
出版社:　小学館ライブラリー
出版年:　1995　　ISBN:

御伽草子　ほか
著者:
出版社:　日本古典文学全集
出版年:　1974　　ISBN:

a10201a252

古事記 ほか

著者:

出版社: 新編日本古典文学全集

出版年: 1997 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ） 小テスト（ 0 ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ 60 ）

参加度 （ 40 ）

参加度には受講態度(積極性)を含みます。

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ（日）＜＊C＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安達　太郎	

テーマ

言語的特徴からキャラクターを考える

授業の到達目標

1）マンガやアニメの登場人物のキャラクターを日本語学的な手法で分析することができるようになる。
2）データ収集と分析，グループ討論，レジュメの作成，口頭発表という一連の作業をとおして，「勉強」とは違う「研究」のあり方を理解する。
3）他の受講生の発表に対して積極的に質問を行うことによって，ゼミに対する能動的な関わり方を身につける。

授業の概要

ある種の言語的特徴が特定の人物類型に結びついているという現象は「役割語」と呼ばれて，注目を集めている。この授業ではこの概念を活用してマンガやアニメの登場人物のキャラクター分析を行っていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

参考書にあげた図書や論文集に挑戦してください。専門書ではありますが，マンガやアニメ，小説といった分析対象を身近に感じながら研究の最前線に触れることができます。

内　容

第1回　導入：役割語からマンガやアニメを見る
第2回　役割語による分析例
第3回　グループワーク（1）
第4回　グループワーク（2）
第5回　グループプレゼンテーション
第6回　個人発表のためのグループワーク（1）
第7回　個人発表のためのグループワーク（2）
第8回　個人発表のためのグループワーク（3）
第9回　受講生による報告（1）
第10回　受講生による報告（2）
第11回　受講生による報告（3）
第12回　受講生による報告（4）
第13回　受講生による報告（5）
第14回　受講生による報告（6）
第15回　ゼミのまとめ／レポートの書き方

履修上の注意点

グループでの活動を重視します。発表があたっていないときでも，さまざまな役割を果たすことを求めます。

教科書

参考書

ヴァーチャル日本語　役割語の謎
著者：　金水敏
出版社：岩波書店
出版年：2003年　　ISBN：978-4000068277

役割語研究の地平
著者：　金水敏編
出版社：くろしお出版
出版年：2007年　　ISBN：978-4874243961

役割語研究の展開
著者：　金水敏編
出版社：くろしお出版
出版年：2011年　　ISBN：978-4874245224

a10201a253

〈役割語〉小辞典

著者: 金水敏編

出版社: 研究社

出版年: 2014年　　ISBN: 978-4767491134

日本語社会のぞきキャラくり

著者: 定延利之

出版社: 三省堂

出版年: 2011年　　ISBN: 978-385365251

成績評価

試験・レポート（ 30% ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 40% ）
参加度（ 30% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ（日）＜＊D＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　尾西 正成

テーマ

書の基本の総合的学習

授業の到達目標

書を理解し、書を学んでいくためのさまざまな方法や問題など、基本的な知識と技法の修得をめざす。

授業の概要

書の基本に関する講義と実習。特に王羲之を中心に据えて、これから学ぶための基礎的な用法を習得する

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

多くの書に接する機会を持つこと。臨書をしっかりすること。また書に関する参考書を多く読み、書への理解を深めること。

内　容

第1回　ガイダンス・研究倫理について
第2回　書体と書風
第3回　篆書・隷書の鑑賞と表現。
第4回　王羲之の書　姨母帖と初月帖
第5回　王羲之の書　喪乱帖
第6回　王羲之の書　孔侍中帖
第7回　王羲之の書　蘭亭序
第8回　王羲之の書　集王聖教序
第9回　王羲之の書　興福寺断碑
第10回　王羲之の書　十七帖
第11回　王羲之の書　淳化閣帖
第12回　王羲之の書　楽毅論
第13回　王羲之を学んだ歴代の書人
第14回　美術館等での書の名品鑑賞
第15回　まとめ。　※なお、この授業では必要に応じて外部講師による特別講演会を行なうことがある。

履修上の注意点

※なお、この授業では必要に応じて外部講師による特別講演会を行なうことがある。

教科書

書聖　王羲之の書
著者:　吉川蕉仙
出版社:　二玄社
出版年:　2013　　ISBN:

参考書

授業で紹介
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 30 ）
レポート、授業での取り組み、出席率など総合的に判断して評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅰ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　20
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾西　正成	

テーマ

楷書の書法を理解し、表現力を身につける

授業の到達目標

初唐の三大家を中心に楷書の書美を習得する。中国初唐の時代に、欧陽詢・虞世南・※遂良の三大家によって、美しく整った所の楷書が完成する。三大家の書はそれぞれが、個性豊かなものである。―書は人なり―と云う言葉があるが、書人とその書かれた文字に触れながら、書の美、書の奥深さ、書の個性を味わいながら進めて行きたい。

授業の概要

楷書法の基本用筆と様々な個性的な楷書古典の魅力を探る

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

条幅形式での臨書や倣書作品の課題を設ける。また美術館などで開催される書展を鑑賞，又そのレポート提出。夏期休暇時には課題あり

内　容

第1回　ガイダンス・文房四宝・研究倫理について
第2回　楷書の成立と変遷
第3回　孔子廟堂碑の基本点画
第4回　孔子廟堂碑の基本点画
第5回　孔子廟堂碑　半紙臨書
第6回　孔子廟堂碑　半切臨書
第7回　条幅臨書作品の互評会を行う
第8回　京都に残り書の名品の鑑賞（博物館等）
第9回　関中本千字文　基本点画
第10回　関中本千字文　半紙臨書
第11回　関中本千字文　半切臨書
第12回　関中本千字文　横作品
第13回　条幅臨書作品の互評会を行う
第14回　倣書作品の制作
第15回　現代の書人の作品鑑賞（美術館等）

履修上の注意点

書の研究や勉強に値する展覧会や寺院の公開などがあれば積極的に出向き、鑑賞したい。

教科書

中国法書選32孔子廟堂碑
著者:
出版社: 二玄社
出版年: 1990　　ISBN:
中国法書選28関中本千字文
著者:
出版社: 二玄社
出版年: 1990　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（0）　　小テスト（0）
授業中課題（80）　　授業中発表等（0）
参加度（20）
授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい

2018 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅰ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　20
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾西　正成	

テーマ

楷書の書法を理解し、表現力を身につける

授業の到達目標

初唐の三大家を中心に楷書の書美を習得する。中国初唐の時代に、欧陽詢・虞世南・※遂良の三大家によって、美しく整った所の楷書が完成する。三大家の書はそれぞれが、個性豊かなものである。―書は人なり―と云う言葉があるが、書人とその書かれた文字に触れながら、書の美、書の奥深さ、書の個性を味わいながら進めて行きたい。

授業の概要

楷書法の基本用筆と様々な個性的な楷書古典の魅力を探る

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

条幅形式での臨書や倣書作品の課題を設ける。また美術館などで開催される書展を鑑賞，又そのレポート提出。夏期休暇時には課題あり

内　容

第1回　ガイダンス・文房四宝・研究倫理について
第2回　楷書の成立と変遷
第3回　孔子廟堂碑の基本点画
第4回　孔子廟堂碑の基本点画
第5回　孔子廟堂碑　半紙臨書
第6回　孔子廟堂碑　半切臨書
第7回　条幅臨書作品の互評会を行う
第8回　京都に残り書の名品の鑑賞（博物館等）
第9回　関中本千字文　基本点画
第10回　関中本千字文　半紙臨書
第11回　関中本千字文　半切臨書
第12回　関中本千字文　横作品
第13回　条幅臨書作品の互評会を行う
第14回　倣書作品の制作
第15回　現代の書人の作品鑑賞（美術館等）

履修上の注意点

書の研究や勉強に値する展覧会や寺院の公開などがあれば積極的に出向き、鑑賞したい。

教科書

中国法書選32孔子廟堂碑
著者:
出版社: 二玄社
出版年: 1990　　ISBN:
中国法書選28関中本千字文
著者:
出版社: 二玄社
出版年: 1990　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（0）　　小テスト（0）
授業中課題（80）　　授業中発表等（0）
参加度（20）
授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい

2018 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅱ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　20
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾西　正成	

テーマ

楷書の書法を理解し、表現力を身につける。

授業の到達目標

初唐の三大家を中心に楷書の書美を習得する。初唐の三大家の個性豊かな書美、書の奥深さを味わいながら進めていく。北魏『張猛龍碑』と・遂良『雁塔聖教序』を、半紙・半切に臨書する。

授業の概要

楷書法の多様な展開を学び、個性的な楷書古典の魅力を探る

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

展覧会などの鑑賞、又そのレポート提出。

内　容

第1回　南北朝の書流についてのガイダンス・研究倫理について
第2回　張猛龍碑について
第3回　張猛龍碑の基本点画
第4回　張猛龍碑　半紙臨書
第5回　張猛龍碑　半切臨書
第6回　条幅臨書作品の互評会
第7回　京都に残ろ書の名品の鑑賞（寺院等）
第8回　※遂良の楷書について
第9回　雁塔聖教序の基本点画
第10回　雁塔聖教序　半紙臨書
第11回　雁塔聖教序　半切臨書
第12回　条幅臨書作品の互評会
第13回　魏晋小楷を中心として
第14回　顔真卿の楷書
第15回　楷書による創作作品の互評会

履修上の注意点

書の研究や勉強に値する展覧会や寺院の公開などがあれば積極的に出向き、鑑賞したい。

教科書

中国法書選23張猛龍碑
著者:
出版社: 二玄社
出版年: 1990　　ISBN:
中国法書選34雁塔聖教序
著者:
出版社: 二玄社
出版年: 1990　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 80 ）	授業中発表等（ 0 ）

参加度（ 20 ）

授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい

2018 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅱ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　20
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾西　正成	

テーマ

楷書の書法を理解し、表現力を身につける。

授業の到達目標

初唐の三大家を中心に楷書の書美を習得する。初唐の三大家の個性豊かな書美、書の奥深さを味わいながら進めていく。北魏『張猛龍碑』と・遂良『雁塔聖教序』を、半紙・半切に臨書する。

授業の概要

楷書法の多様な展開を学び、個性的な楷書古典の魅力を探る

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

展覧会などの鑑賞、又そのレポート提出。

内　容

第1回　南北朝の書流についてのガイダンス・研究倫理について
第2回　張猛龍碑について
第3回　張猛龍碑の基本点画
第4回　張猛龍碑　半紙臨書
第5回　張猛龍碑　半切臨書
第6回　条幅臨書作品の互評会
第7回　京都に残ろ書の名品の鑑賞（寺院等）
第8回　※遂良の楷書について
第9回　雁塔聖教序の基本点画
第10回　雁塔聖教序　半紙臨書
第11回　雁塔聖教序　半切臨書
第12回　条幅臨書作品の互評会
第13回　魏晋小楷を中心として
第14回　顔真卿の楷書
第15回　楷書による創作作品の互評会

履修上の注意点

書の研究や勉強に値する展覧会や寺院の公開などがあれば積極的に出向き、鑑賞したい。

教科書

中国法書選23張猛龍碑
著者:
出版社: 二玄社
出版年: 1990　　ISBN:
中国法書選34雁塔聖教序
著者:
出版社: 二玄社
出版年: 1990　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 80 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 20 ）
授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい

2018 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅲ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　20
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　二三	

テーマ

臨書を中心とした基本的なかな書法の研究。

授業の到達目標

基本的なかな書法の修得。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

豊かな表現力の養成には徹底した習熟が大切。自宅で必ず復習と予習を重ねること。

内　　容

第1回　高野切について
第2回　高野切第三種の書について
第3回　高野切第三種の臨書①〈用字・造形・連綿法等〉
第4回　高野切第三種の臨書②〈用字・造形・連綿法等〉
第5回　高野切第三種の臨書③〈用字・造形・連綿法等〉
第6回　高野切第三種の臨書①〈線運動・墨法・構成等〉
第7回　高野切第三種の臨書②〈線運動・墨法・構成等〉
第8回　高野切第三種の臨書③〈線運動・墨法・構成等〉
第9回　高野切第三種の背臨
第10回　高野切第三種の集字
第11回　高野切第三種の倣書
第12回　高野切第一種の書について
第13回　高野切第一種の臨書①〈用字・造形・連綿法等〉
第14回　高野切第一種の臨書②〈用字・造形・連綿法等〉
第15回　高野切第一種の臨書③〈用字・造形・連綿法等〉

履修上の注意点

教科書

日本名筆選「高野切第三種」
著者:
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:
日本名筆選「高野切第一種」
著者:
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 80 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 20 ）
授業中課題には提出物とレポートを含む 授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

2018 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅲ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　20
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　二三	

テーマ

臨書を中心とした基本的なかな書法の研究。

授業の到達目標

基本的なかな書法の修得。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

豊かな表現力に養成には徹底した習熟が大切。自宅で必ず復習と予習を重ねること。

内　容

第1回　高野切について
第2回　高野切第三種の書について
第3回　高野切第三種の臨書①〈用字・造形・連綿法等〉
第4回　高野切第三種の臨書②〈用字・造形・連綿法等〉
第5回　高野切第三種の臨書③〈用字・造形・連綿法等〉
第6回　高野切第三種の臨書①〈線運動・墨法・構成等〉
第7回　高野切第三種の臨書②〈線運動・墨法・構成等〉
第8回　高野切第三種の臨書③〈線運動・墨法・構成等〉
第9回　高野切第三種の背臨
第10回　高野切第三種の集字
第11回　高野切第三種の倣書
第12回　高野切第一種の書について
第13回　高野切第一種の臨書①〈用字・造形・連綿法等〉
第14回　高野切第一種の臨書②〈用字・造形・連綿法等〉
第15回　高野切第一種の臨書③〈用字・造形・連綿法等〉

履修上の注意点

教科書

日本名筆選「高野切第三種」
著者:
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:
日本名筆選「高野切第一種」
著者:
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 80 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 20 ）
授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

2018 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅳ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　20
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　二三	

テーマ

臨書を中心とした基本的な書法の研究。

授業の到達目標

基本的なかな書法の修得。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

豊かな表現力の養成には徹底した習熟が大切。自宅で必ず復習と予習を重ねること。

内　　容

第1回　高野切第一種の臨書①<線運動・墨法・構成等>
第2回　高野切第一種の臨書②<線運動・墨法・構成等>
第3回　高野切第一種の臨書③<線運動・墨法・構成等>
第4回　高野切第一種の背臨
第5回　高野切第一種の集字
第6回　高野切第一種の倣書
第7回　寸松庵色紙について
第8回　寸松庵色紙の臨書①<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>
第9回　寸松庵色紙の臨書②<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>
第10回　寸松庵色紙の臨書③<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>
第11回　寸松庵色紙の臨書④<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>
第12回　寸松庵色紙の集字
第13回　寸松庵色紙の倣書
第14回　寸松庵色紙の倣書
第15回　寸松庵色紙の倣書

履修上の注意点

教科書

日本名筆選「高野切第一種」
著者:
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:
日本名筆選「寸松庵色紙」
著者:
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 80 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 20 ）
授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

2018 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅳ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　20
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　二三	

テーマ

臨書を中心とした基本的なかな書法の研究。

授業の到達目標

基本的なかな書法の修得。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

豊かな表現力の養成には徹底した習熟が大切。自宅で必ず復習と予習を重ねること。

内　　容

第1回　高野切第一種の臨書①<線運動・墨法・構成等>
第2回　高野切第一種の臨書②<線運動・墨法・構成等>
第3回　高野切第一種の臨書③<線運動・墨法・構成等>
第4回　高野切第一種の背臨
第5回　高野切第一種の集字
第6回　高野切第一種の倣書
第7回　寸松庵色紙について
第8回　寸松庵色紙の臨書①<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>
第9回　寸松庵色紙の臨書②<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>
第10回　寸松庵色紙の臨書③<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>
第11回　寸松庵色紙の臨書④<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>
第12回　寸松庵色紙の集字
第13回　寸松庵色紙の倣書
第14回　寸松庵色紙の倣書
第15回　寸松庵色紙の倣書

履修上の注意点

教科書

日本名筆選「高野切第一種」
著者:
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:
日本名筆選「寸松庵色紙」
著者:
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 80 ）	授業中発表等（ 0 ）

参加度（ 20 ）

授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語学概説 I**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鳥谷　善史	

テーマ

日本語研究の研究分野と研究成果について概説する。

授業の到達目標

日本語学の基本的な概念や用語について理解する。特に、「音声・音韻」・「文字・表記」について、それぞれの研究内容や研究方法及び用語について理解し、今後、日本語研究を進めるための基礎的・基本的知識を習得する。

授業の概要

日本語学の研究分野である「音声・音韻」・「文字・表記」について講義をおこなう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：受講前にテキストを読み、理解できない専門用語等を確認してから、授業に臨むこと。復習：それぞれの内容や用語が説明できるか各自で確認すること。

内　容

第1回　ガイダンス　日本語と日本語学 言語研究とその分野1
第2回　言語研究とその分野2 日本語の系統
第3回　音声・音韻1
第4回　音声・音韻2
第5回　音声・音韻3
第6回　音声・音韻4
第7回　音声・音韻5
第8回　音声・音韻6
第9回　音声・音韻7　まとめと小テスト
第10回　文字・表記1
第11回　文字・表記2
第12回　文字・表記3
第13回　文字・表記4
第14回　文字・表記5
第15回　文字・表記6　まとめと小テスト

履修上の注意点

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。（遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内）　受講生の多寡により授業計画の一部を変更することがある。特に、小テストの日程。

教科書

図解日本語
著者：　沖森卓也他著
出版社：三省堂
出版年：2006　　ISBN：9784385362427

参考書

日本語概説
著者：　沖森卓也編
出版社：朝倉書店
出版年：2010　　ISBN：9784254515237

日本語学のしくみ
著者：　町田健編
出版社：研究社
出版年：2001　　ISBN：432738304X

改訂版日本語要説
著者：　工藤浩他著
出版社：ひつじ書房
出版年：2009　　ISBN：9784894764682

a10201d110

日本語概説
著者: 渡辺実著
出版社: 岩波書店
出版年: 1996 ISBN: 4000260022

ベーシック現代の日本語学
著者: 日野資成
出版社: ひつじ書房
出版年: 2009 ISBN: 9784894764385

朝倉日本語講座全10巻
著者: 北原保雄監修
出版社: 朝倉書店
出版年: 2002-5 ISBN: 9784254515114

概説日本語学 改訂版
著者: 飯田晴巳他編
出版社: 明治書院
出版年: 2007 ISBN: 9784625704017

図解 日本の語彙
著者: 沖森卓也他
出版社: 三省堂
出版年: 2011 ISBN: 9784385364797

成績評価

試験・レポート（ 0 ）
小テスト（ 60 ）
授業中課題（ ）
授業中発表等（ 10 ）
参加度 （ 30 ）
参加度は、積極的な受講に対してのみ評価するものである。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語学概説Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鳥谷　善史	

テーマ

日本語研究の研究分野と研究成果について概説する

授業の到達目標

日本語学の基本的な概念や用語について理解する。特に、「語彙」・「文法」・「現代生活と日本語（待遇表現、位相語、文章と文体、他）」について、その研究内容や研究方法及び用語について理解し、今後、日本語研究を進めるための基礎的・基本的知識を習得する。

授業の概要

日本語学の研究分野である、「語彙」・「文法」・「現代生活と日本語（待遇表現、位相語、文章と文体、他）」について講義を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：受講前にテキストを読み、理解できない専門用語等を確認してから、授業に臨むこと。復習：それぞれの内容や用語が説明できるか各自で確認すること。

内　容

第1回　ガイダンス　語彙1
第2回　語彙2
第3回　語彙3
第4回　語彙4
第5回　語彙5
第6回　語彙6
第7回　語彙7　まとめと小テスト
第8回　文法1
第9回　文法2
第10回　文法3
第11回　文法4
第12回　文法5
第13回　文法6
第14回　現代生活と日本語1（待遇表現）
第15回　まとめと小テスト

履修上の注意点

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。（遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内）　受講生の多寡により授業計画の一部を変更することがある。特に、小テストの日程。

教科書

図解日本語
著者：　沖森卓也他著
出版社：三省堂
出版年：2006　　ISBN：　9784385362427

参考書

日本語概説
著者：　沖森卓也編
出版社：朝倉書店
出版年：2010　　ISBN：　9784254515237

日本語学のしくみ
著者：　町田健編
出版社：研究社
出版年：2001　　ISBN：　432738304X

a10201d250

改訂版日本語要説
著者: 工藤浩他著
出版社: ひつじ書房
出版年: 2009 ISBN: 978489476468-2

日本語概説
著者: 渡辺実著
出版社: 岩波書店
出版年: 1996 ISBN: 4000260022

ベーシック現代の日本語学
著者: 日野資成
出版社: ひつじ書房
出版年: 2009 ISBN: 9784894764385

朝倉日本語講座全10巻
著者: 北原保雄監修
出版社: 朝倉書店
出版年: 2002-5 ISBN: 9784254515114

概説日本語学 改訂版
著者: 飯田晴巳他編
出版社: 明治書院
出版年: 2007 ISBN: 9784625704017

図解 日本の語彙
著者: 沖森卓也他著
出版社: 三省堂
出版年: 2011 ISBN: 97843853647

成績評価

試験・レポート（ 0 ）
小テスト（ 60 ）
授業中課題（ ）
授業中発表等（ 10 ）
参加度 （ 30 ）
参加度は、積極的な受講に対してのみ評価するものである。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本文学史 I**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　倫子	

テーマ

日本の古典文学と芸能について学ぶ

授業の到達目標

日本の古典文学に対する基礎知識と教養を身につける。
日本語で表現された諸作品に触れ、日本文化の豊かさを感得する。

授業の概要

時代にそって、日本文学の歴史と表現の特質を学ぶ。テキストを講読した後、当該箇所でとりあげられた作品の解説と紹介をする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前にテキストに目を通しておくこと。授業後は配付資料の課題によく取り組むこと。

内　　容

第1回　テキストの使い方、作品紹介の方法など、授業のガイダンス。
第2回　古代国家の成立とその文藝
第3回　万葉の世紀
第4回　散文の発達
第5回　女流文藝の全盛1
第6回　女流文藝の全盛2・院政期の散文作品
第7回　歌壇の分裂と統一・歌壇の再分裂
第8回　歌謡および藝能
第9回　伝統的散文と新興の散文
第10回　能楽を中心とする藝能
第11回　俳諧の興隆と芭蕉
第12回　浮世草子と西鶴
第13回　浄瑠璃の新風と近松
第14回　戯作の文藝
第15回　歌舞伎の展開

履修上の注意点

課題は必ず提出すること。
授業中の発言も評価の対象となるので、積極的に意見を述べること。

教科書

日本文学史
著者:　小西甚一
出版社:　講談社
出版年:　1993　　ISBN:　4-06-159090-1

参考書

岩波講座日本文学史
著者:　久保田淳・藤井貞和ほか
出版社:　岩波書店
出版年:　1995-97　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 50 ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
小テスト・授業中課題は適宜実施するので、欠席したり遅刻・早退のないように努めてほしい。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本文学史Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　辻本　千鶴	

テーマ

日本近代文学史　自然主義と反自然主義を中心に

授業の到達目標

①近代文学について、主要作家・作品についての知識を得て、おおよその流れを理解する。
②近代文学を研究する際の問題意識を養う。
③小説作品を分析的・批評的に読む読解力を養う。
④作品についての自分の感想や意見を発表する発信力を養う。

授業の概要

明治時代に書かれた日本近代文学について、知識と理解を深めること、合わせて主な作品を読み味わうことを目標に授業を行う。主として講義形式で進めるが、随時授業中に取り組む小レポートを課す。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で扱う作品については通読すること。その作家の他作品、同時代の他の作家、時代背景などについても、積極的に学習すること。小レポートの内容は、取り組みの翌週に適宜教室で紹介する。

内　容

第1回　ガイダンス及び概説　　漱石から藤村へ 「文学」とは何か
第2回　森鴎外『舞姫』
第3回　森鴎外『舞姫』
第4回　樋口一葉『たけくらべ』
第5回　樋口一葉『たけくらべ』
第6回　樋口一葉『たけくらべ』
第7回　田山花袋『蒲団』
第8回　田山花袋『蒲団』
第9回　田山花袋『蒲団』
第10回　夏目漱石『三四郎』
第11回　夏目漱石『三四郎』
第12回　夏目漱石『三四郎』
第13回　泉鏡花『高野聖』
第14回　谷崎潤一郎『刺青』
第15回　まとめ　大正文学への潮流

履修上の注意点

板書や配布資料に頼りすぎずに、講義内容をノートに控えること。要点を聞き取ろうと努め、自分の文章でまとめることが理解を助けます。

教科書

作品で読む明治文学
著者:　京都橘大学日本語日本文学科
出版社:　新典社
出版年:　　ISBN:

参考書

文学の誕生
著者:　大東和重
出版社:　講談社
出版年:　2006年　　ISBN:　4-06-258378-x

成績評価

試験・レポート（ 50% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30% ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 20% ）
期末試験はレポート形式（締め切りは最終講義日）とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**中学書写Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　大江　加津雄	

テーマ

中学校学習指導要領における「書写」の学習。

授業の到達目標

漢字の楷書や行書の書き方を理解し、実技の習得を目的とする。特に中学校の教科書「中学書写」を用いることにより楷書・行書の基本と応用を学習する。 文部科学省による中学校指導要領の目的に沿って、書写の基本から応用まで実技練習を通して学び、中学校教員免許（国語）習得に役立てる。

授業の概要

中学書写で必要な知識とともに、書写の能力を高めるための硬筆毛筆の実習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

書の実技に関してはそれまでの経験などによって各自さまざまであることが予想される。各授業に対しての予習や復習など積極的に取り組んでほしい。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　楷書の学習Ⅰ（中学書写1年テキストを使って）半紙①
第3回　楷書の学習Ⅰ（中学書写1年テキストを使って）半紙②
第4回　行書の学習Ⅰ（中学書写2．3年テキストを使って）半紙③
第5回　行書の学習Ⅰ（中学書写2．3年テキストを使って）半紙④
第6回　楷書の学習Ⅲ（中学書写1年テキストを使って）条幅①
第7回　楷書の学習Ⅲ（中学書写1年テキストを使って）条幅②
第8回　行書の学習Ⅲ（中学書写2.3年テキストを使って）条幅③
第9回　行書の学習Ⅲ（中学書写2.3年テキストを使って）条幅④
第10回 ペン習字の学習Ⅰ（中学書写1年テキストを使って）
第11回 ペン習字の学習Ⅰ（中学書写2・3年テキストを使って）
第12回 学習指導要領①
第13回 学習指導要領②
第14回 アクティブ・ラーニング①
第15回 アクティブ・ラーニング②

履修上の注意点

書の実習に伴う書道用具を持参のこと

教科書

中学書写一年
著者:　井上輝夫他
出版社: 光村図書
出版年:　　ISBN:

中学書写二三年
著者:　井上輝夫他
出版社: 光村図書
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 20 ）
課題に対して積極的に取組む態度、授業での意欲的な学習態度、出席率を総合的に判断し、評価する

2018 Syllabus

科 目 名　**中学書写Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　吉見　靖子	

テーマ

中学校学習指導要領における「書写」の学習。

授業の到達目標

漢字の楷書や行書と、それらに調和した仮名の書き方を理解し、実技の習得を目的とする。特に中学校の教科書「中学書写」を用いることにより楷書・行書・仮名の基本と応用を学習する。 文部科学省による中学校指導要領の目的に沿って、書写の基本から応用まで実技練習を通して学び、中学校教員免許（国語）に役立てる。

授業の概要

中学書写で必要な知識とともに、書の能力を高めるための硬筆毛筆の実習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

書の実技に関してはそれまでの経験などによって各自さまざまであることが予想される。各授業に対しての予習や復習に努めてほしい

内　容

第1回　書写と書道について
第2回　小中学校教育においての現状を知る
第3回　平仮名の学習
第4回　片仮名の学習
第5回　仮名と漢字との調和について
第6回　楷書の学習（中学書写1年テキストを使って）①
第7回　楷書の学習（中学書写1年テキストを使って）②
第8回　楷書の学習（中学書写1年テキストを使って）③
第9回　行書の学習（中学書写2.3年テキストを使って）①
第10回　行書の学習（中学書写2.3年テキストを使って）②
第11回　行書の学習（中学書写2.3年テキストを使って）③
第12回　中学教育における古典の位置と意義
第13回　用具用材の工夫による学習①
第14回　用具用材の工夫による学習②
第15回　書写と書道の関わりと問題点について

履修上の注意点

書の実習に伴う書道用具を持参のこと

教科書

中学書写一年
著者:　井上輝夫他
出版社:　光村図書
出版年:　　ISBN:

中学書写二三年
著者:　井上輝夫他
出版社:　光村図書
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 20 ）
課題への積極的な学習、授業での意欲的な姿勢、出席率を総合的に判断し、評価する

2018 Syllabus

科 目 名　**中学書写Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　大江　加津雄	

テーマ

中学校学習指導要領における「書写」の学習

授業の到達目標

前期で習得した楷書・行書の実技力を活かして学習指導案を作成し、その学習指導案を元に実践的な授業研究を実施する。文部科学省が作成した中学校学習指導要領の目的に沿って、実践力を身に付け、中学校教員免許（国語）習得に役立てる。

授業の概要

模擬授業を行い、中学校での実践的な書写指導力を身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

前期で学んだ実技力を活かし、各授業に対して積極的に謙虚に取り組んでほしい。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　KJ法，ブレーン・ストーミング①
第3回　KJ法，ブレーン・ストーミング②
第4回　ディベート①
第5回　ディベート②
第6回　学習指導案①
第7回　学習指導案②
第8回　中学書写Ⅰ模擬授業①
第9回　中学書写Ⅰ模擬授業②
第10回　中学書写Ⅰ模擬授業③
第11回　中学書写Ⅰ模擬授業④
第12回　中学書写Ⅱ模擬授業①
第13回　中学書写Ⅱ模擬授業②
第14回　中学書写Ⅱ模擬授業③
第15回　中学書写Ⅱ模擬授業④

履修上の注意点

中学校での書写授業を想定して、想像力を活かして模擬授業に積極的に取り組んでほしい。

教科書

中学書写一二三年
著者:　宮澤正明他
出版社:　光村図書
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 20 ）
課題への積極的な学習、授業での意欲的な姿勢、出席率を総合的に判断し、評価する 2/3以上の出席がないと認定しない。

2018 Syllabus

科 目 名　**中学書写Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉見　靖子	

テーマ

中学校学習指導要領における「書写」の学習

授業の到達目標

漢字と仮名の調和した書き方を理解し、その実技の習得を目的とする。授業研究によって現場における効果的な指導法を模索する。文部科学省による中学校指導要領の目的に沿って、書写の基本から応用まで実技練習を通して学び、中学校教員免許（国語）に役立てる。中学校の教科書「中学書写」を用いて、楷書・行書・仮名の基本と応用を学習する。

授業の概要

授業は実習を伴い、実際に書ける力を養う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

書の実技に関しては、それまでの経験などによって各自さまざまであることが予想される。各授業に対しての予習や復習に努めてほしい。

内　容

第1回　漢字と仮名の調和とは
第2回　半紙による楷書と仮名の調和（1）
第3回　半紙による行書と仮名の調和（2）
第4回　仮名の美について（1）
第5回　仮名の美について（2）
第6回　細字による仮名の学習～平安古筆をヒントとして～（1）
第7回　細字による楷書の学習～平安古筆をヒントとして～（2）
第8回　細字による行書の学習～平安古筆をヒントとして～（3）
第9回　半紙による漢字仮名交じりの書（1）
第10回　条幅による漢字仮名交じりの書（2）
第11回　実用に即した書（1）
第12回　実用に即した書（2）
第13回　実用に即した書（3）
第14回　生活の中に生きる芸術書
第15回　現代における書の必要性とこれから

履修上の注意点

書の実習に伴う書道用具を持参のこと

教科書

中学書写一二三年
著者:　宮澤正明他
出版社:　光村図書
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 20 ）
課題への積極的な学習、授業での意欲的な姿勢、出席率を総合的に判断し、評価する 2/3以上の出席がないと認定しない

2018 Syllabus

科 目 名　**漢文学Ⅰ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　蒲　豊彦	

テーマ

漢文学概説

授業の到達目標

中国古典文学史の基本事項を、自分で整理できること。授業は毎回テーマが決まっており、1回ごとに完結する。したがって毎回の授業の内容はスムーズにはつながらない。しかし、1年を通して中国古典文学についてのおおまかなイメージを得られるようにしたい。

授業の概要

「漢文学」を概説しつつ、一方で、通常の漢文学では扱わない劇や通俗小説（西遊記のようなもの）も取り上げる。具体的には、漢文学ⅠとⅡで古代から近代初頭までの中国古典文学のおもなジャンルと作品を、時代を追って網羅的に紹介する。そのほか、朝鮮半島、ベトナム、日本の漢文学も扱う予定。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業の内容にかんする本学サイトを、授業中に紹介する。復習等で使用すること。

内　容

第1回　漢文学を学ぶにあたって（授業の紹介）
第2回　中国の創生神話（伏羲・女禍・神農・黄帝のお話）
第3回　占いと漢字の誕生（殷・甲骨文字）
第4回　詩経と楚辞
第5回　歴史書の成立（春秋→史記→正史の確立）
第6回　儒学と経学
第7回　五言詩の登場
第8回　『世説新語』と『文選』
第9回　隠逸思想の系譜（老荘思想・竹林の七賢・陶淵明）
第10回　桃源郷と『捜神記』（志怪小説）
第11回　竟陵八友の詩と文
第12回　仏教の中国伝来と『高僧伝』
第13回　韓国・ベトナムの漢文学
第14回　日本の漢文学
第15回　まとめ

履修上の注意点

参考文献、参考書等は、授業中にその都度紹介する。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 80 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**漢文学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　蒲　豊彦	

テーマ

漢文学概説

授業の到達目標

漢文学Ⅰを継続する。中国古典文学史の基本事項を、自分で整理できること。授業は毎回テーマが決まっており、1回ごとに完結する。したがって毎回の授業の内容はスムーズにはつながらない。しかし、1年を通して中国古典文学全体についてのおおまかなイメージを得られるようにしたい。

授業の概要

「漢文学」を概説しつつ、一方で、通常の漢文学では扱わない劇や通俗小説（西遊記のようなもの）も取り上げる。具体的には、漢文学ⅠとⅡで古代から近代初頭までの中国古典文学のおもなジャンルと作品を、時代を追って網羅的に紹介する。そのほか、朝鮮半島、ベトナム、日本の漢文学も扱う予定。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で取り上げる文学作品はいずれも、その翻訳が本学図書館に入っているので、たとえ1ページでもよいので、見ておいてほしい。

内　　容

第1回　後期授業の内容紹介
第2回　朝鮮半島の漢文学
第3回　小説の発生
第4回　日本の小説
第5回　長安と詩人Ⅰ
第6回　長安と詩人Ⅱ
第7回　日本の古典小説と中国
第8回　中国の音楽と詞
第9回　印刷術の発展
第10回　中国のオペラ
第11回　都市の繁栄と通俗小説
第12回　読書の歴史
第13回　水滸伝と民衆反乱
第14回　文学革命
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 80 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**篆刻Ⅰ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小早川　修治	

テーマ

篆刻の歴史と印式・印例の理解

授業の到達目標

篆刻理論の修得

授業の概要

篆刻の歴史を通覧し、その後、印の種類・印式などを順を追って解説、篆刻に対する理解を深めるとともに、印のあり方を実作を通して習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

篆刻は当然のことながら、篆書の理解が前提にある。日頃から展覧会、博物館等に出向き鑑賞眼を高め、篆書を書くことが篆刻の上達に資することは言を待たない。

内　容

第1回　篆刻の歴史の解説
第2回　篆刻の種類と解説
第3回　篆刻の種類と解説
第4回　印式の解説
第5回　篆刻の手順の解説、印材の調整
第6回　白文＝字印の布字
第7回　〃　刻と鈐印
第8回　朱文＝字印の布字
第9回　〃　刻と鈐印
第10回　白文＝字印の布字
第11回　〃　刻と鈐印
第12回　朱文＝字印の布字
第13回　〃　刻と鈐印
第14回　白文＝字印の布字
第15回　〃　刻と鈐印

履修上の注意点

教科書

新装版「書道講座」⑥篆刻
著者:　西川 寧（編）
出版社:　二玄社
出版年:　2010　　ISBN:　9784544018561

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 80 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 10 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**篆刻Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小早川　修治	

テーマ

刻印の技術の習得

授業の到達目標

篆刻技術の習得

授業の概要

「篆刻Ⅰ」で習得した印の理解の上に立ち、それらを実際に制作し、その技術の習得を目的とする。
篆刻は当然のことながら、篆書の理解が前提にある。それ故、普段から篆書に慣れ親しんでおくことが、技術習得の上で重要になってくる。「篆刻Ⅰ」を履修していることが望ましい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

篆刻は当然のことながら、篆書の理解が前提にある。日頃から展覧会、博物館等に出向き鑑賞眼を高め、篆書を書くことが篆刻の上達に資することは言を待たない。

内　容

第1回　側款の文章表現（漢文）、誰が、いつ刻したか
第2回　〃　どこで、誰の為に刻したか
第3回　側款の刻し方
第4回　白文四字印の布字
第5回　〃　刻と鈐印
第6回　朱文四字印の布字
第7回　〃　刻と鈐印
第8回　白文四字印の布字
第9回　〃　刻と鈐印
第10回　朱文四字印の布字
第11回　〃　刻と鈐印
第12回　白文四字印の布字
第13回　〃　刻と鈐印
第14回　朱文四字印の布字
第15回　〃　刻と鈐印

履修上の注意点

教科書

新装版「書道講座」⑥篆刻
著者:　西川 寧（編）
出版社:　二玄社
出版年:　2010　　ISBN:　9784544018561

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 80 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 10 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　林　久美子	

テーマ

日本の伝統文化への理解を深める

授業の到達目標

伝統文化それぞれの特質と歴史について知る。発表を通して読解力やプレゼンテーション能力を高める。併せて、地域の課題について理解を深める。

授業の概要

1限目に茶道、華道、書道、居合道、お香、狂言について学び、2限目は講師やサークルの協力を得て体験します。なお、順序と内容に一部変更の可能性があります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループごとに文献で調べた知識をどのようにまとめ、伝えるのかを十分話し合う。発表後ワークシートを提出し、教員のコメントを受け取る。

内　容

第1回　授業の進め方について
第2回　図書館で調べ方を学ぶ
第3回　書道について
第4回　書道体験
第5回　華道について
第6回　華道体験
第7回　居合道について
第8回　居合道体験
第9回　狂言について
第10回　狂言体験
第11回　お香について
第12回　お香の体験
第13回　茶道について
第14回　茶道体験
第15回　学外研修または後半の準備のためのグループワーク

履修上の注意点

グループ発表は全員で行うこと。体験学習はそれぞれの作法を守ること。
担当の時間にやむなく欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。守らない場合は単位を認めないことがあります。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 60 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　重松　恵美	

テーマ

10代20代向けの小説

授業の到達目標

1. 読解力　作品をていねいに読み、理解する。2. 思考力　作品について、受講生一人一人が考える。3. 文章力　作品について考えたことを、レポートにまとめる。4. 対話力　作品についての意見発表と意見交換を行う。

授業の概要

10代20代を読者対象とする小説を考察の対象とします。現代の若者に向けて書かれた小説は、どのような特徴を持っているのでしょうか。作品読解を授業の基本作業としつつ、ライトノベルやヤングアダルトといったジャンルの問題についても考えてみたいと思います。教員による作品解説ののち、受講生によるグループディスカッションを行ないます。あわせて地域課題についても理解を深めていきます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業の予習復習として、授業時間以外にも読書の時間を確保すること。目安は1日15分（週に2時間程度）とする。学期末までにテキストを読了すること。

内　容

第1回　ライトノベルとは何か
第2回　文庫化、漫画化による変化
第3回　香月日輪「妖怪アパートの幽雅な日常」
第4回　荻原規子「RDG（レッドデータガール）」
第5回　あさのあつこ「NO. 6（ナンバーシックス）」
第6回　桜庭一樹「GOSICK（ゴシック）」
第7回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第1章
第8回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第2章
第9回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第3章
第10回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第4章
第11回　坂木司「和菓子のアン」第1章
第12回　坂木司「和菓子のアン」第2章
第13回　坂木司「和菓子のアン」第3章
第14回　坂木司「和菓子のアン」第4章
第15回　学外授業

履修上の注意点

この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので，注意すること。

教科書

和菓子のアン
著者:　坂木司
出版社:　光文社文庫
出版年:　2012　　ISBN:　9784334764845

神去なあなあ日常
著者:　三浦しをん
出版社:　徳間文庫
出版年:　2012　　ISBN:　9784198936044

参考書

NO. 6
著者:　あさのあつこ
出版社:　講談社文庫
出版年:　　ISBN:

a10201e112

妖怪アパートの幽雅な日常

著者: 香月日輪

出版社: 講談社文庫

出版年: ISBN:

RDG

著者: 荻原規子

出版社: 角川文庫

出版年: ISBN:

GOSICK

著者: 桜庭一樹

出版社: 角川文庫

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　小テスト（ ）

授業中課題（ 60% ）　授業中発表等（ 40% ）

参加度（ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅰ〈c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　幸一郎	

テーマ

京都アニメーションとスタジオジブリ

授業の到達目標

スタジオジブリと京都アニメーションという日本を代表するアニメーション制作会社の代表作品を理解していくことで、現代日本のメディア文芸についての理解を深めていく。あわせて、しばしばアニメやドラマ、マンガに描かれてきた場所を訪ね、地域課題への理解を深めていく。

授業の概要

基本的には講義が中心になるが、随時グループワークを実施していく予定である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で取り上げる作品についてはあらかじめ視聴しておくことが望ましい。随時小レポートの提出を求めていく。

内　容

第1回　全体説明
第2回　ポストエヴァンゲリヲン一0年代のアニメーション概要
第3回　京アニを読む（1）「クラナド」
第4回　京アニを読む（2）「けいおん！」
第5回　京アニを読む（3）「Free！」
第6回　学外見学　伏見界隈　乃木神社・寺田屋・月桂冠
第7回　学外見学　伏見界隈　寺田屋・月桂冠
第8回　学外見学振り返り
第9回　京アニを読む（4）「中二病でも恋がしたい」
第10回 京アニを読む（5）「響け！ユーフォニアム」
第11回 ジブリが描いた少女たち（1）
第12回 ジブリが描いた少女たち（2）
第13回 ジブリが描いた少女たち（3）
第14回 学外見学　東山界隈　高瀬川・池田屋・祇園
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

京アニを読む
著者:　野村幸一郎
出版社: 新典社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 60 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅰ〈d〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安達　太郎	

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1）生き生きとしたプレゼンテーションができる。
2）相互批評性を身につける。
3）グループで協調してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であるのと同時に，文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従って，タスクの準備をすること。

内　　容

第1回　言語文化総合演習への導入～声の復権の意味～
第2回　生き生きとしたプレゼンテーションとは
第3回　タスク1　ビブリオバトル（1）導入
第4回　タスク1　ビブリオバトル（2）グループワーク
第5回　タスク1　ビブリオバトル（3）本戦1
第6回　タスク1　ビブリオバトル（4）本戦2
第7回　タスク1　ビブリオバトル（5）本戦4
第8回　タスク1　ビブリオバトル（6）本戦5とビブリオバトルの振り返り
第9回　タスク2　歌合（1）導入
第10回　タスク2　歌合（2）グループワーク
第11回　タスク2　歌合（3）歌合本戦1
第12回　タスク2　歌合（4）歌合本戦2
第13回　タスク2　歌合（5）歌合本戦3
第14回　タスク2　歌合（6）歌合本戦4
第15回　タスク2　歌合（7）歌合本戦5と歌合の振り返り

履修上の注意点

この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので，注意すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

短歌パラダイス
著者:　小林恭二
出版社:　岩波書店
出版年:　1997　　ISBN:　4-00-430498-9

ビブリオバトル
著者:　谷口忠大
出版社:　文藝春秋
出版年:　2013　　ISBN:　4-16-660901-7

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 20% ）	授業中発表等　（ 50% ）

a10201e114

参加度 （ 30% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　林　久美子	

テーマ

怪談の技法(『雨月物語』を読む)

授業の到達目標

怪談を通して心の闇について考える／日本の民俗・文化について学ぶ／読解力を身に付ける／プレゼンテーション力を向上させる／地域の課題について理解を深める

授業の概要

グループで担当する章を選び、発表する。1限目に発表、2限目は全員で意見を述べ合う読書会形式とする。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

グループで作成したレジュメは事前にLAの点検を受ける。また授業後はワークシートに記入し、教員のコメントを受け取る。

内　容

第1回　グループ発表①
第2回　討論
第3回　グループ発表②
第4回　討論
第5回　グループ発表③
第6回　討論
第7回　グループ発表④
第8回　討論
第9回　グループ発表⑤
第10回　討論
第11回　学外研修(時期は変更の可能性あり)
第12回　〃
第13回　グループ発表⑥
第14回　討論
第15回　まとめ

履修上の注意点

発表担当でない章の作品にも目を通して授業に参加すること。
連絡なしに発表をキャンセルした場合は単位を放棄したものとみなします。

教科書

雨月物語　現代語訳付き
著者:　上田秋成／鵜月洋
出版社:　角川ソフィア文庫
出版年:　2006　　ISBN:

参考書

雨月物語の世界
著者:　長島弘明
出版社:　ちくま学芸文庫
出版年:　1998　　ISBN:

英草紙・西山物語・雨月物語・春雨物語
著者:　高田衛ほか
出版社:　小学館
出版年:　1995　　ISBN:

雨月物語・春雨物語(完訳日本の古典)
著者:　高田衛ほか
出版社:　小学館
出版年:　1981　　ISBN:

a10201e210

雨月物語・癇癖談
著者: 浅野三平
出版社: 新潮日本古典集成
出版年: 1979 ISBN:

漫画訳 雨月物語
著者: 武富健治
出版社: PHP研究所
出版年: 2016 ISBN:

水木しげるの雨月物語
著者: 水木しげる
出版社: 河出書房新社
出版年: 2010(第9刷) ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）
授業中課題（ ） 授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ 50 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅱ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　重松　恵美	

テーマ

現代小説における古典芸能

授業の到達目標

1. 読解力　作品をていねいに読み、理解する。2. 思考力　作品について、受講生一人一人が考える。3. 文章力　作品について考えたことを、レポートにまとめる。4. 対話力　作品についての意見発表と意見交換を行なう。

授業の概要

現代日本を舞台とし、古典芸能に取り組む若者を主人公とする小説をテキストとして読み、現代文学の動向について考える。教員による解説ののち、受講生によるグループディスカッションを行なう。あわせて地域課題についても理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストを学期末までに読了すること。授業時間以外にも、作品を読む時間を確保すること。読書時間の目安は毎日15分（週あたり2時間）とする。

内　容

第1回　学外授業
第2回　歌舞伎、文楽、組踊
第3回　歌舞伎鑑賞
第4回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」序幕、二幕目
第5回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」三幕目
第6回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」四幕目
第7回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」五幕目
第8回　落語、浪曲、講談
第9回　落語鑑賞
第10回　田中啓文「ハナシがちがう！」第一話前半
第11回　田中啓文「ハナシがちがう！」第一話後半
第12回　田中啓文「ハナシがちがう！」第二話
第13回　田中啓文「ハナシがちがう！」第三話
第14回　池上永一「竹富島」前半
第15回　池上永一「竹富島」後半

履修上の注意点

教科書

カブキブ！　1
著者:　榎田ユウリ
出版社:　角川文庫
出版年:　2013　　ISBN:　978404100956

ハナシがちがう（笑酔亭梅寿謎解噺1）
著者:　田中啓文
出版社:　集英社文庫
出版年:　2006　　ISBN:　9784087460742

参考書

統ばる島（すばるしま）
著者:　池上永一
出版社:　角川文庫
出版年:　　ISBN:

仏果を得ず
著者:　三浦しをん
出版社:　双葉文庫
出版年:　　ISBN:

a10201e212

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 60% ）	授業中発表等（ 40% ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅱ〈c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　幸一郎	

テーマ

日本近現代文学の研究方法

授業の到達目標

日本近現代文学の代表的な作品を題材として、その研究方法を習得していく。あわせて、さまざまな小説の舞台となった場所を訪ね、地域課題についての理解を一層深めていく。

授業の概要

前半は担当教員による講義、後半は受講生による発表が中心になる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で取り上げる作品はあらかじめ読んでくること。随時小レポートの提出を求める。

内　　容

第1回　学外見学　円山公園・高台寺
第2回　人物像・作品の主題の分析
第3回　ストーリーの分析
第4回　分析分の書き方
第5回　図書館利用法
第6回　夏目漱石「こころ」を分析する（1）
第7回　夏目漱石「こころ」を分析する（2）
第8回　受講生による発表　森鴎外「高瀬舟」
第9回　受講生による発表　芥川龍之介「羅生門」
第10回　受講生による発表　志賀直哉「城の崎にて」
第11回　受講生による発表　宮沢賢治「注文の多い料理店」
第12回　受講生による発表　川端康成「伊豆の踊子」
第13回　受講生による発表　中島敦「山月記」
第14回　受講生による発表　太宰治「人間失格」
第15回　まとめ

履修上の注意点

グループワークには積極的に参加する

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 60 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅱ <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安達　太郎	

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1）文学や歴史，地理を総合的に理解することができる。2）テキストのフレージングを意識化することができる。3）グループで協調してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であるのと同時に，文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従って，タスクの準備をすること。

内　容

第1回　タスク3　群読（1）導入
第2回　タスク3　群読（2）万葉歌の群読
第3回　タスク3　群読（3）近代詩の群読1
第4回　タスク3　群読（4）近代詩の群読2
第5回　タスク3　群読（5）近代詩の群読3
第6回　タスク3　群読（6）近代詩の群読4
第7回　タスク3　群読（7）近代詩の群読と振り返り
第8回　タスク4　リレープレゼン（1）
第9回　タスク4　リレープレゼン（2）学外授業
第10回　タスク4　リレープレゼン（3）学外授業
第11回　タスク4　リレープレゼン（4）
第12回　タスク4　リレープレゼン（5）
第13回　タスク4　リレープレゼン（6）
第14回　タスク4　リレープレゼン（7）
第15回　タスク4　リレープレゼン（8）

履修上の注意点

この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので，注意すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 20% ）	授業中発表等 （ 50% ）
参加度 （ 30% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅲ <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　重松　恵美	

テーマ

10代20代向けの小説

授業の到達目標

1. 読解力　作品をていねいに読み、理解する。2. 思考力　作品について、受講生一人一人が考える。3. 文章力　作品について考えたことを、レポートにまとめる。4. 対話力　作品についての意見発表と意見交換を行う。

授業の概要

10代20代を読者対象とする小説を考察の対象とします。現代の若者に向けて書かれた小説は、どのような特徴を持っているのでしょうか。作品読解を授業の基本作業としつつ、ライトノベルやヤングアダルトといったジャンルの問題についても考えてみたいと思います。教員による作品解説ののち、受講生によるグループディスカッションを行ないます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業の予習復習として、授業時間以外にも読書の時間を確保すること。目安は1日15分（週に2時間程度）とする。学期末までにテキストを読了すること。

内　容

第1回　ライトノベルとは何か
第2回　文庫化、漫画化による変化
第3回　香月日輪「妖怪アパートの幽雅な日常」
第4回　荻原規子「RDG（レッドデータガール）」
第5回　あさのあつこ「NO. 6（ナンバーシックス）」
第6回　桜庭一樹「GOSICK（ゴシック）」
第7回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第1章
第8回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第2章
第9回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第3章
第10回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第4章
第11回　坂木司「和菓子のアン」第1章
第12回　坂木司「和菓子のアン」第2章
第13回　坂木司「和菓子のアン」第3章
第14回　坂木司「和菓子のアン」第4章
第15回　学外授業

履修上の注意点

教科書

和菓子のアン
著者:　坂木司
出版社:　光文社文庫
出版年:　2012　　ISBN:　9784334764845

神去なあなあ日常
著者:　三浦しをん
出版社:　徳間文庫
出版年:　2012　　ISBN:　9784198936044

参考書

NO. 6
著者:　あさのあつこ
出版社:　講談社文庫
出版年:　　ISBN:

妖怪アパートの幽雅な日常
著者:　香月日輪
出版社:　講談社文庫
出版年:　　ISBN:

a10201e350

RDG

著者: 荻原規子

出版社: 角川文庫

出版年: ISBN:

GOSICK

著者: 桜庭一樹

出版社: 角川文庫

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 60% ） 授業中発表等（ 40% ）

参加度 （ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅲ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　幸一郎	

テーマ

京都アニメーションとスタジオジブリ

授業の到達目標

日本を代表する二つのアニメーション会社、京都アニメーションとスタジオジブリの作品を学んでいくことで、日本のメディア文芸について理解を深めていく。また、アニメや漫画、小説、ドラマの舞台になった場所を訪ねることで作品世界をより深く理解するとともに、地域改題に関する理解を深めていく。

授業の概要

基本的に講義が中心になるが、随時グループワークを実施していく予定である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業でとりあげる作品はあらかじめ視聴しておくことが望ましい。随時小レポートの提出を求めていく。

内　容

第1回　全体説明
第2回　ポスト・ヱヴァンゲリヲン　0年代のアニメーション
第3回　京アニを読む（1）「クラナド」
第4回　京アニを読む（2）「けいおん！」
第5回　京アニを読む（3）「Free！」
第6回　学外見学　伏見界隈　乃木神社
第7回　学外見学　伏見界隈　寺田屋・月桂冠
第8回　乃木神社・寺田屋・月桂冠見学　振り返り
第9回　京アニを読む（4）「中二病でも恋がしたい」
第10回 京アニを読む（5）「響け！ユーフォニアム」
第11回 ジブリが描いた少女たち（1）
第12回 ジブリが描いた少女たち（2）
第13回 ジブリが描いた少女たち（3）
第14回 学外見学　高瀬川・池田屋・祇園
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

京アニを読む
著者:　野村幸一郎
出版社: 新典社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 60 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅲ <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安達　太郎	

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1）生き生きとしたプレゼンテーションができる。
2）相互批評性を身につける。
3）グループで協調してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であるのと同時に，文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従って，タスクの準備をすること。

内　　容

第1回　言語文化総合演習への導入～声の復権の意味～
第2回　生き生きとしたプレゼンテーションとは
第3回　タスク1　ビブリオバトル（1）導入
第4回　タスク1　ビブリオバトル（2）グループワーク
第5回　タスク1　ビブリオバトル（3）本戦1
第6回　タスク1　ビブリオバトル（4）本戦2
第7回　タスク1　ビブリオバトル（5）本戦4
第8回　タスク1　ビブリオバトル（6）本戦5とビブリオバトルの振り返り
第9回　タスク2　歌合（1）導入
第10回　タスク2　歌合（2）グループワーク
第11回　タスク2　歌合（3）歌合本戦1
第12回　タスク2　歌合（4）歌合本戦2
第13回　タスク2　歌合（5）歌合本戦3
第14回　タスク2　歌合（6）歌合本戦4
第15回　タスク2　歌合（7）歌合本戦5と歌合の振り返り

履修上の注意点

この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので，注意すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

短歌パラダイス
著者:　小林恭二
出版社:　岩波書店
出版年:　1997　　ISBN:　4-00-430498-9

ビブリオバトル
著者:　谷口忠大
出版社:　文藝春秋
出版年:　2013　　ISBN:　4-16-660901-7

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20% ）	授業中発表等（ 50% ）

a10201e353

参加度 （ 30% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅲ <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　林　久美子	

テーマ

日本の伝統文化への理解を深める

授業の到達目標

伝統文化それぞれの特質と歴史について知る。発表を通して読解力やプレゼンテーション能力を高める。併せて、地域の課題について理解を深める。

授業の概要

1限目に茶道、華道、書道、居合道、お香、狂言について学び、2限目は講師やサークルの協力を得て体験します。なお、順序と内容に一部変更の可能性があります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループごとに文献で調べた知識をどのようにまとめ、伝えるのかを十分話し合う。発表後ワークシートを提出し、教員のコメントを受け取る。

内　容

第1回　授業の進め方について
第2回　図書館で調べ方を学ぶ
第3回　書道について
第4回　書道体験
第5回　華道について
第6回　華道体験
第7回　居合道について
第8回　居合道体験
第9回　狂言について
第10回　狂言体験
第11回　お香について
第12回　お香の体験
第13回　茶道について
第14回　茶道体験
第15回　学外研修または後半の準備のためのグループワーク

履修上の注意点

グループ発表は全員で行うこと。体験学習はそれぞれの作法を守ること。
担当の時間にやむなく欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。守らない場合は単位を認めないことがあります。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 60 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅲ <e>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　林　久美子	

テーマ

奈良絵本や絵入り版本を通して古典文学に親しむ

授業の到達目標

古典文学への興味・知的関心を深め、研究にあたって必要となる基礎的な知識と方法の習得をめざす。
グループワークによる課題解決を通してコミュニケーション能力を身につける。
プレゼンテーションの方法を身につける。併せて、地域の課題について理解を深める。

授業の概要

百人一首や室町物語などのテキストを翻字し、挿絵を鑑賞しながら読み進める。
演習形式のグループワークを通じて数多くの作品にふれ、研究の糸口をつかむ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で取りあげるテキストをあらかじめ読んでおく。
レジュメをLAに点検してもらう。作品ごとにグループで作成したワークシートを提出し、教員のコメントを受け取る。

内　容

第1回　授業の進め方についてのガイダンス
第2回　作品の選択と梗概の作成
第3回　テキストを読む①
第4回　グループによる発表(1)
第5回　テキストを読む②
第6回　グループによる発表(2)
第7回　テキストを読む③
第8回　グループによる発表(3)
第9回　テキストを読む④
第10回　グループによる発表(4)
第11回　テキストを読む⑤
第12回　グループによる発表(5)
第13回　まとめ
第14回　学外授業･事前学習
第15回　学外授業（時期は変更の可能性があります）

履修上の注意点

原則として3分の2以上の出席がない場合は単位を認めない。
グループワークは全員で行う。

教科書

参考書

お伽草子事典
著者:　徳田和夫
出版社:　東京堂出版
出版年:　2002　　ISBN:

御伽草子集
著者:　大島建彦校注・訳
出版社:　小学館
出版年:　1974　　ISBN:

室町物語草子集
著者:　大島建彦・渡浩一校注・訳
出版社:　小学館
出版年:　2002　　ISBN:

a10201e355

日本古典文学大辞典

著者:

出版社: 岩波書店

出版年: 1983-85　　ISBN:

奈良絵本(下)

著者: 工藤早弓

出版社: 紫紅社

出版年: 2006　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 40 ）

参加度（ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅳ <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　重松　恵美	

テーマ

現代小説における古典芸能

授業の到達目標

1. 読解力　作品をていねいに読み、理解する。2. 思考力　作品について、受講生一人一人が考える。3. 文章力　作品について考えたことを、レポートにまとめる。4. 対話力　作品についての意見発表と意見交換を行なう。

授業の概要

現代日本を舞台とし、古典芸能に取り組む若者を主人公とする小説をテキストとして読み、現代文学の動向について考える。教員による解説ののち、受講生によるグループディスカッションを行なう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストを学期末までに読了すること。授業時間以外にも、作品を読む時間を確保すること。読書時間の目安は毎日15分（週あたり2時間）とする。

内　容

第1回　学外授業
第2回　歌舞伎、文楽、組踊
第3回　歌舞伎鑑賞
第4回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」序幕、二幕目
第5回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」三幕目
第6回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」四幕目
第7回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」五幕目
第8回　落語、浪曲、講談
第9回　落語鑑賞
第10回　田中啓文「ハナシがちがう！」第一話前半
第11回　田中啓文「ハナシがちがう！」第一話後半
第12回　田中啓文「ハナシがちがう！」第二話
第13回　田中啓文「ハナシがちがう！」第三話
第14回　池上永一「竹富島」前半
第15回　池上永一「竹富島」後半

履修上の注意点

教科書

カブキブ！　1
著者:　榎田ユウリ
出版社:　角川文庫
出版年:　2013　　ISBN:　978404100956

ハナシがちがう（笑酔亭梅寿謎解噺1）
著者:　田中啓文
出版社:　集英社文庫
出版年:　2006　　ISBN:　9784087460742

参考書

統ばる島（すばるしま）
著者:　池上永一
出版社:　角川文庫
出版年:　　ISBN:

仏果を得ず
著者:　三浦しをん
出版社:　双葉文庫
出版年:　　ISBN:

a10201e450

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 60% ）	授業中発表等（ 40% ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅳ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　幸一郎	

テーマ

日本近現代文学の研究方法を習得する

授業の到達目標

日本近代文学を代表する作品群について研究発表をしていくことで、その研究方法を身につけていく。あわせて、さまざまな小説の舞台となった場所を訪ねることで地域課題への理解を深めていく。

授業の概要

前半は担当教員による講義が中心となり、後半は受講生による発表が中心となる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業であつかう作品はかならず読んでくること。随時小レポートの提出を求める。

内　容

第1回　学外見学　円山公園　高台寺
第2回　人物像、作品の主題の分析
第3回　ストーリーの分析
第4回　分析文の作り方
第5回　図書館利用法
第6回　夏目漱石「こころ」を分析する（1）
第7回　夏目漱石「こころ」を分析する（2）
第8回　受講生による発表　森鴎外「高瀬舟」
第9回　受講生による発表　芥川龍之介「羅生門」
第10回　受講生による発表　志賀直哉「城の崎にて」
第11回　受講生による発表　中島敦「山月記」
第12回　受講生による発表　宮沢賢治「注文の多い料理店」
第13回　受講生による発表　川端康成「伊豆の踊子」
第14回　受講生による発表　太宰治「人間失格」
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 60 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅳ <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安達　太郎	

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1）文学や歴史，地理を総合的に理解することができる。
2）テキストのフレージングを意識化することができる。
3）グループで協調してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であるのと同時に，文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従って，タスクの準備をすること。

内　　容

第1回　タスク3　群読（1）導入
第2回　タスク3　群読（2）万葉歌の群読
第3回　タスク3　群読（3）近代詩の群読1
第4回　タスク3　群読（4）近代詩の群読2
第5回　タスク3　群読（5）近代詩の群読3
第6回　タスク3　群読（6）近代詩の群読4
第7回　タスク3　群読（7）近代詩の群読と振り返り
第8回　タスク4　リレープレゼン（1）
第9回　タスク4　リレープレゼン（2）学外授業
第10回　タスク4　リレープレゼン（3）学外授業
第11回　タスク4　リレープレゼン（4）
第12回　タスク4　リレープレゼン（5）
第13回　タスク4　リレープレゼン（6）
第14回　タスク4　リレープレゼン（7）
第15回　タスク4　リレープレゼン（8）

履修上の注意点

この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので，注意すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（20%）	授業中発表等（50%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅳ <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　林 久美子	

テーマ

怪談の技法(『雨月物語』を読む)

授業の到達目標

怪談を通して心の闇について考える／日本の民俗・文化について学ぶ／読解力を身に付ける／プレゼンテーション力を向上させる／地域の課題について理解を深める

授業の概要

グループで担当する章を選び、発表する。1限目に発表、2限目は全員で意見を述べ合う読書会形式とする。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

グループで作成したレジュメは事前にLAの点検を受ける。また授業後はワークシートに記入し、教員のコメントを受け取る。

内　容

第1回　グループ発表①
第2回　討論
第3回　グループ発表②
第4回　討論
第5回　グループ発表③
第6回　討論
第7回　グループ発表④
第8回　討論
第9回　グループ発表⑤
第10回　討論
第11回　グループ発表⑥
第12回　討論
第13回　百人一首または学外研修
第14回　〃
第15回　まとめ

履修上の注意点

発表担当でない章の作品にも目を通して授業に参加すること。
連絡なしに発表をキャンセルした場合は単位を放棄したものとみなします。

教科書

雨月物語　現代語訳付き
著者:　上田秋成／鵜月洋
出版社:　角川ソフィア文庫
出版年:　2006　　ISBN:

参考書

雨月物語の世界
著者:　長島弘明
出版社:　ちくま学芸文庫
出版年:　1998　　ISBN:

英草紙・西山物語・雨月物語・春雨物語
著者:　高田衛ほか
出版社:　小学館
出版年:　1995　　ISBN:

雨月物語・春雨物語(完訳日本の古典)
著者:　高田衛ほか
出版社:　小学館
出版年:　1981　　ISBN:

a10201e454

雨月物語・癇癖談
著者: 浅野三平
出版社: 新潮日本古典集成
出版年: 1979 ISBN:

漫画訳 雨月物語
著者: 武富健治
出版社: PHP研究所
出版年: 2016 ISBN:

水木しげるの雨月物語
著者: 水木しげる
出版社: 河出書房新社
出版年: 2010(第9刷) ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）
授業中課題（ ） 授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ 50 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅳ <e>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　林　久美子	

テーマ

奈良絵本や絵入り版本を通して古典文学に親しむ

授業の到達目標

古典文学への興味・知的関心を深め、研究にあたって必要となる基礎的な知識と方法の習得をめざす。
グループワークによる課題解決を通してコミュニケーション能力を身につける。
プレゼンテーションの方法を身につける。

授業の概要

室町物語を中心にテキストを翻字し、挿絵を鑑賞しながら読み進める。
演習形式のグループワークを通じて数多くの作品にふれ、研究の糸口をつかむ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で取りあげるテキストをあらかじめ読んでおく。
レジュメをLAに点検してもらう。作品ごとにグループで作成したワークシートを提出し、教員のコメントを受け取る。

内　容

第1回　授業の進め方についてのガイダンス
第2回　作品の選択と梗概の作成
第3回　テキストを読む①
第4回　グループによる発表(1)
第5回　テキストを読む②
第6回　グループによる発表(2)
第7回　テキストを読む③
第8回　グループによる発表(3)
第9回　テキストを読む④
第10回　グループによる発表(4)
第11回　テキストを読む⑤
第12回　グループによる発表(5)
第13回　百人一首について
第14回　百人一首（かるた会）
第15回　まとめ

履修上の注意点

原則として3分の2以上の出席がない場合は単位を認めない。
グループワークは全員で行う。

教科書

参考書

お伽草子事典
著者:　徳田和夫
出版社:　東京堂出版
出版年:　2002　　ISBN:

御伽草子集
著者:　大島建彦校注・訳
出版社:　小学館
出版年:　1974　　ISBN:

室町物語草子集
著者:　大島建彦・渡浩一校注・訳
出版社:　小学館
出版年:　2002　　ISBN:

a10201e455

日本古典文学大辞典

著者:

出版社: 岩波書店

出版年: 1983-85　　ISBN:

奈良絵本(下)

著者: 工藤早弓

出版社: 紫紅社

出版年: 2006　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 40 ）

参加度（ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**京都産業文化論Ⅰ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　増渕　徹	

テーマ

京都に拠点をおいて活躍されている企業の方をゲストスピーカーとしてお呼びしてリレー形式でご講演いただく。

授業の到達目標

京都の産業や企業文化を理解し、教養を深めることはもちろん、その第一線で活躍されている方の努力や工夫を学び、自身の学生生活・将来に活かせるようにすること。
また各産業・企業における課題を捉え、自分なりの解決策を考えられるようになること。

授業の概要

2～14回目の授業は、毎回ゲストスピーカー講師の方からの講演を聞く予定である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習:学習支援アプリ「educa」にて、毎回予習課題を課す
授業後課題:「KT-note」にて、毎回小レポートを課す

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　ゲストスピーカー講演①
第3回　ゲストスピーカー講演②
第4回　ゲストスピーカー講演③
第5回　ゲストスピーカー講演④
第6回　ゲストスピーカー講演⑤
第7回　ゲストスピーカー講演⑥
第8回　ゲストスピーカー講演⑦
第9回　ゲストスピーカー講演⑧
第10回　ゲストスピーカー講演⑨
第11回　ゲストスピーカー講演⑩
第12回　ゲストスピーカー講演⑪
第13回　ゲストスピーカー講演⑫
第14回　ゲストスピーカー講演⑬
第15回　振り返りとまとめ

履修上の注意点

外部の方（社会人）をお招きして講演を聞くことがメインの授業である。したがって、受講時の私語、飲食、居眠りなど、受講態度には特に留意すること。

教科書

適時、資料を配布する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）　　小テスト（　）
授業中課題（60）　　授業中発表等（　）
参加度（40）
授業出席はもちろん、事前課題・事後課題の取組み・提出状況については特に重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**国際日本文化講義 I**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　取屋　淳子	

テーマ

海外に出た日本アニメ

授業の到達目標

日本のアニメ作品が、海外でどのように解釈されて観られたのかを、多方面から分析することにより、その国・地域の文化背景などを理解するとともに、日本という国を客観的に見る目も養う。

授業の概要

主な日本アニメ作品について、その作品がどのようにグローバル化され、受容されたのかを考察する(クラス規模・進行具合によっては、変更の可能性あり)。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

あらかじめ取り上げる作品を講義内でアナウンスするので、それらを観て、授業に臨むこと。
不定期に出す課題の提出。

内　容

第1回　ANIMEとは
第2回　日本アニメ―海外進出の歴史
第3回　海外進出の先駆け作品①
第4回　海外進出の先駆け作品②
第5回　日本アニメの特徴
第6回　宮崎アニメ―「風の谷のナウシカ」①
第7回　宮崎アニメ―「風の谷のナウシカ」②
第8回　宮崎アニメ―「となりのトトロ」①
第9回　宮崎アニメ―「となりのトトロ」②
第10回　宮崎アニメ―「もののけ姫」①
第11回　宮崎アニメ―「もののけ姫」②
第12回　宮崎アニメ―「千と千尋の神隠し」①
第13回　宮崎アニメ―「千と千尋の神隠し」②
第14回　現在のANIME
第15回　まとめ

履修上の注意点

授業中の私語・スマートフォンは厳禁。
不定期に課題を課すので、きちんと出席をすること。

教科書

使用しない。

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**国際日本文化講義Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　取屋　淳子	

テーマ

日本アニメに見る日本文化

授業の到達目標

子どもの頃から、何気なく観てきた日本のアニメ作品を詳細に分析することにより、作品にみる日本文化を理解し、考察する。

授業の概要

日本を舞台とする作品を取り上げ、内容はもとより、作品にみる文化的側面(価値観なども含めて)詳しく考察していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

予備学習として、課題を出す。

内　容

第1回　日本を舞台とした作品について
第2回　日本人の自然観①
第3回　日本人の自然観②
第4回　日本人の自然観③
第5回　日本人の自然観④
第6回　日本人の自然観⑤
第7回　日本人の自然観⑥
第8回　伝統文化の継承①
第9回　伝統文化の継承②
第10回　伝統文化の継承③
第11回　伝統文化の継承④
第12回　日本人の価値観①
第13回　日本人の価値観②
第14回　日本人の価値観③
第15回　まとめ

履修上の注意点

授業中の私語・スマートフォンは厳禁。
不定期に課題を課すので、きちんと出席をすること。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ（日）〈＊A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　倫子	

テーマ

平安時代に成立したといわれる短編物語を通して古典に親しむ

授業の到達目標

日本の文化について深める。作品を読む態度を身につける。自分の意見をプレゼンテーションする力を養い、レジュメ作成の力量を高める。

授業の概要

作品講読を基本とし、適宜レジュメやレポートの作成方法やプレゼンテーションの方法などを説明する。当該の本文箇所を対象にして、発表等で実践する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

こまめに古語辞書をひく習慣を身につける。レジュメは時間をかけてしっかり作成する。

内　容

第1回　古典文学の既修範囲についてアンケート。
「堤中納言物語」、「はいずみ」の紹介と授業の進め方の説明。
第2回　作品講読1
第3回　作品講読2・プレゼンテーションしてみよう1
第4回　作品講読3・問題意識の持ち方
第5回　作品講読4・レジュメの書き方紹介
第6回　作品講読5
第7回　作品講読6・和歌（特に贈答歌）について
第8回　作品講読7
第9回　作品講読8・プレゼンテーションしてみよう2
第10回　古典文学に於ける「型」とは何か・論文の引用について
第11回　作品についてのレジュメの作成1
第12回　レジュメ発表1
第13回　作品についてのレジュメの作成2
第14回　レジュメ発表2
第15回　まとめ

履修上の注意点

レジュメの作成が重要なので、時間をかけてしっかりと作成すること。
日本古典文学の知識や興味を深めるためにインターネットも活用する。

教科書

堤中納言物語
著者:　大槻修
出版社:　岩波文庫
出版年:　2002　　ISBN:　9784003002117

参考書

新編日本古典文学全集（各作品）
著者:
出版社:　小学館
出版年:　　ISBN:

日本古典文学集成（各作品）
著者:
出版社:　新潮社
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（　）　　小テスト（　）
授業中課題（20）　　授業中発表等（60）

a10202a110

参加度 （ 20 ）

出席状況・授業態度も重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ（日）<＊B>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安達　太郎	

テーマ

日本語を掘り下げる

授業の到達目標

1）日本語を学ぶことの意味を理解し，分析する方法を修得する。2）データ収集，データ分析，レジュメの作成，口頭発表という一連の作業をとおして，「勉強」とは違う「研究」のあり方を理解する。3）他の受講生の発表に対して積極的に質問を行うことによって，ゼミに対する能動的な関わり方を身につける。

授業の概要

日本語はもっとも身近な言語だが，そこには私たちが知らない〈謎〉がひそんでいる。動詞の意味分析を通して，その〈謎〉を発見し，自らの力で解明する方法をマスターする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

図書館で『月刊言語』や『日本語学』といった雑誌のバックナンバーを手に取ってみてください。今まで知らなかった日本語の姿が立ち上がってきます。

内　容

第1回　導入：日本語をなぜ考えるのか？
第2回　チームによる日本語分析（1）
第3回　チームによる日本語分析（2）
第4回　分担の決定＋データ収集の方法
第5回　データについての報告
第6回　担当項目のチーム内検討（1）
第7回　担当項目のチーム内検討（2）
第8回　担当項目のチーム内検討（3）
第9回　受講生による報告（1）
第10回　受講生による報告（2）
第11回　受講生による報告（3）
第12回　受講生による報告（4）
第13回　受講生による報告（5）
第14回　受講生による報告（6）
第15回　レポートの書き方

履修上の注意点

グループでの活動を重視します。発表があたっていないときでも，さまざまな役割を果たすことを求めます。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ（日）<＊C>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　重松　恵美	

テーマ

近現代小説の研究

授業の到達目標

1．小説作品および参考文献の読解。2．調査研究、資料収集。3．収集資料と考察の整理。発表資料の作成。4．意見発表と意見交換。

授業の概要

近現代小説についての研究発表と質疑応答を行なう授業。発表担当者は、テキストを読解し、参考資料を収集し、問題点を整理して、発表資料を作成し、口頭発表する。発表後は全員で作品および発表内容について討論する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストを熟読すること。その際必ず国語辞典等を参照すること。レジュメ等の配布資料をファイリングし、参考資料として活用すること。

内　　容

第1回　導入1（自己紹介、発表作品と日程の決定）
第2回　導入2（作品読解と調査研究の方法）
第3回　導入3（レジュメの作り方、発表準備）
第4回　発表1　芥川龍之介「杜子春」
第5回　発表2　梶井基次郎「冬の日」
第6回　発表3　太宰治「ヴィヨンの妻」
第7回　発表4　宮沢賢治「風の又三郎」
第8回　発表5　前半まとめ、レポートの書き方
第9回　発表6　宮沢賢治「注文の多い料理店」ほか
第10回　発表7　太宰治「桜桃」ほか
第11回　発表8　芥川龍之介「蜘蛛の糸」ほか
第12回　発表9　芥川龍之介「トロッコ」ほか
第13回　発表10　梶井基次郎「檸檬」ほか
第14回　発表11　梶井基次郎「城のある町にて」
第15回　発表12　後半まとめ、レポート提出

履修上の注意点

テキストを持参しない場合、意見交換に参加しない場合は、欠席とみなす。やむを得ない事情で発表を欠席する場合は事前連絡し、日を改めて発表すること。

教科書

蜘蛛の糸
著者：　芥川龍之介
出版社：角川春樹事務所（ハルキ文庫）
出版年：2011　　ISBN：978-4-7584-3540

檸檬
著者：　梶井基次郎
出版社：角川春樹事務所（ハルキ文庫）
出版年：2011　　ISBN：978-4-7584-3544

桜桃
著者：　太宰治
出版社：角川春樹事務所（ハルキ文庫）
出版年：2011　　ISBN：978-4-7584-3547

注文の多い料理店
著者：　宮沢賢治
出版社：角川春樹事務所（ハルキ文庫）
出版年：2012　　ISBN：978-4-7584-3656

a10202a113

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）	授業中発表等 （ 40% ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ（日）〈＊A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安達　太郎	

テーマ

〈表現〉を分析する

授業の到達目標

1）表現を学ぶことの意味を理解し，分析する方法を修得する。
2）テキスト分析，レジュメの作成，口頭発表という一連の作業をとおして，「勉強」とは違う「研究」のあり方を理解する。
3）他の受講生の発表に対して積極的に質問を行うことによって，ゼミに対する能動的な関わり方を身につける。

授業の概要

日常生活から文学や芸術の分野まで，私たちはさまざまなレベルで〈表現〉に触れている。ここでは翻訳という行為を対象として，あるテキストがどのように〈解釈〉され，どのように別のテキストとして〈表現〉されていくのかを考える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

参考書としてあげた『翻訳夜話』に目を通してください。翻訳に対する村上春樹の姿勢を知ることができます。

内　　容

第1回　導入：〈表現〉を分析する
第2回　表現の分析（1）
第3回　表現の分析（2）
第4回　発表の準備
第5回　チーム内検討（1）
第6回　チーム内検討（2）
第7回　チーム内検討（3）
第8回　受講生による報告（1）
第9回　受講生による報告（2）
第10回　受講生による報告（3）
第11回　受講生による報告（4）
第12回　受講生による報告（5）
第13回　受講生による報告（6）
第14回　受講生による報告（7）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

翻訳夜話
著者：　村上春樹・柴田元幸
出版社：文芸春秋
出版年：2000年　　ISBN：978-4166601295

翻訳夜話2　サリンジャー戦記
著者：　村上春樹・柴田元幸
出版社：文芸春秋
出版年：2003年　　ISBN：978-4166603305

翻訳教室
著者：　柴田元幸
出版社：新書館
出版年：2006年　　ISBN：978-4403210884

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 40 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ（日）＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　重松　恵美	

テーマ

近現代小説の研究

授業の到達目標

1．小説作品および参考文献の読解。2．調査研究、資料収集。3．収集資料と考察の整理。発表資料の作成。4．意見発表と意見交換。

授業の概要

近現代小説についての研究発表と質疑応答を行なう授業。発表担当者は、テキストを読解し、参考資料を収集し、問題点を整理して、発表資料を作成し、口頭発表する。発表後は全員で作品および発表内容について討論する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストを熟読すること。その際必ず国語辞典等を参照すること。レジュメ等の配布資料をファイリングし、参考資料として活用すること。

内　　容

第1回　導入1（自己紹介、発表作品と日程の決定）
第2回　導入2（作品読解と調査研究の方法）
第3回　導入3（レジュメの作り方、発表準備）
第4回　発表1　芥川龍之介「杜子春」
第5回　発表2　梶井基次郎「冬の日」
第6回　発表3　太宰治「ヴィヨンの妻」
第7回　発表4　宮沢賢治「風の又三郎」
第8回　発表5　前半まとめ、レポートの書き方
第9回　発表6　宮沢賢治「注文の多い料理店」ほか
第10回　発表7　太宰治「桜桃」ほか
第11回　発表8　芥川龍之介「蜘蛛の糸」ほか
第12回　発表9　芥川龍之介「トロッコ」ほか
第13回　発表10　梶井基次郎「檸檬」ほか
第14回　発表11　梶井基次郎「城のある町にて」
第15回　発表12　後半まとめ、レポート提出

履修上の注意点

テキストを持参しない場合、意見交換に参加しない場合は、欠席とみなす。やむを得ない事情で発表を欠席する場合は事前連絡し、日を改めて発表すること。

教科書

蜘蛛の糸
著者：　芥川龍之介
出版社：角川春樹事務所（ハルキ文庫）
出版年：2011　　ISBN：978-4-7584-3540

檸檬
著者：　梶井基次郎
出版社：角川春樹事務所（ハルキ文庫）
出版年：2011　　ISBN：978-4-7584-3544

桜桃
著者：　太宰治
出版社：角川春樹事務所（ハルキ文庫）
出版年：2011　　ISBN：978-4-7584-3547

注文の多い料理店
著者：　宮沢賢治
出版社：角川春樹事務所（ハルキ文庫）
出版年：2012　　ISBN：978-4-7584-3656

a10202a252

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）	授業中発表等 （ 40% ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ（日）＜＊C＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　倫子	

テーマ

文学研究の方法を学ぶ

授業の到達目標

本文をしっかり読む態度を養う。
プレゼンテーションの方法を身につける。
論文の書き方を学ぶ。

授業の概要

前半は古典文学またはその影響を受けた作品についての読みを披露し、後半には、その作品について取り上げた論文を紹介、評価する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

本文をよく読む。図書館やインターネットを活用して文献を探す。時間をかけてレジュメを作成する。

内　　容

第1回　授業のねらいと進め方についての説明
第2回　古典の中から自分に合ったものを選んで紹介する
第3回　各自の選んだ作品について、研究概要をまとめ、問題点を探る
第4回　作品について語る（プレゼンテーション）①
第5回　同上②
第6回　同上③
第7回　同上④
第8回　論文を検索し、収集する
第9回　論文の組み立て方、論述の仕方について学ぶ
第10回　前半の発表に関連する論文を紹介し、どこが良く、どこに疑問が残ったかを述べる①
第11回　同上②
第12回　同上③
第13回　同上④
第14回　同上⑤
第15回　まとめ

履修上の注意点

発表時には本文テキストや参考資料を手元に置いて、参照できるようにすること。他の受講者の発表には積極的に質問や意見を述べること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 60 ）
参加度（ 40 ）	

参加度には出席だけでなく、受講態度も含まれます

2018 Syllabus

科 目 名　**漢字古典研究Ⅰ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　20
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中村　史朗	

テーマ

王羲之書法の生成とその伝承

授業の到達目標

著名な中国・日本の漢字古典の実習と鑑賞を通じて、基本的な知識を習得するとともに多様な技法に習熟する。書体の変遷等、史的な推移を重視し、単に個別の古典の技法的特色を知るだけではなく、歴史の流れの中で名作相互がどのように関連しあっているかを十分理解したい。いわば臨書という行為を通じて古典を鑑賞することが主眼となるが、すすんで履修者個々が自身の作品表現に生かせる古典を見出し、制作の背景を固めることもねらいとしている。また代表的な古典とあわせて同時代の新出資料も取り上げ、名筆を生み出す時代状況も考察する。

授業の概要

歴代の漢字古典の臨書を中心とする。あわせて作品と作者、時代状況等に関して講述する。時代の区切りで課題提出をもとめ臨書を日常化するようつとめる。また古典の鑑賞文や臨書に対するコメントなどを課し記述する習慣をつける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

一回の実習で学習できることは限られているので、それぞれの古典について各自で繰り返し臨書をこころみること。

内　容

第1回　ガイダンス 中国書道史概観(1)
第2回　王羲之前夜　李柏尺牘文書を中心に
第3回　蘭亭序(1)
第4回　蘭亭序(2)
第5回　集王碑　集王聖教序と興福寺断碑の比較を中心に
第6回　王羲之の尺牘(1)　墨跡本を中心に
第7回　王羲之の尺牘(2)　刻帖を中心に
第8回　唐　太宗　温泉銘
第9回　孫過庭　書譜
第10回　顔真卿　争座位文稿
第11回　懐素　自叙帖
第12回　北宋の書(1)　蘇軾　黄州寒食詩巻
第13回　北宋の書(2)　黄庭堅　李太白憶旧遊詩巻
第14回　北宋の書(3)　米フツ　蜀素帖
第15回　まとめ　臨書ファイル提出

履修上の注意点

実習を中心とするので、各回毎に指示する用具・用材を忘れず準備すること。大幅な遅刻は欠席として処理する。各回のテーマに沿って自主的に作品制作に取り組むなど、積極的に授業に取り組んでほしい。

教科書

書道テキスト　第5巻　篆書
著者:　大東文化大学書道研究所編
出版社:　二玄社
出版年:　　ISBN:

書道テキスト　第6巻　隷書
著者:　大東文化大学書道研究所編
出版社:　二玄社
出版年:　　ISBN:

書道テキスト　第7巻　楷書
著者:　大東文化大学書道研究所編
出版社:　二玄社
出版年:　　ISBN:

a10202a310

書道テキスト 第8巻 行草書
著者: 大東文化大学書道研究所編
出版社: 二玄社
出版年: ISBN:

参考書

書の文化史 上・中・下
著者: 西林昭一
出版社: 二玄社
出版年: ISBN:

書道全集
著者:
出版社: 平凡社
出版年: ISBN:

書道藝術
著者:
出版社: 中央公論社
出版年: ISBN:

中国法書ガイド 1-60
著者:
出版社: 二玄社
出版年: ISBN:

中国書道史年表
著者: 玉村霽山
出版社: 二玄社
出版年: 1998 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 60 ）　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 20 ）
授業中の取り組み、最終提出物等を総合して評価します。

2018 Syllabus

科 目 名　**漢字古典研究Ⅰ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　20
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池田　利広	

テーマ

中国の殷から唐代までの篆書・隷書・楷書を通観し、それらに含まれる美をいかに表現するかを書技法面から探究する。

授業の到達目標

漢字の成り立ちと唐代までの篆書・隷書・楷書の書風の変遷、書体・書風の書技法の習得をめざす。

授業の概要

理論と実践を通して書の美に迫る。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

講義内容・実技課題は授業に必ず復習すること。実技課題は清書作品を最後の授業に提出。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　漢字の成り立ち『説文解字』より　　篆書（1） 甲骨　骨に刻まれた文字の表現を考える
第3回　篆書（2） 小篆　泰山刻石から小篆の書法について考える
第4回　篆書（3） 大篆　石鼓文から大篆の書法について考える
第5回　篆書（4） 金文　金属に鋳刻された文字の表現を考える
第6回　篆書（5） 竹簡　当時の篆書書写体を考える
第7回　隷書（1） 八分　乙瑛碑の書法について考える
第8回　隷書（2） 八分　礼器碑の書法について考える
第9回　隷書（3） 八分　張遷碑の書法について考える
第10回　隷書（4） 八分　曹全碑の書法について考える
第11回　隷書（5） 摩崖　石門頌の書法について考える
第12回　楷書（1） 隋楷　真草千字文の書法について考える
第13回　楷書（2） 唐楷　九成宮醴泉銘の書法について考える
第14回　楷書（3） 唐楷　孔子廟堂碑の書法について考える
第15回　楷書（4） 唐楷　雁塔聖教序の書法について考える

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退出をしない。

教科書

書道テキスト第5巻　篆書
著者:　大東文化大学書道研究所編
出版社:
出版年:　　ISBN:
書道テキスト第6巻　隷書
著者:　大東文化大学書道研究所編
出版社:
出版年:　　ISBN:
書道テキスト第7巻　楷書
著者:　大東文化大学書道研究所編
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

a10202a312

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （30%）
期末提出課題 70%

2018 Syllabus

科 目 名　**漢字古典研究Ⅱ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　20
履修条件	クラス指定
担 当 者　池田　利広	

テーマ

中国の殷から唐代までの篆書・隷書・楷書を通観し、それらに含まれる美をいかに表現するかを書技法面から探究する。

授業の到達目標

漢字の成り立ちと漢代までの篆書・隷書・楷書の書風の変遷、書体・書風の書技法の習得をめざす。

授業の概要

理論と実践を通して書の美に迫る。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

講義内容・実技課題は授業に必ず復習すること。実技課題は清書作品を最後の授業に提出。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　漢字の成り立ち 『説文解字』より 篆書（1） 甲骨文字　骨に刻まれた文字の表現を考える
第3回　篆書（2） 小篆　泰山刻石から小篆の書法について考える
第4回　篆書（3） 大篆　石鼓文から大篆の書法について考える
第5回　篆書（4） 金文　金属に鋳刻された文字の表現を考える
第6回　篆書（5） 竹簡　当時の篆書書写体を考える
第7回　隷書（1） 八分　乙瑛碑の書法について考える
第8回　隷書（2） 八分　礼器碑の書法について考える
第9回　隷書（3） 八分　張遷碑の書法について考える
第10回 隷書（4） 八分　曹全瑛碑の書法について考える
第11回 隷書（5） 摩崖　石門頌の書法について考える
第12回 楷書（1） 隋楷　真草千字文の書法について考える
第13回 楷書（2） 唐楷　九成宮醴泉銘の書法について考える
第14回 楷書（3） 唐楷　孔子廟堂碑の書法について考える
第15回 楷書（4） 唐楷　雁塔聖教序の書法について考える

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退出をしない。

教科書

書道テキスト第5巻　篆書
著者:　大東文化大学書道研究所編
出版社:
出版年:　　ISBN:

書道テキスト第6巻　隷書
著者:　大東文化大学書道研究所編
出版社:
出版年:　　ISBN:

書道テキスト第7巻　楷書
著者:　大東文化大学書道研究所編
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

a10202a450

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （30%）
期末提出課題 70%

2018 Syllabus

科 目 名　**漢字古典研究Ⅱ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　20
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中村　史朗	

テーマ

王羲之書法の生成とその伝承

授業の到達目標

著名な中国・日本の漢字古典の実習と鑑賞を通じて、基本的な知識を習得するとともに多様な技法に習熟する。書体の変遷等、史的な推移を重視し、単に個別の古典の技法的特色を知るだけではなく、歴史の流れの中で名作相互がどのように関連しあっているかを十分理解したい。いわば臨書という行為を通じて古典を鑑賞することが主眼となるが、すすんで履修者個々が自身の作品表現に生かせる古典を見出し、制作の背景を固めることもねらいとしている。また代表的な古典とあわせて同時代の新出資料も取り上げ、名筆を生み出す時代状況も考察する。

授業の概要

歴代の漢字古典の臨書を中心とする。あわせて作品と作者、時代状況等に関して講述する。時代の区切りで課題提出をもとめ臨書を日常化するようつとめる。また古典の鑑賞文や臨書に対するコメントなどを課し記述する習慣をつける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

一回の実習で学習できることは限られているので、それぞれの古典について各自で繰り返し臨書をこころみること。

内　容

第1回　ガイダンス 中国書道史概観(1)
第2回　王羲之前夜　李柏尺牘文書を中心に
第3回　蘭亭序(1)
第4回　蘭亭序(2)
第5回　集王碑　集王聖教序と興福寺断碑の比較を中心に
第6回　王羲之の尺牘(1)　墨跡本を中心に
第7回　王羲之の尺牘(2)　刻帖を中心に
第8回　唐　太宗　温泉銘
第9回　孫過庭　書譜
第10回　顔真卿　争座位文稿
第11回　懐素　自叙帖
第12回　北宋の書(1)　蘇軾　黄州寒食詩巻
第13回　北宋の書(2)　黄庭堅　李太白憶旧遊詩巻
第14回　北宋の書(3)　米フツ　蜀素帖
第15回　まとめ　臨書ファイル提出

履修上の注意点

実習を中心とするので、各回毎に指示する用具・用材を忘れず準備すること。大幅な遅刻は欠席として処理する。各回のテーマに沿って自主的に作品制作に取り組むなど、積極的に授業に取り組んでほしい。

教科書

書道テキスト　第5巻　篆書
著者:　大東文化大学書道研究所編
出版社:　二玄社
出版年:　　ISBN:

書道テキスト第6巻　隷書
著者:　大東文化大学書道研究所編
出版社:　二玄社
出版年:　　ISBN:

書道テキスト第7巻　楷書
著者:　大東文化大学書道研究所編
出版社:　二玄社
出版年:　　ISBN:

a10202a452

書道テキスト第8巻　行草書
著者:　大東文化大学書道研究所編
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:

参考書

書の文化史　上・中・下
著者:　西林昭一
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:

書道全集
著者:
出版社: 平凡社
出版年:　　ISBN:

書道藝術
著者:
出版社: 中央公論社
出版年:　　ISBN:

中国法書ガイド　1～60
著者:
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:

中国書道史年表
著者:　玉村霽山
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 20 ）
授業中の取り組み、最終提出物等を総合して評価します。

2018 Syllabus

科 目 名　**かな古典研究Ⅰ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　20
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　二三	

テーマ

奈良時代から女手が完成する時代までの書美について理解を深める。

授業の到達目標

多様なかな書美の理解と書法の修得。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中では学習時間が足りないので、自宅学習が大切。清書作品は毎週仕上げておくこと。

内　　容

第1回　万葉仮名の作品について①
第2回　万葉仮名の作品について②
第3回　万葉仮名の作品について③
第4回　万葉仮名の作品について④
第5回　草仮名の作品について
第6回　草仮名の典型「秋萩帖」
第7回　草仮名の作品について
第8回　女手の完成期の作品「高野切」①
第9回　女手の完成期の作品「高野切」②
第10回　高野切系統の作品について①
第11回　高野切系統の作品について②
第12回　高野切系統の作品について③
第13回　平安三色紙の作品「継色紙」
第14回　平安三色紙の作品「寸松庵色紙」
第15回　平安三色紙の作品「升色紙」

履修上の注意点

教科書

「和様の書美」
著者:　横山煌平　編
出版社:　二玄社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（0）　　小テスト（0）
授業中課題（80）　　授業中発表等（0）
参加度（20）
授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

2018 Syllabus

科 目 名　**かな古典研究Ⅰ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　20
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　二三	

テーマ

奈良時代から女手が完成する時代までの書美について理解を深める。

授業の到達目標

多様なかな書美の理解と書法の修得。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中では学習時間が足りないので、自宅学習が大切。清書作品は毎週仕上げておくこと。

内　　容

第1回　万葉仮名の作品について①
第2回　万葉仮名の作品について②
第3回　万葉仮名の作品について③
第4回　万葉仮名の作品について④
第5回　草仮名の作品について
第6回　草仮名の典型「秋萩帖」
第7回　草仮名の作品について
第8回　女手の完成期の作品「高野切」①
第9回　女手の完成期の作品「高野切」②
第10回　高野切系統の作品について①
第11回　高野切系統の作品について②
第12回　高野切系統の作品について③
第13回　平安三色紙の作品「継色紙」
第14回　平安三色紙の作品「寸松庵色紙」
第15回　平安三色紙の作品「升色紙」

履修上の注意点

教科書

「和様の書美」
著者:　横山煌平　編
出版社:　二玄社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 80 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 20 ）
授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

2018 Syllabus

科 目 名　**かな古典研究Ⅱ <＊a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　20
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　二三	

テーマ

多様な書美を競った院政時代から江戸時代までの書美について理解。

授業の到達目標

多様なかな書美の理解と書法の修得。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中では学習時間が足りないので、自宅学習が大切。清書作品は毎週仕上げておくこと。

内　　容

第1回　院政時代の作品「曼殊院本古今集」
第2回　院政時代の代表的作品「関戸本古今集」
第3回　院政時代の作品「本阿弥切古今集」
第4回　院政時代の作品「小島切斎宮女御集」
第5回　世尊寺家の書流について①
第6回　世尊寺家の書流について②
第7回　世尊寺家の書流について③
第8回　世尊寺家の書流について④
第9回　平安時代末期の作品「針切」
第10回　平安時代末期の作品「香紙切」
第11回　平安時代末期の作品「和泉式部続集切」
第12回　鎌倉時代の作品(西行)
第13回　鎌倉時代の作品(西行)
第14回　鎌倉時代の作品(定家)
第15回　江戸時代の書について(良寛)

履修上の注意点

教科書

「和様の書美」
著者:　横山煌平　編
出版社:　二玄社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 80 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 20 ）
授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

2018 Syllabus

科 目 名　**かな古典研究Ⅱ <＊b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　20
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　二三	

テーマ

多様な書美を競った院政時代から江戸時代までの書美について理解。

授業の到達目標

多様なかな書美の理解と書法の修得。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中では学習時間が足りないので、自宅学習が大切。清書作品は毎週仕上げておくこと。

内　　容

第1回　院政時代の作品「曼殊院本古今集」
第2回　院政時代の代表的作品「関戸本古今集」
第3回　院政時代の作品「本阿弥切古今集」
第4回　院政時代の作品「小島切斎宮女御集」
第5回　世尊寺家の書流について①
第6回　世尊寺家の書流について②
第7回　世尊寺家の書流について③
第8回　世尊寺家の書流について④
第9回　平安時代末期の作品「針切」
第10回　平安時代末期の作品「香紙切」
第11回　平安時代末期の作品「和泉式部続集切」
第12回　鎌倉時代の作品(西行)
第13回　鎌倉時代の作品(西行)
第14回　鎌倉時代の作品(定家)
第15回　江戸時代の書について(良寛)

履修上の注意点

教科書

「和様の書美」
著者:　横山煌平　編
出版社:　二玄社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 80 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 20 ）
授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学講読e(平安文学研究Ⅰ)〈Z〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　倫子	

テーマ

源氏物語を人物から読む

授業の到達目標

千年の時を超えてきた古典文学の魅力に触れる。古典に親しむことで、感性を豊かにする。

授業の概要

物語の登場人物ごとに、代表的な場面を原文で読む。貴族社会を舞台とした物語であるが、社会・習俗を超えて共感する人間性を学ぶ。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

事前に配布する資料に目を通しておく。

内　容

第1回　文学史上の「源氏物語」、作品紹介(年立て・系図)
桐壺更衣と桐壺帝(桐壺～明石)
第2回　光源氏・青年期(桐壺～明石)
第3回　葵の上(桐壺～葵)
第4回　藤壺(桐壺～薄雲)
第5回　夕顔と六条御息所(夕顔～鈴虫)
第6回　若紫と紫の上・前半(若紫～藤裏葉)
第7回　朧月夜(花宴～若菜下)
第8回　明石の君(若紫～若菜下)
第9回　末摘花(末摘花～若菜上)
第10回　朱雀院(桐壺～夕霧)
第11回　冷泉院(紅葉賀～総角)と夕霧(葵～蜻蛉)
第12回　光源氏・壮年期～老年期(澪標～幻)
第13回　女三宮(若菜上～蜻蛉)と紫の上・後半(若菜上～御法)
第14回　柏木(少女～横笛)・薫(柏木～夢浮橋)
第15回　宇治の姉妹と浮舟(橋姫～夢浮橋)

履修上の注意点

初回配布の年立てと系図のプリントは必携

教科書

プリントを配布する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

源氏物語大成普及版全14冊
著者:　池田亀鑑
出版社:　中央公論社
出版年:　1984～1985　　ISBN:

源氏物語評釈全12冊
著者:　玉上琢弥
出版社:　角川書店
出版年:　1964～1969　　ISBN:

その他源氏物語の各種注釈書
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

a10202d510

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**書論･鑑賞 Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　谷川　雅夫	

テーマ

書道を学ぶ上で重要な作品の内容を理解し、作品についての書論を読みながら鑑賞を一層深いものにする。

授業の到達目標

①中国書道の代表的な作品の文章内容を理解する。②中国書道の様式と文章内容の関係を理解する。

授業の概要

取り上げた作品の内容を訓読し、それに関して論じられている書論を読み、作品を鑑賞する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

取り上げた作品を必ず臨書しておく。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　龍門造像記「一弗造像記」等を読む。
第3回　龍門造像記「牛ケツ造像記」等を読む。
第4回　龍門造像記に関する書論を読む。
第5回　龍門造像記の様々な拓本を鑑賞する。
第6回　蘭亭序「永和九年～信可楽也」を読む。
第7回　蘭亭序「夫人之相與～有感於斯文」を読む。
第8回　蘭亭序に関する書論を読む。
第9回　蘭亭序の様々な法帖を鑑賞する。
第10回　祭姪文稿「維乾元元年～亦在平原」を読む。
第11回　祭姪文稿「仁兄愛我～尚饗」を読む。
第12回　祭伯文稿「祭伯父～身陥賊庭」を読む
第13回　祭伯文稿「聖朝哀栄～尚饗」を読む
第14回　祭姪･祭伯文稿に関する書論を読む。
第15回　祭姪･祭伯文稿の様々な法帖を鑑賞する。　※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

積極的に参加することを望む。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験･レポート （ 40% ）	小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ 10% ）	授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**書論･鑑賞Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　谷川　雅夫	

テーマ

書道を学ぶ上で重要な作品の内容を理解し、作品についての書論も読み、草書や篆書を読めるようにし、鑑賞をより一層深いものにする。

授業の到達目標

①中国･日本書道の代表的な作品の文章内容を理解する。②中国･日本書道の様式と文章内容の関係を理解する。③中国･日本書道の作品に使われる草書や篆書を読めるようにする。

授業の概要

取り上げた作品の内容を訓読し、それに関する書論を読み、作品を鑑賞する。

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

取り上げた作品を必ず臨書しておく。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　十七帖「逸民帖」等を読む。
第3回　十七帖「遊目帖」等を読む。
第4回　十七帖に関する書論を読む。
第5回　十七帖の様々な法帖を鑑賞する。
第6回　蘭亭十三跋「一跋～六跋」を読む。
第7回　蘭亭十三跋「七跋～十三跋」を読む。
第8回　真草千字文を読む①
第9回　真草千字文を読む②
第10回　甲骨文を読む①
第11回　甲骨文を読む②
第12回　金文を読む①
第13回　金文を読む②
第14回　石鼓文を読む①
第15回　石鼓文を読む②　※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

積極的に参加することを望む。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験･レポート （ 40% ）	小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ 10% ）	授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**中国書道史**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池田　利広	

テーマ

中国書道史:漢字の生成から民国までの文字や書法の歴史について通観する。

授業の到達目標

中国における書体の生成を視覚的に確認し、その動的なありようを理解する。また各時代の代表的名品や能書に関する基本的知識を身につけるとともに、それらの表現上の特色を知る。さらに唐代から民国にいたる王羲之書法受容や書風編成の実態を考察する。

授業の概要

中国における漢字各書体の生成を概観した後、王羲之とその時代、書法の特質、後代への影響について検討する。続いて隋唐における楷書の典型の確立や代表的能書から、民国期までの能書や作品について考察する。講義を中心に進めるが、個人発表、グループ討議、鑑賞メモなどを通じて主体的な参加をうながす。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

中国書道史に関する資料をよく参照し、代表的能書や作品に関する知識を積極的に身につけてほしい。また図版資料によって古典の書風や書法を視覚的に分析・理解できるよう努めること。

内　容

第1回　オリエンテーション 漢字の成り立ちについて(『説文解字』から)
第2回　殷・周・春秋戦国の文字について
第3回　秦・漢の文字について(肉筆資料を中心に)
第4回　秦・漢の文字について(金石資料を中心に)
第5回　三国・晋・東晋の書について
第6回　王羲之の書について
第7回　南北朝の書について
第8回　隋・唐・五代の書について(楷書を中心に)
第9回　隋・唐・五代の書について(行草書を中心に)
第10回　宋・金・元の書について(宋の三大家を中心に)
第11回　宋・金・元の書について(趙孟フを中心に)
第12回　明の書について
第13回　明末清初の書について
第14回　清の書について
第15回　中華民国の書について(まとめ)

履修上の注意点

教科書

中国書道史
著者:　角井　博
出版社:　芸術新聞社
出版年:　　ISBN:　9784875861652

参考書

書の文化史　上・中・下
著者:　西林昭一
出版社:　二玄社
出版年:　　ISBN:

書道全集
著者:
出版社:　平凡社
出版年:　　ISBN:

a10202e910

書道藝術

著者:

出版社: 中央公論社

出版年: ISBN:

中国書法ガイド 1-60

著者:

出版社: 二玄社

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ 20 ）

参加度 （ 30 ）

レポート試験、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断し評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本書道史**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中村　史朗	

テーマ

日本書道史-仮名(上代様)の成立を中心に-

授業の到達目標

漢字渡来から仮名の成立までのながれを視覚的に確認する。特に女手の成立までの過程を正確に把握する。また上代様の基本的な知識を修得し、技法上の特色を相互に比較しながら理解する。さらに本阿弥光悦ら江戸時代初期の代表的能書が上代様をどのように吸収し、新表現につなげたかを理解する。

授業の概要

漢字渡来から、日本人が中国書法を自身のものとする流れを確認するとともに、日本語の表記が成熟する過程、いわゆる上代様の仮名(女手)の成立について考察する。さらに寛永の三筆や唐様の書を例に取り、近世の京都における独自の書的展開にも言及する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業で取り上げた古典作品は、図録などで全体像を確認したうえで、部分からでも作者や作品名が言い当てられるよう努めること。

内　容

第1回　古代日本の文字資料
第2回　飛鳥・白鳳時代の書
第3回　奈良時代の書①
第4回　奈良時代の書②
第5回　平安時代の漢字書①　弘仁・貞観期の文化、三筆の書(1)
第6回　平安時代の漢字書②　三筆の書(2)
第7回　平安時代の漢字書③　国風文化の発達、三跡の書(1)
第8回　平安時代の漢字書④　三跡の書(2)
第9回　平安時代の漢字書④　三跡の書(2)
第10回　仮名の生成と発展②
第11回　上代様の名品とその書法①
第12回　上代様の名品とその書法②
第13回　寛永の三筆①　王朝美の再現
第14回　寛永の三筆②　本阿弥光悦の人と書
第15回　寛永の三筆③　近衛信尹と松花堂昭乗の人と書、まとめ

履修上の注意点

日本書道史に関する資料をよく参照し、代表的能書や名品に関する知識を主体的に身につける。また図版資料によって、古筆の書風や書法を視覚的に分析・理解するよう努めること。

教科書

日本書道史年表
著者:　名児耶明
出版社:　二玄社
出版年:　1999　　ISBN:　4-544-01242-2

和様の書美
著者:　横山煌平
出版社:　二玄社
出版年:　2013　　ISBN:

参考書

展望日本書道史
著者:　小松茂美
出版社:　中央公論社
出版年:　　ISBN:

a10202f050

古筆

著者:　小松茂美

出版社: 講談社

出版年:　　ISBN:

決定版日本書道史

著者:　名児耶明

出版社: 芸術新聞社

出版年:　　ISBN:

書道全集

著者:

出版社: 平凡社

出版年:　　ISBN:

書道藝術

著者:

出版社: 中央公論社

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 25 ）　　小テスト（ 25 ）

授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 10 ）

参加度（ 20 ）

レポート試験、授業での取り組み、出席率など総合的に判断して評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅴ〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　林　久美子	

テーマ

日本の伝統文化への理解を深める

授業の到達目標

伝統文化それぞれの特質と歴史について知る。発表を通して読解力やプレゼンテーション能力を高める。併せて、地域の課題について理解を深める。

授業の概要

1限目に茶道、華道、書道、居合道、お香、狂言について学び、2限目は講師やサークルの協力を得て体験します。なお、順序と内容に一部変更の可能性があります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループごとに文献で調べた知識をどのようにまとめ、伝えるのかを十分話し合う。発表後ワークシートを提出し、教員のコメントを受け取る。

内　　容

第1回　授業の進め方について
第2回　図書館で調べ方を学ぶ
第3回　書道について
第4回　書道体験
第5回　華道について
第6回　華道体験
第7回　居合道について
第8回　居合道体験
第9回　狂言について
第10回　狂言体験
第11回　お香について
第12回　お香の体験
第13回　茶道について
第14回　茶道体験
第15回　学外研修または後半の準備のためのグループワーク

履修上の注意点

グループ発表は全員で行うこと。体験学習はそれぞれの作法を守ること。
担当の時間にやむなく欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。守らない場合は単位を認めないことがあります。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（ 60 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅴ〈b〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　重松　恵美	

テーマ

10代20代向けの小説

授業の到達目標

1．読解力　作品をていねいに読み、理解する。2．思考力　作品について、受講生一人一人が考える。3．文章力　作品について考えたことを、レポートにまとめる。4．対話力　作品についての意見発表と意見交換を行う。

授業の概要

10代20代を読者対象とする小説を考察の対象とします。現代の若者に向けて書かれた小説は、どのような特徴を持っているのでしょうか。作品読解を授業の基本作業としつつ、ライトノベルやヤングアダルトといったジャンルの問題についても考えてみたいと思います。教員による作品解説ののち、受講生によるグループディスカッションを行ないます。あわせて地域課題についても理解を深めていきます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業の予習復習として、授業時間以外にも読書の時間を確保すること。目安は1日15分（週に2時間程度）とする。学期末までにテキストを読了すること。

内　容

第1回　ライトノベルとは何か
第2回　文庫化、漫画化による変化
第3回　香月日輪「妖怪アパートの幽雅な日常」
第4回　荻原規子「RDG（レッドデータガール）」
第5回　あさのあつこ「NO．6（ナンバーシックス）」
第6回　桜庭一樹「GOSICK（ゴシック）」
第7回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第1章
第8回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第2章
第9回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第3章
第10回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第4章
第11回　坂木司「和菓子のアン」第1章
第12回　坂木司「和菓子のアン」第2章
第13回　坂木司「和菓子のアン」第3章
第14回　坂木司「和菓子のアン」第4章
第15回　学外授業

履修上の注意点

この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので，注意すること。

教科書

和菓子のアン
著者：　坂木司
出版社：光文社文庫
出版年：2012　　ISBN：9784334764845

神去なあなあ日常
著者：　三浦しをん
出版社：徳間文庫
出版年：2012　　ISBN：9784198936044

参考書

NO．6
著者：　あさのあつこ
出版社：講談社文庫
出版年：　　ISBN：

a10202f112

妖怪アパートの幽雅な日常

著者: 香月日輪

出版社: 講談社文庫

出版年: ISBN:

RDG

著者: 荻原規子

出版社: 角川文庫

出版年: ISBN:

GOSICK

著者: 桜庭一樹

出版社: 角川文庫

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　小テスト（ ）

授業中課題（ 60% ）　授業中発表等（ 40% ）

参加度（ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅴ〈c〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　幸一郎	

テーマ

京都アニメーションとスタジオジブリ

授業の到達目標

スタジオジブリと京都アニメーションという日本を代表するアニメーション制作会社の代表作品を理解していくことで、現代日本のメディア文芸についての理解を深めていく。あわせて、しばしばアニメやドラマ、マンガに描かれてきた場所を訪ね、地域課題への理解を深めていく。

授業の概要

基本的には講義が中心になるが、随時グループワークを実施していく予定である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で取り上げる作品についてはあらかじめ視聴しておくことが望ましい。随時小レポートの提出を求めていく。

内　容

第1回　全体説明
第2回　ポストエヴァンゲリヲン一0年代のアニメーション概要
第3回　京アニを読む（1）「クラナド」
第4回　京アニを読む（2）「けいおん！」
第5回　京アニを読む（3）「Free！」
第6回　学外見学　伏見界隈　乃木神社・寺田屋・月桂冠
第7回　学外見学　伏見界隈　寺田屋・月桂冠
第8回　学外見学振り返り
第9回　京アニを読む（4）「中二病でも恋がしたい」
第10回 京アニを読む（5）「響け！ユーフォニアム」
第11回 ジブリが描いた少女たち（1）
第12回 ジブリが描いた少女たち（2）
第13回 ジブリが描いた少女たち（3）
第14回 学外見学　東山界隈　高瀬川・池田屋・祇園
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

京アニを読む
著者:　野村幸一郎
出版社: 新典社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（60）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅴ <d>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安達　太郎	

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1）生き生きとしたプレゼンテーションができる。
2）相互批評性を身につける。
3）グループで協調してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であるのと同時に，文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従って，タスクの準備をすること。

内　　容

第1回　言語文化総合演習への導入～声の復権の意味～
第2回　生き生きとしたプレゼンテーションとは
第3回　タスク1　ビブリオバトル（1）導入
第4回　タスク1　ビブリオバトル（2）グループワーク
第5回　タスク1　ビブリオバトル（3）本戦1
第6回　タスク1　ビブリオバトル（4）本戦2
第7回　タスク1　ビブリオバトル（5）本戦4
第8回　タスク1　ビブリオバトル（6）本戦5とビブリオバトルの振り返り
第9回　タスク2　歌合（1）導入
第10回　タスク2　歌合（2）グループワーク
第11回　タスク2　歌合（3）歌合本戦1
第12回　タスク2　歌合（4）歌合本戦2
第13回　タスク2　歌合（5）歌合本戦3
第14回　タスク2　歌合（6）歌合本戦4
第15回　タスク2　歌合（7）歌合本戦5と歌合の振り返り

履修上の注意点

この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので，注意すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

短歌パラダイス
著者:　小林恭二
出版社:　岩波書店
出版年:　1997　　ISBN:　4-00-430498-9

ビブリオバトル
著者:　谷口忠大
出版社:　文藝春秋
出版年:　2013　　ISBN:　4-16-660901-7

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 20% ）	授業中発表等 （ 50% ）

a10202f114

参加度 （ 30% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅵ <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　林 久美子	

テーマ

怪談の技法(『雨月物語』を読む)

授業の到達目標

怪談を通して心の闇について考える／日本の民俗・文化について学ぶ／読解力を身に付ける／プレゼンテーション力を向上させる／地域の課題について理解を深める

授業の概要

グループで担当する章を選び、発表する。1限目に発表、2限目は全員で意見を述べ合う読書会形式とする。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

グループで作成したレジュメは事前にLAの点検を受ける。また授業後はワークシートに記入し、教員のコメントを受け取る。

内　容

第1回　グループ発表①
第2回　討論
第3回　グループ発表②
第4回　討論
第5回　グループ発表③
第6回　討論
第7回　グループ発表④
第8回　討論
第9回　グループ発表⑤
第10回　討論
第11回　学外研修(時期は変更の可能性あり)
第12回　〃
第13回　グループ発表⑥
第14回　討論
第15回　まとめ

履修上の注意点

発表担当でない章の作品にも目を通して授業に参加すること。
連絡なしに発表をキャンセルした場合は単位を放棄したものとみなします。

教科書

雨月物語　現代語訳付き
著者:　上田秋成／鵜月洋
出版社:　角川ソフィア文庫
出版年:　2006　　ISBN:

参考書

水木しげるの雨月物語
著者:　水木しげる
出版社:　河出書房新社
出版年:　2010(第9刷)　　ISBN:

雨月物語の世界
著者:　長島弘明
出版社:　ちくま学芸文庫
出版年:　1998　　ISBN:

英草紙・西山物語・雨月物語・春雨物語
著者:　高田衛ほか
出版社:　小学館
出版年:　1995　　ISBN:

a10202f210

雨月物語・春雨物語(完訳日本の古典)
著者: 高田衛ほか
出版社: 小学館
出版年: 1981 ISBN:

雨月物語・癇癖談
著者: 浅野三平
出版社: 新潮日本古典集成
出版年: 1979 ISBN:

漫画訳 雨月物語
著者: 武富健治
出版社: PHP研究所
出版年: 2016 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）
授業中課題（ ） 授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ 50 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅵ <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　重松　恵美	

テーマ

現代小説における古典芸能

授業の到達目標

1. 読解力　作品をていねいに読み、理解する。2. 思考力　作品について、受講生一人一人が考える。3. 文章力　作品について考えたことを、レポートにまとめる。4. 対話力　作品についての意見発表と意見交換を行なう。

授業の概要

現代日本を舞台とし、古典芸能に取り組む若者を主人公とする小説をテキストとして読み、現代文学の動向について考える。教員による解説ののち、受講生によるグループディスカッションを行なう。あわせて地域課題についても理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストを学期末までに読了すること。授業時間以外にも、作品を読む時間を確保すること。読書時間の目安は毎日15分（週あたり2時間）とする。

内　容

第1回　学外授業
第2回　歌舞伎、文楽、組踊
第3回　歌舞伎鑑賞
第4回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」序幕、二幕目
第5回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」三幕目
第6回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」四幕目
第7回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」五幕目
第8回　落語、浪曲、講談
第9回　落語鑑賞
第10回　田中啓文「ハナシがちがう！」第一話前半
第11回　田中啓文「ハナシがちがう！」第一話後半
第12回　田中啓文「ハナシがちがう！」第二話
第13回　田中啓文「ハナシがちがう！」第三話
第14回　池上永一「竹富島」前半
第15回　池上永一「竹富島」後半

履修上の注意点

教科書

カブキブ！　1
著者:　榎田ユウリ
出版社:　角川文庫
出版年:　2013　　ISBN:　978404100956

ハナシがちがう（笑酔亭梅寿謎解噺1）
著者:　田中啓文
出版社:　集英社文庫
出版年:　2006　　ISBN:　9784087460742

参考書

統ばる島（すばるしま）
著者:　池上永一
出版社:　角川文庫
出版年:　　ISBN:

仏果を得ず
著者:　三浦しをん
出版社:　双葉文庫
出版年:　　ISBN:

a10202f212

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 60% ）	授業中発表等（ 40% ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅵ <c>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　幸一郎	

テーマ

日本近現代文学の研究方法

授業の到達目標

日本近現代文学の代表的な作品を題材として、その研究方法を習得していく。あわせて、さまざまな小説の舞台となった場所を訪ね、地域課題についての理解を一層深めていく。

授業の概要

前半は担当教員による講義、後半は受講生による発表が中心になる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で取り上げる作品はあらかじめ読んでくること。随時小レポートの提出を求める。

内　　容

第1回　学外見学　円山公園・高台寺
第2回　人物像・作品の主題の分析
第3回　ストーリーの分析
第4回　分析分の書き方
第5回　図書館利用法
第6回　夏目漱石「こころ」を分析する（1）
第7回　夏目漱石「こころ」を分析する（2）
第8回　受講生による発表　森鴎外「高瀬舟」
第9回　受講生による発表　芥川龍之介「羅生門」
第10回　受講生による発表　志賀直哉「城の崎にて」
第11回　受講生による発表　宮沢賢治「注文の多い料理店」
第12回　受講生による発表　川端康成「伊豆の踊子」
第13回　受講生による発表　中島敦「山月記」
第14回　受講生による発表　太宰治「人間失格」
第15回　まとめ

履修上の注意点

グループワークには積極的に参加する

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 60 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅵ <d>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安達　太郎	

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1）文学や歴史，地理を総合的に理解することができる。2）テキストのフレージングを意識化することができる。3）グループで協調してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であるのと同時に，文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従って，タスクの準備をすること。

内　容

第1回　タスク3　群読（1）導入
第2回　タスク3　群読（2）万葉歌の群読
第3回　タスク3　群読（3）近代詩の群読1
第4回　タスク3　群読（4）近代詩の群読2
第5回　タスク3　群読（5）近代詩の群読3
第6回　タスク3　群読（6）近代詩の群読4
第7回　タスク3　群読（7）近代詩の群読と振り返り
第8回　タスク4　リレープレゼン（1）
第9回　タスク4　リレープレゼン（2）学外授業
第10回　タスク4　リレープレゼン（3）学外授業
第11回　タスク4　リレープレゼン（4）
第12回　タスク4　リレープレゼン（5）
第13回　タスク4　リレープレゼン（6）
第14回　タスク4　リレープレゼン（7）
第15回　タスク4　リレープレゼン（8）

履修上の注意点

この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので，注意すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 20% ）	授業中発表等 （ 50% ）
参加度 （ 30% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅶ <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　重松　恵美	

テーマ

10代20代向けの小説

授業の到達目標

1. 読解力　作品をていねいに読み、理解する。2. 思考力　作品について、受講生一人一人が考える。3. 文章力　作品について考えたことを、レポートにまとめる。4. 対話力　作品についての意見発表と意見交換を行う。

授業の概要

10代20代を読者対象とする小説を考察の対象とします。現代の若者に向けて書かれた小説は、どのような特徴を持っているのでしょうか。作品読解を授業の基本作業としつつ、ライトノベルやヤングアダルトといったジャンルの問題についても考えてみたいと思います。教員による作品解説ののち、受講生によるグループディスカッションを行ないます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業の予習復習として、授業時間以外にも読書の時間を確保すること。目安は1日15分（週に2時間程度）とする。学期末までにテキストを読了すること。

内　容

第1回　ライトノベルとは何か
第2回　文庫化、漫画化による変化
第3回　香月日輪「妖怪アパートの幽雅な日常」
第4回　荻原規子「RDG（レッドデータガール）」
第5回　あさのあつこ「NO. 6（ナンバーシックス）」
第6回　桜庭一樹「GOSICK（ゴシック）」
第7回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第1章
第8回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第2章
第9回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第3章
第10回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第4章
第11回　坂木司「和菓子のアン」第1章
第12回　坂木司「和菓子のアン」第2章
第13回　坂木司「和菓子のアン」第3章
第14回　坂木司「和菓子のアン」第4章
第15回　学外授業

履修上の注意点

教科書

和菓子のアン
著者:　坂木司
出版社:　光文社文庫
出版年:　2012　　ISBN:　9784334764845

神去なあなあ日常
著者:　三浦しをん
出版社:　徳間文庫
出版年:　2012　　ISBN:　9784198936044

参考書

NO. 6
著者:　あさのあつこ
出版社:　講談社文庫
出版年:　　ISBN:

妖怪アパートの幽雅な日常
著者:　香月日輪
出版社:　講談社文庫
出版年:　　ISBN:

a10202f350

RDG

著者: 荻原規子

出版社: 角川文庫

出版年: ISBN:

GOSICK

著者: 桜庭一樹

出版社: 角川文庫

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 60% ） 授業中発表等（ 40% ）

参加度 （ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅶ <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　幸一郎	

テーマ

京都アニメーションとスタジオジブリ

授業の到達目標

日本を代表する二つのアニメーション会社、京都アニメーションとスタジオジブリの作品を学んでいくことで、日本のメディア文芸について理解を深めていく。また、アニメや漫画、小説、ドラマの舞台になった場所を訪ねることで作品世界をより深く理解するとともに、地域改題に関する理解を深めていく。

授業の概要

基本的に講義が中心になるが、随時グループワークを実施していく予定である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業でとりあげる作品はあらかじめ視聴しておくことが望ましい。随時小レポートの提出を求めていく。

内　容

第1回　全体説明
第2回　ポスト・ヱヴァンゲリヲン　0年代のアニメーション
第3回　京アニを読む（1）「クラナド」
第4回　京アニを読む（2）「けいおん！」
第5回　京アニを読む（3）「Free！」
第6回　学外見学　伏見界隈　乃木神社
第7回　学外見学　伏見界隈　寺田屋・月桂冠
第8回　乃木神社・寺田屋・月桂冠見学　振り返り
第9回　京アニを読む（4）「中二病でも恋がしたい」
第10回 京アニを読む（5）「響け！ユーフォニアム」
第11回 ジブリが描いた少女たち（1）
第12回 ジブリが描いた少女たち（2）
第13回 ジブリが描いた少女たち（3）
第14回 学外見学　高瀬川・池田屋・祇園
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

京アニを読む
著者:　野村幸一郎
出版社: 新典社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（60）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅶ <c>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安達　太郎	

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1）生き生きとしたプレゼンテーションができる。
2）相互批評性を身につける。
3）グループで協調してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であるのと同時に，文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従って，タスクの準備をすること。

内　　容

第1回　言語文化総合演習への導入～声の復権の意味～
第2回　生き生きとしたプレゼンテーションとは
第3回　タスク1　ビブリオバトル（1）導入
第4回　タスク1　ビブリオバトル（2）グループワーク
第5回　タスク1　ビブリオバトル（3）本戦1
第6回　タスク1　ビブリオバトル（4）本戦2
第7回　タスク1　ビブリオバトル（5）本戦4
第8回　タスク1　ビブリオバトル（6）本戦5とビブリオバトルの振り返り
第9回　タスク2　歌合（1）導入
第10回　タスク2　歌合（2）グループワーク
第11回　タスク2　歌合（3）歌合本戦1
第12回　タスク2　歌合（4）歌合本戦2
第13回　タスク2　歌合（5）歌合本戦3
第14回　タスク2　歌合（6）歌合本戦4
第15回　タスク2　歌合（7）歌合本戦5と歌合の振り返り

履修上の注意点

この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので，注意すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

短歌パラダイス
著者:　小林恭二
出版社:　岩波書店
出版年:　1997　　ISBN:　4-00-430498-9

ビブリオバトル
著者:　谷口忠大
出版社:　文藝春秋
出版年:　2013　　ISBN:　4-16-660901-7

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20% ）	授業中発表等（ 50% ）

a10202f353

参加度 （ 30% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅶ <d>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　林　久美子	

テーマ

日本の伝統文化への理解を深める

授業の到達目標

伝統文化それぞれの特質と歴史について知る。発表を通して読解力やプレゼンテーション能力を高める。併せて、地域の課題について理解を深める。

授業の概要

1限目に茶道、華道、書道、居合道、お香、狂言について学び、2限目は講師やサークルの協力を得て体験します。なお、順序と内容に一部変更の可能性があります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループごとに文献で調べた知識をどのようにまとめ、伝えるのかを十分話し合う。発表後ワークシートを提出し、教員のコメントを受け取る。

内　　容

第1回　授業の進め方について
第2回　図書館で調べ方を学ぶ
第3回　書道について
第4回　書道体験
第5回　華道について
第6回　華道体験
第7回　居合道について
第8回　居合道体験
第9回　狂言について
第10回　狂言体験
第11回　お香について
第12回　お香の体験
第13回　茶道について
第14回　茶道体験
第15回　学外研修または後半の準備のためのグループワーク

履修上の注意点

グループ発表は全員で行うこと。体験学習はそれぞれの作法を守ること。
担当の時間にやむなく欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。守らない場合は単位を認めないことがあります。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 60 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅷ <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　重松　恵美	

テーマ

現代小説における古典芸能

授業の到達目標

1. 読解力　作品をていねいに読み、理解する。2. 思考力　作品について、受講生一人一人が考える。3. 文章力　作品について考えたことを、レポートにまとめる。4. 対話力　作品についての意見発表と意見交換を行なう。

授業の概要

現代日本を舞台とし、古典芸能に取り組む若者を主人公とする小説をテキストとして読み、現代文学の動向について考える。教員による解説ののち、受講生によるグループディスカッションを行なう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストを学期末までに読了すること。授業時間以外にも、作品を読む時間を確保すること。読書時間の目安は毎日15分（週あたり2時間）とする。

内　　容

第1回　学外授業
第2回　歌舞伎、文楽、組踊
第3回　歌舞伎鑑賞
第4回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」序幕、二幕目
第5回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」三幕目
第6回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」四幕目
第7回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」五幕目
第8回　落語、浪曲、講談
第9回　落語鑑賞
第10回　田中啓文「ハナシがちがう！」第一話前半
第11回　田中啓文「ハナシがちがう！」第一話後半
第12回　田中啓文「ハナシがちがう！」第二話
第13回　田中啓文「ハナシがちがう！」第三話
第14回　池上永一「竹富島」前半
第15回　池上永一「竹富島」後半

履修上の注意点

教科書

カブキブ！　1
著者:　榎田ユウリ
出版社:　角川文庫
出版年:　2013　　ISBN:　978404100956

ハナシがちがう（笑酔亭梅寿謎解噺1）
著者:　田中啓文
出版社:　集英社文庫
出版年:　2006　　ISBN:　9784087460742

参考書

統ばる島（すばるしま）
著者:　池上永一
出版社:　角川文庫
出版年:　　ISBN:

仏果を得ず
著者:　三浦しをん
出版社:　双葉文庫
出版年:　　ISBN:

a10202f450

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 60% ）	授業中発表等（ 40% ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅷ <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　幸一郎	

テーマ

日本近現代文学の研究方法を習得する

授業の到達目標

日本近代文学を代表する作品群について研究発表をしていくことで、その研究方法を身につけていく。あわせて、さまざまな小説の舞台となった場所を訪ねることで地域課題への理解を深めていく。

授業の概要

前半は担当教員による講義が中心となり、後半は受講生による発表が中心となる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業であつかう作品はかならず読んでくること。随時小レポートの提出を求める。

内　　容

第1回　学外見学　円山公園　高台寺
第2回　人物像、作品の主題の分析
第3回　ストーリーの分析
第4回　分析文の作り方
第5回　図書館利用法
第6回　夏目漱石「こころ」を分析する（1）
第7回　夏目漱石「こころ」を分析する（2）
第8回　受講生による発表　森鴎外「高瀬舟」
第9回　受講生による発表　芥川龍之介「羅生門」
第10回　受講生による発表　志賀直哉「城の崎にて」
第11回　受講生による発表　中島敦「山月記」
第12回　受講生による発表　宮沢賢治「注文の多い料理店」
第13回　受講生による発表　川端康成「伊豆の踊子」
第14回　受講生による発表　太宰治「人間失格」
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（60）	授業中発表等（　）
参加度（40）	

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅷ <c>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安達　太郎	

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1）文学や歴史，地理を総合的に理解することができる。
2）テキストのフレージングを意識化することができる。
3）グループで協調してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であるのと同時に，文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従って，タスクの準備をすること。

内　　容

第1回　タスク3　群読（1）導入
第2回　タスク3　群読（2）万葉歌の群読
第3回　タスク3　群読（3）近代詩の群読1
第4回　タスク3　群読（4）近代詩の群読2
第5回　タスク3　群読（5）近代詩の群読3
第6回　タスク3　群読（6）近代詩の群読4
第7回　タスク3　群読（7）近代詩の群読と振り返り
第8回　タスク4　リレープレゼン（1）
第9回　タスク4　リレープレゼン（2）学外授業
第10回　タスク4　リレープレゼン（3）学外授業
第11回　タスク4　リレープレゼン（4）
第12回　タスク4　リレープレゼン（5）
第13回　タスク4　リレープレゼン（6）
第14回　タスク4　リレープレゼン（7）
第15回　タスク4　リレープレゼン（8）

履修上の注意点

この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので，注意すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（20%）	授業中発表等（50%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅷ <d>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　林　久美子	

テーマ

怪談の技法(『雨月物語』を読む)

授業の到達目標

怪談を通して心の闇について考える／日本の民俗・文化について学ぶ／読解力を身に付ける／プレゼンテーション力を向上させる／地域の課題について理解を深める

授業の概要

グループで担当する章を選び、発表する。1限目に発表、2限目は全員で意見を述べ合う読書会形式とする。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

グループで作成したレジュメは事前にLAの点検を受ける。また授業後はワークシートに記入し、教員のコメントを受け取る。

内　容

第1回　グループ発表①
第2回　討論
第3回　グループ発表②
第4回　討論
第5回　グループ発表③
第6回　討論
第7回　グループ発表④
第8回　討論
第9回　グループ発表⑤
第10回　討論
第11回　グループ発表⑥
第12回　討論
第13回　百人一首または学外研修
第14回　〃
第15回　まとめ

履修上の注意点

発表担当でない章の作品にも目を通して授業に参加すること。
連絡なしに発表をキャンセルした場合は単位を放棄したものとみなします。

教科書

雨月物語　現代語訳付き
著者:　上田秋成／鵜月洋
出版社:　角川ソフィア文庫
出版年:　2006　　ISBN:

参考書

雨月物語の世界
著者:　長島弘明
出版社:　ちくま学芸文庫
出版年:　1998　　ISBN:

英草紙・西山物語・雨月物語・春雨物語
著者:　高田衛ほか
出版社:　小学館
出版年:　1995　　ISBN:

雨月物語・春雨物語(完訳日本の古典)
著者:　高田衛ほか
出版社:　小学館
出版年:　1981　　ISBN:

a10202f454

雨月物語・癇癖談
著者: 浅野三平
出版社: 新潮日本古典集成
出版年: 1979 ISBN:

漫画訳 雨月物語
著者: 武富健治
出版社: PHP研究所
出版年: 2016 ISBN:

水木しげるの雨月物語
著者: 水木しげる
出版社: 河出書房新社
出版年: 2010(第9刷) ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）
授業中課題（ ） 授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ 50 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語学講義Ⅰ（日本語文法）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安達　太郎	

テーマ

日本語文法の発想

授業の到達目標

1）日本語がどのようなしくみを持つ言語であるのか理解する。
2）自分たちが日常的に使っている日本語でさえ，私たちにとって未知な存在であることを理解する。
3）2）を通じて，自分の立場を絶対化せず，相対的に考えるという視点を学ぶ。

授業の概要

日本語を母語とする者にとって，日本語はあらためて考える余地がないほど当たり前の存在に見える。この授業では，日本語のしくみについて私たちが驚くほど「知らない」ことを明らかにすることを通じて日本語文法の発想を理解させる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

1）授業で配布する資料をよく読んでください。
2）『日本語学』や『月刊言語』といった雑誌のバックナンバーを手にとって，興味があるテーマを扱った論文を読んでください。

内　容

第1回　文法とは何か？
第2回　日本語の「内側」と「外側」
第3回　名詞につく助詞
第4回　格と文型
第5回　主格・主語・主題
第6回　格助詞の意味のゆらぎ
第7回　場所表現と場所的表現
第8回　動詞の意志性と関わる言語現象
第9回　受身のタイプと意味的性質
第10回　使役の意味の広がり
第11回　方向性の拡張
第12回　恩恵の拡張
第13回　動きのとらえ方
第14回　時間の表し方
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 50 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語学講義Ⅱ（日本語文法）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安達　太郎	

テーマ

日本語文法の展開

授業の到達目標

1）日本語がどのようなしくみを持つ言語であるのか理解する。
2）自分たちが日常的に使っている日本語でさえ，私たちにとって未知な存在であることを理解する。
3）2）を通じて，自分の立場を絶対化せず，相対的に考えるという視点を学ぶ。

授業の概要

日本語を母語とする者にとって，日本語はあらためて考える余地がないほど当たり前の存在に見える。この授業では，日本語のしくみについて私たちが驚くほど「知らない」ことを明らかにすることを通じて日本語文法の発想を理解させる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

1）授業で配付する資料をよく読んでください。
2）『日本語学』や『月刊言語』といった雑誌のバックナンバーを手にとって，興味をひかれるテーマを扱った論文を読んでください。

内　容

第1回　日本語文法の発想法
第2回　とりたてと知識
第3回　推量的表現の諸相
第4回　疑問と主張の関係
第5回　行為表明と行為要求
第6回　常体と敬体
第7回　複文のとらえ方
第8回　条件と理由
第9回　名詞修飾の諸相
第10回 「こ」「そ」「あ」の使い分け
第11回 言わないことの意味
第12回 無意味なことばの意味
第13回 「のだ」による文と文の関係づけ
第14回 論理関係と接続詞の役割
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 50 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語学講義Ⅲ（社会言語学）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鳥谷　善史	

テーマ

ことばの変化と社会の相関（日本の諸方言を中心に）

授業の到達目標

ことばが変化する要因としては、ことばそのものに内在する法則とことば以外の刺激によるものがある。社会言語学は、ことばの変化といった側面において、両者の要因を総合的に考察しつつも、特に後者のことば以外の社会的要因との相関を調査をとおして実証的に研究する分野である。その実例として「ら抜き言葉」を事例に研究内容を紹介する。　また、、日本の社会言語学は、「方言学」との関係が密である。そこで、「標準語と共通語」・「方言と言語」の違いなどについて、言語学の立場から考察したい。その後、日本各地の諸方言について概観したうえで、その分布形成の要因を「方言周圏論」他から確認してみたい。

授業の概要

日本語の変化の中でもとりわけ、文法の変化について詳細に確認する。また、日本各地の諸方言の実態や分布要因についても確認する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中に紹介した参考文献やシラバスの参考書を読み、より考察を深めレポートを作成すること。最後に、基本用語の関する小テストがあるので、ノートや参考文献を確認し、小テストに臨むこと。

内　容

第1回　社会言語学とは
第2回　日本の社会言語学とその研究分野
第3回　文法の変化（ら抜き言葉を中心に）1（現象の分析）
第4回　文法の変化（ら抜き言葉を中心に）2（通時的側面）
第5回　文法の変化（ら抜き言葉を中心に）3（共時的側面）
第6回　文法の変化（ら抜き言葉を中心に）4（方言からみる変化の実態）
第7回　文法の変化（ら抜き言葉を中心に）5（属性からみる変化の実態）
第8回　ら抜き言葉のまとめ（小テスト：レポート）
第9回　方言と言語の違いについて・「共通語」「標準語」と「方言」
第10回 方言の分布について1（周圏分布1）
第11回 方言の分布について1（周圏分布2）
第12回 方言の分布について1（周圏分布3）
第13回 日本語諸方言の実態1（方言区画論）
第14回 日本語諸方言の実態2（具体的音声から）
第15回 社会言語学のまとめと小テスト

履修上の注意点

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。（遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内）　受講生の多寡により授業計画の一部を変更することがある。特に、小テストの日程。

教科書

適宜プリントを配付
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

関西方言の社会言語学
著者:　徳川宗賢・真田信治編
出版社:　世界思想社
出版年:　1995　　ISBN:　4790705501

全国アホ・バカ分布考
著者:　松本　修
出版社:　新潮文庫
出版年:　1996　　ISBN:　4101441214

a10202f710

日本語ウォッチング
著者: 井上史雄
出版社: 岩波新書
出版年: 1998 ISBN: 4004305403

方言学
著者: 真田信治編著
出版社: 朝倉書店
出版年: 2011 ISBN: 9784254515244

社会言語学の展望
著者: 真田信治編
出版社: くろしお出版
出版年: 2006 ISBN: 4874243452

大阪のことば地図
著者: 岸江信介他編著
出版社: 和泉書院
出版年: 2009 ISBN: 9784757605268

都市と周縁のことば
著者: 岸江信介他編著
出版社: 和泉書院
出版年: 2013 ISBN: 9784757606661

方言学入門
著者: 木部暢子他編著
出版社: 三省堂
出版年: 2013 ISBN: 9784385363936

柳田方言学の現代的意義
著者: 小林隆編
出版社: ひつじ書房
出版年: 2014 ISBN: 4894767198

新日本言語地図
著者: 大西拓一郎編
出版社: 朝倉書店
出版年: 2016 ISBN: 9784254510515

成績評価

試験・レポート（ 40 ）
小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 0 ）
授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 30 ）
参加度は、積極的な受講に対してのみ評価するものである。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語学講義Ⅳ（日本語史）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鳥谷　善史	

テーマ

日本語の通時的変化や変異を概観する。

授業の到達目標

日本語がどのような変化や変異を遂げてきたかを歴史的に概観したい。とりわけ、古代語に区分される、上代・中古及び中世前半（鎌倉時代・南北朝時代）の状況について確認したい。それぞれの時代の文献や基本的な学説を理解し、どのような手順で、国語の歴史を構築し論考しているかといった方法論を学びたい。

授業の概要

日本語史の総説と音韻史及び文字史、文法史について概説する。　極めて専門性の高い内容であるため、日本語学の基本的な知識がない場合や、予習復習を行わないと、単位修得につながりにくい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：受講前にテキストを読み、理解できない専門用語等を確認してから、授業に臨むこと。復習：参考文献を各自で調べそれぞれの内容や用語が説明できるか各自で確認し，授業で述べた内容をより深く考察すること。

内　容

第1回　日本語史について（ガイダンス）総論1（日本語史とは）
第2回　総論2（時代区分・資料・研究対象）
第3回　上代の資料（万葉集他）
第4回　上代の文字とその音韻1（万葉仮名）
第5回　上代の文字とその音韻2（上代特殊仮名遣い）
第6回　上代の音韻（音配列の制限）
第7回　万葉仮名から平仮名・片仮名の発生（上代から中古へ）
第8回　中古の和文資料（時代背景と諸本について）
第9回　中古の訓点資料（訓点とは）
第10回　これまでのまとめと小テスト1
第11回　手習いの歴史と音韻の変化1（あめつち・たゐに・いろは）
第12回　手習いの歴史と音韻の変化2（あめつち・たゐに・いろは）
第13回　音韻の変化（音便の発生とその要因）
第14回　動詞活用の変遷
第15回　まとめと小テスト、もしくは小レポート

履修上の注意点

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。（遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内）　受講生の多寡により授業計画の一部を変更することがある。特に、小テストの日程。

教科書

ワークブック　日本語の歴史
著者：　岡崎友子・森勇太
出版社：くろしお出版
出版年：2016　　ISBN：9784874247068

参考書

日本語史概説
著者：　沖森卓也
出版社：朝倉書店
出版年：2010　　ISBN：425451522-0

日本語史要説
著者：　渡辺実
出版社：岩波書店
出版年：1997　　ISBN：4000260111

a10202f850

日本語の歴史
著者: 山口明穂他
出版社: 東京大学出版会
出版年: 1997 ISBN: 4130820042

はじめて読む日本語の歴史
著者: 沖森卓也
出版社: ベレ出版
出版年: 2010 ISBN: 4860642556

日本語の歴史全8巻
著者: 亀井孝他編
出版社: 平凡社
出版年: 1963-66 ISBN: 4582765955

いろはうた
著者: 小松英雄
出版社: 講談社学術文庫
出版年: 2009 ISBN: 9784062919418

五十音図の話
著者: 馬渕和夫
出版社: 大修館書店
出版年: 1993 ISBN: 9784469220933

国語音韻論
著者: 馬渕和夫
出版社: 笠間書院
出版年: 1971 ISBN: 4305000180

国語学史
著者: 馬渕和夫・出雲朝子
出版社: 笠間書院
出版年: 2010 ISBN: 9784305603029

概説日本語の歴史
著者: 佐藤武義
出版社: 朝倉書店
出版年: 1995 ISBN: 4254510195

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ 50 ）
授業中課題 （ 10 ） 授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 30 ）
参加度は、積極的な受講に対してのみ評価するものである。

2018 Syllabus

科 目 名　**古典文学講義Ⅰ(平安)**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　倫子	

テーマ

「とりかへばや物語」を読む

授業の到達目標

「源氏物語」の影響を色濃く受けながら、新たな地平を開いた王朝物語である。「とりかえばや(取り替えたい)」と父を嘆かせたきょうだいのドラマティックな物語であるが、社会性や人間性など現代に通じる事象も多く、通読することで王朝物語に対する親しみを深め、古典に親しむ心を育てたい。

授業の概要

テキストの講読と平行して、さまざまな王朝文化に触れる。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業当該箇所に目を通しておくこと。

内　容

第1回　平安時代の物語についての概説。特に「源氏物語」の文学史上の位置づけについて解説。
第2回　巻一①　登場人物紹介・コラムp23
第3回　巻一②　結婚と出仕・コラムp28、p43
第4回　巻一③　運命の交錯
第5回　巻一④　吉野の地・コラムp75
第6回　巻二①　出産
第7回　巻二②　男の友情
第8回　巻三①　宇治の地・コラムp109
第9回　巻三②　垣間見
第10回　巻三③　「待つ」つらさ
第11回　巻三④　我が子との別れ・コラムp134
第12回　巻四①　春宮と帝
第13回　巻四②　後宮
第14回　巻四③　立坊
第15回　巻四④　混乱の収束

履修上の注意点

教科書

とりかへばや物語
著者:　鈴木裕子・編
出版社:　KADOKAWA
出版年:　2009　　ISBN:　4-04-407205-6

参考書

堤中納言・とりかへばや物語
著者:　今井源衛他
出版社:　岩波書店
出版年:　1992　　ISBN:　新古典大系

住吉物語　とりかへばや物語
著者:　石埜　敬子
出版社:　小学館
出版年:　2002　　ISBN:　新古典全集

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**古典文学講義Ⅱ（平安）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　倫子	

テーマ

源氏物語を人物から読む

授業の到達目標

千年の時を超えてきた古典文学の魅力に触れる。古典に親しむことで、感性を豊かにする。

授業の概要

物語の登場人物ごとに、代表的な場面を原文で読む。貴族社会を舞台とした物語であるが、社会・習俗を超えて共感する人間性を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に配布する資料に目を通しておく。

内　容

第1回　文学史上の「源氏物語」、作品紹介（年立て・系図）
桐壺更衣と桐壺帝（桐壺～明石）
第2回　光源氏・青年期（桐壺～明石）
第3回　葵の上（桐壺～葵）
第4回　藤壺（桐壺～薄雲）
第5回　夕顔と六条御息所（夕顔～鈴虫）
第6回　若紫と紫の上・前半（若紫～藤裏葉）
第7回　朧月夜（花宴～若菜下）
第8回　明石の君（若紫～若菜下）
第9回　末摘花（末摘花～若菜上）
第10回　朱雀院（桐壺～夕霧）
第11回　冷泉院（紅葉賀～総角）と夕霧（葵～蜻蛉）
第12回　光源氏・壮年期～老年期（澪標～幻）
第13回　女三宮（若菜上～蜻蛉）と紫の上・後半（若菜上～御法）
第14回　柏木（少女～横笛）・薫（柏木～夢浮橋）
第15回　宇治の姉妹と浮舟（橋姫～夢浮橋）

履修上の注意点

初回配布の年立てと系図のプリントは必携

教科書

プリントを配布する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

源氏物語大成普及版全14冊
著者:　池田亀鑑
出版社:　中央公論社
出版年:　1984～1985　　ISBN:

源氏物語評釈全12冊
著者:　玉上琢弥
出版社:　角川書店
出版年:　1964～1969　　ISBN:

その他源氏物語の各種注釈書
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

a10202g050

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**古典文学講義Ⅲ（中近世）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　林　久美子	

テーマ

物語草子の異界

授業の到達目標

日本の代表的な異界をめぐる物語を読むことで、豊かな想像力を育む。なぜこのような物語が生まれたのか、その背景について考察する力を養う。

授業の概要

テキストに沿って絵巻や絵本の内容を紹介し、日本人にとっての異界や怪異について考える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

（予習）授業前にテキストに目を通し、言葉や作品内容について調べておく。（復習）ワークシートに学習した内容と感想をまとめる。
（フィードバック）ワークシートを点検し、授業でコメントする。

内　容

第1回　授業の進め方について
第2回　序章
第3回　第一章
第4回　第二章
第5回　第三章
第6回　第四章
第7回　第五章
第8回　第六章
第9回　第七章
第10回　第八章
第11回　第九章
第12回　第一〇章
第13回　第一一章
第14回　終章
第15回　まとめ

履修上の注意点

必ずテキストを持参すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
章が終わるごとに提出するワークシートで課題点が付きます。

2018 Syllabus

科 目 名　**古典文学講義Ⅳ（中近世）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　林　久美子	

テーマ

日本の古典芸能（能・狂言と浄瑠璃・歌舞伎）について学ぶ

授業の到達目標

日本を代表する伝統芸能の特色と演目などについて学ぶ。また、作品を通して古典の世界や昔の風俗に親しむ。

授業の概要

以下を予定していますが、内容を変更する場合があります。また、授業の1～2回を学外での見学・鑑賞に振り替えます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

下記URLなどを活用し、メディアセンター所蔵のDVDやビデオなどで作品を鑑賞してください。活字になっている脚本も図書館に多数あります。課題図書はワークシートはLAに提出のこと。提出物へのコメントは次の授業で行います。

内　容

第1回　授業の進め方について
第2回　能と狂言
第3回　茂山忠三郎先生による狂言の実演（時期は変更の可能性があります）
第4回　出雲の阿国と南座
第5回　女形の芸
第6回　市川団十郎と江戸歌舞伎
第7回　歌舞伎十八番
第8回　人形浄瑠璃の歴史
第9回　坂田藤十郎と元禄期の歌舞伎
第10回　近松の世話物浄瑠璃
第11回　浄瑠璃の三大名作
第12回　鶴屋南北の怪談劇
第13回　河竹黙阿弥の白浪物
第14回　学外鑑賞のための予習
第15回　学外授業（他の回に変更する可能性があります）

履修上の注意点

就活理由の欠席に関して特別な配慮はしません。（実習を除く）

教科書

参考書

能と狂言
著者：　林　和利
出版社：世界思想社
出版年：1994　　ISBN：

歌舞伎の中の日本
著者：　松井今朝子
出版社：NHKブックス
出版年：2010　　ISBN：

かぶき
著者：　郡司正勝
出版社：ちくま学芸文庫
出版年：2005　　ISBN：

a10202g250

江戸歌舞伎

著者: 服部幸雄

出版社: 岩波書店(同時代ライブラリー)

出版年: 1993 ISBN:

日本古典芸能史

著者: 今岡謙太郎

出版社: 武蔵野美術大学

出版年: 2008 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ） 小テスト（ 0 ）

授業中課題（ 60 ） 授業中発表等（ 0 ）

参加度（ 40 ）

授業中課題には、レポートと提出物が含まれます。

2018 Syllabus

科 目 名　**近現代文学講義Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　幸一郎	

テーマ

20世紀の日本文学

授業の到達目標

20世紀以降の代表的な文学作品を読解していくことで、文学における近代日本に対する批判精神のありようを理解していく。

授業の概要

講義が中心になるが、グループワークを毎回行う予定である

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で取り上げる作品はあらかじめ読んでくること。随時、課題の提出を求めることになる。

内　　容

第1回　教養小説とは何か？
第2回　夏目漱石「坊っちゃん」を読む（1）
第3回　夏目漱石「坊っちゃん」を読む（2）
第4回　夏目漱石「坊っちゃん」を読む（3）
第5回　森鴎外「雁」を読む（1）
第6回　森鴎外「雁」を読む（2）
第7回　森鴎外「雁」を読む（3）
第8回　芥川龍之介「地獄変」を読む（1）
第9回　芥川龍之介「地獄変」を読む（2）
第10回　芥川龍之介「地獄変」を読む（3）
第11回　坂口安吾「桜の森の満開の下」を読む（1）
第12回　坂口安吾「桜の森の満開の下」を読む（2）
第13回　坂口安吾「桜の森の満開の下」を読む（3）
第14回　坂口安吾「桜の森の満開の下」を読む（4）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

作品で読む20世紀の日本文学
著者:　京都橘大学日本語日本文学科
出版社: 新典社
出版年: 2018　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 60 ）	授業中発表等（　）
参加度　（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**近現代文学講義Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　幸一郎	

テーマ

宮沢賢治からジブリへ

授業の到達目標

宮沢賢治の文学を文明批判の書としてとらえ、読解を進めていくと同時に、同じテーマを扱ったジブリ作品、具体的には『風の谷のナウシカ』けんとうを通じて、賢治の追求した主題がどのようにジブリに引き継がれていったか。明らかにしていく。

授業の概要

宮沢賢治の童話は、現代に生きる私たちにも多くの問題を投げかけている。賢治童話の読解を通じて、彼が現代文明のどこに矛盾を感じていたか確認するとともに、賢治とともに、その矛盾を解決していく方法を考えていきたい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で取り上げる作品はあらかじめ読んでくること。随時小レポートの提出を求めていく予定である。

内　容

第1回　宮沢賢治の生涯と文学
第2回　『グスコーブドリの伝記』を読む（1）
第3回　『グスコーブドリの伝記』を読む（2）
第4回　『オツベルと象』を読む（1）
第5回　『オツベルと象』を読む（2）
第6回　『オツベルと象』を読む（3）
第7回　『なめとこ山の熊』を読む（1）
第8回　『なめとこ山の熊』を読む（2）
第9回　『なめとこ山の熊』を読む（3）
第10回 『なめとこ山の熊』を読む（4）
第11回 『銀河鉄道の夜』を読む（1）
第12回 『銀河鉄道の夜』を読む（2）
第13回 『銀河鉄道の夜』を読む（3）
第14回 宮沢賢治からジブリへ
第15回 まとめ

履修上の注意点

グループワークには積極的に参加すること

教科書

作品で読む宮沢賢治
著者:　京都橘大学日本語日本文学科
出版社: 新典社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 60 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**近現代文学講義Ⅲ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　辻本　千鶴	

テーマ

近代文学に見る〈抑圧される女たち〉

授業の到達目標

①小説を分析的に鑑賞・読解するための鑑賞眼や問題意識を養う。②他者の鑑賞や読解を柔軟に受け入れる理解力を養う。③作品に基づいて、論理的で説得性のある論を組み立てる力を養う。④自分の意見や疑問点などを他者に発信する能力を養う。

授業の概要

近代の文学作品をとりあげ、女性たちの形象化を中心に、作品の読解と鑑賞を試みる。主として講義形式で進めるが、小レポートやグループワークの時間を設ける。また、受講生の人数によっては、中間発表（あるいはレポート）も取り入れて行きた

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で扱う作品は通読すること。授業で扱う作品以外にも紹介する作品を読み、授業に対して各自の問題意識を養うこと。

内　容

第1回　概説
第2回　坪内逍遙『細君』その１
第3回　坪内逍遙『細君』その２
第4回　樋口一葉『大つごもり』その１
第5回　樋口一葉『大つごもり』その２
第6回　樋口一葉『十三夜』その１
第7回　樋口一葉『十三夜』その２
第8回　泉鏡花『外科室』その１
第9回　泉鏡花『外科室』その２
第10回　森鴎外『雁』その１
第11回　森鴎外『雁』その２
第12回　円地文子『女坂』その１
第13回　円地文子『女坂』その２
第14回　まとめ
第15回　黛まどか先生による特別講義（日程未定）〔担当：野村〕

履修上の注意点

特別講義の日程は未定であるが、その前後に句作や小レポートを課題とすることがある。

教科書

使用しない。（プリント配布）
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

恋の起源　明治の愛を読み解く
著者：　佐伯順子
出版社：　日本経済新聞社
出版年：　2000年　　ISBN：　4-532-16327-7

語る女たちの時代　一葉と明治女性表現
著者：　関礼子
出版社：　新曜社
出版年：　1997年　　ISBN：　4-7885-0583-5

成績評価

試験・レポート （ 60% ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 20% ）	授業中発表等 （ 20% ）
参加度 （ ）	

a10202g510

参加度

試験は期末レポートとする。中間発表（レポート）と期末レポートは別の作家・作品を選択すること。特別講義の前後には、句作やレポートを課す場合がある。

2018 Syllabus

科 目 名　**近現代文学講義Ⅳ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　辻本　千鶴	

テーマ

近現代小説のなかの〈家族〉

授業の到達目標

①小説を分析的に読解・鑑賞するための鑑賞眼や問題意識を養う。②他者の鑑賞や読解を柔軟に受け入れる理解力を養う。③作品に基づいて、論理的で説得性のある論を組み立てる力を養う。④自分の意見や疑問点などを他者に発信する能力を養う。

授業の概要

近現代の文学作品のなかから、家族を描いた作品を取り上げ、読解と鑑賞を試みる。主として講義形式で進めるが、ほぼ毎時間、授業中小レポートの時間を設ける。また、中間発表（レポート）やグループ・ワークも取り入れていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で扱う作品は通読すること。また、授業中に紹介する他の作品も積極的に読み、講義内容に対する独自の問題意識を養うこと。

内　容

第1回　概説　――小説のなかの〈家族〉――
第2回　森鷗外『高瀬舟』・『最後の一句』その1
第3回　森鷗外『高瀬舟』・『最後の一句』その2
第4回　幸田文『みそっかす』・『おとうと』
第5回　芥川龍之介『玄鶴山房』その1
第6回　芥川龍之介『玄鶴山房』その2
第7回　太宰治『斜陽』その1
第8回　太宰治『斜陽』その2
第9回　庄野潤三『静物』・『蟹』
第10回　宮本輝『蛍川』
第11回　円地文子『食卓のない家』その1
第12回　円地文子『食卓のない家』その2
第13回　吉本ばなな『キッチン』
第14回　瀬尾まい子『幸福の食卓』
第15回　現代文学のなかの〈家族〉 作品紹介と解説

履修上の注意点

教科書

使用しない。（プリント配布）

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 60% ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 20% ）
参加度 （ ）
試験は期末レポートの形式とする。期末レポートでは、中間発表（レポート）と別の作家・作品を選択すること。

2018 Syllabus

科 目 名　**映像文化演習**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　古澤　夕起子	

テーマ

宮崎駿作品を用いたアニメーションの読解

授業の到達目標

アニメーションの技法を理解し、宮崎駿の作品を学際的に鑑賞する視点を身につける。

授業の概要

宮崎駿作品を鑑賞しながら、映像表現、少女論、ジェンダー論など、多岐にわたるアプローチを紹介・解説する。なお、授業の内容は進行によって変更することがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

これまで楽しんできた宮崎駿の作品を、テーマやキャラクターの造形について考えながら見直してみてください。

内　容

第1回　ガイダンス　アニメーション学とは何か
第2回　戦う姫「風の谷のナウシカ」1984　鑑賞と解説
第3回　戦う姫「風の谷のナウシカ」1984　鑑賞と解説
第4回　戦う姫「風の谷のナウシカ」1984　鑑賞と解説
第5回　自然との共生「となりのトトロ」1988 鑑賞と解説
第6回　自然との共生「となりのトトロ」1988　鑑賞と解説
第7回　自然との共生「となりのトトロ」1988　鑑賞と解説
第8回　飛ぶ少女「魔女の宅急便」1989　鑑賞と解説
第9回　飛ぶ少女「魔女の宅急便」1989　鑑賞と解説
第10回　飛ぶ少女「魔女の宅急便」1989　鑑賞と解説
第11回　母性のディストピア「崖の上のポニョ」2008　鑑賞と解説
第12回　母性のディストピア「崖の上のポニョ」2008　鑑賞と解説
第13回　母性のディストピア「崖の上のポニョ」2008　鑑賞と解説
第14回　「天空の城ラピュタ」1986「千と千尋の神隠し」2001「ハウルの動く城」2004　など取り上げられなかった作品についての部分的な鑑賞と解説
第15回　まとめ

履修上の注意点

講義中の私語、スマートホンなどの使用は禁止します。毎時のコミュニケーションペーパーを平常点とします。また作品鑑賞の点からも欠席のないようにしてください。

教科書

宮崎駿が描いた少女たち（仮題）
著者:　野村幸一郎編
出版社:　新典社
出版年:　2018　　ISBN:

参考書

新版アニメーション学入門
著者:　津堅信之
出版社:　平凡社新書
出版年:　2017　　ISBN:

宮崎駿の地平
著者:　野村幸一郎
出版社:　白地社
出版年:　2016　　ISBN:

出発点
著者:　宮崎駿
出版社:　徳間書店
出版年:　1996　　ISBN:

a10202g710

風の帰る場所

著者: 宮崎駿

出版社: ロッキングオン

出版年: 2002 ISBN:

続風の帰る場所

著者: 宮崎駿

出版社: ロッキングオン

出版年: 2013 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 40 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 60 ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

毎時のコミュニケーションペーパーを授業中課題とします。未提出は欠席扱い、いい加減な内容の場合も加算されません。レポートについては授業の中で説明します。

2018 Syllabus

科 目 名　**文芸創作演習**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　辻本　千鶴	

テーマ

夏目漱石に学ぶ小説作法

授業の到達目標

小説作品への批評眼・鑑賞眼を養成する。合わせて自ら創作する文章力・創造力を培うことも目標とする。

授業の概要

夏目漱石の小説作品を鑑賞し、その小説作法に学びつつ、創作実習を行う。グループでの実習作品批評とその発表を行う。
また、文章表現力の向上を目指して、名文の鑑賞や書写の時間も取り入れる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で扱う漱石作品を通読すること。予習・復習として作品通読の努力を怠っていないか、随時発言や小レポートを求めていく。

内　容

第1回　概説 （担当:辻本）
第2回　『坊っちゃん』作品鑑賞 （担当:辻本）
第3回　創作実習 『坊っちゃん』の書き出しに学んで主人公を造形する。
（担当:辻本）
第4回　実習作品の相互批評 （担当:辻本）
第5回　『吾輩は猫である』作品鑑賞 （担当:辻本）
第6回　創作実習 『吾輩は猫である』の書き出しに学んで人間以外の語り手を設定する。（担当:辻本）
第7回　実習作品の相互批評 （担当:辻本）
第8回　『夢十夜』作品鑑賞 （担当:辻本）
第9回　創作実習 『夢十夜』に学んで「夢」を素材に書く。（担当:辻本）
第10回 実習作品の相互批評 （担当:辻本）
第11回 『こころ』作品鑑賞　視点の変換（担当:辻本）
第12回 創作実習　視点を変換して『こころ』一場面のパロディーを書く。（担当:辻本）
第13回 実習作品の相互批評／まとめ （担当:辻本）
第14回 黛まどか先生による特別講義 （担当:野村）＊日程は未定です。
第15回 現代作家による明治文学のパロディー　紹介と解説　及び名文鑑賞（各回に分散して設定）

履修上の注意点

①創作実習の時間には、各自で原稿用紙を持参すること。
②実習作品の完成のために、時間外の取り組みが必要になる場合もある。
③特別講義（日程未定）の前後に俳句の創作やレポートを課す場合もある。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

坊っちゃん
著者:　夏目漱石
出版社:
出版年:　　ISBN:

吾輩は猫である
著者:　夏目漱石
出版社:
出版年:　　ISBN:

a10202g850

夢十夜
著者: 夏目漱石
出版社:
出版年: ISBN:

こころ
著者: 夏目漱石
出版社:
出版年: ISBN:

日本の作家 名表現辞典
著者: 中村明
出版社: 岩波書店
出版年: 2014年 ISBN: 978-4-00-08317

名文
著者: 中村明
出版社: 筑摩書房(ちくま学芸文庫)
出版年: 1993年 ISBN: 4-480-08049-x

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）
授業中課題（ 60% ） 授業中発表等（ 20% ）
参加度 （ 20% ）
実習作品への取り組みを重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**アナウンス技術演習 I**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　荒尾　千春	

テーマ

聴き手の心を掴む表現を学ぶ ～印象、聴き方、話し方を向上させてプレゼンやコミュニケーション上手になる～

授業の到達目標

社会で求められる表現力やコミュニケーション力を学ぶ。また、考える、書く、ディスカッション、発表を繰り返し行うので、表現することに慣れる。アナウンス技術（（プレゼン力）の向上はもちろんのこと、就職活動の際にも意識すべき点がわかるようになる。印象・聴き方・話し方などの基礎を体得することを目的としている。

授業の概要

アナウンス技術の基礎が身に着くように、毎回、発声や発音のトレーニングを行う。また、大勢の前でも1対1の際にも求められる「わかりやすい話の構成の仕方、要素」などを体得できるようにワークやディスカッション、発表の機会も多く取り入れる。「聴く、書く、話す」を積極的に行うよう心がけて受講して欲しい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

ニュースを見る、あるいは、新聞を読むなどして、世の中の流れを知り、情報を入手するよう努力をすること。授業で学んだことは日常で実践してみる。

内　容

第1回　オリエンテーション　講義の目的、講義の進め方
第2回　表現力を向上させるために必要な事とは　～アナウンススキル＋振る舞い、姿勢、戦略的な演出～
第3回　発声・発音のトレーニング ～①声の力を生かす　②発声のメカニズム　③メリハリの効いた発音～
第4回　表現豊かな声のトレーニング　～①驚き・哀しみ、怒り、楽しみの表現　②相手に伝わる話し方「物語を読む」～
第5回　聴くスキル ～会話（コミュニケーション）上手は聞き上手～
第6回　話の組み立て方 ～わかりやすい話の構成をフレームワークに入れて体得～
第7回　わかりやすい話に必要な言葉の表現や例え話とは ～3＋1の要素～
第8回　言葉の表現力を向上させるトレーニング ～マンダラートに書き出し、事例集に～
第9回　聴き手を惹きつける話の導入とクロージング
第10回　効果的な自己紹介 ～ライフラインチャートで表現～
第11回　自分の思いが伝わるように「話にタイトル」をつける ～端的に思いを伝える～
第12回　緊張緩和の方法 パワーポイントの効果的な使い方
第13回　プレゼン大会①
第14回　プレゼン大会②
第15回　講義のまとめ

履修上の注意点

講義は、「聴く、話す」などのグループワークを中心に進めるため、積極的な参加姿勢・態度が求められる。理論はもちろんアナウンス技術の体得を目的とした演習が多いので、続けての受講が望ましい。毎回、授業の最後に、学んだことの小レポートの提出も求める。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 25 ）
参加度 （ 25 ）	

講義の気づきレポート・期末レポート　50%、プレゼン発表25%、参加度25%

2018 Syllabus

科 目 名　**アナウンス技術演習Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　荒尾　千春	

テーマ

言葉の表現力を向上させて思いが伝わる話し方を体得する ～様々なトレーニングや視点を基に表現する力を磨く～

授業の到達目標

伝えるではなく、伝わる話にするために必要な要素を学ぶと共に、自分の意見を効果的に伝えることの重要性を体感する。また、他者の発表をフィードバックすることで、プレゼンに必要なポイントを客観的に学ぶことができる。さらに、語彙や表現力を豊かにするための様々なトレーニング方法を学ぶなど、アナウンス力（プレゼン力）を総合的に向上させる事を目的とする。

授業の概要

アナウンス技術演習Ⅰを発展させた内容である。語彙力を高めるための様々なトレーニングを行う。またワークを取り入れながら、自分の意見が言えるようにトレーニングをする。アナウンス技術が定着するよう、毎回発声や発音も行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

ニュースを見る、あるいは、新聞を読むなどして、世の中の流れを知り、情報を入手するよう努力をすること。授業で学んだことは日常で実践してみる。

内　容

第1回　オリエンテーション　講義の目的、講義の進め方
第2回　表現力を向上させるために必要な事（アナウンス演習Ⅰの復習）～振る舞い、姿勢、戦略的な演出、聴き取りやすい発声・発音、わかりやすい話に必要な要素～
第3回　言葉の表現力を向上するトレーニング ～ゲーム感覚で頭を柔軟にし、言葉の表現力や瞬発力を高める～
第4回　語彙を広げ、共感が得られる表現とは ～共通点を表現するトレーニング～
第5回　テレビ・ラジオのアナウンサーの実況トレーニングで表現を磨く ～観察力を高める必要性を知る～
第6回　自分の意見を伝える ～常に問題意識をもつ～
第7回　ニュースを評論する ～ニュース素材を使用し、自分の意見を表す～
第8回　自分史をつくって、表現する ～自分年表を作成することによってこれまでを振り返り、就職活動にも活かせるプレゼンを学ぶ～
第9回　自分の価値観を表現する ～年表から見えてきたことを分かりやすく伝える～
第10回 プレゼンに必要な要素 ～ノンバーバルの意識を高める、緊張緩和の方法～
第11回 思いを伝える効果的な道具
第12回 プレゼン大会①＋フィードバック
第13回 プレゼン大会②＋フィードバック
第14回 プレゼン大会③＋フィードバック
第15回 褒めるトレーニング 講義のまとめ

履修上の注意点

講義は、「聴く、話す」などのグループワークを中心に進めるため、積極的な参加姿勢・態度が求められる。理論はもちろんアナウンス技術の体得を目的とした演習が多いので、続けての受講が望ましい。毎回、授業の最後に、学んだことの小レポートの提出も求める。アナウンス技術演習Ⅰを発展させた内容のため、できればアナウンス技術演習Ⅰを受講後に参加した方が好ましい。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 25 ）
参加度（ 25 ）	

期末レポート20%、講義の気づきレポート30%、プレゼン発表25%、参加度25%

2018 Syllabus

科 目 名　**京都観光論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　倫子	

テーマ

京都の観光産業や観光資源、観光文化について、ゲストスピーカーの講演やフィールドワークを通じて学びを深める。

授業の到達目標

京都の観光産業や観光資源、観光文化を理解し、教養を深めることはもちろん、その第一線で活躍されている方の努力や工夫を学び、自身の学生生活・将来に活かせるようにすること。
また各産業や担い手における課題を捉え、自分なりの解決策を考えられるようになること。

授業の概要

2～13回目の授業は、ゲストスピーカー講師の方からの講演や、学外フィールドワークを実施する。
日程は確定次第、個別日程にて伝達する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：学習支援アプリ「educa」にて、毎回予習課題を課す
授業後課題：「KT-note」にて、毎回小レポートを課す

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　ゲストスピーカー講演①
第3回　ゲストスピーカー講演②
第4回　ゲストスピーカー講演③
第5回　ゲストスピーカー講演④
第6回　ゲストスピーカー講演⑤
第7回　フィールドワーク①
第8回　フィールドワーク②
第9回　フィールドワーク③
第10回　フィールドワーク④
第11回　フィールドワーク⑤
第12回　フィールドワーク⑥
第13回　フィールドワーク⑦
第14回　振り返りとまとめ
第15回　報告会

履修上の注意点

外部の方（社会人）の講演を聞いたり、現地フィールドワークを行うことがメインの授業である。したがって、受講時の私語、飲食、居眠りなど、受講態度には特に留意すること。

教科書

適時、資料を配布する

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 50 ）

授業出席はもちろん、事前課題・事後課題の取組み・提出状況については特に重視する。また最終報告会での報告についても、成績に加味する。

2018 Syllabus

科 目 名　**京都産業文化論Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　増渕　徹	

テーマ

京都に拠点をおいて活躍されている企業の方をゲストスピーカーとしてお呼びしてリレー形式でご講演いただく。

授業の到達目標

京都の産業や企業文化を理解し、教養を深めることはもちろん、その第一線で活躍されている方の努力や工夫を学び、自身の学生生活・将来に活かせるようにすること。
また各産業・企業における課題を捉え、自分なりの解決策を考えられるようになること。

授業の概要

2～14回目の授業は、毎回ゲストスピーカー講師の方からの講演を聞く予定である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：学習支援アプリ「educa」にて、毎回予習課題を課す
授業後課題：「KT-note」にて、毎回小レポートを課す

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　ゲストスピーカー講演①
第3回　ゲストスピーカー講演②
第4回　ゲストスピーカー講演③
第5回　ゲストスピーカー講演④
第6回　ゲストスピーカー講演⑤
第7回　ゲストスピーカー講演⑥
第8回　ゲストスピーカー講演⑦
第9回　ゲストスピーカー講演⑧
第10回　ゲストスピーカー講演⑨
第11回　ゲストスピーカー講演⑩
第12回　ゲストスピーカー講演⑪
第13回　ゲストスピーカー講演⑫
第14回　ゲストスピーカー講演⑬
第15回　振り返りとまとめ

履修上の注意点

外部の方（社会人）をお招きして講演を聞くことがメインの授業である。したがって、受講時の私語、飲食、居眠りなど、受講態度には特に留意すること。

教科書

適時、資料を配布する

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（　）　　小テスト（　）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 40 ）
授業出席はもちろん、事前課題・事後課題の取組み・提出状況については特に重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅰ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定
担 当 者　野村　倫子	

テーマ

卒業論文を作成する技能を修得する。

授業の到達目標

平安時代を中心とした古典文学の卒業論文を完成させるために、作品の読解力を養い、古典解釈に必要な参考書類の活用方法を学ぶ。また、参考文献の検索方法を身につける。これらのことを通して卒業論文作成の準備を整える。

授業の概要

3回生・4回生合同で授業を進める。作品の通読を通して、3回生は卒業論文のイメージを固め、4回生は論文の構成をより具体化する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

当該箇所には目を通しておくこと。

内　容

第1回　卒業論文とは。研究倫理について。
第2回　古典を読むということ。
第3回　源氏物語「夕顔」の巻の解釈と鑑賞、分担発表1
第4回　源氏物語「夕顔」の巻の解釈と鑑賞、分担発表2
第5回　源氏物語「夕顔」の巻の解釈と鑑賞、分担発表3
第6回　源氏物語「夕顔」の巻の解釈と鑑賞、分担発表4
第7回　源氏物語「夕顔」の巻の解釈と鑑賞、分担発表5
第8回　源氏物語「夕顔」の巻の解釈と鑑賞、分担発表6
第9回　源氏物語「夕顔」の巻の解釈と鑑賞、分担発表7
第10回　源氏物語「夕顔」の巻の解釈と鑑賞、分担発表8
第11回　源氏物語「夕顔」の巻の解釈と鑑賞、分担発表9
第12回　源氏物語「夕顔」の巻の解釈と鑑賞、分担発表10
第13回　源氏物語「夕顔」の巻の解釈と鑑賞、分担発表11
第14回　源氏物語「夕顔」の巻の解釈と鑑賞、分担発表12
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

問題点をもって授業に臨むこと。

教科書

源氏物語（一）
著者：　柳井滋他
出版社：岩波書店
出版年：2017　　ISBN：4-00-351015-5

参考書

源氏物語大成
著者：　池田亀鑑
出版社：中央公論社
出版年：　　ISBN：

源氏物語事典
著者：　池田亀鑑
出版社：東京堂出版
出版年：　　ISBN：

a10203a110

角川古語辞典
著者:
出版社: 角川書店
出版年: ISBN:

源氏物語事典
著者: 林田孝和
出版社: 大和書房
出版年: 2002 ISBN: 4-479-84060-5

源氏物語大辞典
著者: 秋山虔・室伏信助
出版社: 角川学芸出版
出版年: 2011 ISBN: 4-04-653220-6

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）
授業中課題（ ） 授業中発表等（ 70 ）
参加度 （ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅰ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定
担 当 者　林 久美子	

テーマ

古典文学研究（中・近世）

授業の到達目標

古典文学の研究方法を学び、自分に合った作品とテーマを選ぶ

授業の概要

4回生の取り組みに学びながら各自のテーマを決め、卒論作成に向けて準備を進めていく。演習Ⅲと合同。なお、1回分を学外授業に当てることがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

作品を熟読する。問題意識を持つ。図書館に足しげく通う。表現力を磨く。指摘を受けた事柄を次回の発表に生かす。

内　容

第1回　授業の進め方と研究倫理について
第2回　卒論で取り上げる作品やテーマをさぐる
第3回　同上
第4回　同上
第5回　同上
第6回　同上
第7回　文献を収集し、論文を読む
第8回　同上
第9回　同上
第10回　作品の構造や成立、問題点などを掘り下げて行く
第11回　同上
第12回　同上
第13回　同上
第14回　同上
第15回　前期の総括と夏休みの課題について

履修上の注意点

試験日を除き、就活のための欠席は原則として認めない

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（0）	小テスト（0）
授業中課題（0）	授業中発表等（60）
参加度（40）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅰ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定
担 当 者　重松　恵美	

テーマ

近現代日本文学研究

授業の到達目標

文学作品の研究を通じて、読解力、思考力、文章力、対話力を身につける。1. 読解力　文学作品をていねいに読み、理解する力。2. 思考力　作品およびその背景について、深く考える力。3. 文章力　考えたことを、分かりやすく文章化する力。4. 対話力　作品解釈について意見交換し、他者を尊重しつつ自己主張する力。

授業の概要

近現代の小説を主なテキストとし、作品の主題や文体、時代背景、作中の人物像などについて考える。学生による研究発表が授業の中心であり、発表資料の作成、口頭発表、論文の作成などを学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習（全員）対象作品を毎週、事前に熟読すること。予習（発表者）発表資料の作成など、発表準備。復習（発表者）発表後の作品について、論文の作成。

内　容

第3回　導入3　レジュメの作り方、先行研究の用い方
第4回　発表1　夏目漱石「夢十夜」
第5回　発表2　太宰治「富岳百景」
第6回　発表3　芥川龍之介「羅生門」
第7回　発表4　中島敦「山月記」
第8回　ディスカッション1　斎藤茂吉「死にたまふ母」
第9回　まとめ1　論文の書き方、論文の構成立案
第10回　発表5　坂口安吾「ラムネ氏のこと」
第11回　発表6　宮澤賢治「永訣の朝／一本木野」
第12回　発表7　柳田国男「清光館哀史」
第13回　発表8　夏目漱石「こころ」
第14回　ディスカッション2　吉野弘「I was born」
第15回　まとめ2　文学史概説、レポート提出
第1回　導入1　発表作品と日程の決定、研究倫理について
第2回　導入2　図書館等での情報収集、発表準備

履修上の注意点

やむを得ない事情で発表を欠席する場合は事前連絡し、日を改めて発表すること。テキストを持参しない場合、意見交換に参加しない場合は、欠席とみなす。

教科書

名指導書で読む　筑摩書房　なつかしの高校国語
著者:　筑摩書房編
出版社:　筑摩書房（ちくま学芸文庫）
出版年:　2011　　ISBN:　9784480093783

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40% ）	授業中発表等（ 40% ）
参加度（ 20% ）	

発表資料の作成、口頭発表、論文作成、および毎週の質疑応答への参加の4点を、成績評価の主な対象とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅰ〈＊d〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定
担 当 者　野村　幸一郎	

テーマ

日本近現代文学・メディア文芸の研究方法

授業の到達目標

日本近現代文学・メディア文芸の研究方法を習得する

授業の概要

前半は講義中心のないようとなる。主に担当教員による研究方法の講義となる。後半はグループによるワークを通じて、実際に、日本近現代文学、メディア文芸の分析を体験していくことで、研究の手法を習得していくことを目指す。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業でとりあげる作品は必ず読んでくること。随時小レポートの提出を求めていく。

内　容

第1回　全体説明、研究倫理について
第2回　登場人物の分析・結末の分析
第3回　ストーリーの分析
第4回　分析文の作り方
第5回　資料検索の方法
第6回　芥川龍之介「地獄変」の分析（1）
第7回　芥川龍之介「地獄変」の分析（1）
第8回　宮崎駿「風の谷のナウシカ」の分析（1）
第9回　宮崎駿「風の谷のナウシカ」の分析（2）
第10回　宮崎駿「風の谷のナウシカ」の分析（3）
第11回　宮崎駿「風の谷のナウシカ」の分析（4）
第12回　宮崎駿「もののけ姫」の分析（1）
第13回　宮崎駿「もののけ姫」の分析（2）
第14回　宮崎駿「もののけ姫」の分析（3）
第15回　宮崎駿「もののけ姫」の分析（4）

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

スタジオジブリ絵コンテ全集風の谷のナウシカ
著者:　宮崎駿
出版社:　徳間書店
出版年:　　ISBN:

スタジオジブリ絵コンテ全集もののけ姫
著者:　宮崎駿
出版社:　徳間書店
出版年:　　ISBN:

スタジオジブリ絵コンテ全集天空の城ラピュタ
著者:　宮崎駿
出版社:　徳間書店
出版年:　　ISBN:

a10203a114

スタジオジブリ絵コンテ全集紅の豚
著者: 宮崎駿
出版社: 徳間書店
出版年: ISBN:

スタジオジブリ絵コンテ全集魔女の宅急便
著者: 宮崎駿
出版社: 徳間書店
出版年: ISBN:

スタジオジブリ絵コンテ全集ハウルの動く城
著者: 宮崎駿
出版社: 徳間書店
出版年: ISBN:

スタジオジブリ絵コンテ全集千と千尋の神隠し
著者: 宮崎駿
出版社: 徳間書店
出版年: ISBN:

スタジオジブリ絵コンテ全集借りぐらしのアリエッティ
著者: 宮崎駿
出版社: 徳間書店
出版年: ISBN:

スタジオジブリ絵コンテ全集崖の上のポニョ
著者: 宮崎駿
出版社: 徳間書店
出版年: ISBN:

スタジオジブリ絵コンテ全集ルパン三世カリオストロの城
著者: 宮崎駿
出版社: 徳間書店
出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）
小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 60 ）
授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅰ〈＊e〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定
担 当 者　安達　太郎	

テーマ

卒業論文に向けてのテーマの探求

授業の到達目標

1）興味・関心をしっかり吟味することによってみずからの力でテーマを設定する。
2）先行研究を読みこむことによって，論文を書くという作業の持つ意味を理解する。
3）自分の考えを他の人に伝えるのに必要な事項を修得する。

授業の概要

受講生が持つさまざまなことばに関する「引っかかり」を，卒業論文に向けての「テーマ」として確定していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

直接関係がある，ないにかかわらず，学術論文をたくさん読んでください。最初はまったく理解できないかもしれませんが，気にしないで。論文を読む目的は内容を理解するだけではありません。書き方などについても具体的なイメージを得ることができます。

内　容

第1回　導入：卒論に向けての第一歩／研究倫理について
第2回　テーマの候補についての報告（1）
第3回　テーマの候補についての報告（2）
第4回　テーマの候補についての報告（3）
第5回　テーマの候補についての報告（4）
第6回　仮テーマの決定と先行研究の探索（1）
第7回　仮テーマの決定と先行研究の探索（2）
第8回　先行研究の紹介の方法
第9回　受講生による先行研究紹介（1）
第10回　受講生による先行研究紹介（2）
第11回　受講生による先行研究紹介（3）
第12回　受講生による先行研究紹介（4）
第13回　受講生による先行研究紹介（5）
第14回　受講生による先行研究紹介（6）
第15回　受講生による先行研究紹介（7）

履修上の注意点

同じゼミに所属する他の学生のテーマにも関心を持って，積極的に質疑応答に関わること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 70% ）
参加度（ 30% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅱ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定
担 当 者　野村　倫子	

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

平安時代を中心とした古典文学の卒業論文を完成させるために、文献検索や論文読解を深めることで、各自の卒業論文の具体的な見通しを立てる。

授業の概要

3回生・4回生の合同で授業をすすめる。3回生は4回生の発表をとおして卒業論文の具体的なイメージを形成し、4回生は3回生での学習を振り返りながら論文を完成させる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

発表が中心となるが、個別対応であっても卒業論文に必要な資料・文献は共有できるものとなるので、一通り目を通してほしい。

内　容

第1回　研究倫理について
第2回　卒業論文の進捗状況の報告
第3回　中間発表について
第4回　中間発表要旨の作成
第5回　同上
第6回　中間発表
第7回　卒業論文作成の課題確認と作成方針の確立
第8回　同上
第9回　同上
第10回　同上
第11回　同上
第12回　卒業論文の構成確認と要旨作成
第13回　同上
第14回　同上
第15回　全治総括

履修上の注意点

教科書

必要に応じてプリントを用意する

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業ごと、学生各自のテーマごとに必要なものを示す。

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 70 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅱ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定
担 当 者　林 久美子	

テーマ

日本古典文学研究（中近世）

授業の到達目標

4回生の取り組みに学びながら卒論テーマを絞り、作品の読みを深める。プレゼンテーション能力も身につける。

授業の概要

4回生の発表を聴いて知識を深め、批判力を養う。また、3回生も発表を通して問題意識を深めていく。なお、1回分を学科講演会等に振り替える予定である。また学外授業を行う場合もある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

発表時には必ずレジュメや共有できる資料を準備しておくこと。図書館に通うこと。発表前後に教員の指導を受けること。

内　容

第1回　夏期休暇中の成果報告と後期授業の進め方についての確認
第2回　4回生の発表を聞く
第3回　同上
第4回　同上
第5回　中間発表（日程は前後する可能性がある）
第6回　3回生の発表
第7回　同上
第8回　参考文献を講読する
第9回　同上
第10回　4回生の論文について意見を述べ合う
第11回　同上
第12回　3回生の発表
第13回　同上
第14回　4回生とともに抄録を校正する
第15回　まとめ

履修上の注意点

発表に使用する本文テキストや参考文献は忘れず持参すること。他人の発表には積極的に質問し、意見を述べること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ % ）　　授業中発表等（ 60% ）
参加度（ 40% ）
試験日を除き、就活のための欠席は原則として認めない。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅱ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定
担 当 者　重松　恵美	

テーマ

近現代日本文学研究

授業の到達目標

文学作品の研究を通じて、読解力、思考力、文章力、対話力を身につける。1. 読解力　文学作品をていねいに読み、理解する力。2. 思考力　作品およびその背景について、深く考える力。3. 文章力　考えたことを、分かりやすく文章化する力。4. 対話力　作品解釈について意見交換し、他者を尊重しつつ自己主張する力。

授業の概要

任意の作品について、作品の主題や文体、時代背景、作中の人物像などについて考える。学生による研究発表が授業の中心であり、発表資料の作成、口頭発表、論文の作成などを学ぶ。卒業論文の準備段階として、対象作品と研究テーマを各自が見出すことが重要である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習（全員）対象作品を毎週、事前に熟読すること。予習（発表者）発表資料の作成など、発表準備。復習（発表者）発表後の作品について、論文の作成。

内　容

第1回　導入1　発表作品と日程の決定
第2回　導入2　資料収集、レジュメ作成
第3回　発表1 担当作家・作品の概要発表
第4回　発表2　担当作家・作品の概要発表
第5回　発表3　個人発表
第6回　発表4　個人発表
第7回　発表5　個人発表
第8回　発表6　個人発表
第9回　発表7　個人発表
第10回　発表8　個人発表
第11回　発表9　個人発表
第12回　発表10　個人発表
第13回　発表11　個人発表
第14回　まとめ　論文の書き方、卒論の計画
第15回　まとめ　ディスカッション

履修上の注意点

やむを得ない事情で発表を欠席する場合は事前連絡し、日を改めて発表すること。テキストを持参しない場合、意見交換に参加しない場合は、欠席とみなす。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 40% ）

参加度（ 20% ）

発表資料の作成、口頭発表、論文作成、および毎週の質疑応答への参加の4点を、成績評価の主な対象とする。

2018 Syllabus

科目名 **日本語日本文学演習Ⅱ〈＊d〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定
担当者　野村　幸一郎	

テーマ

日本近現代文学・メディア文芸の代表的な作品を考える

授業の到達目標

日本近現代文学・メディア文芸の代表的な作品について、受講生が分担し研究発表していくことで、理解を深めていく。

授業の概要

前半は担当教員によってレジュメの作り方、発表の方法などを講義し、後半では実際に受講生が研究発表を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で取り上げる作品はかならず読んでくること。随時小レポートの提出を求める予定である

内　容

第1回　全体説明
第2回　レジュメの作り方（1）
第3回　レジュメの作り方（2）
第4回　レジュメの作り方（3）
第5回　受講生による発表（1）江戸川乱歩「屋根裏の散歩者」
第6回　受講生による発表（2）宮沢賢治「銀河鉄道の夜」
第7回　受講生による発表（3）村上春樹「ノルウェイの森」
第8回　受講生による発表（4）吉本ばなな「キッチン」
第9回　受講生による発表（5）宮崎駿コミック版「風の谷のナウシカ」
第10回　受講生による発表（6）庵野秀明「新世紀エヴァンゲリオン」
第11回　受講生による発表（7）伊坂幸太郎「魔王」
第12回　受講生による発表（8）森絵都「カラフル」
第13回　受講生による発表（9）谷川流「涼宮ハルヒの憂鬱」
第14回　受講生による発表（10）「魔法少女まどか☆マギカ」
第15回　受講生による発表（11）細田守「おおかみ子どもの雨と雪」

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

スタジオジブリ絵コンテ全集となりのトトロ
著者:　宮崎駿
出版社:　徳間書店
出版年:　ISBN:

スタジオジブリ絵コンテ全集風立ちぬ
著者:　宮崎駿
出版社:　徳間書店
出版年:　ISBN:

スタジオジブリ絵コンテ全集崖の上のポニョ
著者:　宮崎駿
出版社:　徳間書店
出版年:　ISBN:

a10203a254

スタジオジブリ絵コンテ全集思い出のマ―ニー
著者:
出版社: 徳間書店
出版年: ISBN:

スタジオジブリ絵コンテ全集かぐや姫の物語
著者:
出版社: 徳間書店
出版年: ISBN:

スタジオジブリ絵コンテ全集耳をすませば
著者:
出版社: 徳間書店
出版年: ISBN:

スタジオジブリ絵コンテ思い出ぽろぽろ
著者:
出版社: 徳間書店
出版年: ISBN:

新世紀エヴァンゲリオン絵コンテ集1～5
著者:
出版社: 富士見書房
出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 60 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅱ〈＊e〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定
担 当 者　安達　太郎	

テーマ

卒業論文に向けての方法の模索

授業の到達目標

1）卒業論文のテーマを確定する。
2）みずからの設定したテーマにふさわしいデータの収集方法や分析方法を探求する。

授業の概要

テーマが具体的にイメージできるようになったら，そのテーマにふさわしい方法論を模索する段階にはいる。既存の方法を使いこなすことができるようにし，新しい工夫を盛り込む余地を探る。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

直接関係がある，ないにかかわらず，学術論文をたくさん読んでください。最初はまったく理解できないかもしれませんが，気にしないで。論文を読む目的は内容を理解するだけではありません。書き方などについても具体的なイメージを得ることができます。

内　容

第1回　導入
第2回　テーマの確認と現状報告（1）
第3回　テーマの確認と現状報告（2）
第4回　第1次経過報告（1）
第5回　第1次経過報告（2）
第6回　第1次経過報告（3）
第7回　第1次経過報告（4）
第8回　第1次経過報告（5）
第9回　第1次経過報告（6）
第10回　第2次経過報告（1）
第11回　第2次経過報告（2）
第12回　第2次経過報告（3）
第13回　第2次経過報告（4）
第14回　第2次経過報告（5）
第15回　第2次経過報告（6）

履修上の注意点

同じゼミに所属する他の学生のテーマにも関心を持って積極的に質疑応答に関わること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 0 ）	授業中発表等 （ 70% ）
参加度 （ 30% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅴ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　20
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾西　正成	

テーマ

行・草書の書法の研究

授業の到達目標

行・草書の基本と応用を古典から学び、自在で幅広い表現力の修得をめざす。特に王羲之は行草書における美の典型として後の書家たちに多大な影響を与えた。よってその書法を基礎として深め、王羲之書法解析を目指す。また、王羲之の影響下で花咲いた多くの大家を研究していく。

授業の概要

実技を中心として、それにまつわる資料の鑑賞、解説。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

家庭での十分な書き込みと、授業で学習する古典以外の古典の練習をしっかりすること。

内　容

第1回　ガイダンス・研究倫理について
第2回　王羲之とその書法
第3回　集字聖教序の書法
第4回　集字聖教序の臨書（半紙）
第5回　集字聖教序の臨書（半切）
第6回　集字聖教序を基礎とした倣書制作
第7回　作品の相互批評・まとめ
第8回　北宋の書人の書法
第9回　蜀素帖の書法
第10回　蜀素帖の臨書（半紙）
第11回　蜀素帖の臨書（半切）
第12回　茗渓詩巻他の臨書（半紙）
第13回　北宋の書風を基とした作品制作
第14回　美術館等による展覧会鑑賞
第15回　作品の互評　まとめ ※尚、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

必要に応じて学外授業を行うことがある。

教科書

中国法書選16集字聖教序
著者:
出版社: 二玄社
出版年: 1990　　ISBN:
中国法書選48米？集
著者:
出版社: 二玄社
出版年: 1990　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅴ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　20
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾西　正成	

テーマ

行・草書の書法の研究

授業の到達目標

行・草書の基本と応用を古典から学び、自在で幅広い表現力の修得をめざす。特に王羲之は行草書における美の典型として後の書家たちに多大な影響を与えた。よってその書法を基礎として深め、王羲之書法解析を目指す。また、王羲之の影響下で花咲いた多くの大家を研究していく。

授業の概要

実技を中心として、それにまつわる資料の鑑賞、解説。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

家庭での十分な書き込みと、授業で学習する古典以外の古典の練習をしっかりすること。

内　容

第1回　ガイダンス・研究倫理について
第2回　王羲之とその書法
第3回　集字聖教序の書法
第4回　集字聖教序の臨書（半紙）
第5回　集字聖教序の臨書（半切）
第6回　集字聖教序を基礎とした倣書制作
第7回　作品の相互批評・まとめ
第8回　北宋の書人の書法
第9回　蜀素帖の書法
第10回　蜀素帖の臨書（半紙）
第11回　蜀素帖の臨書（半切）
第12回　茗渓詩巻他の臨書（半紙）
第13回　北宋の書風を基とした作品制作
第14回　美術館等による展覧会鑑賞
第15回　作品の互評　まとめ ※尚、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

必要に応じて学外授業を行うことがある。

教科書

中国法書選16集字聖教序
著者:
出版社: 二玄社
出版年: 1990　　ISBN:
中国法書選48米？集
著者:
出版社: 二玄社
出版年: 1990　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅵ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　20
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾西　正成	

テーマ

行草書の書法の研究

授業の到達目標

自在で幅広い表現技術の修得。特に王羲之は行草書における美の典型として後の書家たちに多大な影響を与えた。よってその書法を基礎として深め、王羲之書法解析を目指す。また、王羲之の影響下で花咲いた多くの大家を研究していく。

授業の概要

実技を中心として、それにまつわる資料の鑑賞、解説。様々な形式の制作も行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

家庭で十分な練習をすること。授業で扱う古典以外の古典の臨書もしっかりすること。書展などを積極的に鑑賞すること。

内　容

第1回　ガイダンス・研究倫理について
第2回　王羲之・十七帖の書法
第3回　三井本十七帖の臨書（半紙）
第4回　上野本十七帖の臨書（半紙）
第5回　三井本と上野本十七帖の魅力を味わう
第6回　十七帖の臨書（半切）
第7回　十七帖の臨書と倣書（半切）互評会
第8回　中国歴代の行・草書古典の臨書（王献之を中心に）
第9回　中国歴代の行・草書古典の臨書（狂草）
第10回　中国歴代の行・草書古典の臨書（顔真卿を中心に）
第11回　中国歴代の行・草書古典の臨書（北宋の書人）
第12回　中国歴代の行・草書古典の臨書（王鐸）
第13回　中国歴代の行・草書古典の臨書（明末清初の書の展開）
第14回　中国・日本における書人の作品鑑賞（美術館等）
第15回　倣書作品の互評会・まとめ　※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

教科書

中国法書選14十七帖
著者:
出版社: 二玄社
出版年: 1990　　ISBN:
王羲之書法の展開
著者:　吉川蕉仙
出版社: 二玄社
出版年: 2016　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅵ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　20
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾西　正成	

テーマ

行草書の書法の研究

授業の到達目標

自在で幅広い表現技術の修得。特に王羲之は行草書における美の典型として後の書家たちに多大な影響を与えた。よってその書法を基礎として深め、王羲之書法解析を目指す。また、王羲之の影響下で花咲いた多くの大家を研究していく。

授業の概要

実技を中心として、それにまつわる資料の鑑賞、解説。様々な形式の制作も行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

家庭で十分な練習をすること。授業で扱う古典以外の古典の臨書もしっかりすること。書展などを積極的に鑑賞すること。

内　容

第1回　ガイダンス・研究倫理について
第2回　王羲之・十七帖の書法
第3回　三井本十七帖の臨書（半紙）
第4回　上野本十七帖の臨書（半紙）
第5回　三井本と上野本十七帖の魅力を味わう
第6回　十七帖の臨書（半切）
第7回　十七帖の臨書と倣書（半切）互評会
第8回　中国歴代の行・草書古典の臨書（王献之を中心に）
第9回　中国歴代の行・草書古典の臨書（狂草）
第10回　中国歴代の行・草書古典の臨書（顔真卿を中心に）
第11回　中国歴代の行・草書古典の臨書（北宋の書人）
第12回　中国歴代の行・草書古典の臨書（王鐸）
第13回　中国歴代の行・草書古典の臨書（明末清初の書の展開）
第14回　中国・日本における書人の作品鑑賞（美術館等）
第15回　倣書作品の互評会・まとめ　※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

教科書

中国法書選14十七帖
著者:
出版社: 二玄社
出版年: 1990　　ISBN:
王羲之書法の展開
著者:　吉川蕉仙
出版社: 二玄社
出版年: 2016　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅶ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　20
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　二三	

テーマ

臨書を中心とした日本のかな書法の研究。

授業の到達目標

多様なかな書法の修得。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

より高い表現力を養成するためには習熟が必要である。自宅でも繰り返し臨書を重ねることが大切。

内　　容

第1回　研究倫理について
　　関戸本古今和歌集について
第2回　関戸本古今和歌集の技法について
第3回　関戸本古今和歌集の臨書①(用字・造形・連綿手法等)
第4回　関戸本古今和歌集の臨書②(用字・造形・連綿手法等)
第5回　関戸本古今和歌集の臨書③(用字・造形・連綿手法等)
第6回　関戸本古今和歌集の臨書④(用字・造形・連綿手法等)
第7回　関戸本古今和歌集の臨書①(さまざまな線運動と墨法)
第8回　関戸本古今和歌集の臨書②(さまざまな線運動と墨法)
第9回　関戸本古今和歌集の臨書③(さまざまな線運動と墨法)
第10回 関戸本古今和歌集の倣書①
第11回 関戸本古今和歌集の倣書②
第12回 関戸本古今和歌集の倣書③
第13回 創作への展開①
第14回 創作への展開②
第15回 創作への展開③

履修上の注意点

教科書

日本名筆選19「関戸本古今和歌集」
著者:
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:
日本名筆選13「継色紙」
著者:
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（0）	小テスト（0）
授業中課題（80）	授業中発表等（0）
参加度（20）	

授業中課題には提出物とレポートを含む。

2018 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅶ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　20
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　二三	

テーマ

臨書を中心とした日本のかな書法の研究。

授業の到達目標

多様なかな書法の修得。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

より高い表現力を養成するためには習熟が必要である。自宅でも繰り返し臨書を重ねることが大切。

内　　容

第1回　研究倫理について
　　関戸本古今和歌集について
第2回　関戸本古今和歌集の技法について
第3回　関戸本古今和歌集の臨書①(用字・造形・連綿手法等)
第4回　関戸本古今和歌集の臨書②(用字・造形・連綿手法等)
第5回　関戸本古今和歌集の臨書③(用字・造形・連綿手法等)
第6回　関戸本古今和歌集の臨書④(用字・造形・連綿手法等)
第7回　関戸本古今和歌集の臨書①(さまざまな線運動と墨法)
第8回　関戸本古今和歌集の臨書②(さまざまな線運動と墨法)
第9回　関戸本古今和歌集の臨書③(さまざまな線運動と墨法)
第10回　関戸本古今和歌集の倣書①
第11回　関戸本古今和歌集の倣書②
第12回　関戸本古今和歌集の倣書③
第13回　創作への展開①
第14回　創作への展開②
第15回　創作への展開③

履修上の注意点

教科書

日本名筆選19「関戸本古今和歌集」
著者:
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:
日本名筆選13「継色紙」
著者:
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（0）	小テスト（0）
授業中課題（80）	授業中発表等（0）
参加度（20）	

授業中課題には提出物とレポートを含む。

2018 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅷ〈＊a〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員　20

履修条件　　クラス指定

担 当 者　橋本 二三

テーマ

臨書を中心とした日本のかな書法の研究。

授業の到達目標

多様なかな書法の修得。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

より高い表現力を養成するためには習熟が必要である。自宅でも繰り返し臨書を重ねることが大切。

内　容

第1回　研究倫理について
　　継色紙について
第2回　継色紙の技法について
第3回　継色紙の臨書①(用字・造形・構成法)
第4回　継色紙の臨書②(用字・造形・構成法)
第5回　継色紙の臨書③(用字・造形・構成法)
第6回　継色紙の臨書④(用字・造形・構成法)
第7回　継色紙の臨書①(線表現と墨法)
第8回　継色紙の臨書②(線表現と墨法)
第9回　継色紙の臨書③(線表現と墨法)
第10回　継色紙の倣書①
第11回　継色紙の倣書②
第12回　継色紙の倣書③
第13回　創作に向けて(散らし書きについて)
第14回　創作に向けて(帖・巻子について)
第15回　創作への展開

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 80 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 20 ）
授業中課題には提出物とレポートを含む。

2018 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅷ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　20
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　二三	

テーマ

臨書を中心とした日本のかな書法の研究。

授業の到達目標

多様なかな書法の修得。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

より高い表現力を養成するためには習熟が必要である。自宅でも繰り返し臨書を重ねることが大切。

内　　容

第1回　研究倫理について
　　継色紙について
第2回　継色紙の技法について
第3回　継色紙の臨書①(用字・造形・構成法)
第4回　継色紙の臨書②(用字・造形・構成法)
第5回　継色紙の臨書③(用字・造形・構成法)
第6回　継色紙の臨書④(用字・造形・構成法)
第7回　継色紙の臨書①(線表現と墨法)
第8回　継色紙の臨書②(線表現と墨法)
第9回　継色紙の臨書③(線表現と墨法)
第10回　継色紙の倣書①
第11回　継色紙の倣書②
第12回　継色紙の倣書③
第13回　創作に向けて(散らし書きについて)
第14回　創作に向けて(帖・巻子について)
第15回　創作への展開

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 80 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 20 ）	

授業中課題には提出物とレポートを含む。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学特講a（日本語史Ⅰ）〈Z〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鳥谷　善史	

テーマ

日本語の通時的変化や変異を概観する。

授業の到達目標

日本語がどのような変化や変異を遂げてきたかを歴史的に概観したい。とりわけ、古代語に区分される、上代・中古及び中世前半（鎌倉時代・南北朝時代）の状況について確認したい。それぞれの時代の文献や基本的な学説を理解し、どのような手順で、国語の歴史を構築し論考しているかといった方法論を学びたい。

授業の概要

日本語史の総説と音韻史及び文字史、文法史について概説する。　極めて専門性の高い内容であるため、日本語学の基本的な知識がない場合や、予習復習を行わないと、単位修得につながりにくい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：受講前にテキストを読み、理解できない専門用語等を確認してから、授業に臨むこと。復習：参考文献を各自で調べそれぞれの内容や用語が説明できるか各自で確認し，授業で述べた内容をより深く考察すること。

内　容

第1回　日本語史について（ガイダンス）総論1（日本語史とは）
第2回　総論2（時代区分・資料・研究対象）
第3回　上代の資料（万葉集他）
第4回　上代の文字とその音韻1（万葉仮名）
第5回　上代の文字とその音韻2（上代特殊仮名遣い）
第6回　上代の音韻（音配列の制限）
第7回　万葉仮名から平仮名・片仮名の発生（上代から中古へ）
第8回　中古の和文資料（時代背景と諸本について）
第9回　中古の訓点資料（訓点とは）
第10回　これまでのまとめと小テスト1
第11回　手習いの歴史と音韻の変化1（あめつち・たゐに・いろは）
第12回　手習いの歴史と音韻の変化2（あめつち・たゐに・いろは）
第13回　音韻の変化（音便の発生とその要因）
第14回　動詞活用の変遷
第15回　まとめと小テスト、もしくは小レポート

履修上の注意点

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。（遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内）　受講生の多寡により授業計画の一部を変更することがある。特に、小テストの日程。

教科書

ワークブック　日本語の歴史
著者：　岡崎友子・森勇太
出版社：くろしお出版
出版年：2016　　ISBN：　9784874247068

参考書

日本語史概説
著者：　沖森卓也
出版社：朝倉書店
出版年：2010　　ISBN：　425451522-0

日本語史要説
著者：　渡辺実
出版社：岩波書店
出版年：1997　　ISBN：　4000260111

a10203d110

日本語の歴史
著者: 山口明穂他
出版社: 東京大学出版会
出版年: 1997 ISBN: 4130820042

はじめて読む日本語の歴史
著者: 沖森卓也
出版社: ベレ出版
出版年: 2010 ISBN: 4860642556

日本語の歴史全8巻
著者: 亀井孝他編
出版社: 平凡社
出版年: 1963-66 ISBN: 4582765955

いろはうた
著者: 小松英雄
出版社: 講談社学術文庫
出版年: 2009 ISBN: 9784062919418

五十音図の話
著者: 馬渕和夫
出版社: 大修館書店
出版年: 1993 ISBN: 9784469220933

国語音韻論
著者: 馬渕和夫
出版社: 笠間書院
出版年: 1971 ISBN: 4305000180

国語学史
著者: 馬渕和夫・出雲朝子
出版社: 笠間書院
出版年: 2010 ISBN: 9784305603029

概説日本語の歴史
著者: 佐藤武義
出版社: 朝倉書店
出版年: 1995 ISBN: 4254510195

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ 50 ）
授業中課題 （ 10 ） 授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 30 ）
参加度は、積極的な受講に対してのみ評価するものである。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学特講c(現代日本語研究Ⅰ)〈Z〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安達　太郎	

テーマ

日本語文法の発想

授業の到達目標

1)日本語がどのようなしくみを持つ言語であるのか理解する。
2)自分たちが日常的に使っている日本語でさえ，私たちにとって未知な存在であることを理解する。
3)2)を通じて，自分の立場を絶対化せず，相対的に考えるという視点を学ぶ。

授業の概要

日本語を母語とする者にとって，日本語はあらためて考える余地がないほど当たり前の存在に見える。この授業では，日本語のしくみについて私たちが驚くほど「知らない」ことを明らかにすることを通じて日本語文法の発想を理解させる。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

1)授業で配布する資料をよく読んでください。
2)『日本語学』や『月刊言語』といった雑誌のバックナンバーを手にとって，興味があるテーマを扱った論文を読んでください。

内　容

第1回　文法とは何か？
第2回　日本語の「内側」と「外側」
第3回　名詞につく助詞
第4回　格と文型
第5回　主格・主語・主題
第6回　格助詞の意味のゆらぎ
第7回　場所表現と場所的表現
第8回　動詞の意志性と関わる言語現象
第9回　受身のタイプと意味的性質
第10回　使役の意味の広がり
第11回　方向性の拡張
第12回　恩恵の拡張
第13回　動きのとらえ方
第14回　時間の表し方
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（0）	小テスト（50）
授業中課題（20）	授業中発表等（0）
参加度（30）	

2018 Syllabus

科 目 名　**書論特講c**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　谷川　雅夫	

テーマ

書論選読1

授業の到達目標

代表的な書論の中から、今日我々がその書を見ることができる書家による書論を中心に選んで講読する。原文である漢文に親しみ、内容を理解することによって書の本質や魅力について分析する力を養う。

授業の概要

毎回、代表的な書論を読解し、その内容を理解する。合わせて関連する鑑賞資料を分析して、授業の最後にミニレポートを提出する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

必ず復習を行い、次の授業時に前回の内容が理解されているようにすること。書に関する書物(他の芸術に関しても)をできるだけ読んでほしい。また、書道史上の名品を図版などで鑑賞し、博物館・美術館に足を運んで真跡を鑑賞する機会を増やしてほしい。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　漢の書論　趙壱『非草書』
第3回　斉の書論　王僧虔『論書』
第4回　唐の書論　徐浩『論書』(1)
第5回　唐の書論　徐浩『論書』(2)
第6回　北宋の書論　蘇軾『東坡題跋』(1)
第7回　北宋の書論　蘇軾『東坡題跋』(2)
第8回　北宋の書論　黄庭堅『山谷題跋』(1)
第9回　北宋の書論　黄庭堅『山谷題跋』(2)
第10回　北宋の書論　米フツ『海岳名言』(1)
第11回　北宋の書論　米フツ『海岳名言』(2)
第12回　南宋の書論　趙孟堅『論書』(1)
第13回　南宋の書論　趙孟堅『論書』(2)
第14回　明の書論　祝允明『書述』(1)
第15回　明の書論　祝允明『書述』(2)およびレポート提出

履修上の注意点

※なおこの授業は必要に応じて学外授業をおこないます。

教科書

参考書

中国書論大系
著者:　中田勇次郎ほか
出版社:　二玄社
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 40 ）	小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ 10 ）	授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**書論特講d**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　谷川　雅夫	

テーマ

書論選読2

授業の到達目標

代表的な書論の中から、書を考える上で今日において最も重要であると考えられる部分を取り上げて講読する。漢文・古文に慣れるとともに、本文内容を理解することによって、現代の我々にとって「書とはどういう芸術か」を考える力を養う。

授業の概要

毎回、代表的な書論や金石学の一節を取り上げ、その内容を考察していく。受講者の積極的な質問・発言を期待する。毎回ミニレポートを提出し、復習の機会とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

必ず復習を行い、次の授業時に前回の内容が理解されているようにすること。書に関する書物(できれば他の芸術に関しても)をできるだけ読んでほしい。また、書道史上の名品を図版などで鑑賞し、博物館・美術館に足を運んで真跡を鑑賞する機会を増やしてほしい。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　清の書論　阮元『南北書派論』(1)
第3回　清の書論　阮元『南北書派論』(2)
第4回　清の書論　阮元『北碑南帖論』(1)
第5回　清の書論　阮元『北碑南帖論』(2)
第6回　中華民国の書論　朱剣心『金石学』
第7回　藤原楚水『書道金石学』(1)序説
第8回　藤原楚水『書道金石学』(2)金文
第9回　藤原楚水『書道金石学』(3)璽印
第10回　藤原楚水『書道金石学』(4)封泥
第11回　藤原楚水『書道金石学』(5)古陶・瓦当
第12回　藤原楚水『書道金石学』(6)画像
第13回　藤原楚水『書道金石学』(7)摩崖・造像
第14回　藤原楚水『書道金石学』(8)墓誌
第15回　藤原楚水『書道金石学』(9)石経およびレポート提出

履修上の注意点

教科書

参考書

中国書論大系
著者:　中田勇次郎ほか
出版社:　二玄社
出版年:　　ISBN:

書道金石学
著者:　藤原楚水
出版社:　三省堂
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 40 ）	小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ 10 ）	授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**現代書研究 I**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中村　史朗	

テーマ

今日における書のあり方を総合的に考察する。現代社会において、個の表現としての書は、どのような方向を求めているのか、また書が仮に社会性を持つとはどのようなことなのか、実作、鑑賞の両面から検討したい。

授業の到達目標

近百年の日本において、「漢字仮名交じりの書」「少字数書」「前衛書」など、従来にない新傾向の書が生まれた。これらが運動のかたちをとって大きな広がりを見せたのはどのような背景があったのかを知り、合わせて各々の基礎的な表現技法を実作によって習得する。また作品を制作する上で重要な、「主題の設定」とはどのようなことなのか、各回の授業を通じて履修者個々が自身の制作において明確にできるようにする。

授業の概要

近百年の日本の書を概観し、新傾向の書の成立の背景・根拠を探る。また「漢字仮名交じりの書」「少字数書」などの基礎的技法に習熟する。実習に講義、発表、討論をまじえ、履修者の積極的な授業参加をうながす。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

作品制作を中心とするが、書き上げたものを相互に批評したり、指導の場における評価のあり方を検討する場を設ける。授業意外に積極的に習作にはげみ、自他の作品の批評・評価に取り組むこと。

内　容

第1回　現代書の諸相(1) 近百年の日本の書。書が会場で鑑賞されるということについて。
第2回　現代書の諸相(2) 戦後の新傾向の書を中心に。
第3回　現代の書と古典 古典の技法はどのようにして現代の書に生かされるのか。
第4回　現代書の制作 意図と技法、用具・用材。
第5回　漢字仮名交じりの書(1) 概観。漢字仮名交じりの書の成果と課題。
第6回　漢字仮名交じりの書(2) 言文一致表記の日本語をどのように書くのか。
第7回　漢字仮名交じりの書(3) 古典の技法を生かして①。
第8回　漢字仮名交じりの書(4) 古典の技法を生かして②。
第9回　漢字仮名交じりの書(5) 言語の表象として一素材と技法の関係を考える①。
第10回 漢字仮名交じりの書(6) 言語の表象として一素材と技法の関係を考える②。
第11回 少字数の書(1) 少字数の書が重視される背景。
第12回 少字数の書(2) 大字表現のねらい。
第13回 少字数の書(3) 特有の技法を学ぶ。用具・用材を工夫する。
第14回 現代の書一多様な表現一 さまざまな素材を用いて。
第15回 現代の書一多様な表現一 新しい発表のかたち。

履修上の注意点

実習を中心とするので、各回毎に指示する用具・用材を忘れず準備すること。大幅な遅刻は欠席として処理する。各回のテーマに沿って自主的に作品制作に取り組むなど、積極的に授業に取り組んでほしい。

教科書

参考書

詩文の象
著者:　小倉釣雲　他
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:

詩人の書
著者:　疋田寛吉
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:

a10203f110

文士の筆跡(1)～(5)

著者:　瀬沼茂樹　他

出版社: 二玄社

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）

授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 30 ）

「授業中課題」には、授業中のテーマに沿って指示する宿題の制作物も含んでいる。

2018 Syllabus

科 目 名　**現代書研究Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池田　利広	

テーマ

書作品の鑑賞・分析を通して、それをいかに創作につなげるか考慮・実践する。

授業の到達目標

書技法の習得と創作への手順を知り、独自の作品作りをめざす。

授業の概要

調和体と漢字の書を取りあげ、鑑賞・分析・実技を通して作品制作を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

復習は毎時間十分に行い、特に新しい内容に関しては習熟度を高める。各作品の制作についてレポートするため、各授業で研究した内容を整理する。

内　　容

第1回　オリエンテーション（レポートの内容などについての説明）
第2回　漢字作品の鑑賞と分析①
第3回　漢字作品の鑑賞と分析②
第4回　技法の習得・臨書①
第5回　技法の習得・臨書②
第6回　草稿作り
第7回　作品制作①
第8回　作品制作②
第9回　批評会
第10回　調和体作品の鑑賞と分析
第11回　技法の習得・臨書
第12回　草稿作り
第13回　作品制作
第14回　作品制作
第15回　批評会

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と中途退出をしないように。

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30% ）
課題提出 40%、レポート 30%

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅲ 〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　倫子	

テーマ

卒業論文を作成する技能を修得する。

授業の到達目標

平安時代を中心とした古典文学の卒業論文を完成させるために、作品の読解力を養い、古典解釈に必要な参考書類の活用方法を学ぶ。また、参考文献の検索方法を身につける。これらのことを通して卒業論文作成の準備を整える。

授業の概要

3回生・4回生合同で授業を進める。作品の通読を通して、3回生は卒業論文のイメージを固め、4回生は論文の構成をより具体化する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

当該箇所には目を通しておくこと。

内　容

第1回　卒業論文とは。研究倫理について。
第2回　古典を読むということ。
第3回　源氏物語「夕顔」の巻の解釈と鑑賞、分担発表1
第4回　源氏物語「夕顔」の巻の解釈と鑑賞、分担発表2
第5回　源氏物語「夕顔」の巻の解釈と鑑賞、分担発表3
第6回　源氏物語「夕顔」の巻の解釈と鑑賞、分担発表4
第7回　源氏物語「夕顔」の巻の解釈と鑑賞、分担発表5
第8回　源氏物語「夕顔」の巻の解釈と鑑賞、分担発表6
第9回　源氏物語「夕顔」の巻の解釈と鑑賞、分担発表7
第10回　源氏物語「夕顔」の巻の解釈と鑑賞、分担発表8
第11回　源氏物語「夕顔」の巻の解釈と鑑賞、分担発表9
第12回　源氏物語「夕顔」の巻の解釈と鑑賞、分担発表10
第13回　源氏物語「夕顔」の巻の解釈と鑑賞、分担発表11
第14回　源氏物語「夕顔」の巻の解釈と鑑賞、分担発表12
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

問題点をもって授業に臨むこと。

教科書

源氏物語（一）
著者：　柳井滋他
出版社：岩波書店
出版年：2017　　ISBN：4-00-351015-5

参考書

源氏物語大成
著者：　池田亀鑑
出版社：中央公論社
出版年：　　ISBN：

源氏物語事典
著者：　池田亀鑑
出版社：東京堂出版
出版年：　　ISBN：

角川古語辞典
著者：
出版社：角川書店
出版年：　　ISBN：

a10204a110

源氏物語事典

著者: 林田孝和

出版社: 大和書房

出版年: 2002 ISBN: 4-479-84060-5

源氏物語大辞典

著者: 秋山虔・室伏信助

出版社: 角川学芸出版

出版年: 2011 ISBN: 4-04-653220-6

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ 70 ）

参加度 （ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅲ 〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　林　久美子	

テーマ

古典文学研究（中・近世）

授業の到達目標

古典文学の研究方法を学び、自分に合った作品とテーマを選ぶ

授業の概要

4回生の取り組みに学びながら各自のテーマを決め、卒論作成に向けて準備を進めていく。演習Ⅲと合同。なお、1回分を学外授業に当てることがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

作品を熟読する。問題意識を持つ。図書館に足しげく通う。表現力を磨く。指摘を受けた事柄を次回の発表に生かす。

内　容

第1回　授業の進め方と研究倫理について
第2回　卒論で取り上げる作品やテーマをさぐる
第3回　同上
第4回　同上
第5回　同上
第6回　同上
第7回　文献を収集し、論文を読む
第8回　同上
第9回　同上
第10回　作品の構造や成立、問題点などを掘り下げて行く
第11回　同上
第12回　同上
第13回　同上
第14回　同上
第15回　前期の総括と夏休みの課題について

履修上の注意点

試験日を除き、就活のための欠席は原則として認めない

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 60 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅲ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　重松　恵美	

テーマ

近現代日本文学研究

授業の到達目標

文学作品の研究を通じて、読解力、思考力、文章力、対話力を身につける。1. 読解力　文学作品をていねいに読み、理解する力。2. 思考力　作品およびその背景について、深く考える力。3. 文章力　考えたことを、分かりやすく文章化する力。4. 対話力　作品解釈について意見交換し、他者を尊重しつつ自己主張する力。

授業の概要

任意の作品について、作品の主題や文体、時代背景、作中の人物像などについて考える。学生による研究発表が授業の中心であり、発表資料の作成、口頭発表、論文の作成などを学ぶ。卒業論文の完成に向けて切磋琢磨する場である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習（全員）対象作品を毎週、事前に熟読すること。予習（発表者）発表資料の作成など、発表準備。 復習（発表者）発表後の作品について、論文の作成。

内　容

第1回　導入1　発表作品と日程の決定
第2回　導入2　資料収集、レジュメ作成
第3回　発表1 担当作家・作品の概要発表
第4回　発表2　担当作家・作品の概要発表
第5回　発表3　個人発表
第6回　発表4　個人発表
第7回　発表5　個人発表
第8回　発表6　個人発表
第9回　発表7　論文下書きの提出と意見交換
第10回　発表8　論文下書きの提出と意見交換
第11回　発表9　個人発表
第12回　発表10　個人発表
第13回　発表11　個人発表
第14回　まとめ　論文下書きの推敲
第15回　まとめ　論文下書き推敲版の提出

履修上の注意点

やむを得ない事情で発表を欠席する場合は事前連絡し、日を改めて発表すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 40% ）

参加度 （ 20% ）

発表資料の作成、口頭発表、論文作成、および毎週の質疑応答への参加の4点を、成績評価の主な対象とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅲ 〈＊d〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　幸一郎	

テーマ

日本近現代文学、メディア文芸に関する研究指導

授業の到達目標

卒業研究のための研究指導を行う

授業の概要

受講生の発表と発表についての質疑応答、グループワークが授業の中心になる

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で取り上げる作品は必ず読んでくること。授業内で小レポートの執筆を随時求めていく

内　　容

第1回　全体説明
第2回　日本近代文学・メディア文芸の研究方法（1）
第3回　日本近代文学・メディア文芸の研究方法（2）
第4回　日本近代文学・メディア文芸の研究方法（3）
第5回　日本近代文学・メディア文芸の研究方法（4）
第6回　受講生による発表
第7回　受講生による発表
第8回　受講生による発表
第9回　受講生による発表
第10回　受講生による発表
第11回　受講生による発表
第12回　受講生による発表
第13回　受講生による発表
第14回　受講生による発表
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 60 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅲ 〈＊e〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安達　太郎	

テーマ

卒業論文作成

授業の到達目標

1）議論をとおして自らの考えを磨き上げていく。
2）自分のテーマだけでなく，他の学生のテーマについても強い関心を持って議論に参加する。

授業の概要

卒業論文作成に向けて報告と議論を繰り返して，着実に成果を上げていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

直接関係がある，ないにかかわらず，学術論文をたくさん読んでください。最初はまったく理解できないかもしれませんが，気にしないで。論文を読む目的は内容を理解するだけではありません。書き方などについても具体的なイメージを得ることができます。

内　容

第1回　導入
第2回　受講生による第1回報告（1）
第3回　受講生による第1回報告（2）
第4回　受講生による第1回報告（3）
第5回　受講生による第1回報告（4）
第6回　受講生による第2回報告（1）
第7回　受講生による第2回報告（2）
第8回　受講生による第2回報告（3）
第9回　受講生による第2回報告（4）
第10回　受講生による第3回報告（1）
第11回　受講生による第3回報告（2）
第12回　受講生による第3回報告（3）
第13回　受講生による第3回報告（4）
第14回　現状確認と課題の整理（1）
第15回　現状確認と課題の整理（2）

履修上の注意点

他のゼミ生のテーマにも関心を持って，積極的に質疑応答に関わってください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 0 ）	授業中発表等 （ 70% ）
参加度 （ 30% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅳ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　倫子	

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

平安時代を中心とした古典文学の卒業論文を完成させるために、文献検索や論文読解を深めることで、各自の卒業論文の具体的な見通しを立てる。

授業の概要

3回生・4回生の合同で授業をすすめる。3回生は4回生の発表をとおして卒業論文の具体的なイメージを形成し、4回生は3回生での学習を振り返りながら論文を完成させる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

発表が中心となるが、個別対応であっても卒業論文に必要な資料・文献は共有できるものとなるので、一通り目を通してほしい。

内　　容

第1回　研究倫理について
第2回　卒業論文の進捗状況の報告
第3回　中間発表について
第4回　中間発表要旨の作成
第5回　同上
第6回　中間発表
第7回　卒業論文作成の課題確認と作成方針の確立
第8回　同上
第9回　同上
第10回　同上
第11回　同上
第12回　卒業論文の構成確認と要旨作成
第13回　同上
第14回　同上
第15回　全治総括

履修上の注意点

教科書

必要に応じてプリントを用意する

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業ごと、学生各自のテーマごとに必要なものを示す。

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（ 70 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅳ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　林　久美子	

テーマ

日本古典文学研究（中近世）

授業の到達目標

4回生の取り組みに学びながら卒論テーマを絞り、作品の読みを深める。プレゼンテーション能力も身につける。

授業の概要

4回生の発表を聴いて知識を深め、批判力を養う。また、3回生も発表を通して問題意識を深めていく。なお、1回分を学科講演会等に振り替える予定である。また学外授業を行う場合もある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

発表時には必ずレジュメや共有できる資料を準備しておくこと。図書館に通うこと。発表前後に教員の指導を受けること。

内　容

第1回　夏期休暇中の成果報告と後期授業の進め方についての確認
第2回　4回生の発表を聞く
第3回　同上
第4回　同上
第5回　中間発表（日程は前後する可能性がある）
第6回　3回生の発表
第7回　同上
第8回　参考文献を講読する
第9回　同上
第10回　4回生の論文について意見を述べ合う
第11回　同上
第12回　3回生の発表
第13回　同上
第14回　4回生とともに抄録を校正する
第15回　まとめ

履修上の注意点

発表に使用する本文テキストや参考文献は忘れず持参すること。他人の発表には積極的に質問し、意見を述べること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ % ）　　授業中発表等（ 60% ）
参加度（ 40% ）
試験日を除き、就活のための欠席は原則として認めない。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅳ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　重松　恵美	

テーマ

近現代日本文学研究

授業の到達目標

文学作品の研究を通じて、読解力、思考力、文章力、対話力を身につける。1. 読解力　文学作品をていねいに読み、理解する力。2. 思考力　作品およびその背景について、深く考える力。3. 文章力　考えたことを、分かりやすく文章化する力。4. 対話力　作品解釈について意見交換し、他者を尊重しつつ自己主張する力。

授業の概要

任意の作品について、作品の主題や文体、時代背景、作中の人物像などについて考える。学生による研究発表が授業の中心であり、発表資料の作成、口頭発表、論文の作成などを学ぶ。卒業論文の完成に向けて切磋琢磨する場である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習（全員）対象作品を毎週、事前に熟読すること。予習（発表者）発表資料の作成など、発表準備。 復習（発表者）発表後の作品について、論文の作成。

内　容

第1回　発表1　論文下書きの提出と意見交換
第2回　発表2　論文下書きの提出と意見交換
第3回　発表3 個人発表
第4回　発表4　個人発表
第5回　発表5　個人発表
第6回　発表6　中間発表会
第7回　発表7　個人発表
第8回　発表8　個人発表
第9回　発表9　個人発表
第10回　発表10　個人発表
第11回　発表11　論文の概要発表と意見交換
第12回　発表12　論文の概要発表と意見交換
第13回　まとめ　論文要旨の作成
第14回　まとめ　論文要旨の発表
第15回　まとめ　論文要旨の発表

履修上の注意点

やむを得ない事情で発表を欠席する場合は事前連絡し、日を改めて発表すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 40% ）
参加度 （ 20% ）
発表資料の作成、口頭発表、論文作成、および毎週の質疑応答への参加の4点を、成績評価の主な対象とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅳ〈＊d〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　幸一郎	

テーマ

日本近現代文学・メディア文芸の研究指導

授業の到達目標

卒業研究作成に向けて日本近現代文学・メディア文芸の研究指導を行う

授業の概要

受講生による発表と質疑応答、グループワークが授業の中心になる

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で取り上げる作品は読んでくること。随時、小レポートの作成を求める

内　　容

第1回　全体説明
第2回　卒業論文執筆のための準備（1）
第3回　卒業論文執筆のための準備（2）
第4回　卒業論文執筆のための準備（3）
第5回　卒業論文執筆のための準備（4）
第6回　受講生による発表
第7回　受講生による発表
第8回　受講生による発表
第9回　受講生による発表
第10回　受講生による発表
第11回　受講生による発表
第12回　受講生による発表
第13回　受講生による発表
第14回　受講生による発表
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（20）	授業中発表等（60）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅳ〈＊e〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安達　太郎	

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

1）卒業論文の作成をとおして，自らの力でテーマを発見し，そのテーマにふさわしい方法論を確定し，成果を上げるという活動の持つ意味を理解する。
2）他の受講生のテーマについても，自らのテーマに対するのと同様の関心を持ち，能動的に関わっていく。
3）資料を的確に用いて，自らの考察を論文というかたちで文章化する。

授業の概要

報告，議論，修正というサイクルをくりかえしながら，卒業論文を完成させる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

直接関係がある，ないにかかわらず，学術論文をたくさん読んでください。最初はまったく理解できないかもしれませんが，気にしないで。論文を読む目的は内容を理解するだけではありません。書き方などについても具体的なイメージを得ることができます。

内　　容

第1回　導入
第2回　受講生による第１回報告（1）
第3回　受講生による第１回報告（2）
第4回　受講生による第１回報告（3）
第5回　受講生による第１回報告（4）
第6回　受講生による第２回報告（1）
第7回　受講生による第２回報告（2）
第8回　受講生による第２回報告（3）
第9回　受講生による第２回報告（4）
第10回　受講生による第３回報告（1）
第11回　受講生による第３回報告（2）
第12回　受講生による第３回報告（3）
第13回　受講生による第３回報告（4）
第14回　卒業論文要旨の作成
第15回　まとめ

履修上の注意点

同じゼミに所属する他の学生のテーマにも関心を持って，積極的に質疑応答に関わってください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 70% ）
参加度（ 30% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**作品研究Ⅰ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾西　正成	

テーマ

漢字作品の創作研究

授業の到達目標

さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの作品を創作する表現力を身につけることをめざす。

授業の概要

臨書作品、倣書作品の制作から、古典をもとにしての創作作品の制作。各自の持ちよった作品の互評を中心に展開する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

作品は授業時外に十分書き込み授業に持ち寄ること、持ち寄る作品の質を高める努力をして授業に臨むこと。

内　　容

第1回　ガイダンス・研究倫理について
第2回　古典研究テーマの模索
第3回　テーマに沿った臨書制作
第4回　古典臨書作品の制作（連落）
第5回　古典臨書作品の制作（2尺×8尺）
第6回　古典臨書作品の制作（2尺×6尺×2幅）
第7回　古典臨書作品の制作（2尺×6尺×4福）
第8回　倣書作品制作の準備（詩文の決定）
第9回　倣書作品制作の準備（形式、用具・用材の工夫）
第10回 倣書作品の準備（6曲屏風）
第11回 屏風作品の研究
第12回 巻子・帖作品の研究
第13回 倣書作品の制作（卒業制作に向けて）
第14回 美術館等の鑑賞
第15回 作品の相互鑑賞

履修上の注意点

教科書

参考書

各自の取り組む古典の法帖、字書など。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（　）　　小テスト（　）
授業中課題（50）　　授業中発表等（20）
参加度（30）
作品、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断して評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**作品研究Ⅰ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾西　正成	

テーマ

漢字作品の創作研究

授業の到達目標

さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの作品を創作する表現力を身につけることをめざす。

授業の概要

臨書作品、倣書作品の制作から、古典をもとにしての創作作品の制作。各自の持ちよった作品の互評を中心に展開する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

作品は授業時外に十分書き込み授業に持ち寄ること、持ち寄る作品の質を高める努力をして授業に臨むこと。

内　　容

第1回　ガイダンス・研究倫理について
第2回　古典研究テーマの模索
第3回　テーマに沿った臨書制作
第4回　古典臨書作品の制作（連落）
第5回　古典臨書作品の制作（2尺×8尺）
第6回　古典臨書作品の制作（2尺×6尺×2幅）
第7回　古典臨書作品の制作（2尺×6尺×4福）
第8回　倣書作品制作の準備（詩文の決定）
第9回　倣書作品制作の準備（形式、用具・用材の工夫）
第10回 倣書作品の準備（6曲屏風）
第11回 屏風作品の研究
第12回 巻子・帖作品の研究
第13回 倣書作品の制作（卒業制作に向けて）
第14回 美術館等の鑑賞
第15回 作品の相互鑑賞

履修上の注意点

教科書

参考書

各自の取り組む古典の法帖、字書など。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 30 ）	

作品、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断して評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**作品研究Ⅰ〈＊Z〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾西　正成	

テーマ

漢字作品の創作研究

授業の到達目標

さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの作品を創作する表現力を身につけることをめざす。

授業の概要

臨書作品、倣書作品の制作から、古典をもとにしての創作作品の制作。各自の持ちよった作品の互評を中心に展開する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

作品は授業時外に十分書き込み授業に持ち寄ること、持ち寄る作品の質を高める努力をして授業に臨むこと。

内　　容

第1回　ガイダンス・研究倫理について
第2回　古典研究テーマの模索
第3回　テーマに沿った臨書制作
第4回　古典臨書作品の制作（連落）
第5回　古典臨書作品の制作（2尺×8尺）
第6回　古典臨書作品の制作（2尺×6尺×2幅）
第7回　古典臨書作品の制作（2尺×6尺×4福）
第8回　倣書作品制作の準備（詩文の決定）
第9回　倣書作品制作の準備（形式、用具・用材の工夫）
第10回 倣書作品の準備（6曲屏風）
第11回 屏風作品の研究
第12回 巻子・帖作品の研究
第13回 倣書作品の制作（卒業制作に向けて）
第14回 美術館等の鑑賞
第15回 作品の相互鑑賞

履修上の注意点

教科書

参考書

各自の取り組む古典の法帖、字書など。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 30 ）	

作品、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断して評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**作品研究Ⅱ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾西　正成	

テーマ

漢字作品の創作研究

授業の到達目標

さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの作品を創作する表現力を身につけることをめざす。創作活動を通して創る喜びを感得する。

授業の概要

卒業制作の作品制作。各自の持ち寄った作品の互評を中心に展開する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業時間外で十分書き込み、持ち寄る作品の質を高める努力をして授業に臨むこと。

内　容

第1回　ガイダンス・研究倫理について
第2回　卒業制作のテーマについて倣書作品の制作（卒業制作に向けて）
第3回　屏風、巻子、帖などでの創作方法
第4回　屏風、巻子、帖などでの作品構成について
第5回　屏風、巻子、帖などでの作品制作（用筆を中心に）
第6回　屏風、巻子、帖などでの作品制作（用具用材の変化について）
第7回　卒業制作の草稿制作
第8回　卒業制作作品の構想発表
第9回　卒業制作作品の制作
第10回　卒業制作作品の制作と練磨
第11回　卒業制作作品の相互批評
第12回　卒業制作作品の仕上がりと表装について
第13回　書道展の企画について
第14回　書道展の運営や陳列計画について
第15回　卒業制作作品の鑑賞・批評会
※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

必要に応じて美術館等の学外授業を行うことがある

教科書

参考書

各自が取り込む古典の法帖、字書など
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 30 ）
作品、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断して評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**作品研究Ⅱ <＊b>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾西　正成	

テーマ

漢字作品の創作研究

授業の到達目標

さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの作品を創作する表現力を身につけることをめざす。創作活動を通して創る喜びを感得する。

授業の概要

卒業制作の作品制作。各自の持ち寄った作品の互評を中心に展開する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業時間外で十分書き込み、持ち寄る作品の質を高める努力をして授業に臨むこと。

内　容

第1回　ガイダンス・研究倫理について
第2回　卒業制作のテーマについて倣書作品の制作（卒業制作に向けて）
第3回　屏風、巻子、帖などでの創作方法
第4回　屏風、巻子、帖などでの作品構成について
第5回　屏風、巻子、帖などでの作品制作（用筆を中心に）
第6回　屏風、巻子、帖などでの作品制作（用具用材の変化について）
第7回　卒業制作の草稿制作
第8回　卒業制作作品の構想発表
第9回　卒業制作作品の制作
第10回　卒業制作作品の制作と練磨
第11回　卒業制作作品の相互批評
第12回　卒業制作作品の仕上がりと表装について
第13回　書道展の企画について
第14回　書道展の運営や陳列計画について
第15回　卒業制作作品の鑑賞・批評会
※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

必要に応じて美術館等の学外授業を行うことがある

教科書

参考書

各自が取り込む古典の法帖、字書など
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 30 ）
作品、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断して評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**作品研究Ⅱ <＊Z>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾西　正成	

テーマ

漢字作品の創作研究

授業の到達目標

さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの作品を創作する表現力を身につけることをめざす。創作活動を通して創る喜びを感得する。

授業の概要

卒業制作の作品制作。各自の持ち寄った作品の互評を中心に展開する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業時間外で十分書き込み、持ち寄る作品の質を高める努力をして授業に臨むこと。

内　容

第1回　ガイダンス・研究倫理について
第2回　卒業制作のテーマについて倣書作品の制作（卒業制作に向けて）
第3回　屏風、巻子、帖などでの創作方法
第4回　屏風、巻子、帖などでの作品構成について
第5回　屏風、巻子、帖などでの作品制作（用筆を中心に）
第6回　屏風、巻子、帖などでの作品制作（用具用材の変化について）
第7回　卒業制作の草稿制作
第8回　卒業制作作品の構想発表
第9回　卒業制作作品の制作
第10回　卒業制作作品の制作と練磨
第11回　卒業制作作品の相互批評
第12回　卒業制作作品の仕上がりと表装について
第13回　書道展の企画について
第14回　書道展の運営や陳列計画について
第15回　卒業制作作品の鑑賞・批評会
※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

必要に応じて美術館等の学外授業を行うことがある

教科書

参考書

各自が取り込む古典の法帖、字書など
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 30 ）
作品、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断して評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**作品研究Ⅲ <＊a>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　二三	

テーマ

古典に基づく創作

授業の到達目標

基礎からの展開。自らの創作力の養成。

授業の概要

各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。

内　　容

第1回　倣書の方法について
第2回　各自選択の古筆による集字ノートの点検
第3回　小字作品の制作と鑑賞　（1）1首
第4回　小字作品の制作と鑑賞　（2）2首
第5回　小字作品の制作と鑑賞　（3）4首
第6回　小字作品の制作と鑑賞　（4）8首
第7回　小字の額型式作品の制作と鑑賞(1)
第8回　小字の額型式作品の制作と鑑賞(2)
第9回　小字の額型式作品の制作と鑑賞(3)
第10回　小字の額型式作品の制作と鑑賞(4)
第11回　中・大字作品の制作と鑑賞　(1)
第12回　中・大字作品の制作と鑑賞　(2)
第13回　各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(1)
第14回　各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(2)
第15回　各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(3)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**作品研究Ⅲ <＊b>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　二三	

テーマ

古典に基づく創作

授業の到達目標

基礎からの展開。自らの創作力の養成。

授業の概要

各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。

内　　容

第1回　倣書の方法について
第2回　各自選択の古筆による集字ノートの点検
第3回　小字作品の制作と鑑賞　（1）1首
第4回　小字作品の制作と鑑賞　（2）2首
第5回　小字作品の制作と鑑賞　（3）4首
第6回　小字作品の制作と鑑賞　（4）8首
第7回　小字の額型式作品の制作と鑑賞(1)
第8回　小字の額型式作品の制作と鑑賞(2)
第9回　小字の額型式作品の制作と鑑賞(3)
第10回　小字の額型式作品の制作と鑑賞(4)
第11回　中・大字作品の制作と鑑賞　(1)
第12回　中・大字作品の制作と鑑賞　(2)
第13回　各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(1)
第14回　各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(2)
第15回　各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(3)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**作品研究Ⅳ <＊a>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　二三	

テーマ

古典に基づく創作

授業の到達目標

基礎からの展開。自らの創作力の養成。

授業の概要

各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。

内　　容

第1回　主体的作品制作と鑑賞　（1） 配字と構成
第2回　主体的作品制作と鑑賞　（2） 配字と構成
第3回　主体的作品制作と鑑賞　（3） 配字と構成
第4回　主体的作品制作と鑑賞　（4） 運筆のリズムと線質
第5回　主体的作品制作と鑑賞　（5） 運筆のリズムと線質
第6回　主体的作品制作と鑑賞　（6） 運筆のリズムと線質
第7回　主体的作品の習熟　　（1） 古筆の再確認
第8回　主体的作品の習熟　　（2） 変化と統一
第9回　主体的作品の習熟　　（3） 墨法効果
第10回 制作作品の相互研究　≪中間発表≫
第11回 作品の完成に向けて　　（1） 全体構成の研究
第12回 作品の完成に向けて　　（2） 線質の確認と墨法効果
第13回 作品の完成に向けて　　（3） 作品の選別
第14回 いろいろな形式の作品づくり（自作の資料を基にして）（1）
第15回 いろいろな形式の作品づくり（自作の資料を基にして）（2）　※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**作品研究Ⅳ <＊b>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　二三	

テーマ

古典に基づく創作

授業の到達目標

基礎からの展開。自らの創作力の養成。

授業の概要

各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。

内　　容

第1回　主体的作品制作と鑑賞　（1） 配字と構成
第2回　主体的作品制作と鑑賞　（2） 配字と構成
第3回　主体的作品制作と鑑賞　（3） 配字と構成
第4回　主体的作品制作と鑑賞　（4） 運筆のリズムと線質
第5回　主体的作品制作と鑑賞　（5） 運筆のリズムと線質
第6回　主体的作品制作と鑑賞　（6） 運筆のリズムと線質
第7回　主体的作品の習熟　　（1） 古筆の再確認
第8回　主体的作品の習熟　　（2） 変化と統一
第9回　主体的作品の習熟　　（3） 墨法効果
第10回 制作作品の相互研究　≪中間発表≫
第11回 作品の完成に向けて　　（1） 全体構成の研究
第12回 作品の完成に向けて　　（2） 線質の確認と墨法効果
第13回 作品の完成に向けて　　（3） 作品の選別
第14回 いろいろな形式の作品づくり（自作の資料を基にして）（1）
第15回 いろいろな形式の作品づくり（自作の資料を基にして）（2）　※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ（歴）〈＊A〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　増渕　徹	

テーマ

地域（京都）の歴史を材料に、歴史の学び方の基本を身につける

授業の到達目標

素材としての史料を読むことにはじまり、レポートの作成・報告・修正・完成に至るまでの一連の作業手順を理解し、それを自力で展開できる基礎能力をつけることが第一の目標である。レポートの作成に際しては担当部分の現地の見学・図化・観察を必須の条件としており、地域空間の歴史性への関心をもつことと、それを観察する力の向上が第二の目標になる。

授業の概要

1780（安永9）年刊の『都名所図会』から材料を各参加者に割り当て、そこに描写された名所について調べ、その結果を報告し、質疑応答を行う形式で進行させる。また、早い段階に実際の調べ方を学ぶために学外授業を行う。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。多読プログラムに沿った課題演習（主として要約演習）もこの授業の中で指導する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

積極的に京都内外の歴史遺産を見学すること。活字を通して知識を豊富にする鍛錬をすること。

内　容

第1回　授業展開の説明とテキストの解説。レポート作成の手順と方法、及び研究上守るべき基本的な姿勢（倫理）についての解説
第2回　図書館の実際的利用方法の解説、史料の読み方（1）
第3回　史料の読み方（2）
第4回　現地観察の方法（学外授業）
第5回　個別発表と質疑（1）
第6回　個別発表と質疑（2）
第7回　個別発表と質疑（3）
第8回　個別発表と質疑（4）
第9回　個別発表と質疑（5）
第10回　個別発表と質疑（6）
第11回　個別発表と質疑（7）
第12回　個別発表と質疑（8）
第13回　個別発表と質疑（9）
第14回　個別発表と質疑（10）
第15回　完成レポート作成の指導

履修上の注意点

事前にレポートの形式を指定するとともに、対象物件の現地調査に基づくレポートの作成を指示する。報告以前に十分な余裕をもってレポート案を提出し、教員の指導を受けることを必須とする。また、毎回、報告に対する評価レポートを参加者全員に提出させる。

教科書

都名所図会（該当部分コピー配布）
著者:
出版社: 京都叢書・版本
出版年:　　ISBN:

参考書

京都の歴史
著者:
出版社: 学芸書林
出版年:　　ISBN:

京の鴨川と橋
著者: 門脇禎二・朝尾直弘編
出版社: 思文閣出版
出版年:　　ISBN:

成績評価

a10301a110

試験・レポート （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 70 ）　　授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 20 ）
授業中課題には、レポートのほか、各時間の評価文、要約演習などの課題提出分を含む

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ（歴）＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　後藤　敦史	

テーマ

歴史学（日本史・世界史）研究の基礎

授業の到達目標

歴史学科の学生として、学修を進めていくために必要な方法や技術の修得をめざす。

授業の概要

歴史学研究の第一歩として、まずは受講生が各自で興味・関心のある時代や地域を選び、さらにそのなかから、人物や事件を取り上げて、自分で調査したことを発表してもらう（当ゼミでは、原則として、日本史に関する事件や人物とする）。発表に際しては、取り上げた人物、事件、あるいは時代、地域に関係する概説書や文庫、新書など、必ず1冊以上は参考文献として読むことを義務とする。発表を通じてプレゼンテーション能力の向上をはかるとともに、発表者以外の学生も積極的に質疑に参加し、ディスカッション能力の向上をめざす。なお、歴史学に関する講演等をおこなう場合もある。また、学修状況に応じて、学外授業をおこなうこともあり得る。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

自分の学術的な興味・関心を選ぶためには、幅広い読書を日頃から心がける必要がある。単にインターネットで調べて終わり、ではなく、図書館に通って本を探す、という習慣を身につけてほしい。 発表に際しては、自分の発表に関することを調べるだけではなく、他の受講生が選んだテーマに関しても、事前に調べること。

内　　容

第1回　ガイダンス（演習の目的と、進め方について）/ 地域課題研究に関する説明その1
第2回　ガイダンス（発表テーマの選び方）/ 地域課題研究に関する説明その2
第3回　参考文献の選び方（図書館の検索システムを実際に利用して説明する）
第4回　研究構想の発表（6回目以降の本格的な発表に備えて、各自で構想を発表する）
第5回　レジュメの作成方法（6回目以降の発表に必要なレジュメ作成について説明する）
第6回　学生による発表その1（発表後は、質疑応答とともに、教員がコメントをおこなう。以下同）
第7回　学生による発表その2
第8回　学生による発表その3
第9回　学生による発表その4
第10回　学生による発表その5
第11回　学生による発表その6
第12回　学生による発表その7
第13回　学生による発表その8
第14回　学生による発表その9
第15回　まとめ（演習のまとめと、夏休み中の学修についてのアドバイス）

履修上の注意点

無遅刻・無欠席が大前提。やむを得ず遅刻や欠席をする場合は、教員に連絡（メールで可）をすること。なお、自分が発表を担当する回に無断で欠席をした場合は、「授業中発表等」や「参加度」の項目の大幅減点など、成績評価に大きく響くので、この点、心得ておくこと。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 30 ）	

a10301a112

「授業中課題」として、多読プログラムに沿った課題を出すことがある。

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ（歴）＜＊C＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾下　成敏	

テーマ

歴史学の基礎を学ぶ

授業の到達目標

歴史学の学び方について理解を深めてもらう。

授業の概要

この授業では、1、日本の各城館の歴史、2　歴史上の有名な出来事（もしくは自身が興味をもつ遺跡・遺物など）、について調べ報告してもらう。なお、学外の資料館・博物館見学や、歴史学に関する講演会を行うこともある。多読プログラムに沿った課題や、地域課題の研究についても、この授業の中で指示する（課題については、教員がコメントを加える）。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読み、歴史学に関する知識を増やすこと。また地域へのフィールドワークを自主的におこなってほしい。

内　容

第1回　ガイダンス、その1
第2回　ガイダンス、その2
第3回　歴史学の学び方、その1
第4回　歴史学の学び方、その2
第5回　受講生の報告、その1
第6回　受講生の報告、その2
第7回　受講生の報告、その3
第8回　受講生の報告、その4
第9回　受講生の報告、その5
第10回　受講生の報告、その6
第11回　受講生の報告、その7
第12回　受講生の報告、その8
第13回　受講生の報告、その9
第14回　受講生の報告、その10
第15回　まとめ

履修上の注意点

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 35 ）	授業中発表等 （ 35 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ（歴）＜＊D＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小野　浩	

テーマ

世界史の文献史料の調査と発表

授業の到達目標

歴史研究における一次史料（根本史料）とは何なのかを、理解してもらうことが目標である。
併せて地域課題研究につき解説し、その方法論および具体的事例を紹介する。

授業の概要

歴史を研究するにあたってまず何よりも大切なのは史料である。史料に根拠を置かない議論は無意味だとさえ言えるかも知れない。概説書や研究論文を読むことはもちろん大切であるが、それだけでは本当の意味で歴史を勉強したことにはならない。この授業では一次史料とそれ以外のものとの違いを知ってもらうため、出席者各人に世界史のある時代ある地域を研究する際に不可欠な史料を1つ採り上げ報告させる。またその報告にもとづいた質疑応答も行う。　発表者は必ずレジュメを用意し全員に配布する。時間は質疑応答を含め1人30分程度とし、1回の授業で2～3人が報告する。自分がどこに関心をもったのか、どの点に疑問を感じたのか、といった発表者自身の考えが前面に出た発表が望まれる。ただ単に事典、本の関係部分を抜き書きしたような報告は避けること。またいたずらに詳しいだけの報告は、その分野の知識をあまり持たない出席者にとりわかりにくいものとなるので、この点にも留意が必要である。毎回各発表に対する意見、感想を提出させる。最終回までに全員が発表を担当するよう、担当順番を設定して授業を進める。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。多読プログラムに沿った課題もこの授業の中で指示する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　導論　一次史料とは何か？その1　歴史研究における史料の意味 多読プログラムについての説明
第2回　導論　一次史料とは何か? その2　文献史料についての説明 地域課題研究についての説明
第3回　過去の発表レジュメの具体的紹介
第4回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その1
第5回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その2
第6回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その3
第7回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その4
第8回　担当者によつ発表と出席者との質疑応答　その5
第9回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その6
第10回 担当者による発表と出席者との質疑応答　その7
第11回 担当者による発表と出席者との質疑応答　その8
第12回 担当者による発表と出席者との質疑応答　その9
第13回 担当者による発表と出席者との質疑応答　その10
第14回 担当者による発表と出席者との質疑応答　その11
第15回 担当者による発表と出席者との質疑応答　その12 なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ（歴）＜＊E＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松浦　京子	

テーマ

世界史上の人物についての研究

授業の到達目標

歴史学科学生として、学習研究していくうえで必須のスキルとメソッドの獲得をめざす
合わせて、地域の課題について理解を深める

授業の概要

ゼミ生各自が、歴史学研究の第一歩として、「自ら人物を選び、調べ、その上でその人物についてどのような視点(関心)から報告するかを考え、内容を整理し、発表する」練習を行なう。また、ゼミ生は、報告担当以外の場合、積極的に質疑に参加する訓練を行う。これらをゼミ生が実践できるようになるために、最初の5回を使って、教員がそのためのスキルとメソッドについて講義を行う。また、学生の発表報告に際しては、1週前の時点でレジュメの概要をもとに個別指導を行なう。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。多読プログラムに基づいた成果報告も併せて行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

2回目の授業までに複数の世界史上の人物を選び、簡単な事績を調べておくこと。他の学生の発表に対しても、選ばれた人物について簡単な事績を調べておくこと。個人面談までに、テーマとした人物に関する問題設定、生涯に関する略年譜は作成できていること。発表に向けて文献収集、文献精読のうえでの報告内容の決定、レジュメならびに読み上げ原稿の作成。
発表報告の前に、個別面談指導を行う。

内　容

第1回　本演習のねらいについての解説：　卒論研究・執筆ための第一歩であり、今後の演習に必須のスキルとメソッドの習得 多読プログラムについて解説　ならびに地域課題研究について解説
第2回　テーマ設定と問題提起についての説明：　どのような歴史上の人物を選ぶべきか、人物をとおしてどのような歴史的問いかけができるのかの解説 問題設定に対する回答を得るための分析・整理：　模擬課題を用いて、また模擬報告用レジュメを用いて、回答を得るための内容整理についての解説
第3回　文献検索、収集のやり方についての解説：　図書館の検索システムを利用して実際に検索してみる（2、3回目は順不同）
第4回　レジュメについて：　作成上の留意点を解説する 読み上げ原稿について、と模擬報告：　読み上げ原稿（400字詰め原稿用紙7～8枚程度）についての説明とレジュメを用いての模擬報告
第5回　これより、学生番号順に学生の発表報告①（報告時間は20分程度を目安とする）と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第6回　学生番号順に学生の発表報告②と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第7回　学生番号順に学生の発表報告③と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第8回　学生番号順に学生の発表報告④と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第9回　学生番号順に学生の発表報告⑤と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第10回　学生番号順に学生の発表報告⑥と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第11回　学生番号順に学生の発表報告⑦と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第12回　学生番号順に学生の発表報告⑧と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第13回　学生番号順に学生の発表報告⑨と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第14回　学生番号順に学生の発表報告⑩と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第15回　本演習の総括、レポート提出、教員からのコメント 、

履修上の注意点

演習は出席することに大きな意義があると考える。全員が完全出席を目指すように。しかし、やむなく欠席せざるをえないときには、前もって担当教員の大学アドレスに連絡すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30% ）	授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 40% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ（歴）＜＊F＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　王 衛明	

テーマ

日本における中国史理解の基礎力を養成する。

授業の到達目標

東アジア史の枠組みにおいて、とりわけ中国の歴史を研究するために、邦語を中心とする基礎文献の紹介を中心に、その歴史の意味や史料の読み方から、学界の研究状況まで研究を助ける様々な知識を身につけることを到達の目標とする。あわせて地域課題研究についても説明する。

授業の概要

受講生が各自で選択したテーマに基づき、その論点や論拠、結論を伝える基本を知るため、発表の形式で行う。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。多読プログラムに沿った課題もこの授業の中で指示する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

発表内容を集約するレジュメを作るために、日常的に研究データや史料、論文を積極的に読むことを心がける。

内　容

第1回　総解説―中国史研究の問題点、研究の特徴、入門書、問題発見、調査への水先案内。
第2回　図書館蔵書の中で、東洋史蔵書について現地案内。閲覧、利用の仕方に関する解説。地域課題研究についての説明。
第3回　藤井有鄰館の中国古代歴史、文物蔵品見学。
第4回　研究発表の形式及び注意事項について解説。研究課題（中国歴史研究における文献、遺物、遺跡）を決める。
第5回　中国史文献の調べ方と読み方。
第6回　研究課題（1） 研究発表
第7回　研究課題（2） 研究発表
第8回　研究課題（3） 研究発表
第9回　研究課題（4） 研究発表
第10回　学外見学予定。中国歴史と関連する寺社や国立博物館蔵品見学、また講演会への参加。
第11回　研究課題（5） 研究発表
第12回　研究課題（6） 研究発表
第13回　研究課題（7） 研究発表
第14回　研究課題（8） 研究発表
第15回　受講者の研究発表の問題点について講評。

履修上の注意点

中国文明を生活レベルで理解することは難しいので、実際の史料や実物に接することが大切。

教科書

参考書

中国歴史研究入門
著者:　砺波護
出版社:　名古屋大学出版社
出版年:　2006　　ISBN:

アジアの歴史と文化（1～4）
著者:　竺沙雅章監修
出版社:　同朋社出版
出版年:　1994　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ（歴）＜＊A＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小野　浩	

テーマ

世界史の文献史料の調査と発表

授業の到達目標

歴史研究における一次史料（根本史料）とは何なのかを、理解してもらうことが目標である。
併せて地域課題研究につき解説し、その方法論および具体的事例を紹介する。

授業の概要

歴史を研究するにあたってまず何よりも大切なのは史料である。史料に根拠を置かない議論は無意味だとさえ言えるかも知れない。概説書や研究論文を読むことはもちろん大切であるが、それだけでは本当の意味で歴史を勉強したことにはならない。この授業では一次史料とそれ以外のものとの違いを知ってもらうため、出席者各人に世界史のある時代ある地域を研究する際に不可欠な史料を1つ採り上げ報告させる。またその報告にもとづいた質疑応答も行う。　発表者は必ずレジュメを用意し全員に配布する。時間は質疑応答を含め1人30分程度とし、1回の授業で2～3人が報告する。自分がどこに関心をもったのか、どの点に疑問を感じたのか、といった発表者自身の考えが前面に出た発表が望まれる。ただ単に事典、本の関係部分を抜き書きしたような報告は避けること。またいたずらに詳しいだけの報告は、その分野の知識をあまり持たない出席者にとりわかりにくいものとなるので、この点にも留意が必要である。毎回各発表に対する意見、感想を提出させる。最終回までに全員が発表を担当するよう、担当順番を設定して授業を進める。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。多読プログラムに沿った課題もこの授業の中で指示する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　導論　一次史料とは何か？その1　歴史研究における史料の意味
第2回　導論　一次史料とは何か? その2　文献史料についての説明
第3回　過去の発表レジュメの具体的紹介
第4回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その1
第5回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その2
第6回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その3
第7回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その4
第8回　担当者によつ発表と出席者との質疑応答　その5
第9回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その6
第10回 担当者による発表と出席者との質疑応答　その7
第11回 担当者による発表と出席者との質疑応答　その8
第12回 担当者による発表と出席者との質疑応答　その9
第13回 担当者による発表と出席者との質疑応答　その10
第14回 担当者による発表と出席者との質疑応答　その11
第15回 担当者による発表と出席者との質疑応答　その12 なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ（歴）＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松浦　京子	

テーマ

世界史上の人物についての研究

授業の到達目標

歴史学科学生として、学習研究していくうえで必須のスキルとメソッドの獲得をめざす
合わせて、地域の課題について理解を深める

授業の概要

ゼミ生各自が、歴史学研究の第一歩として、「自ら人物を選び、調べ、その上でその人物についてどのような視点(関心)から報告するかを考え、内容を整理し、発表する」練習を行なう。また、ゼミ生は、報告担当以外の場合、積極的に質疑に参加する訓練を行う。これらをゼミ生が実践できるようになるために、最初の5回を使って、教員がそのためのスキルとメソッドについて講義を行う。また、学生の発表報告に際しては、1週前の時点でレジュメの概要をもとに個別指導を行なう。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。多読プログラムの成果報告も併せて行う

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

2回目の授業までに複数の世界史上の人物を選び、簡単な事績を調べておくこと。他の学生の発表に対しても、選ばれた人物について簡単な事績を調べておくこと。個人面談までに、テーマの人物についての問題設定とその生涯の略年譜を作成すること。発表に向けて文献収集、文献精読のうえでの報告内容の決定、レジュメならびに読み上げ原稿の作成。
発表報告の前に、個別面談指導を行う。

内　容

第1回　本演習のねらいについての解説：卒論研究・執筆ための第一歩であり、今後の演習に必須のスキルとメソッドの習得 テーマ設定と問題提起についての説明：どのような歴史上の人物を選ぶべきか、人物をとおしてどのような歴史的問いかけができるのかの解説
第2回　問題設定に対する回答を得るための分析・整理：模擬課題を用いて、また模擬報告用レジュメを用いて、回答を得るための内容整理について考察検討の解説レジュメ作成：レジュメ作成上の留意点の解説
第3回　読み上げ原稿について、と模擬報告：読み上げ原稿（400字詰め原稿用紙7～8枚程度）についての説明とレジュメを用いての模擬報告
第4回　これより、学生番号順に学生の発表報告①（報告時間は20分程度を目安とする）と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第5回　学生番号順に学生の発表報告②と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第6回　学生番号順に学生の発表報告③と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第7回　学生番号順に学生の発表報告④と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第8回　学生番号順に学生の発表報告⑤と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第9回　学生番号順に学生の発表報告⑥と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第10回　学生番号順に学生の発表報告⑦と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第11回　学生番号順に学生の発表報告⑧と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第12回　学生番号順に学生の発表報告⑨と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第13回　学生番号順に学生の発表報告⑩と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第14回　学生番号順に学生の発表報告⑪と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第15回　本演習の総括、レポート提出

履修上の注意点

基本的に遅刻、欠席、厳禁。
止むを得ず、遅刻、欠席する場合は、メールをもって事前に連絡すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30% ）	授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 40% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ（歴）＜＊C＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　王 衛明	

テーマ

日本における中国史理解の基礎力を養成する。

授業の到達目標

東アジア史の枠組みにおいて、とりわけ中国の歴史を研究するために、邦語を中心とする基礎文献の紹介を中心に、その歴史の意味や史料の読み方から、学界の研究状況まで研究を助ける様々な知識を身につけることを到達の目標とする。あわせて地域課題研究についても説明する。

授業の概要

受講生が各自で選択したテーマに基づき、その論点や論拠、結論を伝える基本を知るため、発表の形式で行う。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。多読プログラムに沿った課題もこの授業の中で指示する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

発表内容を集約するレジュメを作るために、日常的に研究データや史料、論文を積極的に読むことを心がける。

内　容

第1回　総解説―中国史研究の問題点、研究の特徴、入門書、問題発見、調査への水先案内。
第2回　図書館蔵書の中で、東洋史蔵書について現地案内。閲覧、利用の仕方に関する解説。地域課題研究についての説明。
第3回　藤井有鄰館の中国古代歴史、文物蔵品見学。
第4回　研究発表の形式及び注意事項について解説。研究課題（中国歴史研究における文献、遺物、遺跡）を決める。
第5回　中国史文献の調べ方と読み方。
第6回　研究課題（1） 研究発表
第7回　研究課題（2） 研究発表
第8回　研究課題（3） 研究発表
第9回　研究課題（4） 研究発表
第10回　学外見学予定。中国歴史と関連する寺社や国立博物館蔵品見学、また講演会への参加。
第11回　研究課題（5） 研究発表
第12回　研究課題（6） 研究発表
第13回　研究課題（7） 研究発表
第14回　研究課題（8） 研究発表
第15回　受講者の研究発表の問題点について講評。

履修上の注意点

中国文明を生活レベルで理解することは難しいので、実際の史料や実物に接することが大切。

教科書

参考書

中国歴史研究入門
著者:　砺波護
出版社:　名古屋大学出版社
出版年:　2006　　ISBN:

アジアの歴史と文化（1～4）
著者:　竺沙雅章監修
出版社:　同朋社出版
出版年:　1994　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ（歴）＜＊D＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　増渕　徹	

テーマ

地域（京都）の歴史を材料に、歴史の学び方の基本を身につける

授業の到達目標

素材としての史料を読むことにはじまり、レポートの作成・報告・修正・完成に至るまでの一連の作業手順を理解し、それを自力で展開できる基礎能力をつけることが第一の目標である。レポートの作成に際しては担当部分の現地の見学・図化・観察を必須の条件としており、地域空間の歴史性への関心をもつことと、それを観察する力の向上が第二の目標になる。

授業の概要

1780（安永9）年刊の『都名所図会』から材料を各参加者に割り当て、そこに描写された名所について調べ、その結果を報告し、質疑応答を行う形式で進行させる。また、早い段階に実際の調べ方を学ぶために学外授業を行う。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。多読プログラムに沿った課題（要約演習）もこの授業の中で指示する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

積極的に京都内外の歴史遺産を見学すること。活字を通して知識を豊富にする鍛錬をすること。

内　容

第1回　授業展開の説明テキストの解説。レポート作成の手順と方法、及び研究上守るべき姿勢（倫理）についての説明
第2回　図書館の実際的利用方法の解説、史料の読み方（1）
第3回　史料の読み方（2）
第4回　現地観察の方法（学外授業）
第5回　個別発表と質疑（1）
第6回　個別発表と質疑（2）
第7回　個別発表と質疑（3）
第8回　個別発表と質疑（4）
第9回　個別発表と質疑（5）
第10回　個別発表と質疑（6）
第11回　個別発表と質疑（7）
第12回　個別発表と質疑（8）
第13回　個別発表と質疑（9）
第14回　個別発表と質疑（10）
第15回　完成レポート作成の指導

履修上の注意点

事前にレポートの形式を指定するとともに、対象物件の現地調査に基づくレポートの作成を指示する。事前に報告レポート案を提出し、教員の指導を受けることを必須とする。また、毎回、報告に対する評価レポートを参加者全員に提出させる。

教科書

都名所図会（該当部分コピー配布）
著者:
出版社: 京都叢書・版本
出版年:　　ISBN:

参考書

京都の歴史
著者:
出版社: 学芸書林
出版年:　　ISBN:

京の鴨川と橋
著者:　門脇禎二・朝尾直弘編
出版社: 思文閣出版
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（0）　　小テスト（0）

a10301a254

授業中課題（ 70 ）　　授業中発表等（ 10 ）

参加度 （ 20 ）

授業中課題には、レポートのほか、毎回の評価文や要約演習などの提出物を含む。

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ（歴）＜＊E＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　後藤　敦史	

テーマ

歴史学（日本史・世界史）研究の基礎

授業の到達目標

歴史学科の学生として、学修を進めていくために必要な方法や技術の修得をめざす。

授業の概要

歴史学研究の第一歩として、まずは受講生が各自で興味・関心のある時代や地域を選び、さらにそのなかから、人物や事件を取り上げて、自分で調査したことを発表してもらう（当ゼミでは、原則として、日本史に関する事件や人物とする）。発表に際しては、取り上げた人物、事件、あるいは時代、地域に関係する概説書や文庫、新書など、必ず1冊以上は参考文献として読むことを義務とする。発表を通じてプレゼンテーション能力の向上をはかるとともに、発表者以外の学生も積極的に質疑に参加し、ディスカッション能力の向上をめざす。なお、歴史学に関する講演等をおこなう場合もある。また、学修状況に応じて、学外授業をおこなうこともあり得る。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

自分の学術的な興味・関心を選ぶためには、幅広い読書を日頃から心がける必要がある。単にインターネットで調べて終わり、ではなく、図書館に通って本を探す、という習慣を身につけてほしい。 発表に際しては、自分の発表に関することを調べるだけではなく、他の受講生が選んだテーマに関しても、事前に調べること。

内　　容

第1回　ガイダンス（演習の目的と、進め方について）/ 地域課題研究に関する説明その1
第2回　ガイダンス（発表テーマの選び方）/ 地域課題研究に関する説明その2
第3回　参考文献の選び方（図書館の検索システムを実際に利用して説明する）
第4回　研究構想の発表（6回目以降の本格的な発表に備えて、各自で構想を発表する）
第5回　レジュメの作成方法（6回目以降の発表に必要なレジュメ作成について説明する）
第6回　学生による発表その1（発表後は、質疑応答とともに、教員がコメントをおこなう。以下同）
第7回　学生による発表その2
第8回　学生による発表その3
第9回　学生による発表その4
第10回　学生による発表その5
第11回　学生による発表その6
第12回　学生による発表その7
第13回　学生による発表その8
第14回　学生による発表その9
第15回　まとめ（演習のまとめと、春休み中の学修についてのアドバイス）

履修上の注意点

無遅刻・無欠席が大前提。やむを得ず遅刻や欠席をする場合は、教員に連絡（メールで可）をすること。なお、自分が発表を担当する回に無断で欠席をした場合は、「授業中発表等」や「参加度」の項目の大幅減点など、成績評価に大きく響くので、この点、心得ておくこと。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 30 ）	

a10301a255

「授業中課題」として、多読プログラムに沿った課題を出すことがある。

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ（歴）＜＊F＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾下　成敏	

テーマ

歴史学の基礎を学ぶ

授業の到達目標

歴史学の学び方について理解を深めてもらう。

授業の概要

この授業では、1、日本の各城館の歴史、2　歴史上の有名な出来事（もしくは自身が興味をもつ遺跡・遺物など）、について調べ報告してもらう。なお、学外の資料館・博物館見学や、歴史学に関する講演会を行うこともある。多読プログラムに沿った課題や、地域課題の研究についても、この授業の中で指示する（課題については、教員がコメントを加える）。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読み、歴史学に関する知識を増やすこと。また地域へのフィールドワークを自主的におこなってほしい。

内　　容

第1回　ガイダンス、その1
第2回　ガイダンス、その2
第3回　歴史学の学び方、その1
第4回　歴史学の学び方、その2
第5回　受講生の報告、その1
第6回　受講生の報告、その2
第7回　受講生の報告、その3
第8回　受講生の報告、その4
第9回　受講生の報告、その5
第10回　受講生の報告、その6
第11回　受講生の報告、その7
第12回　受講生の報告、その8
第13回　受講生の報告、その9
第14回　受講生の報告、その10
第15回　まとめ

履修上の注意点

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 35 ）	授業中発表等 （ 35 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史学入門講義**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　増渕　徹.小野　浩	

テーマ

歴史学の方法と視点

授業の到達目標

歴史教科書を読み直す。高校の日本史と世界史の教科書を再検討することによって、専門的な歴史学と高校までに学んできた歴史授業との本質的な違いを認識し、それを通じて、学問としての歴史学の面白さや奥深さを学ぶ。

授業の概要

日本史・世界史両分野の複数教員のリレー形式で、各担当者が1～2のテーマを設定して解説する形式で進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

参考文献は適宜紹介するので、それの精読を期待する

内　容

第1回　歴史教科書におけるイスラム（1）
第2回　歴史教科書におけるイスラム（2）
第3回　歴史教科書における中国史
第4回　歴史教科書におけるイギリス史（1）
第5回　歴史教科書におけるイギリス史（2）
第6回　歴史教科書におけるドイツ史（1）
第7回　歴史教科書におけるドイツ史（2）
第8回　歴史教科書における日本古代史（1）
第9回　歴史教科書における日本古代史（2）
第10回　歴史教科書における日本中世史（1）
第11回　歴史教科書における日本中世史（2）
第12回　歴史教科書における日本近世史（1）
第13回　歴史教科書における日本近世史（2）
第14回　歴史教科書における日本近現代史（1）
第15回　歴史教科書における日本近現代史（2）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 35 ）　　小テスト（ 35 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
試験・レポートの「試験」及び小テストは、理解度を確認するための授業時間内の論述を含む。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史概説Ⅰ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　加藤　麻子	

テーマ

日本の古代史

授業の到達目標

高校レベルの日本史知識を復習しつつ、さらに掘り下げた内容を学んでいくことで、中世以前の日本史について、より深く、かつ多面的な理解を獲得する。

授業の概要

古代史の流れを概観しつつ、各時代ごとに政治・社会・文化など様々な分野のトピックを取り上げていく。また、近年の研究動向についても、できるだけ言及し、高校レベルの（ないしは通俗的な）歴史イメージを相対化する視点を提供していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・第2回以降は、前の週の授業内容について小テストを行うので、各自復習を忘れぬこと。

・期末試験は、授業で述べた内容をさらに深く調査・考察させる問題を出す。そのため、自分が興味のある時代についてだけでも、下記の参考書を早めに読んでおくことが望ましい。

内　　容

第1回　古代史の史料・資料
第2回　原始の日本～旧石器時代・縄文時代・弥生時代～
第3回　倭王権の誕生
第4回　ヤマト政権①記紀と建国神話
第5回　ヤマト政権②古代天皇の実在性
第6回　仏教の受容と聖徳太子
第7回　大化改新論
第8回　律令の制定
第9回　日本国号と天皇号の成立
第10回　都城～藤原京から平城京へ～
第11回　律令国家の生活
第12回　駅制と地方
第13回　東アジア世界の中の日本
第14回　長岡京から平安京へ
第15回　平安時代の社会と文化～古代から中世へ～

履修上の注意点

教科書

特になし（毎回プリントを配布する）
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本の歴史』シリーズ
著者:
出版社:　講談社（学術文庫）
出版年:　　ISBN:

シリーズ日本古代史
著者:
出版社:　岩波書店（岩波新書）
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 70 ）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

a10301d110

参加度 （ ）

受講態度の極めて悪い者については、試験・小テストの結果に関係なく不合格とする場合がある。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史概説Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　後藤　敦史	

テーマ

東アジアのなかの近世・近代日本

授業の到達目標

日本近世・近現代史の整理。歴史学は決して単なる暗記科目ではありません。しかし、一方で歴史学的思考には、基礎事項を知っておく必要があります。この授業では、近世から現在までの日本史を概観します。

授業の概要

政治史・外交史を中心に、経済史や文化史をまじえながら、通史的内容を講義します。高校のときに使用していた日本史の教科書がある人は、関係する部分を読んでおいてください。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　江戸時代を考える　17-18世紀
第2回　江戸時代と「近代化」論　18世紀末―19世紀前半
第3回　日本開国から幕末の動乱へ　1850年代
第4回　東アジア国際秩序と明治維新　その1　1860年代
第5回　東アジア国際秩序と明治維新　その2　1870年代
第6回　憲法制定と議会開設に向けて　1880年代
第7回　世界史のなかの日清・日露戦争　その1　1890年代
第8回　世界史のなかの日清・日露戦争　その2　1900年代
第9回　「大正デモクラシー」と日本社会　1910年代
第10回　ワシントン体制と日本外交　1920年代
第11回　満州事変から日中戦争へ　1930年代
第12回　アジア太平洋戦争への道　1940年その1
第13回　総力戦と日本社会　1940年代その2
第14回　55年体制と高度経済成長　1950―1970年代
第15回　まとめ　現代日本の諸課題

履修上の注意点

私語は厳禁であるが、授業内容に関する積極的な発言は歓迎する。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本近世の歴史　田沼時代
著者:　藤田覚
出版社:　吉川弘文館
出版年:　2012年　　ISBN:

日本近世の歴史　開国前夜の世界
著者:　横山伊徳
出版社:　吉川弘文館
出版年:　2013年　　ISBN:

日本近世の歴史　明治維新
著者:　青山忠正
出版社:　吉川弘文館
出版年:　2012年　　ISBN:

a10301d250

日本近代の歴史　維新と開化
著者:　奥田晴樹
出版社: 吉川弘文館
出版年: 2016年　ISBN:

日本近代の歴史 「主権国家」成立の内と外
著者:　大日方純夫
出版社: 吉川弘文館
出版年: 2016年　ISBN:

日本近代の歴史　日清・日露戦争と帝国日本
著者:　飯塚一幸
出版社: 吉川弘文館
出版年: 2016年　ISBN:

日本近代の歴史　国際化時代「大正日本」
著者:　櫻井良樹
出版社: 吉川弘文館
出版年: 2016年　ISBN:

日本近代の歴史　戦争とファシズムの時代へ
著者:　河島真
出版社: 吉川弘文館
出版年: 2017年　ISBN:

日本近代の歴史　総力戦のなかの日本政治
著者:　源川真希
出版社: 吉川弘文館
出版年: 2017年　ISBN:

※その他、講義中に適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）
出席率60%未満は成績評価の対象としない。公的事由による欠席は、その都度、教員まで申し出ること。

2018 Syllabus

科 目 名　**東洋史概説Ⅰ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　米田　健志	

テーマ

中国を中心としたアジアの歴史

授業の到達目標

殷周時代から明清時代までの中国の歴史における、政治・社会・法制・人物、および周辺地域との関係について、基礎的知識の習得をめざす。

授業の概要

毎回、プリントを配布したうえで講義を行う。授業期間中に小レポートを2回提出。また期末試験を実施する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　先秦～後漢（1）統一帝国への道
第3回　先秦～後漢（2）秦漢時代の政治と制度
第4回　先秦～後漢（3）前漢・後漢の社会と文化
第5回　三国～隋（1）分裂の時代：魏晋南北朝時代の政治と制度
第6回　三国～隋（2）魏晋南北朝時代の社会と文化
第7回　唐～北宋（1）唐代の政治と制度
第8回　唐～北宋（2）唐宋変革：唐宋時代の社会と文化
第9回　唐～北宋（3）北宋時代の政治と制度
第10回　南宋～遼・金・元（1）南宋と征服王朝
第11回　南宋～遼・金・元（2）宋代の社会と文化
第12回　南宋～遼・金・元（3）モンゴル帝国とユーラシア
第13回　明～清（1）明清時代の政治
第14回　明～清（2）明清時代の社会と制度
第15回　明～清（3）西欧との衝突：アヘン戦争
第16回　期末試験

履修上の注意点

中国史・アジア史に関する様々な文献を図書館で探して読むことをおすすめする。

教科書

使用しない。毎回プリントを配布する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

授業中に随時紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ 55 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 15 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**東洋史概説Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今松　泰	

テーマ

イスラーム史概説

授業の到達目標

イスラーム史の基礎知識を習得し、イスラーム世界がどのような文明を作り上げ、近代を迎えることになったのかを理解する。またイスラームの各地への拡大とイスラームのあり方についても理解できるようになることを目標とする。

授業の概要

ムハンマドによるイスラーム宣教以前の西アジアの状況からはじめ、イスラームの拡大、各地に成立した諸政権の状況などを概観しつつ、西欧諸国の本格的進出を迎える時代までを扱ったのち、近代への展望をまとめる。講義はプリントを配布して行う。参考文献については授業中に適宜紹介する。学期末に試験を実施する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各自の関心に従って、授業中に紹介した書籍・論文などを読み、理解を深めることが望ましい。

内　容

第1回　イスラーム以前の西アジアの状況とムハンマド
第2回　正統カリフ時代とウマイヤ朝
第3回　スンナ派とシーア派
第4回　アッバース朝
第5回　イスラームの古典文明
第6回　イスラーム世界の分裂と再統合
第7回　モンゴルの時代
第8回　各地への伝播：東南アジア・中国・アフリカ
第9回　ティムール朝と後継国家
第10回　オスマン朝（I）君侯国から帝国へ
第11回　オスマン朝（II）変質する帝国
第12回　サファヴィー朝とイラン
第13回　ムガル朝と南アジア
第14回　内陸アジアの動向
第15回　近代への展望

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**西洋史概説Ⅰ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐藤　専次	

テーマ

ヨーロッパ世界の形成と発展

授業の到達目標

ヨーロッパ世界が歴史的にどのように形成されたかを理解する。

授業の概要

古代ローマ時代から14、15世紀のヨーロッパ中世までについて、主要なテーマをあげて概観する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

下記のテキストを事前に読むのが望ましい。

内　　容

第1回　ヨーロッパの地理・言語・宗教
第2回　地中海世界とローマ
第3回　ローマ帝国の崩壊とキリスト教の発展
第4回　ゲルマン人の民族移動と部族王国
第5回　東ローマ帝国の変容と東方正教世界
第6回　フランク王国の成立とメロヴィング朝
第7回　カール大帝とカロリング朝
第8回　ノルマン人とイングランド王国の成立
第9回　農村社会の変動と人口の増大
第10回　修道院改革と民衆の宗教的覚醒
第11回　グレゴリウス改革と叙任権闘争
第12回　十字軍とヨーロッパの膨張
第13回　中世都市の発達
第14回　黒死病と「危機」の時代
第15回　イタリア戦争と主権国家の形成

履修上の注意点

講義では、高校の世界史の教科書程度の知識は必要になる。

教科書

教養のための西洋史入門
著者:　中井義明/他
出版社: ミネルヴァ書房
出版年: 2007　　ISBN:

参考書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 80 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**西洋史概説Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　渡邊　和行	

テーマ

移民と外国人のフランス史

授業の到達目標

移民や外国人と国民の関係を、歴史的に整理し学ぶことで、人がグローバルに移動する21世紀の社会を生きるために、必要な知識を身につけることを目的とする。

授業の概要

外国人の問題を考えることは国民の問題を考えることでもある。国民や外国人は、いつ誕生したのだろうか。誕生後、両者の関係はどのように推移したのだろうか。この問題を、移民先進国であるフランスの事例から講述する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業前や授業後には、参考文献リストに従って自学自習を心がける。レジュメを熟読し、判らない言葉などは調べておく。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　近世フランスの外国人
第3回　フランス革命期の外国人１
第4回　フランス革命期の外国人２
第5回　フランス革命期の外国人３
第6回　フランス革命期の外国人４
第7回　フランス革命期の外国人５
第8回　１９世紀前半フランスの移民と外国人
第9回　１９世紀後半フランスの移民と外国人１
第10回　１９世紀後半フランスの移民と外国人２
第11回　２０世紀前半フランスの移民と外国人１
第12回　２０世紀前半フランスの移民と外国人２
第13回　２０世紀前半フランスの移民と外国人３
第14回　２０世紀前半フランスの移民と外国人４
第15回　第二次世界大戦後フランスの移民と外国人
第16回　試験

履修上の注意点

8回以上の欠席の場合には、単位を認めない。

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

エトランジェのフランス史
著者:　渡辺和行
出版社:　山川出版社
出版年:　2007　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 80 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）
試験と出席を考慮して評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**考古学概説 I**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一瀬 和夫	

テーマ

考古学が明らかにする過去

授業の到達目標

遺跡の解釈する方法と考古学研究が明らかにしてきた過去の社会像、土器・金属器・瓦などの出土遺物から得られるものを理解する。

授業の概要

時代順に、考古学的な成果によって時代の具体像の変遷とそれに備わった石器・土器・金属の変化の様相をみる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各地の博物館・資料館や遺跡の現地説明会などに訪れ、そこに残されたものを観察する。

内　容

第1回　過去に何がおこったか―時間がとまったムラの発掘
　　発掘調査の手続き
第2回　氷河期の社会から―旧石器時代
第3回　狩猟採集と栽培―縄文時代
第4回　農耕社会の成立―弥生時代
第5回　金属生産の開始―青銅と鉄
第6回　巨大古墳の時代―古墳時代
第7回　古代律令国家への歩み―飛鳥時代
第8回　寺院と古墳―飛鳥時代
第9回　嵐山の古墳を訪ねる・学外授業
第10回　古代都城、平城京・平安京―奈良・平安時代
第11回　平城宮跡をみる・学外授業
第12回　縄文・弥生土器の編年
第13回　須恵器と瓦器の編年
第14回　鏡と瓦の編年
第15回　考古学の歴史解釈法

履修上の注意点

日々の遺跡の調査報道や歴史番組などを見るようにする。

教科書

参考書

考古学の研究法
著者:　一瀬和夫
出版社:　学生社
出版年:　2013　　ISBN:　9784311300868

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 45 ）	授業中発表等（ 25 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**考古学概説Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一瀬　和夫	

テーマ

考古学からみた古代国家の成立

授業の到達目標

考古資料を中心に封建制、律令国家国家に向かう過程を考古学資料を中心に見る。考古学・人類学・文献学の関わりあいを考える。

授業の概要

弥生時代にはじまった墳丘墓が発達し巨大古墳を生み出す。そして封建制、律令国家国家に向かう過程を考古学資料を中心に組み立てて解釈していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

博物館・資料館を訪れ、遺跡の現地説明会などに参加する。

内　容

第1回　日本農耕社会の成立
第2回　金印と文字と鉄
第3回　女王・卑弥呼の登城
第4回　弥生墳丘墓の発達
第5回　前方後円墳の誕生と定着
第6回　古市古墳群出現以前の河内平野
第7回　前方後円墳の林立と百舌鳥・古市古墳群
第8回　畿内大型古墳群の特徴と盛衰
第9回　倭の五王の出現と手工業生産の大型化
第10回 仁徳陵古墳一周・学外授業
第11回 墳丘の規制と大王墓の変化
第12回 前方後円墳の外郭と消滅
第13回 聖徳太子と飛鳥
第14回 飛鳥京と難波宮
第15回 日本初期国家の体制

履修上の注意点

考古学の新聞報道や関連歴史番組などを見て、具体的な資料の知識を蓄える。

教科書

参考書

弥生興亡　女王・卑弥呼の登場
著者:　石野博信
出版社: 文英堂
出版年: 2010　　ISBN:　9784578298014

巨大古墳の出現　仁徳朝の全盛
著者:　一瀬和夫
出版社: 文英堂
出版年: 2011　　ISBN:　9784578298021

飛鳥の覇者　推古朝と斉明朝の時代
著者:　千田　稔
出版社: 文英堂
出版年: 2011　　ISBN:　9784578298045

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

a10301d850

授業中課題（45）　　授業中発表等（25）

参加度（30）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史基礎ゼミⅠ〈＊A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　増渕　徹	

テーマ

古代の法から社会像を考える

授業の到達目標

『類聚三代格』をテキストに、勅や太政官符等の古代史の史料の基本的な読み方を修得するとともに、史料からどのように情報を引き出し、発想を展開し、どのように調べて当時の社会像を復元していくかの基本的方法論の修得を第一の目標とする。

授業の概要

参加者各自に個別の史料を割当て、その読み下し・訳・考察等をレポートとして提出し、それを教員が補足・解説する形式で進める。授業に際しては、漢文を読む力、語彙力、公式様文書に関する古文書学の知識は必須の要件であり、参加者は各自でその能力の向上に努めねばならない。この点を補完する手段として、史料訓読の課題を課す。なお、学外授業のほか、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

漢字そのものや漢語・熟語に関する知識を豊富にすること。そのために硬い文章をたくさん読むこと。漢和辞典を頻繁に利用すること。なお、毎回、史料の読み方下しに関する課題を出す。

内　容

第1回　授業の進め方、及びテキストの解説（1）
第2回　テキストの解説（2）、図書館の活用方法。
第3回　史料の読み方の実際（1）、及びレポート作成の手順と方法、研究上守るべき倫理の説明。
第4回　史料の読み方の実際（2）
第5回　歴史遺産の見学（学外授業）
第6回　個別発表（1）
第7回　個別発表（2）
第8回　個別発表（3）
第9回　個別発表（4）
第10回　個別発表（5）
第11回　個別発表（6）
第12回　個別発表（7）
第13回　個別発表（8）
第14回　個別発表（9）
第15回　歴史研究の方法論と史料分析（まとめ）

履修上の注意点

詔勅・太政官符の読み方など古文書学の基礎知識が必要である。なお、高校における漢文学習の経験の有無について、特に配慮はしない。読み下しの基本ルールは自主的学習によって確認することを求める。

教科書

類聚三代格（該当部分コピー配布）
著者:　黒板勝美編（国史大系）
出版社:　吉川弘文館
出版年:　　ISBN:

参考書

『律令国家と天平文化』（日本の時代史4）
著者:　佐藤　信　編
出版社:　吉川弘文館
出版年:　　ISBN:

『平安京』（日本の時代史5）
著者:　吉川真司　編
出版社:　吉川弘文館
出版年:　　ISBN:

a10302a110

『摂関政治と王朝文化』(日本の時代史6)

著者: 加藤友康 編

出版社: 吉川弘文館

出版年: ISBN:

日本歴史大系2『律令国家の展開

著者:

出版社: 山川出版社

出版年: ISBN:

日本歴史大系3『貴族政治と武士

著者:

出版社: 山川出版社

出版年: ISBN:

『平安京の時代』(日本古代の歴史)

著者: 佐々木恵介

出版社: 吉川弘文館

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート (0) 小テスト (0)

授業中課題 (70) 授業中発表等 (10)

参加度 (20)

適切な手順と方法によって受講生に有益なレポート(授業中課題)が作成できたか否かに最重点を置いて評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史基礎ゼミⅠ〈＊B〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野田　泰三	

テーマ

中世の基本的な史料を読む

授業の到達目標

・漢文史料の読解ができるようになる。
・中世史料の読解法・調べ方を習得する。

授業の概要

日本史研究上必須の漢文史料の読解力と調査方法を習得するため、有名な本能寺の変の関連史料を輪読する。本能寺の変は日本史上最も著名な事件の一つで、背景を理解しやすいうえ、記録（日記）と古文書、双方の史料をあわせ読むことができる。また一次史料から読み取れる事実が事後にどのように誇張されていくかがわかり、史料から事実を読み取るという歴史学の研究方法・研究視角を身につける訓練にもなる（受講生の状況によりテキストを変更することがある）。
授業は受講生が用意したレジュメをもとに進める。担当者は割り当てられた箇所について、読み下し文を作成した上で、人名や地名、語句の意味、背景、担当箇所の論点等をまとめ、発表する。
必要に応じて学外見学を実施する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・報告担当者は十分に時間をかけて準備すること。国語辞典・漢和辞典や歴史辞典はもちろん、関連史料や先行研究なども調べること。
・受講生は、自分の担当回か否かを問わず、あらかじめ史料を読んでおくこと。授業時、報告者以外の者に当てることがある。

内　容

第1回　ガイダンス：授業の進め方、史料の調べ方、分担の決定
第2回　テキストに関する説明
第3回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第4回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第5回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第6回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第7回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第8回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第9回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第10回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第11回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第12回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第13回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第14回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）、なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

・報告を無断で放棄した場合は成績評価の対象としない。
・遅刻2回を欠席1回とみなし、欠席4回以上の場合は成績評価の対象としない。

教科書

プリントを配布する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

授業中に適宜指示する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（20）	授業中発表等（50）

a10302a112

参加度 （ 30 ）

参加度:授業への取り組み姿勢や発表・質問の積極性などを総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史基礎ゼミⅠ〈＊C〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾下　成敏	

テーマ

徳川政権期の文献史料を読む

授業の到達目標

近世の漢文史料に慣れ、この時代を本格的に学ぶための力を身につける。

授業の概要

徳川政権期の文献史料（譜代大名松平忠利の日記、「御仕置裁許帳」など）を読む。受講生の義務は以下の通り、①史料の読み下し、②担当した史料の逐語訳の作成と報告。そして授業の最後には原稿用紙8枚程度のレポートを作成してもらう。なお、学外の資料館・博物館見学や歴史学に関する講演会を行うことがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

配布する漢文史料の予習・復習を怠らないこと。また博物館・美術館などへ足を運んで、古文書や絵画史料等に慣れ親しみ、概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読んで、歴史学に関する知識を増やすこと。

内　容

第1回　ガイダンス・テキストに関する概説
第2回　テキストに関する概説
第3回　松平忠利の日記の講読、その1
第4回　松平忠利の日記の講読、その2
第5回　松平忠利の日記の講読、その3
第6回　松平忠利の日記の講読、その4
第7回　松平忠利の日記の講読、その5
第8回　松平忠利の日記の講読、その6
第9回　「御仕置裁許帳」の講読、その1
第10回 「御仕置裁許帳」の講読、その2
第11回 「御仕置裁許帳」の講読、その3
第12回 「御仕置裁許帳」の講読、その4
第13回 「御仕置裁許帳」の講読、その5
第14回 「御仕置裁許帳」の講読、その6
第15回 まとめ

履修上の注意点

1　欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい／2　提出したレポートについては、希望すれば講評する

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本の歴史　鎖国
著者:　朝尾直弘
出版社:　小学館
出版年:　1975年　　ISBN:

日本の歴史　江戸開幕
著者:　藤井譲治
出版社:　集英社
出版年:　1992年　　ISBN:

a10302a113

日本の歴史　天下泰平
著者:　横田冬彦
出版社: 講談社
出版年: 2002年　　ISBN:

江戸城の宮廷政治
著者:　山本博文
出版社: 講談社
出版年: 2004年　　ISBN:

全集日本の歴史　徳川の国家デザイン
著者:　水本邦彦
出版社: 小学館
出版年: 2008年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 35 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 15 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史基礎ゼミⅠ〈＊D〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　後藤　敦史	

テーマ

日本の近世・近代移行期の史料を読む

授業の到達目標

幕末・維新期を中心に、18世紀から19世紀における日本史研究を進める上で必要な史料読解能力を修得する。

授業の概要

教員が指定する文献史料（歴史学研究会編『日本史史料』など）を読む。受講生はそれぞれ担当する史料を選び、史料の逐語訳、およびその史料の歴史的背景について、1冊以上の参考文献を読んだ上で発表をおこなう。発表者以外の学生も、史料を事前に読む必要がある。授業の最後には、発表内容を踏まえたレポート作成を課す。なお、学修の状況に応じて、学外で授業を行うこともある。また、歴史学に関する講演会への参加等を行う場合もある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

近代日本史を理解するためには、世界史も含む歴史学全般についての広い知識・理解が重要となる。日頃から、概説書や新書、文庫などを読んだり、博物館などに行って展示されている古文書にしっかりと目を通すなど、歴史学についていろいろな方法で自ら学ぶ習慣を身につけることが望ましい。

内　容

第1回　ガイダンスその1　史料を読むということ
第2回　ガイダンスその2　本ゼミで読解をする史料の説明
第3回　実践・史料の基本的な読み方　その1
第4回　実践・史料の基本的な読み方　その2
第5回　実践・史料の基本的な読み方　その3
第6回　学生による担当史料の発表　その1
第7回　学生による担当史料の発表　その2
第8回　学生による担当史料の発表　その3
第9回　学生による担当史料の発表　その4
第10回　学生による担当史料の発表　その5
第11回　学生による担当史料の発表　その6
第12回　学生による担当史料の発表　その7
第13回　学生による担当史料の発表　その8
第14回　まとめ　発表の総括と、レポート作成のアドバイス　その1
第15回　まとめ　発表の総括と、レポート作成のアドバイス　その2

履修上の注意点

無遅刻・無欠席が大前提。やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前に教員に連絡（メールで可）をすること。発表を担当する回で無断欠席をした場合は、成績評価に大きく響くので、この点、心得ておくこと。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本近世の歴史　開国前夜の世界
著者:　横山伊徳
出版社:　吉川弘文館
出版年:　2013年　　ISBN:

日本近世の歴史　明治維新
著者:　青山忠正
出版社:　吉川弘文館
出版年:　2012年　　ISBN:

a10302a114

日本近代の歴史　維新と開化

著者:　奥田晴樹

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2016年　　ISBN:

日本近代の歴史 「主権国家」成立の内と外

著者:　大日方純夫

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2016年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）

授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 40 ）

参加度（ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史基礎ゼミⅡ〈＊A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　増渕　徹	

テーマ

古代の法から社会像を考える

授業の到達目標

『類聚三代格』をテキストに、太政官符などの古代史の史料の基本的な読み方を修得するとともに、史料からどのように情報を引き出し、発想を展開し、どのように調べて当時の社会像を復元していくかの基本的方法論の修得を第一の目標とする。

授業の概要

参加者各自に史料を割当て、その読み下し・訳・考察等をレポートとして提出し、それを教員が補足・解説する形式で進める。授業に際しては、漢文を読む力、語彙力、公式様文書に関する古文書学の知識は必須の要件であり、参加者は各自でその能力の向上に努めねばならない。この点を補完する手段として、史料訓読の課題を課す。なお、学外授業のほか、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

漢字そのものや漢語・熟語に関する知識を豊富にすること。そのために硬い文章をたくさん読むこと。漢和辞典を頻繁に利用すること。なお、毎回、史料の読み方下しに関する課題を出す。

内　容

第1回　授業の進め方、及びテキストの解説（1）
第2回　テキストの解説（2）、図書館の活用方法やレポート作成の手順・方法、研究上守るべき倫理の解説
第3回　史料読解の実際（1）
第4回　史料読解の実際（2）
第5回　歴史遺産の見学（学外授業）
第6回　個別発表（1）
第7回　個別発表（2）
第8回　個別発表（3）
第9回　個別発表（4）
第10回　個別発表（5）
第11回　個別発表（6）
第12回　個別発表（7）
第13回　個別発表（8）
第14回　個別発表（9）
第15回　歴史研究の方法論と史料分析（まとめ）

履修上の注意点

詔勅・太政官符の読み方など古文書学の基礎知識が必要である。なお、高校における漢文学習の経験の有無について、特に配慮はしない。読み下しの基本ルールは自主的学習によって確認することを求める。

教科書

類聚三代格（該当部分コピー配布）
著者:　黒板勝美編（国史大系）
出版社:　吉川弘文館
出版年:　　ISBN:

参考書

『律令国家と天平文化』（日本の時代史4）
著者:　佐藤　信　編
出版社:　吉川弘文館
出版年:　　ISBN:

『平安京』（日本の時代史5）
著者:　吉川真司　編
出版社:　吉川弘文館
出版年:　　ISBN:

a10302a250

『摂関政治と王朝文化』(日本の時代史6)
著者: 加藤友康 編
出版社: 吉川弘文館
出版年: ISBN:

日本歴史大系2『律令国家の展開
著者:
出版社: 山川出版社
出版年: ISBN:

日本歴史大系3『貴族政治と武士
著者:
出版社: 山川出版社
出版年: ISBN:

『平安京の時代』(日本古代の歴史)
著者: 佐々木恵介
出版社: 吉川弘文館
出版年: ISBN:

摂関政治と地方社会』(日本古代の歴史5)
著者: 坂上康俊
出版社: 吉川弘文館
出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート (0)　小テスト (0)
授業中課題 (70)　授業中発表等 (10)
参加度 (20)

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史基礎ゼミⅡ〈＊B〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野田　泰三	

テーマ

中世史料－本能寺の変関連史料－を読む

授業の到達目標

・漢文史料の読解ができるようになる。
・中世史料の読解法・調べ方を習得する。

授業の概要

日本史研究上必須の漢文史料の読解力と調査方法を習得するため、有名な本能寺の変の関連史料を輪読する。本能寺の変は日本史上最も著名な事件の一つで、背景を理解しやすいうえ、記録（日記）と古文書、双方の史料をあわせ読むことができる。また一次史料から読み取れる事実が事後にどのように誇張されていくかがわかり、史料から事実を読み取るという歴史学の研究方法・研究視角を身につける訓練にもなる（受講生の状況によりテキストを変更することがある）。
授業は受講生が用意したレジュメをもとに進める。担当者は割り当てられた箇所について、読み下し文を作成した上で、人名や地名、語句の意味、背景、担当箇所の論点等をまとめ、発表する。
必要に応じて学外見学を実施する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・報告担当者は十分に時間をかけて準備すること。国語辞典・漢和辞典や歴史辞典はもちろん、関連史料や先行研究なども調べること。
・受講生は、自分の担当回か否かを問わず、あらかじめ史料を読んでおくこと。授業時、報告者以外の者に当てることがある。

内　容

第1回　ガイダンス：授業の進め方、史料の調べ方、分担の決定
第2回　テキストに関する説明
第3回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第4回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第5回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第6回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第7回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第8回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第9回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第10回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第11回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第12回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第13回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第14回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）、なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

・報告を無断で放棄した場合は成績評価の対象としない。
・遅刻2回を欠席1回とみなし、欠席4回以上の場合は成績評価の対象としない。

教科書

プリントを配布する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

授業中に適宜指示する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（20）	授業中発表等（50）

a10302a252

参加度 （ 30 ）

参加度:授業への取り組み姿勢や発表・質問の積極性などを総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史基礎ゼミⅡ 〈＊C〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾下　成敏	

テーマ

徳川政権期の文献史料を読む

授業の到達目標

近世の漢文史料に慣れ、この時代を本格的に学ぶための力を身につける。

授業の概要

徳川政権期の文献史料（譜代大名松平忠利の日記、「御仕置裁許帳」など）を読む。受講生の義務は以下の通り、①史料の読み下し、②担当した史料の逐語訳の作成と報告。そして授業の最後には原稿用紙8枚程度のレポートを作成してもらう。なお、学外の資料館・博物館見学や、歴史学に関する講演会を行うことがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

配布する漢文史料の予習・復習を怠らないこと。また博物館・美術館などへ足を運んで、古文書や絵画史料等に慣れ親しみ、概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読んで、歴史学に関する知識を増やすこと。

内　容

第1回　ガイダンス・テキストに関する概説
第2回　テキストに関する概説
第3回　松平忠利の日記の講読、その1
第4回　松平忠利の日記の講読、その2
第5回　松平忠利の日記の講読、その3
第6回　松平忠利の日記の講読、その4
第7回　松平忠利の日記の講読、その5
第8回　松平忠利の日記の講読、その6
第9回　「御仕置裁許帳」の講読、その1
第10回 「御仕置裁許帳」の講読、その2
第11回 「御仕置裁許帳」の講読、その3
第12回 「御仕置裁許帳」の講読、その4
第13回 「御仕置裁許帳」の講読、その5
第14回 「御仕置裁許帳」の講読、その6
第15回 まとめ

履修上の注意点

1　欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい／2　提出したレポートについては、希望すれば講評する

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本の歴史　鎖国
著者:　朝尾直弘
出版社:　小学館
出版年:　1975年　　ISBN:

日本の歴史　江戸開幕
著者:　藤井譲治
出版社:　集英社
出版年:　1992年　　ISBN:

a10302a253

日本の歴史　天下泰平
著者:　横田冬彦
出版社: 講談社
出版年: 2002年　　ISBN:

江戸城の宮廷政治
著者:　山本博文
出版社: 講談社
出版年: 2004年　　ISBN:

全集日本の歴史　徳川の国家デザイン
著者:　水本邦彦
出版社: 小学館
出版年: 2008年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 35 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 15 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史基礎ゼミⅡ ＜＊D＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　後藤　敦史	

テーマ

日本の近世・近代移行期の史料を読む

授業の到達目標

幕末・維新期を中心に、18世紀から19世紀における日本史研究を進める上で必要な史料読解能力を修得する。

授業の概要

教員が指定する文献史料（歴史学研究会編『日本史史料』など）を読む。受講生はそれぞれ担当する史料を選び、史料の逐語訳、およびその史料の歴史的背景について、1冊以上の参考文献を読んだ上で発表をおこなう。発表者以外の学生も、史料を事前に読む必要がある。授業の最後には、発表内容を踏まえたレポート作成を課す。なお、学修の状況に応じて、学外で授業を行うこともある。また、歴史学に関する講演会への参加等を行う場合もある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

近代日本史を理解するためには、世界史も含む歴史学全般についての広い知識・理解が重要となる。日頃から、概説書や新書、文庫などを読んだり、博物館などに行って展示されている古文書にしっかりと目を通すなど、歴史学についていろいろな方法で自ら学ぶ習慣を身につけることが望ましい。

内　　容

第1回　ガイダンスその1　史料を読むということ
第2回　ガイダンスその2　本ゼミで読解をする史料の説明
第3回　4年生の卒業論文中間発表会への参加
第4回　実践・史料の基本的な読み方　その1
第5回　実践・史料の基本的な読み方　その2
第6回　学生による担当史料の発表　その1
第7回　学生による担当史料の発表　その2
第8回　学生による担当史料の発表　その3
第9回　学生による担当史料の発表　その4
第10回　学生による担当史料の発表　その5
第11回　学生による担当史料の発表　その6
第12回　学生による担当史料の発表　その7
第13回　学生による担当史料の発表　その8
第14回　まとめ　発表の総括と、レポート作成のアドバイス　その1
第15回　まとめ　発表の総括と、レポート作成のアドバイス　その2

履修上の注意点

無遅刻・無欠席が大前提。やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前に教員に連絡（メールで可）をすること。発表を担当する回で無断欠席をした場合は、成績評価に大きく響くので、この点、心得ておくこと。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本近世の歴史　開国前夜の世界
著者:　横山伊徳
出版社:　吉川弘文館
出版年:　2013年　　ISBN:

日本近世の歴史　明治維新
著者:　青山忠正
出版社:　吉川弘文館
出版年:　2012年　　ISBN:

a10302a254

日本近代の歴史　維新と開化

著者:　奥田晴樹

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2016年　　ISBN:

日本近代の歴史 「主権国家」成立の内と外

著者:　大日方純夫

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2016年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）

授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 40 ）

参加度（ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史基礎ゼミⅠ〈＊A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松浦　京子	

テーマ

英文史料ならびに邦語訳された史料に基づく歴史研究

授業の到達目標

西洋史研究を進めるうえで必要なスキルとメソッドを理解し、それを身に着けることをめざす。

授業の概要

西洋史上の重要な史料（英文）を精読することで、その内容から何が読み取れるかを考える。史料は、Weidenfeld and Nicolson社刊のIllustrated History of Europeに掲載されている抜粋史料から選択し、各史料の翻訳とその意味内容の解説と関連する歴史事象についての報告を受講生各自が分担し行なう。西洋史上の重要な史料を精読することで、その内容から何が読み取れるかを考える。史料の意味内容の解説と関連する歴史事象についての報告を受講生各自が分担し行なう。翻訳に関しては、学期の初期に全訳文を教員に提出し添削をうけなければならない。また、各自の関心領域に即して、欧米史の（邦語訳）史料を自ら検索入手し、その史料についての紹介と、その史料を用いた自由研究（読み取れる事柄や史料が持つ価値など）の成果を報告する。どの報告においても、ゼミ生全員による質疑応答を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキスト史料の精読（翻訳）、ならびに、関連文献を検索し精読すること。
個別に相談、質問を受け付ける。
復習として、学生発表の内容に即した小テスト課題を課す。
課題提出者には、課題解答と解説ペーパーを配布。

内　容

第1回　授業の進め方について（テキストの紹介、受講生各自の関心領域の確認）
第2回　史料から何を読み取るか、についての教員講義
第3回　英文史料について、教員講義
第4回　ゼミ生報告1回目①　質疑応答
第5回　ゼミ生報告1回目②　質疑応答
第6回　ゼミ生報告1回目③　質疑応答
第7回　ゼミ生報告1回目④　質疑応答
第8回　ゼミ生報告1回目⑤　質疑応答
第9回　ゼミ生報告1回目⑥　質疑応答
第10回　ゼミ生報告1回目⑦　質疑応答
第11回　ゼミ生報告1回目⑧　質疑応答
第12回　ゼミ生報告2回目―①　質疑応答
第13回　ゼミ生報告2回目―②　質疑応答
第14回　ゼミ生報告2回目―③　質疑応答
第15回　ゼミ生報告2回目―④　質疑応答
第16回　学外授業を行うこともある

履修上の注意点

全員が完全出席をめざすこと。やむを得ず欠席するときには、前もって教員の大学アドレス宛に連絡すること。

教科書

こちらで用意する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

特に指定はしないが、西洋史の論文、研究書
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30% ）　　授業中発表等（ 30% ）

a10302a310

参加度 （ 40% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史基礎ゼミⅠ〈＊B〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小野　浩	

テーマ

中央アジア・西アジアの歴史文献の輪読とそれにもとづく発表

授業の到達目標

中央アジア史・西アジア史に関する文献を選読して当該地域の歴史の知見を深め、さらには自らの関心にもとづいた研究発表を行なうことで、初歩的な研究態度を習得する。

授業の概要

扱う地域・時代ともにきわめて広範に亙り、また出席者各人の関心もさまざまであることが予想されるので、それにこたえるようなテキストは見出しがたい。それゆえこちらでいくつかの文献を候補として用意し（下記参考書参照）、受講者はその中から一部を選んで要約と発表を行なうという形式をとる。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。また学外授業を行うこともある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　出席者各人に自分の興味と関心のあるテーマを自己紹介させる。テキストの紹介。分担の決定。
第2回　担当者による内容要約とそれに付随した研究発表。（その際必ずレジュメを用意すること。）教員のコメントおよび出席者による質疑①。
第3回　報告②と質疑
第4回　報告③と質疑
第5回　報告④と質疑
第6回　報告⑤と質疑
第7回　報告⑥と質疑
第8回　報告⑦と質疑
第9回　報告⑧と質疑
第10回　報告⑨と質疑
第11回　報告⑩と質疑
第12回　報告⑪と質疑
第13回　報告⑫と質疑
第14回　報告⑬と質疑
第15回　まとめ　※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

イスラム世界の人びと
著者:　三木亘　他
出版社:　東洋経済新報社
出版年:　1984　　ISBN:

アジアの歴史と文化　西アジア史
著者:　間野英二　編
出版社:　同朋舎
出版年:　2000　　ISBN:

アジアの歴史と文化　中央アジア史
著者:　間野英二　編
出版社:　同朋舎
出版年:　1999　　ISBN:

a10302a312

新書東洋史8　中央アジアの歴史

著者:　間野英二

出版社: 講談社

出版年: 1977　　ISBN:

イスラム世界の発展(ビジュアル版世界の歴史)

著者:　本田実信

出版社: 講談社

出版年: 1985　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）

参加度（ 50 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史基礎ゼミⅠ〈＊C〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　王　衛明	

テーマ

中国古代史に関する基本研究法の実践

授業の到達目標

中国史を研究するために、その前提となる漢文史料の読解や研究論文の読み込みの技術及び文献の調査方法を身につける。

授業の概要

Ⅰ中国史の基本知識をもつため、基本的な論文・資料を読む。Ⅱ古代中国の政治、思想、文化、文物制度の基本知識を身につける。Ⅲそれぞれが関心を持つテーマについてどのような文献探索が必要なのか、を指導する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中に指示した参考書、学術論文をしっかりと読むこと。

内　容

第1回　中国史研究の基本史料となる『二十四史』使用の意味Ⅰ
第2回　中国史研究の基本史料となる『二十四史』使用の意味Ⅱ
第3回　中国史研究の基本史料となる『二十四史』使用の意味Ⅲ
第4回　中国史研究の基本論文・資料を読むⅠ―資料から何を読みとるかを考える
第5回　中国史研究の基本論文・資料を読むⅡ―資料から何を読みとるかを考える
第6回　中国史研究の基本論文・資料を読むⅢ―資料から何を読みとるかを考える
第7回　必要に応じて、史料に出ている京都・奈良の文化史蹟を見学する
第8回　それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文史料を講読する
第9回　それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文史料を講読する
第10回　それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文史料を講読する
第11回　必要に応じて、史料に出ている京都・奈良の文化史蹟を見学する
第12回　それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文史料を講読する
第13回　それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文史料を講読する
第14回　それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文史料を講読する。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。
第15回　総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。授業中に中国関係の遺物または博物館所蔵品を三回見学する予定。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史基礎ゼミⅡ〈＊A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　渡邊　和行	

テーマ

歴史の入門書を読む。

授業の到達目標

歴史書の読み方、レジュメの作成の仕方、報告の仕方を学ぶ。

授業の概要

前半で共通の文献を読み、後半で各自の関心に従って、山川出版社の世界史リブレットから1冊を選んで報告する。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

報告する文献の選択と読解。不明な言葉の下調べなどをしておく。

内　　容

第1回　イントロダクション
第2回　輪読1
第3回　輪読2
第4回　輪読3
第5回　輪読4
第6回　報告1
第7回　報告2
第8回　報告3
第9回　報告4
第10回　報告5
第11回　報告6
第12回　報告7
第13回　報告8
第14回　報告9
第15回　報告10

履修上の注意点

8回以上の欠席者には単位を認めない。

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 30 ）
出席と課題の発表を重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史基礎ゼミⅡ ＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小野　浩	

テーマ

中央アジア・西アジアの歴史文献の輪読とそれにもとづく発表

授業の到達目標

中央アジア史・西アジア史に関する文献を選読して当該地域の歴史の知見を深め、さらには自らの関心にもとづいた研究発表を行なうことで、初歩的な研究態度を習得する。

授業の概要

受講者は各自の関心に沿った歴史文献（研究書・論文・史料いずれも可）を自ら探し選んでその要約と発表を行なうという形式をとる。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。また学外授業を行うこともある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

下記の参考書は参考とする概説書として挙げたに過ぎない。各自が取り上げて紹介する文献はこれらに限らず、概要に記したように研究書・論文・史料等どれでもよい。

内　容

第1回　出席者各人に自分の興味と関心のあるテーマを自己紹介させる。分担の決定。
第2回　担当者による内容要約とそれに付随した研究発表。（その際必ずレジュメを用意すること。）教員のコメントおよび出席者による質疑①。
第3回　報告②と質疑
第4回　報告③と質疑
第5回　報告④と質疑
第6回　報告⑤と質疑
第7回　報告⑥と質疑
第8回　報告⑦と質疑
第9回　報告⑧と質疑
第10回　報告⑨と質疑
第11回　報告⑩と質疑
第12回　報告⑪と質疑
第13回　報告⑫と質疑
第14回　報告⑬と質疑
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

イスラム世界の人びと
著者:　三木亘　他
出版社:　東洋経済新報社
出版年:　1984　　ISBN:

アジアの歴史と文化　西アジア史
著者:　間野英二　編
出版社:　同朋舎
出版年:　2000　　ISBN:

アジアの歴史と文化　中央アジア史
著者:　間野英二　編
出版社:　同朋舎
出版年:　1999　　ISBN:

a10302a452

新書東洋史8　中央アジアの歴史
著者:　間野英二
出版社: 講談社
出版年: 1977　　ISBN:

イスラム世界の発展(ビジュアル版世界の歴史)
著者:　本田実信
出版社: 講談社
出版年: 1985　　ISBN:

モスクが語るイスラム史
著者:　羽田正
出版社: 筑摩学芸文庫
出版年: 2016　　ISBN:

イスラーム建築の見かた
著者:　深見奈緒子
出版社: 東京堂出版
出版年: 2003　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ 50 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史基礎ゼミⅡ〈＊C〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　王 衛明	

テーマ

中国古代史に関する基本研究法の実践

授業の到達目標

中国史を研究するために、その前提となる漢文史料の読解や研究論文の読み込みの技術及び文献の調査方法を身につける。

授業の概要

Ⅰ中国史の基本知識をもつため、基本的な論文・資料を読む。Ⅱ古代中国の政治、思想、文化、文物制度の基本知識を身につける。Ⅲそれぞれが関心を持つテーマについてどのような文献探索が必要なのか、を指導する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に指示した参考書、学術論文をしっかり読むこと。

内　容

第1回　中国史研究の基本史料及び受講者が関心を持つ史料、遺物、遺跡について説明する。
第2回　中国史研究の基本史料及び受講者が関心を持つ史料、遺物、遺跡について説明する。
第3回　中国史研究の基本史料及び受講者が関心を持つ史料、遺物、遺跡について説明する。
第4回　中国歴史に関する発表の形式について説明する。
第5回　これまでの教員の説明内容に基づいて発表する。
第6回　これまでの教員の説明内容に基づいて発表する。
第7回　必要に応じて、史料に出ている京都・奈良の文化史蹟を見学する。
第8回　それぞれが関心を持つテーマについて報告する。
第9回　それぞれが関心を持つテーマについて報告する。
第10回　それぞれが関心を持つテーマについて報告する。
第11回　必要に応じて、史料に出ている京都・奈良の文化史蹟を見学する。
第12回　それぞれが関心を持つテーマについて報告する。
第13回　それぞれが関心を持つテーマについて報告する。
第14回　それぞれが関心を持つテーマについて報告する。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

第15回　総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。

教科書

参考書

中国歴史研究入門
著者：　砺波護ほか編
出版社：名古屋大学出版会
出版年：2006　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**古文書学AⅠ（古代・中世）<a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野田　泰三	

テーマ

日本古代・中世文書の様式と機能を学ぶ

授業の到達目標

・古代・中世文書の様式を判別することができる。
・各様式の機能を理解している。
・基本的なくずし字の読解ができる。

授業の概要

前期は公式様文書・公家様・書札様文書をとりあげる。
教材には古文書の写真（コピー）を用い、各種様式とその機能、特徴について解説する。基本的なくずし字読解の練習も行う。
機会があれば、古文書見学会（博物館見学）を実施したい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業後、各様式の特徴や機能について復習するとともに、配布資料を使ってくずし字読解の訓練をしておくこと。
また博物館・資料館等の展覧会を見学するなど、古文書の原本に触れる機会を持って欲しい。

内　容

第1回　導入:古文書とは、古文書学とは
第2回　古文書学の研究視角、近年の研究動向
第3回　公式様文書①（宣命・詔勅）
第4回　公式様文書②（符・移・牒）
第5回　公式様文書③（解）
第6回　公家様文書①（官宣旨1）
第7回　公家様文書②（官宣旨2）
第8回　公家様文書③（宣旨・口宣案）
第9回　公家様文書④（政所下文・院庁下文）
第10回　公家様文書⑤（さまざまな下文）
第11回　書札様文書①（さまざまな御教書／書札礼）
第12回　書札様文書②（院宣・綸旨）
第13回　書札様文書③（令旨・女房奉書ほか）
第14回　古文書見学会
第15回　授業のまとめと学習到達度テスト

履修上の注意点

・上記スケジュールは事情により変更することがある。・漢文史料を扱うので、基本的な漢文の読み方を学習・復習しておくこと。・遅刻2回で欠席1回にカウントし、欠席が5回を越える場合は成績評価の対象としない。

教科書

授業時にプリントを配布する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

新版古文書学入門
著者:　佐藤進一
出版社:　法政大学出版
出版年:　1997年　　ISBN:

概説古文書学ー古代・中世編
著者:　日本歴史学会
出版社:　吉川弘文館
出版年:　1983年　　ISBN:

a10302d110

くずし字用例辞典(普及版)

著者:　児玉幸太(編)

出版社:　東京堂出版

出版年:　1981年　　ISBN:

くずし字解読辞典(普及版)

著者:　児玉幸太(編)

出版社:　東京堂出版

出版年:　1979年　　ISBN:

その他、授業時に適宜指示する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート　(0)　　小テスト　(60)

授業中課題　(0)　　授業中発表等　(20)

参加度　(20)

授業中発表:古文書をその場で読んでもらい、数名に発表(板書)してもらうことがある。
参加度:授業への取り組み状況や回答・発表への積極性に鑑みて、総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**古文書学AⅠ（古代・中世）<b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀井　佳代子	

テーマ

日本古代・中世文書を読解する

授業の到達目標

・古代・中世文書の様式を判別することができる。
・各様式の機能を理解している。
・基本的なくずし字の読解ができる。

授業の概要

古文書を読むための知識をつけるとともに、古文書の写真を用いて、実際に読解に取り組む。前期は奈良・平安時代の文書を取り上げる。進度を見ながら、担当箇所を割り当てて、演習形式で授業を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

決められた部分を予習しておく必要がある。普段から分からない文字・用語があればすぐに、くずし字辞典や歴史辞典を用いて調べることを心がけて欲しい。

内　容

第1回　ガイダンス：古文書学の概要
第2回　古文書を読むための基礎①
第3回　古文書を読むための基礎②
第4回　公式様文書①―符・移―
第5回　公式様文書②―解―
第6回　公式様文書③―牒―
第7回　公式様文書④―宣命・詔勅―
第8回　公式様文書⑤―その他―
第9回　公家様文書①―官宣旨―
第10回　公家様文書②―宣旨・口宣案―
第11回　公家様文書③―下文1―
第12回　公家様文書④―下文2―
第13回　公家様文書⑤―御教書―
第14回　公家様文書⑥―院宣・綸旨―
第15回　授業のまとめ・到達度テスト

履修上の注意点

授業内容は変更することがある。
毎回、くずし字辞典・日本史辞典を授業に持ってくること。

教科書

プリントを配布する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

新版 古文書学入門
著者：　佐藤進一
出版社：　法政大学出版局
出版年：　2003　　ISBN：　9784588320118

くずし字解読辞典（普及版）
著者：　児玉幸多
出版社：　東京堂出版
出版年：　1993　　ISBN：　9784490103311

a10302d112

くずし字用例辞典(普及版)

著者: 児玉幸多

出版社: 東京堂出版

出版年: 1993　　ISBN: 9784490103335

角川日本史辞典

著者: 朝尾直弘他

出版社: 角川書店

出版年: 1996　　ISBN: 404032000X

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 60 ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 20 ）

参加度 （ 20 ）

授業中発表:主に各自の担当箇所についての取り組みで判断する。
参加度:授業中の発言や質問を見て判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**古文書学AⅡ（古代・中世）〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野田　泰三	

テーマ

日本古代・中世文書の様式と機能を学ぶ

授業の到達目標

・古代・中世文書の様式を判別することができる。
・各様式の機能を理解している。
・基本的なくずし字の読解ができる。

授業の概要

後期は武家様文書を中心にとりあげる。
教材には古文書の写真（コピー）を用い、各種様式とその機能、特徴について解説する。あわせて簡単なくずし字読解の練習も行う。
機会があれば、古文書見学会（博物館見学）を実施したい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業後、各様式の特徴や機能について復習し、配布資料を使ってくずし字読解の訓練をしておくこと。
博物館・資料館等の展覧会を見学するなど、古文書の原本に触れる機会を持って欲しい。

内　容

第1回　導入　武家様文書とは 鎌倉幕府の文書①（下文）
第2回　鎌倉幕府の文書②（御教書）
第3回　鎌倉幕府の文書③（下知状） 室町幕府の文書①（さまざまな下知状）
第4回　室町幕府の文書②（御判御教書）
第5回　室町幕府の文書③（御内書）
第6回　室町幕府の文書④（執事・管領奉書、頭人奉書）
第7回　室町幕府の文書⑤（遵行手続き）
第8回　室町幕府の文書⑥（奉行人奉書、伝奏奉書）
第9回　様々な武家文書①（書下・判物、折紙）
第10回　様々な武家文書②（印判状、花押と印判）
第11回　証文類（売券、譲状、置文）
第12回　上申文書（軍忠状・着到状、申状・起請文）
第13回　公家・武家や寺社の伝来文書
第14回　古文書見学会
第15回　授業のまとめと学習到達度テスト

履修上の注意点

・上記スケジュールは事情により変更することがある。・漢文史料を扱うので、基本的な漢文の読み方を学習・復習しておくこと。・遅刻2回で欠席1回にカウントし、欠席が5回を越える場合は成績評価の対象としない。

教科書

授業時にプリントを配布する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

新版古文書学入門
著者:　佐藤進一
出版社:　法政大学出版
出版年:　1997年　　ISBN:

概説古文書学ー古代・中世編
著者:　日本歴史学会
出版社:　吉川弘文館
出版年:　1983年　　ISBN:

a10302d250

くずし字用例辞典(普及版)

著者:　児玉幸太(編)

出版社:東京堂出版

出版年:1981年　　ISBN:

くずし字解読辞典(普及版)

著者:　児玉幸太(編)

出版社:東京堂出版

出版年:1979年　　ISBN:

その他、授業時に適宜指示する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（0）　　小テスト（60）

授業中課題（0）　　授業中発表等（20）

参加度（20）

授業中発表:古文書をその場で読んでもらい、数名に発表(板書)してもらうことがある。

参加度:授業への取り組み状況や回答・発表への積極性を鑑みて、総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**古文書学AⅡ（古代・中世）<b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀井　佳代子	

テーマ

日本古代・中世文書を読解する

授業の到達目標

・古代・中世文書の様式を判別することができる。
・各様式の機能を理解している。
・基本的なくずし字の読解ができる。

授業の概要

古文書を読むための知識をつけるとともに、古文書の写真を用いて、実際に読解に取り組む。後期は平安・鎌倉時代の文書を取り上げる。進度を見ながら、担当箇所を割り当てて、演習形式で授業を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

決められた部分を予習しておく必要がある。普段から分からない文字・用語があればすぐに、くずし字辞典や歴史辞典を用いて調べることを心がけて欲しい。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　古文書の保存と伝来
第3回　公家様文書の発展
第4回　武家様文書①―下文―
第5回　武家様文書②―下知状―
第6回　武家様文書③―御教書―
第7回　武家様文書④―奉書―
第8回　武家様文書⑤―書下―
第9回　武家様文書⑤―印判状―
第10回　上申文書①―解状―
第11回　上申文書②―請文・請取状―
第12回　上申文書③―起請文―
第13回　譲状
第14回　売券
第15回　授業のまとめ・到達度テスト

履修上の注意点

授業内容は変更することがある。
毎回、くずし字辞典・日本史辞典を授業に持ってくること。

教科書

プリントを配布する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

新版 古文書学入門
著者:　佐藤進一
出版社:　法政大学出版局
出版年:　2003　　ISBN:　9784588320118

くずし字解読辞典（普及版）
著者:　児玉幸多
出版社:　東京堂出版
出版年:　1993　　ISBN:　9784490103311

a10302d252

くずし字用例辞典(普及版)

著者: 児玉幸多

出版社: 東京堂出版

出版年: 1993　　ISBN: 9784490103335

角川日本史辞典

著者: 朝尾直弘他

出版社: 角川書店

出版年: 1996　　ISBN: 404032000X

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 60 ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 20 ）

参加度 （ 20 ）

授業中発表:主に各自の担当箇所についての取り組みで判断する。
参加度:授業中の発言や質問を見て判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**古文書学ＢⅠ（近世）〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　木土　博成	

テーマ

日本近世の古文書

授業の到達目標

日本近世（安土桃山時代～江戸時代）の古文書を解読し、内容を理解する能力を身につけることを目標とする。

授業の概要

授業は配布テキストによっておこなう。日本近世の古文書・くずし字についての基礎知識を習得した上で、古文書で使用される字体や文章について学習をすすめる。また、色々なタイプの古文書の解読を通して、近世社会についての理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

古文書の読解能力を身に付けるには、辞典をもとにテキストの予習・復習をおこない、古文書に慣れ親しむ必要がある。そのため、参考書のうち、『くずし字用例辞典』については、所持ないし、いつでも引けるようにしておくことが望ましい。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　日本近世の古文書・くずし字について
第3回　古文書の基本（1）
第4回　古文書の基本（2）
第5回　古文書の基本（3）
第6回　古文書の基本（4）
第7回　古文書の基本（5）
第8回　古文書の解読（1）
第9回　古文書の解読（2）
第10回　古文書の解読（3）
第11回　古文書の解読（4）
第12回　古文書の解読（5）
第13回　古文書の解読（6）
第14回　古文書の解読（7）
第15回　まとめ

履修上の注意点

板書・音読をしてもらうので、欠席・遅刻が多いと成績評価に影響する。この点留意されたい。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

くずし字用例辞典
著者:　児玉幸多編
出版社:　東京堂出版
出版年:　1993　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**古文書学BⅠ（近世）<b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　水沼　尚子	

テーマ

初級の古文書解読

授業の到達目標

日本近世の古文書の字体・文体などに馴れ、その内容を把握することを目的とする。

授業の概要

日本近世のくずし字に関する基本的な知識を得るとともに、様々なタイプの古文書をとりあげ、その字体や文体について学習する。また、内容を把握していきながら、日本の近世社会に関する理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

くずし字や文体に馴れるためには、復習をおこなうことが大切である。授業中に配布したテキストを繰り返し翻刻・音読・現代語訳して確実に習得してほしい。また、日常で接する文字・言葉・映像に対しても近世史の視点から興味や疑問を持ち、多方面から考察できるちからを養うこと。

内　　容

第1回　くずし字と辞典(1)
第2回　くずし字と辞典(2)
第3回　古文書の解読(1)
第4回　古文書の解読(2)
第5回　古文書の解読(3)
第6回　古文書の解読(4)
第7回　古文書の解読(5)
第8回　古文書の解読(6)
第9回　古文書の解読(7)
第10回　古文書の解読(8)
第11回　古文書の解読(9)
第12回　古文書の解読(10)
第13回　古文書の解読(11)
第14回　古文書の解読(12)
第15回　古文書の解読(13)

履修上の注意点

順番に板書(くずし字解読)・音読をしてもらうので、質問を含め積極的に参加していただきたい。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

くずし字用例辞典
著者:　児玉幸多編
出版社:　東京堂出版
出版年:　1993　　ISBN:

くずし字解読辞典
著者:　児玉幸多編
出版社:　東京堂出版
出版年:　1993　　ISBN:

新編・古文書解読字典
著者:　林英夫
出版社:　柏書房
出版年:　1993　　ISBN:

a10302d312

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**古文書学BⅡ（近世）〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　牧　知宏	

テーマ

日本近世の古文書

授業の到達目標

くずし字で書かれた日本近世の古文書を読み解き、文章の内容を把握するための能力を身につけることを目的とします。

授業の概要

授業では、事前に配布した古文書のコピーを読み進めていきます。主に近世の京都に関する古文書をとりあげ、古文書特有の文章表現に関する基本的な知識を得るとともに、くずし字や文章内容を読み解く方法について学習します。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

古文書のくずし字に慣れるためには、予習と復習を行うことが必要です。とくに読めなかった字をなぞって何度も書いてみることが大切です。できるだけ博物館や美術館などへ足を運び、古文書の実物に接するようにして下さい。

内　容

第1回　日本近世の古文書の文章に関する基礎知識
第2回　近世京都の古文書（洛中の文書）を読む1
第3回　近世京都の古文書（洛中の文書）を読む2
第4回　近世京都の古文書（洛中の文書）を読む3
第5回　近世京都の古文書（洛中の文書）を読む4
第6回　近世京都の古文書（洛外の文書）を読む1
第7回　近世京都の古文書（洛外の文書）を読む2
第8回　近世京都の古文書（洛外の文書）を読む3
第9回　近世京都の古文書（洛外の文書）を読む4
第10回　近世の古文書（武家に関する文書）を読む1
第11回　近世の古文書（武家に関する文書）を読む2
第12回　近世の古文書（公家に関する文書）を読む1
第13回　近世の古文書（公家に関する文書）を読む2
第14回　近世の古文書（寺社に関する文書）を読む
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

なし、適宜配布します
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

逐次紹介します。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ 15 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 25 ）

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなるのはもちろん、成績評価にも結びつきます。この点をよく心得ておいてください。

2018 Syllabus

科 目 名　**古文書学BⅡ（近世）<b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　水沼　尚子	

テーマ

初級の古文書解読

授業の到達目標

日本近世の古文書の字体・文体などに馴れ、その内容を把握することを目的とする。

授業の概要

日本近世のくずし字に関する基本的な知識を得るとともに、様々なタイプの古文書をとりあげ、その字体や文体について学習する。また、内容を把握していきながら、日本の近世社会に関する理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

くずし字や文体に馴れるためには、復習をおこなうことが大切である。授業中に配布したテキストを繰り返し翻刻・音読・現代語訳して確実に習得してほしい。また、日常で接する文字・言葉・映像に対しても近世史の視点から興味や疑問を持ち、多方面から考察できるちからを養うこと。

内　　容

第1回　古文書の解読(1)
第2回　古文書の解読(2)
第3回　古文書の解読(3)
第4回　古文書の解読(4)
第5回　古文書の解読(5)
第6回　古文書の解読(6)
第7回　古文書の解読(7)
第8回　古文書の解読(8)
第9回　古文書の解読(9)
第10回　古文書の解読(10)
第11回　古文書の解読(11)
第12回　古文書の解読(12)
第13回　古文書の解読(13)
第14回　古文書の解読(14)
第15回　古文書の解読(15)

履修上の注意点

順番に板書(くずし字解読)・音読をしてもらうので、質問を含め積極的に参加していただきたい。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

くずし字用例辞典
著者:　児玉幸多編
出版社:　東京堂出版
出版年:　1993　　ISBN:

くずし字解読辞典
著者:　児玉幸多編
出版社:　東京堂出版
出版年:　1993　　ISBN:

新編・古文書解読字典
著者:　林英夫
出版社:　柏書房
出版年:　1993　　ISBN:

a10302d452

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史特講a(古代史)**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　北　啓太	

テーマ

日本古代の律令制

授業の到達目標

史料に基づいた形で律令制についての各種知識を修得する。また古代史研究の水準を知り、日本古代国家についての理解を深める。

授業の概要

律令制は日本古代国家の歴史上画期的な意味をもち、研究分野として大きな位置を占めている。律令制を構成する諸制度について主要な事柄を順次とりあげ、史料に基づきながらその基本的事項や実例に触れて、その特質を考えていく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

資料を配布するので、自身のノートと共によく復習すること。なお講義内容を理解するためには漢文読解についての基礎的能力が必要であり、各自よく修得につとめること。

内　　容

第1回　はじめに
第2回　律令の制定
第3回　官制と官人(1)
第4回　官制と官人(2)
第5回　公文書制度(1)
第6回　公文書制度(2)
第7回　天皇(1)
第8回　天皇(2)
第9回　皇親・后妃
第10回　民衆支配と税制(1)
第11回　民衆支配と税制(2)
第12回　財政(1)
第13回　財政(2)
第14回　軍制
第15回　おわりに

履修上の注意点

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

(新訂増補国史大系)令義解
著者:
出版社: 吉川弘文館
出版年:　　ISBN:

(新訂増補国史大系)令集解
著者:
出版社: 吉川弘文館
出版年:　　ISBN:

律令制研究入門
著者:　大津透編
出版社: 名著刊行会
出版年: 2011年　　ISBN:

a10302d910

（日本史リブレット）律令制とはなにか

著者： 大津透著

出版社： 山川出版社

出版年： 2013年　　ISBN：

その他、講義中に随時提示する。

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート （ 70 ）　　小テスト （ ）

授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史特講b（古代史）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　北　啓太	

テーマ

日本古代の乱と政治社会

授業の到達目標

日本古代の主要な乱について詳しく知ることを通じて、古代国家の成立から変貌に至る歴史に対する理解を深める。また日本古代の歴史過程を史料に立脚して理解する能力を高める。

授業の概要

戦乱は政治・社会の矛盾が大きくなったところに起こり、政治・社会が大きく動く場面となる。7世紀から10世紀の間に起きた大きな乱をとりあげ、それぞれについて史料を読みながら、そこに至る前史、乱の過程・結果等を学び、その乱の政治・社会的な意義を考察する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

資料を配布するので、自身のノートと共によく復習すること。なお講義内容を理解するためには漢文読解についての基礎的能力が必要であり、各自よく修得につとめること。

内　容

第1回　はじめに
第2回　壬申の乱（1）
第3回　壬申の乱（2）
第4回　壬申の乱（3）
第5回　藤原広嗣の乱（1）
第6回　藤原広嗣の乱（2）
第7回　藤原広嗣の乱（3）
第8回　藤原広嗣の乱（4）
第9回　恵美押勝の乱（1）
第10回　恵美押勝の乱（2）
第11回　東北戦争（1）
第12回　東北戦争（2）
第13回　承平天慶の乱（1）
第14回　承平天慶の乱（2）
第15回　おわりに

履修上の注意点

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

講義中に随時提示する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史特講c（中世史）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野田　泰三	

テーマ

日本中世社会の諸相

授業の到達目標

・日本中世の歴史・文化に関する基礎的な知識を習得している
・歴史学の実証的な研究視角・研究方法について理解している

授業の概要

歴史学を研究するにはミクロとマクロ、双方の視点が必要です。1つのテーマを深く掘り下げて研究することは勿論大切ですが、日本史の流れを大局的に理解し日本人の来し方・行く末を見通すことも必要です。
この授業では、日本の中世社会はどのようであったか、中世人はどのような意識・感覚のもとで生きていたかについて、社会慣行、都市、身分制、宗教、祭礼など様々な観点から講義します。
なお授業内容やスケジュールは変更することがあります。また必要に応じて学外見学を実施します。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

講談社や小学館などの『日本の歴史』シリーズや『岩波講座日本歴史』などを読み、日本史・日本中世史に関する知識をつけておくこと。各種展示会や現地見学会にも積極的に出掛けてください。

内　容

第1回　日本の中世社会とは？
第2回　古代・中世のオニ①
第3回　古代・中世のオニ②
第4回　古代・中世のオニ③
第5回　中世の社会慣行①
第6回　中世の社会慣行②
第7回　中世の社会慣行③
第8回　中世の社会慣行④
第9回　中世の社会慣行⑤
第10回　祇園御霊会と都市京都①
第11回　祇園御霊会と都市京都②
第12回　祇園御霊会と都市京都③
第13回　祇園御霊会と都市京都④
第14回　祇園御霊会と都市京都⑤
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

授業は講義形式で行いますが、講義内容が常に正しいとは限りません。ほかの解釈が可能かもしれないし、そもそも“たった一つの正解”など歴史学にはありません。なぜ？どういうこと？本当だろうか？と常に自分の頭で考える習慣をつけて下さい。

教科書

プリントを配布する

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業時に適宜指示する

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 10 ）
・遅刻2回で欠席1回とみなし、欠席4回以上の場合は成績評価の対象としない。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史特講d（中世史）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野田　泰三	

テーマ

室町・戦国期政治史の研究

授業の到達目標

・歴史学の実証的な研究視角・研究方法について理解している
・歴史学の理論について基礎的な知識を習得している
・日本中世史の特質を理解し、客観的な歴史の見方ができる

授業の概要

後期は歴代室町殿（将軍）の事績を紹介し室町期幕政史の流れをたどりつつ、室町幕府権力の特質やその変容、守護大名や戦国大名など地域権力との関係について考察します。
授業では史料レジュメを配布しますので、受講生が自身で史料を読み込み、幕府や室町殿の権力について考えて欲しい。
なお授業内容やスケジュールは変更することがあります。また必要に応じて学外見学を実施します。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

講談社や小学館などの『日本の歴史』シリーズや『岩波講座日本歴史』などを読み、日本史・日本中世史に関する知識をつけておくこと。配布する史料レジュメを事後に読み込んでおくこと。この作業を通して、卒論作成に必要な史料読解能力や分析力が涵養されれば幸いです。

内　　容

第1回　日本の中世国家とは？
第2回　鎌倉幕府と朝廷
第3回　足利尊氏・直義
第4回　足利義満－公武統一政権の成立①
第5回　足利義満－公武統一政権の成立②
第6回　足利義満－公武統一政権の成立③
第7回　足利義持－上意と衆議
第8回　足利義教
第9回　足利義政
第10回　応仁の乱
第11回　足利義尚－戦国期将軍権力の模索
第12回　明応の政変
第13回　戦国期の室町幕府
第14回　室町幕府と地域権力
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

授業は講義形式で行いますが、講義内容が常に正しいとは限りません。ほかの解釈が可能かもしれないし、そもそも“たった一つの正解”など歴史学にはありません。なぜ？どういうこと？本当だろうか？と常に自分の頭で考える習慣をつけて下さい。

教科書

プリントを配布する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本の歴史12　室町人の精神
著者:　桜井英治
出版社:　講談社
出版年:　2001　　ISBN:

日本の歴史13　一揆と戦国大名
著者:　久留島典子
出版社:　講談社
出版年:　2001　　ISBN:

a10302e250

その他、授業時に適宜指示する

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 60 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 30 ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 10 ）

・遅刻2回で欠席1回とみなし、欠席4回以上の場合は成績評価の対象としない。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史特講e(近世史)**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾下　成敏	

テーマ

近世城館からみた日本列島史

授業の到達目標

16世紀～19世紀の日本列島史に関する基礎的知識を身につけ、歴史の展開を大づかみに把握する。

授業の概要

この講義では、織田政権期以降に登場する近世城館を扱うが、その目的は近世城館の歴史を介して、日本列島史の展開を大づかみに把握することにある。なお、以下に示す講義計画はあくまで予定であり、扱う対象や回数に変更が生じることもある。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読み、歴史学に関する知識を増やすこと。educaを用いて、歴史的知識を少しでも身につけておくこと。

内　容

第1回　ガイダンス・時代区分論
第2回　城館とはなにか
第3回　中世後期の城館、「城」と化した寺院
第4回　織豊系の城館の出現、城館の整理と統合
第5回　文禄、慶長の役、韓国南岸の倭城
第6回　江戸時代初期の築城ラッシュ、一国一城令
第7回　一国一城令後の近世城館
第8回　城館をめぐる資料
第9回　近世の城館と社会、その1
第10回　近世の城館と社会、その2
第11回　近世の城館と文化
第12回　琉球王国と蝦夷地、グスクとチャシ
第13回　幕末維新期の城館
第14回　近代の城館遺跡
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本の時代史(全30冊)
著者:
出版社:　吉川弘文館
出版年:　2002年～2004年　　ISBN:

日本の歴史(全25冊)
著者:
出版社:　講談社学術文庫
出版年:　2008年～2010年　　ISBN:

日本の歴史全集(全17冊)
著者:
出版社:　小学館
出版年:　2007年～2009年　　ISBN:

a10302e310

日本近世の歴史（全6冊）

著者:

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2011年～2013年　　ISBN:

シリーズ日本近世史（全5冊）

著者: 藤井譲治ほか

出版社: 岩波書店

出版年: 2015年～2016年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 70 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史特講f(近世史)**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾下　成敏	

テーマ

16・7世紀の公家衆と文芸

授業の到達目標

16・7世紀の公家衆と文芸(和歌・蹴鞠・連歌)とのかかわりをテーマにすえ、この時代の研究を行うための基礎的能力や、日本文化を理解するための基礎的能力を身につける。

授業の概要

16・17世紀の文献史料のうち、活字化された史料などをもとに講義を進める。なお、1、漢文史料が読めないとついていけない講義であること、2、以下に示す講義計画はあくまで予定であり、扱う対象や回数に変更が生じる場合があること、3、授業の最後には原稿用紙8枚程度のレポート作成を課題として課すこと、を予め付記しておく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

1、配布する文献史料の復習を怠らないこと。2、博物館・美術館などへ足を運び、くずし字で書かれた史料や絵画資料などに慣れ親しむこと。3、概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読み、歴史学に関する知識を増やすこと。4、educaを用いて、歴史的知識を少しでも身につけておくこと。

内　容

第1回　ガイダンス・近世文化史の概論
第2回　戦国時代・近世の公家衆、その1
第3回　戦国時代・近世の公家衆、その2
第4回　戦国時代・近世の公家衆、その3
第5回　文芸(和歌・蹴鞠・連歌など)概論
第6回　戦国時代における公家衆の地方下向、その1
第7回　戦国時代における公家衆の地方下向、その2
第8回　小テスト／和歌史の展開、その1
第9回　和歌史の展開、その2
第10回　連歌史の展開、その1
第11回　連歌史の展開、その2
第12回　蹴鞠史の展開
第13回　16・7世紀の文化史上における公家衆の役割、その1
第14回　16・7世紀の文化史上における公家衆の役割、その2
第15回　まとめ

履修上の注意点

欠席が多い学生については、原則として、不合格とする。

教科書

使用しない

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜紹介をおこなう

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 35 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 35 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）
受講者の要望があれば、提出したレポートの内容について、コメントをおこなう。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本女性史特講Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田端　泰子	

テーマ

日本女性のあゆみ～原始から現代まで

授業の到達目標

日本の女性が歩んできた歴史を、人、時代背景、政治形態、などの面から会得する。

授業の概要

日本の歴史上のすべての時代を対象として、特に中世についてはより詳しく、社会と人とのつながりについて考察する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業後に、その授業に関係のある本あるいは論文を読むことが望ましい。

内　　容

第1回　原始・古代の女性労働
第2回　都城の変遷と女性の生活
第3回　律令制下の女性の地位
第4回　平安京の成立
第5回　女房としての紫式部
第6回　平安女性の財産相続権
第7回　平氏政権下の女性
第8回　院政期の女院と女房
第9回　武士の登場・武士の女性
第10回　鎌倉幕府法にみる娘、妻、母、後家
第11回　平安時代の出産、鎌倉時代の出産
第12回　北条政子の生涯とその役割
第13回　南北朝期の女性の地位変化
第14回　日野重子と日野富子
第15回　古代・中世の女性の地位をめぐって（前期のまとめ）

履修上の注意点

女性史の通史や人物研究に目を通しておくのがよい。

教科書

参考書

日本女性史
著者:　脇田・林・永原編
出版社:　吉川弘文館
出版年:　1987　　ISBN:

乳母の力
著者:　田端泰子著
出版社:　吉川弘文館
出版年:　2005　　ISBN:

日本中世女性史論
著者:　田端泰子著
出版社:　塙書房
出版年:　1994　　ISBN:

北政所おね
著者:　田端泰子著
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2007　　ISBN:

a10302e510

細川ガラシャ

著者: 田端泰子著

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2010 ISBN:

日本中世の村落・女性・社会

著者: 田端泰子著

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2011 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 80 ）　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）

参加度 （ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本女性史特講Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田端　泰子	

テーマ

日本女性のあゆみ～原始から現代まで

授業の到達目標

日本の女性が歩んできた歴史を、人、時代背景、政治形態などの面から会得する。

授業の概要

日本の歴史上のすべての時代を対象とし、特に中世についてはより詳しく、社会と人とのつながりについて考察する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業後に、その授業に関係のある本あるいは論文を読むことが望ましい。

内　　容

第1回　戦国～織豊期の女性①北政所おね
第2回　戦国～織豊期の女性②淀殿
第3回　戦国～織豊期の女性③細川ガラシャ
第4回　戦国～織豊期の女性④利家正室まつ
第5回　大坂落城に遭遇した二人のおきく
第6回　江戸幕府の成立と女性
第7回　春日局の一生とその役割
第8回　江戸時代の農村女性の生活
第9回　江戸時代の商家の女性
第10回　明治維新とは
第11回　大正デモクラシーと女性
第12回　戦時中の生活変化と女性の役割
第13回　戦後改革と女性の地位変化
第14回　現代社会の女性の地位
第15回　統一政権期から現代に至る日本女性のあゆみ（後期のまとめ）

履修上の注意点

女性史の通史や人物研究に目を通しておくのがよい。

教科書

参考書

日本女性史
著者:　脇田・林・永原編
出版社:　吉川弘文館
出版年:　1987　　ISBN:

乳母の力
著者:　田端泰子著
出版社:　吉川弘文館
出版年:　2005　　ISBN:

日本中世女性史論
著者:　田端泰子著
出版社:　塙書房
出版年:　1994　　ISBN:

北政所おね
著者:　田端泰子著
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2007　　ISBN:

a10302e650

細川ガラシャ

著者: 田端泰子著

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2010 ISBN:

日本中世の村落・女性・社会

著者: 田端泰子著

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2011 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 80 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**近現代史特講a(日本)**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　後藤　敦史	

テーマ

アジア・太平洋のなかの日本列島　18―20世紀

授業の到達目標

日本の歴史を長い時間軸と広い空間軸で、俯瞰(ふかん)的にとらえる能力の養成を目標とする。また、あわせて細部も見逃さない、徹底した史料読解に基づく歴史研究の重要性を理解することをめざす。

授業の概要

日本史を研究するためには、日本列島の歴史を長い時間軸で、かつ広い空間軸でとらえることも重要である。この観点にしたがって、本講義では、18世紀の近世後期から、20世紀にいたる日本の歴史を、東アジアおよび太平洋という空間から検討していく。「近現代史」が中心ではあるが、あえて近世から歴史を俯瞰することによって、現代社会が抱えるさまざまな問題点を多角的に明らかにしていきたい。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

「日本史」が軸になるが、世界史の知識も講義を理解する上で重要となる。授業中に適宜紹介する参考文献を読むことが望ましい。

内　容

第5回　アメリカの太平洋戦略と日本開国　1850年代その1
第6回　アメリカの太平洋戦略と日本開国　1850年代その2
第7回　アジア・太平洋のなかの明治維新　1860年代その1
第8回　アジア・太平洋のなかの明治維新　1860年代その2
第9回　太平洋に進出する人びと　1870―80年代その1
第10回　太平洋に進出する人びと　1870―80年代その2
第11回　世界史のなかの帝国日本　1890年代その1
第12回　世界史のなかの帝国日本　1890年代その2
第13回　島からながめるアジア・太平洋　1900-1910年代その1
第14回　島からながめるアジア・太平洋　1900-1910年代その2
第15回　まとめ　アジア・太平洋からみる日本の歴史
第1回　太平洋世界の変容と日本列島　18世紀末その1
第2回　太平洋世界の変容と日本列島　18世紀末その2
第3回　クジラと異国船打払令　19世紀前半その1
第4回　クジラと異国船打払令　19世紀前半その2

履修上の注意点

受講に際して、私語はもちろん厳禁であるが、講義内容に関わる質問や意見については、積極的な発言を歓迎する。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

東アジア国際政治史
著者:　川島真ほか
出版社:　名古屋大学出版会
出版年:　2007年　　ISBN:

大人のための近現代史　19世紀編
著者:　三谷博ほか
出版社:　東京大学出版会
出版年:　2009年　　ISBN:

a10302e710

東アジア近現代通史　上下

著者:　和田春樹ほか

出版社: 岩波書店

出版年: 2014年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 100 ）　　小テスト（ 0 ）

授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）

参加度（ 0 ）

出席率60%未満の学生は、成績評価の対象とはしない。公的事由による欠席は、その都度、教員まで申し出ること。

2018 Syllabus

科 目 名　**近現代史特講b(日本)**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　永井　和	

テーマ

天皇と統帥権

授業の到達目標

戦前の日本の国制に特有な統帥権独立制度をとりあげ、それがどのようなものであったのかを理解するとともに、そのような特異な制度がなぜ成立したのかを考察する。先行学説の批判的検討から新しい仮説を導き、その仮説の正しさを史料を用いて実証するという、歴史学の手法を学ぶ。

授業の概要

戦前の統帥権独立制度のもとで、大元帥すなわち統帥大権の保持者である天皇が実際にどのようにして、その大権を行使したのかを、制度史的に考察する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

予習の必要はないが、授業後にノートを整理しておくことが望ましい。授業で使用するスライドは、各授業の終了後に、KT-noteからダウンロードできるようにするので、復習に活用してほしい。

内　容

第1回　基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいによって，順序や回数を変えることがある。
統帥権独立制度とは何か
第2回　統帥権独立制度はいつ成立したのか
第3回　統帥権独立制度の成立理由をめぐる学説の検討(戦前編)
第4回　統帥権独立制度の成立理由をめぐる学説の検討(戦後編)
第5回　新しい学説の導入―万機親裁制度との関係
第6回　太政官文書よりみた太政官の決裁方式(第一期)
第7回　太政官文書よりみた太政官の決裁方式(第二期)
第8回　太政官文書よりみた太政官の決裁方式(第三期)小テスト
第9回　太政官文書よりみた太政官の決裁方式(第四期)
第10回　天皇の万機親裁と多元的輔弼制の制度的確立
第11回　帷幄上奏による明治天皇の統帥大権行使のはじまり(1)
第12回　帷幄上奏による明治天皇の統帥大権行使のはじまり(2)
第13回　内閣制度移行後の問題
第14回　帷幄上奏勅令をめぐる問題
第15回　再び統帥権独立制度とは何か　小テスト

履修上の注意点

教育実習やインターンシップや企業面接等で欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

近代日本の軍部と政治
著者:　永井和
出版社:　思文閣出版
出版年:　1993年　　ISBN:　4784207708

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 70 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
授業の途中でeducaを用いて小テストを2回おこなう。成績評価に大きなウェイトを占めるので、必ず受験するように。

2018 Syllabus

科 目 名　**近現代史特講c(世界)**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　渡邊　和行	

テーマ

ドゴールとその時代

授業の到達目標

20世紀の歴史を振り返ることで、現在を確認し、未来に備える知識の獲得を目指すことを目的とする。

授業の概要

ドゴールが生きた時代(1890-1970)のヨーロッパ史をフランスを中心に講述する。第一次世界大戦、ヒトラーの登場、第二次世界大戦、植民地の独立、高度経済成長と産業社会の矛盾の噴出といった激動の時代を講述する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

参考文献リストに従って、事前学習・事後学習に積極的に取り組む。レジュメを事前に読んで、判らない言葉などを調べておく。

内　容

第1回　1890年の世界
第2回　19世紀と20世紀の社会の相違1
第3回　19世紀と20世紀の社会の相違2
第4回　第一次世界大戦の意味1
第5回　第一次世界大戦の意味2
第6回　第一次世界大戦の意味3
第7回　1920年代のフランス
第8回　1930年代のフランス1
第9回　1930年代のフランス2
第10回　ナチ占領下のフランス1
第11回　ナチ占領下のフランス2
第12回　ナチ占領下のフランス3
第13回　第4共和政下のフランス
第14回　1960年代のフランス
第15回　1968年
第16回　試験

履修上の注意点

8回以上の欠席者には、単位を認めない。

教科書

ド・ゴール
著者:　渡辺和行
出版社:　山川出版社
出版年:　2013　　ISBN:

参考書

授業の中で紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 80 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）
試験と出席を勘案して評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**近現代史特講d(世界)**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　渡邊　和行	

テーマ

ドゴールと自由フランス

授業の到達目標

第二次世界大戦期の歴史を日本との比較も交えて学ぶことで、現在もなお続く問題の一端についての理解を深める。

授業の概要

第二次世界大戦期フランスの歴史を、国外レジスタンスの自由フランスの活動を通して講述する。自由フランスの戦いが主権回復にあったことから、主権の3要素(領土・国民・中央政府)に注目して講述する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

レジュメを熟読し、不明な言葉などを調べておく。参考文献を積極的に読んで、理解を深める。

内　容

第1回　問題の所在
第2回　研究史の整理
第3回　敗戦とドゴール
第4回　ロンドンのフランス人
第5回　自由フランスの誕生
第6回　領土の獲得―南太平洋・アフリカ・大西洋
第7回　連合国との軋轢
第8回　北アフリカ上陸
第9回　植民地防衛評議会
第10回　フランス国民委員会
第11回　全国抵抗評議会
第12回　フランス国民解放委員会
第13回　コルシカ会報と諮問議会の成立
第14回　フランス共和国臨時政府
第15回　パリ解放と国際的承認
第16回　試験

履修上の注意点

8回以上の欠席者には単位を認めない。

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

ドゴールと自由フランス
著者:　渡辺和行
出版社:　昭和堂
出版年:　2017　　ISBN:

成績評価

試験・レポート　(50)　　小テスト　(30)
授業中課題　( )　　授業中発表等　( )
参加度　(20)
試験・小テスト・出席を総合して評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史特講a（東アジア史Ⅰ）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　米田　健志	

テーマ

前近代中国の生活と風習

授業の到達目標

人間の生活・風習は、地域や時代によって様々に異なる。生活習慣が欧米化される以前、伝統的な中国の社会において、人々はどのような暮らしをしていたのか。この授業では、前近代中国の生活・風習について、衣食住・家族・教育・娯楽といった様々な側面から学んで欲しい。その際には、単なる興味本位の雑学としてではなく、それらの生活・風習が、社会・産業・文化とのあいだに密接な関係があるのだということを意識して欲しい。

授業の概要

配布プリントを用いて授業を進める。授業期間中に小レポートを2回提出。また期末試験を実施する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で紹介された文献については、ぜひ図書館で現物を探して、手にとってみて欲しい。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　風土・気候と生活
第3回　身分と生活
第4回　集落と都市
第5回　都市の生活
第6回　服飾をめぐって
第7回　親族と喪服
第8回　冠婚葬祭：人生と儀式
第9回　家庭と人の成長
第10回　教育と社会
第11回　飲食と作法
第12回　食糧と農工業
第13回　年中行事
第14回　娯楽と文化
第15回　授業のまとめ
第16回　期末試験

履修上の注意点

配布したプリント等は過去分も含めて全て授業に持参すること。

教科書

使用しない。毎回プリントを配布する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

授業中に随時紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート （ 55% ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 30% ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 15% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史特講c（東アジア史Ⅲ）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　王　衛明	

テーマ

中国古代史の基本問題として、その成立と展開の特質を探る。

授業の到達目標

この授業では、中国における都市文明の起源から唐代までの歴史と、文化の形成から展開の諸問題を取り扱い、中国文明の原像を把握する。

授業の概要

中国文明の成立は、中国周辺の異民族にも大きな影響を与えた。古代中国の高度にすぐれた文化がこれらの地域に広く浸透し、文化的政治的な成長と中国化を促した。やがて中国を中心にして漢字文化を共有し、相互に密接な関係を有する東アジア世界が形成される。その文明の形成に大きな役割を果たした幾つかの事例を素材に、文献史学、更に近年新出の資料を美術史、考古学の立場から、中国古代史構造の基本問題とその考え方を探る。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

場合によって授業内容にかかわる寺社や特別展の見学を実施する。

内　容

第1回　中国文明を理解するためのキーワード総解説
第2回　夏文明の問題―考古と文献実証の間
第3回　夏文明と殷商文明―青銅器の発展の諸問題
第4回　春秋戦国時代の出土文献と文字出土資料
第5回　秦代中国統一の諸問題Ⅰ―万里長城の建設の意義
第6回　秦代中国統一の諸問題Ⅱ―皇帝陵墓の出現と陪葬俑
第7回　漢代の儒家思想とその文化Ⅰ
第8回　漢代の文物制度Ⅱ―蔵書と目録学の出現
第9回　漢代の思想と文化Ⅲ―考古資料からみる漢代の信仰
第10回　魏晋南北朝時代の諸問題Ⅰ―仏教の伝来と発展
第11回　魏晋南北朝時代の諸問題Ⅱ―漢訳仏教経典と寺院の成立及び伽藍配置の問題
第12回　魏晋南北朝時代の諸問題Ⅲ―漢字発展の諸問題
第13回　隋唐時期の文化Ⅰ―初唐・盛唐期の仏教文化
第14回　隋唐時期の文化Ⅱ―考古学資料からみる唐代の国際関係
第15回　内容総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻や途中退席をしないこと。場合によって、中国関係の遺物、博物館の所蔵品を見学する予定。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

参加度　（ 50 ）

授業中に紹介した、参考文献や論文、また配布資料を必ず週7時間以上読むこと。
この授業は受講生の授業態度を重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史特講d（東アジア史Ⅳ）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　王 衛明	

テーマ

東洋美術史上の仏教美術品諸問題

授業の到達目標

美術作品を実際に見ることによって、東洋では普遍的な意味を持つ仏教美術史の流れを把握する。

授業の概要

仏教美術史を研究するために、その前提となる素材と史料について、その見方や調査方法を身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業時に指定する参考書をよく読むことと日本・中国の仏教美術に関する特別展や寺院・仏像の見学を実施する予定。

内　　容

第1回　ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
第2回　ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
第3回　ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
第4回　仏典の漢訳と仏像の制作
第5回　仏典の漢訳と仏像の制作
第6回　漢代における仏教美術の成立（文献と実物の両面から）
第7回　漢代における仏教美術の成立（文献と実物の両面から）
第8回　南北朝時代以前の仏教造像の成立
第9回　南北朝時代以前の仏教造像の成立
第10回　南北朝時代以前の仏教造像の成立
第11回　中国石窟寺院の総解説―仏教造像の考古学・様式学的考察（キジル石窟、敦煌石窟）
第12回　敦煌莫高窟からみる仏教美術の諸問題
第13回　河西地域からみる漢民族化仏教芸術の諸問題
第14回　雲岡石窟・龍門石窟からみる仏教造像の様式
第15回　内容総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないように。参考書は授業中に適時指示する。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 50 ）

授業中に紹介した、参考文献や論文、また配布資料を必ず週7時間以上読むこと。
この授業は受講生の授業態度を重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史特講e（中央・西アジア史Ⅰ）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小野　浩	

テーマ

ユーラシアにおけるテュルク（トルコ）・モンゴルの歴史

授業の到達目標

ユーラシア大陸に興起したテュルク・モンゴル系遊牧民国家の足跡を紹介し、彼らの世界史上に果たした役割を考察する。

授業の概要

遊牧民は、定住民が主役の座を占める現代世界においては社会の隅に追いやられたような扱いを受け、高校の教科書などでもごく軽く扱われるにとどまり、その歴史的役割に対して正当な位置づけがなされていない。だが、大陸東方からざっと見渡しても、匈奴・鮮卑・柔然・突厥・ウイグル・契丹・カルルク・ハザル・ガズナ朝・カラハン朝・セルジュク朝・大モンゴル帝国とその後継勢力・ティムール朝・ムガル朝・サファヴィー朝・オスマン朝といった具合にテュルク・モンゴル系の人びとが築いた国家の版図はユーラシアの大部分を占めている。この授業ではかれらの歴史を通史的ではなくトピックごとにとりあげ、ときには関連論文の紹介もしつつ、世界市場に果たしたテュルク・モンゴル国家の役割を考察する。各回の予定は以下の通りだが、必ずこの通りに講義が進むとは限らない。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

関連図書は授業中に適宜指示する。

内　容

第1回　ユーラシアの歴史とは----ヨーロッパ中心史観からの脱皮　その1
第2回　ユーラシアの歴史とは----ヨーロッパ中心史観からの脱皮　その2
第3回　テュルク・モンゴル諸族の分布
第4回　匈奴の国家組織
第5回　突厥----世界史上初めて自らの記録を残した遊牧民　その1
第6回　突厥----世界史上初めて自らの記録を残した遊牧民　その2
第7回　突厥----世界史上初めて自らの記録を残した遊牧民　その4
第8回　ウイグルと唐
第9回　ウイグルとソグド人
第10回　西ウイグル王国と仏教
第11回　モンゴルの興起----チンギス・カンの征服活動
第12回　大モンゴル帝国----モンゴルが東西を結ぶ　その1
第13回　大モンゴル帝国----モンゴルが東西を結ぶ　その2
第14回　ティムールとティムール朝の文化
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（0）	小テスト（50）
授業中課題（0）	授業中発表等（0）
参加度（50）	

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史特講f(中央・西アジア史Ⅱ)**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小野　浩	

テーマ

中央ユーラシアの諸宗教

授業の到達目標

中央ユーラシアの歴史に多大な影響を与えた宗教をとり上げて、各宗教の成立と伝播およびその教義について考える。

授業の概要

以下にあげる各回の内容はあくまで目安・予定であり、毎回このとおりに進むとは限らない。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

内　　容

第1回　インド・イランの宗教とゾロアスター教—その1
第2回　インド・イランの宗教とゾロアスター教—その2
第3回　ゾロアスター教とユダヤ教
第4回　インドを出た仏教—ガンダーラとクシャーナ朝
第5回　インドを出た仏教—中央アジア(その1)
第6回　インドを出た仏教—中央アジア(その2)
第7回　キリスト教東方教会(ネストリウス派)—イランとソグド
第8回　キリスト教東方教会(ネストリウス派)—テュルクと中国
第9回　マニ教の成立と伝播
第10回　マニ教とテュルク人
第11回　テュルク人のイスラム化—その1
第12回　テュルク人のイスラム化—その2
第13回　モンゴル人の宗教—シャマニズム
第14回　モンゴル帝国とキリスト教・仏教・イスラム—その1
第15回　モンゴル帝国とキリスト教・仏教・イスラム—その2

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (50%)	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 (50%)	

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史特講g(中央・西アジア史Ⅲ)**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮本　純二	

テーマ

古代エジプト王朝史Ⅰ

授業の到達目標

エジプト古代王朝史の前半の流れを知り、古い異文化に対する理解を深める

授業の概要

古代エジプト文明の特色は、約三千年の長きにわたりオリエント世界で重要な役割を担った点に最もよく見出せる。授業では、その文明を生み出す土台となった風土をはじめとし、国家統一へと向かう先王朝時代、国家の基礎が形成される初期王朝時代、壮大なピラミッドの造営事業を成し遂げた古王国時代、そして、文化の爛熟期である中王国時代にいたる王朝史を辿る(それに続く王朝史後半は後期の世界史特講hで扱う)。またそれと並行して、古代エジプト史を理解する上で必要となる基礎事項を随時、解説する。なお、古代エジプト史に関しては、文字史料と共に、考古遺物や遺跡が重要な意味を持つため、できる限り映像教材を用いて具体例を示しつつ授業を進める予定である。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

古代エジプト人たちの残した遺跡や遺物、また記録が王朝史を解明する原点であることは言うまでもない。最近では、それらの文化遺産の多くが書物だけにとどまらず、様々な形で紹介されているので、それらも積極的に利用することが望ましい。『古代エジプト文明と遺跡(全17巻)』:早稲田大学・古代エジプト調査室製作のビデオ(本学AVセンター収蔵)など。

内　容

第1回　講座解説(映像資料観賞を含む)
第2回　自然環境と地理的背景:ナイルの恵み
第3回　先王朝時代:農耕の始まり
第4回　原王朝時代:農耕社会の成長
第5回　国家統一へ:ナルメル王のパレットを読む
第6回　初期王朝時代:国家基盤の形成
第7回　古王国時代:ピラミッドの出現／王権の確立
第8回　古王国時代:国家の発展
第9回　古王国時代:ギザの三大ピラミッド
第10回　古王国時代:ピラミッド建造の背景
第11回　古王国時代:繁栄の終焉
第12回　第一中間期:統一の崩壊／社会の変革
第13回　中王国時代:文化の熟成／古典の形成
第14回　総括(映像資料観賞)
第15回　総括(映像資料観賞／レポート提出を含む)

履修上の注意点

教科書

随時、コピーで配布する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

エジプト王国三千年
著者:　吉成薫
出版社:　講談社選書メチエ
出版年:　2000　　ISBN:

ファラオ歴代誌
著者:　ピーター・クレイトン
出版社:　創元社
出版年:　1999　　ISBN:

a10302f710

古代オリエント辞典
著者: 日本オリエント学会編
出版社: 岩波書店
出版年: 2004 ISBN:

古代エジプト入門
著者: 内田杉彦
出版社: 岩波書店
出版年: 2007 ISBN:

古代エジプトを学ぶ
著者: 馬場匡浩
出版社: 六一書房
出版年: 2017 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）
授業中課題（ 85 ） 授業中発表等（ ）
参加度（ 15 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史特講h（中央・西アジア史Ⅳ）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮本　純二	

テーマ

古代エジプト王朝史Ⅱ

授業の到達目標

エジプト古代王朝史の後半の流れを知り、古い異文化に対する理解を深める

授業の概要

前期の世界史特講gに引き続き、国家の統一が再び崩壊する第二中間期を契機として、輝かしい繁栄が再来する新王国時代、さらには衰退へと向かう末期王朝時代までの古代エジプト王朝史の後半を辿る。さらに、アレクサンダー大王によるエジプト征服や女王クレオパトラ（7世）に代表されるプトレマイオス王朝を概観する。なお、トトメス一族やハトシェプスウト女王、異端王アクエンアテン、ツタンカーメン王ならびにラメセス大王（2世）が生きた時代として知られる新王国時代が講義の中心となる（授業の進め方は世界史特講gに同じ）。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

古代オリエント史に関連する研究成果を掲載している雑誌や論集に目を通すことも大切である。主なものとしては尾形禎亮他／岩波講座・世界歴史2『オリエント世界』、日本オリエント学会・編集発行の研究雑誌『オリエント』、早稲田大学エジプト学会・編集発行の『エジプト学研究』など。

内　容

第1回　講座解説（映像資料観賞を含む）
第2回　王朝史前半を振り返る／大民族移動の嵐
第3回　第二中間期：異民族ヒクソスの支配
第4回　第二中間期：エジプト解放戦争
第5回　第二中間期：再統一と武力外交
第6回　新王国時代：ハトシェプスウト女王1
第7回　新王国時代：ハトシェプスウト女王2
第8回　新王国時代：トトメス3世の侵略戦争
第9回　新王国時代：アメンヘテプ3世と帝国の栄華
第10回　新王国時代：アマルナ宗教改革の断行
第11回　新王国時代：ツタンカーメン王の生涯
第12回　新王国時代：ラメセス2世の奮闘・栄光の終焉
第13回　末期王朝～ギリシア・ローマ時代：新時代の幕開け・アレクサンダー大王の到来
第14回　総括（映像資料観賞）
第15回　総括（映像資料観賞・レポート提出を含む）

履修上の注意点

教科書

随時、コピーで配布する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

岩波講座・世界歴史2
著者：　尾形禎亮他
出版社：　岩波書店
出版年：　1998　　ISBN：

古代オリント辞典
著者：　日本オリエント学会編
出版社：　岩波書店
出版年：　2004　　ISBN：

a10302f850

大英博物館・古代エジプト百科事典

著者: イアン・ショー他

出版社: 原書房

出版年: 1997 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 85 ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 15 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**世界女性史特講Ⅰ**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　松浦 京子

テーマ

イギリス女性生活誌1

授業の到達目標

近世以降のイギリスにおける女性の在り様の変化、多様な活動を検証することを通して、「西洋近代」と女性史のかかわりを考察する

授業の概要

上記のテーマ、目的を1年かけて追及し、前期においては、以下のトピックについて講義する

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

イギリス史の概説書の精読
educaを用いた予習と復習

内　容

第1回　女性史学の誕生　史学史的アプローチ
第2回　近世の社会構造と女性①　ジェントルマン支配のなかで
第3回　近世の社会構造と女性②　ライフ・サイクル・サーヴァント制
第4回　農業革命と産業革命の衝撃①　雇用面から考える
第5回　農業革命と産業革命の衝撃②　「近代家族論」から考える
第6回　工業化社会の二類型の女性
第7回　「家庭の天使」の真実　ブルジョア・ファミリ・モデルに生きて
第8回　インターミッション
第9回　「家庭の天使」の裏側　サーヴァントいろいろ
第10回　「衒示的消費と余暇」の裏側　モードとお針子
第11回　「優雅な社会奉仕者」の持つ意味①　福音主義が残したもの
第12回　「優雅な社会奉仕者」の持つ意味②　「福祉の複合体」と女性
第13回　女性慈善活動の実際①　ディストリクト・ヴィジティング
第14回　女性慈善活動の実際②　「国家福祉」の先駆
第15回　まとめと確認

履修上の注意点

遅刻、早退厳禁。欠席多数は履修を認めない。
educaによる予習復習の励行

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

適宜指示する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**世界女性史特講Ⅱ**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　松浦 京子

テーマ

イギリス女性生活誌2

授業の到達目標

近世以降のイギリスにおける女性の在り様、活動を検証することを通して、「西洋近代」と女性史のかかわりを考察する

授業の概要

上記のテーマ、目的を一年かけて追及するにあたり、後期は以下のトピックについて講義する（順序は入れ替わる可能性もある）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

イギリス近代史概説書の精読
educaを用いた予習、復習

適宜指示する参考文献の精読

内　容

第1回　フェミニズム発生の背景
第2回　法的無能力からの解放を求めて
第3回　経済的自立のために　　－組織的フェミニズムの誕生
第4回　「お座なり」な女子教育への反抗　　－職業獲得の前提
第5回　女子教育改革の進展　—19世紀教育改革とともに
第6回　大学の門戸開放は可能か　－女子学寮の誕生
第7回　ミドルクラス女性にとっての参政権
第8回　インターミッション
第9回　工業化社会の女性労働①　－伝統的女性労働の変容
第10回　ホワイトブラウス職の登場　—工業化社会の女性労働②
第11回　都市的貧困と家内労働　－工業化社会の女性労働③
第12回　反苦汗労働運動　－社会帝国主義と女性労働
第13回　労働組合とsocial feminism　－労働者階級女性の社会運動①
第14回　女性協同組合ギルドが目指したこと　－労働者階級女性の社会運動②
第15回　まとめと確認

履修上の注意点

遅刻、早退厳禁。欠席多数は履修を認めない。
educaによる予習復習の励行

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

適宜指示する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**自然地理学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松本　太	

テーマ

自然環境と人間との関係を考える。

授業の到達目標

自然地理学の立場から、気圏、地圏、水圏の環境に関する基本的な知識の習得し、それらと人間活動との関係を理解すること。

授業の概要

授業では、自然環境の地理的な相違を気候、水文、地形の側面からとらえ、それらと人間活動とのかかわりを、種々の自然災害や環境問題を交え講義する。前半で気候学、後半で地形学を中心に扱う。適宜プリントを配布し、それに沿って講義を進める。進捗状況により、講義内容を変更することがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

講義内容の理解を深めるために、配布したプリントなどを参考に復習すること。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　大気圏の区分と構造
第3回　地球の熱収支と気候のなりたち
第4回　世界の気候と人間生活
第5回　大気現象と季節（風、雲、雨、低気圧、前線、気団）
第6回　日本の気候と人間生活
第7回　異常気象と地球温暖化
第8回　地球のなりたち
第9回　大地形の形成（大陸、海洋、山脈など）
第10回　プレートテクトニクス理論
第11回　小地形の形成（河川、海岸など）
第12回　地形図の読み方と利用
第13回　地形図から見た自然環境
第14回　地形と人間生活
第15回　まとめ

履修上の注意点

授業中の私語、携帯電話は厳禁、授業態度の悪い学生は受講を中止させることがある。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 70% ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 20% ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 10% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**地誌**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中西　和子	

テーマ

『地誌』を読もう。書かれた地域と筆者の地域について知ろう。“地誌”って実は二度オイシイ！！

授業の到達目標

日本を含め世界の古典的な「地誌(書)」を取り上げ、「人類はなぜ地誌を書くのか」・「地域を描写する」ということの基本について考える。後半は、さまざまな“地域”に注目した地誌を中心に取り上げ、あわせて身近な地域の文化・社会を読み取る力をつけることを目標とする。

授業の概要

基本的に配布プリントを資料にして授業を進めるが、一部パワーポイントも使用。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

街歩きの際など、“地域”というものに関心を持つ習慣をつけて下さい。

内　容

第1回　イントロダクション：“地誌書”が世界を変える？“ジパング”良いトコ、一度はおいで！？『東方見聞録』と“ワークワーク”
第2回　自国地誌と外国地誌　—『魏志倭人伝』と『風土記』、さて、どっちが正しい日本の姿？
第3回　外国人からみた日本：イザベラ・バードの見た日本
第4回　日本人のみた外国1：河口慧海とチベット社会と日本の社会
第5回　地誌が書かれるのはどんな時？—『風土記』から『日本地誌提要』と『皇国地誌』まで
第6回　地誌が読まれるのはどんな時？—明治人がハマった『輿地誌略』
第7回　日本人のみた外国2：小田 実『何でも見てやろう』と沢木耕太郎『深夜特急』
第8回　ガイドブックと戦争—ミシュランは地誌？
第9回　あなたの一番読みたい「地誌」は？
第10回　『おくのほそ道』：日本の“奥”ってドコ？
第11回　都市の機能と地誌書にみる地域のイメージ
第12回　農林漁業集落・都市近郊・中山間地域の地誌
第13回　過疎地の地誌：過疎地＝イナカと思っていませんか？
第14回　京都の地誌：京都ってどんなところ？
第15回　山科の地誌：山科ってどんなところ？

履修上の注意点

授業中に紹介する本を読み、事前に次回テーマに関して下調べをしておくこと。また、山科という地域について意識を向ける習慣をつけるように希望します。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）

授業中の質疑応答に積極的に答えて下さい。また、試験に関しては、従来説など既往の研究をまとめるだけではなく、自分の意見を明確にして論じて下さい。

2018 Syllabus

科 目 名　**人文地理学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　谷口　知司	

テーマ

人文地理学とはどんな学問なのか。何に関心をもち、どのような方法でアプローチするのか。

授業の到達目標

地域、空間、地図といった地理学のキーコンセプトを具体的な素材をとおして学び、地理学を学ぶと何がわかるのか、どんなことの役に立つのかということを知る。

授業の概要

受講学生をグループ分けし、教科書を順番に輪読する形で授業を進める。大きなゼミのようなものだと考えてください。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習、復習を中心に教科書などを参考に積極的に取り組んでください。

内　容

第1回　授業の進め方。グループ分け等を行う。
第2回　地域への地理学のまなざし①
第3回　地域への地理学のまなざし②
第4回　地域への地理学のまなざし③
第5回　経済活動を空間的に読み解く①
第6回　経済活動を空間的に読み解く②
第7回　経済活動を空間的に読み解く③
第8回　経済活動を空間的に読み解く④
第9回　地理学が映し出す想像力の世界①
第10回　地理学が映し出す想像力の世界②
第11回　地理学が映し出す想像力の世界③
第12回　地理学が映し出す想像力の世界④
第13回　過去と現在を繋ぐ地図①
第14回　過去と現在を繋ぐ地図②
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

人文地理学への招待
著者:　竹中克行他
出版社: ミネルヴァ書房
出版年: 2015　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 10 ）
小テストならびに課題提出は随時行うが、そのすべてが評価の対象となる。

2018 Syllabus

科 目 名　**外書研究a**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　井上　徳子	

テーマ

古代から中世にかけての中国の歴史を扱った中国語テキストの講読

授業の到達目標

中国語の辞書を自由にひくことができる。
中国史に関連する中国語テキストを正しく読むことができる。
中国語テキストを読むさいに必要な歴史的知識を自分で調べることができる。
中国語テキストで読んでいる時代について正しく理解できる。

授業の概要

初回は井上が講義を行うが、第2回目以降は、テキスト本文を受講者が順番に日本語に訳し、井上が必要に応じて訂正・補足を行う。原則として毎回全員が訳読を分担する。その際、中国音による発音は課さない。これは、決して発音を軽視するわけではなく、限られた時間を最大限、この授業の主眼である読解力の養成や内容の理解に充当するためである。また、テキストを読み進めるなかで、当該時期における中国の政治・制度、周辺地域の動向などを調べる課題が課される。正確な中国文の翻訳を土台として、歴史・歴史学についての知識、認識を深めるためである。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

まず受講者は、テキストについて必ず予習をする。
授業後は、次回進む内容が理解しやすくなるよう、今回進んだ内容に目を通す。
また、授業で扱われている時代や人物などに関する文章を積極的に読み、常日頃から知識の習得に心がける。

内　容

第1回　授業の進め方、予習の仕方などについてのガイダンス
第2回　中国語テキストの講読・内容理解
第3回　中国語テキストの講読・内容理解
第4回　中国語テキストの講読・内容理解
第5回　中国語テキストの講読・内容理解
第6回　中国語テキストの講読・内容理解
第7回　中国語テキストの講読・内容理解
第8回　中国語テキストの講読・内容理解
第9回　中国語テキストの講読・内容理解
第10回　中国語テキストの講読・内容理解
第11回　中国語テキストの講読・内容理解
第12回　中国語テキストの講読・内容理解
第13回　中国語テキストの講読・内容理解
第14回　中国語テキストの講読・内容理解
第15回　中国語テキストの講読・内容理解

履修上の注意点

携帯・スマートフォンの電源を切る。
授業中に辞書が引けるよう、図書館の辞書の一時貸し出しでもよいので、辞書を用意する。

教科書

プリントして配布する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業にて随時紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 50 ）

a10302g810

参加度 （ 50 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**外書研究b <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　永井 和	

テーマ

アメリカの大学で使われている世界史(グローバル・ヒストリー)の教科書を読む。

授業の到達目標

・時間はかかってもいいから、辞書を引きながら英語で書かれた世界史の教科書を読みとおす力をつける。
・世界史のさまざまな事象が、英語ではどのように表現されているのかを知る。今や英語での表現がグローバル・スタンダードになりつつあるからである。
・グローバル・ヒストリーとよばれる新しい歴史学の傾向にふれてみる。

授業の概要

アメリカの多くの大学で使用されている世界史の教科書 The Earth and Its Peoples;A global history を輪読する。ただし、原書は大部のものなので、その一部を選んでテキストとする。テキストは事前にコピーを配付する。授業では、毎回輪読する箇所の分担を決め、定量の英文を訳し、それを受けて教員が訳の問題点と内容を解説する。
　参加者の英文和訳をまとめて日本語テキストを作成し、それをKT-noteを使って共有する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

毎回、次回の授業で読み進める範囲を指定するので、予習として必ず日本語訳を作成してくること。正確な訳文作成のためには、前の授業の内容を復習することが不可欠となる。毎回与えられた課題(英文和訳)を教員が添削し、修正した英文を教員に提出する。

内　容

第1回　イントロダクション:授業の進め方の説明とテキスト配付、テキストの内容に関する解説
第2回　テキストの読解①
第3回　テキストの読解②
第4回　テキストの読解③
第5回　テキストの読解④
第6回　テキストの読解⑤
第7回　テキストの読解⑥
第8回　小テストとこれまでのまとめ
第9回　テキストの読解⑦
第10回　テキストの読解⑧
第11回　テキストの読解⑨
第12回　テキストの読解⑩
第13回　テキストの読解⑪
第14回　テキストの読解⑫
第15回　小テストとこれまでのまとめ

履修上の注意点

予習が不十分な場合は、欠席扱いとすることがあるので、注意すること。授業時に担当があたっている場合の無断欠席には厳重に対処する。

教科書

参考書

The Earth and Its Peoples;A global history
著者:
出版社: Autralia Cengage Learning
出版年: 2015　　ISBN: 9781285445519

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
あらかじめ指定されたテキストの一部を和訳してきて、授業中に板書し、それに対して教員の添削を受けたあと、修正した訳文を提出することが課題となる。それ以外に2回の小テストを行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**外書研究c**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森本　慶太	

テーマ

歴史学に関する英語文献の講読

授業の到達目標

(1)西洋近現代史に関する基本的知識を習得できる。
(2)英語で歴史に関する研究文献を読解でき、そこで得られた情報を要約できる。
(3)歴史学の方法にしたがい、文献や史料を解釈・論評できる。

授業の概要

欧米の近現代史を扱ったイギリスの歴史教科書(Collins Key Stage 3 History)を講読する。テキストは事前にコピーを配付する。授業では受講生全員が予習していることを前提に、訳出の担当者を無作為に指名する。受講生には、一定量の英文の訳出と内容の歴史的背景の説明を求め、それを受けて教員が解説する。なお、受講生の人数やテキストの内容を考慮して、グループ発表の形式を採用する場合がある。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

毎回の授業時に、次回に読み進める範囲を指定するので、予習として必ず日本語訳を作成してくること。テキストに関連する歴史的背景も必ず調べておくこと。予習に際しては、前回の授業内容を踏まえる必要があるため、復習が不可欠である。授業時に2度実施する小テストについては、翌週に結果とあわせて返却し適切な訳を確認する。

内　　容

第1回　ガイダンス(授業の進め方・成績評価方法の説明)、テキストの配付、テキストの概要説明
第2回　テキストの講読①
第3回　テキストの講読②
第4回　テキストの講読③
第5回　テキストの講読④
第6回　テキストの講読⑤
第7回　小テスト①
第8回　テキストの講読⑥
第9回　テキストの講読⑦
第10回　テキストの講読⑧
第11回　テキストの講読⑨
第12回　テキストの講読⑩
第13回　テキストの講読⑪
第14回　小テスト②
第15回　授業全体のまとめ

履修上の注意点

この授業では3分の2以上の出席が原則である。授業時の読解では毎回担当者を無作為に指名するが、予習が不十分である場合は欠席扱いとするので注意すること。授業時の携帯電話の使用や無断での途中退室に対しては厳格に対処する。
歴史的事実を踏まえた正確な訳文作成のためには、英和辞典だけでなく、歴史事典や概説書など歴史学の参考書の使用が不可欠である。

教科書

授業時に配付する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

人文学への接近法―西洋史を学ぶ―
著者:　服部良久他編
出版社:　京都大学学術出版会
出版年:　2010　　ISBN:　9784876989485

a10302h010

角川世界史辞典
著者: 西川正雄他編
出版社: 角川書店
出版年: 2001 ISBN: 9784040321004

世界の歴史22 近代ヨーロッパの情熱と苦悩
著者: 谷川稔他
出版社: 中央公論社
出版年: 1999 ISBN: 9784124034226

世界の歴史26 世界大戦と現代文化の開幕
著者: 木村靖二他
出版社: 中央公論社
出版年: 1997 ISBN: 9784124034264

世界の歴史28 第二次世界大戦から米ソ対立へ
著者: 油井大三郎, 古田元夫
出版社: 中央公論社
出版年: 1998 ISBN: 9784124034288

成績評価

試験・レポート（ 20 ）
小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 15 ）
授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 15 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**外書研究d <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鷲田　睦朗	

テーマ

英訳されたローマ史史料・注釈の読解

授業の到達目標

史料集（参考書1）に所収された英訳古典史料とその注釈（比較的短いものが多い）の読解を通じて、当時の社会状況の一端に触れること。

授業の概要

学生に英文和訳を事前に作成して貰い、それに基づいて訳文の検討を行う。必要に応じて、当該時期の状況説明を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英文和訳の作成、講義時間中の検討を踏まえての訳文の修正。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　史料翻訳の検討
第3回　史料翻訳の検討
第4回　史料翻訳の検討
第5回　史料翻訳の検討
第6回　史料翻訳の検討
第7回　史料翻訳の検討
第8回　史料翻訳の検討
第9回　史料翻訳の検討
第10回　史料翻訳の検討
第11回　史料翻訳の検討
第12回　史料翻訳の検討
第13回　史料翻訳の検討
第14回　史料翻訳の検討
第15回　総括

履修上の注意点

参考書3などを読んで、共和政期ローマについての基本的な事項を事前に把握しておくことが望ましい。

教科書

参考書

Rome and the Greek East to the Death of Augustus
著者：　Sherk, Robert K
出版社：　Cambridge UP
出版年：　1984　　ISBN：　9780521271233

西洋古代史料集　第2版
著者：　古山正人　他　編訳
出版社：　東京大学出版会
出版年：　2002　　ISBN：　978-413022018-7

古代ローマを知る事典
著者：　長谷川岳男、樋脇博敏
出版社：　東京堂出版
出版年：　2004　　ISBN：　978-4490106480

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ 40 ）

a10302h150

参加度 （ 20 ）

事前に作成された英文和訳と講義内での検討への参加が平常点。学期末に各自で訂正した和訳の完成版をレポートとして提出。

2018 Syllabus

科 目 名　**外書研究d <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森本　慶太	

テーマ

歴史学に関する英語文献の講読

授業の到達目標

(1)西洋近現代史に関する基本的知識を習得できる。
(2)英語で歴史に関する研究文献を読解でき、そこで得られた情報を要約できる。
(3)歴史学の方法にしたがい、文献や史料を解釈・論評できる。

授業の概要

欧米の近現代史を扱ったイギリスの歴史教科書(Collins Key Stage 3 History)を講読する。テキストは事前にコピーを配付する。授業では受講生全員が予習していることを前提に、訳出の担当者を無作為に指名する。受講生には、一定量の英文の訳出と内容の歴史的背景の説明を求め、それを受けて教員が解説する。なお、授業の進め方については、受講生の人数やテキストの内容を考慮して、個人あるいはグループによる章・節ごとの発表を課す場合もある。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

毎回の授業時に、次回に読み進める範囲を指定するので、予習として必ず日本語訳を作成してくること。テキストに関連する歴史的背景も必ず調べておくこと。予習に際しては、前回の授業内容を踏まえる必要があるため、復習が不可欠である。授業時に2度実施する小テストについては、翌週に結果とあわせて返却し適切な訳を確認する。

内　　容

第1回　ガイダンス(授業の進め方・成績評価方法の説明)、テキストの配付、テキストの概要説明
第2回　テキストの講読①
第3回　テキストの講読②
第4回　テキストの講読③
第5回　テキストの講読④
第6回　テキストの講読⑤
第7回　小テスト①
第8回　テキストの講読⑥
第9回　テキストの講読⑦
第10回　テキストの講読⑧
第11回　テキストの講読⑨
第12回　テキストの講読⑩
第13回　テキストの講読⑪
第14回　小テスト②
第15回　授業全体のまとめ

履修上の注意点

この授業では3分の2以上の出席が原則である。授業時の読解では毎回担当者を無作為に指名するが、予習が不十分である場合は欠席扱いとするので注意すること。授業時の携帯電話の使用や無断での途中退室に対しては厳格に対処する。
歴史的事実を踏まえた正確な訳文作成のためには、英和辞典だけでなく、歴史事典や概説書など歴史学の参考書の使用が不可欠である。

教科書

授業時に配付する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

人文学への接近法―西洋史を学ぶ―
著者:　服部良久他編
出版社:　京都大学学術出版会
出版年:　2010　　ISBN:　9784876989485

a10302h152

角川世界史辞典
著者: 西川正雄他編
出版社: 角川書店
出版年: 2001 ISBN: 9784040321004

世界の歴史22 近代ヨーロッパの情熱と苦悩
著者: 谷川稔他
出版社: 中央公論社
出版年: 1999 ISBN: 9784124034226

世界の歴史26 世界大戦と現代文化の開幕
著者: 木村靖二他
出版社: 中央公論社
出版年: 1997 ISBN: 9784124034264

世界の歴史28 第二次世界大戦から米ソ対立へ
著者: 油井大三郎, 古田
出版社: 中央公論社
出版年: 1998 ISBN: 9784124034288

成績評価

試験・レポート（ 20 ）
小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 15 ）
授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 15 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**文化交流史特講Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鷲田　睦朗	

テーマ

ワインを通じて見るヨーロッパ文化史

授業の到達目標

ワインを通じて、それが深く結びついている文化についての知見を、ヨーロッパ文化を中心に深めることを目標とする。具体的なモノから見ることで、異文化社会を理解するためのハードルが下がることを期待している。また、考古学、社会学などの関連諸学からの知見の取り入れなどについても理解を深めることが期待される

授業の概要

毎回、プリントを配布して、それに即して講義を実施します

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

配布プリントの確認

内　　容

第1回　ワインを歴史学的に扱う意義
第2回　ワインの誕生と地中海世界への伝播
第3回　ラティフンディウム再考
第4回　イタリア半島におけるワインの受容
第5回　イタリア産地ワインの誕生
第6回　ワインに酔いしれるローマ
第7回　ローマ帝国を超えるワイン
第8回　ローマとオスティア
第9回　中世フランスにおけるワイン
第10回　中世におけるワイン――イスラム世界、ドイツ、イングランド――
第11回　「科学の世紀」におけるワインの変革
第12回　「新世界」のワイン
第13回　グローバル社会におけるワイン
第14回　総括、理解度の確認
第15回　講評

履修上の注意点

毎回配布するプリントについては、原則的に再配布を行わないので、何らかの都合で欠席する場合には、各自で確保しておくこと。

教科書

最新世界史図説タペストリー十六訂版
著者:　川北稔・桃木至朗編
出版社:　帝国書院
出版年:　2018　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（ 70 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（　）
参加度（ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**20世紀の日本と世界**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　永井　和	

テーマ

日本近現代史概説

授業の到達目標

この科目を受講し，学修目的を達成したとしても，とくに観察可能な具体的能力が身につくわけではない。ただ，現在の人類社会や日本社会が，どのような時間的な変遷をへて今にいたっているのか，巨視的な視点で眺めることができる，あるいはそのような視点が存在しうることを知るだけでも，大きな意義があると考える。　さらにいえば，現代世界は多様であり，多元的であるが，同時に強い相互依存関係におかれており，同じひとつの世界を共有し，それゆえ同じひとつの歴史を共有する存在でもあることを認識できれば，さいわいである。

授業の概要

「現代史は世界史である」との学問的理念のもとに，日本の近現代の歴史を「世界史としての日本近現代史」という観点から概観する。この授業では，19世紀末から1945年の日本の敗戦までの日本の歩みを東アジアの国際関係の変容との相関関係の中であとづける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習の必要はないが、授業後にノートを整理しておくことが望ましい。授業では、毎回POWERPOINTのスライドを使用して講義する。使用したスライドは授業後にKT-NOTEにアップロードしておくので、各自がダウンロードして復習に活用してほしい。2回実施する小テストについては、テスト実施後に正解を示すなど、適宜フィードバックをおこなう。

内　　容

第1回　世界構造転換の時代としての近代
第2回　東アジアにおける近代帝国主義体制の成立
第3回　近代世界の内部秩序としての近代帝国主義体制
第4回　近代帝国主義体制の構造的特徴
第5回　宗主国と植民地
第6回　帝国日本の形成
第7回　帝国日本の植民地統治・小テスト
第8回　第1次世界大戦と東アジア
第9回　第1次世界大戦後の4つの反作用
第10回　二つの対外路線
第11回　満州事変・華北分離工作
第12回　日中全面戦争
第13回　日独伊三国同盟と南進政策
第14回　アジア太平洋戦争
第15回　ポツダム宣言受諾と日本占領・小テスト

履修上の注意点

教育実習やインターンシップや企業面接等で欠席する場合は、必ず欠席届を提出してください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

大正デモクラシー・岩波新書シリーズ日本近現代史4
著者:　成田龍一
出版社:　岩波書店
出版年:　2007年　　ISBN:　4004310458

満州事変から日中戦争へ・岩波新書シリーズ日本近現代史5
著者:　加藤陽子
出版社:　岩波書店
出版年:　2007年　　ISBN:　4004310466

a10302h610

アジア・太平洋戦争・岩波新書シリーズ日本近現代史6

著者: 吉田裕

出版社: 岩波書店

出版年: 2007年　　ISBN: 4004310474

占領と改革・岩波新書シリーズ日本近現代史7

著者: 雨宮昭一

出版社: 岩波書店

出版年: 2008年　　ISBN: 4004310482

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 70 ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 30 ）

授業の途中で小テストを2回おこなう。成績評価に大きなウェイトを占めるので、必ず受験するように。

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史地理学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山村　亜希	

テーマ

都市の歴史地理―城下町と京都を中心に―

授業の到達目標

地域における過去の景観を地図上に復原し、その形成・変遷プロセスを考察する歴史地理学の視点・方法を身につける。

授業の概要

現代日本における都市空間は、どのようにして形成され、いかなる地域的特性があるのか。多くの現代都市がそのルーツとする城下町と、長きにわたって首都であった京都を事例として、その空間構造の原型がいかなるもので、どのように変化して現代に至ったのかを地図に即して考察する。なお、京都を対象とする場合は、京都の全体像を捉えるときもあれば、京都を構成する小地域（山科盆地、四条河原町、下京、岡崎など）を取り上げる回もある。
このように本講義では、「歴史と地理が現代都市を作る」様を地図上に「見える」化し、それを論理的に言語化する、歴史地理学の視点と方法を解説する。多様な地形図・古地図の読図や着色作業を、受講生各自が行いながら進めるので、毎回、地図に向き合って受講することになる。
歴史地理学の方法の一つに巡検による景観観察がある。講義では、山科盆地の歴史地理を取り上げ、読図と作図による事前の準備を経た後、授業時間内で大学周辺の巡検（フィールドワーク）を行うことも予定している。巡検後に景観写真を含めて、それをまとめた巡検記録（小レポート）を作成し、提出する。
授業の最後に、内容に関連した歴史地理学的な問を提示し、回答を求めることがある（コメントペーパー）。その場合は、その次の回で問についての解説を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習・復習：授業で紹介する参考文献を読み、授業中に終了しなかった読図・着色作業を行うことで、授業内容を自分なりにまとめておく（1～2時間程度）。
フィードバック：コメントペーパーを回収したときは、その次の回で解説を行う。レポートについては、最終の授業において、各自の設定テーマについて相談に応じる。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　今に生きる名古屋城下町（1）：地形と城の立地
第3回　今に生きる名古屋城下町（2）：町人地と近代化
第4回　山科盆地の歴史地理（1）：読図・作図
第5回　山科盆地の歴史地理（2）：巡検（学外のフィールドワーク）
第6回　火山と共生する城下町・島原（1）：災害と城下町
第7回　火山と共生する城下町・島原（2）：城と港
第8回　長良川と2つの城下町・岐阜（1）：信長の戦国城下町
第9回　長良川と2つの城下町・岐阜（2）：水運と近代化
第10回　消えた平安京、生き残る平安京
第11回　城下町になった平安京
第12回　下京の町と辻子・突抜
第13回　場末から繁華街へ－東京極が四条河原町になるまで－
第14回　古都の近代化と岡崎の景観形成
第15回　総括・フィードバック

履修上の注意点

毎回プリントを配布する。複数回で連続で使用する場合もあるので、前回分も持参する。授業中に地図や図表に着色するなどの作業を行うので、色鉛筆・マーカー（赤・青・黄色・緑の4色）や色ペン複数色を持参する。中学・高校で使用した地図帳を持参するのが良い。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**現代史研究 I**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　永井　和	

テーマ

エリック・ホブズボームの『20世紀の歴史—極端な時代』を読む

授業の到達目標

すぐれた現代史家のかいた、広いパースペクティブを有する20世紀史を読むことで、20世紀がどのような時代であったのかを理解する。

授業の概要

授業では、イギリスの歴史家エリック・ホブズボーム（Eric J.E. Hobsbawm）の古典的名著『20世紀の歴史—極端な時代』（三省堂, 1996年） Age of Extremes: The Short Twentieth Century,1914−1991, (Michael Joseph, 1994)
を輪読する。
原著は三部構成で19章からなる、半年ですべてを読むのはむずかしいので、第二次世界大戦後からソ連の崩壊までを扱った第2部（第8～13章）と第3部（第14～19章）を読む。
受講者は、上記のテキストの1章分を割り当てられる。担当部分につきテキストを読み、わからない事項を調査したうえで、授業時に発表する。
　報告にあたっては、レジュメを作成・配布した上で、内容を要約し、さらに著者の歴史認識を明確にする。また、それをふまえたうえで、討論すべき問題を提起する。その報告および問題提起について出席者全員で討論をおこなう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

輪読するテキストは、教員がコピーを作成して配布する。授業の前に受講者は必ず事前にテキストを熟読しておくこと。報告者は、割り当てられた部分につきテキストを熟読し、わからない事項を調査したうえで、その内容を要約し、さらに著者の主張を要領よくまとめる。また、授業で提起すべき討論課題を考えるなど、周到な準備が必要とされる。期末の課題レポートは、添削のうえ、簡単なコメントとつけて返却する。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　読み進めるにあたって、「短い20世紀」という捉え方
第3回　第8章　冷戦
第4回　第9章　黄金の歳月
第5回　第10章　社会革命1945－90年
第6回　第11章　文化革命
第7回　第12章　第三世界
第8回　第13章　現実的社会主義
第9回　第14章　危機の時代
第10回　第15章　第三世界と革命
第11回　第16章　社会主義の終わり
第12回　第17章　アバンギャルド死す—1950年代以降の芸術
第13回　第18章　魔術師と師弟たち
第14回　第19章　次の千年に向かって
第15回　20世紀後半の現代史はどのような時代だったのか

履修上の注意点

この授業は、発表を中心とする演習なので、主体的な参加が求められる。就職活動などで、やむをえず欠席をせざるを得ない時には、必ず事前に連絡し、かつ所定の欠席届を提出すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

20世紀の歴史—極端な時代』上巻
著者:　エリック・ホブズボーム
出版社:　三省堂
出版年:　1996年　　ISBN:　978438535677-8

a10302h810

20世紀の歴史―極端な時代』下巻

著者： エリック・ホブズボーム

出版社： 三省堂

出版年： 1996年　　ISBN： 978438535678-5

Age of Extremes: The Short Twentieth Century,1914-1991

著者： Eric J.E. Hobsbawm

出版社： Michael Joseph

出版年： 1994年　　ISBN： 9780718133078

成績評価

試験・レポート （ 30 ）　　小テスト （ ）

授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ 40 ）

参加度 （ 30 ）

学期末にレポートの提出を求める。

2018 Syllabus

科 目 名　**女性史研究Ⅰ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松浦　京子.増渕　徹	

テーマ

多様な国と地域の女性史の比較研究

授業の到達目標

卒業論文のテーマを決めるための先行研究の読解ができる能力を身につけることをめざす。女性史をテーマとしている学生を、日本史、東アジア史、西洋史の区別なく一堂に集めて、それぞれの課題、手法を互いに吟味し切磋琢磨することを通して、女性史としての卒業論文を執筆することをめざす。

授業の概要

地域、国によって女性史研究の進展の度合いはさまざまであり、また課題として据えられる事象も、またそれへのアプローチ法も異なっている。こうしたことを各ゼミ生の発表を通して理解することは、自らの女性史研究に役立つはずである。授業の前半では、担当の松浦、高久による研究史の講義を行い、西洋、日本における女性史研究の動向や基本的枠組みについての理解を深めることをめざす。その後に、各自が研究報告を、最低でも当該学期で1回行う。また、その後の質疑応答と討論にも積極的に参加することによって、研究課題に関する理解に一層の増進をはかりたい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各自、それぞれのテーマ、課題にそって、文献収集と精読、分析、考察に努めること。

内　容

第1回　（講義）女性史特別演習とは
第2回　4回生と合同の卒業論文中間報告会
第3回　増渕、松浦による女性史の研究動向に関する講義（1）
第4回　増渕、松浦による女性史の研究動向に関する講義（2）
第5回　増渕、松浦による女性史の研究動向に関する講義（3）
第6回　増渕、松浦による女性史の研究動向に関する講義（4）
第7回　ゼミ生各自報告1―①
第8回　ゼミ生各自報告1―②
第9回　ゼミ生各自報告1―③
第10回　ゼミ生各自報告1―④
第11回　ゼミ生各自報告1―⑤
第12回　ゼミ生各自報告1―⑥
第13回　ゼミ生各自報告1―⑦
第14回　ゼミ生各自報告1―⑧
第15回　増渕、松浦による講義と総括

履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に厳禁、止むを得ない場合は事前連絡を。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜指示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 0% ）　　授業中発表等（ 50% ）
参加度（ 50% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**古文書学C(近世)**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　牧　知宏	

テーマ

上級・中級の古文書

授業の到達目標

日本近世の古文書に書かれたくずし字を読み解く能力を高めることを目的とします。

授業の概要

古文書学A・Bを履修した者で、古文書を読むことが好きな学生や大学院進学を目指す学生を対象に、特に日本近世の古文書に書かれたくずし字に慣れ親しむために、様々な型式・内容の古文書(コピーを配布)を読み進めていきます。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

古文書のくずし字や文体に慣れるためには、予習と復習を行うことが必要です。また、できるだけ多くの古文書を読むことが大切です。博物館や美術館などへも積極的に足を運び、古文書の実物に慣れ親しんで下さい。

内　容

第1回　日本近世の古文書を読み解くコツ
第2回　近世の古文書(武家に関する文書)を読む1
第3回　近世の古文書(武家に関する文書)を読む2
第4回　近世の古文書(武家に関する文書)を読む3
第5回　近世の古文書(公家に関する文書)を読む1
第6回　近世の古文書(公家に関する文書)を読む2
第7回　近世の古文書(寺社に関する文書)を読む1
第8回　近世の古文書(寺社に関する文書)を読む2
第9回　近世の古文書(村に関する文書)を読む1
第10回　近世の古文書(村に関する文書)を読む2
第11回　近世の古文書(村に関する文書)を読む3
第12回　近世の古文書(町に関する文書)を読む1
第13回　近世の古文書(町に関する文書)を読む2
第14回　近世の古文書(町に関する文書)を読む3
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

なし、適宜配布します。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

くずし字用例辞典
著者:　児玉幸多編
出版社:　東京堂出版
出版年:　1993　　ISBN:

成績評価

試験・レポート (40)	小テスト (15)
授業中課題 ( )	授業中発表等 (20)
参加度 (25)	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅰ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　増渕　徹	

テーマ

日本古代史研究Ⅰ

授業の到達目標

古代史を研究する上で基本的な史料の読解や研究方法を修得し、次年度の卒業研究に必要な能力の向上を目的とする。講読(古代史)とは異なる史料(主に『日本紀略』)を扱い、徹底的に史料を読むなかで、史料から課題を析出し時代像を構成していくための基礎的な力量の向上を図ることに主眼を置く。

授業の概要

参加者各自に史料を割り当て、その読解レポートの報告を軸に授業を進める。参考文献はその中で適宜紹介する。なお、古代の遺跡や研究機関への見学(1回)、歴史学に関する講演会等(1回)を行う。夏休みには遺跡見学旅行を実施する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

古代史に関する知識の量的拡充が何より重要であり、そのために可能な限りの多読を勧める。活字に親しもうとする意欲に欠くところのある学生は望まない。

内　容

第1回　歴史学としての古代史研究の目的・方法・研究倫理、及び授業の進め方
第2回　図書館の活用及び論文検索の方法。レポート報告に至る手順と方法
第3回　事例としての史料読解
第4回　文化遺産見学(学外授業)
第5回　個別発表(1)
第6回　個別発表(2)
第7回　個別発表(3)
第8回　個別発表(4)
第9回　個別発表(5)
第10回　個別発表(6)
第11回　個別発表(7)
第12回　個別発表(8)
第13回　個別発表(9)
第14回　個別発表(10)
第15回　後期演習への取り組みに関する指導。※なお、この授業では必要に応じて第4回以外にも学外授業を行い、講演会を企画することもある。

履修上の注意点

史料は漢文体であるので、自主的な学習会によって読解練習をしなければ追いつけない。

教科書

国史大系『日本紀略』(該当部分)
著者:
出版社: 吉川弘文館
出版年:　　ISBN:

参考書

『平安京の時代』(日本古代の歴史)
著者:　佐々木恵介
出版社: 吉川弘文館
出版年: 2013　　ISBN:

『摂関政治』(岩波新書)
著者:　古瀬奈津子
出版社: 岩波書店
出版年: 2011　　ISBN:

a10303a110

『摂関政治と王朝文化』(日本の時代史)

著者: 加藤友康(編)

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2002 ISBN:

摂関政治と地方社会』(日本古代の歴史5)

著者: 坂上康俊

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2015 ISBN:

成績評価

試験・レポート (0) 小テスト (0)

授業中課題 (70) 授業中発表等 (10)

参加度 (20)

充実したレポートの作成と報告ができるかどうかに最重点をおいて評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅰ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　野田　泰三	

テーマ

日本中世史の諸相

授業の到達目標

・日本中世史に関する基礎的な知識を有している
・関心のあるテーマに関する先行研究を把握し、研究動向や水準を理解している
・必要な史料を収集し、読解することができる

授業の概要

日本中世史に関わる史料・研究論文の講読や受講生による研究報告・討論を行う。 日本史学が対象とするテーマは、近年、飛躍的に拡大している。政治過程を分析する政治史、荘園や村落・土地制度のあり方などを扱う社会経済史をはじめ、文化史、社会史など研究領域は多様化しており、分析素材も、古文書・古記録を中心に、絵画資料、考古資料、文学作品など様々なものを利用するようになっている。
3回生はまず各自の問題関心にしたがって先行研究や史料を収集・検討し、自分の研究テーマを見つけて欲しい。
一方で、個別テーマの殻に閉じこもることなく、中世史研究の動向に広く目を向けて欲しい。中世社会の様相を理解することなく個別テーマを論じても意味がない。
なお、必要に応じて学外見学や講演会を実施することがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日本史・日本中世史に関する論文をどん欲に読むと同時に、史料の読解にも取り組むこと。また折に触れて現地見学や展覧会見学に出掛けて欲しい。

内　容

第1回　ガイダンス：授業の進め方－研究倫理について
第2回　受講生による発表と討論（1）
第3回　受講生による発表と討論（2）
第4回　受講生による発表と討論（3）
第5回　受講生による発表と討論（4）
第6回　受講生による発表と討論（5）
第7回　受講生による発表と討論（6）
第8回　受講生による発表と討論（7）
第9回　受講生による発表と討論（8）
第10回　受講生による発表と討論（9）
第11回　受講生による発表と討論（10）
第12回　受講生による発表と討論（11）
第13回　受講生による発表と討論（12）
第14回　受講生による発表と討論（13）
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

・報告にあたっては時間を十分に使って徹底的に調べること。
・全回参加を原則とする。遅刻2回で欠席1回とみなし、欠席4回以上の場合は成績評価の対象としない。また報告を無断で放棄した場合も成績評価の対象としない。

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

授業時に適宜指示する

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

成績評価

a10303a112

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ 50 ）
・自身の報告のみならず、他の受講生の報告の際にも積極的に発言することを求める。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅰ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　尾下　成敏	

テーマ

日本近世史研究の諸問題

授業の到達目標

研究するさいの基本的な技術や姿勢について理解を深める。

授業の概要

近世史の研究をになう研究者の著作を読み、16世紀後半から19世紀前半までの政治・社会に関する理解を深め、それにより、卒業論文のテーマを見つけることを目指す。また夏休みには、卒論作成と関わりそうな研究書・論文を熟読し、400字詰原稿用紙で19枚程度のレポートを作成してもらうことにする。なお、この授業では、学外の資料館・博物館を見学することがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読み、歴史学に関する知識を増やすこと。

内　容

第1回　研究倫理についての説明、ガイダンス
第2回　ガイダンス
第3回　近世史の研究に関わる研究者の著作を読む、その1
第4回　近世史の研究に関わる研究者の著作を読む、その2
第5回　近世史の研究に関わる研究者の著作を読む、その3
第6回　近世史の研究に関わる研究者の著作を読む、その4
第7回　近世史の研究に関わる研究者の著作を読む、その5
第8回　近世史の研究に関わる研究者の著作を読む、その6
第9回　近世史の研究に関わる研究者の著作を読む、その7
第10回　近世史の研究に関わる研究者の著作を読む、その8
第11回　近世史の研究に関わる研究者の著作を読む、その9
第12回　近世史の研究に関わる研究者の著作を読む、その10
第13回　近世史の研究に関わる研究者の著作を読む、その11
第14回　近世史の研究に関わる研究者の著作を読む、その12
第15回　まとめ、レポート作成に関するアドバイス

履修上の注意点

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

教科書

倉地克直
著者:　江戸の災害史
出版社: 中央公論新社
出版年: 2016年　　ISBN:

参考書

日本の時代史（13巻～19巻）
著者:
出版社: 吉川弘文館
出版年: 2003年　　ISBN:

全集日本の歴史（9巻～12巻・別巻）
著者:
出版社: 小学館
出版年: 2008年・2009年　　ISBN:

a10303a113

日本の歴史（14巻～19巻）

著者：

出版社： 講談社学術文庫

出版年： 2009年・2010年　　ISBN：

日本近世の歴史（全6巻）

著者：

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2011年～2013年　　ISBN：

シリーズ日本近世史（全5巻）

著者：

出版社： 岩波書店

出版年： 2015年　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 20 ）

授業中課題（ 35 ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 15 ）

1　欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい／2　提出した課題については、希望すれば講評する

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅰ〈＊d〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　後藤　敦史	

テーマ

近世・近代移行期の日本史研究

授業の到達目標

研究をおこなうために必要な方法、技術、姿勢を修得し、また理解を深める。

授業の概要

日本の近世後期から近代初期（18～19世紀に相当）にかけてのさまざまな文献（学術論文）を読み、歴史研究に必要な知識、理解、技術等の修得をめざす。受講生は担当した学術論文の要約をおこなうとともに、自身で調べた内容について報告をおこなう。夏休みには、卒業論文研究を意識し、関心のあるテーマについてのレポート作成を課する。なお、学修の状況に応じて、学外授業をおこなうこともある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日本史に関する広い知識・理解が、自分の研究の可能性も広げていく。日頃から、概説書や新書、さらに専門書まで、幅広い読書を心がけてほしい。

内　容

第1回　研究倫理についての説明、ガイダンス（演習の進め方その1）
第2回　ガイダンス（演習の進め方その2）
第3回　学術論文に慣れるために　その1
第4回　学術論文に慣れるために　その2
第5回　学術論文に慣れるために　その3
第6回　学生による発表　その1
第7回　学生による発表　その2
第8回　学生による発表　その3
第9回　学生による発表　その4
第10回　学生による発表　その5
第11回　学生による発表　その6
第12回　学生による発表　その7
第13回　学生による発表　その8
第14回　まとめ　卒論の構想に向けて　その1
第15回　まとめ　卒論の構想に向けて　その2

履修上の注意点

無遅刻・無欠席が大前提。遅刻や欠席の場合は、事前に連絡（メールで可）をすること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本近世の歴史　開国前夜の世界
著者:　横山伊徳
出版社:　吉川弘文館
出版年:　2013年　　ISBN:

日本近世の歴史　明治維新
著者:　青山忠正
出版社:　吉川弘文館
出版年:　2012年　　ISBN:

a10303a114

シリーズ日本近世史　天下泰平の時代
著者:　高埜利彦
出版社: 岩波書店
出版年: 2015年　ISBN:

シリーズ日本近世史　幕末から維新へ
著者:　藤田覚
出版社: 岩波書店
出版年: 2015年　ISBN:

日本近代の歴史　維新と開化
著者:　奥田晴樹
出版社: 吉川弘文館
出版年: 2016年　ISBN:

日本近代の歴史 「主権国家」成立の内と外
著者:　大日方純夫
出版社: 吉川弘文館
出版年: 2016年　ISBN:

日本近代の歴史　日清・日露戦争と帝国日本
著者:　飯塚一幸
出版社: 吉川弘文館
出版年: 2016年　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 30 ）　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅰ〈＊e〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　永井　和	

テーマ

日本現代史に関する論文講読

授業の到達目標

卒業論文の執筆を視野にいれて、その準備の一段階として、専門の学術論文を読み、学術論文とはどのようなものかを知る。それによって、学術論文である卒論執筆のためには、必要な論文作法というものが存在することを学ぶ。さらに最近の研究動向および研究成果がどのようなものであるか、その一端を知るよすがとする。

授業の概要

最近刊行された岩波講座日本歴史の近現代編に収録されている諸論文を輪読する。分担を決め、課題論文について報告を行い、それを踏まえて、テキストや報告内容について質疑応答および討論をおこなう。
　なお、臨時のガイダンスや講演や学外活動などにより、授業の計画が変更されることがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

課題テキストは全員が事前に読んでおくこと。報告する場合は、割り当てられた分担論文について内容紹介と評価をおこなう。事前に用語等を調べ、疑問点を洗い出しておくこと。報告はレジュメを作成しておこなう。
報告の際に、教員からその内容、発表の方法について、適宜アドバイスをおこなう。報告は各自2～3回行うので、前回報告に対するコメントを参考にして、その都度よりよい報告ができるように準備をすること。なお、期末のレポートは添削のうえ、コメントを付けて返却する。

内　容

第1回　ガイダンス(研究とは何か、研究の方法、研究の倫理・こころがまえ)
第2回　報告①
第3回　報告②
第4回　報告③
第5回　報告④
第6回　報告⑤
第7回　報告⑥
第8回　報告⑦
第9回　報告⑧
第10回　報告⑨
第11回　報告⑩
第12回　報告⑪
第13回　報告⑫
第14回　報告⑬
第15回　報告⑭

履修上の注意点

この授業は、発表を中心とする演習なので、主体的な参加が求められる。就職活動などで、やむをえず欠席をせざるを得ない時には、必ず事前に連絡し、かつ所定の欠席届を提出すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

岩波講座日本歴史第19巻 近現代5
著者:
出版社: 岩波書店
出版年: 2015　　ISBN: 4000113399

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 40 ）

a10303a115

参加度 （ 30 ）

期末に担当した論文についてレポートをまとめて提出すること。演習なので、何よりも授業時の発表その準備状況および授業への参加度が評価の中心となる。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅱ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　増渕　徹	

テーマ

日本古代史研究Ⅱ

授業の到達目標

演習Ⅰに続き、日本古代史を研究する上での史料読解・研究方法の習得と、そのための力量向上を目指す。演習Ⅰでの到達度をみながらではあるが、まずは平安期の日記史料の読解に進み、広く時代を研究するために多様な史料に対応できる能力の獲得を目指す。

授業の概要

前期に続き、参加者各人に課題を割り当て、それに関する報告レポートを軸に授業を進行させる。なお、歴史学に関する講演（1回）、文化遺産あるいは研究施設の見学（1回）を予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

自分の興味のある分野に関連する論文や著作を多数読むこと。

内　容

第1回　テキストの配布と授業進行方法の説明
第2回　後期における史料とレポート作成の手順・方法、及び研究倫理に対する指導
第3回　文化遺産見学（学外授業）
第4回　個別発表（1）
第5回　個別発表（2）
第6回　個別発表（3）
第7回　個別発表（4）
第8回　個別発表（5）
第9回　個別発表（6）
第10回　個別発表（7）
第11回　個別発表（8）
第12回　個別発表（9）
第13回　個別発表（10）
第14回　個別発表（11）
第15回　卒業研究に向けての指導（まとめ）

履修上の注意点

テキストは基本的に漢文体であるので、自主的に学習会などを開いて読解練習をすることを勧める。

教科書

該当部分を印刷して配布する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（0）　　小テスト（0）
授業中課題（70）　　授業中発表等（10）
参加度（20）
適切な方法により充実したレポートが作成されているかに最重点をおいて評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅱ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　野田　泰三	

テーマ

日本中世史の諸相

授業の到達目標

・日本中世史に関する基礎的な知識を有している
・関心のあるテーマに関する先行研究を把握し、研究動向や水準を理解している
・必要な史料を収集し、読解することができる

授業の概要

日本中世史に関わる史料・研究論文の講読や受講生による研究報告・討論を行う。
日本史学が対象とするテーマは、近年、飛躍的に拡大している。政治過程を分析する政治史、荘園や村落・土地制度のあり方などを扱う社会経済史をはじめ、文化史、社会史など研究領域は多様化しており、分析素材も、古文書・古記録を中心に、絵画資料、考古資料、文学作品など様々なものを利用するようになっている。
3回生はまず各自の問題関心にしたがって先行研究や史料を収集・検討し、自分の研究テーマを見つけて欲しい。一方で、個別テーマの殻に閉じこもることなく、中世史研究の動向に広く目を向けて欲しい。中世社会の様相を理解することなく個別テーマを論じても意味がない。
なお、必要に応じて学外見学や講演会を実施することがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日本史・日本中世史に関する論文をどん欲に読むと同時に、史料の読解にも取り組むこと。また折に触れて現地見学や展覧会見学に出掛けて欲しい。

内　容

第1回　ガイダンス：授業の進め方
第2回　受講生による発表と討論（1）
第3回　受講生による発表と討論（2）
第4回　受講生による発表と討論（3）
第5回　受講生による発表と討論（4）
第6回　受講生による発表と討論（5）
第7回　受講生による発表と討論（6）
第8回　受講生による発表と討論（7）
第9回　受講生による発表と討論（8）
第10回　受講生による発表と討論（9）
第11回　受講生による発表と討論（10）
第12回　受講生による発表と討論（11）
第13回　受講生による発表と討論（12）
第14回　受講生による発表と討論（13）
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

・報告にあたっては時間を十分に使って徹底的に調べること。
・全回参加を原則とする。遅刻2回で欠席1回とみなし、欠席4回以上の場合は成績評価の対象としない。また報告を無断で放棄した場合も成績評価の対象としない。

教科書

使用しない

著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

授業時に適宜指示する

著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

a10303a252

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ 50 ）
・自身の報告のみならず、他の受講生の報告の際にも積極的に発言することを求める。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅱ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　尾下　成敏	

テーマ

日本近世史研究の諸問題

授業の到達目標

研究するさいの基本的な技術や姿勢について理解を深めるとともに、各自の卒業論文テーマの内容を深める。

授業の概要

まずは各自が各自の卒論構想を発表し、それをもとに討論を行う(夏休みに作成したレポートについては、この時に講評する)。そして、そこから自分なりの課題を引き出し、それを卒業論文の作成につなげて欲しいと思う(その際、1000字程度のレポートを作成すること)。つぎに論文を輪読し、論文の読み方や批判の仕方、史料の分析の仕方を会得して欲しいと思う。後期の最後には卒論に関わる史料(資料)を集めたデータベースを作成してもらう。なお、この授業では、学外の資料館・博物館を見学することがある。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読み、歴史学に関する知識を増やすこと。多くの史料(資料)を丁寧に読むこと。

内　容

第1回　ガイダンスなど
第2回　論文の輪読、その1
第3回　4回生の卒業論文中間発表会への参加
第4回　論文の輪読、その2
第5回　論文の輪読、その3
第6回　論文の輪読、その4
第7回　論文の輪読、その5
第8回　卒論構想の報告、その1
第9回　卒論構想の報告、その2
第10回　卒論構想の報告、その3
第11回　卒論構想の報告、その4
第12回　卒論構想の報告、その5
第13回　史料の分析の仕方、その1
第14回　史料の分析の仕方、その2
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 55 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 15 ）

1　欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい／2　提出した課題については、希望すれば講評する

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅱ <＊d>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　後藤　敦史	

テーマ

近世・近代移行期の日本史研究

授業の到達目標

研究に必要な方法、技術、姿勢の理解・修得をめざすとともに、各自の卒業論文の研究テーマを探求する。

授業の概要

卒業論文の研究テーマを探していくために、各自で、学術的興味・関心について報告をおこない、討論をおこなう。報告に際しては、その興味・関心にかかわる専門書を必ず読み、その専門書の内容要約と、自分自身で調査した内容にもとづいて発表をおこなう。学期末には、卒論の構想に関わるレポート作成、および卒業論文の研究テーマに必要な参考文献・史料のリスト（データベース）作成を課する。なお、学修の状況に応じて、学外授業をおこなうこともある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日本史に関する広い知識・理解が、自分の研究テーマの可能性も広げることになる。日頃から幅広い読書を心がけるとともに、研究に必要な文献の情報収集に努めること。

内　容

第1回　ガイダンス（演習の進め方）
第2回　ガイダンス（卒業論文の研究の基本的な方法について）
第3回　4年生の卒論中間発表会への参加
第4回　専門書に慣れるために　その1
第5回　専門書に慣れるために　その2
第6回　学生による発表　その1
第7回　学生による発表　その2
第8回　学生による発表　その3
第9回　学生による発表　その4
第10回　学生による発表　その5
第11回　学生による発表　その6
第12回　学生による発表　その7
第13回　学生による発表　その8
第14回　まとめ　具体的な卒論研究に向けて　その1
第15回　まとめ　具体的な卒論研究に向けて　その2

履修上の注意点

無遅刻・無欠席が大前提。遅刻や欠席の場合は、事前に連絡（メールで可）をすること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅱ〈＊e〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　永井　和	

テーマ

日本現代史に関する論文講読

授業の到達目標

卒業論文の執筆を視野にいれて、その準備を進める。前半は専門の学術論文を読み、学術論文とはどのようなものかを知る。学術論文である卒論執筆のために必要な論文作法を学ぶ。授業の後半では、参加者各自の卒業研究のテーマに関連する参考文献を読んで報告する。

授業の概要

授業前半で読むのは、最近刊行された岩波講座日本歴史の近現代編に収録されている諸論文を輪読する。分担を決め、課題論文について報告を行い、それを踏まえて、テキストや報告内容について質疑応答および討論をおこなう。
　後半では、各自の卒業研究テーマをしぼり、そのテーマに関連する参考文献を教員が紹介し、その文献を読んで、内容を紹介するとともに自分の卒業研究に参考になるのはどの点かを報告する。
　なお、臨時のガイダンスや講演や学外活動などにより、授業の計画が変更されることがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

前半で使用する課題テキストは全員が事前に読んでおくこと。また、後半の授業では指定された参考文献は必ず読了し、そのうえで報告すること。いずれの場合も、事前に用語等を調べ、疑問点を洗い出しておくこと。報告はレジュメを作成しておこなう。
　報告の際に、教員からその内容、発表の方法について、適宜アドバイスをおこなう。報告は各自2～3回行うので、前回報告に対するコメントを山行にして、その都度よりよい報告ができるように準備をすること。

内　容

第1回　ガイダンス(研究とは何か、研究の方法・こころがまえ)
第2回　報告①
第3回　報告②
第4回　報告③
第5回　報告④
第6回　卒業研究のテーマについて
第7回　報告⑤
第8回　報告⑥
第9回　報告⑦
第10回　報告⑧
第11回　卒業研究の中間報告①
第12回　卒業研究の中間報告②
第13回　卒業研究の中間報告③
第14回　卒業研究の中間報告④
第15回　卒業研究の中間報告⑤

履修上の注意点

この授業は、発表を中心とする演習なので、主体的な参加が求められる。就職活動などで、やむをえず欠席をせざるを得ない時には、必ず事前に連絡し、かつ所定の欠席届を提出すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

岩波講座日本歴史第19巻 近現代5
著者:
出版社: 岩波書店
出版年: 2015　　ISBN: 4000113399

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ ）

a10303a255

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 40 ）

参加度 （ 30 ）

期末に紹介した参考文献についてレポートをまとめて提出すること。演習なので、何よりも授業時の発表その準備状況および授業への参加度が評価の中心となる。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史講読Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　加藤　麻子	

テーマ

『続日本紀』を読む

授業の到達目標

①漢文史料の基本的な読解力（読み下し・現代語訳）を身につける
②史料の読解を通じて、自分なりの論点やテーマを見出すことができるようになる。
③関連する史料や先行研究の調査方法を身につける。

授業の概要

第1～2回の授業時に、受講生の担当史料を決め、史料の読解や関連史料の調べ方を説明します。
　第3回目に教員の模擬発表を通じて、レジュメの作成や発表方法についてレクチャーします。
　第4回目以降、実際に受講生に発表してもらいます。報告をもとに受講生全員で討論を行い、史料についての理解を深めます。
　自分の担当回だけではなく、毎回1回は発言することを心掛けてください。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

自分の担当日以外でも、毎回史料を読んでおくこと。
史料の読み下しは、担当者以外の人に行ってもらいます。

内　　容

第1回　ガイダンス①　史料の説明と工具書の紹介
第2回　ガイダンス②　漢文史料を実際に読んでみる、関連史料の調べ方
第3回　教員による模擬報告　レジュメの作成・報告の方法、授業の進め方
第4回　受講生による担当史料の報告と質疑応答
第5回　受講生による担当史料の報告と質疑応答
第6回　受講生による担当史料の報告と質疑応答
第7回　受講生による担当史料の報告と質疑応答
第8回　受講生による担当史料の報告と質疑応答
第9回　受講生による担当史料の報告と質疑応答
第10回　受講生による担当史料の報告と質疑応答
第11回　受講生による担当史料の報告と質疑応答
第12回　受講生による担当史料の報告と質疑応答
第13回　受講生による担当史料の報告と質疑応答
第14回　受講生による担当史料の報告と質疑応答
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

報告の担当者が、当日無断で欠席した場合には、単位認定はしません。
欠席が5回を超えた場合にも、単位認定はしません。

教科書

第1～2回目にコピーを配布します

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

漢和辞典を毎回必ず授業に持ってくること。高校の時に使用していたものがあれば、それでかまいません。新規購入を考えているならば、下の参考書に挙げた漢和辞典がおすすめです。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

新日本古典文学大系『続日本紀

著者:　青木和夫ほか編

出版社:　岩波書店

出版年:　　ISBN:

a10303a310

角川新字源　改訂新版

著者:　小川環樹、西田太一郎、赤塚忠

出版社: 角川書店

出版年:　　ISBN:　978-4046219664

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）

参加度 （ 50 ）

担当の報告内容だけでなく、各回の討論や質疑応答への参加状況も成績評価に含めます。
毎回、1回は発言できるように心掛けてください。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史講読Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野田　泰三	

テーマ

中世史料を読む

授業の到達目標

・漢文史料の読解ができるようになる。
・中世史料（古文書・古記録）の読解法・調べ方を習得する。

授業の概要

中世史研究上基本的な古文書・古記録を輪読する。
授業は受講生の報告をもとに進める。担当者は割り当てられた箇所について読み下し文を作成し、人名や地名・語句の意味等を調べたうえで、該当史料の内容や背景、論点等についてまとめ、発表する。
なお、必要に応じて学外見学を実施する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・報告担当者は十分に時間をかけて準備すること。国語辞典・漢和辞典や歴史辞典はもちろん、関連史料や先行研究なども調べること。
・報告担当者以外の受講生もあらかじめ史料を読んでおき、積極的に発言すること。

内　容

第1回　ガイダンス：授業の進め方、史料の調べ方、分担の決定
第2回　テキストに関する説明
第3回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第4回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第5回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第6回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第7回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第8回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第9回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第10回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第11回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第12回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第13回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第14回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

・全回出席を原則とする。遅刻2回を欠席1回とみなし、欠席4回以上の場合は成績評価の対象としない。
・報告を無断で放棄した場合は成績評価の対象としない。

教科書

プリントを配布する

著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

授業中に適宜指示する

著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（　）　　小テスト（　）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 30 ）
参加度：授業への取り組み姿勢や発表・質問の積極性などを総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史講読Ⅰ〈c〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾下　成敏	

テーマ

近世の和様漢文に馴れる

授業の到達目標

近世の和様漢文に馴れ、近世の政治・社会・文化について理解を深める。

授業の概要

江戸時代の文献史料、なかでも和様漢文で記された文献史料(「当代記」など)を読み進めることにする。受講生の義務は以下の通り、①史料の読み下し、②担当した逐語訳・事項解説の作成と報告。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

配布する漢文史料の予習・復習を怠らないこと。また博物館・美術館などへ足を運び、古文書や絵画史料などに慣れ親しんで欲しい。

内　容

第1回　ガイダンス・テキストに関する概説
第2回　テキストに関する概説
第3回　史料の講読、その1
第4回　史料の講読、その2
第5回　史料の講読、その3
第6回　史料の講読、その4
第7回　史料の講読、その5
第8回　史料の講読、その6
第9回　史料の講読、その7
第10回　史料の講読、その8
第11回　史料の講読、その9
第12回　史料の講読、その10
第13回　史料の講読、その11
第14回　史料の講読、その12
第15回　まとめ　※　なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

適宜プリントを配布する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度（ 30 ）
欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史講読Ⅰ〈d〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　久野　洋	

テーマ

近代日本の日記を読む

授業の到達目標

日本近代史に関する史料の解読・調査能力を身につけ、あわせて明治期を中心に近代日本の政治や社会に対する理解を深める。

授業の概要

近代日本を代表する政党政治家である原敬の日記をテキストとする。『原敬日記』を用いて、当時の文体や語法に慣れるとともに、先行研究や関連史料も参照しながら書かれている内容の特徴や背景を考察していく。授業の中では受講生の興味・関心に応じて参考文献も教示する。
授業は受講生が用意したレジュメをもとに進められる。報告担当者は割り当てられた範囲の語句の意味、人物や事件の概略、歴史的背景などを調べて発表し、出席者で議論する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・報告担当者はしっかりした準備が求められる。報告準備にあたっては、各種辞典類で調べるとともに、先行研究や関連史料を探索してほしい。
・受講生は、報告担当でない回にも事前に史料を読んでくること。

内　　容

第1回　授業の進め方、近代史料についてのガイダンス
第2回　『原敬日記』についてのガイダンス
第3回　受講生による発表、質疑応答、教員からの補足説明
第4回　同上
第5回　同上
第6回　同上
第7回　同上
第8回　同上
第9回　同上
第10回　同上
第11回　同上
第12回　同上
第13回　同上
第14回　同上
第15回　まとめ

履修上の注意点

・テキストはコピーを配布する。
・授業に欠席・遅刻をするときには必ず連絡すること。

教科書

参考書

原敬日記　第1～6巻
著者:　原奎一郎編
出版社:　福村出版
出版年:　1965～1967　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史講読Ⅰ〈e〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　永井 和	

テーマ

高松宮日記を読む

授業の到達目標

歴史研究に読むおいて必須となる史料の基礎的読解力と知識の習得を目指す。

授業の概要

昭和天皇の弟であった高松宮宣仁親王の太平洋戦争中の日記を読む。高松宮は日米開戦の直前からサイパン陥落時まで、大本営参謀として海軍軍令部に勤務しており、1991年に発見された高松宮の日記のほぼ半分近くが、この軍令部勤務時代のものである。
　高松宮は海軍の艦隊や出先部隊から大本営に送られてくる軍事機密電報の概要を克明に写し取り、自分の日記に記していた。日記に記された電報の写しから、太平洋上における戦局の推移と日米海軍の戦闘のありさまがよくわかる。日記を読むことで、戦線から遠く離れたところで、その推移を見守っていた高松宮の目に、戦争の様相がどのようなものとして映ったのかを、追体験してみたい。
　この授業では、太平洋戦争開戦時の高松宮日記を読む。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

参加者の報告を主に授業を進めていくので、事前の報告準備は不可欠である。
　高松宮日記を読むこと自体に、さほどの苦労はない。しかし、そこに記されている海軍の軍事機密電報の意味を解釈するのは容易ではない。また、刻々と受信される電報の記述は簡略であるため、そこに記された断片的な情報から、実際におこった「できごと」としての戦争の全体像や実相をつかむのも、別の意味で簡単なことではない。それなりの訓練をつまないと文字は読めても、意味はわからないままで終わってしまいかねない。
　最初の数回は、全員で授業中に読解の練習をおこない、日記の特殊な用語や記述に慣れるとともに、日記に書かれてあることを理解するには、何をどのように調べるといいのかを考える。 なお、期末のレポートは、添削のうえ、簡単なコメントを付けて、返却する。

内　　容

第1回　ガイダンス（授業の進め方、高松宮および高松宮日記についての説明）・高松宮日記をまず読んでみる。
第2回　高松宮日記をまず読んでみて、その難しさを実感してみる。
第3回　高松宮日記を読解するには、何をどのように調べたらいいのか、考える。
第4回　高松宮日記を読解するには、何をどのように調べたらいいのか、考える。
第5回　日記の読解と報告①
第6回　日記の読解と報告②
第7回　日記の読解と報告③
第8回　日記の読解と報告④
第9回　日記の読解と報告⑤
第10回　日記の読解と報告⑥
第11回　日記の読解と報告⑦
第12回　日記の読解と報告⑧
第13回　日記の読解と報告⑨
第14回　日記の読解と報告⑩
第15回　日記の読解と報告⑪とまとめ

履修上の注意点

日記の輪読と報告を主に授業を進めるので、自分の担当の回の出席はもちろんだが、他の回の授業にも欠かさず出席すること。やむをえず欠席する場合は、事前に連絡し、かつ所定の欠席届を提出すること。

教科書

参考書

高松宮日記第3巻
著者:　高松宮宣仁親王
出版社:　中央公論社
出版年:　1995年　　ISBN:　412403393

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 40 ）

a10303a315

参加度 （ 30 ）

学期末に、授業中で読解した高松宮日記に登場する事項について、レポートの提出を求める。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史講読Ⅱ <a>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　加藤　麻子	

テーマ

古代の法制史料を読む

授業の到達目標

①漢文史料の基本的な読解力（読み下し・現代語訳）を身につける
②史料の読解を通じて、自分なりの論点やテーマを見出すことができるようになる。
③関連する史料や先行研究の調査方法を身につける。

授業の概要

第1～2回の授業時に、受講生の担当史料を決め、史料の読解や関連史料の調べ方を説明します。
　第3回目に教員の模擬発表を通じて、レジュメの作成や発表方法についてレクチャーします。
　第4回目以降、実際に受講生に発表してもらいます。報告をもとに受講生全員で討論を行い、史料についての理解を深めます。
　自分の担当回だけではなく、毎回1回は発言することを心掛けてください。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

自分の担当日以外でも、毎回史料を読んでおくこと。
史料の読み下しは、担当者以外の人に行ってもらいます。

内　　容

第1回　ガイダンス①　史料の説明と工具書の紹介
第2回　ガイダンス②　漢文史料を実際に読んでみる、関連史料の調べ方
第3回　教員による模擬報告　レジュメの作成・報告の方法、授業の進め方
第4回　受講生による担当史料の報告と質疑応答
第5回　受講生による担当史料の報告と質疑応答
第6回　受講生による担当史料の報告と質疑応答
第7回　受講生による担当史料の報告と質疑応答
第8回　受講生による担当史料の報告と質疑応答
第9回　受講生による担当史料の報告と質疑応答
第10回　受講生による担当史料の報告と質疑応答
第11回　受講生による担当史料の報告と質疑応答
第12回　受講生による担当史料の報告と質疑応答
第13回　受講生による担当史料の報告と質疑応答
第14回　受講生による担当史料の報告と質疑応答
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

報告の担当者が、当日無断で欠席した場合には、単位認定はしません。
欠席が5回を超えた場合にも、単位認定はしません。

教科書

第1～2回目にコピーを配布します

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

漢和辞典を毎回必ず授業に持ってくること。高校の時に使用していたものがあれば、それでかまいません。新規購入を考えているならば、下の参考書に挙げた漢和辞典がおすすめです。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

角川新字源　改訂新版

著者:　小川環樹、西田太一郎、赤塚忠

出版社:　角川書店

出版年:　　ISBN:　978-4046219664

a10303a450

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）

参加度 （ 50 ）

担当の報告内容だけでなく、各回の討論や質疑応答への参加状況も成績評価に含めます。
毎回、1回は発言できるように心掛けてください。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史講読Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野田　泰三	

テーマ

中世史料を読む

授業の到達目標

・漢文史料の読解ができるようになる。
・中世史料の読解法・調べ方を習得する。

授業の概要

中世史研究上基本的な古文書・古記録を輪読する。
授業は受講生の報告をもとに進める。担当者は割り当てられた箇所について読み下し文を作成し、人名や地名・語句の意味等を調べたうえで、該当史料の内容や背景、論点等についてまとめ、発表する。
なお、必要に応じて学外見学を実施する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・報告担当者は十分に時間をかけて準備すること。国語辞典・漢和辞典や歴史辞典はもちろん、関連史料や先行研究なども調べること。・受講生は、自分の担当回か否かを問わず、あらかじめ史料を読んでおくこと。授業時、報告者以外の者に当てることがある。

内　容

第1回　ガイダンス：授業の進め方、史料の調べ方、分担の決定
第2回　テキストに関する説明
第3回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第4回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第5回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第6回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第7回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第8回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第9回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第10回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第11回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第12回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第13回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第14回　史料講読（受講生による発表と質疑討論、教員による補足解説）
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

・報告を無断で放棄した場合は成績評価の対象としない。・遅刻2回を欠席1回とみなし、欠席4回以上の場合は成績評価の対象としない。

教科書

プリントを配布する

著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

授業中に適宜指示する

著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（　）　　小テスト（　）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 30 ）
参加度：授業への取り組み姿勢や発表・質問の積極性などを総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史講読Ⅱ <c>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾下　成敏	

テーマ

近世の和様漢文に馴れる

授業の到達目標

近世の和様漢文に馴れ、近世の政治・社会・文化について理解を深める。

授業の概要

江戸時代の文献史料、なかでも和様漢文で記された文献史料（北野社に関わる史料など）を読み進めることにする。受講生の義務は以下の通り、①史料の読み下し、②担当した逐語訳・事項解説の作成と報告。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

配布する漢文史料の予習・復習を怠らないこと。また博物館・美術館などへ足を運び、古文書や絵画史料などに慣れ親しんで欲しい。

内　容

第1回　ガイダンス・テキストに関する概説
第2回　テキストに関する概説
第3回　史料の講読、その1
第4回　史料の講読、その2
第5回　史料の講読、その3
第6回　史料の講読、その4
第7回　史料の講読、その5
第8回　史料の講読、その6
第9回　史料の講読、その7
第10回　史料の講読、その8
第11回　史料の講読、その9
第12回　史料の講読、その10
第13回　史料の講読、その11
第14回　史料の講読、その12
第15回　まとめ　※　なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

適宜プリントを配布する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度（ 30 ）
欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史講読Ⅱ <d>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　久野　洋	

テーマ

近代日本の政治家の史料を読む

授業の到達目標

日本近代史に関する史料の解読・調査能力を身につけ、あわせて明治期を中心に近代日本の政治や社会に対する理解を深める。

授業の概要

近代日本を代表する政党政治家である原敬の日記を基本テキストとするが、手紙・書類・雑誌・新聞なども加え、さまざまなタイプの史料に接することができるように工夫する。これらの史料を用いて、当時の文体や語法に慣れるとともに、先行研究や関連史料も参照しながら書かれている内容の特徴や背景を考察していく。授業の中では受講生の興味・関心に応じて参考文献も教示する。
授業は受講生が用意したレジュメをもとに進められる。報告担当者は割り当てられた範囲の語句の意味、人物や事件の概略、歴史的背景などを調べて発表し、出席者で議論する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・報告担当者はしっかりした準備が求められる。報告準備にあたっては、各種辞典類で調べるとともに、先行研究や関連史料を探索してほしい。
・受講生は、報告担当でない回にも事前に史料を読んでくること。

内　容

第1回　授業の進め方、史料についてのガイダンス
第2回　史料についてのガイダンス
第3回　受講生による発表、質疑応答、教員からの補足説明
第4回　同上
第5回　同上
第6回　同上
第7回　同上
第8回　同上
第9回　同上
第10回　同上
第11回　同上
第12回　同上
第13回　同上
第14回　同上
第15回　まとめ

履修上の注意点

・テキストはコピーを配布する。
・授業に欠席・遅刻をするときには必ず連絡すること。

教科書

参考書

原敬日記　第1～6巻
著者:　原奎一郎編
出版社: 福村出版
出版年: 1965～1967　　ISBN:

原敬全集　上巻・下巻（明治百年史叢書　第93・94巻）
著者:　原敬全集刊行会編
出版社: 原書房
出版年: 1969　　ISBN:

a10303a454

原敬関係文書　第1～10巻・別巻

著者:　原敬文書研究会編

出版社: 日本放送出版協会

出版年: 1984～1989　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 40 ）

参加度（ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史講読Ⅱ <e>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　永井 和	

テーマ

アジア歴史資料センターの資料を活用する

授業の到達目標

近代日本の公文書である内閣文書、外務省文書、陸海軍文書について、その文書群の種類と構造を理解するとともに、それぞれの文書に含まれる典型的な文書例について、その様式を学び、一次史料を読解できる力を養う。

授業の概要

国立公文書館のアジア歴史資料センターは、日本の公文書史料（太政官と内閣、枢密院、外務省、陸軍・海軍など）をデジタル画像化し、オンラインで閲覧可能にした世界でも有数のデジタル・アーカイブスである。この授業では公開されているアジア歴史資料センターのデジタル化された一次史料を読む。
1. アジア歴史資料センターに収録されている公文書の構造とその保存状態を知り、近現代史の公文書資料についての理解を深める。
2. 参加者の関心にしたがって、いくつかの史料を選択し、その読解、史料分析をおこない、近現代史における史料操作の方法を体験する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業では、分担を決めて史料を読解する。報告にあたっては必ず予習しておくこと。史料の読解と分析のために史料ノートを作成する。授業中に発表するときには史料ノートを活用し、発表に対する教員のコメントをもとに史料ノートを修正し、完成したものを提出する。提出された史料ノートは添削するとともに、コメントを付けて返却する。

内　容

第1回　アジア歴史資料センターにアクセスする。
第2回　アジア歴史資料センターの概要を知る。
第3回　アジア歴史資料センターにはどのような史料があるのか。
第4回　アジア歴史資料センターにはどのような史料があるのか。
第5回　典型的な公文書の実例①　内閣文書（太政類典）
第6回　典型的な公文書の実例②　内閣文書（公文類聚）
第7回　典型的な公文書の実例③　外務省記録
第8回　典型的な公文書の実例④　外務省記録
第9回　典型的な公文書の実例⑤　陸軍省大日記
第10回　典型的な公文書の実例⑥　海軍省公文備考
第11回　分析する史料の選択と史料研究ノートを作る。
第12回　史料の読解を進め、史料研究ノートを充実させる。
第13回　史料研究の成果を発表①
第14回　史料研究の成果を発表②
第15回　史料研究の成果を発表③

履修上の注意点

この授業はコンピュータを使った実習が主となる。学生の主体的な参加が要請される。授業で使用するスライドは予めKT-noteにアップロードしておくので、授業開始時に各自がダウンロードして学習を始めること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

近代史料学の射程
著者:　中野目徹
出版社:　弘文堂
出版年:　2000　　ISBN:　978-4335352058

a10303a455

くずし字用例辞典普及版

著者: 児玉幸多編

出版社: 東京堂出版

出版年: 2015 ISBN: 978-4490103335

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 30 ） 授業中発表等（ 40 ）

参加度（ 30 ）

作成した研究ノートの提出を求める。

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史演習Ⅰ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　小野　浩	

テーマ

中央アジア・西アジア史の諸問題

授業の到達目標

専門論文の読み方を会得することを目標とする。また文献探索・収集の仕方も習得する。
併せて研究倫理に関して注意を喚起し説明を加える。

授業の概要

前期は初めの3～4回分を使って中央アジア・西アジアの歴史に関する学術論文を選読し、歴史の専門論文とはいかなるものかを習得させる。専門論文を読む場合、内容全体はもとより一文一文をおろそかにせず徹底して精読する姿勢が要求される点で、通常の読書とは異なる。たとえ日本語の論文であろうと、その内容がほぼ理解できるとは限らないのである。読んでみても解らないとき、著者の論旨が把握し難いのか、それとも自分自身の知識不足ゆえに理解が及ばないからか、つまりどの点がどう解らないのかを明確に見定めることが肝要である。こうした点に留意しながら論文と言うものに慣れてもらう。論文内容に関しては担当者を決めてその担当者が用意したレジュメにもとづき、出席者で疑問点を出し合い討議する。それ以降、最終の15回までは出席者各自の研究発表ないしみずから選んだ論文の紹介を行なう。ただし、学外者を招いて講演会を開くこともあり、また学外授業を行うこともある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　基本的工具類の紹介説明（目録・入門書・地図等）および研究倫理につき注意を促がして説明する。
第2回　文献を探す----具体的に文献の所蔵確認およびその検索方法につき説明する
第3回　選定した学術論文の内容解説
第4回　担当者による内容報告（レジュメ配布）と質疑応答　その1
第5回　担当者による内容報告（レジュメ配布）と質疑応答　その2
第6回　担当者による内容報告（レジュメ配布）と質疑応答　その3
第7回　出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答　その1
第8回　出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答　その2
第9回　出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答　その3
第10回　出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答　その4
第11回　出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答　その5
第12回　出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答　その6
第13回　出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答　その7
第14回　出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答　その8
第15回　出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答　その9　※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（0）	小テスト（0）
授業中課題（0）	授業中発表等（50）
参加度（50）	

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史演習Ⅰ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　松浦　京子	

テーマ

西洋史に関する研究文献に基づく研究・報告

授業の到達目標

卒業論文執筆に向けて、各自が卒業研究のテーマを発見し、歴史に対する独自の視点を養い、また、文献検索の手法を習得することをめざす。

授業の概要

卒論作成に向けて必須のスキルとメソッドの獲得、テーマの設定、研究視点の多様性の認識を身につけるべく、2回の解説講義の後、指定論文の精読・分析を通じてテーマ・問題設定、内容展開について考える。 以降は、各自が関心を持っている地域、時代（大まかな区分でかまわない）に関して、どのような歴史上の課題が設定できるかを念頭におきつつ、各自の関心に関わる研究論文をできるだけ広く収集し、精読し、4本の簡単な内容紹介と1本については詳細な内容紹介を行う。これらの学習を通じて、卒論のテーマのしぼり込みを行う。　ゼミ生各自の一回目の報告が終了した時点で、おおよそのテーマ（関心対象となる事件、事象、もしくは地域、時代が）絞られてきていることが求められる。それに基づき、以降は、各自がテーマに沿った文献リストを作成し、簡単な研究動向を報告する。なお、西洋史研究に関する多様な視点を養うために、博物館・美術館の特別展の鑑賞に出向く可能性もある。また、期間中に歴史学に関する講演会（1回）を行う可能性がある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習として、参考文献をできるだけ広く収集し、明確な問題関心を持ってそれを精読することを心がける。そして、内容を関心にそって分析･整理する。
復習として、学生報告に対する感想レポート

内　容

第1回　歴史研究とは何かについて。
本ゼミの目的、ならびに「研究倫理」についての講義
第2回　図書館ガイダンスに基づく、専門文献の検索の手法ならびに入手法についての説明
第3回　学術論文について考察する。松浦論文を用いて、文献の精読（批判的精読）、研究の視点、分析手法、論文構成について学ぶ。
第4回　松浦論文の全員による内容紹介を行い、相互比較を行う
第5回　ゼミ生報告1－①と質疑応答
第6回　ゼミ生報告1－②と質疑応答
第7回　ゼミ生報告1－③と質疑応答
第8回　ゼミ生報告1－④と質疑応答
第9回　ゼミ生報告1－⑤と質疑応答
第10回　ゼミ生報告1－⑥と質疑応答
第11回　ゼミ生報告1－⑦と質疑応答
第12回　ゼミ生報告1－⑧と質疑応答　文献リストの作成について注意
第13回　ゼミ生報告2－①、チェック＆コメント
第14回　ゼミ生報告2－②、チェック＆コメント
第15回　ゼミ生報告2－③、チェック＆コメント　夏休みの課題について

履修上の注意点

ゼミ授業は出席することに意義があると考える。したがって、ゼミ生全員が完全出席を目指してほしい。しかし、やむなく欠席せざるを得ないときには、前もって教員の大学アドレス宛にその旨連絡すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

特に指定はしないが、西洋史の論文、研究書

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

a10303a512

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30% ）	授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 40% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史演習Ⅰ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　　王　衛明	

テーマ

中国史研究の最も基本となる文献の理解を軸に、歴史の意味や史料のあり方について議論する。

授業の到達目標

東アジア史、とりわけ古代中国史発展の基本構造を理解する。

授業の概要

この授業では、基本的な文献資料やその資料探索の方法について具体的に指導する。また読み方、内容理解の仕方を各個人が関心を抱くテーマの報告、討論することを通して、問題意識を深めることを目的とする。また教員から史料提供することによって、様々な文献調査法、解釈、分析法を実践する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に指示した参考書を基に調べておく。

内　　容

第1回　発表の主旨を説明する、研究倫理についての説明
第2回　研究の時代・地域を設定する
第3回　各自の研究テーマを設定する
第4回　各自の研究テーマと併せて、文献史料・研究論文の調査法を説明する
第5回　各自の研究テーマと併せて、文献史料・研究論文の調査法を説明する
第6回　学外授業（中国関連の寺社見学）
第7回　発表及び講評・議論
第8回　発表及び講評・議論
第9回　発表及び講評・議論
第10回　発表及び講評・議論
第11回　学外授業（中国関連の常設展、或いは特別展見学）
第12回　発表及び講評・議論
第13回　改めて各自の研究テーマ設定の妥当性を考える
第14回　改めて各自の研究テーマ設定の妥当性を考える
第15回　総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないように。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史演習Ⅰ〈＊d〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　渡邊　和行	

テーマ

卒論のテーマを考える。

授業の到達目標

卒論のテーマを絞り込むために、問題意識を明確できるような文献を収集し読破する。

授業の概要

各自の関心に従って問題を立て、それに関わる文献を読んで報告する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

文献を選んで、読み込み、レジュメを作成し、報告の準備をする。

内　容

第1回　イントロダクション、研究倫理についての説明
第2回　報告1
第3回　報告2
第4回　報告3
第5回　報告4
第6回　報告5
第7回　報告6
第8回　報告7
第9回　報告8
第10回　報告9
第11回　報告10
第12回　報告11
第13回　報告12
第14回　報告13
第15回　報告14。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

履修上の注意点

8回以上の欠席者には単位を認めない。

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 30 ）
課題の作成と報告および出席を総合して評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史演習Ⅱ <＊a>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　小野 浩	

テーマ

中央アジア・西アジア史の諸問題

授業の到達目標

各人の卒論へ向けたテーマの模索と成果発表

授業の概要

各人の問題関心に沿った発表とそれに対する討論をおこない、卒論のテーマを考えていく。前期と同様に史料収集、目録からの論文探索、主要学術誌の紹介等は授業中に適宜行う。なお、学外授業を行うこともある。また学外者を招いての講演会1回を予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　卒論の書き方、ルールを説明する。
第2回　卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その1
第3回　卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その2
第4回　卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その3
第5回　卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その4
第6回　卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その5
第7回　卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その6
第8回　卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その7
第9回　卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その8
第10回　卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その9
第11回　卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その10
第12回　卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その11
第13回　卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その12
第14回　卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その13
第15回　卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その14

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 60 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史演習Ⅱ <＊b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　松浦　京子	

テーマ

西洋史に関する文献にもとづく研究・報告

授業の到達目標

卒業論文作成に向けて確定した卒業研究テーマに見合う基礎知識の獲得をめざす。

授業の概要

講義の後、前期に引き続いて、受講者が順番に発表し、質疑応答･討論の形式をとる。前期の作業の成果を受けて、受講者は、卒業論文のテーマを確定する。そのうえで各自のテーマに沿って、そのテーマから論文課題を抽出するために当該時期･領域に関する概説書、古典的地位を得ている研究書を広く収集し、精読し基本的知識の獲得と理解に努めなければならない。後期のゼミでは、各自が進めている研究成果を発表と言う形でゼミ生仲間に披露し、質疑応答や担当教員からの指導を通して、意義あるかたちに整え、論文の問題関心をしぼっていかなければならない。なお、12月には、他のゼミと合同で卒論セミナーを開く予定である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習として、参考文献をできるだけ広く収集し、明確な問題関心を持ってそれを精読することを心がける。そして、内容を関心にそって分析･整理する。
復習として、学生報告に対する感想レポートの作成

内　容

第1回　（講義）研究テーマから問題提起へ①　－研究動向整理と研究課題の発見
第2回　（講義）研究テーマから問題提起へ②　－課題考察のための知識・情報の獲得
第3回　4回生ゼミと合同の卒論中間発表会
第4回　プログテスト解説
第5回　ゼミ生報告と質疑応答１－①（基本的知識の収集成果に基づく報告）
第6回　ゼミ生報告と質疑応答１－②（基本的知識の収集成果に基づく報告）
第7回　ゼミ生報告と質疑応答１－③（基本的知識の収集成果に基づく報告）
第8回　ゼミ生報告と質疑応答１－④（基本的知識の収集成果に基づく報告）
第9回　ゼミ生報告と質疑応答１－⑤（基本的知識の収集成果に基づく報告）
第10回　ゼミ生報告と質疑応答２－①（基本的知識の収集成果に基づく報告）
第11回　ゼミ生報告と質疑応答２－②（基本的知識の収集成果に基づく報告）
第12回　ゼミ生報告と質疑応答２－③（基本的知識の収集成果に基づく報告）
第13回　ゼミ生報告と質疑応答２－④（基本的知識の収集成果に基づく報告）
第14回　卒論セミナー
第15回　総括、ならびに就活と卒論作成にむけて

履修上の注意点

ゼミ授業は出席することに意義があると考える。したがって、ゼミ生全員が完全出席を目指してほしい。しかし、やむなく欠席せざるを得ないときには、前もって教員の大学アドレス宛にその旨連絡すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

特に指定はしないが、西洋史の論文、研究書
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30% ）	授業中発表等（ 30% ）
参加度（ 40% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史演習Ⅱ <＊c>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　　王　衛明	

テーマ

東アジア史の研究と発表

授業の到達目標

主として東アジアの歴史を研究するために必要な知識の習得をめざす。具体的には次のことがらである。
①テーマの設定と関心の深め方。
②関連文献の収集と整理。
②根本史料の収集と読解。
③研究結果の発表。

授業の概要

東アジアという地域は広く、その歴史は長く多様である。受講生諸君も一人一人が異なる興味・関心をもっていることだろう。したがって、この授業では、まず各人がそれぞれの興味・関心に沿ったテーマを決める。ついで、そのテーマに関する文献を調べてレジュメを作成、授業においてその発表を行い、それにもとづいて他の受講生との討論をする、という手順で授業を進めてゆきたい。なお、レジュメの作成にあたっては、複数の文献を利用するように努めてもらいたい。なお、必要に応じて学外授業を実施することがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

積極的に図書館を利用して、文献・情報を集めるよう心がけて欲しい。

内　容

第1回　ガイダンス、発表順の決定
第2回　東アジア研究に関する文献紹介：史料
第3回　東アジア研究に関する文献紹介：工具書
第4回　発表と講評
第5回　発表と講評
第6回　発表と講評
第7回　発表と講評
第8回　発表と講評
第9回　発表と講評
第10回　発表と講評
第11回　発表と講評
第12回　発表と講評
第13回　発表と講評
第14回　発表と講評
第15回　授業のまとめ
※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないように。

教科書

参考書

中国歴史研究入門
著者：　礪波護ほか編
出版社：名古屋大学出版会
出版年：2006年　　ISBN：　481580527X

成績評価

試験・レポート（0）	小テスト（0）
授業中課題（0）	授業中発表等（50）
参加度（50）	

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史演習Ⅱ <＊d>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　渡邊　和行	

テーマ

卒論のテーマに沿って作業を進める

授業の到達目標

卒論のテーマを確定し、そのテーマに関わる文献を収集し読破する。

授業の概要

各自の関心に従った文献を選んで、個別報告をする。卒論の構成を検討する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各自の卒論テーマに関わる一次文献、二次文献の収集に努め、読破する。卒論の構成を考える。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　報告1
第3回　報告2
第4回　報告3
第5回　報告4
第6回　報告5
第7回　報告6
第8回　報告7
第9回　報告8
第10回　報告9
第11回　報告10
第12回　報告11
第13回　報告12
第14回　報告13
第15回　報告14。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

履修上の注意点

8回以上の欠席者には単位を認めない。

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 30 ）
課題の作成と発表および出席を総合して評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史講読Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小野　浩	

テーマ

中央アジア・西アジアの歴史文献の輪読とそれにもとづく発表

授業の到達目標

中央アジア史・西アジア史に関する文献を選読して当該地域の歴史の知見を深め、さらには自らの関心にもとづいた研究発表を行なうことで、初歩的な研究態度を習得する。

授業の概要

扱う地域・時代ともにきわめて広範に亙り、また出席者各人の関心もさまざまであることが予想されるので、それにこたえるようなテキストは見出しがたい。それゆえこちらでいくつかの文献を候補として用意し（下記参考書参照　ただし挙げてあるものは一部であり、他は授業中に紹介する）、受講者の関心に従ってテキストを選別する。初めは全員輪読の形をとるが、途中から担当者を決めて内容の要約を発表させる形式に移行する。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。また学外授業を行うこともある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　出席者各人に自分の興味と関心のあるテーマを自己紹介させる。テキストの紹介。分担の決定。
第2回　担当者による内容要約とそれに付随した研究発表。（その際必ずレジュメを用意すること。）教員のコメントおよび出席者による質疑①。
第3回　報告②と質疑
第4回　報告③と質疑
第5回　報告④と質疑
第6回　報告⑤と質疑
第7回　報告⑥と質疑
第8回　報告⑦と質疑
第9回　報告⑧と質疑
第10回　報告⑨と質疑
第11回　報告⑩と質疑
第12回　報告⑪と質疑
第13回　報告⑫と質疑
第14回　報告⑬と質疑
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

モスクが語るイスラム史
著者:　羽田正
出版社:　筑摩学芸文庫
出版年:　2016　　ISBN:

マルコ・ポーロ:『東方見聞録』を読み解く
著者:　海老沢哲雄
出版社:　山川出版社:世界史リブレット人
出版年:　2015　　ISBN:

ティムール:草原とオアシスの覇者
著者:　久保一之
出版社:　山川出版社:世界史リブレット人
出版年:　2014　　ISBN:

a10303a710

バーブル:ムガル帝国の創設者

著者: 間野英二

出版社: 山川出版社:世界史リブレット人

出版年: 2013 ISBN:

イスラム世界の人びと

著者: 三木亘 他

出版社: 東洋経済新報社

出版年: 1984 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ 50 ）

参加度 （ 50 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史講読Ⅰ <b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　渡邊　和行	

テーマ

歴史学の専門書を読む。

授業の到達目標

専門書の読解、レジュメの作成、プレゼンの方法などを学ぶ。

授業の概要

前半では、和書の専門書を輪読する。後半では、各自の関心に従って文献を選び報告する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

文献を選んで読解し、レジュメを準備する。

内　　容

第1回　イントロダクション
第2回　輪読1
第3回　輪読2
第4回　輪読3
第5回　輪読4
第6回　報告1
第7回　報告2
第8回　報告3
第9回　報告4
第10回　報告5
第11回　報告6
第12回　報告7
第13回　報告8
第14回　報告9
第15回　報告10

履修上の注意点

8回以上の欠席者には単位を認めない。

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 30 ）
課題の作成と報告および出席を総合点に判断して評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史講読Ⅱ <a>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　王 衛明	

テーマ

中国古代史　史料読解

授業の到達目標

中国では各種の学問の中で、史学がもっとも発達し、2千年にわたって歴代王朝の歴史が書き続けられた。これらの文献を読み、歴史叙述の持続及び用語、構文を理解する。

授業の概要

古代人物・仏教・儒教思想、文物典章制度に関する基礎文献をプリントにして配布し、毎回全員で輪読し、内容から問題展を読み取る。なお、必要に応じて学外授業を実施することがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に指示した参考書を基に調べておく。

内　容

第1回　授業の目的と進め方の説明
第2回　テキストの著者および内容概略の紹介
第3回　輪読とコメント・質問　その1
第4回　輪読とコメント・質問　その2
第5回　輪読とコメント・質問　その3
第6回　輪読とコメント・質問　その4
第7回　輪読とコメント・質問　その5
第8回　輪読とコメント・質問　その6
第9回　輪読とコメント・質問　その7
第10回　輪読とコメント・質問　その8
第11回　輪読とコメント・質問　その9
第12回　輪読とコメント・質問　その10
第13回　輪読とコメント・質問　その11
第14回　輪読とコメント・質問　その12
第15回　総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないように。

教科書

参考書

角川新字源
著者:　小川環樹他
出版社:　角川書店
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 0 ）	授業中発表等 （ 50 ）
参加度 （ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史講読Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　渡邊　和行	

テーマ

和書と英語の歴史学の専門文献を読む。

授業の到達目標

歴史学の専門書を読む力と要約の方法、発表の仕方を体得し、英語力も向上させる。

授業の概要

前半では各自の関心に従って和書の専門書を読み、後半では英語文献を読む。英語文献はこちらで用意する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

文献を選んで読解し、レジュメの準備をする。英語文献の和訳をしておく。

内　　容

第1回　イントロダクション
第2回　和書の報告1
第3回　和書の報告2
第4回　和書の報告3
第5回　和書の報告4
第6回　和書の報告5
第7回　和書の報告6
第8回　英語文献1
第9回　英語文献2
第10回　英語文献3
第11回　英語文献4
第12回　英語文献5
第13回　英語文献6
第14回　英語文献7
第15回　英語文献8

履修上の注意点

8回以上の欠席者には単位を認めない。

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 30 ）
課題の報告と出席を総合して評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅲ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　増渕　徹	

テーマ

卒業研究の実施に向けて

授業の到達目標

自分の関心を明確化するとともに、その分野に関わる卒業論文作成を目指した個人研究を進展させる。同時に、テーマの絞り方や研究史の整理・評価、史料の読解やそこからの問題点の引き出し方など、随時授業における各人の報告をもとに討論を行い、より広い視点と客観性の維持、及び研究上守るべき倫理に配慮できるようにする。

授業の概要

先ずは研究論文を追跡し、研究の思考方法、論文の作成方法を学ぶ。その後、参加者各人が関心あるテーマに沿った史料を提出し、その史料の理解に関する研究史や問題点を報告することを通じて、自身の関心の方向性を凝縮させていく。なお、古代史関係の遺産を見学する学外学習や、必要に応じて、卒業研究の参考になるように、学外授業や学外講師を招いての講演を行うことがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

図書館や様々な情報媒体を通して、論文と史料の博捜に努めること

内　容

第1回　歴史学としての研究の進め方、研究倫理等に関する概括的指導
第2回　研究論文演習（1）
第3回　研究論文演習（2）
第4回　歴史遺産見学（学外授業）
第5回　研究論文演習（3）
第6回　研究論文演習（4）
第7回　研究論文演習（5）
第8回　個別発表（1）
第9回　個別発表（2）
第10回　個別発表（3）
第11回　個別発表（4）
第12回　個別発表（5）
第13回　個別発表（6）
第14回　個別発表（7）
第15回　後期に向けての卒業研究に関する概括的指導（まとめ）。なお、授業においては必要に応じて学外授業や講演会を行う。

履修上の注意点

各個人の個別研究の対象を明確化すること、その対象に関する先行研究を調べ、読むことに努めてほしい。

教科書

必要に応じて印刷して配布する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 70 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 20 ）
研究対象の明確化、先行研究の博捜の点に重点を置いて評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅲ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野田　泰三	

テーマ

日本中世史上の諸問題

授業の到達目標

・日本中世史に関する基礎的な知識を有している
・関心のあるテーマに関する先行研究を把握し、現在の研究水準や課題を理解している
・必要な史資料を収集し、読解することができる
・テーマに対する自身の解答（仮説）を根拠を示しつつ論理的に証明する（実証する）＝卒業論文を完成することができる。

授業の概要

受講生による卒業論文作製の準備報告を中心に、必要に応じて史料や研究論文の講読を行う。
卒業論文は歴史学科における学びの集大成です。ひとつ事をここまで徹底的に考え抜くという機会は人生上そうそうあるものではありません。頭が真っ白になるまで考えぬき、一つ壁を越えたと感じる経験をしてみて下さい。自分がひと回り成長していることに気づくでしょう。こうした経験をせずに大学を卒業してしまうのは、なんともったいないことだと思います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

報告直前の付け焼刃的勉強では卒論作成は無理です。普段からこつこつと論文や史料の収集・分析をするようにして下さい。図書館や資料室に日参して作業することを薦めます。 必要ならば、古文書調査や現地調査、フィールドワークなども積極的に行って下さい。
繰り返しになりますが、史資料は原典にあたって集め、自分で読解すること。先行研究に引用されている史料をみているだけでは、自分の議論は生まれません。

内　容

第1回　ガイダンス：授業の進め方－研究倫理について
第2回　受講生による発表と討論（1）
第3回　受講生による発表と討論（2）
第4回　受講生による発表と討論（3）
第5回　受講生による発表と討論（4）
第6回　受講生による発表と討論（5）
第7回　受講生による発表と討論（6）
第8回　受講生による発表と討論（7）
第9回　受講生による発表と討論（8）
第10回　受講生による発表と討論（9）
第11回　受講生による発表と討論（10）
第12回　受講生による発表と討論（11）
第13回　受講生による発表と討論（12）
第14回　受講生による発表と討論（13）
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

・全回参加を原則とする。遅刻2回で欠席1回とみなし、欠席4回以上の場合は成績評価の対象としない。また報告を無断で放棄した場合も成績評価の対象としない。
・必要に応じて学外授業を行うことがある。

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

授業時に適宜指示する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

a10304a112

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）

参加度 （ 50 ）

・自身の報告のみならず、他の受講生の報告の際にも積極的に発言することを求める。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅲ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾下　成敏	

テーマ

日本近世史研究の諸問題

授業の到達目標

卒業論文作成に向けて自己のテーマに基づく研究を深める。

授業の概要

各自が各自の研究テーマにもとづく報告を行い、それをもとに討論を行う。そして、そこから自分なりの研究課題を引き出し、それを卒業論文の作成につなげて欲しいと思う。前期の最後には原稿用紙換算で23枚以上のレポートと、卒論に関わる史料（資料）を集めたデータベースを作成してもらう。また9月には合宿を行い、そこで卒論の構想を発表してもらう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

多くの史料（資料）をなるべく丁寧に読むこと。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　歴史研究とは何か？
第3回　個別報告（時間があまれば、史料を読む）
第4回　個別報告（時間があまれば、史料を読む）
第5回　個別報告（時間があまれば、史料を読む）
第6回　個別報告（時間があまれば、史料を読む）
第7回　個別報告（時間があまれば、史料を読む）
第8回　個別報告（時間があまれば、史料を読む）
第9回　個別報告（時間があまれば、史料を読む）
第10回　個別報告（時間があまれば、史料を読む）
第11回　個別報告（時間があまれば、史料を読む）
第12回　個別報告（時間があまれば、史料を読む）
第13回　個別報告（時間があまれば、史料を読む）
第14回　個別報告（時間があまれば、史料を読む）
第15回　まとめ、レポート作成に関するアドバイス　※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 35 ）	授業中発表等（ 35 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅲ <＊d>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　後藤　敦史	

テーマ

近世・近代移行期研究の方法と実践

授業の到達目標

各自が卒業論文研究を進めるうえで必要な方法の理解を深め、かつ実践する。

授業の概要

各自が自分の研究テーマに即した発表をおこない、また受講生全員による質疑応答を通じて、さらに研究を深めることをめざす。演習を通じて、卒業論文の研究を進めるためには、どのような先行研究を読み、どのような史料を読解する必要があるのか、自分の課題を見つけてほしい。前期の最後には、卒論の構想をまとめたレポート(参考文献のリスト付き)を課す。なお、学修の状況に応じて、学外授業をおこなう場合もある。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

内　　容

第1回　ガイダンス　4年生ゼミの進め方
第2回　ガイダンス　卒論研究の体験談
第3回　卒業論文の構想に関する個別報告その1
第4回　卒業論文の構想に関する個別報告その2
第5回　卒業論文の構想に関する個別報告その3
第6回　卒業論文の構想に関する個別報告その4
第7回　卒業論文の構想に関する個別報告その5
第8回　卒業論文の構想に関する個別報告その6
第9回　卒業論文の構想に関する個別報告その7
第10回　卒業論文の構想に関する個別報告その8
第11回　卒業論文の構想に関する個別報告その9
第12回　卒業論文の構想に関する個別報告その10
第13回　卒業論文の構想に関する個別報告その11
第14回　卒業論文の構想に関する個別報告その12
第15回　まとめ、および夏休み中に研究を進めるためのアドバイス

履修上の注意点

卒論研究を計画的に進めていくためにも、毎回、全員出席することが重要である。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅳ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　増渕　徹	

テーマ

卒業研究の完成

授業の到達目標

卒業研究をさらに進め、卒業論文として集成させることを目的とする。後半は個別指導を重点に置く。

授業の概要

参加者各人の研究テーマの特定断面を報告し、それに関する議論を行う形で授業を展開させる。なお、古代史関係の遺産の見学(1回)や、必要に応じて、卒業研究の参考となるように、学外学習や学外講師を招いての講演会を行うことがある。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

資料・論文の蒐集に努めること。

内　容

第1回　研究の進行状況のチェックと指導
第2回　中間報告に向けての指導
第3回　中間報告での指摘事項及び構想再検討への指導
第4回　歴史遺産見学(学外授業)
第5回　個別報告と質疑(1)
第6回　個別報告と質疑(2)
第7回　個別報告と質疑(3)
第8回　個別発表と質疑(4)
第9回　個別発表と質疑(5)
第10回　個別発表と質疑(6)
第11回　個別発表と質疑(7)
第12回　個別発表と質疑(8)
第13回　卒業研究の整理と評価(1)
第14回　卒業研究の整理と評価(2)
第15回　卒業研究の整理と評価(3)

履修上の注意点

参加者の個別の関心に基づく研究内容に対する指導を主とする。参加者の週ごとの個別研究の深化を求める。

教科書

適宜指示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜指示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 70 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 20 ）
卒業論文の作成につながる適切な研究手順・方法の執行と、それを継続する努力の如何に重点を置いて評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅳ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野田　泰三	

テーマ

日本中世史上の諸問題

授業の到達目標

・日本中世史に関する基礎的な知識を有している
・関心のあるテーマに関する先行研究を把握し、現在の研究水準や課題を理解している
・必要な史資料を収集し、読解することができる
・テーマに対する自身の解答（仮説）を根拠を示しつつ論理的に証明する（実証する）＝卒業論文を完成することができる。

授業の概要

受講生による卒業論文の準備報告を中心に、必要に応じて史料や研究論文の講読を行う。
卒業論文は歴史学科における学びの集大成です。ひとつ事をここまで徹底的に考え抜くという機会は人生上そうそうあるものではありません。頭が真っ白になるまで考えぬき、一つ壁を越えたと感じる経験をしてみて下さい。自分がひと回り成長していることに気づくでしょう。こうした経験をせずに大学を卒業してしまうのは、なんともったいないことだと思います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

報告直前の付け焼刃的勉強では卒論作成は無理です。普段からこつこつと論文や史料の収集・分析をするようにして下さい。図書館や資料室に日参して作業することを薦めます。 必要ならば、古文書調査や現地調査、フィールドワークなども積極的に行って下さい。
繰り返しになりますが、史資料は原典にあたって集め、自分で読解すること。先行研究に引用されている史料をみているだけでは、自分の議論は生まれません。

内　容

第1回　ガイダンス：授業の進め方、テキスト、報告順序
第2回　受講生による発表と討論（1）
第3回　受講生による発表と討論（2）
第4回　受講生による発表と討論（3）
第5回　受講生による発表と討論（4）
第6回　受講生による発表と討論（5）
第7回　受講生による発表と討論（6）
第8回　受講生による発表と討論（7）
第9回　受講生による発表と討論（8）
第10回　受講生による発表と討論（9）
第11回　受講生による発表と討論（10）
第12回　受講生による発表と討論（11）
第13回　卒論発表会（1）
第14回　卒論発表会（2）
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

・全回参加を原則とする。遅刻2回で欠席1回とみなし、欠席4回以上の場合は成績評価の対象としない。また報告を無断で放棄した場合も成績評価の対象としない。
・必要に応じて学外授業を行うことがある。

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

授業時に適宜指示する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

a10304a252

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）

参加度 （ 50 ）

・自身の報告のみならず、他の受講生の報告の際にも積極的に発言することを求める。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅳ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾下　成敏	

テーマ

卒業研究の完成に向けて

授業の到達目標

各自の研究テーマを深め、卒業論文を執筆し完成させる。

授業の概要

まずは各自が各自の研究テーマにもとづく報告を行い、それをもとに討論を行う。そして、そこから自分なりの研究課題を引き出し、それを卒業論文の作成につなげて欲しいと思う。報告終了後は卒業論文の下書きを書き進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

多くの史料をなるべく丁寧に読み、文章をわかりやすく書くこと。

内　　容

第1回　卒業論文中間発表会に向けた報告準備
第2回　卒業論文中間発表会に向けた報告準備
第3回　卒業論文中間発表会
第4回　卒業論文の形式と書き方
第5回　各自の下書きの検討
第6回　各自の下書きの検討
第7回　各自の下書きの検討
第8回　各自の下書きの検討
第9回　各自の下書きの検討
第10回　各自の下書きの検討
第11回　各自の下書きの検討
第12回　卒業論文の最終調整
第13回　卒業論文の最終調整
第14回　反省会
第15回　歴史学とは何か？　※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 15 ）
参加度（ 15 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅳ〈＊d〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　後藤　敦史	

テーマ

卒業論文の作成に向けて

授業の到達目標

研究を深めるために必要な課題を自ら見つけ、より完成度の高い卒業論文を作成する。

授業の概要

各自が卒業論文のテーマについて発表をおこない、受講生全員による質疑応答と通じて、卒論作成に必要な課題を自ら見つけていく。報告とあわせて、卒論の下書きについても進めていく。なお、卒論の研究状況に応じて、学外授業をおこなう場合もある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

よりよい卒論を作成するためには、史料を丁寧に読むことが重要である。細部まで見逃さないつもりで、徹底的に史料を読み込むことを心がけてほしい。

内　　容

第1回　卒業論文中間発表会に向けた準備その1
第2回　卒業論文中間発表会に向けた準備その2
第3回　卒業論文中間発表会
第4回　卒業論文の個別報告、および下書き作業
第5回　卒業論文の個別報告、および下書き作業
第6回　卒業論文の個別報告、および下書き作業
第7回　卒業論文の個別報告、および下書き作業
第8回　卒業論文の個別報告、および下書き作業
第9回　卒業論文の個別報告、および下書き作業
第10回　卒業論文の個別報告、および下書き作業
第11回　卒業論文完成に向けた最終作業
第12回　卒業論文完成に向けた最終作業
第13回　卒業論文完成に向けた最終作業
第14回　まとめその1　歴史学の研究とは何か
第15回　まとめその2　現代社会と歴史学

履修上の注意点

卒業論文の作成を計画的に進めるため、毎回、全員出席することが重要である。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史演習Ⅲ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　王　衛明	

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文を完成に向けて、確実な研究能力を向上させる。

授業の概要

世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行います。授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。
〇テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する　〇中間発表に向けての指導（レジュメ、発表原稿等）　〇中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する　〇個々の問題についての個別指導

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　全体的指導（卒業後の進路の指導も含む）
第2回　個別発表（1）
第3回　個別発表（2）
第4回　個別発表（3）
第5回　個別発表（4）
第6回　個別発表（5）
第7回　個別発表（6）
第8回　個別発表（7）
第9回　個別発表（8）
第10回　個別発表（9）
第11回　個別発表（10）
第12回　個別発表（11）
第13回　個別発表（12）
第14回　個別発表（13）
第15回　個別発表（14）

履修上の注意点

この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがあります。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史演習Ⅲ <＊b>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小野 浩	

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文を完成させる
併せて研究倫理に関して注意を喚起し説明する。

授業の概要

世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行います。授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。
〇テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する　〇中間発表に向けての指導（レジュメ、発表原稿等）　〇中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する　〇個々の問題についての個別指導
なお、学外授業を行うこともある。また学外講演者を招いて講演会を行なう予定である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　全体的指導（卒業後の進路の指導も含む）
第2回　個別発表（1）
第3回　個別発表（2）
第4回　個別発表（3）
第5回　個別発表（4）
第6回　個別発表（5）
第7回　個別発表（6）
第8回　個別発表（7）
第9回　個別発表（8）
第10回　個別発表（9）
第11回　個別発表（10）
第12回　個別発表（11）
第13回　個別発表（12）
第14回　個別発表（13）
第15回　個別発表（14）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 0 ）	授業中発表等 （ 60 ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史演習Ⅲ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松浦　京子	

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文執筆のために必要な史料文献の収集の完了と問題考察の進展をめざす。

授業の概要

これまでの学習の集大成としての卒業論文執筆に向けて、そのための研究発表・討論・指導などを行う。授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行なう。　〇テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する。また、歴史学に関する講演会を1回行うことがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

参考文献の収集と精読、情報整理
卒業研究に関わる相談、質問について、逐次個別対応する。
できれば、メールにてアポイントメントを取ってほしい

内　容

第1回　歴史研究を進めるにあたっての留意点（史料、文献の扱い方）、問題設定にあたっての注意点（研究動向整理）、研究成果の公表としての卒業論文の構成について
第2回　全体指導と個別面談①
第3回　全体指導と個別面談②
第4回　全体指導と個別面談③
第5回　全体指導と個別面談④
第6回　全体指導（卒業論文執筆上の注意）
第7回　学生報告①と討論・講評
第8回　学生報告②と討論・講評
第9回　学生報告③と討論・講評
第10回　学生報告④と討論・講評
第11回　学生報告⑤と討論・講評
第12回　学生報告⑥と討論・講評
第13回　学生報告⑦と討論・講評
第14回　学生報告⑧と討論・講評
第15回　夏休みに向けての心構え

履修上の注意点

ゼミは参加すること自体に大きな意義があると考える。全員が完全出席を目指してほしい。どうしてもやむを得ない場合は、教員の大学アドレスに前もって連絡すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 60% ）
参加度（ 40% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史演習Ⅲ <＊Z>**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　渡邊 和行

テーマ

卒論の作成に向けた基本的枠組みを構築する。

授業の到達目標

卒論作成のために、問いの明確化と仮説の呈示、および卒論の構成を考える。

授業の概要

各自の関心に従った卒論のテーマに沿って、作業を進める。演習は個別研究報告とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

卒論に関わる一次文献、二次文献の収集と読解を行う。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　報告1
第3回　報告2
第4回　報告3
第5回　報告4
第6回　報告5
第7回　報告6
第8回　報告7
第9回　報告8
第10回　報告9
第11回　報告10
第12回　報告11
第13回　報告12
第14回　報告13
第15回　報告14。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

履修上の注意点

8回以上の欠席者には単位を認めない。

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 30 ）
課題の報告と出席などを総合的に判断して評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史演習Ⅳ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　王　衛明	

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行います。

授業の概要

授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。　〇テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する　〇中間発表に向けての指導（レジュメ、発表原稿等）　〇中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する　〇個々の問題についての個別指導　（なお必要に応じて卒論作成の参考になるように学外講師を招いての講演等を行うことがある）なお、期間中、歴史学に関する講演会を行うことがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に指示した参考書を基に調べておく。

内　　容

第1回　個別発表（1）
第2回　個別発表（2）
第3回　個別発表（3）
第4回　個別発表（4）
第5回　個別発表（5）
第6回　個別発表（6）
第7回　個別発表（7）
第8回　個別発表（8）
第9回　個別発表（9）
第10回　個別発表（10）
第11回　個別発表（11）
第12回　個別発表（12）
第13回　個別発表（13）
第14回　個別発表（14）
第15回　個別発表（15）

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史演習Ⅳ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小野 浩	

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行います。

授業の概要

授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。　〇テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する　〇中間発表に向けての指導（レジュメ、発表原稿等）　〇中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する　〇個々の問題についての個別指導　なお必要に応じて卒論作成の参考になるように学外講師を招いての講演等を行うことがある。また期間中、学外授業を行うこともある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　個別発表（1）
第2回　個別発表（2）
第3回　個別発表（3）
第4回　個別発表（4）
第5回　個別発表（5）
第6回　個別発表（6）
第7回　個別発表（7）
第8回　個別発表（8）
第9回　個別発表（9）
第10回　個別発表（10）
第11回　個別発表（11）
第12回　個別発表（12）
第13回　個別発表（13）
第14回　個別発表（14）
第15回　個別発表（15）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 60 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史演習Ⅳ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松浦　京子	

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業研究に真摯に取り組み、卒業論文の完成をめざす

授業の概要

これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆する。そのための個別指導などを行なう。授業内容は、次のことに留意しつつすすめる。　〇中間発表に向けての指導（レジュメ、発表原稿等）　ゼミ生各自が事前に発表を行い、全員での討論を経て指導などを行う。　〇中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する　〇個々の問題についての個別指導 なお、中間発表に備えて、9月の休暇期間に集中ゼミを行なう。なお、期間中、歴史学に関する講演会を1回行うことがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

自らの卒業研究における課題に真摯に取り組み、文献の収集、精読、情報整理、分析し、それらの成果をゼミおよび面談において披露できるようにする。
相談、質問については、逐次個別に対応する。
出来れば、メールでアポイントメントを取ってほしい。

内　　容

第1回　中間発表に向けての論文タイトル決定、レジュメの作成
第2回　レジュメのチェック
第3回　卒論中間発表会
第4回　卒業論文の執筆要領についての解説
第5回　卒業論文執筆に向けて個別指導①
第6回　卒業論文執筆に向けて個別指導②
第7回　卒業論文執筆に向けて個別指導③
第8回　卒業論文執筆に向けて個別指導④
第9回　卒業論文執筆に向けて個別指導⑤
第10回　卒業論文執筆に向けて個別指導⑥
第11回　卒業論文執筆に向けて個別指導⑦
第12回　卒業論文執筆に向けて個別指導⑧
第13回　個別指導
第14回　卒論総括
第15回　卒論諮問に向けて諸注意、卒業後について懇談
第16回　＊学外にて集中ゼミ合宿を行う予定である

履修上の注意点

ゼミは参加すること自体に大きな意義があると考える。全員が完全出席を目指してほしい。どうしてもやむを得ない場合は、教員の大学アドレスに前もって連絡すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 50% ）
参加度（ 50% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**世界史演習Ⅳ <＊Z>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　渡邊　和行	

テーマ

卒論を完成させる。

授業の到達目標

卒論を仕上げるために、文献の読破と文章化の作業を進める。

授業の概要

前期に引き続き、卒論作成のための個別研究報告が主体となる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

文献や史料の収集を続け、それらを読解して、卒論に生かす。

内　　容

第1回　イントロダクション
第2回　報告1
第3回　報告2
第4回　報告3
第5回　報告4
第6回　報告5
第7回　報告6
第8回　報告7
第9回　報告8
第10回　報告9
第11回　報告10
第12回　報告11
第13回　報告12
第14回　報告13
第15回　報告14。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

履修上の注意点

8回以上の欠席者には単位を認めない。

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 30 ）
課題の作成や報告、出席を総合して評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**現代史演習Ⅲ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　永井　和	

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

現代史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習である。卒業論文は、大学でのこれまでの学習の集大成である。自分の個性を活かした、よい卒業論文を執筆することが目標であるが、そのためには、段階的に研究を進めていかなければならない。この授業では、卒業論文の作成に向けて、教員の指導の下、各自が研究発表をおこない、相互に討論しつつともに学んでいきたい。

授業の概要

卒業論文の作成にむけて、各自が中間発表を行う。求められる報告の内容は以下のとおりだが、そのすべてを満たす必要はない。
1、卒業論文のテーマとその概要（何を研究するのか）
2. 研究の動機（なぜそのテーマで研究するのか、その研究の意義は何か）
3. 研究することで明らかにしたいこと（研究の目的、到達目標）
4. 先行研究（自分のテーマに関連する先行研究のリストをつくる、できるかぎり網羅的に。さらにいくつかの先行研究を読み、その内容を紹介し、問題点を考察する）、
5. 関連資料（先行研究を調べるなかで、自分の研究テーマについて収集し、読解すべき史料が何であるのかを調査し、その史料のリストを作成し、史料へのアクセス方法を調べる。可能ならば史料を集める）
前期のこの授業で、2～3回卒業研究の中間報告を行う。
なお、臨時のガイダンスや講演や学外活動などにより、授業の計画が変更されることがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

報告にあたっては事前準備を周到にしておかねばならない。より重要なのは、報告後の検討作業である。中間発表に対して出された意見やアイデアを取り入れて、それまでの研究をよりよいものにするための反省と修正、さらに今後の展開のための戦略をねる作業が不可欠となる。なお、学期末のレポートは、添削のうえ、簡単なコメントを付けて返却する。

内　容

第1回　ガイダンス（卒業研究に必要なこころがまえ、研究の方法、研究倫理）
第2回　個別発表①
第3回　個別発表②
第4回　個別発表③
第5回　個別発表④
第6回　個別発表⑤
第7回　個別発表⑥
第8回　個別発表⑦
第9回　個別発表⑧
第10回　個別発表⑨
第11回　個別発表⑩
第12回　個別発表⑪
第13回　個別発表⑫
第14回　個別発表⑬
第15回　個別発表⑭

履修上の注意点

卒業論文は学生生活の集大成。その準備のための演習Ⅲ、Ⅳは4回生時の学習の中心となる授業なので、主体的な参加が求められる。発表は必ず行うこと。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 40 ）

a10304a610

参加度 （ 30 ）

授業中の発表をまとめたものを、卒業研究の中間報告として、学期末のレポートにまとめて提出すること。

2018 Syllabus

科 目 名　**現代史演習Ⅲ <＊b>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　渡邊　和行	

テーマ

卒論の作成に向けた基本的枠組みを構築する。

授業の到達目標

卒論作成のために、問いの明確化と仮説の呈示、および卒論の構成を考える。

授業の概要

各自の関心に従った卒論のテーマに沿って、作業を進める。演習は個別研究報告とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

卒論に関わる一次文献、二次文献の収集と読解を行う。

内　　容

第1回　イントロダクション
第2回　報告1
第3回　報告2
第4回　報告3
第5回　報告4
第6回　報告5
第7回　報告6
第8回　報告7
第9回　報告8
第10回　報告9
第11回　報告10
第12回　報告11
第13回　報告12
第14回　報告13
第15回　報告14。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

履修上の注意点

8回以上の欠席者には単位を認めない。

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 30 ）
課題の報告と出席などを総合的に判断して評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**現代史演習Ⅲ <＊Z>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小野 浩	

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文を完成させる
併せて研究倫理に関して注意を喚起し説明する。

授業の概要

世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行います。授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。
〇テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する　〇中間発表に向けての指導（レジュメ、発表原稿等）　〇中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する　〇個々の問題についての個別指導
なお、学外授業を行うこともある。また学外講演者を招いて講演会を行なう予定である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　全体的指導（卒業後の進路の指導も含む）
第2回　個別発表（1）
第3回　個別発表（2）
第4回　個別発表（3）
第5回　個別発表（4）
第6回　個別発表（5）
第7回　個別発表（6）
第8回　個別発表（7）
第9回　個別発表（8）
第10回　個別発表（9）
第11回　個別発表（10）
第12回　個別発表（11）
第13回　個別発表（12）
第14回　個別発表（13）
第15回　個別発表（14）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 0 ）	授業中発表等 （ 60 ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**現代史演習Ⅳ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　永井　和	

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

現代史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習である。卒業論文は、大学でのこれまでの学習の集大成である。自分の個性を活かした、よい卒業論文を執筆することが目標であるが、そのためには、段階的に研究を進めていかなければならない。この授業は、卒業論文の作成に向けて、最後の準備となる。教員の指導の下、各自が研究発表をおこない、相互に討論しつつともに学んでいきたい。

授業の概要

演習Ⅲでの発表と指導をもとに、卒業論文の作成にむけて、各自が最後の中間発表を行う。以下の項目にそって報告する。
1、卒業論文のテーマと論文の問題設定
2. 先行研究の整理
3. 論文において明らかにすべき問題の明確化
4. 関連資料
5. 章構成の説明
6. 論文作成上の問題点
10、11月に、各自2回中間報告を行う。11月末から卒論提出日までは、個別に指導をおこなう。
なお、なお、臨時のガイダンスや講演や学外活動などにより、授業の計画が変更されることがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

報告にあたっては事前準備を周到にしておかねばならない。より重要なのは、報告後の検討作業である。中間発表に対して出された意見やアイデアを取り入れて、よりよい論文を完成することが大事である。
10月中に卒論の構成がまとまるように、作業を進め、11月には構成案にしたがって、論文の執筆に進む。12月には草稿の検討を行う。

内　容

第1回　ガイダンス（卒論執筆にむけて、研究の方法とこころがまえ）
第2回　個別発表①
第3回　個別発表②
第4回　個別発表③
第5回　個別発表④
第6回　個別発表⑤
第7回　個別発表⑥
第8回　個別発表⑦
第9回　個別発表⑧
第10回　卒論執筆要項の説明と個別指導
第11回　個別指導
第12回　個別指導
第13回　卒論のまとめ
第14回　卒論のまとめ
第15回　卒業にむけて4年間をふり返る

履修上の注意点

卒業論文は学生生活の集大成。その準備のための演習Ⅲ、Ⅳは4回生時の学習の中心となる授業なので、主体的な参加が求められる。発表は必ず行うこと。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 10 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 60 ）
参加度（ 30 ）

a10304a750

学期末に4年間をふり返ったレポートの提出を求める。

2018 Syllabus

科 目 名　**現代史演習Ⅳ＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　渡邊　和行	

テーマ

卒論を完成させる。

授業の到達目標

卒論を仕上げるために、文献の読破と文章化の作業を進める。

授業の概要

前期に引き続き、卒論作成のための個別研究報告が主体となる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

文献や史料の収集を続け、それらを読解して、卒論に生かす。

内　　容

第1回　イントロダクション
第2回　報告1
第3回　報告2
第4回　報告3
第5回　報告4
第6回　報告5
第7回　報告6
第8回　報告7
第9回　報告8
第10回　報告9
第11回　報告10
第12回　報告11
第13回　報告12
第14回　報告13
第15回　報告14。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

履修上の注意点

8回以上の欠席者には単位を認めない。

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 30 ）
課題の作成や報告、出席を総合して評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**現代史演習Ⅳ〈＊Z〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小野 浩	

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行います。

授業の概要

授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。　〇テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する　〇中間発表に向けての指導（レジュメ、発表原稿等）　〇中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する　〇個々の問題についての個別指導　なお必要に応じて卒論作成の参考になるように学外講師を招いての講演等を行うことがある。また期間中、学外授業を行うこともある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　個別発表（1）
第2回　個別発表（2）
第3回　個別発表（3）
第4回　個別発表（4）
第5回　個別発表（5）
第6回　個別発表（6）
第7回　個別発表（7）
第8回　個別発表（8）
第9回　個別発表（9）
第10回　個別発表（10）
第11回　個別発表（11）
第12回　個別発表（12）
第13回　個別発表（13）
第14回　個別発表（14）
第15回　個別発表（15）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 60 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**京都の歴史と文化遺産**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　秋期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　増渕　徹	

テーマ

京都市の歴史遺産とその保護・活用について学ぶ

授業の到達目標

京都市内に残る遺跡・建造物・庭園・美術工芸品・民俗文化財などの多様な文化遺産を知るとともに、文化財保護行政の現状を理解し、遺産の保護・活用・継承に対する課題認識を深める。

授業の概要

京都市文化市民局文化財保護課の技師の方々を講師に、市内の各種の文化遺産とその特徴、及び調査や保護上の課題を解説する形式で進める(集中講義)。講義中に2～3回の現地見学を行う(見学料等が必要になる場合がある)。なお、以下の予定は2017年度に実施した内容で、18年度の実際の講義内容や見学対象は講師の関係で変更する場合がある(集中講義開始前にあらためて通知する)。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

日常的にたくさんの文化遺産を見学し、自身で問題意識をもってほしい。なお、2講時分程度を単位としてミニレポートを課し、適切なレポートに対しては適宜フィードバックする。

内　容

第1回　京都市における文化財保護の取り組み(総説)
第2回　史跡と遺跡の保護
第3回　美術工芸品の保護
第4回　庭園の保護　(以上、第1日)
第5回　東寺の建造物とその保護
第6回　文化的景観
第7回　現地見学(岡崎・埋蔵文化財と文化的景観①)
第8回　現地見学(岡崎・埋蔵文化財と文化的景観②)　(以上、第2日)
第9回　民俗文化財の保護
第10回　世界遺産と京都の現在
第11回　現地見学(東寺・建造物の修理現場)
第12回　現地見学(東寺・築地塀発掘調査現場)　(以上、第3日)
第13回　現地見学(堀川周辺の近代遺産①)
第14回　現地見学(堀川周辺の近代遺産②)
第15回　まとめ

履修上の注意点

歴史遺産について関心をもち、自ら質問する姿勢を求める。また、受講経験を活かして歴史遺産をたくさん見てほしいので、その積極性をもつ学生(できれば下回生)を歓迎する。

教科書

レジュメを配布する

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

各回のレジュメで周知する

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート (40)　　小テスト ( )
授業中課題 (10)　　授業中発表等 ( )
参加度 (50)

「授業中課題」として、毎日の小レポートと、全体をまとめるレポート(最終レポート)を課す。なお、全日程終了後、最終レポートの提出を求める。

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ（遺）＜＊A＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一瀬　和夫.中久保　辰夫	

テーマ

歴史遺産学とはいかなる学問か

授業の到達目標

歴史遺産学とは、何を対象にし、いかに研究を進める学問なのかについて理解を深める。

授業の概要

事前学習及び事後学習をとおして「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」といった多角的な実習をおこなう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

見学で実見した文化財に関わる文献を読み、さらなる理解を深める。歴史遺産に関する古今東西の書物を積極的に読み、自分なりの基礎研究を進める。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　ゼミ 発表事前指導
第3回　発表①
第4回　発表②
第5回　発表③
第6回　発表④
第7回　発表⑤
第8回　総括
第9回　ゼミ 発表事前指導
第10回 発表①
第11回 発表②
第12回 発表③
第13回 発表④
第14回 発表⑤
第15回 総括　※なお、この授業では必要に応じて学外授業および、ゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

歴史とは何か
著者:　E.H.カー
出版社:　岩波書店
出版年:　1962年　　ISBN:　4-00-41001-8

参考書

指定図書
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ（遺）＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　有坂　道子.一瀬　和夫	

テーマ

歴史遺産学とはいかなる学問か

授業の到達目標

歴史遺産学とは、何を対象にし、いかに研究を進める学問なのかについて理解を深める。

授業の概要

事前学習及び事後学習をとおして「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」といった多角的な実習をおこなう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

見学で実見した文化財に関わる文献を読み、さらなる理解を深める。歴史遺産に関する古今東西の書物を積極的に読み、自分なりの基礎研究を進める。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　ゼミ 発表事前指導
第3回　発表①
第4回　発表②
第5回　発表③
第6回　発表④
第7回　発表⑤
第8回　総括
第9回　ゼミ 発表事前指導
第10回 発表①
第11回 発表②
第12回 発表③
第13回 発表④
第14回 発表⑤
第15回 総括　※なお、この授業では必要に応じて学外授業および、ゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

歴史とは何か
著者:　E.H.カー
出版社:　岩波書店
出版年:　1962年　　ISBN:　4-00-41001-8

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ（遺）＜＊C＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　有坂　道子.小林　裕子	

テーマ

歴史遺産学とはいかなる学問か

授業の到達目標

歴史遺産学とは、何を対象にし、いかに研究を進める学問なのかについて理解を深める。

授業の概要

事前学習及び事後学習をとおして「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」といった多角的な実習をおこなう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

見学で実見した文化財に関わる文献を読み、さらなる理解を深める。
歴史遺産に関する古今東西の書物を積極的に読み、自分なりの基礎研究を進める。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　ゼミ 発表事前指導
第3回　発表①
第4回　発表②
第5回　発表③
第6回　発表④
第7回　発表⑤
第8回　総括
第9回　ゼミ 発表事前指導
第10回 発表①
第11回 発表②
第12回 発表③
第13回 発表④
第14回 発表⑤
第15回 総括
※なお、この授業では必要に応じて学外授業および、ゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ（遺）＜＊A＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　有坂　道子.小林　裕子	

テーマ

歴史遺産学とはいかなる学問か

授業の到達目標

歴史遺産学とは、何を対象にし、いかに研究を進める学問なのかについて理解を深める。

授業の概要

事前学習及び事後学習をとおして「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」といった多角的な実習をおこなう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

見学で実見した文化財に関わる文献を読み、さらなる理解を深める。
歴史遺産に関する古今東西の書物を積極的に読み、自分なりの基礎研究を進める。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　ゼミ 発表事前指導
第3回　発表①
第4回　発表②
第5回　発表③
第6回　発表④
第7回　発表⑤
第8回　総括
第9回　ゼミ 発表事前指導
第10回 発表①
第11回 発表②
第12回 発表③
第13回 発表④
第14回 発表⑤
第15回 総括
※なお、この授業では必要に応じて学外授業およびゲストスピーカーの講演を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ（遺）＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小林　裕子.中久保　辰夫	

テーマ

歴史遺産学とはいかなる学問か

授業の到達目標

歴史遺産学とは、何を対象にし、いかに研究を進める学問なのかについて理解を深める。

授業の概要

事前学習及び事後学習をとおして「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」といった多角的な実習をおこなう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

見学で実見した文化財に関わる文献を読み、さらなる理解を深める。歴史遺産に関する古今東西の書物を積極的に読み、自分なりの基礎研究を進める。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　ゼミ 発表事前指導
第3回　発表①
第4回　発表②
第5回　発表③
第6回　発表④
第7回　発表⑤
第8回　総括
第9回　ゼミ 発表事前指導
第10回 発表①
第11回 発表②
第12回 発表③
第13回 発表④
第14回 発表⑤
第15回 総括　※なお、この授業では必要に応じて学外授業およびゲストスピーカーの講演を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

指定図書
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ（遺）＜＊C＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一瀬　和夫.中久保　辰夫	

テーマ

歴史遺産学とはいかなる学問か

授業の到達目標

歴史遺産学とは、何を対象にし、いかに研究を進める学問なのかについて理解を深める。

授業の概要

事前学習及び事後学習をとおして「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」といった多角的な実習をおこなう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

見学で実見した文化財に関わる文献を読み、さらなる理解を深める。歴史遺産に関する古今東西の書物を積極的に読み、自分なりの基礎研究を進める。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　ゼミ 発表事前指導
第3回　発表①
第4回　発表②
第5回　発表③
第6回　発表④
第7回　発表⑤
第8回　総括
第9回　ゼミ 発表事前指導
第10回 発表①
第11回 発表②
第12回 発表③
第13回 発表④
第14回 発表⑤
第15回 総括　※なお、この授業では必要に応じて学外授業およびゲストスピーカーの講演を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

歴史とは何か
著者:　E.H.カー
出版社:　岩波書店
出版年:　1962年　　ISBN:　4-00-41001-8

参考書

指定図書
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本美術史Ⅰ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小林　裕子	

テーマ

古代から中世にいたるまでの日本美術の諸作例を通覧し、日本人の美に対する概念がいかなる歴史的背景によって培われてきたのかを考える。

授業の到達目標

本講義は、縄文時代から鎌倉時代までの絵画・彫刻・工芸・建築の作例から、古来日本人が中国や朝鮮半島から受容した技術や表現技法をいかに吸収し、自国の文化として昇華させていったのかについて理解を深めることを到達目標とする。

授業の概要

祖先から継承してきたわが国の特筆すべき作品の制作された時代背景や宗教観を理解しつつ、作品が我々に語りかけるものを感じてとってもらうべく、文献、映像、画像を多用した講義を展開する。外部講師招聘、学外授業実施の可能性もある。なお、日本美術史講義は前期開講の日本美術史Ⅰと後期開講の日本美術史Ⅱを合わせて履修することで通史の理解修得を実現できるように構成しているが、どちらか片方のみの履修でも差し支えない。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実際に博物館や美術館、寺社に足を運び、作品に直接向き合ってもらいたい。

内　容

第1回　ガイダンスー美術史学における年代観
第2回　縄文・弥生時代の美術ー土と金属の美
第3回　古墳時代の美術ー壁画古墳と副葬品
第4回　飛鳥時代の美術1ー仏教伝来と飛鳥寺
第5回　飛鳥時代の美術2ー法隆寺の金石文
第6回　白鳳時代の美術ー写実の萌芽と山田寺仏頭
第7回　奈良時代の美術1ー平城遷都と興福寺
第8回　奈良時代の美術2ー大仏造立
第9回　奈良時代の美術3ー鑑真渡日と木彫
第10回　平安時代前期の美術ー密教美術とは
第11回　平安時代後期の美術1ー院政期の絵画
第12回　平安時代後期の美術2ー浄土教の世界
第13回　鎌倉時代の美術1ー治承の兵火
第14回　鎌倉時代の美術2ー南都復興と慶派仏師
第15回　学外見学
第16回　試験

履修上の注意点

ガイダンスで指示するので、当日は必ず出席のこと。

教科書

使用しない（資料配付）
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 10 ）
ガイダンスで指示するので、当日は必ず出席のこと。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本美術史Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　福士　雄也	

テーマ

中世から近代にいたるまでの日本美術の諸作例を通覧し、日本人の美に対する概念がいかなる歴史的展開を経て培われてきたのかを考える。

授業の到達目標

鎌倉時代から近代までの美術に関する諸分野の作例から、日本人がどのような文化を形成してきたのかについて理解を深めることを到達目標とする。

授業の概要

日本の美術史上特筆すべき作品の制作された政治的・社会的背景を理解しつつ、作品が観る者に語りかけるものを感じてとってもらうべく、文献・画像を多用した講義を展開する。学外授業実施の可能性もある。なお、日本美術史講義は前期開講の日本美術史Ⅰと後期開講の日本美術史Ⅱを合わせて履修することで通史の理解修得を実現できるように構成しているが、どちらか片方のみの履修でも差し支えない。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

博物館や美術館、寺社等に足を運び、作品に直に向き合う経験を積んでもらいたい。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　鎌倉時代の美術―絵巻と肖像
第3回　南北朝・室町時代の美術1―唐物と足利将軍家
第4回　南北朝・室町時代の美術2―やまと絵障屏画と和漢の統合
第5回　桃山時代の美術1―天下人と障壁画
第6回　桃山時代の美術2―風俗画の展開
第7回　江戸時代の美術1―狩野探幽とその周辺
第8回　江戸時代の美術2―江戸中期の唐画師たち
第9回　江戸時代の美術3―南画の展開
第10回　江戸時代の美術4―浮世絵と江戸後期の美術
第11回　学外見学会
第12回　明治時代の美術1―西洋美術との邂逅
第13回　明治時代の美術2―日本画の摸索
第14回　大正・昭和時代の美術
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**民俗学Ⅰ〈Z〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鹿谷　勲	

テーマ

民俗文化の諸相

授業の到達目標

①民俗学のさまざまな分野を知ること ②民俗学のものの見方と調査法を理解をすること。

授業の概要

民俗学は庶民の生活文化を調査研究する学問。その対象は、衣食住、生産生業、交通交易、社会生活、信仰、年中行事、民俗芸能、口頭伝承など多分野にわたるが、これらの民俗文化の諸相を具体的に検討しながら、暮らしにおける民俗文化の意味を考える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日ごろから、人との会話を通して、自分の知らない事柄を知るように努めてほしい。また新しい事柄を丁寧に記録する習慣を身につけてほしい。ささいな事柄でも。

内　　容

第1回　日本各地の暮らしと文化
第2回　民俗学のあらまし（対象・方法・目的）
第3回　さまざまなモノを見る（民俗学の調査方法）
第4回　自分だけの採訪ノートを作る（民俗学の記録方法）
第5回　マチ・ムラを歩く（大学周辺や村落を歩く・現地学習）
第6回　各地の民俗誌①（雪国民俗誌）
第7回　各地の民俗誌②（吉野の民俗誌）
第8回　食べる民俗（食文化のいろいろ）
第9回　民具の体系化①（山の道具を調べる）
第10回　民具の体系化②（現地学習）
第11回　ことばを調べる（民俗語彙）
第12回　俗信を調べる（兆・占・禁・呪）
第13回　信仰のいろいろ（信仰的講集団）
第14回　祭礼と民俗芸能①（佃祭り等・現地学習）
第15回　祭礼と民俗芸能②（長崎くんち・おん祭り等）

履修上の注意点

民俗学は現代の暮らしにも関係があります。身の廻りの生活や周囲の光景に関心を抱いて、「あるく・みる・きく」を日ごろから各自実践してください。周囲のありふれた光景の中に、さまざまな意味が伏在しているのが見つかります。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

図説民俗探訪事典』 1983

著者:　大島暁雄他編

出版社:　山川出版社

出版年:　1983　　ISBN:

図解案内　日本の民俗

著者:　福田アジオ他

出版社:　吉川弘文館

出版年:　2009　　ISBN:

a10411d710

日本の祭り文化事典

著者: 全日本郷土芸能協会編

出版社: 東京書籍

出版年: 2006 ISBN:

奈良民俗紀行 西大和編

著者: 鹿谷 勲

出版社: 京阪奈情報教育出版

出版年: 2013 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 60 ） 小テスト（ 10 ）

授業中課題（ 10 ） 授業中発表等（ 10 ）

参加度（ 10 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**世界遺産論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池島 憲一	

テーマ

ユネスコ世界遺産の学習を通して、宗教、文化の多様性、各地域の課題、環境問題、芸術・建築など幅広くまなぶ。

授業の到達目標

160の国と地域にまたがる世界の有名な世界遺産100件、日本の世界遺産21件、および世界遺産の基礎知識を理解するとともに、世界遺産検定3級の合格をめざす。観光・旅行・海外での就職・文化財保護・自然保護に関心のある学生には有用と思う。

授業の概要

テキストとスライド画像で世界旅行気分もだして楽しくすすめたい。55か国の私の旅の話も織り込んでいきます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストのページをしめすので、講義の前後に通読すること。

内　　容

第1回　オリエンテーション、世界遺産検定3級とは、世界遺産学習の意味。
第2回　世界遺産の基礎知識1　ユネスコと世界遺産条約、世界遺産誕生のきっかけ
第3回　世界遺産の基礎知識2　登録までの流れ、世界遺産の種類と数、危機遺産と負の遺産
第4回　日本の世界遺産1　知床、白神山地、平泉、日光～京都、奈良
第5回　日本の世界遺産2　法隆寺、紀伊山地、姫路城～富岡、日本の産業革命
第6回　基礎知識と日本の世界遺産の復習
第7回　世界の文化遺産1　人類誕生とヨーロッパ古代文明、アジア世界の形成と宗教
第8回　世界の文化遺産2　ヨーロッパ中世、アメリカ、アフリカ、オセアニア
第9回　世界の文化遺産3　近代国家の成立と世界の近代化、
第10回　世界の文化遺産4　危機遺産、時事問題
第11回　世界の自然遺産
第12回　検定直前確認テスト
第13回　検定3級の解答・解説
第14回　学生の発表と質疑
第15回　今後の世界遺産学習の方向、学生の意見発表

履修上の注意点

講義後の個人質問も歓迎する。 7月6日に学内で実施される第32回世界遺産検定の受検を推奨。（団体受検料：3級3,900円）

教科書

きほんを学ぶ世界遺産100　世界遺産検定3級公式テキスト
著者：　NPO法人世界遺産アカデミー
出版社：株式会社マイナビ出版
出版年：2017　　ISBN：9784839962425

参考書

すべてがわかる世界遺産大事典(上)
著者：　世界遺産アカデミー
出版社：マイナビ出版
出版年：2016　　ISBN：9784839958114

すべてがわかる世界遺産大事典(下)
著者：　世界遺産アカデミー
出版社：マイナビ出版
出版年：2016　　ISBN：9784839958121

世界遺産年報2016
著者：　日本ユネスコ協会連盟
出版社：講談社
出版年：2015　　ISBN：

a10411d910

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 50 ）

試験（世界遺産検定3級）の点数を評価。理由があっての未受検はレポートでおぎなえる。参加度とは出席点のこと。学生の発表は若干の加点がある。

2018 Syllabus

科 目 名　**文化財行政論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山口　博	

テーマ

文化財保護の歴史と現状から、社会とこれからの文化財保護のあり方や文化財の保護とは何かを考える。

授業の到達目標

文化財の保護に関わる歴史から、社会情勢とともに変化する文化財やその保護のあり方ついて学び、その変化を導いてきた社会と文化財保護行政のあり方について考え、広く文化財とその保護の枠組みを理解する。

授業の概要

配布する資料、プリント等を基に、画像等も使用しつつ講義を進め、文化財保護法の概要や文化財行政の実際を学ぶ。
なお、各回の内容は変更することがあり、人数等の条件が整えば1～2回の学外授業を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

周辺にある指定登録やその他未指定等を含む様々な文化財や文化財保護と活用に関する情報ににふれ、文化財の保護とその仕組みについて考える。

内　容

第1回　プロローグ（文化財とは？その保護の歴史と沿革）
第2回　文化財保護の萌芽（有形文化財の保護）
第3回　文化財保護範囲の拡大（記念物の保護）
第4回　第2次大戦前後の文化財行政（有形文化財の保護拡大と文化財保護法の制定）
第5回　金閣の火災と戦後の文化財保護（防災設備整備と保護法改正による保護の拡充）
第6回　高度経済成長と1975年の保護法改正（埋蔵文化財等の保存運動と保護対策）
第7回　埋蔵文化財の保護と取り扱い（埋蔵文化財行政の実務）
第8回　1975年の保護法改正Ⅱ（無形民俗と伝統的建造物群の保護等）
第9回　1975年改正後の文化財保護法の改正（登録文化財と文化的景観）
第10回 文化財の保存と管理（記念物の現状変更を中心に）
第11回 文化財の保存整備と活用の実際
第12回 世界遺産と文化財保護法（オーセンティシティと文化財修理）
第13回 埋蔵文化財行政の課題（遺跡の発掘調査と原因者負担制度）
第14回 文化財の保存と活用（文化財の保存活用と補助制度）
第15回 まとめと今後の文化財行政（文化財の活用と課題-2018年の保護法改正ー）

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

岩波新書『遺跡保存を考える
著者:　椎名慎太郎
出版社:　岩波書店
出版年:　1994　　ISBN:　9784004303183

文化財保護関係法令集　第3次改訂版
著者:　文化財保護法研究会
出版社:　ぎょうせい
出版年:　2009　　ISBN:　978432408773-2

文化財保存70年の歴史
著者:　文化財保存全国協議会
出版社:　新泉社
出版年:　2017　　ISBN:　9784787717078

a10411e050

遺跡保護の制度と行政

著者: 和田勝彦
出版社: 同成社
出版年: 2015 ISBN: 9784886217097

成績評価

試験・レポート（ 45 ） 小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ） 授業中発表等（ ）
参加度 （ 25 ）
授業態度（課外授業等含む）並びに試験（授業中の課題、その他時間中のレポート等含む）

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産総合演習Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一瀬　和夫.中久保　辰夫	

テーマ

歴史遺産学各分野の研究を体験する

授業の到達目標

歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかに形成され、保存されてきたのかについて、体験的に学びとる。

授業の概要

研究対象への多様なアプローチを通して、文化遺産に対すべき姿勢を習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　演習事前指導
第3回　歴史遺産学演習①
第4回　歴史遺産学演習②
第5回　歴史遺産学演習③
第6回　歴史遺産学演習④
第7回　演習事後学習
第8回　総括
第9回　歴史遺産学演習①
第10回　歴史遺産学演習②
第11回　歴史遺産学演習③
第12回　歴史遺産学演習④
第13回　歴史遺産学演習⑤
第14回　歴史遺産学演習⑥
第15回　総括
※なお、この授業では必要に応じて学外授業およびゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

見学先に合わせたマナーを身につける。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産総合演習Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　有坂　道子.一瀬　和夫	

テーマ

歴史遺産学各分野の研究を体験する

授業の到達目標

歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかに形成され、保存されてきたのかについて、体験的に学びとる。

授業の概要

研究対象への多様なアプローチを通して、文化遺産に対すべき姿勢を習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　演習事前指導
第3回　歴史遺産学演習①
第4回　歴史遺産学演習②
第5回　歴史遺産学演習③
第6回　歴史遺産学演習④
第7回　演習事後学習
第8回　総括
第9回　歴史遺産学演習①
第10回　歴史遺産学演習②
第11回　歴史遺産学演習③
第12回　歴史遺産学演習④
第13回　歴史遺産学演習⑤
第14回　歴史遺産学演習⑥
第15回　総括
※なお、この授業では必要に応じて学外授業およびゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

見学先に合わせたマナーを身につける。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産総合演習Ⅰ〈c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　有坂　道子.小林　裕子	

テーマ

歴史遺産学各分野の研究を体験する

授業の到達目標

歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかに形成され、保存されてきたのかについて、体験的に学びとる。

授業の概要

研究対象への多様なアプローチを通して、文化遺産に対すべき姿勢を習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　演習事前指導
第3回　歴史遺産学演習①
第4回　歴史遺産学演習②
第5回　歴史遺産学演習③
第6回　歴史遺産学演習④
第7回　演習事後学習
第8回　総括
第9回　歴史遺産学演習①
第10回　歴史遺産学演習②
第11回　歴史遺産学演習③
第12回　歴史遺産学演習④
第13回　歴史遺産学演習⑤
第14回　歴史遺産学演習⑥
第15回　総括
※なお、この授業では必要に応じて学外授業およびゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

見学先に合わせたマナーを身につける。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産総合演習Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　有坂　道子.小林　裕子	

テーマ

歴史遺産学各分野の研究を体験する

授業の到達目標

歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかに形成され、保存されてきたのかについて、体験的に学びとる。

授業の概要

研究対象への多様なアプローチを通して、文化遺産に対すべき姿勢を習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　演習事前指導
第3回　歴史遺産学演習①
第4回　歴史遺産学演習②
第5回　歴史遺産学演習③
第6回　歴史遺産学演習④
第7回　演習事後学習
第8回　総括
第9回　歴史遺産学演習①
第10回　歴史遺産学演習②
第11回　歴史遺産学演習③
第12回　歴史遺産学演習④
第13回　歴史遺産学演習⑤
第14回　歴史遺産学演習⑥
第15回　総括
※なお、この授業では必要に応じて学外授業およびゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

見学先に合わせたマナーを身につける。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産総合演習Ⅱ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小林　裕子.中久保　辰夫	

テーマ

歴史遺産学各分野の研究を体験する

授業の到達目標

歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかに形成され、保存されてきたのかについて、体験的に学びとる。

授業の概要

研究対象への多様なアプローチを通して、文化遺産に対すべき姿勢を習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　演習事前指導
第3回　歴史遺産学演習①
第4回　歴史遺産学演習②
第5回　歴史遺産学演習③
第6回　歴史遺産学演習④
第7回　演習事後学習
第8回　総括
第9回　歴史遺産学演習①
第10回　歴史遺産学演習②
第11回　歴史遺産学演習③
第12回　歴史遺産学演習④
第13回　歴史遺産学演習⑤
第14回　歴史遺産学演習⑥
第15回　総括
※なお、この授業では必要に応じて学外授業およびゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

見学先に合わせたマナーを身につける。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産総合演習Ⅱ〈c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一瀬　和夫.中久保　辰夫	

テーマ

歴史遺産学各分野の研究を体験する

授業の到達目標

歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかに形成され、保存されてきたのかについて、体験的に学びとる。

授業の概要

研究対象への多様なアプローチを通して、文化遺産に対すべき姿勢を習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　演習事前指導
第3回　歴史遺産学演習①
第4回　歴史遺産学演習②
第5回　歴史遺産学演習③
第6回　歴史遺産学演習④
第7回　演習事後学習
第8回　総括
第9回　歴史遺産学演習①
第10回　歴史遺産学演習②
第11回　歴史遺産学演習③
第12回　歴史遺産学演習④
第13回　歴史遺産学演習⑤
第14回　歴史遺産学演習⑥
第15回　総括
※なお、この授業では必要に応じて学外授業およびゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

見学先に合わせたマナーを身につける。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**東洋美術史**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　王　衛明	

テーマ

東洋美術史の全体像を体系的に解説する

授業の到達目標

美術、考古資料を概観することによって、東アジアにおける美術造形発展の流れを把握する。

授業の概要

オリエント(東洋)という芸術史上の概念は、インド以東の中国、朝鮮、日本及び東南アジア諸国の造形美術を指す。この授業は、美術史通史の性格を持ち、中国古代文明を中心に、歴代王朝に生み出された代表的な絵画、彫刻、工芸、建築等を直接的考察対象にし、美術史学の学問体系から、これらの様々な様式特徴、表現主題、重要作家の事跡と歴史地位等をイメージ資料で通覧し、また中国における近年最新の考古発掘資料とその研究現状の紹介を加えながら、複雑で多様な美的歴史展開の輪郭を講じていきたい。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

場合によって授業内容にかかわる寺社や特別展の見学を実施する。事前に指示した参考書を基に調べておく。

内　容

第1回　概説・中国美術史発展の特徴と研究方法
第2回　史前・原始社会の美術一文明の形態
第3回　夏文明に関する諸説の検討
第4回　二里頭遺跡の発掘及び青銅文明の出現
第5回　商周の美術一青銅器の出現と文飾の意味
第6回　春秋・戦国時期の美術一帛画・青銅工芸品、漆器(美術副葬品の出現)
第7回　秦代の美術一始皇帝陵と兵馬俑
第8回　秦代美術の問題点一その源流を考える
第9回　漢代の美術一死後世界の憧憬とその表現
第10回　墓室壁画及び画像石、画像磚に見られる美術資料
第11回　東アジア地域における秦漢美術の意義
第12回　魏晋南北朝時代一職業仏教画家と士大夫画家及び墓室壁画の諸問題
第13回　中国古代の絵画史論一謝赫の「六法」から張彦遠の『歴代名画記』まで
第14回　魏晋南北朝時代の代表画家とその史料上の問題
第15回　内容総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻や途中退席をしないように。参考書は授業中に適時指示する。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 50 ）

授業中に紹介した、参考文献や論文、また配布資料を必ず週7時間以上読むこと。
この授業は受講生の授業態度を重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**西洋美術史**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河上　眞理	

テーマ

西洋美術史の軸（古代から19世紀まで）

授業の到達目標

古代ギリシアから19世紀までの西洋の美術史を概観します。絵画や彫刻を、それらが置かれている建築や都市の空間との関係を含めて考察していきましょう。また、それぞれの作品が誕生した社会や歴史、美術家同士の関係、美術家と委嘱者との関係、絵画化された主題は何か、なども視野に含めて検討していきます。欧米諸国への旅行に際してのヒントも得られるでしょう。

授業の概要

毎回プリント（授業のレジュメ）を配布し、基本的には1回毎に完結して進みます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：参考書に挙げた西洋美術史の通史の書籍を用意し、指定箇所を通読する。
復習：授業内容の整理ノートの作成。

内　　容

第1回　ギリシア美術
第2回　ローマ美術
第3回　初期キリスト教美術
第4回　ビザンティン美術
第5回　ロマネスク美術
第6回　ゴシック美術
第7回　ルネサンス美術 I
第8回　ルネサンス美術 II
第9回　北方ルネサンス美術
第10回　バロック美術
第11回　新古典主義と美術アカデミー
第12回　ロマン主義
第13回　写実主義
第14回　印象主義
第15回　後期印象主義

履修上の注意点

通史の授業なので全回出席することが望ましい。

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

増補新装　カラー版西洋美術史
著者：　高階秀爾
出版社：　美術出版社
出版年：　2002年　　ISBN：

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 70 ）	授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**民俗学**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鹿谷　勲	

テーマ

民俗文化の諸相

授業の到達目標

①民俗学のさまざまな分野を知ること ②民俗学のものの見方と調査法を理解をすること。

授業の概要

民俗学は庶民の生活文化を調査研究する学問。その対象は、衣食住、生産生業、交通交易、社会生活、信仰、年中行事、民俗芸能、口頭伝承など多分野にわたるが、これらの民俗文化の諸相を具体的に検討しながら、暮らしにおける民俗文化の意味を考える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日ごろから、人との会話を通して、自分の知らない事柄を知るように努めてほしい。また新しい事柄を丁寧に記録する習慣を身につけてほしい。ささいな事柄でも。

内　　容

第1回　日本各地の暮らしと文化
第2回　民俗学のあらまし（対象・方法・目的）
第3回　さまざまなモノを見る（民俗学の調査方法）
第4回　自分だけの採訪ノートを作る（民俗学の記録方法）
第5回　マチ・ムラを歩く（大学周辺や村落を歩く・現地学習）
第6回　各地の民俗誌①（雪国民俗誌）
第7回　各地の民俗誌②（吉野の民俗誌）
第8回　食べる民俗（食文化のいろいろ）
第9回　民具の体系化①（山の道具を調べる）
第10回　民具の体系化②（現地学習）
第11回　ことばを調べる（民俗語彙）
第12回　俗信を調べる（兆・占・禁・呪）
第13回　信仰のいろいろ（信仰的講集団）
第14回　祭礼と民俗芸能①（佃祭り等・現地学習）
第15回　祭礼と民俗芸能②（長崎くんち・おん祭り等）

履修上の注意点

民俗学は現代の暮らしにも関係があります。身の廻りの生活や周囲の光景に関心を抱いて、「あるく・みる・きく」を日ごろから各自実践してください。周囲のありふれた光景の中に、さまざまな意味が伏在しているのが見つかります。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

図説民俗探訪事典』 1983

著者:　大島暁雄他編

出版社:　山川出版社

出版年:　1983　　ISBN:

図解案内　日本の民俗

著者:　福田アジオ他

出版社:　吉川弘文館

出版年:　2009　　ISBN:

a10411e510

日本の祭り文化事典

著者: 全日本郷土芸能協会編

出版社: 東京書籍

出版年: 2006 ISBN:

奈良民俗紀行 西大和編

著者: 鹿谷 勲

出版社: 京阪奈情報教育出版

出版年: 2013 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 60 ） 小テスト（ 10 ）

授業中課題（ 10 ） 授業中発表等（ 10 ）

参加度 （ 10 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**文化遺産学**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　岸　泰子	

テーマ

文化遺産を理解する

授業の到達目標

本授業は、人間によって作り出された遺産である文化遺産の概要を理解した上で、建築・都市史の視点からみた文化遺産の調査・分析の方法論を習得し、さらに文化遺産の役割などを理解することを目的とする。

授業の概要

文化遺産学の歴史や文化遺産を取り巻く制度などの文化遺産の概要を説明する。次に、日本・アジアの文化遺産の事例を紹介しながら、その現状・課題・調査方法などを概説する。最後に、世界遺産と文化遺産との関係や地域における文化遺産の役割などを解説していく。なお、受講生の反応（授業中課題）を勘案しつつ授業を進行していくため、授業の計画に記した各回の内容を変更する場合がある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

講義ノートを各自作成し、予習・復習を十分に行うこと。

内　容

第1回　ガイダンス〈文化遺産とは何か〉
第2回　文化遺産学の歴史
第3回　文化遺産をとりまく制度
第4回　世界遺産と文化遺産
第5回　文化遺産と景観1〈景観の保存の意味〉
第6回　文化遺産と景観2〈景観の調査〉
第7回　文化遺産と景観3〈地域と景観〉
第8回　文化遺産と建築1〈日本・アジアの事例〉
第9回　文化遺産と建築2〈建造物の保存の意味〉
第10回　文化遺産と建築3〈建造物の調査〉
第11回　文化遺産と地域史
第12回　地域における文化遺産〈京都府の事例から〉
第13回　地域における文化遺産〈兵庫県の事例から〉
第14回　地域における文化遺産〈滋賀県の事例から〉
第15回　文化遺産の役割

履修上の注意点

基本的な受講のマナーを守ることができない受講生ならびに欠席が多い受講生については、単位認定の対象から除外する。病気等で欠席する場合は事前に連絡をすること（事後連絡は不可）。

教科書

使用しない（レジュメ配布）
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学基礎ゼミⅠ〈＊A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一瀬　和夫	

テーマ

考古遺産や史跡の観察、記録、解釈と発表の流れをつかむ。

授業の到達目標

I hear and I forget. I see and I remember. I do and I understand. をもとに、自己の研究課題の設定方法を修得する。

授業の概要

実習、発表、ワークショップを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

気に入ったものをつねに探す。史跡・博物館・ショッピング街などにあるものと展示を意識的に見学する。

内　　容

第1回　考古遺産とはなにか？
第2回　世界文化遺産や史跡の見学発表の検討
第3回　世界文化遺産や史跡での見学発表（学外授業）
第4回　資料の収集
第5回　データの分布
第6回　データの分析
第7回　資料の編年1
第8回　資料の編年2
第9回　編年の分析
第10回　原典史料の解釈
第11回　原典史料の解釈
第12回　世界文化遺産・史跡の普遍的価値と本質的価値
第13回　世界文化遺産や考古遺産の発表1
第14回　世界文化遺産や考古遺産の発表2
第15回　世界文化遺産や考古遺産の発表3

履修上の注意点

ものや文化の意味について考えること。

教科書

百舌鳥・古市古墳群
著者:　一瀬和夫
出版社: 同成社
出版年: 2016　　ISBN:　9784886217462

参考書

古墳の研究　調べ学習日本の歴史2
著者:　一瀬和夫監修
出版社: ポプラ社
出版年: 2000　　ISBN:　9784591063774

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学基礎ゼミⅠ〈＊B〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　有坂　道子	

テーマ

近世の文献史料を読む

授業の到達目標

江戸時代の文献史料の読み方や解釈を学ぶとともに、くずし字の基礎的知識を身につける。

授業の概要

文献史料（翻刻史料）を用いた読解練習と、くずし字の読み方を学ぶ。なお、必要に応じて古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

博物館や美術館の展示を積極的に見学すること。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　文献史料を読む（1）
第3回　文献史料を読む（2）
第4回　文献史料を読む（3）
第5回　文献史料を読む（4）
第6回　文献史料を読む（5）
第7回　文献史料を読む（6）
第8回　文献史料を読む（7）
第9回　学外授業
第10回 くずし字を読む（1）
第11回 くずし字を読む（2）
第12回 くずし字を読む（3）
第13回 くずし字を読む（4）
第14回 くずし字を読む（5）
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学基礎ゼミⅠ〈＊C〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小林　裕子	

テーマ

美術史学研究の入門編として、その方法論を知り、体験する。

授業の到達目標

本講義では美術工芸品の研究史、関連作例、時代背景といった情報収集、及び美術工芸品の客観的な分析をおこなう能力を養うことを目標とする。なお、必要に応じて学外見学、外部講師招聘を実施する。

授業の概要

観察、ディスクリプション執筆、論文の分析評価をおこなう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

近畿圏の寺院、博物館や美術館で積極的に実物に接することをのぞむ。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　図書館ガイダンスと論文複写入手
第3回　ディスクリプション執筆絵画編①
第4回　ディスクリプション執筆絵画編②
第5回　ディスクリプション執筆彫刻編①
第6回　ディスクリプション執筆彫刻編②
第7回　学外見学
第8回　テーマ論文講読と討論～論文分析①
第9回　テーマ論文講読と討論～論文分析②
第10回　テーマ論文講読と討論～論文分析③
第11回　外部講師による特別講義
第12回　先行研究評価をテーマにした発表①
第13回　先行研究評価をテーマにした発表②
第14回　先行研究評価をテーマにした発表③
第15回　先行研究評価をテーマにした発表④

履修上の注意点

ガイダンスで指示する。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学基礎ゼミⅡ〈＊A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　村上　裕道	

テーマ

文化財の維持継承に関する実践的な計画手法を学ぶ

授業の到達目標

文化財の維持継承手法の概要を知る

授業の概要

現在行っている文化財の保存対策調査及び保存管理計画を基本に、不動産系の文化財のマネージメント手法に関する着想点を知る。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　重要伝統的建造物群保存地区保存対策調査　その1
第2回　同　その2
第3回　重要伝統的建造物群保存地区保存管理計画　その1
第4回　同　その2
第5回　重伝建地区　　（学外授業）　レポート
第6回　重要文化的景観保存対策調査　その1
第7回　同　その2
第8回　重要文化的景観保存管理計画　その1
第9回　同　その2
第10回　重要文化的景観地区　　（学外授業）　レポート
第11回　重要文化財保存管理計画　その1
第12回　同　その2
第13回　史跡保存管理計画　その1
第14回　同　その2
第15回　重要文化財・史跡複合地　（学外授業）　レポート

履修上の注意点

実際の指定・選定文化財を事例に学習の計画であるので、文化財を普段からよく見ておくこと　参考実例を配布

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）
レポートの作成・提出を行わない者は単位取得が難しくなる。

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学基礎ゼミⅡ〈＊B〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　有坂　道子	

テーマ

近世の文献史料を読む

授業の到達目標

江戸時代の文献史料の読み方や解釈を学ぶとともに、くずし字の基礎的知識を身につける。

授業の概要

文献史料（翻刻史料）を用いた読解練習と、くずし字の読み方を学ぶ。なお、必要に応じて古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

博物館・美術館の展示を積極的に見学すること。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　文献史料を読む（1）
第3回　文献史料を読む（2）
第4回　文献史料を読む（3）
第5回　文献史料を読む（4）
第6回　文献史料を読む（5）
第7回　文献史料を読む（6）
第8回　文献史料を読む（7）
第9回　学外授業
第10回 くずし字を読む（1）
第11回 くずし字を読む（2）
第12回 くずし字を読む（3）
第13回 くずし字を読む（4）
第14回 くずし字を読む（5）
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学基礎ゼミⅡ〈＊C〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中久保　辰夫	

テーマ

考古学の入門編として、基礎的な考古資料の観察方法や記録手法についての知識と理解を深める。

授業の到達目標

遺物の観察眼を養い、考古学の研究背景や分析方法の基礎を習得する。身近にある文化遺産の魅力を他者に伝える能力を身につける。

授業の概要

考古資料の実物観察、ワークショップ、基礎論文講読とディスカッションを行う。また、遺跡や博物館、発掘調査現場を見学することがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

身近にある遺跡や博物館に積極的に見学することをのぞみます。課題において遺跡や遺物について調べた後に、対象遺跡や遺物を再度見学するように心がけてください。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　考古学の基本知識
第3回　考古資料の観察方法①　土器資料の特性
第4回　考古資料の観察方法②　石器資料の特性
第5回　考古資料の観察方法③　鉄器資料の特性
第6回　簡易実測ワークショップ
第7回　学外見学（博物館）
第8回　考古学基礎論文講読と討論　型式学
第9回　考古学基礎論文講読と討論　分布論
第10回　考古学基礎論文講読と討論　年代決定論1
第11回　考古学基礎論文講読と討論　年代決定論2
第12回　学外見学（遺跡）
第13回　身近にある文化遺産を調べるための方法
第14回　身近にある文化遺産の発表と討論
第15回　総括

履修上の注意点

受講中の私語はつつしんでください。学外授業があるために、無断欠席や遅刻はしないでください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**文献史料学Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　村上　裕道	

テーマ

文献史料学の成果を活かし、歴史を身近に感じる

授業の到達目標

史料が現在の生活へ反映していることを知る

授業の概要

日本で最初の地誌といえる風土記を題材に、伝承から伝説へ、そして、歴史になる流れを知るとともに、その活用の手法を探る。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

配布したプリントで意味が分からない用語を辞典等で調べること。

内　容

第1回　風土記概要　律令国家体制と正史作成の試み
第2回　5つの風土記の特徴
第3回　播磨国風土記の概要
第4回　出雲国風土記の概要
第5回　常陸国風土記の概要
第6回　考古学的研究　播磨国風土記と播磨の駅家
第7回　考古学的研究　播磨国風土記と石の宝殿
第8回　考古学的研究　播磨国風土記と産業（塩・鉄・石）
第9回　歴史研究　　播磨国風土記と地名起源説話
第10回　歴史研究　　播磨国風土記と地域社会
第11回　風土記を活かす取り組み1 博物館の事例　兵庫県立考古博物館
第12回　風土記を活かす取り組み2 ボランティア活動の事例　兵庫県立考古博物館
第13回　風土記を活かす取り組み3 研究者の取り組み　兵庫県立歴史博物館
第14回　自分で考える風土記の活かし方1　歴史ウォークMAP
第15回　自分で考える風土記の活かし方2　紙芝居・四コマまんが

履修上の注意点

やむを得ない事情がある場合を除き5回以上欠席すると単位取得は難しくなる。特に、MAP若しくは紙芝居の課題提出（提出は何方か1点）を行わない者は難しい。

教科書

参考書

風土記の考古学②　播磨国風土記の巻
著者:　檜本誠一編
出版社:　同成社
出版年:　1994　　ISBN:

風土記の世界
著者:　三浦佑之
出版社:　岩波新書
出版年:　2016　　ISBN:

ひょうご歴史研究室紀要1・2
著者:　兵庫県立歴史博物館歴史研究室
出版社:　同館NET
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（　）　　小テスト（　）

a10412d310

授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 60 ）

風土記に記載する文章表現を図像イメージに変換して、小学生に伝えることを試みることにより、地誌の読み込む力を評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**文献史料学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　有坂　道子	

テーマ

文献史料を読む

授業の到達目標

史料を読み解く力を身につける

授業の概要

江戸時代の古文書の翻刻史料を用いて、古文書に関する基礎的な知識を身につけ、古文書の読み方・解釈の仕方を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

必ず復習をし、できるだけ予習をすること。また、博物館・美術館の展示を積極的に見学すること。

内　　容

第1回　江戸時代の文献史料
第2回　史料を読むために
第3回　古文書の基礎知識（1）
第4回　古文書の基礎知識（2）
第5回　文献史料の読み方・調べ方（1）
第6回　文献史料の読み方・調べ方（2）
第7回　古文書を読むー文書から知る江戸時代（1）
第8回　古文書を読むー文書から知る江戸時代（2）
第9回　古文書を読むー文書から知る江戸時代（3）
第10回　古文書を読むー文書から知る江戸時代（4）
第11回　古文書を読むー文書から知る江戸時代（5）
第12回　古文書を読むー文書から知る江戸時代（6）
第13回　古文書を読むー文書から知る江戸時代（7）
第14回　古文書を読むー文書から知る江戸時代（8）
第15回　まとめと総括

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（　）	授業中発表等（　）
参加度　（ 70 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**美術工芸史研究Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　金子　典正	

テーマ

京都の仏教美術史

授業の到達目標

京都の仏教美術史の形成と展開を学ぶことはもとより、従来の研究やその方法論を客観的に分析評価できる視点を養うことを目標とする。

授業の概要

飛鳥時代に朝鮮半島の百済から仏教が伝えられて以来、奈良や京都を中心に数多くの寺院が建立されて仏像や仏画が制作され続けてきた。授業では京都の仏教美術の代表作例を取りあげ、その歴史的背景や宗教的機能について、従来の研究に学びつつ問題点を考察する。作品について深く掘り下げて考えることの大切さを自覚し、美術史研究の面白さを感じてもらいたい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

京都の寺院を訪れる機会を増やし、信仰対象としての仏像を実見するとともに、造形的特徴についてもじっくり観察して欲しい。

内　容

第1回　ガイダンスと仏教伝来について
第2回　広隆寺の弥勒菩薩半跏像
第3回　蟹満寺の歴史と釈迦如来坐像
第4回　神護寺の歴史と薬師如来立像
第5回　宝菩提院願徳寺の歴史と菩薩半跏像
第6回　東寺の歴史と講堂の諸像
第7回　仁和寺の歴史と仏像
第8回　醍醐寺の歴史と薬師如来坐像
第9回　清凉寺の歴史と釈迦如来立像
第10回　東寺兜跋毘沙門天像とその源流
第11回　空也上人と六波羅蜜寺の仏像
第12回　平等院の歴史と阿弥陀如来坐像
第13回　法界寺の歴史と阿弥陀如来坐像
第14回　三十三間堂の千体千手観音像と二八部衆像
第15回　風神・雷神像の源流

履修上の注意点

教科書

使用しない。毎回授業中にプリントを配付する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**美術工芸史研究Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　大久保　恭子.守屋　雅史.篠　雅廣	

テーマ

日欧芸術史特殊講義

授業の到達目標

日本における芸術表現は外来の文化の摂取という側面を持って変容を続けてきた。制作の現場で見られたのは単なる模倣ではなく、自らが受け継いできた伝統と外来のものとの接合、場合によっては換骨奪胎の結果としてのキメラの生成だったとも言える。本講義では我が国の特筆すべき作品の制作された時代背景を理解しつつ、一方で外来のものとしての西洋あるいは東洋（中韓）の芸術観を理解することを目標とする。

授業の概要

本講義では芸術史を中近世と近代に分け、また絵画のみならず陶磁器をテーマとして取り上げ、それぞれ史料、画像を使用しながら作品を読み解いていく。また近･現代の西洋の芸術観を日本との関連をもとに具体的に読み解く。なお、必要に応じて学外見学を実施する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

基本知識として日本･東洋・西洋美術の通史を把握しておくこと。

内　容

第1回　ジャポニスム①：日欧美術のインタラクション
第2回　ジャポニスム②
第3回　ジャポニスム③
第4回　ジャポニスム④
第5回　ジャポニスム⑤まとめ
第6回　中近世の陶磁器①「陶磁器」とは何か？
第7回　中近世の陶磁器②中世陶器の世界　－瓷器系陶器と須恵器系陶器－
第8回　中近世の陶磁器③桃山茶陶の展開　－美濃焼と唐津焼－
第9回　中近世の陶磁器④肥前磁器の発生　－有田焼と鍋島焼－
第10回　中近世の陶磁器⑤京焼の発展と幕末の国焼　－名工たちの切磋琢磨－
第11回　近代の絵画①
第12回　近代の絵画②
第13回　近代の絵画③
第14回　近代の絵画④
第15回　近代の絵画⑤まとめ

履修上の注意点

教科書

適宜資料配付
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

e-MOOK 器の教科書
著者：　森孝一監修
出版社：　宝島社
出版年：　2014　　ISBN：

アジア陶芸史
著者：　出川哲朗･中ノ堂一信･弓場紀知編
出版社：　昭和堂
出版年：　2001　　ISBN：

a10412d650

ジャポニスム入門

著者: ジャポニスム学会

出版社: 思文閣出版

出版年: 2000 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 70 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 30 ）

試験をレポートで代替する可能性がある。

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産調査実習**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中久保　辰夫	

テーマ

考古学的技能の基本となる踏査・測量・発掘調査の一連の手続きにふれる。

授業の到達目標

考古学的調査においては作業分担が重要であり、それを体得し、自身が進んで行動できるものを発見し、そこから調査技術の修得へとむかう。

授業の概要

本学等で8月を中心として実施する考古学的調査の中で6日以上を選択して、参加する。事前に測量調査学習と調査の打ち合わせを実施する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

発掘調査や遺跡調査の現地説明会に参加してみる。

内　容

第1回　平板・水準測量等の基礎学習
第2回　平板・水準測量等の基礎学習
第3回　発掘調査の見学
第4回　発掘調査の見学
第5回　ガイダンス
第6回　実習打ち合わせ
第7回　実習打ち合わせ
第8回　調査（踏査、測量、伐採、掘削、清掃、写真撮影など）
第9回　調査（踏査、測量、伐採、掘削、清掃、写真撮影など）
第10回　調査（踏査、測量、伐採、掘削、清掃、写真撮影など）
第11回　調査（踏査、測量、伐採、掘削、清掃、写真撮影など）
第12回　調査（踏査、測量、伐採、掘削、清掃、写真撮影など）
第13回　調査（踏査、測量、伐採、掘削、清掃、写真撮影など）
第14回　調査（踏査、測量、伐採、掘削、清掃、写真撮影など）
第15回　調査（踏査、測量、伐採、掘削、清掃、写真撮影など）
第16回　調査（踏査、測量、伐採、掘削、清掃、写真撮影など）
第17回　調査（踏査、測量、伐採、掘削、清掃、写真撮影など）
第18回　調査（踏査、測量、伐採、掘削、清掃、写真撮影など）
第19回　調査（踏査、測量、伐採、掘削、清掃、写真撮影など）
第20回　調査（踏査、測量、伐採、掘削、清掃、写真撮影など）
第21回　調査（踏査、測量、伐採、掘削、清掃、写真撮影など）
第22回　調査（踏査、測量、伐採、掘削、清掃、写真撮影など）
第23回　調査（踏査、測量、伐採、掘削、清掃、写真撮影など）
第24回　調査（踏査、測量、伐採、掘削、清掃、写真撮影など）
第25回　調査（踏査、測量、伐採、掘削、清掃、写真撮影など）
第26回　調査（踏査、測量、伐採、掘削、清掃、写真撮影など）
第27回　調査（踏査、測量、伐採、掘削、清掃、写真撮影など）
第28回　調査（踏査、測量、伐採、掘削、清掃、写真撮影など）
第29回　調査報告
第30回　調査報告

履修上の注意点

野外調査となるために、動きやすい服装で受講してください。無断欠席はしないでください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

a10412d980

発掘調査のてびき

著者: 文化庁文化財部記念物課
出版社: 同成社
出版年: 2010 ISBN: 4886215254

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ） 授業中発表等（ ）
参加度 （ 60 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**考古学研究 I**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一瀬　和夫	

テーマ

考古学コンテキストの過去を読み取り、活用する。

授業の到達目標

社会と考古学との関わりあいの中で根本的な考古学の方法論を探り、その一般法則性と概念的変化を理解する。そして、考古学を自己の創造へと応用するために備える。

授業の概要

考古学のもつ多様性をまず理解し、多角的な方法論と理論展開を知る。そして、具体例をゲストをまじえ検討しつつ、フィールドに出向き今後の考古学のあり方を考える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

発掘調査の現地説明会などに参加、新聞・テレビ報道を気にかける

内　容

第1回　考古学の枠組み①過去に何がおこったか
第2回　考古学の枠組み②考古学の目的と方法
第3回　状況①発掘とは
第4回　状況②分布と予備調査、発掘の手続き
第5回　状況③発掘と整理
第6回　型式と層位、共存①層位と文化面、異教時代の考古学（北欧）
第7回　型式と層位、共存②型式学と編年研究（北欧と北米）
第8回　型式と層位、共存③相対年代と絶対年代の間
第9回　型式と層位、共存④共存資料と年代（日本）
第10回 考古学の文化解釈（北米）
第11回 考古学の歴史解釈（欧）
第12回 発掘現場の見学（学外）
第13回 パブリック・アーケオロジー（欧米）
第14回 考古学の活用と現代（日本）
第15回 これからの考古学

履修上の注意点

発掘現場でのマナーを身につける

教科書

考古学の研究方法
著者:　一瀬和夫
出版社: 学生社
出版年: 2013　　ISBN:　9784311300868

参考書

考古学―理論・方法・実践
著者:　コリン・レンフル／ポール・バーン
出版社: 東洋書林
出版年: 2007　　ISBN:　9784887217157

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 40 ）
授業中の参加度を重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**遺産情報演習Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　秋期集中	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　村上　裕道	

テーマ

歴史的建造物の造られ方を知る

授業の到達目標

歴史的建造物の造られ方を知ることにより、建物の仕様を理解する基本知識を習得する。

授業の概要

建物の各部を見ることにより、当初・後補の分別をできる基本知識を得る。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習　提供する資料をよく読み、理解すること
復習　レポート提出に際して、提供資料と良く照らし合わせること

内　　容

第1回　建築用語集①
第2回　建築用語集②
第3回　屋根（瓦葺）
第4回　屋根（檜皮葺・柿葺・茅葺）
第5回　屋根（その他）
第6回　諸工法仕様（地盤・礎石・軸部）
第7回　諸工法仕様（軒廻・小屋組）
第8回　諸工法仕様（壁）
第9回　諸工法仕様（建具・金具・塗装）
第10回　近代　建築学階梯（1887）上
第11回　近代　建築学階梯（1887）中
第12回　近代　建築学階梯（1887）下
第13回　社寺実査　（学外授業）　レポート
第14回　社寺実査　（学外授業）　レポート
第15回　洋風建築実査　（学外授業）　レポート

履修上の注意点

学外実習は区内の建物より選ぶ予定。
参考資料は配布する。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 40 ）
レポートの提出を行わない者は単位取得が難しくなる。

2018 Syllabus

科 目 名　**遺産情報演習Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　集中	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小林　裕子	

テーマ

世界遺産醍醐寺プロジェクト活動を歴史遺産研究の立場からパブリック化する。

授業の到達目標

本科目によって、学生個々の様々な能力を養成し、予測困難な時代に活躍できる人材育成を目標とする。

授業の概要

世界遺産醍醐寺を通じて、PBL(Project Based Learning)すなわち課題発見・解決型学習により自ら課題を発見し、解決策を提案する。なお、授業計画にあげた日程以外の集中講義予定(おもに土or日)については、ガイダンス時に発表する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

受講にあたっては、醍醐寺展図録や醍醐寺大観などによって各自基礎研究を進めておいてもらいたい。

内　容

第1回　ガイダンス及び醍醐寺見学(桜の咲いているうちに)
第2回　インタビュートレーニング(於コンソーシアム京都　5月12日(土))
第3回　全体オリエンテーション(於コンソーシアム京都　5月20日(日))
第4回　課題発見、調査計画の立案のための事前調査①(於　醍醐寺)
第5回　課題発見、調査計画の立案のための事前調査②(於　醍醐寺)
第6回　課題発見、調査計画の立案のための事前調査③(於　京都橘大学)
第7回　草案作成(於　京都橘大学)
第8回　調査研究①(於　醍醐寺)
第9回　調査研究②(於　醍醐寺)
第10回　調査研究③(於　醍醐寺)
第11回　調査研究④(於　醍醐寺)
第12回　プレゼンテーショントレーニング(於コンソーシアム京都　10月21日(日))
第13回　研究成果集約と分析①(於　醍醐寺)
第14回　研究成果集約と分析②(於　京都橘大学)
第15回　研究成果集約と分析③(於　京都橘大学)
第16回　成果発表会(於コンソーシアム京都　12月9日(日))

履修上の注意点

学外の皆様にお世話になることが多い科目であるため、普段以上に節度ある行動で取り組んでもらいたい。

教科書

参考書

醍醐寺大觀1
著者:　西川新次, 山根有三監修
出版社:　岩波書店
出版年:　2001　　ISBN:　4000089161

醍醐寺大觀2
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:　400008917X

醍醐寺大觀3
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:　4000089188

a10412e112

国宝醍醐寺のすべて : 密教のほとけと聖教 : 醍醐寺文書聖教7万点国宝指定記念特別展

著者:　奈良国立博物館編
出版社: 日本経済新聞社
出版年: 2014　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　有坂　道子.小林　裕子	

テーマ

古文書に親しむ（有坂）
美術工芸史研究の第一歩である観察と記録の方法を学ぶ（小林）

授業の到達目標

さまざまな古文書の姿を知り、古文書の扱いに慣れることを目指すとともに、くずし字の解読に挑戦する（有坂）。
美術工芸品をより深く専門的に理解するために如何なる方法があるのかを知る（小林）。

授業の概要

古文書に関する基本的な知識や扱い方を学び、古文書のテキストを用いて初歩的なくずし字の解読を練習する（有坂）。
計測・デッサン・撮影・ディスクリプションによって対象作例を調書におこしたうえで、記録データをInDesignで編集する（小林）。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

出来るだけ博物館や美術館で実際の古文書を見ること（有坂）。
寺社や遺跡に足を運び、本物と接する機会を積極的にもうける（小林）。

内　容

第1回　古文書を扱う①（有坂）
第2回　古文書を扱う②（有坂）
第3回　古文書を扱う③（有坂）
第4回　くずし字を読む①（有坂）
第5回　くずし字を読む②（有坂）
第6回　くずし字を読む③（有坂）
第7回　くずし字を読む④（有坂）
第8回　くずし字を読む⑤・総括（有坂）
第9回　ガイダンス（小林）
第10回　デッサン①（小林）
第11回　デッサン②（小林）
第12回　法量計測・撮影（小林）
第13回　画像処理（小林）
第14回　スキャニング（小林）
第15回　簡単なディスクリプション（小林）
第16回　調書作成・総括（小林）

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 60 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　有坂　道子.藤本　史子	

テーマ

考古学研究の基本となる考古資料の実測・拓本技術の習得(藤本)
古文書に親しむ(有坂)

授業の到達目標

考古資料の実測や拓本技術を学ぶ過程で、考古資料を観察し、検討する能力を養い、考古資料の基本的な取り扱い方法も身につける(藤本)。
さまざまな古文書の姿を知り、古文書の扱いに慣れることを目指すとともに、くずし字の解読に挑戦する(有坂)。

授業の概要

出土遺物の実測図を作製、瓦の瓦当文様の拓本をとる。実測図を作製し、拓本をとる過程で、遺物の観察方法を学び、製作方法についての理解を深める(藤本)。
古文書に関する基本的な知識や扱い方を学び、古文書のテキストを用いて初歩的なくずし字の解読を練習する(有坂)。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

遺跡や遺物を実見し、考古資料について興味をもつ。作業内容で理解できなかった点は、積極的に質問し、解決したうえで作業を進めるよう心がける(藤本)。
出来るだけ博物館や美術館で実際の古文書を見ること(有坂)。

内　容

第1回　考古資料の実測について解説、実測作業の準備(藤本)
第2回　実測(土器の輪郭・断面)①(藤本)
第3回　実測(土器の輪郭・断面)②(藤本)
第4回　実測(文様の割付け、遺物観察・注記)(藤本)
第5回　実測(破片土器)①(藤本)
第6回　実測(破片土器)②(藤本)
第7回　拓本の方法について解説、拓本(土器・瓦)(藤本)
第8回　拓本(瓦)(藤本)
第9回　古文書を扱う①(有坂)
第10回　古文書を扱う②(有坂)
第11回　古文書を扱う③(有坂)
第12回　くずし字を読む①(有坂)
第13回　くずし字を読む②(有坂)
第14回　くずし字を読む③(有坂)
第15回　くずし字を読む④・総括(有坂)

履修上の注意点

資料はていねいに扱い、作業に適した服装を心がけること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

考古学調査研究ハンドブックス2整理・保存法
著者:　岩崎卓也ほか編集
出版社:　雄山閣
出版年:　1993年　　ISBN:

考古実測の技法
著者:　江坂輝彌監修
出版社:　ニュー・サイエンス社
出版年:　1996年　　ISBN:

a10412e212

発掘調査のてびき一整理・報告書編一

著者:　文化庁文化財部記念物課監修

出版社: 同成社

出版年: 2010年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 60 ）

実測図・拓本の成果のみではなく、課題に取り組む姿勢も重視する（藤本）。

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅰ〈c〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　藤本　史子.村上　裕道	

テーマ

歴史的建造物の保存に関する実践的な維持管理を知る
考古学研究の基本となる考古資料の実測・拓本技術の習得(藤本)。

授業の到達目標

歴史的建造物を観察し、その健全状態を診断できる基礎的な素養を備える。
考古資料の実測や拓本技術を学ぶ過程で、考古資料を観察し、検討する能力を養い、考古資料の基本的な取り扱い方法も身につける(藤本)。

授業の概要

歴史的建造物の健康診断の手法を知るとともに、その診断書を作成する。
出土遺物の実測図を作製、瓦の瓦当文様の拓本をとる。実測図を作製し、拓本をとる過程で、遺物の観察方法を学び、製作方法についての理解を深める(藤本)。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

予習　提供する資料をよく読み、理解すること
復習　課題提出に際して、提供資料と良く照らし合わせること
遺跡や遺物を実見し、考古資料について興味をもつ。作業内容で理解できなかった点は、積極的に質問し、解決したうえで作業を進めるよう心がける(藤本)。

内　容

第1回　ガイダンス①　文化財建造物の修理　解説
第2回　ガイダンス②　破損図・仕様書の作成手法解説
第3回　破損調査　(学外授業)
第4回　破損調査　(学外授業)
第5回　破損図作成
第6回　仕様書作成①
第7回　仕様書作成②
第8回　修理方針完成　(課題)
第9回　考古資料の実測について解説、実測作業の準備(藤本)
第10回　実測(土器の輪郭・断面)①(藤本)
第11回　実測(土器の輪郭・断面)②(藤本)
第12回　実測(文様の割付け、遺物観察・注記)(藤本)
第13回　実測(破片土器)①(藤本)
第14回　実測(破片土器)②(藤本)
第15回　拓本の方法について解説、拓本(土器・瓦)(藤本)
第16回　拓本(瓦)(藤本)

履修上の注意点

学外授業は区内の建物から選ぶ予定。
参考資料を配布。
資料はていねいに扱い、作業に適した服装を心がけること(藤本)。

教科書

使用しない(藤本)
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

考古学調査研究ハンドブックス2整理・保存法
著者:　岩崎卓也ほか編集
出版社:　雄山閣
出版年:　1993年　　ISBN:

a10412e213

考古実測の技法

著者: 江坂輝彌監修

出版社: ニュー・サイエンス社

出版年: 1996年　　ISBN:

発掘調査のてびき―整理・報告書編―

著者: 文化庁文化財部記念物課監修

出版社: 同成社

出版年: 2010年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ ）

参加度（ 70 ）

実測図・拓本の成果のみではなく、課題に取り組む姿勢も重視する（藤本）。

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　藤本　史子.村上　裕道	

テーマ

歴史的建造物の保存に関する実践的な維持管理を知る
考古学研究の基本となる考古資料の実測・拓本技術の習得(藤本)。

授業の到達目標

歴史的建造物を観察し、その健全状態を診断できる基礎的な素養を備える。
考古資料の実測や拓本技術を学ぶ過程で、考古資料を観察し、検討する能力を養い、考古資料の基本的な取り扱い方法も身につける(藤本)。

授業の概要

歴史的建造物の健康診断の手法を知るとともに、その診断書を作成する。
出土遺物の実測図を作製、瓦の瓦当文様の拓本をとる。実測図を作製し、拓本をとる過程で、遺物の観察方法を学び、製作方法についての理解を深める(藤本)。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

予習　提供する資料をよく読み、理解すること
復習　課題提出に際して、提供資料と良く照らし合わせること
遺跡や遺物を実見し、考古資料について興味をもつ。作業内容で理解できなかった点は、積極的に質問し、解決したうえで作業を進めるよう心がける(藤本)。

内　容

第1回　ガイダンス①　文化財建造物の修理　解説
第2回　ガイダンス②　破損図・仕様書の作成手法解説
第3回　破損調査　(学外授業)
第4回　破損調査　(学外授業)
第5回　破損図作成
第6回　仕様書作成①
第7回　仕様書作成②
第8回　修理方針完成　(課題)
第9回　考古資料の実測について解説、実測作業の準備(藤本)
第10回　実測(土器の輪郭・断面)①(藤本)
第11回　実測(土器の輪郭・断面)②(藤本)
第12回　実測(文様の割付け、遺物観察・注記)(藤本)
第13回　実測(破片土器)①(藤本)
第14回　実測(破片土器)②(藤本)
第15回　拓本の方法について解説、拓本(土器・瓦)(藤本)
第16回　拓本(瓦)(藤本)

履修上の注意点

学外授業は区内の建物から選ぶ予定。
参考資料を配布。
資料はていねいに扱い、作業に適した服装を心がけること(藤本)。

教科書

使用しない(藤本)
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

考古学調査研究ハンドブックス2整理・保存法
著者:　岩崎卓也ほか編集
出版社:　雄山閣
出版年:　1993年　　ISBN:

a10412e350

考古実測の技法

著者:　江坂輝彌監修

出版社: ニュー・サイエンス社

出版年: 1996年　　ISBN:

発掘調査のてびき―整理・報告書編―

著者:　文化庁文化財部記念物課監修

出版社: 同成社

出版年: 2010年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ ）

参加度（ 70 ）

実測図・拓本の成果のみではなく、課題に取り組む姿勢も重視する（藤本）。

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小林　裕子.村上　裕道	

テーマ

美術工芸史研究の第一歩である観察と記録の方法を学ぶ(小林)。
歴史的建造物の維持・保存に関するための基本的な技量を学ぶ(村上)。

授業の到達目標

美術工芸品をより深く専門的に理解するために如何なる方法があるのかを知る(小林)。
文化財建造物の修理の企画立案・調査・修理管理の流れを知り、歴史的建造物の保存に関する実践的な維持管理を知る(村上)。

授業の概要

計測・デッサン・撮影・ディスクリプションによって対象作例を調書におこしたうえで、記録データをInDesignで編集する(小林)。
歴史的建造物の健康診断の手法を知るとともに、その診断書を作成する(村上)。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

寺社や遺跡に足を運び、本物と接する機会を積極的にもうける(小林)。
予習　提供する資料をよく読み、理解すること
復習　課題提出に際して、提供資料と良く照らし合わせること(村上)

内　　容

第1回　ガイダンス(小林)
第2回　デッサン①(小林)
第3回　デッサン②(小林)
第4回　法量計測・撮影(小林)
第5回　画像処理(小林)
第6回　スキャニング(小林)
第7回　簡単なディスクリプション(小林)
第8回　調書作成・総括(小林)
第9回　文化財建造物の修理解説(村上)
第10回　破損図・仕様書の作成手法解説(村上)
第11回　破損調査　(学外授業)(村上)
第12回　破損調査　(学外授業)(村上)
第13回　破損図作成(村上)
第14回　仕様書作成①(村上)
第15回　仕様書作成②・診断書作成(課題)(村上)

履修上の注意点

教科書

使用しない(小林)
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:
使用しない(村上)
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない(小林)
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

a10412e352

使用しない（村上）

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 40 ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 60 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅱ〈c〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　有坂　道子.小林　裕子	

テーマ

古文書に親しむ（有坂）
美術工芸史研究の第一歩である観察と記録の方法を学ぶ（小林）

授業の到達目標

さまざまな古文書の姿を知り、古文書の扱いに慣れることを目指すとともに、くずし字の解読に挑戦する（有坂）。
美術工芸品をより深く専門的に理解するために如何なる方法があるのかを知る（小林）。

授業の概要

古文書に関する基本的な知識や扱い方を学び、古文書のテキストを用いて初歩的なくずし字の解読を練習する（有坂）。
計測・デッサン・撮影・ディスクリプションによって対象作例を調書におこしたうえで、記録データをInDesignで編集する（小林）。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

出来るだけ博物館や美術館で実際の古文書を見ること（有坂）。
寺社や遺跡に足を運び、本物と接する機会を積極的にもうける（小林）。

内　容

第1回　古文書を扱う①（有坂）
第2回　古文書を扱う②（有坂）
第3回　古文書を扱う③（有坂）
第4回　くずし字を読む①（有坂）
第5回　くずし字を読む②（有坂）
第6回　くずし字を読む③（有坂）
第7回　くずし字を読む④（有坂）
第8回　くずし字を読む⑤・総括（有坂）
第9回　ガイダンス（小林）
第10回　デッサン①（小林）
第11回　デッサン②（小林）
第12回　法量計測・撮影（小林）
第13回　画像処理（小林）
第14回　スキャニング（小林）
第15回　簡単なディスクリプション（小林）
第16回　調書作成・総括（小林）

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 60 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅰ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定
担 当 者　中久保　辰夫	

テーマ

考古学研究について理解を深め、自身で研究課題を設定し、考古学的分析や考察の手法について学ぶ。

授業の到達目標

研究テーマを設定し、その最新研究成果をまとめ、研究の課題を追及して、それを発表できるようになる。資料収集を行う能力を高める。他者にわかりやすいプレゼンテーション能力を習得できることを目指す。

授業の概要

本授業は、発表・討論形式ですすめる。具体的には次の通り。1）考古学研究における60の論点から興味のあるテーマを選び、研究発表を行う。2）研究対象を絞り込み、さらに関連する最新論文について、研究発表・討議を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

興味をもった研究論文を読解し、用語や分析方法などを調べる。

内　容

第1回　ガイダンス（研究倫理教育を含む）
第2回　考古学研究の60の論点と研究テーマの設定
第3回　研究発表・討議
第4回　研究発表・討議
第5回　研究発表・討議
第6回　研究発表・討議
第7回　学外授業。各自のテーマに沿った形で授業の場を設定。
第8回　研究発表・討議
第9回　研究発表・討議
第10回　研究発表・討議
第11回　研究発表・討議
第12回　学外授業。各自のテーマに沿った形で授業の場を設定。
第13回　研究発表・討議
第14回　研究発表・討議
第15回　総括・今後の目標と課題

履修上の注意点

発表中の私語は慎むこと。自身が研究発表をする際に無断欠席はしないでください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

考古学研究60の論点
著者:　考古学研究会
出版社:　考古学研究会
出版年:　2014　　ISBN:　なし

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 60 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅰ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定
担 当 者　村上　裕道	

テーマ

歴史遺産の保護に関する保護計画の基本を体得する。

授業の到達目標

歴史文化を計画的に継承しようとする「歴史文化活用基本計画」の手法を知るとともに、その作成の演習を行う。

授業の概要

実際の歴史文化基本構想・計画を研究することを通して計画作成の基本を知り、歴史文化活用基本計画（仮想）を策定する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習　提供する資料をよく読み、理解すること
復習　課題提出に際して、提供資料と良く照らし合わせること

内　　容

第1回　ガイダンス　歴史文化を支える社会状況の変化（研究倫理教育を含む）
第2回　歴史文化の計画的な維持継承策
第3回　歴史文化基本計画の概要①
第4回　歴史文化基本計画の概要②
第5回　歴史文化基本構想の事例を知る①　篠山市
第6回　歴史文化基本構想の事例を知る②　高砂市
第7回　歴史文化基本構想の事例を知る③　太宰府市
第8回　歴史文化基本計画の事例を知る④　尾道市
第9回　歴史文化基本計画の事例を知る⑤　小浜市・若狭町
第10回　歴史文化基本計画の事例を知る⑥　津和野町
第11回　文化財の総合的把握　　（学外授業　山科区内）
第12回　文化財の総合的把握　　（学外授業　山科区内）
第13回　文化財の総合的把握　　（学外授業　山科区内）
第14回　作業把握　作業内容の確認及び作成会議の役割確認
第15回　作成会議（ロール プレイング）　（課題）

履修上の注意点

課題作成に向けて、グループを組んで成果品をまとめることが前提の授業である。器械的にグループ分けをするので了承の事。
資料は配布する。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 50 ）
やむを得ない事情がある場合を除き5回以上欠席すると単位取得は難しくなる。特に、課題の作成・発表会に参加しない者は難しい。

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅰ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定
担 当 者　小林　裕子	

テーマ

嘉承元年(1106)頃における奈良の諸大寺の様相を綴った日本美術史研究に欠かせない基本文献たる大江親通『七大寺日記』の輪読と研究発表を通じて、美術史の研究手法を体得する。

授業の到達目標

親通の記述から生じた各自の疑問や好奇心を先行研究や現存作例の詳細などによって分析、解決するものとし、これにより美術史研究の多角的な方法を知り、論文執筆の能力を養うことを目的とする。なお、学外見学・学部講師による特別講義を実施することがある。

授業の概要

本演習では、『七大寺日記』の輪読及び研究発表をおこなう。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

『七大寺日記』に記載される寺院についての文献を読んだり、実際に訪れることにより、現存作例に対するイメージを明確にしてほしい。

内　容

第1回　ガイダンス及び『七大寺日記』解題(研究倫理教育を含む)
第2回　上回生によるデモンストレーション
第3回　東大寺条①
第4回　東大寺条②
第5回　東大寺条③
第6回　東大寺条④
第7回　東大寺条⑤
第8回　学外見学
第9回　東大寺条⑥
第10回　東大寺条⑦
第11回　東大寺条⑧
第12回　東大寺条⑨
第13回　東大寺条⑩
第14回　東大寺条⑪
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

七大寺日記・七大寺巡礼私記
著者:　藤田経世
出版社:　中央公論美術出版
出版年:　1972年　　ISBN:

参考書

奈良六大寺大観全14巻
著者:　奈良六大寺大観刊行会
出版社:　岩波書店
出版年:　1999~2001年　　ISBN:

日本の古寺美術シリーズ
著者:
出版社:　保育社
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

a10413a113

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）

参加度 （ 50 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅰ〈＊d〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定
担 当 者　有坂　道子	

テーマ

近世の古文書を読む（初級）

授業の到達目標

古文書の読解力、および古文書に関する基礎的な知識を身につける。

授業の概要

古文書の現物を用いてくずし字を読む力をつけるとともに、古文書を扱うテーマでの演習発表を行う。必要に応じて古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

必ず復習を行い、自宅学習用の教材を自習すること。日頃から古文書を読む練習を習慣づけること。復習にeducaを活用する。

内　容

第1回　ガイダンス（研究倫理教育を含む）
第2回　内海家文書を読む（1）
第3回　内海家文書を読む（2）
第4回　内海家文書を読む（3）
第5回　内海家文書を読む（4）
第6回　学外授業
第7回　内海家文書を読む（5）
第8回　内海家文書を読む（6）
第9回　内海家文書を読む（7）
第10回　内海家文書を読む（8）
第11回　学外授業
第12回　内海家文書を読む（9）
第13回　内海家文書を読む（10）
第14回　内海家文書を読む（11）
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

くずし字用例辞典
著者:　児玉幸多
出版社:　東京堂出版
出版年:　平成22年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 60 ）
出席を重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅱ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定
担 当 者　中久保　辰夫	

テーマ

論文作成に向けて、自身の研究課題を追及し、資料収集や考古学的分析、考察の基礎を習得する。

授業の到達目標

研究課題について、資料の特性を把握し、観察・分析手法の手順を学び、考察できるようになる。他者にわかりやすいプレゼンテーション能力を習得できることを目指す。

授業の概要

本授業は発表・討論形式で進め、必要に応じて学外見学の場を設ける。具体的には次の通り。1）対象資料の特性に関する研究発表と討議、2）現在の資料状況にかんする研究発表と討議。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

研究テーマに即した資料を調査する。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　資料調査のための遺跡や研究機関の見学
第3回　研究発表・討議
第4回　研究発表・討議
第5回　研究発表・討議
第6回　研究発表・討議
第7回　研究発表・討議
第8回　研究発表・討議
第9回　研究発表・討議
第10回　研究発表・討議
第11回　研究発表・討議
第12回　研究発表の総評
第13回　研究発表の総評
第14回　研究発表の総評
第15回　総括　今後の研究計画についての立案

履修上の注意点

無断欠席はしないようにしてください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 60 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅱ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定
担 当 者　村上　裕道	

テーマ

歴史遺産の保護に関する保護計画の基本を体得する。

授業の到達目標

歴史文化を計画的に継承しようとする「歴史文化活用基本計画」の手法を知るとともに、その作成の演習を行う。

授業の概要

実際の歴史文化基本構想・計画を研究することを通して計画作成の基本を知り、歴史文化活用基本計画（仮想）を策定する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習　提供する資料をよく読み、理解すること
復習　課題提出に際して、提供資料と良く照らし合わせること

内　　容

第1回　関連文化財群の調査　　（学外授業　山科区内）
第2回　関連文化財群の調査　　（学外授業　山科区内）
第3回　関連文化財群の調査　　（学外授業　山科区内）
第4回　作成会議 （ロール プレイング）　（課題）
第5回　歴史文化基本計画をまとめる 基礎情報（計画の考え方・歴史と環境）
第6回　歴史文化基本計画をまとめる 基礎情報（計画の考え方・歴史と環境）
第7回　歴史文化基本計画をまとめる 基礎情報（計画の考え方・歴史と環境）
第8回　歴史文化基本計画をまとめる 文化財の総合的把握と関連文化財群
第9回　歴史文化基本計画をまとめる 文化財の総合的把握と関連文化財群
第10回 歴史文化基本計画をまとめる 文化財の総合的把握と関連文化財群
第11回 歴史文化基本計画をまとめる 関連文化財群の保存・活用の基本方針
第12回 歴史文化基本計画をまとめる 関連文化財群の保存・活用の基本方針
第13回 成果発表会（研究項目の検討）（課題）
第14回 成果発表会（研究項目の検討）（課題）
第15回 成果発表会（研究項目の検討）（課題）

履修上の注意点

1 に記載

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅱ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定
担 当 者　小林　裕子	

テーマ

天平勝宝八年(756)に光明皇后が東大寺盧舎那仏に奉献した聖武天皇遺愛の品々の目録である『国家珍宝帳』の輪読と研究発表を通じて、美術史の研究手法を体得する。

授業の到達目標

文献の記述から生じた各自の疑問や好奇心を先行研究や現存作例の詳細などによって分析、解決するものとし、これにより美術史研究の多角的な方法を知り、論文執筆の能力を養うことを目的とする。なお、学外見学・外部講師による特別講義を実施することがある。

授業の概要

東大寺献物帳のうちの『国家珍宝帳』の輪読及び研究発表をおこなう。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

正倉院宝物に関する文献や正倉院展図録を読んだり、東大寺を実際に訪れることにより、現存作例に対するイメージを明確にしてほしい。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　発表①
第3回　発表②
第4回　発表③
第5回　発表④
第6回　発表⑤
第7回　発表⑥
第8回　外部講師による特別講義
第9回　発表⑦
第10回　発表⑧
第11回　発表⑨
第12回　発表⑩
第13回　発表⑪
第14回　学外見学
第15回　卒論構想発表会

履修上の注意点

教科書

プリント配布
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

奈良六大寺大観全14巻
著者:　奈良六大寺大観刊行会
出版社:　岩波書店
出版年:　　ISBN:

日本の古寺美術シリーズ
著者:
出版社:　保育社
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

a10413a253

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）

参加度 （ 50 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅱ〈＊d〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定
担 当 者　有坂　道子	

テーマ

近世の古文書を読む（初級）

授業の到達目標

古文書の読解力、および古文書に関する基礎的な知識を身につける。

授業の概要

古文書の現物を用いてくずし字を読む力をつけるとともに、古文書を扱うテーマでの演習発表を行う。必要に応じて古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

必ず復習を行い、自宅学習用の教材を自習すること。日頃から古文書を読む練習を習慣づけること。復習にeducaを活用する。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　内海家文書を読む（1）
第3回　内海家文書を読む（2）
第4回　内海家文書を読む（3）
第5回　内海家文書を読む（4）
第6回　学外授業
第7回　内海家文書を読む（5）
第8回　内海家文書を読む（6）
第9回　内海家文書を読む（7）
第10回　内海家文書を読む（8）
第11回　学外授業
第12回　内海家文書を読む（9）
第13回　内海家文書を読む（10）
第14回　内海家文書を読む（11）
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

くずし字用例辞典
著者:　児玉幸多
出版社:　東京堂出版
出版年:　平成22年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 60 ）
出席を重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅲ <a>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一瀬　和夫	

テーマ

歴史遺産の調査から報告書の作成までの作業工程と作業内容を理解する。

授業の到達目標

考古遺産資料などの図面のトレースや自己の研究資料の集成と研究をまとめる。

授業の概要

主にPC教室にてフォトショップ、イラストレータ、インデザインのPCソフトを用いて作業し、報告文の作成やその発表を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

イラストレータになれるため、いろいろ図を描いてみる。

内　　容

第1回　考古遺産などの調査法と報告書に至るまでの概要。
第2回　報告書の設計とその発表1。
第3回　報告書の設計とその発表2。
第4回　図面のスキャンとフォトショップでの画像加工。
第5回　考古遺産資料図のトレース1。
第6回　考古遺産資料図のトレース2。
第7回　考古遺産資料図のトレースのレイアウト。
第8回　調査現場等の見学（学外授業）。
第9回　インデザインでの編集。
第10回　研究資料の集成と分析発表1。
第11回　研究資料の集成と分析発表2。
第12回　図表の作成1。
第13回　図表の作成2。
第14回　前期作業のまとめ。
第15回　展示施設の見学（学外授業）。

履修上の注意点

共同作業を重視すること。分からない点があれば質問すること。

教科書

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（　0）　　小テスト（　0）
授業中課題（　60）　　授業中発表等（　20）
参加度（　20）
課題の達成度、課題の取り組み方、参加度、共同作業での協調性等を総合的に勘案して評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅲ <b>**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　小林 裕子

テーマ

美術作品の形状記述や図面作成、美術工芸作品（絵画・工芸品等）の調書作成方法や取扱など、実習を通じてより深く美術工芸史を理解する。

授業の到達目標

学芸員や研究者は直接実物資史料に触れる仕事であるが、その対象はかけがえのない作品であるため、決して過失があってはならない。実習では、作品を取り扱うための特殊な技術と専門的な知識を正しく身につけるとともに、美術工芸史に対する理解を深めることを目的とする。なお、必要に応じて外部講師を招聘する。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

奈良や京都の寺院、博物館や美術館に足を運び、実物から学びとる機会をつくること。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　美術工芸作品の種類と取扱説明
第3回　取扱実習（箱物①）
第4回　取扱実習（箱物②）
第5回　取扱実習（絵画①）
第6回　取扱実習（絵画②）
第7回　取扱実習（絵画③）
第8回　取扱実習（絵画④）
第9回　取扱実習（染織①）
第10回　取扱実習（染織②）
第11回　取扱実習（金工①）
第12回　取扱実習（金工②）
第13回　宿泊調査実習のための事前学習
第14回　宿泊調査実習のための事前学習
第15回　まとめ　※なお、必要に応じて学外授業をおこなうことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 60 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅲ <c>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中久保　辰夫	

テーマ

考古学的技能の根幹をなす発掘調査から報告書作成までの工程と内容を理解し、そのなかでも測量調査とその報告作業の基本技術習得を目指す。

授業の到達目標

発掘調査の内容と基本的な知識・技術を理解する。測量調査に必要な機材等の取り扱いを習得する。測量調査で必要となる図面の作成について基礎を体得する。

授業の概要

発掘調査の方法論を学ぶとともに実際に機材などを使用して野外実習を行う。具体的な進め方は次の通り。1）発掘調査の概説、2）測量調査の基礎と機材の使い方、3）測量調査実習、4）測量調査成果図の作成、5）調査報告文の作成。必要に応じて、野外調査を実施することがあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実習で学んだ成果が発掘調査報告書においてどのように掲載されているのかといった点などを復習するようにしてください。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　発掘調査の概要と習得すべき技術の説明
第3回　考古学にとっての測量と測量調査の基礎知識
第4回　測量実習①　測量機器の取り扱い
第5回　測量実習②　標高を測る
第6回　測量実習③　地形を測る
第7回　発掘調査現場見学（学外授業）
第8回　発掘調査報告書の理念と作成方法
第9回　測量図面の原図作成基礎①
第10回　測量図面の原図作成基礎②
第11回　測量図面のトレース実習①
第12回　測量図面のトレース実習②
第13回　測量図面のトレース実習③
第14回　報告書文章作成と総括①
第15回　報告書文章作成と総括②

履修上の注意点

野外での実習作業にあることがあるために、動きやすい服装で受講してください。共同で作業することがあるので、チームワークを心掛けてください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

発掘調査のてびき
著者:　文化庁文化財部記念物課
出版社:　同成社
出版年:　2010　　ISBN:　4886215254

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 60 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅲ <d>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　有坂　道子	

テーマ

古文書の整理と扱い方

授業の到達目標

古文書整理の実際を体験しながら、作業の内容についての理解を深める。

授業の概要

古文書の現物を用いて、古文書の扱い方、整理・保存の仕方の実際を学ぶ。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

博物館・史料館などで古文書を見る機会を作り、現物を積極的に見学すること。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　実習（1）古文書の扱い方
第3回　実習（2）実習で扱う古文書について
第4回　実習（3）内海家文書の整理①
第5回　実習（4）内海家文書の整理②
第6回　学外授業
第7回　実習（5）内海家文書の解読・初級①
第8回　実習（6）内海家文書の解読・初級②
第9回　実習（7）内海家文書の解読・初級③
第10回　実習（8）内海家文書の解読・初級④
第11回　学外授業
第12回　実習（9）内海家文書の解読・初級⑤
第13回　実習（10）内海家文書の解読・初級⑥
第14回　実習（11）内海家文書の解読・初級⑦
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

くずし字用例辞典
著者:　児玉幸多
出版社:　東京堂出版
出版年:　平成22年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 70 ）
出席を重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅳ <a>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一瀬　和夫	

テーマ

歴史遺産の調査成果を記録、報告するという基礎と展示などでの活用と周知の方法をつかむ

授業の到達目標

I do and I understand. I work and I utilize.をもとに、主に統計、写真、絵画、デザイン、印刷、展示、プレゼンテーション、教育、ボランティア的要素などの技術修得をめざす。

授業の概要

主にPC教室で、報告書作成や展示作業を行う。実際の印刷や活用資料製作の見学をする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

デジタルカメラ、フォトショップPhotoshop（画像）、イラストレータIllustrator（製図）、インデザインInDesign（印刷編集）のコンピュータ・ソフトに触れる。

内　容

第1回　報告書作成の概要
第2回　歴史遺産資料のデジタル写真撮影
第3回　歴史遺産資料のデジタル写真撮影とPhotoshopによる画像修正
第4回　イラストレータによる写真資料レイアウト
第5回　イラストレータによるレイアウトとスケール・方位等の作成
第6回　イラストレータによる資料のレイアウト
第7回　イラストレータによる資料のレイアウトとスケール・ナンバリング等の作成
第8回　インデザインによる編集1
第9回　コロタイプ印刷過程の見学（学外授業）
第10回　展示実習
第11回　展示実習、模型、ハンズ・オン装置の製作工程の見学（学外授業）
第12回　各自の報告書の研究発表1
第13回　各自の報告書の研究発表2
第14回　各自の報告書の研究発表3
第15回　報告書や展示の総評

履修上の注意点

必要に応じて学外授業を行う。

教科書

PCによる教材提示
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 80 ）	授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅳ <b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小林　裕子	

テーマ

仏像の調書作成方法や取扱を身につけるとともに、拓本の取り方、和綴じの方法など、実習を通じてより深く美術工芸史を理解する。

授業の到達目標

学芸員や研究者は実物資史料に触れる仕事であるが、その対象はかけがえのない作品であるため、決して過失があってはならない。実習では、作品を取り扱うための特殊な技術と専門的な知識を正しく身につけるとともに、美術工芸史に対する理解を深めることを目的とする。

授業の概要

前期実習Ⅲに引き続き、美術工芸品の取扱いを学ぶ。なお、本実習では夏季休業中に近畿圏の寺院における宿泊実習をおこなう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

奈良や京都の寺院、博物館や美術館に足を運び、実物から学びとる機会をつくること。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　仏像の種類と取扱説明
第3回　取扱実習（仏像①）
第4回　取扱実習（仏像②）
第5回　取扱実習（仏像③）
第6回　取扱実習（仏像④）
第7回　取扱実習（仏像⑤）
第8回　拓本
第9回　拓本
第10回　拓本
第11回　裏打ち
第12回　裏打ち
第13回　和綴じ
第14回　和綴じ
第15回　まとめ

履修上の注意点

この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがあります。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 60 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅳ <c>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中久保　辰夫	

テーマ

考古学的技能の根幹をなす遺物実測の工程と内容を理解し、実測、写真撮影とその報告作業の基本技術習得を目指す。

授業の到達目標

遺物実測の内容と基本的な知識・技術を理解する。遺物実測、写真撮影に必要な機材等の取り扱いを習得する。発掘調査報告書の作成について基礎を体得する。

授業の概要

本実習は、1）発掘調査報告書の概要説明、2）遺物実測図の作成、3）遺物実測図レイアウトの作成、4）遺物写真撮影、5）遺物報告文章の作成という流れで進める。発掘調査整理作業を実施している機関を見学する学外授業を行う場合がある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

学習後に発掘調査報告書において遺物の報告がどのようになされているのかといった点などを復習するように心がけてください。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　遺物実測の基本と方法
第3回　実測①　遺物の観察方法と実測作業の準備
第4回　実測②　破片資料の実測
第5回　実測③　破片資料の実測と修正
第6回　実測④　完形資料の実測方法
第7回　学外授業　発掘調査整理作業の見学
第8回　実測図のレイアウトとその理念
第9回　実測図レイアウト実習①
第10回　実測図レイアウト実習②
第11回　写真撮影①　銀塩カメラ
第12回　写真撮影②　デジタルカメラ
第13回　写真撮影③　デジタルカメラ
第14回　報告書文章の作成と総括①
第15回　報告書文章の作成と総括②

履修上の注意点

実物の考古資料を扱うので、細心の注意を払ってください。わからないことがあれば、質問してください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

発掘調査のてびき
著者:　文化庁文化財部記念物課
出版社:　同成社
出版年:　2010　　ISBN:　4886215254

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 60 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅳ <d>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　有坂　道子	

テーマ

古文書の整理と扱い方

授業の到達目標

古文書整理の実際を体験しながら、作業の内容についての理解を深める。

授業の概要

古文書の現物を用いて、古文書の扱い方、整理・保存の仕方の実際を学ぶ。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

博物館・史料館などで古文書を見る機会を作り、現物を積極的に見学すること。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　実習（1）内海家文書の解読・中級①
第3回　実習（2）内海家文書の解読・中級②
第4回　実習（3）内海家文書の解読・中級③
第5回　実習（4）内海家文書の解読・中級④
第6回　学外授業
第7回　実習（5）内海家文書の解読・中級⑤
第8回　実習（6）内海家文書の解読・中級⑥
第9回　実習（7）内海家文書の解読・中級⑦
第10回　実習（8）内海家文書の解読・中級⑧
第11回　学外授業
第12回　実習（9）内海家文書の解読・上級①
第13回　実習（10）内海家文書の解読・上級②
第14回　実習（11）内海家文書の解読・上級③
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 70 ）
出席を重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**建築遺産研究 I**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　秋期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　深水　浩	

テーマ

歴史・文化遺産として重要な位置を占める西洋の「建築」（都市・庭園を含む）の特質を概観し、現代世界においてこの遺産をどう受け継ぎ生かすべきかを考察する。

授業の到達目標

西洋の事例を中心に、各時代、人々がどのような問題に直面し、いかなる建築的解決を模索・実行してきたのかを概観・考察する。このことで、今日的課題にアプローチする際、過去の事例の中に多くの有効な知見を得ることができると期待する。 到達目標 ： （1）西洋建築の起源から現代までの意匠、構造、技術を理解する。（2）西洋建築を生み出した時代背景との影響関係を理解する。（3）西洋における都市、庭園の成り立ちと特質を理解する。（4）各種演習授業や卒業研究に取り組む際に、本講義で学んだ知識を応用できるような思考回路を構築する。

授業の概要

私たちの生活全般に深く関わる「建築」について反省的に考察する。西洋の伝統的建築、近代建築、現代建築についておよそ年代順に概観する。その際、特に政治的、宗教的な時代背景および建築家の個人的思想、さらには建築技術等に着目し、それらが個々の建築物の成立、さらには都市の成立に与えた影響関係についても言及する。 プリントによる資料配布、プロジェクターによる参考事例紹介をまじえた講義形式を基本とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業は受身の立場で聞くのではなく、各自の専門分野に引き寄せて常に考えながら能動的な姿勢で臨んでほしい。日頃から、まわりの建築、町並み、風景にも興味を持って目を向けてほしい。

内　容

第1回　古代1　・西洋建築の原点としての「美」の理論の成立（古代ギリシャ建築）
第2回　古代2　・古代ローマ帝国の「権力・栄光」の表現（古代ローマ建築 ）
第3回　中世1　・キリスト教教会堂の原型の誕生 ・集中式教会堂の発展（ビザンティン建築）
第4回　中世2　・バシリカ式教会堂の発展（ロマネスク建築、ゴシック建築）
第5回　近世1　・人間性の発現と古典建築の復活（ルネサンス建築）
第6回　近世2　・力動性と幻想性の表現（バロック建築）
第7回　近世3　・古典建築の再復活（新古典主義建築）・西洋建築の終焉（歴史主義建築、折衷主義建築）
第8回　西洋の庭園 ・理想世界の雛型としての庭園（イタリアルネサンス式庭園、フランスバロック式庭園、イギリス風景式庭園、イスラム庭園）
第9回　近代1　・初期近代建築とアーツアンドクラフツ運動
第10回 近代2　・アールヌーボーと他国への伝播
第11回 近代3　・前衛の運動（デ・スティル、ロシアアバンギャルドなど）
第12回 近代4　・インターナショナルスタイルの成立（ドイツ工作連盟、バウハウス）
第13回 近代5　・近代建築3巨匠の思想とその作品（ライト、コルビュジエ、ミース）
第14回 現代 ・現代建築の潮流
第15回 西洋の都市 ・各時代の主要都市概観

履修上の注意点

出席回数については、2/3以上（10回以上）を単位認定の条件とする。教科書は使用しないが、参考書については講義中に適宜紹介する。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

図説建築の歴史　西洋・日本・近代
著者:　西田雅嗣・矢ヶ崎善太郎編
出版社:　学芸出版社
出版年:　2013　　ISBN:　9784761532079

成績評価

試験・レポート （ 80 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 10 ）	授業中発表等 （ ）

a10413d110

参加度 （ 10 ）

レポート試験（80点）：講義内容に即した記述中心のレポート 授業中課題（10点）：講義内容に関する履修者各自の見解を記述する 参加度（10点）：出席回数および受講姿勢を総合的に判断する

2018 Syllabus

科 目 名　**建築遺産研究Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　村上　裕道	

テーマ

日本建築の通史を理解し、京都を中心とする地域に如何に重要な文化財建造物が集積していることを理解する。

授業の到達目標

古代から近現代までの建造物の発展過程を知り、各時代の文化財建造物の特徴を理解する。

授業の概要

時代区分された文化財建造物の特長を踏まえ、日本建築の特質「空間・構造・装飾」を理解する。そして、文化財建造物の継承策の進展とともに先人の努力を知る。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習　図書館等で、参考資料を探して良く読むこと

内　　容

第1回　有史前の建築
第2回　飛鳥・奈良建築
第3回　平安建築
第4回　鎌倉建築
第5回　室町建築
第6回　桃山建築
第7回　江戸建築　　（レポート）
第8回　日本建築の特質　空間
第9回　日本建築の特質　構造
第10回　日本建築の特質　装飾　　（レポート）
第11回　近世のまちなみ
第12回　まちなみの景観保護
第13回　近代の洋風建築・近代化遺産
第14回　近代の和風建築
第15回　文化財建造物の保存と修理の歩み　（レポート）

履修上の注意点

『日本の美術』をできるだけ読み、レポート作成の資料として使うこと可

教科書

参考書

日本の美術　490　出土建築部材が解く古代建築
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

日本の美術196　飛鳥・奈良建築
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

日本の美術197　平安建築
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

a10413d250

日本の美術198　鎌倉建築

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

日本の美術199　室町建築・200　桃山建築・201　江戸建築

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

日本の美術244　日本建築の空間・245　日本建築の構造

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

日本の美術246　日本建築の装飾・288　民家と街並み　近畿

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

日本の美術474　京都―古都の近代と景観保存

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

日本の美術446　擬洋風建築・449　近代の住宅建築・450　近代和風建築

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

日本の美術525　文化財建造物の保存と修理の歩み

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 40 ）

レポートの提出を行わない者は単位取得が難しくなる。

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産研究 I**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　村上　裕道	

テーマ

文化遺産保護に関する世界の潮流を知る

授業の到達目標

世界の文化遺産の保護の潮流を知り、日本の文化遺産保護の方向性を探る

授業の概要

ユネスコ、イコモス等、文化遺産保護に関する機関が作成した原則・憲章等を理解する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習　提供する資料をよく読み、理解すること
復習　レポート提出に際して、提供資料と良く照らし合わせること

内　　容

第1回　ユネスコの考えた文化遺産保護　アテネ憲章からベニス憲章
第2回　世界遺産条約　世界規模での文化遺産の保護
第3回　世界文化遺産の管理　ガイドライン
第4回　世界文化遺産の管理　モニタリング
第5回　世界文化遺産の管理　事例　世界文化遺産姫路城
第6回　事例　世界文化遺産モニタリング実査　（学外授業）
第7回　モニタリング調書取りまとめ学習
第8回　モニタリング調書取りまとめ　（レポート提出）
第9回　各分野のイコモス原則の概要
第10回　多文化の共生社会での文化遺産保護　オーセンティシティ
第11回　イコモス　ウッドコミッティ　プリンシプルの策定
第12回　イコモス　ウッドコミッティ　プリンシプルの改変
第13回　文化遺産保護に関する原則・理念の比較
第14回　世界遺産保護の概念と文化財保護法による概念の比較
第15回　文化遺産における権威（オーソリティ）の行方

履修上の注意点

参考資料を配布。
授業前に良く読み込んでおくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 70 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産研究Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中村　千枝子	

テーマ

日本の染織文化の変遷をたどる

授業の到達目標

布を織る・染める行為は古くから繰り返し行われてきた。今、私達の生活の中で必要不可欠になっている染織品は歴史の流れの中ではどのような位置を占めながら変遷してきたのでしょうか。各時代の歴史的な背景をおさえながら意匠の解説とともに理解を深める。

授業の概要

視覚からの情報も大切にしている。レジュメ及びパワーポイントや参考ビデオの鑑賞、サンプル裂の提示などさまざまな角度から理解を深める。染織を理解するための基本的な知識である天然繊維の素材や織物組織に加え天然染料なども解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日頃から博物館・美術館・社寺を訪れ、現在に伝わる染織品を見る。 日本の伝統芸能や伝統文化と染織のかかわりを考えるとともに、郷土の伝統芸能や伝統文化のなかに見られる染織がどのような役割を果たしているのか考えてみる。

内　容

第1回　概論　染織とは
第2回　古代の染織
第3回　天然繊維の解説
第4回　古墳時代の染織
第5回　上代裂
第6回　正倉院の染織Ⅰ
第7回　正倉院の染織Ⅱ
第8回　正倉院の染織Ⅲ
第9回　平安時代の染織Ⅰ
第10回　平安時代の染織Ⅱ
第11回　能装束
第12回　小袖Ⅰ
第13回　小袖Ⅱ
第14回　小袖Ⅲ
第15回　まとめと小テスト

履修上の注意点

遅刻をしない。私語を慎む。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

織りと染めの歴史　日本編
著者:　川上繁樹・藤井健三共著
出版社:　昭和堂
出版年:　1999　　ISBN:

染と織を訪ねる
著者:　長崎巌
出版社:　新潮社
出版年:　　ISBN:

a10413d410

正倉院の染織品の研究
著者: 尾形允彦
出版社: 思文閣出版
出版年: 2013 ISBN:

源氏物語の色辞典
著者: 吉岡幸雄
出版社: 紫紅社
出版年: 2008 ISBN:

近世風俗誌2・3
著者: 喜多川満貞
出版社: 岩波文庫
出版年: ISBN:

別冊太陽 日本の布原始布探訪
著者: 監修北村哲朗
出版社: 平凡社
出版年: 1989 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）
小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 20 ）
授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**古都学 I**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　村上　裕道	

テーマ

現存する文化遺産を通して、「古都」の意味を理解するとともに、その継承策を探求する態度を養う。

授業の到達目標

古都奈良の歴史と文化を伝える文化財を知ることにより、その背後に通底する文化の特性とその変化を理解する。

授業の概要

世界文化遺産『古都奈良の文化財』の申請書類を参考資料に、構成文化遺産（建造物）等を通して、都城・宮殿の成立過程から1000年の都、平安京へと移る中で表現された各時代の文化の特性とその意味を習う。そして、その文化が現代に影響を与え、年中行事や祭事等として生活に深く根ざしていることも理解し、将来への継承策を考える着想点を学習する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習　提供する資料をよく読み、理解すること
復習　課題提出に際して、提供資料と良く照らし合わせること

内　　容

第1回　古都とは　都城・宮殿と官衙概説
　明日香村（飛鳥/飛鳥京）、大阪市（難波宮、難波京）、橿原市（藤原京）、奈良市（平城京）長岡京市・向日市（長岡京）、京都市（平安京）、他
第2回　「世界文化遺産古都奈良の文化財」の申請概要を調べる
第3回　『平城京』の地割
　世界都市「唐の都　長安城」を手本に造営した本格的な「日本の都」
第4回　平城京の造営と諸施設
　構成資産　東大寺・興福寺・春日大社・元興寺・薬師寺・唐招提寺他　顕教：南都六宗概説
第5回　平城京跡　見学　奈良文化財研究所　平城宮跡資料館
藤原旧跡資料館
第6回　古都奈良の諸寺　国家鎮護の総国分寺・東大寺
第7回　古都奈良の諸寺　藤原氏の氏寺・興福寺
第8回　古都奈良の諸寺　蘇我馬子建立の飛鳥寺に繋がる元興寺
第9回　古都奈良の諸寺　天武天皇発願の官寺・薬師寺
第10回　古都奈良の諸寺　戒律を学ぶ、鑑真和上の唐招提寺
第11回　神の降臨する神地・春日山原始林と藤原氏の氏神・春日大社
第12回　『平安京の建設』 平城京・長岡京から平安京への遷都
第13回　『古都の保護施策』
　明治4年の太政官布告、資産調査、明治30年導入の古社寺保存法以降の文化財保護（重伝建地区含む）、景観形成地区の指定等、都市計画・景観計画関連保護施策の進展等を踏まえ、総合的な歴史文化の保護施策を考える。
第14回　『文化財の保護　保存と活用』
　人口減少等、地方の脆弱化に伴う文化財を活用した地方振興、外国人の来訪に伴う観光振興等、文化遺産の利活用が提案されつつあるが、現代的な文化財の保存・活用とは何かを考える着想点を知る。
第15回　事例実査　京都市内　重伝建地区等

履修上の注意点

古都奈良の文化財（世界遺産申請書類）資料配布

教科書

参考書

日本の美術文化財建造物の保存と修理の歩み(NO525)
著者：　村上訒一
出版社：(株)ぎょうせい
出版年：2010　　ISBN：

日本の美術古都の近代と景観保存（NO474）
著者：
出版社：至文堂
出版年：2007　　ISBN：

a10413d510

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 70 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**古都学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　前田　義明	

テーマ

地下に埋もれた遺構・遺物から京都の歴史と文化の特性を探る。

授業の到達目標

京都の歴史と文化が歴史・文化遺産として現代に影響を与え、生き続けていることを理解する。

授業の概要

平安京以前の京都、平安京の構造、民衆の生活、中世の京都、近世の京都など各時代の遺跡について、発掘調査の成果から考古学的方法により遺構・遺物の検討や実見することで古都の知見を掘り下げる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：博物館や資料館の展示物実見や寺社仏閣・伝統的街並みの見学を心掛ける。復習：配布資料や参考図書から授業内容の確認と整理。

内　容

第1回　平安京遷都　長岡京から平安京へ遷都された意味を探る
第2回　平安京の条坊制と条里制　平安京の条坊制・条里制と京都の町並みの関連を学ぶ
第3回　平安宮の構造　平安宮の構造について実態と変遷を探る
第4回　平安京の邸宅　京都の市街地に埋もれた平安時代の邸宅跡を探る
第5回　平安京の寺院　平安京とその周辺に造営された寺院についてその特性を理解する
第6回　平安京の出土遺物(1)　平安宮や寺院造営に伴い多量に作られた平安時代の瓦の特性を探る
第7回　平安京の出土遺物(2)　土器・祭祀遺物・銭貨・石製帯飾具などについてその特質や変遷を学ぶ
第8回　山科の遺跡(1)　山科盆地に所在する縄文時代から中世までの主要遺跡を学ぶ
第9回　山科の遺跡(2)　実地見学（大宅廃寺～中臣遺跡）
第10回　院政期(1)　白河上皇と鳥羽上皇によって造営された鳥羽離宮跡について学ぶ
第11回　院政期(2)　六勝寺・法金剛院・法住寺殿など院政期の遺跡を学ぶ
第12回　中世の遺跡　市街地遺跡の調査から中世の遺跡の実態を探る
第13回　織豊期(1)　聚楽第・御土居・天正地割・方広寺など豊臣秀吉が行なった土木事業を探る
第14回　織豊期(2)　造営開始から慶長の伏見大地震後の拡張整備など伏見城の変遷の実態を探る
第15回　近世の遺跡　二条城・淀城や公家町遺跡など近世の遺跡を学ぶ

履修上の注意点

課題と出席参加度の重視

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

平安京提要
著者:
出版社:　角川書店
出版年:　1994　　ISBN:　4-821044-0

つちの中の京都1
著者:
出版社:　ユニプラン
出版年:　2009　　ISBN:　4-89704-267-1

つちの中の京都2
著者:
出版社:　ユニプラン
出版年:　2001　　ISBN:　4-89704-163-5

a10413d650

つちの中の京都3

著者:

出版社: ユニプラン

出版年: 2006 ISBN: 4-89704-224-0

つちの中の京都4

著者:

出版社: ユニプラン

出版年: 2010 ISBN: 4-89704-278-7

京都発掘ものがたり

著者:

出版社: (公財)京都市埋蔵文化財研究所

出版年: 2014 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）
小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 50 ）
授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**地域文化論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　島本　多敬	

テーマ

食の空間を読み解く

授業の到達目標

地域文化を空間的かつ時間的視点から理解するための考え方・概念を習得する。

授業の概要

地域文化は、時間的な変化の積み重ねに加えて、空間的な関係性から成り立っています。また、「地域」はローカルからグローバルまで様々なスケールで存在するものであり、相互に影響を与え合っています。本科目では地域文化の中でも「食」を切り口にして様々な事例を取り上げ、地域文化を理解するために必要な考え方や概念について学びます。なお、授業は主にスライドを用いた講義形式で進める予定です。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内容の復習に努めてください。また、テキストを通読することも、授業内で言及する重要概念を理解する上で有効です。

内　　容

第1回　イントロダクション
第2回　食文化と心象地理
第3回　食料生産をめぐる自然―文化
第4回　食とグローバリゼーション
第5回　科学の地理と食料生産
第6回　食文化史の調査・研究・語り
第7回　宇治茶のある景観
第8回　棚田の風景
第9回　生業と遺産（ヘリテッジ）
第10回　丹後の海の「自然」
第11回　地域の食と地域イメージ①（京都）
第12回　地域の食と地域イメージ②（日本の諸地域）
第13回　戦後日本と食
第14回　料理店と都市空間
第15回　食とエスニック・コミュニティ

履修上の注意点

教科書

近現代の空間を読み解く

著者:　ジョン・モリッシー／デヴィッド・ナリー／ウルフ・ストロメイヤー／イヴォンヌ・ウィーラン（上杉和央監訳）

出版社:　古今書院

出版年:　2017　　ISBN:　9784772231848

参考書

授業中に指示します

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**木簡・金石文学**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　渡辺　晃宏	

テーマ

木簡を中心とする出土文字資料の特質、及び遺跡との関わり、そしてそれらが語る新しい歴史像

授業の到達目標

歴史を考える上で欠かすことのできない重要な位置を占めるようになってきた木簡を初めとする出土文字資料を実際に読み解きながら、それらの資料としての特質や役割について理解を深め、新しい日本史像の探求方法を学ぶ。

授業の概要

具体的な木簡に即して、日本古代を中心とするの木簡の概説、各論を講義する。なお、木簡研究の最先端にふれてもらうため、最新の木簡をはじめとする出土文字資料や発掘調査の情報などを、適宜取り上げながら授業を進めていきたいと考えるので、取り上げる木簡やその順序に変更や偏りが生じる場合がある。また、平城宮跡における現地講義に振り替える場合がある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

木簡を初めとする出土文字資料や最新の発掘調査の情報に注目し、現地説明会などにも積極的に参加してほしい。特に、授業の主要な対象となる木簡が出土した平城宮跡を実際に訪れ、遺跡としての広がりを体験しておくことが望ましい。また、正倉院展（奈良国立博物館）や地下の正倉院展（奈文研平城宮跡資料館での木簡の展示）などの実物資料を見られる機会や、奈文研の木簡に関するデータベースなどを活用し、日頃から積極的に資料に親しむように努めてほしい。

内　容

第1回　木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解読・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について概観する。
第2回　木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解読・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について概観する。
第3回　代表的な木簡出土地として平城宮跡を取り上げて概説し、その解明に果たしてきた木簡を初めとする出土文字資料の役割について考える。
第4回　代表的な木簡出土地として平城宮跡を取り上げて概説し、その解明に果たしてきた木簡を初めとする出土文字資料の役割について考える。
第5回　代表的な木簡出土地として平城宮跡を取り上げて概説し、その解明に果たしてきた木簡を初めとする出土文字資料の役割について考える。
第6回　長屋王家木簡（長屋王という8世紀前半の貴族の家政に関わる木簡群）の特質を考える。
第7回　長屋王家木簡（長屋王という8世紀前半の貴族の家政に関わる木簡群）の特質を考える。
第8回　長屋王家木簡（長屋王という8世紀前半の貴族の家政に関わる木簡群）の特質を考える。
第9回　二条大路木簡（735、6年頃を中心とする光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群）の特質を考える。
第10回　二条大路木簡（735、6年頃を中心とする光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群）の特質を考える。
第11回　二条大路木簡（735、6年頃を中心とする光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群）の特質を考える。
第12回　西大寺旧境内出土木簡など、平城京跡出土のその他の代表的な木簡について検討する。
第13回　国府・郡家・城柵などの地方官衙遺跡出土の木簡を具体的に取り上げて検討し、木簡の空間的な広がりについて理解を深める。
第14回　国府・郡家・城柵などの地方官衙遺跡出土の木簡を具体的に取り上げて検討し、木簡の空間的な広がりについて理解を深める。
第15回　中世や近世の木簡について検討し、木簡の時間的な広がりについて理解を深める。最後に授業全体のまとめを行う。

履修上の注意点

教科書

特に使用しない。

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

適宜プリントなどを配布する。

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

a10413d850

木簡から古代がみえる(岩波新書)新赤版1256
著者: 木簡学会(編)
出版社: 岩波書店
出版年: 2010 ISBN: 978-4004312567

木簡が語る日本の古代(岩波新書)黄版231
著者: 東野治之
出版社: 岩波書店
出版年: 1983 ISBN: 978-4004202318

〈歴史の証人〉木簡を究める
著者: 奈良文化財研究所(編)
出版社: クバプロ
出版年: 2014 ISBN: 978-4878051340

平城京と木簡の世紀(講談社学術文庫)
著者: 渡辺晃宏
出版社: 講談社
出版年: 2009 ISBN: 978-4062919043

平城京1300年全検証―奈良の都を木簡から読み解く
著者: 渡辺晃宏
出版社: 柏書房
出版年: 2010 ISBN: 978-4760137404

成績評価

試験・レポート (80) 小テスト ( )
授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( )
参加度 (20)
試験はレポートによる場合もある。

2018 Syllabus

科 目 名　**保存科学Ⅰ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　植田　直見.川本　耕三.山田　卓司	

テーマ

文化財資料の調査及び分析、保管環境、保存処理及び修復

授業の到達目標

文化財資料を対象とした保存科学の歴史を学び、文化財資料の保存を考える上で必要な様々な調査・分析の目的と方法を学ぶ。さらに、文化財資料のおかれている現状を把握し、長く後世に残し、活用するための保管環境についての知識を習得する。さらに、材質ごとにどのような劣化が生じているかを理解し、その上で適切な保存処理・修復の方法を学ぶ。

授業の概要

文化財資料を後世に長く残すことを研究する学問である保存科学についてまずその歴史を学び、これまでの歩みを述べる。次に文化財資料を保存する上で理解しておかなければならない材質や技法についての調査・分析方法を説明する。また、資料を長く残すために必要な保管環境に影響をおよぼす要因と条件をまとめる。そのうえで材質ごとにどのような劣化が見られるかを述べ、材質毎の保存処理・修復方法を説明する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業が始まるまでに最低1館以上の博物館や資料館などを見学しておくこと。初回の授業でその感想をレポートにまとめる。

内　容

第1回　保存科学Ⅰの概要・保存科学の歴史
第2回　文化財資料の調査・分析①
第3回　文化財資料の調査・分析②
第4回　資料の保管環境①（概要・温湿度）
第5回　資料の保管環境②（空気汚染・光）
第6回　資料の保管環境③（生物劣化・IPM）
第7回　文化財資料の保存処理・修復の理念
第8回　出土木製品の劣化および保存処理
第9回　出土漆製品の劣化および保存処理
第10回　出土金属製品の劣化および保存処理
第11回　出土金属製品の保存処理
第12回　土器・埴輪の劣化および保存処理・修復
第13回　伝世資料の劣化および保存処理・修復
第14回　伝世資料の保存処理・修復
第15回　全体のまとめ

履修上の注意点

集中講義であるため1日に複数限の授業を実施するが、遅刻や欠席のないようにすること。出席率は成績に反映される。授業内容について不明な点は、その都度質問を受けるので積極的に質問すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保存科学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一瀬　和夫.中久保　辰夫	

テーマ

考古遺跡や歴史遺産を復元し保存活用するための情報について、これらが埋もれていた地下の状況を把握する。

授業の到達目標

遺跡・遺産の環境復元を正確で詳細に把握するための基礎を学び、遺跡の地層の体系（考古地層学）にまとめて古環境の復元保存に供することを学ぶ。

授業の概要

遺跡における人為性の把握と遺構面認定の方法、総合的な環境復元の方法を、野外や発掘現場での観察と記録を交えて実践的に学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

遺跡の現地説明会の参加や崖面などの土層などを観察してみる。

内　容

第1回　ガイダンス 考古遺産の保存と活用
第2回　層序の基礎1（地層、層序）
第3回　層序の基礎2（砕屑物の粒度区分、篩い分け）
第4回　層序の基礎3（粒度標本、篩い分け）
第5回　堆積の基礎1（砕屑粒子の挙動と集合状態、初生的堆積構造と堆積環境）
第6回　堆積の基礎2（砕屑性堆積層の堆積後の変形）
第7回　堆積の基礎3（地層の変位、火山砕屑物の降下層と流の構造）
第8回　生痕の基礎（現地性と異地性、足跡による変形・変位）
第9回　土壌の基礎1（土層、暗色帯と古土壌、土壌の構成と構造、土色と元素）
第10回　土壌学の基礎（土壌の生成：残積土壌・累積土壌・堆積土壌と擾乱）
第11回　遺跡での遺構面の認定（学外授業）
第12回　地層・土層の観察（学外授業）
第13回　層相断面図の記録（学外授業）
第14回　古環境の復元と総合化、保存活用
第15回　討論とまとめ

履修上の注意点

学習時の体験を大切にする

教科書

特になし
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 40 ）
野外や体験を重視する

2018 Syllabus

科 目 名　**考古学研究Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　土田　純子	

テーマ

朝鮮半島考古学特講(百済考古学)

授業の到達目標

朝鮮半島の考古学のうち、百済考古学について講義を行う。倭王権は、対外的に密接であった百済との関係なしではその全貌を語れない。倭王権と百済との関係は『日本書紀』神功皇后47年、百済王が久てい(「氏」の下部に「一」)・弥州流・莫古を倭王に派遣する記事から見られる。二国の関係は史料だけでなく、考古資料にも反映されている。倭王権や倭社会に対する真の理解のためには、百済史・百済考古学への関心と研究は必要不可欠である。

授業の概要

授業は主にパワーポイントでし、時折、韓国の歴史ビデオを活用して進める。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

講義に使うパワーポイントの資料は、授業の前日までに学生たちに配布する予定である。(ただし講師が使うパワーポイントとは一部異なる。)

内　容

第1回　授業の説明と朝鮮半島の地理
第2回　三国時代の前史についての理解
第3回　百済考古学の歴史と重要遺跡の紹介
第4回　百済の墓制の変遷と問題点1
第5回　百済の墓制の変遷と問題点2
第6回　百済の都城一漢城期
第7回　百済の都城一熊津期・サビ期
第8回　百済の寺跡
第9回　百済の土器の形成と編年の問題点
第10回　百済の土器の中国陶磁器一伝世と関連付けて一
第11回　漢城様式百済土器の理解
第12回　サビ様式百済土器の理解
第13回　考古学から見た百済の領域拡大過程
第14回　栄山江流域の考古学
第15回　周辺国家との比較
第16回　総括と期末試験

履修上の注意点

当たり前のことだが、私語を慎む。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

東アジアと百済土器
著者:　土田純子
出版社:　同成社
出版年:　2017.1　　ISBN:　978488621750-9

概説 韓国考古学
著者:　韓国考古学会編
出版社:　同成社
出版年:　2013.10　　ISBN:　978488621639-7

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ 40 ）

a10413e350

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 20 ）

試験（オープンブック）。オープンブックとは授業で配布された資料を見ながら試験を行うということ。

2018 Syllabus

科 目 名　**遺産情報演習Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山田　邦和	

テーマ

歴史遺産から復元する歴史像

授業の到達目標

歴史遺産的な史料を分析する力と、それを活用して一定の歴史像を構築する力を身につける。

授業の概要

歴史学で扱う材料は文献史料だけではない。現代の歴史学では、考古学の遺跡・遺構・遺物、古地図、絵図など、さまざまな歴史遺産的な史料を組み合わせることによって歴史像を復元しようとしている。この授業では、こうした文献史料以外の諸史料をどう分析するかを、特に京都の歴史の具体例に即して体験してもらう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

京都の精彩な地図を備えて読み込んでおく。また、自主的に京都の史跡（寺院・神社など）、博物館を訪れることを勧める。

内　容

第1回　イントロダクション―歴史の復元とは何か―
第2回　歴史学の方法学
第3回　近代の地図から歴史の痕跡を学ぶ（1）
第4回　近代の地図から歴史の痕跡を学ぶ（2）
第5回　近代の地図から歴史の痕跡を学ぶ（3）
第6回　考古学の方法論
第7回　平安京の復元
第8回　古代・中世の地図から歴史の痕跡を学ぶ(1)
第9回　古代・中世の地図から歴史の痕跡を学ぶ(2)
第10回　都市遺跡の復元研究(1)
第11回　都市遺跡の復元研究(2)
第12回　絵画史料からの歴史復元(1)
第13回　絵画史料からの歴史復元(2)
第14回　城郭の研究方法
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

演習授業なので、出席が前提となる。授業中の無断退席、私語、「内職」、授業内容に関係しない携帯電話操作などは厳禁。
※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

教科書

参考書

京都　知られざる歴史探検（上）
著者:　山田邦和
出版社: 新泉社
出版年: 2017　　ISBN:　978-4787717115

京都　知られざる歴史探検（下）
著者:　山田邦和
出版社: 新泉社
出版年: 2017　　ISBN:　978-4787717122

歴史家の案内する京都
著者:　仁木宏・山田邦和編
出版社: 文理閣
出版年: 2016　　ISBN:　978-4892597909

成績評価

試験・レポート （ 30 ）　　小テスト （ 10 ）

a10413e450

授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 20 ）

試験ではなくレポートを実施する。成績評価を受けるためには、授業に出席していることが前提。

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅲ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中久保　辰夫	

テーマ

卒業論文執筆指導

授業の到達目標

論文読解能力を養うこと。考古資料の特性を理解し、資料集成を行い、分析・考察を通じて、論文執筆を進めること。研究の成果を他者が理解しやすいように発表し、また他者の発表についてその人の研究にプラスになるように助言できるようになること。

授業の概要

授業は発表・討論形式で進める。進め方は、次の通り。1）考古学の論文執筆についての基本を会得し、それぞれの関心にそって研究テーマを検討し、その現状と課題を発表する。2）論文の執筆方針が定まると資料集成や分析作業などを進めて、発表する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

発表に際しては、わからない用語や疑問点などをまとめておく。理解を深めるための図面や写真を用意する。

内　　容

第1回　ガイダンス、自己紹介、発表順の策定
第2回　考古学の論文の書き方、執筆計画の立て方
第3回　研究発表と討論　研究の現状と課題①
第4回　研究発表と討論　研究の現状と課題②
第5回　研究発表と討論　研究の現状と課題③
第6回　研究発表と討論　研究の現状と課題④
第7回　資料調査の方法とレファレンス
第8回　研究発表と討論　考古資料の分析・考察①
第9回　研究発表と討論　考古資料の分析・考察②
第10回　研究発表と討論　考古資料の分析・考察③
第11回　研究発表と討論　考古資料の分析・考察④
第12回　研究発表と討論　考古資料の分析・考察⑤
第13回　夏期休暇中の課題と研究計画策定
第14回　卒論中間発表資料案の作成方法
第15回　総括

履修上の注意点

発表中は、私語を慎むこと。やむを得ない事情がある場合を除き、5回以上欠席し、発表しない場合は単位取得が難しくなる。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（　）　　小テスト（　）
授業中課題（20）　　授業中発表等（60）
参加度（20）
発表レジメの内容、発表内容、討論への参加度などを総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅲ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一瀬　和夫	

テーマ

卒業研究、論文の作成

授業の到達目標

各自の研究を深く掘り下げ、論文構成を検討し、研究計画を策定。研究史の整理し、自己の研究のオリジナリティーを明確にさせる。

授業の概要

研究計画の整備。発表、それにもとづく質疑応答と討議、評価。まとめと課題の抽出。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

資料収集と観察と分析。

内　容

第1回　研究計画案の作成
第2回　研究発表1
第3回　学外授業
第4回　研究発表2
第5回　研究発表3
第6回　研究発表4
第7回　研究発表5
第8回　研究内容の整備と確認
第9回　図・文献等整備1
第10回　図・文献等整備2
第11回　図・文献等整備3
第12回　論文補足修正・加筆1
第13回　論文補足修正・加筆2
第14回　研究修正案発表1
第15回　研究修正案発表2

履修上の注意点

類例調査を怠らない。互いに研究の情報と意見を交換する。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ 60 ）
参加度（ 30 ）
研究発表内容、研究進展度、オリジナリティーを基に評価。

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅲ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小林　裕子	

テーマ

卒業論文執筆指導

授業の到達目標

各々研究テーマを検討、先行研究をまとめたうえで論文構成を決定し、執筆を進める。

授業の概要

まず受講者各々が研究テーマに関する先行研究をまとめ、口頭発表を実施する。
つぎに論文構成を練ったうえで、再度発表して執筆方針を確定する。
なお、必要に応じて外部講師による研究発表及び学外授業を実施する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　図書館レファレンス
第3回　先行研究まとめ発表①
第4回　先行研究まとめ発表②
第5回　先行研究まとめ発表③
第6回　先行研究まとめ発表④
第7回　先行研究まとめ発表⑤
第8回　外部講師による研究発表
第9回　論文執筆方針及び構成の発表①
第10回　論文執筆方針及び構成の発表②
第11回　論文執筆方針及び構成の発表③
第12回　論文執筆方針及び構成の発表④
第13回　論文執筆方針及び構成の発表⑤
第14回　論文執筆方針及び構成の発表⑥
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 60 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅲ <＊d>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　有坂　道子	

テーマ

卒業論文作成にむけて

授業の到達目標

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。

授業の概要

〇テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定。
〇文献・資料検索についての具体的指導。
〇順次各自の研究テーマについての発表。
〇中間発表にむけての指導。
〇中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導。
〇論文作成にむけての個別指導。
なお、必要に応じて学外授業を行う場合がある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

卒業論文の作成過程では教員とよく相談し、自発的・積極的に課題に取り組むこと。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　古文書学演習（1）
第3回　古文書学演習（2）
第4回　古文書学演習（3）
第5回　古文書学演習（4）
第6回　学外授業
第7回　古文書学演習（5）
第8回　古文書学演習（6）
第9回　古文書学演習（7）
第10回　古文書学演習（8）
第11回　学外授業
第12回　古文書学演習（9）
第13回　古文書学演習（10）
第14回　古文書学演習（11）
第15回　総括

履修上の注意点

やむを得ず欠席する場合は、必ず理由を添えて申し出ること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅳ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中久保　辰夫	

テーマ

先行研究をふまえ、考古資料を集成、分析、考察した独創的な卒業論文を完成させる。

授業の到達目標

自身が納得のいく卒業論文の執筆を目指す。

授業の概要

本授業の内容は、卒業論文作成にむけて一般指導（発表・討論形式）と、各自のテーマに応じた個別指導となる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

就職活動と卒業論文作成を両立できるように計画的に取り組む。

内　　容

第1回　研究進捗状況の報告
第2回　卒論中間発表資料の作成①
第3回　卒論中間発表資料の作成②
第4回　卒業論文中間発表①
第5回　卒業論文中間発表②
第6回　考古学論文の図面作成方法①
第7回　考古学論文の図面作成方法②
第8回　卒業論文個別指導①
第9回　卒業論文個別指導②
第10回　卒業論文個別指導③
第11回　卒業論文個別指導④
第12回　卒業論文個別指導⑤
第13回　卒業論文個別指導⑥
第14回　卒業論文提出
第15回　講評

履修上の注意点

無断欠席はしないでください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 70 ）
参加度（ 30 ）
発表レジメの内容、発表の内容や方法、討論内容などを総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅳ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一瀬　和夫	

テーマ

卒業論文の作成と今後の課題発見

授業の到達目標

研究史を踏まえ、研究発表し、他者に意見を求め、それを吟味、検討し、自己のオリジナリティーを客観的に表現する論文に仕上げ、点検する。

授業の概要

中間発表と論文をまとめる

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

校正、見直しを確実に行う。

内　　容

第1回　卒論中間発表原稿作成1
第2回　卒論中間発表原稿作成2
第3回　卒論中間発表会
第4回　中間発表の講評と対応検討
第5回　個別・グループ指導1
第6回　個別・グループ指導2
第7回　個別・グループ指導3
第8回　個別・グループ指導4
第9回　個別指導・相互点検1
第10回　個別指導・相互点検2
第11回　個別指導・相互点検3
第12回　卒論提出
第13回　提出事後点検
第14回　卒論補遺作成1
第15回　卒論補遺作成2

履修上の注意点

互いの研究を点検し、意見交換する。
※この授業では必要に応じてゲストスピーカーの講演を行うことがある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 60 ）

参加度（ 30 ）

取り組み姿勢、課題達成度、オリジナリティーの有無を基に評価

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅳ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小林　裕子	

テーマ

卒業論文執筆指導

授業の到達目標

先行研究を整理し、問題点を解決すべく自らの見解をまとめて論理を構築する論文執筆を目指す。

授業の概要

すでに作成した論文構成に沿った中間発表リハーサルによりプレゼン能力を養う。また、個別指導とグループ指導を組み合わせて緻密な論文に仕上げていく。なお、必要に応じて学外授業を実施する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　中間発表リハーサル①
第2回　中間発表リハーサル②
第3回　中間発表リハーサル③
第4回　学外授業
第5回　グループ指導①
第6回　グループ指導②
第7回　個別論文指導①
第8回　個別論文指導②
第9回　個別論文指導③
第10回　個別論文指導④
第11回　個別論文指導⑤
第12回　レイアウトの基本〈図版画像処理〉
第13回　レイアウトの基本〈版面作成〉
第14回　卒論提出
第15回　講評

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 70 ）
参加度（ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅳ〈＊d〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　有坂　道子	

テーマ

卒業論文作成にむけて

授業の到達目標

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。

授業の概要

〇テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定。
〇文献・資料検索についての具体的指導。
〇順次各自の研究テーマについての発表。
〇中間発表にむけての指導。
〇中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導。
〇論文作成にむけての個別指導。
なお、必要に応じて学外授業を行う場合がある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

卒業論文の作成過程では教員とよく相談し、自発的・積極的に課題に取り組むこと。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　古文書学演習（1）
第3回　古文書学演習（2）
第4回　古文書学演習（3）
第5回　古文書学演習（4）
第6回　学外授業
第7回　古文書学演習（5）
第8回　古文書学演習（6）
第9回　古文書学演習（7）
第10回　古文書学演習（8）
第11回　学外授業
第12回　古文書学演習（9）
第13回　古文書学演習（10）
第14回　古文書学演習（11）
第15回　総括

履修上の注意点

やむを得ず欠席する場合は、必ず理由を添えて申し出ること。
※この授業では必要に応じてゲストスピーカーの講演を行うことがある。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ（国）＜＊A＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐久間　浩司	

テーマ

大学および専攻の学習に対する基礎的能力

授業の到達目標

1.英語を学ぶ、英語で学ぶことの意味と意義を理解し、学習意欲を高めること。2.大学生に求められる態度と技能を理解すること。3.考え方に多様性があることや、非言語コミュニケーションを含むコミュニケーションの重要性を理解すること。4.自身が固定観念を持っていることを認識し、オープンマインドで考えることの重要性を理解すること。

授業の概要

第1ユニット＜態度の涵養＞第1～5講；第2ユニット＜技能の理解＞第6～9講；第3ユニット＜技能の習得＞第10～15講

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

国際社会に習慣的に関心を持ち、テレビのニューズやドキュメンタリーを見ることと、日本および海外に関する本を継続的に読むこと。

内　容

第1回　Orientation
第2回　What Is University; and What Is a Student?
第3回　Study & Academic Skills (1): Note-making
第4回　Creating an Open Mind
第5回　Knowing Words and the World
第6回　Undertsanding Nonverbal Communication
第7回　Study & Academic Skills (2): Research Skills
第8回　Study & Academic Skills (3): Making Handouts
第9回　Study & Academic Skills (4): Report Writing 1
第10回　Study & Academic Skills (5): Report Writing 2
第11回　Student Presentation & Feedback (1)
第12回　Student Presentation & Feedback (2)
第13回　Student Presentation & Feedback (3)
第14回　Student Presentation & Feedback (4)
第15回　Roundup and Evaluation

履修上の注意点

学生は事前に授業内容を把握し、読み物の課題をこなし、そのテーマについて調べながら自分の知識を増やしながら、考えることが大事です。授業中では、個人としての意見を持ち、遠慮せずその意見を人の前で述べたり、オープンな姿勢で他の人の意見を聞くことも重大です。

教科書

参考書

ことばの力学
著者：　白井　恭弘
出版社：岩波新書
出版年：2013　　ISBN：4004314194

The Story of English
著者：　R. McCrum
出版社：Macmillan Language House
出版年：1992　　ISBN：9784895850247

ケースで学ぶ異文化コミュニケーション
著者：　久米　昭元
出版社：有斐閣選書
出版年：2007　　ISBN：4641281084

a20101a110

おとなの教養

著者: 池上 彰

出版社: NHK出版新書

出版年: 2014　　ISBN: 9784140884317

新版大学生のためのレポート・論文術

著者: 小笠原喜康

出版社: 講談社現代新書

出版年: 2009　　ISBN: 4061496034

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ（国）＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中井　弘一	

テーマ

大学および専攻の学習に対する基礎的能力

授業の到達目標

1.英語を学ぶ、英語で学ぶことの意味と意義を理解し、学習意欲を高めること。2.大学生に求められる態度と技能を理解すること。3.考え方に多様性があることや、非言語コミュニケーションを含むコミュニケーションの重要性を理解すること。4.自身が固定観念を持っていることを認識し、オープンマインドで考えることの重要性を理解すること。

授業の概要

第1ユニット＜態度の涵養＞第1～5講；第2ユニット＜技能の理解＞第6～9講；第3ユニット＜技能の習得＞第10～15講

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

国際社会に習慣的に関心を持ち、テレビのニューズやドキュメンタリーを見ることと、日本および海外に関する本を継続的に読むこと。

内　容

第1回　Orientation
第2回　What Is University; and What Is a Student?
第3回　Study & Academic Skills (1): Note-making
第4回　Creating an Open Mind
第5回　Knowing Words and the World
第6回　Undertsanding Nonverbal Communication
第7回　Study & Academic Skills (2): Research Skills
第8回　Study & Academic Skills (3): Making Handouts
第9回　Study & Academic Skills (4): Report Writing 1
第10回　Study & Academic Skills (5): Report Writing 2
第11回　Student Presentation & Feedback (1)
第12回　Student Presentation & Feedback (2)
第13回　Student Presentation & Feedback (3)
第14回　Student Presentation & Feedback (4)
第15回　Roundup and Evaluation

履修上の注意点

学生は事前に授業内容を把握し、読み物の課題をこなし、そのテーマについて調べながら自分の知識を増やしながら、考えることが大事です。授業中では、個人としての意見を持ち、遠慮せずその意見を人の前で述べたり、オープンな姿勢で他の人の意見を聞くことも重大です。

教科書

参考書

ことばの力学
著者：　白井　恭弘
出版社：岩波新書
出版年：2013　　ISBN：4004314194

The Story of English
著者：　R. McCrum
出版社：Macmillan Language House
出版年：1992　　ISBN：9784895850247

ケースで学ぶ異文化コミュニケーション
著者：　久米　昭元
出版社：有斐閣選書
出版年：2007　　ISBN：4641281084

a20101a112

おとなの教養

著者: 池上 彰

出版社: NHK出版新書

出版年: 2014　　ISBN: 9784140884317

新版大学生のためのレポート・論文術

著者: 小笠原喜康

出版社: 講談社現代新書

出版年: 2009　　ISBN: 4061496034

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ（国）＜＊C＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮崎　裕二	

テーマ

大学および専攻の学習に対する基礎的能力

授業の到達目標

1.英語を学ぶ、英語で学ぶことの意味と意義を理解し、学習意欲を高めること。2.大学生に求められる態度と技能を理解すること。3.考え方に多様性があることや、非言語コミュニケーションを含むコミュニケーションの重要性を理解すること。4.自身が固定観念を持っていることを認識し、オープンマインドで考えることの重要性を理解すること。

授業の概要

第1ユニット＜態度の涵養＞第1～5講；第2ユニット＜技能の理解＞第6～9講；第3ユニット＜技能の習得＞第10～15講

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

国際社会に習慣的に関心を持ち、テレビのニューズやドキュメンタリーを見ることと、日本および海外に関する本を継続的に読むこと。

内　容

第1回　Orientation
第2回　What Is University; and What Is a Student?
第3回　Study & Academic Skills (1): Note-making
第4回　Creating an Open Mind
第5回　Knowing Words and the World
第6回　Undertsanding Nonverbal Communication
第7回　Study & Academic Skills (2): Research Skills
第8回　Study & Academic Skills (3): Making Handouts
第9回　Study & Academic Skills (4): Report Writing 1
第10回　Study & Academic Skills (5): Report Writing 2
第11回　Student Presentation & Feedback (1)
第12回　Student Presentation & Feedback (2)
第13回　Student Presentation & Feedback (3)
第14回　Student Presentation & Feedback (4)
第15回　Roundup and Evaluation

履修上の注意点

学生は事前に授業内容を把握し、読み物の課題をこなし、そのテーマについて調べながら自分の知識を増やしながら、考えることが大事です。授業中では、個人としての意見を持ち、遠慮せずその意見を人の前で述べたり、オープンな姿勢で他の人の意見を聞くことも重大です。

教科書

参考書

ことばの力学
著者：　白井　恭弘
出版社：岩波新書
出版年：2013　　ISBN：4004314194

The Story of English
著者：　R. McCrum
出版社：Macmillan Language House
出版年：1992　　ISBN：9784895850247

ケースで学ぶ異文化コミュニケーション
著者：　久米　昭元
出版社：有斐閣選書
出版年：2007　　ISBN：4641281084

a20101a113

おとなの教養

著者: 池上 彰

出版社: NHK出版新書

出版年: 2014 ISBN: 9784140884317

新版大学生のためのレポート・論文術

著者: 小笠原喜康

出版社: 講談社現代新書

出版年: 2009 ISBN: 4061496034

成績評価

試験・レポート（ 30 ）
小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）
授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ（国）＜＊D＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　アンガス, ノーマン	

テーマ

大学および専攻の学習に対する基礎的能力

授業の到達目標

1.英語を学ぶ、英語で学ぶことの意味と意義を理解し、学習意欲を高めること。2.大学生に求められる態度と技能を理解すること。3.考え方に多様性があることや、非言語コミュニケーションを含むコミュニケーションの重要性を理解すること。4.自身が固定観念を持っていることを認識し、オープンマインドで考えることの重要性を理解すること。

授業の概要

第1ユニット＜態度の涵養＞第1～5講；第2ユニット＜技能の理解＞第6～9講；第3ユニット＜技能の習得＞第10～15講

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

国際社会に習慣的に関心を持ち、テレビのニューズやドキュメンタリーを見ることと、日本および海外に関する本を継続的に読むこと。

内　容

第1回　Orientation
第2回　What Is University; and What Is a Student?
第3回　Study & Academic Skills (1): Note-making
第4回　Creating an Open Mind
第5回　Knowing Words and the World
第6回　Undertsanding Nonverbal Communication
第7回　Study & Academic Skills (2): Research Skills
第8回　Study & Academic Skills (3): Making Handouts
第9回　Study & Academic Skills (4): Report Writing 1
第10回　Study & Academic Skills (5): Report Writing 2
第11回　Student Presentation & Feedback (1)
第12回　Student Presentation & Feedback (2)
第13回　Student Presentation & Feedback (3)
第14回　Student Presentation & Feedback (4)
第15回　Roundup and Evaluation

履修上の注意点

学生は事前に授業内容を把握し、読み物の課題をこなし、そのテーマについて調べながら自分の知識を増やしながら、考えることが大事です。授業中では、個人としての意見を持ち、遠慮せずその意見を人の前で述べたり、オープンな姿勢で他の人の意見を聞くことも重大です。

教科書

参考書

ことばの力学
著者:　白井　恭弘
出版社: 岩波新書
出版年: 2013　　ISBN:　4004314194

The Story of English
著者:　R. McCrum
出版社: Macmillan Language House
出版年: 1992　　ISBN:　9784895850247

ケースで学ぶ異文化コミュニケーション
著者:　久米　昭元
出版社: 有斐閣選書
出版年: 2007　　ISBN:　4641281084

a20101a114

おとなの教養

著者: 池上 彰

出版社: NHK出版新書

出版年: 2014　　ISBN: 9784140884317

新版大学生のためのレポート・論文術

著者: 小笠原喜康

出版社: 講談社現代新書

出版年: 2009　　ISBN: 4061496034

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ（国）＜＊E＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾌｧｾﾞｶｼｭ, ﾊﾞﾗｰｼﾞｭ	

テーマ

大学および専攻の学習に対する基礎的能力

授業の到達目標

1.英語を学ぶ、英語で学ぶことの意味と意義を理解し、学習意欲を高めること。2.大学生に求められる態度と技能を理解すること。3.考え方に多様性があることや、非言語コミュニケーションを含むコミュニケーションの重要性を理解すること。4.自身が固定観念を持っていることを認識し、オープンマインドで考えることの重要性を理解すること。

授業の概要

第1ユニット＜態度の涵養＞第1～5講；第2ユニット＜技能の理解＞第6～9講；第3ユニット＜技能の習得＞第10～15講

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

国際社会に習慣的に関心を持ち、テレビのニューズやドキュメンタリーを見ることと、日本および海外に関する本を継続的に読むこと。

内　容

第1回　Orientation
第2回　What Is University; and What Is a Student?
第3回　Study & Academic Skills (1): Note-making
第4回　Creating an Open Mind
第5回　Knowing Words and the World
第6回　Undertsanding Nonverbal Communication
第7回　Study & Academic Skills (2): Research Skills
第8回　Study & Academic Skills (3): Making Handouts
第9回　Study & Academic Skills (4): Report Writing 1
第10回　Study & Academic Skills (5): Report Writing 2
第11回　Student Presentation & Feedback (1)
第12回　Student Presentation & Feedback (2)
第13回　Student Presentation & Feedback (3)
第14回　Student Presentation & Feedback (4)
第15回　Roundup and Evaluation

履修上の注意点

学生は事前に授業内容を把握し、読み物の課題をこなし、そのテーマについて調べながら自分の知識を増やしながら、考えることが大事です。授業中では、個人としての意見を持ち、遠慮せずその意見を人の前で述べたり、オープンな姿勢で他の人の意見を聞くことも重大です。

教科書

参考書

ことばの力学
著者：　白井　恭弘
出版社：岩波新書
出版年：2013　　ISBN：4004314194

The Story of English
著者：　R. McCrum
出版社：Macmillan Language House
出版年：1992　　ISBN：9784895850247

ケースで学ぶ異文化コミュニケーション
著者：　久米　昭元
出版社：有斐閣選書
出版年：2007　　ISBN：4641281084

a20101a115

おとなの教養

著者: 池上 彰

出版社: NHK出版新書

出版年: 2014　　ISBN: 9784140884317

新版大学生のためのレポート・論文術

著者: 小笠原喜康

出版社: 講談社現代新書

出版年: 2009　　ISBN: 4061496034

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ（国）〈＊A〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐久間　浩司	

テーマ

世界を知るとグローバルな観点の育成

授業の到達目標

1. 専門コースを見据えた上で、英語を学ぶ、英語で学ぶことの意味と意義を理解し、学習意欲を高める。2. 研究入門ゼミⅠで学んだ態度と技能が実践できる。3. 考え方の多様性やコミュニケーションの重要性を考慮した上で、多様な人と議論したり、円滑な人間関係をつくることができる。4. オープンマインドかつ論理的に考えることができる。

授業の概要

第1ユニット〈国際事情を学ぶ〉第１～３講；第2ユニット〈5クラスの担当者がオムニバス形式で全ゼミを回って学科のそれぞれの専門領域を学ぶ〉第４～８講；第3ユニット〈学生の発表により専門領域を深める〉

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

国際社会に習慣的に関心を持ち、テレビのニューズやドキュメンタリーを見ることと、日本および海外に関する本を継続的に読むこと。

内　容

第1回　Orientation
第2回　Major Global Issues and How to Solve Them 1
第3回　Major Global Issues and How to Solve Them 2
第4回　Omnibus Rotation; Topic 1: Global Marketing
第5回　Omnibus Rotation; Topic 2: Global Communication
第6回　Omnibus Rotation; Topic 3: Global Economics
第7回　Omnibus Rotation; Topic 4: Global Tourism
第8回　Omnibus Rotation; Topic 5: To be announced
第9回　Omnibus Rotation; Topic 6: English Education
第10回　Presentation Preparation 1
第11回　Presentation Preparation 2
第12回　Student Presentations 1
第13回　Student Presentations 2
第14回　Student Presentations 3
第15回　Student Presentations 4

履修上の注意点

学生は事前に授業内容を把握し、読み物の課題をこなし、そのテーマについて調べながら自分の知識を増やしながら、考えることが大事です。授業中では、個人としての意見を持ち、遠慮せずその意見を人の前で述べたり、オープンな姿勢で他の人の意見を聞くことも重大です。

教科書

参考書

知らないと恥をかく世界の大問題7
著者：　池上　彰
出版社：角川SSC新書
出版年：2016　　ISBN：4040820637

外国人が選んだ日本百景
著者：　ステファン・シャウエッカー
出版社：講談社＋α 新書
出版年：2015　　ISBN：4062728249

日本の英語教育
著者：　山田　雄一郎
出版社：岩波新書
出版年：2005　　ISBN：4004309433

a20101a250

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ（国）〈＊B〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森　純一	

テーマ

世界を知るとグローバルな観点の育成

授業の到達目標

1. 専門コースを見据えた上で、英語を学ぶ、英語で学ぶことの意味と意義を理解し、学習意欲を高める。2. 研究入門ゼミⅠで学んだ態度と技能が実践できる。3. 考え方の多様性やコミュニケーションの重要性を考慮した上で、多様な人と議論したり、円滑な人間関係をつくることができる。4. オープンマインドかつ論理的に考えることができる。

授業の概要

第1ユニット〈国際事情を学ぶ〉第１～３講；第2ユニット〈5クラスの担当者がオムニバス形式で全ゼミを回って学科のそれぞれの専門領域を学ぶ〉第４～８講；第3ユニット〈学生の発表により専門領域を深める〉

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

国際社会に習慣的に関心を持ち、テレビのニューズやドキュメンタリーを見ることと、日本および海外に関する本を継続的に読むこと。

内　容

第1回　Orientation
第2回　Major Global Issues and How to Solve Them 1
第3回　Major Global Issues and How to Solve Them 2
第4回　Omnibus Rotation; Topic 1: Global Marketing
第5回　Omnibus Rotation; Topic 2: Global Communication
第6回　Omnibus Rotation; Topic 3: Global Economics
第7回　Omnibus Rotation; Topic 4: Global Tourism
第8回　Omnibus Rotation; Topic 5: To be announced
第9回　Omnibus Rotation; Topic 6: English Education
第10回　Presentation Preparation 1
第11回　Presentation Preparation 2
第12回　Student Presentations 1
第13回　Student Presentations 2
第14回　Student Presentations 3
第15回　Student Presentations 4

履修上の注意点

学生は事前に授業内容を把握し、読み物の課題をこなし、そのテーマについて調べながら自分の知識を増やしながら、考えることが大事です。授業中では、個人としての意見を持ち、遠慮せずその意見を人の前で述べたり、オープンな姿勢で他の人の意見を聞くことも重大です。

教科書

参考書

知らないと恥をかく世界の大問題7
著者：　池上　彰
出版社：角川SSC新書
出版年：2016　　ISBN：4040820637

外国人が選んだ日本百景
著者：　ステファン・シャウエッカー
出版社：講談社＋α 新書
出版年：2015　　ISBN：4062728249

日本の英語教育
著者：　山田　雄一郎
出版社：岩波新書
出版年：2005　　ISBN：4004309433

a20101a252

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ（国）〈＊C〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮崎　裕二	

テーマ

世界を知るとグローバルな観点の育成

授業の到達目標

1. 専門コースを見据えた上で、英語を学ぶ、英語で学ぶことの意味と意義を理解し、学習意欲を高める。2. 研究入門ゼミⅠで学んだ態度と技能が実践できる。3. 考え方の多様性やコミュニケーションの重要性を考慮した上で、多様な人と議論したり、円滑な人間関係をつくることができる。4. オープンマインドかつ論理的に考えることができる。

授業の概要

第1ユニット〈国際事情を学ぶ〉第１～３講；第2ユニット〈5クラスの担当者がオムニバス形式で全ゼミを回って学科のそれぞれの専門領域を学ぶ〉第４～８講；第3ユニット〈学生の発表により専門領域を深める〉

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

国際社会に習慣的に関心を持ち、テレビのニューズやドキュメンタリーを見ることと、日本および海外に関する本を継続的に読むこと。

内　容

第1回　Orientation
第2回　Major Global Issues and How to Solve Them 1
第3回　Major Global Issues and How to Solve Them 2
第4回　Omnibus Rotation; Topic 1: Global Marketing
第5回　Omnibus Rotation; Topic 2: Global Communication
第6回　Omnibus Rotation; Topic 3: Global Economics
第7回　Omnibus Rotation; Topic 4: Global Tourism
第8回　Omnibus Rotation; Topic 5: To be announced
第9回　Omnibus Rotation; Topic 6: English Education
第10回　Presentation Preparation 1
第11回　Presentation Preparation 2
第12回　Student Presentations 1
第13回　Student Presentations 2
第14回　Student Presentations 3
第15回　Student Presentations 4

履修上の注意点

学生は事前に授業内容を把握し、読み物の課題をこなし、そのテーマについて調べながら自分の知識を増やしながら、考えることが大事です。授業中では、個人としての意見を持ち、遠慮せずその意見を人の前で述べたり、オープンな姿勢で他の人の意見を聞くことも重大です。

教科書

参考書

知らないと恥をかく世界の大問題7
著者：　池上　彰
出版社：角川SSC新書
出版年：2016　　ISBN：4040820637

外国人が選んだ日本百景
著者：　ステファン・シャウエッカー
出版社：講談社＋α 新書
出版年：2015　　ISBN：4062728249

日本の英語教育
著者：　山田　雄一郎
出版社：岩波新書
出版年：2005　　ISBN：4004309433

a20101a253

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ（国）〈＊D〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　アンガス, ノーマン	

テーマ

世界を知るとグローバルな観点の育成

授業の到達目標

1. 専門コースを見据えた上で、英語を学ぶ、英語で学ぶことの意味と意義を理解し、学習意欲を高める。2. 研究入門ゼミⅠで学んだ態度と技能が実践できる。3. 考え方の多様性やコミュニケーションの重要性を考慮した上で、多様な人と議論したり、円滑な人間関係をつくることができる。4. オープンマインドかつ論理的に考えることができる。

授業の概要

第1ユニット〈国際事情を学ぶ〉第１～３講；第2ユニット〈5クラスの担当者がオムニバス形式で全ゼミを回って学科のそれぞれの専門領域を学ぶ〉第４～８講；第3ユニット〈学生の発表により専門領域を深める〉

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

国際社会に習慣的に関心を持ち、テレビのニューズやドキュメンタリーを見ることと、日本および海外に関する本を継続的に読むこと。

内　容

第1回　Orientation
第2回　Major Global Issues and How to Solve Them 1
第3回　Major Global Issues and How to Solve Them 2
第4回　Omnibus Rotation; Topic 1: Global Marketing
第5回　Omnibus Rotation; Topic 2: Global Communication
第6回　Omnibus Rotation; Topic 3: Global Economics
第7回　Omnibus Rotation; Topic 4: Global Tourism
第8回　Omnibus Rotation; Topic 5: To be announced
第9回　Omnibus Rotation; Topic 6: English Education
第10回　Presentation Preparation 1
第11回　Presentation Preparation 2
第12回　Student Presentations 1
第13回　Student Presentations 2
第14回　Student Presentations 3
第15回　Student Presentations 4

履修上の注意点

学生は事前に授業内容を把握し、読み物の課題をこなし、そのテーマについて調べながら自分の知識を増やしながら、考えることが大事です。授業中では、個人としての意見を持ち、遠慮せずその意見を人の前で述べたり、オープンな姿勢で他の人の意見を聞くことも重大です。

教科書

参考書

知らないと恥をかく世界の大問題7
著者:　池上　彰
出版社:　角川SSC新書
出版年:　2016　　ISBN:　4040820637

外国人が選んだ日本百景
著者:　ステファン・シャウエッカー
出版社:　講談社＋α 新書
出版年:　2015　　ISBN:　4062728249

日本の英語教育
著者:　山田　雄一郎
出版社:　岩波新書
出版年:　2005　　ISBN:　4004309433

a20101a254

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ（国）＜＊E＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾌｧｾﾞｶｼｭ, ﾊﾞﾗｰｼﾞｭ	

テーマ

世界を知るとグローバルな観点の育成

授業の到達目標

1. 専門コースを見据えた上で、英語を学ぶ、英語で学ぶことの意味と意義を理解し、学習意欲を高める。2. 研究入門ゼミⅠで学んだ態度と技能が実践できる。3. 考え方の多様性やコミュニケーションの重要性を考慮した上で、多様な人と議論したり、円滑な人間関係をつくることができる。4. オープンマインドかつ論理的に考えることができる。

授業の概要

第1ユニット〈国際事情を学ぶ〉第１～３講；第2ユニット〈5クラスの担当者がオムニバス形式で全ゼミを回って学科のそれぞれの専門領域を学ぶ〉第４～８講；第3ユニット〈学生の発表により専門領域を深める〉

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

国際社会に習慣的に関心を持ち、テレビのニューズやドキュメンタリーを見ることと、日本および海外に関する本を継続的に読むこと。

内　容

第1回　Orientation
第2回　Major Global Issues and How to Solve Them 1
第3回　Major Global Issues and How to Solve Them 2
第4回　Omnibus Rotation; Topic 1: Global Marketing
第5回　Omnibus Rotation; Topic 2: Global Communication
第6回　Omnibus Rotation; Topic 3: Global Economics
第7回　Omnibus Rotation; Topic 4: Global Tourism
第8回　Omnibus Rotation; Topic 5: To be announced
第9回　Omnibus Rotation; Topic 6: English Education
第10回　Presentation Preparation 1
第11回　Presentation Preparation 2
第12回　Student Presentations 1
第13回　Student Presentations 2
第14回　Student Presentations 3
第15回　Student Presentations 4

履修上の注意点

学生は事前に授業内容を把握し、読み物の課題をこなし、そのテーマについて調べながら自分の知識を増やしながら、考えることが大事です。授業中では、個人としての意見を持ち、遠慮せずその意見を人の前で述べたり、オープンな姿勢で他の人の意見を聞くことも重大です。

教科書

参考書

知らないと恥をかく世界の大問題7
著者：　池上　彰
出版社：角川SSC新書
出版年：2016　　ISBN：4040820637

外国人が選んだ日本百景
著者：　ステファン・シャウエッカー
出版社：講談社＋α 新書
出版年：2015　　ISBN：4062728249

日本の英語教育
著者：　山田　雄一郎
出版社：岩波新書
出版年：2005　　ISBN：4004309433

a20101a255

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　Career English Ⅰ <a>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　日高　周平	

テーマ

ビジネス実務に必要な英語力の基礎固め。

授業の到達目標

TOEIC スコア500点以上の到達を目指す。

授業の概要

IEPの一環として、少人数で実施する。ListeningやReadingの基本的なスキル向上や言語知識の定着のために、TOEICの内容に準拠した問題演習、解説(必要に応じて高校で既習の中級レベルの語彙や文法の復習を含む)とともに問題文の口頭練習活動(音読・シャドーイング)などを行う。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

予習:①語彙学習(20分程度)
②Useful Expression, Grammarの解説部分を読んでおく。
フィードバックは授業内で行う。

復習:①Listening 問題を繰り返し聞く、シャドーイングをする。(30分程度)
②Reading 問題の音読、語彙の復習をする。(30分程度)
フィードバックとして、ユニットごとの復習テストを行う。まちがいの多いものについては再度授業内でフィードバックする。

内　容

第1回　TOEIC試験の概要と学習のためのオリエンテーション
第2回　写真描写問題(一人物)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(品詞)
第3回　写真描写問題(複数人物)の発展演習、品詞の復習、易しい広告文の読解
第4回　応答問題(WhereとWhen)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(代名詞)
第5回　応答問題(WhereとWhen)の発展演習、代名詞の復習、広告文の読解
第6回　会話問題(一般的な会話)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(比較)
第7回　会話問題(一般的な会話)の発展演習、比較の復習、一般的なメールの読解
第8回　総合問題演習を通した復習
第9回　写真描写問題(事物、情景)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(数詞)
第10回　写真描写問題(事物、情景)の発展練習、数詞の復習、メールのやりとりの読解
第11回　応答問題(WhatとWhy)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(時制)
第12回　応答問題(WhatとWhy)の発展演習、時制の復習、易しいお知らせ文の読解
第13回　会話問題(ビジネスシーン基礎)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(態)
第14回　会話問題(ビジネスシーン基礎)の発展演習、態の復習、お知らせ文の読解
第15回　総合問題演習を通した復習

履修上の注意点

単位認定には10回以上の出席が必要です。毎回問題を解いてスコアを記録して行くため、欠席回数が多いと成績評価も低くなります。

問題を解くことはその時点での英語力を測ることにすぎません。○×をつけるだけではスコアアップには繋がりません。丁寧に復習することで、問題を解くことで得たリスニングのスキル、文法的な知識、語彙を定着させていくことが最も重要です。授業内では主に制限された時間で問題を解くこと及び解答のポイントを確認することを行います。特に自分ができなかった問題についての復習は授業後の各自の課題となります。復習することがスコアアップのために最も有効な手段だと考えてください。

教科書

Step-Up Skills for the TOEIC Listening and Reading Test Level 2
著者:　北尾　泰幸　他
出版社:　朝日出版社
出版年:　2017　　ISBN:　9784255155951

公式TOEIC Listening & Reading 問題集1
著者:　Educational Testing Service
出版社:　国際ビジネスコミュニケーション協会
出版年:　2016　　ISBN:　9784906033492

参考書

a20101a410

スコア650文法編

著者: 早川幸治

出版社: 桐原書店

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 0 ） 小テスト （ 30 ）

授業中課題 （ 30 ） 授業中発表等 （ 0 ）

参加度 （ 20 ）

・上記に加え、学期末に実施されるTOEIC-IPテスト結果に基づく実力点：20点

・指定するe-learning教材の8割以上を完了していない場合、単位が認定されませんので、注意してください。

2018 Syllabus

科 目 名　Career English Ⅰ <b>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　弥永　啓子	

テーマ

ビジネス実務に必要な英語力の基礎固め。

授業の到達目標

TOEIC スコア500点以上の到達を目指す。

授業の概要

IEPの一環として、少人数で実施する。ListeningやReadingの基本的なスキル向上や言語知識の定着のために、TOEICの内容に準拠した問題演習、解説(必要に応じて高校で既習の中級レベルの語彙や文法の復習を含む)とともに問題文の口頭練習活動(音読・シャドーイング)などを行う。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

予習:毎回語彙および総合的な予習課題を課します。オンラインで提出された予習課題の状況に基づき講義を進めます。
復習:毎回復習テストを実施します。
フィードバック:弱点と考えられる項目については各回の授業および復習回等で取り上げてゆきます。

内　容

第1回　TOEIC試験の概要と学習のためのオリエンテーション
第2回　写真描写問題(一人物)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(品詞)
第3回　写真描写問題(複数人物)の発展演習、品詞の復習、易しい広告文の読解
第4回　応答問題(WhereとWhen)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(代名詞)
第5回　応答問題(WhereとWhen)の発展演習、代名詞の復習、広告文の読解
第6回　会話問題(一般的な会話)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(比較)
第7回　会話問題(一般的な会話)の発展演習、比較の復習、一般的なメールの読解
第8回　総合問題演習を通した復習
第9回　写真描写問題(事物、情景)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(数詞)
第10回　写真描写問題(事物、情景)の発展練習、数詞の復習、メールのやりとりの読解
第11回　応答問題(WhatとWhy)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(時制)
第12回　応答問題(WhatとWhy)の発展演習、時制の復習、易しいお知らせ文の読解
第13回　会話問題(ビジネスシーン基礎)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(態)
第14回　会話問題(ビジネスシーン基礎)の発展演習、態の復習、お知らせ文の読解
第15回　総合問題演習を通した復習

履修上の注意点

・全ての宿題を期限までに完了すること。
・全ての小テストにおいて80%以上で合格すること。授業内で不合格であったものについては期限までに再試験で合格すること。
以上が達成されない場合には単位の認定はしない。

教科書

公式TOEIC Listening & Reading 問題集1
著者:
出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会
出版年: 2016　　ISBN: 9784906033492

The High Road to the TOEIC Listening and Reading Test
著者: Koji Hayakawa 他
出版社: 金星堂
出版年: 2017　　ISBN: 9784764740457

参考書

スコア650文法編
著者: 早川幸治
出版社: 桐原書店
出版年:　　ISBN:

成績評価

a20101a412

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 60 ）

授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

・上記に加え、学期末に実施されるTOEIC-IPテスト結果に基づく実力点：20点
・指定するe-learning教材の8割以上を完了していない場合、単位が認定されませんので、注意してください。

2018 Syllabus

科 目 名　Career English Ⅰ <c>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　金子　秋子	

テーマ

ビジネス実務に必要な英語力の基礎固め。

授業の到達目標

TOEIC スコア500点以上の到達を目指す。

授業の概要

IEPの一環として、少人数で実施する。ListeningやReadingの基本的なスキル向上や言語知識の定着のために、TOEICの内容に準拠した問題演習、解説(必要に応じて高校で既習の中級レベルの語彙や文法の復習を含む)とともに問題文の口頭練習活動(音読・シャドーイング)などを行う。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

毎回、自宅学習の成果をはかるための単語テストを行います。
その結果は講師が配布する受講生カルテで行います。

内　容

第1回　TOEIC試験の概要と学習のためのオリエンテーション
第2回　写真描写問題(一人物)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(品詞)
第3回　写真描写問題(複数人物)の発展演習、品詞の復習、易しい広告文の読解
第4回　応答問題(WhereとWhen)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(代名詞)
第5回　応答問題(WhereとWhen)の発展演習、代名詞の復習、広告文の読解
第6回　会話問題(一般的な会話)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(比較)
第7回　会話問題(一般的な会話)の発展演習、比較の復習、一般的なメールの読解
第8回　総合問題演習を通した復習
第9回　写真描写問題(事物、情景)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(数詞)
第10回 写真描写問題(事物、情景)の発展練習、数詞の復習、メールのやりとりの読解
第11回 応答問題(WhatとWhy)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(時制)
第12回 応答問題(WhatとWhy)の発展演習、時制の復習、易しいお知らせ文の読解
第13回 会話問題(ビジネスシーン基礎)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(態)
第14回 会話問題(ビジネスシーン基礎)の発展演習、態の復習、お知らせ文の読解
第15回 総合問題演習を通した復習

履修上の注意点

講師の質問に対して積極的に答えるアクティブラーニング形式なので積極的に参加すること。

教科書

公式TOEIC Listening & Reading 問題集1
著者:
出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会
出版年: 2016　　ISBN: 9784906033492

The High Road to the TOEIC Listening and Reading Test
著者: Koji Hayakawa 他
出版社: 金星堂
出版年: 2017　　ISBN: 9784764740457

参考書

スコア650文法編
著者: 早川幸治
出版社: 桐原書店
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート (25)　　小テスト (25)
授業中課題 ( )　　授業中発表等 (30)
参加度 ( )

a20101a413

・上記に加え、学期末に実施されるTOEIC-IPテスト結果に基づく実力点：20点
・指定するe-learning教材の8割以上を完了していない場合、単位が認定されませんので、注意してください。

2018 Syllabus

科 目 名　Career English Ⅰ <d>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　池原 曜子	

テーマ

ビジネス実務に必要な英語力の基礎固め。

授業の到達目標

TOEIC スコア500点以上の到達を目指す。

授業の概要

IEPの一環として、少人数で実施する。ListeningやReadingの基本的なスキル向上や言語知識の定着のために、TOEICの内容に準拠した問題演習、解説(必要に応じて高校で既習の中級レベルの語彙や文法の復習を含む)とともに問題文の口頭練習活動(音読・シャドーイング)などを行う。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

初回配布の単語プリントの指定範囲を、各授業前までに覚えてくること。指定範囲の語句は、毎回小テストを行い理解度の確認をする。

内　容

第1回　TOEIC試験の概要と学習のためのオリエンテーション
第2回　写真描写問題(一人物)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(品詞)
第3回　写真描写問題(複数人物)の発展演習、品詞の復習、易しい広告文の読解
第4回　応答問題(WhereとWhen)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(代名詞)
第5回　応答問題(WhereとWhen)の発展演習、代名詞の復習、広告文の読解
第6回　会話問題(一般的な会話)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(比較)
第7回　会話問題(一般的な会話)の発展演習、比較の復習、一般的なメールの読解
第8回　総合問題演習を通した復習
第9回　写真描写問題(事物、情景)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(数詞)
第10回 写真描写問題(事物、情景)の発展練習、数詞の復習、メールのやりとりの読解
第11回 応答問題(WhatとWhy)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(時制)
第12回 応答問題(WhatとWhy)の発展演習、時制の復習、易しいお知らせ文の読解
第13回 会話問題(ビジネスシーン基礎)の演習・解説・口頭練習、文法問題演習と解説(態)
第14回 会話問題(ビジネスシーン基礎)の発展演習、態の復習、お知らせ文の読解
第15回 総合問題演習を通した復習

履修上の注意点

2/3以上の出席がない場合は、試験を受けることを認めない。また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

教科書

公式TOEIC Listening & Reading 問題集1
著者:
出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会
出版年: 2016　　ISBN: 9784906033492

参考書

スコア650文法編
著者: 早川幸治
出版社: 桐原書店
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート (25)　　小テスト (25)
授業中課題 ( )　　授業中発表等 ( )
参加度 (30)
・上記に加え、学期末に実施されるTOEIC-IPテスト結果に基づく実力点:20点
・指定するe-learning教材の8割以上を完了していない場合、単位が認定されませんので、注意してください。

2018 Syllabus

科 目 名　Career English Ⅱ <a>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　日高　周平	

テーマ

エントリーレベルのビジネス実務の即戦力になる英語力習得。

授業の到達目標

TOEICスコア600点以上の到達を目指す

授業の概要

IEPの一環として、少人数で実施する。場面・テーマ別のTOEIC準拠総合演習を通して、各種ビジネスシーンに関連する語彙力を強化し、ビジネス文書の定式パターンや典型的なアナウンスのパターンなどを学習する。同時に高校文法でも難易度の高い文法項目の復習やアナウンスのシャドーイングなどの口頭練習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：①語彙学習（20分から40分程度）
②Useful Expression, Grammarの解説部分を読んでおく。
フィードバックは授業内で行う。

復習：①Listening 問題を繰り返し聞く、スクリプトを見ながら同時シャドーイングをする。（30分程度）
②Reading 問題の音読、語彙の復習をする。（30分から40分程度）
フィードバックとして、ユニットごとの復習テストを行う。まちがいの多いものについては再度授業内でフィードバックする。

内　容

第1回　学習のためのオリエンテーション
第2回　娯楽に関連する文書と会話、文法問題演習と解説（主語と動詞の一致）
第3回　テクノロジーとオフィス用品に関連する文書とアナウンス、主語と動詞の一致の復習
第4回　交通機関に関連する文書と会話、文法問題演習と解説（不定詞と動名詞）
第5回　住宅に関連する文書とアナウンス、不定詞と動名詞の復習
第6回　外食に関連する文書と会話、文法問題演習と解説（接続詞）
第7回　予算、給与に関連する文書とアナウンス、接続詞の復習
第8回　総合問題演習を通した復習
第9回　病院に関連する文書と会話、文法問題演習と解説（前置詞）
第10回　教育に関連する文書とアナウンス、前置詞の復習
第11回　ホテルに関連する文書と会話、文法問題演習と解説（関係代名詞）
第12回　購入に関連する文書と会話、関係代名詞の復習
第13回　人事・研修に関する文書とアナウンス、文法問題演習と解説（分詞）
第14回　雇用に関連する文書とアナウンス、分詞の復習
第15回　総合問題演習を通した復習

履修上の注意点

単位認定には10回以上の出席が必要です。毎回問題を解いてスコアを記録して行くため、欠席回数が多いと成績評価も低くなります。

問題を解くことはその時点での英語力を測ることにすぎません。○×をつけるだけではスコアアップには繋がりません。丁寧に復習することで、問題を解くことで得たリスニングのスキル、文法的な知識、語彙を定着させていくことが最も重要です。授業内では主に制限された時間で問題を解くこと及び解答のポイントを確認することを行います。特に自分ができなかった問題についての復習は授業後の各自の課題となります。復習することがスコアアップのために最も有効な手段だと考えてください。

教科書

公式TOEIC Listening & Reading 問題集1（前期から継続使用）
著者：　Educational Testing Service
出版社：国際ビジネスコミュニケーション協会
出版年：2016　　ISBN：　9784906033492

Step-Up Skills for the TOEIC Listening and Reading Test　Level 2（前期から継続使用）
著者：　北尾　泰幸
出版社：朝日出版社
出版年：2017　　ISBN：　9784255155951

参考書

a20101a650

スコア650文法編

著者:　早川幸治

出版社: 桐原書店

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 30 ）

授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 0 ）

参加度（ 20 ）

・上記に加え、学期末に実施されるTOEIC-IPテスト結果に基づく実力点:20点

・指定するe-learning教材の8割以上を完了していない場合、単位が認定されませんので、注意してください。

2018 Syllabus

科 目 名　Career English Ⅱ <b>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　弥永　啓子	

テーマ

エントリーレベルのビジネス実務の即戦力になる英語力習得。

授業の到達目標

TOEICスコア600点以上の到達を目指す

授業の概要

IEPの一環として、少人数で実施する。場面・テーマ別のTOEIC準拠総合演習を通して、各種ビジネスシーンに関連する語彙力を強化し、ビジネス文書の定式パターンや典型的なアナウンスのパターンなどを学習する。同時に高校文法でも難易度の高い文法項目の復習やアナウンスのシャドーイングなどの口頭練習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：毎回語彙および総合的な予習課題を課します。オンラインで提出された予習課題の状況に基づき講義を進めます。
復習：毎回復習テストを実施します。
フィードバック：弱点と考えられる項目については各回の授業および復習回等で取り上げてゆきます。

内　容

第1回　学習のためのオリエンテーション
第2回　娯楽に関連する文書と会話、文法問題演習と解説（主語と動詞の一致）
第3回　テクノロジーとオフィス用品に関連する文書とアナウンス、主語と動詞の一致の復習
第4回　交通機関に関連する文書と会話、文法問題演習と解説（不定詞と動名詞）
第5回　住宅に関連する文書とアナウンス、不定詞と動名詞の復習
第6回　外食に関連する文書と会話、文法問題演習と解説（接続詞）
第7回　予算、給与に関連する文書とアナウンス、接続詞の復習
第8回　総合問題演習を通した復習
第9回　病院に関連する文書と会話、文法問題演習と解説（前置詞）
第10回　教育に関連する文書とアナウンス、前置詞の復習
第11回　ホテルに関連する文書と会話、文法問題演習と解説（関係代名詞）
第12回　購入に関連する文書と会話、関係代名詞の復習
第13回　人事・研修に関する文書とアナウンス、文法問題演習と解説（分詞）
第14回　雇用に関連する文書とアナウンス、分詞の復習
第15回　総合問題演習を通した復習

履修上の注意点

・全ての宿題を期限までに完了すること。
・全ての小テストにおいて80％以上で合格すること。授業内で不合格であったものについては期限までに再試験で合格すること。
以上が達成されない場合には単位の認定はしない。

教科書

公式TOEIC Listening & Reading 問題集1（前期から継続使用）
著者：
出版社：国際ビジネスコミュニケーション協会
出版年：2016　　ISBN：9784906033492

The High Road to the TOEIC Listening and Reading Test（前期から継続使用）
著者：Koji Hayakawa 他
出版社：金星堂
出版年：2017　　ISBN：9784764740457

参考書

スコア650文法編
著者：早川幸治
出版社：桐原書店
出版年：　　ISBN：

成績評価

a20101a652

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 60 ）

授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

・上記に加え、学期末に実施されるTOEIC-IPテスト結果に基づく実力点：20点
・指定するe-learning教材の8割以上を完了していない場合、単位が認定されませんので、注意してください。

2018 Syllabus

科 目 名　Career English Ⅱ <c>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　金子　秋子	

テーマ

エントリーレベルのビジネス実務の即戦力になる英語力習得。

授業の到達目標

TOEICスコア600点以上の到達を目指す

授業の概要

IEPの一環として、少人数で実施する。場面・テーマ別のTOEIC準拠総合演習を通して、各種ビジネスシーンに関連する語彙力を強化し、ビジネス文書の定式パターンや典型的なアナウンスのパターンなどを学習する。同時に高校文法でも難易度の高い文法項目の復習やアナウンスのシャドーイングなどの口頭練習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、自宅学習の成果をはかるための単語テストを行います。
その結果は講師が配布する受講生カルテで行います。

内　容

第1回　学習のためのオリエンテーション
第2回　娯楽に関連する文書と会話、文法問題演習と解説（主語と動詞の一致）
第3回　テクノロジーとオフィス用品に関連する文書とアナウンス、主語と動詞の一致の復習
第4回　交通機関に関連する文書と会話、文法問題演習と解説（不定詞と動名詞）
第5回　住宅に関連する文書とアナウンス、不定詞と動名詞の復習
第6回　外食に関連する文書と会話、文法問題演習と解説（接続詞）
第7回　予算、給与に関連する文書とアナウンス、接続詞の復習
第8回　総合問題演習を通した復習
第9回　病院に関連する文書と会話、文法問題演習と解説（前置詞）
第10回　教育に関連する文書とアナウンス、前置詞の復習
第11回　ホテルに関連する文書と会話、文法問題演習と解説（関係代名詞）
第12回　購入に関連する文書と会話、関係代名詞の復習
第13回　人事・研修に関する文書とアナウンス、文法問題演習と解説（分詞）
第14回　雇用に関連する文書とアナウンス、分詞の復習
第15回　総合問題演習を通した復習

履修上の注意点

講師の質問に対して積極的に答えるアクティブラーニング形式なので積極的に参加すること。

教科書

公式TOEIC Listening & Reading 問題集1（前期から継続使用）
著者:
出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会
出版年: 2016　　ISBN: 9784906033492

The High Road to the TOEIC Listening and Reading Test（前期から継続使用）
著者: Koji Hayakawa 他
出版社: 金星堂
出版年: 2017　　ISBN: 9784764740457

参考書

スコア650文法編
著者: 早川幸治
出版社: 桐原書店
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 25 ）	小テスト（ 25 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ ）	

a20101a653

・上記に加え、学期末に実施されるTOEIC-IPテスト結果に基づく実力点：20点
・指定するe-learning教材の8割以上を完了していない場合、単位が認定されませんので、注意してください。

2018 Syllabus

科 目 名　Career English Ⅱ <d>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　池原 曜子	

テーマ

エントリーレベルのビジネス実務の即戦力になる英語力習得。

授業の到達目標

TOEICスコア600点以上の到達を目指す

授業の概要

IEPの一環として、少人数で実施する。場面・テーマ別のTOEIC準拠総合演習を通して、各種ビジネスシーンに関連する語彙力を強化し、ビジネス文書の定式パターンや典型的なアナウンスのパターンなどを学習する。同時に高校文法でも難易度の高い文法項目の復習やアナウンスのシャドーイングなどの口頭練習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

初回配布の単語プリントの指定範囲を、各授業前までに覚えてくること。指定範囲の語句は、毎回小テストを行い理解度の確認をする。

内　容

第1回　学習のためのオリエンテーション
第2回　娯楽に関連する文書と会話、文法問題演習と解説（主語と動詞の一致）
第3回　テクノロジーとオフィス用品に関連する文書とアナウンス、主語と動詞の一致の復習
第4回　交通機関に関連する文書と会話、文法問題演習と解説（不定詞と動名詞）
第5回　住宅に関連する文書とアナウンス、不定詞と動名詞の復習
第6回　外食に関連する文書と会話、文法問題演習と解説（接続詞）
第7回　予算、給与に関連する文書とアナウンス、接続詞の復習
第8回　総合問題演習を通した復習
第9回　病院に関連する文書と会話、文法問題演習と解説（前置詞）
第10回 教育に関連する文書とアナウンス、前置詞の復習
第11回 ホテルに関連する文書と会話、文法問題演習と解説（関係代名詞）
第12回 購入に関連する文書と会話、関係代名詞の復習
第13回 人事・研修に関する文書とアナウンス、文法問題演習と解説（分詞）
第14回 雇用に関連する文書とアナウンス、分詞の復習
第15回 総合問題演習を通した復習

履修上の注意点

2/3以上の出席がない場合は、試験を受けることを認めない。また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

教科書

公式TOEIC Listening & Reading 問題集1（前期から継続使用）
著者:
出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会
出版年: 2016　　ISBN: 9784906033492

参考書

スコア650文法編
著者: 早川幸治
出版社: 桐原書店
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 25 ）　　小テスト（ 25 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
・上記に加え、学期末に実施されるTOEIC-IPテスト結果に基づく実力点：20点
・指定するe-learning教材の8割以上を完了していない場合、単位が認定されませんので、注意してください。

2018 Syllabus

科 目 名　**経済学基礎**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐久間　浩司	

テーマ

マクロ経済学という、一国の経済がどのような仕組みで動くのかの基本的概念を学ぶ。

授業の到達目標

マクロ経済学の基礎概念を習得し、日本経済新聞などの経済専門紙や雑誌を、背後の経済メカニズムを理解しながら読めるようにする。

授業の概要

板書による講義を中心に進める。途中で学生に質問をするが、どんなにわからなくても、わからないなりに考えて答えること。講義テーマとは別に、新聞切り抜きなどを使って時事問題の解説をします。就活などでの時事問題知識の向上に役立ててください。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎日、新聞の政治・経済・国際面を読んできてください。授業後は、必ず講義中に習得したキーワードの単語帳を作成すること。形式や長さは問わないが、時々提出させることもあります。

内　容

第1回　イントロダクション：講義の進め方を説明し、これから学ぶ経済学とは何かの大枠を解説する。
第2回　第1章　需要・供給・弾力性：需要、供給
第3回　第1章　需要・供給・弾力性：需要供給の均衡、弾力性
第4回　第2章　GDP・インフレ・失業：GDPの計り方、生産・分配・支出アプローチ
第5回　第2章　GDP・インフレ・失業：GDP関連のいくつかの重要概念、インフレ、失業
第6回　第3章　総需要と総供給：総需要とは
第7回　第3章　総需要と総供給：総供給とは
第8回　第3章　総需要と総供給：総需要カーブと総供給カーブの交わり
第9回　第4章　経済成長と雇用の関係−古典派とケインズ派の考え方：古典派の考え方
第10回　第4章　経済成長と雇用の関係−古典派とケインズ派の考え方：ケインズ派の考え方
第11回　第4章　経済成長と雇用の関係−古典派とケインズ派の考え方：総需要・総供給モデルとケインズ派均衡モデルの関係
第12回　第5章　貨幣というもの・銀行の役割：お金の機能、お金の需要、お金の供給、商業銀行の役割
第13回　第5章　貨幣というもの・銀行の役割：中央銀行の役割
第14回　第6章　財政政策と金融政策
第15回　理解度の確認と包括的なまとめ

履修上の注意点

質問や議論など、積極的な講義への参加を歓迎します。わからないところは、研究室に質問に来てもらって結構です。遅刻、早退、欠席だけを理由に単位取得不可とはしませんが、大人としてのマナーを守ってください。また講義不参加のための理解不足は自己責任です。

教科書

参考書

国際金融の世界
著者：　佐久間浩司
出版社：日経文庫
出版年：2015　　ISBN：　9784532113452

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語圏文学A**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　アンガス, ノーマン	

テーマ

体験型のイギリス文学

授業の到達目標

さまざまの時代や形態の文学作品に触れることにより、その時代の社会、問題、文化（地域文化を含む）、生活の知識を高めることにより、複雑な国家であるイギリス全体に対する正確な認識や感覚を身に着けることをめざす。講義と参加型の学びにより、受講生の知識のみならず、発音、購読力、文学作品の鑑賞力の向上を更なる目標とする。

授業の概要

第1回、2回の英文学の入門となる基礎知識の講義とその練習に続いて、中世から現代まで亘る作品を幅広く取り上げ、それぞれの作品やジャンルについて学ぶ。その後、作品を音読したり、歌ったり、文学的および言語的な分析を行ったり、ときには作品に取り上げている問題についてディスカッションを行う。受講生の英語の4技能を向上させる「参加型」の学びを通して、英文学を「体験できる」授業となっている。この授業は英語で行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　英文学を読むための古代および中世英語や文語体の紹介とその練習
第2回　英詩を鑑賞するための基礎知識：「律」、「韻」、「連」や「節」などについての作詩学入門
第3回　チョーサーの『カンタベリー物語』を通す中世イギリスの社会と職業
第4回　シェークスピア作「ソネット97」の作詩学分析と詩の鑑賞や朗読
第5回　シェークスピア作「マクベス」をめぐるイングランドとスコットランドの複雑な王室事情とモノローグの音読
第6回　ミルトンの「失楽園」とその背景にある宗教派閥の問題とディスカッション
第7回　方言文学に触れる—ロバートバーンズの「蛍の光」の原作を歌い、標準英語に訳す
第8回　18世紀の社会を批判する風刺作家ジョナサンスイフトと『ガリバー旅行記』
第9回　啓蒙時代の散文を読む—ジェームズボズウェルの『ジョンソンの伝記』
第10回　産業革命が生んだイギリスの格差社会—チャールズディケンズ作『オリバー』
第11回　同性愛者で反戦詩人オーデンの亡命と文学活動—「すべての時計を止めよう」を読む
第12回　シェイマスヒーニーの詩「罰」と「連合法」から学ぶ古きアイルランド問題やディスカッション
第13回　現代人間の問題を考える—サミュエルベケット作の現代劇『行ったり来たり』を上演する
第14回　拡大する現在イギリスの「自治権」—エドウィンモーガンの「投票後」を中心に独立と関連する作品を読む
第15回　学生発表と評価

履修上の注意点

教科書

毎回プリントを配布する。パワーポイントを提供する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

イギリス文学史入門
著者:　川崎寿彦著
出版社:　研究社出版
出版年:　　ISBN:

イギリス小説入門
著者:　川口橋一著
出版社:　研究社出版
出版年:　　ISBN:

英詩鑑賞入門
著者:　新井明著
出版社:　研究社出版
出版年:　　ISBN:

a20101d110

The Penguin Guide to English Literature

著者： ed. Ronald Carter and John Mcrae

出版社： Penguin

出版年： ISBN：

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語圏文化論A**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　アンガス, ノーマン	

テーマ

イギリス文化の概論

授業の到達目標

さまざまな時代とさまざまな側面からイギリスという複雑な国家に関する基礎知識（地理、歴史、政治、教育、国民の特徴、日常生活や風俗習慣、国が抱えている問題など）についての理解を深めることを目指す。これにより、受講生は異文化理解や多文化コミュニケーション能力を向上させることをめざす。

授業の概要

イギリスの過去と現在の正確な情報を幅広く得るために、テーマごとに講義で解説をする。また、イギリスのさまざまな側面を幅広く考察することによって、イギリスが世界に与えた影響と他地域との関わりについても考える。クラスでは、PBL学習、学生によるグループプレゼンテーションも取り入れて、学生が海外実習先の地域に対して関心を持つ手助けを行う。授業は英語で行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　イギリスの地名と地理 — 日本との比較
第2回　イギリスの歴史、その1 — 古代から中世
第3回　イギリスの歴史、その2 — ルネサンスから現代
第4回　国家と王室との関係 — 王室の人気と危機
第5回　イギリスとEUとの関係 — Brexit:イギリスはEUから脱出するのか
第6回　国民の食生活
第7回　お祭り
第8回　古きアイルランド問題 — テロリズムについて考える
第9回　教育制度の全体と大学生活 — 日本との比較
第10回　スコットランド：その独自な文化と独立運動
第11回　ウェールズ：言語の復活と経済発展
第12回　イギリスの福祉制度 — 北欧との差
第13回　多民族・多文化社会とそれに伴うさまざまな問題点
第14回　ロンドン — オリンピック、劇場、観光、プレミアリーグ、美術館と博物館
第15回　学生のPBLクループプレゼンテーション

履修上の注意点

教科書

参考書

In Britain
著者：　M. Vaughan-Rees et. al. Macmillan
出版社：　LanguageHouse
出版年：　　ISBN：

An Illustrated History of Britain
著者：　D. McDowall
出版社：　Longman
出版年：　　ISBN：

The Oxford Illustrated History of Ireland
著者：　ed. R. F. Foster
出版社：　OUP
出版年：　　ISBN：

a20101d210

A History of Scotland
著者: J. D. Mackie
出版社: Pelican
出版年: ISBN:

A History of Wales
著者: J. Davies
出版社: Penguin
出版年: ISBN:

British Society Since 1945
著者: A. Marwick
出版社: Penguin
出版年: ISBN:

現代のイギリスの基礎知識
著者: 小野 修
出版社: 明石書店
出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**英語学A**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　北林　利治	

テーマ

英語という言語について、歴史的、構造的、社会的な観点からその特徴を分析する。講義では、英語学の分野全般を扱い、英語学の基礎的な知識を獲得し、英語学の用語にも慣れ親しむことができるようにする。

授業の到達目標

①英語学全般の分野において基本的知識を身につける、②英語学の観点から英語という言語の特徴を理解する。

授業の概要

国際的なコミュニケーションの手段として広く用いられ、地球語ともよばれる英語とはどんな言語かという問題を、英語学のさまざまな観点から考察する。具体的には、英語発音の仕組み、語・文の構造、語・文の意味、英語語用論などを扱う。また、英語の歴史を振り返りながら、社会的・地理的変種における発音・語彙の違いなども講義する。講義ではわれわれが外国語として英語を学んでいるという観点から、第二言語習得についても触れる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　導入、英語学とは、地球語としての英語の実態
第2回　英語の歴史（古英語から中英語へ）
第3回　英語の歴史（中英語から近代英語へ）
第4回　アメリカ英語とその他の英語の変種
第5回　地球語としての英語の広がり、英語の将来
第6回　英語の音声・発音（1）（英語の母音、子音、音節）
第7回　英語の音声・発音（2）（強勢、リズム、イントネーション、音変化）
第8回　英語形態論（英語の語彙、単語の構造、造語法）
第9回　英語統語論（英語の文法の特徴、その仕組み）
第10回　英語統語論（代表的な文法理論と分析方法）
第11回　英語意味論（単語の意味、文の意味）
第12回　英語語用論（直示、前提、発話行為、会話の含意）
第13回　英語の社会的方言（階級方言、黒人英語、英語と性差、英語の丁寧表現）
第14回　英語の習得（第2言語習得、外国語としての英語）
第15回　まとめと総括

履修上の注意点

教科書

プリントを配布します
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

現代英語学へのアプローチ
著者:　山内信幸・北林利治
出版社:　英宝社
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 50% ）	小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ 30% ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**多文化コミュニケーションA**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　北林　利治	

テーマ

日英語の文化やコミュニケーションの相違点に焦点を当てながら、異文化を理解するための基礎的な知識を修得しながら理解を深めていく。

授業の到達目標

英語圏の日常生活やマナーを含めた文化を学びながら、異文化コミュニケーションのさまざまな側面への理解を深めることができるようになる、②異文化コミュニケーションの分析で用いられる用語に慣れ親しみ、日英を中心とした文化やコミュニケーションの諸側面の分析ができるようになる。

授業の概要

「異文化コミュニケーション」という学問についての基礎知識を紹介し、とりわけ、日本語によるコミュニケーションと英語によるコミュニケーションとの比較を通して、それぞれのコミュニケーション方法やその背後にある日英の文化の特徴を学ぶ。非言語を含めたコミュニケーションスタイル、その背景にある文化、すなわち、社会的ルール、ものの考え方、文化的価値観、などをテーマにし、各週トピックをピックアップし、講義とディスカッションを行う。ステレオタイプ的な異文化の捉え方に陥ることなく、より客観的に物事を判断できるようにめざす。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　日英の非言語コミュニケーション①（表情、アイコンタクト）
第3回　日英の非言語コミュニケーション②（しぐさ、ジェスチャー）
第4回　時間の使い方と異文化理解
第5回　空間の使い方と異文化理解
第6回　日英文化における言語表現（誘い方、断り方、謝罪の表現）
第7回　日英文化における言語表現（ほめ方、叱り方）
第8回　日英文化における言語表現（謙譲表現）
第9回　明示的なコミュニケーション（英語文化）と間接的なコミュニケーション（日本語文化）
第10回 日英文化における文化的価値観（日英における集団と個人の概念）
第11回 日英におけるコミュニケーションのスタイル（パラ言語、コンテキストの用い方）
第12回 低コンテキスト文化（英語文化）と高コンテキスト文化（日本語文化）
第13回 感情の表現と異文化理解
第14回 日英文化における習慣・マナー
第15回 まとめと総括

履修上の注意点

教科書

参考書

ケースで学ぶ異文化コミュニケーション
著者:　久米昭元・長谷川典子
出版社:　有斐閣選書
出版年:　　ISBN:

異文化トレーニング【改訂版】
著者:　八代京子ほか
出版社:　三修社
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 70 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**経営学基礎**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾌｧｾﾞｶｼｭ, ﾊﾞﾗｰｼﾞｭ	

テーマ

経営学の基礎を学びながら、経済、社会、企業の働きを考える

授業の到達目標

① 歴史と社会の中での企業を理解する ② 企業の中での働き方についての基本概念を理解する ③ 産業や企業の事例に触れる ④ 戦略論の基本概念を理解する ⑤ 企業分析の基本用語を覚える

授業の概要

この授業は三つの大きな部分から成り立っている。第一部分では、なぜ経営を学ぶ必要があるかという点を検討し、経営と戦略論の基本概念を学ぶ。第二部分では、会社の中の自分を考えて、会社という迷宮の中で迷わないための基礎知識を学ぶ。第三部分では、少し金融の面からも企業を考える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

なし

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　組織とは
第3回　企業と経済
第4回　経営学の歴史
第5回　製品と戦略論
第6回　産業分析
第7回　会社の構造
第8回　会社の中の自分
第9回　会社の中のグループ
第10回　会社の中のリーダー
第11回　動機付けと社内学習
第12回　金融と金
第13回　会社分析I
第14回　会社分析II
第15回　まとめ

履修上の注意点

できるかぎり欠席しないこと。

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

ゼミナール経営学入門
著者:　伊丹敬之，加護野忠男
出版社:　日本経済新聞社
出版年:　1989　　ISBN:

事実に基づいた経営―なぜ「当たり前」ができないのか?
著者:　ジェフリー フェファー (著), ロバート・I. サットン (著)、清水 勝彦 (翻訳)
出版社:　東洋経済
出版年:　2009　　ISBN:

戦略経営論
著者:　ガース サローナー (著), ジョエル ポドルニー (著), アンドレア シェパード (著)
出版社:　東洋経済新報社
出版年:　2002　　ISBN:

a20101d510

Organizations: A Very Short Introduction

著者： Mary Jo Hatch

出版社： Oxford University Press

出版年： 2011 ISBN：

The Ascent of Money: A Financial History of the World

著者： Niall Ferguson

出版社： Penguin Books

出版年： 2009 ISBN：

成績評価

試験・レポート （ 60 ） 小テスト （ 40 ）

授業中課題 （ 0 ） 授業中発表等 （ 0 ）

参加度 （ 0 ）

小テストは多肢選択式にする。

2018 Syllabus

科 目 名 **統計学演習**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾌｧｾﾞｶｼｭ, ﾊﾞﾗｰｼﾞｭ	

テーマ

Microsoft Excelの使い方とデータ処理の基礎を学ぶ。

授業の到達目標

この授業で学ぶことは以下のとおり。① Excelの基本操作 ② データと変数の種類 ③ データ収集とデータ処理の基本 ④ 統計学の基礎知識

授業の概要

社会がここまで発展してきた理由の一つは、「測定すれば改善できる」という考え方である。この授業では、ものごとを測定するための基礎知識を学ぶ。会社で最も広く使われているMicrosoft Excelの使い方を学び、データをどう処理すれば意味のある結果を出せるか考える。この授業で学ぶことは会社で働く上での欠かせない能力の一つです。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Microsoft OfficeとExcelが入っているパソコンを用意し、パソコン、Word, Excel, Power Pointの基本操作をできるかぎり学んでおいてください。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　ものごとを測定する(I)
第3回　ものごとを測定する(II)
第4回　変数と変数の種類
第5回　Excel: 基本操作とデータ入力
第6回　Excel: 記述統計
第7回　Excel: グラフとデータ表示
第8回　Excel: 関数の使い方
第9回　統計学と確率論とは
第10回　相関関係・回帰分析とは
第11回　Excel: 統計実習
第12回　課題報告
第13回　課題報告
第14回　課題報告
第15回　まとめ

履修上の注意点

できるかぎり欠席しないこと。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

やさしく学ぶ統計学 Excelによる統計解析
著者:　石村 貞夫　石村 友二郎　劉 晨
出版社:　東京図書
出版年:　2008　　ISBN:　4489020430

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 60 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 0 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**会計学基礎**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐久間　浩司	

テーマ

企業業績を計る最も客観性のある手段の「会計」を学ぶ

授業の到達目標

経済活動をする人間として最低限知っておくべき会計の基礎知識を身につける。同時に、一般企業や公務員に就職するものにとって、一般常識を上回るレベルの会計の専門知識が身につくことも目指す。

授業の概要

板書による講義形式。どきどき、時事問題解説も行います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

専門用語などの技術的な修得が中心になります。復習をしっかりしてください。

内　　容

第1回　会計とは
第2回　利益計算の仕組み、企業の活動、複式簿記の構造
第3回　利益計算の仕組み、複式簿記の構造、利益計算と財務諸表
第4回　利益計算のルール
第5回　理解度確認テスト
第6回　利益計算のルールの続き、および売上高と売上債権
第7回　棚卸資産と売上原価
第8回　棚卸資産と売上原価の続き、および固定資産と減価償却
第9回　固定資産と減価償却の続き
第10回　理解度確認テスト
第11回　金融活動の資産と損益
第12回　営業上の負債と他人資本
第13回　資本の拡充と余剰金の分配
第14回　連結財務諸表
第15回　理解度確認テスト

履修上の注意点

遅刻、授業中の私語、スマホ操作など、参加度が悪い場合は、大幅な減点の対象です。またこうした状況が繰り返される場合は単位を授与しません。

教科書

会計学入門
著者:　桜井久勝
出版社:　日経文庫
出版年:　1996　　ISBN:　9784532113261

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 70 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**観光学基礎**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮崎　裕二	

テーマ

グローバルな視点から、観光の基礎を学ぶ

授業の到達目標

1. グローバルな視点から、観光の基礎を学修し、わが国における観光について幅広い問題意識を持つことができる。
2. 観光業がどのような企業や組織などによって構成されているのかを理解することができる。
3. 観光業の実務で必要な語彙や専門用語などについて学ぶことができる。

授業の概要

観光は、政治や経済、経営、政策、多文化理解など、幅広い研究対象領域からなる。グローバルな視点から、観光に関する基礎的な知識を習得する。授業は、基本的に、講義形式で行い、映像や動画を活用し、ビジュアルでも理解を深めていく。学生が教材の決められたテーマに基づき事前学習を行い、受講生にわかりやすく説明する。その後、ペアあるいは、グループでディスカッションを行い、学んだことをクラスで発表する。授業の概要は、以下を予定しているが、受講者数や学生の習熟度等を勘案しながら、必ずしも最初に定めた講義スケジュールにとらわれることなく、フレキシブルに進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業開始前には、前授業についての小テストを課し、内容理解・習得度を問うことがある。復習として、授業で学修したことを振り返り、観光に関する語彙や専門用語を整理しておくこと。日ごろから、インターネット、テレビ、新聞などをとおして、観光に関するニュースを積極的に収集するようこころがけること。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　観光を学ぶ意味（観光学はおもしろい）
第3回　観光の様々な効果
第4回　観光に関わる言葉
第5回　観光のしくみ
第6回　観光資源と観光対象
第7回　観光産業の構成と特徴
第8回　様々な観光ビジネス　旅行業
第9回　様々な観光ビジネス　宿泊産業
第10回　様々な観光ビジネス　交通運輸業
第11回　様々な観光ビジネス　テーマパーク業
第12回　観光と情報
第13回　観光政策と観光行政
第14回　観光のマーケティング
第15回　これからの観光

履修上の注意点

5回以上欠席した場合、単位は認められない。10分以上の遅刻で欠席扱いとする。正当な理由がある場合は、教員に相談すること。他の受講生に迷惑をかけると思われる行為（授業と直接関係のない私語等）、クラス全体の士気に影響を及ぼすと考えられる行為（授業中の食事や授業と直接関係のない私的な作業や居眠り等）は、禁止する。注意されたにもかかわらず、改善が見られない場合は、退出を命じ、欠席扱いとする。

教科書

「観光学基礎」

著者:

出版社: 株式会社JTB総合研究所

出版年: 2016　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 40 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 30 ）

参加度 （ 30 ）

参加度は、授業への参加態度や回答・発表への積極性を鑑みて、総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**留学プログラム演習 <＊AUS>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　アンガス, ノーマン	

テーマ

意味のある留学を実現するために

授業の到達目標

海外実習プログラム（SAP）の必修参加（原則として1年間。但し教職課程履修者は6ヶ月）により、次の目標を達成する。
1. 高度な英語力、とりわけコミュニケーション能力・発信系コミュニケーション能力を身につける。1）CEFR B2レベル以上の総合的な英語運用能力　2）TOEICで785点以上
2. 高い異文化理解力と異文化共感能力を身につける。
3. 帰国後に英語で行われる専門科目に備え、留学先では正規授業
　およびその準備講座を履修し、希望するコース分野（グローバルキャリア・国際観光・英語教育）や言語・文化の知識を英語で得る。
4. SAPの参加から得た問題意識の向上により、帰国後の専門科目や
　卒業研究の基盤を形成する。
5. 教職課程履修者は6ヶ月の留学を経て、教職関連科目を集中的に学習し、高度な英語力および幅広い教養とともに教員になるための専門知識を身につける。

授業の概要

学習到達目標を達成するための授業構成（留学プログラム演習）として、「留学プログラム演習」は、大きく3つの単元（ユニット）に分けて設計する。第1ユニット＜留学の全像＞第1～4講、第2ユニット＜留学のテーマ別＞第5～12講、第3ユニット＜留学の直前＞第13～15講を予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

受講生は高い英語運用能力を修得すると同時に、それ以外に異文化を理解すること、及び異文化を理解することによる日本文化の再確認、国際感覚を身につけることを礎目標とする。加えて出来るだけ多くの学生が海外実習先でESL以外、英語で行うコンテンツコース（とりわけ経済、観光、教育関連科目）の受講により、帰国後学修方向の設定と素材獲得等が本プログラムの最高目標と考えている。

内　容

第1回　イントロダクション（留学とは、多文化理解プログラムの目標など）
第2回　留学希望国の概要を調べる（1）
第3回　留学の実践準備
第4回　留学経験者の話を聞く（1）
第5回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（1）
第6回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（2）
第7回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（3）
第8回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（4）
第9回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（5）
第10回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（6）
第11回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（7）
第12回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（8）
第13回　留学経験者の話を聞く（2）
第14回　日本文化を学修する
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**留学プログラム演習 <＊CAN>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾌｧｾﾞｶｼｭ, ﾊﾞﾗｰｼﾞｭ	

テーマ

意味のある留学を実現するために

授業の到達目標

海外実習プログラム（SAP）の必修参加（原則として1年間。但し教職課程履修者は6ヶ月）により、次の目標を達成する。
1. 高度な英語力、とりわけコミュニケーション能力・発信系コミュニケーション能力を身につける。1）CEFR B2レベル以上の総合的な英語運用能力　2）TOEICで785点以上
2. 高い異文化理解力と異文化共感能力を身につける。
3. 帰国後に英語で行われる専門科目に備え、留学先では正規授業
　およびその準備講座を履修し、希望するコース分野（グローバルキャリア・国際観光・英語・教育）や言語・文化の知識を英語で得る。
4. SAPの参加から得た問題意識の向上により、帰国後の専門科目や
　卒業研究の基盤を形成する。
5. 教職課程履修者は6ヶ月の留学を経て、教職関連科目を集中的に学習し、高度な英語力および幅広い教養とともに教員になるための専門知識を身につける。

授業の概要

学習到達目標を達成するための授業構成（留学プログラム演習）として、「留学プログラム演習」は、大きく3つの単元（ユニット）に分けて設計する。第1ユニット＜留学の全像＞第1～4講、第2ユニット＜留学のテーマ別＞第5～12講、第3ユニット＜留学の直前＞第13～15講を予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

学習到達目標を達成するための授業構成（留学プログラム演習）として、「留学プログラム演習」は、大きく3つの単元（ユニット）に分けて設計する。第1ユニット＜留学の全像＞第1～4講、第2ユニット＜留学のテーマ別＞第5～12講、第3ユニット＜留学の直前＞第13～15講を予定している。

内　容

第1回　イントロダクション（留学とは、多文化理解プログラムの目標など）
第2回　留学希望国の概要を調べる（1）
第3回　留学の実践準備
第4回　留学経験者の話を聞く（1）
第5回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（1）
第6回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（2）
第7回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（3）
第8回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（4）
第9回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（5）
第10回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（6）
第11回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（7）
第12回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（8）
第13回　留学経験者の話を聞く（2）
第14回　日本文化を学修する
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**留学プログラム演習 <＊US>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮崎　裕二	

テーマ

意味のある留学を実現するために

授業の到達目標

海外実習プログラム（SAP）の必修参加（原則として1年間。但し教職課程履修者は6ヶ月）により、次の目標を達成する。
1. 高度な英語力、とりわけコミュニケーション能力・発信系コミュニケーション能力を身につける。1）CEFR B2レベル以上の総合的な英語運用能力　2）TOEICで785点以上
2. 高い異文化理解力と異文化共感能力を身につける。
3. 帰国後に英語で行われる専門科目に備え、留学先では正規授業
　およびその準備講座を履修し、希望するコース分野（グローバルキャリア・国際観光・英語教育）や言語・文化の知識を英語で得る。
4. SAPの参加から得た問題意識の向上により、帰国後の専門科目や
　卒業研究の基盤を形成する。
5. 教職課程履修者は6ヶ月の留学を経て、教職関連科目を集中的に学習し、高度な英語力および幅広い教養とともに教員になるための専門知識を身につける。

授業の概要

学習到達目標を達成するための授業構成（留学プログラム演習）として、「留学プログラム演習」は、大きく3つの単元（ユニット）に分けて設計する。第1ユニット＜留学の全像＞第1～4講、第2ユニット＜留学のテーマ別＞第5～12講、第3ユニット＜留学の直前＞第13～15講を予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

受講生は高い英語運用能力を修得すると同時に、それ以外に異文化を理解すること、及び異文化を理解することによる日本文化の再確認、国際感覚を身につけることを礎目標とする。加えて出来るだけ多くの学生が海外実習先でESL以外、英語で行うコンテンツコース（とりわけ経済、観光、教育関連科目）の受講により、帰国後学修方向の設定と素材獲得等が本プログラムの最高目標と考えている。

内　容

第1回　イントロダクション（留学とは、多文化理解プログラムの目標など）
第2回　留学希望国の概要を調べる（1）
第3回　留学の実践準備
第4回　留学経験者の話を聞く（1）
第5回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（1）
第6回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（2）
第7回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（3）
第8回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（4）
第9回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（5）
第10回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（6）
第11回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（7）
第12回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（8）
第13回　留学経験者の話を聞く（2）
第14回　日本文化を学修する
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**留学プログラム演習 <＊UK>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐久間　浩司	

テーマ

意味のある留学を実現するために

授業の到達目標

海外実習プログラム（SAP）の必修参加（原則として1年間。但し教職課程履修者は6ヶ月）により、次の目標を達成する。
1. 高度な英語力、とりわけコミュニケーション能力・発信系コミュニケーション能力を身につける。1）CEFR B2レベル以上の総合的な英語運用能力　2）TOEICで785点以上
2. 高い異文化理解力と異文化共感能力を身につける。
3. 帰国後に英語で行われる専門科目に備え、留学先では正規授業
　およびその準備講座を履修し、希望するコース分野（グローバルキャリア・国際観光・英語教育）や言語・文化の知識を英語で得る。
4. SAPの参加から得た問題意識の向上により、帰国後の専門科目や
　卒業研究の基盤を形成する。
5. 教職課程履修者は6ヶ月の留学を経て、教職関連科目を集中的に学習し、高度な英語力および幅広い教養とともに教員になるための専門知識を身につける。

授業の概要

学習到達目標を達成するための授業構成（留学プログラム演習）として、「留学プログラム演習」は、大きく3つの単元（ユニット）に分けて設計する。第1ユニット＜留学の全像＞第1～4講、第2ユニット＜留学のテーマ別＞第5～12講、第3ユニット＜留学の直前＞第13～15講を予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

受講生は高い英語運用能力を修得すると同時に、それ以外に異文化を理解すること、及び異文化を理解することによる日本文化の再確認、国際感覚を身につけることを礎目標とする。加えて出来るだけ多くの学生が海外実習先でESL以外、英語で行うコンテンツコース（とりわけ経済、観光、教育関連科目）の受講により、帰国後学修方向の設定と素材獲得等が本プログラムの最高目標と考えている。

内　容

第1回　イントロダクション（留学とは、多文化理解プログラムの目標など）
第2回　留学希望国の概要を調べる（1）
第3回　留学の実践準備
第4回　留学経験者の話を聞く（1）
第5回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（1）
第6回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（2）
第7回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（3）
第8回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（4）
第9回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（5）
第10回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（6）
第11回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（7）
第12回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（8）
第13回　留学経験者の話を聞く（2）
第14回　まとめ
第15回　日本文化を学修する

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**留学プログラム演習 <＊M>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　北林　利治	

テーマ

意味のある留学を実現するために

授業の到達目標

①2年次後期から3年次前期にかけての留学プログラムに必要な準備を行う。留学先の文化や社会の理解を深める。
②留学に必要な英語運用能力と留学先で授業を受けるためのさまざまなスキルを身につけ、英語圏社会で生活するために必要な異文化コミュニケーション能力の基盤形成を目指す。
③学生それぞれが参加する留学プログラムの内容に応じて、留学先で行うプレゼンテーションのテーマを決め、その準備を行う。
④担当教員の講義や学生の個人発表をベースにした「留学ポートフォリオ」を制作する。
⑤固定観念から脱却したオープンマインドを育むとともに、論理的な思考力を養う。

授業の概要

学習到達目標を達成するための授業構成として、「留学プログラム演習」は、大きく3つの単元（ユニット）に分けて設計する。第1ユニット＜留学の全体像＞第1～4講、第2ユニット＜留学のテーマ別＞第5～12講、第3ユニット＜留学の直前準備＞第13～15講を予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各回に指定された資料や文献はかならず事前に読んで、授業に臨むこと。また、英語のプレゼンテーションについては、配布レジュメとパワーポイントスライドを事前に担当教員に送信すること。ポートフォリオの制作については、毎回の授業で確認していく。

内　容

第1回　イントロダクション（留学とは、留学プログラム演習の目標など）
第2回　留学先の国の概要を調べる
第3回　留学の実践準備
第4回　留学経験者の話を聞く（Part 1）
第5回　テーマ別発表①（生活のいろいろ）
第6回　テーマ別発表②（民族とその特徴や問題点）
第7回　テーマ別発表③（文化　その1）
第8回　テーマ別発表④（文化　その2）
第9回　テーマ別発表⑤（社会とその問題点）
第10回　テーマ別発表⑥（政治・経済）
第11回　テーマ別発表⑦（観光・教育）
第12回　テーマ別発表⑧（国別の独自なテーマ）
第13回　留学経験者の話を聞く（Part 2）
第14回　日本文化の英語による紹介（ゲスト講師による講演会）
第15回　これまでの学習・討論の振り返り、まとめ

履修上の注意点

病気などの理由がない限り、遅刻、欠席が絶対にないようにしてください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**留学プログラム演習 <＊AN>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐久間　浩司	

テーマ

意味のある留学を実現するために

授業の到達目標

海外実習プログラム（SAP）の必修参加（原則として1年間。但し教職課程履修者は6ヶ月）により、次の目標を達成する。
1. 高度な英語力、とりわけコミュニケーション能力・発信系コミュニケーション能力を身につける。1）CEFR B2レベル以上の総合的な英語運用能力　2）TOEICで785点以上
2. 高い異文化理解力と異文化共感能力を身につける。
3. 帰国後に英語で行われる専門科目に備え、留学先では正規授業およびその準備講座を履修し、希望するコース分野（グローバルキャリア・国際観光・英語教育）や言語・文化の知識を英語で得る。
4. SAPの参加から得た問題意識の向上により、帰国後の専門科目や卒業研究の基盤を形成する。
5. 教職課程履修者は6ヶ月の留学を経て、教職関連科目を集中的に学習し、高度な英語力および幅広い教養とともに教員になるための専門知識を身につける。

授業の概要

学習到達目標を達成するための授業構成（留学プログラム演習）として、「留学プログラム演習」は、大きく3つの単元（ユニット）に分けて設計する。第1ユニット＜留学の全像＞第1～4講、第2ユニット＜留学のテーマ別＞第5～12講、第3ユニット＜留学の直前＞第13～15講を予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

受講生は高い英語運用能力を修得すると同時に、それ以外に異文化を理解すること、及び異文化を理解することによる日本文化の再確認、国際感覚を身につけることを礎目標とする。加えて出来るだけ多くの学生が海外実習先でESL以外、英語で行うコンテンツコース（とりわけ経済、観光、教育関連科目）の受講により、帰国後学修方向の設定と素材獲得等が本プログラムの最高目標と考えている。

内　容

第1回　イントロダクション（留学とは、多文化理解プログラムの目標など）
第2回　留学希望国の概要を調べる（1）
第3回　留学の実践準備
第4回　留学経験者の話を聞く（1）
第5回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（1）
第6回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（2）
第7回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（3）
第8回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（4）
第9回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（5）
第10回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（6）
第11回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（7）
第12回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（8）
第13回　留学経験者の話を聞く（2）
第14回　まとめ
第15回　日本文化を学修する

履修上の注意点

Students should be constantly on the lookout for what is translated in their daily lives: for example, at stations, on food products, at leisure facilities, inshops, on menues etc. They should make constant notes of these translations, and the style in which they are written.

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　Career English Ⅲ <a>

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　占部 幹也	

テーマ

ビジネス実務の即戦力になる高度な英語力習得。

授業の到達目標

TOEICスコア700点以上の到達を目指す。

授業の概要

IEPの一環として少人数で実施する。言語機能別にTOEIC試験形式で、会話、アナウンス、プレゼンテーションの聴解練習を行うとともに、関連文書のリーディング演習を行う。加えて、ペアワークなどで典型的な会話表現の口頭練習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

学生一人ひとりに配布する受講生カルテで行います。カルテは表面に各回の小テストの結果が記載され、裏面に小テストの結果や授業中の良かった点や課題点など講師からのコメント欄があり、講師と学生のコミュニケーションツールとして活用します。

内　容

第1回　学習のためのオリエンテーション
第2回　ネットワーキングのための会話表現、プロフェショナルプロフィールの読解
第3回　ミーティングの会話表現（進捗状況の確認など）、議事録の読解
第4回　手配とその確認の表現、複数のE-mailの読解
第5回　総合問題演習と文法事項の復習
第6回　ミーティングの会話表現（意見を言うなど）、新聞記事の読解
第7回　電話による提案、助言の表現、複数のE-mailの読解
第8回　プレゼンの表現（問題点や解決策の説明）、プレゼン資料の読解
第9回　プレゼンの表現（議論と合意）、契約書とE-mailの読解
第10回　総合問題演習と文法事項の復習
第11回　就職面接の表現（説明と合意）、応募要領と履歴書の読解
第12回　就職面接の表現（理解の確認）、内定通知と返信の読解
第13回　研修でのスピーチ表現、会社案内の読解
第14回　クレーム対応の会話表現、複数のE-mailの読解
第15回　総合問題演習を通した復習
定期試験

履修上の注意点

学生の参加が前提のアクティブラーニング形式のため、積極的に発言すること。

教科書

IELTSブリティッシュ・カウンシル公認 本番形式問題3回分
著者:　ブリティッシュ・カウンシル著
出版社:　旺文社編
出版年:　ISBN:　9784010942000

参考書

TOEICテスト書き込みドリル：スコア650文法編
著者:　早川幸治
出版社:　桐原書店
出版年:　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 20 ）　小テスト （ 50 ）
授業中課題 （ 10 ）　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 10 ）
・上記に加え、学期末に実施されるTOEIC-IPテスト結果に基づく実力点：10点
・指定するe-learning教材の8割以上を完了していない場合、単位が認定されませんので、注意してください。

2018 Syllabus

科 目 名　Career English Ⅲ <b>

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池原　曜子	

テーマ

ビジネス実務の即戦力になる高度な英語力習得。

授業の到達目標

TOEICスコア700点以上の到達を目指す。

授業の概要

IEPの一環として少人数で実施する。言語機能別にTOEIC試験形式で、会話、アナウンス、プレゼンテーションの聴解練習を行うとともに、関連文書のリーディング演習を行う。加えて、ペアワークなどで典型的な会話表現の口頭練習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：Strategy を読みCheck It Out の問題を解いてCheck Linkで解答する。
　辞書使用可。Listening は答えに確信が持てるまで何度でも聞くこと。
　（Listening, Reading 合わせて50分程度）
　フィードバックとして授業内で間違いの多い問題について解説する。

復習：Let's Tryの問題の要点を復習する。Listening 問題の音声を繰り返し聞く。スクリプトを見ながら同時シャドーイングをする。Reading 問題の音読。語彙の復習。（L&R合わせて50分程度）
　フィードバックとして、復習テストを行い、間違いの多い問題について授業内で解説を加え確認をする。

内　　容

第1回　学習のためのオリエンテーション
第2回　ネットワーキングのための会話表現、プロフェショナルプロフィールの読解
第3回　ミーティングの会話表現（進捗状況の確認など）、議事録の読解
第4回　手配とその確認の表現、複数のE-mailの読解
第5回　総合問題演習と文法事項の復習
第6回　ミーティングの会話表現（意見を言うなど）、新聞記事の読解
第7回　電話による提案、助言の表現、複数のE-mailの読解
第8回　プレゼンの表現（問題点や解決策の説明）、プレゼン資料の読解
第9回　プレゼンの表現（議論と合意）、契約書とE-mailの読解
第10回　総合問題演習と文法事項の復習
第11回　就職面接の表現（説明と合意）、応募要領と履歴書の読解
第12回　就職面接の表現（理解の確認）、内定通知と返信の読解
第13回　研修でのスピーチ表現、会社案内の読解
第14回　クレーム対応の会話表現、複数のE-mailの読解
第15回　総合問題演習を通した復習
　　定期試験

履修上の注意点

単位認定には10回以上の出席が必要です。毎回問題を解いてスコアを記録して行くため、欠席回数が多いと成績評価も低くなります。

問題を解くことはその時点での英語力を測ることにすぎません。○×をつけるだけではスコアアップには繋がりません。丁寧に復習することで、問題を解くことで得たリスニングのスキル、文法的な知識、語彙を定着させていくことが最も重要です。授業内では主に制限された時間で問題を解くこと及び解答のポイントを確認することを行います。特に自分ができなかった問題についての復習は授業後の各自の課題となります。復習することがスコアアップのために最も有効な手段だと考えてください。

教科書

Listening Upgrader for the TOEIC Test
著者：　籔越　智子　Ryan Smithers
出版社：金星堂
出版年：2018　　ISBN：9784764740655

Reading Upgrader for the TOEIC Test
著者：　籔越　智子　Ryan Smithers
出版社：金星堂
出版年：2018　　ISBN：9784764740662

参考書

a20102a312

TOEICテスト書き込みドリル：スコア650文法編

著者： 早川幸治

出版社： 桐原書店

出版年： ISBN：

成績評価

試験・レポート （ 20 ） 小テスト （ 40 ）

授業中課題 （ 10 ） 授業中発表等 （ ）

参加度 （ 10 ）

・上記に加え、学期末に実施されるTOEIC-IPテスト結果に基づく実力点：20点

・指定するe-learning教材の8割以上を完了していない場合、単位が認定されませんので、注意してください。

2018 Syllabus

科 目 名　Career English Ⅲ <c>

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　日高　周平	

テーマ

ビジネス実務の即戦力になる高度な英語力習得。

授業の到達目標

TOEICスコア700点以上の到達を目指す。

授業の概要

IEPの一環として少人数で実施する。言語機能別にTOEIC試験形式で、会話、アナウンス、プレゼンテーションの聴解練習を行うとともに、関連文書のリーディング演習を行う。加えて、ペアワークなどで典型的な会話表現の口頭練習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

初回配布の単語プリントの指定範囲を、各授業前までに覚えてくること。指定範囲の語句は、毎回小テストを行い理解度の確認をする。

内　容

第1回　学習のためのオリエンテーション
第2回　ネットワーキングのための会話表現、プロフェショナルプロフィールの読解
第3回　ミーティングの会話表現（進捗状況の確認など）、議事録の読解
第4回　手配とその確認の表現、複数のE-mailの読解
第5回　総合問題演習と文法事項の復習
第6回　ミーティングの会話表現（意見を言うなど）、新聞記事の読解
第7回　電話による提案、助言の表現、複数のE-mailの読解
第8回　プレゼンの表現（問題点や解決策の説明）、プレゼン資料の読解
第9回　プレゼンの表現（議論と合意）、契約書とE-mailの読解
第10回　総合問題演習と文法事項の復習
第11回　就職面接の表現（説明と合意）、応募要領と履歴書の読解
第12回　就職面接の表現（理解の確認）、内定通知と返信の読解
第13回　研修でのスピーチ表現、会社案内の読解
第14回　クレーム対応の会話表現、複数のE-mailの読解
第15回　総合問題演習を通した復習
　　定期試験

履修上の注意点

2/3以上の出席がない場合は、試験を受けることを認めない。また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

教科書

Successful Steps-for the TOEIC L&R Test
著者:　Hisakazu Tsukano 他
出版社:　成美堂
出版年:　2018　　ISBN:　9784791934218

参考書

TOEICテスト書き込みドリル：スコア650文法編
著者:　早川幸治
出版社:　桐原書店
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）
・上記に加え、学期末に実施されるTOEIC-IPテスト結果に基づく実力点：20点
・指定するe-learning教材の8割以上を完了していない場合、単位が認定されませんので、注意してください。

2018 Syllabus

科 目 名　Career English Ⅲ <d>

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池原　曜子	

テーマ

ビジネス実務の即戦力になる高度な英語力習得。

授業の到達目標

TOEICスコア700点以上の到達を目指す。

授業の概要

IEPの一環として少人数で実施する。言語機能別にTOEIC試験形式で、会話、アナウンス、プレゼンテーションの聴解練習を行うとともに、関連文書のリーディング演習を行う。加えて、ペアワークなどで典型的な会話表現の口頭練習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：毎回語彙および総合的な予習課題を課します。オンラインで提出された予習課題の状況に基づき講義を進めます。
復習：毎回復習テストを実施します。
フィードバック：弱点と考えられる項目については各回の授業および復習回等で取り上げてゆきます。

内　容

第1回　学習のためのオリエンテーション
第2回　ネットワーキングのための会話表現、プロフェショナルプロフィールの読解
第3回　ミーティングの会話表現（進捗状況の確認など）、議事録の読解
第4回　手配とその確認の表現、複数のE-mailの読解
第5回　総合問題演習と文法事項の復習
第6回　ミーティングの会話表現（意見を言うなど）、新聞記事の読解
第7回　電話による提案、助言の表現、複数のE-mailの読解
第8回　プレゼンの表現（問題点や解決策の説明）、プレゼン資料の読解
第9回　プレゼンの表現（議論と合意）、契約書とE-mailの読解
第10回　総合問題演習と文法事項の復習
第11回　就職面接の表現（説明と合意）、応募要領と履歴書の読解
第12回　就職面接の表現（理解の確認）、内定通知と返信の読解
第13回　研修でのスピーチ表現、会社案内の読解
第14回　クレーム対応の会話表現、複数のE-mailの読解
第15回　総合問題演習を通した復習　定期試験

履修上の注意点

・全ての宿題を期限までに完了すること。
・全ての小テストにおいて80%以上で合格すること。授業内で不合格であったものについては期限までに再試験で合格すること。
以上が達成されない場合には単位の認定はしない。

教科書

Full Gear for the TOEIC L&R Test
著者：　Mark Stafford 他
出版社：Kinseido
出版年：2018　　ISBN：　9784764740648

公式TOEIC Listening & Reading 問題集1（前年度使用のもの）
著者：　Educational Testing Service
出版社：国際ビジネスコミュニケーション協会
出版年：2016　　ISBN：　9784906033492

参考書

TOEICテスト書き込みドリル：スコア650文法編
著者：　早川幸治
出版社：桐原書店
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ 20 ）　　小テスト（ 40 ）

a20102a314

授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 10 ）

・上記に加え、学期末に実施されるTOEIC-IPテスト結果に基づく実力点：20点
・指定するe-learning教材の8割以上を完了していない場合、単位が認定されませんので、注意してください。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語教育論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中井　弘一	

テーマ

日本の英語教育に関する基礎知識

授業の到達目標

・教職科目履修を通した学びと教育実習等で得られた教科指導力や生徒指導力の実践との統合を図る
・使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的指導力を有する教員としての資質を構築する

授業の概要

グローバル化の進展と共に英語教育の充実が一層求められる中、我が国の英語教育施策、児童生徒の英語学習に関する状況、生徒・教員の英語力の現状、諸外国における外国語教育の状況、英語教育における国際理解教育、母語習得と第二言語習得などの言語学習指導理論等、幅広いテーマを取り上げ、英語教育はどうあるべきか、日本における英語教育全般についての理解を、発表活動を通したりして深める。なお、本科目は小学校英語指導者資格科目(J-S H INE認定)になっている。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

受講者にテーマに沿ったプレゼンテーションを行ってもらう。各テーマからひとつ選んでアカデミック・リポートを提出してもらう。

内　容

第1回　日本における英語教育の概観(幕末から現在に至るまで)
第2回　グローバル人材とは　英語が使える日本人とは
第3回　21世紀に求められる英語教育　中央教育審議会の答申
第4回　次期学習指導要領がめざす英語教育(小学校・中学校学習指導要領比較)
第5回　児童生徒の英語学習に関する状況(意識・学習時間等)　教員の英語力
第6回　英語教育における国際理解教育・異文化理解トレーニング
第7回　コミュニケーションとしての英語教育
第8回　語彙指導のあり方
第9回　発音指導のあり方
第10回　文法指導のあり方
第11回　「読むこと」の指導のあり方
第12回　「書くことの指導」のあり方
第13回　主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)とは
第14回　まとめ1討論:何のための英語教育なのか
第15回　まとめ2発表:英語教育の未来

履修上の注意点

遅刻3回で1回欠席と見なす

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本の英語教育
著者:　山田雄一郎
出版社:　岩波新書
出版年:　2005　　ISBN:

「なんで英語やるの?」の戦後史《国民教育》としての英語、その伝統の成立過程
著者:　寺沢拓敬
出版社:　研究社
出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 30% ）

a20102d110

参加度 （ 20% ）
レポート 50%
課題発表 30%
発言貢献度 20%

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ（児）＜＊A＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　青木　美智子	

テーマ

1. 大学生活への導入と居場所としてのゼミづくり
2. コース選択への準備
3. 大学生としての学びについて考え、話し合う

授業の到達目標

1. ガイダンス等に参加し、大学の施設設備、様々な情報へのアクセス方法を身につける。
2. コース選択を見据え、クラスアドバイザー協委員との個人面談を受け、進路について話し合い、決定する。
3. 国内や国外の教育や保育、子どもの育ちについて、新聞、雑誌、インターネットから学び見聞を広げ、クラスで話し合い、自分のものの見方を作っていく。
4. 大学や自宅周辺における子どものいる場所（幼稚園、保育所、小学校、子育て支援広場、児童館、各種サークルなど）について調べる。

授業の概要

大学のゼミでは、少人数で話し合ったり、考えたり、自分の意見を述べたりする時間を多くとる。この授業はその導入となる。身体を動かしたり、文献を読みあったり、話し合ったり、ほかの受講生との親睦や交流を深めながら積極的に取り組んでほしい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日頃から「子ども」「学校」「幼稚園「保育園」「子ども園」などのキーワードを意識し、LINEなどのニュースサイトで目を通すように心がけること。

内　容

第1回　オリエンテーション：学科教員の紹介、授業の進め方など
第2回　ゼミ活動：役員の決定、学生自治について考える
第3回　キャンパス、クラスになじむ活動
第4回　図書館ガイダンス1：図書館の利用法と図書の検索
第5回　図書館ガイダンス2：選択した図書、テーマに関する活動①
第6回　図書館ガイダンス3：選択した図書、テーマに関する活動②
第7回　保育・教育活動についての調査1：計画
第8回　保育職について学び、話し合う
第9回　教育職について学び、話し合う
第10回 保育・教育活動についての調査2：発表
第11回 コース選択についての説明、子どもの発達と学習を支援する企画の紹介
第12回 子どもの発達と学習を支援する企画1：事前学習の総括
第13回 子どもの発達と学習を支援する企画2：計画と準備①
第14回 子どもの発達と学習を支援する企画2：計画と準備②
第15回 学びの振り返り

履修上の注意点

この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ（児）＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　倉持　祐二	

テーマ

1. 大学生活への導入と居場所としてのゼミづくり
2. コース選択への準備
3. 大学生としての学びについて考え、話し合う

授業の到達目標

1. ガイダンス等に参加し、大学の施設設備、様々な情報へのアクセス方法を身につける。
2. コース選択を見据え、クラスアドバイザー協委員との個人面談を受け、進路について話し合い、決定する。
3. 国内や国外の教育や保育、子どもの育ちについて、新聞、雑誌、インターネットから学び見聞を広げ、クラスで話し合い、自分のものの見方を作っていく。
4. 大学や自宅周辺における子どものいる場所（幼稚園、保育所、小学校、子育て支援広場、児童館、各種サークルなど）について調べる。

授業の概要

大学のゼミでは、少人数で話し合ったり、考えたり、自分の意見を述べたりする時間を多くとる。この授業はその導入となる。身体を動かしたり、文献を読みあったり、話し合ったり、ほかの受講生との親睦や交流を深めながら積極的に取り組んでほしい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日頃から「子ども」「学校」「幼稚園「保育園」「子ども園」などのキーワードを意識し、LINEなどのニュースサイトで目を通すように心がけること。

内　容

第1回　オリエンテーション：学科教員の紹介、授業の進め方など
第2回　ゼミ活動：役員の決定、学生自治について考える
第3回　キャンパス、クラスになじむ活動
第4回　図書館ガイダンス1：図書館の利用法と図書の検索
第5回　図書館ガイダンス2：選択した図書、テーマに関する活動①
第6回　図書館ガイダンス3：選択した図書、テーマに関する活動②
第7回　保育・教育活動についての調査1：計画
第8回　保育職について学び、話し合う
第9回　教育職について学び、話し合う
第10回　保育・教育活動についての調査2：発表
第11回　コース選択についての説明、子どもの発達と学習を支援する企画の紹介
第12回　子どもの発達と学習を支援する企画1：事前学習の総括
第13回　子どもの発達と学習を支援する企画2：計画と準備①
第14回　子どもの発達と学習を支援する企画2：計画と準備②
第15回　学びの振り返り

履修上の注意点

この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（50）	授業中発表等（50）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ（児）＜＊C＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　長橋　聡	

テーマ

1. 大学生活への導入と居場所としてのゼミづくり
2. コース選択への準備
3. 大学生としての学びについて考え、話し合う

授業の到達目標

1. ガイダンス等に参加し、大学の施設設備、様々な情報へのアクセス方法を身につける。
2. コース選択を見据え、クラスアドバイザー協委員との個人面談を受け、進路について話し合い、決定する。
3. 国内や国外の教育や保育、子どもの育ちについて、新聞、雑誌、インターネットから学び見聞を広げ、クラスで話し合い、自分のものの見方を作っていく。
4. 大学や自宅周辺における子どものいる場所（幼稚園、保育所、小学校、子育て支援広場、児童館、各種サークルなど）について調べる。

授業の概要

大学のゼミでは、少人数で話し合ったり、考えたり、自分の意見を述べたりする時間を多くとる。この授業はその導入となる。身体を動かしたり、文献を読みあったり、話し合ったり、ほかの受講生との親睦や交流を深めながら積極的に取り組んでほしい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日頃から「子ども」「学校」「幼稚園「保育園」「子ども園」などのキーワードを意識し、LINEなどのニュースサイトで目を通すように心がけること。

内　容

第1回　オリエンテーション：学科教員の紹介、授業の進め方など
第2回　ゼミ活動：役員の決定、学生自治について考える
第3回　キャンパス、クラスになじむ活動
第4回　図書館ガイダンス1：図書館の利用法と図書の検索
第5回　図書館ガイダンス2：選択した図書、テーマに関する活動①
第6回　図書館ガイダンス3：選択した図書、テーマに関する活動②
第7回　保育・教育活動についての調査1：計画
第8回　保育職について学び、話し合う
第9回　教育職について学び、話し合う
第10回 保育・教育活動についての調査2：発表
第11回 コース選択についての説明、子どもの発達と学習を支援する企画の紹介
第12回 子どもの発達と学習を支援する企画1：事前学習の総括
第13回 子どもの発達と学習を支援する企画2：計画と準備①
第14回 子どもの発達と学習を支援する企画2：計画と準備②
第15回 学びの振り返り

履修上の注意点

この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ（児）＜＊D＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森　枝美	

テーマ

1. 大学生活への導入と居場所としてのゼミづくり
2. コース選択への準備
3. 大学生としての学びについて考え、話し合う

授業の到達目標

1. ガイダンス等に参加し、大学の施設設備、様々な情報へのアクセス方法を身につける。
2. コース選択を見据え、クラスアドバイザー協委員との個人面談を受け、進路について話し合い、決定する。
3. 国内や国外の教育や保育、子どもの育ちについて、新聞、雑誌、インターネットから学び見聞を広げ、クラスで話し合い、自分のものの見方を作っていく。
4. 大学や自宅周辺における子どものいる場所（幼稚園、保育所、小学校、子育て支援広場、児童館、各種サークルなど）について調べる。

授業の概要

大学のゼミでは、少人数で話し合ったり、考えたり、自分の意見を述べたりする時間を多くとる。この授業はその導入となる。身体を動かしたり、文献を読みあったり、話し合ったり、ほかの受講生との親睦や交流を深めながら積極的に取り組んでほしい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日頃から「子ども」「学校」「幼稚園「保育園」「子ども園」などのキーワードを意識し、LINEなどのニュースサイトで目を通すように心がけること。

内　容

第1回　オリエンテーション：学科教員の紹介、授業の進め方など
第2回　ゼミ活動：役員の決定、学生自治について考える
第3回　キャンパス、クラスになじむ活動
第4回　図書館ガイダンス1：図書館の利用法と図書の検索
第5回　図書館ガイダンス2：選択した図書、テーマに関する活動①
第6回　図書館ガイダンス3：選択した図書、テーマに関する活動②
第7回　保育・教育活動についての調査1：計画
第8回　保育職について学び、話し合う
第9回　教育職について学び、話し合う
第10回 保育・教育活動についての調査2：発表
第11回 コース選択についての説明、子どもの発達と学習を支援する企画の紹介
第12回 子どもの発達と学習を支援する企画1：事前学習の総括
第13回 子どもの発達と学習を支援する企画2：計画と準備①
第14回 子どもの発達と学習を支援する企画2：計画と準備②
第15回 学びの振り返り

履修上の注意点

この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ（児）＜＊E＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池上　貴美子	

テーマ

1. 大学生活への導入と居場所としてのゼミづくり
2. コース選択への準備
3. 大学生としての学びについて考え、話し合う

授業の到達目標

1. ガイダンス等に参加し、大学の施設設備、様々な情報へのアクセス方法を身につける。
2. コース選択を見据え、クラスアドバイザー協委員との個人面談を受け、進路について話し合い、決定する。
3. 国内や国外の教育や保育、子どもの育ちについて、新聞、雑誌、インターネットから学び見聞を広げ、クラスで話し合い、自分のものの見方を作っていく。
4. 大学や自宅周辺における子どものいる場所（幼稚園、保育所、小学校、子育て支援広場、児童館、各種サークルなど）について調べる。

授業の概要

大学のゼミでは、少人数で話し合ったり、考えたり、自分の意見を述べたりする時間を多くとる。この授業はその導入となる。身体を動かしたり、文献を読みあったり、話し合ったり、ほかの受講生との親睦や交流を深めながら積極的に取り組んでほしい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日頃から「子ども」「学校」「幼稚園「保育園」「子ども園」などのキーワードを意識し、LINEなどのニュースサイトで目を通すように心がけること。

内　容

第1回　オリエンテーション：学科教員の紹介、授業の進め方など
第2回　ゼミ活動：役員の決定、学生自治について考える
第3回　キャンパス、クラスになじむ活動
第4回　図書館ガイダンス1：図書館の利用法と図書の検索
第5回　図書館ガイダンス2：選択した図書、テーマに関する活動①
第6回　図書館ガイダンス3：選択した図書、テーマに関する活動②
第7回　保育・教育活動についての調査1：計画
第8回　保育職について学び、話し合う
第9回　教育職について学び、話し合う
第10回 保育・教育活動についての調査2：発表
第11回 コース選択についての説明、子どもの発達と学習を支援する企画の紹介
第12回 子どもの発達と学習を支援する企画1：事前学習の総括
第13回 子どもの発達と学習を支援する企画2：計画と準備①
第14回 子どもの発達と学習を支援する企画2：計画と準備②
第15回 学びの振り返り

履修上の注意点

この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ（児）＜＊F＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森本　美絵	

テーマ

1. 大学生活への導入と居場所としてのゼミづくり
2. コース選択への準備
3. 大学生としての学びについて考え、話し合う

授業の到達目標

1. ガイダンス等に参加し、大学の施設設備、様々な情報へのアクセス方法を身につける。
2. コース選択を見据え、クラスアドバイザー協委員との個人面談を受け、進路について話し合い、決定する。
3. 国内や国外の教育や保育、子どもの育ちについて、新聞、雑誌、インターネットから学び見聞を広げ、クラスで話し合い、自分のものの見方を作っていく。
4. 大学や自宅周辺における子どものいる場所（幼稚園、保育所、小学校、子育て支援広場、児童館、各種サークルなど）について調べる。

授業の概要

大学のゼミでは、少人数で話し合ったり、考えたり、自分の意見を述べたりする時間を多くとる。この授業はその導入となる。身体を動かしたり、文献を読みあったり、話し合ったり、ほかの受講生との親睦や交流を深めながら積極的に取り組んでほしい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日頃から「子ども」「学校」「幼稚園「保育園」「子ども園」などのキーワードを意識し、LINEなどのニュースサイトで目を通すように心がけること。

内　容

第1回　オリエンテーション：学科教員の紹介、授業の進め方など
第2回　ゼミ活動：役員の決定、学生自治について考える
第3回　キャンパス、クラスになじむ活動
第4回　図書館ガイダンス1：図書館の利用法と図書の検索
第5回　図書館ガイダンス2：選択した図書、テーマに関する活動①
第6回　図書館ガイダンス3：選択した図書、テーマに関する活動②
第7回　保育・教育活動についての調査1：計画
第8回　保育職について学び、話し合う
第9回　教育職について学び、話し合う
第10回 保育・教育活動についての調査2：発表
第11回 コース選択についての説明、子どもの発達と学習を支援する企画の紹介
第12回 子どもの発達と学習を支援する企画1：事前学習の総括
第13回 子どもの発達と学習を支援する企画2：計画と準備①
第14回 子どもの発達と学習を支援する企画2：計画と準備②
第15回 学びの振り返り

履修上の注意点

この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ（児）＜＊A＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　青木　美智子	

テーマ

1. 学校教育学、保育学・幼児教育学の基本的な考え方について学ぶ。
2. 文章を読んだり書いたりすることによって、考察し表現する力を養う。
3. 2回生以降の専門教育へへの導入を行う。

授業の到達目標

1. 学校教育学、保育学・幼児教育学の基本的な考え方を修得する。そのために、具体的な事例に関する文献を探したり、読んだり、実際の教育・保育の場面を見たりする。
2. 新書や雑誌論文など、ある程度の専門的な文章を読むことができるようになる。
3. 自分で考えたことについて、適切な文体で文章として表現することができる。
4. 専門教育に向けて、自分の課題を意識することができる。

授業の概要

教育・保育について、体験や文献をもとに小グループで議論する。お互いに協力して、期日までに課題に取り組むことが必要である。また、教員から指示される文献を受動的に読むだけでなく、前期の図書館ガイダンスで学んだ方法ををを利用し、自分たちで読みたいと思う文献を意欲的に探し、積極的に取り組むことが必要である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日頃から「子ども」「学校」「幼稚園「保育園」「子ども園」などのキーワードを意識し、LINEなどのニュースサイトで目を通すように心がけること。
わからない語句や用語を事前に調べておくこと。

内　容

第1回　前期授業の振り返り
第2回　子どもの発達と学習を支援する企画1：準備①
第3回　子どもの発達と学習を支援する企画2：準備②
第4回　子どもの発達と学習を支援する企画3：準備③
第5回　子どもの発達と学習を支援する企画4：振り返りと反省
第6回　教育を取り巻く諸問題1：障害と差別①
第7回　教育を取り巻く諸問題2：障害と差別②
第8回　教育を取り巻く諸問題3：貧困・格差①
第9回　教育を取り巻く諸問題4：貧困・格差②
第10回 教育と教育政策1
第11回 教育と教育政策2
第12回 教育と教育政策3
第13回 アルバムまたは文集づくり：構成の話し合い
第14回 アルバムまたは文集づくり：作業
第15回 一年間の学びについての振り返り

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行う。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ（児）＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　倉持　祐二	

テーマ

1. 学校教育学、保育学・幼児教育学の基本的な考え方について学ぶ。
2. 文章を読んだり書いたりすることによって、考察し表現する力を養う。
3. 2回生以降の専門教育へへの導入を行う。

授業の到達目標

1. 学校教育学、保育学・幼児教育学の基本的な考え方を修得する。そのために、具体的な事例に関する文献を探したり、読んだり、実際の教育・保育の場面を見たりする。
2. 新書や雑誌論文など、ある程度の専門的な文章を読むことができるようになる。
3. 自分で考えたことについて、適切な文体で文章として表現することができる。
4. 専門教育に向けて、自分の課題を意識することができる。

授業の概要

教育・保育について、体験や文献をもとに小グループで議論する。お互いに協力して、期日までに課題に取り組むことが必要である。また、教員から指示される文献を受動的に読むだけでなく、前期の図書館ガイダンスで学んだ方法ををを利用し、自分たちで読みたいと思う文献を意欲的に探し、積極的に取り組むことが必要である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日頃から「子ども」「学校」「幼稚園「保育園」「子ども園」などのキーワードを意識し、LINEなどのニュースサイトで目を通すように心がけること。
わからない語句や用語を事前に調べておくこと。

内　容

第1回　前期授業の振り返り
第2回　子どもの発達と学習を支援する企画1：準備①
第3回　子どもの発達と学習を支援する企画2：準備②
第4回　子どもの発達と学習を支援する企画3：準備③
第5回　子どもの発達と学習を支援する企画4：振り返りと反省
第6回　教育を取り巻く諸問題1：障害と差別①
第7回　教育を取り巻く諸問題2：障害と差別②
第8回　教育を取り巻く諸問題3：貧困・格差①
第9回　教育を取り巻く諸問題4：貧困・格差②
第10回 教育と教育政策1
第11回 教育と教育政策2
第12回 教育と教育政策3
第13回 アルバムまたは文集づくり：構成の話し合い
第14回 アルバムまたは文集づくり：作業
第15回 一年間の学びについての振り返り

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行う。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ（児）＜＊C＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　長橋　聡	

テーマ

1. 学校教育学、保育学・幼児教育学の基本的な考え方について学ぶ。
2. 文章を読んだり書いたりすることによって、考察し表現する力を養う。
3. 2回生以降の専門教育へへの導入を行う。

授業の到達目標

1. 学校教育学、保育学・幼児教育学の基本的な考え方を修得する。そのために、具体的な事例に関する文献を探したり、読んだり、実際の教育・保育の場面を見たりする。
2. 新書や雑誌論文など、ある程度の専門的な文章を読むことができるようになる。
3. 自分で考えたことについて、適切な文体で文章として表現することができる。
4. 専門教育に向けて、自分の課題を意識することができる。

授業の概要

教育・保育について、体験や文献をもとに小グループで議論する。お互いに協力して、期日までに課題に取り組むことが必要である。また、教員から指示される文献を受動的に読むだけでなく、前期の図書館ガイダンスで学んだ方法ををを利用し、自分たちで読みたいと思う文献を意欲的に探し、積極的に取り組むことが必要である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日頃から「子ども」「学校」「幼稚園「保育園」「子ども園」などのキーワードを意識し、LINEなどのニュースサイトで目を通すように心がけること。
わからない語句や用語を事前に調べておくこと。

内　容

第1回　前期授業の振り返り
第2回　子どもの発達と学習を支援する企画1：準備①
第3回　子どもの発達と学習を支援する企画2：準備②
第4回　子どもの発達と学習を支援する企画3：準備③
第5回　子どもの発達と学習を支援する企画4：振り返りと反省
第6回　教育を取り巻く諸問題1：障害と差別①
第7回　教育を取り巻く諸問題2：障害と差別②
第8回　教育を取り巻く諸問題3：貧困・格差①
第9回　教育を取り巻く諸問題4：貧困・格差②
第10回 教育と教育政策1
第11回 教育と教育政策2
第12回 教育と教育政策3
第13回 アルバムまたは文集づくり：構成の話し合い
第14回 アルバムまたは文集づくり：作業
第15回 一年間の学びについての振り返り

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行う。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ（児）＜＊D＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森　枝美	

テーマ

1. 学校教育学、保育学・幼児教育学の基本的な考え方について学ぶ。
2. 文章を読んだり書いたりすることによって、考察し表現する力を養う。
3. 2回生以降の専門教育へへの導入を行う。

授業の到達目標

1. 学校教育学、保育学・幼児教育学の基本的な考え方を修得する。そのために、具体的な事例に関する文献を探したり、読んだり、実際の教育・保育の場面を見たりする。
2. 新書や雑誌論文など、ある程度の専門的な文章を読むことができるようになる。
3. 自分で考えたことについて、適切な文体で文章として表現することができる。
4. 専門教育に向けて、自分の課題を意識することができる。

授業の概要

教育・保育について、体験や文献をもとに小グループで議論する。お互いに協力して、期日までに課題に取り組むことが必要である。また、教員から指示される文献を受動的に読むだけでなく、前期の図書館ガイダンスで学んだ方法ををを利用し、自分たちで読みたいと思う文献を意欲的に探し、積極的に取り組むことが必要である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日頃から「子ども」「学校」「幼稚園「保育園」「子ども園」などのキーワードを意識し、LINEなどのニュースサイトで目を通すように心がけること。
わからない語句や用語を事前に調べておくこと。

内　容

第1回　前期授業の振り返り
第2回　子どもの発達と学習を支援する企画1：準備①
第3回　子どもの発達と学習を支援する企画2：準備②
第4回　子どもの発達と学習を支援する企画3：準備③
第5回　子どもの発達と学習を支援する企画4：振り返りと反省
第6回　教育を取り巻く諸問題1：障害と差別①
第7回　教育を取り巻く諸問題2：障害と差別②
第8回　教育を取り巻く諸問題3：貧困・格差①
第9回　教育を取り巻く諸問題4：貧困・格差②
第10回 教育と教育政策1
第11回 教育と教育政策2
第12回 教育と教育政策3
第13回 アルバムまたは文集づくり：構成の話し合い
第14回 アルバムまたは文集づくり：作業
第15回 一年間の学びについての振り返り

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行う。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ（児）＜＊E＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池上　貴美子	

テーマ

1. 学校教育学、保育学・幼児教育学の基本的な考え方について学ぶ。
2. 文章を読んだり書いたりすることによって、考察し表現する力を養う。
3. 2回生以降の専門教育へへの導入を行う。

授業の到達目標

1. 学校教育学、保育学・幼児教育学の基本的な考え方を修得する。そのために、具体的な事例に関する文献を探したり、読んだり、実際の教育・保育の場面を見たりする。
2. 新書や雑誌論文など、ある程度の専門的な文章を読むことができるようになる。
3. 自分で考えたことについて、適切な文体で文章として表現することができる。
4. 専門教育に向けて、自分の課題を意識することができる。

授業の概要

教育・保育について、体験や文献をもとに小グループで議論する。お互いに協力して、期日までに課題に取り組むことが必要である。また、教員から指示される文献を受動的に読むだけでなく、前期の図書館ガイダンスで学んだ方法ををを利用し、自分たちで読みたいと思う文献を意欲的に探し、積極的に取り組むことが必要である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日頃から「子ども」「学校」「幼稚園「保育園」「子ども園」などのキーワードを意識し、LINEなどのニュースサイトで目を通すように心がけること。
わからない語句や用語を事前に調べておくこと。

内　容

第1回　前期授業の振り返り
第2回　子どもの発達と学習を支援する企画1：準備①
第3回　子どもの発達と学習を支援する企画2：準備②
第4回　子どもの発達と学習を支援する企画3：準備③
第5回　子どもの発達と学習を支援する企画4：振り返りと反省
第6回　教育を取り巻く諸問題1：障害と差別①
第7回　教育を取り巻く諸問題2：障害と差別②
第8回　教育を取り巻く諸問題3：貧困・格差①
第9回　教育を取り巻く諸問題4：貧困・格差②
第10回 教育と教育政策1
第11回 教育と教育政策2
第12回 教育と教育政策3
第13回 アルバムまたは文集づくり：構成の話し合い
第14回 アルバムまたは文集づくり：作業
第15回 一年間の学びについての振り返り

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行う。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 50 ）	授業中発表等 （ 50 ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ（児）＜＊F＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　大久保　恭子	

テーマ

1. 学校教育学、保育学・幼児教育学の基本的な考え方について学ぶ。
2. 文章を読んだり書いたりすることによって、考察し表現する力を養う。
3. 2回生以降の専門教育へへの導入を行う。

授業の到達目標

1. 学校教育学、保育学・幼児教育学の基本的な考え方を修得する。そのために、具体的な事例に関する文献を探したり、読んだり、実際の教育・保育の場面を見たりする。
2. 新書や雑誌論文など、ある程度の専門的な文章を読むことができるようになる。
3. 自分で考えたことについて、適切な文体で文章として表現することができる。
4. 専門教育に向けて、自分の課題を意識することができる。

授業の概要

教育・保育について、体験や文献をもとに小グループで議論する。お互いに協力して、期日までに課題に取り組むことが必要である。また、教員から指示される文献を受動的に読むだけでなく、前期の図書館ガイダンスで学んだ方法ををを利用し、自分たちで読みたいと思う文献を意欲的に探し、積極的に取り組むことが必要である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日頃から「子ども」「学校」「幼稚園「保育園」「子ども園」などのキーワードを意識し、LINEなどのニュースサイトで目を通すように心がけること。
わからない語句や用語を事前に調べておくこと。

内　容

第1回　前期授業の振り返り
第2回　子どもの発達と学習を支援する企画1：準備①
第3回　子どもの発達と学習を支援する企画2：準備②
第4回　子どもの発達と学習を支援する企画3：準備③
第5回　子どもの発達と学習を支援する企画4：振り返りと反省
第6回　教育を取り巻く諸問題1：障害と差別①
第7回　教育を取り巻く諸問題2：障害と差別②
第8回　教育を取り巻く諸問題3：貧困・格差①
第9回　教育を取り巻く諸問題4：貧困・格差②
第10回 教育と教育政策1
第11回 教育と教育政策2
第12回 教育と教育政策3
第13回 アルバムまたは文集づくり：構成の話し合い
第14回 アルバムまたは文集づくり：作業
第15回 一年間の学びについての振り返り

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行う。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育原論(初)**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森　枝美	

テーマ

教育の基本問題と教育改革

授業の到達目標

そもそも人間はなぜ学校で学習するのかといった本質論議をふまえながら、子どもの成長発達と教育がいかなる関係にあるのか、教育実践の展開に介在する契機にはどのようなものがあるのか、などについて、問題点の整理と教育実践のあるべき方向を検討し、教職科目全体の学習につながるおよそのイメージがつかめるようにすることを目的とする。

授業の概要

そもそも人間はなぜ学校で学習するのかといった本質論議をふまえながら、子どもの成長発達と教育がいかなる関係にあるのか、教育実践の展開に介在する契機にはどのようなものがあるのか、などについて、問題点の整理と教育実践のあるべき方向を検討する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

内　容

第1回　教育の素朴概念
第2回　発達と教育
第3回　教育課程の基本問題
第4回　学習指導要領について
第5回　様々な教育方法
第6回　教科指導の意義
第7回　生活指導実践の意義
第8回　教育の公共性
第9回　進路指導
第10回　高等学校の進路指導
第11回　教育専門職論
第12回　日本の教育制度
第13回　教育改革動向
第14回　教育基本法と学校教育
第15回　教育の国際的合意形成

履修上の注意点

様々な教育書を各自で意欲的に探索し学生同士で論議を深めることを薦めるが、直接に教育と関係のないものでも、価値ある文学書や社会科学書などにたっぷりふれ、人間の理解を深めることを期待する。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

講義のなかで紹介
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート (50%)	小テスト ( )
授業中課題 (20%)	授業中発表等 (30%)
参加度 ( )	

2018 Syllabus

科 目 名　**現代と教育**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　岩本　賢治	

テーマ

教師として身につけるべき現代認識

授業の到達目標

私たちはどのような時代を生きているかを同時代史的視点から捉えるとともに、現代社会が取り組むべき教育の課題を考える。また、小学校、幼稚園、保育園、福祉施設の状況を知って、自らの進路を考える資質を養う。

授業の概要

現代認識を身につけるためのテーマとして平和の問題とジェンダーの問題を取り上げる。その上で、現代社会が取り組むべき教育の課題を調べ、発表する。また、小学校、幼稚園、保育園、福祉施設で働く人をゲストティーチャーとして招き講演を組織する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新聞やテレビで報道される国際情勢や時事問題について関心を持って切り抜きなどを行う。また、講義テーマについての関連図書を読み込むこと。

内　容

第1回　教育は未来を創造する仕事―21世紀の未来を見通すために20世紀の過去に学ぼう NHK『山田洋次×美輪明宏×二宮和也 未来のために』の視聴と講義
第2回　20世紀がなぜ戦争の世紀といわれるのか―NHK『映像の世紀』から第1集「20世紀の幕開け」第2集「大量殺戮の完成」の視聴と講義
第3回　20世紀資本主義の発展が見せた光と影とはなにか―NHK『映像の世紀』から第3集「それはマンハッタンから始まった」第4集「ヒトラーの野望」の視聴と講義
第4回　20世紀最大の悲劇（ナチスによるユダヤ人虐殺、アメリカの原爆投下など）はなぜ起こったか―NHK『映像の世紀』から 第5集「世界は地獄を見た」第6集「独立の旗の下に」の視聴と講義
第5回　20世紀新興独立国はどのようにして誕生したか―NHK『映像の世紀』から第7集「勝者の世界分割」第8集「恐怖の中の平和」の視聴と講義
第6回　20世紀末の民族紛争・内戦はなぜ起こったのか―NHK『映像の世紀』から第9集「ベトナムの衝撃」第10集「民族の悲劇果てしなく」の視聴と講義
第7回　学校現場から教育を考える①：小学校（学習指導要領と指導内容と留意点）
第8回　学校現場から教育を考える②：幼稚園（幼稚園教育要領と幼児指導の内容と留意点）
第9回　保育士の仕事を考える（保育指針と保育内容と留意点）
第10回　福祉施設で働くということ
第11回　ジェンダーと教育を考える（1）
第12回　ジェンダーと教育を考える（2）
第13回　課題発表（1）―学びの表現方法としての群読の方法と実際
第14回　課題発表（2）―学びの表現方法としての群読のシナリオづくり
第15回　課題発表（3）―学びの表現方法としての群読の発表
※この授業では必要に応じて講演会を開催することがある。

履修上の注意点

教科書

授業内で配布する

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

授業内で紹介する

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（ 55 ）
授業中課題（ 15 ）	授業中発表等（ 15 ）
参加度（ 15 ）	

a30101ad10

小テスト　第15回にそれまでの講義の要点を確認する。授業中課題　各授業の最後に短いレポートを書きます。授業中発表等　授業中にグループ討論をします。その際の発言や説明の内容で評価します。参加度 授業中にグループ討論をします。その際の発言や説明の積極性で評価します。

2018 Syllabus

科 目 名　**教職入門(初)**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池田　修	

テーマ

教師の仕事についての認識を深め、教職を志す目的や教師としての責任について考える。

授業の到達目標

今日の教育・学校・子どもをとりまく状況の中で、教師の仕事は何かを考え、教師としての責任と生きがいについて認識を深める。特に学習指導、生活指導、学校つくりについて、基本的な点を理解する。さらに現在の教育課題を自分自身が主体的に考える姿勢を育てる。

授業の概要

具体的な事例をもとに講義する。一方的な講義だけではなく、参加者相互が学び合える授業とするために、授業の感想やレポートを全員に還元することなどに取り組む。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

内　　容

第1回　教育をとりまく状況と今日の教育課題
第2回　教師に期待されること、教師としての生き方、教師の日常
第3回　学習指導の歴史的な変遷と、現代に求められる学力
第4回　小学校での授業創りの実際(算数を例に考える)
第5回　少人数指導・習熟度別指導を巡って
第6回　子どもたちの現状と生活指導の課題
第7回　いじめや不登校にどう取り組むか
第8回　学級作りの取り組み
第9回　総合的な学習の時間の意義と実際
第10回　特別支援教育について(ADHDなどの子どもたちの指導について)
第11回　評価についての様々な考え方と実際
第12回　保護者・地域との連携をどうつくるか
第13回　教師としての研修、教師の権利と責任、教師の身分保障、教師を巡る法的問題
第14回　教師の生き方
第15回　授業のまとめ
※この授業では必要に応じて講演会を開催することがある。

履修上の注意点

教育の理念を深く掘り下げるために、古典とされる書物、あるいは現在の優れた実践記録などを読む。教育を巡る様々なできごとや教育改革の報道に注目し、自分が教師であればどのように考え対処するか、という問題意識を常に持つ。

教科書

Aさせたいならbと言え
著者:　岩下修
出版社:　明治図書
出版年:　　ISBN:

学びとは何か　＜探究人＞になるために
著者:　今井むつみ
出版社:　岩波新書
出版年:　　ISBN:

新版　教師になるということ
著者:　池田修
出版社:　学陽書房
出版年:　　ISBN:

〈教育力〉をみがく
著者:　家本芳郎
出版社:　寺子屋新書
出版年:　　ISBN:

参考書

a30101d110

新任1年目を生き抜く教師のサバイバル術、教えます
著者: 西川純
出版社: 学陽書房
出版年: ISBN:

夢と希望の人生学
著者: 佐藤剛史
出版社: 現代書林
出版年: ISBN:

たったひとつを変えるだけ:クラスも教師も自立する「質問づくり」
著者: 吉田新一郎
出版社: 新評論
出版年: ISBN:

なぜか仕事がうまくいく教師の7つのルール
著者: 西川純
出版社: 学陽書房
出版年: ISBN:

その指導、学級崩壊の原因です！ 「かくれたカリキュラム」発見・改善ガイド
著者: 横藤雅人 武藤久慶著
出版社: 明治図書
出版年: ISBN:

こんな時どう言い返す
著者: 池田修
出版社: 学事出版
出版年: ISBN:

野口流 授業の作法
著者: 野口芳宏
出版社: 学陽書房
出版年: ISBN:

サッカーで子どもの力をひきだす 池上さんのことば辞典
著者: 池上正
出版社: 株式会社 カンゼン
出版年: ISBN:

修身教授録
著者: 森信三
出版社: 致知出版
出版年: ISBN:

小学校高学年女子の指導 困ったときの処方箋
著者: 赤坂真二
出版社: 学陽書房
出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 50 ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**教育心理学(初)**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　南 憲治	

テーマ

子どもの発達と教育

授業の到達目標

教育心理学の基礎概念の習得を通じて、子どもの発達と教育のかかわりについての理解を深める。具体的には、「発達理論」、「学習理論」、「人格理論」、「教育評価理論」等の柱を立てて、そこでの基礎概念の習得を通じて、子どもに対する指導や援助の基本的な視点を得ることができるようにすること。

授業の概要

教育現場の様々な問題を取り上げ、その背後にある課題を心理学的に考察する

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

予習の必要はないが、教科書と配布資料を基に、講義内容を自分で整理して下さい。

内　容

第1回　教育心理学とは、本講義が目指すもの
第2回　系統発生と個体発生、子どもの発達にとって必要な基本条件
第3回　発達の原理と発達段階
第4回　ピアジェの発生的認識論とヴィゴツキーの社会文化的発達論
第5回　学習の原理と学習理論、行動主義とゲシュタルト学説
第6回　忘却の原理と忘却理論
第7回　学習動機とその発達(障がいのある児童の学習課程を含む)
第8回　人格の構造と人格理論(障がいのある児童の発達を含む)
第9回　欲求の階層構造と人格発達
第10回　子どもの行動と防衛機制
第11回　教育評価とは、指導と評価
第12回　絶対評価、相対評価、到達度評価
第13回　関心・意欲・態度と教育評価
第14回　発達障害
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

授業は包括的、概論的なものとなるため、それを補う意味で、各柱立てに沿ってのレポート(計4回、各1200字程度)を求める。その際、提示された参考文献を必ず参照することを求める。

教科書

やさしい発達と学習
著者:　外山紀子・外山美樹
出版社:　有斐閣
出版年:　2010　　ISBN:　9784641123946

参考書

成績評価

試験・レポート (70%)	小テスト ( )
授業中課題 (30%)	授業中発表等 ( )
参加度 ( )	

2018 Syllabus

科 目 名　**自然科学概論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松井　淳	

テーマ

身のまわりで起きるあらゆることがらを冷静に捉え、理解し、適切に判断して行動できることはみんなの理想です。そのためには科学的なものの見かたが頼りになる味方になります。自然現象の理解や科学技術の発展を題材としてそうした考えかたに触れる糸口を探します。

授業の到達目標

科学が解き明かす自然現象には不思議なことやスケールが巨大(微小)すぎて想像もつかないことがたくさんあります。自分の知識の守備範囲がどれほどなのか一度考えてみることが一つ目の目標です。一方、毎日の暮らしの中で、当たり前に使ったり関わったりしているものやことの中にも、改めて考えれば不思議なことはいろいろあります。ご飯を食べ息をしているあなたの体も、友だち付き合いに欠かせない携帯電話も例外ではありません。さまざまな道具には科学的合理性が詰まっています。ものごとはどのようにして起こるのかの仕組みを考えてみる(わからないことも多いが…)癖をつけることが二つ目の目標です。

授業の概要

まず人間は自然のなにを測ってきたのかを調べます。つぎにエネルギー、生物、環境などを題材に、自然の仕組みがどうなっているのか、さまざまな発見はどうやって導びかれるのかを学びます。その上で、皆さんが興味を持てる課題を探して、科学的なものの見かたに関する自分の気づきについて発表していただきます。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

情報通信技術の進歩によって、学習に役立つ新規の情報はWeb上に豊富にあるはずです。取捨選択して良質な情報にアクセスできるよう日頃から感覚を磨いてください。

内　容

第1回　自然科学概論　イントロダクション
第2回　自然のスケール
　　等身大から無限大、無限小まで
第3回　単位
　　自然の測りかた
第4回　ヒトのからだといとなみ
　　食べる，育つ，増える，感じる
第5回　エネルギー
　　仕事，熱，光，電磁気，質量
第6回　エネルギー
　　再生可能，原子力
第7回　生きものと進化
　　生命の起源，自然発生説，生物多様性
第8回　植物のあたりまえ
　　蒸散，光合成，呼吸
第9回　地球環境は大丈夫なのか
　　地球温暖化
第10回　持続可能な自然の利用と社会
第11回　発表課題の準備1
第12回　発表課題の準備2
第13回　プレゼンテーション1
第14回　プレゼンテーション2
第15回　自然科学概論　ふりかえりとまとめ

履修上の注意点

①原則として5回以上の欠席は認めません。②「介護等体験」や「保育実習」などカリキュラムに定められた講義の欠席のみ「公欠」とみなします。③就職活動を理由とする欠席は「公欠」とはみなされないので注意してください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

a30101d310

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**音楽概論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐野 仁美	

テーマ

社会的背景や他の芸術との関わりから音楽の歴史を辿る。

授業の到達目標

1)西洋音楽や日本音楽についての基礎的な知識を習得する。音楽表現への理解を深め、音楽の特徴を自らの言葉で語ることができる。

授業の概要

社会的背景や他の芸術との関わりという視点から西洋音楽や日本音楽の歴史を概説し、様々な音楽や総合芸術作品を鑑賞する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習:教科書をはじめ、音楽に関連する本や雑誌を読んでおく。復習:授業で取り上げた時代の音楽の特徴をまとめ、授業で触れた作品を聴く。

内　　容

第1回　人間と音楽:音楽を考える視点、ワールドミュージック
第2回　西洋音楽:古代ギリシャ、中世の音楽
第3回　西洋音楽:ルネサンス音楽
第4回　西洋音楽:バロック音楽
第5回　西洋音楽:古典派の音楽
第6回　西洋音楽:ロマン派の音楽
第7回　西洋音楽:国民楽派の音楽
第8回　西洋音楽:近代・現代の音楽
第9回　ポピュラー音楽
第10回　日本の音楽:古代から中世へ
第11回　日本の音楽:能と狂言
第12回　日本の音楽:近世の音楽
第13回　総合芸術:音楽と舞踊
第14回　総合芸術:劇の音楽
第15回　まとめと理解度調査

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。遅刻や早退をしないように。音楽鑑賞を中心とする科目なので、私語は厳禁。

教科書

西洋音楽史
著者:　岡田暁生
出版社:　放送大学教育振興会
出版年:　2013年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 50% ）
授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 10% ）
各回に小レポートを課す。

2018 Syllabus

科 目 名　**美術概論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　大久保　恭子	

テーマ

芸術と人間、芸術と社会・文化との関連について理解する。

授業の到達目標

1）芸術作品の分析を通して個々の作品の意味内容を理解する。 2）芸術作品を構成する造型言語に親しみ理解する。 3）芸術作品に意味を与える文化の構造とそれを支える概念の理解に至る。 4）作品の理解に際しては、受身で話を聞くのではなく自ら思考してその理解を確かなものとする。

授業の概要

パワーポイントを用いて具体的作例を呈示する。まずは作品に関する基本的なデータを解説し、次いで適宜問題を提起する。それを受けて受講生は思考し互いに意見交換をして解答を出す。その解答をもとに授業を進める。このQ&A方式によって受講生の積極的な授業への参加を求める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

1）展覧会なども含めて美術作品の鑑賞の機会を意識して持つこと。2）受講後速やかに講義内容のノートを作成すること。

内　容

第1回　はじめに ・古代ギリシャの理想美
第2回　中世の表象①ロマネスク美術
第3回　中世の表象②ゴシック美術
第4回　ルネッサンス芸術と規範①
第5回　ルネッサンス芸術と規範②
第6回　ルネッサンス芸術と規範③
第7回　遠近法的世界観とは？
第8回　マニエリスム芸術・怪物的奇想の美
第9回　マニエリスム芸術・グロテスク
第10回 「周縁」の美 ・北方の美
第11回 「周縁」の美 ・死をめぐる価値観
第12回 境界とは何か？①グロテスクをめぐる問題
第13回 境界とは何か？②「笑い」「道化」をめぐる問題
第14回 理性の表象
第15回 まとめ

履修上の注意点

私語厳禁。場合によっては減点対象となる。座席指定。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学概論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西村　徳寿	

テーマ

算数教育の数学的基礎を学ぶ

授業の到達目標

10進位取り記数法のしくみを理解する。たし算・ひき算・かけ算・わり算の意味を理解する。量の分類の必要性を理解し、量の概念を理解する。小数と分数の相違点を理解し、分数の演算の意味を理解する。算数教育における幼小連携の視点を理解する。自己相似図形の意味を理解する。図形の重心の求め方を理解する。関数や統計の基礎概念を理解する。

授業の概要

知識を広く獲得するよりも、重要な子どもの躓きをとりあげ、その中から大事な数学的概念（考え）を抽出し理解していく。授業の中で、考えること、発見すること、振り返ることなどを重視し、グループでの話し合いなども行っていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

＊授業で出された課題（宿題）に取り組むこと。＊授業中に小テストを随時行う。

内　　容

第1回　子どもと数
第2回　算用数字のしくみⅠ（10進位取り記数法）
第3回　算用数字のしくみⅡ（n進位取り記数法）
第4回　暗算と筆算
第5回　たし算とひき算
第6回　かけ算と九九
第7回　わり算
第8回　量から数へ
第9回　分数と小数
第10回　分離量と連続量
第11回　幼小連携と算数教育（講演会）
第12回　自己相似図形について
第13回　図形の重心とモビール
第14回　関数
第15回　統計

履修上の注意点

座席指定制をします。

教科書

親と子で学ぶ算数入門 数と計算のしくみから関数の初歩まで
著者:　遠山啓
出版社:　ソフトバンククリエイティブ
出版年:　2014　　ISBN:　978-4797376234

参考書

さんすうだいすき　全10巻
著者:　遠山啓
出版社:　日本図書センター
出版年:　2012　　ISBN:　978-4284202152

算数の探険（全10巻）
著者:　遠山啓
出版社:　日本図書センター
出版年:　2011　　ISBN:　978-4284201896

算数はこわくない: おかあさんのための水道方式入門
著者:　遠山啓
出版社:　日本図書センター
出版年:　2013　　ISBN:　978-4284202442

a30101d650

基礎からわかる数学入門 数の発展から微分積分まで

著者: 遠山啓

出版社: ソフトバンククリエイティブ

出版年: 2013 ISBN: 978-4797375053

数の不思議 初等整数論への招待

著者: 遠山啓

出版社: ソフトバンククリエイティブ

出版年: 2014 ISBN: 978-4797376234

遠山啓エッセンス〈3〉量の理論

著者: 遠山啓

出版社: 日本評論社

出版年: 2009 ISBN: 978-4535603264

入門算数学

著者: 黒木哲徳

出版社: 日本評論社

出版年: 2009 ISBN: 978-4-535785403

社会人1年生のための統計学教科書

著者: 浅野晃

出版社: ソフトバンククリエイティブ

出版年: 2014 ISBN: 978-4797375176

子どもは数をどのように理解しているか

著者: 吉田甫

出版社: 新曜社

出版年: 1991 ISBN: 4788503883

成績評価

試験・レポート （ 30 ）　小テスト （ 10 ）

授業中課題 （ 30 ）　授業中発表等 （ 10 ）

参加度 （ 20 ）

成績評価の前提は、講義にすべて出席していることである。
「参加度」とは、授業への参加態度や積極性などを総合的に判断したもの。
試験・レポートについては、授業中に指示を行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**体育概論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　口野　隆史	

テーマ

文化としての体育・スポーツを理解し、その文化の継承・発展・創造を考える

授業の到達目標

現代の体育・スポーツに関する文化的、社会的、歴史的、科学的などの多方面の基礎知識を身に付ける。そして体育・スポーツについて、仲間と共に考えることができる力、体育・スポーツを正しく理解する力を身に付ける。

授業の概要

現代の体育・スポーツに関する文化的、社会的、歴史的、科学的な多方面の基礎知識を学ぶ。疑問の提起（クイズ）、資料、映像、簡単な実技などを通して基礎知識を学ぶ。また、自分たちで体育・スポーツに関するテーマを見付け、グループで共に考え、発表し理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

1．体育・スポーツとは何か、自分で受けてきた（あるいは受けている）体育・スポーツの授業を振り返り、またクラブやサークルで行っているスポーツ・身体活動を振り返り考えてみましょう。2．新聞やテレビのスポーツ関係の記事や番組を見る時、ひいきのチームや選手の試合結果ばかりではなく、試合の作戦、選手の技術、ファンへのサービス、地域・社会への貢献など、社会的、文化的、歴史的、科学的な背景等々、多くの視点で見てみましょう。

内　容

第1回　オリエンテーション 「投げる」に関する遊びとその動作の習得及び人間の運動発達
第2回　人間の運動発達と現代の子どもの運動能力
第3回　筋肉の構造と筋力の発達や特性
第4回　人間の汗と体温調節のしくみ
第5回　人間の運動学習（わかる・できるようになる）
第6回　眼の仕組みとスポーツにおける眼の役割（スポーツビジョン）
第7回　相撲の歴史と文化（日本のスポーツ・運動文化）
第8回　陸上競技の歴史と文化（世界のスポーツの歴史）
第9回　スポーツの科学、カーブはなぜカーブするのか
第10回 体育とは何か、スポーツとはどうちがうのか。「スポーツ基本法」には何が書いてあるのか
第11回 体育・スポーツに関するグループ別研究発表①
第12回 体育・スポーツに関するグループ別研究発表②
第13回 体育・スポーツに関するグループ別研究発表③
第14回 体育・スポーツに関するグループ別研究発表④
第15回 まとめ

履修上の注意点

毎回配布する資料にある質問（クイズ）をよく考えてみること。その資料を保管しておくこと。教員の話、他の学生の発表をよく聞くこと（私語を慎むこと）。体育・スポーツを様々な視点から考えてみること。

教科書

参考書

体育のとびら
著者：　荒木豊他
出版社：日本書籍
出版年：1986年　　ISBN：

体育教材論
著者：　中村敏雄
出版社：創文企画
出版年：1989年　　ISBN：

a30101d750

夢を跳ぶ

著者: 佐藤真海

出版社: 岩波書店

出版年: 2008年　　ISBN:

スポーツ教養入門

著者: 高峰修

出版社: 岩波書店

出版年: 2010年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 20 ）

授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 25 ）

参加度（ 25 ）

しっかり授業に出席し、教員の話、学生の発表をよく聞き理解すること。

2018 Syllabus

科 目 名　**音楽演習Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　48
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐野 仁美	

テーマ

鍵盤楽器演奏の基礎とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌い

授業の到達目標

1)コードネームを理解し、子どもの歌の伴奏付けができる。2)ピアノの基本的な奏法を習得する。

授業の概要

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌いを並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の3～4人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習:授業中の課題を各自で必ず予習しておく。分からないところは事前にあげておいて、授業に臨むこと。復習:指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して理解を深める。

内　容

第1回　コードネームの復習（メジャーコードとマイナーコード）、視唱、バイエルNo.81、82
第2回　ハ長調のコード進行(C、F、G、G7)、視唱、バイエルNo.82、85
第3回　子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.88、89
第4回　子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.89、91
第5回　ト長調のコード進行(G、C、D、D7)、バイエルNo.91、93
第6回　子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.93、94
第7回　子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.94、95
第8回　ヘ長調のコード進行(F、B♭、C、C7)、バイエルNo.95、96
第9回　子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.96、97
第10回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.97、98
第11回 ニ長調のコード進行(D、G、A、A7)、バイエルNo.98、99
第12回 子どもの歌の弾き歌い(ニ長調)、バイエルNo.99、100
第13回 子どもの歌の弾き歌い(ニ長調)、バイエルNo.100
第14回 子どもの歌の弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲
第15回 ピアノ実技発表

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。予習、復習が何よりも重要である。

教科書

保育士、教員養成に役立つ　豊かな演奏表現のためのピアノ曲集
著者:　小畑郁男・佐野仁美・田中幹子編著
出版社:　サーベル社
出版年:　2018年　　ISBN:

コードでかんたん！子どものうたマイ・レパートリー
著者:　坂井康子他編著
出版社:　ヤマハ・ミュージックメディア
出版年:　2008年　　ISBN:

参考書

プリントを配布する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（0）　　小テスト（0）
授業中課題（10%）　　授業中発表等（70%）
参加度（20%）

2018 Syllabus

科 目 名　**音楽演習Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　48
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐野　仁美.阿部　真子	

テーマ

鍵盤楽器演奏の基礎とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌い

授業の到達目標

1)コードネームを理解し、子どもの歌の伴奏付けができる。2)ピアノの基本的な奏法を習得する。

授業の概要

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌いを並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の3～4人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習:授業中の課題を各自で必ず予習しておく。分からないところは事前にあげておいて、授業に臨むこと。復習:指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して理解を深める。

内　容

第1回　コードネームの復習（メジャーコードとマイナーコード）、視唱、バイエルNo.81、82
第2回　ハ長調のコード進行(C、F、G、G7)、視唱、バイエルNo.82、85
第3回　子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.88、89
第4回　子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.89、91
第5回　ト長調のコード進行(G、C、D、D7)、バイエルNo.91、93
第6回　子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.93、94
第7回　子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.94、95
第8回　ヘ長調のコード進行(F、B♭、C、C7)、バイエルNo.95、96
第9回　子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.96、97
第10回　子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.97、98
第11回　ニ長調のコード進行(D、G、A、A7)、バイエルNo.98、99
第12回　子どもの歌の弾き歌い(ニ長調)、バイエルNo.99、100
第13回　子どもの歌の弾き歌い(ニ長調)、バイエルNo.100
第14回　子どもの歌の弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲
第15回　ピアノ実技発表

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。予習、復習が何よりも重要である。

教科書

保育士、教員養成に役立つ　豊かな演奏表現のためのピアノ曲集
著者:　小畑郁男・佐野仁美・田中幹子編著
出版社:　サーベル社
出版年:　2018年　　ISBN:

コードでかんたん！子どものうたマイ・レパートリー
著者:　坂井康子他編著
出版社:　ヤマハ・ミュージックメディア
出版年:　2008年　　ISBN:

参考書

プリントを配布する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（0）　　小テスト（0）
授業中課題（10%）　　授業中発表等（70%）
参加度（20%）

2018 Syllabus

科 目 名　**音楽演習Ⅰ〈c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　48
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐野　仁美.阿部　真子	

テーマ

鍵盤楽器演奏の基礎とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌い

授業の到達目標

1)コードネームを理解し、子どもの歌の伴奏付けができる。2)ピアノの基本的な奏法を習得する。

授業の概要

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌いを並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の3～4人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：授業中の課題を各自で必ず予習しておく。分からないところは事前にあげておいて、授業に臨むこと。復習：指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して理解を深める。

内　容

第1回　コードネームの復習（メジャーコードとマイナーコード）、視唱、バイエルNo.81、82
第2回　ハ長調のコード進行(C、F、G、G7)、視唱、バイエルNo.82、85
第3回　子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.88、89
第4回　子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.89、91
第5回　ト長調のコード進行(G、C、D、D7)、バイエルNo.91、93
第6回　子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.93、94
第7回　子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.94、95
第8回　ヘ長調のコード進行(F、B♭、C、C7)、バイエルNo.95、96
第9回　子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.96、97
第10回　子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.97、98
第11回　ニ長調のコード進行(D、G、A、A7)、バイエルNo.98、99
第12回　子どもの歌の弾き歌い(ニ長調)、バイエルNo.99、100
第13回　子どもの歌の弾き歌い(ニ長調)、バイエルNo.100
第14回　子どもの歌の弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲
第15回　ピアノ実技発表

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。予習、復習が何よりも重要である。

教科書

保育士、教員養成に役立つ　豊かな演奏表現のためのピアノ曲集
著者:　小畑郁男・佐野仁美・田中幹子編著
出版社:　サーベル社
出版年:　2018年　　ISBN:

コードでかんたん！子どものうたマイ・レパートリー
著者:　坂井康子他編著
出版社:　ヤマハ・ミュージックメディア
出版年:　2008年　　ISBN:

参考書

プリントを配布する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（0）　　小テスト（0）
授業中課題（10%）　　授業中発表等（70%）
参加度（20%）

2018 Syllabus

科 目 名　**音楽演習Ⅰ <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　48
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐野　仁美.阿部　真子	

テーマ

鍵盤楽器演奏の基礎とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌い

授業の到達目標

1)コードネームを理解し、子どもの歌の伴奏付けができる。2)ピアノの基本的な奏法を習得する。

授業の概要

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌いを並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の3～4人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：授業中の課題を各自で必ず予習しておく。分からないところは事前にあげておいて、授業に臨むこと。復習：指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して理解を深める。

内　容

第1回　コードネームの復習（メジャーコードとマイナーコード）、視唱、バイエルNo.81、82
第2回　ハ長調のコード進行(C、F、G、G7)、視唱、バイエルNo.82、85
第3回　子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.88、89
第4回　子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.89、91
第5回　ト長調のコード進行(G、C、D、D7)、バイエルNo.91、93
第6回　子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.93、94
第7回　子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.94、95
第8回　ヘ長調のコード進行(F、B♭、C、C7)、バイエルNo.95、96
第9回　子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.96、97
第10回　子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.97、98
第11回　ニ長調のコード進行(D、G、A、A7)、バイエルNo.98、99
第12回　子どもの歌の弾き歌い(ニ長調)、バイエルNo.99、100
第13回　子どもの歌の弾き歌い(ニ長調)、バイエルNo.100
第14回　子どもの歌の弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲
第15回　ピアノ実技発表

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。予習、復習が何よりも重要である。

教科書

保育士、教員養成に役立つ　豊かな演奏表現のためのピアノ曲集
著者:　小畑郁男・佐野仁美・田中幹子編著
出版社:　サーベル社
出版年:　2018年　　ISBN:

コードでかんたん！子どものうたマイ・レパートリー
著者:　坂井康子他編著
出版社:　ヤマハ・ミュージックメディア
出版年:　2008年　　ISBN:

参考書

プリントを配布する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（0）　　小テスト（0）
授業中課題（10%）　　授業中発表等（70%）
参加度（20%）

2018 Syllabus

科 目 名　**絵画・工芸演習 〈幼A〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　芦田　風馬	

テーマ

絵、立体、工作に表わす活動についての講義及び実習を通して基礎的な知識と技術を学び、作ることの魅力を伝えるための実践力を培う。

授業の到達目標

本授業の到達目標は下記の3点である。1. 多様な造形活動の意義を理解する。2. 造形活動における様々な道具の使用法を理解する。3. 材料の特質を生かして造形の発想を展開することができる。

授業の概要

描いたり作ったりする活動を行い、ものづくりの楽しさに気づくことで、学習を深め、教える際に必要な知識、技能を身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

作品制作の際に、大学が準備する材料だけでなく、使用したいと考える素材、材料を各自で積極的に準備すること。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　様々な描画材料を使用した活動
第3回　水彩絵の具の使用方法について
第4回　水彩絵の具を使用した活動
第5回　モダンテクニックを使用した活動
第6回　紙を使用した活動
第7回　貼り絵に表す活動
第8回　粘土の種類・特徴について
第9回　粘土を使用した活動
第10回 こどもの絵の発達について
第11回 よくみて描く活動
第12回 飛び出す仕組みの絵本　仕組みの理解
第13回 飛び出す仕組みの絵本　本制作
第14回 飛び出す仕組みの絵本　仕上げ
第15回 作品合評会・まとめ

履修上の注意点

・欠席が4回以内であること（遅刻は、欠席0. 5回と数える。30分以上の遅刻は欠席. 病気、けが、公式戦、演奏会なども含む。但し、インフルエンザなど「出席停止」状態のときは含まない）。各課題の制作の前に構想などの指示があった場合には必ず準備しておくこと。

教科書

初回に指示

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**絵画・工芸演習 〈幼B〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　芦田　風馬	

テーマ

絵、立体、工作に表わす活動についての講義及び実習を通して基礎的な知識と技術を学び、作ることの魅力を伝えるための実践力を培う。

授業の到達目標

本授業の到達目標は下記の3点である。1. 多様な造形活動の意義を理解する。2. 造形活動における様々な道具の使用法を理解する。3. 材料の特質を生かして造形の発想を展開することができる。

授業の概要

描いたり作ったりする活動を行い、ものづくりの楽しさに気づくことで、学習を深め、教える際に必要な知識、技能を身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

作品制作の際に、大学が準備する材料だけでなく、使用したいと考える素材、材料を各自で積極的に準備すること。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　様々な描画材料を使用した活動
第3回　水彩絵の具の使用方法について
第4回　水彩絵の具を使用した活動
第5回　モダンテクニックを使用した活動
第6回　紙を使用した活動
第7回　貼り絵に表す活動
第8回　粘土の種類・特徴について
第9回　粘土を使用した活動
第10回 こどもの絵の発達について
第11回 よくみて描く活動
第12回 飛び出す仕組みの絵本　仕組みの理解
第13回 飛び出す仕組みの絵本　本制作
第14回 飛び出す仕組みの絵本　仕上げ
第15回 作品合評会・まとめ

履修上の注意点

・欠席が4回以内であること（遅刻は、欠席0. 5回と数える。30分以上の遅刻は欠席. 病気、けが、公式戦、演奏会なども含む。但し、インフルエンザなど「出席停止」状態のときは含まない）。各課題の制作の前に構想などの指示があった場合には必ず準備しておくこと。

教科書

初回に指示

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**絵画・工芸演習 〈幼C〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　芦田　風馬	

テーマ

絵、立体、工作に表わす活動についての講義及び実習を通して基礎的な知識と技術を学び、作ることの魅力を伝えるための実践力を培う。

授業の到達目標

本授業の到達目標は下記の3点である。1. 多様な造形活動の意義を理解する。2. 造形活動における様々な道具の使用法を理解する。3. 材料の特質を生かして造形の発想を展開することができる。

授業の概要

描いたり作ったりする活動を行い、ものづくりの楽しさに気づくことで、学習を深め、教える際に必要な知識、技能を身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

作品制作の際に、大学が準備する材料だけでなく、使用したいと考える素材、材料を各自で積極的に準備すること。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　様々な描画材料を使用した活動
第3回　水彩絵の具の使用方法について
第4回　水彩絵の具を使用した活動
第5回　モダンテクニックを使用した活動
第6回　紙を使用した活動
第7回　貼り絵に表す活動
第8回　粘土の種類・特徴について
第9回　粘土を使用した活動
第10回 こどもの絵の発達について
第11回 よくみて描く活動
第12回 飛び出す仕組みの絵本　仕組みの理解
第13回 飛び出す仕組みの絵本　本制作
第14回 飛び出す仕組みの絵本　仕上げ
第15回 作品合評会・まとめ

履修上の注意点

・欠席が4回以内であること（遅刻は、欠席0. 5回と数える。30分以上の遅刻は欠席. 病気、けが、公式戦、演奏会なども含む。但し、インフルエンザなど「出席停止」状態のときは含まない）。各課題の制作の前に構想などの指示があった場合には必ず準備しておくこと。

教科書

初回に指示

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**絵画・工芸演習 〈児a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　芦田　風馬	

テーマ

絵、立体、工作に表わす活動についての講義及び実習を通して基礎的な知識と技術を学び、作ることの魅力を伝えるための実践力を培う。

授業の到達目標

本授業の到達目標は下記の3点である。1. 多様な造形活動の意義を理解する。2. 造形活動における様々な道具の使用法を理解する。3. 材料の特質を生かして造形の発想を展開することができる。

授業の概要

描いたり作ったりする活動を行い、ものづくりの楽しさに気づくことで、学習を深め、教える際に必要な知識、技能を身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

作品制作の際に、大学が準備する材料だけでなく、使用したいと考える素材、材料を各自で積極的に準備すること。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　様々な描画道具を使用した活動
第3回　水彩絵の具の使用方法について
第4回　水彩絵の具を使用した活動
第5回　モダンテクニックを使用した活動
第6回　紙を使用した活動
第7回　貼り絵に表す活動
第8回　粘土の種類・特徴について
第9回　粘土を使用した活動
第10回 こどもの絵の発達について
第11回 よくみて描く活動
第12回 飛び出す仕組みの絵本　仕組みの理解
第13回 飛び出す仕組みの絵本　本制作
第14回 飛び出す仕組みの絵本　仕上げ
第15回 作品合評会・まとめ

履修上の注意点

・欠席が4回以内であること（遅刻は、欠席0. 5回と数える。30分以上の遅刻は欠席. 病気、けが、公式戦、演奏会なども含む。但し、インフルエンザなど「出席停止」状態のときは含まない）。各課題の制作の前に構想などの指示があった場合には必ず準備しておくこと。

教科書

初回に指示

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**絵画・工芸演習 <児b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　芦田　風馬	

テーマ

絵、立体、工作に表わす活動についての講義及び実習を通して基礎的な知識と技術を学び、作ることの魅力を伝えるための実践力を培う。

授業の到達目標

本授業の到達目標は下記の3点である。1. 多様な造形活動の意義を理解する。2. 造形活動における様々な道具の使用法を理解する。3. 材料の特質を生かして造形の発想を展開することができる。

授業の概要

描いたり作ったりする活動を行い、ものづくりの楽しさに気づくことで、学習を深め、教える際に必要な知識、技能を身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

作品制作の際に、大学が準備する材料だけでなく、使用したいと考える素材、材料を各自で積極的に準備すること。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　様々な描画道具を使用した活動
第3回　水彩絵の具の使用方法について
第4回　水彩絵の具を使用した活動
第5回　モダンテクニックを使用した活動
第6回　紙を使用した活動
第7回　貼り絵に表す活動
第8回　粘土の種類・特徴について
第9回　粘土を使用した活動
第10回 こどもの絵の発達について
第11回 よくみて描く活動
第12回 飛び出す仕組みの絵本　仕組みの理解
第13回 飛び出す仕組みの絵本　本制作
第14回 飛び出す仕組みの絵本　仕上げ
第15回 作品合評会・まとめ

履修上の注意点

・欠席が4回以内であること（遅刻は、欠席0. 5回と数える。30分以上の遅刻は欠席. 病気、けが、公式戦、演奏会なども含む。但し、インフルエンザなど「出席停止」状態のときは含まない）。各課題の制作の前に構想などの指示があった場合には必ず準備しておくこと。

教科書

初回に指示

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**こども理解Ⅰ（幼児）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池上　貴美子	

テーマ

幼児理解の知識と理解の方法を身につけ、実践で幼児と向き合う大切さを学ぶ

授業の到達目標

幼児理解の基盤となる行為の意味の理解、環境との関連性の理解、発達と学びの過程の理解、そのつまずきと援助の方法、幼児がクラスで集う意味、保護者との信頼関係を築く大切さ等を事例を通して検討する。

授業の概要

幼児理解の意義と重要性を理解し、保育実践と結びつけて考察する力を身につける。幼児の発達や学びおよびその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法について、個と集団の関係や家庭との連携を含めて考える力を身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

子どもに関する事象に関心をもち、知識や理解を深めること

内　容

第1回　保育の出発点としての幼児理解
第2回　幼児の発達にかかわる様々な課題
第3回　幼児の自己表現と受容する他者との関係
第4回　幼児の発達や学びの過程を捉える視点
第5回　「自分」の世界と「友達」の世界の広がり
第6回　気になる子どもの事例からの学び
第7回　気になる行動への保育者の対応と周囲の幼児の受けとめ
第8回　観察・記録の方法と分析・考察の視点
第9回　演習：観察・記録の実際
第10回　発表と協議：観察・記録のまとめについて協議
第11回　観察・記録からの幼児理解と学びの読み取り（評価）
第12回　子育てに関わる現代的な課題の特徴
第13回　カウンセリングの技法
第14回　演習：保護者への対応のロールプレイ
第15回　支援体制の整備と家庭や地域との連携
第16回　試験

履修上の注意点

2/3以上の出席がない場合は試験を受けることを認めない。
遅刻3回で欠席1回とみなす。

教科書

未定
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

未定
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ 60 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**こども理解Ⅱ（児童）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河内　晴彦	

テーマ

こども理解を深めよう―こどもが表現した詩や作文を通して、こどもの生活や思いをつかむことからはじめる―

授業の到達目標

こども理解を深めるために 1，こどもの詩や作文を読み合う。2，自分の「こども時代」を振りかえる。3，現場における問題を通して、こどもの現状をまるごと理解する。

授業の概要

こどもの詩や作文を読み合い、意見や感想を交流しあう。小学校2年生の国語の教科書に載っている教材「おてがみ」を読み、気持ちを考え、表現する．具体的な現場における問題を考えることで、今のこどもを理解する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストをよく読む。こどもと教育に関する新聞記事を日頃から読む。自分なりの意見を持つ。

内　容

第1回　オリエンテーション（授業の進め方、「自己紹介カード」回収）
第2回　第1次班の編成、班活動に取り組む
第3回　テキストを読み合う①
第4回　テキストを読み合う②
第5回　テキストを読み合う③
第6回　テキストを読み合う④
第7回　「おてがみ」をみんなで読み合う
第8回　「おてがみ」を演じてみる
第9回　第2次班の編成、自分たちの作文を書く
第10回　自分たちの作文を読み合う①
第11回　自分たちの作文を読み合う②
第12回　こどもの現状をまるごと理解する①―「いじめ」の問題を通して―
第13回　こどもの現状をまるごと理解する②―「学級崩壊」をどう考える―
第14回　こどもの現状をまるごと理解する③―「不登校・ひきこもり」の問題を通して―
第15回　まとめの授業―どんな先生になりたいかを考える

履修上の注意点

4人から5人の小グループを編成する。小グループでの討論・作業をもとに、全体での発表や討論を行う。自分の意見を持ち、積極的に参加して欲しい。欠席は、班員にも迷惑がかかるので、極力避けるように。やむ得ないときは事前に欠席届やメールによる連絡を必ず行うこと。

教科書

聞いてよ　こころのつぶやきと叫び
著者:　村山士郎
出版社:　本の泉社
出版年:　2009年　　ISBN:

参考書

尾木ママの「脱いじめ」論
著者:　尾木直樹
出版社:　PHP研究所
出版年:　2013年　　ISBN:

ふたりはともだち
著者:　アーノルド・ローベル
出版社:　文化出版局
出版年:　1972年　　ISBN:

a30101e150

いじめで遊ぶ子どもたち

著者: 村山士郎

出版社: 新日本出版社

出版年: 2012年 ISBN:

いじめとは何か

著者: 森田洋司

出版社: 中央公論新社

出版年: 2010年 ISBN:

子どもとスマホ

著者: 石川結貴

出版社: 花伝社

出版年: 2016年 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ） 小テスト（ 0 ）

授業中課題（ 60 ） 授業中発表等（ 20 ）

参加度（ 20 ）

授業で課する3つの課題の提出、討論や発表への参加を最重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語コミュニケーション技術（ディベート）〈Z〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　新家　竜介	

テーマ

コミュニケーションの一形態であるディベート・討論を基礎から学ぶ。

授業の到達目標

公的なテーマについて異なる立場から議論を戦わせるディベート・討論の実践スキルを習得します。このスキルは、論文執筆やゼミ発表など今後の学生生活で必要となる様々な知的能力の基盤にもなります。また、ディベートの体験を通して、その指導スキルの習得もめざします。

授業の概要

ディベートの一種であるポリシーディベート（アカデミックディベート）の基礎概念を学習した上で、チームを組みポリシーディベートの試合を体験します。ポリシーディベートは、コミュニケーション能力をはじめ、論理的思考力・批判的思考力や多角的視点など、様々な知的能力の涵養を図る一種の教育・学習ゲームです。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で提示する課題や、チーム対抗戦に向けた準備に取り組んでください。また、身の回りの様々な議論について「なぜそう言えるのか」「だから何が言えるのか」「本当に言えるのか」などと批判的に考えつつ、それらの問いに論理的に応える習慣を身につけることが望まれます。

内　容

第1回　ディベートの基礎 (1) ディベートとは
第2回　ディベートの基礎 (2) ポリシーディベートとは
第3回　クリティカルシンキングの基礎
第4回　コミュニケーションの基礎
第5回　ポリシーディベート「審査」
第6回　ポリシーディベート「立論」
第7回　ポリシーディベート「質疑」
第8回　ポリシーディベート「反駁」
第9回　チーム対抗戦の準備 (1) 立論を考える
第10回 チーム対抗戦の準備 (2) 質疑・反駁を考える
第11回 チーム対抗戦 (1)
第12回 チーム対抗戦 (2)
第13回 チーム対抗戦 (3)
第14回 チーム対抗戦 (4)
第15回 ディベート教育の基礎・総括

履修上の注意点

この授業は、個人・グループでの演習を中心に進めますので、積極的な参加が求められます。
また、4月9日（月）から6月11日（月）までの集中講義となるため、履修前・登録後に日程を充分確認してください。
なお、授業計画の内容は、履修者数や受講生の意欲・能力などによって変更する場合があります。

教科書

必要に応じて教室で資料を配布する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

はじめてのディベート
著者:　西部直樹
出版社:　あさ出版
出版年:　2009　　ISBN:　4860633148

中等教育におけるディベートの研究
著者:　池田修
出版社:　大学図書出版
出版年:　2008　　ISBN:　4903060365

a30101e210

やっているつもりだけどなかなかできない伝え方のルール

著者: 新家竜介

出版社: 明日香出版社

出版年: 2012 ISBN: 4756915663

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ 50 ）

参加度（ 50 ）

授業の到達目標をどの程度達成できたかを、「授業中発表」は発言・発表の内容から、「参加度」は発言・発表の姿勢から、それぞれ総合的に判断します。いずれも所謂「出席点」ではないものの、授業に出席した上で発言・発表することが成績評価の大前提となります。

2018 Syllabus

科 目 名　**音楽演習Ⅱ〈幼A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　48
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田中　幹子	

テーマ

「人間の身体と音楽」「音楽の三要素（メロディ・ハーモニー・リズム）」この二つのキーワードをもとに、幼児期の音楽活動の可能性を探っていく。

授業の到達目標

音楽の基本を習得し、教育現場で実践し工夫できる能力を養うことを目標とする。指導者として基礎的なソルフェージュを身につけるため、ピアノ等楽器だけでなく 自分の手や足、声など実際に身体を使って表現し、こどもたちに伝えることができる ことを実感し、創作に生かしてゆくことをねらいとする。

授業の概要

受講した内容をもとに、毎回設定されたテーマについて模擬授業を行なう。それに対しお互いに評価しあい、毎回レポートとして提出する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

担当する模擬授業の内容を、各グループごとに話し合い準備する。毎回の課題を最終的に創作として発表する。

内　容

第1回　オリエンテーション「音楽の基本について」
第2回　リズム①「ボディリズム（呼吸法）について」
第3回　リズム②「手拍子、手遊びを使って」
第4回　リズム③「足踏み（ステップ、ギャロップ）を使って」
第5回　メロディ①「歌ごころについて」
第6回　メロディ②「模倣の有効性について（絵本、アニメ曲より）」
第7回　メロディ③「日本の四季と日本語の歌詞」
第8回　ハーモニー①「日本人と身近な自然音」
第9回　ハーモニー②「こどもの音域と合唱」
第10回　ハーモニー③「世界の音楽（ポピュラー音楽）とコード」
第11回　アンサンブル①「こどもとのアンサンブルをめざして」
第12回　アンサンブル②「共に楽しむ音楽をめざして」
第13回　アンサンブル③「音楽から学ぶ生きる力」
第14回　創作の発表Ⅰ
第15回　創作の発表Ⅱ

履修上の注意点

テキストは必要に応じてコピーする。動きやすい服装での参加が望ましい。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（ 40% ）
授業中課題（ 20% ）	授業中発表等（ 20% ）
参加度（ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**音楽演習Ⅱ〈幼B〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　48
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田中　幹子	

テーマ

「人間の身体と音楽」「音楽の三要素（メロディ・ハーモニー・リズム）」この二つのキーワードをもとに、幼児期の音楽活動の可能性を探っていく。

授業の到達目標

音楽の基本を習得し、教育現場で実践し工夫できる能力を養うことを目標とする。指導者として基礎的なソルフェージュを身につけるため、ピアノ等楽器だけでなく 自分の手や足、声など実際に身体を使って表現し、こどもたちに伝えることができる ことを実感し、創作に生かしてゆくことをねらいとする。

授業の概要

受講した内容をもとに、毎回設定されたテーマについて模擬授業を行なう。それに対しお互いに評価しあい、毎回レポートとして提出する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

担当する模擬授業の内容を、各グループごとに話し合い準備する。毎回の課題を最終的に創作として発表する。

内　容

第1回　オリエンテーション「音楽の基本について」
第2回　リズム①「ボディリズム（呼吸法）について」
第3回　リズム②「手拍子、手遊びを使って」
第4回　リズム③「足踏み（ステップ、ギャロップ）を使って」
第5回　メロディ①「歌ごころについて」
第6回　メロディ②「模倣の有効性について（絵本、アニメ曲より）」
第7回　メロディ③「日本の四季と日本語の歌詞」
第8回　ハーモニー①「日本人と身近な自然音」
第9回　ハーモニー②「こどもの音域と合唱」
第10回　ハーモニー③「世界の音楽（ポピュラー音楽）とコード」
第11回　アンサンブル①「こどもとのアンサンブルをめざして」
第12回　アンサンブル②「共に楽しむ音楽をめざして」
第13回　アンサンブル③「音楽から学ぶ生きる力」
第14回　創作の発表Ⅰ
第15回　創作の発表Ⅱ

履修上の注意点

テキストは必要に応じてコピーする。動きやすい服装での参加が望ましい。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（ 40% ）
授業中課題（ 20% ）	授業中発表等（ 20% ）
参加度（ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**音楽演習Ⅱ〈幼C〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　48
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田中　幹子	

テーマ

「人間の身体と音楽」「音楽の三要素（メロディ・ハーモニー・リズム）」この二つのキーワードをもとに、幼児期の音楽活動の可能性を探っていく。

授業の到達目標

音楽の基本を習得し、教育現場で実践し工夫できる能力を養うことを目標とする。指導者として基礎的なソルフェージュを身につけるため、ピアノ等楽器だけでなく 自分の手や足、声など実際に身体を使って表現し、こどもたちに伝えることができる ことを実感し、創作に生かしてゆくことをねらいとする。

授業の概要

受講した内容をもとに、毎回設定されたテーマについて模擬授業を行なう。それに対しお互いに評価しあい、毎回レポートとして提出する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

担当する模擬授業の内容を、各グループごとに話し合い準備する。毎回の課題を最終的に創作として発表する。

内　容

第1回　オリエンテーション「音楽の基本について」
第2回　リズム①「ボディリズム（呼吸法）について」
第3回　リズム②「手拍子、手遊びを使って」
第4回　リズム③「足踏み（ステップ、ギャロップ）を使って」
第5回　メロディ①「歌ごころについて」
第6回　メロディ②「模倣の有効性について（絵本、アニメ曲より）」
第7回　メロディ③「日本の四季と日本語の歌詞」
第8回　ハーモニー①「日本人と身近な自然音」
第9回　ハーモニー②「こどもの音域と合唱」
第10回　ハーモニー③「世界の音楽（ポピュラー音楽）とコード」
第11回　アンサンブル①「こどもとのアンサンブルをめざして」
第12回　アンサンブル②「共に楽しむ音楽をめざして」
第13回　アンサンブル③「音楽から学ぶ生きる力」
第14回　創作の発表Ⅰ
第15回　創作の発表Ⅱ

履修上の注意点

テキストは必要に応じてコピーする。動きやすい服装での参加が望ましい。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（ 40% ）
授業中課題（ 20% ）	授業中発表等（ 20% ）
参加度（ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**音楽演習Ⅱ <児a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　48
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐野　仁美.阿部　真子	

テーマ

小学校の音楽指導に必要な歌唱技能や、楽典の知識を養う。

授業の到達目標

(1)日本語を歌う上での基本的な発声法、発語法を習得し、正しい音程で歌う能力を養う。
(2)基本的な音楽理論を理解し、楽譜を読んで歌うことができる。
(3)小学校の歌唱共通教材を使用し、斉唱・重唱などの体験を通して、実際の授業で歌唱教育を実践する上での様々な指導法を身につける。

授業の概要

小学校の共通教材である文部省唱歌や日本歌曲の曲調をつかんで歌うために必要な、基本的な発声法・日本語の発語法を目指しヴォイストレーニングや、音感のトレーニングなどを行う。併せて、基礎的な楽典の知識を、実際の楽譜に応用して理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

普段からできるだけ多くの唱歌・日本歌曲などに接する機会を持っておく。

内　容

第1回　オリエンテーション『歌うって何だろう』“語る”と“歌う”の違い、“日本語らしさ”の表現について考える。
第2回　基本的な発声法の実践。小学校1・2年の共通教材の歌唱、音感トレーニング、楽典
第3回　小学校1・2年共通教材の歌唱とその応用(輪唱など)。音感トレーニング、楽典
第4回　小学校3年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
第5回　小学校3年共通教材の歌唱とその応用(身体表現と歌唱)。音感トレーニング、楽典
第6回　小学校4年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
第7回　小学校4年共通教材の歌唱とその応用(重唱の導入)。音感トレーニング、楽典
第8回　小学校5年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
第9回　小学校5年共通教材の歌唱とその応用(重唱・合唱)。音感トレーニング、楽典
第10回　小学校6年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
第11回　小学校6年共通教材の歌唱とその応用(合唱)。音感トレーニング、楽典
第12回　テーマ別ヴォイストレーニングの実践1。合唱への取り組み。音感トレーニング、楽典
第13回　テーマ別ヴォイストレーニングの実践2。合唱練習（グループ）。音感トレーニング、楽典
第14回　テーマ別ヴォイストレーニングの実践3。合唱発表（グループ）。音感トレーニング、楽典
第15回　まとめと理解度調査

履修上の注意点

楽典は毎回プリントで確認します。わからないことがあったり、欠席した場合は早目に質問に来てください。

教科書

初等科音楽教育法[改訂版]
著者:　初等科音楽教育研究会
出版社:　音楽之友社
出版年:　2011　　ISBN:　978-4276820098

参考書

プリントを配布する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 20 ）
出席と受講時の積極性が評価に大きく関係します。

2018 Syllabus

科 目 名　**音楽演習Ⅱ <児b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　48
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐野　仁美.阿部　真子	

テーマ

小学校の音楽指導に必要な歌唱技能や、楽典の知識を養う。

授業の到達目標

(1)日本語を歌う上での基本的な発声法、発語法を習得し、正しい音程で歌う能力を養う。
(2)基本的な音楽理論を理解し、楽譜を読んで歌うことができる。
(3)小学校の歌唱共通教材を使用し、斉唱・重唱などの体験を通して、実際の授業で歌唱教育を実践する上での様々な指導法を身につける。

授業の概要

小学校の共通教材である文部省唱歌や日本歌曲の曲調をつかんで歌うために必要な、基本的な発声法・日本語の発語法を目指しヴォイストレーニングや、音感のトレーニングなどを行う。併せて、基礎的な楽典の知識を、実際の楽譜に応用して理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

普段からできるだけ多くの唱歌・日本歌曲などに接する機会を持っておく。

内　容

第1回　オリエンテーション『歌うって何だろう』“語る”と“歌う”の違い、“日本語らしさ”の表現について考える。
第2回　基本的な発声法の実践。小学校1・2年の共通教材の歌唱、音感トレーニング、楽典
第3回　小学校1・2年共通教材の歌唱とその応用(輪唱など)。音感トレーニング、楽典
第4回　小学校3年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
第5回　小学校3年共通教材の歌唱とその応用(身体表現と歌唱)。音感トレーニング、楽典
第6回　小学校4年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
第7回　小学校4年共通教材の歌唱とその応用(重唱の導入)。音感トレーニング、楽典
第8回　小学校5年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
第9回　小学校5年共通教材の歌唱とその応用(重唱・合唱)。音感トレーニング、楽典
第10回　小学校6年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
第11回　小学校6年共通教材の歌唱とその応用(合唱)。音感トレーニング、楽典
第12回　テーマ別ヴォイストレーニングの実践1。合唱への取り組み。音感トレーニング、楽典
第13回　テーマ別ヴォイストレーニングの実践2。合唱練習（グループ）。音感トレーニング、楽典
第14回　テーマ別ヴォイストレーニングの実践3。合唱発表（グループ）。音感トレーニング、楽典
第15回　まとめと理解度調査

履修上の注意点

楽典は毎回プリントで確認します。わからないことがあったり、欠席した場合は早目に質問に来てください。

教科書

初等科音楽教育法[改訂版]
著者:　初等科音楽教育研究会
出版社:　音楽之友社
出版年:　2011　　ISBN:　978-4276820098

参考書

プリントを配布する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 20 ）
出席と受講時の積極性が評価に大きく関係します。

2018 Syllabus

科 目 名　**社会福祉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉田　明弘	

テーマ

明日はわが身の社会福祉―保育者・教育者の社会的役割を考える―

授業の到達目標

子どもの貧困や児童虐待、高齢者の介護問題、障害者の社会参加など社会福祉の課題は多岐にわたる。その背景を理解し、解決策を見出すとともに、保育者や教育者の社会的役割について考える。
人間を能力の多寡で選別する新自由主義に対峙するものとして社会福祉をとらえ、その必要性を通して、共生社会のあり方を考えたい。

授業の概要

福祉六法を中心とした社会福祉制度について概説すると同時に、重点的な課題を取り扱う。社会福祉に関連する社会問題にもふれる。さらに、社会福祉実践の先駆者の取り組みを、時々で紹介する（社会福祉人銘記）。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業の中で紹介した本などを読む。

内　容

第1回　社会福祉とは何か？
第2回　社会福祉の体系
〔社会福祉人銘記〕非行少年をのべ100人以上雇用　野口義弘
第3回　生活保護―下流老人問題を通して―
〔社会福祉人銘記〕ホームレスの自立支援　奥田知志
第4回　児童家庭福祉―子どもの貧困と雇用の液状化―
第5回　児童家庭福祉―児童の人権思想―
〔社会福祉人銘記〕児童権利条約の草案に影響　ヤヌシュ・コルチャック
第6回　児童家庭福祉―社会的養護と里親―
〔社会福祉人銘記〕児童養護の父　石井十次
第7回　高齢者福祉―介護保険制度の陥穽―
第8回　障害者福祉―日本型ノーマライゼーションを問う―
〔社会福祉人銘記〕ノーマライゼーションの父　バンク・ミケルセン
第9回　ソーシャルワークの理論と方法
〔社会福祉人銘記〕ケースワークの母　メアリー・リッチモンド
第10回　社会福祉と学校教育―ケアの共同体をつくる―
第11回　若者を使い潰すブラック企業
〔社会福祉人銘記〕セツルメント運動の指導者　賀川豊彦
第12回　性的多様性について考える
〔社会福祉人銘記〕日本のマザーテレサ　井深八重
第13回　奨学金と若者の貧困
第14回　まとめ：一人でもやる。一人でもやらない。
第15回　授業のふりかえり
第16回　試験

履修上の注意点

実存的態度（パウル・ティリッヒ）を傾けてのぞんでください。

教科書

社会福祉の見方・考え方
著者：　吉田明弘
出版社：八千代出版
出版年：2018年　　ISBN：　3月刊行予定

参考書

社会福祉の理論（改訂版）
著者：　大野光彦編著
出版社：八千代出版
出版年：2001年　　ISBN：　4842912197

成績評価

a30101e450

試験・レポート（ 60 ）	小テスト（ 15 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 25 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育原理**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池上　貴美子	

テーマ

保育とは何か、その基本について理解する

授業の到達目標

1　保育の意義、基本的考え方を理解する
2　保育の思想、歴史を学び、現代の保育理論の特質を理解する
3　日本の保育の制度について理解する
4　子どもを見る視点を学び、保育の課題について理解する
5　保育実践の基本－保育のねらい、内容、方法、計画、評価－について理解する

授業の概要

子どもが育つためには何が必要か、現代社会における保育の役割・意義、保育の歴史・思想・制度、保育者の役割など保育に関わる基本的意事項を概説する。子どもの発達過程に応じた保育の内容、環境、方法、形態など実践的展開に関わる問題を取り上げる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

保育に関わる様々な事象について関心を持って情報収集を行い、考察してください。授業後には、授業内容について自分で振り返り、整理すること

内　　容

第1回　保育の理念と概念　子どもの最善の利益
第2回　保育の社会的役割と責任
第3回　保育の制度的位置づけ
第4回　保育所保育指針に基づく保育
第5回　乳幼児期の発達過程と保育
第6回　保育の特性と保育実践
第7回　保育の目標
第8回　保育の方法
第9回　保育の計画・実践・評価
第10回　諸外国の保育の思想と歴史１
第11回　諸外国の保育の思想と歴史２
第12回　日本の保育の思想と歴史
第13回　日本の保育の現状と課題
第14回　少子化時代における保育政策の展開　子育て支援　保護者支援
第15回　地域における保育の核となる　職員間の連携・研修
第16回　試験

履修上の注意点

2/3以上の出席がない場合は、試験を受けることを認めない。
遅刻3回で欠席1回とみなす。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

保育所保育指針
著者:　厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　　ISBN:

幼保連携型認定こども園教育・保育要領
著者:　内閣府
出版社:　フレーベル館
出版年:　　ISBN:

a30101e550

幼稚園教育要領

著者: 文部科学省

出版社: フレーベル館

出版年: ISBN:

保育原理 第4版

著者: 田岡由美子編

出版社: (株)みらい

出版年: 2018 ISBN: 978-4-86015-434

保育原理 第2版

著者: 天野珠路・北野幸子編

出版社: 中央法規

出版年: 2017 ISBN: 978-4-8058-5601

成績評価

試験・レポート（ 60 ） 小テスト（ ）

授業中課題 （ 20 ） 授業中発表等 （ ）

参加度 （ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**発達心理学**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　南 憲治	

テーマ

①乳幼児期から青年期までの人間の発達のプロセスと各発達段階の特徴 ②主要な発達理論 ③主な発達障害と障害に応じた支援の方法

授業の到達目標

乳幼児期から青年期までの人間の発達のプロセスと各発達段階の特徴、ならびに主要な発達理論について理解し、子どもの健全な成長・発達を支援するために必要とされる基礎的な知識や理論を習得する。また、主な発達障害の特徴について理解するとともに、障害に応じた支援の方法についても学ぶ。

授業の概要

毎回の授業は教科書を参照しつつ、配布資料に基づいて進める。適宜、視覚教材を利用し、子どもの発達について具体的に理解できるようにする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習の必要はないが、講義の内容を配布資料と教科書を基に自分で整理すること。

内　容

第1回　胎生期の発達（卵胎期・胎芽期・胎児期の特徴）
第2回　新生児の発達的特徴
第3回　乳児期の発達と発達の諸相
第4回　幼児期前半の発達と発達の諸相（表象の成立）
第5回　幼児期前半から幼児期後半への移行（4歳頃の発達的変化）
第6回　幼児期後半の発達と発達の諸相：①直観的思考段階の特徴
第7回　幼児期後半の発達と発達の諸相：②心の理論の獲得など
第8回　児童期前半の発達と発達の諸相（論理的思考の始まり）
第9回　児童期後半の発達と発達の諸相（9～10歳の壁）
第10回　青年期の発達と発達の諸相：①青年期の発達課題（自我同一性の獲得）
第11回　青年期の発達と発達の諸相：②青年期に好発する精神疾患とその背景
第12回　ボウルビィの愛着理論
第13回　発達障害：①自閉症スペクトラム障害の特徴と支援のポイント
第14回　発達障害：②ADHDとLDの特徴と支援のポイント
第15回　まとめの課題

履修上の注意点

予習の必要性はないが、毎回授業の最後の行う確認テストにより、講義内容を自分で整理・確認して下さい。

教科書

よくわかる認知発達とその支援[第2版]
著者：　子安増生（編）
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2016　　ISBN：9784623078134

参考書

保育の心理学
著者：　新　保育士養成講座編纂委員会（編）
出版社：全国社会福祉協議会
出版年：2011年　　ISBN：9784793510311

0歳ー6歳　子どもの発達と保育の本
著者：　港区保育を学ぶ会
出版社：学研
出版年：2011年　　ISBN：9784054048911

成績評価

試験・レポート（ 70% ）　　小テスト（ 30% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

a30101e650

参加度 （ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**こどもの保健Ⅰ－1**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　齋藤　洋子	

テーマ

子どもの健やかな成長発達を支援するために必要な基礎的知識を学ぶ

授業の到達目標

子どもの健やかな成長発達を図る保健活動の意義を理解する。乳幼児の成長発達の特徴を理解する。子どもの精神保健とその課題等について理解する。

授業の概要

テキストを中心に講義を進めるが、必要に応じて資料の配布、DVDの視聴も行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストを読んで授業に臨み、疑問点は積極的に調べたり質問してほしい。

内　容

第1回　子どもの健康と保健の意義
第2回　子どもの健康と統計
第3回　子どもの成長と発達Ⅰ(子どもの発育と環境因子・特徴・胎児の発育)
第4回　子どもの成長と発達Ⅱ(生理機能の発達―循環・呼吸・消化・排泄)
第5回　子どもの成長と発達Ⅲ(生理機能の発達―免疫・体温・感覚器・歯・骨)
第6回　子どもの成長と発達Ⅳ(乳幼児の身体発育)
第7回　子どもの成長と発達Ⅴ(神経系の構造と発達)
第8回　子どもの成長と発達Ⅵ(運動機能)
第9回　子どもの成長と発達Ⅶ(精神機能―認知・情緒)
第10回　子どもの成長と発達Ⅷ(精神機能－社会性・情緒)
第11回　子どもの精神保健
第12回　子どもの生活と保健Ⅰ(栄養)
第13回　子どもの生活と保健Ⅱ(乳幼児と食)
第14回　子どもの生活と保健Ⅲ(排泄・睡眠・衣服)
第15回　子どもの生活と保健Ⅳ(清潔・遊び)
※なお、この授業では必要に応じて講演会を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

保育を学ぶ人のための子どもの保健Ⅰ
著者:　堀浩樹・梶美保　編著
出版社:　建帛社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 80 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ指導技術入門（小学校）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　新家　竜介	

テーマ

コミュニケーションの一形態であるディベート・討論を基礎から学ぶ。

授業の到達目標

公的なテーマについて異なる立場から議論を戦わせるディベート・討論の実践スキルを習得します。このスキルは、論文執筆やゼミ発表など今後の学生生活で必要となる様々な知的能力の基盤にもなります。また、ディベートの体験を通して、その指導スキルの習得もめざします。

授業の概要

ディベートの一種であるポリシーディベート（アカデミックディベート）の基礎概念を学習した上で、チームを組みポリシーディベートの試合を体験します。ポリシーディベートは、コミュニケーション能力をはじめ、論理的思考力・批判的思考力や多角的視点など、様々な知的能力の涵養を図る一種の教育・学習ゲームです。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で提示する課題や、チーム対抗戦に向けた準備に取り組んでください。また、身の回りの様々な議論について「なぜそう言えるのか」「だから何が言えるのか」「本当に言えるのか」などと批判的に考えつつ、それらの問いに論理的に応える習慣を身につけることが望まれます。

内　容

第1回　ディベートの基礎 (1) ディベートとは
第2回　ディベートの基礎 (2) ポリシーディベートとは
第3回　クリティカルシンキングの基礎
第4回　コミュニケーションの基礎
第5回　ポリシーディベート「審査」
第6回　ポリシーディベート「立論」
第7回　ポリシーディベート「質疑」
第8回　ポリシーディベート「反駁」
第9回　チーム対抗戦の準備 (1) 立論を考える
第10回 チーム対抗戦の準備 (2) 質疑・反駁を考える
第11回 チーム対抗戦 (1)
第12回 チーム対抗戦 (2)
第13回 チーム対抗戦 (3)
第14回 チーム対抗戦 (4)
第15回 ディベート教育の基礎・総括

履修上の注意点

この授業は、個人・グループでの演習を中心に進めますので、積極的な参加が求められます。
また、4月9日（月）から6月11日（月）までの集中講義となるため、履修前・登録後に日程を充分確認してください。
なお、授業計画の内容は、履修者数や受講生の意欲・能力などによって変更する場合があります。

教科書

必要に応じて教室で資料を配布する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

はじめてのディベート
著者:　西部直樹
出版社:　あさ出版
出版年:　2009　　ISBN:　4860633148

中等教育におけるディベートの研究
著者:　池田修
出版社:　大学図書出版
出版年:　2008　　ISBN:　4903060365

a30101e810

やっているつもりだけどなかなかできない伝え方のルール

著者: 新家竜介

出版社: 明日香出版社

出版年: 2012 ISBN: 4756915663

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ 50 ）

参加度（ 50 ）

授業の到達目標をどの程度達成できたかを、「授業中発表」は発言・発表の内容から、「参加度」は発言・発表の姿勢から、それぞれ総合的に判断します。いずれも所謂「出席点」ではないものの、授業に出席した上で発言・発表することが成績評価の大前提となります。

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ〈＊A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西村　徳寿	

テーマ

現代社会における子どもや人間に関わる問題について考える。

授業の到達目標

①現代の社会状況を知り、子どもや人間を取り囲む問題を理解する。②文献を検索し、まとめる力をつける。

授業の概要

①新聞記事や学術雑誌などの論文を中心とする文献を読み、難しい語句を調べ、レジュメを作成して発表する。②意見の交流を通して、子どもや人間を取り巻く問題についての理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読んでおく。

内　容

第1回　授業の進め方:オリエンテーション
第2回　クラス活動の計画作り、各委員の役割と分担
第3回　文献検索の方法
第4回　クラス活動
第5回　「子どもが楽しめる企画」についての話し合い
第6回　文献講読と討論①
第7回　文献講読と討論②
第8回　文献講読と討論③
第9回　文献講読と討論④
第10回　文献講読と討論⑤
第11回　文献講読と討論⑥
第12回　文献講読と討論⑦
第13回　「子どもが楽しめる企画」の計画①
第14回　「子どもが楽しめる企画」の計画②
第15回　総括と今後の課題
※なお、この授業では必要に応じて、学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ〈＊B〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　倉持　祐二	

テーマ

現代社会における子どもや人間に関わる問題について考える。

授業の到達目標

①現代の社会状況を知り、子どもや人間を取り囲む問題を理解する。②文献を検索し、まとめる力をつける。

授業の概要

①新聞記事や学術雑誌などの論文を中心とする文献を読み、難しい語句を調べ、レジュメを作成して発表する。②意見の交流を通して、子どもや人間を取り巻く問題についての理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読んでおく。

内　容

第1回　授業の進め方:オリエンテーション
第2回　クラス活動の計画作り、各委員の役割と分担
第3回　文献検索の方法
第4回　クラス活動
第5回　「子どもが楽しめる企画」についての話し合い
第6回　文献講読と討論①
第7回　文献講読と討論②
第8回　文献講読と討論③
第9回　文献講読と討論④
第10回　文献講読と討論⑤
第11回　文献講読と討論⑥
第12回　文献講読と討論⑦
第13回　「子どもが楽しめる企画」の計画①
第14回　「子どもが楽しめる企画」の計画②
第15回　総括と今後の課題
※なお、この授業では必要に応じて、学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ〈＊C〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池田　修	

テーマ

現代社会における子どもや人間に関わる問題について考える。

授業の到達目標

①現代の社会状況を知り、子どもや人間を取り囲む問題を理解する。②文献を検索し、まとめる力をつける。

授業の概要

①新聞記事や学術雑誌などの論文を中心とする文献を読み、難しい語句を調べ、レジュメを作成して発表する。②意見の交流を通して、子どもや人間を取り巻く問題についての理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読んでおく。

内　　容

第1回　授業の進め方:オリエンテーション
第2回　クラス活動の計画作り、各委員の役割と分担
第3回　文献検索の方法
第4回　クラス活動
第5回　「子どもが楽しめる企画」についての話し合い
第6回　文献講読と討論①
第7回　文献講読と討論②
第8回　文献講読と討論③
第9回　文献講読と討論④
第10回　文献講読と討論⑤
第11回　文献講読と討論⑥
第12回　文献講読と討論⑦
第13回　「子どもが楽しめる企画」の計画①
第14回　「子どもが楽しめる企画」の計画②
第15回　総括と今後の課題
※なお、この授業では必要に応じて、学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ〈＊D〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池上　貴美子	

テーマ

現代社会における子どもや人間に関わる問題について考える。

授業の到達目標

①現代の社会状況を知り、子どもや人間を取り囲む問題を理解する。②文献を検索し、まとめる力をつける。

授業の概要

①新聞記事や学術雑誌などの論文を中心とする文献を読み、難しい語句を調べ、レジュメを作成して発表する。②意見の交流を通して、子どもや人間を取り巻く問題についての理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読んでおく。

内　容

第1回　授業の進め方:オリエンテーション
第2回　クラス活動の計画作り、各委員の役割と分担
第3回　文献検索の方法
第4回　クラス活動
第5回　「子どもが楽しめる企画」についての話し合い
第6回　文献講読と討論①
第7回　文献講読と討論②
第8回　文献講読と討論③
第9回　文献講読と討論④
第10回　文献講読と討論⑤
第11回　文献講読と討論⑥
第12回　文献講読と討論⑦
第13回　「子どもが楽しめる企画」の計画①
第14回　「子どもが楽しめる企画」の計画②
第15回　総括と今後の課題
※なお、この授業では必要に応じて、学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ〈＊E〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐野　仁美	

テーマ

現代社会における子どもや人間に関わる問題について考える。

授業の到達目標

①現代の社会状況を知り、子どもや人間を取り囲む問題を理解する。②文献を検索し、まとめる力をつける。

授業の概要

①新聞記事や学術雑誌などの論文を中心とする文献を読み、難しい語句を調べ、レジュメを作成して発表する。②意見の交流を通して、子どもや人間を取り巻く問題についての理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読んでおく。

内　容

第1回　授業の進め方:オリエンテーション
第2回　クラス活動の計画作り、各委員の役割と分担
第3回　文献検索の方法
第4回　クラス活動
第5回　「子どもが楽しめる企画」についての話し合い
第6回　文献講読と討論①
第7回　文献講読と討論②
第8回　文献講読と討論③
第9回　文献講読と討論④
第10回　文献講読と討論⑤
第11回　文献講読と討論⑥
第12回　文献講読と討論⑦
第13回　「子どもが楽しめる企画」の計画①
第14回　「子どもが楽しめる企画」の計画②
第15回　総括と今後の課題
※なお、この授業では必要に応じて、学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ〈＊F〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　長橋　聡	

テーマ

現代社会における子どもや人間に関わる問題について考える。

授業の到達目標

①現代の社会状況を知り、子どもや人間を取り囲む問題を理解する。②文献を検索し、まとめる力をつける。

授業の概要

①新聞記事や学術雑誌などの論文を中心とする文献を読み、難しい語句を調べ、レジュメを作成して発表する。②意見の交流を通して、子どもや人間を取り巻く問題についての理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読んでおく。

内　容

第1回　授業の進め方:オリエンテーション
第2回　クラス活動の計画作り、各委員の役割と分担
第3回　文献検索の方法
第4回　クラス活動
第5回　「子どもが楽しめる企画」についての話し合い
第6回　文献講読と討論①
第7回　文献講読と討論②
第8回　文献講読と討論③
第9回　文献講読と討論④
第10回　文献講読と討論⑤
第11回　文献講読と討論⑥
第12回　文献講読と討論⑦
第13回　「子どもが楽しめる企画」の計画①
第14回　「子どもが楽しめる企画」の計画②
第15回　総括と今後の課題
※なお、この授業では必要に応じて、学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ〈＊G〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　南 憲治	

テーマ

現代社会における子どもや人間に関わる問題について考える。

授業の到達目標

①現代の社会状況を知り、子どもや人間を取り囲む問題を理解する。②文献を検索し、まとめる力をつける。

授業の概要

①新聞記事や学術雑誌などの論文を中心とする文献を読み、難しい語句を調べ、レジュメを作成して発表する。②意見の交流を通して、子どもや人間を取り巻く問題についての理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読んでおく。

内　容

第1回　授業の進め方:オリエンテーション
第2回　クラス活動の計画作り、各委員の役割と分担
第3回　文献検索の方法
第4回　クラス活動
第5回　「子どもが楽しめる企画」についての話し合い
第6回　文献講読と討論①
第7回　文献講読と討論②
第8回　文献講読と討論③
第9回　文献講読と討論④
第10回　文献講読と討論⑤
第11回　文献講読と討論⑥
第12回　文献講読と討論⑦
第13回　「子どもが楽しめる企画」の計画①
第14回　「子どもが楽しめる企画」の計画②
第15回　総括と今後の課題
※なお、この授業では必要に応じて、学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ〈＊A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西村　徳寿	

テーマ

現代社会における子どもや人間を取り巻く問題について考え、討論する。

授業の到達目標

①現代社会における子どもや人間に関する文献を読み込み、理解を深める。②プレゼンテーションの方法を知り、筋道を立ててわかりやすく伝える力を養う。

授業の概要

①各ゼミの担当者の専門性に基づいて選択された文献を精読し、難しい語句を調べてレジュメを作成し、発表する。②そこから生じる発展的な問題について討論を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読んでおく。

内　容

第1回　授業の進め方、オリエンテーション
第2回　「子どもが楽しめる企画」の内容検討と準備①
第3回　「子どもが楽しめる企画」の内容検討と準備②
第4回　「子どもが楽しめる企画」の内容検討と準備③
第5回　「子どもが楽しめる企画」の振り返り
第6回　文献講読および討論①
第7回　文献講読および討論②
第8回　文献講読および討論③
第9回　文献講読および討論④
第10回　文献講読および討論⑤
第11回　文献講読および討論⑥
第12回　文献講読および討論⑦
第13回　文献講読および討論⑧
第14回　文献講読および討論⑨
第15回　学びの総括と今後の課題

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ〈＊B〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　倉持　祐二	

テーマ

現代社会における子どもや人間を取り巻く問題について考え、討論する。

授業の到達目標

①現代社会における子どもや人間に関する文献を読み込み、理解を深める。②プレゼンテーションの方法を知り、筋道を立ててわかりやすく伝える力を養う。

授業の概要

①各ゼミの担当者の専門性に基づいて選択された文献を精読し、難しい語句を調べてレジュメを作成し、発表する。②そこから生じる発展的な問題について討論を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読んでおく。

内　容

第1回　授業の進め方、オリエンテーション
第2回　「子どもが楽しめる企画」の内容検討と準備①
第3回　「子どもが楽しめる企画」の内容検討と準備②
第4回　「子どもが楽しめる企画」の内容検討と準備③
第5回　「子どもが楽しめる企画」の振り返り
第6回　文献講読および討論①
第7回　文献講読および討論②
第8回　文献講読および討論③
第9回　文献講読および討論④
第10回　文献講読および討論⑤
第11回　文献講読および討論⑥
第12回　文献講読および討論⑦
第13回　文献講読および討論⑧
第14回　文献講読および討論⑨
第15回　学びの総括と今後の課題

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ〈＊C〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　三上　周治	

テーマ

現代社会における子どもや人間を取り巻く問題について考え、討論する。

授業の到達目標

①現代社会における子どもや人間に関する文献を読み込み、理解を深める。②プレゼンテーションの方法を知り、筋道を立ててわかりやすく伝える力を養う。

授業の概要

①各ゼミの担当者の専門性に基づいて選択された文献を精読し、難しい語句を調べてレジュメを作成し、発表する。②そこから生じる発展的な問題について討論を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読んでおく。

内　容

第1回　授業の進め方、オリエンテーション
第2回　「子どもが楽しめる企画」の内容検討と準備①
第3回　「子どもが楽しめる企画」の内容検討と準備②
第4回　「子どもが楽しめる企画」の内容検討と準備③
第5回　「子どもが楽しめる企画」の振り返り
第6回　文献講読および討論①
第7回　文献講読および討論②
第8回　文献講読および討論③
第9回　文献講読および討論④
第10回　文献講読および討論⑤
第11回　文献講読および討論⑥
第12回　文献講読および討論⑦
第13回　文献講読および討論⑧
第14回　文献講読および討論⑨
第15回　学びの総括と今後の課題

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ〈＊D〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池上　貴美子	

テーマ

現代社会における子どもや人間を取り巻く問題について考え、討論する。

授業の到達目標

①現代社会における子どもや人間に関する文献を読み込み、理解を深める。②プレゼンテーションの方法を知り、筋道を立ててわかりやすく伝える力を養う。

授業の概要

①各ゼミの担当者の専門性に基づいて選択された文献を精読し、難しい語句を調べてレジュメを作成し、発表する。②そこから生じる発展的な問題について討論を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読んでおく。

内　容

第1回　授業の進め方、オリエンテーション
第2回　「子どもが楽しめる企画」の内容検討と準備①
第3回　「子どもが楽しめる企画」の内容検討と準備②
第4回　「子どもが楽しめる企画」の内容検討と準備③
第5回　「子どもが楽しめる企画」の振り返り
第6回　文献講読および討論①
第7回　文献講読および討論②
第8回　文献講読および討論③
第9回　文献講読および討論④
第10回　文献講読および討論⑤
第11回　文献講読および討論⑥
第12回　文献講読および討論⑦
第13回　文献講読および討論⑧
第14回　文献講読および討論⑨
第15回　学びの総括と今後の課題

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ〈＊E〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐野　仁美	

テーマ

現代社会における子どもや人間を取り巻く問題について考え、討論する。

授業の到達目標

①現代社会における子どもや人間に関する文献を読み込み、理解を深める。②プレゼンテーションの方法を知り、筋道を立ててわかりやすく伝える力を養う。

授業の概要

①各ゼミの担当者の専門性に基づいて選択された文献を精読し、難しい語句を調べてレジュメを作成し、発表する。②そこから生じる発展的な問題について討論を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読んでおく。

内　容

第1回　授業の進め方、オリエンテーション
第2回　「子どもが楽しめる企画」の内容検討と準備①
第3回　「子どもが楽しめる企画」の内容検討と準備②
第4回　「子どもが楽しめる企画」の内容検討と準備③
第5回　「子どもが楽しめる企画」の振り返り
第6回　文献講読および討論①
第7回　文献講読および討論②
第8回　文献講読および討論③
第9回　文献講読および討論④
第10回　文献講読および討論⑤
第11回　文献講読および討論⑥
第12回　文献講読および討論⑦
第13回　文献講読および討論⑧
第14回　文献講読および討論⑨
第15回　学びの総括と今後の課題

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ <＊F>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　大久保　恭子	

テーマ

現代社会における子どもや人間を取り巻く問題について考え、討論する。

授業の到達目標

①現代社会における子どもや人間に関する文献を読み込み、理解を深める。②プレゼンテーションの方法を知り、筋道を立ててわかりやすく伝える力を養う。

授業の概要

①各ゼミの担当者の専門性に基づいて選択された文献を精読し、難しい語句を調べてレジュメを作成し、発表する。②そこから生じる発展的な問題について討論を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読んでおく。

内　容

第1回　授業の進め方、オリエンテーション
第2回　「子どもが楽しめる企画」の内容検討と準備①
第3回　「子どもが楽しめる企画」の内容検討と準備②
第4回　「子どもが楽しめる企画」の内容検討と準備③
第5回　「子どもが楽しめる企画」の振り返り
第6回　文献講読および討論①
第7回　文献講読および討論②
第8回　文献講読および討論③
第9回　文献講読および討論④
第10回　文献講読および討論⑤
第11回　文献講読および討論⑥
第12回　文献講読および討論⑦
第13回　文献講読および討論⑧
第14回　文献講読および討論⑨
第15回　学びの総括と今後の課題

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ〈＊G〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森本　美絵	

テーマ

現代社会における子どもや人間を取り巻く問題について考え、討論する。

授業の到達目標

①現代社会における子どもや人間に関する文献を読み込み、理解を深める。②プレゼンテーションの方法を知り、筋道を立ててわかりやすく伝える力を養う。

授業の概要

①各ゼミの担当者の専門性に基づいて選択された文献を精読し、難しい語句を調べてレジュメを作成し、発表する。②そこから生じる発展的な問題について討論を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読んでおく。

内　容

第1回　授業の進め方、オリエンテーション
第2回　「子どもが楽しめる企画」の内容検討と準備①
第3回　「子どもが楽しめる企画」の内容検討と準備②
第4回　「子どもが楽しめる企画」の内容検討と準備③
第5回　「子どもが楽しめる企画」の振り返り
第6回　文献講読および討論①
第7回　文献講読および討論②
第8回　文献講読および討論③
第9回　文献講読および討論④
第10回　文献講読および討論⑤
第11回　文献講読および討論⑥
第12回　文献講読および討論⑦
第13回　文献講読および討論⑧
第14回　文献講読および討論⑨
第15回　学びの総括と今後の課題

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育制度論(初)〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小田　義隆	

テーマ

教育課程と教育制度のあり方を考える

授業の到達目標

教育課程に関する教育制度の一般的な学習を通して，今日的課題や問題点に対する認識を深め，今後の教育課程と教育制度のあり方を考える資質・能力を養う。

授業の概要

教育課程と教育制度に関する基礎的・基本的な知識の内容と実践的な内容で学習していきます。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

テキストの該当箇所を熟読して参加すること(予習60分)。
テキストの該当箇所を復習し理解を深めること(復習60分)。

内　容

第1回　授業の説明等(大学における「教職」)(イントロダックション)
第2回　教育課程に関する法制　①(教育課程とその基準)
第3回　教育課程に関する法制　②(教育課程に関する法令)
第4回　学習指導要領の法的性格
第5回　学習指導要領の変遷
第6回　学習指導要領の内容と特徴
第7回　新学習指導要領の内容と特徴
第8回　わが国の教育の目的と方針
第9回　学校教育の目的と目標
第10回　教育法規の体系と適用
第11回　学校組織について
第12回　教師に求められる資質・能力
第13回　教師の研修
第14回　教育職員について
第15回　まとめ

履修上の注意点

教育に関する情報や資料(テレビ，ラジオ，新聞，教育雑誌等)に目を配るようにして下さい。

教科書

現代教育制度論　第4刷
著者:　土屋基規
出版社: ミネルバ書房
出版年: 2015　　ISBN:　9784623058358

参考書

成績評価

試験・レポート（ 70 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）
授業内容の理解度を確認するレポートを課すため全回出席が望ましい。

2018 Syllabus

科 目 名　**教育制度論(初)〈b〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小田　義隆	

テーマ

教育課程と教育制度のあり方を考える

授業の到達目標

教育課程に関する教育制度の一般的な学習を通して，今日的課題や問題点に対する認識を深め，今後の教育課程と教育制度のあり方を考える資質・能力を養う。

授業の概要

教育課程と教育制度に関する基礎的・基本的な知識の内容と実践的な内容で学習していきます。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

テキストの該当箇所を熟読して参加すること(予習60分)。
テキストの該当箇所を復習し理解を深めること(復習60分)。

内　容

第1回　授業の説明等(大学における「教職」)(イントロダックション)
第2回　教育課程に関する法制　①(教育課程とその基準)
第3回　教育課程に関する法制　②(教育課程に関する法令)
第4回　学習指導要領の法的性格
第5回　学習指導要領の変遷
第6回　学習指導要領の内容と特徴
第7回　新学習指導要領の内容と特徴
第8回　わが国の教育の目的と方針
第9回　学校教育の目的と目標
第10回　教育法規の体系と適用
第11回　学校組織について
第12回　教師に求められる資質・能力
第13回　教師の研修
第14回　教育職員について
第15回　まとめ

履修上の注意点

教育に関する情報や資料(テレビ，ラジオ，新聞，教育雑誌等)に目を配るようにして下さい。

教科書

現代教育制度論　第4刷
著者:　土屋基規
出版社: ミネルバ書房
出版年: 2015　　ISBN:　9784623058358

参考書

成績評価

試験・レポート（ 70 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）
授業内容の理解度を確認するレポートを課すため全回出席が望ましい。

2018 Syllabus

科 目 名　**教育課程論(初)〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森　枝美	

テーマ

教育課程の構造と教育実践

授業の到達目標

教育課程の基礎的な用語の理解をふまえ、「なぜ学校における教育課程なのか」を考えながら問題の整理を行い教育課程づくりのイメージがつかめるようにする。

授業の概要

1つには、「なぜ学校なのか」という本質論議をふまえた学校を基礎とする教育課程づくりの意味、2つには、子どもの成長と発達にかかわる教育課程の内容構成におけるスコープとシークェンスの構造論議、3つには、目標・内容・方法・評価など、実践過程の事実によって検証され、再構成される教育課程づくりの意味などをとりあげる。具体的事例として、とくに書き言葉成立後の思春期にかかわる教育課程の実践をとりあげたい。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

内　容

第1回　教育課程の構造と意味
第2回　内申書、通知票について
第3回　目標と評価のあり方
第4回　観点別評価の意味
第5回　教育実践評価と授業公開(初等)
第6回　学習指導要領と内容の基準化原理(初等)
第7回　教科書の採択システム
第8回　教科書づくり
第9回　教科と教科外の教育方法(初等)
第10回　総合学習について(初等)
第11回　身体と教育課程(初等)
第12回　教育課程と授業づくり(初等)
第13回　思春期の教育階梯
第14回　SNE(特別なニーズ教育)について
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

よく新聞・雑誌などを読み、教育課程編成と社会とのかかわりについて考えること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

よくわかる教育課程
著者:　田中耕治編著
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2009　　ISBN:

新しい教育課程　第3版
著者:　田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵
出版社:　有斐閣
出版年:　2011　　ISBN:

成績評価

試験・レポート (30%)	小テスト ( )
授業中課題 (50%)	授業中発表等 (20%)
参加度 ( )	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育課程論(初)〈b〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森　枝美	

テーマ

教育課程の構造と教育実践

授業の到達目標

教育課程の基礎的な用語の理解をふまえ、「なぜ学校における教育課程なのか」を考えながら問題の整理を行い教育課程づくりのイメージがつかめるようにする。

授業の概要

1つには、「なぜ学校なのか」という本質論議をふまえた学校を基礎とする教育課程づくりの意味、2つには、子どもの成長と発達にかかわる教育課程の内容構成におけるスコープとシークェンスの構造論議、3つには、目標・内容・方法・評価など、実践過程の事実によって検証され、再構成される教育課程づくりの意味などをとりあげる。具体的事例として、とくに書き言葉成立後の思春期にかかわる教育課程の実践をとりあげたい。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

内　容

第1回　教育課程の構造と意味
第2回　内申書、通知票について
第3回　目標と評価のあり方
第4回　観点別評価の意味
第5回　教育実践評価と授業公開(初等)
第6回　学習指導要領と内容の基準化原理(初等)
第7回　教科書の採択システム
第8回　教科書づくり
第9回　教科と教科外の教育方法(初等)
第10回　総合学習について(初等)
第11回　身体と教育課程(初等)
第12回　教育課程と授業づくり(初等)
第13回　思春期の教育階梯
第14回　SNE(特別なニーズ教育)について
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

よく新聞・雑誌などを読み、教育課程編成と社会とのかかわりについて考えること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

よくわかる教育課程
著者:　田中耕治編著
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2009　　ISBN:

新しい教育課程　第3版
著者:　田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵
出版社:　有斐閣
出版年:　2011　　ISBN:

成績評価

試験・レポート (30%)	小テスト ( )
授業中課題 (50%)	授業中発表等 (20%)
参加度 ( )	

2018 Syllabus

科 目 名　**道徳教育の理論と方法（初）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　岩本　賢治	

テーマ

学校教育における道徳教育の可能性

授業の到達目標

道徳概念の基本的意味を明らかにしながら、現代日本の学校教育においてどのような道徳教育が可能か、色々な角度から実践的に考えることを課題とする。

授業の概要

前半の授業は講義形式を基本とするが、後半の授業では、主として「道徳の時間」においてどのような授業が可能なのかを実践的に追究していきたい。また、現場の先生を呼んで、道徳教育のユニークな実践例をはなしてもらう予定である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

現代の道徳教育の諸問題について日常から関心を持ち、新聞やテレビ・ラジオ・インターネット等による情報を得て、授業中に発表できるようにしておく。

内　　容

第1回　道徳とは何か
第2回　道徳教育の歴史（明治以降）
第3回　道徳教育の歴史（戦後）
第4回　日本の学校教育の現実
第5回　小学校におけるにおける道徳教育の捉え方
第6回　小学生の道徳的発達の特徴
第7回　全面主義と特設主義
第8回　全面主義を前提とした特設主義
第9回　道徳の時間と各教科の関係
第10回　道徳教育と特別活動、総合学習との関係
第11回　道徳教育の要としての道徳の時間
第12回　道徳の時間の展開の仕方
第13回　家庭、地域と道徳教育
第14回　現場における道徳教育の実践例
第15回　評価の問題とまとめ

履修上の注意点

ニュースで報道される教育問題や、青少年の精神状況、道徳意識について常に関心を払うこと。

また、「学習指導要領解説　小学校　特別の教科　道徳編 」を使用する。
PDFファイルを下記の「参考URL」からダウンロードし、印刷したものを手元に置いておくこと。
※文部科学省のホームページからもダウンロードできます。

教科書

「履修上の注意点」に記載

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 40 ）	小テスト （ 15 ）
授業中課題 （ 15 ）	授業中発表等 （ 15 ）
参加度 （ 15 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**特別活動論(初)**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　秋期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　土作　彰	

テーマ

集団で学び合う意義

授業の到達目標

①特別活動の基本的な概念を理解すること。
②全教育活動の中で特別活動の視点を活かした学級経営、授業展開をいかに工夫するかを考察し理解すること。

授業の概要

講義は極力減らし、模擬授業を主に進める。その後、グループで授業づくり演習、検討会を行う。「教育現場では何が必要故、何をどのようにすべきなのか」という視点を常に持ち続けながら進めていく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

学校現場に立つ人間としてどういう心構えが必要か考えた上で受講すること。

内　容

第1回　授業ガイダンスと特別活動の内容・意義
第2回　特別活動と各教科・領域との関連
第3回　学級づくりと授業づくり(国語編)
第4回　学級づくりと授業づくり(算数・理科編)
第5回　学級崩壊を考える
第6回　授業づくり演習と検討(1～3班)
第7回　児童会活動・クラブ活動・学校行事(異学級、異学年の指導)
第8回　学級づくりと授業づくり(理科・社会編)
第9回　授業づくり演習と検討(4～6班)
第10回　学級づくりと授業づくり(道徳・学活編)
第11回　学級づくりと授業づくり(体育・図工編)
第12回　授業づくり演習と検討(7～9班)
第13回　授業の構成要素と「学級づくり」の関連性
第14回　まとめ
第15回　小学校現場の実態

履修上の注意点

様々な集団(教育集団は勿論のことバイト先やサークルなど)で、「自分一人だけでは決して身に付かない力は何か？」という視点を持ちながら毎日を大切に過ごして欲しい。また、特別活動に関する実践記録をたくさん読んで欲しい。

教科書

マンガでわかる学級崩壊の極意
著者:　土作　彰
出版社:　小学館
出版年:　2016　　ISBN:　9784098401604

参考書

成績評価

試験・レポート (30)	小テスト ( )
授業中課題 (20)	授業中発表等 ( )
参加度 (50)	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育方法論(初)**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　梅本　裕	

テーマ

＜授業をつくる＞方法への理解とイメージを育む

授業の到達目標

教授＝学習過程としての授業過程を理論的に把握するための基礎概念と基礎技法を習得するとともに学習指導要領に示される内容を正確に理解するための知識を身につけること。具体的には「教育目標」「教育内容」「教材」「教具」「教授行為」「理解構造」等の概念を用いて、ある授業を分析・診断でき、学習指導要領に即した改善のための処方的知見を得ることができるようになること。

授業の概要

80年代以降の日本の教育実践の中から典型的な授業と教材を選び、受講生諸君に可能な限り追体験してもらいながら、教育方法学の蓄積してきたカテゴリーシステムを活用して「生き生き学べる授業」の要件を考察する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

学習指導要領を手元に置き、必要なときにすぐに参照できるようにしておくこと。

内　容

第1回　「あの坂の名は？」社会科における発信型の授業とは何か？
第2回　「見たこと作文」子どもが＜動く＞授業の条件とは？
第3回　「木の葉の駅で」発問の構造
第4回　「発電所はどこにあるか？ 」教授行為とは何か？
第5回　授業づくりのカテゴリーとしての＜指示・発問・説明・応答・制御＞
第6回　「お化け屋敷で算数を」こどもたちの理解の構造をさぐる
第7回　「絵を描くのは苦手です」教育内容と方法の開発論理
第8回　「声を育てる音楽の授業」＜雰囲気のいい授業＞の構造は？
第9回　「世界とつながる、深く調べる」インターネットとコンピュータでできること
第10回 「蟹と戯れるのは誰か？」＜分析ツールを教える＞国語の授業
第11回 「オオカミ狩りはいいことか？」総合学習とは何か？
第12回 授業づくりの記号論的構造＜教育内容・教材・教具・授業行為・理解構造・評価＞
第13回 「これからの学校・授業と情報機器」授業の機能とITの活用
第14回 「地球の大きさはどれくらい？」イメージをそだてる授業の構造
第15回 まとめ

履修上の注意点

(1)新聞やテレビなどのマスメディアでの教育問題の紹介に注意を払い、理論的説明を試みることを期待する。
(2)小中高時代のノートや教科書があれば、それを手がかりにして、自分がどのような授業を受けたかを振り返ってみよう。
「教わったようには教えない」とするならば、どんな教え方が可能か調べてみよう。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 50 ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）

参加度（ ）

3分の2以上の出席が単位付与の前提である。実習などで授業を欠席する場合には「欠席届」を事前に提出するように。

2018 Syllabus

科 目 名　**教科教育法(算数)〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西村　徳寿	

テーマ

小学校算数の指導法を理解する

授業の到達目標

算数の教科書を検討し、わかりやすい教え方を考え、実践できる力をつける

授業の概要

それぞれの項目について、説明、演習と解説をもとに受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

優れたレポートや小テストの解答を評価して、講義中に紹介する。

内　容

第1回　小学校1年生の数概念指導
第2回　1位数の加法・減法
第3回　2位数の加法・減法
第4回　整数の乗法
第5回　整数の除法
第6回　小数とその加減
第7回　小数の乗除
第8回　分数とその加減
第9回　分数の乗除
第10回　外延量と測定
第11回　内包量
第12回　小学校の先生の講義
第13回　比例
第14回　図形
第15回　統計

履修上の注意点

宿題を出すのでしっかり取り組むこと。
授業中に小テストを随時行う。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

入門算数学
著者:　黒木哲徳
出版社:　日本評論社
出版年:　2009　　ISBN:　978-4-535785403

新訂　算数教育の理論と実際
著者:　数学教育研究会
出版社:　聖文新社
出版年:　2010　　ISBN:　978-4-792200985

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 20 ）

a30102d650

成績評価の前提は、講義にすべて出席していることである。
「参加度」とは、授業への参加態度や積極性などを総合的に判断したもの。
試験・レポートについては、授業中に指示を行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**教科教育法(算数)〈b〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西村　徳寿	

テーマ

小学校算数の指導法を理解する

授業の到達目標

算数の教科書を検討し、わかりやすい教え方を考え、実践できる力をつける

授業の概要

それぞれの項目について、説明、演習と解説をもとに受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

優れたレポートや小テストの解答を評価して、講義中に紹介する。

内　容

第1回　小学校1年生の数概念指導
第2回　1位数の加法・減法
第3回　2位数の加法・減法
第4回　整数の乗法
第5回　整数の除法
第6回　小数とその加減
第7回　小数の乗除
第8回　分数とその加減
第9回　分数の乗除
第10回　外延量と測定
第11回　内包量
第12回　小学校の先生の講義
第13回　比例
第14回　図形
第15回　統計

履修上の注意点

宿題を出すのでしっかり取り組むこと。
授業中に小テストを随時行う。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

入門算数学
著者:　黒木哲徳
出版社:　日本評論社
出版年:　2009　　ISBN:　978-4-535785403

新訂　算数教育の理論と実際
著者:　数学教育研究会
出版社:　聖文新社
出版年:　2010　　ISBN:　978-4-792200985

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 20 ）

a30102d652

成績評価の前提は、講義にすべて出席していることである。
「参加度」とは、授業への参加態度や積極性などを総合的に判断したもの。
試験・レポートについては、授業中に指示を行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**教科教育法（理科）<a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　三上　周治	

テーマ

子どもがわかって楽しい理科の授業が出来る教師になるための力をつける

授業の到達目標

小学校の理科は3年、4年、5年、6年の4学年であるが、この4年で子どもたちの認識発達は大きく変化する。各学年の子どもたちの発達に応じて、またその内容と方法に即して、子どもたちが集団の力で課題に向き合い自然を認識して行けるように組織して行く力量をつける。

授業の概要

学習指導要領の理科の目標、内容及び指導法について述べる。理科の内容は、物質・エネルギー、生命・地球の2領域である。
この内容を児童の発達段階に応じて、観察や実験を通して究明する。また、指導計画・学習指導案・観察実験中の事故防止等についても扱う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　理科教育法と生活科教育法のねがい、学び方。学習指導要領と学年配列・年間計画「ふえ」づくり／厚紙のうぐいす笛／ストロー笛／「こま」づくり／紙テープのコマ
第2回　「音と光」音は振動。音の伝わり方。光の直進生。光の反射。
第3回　「くうき」（ものの場所性・不可入性）
第4回　熱と温度／熱の伝導と熱の移動（対流・輻射）熱によるものの変化（Ⅰ）：膨張
第5回　熱によるものの変化（Ⅱ）：三態変化／300度の水蒸気。食塩の溶融。鉛・鉄と銅の溶融
第6回　種の実りと種の拡散
第7回　気体と燃焼＝気体
第8回　気体と燃焼＝燃焼
第9回　豆電球のつなぎ方＝回路／金属の3つの性質／光電池
第10回　磁石の性質とはたらき（小3＆小6）／磁石ごまの製作
第11回　電磁石の性質とはたらき／電磁石づくり
第12回　「やじろべえ」を教材化する
第13回　「ものの溶け方」と「太陽・月の満ち欠け・星のうごき」
第14回　水溶液の性質とはたらき（1）＝酸性の水溶液
第15回　水溶液の性質とはたらき（2）＝アルカリ性の水溶液

履修上の注意点

（1）小学校現場での理科の授業を参観し授業の進め方について学ぶ。
（2）学んだことをA4、1頁の教科通信風に仕立てて交流する。

教科書

教科教育学シリーズ04　理科教育
著者:
出版社:　一藝社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教科教育法（理科）<b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　三上　周治	

テーマ

子どもがわかって楽しい理科の授業が出来る教師になるための力をつける

授業の到達目標

小学校の理科は3年、4年、5年、6年の4学年であるが、この4年で子どもたちの認識発達は大きく変化する。各学年の子どもたちの発達に応じて、またその内容と方法に即して、子どもたちが集団の力で課題に向き合い自然を認識して行けるように組織して行く力量をつける。

授業の概要

学習指導要領の理科の目標、内容及び指導法について述べる。理科の内容は、物質・エネルギー、生命・地球の2領域である。
この内容を児童の発達段階に応じて、観察や実験を通して究明する。また、指導計画・学習指導案・観察実験中の事故防止等についても扱う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　理科教育法と生活科教育法のねがい、学び方。学習指導要領と学年配列・年間計画「ふえ」づくり／厚紙のうぐいす笛／ストロー笛／「こま」づくり／紙テープのコマ
第2回　「音と光」音は振動。音の伝わり方。光の直進生。光の反射。
第3回　「くうき」（ものの場所性・不可入性）
第4回　熱と温度／熱の伝導と熱の移動（対流・輻射）熱によるものの変化（Ⅰ）：膨張
第5回　熱によるものの変化（Ⅱ）：三態変化／300度の水蒸気。食塩の溶融。鉛・鉄と銅の溶融
第6回　種の実りと種の拡散
第7回　気体と燃焼＝気体
第8回　気体と燃焼＝燃焼
第9回　豆電球のつなぎ方＝回路／金属の3つの性質／光電池
第10回　磁石の性質とはたらき（小3＆小6）／磁石ごまの製作
第11回　電磁石の性質とはたらき／電磁石づくり
第12回　「やじろべえ」を教材化する
第13回　「ものの溶け方」と「太陽・月の満ち欠け・星のうごき」
第14回　水溶液の性質とはたらき（1）＝酸性の水溶液
第15回　水溶液の性質とはたらき（2）＝アルカリ性の水溶液

履修上の注意点

（1）小学校現場での理科の授業を参観し授業の進め方について学ぶ。
（2）学んだことをA4、1頁の教科通信風に仕立てて交流する。

教科書

教科教育学シリーズ04　理科教育
著者:
出版社:　一藝社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教科教育法(音楽)〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐野 仁美	

テーマ

音楽授業をつくる

授業の到達目標

(1)小学校の音楽授業を構成することのできる能力を育てる。
(2)授業を進めるための実践的な方法を理解する。
(3)特色のある音楽授業を参考に、複数の観点から授業を計画し、適切な方法を提案することができる。

授業の概要

それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

予習:音楽および音楽教育に関する本や雑誌を読む。
復習:小学校音楽科の授業の立案、模擬授業を行えるよう、授業内容や授業の中で理解した点を整理しておく。

内　容

第1回　オリエンテーション－音楽科教育の目的
第2回　表現・歌唱－共通教材
第3回　表現・歌唱－教科書歌唱教材
第4回　表現・歌唱－合唱曲、世界の歌
第5回　表現・歌唱と器楽―リズム
第6回　表現・器楽－リコーダー、鍵盤ハーモニカ
第7回　表現・器楽－合奏
第8回　表現・創作-音楽づくりと手作り楽器
第9回　鑑賞－鑑賞教材による授業づくり
第10回　国際理解／異文化理解に挑戦する授業
第11回　授業行為と音楽授業
第12回　実践事例から学ぶ
第13回　指導案の作成と準備
第14回　模擬授業－器楽・創作
第15回　模擬授業－歌唱

履修上の注意点

(1)小学校で受けた音楽授業を振り返り、音楽授業の意義と課題について考える。
(2)音楽、音楽教育関連の雑誌、本を読む。

教科書

最新初等科音楽教育法2017年告示小学校学習指導要領準拠
著者:　初等科音楽教育研究会
出版社:　音楽之友社
出版年:　2018　　ISBN:　9784276821019

小学校学習指導要領解説 音楽編
著者:
出版社:　東洋館
出版年:　2018　　ISBN:　9784491034652

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20% ）　　小テスト（ 20% ）
授業中課題（ 20% ）　　授業中発表等（ 20% ）
参加度（ 20% ）
ソプラノ・リコーダーを用意すること。授業における積極的な取り組みを重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**教科教育法（音楽）<b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐野 仁美	

テーマ

音楽授業をつくる

授業の到達目標

（1）小学校の音楽授業を構成することのできる能力を育てる。
（2）授業を進めるための実践的な方法を理解する。
（3）特色のある音楽授業を参考に、複数の観点から授業を計画し、適切な方法を提案することができる。

授業の概要

それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：音楽および音楽教育に関する本や雑誌を読む。
復習：小学校音楽科の授業の立案、模擬授業を行えるよう、授業内容や授業の中で理解した点を整理しておく。

内　　容

第1回　オリエンテーション－音楽科教育の目的
第2回　表現・歌唱－共通教材
第3回　表現・歌唱－教科書歌唱教材
第4回　表現・歌唱－合唱曲、世界の歌
第5回　表現・歌唱と器楽―リズム
第6回　表現・器楽－リコーダー、鍵盤ハーモニカ
第7回　表現・器楽－合奏
第8回　表現・創作-音楽づくりと手作り楽器
第9回　鑑賞－鑑賞教材による授業づくり
第10回　国際理解／異文化理解に挑戦する授業
第11回　授業行為と音楽授業
第12回　実践事例から学ぶ
第13回　指導案の作成と準備
第14回　模擬授業－器楽・創作
第15回　模擬授業－歌唱

履修上の注意点

（1）小学校で受けた音楽授業を振り返り、音楽授業の意義と課題について考える。
（2）音楽、音楽教育関連の雑誌、本を読む。

教科書

最新初等科音楽教育法2017年告示小学校学習指導要領準拠
著者:　初等科音楽教育研究会
出版社:　音楽之友社
出版年:　2018　　ISBN:　9784276821019

小学校学習指導要領解説 音楽編
著者:
出版社:　東洋館
出版年:　2018　　ISBN:　9784491034652

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 20% ）
参加度 （ 20% ）
ソプラノ・リコーダーを用意すること。授業における積極的な取り組みを重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**教科教育法（家庭）<a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　横山　和子	

テーマ

初等教育における家庭科の指導者としての資質を備えることを目指す。

授業の到達目標

家庭科教育の内容について具体的に題材を教材として取り上げ、その教材の意義や指導方法について探求する。

授業の概要

各自、指導案を作成、模擬授業を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

家庭科概論の内容を踏まえた指導法であるので復習しておくこと。指導案を段階的にグループ活動で作成するが、授業後各自で復習すること。

内　　容

第1回　家庭科の目標及び内容
　学習指導要領をもとに、家庭科の目標を理解し、A・B・Cに分類された内容構成と内容事項をまとめる活動を通して理解する。
第2回　A. 家族・家庭生活の指導
　内容Aに関する題材についての指導内容や留意点を考え、1時間分の授業構成や授業法を考える。
第3回　B. 衣食住の生活（食領域）の指導
　内容B食に関する題材についての指導内容や留意点を考え、1時間分の授業構成や授業法を考える
第4回　B. 衣食住の生活（衣領域）の指導
　内容B衣に関する題材についての指導内容や留意点を考え、1時間分の授業構成や授業法を考える
第5回　B. 衣食住の生活（住領域）の指導
　内容B住に関する題材についての指導内容や留意点を考え、1時間分の授業構成や授業法を考える

第6回　C. 消費生活・環境の指導
　内容Cの消費生活・環境に関して、消費生活に関する題材についての指導内容や留意点を考え、1時間分の授業構成や授業法を考える。
第7回　B（5）製作活動の指導
　内容Bの布を用いた製作活動の中で、手縫いの指導に使う教材を作成することを通して、指導方法や留意点を考えることができる。
第8回　教材研究の仕方
　授業設計に関して、基本的な課程と留意点がわかり、題材の目標設定や目標に応じた指導計画や評価計画を立てることができる。
第9回　学習指導案の書き方
　児童観・題材観・指導観を理解し、自分の考えを表現することができる。本時の指導に関して、指導案の書き方を踏まえて、わかりやすい本時案を書くことができる。
第10回　模擬授業の学習指導案作り
　模擬授業に向けて、グループで題材を考え、教材研究を通して学習指導案を作り、計画的に準備を進めることができる。
第11回　模擬授業の準備
　模擬授業に向けて、教材研究や学習指導案に基づき、計画的に準備を進めることができる。
第12回　模擬授業（1）
　模擬授業とその後の授業討議会を通して授業評価について学び、よりよい指導方法や指導材の活用について習得することができる。
第13回　模擬授業（2）
　模擬授業とその後の授業討議会を通して授業評価について学び、よりよい指導方法や指導材の活用について習得することができる。
第14回　模擬授業（3）
　模擬授業とその後の授業討議会を通して授業評価について学び、よりよい指導方法や指導材の活用について習得することができる。
第15回　まとめ・これからの家庭科教育
　家庭科の学習指導で大切なことを振り返り、これからの家庭科教育で必要となる指導内容や課題解決学習を主とした指導方法について理解する。

履修上の注意点

ワークシートや提出物は必ず提出する。手縫いの実習をするので、裁縫用具や材料の準備が必要である。

教科書

小学校家庭科「新しい家庭」
著者:

a30102d950

出版社: 東京書籍

出版年: ISBN:

参考書

「小学校学習指導要領解説」家庭編

著者:

出版社: 東洋館出版社

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 40 ） 授業中発表等（ 40 ）

参加度 （ 20 ）

授業中課題としてはワークシート、指導案、製作品、模擬授業の振り返りなど。2/3以上の出席、指導案提出と模擬授業実施は単位取得に必要である。

2018 Syllabus

科 目 名　**教科教育法（家庭）<b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　横山　和子	

テーマ

初等教育における家庭科の指導者としての資質を備えることを目指す。

授業の到達目標

家庭科教育の内容について具体的に題材を教材として取り上げ、その教材の意義や指導方法について探求する。

授業の概要

各自、指導案を作成、模擬授業を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

家庭科概論の内容を踏まえた指導法であるので復習しておくこと。指導案を段階的にグループ活動で作成するが、授業後各自で復習すること。

内　　容

第1回　家庭科の目標及び内容
　学習指導要領をもとに、家庭科の目標を理解し、A・B・Cに分類された内容構成と内容事項をまとめる活動を通して理解する。
第2回　A. 家族・家庭生活の指導
　内容Aに関する題材についての指導内容や留意点を考え、1時間分の授業構成や授業法を考える。
第3回　B. 衣食住の生活（食領域）の指導
　内容B食に関する題材についての指導内容や留意点を考え、1時間分の授業構成や授業法を考える
第4回　B. 衣食住の生活（衣領域）の指導
　内容B衣に関する題材についての指導内容や留意点を考え、1時間分の授業構成や授業法を考える
第5回　B. 衣食住の生活（住領域）の指導
　内容B住に関する題材についての指導内容や留意点を考え、1時間分の授業構成や授業法を考える

第6回　C. 消費生活・環境の指導
　内容Cの消費生活・環境に関して、消費生活に関する題材についての指導内容や留意点を考え、1時間分の授業構成や授業法を考える。
第7回　B（5）製作活動の指導
　内容Bの布を用いた製作活動の中で、手縫いの指導に使う教材を作成することを通して、指導方法や留意点を考えることができる。
第8回　教材研究の仕方
　授業設計に関して、基本的な課程と留意点がわかり、題材の目標設定や目標に応じた指導計画や評価計画を立てることができる。
第9回　学習指導案の書き方
　児童観・題材観・指導観を理解し、自分の考えを表現することができる。本時の指導に関して、指導案の書き方を踏まえて、わかりやすい本時案を書くことができる。
第10回　模擬授業の学習指導案作り
　模擬授業に向けて、グループで題材を考え、教材研究を通して学習指導案を作り、計画的に準備を進めることができる。
第11回　模擬授業の準備
　模擬授業に向けて、教材研究や学習指導案に基づき、計画的に準備を進めることができる。
第12回　模擬授業（1）
　模擬授業とその後の授業討議会を通して授業評価について学び、よりよい指導方法や指導材の活用について習得することができる。
第13回　模擬授業（2）
　模擬授業とその後の授業討議会を通して授業評価について学び、よりよい指導方法や指導材の活用について習得することができる。
第14回　模擬授業（3）
　模擬授業とその後の授業討議会を通して授業評価について学び、よりよい指導方法や指導材の活用について習得することができる。
第15回　まとめ・これからの家庭科教育
　家庭科の学習指導で大切なことを振り返り、これからの家庭科教育で必要となる指導内容や課題解決学習を主とした指導方法について理解する。

履修上の注意点

ワークシートや提出物は必ず提出する。手縫いの実習をするので、裁縫用具や材料の準備が必要である。

教科書

小学校家庭科「新しい家庭」
著者:

a30102d952

出版社: 東京書籍

出版年: ISBN:

参考書

「小学校学習指導要領解説」家庭編

著者:

出版社: 東洋館出版社

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 40 ） 授業中発表等（ 40 ）

参加度 （ 20 ）

授業中課題としてはワークシート、指導案、製作品、模擬授業の振り返りなど。2/3以上の出席、指導案提出と模擬授業実施は単位取得に必要である。

2018 Syllabus

科 目 名　**国語概論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池田　修.佐野　裕子	

テーマ

小学校国語科を教えるのに必要、かつ国語（日本語）を分析対象として科学的・客観的に考えるための基礎知識を学ぶ。

授業の到達目標

何の問題もなく運用することができる国語（日本語）について意識化し、これまで気づくことのなかった日本語の特性に目を向け物事を客観的に見る能力を養うとともに、小学校国語科の伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項を踏まえ、日本語に関する基本的な知識を学ぶ。

授業の概要

授業は講義形式で行う。授業で学んだ内容に関する授業内課題を実施することがあるので、その際は必ず提出してもらう。また、小テストを第6回目と第10回目に、教場レポートを12回目に実施する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

ハンドアウトや確認プリントで復習を行うこと。特に「音声」「系統と類型」の部分は、復習が求められる。
日本語に関する関心を持つようにすること。特に「当たり前」と普段感じていることを「なぜなんだろう？」と思える感性を持つこと。

内　容

第1回　授業説明・評価説明
第2回　日本語の音1
第3回　日本語の音2
第4回　日本語の表記1
第5回　日本語の表記2
第6回　日本語の語彙
第7回　日本語の系統と類型
第8回　日本語のバラエティ1
第9回　日本語のバラエティ2
第10回　国語と日本語
第11回　国語を学ぶ意義
第12回　教場レポート
第13回　書写1
第14回　書写2
第15回　書写3

履修上の注意点

書写を行う13～15回に関しては、集中講義として1日で3回分の授業を実施する。
授業実施日や持ち物など諸連絡には十分注意し、絶対に欠席することのないように。

教科書

授業時配布プリント
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

書法初歩
著者:　國學院大學書道研究室編
出版社:　國學院大學書道研究室
出版年:　　ISBN:

参考書

授業時適宜紹介
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）

a30102e010

授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 0 ）

参加度 （ 20 ）

出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。オムニバス講義のため、欠席については、1～12回は4回まで、13～15回は1回までとなる。
1～12回の授業については、遅刻は授業開始15分までとし、15分を超えた者は欠席として処理する。出席確認は、カードによる確認と確認プリントの提出による確認のダブルチェックを行う場合がある。出席に際しては、必ずカードのチェックと確認プリントの提出を忘れないように（どちらか欠けている場合も欠席と見なす）。また、実習等で欠席する場合は、かならず「欠席連絡票」を提出すること。また、小テストを2回とも未受験、あるいは教場レポートを未提出の場合も、評価の対象としない。
13～15回については欠席は認められない。やむをえない事情がある場合に限り、事前に相談すること。

2018 Syllabus

科 目 名　**社会科概論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　倉持　祐二	

テーマ

小学校社会科の全体像をつかむ

授業の到達目標

各学年の社会科の授業を体験的に学びながら、社会科という教科の性格と役割、社会科の目標・内容・方法、社会科指導の基礎的な技能の習得をめざす。また、2008年度版と2017年度版の学習指導要領を比較し、新たな実践的課題について考える視点を獲得する。

授業の概要

2017年度版学習指導要領や教科書をもとに、小学校3～6年の社会科学習の目標・内容・方法のアウトラインをつかむ。そのうえで、実際に1時間の授業案づくりを試みる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：各回のテーマについて、事前に学習指導要領解説や教科書の内容を調べておく。復習：授業で扱った社会科授業の理論と実践の要点を振り返り、授業案づくりのポイントを整理する。

内　　容

第1回　社会科で学ぶこと（社会科の誕生）
第2回　2008年度版と2017年度版の学習指導要領を比較する
第3回　社会科の目標と評価
第4回　子どもの「学び」を引き出す「教材」と「教育内容」
第5回　「コンビニ」を素材に教材をつくる
第6回　小学校3・4年の学習内容　地域の生産労働をどう教えるか
第7回　小学校3・4年の学習内容　地図をどう教えるか
第8回　小学校5年の学習内容　日本の農業をどう教えるか
第9回　小学校5年の学習内容　日本の工業をどう教えるか
第10回　小学校6年の学習内容　人物学習をどうすすめるか
第11回　小学校6年の学習内容　時代の特徴をどうイメージさせるか
第12回　授業をつくる（漂流民とペリー来航）
第13回　授業をつくる（日本国憲法）
第14回　インターネット時代の教材づくりと授業
第15回　1時間の授業案づくりの視点と方法

履修上の注意点

3分の2以上の出席を原則とする。遅刻や早退をしないように。

教科書

小学校学習指導要領解説　社会編
著者：　文部科学省
出版社：東洋館出版社
出版年：2008年　　ISBN：

社会認識を育てる教材・教具と社会科の授業づくり』
著者：　井ノ口貴史・倉持祐二
出版社：三学出版
出版年：2015年　　ISBN：

参考書

授業の中で紹介する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（30%）
授業中課題（40%）	授業中発表等（30%）

a30102e110

参加度 （ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**生活科概論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　三上　周治	

テーマ

子ども達に身近な自然や生活に関わる事柄について関心を持って働きかける力を育てる

授業の到達目標

幼児期及び小学校低学年における、自然や社会に関わる学びを創る

授業の概要

小学校中学年以降に展開される学びの土台となる認識を培う。小学校低学年の子ども達の周りにある自然や社会について、個別にそして具体的に認識することを目的とする。動物や植物、磁石や空気、自分の体や自分がくらす、学校や家庭を具体的に取り上げることで、自然認識や社会認識の基礎を培う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

身近な動植物に常に触れ、知見を広げる。課題については、実践的に検証した上で提出する。

内　　容

第1回　小学校低学年での教科教育が果たす役割(教科教育としての生活科の任務①)
第2回　小学校低学年での自然や社会にかかわる学びの意味(教科教育としての生活科の任務②)
第3回　生活科教科書、学習指導要領の定期する生活科とは？
第4回　身近な動物の飼育観察を通して、動物の生き様を学ぶ
第5回　身近な植物の栽培観察を通して、植物の生き様を学ぶ
第6回　トンカチ、サンドペーパー、豆電球をむ使って金属探し
第7回　磁石を使って、鉄探し
第8回　空気は、水とよく似ていることを学ぶ
第9回　色水遊び
第10回　音の鳴るおもちゃづくり
第11回　動くおもちゃづくり
第12回　学校の教室、家の部屋
第13回　家族の生活と、家で働く人の仕事
第14回　郵便局の仕事
第15回　生活科学習指導案の作り方

履修上の注意点

欠席が1／3以上の場合は、評価対象としたない。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 10 ）
参加度　（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**家庭科概論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小鶴　祥子	

テーマ

小学校家庭科を指導するための基礎力を高める。

授業の到達目標

①小学校家庭科が果たす教育的役割を理解し、生活課題に対する意識を高める。②小学校家庭科において扱う学習内容を理解し、指導に必要な技能を習得する。③小学校家庭科の授業を構想し、具体的な授業展開を提案することが出来る。

授業の概要

小学校家庭科の教育的意義や学習内容について解説、学生のグループ発表により理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

シラバスの内容を事前に確認し、テキストを事前に読んでおくこと。各内容について課題が出ます。各自準備をして授業に臨んでください。

内　　容

第1回　オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明）小学校家庭科の役割
第2回　小学校家庭科の目標と意義について（テキスト小学校学習指導要領解説家庭編p8~14を事前に読んでおくこと）
第3回　「家庭生活と家族」の内容（1）宿題：課題内容のまとめと解説
第4回　「家庭生活と家族」の内容（2）課題発表とディスカッション
第5回　「日常の食事と調理の基礎」の内容（1）宿題：課題内容のまとめと解説
第6回　「日常の食事と調理の基礎」の内容（2）課題発表とディスカッション
第7回　「快適な衣服」の内容（1）宿題：課題内容のまとめと解説
第8回　「快適な衣服」の内容（2）課題発表とディスカッション
第9回　「快適な住まい」の内容（1）宿題：課題内容のまとめと解説
第10回　「快適な住まい」の内容（2）発表とディスカッション
第11回　「身近な消費生活と環境」の内容（1）宿題：課題内容のまとめと解説
第12回　「身近な消費生活と環境」の内容（2）課題発表とディスカッション
第13回　調理実習の指導について
第14回　基礎縫い（1）　縫い糸・縫い針・ボタン・まち針・はさみ等用意する
第15回　基礎縫い（2）並み縫い・半返し縫い・返し縫い・ボタン付け
第16回　試験

履修上の注意点

テキストを熟読し、課題を調べ発表できるように準備をして下さい。

教科書

小学校家庭科教科書
著者:
出版社: 東京書籍
出版年:　　ISBN:

小学校家庭科概論
著者:　加地芳子大塚眞理子
出版社: ミネルヴァ書房
出版年: 2015年　　ISBN:　623-05994-2

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50% ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 30% ）	授業中発表等 （ 20% ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容総論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉田　裕子	

テーマ

保育内容の総合性と指導の基本を理解する。

授業の到達目標

・幼稚園教育の基本である「5領域を総合的にとらえ遊びを通して指導する」という考え方を理解する。
・発達過程と幼児理解に基づいた保育を行うための教育課程・長期、短期の指導計画の意味と作成について理解する。
・幼児の興味、関心や発達の実情等に応じた具体的な指導の在り方を理解する。

授業の概要

・5領域の結びつきや養護的内容との関連も含めながら、事例検討や指導計画の立案を行い、幼稚園教育が園生活全体を視野に入れて行うものであるという考え方を理解する。
・具体的な幼児の姿と関連づけ、保育記録やディスカッション、模擬保育等を通して、環境を構成し実践するための必要な知識や技能を身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実習やボランティアなどでできるだけ子どもたちと触れ合う体験を多くもつことが望ましい。常日頃から、子どもや子どもの遊びに関心をもち、子どもに対する温かな好奇心や探求心をもって観察する事を心がけてほしい。

内　容

第1回　ガイダンス・改訂幼稚園教育要領について
第2回　子どもの遊びについて
　　～遊びの中でどのような経験をしているのだろう～
第3回　幼児教育における環境構成1
　　～園生活全体を通してどのような経験をしているのだろう～
第4回　幼児教育における環境構成2
　　～環境の構成と援助の関係や方法について～
第5回　幼児教育における5領域のねらいと内容のつながり
　　～遊びを通して総合的に育つということは？～
第6回　幼児の発達の特性を踏まえたかかわり
　　～3歳未満の子どもの生活や遊びを知ろう～
第7回　支援を要する子どもの理解と学級経営
　　～支援を要する子どもの生活と遊び、教師の役割や環境構成について～
第8回　「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」と活動とのつながり
　　～乳児期から学童期以降の育ちのつながりと幼児期の育ちの理解～
第9回　小学校との連携と接続について
　　～幼児教育と小学校教育の違いや接続の意味～
第10回　幼児教育における指導計画について1
　　～教育課程・長期・短期指導計画の意味と作成について～
第11回　幼児教育における指導計画について2
　　～持ち寄った指導計画から学び合う～
第12回　行事の在り方や意味について
　　～運動会や発表会の実践事例から～
第13回　模擬保育指導案の作成を通して幼児理解・ねらいと内容・保育者の役割と評価について学ぶ
第14回　模擬保育をやってみよう
　　～ねらいや内容を意識して指導することを体験しよう～
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

できるだけ実践事例に多くふれることが大切であるが、学生同士で生活における自身の遊びの文化的社会的な意味を論議しあうなど、生涯発達の観点からも遊びの意義を広げ深めることを期待する。
※この授業は、必要に応じてゲストスピーカーによる講演会をおこないます。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

未定

a30102e410

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 40 ） 小テスト （ ）

授業中課題 （ 40 ） 授業中発表等 （ ）

参加度 （ 20 ）

＜試験・レポート＞レポートによる評価とします。
＜授業中課題＞ミニレポートやリフレクションシートの内容で評価します。
＜参加度＞受講態度等で評価します。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（環境）Ⅰ〈幼A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　青木　美智子	

テーマ

授業の到達目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の概要

Ⅰでは主として、①幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」の理解を図る。②子どもの発達に相応しい生活環境・遊び場の諸条件を具体的に理解する。③身近な自然を子どもの興味・関心の対象とするための保育方法を学習する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

夏野菜の菜園活動を行うため、授業時間以外にも水やり、施肥、ツルの状態を確認するなど、日々観察と世話を怠らないこと。植物の生育を幼児とどのように親しむかを考えて取り組むこと。栽培の状況は適宜授業内でフィードバックする予定であ

内　容

第1回　子どもの遊びと環境～空間・時間・仲間・方法の歴史的変遷
第2回　保育における栽培の取り組み～園芸技術の基礎・ペットボトルによる栽培実習
第3回　居場所としての保育環境～生活文化の歴史的考察
第4回　あそびの概念をめぐって絵本からの学び～子ども時代をイメージするもの
第5回　保育環境における動物飼育～養蚕の取り組み
第6回　野外観察実習　身近な樹木の識別と草花あそび
第7回　園庭の機能と環境構成～「園庭は自然を覗（のぞ）く窓」・ビオトープ
第8回　まとめ

履修上の注意点

この授業は必要に応じて学外授業を行います。
学生証を必ず携行してください。

教科書

平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本
著者:　内閣府、文部科学省、厚生労働省
出版社:　チャイルド本社
出版年:　2017　　ISBN:

参考書

むすんでみよう子どもと自然
著者:　井上美智子・無藤隆・神田浩行
出版社:　北大路書房
出版年:　2016　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（環境）Ⅰ〈幼B〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　青木 美智子	

テーマ

授業の到達目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の概要

Ⅰでは主として、①幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」の理解を図る。②子どもの発達に相応しい生活環境・遊び場の諸条件を具体的に理解する。③身近な自然を子どもの興味・関心の対象とするための保育方法を学習する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

夏野菜の菜園活動を行うため、授業時間以外にも水やり、施肥、ツルの状態を確認するなど、日々観察と世話を怠らないこと。植物の生育を幼児とどのように親しむかを考えて取り組むこと。栽培の状況は適宜授業内でフィードバックする予定であ

内　容

第1回　子どもの遊びと環境～空間・時間・仲間・方法の歴史的変遷
第2回　保育における栽培の取り組み～園芸技術の基礎・ペットボトルによる栽培実習
第3回　居場所としての保育環境～生活文化の歴史的考察
第4回　あそびの概念をめぐって絵本からの学び～子ども時代をイメージするもの
第5回　保育環境における動物飼育～養蚕の取り組み
第6回　野外観察実習　身近な樹木の識別と草花あそび
第7回　園庭の機能と環境構成～「園庭は自然を覗（のぞ）く窓」・ビオトープ
第8回　まとめ

履修上の注意点

この授業は必要に応じて学外授業を行います。
学生証を必ず携行してください。

教科書

平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本
著者:　内閣府、文部科学省、厚生労働省
出版社:　チャイルド本社
出版年:　2017　　ISBN:

参考書

むすんでみよう子どもと自然
著者:　井上美智子・無藤隆・神田浩行
出版社:　北大路書房
出版年:　2016　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（環境）Ⅰ〈幼C〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　長橋 聡	

テーマ

遊びや栽培といった活動を通して、子どもたちが環境に関わり、親しみ、学ぶ様子を学習する。
同時に、受講者自身が、将来保育者として、子どもと環境との関係性をどう作っていくのかを考えるための知識と姿勢を身につける。

授業の到達目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の概要

Ⅰでは主として、①幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」の理解を図る。②子どもの発達に相応しい生活環境・遊び場の諸条件を具体的に理解する。③身近な自然を子どもの興味・関心の対象とするための保育方法を学習する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習は特に必要ありません。復習については、適宜ノートや配布資料等を見直してください。
フィードバックについては、グループワークの振り返りの時間を授業中に取り、他グループで出た意見の共有や、教員のコメントによる理解の深化を図ります。

内　容

第1回　子どもの遊びと環境～空間・時間・仲間・方法の歴史的変遷
第2回　保育における栽培の取り組み～園芸技術の基礎・ペットボトルによる栽培実習
第3回　居場所としての保育環境～生活文化の歴史的考察
第4回　あそびの概念をめぐって絵本からの学び～子ども時代をイメージするもの
第5回　保育環境における動物飼育～養蚕の取り組み
第6回　野外観察実習　身近な樹木の識別と草花あそび
第7回　園庭の機能と環境構成～「園庭は自然を覗（のぞ）く窓」・ビオトープ
第8回　まとめ

履修上の注意点

出席・欠席について：出席時には学生証を携行してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申告してください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（環境）Ⅰ〈児〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　長橋　聡	

テーマ

遊びや栽培といった活動を通して、子どもたちが環境に関わり、親しみ、学ぶ様子を学習する。
同時に、受講者自身が、将来保育者として、子どもと環境との関係性をどう作っていくのかを考えるための知識と姿勢を身につける。

授業の到達目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の概要

Ⅰでは主として、①幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」の理解を図る。②子どもの発達に相応しい生活環境・遊び場の諸条件を具体的に理解する。③身近な自然を子どもの興味・関心の対象とするための保育方法を学習する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習は特に必要ありません。復習については、適宜ノートや配布資料等を見直してください。
フィードバックについては、グループワークの振り返りの時間を授業中に取り、他グループで出た意見の共有や、教員のコメントによる理解の深化を図ります。

内　容

第1回　子どもの遊びと環境～空間・時間・仲間・方法の歴史的変遷
第2回　保育における栽培の取り組み～園芸技術の基礎・ペットボトルによる栽培実習
第3回　居場所としての保育環境～生活文化の歴史的考察
第4回　あそびの概念をめぐって絵本からの学び～子ども時代をイメージするもの
第5回　保育環境における動物飼育～養蚕の取り組み
第6回　野外観察実習　身近な樹木の識別と草花あそび
第7回　園庭の機能と環境構成～「園庭は自然を覗（のぞ）く窓」・ビオトープ
第8回　まとめ

履修上の注意点

出席・欠席について：出席時には学生証を携行してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申し出てください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（環境）Ⅱ〈幼A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　青木　美智子	

テーマ

授業の到達目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の概要

Ⅰの内容を踏まえ、Ⅱでは主として、①幼稚園設置基準および児童福祉施設最低基準の理解とその向上のための方策を探る。②乳幼児期を過ごす風土の特徴を諸外国の例も知り、「故郷の体験」の意義を考える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

夏野菜の菜園活動を行うため、授業時間以外にも水やり、施肥、ツルの状態を確認するなど、日々観察と世話を怠らないこと。植物の生育を幼児とどのように親しむかを考えて取り組むこと。栽培の状況は適宜授業内でフィードバックする予定であ

内　容

第1回　子どもの発達的特徴と安全管理・事故防止～リスクとハザード
第2回　幼稚園教育要領・保育所保育指針領域「環境」の求めるものと最低基準
第3回　保育室の機能と環境構成～遊具・玩具の管理
第4回　諸外国の保育環境～「森の幼稚園
第5回　諸外国の保育環境～「保育環境評価」
第6回　人的環境としての保育者
第7回　子どもの権利の保障と平和の文化
第8回　まとめ

履修上の注意点

この授業は必要に応じて学外授業を行います。

教科書

平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本
著者:　内閣府 (著),？ 文部科学省 (著),？ 文科省=（著),？ 厚生労働省 (著),？ 厚労省=（著）
出版社:　チャイルド本社
出版年:　2017　　ISBN:

参考書

むすんでみよう子どもと自然
著者:　井上美智子・無藤隆・神田浩行
出版社:　北大路書房
出版年:　2016　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（環境）Ⅱ <幼B>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　青木　美智子	

テーマ

授業の到達目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の概要

Ⅰの内容を踏まえ、Ⅱでは主として、①幼稚園設置基準および児童福祉施設最低基準の理解とその向上のための方策を探る。②乳幼児期を過ごす風土の特徴を諸外国の例も知り、「故郷の体験」の意義を考える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

夏野菜の菜園活動を行うため、授業時間以外にも水やり、施肥、ツルの状態を確認するなど、日々観察と世話を怠らないこと。植物の生育を幼児とどのように親しむかを考えて取り組むこと。栽培の状況は適宜授業内でフィードバックする予定であ

内　容

第1回　子どもの発達的特徴と安全管理・事故防止～リスクとハザード
第2回　幼稚園教育要領・保育所保育指針領域「環境」の求めるものと最低基準
第3回　保育室の機能と環境構成～遊具・玩具の管理
第4回　諸外国の保育環境～「森の幼稚園
第5回　諸外国の保育環境～「保育環境評価」
第6回　人的環境としての保育者
第7回　子どもの権利の保障と平和の文化
第8回　まとめ

履修上の注意点

この授業は必要に応じて学外授業を行います。

教科書

平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本
著者:　内閣府 (著),？ 文部科学省 (著),？ 文科省=(著),？ 厚生労働省 (著),？ 厚労省=(著)
出版社:　チャイルド本社
出版年:　2017　　ISBN:

参考書

むすんでみよう子どもと自然
著者:　井上美智子・無藤隆・神田浩行
出版社:　北大路書房
出版年:　2016　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（環境）Ⅱ 〈幼C〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　長橋　聡	

テーマ

保育、幼児教育における領域「環境」の内容と意義を理解し、幼児の発達と環境との関連を学ぶ。
また、受講者自身が実際に「環境」と関わる活動に親しむことで、実践における知識や技能、発想力を身につける。

授業の到達目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の概要

Ⅰの内容を踏まえ、Ⅱでは主として、①幼稚園設置基準および児童福祉施設最低基準の理解とその向上のための方策を探る。②乳幼児期を過ごす風土の特徴を諸外国の例も知り、「故郷の体験」の意義を考える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習は特に必要ありません。復習については、適宜ノートや配布資料等を見直してください。
フィードバックについては、グループワークの振り返りの時間を授業中に取り、他グループで出た意見の共有や、教員のコメントによる理解の深化を図ります。

内　容

第1回　子どもの発達的特徴と安全管理・事故防止～リスクとハザード
第2回　幼稚園教育要領・保育所保育指針領域「環境」の求めるものと最低基準
第3回　保育室の機能と環境構成～遊具・玩具の管理
第4回　諸外国の保育環境～「森の幼稚園
第5回　諸外国の保育環境～「保育環境評価」
第6回　人的環境としての保育者
第7回　子どもの権利の保障と平和の文化
第8回　まとめ

履修上の注意点

出席・欠席について：出席時には学生証を携行してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申告してください。
この授業は必要に応じて学外授業を行います。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（環境）Ⅱ <児>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　長橋　聡	

テーマ

保育、幼児教育における領域「環境」の内容と意義を理解し、幼児の発達と環境との関連を学ぶ。
また、受講者自身が実際に「環境」と関わる活動に親しむことで、実践における知識や技能、発想力を身につける。

授業の到達目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の概要

Ⅰの内容を踏まえ、Ⅱでは主として、①幼稚園設置基準および児童福祉施設最低基準の理解とその向上のための方策を探る。②乳幼児期を過ごす風土の特徴を諸外国の例も知り、「故郷の体験」の意義を考える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習は特に必要ありません。復習については、適宜ノートや配布資料等を見直してください。
フィードバックについては、グループワークの振り返りの時間を授業中に取り、他グループで出た意見の共有や、教員のコメントによる理解の深化を図ります。

内　容

第1回　子どもの発達的特徴と安全管理・事故防止～リスクとハザード
第2回　幼稚園教育要領・保育所保育指針領域「環境」の求めるものと最低基準
第3回　保育室の機能と環境構成～遊具・玩具の管理
第4回　諸外国の保育環境～「森の幼稚園
第5回　諸外国の保育環境～「保育環境評価」
第6回　人的環境としての保育者
第7回　子どもの権利の保障と平和の文化
第8回　まとめ

履修上の注意点

出席・欠席について：出席時には学生証を携行してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申告してください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（表現）Ⅰ〈幼A〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阿部　真子	

テーマ

幼児期の表現活動の教育的意味を理解し、具体的・実践的な保育を学ぶ。

授業の到達目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の概要

様々な題材をもとにあそびや諸活動について子どもの豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。
Ⅰでは領域「表現」に含まれる様々な活動の基本と応用について、実践を通して学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

さまざまな事柄に好奇心を持つこと。何に対しても始める前に「無理」と言わない。「当たり前」は本当にそうなのか？固定概念を疑ってかかること。

内　容

第1回　シラバスの説明・子どもの発達と「表現」の重要性について
第2回　わらべ歌、手遊び歌の意義理解と実践
第3回　身体の動きを中心とした表現活動の実践
第4回　言語を中心とした表現活動の実践
第5回　音楽を中心とした表現活動の実践
第6回　造形を中心とした表現活動の実践
第7回　複合的な表現活動の実践
第8回　発表・まとめ

履修上の注意点

動きやすい服装で参加すること。全ての授業が連続性を持ちます。できる限り欠席しないこと。

教科書

授業内に随時提示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内に随時提示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）
授業態度や積極性を重視します。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（表現）Ⅰ〈幼B〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阿部　真子	

テーマ

幼児期の表現活動の教育的意味を理解し、具体的・実践的な保育を学ぶ。

授業の到達目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の概要

様々な題材をもとにあそびや諸活動について子どもの豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。
Ⅰでは領域「表現」に含まれる様々な活動の基本と応用について、実践を通して学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

さまざまな事柄に好奇心を持つこと。何に対しても始める前に「無理」と言わない。「当たり前」は本当にそうなのか？固定概念を疑ってかかること。

内　容

第1回　シラバスの説明・子どもの発達と「表現」の重要性について
第2回　わらべ歌、手遊び歌の意義理解と実践
第3回　身体の動きを中心とした表現活動の実践
第4回　言語を中心とした表現活動の実践
第5回　音楽を中心とした表現活動の実践
第6回　造形を中心とした表現活動の実践
第7回　複合的な表現活動の実践
第8回　発表・まとめ

履修上の注意点

動きやすい服装で参加すること。全ての授業が連続性を持ちます。できる限り欠席しないこと。

教科書

授業内に随時提示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内に随時提示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）
授業態度や積極性を重視します。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（表現）Ⅰ〈幼C〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阿部　真子	

テーマ

幼児期の表現活動の教育的意味を理解し、具体的・実践的な保育を学ぶ。

授業の到達目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の概要

様々な題材をもとにあそびや諸活動について子どもの豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。
Ⅰでは領域「表現」に含まれる様々な活動の基本と応用について、実践を通して学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

さまざまな事柄に好奇心を持つこと。何に対しても始める前に「無理」と言わない。「当たり前」は本当にそうなのか？固定概念を疑ってかかること。

内　容

第1回　シラバスの説明・子どもの発達と「表現」の重要性について
第2回　わらべ歌、手遊び歌の意義理解と実践
第3回　身体の動きを中心とした表現活動の実践
第4回　言語を中心とした表現活動の実践
第5回　音楽を中心とした表現活動の実践
第6回　造形を中心とした表現活動の実践
第7回　複合的な表現活動の実践
第8回　発表・まとめ

履修上の注意点

動きやすい服装で参加すること。全ての授業が連続性を持ちます。できる限り欠席しないこと。

教科書

授業内に随時提示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内に随時提示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）
授業態度や積極性を重視します。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（表現）Ⅰ〈児〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阿部　真子	

テーマ

幼児期の表現活動の教育的意味を理解し、具体的・実践的な保育を学ぶ。

授業の到達目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の概要

様々な題材をもとにあそびや諸活動について子どもの豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。
Ⅰでは領域「表現」に含まれる様々な活動の基本と応用について、実践を通して学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

さまざまな事柄に好奇心を持つこと。何に対しても始める前に「無理」と言わない。「当たり前」は本当にそうなのか？固定概念を疑ってかかること。

内　容

第1回　シラバスの説明・子どもの発達と「表現」の重要性について
第2回　わらべ歌、手遊び歌の意義理解と実践
第3回　身体の動きを中心とした表現活動の実践
第4回　言語を中心とした表現活動の実践
第5回　音楽を中心とした表現活動の実践
第6回　造形を中心とした表現活動の実践
第7回　複合的な表現活動の実践
第8回　発表・まとめ

履修上の注意点

動きやすい服装で参加すること。全ての授業が連続性を持ちます。できる限り欠席しないこと。

教科書

授業内に随時提示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内に随時提示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）
授業態度や積極性を重視します。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（表現）Ⅱ〈幼A〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阿部　真子	

テーマ

幼児期における自己表現の基盤となる表現活動について、具体的・実践的学びを深める。

授業の到達目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の概要

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。
ⅡではⅠで習得した様々な表現活動の応用として、劇遊びによる表現指導法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

普段から表現活動に使えそうなネタをストックしておくこと（物質的・精神的両面において）

内　容

第1回　劇遊びの意義、子どもの発達段階との関係性を知る。実践への準備（役割分担）
第2回　いい台本とは何か？音楽・演技練習。
第3回　舞台に必要なものは何か？音楽・演技練習。道具類の製作。
第4回　演じるとは何か？音楽・演技練習。道具類の製作。
第5回　効果的な音楽の使い方とは？音楽・演技練習。道具類の製作。
第6回　表現を引き出すための劇遊びの指導法・演出の在り方とは？音楽・演技練習。道具類の製作。
第7回　舞台進行に欠かせない裏方の仕事とは？音楽・演技練習。道具類の製作。
第8回　劇遊び発表・まとめ

履修上の注意点

動きやすい服装で出席すること。ひとりひとりの活躍が重要になります。できるだけ欠席しないこと。

教科書

授業内に随時提示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内に随時提示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）
授業態度や積極性を重視します。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（表現）Ⅱ <幼B>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阿部　真子	

テーマ

幼児期における自己表現の基盤となる表現活動について、具体的・実践的学びを深める。

授業の到達目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の概要

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。
ⅡではⅠで習得した様々な表現活動の応用として、劇遊びによる表現指導法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

普段から表現活動に使えそうなネタをストックしておくこと（物質的・精神的両面において）

内　容

第1回　劇遊びの意義、子どもの発達段階との関係性を知る。実践への準備（役割分担）
第2回　いい台本とは何か？音楽・演技練習。
第3回　舞台に必要なものは何か？音楽・演技練習。道具類の製作。
第4回　演じるとは何か？音楽・演技練習。道具類の製作。
第5回　効果的な音楽の使い方とは？音楽・演技練習。道具類の製作。
第6回　表現を引き出すための劇遊びの指導法・演出の在り方とは？音楽・演技練習。道具類の製作。
第7回　舞台進行に欠かせない裏方の仕事とは？音楽・演技練習。道具類の製作。
第8回　劇遊び発表・まとめ

履修上の注意点

動きやすい服装で出席すること。ひとりひとりの活躍が重要になります。できるだけ欠席しないこと。

教科書

授業内に随時提示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内に随時提示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）
授業態度や積極性を重視します。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（表現）Ⅱ <幼C>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阿部　真子	

テーマ

幼児期における自己表現の基盤となる表現活動について、具体的・実践的学びを深める。

授業の到達目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の概要

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。
ⅡではⅠで習得した様々な表現活動の応用として、劇遊びによる表現指導法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

普段から表現活動に使えそうなネタをストックしておくこと（物質的・精神的両面において）

内　容

第1回　劇遊びの意義、子どもの発達段階との関係性を知る。実践への準備（役割分担）
第2回　いい台本とは何か？音楽・演技練習。
第3回　舞台に必要なものは何か？音楽・演技練習。道具類の製作。
第4回　演じるとは何か？音楽・演技練習。道具類の製作。
第5回　効果的な音楽の使い方とは？音楽・演技練習。道具類の製作。
第6回　表現を引き出すための劇遊びの指導法・演出の在り方とは？音楽・演技練習。道具類の製作。
第7回　舞台進行に欠かせない裏方の仕事とは？音楽・演技練習。道具類の製作。
第8回　劇遊び発表・まとめ

履修上の注意点

動きやすい服装で出席すること。ひとりひとりの活躍が重要になります。できるだけ欠席しないこと。

教科書

授業内に随時提示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内に随時提示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）
授業態度や積極性を重視します。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（表現）Ⅱ <児>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阿部　真子	

テーマ

幼児期における自己表現の基盤となる表現活動について、具体的・実践的学びを深める。

授業の到達目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の概要

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。
ⅡではⅠで習得した様々な表現活動の応用として、劇遊びによる表現指導法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

普段から表現活動に使えそうなネタをストックしておくこと（物質的・精神的両面において）

内　容

第1回　劇遊びの意義、子どもの発達段階との関係性を知る。実践への準備（役割分担）
第2回　いい台本とは何か？音楽・演技練習。
第3回　舞台に必要なものは何か？音楽・演技練習。道具類の製作。
第4回　演じるとは何か？音楽・演技練習。道具類の製作。
第5回　効果的な音楽の使い方とは？音楽・演技練習。道具類の製作。
第6回　表現を引き出すための劇遊びの指導法・演出の在り方とは？音楽・演技練習。道具類の製作。
第7回　舞台進行に欠かせない裏方の仕事とは？音楽・演技練習。道具類の製作。
第8回　劇遊び発表・まとめ

履修上の注意点

動きやすい服装で出席すること。ひとりひとりの活躍が重要になります。できるだけ欠席しないこと。

教科書

授業内に随時提示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内に随時提示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）
授業態度や積極性を重視します。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（健康）Ⅰ〈幼A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　口野 隆史	

テーマ

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、子どもの運動発達と健康・体育領域の指導について理解を深める。

授業の到達目標

乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解を深め、この領域の指導力を身に付ける。

授業の概要

乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解を深める。同時に現代の子どもたちが置かれている状況（生活習慣や生活リズム）・環境も理解し、子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を身に付ける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び等々、楽しかったものを思い出し、自分が子どもと一緒にするならどのようにするのかを考える。
②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　容

第1回　本学科のカリキュラムになぜ「保育内容（健康）」という科目があるのか?
第2回　健康とは何か。健康の概念、健康観の変遷
第3回　就学前の子どもたちの理解（発達段階の概要の把握）
第4回　人間の身体と健康についての理解（個体発生と系統発生）
第5回　子どもの健康をとりまく環境の理解
第6回　子どもの食事と偏食（「ライオンはお肉しか食べない」と子どもに言われたら？）
第7回　『幼稚園教育要領』の内容（特に健康領域）の理解
第8回　まとめ

履修上の注意点

しっかり出席すること。子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かすアイデアを考える。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を理解する。

教科書

みんなが輝く体育①　幼児期　運動あそびの進め方
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　創文企画
出版年:　2009　　ISBN:

参考書

幼児のこころと運動
著者:　近藤充夫
出版社:　教育出版
出版年:　1995　　ISBN:

乳幼児の体育あそび
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　草土文化
出版年:　1999　　ISBN:

幼児体育の指導
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　ベースボール・マガジン社
出版年:　1974　　ISBN:

幼児のあそびと仕事
著者:　城丸章夫
出版社:　草土文化
出版年:　1981　　ISBN:

a30102e950

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度 （ 20 ）
しっかり出席すること。授業中に出される課題について、よく考えて自分の意見を述べること。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（健康）Ⅰ〈幼B〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　口野　隆史	

テーマ

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、子どもの運動発達と健康・体育領域の指導について理解を深める。

授業の到達目標

乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解を深め、この領域の指導力を身に付ける。

授業の概要

乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解を深める。同時に現代の子どもたちが置かれている状況（生活習慣や生活リズム）・環境も理解し、子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を身に付ける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び等々、楽しかったものを思い出し、自分が子どもと一緒にするならどのようにするのかを考える。
②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　容

第1回　本学科のカリキュラムになぜ「保育内容（健康）」という科目があるのか?
第2回　健康とは何か。健康の概念、健康観の変遷
第3回　就学前の子どもたちの理解（発達段階の概要の把握）
第4回　人間の身体と健康についての理解（個体発生と系統発生）
第5回　子どもの健康をとりまく環境の理解
第6回　子どもの食事と偏食（「ライオンはお肉しか食べない」と子どもに言われたら？）
第7回　『幼稚園教育要領』の内容（特に健康領域）の理解
第8回　まとめ

履修上の注意点

しっかり出席すること。子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かすアイデアを考える。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を理解する。

教科書

みんなが輝く体育①　幼児期　運動あそびの進め方
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　創文企画
出版年:　2009　　ISBN:

参考書

幼児のこころと運動
著者:　近藤充夫
出版社:　教育出版
出版年:　1995　　ISBN:

乳幼児の体育あそび
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　草土文化
出版年:　1999　　ISBN:

幼児体育の指導
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　ベースボール・マガジン社
出版年:　1974　　ISBN:

幼児のあそびと仕事
著者:　城丸章夫
出版社:　草土文化
出版年:　1981　　ISBN:

a30102e952

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度 （ 20 ）
しっかり出席すること。授業中に出される課題について、よく考えて自分の意見を述べること。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（健康）Ⅰ <幼C>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　口野　隆史	

テーマ

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、子どもの運動発達と健康・体育領域の指導について理解を深める。

授業の到達目標

乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解を深め、この領域の指導力を身に付ける。

授業の概要

乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解を深める。同時に現代の子どもたちが置かれている状況（生活習慣や生活リズム）・環境も理解し、子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を身に付ける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び等々、楽しかったものを思い出し、自分が子どもと一緒にするならどのようにするのかを考える。
②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　容

第1回　本学科のカリキュラムになぜ「保育内容（健康）」という科目があるのか?
第2回　健康とは何か。健康の概念、健康観の変遷
第3回　就学前の子どもたちの理解（発達段階の概要の把握）
第4回　人間の身体と健康についての理解（個体発生と系統発生）
第5回　子どもの健康をとりまく環境の理解
第6回　子どもの食事と偏食（「ライオンはお肉しか食べない」と子どもに言われたら？）
第7回　『幼稚園教育要領』の内容（特に健康領域）の理解
第8回　まとめ

履修上の注意点

しっかり出席すること。子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かすアイデアを考える。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を理解する。

教科書

みんなが輝く体育①　幼児期　運動あそびの進め方
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　創文企画
出版年:　2009　　ISBN:

参考書

幼児のこころと運動
著者:　近藤充夫
出版社:　教育出版
出版年:　1995　　ISBN:

乳幼児の体育あそび
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　草土文化
出版年:　1999　　ISBN:

幼児体育の指導
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　ベースボール・マガジン社
出版年:　1974　　ISBN:

幼児のあそびと仕事
著者:　城丸章夫
出版社:　草土文化
出版年:　1981　　ISBN:

a30102e953

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度 （ 20 ）
しっかり出席すること。授業中に出される課題について、よく考えて自分の意見を述べること。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（健康）Ⅰ〈児〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田中　真紀	

テーマ

幼児期の子どもの発育発達

授業の到達目標

乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解する

授業の概要

乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解を深める。同時に現代の子どもたちが置かれている状況（生活習慣や生活リズム）・環境も理解し、子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を身に付ける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回の授業時に指示します。

内　　容

第1回　本学科のカリキュラムになぜ「保育内容（健康）」という科目があるのか?
第2回　健康とは何か。健康の概念、健康観の変遷
第3回　就学前の子どもたちの理解（発達段階の概要の把握）
第4回　人間の身体と健康についての理解（個体発生と系統発生）
第5回　子どもの健康をとりまく環境の理解
第6回　子どもの食事と偏食（「ライオンはお肉しか食べない」と子どもに言われたら？）
第7回　『幼稚園教育要領』の内容（特に健康領域）の理解
第8回　まとめ

履修上の注意点

集中講義による連続授業となるため、授業日時を忘れないようにしてください。
文部科学省、スポーツ庁および日本体育協会のHPを定期的に閲覧してください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（ 70 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（　）
参加度（ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（健康）Ⅱ 〈幼A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　口野　隆史	

テーマ

乳幼児の運動発達及び保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解を深める。また、どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、就学前の健康・体育領域の指導力を向上させる

授業の到達目標

乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解を深め、この領域の指導力を身に付ける。

授業の概要

Ⅰで学んだ、乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解、現代の子どもたちが置かれている状況（生活習慣や生活リズム）・環境に対する理解をもとに、実際に子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を、模擬保育の演習を通じて身に付ける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び等々、楽しかったものを思い出し、自分が子どもと一緒にするならどのようにするのかを考える。
②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　容

第1回　人間の運動発達と子どもの運動遊びについての理解
第2回　幼児の体育（健康）の指導計画の作成について
第3回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）①（鬼ごっこ的な内容のもの）
第4回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）②（球技的な内容のもの）
第5回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）③（器械運動的な内容のもの）
第6回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）④（かけっこ・陸上競技的な内容のもの）
第7回　模擬保育の振り返り
第8回　まとめ

履修上の注意点

しっかり出席すること。子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かすアイデアを考える。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を理解する。グループ指導案を作成し、模擬保育を行う。

教科書

みんなが輝く体育①　幼児期　運動あそびの進め方
著者：　学校体育研究同志会
出版社：創文企画
出版年：2009　　ISBN：

参考書

幼児のこころと運動
著者：　近藤充夫
出版社：教育出版
出版年：1995　　ISBN：

乳幼児の体育遊び
著者：　学校体育研究同志会
出版社：草土文化
出版年：1999　　ISBN：

幼児体育の指導
著者：　学校体育研究同志会
出版社：ベースボール・マガジン社
出版年：1974　　ISBN：

a30102f050

幼児のあそびと仕事

著者: 城丸章夫

出版社: 草土文化

出版年: 1981 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 30 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 20 ） 授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 20 ）

しっかり出席すること。授業中に出される課題について、よく考えて自分の意見を述べること。グループで指導案を作成し、模擬保育を実施し保育者役、子ども役の両方を経験すること。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（健康）Ⅱ <幼B>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　口野　隆史	

テーマ

乳幼児の運動発達及び保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解を深める。また、どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、就学前の健康・体育領域の指導力を向上させる

授業の到達目標

乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解を深め、この領域の指導力を身に付ける。

授業の概要

Ⅰで学んだ、乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解、現代の子どもたちが置かれている状況（生活習慣や生活リズム）・環境に対する理解をもとに、実際に子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を、模擬保育の演習を通じて身に付ける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び等々、楽しかったものを思い出し、自分が子どもと一緒にするならどのようにするのかを考える。
②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　容

第1回　人間の運動発達と子どもの運動遊びについての理解
第2回　幼児の体育（健康）の指導計画の作成について
第3回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）①（鬼ごっこ的な内容のもの）
第4回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）②（球技的な内容のもの）
第5回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）③（器械運動的な内容のもの）
第6回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）④（かけっこ・陸上競技的な内容のもの）
第7回　模擬保育の振り返り
第8回　まとめ

履修上の注意点

しっかり出席すること。子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かすアイデアを考える。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を理解する。グループ指導案を作成し、模擬保育を行う。

教科書

みんなが輝く体育①　幼児期　運動あそびの進め方
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　創文企画
出版年:　2009　　ISBN:

参考書

幼児のこころと運動
著者:　近藤充夫
出版社:　教育出版
出版年:　1995　　ISBN:

乳幼児の体育遊び
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　草土文化
出版年:　1999　　ISBN:

幼児体育の指導
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　ベースボール・マガジン社
出版年:　1974　　ISBN:

a30102f052

幼児のあそびと仕事

著者: 城丸章夫

出版社: 草土文化

出版年: 1981 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 30 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 20 ） 授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 20 ）

しっかり出席すること。授業中に出される課題について、よく考えて自分の意見を述べること。グループで指導案を作成し、模擬保育を実施し保育者役、子ども役の両方を経験すること。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（健康）Ⅱ <幼C>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　口野　隆史	

テーマ

乳幼児の運動発達及び保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解を深める。また、どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、就学前の健康・体育領域の指導力を向上させる

授業の到達目標

乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解を深め、この領域の指導力を身に付ける。

授業の概要

Ⅰで学んだ、乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解、現代の子どもたちが置かれている状況（生活習慣や生活リズム）・環境に対する理解をもとに、実際に子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を、模擬保育の演習を通じて身に付ける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び等々、楽しかったものを思い出し、自分が子どもと一緒にするならどのようにするのかを考える。
②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　容

第1回　人間の運動発達と子どもの運動遊びについての理解
第2回　幼児の体育（健康）の指導計画の作成について
第3回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）①（鬼ごっこ的な内容のもの）
第4回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）②（球技的な内容のもの）
第5回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）③（器械運動的な内容のもの）
第6回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）④（かけっこ・陸上競技的な内容のもの）
第7回　模擬保育の振り返り
第8回　まとめ

履修上の注意点

しっかり出席すること。子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かすアイデアを考える。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を理解する。グループ指導案を作成し、模擬保育を行う。

教科書

みんなが輝く体育①　幼児期　運動あそびの進め方
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　創文企画
出版年:　2009　　ISBN:

参考書

幼児のこころと運動
著者:　近藤充夫
出版社:　教育出版
出版年:　1995　　ISBN:

乳幼児の体育遊び
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　草土文化
出版年:　1999　　ISBN:

幼児体育の指導
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　ベースボール・マガジン社
出版年:　1974　　ISBN:

a30102f053

幼児のあそびと仕事

著者: 城丸章夫

出版社: 草土文化

出版年: 1981 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 30 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 20 ） 授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 20 ）

しっかり出席すること。授業中に出される課題について、よく考えて自分の意見を述べること。グループで指導案を作成し、模擬保育を実施し保育者役、子ども役の両方を経験すること。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（健康）Ⅱ <児>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田中　真紀	

テーマ

幼児期の子どもの発育発達

授業の到達目標

乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解する

授業の概要

Ⅰで学んだ、乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解、現代の子どもたちが置かれている状況（生活習慣や生活リズム）・環境に対する理解をもとに、実際に子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を、模擬保育の演習を通じて身に付ける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回の授業時に指示します。予習復習時間は30分程度です。

内　容

第1回　人間の運動発達と子どもの運動遊びについての理解
第2回　幼児の体育（健康）の指導計画の作成について
第3回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）①（鬼ごっこ的な内容のもの）
第4回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）②（球技的な内容のもの）
第5回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）③（器械運動的な内容のもの）
第6回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）④（かけっこ・陸上競技的な内容のもの）
第7回　模擬保育の振り返り
第8回　まとめ

履修上の注意点

集中講義による連続授業となるため、授業日時を忘れないようにしてください。
文部科学省、スポーツ庁および日本体育協会のHPを定期的に閲覧してください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 40 ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（人間関係）Ⅰ〈幼A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　南 憲治	

テーマ

乳幼児の人間関係の特徴とその支援

授業の到達目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の概要

人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を現場での観察や多様な保育実践からの学びを通して具体的に理解していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習の必要はないが、授業内容について自分で振り返り、整理すること。

内　容

第1回　授業の進め方について
第2回　保育所保育指針、幼稚園教育要領にみる保育内容・人間関係
第3回　社会の変化と子どもを取り巻く人間関係の状況　現代の家庭と地域社会
第4回　人との関わりが育つ道すじ①　発達初期の人との関わりの形成
第5回　人との関わりが育つ道すじ②　おとなへの依存と自立
第6回　人との関わりが育つ道すじ③　子ども同士の関係のなかで
第7回　多文化社会のなかでの保育
第8回　保護者との関係づくり

履修上の注意点

積極的に授業に参加し、自分の頭でよく考えて下さい。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（人間関係）Ⅰ〈幼B〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池上　貴美子	

テーマ

乳幼児の人間関係の特徴とその支援

授業の到達目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の概要

人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を現場での観察や多様な保育実践からの学びを通して具体的に理解していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習は特に必要ありません。復習については、適宜ノートや配布資料等を見直してください。

内　容

第1回　授業の進め方について
第2回　保育所保育指針、幼稚園教育要領にみる保育内容・人間関係
第3回　社会の変化と子どもを取り巻く人間関係の状況　現代の家庭と地域社会
第4回　人との関わりが育つ道すじ①　発達初期の人との関わりの形成
第5回　人との関わりが育つ道すじ②　おとなへの依存と自立
第6回　人との関わりが育つ道すじ③　子ども同士の関係のなかで
第7回　多文化社会のなかでの保育
第8回　保護者との関係づくり

履修上の注意点

出席・欠席について：出席時には学生証を携行してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申し出てください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40）	授業中発表等（40）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（人間関係）Ⅰ〈幼C〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　長橋　聡	

テーマ

乳幼児の人間関係について観察、記述、考察を行う。
それを通して、乳幼児を取り巻く人的環境や相互行為の発達、自己の形成についての理解を深める。

授業の到達目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の概要

人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を現場での観察や多様な保育実践からの学びを通して具体的に理解していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習は特に必要ありません。復習については、適宜ノートや配布資料等を見直してください。
フィードバックについては、グループワークの振り返りの時間を授業中に取り、他グループで出た意見の共有や、教員のコメントによる理解の深化を図ります。

内　容

第1回　授業の進め方について
第2回　保育所保育指針、幼稚園教育要領にみる保育内容・人間関係
第3回　社会の変化と子どもを取り巻く人間関係の状況　現代の家庭と地域社会
第4回　人との関わりが育つ道すじ①　発達初期の人との関わりの形成
第5回　人との関わりが育つ道すじ②　おとなへの依存と自立
第6回　人との関わりが育つ道すじ③　子ども同士の関係のなかで
第7回　多文化社会のなかでの保育
第8回　保護者との関係づくり

履修上の注意点

出席・欠席について：出席時には学生証を携行してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申し出てください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（人間関係）Ⅰ〈児〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　林 悠子	

テーマ

保育における人間関係と保育者の役割

授業の到達目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の概要

人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を現場での観察や多様な保育実践からの学びを通して具体的に理解していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストの該当箇所を事前に読んでいることを前提に授業を進めます。

内　容

第1回　授業の進め方について
第2回　保育所保育指針、幼稚園教育要領にみる保育内容・人間関係
第3回　社会の変化と子どもを取り巻く人間関係の状況　現代の家庭と地域社会
第4回　人との関わりが育つ道すじ①　発達初期の人との関わりの形成
第5回　人との関わりが育つ道すじ②　おとなへの依存と自立
第6回　人との関わりが育つ道すじ③　子ども同士の関係のなかで
第7回　多文化社会のなかでの保育
第8回　保護者との関係づくり

履修上の注意点

集中講義のため毎回長時間の講義になりますが、お互い協力し合ってよい学びができるようにしましょう。グループ討議と発表には積極的参加を求めます。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度（ ）
授業中課題としてミニレポートおよび最終レポートを課します。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（人間関係）Ⅱ <幼A>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　南 憲治	

テーマ

乳幼児の人間関係とその支援

授業の到達目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の概要

Ⅰで学んだ理論をもとに、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を、現場での様々な事例を検討する中で具体的に理解していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習の必要はないが、授業内容を振り返り、整理すること。

内　容

第1回　保育者と子どもの直接的関係　事例検討
第2回　保育者と子どもの直接的関係　事例検討のまとめ
第3回　子ども同士の関係と保育者―面白さや楽しさを広げる　事例検討
第4回　子ども同士の関係と保育者―ぶつかり合い・対立　事例検討
第5回　子ども同士の関係と保育者―協力して生活を作り出す　事例検討
第6回　子ども同士氏の関係と保育者―異年齢の子ども同士の関わり　事例検討
第7回　子ども同士の関係と保育者　事例検討のまとめ
第8回　全体を通してのまとめ

履修上の注意点

授業に積極的に参加し、自分の頭でよく考えて下さい。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（人間関係）Ⅱ <幼B>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池上　貴美子	

テーマ

乳幼児の人間関係とその支援

授業の到達目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の概要

Ⅰで学んだ理論をもとに、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を、現場での様々な事例を検討する中で具体的に理解していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習は特に必要ありません。復習については、適宜ノートや配布資料等を見直してください。

内　容

第1回　保育者と子どもの直接的関係　事例検討
第2回　保育者と子どもの直接的関係　事例検討のまとめ
第3回　子ども同士の関係と保育者―面白さや楽しさを広げる　事例検討
第4回　子ども同士の関係と保育者―ぶつかり合い・対立　事例検討
第5回　子ども同士の関係と保育者―協力して生活を作り出す　事例検討
第6回　子ども同士氏の関係と保育者―異年齢の子ども同士の関わり　事例検討
第7回　子ども同士の関係と保育者　事例検討のまとめ
第8回　全体と通してのまとめ

履修上の注意点

出席・欠席について：出席時には学生証を携行してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申告してください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40）	授業中発表等（40）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（人間関係）Ⅱ 〈幼C〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　長橋 聡	

テーマ

幼児期における大人との関係、子ども同士の関係、ルールの理解、自己や主体性の発達について学ぶ。また、それらを理解した上での保育者の援助のあり方、「気になる子」や発達障がいを持つ子どもとの関わりについて学ぶ。

授業の到達目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の概要

Ⅰで学んだ理論をもとに、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を、現場での様々な事例を検討する中で具体的に理解していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習は特に必要ありません。復習については、適宜ノートや配布資料等を見直してください。
フィードバックについては、グループワークの振り返りの時間を授業中に取り、他グループで出た意見の共有や、教員のコメントによる理解の深化を図ります。

内　容

第1回　保育者と子どもの直接的関係　事例検討
第2回　保育者と子どもの直接的関係　事例検討のまとめ
第3回　子ども同士の関係と保育者―面白さや楽しさを広げる　事例検討
第4回　子ども同士の関係と保育者―ぶつかり合い・対立　事例検討
第5回　子ども同士の関係と保育者―協力して生活を作り出す　事例検討
第6回　子ども同士氏の関係と保育者―異年齢の子ども同士の関わり　事例検討
第7回　子ども同士の関係と保育者　事例検討のまとめ
第8回　全体と通してのまとめ

履修上の注意点

出席・欠席について：出席時には学生証を携行してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申告してください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（人間関係）Ⅱ〈児〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　林 悠子	

テーマ

保育における人間関係と保育者の役割

授業の到達目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の概要

Ⅰで学んだ理論をもとに、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を、現場での様々な事例を検討する中で具体的に理解していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前にテキストの該当箇所を読んでいることを前提に授業を進めます。

内　容

第1回　保育者と子どもの直接的関係　事例検討
第2回　保育者と子どもの直接的関係　事例検討のまとめ
第3回　子ども同士の関係と保育者―面白さや楽しさを広げる　事例検討
第4回　子ども同士の関係と保育者―ぶつかり合い・対立　事例検討
第5回　子ども同士の関係と保育者―協力して生活を作り出す　事例検討
第6回　子ども同士氏の関係と保育者―異年齢の子ども同士の関わり　事例検討
第7回　子ども同士の関係と保育者　事例検討のまとめ
第8回　全体を通してのまとめ

履修上の注意点

集中講義ですので毎回長時間講義になりますが、お互い協力してよい学びができるようにしましょう。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（言語）〈幼a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　長橋　聡.伊藤　美和子	

テーマ

言語と人格

授業の到達目標

乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割を考察する。

授業の概要

・乳幼児のことばの発達の本質と特徴を把握し、2・3歳未満児と学齢児と比較して3歳以上児のことばの発達的役割を理解する。
・外的言語、自己中心的言語、内的言語の区別と連関を把握し、3歳以上児に特徴的となる「確立しつつある内的言語」の本質を理解する。
・幼児期におけるコミュニケーションの可視性と「確立しつつある内的言語」の可視化を考察する。
・乳幼児期の特質としての身体をくぐった認識と言語による認識を理解する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　本授業のオリエンテーションとして。ことばの意味と「落とし穴」
第2回　ことばの発達①　乳児期―有意味語の成立まで
第3回　ことばの発達②　幼児前期―話しことばの体系の一応の獲得まで
第4回　ことばの発達③　幼児後期－外的言語、自己中心的言語、内的言語
第5回　ことばと身ぶり書きことばの前史
第6回　書きことばの前史ことばと思考の発達
第7回　ことばと思考の発達
第8回　形象、複合、概念　－まとめにかえて

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（言語）〈幼b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　長橋　聡.伊藤　美和子	

テーマ

言語と人格

授業の到達目標

乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割を考察する。

授業の概要

・乳幼児のことばの発達の本質と特徴を把握し、2・3歳未満児と学齢児と比較して3歳以上児のことばの発達的役割を理解する。
・外的言語、自己中心的言語、内的言語の区別と連関を把握し、3歳以上児に特徴的となる「確立しつつある内的言語」の本質を理解する。
・幼児期におけるコミュニケーションの可視性と「確立しつつある内的言語」の可視化を考察する。
・乳幼児期の特質としての身体をくぐった認識と言語による認識を理解する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　本授業のオリエンテーションとして。ことばの意味と「落とし穴」
第2回　ことばの発達①　乳児期―有意味語の成立まで
第3回　ことばの発達②　幼児前期―話しことばの体系の一応の獲得まで
第4回　ことばの発達③　幼児後期－外的言語、自己中心的言語、内的言語
第5回　ことばと身ぶり書きことばの前史
第6回　書きことばの前史ことばと思考の発達
第7回　ことばと思考の発達
第8回　形象、複合、概念　－まとめにかえて

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（言語）<児>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　長橋　聡.伊藤　美和子	

テーマ

言語と人格

授業の到達目標

乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割を考察する。

授業の概要

・乳幼児のことばの発達の本質と特徴を把握し、2・3歳未満児と学齢児と比較して3歳以上児のことばの発達的役割を理解する。
・外的言語、自己中心的言語、内的言語の区別と連関を把握し、3歳以上児に特徴的となる「確立しつつある内的言語」の本質を理解する。
・幼児期におけるコミュニケーションの可視性と「確立しつつある内的言語」の可視化を考察する。
・乳幼児期の特質としての身体をくぐった認識と言語による認識を理解する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　本授業のオリエンテーションとして。ことばの意味と「落とし穴」
第2回　ことばの発達①　乳児期―有意味語の成立まで
第3回　ことばの発達②　幼児前期―話しことばの体系の一応の獲得まで
第4回　ことばの発達③　幼児後期－外的言語、自己中心的言語、内的言語
第5回　ことばと身ぶり書きことばの前史
第6回　書きことばの前史ことばと思考の発達
第7回　ことばと思考の発達
第8回　形象、複合、概念　－まとめにかえて

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育の言語表現 〈幼a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　長橋　聡.伊藤　美和子	

テーマ

保育の言語表現について学ぶ

授業の到達目標

・幼児の遊びのなかに潜んでいることばと想像・情動の関係について理解する。
・保育現場の実践を素材に、言葉と身ぶりを中心とする言語表現の展開を理解する。
・多くの保育現場で取り組まれている劇遊び・劇つくりという総合的表現の実践を通して言葉と身ぶりについて理解を深める。

授業の概要

言語の指導として総合的表現活動について考察し、乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割について学んでいく

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　ことばと想像
第2回　ことばと情動
第3回　幼児の遊びについて①
第4回　幼児の遊びについて②
第5回　自然を題材にした保育におけることばと身ぶり
第6回　物語を題材にした保育におけることばと身ぶり
第7回　劇遊びのなかのことばと身ぶり
第8回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 50 ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育の言語表現 〈幼b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　長橋　聡.伊藤　美和子	

テーマ

保育の言語表現について学ぶ

授業の到達目標

・幼児の遊びのなかに潜んでいることばと想像・情動の関係について理解する。
・保育現場の実践を素材に、言葉と身ぶりを中心とする言語表現の展開を理解する。
・多くの保育現場で取り組まれている劇遊び・劇つくりという総合的表現の実践を通して言葉と身ぶりについて理解を深める。

授業の概要

言語の指導として総合的表現活動について考察し、乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割について学んでいく

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　ことばと想像
第2回　ことばと情動
第3回　幼児の遊びについて①
第4回　幼児の遊びについて②
第5回　自然を題材にした保育におけることばと身ぶり
第6回　物語を題材にした保育におけることばと身ぶり
第7回　劇遊びのなかのことばと身ぶり
第8回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育の言語表現 〈児〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　長橋　聡.伊藤　美和子	

テーマ

保育の言語表現について学ぶ

授業の到達目標

・幼児の遊びのなかに潜んでいることばと想像・情動の関係について理解する。
・保育現場の実践を素材に、言葉と身ぶりを中心とする言語表現の展開を理解する。
・多くの保育現場で取り組まれている劇遊び・劇つくりという総合的表現の実践を通して言葉と身ぶりについて理解を深める。

授業の概要

言語の指導として総合的表現活動について考察し、乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割について学んでいく

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　ことばと想像
第2回　ことばと情動
第3回　幼児の遊びについて①
第4回　幼児の遊びについて②
第5回　自然を題材にした保育におけることばと身ぶり
第6回　物語を題材にした保育におけることばと身ぶり
第7回　劇遊びのなかのことばと身ぶり
第8回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 50 ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**幼児体育Ⅰ〈幼ZB〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　口野　隆史	

テーマ

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、子どもたちが楽しく運動遊びをできる指導力を身につける。

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び、ケンパ等々、楽しかったものはこの授業でもやってみる。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　容

第1回　オリエンテーション(授業概要、教育課程での位置づけ、レポート作成要領)
第2回　自己の体力の理解と仲間づくりⅠ＜集団での運動課題＞長縄跳び、パラバルーン
第3回　自己の体力の理解と仲間づくりⅡ＜集団での運動課題＞ジャンケン遊び、鬼遊び
第4回　手具を用いた運動Ⅰ＜ボール＞用具の特性理解と動作理解(投げる、受けるなど)
第5回　手具を用いた運動Ⅱ＜縄＞用具の特性理解と動作理解(跳ぶ、引く、各種縄跳び)
第6回　手具を用いた運動Ⅲ＜輪＞用具の特性理解と動作理解(ケンパ、輪転がし、輪投げ)
第7回　手具を用いた運動Ⅳ＜棒＞用具の特性理解と動作理解(バンブーダンス、棒体操)
第8回　まとめ

履修上の注意点

しっかり出席すること。運動遊びの実技を行うので、子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かす。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を実技を通して理解する。

教科書

みんなが輝く体育①　幼児期　運動あそびの進め方
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　創文企画
出版年:　2009　　ISBN:

参考書

幼児のこころと運動
著者:　近藤充夫
出版社:　教育出版
出版年:　1995　　ISBN:

乳幼児の体育あそび
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　草土文化
出版年:　1999　　ISBN:

幼児体育の指導
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　ベースボール・マガジン社
出版年:　1974　　ISBN:

a30102f512

幼児のあそびと仕事

著者: 城丸章夫

出版社: 草土文化

出版年: 1981 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 40 ） 授業中発表等（ 20 ）

参加度 （ 40 ）

実技を多く行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かす。考える際は保育者の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮する。

2018 Syllabus

科 目 名　**幼児体育Ⅰ〈児Z〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　新野 守	

テーマ

運動遊びの達人！

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいかを考えながら、楽しく運動遊びを行う

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

日常的に腕立て伏せ、腹筋などの体幹トレーニング等により自己の健康と体力向上に努める。また運動遊びと子どもの発達特性について自習すること。

内　容

第1回　オリエンテーション(授業概要、教育課程での位置づけ、レポート作成要領)
第2回　自己の体力の理解と仲間づくりⅠ＜集団での運動課題＞長縄跳び、パラバルーン
第3回　自己の体力の理解と仲間づくりⅡ＜集団での運動課題＞ジャンケン遊び、鬼遊び
第4回　手具を用いた運動Ⅰ＜ボール＞用具の特性理解と動作理解(投げる、受けるなど)
第5回　手具を用いた運動Ⅱ＜縄＞用具の特性理解と動作理解(跳ぶ、引く、各種縄跳び)
第6回　手具を用いた運動Ⅲ＜輪＞用具の特性理解と動作理解(ケンパ、輪転がし、輪投げ)
第7回　手具を用いた運動Ⅳ＜棒＞用具の特性理解と動作理解(バンブーダンス、棒体操)
第8回　まとめ

履修上の注意点

学校の指導者として相応しい運動服(スポーツウェアとシューズ)を着用すること。欠席は3回以内。出席君忘れは、2点減点。教育者としての自覚堅持。授業内容は、状況に応じて変更されることがあるので、オリエンテーションで確認すること。

教科書

参考書

幼児期運動遊びの進め方
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　創文企画
出版年:　2009　　ISBN:

体育遊び
著者:　米谷光弘
出版社:　ひかりのくに
出版年:　2007　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）
出席(12回以上)、技術、授業記録、レポート、意欲(教育者としての自覚)を評価の対象とする。受講生の状況に応じて評価配分は変更されることがある。

2018 Syllabus

科 目 名　**幼児体育Ⅱ〈幼ZB〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　口野　隆史	

テーマ

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、子どもたちが楽しく運動遊びをできる指導力を身に付ける。

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこかくれんぼ、縄跳び、ボール遊び、ケンパ等々、楽しかったものはこの授業でもやってみる。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　容

第1回　手具を用いない運動Ⅰ＜様々な鬼遊び①＞(少人数で単純なルールで)
第2回　手具を用いない運動Ⅱ＜様々な鬼遊び②＞(多人数でやや複雑なルールで)
第3回　手具を用いない運動Ⅲ＜マット運動①＞感覚･動きづくり
第4回　手具を用いない運動Ⅳ＜マット運動②＞側転を学ぶ
第5回　身近な物を用いた運動Ⅰ＜新聞紙＞用具の特性理解と動作理解(遊びの創造)
第6回　身近な物を用いた運動Ⅱ＜新聞紙＞作成した用具での運動遊び
第7回　子どもの運動発達の理解
第8回　まとめとレポート作成

履修上の注意点

しっかり出席すること。運動遊びの実技を行うので、子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かす。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を実技を通して理解する。

教科書

みんなが輝く体育①　幼児期　運動あそびの進め方
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　創文企画
出版年:　2009　　ISBN:

参考書

幼児のこころと運動
著者:　近藤充夫
出版社:　教育出版
出版年:　1995　　ISBN:

乳幼児の体育あそび
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　草土文化
出版年:　1999　　ISBN:

幼児体育の指導
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　ベースボール・マガジン社
出版年:　1974　　ISBN:

a30102f612

幼児のあそびと仕事

著者: 城丸章夫

出版社: 草土文化

出版年: 1981 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 20 ） 授業中発表等（ 40 ）

参加度 （ 40 ）

実技を多く行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かす。考える際は保育者の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮する。

2018 Syllabus

科 目 名　**幼児体育Ⅱ <児Z>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　新野　守	

テーマ

運動遊びの達人！

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいかを考えながら、楽しく運動遊びを行う

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

日常的に腕立て伏せ、腹筋などの体幹トレーニング等により自己の健康と体力向上に努める。また運動遊びと子どもの発達特性について自習すること。

内　容

第1回　手具を用いない運動Ⅰ＜様々な鬼遊び①＞(少人数で単純なルールで)
第2回　手具を用いない運動Ⅱ＜様々な鬼遊び②＞(多人数でやや複雑なルールで)
第3回　手具を用いない運動Ⅲ＜マット運動①＞感覚･動きづくり
第4回　手具を用いない運動Ⅳ＜マット運動②＞側転を学ぶ
第5回　身近な物を用いた運動Ⅰ＜新聞紙＞用具の特性理解と動作理解(遊びの創造)
第6回　身近な物を用いた運動Ⅱ＜新聞紙＞作成した用具での運動遊び
第7回　子どもの運動発達の理解
第8回　まとめとレポート作成

履修上の注意点

学校の指導者として相応しい運動服(スポーツウェアとシューズ)を着用すること。欠席は3回以内。出席君忘れは、2点減点。教育者としての自覚堅持。授業内容は、状況に応じて変更されることがあるので、オリエンテーションで確認すること。

教科書

参考書

幼児期運動遊びの進め方
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　創文企画
出版年:　2009　　ISBN:

体育遊び
著者:　米谷光弘
出版社:　ひかりのくに
出版年:　2007　　ISBN:

成績評価

試験･レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）
出席(12回以上)、技術、授業記録、レポート、意欲(教育者としての自覚)を評価の対象とする。受講生の状況に応じて評価配分は変更されることがある。

2018 Syllabus

科 目 名　**音楽演習Ⅲ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　48
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐野　仁美.田中　幹子	

テーマ

弾き歌い曲のレパートリーを広げる。

授業の到達目標

1）即興的コード伴奏法についての理解を深め、子どもの前で実際に教育・保育を行う力をつける。2）ピアノの基本的な奏法を習得する。

授業の概要

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と子どもの歌のコード弾き歌いおよび簡単な創作を含む即興的伴奏付けを並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の3～4人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：授業中に指示される課題を各自で必ず練習しておく。わからないところは事前にあげておいて、授業に臨むこと。復習：指導により得られた助言をもとに課題を再度練習して理解を深める。

内　容

第1回　コード進行の復習（ハ長調、ト長調）、バイエルNo.104
第2回　コード進行の復習（ヘ長調、ニ長調）、アラベスク、牧歌
第3回　変ロ長調のコード進行(B♭、E♭、F、F7)、アラベスク、牧歌
第4回　子どもの歌の弾き歌い(変ロ長調)①、狩、ひそかな嘆き
第5回　子どもの歌の弾き歌い(変ロ長調)②、狩、ひそかな嘆き
第6回　ハ短調のコード進行（Cm、Fm、G、G7)、タランテラ、ツェルニ―30番No.1
第7回　子どもの歌の弾き歌い(ハ短調)①、タランテラ、ツェルニ―30番No.1
第8回　子どもの歌の弾き歌い(ハ短調)②、ツェルニ―30番No.1、ベートーヴェン・ソナチネ
第9回　旋律の変奏、効果音、様々な種類の伴奏型、ベートーヴェン・ソナチネ、リズム曲
第10回 子どもの歌の弾き歌い発表、ソナチネアルバム第1巻No.1
第11回 弾き歌いおよび歌唱指導①、ソナチネアルバム第1巻No.1
第12回 弾き歌いおよび歌唱指導②、ソナチネアルバム第1巻No.1
第13回 弾き歌いおよび歌唱指導③、ソナチネアルバム第1巻No.1
第14回 弾き歌いおよび歌唱指導④、ピアノ実技発表曲
第15回 ピアノ実技発表

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。予習、復習が何よりも重要である。

教科書

保育士、教員養成に役立つ 豊かな演奏表現のためのピアノ曲集
著者:　小畑郁男・佐野仁美・田中幹子編著
出版社:　サーベル社
出版年:　2018年　　ISBN:

コードでかんたん！子どものうたマイ・レパートリー
著者:　坂井康子他編著
出版社:　ヤマハ・ミュージックメディア
出版年:　2008年　　ISBN:

参考書

プリントを配布する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 10% ）	授業中発表等（ 70% ）

a30102f750

参加度 （ 20% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**学級担任論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池田　修	

テーマ

学級担任とは何かを考える。

授業の到達目標

学級担任の仕事を理解する。やがて教師として学級担任を持つ時に必要な「引き出し」をできるだけ多く理解し、さらに身につけることを目指す。

授業の概要

それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。また、学習班を単位として学級担任の仕事を模擬的に行ってみる。学生諸君の積極的な発言、活動を期待する。＊　受講生の取り組み具合、受講生のリクエストなどによって多少の変更は想定される。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

学級担任は、子どもや保護者から見れば学校の窓口である。学校のすべての仕事が広く関わってくる。それぞれの仕事を理解し、有機的に関連づけて子どもの成長に活かすことが期待される。学習集団であり生活集団でもある学級を束ね、より高いところに導こうとする担任の仕事は多岐に渡り、豊かで複雑である。新聞記事などに出る教育の話題、問題、課題について、もし自分が学級担任ならどのように取り組むのかと日常的に考え、文章にまとめることを勧める。それは、教員採用試験の学習にも直結するであろう。

内　　容

第1回　学級とは何か・授業ガイダンス。学級開きを通して、学級を考えてみる。先生と児童との距離感、黄金の三日間、3・7・30の法則。
第2回　学級担任の仕事。学級担任の仕事の種類や範囲を考えてみる。また、学級担任が「学級作り」で考えることを考える。担任窓口論、学級経営年間指導案、学級担任事務、学級通信、学級指導の記録などを手掛かりとする。
第3回　学級レクリエショーン。子どもは遊びの中から学んでいく。その遊びを学級の中で最初に組織するのは担任である。学級レクリエーションの例を見ながら、いくつかの具体的な方法を実際にやってみる。
第4回　学級集団内のグループ。公的集団と私的集団。班作り（生活班と学習班）、実行委員会、専門委員会、生徒会、プロジェクトチーム、学習係、お助け組、会社、遊び仲間、女子集団、ソシオメトリなどを考える。
第5回　学級の環境作り。子どもは生活リズムと環境を土台にして学習を行う。そのために重要な「座席・掲示物・給食・掃除・教室美化」について指導方法を考える。
第6回　体験作文の指導。学級担任の仕事の大きな一つに、子どもたちに作文を書かせるというものがある。運動会、遠足、新学期など様々な場面で子どもたちに作文を書かせる。その指導方法に付いて学ぶ。
第7回　担任の一日の仕事を考える1。出勤から退勤までの流れの中で、担任の仕事を考えてみる。
第8回　担任の一日の仕事を考える2。出勤から退勤までの流れの中で、担任の仕事を考えてみる。
第9回　場面別指導1。忘れ物、遅刻の指導を中心に扱う。
第10回　場面別指導2。私語、学習遅進児への対応を中心に扱う。
第11回　場面別指導3。喧嘩、いじめ、からかいなどのトラブルへの対応を中心に扱う。
第12回　保護者との関係作り。保護者との協力関係を作ることが、子どもの成長に繋がる。保護者会、家庭訪問、三者面談、電話対応などを中心に扱う。
第13回　学級担任としての写真講座。学級経営に生かす写真の在り方について考える。撮影、分析、提示などの観点から考える。
第14回　通知表の書き方。架空の児童の通知表を実際に書いてみる。通知表の相互評価。実際に書いてみた、架空の児童の通知表の相互評価を行う。
第15回　まとめ。「書き込み回覧作文」による学級担任論の授業評価。

履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。

教科書

こんな時どう言い返す
著者:　池田修
出版社:　学事出版
出版年:　　ISBN:

子どもと歩む　教師の12ヶ月
著者:　家本芳郎
出版社:　高文研
出版年:　　ISBN:

a30102f950

教師のための叱る作法
著者: 野口芳宏
出版社: 学陽書房
出版年: ISBN:

新版 教師になるということ
著者: 池田修
出版社: 学陽書房
出版年: ISBN:

＜教育力＞をみがく
著者: 家本芳郎
出版社: 寺子屋新書
出版年: ISBN:

学級経営力を高める3・7・30の法則
著者: 野中信行
出版社: 学事出版
出版年: ISBN:

参考書

「かくれたカリキュラム」発見・改善ガイド
著者: 横藤雅人・武藤久慶
出版社: 明治図書
出版年: ISBN:

先生！ 親ってそんなに怖いんですか？
著者: 星 幸宏
出版社: 立花書房
出版年: ISBN:

ヒドゥンカリキュラム入門
著者: 多賀一郎
出版社: 明治図書
出版年: ISBN:

〈学級〉の歴史学
著者: 柳 治男
出版社: 講談社選書メチエ
出版年: ISBN:

学級経営10の原理100の原則
著者: 堀 裕嗣
出版社: 学事出版
出版年: ISBN:

教師におくる「指導」のいろいろ
著者: 家本芳郎
出版社: 高文研
出版年: ISBN:

学級担任に絶対必要な「フォロー」の技術
著者: 中村健一
出版社: 黎明書房
出版年: ISBN:

いじめで子どもが壊れる前に
著者: 藤川大祐
出版社: 角川ONEテーマ新書
出版年: ISBN:

クラスづくりの極意
著者: 岩瀬直樹
出版社: 農文協
出版年: ISBN:

a30102f950

手軽に発行　学級通信のアイデア40

著者:　佐藤正寿

出版社: ひまわり社

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 25 ）

参加度（ 35 ）

出欠席は、出席くんと授業後に指示する課題を掲示板に書くことの両方をセットにして確認する。片方だけでは出席とはならないことを理解すること。また、参加度は出席率のことではないことを理解すること。 また、出席くんを忘れた時は、池田は訂正しないので忘れることのないように。

2018 Syllabus

科 目 名　**教科教育法(国語)〈a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　員　40
履修条件　他学科生等10名まで	クラス指定
担 当 者　池田 修	

テーマ

国語科授業の基本的な指導法に触れる

授業の到達目標

学校現場に立った時すぐに行わなければならない国語科の基本的な指導について、具体的にその方法に触れる。漢字、読書、作文、音読などの項目について学習集団に対しての指導法を理解する。

授業の概要

それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

内　容

第1回　国語科って何？　授業ガイダンス　学習指導要領では？　どんな力をつける教科？　国語科教育の歴史　学習権宣言　授業と家庭学習の循環　教科通信
第2回　国語の授業を作る基礎　発声の基礎、板書の基礎、教室の立ち位置、チョークの持ち方
第3回　メモ指導　聞く生徒を育てるために。　箇条書き、マッピング、マンダラート、KJ法
第4回　漢字指導　1　漢字カルタ、漢字ウォーリーを捜せ、津川式超記憶術、漢字ドリル、漢字ルーツプリント、辞書指導　四字熟語でポン たほいや　百人一首　簡単な学習ゲーム論
第5回　読書指導　　読むは、書くである。読書感想文、読書郵便、朝の読書、書き抜きエッセイ、読書へのアニマシオン、図書館の使いかた指導
第6回　ポートフォリオ学習　和綴じ本づくり
第7回　作文指導　1　体験作文指導の哲学。作文は、料理に似ている、原稿用紙の使い 方、アイディア出し、リサーチ、タイトルの付け方、書きはじめの指示、推敲、評価
第8回　作文指導　2　デジタルストーリーテリングの可能性
第9回　作文指導　3　「書き込み回覧作文」による評価
第10回　学習指導案作り　国語科の学習指導案の書き方を学び、実際に作ってみる。
第11回　テスト問題と採点方法　国語科のテスト問題を、お互いに解き合い、採点もする。相互評価を下してみる。
第12回　音読／プレゼン指導　　滑舌調音、群読、ショウ&テル、ことわざスピーチバトル、評価の実際
第13回　句会方式による指導　句会、人生名言集、こんな本なら読んでみたいタイトルコンテスト
第14回　模擬授業1　国語の模擬授業を行う
第15回　模擬授業2　まとめ　国語の模擬授業を行う　まとめ

履修上の注意点

「国語が好き」「国語がわかる」では、国語の教師になれたとしても、やっていけない。「国語を教えることができる」でなければならない。そのためには教育雑誌にある授業の記録、学校現場での授業の見学、テレビ番組での授業など国語科に限らず、多くの授業に触れること。その際、学習集団としてのクラスに教師がどのように働きかけているのかに意識を向けること。また、実際に学んだ内容を塾などの指導で活用して使えるようにすること、ワープロや表計算ソフトの習得も勧める。

教科書

白石範孝の国語授業の教科書
著者:　白石範孝
出版社:　東洋館出版社
出版年:　2011　　ISBN:

実践へのヒント　国語科授業用語の手引き　第二版
著者:　中原國明・大熊徹編
出版社:　教育出版
出版年:　　ISBN:

スペシャリスト直伝! 中学校国語科授業成功の極意
著者:　池田 修
出版社:　明治図書
出版年:　2017　　ISBN:　9784181342272

a30102g010

白川静さんに学ぶ　漢字は楽しい

著者:　小山鉄郎

出版社: 新潮文庫

出版年:　　ISBN:

白川静さんに学ぶ　漢字は怖い

著者:　小山鉄郎

出版社: 新潮文庫

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 50 ）

出席くんと当日指定の課題の両方とも正しく出されていることで、当日出席があったと認めている。出席くんを忘れた時は、池田は訂正しないので忘れることのないように。

教科書指定の補足。『白川静さんに学ぶ　漢字は怖い』は、aクラス指定。『白川静さんに学ぶ　漢字は楽しい』は、bクラス指定とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**教科教育法(国語)〈b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　他学科生等10名まで	クラス指定
担 当 者　池田 修	

テーマ

国語科授業の基本的な指導法に触れる

授業の到達目標

学校現場に立った時すぐに行わなければならない国語科の基本的な指導について、具体的にその方法に触れる。漢字、読書、作文、音読などの項目について学習集団に対しての指導法を理解する。

授業の概要

それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

内　容

第1回　国語科って何？ 授業ガイダンス 学習指導要領では？ どんな力をつける教科？ 国語科教育の歴史 学習権宣言 授業と家庭学習の循環 教科通信
第2回　国語の授業を作る基礎 発声の基礎、板書の基礎、教室の立ち位置、チョークの持ち方
第3回　メモ指導 聞く生徒を育てるために。 箇条書き、マッピング、マンダラート、KJ法
第4回　漢字指導 1 漢字カルタ、漢字ウォーリーを捜せ、津川式超記憶術、漢字ドリル、漢字ルーツプリント、辞書指導 四字熟語でポン たほいや 百人一首 簡単な学習ゲーム論
第5回　読書指導　読むは、書くである。読書感想文、読書郵便、朝の読書、書き抜きエッセイ、読書へのアニマシオン、図書館の使いかた指導
第6回　ポートフォリオ学習 和綴じ本づくり
第7回　作文指導 1 体験作文指導の哲学。作文は、料理に似ている、原稿用紙の使い 方、アイディア出し、リサーチ、タイトルの付け方、書きはじめの指示、推敲、評価
第8回　作文指導 2 デジタルストーリーテリングの可能性
第9回　作文指導 3 「書き込み回覧作文」による評価
第10回 学習指導案作り 国語科の学習指導案の書き方を学び、実際に作ってみる。
第11回 テスト問題と採点方法 国語科のテスト問題を、お互いに解き合い、採点もする。相互評価を下してみる。
第12回 音読／プレゼン指導　滑舌調音、群読、ショウ&テル、ことわざスピーチバトル、評価の実際
第13回 句会方式による指導 句会、人生名言集、こんな本なら読んでみたいタイトルコンテスト
第14回 模擬授業1 国語の模擬授業を行う
第15回 模擬授業2 まとめ 国語の模擬授業を行う まとめ

履修上の注意点

「国語が好き」「国語がわかる」では、国語の教師になれたとしても、やっていけない。「国語を教えることができる」でなければならない。そのためには教育雑誌にある授業の記録、学校現場での授業の見学、テレビ番組での授業など国語科に限らず、多くの授業に触れること。その際、学習集団としてのクラスに教師がどのように働きかけているのかに意識を向けること。また、実際に学んだ内容を塾などの指導で活用して使えるようにすること、ワープロや表計算ソフトの習得も勧める。

教科書

白石範孝の国語授業の教科書
著者: 白石範孝
出版社: 東洋館出版社
出版年: 2011　ISBN:

実践へのヒント 国語科授業用語の手引き 第二版
著者: 中原國明・大熊徹編
出版社: 教育出版
出版年:　ISBN:

スペシャリスト直伝! 中学校国語科授業成功の極意
著者: 池田 修
出版社: 明治図書
出版年: 2017　ISBN: 9784181342272

a30102g012

白川静さんに学ぶ　漢字は楽しい

著者:　小山鉄郎

出版社: 新潮文庫

出版年:　　ISBN:

白川静さんに学ぶ　漢字は怖い

著者:　小山鉄郎

出版社: 新潮文庫

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 50 ）

出席くんと当日指定の課題の両方とも正しく出されていることで、当日出席があったと認めている。出席くんを忘れた時は、池田は訂正しないので忘れることのないように。

教科書指定の補足。『白川静さんに学ぶ　漢字は怖い』は、aクラス指定。『白川静さんに学ぶ　漢字は楽しい』は、bクラス指定とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**教科教育法(社会) <a>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　他学科生等10名まで	クラス指定
担 当 者　倉持　祐二	

テーマ

小学校社会科の授業づくりの基礎・基本

授業の到達目標

小学校社会科の授業をつくる視点と方法を獲得する。

授業の概要

小学校での社会科学習を、児童の実態に即してどのように指導するのかを学ぶために、次のような流れで展開する。(1)2008年度版学習指導要領や教科書から授業単元を選び、各自が学習指導案をつくる。(2)できあがった指導案をグループの中で検討する。(3)グループごとに指導案を1つ選び、全体で模擬授業を実施し、授業研究を行う。(4)模擬授業や授業研究から学んだことを確かめる。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

内　容

第1回　学習指導要領＝小学校社会科で学ぶこと
第2回　社会科教材研究入門
第3回　社会科授業の発問づくり
第4回　小学校社会科の授業方法
第5回　学習指導案をつくる
第6回　地図を使った模擬授業と授業研究
第7回　「町ではたらく人たち」をテーマにした模擬授業と授業研究
第8回　日本の産業をテーマにした模擬授業と授業研究
第9回　環境をテーマにした模擬授業と授業研究
第10回　各地のくらしをテーマにした模擬授業と授業研究
第11回　「貴族の世の中」の模擬授業と授業研究
第12回　「武士の世の中」の模擬授業と授業研究
第13回　日本国憲法を教える模擬授業と授業研究
第14回　世界の国ぐにとのつながりを教える模擬授業と授業研究
第15回　模擬授業や授業研究から学んだこと

履修上の注意点

(1)学習指導案の作成にあたっては、楽しい社会科の実践の先行実践を調べ、それをもとに資料収集をすすめることを期待する。
(2)授業以外でも集団的に教材研究をすすめることができるようになることを期待する。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 (50)	授業中発表等 (50)
参加度 ( )	

2018 Syllabus

科 目 名　**教科教育法(社会)〈b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　他学科生等10名まで	クラス指定
担 当 者　倉持　祐二	

テーマ

小学校社会科の授業づくりの基礎・基本

授業の到達目標

小学校社会科の授業をつくる視点と方法を獲得する。

授業の概要

小学校での社会科学習を、児童の実態に即してどのように指導するのかを学ぶために、次のような流れで展開する。(1)2008年度版学習指導要領や教科書から授業単元を選び、各自が学習指導案をつくる。(2)できあがった指導案をグループの中で検討する。(3)グループごとに指導案を1つ選び、全体で模擬授業を実施し、授業研究を行う。(4)模擬授業や授業研究から学んだことを確かめる。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

内　容

第1回　学習指導要領＝小学校社会科で学ぶこと
第2回　社会科教材研究入門
第3回　社会科授業の発問づくり
第4回　小学校社会科の授業方法
第5回　学習指導案をつくる
第6回　地図を使った模擬授業と授業研究
第7回　「町ではたらく人たち」をテーマにした模擬授業と授業研究
第8回　日本の産業をテーマにした模擬授業と授業研究
第9回　環境をテーマにした模擬授業と授業研究
第10回　各地のくらしをテーマにした模擬授業と授業研究
第11回　「貴族の世の中」の模擬授業と授業研究
第12回　「武士の世の中」の模擬授業と授業研究
第13回　日本国憲法を教える模擬授業と授業研究
第14回　世界の国ぐにとのつながりを教える模擬授業と授業研究
第15回　模擬授業や授業研究から学んだこと

履修上の注意点

(1)学習指導案の作成にあたっては、楽しい社会科の実践の先行実践を調べ、それをもとに資料収集をすすめることを期待する。
(2)授業以外でも集団的に教材研究をすすめることができるようになることを期待する。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教科教育法（生活）<a>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　他学科生等10名まで	クラス指定
担 当 者　三上　周治	

テーマ

小学校生活科を豊かに教えることのできる教師を育む

授業の到達目標

小学校「生活科」は小学校1年、2年に限定された教科である。この時期の児童は大きく変容する精神発達を基礎に、人間力を獲得していくことでものやことがらに働きかけていく力が育っていく。その力に寄り添い引き出しながら、自然や社会に働きかけることを通して、よりゆたかな人間力を育むことのできる教師としての力量を育てる。

授業の概要

身近な環境を対象としながら体験を通して学習するため、地域や学校、児童の実態に即した学習を重視する。具体的な指導計画や学習展開を教材として生活科教育法の基本を把握していく。また、個の学びと集団における学びのひろがりと連続性についても実践の吟味を通して追究していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　生活科教育の目的：自立への基礎を育むために。
第2回　実践報告「おだんごころがし」を読み取る。
第3回　「おだんごころがし」の生活科実践としての意味を考える。
第4回　地図を片手に東西南北ー地域の自然と社会から学ぶ（含む：安全対策）
第5回　笠井守実践「おだんごころがし」から読み取ったもの
第6回　「やじろべえ」①「直角やじろべえ／鋭角やじろべえ／鈍角やじろべえ」
第7回　「やじろべえ」②「まっすぐやじろべえの改造」が意味するものはなんだろうか。
第8回　「やじろべえ」③「こどものわかり方によりそう授業を作る」ということを吟味する。
第9回　生活科とものづくりーおもちゃを作ろう①（含む：安全対策）
第10回　生源寺実践「やじろべえ」から読み取ったもの
第11回　生活科とものづくりーおもちゃを作ろう②（含む：安全対策）
第12回　はたらく人々ー地域の人と社会から学ぶ①
第13回　生活科の指導案。何が重要なポイントか。
第14回　生活科の指導案をグループで発表・評価する。
第15回　試験問題の解説と授業のまとめ

履修上の注意点

（1）小学校現場での生活科の授業を参観し授業の作り方・進め方について学ぶ。
（2）学んだことをA4、1頁の教科通信風に仕立てて交流する。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教科教育法（生活）<b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　他学科生等10名まで	クラス指定
担 当 者　三上　周治	

テーマ

小学校生活科を豊かに教えることのできる教師を育む

授業の到達目標

小学校「生活科」は小学校1年、2年に限定された教科である。この時期の児童は大きく変容する精神発達を基礎に、人間力を獲得していくことでものやことがらに働きかけていく力が育っていく。その力に寄り添い引き出しながら、自然や社会に働きかけることを通して、よりゆたかな人間力を育むことのできる教師としての力量を育てる。

授業の概要

身近な環境を対象としながら体験を通して学習するため、地域や学校、児童の実態に即した学習を重視する。具体的な指導計画や学習展開を教材として生活科教育法の基本を把握していく。また、個の学びと集団における学びのひろがりと連続性についても実践の吟味を通して追究していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　生活科教育の目的：自立への基礎を育むために。
第2回　実践報告「おだんごころがし」を読み取る。
第3回　「おだんごころがし」の生活科実践としての意味を考える。
第4回　地図を片手に東西南北ー地域の自然と社会から学ぶ（含む：安全対策）
第5回　笠井守実践「おだんごころがし」から読み取ったもの
第6回　「やじろべえ」①「直角やじろべえ／鋭角やじろべえ／鈍角やじろべえ」
第7回　「やじろべえ」②「まっすぐやじろべえの改造」が意味するものはなんだろうか。
第8回　「やじろべえ」③「こどものわかり方によりそう授業を作る」ということを吟味する。
第9回　生活科とものづくりーおもちゃを作ろう①（含む：安全対策）
第10回　生源寺実践「やじろべえ」から読み取ったもの
第11回　生活科とものづくりーおもちゃを作ろう②（含む：安全対策）
第12回　はたらく人々ー地域の人と社会から学ぶ①
第13回　生活科の指導案。何が重要なポイントか。
第14回　生活科の指導案をグループで発表・評価する。
第15回　試験問題の解説と授業のまとめ

履修上の注意点

（1）小学校現場での生活科の授業を参観し授業の作り方・進め方について学ぶ。
（2）学んだことをA4、1頁の教科通信風に仕立てて交流する。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教科教育法（生活）<c>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　他学科生等10名まで	クラス指定
担 当 者　三上　周治	

テーマ

小学校生活科を豊かに教えることのできる教師を育む

授業の到達目標

小学校「生活科」は小学校1年、2年に限定された教科である。この時期の児童は大きく変容する精神発達を基礎に、人間力を獲得していくことでものやことがらに働きかけていく力が育っていく。その力に寄り添い引き出しながら、自然や社会に働きかけることを通して、よりゆたかな人間力を育むことのできる教師としての力量を育てる。

授業の概要

身近な環境を対象としながら体験を通して学習するため、地域や学校、児童の実態に即した学習を重視する。具体的な指導計画や学習展開を教材として生活科教育法の基本を把握していく。また、個の学びと集団における学びのひろがりと連続性についても実践の吟味を通して追究していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　生活科教育の目的：自立への基礎を育むために。
第2回　実践報告「おだんごころがし」を読み取る。
第3回　「おだんごころがし」の生活科実践としての意味を考える。
第4回　地図を片手に東西南北ー地域の自然と社会から学ぶ（含む：安全対策）
第5回　笠井守実践「おだんごころがし」から読み取ったもの
第6回　「やじろべえ」①「直角やじろべえ／鋭角やじろべえ／鈍角やじろべえ」
第7回　「やじろべえ」②「まっすぐやじろべえの改造」が意味するものはなんだろうか。
第8回　「やじろべえ」③「こどものわかり方によりそう授業を作る」ということを吟味する。
第9回　生活科とものづくりーおもちゃを作ろう①（含む：安全対策）
第10回　生源寺実践「やじろべえ」から読み取ったもの
第11回　生活科とものづくりーおもちゃを作ろう②（含む：安全対策）
第12回　はたらく人々ー地域の人と社会から学ぶ①
第13回　生活科の指導案。何が重要なポイントか。
第14回　生活科の指導案をグループで発表・評価する。
第15回　試験問題の解説と授業のまとめ

履修上の注意点

（1）小学校現場での生活科の授業を参観し授業の作り方・進め方について学ぶ。
（2）学んだことをA4、1頁の教科通信風に仕立てて交流する。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教科教育法(図画工作)〈a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　他学科生等10名まで	クラス指定
担 当 者　大久保　恭子	

テーマ

小学校図画工作教育の意義及び具体的な指導内容・方法を学ぶ

授業の到達目標

学童期の発達段階と表現様式・表現内容のありようを理解し、具体的な指導内容・方法を理解する。乳・幼児期からの連続性と質的展開、低学年期・中学年期・高学年期の発達のちがいによる特徴とそれぞれの時期における指導のポイントを学ぶ。

授業の概要

図画工作教育の基本的な理論とともに、小学校現場実践における授業を取材して、ねらい・展開の実際を分析し、具体的な指導実践の課題に結びつける。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

内　容

第1回　日本の美術教育の歴史と課題「自由と主体性」
第2回　図工・美術教育の課題「表現&技術、その指導法」
第3回　「幼児期・低学年期」における図画工作教育の内容(学習指導要領＆取材実践から)
第4回　「中学年期」における図画工作教育の内容(学習指導要領＆取材実践から)
第5回　「高学年期」における図画工作教育の内容(学習指導要領＆取材実践から)
第6回　図画工作指導法①「入門期の指導」
第7回　図画工作指導法②「描画表現指導の実際」(現場実践者:ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰに学ぶ)
第8回　図画工作指導法③「手仕事表現指導の実際」(現場実践者:ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰに学ぶ)
第9回　実践に向けて「学習指導案」作成
第10回　教育実習に向けて「図画工作指導計画①模擬授業(低学年授業)と検証」
第11回　教育実習に向けて「図画工作指導計画①模擬授業(低学年授業)と検証」
第12回　教育実習に向けて「図画工作指導計画③模擬授業(高学年授業)と検証」
第13回　図画工作・美術授業と評価、鑑賞授業の展開①(日本絵画・西洋絵画)
第14回　図画工作・美術授業と評価、鑑賞授業の展開②(学級の仲間の作品)
第15回　まとめ

履修上の注意点

〇自主訪問などにより、小学校現場プロ教師の「図画工作」授業の実際から学ぶ。
〇教育現場でのボランティア・フィールドワークなどで「美術表現活動」を意識的に展開し、自らの実践と結びつけながら学内学習を充実させる。
〇自らの幼稚園・小学校・中学校・高等学校時代の「美術教育」の実際を振り返り、教育としての図画工作・美術の意味と課題検証も合わせて行う。

教科書

小学校学習指導要領解説　図画工作編
著者:　文部科学省
出版社:
出版年:　2018　　ISBN:

参考書

小学校学習指導要領　図画工作
著者:　文部科学省
出版社:
出版年:　2018　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教科教育法(図画工作) <b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　他学科生等10名まで	クラス指定
担 当 者　大久保　恭子	

テーマ

小学校図画工作教育の意義及び具体的な指導内容・方法を学ぶ

授業の到達目標

学童期の発達段階と表現様式・表現内容のありようを理解し、具体的な指導内容・方法を理解する。乳・幼児期からの連続性と質的展開、低学年期・中学年期・高学年期の発達のちがいによる特徴とそれぞれの時期における指導のポイントを学ぶ。

授業の概要

図画工作教育の基本的な理論とともに、小学校現場実践における授業を取材して、ねらい・展開の実際を分析し、具体的な指導実践の課題に結びつける。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

内　容

第1回　日本の美術教育の歴史と課題「自由と主体性」
第2回　図工・美術教育の課題「表現&技術、その指導法」
第3回　「幼児期・低学年期」における図画工作教育の内容(学習指導要領＆取材実践から)
第4回　「中学年期」における図画工作教育の内容(学習指導要領＆取材実践から)
第5回　「高学年期」における図画工作教育の内容(学習指導要領＆取材実践から)
第6回　図画工作指導法①「入門期の指導」
第7回　図画工作指導法②「描画表現指導の実際」(現場実践者:ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰに学ぶ)
第8回　図画工作指導法③「手仕事表現指導の実際」(現場実践者:ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰに学ぶ)
第9回　実践に向けて「学習指導案」作成
第10回　教育実習に向けて「図画工作指導計画①模擬授業(低学年授業)と検証」
第11回　教育実習に向けて「図画工作指導計画①模擬授業(低学年授業)と検証」
第12回　教育実習に向けて「図画工作指導計画③模擬授業(高学年授業)と検証」
第13回　図画工作・美術授業と評価、鑑賞授業の展開①(日本絵画・西洋絵画)
第14回　図画工作・美術授業と評価、鑑賞授業の展開②(学級の仲間の作品)
第15回　まとめ

履修上の注意点

〇自主訪問などにより、小学校現場プロ教師の「図画工作」授業の実際から学ぶ。
〇教育現場でのボランティア･フィールドワークなどで「美術表現活動」を意識的に展開し、自らの実践と結びつけながら学内学習を充実させる。
〇自らの幼稚園・小学校・中学校・高等学校時代の「美術教育」の実際を振り返り、教育としての図画工作・美術の意味と課題検証も合わせて行う。

教科書

小学校学習指導要領解説　図画工作編
著者:　文部科学省
出版社:
出版年:　2018　　ISBN:

参考書

小学校学習指導要領　図画工作
著者:　文部科学省
出版社:
出版年:　2018　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教科教育法(体育)〈a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　他学科生等10名まで	クラス指定
担 当 者　　口野　隆史	

テーマ

自分の体育授業で、どんな子どもに育ってほしいのかを考える

授業の到達目標

まず、体育の授業に関わる目的・目標、内容、方法、評価、教材化などに関する基礎的な知識を学ぶ。また、優れた体育の授業や学習指導要領等についても理解し、その上で自分の体育の授業を通して育てたい子ども像、学ばせたい内容を(理想でもよいのである程度)描けるようにする。

授業の概要

各自、指導案を作成、模擬授業を行う。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

①自分がこれまで(特に小学生の時)どのような体育の授業を受けてきたかを思い出す。その時の良かった事や悪かった事を振り返り、自分の行う体育の授業の参考とする。
②テレビや新聞の体育、教育に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　容

第1回　自分の受けて来た体育授業を振り返る　体育授業の目的・目標
第2回　体育授業で子どもたちに学ばせたい内容
第3回　体育授業の指導方法と評価
第4回　優れた体育授業について学ぶ
第5回　陸上競技①　陸上競技の授業実践を学ぶ
第6回　陸上競技②　模擬授業「短距離走」を題材に
第7回　陸上競技③　模擬授業「リレー」を題材に
第8回　器械運動① マット・跳び箱の授業実践を学ぶ
第9回　器械運動② 模擬授業「側転」を題材に
第10回　器械運動③ 模擬授業「お話マット」を題材に
第11回　球技①　球技の授業実践を学ぶ
第12回　球技②　模擬授業「じゃまじゃまサッカー」を題材に
第13回　球技③　模擬授業「フラッグフットボール」を題材に
第14回　模擬授業を振り返り「指導案」を修正する
第15回　まとめ

履修上の注意点

1. クラブやサークル、その他様々な機会に、あなたがスポーツや運動を行う時、あなたは何を目的にそれを行っていますか、またスポーツや運動を人に教えたり教えてもらったりする時に、教える難しさやわかりやすい教え方について考えてみて下さい。
2. テレビや新聞の体育や教育に関する問題に注意を払って下さい。気になる問題は、授業で話題にしてみましょう。

教科書

小学校学習指導要領　解説　体育編
著者:　文部科学省
出版社:　東洋館出版社
出版年:　2018　　ISBN:

参考書

みんなが輝く体育②小学校低学年体育の授業
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　創文企画
出版年:　2005年　　ISBN:　4-921164-37-1

みんなが輝く体育③小学校中学年体育の授業
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　創文企画
出版年:　2006年　　ISBN:　4-921164-46-0

a30102g410

みんなが輝く体育④小学校高学年体育の授業

著者: 学校体育研究同志会

出版社: 創文企画

出版年: 2007年　　ISBN: 4-921164-58-4

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 40 ）

参加度（ 20 ）

グループで学習を行い、実技も行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かすことができているか、子どもの指導について考える際は、教師の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮することができているかも見ていく。

2018 Syllabus

科 目 名　**教科教育法(体育)〈b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　他学科生等10名まで	クラス指定
担 当 者　　口野　隆史	

テーマ

自分の体育授業で、どんな子どもに育ってほしいのかを考える

授業の到達目標

まず、体育の授業に関わる目的・目標、内容、方法、評価、教材化などに関する基礎的な知識を学ぶ。また、優れた体育の授業や学習指導要領等についても理解し、その上で自分の体育の授業を通して育てたい子ども像、学ばせたい内容を(理想でもよいのである程度)描けるようにする。

授業の概要

各自、指導案を作成、模擬授業を行う。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

①自分がこれまで(特に小学生の時)どのような体育の授業を受けてきたかを思い出す。その時の良かった事や悪かった事を振り返り、自分の行う体育の授業の参考とする。
②テレビや新聞の体育、教育に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　容

第1回　自分の受けて来た体育授業を振り返る　体育授業の目的・目標
第2回　体育授業で子どもたちに学ばせたい内容
第3回　体育授業の指導方法と評価
第4回　優れた体育授業について学ぶ
第5回　陸上競技①　陸上競技の授業実践を学ぶ
第6回　陸上競技②　模擬授業「短距離走」を題材に
第7回　陸上競技③　模擬授業「リレー」を題材に
第8回　器械運動①　マット・跳び箱の授業実践を学ぶ
第9回　器械運動②　模擬授業「側転」を題材に
第10回　器械運動③　模擬授業「お話マット」を題材に
第11回　球技①　球技の授業実践を学ぶ
第12回　球技②　模擬授業「じゃまじゃまサッカー」を題材に
第13回　球技③　模擬授業「フラッグフットボール」を題材に
第14回　模擬授業を振り返り「指導案」を修正する
第15回　まとめ

履修上の注意点

1. クラブやサークル、その他様々な機会に、あなたがスポーツや運動を行う時、あなたは何を目的にそれを行っていますか、またスポーツや運動を人に教えたり教えてもらったりする時に、教える難しさやわかりやすい教え方について考えてみて下さい。
2. テレビや新聞の体育や教育に関する問題に注意を払って下さい。気になる問題は、授業で話題にしてみましょう。

教科書

小学校学習指導要領　解説　体育編
著者:　文部科学省
出版社:　東洋館出版社
出版年:　2018　　ISBN:

参考書

みんなが輝く体育②小学校低学年体育の授業
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　創文企画
出版年:　2005年　　ISBN:　4-921164-37-1

みんなが輝く体育③小学校中学年体育の授業
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　創文企画
出版年:　2006年　　ISBN:　4-921164-46-0

a30102g412

みんなが輝く体育④小学校高学年体育の授業

著者: 学校体育研究同志会

出版社: 創文企画

出版年: 2007年　　ISBN: 4-921164-58-4

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 40 ）

参加度（ 20 ）

グループで学習を行い、実技も行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かすことができているか、子どもの指導について考える際は、教師の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮することができているかも見ていく。

2018 Syllabus

科 目 名　**児童文学研究**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　三重野　由加	

テーマ

宮沢賢治の文学の解釈と鑑賞～教科書掲載の作品を中心に～

授業の到達目標

文学作品の分析方法を学び、習得することで、自分の力で、文学作品の教材研究ができるようになること。

授業の概要

各作品についての感想等の記入、毎時間のコメント記入を求める。それらを取り込みながら、時に学生同士での議論・代表者による発表も交え、基本的には講義形式で進めていく。なお、授業進度により、内容を変更する場合がある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で取り上げる作品は、必ず事前に読んでおくこと。その際、疑問点や考えたこと等をメモしておくこと。分からない言葉は辞書を引くこと。提出された質問については、可能な限り授業内で回答する。

内　容

第1回　導入
第2回　やまなし①
第3回　やまなし②
第4回　やまなし③
第5回　よだかの星
第6回　なめとこ山の熊①
第7回　なめとこ山の熊②
第8回　なめとこ山の熊③
第9回　オツベルと象①
第10回　オツベルと象②
第11回　銀河鉄道の夜①
第12回　銀河鉄道の夜②
第13回　銀河鉄道の夜③
第14回　雨ニモマケズ
第15回　まとめ
第16回　試験

履修上の注意点

きちんと自筆でノートをとることが望ましい。20分以上の遅刻は欠席とみなし、20分未満の遅刻3回を欠席1回に換算する。

教科書

読んでおきたいベスト集！　宮沢賢治
著者:　別冊宝島編集部編
出版社:　株式会社　宝島社
出版年:　2013　　ISBN:　9784796685092

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20% ）	授業中発表等（ 10% ）
参加度（ 10% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**児童文化論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　幸一郎	

テーマ

宮沢賢治からジブリへ

授業の到達目標

宮沢賢治の文学を文明批判の書としてとらえ、読解を進めていくと同時に、同じテーマを扱ったジブリ作品、具体的には『風の谷のナウシカ』けんとうを通じて、賢治の追求した主題がどのようにジブリに引き継がれていったか。明らかにしていく。

授業の概要

宮沢賢治の童話は、現代に生きる私たちにも多くの問題を投げかけている。賢治童話の読解を通じて、彼が現代文明のどこに矛盾を感じていたか確認するとともに、賢治とともに、その矛盾を解決していく方法を考えていきたい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で取り上げる作品はあらかじめ読んでくること。随時小レポートの提出を求めていく予定である。

内　容

第1回　宮沢賢治の生涯と文学
第2回　『グスコーブドリの伝記』を読む（1）
第3回　『グスコーブドリの伝記』を読む（2）
第4回　『オツベルと象』を読む（1）
第5回　『オツベルと象』を読む（2）
第6回　『オツベルと象』を読む（3）
第7回　『なめとこ山の熊』を読む（1）
第8回　『なめとこ山の熊』を読む（2）
第9回　『なめとこ山の熊』を読む（3）
第10回 『なめとこ山の熊』を読む（4）
第11回 『銀河鉄道の夜』を読む（1）
第12回 『銀河鉄道の夜』を読む（2）
第13回 『銀河鉄道の夜』を読む（3）
第14回 宮沢賢治からジブリへ
第15回 まとめ

履修上の注意点

グループワークには積極的に参加すること

教科書

作品で読む宮沢賢治
著者:　京都橘大学日本語日本文学科
出版社: 新典社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 60 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育相談(初)**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　芦名　猛夫	

テーマ

カウンセリングマインドと人間関係づくり

授業の到達目標

心の病の諸相を知ること。教育相談関連の初歩的理論と技法を知ること。学校現場での人間関係づくりのためにカウンセリングマインドの活用を図る基礎力を身につける。

授業の概要

講義を主とするが、随時指名して発言を求めたり、バズ学習、人間関係づくりのエクササイズビデオ視聴などを入れながら進める。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

内　容

第1回　授業ガイダンス、教育相談の意義:“今なぜ教育相談?”
第2回　教育相談の機能と限界
第3回　教育相談の歩み
第4回　教育相談の事例検討(1)不登校、いじめ等
第5回　教育相談の事例検討(2)対人恐怖、神経症等
第6回　ストレスマネイジメント
第7回　教育相談に役立つ基礎的理論と技法(1)精神分析論(フロイト)
第8回　〃　(2)自己理論 (ロジャーズ)
第9回　〃　(3)行動理論、論理療法
第10回　〃　(4)交流分析、ゲシュタルト理論他
第11回　人間理解とカウンセリングマインド
第12回　人間関係づくりのエクササイズ
第13回　望ましいコミュニケーションのために
第14回　まとめと復習
第15回　試験

履修上の注意点

小説・自伝・人物評論などの読書、引きこもり・対人恐怖・摂食障害など心の問題を扱った読書。さまざまな機会をとらえ、人間ウオッチング(いろんな人がいるなー!)に努める。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート (80)	小テスト ( )
授業中課題 (20)	授業中発表等 ( )
参加度 ( )	

2018 Syllabus

科 目 名　**相談援助 〈幼A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森本　美絵	

テーマ

保育におけるソーシャルワークの意義と相談援助方法の理解

授業の到達目標

①自分というもの（考え方、価値観など）についての理解を深めることができる。
②家族や友人からのちょっとした相談に対して、傾聴、共感、受容を意識した態度をとることができる。
③グループ活動において、十分に意見交流ができる。

授業の概要

この演習では、相談援助の理論、方法、技術を学ぶとともに、自己覚知や他者理解を通して、援助者としての自己に目を向けられるようにする。また、相談援助における問題解決･軽減に向けて、具体的な展開の仕方を事例等を通して学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に資料や課題（60分）をだすので、しっかりと準備してくる。専門用語等に関する小テストを実施するので、毎回授業後に復習する（30~60分）。授業中に紹介した参考文献等を読む。

内　容

第1回　オリエンテーション、相談援助とは何か。
第2回　相談援助発展の歴史的経緯について
第3回　相談援助の理論
第4回　相談援助の体系－特に、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク理論について事例等で学ぶ。
第5回　自己覚知、価値観について
第6回　ケースワークのプロセス
第7回　グループワークのプロセス
第8回　全体の振り返りと理解度調査

履修上の注意点

グループワーク、ロールプレイ等を取り入れるので、積極的に参加すること。

教科書

参考書

成績評価

試験･レポート（　）	小テスト（ 50% ）
授業中課題（ 30% ）	授業中発表等（　）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**相談援助 <幼B>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森本　美絵	

テーマ

保育におけるソーシャルワークの意義と相談援助方法の理解

授業の到達目標

①自分というもの（考え方、価値観など）についての理解を深めることができる。
②家族や友人からのちょっとした相談に対して、傾聴、共感、受容を意識した態度をとることができる。
③グループ活動において、十分に意見交流ができる。

授業の概要

この演習では、相談援助の理論、方法、技術を学ぶとともに、自己覚知や他者理解を通して、援助者としての自己に目を向けられるようにする。また、相談援助における問題解決・軽減に向けて、具体的な展開の仕方を事例等を通して学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に資料や課題（60分）をだすので、しっかりと準備してくる。専門用語等に関する小テストを実施するので、毎回授業後に復習する（30~60分）。授業中に紹介した参考文献等を読む。

内　容

第1回　オリエンテーション、相談援助とは何か。
第2回　相談援助発展の歴史的経緯について
第3回　相談援助の理論
第4回　相談援助の体系－特に、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク理論について事例等で学ぶ。
第5回　自己覚知、価値観について
第6回　ケースワークのプロセス
第7回　グループワークのプロセス
第8回　全体の振り返りと理解度調査

履修上の注意点

グループワーク、ロールプレイ等を取り入れるので、積極的に参加すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（ 50% ）
授業中課題（ 30% ）	授業中発表等（　）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**相談援助 <幼C>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森本　美絵	

テーマ

保育におけるソーシャルワークの意義と相談援助方法の理解

授業の到達目標

①自分というもの（考え方、価値観など）についての理解を深めることができる。
②家族や友人からのちょっとした相談に対して、傾聴、共感、受容を意識した態度をとることができる。
③グループ活動において、十分に意見交流ができる。

授業の概要

この演習では、相談援助の理論、方法、技術を学ぶとともに、自己覚知や他者理解を通して、援助者としての自己に目を向けられるようにする。また、相談援助における問題解決・軽減に向けて、具体的な展開の仕方を事例等を通して学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に資料や課題（60分）をだすので、しっかりと準備してくる。専門用語等に関する小テストを実施するので、毎回授業後に復習する（30~60分）。授業中に紹介した参考文献等を読む。

内　容

第1回　オリエンテーション、相談援助とは何か。
第2回　相談援助発展の歴史的経緯について
第3回　相談援助の理論
第4回　相談援助の体系－特に、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク理論について事例等で学ぶ。
第5回　自己覚知、価値観について
第6回　ケースワークのプロセス
第7回　グループワークのプロセス
第8回　全体の振り返りと理解度調査

履修上の注意点

グループワーク、ロールプレイ等を取り入れるので、積極的に参加すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（ 50% ）
授業中課題（ 30% ）	授業中発表等（　）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育相談支援 <幼A>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森本　美絵	

テーマ

保育相談支援の理論と実践を学ぶ

授業の到達目標

①居住する地域社会にある子育て支援資源に関心を持つようになる。
②乳幼児の発達と保護者の子育て不安とを繋げて考えられるようになる。
③相談事例を読んで、家族関係図や環境等との関係図を描くことができるようになる。
④相談事例を読んで、問題軽減･解決に向けての方法を考えられるようになる。

授業の概要

保護者支援の意義、支援における基本的視点を学び、保育相談支援のあり方を理解する。保育者の保育相談支援技術を学ぶ。事例をもとに支援方法などを考え、その後グループメンバー間で意見交換し、全体に向けてグループで話し合ったことを発表する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習として、配布資料等を読み理解する,課題に取り組む（30~6分）。専門用語の理解やワークシートの完成など（60分）。紹介した図書等を読む。提出するワークシートに質問欄を設定し、授業中に全体に対して答える。

内　容

第1回　オリエンテーション、保育相談支援の意義と基本的視点
第2回　保育相談支援の基本と展開
第3回　保護者からの相談内容、相談を受ける場面
　　基本的なコミュニケーション技術1ーロールプレイ
第4回　保護者からの相談内容、相談を受ける場面
　　基本的なコミュニケーション技術2ー表情等からのメッセージについて
第5回　記録の書き方、事例分析の方法
第6回　保育所等のケースワークの事例を用いて、情報収集･アセスメントの重要性や保育所で可能な支援･連携等いついて理解する。また、支援計画を立てる上での技術に慣れる。
第7回　保育所等のグループワーク事例を通して、グループワークの実際を学ぶ。
第8回　振り返りと理解度調査

履修上の注意点

教科書

参考書

＜増補版＞保育者の保護者支援
著者:　柏女霊峰　橋本真紀
出版社: フレーベル館
出版年:　　ISBN:

保育相談支援
著者:　小林育子
出版社: 萌文書林
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験･レポート（ ）	小テスト（ 50 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育相談支援 <幼B>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森本　美絵	

テーマ

保育相談支援の理論と実践を学ぶ

授業の到達目標

①居住する地域社会にある子育て支援資源に関心を持つようになる。
②乳幼児の発達と保護者の子育て不安とを繋げて考えられるようになる。
③相談事例を読んで、家族関係図や環境等との関係図を描くことができるようになる。
④相談事例を読んで、問題軽減･解決に向けての方法を考えられるようになる。

授業の概要

保護者支援の意義、支援における基本的視点を学び、保育相談支援のあり方を理解する。保育者の保育相談支援技術を学ぶ。事例をもとに支援方法などを考え、その後グループメンバー間で意見交換し、全体に向けてグループで話し合ったことを発表する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習として、配布資料等を読み理解する,課題に取り組む（30~6分）。専門用語の理解やワークシートの完成など（60分）。紹介した図書等を読む。提出するワークシートに質問欄を設定し、授業中に全体に対して答える。

内　容

第1回　オリエンテーション、保育相談支援の意義と基本的視点
第2回　保育相談支援の基本と展開
第3回　保護者からの相談内容、相談を受ける場面
　　基本的なコミュニケーション技術1ーロールプレイ
第4回　保護者からの相談内容、相談を受ける場面
　　基本的なコミュニケーション技術2ー表情等からのメッセージについて
第5回　記録の書き方、事例分析の方法
第6回　保育所等のケースワークの事例を用いて、情報収集･アセスメントの重要性や保育所で可能な支援･連携等いついて理解する。また、支援計画を立てる上での技術に慣れる。
第7回　保育所等のグループワーク事例を通して、グループワークの実際を学ぶ。
第8回　振り返りと理解度調査

履修上の注意点

教科書

参考書

＜増補版＞保育者の保護者支援
著者:　柏女霊峰　橋本真紀
出版社: フレーベル館
出版年:　　ISBN:

保育相談支援
著者:　小林育子
出版社: 萌文書林
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験･レポート（ ）	小テスト（ 50 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育相談支援 <幼C>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森本　美絵	

テーマ

保育相談支援の理論と実践を学ぶ

授業の到達目標

①居住する地域社会にある子育て支援資源に関心を持つようになる。
②乳幼児の発達と保護者の子育て不安とを繋げて考えられるようになる。
③相談事例を読んで、家族関係図や環境等との関係図を描くことができるようになる。
④相談事例を読んで、問題軽減･解決に向けての方法を考えられるようになる。

授業の概要

保護者支援の意義、支援における基本的視点を学び、保育相談支援のあり方を理解する。保育者の保育相談支援技術を学ぶ。事例をもとに支援方法などを考え、その後グループメンバー間で意見交換し、全体に向けてグループで話し合ったことを発表する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習として、配布資料等を読み理解する,課題に取り組む（30~6分）。専門用語の理解やワークシートの完成など（60分）。紹介した図書等を読む。提出するワークシートに質問欄を設定し、授業中に全体に対して答える。

内　容

第1回　オリエンテーション、保育相談支援の意義と基本的視点
第2回　保育相談支援の基本と展開
第3回　保護者からの相談内容、相談を受ける場面
　　基本的なコミュニケーション技術1ーロールプレイ
第4回　保護者からの相談内容、相談を受ける場面
　　基本的なコミュニケーション技術2ー表情等からのメッセージについて
第5回　記録の書き方、事例分析の方法
第6回　保育所等のケースワークの事例を用いて、情報収集･アセスメントの重要性や保育所で可能な支援･連携等いついて理解する。また、支援計画を立てる上での技術に慣れる。
第7回　保育所等のグループワーク事例を通して、グループワークの実際を学ぶ。
第8回　振り返りと理解度調査

履修上の注意点

教科書

参考書

＜増補版＞保育者の保護者支援
著者:　柏女霊峰　橋本真紀
出版社: フレーベル館
出版年:　　ISBN:

保育相談支援
著者:　小林育子
出版社: 萌文書林
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験･レポート（ ）	小テスト（ 50 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**児童家庭福祉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森本　美絵	

テーマ

「子どもの権利」」保障の観点から児童家庭福祉を理解する。

授業の到達目標

①児童家庭福祉の歴史的変遷を学び、その現代的意義を考えることができる。②児童家庭福祉と子どもの権利及び保育との関係性を理解できる。③児童福祉法等を体系的に学び、子どもを取り巻く環境の諸課題を理解できる。④子どもを取り巻く諸課題への対策について考えることができる。

授業の概要

この講義では、児童家庭福祉の法体系、里親制度、施設及び機関の機能等を学び、「子どもの権利」を保障することで、「子どもの最善の利益」を実現する児童家庭福祉の在り方を考える。
適宜、新聞記事等やDVDを使用し、具体的に考えられるようにする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストを講義前に必ず読む（30~60分）。単元毎に復習し専門用語等を覚える(2時間)。適宜小レポート（教員への質問を含む）を課し、質問に対しては、講義時に説明する。

内　容

第8回　児童福祉施設等、里親制度
第9回　児童家庭福祉の財源
第10回　現代家族と児童養護問題
第11回　児童虐待
第12回　ひとり親家族、非行問題
第13回　現代家族と保育問題（待機児童問題）
第14回　障害児福祉の理念と課題
第15回　全体を振り返る。質疑応答
第1回　児童福祉の制定
第2回　児童福祉法の改正
第3回　児童福祉の歴史－イギリス
第4回　児童福祉の歴史－日本
第5回　児童の権利
第6回　児童家庭福祉の法体系
第7回　児童家庭福祉の実施機関

履修上の注意点

教科書

児童福祉論
著者:　吉田明弘
出版社:　八千代出版
出版年:　2016　　ISBN:　9784842916781

参考書

児童の世紀
著者:　エレン・ケイ
出版社:　富山房百科文庫
出版年:　1979　　ISBN:　4-572-00124

成績評価

試験・レポート （ 20 ）	小テスト （ 50 ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**社会的養護**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森本　美絵	

テーマ

社会的養護の現状及び課題の理解

授業の到達目標

①子ども食堂や学習支援等の現代的意義を理解し、それらボランティア活動に関心をもったり、参加することができる。
②児童虐待防止や子どもの貧困等対策に関する新聞等記事を読み概説できる。③子どもと関わる場面で、子どもの権利、特に意見表明権を尊重した態度をとることができる。④施設実習にむけて実習目標を具体的に立てることができる。

授業の概要

この講義では、社会的養護の歴史的変遷から、その現代的意義や、社会的養護と児童家庭福祉との関連性について学ぶ。また、社会的養護の制度や実施機関･施設の機能を知り、子どもの権利擁護や自立支援に向けての取組等について学ぶ。さらに、社会的養護にある子どもとその家族の背景から、現代社会の抱える課題を考える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習としてテキストを読む（30~60分）、復習として1つの単元が終了したら単元毎に設定してある問いを考える（1時間～2時間）。DVD視聴後のレポート作成時に教員への質問を設定し、授業中に説明する。その他に、講義中に紹介した参考文献を読む。。

内　容

第1回　社会的養護の理念
第2回　社会的養護の原理
第3回　子どもの権利
第4回　社会的養護の体系
第5回　社会的養護の制度
第6回　児童虐待について－子どもの抱える課題、虐待の背景など
第7回　社会的養護の子どもの成長の様子－施設養護と里親養育から
第8回　日本における社会的養護のあゆみ
第9回　日本における社会的養護のあゆみ
第10回　欧米における社会的養護の歩み
第11回　現代家族が抱える課題と社会的養護
第12回　養育環境上の問題に対応する施設養護－乳児院、児童養護施設、自立援助ホーム、母子生活支援施設、児童自立支援施設
第13回　養育環境上の問題に対応する施設養護－障碍のある児童の施設養護
第14回　社会的養護の実践方法、社会的養護を支える専門職と権利擁護の仕組み
第15回　全体の振り返り

履修上の注意点

教科書

保育士のための社会的養護
著者:　吉田明弘編著
出版社:　八千代出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784842916590

参考書

成績評価

試験･レポート（ 30 ）	小テスト（ 50 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**こどもの保健Ⅰ－2**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　齋藤　洋子	

テーマ

子どもの疾病予防と適切な対応、子どもの生活環境、保育環境と衛生、安全管理について学ぶ

授業の到達目標

子どもの疾病の特徴と予防、適切な対応を理解する。 保育の環境及び衛生管理・安全管理について理解する。子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。

授業の概要

テキストと資料で進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストを読んで授業に臨むこと

内　　容

第1回　子どもの病気と予防（1）子どもの病気の特徴
第2回　子どもの病気と予防（2）感染症
第3回　子どもの病気と予防（3）アレルギー
第4回　子どもの病気と予防（4）その他の病気1
第5回　子どもの病気と予防（5）その他の病気2
第6回　子どもの病気と予防（6）その他の病気3
第7回　子どもの病気と予防（7）予防接種
第8回　子どもの環境と保健（1）環境整備
第9回　子どもの環境と保健（2）衛生管理
第10回　子どもの環境と保健（3）安全管理
第11回　健康観察・おもな症状の味方と対応
第12回　子どもの事故と怪我への対応
第13回　慢性疾患、気になる子ども他
第14回　子どもの健康および安全の実施体制（1）
第15回　子どもの健康および安全の実施体制（2）

履修上の注意点

教科書

保育を学ぶ人のための子どもの保健Ⅰ
著者:　堀浩樹・梶美保　編著
出版社: 建帛社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 80 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**こどもの保健Ⅱ〈A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　齋藤　洋子	

テーマ

子どもの成長発達を促すために必要な基礎的知識と技術を学ぶ。

授業の到達目標

1.乳幼児の日常生活の養護について、知識と技術を学ぶ。2.乳幼児の健康管理の技術を学ぶ。3.乳幼児の事故防止と安全な保育環境について、知識と技術を学ぶ。

授業の概要

乳幼児の日常生活の養護、健康管理、病気の早期発見・対応、事故防止、安全な保育環境等について、演習を通して知識と技術を習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に教科書の内容を読んで授業(演習)に臨むこと。

内　容

第1回　オリエンテーション こどもの保健と保育
第2回　乳幼児の養護(衣類の着脱・おむつ交換等)
第3回　乳幼児の身体計測
第4回　乳幼児の生理機能の測定(バイタルサインの測定)
第5回　乳幼児の精神機能・感覚の発達と評価
第6回　乳幼児の運動機能の発達と評価
第7回　乳幼児の歯の健康
第8回　乳幼児の身体の清潔(沐浴)
第9回　乳幼児の異常症状と手当Ⅰ
第10回　乳幼児の異常症状と手当Ⅱ
第11回　乳幼児の事故と応急手当
第12回　心肺蘇生法
第13回　健康(安全)教育(グループワーク)
第14回　保健だより(グループワーク)
第15回　保育における環境衛生 保育者の健康管理

履修上の注意点

教科書

子どもの保健演習ガイド
著者:　高内正子　編著
出版社:　建帛社
出版年:　　ISBN:

新装版　産婦人科の窓口から
著者:　河野美代子
出版社:　こども未来社
出版年:　　ISBN:

参考書

保育保健の基礎知識
著者:　巷野悟郎　監修
出版社:　日本小児医事出版社
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 10 ）
「産婦人科の窓口から」を読んでレポートの提出を求める(20%) 授業中に提出を求める課題・グループワークの発表(20%)

2018 Syllabus

科 目 名　**こどもの保健Ⅱ〈B〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　髙田　智恵子	

テーマ

健全なこどもの成長発達を促すために必要な基礎知識と技術を学ぶ。

授業の到達目標

1乳幼児の日常生活の養護の知識と技術を学ぶ。
2乳幼児の健康管理の技術を学ぶ。
3乳幼児の病気時の看護の知識と技術を学ぶ。
4乳幼児の事故防止と安全な保育環境等についての知識と技術を学ぶ。

授業の概要

乳幼児の日常生活の養護、健康管理、病気の早期発見・対応、事故防止、安全な保育環境等について演習を通して習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に教科書の内容を読んで授業（演習）に臨むこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
　　こどもの保健と保育
第2回　乳幼児の養護（衣類の着脱・オムツ交換等）
第3回　乳幼児の身体計測
第4回　乳幼児の生理機能の測定（バイタルサインの測定）
第5回　乳幼児の精神機能・感覚の発達と評価
第6回　乳幼児の運動機能の発達と評価
第7回　乳幼児の歯の健康
第8回　乳幼児の身体の清潔（沐浴）
第9回　乳幼児の異常症状と手当（罨法等）
第10回　乳幼児の異常症状と手当（嘔吐・下痢への対応）
第11回　乳幼児の事故と応急手当
第12回　心肺蘇生法
第13回　健康（安全）教育（グループワーク）
第14回　保健だより（グループワーク）
第15回　保育における環境衛生
　　保育者の健康管理
第16回　試験

履修上の注意点

教科書

子どもの保健演習ガイド
著者:　髙内正子
出版社:　建帛社
出版年:　2015　　ISBN:

産婦人科の窓口から
著者:　河野美代子
出版社:　子どもの未来社
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

よくわかる子どもの保健第3版
著者:　竹内義博・大矢紀昭
出版社:　ミネルバ書房
出版年:　2016　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ ）

a30102h452

授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 10 ）

授業中課題:「産婦人科の窓口から」を読んでレポート提出 （20%）
授業中発表等:授業中に提出を求める課題・グループワーク等の発表（20%）

2018 Syllabus

科 目 名　**こどもの保健Ⅱ〈C〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　髙田　智恵子	

テーマ

健全なこどもの成長発達を促すために必要な基礎知識と技術を学ぶ。

授業の到達目標

1乳幼児の日常生活の養護の知識と技術を学ぶ。
2乳幼児の健康管理の技術を学ぶ。
3乳幼児の病気時の看護の知識と技術を学ぶ。
4乳幼児の事故防止と安全な保育環境等についての知識と技術を学ぶ。

授業の概要

乳幼児の日常生活の養護、健康管理、病気の早期発見・対応、事故防止、安全な保育環境等について演習を通して習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に教科書の内容を読んで授業（演習）に臨むこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
　　こどもの保健と保育
第2回　乳幼児の養護（衣類の着脱・オムツ交換等）
第3回　乳幼児の身体計測
第4回　乳幼児の生理機能の測定（バイタルサインの測定）
第5回　乳幼児の精神機能・感覚の発達と評価
第6回　乳幼児の運動機能の発達と評価
第7回　乳幼児の歯の健康
第8回　乳幼児の身体の清潔（沐浴）
第9回　乳幼児の異常症状と手当（罨法等）
第10回　乳幼児の異常症状と手当（嘔吐・下痢への対応）
第11回　乳幼児の事故と応急手当
第12回　心肺蘇生法
第13回　健康（安全）教育（グループワーク）
第14回　保健だより（グループワーク）
第15回　保育における環境衛生
　　保育者の健康管理
第16回　試験

履修上の注意点

教科書

子どもの保健演習ガイド
著者:　髙内正子
出版社:　建帛社
出版年:　2015　　ISBN:

産婦人科の窓口から
著者:　河野美代子
出版社:　子どもの未来社
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

よくわかる子どもの保健第3版
著者:　竹内義博・大矢紀昭
出版社:　ミネルバ書房
出版年:　2016　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ ）

a30102h453

授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 10 ）

授業中課題:「産婦人科の窓口から」を読んでレポート提出 （20%）
授業中発表等:授業中に提出を求める課題・グループワーク等の発表（20%）

2018 Syllabus

科 目 名　**こどもの食と栄養 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山中　祥子	

テーマ

子どもの発達に応じた栄養と食生活について学ぶ

授業の到達目標

子どもの発達に応じた栄養の基礎的知識、さらにライフステージごとの子どもの身体的・精神的特徴を理解し、子どもの食生活・栄養の課題を明確にし、多角的な視野から解決できる。

授業の概要

講義形式で、保育士に求められる基礎的な知識を習得し、さらにグループワークなどの演習により食生活・栄養に関する課題について考え、発表する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

専門用語も多いので、授業の前後には必ずテキストを読み、予習・復習を行うこと。

内　容

第1回　子どもの食生活の現状と課題①平均寿命・健康寿命・低出生体重児のリスク
第2回　子どもの食生活の現状と課題②　日本人の食生活の問題点　子どもの食生活の形成
第3回　栄養に関する基礎知識①　食品の分類　炭水化物（二糖類・血糖値の調節、食物繊維）
第4回　栄養に関する基礎知識②　脂質（必須脂肪酸、トランス脂肪酸）
第5回　栄養に関する基礎知識③　たんぱく質
第6回　栄養に関する基礎知識④　ビタミン、ミネラル　欠乏症・過剰症
第7回　乳汁栄養
第8回　離乳の意義とその実践　離乳の必要性・離乳食作りの留意点・食物アレルギー
第9回　寄生虫・食中毒・食品添加物・食品表示
第10回　妊娠期の食生活
第11回　幼児期の心身の発達と食生活　離乳の必要性
第12回　好き嫌いはなぜ起こるか
第13回　孤食・共食　　青年期の栄養上の問題（ダイエット・生活習慣病予防）
第14回　食育の重要性
第15回　まとめとレポート

履修上の注意点

遅刻は15分まで、授業中の私語や携帯電話の使用は厳禁とします。テーマによって、課題の提出を求めます。テーマについては、事前に授業中にお知らせします。

教科書

子育て・子育ちを支援する　子どもの食と栄養
著者:　堤　ちはる・土井正子
出版社:　萌文書林
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 10 ）
授業中の発言や、個人で行う課題に対する積極性を重視します。課題についても授業で説明したポイントについての記載を重視します。

2018 Syllabus

科 目 名　**こどもの食と栄養 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山中　祥子	

テーマ

子どもの発達に応じた栄養と食生活について学ぶ

授業の到達目標

子どもの発達に応じた栄養の基礎的知識、さらにライフステージごとの子どもの身体的・精神的特徴を理解し、子どもの食生活・栄養の課題を明確にし、多角的な視野から解決できる。

授業の概要

講義形式で、保育士に求められる基礎的な知識を習得し、さらにグループワークなどの演習により食生活・栄養に関する課題について考え、発表する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

専門用語も多いので、授業の前後には必ずテキストを読み、予習・復習を行うこと。

内　容

第1回　子どもの食生活の現状と課題①平均寿命・健康寿命・低出生体重児のリスク
第2回　子どもの食生活の現状と課題②　日本人の食生活の問題点　子どもの食生活の形成
第3回　栄養に関する基礎知識①　食品の分類　炭水化物（二糖類・血糖値の調節、食物繊維）
第4回　栄養に関する基礎知識②　脂質（必須脂肪酸、トランス脂肪酸）
第5回　栄養に関する基礎知識③　たんぱく質
第6回　栄養に関する基礎知識④　ビタミン、ミネラル　欠乏症・過剰症
第7回　乳汁栄養
第8回　離乳の意義とその実践　離乳の必要性・離乳食作りの留意点・食物アレルギー
第9回　寄生虫・食中毒・食品添加物・食品表示
第10回　妊娠期の食生活
第11回　幼児期の心身の発達と食生活　離乳の必要性
第12回　好き嫌いはなぜ起こるか
第13回　孤食・共食　　青年期の栄養上の問題（ダイエット・生活習慣病予防）
第14回　食育の重要性
第15回　まとめとレポート

履修上の注意点

遅刻は15分まで、授業中の私語や携帯電話の使用は厳禁とします。テーマによって、課題の提出を求めます。テーマについては、事前に授業中にお知らせします。

教科書

子育て・子育ちを支援する　子どもの食と栄養
著者:　堤　ちはる・土井正子
出版社:　萌文書林
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 10 ）
授業中の発言や、個人で行う課題に対する積極性を重視します。課題についても授業で説明したポイントについての記載を重視します。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育の心理学 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　長橋　聡	

テーマ

乳幼児の心理的な特徴を理解し、そこから生じる問題や、保育を行う上で大切なことを理解し、多角的な子どもの見方を身につけること。

授業の到達目標

・乳幼児期の子どもの特徴や発達の様子を知ること。・乳幼児期の発達と、そこから続く発達段階とのつながりをイメージし、保育・教育の実践や支援のあり方について、各々が考えられるようになること。

授業の概要

乳幼児の心理発達について、身体の発達や具体的な活動といったことと関連づけ、事例等も交えながらながら扱っていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：扱うテーマについて、簡潔で良いので、イメージするものや疑問に思うことなどを考え、整理しておくと良い。 復習：配布資料やノート等を用いて復習したり、講義中に紹介する関連書籍などに目を通しておくと良い。
フィードバック：リアクションペーパーを配布、回収し、そこで出た感想や質問等について、次の授業の冒頭で回答、コメントを行う。

内　容

第1回　オリエンテーション、発達と心理学についての基本的な視座
第2回　子ども観と発達観～遺伝と環境～
第3回　身体と運動の発達
第4回　感情の発達
第5回　精神の発達①：ピアジェの認知発達
第6回　精神の発達②：ヴィゴツキーの発達論
第7回　言語とイメージの発達
第8回　乳幼児の遊びとその発達的意義
第9回　愛着の発達とその意義
第10回　基本的生活習慣の発達
第11回　人間関係の発達、人間関係の中での発達
第12回　乳幼児期以降の発達～生涯発達という視座～
第13回　発達における遅れやつまづき：発達障がい
第14回　子どもの心の発達を見る視点～個別と具体、微視と巨視～
第15回　期末試験、まとめと解説

履修上の注意点

出席・欠席について：出席時には学生証を携行してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申告してください。 学習上の助言：自身の興味や関心を大事にして、質問したり、講義で扱ったテーマに関して理解を深めることを望みます。

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 50 ）	授業中発表等 （ ）

参加度 （ ）
評価方法の「授業中課題」については、第7回の前後にレポート課題を課します。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育の心理学 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　長橋　聡	

テーマ

乳幼児の心理的な特徴を理解し、そこから生じる問題や、保育を行う上で大切なことを理解し、多角的な子どもの見方を身につけること。

授業の到達目標

・乳幼児期の子どもの特徴や発達の様子を知ること。・乳幼児期の発達と、そこから続く発達段階とのつながりをイメージし、保育・教育の実践や支援のあり方について、各々が考えられるようになること。

授業の概要

乳幼児の心理発達について、身体の発達や具体的な活動といったことと関連づけ、事例等も交えながらながら扱っていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：扱うテーマについて、簡潔で良いので、イメージするものや疑問に思うことなどを考え、整理しておくと良い。復習：配布資料やノート等を用いて復習したり、講義中に紹介する関連書籍などに目を通しておくと良い。
フィードバック：リアクションペーパーを配布、回収し、そこで出た感想や質問等について、次の授業の冒頭で回答、コメントを行う。

内　容

第1回　オリエンテーション、発達と心理学についての基本的な視座
第2回　子ども観と発達観～遺伝と環境～
第3回　身体と運動の発達
第4回　感情の発達
第5回　精神の発達①：ピアジェの認知発達
第6回　精神の発達②：ヴィゴツキーの発達論
第7回　言語とイメージの発達
第8回　乳幼児の遊びとその発達的意義
第9回　愛着の発達とその意義
第10回　基本的生活習慣の発達
第11回　人間関係の発達、人間関係の中での発達
第12回　乳幼児期以降の発達～生涯発達という視座～
第13回　発達における遅れやつまづき：発達障がい
第14回　子どもの心の発達を見る視点～個別と具体、微視と巨視～
第15回　期末試験、まとめと解説

履修上の注意点

出席・欠席について：出席時には学生証を携行してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申告してください。学習上の助言：自身の興味や関心を大事にして、質問したり、講義で扱ったテーマに関して理解を深めることを望みます。

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

評価方法の「授業中課題」については、第7回の前後にレポート課題を課します。

2018 Syllabus

科 目 名　**乳児保育 <A>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　青木　美智子	

テーマ

乳児の発達過程を理解し、乳児保育の社会的意義について考え、その方法・内容を学ぶ。家庭の子育てを支援する保育者の役割について学ぶ。

授業の到達目標

1. 乳児の発達過程について理解する。2. 乳児保育のデイリープログラムを理解し、実習と関連づけて保育の流れをイメージできるようになる。3. 保育者として子育てを支援する意味について学ぶ。
4. 乳児保育をめぐる制度と課題について考える。

授業の概要

授業は教科書に沿って進むが、受講生の理解、興味や関心を考慮し一部の内容については順番が前後することがある。受講生は授業第1回目には教科書および授業専用のノートを持参すること。「乳児保育」では、乳幼児期の発達に関する知識の習得を目指す。また、知識を定着させるために実技を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

受講にあたっては授業における講義と演習の内容上のつながりを意識すること。

内　容

第1回　乳児保育の理念と意義
第2回　乳児院における乳児保育の現状と課題
第3回　家庭的保育・小規模保育における乳児保育の現状と課題
第4回　乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場
第5回　乳児保育における基本的な援助
第6回　発達と保育内容①
第7回　発達と保育内容②
第8回　発達と保育内容③
第9回　授乳と離乳の支援　－調乳実習と離乳食づくり－
第10回　2歳児の発達と保育内容
第11回　発達と遊び　－保育教材の研究－
第12回　乳児保育の計画と記録と評価
第13回　乳児保育の環境づくり
第14回　乳児保育における保護者との連携
第15回　まとめと筆記試験

履修上の注意点

学生証の携行。

教科書

はじめて学ぶ乳児保育
著者:　志村聡子
出版社: 同文書院
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40% ）　　小テスト（ 5% ）
授業中課題（ 45% ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 10% ）
授業中課題の提出を重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**乳児保育 <B>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　青木　美智子	

テーマ

乳児の発達過程を理解し、乳児保育の社会的意義について考え、その方法・内容を学ぶ。家庭の子育てを支援する保育者の役割について学ぶ。

授業の到達目標

1. 乳児の発達過程について理解する。2. 乳児保育のデイリープログラムを理解し、実習と関連づけて保育の流れをイメージできるようになる。3. 保育者として子育てを支援する意味について学ぶ。
4. 乳児保育をめぐる制度と課題について考える。

授業の概要

授業は教科書に沿って進むが、受講生の理解、興味や関心を考慮し一部の内容については順番が前後することがある。受講生は授業第1回目には教科書および授業専用のノートを持参すること。「乳児保育」では、乳幼児期の発達に関する知識の習得を目指す。また、知識を定着させるために実技を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

受講にあたっては授業における講義と演習の内容上のつながりを意識すること。

内　容

第1回　乳児保育の理念と意義
第2回　乳児院における乳児保育の現状と課題
第3回　家庭的保育・小規模保育における乳児保育の現状と課題
第4回　乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場
第5回　乳児保育における基本的な援助
第6回　発達と保育内容①
第7回　発達と保育内容②
第8回　発達と保育内容③
第9回　授乳と離乳の支援　－調乳実習と離乳食づくり－
第10回　2歳児の発達と保育内容
第11回　発達と遊び　－保育教材の研究－
第12回　乳児保育の計画と記録と評価
第13回　乳児保育の環境づくり
第14回　乳児保育における保護者との連携
第15回　まとめと筆記試験

履修上の注意点

学生証の携行。

教科書

はじめて学ぶ乳児保育
著者:　志村聡子
出版社: 同文書院
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40% ）　　小テスト（ 5% ）
授業中課題（ 45% ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 10% ）
授業中課題の提出を重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**乳児保育 <C>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　青木　美智子	

テーマ

乳児の発達過程を理解し、乳児保育の社会的意義について考え、その方法・内容を学ぶ。家庭の子育てを支援する保育者の役割について学ぶ。

授業の到達目標

1. 乳児の発達過程について理解する。2. 乳児保育のデイリープログラムを理解し、実習と関連づけて保育の流れをイメージできるようになる。3. 保育者として子育てを支援する意味について学ぶ。
4. 乳児保育をめぐる制度と課題について考える。

授業の概要

授業は教科書に沿って進むが、受講生の理解、興味や関心を考慮し一部の内容については順番が前後することがある。受講生は授業第1回目には教科書および授業専用のノートを持参すること。「乳児保育」では、乳幼児期の発達に関する知識の習得を目指す。また、知識を定着させるために実技を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

受講にあたっては授業における講義と演習の内容上のつながりを意識すること。

内　容

第1回　乳児保育の理念と意義
第2回　乳児院における乳児保育の現状と課題
第3回　家庭的保育・小規模保育における乳児保育の現状と課題
第4回　乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場
第5回　乳児保育における基本的な援助
第6回　発達と保育内容①
第7回　発達と保育内容②
第8回　発達と保育内容③
第9回　授乳と離乳の支援　－調乳実習と離乳食づくり－
第10回　2歳児の発達と保育内容
第11回　発達と遊び　－保育教材の研究－
第12回　乳児保育の計画と記録と評価
第13回　乳児保育の環境づくり
第14回　乳児保育における保護者との連携
第15回　まとめと筆記試験

履修上の注意点

学生証の携行。

教科書

はじめて学ぶ乳児保育
著者:　志村聡子
出版社: 同文書院
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40% ）　　小テスト（ 5% ）
授業中課題（ 45% ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 10% ）
授業中課題の提出を重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**障害児保育 <A>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　秋期集中	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　岸本　栄嗣	

テーマ

この授業のテーマは、「障害のある子どもやその家族への共感的理解」である。このテーマのもとに、障害児保育の初歩的な理解に取り組む。

授業の到達目標

障害のある子ども、さらには障害のある子どもの家族の立場、視点に立って考えるようになること。

授業の概要

この授業では、障害の理解、障害のある子どもの理解、障害のある子どもの家族の理解、障害のある子どもへの保育や援助についての理解などを取り上げる。受講者自身がしっかり考えることを重視して授業を展開する。講義形式のほか、映像資料、事例、障害の疑似体験などを用いてのディスカッションも行なう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

「障害」あるいは「障害のある子ども」についての自分なりの考え・理解を、常に問い返しておくこと。また、実習やボランティア活動などで障害のある子どもとかかわる機会があれば、その子どもとの関係をしっかりと深めてほしい。

内　容

第1回　障害とは何か（1）自分自身の「障害観」について振り返る。
第2回　障害とは何か（2）障害概念の変遷から障害について考える。
第3回　障害の理解（1）「見えない／見えにくいということ」について体験する。
第4回　障害の理解（2）「見通しがもてないということ」について体験する。
第5回　障害の理解（3）「指先が不器用であるということ」について体験する。
第6回　障害種別の理解（1）自閉症スペクトラム障害を中心に
第7回　障害種別の理解（2）ADHDを中心に
第8回　障害種別の理解（3）視覚障害・聴覚障害・肢体不自由を中心に
第9回　障害児保育の意義と目的
第10回　障害のある子どもの保育の場
第11回　障害児保育の実際（1）事例の検討
第12回　障害児保育の実際（2）事例の検討
第13回　障害のある子どもの家族の理解
第14回　障害児保育の現状と課題
第15回　障害児保育の展望とまとめ

履修上の注意点

・とくにディスカッションでは積極的な参加を望む。・授業で取り上げられることは限りがあるため、歴史的背景や制度の詳細などについては、各自文献等で学習を進めてほしい。・理解や進行状況により、授業の順番の入れ替えや変更等を行うことがある。

教科書

参考書

障害児保育
著者:　近藤直子・白石正久・中村尚子
出版社:　全障研出版部
出版年:　2013　　ISBN:　9784881341254

基本保育シリーズ⑰　障害児保育
著者:　公益財団法人児童育成協会　監修
出版社:　中央法規
出版年:　2015　　ISBN:　978480585217-0

障害児の発達と保育
著者:　白石恵理子+松原巨子・大津の障害児保育研究会　編著
出版社:　クリエイツかもがわ
出版年:　2001　　ISBN:　4876995974

a30102h850

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 50 ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

授業出席と態度、数回実施する小レポート、最終授業課題の総合評価。

2018 Syllabus

科 目 名　**障害児保育 <B>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　若林　隆泰	

テーマ

障害児保育を進めるために、①障害児理解として、発達・障害・生活の相互の関連性に留意しつつ、発達の普遍的共通性を軸に評価する視点を養うこと、②障害児の発達を保障する保育・療育実践の基本的な概念の理解、③保護者・家族を支援する枠組みと方法、④療育システムとしての障害児保育・療育の制度理解について学ぶ

授業の到達目標

①障害児の保育・療育の実践で確かめられてきた発達の道筋を理解し、様々な障害の特性と関連付けて評価する方法を身につける ②保育・療育の実践について、保育と療育と医療・訓練、親子療育、保育・療育内容と指導、集団の組織等について学ぶ ③障害理解への支援等、保護者・家族支援の基本的内容と方法について学ぶ ④社会福祉基礎構造改革等に留意しつつ、乳幼児期から学齢期への系統的な支援と医療・福祉・教育等の総合的な支援という療育システムの観点から、障害児保育・療育に関わる基本的な制度と機関連携等について理解する

授業の概要

前半は講義を中心に進め、後半はグループによる報告・討論を行う

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

参考文献(1)から、予定の内容に関わるところをあらかじめ学習しておくことが望ましい

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　障害の基礎知識と保育・療育の留意点（1）発達障害1
第3回　障害の基礎知識と保育・療育の留意点（2）発達障害2
第4回　発達の過程と保育・療育の留意点（1）発達の基本的な法則
第5回　発達の過程と保育・療育の留意点（2）具体的な発達の段階
第6回　障害児保育・療育の方法・内容
第7回　保護者・家族支援のニーズと方法
第8回　療育システムとしての障害児保育・療育制度
第9回　報告と討論（1）
第10回　報告と討論（2）
第11回　報告と討論（3）
第12回　報告と討論（4）
第13回　報告と討論（5）
第14回　報告と討論（6）
第15回　まとめ;障害児保育・療育に関わる専門職の課題

履修上の注意点

季刊保育問題研究（新読書社）に掲載されている全国保育問題研究集会での障害児保育の実践報告を読み、課題意識を広めたり、深めたりしながら授業に参加してほしいと思っています

教科書

保育者のためのテキスト　障害児保育　改訂初版第7刷
著者:　近藤直子・白石正久・中村尚子編
出版社:　全国障害者問題研究会
出版年:　2016年9月1日　　ISBN:

参考書

障害児の内面世界をさぐる
著者:　別府哲
出版社:　全国障害者問題研究会
出版年:　2010年　　ISBN:

”すてき”を見つける保育・療育・子育て
著者:　近藤直子
出版社:　全国障害者問題研究会
出版年:　2015年　　ISBN:

成績評価

a30102h852

試験・レポート（ 40% ）	小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 10% ）	授業中発表等（ 40% ）
参加度 （ 10% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**障害児保育 <C>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　若林　隆泰	

テーマ

障害児保育を進めるために、①障害児理解として、発達・障害・生活の相互の関連性に留意しつつ、発達の普遍的共通性を軸に評価する視点を養うこと、②障害児の発達を保障する保育・療育実践の基本的な概念の理解、③保護者・家族を支援する枠組みと方法、④療育システムとしての障害児保育・療育の制度理解について学ぶ

授業の到達目標

①障害児の保育・療育の実践で確かめられてきた発達の道筋を理解し、様々な障害の特性と関連付けて評価する方法を身につける ②保育・療育の実践について、保育と療育と医療・訓練、親子療育、保育・療育内容と指導、集団の組織等について学ぶ ③障害理解への支援等、保護者・家族支援の基本的内容と方法について学ぶ ④社会福祉基礎構造改革等に留意しつつ、乳幼児期から学齢期への系統的な支援と医療・福祉・教育等の総合的な支援という療育システムの観点から、障害児保育・療育に関わる基本的な制度と機関連携等について理解する

授業の概要

前半は講義を中心に進め、後半はグループによる報告・討論を行う

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

参考文献(1)から、予定の内容に関わるところをあらかじめ学習しておくことが望ましい

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　障害の基礎知識と保育・療育の留意点（1）発達障害1
第3回　障害の基礎知識と保育・療育の留意点（2）発達障害2
第4回　発達の過程と保育・療育の留意点（1）発達の基本的な法則
第5回　発達の過程と保育・療育の留意点（2）具体的な発達の段階
第6回　障害児保育・療育の方法・内容
第7回　保護者・家族支援のニーズと方法
第8回　療育システムとしての障害児保育・療育制度
第9回　報告と討論（1）
第10回　報告と討論（2）
第11回　報告と討論（3）
第12回　報告と討論（4）
第13回　報告と討論（5）
第14回　報告と討論（6）
第15回　まとめ;障害児保育・療育に関わる専門職の課題

履修上の注意点

季刊保育問題研究（新読書社）に掲載されている全国保育問題研究集会での障害児保育の実践報告を読み、課題意識を広めたり、深めたりしながら授業に参加してほしいと思っています

教科書

保育者のためのテキスト　障害児保育　改訂初版第7刷
著者:　近藤直子・白石正久・中村尚子編
出版社:　全国障害者問題研究会
出版年:　2016年9月1日　　ISBN:

参考書

障害児の内面世界をさぐる
著者:　別府哲
出版社:　全国障害者問題研究会
出版年:　2010年　　ISBN:

”すてき”を見つける保育・療育・子育て
著者:　近藤直子
出版社:　全国障害者問題研究会
出版年:　2015年　　ISBN:

成績評価

a30102h853

試験・レポート （ 40% ）	小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 10% ）	授業中発表等 （ 40% ）
参加度 （ 10% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**社会的養護内容 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　藪　一裕	

テーマ

様々な理由から家庭では養育されない児童に対して、家庭に替わる児童福祉施設の養育の意義と実際を理解する。

授業の到達目標

児童福祉施設で生活している児童の日常生活や職員の支援の実際を理解し、保育士として現場で活躍するための基礎知識を習得する。また、適宜グループ発表を行ったり、レポートを書いたりする中で、自ら考え表現する力を習得する。
家庭養護の重要な柱である里親制度の種類や内容について、列記し説明できる力を身につける。
施設養護の展開過程を具体的に説明できる力を身につける。
児童家庭福祉における社会的養護内容の位置づけを認識する力を身につける。

授業の概要

基本的に教科書の項目に沿って授業を進めますが、児童養護施設で勤務をした経験を活かし、実例を織り交ぜながら内容理解を深めていきます。また、施設のDVDを見たり、小グループを作り架空事例の検討やコミュニケーションスキルの模擬演習などを行い、次年度の施設実習に繋がるような授業となっています。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

社会的養護に関わらず、世間一般の子ども達がどのような状況に置かれているか、あるいは、どのようなことが流行しているのかなどを具体的に知るために地域の活動に積極的に関わったり、TVや新聞、インターネット等を使いながら情報収集してください。

内　容

第1回　子どもの養護と保育士①　オリエンテーション
第2回　子どもの養護と保育士②　児童養護施設のDVD視聴
　　施設養護の特性と実際
第3回　子どもの養護と保育士③　里親養育ののDVD視聴
　　里親制度の特性と実際
第4回　支援の計画と内容①
　　衣食住等の基本的な日常生活の支援
第5回　支援の計画と内容②
　　生活指導、学習活動、余暇活動、家庭調整支援
第6回　支援の計画と内容③
　　心のケア
第7回　個別支援計画の作成と施設養護の展開過程①
　　個別支援計画の意義と実際
第8回　個別支援計画の作成と施設養護の展開過程②
　　アドミッションケア、インケア
第9回　個別支援計画の作成と施設養護の展開過程③
　　リービングケア、アフターケア
第10回　子ども、保護者と良好な関係を築くコミュニケーション技術①
　　具体的な対人援助プログラム「コモンセンス・ペアレンティング」の実践①
第11回　子ども、保護者と良好な関係を築くコミュニケーション技術②
　　具体的な対人援助プログラム「コモンセンス・ペアレンティング」の実践②
第12回　事例分析①
　　施設入所時の対応、虐待を受けた子どもへの対応
第13回　事例分析②
　　親子関係調整に関する事例分析、自立支援に関する事例分析
第14回　事例分析③
　　地域・学校との関係作りに関する事例分析
第15回　施設養護における養育単位の小規模化について現状と課題
　　まとめ

履修上の注意点

＜受講のマナー＞ 遅刻や早退、欠席はマイナス査定します。興味を持って授業に臨んでください。この授業でお伝えする情報は、近い将来必ず役に立つものばかりです。
＜欠席について＞ やむを得ず欠席する場合（部活動や実習等）については、事前に報告してください。また、急な体調不良等で欠席した場合は、事後速やかに報告してください。＜学習上の助言＞ 実際に児童福祉施設を訪問してみましょう。まずは施設の職員から生活の実態について話を聞いてみましょう。そこから展開していき、子どもたちの生活場面に触れること（たとえば学習ボランティア、休日の遊び相手等）により、授業の内容がより実感として理解できると思います。
それが難しい方は、以下の参考文献やコミック、DVDなどを視聴し社会的養護に対してのイメージを持つようにしてください。

教科書

社会的養護内容　演習

著者:　安藤和彦、石田慎二、山川宏和　編

a30102h950

出版社: 建帛社

出版年: 2017 ISBN:

参考書

明日の子供たち

著者: 有川浩

出版社: 幻冬舎

出版年: 2014 ISBN:

「生存者(サバイバー)」と呼ばれる子どもたち

著者: 宮田雄吾

出版社: 角川書店

出版年: 2010 ISBN:

走れ！児童相談所

著者: 安藤理

出版社: アメディアランド

出版年: 2016 ISBN:

ありがとう、オカン(DVD)

著者: 金子ありさ

出版社: テイチクエンタテインメント

出版年: 2009 ISBN:

うちの子になりなよ

著者: 古泉智浩

出版社: イースト・プレス

出版年: 2015 ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 0 ） 小テスト （ 0 ）

授業中課題 （ 40 ） 授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 40 ）

この授業は参加度と授業中の課題を重視します。授業中に与える課題はレポートを想定していますが、誤字脱字はもちろんのこと、与えられたテーマに対して筋道の通った文章展開がなされているか、適切な字数か等を採点項目にしています。

2018 Syllabus

科 目 名　**社会的養護内容 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期集中	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　藪　一裕	

テーマ

様々な理由から家庭では養育されない児童に対して、家庭に替わる児童福祉施設の養育の意義と実際を理解する。

授業の到達目標

児童福祉施設で生活している児童の日常生活や職員の支援の実際を理解し、保育士として現場で活躍するための基礎知識を習得する。また、適宜グループ発表を行ったり、レポートを書いたりする中で、自ら考え表現する力を習得する。
家庭養護の重要な柱である里親制度の種類や内容について、列記し説明できる力を身につける。
施設養護の展開過程を具体的に説明できる力を身につける。
児童家庭福祉における社会的養護内容の位置づけを認識する力を身につける。

授業の概要

基本的に教科書の項目に沿って授業を進めますが、児童養護施設で勤務をした経験を活かし、実例を織り交ぜながら内容理解を深めていきます。また、施設のDVDを見たり、小グループを作り架空事例の検討やコミュニケーションスキルの模擬演習などを行い、次年度の施設実習に繋がるような授業となっています。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

社会的養護に関わらず、世間一般の子ども達がどのような状況に置かれているか、あるいは、どのようなことが流行しているのかなどを具体的に知るために地域の活動に積極的に関わったり、TVや新聞、インターネット等を使いながら情報収集してください。

内　容

第1回　子どもの養護と保育士①　オリエンテーション
第2回　子どもの養護と保育士②　児童養護施設のDVD視聴
　　施設養護の特性と実際
第3回　子どもの養護と保育士③　里親養育ののDVD視聴
　　里親制度の特性と実際
第4回　支援の計画と内容①
　　衣食住等の基本的な日常生活の支援
第5回　支援の計画と内容②
　　生活指導、学習活動、余暇活動、家庭調整支援
第6回　支援の計画と内容③
　　心のケア
第7回　個別支援計画の作成と施設養護の展開過程①
　　個別支援計画の意義と実際
第8回　個別支援計画の作成と施設養護の展開過程②
　　アドミッションケア、インケア
第9回　個別支援計画の作成と施設養護の展開過程③
　　リービングケア、アフターケア
第10回　子ども、保護者と良好な関係を築くコミュニケーション技術①
　　具体的な対人援助プログラム「コモンセンス・ペアレンティング」の実践①
第11回　子ども、保護者と良好な関係を築くコミュニケーション技術②
　　具体的な対人援助プログラム「コモンセンス・ペアレンティング」の実践②
第12回　事例分析①
　　施設入所時の対応、虐待を受けた子どもへの対応
第13回　事例分析②
　　親子関係調整に関する事例分析、自立支援に関する事例分析
第14回　事例分析③
　　地域・学校との関係作りに関する事例分析
第15回　施設養護における養育単位の小規模化について現状と課題
　　まとめ

履修上の注意点

＜受講のマナー＞ 遅刻や早退、欠席はマイナス査定します。興味を持って授業に臨んでください。この授業でお伝えする情報は、近い将来必ず役に立つものばかりです。
＜欠席について＞ やむを得ず欠席する場合（部活動や実習等）については、事前に報告してください。また、急な体調不良等で欠席した場合は、事後速やかに報告してください。 ＜学習上の助言＞ 実際に児童福祉施設を訪問してみましょう。まずは施設の職員から生活の実態について話を聞いてみましょう。そこから展開していき、子どもたちの生活場面に触れること（たとえば学習ボランティア、休日の遊び相手等）により、授業の内容がより実感として理解できると思います。
それが難しい方は、以下の参考文献やコミック、DVDなどを視聴し社会的養護に対してのイメージを持つようにしてください。

教科書

社会的養護内容　演習

著者:　安藤和彦、石田慎二、山川宏和　編

a30102h952

出版社: 建帛社

出版年: 2017 ISBN:

参考書

明日の子供たち

著者: 有川浩

出版社: 幻冬舎

出版年: 2014 ISBN:

「生存者(サバイバー)」と呼ばれる子どもたち

著者: 宮田雄吾

出版社: 角川書店

出版年: 2010 ISBN:

走れ！児童相談所

著者: 安藤理

出版社: アメディアランド

出版年: 2016 ISBN:

ありがとう、オカン(DVD)

著者: 金子ありさ

出版社: テイチクエンタテインメント

出版年: 2009 ISBN:

うちの子になりなよ

著者: 古泉智浩

出版社: イースト・プレス

出版年: 2015 ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 0 ） 小テスト （ 0 ）

授業中課題 （ 40 ） 授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 40 ）

この授業は参加度と授業中の課題を重視します。授業中に与える課題はレポートを想定していますが、誤字脱字はもちろんのこと、与えられたテーマに対して筋道の通った文章展開がなされているか、適切な字数か等を採点項目にしています。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－1〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一柳　敦子	

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを身に付ける。・読む力や書く力、話す力や聞く力を身に付ける。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身に付ける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解し実践に生かす。

授業の概要

・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習Ⅰ-1の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、子どもへの関心と初めての実習への期待を高める。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触　れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習してお　く。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で　実践する体験をしておく。

内　容

第1回　保育実習Ⅰ-1の意義と目的
第2回　保育所の役割や機能と改訂保育所保育指針について①
第3回　保育所の1日の流れや保育士の仕事について
第4回　帳票類と保菌検査について
第5回　事前訪問について
　　実習簿の意味と書き方について
第6回　年齢別指導方法や保育技術①…乳児期の発達とその関わり方について
第7回　年齢別指導方法や保育技術②…幼児期の発達とその関わり方について
第8回　保育課程と指導計画の意味や作成方法について

履修上の注意点

・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。やむを得ず欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（０）　　小テスト（０）
授業中課題（40%）　　授業中発表等（40%）
参加度（20%）
参加度は、授業中の参加態度や課題に取り組む姿勢、発表等の積極性を鑑みて総合的に評価をする。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－1 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　太田　みつ枝	

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを身に付ける。・読む力や書く力、話す力や聞く力を身に付ける。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身に付ける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解し実践に生かす。

授業の概要

・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習Ⅰ-1の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、子どもへの関心と初めての実習への期待を高める。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触　れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習しておく。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で　実践する体験をしておく。

内　容

第1回　保育実習Ⅰ-1の意義と目的
第2回　保育所の役割や機能と改訂保育所保育指針について①
第3回　保育所の1日の流れや保育士の仕事について
第4回　帳票類と保菌検査について
第5回　事前訪問について
　　実習簿の意味と書き方について
第6回　年齢別指導方法や保育技術①…乳児期の発達とその関わり方について
第7回　年齢別指導方法や保育技術②…幼児期の発達とその関わり方について
第8回　保育課程と指導計画の意味や作成方法について

履修上の注意点

・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。やむを得ず欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（０）　　小テスト（０）
授業中課題（40%）　　授業中発表等（40%）
参加度（20%）
参加度は、授業中の参加態度や課題に取り組む姿勢、発表等の積極性を鑑みて総合的に評価をする。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－1 <c>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中島　裕子	

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを身に付ける。・読む力や書く力、話す力や聞く力を身に付ける。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身に付ける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解し実践に生かす。

授業の概要

・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習Ⅰ-1の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、子どもへの関心と初めての実習への期待を高める。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触　れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習しておく。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で　実践する体験をしておく。

内　容

第1回　保育実習Ⅰ-1の意義と目的
第2回　保育所の役割や機能と改訂保育所保育指針について①
第3回　保育所の1日の流れや保育士の仕事について
第4回　帳票類と保菌検査について
第5回　事前訪問について
　　実習簿の意味と書き方について
第6回　年齢別指導方法や保育技術①…乳児期の発達とその関わり方について
第7回　年齢別指導方法や保育技術②…幼児期の発達とその関わり方について
第8回　保育課程と指導計画の意味や作成方法について

履修上の注意点

・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。やむを得ず欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（０）　　小テスト（０）
授業中課題（40%）　　授業中発表等（40%）
参加度（20%）
参加度は、授業中の参加態度や課題に取り組む姿勢、発表等の積極性を鑑みて総合的に評価をする。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－1 <d>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉江　由紀子	

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを身に付ける。・読む力や書く力、話す力や聞く力を身に付ける。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身に付ける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解し実践に生かす。

授業の概要

・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習Ⅰ-1の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、子どもへの関心と初めての実習への期待を高める。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触　れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習しておく。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で　実践する体験をしておく。

内　容

第1回　保育実習Ⅰ-1の意義と目的
第2回　保育所の役割や機能と改訂保育所保育指針について①
第3回　保育所の1日の流れや保育士の仕事について
第4回　帳票類と保菌検査について
第5回　事前訪問について
　　実習簿の意味と書き方について
第6回　年齢別指導方法や保育技術①…乳児期の発達とその関わり方について
第7回　年齢別指導方法や保育技術②…幼児期の発達とその関わり方について
第8回　保育課程と指導計画の意味や作成方法について

履修上の注意点

・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。やむを得ず欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（０）　　小テスト（０）
授業中課題（40%）　　授業中発表等（40%）
参加度（20%）
参加度は、授業中の参加態度や課題に取り組む姿勢、発表等の積極性を鑑みて総合的に評価をする。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－1〈e〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中﨑　あつ子	

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを身に付ける。・読む力や書く力、話す力や聞く力を身に付ける。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身に付ける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解し実践に生かす。

授業の概要

・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習Ⅰ-1の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、子どもへの関心と初めての実習への期待を高める。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触　れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習しておく。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で　実践する体験をしておく。

内　容

第1回　保育実習Ⅰ-1の意義と目的
第2回　保育所の役割や機能と改訂保育所保育指針について①
第3回　保育所の1日の流れや保育士の仕事について
第4回　帳票類と保菌検査について
第5回　事前訪問について
　　実習簿の意味と書き方について
第6回　年齢別指導方法や保育技術①…乳児期の発達とその関わり方について
第7回　年齢別指導方法や保育技術②…幼児期の発達とその関わり方について
第8回　保育課程と指導計画の意味や作成方法について

履修上の注意点

・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。やむを得ず欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（０）　　小テスト（０）
授業中課題（40%）　　授業中発表等（40%）
参加度（20%）
参加度は、授業中の参加態度や課題に取り組む姿勢、発表等の積極性を鑑みて総合的に評価をする。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－1 〈f〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山口　陽子	

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを身に付ける。・読む力や書く力、話す力や聞く力を身に付ける。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身に付ける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解し実践に生かす。

授業の概要

・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習Ⅰ-1の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、子どもへの関心と初めての実習への期待を高める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触　れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習しておく。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で　実践する体験をしておく。

内　容

第1回　保育実習Ⅰ-1の意義と目的
第2回　保育所の役割や機能と改訂保育所保育指針について①
第3回　保育所の1日の流れや保育士の仕事について
第4回　帳票類と保菌検査について
第5回　事前訪問について
　　実習簿の意味と書き方について
第6回　年齢別指導方法や保育技術①…乳児期の発達とその関わり方について
第7回　年齢別指導方法や保育技術②…幼児期の発達とその関わり方について
第8回　保育課程と指導計画の意味や作成方法について

履修上の注意点

・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。やむを得ず欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（０）　　小テスト（０）
授業中課題（40%）　　授業中発表等（40%）
参加度（20%）
参加度は、授業中の参加態度や課題に取り組む姿勢、発表等の積極性を鑑みて総合的に評価をする。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－1〈g〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　須藤　智代子	

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを身に付ける。・読む力や書く力、話す力や聞く力を身に付ける。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身に付ける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解し実践に生かす。

授業の概要

・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習Ⅰ-1の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、子どもへの関心と初めての実習への期待を高める。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触　れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習しておく。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で　実践する体験をしておく。

内　容

第1回　保育実習Ⅰ-1の意義と目的
第2回　保育所の役割や機能と改訂保育所保育指針について①
第3回　保育所の1日の流れや保育士の仕事について
第4回　帳票類と保菌検査について
第5回　事前訪問について
　　実習簿の意味と書き方について
第6回　年齢別指導方法や保育技術①…乳児期の発達とその関わり方について
第7回　年齢別指導方法や保育技術②…幼児期の発達とその関わり方について
第8回　保育課程と指導計画の意味や作成方法について

履修上の注意点

・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。やむを得ず欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（０）　　小テスト（０）
授業中課題（40%）　　授業中発表等（40%）
参加度（20%）
参加度は、授業中の参加態度や課題に取り組む姿勢、発表等の積極性を鑑みて総合的に評価をする。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－1 <h>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉田　裕子	

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを身に付ける。・読む力や書く力、話す力や聞く力を身に付ける。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身に付ける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解し実践に生かす。

授業の概要

・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習Ⅰ-1の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、子どもへの関心と初めての実習への期待を高める。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触　れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習しておく。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で　実践する体験をしておく。

内　容

第1回　保育実習Ⅰ-1の意義と目的
第2回　保育所の役割や機能と改訂保育所保育指針について①
第3回　保育所の1日の流れや保育士の仕事について
第4回　帳票類と保菌検査について
第5回　事前訪問について
　　実習簿の意味と書き方について
第6回　年齢別指導方法や保育技術①…乳児期の発達とその関わり方について
第7回　年齢別指導方法や保育技術②…幼児期の発達とその関わり方について
第8回　保育課程と指導計画の意味や作成方法について

履修上の注意点

・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。やむを得ず欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（０）　　小テスト（０）
授業中課題（40%）　　授業中発表等（40%）
参加度（20%）
参加度は、授業中の参加態度や課題に取り組む姿勢、発表等の積極性を鑑みて総合的に評価をする。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－1 <i>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　白井　昌子	

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを身に付ける。・読む力や書く力、話す力や聞く力を身に付ける。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身に付ける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解し実践に生かす。

授業の概要

・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習Ⅰ-1の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、子どもへの関心と初めての実習への期待を高める。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触　れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習しておく。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で　実践する体験をしておく。

内　容

第1回　保育実習Ⅰ-1の意義と目的
第2回　保育所の役割や機能と改訂保育所保育指針について①
第3回　保育所の1日の流れや保育士の仕事について
第4回　帳票類と保菌検査について
第5回　事前訪問について
　　実習簿の意味と書き方について
第6回　年齢別指導方法や保育技術①…乳児期の発達とその関わり方について
第7回　年齢別指導方法や保育技術②…幼児期の発達とその関わり方について
第8回　保育課程と指導計画の意味や作成方法について

履修上の注意点

・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。やむを得ず欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（０）　　小テスト（０）
授業中課題（40%）　　授業中発表等（40%）
参加度（20%）
参加度は、授業中の参加態度や課題に取り組む姿勢、発表等の積極性を鑑みて総合的に評価をする。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－1 <j>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　辻　啓子	

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを身に付ける。・読む力や書く力、話す力や聞く力を身に付ける。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身に付ける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解し実践に生かす。

授業の概要

・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習Ⅰ-1の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、子どもへの関心と初めての実習への期待を高める。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触　れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習しておく。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で　実践する体験をしておく。

内　容

第1回　保育実習Ⅰ-1の意義と目的
第2回　保育所の役割や機能と改訂保育所保育指針について①
第3回　保育所の1日の流れや保育士の仕事について
第4回　帳票類と保菌検査について
第5回　事前訪問について
　　実習簿の意味と書き方について
第6回　年齢別指導方法や保育技術①…乳児期の発達とその関わり方について
第7回　年齢別指導方法や保育技術②…幼児期の発達とその関わり方について
第8回　保育課程と指導計画の意味や作成方法について

履修上の注意点

・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。やむを得ず欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（０）　　小テスト（０）
授業中課題（40%）　　授業中発表等（40%）
参加度（20%）
参加度は、授業中の参加態度や課題に取り組む姿勢、発表等の積極性を鑑みて総合的に評価をする。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－1〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一柳　敦子	

テーマ

子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。

授業の到達目標

園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。

授業の概要

保育所において実習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

健康に気をつけること。社会人としてのルールを守ること。

内　容

第1回　実習の導入
第2回　観察実習
第3回　観察実習
第4回　観察実習
第5回　観察実習
第6回　観察実習
第7回　観察実習
第8回　観察実習
第9回　観察実習
第10回　観察実習
第11回　部分実習
第12回　部分実習
第13回　部分実習
第14回　責任実習
第15回　実習の振り返りと今後の課題の明確化

履修上の注意点

原則として一日8時間、10日間の実習を行うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 100 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－1 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　太田　みつ枝	

テーマ

子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。

授業の到達目標

園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。

授業の概要

保育所において実習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

健康に気をつけること。社会人としてのルールを守ること。

内　容

第1回　実習の導入
第2回　観察実習
第3回　観察実習
第4回　観察実習
第5回　観察実習
第6回　観察実習
第7回　観察実習
第8回　観察実習
第9回　観察実習
第10回　観察実習
第11回　部分実習
第12回　部分実習
第13回　部分実習
第14回　責任実習
第15回　実習の振り返りと今後の課題の明確化

履修上の注意点

原則として一日8時間、10日間の実習を行うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 100 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－1 <c>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中島　裕子	

テーマ

子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。

授業の到達目標

園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。

授業の概要

保育所において実習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

健康に気をつけること。社会人としてのルールを守ること。

内　容

第1回　実習の導入
第2回　観察実習
第3回　観察実習
第4回　観察実習
第5回　観察実習
第6回　観察実習
第7回　観察実習
第8回　観察実習
第9回　観察実習
第10回　観察実習
第11回　部分実習
第12回　部分実習
第13回　部分実習
第14回　責任実習
第15回　実習の振り返りと今後の課題の明確化

履修上の注意点

原則として一日8時間、10日間の実習を行うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 100 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－1 <d>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉江　由紀子	

テーマ

子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。

授業の到達目標

園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。

授業の概要

保育所において実習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

健康に気をつけること。社会人としてのルールを守ること。

内　容

第1回　実習の導入
第2回　観察実習
第3回　観察実習
第4回　観察実習
第5回　観察実習
第6回　観察実習
第7回　観察実習
第8回　観察実習
第9回　観察実習
第10回　観察実習
第11回　部分実習
第12回　部分実習
第13回　部分実習
第14回　責任実習
第15回　実習の振り返りと今後の課題の明確化

履修上の注意点

原則として一日8時間、10日間の実習を行うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 100 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－1〈e〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中﨑　あつ子	

テーマ

子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。

授業の到達目標

園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。

授業の概要

保育所において実習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

健康に気をつけること。社会人としてのルールを守ること。

内　容

第1回　実習の導入
第2回　観察実習
第3回　観察実習
第4回　観察実習
第5回　観察実習
第6回　観察実習
第7回　観察実習
第8回　観察実習
第9回　観察実習
第10回　観察実習
第11回　部分実習
第12回　部分実習
第13回　部分実習
第14回　責任実習
第15回　実習の振り返りと今後の課題の明確化

履修上の注意点

原則として一日8時間、10日間の実習を行うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 100 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－1 <f>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山口　陽子	

テーマ

子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。

授業の到達目標

園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。

授業の概要

保育所において実習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

健康に気をつけること。社会人としてのルールを守ること。

内　容

第1回　実習の導入
第2回　観察実習
第3回　観察実習
第4回　観察実習
第5回　観察実習
第6回　観察実習
第7回　観察実習
第8回　観察実習
第9回　観察実習
第10回　観察実習
第11回　部分実習
第12回　部分実習
第13回　部分実習
第14回　責任実習
第15回　実習の振り返りと今後の課題の明確化

履修上の注意点

原則として一日8時間、10日間の実習を行うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 100 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－1〈g〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　須藤　智代子	

テーマ

子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。

授業の到達目標

園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。

授業の概要

保育所において実習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

健康に気をつけること。社会人としてのルールを守ること。

内　容

第1回　実習の導入
第2回　観察実習
第3回　観察実習
第4回　観察実習
第5回　観察実習
第6回　観察実習
第7回　観察実習
第8回　観察実習
第9回　観察実習
第10回　観察実習
第11回　部分実習
第12回　部分実習
第13回　部分実習
第14回　責任実習
第15回　実習の振り返りと今後の課題の明確化

履修上の注意点

原則として一日8時間、10日間の実習を行うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 100 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－1 <h>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　青木　美智子.吉田　裕子	

テーマ

子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。

授業の到達目標

園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。

授業の概要

保育所において実習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

健康に気をつけること。社会人としてのルールを守ること。

内　容

第1回　実習の導入
第2回　観察実習
第3回　観察実習
第4回　観察実習
第5回　観察実習
第6回　観察実習
第7回　観察実習
第8回　観察実習
第9回　観察実習
第10回　観察実習
第11回　部分実習
第12回　部分実習
第13回　部分実習
第14回　責任実習
第15回　実習の振り返りと今後の課題の明確化

履修上の注意点

原則として一日8時間、10日間の実習を行うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 100 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－1 〈i〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　白井　昌子	

テーマ

子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。

授業の到達目標

園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。

授業の概要

保育所において実習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

健康に気をつけること。社会人としてのルールを守ること。

内　容

第1回　実習の導入
第2回　観察実習
第3回　観察実習
第4回　観察実習
第5回　観察実習
第6回　観察実習
第7回　観察実習
第8回　観察実習
第9回　観察実習
第10回　観察実習
第11回　部分実習
第12回　部分実習
第13回　部分実習
第14回　責任実習
第15回　実習の振り返りと今後の課題の明確化

履修上の注意点

原則として一日8時間、10日間の実習を行うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 100 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－1 〈j〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　辻　啓子	

テーマ

子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。

授業の到達目標

園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。

授業の概要

保育所において実習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

健康に気をつけること。社会人としてのルールを守ること。

内　容

第1回　実習の導入
第2回　観察実習
第3回　観察実習
第4回　観察実習
第5回　観察実習
第6回　観察実習
第7回　観察実習
第8回　観察実習
第9回　観察実習
第10回　観察実習
第11回　部分実習
第12回　部分実習
第13回　部分実習
第14回　責任実習
第15回　実習の振り返りと今後の課題の明確化

履修上の注意点

原則として一日8時間、10日間の実習を行うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 100 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一柳　敦子	

テーマ

保育所実習の一層の充実のために

授業の到達目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力を高める。教⑥物事を論理的に解決する能力を身に付ける。幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得する。幼⑤この科目･領域内容で学習したことについて振り返り、考える力を身に付ける。

授業の概要

保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身に付ける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとも　に、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。・新しくなった保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。

内　容

第1回　改訂保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育･保育要領も含む)
第2回　年齢別教材と保育技術、指導方法①･･0歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第3回　年齢別教材と保育技術、指導方法②･･1～2歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第4回　年齢別教材と保育技術、指導方法③･･3～5歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第5回　年齢別教材と保育技術、指導方法④･･指導案作成　　指導計画の基本を踏まえ養護・生活・遊びの要素とそれぞれの指導計画のポイントの学習
第6回　年齢別教材と保育技術、指導方法⑤･･指導案作成　　部分実習や責任実習を想定した指導案の作成
第7回　先輩の体験報告から学ぶ。
　　実習目標と課題を明確にする。
第8回　まとめ･･実習を振り返り、次の自己課題を明確にする。

履修上の注意点

欠席はその後の実習にも響くので注意すること。やむを得ず4欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 40% ）
参加度（ 20% ）
参加度は、授業への参加態度や課題に対する取り組み姿勢、発表等の積極性を鑑みて、総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅱ〈b〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　太田　みつ枝	

テーマ

保育所実習の一層の充実のために

授業の到達目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力を高める。教⑥物事を論理的に解決する能力を身に付ける。幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得する。幼⑤この科目･領域内容で学習したことについて振り返り、考える力を身に付ける。

授業の概要

保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身に付ける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとも　に、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。・新しくなった保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。

内　容

第1回　改訂保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育･保育要領も含む)
第2回　年齢別教材と保育技術、指導方法①･･0歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第3回　年齢別教材と保育技術、指導方法②･･1～2歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第4回　年齢別教材と保育技術、指導方法③･･3～5歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第5回　年齢別教材と保育技術、指導方法④･･指導案作成　　指導計画の基本を踏まえ養護・生活・遊びの要素とそれぞれの指導計画のポイントの学習
第6回　年齢別教材と保育技術、指導方法⑤･･指導案作成　　部分実習や責任実習を想定した指導案の作成
第7回　先輩の体験報告から学ぶ。
　　実習目標と課題を明確にする。
第8回　まとめ･･実習を振り返り、次の自己課題を明確にする。

履修上の注意点

欠席はその後の実習にも響くので注意すること。やむを得ず4欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 0% ）　　小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 40% ）
参加度 （ 20% ）
参加度は、授業への参加態度や課題に対する取り組み姿勢、発表等の積極性を鑑みて、総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅱ〈c〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中島　裕子	

テーマ

保育所実習の一層の充実のために

授業の到達目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力を高める。教⑥物事を論理的に解決する能力を身に付ける。幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得する。幼⑤この科目･領域内容で学習したことについて振り返り、考える力を身に付ける。

授業の概要

保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身に付ける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとも　に、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。・新しくなった保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。

内　容

第1回　改訂保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育･保育要領も含む)
第2回　年齢別教材と保育技術、指導方法①･･0歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第3回　年齢別教材と保育技術、指導方法②･･1～2歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第4回　年齢別教材と保育技術、指導方法③･･3～5歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第5回　年齢別教材と保育技術、指導方法④･･指導案作成　　指導計画の基本を踏まえ養護・生活・遊びの要素とそれぞれの指導計画のポイントの学習
第6回　年齢別教材と保育技術、指導方法⑤･･指導案作成　　部分実習や責任実習を想定した指導案の作成
第7回　先輩の体験報告から学ぶ。
　　実習目標と課題を明確にする。
第8回　まとめ･･実習を振り返り、次の自己課題を明確にする。

履修上の注意点

欠席はその後の実習にも響くので注意すること。やむを得ず4欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 40% ）
参加度（ 20% ）
参加度は、授業への参加態度や課題に対する取り組み姿勢、発表等の積極性を鑑みて、総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅱ〈d〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉江　由紀子	

テーマ

保育所実習の一層の充実のために

授業の到達目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力を高める。教⑥物事を論理的に解決する能力を身に付ける。幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得する。幼⑤この科目･領域内容で学習したことについて振り返り、考える力を身に付ける。

授業の概要

保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身に付ける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとも　に、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。・新しくなった保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。

内　容

第1回　改訂保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育･保育要領も含む)
第2回　年齢別教材と保育技術、指導方法①･･0歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第3回　年齢別教材と保育技術、指導方法②･･1～2歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第4回　年齢別教材と保育技術、指導方法③･･3～5歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第5回　年齢別教材と保育技術、指導方法④･･指導案作成　　指導計画の基本を踏まえ養護・生活・遊びの要素とそれぞれの指導計画のポイントの学習
第6回　年齢別教材と保育技術、指導方法⑤･･指導案作成　　部分実習や責任実習を想定した指導案の作成
第7回　先輩の体験報告から学ぶ。
　　実習目標と課題を明確にする。
第8回　まとめ･･実習を振り返り、次の自己課題を明確にする。

履修上の注意点

欠席はその後の実習にも響くので注意すること。やむを得ず4欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 40% ）
参加度（ 20% ）
参加度は、授業への参加態度や課題に対する取り組み姿勢、発表等の積極性を鑑みて、総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅱ〈e〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中﨑　あつ子	

テーマ

保育所実習の一層の充実のために

授業の到達目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力を高める。教⑥物事を論理的に解決する能力を身に付ける。幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得する。幼⑤この科目･領域内容で学習したことについて振り返り、考える力を身に付ける。

授業の概要

保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身に付ける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとも　に、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。・新しくなった保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。

内　容

第1回　改訂保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育･保育要領も含む)
第2回　年齢別教材と保育技術、指導方法①･･0歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第3回　年齢別教材と保育技術、指導方法②･･1～2歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第4回　年齢別教材と保育技術、指導方法③･･3～5歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第5回　年齢別教材と保育技術、指導方法④･･指導案作成　　指導計画の基本を踏まえ養護・生活・遊びの要素とそれぞれの指導計画のポイントの学習
第6回　年齢別教材と保育技術、指導方法⑤･･指導案作成　　部分実習や責任実習を想定した指導案の作成
第7回　先輩の体験報告から学ぶ。
　　実習目標と課題を明確にする。
第8回　まとめ･･実習を振り返り、次の自己課題を明確にする。

履修上の注意点

欠席はその後の実習にも響くので注意すること。やむを得ず4欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 0% ）　　小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 40% ）
参加度 （ 20% ）
参加度は、授業への参加態度や課題に対する取り組み姿勢、発表等の積極性を鑑みて、総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅱ〈f〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山口　陽子	

テーマ

保育所実習の一層の充実のために

授業の到達目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力を高める。教⑥物事を論理的に解決する能力を身に付ける。幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得する。幼⑤この科目･領域内容で学習したことについて振り返り、考える力を身に付ける。

授業の概要

保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身に付ける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとも　に、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。・新しくなった保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。

内　容

第1回　改訂保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育･保育要領も含む)
第2回　年齢別教材と保育技術、指導方法①･･0歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第3回　年齢別教材と保育技術、指導方法②･･1～2歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第4回　年齢別教材と保育技術、指導方法③･･3～5歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第5回　年齢別教材と保育技術、指導方法④･･指導案作成　　指導計画の基本を踏まえ養護・生活・遊びの要素とそれぞれの指導計画のポイントの学習
第6回　年齢別教材と保育技術、指導方法⑤･･指導案作成　　部分実習や責任実習を想定した指導案の作成
第7回　先輩の体験報告から学ぶ。
　　実習目標と課題を明確にする。
第8回　まとめ･･実習を振り返り、次の自己課題を明確にする。

履修上の注意点

欠席はその後の実習にも響くので注意すること。やむを得ず4欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 0% ）　　小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 40% ）
参加度 （ 20% ）
参加度は、授業への参加態度や課題に対する取り組み姿勢、発表等の積極性を鑑みて、総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅱ〈g〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　須藤　智代子	

テーマ

保育所実習の一層の充実のために

授業の到達目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力を高める。教⑥物事を論理的に解決する能力を身に付ける。幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得する。幼⑤この科目･領域内容で学習したことについて振り返り、考える力を身に付ける。

授業の概要

保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身に付ける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとも　に、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。・新しくなった保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。

内　容

第1回　改訂保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育･保育要領も含む)
第2回　年齢別教材と保育技術、指導方法①･･0歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第3回　年齢別教材と保育技術、指導方法②･･1～2歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第4回　年齢別教材と保育技術、指導方法③･･3～5歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第5回　年齢別教材と保育技術、指導方法④･･指導案作成　　指導計画の基本を踏まえ養護・生活・遊びの要素とそれぞれの指導計画のポイントの学習
第6回　年齢別教材と保育技術、指導方法⑤･･指導案作成　　部分実習や責任実習を想定した指導案の作成
第7回　先輩の体験報告から学ぶ。
　　実習目標と課題を明確にする。
第8回　まとめ･･実習を振り返り、次の自己課題を明確にする。

履修上の注意点

欠席はその後の実習にも響くので注意すること。やむを得ず4欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 0% ）　　小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 40% ）
参加度 （ 20% ）
参加度は、授業への参加態度や課題に対する取り組み姿勢、発表等の積極性を鑑みて、総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅱ〈h〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉田　裕子	

テーマ

保育所実習の一層の充実のために

授業の到達目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力を高める。教⑥物事を論理的に解決する能力を身に付ける。幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得する。幼⑤この科目･領域内容で学習したことについて振り返り、考える力を身に付ける。

授業の概要

保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身に付ける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとも　に、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。・新しくなった保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。

内　容

第1回　改訂保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育･保育要領も含む)
第2回　年齢別教材と保育技術、指導方法①･･0歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第3回　年齢別教材と保育技術、指導方法②･･1～2歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第4回　年齢別教材と保育技術、指導方法③･･3～5歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第5回　年齢別教材と保育技術、指導方法④･･指導案作成　　指導計画の基本を踏まえ養護･生活･遊びの要素とそれぞれの指導計画のポイントの学習
第6回　年齢別教材と保育技術、指導方法⑤･･指導案作成　　部分実習や責任実習を想定した指導案の作成
第7回　先輩の体験報告から学ぶ。
　　実習目標と課題を明確にする。
第8回　まとめ･･実習を振り返り、次の自己課題を明確にする。

履修上の注意点

欠席はその後の実習にも響くので注意すること。やむを得ず4欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験･レポート（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 40% ）
参加度（ 20% ）
参加度は、授業への参加態度や課題に対する取り組み姿勢、発表等の積極性を鑑みて、総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅱ〈i〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　白井　昌子	

テーマ

保育所実習の一層の充実のために

授業の到達目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力を高める。教⑥物事を論理的に解決する能力を身に付ける。幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得する。幼⑤この科目･領域内容で学習したことについて振り返り、考える力を身に付ける。

授業の概要

保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身に付ける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとも　に、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。・新しくなった保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。

内　容

第1回　改訂保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育･保育要領も含む)
第2回　年齢別教材と保育技術、指導方法①･･0歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第3回　年齢別教材と保育技術、指導方法②･･1～2歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第4回　年齢別教材と保育技術、指導方法③･･3～5歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第5回　年齢別教材と保育技術、指導方法④･･指導案作成　　指導計画の基本を踏まえ養護・生活・遊びの要素とそれぞれの指導計画のポイントの学習
第6回　年齢別教材と保育技術、指導方法⑤･･指導案作成　　部分実習や責任実習を想定した指導案の作成
第7回　先輩の体験報告から学ぶ。
　　実習目標と課題を明確にする。
第8回　まとめ･･実習を振り返り、次の自己課題を明確にする。

履修上の注意点

欠席はその後の実習にも響くので注意すること。やむを得ず4欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 40% ）
参加度（ 20% ）
参加度は、授業への参加態度や課題に対する取り組み姿勢、発表等の積極性を鑑みて、総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅱ〈j〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　辻　啓子	

テーマ

保育所実習の一層の充実のために

授業の到達目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力を高める。教⑥物事を論理的に解決する能力を身に付ける。幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得する。幼⑤この科目･領域内容で学習したことについて振り返り、考える力を身に付ける。

授業の概要

保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身に付ける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとも　に、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。・新しくなった保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。

内　容

第1回　改訂保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育･保育要領も含む)
第2回　年齢別教材と保育技術、指導方法①･･0歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第3回　年齢別教材と保育技術、指導方法②･･1～2歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第4回　年齢別教材と保育技術、指導方法③･･3～5歳児の発達を踏まえた生活と遊びに関する演習
第5回　年齢別教材と保育技術、指導方法④･･指導案作成　　指導計画の基本を踏まえ養護・生活・遊びの要素とそれぞれの指導計画のポイントの学習
第6回　年齢別教材と保育技術、指導方法⑤･･指導案作成　　部分実習や責任実習を想定した指導案の作成
第7回　先輩の体験報告から学ぶ。
　　実習目標と課題を明確にする。
第8回　まとめ･･実習を振り返り、次の自己課題を明確にする。

履修上の注意点

欠席はその後の実習にも響くので注意すること。やむを得ず4欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 40% ）
参加度（ 20% ）
参加度は、授業への参加態度や課題に対する取り組み姿勢、発表等の積極性を鑑みて、総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**体育実技 <A>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　新野　守	

テーマ

いくつかのスポーツ種目の体験とその基礎技術の習得

授業の到達目標

①スポーツのルールを理解し、基礎技術の習得を図る。②お互いに教えあい、指導のポイントを学ぶ。③体力とつける。

授業の概要

陸上、バレーボール、バスケットボールなどを各種目の基礎技術を習得しするとともに、ゲームの戦術を学ぶ。また、各授業の技術、戦術の基礎、指導ポイント、ゲームの結果と分析を授業記録としてまとめ、自主学習を加えて提出する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日頃から規則正しい生活習慣を身につけること。また毎日30分以上の運動を行うと共に、腹筋、背筋、腕立て伏せなどの基礎体力の確保に努めること。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　体ほぐし、体力テスト
第3回　陸上運動①
第4回　陸上運動②
第5回　バレーボール①
第6回　バレーボール②
第7回　バレーボール③
第8回　バドミントン①
第9回　バドミントン②
第10回　バスケットボール①
第11回　バスケットボール②
第12回　バスケットボール③
第13回　サッカー①
第14回　サッカー②
第15回　まとめ

履修上の注意点

ジャージーやトレーナー、体育館シューズなど運動に相応しい服装を用意すること。タオルや水筒など水分補給できるものを用意すること。授業内容は、状況に応じて変更されることがあるのでオリエンテーションで確認すること。状況に応じてスポーツ種目は変更される。

教科書

参考書

基礎から身につく陸上競技
著者:　日本陸上競技連盟
出版社:　大修館書店
出版年:　2013　　ISBN:

見てわかるバスケットボール
著者:　森村義和
出版社:　西東社
出版年:　2004　　ISBN:

バドミントン教本基本編
著者:　日本バドミントン協会編
出版社:　ベースボールマガジン社
出版年:　2001　　ISBN:

a30102i350

サッカー指導の教科書

著者: 日本サッカー協会編

出版社: 東洋館出版社

出版年: 2014 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ 10 ）

授業中課題（ 50 ） 授業中発表等（ 10 ）

参加度 （ 30 ）

参加態度、授業記録、技能、体力等を加味して行う。受講生の状況に応じて評価配分は変更されることがある。

2018 Syllabus

科 目 名　**体育実技 <B>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　新野　守	

テーマ

いくつかのスポーツ種目の体験とその基礎技術の習得

授業の到達目標

①スポーツのルールを理解し、基礎技術の習得を図る。②お互いに教えあい、指導のポイントを学ぶ。③体力とつける。

授業の概要

陸上、バレーボール、バスケットボールなどを各種目の基礎技術を習得しするとともに、ゲームの戦術を学ぶ。また、各授業の技術、戦術の基礎、指導ポイント、ゲームの結果と分析を授業記録としてまとめ、自主学習を加えて提出する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日頃から規則正しい生活習慣を身につけること。また毎日30分以上の運動を行うと共に、腹筋、背筋、腕立て伏せなどの基礎体力の確保に努めること。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　体ほぐし、体力テスト
第3回　陸上運動①
第4回　陸上運動②
第5回　バレーボール①
第6回　バレーボール②
第7回　バレーボール③
第8回　バドミントン①
第9回　バドミントン②
第10回　バスケットボール①
第11回　バスケットボール②
第12回　バスケットボール③
第13回　サッカー①
第14回　サッカー②
第15回　まとめ

履修上の注意点

ジャージーやトレーナー、体育館シューズなど運動に相応しい服装を用意すること。タオルや水筒など水分補給できるものを用意すること。授業内容は、状況に応じて変更されることがあるのでオリエンテーションで確認すること。状況に応じてスポーツ種目は変更される。

教科書

参考書

基礎から身につく陸上競技
著者:　日本陸上競技連盟
出版社:　大修館書店
出版年:　2013　　ISBN:

見てわかるバスケットボール
著者:　森村義和
出版社:　西東社
出版年:　2004　　ISBN:

バドミントン教本基本編
著者:　日本バドミントン協会編
出版社:　ベースボールマガジン社
出版年:　2001　　ISBN:

a30102i352

サッカー指導の教科書

著者: 日本サッカー協会編

出版社: 東洋館出版社

出版年: 2014 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ 10 ）

授業中課題（ 50 ） 授業中発表等（ 10 ）

参加度 （ 30 ）

参加態度、授業記録、技能、体力等を加味して行う。受講生の状況に応じて評価配分は変更されることがある。

2018 Syllabus

科 目 名　**体育実技 <C>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　新野　守	

テーマ

いくつかのスポーツ種目の体験とその基礎技術の習得

授業の到達目標

①スポーツのルールを理解し、基礎技術の習得を図る。②お互いに教えあい、指導のポイントを学ぶ。③体力とつける。

授業の概要

陸上、バレーボール、バスケットボールなどを各種目の基礎技術を習得しするとともに、ゲームの戦術を学ぶ。また、各授業の技術、戦術の基礎、指導ポイント、ゲームの結果と分析を授業記録としてまとめ、自主学習を加えて提出する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日頃から規則正しい生活習慣を身につけること。また毎日30分以上の運動を行うと共に、腹筋、背筋、腕立て伏せなどの基礎体力の確保に努めること。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　体ほぐし、体力テスト
第3回　陸上運動①
第4回　陸上運動②
第5回　バレーボール①
第6回　バレーボール②
第7回　バレーボール③
第8回　バドミントン①
第9回　バドミントン②
第10回　バスケットボール①
第11回　バスケットボール②
第12回　バスケットボール③
第13回　サッカー①
第14回　サッカー②
第15回　まとめ

履修上の注意点

ジャージーやトレーナー、体育館シューズなど運動に相応しい服装を用意すること。タオルや水筒など水分補給できるものを用意すること。授業内容は、状況に応じて変更されることがあるのでオリエンテーションで確認すること。状況に応じてスポーツ種目は変更される。

教科書

参考書

基礎から身につく陸上競技
著者:　日本陸上競技連盟
出版社:　大修館書店
出版年:　2013　　ISBN:

見てわかるバスケットボール
著者:　森村義和
出版社:　西東社
出版年:　2004　　ISBN:

バドミントン教本基本編
著者:　日本バドミントン協会編
出版社:　ベースボールマガジン社
出版年:　2001　　ISBN:

a30102i353

サッカー指導の教科書

著者:　日本サッカー協会編

出版社: 東洋館出版社

出版年: 2014　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 10 ）

授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 10 ）

参加度 （ 30 ）

参加態度、授業記録、技能、体力等を加味して行う。受講生の状況に応じて評価配分は変更されることがある。

2018 Syllabus

科 目 名　**音楽演習入門 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　48
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐野 仁美	

テーマ

鍵盤楽器演奏の基本と音楽理論

授業の到達目標

1)教育・保育で必要な音楽理論を理解し、読譜力を身に付ける。2)初歩的なピアノ演奏技能を習得する。3)コードネームを理解し、簡単な伴奏付けができる。

授業の概要

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と音楽理論の講義を並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の3～4人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習:授業中に指示された課題を各自で必ず練習しておく。わからないところは事前にあげておいて、授業に臨むこと。復習:指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して理解を深める。音楽理論の講義内容を整理して、課題に取り組む。

内　容

第1回　オリエンテーション、五線と音部記号、音名と変化記号、読譜練習、バイエルNo.12～15
第2回　音符と休符、読譜練習(低音部記号)、バイエルNo.17、18、23、24
第3回　拍子、リズム課題Ⅰ、バイエルNo.37、45、46
第4回　標語と記号、リズム課題Ⅱ、バイエルNo.48、49、51
第5回　長音階(♯調)、リズム課題Ⅲ、バイエルNo.52、55、57
第6回　長音階(♭調)、リズム課題Ⅳ、バイエルNo.59、60、61
第7回　短音階、バイエルNo.65、67
第8回　移調、バイエルNo.72、73
第9回　和音、バイエルNo.73、75
第10回 メジャーコードとマイナーコード、バイエルNo.77、78
第11回 ハ長調のコード進行、バイエルNo.77、78
第12回 ハ長調のコード伴奏による弾き歌い、バイエルNo.79、80
第13回 音楽理論の理解度調査、バイエルNo.79、80
第14回 弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲
第15回 ピアノ実技発表

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。課題の予習、復習が何よりも重要である。

教科書

保育士、教員養成に役立つ 豊かな演奏表現のためのピアノ曲集
著者:　小畑郁男・佐野仁美・田中幹子編著
出版社:　サーベル社
出版年:　2018年　　ISBN:

コードでかんたん！子どものうたマイ・レパートリー
著者:　坂井康子他編著
出版社:　ヤマハ・ミュージックメディア
出版年:　2008年　　ISBN:

参考書

プリントを配布する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 30% ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 50% ）

a30102i410

参加度 （ 20% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**音楽演習入門 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　48
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐野 仁美	

テーマ

鍵盤楽器演奏の基本と音楽理論

授業の到達目標

1)教育・保育で必要な音楽理論を理解し、読譜力を身に付ける。2)初歩的なピアノ演奏技能を習得する。3)コードネームを理解し、簡単な伴奏付けができる。

授業の概要

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と音楽理論の講義を並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の3～4人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習:授業中に指示された課題を各自で必ず練習しておく。わからないところは事前にあげておいて、授業に臨むこと。復習:指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して理解を深める。音楽理論の講義内容を整理して、課題に取り組む。

内　容

第1回　オリエンテーション、五線と音部記号、音名と変化記号、読譜練習、バイエルNo.12～15
第2回　音符と休符、読譜練習(低音部記号)、バイエルNo.17、18、23、24
第3回　拍子、リズム課題Ⅰ、バイエルNo.37、45、46
第4回　標語と記号、リズム課題Ⅱ、バイエルNo.48、49、51
第5回　長音階(♯調)、リズム課題Ⅲ、バイエルNo.52、55、57
第6回　長音階(♭調)、リズム課題Ⅳ、バイエルNo.59、60、61
第7回　短音階、バイエルNo.65、67
第8回　移調、バイエルNo.72、73
第9回　和音、バイエルNo.73、75
第10回 メジャーコードとマイナーコード、バイエルNo.77、78
第11回 ハ長調のコード進行、バイエルNo.77、78
第12回 ハ長調のコード伴奏による弾き歌い、バイエルNo.79、80
第13回 音楽理論の理解度調査、バイエルNo.79、80
第14回 弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲
第15回 ピアノ実技発表

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。課題の予習、復習が何よりも重要である。

教科書

保育士、教員養成に役立つ 豊かな演奏表現のためのピアノ曲集
著者:　小畑郁男・佐野仁美・田中幹子編著
出版社:　サーベル社
出版年:　2018年　　ISBN:

コードでかんたん！子どものうたマイ・レパートリー
著者:　坂井康子他編著
出版社:　ヤマハ・ミュージックメディア
出版年:　2008年　　ISBN:

参考書

プリントを配布する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 30% ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 50% ）

a30102i412

参加度 （ 20% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**音楽演習入門 <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　48
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐野　仁美.田中　幹子	

テーマ

鍵盤楽器演奏の基本と音楽理論

授業の到達目標

1)教育・保育で必要な音楽理論を理解し、読譜力を身に付ける。2)初歩的なピアノ演奏技能を習得する。3)コードネームを理解し、簡単な伴奏付けができる。

授業の概要

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と音楽理論の講義を並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の3～4人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習:授業中に指示された課題を各自で必ず練習しておく。わからないところは事前にあげておいて、授業に臨むこと。復習:指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して理解を深める。音楽理論の講義内容を整理して、課題に取り組む。

内　容

第1回　オリエンテーション、五線と音部記号、音名と変化記号、読譜練習、バイエルNo.12～15
第2回　音符と休符、読譜練習(低音部記号)、バイエルNo.17、18、23、24
第3回　拍子、リズム課題Ⅰ、バイエルNo.37、45、46
第4回　標語と記号、リズム課題Ⅱ、バイエルNo.48、49、51
第5回　長音階(♯調)、リズム課題Ⅲ、バイエルNo.52、55、57
第6回　長音階(♭調)、リズム課題Ⅳ、バイエルNo.59、60、61
第7回　短音階、バイエルNo.65、67
第8回　移調、バイエルNo.72、73
第9回　和音、バイエルNo.73、75
第10回　メジャーコードとマイナーコード、バイエルNo.77、78
第11回　ハ長調のコード進行、バイエルNo.77、78
第12回　ハ長調のコード伴奏による弾き歌い、バイエルNo.79、80
第13回　音楽理論の理解度調査、バイエルNo.79、80
第14回　弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲
第15回　ピアノ実技発表

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。課題の予習、復習が何よりも重要である。

教科書

保育士、教員養成に役立つ 豊かな演奏表現のためのピアノ曲集
著者:　小畑郁男・佐野仁美・田中幹子編著
出版社:　サーベル社
出版年:　2018年　　ISBN:

コードでかんたん！子どものうたマイ・レパートリー
著者:　坂井康子他編著
出版社:　ヤマハ・ミュージックメディア
出版年:　2008年　　ISBN:

参考書

プリントを配布する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 30% ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 50% ）

a30102i413

参加度 （ 20% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**音楽演習入門 <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　48
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐野　仁美.田中　幹子	

テーマ

鍵盤楽器演奏の基本と音楽理論

授業の到達目標

1)教育・保育で必要な音楽理論を理解し、読譜力を身に付ける。2)初歩的なピアノ演奏技能を習得する。3)コードネームを理解し、簡単な伴奏付けができる。

授業の概要

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と音楽理論の講義を並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の3～4人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習:授業中に指示された課題を各自で必ず練習しておく。わからないところは事前にあげておいて、授業に臨むこと。復習:指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して理解を深める。音楽理論の講義内容を整理して、課題に取り組む。

内　容

第1回　オリエンテーション、五線と音部記号、音名と変化記号、読譜練習、バイエルNo.12～15
第2回　音符と休符、読譜練習(低音部記号)、バイエルNo.17、18、23、24
第3回　拍子、リズム課題Ⅰ、バイエルNo.37、45、46
第4回　標語と記号、リズム課題Ⅱ、バイエルNo.48、49、51
第5回　長音階(♯調)、リズム課題Ⅲ、バイエルNo.52、55、57
第6回　長音階(♭調)、リズム課題Ⅳ、バイエルNo.59、60、61
第7回　短音階、バイエルNo.65、67
第8回　移調、バイエルNo.72、73
第9回　和音、バイエルNo.73、75
第10回　メジャーコードとマイナーコード、バイエルNo.77、78
第11回　ハ長調のコード進行、バイエルNo.77、78
第12回　ハ長調のコード伴奏による弾き歌い、バイエルNo.79、80
第13回　音楽理論の理解度調査、バイエルNo.79、80
第14回　弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲
第15回　ピアノ実技発表

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。課題の予習、復習が何よりも重要である。

教科書

保育士、教員養成に役立つ 豊かな演奏表現のためのピアノ曲集
著者:　小畑郁男・佐野仁美・田中幹子編著
出版社:　サーベル社
出版年:　2018年　　ISBN:

コードでかんたん！子どものうたマイ・レパートリー
著者:　坂井康子他編著
出版社:　ヤマハ・ミュージックメディア
出版年:　2008年　　ISBN:

参考書

プリントを配布する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 30% ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 50% ）

a30102i414

参加度 （ 20% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**学校・地域調査（国内）Ⅰ〈幼〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森本　美絵	

テーマ

施設の機能や子ども達の育ちを実感する。

授業の到達目標

①子どもの発達について、ある程度具体的にイメージすることができる。
②子どもに適切な声掛けができるようになる。
③保育所等の保育の流れを理解し、保育の手伝いができるようになる。
④保育の場での子どもの様子を記録として書くことができるようになる。

授業の概要

半期をとおして、子どもや保育者の生活に直接触れることにより、実際の現場の空気や
子どもの成長の様子を感じ、施設等の機能や子どもの理解をひろげる。保育所、幼稚園、児童館、子育て支援センター等でのボランティア等の活動を通して気づいた子どもや保育者(職員)の姿、施設の機能等について、グループワークや全体への発表により、意見交流する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

1週間に1回程度（1か月3回以上）、1回2時間以上を同じ保育所、幼稚園等の施設でボランティア等の立場で保育を観察･手伝う等する。

内　　容

第1回　オリエンテーション、ボランティア施設の紹介等
第2回　ボランティア活動の計画表の作成、 体験者の報告
第3回　施設の概要等の報告、ボランティア等の仕事内容についての意見交流
第4回　施設の雰囲気や子どもの様子についての意見交流
第5回　グループワーク：遊びの見守り等から気づいた事の意見交流
第6回　全体への発表、レポート作成
第7回　グループワーク：遊びの観察･参加･補助等から気づいた事の意見交流
第8回　振り返り：半期を通して、気づいたこと(どんなところに子どもの育ちの変化を感じたか、何故かを考えてみる)を整理する。 実習に向けて何を学びたいかを考える。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**学校・地域調査（国内）Ⅰ 〈児A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河内　晴彦	

テーマ

学校や地域の現実とこどもたちから学ぼう

授業の到達目標

1,学校や地域での経験を報告にまとめ、発表する 2,報告からお互いに学び合う 3,こども理解をさらに深める

授業の概要

学校や地域でのボランティア活動（フールドワーク）の経験を報告し、報告された内容について話し合う

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日頃の経験や感じたことをメモ等に記録して報告に生かす。必要があれば、文献や実践に学ぶ。

内　　容

第1回　学習支援の内容と方法（算数・国語・体育・その他）を学ぶ
第2回　報告をもとに話し合う①
第3回　報告をもとに話し合う②
第4回　報告をもとに話し合う③
第5回　報告をもとに話し合う④
第6回　報告をもとに話し合う⑤
第7回　集団による報告をもとに話し合う①
第8回　集団による報告をもとに話し合う②

履修上の注意点

月に1回程度の授業となる。報告はもちろん、報告に対する話し合いに積極的に参加して欲しい。1回から4回で2回、5回から8回で2回、計4回以上欠席した者は単位の習得を認めない。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

学校ボランティアハンドブック
著者:　霜田浩信・会沢信彦・星野常夫
出版社:　ほんの森出版
出版年:　2011年　　ISBN:

必ずクラスがまとまる教師の成功術
著者:　野中信行・横藤雅人
出版社:　学陽書房
出版年:　2011年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 50 ）
参加度 （ 30 ）
報告の内容や話し合いへの積極性を最重視する。ほぼ月1回の授業となるので、出席の最低基準も設ける。

2018 Syllabus

科目名　**学校・地域調査（国内）Ⅰ〈児B〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　通年	定　員
履修条件	クラス指定
担当者　河内 晴彦	

テーマ

学校や地域の現実とこどもたちから学ぼう

授業の到達目標

1，学校や地域での経験を報告にまとめ、発表する。2，報告からお互いに学び合う3，こども理解をさらに深める

授業の概要

学校や地域でのボランティア活動（フィールドワーク）の経験を報告し、報告された内容について話し合う

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日頃の経験や感じたことをメモ等に記録して報告に生かす。必要があれば、文献や実践に学ぶ。

内　容

第1回　学習支援の内容と方法（算数・国語・体育・その他）を学ぶ
第2回　報告をもとに話し合う①
第3回　報告をもとに話し合う②
第4回　報告をもとに話し合う③
第5回　報告をもとに話し合う④
第6回　報告をもとに話し合う⑤
第7回　集団による報告をもとに話し合う①
第8回　集団による報告をもとに話し合う②

履修上の注意点

月に1回程度の授業となる。報告はもちろん、報告に対する話し合いに積極的に参加して欲しい。1回から4回で2回、5回から8回で2回、計4回以上欠席した者は単位の習得を認めない。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

学校ボランティアハンドブック
著者:　霜田浩信・会沢信彦・星野常夫
出版社:　ほんの森出版
出版年:　2011年　　ISBN:

必ずクラスがまとまる教師の成功術
著者:　野中信行・横藤雅人
出版社:　学陽書房
出版年:　2011年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 30 ）
報告の内容や話し合いへの積極性を最重視する。ほぼ月1回の授業となるので、出席の最低基準も設ける。

2018 Syllabus

科 目 名　**学校・地域調査（国内）Ⅰ <児C>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河内　晴彦	

テーマ

学校や地域の現実とこどもたちから学ぼう

授業の到達目標

1,学校や地域での経験を報告にまとめ、発表する　2,報告からお互いに学び合う　3,こども理解をさらに深める

授業の概要

学校や地域でのボランティア活動（フィールドワーク）の経験を報告し、報告された内容について話し合う

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日頃の経験や感じたことをメモ等に記録して報告に生かす。必要があれば、文献や実践に学ぶ。

内　　容

第1回　学習支援の内容と方法（算数・国語・体育・その他）を学ぶ
第2回　報告をもとに話し合う①
第3回　報告をもとに話し合う②
第4回　報告をもとに話し合う③
第5回　報告をもとに話し合う④
第6回　報告をもとに話し合う⑤
第7回　集団による報告をもとに話し合う①
第8回　集団による報告をもとに話し合い②

履修上の注意点

月に1回程度の授業となる。報告はもちろん、報告に対する話し合いに積極的に参加して欲しい。1回から4回で2回、5回から8回で2回、計4回以上欠席した者は単位の習得を認めない。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

学校ボランティアハンドブック
著者:　霜田浩信・会沢信彦・星野常夫
出版社:　ほんの森出版
出版年:　2011年　　ISBN:

必ずクラスがまとまる教師の成功術
著者:　野中信行・横藤雅人
出版社:　学陽書房
出版年:　2011年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 50 ）
参加度 （ 30 ）
報告の内容や話し合いへの積極性を最重視する。ほぼ月1回の授業となるので、出席の最低基準も設ける。

2018 Syllabus

科 目 名　**学校・地域調査（国内）Ⅱ 〈幼〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森本　美絵	

テーマ

施設の機能や子ども達の育ちを実感する。

授業の到達目標

①子どもの発達について、具体的にイメージすることができる。
②子どもに適切な声掛けができるようになる。
③保育所等の保育の流れや子ども関係を理解し、保育の手伝いができるようになる。
④保育の場での子どもの様子を記録として書くことができるようになる。

授業の概要

運動会や発表会などの行事を中心とした流れのなかに参加し、実際の現場の動きや子どもの成長の様子から、子ども理解を深める。保育所、幼稚園、児童館、子育て支援センターなどでのボランティアの活動を通して気づいた子どもや保育者（職員）の姿、施設の機能等について、グループワークや全体への発表により、意見交流する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

1週間に1回程度（1か月3回以上）、1回2時間以上を同じ保育所、幼稚園等の施設でボランティア等の立場で保育を手伝う等する。子どもの施設で実施されている季節の行事などについて、調べる。

内　容

第1回　オリエンテーション、ボランティア施設の確認。
　　グループワーク－学生はメモをもとに、行事等を中心に、子どもの様子や保育者の姿等について報告する
第2回　子どもを素敵、おもしろい、可愛い、感動した場面を記録する。
　　グループで意見交流する。
第3回　グループワーク－学生はメモをもとに、行事等を中心に、子どもの様子や保育者の姿等について報告する
第4回　子どもを素敵、おもしろい、可愛い、感動した場面を記録する。
　　グループで意見交流する。優れた実践記録を紹介する。
第5回　グループワーク－学生はメモをもとに、行事等を中心に、子どもの様子や保育者の姿等について報告する
第6回　子どもを素敵、おもしろい、可愛い、感動した場面を記録する。
　　グループで意見交流する。優れた実践記録を紹介する。
第7回　グループワーク－学生はメモをもとに、行事等を中心に、子どもの様子や保育者の姿等について報告する
第8回　振り返り：行事の流れのなかに参加して、どんなところに子どもの育ちの変化を感じたのか、何故変化したのか等を考え、整理する。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度　（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**幼児体育指導法Ⅰ〈幼A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　口野　隆史	

テーマ

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、子どもたちが楽しく運動遊びをできる指導力を身につける。

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び、ケンパ等々、楽しかったものはこの授業でもやってみる。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　容

第1回　オリエンテーション(授業概要、教育課程での位置づけ、レポート作成要領)
第2回　自己の体力の理解と仲間づくりⅠ＜集団での運動課題＞長縄跳び、パラバルーン
第3回　自己の体力の理解と仲間づくりⅡ＜集団での運動課題＞ジャンケン遊び、鬼遊び
第4回　手具を用いた運動Ⅰ＜ボール＞用具の特性理解と動作理解(投げる、受けるなど)
第5回　手具を用いた運動Ⅱ＜縄＞用具の特性理解と動作理解(跳ぶ、引く、各種縄跳び)
第6回　手具を用いた運動Ⅲ＜輪＞用具の特性理解と動作理解(ケンパ、輪転がし、輪投げ)
第7回　手具を用いた運動Ⅳ＜棒＞用具の特性理解と動作理解(バンブーダンス、棒体操)
第8回　まとめ

履修上の注意点

しっかり出席すること。運動遊びの実技を行うので、子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かす。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を実技を通して理解する。

教科書

みんなが輝く体育①　幼児期　運動あそびの進め方
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　創文企画
出版年:　2009　　ISBN:

参考書

幼児のこころと運動
著者:　近藤充夫
出版社:　教育出版
出版年:　1995　　ISBN:

乳幼児の体育あそび
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　草土文化
出版年:　1999　　ISBN:

幼児体育の指導
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　ベースボール・マガジン社
出版年:　1974　　ISBN:

a30102i710

幼児のあそびと仕事

著者: 城丸章夫

出版社: 草土文化

出版年: 1981 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 40 ） 授業中発表等（ 20 ）

参加度 （ 40 ）

実技を多く行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かす。考える際は保育者の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮する。

2018 Syllabus

科 目 名　**幼児体育指導法Ⅰ〈幼B〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　口野　隆史	

テーマ

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、子どもたちが楽しく運動遊びをできる指導力を身につける。

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び、ケンパ等々、楽しかったものはこの授業でもやってみる。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　容

第1回　オリエンテーション(授業概要、教育課程での位置づけ、レポート作成要領)
第2回　自己の体力の理解と仲間づくりⅠ＜集団での運動課題＞長縄跳び、パラバルーン
第3回　自己の体力の理解と仲間づくりⅡ＜集団での運動課題＞ジャンケン遊び、鬼遊び
第4回　手具を用いた運動Ⅰ＜ボール＞用具の特性理解と動作理解(投げる、受けるなど)
第5回　手具を用いた運動Ⅱ＜縄＞用具の特性理解と動作理解(跳ぶ、引く、各種縄跳び)
第6回　手具を用いた運動Ⅲ＜輪＞用具の特性理解と動作理解(ケンパ、輪転がし、輪投げ)
第7回　手具を用いた運動Ⅳ＜棒＞用具の特性理解と動作理解(バンブーダンス、棒体操)
第8回　まとめ

履修上の注意点

しっかり出席すること。運動遊びの実技を行うので、子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かす。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を実技を通して理解する。

教科書

みんなが輝く体育①　幼児期　運動あそびの進め方
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　創文企画
出版年:　2009　　ISBN:

参考書

幼児のこころと運動
著者:　近藤充夫
出版社:　教育出版
出版年:　1995　　ISBN:

乳幼児の体育あそび
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　草土文化
出版年:　1999　　ISBN:

幼児体育の指導
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　ベースボール・マガジン社
出版年:　1974　　ISBN:

a30102i712

幼児のあそびと仕事

著者: 城丸章夫

出版社: 草土文化

出版年: 1981 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 40 ） 授業中発表等（ 20 ）

参加度 （ 40 ）

実技を多く行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かす。考える際は保育者の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮する。

2018 Syllabus

科 目 名　**幼児体育指導法Ⅰ〈幼C〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　口野　隆史	

テーマ

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、子どもたちが楽しく運動遊びをできる指導力を身につける。

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び、ケンパ等々、楽しかったものはこの授業でもやってみる。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　容

第1回　オリエンテーション(授業概要、教育課程での位置づけ、レポート作成要領)
第2回　自己の体力の理解と仲間づくりⅠ＜集団での運動課題＞長縄跳び、パラバルーン
第3回　自己の体力の理解と仲間づくりⅡ＜集団での運動課題＞ジャンケン遊び、鬼遊び
第4回　手具を用いた運動Ⅰ＜ボール＞用具の特性理解と動作理解(投げる、受けるなど)
第5回　手具を用いた運動Ⅱ＜縄＞用具の特性理解と動作理解(跳ぶ、引く、各種縄跳び)
第6回　手具を用いた運動Ⅲ＜輪＞用具の特性理解と動作理解(ケンパ、輪転がし、輪投げ)
第7回　手具を用いた運動Ⅳ＜棒＞用具の特性理解と動作理解(バンブーダンス、棒体操)
第8回　まとめ

履修上の注意点

しっかり出席すること。運動遊びの実技を行うので、子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かす。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を実技を通して理解する。

教科書

みんなが輝く体育①　幼児期　運動あそびの進め方
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　創文企画
出版年:　2009　　ISBN:

参考書

幼児のこころと運動
著者:　近藤充夫
出版社:　教育出版
出版年:　1995　　ISBN:

乳幼児の体育あそび
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　草土文化
出版年:　1999　　ISBN:

幼児体育の指導
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　ベースボール・マガジン社
出版年:　1974　　ISBN:

a30102i713

幼児のあそびと仕事

著者: 城丸章夫

出版社: 草土文化

出版年: 1981 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 40 ） 授業中発表等（ 20 ）

参加度 （ 40 ）

実技を多く行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かす。考える際は保育者の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮する。

2018 Syllabus

科 目 名　**幼児体育指導法Ⅰ〈児〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　新野　守	

テーマ

運動遊びの達人！

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいかを考えながら、楽しく運動遊びを行う

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

日常的に腕立て伏せ、腹筋などの体幹トレーニング等により自己の健康と体力向上に努める。また運動遊びと子どもの発達特性について自習すること。

内　容

第1回　オリエンテーション(授業概要、教育課程での位置づけ、レポート作成要領)
第2回　自己の体力の理解と仲間づくりⅠ＜集団での運動課題＞長縄跳び、パラバルーン
第3回　自己の体力の理解と仲間づくりⅡ＜集団での運動課題＞ジャンケン遊び、鬼遊び
第4回　手具を用いた運動Ⅰ＜ボール＞用具の特性理解と動作理解(投げる、受けるなど)
第5回　手具を用いた運動Ⅱ＜縄＞用具の特性理解と動作理解(跳ぶ、引く、各種縄跳び)
第6回　手具を用いた運動Ⅲ＜輪＞用具の特性理解と動作理解(ケンパ、輪転がし、輪投げ)
第7回　手具を用いた運動Ⅳ＜棒＞用具の特性理解と動作理解(バンブーダンス、棒体操)
第8回　まとめ

履修上の注意点

学校の指導者として相応しい運動服(スポーツウェアとシューズ)を着用すること。欠席は3回以内。出席君忘れは、2点減点。教育者としての自覚堅持。授業内容は、状況に応じて変更されることがあるので、オリエンテーションで確認すること。

教科書

参考書

幼児期運動遊びの進め方
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　創文企画
出版年:　2009　　ISBN:

体育遊び
著者:　米谷光弘
出版社:　ひかりのくに
出版年:　2007　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）
出席(12回以上)、技術、授業記録、レポート、意欲(教育者としての自覚)を評価の対象とする。受講生の状況に応じて評価配分は変更されることがある。

2018 Syllabus

科 目 名　**幼児体育指導法Ⅱ〈幼A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　口野　隆史	

テーマ

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、子どもたちが楽しく運動遊びをできる指導力を身に付ける。

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこかくれんぼ、縄跳び、ボール遊び、ケンパ等々、楽しかったものはこの授業でもやってみる。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　容

第1回　手具を用いない運動Ⅰ＜様々な鬼遊び①＞(少人数で単純なルールで)
第2回　手具を用いない運動Ⅱ＜様々な鬼遊び②＞(多人数でやや複雑なルールで)
第3回　手具を用いない運動Ⅲ＜マット運動①＞感覚･動きづくり
第4回　手具を用いない運動Ⅳ＜マット運動②＞側転を学ぶ
第5回　身近な物を用いた運動Ⅰ＜新聞紙＞用具の特性理解と動作理解(遊びの創造)
第6回　身近な物を用いた運動Ⅱ＜新聞紙＞作成した用具での運動遊び
第7回　子どもの運動発達の理解
第8回　まとめとレポート作成

履修上の注意点

しっかり出席すること。運動遊びの実技を行うので、子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かす。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を実技を通して理解する。

教科書

みんなが輝く体育①　幼児期　運動あそびの進め方
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　創文企画
出版年:　2009　　ISBN:

参考書

幼児のこころと運動
著者:　近藤充夫
出版社:　教育出版
出版年:　1995　　ISBN:

乳幼児の体育あそび
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　草土文化
出版年:　1999　　ISBN:

幼児体育の指導
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　ベースボール・マガジン社
出版年:　1974　　ISBN:

a30102i850

幼児のあそびと仕事

著者: 城丸章夫

出版社: 草土文化

出版年: 1981 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 20 ） 授業中発表等（ 40 ）

参加度（ 40 ）

実技を多く行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かす。考える際は保育者の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮する。

2018 Syllabus

科 目 名　**幼児体育指導法Ⅱ〈幼B〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　口野　隆史	

テーマ

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、子どもたちが楽しく運動遊びをできる指導力を身に付ける。

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこかくれんぼ、縄跳び、ボール遊び、ケンパ等々、楽しかったものはこの授業でもやってみる。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　容

第1回　手具を用いない運動Ⅰ＜様々な鬼遊び①＞(少人数で単純なルールで)
第2回　手具を用いない運動Ⅱ＜様々な鬼遊び②＞(多人数でやや複雑なルールで)
第3回　手具を用いない運動Ⅲ＜マット運動①＞感覚･動きづくり
第4回　手具を用いない運動Ⅳ＜マット運動②＞側転を学ぶ
第5回　身近な物を用いた運動Ⅰ＜新聞紙＞用具の特性理解と動作理解(遊びの創造)
第6回　身近な物を用いた運動Ⅱ＜新聞紙＞作成した用具での運動遊び
第7回　子どもの運動発達の理解
第8回　まとめとレポート作成

履修上の注意点

しっかり出席すること。運動遊びの実技を行うので、子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かす。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を実技を通して理解する。

教科書

みんなが輝く体育①　幼児期　運動あそびの進め方
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　創文企画
出版年:　2009　　ISBN:

参考書

幼児のこころと運動
著者:　近藤充夫
出版社:　教育出版
出版年:　1995　　ISBN:

乳幼児の体育あそび
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　草土文化
出版年:　1999　　ISBN:

幼児体育の指導
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　ベースボール・マガジン社
出版年:　1974　　ISBN:

a30102i852

幼児のあそびと仕事

著者: 城丸章夫

出版社: 草土文化

出版年: 1981 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 20 ） 授業中発表等（ 40 ）

参加度（ 40 ）

実技を多く行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かす。考える際は保育者の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮する。

2018 Syllabus

科 目 名　**幼児体育指導法Ⅱ〈幼C〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　口野　隆史	

テーマ

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、子どもたちが楽しく運動遊びをできる指導力を身に付ける。

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこかくれんぼ、縄跳び、ボール遊び、ケンパ等々、楽しかったものはこの授業でもやってみる。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　容

第1回　手具を用いない運動Ⅰ＜様々な鬼遊び①＞(少人数で単純なルールで)
第2回　手具を用いない運動Ⅱ＜様々な鬼遊び②＞(多人数でやや複雑なルールで)
第3回　手具を用いない運動Ⅲ＜マット運動①＞感覚･動きづくり
第4回　手具を用いない運動Ⅳ＜マット運動②＞側転を学ぶ
第5回　身近な物を用いた運動Ⅰ＜新聞紙＞用具の特性理解と動作理解(遊びの創造)
第6回　身近な物を用いた運動Ⅱ＜新聞紙＞作成した用具での運動遊び
第7回　子どもの運動発達の理解
第8回　まとめとレポート作成

履修上の注意点

しっかり出席すること。運動遊びの実技を行うので、子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かす。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を実技を通して理解する。

教科書

みんなが輝く体育①　幼児期　運動あそびの進め方
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　創文企画
出版年:　2009　　ISBN:

参考書

幼児のこころと運動
著者:　近藤充夫
出版社:　教育出版
出版年:　1995　　ISBN:

乳幼児の体育あそび
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　草土文化
出版年:　1999　　ISBN:

幼児体育の指導
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　ベースボール・マガジン社
出版年:　1974　　ISBN:

a30102i853

幼児のあそびと仕事

著者: 城丸章夫

出版社: 草土文化

出版年: 1981 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 20 ） 授業中発表等（ 40 ）

参加度 （ 40 ）

実技を多く行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かす。考える際は保育者の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮する。

2018 Syllabus

科 目 名　**幼児体育指導法Ⅱ〈児〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　新野　守	

テーマ

運動遊びの達人！

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいかを考えながら、楽しく運動遊びを行う

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

日常的に腕立て伏せ、腹筋などの体幹トレーニング等により自己の健康と体力向上に努める。また運動遊びと子どもの発達特性について自習すること。

内　容

第1回　手具を用いない運動Ⅰ＜様々な鬼遊び①＞(少人数で単純なルールで)
第2回　手具を用いない運動Ⅱ＜様々な鬼遊び②＞(多人数でやや複雑なルールで)
第3回　手具を用いない運動Ⅲ＜マット運動①＞感覚･動きづくり
第4回　手具を用いない運動Ⅳ＜マット運動②＞側転を学ぶ
第5回　身近な物を用いた運動Ⅰ＜新聞紙＞用具の特性理解と動作理解(遊びの創造)
第6回　身近な物を用いた運動Ⅱ＜新聞紙＞作成した用具での運動遊び
第7回　子どもの運動発達の理解
第8回　まとめとレポート作成

履修上の注意点

学校の指導者として相応しい運動服(スポーツウェアとシューズ)を着用すること。欠席は3回以内。出席君忘れは、2点減点。教育者としての自覚堅持。授業内容は、状況に応じて変更されることがあるので、オリエンテーションで確認すること。

教科書

参考書

幼児期運動遊びの進め方
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　創文企画
出版年:　2009　　ISBN:

体育遊び
著者:　米谷光弘
出版社:　ひかりのくに
出版年:　2007　　ISBN:

成績評価

試験･レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）
出席(12回以上)、技術、授業記録、レポート、意欲(教育者としての自覚)を評価の対象とする。受講生の状況に応じて評価配分は変更されることがある。

2018 Syllabus

科 目 名　**小学校ICT教育演習**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　三上　周治.池田　修	

テーマ

視聴覚機器の歴史を踏まえ、学校教育におけるInformation and Communication Technology(ICT)の活用の意義、目的特徴を理解させる。

授業の到達目標

多機能情報端末(タブレット等)や電子黒板、書画カメラ等のICT機器、デジタル教科書や教育アプリケーションの活用について習熟し、その利点と問題点の理解する。

授業の概要

ICT機器(タブレット・電子黒板・書画カメラ等)、教育アプリ等の使用法を学び、その問題点と限界についても理解する。その上で、具体的な各教育場面(学習指導・学級指導等)での活用法を考えさせ、実際にプレゼンテーションをしたり、模擬授業をしたりさせる。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

preziやSwayに付いて予習し、授業後には課題を受けて豊前を制作する。

内　容

第1回　オリエンテーション、ICTとは何か, ICTの役割について
第2回　我が国の教育情報化政策とICT活用実践事例考察、教材開発方法について
第3回　我が国の教育情報化政策、学校におけるICT活用実践事例の考察
第4回　学校におけるICT活用実践事例の考察②
第5回　ICT活用とアクティブ・ラーニング
第6回　電子黒板とタブレット端末の機能について(電子黒板の基本機能とタブレット端末の基本機能について、各自操作を行い習得する)
第7回　映像教材の作成方法について①(iMovieを使用する予定等)
第8回　映像教材の作成方法について②(i Padを使用した授業展開)
第9回　映像教材の作成方法について③(i Padを使用した授業展開)
第10回　パワーポイントによる教材制作演習(パワーポイントでのアニメーション、音声、写真・動画の使用方法)
第11回　Prezi・Swayによる教材制作演習
第12回　ICTを活用する授業における評価方法
第13回　授業におけるICT活用の現状と問題点
第14回　教材発表と総括①
・各自が開発したタブレット用教材を紹介し合い、相互評価を行う。
・学校におけるICT活用に関するディスカッション
第15回　教材発表と総括②
・これからの学校におけるICT活用の展望

履修上の注意点

欠席が1／3以上の場合は、評価対象としない。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（５０）	授業中発表等（４０）
参加度（１０）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅰ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　芦名　猛夫	

テーマ

小学校の学級経営および教科教育についての研究。

授業の到達目標

1)授業や実習、ボランティア活動を通して抱いた興味・関心を具体化して、研究テーマを設定する。2)文献を検索し、文献を読み込む力をつける。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

自ら進んで、関心を持つ分野の書籍や新聞・雑誌の記事を読む。

内　　容

第1回　オリエンテーション：自己紹介、ゼミ選択理由の報告、ゼミ運営についての説明
　　卒業論文と研究倫理について
第2回　保育・小学校現場における子どもと教師の関わり①
第3回　保育・小学校現場における子どもと教師の関わり②
第4回　基本文献の輪読と発表①
第5回　基本文献の輪読と発表②
第6回　基本文献の輪読と発表③
第7回　基本文献の輪読と発表④
第8回　基本文献の輪読と発表⑤
第9回　基本文献の輪読と発表⑥
第10回　基本文献の輪読と発表⑦
第11回　研究テーマ設定に向けての計画
第12回　関心を持つ分野および文献についての報告①
第13回　関心を持つ分野および文献についての報告②
第14回　関心を持つ分野および文献についての報告③
第15回　まとめ：夏季休暇中の課題と実習に向けての抱負

履修上の注意点

学外での授業（フィールドワーク）もありうることも想定しておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅰ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森　枝美	

テーマ

戦後の教育実践についての基本文献を読むことを通して研究課題を見つける。

授業の到達目標

①基本文献の輪読やこれまでの学習を通して、自分の研究課題を見出す。②研究課題についての資料を収集し、理解を深める。

授業の概要

戦後の教育実践についての基本文献を輪読し、討議することを通して、自分の研究課題を見つける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

基本文献については、授業前に該当する箇所を読み予習しておく。ゼミの授業の中で疑問に思ったこと、よくわからなかったことについて調べ、理解を深められるようにする。

内　容

第1回　オリエンテーション、卒業論文と研究倫理について
第2回　関心のある資料や文献を探す方法を知る
第3回　基本文献を読む①
第4回　基本文献を読む②
第5回　基本文献を読む③
第6回　基本文献を読む④
第7回　前半のまとめ　自分の研究課題について検討する
第8回　基本文献を読む⑤
第9回　基本文献を読む⑥
第10回　基本文献を読む⑦
第11回　基本文献を読む⑧
第12回　後半のまとめ　自分の研究課題について検討する
第13回　関心のある資料や文献を探す①
第14回　関心のある資料や文献を探す②
第15回　全体のまとめ

履修上の注意点

全回出席を前提とする。
報告担当ではない回でも、報告者の発表に対して興味をもって耳を傾け、積極的に意見を述べてほしい。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

時代を拓いた教師たち
著者:　田中耕治編著
出版社:　日本標準
出版年:　2005　　ISBN:　4820802569

時代を拓いた教師たちⅡ
著者:　田中耕治編著
出版社:　日本標準
出版年:　2009　　ISBN:　4820804227

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30% ）	授業中発表等（ 50% ）
参加度（ 20% ）	

a30103aa12

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅰ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　大久保　恭子	

テーマ

人格の発達と表現の関係を研究する。

授業の到達目標

人格形成と結びついた表現の意味を探る視点を掴み、子どもの発達と表現との関わりを、さまざまな角度から深く追求する力を身につける。各自が問題意識を掘り起こし、研究活動の第一段階に入る。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各自の関心事に関する文献を読み進めておくこと。

内　　容

第1回　オリエンテーション：表現と教育に関する学の研究領域、研究の方法論について
　　卒業論文と研究倫理について
第2回　子どもの発達・表現・教育に関する基本文献を読む①
第3回　子どもの発達・表現・教育に関する基本文献を読む②
第4回　子どもの発達・表現・教育に関する基本文献を読む③
第5回　子どもの発達・表現・教育に関する基本文献を読む④
第6回　子どもの発達・表現・教育に関する基本文献を読む⑤
第7回　学外活動：実践取材＆調査と分析①
第8回　学外活動：実践取材＆調査と分析②
第9回　個別発表と質疑・応答・討議①②
第10回　個別発表と質疑・応答・討議③④
第11回　個別発表と質疑・応答・討議⑤⑥
第12回　個別発表と質疑・応答・討議⑦⑧
第13回　個別発表と質疑・応答・討議⑨⑩
第14回　個別発表と質疑・応答・討議⑪⑫
第15回　個別発表と質疑・応答・討議⑬⑭

履修上の注意点

〇学外授業…美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加を適宜、行うことがある 〇自分の研究テーマを見つけ出すために、本学及び他大学図書館等を利用して、論文（実績のある大学のそれらに関わる論文集）や実践報告を読む。

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（ 60 ）
参加度（ 40 ）	

全回出席を前提とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅰ <＊d>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐野　仁美	

テーマ

子どもと音楽の関わりについて考える。

授業の到達目標

1)授業や実習、ボランティア活動を通して抱いた興味・関心を具体化して、研究テーマを設定する。2)文献を検索し、文献を読み込む力をつける。

授業の概要

関心のある分野の基本文献を要約して発表し、問題点を取り上げて討論する。そのかたわら各自の研究テーマを設定し、研究方法について学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習:関心を持つ分野の書籍や新聞・雑誌の記事を読む。 復習:討論で得られた意見を参考にして、最終レポートに向けて文献をまとめる。

内　　容

第1回　オリエンテーション:自己紹介、ゼミ選択理由の報告、ゼミ運営についての説明
　　卒業論文と研究倫理について
第2回　保育や教育の場における子どもと音楽の関わり①
第3回　保育や教育の場における子どもと音楽との関わり②
第4回　基本文献についての発表①
第5回　基本文献についての発表②
第6回　基本文献についての発表③
第7回　基本文献についての発表④
第8回　基本文献についての発表⑤
第9回　基本文献についての発表⑥
第10回　基本文献についての発表⑦
第11回　研究テーマ設定に向けての計画
第12回　関心を持つ分野および文献についての報告①
第13回　関心を持つ分野および文献についての報告②
第14回　関心を持つ分野および文献についての報告③
第15回　まとめ:夏季休暇中の課題と実習に向けての抱負

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。自主的な学習態度を重視する。なお、この授業では必要に応じて学外授業を実施する。

教科書

授業中に指示する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

必要に応じて紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 50% ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅰ〈＊e〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　三上 周治

テーマ

小学校の学級経営および教科教育についての研究。

授業の到達目標

1)授業や実習、ボランティア活動を通して抱いた興味・関心を具体化して、研究テーマを設定する。
2)文献を検索し、文献を読み込む力をつける。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

自ら進んで、関心を持つ分野の書籍や新聞・雑誌の記事を読む。

内　容

第1回　オリエンテーション：自己紹介、ゼミ選択理由の報告、ゼミ運営についての説明
　　卒業論文と研究倫理について
第2回　保育・小学校現場における子どもと教師の関わり①
第3回　保育・小学校現場における子どもと教師の関わり②
第4回　基本文献の輪読と発表①
第5回　基本文献の輪読と発表②
第6回　基本文献の輪読と発表③
第7回　基本文献の輪読と発表④
第8回　基本文献の輪読と発表⑤
第9回　基本文献の輪読と発表⑥
第10回　基本文献の輪読と発表⑦
第11回　研究テーマ設定に向けての計画
第12回　関心を持つ分野および文献についての報告①
第13回　関心を持つ分野および文献についての報告②
第14回　関心を持つ分野および文献についての報告③
第15回　まとめ：夏季休暇中の課題と実習に向けての抱負

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅰ〈＊f〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　長橋　聡	

テーマ

卒業論文制作にあたっての問題意識の探索と確立

授業の到達目標

・発達や保育等に関する文献の学習、発表を通じて、人間の活動の分析的な見方を学ぶ。同時に、論文、研究の見方、読み方、書き方のスタイルを学習する。・卒業論文に向けて各自の問題意識を発表し、課題を明らかにする

授業の概要

・子どもの発達や保育に関する文献を読み、発表する。・卒業論文のテーマについて、各自の問題意識を発表し、議論をしながら深めていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

適時、各自の問題意識に関連した単行本や論文を探し、読んでください。

内　　容

第1回　オリエンテーション、卒業論文と研究倫理について
第2回　子どもの発達や保育に関する研究①
第3回　子どもの発達や保育に関する研究②
第4回　子どもの発達や保育に関する研究③
第5回　子どもの発達や保育に関する研究④
第6回　子どもの発達や保育に関する研究⑤
第7回　子どもの発達や保育に関する研究⑥
第8回　子どもの発達や保育に関する研究⑦
第9回　卒業論文の問題意識の発表①
第10回　卒業論文の問題意識の発表②
第11回　卒業論文の問題意識の発表③
第12回　卒業論文の問題意識の発表④
第13回　卒業論文の問題意識の発表⑤
第14回　卒業論文の問題意識の発表⑥
第15回　卒業論文の問題意識の発表⑦ ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅰ〈＊g〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　南　憲治	

テーマ

子どもの発達や発達障害について学ぶ。

授業の到達目標

①子どもの発達や発達障害についての理解を深める。
②興味のあるテーマをみつけ、そのテーマに関連した資料や文献をさがすことができる。
③資料や文献を読み、その内容について発表する力を養う。

授業の概要

子どもの発達や発達障害に関する資料・文献をみつけ、その内容についてのレジュメを作成し発表する。そして集団で討議し理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

十分に準備して発表に臨んで下さい。

内　　容

第1回　オリエンテーション（授業のねらいと進め方）
　　卒業論文と研究倫理について
第2回　関心のある資料や文献をさがす①
第3回　関心のある資料や文献をさがす②
第4回　資料や文献を読む①
第5回　資料や文献を読む②
第6回　発表の準備をする①
第7回　発表の準備をする②
第8回　発表と討論
第9回　発表と討論
第10回　発表と討論
第11回　発表と討論
第12回　発表と討論
第13回　発表と討論
第14回　発表と討論
第15回　全体のまとめと課題

履修上の注意点

主体的に授業に参加して下さい。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜、指示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 50% ）
参加度（ 50% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅰ〈＊h〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　青木　美智子	

テーマ

卒業論文の主題を明確にすること。

授業の到達目標

1. 二年間取り組む研究課題を明確にすること。2. 先行研究を調べ、精読し、要約する。3. 論文執筆にかかわる注釈、引用などの決まりを守り、研究発表を行う。4. 問題意識を持ち、相互に意見交換を行う。

授業の概要

問題意識を明確にしていくために、論文のテーマとしようとしていることについて、これまでどのようなことが言われてきており、何が問題であると考えられてきたのかを、生活のレベルから学問のレベルまで調べる。学期の最後にはこれらのことを踏まえて、自分の論文について口頭による発表を行うことを課しこれを評価の対象とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各回の課題に丁寧に取り組むこと。また、提出の期限を守ること。

内　容

第1回　導入
　　卒業論文と研究倫理について
第2回　ゼミ生同士の交流。
第3回　優れた論文から学ぶ①　論文の構造
第4回　優れた論文から学ぶ②　書き方の決まり
第5回　優れた論文から学ぶ③　資料について
第6回　主題の設定にむけて①　事典から学ぶ
第7回　主題の設定にむけて②　インターネットから情報を収集する
第8回　文献・資料収集①　図書館の本、雑誌から
第9回　文献・資料収集②　研究論文の検索から入手まで
第10回　文献・資料収集③　資料の整理法
第11回　章構成を考える
第12回　発表準備　1
第13回　発表準備　2
第14回　発表準備　3
第15回　研究発表

履修上の注意点

・遅刻欠席の場合は事前に連絡をすること。
・幼児コースの実習スケジュールを鑑み、一部日程を変更し、集中講義にまとめてゼミを行う予定である。開講日程については授業のはじめに話し合うため、必ず出席のこと。

教科書

参考書

ぎりぎり合格への論文マニュアル
著者:　山内史朗
出版社:　平凡社新書
出版年:　2007　　ISBN:

入門論文の書き方
著者:　鷲田小彌太
出版社:　PHP新書
出版年:　2001　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40%）	授業中発表等（60%）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅰ〈＊i〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森本　美絵	

テーマ

卒論テーマに関する基本文献を読む。

授業の到達目標

①基本文献･資料等を探すことができる。
②レジュメを作成することができる。
③自分の意見を全体に向けて発表することができる。
④他学生の発表に対して、質問することができる。

授業の概要

仮の卒論テーマをもとに、関心が類似している学生でグループをつくり、1～2冊の基本文献を読み進める。要約等を分担し、全体に向けて発表する。教員の助言や他学生からの意見･質問をもとに、不足を調べ、個々の卒論テーマについて考えていく。

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

毎回、事前準備として、本を読み要約する（2～3時間）。助言･質問･意見に対して答えられるように調べる。基本文献のほかに、各自の関心あるテーマに関して、大学図書館等を活用してグループで決めた本以外に、多くの文献を読む。

内　容

第1回　研究方法について学ぶー1
　　卒業論文と研究倫理について
第2回　研究方法について学ぶー2
第3回　基本文献1の講読の分担報告－1
第4回　基本文献1の講読の分担報告－2
第5回　基本文献1の講読の分担報告－3
第6回　基本文献1の講読の分担報告－4
第7回　質疑･応答･討議
第8回　基本文献2の講読の分担報告－1
第9回　基本文献2の講読の分担報告－2
第10回　基本文献2の講読の分担報告－3
第11回　基本文献2の講読の分担報告－4
第12回　質疑･応答･討議
第13回　基本文献3の講読の分担報告－1
第14回　基本文献3の講読の分担報告－2
第15回　基本文献3の講読の分担報告－3

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験･レポート（0）	小テスト（0）
授業中課題（50）	授業中発表等（50）
参加度（0）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅰ〈＊j〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池田　修	

テーマ

国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献に学ぶ。国語科の学習材開発に取り組む。

授業の到達目標

国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献、または幼児や児童のことばに関する認識を育てる保育実践や教育実践の記録を読み、各自が関心のあるテーマを探し出す。テーマにそって調査したことを報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、問題意識を深める。また、国語科の学習材開発を行い、オリジナルの学習材開発に挑む。

授業の概要

幼児や児童ことばの形成にかかわる教育実践上の課題と、学級づくりに関する実践上の課題をつかむために、ことばの発達と教育に関する基本文献、学級づくりのための基本文献を読み進める。その中で、自分の研究課題を見つけ出し、研究課題を深める資料を収集し、わかったことをまとめて発表する。受講生の学ぼうとする領域の分布、または関心によって授業の進め方は調整することがある。また、学外授業やゼミ合宿を、適宜、行うことがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、国語科の授業づくりと学級づくりに関する論文や実践（『生活指導』『現代教育科学』『月刊国語教育』『教育』『生活教育』『授業づくりネットワーク』などの雑誌に掲載）を読む。教育研究会に積極的に参加する。

内　容

第1回　国語科教育学、学校経営研究の研究対象と領域、研究の方法論について
　　卒業論文と研究倫理について
第2回　国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む①
第3回　国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む②
第4回　国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む③
第5回　国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む④
第6回　国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む⑤、個別発表の計画づくり
第7回　個別発表と質疑・応答・討議①
第8回　個別発表と質疑・応答・討議②
第9回　個別発表と質疑・応答・討議③
第10回　個別発表と質疑・応答・討議④
第11回　個別発表と質疑・応答・討議⑤
第12回　国語学習材の開発検討①
第13回　国語学習材の開発検討②
第14回　国語学習材の開発検討③
第15回　国語学習材の開発検討④

履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。

教科書

論理が伝わる 世界標準の「書く技術」
著者:　倉島保美
出版社: 講談社
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に指示
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）

a30103aa20

参加度 （ 50 ）

出席くんと当日指定の課題の両方とも正しく出されていることで、当日出席があったと認めている。出席くんを忘れた時は、池田は訂正しないので忘れることのないように。

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅰ〈＊k〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西村　徳寿	

テーマ

幅広く教育のあり方について考える。

授業の到達目標

教育の内容、方法などについて自分の問題意識を醸成し、それを深く追求する。それぞれの報告をもとに、質疑・応答・討議を重ねながら、深めていく。

授業の概要

基本文献を選び、それを巡って学生の発表をもとに話し合う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

文献をあらかじめ熟読する。学外授業等を行うことがある。 自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、論文や雑誌などを読む。

内　容

第1回　オリエンテーション、自己紹介、役割分担の決定、問題意識の交流、研究グループの編成
　　卒業論文と研究倫理について
　　研究テーマ、その目的と方法、役割分担などの研究計画の話し合い
第2回　図書館ガイダンス（文献検索、WEB検索の基礎の習得）
第3回　レジュメ、プレゼンテーション作成方法について
　　研究計画の発表に向けてのレジュメとプレゼンテーションの作成
第4回　各グループの研究計画発表会
第5回　先行研究の文献を読んで、レジュメを作成して発表する①
第6回　先行研究の文献を読んで、レジュメを作成して発表する②
第7回　先行研究の文献を読んで、レジュメを作成して発表する③
第8回　先行研究の文献を読んで、レジュメを作成して発表する④
第9回　先行研究の文献を読んで、レジュメを作成して発表する⑤
第10回　先行研究の文献を読んで、レジュメを作成して発表する⑥
第11回　研究の整理のための話し合いなど①
第12回　研究の整理のための話し合いなど②
第13回　研究発表に向けたレジュメの作成と修正
第14回　研究発表に向けたプレゼンテーションの作成と修正
第15回　各グループの研究発表会

履修上の注意点

＊ゼミは大学の基礎単位であり、特別な事情のない限り出席すること。＊遅刻や欠席する場合は必ず担当者に連絡をすること。連絡が無い場合は欠席とみなします。

教科書

授業中に指示する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に紹介する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 40 ）

「参加度」とは、授業への参加態度や積極性などを総合的に判断したもの。

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅰ〈＊Ⅰ〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池上　貴美子	

テーマ

乳幼児期の保育に関わる研究

授業の到達目標

1）授業や実習、ボランテイア活動を通して抱いた興味・関心を具体化して、研究テーマを設定する。
2）文献を検索し、文献を読み込む力をつける。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

自ら進んで、関心を持つ分野の書籍や新聞・雑誌の記事を読む。

内　　容

第1回　オリエンテーション：自己紹介、ゼミ選択理由の報告、ゼミ運営についての説明
　　卒業論文と研究倫理について
第2回　保育現場における子どもと保育者のかかわり1
第3回　保育現場における子どもと保育者のかかわり2
第4回　基本文献の輪読と発表1
第5回　基本文献の輪読と発表2
第6回　基本文献の輪読と発表3
第7回　基本文献の輪読と発表4
第8回　基本文献の輪読と発表5
第9回　基本文献の輪読と発表6
第10回　基本文献の輪読と発表7
第11回　研究テーマ設定に向けての計画
第12回　関心を持つ分野および文献についての報告1
第13回　関心を持つ分野および文献についての報告2
第14回　関心を持つ分野および文献についての報告3
第15回　まとめ：夏季休暇中の課題と実習に向けての抱負

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅱ <＊a>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　芦名　猛夫	

テーマ

小学校の学級経営および教科教育にかんする研究。

授業の到達目標

1)文献講読や発表を通して、文献を理解し、読み解く力の向上を図る。2)学術論文を読み解き、まとめることにより、研究目的や研究方法の提示、結果と考察との関連など、論文構成法を学ぶ。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各自のテーマに関連する書籍、論文、雑誌記事などを検索し、読んでおく。

内　　容

第1回　オリエンテーション：夏休みの課題についての報告、後期のゼミ運営についての説明
第2回　研究テーマの絞り込み、研究デザインについての助言
第3回　論文を読み解き、まとめる作業①
第4回　論文を読み解き、まとめる作業②
第5回　実習における学びの報告①
第6回　実習における学びの報告②
第7回　実習における学びの報告③
第8回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論①
第9回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論②
第10回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論③
第11回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論④
第12回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑤
第13回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑥
第14回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑦
第15回　まとめ：1年間の学習の総括と4年生に向けての抱負

履修上の注意点

学外での授業（フィールドワーク）もありうることも想定しておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅱ <＊b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森　枝美	

テーマ

教育演習Ⅰをふまえて、卒業論文のテーマを絞り込む。

授業の到達目標

①教育演習Ⅰをふまえ、卒業論文の執筆に向けてテーマを絞り込む。
②自らの研究テーマに関する論文、文献を収集し、読み進める。

授業の概要

卒業論文の執筆に向けて、テーマを絞り込む。絞り込んだテーマについて、資料を収集し、理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

関心があるテーマについて、資料を収集し、読み進めておく。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　実習のふりかえり①
第3回　実習のふりかえり②
第4回　実習のふりかえり③
第5回　卒業論文のテーマを考える①
第6回　卒業論文のテーマを考える②
第7回　卒業論文のテーマに関わる論文・資料収集①
第8回　卒業論文のテーマに関わる論文・資料収集②
第9回　卒業論文のテーマに関わる論文・資料についてまとめ発表する①
第10回　卒業論文のテーマに関わる論文・資料についてまとめ発表する②
第11回　卒業論文のテーマに関わる論文・資料についてまとめ発表する③
第12回　卒業論文のテーマに関わる論文・資料についてまとめ発表する④
第13回　卒業論文のテーマに関わる論文・資料についてまとめ発表する⑤
第14回　卒業論文のテーマに関わる論文・資料についてまとめ発表する⑥
第15回　まとめ

※この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

全回出席を前提とする。
報告担当ではない回でも、報告者の発表に対して興味をもって耳を傾け、積極的に意見を述べてほしい。

教科書

参考書

必要に応じて指示する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30% ）	授業中発表等（ 50% ）
参加度（ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅱ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　大久保　恭子	

テーマ

人格の発達と表現の関係を研究する。

授業の到達目標

人格形成と結びついた表現の意味を探る視点を掴み、子どもの発達と表現との関わりを、さまざまな角度から深く追求する力を身につける。各自が問題意識による研究活動第二段階に入る。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

前期を通して明確になった問題意識に沿って積極的に文献を読破すること。同時に実践経験を通して思考することを学ぶこと。

内　　容

第1回　前期以降の研究成果の交流、各自の研究計画発表
第2回　学外活動：実践調査
第3回　個別発表と質疑・応答・討議①
第4回　個別発表と質疑・応答・討議②
第5回　個別発表と質疑・応答・討議③
第6回　個別発表と質疑・応答・討議④
第7回　個別発表と質疑・応答・討議⑤
第8回　個別発表と質疑・応答・討議⑥
第9回　個別発表と質疑・応答・討議⑦
第10回　個別発表と質疑・応答・討議⑧
第11回　個別発表と質疑・応答・討議⑨
第12回　個別発表と質疑・応答・討議⑩
第13回　個別発表と質疑・応答・討議⑪
第14回　個別発表と質疑・応答・討議⑫
第15回　まとめ

履修上の注意点

〇学外授業…美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加を適宜、行うことがある 〇自分の研究テーマを見つけ出すために、本学及び他大学図書館等を利用して、論文（実績のある大学のそれらに関わる論文集）や実践報告を読む。

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅱ <＊d>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐野 仁美	

テーマ

子どもと音楽の関わりについて考察を深める。

授業の到達目標

1)文献を理解し、読み解く力をつける。2)研究目的や研究方法の提示、結果と考察との関連など、論文構成法を理解する。

授業の概要

1)実習やボランティアにおける事例について報告し、そこから得られた知見をもとに子どもを取り巻く問題について話し合う。2)各自の研究テーマに関連する文献について発表し、問題点を討論する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：各自のテーマに関連する書籍、論文、雑誌記事などを検索し、読んでおく。復習：討論で得られた意見をもとに自らの考察を加え、最終レポート作成へ向けて、文献をまとめ直す。

内　　容

第1回　オリエンテーション：夏休みの課題についての報告、後期のゼミ運営についての説明
第2回　研究テーマの絞り込み、助言
第3回　論文を読み解き、まとめる作業①
第4回　論文を読み解き、まとめる作業②
第5回　実習における学びの報告①
第6回　実習における学びの報告②
第7回　実習における学びの報告③
第8回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論①
第9回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論②
第10回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論③
第11回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論④
第12回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑤
第13回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑥
第14回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑦
第15回　まとめ：1年間の学習の総括と4年生に向けての抱負

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。自主的な学習態度を重視する。なお、この授業では必要に応じて学外授業を実施する。

教科書

授業時に指示する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

必要に応じて紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート （ 50% ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅱ〈＊e〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　三上　周治	

テーマ

小学校の学級経営および教科教育にかんする研究。

授業の到達目標

1)文献講読や発表を通して、文献を理解し、読み解く力の向上を図る。
2)学術論文を読み解き、まとめることにより、研究目的や研究方法の提示、結果と考察との関連など、論文構成法を学ぶ。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各自のテーマに関連する書籍、論文、雑誌記事などを検索し、読んでおく。

内　　容

第1回　オリエンテーション：夏休みの課題についての報告、後期のゼミ運営についての説明
第2回　研究テーマの絞り込み、研究デザインについての助言
第3回　論文を読み解き、まとめる作業①
第4回　論文を読み解き、まとめる作業②
第5回　実習における学びの報告①
第6回　実習における学びの報告②
第7回　実習における学びの報告③
第8回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論①
第9回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論②
第10回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論③
第11回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論④
第12回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑤
第13回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑥
第14回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑦
第15回　まとめ：1年間の学習の総括と4年生に向けての抱負

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（30）	授業中発表等（50）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅱ <＊f>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　長橋　聡	

テーマ

卒業論文のテーマの深化

授業の到達目標

・卒業論文の問題意識について、焦点を絞り内容を深めること。
・他のメンバーの問題意識や見解を聞き、議論することで、それが自身の研究にも生かせるよう相互交流を図ること。

授業の概要

教育演習Ⅰでの発表や議論、夏季休業中の作業を踏まえて、自身の問題意識や課題等について発表する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各自のテーマに関連する単行本、論文の学習をしつつ、卒業論文の構想を考えてほしい。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文の問題意識の発表と議論①
第3回　卒業論文の問題意識の発表と議論②
第4回　卒業論文の問題意識の発表と議論③
第5回　卒業論文の問題意識の発表と議論④
第6回　卒業論文の問題意識の発表と議論⑤
第7回　進捗状況に応じた、全体的なレクチャー、アドバイス①
第8回　卒業論文の問題意識の発表と議論⑥
第9回　卒業論文の問題意識の発表と議論⑦
第10回　卒業論文の問題意識の発表と議論⑧
第11回　卒業論文の問題意識の発表と議論⑨
第12回　卒業論文の問題意識の発表と議論⑩
第13回　進捗状況に応じた、全体的なレクチャー、アドバイス②
第14回　卒業論文の問題意識の発表と議論⑪
第15回　卒業論文の問題意識の発表と議論⑫

履修上の注意点

自身の課題に取り組むことはもちろん、他の人の研究についても、疑問やアイディア等を積極的に発言してくれることを期待する。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅱ〈＊g〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　南　憲治	

テーマ

子どもの発達や発達障害について学ぶ。

授業の到達目標

①子どもの発達や発達障害についての理解を深める。
②資料や文献を読み、その内容を発表する力を養う。
③発表を聞き、討論する力を養う。

授業の概要

教育演習Ⅰの成果の上に、関心のあるテーマをさらに絞り込み、絞り込んだテーマに関する資料や文献をさがし、その内容について発表する。そして集団で討議し理解を深め、卒業論文につなげる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

十分に準備して発表に臨んで下さい。

内　　容

第1回　オリエンテーション（授業のねらいと進め方）
第2回　テーマを絞る
第3回　絞り込んだテーマに関する資料や文献をさがす①
第4回　絞り込んだテーマに関する資料や文献をさがす②
第5回　資料や文献を読み、発表に備える①
第6回　資料や文献を読み、発表に備える②
第7回　資料や文献を読み、発表に備える③
第8回　発表と討論
第9回　発表と討論
第10回　発表と討論
第11回　発表と討論
第12回　発表と討論
第13回　発表と討論
第14回　発表と討論
第15回　全体のまとめと課題

履修上の注意点

主体的に授業に参加して下さい。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜、指示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 50% ）
参加度（ 50% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅱ <＊h>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　青木　美智子	

テーマ

卒業論文の序論の完成と本論執筆の開始

授業の到達目標

1. 先行研究から異なる二つの要素を取り出し、対比的に配置する。2. 1. に不足している観点や情報がないか、あるいはより増強すべき点はないかを考える。3. 研究発表を行い、相互に意見交換をする。

授業の概要

前半は先行研究を精読することから、自らの課題を明確にすることを目指す。中間発表を挟んで論文の見直しと論点の整理を行い、後半は先輩の卒業論文から学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各回の課題に丁寧に取り組むこと。また、提出の期限を守ること。

内　容

第1回　導入
第2回　先行研究の批判的検討 1
第3回　先行研究の批判的検討 2
第4回　先行研究の批判的検討 3
第5回　先行研究の批判的検討 4
第6回　先行研究の批判的検討 5
第7回　中間発表 1
第8回　中間発表 2
第9回　序論の執筆 1
第10回 序論の執筆 2
第11回 序論の執筆 3
第12回 先輩の卒業論文を読む 1
第13回 先輩の卒業論文を読む 2
第14回 研究発表 1
第15回 研究発表 2

履修上の注意点

・遅刻欠席の場合は事前に連絡をすること。
・幼児コースの実習スケジュールを鑑み、一部日程を変更し、集中講義にまとめてゼミを行う予定である。開講日程については授業のはじめに話し合うため、必ず出席のこと。
・第14回、15回は4回生の卒業論文検討会であるため、必ず出席すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40% ）	授業中発表等（ 60% ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅱ <＊i>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森本　美絵	

テーマ

卒論テーマを決める

授業の到達目標

①テーマ選択の動機、問題提起をすることができる。
②研究調査・訪問調査計画など、研究方法を決める。
③基本文献・資料を集めることができる。

授業の概要

教育演習Iでの学びを踏まえて、個々に学生は関心を持ったテーマの基本的知識を得るために文献・資料等を探し、要約し発表していく。教員の助言や他学生の意見・質問を参考にして、卒論テーマを決める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

文献・資料等を探し、読み進め、要約等をしてくる（3時間）。レジュメを作成・配布し、全体に向けて発表し、質疑応答する。

内　容

第1回　各自の課題の検討
第2回　基本文献1の講読の報告－1
第3回　基本文献1の講読の報告－2
第4回　基本文献1の講読の報告－3
第5回　基本文献1の講読の報告－4
第6回　質疑・応答・討議
第7回　基本文献2の講読の報告－1
第8回　基本文献2の講読の報告－2
第9回　基本文献2の講読の報告－3
第10回　基本文献2の講読の報告－4
第11回　質疑・応答・討議
第12回　基本文献3の講読の報告－1
第13回　基本文献3の講読の報告－2
第14回　基本文献3の講読の報告－3
第15回　基本文献3の講読の報告－4

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 0 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅱ <＊j>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池田　修	

テーマ

国語科の授業づくりと学級づくりに関する理論と実践に学ぶ。卒業論文のテーマ決定。

授業の到達目標

各自が関心のあるテーマにそって、文献や実践記録を読みすすめる。その上で、テーマにそって調査・研究したことをまとめて報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、研究課題を深める。卒業論文のテーマを決める。

授業の概要

各自が関心のあるテーマにそって、文献や実践記録を読みすすめる。その上で、テーマにそって調査・研究したことをまとめて報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、研究課題を深める。卒業論文のテーマを決める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、国語科の授業づくりと学級づくりに関する論文や実践（『生活指導』『現代教育科学』『月刊国語教育』『教育』『生活教育』『授業づくりネットワーク』などの雑誌に掲載）を読む。教育研究会に積極的に参加する。

内　容

第1回　夏休みの研究成果の交流、個別発表の計画づくり。
第2回　個別発表と質疑・応答・討議①
第3回　個別発表と質疑・応答・討議②
第4回　個別発表と質疑・応答・討議③
第5回　個別発表と質疑・応答・討議④
第6回　個別発表と質疑・応答・討議⑤
第7回　個別発表と質疑・応答・討議⑥
第8回　個別発表と質疑・応答・討議⑦
第9回　個別発表と質疑・応答・討議⑧
第10回　個別発表と質疑・応答・討議⑨
第11回　個別発表と質疑・応答・討議⑩
第12回　個別発表と質疑・応答・討議⑪
第13回　個別発表と質疑・応答・討議⑫
第14回　個別発表と質疑・応答・討議⑬
第15回　個別発表と質疑・応答・討議⑭

※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。

教科書

授業中に指示

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に指示

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 25 ）　　授業中発表等 （ 25 ）

参加度 （ 50 ）

出席くんと当日指定の課題の両方とも正しく出されていることで、当日出席があったと認めている。出席くんを忘れた時は、池田は訂正しないので忘れることのないように。

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅱ <＊k>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西村　徳寿	

テーマ

幅広く教育のあり方について考える。

授業の到達目標

教育の内容、方法などについて自分の問題意識を醸成し、それを深く追求する。それぞれの報告をもとに、質疑・応答・討議を重ねながら、深めていく。

授業の概要

基本文献を選び、それを巡って学生の発表をもとに話し合う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

文献をあらかじめ熟読する。学外授業等を行うことがある 自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、論文や雑誌などを読む。

内　容

第1回　卒業研究に向けた準備①
　　研究テーマ、テーマ設定理由、参考文献、研究計画の発表
第2回　卒業研究に向けた準備②
　　研究テーマ、テーマ設定理由、参考文献、研究計画の発表
第3回　研究の進捗状況の報告と助言指導①
第4回　研究の進捗状況の報告と助言指導②
第5回　4回生の研究の中間発表会Ⅰへの参加
第6回　4回生の研究の中間発表会Ⅱへの参加
第7回　4回生の研究の中間発表会に参加しての交流
第8回　研究の進捗状況の報告と助言指導③
第9回　研究の進捗状況の報告と助言指導④
第10回　研究の進捗状況の報告と助言指導⑤
第11回　研究の進捗状況の発表（全体指導）
第12回　幼稚園実習、教育実習の交流会
第13回　4回生のゼミ内論文審査会Ⅰへの参加
第14回　4回生のゼミ内論文審査会Ⅱへの参加
第15回　4回生の論文発表会への参加

履修上の注意点

＊ゼミは大学の基礎単位であり、特別な事情のない限り出席すること。＊遅刻や欠席する場合は必ず担当者に連絡をすること。連絡が無い場合は欠席とみなします。

教科書

授業中に指示する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に紹介する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 20 ）

「参加度」とは、授業への参加態度や積極性などを総合的に判断したもの。

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅱ <＊I>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池上　貴美子	

テーマ

乳幼児期の保育に関わる研究

授業の到達目標

1　文献講読や発表を通して、文献を理解し、読み解く力の向上を図る。
2　学術論文を読み解き、まとめることにより、研究目的や研究方法の提示、結果と考察との関連など、論文構成法を学ぶ。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各自のテーマに関連する書籍、論文、雑誌記事などを検索して読んでおく。

内　　容

第1回　オリエンテーション：夏休みの課題についての報告、後期のゼミ運営についての説明
第2回　研究テーマの絞り込み、研究デザインについての助言
第3回　論文を読み解き、まとめる作業1
第4回　論文を読み解き、まとめる作業2
第5回　実習における学びの報告1
第6回　実習における学びの報告2
第7回　実習における学びの報告3
第8回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論1
第9回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論2
第10回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論3
第11回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論4
第12回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論5
第13回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論6
第14回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論7
第15回　まとめ：1年間の学びの総括と4年生に向けての抱負

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**人間発達学入門**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　池田　修.青木　美智子.アンガス, ノーマン.弥永　啓子.大久保　恭子.蒲　豊彦.北林　利治.倉持　祐二.佐野　仁美.長橋　聡.三上　周治.南　憲治.森本　美絵	

テーマ

「人間発達」について考察するために「言語と人間」を多角的に考察する。

授業の到達目標

・言葉の面白さに気がつく
・言葉の機能について理解を深める
・「人間発達」にとっての言葉の意味を確認する

授業の概要

言語と人間について何らかの形で研究している人間発達学部両学科の教員の、リレー講義として運営する。通常火曜日に行われるが、第14回は変更の可能性もあるので近づいたら確認のこと。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各回のテーマを見て、そのテーマから思いつく疑問を一つメモして授業に臨む。

内　容

第1回　オリエンテーション ／ 日本語の魅力 1
第2回　日本語の魅力 2
第3回　幼児とことば
第4回　外言と内言
第5回　科学とことば
第6回　脳と言語
第7回　音楽とことば
第8回　美術とことば
第9回　ケアとことば
第10回　死滅する言語
第11回　多言語主義
第12回　英語公用化論
第13回　第二言語習得
第14回　子どもの社会認識とことば
第15回　まとめ　課題の回収

履修上の注意点

出席くんでの確認を出席確認の基本とする。授業中に個別に指示がある場合は、それに従う。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 50 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）

評価は、出席およびレポートとする。レポートは第1回から第14回の講義のうちから一つを選択して執筆する。レポートの評価者は講義を行った各教員が行うものとする。なお、レポート未提出者は評価の対象にならない。

2018 Syllabus

科 目 名　**生徒・進路指導（初）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　春期集中	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　芦名　猛夫	

テーマ

進路・生徒指導の理論と実践

授業の到達目標

学校現場における進路・生徒指導の理論と実践を具体的な事例を通して学ぶことを目的とする。

授業の概要

講義とグループ討議・交流を原則とする。1回～3回までは進路・生徒指導の理論・歴史講義。具体的事例からは「課題・問題」についてグループ討論、発表交流・まとめをする。（授業はじめに前時まとめと教育関係ニュース紹介）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

①現代の日本社会の（大人社会）「いじめ」ともいえる差別と排除の構造の具体的な事例を一つ以上調べておく②いじめについて自分の体験（目撃も含む）を文章化できるようにしておく

内　容

第1回　こどもの現状・課題と進路・生徒指導　授業計画と授業の進め方
第2回　進路指導の理論とその歴史・課題
第3回　生徒指導の理論とその歴史・課題
第4回　集団に入れない子ども・登校しぶりの対応どうするか
第5回　不登校の子どもの理解とその指導
第6回　幼い子どもの「いじめ」その理解と対応
第7回　「いじめ」問題子どもの心・本音と指導
第8回　子どもの「けんか」「暴力」とその指導
第9回　子どもの「問題行動」「万引き」の指導と対応
第10回　「問題行動」「非行」問題とその指導
第11回　子どもの「荒れ」「学級崩壊」とその対応
第12回　学級の規律・問題と集団作り
第13回　課題を持つこどもと学級行事・取り組み
第14回　子どもの問題と進路指導の課題
第15回　「進路・生徒指導」まとめと試験・評価について

履修上の注意点

不登校・いじめ・非行等生徒指導関係の教育関係の本をたくさん読む

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ ）
レポート提出、パワーポイント発表を重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習指導（幼稚園）〈e〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　中﨑 あつ子	

テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　教育実習事前指導①
1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
4. 幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）

第2回　教育実習事前指導②
5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
7. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
8. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第3回　教育実習事前指導③
9. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
10. 部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
11. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
12. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第4回　教育実習事前指導④
13. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
14. 部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
15. 部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）

第5回　教育実習事前指導⑤
16. 責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
17. 責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
18. 責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける）

第6回　教育実習事後指導①
◎教育実習のふりかえり

第7回　教育実習事後指導②
◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：実習終了者の発表

第8回　教育実習事後指導②
◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：質疑応答

履修上の注意点

1. 様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。
2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

未定

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

授業内で適宜伝える

著者：

出版社：

a30103d285

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習指導（小学校）〈Zk〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　倉持　祐二	

テーマ

実りのある教育実習を行うために

授業の到達目標

小学校実習の事前・本実習・事後の過程をイメージしながら、小学校教育の役割や実際の教育課程の理解、指導者としての心構えや意欲を高める。そのうえで、現場での実習を行い、教師への志を確かなものにする。

授業の概要

事前指導においては教職課程に関わる総論的なガイダンスを行う。教育実習の終了後に、実習簿・教育実習成績報告票・指導教諭総評をもとに、実習まとめレポートを作成する。さらに、次年度実習生の2回生との合同の教育実習反省会を実施し、実習生の教育実習報告及び質疑応答を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

公開授業や現場教師の研究会、子どもを対象とした催しやボランティアに参加することを勧める。

内　容

第1回　教育実習で学ぶこと（実習校訪問の報告、教育実習の意義と心構え、教育実習Q＆A）
第2回　学校の役割（実習校の教育方針、年間行事、教育課程の特長、人権教育）
第3回　教師の仕事（教育職員免許法、教員の適性と資質、教育に関する法律）
第4回　現代子ども理解の基礎・基本（人間関係づくり、特別な教育を必要とする子どもの理解）
第5回　授業実習の基礎・基本（授業とは何か、指導法、授業観察のポイント）
第6回　教育実習の直前ガイダンス（実習校でのオリエンテーション、実習簿、実習訪問、実習校への書類などの説明）
第7回　教育実習の振り返り（自己評価、実習校からの評価、成果と課題をあげる）
第8回　教育実習反省会（次年度実習予定者を含む）

履修上の注意点

この授業の無断欠席は原則として認めない。やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ理由を記した欠席届を提出すること。届けがない場合は、教員免許状の取得を放棄したものとみなす。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50% ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習（幼稚園）<e>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中﨑　あつ子	

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　教育実習Ⅰにおいては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる）
子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
第2回　子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
第3回　幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
第4回　幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）
第5回　家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
第6回　家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
第7回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第8回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第9回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第10回　部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
第11回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第12回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第13回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第14回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
第15回　部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）
第16回　責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
第17回　責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
第18回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに　保育を見てもらい指導・助言を受ける）

履修上の注意点

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。
2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習 <Zk>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　倉持　祐二	

テーマ

実りのある教育実習

授業の到達目標

小学校現場での実習を通して、小学校教育についての正しい理解を深め、教師の役割や指導についての適切な認識と技術を身につけ、教師としての人間性を高めることをめざす。

授業の概要

教育実習生として期待することは3つある。
(1)実習校での学校づくりの内容を具体的に知り、そこにこめた願いをつかむこと。
(2)大学で学んでいることがらを、教育現場の具体的なとりくみを通して検討し、さらに深めること。
(3)教師として、社会人として自らを成長させていくうえでの課題をつかむこと。
実習中は、①毎日の教育の記録を書く、②学習指導案を作成し授業を行う、③児童の様子や自らのとりくみを振り返る、が重点課題となる。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

公開授業や現場教師の研究会、子どもを対象とした催しやボランティアに参加することを勧める。

内　　容

第1回　第1週
・学級担任の児童に対する願いをつかむ。
・児童の名前を覚え、一人ひとりの人格をつかむ努力をする。
・学校の一日のくらしの内容をつかむ。

第2回　第2週
・学習指導案の基本的な内容と様式を知る。
・教科教育と教科以外のとりくみのそれぞれの役割と具体的な内容をつかむ。
・児童相互の関係に目をむける。

第3回　第3週
・指導のねらいを明確にして、授業にとりくむ。
・児童の新しい面を見いだすように努める。
・児童会の組織や実際のとりくみについて知る。

第4回　第4週
・これまでに学んだことを生かして学習指導案を作成し、研究授業にとりくむ。
・実習のまとめをし、成果と課題を明らかにする。

履修上の注意点

この授業の無断欠席は原則として認めない。やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ理由を記した欠席届を提出すること。届けがない場合は、教員免許状の取得を放棄したものとみなす。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (50%)	小テスト ( )
授業中課題 (50%)	授業中発表等 ( )
参加度 ( )	

2018 Syllabus

科 目 名　**表現教育論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　大久保　恭子	

テーマ

芸術教育のありかたを分析して、子どもの発達との関わりを理解し教育現場における芸術教育のあるべき姿を考える。

授業の到達目標

1)芸術教育の分析を通してその問題点を理解する。2)芸術教育が教育現場においていかなる意味を持ちうるかを考察する。3)芸術教育と子どもの発達との関係を考える。4)殊に芸術鑑賞に焦点を絞って鑑賞の具体的な方法を考える。

授業の概要

芸術教育についての理論書を講読し分析する。講読は輪読の形式をとり他の学生の理解も知りつつ、自らの理解を確かなものにする。それを踏まえて芸術鑑賞の具体的な方法を呈示する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

1)展覧会･演奏会なども含めて芸術鑑賞の機会を意識して持つこと。2)受講後速やかに講義内容のノートを作成すること。

内　容

第1回　はじめに
第2回　芸術教育学に関するテキスト講読①
第3回　芸術教育学に関するテキスト講読②
第4回　芸術教育学に関するテキスト講読③
第5回　芸術教育学に関するテキスト講読④
第6回　芸術教育をめぐる討論①
第7回　芸術教育をめぐる討論②
第8回　芸術鑑賞企画①
第9回　芸術鑑賞企画②
第10回　芸術鑑賞企画③
第11回　鑑賞企画実践・発表①
第12回　鑑賞企画実践・発表②
第13回　鑑賞企画実践・発表③
第14回　鑑賞企画実践・発表④
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない(適宜配布)
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**総合学習論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　倉持　祐二	

テーマ

小学校における総合的な学習の意義とその指導法

授業の到達目標

小学校における総合的な学習の意義を理解し、戦後の優れた教育実践から、指導計画の作成や指導方法、評価の考え方を学ぶ。

授業の概要

総合的な学習の時間で扱う主要なテーマである国際理解、情報、環境、平和、人権、福祉・健康などの課題を考えるための基本的な視点を学ぶ。その中で、子どもが問いを持ち、主体的・対話的で深い学びを実現するために何が大切なのかを考えていく。そして、一人ひとりが自分のテーマを設定して総合的な学習の指導計画を構想し、授業案を作成して模擬授業を試みる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

総合的な学習の時間で扱う主要なテーマ（国際理解、情報、環境、平和、人権、福祉・健康など）を考えるための基本文献を読んでいく。

内　　容

第1回　総合的な学習の意義
第2回　戦後教育実践史の中の総合的な学習
第3回　環境を考える総合的な学習
第4回　情報に関する総合的な学習
第5回　国際理解を促す総合的な学習
第6回　福祉・健康を考える総合的な学習
第7回　ヒロシマ・ナガサキ・オキナワに学ぶ子どもたち
第8回　東日本大震災・福島原発事故と放射線教育
第9回　「育てる」「食べる」をテーマにした学習の教材研究の方法
第10回　「つくる」をテーマにした学習の教材研究の方法
第11回　総合的な学習の指導方法と評価の考え方
第12回　テーマにそった総合的な学習の指導案を作成する
第13回　国際理解、平和のテーマにそった総合的な学習の模擬授業を試みる
第14回　情報、福祉・健康のテーマにそった総合的な学習の模擬授業を試みる
第15回　人権、平和のテーマにそった総合的な学習の模擬授業を試みる

履修上の注意点

2／3以上の授業参加を前提とする。遅刻・欠席をしないように。

教科書

小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編
著者:　文部科学省
出版社:　東洋館出版
出版年:　2008年　　ISBN:

参考書

未来をひらく総合学習
著者:　梅原利夫・西本勝美編著
出版社:　ふきのとう書房
出版年:　2000年　　ISBN:

共同でつくる総合学習の【実践】
著者:　久田敏彦編
出版社:　フォーラムA
出版年:　1999年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 40% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30% ）	授業中発表等（ 30% ）

a30103d810

参加度 （ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**家庭支援論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　檜垣　博子	

テーマ

保育士と保育所の特性を生かした家庭支援を考える。

授業の到達目標

1.家庭の意義とその機能について理解する。
2.子育て家庭を取り巻く社会的状況について理解する。
3.子育て家庭の支援体制について理解する。
4.子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。

授業の概要

家庭支援で扱う領域は、意義や原理、対象理解、法制度から実践方法まで幅広いが、適宜学生たちの意見発表を取り入れながら、講義形式で進めていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

家庭支援論を理解するための入門的な講義であるが、より内容を深く理解したかったり、興味がわいてきた場合には自ら調べてほしい。きっとまた、新しい発見や多様な考え方に出会い、学びを深めていくことができると思います。

内　　容

第1回　地域社会の変容と子育て支援
第2回　家族と家庭
第3回　現代における夫婦、親子関係の理解と支援
第4回　現代における親の理解と支援
第5回　現代における子育て家庭の就労の理解と支援
第6回　子育て支援施策とサービス
第7回　子育て家庭支援の原理と支援方法
第8回　保育所入所児童等の子育て家庭への支援
第9回　地域の子育て家庭への支援①
第10回　地域の子育て家庭への支援②
第11回　保護を要する子ども、家庭への支援①
第12回　保護を要する子ども、家庭への支援②
第13回　障がいのある子どもをもつ家庭および社会への支援①
第14回　障がいのある子どもをもつ家庭および社会への支援②
第15回　これからの子育て家庭への支援の課題と展望

履修上の注意点

教科書

保育と家庭支援
著者:　上田衛
出版社:　みらい
出版年:　2016　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 80 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－2 〈a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一柳 敦子	

テーマ

施設実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを身に付ける。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を身に付ける。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える。

授業の概要

初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習等を通じて学習し、様々な福祉施設への関心や将来の保育士の職務の専門性に対する認識を広げる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・社会的養護や児童家庭福祉等に関する科目や児童福祉法等の関係法規の復習 ・施設等におけるボランティア活動や自分の実習予定施設の情報収集 ・規則正しい生活習慣の確立 ・生活支援に備えた自己の生活管理

内　容

第1回　施設における実習の意義と目的の理解…視聴覚教材や配布資料を通してレポート作成

第2回　帳票類と保菌検査等の説明
第3回　施設の機能と役割の理解①‥養護原理や養護内容、児童福祉法等の振り返りと整理
第4回　施設の機能と役割の理解②‥自分の実習予定施設の特徴や役割の調査　　オリエンテーションの心構え
第5回　生活支援の意味と内容の理解‥演習ならびに視聴覚教材によるディスカッション
第6回　実習目標と課題の設定…意見交換
第7回　実習簿の記入方法と記録の書き方…事例による演習
直前指導
第8回　実習の振り返りとまとめ‥ 自己評価・意見交換・レポート作成

履修上の注意点

授業期間と実習が重なる学生については補講を行う。やむを得ず欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 40% ）
参加度 （ 20% ）
参加度は、授業への参加態度、発表への積極性を鑑みて総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－2 <b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　太田　みつ枝	

テーマ

施設実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを身に付ける。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を身に付ける。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える。

授業の概要

初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習等を通じて学習し、様々な福祉施設への関心や将来の保育士の職務の専門性に対する認識を広げる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・社会的養護や児童家庭福祉等に関する科目や児童福祉法等の関係法規の復習 ・施設等におけるボランティア活動や自分の実習予定施設の情報収集 ・規則正しい生活習慣の確立 ・生活支援に備えた自己の生活管理

内　容

第1回　施設における実習の意義と目的の理解…視聴覚教材や配布資料を通してレポート作成

第2回　帳票類と保菌検査等の説明
第3回　施設の機能と役割の理解①‥養護原理や養護内容、児童福祉法等の振り返りと整理
第4回　施設の機能と役割の理解②‥自分の実習予定施設の特徴や役割の調査　　オリエンテーションの心構え
第5回　生活支援の意味と内容の理解‥演習ならびに視聴覚教材によるディスカッション
第6回　実習目標と課題の設定…意見交換
第7回　実習簿の記入方法と記録の書き方…事例による演習
直前指導
第8回　実習の振り返りとまとめ‥ 自己評価・意見交換・レポート作成

履修上の注意点

授業期間と実習が重なる学生については補講を行う。やむを得ず欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 40% ）
参加度（ 20% ）
参加度は、授業への参加態度、発表への積極性を鑑みて総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－2 <c>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中島　裕子	

テーマ

施設実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを身に付ける。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を身に付ける。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える。

授業の概要

初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習等を通じて学習し、様々な福祉施設への関心や将来の保育士の職務の専門性に対する認識を広げる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・社会的養護や児童家庭福祉等に関する科目や児童福祉法等の関係法規の復習 ・施設等におけるボランティア活動や自分の実習予定施設の情報収集 ・規則正しい生活習慣の確立 ・生活支援に備えた自己の生活管理

内　容

第1回　施設における実習の意義と目的の理解…視聴覚教材や配布資料を通してレポート作成

第2回　帳票類と保菌検査等の説明
第3回　施設の機能と役割の理解①‥養護原理や養護内容、児童福祉法等の振り返りと整理
第4回　施設の機能と役割の理解②‥自分の実習予定施設の特徴や役割の調査　　オリエンテーションの心構え
第5回　生活支援の意味と内容の理解‥演習ならびに視聴覚教材によるディスカッション
第6回　実習目標と課題の設定…意見交換
第7回　実習簿の記入方法と記録の書き方…事例による演習
直前指導
第8回　実習の振り返りとまとめ‥ 自己評価・意見交換・レポート作成

履修上の注意点

授業期間と実習が重なる学生については補講を行う。やむを得ず欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 40% ）
参加度（ 20% ）
参加度は、授業への参加態度、発表への積極性を鑑みて総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－2 <d>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉江　由紀子	

テーマ

施設実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを身に付ける。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を身に付ける。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える。

授業の概要

初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習等を通じて学習し、様々な福祉施設への関心や将来の保育士の職務の専門性に対する認識を広げる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・社会的養護や児童家庭福祉等に関する科目や児童福祉法等の関係法規の復習 ・施設等におけるボランティア活動や自分の実習予定施設の情報収集 ・規則正しい生活習慣の確立 ・生活支援に備えた自己の生活管理

内　容

第1回　施設における実習の意義と目的の理解…視聴覚教材や配布資料を通してレポート作成

第2回　帳票類と保菌検査等の説明
第3回　施設の機能と役割の理解①‥養護原理や養護内容、児童福祉法等の振り返りと整理
第4回　施設の機能と役割の理解②‥自分の実習予定施設の特徴や役割の調査　　オリエンテーションの心構え
第5回　生活支援の意味と内容の理解‥演習ならびに視聴覚教材によるディスカッション
第6回　実習目標と課題の設定…意見交換
第7回　実習簿の記入方法と記録の書き方…事例による演習
直前指導
第8回　実習の振り返りとまとめ‥ 自己評価・意見交換・レポート作成

履修上の注意点

授業期間と実習が重なる学生については補講を行う。やむを得ず欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 40% ）
参加度（ 20% ）
参加度は、授業への参加態度、発表への積極性を鑑みて総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－2 〈e〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中﨑　あつ子	

テーマ

施設実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを身に付ける。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を身に付ける。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える。

授業の概要

初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習等を通じて学習し、様々な福祉施設への関心や将来の保育士の職務の専門性に対する認識を広げる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・社会的養護や児童家庭福祉等に関する科目や児童福祉法等の関係法規の復習 ・施設等におけるボランティア活動や自分の実習予定施設の情報収集 ・規則正しい生活習慣の確立 ・生活支援に備えた自己の生活管理

内　容

第1回　施設における実習の意義と目的の理解…視聴覚教材や配布資料を通してレポート作成

第2回　帳票類と保菌検査等の説明
第3回　施設の機能と役割の理解①‥養護原理や養護内容、児童福祉法等の振り返りと整理
第4回　施設の機能と役割の理解②‥自分の実習予定施設の特徴や役割の調査　　オリエンテーションの心構え
第5回　生活支援の意味と内容の理解‥演習ならびに視聴覚教材によるディスカッション
第6回　実習目標と課題の設定…意見交換
第7回　実習簿の記入方法と記録の書き方…事例による演習
直前指導
第8回　実習の振り返りとまとめ‥ 自己評価・意見交換・レポート作成

履修上の注意点

授業期間と実習が重なる学生については補講を行う。やむを得ず欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 40% ）
参加度（ 20% ）
参加度は、授業への参加態度、発表への積極性を鑑みて総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－2 〈f〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山口　陽子	

テーマ

施設実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを身に付ける。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を身に付ける。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える。

授業の概要

初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習等を通じて学習し、様々な福祉施設への関心や将来の保育士の職務の専門性に対する認識を広げる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・社会的養護や児童家庭福祉等に関する科目や児童福祉法等の関係法規の復習 ・施設等におけるボランティア活動や自分の実習予定施設の情報収集 ・規則正しい生活習慣の確立 ・生活支援に備えた自己の生活管理

内　容

第1回　施設における実習の意義と目的の理解…視聴覚教材や配布資料を通してレポート作成

第2回　帳票類と保菌検査等の説明
第3回　施設の機能と役割の理解①‥養護原理や養護内容、児童福祉法等の振り返りと整理
第4回　施設の機能と役割の理解②‥自分の実習予定施設の特徴や役割の調査　　オリエンテーションの心構え
第5回　生活支援の意味と内容の理解‥演習ならびに視聴覚教材によるディスカッション
第6回　実習目標と課題の設定…意見交換
第7回　実習簿の記入方法と記録の書き方…事例による演習
直前指導
第8回　実習の振り返りとまとめ‥ 自己評価・意見交換・レポート作成

履修上の注意点

授業期間と実習が重なる学生については補講を行う。やむを得ず欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 40% ）
参加度（ 20% ）
参加度は、授業への参加態度、発表への積極性を鑑みて総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－2 〈g〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　須藤　智代子	

テーマ

施設実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを身に付ける。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を身に付ける。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える。

授業の概要

初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習等を通じて学習し、様々な福祉施設への関心や将来の保育士の職務の専門性に対する認識を広げる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・社会的養護や児童家庭福祉等に関する科目や児童福祉法等の関係法規の復習 ・施設等におけるボランティア活動や自分の実習予定施設の情報収集 ・規則正しい生活習慣の確立 ・生活支援に備えた自己の生活管理

内　容

第1回　施設における実習の意義と目的の理解…視聴覚教材や配布資料を通してレポート作成

第2回　帳票類と保菌検査等の説明
第3回　施設の機能と役割の理解①‥養護原理や養護内容、児童福祉法等の振り返りと整理
第4回　施設の機能と役割の理解②‥自分の実習予定施設の特徴や役割の調査　　オリエンテーションの心構え
第5回　生活支援の意味と内容の理解‥演習ならびに視聴覚教材によるディスカッション
第6回　実習目標と課題の設定…意見交換
第7回　実習簿の記入方法と記録の書き方…事例による演習
直前指導
第8回　実習の振り返りとまとめ‥ 自己評価・意見交換・レポート作成

履修上の注意点

授業期間と実習が重なる学生については補講を行う。やむを得ず欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 40% ）
参加度（ 20% ）
参加度は、授業への参加態度、発表への積極性を鑑みて総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－2 <h>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉田　裕子	

テーマ

施設実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを身に付ける。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を身に付ける。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える。

授業の概要

初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習等を通じて学習し、様々な福祉施設への関心や将来の保育士の職務の専門性に対する認識を広げる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・社会的養護や児童家庭福祉等に関する科目や児童福祉法等の関係法規の復習 ・施設等におけるボランティア活動や自分の実習予定施設の情報収集 ・規則正しい生活習慣の確立 ・生活支援に備えた自己の生活管理

内　容

第1回　施設における実習の意義と目的の理解…視聴覚教材や配布資料を通してレポート作成

第2回　帳票類と保菌検査等の説明
第3回　施設の機能と役割の理解①‥養護原理や養護内容、児童福祉法等の振り返りと整理
第4回　施設の機能と役割の理解②‥自分の実習予定施設の特徴や役割の調査　　オリエンテーションの心構え
第5回　生活支援の意味と内容の理解‥演習ならびに視聴覚教材によるディスカッション
第6回　実習目標と課題の設定…意見交換
第7回　実習簿の記入方法と記録の書き方…事例による演習
直前指導
第8回　実習の振り返りとまとめ‥ 自己評価・意見交換・レポート作成

履修上の注意点

授業期間と実習が重なる学生については補講を行う。やむを得ず欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（０）　　小テスト（０）
授業中課題（40%）　　授業中発表等（40%）
参加度（20%）
参加度は、授業への参加態度、発表への積極性を鑑みて総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－2 <i>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　白井　昌子	

テーマ

施設実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを身に付ける。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を身に付ける。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える。

授業の概要

初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習等を通じて学習し、様々な福祉施設への関心や将来の保育士の職務の専門性に対する認識を広げる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・社会的養護や児童家庭福祉等に関する科目や児童福祉法等の関係法規の復習 ・施設等におけるボランティア活動や自分の実習予定施設の情報収集 ・規則正しい生活習慣の確立 ・生活支援に備えた自己の生活管理

内　　容

第1回　施設における実習の意義と目的の理解…視聴覚教材や配布資料を通してレポート作成

第2回　帳票類と保菌検査等の説明
第3回　施設の機能と役割の理解①‥養護原理や養護内容、児童福祉法等の振り返りと整理
第4回　施設の機能と役割の理解②‥自分の実習予定施設の特徴や役割の調査　　オリエンテーションの心構え
第5回　生活支援の意味と内容の理解‥演習ならびに視聴覚教材によるディスカッション
第6回　実習目標と課題の設定…意見交換
第7回　実習簿の記入方法と記録の書き方…事例による演習
　　直前指導
第8回　実習の振り返りとまとめ‥ 自己評価・意見交換・レポート作成

履修上の注意点

授業期間と実習が重なる学生については補講を行う。やむを得ず欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 40% ）
参加度（ 20% ）
参加度は、授業への参加態度、発表への積極性を鑑みて総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－2 <j>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　辻　啓子	

テーマ

施設実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを身に付ける。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を身に付ける。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える。

授業の概要

初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習等を通じて学習し、様々な福祉施設への関心や将来の保育士の職務の専門性に対する認識を広げる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・社会的養護や児童家庭福祉等に関する科目や児童福祉法等の関係法規の復習 ・施設等におけるボランティア活動や自分の実習予定施設の情報収集 ・規則正しい生活習慣の確立 ・生活支援に備えた自己の生活管理

内　容

第1回　施設における実習の意義と目的の理解…視聴覚教材や配布資料を通してレポート作成

第2回　帳票類と保菌検査等の説明
第3回　施設の機能と役割の理解①‥養護原理や養護内容、児童福祉法等の振り返りと整理
第4回　施設の機能と役割の理解②‥自分の実習予定施設の特徴や役割の調査　　オリエンテーションの心構え
第5回　生活支援の意味と内容の理解‥演習ならびに視聴覚教材によるディスカッション
第6回　実習目標と課題の設定…意見交換
第7回　実習簿の記入方法と記録の書き方…事例による演習
　　直前指導
第8回　実習の振り返りとまとめ‥ 自己評価・意見交換・レポート作成

履修上の注意点

授業期間と実習が重なる学生については補講を行う。やむを得ず欠席する場合は事前に「欠席連絡票」を提出すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 40% ）
参加度（ 20% ）
参加度は、授業への参加態度、発表への積極性を鑑みて総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－2 <a>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一柳 敦子	

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

①10日間、実習目標達成に向けて頑張る。
②施設職員に養育等の疑問点を尋ねることができる。
③子ども達（利用者）に自分から話しかけることができる。
③家事（食事の準備、掃除など）が以前よりできるようになる。
④自分自身と親・家族の関係を振り返ることができる。
⑤元気に明るく、子ども・利用者、職員に挨拶等することができる。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内　容

第1回　① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。 施設実習期間　10日間（80時間）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （0）	小テスト （0）
授業中課題 （0）	授業中発表等 （0）
参加度 （0）	

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－2 <b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　太田　みつ枝	

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

①10日間、実習目標達成に向けて頑張る。
②施設職員に養育等の疑問点を尋ねることができる。
③子ども達（利用者）に自分から話しかけることができる。
③家事（食事の準備、掃除など）が以前よりできるようになる。
④自分自身と親・家族の関係を振り返ることができる。
⑤元気に明るく、子ども・利用者、職員に挨拶等することができる。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内　容

第1回　① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。 施設実習期間　10日間（80時間）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （0）	小テスト （0）
授業中課題 （0）	授業中発表等 （0）
参加度 （0）	

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－2 <c>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中島　裕子	

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

①10日間、実習目標達成に向けて頑張る。
②施設職員に養育等の疑問点を尋ねることができる。
③子ども達（利用者）に自分から話しかけることができる。
③家事（食事の準備、掃除など）が以前よりできるようになる。
④自分自身と親・家族の関係を振り返ることができる。
⑤元気に明るく、子ども・利用者、職員に挨拶等することができる。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内　容

第1回　① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。 施設実習期間　10日間（80時間）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （0）	小テスト （0）
授業中課題 （0）	授業中発表等 （0）
参加度 （0）	

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－2 <d>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉江　由紀子	

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

①10日間、実習目標達成に向けて頑張る。
②施設職員に養育等の疑問点を尋ねることができる。
③子ども達（利用者）に自分から話しかけることができる。
③家事（食事の準備、掃除など）が以前よりできるようになる。
④自分自身と親・家族の関係を振り返ることができる。
⑤元気に明るく、子ども・利用者、職員に挨拶等することができる。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内　容

第1回　① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。 施設実習期間　10日間（80時間）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （0）	小テスト （0）
授業中課題 （0）	授業中発表等 （0）
参加度 （0）	

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－2〈e〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中﨑 あつ子	

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

①10日間、実習目標達成に向けて頑張る。
②施設職員に養育等の疑問点を尋ねることができる。
③子ども達（利用者）に自分から話しかけることができる。
③家事（食事の準備、掃除など）が以前よりできるようになる。
④自分自身と親・家族の関係を振り返ることができる。
⑤元気に明るく、子ども・利用者、職員に挨拶等することができる。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内　容

第1回　① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。 施設実習期間　10日間（80時間）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（0）	小テスト（0）
授業中課題（0）	授業中発表等（0）
参加度（0）	

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－2 <f>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山口　陽子	

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

①10日間、実習目標達成に向けて頑張る。
②施設職員に養育等の疑問点を尋ねることができる。
③子ども達（利用者）に自分から話しかけることができる。
③家事（食事の準備、掃除など）が以前よりできるようになる。
④自分自身と親・家族の関係を振り返ることができる。
⑤元気に明るく、子ども・利用者、職員に挨拶等することができる。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内　　容

第1回　① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。 施設実習期間　10日間（80時間）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （０）	小テスト （０）
授業中課題 （０）	授業中発表等 （０）
参加度 （０）	

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－2〈g〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　須藤　智代子	

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

①10日間、実習目標達成に向けて頑張る。
②施設職員に養育等の疑問点を尋ねることができる。
③子ども達（利用者）に自分から話しかけることができる。
③家事（食事の準備、掃除など）が以前よりできるようになる。
④自分自身と親・家族の関係を振り返ることができる。
⑤元気に明るく、子ども・利用者、職員に挨拶等することができる。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内　容

第1回　① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。 施設実習期間　10日間（80時間）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（0）	小テスト（0）
授業中課題（0）	授業中発表等（0）
参加度（0）	

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－2 <h>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森本　美絵.吉田　裕子	

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

①10日間、実習目標達成に向けて頑張る。
②施設職員に養育等の疑問点を尋ねることができる。
③子ども達（利用者）に自分から話しかけることができる。
③家事（食事の準備、掃除など）が以前よりできるようになる。
④自分自身と親・家族の関係を振り返ることができる。
⑤元気に明るく、子ども・利用者、職員に挨拶等することができる。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内　容

第1回　① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。 施設実習期間　10日間（80時間）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （0）	小テスト （0）
授業中課題 （0）	授業中発表等 （0）
参加度 （0）	

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－2 <i>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　白井　昌子	

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

①10日間、実習目標達成に向けて頑張る。
②施設職員に養育等の疑問点を尋ねることができる。
③子ども達（利用者）に自分から話しかけることができる。
③家事（食事の準備、掃除など）が以前よりできるようになる。
④自分自身と親・家族の関係を振り返ることができる。
⑤元気に明るく、子ども・利用者、職員に挨拶等することができる。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内　容

第1回　① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。 施設実習期間　10日間（80時間）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （０）	小テスト （０）
授業中課題 （０）	授業中発表等 （０）
参加度 （０）	

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－2 <j>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　辻　啓子	

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

①10日間、実習目標達成に向けて頑張る。
②施設職員に養育等の疑問点を尋ねることができる。
③子ども達（利用者）に自分から話しかけることができる。
③家事（食事の準備、掃除など）が以前よりできるようになる。
④自分自身と親・家族の関係を振り返ることができる。
⑤元気に明るく、子ども・利用者、職員に挨拶等することができる。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内　容

第1回　① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。 施設実習期間　10日間（80時間）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （0）	小テスト （0）
授業中課題 （0）	授業中発表等 （0）
参加度 （0）	

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　　一柳　敦子	

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施　－実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧に－

授業の到達目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導・援助を行い、子どもの反応を知り、指導保育士からの指導・助言を受け、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の概要

この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。　2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

内　　容

第1回　（学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる）参加実習①（保育所の指導保育士の指導と助言を受け、その範囲で保育士をサポートし保育に参加する）
第2回　参加実習②（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第3回　参加実習③（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第4回　参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見（配属クラスの担任や主任、園長らから指導、助言を受ける）
第5回　部分指導実習①（朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導・援助を行う）
第6回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第7回　部分指導実習③（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第8回　部分指導実習④（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第9回　部分指導実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）
第10回　責任実習①（指導案を作成し、午前の指導を行う）
第11回　責任実習②（指導案を作成し、午後の指導を行う）
第12回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う）
第13回　責任実習④（指導案を作成し、全日保育を行う）
第14回　責任実習⑤（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう）
第15回　責任実習及び全実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）

履修上の注意点

健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。

教科書

平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本

著者:　内閣府、文部科学省、厚生労働省

出版社:　チャイルド本社

出版年:　2017　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 40 ）

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の事前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実に行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　太田　みつ枝	

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施　－実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧に－

授業の到達目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導・援助を行い、子どもの反応を知り、指導保育士からの指導・助言を受け、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の概要

この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。　2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

内　容

第1回　（学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる）参加実習①（保育所の指導保育士の指導と助言を受け、その範囲で保育士をサポートし保育に参加する）
第2回　参加実習②（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第3回　参加実習③（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第4回　参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見（配属クラスの担任や主任、園長らから指導、助言を受ける）
第5回　部分指導実習①（朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導・援助を行う）
第6回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第7回　部分指導実習③（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第8回　部分指導実習④（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第9回　部分指導実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）
第10回　責任実習①（指導案を作成し、午前の指導を行う）
第11回　責任実習②（指導案を作成し、午後の指導を行う）
第12回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う）
第13回　責任実習④（指導案を作成し、全日保育を行う）
第14回　責任実習⑤（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう）
第15回　責任実習及び全実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）

履修上の注意点

健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。

教科書

平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本

著者:　内閣府、文部科学省、厚生労働省

出版社:　チャイルド本社

出版年:　2017　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 40 ）

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の事前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実に行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅱ〈c〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　　中島　裕子	

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施　－実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧に－

授業の到達目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導・援助を行い、子どもの反応を知り、指導保育士からの指導・助言を受け、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の概要

この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。　2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

内　容

第1回　（学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる）参加実習①（保育所の指導保育士の指導と助言を受け、その範囲で保育士をサポートし保育に参加する）
第2回　参加実習②（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第3回　参加実習③（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第4回　参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見（配属クラスの担任や主任、園長らから指導、助言を受ける）
第5回　部分指導実習①（朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導・援助を行う）
第6回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第7回　部分指導実習③（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第8回　部分指導実習④（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第9回　部分指導実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）
第10回　責任実習①（指導案を作成し、午前の指導を行う）
第11回　責任実習②（指導案を作成し、午後の指導を行う）
第12回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う）
第13回　責任実習④（指導案を作成し、全日保育を行う）
第14回　責任実習⑤（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう）
第15回　責任実習及び全実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）

履修上の注意点

健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。

教科書

平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本

著者:　内閣府、文部科学省、厚生労働省

出版社:　チャイルド本社

出版年:　2017　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 40 ）

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の事前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実に行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅱ <d>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　　杉江　由紀子	

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施　－実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧に－

授業の到達目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導・援助を行い、子どもの反応を知り、指導保育士からの指導・助言を受け、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の概要

この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。　2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

内　　容

第1回　（学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる）参加実習①（保育所の指導保育士の指導と助言を受け、その範囲で保育士をサポートし保育に参加する）
第2回　参加実習②（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第3回　参加実習③（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第4回　参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見（配属クラスの担任や主任、園長らから指導、助言を受ける）
第5回　部分指導実習①（朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導・援助を行う）
第6回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第7回　部分指導実習③（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第8回　部分指導実習④（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第9回　部分指導実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）
第10回　責任実習①（指導案を作成し、午前の指導を行う）
第11回　責任実習②（指導案を作成し、午後の指導を行う）
第12回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う）
第13回　責任実習④（指導案を作成し、全日保育を行う）
第14回　責任実習⑤（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう）
第15回　責任実習及び全実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）

履修上の注意点

健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。

教科書

平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本

著者:　内閣府、文部科学省、厚生労働省

出版社:　チャイルド本社

出版年:　2017　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 40 ）

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の事前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実に行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅱ〈e〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　　中﨑　あつ子	

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施　－実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧に－

授業の到達目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導・援助を行い、子どもの反応を知り、指導保育士からの指導・助言を受け、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の概要

この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。　2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

内　　容

第1回　（学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる）参加実習①（保育所の指導保育士の指導と助言を受け、その範囲で保育士をサポートし保育に参加する）
第2回　参加実習②（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第3回　参加実習③（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第4回　参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見（配属クラスの担任や主任、園長らから指導、助言を受ける）
第5回　部分指導実習①（朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導・援助を行う）
第6回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第7回　部分指導実習③（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第8回　部分指導実習④（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第9回　部分指導実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）
第10回　責任実習①（指導案を作成し、午前の指導を行う）
第11回　責任実習②（指導案を作成し、午後の指導を行う）
第12回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う）
第13回　責任実習④（指導案を作成し、全日保育を行う）
第14回　責任実習⑤（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう）
第15回　責任実習及び全実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）

履修上の注意点

健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。

教科書

平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本

著者:　内閣府、文部科学省、厚生労働省

出版社:　チャイルド本社

出版年:　2017　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 40 ）

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の事前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実に行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅱ〈f〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　山口　陽子	

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施　－実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧に－

授業の到達目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導・援助を行い、子どもの反応を知り、指導保育士からの指導・助言を受け、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の概要

この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。　2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

内　容

第1回　（学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる）参加実習①（保育所の指導保育士の指導と助言を受け、その範囲で保育士をサポートし保育に参加する）
第2回　参加実習②（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第3回　参加実習③（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第4回　参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見（配属クラスの担任や主任、園長らから指導、助言を受ける）
第5回　部分指導実習①（朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導・援助を行う）
第6回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第7回　部分指導実習③（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第8回　部分指導実習④（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第9回　部分指導実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）
第10回　責任実習①（指導案を作成し、午前の指導を行う）
第11回　責任実習②（指導案を作成し、午後の指導を行う）
第12回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う）
第13回　責任実習④（指導案を作成し、全日保育を行う）
第14回　責任実習⑤（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう）
第15回　責任実習及び全実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）

履修上の注意点

健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。

教科書

平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本

著者:　内閣府、文部科学省、厚生労働省

出版社:　チャイルド本社

出版年:　2017　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 40 ）

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の事前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実に行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅱ〈g〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　須藤　智代子	

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施　－実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧に－

授業の到達目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導・援助を行い、子どもの反応を知り、指導保育士からの指導・助言を受け、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の概要

この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。　2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

内　容

第1回　（学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる）参加実習①（保育所の指導保育士の指導と助言を受け、その範囲で保育士をサポートし保育に参加する）
第2回　参加実習②（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第3回　参加実習③（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第4回　参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見（配属クラスの担任や主任、園長らから指導、助言を受ける）
第5回　部分指導実習①（朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導・援助を行う）
第6回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第7回　部分指導実習③（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第8回　部分指導実習④（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第9回　部分指導実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）
第10回　責任実習①（指導案を作成し、午前の指導を行う）
第11回　責任実習②（指導案を作成し、午後の指導を行う）
第12回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う）
第13回　責任実習④（指導案を作成し、全日保育を行う）
第14回　責任実習⑤（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう）
第15回　責任実習及び全実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）

履修上の注意点

健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。

教科書

平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本

著者:　内閣府、文部科学省、厚生労働省

出版社:　チャイルド本社

出版年:　2017　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 40 ）

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の事前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実に行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅱ <h>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　　口野　隆史.吉田　裕子	

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施　－実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧に－

授業の到達目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導・援助を行い、子どもの反応を知り、指導保育士からの指導・助言を受け、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の概要

この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

1. 様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。　2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

内　容

第1回　（学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる）参加実習①（保育所の指導保育士の指導と助言を受け、その範囲で保育士をサポートし保育に参加する）
第2回　参加実習②（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第3回　参加実習③（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第4回　参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見（配属クラスの担任や主任、園長らから指導、助言を受ける）
第5回　部分指導実習①（朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導・援助を行う）
第6回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第7回　部分指導実習③（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第8回　部分指導実習④（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第9回　部分指導実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）
第10回　責任実習①（指導案を作成し、午前の指導を行う）
第11回　責任実習②（指導案を作成し、午後の指導を行う）
第12回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う）
第13回　責任実習④（指導案を作成し、全日保育を行う）
第14回　責任実習⑤（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう）
第15回　責任実習及び全実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）

履修上の注意点

健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。

教科書

平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本

著者:　内閣府、文部科学省、厚生労働省

出版社:　チャイルド本社

出版年:　2017　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 40 ）

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の事前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実に行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅱ〈i〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　白井　昌子	

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施　－実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧に－

授業の到達目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導・援助を行い、子どもの反応を知り、指導保育士からの指導・助言を受け、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の概要

この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。　2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

内　容

第1回　（学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる）参加実習①（保育所の指導保育士の指導と助言を受け、その範囲で保育士をサポートし保育に参加する）
第2回　参加実習②（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第3回　参加実習③（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第4回　参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見（配属クラスの担任や主任、園長らから指導、助言を受ける）
第5回　部分指導実習①（朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導・援助を行う）
第6回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第7回　部分指導実習③（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第8回　部分指導実習④（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第9回　部分指導実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）
第10回　責任実習①（指導案を作成し、午前の指導を行う）
第11回　責任実習②（指導案を作成し、午後の指導を行う）
第12回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う）
第13回　責任実習④（指導案を作成し、全日保育を行う）
第14回　責任実習⑤（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう）
第15回　責任実習及び全実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）

履修上の注意点

健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。

教科書

平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本

著者:　内閣府、文部科学省、厚生労働省

出版社:　チャイルド本社

出版年:　2017　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 40 ）

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の事前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実に行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅱ〈j〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　辻　啓子	

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施　－実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧に－

授業の到達目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導・援助を行い、子どもの反応を知り、指導保育士からの指導・助言を受け、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の概要

この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。　2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

内　容

第1回　（学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる）参加実習①（保育所の指導保育士の指導と助言を受け、その範囲で保育士をサポートし保育に参加する）
第2回　参加実習②（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第3回　参加実習③（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第4回　参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見（配属クラスの担任や主任、園長らから指導、助言を受ける）
第5回　部分指導実習①（朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導・援助を行う）
第6回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第7回　部分指導実習③（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第8回　部分指導実習④（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第9回　部分指導実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）
第10回　責任実習①（指導案を作成し、午前の指導を行う）
第11回　責任実習②（指導案を作成し、午後の指導を行う）
第12回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う）
第13回　責任実習④（指導案を作成し、全日保育を行う）
第14回　責任実習⑤（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう）
第15回　責任実習及び全実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）

履修上の注意点

健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。

教科書

平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本

著者:　内閣府、文部科学省、厚生労働省

出版社:　チャイルド本社

出版年:　2017　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 40 ）

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の事前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実に行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅲ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　塩見　哲史	

テーマ

授業の意義・目的・内容を理解する。実習前後の学びを通し、専門機関や施設職員としての素養を学ぶ。さらに進路を決定していくための自己覚知をめざす。

授業の到達目標

1. 保育実習Ⅲの意義・目的・内容の理解ができる。2. 保育士・児童指導員の業務内容や職業倫理について理解を深める。3. 入所児童のおかれている家庭環境や地域の生活実態に触れ児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識・技術・判断力を実践から養う。4. 保育士・児童指導員を目指す者として自己の課題を明確にすることができる。5. 児童自立支援計画票の作成・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。

授業の概要

将来の児童福祉施設職員を志す者たちが集い、既に保育実習Ⅰ・Ⅱで学んだ経験を語り合う。児童福祉施設の保育士・児童指導員に求められる資質・能力・技術の獲得を目指し、討論形式で進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実習目標を明確にしておく

内　　容

第1回　受講の意思確認と保育実習Ⅰ・Ⅱを終えての内容と自己課題を振り返り、実習目標を設定する。
第2回　「児童福祉施設の職員とは？」をテーマに討論形式で展開する（debate/インタビューゲーム）
第3回　施設の実体験をもとに社会的養護及び児童家庭福祉のあり方について学ぶ
第4回　支援計画をたてるポイントを学ぶ
第5回　実習直前における諸注意と実習目標設定の最終確認を行う
第6回　実習の報告を基に振り返る①
第7回　実習の報告を基に振り返る②
第8回　実習評価表を基に自己評価及び自己課題の整理と保育実習Ⅲのまとめ

履修上の注意点

保育実習Ⅲを履修しようとする自己の姿勢について整理を行っておく。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）	小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 50% ）	授業中発表等 （ 20% ）

参加度 （ 30% ）

授業中の課題（レポート含む）及び実習施設からの「評価表」・「実習日誌」なども含め総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅲ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　森本　美絵	

テーマ

保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。

授業の到達目標

①10日間、実習目標達成に向けて頑張る。
②子ども(利用者)の抱える課題を理解した上で、声掛けなどすることができる。
③担当職員のみならず、他の専門職員等に対しても、養育等の疑問点を尋ねることができる。
④元気に明るく、子ども・利用者、職員、施設の立地する地域の住民に挨拶等することができる。

授業の概要

保育実習I-2の学びを踏まえて、施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。具体的には、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

内　容

第1回　① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。 実習期間10日間(80時間)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（０）	小テスト（０）
授業中課題（０）	授業中発表等（０）
参加度（０）	

施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2018 Syllabus

科 目 名　**学校・地域調査（海外）**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　倉持　祐二	

テーマ

タイの学校や少数民族の子どもたちの寮などの教育施設を訪問し、見聞を広める

授業の到達目標

タイの教育施設を見学する。タイの授業のようす、子どもたちのくらしぶり、教師の仕事について見聞を広め、日本の教育機関と対比しながら、それぞれの特徴、相違点や共通点について理解を深める。

授業の概要

今年度は、2018年2月上旬に、タイのチェンマイ周辺の幼稚園・小学校・中学校・高校、少数民族の村を訪問する。おおよそ10日間の間に学校を訪問し、授業を参観するとともに、先生や子どもたちとも交流する予定である。また、チェンマイ・ラチャパット大学人文社会科学部日本語学科の学生とも交流し、タイの教育事情について見聞を広める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

タイの政治・経済・文化・教育の状況をつかむために参考書を購読する。

内　　容

第1回　タイの教育・文化・言語などを調べ、調べたことを交流する
第2回　チェンマイ周辺の保育園・幼稚園の保育の様子を参観する
第3回　保育園・幼稚園の先生たちとの交流
第4回　保育園・幼稚園のフィールドワークの振り返り
第5回　チェンマイ周辺の幼稚園・小学校・中学校の授業を参観する
第6回　幼稚園・小学校・中学校の先生たちとの交流
第7回　幼稚園・小学校・中学校のフィールドワークの振り返り
第8回　調査報告集を作成する

履修上の注意点

受講（参加）にあたっては、①事前ガイダンスに出席すること、②出発前の課題にきちんと取り組むこと、③調査の目的を明確にすること、を求める。詳細なスケジュールは受講者に別に提示する。

教科書

参考書

物語タイの歴史―微笑みの国の真実
著者:　柿崎一郎
出版社:　中公新書
出版年:　2007年　　ISBN:

タイ　中進国の模索
著者:　末廣昭
出版社:　岩波新書
出版年:　2009年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 50% ）	授業中発表等 （ 50% ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**児童と発達教育**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　池田　修.青木　美智子.アンガス, ノーマン.弥永　啓子.大久保　恭子.蒲　豊彦.北林　利治.倉持　祐二.佐野　仁美.長橋　聡.三上　周治.南　憲治.森本　美絵	

テーマ

「人間発達」について考察するために「言語と人間」を多角的に考察する。

授業の到達目標

・言葉の面白さに気がつく
・言葉の機能について理解を深める
・「人間発達」にとっての言葉の意味を確認する

授業の概要

言語と人間について何らかの形で研究している人間発達学部両学科の教員の、リレー講義として運営する。通常火曜日に行われるが、第14回は変更の可能性もあるので近づいたら確認のこと。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各回のテーマを見て、そのテーマから思いつく疑問を一つメモして授業に臨む。

内　容

第1回　オリエンテーション ／ 日本語の魅力 1
第2回　日本語の魅力 2
第3回　幼児とことば
第4回　外言と内言
第5回　科学とことば
第6回　脳と言語
第7回　音楽とことば
第8回　美術とことば
第9回　ケアとことば
第10回　死滅する言語
第11回　多言語主義
第12回　英語公用化論
第13回　第二言語習得
第14回　子どもの社会認識とことば
第15回　まとめ　課題の回収

履修上の注意点

出席くんでの確認を出席確認の基本とする。授業中に個別に指示がある場合は、それに従う。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 50 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 50 ）

評価は、出席およびレポートとする。レポートは第1回から第14回の講義のうちから一つを選択して執筆する。レポートの評価者は講義を行った各教員が行うものとする。なお、レポート未提出者は評価の対象にならない。

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習指導 <a>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一柳　敦子	

テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　教育実習事前指導①
1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
4. 幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）

第2回　教育実習事前指導②
5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
7. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
8. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第3回　教育実習事前指導③
9. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
10. 部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
11. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
12. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第4回　教育実習事前指導④
13. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
14. 部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
15. 部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）

第5回　教育実習事前指導⑤
16. 責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
17. 責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
18. 責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける）

第6回　教育実習事後指導①
◎教育実習のふりかえり

第7回　教育実習事後指導②
◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：実習終了者の発表

第8回　教育実習事後指導②
◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：質疑応答

履修上の注意点

1. 様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。
2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

未定

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

授業内で適宜伝える

著者：

出版社：

a30103f410

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習指導 <b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　太田　みつ枝	

テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　教育実習事前指導①
1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
4. 幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）

第2回　教育実習事前指導②
5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
7. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
8. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第3回　教育実習事前指導③
9. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
10. 部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
11. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
12. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第4回　教育実習事前指導④
13. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
14. 部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
15. 部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）

第5回　教育実習事前指導⑤
16. 責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
17. 責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
18. 責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける）

第6回　教育実習事後指導①
◎教育実習のふりかえり

第7回　教育実習事後指導②
◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：実習終了者の発表

第8回　教育実習事後指導②
◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：質疑応答

履修上の注意点

1. 様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。
2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

未定

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

授業内で適宜伝える

著者：

出版社：

a30103f412

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習指導 <c>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中島　裕子	

テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　教育実習事前指導①
1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
4. 幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）

第2回　教育実習事前指導②
5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
7. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
8. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第3回　教育実習事前指導③
9. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
10. 部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
11. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
12. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第4回　教育実習事前指導④
13. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
14. 部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
15. 部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）

第5回　教育実習事前指導⑤
16. 責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
17. 責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
18. 責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける）

第6回　教育実習事後指導①
◎教育実習のふりかえり

第7回　教育実習事後指導②
◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：実習終了者の発表

第8回　教育実習事後指導②
◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：質疑応答

履修上の注意点

1. 様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。
2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

未定

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

授業内で適宜伝える

著者：

出版社：

a30103f413

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習指導 <d>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉江　由紀子	

テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　教育実習事前指導①
1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
4. 幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）

第2回　教育実習事前指導②
5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
7. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
8. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第3回　教育実習事前指導③
9. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
10. 部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
11. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
12. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第4回　教育実習事前指導④
13. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
14. 部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
15. 部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）

第5回　教育実習事前指導⑤
16. 責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
17. 責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
18. 責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける）

第6回　教育実習事後指導①
◎教育実習のふりかえり

第7回　教育実習事後指導②
◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：実習終了者の発表

第8回　教育実習事後指導②
◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：質疑応答

履修上の注意点

1. 様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。
2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

未定

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

授業内で適宜伝える

著者：

出版社：

a30103f414

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習指導 <e>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中﨑　あつ子	

テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　教育実習事前指導①
1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
4. 幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）

第2回　教育実習事前指導②
5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
7. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
8. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第3回　教育実習事前指導③
9. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
10. 部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
11. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
12. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第4回　教育実習事前指導④
13. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
14. 部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
15. 部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）

第5回　教育実習事前指導⑤
16. 責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
17. 責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
18. 責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける）

第6回　教育実習事後指導①
◎教育実習のふりかえり

第7回　教育実習事後指導②
◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：実習終了者の発表

第8回　教育実習事後指導②
◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：質疑応答

履修上の注意点

1. 様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。
2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

未定

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

授業内で適宜伝える

著者：

出版社：

a30103f415

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習指導 <f>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山口　陽子	

テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　教育実習事前指導①
1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
4. 幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）

第2回　教育実習事前指導②
5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
7. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
8. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第3回　教育実習事前指導③
9. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
10. 部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
11. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
12. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第4回　教育実習事前指導④
13. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
14. 部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
15. 部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）

第5回　教育実習事前指導⑤
16. 責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
17. 責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
18. 責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける）

第6回　教育実習事後指導①
◎教育実習のふりかえり

第7回　教育実習事後指導②
◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：実習終了者の発表

第8回　教育実習事後指導②
◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：質疑応答

履修上の注意点

1. 様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。
2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

未定

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

授業内で適宜伝える

著者：

出版社：

a30103f416

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習指導 <g>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　須藤　智代子	

テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　教育実習事前指導①
1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
4. 幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）

第2回　教育実習事前指導②
5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
7. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
8. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第3回　教育実習事前指導③
9. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
10. 部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
11. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
12. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第4回　教育実習事前指導④
13. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
14. 部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
15. 部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）

第5回　教育実習事前指導⑤
16. 責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
17. 責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
18. 責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける）

第6回　教育実習事後指導①
◎教育実習のふりかえり

第7回　教育実習事後指導②
◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：実習終了者の発表

第8回　教育実習事後指導②
◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：質疑応答

履修上の注意点

1. 様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。
2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

未定

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

授業内で適宜伝える

著者：

出版社：

a30103f417

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習指導 <h>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉田　裕子	

テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　教育実習事前指導①
1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
4. 幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）

第2回　教育実習事前指導②
5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
7. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
8. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第3回　教育実習事前指導③
9. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
10. 部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
11. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
12. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第4回　教育実習事前指導④
13. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
14. 部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
15. 部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）

第5回　教育実習事前指導⑤
16. 責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
17. 責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
18. 責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける）

第6回　教育実習事後指導①
◎教育実習のふりかえり

第7回　教育実習事後指導②
◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：実習終了者の発表

第8回　教育実習事後指導②
◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：質疑応答

履修上の注意点

1. 様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。
2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

未定

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

授業内で適宜伝える

著者：

出版社：

a30103f418

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習指導 <i>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　白井　昌子	

テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　教育実習事前指導①
1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
4. 幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）

第2回　教育実習事前指導②
5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
7. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
8. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第3回　教育実習事前指導③
9. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
10. 部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
11. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
12. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第4回　教育実習事前指導④
13. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
14. 部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
15. 部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）

第5回　教育実習事前指導⑤
16. 責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
17. 責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
18. 責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける）

第6回　教育実習事後指導①
◎教育実習のふりかえり

第7回　教育実習事後指導②
◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：実習終了者の発表

第8回　教育実習事後指導②
◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：質疑応答

履修上の注意点

1. 様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。
2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

未定

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

授業内で適宜伝える

著者：

出版社：

a30103f419

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習指導 <j>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　辻　啓子	

テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　教育実習事前指導①
1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
4. 幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）

第2回　教育実習事前指導②
5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
7. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
8. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第3回　教育実習事前指導③
9. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
10. 部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
11. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
12. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第4回　教育実習事前指導④
13. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
14. 部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
15. 部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）

第5回　教育実習事前指導⑤
16. 責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
17. 責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
18. 責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける）

第6回　教育実習事後指導①
◎教育実習のふりかえり

第7回　教育実習事後指導②
◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：実習終了者の発表

第8回　教育実習事後指導②
◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：質疑応答

履修上の注意点

1. 様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。
2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

未定

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

授業内で適宜伝える

著者：

出版社：

a30103f420

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習指導（小学校）<k>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　倉持　祐二	

テーマ

実りのある教育実習を行うために

授業の到達目標

小学校実習の事前・本実習・事後の過程をイメージしながら、小学校教育の役割や実際の教育課程の理解、指導者としての心構えや意欲を高める。そのうえで、現場での実習を行い、教師への志を確かなものにする。

授業の概要

事前指導においては教職課程に関わる総論的なガイダンスを行う。教育実習の終了後に、実習簿・教育実習成績報告票・指導教諭総評をもとに、実習まとめレポートを作成する。さらに、次年度実習生の2回生との合同の教育実習反省会を実施し、実習生の教育実習報告及び質疑応答を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

公開授業や現場教師の研究会、子どもを対象とした催しやボランティアに参加することを勧める。

内　　容

第1回　教育実習で学ぶこと（実習校訪問の報告、教育実習の意義と心構え、教育実習Q＆A）
第2回　学校の役割（実習校の教育方針、年間行事、教育課程の特長、人権教育）
第3回　教師の仕事（教育職員免許法、教員の適性と資質、教育に関する法律）
第4回　現代子ども理解の基礎・基本（人間関係づくり、特別な教育を必要とする子どもの理解）
第5回　授業実習の基礎・基本（授業とは何か、指導法、授業観察のポイント）
第6回　教育実習の直前ガイダンス（実習校でのオリエンテーション、実習簿、実習訪問、実習校への書類などの説明）
第7回　教育実習の振り返り（自己評価、実習校からの評価、成果と課題をあげる）
第8回　教育実習反省会（次年度実習予定者を含む）

履修上の注意点

この授業の無断欠席は原則として認めない。やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ理由を記した欠席届を提出すること。届けがない場合は、教員免許状の取得を放棄したものとみなす。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50% ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習 〈a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一柳　敦子	

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　教育実習Ⅰにおいては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる）
子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
第2回　子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
第3回　幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
第4回　幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）
第5回　家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
第6回　家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
第7回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第8回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第9回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第10回　部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
第11回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第12回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第13回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第14回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
第15回　部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）
第16回　責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
第17回　責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
第18回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに　保育を見てもらい指導・助言を受ける）

履修上の注意点

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。
2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習 <b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　太田　みつ枝	

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　教育実習Ⅰにおいては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる）
子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
第2回　子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
第3回　幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
第4回　幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）
第5回　家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
第6回　家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
第7回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第8回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第9回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第10回　部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
第11回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第12回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第13回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第14回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
第15回　部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）
第16回　責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
第17回　責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
第18回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに　保育を見てもらい指導・助言を受ける）

履修上の注意点

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。
2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習 <c>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中島　裕子	

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　教育実習Ⅰにおいては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる）
子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
第2回　子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
第3回　幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
第4回　幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）
第5回　家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
第6回　家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
第7回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第8回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第9回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第10回　部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
第11回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第12回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第13回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第14回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
第15回　部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）
第16回　責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
第17回　責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
第18回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに　保育を見てもらい指導・助言を受ける）

履修上の注意点

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。
2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習 <d>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉江　由紀子	

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第6回　家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
第7回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第8回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第9回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第10回　部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
第11回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第12回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第13回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第14回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
第15回　部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）
第16回　責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
第17回　責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
第18回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに　保育を見てもらい指導・助言を受ける）
第1回　教育実習Ⅰにおいては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる）
子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
第2回　子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
第3回　幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
第4回　幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）
第5回　家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携

履修上の注意点

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。
2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習 〈e〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中﨑　あつ子	

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　教育実習Ⅰにおいては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる）
子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
第2回　子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
第3回　幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
第4回　幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）
第5回　家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
第6回　家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
第7回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第8回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第9回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第10回　部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
第11回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第12回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第13回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第14回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
第15回　部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）
第16回　責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
第17回　責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
第18回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに　保育を見てもらい指導・助言を受ける）

履修上の注意点

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。
2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習 <f>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山口　陽子	

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　教育実習Ⅰにおいては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる）
子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
第2回　子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
第3回　幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
第4回　幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）
第5回　家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
第6回　家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
第7回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第8回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第9回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第10回　部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
第11回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第12回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第13回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第14回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
第15回　部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）
第16回　責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
第17回　責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
第18回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに　保育を見てもらい指導・助言を受ける）

履修上の注意点

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。
2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習 〈g〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　須藤　智代子	

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　教育実習Ⅰにおいては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる）
子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
第2回　子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
第3回　幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
第4回　幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）
第5回　家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
第6回　家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
第7回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第8回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第9回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第10回　部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
第11回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第12回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第13回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第14回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
第15回　部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）
第16回　責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
第17回　責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
第18回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに　保育を見てもらい指導・助言を受ける）

履修上の注意点

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。
2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習 <h>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐野　仁美.吉田　裕子	

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　教育実習Ｉにおいては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる）
子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
第2回　子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
第3回　幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
第4回　幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）
第5回　家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
第6回　家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
第7回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第8回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第9回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第10回　部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
第11回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第12回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第13回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第14回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
第15回　部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）
第16回　責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
第17回　責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
第18回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに　保育を見てもらい指導・助言を受ける）

履修上の注意点

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。
2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習 <i>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　白井　昌子	

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　教育実習Ⅰにおいては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる）
子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
第2回　子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
第3回　幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
第4回　幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）
第5回　家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
第6回　家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
第7回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第8回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第9回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第10回　部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
第11回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第12回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第13回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第14回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
第15回　部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）
第16回　責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
第17回　責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
第18回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに　保育を見てもらい指導・助言を受ける）

履修上の注意点

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。
2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習 <j>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　辻　啓子	

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　教育実習Ⅰにおいては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる）
子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
第2回　子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
第3回　幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
第4回　幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）
第5回　家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
第6回　家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
第7回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第8回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第9回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第10回　部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
第11回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第12回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第13回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第14回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
第15回　部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）
第16回　責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
第17回　責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
第18回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに　保育を見てもらい指導・助言を受ける）

履修上の注意点

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。
2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習 <k>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　倉持　祐二	

テーマ

実りのある教育実習

授業の到達目標

小学校現場での実習を通して、小学校教育についての正しい理解を深め、教師の役割や指導についての適切な認識と技術を身につけ、教師としての人間性を高めることをめざす。

授業の概要

教育実習生として期待することは3つある。
(1)実習校での学校づくりの内容を具体的に知り、そこにこめた願いをつかむこと。
(2)大学で学んでいることがらを、教育現場の具体的なとりくみを通して検討し、さらに深めること。
(3)教師として、社会人として自らを成長させていくうえでの課題をつかむこと。
実習中は、①毎日の教育の記録を書く、②学習指導案を作成し授業を行う、③児童の様子や自らのとりくみを振り返る、が重点課題となる。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

公開授業や現場教師の研究会、子どもを対象とした催しやボランティアに参加することを勧める。

内　　容

第1回　第1週
・学級担任の児童に対する願いをつかむ。
・児童の名前を覚え、一人ひとりの人格をつかむ努力をする。
・学校の一日のくらしの内容をつかむ。

第2回　第2週
・学習指導案の基本的な内容と様式を知る。
・教科教育と教科以外のとりくみのそれぞれの役割と具体的な内容をつかむ。
・児童相互の関係に目をむける。

第3回　第3週
・指導のねらいを明確にして、授業にとりくむ。
・児童の新しい面を見いだすように努める。
・児童会の組織や実際のとりくみについて知る。

第4回　第4週
・これまでに学んだことを生かして学習指導案を作成し、研究授業にとりくむ。
・実習のまとめをし、成果と課題を明らかにする。

履修上の注意点

この授業の無断欠席は原則として認めない。やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ理由を記した欠席届を提出すること。届けがない場合は、教員免許状の取得を放棄したものとみなす。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (50%)	小テスト ( )
授業中課題 (50%)	授業中発表等 ( )
参加度 ( )	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅲ <＊a>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　芦名　猛夫	

テーマ

研究課題を明確にして、卒業論文の作成計画と豊富な資料を収集する。

授業の到達目標

1、卒論の表題と研究課題との関連を明確にする。
2、研究課題の実証する手だてを明確にする。
3、実証のための実践を豊富にすすめる。
4、目次の作成をもとに論文の概略的な構造を作る。

授業の概要

・指導者との個別面談、グループ、集団論議をおおいにすすめる。
・執筆の進行に伴い、発表し相互批判を展開する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

自分の課題に関連する先行研究や文献を読み進めておくこと。

内　　容

第1回　前期での計画的なすすめかたを相互に確認する。
第2回　個別のテーマについて発表する①
第3回　個別のテーマについて発表する②
第4回　個別のテーマについて発表する③
第5回　先行研究や文献を発表する①
第6回　先行研究や文献を発表する②
第7回　先行研究や文献を発表する③
第8回　先行研究や文献を発表する④
第9回　目次の作成と構想を発表する①
第10回　目次の作成と構想を発表する②
第11回　まえがき及び課題設定の部分を書き出しながら実証を進める。
第12回　まえがき及び課題設定の部分を書き出しながら実証を進める。
第13回　まえがき及び課題設定の部分を書き出しながら実証を進める。
第14回　まえがき及び課題設定の部分を書き出しながら実証を進める。
第15回　前期のまとめと後期へのつながりを確認する。

履修上の注意点

学外での授業（フィールドワーク）もありうることも想定しておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）　　小テスト（　）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 30 ）
ゼミでの発表、発言や仲間とのやりとりを見て、受け身から積極的な働きかけに展開しているかを評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅲ <＊b>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森　枝美	

テーマ

卒業論文作成に向けてテーマを決定し、研究を深める。

授業の到達目標

各自、卒業論文のテーマを確定する。
必要な資料を収集する方法を習得し、収集した資料をまとめる。
まとめた資料に基づき、執筆の見通しを立てる。

授業の概要

卒業論文作成に向けて、各自の研究テーマに基づき、発表および討論を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：卒業論文のテーマにそって、文献や資料を収集する
復習：討論での意見をふまえ、さらに集めた資料や文献等を読み深め、テーマを絞りこむ

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　論文作成方法の説明
第3回　テーマの絞り方等について討論・講評を行い、卒業論文のテーマを確定する①
第4回　テーマの絞り方等について討論・講評を行い、卒業論文のテーマを確定する②
第5回　テーマの絞り方等について討論・講評を行い、卒業論文のテーマを確定する③
第6回　文献、資料等の検索・収集についての具体的な指導①
第7回　文献、資料等の検索・収集についての具体的な指導②
第8回　文献、資料等の検索・収集についての具体的な指導③
第9回　各自の研究テーマについて報告・討論①
第10回　各自の研究テーマについて報告・討論②
第11回　各自の研究テーマについて報告・討論③
第12回　各自の研究テーマについて報告・討論④
第13回　各自の研究テーマについて報告・討論⑤
第14回　執筆要項、留意事項についての指導
第15回　まとめ　教育演習Ⅳにむけての準備

履修上の注意点

全回出席を前提とする。
報告担当ではない回でも、報告者の発表に対して興味をもって耳を傾け、積極的に意見を述べてほしい。

教科書

参考書

必要に応じて紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（30）	授業中発表等（50）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅲ <＊c>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　大久保　恭子	

テーマ

ゼミ発表と討論を踏まえて卒業論文のテーマを明確にし、卒論執筆の基盤を形成する。

授業の到達目標

各自の卒業論文テーマと章立てを確定する。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

論文テーマに関する文献を読み、情報を整理しておくこと。

内　　容

第1回　卒業論文に関するガイダンス
第2回　学外活動：実践調査
第3回　卒業論文テーマにそった発表と討論①
第4回　卒業論文テーマにそった発表と討論②
第5回　卒業論文テーマにそった発表と討論③
第6回　卒業論文テーマにそった発表と討論④
第7回　卒業論文テーマにそった発表と討論⑤
第8回　卒業論文テーマにそった発表と討論⑥
第9回　卒業論文テーマにそった発表と討論⑦
第10回　卒業論文テーマにそった発表と討論⑧
第11回　卒業論文テーマにそった発表と討論⑨
第12回　卒業論文テーマにそった発表と討論⑩
第13回　卒業論文テーマにそった発表と討論⑪
第14回　卒業論文テーマにそった発表と討論⑫
第15回　まとめ

履修上の注意点

全回出席を前提とする。

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（60）
参加度（40）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅲ <＊d>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐野 仁美	

テーマ

卒業論文作成に向けて研究を深める。

授業の到達目標

1)文献・資料収集の方法を知る。2)各自が関心を持つテーマについて、主体的かつ論理的に論文を構想する。3)研究発表および討論を通して、プレゼンテーション力を身につける。

授業の概要

卒業論文作成に向けて、各自の研究テーマにもとづき、発表および討論を行う。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

予習:各自のテーマに沿って文献や資料を収集し、読み込む。復習:討論で得られた意見をもとに自分なりの考察を加え、最終レポートに向けて、文献及び資料をまとめていく。

内　容

第1回　オリエンテーション:春休みの課題の報告、ゼミ運営についての説明
第2回　論文作成方法の説明
第3回　研究計画の立案
第4回　先行文献の調査①
第5回　先行文献の調査②
第6回　途中経過発表および討論①
第7回　途中経過発表および討論②
第8回　途中経過発表および討論③
第9回　途中経過発表および討論④
第10回　途中経過発表および討論⑤
第11回　途中経過発表および討論⑥
第12回　途中経過発表および討論⑦
第13回　途中経過発表および討論⑧
第14回　途中経過発表および討論⑨
第15回　まとめ:夏季休暇中の課題

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。自主的な学習態度を重視する。

教科書

参考書

必要に応じて紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 50% ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 0 ）	授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅲ <＊e>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　三上　周治	

テーマ

卒業論文作成に向けて研究を深める。

授業の到達目標

1)各自が関心を持つテーマについて主体的に論文をまとめることにより、文献・資料収集の仕方を学び、論理的構成力および考察力を養う。2)研究発表および討論を通して、プレゼンテーション力を身につける。

授業の概要

卒業論文作成に向けて、各自の研究テーマにもとづき、発表および討論を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：各自のテーマに沿って文献や資料を収集し、読み込む。復習：討論で得られた意見をもとに自分なりの考察を加え、最終レポートに向けて、文献及び資料をまとめていく。

内　　容

第1回　オリエンテーション：春休みの課題の報告、ゼミ運営についての説明
第2回　論文作成方法の説明
第3回　研究目的と方法の明確化①
第4回　研究目的と方法の明確化②
第5回　研究目的と方法の明確化③
第6回　途中経過発表および討論①
第7回　途中経過発表および討論②
第8回　途中経過発表および討論③
第9回　途中経過発表および討論④
第10回　途中経過発表および討論⑤
第11回　途中経過発表および討論⑥
第12回　途中経過発表および討論⑦
第13回　途中経過発表および討論⑧
第14回　途中経過発表および討論⑨
第15回　まとめ：夏季休暇中の課題

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。主体的な学習態度を重視する。

教科書

参考書

必要に応じて紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅲ <＊f>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　長橋　聡	

テーマ

卒業論文のテーマと方針の検討

授業の到達目標

各自が卒業論文に当たって、自分の関心を深く探求して自分なりのテーマを発見し、テーマに沿った文献やデータの収集、記述の方針を決める

授業の概要

各時間数人程度、研究の進度、問題点などを報告し、教員及び学生で検討と議論を行っていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各自、報告が無い時でも仲間の研究に関心を持って議論に参加してもらいたい。また、日常的に自分の関心に沿った文献やニュースを収集したり、ちょっとしたアイディアなどを生かす工夫をしてほしい。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文のテーマ等の検討①
第3回　卒業論文のテーマ等の検討②
第4回　卒業論文のテーマ等の検討③
第5回　卒業論文のテーマ等の検討④
第6回　卒業論文のテーマ等の検討⑤
第7回　卒業論文のテーマ等の検討⑥
第8回　卒業論文のテーマ等の検討⑦
第9回　卒業論文のテーマ等の検討⑧
第10回　卒業論文のテーマ等の検討⑨
第11回　卒業論文のテーマ等の検討⑩
第12回　卒業論文のテーマ等の検討⑪
第13回　卒業論文のテーマ等の検討⑫
第14回　卒業論文のテーマ等の検討⑬
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅲ <＊g>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　南 憲治	

テーマ

卒業論文作成の準備

授業の到達目標

各自のテーマにそって文献や資料等を収集し、集めた文献や資料等を読み深めながらテーマを絞り込み、論文にまとめることをめざす。

授業の概要

卒業研究に向けての一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：卒論の研究テーマにそって、文献や資料等を収集する。復習：集めた文献や資料等を読み深め、テーマを絞り込んでいく。

内　　容

第1回　テーマの絞り方についての討論・講評を行い、最終テーマを選ぶ①
第2回　テーマの絞り方についての討論・講評を行い、最終テーマを選ぶ②
第3回　テーマの絞り方についての討論・講評を行い、最終テーマを選ぶ③
第4回　文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導①
第5回　文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導②
第6回　文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導③
第7回　各自の研究テーマについて発表する①
第8回　各自の研究テーマについて発表する②
第9回　各自の研究テーマについて発表する③
第10回　各自の研究テーマについて発表する④
第11回　各自の研究テーマについて発表する⑤
第12回　各自の研究テーマについて発表する⑥
第13回　執筆要領、留意事項などについて指導する①
第14回　執筆要領、留意事項などについて指導する②
第15回　まとめと教育演習Ⅳへ向けての準備

履修上の注意点

3分の2以上の出席を原則とする。遅刻や早退をしないように。

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

適宜、指示する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 50% ）
参加度（ 50% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅲ <＊h>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　青木　美智子	

テーマ

卒業論文の執筆

授業の到達目標

卒業論文の完成。

授業の概要

研究課題にふさわしい研究方法を精査し、調査分析を進める。二回から三回程度の研究発表会を行い、ゼミ内での意見交換をする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

課題を探求する。

内　　容

第1回　導入
第2回　研究方法について 1
第3回　研究方法について 2
第4回　調査分析
第5回　発表
第6回　卒業論文の執筆
第7回　卒業論文の執筆
第8回　卒業論文の執筆
第9回　卒業論文の執筆
第10回　発表準備
第11回　発表準備
第12回　発表準備
第13回　中間報告 1
第14回　中間報告 2
第15回　中間報告 3

履修上の注意点

就職活動との日程的な調整を各自が行うこと。積極的に取り組むこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 50% ）　　授業中発表等 （ 50% ）
参加度 （ ）
授業中発表・報告会への参加。

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅲ <＊i>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森本　美絵	

テーマ

卒論の作成に向けて全体構成を決める。

授業の到達目標

①章立てをすることができる。
②各章の概要を書くことができる。
③自分の仮説を整理することができる。
④調査対象施設･者に調査依頼をすることができる。

授業の概要

テーマに関連する文献･資料等を収集し読み深め、論文の章立てと各章の概要を書き上げる。発表と質疑応答等から課題を見つけ、次回までに調べて提出することを繰り返す。

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

収集した文献を読み深め要約する（3時間）。研究調査･訪問を予定する学生は、調査依頼ができるようにしておく。

内　　容

第1回　ガイダンス（進め方について）
第2回　春休みに集めた文献･資料等の報告①
第3回　春休みに集めた文献･資料等の報告②
第4回　春休みに集めた文献･資料等の報告③
第5回　章立てと各章の概要について報告と討論①
第6回　章立てと各章の概要について報告と討論②
第7回　章立てと各章の概要について報告と討論③
第8回　章立てと各章の概要について報告と討論④
第9回　章立てと各章の概要について報告と討論⑤
第10回　章立てと各章の概要について報告と討論⑥
第11回　章立てと各章の概要について報告と討論⑦
第12回　章立てと各章の概要について報告と討論⑧
第13回　章立てと各章の概要について報告と討論⑨
第14回　章立てと各章の概要について報告と討論⑩
第15回　前期のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験･レポート （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 40 ）	授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅲ <＊j>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池田　修	

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業研究にむけての一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導を通して卒業論文を書き進めることが出来る。

授業の概要

その日の担当を決めて、執筆中の卒業論文を発表し、ゼミ全体で議論をする。特に、目次案の検討が中心になる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

卒業研究のテーマに関して調査研究を進める。パラグラフライティングの書き方に関する本『論理が伝わる「書く技術」』（倉島保美）は必読。論文の書き方の本は、『論文の教室』（戸田山和久）、『論文・レポートの基本』（石黒圭）、『はじめての論文作成術』（宅間紘一）等の中から一冊は三回生の春休み中に読んでおくこと。レポートとして纏めて提出する指示が出る。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　論文の書き方。テーマの絞り方。討論・講評し、最終テーマを決定させる。文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導。
第3回　卒論進捗報告（序論）
第4回　卒論進捗報告（序論）
第5回　卒論進捗報告（序論）
第6回　卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）
第7回　卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）
第8回　卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）
第9回　卒論進捗報告（本論：調査内容）
第10回　卒論進捗報告（本論：調査内容）
第11回　卒論進捗報告（本論：調査内容）
第12回　卒論中間発表会　1
第13回　卒論中間発表会　2
第14回　卒論中間発表会　3
第15回　総括

履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。

教科書

未定
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度（ 50 ）
活発な議論を期待する。議論により、ゼミ生同士の研究に貢献できる姿を積極的に評価したい。

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅲ <＊k>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西村　徳寿	

テーマ

卒業論文の作成を通して、保育や教育に関する知識をより確かなものにする。

授業の到達目標

自らの問いに対する回答を根拠をもって述べることができるようになる。

授業の概要

先行研究にあたる論文や資料を集めて読み進めたり、フィールドワークや実地調査を行ったりすることにより、知見をまとめて文章化していく。論文としてまとめるための個別指導が中心となるが、ゼミ内での研究の交流も行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習としては、先行研究にあたり、それをまとめることであり、復習としては、担当者の指導を受け入れて、文章化していくことになる。

内　容

第1回　研究テーマや研究計画の発表（全体指導）
第2回　研究の進捗状況の報告と助言指導①
第3回　研究の進捗状況の報告と助言指導②
第4回　研究の進捗状況の報告と助言指導③
第5回　研究の進捗状況の発表Ⅰ（全体指導）
第6回　研究の進捗状況の報告と助言指導④
第7回　研究の進捗状況の報告と助言指導⑤
第8回　研究の進捗状況の報告と助言指導⑥
第9回　研究の進捗状況の発表Ⅱ（全体指導）
第10回　研究の進捗状況の報告と助言指導⑦
第11回　研究の進捗状況の報告と助言指導⑧
第12回　研究の進捗状況の報告と助言指導⑨
第13回　論文要旨の作成（個別指導）
第14回　論文構成の検討（個別指導）
第15回　論文書式、参考・引用文献を含めた論文の総合的検討（個別指導）

履修上の注意点

ゼミは大学の基礎単位であり、特別な事情のない限り出席すること。*遅刻や欠席する場合は必ず担当者に連絡をすること。
連絡が無い場合は欠席とみなします。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅳ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　芦名　猛夫	

テーマ

自己の問題意識を重要視しながら、試行錯誤を繰り返し、粘り強く慎重に執筆をすすめ、卒業論文を完成させる。

授業の到達目標

・完成した卒業論文をわかりやすく発表できる。
・さらなる課題を明確にし、今後の実践に活かす手だてを展望できる。

授業の概要

・個別の発表をもとに集団論議を進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

常に問題意識をもちながら、資料の収集し論文執筆に役立てること。

内　容

第1回　前期の取り組みの上に、後期の計画を提示する。
第2回　先行研究と切り結び、自己の課題の発表する①
第3回　先行研究と切り結び、自己の課題の発表する②
第4回　先行研究と切り結び、自己の課題の発表する③
第5回　先行研究と切り結び、自己の課題の発表する④
第6回　先行研究と切り結び、自己の課題の発表する⑤
第7回　執筆の途中経過と今後の展望を発表する①
第8回　執筆の途中経過と今後の展望を発表する②
第9回　執筆の途中経過と今後の展望を発表する③
第10回　執筆の途中経過と今後の展望を発表する④
第11回　執筆の途中経過と今後の展望を発表する⑤
第12回　卒業論文の執筆の完了と発表するの具体化を進める①
第13回　卒業論文の執筆の完了と発表するの具体化を進める②
第14回　卒業論文の執筆の完了と発表するの具体化を進める③
第15回　後期のまとめと前期からの取り組みをつなげて集団の論議をする。

履修上の注意点

学外での授業（フィールドワーク）もありうることも想定しておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（ 60 ）
参加度（ 40 ）	

発表をすすめることで、自己の課題をいかに明確にしたかを評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅳ <＊b>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森　枝美	

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

各自の研究テーマにそって収集した文献、資料等を読み、理解を深めながら、論文の章立てを行い、論文を完成させる。

授業の概要

各自のテーマに応じた個別指導と、中間報告会での報告と討論

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：集めた資料、文献等に基づき、卒業論文を執筆する。
復習：個別指導や討論での意見をふまえ、軌道修正しながら論文を書き進める。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文の執筆①
第3回　卒業論文の執筆②
第4回　卒業論文の執筆③
第5回　卒業論文の執筆④
第6回　中間発表会①
第7回　中間発表会②
第8回　論文作成に向けて個別指導①
第9回　論文作成に向けて個別指導②
第10回　論文作成に向けて個別指導③
第11回　論文作成に向けて個別指導④
第12回　論文作成に向けて個別指導⑤
第13回　卒論発表の準備①
第14回　卒論発表の準備②
第15回　まとめ

履修上の注意点

全回出席を前提とする。
報告担当ではない回でも、報告者の発表に対して興味をもって耳を傾け、積極的に意見を述べてほしい。

教科書

参考書

必要に応じて指示する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅳ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　大久保　恭子	

テーマ

卒業論文の執筆と完成

授業の到達目標

前期に確定した章立てに従って論文を執筆し完成させる。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テーマに関する情報を整理し、考察することを執筆中も続けること。

内　　容

第1回　卒業論文執筆についてのオリエンテーション
第2回　各自の卒業論文の進捗状況報告（中間発表）とそれに対する助言①
第3回　各自の卒業論文の進捗状況報告（中間発表）とそれに対する助言②
第4回　各自の卒業論文の進捗状況報告（中間発表）とそれに対する助言③
第5回　各自の卒業論文の進捗状況報告（中間発表）とそれに対する助言④
第6回　各自の卒業論文の進捗状況報告（中間発表）とそれに対する助言⑤
第7回　各自の卒業論文の進捗状況報告（中間発表）とそれに対する助言⑥
第8回　各自の卒業論文の進捗状況報告（中間発表）とそれに対する助言⑦
第9回　各自の卒業論文の進捗状況報告（中間発表）とそれに対する助言⑧
第10回　各自の卒業論文の進捗状況報告（中間発表）とそれに対する助言⑨
第11回　各自の卒業論文の進捗状況報告（中間発表）とそれに対する助言⑩
第12回　各自の卒業論文の進捗状況報告（中間発表）とそれに対する助言⑪
第13回　まとめ①
第14回　まとめ②
第15回　まとめ③

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅳ <＊d>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐野 仁美	

テーマ

卒業論文の作成

授業の到達目標

1)研究目的や研究方法の提示、結果と考察との関連など、論文構成法を理解する。2)これまで学んだことの集大成として卒業論文を作成する。

授業の概要

卒業論文作成について個別に指導し、中間発表会において研究結果の発表、討論を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：論文作成計画に従い、論文を執筆する。復習：論文指導および中間発表会で得られた意見をもとに軌道修正しつつ、論文を書き進めていく。

内　　容

第1回　オリエンテーション：夏休みの課題についての報告、後期のゼミ運営についての説明
第2回　卒論進捗報告①
第3回　卒論進捗報告②
第4回　卒論進捗報告③
第5回　中間発表会①
第6回　中間発表会②
第7回　論文作成に向けての個別指導①
第8回　論文作成に向けての個別指導②
第9回　論文作成に向けての個別指導③
第10回　論文作成に向けての個別指導④
第11回　論文作成に向けての個別指導⑤
第12回　論文作成に向けての個別指導⑥
第13回　卒論発表の準備①
第14回　卒論発表の準備②
第15回　まとめ：1年間の学習の総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。主体的な学習態度を重視する。

教科書

参考書

必要に応じて紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート （ 50% ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 0 ）	授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅳ〈＊e〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　三上　周治	

テーマ

卒業論文の作成

授業の到達目標

1)研究目的や研究方法の提示、結果と考察との関連など、論文構成法を学ぶ。2)これまで学んだことの集大成として卒業論文を作成する。

授業の概要

卒業論文作成について個別に指導し、中間発表会において研究結果の発表、討論を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：論文作成計画に従い、論文を執筆する。復習：論文指導および中間発表会で得られた意見をもとに軌道修正しつつ、論文を書き進めていく。

内　　容

第1回　オリエンテーション：夏休みの課題についての報告、後期のゼミ運営についての説明
第2回　卒論進捗報告①
第3回　卒論進捗報告②
第4回　卒論進捗報告③
第5回　中間発表会①
第6回　中間発表会②
第7回　論文作成に向けての個別指導①
第8回　論文作成に向けての個別指導②
第9回　論文作成に向けての個別指導③
第10回　論文作成に向けての個別指導④
第11回　論文作成に向けての個別指導⑤
第12回　論文作成に向けての個別指導⑥
第13回　卒論発表の準備①
第14回　卒論発表の準備②
第15回　まとめ：1年間の学習の総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。主体的な学習態度を重視する。

教科書

参考書

必要に応じて紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅳ〈＊f〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　長橋　聡	

テーマ

卒業論文の完成と発表会に向けて検討や助言を行っていく

授業の到達目標

卒業論文の作成に関わる作業を通して、自身の問題意識の所在に気づき、それらに取り組む中で、学術的な面からの問題解決能力や表現力を身に着ける。

授業の概要

卒業論文の進捗状況の発表と、それに対する議論や助言を教員及び学生で行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

自身の問題意識に対して真剣に向き合い、自主的、積極的に研究へ取り組むことを期待する。

内　容

第1回　卒業論文完成に向けた議論と助言①
第2回　卒業論文完成に向けた議論と助言②
第3回　卒業論文完成に向けた議論と助言③
第4回　卒業論文完成に向けた議論と助言④
第5回　卒業論文完成に向けた議論と助言⑤
第6回　卒業論文完成に向けた議論と助言⑥
第7回　卒業論文完成に向けた議論と助言⑦
第8回　卒業論文完成に向けた議論と助言⑧
第9回　卒業論文完成に向けた議論と助言⑨
第10回　卒業論文完成に向けた議論と助言⑩
第11回　卒業論文完成に向けた議論と助言⑪
第12回　卒業論文完成に向けた議論と助言⑫
第13回　卒業論文についての総括、コメント等
第14回　卒論発表に関する助言①
第15回　卒論発表に関する助言②

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅳ＜＊g＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　南 憲治	

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

集めた文献や資料等を読み理解を深めながら、論文の章立てを行い、論文を完成させる。

授業の概要

卒業研究に向けての一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：卒論の研究テーマにそった文献や資料等を読み深める。復習：集めた文献や資料等をもとに、テーマにそって論文を完成させる。

内　　容

第1回　各自の研究テーマについて発表する①
第2回　各自の研究テーマについて発表する②
第3回　各自の研究テーマについて発表する③
第4回　論文作成に向けての個別指導①
第5回　論文作成に向けての個別指導②
第6回　論文作成に向けての個別指導③
第7回　論文作成に向けての個別指導④
第8回　論文作成に向けての個別指導⑤
第9回　論文作成に向けての個別指導⑥
第10回　論文作成に向けての個別指導⑦
第11回　論文作成に向けての個別指導⑧
第12回　論文作成に向けての個別指導⑨
第13回　論文作成に向けての個別指導⑩
第14回　論文発表会に向けての指導①
第15回　論文発表会に向けての指導②

履修上の注意点

3分の2以上の出席を原則とする。遅刻や早退をしないように。

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

適宜、指示する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート （ 0% ）	小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 0% ）	授業中発表等 （ 50% ）
参加度 （ 50% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅳ <＊h>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　青木　美智子	

テーマ

卒業論文の執筆

授業の到達目標

卒業論文の完成。

授業の概要

個別指導を中心に執筆作業を進め、中間に研究発表を行うことから作業状況の確認と見直しを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

就職活動と卒業論文の執筆という2つの大きな計画を実行していく。周囲に頼るのではなく、自らすすんで活動していく姿勢が大切である。

内　　容

第1回　導入
第2回　卒業論文の執筆
第3回　卒業論文の執筆
第4回　卒業論文の執筆
第5回　卒業論文の執筆
第6回　卒業論文の執筆
第7回　卒業論文の執筆
第8回　卒業論文の執筆
第9回　中間発表　1
第10回　中間発表　2
第11回　中間発表　3
第12回　卒業研究発表1
第13回　卒業研究発表2
第14回　卒業研究発表3
第15回　卒業研究発表4　ポスター発表へ向けて

履修上の注意点

遅刻欠席の場合は事前に連絡のこと。
その際LINEなどを使用せず、@tachibana-u.ac.jpのメールアカウントを使用すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（100%）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅳ <＊i>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森本　美絵	

テーマ

卒業論文を完成する。

授業の到達目標

①卒業論文の執筆をすすめ完成する。
②PPT等を使用して発表する。
③卒論発表のポスターを作成する。

授業の概要

各自の論文を書き進め完成する。中間発表として、10月下旬に3回生学生にレジュメとPPTで、執筆したところまでを発表する。ポスター発表の準備をする。論文作成にむけての個別･グループ指導をする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

個別指導･グループ指導を受けるまでに、論文を書き進める。中間報告の準備をする。ポスター発表の準備をする。

内　容

第1回　卒論進捗状況の報告と助言①
第2回　卒論進捗状況の報告と助言②
第3回　卒論進捗状況の報告と助言③
第4回　卒論進捗状況の報告と助言④
第5回　卒論進捗状況の報告と助言⑤
第6回　卒論進捗状況の報告と助言⑥
第7回　卒論進捗状況の報告と助言⑦
第8回　卒論進捗状況の報告と助言⑧
第9回　卒論進捗状況の報告と助言⑨
第10回　ゼミで卒論発表①
第11回　ゼミで卒論発表②
第12回　卒論原稿相互チェック
第13回　ポスター発表の準備①
第14回　ポスター発表の準備①
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅳ〈＊j〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池田　修	

テーマ

卒業論文を完成させる。

授業の到達目標

卒業研究にむけての一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導を受け、卒業論文を完成する。

授業の概要

その日の担当を決めて、執筆中の卒業論文を発表し、ゼミ全体で議論をする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

卒業研究のテーマについての調査研究。

内　　容

第1回　卒論進捗報告（結論）
第2回　卒論進捗報告（結論）
第3回　卒論進捗報告（結論）
第4回　卒論進捗報告（結論）
第5回　卒論中間報告会
第6回　卒論中間報告会
第7回　卒論ドラフト相互チェック
第8回　卒論ドラフト相互チェック
第9回　卒論ドラフト相互チェック
第10回　卒論最終報告（全体）
第11回　卒論最終報告（全体）
第12回　卒論最終報告（全体）
第13回　口頭試問の準備
第14回　口頭試問の準備　和綴じ本づくり
第15回　総括

履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度（ 50 ）
互いの卒論を読み合い、ゼミ内での質の高い論文を作り出していく姿を積極的に評価したい。

2018 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅳ＜＊k＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西村　徳寿	

テーマ

卒業論文の作成を通して、保育や教育に関する知識をより確かなものにする。

授業の到達目標

自らの問いに対する回答を根拠をもって述べることができるようになる。

授業の概要

先行研究にあたる論文や資料を集めて読み進めたり、フィールドワークや実地調査を行ったりすることにより、知見をまとめて文章化していく。論文としてまとめるための個別指導が中心となるが、ゼミ内での研究の交流も行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習としては、先行研究にあたり、それをまとめることであり、復習としては、担当者の指導を受け入れて、文章化していくことになる。

内　容

第1回　論文作成を含めた研究の進捗状況の発表Ⅲ（全体指導）
第2回　論文作成を含めた研究の進捗状況の報告と助言指導①
第3回　論文作成を含めた研究の進捗状況の報告と助言指導②
第4回　論文作成を含めた研究の進捗状況の報告と助言指導③
第5回　研究の中間発表会Ⅰ（全体指導）
第6回　研究の中間発表会Ⅱ（全体指導）
第7回　研究の中間発表会の総括
第8回　論文の修正指導①（個別指導）
第9回　論文の修正指導②（個別指導）
第10回　論文の修正指導③（個別指導）
第11回　論文提出の書類等の準備（全体指導）
第12回　論文発表会に向けてのリハーサル（全体指導）
第13回　ゼミ内論文審査会での発表Ⅰ（全体指導）
第14回　ゼミ内論文審査会での発表Ⅱ（全体指導）
第15回　論文発表会

履修上の注意点

ゼミは大学の基礎単位であり、特別な事情のない限り出席すること。*遅刻や欠席する場合は必ず担当者に連絡をすること。
連絡が無い場合は欠席とみなします。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教職実践演習（初等）〈初a〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森　枝美	

テーマ

授業の到達目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、教育現場で教師として学級経営や教科指導に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の概要

学生は、4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。1．子ども理解（①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境）、2．各教科の指導、3．実践的な知識と技能（①学級経営、②生徒指導、）、4．コミュニケーション（①学校における個人の役割、②地域・保護者との関係）、5．教育的愛情。
以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なのかを明確にする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　4年間の学習を振り返る（グループ討論、発表）
第2回　子ども理解－子どもの発達、子どもを取り巻く社会と環境（グループ討論、発表）
第3回　各教科の指導1：算数科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第4回　各教科の指導2：理科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第5回　各教科の指導3：国語科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第6回　各教科の指導4：社会科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第7回　各教科の指導5：音楽（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第8回　各教科の指導6：体育（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第9回　各教科の指導7：図工（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第10回　各教科の指導8：家庭科・生活科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第11回　道徳・総合的な学習の時間の指導（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第12回　特別活動の指導（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第13回　実践的な知識と技能－学級経営、生徒指導（グループ討論・クラス討論）
第14回　教職員との連携ならびに地域、保護者との連携（グループ討論、クラス討論）
第15回　教職の意義、教師の役割―小学校・幼稚園教諭の資質の吟味と確認（グループ討論と発表、クラス討論）
※この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（50）	授業中発表等（50）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教職実践演習（初等）<初b>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　倉持　祐二	

テーマ

教職に関する知識・技能と教育現場で獲得した指導力を振り返る

授業の到達目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、教育現場で教師として学級経営や教科指導に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の概要

学生は、4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。1. 子ども理解（①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境）、2. 各教科の指導、3. 実践的な知識と技能（①学級経営、②生徒指導、）、4. コミュニケーション（①学校における個人の役割、②地域・保護者との関係）、5. 教育的愛情。
以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なのかを明確にする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

大学での学習と教育現場での体験を振り返るために、レポートなどの学習記録を整理する。そのうえで、討論課題に対する考えを明確にしておく。

内　容

第1回　4年間の学習を振り返る（グループ討論、発表）
第2回　子ども理解－子どもの発達、子どもを取り巻く社会と環境（グループ討論、発表）
第3回　各教科の指導1：算数科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第4回　各教科の指導2：理科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第5回　各教科の指導3：国語科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第6回　各教科の指導4：社会科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第7回　各教科の指導5：音楽（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第8回　各教科の指導6：体育（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第9回　各教科の指導7：図工（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第10回　各教科の指導8：家庭科・生活科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第11回　道徳・総合的な学習の時間の指導（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第12回　特別活動の指導（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第13回　実践的な知識と技能－学級経営、生徒指導（グループ討論・クラス討論）
第14回　教職員との連携ならびに地域、保護者との連携（グループ討論、クラス討論）
第15回　教職の意義、教師の役割―小学校・幼稚園教諭の資質の吟味と確認（グループ討論と発表、クラス討論）
※この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教職実践演習（初等）〈初c〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西村　徳寿	

テーマ

授業の到達目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、教育現場で教師として学級経営や教科指導に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の概要

学生は、4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。1．子ども理解（①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境）、2．各教科の指導、3．実践的な知識と技能（①学級経営、②生徒指導、）、4．コミュニケーション（①学校における個人の役割、②地域・保護者との関係）、5．教育的愛情。
以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なのかを明確にする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　4年間の学習を振り返る（グループ討論、発表）
第2回　子ども理解－子どもの発達、子どもを取り巻く社会と環境（グループ討論、発表）
第3回　各教科の指導1：算数科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第4回　各教科の指導2：理科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第5回　各教科の指導3：国語科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第6回　各教科の指導4：社会科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第7回　各教科の指導5：音楽（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第8回　各教科の指導6：体育（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第9回　各教科の指導7：図工（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第10回　各教科の指導8：家庭科・生活科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第11回　道徳・総合的な学習の時間の指導（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第12回　特別活動の指導（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第13回　実践的な知識と技能－学級経営、生徒指導（グループ討論・クラス討論）
第14回　教職員との連携ならびに地域、保護者との連携（グループ討論、クラス討論）
第15回　教職の意義、教師の役割―小学校・幼稚園教諭の資質の吟味と確認（グループ討論と発表、クラス討論）
※この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

日本の教師、その12章―困難から希望への途を求めて
著者：　久冨 善之
出版社：新日本出版社
出版年：2017　　ISBN：4406061169

いま学校に必要なのは人と予算―少人数学級を考える
著者：　山崎洋介
出版社：新日本出版社
出版年：2017　　ISBN：4406061576

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 20 ）	

a30104d153

成績評価の前提は、講義にすべて出席していることである。
「参加度」とは、授業への参加態度や積極性などを総合的に判断したもの。
試験・レポートについては、授業中に指示を行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**教職実践演習（初等）〈幼a〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　口野　隆史	

テーマ

大学での学びと実習等の教育現場で獲得した力を統合し、卒業後の実践の場において力を発揮できるよう4年間の学びのまとめを行う

授業の到達目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、幼稚園教育に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の概要

学生は、4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。1. 子ども理解（①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境）、2. 各領域の指導、3. コミュニケーション（①幼稚園における教師の役割、②地域・保護者との関係）、4. 教育的愛情、5. 学級経営。以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なのかを明確にする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

大学で学んだことを、卒業後の教育・保育の実践の場で生かすにはどうすれば良いのか日頃から考えておくこと。様々な保育の場面を想定し、それに対応するプランを考えておくこと。そしてそれを友人や教員と日頃から交流しておくこと。

内　容

第1回　4年間の学習を振り返る
第2回　子ども理解－幼児の発達、幼児を取り巻く社会の実態と変化
第3回　各領域の教育・保育－健康①日常の生活リズム・健康に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第4回　各領域の教育・保育－健康②運動遊びに関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第5回　各領域の教育・保育－人間関係①グループでの活動に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第6回　各領域の教育・保育－人間関係②異年齢交流に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第7回　各領域の教育・保育－環境①生き物、自然環境に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第8回　各領域の教育・保育－環境②数や量に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第9回　各領域の教育・保育－言葉①絵本や紙芝居の読み聞かせに関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第10回　各領域の教育・保育－言葉②劇の発表に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第11回　各領域の教育・保育－表現①音楽やリズムに関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第12回　各領域の教育・保育－表現②図画・工作に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第13回　幼稚園における職員間の連携（グループ討議、クラス討論）
第14回　地域・保護者との連携（グループ討議、クラス討論）
第15回　幼稚園教諭の役割―幼稚園教諭の資質の吟味と確認

履修上の注意点

自分が4年間大学で学んだことを整理し、授業で発表すること。また、授業での他の学生や教員の発言に耳を傾け、自分に足りない部分を吸収すること。卒業後も生かせる他の学生との関係を深めて行くこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）　　小テスト（　）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 30 ）

授業にしっかり出席すること。授業中に出される課題、自分や自分のグループで設定した課題を、自分でまたグループで考え発表すること。また、他の学生、他のグループの発表に対し自分の意見を述べること。評価の際にはこれら点などから考える。

2018 Syllabus

科 目 名　**教職実践演習（初等）<幼b>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　青木　美智子	

テーマ

授業の到達目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、幼稚園教育に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の概要

学生は、4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。1．子ども理解（①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境）、2．各領域の指導、3．コミュニケーション（①幼稚園における個人の役割、②地域・保護者との関係）、4．教育的愛情、5．学級経営。
以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なのかを明確にする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　4年間の学習を振り返る
第2回　子ども理解－幼児の発達、幼児を取り巻く社会の実態と変化
第3回　各領域の教育・保育－健康①日常の生活リズム・健康に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第4回　各領域の教育・保育－健康②運動遊びに関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第5回　各領域の教育・保育－人間関係①グループでの活動に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第6回　各領域の教育・保育－人間関係②異年齢交流に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第7回　各領域の教育・保育－環境①生き物、自然環境に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第8回　各領域の教育・保育－環境②数や量に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第9回　各領域の教育・保育－言葉①絵本や紙芝居の読み聞かせに関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第10回　各領域の教育・保育－言葉②劇の発表に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第11回　各領域の教育・保育－表現①音楽やリズムに関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第12回　各領域の教育・保育－表現②図画・工作に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第13回　幼稚園における職員間の連携（グループ討議、クラス討論）
第14回　地域・保護者との連携（グループ討議、クラス討論）
第15回　幼稚園教諭の役割―幼稚園教諭の資質の吟味と確認

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教職実践演習（初等）〈幼c〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池上　貴美子	

テーマ

保育・教育に関する実習を振り返り、保育者に必要な力量について考える

授業の到達目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、幼稚園教育に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の概要

学生は、4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。
1．子ども理解（①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境）、2．各領域の指導、3．コミュニケーション
（①幼稚園における個人の役割、②地域・保護者との関係）、4．教育的愛情、5．学級経営。
以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なのかを明確にする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実習のまとめである『保育の眼が拓かれたとき』に書いた自分の文章をはじめ、保育・教育実習を振り返っておくこと。

内　容

第1回　4年間の学習を振り返る
第2回　子ども理解－幼児の発達、幼児を取り巻く社会の実態と変化
第3回　各領域の教育・保育－健康①日常の生活リズム・健康に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第4回　各領域の教育・保育－健康②運動遊びに関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第5回　各領域の教育・保育－人間関係①グループでの活動に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第6回　各領域の教育・保育－人間関係②異年齢交流に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第7回　各領域の教育・保育－環境①生き物、自然環境に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第8回　各領域の教育・保育－環境②数や量に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第9回　各領域の教育・保育－言葉①絵本や紙芝居の読み聞かせに関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第10回 各領域の教育・保育－言葉②劇の発表に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第11回 各領域の教育・保育－表現①音楽やリズムに関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第12回 各領域の教育・保育－表現②図画・工作に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第13回 幼稚園における職員間の連携（グループ討議、クラス討論）
第14回 地域・保護者との連携（グループ討議、クラス討論）
第15回 幼稚園教諭の役割―幼稚園教諭の資質の吟味と確認
※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教職実践演習（初等）<幼d>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　加藤　倫子	

テーマ

保育者としての専門性を高めよう。

授業の到達目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、幼稚園教育に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の概要

学生は、4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。1．子ども理解（①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境）、2．各領域の指導、3．コミュニケーション（①幼稚園における個人の役割、②地域・保護者との関係）、4．教育的愛情、5．学級経営。
以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なのかを明確にする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実習簿を、読み返しておきましょう。

内　容

第1回　4年間の学習を振り返る
第2回　子ども理解－幼児の発達、幼児を取り巻く社会の実態と変化
第3回　各領域の教育・保育－健康①日常の生活リズム・健康に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第4回　各領域の教育・保育－健康②運動遊びに関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第5回　各領域の教育・保育－人間関係①グループでの活動に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第6回　各領域の教育・保育－人間関係②異年齢交流に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第7回　各領域の教育・保育－環境①生き物、自然環境に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第8回　各領域の教育・保育－環境②数や量に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第9回　各領域の教育・保育－言葉①絵本や紙芝居の読み聞かせに関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第10回 各領域の教育・保育－言葉②劇の発表に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第11回 各領域の教育・保育－表現①音楽やリズムに関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第12回 各領域の教育・保育－表現②図画・工作に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第13回 幼稚園における職員間の連携（グループ討議、クラス討論）
第14回 地域・保護者との連携（グループ討議、クラス討論）
第15回 幼稚園教諭の役割―幼稚園教諭の資質の吟味と確認

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習（小学校）Ⅱ**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　倉持　祐二	

テーマ

実りのある教育実習

授業の到達目標

小学校現場での実習を通して、小学校教育についての正しい理解を深め、教師の役割や指導についての適切な認識と技術を身につけ、教師としての人間性を高めることをめざす。

授業の概要

教育実習生として期待することは3つある。(1)実習校での学校づくりの内容を具体的に知り、そこにこめた願いをつかむこと。(2)大学で学んでいることがらを、教育現場の具体的なとりくみを通して検討し、さらに深めること。(3)教師として、社会人として自らを成長させていくうえでの課題をつかむこと。実習中は、①毎日の教育の記録を書く、②学習指導案を作成し授業を行う、③児童の様子や自らのとりくみを振り返る、が重点課題となる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

公開授業や現場教師の研究会、子どもを対象とした催しやボランティアに参加することを勧める。

内　　容

第1回　児童の名前を覚え、一人ひとりの人格をつかむ努力をする。学校の一日のくらしの内容をつかむ。
第2回　学習指導案の基本的な内容と様式を知る。教科教育と教科以外のとりくみのそれぞれの役割と具体的な内容をつかむ。児童相互の関係に目をむける。
第3回　指導のねらいを明確にして、授業にとりくむ。児童の新しい面を見いだすように努める。

履修上の注意点

なお、この授業の無断欠席は原則として認めない。やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ理由を記した欠席届を提出すること。届けがない場合は、教員免許状の取得を放棄したものとみなす。

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業時に紹介
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ（英）〈＊ZD〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　アンガス, ノーマン	

テーマ

世界を知るとグローバルな観点の育成

授業の到達目標

1. 専門コースを見据えた上で、英語を学ぶ、英語で学ぶことの意味と意義を理解し、学習意欲を高める。2. 研究入門ゼミⅠで学んだ態度と技能が実践できる。3. 考え方の多様性やコミュニケーションの重要性を考慮した上で、多様な人と議論したり、円滑な人間関係をつくることができる。4. オープンマインドかつ論理的に考えることができる。

授業の概要

第1ユニット〈国際事情を学ぶ〉第１～３講；第2ユニット〈5クラスの担当者がオムニバス形式で全ゼミを回って学科のそれぞれの専門領域を学ぶ〉第４～８講；第3ユニット〈学生の発表により専門領域を深める〉

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

国際社会に習慣的に関心を持ち、テレビのニューズやドキュメンタリーを見ることと、日本および海外に関する本を継続的に読むこと。

内　容

第1回　Orientation
第2回　Major Global Issues and How to Solve Them 1
第3回　Major Global Issues and How to Solve Them 2
第4回　Omnibus Rotation; Topic 1: Global Marketing
第5回　Omnibus Rotation; Topic 2: Global Communication
第6回　Omnibus Rotation; Topic 3: Global Economics
第7回　Omnibus Rotation; Topic 4: Global Tourism
第8回　Omnibus Rotation; Topic 5: To be announced
第9回　Omnibus Rotation; Topic 6: English Education
第10回　Presentation Preparation 1
第11回　Presentation Preparation 2
第12回　Student Presentations 1
第13回　Student Presentations 2
第14回　Student Presentations 3
第15回　Student Presentations 4

履修上の注意点

学生は事前に授業内容を把握し、読み物の課題をこなし、そのテーマについて調べながら自分の知識を増やしながら、考えることが大事です。授業中では、個人としての意見を持ち、遠慮せずその意見を人の前で述べたり、オープンな姿勢で他の人の意見を聞くことも重大です。

教科書

参考書

知らないと恥をかく世界の大問題7
著者：　池上　彰
出版社：角川SSC新書
出版年：2016　　ISBN：4040820637

外国人が選んだ日本百景
著者：　ステファン・シャウエッカー
出版社：講談社＋α 新書
出版年：2015　　ISBN：4062728249

日本の英語教育
著者：　山田　雄一郎
出版社：岩波新書
出版年：2005　　ISBN：4004309433

a30201a254

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　Reading & Vocabulary Building Ⅱ 〈Z〉

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池原　曜子	

テーマ

エントリーレベルのビジネス実務の即戦力になる英語力習得。

授業の到達目標

TOEICスコア600点以上の到達を目指す

授業の概要

IEPの一環として、少人数で実施する。場面・テーマ別のTOEIC準拠総合演習を通して、各種ビジネスシーンに関連する語彙力を強化し、ビジネス文書の定式パターンや典型的なアナウンスのパターンなどを学習する。同時に高校文法でも難易度の高い文法項目の復習やアナウンスのシャドーイングなどの口頭練習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

初回配布の単語プリントの指定範囲を、各授業前までに覚えてくること。指定範囲の語句は、毎回小テストを行い理解度の確認をする。

内　容

第1回　学習のためのオリエンテーション
第2回　娯楽に関連する文書と会話、文法問題演習と解説（主語と動詞の一致）
第3回　テクノロジーとオフィス用品に関連する文書とアナウンス、主語と動詞の一致の復習
第4回　交通機関に関連する文書と会話、文法問題演習と解説（不定詞と動名詞）
第5回　住宅に関連する文書とアナウンス、不定詞と動名詞の復習
第6回　外食に関連する文書と会話、文法問題演習と解説（接続詞）
第7回　予算、給与に関連する文書とアナウンス、接続詞の復習
第8回　総合問題演習を通した復習
第9回　病院に関連する文書と会話、文法問題演習と解説（前置詞）
第10回 教育に関連する文書とアナウンス、前置詞の復習
第11回 ホテルに関連する文書と会話、文法問題演習と解説（関係代名詞）
第12回 購入に関連する文書と会話、関係代名詞の復習
第13回 人事・研修に関する文書とアナウンス、文法問題演習と解説（分詞）
第14回 雇用に関連する文書とアナウンス、分詞の復習
第15回 総合問題演習を通した復習

履修上の注意点

2/3以上の出席がない場合は、試験を受けることを認めない。また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

教科書

公式TOEIC Listening & Reading 問題集1（前期から継続使用）
著者:
出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会
出版年: 2016　　ISBN: 9784906033492

参考書

スコア650文法編
著者: 早川幸治
出版社: 桐原書店
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 25 ）　　小テスト（ 25 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
・上記に加え、学期末に実施されるTOEIC-IPテスト結果に基づく実力点：20点
・指定するe-learning教材の8割以上を完了していない場合、単位が認定されませんので、注意してください。

2018 Syllabus

科 目 名　**Writing & Academic Presentation Ⅱ <Z>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　日高 周平	

テーマ

エントリーレベルのビジネス実務の即戦力になる英語力習得。

授業の到達目標

TOEICスコア600点以上の到達を目指す

授業の概要

IEPの一環として、少人数で実施する。場面・テーマ別のTOEIC準拠総合演習を通して、各種ビジネスシーンに関連する語彙力を強化し、ビジネス文書の定式パターンや典型的なアナウンスのパターンなどを学習する。同時に高校文法でも難易度の高い文法項目の復習やアナウンスのシャドーイングなどの口頭練習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：①語彙学習（20分から40分程度）
②Useful Expression, Grammarの解説部分を読んでおく。
フィードバックは授業内で行う。

復習：①Listening 問題を繰り返し聞く、スクリプトを見ながら同時シャドーイングをする。（30分程度）
②Reading 問題の音読、語彙の復習をする。（30分から40分程度）
フィードバックとして、ユニットごとの復習テストを行う。まちがいの多いものについては再度授業内でフィードバックする。

内　容

第1回　学習のためのオリエンテーション
第2回　娯楽に関連する文書と会話、文法問題演習と解説（主語と動詞の一致）
第3回　テクノロジーとオフィス用品に関連する文書とアナウンス、主語と動詞の一致の復習
第4回　交通機関に関連する文書と会話、文法問題演習と解説（不定詞と動名詞）
第5回　住宅に関連する文書とアナウンス、不定詞と動名詞の復習
第6回　外食に関連する文書と会話、文法問題演習と解説（接続詞）
第7回　予算、給与に関連する文書とアナウンス、接続詞の復習
第8回　総合問題演習を通した復習
第9回　病院に関連する文書と会話、文法問題演習と解説（前置詞）
第10回　教育に関連する文書とアナウンス、前置詞の復習
第11回　ホテルに関連する文書と会話、文法問題演習と解説（関係代名詞）
第12回　購入に関連する文書と会話、関係代名詞の復習
第13回　人事・研修に関する文書とアナウンス、文法問題演習と解説（分詞）
第14回　雇用に関連する文書とアナウンス、分詞の復習
第15回　総合問題演習を通した復習

履修上の注意点

単位認定には10回以上の出席が必要です。毎回問題を解いてスコアを記録して行くため、欠席回数が多いと成績評価も低くなります。

問題を解くことはその時点での英語力を測ることにすぎません。○×をつけるだけではスコアアップには繋がりません。丁寧に復習することで、問題を解くことで得たリスニングのスキル、文法的な知識、語彙を定着させていくことが最も重要です。授業内では主に制限された時間で問題を解くこと及び解答のポイントを確認することを行います。特に自分ができなかった問題についての復習は授業後の各自の課題となります。復習することがスコアアップのために最も有効な手段だと考えてください。

教科書

公式TOEIC Listening & Reading 問題集1（前期から継続使用）
著者：　Educational Testing Service
出版社：国際ビジネスコミュニケーション協会
出版年：2016　　ISBN：　9784906033492

Step-Up Skills for the TOEIC Listening and Reading Test　Level 2（前期から継続使用）
著者：　北尾　泰幸
出版社：朝日出版社
出版年：2017　　ISBN：　9784255155951

参考書

a30201b050

スコア650文法編

著者:　早川幸治

出版社: 桐原書店

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 30 ）

授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 0 ）

参加度（ 20 ）

・上記に加え、学期末に実施されるTOEIC-IPテスト結果に基づく実力点:20点

・指定するe-learning教材の8割以上を完了していない場合、単位が認定されませんので、注意してください。

2018 Syllabus

科 目 名　**多文化理解プログラム講座Ⅱ 〈＊Z〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮崎　裕二	

テーマ

意味のある留学を実現するために

授業の到達目標

海外実習プログラム（SAP）の必修参加（原則として1年間。但し教職課程履修者は6ヶ月）により、次の目標を達成する。
1. 高度な英語力、とりわけコミュニケーション能力・発信系コミュニケーション能力を身につける。1）CEFR B2レベル以上の総合的な英語運用能力　2）TOEICで785点以上
2. 高い異文化理解力と異文化共感能力を身につける。
3. 帰国後に英語で行われる専門科目に備え、留学先では正規授業
　およびその準備講座を履修し、希望するコース分野（グローバルキャリア・国際観光・英語教育）や言語・文化の知識を英語で得る。
4. SAPの参加から得た問題意識の向上により、帰国後の専門科目や
　卒業研究の基盤を形成する。
5. 教職課程履修者は6ヶ月の留学を経て、教職関連科目を集中的に学習し、高度な英語力および幅広い教養とともに教員になるための専門知識を身につける。

授業の概要

学習到達目標を達成するための授業構成（留学プログラム演習）として、「留学プログラム演習」は、大きく3つの単元（ユニット）に分けて設計する。第1ユニット＜留学の全像＞第1～4講、第2ユニット＜留学のテーマ別＞第5～12講、第3ユニット＜留学の直前＞第13～15講を予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

受講生は高い英語運用能力を修得すると同時に、それ以外に異文化を理解すること、及び異文化を理解することによる日本文化の再確認、国際感覚を身につけることを礎目標とする。加えて出来るだけ多くの学生が海外実習先でESL以外、英語で行うコンテンツコース（とりわけ経済、観光、教育関連科目）の受講により、帰国後学修方向の設定と素材獲得等が本プログラムの最高目標と考えている。

内　容

第1回　イントロダクション（留学とは、多文化理解プログラムの目標など）
第2回　留学希望国の概要を調べる（1）
第3回　留学の実践準備
第4回　留学経験者の話を聞く（1）
第5回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（1）
第6回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（2）
第7回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（3）
第8回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（4）
第9回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（5）
第10回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（6）
第11回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（7）
第12回　留学希望国ごとにテーマを掘下げる（8）
第13回　留学経験者の話を聞く（2）
第14回　日本文化を学修する
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**Reading & Vocabulary Building Ⅲ 〈Za〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　高田　悦子	

テーマ

読解力と語彙力を高める

授業の到達目標

Developing reading skills and a basic vocabulary skills

授業の概要

Through this course, students will learn how to critically approach various kinds of texts.
This course is designed to improve students' reading skills and a basic vocabulary skills.
Students have both intensive and extensive reading time.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Students are expected to bring their favorite books to class for extensive reading time.

内　　容

第1回　授業のガイダンス
第2回　Unit 1. Self-Introduction / Extensive Reading
第3回　Unit 2.The Island of Nauru / Extensive Reading
第4回　Unit 3. Passion / Extensive Reading
第5回　Unit 4. Impact of Good Teachers / Extensive Reading
第6回　Unit 5. Humor and Laughter / Extensive Reading
第7回　Unit 6. Dating / Extensive Reading
第8回　Unit 7. Nutrition and Exercise / Extensive Reading
第9回　Unit 9. Technology Addiction / Extensive Reading
第10回　Unit 11. The Science of Happiness / Extensive Reading
第11回　Unit 12. Sugar Addiction / Extensive Reading
第12回　Unit 13. The Evolution of Marriage / Extensive Reading
第13回　Unit 17. Cigarette Advertising / Extensive Reading
第14回　Unit 20. Winning Friends and Influencing People / Extensive Reading
第15回　授業の総括と復習テスト

履修上の注意点

授業の3分の2以上の出席が必要です。
辞書を必ず持ってきて下さい。（評価の対象になります。）

教科書

Life Topics: Deeper Connections
著者:　Takashi Shimaoka,Jonathan Berman
出版社:　南雲堂
出版年:　2016　　ISBN:　9784523178231

参考書

成績評価

試験・レポート（　）　　小テスト（ 50% ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（ 35% ）
参加度　（ 15% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**Listening Ⅴ <Za>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　エリス, メグ	

テーマ

Bridging period to Academic English (EAP III)

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to raise students' awareness of conscious and accurate language use through tasks across all skill areas, including grammar and writing.
Active and collaborative learning continues.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Development of reading skill and grammar accuracy is emphasized. Students are required to actively engage in tasks about a variety of topics including explaining and describing features of Japanese and world culture. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results.
Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record.
* Classes will be conducted in English only.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates.
Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内　容

第1回　Unit 1: Food from the Earth, Vocab & grammar — simple present & continuous; discussion
第2回　Unit 1: Food from the Earth, Focused listening — interview
第3回　Unit 1: Food from the Earth, Language expansion — food staples; grammar — simple past regular & irregular
第4回　Extensive Reading Intro; course outline and expectations; review of summer reading
第5回　Grammar and Writing Intro — outline & expectations
第6回　Folio Introduction and outlines; beginning a journal & folio
第7回　Unit 2: Express yourself, Vocab & grammar — present perfect; discussion
第8回　Unit 2: Express yourself, General listening — small talk
第9回　Unit 2: Express yourself, Lang expansion — small talk; grammar — already, ever, never, yet
第10回　Reading: Pt 3 Unit 1 — previewing skills; book discussion
第11回　Grammar: Pt 1 Units 1&2 — 'Be' present tense; written, oral, pronunciation practice
第12回　Use the grammar to: Write about your favorite dishes & your local specialty food; edit grammar, 100-200 words
第13回　Unit 3: Cities, Vocab & grammar — future with 'will'; discussion
第14回　Unit 3: Cities, General & focused listening — radio interview
第15回　Unit 3: Cities, Lang expansion — maps; grammar — will + time clauses
第16回　Reading, Pt 3 Unit 2 — scanning skills; book discussion
第17回　Grammar: Pt 1 Unit 3 — 'Be' past; written, oral, pron.
第18回　Interview partner about childhood, write description; edit grammar, 100+ words
第19回　TED intensive — The shared experience of absurdity
Vocab & video review; analysis (TED)
第20回　TED intensive — The shared experience of absurdity
Vocab, discussion & video (TED)
第21回　TED intensive — The shared experience of absurdity
Video review & project (TED)
第22回　Reading: Pt 3 Unit 3 — inferring skills; book discussion
第23回　Grammar: Pt II Units 4 & 5 — countable / proper nouns, descriptive adj; written, oral, pron.
第24回　Folio: Describe your city, positives & negatives, edit grammar, 100—200 words
第25回　Unit 4: The Body, Vocab & grammar — comparatives, superlatives, equatives; discussion
第26回　Unit 4: The Body, Focused listening — lifestyle discussions
第27回　Unit 4: The Body, Lang expansion — everyday ailments; grammar — infinitive of purpose
第28回　Reading: Pt 3 Unit 4 — topic skills; book discussion
第29回　Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.
第30回　Folio: Make a brochure of your local area — where to go, what to do, map, food, why you like it, 100 — 200 words, edit grammar

履修上の注意点

a30202a310

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書

World English 2, 2nd edition, Combo Split 2A with Online Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage

出版年: 2015 ISBN: 9781305089471

World English 2, 2nd edition, Combo Split 2B with Online Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage

出版年: 2015 ISBN: 9781305089464

X-reading (前期から継続使用)

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

Reading Power 2 (前期から継続使用)

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 15 ） 小テスト （ 5 ）

授業中課題 （ 35 ） 授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 15 ）

Students are required to have passed EAP I in order to undertake this course.
Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments. Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course.
In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

2018 Syllabus

科 目 名　Listening Ⅴ <Zb>

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　日高 周平	

テーマ

ビジネス実務の即戦力になる高度な英語力習得。

授業の到達目標

TOEICスコア700点以上の到達を目指す。

授業の概要

IEPの一環として少人数で実施する。言語機能別にTOEIC試験形式で、会話、アナウンス、プレゼンテーションの聴解練習を行うとともに、関連文書のリーディング演習を行う。加えて、ペアワークなどで典型的な会話表現の口頭練習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

初回配布の単語プリントの指定範囲を、各授業前までに覚えてくること。指定範囲の語句は、毎回小テストを行い理解度の確認をする。

内　容

第1回　学習のためのオリエンテーション
第2回　ネットワーキングのための会話表現、プロフェショナルプロフィールの読解
第3回　ミーティングの会話表現（進捗状況の確認など）、議事録の読解
第4回　手配とその確認の表現、複数のE-mailの読解
第5回　総合問題演習と文法事項の復習
第6回　ミーティングの会話表現（意見を言うなど）、新聞記事の読解
第7回　電話による提案、助言の表現、複数のE-mailの読解
第8回　プレゼンの表現（問題点や解決策の説明）、プレゼン資料の読解
第9回　プレゼンの表現（議論と合意）、契約書とE-mailの読解
第10回　総合問題演習と文法事項の復習
第11回　就職面接の表現（説明と合意）、応募要領と履歴書の読解
第12回　就職面接の表現（理解の確認）、内定通知と返信の読解
第13回　研修でのスピーチ表現、会社案内の読解
第14回　クレーム対応の会話表現、複数のE-mailの読解
第15回　総合問題演習を通した復習
　　定期試験

履修上の注意点

2/3以上の出席がない場合は、試験を受けることを認めない。また、遅刻3回で欠席1回とみなします。

教科書

Successful Steps-for the TOEIC L&R Test
著者:　Hisakazu Tsukano 他
出版社:　成美堂
出版年:　2018　　ISBN:　9784791934218

参考書

TOEICテスト書き込みドリル：スコア650文法編
著者:　早川幸治
出版社:　桐原書店
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）
・上記に加え、学期末に実施されるTOEIC-IPテスト結果に基づく実力点：20点
・指定するe-learning教材の8割以上を完了していない場合、単位が認定されませんので、注意してください。

2018 Syllabus

科 目 名　Listening Ⅴ <Zc>

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　弥永 啓子	

テーマ

Academic English (EAP III) provides skills for the students' Study Abroad Program, including both practical academic skills, and real life communication skills.

授業の到達目標

This aims to provide students with practical ability in using English in an academic setting, particularly with regard to writing and Presentation Skill Practice, while also improving reading, speaking and listening ability. In addition, the use of natural spoken English in everyday situations will be improved. This combination of academic and natural spoken English will prepare the students for all aspects of language use in their Study Abroad Program in the second semester of this year.
Active and collaborative learning continues.

授業の概要

Students continue to learn English intensively in a small class size. Development of academic writing, presentation, and reading skills is emphasized. The advanced grammar required to produce and fully comprehend academic texts is learned. Students are required to actively engage in tasks about a variety of topics including explaining and describing features of Japanese and world culture, and discussing important social issues. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results.
Students will also practice the use of natural spoken English in real-life settings, with a focus on confident and natural production.
* Classes will be conducted in English only.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In particular, weekly reading tasks are necessary preparation for writing, reading and presentation lessons.
Regular writing and presentation assessment tasks throughout the semester provide continuing feedback on student performance, and areas requiring improvement. Active participation in every lesson is expected, and will form part of the assessment for each student.

内　容

第1回 Introduction to Academic Reading, Writing and Presentation
Reading (1) Textbook introduction
第2回 Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (1)
Textbook introduction, Process and structure revision
第3回 Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (1)
Presentation Skill Practice
第4回 Grammar (1) Articles and nouns
第5回 Situational English (1): Introduction to Situational English
第6回 Situational English (2): Ice breaking role play activities
第7回 Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (2)
Chapter 1: Sleep
第8回 Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (2)
Creating topic sentences
第9回 Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (2)
Preparation for Presentation #1
第10回 Grammar (2) Pronouns and determiners
第11回 Situational English (3): Making new friends (ask and give opinions)
第12回 Situational English (4): Making new friends, role play activities
第13回 Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (3)
Chapter 2: Homestay
第14回 Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (3)
Improving topic sentences
第15回 Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (3)
Presentation #1
第16回 Grammar (3) Adjectives and adverbs
第17回 Situational English (5): Introducing friends (departments and classes)
第18回 Situational English (6): Introducing, role play activities
第19回 Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (4)
Chapter 3: Color idioms
第20回 Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (4)
Creating supporting sentences
第21回 Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (4)
Presentation Skill Practice
第22回 Grammar (4) Conjunctions
第23回 Situational English (7): Hanging out (advice and information questions)

第24回 Situational English (8): Hanging out, role play activities
第25回 Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (5)
Chapter 4: Co-operation
第26回 Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (5)
Improving supporting sentences
第27回 Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (5)
Preparation for Presentation #2
第28回 Grammar (5) Modals
第29回 Situational English (9): Shared experience (opinions and experiences)
第30回 Situational English (10): Shared experience, role play activities

履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.
Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week). Students must attend a minimum of 80% of classes for this course.

教科書

Encounters on Campus
著者: Michael P. Critchley
出版社: 南雲堂
出版年: 2018 ISBN:

English Grammar in Use, Book without answers, Fourth Edition (British English)
著者: Raymond Murphy
出版社: Cambridge University Press
出版年: 2012 ISBN:

Writing Together
著者: Mark D. Stafford
出版社: Kinseido
出版年: 2016 ISBN:

Select Readings, Pre-Intermediate, 2nd edition
著者: Lee, L & Cundersen, E
出版社: Oxford University Press
出版年: 2011 ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20 ） 小テスト （ 5 ）
授業中課題 （ 30 ） 授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 15 ）

Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments. Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course.
In addition, students must complete a minimum of 80% of the e-learning course to achieve a passing grade.

2018 Syllabus

科 目 名　**Listening Ⅵ <Za>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池原　曜子	

テーマ

ビジネス実務の即戦力になる高度な英語力習得。

授業の到達目標

TOEICスコア700点以上の到達を目指す。

授業の概要

IEPの一環として少人数で実施する。言語機能別にTOEIC試験形式で、会話、アナウンス、プレゼンテーションの聴解練習を行うとともに、関連文書のリーディング演習を行う。加えて、ペアワークなどで典型的な会話表現の口頭練習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：毎回語彙および総合的な予習課題を課します。オンラインで提出された予習課題の状況に基づき講義を進めます。
復習：毎回復習テストを実施します。
フィードバック：弱点と考えられる項目については各回の授業および復習回等で取り上げてゆきます。

内　容

第1回　学習のためのオリエンテーション
第2回　ネットワーキングのための会話表現、プロフェショナルプロフィールの読解
第3回　ミーティングの会話表現（進捗状況の確認など）、議事録の読解
第4回　手配とその確認の表現、複数のE-mailの読解
第5回　総合問題演習と文法事項の復習
第6回　ミーティングの会話表現（意見を言うなど）、新聞記事の読解
第7回　電話による提案、助言の表現、複数のE-mailの読解
第8回　プレゼンの表現（問題点や解決策の説明）、プレゼン資料の読解
第9回　プレゼンの表現（議論と合意）、契約書とE-mailの読解
第10回　総合問題演習と文法事項の復習
第11回　就職面接の表現（説明と合意）、応募要領と履歴書の読解
第12回　就職面接の表現（理解の確認）、内定通知と返信の読解
第13回　研修でのスピーチ表現、会社案内の読解
第14回　クレーム対応の会話表現、複数のE-mailの読解
第15回　総合問題演習を通した復習　定期試験

履修上の注意点

・全ての宿題を期限までに完了すること。
・全ての小テストにおいて80%以上で合格すること。授業内で不合格であったものについては期限までに再試験で合格すること。
以上が達成されない場合には単位の認定はしない。

教科書

Full Gear for the TOEIC L&R Test
著者：　Mark Stafford 他
出版社：Kinseido
出版年：2018　　ISBN：　9784764740648

公式TOEIC Listening & Reading 問題集1（前年度使用のもの）
著者：　Educational Testing Service
出版社：国際ビジネスコミュニケーション協会
出版年：2016　　ISBN：　9784906033492

参考書

TOEICテスト書き込みドリル：スコア650文法編
著者：　早川幸治
出版社：桐原書店
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ 20 ）　　小テスト（ 40 ）

a30202a410

授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 10 ）

・上記に加え、学期末に実施されるTOEIC-IPテスト結果に基づく実力点：20点
・指定するe-learning教材の8割以上を完了していない場合、単位が認定されませんので、注意してください。

2018 Syllabus

科 目 名　**Listening Ⅵ <Zb>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　エリス, メグ	

テーマ

Bridging period to Academic English (EAP III)

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to raise students' awareness of conscious and accurate language use through tasks across all skill areas, including grammar and writing.
Active and collaborative learning continues.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Development of reading skill and grammar accuracy is emphasized. Students are required to actively engage in tasks about a variety of topics including explaining and describing features of Japanese and world culture. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results.
Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record.
* Classes will be conducted in English only.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates.
Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内　容

第1回　Unit 1: Food from the Earth, Vocab & grammar — simple present & continuous; discussion
第2回　Unit 1: Food from the Earth, Focused listening — interview
第3回　Unit 1: Food from the Earth, Language expansion — food staples; grammar — simple past regular & irregular
第4回　Extensive Reading Intro; course outline and expectations; review of summer reading
第5回　Grammar and Writing Intro — outline & expectations
第6回　Folio Introduction and outlines; beginning a journal & folio
第7回　Unit 2: Express yourself, Vocab & grammar — present perfect; discussion
第8回　Unit 2: Express yourself, General listening — small talk
第9回　Unit 2: Express yourself, Lang expansion — small talk; grammar — already, ever, never, yet
第10回　Reading: Pt 3 Unit 1 — previewing skills; book discussion
第11回　Grammar: Pt 1 Units 1&2 — 'Be' present tense; written, oral, pronunciation practice
第12回　Use the grammar to: Write about your favorite dishes & your local specialty food; edit grammar, 100-200 words
第13回　Unit 3: Cities, Vocab & grammar — future with 'will'; discussion
第14回　Unit 3: Cities, General & focused listening — radio interview
第15回　Unit 3: Cities, Lang expansion — maps; grammar — will + time clauses
第16回　Reading, Pt 3 Unit 2 — scanning skills; book discussion
第17回　Grammar: Pt 1 Unit 3 — 'Be' past; written, oral, pron.
第18回　Interview partner about childhood, write description; edit grammar, 100+ words
第19回　TED intensive — The shared experience of absurdity
Vocab & video review; analysis (TED)
第20回　TED intensive — The shared experience of absurdity
Vocab, discussion & video (TED)
第21回　TED intensive — The shared experience of absurdity
Video review & project (TED)
第22回　Reading: Pt 3 Unit 3 — inferring skills; book discussion
第23回　Grammar: Pt II Units 4 & 5 — countable / proper nouns, descriptive adj; written, oral, pron.
第24回　Folio: Describe your city, positives & negatives, edit grammar, 100—200 words
第25回　Unit 4: The Body, Vocab & grammar — comparatives, superlatives, equatives; discussion
第26回　Unit 4: The Body, Focused listening — lifestyle discussions
第27回　Unit 4: The Body, Lang expansion — everyday ailments; grammar — infinitive of purpose
第28回　Reading: Pt 3 Unit 4 — topic skills; book discussion
第29回　Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.
第30回　Folio: Make a brochure of your local area — where to go, what to do, map, food, why you like it, 100 — 200 words, edit grammar

履修上の注意点

a30202a412

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書

World English 2, 2nd edition, Combo Split 2A with Online Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage

出版年: 2015 ISBN: 9781305089471

World English 2, 2nd edition, Combo Split 2B with Online Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage

出版年: 2015 ISBN: 9781305089464

X-reading (前期から継続使用)

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

Reading Power 2 (前期から継続使用)

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 15 ） 小テスト （ 5 ）

授業中課題 （ 35 ） 授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 15 ）

Students are required to have passed EAP I in order to undertake this course.
Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments. Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course.
In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

2018 Syllabus

科 目 名　**Writing & Academic Presentation Ⅲ <Za>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　エリス, メグ	

テーマ

Bridging period to Academic English (EAP III)

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to raise students' awareness of conscious and accurate language use through tasks across all skill areas, including grammar and writing.
Active and collaborative learning continues.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Development of reading skill and grammar accuracy is emphasized. Students are required to actively engage in tasks about a variety of topics including explaining and describing features of Japanese and world culture. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results.
Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record.
* Classes will be conducted in English only.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates.
Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内　容

第1回　Unit 1: Food from the Earth, Vocab & grammar — simple present & continuous; discussion
第2回　Unit 1: Food from the Earth, Focused listening — interview
第3回　Unit 1: Food from the Earth, Language expansion — food staples; grammar — simple past regular & irregular
第4回　Extensive Reading Intro; course outline and expectations; review of summer reading
第5回　Grammar and Writing Intro — outline & expectations
第6回　Folio Introduction and outlines; beginning a journal & folio
第7回　Unit 2: Express yourself, Vocab & grammar — present perfect; discussion
第8回　Unit 2: Express yourself, General listening — small talk
第9回　Unit 2: Express yourself, Lang expansion — small talk; grammar — already, ever, never, yet
第10回　Reading: Pt 3 Unit 1 — previewing skills; book discussion
第11回　Grammar: Pt 1 Units 1&2 — 'Be' present tense; written, oral, pronunciation practice
第12回　Use the grammar to: Write about your favorite dishes & your local specialty food; edit grammar, 100-200 words
第13回　Unit 3: Cities, Vocab & grammar — future with 'will'; discussion
第14回　Unit 3: Cities, General & focused listening — radio interview
第15回　Unit 3: Cities, Lang expansion — maps; grammar — will + time clauses
第16回　Reading, Pt 3 Unit 2 — scanning skills; book discussion
第17回　Grammar: Pt 1 Unit 3 — 'Be' past; written, oral, pron.
第18回　Interview partner about childhood, write description; edit grammar, 100+ words
第19回　TED intensive — The shared experience of absurdity
Vocab & video review; analysis (TED)
第20回　TED intensive — The shared experience of absurdity
Vocab, discussion & video (TED)
第21回　TED intensive — The shared experience of absurdity
Video review & project (TED)
第22回　Reading: Pt 3 Unit 3 — inferring skills; book discussion
第23回　Grammar: Pt II Units 4 & 5 — countable / proper nouns, descriptive adj; written, oral, pron.
第24回　Folio: Describe your city, positives & negatives, edit grammar, 100—200 words
第25回　Unit 4: The Body, Vocab & grammar — comparatives, superlatives, equatives; discussion
第26回　Unit 4: The Body, Focused listening — lifestyle discussions
第27回　Unit 4: The Body, Lang expansion — everyday ailments; grammar — infinitive of purpose
第28回　Reading: Pt 3 Unit 4 — topic skills; book discussion
第29回　Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.
第30回　Folio: Make a brochure of your local area — where to go, what to do, map, food, why you like it, 100 — 200 words, edit grammar

履修上の注意点

a30202a510

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書

World English 2, 2nd edition, Combo Split 2A with Online Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage

出版年: 2015 ISBN: 9781305089471

World English 2, 2nd edition, Combo Split 2B with Online Workbook

著者: Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社: Cengage

出版年: 2015 ISBN: 9781305089464

X-reading (前期から継続使用)

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

Reading Power 2 (前期から継続使用)

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 15 ） 小テスト （ 5 ）

授業中課題 （ 35 ） 授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 15 ）

Students are required to have passed EAP I in order to undertake this course.
Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments. Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course.
In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

2018 Syllabus

科 目 名　**Writing & Academic Presentation Ⅲ <Zb>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池原　曜子	

テーマ

ビジネス実務の即戦力になる高度な英語力習得。

授業の到達目標

TOEICスコア700点以上の到達を目指す。

授業の概要

IEPの一環として少人数で実施する。言語機能別にTOEIC試験形式で、会話、アナウンス、プレゼンテーションの聴解練習を行うとともに、関連文書のリーディング演習を行う。加えて、ペアワークなどで典型的な会話表現の口頭練習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：毎回語彙および総合的な予習課題を課します。オンラインで提出された予習課題の状況に基づき講義を進めます。
復習：毎回復習テストを実施します。
フィードバック：弱点と考えられる項目については各回の授業および復習回等で取り上げてゆきます。

内　容

第1回　学習のためのオリエンテーション
第2回　ネットワーキングのための会話表現、プロフェショナルプロフィールの読解
第3回　ミーティングの会話表現（進捗状況の確認など）、議事録の読解
第4回　手配とその確認の表現、複数のE-mailの読解
第5回　総合問題演習と文法事項の復習
第6回　ミーティングの会話表現（意見を言うなど）、新聞記事の読解
第7回　電話による提案、助言の表現、複数のE-mailの読解
第8回　プレゼンの表現（問題点や解決策の説明）、プレゼン資料の読解
第9回　プレゼンの表現（議論と合意）、契約書とE-mailの読解
第10回　総合問題演習と文法事項の復習
第11回　就職面接の表現（説明と合意）、応募要領と履歴書の読解
第12回　就職面接の表現（理解の確認）、内定通知と返信の読解
第13回　研修でのスピーチ表現、会社案内の読解
第14回　クレーム対応の会話表現、複数のE-mailの読解
第15回　総合問題演習を通した復習　定期試験

履修上の注意点

・全ての宿題を期限までに完了すること。
・全ての小テストにおいて80%以上で合格すること。授業内で不合格であったものについては期限までに再試験で合格すること。
以上が達成されない場合には単位の認定はしない。

教科書

Full Gear for the TOEIC L&R Test
著者：　Mark Stafford 他
出版社：Kinseido
出版年：2018　　ISBN：　9784764740648

公式TOEIC Listening & Reading 問題集1（前年度使用のもの）
著者：　Educational Testing Service
出版社：国際ビジネスコミュニケーション協会
出版年：2016　　ISBN：　9784906033492

参考書

TOEICテスト書き込みドリル：スコア650文法編
著者：　早川幸治
出版社：桐原書店
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ 20 ）　　小テスト（ 40 ）

a30202a512

授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 10 ）

・上記に加え、学期末に実施されるTOEIC-IPテスト結果に基づく実力点：20点
・指定するe-learning教材の8割以上を完了していない場合、単位が認定されませんので、注意してください。

2018 Syllabus

科 目 名　**多文化理解プログラム演習 <Za>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　アンガス, ノーマン	

テーマ

An Advanced Course in Translation Practice, Strategies and Theory

授業の到達目標

(1) To increase the students' linguistic flexibility with regard to translation
(2) To provide them with knowledge about the different types of translation
(3) To equip them with sophisticated strategies to help them translate between English and Japanese successfully.
This class will be taught in English.

授業の概要

This course is intended develop upon the second-year translation course, Honyaku no Kisoron. We will look at the translation process in detail, touch on a little translation theory, and then practice different kinds of translation. In the central section of the course, we will translate a number of intermediate-level English texts, analyze them for the problems they display, and look at various strategies for solving them. Finally, we will undertake the translation of a longer set text as a PBL excercise.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

I have a wide range of translation texts and excercises that can be made available for students who wish to practice the strategies taught in class, and a wide variety of books on the subject of translation. But since the content of this course is more techinical than students will have so far experienced, it is vital that all students go over the class handouts from the previous week, and are familiar with the specialist content thereafter. This will require 40-60 minutes per week.

内　　容

第1回　PowerPoint: review of the Kisoron course
第2回　PowerPoint: advanced traslation strategy
第3回　PowerPoint: translation dangers and traps
第4回　PowerPoint: using a thesaurus
第5回　Community translation excercise 1
第6回　Community translation excercise 2
第7回　Literary translation excercise 1
第8回　Literary translation excercise 2
第9回　Techincal translation excercise 1
第10回　Techinical translation excercise 2
第11回　Tourist translation excercise 1
第12回　Tourist translation excercise 2
第13回　PBL projects 1
第14回　PBL projects 2
第15回　PBL projects student presentations

履修上の注意点

Students should take the 翻訳基礎論 course before they take the 翻訳研究 course.

教科書

参考書

P. Newmark
著者:　A Textbook of Translation
出版社: Prentice Hall
出版年: 1988　　ISBN:　9780139-125935

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 30 ）

Students will have a short translation assignment to be handed in towards their final grade as well as a PowerPoint presentation on a PBL project of their choice.

2018 Syllabus

科 目 名　**地域文化研究Ⅱ〈Z〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　アンガス, ノーマン	

テーマ

イギリス文化の概論

授業の到達目標

さまざまな時代とさまざまな側面からイギリスという複雑な国家に関する基礎知識（地理、歴史、政治、教育、国民の特徴、日常生活や風俗習慣、国が抱えている問題など）についての理解を深めることを目指す。これにより、受講生は異文化理解や多文化コミュニケーション能力を向上させることをめざす。

授業の概要

イギリスの過去と現在の正確な情報を幅広く得るために、テーマごとに講義で解説をする。また、イギリスのさまざまな側面を幅広く考察することによって、イギリスが世界に与えた影響と他地域との関わりについても考える。クラスでは、PBL学習、学生によるグループプレゼンテーションも取り入れて、学生が海外実習先の地域に対して関心を持つ手助けを行う。授業は英語で行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　イギリスの地名と地理 — 日本との比較
第2回　イギリスの歴史、その1 — 古代から中世
第3回　イギリスの歴史、その2 — ルネサンスから現代
第4回　国家と王室との関係 — 王室の人気と危機
第5回　イギリスとEUとの関係 — Brexit:イギリスはEUから脱出するのか
第6回　国民の食生活
第7回　お祭り
第8回　古きアイルランド問題 — テロリズムについて考える
第9回　教育制度の全体と大学生活 — 日本との比較
第10回　スコットランド：その独自な文化と独立運動
第11回　ウェールズ：言語の復活と経済発展
第12回　イギリスの福祉制度 — 北欧との差
第13回　多民族・多文化社会とそれに伴うさまざまな問題点
第14回　ロンドン — オリンピック、劇場、観光、プレミアリーグ、美術館と博物館
第15回　学生のPBLクループプレゼンテーション

履修上の注意点

教科書

参考書

In Britain
著者：　M. Vaughan-Rees et. al. Macmillan
出版社：　LanguageHouse
出版年：　　ISBN：

An Illustrated History of Britain
著者：　D. McDowall
出版社：　Longman
出版年：　　ISBN：

The Oxford Illustrated History of Ireland
著者：　ed. R. F. Foster
出版社：　OUP
出版年：　　ISBN：

a30202a750

A History of Scotland
著者： J. D. Mackie
出版社： Pelican
出版年： ISBN：

A History of Wales
著者： J. Davies
出版社： Penguin
出版年： ISBN：

British Society Since 1945
著者： A. Marwick
出版社： Penguin
出版年： ISBN：

現代のイギリスの基礎知識
著者： 小野 修
出版社： 明石書店
出版年： ISBN：

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**英米文学論Ⅱ〈Z〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　浅井　雅志	

テーマ

近現代の短編を読む

授業の到達目標

英米の近現代の短編を読むことを通して、文学の面白さを感じると同時に、背景となっている文化についての理解を深める。

授業の概要

近現代の代表的な短編を読みながら、文学がどのように人間と生への理解を広げ、深めるかを経験してほしい。また、作品の背景となっている文化について知ることをとおして、それぞれの文化圏の諸側面にも理解を広げることを目指したい。
　具体的には、作品ごとに担当者を決め、レジュメを作って発表する。教員が必要な説明を加えた後、内容について議論する。また、期末にはペイパーを提出する。書き方については授業で指導する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

その回にやる作品は必ず読んでくること。そうしないと、その時間に議論されていることがまったく分からず、時間もエネルギーも無駄になる。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　Guy de Maupassant
第3回　Katherine Mansfield
第4回　O.Henry
第5回　E.M.Forster
第6回　D.H.Lawrence (1)
第7回　D.H.Lawrence (2)
第8回　D.H.Lawrence (3)
第9回　Franz Kafka(1)
第10回　Franz Kafka (2)
第11回　Virginia Woolf
第12回　E.Hemingway
第13回　James Joyce
第14回　S.Maugham
第15回　総括。ペイパー提出

履修上の注意点

読む英文の分量が多く、積極的な参加が求められるので、相当の覚悟のある人の受講を期待している。 欠席が6回以上になると単位は認められない。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（（ペイパー）50）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（30）
参加度（20）	

毎回どの程度読んできたか、また議論への参加度を重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅰ（英）<Z>

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾊﾞｽｶｳﾞｨﾙ, ﾌﾞﾗｲｱﾝ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic listening skills
・Improve their conversation ability due to improved listening skills
・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）
・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding English involving listening activities on various topics of daily life. ・Conversation activities for expressing oneself in English in relation to these topics and for applying improved listening skills.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation
第2回　Unit 1
第3回　Unit 2
第4回　Unit 3
第5回　Unit 4
第6回　Unit 5
第7回　Unit 6
第8回　Review
第9回　Unit 7
第10回　Unit 8
第11回　Unit 9
第12回　Unit 10
第13回　Unit 11
第14回　Unit 12
第15回　Review

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

To be decided
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅱ（英）<Z>

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　宮崎　裕二	

テーマ

リーディングの能力を伸ばすために、英字新聞や英字報告書、英字雑誌などを読み、わかりやすい日本語で説明したり、書かれている内容についてペアやグループでディスカッションします。

授業の到達目標

1. 一般教養人向けのアカデミックな英文を、スピーディーに 読む力を身につけることができる。
2. 英文で書かれた報告書の基礎的な構成を学ぶことができる。
3. 理解した内容につき、他人に要点を論理的に伝えることができる。

授業の概要

企業・組織においては、社内用語を英語に指定することが増え、英字新聞や、英文の報告書や統計資料など、大量の英文を読むことが継続的に要求される。この授業では、英文のリーディングの基礎力の養成と、アカデミックな英文の構成や図表の見方を学習することを目的とする。受講者は、担当箇所の要点のレジメを作成し、要点を論理的に日本語で発表することが要求求される。授業は、以下を予定しているが、受入人数や、受講生の理解度等に応じて弾力的に変更する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各回の授業開始前には、前授業について小テストを課し、内容理解・習得度を問う。復習として、授業で学修したことを振り返り、語彙など整理しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　イギリス
第3回　イギリスと観光
第4回　観光の重要性
第5回　世界の旅行者
第6回　世界遺産
第7回　代表的な街
第8回　博物館＆美術館
第9回　フード＆ドリンク
第10回　スポーツ
第11回　英国王室
第12回　オリンピック
第13回　舞台芸術
第14回　音楽
第15回　映画

履修上の注意点

5回以上欠席した場合、単位は認められない。10分以上の遅刻で欠席扱いとする。正当な理由がある場合は、教員に相談すること。他の受講生に迷惑をかけると思われる行為（授業と直接関係のない私語等）、クラス全体の士気に影響を及ぼすと考えられる行為（授業中の食事や授業と直接関係のない私的な作業や居眠り等）は、禁止する。注意されたにもかかわらず、改善が見られない場合は、退出を命じ、欠席扱いとする。追試は一切実施しない。

教科書

初回の授業で教材を配布する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 10 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 30 ）

参加度は、授業への参加態度や回答・発表への積極性を鑑みて、総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　English CommunicationⅢ（英）<Z>

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾊﾞｽｶｳﾞｨﾙ, ﾌﾞﾗｲｱﾝ	

テーマ

Writing and communicating about Japan for an international audience

授業の到達目標

This course will aim to improve English writing skills and encourage an understanding of cultural features of Japan, through research, writing and discussion about various topics.

授業の概要

The course will be conducted entirely in English. Students will research, reflect and write short essays and also do a final presentation based on their writing.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Students must do some research and writing outside of class.

内　容

第1回　Course introduction/orientation
第2回　Preparation for Writing 1 (simple listing)
第3回　Writing 1
第4回　Revision of Writing 1 Preparation for Writing 2 (order of importance)
第5回　Writing 2
第6回　Revision of Writing 2 Preparation for Writing 3 (descriptive/layout)
第7回　Writing 3
第8回　Revision of Writing 3 Preparation for Writing 4 (comparison)
第9回　Writing 4
第10回　Revision of Writing 4 Preparation for Writing 5 (persuasive)
第11回　Writing 5
第12回　Revision of Writing 5 How to give an effective presentation
第13回　Preparation of final presentation
第14回　Giving final presentation in class
第15回　Presentations, final discussion/review and evaluations

履修上の注意点

To pass the course, you must attend at least 11 classes. In addition, students must complete 5 writing tasks, and conduct a final Power Point presentation based on these tasks.

教科書

参考書

materials provided by teacher and students
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　English CommunicationⅣ（英）<Z>

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾌｧｾﾞｶｼｭ, ﾊﾞﾗｰｼﾞｭ	

テーマ

自分の考え方を英語で表現し、プレゼンテーションする能力の養成

授業の到達目標

グローバル化の進む日本社会で求められている「英語で考えをまとめ、それを発表するプレゼンテーションスキル」を持つ人材の育成を目指します。

授業の概要

プレゼンテーションの基礎を復習し、英語での発表能力を磨きます。より豊かなプレゼンテーションができあがるために、3段階にわけてプレゼンテーションを練習していきます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　学生による発表　第一段階
第3回　学生による発表　第一段階
第4回　学生による発表　第一段階
第5回　プレゼンテーションスキル　パワーポイントとその他基礎知識
第6回　プレゼンテーションスキル　はじめ方・終わらせ方・展開
第7回　学生による発表　第二段階
第8回　学生による発表　第二段階
第9回　学生による発表　第二段階
第10回 プレゼンテーションスキル　表・図・写真・グラフの説明
第11回 プレゼンテーションスキル　クイッズ、質問、しぐさ、発音
第12回 学生による発表　第三段階
第13回 学生による発表　第三段階
第14回 学生による発表　第三段階
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**地域文化研究Ⅰ〈Z〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森　純一	

テーマ

英語圏を中心とするグローバルな地域研究

授業の到達目標

1）世界の英語圏の歴史や文化に興味を持ち語れるようになる。
2）また他の言語地域との比較を通じてグローバルな視点を持てるようになる。
3）欧米人の後追いではない国際英語の習得の意義を考え、自ら積極的に学ぶことができる。

授業の概要

1）グローバリゼーションの広がりを学び、その中心となっている米国や英国の歴史文化を学び、国際語となった理由を考える。
2）米国・英国とドイツなど欧州大陸諸国の文化的な相違点を考える。
3）アジア・アフリカの英語圏（インド・フィリピン・シンガポール・香港・南アフリカなど）の歴史と現状、将来を展望する。
4）ドイツ・日本など非英語圏の対応と国際語としての英語の意義を考える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業ではできるだけ双方向の授業を進めます。そのため予め授業前に読むべき資料を配付あるいは指示するので、事前の準備を心がけて下さい。

内　容

第1回　講義紹介
第2回　グローバリゼーションの進展と英語の役割
第3回　英国の文化（英国におけるドラムを中心に）
第4回　英国とドイツの相克（両国の文化比較、Brexitとは）
第5回　米国の歴史と文化（プラグマティズムの伝統）
第6回　米国の政治と経済（二極化する米国）
第7回　米国の影響力とその限界（トランプ大統領と中国）
第8回　オーストラリア（白豪主義から人種の坩堝へ）
第9回　ニュージーランド（人口が増減する不思議な国）
第10回 アジア・アフリカの英語圏（インドその1）
第11回 アジア・アフリカの英語圏（インドその2）
第12回 アジア・アフリカの英語圏（マレーシア・シンガポール・香港）
第13回 アジア・アフリカの英語圏（南アフリカ）
第14回 非英語圏諸国の対応（ドイツ・中国・韓国・日本）
第15回 英語の将来（我々が英語を学ぶ意義）

履修上の注意点

学生に自分の意見を述べる機会を数多く作りたいと考えています。人を気にせず、時にアレッと思うような意見を述べることも必要です。

教科書

国際共通語としての英語
著者：　鳥飼玖美子
出版社：講談社現代新書
出版年：2011　　ISBN：4062881047

参考書

世界における英語の地位
著者：　八田洋子
出版社：文教大学「文学部」紀要
出版年：第14－2号　　ISBN：

Histroy:British Hisotry in 50 Events
著者：　Weber, James
出版社：Amazon Service International
出版年：2016　　ISBN：1517777992

a30202d150

Shakespeare's Comedies: A very short introduction
著者： Van Es. Bart
出版社： Oxford University Press
出版年： 2016　　ISBN： 0198723350

United States History for Beginners
著者： Safavi, Aidin
出版社： Amazon Service International （kindle）
出版年：　　ISBN： B0114TLRJS

プラグマティズム
著者： James、Williams
出版社： 岩波文庫
出版年： 1957　　ISBN： 4003364015

マハトマ・ガンジー自伝
著者： マハトマ・ガンジー
出版社： 中央公論新社
出版年： 2004　　ISBN： 4122043301

ヒンズー教と仏教
著者： マックス・ウェーバー
出版社： 東洋経済新報社
出版年： 2002　　ISBN： 4492370951

プラグマティズム入門
著者： 伊藤邦武
出版社： 筑摩書房
出版年： 2016　　ISBN： 4480068708

成績評価

試験・レポート （ 70 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 15 ）　　授業中発表等 （ 15 ）
参加度 （ ）
提出レポートやプレゼンテーションも評価の対象となります。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語学 <Z>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　北林　利治	

テーマ

英語という言語について、歴史的、構造的、社会的な観点からその特徴を分析する。講義では、英語学の分野全般を扱い、英語学の基礎的な知識を獲得し、英語学の用語にも慣れ親しむことができるようにする。

授業の到達目標

①英語学全般の分野において基本的知識を身につける、②英語学の観点から英語という言語の特徴を理解する。

授業の概要

国際的なコミュニケーションの手段として広く用いられ、地球語ともよばれる英語とはどんな言語かという問題を、英語学のさまざまな観点から考察する。具体的には、英語発音の仕組み、語・文の構造、語・文の意味、英語語用論などを扱う。また、英語の歴史を振り返りながら、社会的・地理的変種における発音・語彙の違いなども講義する。講義ではわれわれが外国語として英語を学んでいるという観点から、第二言語習得についても触れる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　導入、英語学とは、地球語としての英語の実態
第2回　英語の歴史（古英語から中英語へ）
第3回　英語の歴史（中英語から近代英語へ）
第4回　アメリカ英語とその他の英語の変種
第5回　地球語としての英語の広がり、英語の将来
第6回　英語の音声・発音（1）（英語の母音、子音、音節）
第7回　英語の音声・発音（2）（強勢、リズム、イントネーション、音変化）
第8回　英語形態論（英語の語彙、単語の構造、造語法）
第9回　英語統語論（英語の文法の特徴、その仕組み）
第10回　英語統語論（代表的な文法理論と分析方法）
第11回　英語意味論（単語の意味、文の意味）
第12回　英語語用論（直示、前提、発話行為、会話の含意）
第13回　英語の社会的方言（階級方言、黒人英語、英語と性差、英語の丁寧表現）
第14回　英語の習得（第2言語習得、外国語としての英語）
第15回　まとめと総括

履修上の注意点

教科書

プリントを配布します
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

現代英語学へのアプローチ
著者:　山内信幸・北林利治
出版社:　英宝社
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 50% ）	小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ 30% ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英米文学論Ⅰ〈Z〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　アンガス, ノーマン	

テーマ

体験型のイギリス文学

授業の到達目標

さまざまの時代や形態の文学作品に触れることにより、その時代の社会、問題、文化（地域文化を含む）、生活の知識を高めることにより、複雑な国家であるイギリス全体に対する正確な認識や感覚を身に着けることをめざす。講義と参加型の学びにより、受講生の知識のみならず、発音、購読力、文学作品の鑑賞力の向上を更なる目標とする。

授業の概要

第1回、2回の英文学の入門となる基礎知識の講義とその練習に続いて、中世から現代まで亘る作品を幅広く取り上げ、それぞれの作品やジャンルについて学ぶ。その後、作品を音読したり、歌ったり、文学的および言語的な分析を行ったり、ときには作品に取り上げている問題についてディスカッションを行う。受講生の英語の4技能を向上させる「参加型」の学びを通して、英文学を「体験できる」授業となっている。この授業は英語で行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　英文学を読むための古代および中世英語や文語体の紹介とその練習
第2回　英詩を鑑賞するための基礎知識：「律」、「韻」、「連」や「節」などについての作詩学入門
第3回　チョーサーの『カンタベリー物語』を通す中世イギリスの社会と職業
第4回　シェークスピア作「ソネット97」の作詩学分析と詩の鑑賞や朗読
第5回　シェークスピア作「マクベス」をめぐるイングランドとスコットランドの複雑な王室事情とモノローグの音読
第6回　ミルトンの「失楽園」とその背景にある宗教派閥の問題とディスカッション
第7回　方言文学に触れる—ロバートバーンズの「蛍の光」の原作を歌い、標準英語に訳す
第8回　18世紀の社会を批判する風刺作家ジョナサンスイフトと『ガリバー旅行記』
第9回　啓蒙時代の散文を読む—ジェームズボズウェルの『ジョンソンの伝記』
第10回　産業革命が生んだイギリスの格差社会—チャールズディケンズ作『オリバー』
第11回　同性愛者で反戦詩人オーデンの亡命と文学活動—「すべての時計を止めよう」を読む
第12回　シェイマスヒーニーの詩「罰」と「連合法」から学ぶ古きアイルランド問題やディスカッション
第13回　現代人間の問題を考える—サミュエルベケット作の現代劇『行ったり来たり』を上演する
第14回　拡大する現在イギリスの「自治権」—エドウィンモーガンの「投票後」を中心に独立と関連する作品を読む
第15回　学生発表と評価

履修上の注意点

教科書

毎回プリントを配布する。パワーポイントを提供する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

イギリス文学史入門
著者:　川崎寿彦著
出版社:　研究社出版
出版年:　　ISBN:

イギリス小説入門
著者:　川口橋一著
出版社:　研究社出版
出版年:　　ISBN:

英詩鑑賞入門
著者:　新井明著
出版社:　研究社出版
出版年:　　ISBN:

a30202d310

The Penguin Guide to English Literature

著者： ed. Ronald Carter and John Mcrae

出版社： Penguin

出版年： ISBN：

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　授業中発表等（ 30 ）

参加度 （ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**音声学 <Z>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　北林　利治	

テーマ

英語音声学への招待

授業の到達目標

(1)英語の発音方法について学びながら、音声学の基礎知識を獲得すること。
(2)英語の音声を聞き分けたり、ただしく発音できるようになること。
(3)日本語と英語の発音の仕方の違いを理解すること。

授業の概要

言語をコミュニケーションの手段として考えた場合、音声が言語において重要であることはいうまでもない。本来、息をしたり、食物をとったりするための器官である口、気管などをことばを発する道具としてどのように使うのか、唇や舌をどうコントロールして音を発するのかを解明するのが音声学の仕事である。このクラスでは、英語と日本語とを比較しながら、英語の発音の特徴について考えていきたい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

発音の練習は、クラス以外でも行なってもらう。練習問題を与えるので、各自で練習をすること。練習のための有益なウエブサイトがたくさんある。クラスで紹介するのでクラス外で練習をすること。

内　容

第1回　音声学とは
第2回　英語における母音①
第3回　英語における母音②
第4回　英語における母音③
第5回　英語における子音①
第6回　英語における子音②
第7回　英語における子音③
第8回　音節と強勢、文強勢
第9回　ポーズ、ピッチとイントネーション
第10回 音のつながり（連結）
第11回 音のつながり（同化）
第12回 いろいろな文におけるイントネーション
第13回 いろいろな文における強勢
第14回 日本語と英語の音声面での比較
第15回 まとめ

履修上の注意点

5回以上の欠席がある場合は、いかなる理由があっても単位の認定はできません。

教科書

Sounds Make Perfect 英語音声学への扉―発音とリスニングを中心に―
著者:　今井由美子・井上球美子・井上聖子・大塚朝美・高谷華・上田洋子・米田信子
出版社:　英宝社
出版年:　2010　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）	小テスト （ 80% ）
授業中課題 （ 10% ）	授業中発表等 （ 0% ）
参加度 （ 10% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**翻訳基礎論 <Z>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　アンガス, ノーマン	

テーマ

An Introduction to Translation Practice, Strategies and Theory

授業の到達目標

(1) To increase the students' awareness about languages and their various characters
(2) To provide them with knowledge about the different types of
translation
(3) To equip them strategies to help them translate between
English and Japanese successfully.
This class will be taught in English.

授業の概要

This course is intended as a practical introduction to those interested in language in general, and in the practice of translating from one language to another in particular. We will take an initial look at the linguistic differences between different languages, but between Japanese and English in particular. Then we will look at the translation process itself, touch on a little translation theory, and then look at different kinds of translation. In the central section of the course, we will translate a number of so-called 'simple' English texts, analyze them for the problems they display, and look at various strategies for solving them. Finally, we will undertake the translation of a short set text.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

I have a wide range of translation texts and excercises that can be made available for students who wish to practice the strategies taught in class, and a wide variety of books on the subject of translation. But since the content of this course is more techinical than students will have so far experienced, it is vital that all students go over the class handouts from the previous week, and are familiar with the specialist content thereafter. This will require 40-60 minutes per week.

内　容

第1回　PowerPoint: the world's languages, language families and a comparison of the Japanese and English languages
第2回　PowerPoint: different types of translation
第3回　PowerPoint: the translation process
第4回　PowerPoint: introduction to translation theory
第5回　Two Basic Translation Strategies: modulation and transposition
第6回　Other Basic Translation Strategies
第7回　Prioritization, Voice and Unity
第8回　Textual Analysis
第9回　How to Use Dictionaries, the Thesaurus, the Internet, and Other Translation Resources; and their Dangers
第10回　Translation of a Non-literary Text
第11回　Translation of a Literary Text
第12回　Advanced Translation Strategies: general
第13回　Advanced Translation Strategies: componential analysis
第14回　Translation of a Set Text
第15回　Final Discussion and Evaluation

履修上の注意点

Students should take this course before they take the 翻訳研究 course.

教科書

参考書

P. Newmark
著者:　A Textbook of Translation
出版社:　Prentice Hall
出版年:　1988　　ISBN:　9780139-125935

M. Baker
著者:　In Other Words
出版社:　Routledge
出版年:　2001　　ISBN:　9780415-46754-4

a30202d610

B. and J. Munday Hatim

著者： Translation

出版社： Routledge

出版年： 2004 ISBN： 9780415-28306-9

成績評価

試験・レポート （ 40 ） 小テスト （ ）

授業中課題 （ 30 ） 授業中発表等 （ ）

参加度 （ 30 ）

Students will have a short translation assignment to be handed in towards their final grade as well as an 'unseen' translation test.

2018 Syllabus

科 目 名　International Business English <Z>

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森　純一	

テーマ

将来のビジネスを展望しての英語学習法を学ぶ

授業の到達目標

1)現代のビジネスのための英文での手紙やE-mailの基本的な書き方ができるようになる。
2)ビジネスに必要な基礎的会話やプレゼンテーションの仕方を分かるようになる。
3)ビジネスに必要な英語の上達法を工夫できるようになる。

授業の概要

英語でのコミュニケーションは多くの人々にとって避けることができないものとなっています。この授業では、具体的なビジネスシーンを想定して、ビジネスに必要な英語の基礎を学ぶと同時に、インターネットなどさまざまなメディアを使って英語を学習する工夫を学びます。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業ではできるだけ双方向の授業を進めます。そのため予め授業前にインターネットの英語ビデオなどを見てくるように指示します。また毎回、参加者には短い文章の暗記を求めます。

内　容

第1回　グローバリゼーションの進展と英語の役割
第2回　インターネットやTVで学ぶ英語
第3回　ビジネスとコミュニケーション
第4回　英文レター
第5回　英文レター演習
第6回　E-mail
第7回　E-MAIL演習
第8回　ビジネス英会話
第9回　英語でのプレゼンテーション(1)
第10回　英語でのプレゼンテーション(2)
第11回　貿易取引の英語
第12回　金融取引の英語
第13回　ツーリズムの英語
第14回　世界の英語
第15回　英語をどう学ぶ　ー　英語は大いに間違えよう

履修上の注意点

語学上達のコツは間違えてもよいので大いに声を出すことです。失敗することが大事です。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

国際共通語としての英語
著者:　鳥飼玖美子
出版社:　講談社現代新書
出版年:　2011　　ISBN:　4062881047

世界における英語の地位
著者:　八田洋子
出版社:　文教大学文学部紀要
出版年:　第14ー2号　　ISBN:

a30202d810

TED Talks

著者： Anderson, Chris

出版社： Headline Publishing Group

出版年： 2016 ISBN： 978-1-472244444

成績評価

試験・レポート（ 60% ） 小テスト（ 20% ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ 20% ）

参加度（ ）

授業では色々な課題が出ます。出席を前提に授業を進めていきます。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語教育論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中井　弘一	

テーマ

日本の英語教育に関する基礎知識

授業の到達目標

・教職科目履修を通した学びと教育実習等で得られた教科指導力や生徒指導力の実践との統合を図る
・使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的指導力を有する教員としての資質を構築する

授業の概要

グローバル化の進展と共に英語教育の充実が一層求められる中、我が国の英語教育施策、児童生徒の英語学習に関する状況、生徒・教員の英語力の現状、諸外国における外国語教育の状況、英語教育における国際理解教育、母語習得と第二言語習得などの言語学習指導理論等、幅広いテーマを取り上げ、英語教育はどうあるべきか、日本における英語教育全般についての理解を、発表活動を通したりして深める。なお、本科目は小学校英語指導者資格科目(J-S H INE認定)になっている。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

受講者にテーマに沿ったプレゼンテーションを行ってもらう。各テーマからひとつ選んでアカデミック・リポートを提出してもらう。

内　容

第7回　コミュニケーションとしての英語教育
第8回　語彙指導のあり方
第9回　発音指導のあり方
第10回　文法指導のあり方
第11回　「読むこと」の指導のあり方
第12回　「書くことの指導」のあり方
第13回　主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)とは
第14回　まとめ1討論:何のための英語教育なのか
第15回　まとめ2発表:英語教育の未来
第1回　日本における英語教育の概観(幕末から現在に至るまで)
第2回　グローバル人材とは　英語が使える日本人とは
第3回　21世紀に求められる英語教育　中央教育審議会の答申
第4回　次期学習指導要領がめざす英語教育(小学校・中学校学習指導要領比較)
第5回　児童生徒の英語学習に関する状況(意識・学習時間等)　教員の英語力
第6回　英語教育における国際理解教育・異文化理解トレーニング

履修上の注意点

遅刻3回で1回欠席と見なす

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本の英語教育
著者:　山田雄一郎
出版社:　岩波新書
出版年:　2005　　ISBN:

「なんで英語やるの?」の戦後史《国民教育》としての英語、その伝統の成立過程
著者:　寺沢拓敬
出版社:　研究社
出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 30% ）

a30202d910

参加度 （ 20% ）
レポート 50%
課題発表 30%
発言貢献度 20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅰ〈＊A〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB（全48単位）のうち30単位 以上を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　佐久間 浩司	

テーマ

Aquiring a high capability of communication and logical thinking both in English and Japanese

授業の到達目標

Learning English or Japanese or any language means after all learning logic. Having it in mind, you are expected to aquire a solid power of logical thinking and logical speaking.

授業の概要

We will read texts of various sources in a real world such as business magazines or news articles and discuss them in a class. Texts are English but discussion is in Japanese.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

You are all required to read the text prior to a class. Those who presents the contents of text should prepare a presentation handout or a resume boforehand.

内　容

第1回　Introduction: Explanation about the whole course and model presentation by teachers
第2回　Presentation and discussion 1 研究倫理教育実施
第3回　Presentation and discussion 2
第4回　Presentation and discussion 3
第5回　Presentation and discussion 4
第6回　Short test on the contents from 2th to 5th classes.
第7回　Presentation and discussion 5
第8回　Presentation and discussion 6
第9回　Presentation and discussion 7
第10回　Presentation and discussion 8
第11回　Short test on the contents from 5th to 8th classes.
第12回　Presentation and discussion 9
第13回　Presentation and discussion 10
第14回　Presentation and discussion 11
第15回　Short test on the contents from 9th to 11th classes.

履修上の注意点

Chatting, using smartphone, late arrival and other inappropriate behavior in the class should be considered seriously in the evaluation. It might cause you to lose the credit of the course.

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度 （ 30 ）

Chatting, using smartphone, late arrival and other inappropriate behavior in the class should be considered seriously in the evaluation. It might cause you to lose the credit of the course.

2018 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅰ〈＊B〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB（全48単位）のうち30単位 以上を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　中井 弘一	

テーマ

中等教育における効果的な英語授業実践のあり方と指導方法を探る

授業の到達目標

・生徒の学びを促すには教材・学習材をいかに展開するべきかを考える視点を身につける ・様々な教材の内容面と文法語彙の機能面の取り扱いに基づいた、「思考力・判断力・表現力」をつける授業展開例の作成とそのための実践的な指導技術の基礎力を身につける ・将来の英語教員としての資質能力として、教材開発力、授業デザイン力、学習課題調査など授業改善に取り組む学究的な姿勢と課題整理能力を身につける

授業の概要

・着実な英語力による教材の深い読み込み・理解が授業展開を豊かにするという理論をもとに、教材・教具をどのように準備し指導展開することが効果的な「習得」「活用」「探究」につながるのか、そのための授業のデザイン・展開法を身につける実践的な演習を行う ・実践的な調査活動、文献研究を通して、「教材開発研究」「指導と効果」「授業デザイン」など、各自のテーマに合わせた研究活動を論文としてまとめる素地を固める

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

教育時事情報を収集する

内　容

第1回　実践英語授業学としてのテーマのあり方(オリエンテーション) ・学習者から見た英語教育：生徒が学びたいと思っているものはなにか ①研究倫理について
第2回　授業展開を豊かにするための基本的な授業設計のあり方
第3回　生徒の英語力を踏まえた語彙指導・文法指導：意欲を起こさせる工夫・方法
第4回　教材の読み込み演習（1）：内容理解に重点を置いた（補助）教材作成と指導法
第5回　教材の読み込み演習（2）：文法語彙に重点を置いた（補助）教材作成と指導法
第6回　指導技術の理論と実践（1）：教材・教具（黒板・ピクチャーカード・フラッシュカード等）の活用
第7回　指導技術の理論と実践（2）：学習プリントの功罪・どのような内容にするのがよいか
第8回　指導技術の理論と実践（3）：音声による指導（音読・オーラルイントロダクション等）
第9回　授業デザイン（1）：「活用」に重点を置いた授業展開の工夫・教材作成
第10回　授業デザイン（2）：「活用」に重点を置いた授業展開の模擬訓練と研究討議
第11回　授業デザイン（3）：「探究」に重点を置いた授業展開の工夫・教材作成
第12回　授業デザイン（4）：「探究」に重点を置いた授業展開の模擬訓練と研究協議
第13回　SELHi 研究開発校や研究指定校における授業展開の実際
第14回　授業診断の方法：アクションリサーチ、レビュー
第15回　まとめ

履修上の注意点

遅刻3回で一回の欠席と見なす。

教科書

JACET教育問題研究会
著者：『行動志向の英語科教育の基礎と実践』
出版社：三修社
出版年：2017　　ISBN：

参考書

新しい英語科授業の実践
著者：石田雅近
出版社：金星堂
出版年：2013　　ISBN：

a30203a112

英語授業ハンドブック＜中学校編＞

著者: 金谷憲

出版社: 大修館書店

出版年: 2009 ISBN:

英語授業ハンドブック＜高校編＞

著者: 金谷憲

出版社: 大修館書店

出版年: 2009 ISBN:

評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校 外国語

著者: 国立教育政策研究所教育課程研究センター

出版社: 教育出版

出版年: 2012 ISBN:

グローバル時代の英語教育―新しい英語科教育法

著者: 飯野厚

出版社: 成美堂

出版年: 2011 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50% ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ 30% ）

参加度（ 20% ）

学生各自がテーマを設定し、それに基づいてA4、5ページ以上6ページまで40字×37行 ワード文書のレポートを提出 50%
授業中の課題プレゼンテーション発表30%
討論への積極的な参加20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅰ〈＊C〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB（全48単位）のうち30単位 以上を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　宮崎　裕二	

テーマ

グローバルな視点で国際観光を検討しながら、卒論作成に向けた準備を行う

授業の到達目標

1. 日本を含め世界各国の国際観光の現状やマーケティング戦略を含めた国際観光ビジネスの動向、国際観光政策のあり方などについて学び、国際観光研究の基礎を身につけることができる。
2. 国際観光に密接に関わる政治、外交、政策、経済、経営、マーケティング、多文化理解など幅広い領域に関心をもつことができる。
3. 卒論の書き方の基礎知識を身につけることができる。

授業の概要

経済のグローバル化が進み、国際観光は、脱工業化した成熟経済に所得をもたらす手段として、日本だけではなく、世界の国・地域でも注目されている。それと同時に、グローバルな競争が激化する中で、国家による国際観光客の獲得競争も熾烈化している。本授業は、受講生が、卒論の書き方の基礎を学びながら、日本を含め世界各国の国際観光の現状やマーケティング戦略を含めた国際観光ビジネスの動向、国際観光政策のあり方などについて学び、国際観光研究の基礎を身につけながら、卒論テーマのきっかけをみつけることを目的とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

1. 日本に限らず、世界の観光に関連するニュースや情報など積極的に収集し、他の受講生に報告できるように記録しておくこと。
2. 自分の興味・関心領域の図書や雑誌等を読み、卒論作成で役立つように、読書レポートを作成しておくこと。
3. 相談、質問等は個別に対応する。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文の書き方－研究倫理について
第3回　卒業論文の書き方
第4回　卒業論文の書き方
第5回　受講生による発表、クラスでの討論（1）
第6回　受講生による発表、クラスでの討論（2）
第7回　受講生による発表、クラスでの討論（3）
第8回　受講生による発表、クラスでの討論（4）
第9回　受講生による発表、クラスでの討論（5）
第10回　受講生による発表、クラスでの討論（6）
第11回　受講生による発表、クラスでの討論（7）
第12回　受講生による発表、クラスでの討論（8）
第13回　受講生による発表、クラスでの討論（9）
第14回　受講生による発表、クラスでの討論（10）
第15回　受講生による発表、クラスでの討論（11）

履修上の注意点

5回以上欠席した場合、単位は認められない。10分以上の遅刻で欠席扱いとする。正当な理由がある場合は、教員に相談すること。他の受講生に迷惑をかけると思われる行為（授業と直接関係のない私語等）、クラス全体の士気に影響を及ぼすと考えられる行為（授業中の食事や授業と直接関係のない私的な作業や居眠り等）は、禁止する。注意されたにもかかわらず、改善が見られない場合は、退出を命じ、欠席扱いとする。

教科書

「レポート・論文の書き方入門」
著者:　河野哲也
出版社:　慶応義塾大学出版会
出版年:　2002　　ISBN:　4766409698

a30203a113

新版観光マーケティング入門

著者: 森下晶美

出版社: 同友館

出版年: 2016.9　　ISBN: 9784496052064

参考書

観光白書

著者:

出版社: 国土交通省観光庁

出版年: 2017　　ISBN:

JTBレポート日本人海外旅行のすべて

著者:

出版社: 株式会社JTB総合研究所

出版年: 2017　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 50 ）

参加度 （ 30 ）

ゼミにおいては、学生が主体的に学習し、積極的に授業に参加することが重要だと考える。したがって、授業中発表等（授業中における発言、発表、態度等）が50%の成績評価を占めている。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅰ〈＊D〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB（全48単位）のうち30単位 以上を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　アンガス, ノーマン	

テーマ

Seminar in Translation

授業の到達目標

1. To reinforce the translation strategies previously learned
2. To develop a linguistic flexibilty of mind
3. To develop advanced English language skills and vocabulary
4. To give students the opportunity to make academic presentations

授業の概要

In this seminar, we will revise and reinforce the various translation strategies covered in the Basic Theory of Translation class, so that students are completely familiar with them. Then we will cover a number of different text translations before students are given translation assignments, which they will then present in class. This class will be taught in English.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Reading general introductory materials on translation and translation studies. Much of the class time will be student centred. As such, students should have thoroughly researched the content of their work beforehand, and be able to present it with confidence in class. They will be expected to review and polish their work after class using the feedback they receive from other students and the teacher. A minimum of 3 hours per week will be required to produce quality work in preparation for the graduation thesis the following year. Involvement in community projects could also be highly time consuming: for example, producing free materials, or adding to the planned community translation homepage. It is hoped that students will give generously of their time to these departmental projects.

内　容

第1回　Introduction 1: Academic Ethics and Comparing the English and Japanese languages & discussion
第2回　Introduction 2: Two basic translation strategies with examples & discussion
第3回　Introduction 3: More translation strategies with examples & discussion
第4回　Introduction 4: Advanced translation strategies with examples & discussion
第5回　Translation of a short prose text (1)
第6回　Translation of a short prose text (2)
第7回　Translation of a pamphlet (1)
第8回　Translation of a pamphlet (2)
第9回　Translation of a cultural text (1)
第10回　Translation of a cultural text (2)
第11回　Translation of a short story (1)
第12回　Translation of a short story (2)
第13回　Student presentations (1)
第14回　Student presentations (2)
第15回　Final Discussion and Conclusions

履修上の注意点

教科書

参考書

翻訳の基礎
著者:　宮脇　孝雄
出版社:　研究社出版
出版年:　2000　　ISBN:　9784327451417

a30203a114

A Textbook of Translation
著者： P. Newmark
出版社： Prentice Hall
出版年： 1988 ISBN： 9780139125935

In Oher Words
著者： M. Baker
出版社： Routeledge
出版年： 2011 ISBN： 9780415467543

The Translation Studies Reader
著者： L. Venuti
出版社： Routeledge
出版年： 2004 ISBN： 9780415319201

Theories of Transaltion
著者： J. Biguenet
出版社： Chicago Guides
出版年： 1992 ISBN： 9780226048710

翻訳はいかにすべきか
著者： 柳瀬 尚紀
出版社： 岩波新書
出版年： 2000 ISBN： 9784004306528

実践翻訳の技術
著者： 別宮 貞徳
出版社： ちくま学芸文庫
出版年： 2006 ISBN： 9784480090287

成績評価

試験・レポート（ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅱ〈＊A〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB（全48単位）のうち30単位 以上を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　佐久間 浩司	

テーマ

Aquiring a high capability of communication and logical thinking both in English and Japanese

授業の到達目標

Learning English or Japanese or any language means after all learning logic. Having it in mind, you are expected to aquire a solid power of logical thinking and logical speaking.

授業の概要

We will read texts of various sources in a real world such as business magazines or news articles and discuss them in a class. Texts are English but discussion is in Japanese.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

You are all required to read the text prior to a class. Those who presents the contents of text should prepare a presentation handout or a resume boforehand.

内　容

第1回　Introduction: Explanation about the whole course and model presentation by teachers
第2回　Presentation and discussion 1
第3回　Presentation and discussion 2
第4回　Presentation and discussion 3
第5回　Presentation and discussion 4
第6回　Short test on the contents from 2th to 5th classes.
第7回　Presentation and discussion 5
第8回　Presentation and discussion 6
第9回　Presentation and discussion 7
第10回　Presentation and discussion 8
第11回　Short test on the contents from 5th to 8th classes.
第12回　Presentation and discussion 9
第13回　Presentation and discussion 10
第14回　Presentation and discussion 11
第15回　Short test on the contents from 9th to 11th classes.

履修上の注意点

Chatting, using smartphone, late arrival and other inappropriate behavior in the class should be considered seriously in the evaluation. It might cause you to lose the credit of the course.

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度 （ 30 ）

Chatting, using smartphone, late arrival and other inappropriate behavior in the class should be considered seriously in the evaluation. It might cause you to lose the credit of the course.

2018 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅱ〈＊B〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　員
履修条件　2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB（全48単位）のうち30単位 以上を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　中井 弘一	

テーマ

中等教育における効果的な英語授業実践のあり方と指導方法を探る

授業の到達目標

・生徒の学びを促すには教材・学習材をいかに展開するべきかを考える視点を身につける ・様々な教材の内容面と文法語彙の機能面の取り扱いに基づいた、「思考力・判断力・表現力」をつける授業展開例の作成とそのための実践的な指導技術の基礎力を身につける ・将来の英語教員としての資質能力として、教材開発力、授業デザイン力、学習課題調査など授業改善に取り組む学究的な姿勢と課題整理能力を身につける

授業の概要

・着実な英語力による教材の深い読み込み・理解が授業展開を豊かにするという理論をもとに、教材・教具をどのように準備し指導展開することが効果的な「習得」「活用」「探究」につながるのか、そのための授業のデザイン・展開法を身につける実践的な演習を行う ・実践的な調査活動、文献研究を通して、「教材開発研究」「指導と効果」「授業デザイン」など、各自のテーマに合わせた研究活動を論文としてまとめる素地を固める

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

研究課題をしっかりと見つけること
先行研究や参考文献を調べ整理する

内　容

第1回　学びとは何か　イントロダクション 教育方法学の諸理論を概観と現代の教育の潮流　論文のまとめ方①
第2回　論文のまとめ方②
第3回　受講生による現代の教育課題検討の発表と討論第1グループ
第4回　受講生による現代の教育課題検討の発表と討論第2グループ
第5回　受講生による現代の教育課題検討の発表と討論第3グループ
第6回　受講生による研究テーマ検討の発表と討論(ブレインストーミング）第1グループ
第7回　受講生による研究テーマ検討の発表と討論(ブレインストーミング）第2グループ
第8回　受講生による研究テーマ検討の発表と討論(ブレインストーミング）第3グループ
第9回　論文のまとめ方③
第10回 受講生による研究テーマ設定の発表と討論①
第11回 受講生による研究テーマ設定の発表と討論②
第12回 受講生による研究テーマ設定の発表と討論③
第13回 受講生による研究テーマ設定の発表と討論④
第14回 受講生による研究テーマ設定の発表と討論⑤
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

Jacet教育問題研究会編
著者:　『行動志向の英語科教育の基礎と実践』
出版社:　三修社
出版年:　2017　　ISBN:

参考書

英語教育学の実証的研究法
著者:　寺内正典
出版社:　研究社
出版年:　2016　　ISBN:

a30203a252

新しい英語科授業の実践

著者: 石田雅近

出版社: 金星堂

出版年: 2013 ISBN:

英語授業ハンドブック＜中学校編＞

著者: 金谷憲

出版社: 大修館書店

出版年: 2009 ISBN:

英語授業ハンドブック＜高校編＞

著者: 金谷憲

出版社: 大修館書店

出版年: 2009 ISBN:

評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校 外国語

著者: 国立教育政策研究所教育課程研究センター

出版社: 教育出版

出版年: 2012 ISBN:

グローバル時代の英語教育―新しい英語科教育法

著者: 飯野厚

出版社: 成美堂

出版年: 2011 ISBN:

外国語教育研究ハンドブック

著者: 竹内理

出版社: 松柏社

出版年: 2014 ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 40% ） 小テスト （ ）

授業中課題 （ ） 授業中発表等 （ 40% ）

参加度 （ 20% ）

卒業論文に向け日本語で序論本論の途中当たりまでのレポート40%
授業中での各発表(3回) 40%
討論への積極的な参加 20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅱ〈＊C〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ＩA～ⅣB（全48単位）のうち30単位 以上を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　宮崎　裕二	

テーマ

グローバルな視点で国際観光を検討しながら、卒論作成に向けた準備を行う

授業の到達目標

1. 日本を含め世界各国の国際観光の現状やマーケティング戦略を含めた国際観光ビジネスの動向、国際観光政策のあり方などについて学び、国際観光研究の基礎を身につけることができる。
2. 国際観光に密接に関わる政治、外交、政策、経済、経営、マーケティング、多文化理解など幅広い領域に関心をもつことができる。
2. 卒論の書き方の基礎知識を身につけることができる。

授業の概要

授業の概要は、基本的に前期と変わらない。受講生には、先行研究の調査を継続するとともに、ゼミにおいて他の受講生と教員に成果を報告することが要求される。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

前期と同じ

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　受講生による発表、クラスでの討論（1）
第3回　受講生による発表、クラスでの討論（2）
第4回　受講生による発表、クラスでの討論（3）
第5回　受講生による発表、クラスでの討論（4）
第6回　受講生による発表、クラスでの討論（5）
第7回　受講生による発表、クラスでの討論（6）
第8回　受講生による発表、クラスでの討論（7）
第9回　受講生による発表、クラスでの討論（8）
第10回　受講生による発表、クラスでの討論（9）
第11回　受講生による発表、クラスでの討論（10）
第12回　受講生による発表、クラスでの討論（11）
第13回　受講生による発表、クラスでの討論（12）
第14回　受講生による発表、クラスでの討論（13）
第15回　受講生による発表、クラスでの討論（14）

履修上の注意点

5回以上欠席した場合、単位は認められない。10分以上の遅刻で欠席扱いとする。正当な理由がある場合は、教員に相談すること。他の受講生に迷惑をかけると思われる行為（授業と直接関係のない私語等）、クラス全体の士気に影響を及ぼすと考えられる行為（授業中の食事や授業と直接関係のない私的な作業や居眠り等）は、禁止する。注意されたにもかかわらず、改善が見られない場合は、退出を命じ、欠席扱いとする。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 30 ）	

a30203a253

ゼミにおいては、学生が主体的に学習し、積極的に授業に参加することが重要だと考える。したがって、授業中発表等（授業中における発言、発表、態度等）が50%の成績評価を占めている。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅱ〈＊D〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB（全48単位）のうち30単位 以上を修得済みであること。	クラス指定

担 当 者　アンガス, ノーマン

テーマ

Seminar in Translation within the Community

授業の到達目標

1. To introduce students to more advanced kinds of text translation and help them to be able to solve complex translation problems
2. To introduce students to different types, or modes, of translation; and some translation theory
3. To give students further opportunity to make academic presentations
4. To prepare students for writing a graduation thesis

This class will be taught in English.

授業の概要

This seminar is a continuation for the Seminar in Translation class in the previous semester. In the first set of classes we will concentrate on advanced translation techniques and highly problematic translation issues, by closely analysing a number of complex or problematic texts. Students will undertake translation projects which they will also present to the rest of the class for discussion. We will then look towards their graduation theses, which will be a piece of translation of their own choice, and they will produce a translation of part of their chosen text for final evaluation.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Reading general introductory materials on translation and translation studies. Much of the class time will be student centred. As such, students should have thoroughly researched the content of their work beforehand, and be able to present it with confidence in class. They will be expected to review and polish their work after class using the feedback they receive from other students and the teacher. A minimum of 3 hours per week will be required to produce quality work in preparation for the graduation thesis the following year. Involvement in community projects could also be highly time consuming: for example, producing free materials, or adding to the planned community translation homepage. It is hoped that students will give generously of their time to these departmental projects.

内　容

第1回　Prioritization
第2回　Vocabulary choice
第3回　Consistency
第4回　Voice
第5回　Advanced translation strategies
第6回　Complex problem solving (1): linguistic issues
第7回　Complex problem solving (2): linguistic issues
第8回　Introduction to theories of translation
第9回　Translation projects (1)
第10回　Translation projects (2)
第11回　Translation projects (3)
第12回　Translation projects (4)
第13回　Student presentations (1) & discussion
第14回　Student presentations (2) & discussion
第15回　Preparation for the graduation thesis

履修上の注意点

教科書

参考書

Same as Spring Semester

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

a30203a254

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　Critical Reading Ⅰ <a>

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　浅井 雅志	

テーマ

人類史についての英文を読むことを通して、英語読解力を伸ばし、同時に人類の歩みの概観を把握する。

授業の到達目標

ビッグバンから始まるといわれる宇宙の歴史，とりわけ地球の歴史ををたどり，人類がいかにして現在のような存在になったのかについての理解を深めたい。

授業の概要

まずテクストを音読し，内容を把握し，必要ならば教員が補足説明をします。その後，内容について議論したい。
パラグラフ・リーディングを中心とし，素早く大意把握をする能力をつけることを第1の目標とします。次にその内容に関して，自分の意見を的確にまとめて発表する力，またそれについて議論する能力も身につけて欲しい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習は必須。また、内容から刺激を受けたことについて自分で調べてください。

内　容

第1回　Introduction（授業運営，成績評価,英語学習法などについて）
第2回　Chap. 2 Mixed Response (Part 1)
第3回　Chap.3 Mixed Response (Part 2)
第4回　Chap.4 Free Reign (Part 1)
第5回　Chap.5 Free Reign (Part 2)
第6回　Chap.6 Monkey Business (Part 1)
第7回　Chap.7 Monkey Business (Part 2)
第8回　Chap.8 Monkey Business (Part 3) (1)
第9回　Chap.8 Monkey Business (Part 3) (2)
第10回　Chap.9 White Man's Race
第11回　Chap.10 Back to the Future (Part 1)
第12回　Chap.11 Back to the Future (Part 2)
第13回　Chap.12 Back to the Future (Part 3)
第14回　Chap.13 Which Way (Part 1)
第15回　総括
第16回　試験

履修上の注意点

発表は希望性です。希望者がないとき，指名して発表が出来なければ減点の対象となります。欠席は5回まで認めますが，6回になると単位が認められません。遅刻もなるべくしないようにしてください。

教科書

What on Earth Happened?－地球の歴史ものがたり－
著者：　Christopher Lloyd
出版社：英宝社
出版年：2014　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）
評価は，出席，発表，議論への参加度，試験で判断します。

2018 Syllabus

科 目 名　Critical Reading Ⅰ <b>

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮崎　裕二	

テーマ

まとまった量のアカデミックな英文を、スピーディーに読みながら、要点をつかむ。

授業の到達目標

1. まとまった量の英文を、スピーディーに読む力を身につけることができる。
2. 理解した内容を、批判的に検討する力（クリティカル・リーディング）を学ぶことができる。
3. アカデミックな英文で使われる基本的な構成や語彙などを習得することができる。

授業の概要

大学では、海外の図書、研究論文をはじめ、大量の英文を読むことが求められる。就職後も、特にグローバル組織においては、社内文書や報告書など英語で統一される場合が多く、大量の英文をスピーディーに読解し、大意を把握することが継続的に要求される。したがって、アカデミックな英文の構成を把握し、スピーディーに要点を理解し、批判的に検討する力（クリティカル・リーディング）が求められる。この授業では、まとまった量の英文を効率的・効果的に読むために、クリティカル・リーディングの基礎力の養成を目的とする。受講者は、教材のあらかじめ決められた箇所の英文を読解し、日本語でレジュメを作成し、要点を論理的に発表することが要求される。講義スケジュールは、以下を予定しているが、受講人数、受講者の理解度等に応じて弾力的に変更する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

小テストをとおして内容理解・習得度を問う。復習として、授業で学修したことを振り返り、語彙や専門用語等を整理しておくこと。発表者は、担当箇所の発表に備えて十分に準備を行うこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　クリティカル・リーディングとは
第3回　受講者によるクリティカル・リーディングの発表（1）
第4回　受講者によるクリティカル・リーディングの発表（2）
第5回　受講者によるクリティカル・リーディングの発表（3）
第6回　受講者によるクリティカル・リーディングの発表（4）
第7回　小テスト（1）、受講者によるクリティカル・リーディングの発表（5）
第8回　受講者によるクリティカル・リーディングの発表（6）
第9回　受講者によるクリティカル・リーディングの発表（7）
第10回　受講者によるクリティカル・リーディングの発表（8）
第11回　小テスト（2）、受講者によるクリティカル・リーディングの発表（9）
第12回　受講者によるクリティカル・リーディングの発表（10）
第13回　受講者によるクリティカル・リーディングの発表（11）
第14回　受講者によるクリティカル・リーディングの発表（12）
第15回　小テスト（3）、受講者によるクリティカル・リーディングの発表（13）

履修上の注意点

5回以上欠席した場合、単位は認められない。10分以上の遅刻で欠席扱いとする。正当な理由がある場合は、教員に相談すること。他の受講生に迷惑をかけると思われる行為（授業と直接関係のない私語等）、クラス全体の士気に影響を及ぼすと考えられる行為（授業中の食事や授業と直接関係のない私的な作業や居眠り等）は、禁止する。注意されたにもかかわらず、改善が見られない場合は、退出を命じ、欠席扱いとする。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 40 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 30 ）

参加度は、授業への参加態度や回答・発表への積極性を鑑みて、総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　Critical Reading Ⅱ <a>

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　浅井 雅志	

テーマ

21世紀を生きるわれわれを取り囲むさまざまな問題について，英語で読み，考えてみたい。

授業の到達目標

ある程度の長さの英文を読解し、その内容を把握し、それについての意見が表明できるようになる。

授業の概要

まず本文を音読し，そして内容把握，次に内容に関する議論へと進めて行きたい。パラグラフ・リーディングを中心に行う。
内容に関する議論を通して，現在のわれわれがどのような問題を抱えているのかについての理解も深まるであろう。
受講生は予習をしてきて自発的に発表することを求められる。指名されて発表できないと減点の対象となる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習は必須。内容に関して興味をもったことについて各自で調べてほしい。

内　容

第1回　英語学習の目的，有効な方法。内容へのイントロダクション
第2回　Lesson 1 Psychology
第3回　Lesson 2 Women
第4回　Lesson 3 Young People
第5回　Lesson 4 The Environment
第6回　Lesson 5 Politics
第7回　Lesson 6 History
第8回　Lesson 7 Sports
第9回　Lesson 9 Food
第10回　Lesson 10 Space
第11回　Lesson 11 Language
第12回　Lesson 12 Reading
第13回　Lesson 13 Family
第14回　Lesson 14 Work
第15回　Lesson 15 Education
第16回　試験

履修上の注意点

議論に積極的に参加してほしい。欠席は5回まで認めるが，6回になると単位が認められない。

教科書

A World of Ideas－Active Reading for Global Awareness－
著者:　Jim Knudsen
出版社:　南雲堂
出版年:　2013　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 10 ）
発表回数、授業への貢献、試験で評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　Critical Reading Ⅱ <b>

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮崎　裕二	

テーマ

まとまった量のアカデミックな英文を、スピーディーに読みながら、要点をつかむ。

授業の到達目標

1. まとまった量の英文を、スピーディーに読む力を身につけることができる。
2. 理解した内容を、批判的に検討する力（クリティカル・リーディング）を学ぶことができる。
3. アカデミックな英文で使われる基本的な構成や語彙などを習得することができる。

授業の概要

授業の概要は、基本的に前期と変わらない。後期の教材は、受講生の意見等も尊重しながら、決定する予定である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

小テストをとおして内容理解・習得度を問う。復習として、授業で学修したことを振り返り、語彙や専門用語等を整理しておくこと。発表者は、担当箇所の発表に備えて十分に準備を行うこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　クリティカル・リーディングとは
第3回　受講者によるクリティカル・リーディングの発表（1）
第4回　受講者によるクリティカル・リーディングの発表（2）
第5回　受講者によるクリティカル・リーディングの発表（3）
第6回　受講者によるクリティカル・リーディングの発表（4）
第7回　小テスト（1）、受講者によるクリティカル・リーディングの発表（5）
第8回　受講者によるクリティカル・リーディングの発表（6）
第9回　受講者によるクリティカル・リーディングの発表（7）
第10回　受講者によるクリティカル・リーディングの発表（8）
第11回　小テスト（2）、受講者によるクリティカル・リーディングの発表（9）
第12回　受講者によるクリティカル・リーディングの発表（10）
第13回　受講者によるクリティカル・リーディングの発表（11）
第14回　受講者によるクリティカル・リーディングの発表（12）
第15回　小テスト（3）、受講者によるクリティカル・リーディングの発表（13）

履修上の注意点

5回以上欠席した場合、単位は認められない。10分以上の遅刻で欠席扱いとする。正当な理由がある場合は、教員に相談すること。他の受講生に迷惑をかけると思われる行為（授業と直接関係のない私語等）、クラス全体の士気に影響を及ぼすと考えられる行為（授業中の食事や授業と直接関係のない私的な作業や居眠り等）は、禁止する。注意されたにもかかわらず、改善が見られない場合は、退出を命じ、欠席扱いとする。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）
参加度は、授業への参加態度や回答・発表への積極性を鑑みて、総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**翻訳研究**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　アンガス, ノーマン	

テーマ

An Advanced Course in Translation Practice, Strategies and Theory

授業の到達目標

(1) To increase the students' linguistic flexibility with regard to translation
(2) To provide them with knowledge about the different types of translation
(3) To equip them with sophisticated strategies to help them translate between English and Japanese successfully.
This class will be taught in English.

授業の概要

This course is intended develop upon the second-year translation course, Honyaku no Kisoron. We will look at the translation process in detail, touch on a little translation theory, and then practice different kinds of translation. In the central section of the course, we will translate a number of intermediate-level English texts, analyze them for the problems they display, and look at various strategies for solving them. Finally, we will undertake the translation of a longer set text as a PBL excercise.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

I have a wide range of translation texts and excercises that can be made available for students who wish to practice the strategies taught in class, and a wide variety of books on the subject of translation. But since the content of this course is more techinical than students will have so far experienced, it is vital that all students go over the class handouts from the previous week, and are familiar with the specialist content thereafter. This will require 40-60 minutes per week.

内　容

第1回　PowerPoint: review of the Kisoron course
第2回　PowerPoint: advanced traslation strategy
第3回　PowerPoint: translation dangers and traps
第4回　PowerPoint: using a thesaurus
第5回　Community translation excercise 1
第6回　Community translation excercise 2
第7回　Literary translation excercise 1
第8回　Literary translation excercise 2
第9回　Techincal translation excercise 1
第10回　Techinical translation excercise 2
第11回　Tourist translation excercise 1
第12回　Tourist translation excercise 2
第13回　PBL projects 1
第14回　PBL projects 2
第15回　PBL projects student presentations

履修上の注意点

Students should take the 翻訳基礎論 course before they take the 翻訳研究 course.

教科書

参考書

P. Newmark
著者:　A Textbook of Translation
出版社: Prentice Hall
出版年: 1988　　ISBN:　9780139-125935

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 30 ）
Students will have a short translation assignment to be handed in towards their final grade as well as a PowerPoint presentation on a PBL project of their choice.

2018 Syllabus

科 目 名　**言語理論研究**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　日高 周平	

テーマ

Understanding language and linguistics in English

授業の到達目標

The objective of this course is to give the students an opportunity to learn and explain the English language and grammar in English and to deepen their understanding of what a language is all about.

授業の概要

In order to learn about a language, it is important to know the terms that are necessary to refer to various language elements. This class is designed to brush up one's knowledge of English grammar and to practice explaining it to others in English.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Students are expected to read the assignments before coming to class. For the presentations in English, students will be asked to prepare a presentation on the assigned grammatical topic. Some research over and beyond the designated textbook may be necessary.

内　容

第1回　Introduction/Pronunciation/Presentation Method
第2回　Unit 12 Adjectives
第3回　Unit 13 Comparatives
第4回　Unit 14 Adverbs
第5回　Unit 15 Infinitives
第6回　Unit 16 Gerunds
第7回　Unit 17 Conjunctions
第8回　Unit 18 Passive Voice
第9回　Unit 19 Word Parts
第10回　Unit 20 Adjective Clauses
第11回　Unit 21 Adverb Clauses
第12回　Unit 22 Conditionals
第13回　Unit 23 Noun Clauses
第14回　Presentation 1
第15回　Presentation 2

履修上の注意点

Attendance is VERY important.

教科書

Grammar Plus 大学英語『グラマー・プラス
著者:　Andrew E. Bennett 著 小宮　徹 著
出版社: 南雲堂
出版年: 2013　　ISBN:　9784523177210

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度 （ 60 ）

This class will be conducted in English.
Attendance is a must.
Thorough preparation for the presentations is expected.

2018 Syllabus

科 目 名　**地域文化研究Ⅲ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森　純一	

テーマ

米国の文化、特に政治・経済を理解し、米国流のコミュニケーションを実践出来るための基礎を学ぶ

授業の到達目標

1）米国の幅広い文化に触れ、政治や経済の現状、問題点などを考えることができる。
2）幅広いメディア（新聞、雑誌、インターネット）から情報を得ることを学ぶ。
3）米国流会話術を学び、楽しい会話のできる感性を学ぶ。

授業の概要

1）米国の日常の生活から始まって、経済や政治、教育など、様々な視点から米国を考えます。
2）講師の講義に加えて、その時々のテーマに合わせて新聞や雑誌、インターネットからの記事・ビデオなどを参照し、考えをまとめること学びます。
3）講義のなかでは学生の発表の場を設け、自らの考えを説明し、議論を楽しむ練習を行います

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

講師から事前に予習すべき資料等を提示・配布するので、事前に読んでくることが必要です。

内　容

第1回　講義紹介「米国の政治・経済的位置づけ」
第2回　米国人とは誰か「マンハッタンで英語が通じない？」
第3回　米国人の会話「どうやって始めるのか―会話術の勧め」
第4回　会話術の実際「パーティでなにを話す？」
第5回　米国流プレゼンテーションの世界「TED Talks」
第6回　米国のSF映画「スタートレックとスターウォーズ」
第7回　米国の哲学「プラグマティズムを知る」
第8回　米国の政治1「分断する社会」
第9回　米国の政治2「民主党と共和党、そしてトランプ大統領」
第10回　米国の経済「米国の競争力はどこから？」
第11回　米国のビジネス「ウオールストリートとメインストリート」
第12回　米国のビジネス 「シリコンバレーの起業家たち」
第13回　米国の教育「学び続ける強さ」
第14回　日本と米国 「相互理解のために―岡倉天心『茶の本』」
第15回　結論「グローバリゼーションと米国の将来」

履修上の注意点

米国を学ぶ目的の一つは自分の意見を持ち、それを明確に述べることを学ぶことです。学生に自分の意見を述べる機会を数多く作りたいと考えています。時にアレッと思うような意見を述べることも必要です。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

民主党のアメリカ、共和党のアメリカ
著者:　冷泉彰彦
出版社:　日本経済新聞社
出版年:　2016　　ISBN:　4532169984

プラグマティズム入門
著者:　伊藤邦武
出版社:　筑摩書房
出版年:　2016　　ISBN:　4480068708

a30203d310

移民大国アメリカ
著者: 西山隆行
出版社: 筑摩書房
出版年: 2016 ISBN: 4480068996

現代アメリカ経済論
著者: 地主敏樹
出版社: ミネルバ書房
出版年: 2012 ISBN: 4623058697

国際共通語としての英語
著者: 鳥飼玖美子
出版社: 講談社現代新書
出版年: 2011 ISBN: 4062881047

茶の本
著者: 岡倉覚三
出版社: 岩波文庫
出版年: 1961 ISBN: 4003311515

アメリカSF映画の系譜
著者: 長谷川孝一
出版社: リム出版新社
出版年: 2005 ISBN: 489800167X

United States History for Beginners
著者: Safvi, Adidin
出版社: Amazon Service International
出版年: ISBN: B0114TLRJS

プラグマティズム
著者: ウィリアムズ・ジェームズ
出版社: 岩波文庫
出版年: 1957 ISBN: 4003364015

TED Talks
著者: Anderson, Chris
出版社: Headline Publishing Group
出版年: 2016 ISBN: 978-1-472244444

成績評価

試験・レポート（ 70 ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 20 ）
授業中発表等 （ ）
参加度 （ 10 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**Essay & Presentation Ⅰ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　日高 周平	

テーマ

Essay and presentation

授業の到達目標

To learn both the language and the discourse structures needed to create a variety of types of emails.

授業の概要

In each class, students will be asked to write a number of emails.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　Introduction & Course Description
第2回　Unit 1 Let me introduce myself
第3回　Unit 2 Would you do me a favor?
第4回　Unit 3 Please give me some advice
第5回　Unit 4 How about going to the museum?
第6回　Unit 5 Let's decide when to meet
第7回　Unit 6 I have to apologize to you
第8回　Unit 7 Room for two?
第9回　Unit 8 I have a problem
第10回　Unit 9 We would like to invite you to a party!
第11回　Unit 10 How to get to his place?
第12回　Unit 11 This is just a reminder
第13回　Unit 12 Thank you for the invitation, but...
第14回　Unit 13 Good luck!
第15回　Review

履修上の注意点

教科書

Write Me Back Soon! Communicating through Email
著者:　成岡恵子／早野 薫／Sean M. Hackett 著
出版社:　金星堂
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（40）	授業中発表等（ ）
参加度（60）	

2018 Syllabus

科 目 名　**通訳研究**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西村　友美	

テーマ

通訳の理論と実践

授業の到達目標

(1) 通訳を通じて異文化コミュニケーションについて考察する力を養う。(2) 実践を通して通訳術の基本を習得することを目指す。

授業の概要

通訳者はことばの壁をどう乗り越えて瞬時に言語変換をおこなっているのか。また異文化間のコミュニケーションを円滑に進めるためにどんな工夫をしているのか。授業ではこれらを考察し、実際の通訳者用訓練を実践することにより、自らの英語の運用を向上させることを目指す。具体的には、「通訳基礎論」で習得した基礎的理論と技術をもとに、より高度な通訳を訓練する。毎回の授業で、段階的なトレーニングを重ね、最終的には簡単な通訳(逐次・同時)ができるようにしたい。教科書の理論・知識編を分担して授業でプレゼンをし、全体でディスカッションをする。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

教科書の理論編を理解するため、より詳しい文献を読んでください。各種通訳練習を授業外でも実践してください。

内　容

第1回　通訳とは、通訳実例の観察
第2回　通訳の種類と活動の場
第3回　通訳に求められるもの
第4回　通訳の研究
第5回　通訳モデル
第6回　通訳と翻訳
第7回　中間まとめ
第8回　記憶とノートテーキング
第9回　逐次通訳 (1)
第10回　逐次通訳 (2)
第11回　同時通訳 (1)
第12回　同時通訳 (2)
第13回　同時通訳 (3)
第14回　通訳とデリバリー
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

通訳学101
著者:　友野百枝他
出版社: 大阪教育図書
出版年: 2012　　ISBN:

参考書

授業で指示する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート (70)	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 (30)	

2018 Syllabus

科 目 名　**地域文化研究Ⅳ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮崎　裕二	

テーマ

国際観光の視点からアメリカを学ぶ

授業の到達目標

1. 国際観光をとおしてアメリカを学修することができる。
2. アメリカの州や領島等ごとにアメリカを学ぶことができる。
3. アメリカのブランド戦略や観光政策を中心に理解することができる。

授業の概要

世界全体の国際観光客到着者数は、2016年には、年間12億人を突破し、国際観光収入も1兆ドルを超える規模となるなど、国際観光は、日本だけではなく、世界の国々においても、きわめて大きな位置を占めている。本講義では、国際観光収入世界第1位のアメリカに焦点を当てて、アメリカを学ぶことを目的とする。この授業は、あらかじめ決められた課題に基づき、受講者が研究を行い、クラスで発表し、ペアまたは、グループでディスカッションを行い、学びを発表することが要求される。講義スケジュールは、以下を予定しているが、受講人数や学生の習熟度等を見ながら、必ずしも最初に定めた講義スケジュールにとらわれることなく、柔軟に進める。なお、本授業は、アメリカ大使館とアメリカ政府観光局（ブランドUSA）から資料協力をいただいたので、これらも有効に活用する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各回の授業開始前には、前授業についての小テストを課し、内容理解・習得度を問う。復習として、授業で学修したことを振り返り、専門用語なども整理しておくこと。予習としては、グループ発表に備えて準備を行うこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　今、世界では何が起きているのか？
第3回　今、アメリカでは何が起きているのか？
第4回　アメリカの観光政策とブランド戦略
第5回　アメリカ西海岸（カリフォルニア州）
第6回　アメリカ西海岸（オレゴン州、ワシントン州）
第7回　アメリカ（ハワイ州、アラスカ州）
第8回　アメリカの領島（グアム、サイパン、ロタ、テニアン、プエルトリコ等）
第9回　アメリカ西部（ネバダ州、コロラド州、アリゾナ州等）
第10回　アメリカ中西部（イリノイ州、ウィスコンシン州、ミネソタ州等）
第11回　アメリカ南部（フロリダ州、ルイジアナ州、ジョージア州等）
第12回　アメリカ東海岸（ニューヨーク州、ワシントン州、マサチューセッツ州等）
第13回　アメリカの大型テーマパーク（ディズニー、ユニバーサル、シーワールド、ナッツベリーファーム等）
第14回　アメリカの国立公園
第15回　まとめ

履修上の注意点

5回以上欠席した場合、単位は認められない。10分以上の遅刻で欠席扱いとする。正当な理由がある場合は、教員に相談すること。他の受講生に迷惑をかけると思われる行為（授業と直接関係のない私語等）、クラス全体の士気に影響を及ぼすと考えられる行為（授業中の食事や授業と直接関係のない私的な作業や居眠り等）は、禁止する。注意されたにもかかわらず、改善が見られない場合は、退出を命じ、欠席扱いとする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（ 40 ）
授業中課題（　）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

参加度は、授業への参加態度や回答・発表への積極性を鑑みて、総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**Essay & Presentation Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　日高　周平	

テーマ

Essay and presentation

授業の到達目標

To learn both the language and the discourse structures needed to create a variety of types of emails.

授業の概要

In each class, students will be asked to write a number of emails.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　Introduction & Course Description
第2回　Unit 14 Congratulations!
第3回　Unit 15 It would be appreciated if...
第4回　Unit 16 Can I make an offer?
第5回　Unit 17 Thank you!
第6回　Unit 18 You know what?
第7回　Unit 19 Get well soon!
第8回　Unit 20 Anybody interested?
第9回　Unit 21 Season's Greetings!
第10回　Unit 22 I would like to apply for a position
第11回　Unit 23 Inquiry about scholarship
第12回　Unit 24 Sorry for your loss
第13回　Academic writing 1
第14回　Academic writing 2
第15回　Review and presentation

履修上の注意点

教科書

Write Me Back Soon! Communicating through Email
著者:　成岡恵子／早野 薫／Sean M. Hackett 著
出版社:　金星堂
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 60 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**児童英語教育研究**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　高田　悦子	

テーマ

幼児や児童の英語教育について

授業の到達目標

小学校への外国語活動導入が必修化された今、なぜ英語教育が児童に必要なのか、また、どのように教えたらよいのかを異文化理解と英語教育のあり方について、実践と理論の両側面から考察する。

授業の概要

実際に幼児や小学生に教える場合にすぐに役立つ歌、ライム、ゲームを始めとして、言語習得理論に基づいた指導法などを紹介し、学習した後、発表する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

発表は創意工夫に富んだものにすること。

内　容

第1回　ガイダンス（異文化理解と英語教育について）
第2回　英語の指導技術について
第3回　歌の指導法
第4回　歌指導の発表　Ⅰ
第5回　歌指導の発表　Ⅱ
第6回　ナーサリーライムの指導法
第7回　ナーサリーライム指導の発表　Ⅰ
第8回　ナーサリーライム指導の発表　Ⅱ
第9回　フォニックスの指導法
第10回 フォニックス指導の発表　Ⅰ
第11回 フォニックス指導の発表　Ⅱ
第12回 異文化理解教育について
第13回 異文化理解を促す指導の発表　Ⅰ
第14回 異文化理解を促す指導の発表　Ⅱ
第15回 まとめ

履修上の注意点

テキスト「New Let's Sing Together」は授業内で購入してもらいます。
発表の日の欠席は大きく減点します。

教科書

New Let's Sing Together
著者:　阿部フォード恵子
出版社:　アプリコット
出版年:　2000　　ISBN:　978490573777-3

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 60% ）
参加度（ 40% ）	

授業への積極的な取り組みと意欲的な態度を高く評価します

2018 Syllabus

科 目 名　**児童英語教材研究**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　高田 悦子

テーマ

幼児や児童の英語教材について

授業の到達目標

小学校への外国語活動導入が必修化された今、なぜ英語教育が児童に必要なのか、また、どのように教えたらよいのか、その目的と指導法について学ぶ。

授業の概要

実際に幼児や小学生に教える場合にすぐに役立つチャンツ、ゲームを始めとして、言語習得理論に基づいた指導法などを紹介し、学習した後、発表する。
期末の課題としてｵﾘｼﾞﾅﾙ絵本を製作する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

発表は創意工夫に富んだものであること。

内　容

第1回　ガイダンス（EFL学習の目的と指導）
第2回　チャンツの指導法
第3回　チャンツの指導発表　Ⅰ
第4回　チャンツの指導発表　Ⅱ
第5回　TPRの指導法
第6回　TPRの指導発表　Ⅰ
第7回　TPRの指導発表　Ⅱ
第8回　折々の行事について
第9回　Halloween Party
第10回 ストーリーテリングの指導法
第11回 ｵﾘｼﾞﾅﾙ絵本製作のガイダンス
第12回 絵本のあらすじと構成
第13回 絵本のストーリーを英文にまとめる
第14回 絵本製作
第15回 絵本発表

履修上の注意点

発表の日の欠席は大きく減点します。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 60% ）
参加度（ 40% ）
授業への積極的な取り組みと意欲的な態度を高く評価します。

2018 Syllabus

科 目 名　**児童英語指導演習 I**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吹原　顕子	

テーマ

児童英語教育を実践するための演習

授業の到達目標

・小学校外国語活動の目標を実現するために、目的に応じた活動をすることができる。
・単元の指導計画及び学習指導案を作成し、適切な英語と適切な教材を用いて模擬授業を行うことができる。
・電子黒板、プレゼンテーションソフト等を使って作成した教材などを用いて指導をすることができる。

授業の概要

初に、2018年から段階的に先行実施される学習指導要領の小学校外国語活動、小学校外国語の学習指導要領の目標を理解する。文部科学省作成のデジタル教材を活用した指導を体験し考察する。
次に、グループでLet's Try 1、Let's Try 2から単元を1つ選び、到達目標から逆向きに授業を計画する。プレゼンテーションソフト等を用いて授業で使用する教材、振り返りシートを作成し、学習指導案に基づき模擬授業を行う。それぞれの模擬授業後にディスカッションを行う。
近隣の公立小学校において外国語活動および外国語科授業の観察実習を行う。
最後に、前期の授業を通して学んだことをレポートにまとめる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』(2017)をインターネットからダウンロードして印刷し、初回の授業に持参する。予習として『Let's Try! 1』、『Let's Try! 2』を事前に読んでおく。最初の授業で選択した単元について、文部科学省がWeb上で示す学習指導案の例を参考にして指導計画・学習指導案を作成し、教材を準備する。前期に学んだことについてレポート（2000字）を書く。

内　　容

第1回　ガイダンス（小学校における外国語教育の目的と意義、小学校外国語活動・外国語科の目標）
第2回　外国語活動・外国語科を支える理論と授業づくり（第二言語習得理論の基礎、単元指導計画、目的に応じた活動、評価）
第3回　Small Talk、音声の基本的な知識、発音と綴りの関係
第4回　『Let's Try! 1』を活用した指導（Unit 9 Who are you?）
第5回　『Let's Try! 2』を活用した指導（Unit 9 This is my day.）
第6回　模擬授業1（絵本の読み聞かせ：「Who are you?」「This is my day.」）
第7回　模擬授業に向けて（単元指導計画、一単位時間の指導計画の作成の作成）
第8回　公立小学校における外国語活動の観察実習―低中学年
第9回　公立小学校における外国語活動の観察実習―高学年
第10回　小学校における観察実習の報告と討議
第11回　模擬授業2（4時間構成の単元の1時間目：聞く活動を中心とした授業）
第12回　模擬授業3（4時間構成の単元の2時間目：音に慣れる活動を中心とした授業）
第13回　模擬授業4（4時間構成の単元の3時間目：自分のものにする活動を中心とした授業）
第14回　模擬授業5（4時間構成の単元の4時間目：言葉を選んで発話する活動を中心とした授業）
第15回　総括、レポート作成について

履修上の注意点

受け入れ校の状況により観察実習の日程が変更になることがあります。2/3以上出席すること。遅刻3回で1回欠席。観察実習や模擬授業の日の欠席は大きい減点となります。

教科書

参考書

Let's Try! 1
著者：　文部科学省
出版社：
出版年：2017　　ISBN：

Let's Try! 2
著者：　文部科学省
出版社：
出版年：2017　　ISBN：

a30203e610

小学校学習指導要領解説 外国語活動編

著者: 文部科学省

出版社:

出版年: 2017 ISBN:

小学校学習指導要領解説 外国語編

著者: 文部科学省

出版社:

出版年: 2017 ISBN:

小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック

著者: 文部科学省

出版社:

出版年: 2017 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題 （ 30% ） 授業中発表等 （ 60% ）

参加度 （ 10% ）

学生が互いの模擬授業から学ぶ授業であることから、模擬授業への準備を重視します。

2018 Syllabus

科 目 名　**児童英語指導演習Ⅱ**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吹原　顕子	

テーマ

児童英語教育を実践するための演習

授業の到達目標

・小学校外国語科の目標を実現するために、目的に応じた活動をすることができる。
・単元の指導計画及び学習指導案を作成し、適切な英語と適切な教材を用いて教育実習・模擬授業を行うことができる。
・電子黒板、プレゼンテーションソフト等を使って作成した教材などを用いて指導をすることができる。

授業の概要

最初に、新学習指導要領で教科化される小学校外国語科の目標を確認する。小学校5年生の授業を映像で観察し、語彙・文法の指導法について考察する。We can! 2 Unit 5 My Summer Vacationの指導を体験し、授業のイメージをもつ。
次に、近隣の公立小学校において外国語活動または外国語科授業の教育実習を行う。また、グループでWe can! 1、We can! 2から単元を1つ選び、到達目標から逆向きに授業を計画する。プレゼンテーションソフト等を用いて授業で使用する教材、振り返りシートを作成し、学習指導案に基づき模擬授業を行う。それぞれの模擬授業後にディスカッションを行う。
最後に、後期の授業を通して学んだことをレポートにまとめる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

『小学校学習指導要領解説 外国語編』(2017)をインターネットからダウンロードして印刷し、初回の授業に持参する。
予習として『We can! 1』、『We can! 2』を事前に読んでおく。教育実習の準備をする。最初の授業で選択した単元について、文部科学省がWeb上で示す学習指導案の例を参考にして指導計画・学習指導案を作成し、教材を準備する。後期に学んだことについてレポート（2000字）を書く。

内　容

第1回　ガイダンス（小学校外国語科の目標、教育実習について、授業映像視聴、小学校における語彙・文法の指導法の考察、ティームティーチング）
第2回　『We can! 2』を活用した指導1（8時間構成の単元の1・2時間目：聞く活動を中心とした授業：新しい表現と出合う）
第3回　『We can! 2』を活用した模擬授業1（8時間構成の単元の3・4時間目：聞く活動・話す活動を中心とした授業：繰り返し慣れ親しむ）
第4回　『We can! 2』を活用した模擬授業2（8時間構成の単元の5・6時間目：聞く活動・話す活動を中心とした授業：繰り返し慣れ親しむ）
第5回　『We can! 2』を活用した模擬授業3（8時間構成の単元の7・8時間目：話す活動、読む活動、書く活動を中心とした授業：活用する）
第6回　『We can! 1』を活用した模擬授業1（8時間構成の単元の1・2時間目：聞く活動を中心とした授業：新しい表現と出合う）
第7回　『We can! 1』を活用した模擬授業2（8時間構成の単元の3・4時間目：聞く活動・話す活動を中心とした授業：繰り返し慣れ親しむ）
第8回　『We can! 1』を活用した模擬授業3（8時間構成の単元の5・6時間目：聞く活動・話す活動を中心とした授業：繰り返し慣れ親しむ）
第9回　『We can! 1』を活用した模擬授業3（8時間構成の単元の7・8時間目：話す活動、読む活動、書く活動を中心とした授業：活用する）
第10回　教育実習の計画
第11回　教育実習の模擬授業1（改善点の討議）
第12回　教育実習の模擬授業2（事前授業）
第13回　公立小学校における教育実習①
第14回　公立小学校における教育実習②
第15回　小学校における教育実習について討議と考察、総括、レポート作成について

履修上の注意点

受け入れ校の状況により観察実習の日程が変更になることがあります。2/3以上出席すること。遅刻3回で1回欠席。教育実習や模擬授業の日の欠席は大きい減点となります。

教科書

参考書

We Can!! 1
著者：　文部科学省
出版社：
出版年：2017　　ISBN：

a30203e750

We Can! 2

著者: 文部科学省

出版社:

出版年: 2017 ISBN:

小学校学習指導要領解説 外国語編

著者: 文部科学省

出版社:

出版年: 2017 ISBN:

小学校学習指導要領解説 外国語活動編

著者: 文部科学省

出版社:

出版年: 2017 ISBN:

小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック

著者: 文部科学省

出版社:

出版年: 2017 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 30% ） 授業中発表等（ 60% ）

参加度 （ 10% ）

公立小学校の教育実習を行うので、そのための準備、教育実習を重視します。また、学生が互いの模擬授業から学ぶ授業であることから、模擬授業への準備を重視します。

2018 Syllabus

科 目 名　**グローバルビジネス実務演習 I**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐久間　浩司	

テーマ

企業の貿易取引に関する基礎知識を身につける。

授業の到達目標

貿易取引に関する実務的な基礎知識を概論的に身につけます。同時に、そもそもなぜ企業は貿易をするのか、為替相場はどのように動くのか、各国の貿易商品が時代とともに変化していくのはなぜかといった、貿易に関連するマクロ的な基礎知識も身につけます。

授業の概要

授業は、基本的に講義形式で進めます。テキストとして「よくわかる貿易実務入門」(片山立志著)を使います。下記授業計画にある(1)～(29)の数字は、テキスト内の章番号です。 講義に加えて、グローバル経済への視野を広げるため、毎回最初に2名ずつ、一週間の間に起こった貿易に関する新聞記事を取り上げ発表してもらいます。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

発表にあたった者は、レジュメを作成して、事前に担当教員と打ち合わせをします。詳細は初回の授業で指示を出します。

内　容

第1回　イントロダクション:　国際ビジネスで今なにが起きているのか。学生の間に何を学んでおかなければならないか。
第2回　(1)貿易取引とは、(3)いろいろは貿易取引、
(4)貿易の流れ－1　貿易マーケティングと市場調査、
第3回　(5)貿易の流れ－2　取引先を発見しよう、(6)貿易の流れ－3　信用調査をする、
(7)貿易の流れ－4　取引交渉から契約が成立するまで、
第4回　(8)いろいろなオファー、(9)貿易の流れ－5　契約を交わす、
1～4回までの理解度確認テスト実施
第5回　(2)貿易取引の仕組み、
(10)貿易の流れ－6　信用状の発行
第6回　(11)貿易の流れ－7　輸出業務の流れ、
(12)貿易の流れ－8　荷為替手形の呈示ほか、(13)⑬貿易の流れ－9　代金の支払いから貨物の引き渡しまで
第7回　(14)信用状と代金決済、
(15)信用状の当事者、(16)信用状の種類
第8回　(17)信用状の条件
マクロ経済面からの貿易知識　－比較優位論を学ぶ
第9回　(18)取引条件を決定する－1　品質の決定、(19)取引条件を決定する－2　品質決定の時点
5～9回までの理解度確認テスト実施
第10回　(20)取引条件を決定する－3　数量単位、(21)インコタームズとは
(22)2010年インコタームズ－1　いかなる単数または複数の輸送手段にも適した規則(1)
(23)2010年インコタームズ－2　いかなる単数または複数の輸送手段にも適した規則(2)
第11回　(24)2010年インコタームズ－3　海上および内陸水路輸送のための規制
(25)輸出貨物の価格の建て方、(26)輸入貨物の価格の建て方
第12回　(27)輸送形態－1　海上輸送、
(28)輸送形態－2　航空輸送、(29)輸送形態－3　複合輸送
第13回　マクロ経済面からの貿易知識　－日本の貿易の変遷とマクロ経済条件の変化を考える
第14回　10～13回までの理解度確認テスト
これまでの復習とポイントの確認
第15回　最終理解度確認と総括

履修上の注意点

発表者が欠席した場合は最大限の減点の対象となります。遅刻、授業中の私語、授業と関係ないスマホ操作など、参加度が悪い場合も大幅な減点の対象です。またこうした状況が繰り返される場合は単位を授与しません。

教科書

よくわかる貿易実務入門

著者:　片山立志

出版社:　日本能率協会マネジメントセンター

出版年:　2017　　ISBN:　9784820759515

参考書

成績評価

a30203e810

試験・レポート（ 35 ）	小テスト（ 25 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**グローバルビジネス実務演習Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森　純一	

テーマ

貿易実務を中心にグローバルなビジネスに必要な知識を学ぶ

授業の到達目標

1）貿易実務の基礎的な知識を習得できる。
2）貿易取引のなかで起こる具体的な問題にどう対処するのか、必要なコミュニケーションを考えることができる。
3）貿易実務検定受験を希望する学生には、C級およびB級を目標とする。

授業の概要

基本的な貿易の流れを理解し、国際的な取引を成功させる方法や、起こりうるリスクへの対応などをいろいろなケースを元に「なぜ？」を考えていきます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予め授業前に読むべき資料を配付あるいは指示するので、事前の準備を心がけて下さい。楽しく学びましょう。

内　　容

第1回　イントロダクション　輸出実務の流れ
第2回　取引準備　取引開始前の市場調査・輸出規制・取引先探し
第3回　インターコムズ2010　貿易の基本となる貿易条件
第4回　決済準備　貿易決済の種類・方法
第5回　国際輸送　貿易取引における輸送方法の選択、保険、手続き
第6回　輸出編：契約まで　取引先とのレター、メールのやり取り、契約交渉、売買契約書
第7回　輸出編：輸送準備　信用状の確認、為替予約、船舶の予約
第8回　輸出編：通関手続き　輸出通関のための書類
第9回　輸出編：船積み　通関後の手続き、そして銀行への買い取り依頼
第10回　輸出編：銀行での決済　船積み終了後の銀行への買い取り依頼
第11回　輸入編：輸入の流れ（貨物、書類、情報）のイメージ
第12回　輸入取引：取引準備と契約まで
第13回　輸入編：契約までと決済準備
第14回　輸入編：決済と通関・貨物引き取り
第15回　クレーム処理

履修上の注意点

貿易実務はなかなか難しいが、社会の成り立ちを理解することにもつながります。色々な書類を一度読むと恐くなくなります。まずは毛嫌いせず、読んでみましょう。

教科書

よくわかる貿易実務入門 改訂3版
著者：　片山立志
出版社：日本能率協会マネジメントセンター
出版年：2017　　ISBN：4820759515

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20% ）　　授業中発表等（ 20% ）
参加度（ ）
時々に小テストをして、これも評価の対象となります。予告しないので欠席しないように。

2018 Syllabus

科 目 名　English Workshop Ⅰ <a>

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾌｧｾﾞｶｼｭ, ﾊﾞﾗｰｼﾞｭ	

テーマ

TOEIC試験形式の問題演習を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

① 文法の構造的な知識を与える ② 練習問題を効率よく解くための能力を身につける ③ 語彙・読解力の向上

授業の概要

毎回、練習問題を解きながら各問題を議論し分析する。問題に関連する文法を学ぶ。一人でドリル問題をとくときも自ら正しい答えを見つけ出す能力を身につける。授業の後半では、TOEIC試験のためのリスニングセクションとリーディングセクションのための聴解・読解問題を練習する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　TOEIC試験練習問題・文法の基礎・品詞
第3回　TOEIC試験練習問題・冠詞I・Part 1
第4回　TOEIC試験練習問題・冠詞II・Part 2
第5回　TOEIC試験練習問題・名詞I・Part 3
第6回　TOEIC試験練習問題・名詞II・Part 4
第7回　TOEIC試験練習問題・形容詞I
第8回　TOEIC試験練習問題・形容詞II・比較
第9回　TOEIC試験練習問題・副詞・読解
第10回　TOEIC試験練習問題・動詞と助動詞I・読解
第11回　TOEIC試験練習問題・動詞と助動詞II、句動詞・読解
第12回　TOEIC試験練習問題・時制I・読解
第13回　TOEIC試験練習問題・時制II・読解
第14回　TOEIC試験練習問題・時制III・読解
第15回　復習

履修上の注意点

英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC550点以上の学生が対象となります。550点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行って下さい。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20 ）	小テスト （ 60 ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ 0 ）

参加度 （ 0 ）

履修者は、前期中に公開テストまたは7月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験を受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることになりますので注意して下さい。

2018 Syllabus

科 目 名　English Workshop Ⅰ <b>

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　高田　悦子	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEICテストのスコアアップ（7月のテストで550点以上）を目標に、様々な場面で用いられる実践的な英語を正確かつ迅速に理解できるようになるためのスキルを身につけること。

授業の概要

TOEICテストの頻出事項をおさえながら、各セクションで正解率を上げるための基礎的な語彙・文法力を強化します。※注意事項1．英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC450点以上の学生が対象となります。450点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行ってください。2．英語コミュニケーション学科新3回生は、受講登録時に指定されているクラスが変更になる可能性があります(aからb、bからa)ので注意してください。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回の課題と単語テスト、小テストをしっかりこなしてください。

内　容

第13回　Chapter 13 公共サービス (Public Services)
第14回　Chapter 15 医療 (Medical Service)
第15回　Review　小テスト
第1回　Chapter 1 不動産 (Real Estate)
第2回　Chapter 2 環境 (Environment)
第3回　Chapter 3 ジャーナリズム (Journalism)
第4回　Chapter 4 食品 (Food Products)
第5回　Chapter 5 製造 (Manufacturing)
第6回　Chapter 6 金融 (Financing)
第7回　Chapter 7 スポーツ (Sports)
第8回　Chapter 8 教育 (Education)
第9回　Chapter 9 農水産 (Agricultural and Marine Products
第10回　Chapter 10 娯楽 (Amusement)
第11回　Chapter 11 芸術 (Art)
第12回　Chapter 12 情報通信 (Information and Communication)

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。英語コミュニケーション学科3回生は、クラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC550点未満が対象となります。

教科書

Go for the TOEIC Test【New Edition 】実践TOEICコンパクト演習【新形式対応番】
著者:　浅間正道　Nicholas Lambert
出版社:　英宝社
出版年:　2017　　ISBN:　9784269660427

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 50% ）
授業中課題 （ 15% ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 15% ）

履修者は、前期中に公開テストまたは7月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験を受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることになりますので注意して下さい。

2018 Syllabus

科 目 名　English Workshop Ⅱ 〈a〉

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　ﾌｧｾﾞｶｼｭ, ﾊﾞﾗｰｼﾞｭ

テーマ

TOEIC試験形式の問題演習を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

① 文法の構造的な知識を与える ② 練習問題を効率よく解くための能力を身につける ③ 語彙・読解力の向上

授業の概要

毎回、練習問題を解きながら各問題を議論し分析する。問題に関連する文法を学ぶ。一人でドリル問題をとくときも自ら正しい答えを見つけ出す能力を身につける。授業の後半では、リスニングセクションとリーディングセクションのための聴解・読解問題を練習する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　TOEIC試験練習問題・受動態・手紙、メール
第3回　TOEIC試験練習問題・不定詞・広告
第4回　TOEIC試験練習問題・動名詞・求人
第5回　TOEIC試験練習問題・不定詞と動名詞の構造文・掲示
第6回　TOEIC試験練習問題・分詞・フォーム
第7回　TOEIC試験練習問題・命令、依頼、勧誘、助言、提案・長文
第8回　TOEIC実践問題
第9回　TOEIC試験練習問題・前置詞I・長文
第10回　TOEIC試験練習問題・前置詞II・長文
第11回　TOEIC試験練習問題・関係詞I・長文
第12回　TOEIC試験練習問題・間接話法・長文
第13回　TOEIC試験練習問題・接続詞・長文
第14回　TOEIC試験練習問題・代名詞・長文
第15回　復習

履修上の注意点

英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC550点以上の学生が対象となります。550点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行って下さい。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）　　小テスト（ 60 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 0 ）

履修者は、前期中に公開テストまたは7月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験を受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることになりますので注意して下さい。

2018 Syllabus

科 目 名　English Workshop Ⅱ <b>

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　日高　周平	

テーマ

TOEIC対策

授業の到達目標

語句と文法の理解を深め、実社会で使える英語の力を養成する。

授業の概要

各授業で、単語・文法事項の確認後、問題に取り組む

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各講義に単語の小テストを行うので予習を行うこと。

内　　容

第1回　授業概要・成績評価の説明、アプリ登録、実力テストなど
第2回　名詞 7+6個の使える名詞の語尾, Part 2対策
第3回　形容詞 6つの使える形容詞の語尾, Part 2対策
第4回　副詞 万能で便利な副詞, Part 2対策
第5回　復習, Part 3対策
第6回　新形式のTOEIC　何が変わった？どう対処すれば？　Part 3対策
第7回　表現に幅を持たせる修飾方法 1 前置修飾, Part 3対策
第8回　表現に幅を持たせる修飾方法 2 後置修飾, Part 4対策
第9回　表現に幅を持たせる修飾方法 3 関係詞, Part 4対策
第10回　日本語とは違う英語の数と時間, Part 4対策
第11回　従属接続詞　直後に名詞かS+Vか？ Part 6対策
第12回　熟語, Part 6対策
第13回　代名詞・再帰代名詞　なぜか間違う代名詞, Part 7対策
第14回　その他頻出, Part 7対策
第15回　総合復習と到達度確認テスト

履修上の注意点

学習した内容を復習すること。英語コミュニケーション学科3回生は、クラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC550点未満が対象となります。

教科書

公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 3
著者:　Educational Testing Service
出版社:　国際ビジネスコミュニケーション協会
出版年:　2017　　ISBN:　4906033539

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 60 ）

履修者は、前期中に公開テストまたは7月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験を受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることになりますので注意して下さい。

2018 Syllabus

科 目 名　English Workshop Ⅲ <a>

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　ﾌｧｾﾞｶｼｭ, ﾊﾞﾗｰｼﾞｭ

テーマ

TOEIC試験形式の問題演習を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

① 文法の構造的な知識を与える ② 練習問題を効率よく解くための能力を身につける ③ 語彙・読解力の向上

授業の概要

毎回、練習問題を解きながら各問題を議論し分析する。また問題に関連する文法を学ぶ。一人でドリル問題をとくときも自ら正しい答えを見つけ出す能力を身につける。授業の後半では、リスニングセクションとリーディングセクションのための聴解・読解問題を練習する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　TOEIC攻略・復習
第3回　TOEIC試験練習問題・条件法
第4回　TOEIC試験練習問題・仮定法
第5回　TOEIC試験練習問題・間接話法
第6回　TOEIC試験練習問題・接続詞
第7回　TOEIC試験練習問題・代名詞
第8回　TOEIC実践問題
第9回　TOEIC試験練習問題・句動詞
第10回　TOEIC試験練習問題・句動詞
第11回　TOEIC試験練習問題・名詞説
第12回　TOEIC試験練習問題・数値
第13回　TOEIC試験練習問題・その他
第14回　TOEIC実践問題
第15回　復習

履修上の注意点

英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC550点以上の学生が対象となります。550点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行って下さい。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）　　小テスト（ 60 ）

授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 0 ）

参加度（ 0 ）

履修者は、後期中に公開テストまたは12月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験を受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることになりますので注意して下さい。

2018 Syllabus

科 目 名　English Workshop Ⅲ <b>

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　高田 悦子	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEICテストのスコアアップ（12月のテストで600点以上）を目標に、様々な場面で用いられる実践的な英語を正確かつ迅速に理解できるようになるためのスキルを身につけること。

授業の概要

前期に引き続き、スコアアップに必要な語彙・文法力を強化します。同時に、授業ではできるだけ多くの練習問題をこなすことにより、応用力を養成しま す。※注意事項1. 英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC500点以上の学生が対象と なります。500点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行ってください。2. 英語コミュニケー ション学科新3回生は、受講登録時に指定されているクラスが変更になる可能性があります(aからb、bからa)ので注意してください。TOEICテストの 頻出事項をおさえながら、各セクションで正解率を上げるための基礎的な語彙・文法力を強化します。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　授業概要の説明。Unit1. Airport
第2回　Unit 2. Train Station
第3回　Unit 3. Department Store
第4回　Unit 4. Restaurant
第5回　Unit 5. Hotel
第6回　Unit 6. Hospital
第7回　Unit 7. Bank
第8回　Unit 8. Workplace
第9回　Unit 9. Fitness Club
第10回　Unit 10. Sightseeing
第11回　Unit 11. International Conference
第12回　Unit 12. Computer Society
第13回　Unit 13. Employment
第14回　Unit 14. Job Training
第15回　Review 小テスト

履修上の注意点

授業の3分の2以上の出席が必要です。英語コミュニケーション学科3回生は、クラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC550点未満が対象となります。

教科書

ALL-POWERFUL STEPS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST - TOEIC LISTENING AND READING TEST

著者:　石井隆之 他

出版社:　成美堂

出版年:　2017年　　ISBN:　9784791960293

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 50% ）

授業中課題 （ 15% ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ 15% ）

履修者は、後期中に公開テストまたは12月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験を受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることになりますので注意して下さい。

2018 Syllabus

科 目 名　English Workshop Ⅳ <a>

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾌｧｾﾞｶｼｭ, ﾊﾞﾗｰｼﾞｭ	

テーマ

TOEIC試験形式の問題演習を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

① 文法の構造的な知識を与える ② 練習問題を効率よく解くための能力を身につける ③ 語彙・読解力の向上

授業の概要

毎回、練習問題を解きながら各問題を議論し分析する。問題に関連する文法を学ぶ。一人でドリル問題をとくときも、自ら正しい答えを見つけ出す能力を身につける。授業の後半では、リスニングセクションとリーディングセクションのための聴解・読解問題を練習する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　TOEIC攻略・復習
第3回　TOEIC試験練習問題・読解
第4回　TOEIC試験練習問題・読解
第5回　TOEIC試験練習問題・読解
第6回　TOEIC試験練習問題・読解
第7回　TOEIC試験練習問題・読解
第8回　TOEIC実践問題
第9回　TOEIC試験練習問題・読解
第10回　TOEIC試験練習問題・読解
第11回　TOEIC試験練習問題・読解
第12回　TOEIC試験練習問題・読解
第13回　TOEIC試験練習問題・読解
第14回　TOEIC実践問題
第15回　復習

履修上の注意点

英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC550点以上の学生が対象となります。550点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行って下さい。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）　　小テスト（ 60 ）

授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 0 ）

参加度（ 0 ）

履修者は、後期中に公開テストまたは12月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験を受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることになりますので注意して下さい。

a30203f312

2018 Syllabus

科 目 名　English Workshop Ⅳ <b>

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　日高　周平	

テーマ

TOEIC対策

授業の到達目標

前期で養った語彙・文法の力を元に、より高度な英語運用能力の習得を目指す。

授業の概要

各授業で、単語・文法事項の確認後、問題に取り組む

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習復習を行うこと

内　　容

第1回　授業概要・成績評価の説明、前期で学んだことの確認
第2回　カルタ1, Part 2対策, 文法問題40問
第3回　カルタ2, Part 2対策, 文法問題40問
第4回　カルタ3, Part 3対策, 文法問題40問
第5回　カルタ4, Part 3対策, 文法問題40問
第6回　カルタ5, Part 3対策, 文法問題40問
第7回　カルタ6, Part 4対策, 文法問題40問
第8回　カルタ7, Part 4対策, 文法問題40問
第9回　カルタ8, Part 4対策, 文法問題40問
第10回　カルタ9, Part 6対策, 文法問題40問
第11回　カルタ10, Part 6対策, 文法問題40問
第12回　カルタ11, Part 7対策, 文法問題40問
第13回　カルタ12, Part 7対策, 文法問題40問
第14回　カルタ13, Part 7対策, 文法問題40問
第15回　カルタ14, 総合復習と到達度確認テスト

履修上の注意点

学習した内容を、必ず復習すること。英語コミュニケーション学科3回生は、クラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC550点未満の学生が対象となります。

教科書

公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 3
著者:　Educational Testing Service
出版社:　国際ビジネスコミュニケーション協会
出版年:　　ISBN:　4906033539

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ ）

参加度（ 60 ）

履修者は、後期中に公開テストまたは12月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験を受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることになりますので注意して下さい。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅲ〈＊A〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐久間　浩司	

テーマ

卒論執筆に向けた執筆技術の向上、および卒論に向けた準備

授業の到達目標

論文の書き方について技術的なことを中心にノウハウを修得する。同時に、卒論に向けた先行論文精読やインタビューの質問票準備をする。

授業の概要

テキストを輪読する形で授業を進める。
使用テキストは「新版　大学生のためのレポート・論文術」(講談社現代新書)
同時に、各自のテーマに合わせた卒論の準備を個別に指導する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

発表者は事前に担当箇所についてレジュメを用意し発表。

内　　容

第1回　イントロダクション:コース全体の説明と担当割り振りの決定
第2回　1. レポート・論文のあたり前の基本
第3回　2. レポート・論文の基本ルール
第4回　3. 文献・資料の集め方
第5回　4. レポート執筆の基本　その1
第6回　4. レポート執筆の基本　その2
第7回　各自進捗状況発表など
第8回　5. 卒業論文の執筆　その1
第9回　5. 卒業論文の執筆　その2
第10回　5. 卒業論文の執筆　その3
第11回　5. 卒業論文の執筆　その4
第12回　6. わかってもらえるレポート・論文を書くために　その1
第13回　6. わかってもらえるレポート・論文を書くために　その2
第14回　卒論準備指導
第15回　卒論準備指導

履修上の注意点

発表者が欠席した場合は最大限の減点の対象となります。遅刻、授業中の私語、スマホ操作など、参加度が悪い場合も大幅な減点の対象です。またこうした状況が繰り返される場合は単位を授与しません。

教科書

新版　大学生のためのレポート・論文術
著者:　小笠原喜康
出版社:　講談社現代新書
出版年:　2009　　ISBN:　9784062880213

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）
参加度の評価基準には、発言における消極性、私語、スマホ操作などがマイナス要因として含まれます。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅲ 〈＊B〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中井　弘一	

テーマ

中等教育における効果的な英語授業実践のあり方と指導方法を探る

授業の到達目標

・教材開発力、授業デザイン力、学習課題調査など授業改善に取り組む学究的な姿勢と課題整理能力を身につける
・生徒の学びを促すには教材・学習材をいかに展開するべきかを考える視点を身につける
・実践的な調査活動、文献研究を通して、「教材開発研究」「指導と効果」「授業デザイン」など、各自のテーマに合わせた研究活動を論文としてまとめる

授業の概要

内容は、卒業論文作成に向けて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。
テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる
文献・資料検索についての具体的指導
順次各自の研究テーマについて発表させる
中間発表に向けての指導
論文作成に向けての個別指導

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回着実に論文執筆に進捗があるように

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　論文の書き方, 研究倫理を守って
第3回　卒業研究進捗状況報告
第4回　卒業研究進捗状況報告
第5回　卒業研究進捗状況報告
第6回　卒業研究進捗状況報告
第7回　卒業研究進捗発表
第8回　卒業研究進捗発表
第9回　卒業研究進捗発表
第10回　卒業研究進捗発表
第11回　卒業研究進捗発表
第12回　卒業研究進捗発表
第13回　卒業研究進捗発表
第14回　卒業研究進捗発表
第15回　卒業研究進捗発表

履修上の注意点

高校一種(外国語)・中学校一種(外国語)の教員免許状を取得するものは、卒業論文を原則英語で書くものとする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 50 ）	授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅲ 〈＊C〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾌｧｾﾞｶｼｭ, ﾊﾞﾗｰｼﾞｭ	

テーマ

本授業では経営学とマーケティングの基礎知識を生かしながら、英語もしくは日本語で執筆される卒業論文の準備を進める。

授業の到達目標

卒業論文のために必要な企業分析の基礎知識を学び、卒業論文の作成に不可欠な能力を身につける。

授業の概要

3年前期は英語での発表能力と企業に関する簡単なプレゼンテーションのやりかたを勉強し、3年後期はマーケティングの基礎知識を習いながら卒業論文のテーマを考える。4年前期のこの授業では経営学の知識を深めながら卒業論文の準備を進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

3年前期・後期の授業を習得すること。前期レポートの作成。2冊以上の関係書籍を読み、テーマに関連するビジネス誌の記事を集めること。

内　容

第1回　イントロダクションと研究倫理の基礎
第2回　前期レポートのフィードバックとディスカッション
第3回　前期レポートのフィードバックとディスカッション
第4回　業界と産業I -- 基礎
第5回　業界と産業II -- 分析ツール
第6回　企業と事業部I -- 基礎
第7回　企業と事業部II -- 分析ツール
第8回　商品とマーケティング戦略 -- 基本
第9回　商品とマーケティング戦略 -- 分析ツール
第10回 ワークショップ
第11回 学生によるプレゼンテーション
第12回 学生によるプレゼンテーション
第13回 学生によるプレゼンテーション
第14回 学生によるプレゼンテーション
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅲ <＊D>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮崎　裕二	

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文・卒業研究を完成させる

授業の概要

内容は、卒業論文作成に向けて、一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下の通りだが、受講生の理解度等により弾力的に変更する。
1. テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定
2. 文献・資料検索についての具体的指導
3. 順次各自の研究テーマについて発表
4. 中間発表に向けての指導
5. 中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導
6. 論文作成に向けての個別指導

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

卒論テーマに関連する先行研究（図書や雑誌等）を1カ月に最低2冊読み、読書レポートを作成し、クラス発表に備えておくこと。卒論の執筆に向けて、進捗状況の報告以外にも、先行研究の読書レポートも随時行ってもらう。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　論文の書き方
第3回　卒業研究進捗状況報告（序論）
第4回　卒業研究進捗状況報告（序論）
第5回　卒業研究進捗状況報告（序論）
第6回　執筆要領、注意事項などの指導
第7回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第8回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第9回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第10回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第11回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第12回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第13回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第14回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第15回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

履修上の注意点

遅刻は2回で1回の欠席扱いとする。規定の欠席回数を超えた場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできない。

教科書

「レポート・論文の書き方入門」
著者：　河野哲也
出版社：慶応義塾大学出版会
出版年：2002　　ISBN：　4766409698

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 10 ）
ゼミにおいては、学生が主体的に学習し、積極的に授業に参加することが重要だと考える。したがって、授業中発表等（授業中における発言、発表、態度等）が50%の成績評価を占めている。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅲ 〈＊E〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　弥永　啓子	

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文作成に向けて準備をする。

授業の概要

内容は、卒業論文作成に向けて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下の通り。
〇テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。
〇文献・資料検索についての具体的指導。
〇順次各自の研究テーマについて発表させる。
〇中間発表に向けての指導。
〇中間発表後、執筆要項、注意事項など細部について指導する。
〇論文作成に向けての個別指導

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

卒業論文の執筆に向けて、先行研究の小レポートや報告をクラスでのプレゼンテーション以外にも随時行ってもらう。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　論文の書き方
第3回　卒業研究進捗状況報告（序論）
第4回　卒業研究進捗状況報告（序論）
第5回　卒業研究進捗状況報告（序論）
第6回　卒業研究進捗状況報告（序論）
第7回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第8回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第9回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第10回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第11回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第12回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第13回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第14回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第15回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

履修上の注意点

遅刻は2回で1回の欠席扱いとします。規定の欠席回数を超えた場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。また欠席する場合は、必ず電子メールで連絡をしてください。

教科書

論文･レポートの基本（前年度より継続使用）
著者：　石黒　圭
出版社：日本実業出版社
出版年：2012　　ISBN：　9784534049278

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 10 ）	

欠席が3分の1を超える場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅳ〈＊A〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐久間　浩司	

テーマ

コミュニケーションをメインテーマにして、各自の研究テーマを設定し、グループディスカッションやレポートなどを通じて各自の卒論の議論を深めていく。

授業の到達目標

卒業論文の執筆と相互評価。コンテンツについて理解を深めると同時に、アカデミックな枠組みでの物事のとらえ方、議論の仕方、論文のための取材方法、論文の書き方、論文の評し方を修得する。

授業の概要

基本的に個別指導となる。すでに3回生の最後に決めてあるテーマに基づき、指導教官と対面で議論しながら論文作成を進めていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各自の論文テーマについて、先行論文、関連論文を3つ以上読んでおくこと。

内　　容

第1回　イントロダクション：コース全体の説明と時間割り振りの決定
第2回　個別論文指導1
第3回　個別論文指導2
第4回　個別論文指導3
第5回　個別論文指導4
第6回　個別論文指導5
第7回　個別論文指導6
第8回　個別論文指導7
第9回　個別論文指導8
第10回　個別論文指導9
第11回　論文発表とグループディスカッション1
第12回　論文発表とグループディスカッション2
第13回　論文発表とグループディスカッション3
第14回　論文発表とグループディスカッション4
第15回　論文発表とグループディスカッション5

履修上の注意点

発表者が欠席した場合は最大限の減点の対象となります。遅刻、授業中の私語、スマホ操作など、参加度が悪い場合も大幅な減点の対象です。またこうした状況が繰り返される場合は単位を授与しません。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 40 ）

参加度の評価基準には、発言における消極性、私語、スマホ操作などがマイナス要因として含まれます。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅳ〈＊B〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中井　弘一	

テーマ

中等教育における効果的な英語授業実践のあり方と指導方法を探る

授業の到達目標

・教材開発力、授業デザイン力、学習課題調査など授業改善に取り組む学究的な姿勢と課題整理能力を身につける
・生徒の学びを促すには教材・学習材をいかに展開するべきかを考える視点を身につける
・実践的な調査活動、文献研究を通して、「教材開発研究」「指導と効果」「授業デザイン」など、各自のテーマに合わせた研究活動を論文としてまとめる

授業の概要

内容は、卒業論文作成に向けて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。
テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる
文献・資料検索についての具体的指導
順次各自の研究テーマについて発表させる
中間発表に向けての指導
中間発表後、執筆要項、注意事項など細部について指導する
論文作成に向けての個別指導

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回着実に論文執筆に進捗があるように

内　容

第1回　中間発表の準備(1)
第2回　中間発表の準備 (2)
第3回　中間発表の準備 (3)
第4回　中間発表
第5回　中間発表
第6回　執筆要領、注意事項などの指導
第7回　卒業研究作成にむけての報告と指導(1)
第8回　卒業研究作成にむけての報告と指導(2)
第9回　卒業研究に向けての報告と指導 (3)
第10回　卒業研究作成にむけての報告と指導(4)
第11回　卒業研究作成にむけての報告と指導(5)
第12回　卒業研究作成にむけての報告と指導(6)
第13回　卒業研究提出後報告とまとめ(1)
第14回　卒業研究提出後報告とまとめ(2)
第15回　卒業研究提出後報告とまとめ(3)

履修上の注意点

高校一種(外国語)・中学校一種(外国語)の教員免許状を取得するものは、卒業論文を原則英語で書くものとする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50(論文) ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅳ〈＊C〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾌｧｾﾞｶｼｭ, ﾊﾞﾗｰｼﾞｭ	

テーマ

本授業では経営学とマーケティングの基礎知識を生かしながら、英語もしくは日本語で執筆される卒業論文への準備を進める。

授業の到達目標

卒業論文のために必要な企業分析の基礎知識を学び、卒業論文の作成に不可欠な能力を身につける。

授業の概要

3年前期は英語での発表能力と企業に関する簡単なプレゼンテーションのやりかたを勉強し、3年後期はマーケティングの基礎知識を習いながら卒業論文のテーマを考えた。4年後期のこの授業では独自のテーマに関する資料を集め発表し、卒業論文を作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

4年前期の授業を習得すること。前期レポートの作成。さらなる資料を読むこと。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　テーマごとの知識を深めるためのワークショップ①
第3回　テーマごとの知識を深めるためのワークショップ②
第4回　テーマごとの知識を深めるためのワークショップ③
第5回　テーマごとの知識を深めるためのワークショップ④
第6回　モデル分析①
第7回　テーマごとの知識を深めるためのワークショップ⑤
第8回　テーマごとの知識を深めるためのワークショップ⑥
第9回　テーマごとの知識を深めるためのワークショップ⑦
第10回　モデル分析②
第11回　学生による発表①
第12回　学生による発表②
第13回　学生による発表③
第14回　学生による発表④
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅳ〈＊D〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮崎　裕二	

テーマ

卒業論文完成に向けて

授業の到達目標

卒業論文・卒業研究を完成させる

授業の概要

内容は、卒業論文作成に向けて、一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下の通りだが、受講生の理解度等により弾力的に変更する。
1. テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定
2. 文献・資料検索についての具体的指導
3. 順次各自の研究テーマについて発表
4. 中間発表に向けての指導
5. 中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導
6. 論文作成に向けての個別指導

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

卒論テーマに関連する先行研究（図書や雑誌等）を1カ月に最低2冊読み、読書レポートを作成し、クラス発表に備えておくこと。卒論の執筆に向けて、進捗状況の報告以外にも、先行研究の読書レポートも随時行ってもらう。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　中間発表の準備
第3回　中間発表の準備
第4回　中間発表の準備
第5回　中間発表
第6回　執筆要領、注意事項などの指導
第7回　執筆要領、注意事項などの指導
第8回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第9回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第10回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第11回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第12回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第13回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第14回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第15回　卒業研究作成にむけての報告と指導

履修上の注意点

遅刻は2回で1回の欠席扱いとする。規定の欠席回数を超えた場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできない。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 10 ）	

ゼミにおいては、学生が主体的に学習し、積極的に授業に参加することが重要だと考える。したがって、授業中発表等（授業中における発言、発表、態度等）が50%の成績評価を占めている。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅳ〈＊E〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　弥永　啓子	

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文・卒業研究を完成させる。

授業の概要

内容は、卒業論文作成に向けて、一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。
授業の進め方の概要は以下の通り。
〇テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。
〇文献・資料検索についての具体的指導。
〇順次各自の研究テーマについて発表させる。
〇中間発表に向けての指導。
〇中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。
〇論文作成に向けての個別指導。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

卒業論文の執筆に向けて、先行研究の小レポートや報告をクラスでのプレゼンテーション以外にも随時行ってもらう。

内　　容

第1回　中間発表の準備
第2回　中間発表の準備
第3回　中間発表の準備
第4回　中間発表の準備
第5回　中間発表
第6回　執筆要領、注意事項などの指導
第7回　執筆要領、注意事項などの指導
第8回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第9回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第10回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第11回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第12回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第13回　卒業研究提出後報告とまとめ
第14回　卒業研究提出後報告とまとめ
第15回　卒業研究提出後報告とまとめ

履修上の注意点

遅刻は2回で1回の欠席扱いとします。規定の欠席回数を超えた場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。また欠席する場合は、必ず電子メールで連絡をしてください。

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 10 ）
欠席が3分の1を超える場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ（経）＜＊A＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今久保　幸生	

テーマ

経営戦略をつかむ

授業の到達目標

経営戦略に関する定評あるテキストの輪読・発表を通じて、経済戦略の基礎を習得させるとともに、ゼミ形式の発表、討論、司会の仕方を学ばせることにより、大学での自学自習のスキルを身につけさせる。とくに、プレゼンテーション、資料・文章作成、コミュニケーション、情報リテラシー、学修方法・意欲・態度のそれぞれの目標項目を重視しつつ、授業を進める。

授業の概要

大学で学ぶとはどういうことかを理解させ、本や資料や新聞の読み方、レジュメの作り方、引用の仕方、発表や討論や司会の仕方、レポートの書き方、などのアカデミック・スキルズを示した上で、テキストの輪読・発表・討論を進めてゆく。日程等については、受講者数、理解度、進捗度などを勘案して入れ替えなどの変更を行う場合もある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

担当者は担当部分についてのレジュメ作成・論点提示などの準備をして臨むことは当然であるが、参加者全員が当該部分を予習して臨むことも不可欠である。また、テキストの当該章に関係する参考書等を学び、課題に関する興味や視野を広げることが重要である。課題へのフィードバックは以後の授業中に実施する。

内　容

第1回　導入：自己紹介、演習の進め方、発表者の分担決定。
第2回　大学で学ぶとはどういうことか、レジュメの作り方、論点の出し方、発表・討論・司会の仕方、レポートの書き方、などの説明。
第3回　テキストの輪読・討論１
第4回　テキストの輪読・討論２
第5回　テキストの輪読・討論３
第6回　テキストの輪読・討論４
第7回　テキストの輪読・討論５
第8回　テキストの輪読・討論６
第9回　テキストの輪読・討論７
第10回　テキストの輪読・討論８
第11回　テキストの輪読・討論９
第12回　テキストの輪読・討論１０
第13回　テキストの輪読・討論１１
第14回　学習成果報告会１
第15回　学習成果報告会２・まとめ

履修上の注意点

私語厳禁。報告担当者の欠席厳禁。

教科書

経営戦略をつかむ
著者：　浅羽茂他著
出版社：有斐閣
出版年：最新刊　　ISBN：

参考書

未定
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（　）　　小テスト（　）
授業中課題（30）　　授業中発表等（40）
参加度（30）

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ（経）<＊B>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉浦　昌	

テーマ

ゼミ形式で社会人の基礎力を修得する。

授業の到達目標

大学生に求められるものごとの捉え方を学ぶとともに、自分の意見をまとめて発表するスキル、および議論を行うスキルを身につける。

授業の概要

テキストを1章づつ読み、感想、賛同する部分、同意できない部分、よくわからなかった部分をまとめる。それらを全員の前で発表し、質問を受け、議論を行う。
他、授業中に適時質問したり課題を出すので自分の考えをまとめ適切に述べる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストを予習して、自分の考えをまとめた上で参加すること。

内　　容

第1回　ゼミの進行方法についてのガイダンスと自己紹介
第2回　学生による発表・討論（1）
第3回　学生による発表・討論（2）
第4回　学生による発表・討論（3）
第5回　学生による発表・討論（4）
第6回　学生による発表・討論（5）
第7回　学生による発表・討論（6）
第8回　学生による発表・討論（7）
第9回　学生による発表・討論（8）
第10回　学生による発表・討論（9）
第11回　学生による発表・討論（10）
第12回　学生による発表・討論（11）
第13回　学習成果報告会の準備と議論
第14回　学習成果報告会（1）
第15回　学習成果報告会（2）

履修上の注意点

積極的に参加すること。欠席しないこと。

教科書

おとなの教養―私たちはどこから来て、どこへ行くのか？
著者:　池上彰
出版社:　NHK出版
出版年:　2014年4月　　ISBN:　9784140884317

情報を生かす力（PHPビジネス新書）
著者:　池上彰
出版社:　PHP研究所
出版年:　2016年6月　　ISBN:　9784569830674

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（　）　　小テスト（　）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ（経）<＊C>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　髙山　一夫	

テーマ

基礎的なアカデミック・スキルの習得と学部専門教育への導入

授業の到達目標

1）人前で堂々と話すことができる。
2）体裁（引用含む）が整い、適切に表現された発表資料とレポートを作成することができる。
3）他人の意見を傾聴し、自分の意見を伝えることができる。
4）多様な情報の収集手段を理解している。
5）高校と大学での学びの違いを理解し、経営に関する知識や時事問題を理解していく学習態度がある。

授業の概要

アカデミック・スキルの習得とグループワークを内容とする演習形式の授業を展開する。また、毎回の演習の冒頭において、受講生による1分間スピーチやビジネス検定・時事問題の学習も行う。授業の到達目標に照らして、図書館ガイダンス等も開催する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業外において、グループワークの準備等を行う。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　アカデミック・スキル入門（本の読み方）
第3回　アカデミック・スキル入門（討論のルール）
第4回　アカデミック・スキル入門（レジュメの作り方）
第5回　図書館ガイダンス（予定）　実際の図書貸借を体験する。
第6回　視聴覚教材を用いた学習①（キャリア形成に関するもの）
第7回　視聴覚教材を用いた学習②（ヘルスケアに関するもの）
第8回　グループワーク①　テーマ設定と検討
第9回　グループワーク②　テーマの検討(1)
第10回 グループワーク③　テーマの検討(2)
第11回 グループワーク④　テーマの検討(3)
第12回 学習成果報告会の準備(1)
第13回 学習成果報告会の準備(2)
第14回 学修成果報告会
第15回 学修成果報告会

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ（経）＜＊D＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹内　直人	

テーマ

新聞記事で読む私たちの課題と政策

授業の到達目標

人々の生活を守り、基盤を支える国や自治体はどのような課題に直面し、どのような取り組みを行っているのか。新聞記事を読み、様々な課題を理解し、伝える力をつける。

授業の概要

国や自治体の政策に関連する統計や新聞記事を事前に配布する。授業では記事の解説と背景の説明を行い、理解を深めるためにディスカッションを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

指定された資料を授業までに読み、要点を整理してまとめておくこと（2時間）。授業は読んであることを前提として解説し、一単元が終わるごとにディスカッションを通して考えをまとめます。初回と最終回に理解度を測るテストを行います。

内　容

第1回　ガイダンス　国と自治体の課題
　　小テスト
第2回　新聞記事の読み方、統計やデータの意味・使い方
第3回　レジュメ・レポートの作り方、ディスカッションの進め方
第4回　〔単元1：人口減少社会の課題〕（1）都市と地方
第5回　〔単元1：人口減少社会の課題〕（2）少子化と待機児童
第6回　〔単元1：人口減少社会の課題〕（3）新しい課題
第7回　まとめとディスカッション
第8回　〔単元2：経済と仕事の課題〕（1）人手不足の経済
第9回　〔単元2：経済と仕事の課題〕（2）生産性と働き方
第10回　〔単元2：経済と仕事の課題〕（3）新しい課題
第11回　まとめとディスカッション
第12回　〔単元3：観光と外国人〕（1）外国人観光客の増加
第13回　〔単元3：観光と外国人〕（2）外国人観光客と自治体の取り組み
第14回　〔単元3：観光と外国人〕（3）外国人観光客と京都
第15回　まとめとディスカッション
　　小テスト

履修上の注意点

事前に資料を配布するので、授業までに必ず読んでおくこと。出席と授業への参加を重視します。

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 40 ）

参加度（ 40 ）

毎回簡単なレジュメを準備してもらいます。このレジュメと授業中の発表およびディスカッションへの参加により評価します。

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ（経）<＊E>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西野　毅朗	

テーマ

高校から大学への学びの転換
～主体的に学ぶ、関係性を構築する、基本的なスタディスキルを高める～

授業の到達目標

①人前で堂々と話すことができる。
②体裁（引用含む）が整い、適切に表現された発表資料とレポートを作成することができる。
③他人の意見を傾聴し、自分の意見を伝えることができる。
④多様な情報の収集手段を理解している。
⑤高校と大学での学びの違いを理解し、経営に関する知識や時事問題を理解していく学習態度がある。

授業の概要

本科目はグループワークを中心とした演習科目です。教員から教えてもらうということ以上に、実践を通じて自ら学ぶことを大切にして下さい。わからないこともまずは自分で調べてみてください。インターネットで調べたり、本を読んだり、人に訊いたりしてみてください。もちろん訊く相手の一人には教員も含まれます。遠慮なく質問したり、相談して下さいね。私もみなさんと一緒に考え、愉しく学びたいと思います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

ほぼ毎回課題があります。課題に対するフィードバックは学生同士、そして教員からも授業中に行います。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　キャンパスフィールドワーク（京都橘大学探検）
第3回　スタディスキル基礎①（ブレストとKJ法）
第4回　スタディスキル基礎②（情報収集法と図書館ツアー）
第5回　スタディスキル基礎③（レジュメ作成技法）
第6回　スタディスキル基礎④（プレゼンテーション技法）
第7回　スタディスキル基礎⑤（レポート作成技法）
第8回　スタディスキル応用①（研究計画づくり）
第9回　スタディスキル応用②（レジュメの構築）
第10回　スタディスキル応用③（中間プレゼンテーション）
第11回　スタディスキル応用④（レジュメのブラッシュアップ）
第12回　スタディスキル応用⑤（学修成果報告会リハーサル）
第13回　学修成果報告会
第14回　学修成果報告会
第15回　総括（半年間の学びを振り返り、今後への活かし方を考える）

履修上の注意点

遅刻・欠席する場合は、必ず教員に連絡してください（受講生みんなに迷惑がかかる可能性があるからです）。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 10 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 30 ）	

詳細な評価方法は授業中に説明します。

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ（経）<＊F>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　平尾 毅	

テーマ

大学のゼミ形式の学習方法を修得する。

授業の到達目標

プレゼンテーションの方法を理解し、人前で堂々と話すことができる。
体裁が整い、適切に表現された発表資料とレポートを作成することができる。
他人の意見を傾聴し、自分の意見を伝えることができる。
多様な情報の収集手段を理解している。
経営に関する知識や時事問題を理解していく学習態度がある。

授業の概要

新書版のテキストを全員が読み、レジュメを作成した上で、レジュメに基づく発表者の報告→指定質問者の質問→全員の質問→論点についての意見→全員の感想、と展開して、テキストを読了したらレポートを作成する。
また、テキストの内容に基づくテーマについて、グループで意見をまとめ、グループごとに発表する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習として、全員がレジュメを毎回作成し、提出してもらいます（1時間程度）。

内　容

第1回　ガイダンス（ゼミ運営の方法、チームビルディング）
第2回　大学での学習法：ノート・テイキング、学習態度
第3回　情報リテラシーを学ぶ：情報の収集と整理の方法
第4回　ライティング手法を学ぶ①：レジュメ作成の方法
第5回　学生による発表・討論（1）
第6回　学生による発表・討論（2）
第7回　ディスカッション手法を学ぶ
第8回　学生による発表・討論（3）
第9回　学生による発表・討論（4）
第10回 ライティング手法を学ぶ②：レポートの書き方
第11回 学修成果報告会準備①
第12回 学修成果報告会準備②
第13回 学修成果報告会（1）
第14回 学修成果報告会（2）
第15回 総括

履修上の注意点

テキストを必ず予習して、十分に準備した上でゼミに参加すること。
ゼミの欠席はありえない。
グループワークでは、傾聴を含む積極参加が求められます。

教科書

がんばると迷惑な人
著者：　太田肇
出版社：新潮新書
出版年：2014　　ISBN：978-4106105999

参考書

適宜紹介します。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（0%）　　小テスト（0%）
授業中課題（40%）　　授業中発表等（30%）
参加度（30%）
参加度はグループワークでの発言や参加姿勢を含みます。

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ（経）〈＊G〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松石　泰彦	

テーマ

大学での学習方法の基礎を習得する。

授業の到達目標

1）人前で堂々と話すことができる。
2）体裁（引用含む）が整い、適切に表現された発表資料とレポートを作成すること
ができる。
3）他人の意見を傾聴し、自分の意見を伝えることができる。
4）多様な情報の収集手段を理解している。
5）高校と大学での学びの違いを理解し、経営に関する知識や時事問題を理解してい
く学習態度がある。

授業の概要

前半は、若者や社会、経済、企業等に関する身近な時事問題について、グループで討論や意見集約をして、それを発表する。後半は、いくつかのテーマを定めた上でそれについてグループ単位で調べ、資料を作り報告する。なお、前半・後半それぞれ、開始回に具体的な方法や形式については指示をする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回課題が出され、それに対してレジュメやプレゼンテーションを用意してくる。それらについては学生同士のコメントを経て、教員からもアドバイスをする。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　時事問題を用いたグループ討論（1）
第3回　時事問題を用いたグループ討論（2）
第4回　時事問題を用いたグループ討論（3）
第5回　時事問題を用いたグループ討論（4）
第6回　時事問題を用いたグループ討論（5）
第7回　テーマを定めたグループワークと報告（1）
第8回　テーマを定めたグループワークと報告（2）
第9回　テーマを定めたグループワークと報告（3）
第10回　テーマを定めたグループワークと報告（4）
第11回　テーマを定めたグループワークと報告（5）
第12回　テーマを定めたグループワークと報告（6）
第13回　ポスターセッション準備
第14回　ポスターセッション
第15回　ポスターセッション

履修上の注意点

教科書

キャラクター・パワー
著者:　青木貞茂
出版社:　NHK出版新書
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 30 ）
ゼミ形式の授業は参加を大前提とする。遅刻・欠席を極力しないこと、またやむを得ない場合も必ず事前に連絡すること。

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ（経）<＊H>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　ランビーノ, パラガス	

テーマ

「安心して食べる」「便利に食べる」「豊かに食べる」の三つのトピックについてビジネスの観点で学修すること。

授業の到達目標

主な目標は、報告資料の作成と、報告および討論の経験を身につけることである。また、ポスターをパワーポイントで作成することも目指す。

授業の概要

本演習では、食品ビジネスに関わるトピックを新聞やインターネット、書物から抜粋し自分の考えを磨いて、ディスカッションする。テキストは『人を幸せにする食品ビジネス学』である。初回の授業でグループ分けを行って、チーム名を決める。テキストを用いる日には、報告グループはテキストの該当箇所の報告を行い、報告をベースにして参加者全員で議論する。ドキュメンタリー映画の鑑賞を行う場合は、鑑賞後の次の授業でディスカッションを行う。
近年、多くの企業が出身国を越えて海外に進出しており、国際NGOや国際機関の活動も一層活発になりつつある。この流れの中で、学生の時に異国や異文化を肌で経験し、異なる言語でコミュニケーションを取ることは、大変意義のあることである。これをふまえて、希望者が多い場合、ゼミでの海外旅行を企画予定である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

特になし。

内　　容

第1回　ガイダンス:この授業の概要の説明。
第2回　グループワーク（手書きポスターの作成）
第3回　グループワーク（手書きポスターの作成）
第4回　報告会
第5回　輪読
第6回　輪読
第7回　輪読
第8回　パワーポイントのスライド作成
第9回　パワーポイントのスライド作成
第10回　パワーポイントのスライド作成
第11回　学習成果報告会準備会
第12回　学習成果報告会準備会
第13回　修成果報告会
第14回　修成果報告会
第15回　まとめ

履修上の注意点

各授業で読むテキストの該当箇所を参加者全員が事前に読んで授業に備えてください。

教科書

人を幸せにする食品ビジネス学
著者:　日本大学食品ビジネス学科編
出版社:　Ohmsha
出版年:　2016年　　ISBN:　978-4274219542

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）	小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 0% ）	授業中発表等 （ 35% ）
参加度 （ 65% ）	

特になし。

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ（経）＜＊A＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　ランビーノ, パラガス	

テーマ

経営戦略について、複眼的に考えること。

授業の到達目標

主な目標は、報告資料の作成と、報告および質疑応答の経験を身につけることである。

授業の概要

本演習では、経営戦略に関わるトピックを新聞やインターネット、書物から抜粋し自分の考えを磨いて、報告してディスカッションする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

特になし。

内　　容

第1回　ガイダンス：この授業の概要の説明
第2回　パワーポイントでポスターを作成すること
第3回　ポスターの作成
　トピック①「SO戦略発想：コカ・コーラ」
　トピック②「SO戦略発想：ユニ・チャーム」
　トピック③「SO戦略発想：マンダム」
　トピック④「ST戦略発想：キッコーマン」
第4回　ポスターで報告
第5回　ポスターで報告
第6回　パワーポイントでプレゼンテーション・スライドを作成すること
第7回　プレゼンテーション・スライドの作成
　トピック⑤「ST戦略発想： ブリヂストン」
　トピック⑥「WO戦略発想：キリンビール」
　トピック⑦「WO戦略発想：日産自動車」
　トピック⑧「WT戦略発想：ネスレ」
第8回　スライドで報告
第9回　スライドで報告
第10回　学修報告準備会
第11回　学修報告準備会
第12回　学修報告準備会
第13回　学修報告会
第14回　学修報告会
第15回　まとめ

履修上の注意点

特になし。

教科書

参考書

松田久一
著者：　戦略ケースの教科書
出版社：かんき出版
出版年：2013年　　ISBN：978-4761268541

成績評価

試験・レポート（0%）	小テスト（0%）
授業中課題（0%）	授業中発表等（70%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ（経）＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　昌浩.松石　泰彦	

テーマ

大学生活における学習スキルの習得、学習習慣の確立

授業の到達目標

学習スキルとして①プレゼンテーションとしての説明力、発表への対応②資料、文書の作成としての発表資料の作成、レポート作成③コミニュケーションとしての他人の意見を傾聴すること、自分の意思を伝えることができること④
情報リテラシーとして多数の情報を集約し活用できること⑤学習方法意欲態度については、目的を持って自ら学習し習得しようとすること

授業の概要

テーマを提示し、グループワークによるディスカッションを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　資料を用いたグループワークの説明と準備
第3回　図書館ガイダンス
第4回　資料を用いたテーマによるグループディスカッション
第5回　資料を用いたテーマによるグループディスカッション
第6回　資料を用いたテーマによるグループディスカッション
第7回　資料を用いたテーマによるグループディスカッション
第8回　学習成果報告会に向けたテーマの設定と調査方法の指導
第9回　学習成果報告会に向けた研究の進捗状況報告と指導1
第10回　学習成果報告会に向けた研究の進捗状況報告と指導2
第11回　学習成果報告会に向けた研究の進捗状況報告と指導3
第12回　学習成果報告会に向けた研究の進捗状況報告と指導4
第13回　学習成果報告会に向けた研究の進捗状況報告と指導5
第14回　学習成果報告会
第15回　学習成果報告会

履修上の注意点

教科書

「話す」「書く」「聞く」能力が仕事を変える！伝える力
著者:　池上　彰
出版社:　PHPビジネス新書
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（30）	授業中発表等（50）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ（経）＜＊C＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今久保　幸生	

テーマ

経営戦略をつかむ。

授業の到達目標

経営戦略に関する定評あるテキストの輪読・発表を通じて、経済戦略の基礎を習得させるとともに、ゼミ形式の発表、討論、司会の仕方を学ばせることにより、大学での自学自習のスキルを身につけさせる。とくに、プレゼンテーション、資料・文章作成、コミュニケーション、情報リテラシー、学修方法・意欲・態度のそれぞれの目標項目を重視しつつ、授業を進める。

授業の概要

大学で学ぶとはどういうことかを理解させ、本や資料や新聞の読み方、レジュメの作り方、引用の仕方、発表や討論や司会の仕方、レポートの書き方、などのアカデミック・スキルズを示した上で、テキストの輪読・発表・討論を進めてゆく。日程等については、受講者数、理解度、進捗度などを勘案して入れ替えなどの変更を行う場合もある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

担当者は担当部分についてのレジュメ作成・論点提示などの準備をして臨むことは当然であるが、参加者全員が当該部分を予習して臨むことも不可欠である。また、テキストの当該章に関係する参考書等を学び、課題に関する興味や視野を広げることが重要である。課題へのフィードバックは以後の授業中に実施する。

内　容

第1回　ガイダンス：演習の進め方、発表者の分担決定など。
第2回　レジュメの作り方、論点の出し方、発表・討論・司会の仕方、レポートの書き方、などの説明。
第3回　テキストの輪読・討論1
第4回　テキストの輪読・討論2
第5回　テキストの輪読・討論3
第6回　テキストの輪読・討論4
第7回　テキストの輪読・討論5
第8回　テキストの輪読・討論6
第9回　テキストの輪読・討論7
第10回　テキストの輪読・討論8
第11回　テキストの輪読・討論9
第12回　テキストの輪読・討論10
第13回　テキストの輪読・討論11
第14回　学習成果報告会1
第15回　学習成果報告会2、まとめ

履修上の注意点

私語厳禁。報告担当者の欠席厳禁。

教科書

経営戦略をつかむ
著者：　浅羽茂他著
出版社：有斐閣
出版年：最新版　　ISBN：

参考書

未定
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（30）	授業中発表等（40）
参加度（30）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ（経）＜＊D＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉浦　昌	

テーマ

ゼミ形式で社会人の基礎力を修得する。

授業の到達目標

大学生に求められるものごとの捉え方を学ぶとともに、自分の意見をまとめて発表するスキル、および議論を行うスキルを身につける。

授業の概要

テキストを1章づつ読み、感想、賛同する部分、同意できない部分、よくわからなかった部分をまとめる。それらを全員の前で発表し、質問を受け、議論を行う。
他、授業中に適時質問したり課題を出すので自分の考えをまとめ適切に述べる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストを予習して、自分の考えをまとめた上で参加すること。

内　　容

第1回　ゼミの進行方法についてのガイダンスと自己紹介
第2回　学生による発表・討論（1）
第3回　学生による発表・討論（2）
第4回　学生による発表・討論（3）
第5回　学生による発表・討論（4）
第6回　学生による発表・討論（5）
第7回　学生による発表・討論（6）
第8回　学生による発表・討論（7）
第9回　学生による発表・討論（8）
第10回　学生による発表・討論（9）
第11回　学生による発表・討論（10）
第12回　学生による発表・討論（11）
第13回　学習成果報告会の準備と議論
第14回　学習成果報告会（1）
第15回　学習成果報告会（2）

履修上の注意点

積極的に参加すること。欠席しないこと。

教科書

おとなの教養―私たちはどこから来て、どこへ行くのか？
著者:　池上彰
出版社:　NHK出版
出版年:　2014年4月　　ISBN:　9784140884317

情報を生かす力（PHPビジネス新書）
著者:　池上彰
出版社:　PHP研究所
出版年:　2016年6月　　ISBN:　9784569830674

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ（経）<＊E>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　高原　正興	

テーマ

大学のゼミ形式の学習方法を修得する

授業の到達目標

新書版のテキストを読んで、発表者はレジュメを作り、全員が討論に参加して、レポートを作成するという一連の能力を身につける。また、学修成果報告会に参加するために、発表したレジュメを修正したパワポを作成して報告する能力を育成する。

授業の概要

新書版のテキスト二冊を読む。各班ごとに、レジュメに基づく発表者の報告→指定質問者の質問→全員の質問→論点についての意見→全員の感想、と展開して、テキストを読了したらレポートを作成する。また、学修成果報告会に参加する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

必ずテキストを予習する。自分のレジュメを見直す。

内　容

第1回　ゼミの運営方法についてのガイダンス、自己紹介
第2回　一冊目のテキスト、学生による発表・討論（1）
第3回　一冊目のテキスト、学生による発表・討論（2）
第4回　一冊目のテキスト、学生による発表・討論（3）
第5回　一冊目のテキスト、学生による発表・討論（4）
第6回　一冊目のテキスト、学生による発表・討論（5）
第7回　一冊目のテキストのまとめ、レポートの振り返り、二冊目のテキストの分担
第8回　二冊目のテキスト、学生による発表・討論（1）
第9回　二冊目のテキスト、学生による発表・討論（2）
第10回　二冊目のテキスト、学生による発表・討論（3）
第11回　二冊目のテキスト、学生による発表・討論（4）
第12回　二冊目のテキスト、学生による発表・討論（5）まとめとレポートの振り返り
第13回　学修成果報告会の予行演習（1）
第14回　学修成果報告会の予行演習（2）
第15回　学修成果報告会（土曜日開講）

履修上の注意点

テキストを必ず予習して、十分に準備した上でゼミに参加すること。ゼミの欠席はありえない（遅刻は半分）。

教科書

ブラックバイト
著者：　今野晴貴
出版社：岩波新書
出版年：2016　　ISBN：　00-431602-2
いじめ問題をどう克服するか
著者：　尾木直樹
出版社：岩波新書
出版年：2013　　ISBN：　00-431456-1

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（レポート20%）	授業中発表等（40%）
参加度（40%）	

授業中課題のレポートの評価は、夏季課題のレポートと一冊目・二冊目のテキストのレポートの評価の総合である。

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ（経）＜＊F＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　髙山　一夫	

テーマ

基礎的なアカデミック・スキルの習得と学部専門教育への導入

授業の到達目標

1）論理的にわかりやすく、説得力のある伝え方ができる。
2）論理的に分かりやすく、説得力のある発表資料とレポートをパソコンで作成することができる。
3）チームで協力し合い、成果を高めることができる。
4）複数の情報を収集し、活用することができる。
5）経営に関する知識や、時事情報を継続的に収集する姿勢がある。

授業の概要

グループワークを内容とする演習形式の授業を展開する。また、毎回の演習の冒頭において、受講生による1分間スピーチやビジネス検定・時事問題の学習も行う。授業の到達目標に照らして、図書館ガイダンス等も開催する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業外において、グループワークの報告準備等を行う。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　アカデミック・スキルの復習（本の読み方）
第3回　アカデミック・スキルの復習（討論のルール）
第4回　アカデミック・スキルの復習（レジュメの作り方）
第5回　図書館ガイダンス（予定）　実際の図書貸借を体験する。
第6回　視聴覚教材を用いた学習①（キャリア形成に関するもの）
第7回　視聴覚教材を用いた学習②（ヘルスケアに関するもの）
第8回　学習成果報告会に向けたテーマの設定と調査方法の指導
第9回　学習成果報告会に向けた研究の進捗状況報告と指導(1)
第10回　学習成果報告会に向けた研究の進捗状況報告と指導(2)
第11回　学習成果報告会に向けた研究の進捗状況報告と指導(3)
第12回　学習成果報告会に向けた研究の進捗状況報告と指導(4)
第13回　学習成果報告会に向けた研究の進捗状況報告と指導(5)
第14回　学修成果報告会
第15回　学修成果報告会

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ（経）〈＊G〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹内　直人	

テーマ

新聞記事で読む私たちの課題と政策

授業の到達目標

人々の生活を守り、基盤を支える国や自治体はどのような課題に直面し、どのような取り組みを行っているのか。新聞記事を読み、様々な課題を理解し、伝える力をつける。

授業の概要

国や自治体の政策に関連する統計や新聞記事を事前に配布する。授業では記事の解説と背景の説明を行い、理解を深めるためにディスカッションを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

指定された資料を授業までに読み、要点を整理してまとめておくこと（2時間）。授業は読んであることを前提として解説し、一単元が終わるごとにディスカッションを通して考えをまとめます。初回と最終回に理解度を測るテストを行います。

内　容

第1回　ガイダンス　国と自治体の課題
　　小テスト
第2回　新聞記事の読み方、統計やデータの意味・使い方
第3回　レジュメ・レポートの作り方、ディスカッションの進め方
第4回　〔単元1：人口減少社会の課題〕（1）都市と地方
第5回　〔単元1：人口減少社会の課題〕（2）少子化を巡る課題
第6回　〔単元1：人口減少社会の課題〕（3）新しい課題
第7回　まとめとディスカッション
第8回　〔単元2：経済と仕事の課題〕（1）人手不足の経済
第9回　〔単元2：経済と仕事の課題〕（2）生産性と働き方
第10回　〔単元2：経済と仕事の課題〕（3）新しい課題
第11回　まとめとディスカッション
第12回　〔単元3：財政と予算〕（1）政府の借金
第13回　〔単元3：財政と予算〕（2）税制
第14回　〔単元3：財政と予算〕（3）社会保障のしくみと課題
第15回　まとめとディスカッション
　　小テスト

履修上の注意点

事前に資料を配布するので、授業までに必ず読んでおくこと。出席と授業への参加を重視します。

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 40 ）

参加度（ 40 ）

毎回簡単なレジュメを準備してもらいます。このレジュメと授業中の発表およびディスカッションへの参加により評価します。

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ（経）＜＊H＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西野　毅朗	

テーマ

ディベートを通じた思考力・コミュニケーション力・協働力の向上

授業の到達目標

①論理的にわかりやすく、説得力のある伝え方ができる。
②論理的に分かりやすく、説得力のある発表資料とレポートをパソコンで作成することができる。
③チームで協力し合い、成果を高めることができる。
④複数の情報を収集し、活用することができる。
⑤経営に関する知識や、時事情報を継続的に収集する姿勢がある。

授業の概要

この授業では、「ディベート」という討論のゲームを通じて大学での学び、ひいては社会生活で必要とされる汎用的技能を高めます。このゲームの特徴は、皆さんが一生懸命やればやるほど力が身につくということです。半年後には、きっと「自分、成長したな」と思うことができます。初心者でも全く問題ありません。愉しみながらやっていきましょう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

本科目ではグループでの活動が中心となります。授業外での準備学習は必須です。グループメンバーと相談し、協力しながら進めてください。

内　容

第1回　オリエンテーション―ディベートとは？
第2回　試合準備①　ブレインストーミングとリンクマップ
第3回　試合準備②　システムマップ
第4回　試合準備③　立論と反論の準備
第5回　第一試合
第6回　第二試合
第7回　中間振り返り／新チーム結成／新テーマ決定
第8回　試合準備①　立論案と反論案の課題発見
第9回　試合準備②　立論案と反論案の課題解決
第10回　第一試合
第11回　第二試合
第12回　学修成果報告会リハーサル1
第13回　学修成果報告会リハーサル2
第14回　学修成果報告会
第15回　学修成果報告会

履修上の注意点

試合当日の欠席やレポートの未提出は落第に繋がりかねません。必ず出席・提出するようにしましょう。また授業に遅刻・欠席する場合は教員に事前に連絡をしましょう（これはマナーです）。最後に、授業に関する不安や悩み、相談などは遠慮なく申し出てください。受講生のみなさんにとって最良の学びの機会になるよう、私も善処します。

教科書

参考書

はじめてのディベート
著者:　西部直樹
出版社:　あさ出版
出版年:　1998　　ISBN:　4900699292

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 20 ）
評価基準などの詳細は授業で説明します。

2018 Syllabus

科 目 名　**救急救命実習Ⅲ〈Z〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年	定　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　冨士原　彰.北小屋　裕.関根　和弘.千田　いずみ.夏目　美樹.深澤　雄二.福岡　範恭	

テーマ

救急救命士の現場活動の知識・技術・思考力の修得

授業の到達目標

救急救命士が救急現場において実施する救急救命行為を修得する

授業の概要

救急救命士の活動に必要な知識・技術をシミュレーションし、各事例における基本活動プロトコールの修得とともに隊活動を通して総合的な実践力を養うことを目標とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

他の座学講義において習得した知識を行動に移すことが出来るよう予習をしておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、CPA対応基本活動
第2回　CPA対応基本活動
第3回　静脈路確保および薬剤投与プロトコル
第4回　静脈路確保および薬剤投与プロトコル
第5回　静脈路確保および薬剤投与プロトコル
第6回　器具を用いた気道確保プロトコル
第7回　器具を用いた気道確保プロトコル
第8回　気管挿管プロトコル
第9回　気管挿管プロトコル
第10回　CPA対応総合活動
第11回　CPA対応総合活動
第12回　CPA対応総合活動
第13回　病院内でのCPA対応（ICLS）
第14回　病院内でのCPA対応（ICLS）
第15回　前期まとめ
第16回　病態別対応（胸部痛対応活動）
第17回　病態別対応（胸部痛対応活動）
第18回　病態別対応（胸部痛対応活動）
第19回　病態別対応（胸部痛対応活動）
第20回　病態別対応（腰背部部痛対応活動）
第21回　病態別対応（腰背部部痛対応活動）
第22回　病態別対応（呼吸困難対応活動）
第23回　病態別対応（呼吸困難対応活動）
第24回　病態別対応（神経感覚系対応活動）
第25回　病態別対応（頭蓋内病変対応活動）
第26回　病態別対応（頭蓋内病変・意識消失対応活動）
第27回　気管挿管プロトコル病態別対応（頭蓋内病変・意識消失対応活動）
第28回　病態別対応（意識消失対応活動）
第29回　病態別対応（意識消失対応活動）
第30回　総括・総合活動

履修上の注意点

受講態度、服装、頭髪等が実習学生として不適切な者は、成績評価の対象としないことがある。
授業時に実施する確認テストが基準点数に達していない者は、成績評価の対象としないことがある。

教科書

救急救命士のための二次救命処置テキスト
著者:　小林國男・益子邦洋・坂本哲也
出版社:　へるす出版
出版年:　2007　　ISBN:

参考書

a50101b280

成績評価

試験・レポート （ 100% ）	小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 0% ）	授業中発表等 （ 0% ）
参加度 （ 0% ）	

成績評価は知識に関する試験に加え、実技試験を実施する。なお、試験の受験にあたっては原則、すべての授業に参加していることを条件とし、無断欠席があった場合は受験を認めないものとする。

2018 Syllabus

科 目 名　**救急救命実習Ⅳ**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西本　泰久.北小屋　裕.千田　いずみ.夏目　美樹.深澤　雄二.福岡　範恭.冨士原　彰	

テーマ

総合的な観察・処置技術を養う

授業の到達目標

これまでの各実習を通して学修した救急救命活動実践を総括し、救急救命士としての自覚を養う。また、各種高度シミュレーターや救急車を用いて、様々な現場と病態を想定した実践的な実習により、救急救命士としての総合的な観察・処置技術を習得すると共に一連の救急活動（救急救命活動）を自律的に遂行できる総合的な実践力を養う。そのために実践的なシミュレーション実習を実施する。

授業の概要

救急救命士の活動をシミュレーションし、各事例における基本活動プロトコルの更なる確認とともに、隊活動を通して現場活動に即応した実践力応用力を養うことを目標とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実習項目に関するテキストの各項目を熟読し、各種手技および病態生理を理解した後実習に参加すること。
実習後は実施した活動内容を復習し、必要に応じて自主練習を行い知識技術の習得に努めること。

内　容

第1回　第1回～3回　オリエンテーション、心肺停止症例対応
第2回　第4回～6回　神経系疾患症例対応
第3回　第7回～9回　呼吸器系疾患症例対応
第4回　第10回～12回　循環器系疾患症例対応
第5回　第13回～15回　消化器系疾患症例対応
第6回　第16回～18回　泌尿・生殖系疾患症例対応
第7回　第19回～21回　集団災害・外傷症例
第8回　第22回～24回　精神障害・中毒疾患症例対応
第9回　第25回～27回　環境障害疾患症例対応
第10回　第28回～30回　分娩・産婦人科系疾患症例対応
第11回　第31回～33回　内分泌・代謝系疾患症例対応
第12回　第34回～36回　意識消失疾患症例対応
第13回　第37回～39回　ショック症例対応
第14回　第40回～42回　総合シミュレーション
第15回　第43回～45回　総合シミュレーション

履修上の注意点

受講態度、服装、頭髪等が実習学生として不適切な者は、成績評価の対象としないことがある。

教科書

救急救命士標準テキスト　改訂第9版　上巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698699
救急救命士標準テキスト　改訂第9版　下巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698705

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 60 ）
無断欠席したものについては、成績評価を行わない。

a50101b310

2018 Syllabus

科 目 名　**現代企業論 <Z>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　平尾　毅	

テーマ

企業の本質・役割・存在価値を学習する。

授業の到達目標

株式会社を中心とした、企業の存在価値について理解を深める。

授業の概要

企業関連諸理論、制度を熟知し、実践に応用できるような学習を目指している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

経済新聞の精読をお薦めします。

内　　容

第1回　講義概要、及び現代企業を見る観点
第2回　企業の目的と存在価値
第3回　財・サービスの提供機関としての企業
第4回　企業の形態論
第5回　株式会社制度の出現と展開
第6回　株式会社の本質と特徴
第7回　株式会社の組織
第8回　理解度チェックとフィードバック
第9回　コーポレート・ガバナンスの国際比較
第10回　企業の境界
第11回　企業関関係の構造と行動
第12回　企業統合の形態論とM&A
第13回　会社機関
第14回　証券取引市場
第15回　理解度チェックとフィードバック

履修上の注意点

経済新聞の精読をお薦めします。

教科書

企業形態論 第3版（新経営学ライブラリー5）
著者:　小松　章
出版社:　新世社
出版年:　2006年　　ISBN:　978-4883840984

参考書

経験から学ぶ経営学入門
著者:　上林・奥林・團・開本・森田・竹林
出版社:　有斐閣ブックス
出版年:　2007年　　ISBN:　978-4641183483

1からの経営学 第2版
著者:　加護野忠男・吉村典久
出版社:　碩学舎
出版年:　2012年　　ISBN:　978-4502696107

企業論 第3版
著者:　三戸浩・池内秀己・勝部伸夫
出版社:　有斐閣アルマ
出版年:　2011年　　ISBN:　978-4641124448

成績評価

a50101d150

試験・レポート （ 60% ）	小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 15% ）	授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 15% ）	

試験・レポートは、理解度チェックを含みます。
授業中課題は、予習プリントを含みます。
授業中発表等は、授業内で数回予定しているグループワークの発表を含みます。

2018 Syllabus

科 目 名　**会計学入門**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河野　充央	

テーマ

財務諸表の概要を学ぶ

授業の到達目標

財務諸表の仕組みを学ぶことをとおして経営活動の本質を理解する

授業の概要

テキスト以外に，経済記事を活用しながら，常にグローバルビジネスの最前線に目を向けながら講義を進める。スケジュール等において，可能であれば，経営者をゲストスピーカーに招く場合もある

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

復習を必ず行ってもらいたい。

内　　容

第1回　ガイダンス 資金の流れと会計的思考
第2回　制度としての会計システム 財務会計と関連法規
第3回　財務諸表の仕組み・役割り
第4回　資産の意義と分類1
第5回　資産の意義と分類2
第6回　負債の意義と分類1
第7回　負債の意義と分類2
第8回　純資産の意義と分類1
第9回　純資産の意義と分類2
第10回　損益計算書のルール
第11回　損益計算の仕組み1
第12回　損益計算の仕組み2
第13回　財務管理1
第14回　財務管理2
第15回　まとめ

履修上の注意点

私語は厳に慎んで下さい。他の受講者にとって，これ以上の迷惑はありません。

教科書

これだけは知っておきたい「会計」の基本と常識
著者:　乾　隆一
出版社:　フォレスト出版
出版年:　　ISBN:

参考書

最新財務諸表論
著者:　武田隆二
出版社:　中央経済社
出版年:　　ISBN:

経営管理会計
著者:　西澤脩
出版社:　中央経済社
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**社会調査・フィールドワーク入門 <Z>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　高原　正興	

テーマ

社会調査・フィールドワークの意義・歴史・類型等、基本的なことについてわかりやすく解説する。

授業の到達目標

「社会調査・フィールドワーク入門」の授業と同時開講しながら、上記テーマに記載の内容（社会調査の基本知識）を身につける。

授業の概要

下記の教科書に準拠して、社会調査の基本知識を講義形式で展開する。第一に定義・目的・歴史、第二に各種調査の種類の紹介、第三に調査方法や手順の実際に関する内容を概説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストの予習・復習に努める

内　　容

第1回　社会調査とは何か　社会調査の目的
第2回　社会学と社会調査の歴史
第3回　調査方法論・調査倫理
第4回　量的調査と質的調査
第5回　国勢調査　官庁統計　事業所・企業統計調査　世論調査
第6回　調査票調査
第7回　調査票作成
第8回　サンプリング
第9回　データ化作業
第10回 データ分析
第11回 フィールドワークとはなにか
第12回 フィールドワークの事例
第13回 聞き取り調査　　参与観察法
第14回 ドキュメント分析
第15回 （まとめ）社会調査の意義
第16回 試験

履修上の注意点

期末のペーパー試験が50%分あることに留意して、特に復習に努めること。

教科書

新・社会調査へのアプローチ
著者:　大谷信介他
出版社: ミネルヴァ書房
出版年: 2013　　ISBN:　9784623066544

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50% ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 30% ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20% ）	

授業中課題は3回のレポートによる。

2018 Syllabus

科 目 名　**統計学基礎論(経営)**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　片岡　裕介	

テーマ

統計学の基礎的内容の理解

授業の到達目標

本科目は、官庁や企業が公表する統計や調査結果を理解し、あるいは、社会調査を行うときに必要となる「統計学」の基礎的な知識と態度を身につける。

授業の概要

授業では、まず、社会調査における「統計」の意味・目的、「データ」の種類・性質、実際の「統計調査」の事例を学ぶ。続いて、「量的なデータ」のうち、「一変量データ」については、単純集計、度数分布、代表値、ばらつきなど、「二変量データ」については、クロス集計、相関関係などの意味、計算の仕方、グラフの読み方・描き方を学ぶ。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業で扱う演習問題は、授業後に見直し、必ず出来るようにしておくこと。

内　容

第1回　授業ガイダンス:社会調査と統計学
第2回　調査方法とデータの種類:定性調査と定量調査、質的データと量的データ
第3回　定性調査(フィールドワーク論文)の事例
第4回　定量調査(官庁統計や簡単な調査報告)の事例
第5回　基本統計量:代表値
第6回　基本等計量:ちらばり
第7回　度数分布表とヒストグラム
第8回　正規分布
第9回　様々な図表化
第10回　クロス集計表
第11回　散布図と相関分析
第12回　因果関係と相関関係
第13回　疑似相関
第14回　単回帰分析
第15回　順位相関分析

履修上の注意点

毎回の授業に平方根の計算機能がある電卓を持参する。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に指示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )	小テスト (60)
授業中課題 (40)	授業中発表等 ( )
参加度 ( )	

2018 Syllabus

科 目 名　**マクロ経済学 〈Z〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阪本　崇	

テーマ

国民経済の決定原理と変動要因

授業の到達目標

新聞等で報道されるさまざまな経済現象について、経済学的な視点から見ることのできる能力を身につける。

授業の概要

現実の経済の動向を知るためには、一国全体の経済を大局的に見る必要がある。この授業では、まず、経済を大局的に見るために必要なもっとも基礎的な指標であるGDPの概念について説明し、その大きさに影響を与える様々な要因について学ぶ。次に、貨幣に焦点を当てて、実物経済と貨幣経済との関係を学習する。これらの基本的な知識を理解した上で、物価変動や失業の問題、経済政策と経済成長、為替レートと国際収支などの重要なトピックスについて学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

教科書とノートを利用してしっかりと復習してください。テーマ毎にワークシートを課題として課します。ワークシートについては、解答例を示すとともに、理解の進んでいない箇所について再度説明を行う形でフィードバックを行います。

内　容

第1回　【イントロダクション】
第2回　【GDP】GDPの定義と性質
第3回　【GDP】経済循環とGDPの分解
第4回　【GDP】GDP決定の2つのメカニズム
第5回　【貨幣と金融】貨幣の機能と貨幣需要
第6回　【貨幣と金融】金融システムと貨幣供給
第7回　【物価】インフレーションとデフレーション
第8回　【労働市場】失業発生の諸要因
第9回　【経済政策】財政政策と公債の意義
第10回【経済政策】金融政策のメカニズム
第11回【長期の経済】景気変動に関する諸学説
第12回【長期の経済】経済成長とその要因
第13回【国際経済】為替レートの決定メカニズム
第14回【国際経済】貿易と国際収支
第15回【国際経済】国際金融と国際収支

履修上の注意点

参考書とノートを利用してしっかりと復習しておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（ 60 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（　）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**経営学入門**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松石　泰彦	

テーマ

経営学の基礎的知識や考え方を習得する。

授業の到達目標

経営学に関する基礎知識の習得を目標とする。経営は、周囲の環境に対応しながら、組織目標に向かって生身の人間や組織をマネジメントすることである。まずは入門的な内容で経営学の対象領域を知り、内部組織やメンバー、外部環境の経済や社会にどう対処していくべきかについて、様々な専門的アプローチへの入り口部分を体系的に理解する。

授業の概要

経営管理、経営組織、経営戦略、生産管理、マーケティング、企業統治、それらの歴史的経緯など、経営学の主要テーマについて、それぞれ入り口となる基礎的な考え方（理論）や具体例を、広く浅くわかりやすく説明する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

先行して配布する資料には事前に目を通しておくこと。新聞等メディアに出る関連事項にも目を配ること。授業1,2回ごとに最後にシンプルな選択肢型問題を実施する。解答の正答率やポイントについてもコメントする。

内　容

第1回　経営学とは何か
第2回　企業の形態
第3回　株式会社の仕組みとコーポレートガバナンス
第4回　経営管理
第5回　フォーディズム
第6回　組織とは何か
第7回　組織の行動
第8回　色々な組織構造
第9回　経営戦略1（ポジショニングから）
第10回　経営戦略2（組織能力から）
第11回　マーケティング
第12回　生産の管理
第13回　企業の社会的責任
第14回　グローバルな経営の潮流と日本の経営
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

テキスト経営学第3版
著者:　井原久光
出版社: ミネルヴァ書房
出版年: 2008　　ISBN:

ゼミナール経営学入門第3版
著者:　伊丹敬之他
出版社: 有斐閣
出版年: 2003　　ISBN:

よくわかる企業論
著者:　佐久間信夫他
出版社: ミネルヴァ書房
出版年: 2012　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ ）

a50101e010

授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 10 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**医療事務研究Ⅰ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　秋期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　辻出　英子	

テーマ

医療事務研究

授業の到達目標

医療事務技能審査（医科）＝メディカルクラーク（医科）の資格取得を目標とする。

授業の概要

短期間で単位と資格取得を目指すため、講義で理解し自宅で練習問題を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

①医療事務技能審査試験（医科）の受験対策として医療事務研究Ⅰ・Ⅱをすべて履修すること ②授業時間以外に復習・宿題のための時間を確保すること

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　医療保険制度
第3回　窓口業務
第4回　初診料
第5回　再診料
第6回　医学管理・在宅医療
第7回　投薬1
第8回　投薬2
第9回　注射1
第10回　注射2
第11回　処置1
第12回　処置2
第13回　手術
第14回　輸血・麻酔
第15回　修了試験1

履修上の注意点

短期間で単位と資格取得を目指すため、欠席は厳禁。

教科書

テキストは第1回目の授業にて販売19,960円（予定）

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ）	小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 30% ）	授業中発表等 （ 0% ）
参加度 （ 40% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**医療事務研究Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　秋期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　辻出　英子	

テーマ

医療事務研究

授業の到達目標

医療事務技能審査（医科）＝メディカルクラーク（医科）の資格取得を目標とする。

授業の概要

短期間で単位と資格取得を目指すため、講義で理解し自宅で練習問題を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

①医療事務技能審査試験（医科）の受験対策として医療事務研究Ⅰ・Ⅱをすべて履修すること ②授業時間以外に復習・宿題のための時間を確保すること

内　　容

第1回　検査1
第2回　検査2
第3回　検査3
第4回　検査4
第5回　画像診断1
第6回　画像診断2・リハビリテーション
第7回　入院料・接遇
第8回　レセプト点検1
第9回　レセプト点検2
第10回　レセプト点検3
第11回　レセプト点検4
第12回　レセプト点検5
第13回　試験対策（学科）
第14回　試験対策（点検）
第15回　修了試験2

履修上の注意点

短期間で単位と資格取得を目指すため、欠席は厳禁。

教科書

テキストは第1回目の授業にて販売19,960円（予定）

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ）	小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 30% ）	授業中発表等 （ 0% ）
参加度 （ 40% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**簿記演習Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河野　充央	

テーマ

「貸借平均の原理」および「簿記一巡の手続き」の理解をとおして 複式簿記の科学性を理解する。

授業の到達目標

会計データの認識・測定・報告のプロセスを理解する。

授業の概要

講義をベースに，練習問題を随時，解きながら進める。小テストを実施したり，宿題を提出してもらったりする場合もある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

同じ問題を何度も解いてみること。復習を必ず行って下さい。

内　　容

第1回　ガイダンス：企業経営と簿記会計の役割
第2回　複式簿記の意義と目的
第3回　財務諸表の仕組み：貸借対照表と損益計算書との関係
第4回　取引の分類と集計の方法：仕訳と勘定記入
第5回　商品取引1
第6回　商品取引2
第7回　現金取引1
第8回　現金取引2
第9回　手形取引1
第10回　手形取引2
第11回　種々の債権債務取引1
第12回　種々の債権債務取引2
第13回　有価証券
第14回　有形固定資産
第15回　講義全体のまとめ

履修上の注意点

私語は，厳に慎んで下さい。他の受講生に，この上もなく迷惑なことです。

教科書

スラスラできる日商簿記3級テキスト
著者：
出版社：大原出版
出版年：　　ISBN：

参考書

簿記Ⅰ
著者：　武田隆二
出版社：税務経理協会
出版年：　　ISBN：

簿記Ⅱ
著者：　武田隆二
出版社：税務経理協会
出版年：　　ISBN：

簿記Ⅲ
著者：　武田隆二
出版社：税務経理協会
出版年：　　ISBN：

成績評価

a50101e310

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**簿記演習Ⅰ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　藤原　智緒	

テーマ

簿記の初学者に基本的な仕組みを理解いただき、興味を持って積極的に勉強できるよう導きます。最終的には、検定試験3級の資格取得を目指します。

授業の到達目標

日商簿記検定試験3級の資格取得を目標とし、簿記演習Ⅰ及びⅡを通じて全範囲を網羅します。

授業の概要

基本理論を解説し、授業中に問題演習を行います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

簿記習得には、復習が欠かせません。授業ごとに宿題を課しますが、それ以外にも授業中に行った演習の繰り返し及び解説の振り返りを必ず行うようにしてください。

内　　容

第1回　ガイダンス　簿記の意義としくみ　資産、負債、資本と貸借対照表
第2回　収益、費用と損益計算書
第3回　取引
第4回　勘定と仕分
第5回　帳簿の記入
第6回　決算と財務諸表
第7回　元帳の締め切りと財務諸表の作成(1)
第8回　元帳の締め切りと財務諸表の作成(2)
第9回　精算表の作成
第10回　現金、現金過不足
第11回　当座預金、当座借越
第12回　小口現金、商品売買(1)
第13回　商品売買(2)
第14回　商品有高帳
第15回　総合問題演習

履修上の注意点

できる限りの出席をお願いいたします。

教科書

検定簿記講義　3級
著者:
出版社: 中央経済社
出版年: 平成30年　　ISBN:
検定簿記ワークブック3級
著者:
出版社: 中央経済社
出版年: 平成30年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**簿記演習Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　「簿記演習Ⅰ」を履修済みであること。	クラス指定
担 当 者　河野　充央	

テーマ

「貸借平均の原理」および「簿記一巡の手続き」の理解をとおして 複式簿記の科学性を理解する。

授業の到達目標

会計データの認識・測定・伝達のプロセスを理解する。

授業の概要

講義をベースに，練習問題を随時，解きながら進める。小テストを実施したり，宿題を提出してもらったりする場合もある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

同じ問題を何度も解いてみること。

内　容

第1回　合計残高試算表
第2回　帳簿組織1: 仕訳帳・総勘定元帳
第3回　帳簿組織2: 現金出納帳・当座預金出納帳
第4回　帳簿組織3: 小口現金出納帳
第5回　帳簿組織4: 手形記入帳
第6回　帳簿組織5: 仕入帳・売上帳・売掛金元帳・買掛金元帳
第7回　帳簿組織6: 商品有高帳
第8回　伝票会計
第9回　決算手続1: 売上原価の計算
第10回　決算手続2: 貸倒引当金の設定
第11回　決算手続3: 減価償却
第12回　決算手続4: 費用収益の繰延・見越し
第13回　決算手続5: その他の決算修正仕訳・英米式決算法
第14回　決算報告: 財務諸表の作成
第15回　講義全体のまとめ

履修上の注意点

私語は厳に慎んで下さい。他の受講生にとって，この上もなく迷惑なことです。

教科書

スラスラできる日商簿記3級テキスト
著者:
出版社: スラスラできる日商簿記3級テキスト
出版年:　　ISBN:

参考書

簿記Ⅰ
著者:　武田隆二
出版社: 税務経理協会
出版年:　　ISBN:

簿記Ⅱ
著者:　武田隆二
出版社: 税務経理協会
出版年:　　ISBN:

簿記Ⅲ
著者:　武田隆二
出版社: 税務経理協会
出版年:　　ISBN:

成績評価

a50101e450

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**簿記演習Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期後半	定　　員
履修条件　「簿記演習Ⅰ」を履修済みであること。	クラス指定
担 当 者　藤原　智緒	

テーマ

簿記の初学者に基本的な仕組みを理解いただき、興味を持って積極的に勉強できるよう導きます。最終的には、検定試験3級の資格取得を目指します。

授業の到達目標

日商簿記検定試験3級の資格取得を目標とし、簿記演習Ⅰ及びⅡを通じて全範囲を網羅します。

授業の概要

基本理論を解説し、授業中に問題演習を行います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

簿記習得には、復習が欠かせません。授業ごとに宿題を課しますが、それ以外にも授業中に行った演習の繰り返し及び解説の振り返りを必ず行うようにしてください。

内　容

第1回　ガイダンス　売掛金・買掛金(1)
第2回　売掛金・買掛金(2)、その他の債権と債務(1)
第3回　その他の債権と債務(2)
第4回　その他の債権と債務(2)、手形(1)
第5回　手形(2)
第6回　手形(3)、有価証券
第7回　固定資産
第8回　貸倒損失と貸倒引当金、資本金と引出金
第9回　収益と費用(1)
第10回　収益と費用(2)、伝票
第11回　試算表の作成
第12回　決算整理手続
第13回　精算表の作成
第14回　財務諸表の作成
第15回　検定試験直前対策

履修上の注意点

できる限りの出席をお願いいたします。

教科書

検定簿記講義　3級
著者:
出版社: 中央経済社
出版年: 平成30年　　ISBN:
検定簿記ワークブック3級
著者:
出版社: 中央経済社
出版年: 平成30年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**金融入門**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　近藤　隆則	

テーマ

私たちの経済社会において金融機関がどのような役割を果たしているかを具体的に学びます。金融業界への就職を考えようとする人だけではなく、広くビジネスや公共的な仕事に携わろうとする人にとっても不可欠の金融の基礎知識を習得します。

授業の到達目標

金融仲介の意義を正しく理解し、様々な種類の金融機関の業務内容の共通点や相違点について具体的に説明できることを目標とします。

授業の概要

銀行、信用金庫、生命保険会社、損害保険会社、金融商品取引業者（証券会社など）、ノンバンクといった様々な種類の金融機関について、経済社会の中で果たしている役割や業務内容について学びます。授業は基本的に講義形式で進めますが、適宜、具体的課題についてみんなで考え発言する時間を作ります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

自分の身の回りにどのような金融機関（銀行、信用金庫、保険会社、証券会社など）が存在しているかチェックしてみてください。課題に対するフィードバックは授業の中で行います。

内　容

第1回　金融を学ぶ意義：社会生活を営む上でも、経済情報を正確に理解する上でも、ビジネスや公共業務に携わる上でも、金融の基礎知識が不可欠であることを様々な事例から説き起こします。
第2回　金融機関の種類と業務の概要：全ての金融機関の共通機能である「金融仲介」とは何か、「直接金融」と「間接金融」の違いとは何かといったポイントを踏まえ、金融機関の種類と業務の概要を学びます。
第3回　銀行（1）：銀行について基礎的な知識を身に付けます。具体的には、銀行の種類、銀行の共通点、自由化による銀行の多様化について学びます。
第4回　銀行（2）：銀行の業務内容を具体的に見てゆきます。決済、預金、融資など支店の業務、リスク管理、審査、国際業務、市場業務など本部の業務について知った上で、銀行の収益の源泉は主として「信用リスク」と「金利リスク」にあることを学びます。
第5回　銀行（3）：銀行業務を支える人材の採用と育成、銀行員のキャリアパス、銀行員に求められる素養について考えます。
第6回　銀行（4）：銀行と地域の企業や産業が深いかかわりを持っていることを学びます。特に地方銀行や信用金庫といった地域金融機関は地元経済の発展に大きな役割を果たしています。
第7回　保険（1）：保険業界について基礎的な知識を身に付けます。まず保険の原理である「大数の法則」を理解した上で、公的保険、私的保険といった区別や生命保険、損害保険、第三分野といった区分を学習します。
第8回　保険（2）：生命保険会社の業務について学びます（生命保険の仕組み、契約の基本的事項、税金など）。またインターネット保険会社や外資系保険会社など、生命保険業界の多様化についても触れます。
第9回　保険（3）：損害保険会社の業務について学びます（損害保険の仕組み、商品の種類など）。また医療保険やガン保険と言った第三分野保険についても触れます。
第10回　金融商品取引業（1）：直接金融の仲介機能を果たしている「金融商品取引業」の特徴を間接金融との比較で考えます。また、金融商品取引業の種類も学びます。
第11回　金融商品取引業（2）：金融商品取引業のうち、証券の引受・販売業を学びます。具体的には、証券の流通市場の意味や引受・販売の担い手である証券会社の役割、証券業界の動向について見てゆきます。
第12回　金融商品取引業（3）：金融商品取引業のうち、資産運用業について学びます。具体的には、投資顧問会社と投資信託会社がどのような役割を担っているかを見てゆきます。
第13回　ノンバンク（1）：ノンバンクのうち、リース、信販、クレジットカードの各業界の機能について学習します。
第14回　ノンバンク（2）：ノンバンクのうち、ベンチャー・キャピタルやサービサーの機能について学習します。併せて、起業、株式公開、企業再編、企業再生といった企業の成長段階に応じた金融機能についてまとめます。
第15回　全体のまとめと復習

履修上の注意点

授業中の私語は禁止です。携帯電話・スマホ等の情報端末は、指示の無い限り使用禁止です。

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

a50101e510

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 80% ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**公共経営入門**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹内　直人	

テーマ

公共部門の仕事の特徴と公務員の仕事の理解

授業の到達目標

国や自治体（市役所、警察、消防など）の仕事のしくみや具体的な内容を学び、その特徴や意義を理解する。

授業の概要

自治体の様々な課題とその解決策を実施するために必要な地方自治の基本的なしくみを学ぶ。その上でゲストスピーカーの講演などを通して理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業のポイントを1週間前に配布するので読んでおくこと。また、自治体の仕事に関係する新聞記事等をKT-noteに掲載するので予習すること（1時間）。内容が理解できているかの確認テストを2回実施する。

内　容

第1回　イントロダクション：自治体の多様な課題
第2回　課題の解決策
第3回　公務員の仕事
第4回　首長の仕事
第5回　住民の権利
第6回　自治体の仕事と市民生活
第7回　首長と議会
第8回　国と自治体の選挙制度
第9回　国と自治体の関係
第10回　公共経営の実際：ゲストスピーカー
第11回　自治体の組織
第12回　地方分権改革
第13回　自治体改革
第14回　政策と予算
第15回　住民参加

履修上の注意点

自治体がどんな仕事をしているか、日ごろから新聞記事に関心を持つと講義が面白くなります。

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

地方自治入門
著者：　稲継裕昭
出版社：　有斐閣
出版年：　2011　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
確認の小テストと期末のテストで評価します。テストを欠席しないこと。

2018 Syllabus

科 目 名　**医療経営入門**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　髙山　一夫	

テーマ

医療経営についての入門科目

授業の到達目標

医療経営とその背景をなす医療制度と医療技術について、基礎的な知識を獲得する

授業の概要

医療制度、医療経営、医療技術とその評価について、講義形式で授業を行う。外部講師による特別講演も予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

受講に際して前提となる知識は不要であるが、授業中の配布プリントや確認テストを活用して知識の習得に努めること。

内　　容

第1回　ガイダンスと話題提供
第2回　概説－医療経営の特徴
第3回　医療制度（医療保険制度の概要）
第4回　医療制度（介護保険分野）
第5回　医療制度（医療法と医療法人制度）
第6回　医療制度（医療・介護総合改革）
第7回　中間まとめと理解度の確認
第8回　医療経営（人的資源管理）
第9回　医療経営（業務管理）
第10回　医療経営（資金管理）
第11回　医療経営（リスク管理）
第12回　医療技術評価の基礎
第13回　医療技術評価の基礎
第14回　外部講師による特別講演（予定）
第15回　講義全体のまとめと理解度の確認

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、授業中に紹介した参考書などを積極的に読むとともに、新聞や雑誌の医療記事に目を通す習慣をつけること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

医療・介護問題を読み解く
著者:　池上直己
出版社:　日経文庫
出版年:　2014　　ISBN:　9784532113117

医療の選択
著者:　桐野高明
出版社:　岩波新書
出版年:　2014　　ISBN:　9784004314929

2015年版イラスト図解医療費の仕組み
著者:　木村憲洋、川越満
出版社:　日本実業出版社
出版年:　2014　　ISBN:　9784534051776

a50101e710

医療政策を問いなおす

著者: 島崎謙治
出版社: ちくま新書
出版年: 2015 ISBN: 9784480068637

成績評価

試験・レポート（ ）
小テスト（ 50 ）
授業中課題（ 25 ）
授業中発表等（ ）
参加度 （ 25 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**グローバルビジネス入門**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　平尾　毅	

テーマ

グローバル時代におけるビジネスについて理解を深める。

授業の到達目標

グローバル化が進む現代において企業が国境を越えて事業を展開する論理を学び、多国籍企業の戦略を理解できるようになる。
ワールドワイドに働くということはどのようなことかを理解できるようになる。

授業の概要

中小企業の多国籍化を促しながら発展してきた経営のグローバル展開と、そうしたグローバル時代を生き抜くために必要な条件について講義形式で学びます。私たちの身近な生活に影響を与えている多国籍企業の事例を通して、企業の国際化の論理を学びます。また、グローバル社会と無縁ではいられない今日、仕事ではどのような考えや態度が求められるのかを、グローバル企業の経営者やコンサルティング企業の事例から理解します。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

復習として配布資料を自筆でノートにまとめてください（1時間程度）。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　企業とは（企業とは何か、また企業の成長について学ぶ）
第3回　経営のグローバル化と多国籍企業（多国籍企業の生成と発展を学ぶ）
第4回　多国籍企業の理論（多国籍企業の理論の変遷を学ぶ）
第5回　アメリカ多国籍企業のグローバル支配構造（アメリカ多国籍企業の優位性と特権性について学ぶ）
第6回　NAFTAとアメリカ多国籍企業（NAFTAの役割と多国籍企業の動向について学ぶ）
第7回　日本企業のグローバル展開（日本企業の多国籍企業化とその特徴を学ぶ）
第8回　理解度チェックとフィードバック
第9回　IT革命とグローバル・ネットワーク企業（IT革命とともに登場したグローバル・ネットワーク企業の影響について学ぶ）
第10回　多国籍企業の社会的責任（多国籍企業の環境への取り組みと国際機関の役割について学ぶ）
第11回　グローバルビジネス1：たばこ産業
第12回　グローバルビジネス2：食品産業
第13回　グローバルビジネス3：BOPビジネス
第14回　グローバル人材の条件（グローバルマインドと文化の世界地図について学ぶ）
第15回　理解度チェックとフィードバック

履修上の注意点

授業では様々な質問を行います。「分かりません」と思考停止しないように、どうしたら答えにたどり着くか考えるよう心掛けてください。

教科書

特になし。配布資料で代用します。

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

グローバル経営入門
著者:　浅川和宏
出版社:　日経新聞出版社
出版年:　2003年　　ISBN:　978-4532132606

理論とケースで学ぶ国際ビジネス（三訂版）
著者:　江夏健一・桑名義晴編著
出版社:　同文館
出版年:　2012年　　ISBN:　978-4495368739

a50101e810

グローバル経営戦略

著者: 元橋一之

出版社: 東京大学出版会

出版年: 2013年 ISBN: 978-4130421393

国際経営講義―多国籍企業とグローバル資本主義

著者: G.ジョーンズ

出版社: 有斐閣

出版年: 2007年 ISBN: 978-4641162815

ネクスト・マーケット(増補改訂版)

著者: C.K.プラハラード

出版社: 英治出版

出版年: 2010年 ISBN: 978-4862760784

多国籍企業と新興国市場

著者: 大石・桑名・田端・安室

出版社: 文眞堂

出版年: 2012年 ISBN: 978-4830947681

「世界で戦える人材」の条件

著者: 渥美育子

出版社: PHP研究所

出版年: 2013年 ISBN: 978-4569811697

世界で勝つグローバル人材の条件

著者: 那珂通雅

出版社: 幻冬舎

出版年: 2013年 ISBN: 978-4344999374

テキスト多国籍企業論

著者: 奥村皓一・上田慧・夏目啓二

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2006年 ISBN: 978-4623038930

成績評価

試験・レポート (70%) 小テスト (0%)

授業中課題 (0%) 授業中発表等 (15%)

参加度 (15%)

試験・レポートは、理解度チェックを含みます。
授業中発表等は、授業内で数回予定しているグループワークの発表を含みます。

2018 Syllabus

科 目 名　**現代企業論 I**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　平尾 毅	

テーマ

企業の本質・役割・存在価値を学習する。

授業の到達目標

株式会社を中心とした、企業の存在価値について理解を深める。

授業の概要

企業関連諸理論、制度を熟知し、実践に応用できるような学習を目指している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

経済新聞の精読をお薦めします。

内　　容

第1回　講義概要、及び現代企業を見る観点
第2回　企業の目的と存在価値
第3回　財・サービスの提供機関としての企業
第4回　企業の形態論
第5回　株式会社制度の出現と展開
第6回　株式会社の本質と特徴
第7回　株式会社の組織
第8回　理解度チェックとフィードバック
第9回　コーポレート・ガバナンスの国際比較
第10回　企業の境界
第11回　企業関関係の構造と行動
第12回　企業統合の形態論とM&A
第13回　会社機関
第14回　証券取引市場
第15回　理解度チェックとフィードバック

履修上の注意点

経済新聞の精読をお薦めします。

教科書

企業形態論 第3版（新経営学ライブラリー5）
著者:　小松　章
出版社:　新世社
出版年:　2006年　　ISBN:　978-4883840984

参考書

経験から学ぶ経営学入門
著者:　上林・奥林・團・開本・森田・竹林
出版社:　有斐閣ブックス
出版年:　2007年　　ISBN:　978-4641183483

1からの経営学 第2版
著者:　加護野忠男・吉村典久
出版社:　碩学舎
出版年:　2012年　　ISBN:　978-4502696107

企業論 第3版
著者:　三戸浩・池内秀己・勝部伸夫
出版社:　有斐閣アルマ
出版年:　2011年　　ISBN:　978-4641124448

成績評価

a50101e950

試験・レポート （ 60% ）　　小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 15% ）　　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 15% ）
試験・レポートは、理解度チェックを含みます。
授業中課題は、予習プリントを含みます。
授業中発表等は、授業内で数回予定しているグループワークの発表を含みます。

2018 Syllabus

科 目 名　**経済と経営の歴史**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松石　泰彦	

テーマ

経営やそれを取り巻く経済・社会の動向を、長期的視野から理解する。

授業の到達目標

・企業や組織のマネジメントへの理解を通じて、社会人としての協働・コミュニケーション能力を養うこと。
・近くその中に出て行くことになる日本の経済社会、企業や組織に対する見識を深めること。
・歴史を単なる過去に対する知識ととらえず、現在の問題の源流ととらえ、未来を展望する大きな動きや構造の中でものごとを思考できるようになること。

授業の概要

歴史とは単に昔の話を知ることではありません。現在起こっている日本経済の諸問題や今後の展開は、その成立過程＝歴史の延長上で長期的に考える必要があります。この講義では、主として近代以降の日本経済と企業経営の変遷について大まかなあらすじを説明します。特に①世界情勢の中での日本の位置、②日本の社会経済の構造的特徴、③経済政策や制度の変遷、これらの要素を常に念頭に置きながら、日本の企業がどのような道筋をたどって今に至っているのかを考えてみましょう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

知識の暗記科目ではありません。物事の流れや要因を説明できるような復習を望みます。
事前にWEBを通じて配布する資料には必ず目を通しておいて下さい。また、授業中および授業後に、当該回のストーリー性を再構築するような復習をすると良いでしょう。質問受付や感想などの提出を求めることがあり、それについては次の回にコメントをします。

内　容

第1回　ガイダンス　この講義の対象領域と進め方
第2回　近代的諸経済制度の始まり
第3回　産業革命
第4回　紡績・製糸業と日本経済
第5回　第一次大戦前後の日本経済
第6回　工業社会の成立と労働の変化
第7回　日本的経営と経営家族主義
第8回　第三次産業・都市型産業の発展
第9回　世界恐慌と昭和恐慌
第10回　財閥と企業統治
第11回　戦時体制と1940年体制論
第12回　戦後改革と財閥解体
第13回　高度経済成長と日本企業
第14回　オイルショックと低成長時代
第15回　総括～長期的視野からとらえる現代の経済・経営

履修上の注意点

教科書

参考書

マテリアル日本経営史
著者:　宇田川勝他
出版社:　有斐閣
出版年:　1999　　ISBN:

1からの経営史
著者:　宮本又郎他
出版社:　碩学社
出版年:　2014　　ISBN:

a50101f050

企業城下町と日本的経営

著者: 松石泰彦

出版社: 同成社

出版年: 2010 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 60 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 30 ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 10 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**社会調査論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　高原　正興	

テーマ

社会調査・フィールドワークの意義・歴史・類型等、基本的なことについてわかりやすく解説する。

授業の到達目標

「社会調査・フィールドワーク入門」の授業と同時開講しながら、上記テーマに記載の内容（社会調査の基本知識）を身につける。

授業の概要

下記の教科書に準拠して、社会調査の基本知識を講義形式で展開する。第一に定義・目的・歴史、第二に各種調査の種類の紹介、第三に調査方法や手順の実際に関する内容を概説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストの予習・復習に努める

内　　容

第1回　社会調査とは何か　社会調査の目的
第2回　社会学と社会調査の歴史
第3回　調査方法論・調査倫理
第4回　量的調査と質的調査
第5回　国勢調査　官庁統計　事業所・企業統計調査　世論調査
第6回　調査票調査
第7回　調査票作成
第8回　サンプリング
第9回　データ化作業
第10回 データ分析
第11回 フィールドワークとはなにか
第12回 フィールドワークの事例
第13回 聞き取り調査　　参与観察法
第14回 ドキュメント分析
第15回 （まとめ）社会調査の意義
第16回 試験

履修上の注意点

期末のペーパー試験が50%分あることに留意して、特に復習に努めること。

教科書

新・社会調査へのアプローチ
著者:　大谷信介他
出版社: ミネルヴァ書房
出版年: 2013　　ISBN:　9784623066544

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50% ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 30% ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20% ）	

授業中課題は3回のレポートによる。

2018 Syllabus

科 目 名　**現代企業と法 I**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山田　廣己	

テーマ

企業とその法規制

授業の到達目標

企業(個人企業や会社企業)の組織や活動に関する基本的法律知識を習得する。

授業の概要

個人企業や会社企業(株式会社・合同会社・合資会社・合名会社)の組織や活動とその法規制を概観する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

事前に講義レジュメを配布します。配布された講義レジュメに目を通してくること。

内　　容

第1回　経済活動と企業:　企業の種類、意義、企業活動一般について説明する。
第2回　資本主義・市場経済・貨幣(金融)制度:　企業をとりまく資本主義、市場経済原理について、また企業活動に不可欠な金融制度について概説する。
第3回　企業をめぐる法規制:　企業の組織や活動に関するさまざまな法律、法規定がある。たとえば、商法、会社法、民法、独占禁止法や金融商品取引法等の法律などに触れる。
第4回　企業の組織:　個人企業、組合、合名会社、合資会社、合同会社や株式会社の組織を説明し、さらに国内で活動する外国会社にも触れる。
第5回　企業の経営者・従業員:　株式会社を経営する取締役や会社の従業員の法的地位や権利義務を説明する。
第6回　企業グループ:　会社はグループを作って企業活動を展開する。その法規制を概観する。多国籍企業、合弁(ごうべん)企業についても触れる。
第7回　企業の資金:　企業(とくに会社)はその活動を展開するために資金を必要とする。その資金調達方法について説明する。金融市場の国際化についても触れる。
第8回　投資と利殖(りしょく):　株式会社が発行する「株式」や「社債」は人々の投資・利殖の対象である。証券や金融商品の取引、商品先物取引、為替取引など活発に行われる。お金は世界を駆け巡っている。その実態を概観し、法規制の概要を見る。
第9回　企業の失敗:企業の事業活動が失敗に終わったとき(倒産)、どのように処理するか説明する。
第10回　企業の責任:企業の社会的責任、会社の法的責任、経営者が負う責任など、企業の組織活動などに関して発生するさまざまな責任を概説する。
第11回　競争と独占(1):独占禁止法の話をする。
第12回　競争と独占(2):独占禁止法の話をする。
第13回　企業の決済手段(1):手形(約束手形・為替手形)や小切手など金銭の支払、つまり企業の決済手段に決済手段について説明する。
第14回　企業の決済手段(2):手形(約束手形・為替手形)や小切手など金銭の支払い、つまり企業の決済手段について説明する。
第15回　総括と理解度チェック

履修上の注意点

新聞報道やニュース報道に接し、多くの学生の就職先である企業(会社)の組織活動に興味を持つよう心がけて下さい。

教科書

配布する講義レジュメ
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

携帯用法令集
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート (レポート 30)　　小テスト (50)
授業中課題 ( )　　授業中発表等 ( )
参加度 (20)

a50101f350

授業に出席して講義を聞くことを前提として、講義期間の中ごろにレポート提出を求める。最終講義日に理解度をチェックするため、小テストを実施する（必ず受験してください）。以上を総合的に判断して評価する。毎回積極的に講義に参加し、集中して話を聞き、積極的に質問してほしい。

2018 Syllabus

科 目 名　**医療統計学**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　片岡　裕介	

テーマ

診療情報のための統計学的方法

授業の到達目標

診療情報を解析、活用するための統計学の基礎的知識を身につける。

授業の概要

診療情報管理士には診療記録を整理するだけなく、記録に含まれる診療情報を収集・解析、活用することが求められている。この授業では、各種の診療情報を活用する手段としての統計的方法とデータの視覚化の方法を身につける。統計的方法として具体的には、収集した観測値を要約する記述統計、標本調査から母集団の特性を推し測る推測統計の基礎的方法などを学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

復習として、授業中の演習問題については必ずできるようにしておくこと。

内　　容

第1回　変量と尺度
第2回　記述統計(1) 度数分布表とヒストグラム
第3回　記述統計(2) 代表値
第4回　記述統計(3) 散布度
第5回　記述統計(4) 散布図と相関係数
第6回　記述統計(5) 回帰直線
第7回　推測統計(1) 母集団と標本
第8回　推測統計(2) 確率変数と確率分布
第9回　推測統計(3) 正規分布
第10回　推測統計(4) 点推定と区間推定
第11回　推測統計(5) 量的変量の仮説検定
第12回　推測統計(6) 質的変量の仮説検定
第13回　データのグラフ表現
第14回　病院の統計資料
第15回　まとめ

履修上の注意点

毎回の授業に平方根の計算機能がある電卓を持参する。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

必要に応じてプリントを配付する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 60 ）
授業中課題 （ 40 ）	授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 0 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**医療概論(経営)**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　川上　明	

テーマ

診療情報管理

授業の到達目標

医学・医療の歴史から制度、現代が直面する問題を大きな視点で概括し理解する。また、臨床医学を学ぶ上での基本的な考え方と知識を学び、今後の医学分野の学習の基礎をつくる。

授業の概要

診療情報管理士などの医療管理者として働くために必要な医学と医療の基礎的な知識を修得する。そのためにまず、医療と医学に関する歴史的変遷をたどりつつ、現代の医療の現状を理解する。また、医療倫理や医療・社会保障制度など、医療を成立させている社会的な仕組みを学ぶとともに、病気とは何か、病気の原因、病態、診断、治療、予防など医学の基礎的な内容を理解していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

内　容

第1回　講義の概要説明。医学、医療とは。
第2回　医学と医療の歴史:医学の起源　20世紀の医学
第3回　医学と医療の歴史:我が国の医学と医療の歴史
第4回　現代医療:実例等も示して概説し、現場での医療のイメージを持ってもらうことを目標とします。
第5回　医の倫理:実際に臨床の現場で起こっている倫理的問題等も提示し、問題意識を持ってもらうことを目標とします。
第6回　社会保障制度と医療制度:制度の概略と基本的な理念を理解し、実際にどのように運用されているのか紹介しながら、現状の問題点等も考えてもらうことを目標にします。
第7回　介護保険制度:制度の概略と基本的な理念を理解し、実際にどのように運用されているのか紹介しながら、現状の問題点等も考えてもらうことを目標にします。
第8回　医療法、公衆衛生、地域保健について概説します。
第9回　予防医学について概説します。
第10回　健康と疾病:健康と疾病についての基本的な考え方を学びます。
第11回　疾病の原因と病理1:テキストに沿って基本的な考え方と用語の理解を目指します。
第12回　疾病の原因と病理2:テキストに沿って基本的な考え方と用語の理解を目指します。
第13回　疾病の検査方法と診断:テキストに沿って基本的な考え方と用語の理解を目指します。
第14回　疾病の治療:テキストに沿って基本的な考え方と用語の理解を目指します。
第15回　まとめ:全体を通じて必要な内容を補います。

履修上の注意点

積極的に発言して授業に参加するように。

教科書

診療情報管理Ⅰ　基礎、医学編　第8版
著者:
出版社:　日本病院協会
出版年:　2016年7月　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**医療管理論Ⅰ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　昌浩	

テーマ

授業の到達目標

医療の仕組み・病院組織を理解し、診療情報管理士とは何か、どのような役割を果たすことができるかを習得する。

授業の概要

医療の需要と供給は、事務スタッフ部門を含む医療従事者と患者、患者家族との信頼関係の上に成立しているが、それを支えるのは、経営学で言うところのヒト・モノ・カネ・情報といった資源である。この授業は診療情報管理の第1ステップの授業であり、医療の仕組みと病院組織を理解し、診療情報管理士とは何か、どのようなことを果たすことができるかを習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　医療管理論オリエンテーション・診療情報管理士について
第2回　物的資源　人的資源　財的資源・情報資源
第3回　医療保障・医療制度の詳細
第4回　国民医療費の現状と将来
第5回　人口の推移　医療需要・医療供給
第6回　地域医療　医療の提言構造
第7回　医療計画・医療と保健衛生に関する法規
第8回　中間まとめ
第9回　社会保障や保健および福祉に関係する法規、医療費支払保険制度に関する法規、 その他病院の医療活動に関係する主な法規
第10回　健康に関係する主な法規、感染症法、医薬品などに関係する法規、災害時に適用される法規、職員に関する法規
第11回　がん対策基本法、がん対策推進基本計画、個人情報の保護に関する法律と指針
第12回　病院の経営管理、プロセス
第13回　組織と機能、管理と組織
第14回　財務・経営管理　人事労務管理、施設管理
第15回　テスト対策、総まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 90 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 10 ）	

授業は、最低12回以上出席してください。

2018 Syllabus

科 目 名　**経済学 I**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阪本　崇	

テーマ

経済新聞や経済学に関連する文献を読むのに必要な、経済学の基礎的な概念や考え方を理解する。

授業の到達目標

経済新聞や経済学に関連する文献を読むのに必要な、経済学の基礎的な概念や考え方を理解する。

授業の概要

現代の経済は市場を中心として動いている。この授業の前半では、グローバルな市場も含め市場はどのようなメカニズムで働き、そしてどのような意義を持つのかを理解した上で、市場の中で活動する消費者や企業の行動原理はいかなるものかについて学ぶ。後半では、市場が機能不全に陥る主要な4つの原因について触れ、その場合に市場の機能を補完する役割を果たす政府の活動や諸制度について学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

教科書とノートを利用してしっかりと復習してください。テーマ毎にワークシートを課題として課します。ワークシートについては、解答例を示すとともに、理解の進んでいない箇所について再度説明を行う形でフィードバックを行います。

内　容

第1回　【イントロダクション】経済学の考え方
第2回　【需要と供給】ものの値段の決まり方
第3回　【需要と供給】価格の変化と需要供給の変化
第4回　【消費者行動】価格に対する消費者の反応
第5回　【消費者行動】所得の変化と必需品・贅沢品
第6回　【企業者行動】生産量の変化と費用の変化
第7回　【企業者行動】価格・生産量と利潤との関係
第8回　【国際経済】自由貿易が望ましい理由
第9回　【国際経済】貿易パターンの決定
第10回 【市場構造】独占と自然独占
第11回 【市場構造】寡占市場と戦略的行動
第12回 【政府の機能】公共財の範囲と政府の役割
第13回 【政府の機能】外部性の発生と政策課税
第14回 【情報と経済】モラル・ハザードと逆選択
第15回 【所得分配】不平等の評価と再分配政策

履修上の注意点

教科書

入門　経済学　第3版
著者:　伊藤元重
出版社: 日本評論社
出版年: 2009　　ISBN:

参考書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 60 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
小テスト(60%)　授業中課題(40%)

2018 Syllabus

科 目 名　**経済学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阪本　崇	

テーマ

国民経済の決定原理と変動要因

授業の到達目標

新聞等で報道されるさまざまな経済現象について、経済学的な視点から見ることのできる能力を身につける。

授業の概要

現実の経済の動向を知るためには、一国全体の経済を大局的に見る必要がある。この授業では、まず、経済を大局的に見るために必要なもっとも基礎的な指標であるGDPの概念について説明し、その大きさに影響を与える様々な要因について学ぶ。次に、貨幣に焦点を当てて、実物経済と貨幣経済との関係を学習する。これらの基本的な知識を理解した上で、物価変動や失業の問題、経済政策と経済成長、為替レートと国際収支などの重要なトピックスについて学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

教科書とノートを利用してしっかりと復習してください。テーマ毎にワークシートを課題として課します。ワークシートについては、解答例を示すとともに、理解の進んでいない箇所について再度説明を行う形でフィードバックを行います。

内　容

第1回　【イントロダクション】
第2回　【GDP】GDPの定義と性質
第3回　【GDP】経済循環とGDPの分解
第4回　【GDP】GDP決定の2つのメカニズム
第5回　【貨幣と金融】貨幣の機能と貨幣需要
第6回　【貨幣と金融】金融システムと貨幣供給
第7回　【物価】インフレーションとデフレーション
第8回　【労働市場】失業発生の諸要因
第9回　【経済政策】財政政策と公債の意義
第10回【経済政策】金融政策のメカニズム
第11回【長期の経済】景気変動に関する諸学説
第12回【長期の経済】経済成長とその要因
第13回【国際経済】為替レートの決定メカニズム
第14回【国際経済】貿易と国際収支
第15回【国際経済】国際金融と国際収支

履修上の注意点

参考書とノートを利用してしっかりと復習しておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（ 60 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（　）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**情報ビジネス入門**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　片岡　裕介	

テーマ

情報技術を活用したビジネスの現状と可能性

授業の到達目標

近年の情報技術の発展と、そのビジネスにおける活用、および情報関連産業の現状について基本的な知識を身につける。

授業の概要

現代社会において、情報はビジネスにとつて2つの側面で重要な意味を持つ。第1にビジネスの手段としての情報であり、第2にビジネスの対象としての情報である。授業では、この2つの意味での情報に焦点を当て、情報技術を基盤としたビジネスやサービスに関する基本的な知識を身につける。その上で、将来のキャリアのひとつとして、情報ネットワーク産業やソフトウェア産業で活躍する個人を視野に入れ、情報技術に深く関わりながら働くこととはどのようなことなのかが理解できるようにする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

復習として、授業で扱った内容に関連する知識も含めて、各回のポイントの整理をおこなうこと。身近なITサービスについてビジネスとして成り立つ仕組みを考える機会を持つとともに、新聞やニュース等のメディアで日々採り上げられるITの新技術や新サービスについて注意を払うこと。

内　容

第1回　イントロダクション：情報ビジネスを取り巻く状況
第2回　ITサービスのビジネスモデル
第3回　ITサービスの顧客
第4回　ITサービスの事業者
第5回　電子商取引
第6回　eマーケティング
第7回　ビッグデータビジネス
第8回　位置情報ビジネス
第9回　デジタルコンテンツビジネス
第10回　情報ビジネスの技術
第11回　情報ビジネスのセキュリティ
第12回　情報ビジネスの倫理
第13回　人工知能と情報ビジネス
第14回　情報ビジネスの拡がり
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

授業中に指示する

著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 50 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**情報ビジネス論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉浦　昌	

テーマ

情報通信技術(ICT)とビジネスとのかかわりを理解する。

授業の到達目標

情報通信技術がどのようなビジネスを生み出しているのか、既存のビジネスをどのように支えているのか、現在どのような課題があり今後ビジネスをどのように変えていくのかを学ぶ。

授業の概要

適宜スライドや配布資料、企業や公的団体の公開資料、レポート等を用いる。授業は講義を中心に行うが、理解の深化と確認のため、ディスカッションやレポート提出、複数回の理解度テストを実施する場合がある。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業内容の復習を欠かさないこと。授業の中で指定された資料は必ず読んで理解すること。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　情報技術とビジネス
第3回　情報技術とX-Tech
第4回　AI、IoT、ビッグデータの利活用(1)
第5回　AI、IoT、ビッグデータの利活用(2)
第6回　セキュリティとプライバシー
第7回　情報ビジネスの事例(1)
第8回　情報ビジネスの事例(2)
第9回　情報ビジネスの事例(3)
第10回　情報ビジネスの事例(4)
第11回　情報ビジネスの事例(5)
第12回　情報ビジネスの事例(6)
第13回　情報ビジネスの事例(7)
第14回　情報ビジネスの事例(8)
第15回　まとめと今後の展望

履修上の注意点

継続してこつこつと勉強すること。
あきらめず頑張ること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート (40)	小テスト (30)
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 (30)	

2018 Syllabus

科 目 名 **情報処理基礎実習**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　加藤　諒	

テーマ

基礎的な情報処理の実践

授業の到達目標

基礎的な情報処理技術の修得
・コンピュータシステムに関する技術を理解すること
・ネットワークやアルゴリズムの概念を理解すること
・ITパスポート試験の合格のための知識の獲得

授業の概要

情報化が進展する現代社会では，コンピュータやネットワークの原理や仕組みを理解し，情報処理に関する知識と技術を身に付けることが不可欠である．「情報処理基礎実習」では，基礎的な情報処理技術を座学と実習を通じて獲得し，ITパスポート試験の合格を目指す．

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

提出課題に必ず取り組むこと．採点結果は授業内で通知する．

内　容

第1回　ガイダンス（授業概要，注意事項などの説明）
第2回　コンピュータ構成要素
第3回　コンピュータシステム：ハードウェア
第4回　コンピュータシステム：ソフトウェア
第5回　表計算（1）
第6回　表計算（2）
第7回　ネットワーク：ネットワークの構成と通信プロトコル
第8回　ネットワーク：インターネットの仕組み
第9回　セキュリティ：情報セキュリティ
第10回　セキュリティ：リスクマネジメントと暗号技術
第11回　システム構成：システムの構成
第12回　システム構成：システムの評価指標
第13回　アルゴリズムとプログラミング（1）
第14回　アルゴリズムとプログラミング（2）
第15回　アルゴリズムとプログラミング（3）
第16回　アルゴリズムとプログラミング（4）
第17回　データベース（1）
第18回　データベース（2）
第19回　マネジメント：プロジェクトマネジメント
第20回　マネジメント：サービスマネジメント
第21回　企業と法務：企業活動
第22回　企業と法務：法務
第23回　経営戦略：経営戦略マネジメント
第24回　経営戦略：ビジネスインダストリ
第25回　対策問題（1）
第26回　対策問題（2）
第27回　対策問題（3）
第28回　対策問題（4）
第29回　まとめ（1）
第30回　まとめ（2）

履修上の注意点

よく調べ，考えること．
授業後にITパスポート試験を受験すること．

教科書

平成30年度 栢木先生のITパスポート教室
著者：　栢木 厚
出版社：技術評論社
出版年：2017 年　　ISBN：4774193240

a50101g510

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）
4回以上の欠席は不可とする.

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅲ(経)〈＊A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松石　泰彦	

テーマ

大学での学習方法の基礎を習得する。

授業の到達目標

大学で勉強するために必要な基本的スキルの習得と、社会に対して視野と関心を広げること。

授業の概要

前半は、テキストを輪読して、読解・要約・発表・討論などの大学生の基本的スキルを学ぶ。後半は、いくつかの経営・経済系テーマに沿って、それらに関する論点や詳細な内容を各自でレポートにまとめ、発表する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

毎回課題が出され、それに対してレジュメやプレゼンテーションを用意してくる。それらについては学生同士のコメントを経て、教員からもアドバイスをする。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　テキストを用いたグループワークと討論(1)
第3回　テキストを用いたグループワークと討論(2)
第4回　テキストを用いたグループワークと討論(3)
第5回　テキストを用いたグループワークと討論(4)
第6回　テキストを用いたグループワークと討論(5)
第7回　テキストを用いたグループワークと討論(6)
第8回　中間まとめ
第9回　各自のテーマに関してのレポート作成(1)
第10回　各自のテーマに関してのレポート作成(2)
第11回　各自のテーマに関してのレポート作成(3)
第12回　各自のテーマに関してのレポート作成(4)
第13回　各自のテーマに関してのレポート作成(5)
第14回　レポートの発表会(1)
第15回　レポートの発表会(2)

履修上の注意点

教科書

経済学的思考のセンスーお金がないヒトを助けるには
著者:　大竹文雄
出版社:　中公新書
出版年:　2013　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 30 ）
ゼミ形式の授業は参加を大前提とする。遅刻・欠席を極力しないこと。

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅲ（経）〈＊B〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　ランビーノ, パラガス	

テーマ

日本と東南アジアの政治経済文化のダイナミクスを歴史的に理解することが主要なテーマです。テキストを精読した上で、自分の考えを展開し説明することが、授業の主なテーマとなります。

授業の到達目標

主な目標は、理解しやすいプレゼンテーション資料の作成と、その内容にについて討論する技術を身につけることです。その他の具体的な目標としては、歴史的展開を基盤として日本と東南アジアとの関係を理解し、豊かなイメージを持つこと、自分の考えやアイデアを展開し、それらを論理的に説明する能力を身につけること等が挙げられます。

授業の概要

本演習は、政治経済学における広範な基礎的知識と深い専門的知識を習得し、国際的視野、特に日本と東南アジアとの関係についての知見を持つ人材を育成することを目的としています。前期の前半は鶴見良行『バナナと日本人―フィリピン農園と食卓のあいだ』、前期の後期は白石隆『海の帝国―アジアをどう考えるか』をベースにして授業を進めます。授業の流れは次のようになります。①最初の授業で各回の報告者を割り当てる。②授業前日までに報告者はレジュメを作成する（授業日の2日前にレジュメを教員に提出する）。③テキストの該当箇所を参加者全員が事前に読む。④報告者は要旨を説明し、論点の整理を行う。⑤報告をベースにして、参加者全員で議論する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

特になし。

内　容

第1回　ガイダンス。報告者の割り当て。
第2回　『バナナと日本人』第1章「バナナはどちら」
第3回　『バナナと日本人』第2章「植民地ミンダナオで」
第4回　『バナナと日本人』第3章「ダバオ麻農園の姿」
第5回　ドキュメンタリー映画の鑑賞
第6回　『バナナと日本人』第4章「バナナ農園の出発」
第7回　『バナナと日本人』第5章「多国籍企業の戦略は？」
第8回　『バナナと日本人』第6章「契約農家『見えざる鎖』」
第9回　『バナナと日本人』第7章「農園で働く人びと」
第10回 『バナナと日本人』第8章「日本へ、そして食卓へ」
第11回 『バナナと日本人』第9章「つくる人びとを思いながら
第12回 ドキュメンタリー映画の鑑賞
第13回 『海の帝国』第1章「ラッフルズの夢」
第14回 『海の帝国』第2章「ブギス人の海」
第15回 『海の帝国』第3章「よちよち歩きのリヴァイアサン」

履修上の注意点

各授業で読むテキストの該当箇所を参加者全員が事前に読んで授業に備えてください。

教科書

バナナと日本人―フィリピン農園と食卓のあいだ
著者:　鶴見良行
出版社:　岩波新書
出版年:　1982年　　ISBN:　978-4004201991
教科書のほか、適宜プリントを配布する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）	小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 0% ）	授業中発表等 （ 35% ）

a50102a112

参加度 （ 65% ）

特になし。

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅲ（経）＜＊C＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今井　まりな	

テーマ

マーケティングの基礎をつかむ

授業の到達目標

1）論理的にわかりやすく、説得力のある伝え方ができる。
2）論理的にわかりやすく、説得力のある発表資料とレポートをパソコンで作成することができる。
3）チームで協力し合い、成果を高めることができる。
4）複数の情報を収集し、活用することができる。
5）経営に関する知識や、時事情報を継続的に収集する姿勢がある。
6）マーケティングに関する基礎知識の習得

授業の概要

前半は指定するテキストの輪読、後半は前半で学んだことを用いて新製品企画を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各報告に間に合うように、該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。
報告に対するディスカッションの中で、報告内容や資料の作り方等について、フィードバックを行う。

内　　容

第1回　ガイダンス/自己紹介の報告
第2回　輪読の説明
第3回　輪読①②
第4回　輪読③④
第5回　輪読⑤⑥
第6回　輪読①②
第7回　輪読③④
第8回　輪読⑤⑥
第9回　新製品企画の説明/プレゼンテーション方法の説明
第10回　新製品企画①
第11回　新製品企画②
第12回　新製品企画③
第13回　新製品企画④
第14回　最終報告①
第15回　最終報告②

履修上の注意点

教科書

マーケティングをつかむ
著者:　黒岩健一郎・水越康介
出版社:　有斐閣
出版年:　2012　　ISBN:　978-4641177178

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（60）	授業中発表等（　）
参加度（40）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅲ（経）＜＊D＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今久保　幸生	

テーマ

日本経済を学ぶ---現状・歴史・理論---

授業の到達目標

現代日本経済の諸相を検討することにより、日本の現状を学び、未来への展望を切り開く視点を獲得させる。

授業の概要

教科書を順に輪読し、討論を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

教科書の予習・復習を行い、参考書を学習し、新聞などの時事問題を把握しておくことが勧められる。課題へのフィードバックは以後の授業中に行う。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　序 章　日本経済TODAY
第3回　第2章　成長と循環を読み解くI部 日本経済TODAY
第4回　第2章　成長と循環を読み解くII部 歴史・理論を学ぶ
第5回　第3章　望ましい物価とは何か　I部 日本経済TODAY　II部　歴史・理論を学ぶ
第6回　第4章　財政は再建できるのか I部　日本経済TODAY　II 歴史・理論を学ぶ
第7回　第5章　金融政策はどう変わったのか　I部　日本経済TODAY
第8回　第5章　金融政策はどう変わったのか　II部　歴史・理論を学ぶ
第9回　第6章　日本の貿易に何が起きたのか I部　日本経済TODAY
第10回　第6章　日本の貿易に何が起きたのか II部　歴史・理論を学ぶ III部　統計を読む
第11回　第7章　円の実力を問う　I部 日本経済TODAY
第12回　第7章　円の実力を問う　II部 歴史・理論を学ぶ　III部 統計を読む
第13回　第8章 変わる産業構造と雇用　I部 日本経済TODAY　II部　歴史・理論を学ぶ
第14回　第9章 地球環境とエネルギー問題　I部　日本経済TODAY II部　歴史・理論を学ぶ
第15回　終章 日本の選択---未来世代に豊かな成熟社会を---

履修上の注意点

教科書は必ず各自一冊ずつ準備し、毎回持参すること。教科書を準備していない学生の受講は認めない。3回を超えて無断欠席した学生には単位を出さない。やむを得ず欠席する場合は必ず事前に担当教員に連絡すること。部活・就活による欠席は出席扱いとはしない。

教科書

新・日本経済入門
著者:　三橋規宏他著
出版社:　日本経済新聞出版社
出版年:　最新版　　ISBN:

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 70 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅲ（経）＜＊E＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　片岡　裕介	

テーマ

情報社会における経済活動の理解

授業の到達目標

社会的に注目されている情報技術と経済の問題を題材として考えることで、情報で溢れかえる現代社会に起こる様々な現象を捉える視点を養う。また、発表用資料の作成要領、発表における表現方法、質疑のポイントなどの学生生活に必要な技術を身に付ける。

授業の概要

毎回の発表および議論を通して、問題を整理し論理的に考える姿勢を学ぶとともに、自分の知識や考えを他の人に伝えるためのスキルを身に付ける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習として、授業前に各回の教科書の範囲を読み、理解できなかった部分を明確にしておくこと。復習として、授業で扱った内容についてポイントを整理するとともに、関連情報を収集するなどのまとめをおこなうこと。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　発表方法について
第3回　学生による発表および議論(1)
第4回　学生による発表および議論(2)
第5回　学生による発表および議論(3)
第6回　学生による発表および議論(4)
第7回　学生による発表および議論(5)
第8回　前半の総括
第9回　学生による発表および議論(6)
第10回　学生による発表および議論(7)
第11回　学生による発表および議論(8)
第12回　学生による発表および議論(9)
第13回　学生による発表および議論(10)
第14回　学生による発表および議論(11)
第15回　全体の総括

履修上の注意点

教科書

人工知能と経済の未来－2030年雇用大崩壊－
著者:　井上智洋
出版社:　文藝春秋
出版年:　2016　　ISBN:　4166610910

参考書

指定しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅲ（経）＜＊F＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉浦　昌	

テーマ

文章の理解と分析

授業の到達目標

文章を理解し、分析し、それに対する自分の意見をまとめ、わかりやすく説明するスキルを身につける。

授業の概要

テキストを読み、感想、理解出来た部分、理解出来なかった部分、反対意見をまとめる。それらを全員の前で発表し、質問を受け、議論を行う。テキストはビジネス雑誌や専門誌の記事、論文等を用いる。授業の中でその都度資料を配布、または閲覧する URLを指定する。
また、適時課題を出すので、それに対するレポートを作成して期限内に提出する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストを予習して理解した上で、自分の考えをまとめておくこと。発表の段取りを考え準備しておくこと。

内　　容

第1回　ゼミの進行方法についてのガイダンスと自己紹介
第2回　学生による発表・討論（1）
第3回　学生による発表・討論（2）
第4回　学生による発表・討論（3）
第5回　学生による発表・討論（4）
第6回　学生による発表・討論（5）
第7回　学生による発表・討論（6）
第8回　学生による発表・討論（7）
第9回　学生による発表・討論（8）
第10回　学生による発表・討論（9）
第11回　学生による発表・討論（10）
第12回　学生による発表・討論（11）
第13回　学習成果報告会の準備と議論
第14回　学習成果報告会（1）
第15回　学習成果報告会（2）

履修上の注意点

積極的に参加すること。欠席しないこと。必ずレポートを提出すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅲ（経）〈＊G〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　平尾 毅	

テーマ

意思決定の方法について学ぶ。

授業の到達目標

自分で考え、自分で決めるための思考法を身につけることができる。
プレゼンテーション能力を磨き、論理的で説得力のある発表ができる。
論理的で説得力のある発表資料とレポートをPCで作成できる。
チームで協力して成果を高めることができる。
複数の情報を収集し、活用できる。
経営に関する知識や時事情報を継続的に収集する姿勢がある。

授業の概要

変化の激しい時代に自分の思い通りにキャリアを築くことは困難です。これまでのやり方や価値観、横並びの意思決定では対応できない状況が増えています。不確実性が増大している時代において、自分の将来を見据えながら現時点で最善と思える意思決定をしなければなりません。
このゼミでは、ディベートを繰り返し行うことによって、自分で答えを導出するための思考法を身につけます。まず、テキストに沿ってディベートの手法を実践しながら学びます。その上で、実際のディベートはテーマごとにグループで準備して行います。ディベート終了後、指定された論題について、レポートを作成し、自分の意見をまとめます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

全員がレジュメ作成とディベートの準備を、予習として行ってください（1時間程度）。

内　容

第1回　ガイダンス（ゼミ運営の方法、チームビルディング）
第2回　学生による発表・討論（1）
第3回　学生による発表・討論（2）
第4回　学生による発表・討論（3）
第5回　学生による発表・討論（4）
第6回　学生による発表・討論（5）
第7回　ディベート準備（1）
第8回　ディベート準備（2）
第9回　ディベート準備（3）
第10回　ディベート準備（4）
第11回　ディベート（1）
第12回　ディベート（2）
第13回　ディベート（3）
第14回　ディベート（4）
第15回　まとめ　※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがあります。

履修上の注意点

テキストを必ず予習して、十分に準備した上でゼミに参加すること。
ゼミの欠席はありえない。
グループワークでは、傾聴を含む積極参加が求められます。

教科書

ムダな仕事が多い職場
著者:　太田肇
出版社: ちくま新書
出版年: 2017年　　ISBN:　978-4480069887

武器としての決断思考
著者:　瀧本哲史
出版社: 講談社
出版年: 2012年　　ISBN:　978-4061385153

参考書

適宜紹介します。
著者:

a50102a117

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 0% ） 小テスト （ 0% ）

授業中課題 （ 40% ） 授業中発表等 （ 40% ）

参加度 （ 20% ）

授業中課題は、レジュメを含みます。
授業中発表等は、ディベートの結果を含みます。

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅲ（経）＜＊H＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹内　直人	

テーマ

新聞・雑誌の記事から国と自治体の政策を理解し検討する。

授業の到達目標

政府（国や自治体）が進める政策はどのように作られ、どのように実施されていくのか。新聞や雑誌を読み、その内容を理解し批判的に検討する力をつける。

授業の概要

新聞や雑誌に取り上げられた政策課題に関する記事を事前に配布する。授業では一人ひとりが、レジュメに基づきプレゼンテーションを行うとともに、ディベートを通して多様な見方を身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

指定された資料を授業までに読み、要点を整理してまとめておくこと（3時間）。授業は読んであることを前提としてプレゼンテーションを行ってもらいます。一単元が終わるごとにディベートを通して自己の考えをまとめます。また、テーマを選び、4000字程度のレポートの提出を求めます。

内　容

第1回　ガイダンス：公共的な政策課題とプレゼンテーション
第2回　ディベートの進め方
第3回　〔単元1：人口減少と政策課題〕（1）経済成長と生産性に関する政策
第4回　〔単元1：人口減少と政策課題〕（2）働き方をどう変えるか
第5回　〔単元1：人口減少と政策課題〕（3）外国人を受け入れるべきか
第6回　ディベートと解説
第7回　〔単元2：財政と税制の課題〕（1）国の借金と公平
第8回　〔単元2：財政と税制〕（2）税と財政のしくみ
第9回　〔単元2：財政と税制〕（3）社会資本の老朽化
第10回　〔単元2：財政と税制〕（4）地方財政制度
第11回　ディベートと解説
第12回　〔単元3：社会保障と教育の課題〕（1）医療制度のしくみ
第13回　〔単元3：社会保障と教育の課題〕（2）高齢化と社会保障
第14回　〔単元3：社会保障と教育の課題〕（3）教育の無償化
第15回　ディベートと解説

履修上の注意点

事前に資料を配布するので、授業までに必ず読んでおくこと。出席と授業への参加を重視します。

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）
あらかじめ資料を読み、毎回レジュメを準備してもらいます。このレジュメと授業中の発表およびレポートにより評価します。

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ（経）＜＊A＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河野　充央	

テーマ

管理会計の研究を通して，マネジメントの本質を理解する

授業の到達目標

企業経営における会計の役割を理解する。
日経新聞・日経ビジネスなどを無理なく読めるような力を養う。

授業の概要

原理原則・理論を学びながら，ビジネスの最前線の出来事に目を向ける。
必要に応じて，工場見学等の学外学習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

復習を必ず行うこと。

内　　容

第1回　ガイダンス
　　プレゼミで学ぶ内容の概説
第2回　戦略的コストマネジメントの意義
第3回　製造活動とコストマネジメント1
第4回　製造活動とコストマネジメント2
第5回　製造活動とコストマネジメント3
第6回　製造活動とコストマネジメント4
第7回　製造活動とコストマネジメント5
第8回　マーケティング活動とコストマネジメント1
第9回　マーケティング活動とコストマネジメント2
第10回　マーケティング活動とコストマネジメント3
第11回　経営戦略とコストマネジメント1
第12回　経営戦略とコストマネジメント2
第13回　製造業のコストマネジメント戦略
第14回　サービス業のコストマネジメント戦略
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

経営管理会計
著者:　西澤脩
出版社:　中央経済社
出版年:　　ISBN:

管理会計
著者:　岡本清　他
出版社:　中央経済社
出版年:　　ISBN:

情報化社会における管理会計の役割
著者:　河野充央
出版社:　税務経理協会
出版年:　　ISBN:

a50102a250

コトラーのマーケティングマネジメント

著者: フィリップ・コトラー(恩蔵直人監訳)

出版社: パーソン・エデュケーション・ジャパン

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　小テスト（ ）

授業中課題（ 20 ）　授業中発表等（ 20 ）

参加度 （ 60 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ（経）＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　高原　正興	

テーマ

社会学系ゼミで学習する

授業の到達目標

テキストを読んで、発表者はレジュメを作り、みんなが討論に参加して、社会学的な見方や分析のしかたを身につける。

授業の概要

①テキストの予習→レジュメにもとづく発表者の報告→指定質問者の質問→全員の質問→　全員の感想
②『子どもの貧困』のレポート作成と学外授業
③『マンガでわかる社会学』の回し読み

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストは必ず予習すること

内　　容

第1回　ゼミの運営方法についてのガイダンスと自己紹介
第2回　学生による発表・討論（1）
第3回　学生による発表・討論（2）
第4回　学生による発表・討論（3）
第5回　学生による発表・討論（4）
第6回　学生による発表・討論（5）
第7回　学生による発表・討論（6）
第8回　学生による発表・討論（7）
第9回　学生による発表・討論（8）
第10回　学生による発表・討論（9）
第11回　学生による発表・討論（10）
第12回　学生による発表・討論（11）
第13回　山科青少年活動センターの見学
第14回　学生による発表・討論（12）
第15回　総括

履修上の注意点

テキストをよく読んで、十分に準備した上でゼミに参加すること。ゼミの欠席はありえない（遅刻は半分）。

教科書

社会学のエッセンス新版補訂版
著者:　友枝敏雄他
出版社:　有斐閣
出版年:　2017　　ISBN:　4-641-22098-0

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 20% ）	授業中発表等　（ 40% ）
参加度　（ 40% ）	

授業中課題は冬季課題のレポートである。

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ（経）＜＊C＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今井　まりな	

テーマ

製品・サービスのヒットの理由を考える。

授業の到達目標

情報探索や報告のスキルを身に付ける。自身の報告や他人の報告を聞くことを通じて、特定の業界・企業・製品に詳しくなる。

授業の概要

業界ごとにグループ分けを行い、最低3回報告する。報告では各自が報告資料作成し、報告、ディスカッションを行う。最終的に製品・サービスのヒットした理由に関するレポートを作成し、提出する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各報告に間に合うように、該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。なお、参考書を一読することで、製品・サービスのヒットの理由に関する理解が深まる。報告に対するディスカッションの中で、報告内容や資料の作り方等について、フィードバックを行う。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　情報探索や報告の方法
第3回　報告1:業界構造（グループ1）
第4回　報告1:業界構造（グループ2）
第5回　報告1:業界構造（グループ3）
第6回　報告1:業界構造（グループ4）
第7回　報告2:ヒットした製品・サービス（グループ1）
第8回　報告2:ヒットした製品・サービス（グループ2）
第9回　報告2:ヒットした製品・サービス（グループ3）
第10回　報告2:ヒットした製品・サービス（グループ4）
第11回　報告3:製品・サービスの競争優位（グループ1）
第12回　報告3:製品・サービスの競争優位（グループ2）
第13回　報告3:製品・サービスの競争優位（グループ3）
第14回　報告3:製品・サービスの競争優位（グループ4）
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

講義資料として、適宜レジュメを配付する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 45 ）	授業中発表等（ 45 ）
参加度（ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ（経）＜＊D＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　片岡　裕介	

テーマ

社会におけるITサービスの現状と課題

授業の到達目標

情報技術を基盤としたビジネスやサービスを対象として、情報論的なアプローチの基礎的な考え方を身に付けるとともに、具体的な事例を通して理解する。

授業の概要

位置情報をはじめとした様々な内容や形式の情報のビジネス等への活用事例を通して、情報ビジネスとそれを取り巻く状況について理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習として、授業前に各回の教科書の範囲を読み、不明な用語については調べておくこと。グループワークを進める上で必要となる作業に取り組むこと。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　情報社会の理解(1)
第3回　情報社会の理解(2)
第4回　情報社会の理解(3)
第5回　プレゼンテーションの技術(1)
第6回　プレゼンテーションの技術(2)
第7回　前半の内容整理
第8回　文献発表および議論(1)
第9回　文献発表および議論(2)
第10回　文献発表および議論(3)
第11回　文献発表および議論(4)
第12回　文献発表および議論(5)
第13回　文献発表および議論(6)
第14回　文献発表および議論(7)
第15回　全体の総括
※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

授業中に指示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

指定しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ（経）＜＊E＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　近藤　隆則	

テーマ

現代金融の発展と課題

授業の到達目標

現代金融の特徴や課題を理解しながら、金融に関わる新聞・雑誌の記事や文献の読解能力、レジュメにまとめる能力、発表能力、討論能力など、「金融について自分で考える力」や「金融機関を就職対象として考えるための知見」を身に付けることを目標とする。

授業の概要

金融に関わる新聞・雑誌の記事や基礎文献を輪読・発表・議論する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

課題とされた記事や文献は、報告者だけではなく全員がきちんと読んで討論できるように準備して下さい。課題に対するフィードバックは、授業の中で行います。

内　容

第1回　演習の進め方、レジュメの作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
第2回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第3回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第4回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第5回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第6回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第7回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第8回　金融に関わる映像資料を用いて学ぶ
第9回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第10回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第11回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第12回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第13回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第14回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第15回　金融の現場を探訪する

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業で示します
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 50% ）
参加度（ 50% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ（経）＜＊F＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阪本　崇	

テーマ

公共経営の基礎的な知識を身につける

授業の到達目標

・卒業論文の作成に必要な文献調査や文章作成の技術を身につける。
・社会における様々な現象を論理的に説明できるようになる。

授業の概要

政府の活動は私たちのくらしにとって無くてはならないものです。このゼミでは、経済の中での政府の働きを理解するのに欠かせない財政学などの基本的な内容を文献購読によって学び、自分自身で研究する際の基礎を身につけます。なお、この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業に参加するための準備を各自があらかじめ行っておくことが必要です。具体的に言えば、指示された課題等は、指定日までに必ずこなしておかなければなりません。指示された過大の評価については、報告の毎に適宜フィードバックを行います。

内　　容

第1回　ガイダンス:テキストおよび分担の決定
第2回　情報検索演習（1）
第3回　情報検索演習（2）
第4回　プレゼンテーションの技術（1）
第5回　プレゼンテーションの技術（2）
第6回　プレゼンテーションの技術（3）
第7回　テキストの輪読（1）
第8回　テキストの輪読（2）
第9回　テキストの輪読（3）
第10回　テキストの輪読（4）
第11回　テキストの輪読（5）
第12回　テキストの輪読（6）
第13回　テキストの輪読（7）
第14回　テキストの輪読（8）
第15回　まとめ

履修上の注意点

他のメンバーの研究発表についてもしっかりと考え、可能な範囲でアドバイスを行うこと。

教科書

受講生との相談のうえ決定する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（10）	授業中発表等（60）
参加度（30）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ（経）＜＊G＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉浦　昌	

テーマ

現代社会における情報技術の役割

授業の到達目標

情報技術が現代の社会やビジネスでどのように用いられているのか、それがどのような価値を生み出しているのか、どのような課題があるのかを理解する。

授業の概要

指定された文献を各自で事前に読み込み、内容を理解する。疑問に思った点は各自で調査しておく。授業ではそれらに基づいて発表や討議、質疑応答を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

文献は必ず授業の前に読み、理解し、自分の意見等をまとめておくこと。

内　容

第1回　ゼミの進行方法についてのガイダンスと自己紹介
第2回　情報リテラシーの確認
第3回　学生による発表・討論（1）
第4回　学生による発表・討論（2）
第5回　学生による発表・討論（3）
第6回　学生による発表・討論（4）
第7回　学生による発表・討論（5）
第8回　学生による発表・討論（6）
第9回　学生による発表・討論（7）
第10回　学生による発表・討論（8）
第11回　学生による発表・討論（9）
第12回　学生による発表・討論（10）
第13回　学生による発表・討論（11）
第14回　学生による発表・討論（12）
第15回　学生による発表・討論（13）

履修上の注意点

文献は必ず授業の前に読み、理解し、調査し、自分の意見等をまとめておくこと。
出席と文献の読解は必要条件であり、ゼミを終了するための十分条件ではない。各自、事前の学習と事後の振り返りを行うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ（経）＜＊H＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　髙山　一夫	

テーマ

医療経営に関する基礎的な学習

授業の到達目標

医療経営や医療政策、医療経済について知見を深める

授業の概要

グループワークやテキストを用いた発表と討論を通じて、医療経営や医療政策、医療経済について理解を深めるとともに、大学での学びに必要なアカデミック・スキルの習得に努める。また、受講生が主体となって学外授業（施設訪問）を企画する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業時間外において、グループワークや発表の準備、学外授業の企画を立案する。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　図書館ガイダンス
第3回　グループワーク（グループ分けとテーマ設定）
第4回　グループワーク（仮説とアウトラインの明確化）
第5回　グループワーク（論点の掘り下げ）
第6回　グループワーク（調査の一応のとりまとめ）
第7回　グループワーク（パワーポイント資料の作成）
第8回　グループワーク成果発表会
第9回　キャリアガイダンス（予定）
第10回　テキストを用いた発表と討論
第11回　テキストを用いた発表と討論
第12回　テキストを用いた発表と討論
第13回　テキストを用いた発表と討論
第14回　学外授業（予定）
第15回　演習全体のまとめ

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、学外授業や自主ゼミ等に積極的に参加すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

社会保障の公私ミックス再論
著者:　松田亮三・鎮目真人編著
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2015　　ISBN:　9784623075966

健康と医療の公平に挑む
著者:　松田亮三編
出版社:　勁草書房
出版年:　2009　　ISBN:　9784326700615

経済政策で人は死ぬか
著者:　スタックラー＆バス
出版社:　草思社
出版年:　2014　　ISBN:　9784794220868

a50102a258

地域包括ケアと地域医療連携

著者: 二木立

出版社: 勁草書房

出版年: 2015 ISBN: 9784326700875

日本の医療と介護

著者: 池上直己

出版社: 日本経済新聞出版社

出版年: 2017 ISBN: 9784532134693

健康格差

著者: マーモット

出版社: 日本評論社

出版年: 2017 ISBN: 9784535558809

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ 50 ）

参加度 （ 50 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ（経）＜＊Ⅰ＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹内　直人	

テーマ

新聞・雑誌の記事から国と自治体の政策を理解し検討する。

授業の到達目標

政府（国や自治体）が進める政策はどのように作られ、どのように実施されていくのか。新聞や雑誌を読み、その内容を理解し批判的に検討する力をつける。

授業の概要

新聞や雑誌に取り上げられた政策課題に関する記事を事前に配布する。授業では一人ひとりが、レジュメに基づき内容についてプレゼンテーションを行うとともに、ディベートを通して多様な見方を身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

指定された資料を授業までに読み、要点を整理してまとめておくこと（3時間）。授業は読んであることを前提としてプレゼンテーションを行ってもらいます。一単元が終わるごとにディベートを通して考えをまとめます。
また、テーマを選び4000字程度のレポートの提出を求めます。

内　容

第1回　ガイダンス：公的な政策課題とプレゼンテーション
第2回　ディベートの進め方
第3回　〔単元1：人口減少の政策課題〕（1）経済成長と生産性に関する政策
第4回　〔単元1：人口減少の政策課題〕（2）働き方をどう変えるか
第5回　〔単元1：人口減少の政策課題〕（3）外国人を受け入れるべきか
第6回　ディベートと解説
第7回　〔単元2：財政と税制〕（1）国の借金と公平
第8回　〔単元2：財政と税制〕（2）税と財政のしくみ
第9回　〔単元2：財政と税制〕（3）社会資本の老朽化
第10回　〔単元2：財政と税制〕（4）地方財政制度
第11回　ディベートと解説
第12回　〔単元3：社会保障と教育の課題〕（1）医療制度のしくみ
第13回　〔単元3：社会保障と教育の課題〕（2）高齢化と社会保障
第14回　〔単元3：社会保障と教育の課題〕（3）教育の無償化
第15回　ディベートと解説

履修上の注意点

事前に資料を配布するので、授業までに必ず読んでおくこと。出席と授業への参加を重視します。

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）
あらかじめ資料を読み、毎回レジュメを準備してもらいます。このレジュメと授業中の発表およびレポートにより評価します。

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ（経）＜＊J＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　平尾 毅	

テーマ

経営史的アプローチからイノベーションの歴史について学ぶ。

授業の到達目標

様々な経験を通して幅広い視野を身に付けることができる。
時代の趨勢を読んで意思決定できることが期待される。
グループワークを通して、主体性や協調性を身に付けることができる。
プレゼンテーション能力を磨くことができる。

授業の概要

経済史・経営史の観点から、経済発展を生み出すエンジンは何か、成功と失敗を分けたポイントは何かなどを読み解いていきます。歴史といっても、過去の出来事を年号と合わせて棒暗記するのではなく、現代的企業の特質や役割、今後の展開を、過去を含めた長期的観点から考えていきます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループごとに役割（発表・討論・運営）が決められるので、皆で協力して準備する必要があります（1時間程度）。

内　容

第1回　ガイダンス（グループ分け、学修ポートフォリオ）
第2回　チームビルディング、レジュメの作り方
第3回　テキストの輪読と討論①
第4回　テキストの輪読と討論②
第5回　テキストの輪読と討論③
第6回　テキストの輪読と討論④
第7回　テキストの輪読と討論⑤
第8回　テキストの輪読と討論⑥
第9回　テキストの輪読と討論⑦
第10回　テキストの輪読と討論⑧
第11回　テキストの輪読と討論⑨
第12回　テキストの輪読と討論⑩
第13回　クリエイティビティとイノベーション
第14回　まとめ
第15回　発表会　※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがあります。

履修上の注意点

学生だからこそできる様々なことにチャレンジし、その経験を自分の成長につなげる機会としてゼミに参加してください。
あくまでもゼミの主役は学生自身ですので、ゼミ生が主体的に企画・実行することを期待します。

教科書

経営革命の構造
著者:　米倉誠一郎
出版社:　岩波新書
出版年:　1999年　　ISBN:　978-4004306429

参考書

イノベーターたちの日本史
著者:　米倉誠一郎
出版社:　東洋経済新報社
出版年:　2017年　　ISBN:　978-4492371206

成績評価

試験・レポート （ 0% ）　　小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ 40% ）
参加度 （ 30% ）
参加度は、質問・コメントを含みます。

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ（経）＜＊K＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松石　泰彦	

テーマ

現代企業論について、特にCSR（企業の社会的責任）の各トピックを利用しながら学ぶ。

授業の到達目標

・CSRの各内容を通じて、多面的な企業活動の実態を知る。
・CSRに関する企業活動の知識を得て、自らの将来への一助とする。
・ワープロや表計算、プレゼンテーションなどのツールの使いこなし方に習熟する。

授業の概要

今日のCSRは、特に本業の枠組みの中で社会貢献をしながら、企業価値を高めていく活動である。したがってCSRを見ることで、企業の全般的な活動を理解することができる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回課題が出され、それに対してレジュメやプレゼンテーションを用意してくる。それらについては学生同士のコメントを経て、教員からもアドバイスをする。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　文献・各種資料の調べ方とまとめ方（1）
第3回　文献・各種資料の調べ方とまとめ方（2）
第4回　文献・各種資料の調べ方とまとめ方（3）
第5回　テキストの輪読と討論（1）
第6回　テキストの輪読と討論（2）
第7回　テキストの輪読と討論（3）
第8回　テキストの輪読と討論（4）
第9回　テキストの輪読と討論（5）
第10回　テキストの輪読と討論（6）
第11回　テキストの輪読と討論（7）
第12回　専門演習に向けたテーマ設定について（1）
第13回　専門演習に向けたテーマ設定について（2）
第14回　専門演習に向けたテーマ設定について（3）
第15回　まとめ

履修上の注意点

上記各回の順序は適宜学習内容に応じて変更することがある。

教科書

新CSR検定3級公式テキスト
著者:　CSR検定委員会
出版社: オルタナ
出版年: 2016　　ISBN:

参考書

適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ（経）＜＊L＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　ランビーノ, パラガス	

テーマ

東アジアの政治経済文化を複眼的に理解することです。その上で、テキストの精読を通して自分の考えを展開・精錬し、他の人に説明する力を身につけます。

授業の到達目標

主な目標は、理解しやすいプレゼンテーション資料の作成技術と、その内容に関わる討論の能力を向上させることです。さらに、具体的な目標としては、歴史的展開を基盤として東アジアのダイナミックスを理解し、イメージを豊富に持つこと、自分の考え方やアイデアを展開しそれらを論理的に説明する能力を身につけることが挙げられます。

授業の概要

本演習では、東アジアの政治経済文化についての知識を習得し、グローバル経済についての知見を持つ人材を育成することを目指しています。授業の流れは次のようになります。①最初の授業で各回の報告者を割り当てる。②授業当日に向けて報告者はレジュメを作成する（授業日の2日前にレジュメを教員に提出する）。③テキストの該当箇所を参加者全員が事前に読む。④授業当日、報告者は要点をまとめ、論点を整理する。⑤報告をベースにして、参加者全員で議論する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

特になし。

内　容

第1回　ガイダンス。報告者の割り当て。
第2回　序章
第3回　第１章「長期の趨勢を読み解く」
第4回　第１章「長期の趨勢を読み解く」
第5回　第２章「地政学的枠組みを捉える」
第6回　第２章「地政学的枠組みを捉える」
第7回　第２章「地政学的枠組みを捉える」
第8回　第３章「東南アジアの戦略的動向」
第9回　第３章「東南アジアの戦略的動向」
第10回　第３章「東南アジアの戦略的動向」
第11回　第３章「東南アジアの戦略的動向」
第12回　第３章「東南アジアの戦略的動向」
第13回　第４章「アジア太平洋／東アジア／インド・太平洋と日本」
第14回　第４章「アジア太平洋／東アジア／インド・太平洋と日本」
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

海洋アジアvs.大陸アジア---日本の国家戦略を考える---
著者:　白石隆著
出版社: ミネルヴァ書房
出版年: 2016年　　ISBN:　978-4623075713

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 0 ）	授業中発表等 （ 60 ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ（経）＜＊M＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　岡田　知弘	

テーマ

現代日本の経済状況と経済政策を知る

授業の到達目標

テキストの講読と討論を通して、①現代日本の経済、社会状況について理解すること、②経済政策の流れと現在の政策内容及びその問題点について理解を深めることを目指す。

授業の概要

テキストを、輪読（毎回、学生が順に担当章を報告）しながら、ゼミ生全員で討論、さらに教員が追加説明をする方法で進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストを予習、復習するとともに、関連の新聞、雑誌記事等に目を通しておくこと。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　第1章　経済のしくみと経済政策
第3回　第2章　日本の経済政策の歴史を考える
第4回　第3章　国土開発政策を考える
第5回　第4章　中小企業政策を考える
第6回　第5章　農業・食料政策を考える
第7回　第6章　労働政策を考える
第8回　第7章　医療政策を考える
第9回　第8章　住宅政策を考える
第10回　第９章　コミュニティ政策を考える
第11回　第10章　財政政策を考える
第12回　第11章　金融政策を考える
第13回　第12章　科学技術政策を考える
第14回　第13章　通商政策を考える
第15回　第14章　開発援助政策を考える

履修上の注意点

テキストは必ず持参すること。やむを得ず欠席、遅刻する場合は、必ず事前に連絡すること。なお、2/3以上の出席がない場合、受験資格を認めません。また、10分以上の遅刻は欠席とみなします。

教科書

入門現代日本の経済政策
著者:　岡田知弘・岩佐和幸編
出版社:　法律文化社
出版年:　2016年　　ISBN:　9784589037534

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 50% ）
参加度（ 50% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**経営戦略論 I**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今久保　幸生	

テーマ

経営戦略の基礎を学ぶ

授業の到達目標

経営戦略に関する教科書を手がかりに、経営戦略の基礎的な理論や応用例を説明することを通じて、経営戦略の基礎を理解させる。

授業の概要

教科書に即して、経営学の理論と具体例を系統的に説明するが、教科書で触れられていないことも説明する。教科書の理解は必要だが授業での教科書以外の説明も重要だということである。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

教科書の予習・復習および新聞記事などの時事問題の予習を行うこと。課題へのフィードバックは次回以降の授業中に行う。

内　容

第1回　授業全体の進め方ガイダンス
第2回　経営戦略の概念と体系
第3回　製品市場戦略と多角化
第4回　資源展開戦略とPPM
第5回　競争戦略と競争優位
第6回　リソース・ベースト・ビューと知識
第7回　経営戦略と組織
第8回　ネットワーク組織と組織間関係
第9回　M＆A戦略と企業価値
第10回　情報ネットワークと経営戦略
第11回　グローバリゼーションと経営戦略
第12回　地球環境問題と経営戦略
第13回　起業と経営戦略
第14回　イノベーションと経営戦略
第15回　まとめ

履修上の注意点

新聞やインターネット、映像などで知った様々な経営戦略の実践や考え方などを教科書の諸理論と照らし合わせて考えてみること。私語は厳禁。部活や就活による欠席は出席扱いとはしない。

教科書

経営戦略論
著者:　大滝精一他
出版社:　有斐閣
出版年:　最新版　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 70 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**経営戦略論Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　150
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松石　泰彦	

テーマ

企業のマネジメント・戦略の実践を学ぶ

授業の到達目標

おもに京都の企業人や各種の経済団体等から経験豊なゲストスピーカーをお招きして組織文化、経営戦略、人材育成方針等について学ぶ。

授業の概要

企業経営や経済団体等の運営に直接に関係しておられるトップ・マネジメント職位にある人々から実務体験を直接にお聞きして、組織文化と経営戦略について理解を深めるのが獲得目標である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

当日の企業・団体の経営状況や関係する業界について、専門書、有価証券報告書、会社案内、会社四季報、ダイヤモンド、東洋経済などの業界紙、日本経済新聞、日本産業新聞、ホームページなどを手がかりに、予め調べておくことが有益である。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　経営戦略論の系譜と概略
第3回　(株)博報堂「旅する広告」
第4回　(株)プロヴァンスコーポレーション「景気変動下における不動産業界」
第5回　(有)キャップス「加速する未来、人生百年時代の自分戦略」
第6回　(有)星加「食の安全はトップの思いと顧客満足風土醸成から」
第7回　丸二倉庫(株)「社会人になる前に知っておきたいこと」
第8回　中間まとめと復習
第9回　近畿日本ツーリスト(株)「総合サービス業としての旅行業戦略（仮）」
第10回　シンク アンド アクト(株)「人材業界の内側から見える『就活』と『働く』」
第11回　(株)JALスカイ大阪「JALから見る航空業界」
第12回　橋本恭典税理士事務所「量を計る 損益計算書の見方」
第13回　サントリービール(株)「ザ・プレミアム・モルツのマーケティング戦略 ～プレミアムビール市場を創る～」
第14回　(株)関西総合情報研究所「経営マネジメントの実践ー失敗のススメー（仮題）」
第15回　全体の総括

履修上の注意点

講義に関連する会社や団体のホームページを見て、事前に調べた上で講義に出席し、質問を用意するようにしてほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 80 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**経営組織論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　平尾　毅	

テーマ

経営組織論の基礎分野を学習する。

授業の到達目標

経営学科各コースの基礎知識を習得できる
将来の組織の一員として活躍する際に役立つ知識を習得できる。

授業の概要

組織とは何か、組織はどのように作られ、運営されるのか、どのように外部環境と関わっていくのかについて、経営組織論の基本的な考え方を学びます。マクロ組織論とミクロ組織論の領域について、それぞれの基礎理論を体系的に学習します。また、最新の研究を紹介し、近年の組織論におけるパラダイム・シフトについて学びます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前配布される資料の予習をして授業に臨んでください（1時間程度）。
復習として配布資料を自筆でノートにまとめてください（1時間程度）。
また、予習プリントは提出の翌週に採点してフィードバックします。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　企業とは（企業の存在意義と成長について学ぶ）
第3回　組織とは（組織とは何か、組織論を学ぶ意義を確認する）
第4回　環境と組織（組織が価値や信念をもった情報処理システムとして環境適応しながら、その構造を構築することを学ぶ）
第5回　組織デザイン①（分業と統合のバランスについて学ぶ）
第6回　組織デザイン②（職能制、事業部制、マトリクスについて学ぶ）
第7回　モチベーション（人は何によってどのように組織に貢献しようとするのか、モチベーションを高揚させるために欠かせない視点について学ぶ）
第8回　リーダーシップ（変革時代のリーダーシップについて、その行動特性などについて学ぶ）
第9回　組織文化（組織文化が企業経営に及ぼす影響を学ぶ）
第10回　組織学習（組織学習のプロセスについて学ぶ）
第11回　戦略的組織変革①（組織変革のプロセスに基づき、どのように組織の慣性から逃れて抜本的な変革が可能になるかを学ぶ）
第12回　戦略的組織変革②（イノベーションを起こすには何が問題かについて学ぶ）
第13回　戦略的組織変革③（どのように組織能力を引き出すかについて学ぶ）
第14回　ネットワーク組織（ネットワーク組織とは何か、ネットワーク的な経営コンセプトについて学ぶ）
第15回　理解度チェックとフィードバック

履修上の注意点

配布資料に記載の文献一覧を参考に予習してください。授業では様々な質問を行います。「分かりません」と思考停止しないように、どうしたら答えにたどり着くか考えるよう心掛けてください。

教科書

使用しない。配布資料で代用します。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜紹介します。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 60% ）　　小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 15% ）　　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 15% ）

a50102d510

試験・レポートは、理解度チェックを含みます。
授業中課題は、予習プリントを含みます。
授業中発表等は、授業内で数回予定しているグループワークの発表を含みます。

2018 Syllabus

科 目 名　**経営情報システム論 <Z>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　片岡　裕介	

テーマ

情報化社会における経営情報の役割と可能性

授業の到達目標

情報技術(IT)あるいは情報通信技術(ICT)の革新が、企業経営ならびに地域社会に及ぼす影響を考えるにあたり、経営情報システムの基礎的事項について学習するとともに、経営活動や社会生活の中で経営情報がどのように活用されているかを理解する。

授業の概要

まず、経営情報の基礎概念、情報化社会の進展、経営情報システムの考え方などについて基礎的内容を学習する。さらに、経営情報と社会生活との関わりについて具体的な事例を通して見ることで、経営情報システムの理解を深める。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業で学習した用語や関連する事例について、授業後に整理しておくこと。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　情報化社会の進展
第3回　情報化社会における経営情報
第4回　情報技術の基礎
第5回　経営情報システムの変遷
第6回　経営戦略と情報システム
第7回　経営組織と情報システム
第8回　システムとネットワーク
第9回　ナレッジマネジメント
第10回　経営情報と流通(1)　情報化と流通システム
第11回　経営情報と流通(2)　チェーンストアと物流システム
第12回　社会における経営情報の利活用(1)　インターネットビジネス
第13回　社会における経営情報の利活用(2)　エリアマーケティング
第14回　社会における経営情報の利活用(3)　位置情報サービス
第15回　社会における経営情報の利活用(4)　情報セキュリティと情報倫理

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

経営情報システム 第4版
著者:　宮川公男・上田泰編著
出版社:　中央経済社
出版年:　2014　　ISBN:

はじめて学ぶ経営情報学
著者:　高橋敏朗編
出版社:　日科技連出版社
出版年:　2005　　ISBN:

経営情報論 新版
著者:　遠山暁・村田潔・岸眞理子著
出版社:　有斐閣
出版年:　2008　　ISBN:

a50102d610

日本の流通と都市空間

著者: 荒井良雄・箸本健二編

出版社: 古今書院

出版年: 2004 ISBN:

ビジネス・行政のためのGIS

著者: 村山祐司・柴崎亮介編

出版社: 朝倉書店

出版年: 2008 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）
小テスト（ 40 ）
授業中課題 （ 40 ）
授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**人的資源管理論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　平尾　毅	

テーマ

人的資源管理の基本的な仕組みを学習する。

授業の到達目標

組織における人間行動を規定するメカニズムを理解できる。就職後のキャリア形成に必要な観点を身につけることが期待される。

授業の概要

自分のキャリアは自分で考え、自分で作っていかなければならない時代において、自分がどのような仕組みの下で働き、どのようにして報酬を得るのかを、講義形式で学ぶ。まず、組織における人間行動を規定するメカニズムを理解します。その上で、就職後のキャリア形成に必要な観点から、日本企業の人事部の仕事について体系的に学習します。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

教科書と配布資料の予習をして授業に臨んでください（1時間程度）。
復習として配布資料を自筆でノートにまとめてください（1時間程度）。
また、予習プリントは提出の翌週に採点してフィードバックします。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　人的資源管理入門（人の管理とはどんなことかを学ぶ）
第3回　人間モデル・組織行動（組織は人をどのように捉えるのかについて学ぶ）
第4回　組織設計（人の働く組織をどのように作るのかを学ぶ）
第5回　採用・配置（組織は人をどのように雇い入れるのかを学ぶ）
第6回　キャリア開発・人材育成・教育訓練（組織は人をどのように育てるのかを学ぶ）
第7回　評価・考課（組織は仕事の結果をどのように評価するのかを学ぶ）
第8回　昇進・昇格（組織は人をどのように処遇するのかを学ぶ）
第9回　賃金・福利厚生（組織は人にどのような報酬を与えるのかを学ぶ）
第10回　安全・衛生（組織は人の安全と健康をどのように守っているのかを学ぶ）
第11回　労使関係（組織は労働組合とどのように関わるのかを学ぶ）
第12回　退職（組織は辞めていく人とどのように関わるのかを学ぶ）
第13回　女性労働・高齢者雇用（多様化する働く人たちを組織はどう管理するのかを学ぶ）
第14回　非正規雇用（多様化する雇用形態を組織はどう管理するのかを学ぶ）
第15回　理解度チェックとフィードバック

履修上の注意点

授業では様々な質問を行います。「分かりません」と思考停止しないように、どうしたら答えにたどり着くか考えるよう心掛けてください。

教科書

経験から学ぶ人的資源管理（新版）
著者:　上林憲雄・厨子直之・森田雅也
出版社:　有斐閣
出版年:　2018年　　ISBN:　978-4641184398

参考書

人事管理入門〈第2版〉
著者:　今野浩一郎
出版社:　日経文庫
出版年:　2008年　　ISBN:　978-4532111908

人事管理入門〈第2版〉
著者:　今野浩一郎・佐藤博樹
出版社:　日経新聞出版社
出版年:　2009年　　ISBN:　978-4532133795

a50102d710

新版　人材マネジメント論

著者:　高橋俊介

出版社: 東洋経済新報社

出版年: 2006年　　ISBN:　978-4492532119

21世紀のキャリア論

著者:　高橋俊介

出版社: 東洋経済新報社

出版年: 2012年　　ISBN:　978-4492533116

キャリアショック

著者:　高橋俊介

出版社: ソフトバンク文庫

出版年: 2006年　　ISBN:　978-4797336214

自分らしいキャリアのつくり方

著者:　高橋俊介

出版社: PHP新書

出版年: 2009年　　ISBN:　978-4569709017

ヒューマン・リソース・マネジメント(ビジネス基礎シリーズ)

著者:　高橋俊介

出版社: ダイヤモンド社

出版年: 2004年　　ISBN:　978-4478440513

働くひとのためのキャリア・デザイン

著者:　金井壽宏

出版社: PHP新書

出版年: 2002年　　ISBN:　978-4569619415

成績評価

試験・レポート （ 60% ）　　小テスト （ 0% ）

授業中課題 （ 15% ）　　授業中発表等 （ 10% ）

参加度 （ 15% ）

試験・レポートは、理解度チェックを含みます。
授業中課題は、予習プリントを含みます。
授業中発表等は、授業内で数回予定しているグループワークの発表を含みます。

2018 Syllabus

科 目 名　**マーケティング論Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今井　まりな	

テーマ

マーケティング論の視点を身につける。

授業の到達目標

マーケティング論に関する基礎概念を理解する。企業のマーケティング活動の実例を知り、
マーケティング論の視点から読み解く力を養う。

授業の概要

マーケティング論の基礎概念について、企業の実例を交えながら解説する。また、履修者にもマーケティングの知識を運用する機会を設ける。具体的には履修者に最低1回のレポート課題の提出を義務付ける。詳細は初回のガイダンスで連絡するので、履修予定者は必ず出席すること。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

レポートに対するフィードバックは、毎週の授業開始後すぐに解説を行う。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　マーケティングとは何か
第3回　マーケティング・マネジメントの基本枠組み
第4回　製品・サービスのデザイン①（製品・サービスの捉え方と分類）
第5回　製品・サービスのデザイン②（新製品開発プロセス）
第6回　価格のデザイン
第7回　流通チャネルのデザイン
第8回　プロモーションのデザイン
第9回　マーケティング資源の配分
第10回　事業の定義
第11回　競争構造の理解
第12回　製品ライフサイクル
第13回　市場地位別戦略
第14回　国際マーケティング
第15回　総括
※なお、この授業では必要に応じてゲストスピーカーによる特別講演会を行うことがある。

履修上の注意点

『日本経済新聞』や『日経ビジネス』などの記事に目を通し、企業の具体的なマーケティング活動を学習する。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**マーケティング論Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　150
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今井　まりな	

テーマ

ブランドマネジメントと消費者行動の理解

授業の到達目標

マーケティング論における重要なトピック（各論）について理解する。

授業の概要

マーケティングに関する現象について実際のケースを取り上げながら、理論的に把握するための重要な概念を学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

レポートについては、回収の2週間後の授業で解説を行う。

内　　容

第3回　ブランド論（2）（ブランド要素戦略）
第4回　ブランド論（3）（ブランドと経験価値）
第5回　消費者行動論（1）（消費者行動とマーケティング，購買決定プロセス）
第6回　消費者行動論（2）（市場データ分析）
第7回　顧客満足度（1）（顧客価値と顧客満足）
第8回　顧客満足度（2）（顧客リレーションシップ育成）
第9回　価格（1）（価格設定）
第10回　価格（2）（価格適合）
第11回　マーケティング・チャネル論（1）（チャネル設計と管理）
第12回　マーケティング・チャネル論（2）（電子商取引とマーケティング）
第13回　ロジスティクス（1）（マーケット・ロジスティクスの設計）
第14回　ロジスティクス（2）（サプライチェーン・マネジメント）
第15回　総括

第1回　ガイダンス
第2回　ブランド論（1）（ブランド価値のデザイン）

履修上の注意点

『日本経済新聞』や『日経ビジネス』などの記事に目を通し、企業の具体的なマーケティング活動を学習する。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**産業論Ⅰ（コンテンツ産業）〈Z〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉田　秀和	

テーマ

初期産業化社会の誕生から産業社会が成長・成熟していく過程を考察しつつ、現在の産業構造を読み解いていきます。

授業の到達目標

産業構造の在り方は、わたしたちの日常の生活環境に深く結びついています。言い換えると、年齢・性別・職業などによる生活時間の使い方や生活の質および量がその社会の産業構造の影響を大いに受けているということです。そこで、この授業では、産業構造と私たちの生活構造の変化、すなわち生活インフラの変遷に注目しつつ、現時点までの産業と生活の変化を読み解いていこうと思います。

授業の概要

この授業では、産業社会をとらえる枠組みを提示しながら、高度経済成長期から今日までの日本の産業構造の変遷を考察し、大衆社会の形成と成熟した産業社会における大衆意識も読み解いていきます。さらに、これらを踏まえて、高度情報社会を背景としてグローバル化していく今日の社会に潜む諸課題をみなさんと考えていきたいと思います。授業では、その日の授業内容、質疑などを簡潔に記してもらうリアクション・ペーパーを毎回提出してもらい、質疑に関する回答を次回の授業冒頭に行いたいと思います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業後は、講義で紹介した内容の社会現象に注視してください。

内　　容

第1回　イントロダクション
第2回　産業構造と生活構造
第3回　フォードシステムの導入と生活構造の変化
第4回　メディアの発達と大衆社会の進展
第5回　産業商品の普及と平等化意識の浸透
第6回　労使協調主義経済と世界経済の趨勢
第7回　産業社会の成熟と高度大衆化社会
第8回　産業構造と生活構造の転換期
第9回　消費社会の到来と個性化社会の到来
第10回　バブル経済と消費社会（不夜城社会の経験）
第11回　高度情報化社会と産業構造の変貌
第12回　グローバル社会における産業と生活の変容
第13回　もう一つの社会変化ーモノ社会からイメージの社会へー
第14回　クールジャパン戦略と成長産業の課題
第15回　産業構造と生活構造の今後の課題

履修上の注意点

授業内容は積み上げ式となっています。授業終了時には、毎回コミュニケーション・ペーパーへの記入と提出を求めています。また、このペーパーの記入内容および受講態度は評価対象となっています。やむをえないと考えられる欠席以外はないように心がけてください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 15 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 15 ）	

試験50については、レポート課題とします。

2018 Syllabus

科 目 名　**ファイナンス論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　近藤　隆則	

テーマ

前半は、証券市場で資金運用する投資家の立場に立って、証券市場の機能、分散投資、証券価格の決定理論などの基礎知識を学びます。後半は、証券市場で資金調達する企業の立場に立って、企業の金融行動について学びます。

授業の到達目標

（1）リスクとリターンの関係や分散投資の意味を、ファイナンスの理論に依拠しながら説明できること （2）企業の投資や資金調達の意思決定、発展段階に応じた金融行動について、具体的に説明できること

授業の概要

株式市場をはじめ様々な証券市場の機能を学ぶとともに、証券投資に必要なリスク・リターンの関係や価格決定の理論、分散投資の考え方を身に付けます。また、企業がどのように資金調達方法を選択し、投資を意思決定するかといった金融行動の基本を学んだ後、企業の統治に関する諸問題や企業の各発展段階における金融行動についても触れます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新聞の株式欄を見て、わかる範囲でその意味を調べてみてください。課題に対するフィードバックは、授業の中で行います。

内　容

第1回　証券市場の概要
第2回　投資におけるリスクの意味
第3回　分散投資の必要性と限界
第4回　株式の評価（1）割引配当モデル
第5回　株式の評価（2）資本資産価格モデル（CAPM）
第6回　証券市場の効率性
第7回　前半のまとめとアクティブ・ラーニング：証券模擬取引
第8回　企業はどう資金調達するのか―最適資本構成
第9回　企業はどう投資の意思決定をするのか―資本コストと投資収益率
第10回 企業統治（コーポレート・ガバナンス）
第11回 企業の発展段階と資金調達行動（1）中小企業金融の特徴、ベンチャー企業と株式公開
第12回 企業の発展段階と資金調達行動（2）M＆Aと企業再編
第13回 企業の発展段階と資金調達行動（3）倒産処理と企業再生
第14回 後半のまとめとアクティブ・ラーニング：企業分析
第15回 全体のまとめと復習

履修上の注意点

教科書

使用しません
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

その都度示します
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ ）	小テスト （ 80% ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**企業と産業の経済学**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今久保　幸生	

テーマ

企業の内部組織や産業の制度について経済学的な分析を行うこと。

授業の到達目標

内部組織の経済学、産業組織論の基礎を学び、企業や産業を経済学的な視点から分析することができる力を身につける。

授業の概要

経済学を学び始めた多くの学生が、経済学の教科書では企業や産業の扱いが余りにも小さいことに疑問を感じるはずである。現実の社会では生産者は複雑な組織である場合が普通であり、また、複数の組織が多様な関係を形成しながら生産活動を行っているということは常識であるのに対し、初歩的なミクロ経済学の教科書などでは、企業はそれ自体が意志決定する能力を持つ点のようにとらえられ、また企業と企業の間にはほとんど何の関係もないかのように想定されているように見えるからである。こうした現実の企業活動、あるいは産業活動を分析するのが、内部組織の経済学や産業組織論である。この2つの経済学の分野をテーマとするこの授業では、取引費用やゲーム理論の基本的な考え方を基礎にして、そもそもなぜ企業は存在するのか、企業の中で権限はどう配分されるべきか、寡占市場（生産者がごく少数の場合の市場）で企業はどのような行動を行うか、どのような場合に企業は垂直統合（たとえば部品メーカーと組み立て企業の統合）が行われるのかといったトピックを学習しながら、内部組織の経済学や産業組織論の基礎を修得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

教科書の予習・復習は当然行う必要がある。それとともに、関連の参考書なども読んでおくこと。課題へのフィードバックは以後の授業中に実施する。

内　容

第1回　イントロダクション：経済学は企業や産業をどのように見ているか？いくつかの比喩
第2回　取引費用の概念とコースの定理
第3回　なぜ企業は存在するのか
第4回　隠れた情報とモラル・ハザード
第5回　エイジェンシー理論（依頼人＝代理人関係の理論）
第6回　所有と経営の分離をどのように理解するか
第7回　中間のまとめ
第8回　企業の費用構造と独占企業の行動
第9回　潜在的参入者の役割
第10回　価格の差別化と製品の差別化
第11回　寡占市場における企業行動とゲーム理論の基礎
第12回　川上産業（部品メーカー）と川下産業（組み立てメーカー）の関係
第13回　垂直的統合と権限の配分
第14回　ネットワーク外部性（OSと市場支配力）
第15回　まとめ

履修上の注意点

私語は厳禁。部活や就活による欠席は出席扱いとはしない。

教科書

教科書は用いない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 70 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**広告とマスメディア**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今井　まりな.近藤　誠良	

テーマ

メディア制作の現場ー広告・新聞・雑誌・テレビ・インターネットー

授業の到達目標

各種メディア制作の考え方やそのプロセスを知ることを通じて、メディアの現状とその可能性について理解する。さらに、メディアと履修者との関わり方について考え、メディアを活用する能力を養う。

授業の概要

講師の都合により下記の講義の順番が入れ替わったり、内容が変更になる場合がある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

メディア関係の文献に目を通しておくこと。

内　　容

第1回　本講義の趣旨　今井まりな
第2回　広告とは
第3回　広告マーケティング
第4回　クリエイティブ
第5回　メディア環境論Ⅰ
第6回　メディア環境論Ⅱ
第7回　テレビ業界
第8回　新聞業界
第9回　出版業界
第10回　テレビ番組制作の現場
第11回　ラジオ業界
第12回　映画ビジネス
第13回　エンターテイメントビジネス
第14回　マスメディアの学説と広告効果　今井まりな
第15回　総括　今井まりな

履修上の注意点

外部講師による授業となるため、受講のマナーを守らない場合は、単位を取ることが難しくなる場合がある。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 60 ）
参加度は、授業への出席および小レポートによる。授業中課題は、期末レポートによる。

2018 Syllabus

科 目 名　**医療政策論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　髙山　一夫	

テーマ

現代日本社会における医療・社会保障制度の役割

授業の到達目標

貧困・格差拡大とグローバル化に留意しつつ、日本の医療制度と社会保障に関する基本的な知識を習得する

授業の概要

医療制度と社会保障の役割と改革課題について、講義形式で授業を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

受講に際して前提となる知識は不要であるが、授業中の配布プリントや確認テストを活用して知識の習得に努めること。提出されたコメント用紙等は原則として翌週に返却するとともに、テストについても試験終了後に解答を解説する。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　社会保障総論（貧困・格差と社会保障の機能）
第3回　社会保障総論（社会保障の財政と国際比較）
第4回　医療制度と改革課題（医療保険制度）
第5回　医療制度と改革課題（医療提供体制）
第6回　介護保険制度の概要と改革課題
第7回　医療・介護総合改革
第8回　中間まとめと理解度の確認
第9回　社会保障制度各論（公的年金制度とその改革）
第10回 社会保障制度各論（雇用保険と労災保険）
第11回 社会保障制度各論（社会福祉と生活保護）
第12回 グローバル時代と医療政策（米国の医療保険制度改革）
第13回 グローバル時代の医療政策（自由貿易協定と医療制度）
第14回 グローバル時代の医療政策（途上国と国際保健医療）
第15回 講義全体のまとめと理解度の確認

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、授業中に紹介した参考書などを積極的に読むとともに、新聞や雑誌の医療記事に目を通す習慣をつけること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

健康と医療の公平に挑む
著者:　松田亮三編
出版社:　勁草書房
出版年:　2009　　ISBN:　978-4326700615

はじめての社会保障13版
著者:　椋野美智子、田中耕太郎
出版社:　有斐閣アルマ
出版年:　2016　　ISBN:　978-4641220720

安倍政権の医療・介護戦略を問う
著者:　芝田英昭編
出版社:　あけび書房
出版年:　2014　　ISBN:　9784871541282

a50102e910

地域包括ケアと地域医療連携

著者: 二木立

出版社: 勁草書房

出版年: 2015 ISBN: 9784326700875

医療政策を問いなおす

著者: 島崎謙治

出版社: ちくま新書

出版年: 2015 ISBN: 9784480068637

社会保障の公私ミックス再論

著者: 松田亮三・鎮目真人編著

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2015 ISBN: 9784623075966

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ 50 ）

授業中課題 （ 25 ） 授業中発表等 （ ）

参加度 （ 25 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**医療経済論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　髙山　一夫	

テーマ

医療経済学入門

授業の到達目標

医療経済学の基本的な考え方を学習する。医療制度や経済学に関する知識を必ずしも前提とはしないが、「医療経営入門」「医療政策論」なども併せて履修することが望ましい。

授業の概要

医療経済思想の展開、医療費とその増加要因分析、医療の経済評価手法に関して、主として講義形式で授業を行う。また、医療経済に関する理解を深めるため、適宜、映像教材を活用する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

受講に際して前提となる知識は不要であるが、授業中の配布プリントや確認テストを活用して知識の習得に努めること。提出されたコメント用紙等は原則として翌週に返却する。また、テストについては、試験終了後に解答を解説する。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　医療経済思想の展開(1)
第3回　医療経済思想の展開(2)
第4回　医療経済思想の展開(3)
第5回　医療経済思想の展開(4)
第6回　医療費と経済(1)
第7回　医療費と経済(2)
第8回　医療費と経済(3)
第9回　中間まとめと理解度の確認
第10回　映像教材を用いた医療経済の学習(1)
第11回　映像教材を用いた医療経済の学習(2)
第12回　医療の経済評価と政策(1)
第13回　医療の経済評価の政策(2)
第14回　医療の経済評価の政策(3)
第15回　講義全体のまとめと理解度の確認

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、授業中に紹介した参考書などを積極的に読むとともに、新聞や雑誌の医療記事に目を通す習慣をつけること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

健康と医療の公平に挑む

著者:　松田亮三

出版社:　勁草書房

出版年:　2009　　ISBN:　9784326700615

国際的視点から学ぶ医療経済学入門

著者:　マックペイク他

出版社:　東京大学出版会

出版年:　2004　　ISBN:　9784130421195

a50102f050

経済政策で人は死ぬか

著者: スタックラー＆バス

出版社: 草思社

出版年: 2014 ISBN: 9784794220868

社会保障の公私ミックス再論

著者: 松田亮三・鎮目真人編著

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2015 ISBN: 9784623075966

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ 50 ）

授業中課題（ 25 ） 授業中発表等（ ）

参加度（ 25 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**非営利組織論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　髙山　一夫	

テーマ

授業の到達目標

非営利組織の役割を理解する。

授業の概要

現代社会における非営利セクター、非営利組織の役割に関する基本的な知識を習得し、今後の経済社会のあり方を構想する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

受講に際して予備知識は不要であるが、授業中に配布されるプリントや資料をしっかりと復習し、確認テストも活用すること。また、非営利組織に関する新聞・雑誌記事に目を通す習慣をつけること。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　非営利組織とは
第3回　非営利組織の理論
第4回　政府、企業、非営利組織
第5回　英米の非営利セクターと法制度
第6回　日本の非営利セクターと法制度
第7回　日本の非営利セクターの活動領域（1）(教育分野)
第8回　日本の非営利セクターの活動領域（2）(医療分野)
第9回　日本の非営利セクターの活動領域（3）(介護分野)
第10回 日本の非営利セクターの活動領域（4）(グローバルヘルス)
第11回 日本の非営利セクターの活動領域（5）(国際機関とNGO)
第12回 非営利組織の人的資源管理
第13回 非営利組織の資金管理
第14回 非営利組織と経済社会の変革
第15回 まとめ

履修上の注意点

病気やけがなどにより遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。

教科書

参考書

ドラッカー名著集4　非営利組織の経営
著者:　P.F. ドラッカー
出版社: ダイヤモンド社
出版年: 2007　　ISBN:　9784478307052

闘う社会的企業
著者:　藤井敦史、原田晃樹、大高研道
出版社: 勁草書房
出版年: 2013　　ISBN:　9784326602513

シチズンシップ―自治・権利・責任・参加
著者:　K. フォークス
出版社: 日本経済評論社
出版年: 2011　　ISBN:　9784818821590

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（ 50 ）
授業中課題（ 25 ）	授業中発表等（　）

2018 Syllabus

科 目 名　**サプライ・チェーン・マネジメント <Z>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　平尾 毅	

テーマ

ロジスティクスの基礎理論と実践を学習する。

授業の到達目標

生産・販売拠点のグローバル化に伴い、サプライチェーンの再構築が注目される中、ロジスティクスの基礎を理解できる。現場においてロジスティクスを広く俯瞰する能力と論理的に分析・評価する能力の獲得が期待される。

授業の概要

サプライチェーン・マネジメントとロジスティクスの基礎を理解した上で、表計算ソフトウェアを用いて実践的な学習を行います。まず、実際の企業で行われている成功事例を通してロジスティクス論の基礎を理解します。その上で、表計算ソフトウェア（エクセル）を用いて実践的な学びを行います。就職後の現場においてロジスティクスを広く俯瞰する能力と論理的に分析・評価する能力の修得が期待されます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

復習として配布資料を自筆ノートにまとめてください（1時間程度）。

内　容

第1回　ガイダンス（サプライチェーン・マネジメントの必要性を学ぶ）
第2回　サプライチェーン・マネジメントとロジスティクスの概要（ロジスティクスと比較しながら、サプライチェーン・マネジメントの理解を深める）
第3回　サプライチェーン・マネジメントの事例（サプライチェーン・マネジメントの成功事例から、そのエッセンスを学ぶ）
第4回　サプライチェーンのオペレーション（サプライチェーン・マネジメントの戦略を学ぶ）
第5回　需給管理（需要と供給を一致させるために考慮すべき事項を学ぶ）
第6回　在庫管理（在庫管理の目的と方法について学ぶ）
第7回　生産管理（生産計画と工程管理の概要を学ぶ）
第8回　調達管理（調達管理の課題とその解決策について学ぶ）
第9回　グローバル・サプライチェーン・マネジメント（グローバル・サプライチェーンの仕組みを構築するポイントを学ぶ）
第10回　理解度チェックとフィードバック
第11回　PC演習：需要予測①（変数減少法）
第12回　PC演習：需要予測②（数量化1類）
第13回　PC演習：在庫管理（経済的発注量）
第14回　PC演習：生産管理（線形計画法）
第15回　PC演習問題

履修上の注意点

第11回授業からパソコン教室でPCを使った演習を行います。授業では様々な質問を行います。「分かりません」と思考停止しないように、どうしたら答えにたどり着くか考えるよう心掛けてください。

教科書

特になし。配布資料で代用します。

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

サプライチェーン経営入門

著者:　藤野直明
出版社:　日経文庫
出版年:　1999年　　ISBN:　978-4532107925

サプライチェーン・マネジメントとロジスティクス管理入門

著者:　藤川裕晃
出版社:　日刊工業新聞社
出版年:　2008年　　ISBN:　978-4526061325

a50102f350

改訂版サプライチェーンマネジメントの理論と実践

著者: EYアドバイザリー

出版社: 幻冬舎

出版年: 2014年 ISBN: 978-4344971332

戦略的サプライチェーンマネジメント:競争優位を生み出す5つの原則

著者: S.コーエン・J.ルーセル

出版社: 英治出版

出版年: 2015年 ISBN: 978-4862761996

成績評価

試験・レポート （ 45% ）
小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 40% ）
授業中発表等 （ 0% ）
参加度 （ 15% ）

試験・レポートは、理解度チェックを含みます。
授業中課題は、PC演習問題を含みます。

2018 Syllabus

科 目 名　**インターンシップ（現ビ）〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　100
履修条件	クラス指定
担 当 者　　香坂　千佳子	

テーマ

インターンシップの事前学習によって、職業観の醸成を図る。

授業の到達目標

本講義の到達目標は
①インターンシップの重要性を理解する。
②情報収集能力を養うことで就職活動のための、自分自身の軸を持つことを目標とする。
職業観、社会性、仕事や会社への具体的な理解とイメージ獲得ができ、これからの大学生活の学習目的や習得課題等が明確になることを目指す。

授業の概要

自らの職業観並びに職業意識を少しでも持つことができるようにインターシップの意義を学び、自らの学習意識の向上を図る。

大学時代の経験、体験は就職活動、および社会生活を営む上で大きく影響すると言われている。
大学では専門知識の修得は当然だが、自分の「働き方の軸」を就職活動前に知ることも重要である。そこで、「働き方の軸」を探る上で、インターンシップの参加がいかに重要であるかを学び、今後の「働き方の軸」を探るプロセスも学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

①最終テストを行わない代わりに、数回の課題に対して、レポート提出。
②後期にキャリアセンター主催の「キャリアフェア」に時間が許す限り参加、学外で開催される参加企業に関しての情報収集をする。
③グループに分かれ、企業について調べてもらい、発表を行う。

内　容

第1回　オリエンテーション　受講上の注意、講義の進め方、インターンシップの意義と効果
第2回　キャリア教育とインターンシップ
第3回　何のために・・・・。①
（大学、社会で働く、生きる）
第4回　何のために・・・・。②
（大学、社会で働く、生きる）
第5回　これからの日本、経済の視点から「働き方」を考える
第6回　企業から見たインターンシップ
第7回　これからの企業が求める人材像は？
企業や社会はどんな人材を求めいるのか？
第8回　京都橘大学のインターンシップの特徴
第9回　インターンシップ経験者が語る
第10回　インターンシップの学びをどのように活かすか
第11回　ゲストスピーカー①
第12回　ゲストスピーカー②
第13回　インターンシップの探し方
（大学−国内・国外、コンソーシアム、海外、自治体）
第14回　2回生時の今後の目標設定
第15回　まとめ

履修上の注意点

(1) 遅刻は厳禁（講義スタート時までに教室内に着席）
(2) 順序立てたスケジュールとなっているため、すべての授業に出席すること。
(3) 欠席・遅刻の多い学生は、単位取得は難しい。
(4) 私語、スマホ、居眠りは禁止
(5)態度の悪い学生に対しては、退出してもらう。
(6)履修人数により、シラバス内容が多少、変更される可能性もある。

社会人の基本ルールである「期限」「時間厳守」を徹底する。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 10 ）
参加度 （ 40 ）	

成績評価
出席日数及び、授業参加度+課題提出+プレゼンテーション（自己評価/他者評価）が加算されます。
欠席・遅刻の多い学生及び全出席をしても、その他の項目を満たしてない場合は、単位取得は難しくなります。

2018 Syllabus

科 目 名　**インターンシップ（現ビ）<b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　100
履修条件	クラス指定
担 当 者　　香坂　千佳子	

テーマ

インターンシップの事前学習によって、職業観の醸成を図る。

授業の到達目標

本講義の到達目標は
①インターンシップの重要性を理解する。
②情報収集能力を養うことで就職活動のための、自分自身の軸を持つことを目標とする。
職業観、社会性、仕事や会社への具体的な理解とイメージ獲得ができ、これからの大学生活の学習目的や習得課題等が明確になることを目指す。

授業の概要

自らの職業観並びに職業意識を少しでも持つことができるようにインターシップの意義を学び、自らの学習意識の向上を図る。

大学時代の経験、体験は就職活動、および社会生活を営む上で大きく影響すると言われている。
大学では専門知識の修得は当然だが、自分の「働き方の軸」を就職活動前に知ることも重要である。そこで、「働き方の軸」を探る上で、インターンシップの参加がいかに重要であるかを学び、今後の「働き方の軸」を探るプロセスも学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

①最終テストを行わない代わりに、数回の課題に対して、レポート提出。
②後期にキャリアセンター主催の「キャリアフェア」に時間が許す限り参加、学外で開催される参加企業に関しての情報収集をする。
③グループに分かれ、企業について調べてもらい、発表を行う。

内　容

第1回　オリエンテーション　受講上の注意、講義の進め方、インターンシップの意義と効果
第2回　キャリア教育とインターンシップ
第3回　何のために・・・・。①
（大学、社会で働く、生きる）
第4回　何のために・・・・。②
（大学、社会で働く、生きる）
第5回　これからの日本、経済の視点から「働き方」を考える
第6回　企業から見たインターンシップ
第7回　これからの企業が求める人材像は？
企業や社会はどんな人材を求めいるのか？
第8回　京都橘大学のインターンシップの特徴
第9回　インターンシップ経験者が語る
第10回　インターンシップの学びをどのように活かすか
第11回　ゲストスピーカー①
第12回　ゲストスピーカー②
第13回　インターンシップの探し方
（大学−国内・国外、コンソーシアム、海外、自治体）
第14回　2回生時の今後の目標設定
第15回　まとめ

履修上の注意点

(1) 遅刻は厳禁（講義スタート時までに教室内に着席）
(2) 順序立てたスケジュールとなっているため、すべての授業に出席すること。
(3) 欠席・遅刻の多い学生は、単位取得は難しい。
(4) 私語、スマホ、居眠りは禁止
(5)態度の悪い学生に対しては、退出してもらう。
(6)履修人数により、シラバス内容が多少、変更される可能性もある。

社会人の基本ルールである「期限」「時間厳守」を徹底する。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

a50102f512

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 10 ）
参加度 （ 40 ）	

成績評価
出席日数及び、授業参加度+課題提出+プレゼンテーション（自己評価/他者評価）が加算されます。
欠席・遅刻の多い学生及び全出席をしても、その他の項目を満たしてない場合は、単位取得は難しくなります。

2018 Syllabus

科 目 名　**マーケティングリサーチ <a>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今井　まりな	

テーマ

マーケティング・リサーチを実践する。

授業の到達目標

マーケティング・リサーチの意義やそのプロセスを理解する。よく用いられる分析手法や解釈の仕方などに関する基礎的なスキルを習得する。

授業の概要

まず、マーケティング・リサーチの意義と概要、および各プロセスについて説明する。その上で、データを分析するために必要な手法について説明し、実際に履修者に分析を行ってもらう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

統計学に関する基礎的な文献に目を通しておくと、授業の内容がより理解しやすくなる。毎回の授業の前半に、前回の課題に対する解説を行う。

内　容

第1回　マーケッティング・リサーチの概要
第2回　マーケティング・リサーチのプロセス
第3回　SPSS入門①
第4回　SPSS入門②
第5回　相関分析の考え方
第6回　相関分析の実施
第7回　t検定の考え方
第8回　t検定の実施
第9回　分散分析の考え方と実施
第10回　回帰分析の考え方
第11回　回帰分析の実施
第12回　因子分析の考え方
第13回　因子分析の実施
第14回　調査データを用いた分析①
第15回　調査データを用いた分析②

履修上の注意点

基本的に出席と前提して、講義を進める。積み上げ式の授業であるため、もし欠席した場合は、自習が求められる。

教科書

1からのマーケティング分析
著者:　恩蔵直人・富田健司
出版社:　碩学舎
出版年:　2011　　ISBN:　978-4502683602

参考書

社会調査法入門
著者:　盛山和夫
出版社:　有斐閣
出版年:　2004　　ISBN:　978-4641183056

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 60 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**マーケティングリサーチ <b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今井　まりな	

テーマ

マーケティング・リサーチを実践する。

授業の到達目標

マーケティング・リサーチの意義やそのプロセスを理解する。よく用いられる分析手法や解釈の仕方などに関する基礎的なスキルを習得する。

授業の概要

まず、マーケティング・リサーチの意義と概要、および各プロセスについて説明する。その上で、データを分析するために必要な手法について説明し、実際に履修者に分析を行ってもらう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

統計学に関する基礎的な文献に目を通しておくと、授業の内容がより理解しやすくなる。毎回の授業の前半に、前回の課題に対する解説を行う。

内　容

第1回　マーケッティング・リサーチの概要
第2回　マーケティング・リサーチのプロセス
第3回　SPSS入門①
第4回　SPSS入門②
第5回　相関分析の考え方
第6回　相関分析の実施
第7回　t検定の考え方
第8回　t検定の実施
第9回　分散分析の考え方と実施
第10回　回帰分析の考え方
第11回　回帰分析の実施
第12回　因子分析の考え方
第13回　因子分析の実施
第14回　調査データを用いた分析①
第15回　調査データを用いた分析②

履修上の注意点

基本的に出席と前提して、講義を進める。積み上げ式の授業であるため、もし欠席した場合は、自習が求められる。

教科書

1からのマーケティング分析
著者:　恩蔵直人・富田健司
出版社:　碩学舎
出版年:　2011　　ISBN:　978-4502683602

参考書

社会調査法入門
著者:　盛山和夫
出版社:　有斐閣
出版年:　2004　　ISBN:　978-4641183056

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 60 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**現代企業論Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松石　泰彦	

テーマ

現代企業の形態・システム・社会的責任について、それらの特色や課題をケーススタディを通じて学ぶ。

授業の到達目標

・企業や組織のマネジメントへの理解を通じて、社会人としての協働・コミュニケーション能力を養うこと。
・近くその中に出て行くことになる日本の経済社会、企業や組織に対する見識を深めること。
・歴史を単なる過去に対する知識ととらえず、現在の問題の源流ととらえ、未来を展望する大きな動きや構造の中でものごとを思考できるようになること。

授業の概要

現代企業はそれらを取り巻く環境・市場・産業社会との間で、常に相互に影響を与え合いながら展開してきました。この講義では、各産業において活躍する日本企業の生成・発展の過程を具体的な経営実践事例を見ながら学び、それらを通して企業が外部環境にどう対応し、どう働きかけていくのかを考えます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

受講者数にもよりますが、学生にも作業や発言をしてもらう形を考えています。

内　容

第1回　ガイダンス　この講義の対象領域と進め方
第2回　日本の企業社会をめぐる論点
第3回　近代企業の成立　渋沢栄一を中心に
第4回　在来産業の革新　グンゼと東レを中心に
第5回　大企業時代の到来と経営家族主義　武藤山治を中心に
第6回　大衆消費社会の企業　松下電器を中心に
第7回　町工場から国際企業へ　ソニーを中心に
第8回　日本型生産システム　トヨタシステムを中心に
第9回　企業集団とメインバンク　三井系・三菱系を中心に
第10回　流通革命の展開　スーパーとコンビニを中心に
第11回　新サービス産業の開拓　ヤマト運輸を中心に
第12回　ベンチャー企業からの躍進　京セラを中心に
第13回　リストラクチャリングと企業文化　アサヒビールを中心に
第14回　インターネットとモバイル　通信キャリアを中心に
第15回　総括　～日本企業の足跡と未来

履修上の注意点

教科書

参考書

企業家に学ぶ日本経営史
著者:　宇田川勝他
出版社:　有斐閣ブックス
出版年:　2011　　ISBN:

入門　企業と社会
著者:　佐々木利廣他
出版社:　中央経済社
出版年:　2015　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**現代企業と法Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山田　廣己	

テーマ

企業の責任（社会的責任と法的責任）および企業と従業員との法律関係

授業の到達目標

企業の責任（社会的責任と法的責任）と企業と従業員と関係（雇用契約・労働契約関係）の基礎を習得する。

授業の概要

現在の企業は、グローバル化によって国境を越えて活動し、世界の企業間で競争を行われている。規模の大小を問わず活動する企業は法令遵守（(コンプライアンス(compliance))が求められる。企業の組織・活動に関する法令違反に対しては、様々な制裁（契約の無効・取消し、損害賠償、刑罰など）が用意されている。これは法的な意味の「企業の責任」である。この責任は、会社、役員、株主、会社の取引相手との間で問題とされる。一方で、倫理的な責任として「企業の社会的責任(corporate social responsibility=CSR)」が注目され、企業は消費者や地域社会に対してどのように対処すべきかが問われる。株式会社と取締役等との関係は「委任関係」であるが、会社と従業員との関係は、雇用契約労働契約関係である。この科目では、企業と法の観点から、株主だけでなく、労働者、消費者、地域社会など、企業がさまざまな利害関係者に対して負っている責任について学習する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習としては、事前に配布する講義レジュメに目を通してくることを求めます。講義に参加して、レジュメの内容・講義の中身を理解するように努めてください。質問があったら、講義後に教壇に聞きに来てください。

内　容

第1回　企業の法的責任（総論）
第2回　企業が負担する民事責任（契約上の責任；債務不履行責任、瑕疵担保責任など）
第3回　企業が負担する不法行為責任
第4回　経営者の会社に対する責任・第三者に対する責任
第5回　企業の刑事責任
第6回　企業の社会的責任（corporate social responsibility、略称：CSR）（総論）
第7回　社会に対する責任や貢献（社会的公正性の確保や環境対策の実施など）
第8回　経営戦略としての社会的責任
第9回　コストの削減・技術革新・企業イメージの向上を通じたブランド価値の向上
第10回　日本の社会的責任論と国際的な社会的責任論
第11回　企業と従業員との関係（総論）
第12回　雇用契約関係としての法規制
第13回　労働契約関係としての法規制
第14回　市民法と社会法・労働法の理念と体系
第15回　労働保護法・労働団体法
第16回　理解確認のための小テスト

履修上の注意点

講義時に講義概要を記したレジュメを配布します。必ず受け取って講義時には持参してください。

教科書

配布する講義レジュメ
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

携帯用法令集
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ レポート 30 ）　　小テスト（ 50 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）

a50102g250

提出レポート、小テストの結果から判定する。

2018 Syllabus

科 目 名　**医療管理論Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　藤野　美幸	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験・レポート（ ） 授業中課題（ ） 参加度 （ ）	小テスト（ ） 授業中発表等（ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**診療情報管理論Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　岡本　健	

テーマ

診療情報管理における法令と諸規則を学ぶ。

授業の到達目標

①診療情報管理の意義、役割、歴史が理解できる。
②診療情報管理と法規が理解できる。
③診療記録の記載方式、診療情報の記載が理解できる。

授業の概要

各項目の講義が終了後、問題集を用いて復習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

診療情報とは何かをそれぞれが考えながら講義に臨む。

内　容

第1回　診療情報管理の意義と役割
①用語の定義②診療記録の価値③診療情報管理の役割
第2回　第1回講義の問題演習
第3回　診療情報管理の歴史
①診療記録のルーツ②諸外国、わが国における診療情報管理
第4回　第3回講義の問題演習
第5回　小テスト①
第6回　診療情報管理と法規（1）
診療記録の記載、保存、電子化、提示に関する法規
第7回　診療情報管理と法規（2）
①医療事故に伴う法的責任②守秘義務③個人情報保護法④情報提供
第8回　第5・6回の問題演習
第9回　小テスト②
第10回　診療記録の記載方式（1）
SOAP方式（講義と演習）
第11回　診療記録の記載方式（2）
フォーカスチャーティング方式（看護記録）
第12回　診療記録の記載方式（3）
クリニカル・パス（講義とパスの実際）
第13回　診療情報の記載
①記載方法②診療録の基本的記載事項③診療記録の種類
第14回　第10～13回の問題演習
第15回　小テスト③
第16回　終講試験

履修上の注意点

携帯電話を使用する講義もあります。それ以外は電源を切りましょう。

教科書

診療情報管理Ⅲ（第8版）
著者:
出版社: 日本病院会
出版年: 2017.7　　ISBN:
診療情報管理士教育問題集
著者:
出版社: 日本病院会
出版年: 2017　　ISBN:

参考書

成績評価

a50102g550

試験・レポート（ 60% ）	小テスト（ 30% ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 10% ）	

a50102g650

2018 Syllabus

科 目 名　**診療情報管理論Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　昌浩	

テーマ

診療情報管理の実務を学ぶ

授業の到達目標

診療情報の保管管理、点検・活用・提供などの診療情報管理士の役割を理解する。

授業の概要

診療情報管理士が担う業務は、病院の規模や配属される部門により異なることも多いが、この授業では、診療情報管理を円滑に行うために必要な、基本的な業務内容と実務を理解する。具体的には、診療記録の保管・管理、診療記録の回収と内容の点検、診療情報の活用、診療情報の提供、診療記録の記載方法と種類について学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

医療の世界は日進月歩です。日頃から「医療」に関する新聞記事等に目を通し、日々研鑽に励んでください。

内　　容

第1回　診療情報管理論Ⅱ　ガイダンス 個人情報保護の視点からの保管管理
第2回　診療記録の保管管理1　ナンバリング（番号法）とファイリング（保管法）

第3回　診療記録の保管管理2　診療記録の保存期間と保存方法、パーシング
第4回　診療記録の保管管理3　診療記録の管理方式、貸出管理、　診療記録の回収と点検
第5回　診療記録の保管管理4　電子カルテシステムの運用、記載場所の明確化
第6回　診療記録の保管管理5　紙媒体に作成された情報の保存、診療情報の点検、
個人情報保護への対応
第7回　診療情報提供　　診療情報提供業務
第8回　診療情報管理士による改善への取組　医療の質、医療安全管理、　チーム医療

第9回　中間まとめ
第10回　診療情報管理士の活動組織　診療情報管理室、診療情報管理委員会
適切なコーディングに関する委員会
第11回　DPC　DPCとの関わり、DPC影響調査
第12回　DPC　データ精度　データ活用
第13回　医師事務作業補助者
第14回　がん登録実務について
第15回　診療情報管理Ⅱのまとめ
※なお、この授業では必要に応じてゲストスピーカーによる特別講演会を行うことがある。

履修上の注意点

テキストについては第1回授業時に説明しますので、それまでは購入しないようにしてください。

教科書

診療情報管理Ⅲ専門・診療情報管理編第7版
著者:
出版社: 日本病院会
出版年: 2017. 7　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 60 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 10 ）	授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**財務会計論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河野　充央	

テーマ

会計規範と会計機構

授業の到達目標

制度会計の意義と本質を理解する

授業の概要

テキスト以外に，経済記事を活用しながら，常にグローバルビジネスの最前線に目を向けながら講義を進める。 スケジュール等において，可能であれば，経営者をゲストスピーカーに招く場合もある

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

復習を必ず行ってから，次の時間の講義へ臨んでもらいたい。

内　　容

第3回　財務会計と管理会計
第4回　会計と法規
第5回　損益計算論1
第6回　損益計算論2
第7回　損益計算論3
第8回　貸借対照表論1
第9回　貸借対照表論2
第10回　貸借対照表論3
第11回　財務諸表一般論1
第12回　財務諸表一般論2
第13回　財務会計から管理会計へ1
第14回　財務会計から管理会計へ2
第15回　講義全体のまとめ
第1回　ガイダンス 会計機構とマネジメントの仕組み
第2回　財務会計の意義

履修上の注意点

私語は厳に慎んで下さい。他の受講者にとって，これ以上の迷惑はありません。

教科書

日本型/世界に広がる超やさしい財務会計
著者:　金児　昭
出版社:　税務経理協会
出版年:　2011　　ISBN:　9784419053031

参考書

グロービズMBAアカウンティング
著者:　グロービズ経営大学院
出版社:　ダイヤモンド社
出版年:　　ISBN:

最新財務諸表論
著者:　武田隆二
出版社:　中央経済社
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**組織と仕事の経済学**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阪本　崇	

テーマ

経済学の視点から、組織と仕事を分析する

授業の到達目標

1）組織の経済学の基本的な考え方を理解する
2）人的資本理論を中心に労働経済学の基本的な考え方を理解する

授業の概要

入門的な経済学では、経済の中で活動する個人や組織はブラックボックスとして捉えられ、その内実や行動が詳細に分析することはない。この授業では、そうした個人と組織について経済学はいかにして分析を行うことが可能なのか焦点を当てる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

積み上げ型の授業となるので、前回の授業の復習を授業前に行っておくことがもっとも重要な予習となります。テーマ毎にワークシートを課題として課します。ワークシートについては、解答例を示すとともに、理解の進んでいない箇所について再度説明を行う形でフィードバックを行います。

内　容

第1回　教科書的な経済学が描く世界：労働市場のメカニズム
第2回　労働需要と労働供給（1）：余暇と労働の選択
第3回　労働需要と労働供給（2）：家計生産モデルと家庭内分業
第4回　労働需要と労働供給（3）：芸術家・クリエーターの働き方
第5回　労働需要と労働供給（4）：要素需要としての労働需要
第6回　労働需要と労働供給（5）：労働需要とシグナリング・モデル
第7回　仕事とキャリア（1）：長期雇用と賃金カーブ
第8回　仕事とキャリア（2）：内部労働市場とOJT
第9回　人的資本の理論（1）：資本としての人間の能力
第10回　人的資本の理論（2）：割引現在価値と内部収益率
第11回　人的資本の理論（3）：特殊訓練と一般訓練
第12回　組織の経済理論（1）：組織の存在理由と取引費用
第13回　組織の経済理論（2）：インセンティブの設計理論
第14回　組織の経済理論（3）：ヒエラルキーと権限配分
第15回　まとめ

履修上の注意点

積み上げ式の授業であるので、欠席、遅刻の無いようにすること。

教科書

指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

授業中に関連文献を紹介する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（ 60 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（　）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**金融論（経営）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　近藤　隆則	

テーマ

金融仲介や金融市場の経済社会における役割

授業の到達目標

金融仲介機関や金融市場が経済の中で果たしている役割を理解し、一国経済やグローバル経済の中での金融の機能について正しく説明できる力を身に付ける。

授業の概要

「経済の血液」とも呼ばれる金融は、グローバル化、ストック化の進んだ現代社会において、ますます重要なものとなりつつある。この科目では、金融論の基本について学習する。具体的には、金融市場と金融仲介機関の役割、貨幣の機能と貨幣需要の動機、貨幣供給と中央銀行の役割、国際通貨制度と為替レート決定のメカニズムなどについて学習する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　イントロダクション－金融を学ぶ意義
第2回　金融仲介とは何か
第3回　金融仲介機関の種類
第4回　間接金融と銀行の機能
第5回　直接金融と資本市場の機能
第6回　金融制度：セーフティ・ネットと健全性規制
第7回　中間のまとめ
第8回　貨幣とは何か
第9回　貨幣の需要と供給
第10回　物価と貨幣価値
第11回　中央銀行と金融政策
第12回　国際収支のメカニズム
第13回　為替相場の決定要因
第14回　金融危機はなぜ起こるか
第15回　全体のまとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

授業中に指示します
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 80% ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**産業論Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉田　秀和	

テーマ

初期産業化社会の誕生から産業社会が成長・成熟していく過程を考察しつつ、現在の産業構造を読み解いていきます。

授業の到達目標

産業構造の在り方は、わたしたちの日常の生活環境に深く結びついています。言い換えると、年齢・性別・職業などによる生活時間の使い方や生活の質および量がその社会の産業構造の影響を大いに受けているということです。そこで、この授業では、産業構造と私たちの生活構造の変化、すなわち生活インフラの変遷に注目しつつ、現時点までの産業と生活の変化を読み解いていこうと思います。

授業の概要

この授業では、産業社会をとらえる枠組みを提示しながら、高度経済成長期から今日までの日本の産業構造の変遷を考察し、大衆社会の形成と成熟した産業社会における大衆意識も読み解いていきます。さらに、これらを踏まえて、高度情報社会を背景としてグローバル化していく今日の社会に潜む諸課題をみなさんと考えていきたいと思います。授業では、その日の授業内容、質疑などを簡潔に記してもらうリアクション・ペーパーを毎回提出してもらい、質疑に関する回答を次回の授業冒頭に行いたいと思います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業後は、講義で紹介した内容の社会現象に注視してください。

内　　容

第1回　イントロダクション
第2回　産業構造と生活構造
第3回　フォードシステムの導入と生活構造の変化
第4回　メディアの発達と大衆社会の進展
第5回　産業商品の普及と平等化意識の浸透
第6回　労使協調主義経済と世界経済の趨勢
第7回　産業社会の成熟と高度大衆化社会
第8回　産業構造と生活構造の転換期
第9回　消費社会の到来と個性化社会の到来
第10回　バブル経済と消費社会（不夜城社会の経験）
第11回　高度情報化社会と産業構造の変貌
第12回　グローバル社会における産業と生活の変容
第13回　もう一つの社会変化ーモノ社会からイメージの社会へー
第14回　クールジャパン戦略と成長産業の課題
第15回　産業構造と生活構造の今後の課題

履修上の注意点

授業内容は積み上げ式となっています。授業終了時には、毎回コミュニケーション・ペーパーへの記入と提出を求めています。また、このペーパーの記入内容および受講態度は評価対象となっています。やむをえないと考えられる欠席以外はないように心がけてください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 15 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 15 ）	

試験50については、レポート課題とします。

2018 Syllabus

科 目 名　**産業論Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　髙山　一夫	

テーマ

ヘルスケア産業論

授業の到達目標

先進各国では、人口高齢化に対応し、また内需主導型の経済成長並びに雇用の受け皿として、広い意味でのヘルスケア産業への注目が高まっている。本講義では、こうしたヘルスケア産業をめぐる制度と現状、直面する課題、またヘルスケア産業と経済社会とのかかわりについて、基本的な知識を獲得し、受講生の進路選択に資することを目標とする。

授業の概要

ヘルスケア産業の全体像と構造、各産業部門と関連産業の現状等について、主として講義形式で授業を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

受講に際して前提となる知識は不要であるが、授業中の配布プリントや確認テストを活用して知識の習得に努めること。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　ヘルスケア産業総論（産業の全体像と現状）
第3回　ヘルスケア産業総論（ヘルスケアの労働市場）
第4回　医療・介護制度とその改革①
第5回　医療・介護制度とその改革②
第6回　医療・介護経営の動向①
第7回　医療・介護経営の動向②
第8回　中間まとめと理解度の確認
第9回　医療関連産業①（医薬品製造・流通業）
第10回　医療関連産業②（医薬品製造・流通業）
第11回　医療関連産業③（医療機器製造・流通業）
第12回　医療関連サービス業①
第13回　医療関連サービス業②
第14回　ヘルスケア産業の将来
第15回　講義全体のまとめと理解度の確認

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、授業中に紹介した参考書などを積極的に読むとともに、新聞や雑誌の医療記事に目を通す習慣をつけること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

よくわかる医療業界最新第2版
著者:　川越満、布施泰男
出版社:　日本実業出版社
出版年:　2016　　ISBN:　9784534053985

安倍政権の医療・介護戦略を問う
著者:　芝田英昭編
出版社:　あけび書房
出版年:　2014　　ISBN:　9784871541282

地域包括ケアと地域医療連携
著者:　二木立
出版社:　勁草書房
出版年:　2015　　ISBN:　9784326700875

a50102h250

社会保障の公私ミックス再論

著者: 松田亮三・鎮目真人編著
出版社: ミネルヴァ書房
出版年: 2015 ISBN: 9784623075966

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ 50 ）
授業中課題（ 25 ） 授業中発表等（ ）
参加度 （ 25 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**財政学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阪本　崇	

テーマ

財政の制度と理論

授業の到達目標

財政学の基本的な概念と考え方を学び、中央および地方の政府の活動を経済的な側面から理解できるようになる。

授業の概要

財政は国・地方公共団体がその目的を達成するために行う経済活動であり、そこでは民間の経済活動とはさまざまな側面で異なる原理がはたらいている。この授業では、まず、民主主義社会における財政のコントロールのあり方について学んだ上で、歳出と歳入の両面、すなわち経費、および租税と公債について学習する。また、公債とかかわって財政と金融との関連についても触れる。最後に、この授業で学んだ概念や考え方を応用してこれからの日本財政はどうあるべきかについて考える。とくに、グローバル化のなかで各国の財政がどのような影響を受け、それにどのように対応してゆくべきかについて考える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

教科書とノートを利用してしっかりと復習してください。テーマ毎にワークシートを課題として課します。ワークシートについては、解答例を示すとともに、理解の進んでいない箇所について再度説明を行う形でフィードバックを行います。

内　　容

第1回　イントロダクション：財政とはなにか
第2回　財政のコントロール手段としての予算
第3回　財政民主主義と公共選択理論
第4回　現代の公共部門の役割と経費
第5回　公共投資と財政
第6回　社会保障と財政
第7回　環境、文化と財政
第8回　租税の基礎理論と租税原則
第9回　所得税と法人税
第10回　消費課税と資産課税
第11回　政策課税と税制改革
第12回　公債発行と財政政策
第13回　財政と金融システム
第14回　到達度の確認：これからの財政について考える
第15回　総復習：グローバル化と財政の未来

履修上の注意点

教科書

テキストブック現代財政学（有斐閣ブックス）
著者：　植田 和弘・諸富 徹（編）
出版社：有斐閣
出版年：2016　　ISBN：4641184321

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（60）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**公共政策論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　金武 創	

テーマ

公共政策の規範的理解

授業の到達目標

よりよい公共政策を考える基礎学力を習得し、政治社会が直面する公共的な諸問題への政策的対応を理解する力を身につける。

授業の概要

民主主義の下での公共政策はどうあるべきか。この授業では、はじめに、公共政策の作成・実施のプロセスを理解するために、授業の前半部では公共政策のよしあしを判断するための価値基準、すなわち公共政策規範を学んでいく。その際、政策の実現可能性や実現にかかるコストへの配慮に留意しつつ、時事問題などを紹介しながら公共政策規範の理解に努める。授業の後半では、個別の政策課題をとりあげて、政策設計のマクロ的指針と優先順位のためのミクロ的分析の両立の難しさを中心に公共政策の形成とその実地について学習する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

復習のために、新聞や経済誌などを活用した時事問題の把握と理解（1時間）

内　容

第1回　［第1部　イントロダクション］ 公共政策論を学ぶ意義　公共人材に求められる政策知
第2回　［第1部　イントロダクション］ 公共政策デザインの指針　一般妥当性、実効力、実際的有用性、社会的正当性
第3回　［第2部　公共政策の規範的検討］ 公共政策規範とは何か
第4回　［第2部　公共政策の規範的検討］ 自由主義アプローチ
第5回　［第2部　公共政策の規範的検討］ 自由主義アプローチへの批判
第6回　［第2部　公共政策の規範的検討］ 功利主義アプローチ
第7回　［第2部　公共政策の規範的検討］ 功利主義アプローチへの批判
第8回　［第2部　公共政策の規範的検討］ 本質主義アプローチ
第9回　［第2部　公共政策の規範的検討］ 本質主義アプローチへの批判
第10回［第3部　公共政策の過程とその実施］ 環境政策とその課題　グローバル社会、環境負荷とその認識
第11回［第3部　公共政策の過程とその実施］ 産業政策とその課題　衰退産業と成長産業、構造転換と研究開発支援
第12回［第3部　公共政策の過程とその実施］ 福祉政策とその課題　超高齢社会、well-beingと公共政策
第13回［第3部　公共政策の過程とその実施］ 観光政策とその課題　グローバルとローカル、観光公害と伝統文化
第14回［第3部　公共政策の過程とその実施］ 文化政策とその課題　個人に還元されない価値、表現の自由と創造性
第15回［第3部　公共政策の過程とその実施］ 都市と地域の公共政策　まちづくり活動、地域社会への参画
※なお、この授業では必要に応じて講演会を実施することがある。

履修上の注意点

日常点評価（毎回の課題）が求められます。

教科書

参考書

公共政策規範
著者:　佐野亘
出版社: ミネルヴァ書房
出版年:　　ISBN:

公共政策とは何か
著者:　足立幸男
出版社: ミネルヴァ書房
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
毎回の授業中課題を日常点評価とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**社会問題論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　高原　正興	

テーマ

現代日本の社会問題を考える

授業の到達目標

私たちの身の回りで起こり、マスメディアで報道される様々な社会問題現象について、社会学的な視点から分析・解釈できる能力を身につける。

授業の概要

始めに「社会問題」の概念について学習し、社会諸問題の中から社会学的分析に適うメゾ・ミクロ領域の社会問題現象について、それらの定義・統計・動向・特徴・法的規制・援助の現状などを展開する。また、それらの諸現象を生起させている社会的原因や背景を社会学理論とマクロな視点から考察して、社会問題を全体的・構造的に理解できるようにする。さらに、マスメディアのあり方についても考えていきたい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　イントロダクション:「社会問題」概念の定義と方法
第2回　社会学的社会問題論としての「社会病理学」の展開と方法
第3回　逸脱と統制
第4回　社会問題（1）少年非行の定義・統計・特徴
第5回　社会問題（1）少年非行の分析・解釈・援助
第6回　社会問題（2）自殺の定義・統計・特徴
第7回　社会問題（2）自殺の分析・解釈・援助
第8回　社会問題（3）いじめの定義・統計・特徴
第9回　社会問題（3）いじめの分析・解釈・援助
第10回　社会問題（4）児童虐待の定義・統計・特徴
第11回　社会問題（4）児童虐待の分析・解釈・援助
第12回　社会問題（5）ホームレスの定義・統計・特徴
第13回　社会問題（5）ホームレスの分析・解釈・援助
第14回　その他の社会問題とマスメディアの報道
第15回　社会問題の社会的原因と背景の総括

履修上の注意点

教科書

関係性の社会病理
著者:　高原正興・矢島正見
出版社:　学文社
出版年:　2016　　ISBN:　7620-2633-1

参考書

社会病理学講座3　病める関係性
著者:　高原正興他
出版社:　学文社
出版年:　2004　　ISBN:　7620-1271-8

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**グローバル経済論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今久保　幸生	

テーマ

経済のグローバル化を学ぶ

授業の到達目標

現代の世界経済・社会の動きを学ぶことを通じて、学生が、この動きに受動的に巻き込まれるのではなく、積極的・主体的に対応するための、確かな認識上の足がかりを得させることが、到達目標である。

授業の概要

経済活動が地球全体にわたって展開されるのは、いまに始まったことではないが、現代は、経済活動が未曾有の規模でグローバルに展開されており、事実上地球上のすべての人間は経済のグローバル化に否応なく関わらざるをえなくなっている。しかも、このような意味の経済のグローバル化は今後もいっそう進むことが予想される。この講義では、とくに現代における経済のグローバル化の諸相とその背景、経済のグローバル化の今後、経済のグローバル化の積極的効果と試練、試練への対応などを検討する。検討は、主として、グローバル経済における日本経済や日本企業の状況や対応などに即して行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

教科書の予習・復習、および新聞等でグローバル経済に関する時事問題を読むこと。最低1時間は必要である。課題へのフィードバックは以後の授業中に行う。

内　容

第1回　はじめに --- 経済のグローバル化を学ぶことがなぜ重要か
第2回　グローバル化とアメリカ・モデル
第3回　グローバル化と国際経済システム
第4回　グローバル化と東アジア
第5回　企業のグローバル展開
第6回　グローバル化と国際金融危機
第7回　中国経済とグローバル化
第8回　中国のWTO加盟
第9回　東南アジア経済とグローバル化
第10回 ブラジル経済とグローバル化
第11回 日本経済とグローバル化---国際収支発展段階説に即して
第12回 グローバル化の試練への日本の対応
第13回 グローバル化の試練への日本企業の対応
第14回 21世紀型グローバル化と諸制約
第15回 おわりに

履修上の注意点

私語は厳禁。部活や就活による欠席は出席扱いとはしない。

教科書

世界経済とグローバル化
著者:　渋谷博史他
出版社: 学文社
出版年: 最新版　　ISBN:

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 70 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保険論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　近藤　隆則	

テーマ

保険会社で必要な専門的な知識ではなく、私たちの生活や経済社会の中で必要な保険についての基礎知識を学習します。

授業の到達目標

私たちの生活や経済活動において「リスクとは何か」を正しく理解し、リスクマネージメントの方法や保険の役割について正しく理解することを目標とします。

授業の概要

リスクの基礎概念を学んだ上で、リスクマネジメントおよび保険について学習します。具体的には、リスクの意味、リスクを軽減する諸手段、保険の需要と供給をめぐる理論などを学びます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

生命保険や損害保険のテレビ・コマーシャルなどを見たら、その保険は人間生活のどんな「リスク」に対応しようとしているのか、を考えてみてください。課題に対するフィードバックは授業の中で行います。

内　容

第1回　リスクとは何か－結果のバラツキとリスク
第2回　リスクの実体とリスクの分類
第3回　リスクの計測と正規分布
第4回　リスクを軽減する方法（1）
第5回　リスクを軽減する方法（2）
第6回　リスクを軽減する方法（3）
第7回　保険の供給（1）収支相等の原則
第8回　保険の供給（2）公正保険料
第9回　保険の需要
第10回　保険における逆選択の問題
第11回　保険におけるモラルハザードの問題
第12回　保険商品と保険の分類
第13回　保険の法制度
第14回　保険の業態と契約者保護制度
第15回　全体のまとめと復習

履修上の注意点

教科書

使用しません
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

リスクと保険の基礎理論
著者:　米山高生
出版社:　同文館出版
出版年:　2012年　　ISBN:　4495440810

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 80% ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**経営情報論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　片岡　裕介	

テーマ

情報化社会における経営情報の役割と可能性

授業の到達目標

情報技術(IT)あるいは情報通信技術(ICT)の革新が、企業経営ならびに地域社会に及ぼす影響を考えるにあたり、経営情報システムの基礎的事項について学習するとともに、経営活動や社会生活の中で経営情報がどのように活用されているかを理解する。

授業の概要

まず、経営情報の基礎概念、情報化社会の進展、経営情報システムの考え方などについて基礎的内容を学習する。さらに、
経営情報と社会生活との関わりについて具体的な事例を通して見ることで、経営情報システムの理解を深める。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業で学習した用語や関連する事例について、授業後に整理しておくこと。

内　　容

第1回　イントロダクション
第2回　情報化社会の進展
第3回　情報化社会における経営情報
第4回　情報技術の基礎
第5回　経営情報システムの変遷
第6回　経営戦略と情報システム
第7回　経営組織と情報システム
第8回　システムとネットワーク
第9回　ナレッジマネジメント
第10回　経営情報と流通(1)　情報化と流通システム
第11回　経営情報と流通(2)　チェーンストアと物流システム
第12回　社会における経営情報の利活用(1)　インターネットビジネス
第13回　社会における経営情報の利活用(2)　エリアマーケティング
第14回　社会における経営情報の利活用(3)　位置情報サービス
第15回　社会における経営情報の利活用(4)　情報セキュリティと情報倫理

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

経営情報システム 第4版
著者:　宮川公男・上田泰編著
出版社:　中央経済社
出版年:　2014　　ISBN:

はじめて学ぶ経営情報学
著者:　高橋敏朗編
出版社:　日科技連出版社
出版年:　2005　　ISBN:

経営情報論 新版
著者:　遠山暁・村田潔・岸眞理子著
出版社:　有斐閣
出版年:　2008　　ISBN:

a50102h910

日本の流通と都市空間

著者: 荒井良雄・箸本健二編

出版社: 古今書院

出版年: 2004 ISBN:

ビジネス・行政のためのGIS

著者: 村山祐司・柴崎亮介編

出版社: 朝倉書店

出版年: 2008 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）
小テスト（ 40 ）
授業中課題 （ 40 ）
授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**ファイナンシャルプランニング**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　村田　裕人	

テーマ

生きていくために、また社会に出て行くときのために必要となる「お金」に関する基本的な知識を身につけよう。

授業の到達目標

現役の税理士が開講する授業である。国家資格である3級ファイナンシャルプランニング技能士検定の受験を目的とする。
また、これをきっかけに就職等に有利となる簿記検定試験や、難易度の高い税理士･会計士資格への足がかりともしていきたい。

授業の概要

テキストと問題集、さらに必要の都度パワーポイントや雑誌の記事等を使った授業としていく。また、授業の都度ミニテストなども行い、理解度を深める事とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

国家資格である3級ファイナンシャルプランニング技能士資格を目指すため、授業時間外においても検定試験の対策として問題集などを解くことが望ましい。

内　容

第1回　ファイナンシャルプランニングとは何か？なぜお金のことを勉強するのか。
第2回　ライフプランニングと資金計画　その1（ライフイベント、結婚、育児）
第3回　ライフプランニングと資金計画　その2（社会保険･年金）
第4回　リスクマネージメント　その1（保険とは）
第5回　リスクマネージメント　その2（生命保険、損害保険）
第6回　金融資産運用　その1（金融経済の基本）
第7回　金融資産運用　その2（投資資産のあれこれ）
第8回　前半のまとめ
第9回　タックスプランニング　その1（所得税の基本）
第10回　タックスプランニング　その2（税金の計算）
第11回　不動産　その1（不動産の基本）
第12回　不動産　その2（不動産に関するあれこれ）
第13回　相続・事業承継　その1（相続って何）
第14回　相続・事業承継　その2（相続税･贈与税）
第15回　後半のまとめ　※なお、この授業では必要に応じてゲストスピーカーによる講演会を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

みんなが欲しかったFPの教科書3級
著者:　滝澤ななみ
出版社:　TAC出版
出版年:　　ISBN:
みんなが欲しかったFPの問題集3級
著者:　滝澤ななみ
出版社:　TAC出版
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 40 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 60 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**臨床医学Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　川上　明	

テーマ

感染症・内分泌代謝性疾患の基礎知識

授業の到達目標

感染症・寄生虫症、内分泌・栄養・代謝の疾患に関する知識を修得する。

授業の概要

診療情報管理士の重要な業務である、世界保健機関(WHO)による国際疾病分類(ICD)のコーディングに必要な各疾病について、その原因、症状、所見、診断、治療などの基礎知識を修得する。この授業では、感染症の原因となる細菌、ウイルスなどの知識を身につけ、各感染症の特徴、症状、所見、診断法、治療法などについて学ぶ。また、後半では、内分泌、栄養、代謝に関連する疾患について学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

受講者のメーリングリストを作ります。講義前に予備知識、連絡事項を流しますので、事前に目を通しておいてください。

内　容

第1回　免疫機構の障害
第2回　感染症および寄生虫症(総論)／腸管感染症
第3回　結核／人畜共通細菌感染疾患
第4回　その他の細菌感染疾患
第5回　主として性的伝搬様式をとる感染症／その他のスピロヘータ疾患
第6回　クラミジアによるその他の疾患／リケッチア症
第7回　中枢神経系のウイルス感染症／節足動物媒介ウイルス熱およびウイルス性出血熱
第8回　皮膚および粘膜病変を特徴とするウイルス感染症／ウイルス肝炎
第9回　ヒト免疫不全ウイルス病/その他のウイルス疾患
第10回 真菌症／原虫疾患
第11回 ぜん＜蠕＞虫症、感染症および寄生虫症(補足)
第12回 内分泌、栄養および代謝疾患(総論)／甲状腺障害
第13回 糖尿病／その他のグルコース調節および膵内分泌障害
第14回 その他の内分泌腺障害／栄養失調(症)／その他の栄養欠乏症／肥満(症)およびその他の過栄養＜過剰摂食＞
第15回 代謝障害

履修上の注意点

あらかじめ教科書に目を通してきてください。授業では逐一教科書を説明するのではなく、教科書記載事項の中のポイントや教科書には書かれていないが重要な事項に重点を置いて講義を行います。

教科書

診療情報管理士テキスト　診療情報管理Ⅰ基礎・医学編　第8版
著者:　武田隆久
出版社:　日本病院会
出版年:　2016年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 30 ）
出席も重視しますが、単にその場にいるというだけでは評価しません。私語や講義に関係の無いスマートフォン等の使用は減点の対象とします。

2018 Syllabus

科 目 名　**臨床医学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西本　泰久	

テーマ

授業の到達目標

腫瘍、血液・造血器の疾患、免疫機構の障害に関する知識を修得する。

授業の概要

診療情報管理士の重要な業務である、世界保健機関(WHO)による国際疾病分類(ICD)のコーディングに必要な各疾病について、その原因、症状、所見、診断、治療などの基礎知識を修得する。この授業では、全診療科で扱われる疾患の新生物(腫瘍)の概要を理解するとともに、その診断法、治療法などを学ぶ。また、後半では、血液および造血器の疾患、免疫機構の障害についても学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　臨床医学各論Ⅱ 新生物:口唇、口腔および咽頭の悪性新生物
第2回　臨床医学各論Ⅱ 新生物:消化器の悪性新生物
第3回　臨床医学各論Ⅱ 新生物:呼吸器および胸腔内臓器の悪性新生物
第4回　臨床医学各論Ⅱ 新生物:骨および関節軟骨,皮膚の黒色腫およびその他の悪性新生物
第5回　臨床医学各論Ⅱ 新生物:中皮および軟部組織,乳房の悪性新生物
第6回　臨床医学各論Ⅱ 新生物:女性生殖器,男性生殖器,腎尿路の悪性新生物
第7回　臨床医学各論Ⅱ 新生物:眼、脳およびその他の中枢神経系,甲状腺およびその他の内分泌腺の悪性新生物
第8回　臨床医学各論Ⅱ 新生物:リンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物
第9回　臨床医学各論Ⅱ 新生物:上皮内新生物
第10回 臨床医学各論Ⅱ 新生物:良性新生物
第11回 臨床医学各論Ⅲ　血液・代謝・内分泌等:栄養性貧血
第12回 臨床医学各論Ⅲ　血液・代謝・内分泌等:溶血性貧血
第13回 臨床医学各論Ⅲ　血液・代謝・内分泌等:無形成性貧血およびその他の貧血
第14回 臨床医学各論Ⅲ　血液・代謝・内分泌等:凝固障害、紫斑病およびその他の出血性病態
第15回 臨床医学各論Ⅲ　血液・代謝・内分泌等:血液および造血器のその他の疾患

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**臨床医学Ⅲ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西川　智文	

テーマ

精神神経疾患・感覚器疾患・皮膚疾患の基礎知識

授業の到達目標

精神・脳神経・感覚器系、皮膚・皮下組織の疾患に関する知識を修得する。

授業の概要

診療情報管理士の重要な業務である、世界保健機関(WHO)による国際疾病分類(ICD)のコーディングに必要な各疾病について、その原因、症状、所見、診断、治療などの基礎知識を修得する。この授業では、精神および行動の障害、神経系の疾患、目・耳の感覚系の疾患について学ぶ。また、後半では、皮膚および皮下組織の疾患についても学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

受講者のメーリングリストを作ります。講義前に予備知識、連絡事項を流しますので、事前に目を通しておいてください。

内　容

第1回　器質性精神障害／統合失調症、統合失調症型障害・妄想性障害
第2回　精神作用物質使用による精神・行動の障害／気分[感情]障害
第3回　神経症性障害／ストレス関連障害・身体表現性障害／生理的障害・身体的要因関連行動症候群
第4回　成人の人格・行動の障害／心理的発達の障害／小児＜児童＞期・青年期に通常発症する行動・情緒の障害
第5回　神経系の疾患(総論)／中枢神経系の炎症性疾患／主に中枢神経を障害する系統萎縮症／錐体外路障害・異常運動
第6回　神経系のその他の変性疾患／中枢神経系の脱髄疾患／挿間性・発作性障害 神経・神経根・神経そう＜叢＞の障害
第7回　多発性ニューロパチー・末梢神経系の障害／神経筋接合部・筋の疾患／脳性麻痺・麻痺性症候群／他の神経系障害
第8回　眼瞼、涙器および眼窩の障害／結膜の障害／水晶体の障害／脈絡膜および網膜の障害
第9回　緑内障／硝子体および眼球の障害／視神経および視(覚)路の障害／眼筋、眼球運動、調節および屈折の障害
第10回　外耳疾患／中耳および乳様突起の疾患
第11回　内耳疾患／耳のその他の障害
第12回　皮膚疾患(総論)／皮膚・皮下組織の感染症／水疱症
第13回　皮膚炎および湿疹／丘疹落屑＜鱗屑＞性障害
第14回　蕁麻疹および紅斑／皮膚および皮下組織の放射線非電離および電離に関連する障害/皮膚付属器の障害
第15回　皮膚および皮下組織のその他の障害/皮膚のその他の悪性新生物

履修上の注意点

あらかじめ教科書に目を通してきてください。授業では逐一教科書を説明するのではなく、教科書記載事項の中のポイントや教科書には書かれていないが重要な事項に重点を置いて講義を行います。

教科書

診療情報管理士テキスト　診療情報管理Ⅰ　基礎・医学編　第8版
著者:　武田隆久
出版社:　日本病院会
出版年:　2016年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 30 ）
適宜レポート提出、小テストを行います。出席も重視しますが、単にその場にいるというだけでは評価しません。私語や授業に関係の無いスマートフォン等の操作は減点の対象とします。

2018 Syllabus

科 目 名　**臨床医学Ⅳ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　戸田　省吾	

テーマ

循環器・呼吸器・消化器系疾患の基礎知識

授業の到達目標

循環器系、呼吸器系、消化器系の疾患に関する基礎知識を修得し、それらをとおして関連する事項、医療にたずさわる者にとって必要な基礎知識を身につける。

授業の概要

診療情報管理士の重要な業務である、世界保健機関(WHO)による国際疾病分類(ICD)のコーディングに必要な各疾病について、その原因、症状、所見、診断、治療などの基礎知識を修得する。この授業では、生命の維持に直接関わる循環器・呼吸器系の疾病について、その特徴、症状、所見、診断法、治療法などについて学ぶ。また、後半では、消化器系の疾患について学んでいく。授業範囲が多岐にわたっており、必要な知識をできるだけ簡潔に学習することを目指す。 また、医療人にとって必要な、協調性、患者の立場になって考える心などの育成・発展も講義の中で随時取り上げていく。
できるだけわかりやすく、楽しんで学べる面白い授業にしようと思います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

受講者のメーリングリストを作ります。講義前に予備知識、連絡事項を流しますので、事前に目を通しておいてください。

内　容

第1回　循環器系の疾患(総論)／急性リウマチ熱／慢性リウマチ性心疾患／循環器系の先天奇形
第2回　高血圧性疾患／低血圧症／虚血性心疾患／肺性心疾患および肺循環疾患
第3回　その他の型の心疾患
第4回　脳血管疾患／動脈、細動脈および毛細血管の疾患
第5回　静脈、リンパ管およびリンパ節の疾患、他に分類されないもの／循環器疾患(補足)
第6回　呼吸器系の疾患(総論)／急性上気道感染症
第7回　インフルエンザおよび肺炎／その他の急性下気道感染症
第8回　上気道のその他の疾患／慢性下気道疾患
第9回　外的因子による肺疾患／主として間質を障害するその他の呼吸器疾患
第10回　下気道の化膿性および壊死性病態／胸膜のその他の疾患／呼吸器系のその他の疾患
第11回　消化器系の疾患(総論)／口腔、唾液腺および顎の疾患／食道、胃および十二指腸の疾患
第12回　虫垂の疾患／ヘルニア／非感染性腸炎および非感染性大腸炎
第13回　腸のその他の疾患／腹膜の疾患
第14回　肝疾患
第15回　胆のう＜嚢＞、胆管および膵の障害／消化器系のその他の疾患

履修上の注意点

あらかじめ教科書に目を通してきてください。授業は教科書に基づいて行いますが、書かれていない必要事項についても解説します。

教科書

診療情報管理士テキスト　診療情報管理Ⅰ基礎・医学編　第8版
著者:　武田隆久
出版社:　日本病院会
出版年:　2016年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 80 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）
循環器、呼吸器、消化器終了時に試験を行います。

2018 Syllabus

科 目 名　**自治体経営論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹内　直人	

テーマ

自治体の行政と財政

授業の到達目標

変わりゆく自治体経営を理論と実証の両面から理解する。

授業の概要

地方自治論・地方行財政論の基礎について理解するとともに、自治体財政の逼迫や少子高齢化の進展、情報開示と説明責任への要求の高まりなど、自治体経営を取り巻く環境の変化について概観した上で、地方分権やニュー・パブリック・マネジメント、官民連携など、自治体経営における近年の新しい潮流について学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業のポイントを1週間前に配布するのであらかじめ読んでおくこと。テキストの関連部分やポイントをKT-noteに示しますから予習・復習する（各1時間）こと。

内　　容

第1回　イントロダクション：日本の地方行財政システム
第2回　地方自治の本旨
第3回　首長の役割
第4回　議会の役割
第5回　予算と条例
第6回　自治体経営の実際（ゲストスピーカーによる講演と討論）
第7回　自治体の財政
第8回　自治体と税制
第9回　情報公開とアカウンタビリティ
第10回　国と地方の関係
第11回　地方分権改革
第12回　自治体改革
第13回　ニュー・パブリック・マネジメントの潮流
第14回　指定管理者制度
第15回　自治体経営と官民連携

履修上の注意点

基本的な事項を確認するため、2回確認の小テストを実施します。テストを欠席しないこと。

教科書

地方自治入門
著者：　稲継裕昭
出版社：有斐閣
出版年：2011年　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
確認の小テストおよび学期末のテストで評価します。

2018 Syllabus

科 目 名　**コンピュータ論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉浦　昌	

テーマ

コンピュータの基本的な構造や仕組み、動作の本質を理解する。

授業の到達目標

コンピュータの基本的な構造や仕組みを理解する。ハードウェア上で動作するソフトウェアやアルゴリズム、ネットワークで結ばれたコンピュータシステムやインターネットの基本的な考え方を理解し、現代社会における情報処理とコンピュータの有用性を理解する。あわせて、情報処理分野の基本的な用語や知識を習得する。

授業の概要

テキストを中心に、適宜スライドや配布資料、政府や団体の公開資料等を用いる。授業は講義を中心に行うが、理解の深化と確認のため、ディスカッションやレポート提出を実施する場合がある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストの予習、復習と授業内容の復習を欠かさないこと。授業の中で指定された資料は必ず読んで理解すること。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　コンピュータが扱う数（1）
第3回　コンピュータが扱う数（2）
第4回　コンピュータの発達の歴史
第5回　コンピュータの構成（1）
第6回　コンピュータの構成（2）
第7回　ソフトウェア（1）
第8回　ソフトウェア（2）
第9回　コンピュータネットワーク
第10回　情報セキュリティ
第11回　情報処理と情報システム
第12回　アルゴリズムとプログラミング言語
第13回　データベースとファイルシステム
第14回　マルチメディア～符号化と圧縮（1）
第15回　マルチメディア～符号化と圧縮（2）

履修上の注意点

継続してこつこつと勉強すること。
あきらめず頑張ること。

教科書

文系学生のためのコンピュータ概論
著者:　鞆大輔
出版社:　共立出版
出版年:　2011年03月　　ISBN:　9784320122789

参考書

文科系のためのコンピュータ総論
著者:　田中弘、田中敬一、鞆大輔
出版社:　共立出版
出版年:　2005年04月　　ISBN:　9784320121324

成績評価

試験・レポート （ 40 ）	小テスト （ 30 ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**ネットワーク論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　赤松　辰彦	

テーマ

データ通信の仕組みや通信プロトコルの概念、LANの仕組みやサーバーの役割などネットワークの基本的な原理を学ぶ。
特に、インターネットの電子メールやWWWなど各サービスの機能や仕組みについて理解を深める。
また、情報セキュリティに関する問題について理解を深める。

授業の到達目標

①情報ネットワークを構成する通信機器、通信回線、伝送制御方式など通信の要素技術を習得し、情報通信システムに関して理解する。
②各種情報ネットワークの特徴と利用形態について学び、志望する産業分野で情報ネットワークがどのように活用されているかを理解する。
③新聞等で報道される情報通信関連記事から通信業界の動向、新技術や新サービスの動向を理解する。
④コンピュータウィルスや情報漏えいなど、ネットワークの情報セキュリティに関わる問題を理解し、解決策を学習する。

授業の概要

近年の情報ネットワークの発展と普及は目覚ましく、インターネット等を通じたコミュニケーションの拡がりのみならず、多様なモノをネットワークで接続し、情報を交換・制御するIoT(Internet of Things)が注目を集めている。
そこで本講義では、ネットワークに関する基礎的な理論や技術を理解することを目的とする。同時に、コンピュータウィルスや情報漏えいなど、ネットワークの情報セキュリティに関わる問題についても理解を深める。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

新聞等で報道される情報通信関連記事から通信業界の動向、新技術や新サービスの動向を把握する。

内　容

第1回　情報とは、情報システム、情報の信頼性
第2回　情報と通信
　通信ネットワーク、いろいろな形態、通信ネットワークの構成要素
第3回　LAN
　LANの種類、LANを構成する各装置の役割、各サーバーの役割
第4回　インターネット
　インターネットのサービス、インターネットの仕組み，TCP／IP、IPアドレスとドメイン名、メールアドレス、URL
第5回　インターネット
　インターネットアプリケーションプロトコル、各サービスの仕組み
第6回　ネットワークセキュリティ
　ファイヤーウォール、暗号化技術
第7回　インターネットと個人情報
　個人情報とは、個人情報の漏洩、プライバシー侵害
第8回　インターネットと個人情報
　個人情報の保護、プライバシーポリシー
第9回　インターネットと知的所有権
　知的所有権とは、デジタル化による影響、著作隣接権
第10回　インターネットと生活
　Webによる情報検索、生活のなかで利用されている事例
第11回　インターネットとビジネス
　電子商取引、インターネットショッピング、売買トラブル、マルチ商法、電子マネー
第12回　インターネットとリテラシー
　メディアリテラシー、有害情報
第13回　インターネットとコミュニケーション
　ネチケット、電子メールの宛先、メーリングリスト、Web制作
第14回　インターネットと犯罪
　不正アクセス、なりすまし、ネットストーカー、情報の改ざん他
第15回　インターネットと情報社会
第16回　試験

履修上の注意点

積極的に授業に参加してほしい。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

a50102i910

参考書

インターネットの光と影ver.5

著者: 情報教育学研究会

出版社: 北大路書房

出版年: 2014年　　ISBN: 978-4-7628-2829

成績評価

試験・レポート（ 90 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 10 ）

レポートはA4横書きで、ワードで作成すること。
提出方法はファイルを印刷するだけでなく、メールで添付して担当者に送ること。
提出先と期日は授業中に指示する。

2018 Syllabus

科 目 名　**情報数学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　片岡　裕介	

テーマ

情報科学の基盤となる数学的知識の習得

授業の到達目標

離散数学の基本的な知識を身につけるとともに、基本的な計算方法に関するアルゴリズムを理解できるようになる。

授業の概要

本授業では、主に、離散数学の基礎、情報量の表現、集合と論理、確率と統計、アルゴリズムについて扱い、情報経営で用いられる基礎的な数学の話題を通して、数学的なものの考え方や問題解決へのアプローチを学ぶ。コンピュータの内部表現である2進数、数や集合の基本演算をはじめとした知識の習得とともに、方程式の解法や数値積分をテーマとした演習により、数値計算のアルゴリズムについての理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で学習した内容の復習と演習課題に取り組むこと。

内　　容

第1回　イントロダクション：情報数学の理論と応用
第2回　基数と数値表現
第3回　集合と命題
第4回　論理演算
第5回　離散関係
第6回　計算の複雑さ
第7回　数値計算(1)：方程式の解法
第8回　数値計算(2)：近似計算の誤差
第9回　グラフ理論(1)：グラフの概念と表現
第10回　グラフ理論(2)：グラフの応用事例
第11回　確率と統計(1)：確率の基本
第12回　確率と統計(2)：データの分析
第13回　待ち行列理論
第14回　最適化問題
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

授業中に指示する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 60 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**産業論Ⅲ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉浦　昌	

テーマ

情報産業の全体像と産業構造、社会とのかかわりを理解する。

授業の到達目標

情報産業はそれ自体が一つの大きな産業分野であるのみならず、他のさまざまな産業活動や社会活動の基盤となる基幹産業でもある。本授業では、情報産業の現在の姿、その産業構造や特性、ビジネス構造について、海外の動向や国際間の競争の視点も交えつつ学ぶ。

授業の概要

適宜スライドや配布資料、政府や団体の公開資料等を用いる。授業は講義を中心に行うが、理解の深化と確認のため、ディスカッションやレポート提出、複数回の理解度テストを実施する場合がある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内容の復習を欠かさないこと。授業の中で指定された資料は必ず読んで理解すること。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　情報産業総論
第3回　情報産業を支える技術
第4回　半導体産業
第5回　半導体製造産業
第6回　ものづくりと情報産業（1）
第7回　ものづくりと情報産業（2）
第8回　社会インフラ基盤と情報産業
第9回　自動車と情報産業
第10回　金融業界と情報産業（1）
第11回　金融業界と情報産業（2）
第12回　IT業界（1）
第13回　IT業界（2）
第14回　IT業界（3）
第15回　まとめと今後の展望

履修上の注意点

継続してこつこつと勉強すること。
あきらめず頑張ること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**ビジネス英語**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　ランビーノ, パラガス	

テーマ

グローバル化が進んでいる現代社会において、英語の運用能力は、ビジネスを行う上で必要不可欠なものとなりつつある。本講義は、主に英語を母語としない学部生を対象としたものである。本講義ではビジネスに関する、英語で書かれた文献、新聞記事、ドキュメンタリー映画などを利用する。プレゼンテーションやディスカッションの実践を通じ、ビジネス英語の運用能力を高めることを目指す。

授業の到達目標

ビジネスについて英語で読み、聞き、ディスカッションを行うことで、総合的なビジネス英語の運用能力を身につける。

授業の概要

本授業では、英文エッセイ、新聞記事、ドキュメンタリー映画等を教材として用いる。〇授業の中でエッセイと新聞記事の精読、ドキュメンタリー映画の鑑賞を行い、その後、英語でディスカッションを行う。〇既出単語・内容について、適宜小テストを実施する。〇学期末テストの代わりに、グループでプレゼンテーションを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

特になし。

内　容

第1回　ガイダンス。
第2回　Management（マネジメント）について
第3回　Management across cultures（異文化におけるマネジメント）について
第4回　Women in business（ウーマン・イン・ビジネス）について
第5回　Marketing（マーケティング）について
第6回　Venture Capital（ベンチャ・キャピタル）について
第7回　Government and taxation（政府と課税）について
第8回　The business cycle（景気循環）について
第9回　Corporate social responsibility（企業の社会的責任）について
第10回 Starting a conversation（英語で会話を始めること）
第11回 Talking about jobs（英語で自分の仕事について話すこと）
第12回 Showing interest in other people（英語で相手に興味を示すこと）
第13回 Exchanging information（英語で情報を交換すること）
第14回 グループ・プレゼンテーション
第15回 グループ・プレゼンテーション

履修上の注意点

特になし。

教科書

使用しない（適宜プリントを配布）
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）　　小テスト （ 25% ）
授業中課題 （ 0% ）　　授業中発表等 （ 25% ）
参加度 （ 50% ）
特になし。

2018 Syllabus

科 目 名　**データベース論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　赤松　辰彦	

テーマ

データベースに関する基本的な概念を理解し、データベースの基本的な機能であるデータの記述、データのアクセス、データの管理などについて学習し、データベースに対する理解を深める。
MS-Accessを用いてデータベースの仕組みを理解し、身近な情報からデータベースを構築する。

授業の到達目標

①データベースの概念を理解する。
②関係データベースに関する基本的な仕組みを理解する。
③関係データベースのデータモデルを用いて、情報の蓄積と活用の技術を理解する。

授業の概要

前半は講義形式で行い、データベースの概念や関係データベースに関する基本的な仕組みを解説する。
後半は演習形式で行い、MS-Accessを利用してデータベースシステムを作成してもらう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

データベースの理解に努めるとともに、データや情報を体系的に扱うための方法を理解する。
後半のコンピュータ演習は時間内でできない場合は空いている時間を利用して授業で与えられた課題をすること。

内　容

第1回　データベースの基本概念
第2回　データベースのモデル
第3回　データベースの構築
第4回　プログラミングインターフェイス
第5回　データベースの周辺技術
第6回　関係データベースの基礎
第7回　実習1　ACCESSの概要、データの入力
第8回　実習2　様々な方法でデータを入力
第9回　実習3　テーブルの設計
第10回　実習4　データ入力フォームの作成
第11回　実習5　レポートの作成と印刷
第12回　実習6　複数のテーブルでデータの管理
第13回　実習7　クエリによる集計
第14回　実習8　クエリによる抽出
第15回　データベースステムの総論
第16回　試験

履修上の注意点

データベースに関する講義とMS-Accessを使ったコンピュータ演習を行う。

教科書

はじめてのAccess2016
著者:　小笠原種高/大澤文孝
出版社: 秀和システム
出版年: 2016年　　ISBN:　978-4-7980-4511

データベースがわかる本
著者:　小野哲/関口由美子
出版社: オーム社
出版年: 2013年　　ISBN:　978-4-274-07977

参考書

データベース
著者:　速水治夫他
出版社: オーム社
出版年: 2009年　　ISBN:　4-274-13254-4

成績評価

a50102j310

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
2/3以上の出席が必要である。
期末に行う筆記試験とコンピュータ実習で行う課題で評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**プログラミング論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　加藤　諒	

テーマ

Cプログラミングの基礎

授業の到達目標

基本的なCプログラミングの修得
・C言語の基礎文法を理解し，コーディングできること
・プログラミングの基礎的な知識と技術を修得すること
・学んだ基礎知識をもとに課題解決に応用できること

授業の概要

プログラミングは，情報技術について学ぶ上で基礎となる知識である．「プログラミング実習」では，基本的なプログラム言語の1つであるC言語によるプログラム作成を講義形式で学ぶ．

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

提出課題に必ず取り組むこと．課題の採点結果は授業内で通知する．

内　　容

第1回　ガイダンス（授業概要，注意事項などの説明），C言語のプログラミングと実行
第2回　データと変数
第3回　四則演算
第4回　条件分岐
第5回　繰り返し処理
第6回　配列
第7回　文字と文字列
第8回　多次元配列
第9回　関数
第10回　変数の有効範囲
第11回　構造体
第12回　ファイル入出力
第13回　ポインタ変数
第14回　ポインタ変数と配列
第15回　まとめ

履修上の注意点

よく調べ，考えること

教科書

C言語教科書 －「言語仕様」から「データ構造」「アルゴリズム」の実装まで
著者:　田中成典
出版社:　工学社
出版年:　2013年　　ISBN:　4777517535

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
4回以上の欠席は不可とする．

2018 Syllabus

科 目 名　**保健医療情報学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　藤野　美幸.橋本　昌浩	

テーマ

医療情報の基礎を学ぶ

授業の到達目標

医療情報の重要性を認識するとともに、ICT活用に関する基礎的知識を修得する。

授業の概要

情報通信技術（ICT）の発展は、電子カルテの導入をはじめ、医療現場に大きな変革をもたらしている。この授業では、コンピュータやネットワークの基礎的知識、医療情報と医療情報システム、情報セキュリティと個人情報保護などについて学び、ICTを活用した医療情報システムの発展が医療の質の向上に果たしている役割を理解する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

医療の世界は日進月歩です。日頃から「医療」に関する新聞記事等に関心を持ち、日々研鑽に励んでください。

内　容

第1回　医療情報学　ガイダンス
第2回　医療情報学とは
第3回　医療情報の特徴と種類
第4回　行政が進める医療の情報化政策
第5回　医療情報システム1
第6回　医療情報システム2
第7回　中間まとめ
第8回　診療情報の二次利用1
第9回　診療情報の二次利用2
第10回　個人が管理する保健医療記録
第11回　医療情報の標準化1
第12回　医療情報の標準化2
第13回　情報セキュリティ1
第14回　情報セキュリティ2　保健医療の情報化のこれから
第15回　医療情報学のまとめ

履修上の注意点

テキストの購入については、第1回授業で説明します。それまでは購入しないようにしてください。

教科書

診療情報管理Ⅲ専門・診療情報管理編第7版
著者:
出版社: 日本病院会
出版年: 2017.7　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**医療管理論Ⅲ**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　橋本 昌浩

テーマ

授業の到達目標

医療の仕組み・病院組織を理解し、診療情報管理士とは何か、どのような役割を果たすことができるかを習得する。

授業の概要

医療保険制度、診断群分類、介護保険制度、病院の統計資料についての理解

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　授業ガイダンス
第2回　医療保険制度1
第3回　医療保険制度2
第4回　医療保険制度3
第5回　医療保険制度4
第6回　わが国の診断群分類1
第7回　わが国の診断群分類2
第8回　わが国の診断群分類3
第9回　わが国の診断群分類4
第10回　中間まとめ
第11回　介護保険制度の概要1
第12回　介護保険制度の概要2
第13回　病院統計資料1
第14回　病院統計資料2
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

診療情報管理Ⅲ専門・診療情報管理編第7版
著者:
出版社: 日本病院会
出版年: 2017.7　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 70 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ（経）<＊a>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今井　まりな	

テーマ

グループ論文の執筆に向けた準備

授業の到達目標

輪読を通じて、問いの設定、先行研究レビュー、事例記述といった一連の研究プロセスを学習する。夏休みに実施するインタビュー調査のためのスキルを習得する。

授業の概要

前半は研究方法と事例研究に関する文献を輪読する。後半はグループ分けを行い、2017年1月末までに執筆するグループ論文に向けて準備を行う。夏休みにグループ論文の作成に向けた合宿を実施する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

※進捗状況に応じて、授業内容を変更することがある。
各報告に間に合うように、該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。
報告に対するディスカッションの中で、報告内容や資料の作り方等について、フィードバックを行う。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　輪読1（研究方法と事例研究に関する文献）
第3回　輪読2
第4回　輪読3
第5回　輪読4
第6回　グループ分けと問題設定の仕方
第7回　輪読5
第8回　問いの設定（グループ1,2）
第9回　問いの設定（グループ3,4）
第10回　問いの確定（グループ1,2）
第11回　問いの確定（グループ3,4）
第12回　先行研究レビューの仕方
第13回　先行研究レビュー（グループ1,2）
第14回　先行研究レビュー（グループ3,4）
第15回　インタビュー調査方法
　　卒業論文の書き方・研究倫理について

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 70 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ（経）<＊b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　片岡　裕介	

テーマ

卒業論文作成のための準備

授業の到達目標

卒業論文の作成に必要となる研究能力として、文献の調査、論点の明確化、内容の構成、文章の作成、プレゼンテーションなどに関する基本的な知識とスキルを身につける。

授業の概要

前半は、近年の情報ビジネスの動向について、主にテキストの講読と関連する事例の調査を通して学ぶ。後半は、文献調査の方法と実践を通して卒業論文に向けた準備をおこなう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習として、授業前に各回の教科書の範囲を読み、不明な用語については調べておくこと。発表で寄せられたコメントについては、授業後に整理して確認しておくこと。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　情報ビジネスに関するテキスト講読(1)
第3回　情報ビジネスに関するテキスト講読(2)
第4回　情報ビジネスに関するテキスト講読(3)
第5回　情報ビジネスに関するテキスト講読(4)
第6回　情報ビジネスに関するテキスト講読(5)
第7回　情報ビジネスに関するテキスト講読(6)
第8回　情報ビジネスに関するテキスト講読(7)
第9回　文献調査の方法(1)
第10回　文献調査の方法(2)
第11回　文献調査報告(1)
第12回　文献調査報告(2)
第13回　文献調査報告(3)
第14回　文献調査報告(4)
第15回　文献調査報告の講評
　　卒業論文の書き方・研究倫理について

履修上の注意点

教科書

授業中に指示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

指定しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 60 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ（経）<＊c>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河野　充央	

テーマ

財務管理の研究

授業の到達目標

有価証券報告書に掲載された財務諸表を分析できるようになること。

授業の概要

原理原則，理論を学びながら，複数企業の財務諸表を・比較分析し，差異の原因を考察してみる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

復習は必ず行う。その他については，随時指示する。

内　　容

第1回　資金管理と財務諸表
第2回　財務分析と比較
第3回　収益性の分析1
第4回　収益性の分析2
第5回　収益性の分析3
第6回　生産性の分析1
第7回　生産性の分析2
第8回　生産性の分析3
第9回　流動性の分析1
第10回　流動性の分析2
第11回　流動性の分析3
第12回　損益分岐点分析1
第13回　損益分岐点分析2
第14回　成長性の分析
第15回　まとめ・卒業論文の書き方と研究倫理について
※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

経営管理会計
著者:　西澤脩
出版社:　中央経済社
出版年:　　ISBN:

原価計算
著者:　西澤脩
出版社:　中央経済社
出版年:　　ISBN:

管理会計
著者:　岡本清　他
出版社:　中央経済社
出版年:　　ISBN:

情報化社会における管理会計の役割
著者:　河野充央
出版社:　税務経理協会
出版年:　　ISBN:

a50103a113

現代国家の危機

著者: 河野充央 他

出版社: 富嶽出版

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 15 ） 授業中発表等（ 15 ）

参加度 （ 70 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ（経）<＊d>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　近藤　隆則	

テーマ

卒業論文作成に向けたグループ学習

授業の到達目標

論文の書き方、文献調査の仕方を習得することおよび各自の卒業論文のテーマを見出すこと

授業の概要

共通テーマをもつグループに分かれて、各グループでテーマについて学習しつつ、各自の卒論テーマを探求します。また、併せて、論文作成の作法や文献調査、統計処理、フィールドワークの仕方を身に着けてゆきます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、グループ学習の経過報告をしてもらいます。報告担当以外の人も積極的に発言すること。課題に対するフィードバックは、授業の中で行います。

内　容

第1回　演習の進め方、レジュメの作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
第2回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第3回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第4回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第5回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第6回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第7回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第8回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第9回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第10回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第11回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第12回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第13回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第14回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第15回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
卒業論文の書き方・研究倫理について

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業の中で示します

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

a50103a114

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 50% ）
参加度 （ 50% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ（経）<＊e>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阪本　崇	

テーマ

公共経営の研究

授業の到達目標

グループごとに研究テーマを設定し、資料調査の方法や、テクニカル・ライティングの方法などアカデミック・スキルの基礎を身につける。

授業の概要

クラスを幾つかのグループに分け、グループごとに調査研究を行う。授業の前半では、調査研究に必要となる資料検索の方法について学ぶ。授業の後半では、それぞれのテーマを対象として発表を行うことを目指して、資料調査の方法やテクニカル・ライティングの基礎、スライド資料の作成、発表の仕方といったアカデミック・スキルについて学ぶ。
※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

前半の授業においては、指定された文献を授業の当日までに読んでおく必要がある。後半では、自分が発表を担当する当日までにスライド資料と発表原稿を作成する必要がある。調査研究の発表時に随時フィードバックを行う。

内　容

第1回　グループによる調査研究（1）
第2回　グループによる調査研究（2）
第3回　グループによる調査研究（3）
第4回　資料検索の方法（1）：インターネットの利用
第5回　資料検索の方法（2）：図書館の使い方
第6回　資料検索の方法（3）：読書データベースの作成
第7回　グループによる調査研究（4）
第8回　グループによる調査研究（5）
第9回　グループによる調査研究（6）
第10回　アカデミック・ライティング（1）：論文と小説はどこが違うのか？
第11回　アカデミック・ライティング（2）：論文作成の実際
第12回　スライド資料の作り方（1）：分かりやすい資料を作る
第13回　スライド資料の作り方（2）：見やすい資料を作る
第14回　研究発表（1）
第15回　研究発表（2）
　　卒業論文の書き方・研究倫理について

履修上の注意点

授業の役割は、情報交換の場、あるいは研究のペースメーカーであって、あくまでも個人個人の自主的な研究活動が中心であることを肝に銘じて取り組んでほしい。

教科書

受講生と相談の上決定する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（10）	授業中発表等（60）
参加度（30）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ（経）<＊f>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　高原　正興	

テーマ

研究課題の設定、スラムと貧困の学習とフィールドワーク、社会病理学系の講読

授業の到達目標

ゼミ生の社会学的な関心を深化させるとともに、社会病理学系に関するフィールドワークと文献講読を継続して、社会学的な素養を育成する。また、適切な質問ができる能力を育成する。

授業の概要

テキストの講読・発表・討論、フィールドワークへの参加など

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

講読文献の予習は必須である。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　春季課題の発表
第3回　テキストの輪読（1）
第4回　テキストの輪読（2）
第5回　テキストの輪読（3）
第6回　テキストの輪読（4）
第7回　テキストの輪読（5）
第8回　テキストの輪読（6）
第9回　キャリアゼミ
第10回　釜ヶ崎のフィールドワーク
第11回　学生によるテキストの発表・討論（1）
第12回　学生によるテキストの発表・討論（2）
第13回　学生によるテキストの発表・討論（3）
第14回　学生によるテキストの発表・討論（4）
第15回　図書館ガイダンス
　　卒業論文の書き方・研究倫理について

履修上の注意点

ゼミの欠席はありえないと考えること

教科書

釜ヶ崎から
著者:　生田武志
出版社:　筑摩書房
出版年:　2016　　ISBN:　480-43314-5

関係性の社会病理
著者:　高原正興・矢島正見編
出版社:　学文社
出版年:　2016　　ISBN:　9784762026331

参考書

授業中に示す
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 40% ）
参加度 （ 40% ）
授業中課題は春季レポートとフィールドワークのレポートである。

a50103a116

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ（経）<＊g>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　髙山　一夫	

テーマ

医療経営に関する発展的な学習

授業の到達目標

医療経営や医療政策、医療経済について知見を深める

授業の概要

グループワークやテキストを用いた発表と討論を通じて、医療経営や医療政策、医療経済について理解を深めるとともに、卒業研究のためのアカデミック・スキルの習得に努める。また、受講生が主体となって学外授業やゼミ合宿などを企画・開催する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業時間外において、グループワークや発表の準備、学外授業やゼミ合宿の企画を立案する。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　グループワーク（グループ分けとテーマの設定）
第3回　グループワーク（仮説とアウトラインの明確化）
第4回　グループワーク（論点の掘り下げ）
第5回　グループワーク（調査の一応のとりまとめ）
第6回　グループワーク（パワーポイント資料の作成）
第7回　グループワーク成果発表会
第8回　学外授業およびゼミ合宿の企画・準備
第9回　テキストを用いた演習
第10回 テキストを用いた演習
第11回 テキストを用いた演習
第12回 テキストを用いた演習
第13回 図書館ガイダンス（予定）
第14回 学外授業（予定）
第15回 演習全体のまとめ（ゼミ合宿）
　　卒業論文の書き方・研究倫理について

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、学外授業やゼミ合宿、自主ゼミ等に積極的に参加すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

健康と医療の公平に挑む
著者:　松田亮三編
出版社:　勁草書房
出版年:　2009　　ISBN:　9784326700615

地域包括ケアと地域医療連携
著者:　二木立
出版社:　勁草書房
出版年:　2015　　ISBN:　9784326700875

a50103a117

社会保障の公私ミックス再論

著者: 松田亮三・鎮目真人編著
出版社: ミネルヴァ書房
出版年: 2015 ISBN: 9784623075966

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）
授業中課題（ ） 授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ 50 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ（経）＜＊h＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹内　直人	

テーマ

地方自治・地方分権の基本文献を読む（Ⅰ）。

授業の到達目標

1990年代の地方分権の流れを主導した地方分権推進委員会の「中間報告」と関係文書を読み、地方自治と地方分権の歴史的な意味を理解する。

授業の概要

地方分権推進委員会「中間報告」を読む。一人ひとりがレジュメを準備し、毎回発表を行う。理解を助けるため、西尾勝「地方分権改革」を参考文献として用いる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

担当の論文を事前に読むとともにレジュメをまとめ（3～4時間）、授業でその内容について発表を行う。ポイントはKT-noteにあらかじめ示しておくので参照すること。最終的にレポートにまとめるとともに内容の発表を行い、理解を深める。

内　容

第1回　地方分権推進委員会「中間報告」（第1章）①
第2回　地方分権推進委員会「中間報告」（第1章）②
第3回　辻清明「日本の地方自治」第Ⅱ章
第4回　成田頼明「地方分権化の方向と課題」（地方分権への道程）
第5回　西尾勝「地方分権改革」第Ⅱ章
第6回　地方分権推進委員会「中間報告」（第2章）①
第7回　地方分権推進委員会「中間報告」（第2章）②
第8回　地方分権推進委員会「中間報告」（第3章）
第9回　地方分権推進委員会「中間報告」（第4章）①
第10回　地方分権推進委員会「中間報告」（第4章）②
第11回　地方分権推進委員会「中間報告」（第5章）①
第12回　地方分権推進委員会「中間報告」（第5章）②
第13回　地方分権推進委員会「中間報告」（第5章）③
第14回　レポート発表
第15回　レポート発表
　　卒業論文の書き方・研究倫理について

履修上の注意点

欠席をしないこと。特に発表担当者が欠席すると授業が進まないことになるので、欠席しないこと。

教科書

地方分権改革
著者:　西尾　勝
出版社:　東京大学出版会
出版年:　2007年　　ISBN:

参考書

日本の地方自治
著者:　辻清明
出版社:　岩波新書
出版年:　1976年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度（ ）
レジュメに基づく発表とレポートの提出・発表で評価します。担当者の欠席は厳しく評価します。

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ（経）<＊i>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　平尾 毅	

テーマ

ケース・メソッドを学ぶ。

授業の到達目標

ケース分析の方法を修得し、問題の発見と解決策の提案ができる。プレゼンテーション能力を磨くことができる。グループワークを通して主体性と協調性を身に付けることができる。

授業の概要

経営学の専門知識は実際のビジネスの現場で生かされて意味を持ちます。そのための準備として、インプットをアウトプットに変えるための思考トレーニングが必要です。このゼミでは、分析枠組みを確認した上で、グループワークで実際の企業を分析し、発表し、ディスカッションしていきます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

教科書の予習をして授業に臨んでください（1時間程度）。

内　容

第4回　分析ツール②マーケティング
第5回　グループワーク②マーケティング
第6回　分析ツール③戦略
第7回　グループワーク③戦略
第8回　ケース発表・ディスカッション①
第9回　ケース発表・ディスカッション②
第10回　ケース発表・ディスカッション③
第11回　ケース発表・ディスカッション④
第12回　ケース発表・ディスカッション⑤
第13回　ケース発表・ディスカッション⑥
第14回　ケース発表・ディスカッション（英語）⑦
第15回　ケース発表・ディスカッション（英語）⑧　※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがあります。
　　卒業論文の書き方・研究倫理について
第1回　ガイダンス（グループ分け、学修ポートフォリオ、ケース選択）
第2回　分析ツール①財務・会計
第3回　グループワーク①財務・会計

履修上の注意点

ケース・ディスカッションは様々なコメントを通じて自らの思考力を磨く機会なので、積極的な参加姿勢（発言等）が求められます。

教科書

特になし。配布資料で代用します。

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

ゼロからの経営戦略

著者:　沼上幹
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2016年　　ISBN:　978-4623078325

成績評価

試験・レポート（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 30% ）　　授業中発表等（ 60% ）
参加度（ 10% ）
授業中課題は、最終プレゼン資料の評価です。

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ（経）<＊j>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松石　泰彦	

テーマ

卒業論文作成のための文献調査方法・文章作成方法

授業の到達目標

卒業論文作成のための大まかなテーマを定め、作成の基礎となる調査能力・文章力を身につける。

授業の概要

卒業論文執筆のための準備を行う。前半は、基本的なレポート・論文作成方法や、統計・資料等の所在と収集方法など、卒論作成に向けた技術的方法論を学ぶ。後半は、各個人が卒業論文で扱うテーマの方向性を定めていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各回それぞれの研究テーマに即して研究を進め、その進捗状況をレジュメで報告する。それに対して学生同士、教員から意見をもらい、それに沿って次回までに修正や加筆をしてくる。
卒業論文作成やゼミでは、学生の主体的な取り組みが大切である。また、教員も含めたメンバー間でのインタラクティブなやりとりが必要なので、他のメンバーの報告に対しても自分の報告と常に対照させながら考えること。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　卒業論文作成にあたってのテクニック入門(1)
第3回　卒業論文作成にあたってのテクニック入門(2)
第4回　卒業論文作成にあたってのテクニック入門(3)
第5回　卒業論文作成にあたってのテクニック入門(4)
第6回　卒業論文作成にあたってのテクニック入門(5)
第7回　卒業論文作成にあたってのテクニック入門(6)
第8回　卒業論文作成にあたってのテクニック入門(7)
第9回　中間まとめ
第10回　個別テーマの候補・方向性発表と、それに対する討論(1)
第11回　個別テーマの候補・方向性発表と、それに対する討論(2)
第12回　個別テーマの候補・方向性発表と、それに対する討論(3)
第13回　個別テーマの候補・方向性発表と、それに対する討論(4)
第14回　個別テーマの候補・方向性発表と、それに対する討論(5)
第15回　まとめ、夏期休業期間中の課題と計画
　　卒業論文の書き方・研究倫理について

履修上の注意点

卒業論文作成やゼミでは、学生の主体的な取り組みが大切である。また、教員も含めたメンバー間でのインタラクティブなやりとりが必要なので、他のメンバーの報告に対しても自分の報告と常に対照させながら考えること。

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜紹介
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ（経）<＊k>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　ランビーノ, パラガス	

テーマ

グローバルな視点から、企業の人材育成について学習すること

授業の到達目標

テキスト名の『なぜ、日本企業は「グローバル化」でつまずくか」への答えを、国家の世界競争力ランキングから分析し、この問題について理解を深めながら、分かりやすいプレゼンテーション資料の作成技術と、その内容に関わる報告・討論の経験を獲得することです。

授業の概要

テキストは、国際経営開発研究所（IMD）学長が語るもので、日本企業はなぜ20年以上もグローバル舞台で相対的に低いパーフォマンスを続けるかということについて、日本国家の世界競争力ランキングから分析している。さらに、日本は「日本だけは負けることはない。例外だ」という筋違いのプライドや技術力などへの過信から脱出し切れていないと指摘している。これらを踏まえながら、本演習は、グローバル規模のビジネスについての知見を持つ人材を育成することを目指ししています。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

特になし。

内　容

第1回　ガイダンス。報告者の割り当て。
第2回　まえがき、第１章「新しい世界、立ちすくむ日本」
第3回　第１章「新しい世界、立ちすくむ日本」
第4回　第１章「新しい世界、立ちすくむ日本」
第5回　第２章「なぜ、日本企業は『グローバル化』でつまずくのか」
第6回　第２章「なぜ、日本企業は『グローバル化』でつまずくのか」
第7回　第３章「先進企業は、どのように人材に投資しているのか」
第8回　第３章「先進企業は、どのように人材に投資しているのか」
第9回　第３章「先進企業は、どのように人材に投資しているのか」
第10回　第４章「地球規模で活躍するリーダーに求められる能力」
第11回　第４章「地球規模で活躍するリーダーに求められる能力」
第12回　第５章「グローバル人材育成のために日本企業ができること」
第13回　第５章「グローバル人材育成のために日本企業ができること」
第14回　第５章「グローバル人材育成のために日本企業ができること」、あとがき
第15回　まとめ
　　卒業論文の書き方・研究倫理について

履修上の注意点

各授業で読むテキストの該当箇所を参加者全員が事前に読んで授業に備えてください。

教科書

なぜ、日本企業は「グローバル化」でつまずくのか---世界の先進企業に学ぶリーダー育成法
著者:　ドミニク・テュルパン、高津尚志
出版社:　日本経済新聞出版社
出版年:　2012年　　ISBN:　978-4532-317843

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）　　小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 0% ）　　授業中発表等 （ 35% ）
参加度 （ 65% ）
特になし。

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ（経）＜＊a＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今井　まりな	

テーマ

グループ論文の執筆

授業の到達目標

グループで論文を執筆することを通じて、一連の論文執筆プロセスを学習する。報告とディスカッションを通じて、プレゼンテーションスキル並びにコミュニケーションスキルを養成する。一つの論文を複数のメンバーで執筆することで、長期的な目標を計画的かつ組織的に達成するプロセスを経験する。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各報告に間に合うように、該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。※進捗状況に応じて、授業内容を変更することがある。報告に対するディスカッションの中で、報告内容や資料の作り方等について、フィードバックを行う。

内　　容

第1回　前期の復習
第2回　事例研究の検討
第3回　先行研究レビュー（グループ1,2）
第4回　先行研究レビュー（グループ3,4）
第5回　インタビュー調査（グループ1,2）
第6回　インタビュー調査（グループ3,4）
第7回　目次構成の検討（グループ1,2）
第8回　目次構成の検討（グループ3,4）
第9回　中間報告（グループ1,2）
第10回　中間報告（グループ3,4）
第11回　グループ1の論文の検討会
第12回　グループ2の論文の検討会
第13回　グループ3の論文の検討会
第14回　グループ4の論文の検討会
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ（経）＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　片岡　裕介	

テーマ

卒業論文に向けた研究テーマおよび研究計画の設定

授業の到達目標

自分が取り組もうとする問題の研究意義を明確にする。また、問題の他者との共有にあたって情報を適切に伝達できるようになる。

授業の概要

前半は、前期におこなった文献調査で得られた知識も参考にしつつ、各自で課題研究に取り組む。後半は、卒業論文のテーマの設定および研究計画書の作成をおこなう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各自の課題研究を進めるとともに、進捗報告に向けた準備をおこなうこと。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　研究デザインの方法(1)
第3回　研究デザインの方法(2)
第4回　課題研究(1)
第5回　課題研究(2)
第6回　課題研究(3)
第7回　課題研究(4)
第8回　課題研究の講評
第9回　卒業論文のテーマの設定(1)
第10回　卒業論文のテーマの設定(2)
第11回　卒業論文のテーマの設定(3)
第12回　研究計画書の作成(1)
第13回　研究計画書の作成(2)
第14回　研究計画書の作成(3)
第15回　研究計画の講評
※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

指定しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ 60 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ（経）＜＊c＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河野　充央	

テーマ

企業経営と管理会計

授業の到達目標

会計によるマネジメントの意義を理解する。

授業の概要

卒論のテーマ選択につながるような学習を行う。必要に応じて，工場見学等の学外学習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

復習は必ず行うこと。その他については，随時指示する。

内　　容

第1回　企業の利害関係者と経済的情報
第2回　企業経営と企業目標
第3回　経営管理者の職能
第4回　管理会計の目的1
第5回　管理会計の目的2
第6回　管理会計の目的3
第7回　管理会計担当者の役割
第8回　コストマネジメントの体系
第9回　戦略プランニングとコストマネジメント1
第10回　戦略プランニングとコストマネジメント2
第11回　戦略的コントロールとコストマネジメント1
第12回　戦略的コントロールとコストマネジメント2
第13回　管理的プランニングとコストマネジメント
第14回　管理的コントロールとコストマネジメント
第15回　まとめと卒論作成へ向けての指導　※なお、この授業では必要に応じて特別講演会を行うことがある。
卒業論文の書き方・研究倫理について

履修上の注意点

教科書

参考書

情報化社会における管理会計の役割
著者:　河野充央
出版社:　税務経理協会
出版年:　　ISBN:

経営管理会計
著者:　西澤脩
出版社:　中央経済社
出版年:　　ISBN:

管理会計
著者:　岡本清　他
出版社:　中央経済社
出版年:　　ISBN:

原価計算
著者:　岡本清
出版社:　国元書房
出版年:　　ISBN:

a50103a253

ケースブック・コストマネジメント

著者: 加登豊 他

出版社: 新世社

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 15 ） 授業中発表等（ 15 ）

参加度 （ 70 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ（経）＜＊d＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　近藤　隆則	

テーマ

卒業論文の作成に向けた本格的な準備

授業の到達目標

各自の卒業論文のテーマを決め、目次案を作成すること

授業の概要

各自の卒論テーマを決め、構想と目次を固めてゆきます。また、引き続き、論文作成の作法や文献調査、統計処理、フィールドワークの仕方も学びます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各自のテーマについて報告し、その都度軌道修正してゆきます。報告担当以外の人も積極的に発言すること。課題に対するフィードバックは、授業の中で行います。

内　容

第1回　演習の進め方、レジュメの作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
第2回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第3回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第4回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第5回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第6回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第7回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第8回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第9回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第10回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第11回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第12回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第13回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第14回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第15回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

授業の中で示します

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

a50103a254

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 50% ）
参加度 （ 50% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ（経）＜＊e＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阪本　崇	

テーマ

公共経営の実際を学ぶ

授業の到達目標

1）公共経営のしくみや課題を理解する
2）資料を作成して発表する技術を身に付ける

授業の概要

前半は、専門演習Iで行ったグループ研究をさらに深め、学外での研究発表を目指して研究のブラッシュアップを行う。後半は、卒業研究に向けて、各自でテーマを設定し、研究計画を立てる。
※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各階の授業で自らに当てられた役割をこなすために周到な準備を行うことが必要である。なお、課題の評価については、発表時に適宜フィードバックを行う。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　発表原稿とスライド資料の作成（1）
第3回　発表原稿とスライド資料の作成（2）
第4回　発表原稿とスライド資料の作成（3）
第5回　発表原稿とスライド資料の作成（4）
第6回　リハーサル
第7回　リハーサルを受けての修正（1）
第8回　リハーサルを受けての修正（1）
第9回　本番リハーサルと発表内容の修正
第10回　学外での発表（日程は学外のイベントに準拠します）
第11回　卒業論文計画（1）
第12回　卒業論文計画（2）
第13回　卒業論文計画（3）
第14回　卒業論文計画（4）
第15回　卒業論文計画（5）

履修上の注意点

授業の役割は、情報交換の場、あるいは研究のペースメーカーであって、あくまでも個人個人の自主的な研究活動が中心であることを肝に銘じて取り組んでほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（60）
参加度（40）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ（経）<＊f>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　高原　正興	

テーマ

研究課題の深化とテキストの講読

授業の到達目標

ゼミ生の社会学的な関心をより深化させるとともに、テキストの講読を通して社会学的な素養を高め、卒業論文のテーマを考える。また、適切な質問ができる能力を育成する。

授業の概要

夏季課題の報告、テキストの講読・発表・討論（合宿を含む）、4回生の卒論中間発表会への参加

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストの予習は必須である。

内　　容

第1回　後期ガイダンス
第2回　夏季課題の報告（1）
第3回　夏季課題の報告（2）
第4回　PROG解説会
第5回　テキストの講読・発表・討論（1）
第6回　テキストの講読・発表・討論（2）
第7回　4回生の卒論中間発表会への参加
第8回　テキストの講読・発表・討論（3）
第9回　テキストの講読・発表・討論（4）
第10回　テキストの講読・発表・討論（5）
第11回　テキストの講読・発表・討論（6）
第12回　テキストの講読・発表・討論（7）
第13回　テキストの講読・発表・討論（8）
第14回　4回生との合同合宿（冬季課題＝卒業論文の構想の発表）
第15回　テキストの講読・発表・討論（9）と春休み課題の提示

履修上の注意点

ゼミの欠席はありえないと考えること。

教科書

前期テキストの続き
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に示す
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20% ）　　授業中発表等（ 40% ）
参加度（ 40% ）
授業中課題は夏季課題のレポートと冬季課題のレポートである。

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ（経）＜＊g＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　髙山　一夫	

テーマ

医療経営についての発展的学習

授業の到達目標

医療経営についての知見を深めるとともに、各自の卒業研究のテーマを明確にする

授業の概要

グループワークおよびテキストを用いた発表と討論を通じて、医療経営や医療政策、医療経済に関する知見を深めるとともに、アカデミック・リテラシーを習得し、各自の卒業研究に向けてテーマ設定を行う。他大学生との合同ゼミ合宿も企画する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業時間以外に、グループワークやテキストを用いた発表のための準備を行う。また、受講生は主体的に自主ゼミを運営する。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　グループワーク
第3回　グループワーク
第4回　グループワーク
第5回　グループワーク
第6回　グループワーク
第7回　卒業研究中間発表会（4回生と合同）
第8回　卒業研究中間発表会（4回生と合同）
第9回　グループワーク成果発表会（予定）
第10回 テキストを用いた演習
第11回 テキストを用いた演習
第12回 テキストを用いた演習
第13回 テキストを用いた演習
第14回 キャリア講演会（予定）
第15回 演習全体のまとめ（他大学との合同ゼミ合宿を予定）

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、学外授業やゼミ合宿、自主ゼミ等に積極的に参加すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

地域包括ケアと地域医療連携
著者:　二木立
出版社:　勁草書房
出版年:　2015　　ISBN:　9784326700875

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ（経）＜＊h＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹内　直人	

テーマ

地方自治、地方分権の基本文献を読む（Ⅱ）

授業の到達目標

地方分権改革がめざした地方自治の姿とその成果を批判的に検討し、地方自治の意味をより深く理解する。

授業の概要

成田頼明「地方分権への道程」西尾勝「自治・分権再考」村松岐夫「テキストブック地方自治」等の中から選んだ論文を読み、レジュメを作り発表する。最終的にレポートにまとめる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

担当の論文を事前に読むとともにレジュメをまとめ（3～4時間）、授業でその内容について発表を行う。論文のポイントはKT-noteにあらかじめ示しておくので参照すること。最終的にレポートにまとめるとともに内容の発表を行い、理解を深める。

内　容

第1回　成田頼明「地方分権のめざすもの」（地方分権への道程）
第2回　成田頼明「いまなぜ日本で地方分権化が必要なのか」（地方分権への道程）
第3回　成田頼明「機関委任事務廃止の意義」①（地方分権への道程）
第4回　成田頼明「機関委任事務廃止の意義」②（地方分権への道程）
第5回　成田頼明「地方分権と大都市」①（地方分権への道程）
第6回　成田頼明「地方分権と大都市」②（地方分権への道程）
第7回　西尾勝「地方分権改革の流れと路線」①（自治・分権再考）
第8回　西尾勝「地方分権改革の流れと路線」②（自治・分権再考）
第9回　西尾勝「地方分権改革の流れと路線」③（自治・分権再考）
第10回　村松岐夫「テキストブック地方自治」（現代国家における地方自治）①
第11回　村松岐夫「テキストブック地方自治」（現代国家における地方自治）②
第12回　村松岐夫「包括的地方自治ガバナンス改革」（世紀転換期の包括的地方ガバナンス改革）①
第13回　村松岐夫「包括的地方自治ガバナンス改革」（世紀転換期の包括的地方ガバナンス改革）②
第14回　レポート発表
第15回　レポート発表

履修上の注意点

欠席をしないこと。特に発表担当者が欠席すると授業が進まないことになるので、欠席しないこと。

教科書

自治・分権再考
著者:　西尾勝
出版社:　ぎょうせい
出版年:　2013 年　　ISBN:

参考書

地方分権への道程
著者:　成田頼明
出版社:　良書普及会
出版年:　1997年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 60 ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ ）
レジュメに基づく発表とレポートの提出・発表で評価します。担当者の欠席は厳しく評価します。

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ（経）＜＊i＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　平尾 毅	

テーマ

卒業論文のテーマ設定を行う。

授業の到達目標

必要な資料の収集方法を身に付けることができる。プレゼンテーション能力を磨くことができる。論理的な思考力を磨くことができる。

授業の概要

卒論作成の準備として論文の書き方を確認し、ゼミ生各自がテーマ設定に入ります。各自が興味関心のあるテーマについて個別発表を通してリサーチ・クエスチョンを設定し、研究を進めていきます。また、4回生や国内外の大学との合同ゼミ合宿等を通して様々な経験を積み、多様な人間関係の間でコミュニケーション能力を磨いてもらいたいと考えています。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

発表準備を十分に行って参加してください（2時間程度）。
また、発表でもらったコメントは次回の発表に反映させてください。

内　容

第1回　ガイダンス（グループ分け、自己理解、学修ポートフォリオ）
第2回　卒業論文の書き方＋ロジカルシンキング
第3回　情報収集の方法＋図表の使い方
第4回　個別発表・討論①
第5回　個別発表・討論②
第6回　個別発表・討論③
第7回　個別発表・討論④
第8回　個別発表・討論⑤
第9回　個別発表・討論⑥
第10回　個別発表・討論⑦
第11回　個別発表・討論⑧
第12回　個別発表・討論⑨
第13回　個別発表・討論⑩
第14回　卒研テーマ発表会①
第15回　卒研テーマ発表会②　※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがあります。

履修上の注意点

発表者以外のゼミ生には質問・コメントが必須です。

教科書

特になし。配布資料で代用します。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜紹介します。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 0% ）　　小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 0% ）　　授業中発表等 （ 60% ）
参加度 （ 40% ）
参加度は、質問・コメントを含みます。

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ（経）<＊j>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松石　泰彦	

テーマ

卒業論文の書き方と構想

授業の到達目標

・卒業論文として扱う研究テーマを定め、それについての学習を進める。・卒業論文作成に向けた、先行研究などの情報収集・整理をおこなう。・情報収集や整理の仕方について、効率的な方法を学ぶ。

授業の概要

卒業論文作成の準備段階として、各自が自分自身で決めたテーマのもとで資料や文献の調査と収集を行いつつ、特に文献を基にした論点整理を進める。そしてそれらの進捗状況をそれぞれ報告する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各回それぞれの研究テーマに即して研究を進め、その進捗状況をレジュメで報告する。それに対して学生同士、教員から意見をもらい、それに沿って次回までに修正や加筆をしてくる。
卒業論文作成やゼミでは、学生の主体的な取り組みが大切である。また、教員も含めたメンバー間でのインタラクティブなやりとりが必要なので、他のメンバーの報告に対しても自分の報告と常に対照させながら考えること。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　個別研究テーマの設定と資料収集(1)
第3回　個別研究テーマの設定と資料収集(2)
第4回　個別研究テーマの設定と資料収集(3)
第5回　個別研究テーマの設定と資料収集(4)
第6回　個別研究テーマの設定と資料収集(5)
第7回　個別研究テーマの設定と資料収集(6)
第8回　中間まとめ
第9回　卒業論文の構成を練る(1)
第10回　卒業論文の構成を練る(2)
第11回　卒業論文の構成を練る(3)
第12回　卒業論文の構成を練る(4)
第13回　卒業論文の構成を練る(5)
第14回　卒業論文の構成を練る(6)
第15回　まとめ、春期休業期間中の課題と計画

履修上の注意点

教科書

参考書

適宜紹介
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ（経）＜＊k＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　ランビーノ, パラガス	

テーマ

国際的な視点から、健康・経済成長・格差について 学習すること

授業の到達目標

人類が貧困と病苦をどのように克服したか、また成長が格差とどのように関連しているかということについての理解を深めながら、理解しやすいプレゼンテーション資料の作成技術と、その内容に関わる報告・討論の技術を向上させることである。

授業の概要

本演習では、健康・富・格差についての様々な統計及び議論についての知識を身につけ、グローバルレベルの発展についての知見を持つ人材を育成することを目指している。テキストは四部構成で、初めの部 は本書の導入及び世界の幸福の紹介、第一部は平均余命、死亡率、病気や身長などの変化、続く第二部は所得格差や貧困の変化の検証、最終第三部は援助についての様々な側面をテーマとしている。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

特になし。

内　　容

第1回　ガイダンス。報告者の割り当て。
第2回　序章
第3回　第１章
第4回　第２章前半部
第5回　第２章後半部
第6回　第３章
第7回　第４章前半部
第8回　第４章後半部
第9回　第５章前半部
第10回　第５章後半部
第11回　第６章前半部
第12回　第６章後半部
第13回　第７章前半部
第14回　第７章後半部
第15回　まとめ

履修上の注意点

各授業で読むテキストの該当箇所を参加者全員が事前に読んで授業に備えてください。

教科書

大脱出:健康、お金、格差の起原
著者:　A・ディートン著、松本裕訳
出版社:　みすず書房
出版年:　2014年　　ISBN:　978-4622078708

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）　　小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 0% ）　　授業中発表等 （ 35% ）
参加度 （ 65% ）
特になし。

2018 Syllabus

科 目 名　**管理会計論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河野　充央	

テーマ

マネジメントの本質を理解する

授業の到達目標

管理会計を通して，組織のリーダーが何を行っているのかということを学ぶ

授業の概要

テキスト以外に，経済記事を活用しながら，常にグローバルビジネスの最前線に目を向けながら講義を進める。スケジュール等において，可能であれば，経営者をゲストスピーカーに招く場合もある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

復習を必ずして，次の講義へ臨んでもらいたい。

内　　容

第1回　ガイダンス 会計的思考と管理会計
第2回　財務諸表の分析1
第3回　財務諸表の分析2
第4回　短期利益計画1
第5回　短期利益計画2
第6回　予算編成と予算統制
第7回　事業部業績評価
第8回　コストダウンの方法
第9回　投資意思決定の諸問題1
第10回　投資意思決定の諸問題2
第11回　在庫費用の管理1
第12回　在庫費用の管理2
第13回　マーケティング会計
第14回　経営戦略と管理会計
第15回　まとめ

履修上の注意点

私語は，厳に慎んで下さい。他の受講者にとって，これ以上の迷惑はありません。

教科書

管理会計を語る
著者:　西澤脩
出版社:　中央経済社
出版年:　　ISBN:

参考書

経営管理会計
著者:　西澤脩
出版社:　中央経済社
出版年:　　ISBN:

管理会計
著者:　岡本清　他
出版社:　中央経済社
出版年:　　ISBN:

情報化社会における管理会計の役割
著者:　河野充央
出版社:　税務経理協会
出版年:　　ISBN:

成績評価

a50103d310

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**臨床医学総論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　久保山　一敏	

テーマ

臨床医学総論・医学用語

授業の到達目標

診療情報管理士認定試験レベルの臨床医学の知識と医学用語を身につける。

授業の概要

この授業では先天奇形や染色体異常、および外傷、中毒につい講義する。また平行して、解剖生理学や臨床医学などを通して学んできた人体の構造と機能、さまざまな組織や器官の疾病と診断名、治療方法などについて、診療記録を管理するのに必要な専門用語をキーワードとしてこれまでの学習のまとめを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストの復習を30~60分おこなうこと。また医学用語に関する課題を毎週提出すること。

内　容

第1回　先天奇形、変形および染色体異常（第1回）
医療用語（第1回）
第2回　先天奇形、変形および染色体異常（第2回）
医療用語（第2回）
第3回　先天奇形、変形および染色体異常（第3回）
医療用語（第3回）
第4回　先天奇形、変形および染色体異常（第4回）
医療用語（第4回）
第5回　損傷、中毒、その他の外因の影響（第1回）
医学用語：臨床医学各論Ⅰ
第6回　損傷、中毒、その他の外因の影響（第2回）
医学用語：臨床医学各論Ⅱ
第7回　損傷、中毒、その他の外因の影響（第3回）
医学用語：臨床医学各論Ⅲ
第8回　中間まとめ、中間試験
第9回　損傷、中毒、その他の外因の影響（第4回）
医学用語：臨床医学各論Ⅳ
第10回　損傷、中毒、その他の外因の影響（第5回）
医学用語：臨床医学各論Ⅴ
第11回　損傷、中毒、その他の外因の影響（第6回）
医学用語：臨床医学各論Ⅵ
第12回　損傷、中毒、その他の外因の影響（第7回）
医学用語：臨床医学各論Ⅶ
第13回　損傷、中毒、その他の外因の影響（第8回）
医学用語：臨床医学各論Ⅷ
第14回　損傷、中毒、その他の外因の影響（第9回）
医学用語：臨床医学総論
第15回　まとめ、試験

履修上の注意点

出欠、授業中のマナーに関しては最終成績に反映させる。

教科書

診療情報管理Ⅰ第8版
著者：
出版社：日本病院会
出版年：2016　　ISBN：
診療情報管理Ⅱ第8版
著者：
出版社：日本病院会
出版年：2016　　ISBN：

参考書

a50103d410

成績評価

試験・レポート （ 50% ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 35% ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 15% ）
上級生が作成した医学用語リストを分担して順次アップデートするが、それを課題提出物とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**ロジスティクス論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　平尾 毅	

テーマ

ロジスティクスの基礎理論と実践を学習する。

授業の到達目標

生産・販売拠点のグローバル化に伴い、サプライチェーンの再構築が注目される中、ロジスティクスの基礎を理解できる。現場においてロジスティクスを広く俯瞰する能力と論理的に分析・評価する能力の獲得が期待される。

授業の概要

サプライチェーン・マネジメントとロジスティクスの基礎を理解した上で、表計算ソフトウェアを用いて実践的な学習を行います。まず、実際の企業で行われている成功事例を通してロジスティクス論の基礎を理解します。その上で、表計算ソフトウェア（エクセル）を用いて実践的な学びを行います。就職後の現場においてロジスティクスを広く俯瞰する能力と論理的に分析・評価する能力の修得が期待されます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

復習として配布資料を自筆ノートにまとめてください（1時間程度）。

内　容

第1回　ガイダンス（サプライチェーン・マネジメントの必要性を学ぶ）
第2回　サプライチェーン・マネジメントとロジスティクスの概要（ロジスティクスと比較しながら、サプライチェーン・マネジメントの理解を深める）
第3回　サプライチェーン・マネジメントの事例（サプライチェーン・マネジメントの成功事例から、そのエッセンスを学ぶ）
第4回　サプライチェーンのオペレーション（サプライチェーン・マネジメントの戦略を学ぶ）
第5回　需給管理（需要と供給を一致させるために考慮すべき事項を学ぶ）
第6回　在庫管理（在庫管理の目的と方法について学ぶ）
第7回　生産管理（生産計画と工程管理の概要を学ぶ）
第8回　調達管理（調達管理の課題とその解決策について学ぶ）
第9回　グローバル・サプライチェーン・マネジメント（グローバル・サプライチェーンの仕組みを構築するポイントを学ぶ）
第10回　理解度チェックとフィードバック
第11回　PC演習：需要予測①（変数減少法）
第12回　PC演習：需要予測②（数量化1類）
第13回　PC演習：在庫管理（経済的発注量）
第14回　PC演習：生産管理（線形計画法）
第15回　PC演習問題

履修上の注意点

第11回授業からパソコン教室でPCを使った演習を行います。授業では様々な質問を行います。「分かりません」と思考停止しないように、どうしたら答えにたどり着くか考えるよう心掛けてください。

教科書

特になし。配布資料で代用します。

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

サプライチェーン経営入門

著者:　藤野直明
出版社:　日経文庫
出版年:　1999年　　ISBN:　978-4532107925

サプライチェーン・マネジメントとロジスティクス管理入門

著者:　藤川裕晃
出版社:　日刊工業新聞社
出版年:　2008年　　ISBN:　978-4526061325

a50103d510

改訂版サプライチェーンマネジメントの理論と実践

著者: EYアドバイザリー

出版社: 幻冬舎

出版年: 2014年 ISBN: 978-4344971332

戦略的サプライチェーンマネジメント:競争優位を生み出す5つの原則

著者: S.コーエン・J.ルーセル

出版社: 英治出版

出版年: 2015年 ISBN: 978-4862761996

成績評価

試験・レポート （ 45% ）
小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 40% ）
授業中発表等 （ 0% ）
参加度 （ 15% ）
試験・レポートは、理解度チェックを含みます。
授業中課題は、PC演習問題を含みます。

2018 Syllabus

科 目 名　**組織とメンタルヘルス**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　香坂　千佳子	

テーマ

ストレス社会と言われる現代社会では、企業にとってメンタルヘスの問題は無視することはできない。メンタルヘルスを学ぶことがどうして組織にとって重要なのかを理解する。

授業の到達目標

個人が集団の中で自分らしく生きていくための健康マネジメントのうち、組織におけるメンタルヘルスの問題をとりあげる。会社や職場等の組織の中で、私たちは様々なメンタルヘルス上の問題と出合う。どのような問題があるかを概観し、早期発見や回復の手立てを考える。メンタルヘルス、特に「セルフケア」を理解し修得する。
メンタルヘルスの取り組みを、組織としてどのように捉えているかを「健康経営」の視点から企業の取り組みを理解する。

授業の概要

職場におけるメンタルヘルスの重要性とセルフケア、ストレス対処法などを学ぶ。
「健康経営」を取り組んでいる企業について調査し、グループ発表を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

常に、新聞、ニュースなどでメンタルヘルス、健康に関係する情報収集をするようにすること。

内　容

第1回　はじめに：授業方針（受講上の注意、評価の方法） メンタルヘルスケアの意義
第2回　メンタルヘルスとは
第3回　ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識 ①
　　産業領域における職場のメンタルヘルス
第4回　ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識 ②　　セルフケアの重要性
第5回　ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識 ③
　　ストレス関連疾患について
第6回　ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識 ④
　　ストレスへの気づき
第7回　健康経営とは①
第8回　健康経営とは②
第9回　健康経営とは③
第10回　健康経営とは④
第11回　ストレスの対処・軽減法（コミュニケーション編）①
第12回　ストレスの対処・軽減法（コミュニケーション編）②
第13回　ストレスの対処・軽減法（コミュニケーション編）③
第14回　グループプレゼンテーション
第15回　まとめテスト

履修上の注意点

(1) 遅刻は厳禁（講義スタート時までに教室内に着席） (2) 順序立てたスケジュールとなっているため、すべての授業に出席すること。 (3) 事前準備レポートは、講義を進めていくために重要なエッセンスとなるため、必ず提出すること。 (4)欠席・遅刻の多い学生は、単位取得は難しい。(5)態度の悪い学生に対しては、退出してもらう。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

メンタルヘルスを学ぶ
著者:　村井俊哉・森本恵子・石井信子
出版社: ミネルヴァ書房
出版年: 2015　　ISBN:　978-623-07247-7

成績評価

試験・レポート （ 15 ）　　小テスト （ 15 ）
授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 25 ）
参加度 （ 25 ）

a50103d610

100%出席の場合でも課題が未提出の場合は、単位取得が難しい場合があります。

2018 Syllabus

科 目 名　**病院実務実習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　髙山　一夫	

テーマ

病院実務実習

授業の到達目標

病院実務実習を体験することにより、①実践的な専門知識・技術の構築、②社会人としてのマナーの習得、③職業観・勤労観を得ること、④自己分析の機会を得ることを目標とする。

授業の概要

病院実習先において、実際の病院業務や診療情報管理業務を体験する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　事前学習及びガイダンス
第2回　病院実務実習
第3回　病院実務実習
第4回　病院実務実習
第5回　病院実務実習
第6回　病院実務実習
第7回　病院実務実習
第8回　事後報告会

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 80 ）	

各病院実習先からの個人の報告も加味して評価を実施する。

2018 Syllabus

科 目 名　**グローバルマーケティング**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今井　まりな	

テーマ

多国籍企業のマーケティング活動

授業の到達目標

グローバル・マーケティングに関連する基本的な知識を習得すること。グローバル・マーケティングの知識を活用し、実際の多国籍企業のマーケティング活動を分析することができる。

授業の概要

この授業では、多国籍企業経営の考え方について講義を行う。まず多国籍企業のマーケティング活動に関する各トピックについて検討を行う。その後、トピック別ではなく企業の業態別に、企業が国際経営を行う際に生じる課題を整理していく。授業では、上記の内容について、多国籍企業固有の問題や考え方に重点を置き、具体的な事例を交えて説明していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

企業のグローバル・マーケティング活動に関する知識を身につけること。 多国籍企業経営について、一国国内での水準で考えることとの違いを理解すること。レポートについては、回収の2週間後の授業で解説を行う。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　マーケティングマネジメントの基本枠組み
第3回　グローバリゼーションとマーケティング
第4回　文化の違いと購買行動
第5回　グローバルSTP
第6回　グローバル市場参入
第7回　グローバル製品政策
第8回　グローバル・ブランディング（1）
第9回　グローバル・ブランディング（2）
第10回 グローバル価格決定
第11回 グローバル流通チャネル戦略
第12回 グローバルプロモーション
第13回 グローバル小売の店舗戦略
第14回 非製造業のグローバル化
第15回 まとめと小テスト

履修上の注意点

教科書

1からのグローバル・マーケティング
著者:　小田部正明・栗木契・太田一樹
出版社: 碩学舎
出版年: 2017　　ISBN:　978-4502000005

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 50 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**財務管理論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河野　充央	

テーマ

財務諸表を分析して，企業の評価指標である，収益性，生産性，流動性の意義とその活用法を学ぶ。

授業の到達目標

資金の流れと財務諸表の役割とを関連づけて理解する。

授業の概要

レポートや小テストをなどを交えながら，テキストの沿って進行する。日経新聞や日経ジネスなどの経済紙誌からタイムリーな話題を随時紹介する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

復習を必ず行ってから，次の時間の講義に臨んでもらいたい。

内　　容

第1回　ガイダンス（1）講義の進め方や成績評価等について説明（2）資金管理と財務諸表の意義について（3）財務管理の概要
第2回　収益性の分析（1）
第3回　収益性の分析（2）
第4回　収益性の分析（3）
第5回　収益性の分析（4）
第6回　生産性の分析（1）
第7回　生産性の分析（2）
第8回　生産性の分析（3）
第9回　生産性の分析（4）
第10回　流動性の分析（1）
第11回　流動性の分析（2）
第12回　流動性の分析（3）
第13回　流動性の分析（4）
第14回　財務管理に対する鳥瞰的考察
第15回　講義全体のまとめ

履修上の注意点

私語は厳に慎んで下さい。言うまでもなく，他の受講生にとって，これ以上に迷惑なものはありません。

教科書

これだけ！　B/SとP/L　どこをどう見たら何がわかる？
著者:　見田村　元宣
出版社:　すばる舎リンケージ
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**診療情報分類法演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　岡本　健	

テーマ

国際疾病分類の学習が改訂されたことにより、国際生活機能分類（ICF）、国際疾病分類腫瘍学（ICD－O－3）、原死因選択ルール、国際疾病分類（ICD－10）2013年版を利用した講義と演習を行う。

授業の到達目標

①ICFの特性と構成要素を理解することができる。
②わが国のがん登録に使用されるICD-O-3を理解することができる。
③原死因選択ルールを理解し、死亡診断書から原死因を選択することができる。
④ICD-10を用いて疾病コーディングおよび要約症例を解くことができる。

授業の概要

講義および演習

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各章ごとの臨床医学を復習しておくこと。

内　　容

第1回　国際生活機能分類について
第2回　問題演習
第3回　国際疾病分類腫瘍学について
第4回　問題演習
第5回　原死因について（1）
　　一般原則と選択ルール
第6回　問題演習
第7回　原死因について（2）
　　修正ルール
第8回　問題演習
第9回　ICD－10（2013年版）準拠の概説
　　表示記号と符号
第10回　問題演習
第11回　感染症及び寄生虫症
　　問題演習
第12回　血液及び免疫
　　問題演習
第13回　新生物
第14回　問題演習
第15回　内分泌、栄養及び代謝
　　問題演習
第16回　精神及び行動の障害
　　問題演習
第17回　神経系
　　問題演習
第18回　眼、耳の疾患
　　問題演習
第19回　循環器系
　　問題演習
第20回　呼吸器系
　　問題演習
第21回　消化器系
　　問題演習
第22回　皮膚
　　問題演習
第23回　筋骨格系
　　問題演習
第24回　泌尿器系
　　問題演習
第25回　妊娠・分娩
　　問題演習
第26回　周産期
　　問題演習
第27回　先天奇形
　　問題演習
第28回　損傷・中毒

a50103e010

第29回 問題演習
第30回 外因
問題演習

履修上の注意点

携帯電話の電源は切りましょう。

教科書

診療情報管理Ⅳ（第9版）
著者:
出版社: 日本病院会
出版年: 2017.7 ISBN:
診療情報管理士教育問題集（専門8章～12章）
著者:
出版社: 日本病院会
出版年: 2017 ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 60% ） 小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ ） 授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**診療情報総合演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　昌浩	

テーマ

「診療情報管理士」認定試験に向けた受験対策

授業の到達目標

「診療情報管理士」認定試験の合格をめざす

授業の概要

認定試験受験科目のなかで不得意な科目を重点的に学習し受験に備える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中にやり残したこと、理解が不十分な事柄について必ず復習すること。

内　　容

第1回　診療情報総合演習ガイダンス
第2回　診療情報総合演習①
第3回　診療情報総合演習②
第4回　診療情報総合演習③
第5回　診療情報総合演習④
第6回　診療情報総合演習⑤
第7回　診療情報総合演習⑥
第8回　診療情報総合演習⑦
第9回　診療情報総合演習⑧
第10回　診療情報総合演習⑨
第11回　診療情報総合演習⑩
第12回　診療情報総合演習⑪
第13回　診療情報総合演習⑫
第14回　診療情報総合演習⑬
第15回　診療情報総合演習まとめ

履修上の注意点

無断欠席はしないようにしてください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（ 40 ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**経済地理学**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　片岡　裕介	

テーマ

経済地理学の基礎的な知識や概念について学習するとともに、経済現象を空間的側面から捉える考え方を理解する。

授業の到達目標

経済地理学の基礎的な知識や概念について学習するとともに、経済現象を空間的側面から捉える考え方を理解する。

授業の概要

生産や販売の拠点がどのような場所に立地するかは、当該企業の経営の観点から見て重要であるばかりでなく、産業組織の観点から見ても重要である。本講義では、企業の立地や産業の集積等など基礎的な理論を習得した上で、生産、消費等、さまざまな経済活動において見られる空間的差異がなぜ生じるのか、そして、それらの差異が経済にとってどのような意味を持つのかについて具体的な事例を上げながら講述する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

復習として、授業で扱った内容の整理をおこなうとともに、地名については地図で確認をしておくこと。

内　容

第1回　イントロダクション: 経済地理学の考え方
第2回　世界の人口と経済
第3回　都市と都市圏
第4回　都市システムと経済
第5回　チューネンの農業立地論
第6回　ウェーバーの工業立地論
第7回　クリスタラーの中心地理論
第8回　商業・サービス業の立地
第9回　オフィスの立地
第10回　公共施設の立地
第11回　観光地の立地
第12回　中心市街地の活性化
第13回　地域間格差と人口移動
第14回　情報化の進展と地域構造の変化
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に指示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 70 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**地域経済論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　岡田　知弘	

テーマ

地域経済の仕組みと地域づくりの経済学を学ぶ

授業の到達目標

皆さんは、今後、働き生活する場所がどこになろうと、地域社会の担い手として、地方自治体や国の主権者として、一生、生きることになります。その際に必要不可欠な、地域経済や地域社会、地域開発政策についての基礎知識と基本的な考え方の習得をめざすことが、本講義の達成目標です。

授業の概要

本講義では、最初に地域経済を把握するための代表的な理論について説明します。次に、現代日本の地域経済と地域開発をめぐる問題を、具体的な事例を紹介しながら講述します。そのうえで、現代の地域再生を図るためのキイ概念である「地域内再投資力」について説明し、この概念を軸に、公共事業や企業誘致政策を基本にした過去の地域開発政策、市町村合併政策の限界を指摘するとともに、地域再生のあるべき方向について具体的事例を用いて展望したいと思います。講義は、毎回レジュメを配布しながら進めます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習として、前回の講義のレジュメや参考文献に目を通しておくこと。現代日本の地域の実態や問題について、日頃から新聞や雑誌記事に目を通しておいてください。

内　　容

第1回　ガイダンス　地域とは何か
第2回　地域をとらえる目（1） 都市と農村
第3回　地域をとらえる目（2） 地域的不均等発展
第4回　地域をとらえる目（3） 都市形成論
第5回　地域をとらえる目（4） 地域内再投資力論
第6回　地域開発政策の検証（1） 水資源開発
第7回　地域開発政策の検証（2） 大規模プロジェクト
第8回　地域開発政策の検証（3） 企業誘致
第9回　地域開発政策の検証（4） リゾート開発
第10回　地域の現状（1） グローバル化と地域
第11回　地域の現状（2）市町村合併と地域
第12回　地域再生の方向（1） 農山村地域
第13回　地域再生の方向（2） 都市地域
第14回　地域再生の方向（3） 災害復興
第15回　総括　地域の持続的発展のために

履修上の注意点

講義の理解度を高めるために、何らかの形で質疑応答の時間をとりたいと思います。受講生のみなさんの、積極的な講義参加を期待します。なお、2/3以上の出席がない場合、受験資格を認めません。また、10分以上の遅刻は欠席とみなします。

教科書

国際化時代の地域経済学　第4版
著者:　岡田知弘・川瀬光義・鈴木誠・富樫幸一
出版社:　有斐閣
出版年:　2016年　　ISBN:　9784641220751

参考書

日本資本主義と農村開発
著者:　岡田知弘
出版社:　法律文化社
出版年:　1989年　　ISBN:　9784589014599

地域づくりの経済学入門
著者:　岡田知弘
出版社:　自治体研究社
出版年:　2005年　　ISBN:　9784880374437

a50103e410

震災からの地域再生

著者: 岡田知弘

出版社: 新日本出版社

出版年: 2012年 ISBN: 9784406055062

「自治体消滅」論を超えて

著者: 岡田知弘

出版社: 自治体研究社

出版年: 2014年 ISBN: 9784880376288

成績評価

試験・レポート（ 60% ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 40% ）

講義では、毎回、質問カードを配布し、回答・提出してもらいます。成績評価の参加度は、その質問カードの記載内容によって評価します。

2018 Syllabus

科 目 名　**中小企業論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　岡田　知弘	

テーマ

日本経済、地域経済の担い手としての中小企業の真の姿を知る

授業の到達目標

中小企業は、大企業と比べてブラック企業であるとか、中小企業のほとんどが下請け製造業であるという誤解が多い。本講義では、中小企業の真の姿について、①日本経済や地域経済に果たす役割、②地域の現場で活躍する中小企業、中小企業経営者像、③中小企業や中小企業政策の歴史的展開過程を知ることで、理解を深め、関心をもつことを目指します。

授業の概要

本講義では、最初に中小企業とは何かについて、海外との比較や、中小企業の歴史的発展過程を通して、学びます。次に、中小企業政策の展開過程を、国及び京都府・市の例を紹介しながら講述します。そのうえで、現代の中小企業が抱える政策的課題を示すとともに、それらを解決するための新たな中小企業政策と、地域で活躍する中小企業、経営者の具体的な活動について紹介し、今後の日本経済、地域経済における中小企業の可能性を展望します。講義は、毎回レジュメを配布しながら進めます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習として、前回の講義のレジュメや参考文献に目を通しておくこと。中小企業の実態や問題、政策について、日頃から新聞や雑誌記事に目を通しておいてください。

内　容

第1回　ガイダンス　中小企業論を学ぶ意義と講義の進め方について
第2回　中小企業とは何か－1　大企業と中小企業　国際比較の視点から
第3回　中小企業とは何か－2　日本の中小企業の歴史（1）　戦前・戦時の中小企業
第4回　中小企業とは何か－3　日本の中小企業の歴史（2）　平和憲法と中小企業庁の発足
第5回　中小企業とは何か－4　日本の中小企業の歴史（3）　高度成長と中小企業の役割
第6回　中小企業政策の展開－1　高度成長と中小企業基本法の制定
第7回　中小企業政策の展開－2　経済のグローバル化と中小企業基本法の改定
第8回　中小企業政策の展開－3　中小企業憲章の策定から小規模企業振興基本法の制定へ　中小企業振興基本条例の広がり
第9回　中小企業政策の展開－4　中小企業振興基本条例・公契約条例を生かした地域づくり
第10回　中小企業が抱える課題－1　下請、賃金、福利厚生、人材確保
第11回　中小企業が抱える課題－2　金融と地域金融機関、事業承継
第12回　地域で活躍する中小企業－1　製造業・建設業
第13回　地域で活躍する中小企業－2　小売業・飲食業
第14回　地域で活躍する中小企業－3　被災地の現場で
第15回　総括　中小企業の可能性と展望

履修上の注意点

講義の理解度を高めるために、何らかの形で質疑応答の時間をとりたいと思います。受講生のみなさんの、積極的な講義参加を期待します。なお、2/3以上の出席がない場合、受験資格を認めません。また、10分以上の遅刻は欠席とみなします。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

中小企業・ベンチャー企業論 -- グローバルと地域のはざまで 新版
著者:　植田浩史他
出版社:　有斐閣
出版年:　2014年　　ISBN:　9784641164314

現代中小企業の新機軸
著者:　永山利和編
出版社:　同友館
出版年:　2011年　　ISBN:　9784496047978

a50103e510

中小企業振興条例で地域をつくる 増補版

著者: 岡田知弘他

出版社: 自治体研究社

出版年: 2013年 ISBN: 9784880376004

入門 現代日本の経済政策

著者: 岡田知弘他

出版社: 法律文化社

出版年: 2016年 ISBN: 9784589037534

災害の時代に立ち向かう

著者: 岡田知弘・秋山いつき

出版社: 自治体研究社

出版年: 2016年 ISBN: 9784880376516

成績評価

試験・レポート（ 60% ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 40% ）

講義では、毎回、質問カードを配布し、回答・提出してもらいます。成績評価の参加度は、その質問カードの記載内容によって評価します。

2018 Syllabus

科 目 名　**情報セキュリティ論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉浦　昌	

テーマ

情報セキュリティの全体像を把握し、その考え方を理解する。

授業の到達目標

情報セキュリティは、情報化社会に生きる社会人が身につけておくべき基礎知識やリテラシーであるとともに、ビジネスや社会活動においても必須の要素となっている。また、理工学的な理論と技術を基盤としながらも、人の心理や行動、社会的合意形成、経済性や組織マネジメントなどとも深く関連している。さらに、攻撃者とその攻撃対象者という対立構造の中で、双方の主観的な判断が相互に影響を及ぼしあう。情報セキュリティが持つこのような多面的・学際的な特性を踏まえ、具体的な事故事例や活用事例をもとにして、実際のビジネスや社会活動において情報セキュリティ対策がどのように行われているのか、今後どのように活用が進みどのような新たな価値を生み出すのかを理解する。

授業の概要

テキストを基本としつつ、適宜スライドや配布資料、政府や団体の公開資料等を用いる。授業は講義を中心に行うが、理解の深化と確認のため、ディスカッションやレポート提出を実施する場合がある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストを予習して理解するとともに、授業内容の復習を欠かさないこと。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　情報セキュリティが社会に及ぼす影響（1）
第3回　情報セキュリティが社会に及ぼす影響（2）
第4回　情報セキュリティの考え方（1）
第5回　情報セキュリティの考え方（2）
第6回　技術的セキュリティ（1）
第7回　技術的セキュリティ（2）
第8回　セキュリティマネジメント（1）
第9回　セキュリティマネジメント（2）
第10回　インシデントレスポンス
第11回　セキュリティ教育
第12回　法規制と規格適合（1）
第13回　法規制と規格適合（2）
第14回　セキュリティビジネス（1）
第15回　セキュリティビジネス（2）

履修上の注意点

継続してこつこつと勉強すること。
あきらめず頑張ること。

教科書

情報セキュリティ読本
著者:　独立行政法人情報処理推進機構
出版社:　実教出版
出版年:　2013年01月　　ISBN:　9784407330762

情報セキュリティ入門 ―情報倫理を学ぶ人のために― 改訂版
著者:　佐々木良一、会田和弘
出版社:　共立出版
出版年:　2014年10月　　ISBN:　9784320123762

参考書

情報セキュリティ教本　改訂版
著者:　独立行政法人情報処理推進機構
出版社:　実教出版
出版年:　2009年03月　　ISBN:　9784407316964

a50103e610

情報セキュリティ白書2017

著者: 独立行政法人情報処理推進機構

出版社: 独立行政法人情報処理推進機構

出版年: 2017年7月　　ISBN: 9784905318538

情報セキュリティの基礎

著者: 佐々木良一、手塚悟 他

出版社: 共立出版

出版年: 2011年10月　　ISBN: 9784320123021

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ 30 ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度（ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**プログラミング実習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　加藤　諒	

テーマ

Cプログラミングの実践

授業の到達目標

基本的なCプログラミングの修得
・C言語の基礎文法を理解し，コーディングできること
・プログラミングの基礎的な知識と技術を修得すること
・学んだ基礎知識をもとに課題解決に応用できること

授業の概要

プログラミングは，情報技術について学ぶ上で基礎となる知識である．「プログラミング実習」では，基本的なプログラム言語の1つであるC言語によるプログラム作成を演習形式で学ぶ．授業内の3分の1を課題の解説に割り当て，それ以外を課題に取り組む時間とする．

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

提出課題に必ず取り組むこと．課題の採点結果は授業内で通知する．

内　容

第1回　ガイダンス（授業概要，注意事項などの説明）
第2回　C言語のプログラミングと実行
第3回　データと変数（1）
第4回　データと変数（2）
第5回　四則演算（1）
第6回　四則演算（2）
第7回　条件分岐（1）
第8回　条件分岐（2）
第9回　繰り返し処理（1）
第10回　繰り返し処理（2）
第11回　配列（1）
第12回　配列（2）
第13回　文字と文字列（1）
第14回　文字と文字列（2）
第15回　多次元配列（1）
第16回　多次元配列（2）
第17回　関数（1）
第18回　関数（2）
第19回　変数の有効範囲（1）
第20回　変数の有効範囲（2）
第21回　構造体（1）
第22回　構造体（2）
第23回　ファイル入出力（1）
第24回　ファイル入出力（2）
第25回　ポインタ変数（1）
第26回　ポインタ変数（2）
第27回　ポインタ変数と配列（1）
第28回　ポインタ変数と配列（2）
第29回　まとめ（1）
第30回　まとめ（2）

履修上の注意点

よく調べ，考えること

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

a50103e710

参考書

C言語教科書 -「言語仕様」から「データ構造」「アルゴリズム」の実装まで

著者: 田中成典

出版社: 工学社

出版年: 2013年 ISBN: 4777517535

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 70 ） 授業中発表等（ ）

参加度（ 30 ）

4回以上の欠席は不可とする.

2018 Syllabus

科 目 名　**地域金融論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　近藤　隆則	

テーマ

地域金融機関は地域経済を支える重要な役割を果たしています。しかし、少子高齢化等の影響で地域経済の活力が失われつつあるとも言われています。そのような困難な地域経済の課題に、地域金融機関がどのように応えようとしているのか、様々な事例、とりわけ近畿地区の事例を数多く取り上げ、地域経済の活力を維持発展させるにはどうしたらいいか、考えま

授業の到達目標

・地域経済における金融の特徴や課題、地域金融機関の役割について説明できること
・地域金融機関のマーケティング戦略や企業支援プログラムについて実践的な知識を身につけること

授業の概要

前半では、地域経済における地域金融機関の役割や課題について考えます。特に個人金融のマーケティングと中小企業支援の実際について、具体的事例に即して説明します。　後半では、近畿地区に焦点を当て、この地域の経済や金融の課題、さらには地域金融機関の実態と経営戦略を読み解きます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

自分に身近な地域の金融経済の動きに関心を持ち、新聞・ネット等の金融経済記事を読む習慣を身につけること。課題に対するフィードバックは授業中に行ないます。

内　容

第1回　授業ガイダンス―「地域金融論」の目的、概要、進め方
第2回　地域金融機関が置かれた現実と様々な突破戦略―（1）規模の経済の追求
第3回　地域金融機関が置かれた現実と様々な突破戦略―（2）差別化戦略
第4回　個人の金融行動と地域金融機関のマーケティング戦略
第5回　中小企業金融と地域金融機関の役割―（1）中小企業金融の特徴
第6回　中小企業金融と地域金融機関の役割―（2）地域金融機関の中小企業支援事例
第7回　中小企業金融と地域金融機関の役割―（3）実務家の話を聞く
第8回　前半のまとめ
第9回　近畿地区の経済状況と産業、企業の課題
第10回　近畿地区の個人金融および企業金融の課題
第11回　近畿地区の金融業界地図
第12回　近畿地区の地域金融機関の特徴と課題―（1）データから現実の姿を読み解く
第13回　近畿地区の地域金融機関の特徴と課題―（2）HP、ディスクロージャー誌、記事から経営戦略を読み解く
第14回　近畿地区の地域金融機関の特徴と課題―（3）実務家の話を聞く
第15回　全体のまとめと復習テスト

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に示します
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 80% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 20% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**グローバル金融論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　ランビーノ, パラガス	

テーマ

世界的な金融恐慌を生み出した金融システムの諸問題について学習すること。

授業の到達目標

経済危機の歴史的な背景と発生メカニズムを見ながら、現代の金融市場と金融産業の理論的・実証的理解を深める。

授業の概要

ヒト、モノ、カネという三つの経営資源の移動を通じて、近年経済関係のグローバル化が深まっている。その中で、2008年の世界的な金融恐慌(リーマン・ショック)が発生したのである。テキストの読解を通じて、金融危機や新自由主義など現代資本主義の構造的矛盾・経済危機について、一元的ではなく柔軟な思考で理解することが目標である。本講義では、教科書を主な教材として用いるが、ドキュメンタリー映画等も用いる。〇講義の中でドキュメンタリー映画の鑑賞を行う。〇内容について、適宜小テストを実施する。〇学期末試験を行う。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

特になし。

内　容

第1回　ガイダンス:この授業の概要の説明
第2回　現代資本主義が繰り返す景気後退
第3回　現代資本主義の歴史的変容
第4回　ドキュメンタリー映画の鑑賞
第5回　経済・金融のグローバル化と国際経済秩序
第6回　日本経済における経済成長時代から「失われた20年」へ
第7回　現代日本における新自由主義的構造改革
第8回　中間のまとめ
第9回　経済通貨同盟、欧州社会モデル、新自由主義
第10回　アメリカにおける経済格差と経済危機
第11回　現代グローバリゼーションの特徴
第12回　戦後帝国主義
第13回　現代における貨幣資本の蓄積
第14回　貨幣資本の過剰と現代資本主義の危機
第15回　まとめ

履修上の注意点

各授業で読むテキストの該当箇所を参加者全員が事前に読んで授業に備えてください。

教科書

現代資本主義とマルクス経済学:経済学は有効性をとりもどせるか
著者:　高田太久吉など
出版社:　新日本出版社
出版年:　2014年　　ISBN:　978-4406057691

参考書

成績評価

試験・レポート　(70%)　　小テスト　(20%)
授業中課題　(0%)　　授業中発表等　(0%)
参加度　(10%)
特になし。

2018 Syllabus

科 目 名　**ものづくり経営論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉浦　昌	

テーマ

ものづくりが生み出す価値を理解し、それを実現するための戦略、プロセス、組織、管理などの経営的な課題を学ぶ。

授業の到達目標

ものづくりは顧客に価値を提供することであり、その経営はそれを可能とするための総合的、継続的かつ組織的な活動である。本授業では、ものづくりに必要な技術管理、組織管理、プロセス管理等を理解し、ものづくりの経営について学ぶ。

授業の概要

テキストに加え、適宜スライドや配布資料、企業や団体の公開資料等を用いることがある。授業は講義を中心に行うが、理解の深化と確認のため、ディスカッションやレポート提出、複数回の理解度テストを実施する場合がある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストの予習復習、授業内容の復習を欠かさないこと。授業の中で指定された資料は必ず読んで理解すること。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　日本のものづくりの現状
第3回　技術経営管理
第4回　組織能力
第5回　製品アーキテクチャ
第6回　コア技術戦略
第7回　プラットフォーム戦略
第8回　イノベーション
第9回　組織構造
第10回　組織プロセス
第11回　プロジェクト知識
第12回　顧客価値の創造
第13回　事業システム
第14回　企業間ネットワーク
第15回　まとめと今後の課題

履修上の注意点

継続してこつこつと勉強すること。
あきらめず頑張ること。

教科書

MOT[技術経営]入門
著者:　延岡健太郎
出版社:　日本経済新聞
出版年:　2006　　ISBN:　9784532133214

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**ベンチャー起業論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　岡田　知弘	

テーマ

「雇われて働く」ことだけでなく、「起業して働く」ことの意味と具体的方法を学ぶ

授業の到達目標

現代社会において、企業に就職して働くことが、ひとつの「常識」となっています。しかし、その企業も、もともとは誰かが最初に創業したものでした。これを「起業」といいます。この起業は、現代においても、必要なことです。その意味を探ることが第一の目標です。第二の目標は、起業をするとはどういうことなのかを、実際に起業した経験者の体験から学びとることです。第三に、起業するために何が必要なのかを自分たちで起業プランをたてながら考え、必要な知識やノウハウを獲得することです。

授業の概要

基本的にはテキストに即して、起業に関する必要な知識の修得を図ります。そのうえで、実際に起業したり、起業支援をしたゲストスピーカーの話を直接聞くことで、具体的な起業の方法を学びます。そして起業プランを個人あるいはグループで作成し、相互検討する形で講義をすすめていきます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前にテキストや発表に必要な文献、情報を読んでおくこと。

内　容

第1回　ガイダンス　起業とは何か
第2回　キャリアの選択肢としての「起業」
第3回　君も起業ができる　事例から学ぶ①
第4回　君も起業ができる　事例から学ぶ②
第5回　「起業」をうながす推進要因
第6回　起業の主な形態と効果
第7回　起業機会の発見
第8回　起業を実現するための要因
第9回　起業家の体験談を聞く①
第10回　起業家の体験談を聞く②
第11回　「雇わず、雇われない」という働き方
第12回　起業プランをつくる①
第13回　起業プランをつくる②
第14回　「起業」を支援する環境整備
第15回　総括

履修上の注意点

講義の理解度を高めるために、何らかの形で質疑応答の時間をとりたいと思います。受講生のみなさんの、積極的な講義参加を期待します。なお、2/3以上の出席がない場合、受験資格を認めません。また、10分以上の遅刻は欠席とみなします。

教科書

自分で企業をつくり、育てるための経営学入門
著者:　齋藤毅憲・渡辺峻
出版社:　文真堂
出版年:　2017年　　ISBN:　9784830949135

参考書

成績評価

試験・レポート （ 25% ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 25% ）　　授業中発表等 （ 25% ）
参加度 （ 25% ）
講義では、毎回、質問カードを配布し、回答・提出してもらいます。成績評価の参加度は、その質問カードの記載内容によって評価します。また、授業中の発表や課題に対する回答を重視します。

2018 Syllabus

科 目 名　**デジタルデザイン演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　元木　環	

テーマ

テーマに適した情報メディア、およびビジュアルデザインの設計・選択ができるスキルの獲得

授業の到達目標

現在、コンピュータの活用は日常的なものとなっており、文字・音声・画像・映像といった情報も、特別な機器を用いることなく、デジタルデータで取得、編集し、伝達することが可能となっている。本演習では、プレゼンテーション資料や映像コンテンツ、ウェブサイトなどコンピュータを用いたデジタルコンテンツの事例調査と制作を通じて、デザインの基礎概念や手法を学びつつ、情報を表現・伝達する力を涵養する。

授業の概要

各自の興味関心をテーマに課題を設定し、制作や調査を行う。制作物は、発表やディスカッションなどを行いながら、デザインやコンテンツを「見る」「考える」ことにも取り組み、その場に適したメディアやビジュアルをデザインする視点について学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

制作で必要な素材の収集、構想、制作の一部などは、時間外にも取り組むことが必要となります。

内　容

第1回　ガイダンス、デザインの基礎概念（1）デザインフィールドワークと情報デザイン
第2回　ワークショップ（1）観察・発見・収集・比較・編集
第3回　デザインの基礎概念（2）各種メディアとデザイン手法、展開事例
第4回　ワークショップ（2）デザイン事例調査
第5回　デザインの基礎概念（3）デザインプロセスと評価
第6回　ワークショップ（3）デジタルデバイスの利活用、制作課題についての説明
第7回　制作課題：アイデア出し、ブレーンストーミング
第8回　制作課題：企画・計画書作成
第9回　制作課題：企画・計画書作成チェック
第10回　制作（1）
第11回　制作（2）
第12回　制作（3）
第13回　制作（4）
第14回　プレゼンテーション準備
第15回　プレゼンテーション、ディスカッション

履修上の注意点

制作に必要なソフトウェア、コンピュータなどの詳細な操作方法については、各自で習得する。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**デジタルコンテンツ演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　加藤　諒	

テーマ

デジタル技術によるコンテンツ制作

授業の到達目標

デジタルコンテンツ制作を通じて，マルチメディアリテラシーを修得する.
・デジタルコンテンツに関する基礎知識を修得すること
・画像や動画，音声の編集ソフトを用いて，コンテンツを制作できること
・制作したコンテンツを発信する能力を身に付けること

授業の概要

情報化社会において，インタネット上には画像や動画，音声など多様な形態の情報が発信されている.「デジタルコンテンツ演習」では，これらのデジタルコンテンツの制作方法を学ぶ. 授業内の3分の1を課題の解説に割り当て，それ以外を課題に取り組む時間とする.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

提出課題に必ず取り組むこと. 課題の採点結果は授業内で通知する.

内　容

第1回　ガイダンス（授業概要，注意事項などの説明），マルチメディアとは
第2回　【photoshop】画像編集（1）
第3回　【photoshop】画像編集（2）
第4回　【photoshop】画像編集（3）
第5回　【Illustrator】イラスト制作（1）
第6回　【Illustrator】イラスト制作（2）
第7回　【Illustrator】Webデザイン（1）
第8回　【Illustrator】Webデザイン（2）
第9回　【Illustrator】Webデザイン（3）
第10回　動画・音声編集
第11回　Webサイト制作（1）
第12回　Webサイト制作（2）
第13回　Webサイト制作（3）
第14回　Webサイト制作（4）
第15回　まとめ

履修上の注意点

よく調べ，考えること

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（　）
参加度　（ 30 ）	

4回以上の欠席は不可とする.

2018 Syllabus

科 目 名　**グローバル経営論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　ランビーノ, パラガス	

テーマ

本授業では、グローバル経営とグローバル経営戦略についての知識を獲得し、グローバル人材スキルの向上に着目する。

授業の到達目標

グローバル組織が直面する経済や文化環境などを理解し、知識、コミュニケーション力等グローバル人材としての基礎力を育成する。

授業の概要

本授業はグローバル経営とグローバル経営戦略について広範囲の課題を提供し、ディスカッションする。本授業は双方向のコミュニケーションを重視し、受講者が積極的にディスカッションに参加できるよう促す。学生はプレゼンテーションを行う。本授業では、教科書を主な教材として用いるが、ドキュメンタリー映画等をも用いる。
〇講義の中でドキュメンタリー映画の鑑賞を行う。
〇学期末テストの代わりに、プレゼンテーションを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

特になし。

内　容

第1回　ガイダンス:この授業の概要の説明
第2回　グローバル経営の論理
第3回　グローバル経営の戦略[1]
第4回　グローバル経営の戦略[2]
第5回　SWOT・TOWS
第6回　ドキュメンタリー映画の鑑賞
第7回　競争優位[1]
第8回　競争優位[2]
第9回　機動戦略[1]
第10回　機動戦略[2]
第11回　ドキュメンタリー映画の鑑賞
第12回　RBV[1]
第13回　RBV[2]
第14回　プラットフォーム
第15回　プレゼンテーション

履修上の注意点

教科書

参考書

グローバル経営入門
著者:　浅川和宏
出版社:　日本経済新聞出版社
出版年:　2016年　　ISBN:　978-4532132606

戦略ケースの教科書
著者:　松田久一
出版社:　かんき出版
出版年:　2012年　　ISBN:　978-4761268541

成績評価

試験・レポート （ 0% ）　　小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 40% ）
参加度 （ 20% ）
特になし。

2018 Syllabus

科 目 名　**国際貿易論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　ランビーノ, パラガス	

テーマ

国際経済の発展を支えてきた貿易に焦点を当てて学習すること

授業の到達目標

様々なデータと出来事との照合をしながら、国際貿易論および貿易政策論を中心に学習すること。

授業の概要

国際貿易および貿易政策に関わる出来事、データと理論について講義する。さらに、世界各地にある様々な地域間の貿易と相互間の作用を考察し、国際貿易をメカニカルにではなく多元的に理解する。
本授業では、教科書を主な教材として用いるが、ドキュメンタリー映画等も用いる。
〇授業の中で講義やドキュメンタリー映画の鑑賞を行う。
〇内容について、適度に小テストを実施する。
〇学期末テストの代わりに、パワーポイント・プレゼンテーションを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

特になし。

内　容

第1回　ガイダンス:この授業の概要の説明
第2回　貿易とは何か
第3回　比較優位
第4回　比較優位と国際貿易
第5回　ドキュメンタリー映画の鑑賞
第6回　産業内貿易と規模の経済[1]
第7回　産業内貿易と規模の経済[2]
第8回　貿易政策[1]
第9回　貿易政策[2]
第10回　GATTとWTO[1]
第11回　GATTとWTO[2]、ドキュメンタリー映画の鑑賞
第12回　サービス貿易と IT
第13回　プレゼンテーション
第14回　プレゼンテーション
第15回　まとめ

履修上の注意点

各授業で読むテキストの該当箇所を参加者全員が事前に読んで授業に備えてください。

教科書

参考書

国際経済学をつかむ　第2版
著者:　石川城太・椋寛
出版社:　有斐閣
出版年:　2013年　　ISBN:　978-4641177192

グローバル経済の誕生:貿易が作り変えたこの世界
著者:　ポメランツ・トピック著、福田邦夫・吉田敦訳
出版社:　筑摩書房
出版年:　2015年　　ISBN:　978-4480867230

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 30% ）
授業中課題（ 60% ）　　授業中発表等（ 0% ）
参加度（ 10% ）
特になし。

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ（経）＜＊a＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今井　まりな	

テーマ

卒業論文の執筆

授業の到達目標

卒業論文に見合うテーマと問いを設定し、その解決に向けた調査を行う。ゼミ生の報告と報告内容に関するディスカッションを中心に進める。

授業の概要

卒業論文の執筆に関して、テーマ設定や先行研究レビューの仕方について考えていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各報告に間に合うように、該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。※進捗状況に応じて、授業内容を変更することがある。報告に対するディスカッションの中で、報告内容や資料の作り方等について、フィードバックを行う。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　卒業論文の書き方
第3回　テーマ設定
第4回　テーマ設定
第5回　問いの設定
第6回　問いの設定
第7回　問いの設定
第8回　先行研究レビュー
第9回　先行研究レビュー
第10回　先行研究レビュー
第11回　先行研究レビュー
第12回　調査設計
第13回　調査設計
第14回　調査設計
第15回　調査設計

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 70 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ（経）＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今久保　幸生	

テーマ

卒業論文を作成する。

授業の到達目標

各自、課題に見合った研究方法や論文の書き方を学び、卒業論文を作成する。

授業の概要

卒業研究（卒業論文）の報告とそれへのコメントおよび受講生相互の意見交換を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

必要に応じて個別指導を行うほか、ゼミ生相互で卒論を報告し合い、議論し合うのが望ましい。課題へのフィードバックは以後の授業中に実施する。

内　　容

第1回　ガイダンスと論文の書き方
第2回　卒業研究報告1（序論・課題と方法）
第3回　卒業研究報告2（序論・課題と方法）
第4回　卒業研究報告3（序論・課題と方法）
第5回　卒業研究報告4（序論・課題と方法）
第6回　卒業研究報告5（本論：先行研究の検討）
第7回　卒業研究報告6（本論：先行研究の検討）
第8回　卒業研究報告7（本論：先行研究の検討）
第9回　卒業研究報告8（本論：先行研究の検討）
第10回　卒業研究中間報告会（予定）
第11回　卒業研究報告9（本論：調査内容の報告）
第12回　卒業研究報告10（本論：調査内容の報告）
第13回　卒業研究報告11（本論：調査内容の報告）
第14回　卒業研究報告12（本論：調査内容の報告）
第15回　卒業研究中間報告会（予定）・演習のまとめ

履修上の注意点

報告のたびに、必ず内容をバージョンアップさせること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（ 70 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ（経）＜＊c＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　片岡　裕介	

テーマ

卒業論文の作成

授業の到達目標

卒業論文の研究テーマにしたがって、文献収集、調査、分析アプローチ等における必要な知識を身に付ける。また、研究論文として十分な内容を含んだ卒業論文を作成する。

授業の概要

卒業論文の作成にあたり、研究計画を明確にした上で、進捗状況について報告をおこなう。また、報告内容に関してディスカッションをおこなう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

報告の準備とともに卒業論文の作成を各自で進めること。報告時において疑問点を提示できるようにしておくこと。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　卒業論文のための研究デザイン(1)
第3回　卒業論文のための研究デザイン(2)
第4回　卒業論文のための研究デザイン(3)
第5回　卒業論文進捗報告：研究の背景と方法論(1)
第6回　卒業論文進捗報告：研究の背景と方法論(2)
第7回　卒業論文進捗報告：研究の背景と方法論(3)
第8回　卒業論文進捗報告：先行研究のレビュー(1)
第9回　卒業論文進捗報告：先行研究のレビュー(2)
第10回　卒業論文進捗報告：先行研究のレビュー(3)
第11回　卒業論文進捗報告：調査分析(1)
第12回　卒業論文進捗報告：調査分析(2)
第13回　卒業論文進捗報告：調査分析(3)
第14回　卒業論文進捗報告：調査分析(4)
第15回　卒業論文進捗報告：調査分析(5)

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 60 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ（経）＜＊d＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河野　充央	

テーマ

卒業論文の作成

授業の到達目標

夏季休暇中に下書きを完成させる

授業の概要

パワーポイントによる報告 報告内容にたいする質疑応答 教員からのアドバイス 希望者は，工場見学などの学外学習にも参加できる

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

レジュメの作成

内　　容

第1回　ガイダンス 春季休暇中の課題提出 論文の書き方・形式について指導
第2回　卒論指導1 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など（個別指導は随時実施）
第3回　卒論指導2 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など（個別指導は随時実施）
第4回　卒論指導3 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など（個別指導は随時実施）
第5回　卒論指導4 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など（個別指導は随時実施）
第6回　卒論指導5 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など（個別指導は随時実施）
第7回　卒論指導6 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など（個別指導は随時実施）
第8回　卒論指導7 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など（個別指導は随時実施）
第9回　卒論指導8 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など（個別指導は随時実施）
第10回　卒論指導9 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など（個別指導は随時実施）
第11回　卒論指導10 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など（個別指導は随時実施）
第12回　卒論指導11 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など（個別指導は随時実施）
第13回　卒論指導12 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など（個別指導は随時実施）
第14回　卒論指導13 卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など（個別指導は随時実施）
第15回　夏季休暇中における下書き完成のための課題指示

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 60 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ（経）＜＊e＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　近藤　隆則	

テーマ

卒論のための各種調査および執筆。

授業の到達目標

卒論の中身を固めてゆき、いくつかの章について完成させること。

授業の概要

各自の卒論テーマに従って、内容を固めてゆきます。専門演習Ⅲでは、文献調査、統計処理、フィールドワークを実施しつつ、書ける章から順次、書いてゆきます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各自の卒論の進捗状況について報告し、その都度軌道修正してゆきます。報告担当以外の人も積極的に発言、助言に努めること。課題に対するフィードバックは、授業の中で行います。

内　　容

第1回　演習の進め方、報告担当者及び報告日程の決定
第2回　担当担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第3回　担当担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第4回　担当担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第5回　担当担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第6回　担当担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第7回　担当担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第8回　担当担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第9回　担当担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第10回　担当担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第11回　担当担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第12回　担当担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第13回　担当担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第14回　担当担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第15回　担当担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

授業の中で示します

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

a50104a115

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 80% ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ（経）＜＊f＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阪本　崇	

テーマ

卒業論文の書き方と構想

授業の到達目標

1）論文の書き方の基礎を身につける
2）卒業論文の構想を形作る

授業の概要

最初の5回については、基本的な論文の書き方を実例に触れながら学ぶ。第6回以降については、2回に分けて進捗報告を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

自分が発表する時点までに、それぞれの会のテーマに即したレジュメを用意する。発表への評価については随時フィードバックを行う。

内　容

第1回　論文の書き方（1）：論文らしい文章とは
第2回　論文の書き方（2）：論文の流れ
第3回　論文の書き方（3）：論理的に書くには？
第4回　論文の書き方（4）：引用の仕方、参考文献の書き方、並べ方
第5回　論文の書き方（5）：図表の使い方、脚注、見出しの付け方
第6回　卒論進捗報告（1回目：研究テーマと幹とする参考資料）：6人
第7回　卒論進捗報告（1回目：研究テーマと幹とする参考資料）：6人
第8回　卒論進捗報告（1回目：研究テーマと幹とする参考資料）：6人
第9回　卒論進捗報告（2回目：仮説の提示と結論までの論理的展開）：3人
第10回　卒論進捗報告（2回目：仮説の提示と結論までの論理的展開）：3人
第11回　卒論進捗報告（2回目：仮説の提示と結論までの論理的展開）：3人
第12回　卒論進捗報告（2回目：仮説の提示と結論までの論理的展開）：3人
第13回　卒論進捗報告（2回目：仮説の提示と結論までの論理的展開）：3人
第14回　卒論進捗報告（2回目：仮説の提示と結論までの論理的展開）：3人
第15回　夏休み中の研究計画

履修上の注意点

他のメンバーの研究発表についてもしっかりと考え、可能な範囲でアドバイスを行うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（60）
参加度（40）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ（経）＜＊g＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　高原　正興	

テーマ

卒業論文の作成に向けて

授業の到達目標

12月の卒業論文の提出に向けて、よりよい卒業論文が作成できるように、ゼミ生の研究発表を続けて行う。

授業の概要

ゼミ生による卒業論文の研究発表（第一クール＝春季課題の発表、第二クール＝第1章、第三クール＝第2章、第四クール＝第1・2章の補強）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日頃から卒業論文のテーマに関する文献や資料の収集に努めること。

内　　容

第1回　前期ガイダンス
第2回　第一クール＝春季課題の発表（1）
第3回　第一クール＝春季課題の発表（2）
第4回　第一クール＝春季課題の発表（3）
第5回　第二クール＝第1章の発表と指導（1）
第6回　第二クール＝第1章の発表と指導（2）
第7回　第二クール＝第1章の発表と指導（3）
第8回　予備
第9回　第三クール＝第2章の発表と指導（1）
第10回　第三クール＝第2章の発表と指導（2）
第11回　第三クール＝第2章の発表と指導（3）
第12回　予備
第13回　第四クール＝第1・2章の補強の発表と指導（1）
第14回　第四クール＝第1・2章の補強の発表と指導（2）
第15回　第四クール＝第1・2章の補強の発表と指導（3）

履修上の注意点

就活による欠席は事前に連絡した上で代わりの人を確保すること。それ以外のゼミの欠席はありえない。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に示す
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20% ）　　授業中発表等（ 40% ）
参加度（ 40% ）
授業中課題は春季課題のレポートによる。

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ(経)〈＊h〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　髙山　一夫	

テーマ

医療経営の発展的学習

授業の到達目標

医療経営に関する発展的な知識を習得するとともに、卒業研究の作成にむけた基本的な技術を確認する

授業の概要

主としてテキストを用いた報告と討論を行うとともに、卒業研究のための論文作成技法や図書館ガイダンスを実施する。また、3回生と合同でゼミ合宿を開催する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業時間以外にも報告の準備や学外授業・ゼミ合宿の企画立案等を行う。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　学外授業およびゼミ合宿の準備・立案
第3回　図書館ガイダンス(予定)
第4回　テキストを用いた演習
第5回　テキストを用いた演習
第6回　テキストを用いた演習
第7回　テキストを用いた演習
第8回　テキストを用いた演習
第9回　テキストを用いた演習
第10回　テキストを用いた演習のまとめ
第11回　論文の作成技法
第12回　論文の作成技法
第13回　キャリア講演会(予定)
第14回　学外授業(予定)
第15回　演習全体のまとめ(ゼミ合宿)

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、学外授業、ゼミ合宿、自主ゼミ等に主体的に参加すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

健康と医療の公平に挑む
著者:　松田亮三編
出版社:　勁草書房
出版年:　2009　　ISBN:　9784326700615

地域包括ケアと地域医療連携
著者:　二木立
出版社:　勁草書房
出版年:　2015　　ISBN:　9784326700875

社会保障の公私ミックス再論
著者:　松田亮三・鎮目真人編著
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2015　　ISBN:　9784623075966

a50104a118

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ(経)〈＊i〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　平尾 毅	

テーマ

卒論発表・議論を通して完成を目指す。

授業の到達目標

プレゼンテーション能力を磨くことができる。知識を深めることができる。議論を通して論理的思考力を磨くことができる。

授業の概要

ゼミ生一人ひとりが興味関心のあるテーマについて発表し、ゼミ仲間との議論を通して、卒業論文の完成を目指します。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

パワーポイントを準備して発表してください(2時間程度)。

内　容

第1回　ガイダンス(学修ポートフォリオ)
第2回　卒論の発表・議論①
第3回　卒論の発表・議論②
第4回　卒論の発表・議論③
第5回　卒論の発表・議論④
第6回　卒論の発表・議論⑤
第7回　卒論の発表・議論⑥
第8回　卒論の発表・議論⑦
第9回　卒論の発表・議論⑧
第10回　卒論の発表・議論⑨
第11回　卒論の発表・議論⑩
第12回　卒論の発表・議論⑪
第13回　卒論の発表・議論⑫
第14回　卒論の発表・議論⑬
第15回　ゼミ内報告会

履修上の注意点

発表者以外のゼミ生も、発表に対して質問やコメントを必ず行ってください。

教科書

特になし。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜紹介します。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 0% ）　　授業中発表等（ 70% ）
参加度（ 30% ）
参加度は、質問・コメントを含みます。

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ（経）＜＊j＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松石　泰彦	

テーマ

卒業論文作成とその土台となる学習

授業の到達目標

・先行研究など、集めた情報を整理・分析する ・事象、要因、仮説、提案などの各フェーズを明確にする ・論理性をもった長文を書くことに慣れる

授業の概要

専門演習Ⅲに引き続き、卒業論文作成にむけた準備を行う。各自が自分自身で決めたテーマのもとで資料や文献の調査と収集を行いつつ、特に文献を基にした論点整理を進め、文章化していく。そしてそれらの進捗状況をそれぞれ報告する。また、各自で取材をおこなう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各回それぞれの研究テーマに即して研究を進め、その進捗状況をレジュメで報告する。それに対して学生同士、教員から意見をもらい、それに沿って次回までに修正や加筆をしてくる。
卒業論文作成やゼミでは、学生の主体的な取り組みが大切である。また、教員も含めたメンバー間でのインタラクティブなやりとりが必要なので、他のメンバーの報告に対しても自分の報告と常に対照させながら考えること。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　卒業論文執筆進捗状況の報告と質疑応答（1）
第3回　卒業論文執筆進捗状況の報告と質疑応答（2）
第4回　卒業論文執筆進捗状況の報告と質疑応答（3）
第5回　卒業論文執筆進捗状況の報告と質疑応答（4）
第6回　卒業論文執筆進捗状況の報告と質疑応答（5）
第7回　卒業論文執筆進捗状況の報告と質疑応答（6）
第8回　中間まとめ（ふりかえりと再検討など）
第9回　卒業論文執筆進捗状況の報告と質疑応答（7）
第10回　卒業論文執筆進捗状況の報告と質疑応答（8）
第11回　卒業論文執筆進捗状況の報告と質疑応答（9）
第12回　卒業論文執筆進捗状況の報告と質疑応答（10）
第13回　卒業論文執筆進捗状況の報告と質疑応答（11）
第14回　夏期休業期間中の課題と計画（1）
第15回　夏期休業期間中の課題と計画（2）

履修上の注意点

卒業論文作成やゼミと、就職活動は必ずしもトレードオフの関係ではない。自ら卒論に取り組む姿勢や、資料や材料を集めて説得力のあるものを作ることは、社会人に向けて重要な素養であることを認識して取り組んで欲しい。

教科書

参考書

個別に適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40）	授業中発表等（30）
参加度（30）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ（経）＜＊k＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　ランビーノ, パラガス	

テーマ

卒業論文を作成すること

授業の到達目標

研究課題を設定して、それに見合った研究方法や論文の作成方法を学ぶこと。また、卒業論文を作成すること。

授業の概要

卒業論文の研究計画を明確した上で、トピックに関連する文献や入手データなどを紹介し、卒業論文の報告を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　卒業論文報告1（テーマ設定）
第3回　卒業論文報告2（テーマ設定）
第4回　卒業論文報告3（アウトライン）
第5回　卒業論文報告4（アウトライン）
第6回　卒業論文報告5（序論と研究方法）
第7回　卒業論文報告6（序論と研究方法）
第8回　卒業論文報告7（先行研究のレビュー）
第9回　卒業論文報告8（先行研究のレビュー）
第10回　卒業論文報告9（先行研究のレビュー）
第11回　卒業論文中間報告
第12回　卒業論文報告10（調査内容の報告）
第13回　卒業論文報告11（調査内容の報告）
第14回　卒業論文報告12（調査内容の報告）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 0 ）	授業中発表等 （ 60 ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ（経）＜＊a＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　今井 まりな

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

これまでに行ってきた作業を取りまとめ、卒業論文として完成することを目的とする。

授業の概要

卒業論文の完成に向けて、卒業論文の進捗報告とディスカッションを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各報告に間に合うように、該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。※進捗状況に応じて、授業内容を変更することがある。報告に対するディスカッションの中で、報告内容や資料の作り方等について、フィードバックを行う。

内　容

第1回　前期の復習
第2回　良い論文とは何か？
第3回　事例分析・考察
第4回　事例分析・考察
第5回　事例分析・考察
第6回　事例分析・考察
第7回　卒業論文中間報告会
第8回　卒業論文中間報告会
第9回　卒業論文最終報告
第10回　卒業論文最終報告
第11回　卒業論文最終報告
第12回　卒業論文最終報告
第13回　卒業論文の検討会
第14回　卒業論文の検討会
第15回　卒業論文の検討会

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 70 ）
参加度（ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ（経）＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今久保　幸生	

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

全員が卒論を完成させること。

授業の概要

順番に卒業論文の報告を行い、コメントを受け、卒論改訂版を報告し、さらにコメントを受ける。以上を繰り返して卒論完成に至る。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

先行研究に関する書籍・論文などを丁寧に読解し、批評を行うこと。課題へのフィードバックは以後の授業中に実施する。

内　容

第1回　卒業研究報告1（結論）
第2回　卒業研究報告2（結論）
第3回　卒業研究報告3（結論）
第4回　卒業研究報告4（結論）
第5回　卒業研究中間報告会（予定）
第6回　卒業研究最終報告1（全体）
第7回　卒業研究最終報告2（全体）
第8回　卒業研究最終報告3（全体）
第9回　卒業研究最終報告4（全体）
第10回　卒業研究最終報告5（全体）
第11回　卒論執筆原稿相互検討1
第12回　卒論執筆原稿相互検討2
第13回　卒論執筆原稿相互検討3
第14回　口頭試問の準備
第15回　演習の総括

履修上の注意点

報告するごとに、必ず内容をバージョンアップすること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（ 70 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ(経)〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　片岡　裕介	

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

卒業論文の研究テーマにしたがって、文献収集、調査、分析アプローチ等における必要な知識を身に付ける。さらに、研究論文として十分な内容を含み、形式が整えられた卒業論文を完成させる。

授業の概要

卒業論文の完成に向けて、進捗状況について報告をおこなう。また、報告内容に関してディスカッションをおこなう。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

報告の準備とともに卒業論文の作成を各自で進める。報告時において疑問点を提示できるようにしておくこと。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　卒業論文進捗報告(1)
第3回　卒業論文進捗報告(2)
第4回　卒業論文進捗報告(3)
第5回　卒業論文進捗報告(4)
第6回　卒業論文進捗報告(5)
第7回　卒業論文中間報告会(1)
第8回　卒業論文中間報告会(2)
第9回　卒業論文最終報告(1)
第10回　卒業論文最終報告(2)
第11回　卒業論文最終報告(3)
第12回　卒業論文最終報告(4)
第13回　口頭試問の準備(1)
第14回　口頭試問の準備(2)
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

指定しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 60 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ（経）＜＊d＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河野　充央	

テーマ

卒業論文の作成および完成

授業の到達目標

質の高い卒業論文を完成させ，学士号を取得する

授業の概要

パワーポイントによる報告 報告内容にたいする質疑応答 教員からのアドバイス 希望者は，工場見学などの学外学習にも参加できる

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

レジュメの作成

内　　容

第1回　夏季休暇中課題の下書きを提出 目次のみを全員に配布 概要報告と意見交換・教員による指導
第2回　報告とチェック1 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する最終確認と指導（個別指導は随時実施）
第3回　報告とチェック2 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する最終確認と指導（個別指導は随時実施）
第4回　報告とチェック3 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する最終確認と指導（個別指導は随時実施）
第5回　報告とチェック4 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する最終確認と指導（個別指導は随時実施）
第6回　報告とチェック5 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する最終確認と指導（個別指導は随時実施）
第7回　報告とチェック6 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する最終確認と指導（個別指導は随時実施）
第8回　報告とチェック7 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する最終確認と指導（個別指導は随時実施）
第9回　報告とチェック8 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する最終確認と指導（個別指導は随時実施）
第10回　報告とチェック9 報告内容に対する質疑応答 テーマ・目次に対する最終確認と指導（個別指導は随時実施）
第11回　最終チェック1（個別指導は随時実施）
第12回　最終チェック2（個別指導は随時実施）
第13回　口頭試問準備1（個別指導は随時実施）
第14回　口頭試問準備2（個別指導は随時実施）
第15回　総括　※なお、この授業では必要に応じて特別講演会を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 60 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ（経）＜＊e＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　近藤　隆則	

テーマ

卒論の完成。

授業の到達目標

卒論を完成させ、口頭試問に備えること。

授業の概要

卒論の完成に向け、各自の進捗状況を報告しつつ、軌道修正する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各自の卒論テーマについて、担当日には必ず進捗状況を報告できるように準備しておく。なお課題に対するフィードバックは、授業の中で行います。

内　　容

第1回　報告担当者及び報告日程の決定
第2回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し、執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第3回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し、執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第4回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し、執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第5回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し、執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第6回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し、執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第7回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し、執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第8回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し、執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第9回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し、執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第10回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し、執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第11回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し、執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第12回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し、執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第13回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し、執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第14回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し、執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第15回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し、執筆の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業の中で示します
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 80% ）
参加度（ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ（経）＜＊f＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阪本　崇	

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

1）卒業論文を執筆し、完成させる。
2）他の受講生と協力し、相互に推敲を行う。

授業の概要

ゼミの内部で研究の進捗について情報を共有し、互いに助け合いながら卒業論文を完成させることを目指す。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回の報告については、フィードバックとして与えられた課題を完成させることに加え、自発的にブラッシュアップを行うことが必要である。

内　　容

第1回　卒論進捗報告（3回目：論理の展開のチェック）：6人
第2回　卒論進捗報告（3回目：論理の展開のチェック）：6人
第3回　卒論進捗報告（3回目：論理の展開のチェック）：6人
第4回　卒論中間報告会
第5回　卒論最終報告（4回目：完成原稿の発表）：3人
第6回　卒論最終報告（4回目：完成原稿の発表）：3人
第7回　卒論最終報告（4回目：完成原稿の発表）：3人
第8回　卒論最終報告（4回目：完成原稿の発表）：3人
第9回　卒論最終報告（4回目：完成原稿の発表）：3人
第10回　卒論最終報告（4回目：完成原稿の発表）：3人
第11回　誤字・脱字等の相互チェック
第12回　誤字・脱字等の相互チェック
第13回　口頭試問の準備
第14回　口頭試問の準備
第15回　口頭試問の準備

履修上の注意点

他のメンバーの研究発表についてもしっかりと考え、可能な範囲でアドバイスを行うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（ 60 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ（経）＜＊g＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　高原　正興	

テーマ

卒業論文と論文集の作成に向けて

授業の到達目標

前期に引き続いて、よりよい卒業論文の作成のための研究発表を続ける。また、ゼミの卒業論文集を作成する準備を行う。

授業の概要

ゼミ生による研究発表と卒業論文の作成に向けた指導、卒業論文の添削と要約の作成に向けた指導（合宿を含む）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

卒業論文の作成のための計画的な学習に尽きる。

内　　容

第1回　後期のガイダンス
第2回　第五クール＝第3章の発表と指導（1）
第3回　第五クール＝第3章の発表と指導（2）
第4回　第五クール＝第3章の発表と指導（3）
第5回　中間発表会の予行演習（1）
第6回　中間発表会の予行演習（2）
第7回　中間発表会
第8回　第六クール＝第4章の発表と指導（1）
第9回　第六クール＝第4章の発表と指導（2）
第10回　第六クール＝第4章の発表と指導（3）
第11回　卒論の個別指導（1）
第12回　卒論の個別指導（2）
第13回　卒論の要約の発表と指導（1）（合宿）
第14回　卒論の要約の発表と指導（2）（合宿）
第15回　まとめ

履修上の注意点

就活による欠席は事前に連絡した上で代わりの人を確保すること。それ以外の欠席はありえない。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に示す。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 20% ）　　授業中発表等　（ 40% ）
参加度　（ 40% ）
授業中課題は夏季課題のレポートと卒業論文の要約である。

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ(経)〈＊h〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　髙山　一夫	

テーマ

卒業研究の完成

授業の到達目標

これまでの学習を基に各人がテーマを設定し、調査の方法と論文の書き方とを習得した上で、卒業研究として完成させる

授業の概要

演習において受講生は卒業研究の進捗状況を報告し教員より指導を受ける

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業時間以外にも個々人の進捗状況に応じて個別に指導する。また、自主ゼミを設け、受講生相互で卒業研究を検討する。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　卒業研究報告
第3回　卒業研究報告
第4回　卒業研究報告
第5回　卒業研究報告
第6回　卒業研究報告
第7回　卒業研究中間報告会(予定)
第8回　卒業研究中間報告会(予定)
第9回　卒業研究報告
第10回　卒業研究報告
第11回　卒業研究報告
第12回　卒業研究報告
第13回　口頭試問の準備
第14回　口頭試問の準備
第15回　演習全体のまとめ

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。卒業研究上の質問などがある場合は、早めに連絡・相談すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

理科系の作文技術
著者:　木下是雄
出版社:　中公新書
出版年:　1981　　ISBN:　9784121006240

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ（経）＜＊i＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　平尾 毅	

テーマ

卒論発表・議論を通して完成を目指す。

授業の到達目標

プレゼンテーション能力を磨くことができる。知識を深めることができる。議論を通して論理的思考力を磨くことができる。

授業の概要

ゼミ生一人ひとりが興味関心のあるテーマについて発表し、ゼミ仲間との議論を通して、卒業論文の完成を目指します。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

パワーポイントを準備して発表してください（2時間程度）。

内　　容

第1回　ガイダンス（学修ポートフォリオ）
第2回　卒論の発表・議論①
第3回　卒論の発表・議論②
第4回　卒論の発表・議論③
第5回　卒論の発表・議論④
第6回　卒論の発表・議論⑤
第7回　卒論の発表・議論⑥
第8回　卒論の発表・議論⑦
第9回　卒論の発表・議論⑧
第10回　卒論の発表・議論⑨
第11回　卒論の発表・議論⑩
第12回　卒論の発表・議論⑪
第13回　卒論の発表・議論⑫
第14回　卒論の発表・議論⑬
第15回　卒論の発表・議論⑭

履修上の注意点

発表者以外のゼミ生も、発表に対して質問やコメントを必ず行ってください。
中間報告会と口頭試問会は必須です。

教科書

特になし。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜紹介します。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 0% ）　　小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 0% ）　　授業中発表等 （ 70% ）
参加度 （ 30% ）
参加度は、質問・コメントを含みます。

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ（経）＜＊j＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松石　泰彦	

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

・説得力のある展開や論理性、構成力を身につける ・情報収集力や、ワード・エクセル等を使った効率的な思考支援方法を利用できるようになる ・卒業論文執筆を通じて、説得力のある展開や論理性、構成力を身につける

授業の概要

これまで準備・作業してきた内容をベースに卒業論文を仕上げる。また、ゼミの他学生との情報交換・討論を通じ、共に物事を進める力を涵養する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各回それぞれの研究テーマに即して研究を進め、その進捗状況をレジュメで報告する。それに対して学生同士、教員から意見をもらい、それに沿って次回までに修正や加筆をしてくる。
卒業論文作成やゼミでは、学生の主体的な取り組みが大切である。また、教員も含めたメンバー間でのインタラクティブなやりとりが必要なので、他のメンバーの報告に対しても自分の報告と常に対照させながら考えること。

内　　容

第1回　卒業論文進捗個別報告Ⅰ(1)
第2回　卒業論文進捗個別報告Ⅰ(2)
第3回　卒業論文進捗個別報告Ⅰ(3)
第4回　卒業論文進捗個別報告Ⅰ(4)
第5回　中間報告会
第6回　卒業論文完成原稿最終報告(1)
第7回　卒業論文完成原稿最終報告(2)
第8回　卒業論文完成原稿最終報告(3)
第9回　卒業論文完成原稿最終報告(4)
第10回　卒業論文完成原稿最終報告(5)
第11回　卒業論文完成原稿最終報告(6)
第12回　卒業論文完成原稿最終報告(7)
第13回　口頭試問準備(1)
第14回　口頭試問準備(2)
第15回　口頭試問準備(3)

履修上の注意点

卒業論文作成やゼミと、就職活動は必ずしもトレードオフの関係ではない。自ら卒論に取り組む姿勢や、資料や材料を集めて説得力のあるものを作ることは、社会人に向けて重要な素養であることを認識して取り組んで欲しい。

教科書

参考書

個別に適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ（経）＜＊k＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　ランビーノ, パラガス	

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

卒業論文の研究課題にしたがって、文献収集や調査における必要な知識を身に付けること。卒業論文を完成させること。

授業の概要

卒業論文の完成に向けて、報告を行い、報告内容をもとにしてディスカッションを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

先行研究や関連資料に関する図書や論文を調べ、よく読むこと。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　卒業論文進捗報告1
第3回　卒業論文進捗報告2
第4回　卒業論文進捗報告3
第5回　卒業論文中間報告会1
第6回　卒業論文中間報告会2
第7回　卒業論文中間報告会3
第8回　卒業論文最終報告1
第9回　卒業論文最終報告2
第10回　卒業論文最終報告3
第11回　卒業論文原稿相互検討1
第12回　卒業論文原稿相互検討2
第13回　卒業論文原稿相互検討3
第14回　口頭諮問の準備
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**救急疾病Ⅲ**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小尾口　邦彦.藤野　光洋.千葉　玲哉	

テーマ

授業の到達目標

内分泌系・代謝系・泌尿器・生殖器系の疾患を理解する事で、救急救命に携わる事が出来る

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　内分泌・代謝系器官①解剖・生理1
第2回　内分泌・代謝系器官②解剖・生理2
第3回　内分泌・代謝系器官③代謝器官障害、症状、おもな疾患
第4回　内分泌・代謝系期間④低血糖、甲状腺クリーゼなどについて学ぶ
第5回　泌尿器・生殖器系器官①解剖・生理1
第6回　泌尿器・生殖器系器官②解剖・生理2
第7回　泌尿器・生殖器系器官③障害、症状、おもな疾患
第8回　泌尿器・生殖器系器官④尿閉、子宮外妊娠などについて学ぶ
第9回　血液疾患①貧血の病態生理等
第10回　血液疾患②急性白血病の病態生理 播種性血管内症候群
第11回　血液疾患③骨髄移植、その他の血液疾患
第12回　血液疾患④汎血球減少症、MDSなどについて学ぶ
第13回　感染症と予防 特異な感染症、AIDS 皮膚疾患
第14回　高齢者の疾患
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

救急救命士標準テキスト　第1巻
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:
救急救命士標準テキスト　第2巻
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:
救急救命士標準テキスト　第3巻
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:
救急救命士標準テキスト　第4巻
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:
救急救命士標準テキスト　第5巻
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

a50104a410

成績評価

試験・レポート（ 80 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）
15回の授業のうち、5回以上の欠席があった場合は試験の受験を認めないものとする。

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ（都）<＊A>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山岸　達矢	

テーマ

都市政策に関するフィールドワークを企画する

授業の到達目標

・大学で研究する心構えと方法について理解し研究を始める。
・フィールドワークをグループで実施する。
・フィールドワークの学びを情報発信できるようになる。

授業の概要

都市政策に関するフィールドワークを通じて、大学で研究する心構えと方法について学ぶ。都市が抱える社会問題の解決策について考察するためのフィールドワークを学生自ら企画し実施する。さらにフィールドワークから得た知見を小論文にまとめて情報発信をする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　都市政策の課題
第3回　フィールドワークの技法
第4回　フィードワークを実施したいテーマの選定
第5回　フィールドワーク先の選定
第6回　フィールドワーク先の選定
第7回　フィールドワークの事前学習
第8回　フィールドワークの事前学習
第9回　フィールドワークの事前学習
第10回　フィールドワークの実施
第11回　フィールドワークから得た学びの発表
第12回　フィールドワークから得た学びの再整理
第13回　フィールドワークから得た学びの発表
第14回　情報発信の方法について検討
第15回　総論

履修上の注意点

教科書

政策リサーチ入門―仮説検証による問題解決の技法
著者:　伊藤修一郎
出版社:　東京大学出版会
出版年:　2011　　ISBN:

参考書

都市の再生を考える1~8
著者:　植田 和弘・西村 幸夫・神野 直彦・間宮 陽介編
出版社:　岩波書店
出版年:　2005　　ISBN:

市民社会論
著者:　坂本治也編
出版社:　法律文化社
出版年:　2017　　ISBN:

住環境保全の公共政策―都市景観とまちづくり条例の観点から
著者:　山岸達矢
出版社:　法政大学出版局
出版年:　2016　　ISBN:

a50201aa10

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ（都）＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小辻　寿規	

テーマ

大学生がもつべき「学習のための機能」を身につける～「研究」と「実践」の基礎から考える～

授業の到達目標

本演習では、今後の専門演習に向け大学における研究と実践の基礎としての課題設定、情報（文献）収集、レポート・原稿の書き方、調査（フィールドワーク）の方法など、基礎的な方法論と同時に、クラスで一つの事業実践を企画し、その事業テーマについて、理論と事例をまなびつつ、実践を行いながら、身をもってマネジメントのあり方を応用的に身につけるとともに、全体的には、企画力、表現力、行動力、コミュニケーション力の基礎を高めることを目的とする。同時に夏休みレポートの対応を行う。

授業の概要

前期は主に共同研究の企画立案から行い、テーマに沿った基礎文献のまとめと発表を行う。また学外授業や後期授業評価の中心部分を占める「夏休みレポート」の出題等がある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業前に各自前回内容の復習を行う。

内　容

第1回　オリエンテーション（授業目標・自己紹介）
第2回　セルフスピーチ（自分自身の考えを人に伝える）
第3回　シンキングメソッド（自分の興味関心を深く考える）
第4回　リサーチプログラム（問題解決のための方法論）
第5回　リーディング（文献をきちんと読む）
第6回　フィールドワーク（自分の五感で体感する）
第7回　フィールドワーク（自分の五感で体感する）
第8回　プレゼンテーション（発表）1
第9回　プレゼンテーション（発表）2
第10回 プレゼンテーション（発表）3
第11回 プレゼンテーション（発表）4
第12回 後期演習プロジェクト企画の設定1
第13回 後期演習プロジェクト企画の設定2
第14回 演習プロジェクト企画書のまとめと発表
第15回 夏休みレポートの課題設定

履修上の注意点

※演習の内容によって多少変更をする場合もある。
※この講義では、必要に応じて学外授業・ゲストスピーカーの講演を行うことがある。フィールドワークの時期等も状況に応じて決めていくこととする。

教科書

勉強の哲学 来たるべきバカのために
著者:　千葉雅也
出版社: 文藝春秋
出版年: 2017　　ISBN:　4163905367

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）	

特に出席と授業中課題への取り組み姿勢を重視します。

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ（都）<＊C>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　金武 創	

テーマ

大学における学びの方法を身につける

授業の到達目標

1. 毎回の授業で必ず発言する
2. 基本的な発表と討論の仕方を身につける。
どのコースを選択する学生にも必要な学びのスキルを身につけることをめざします。

授業の概要

高校までの学習では重視されなかったコミュニケーション・スキルとアカデミック・スキルを学びます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で配布されたワークシート（1時間）を完成させて当日提出すること。フィードバックについては次回の授業で講評するか、後の課題内容に反映させます。

内　容

第1回　大学の学び方
第2回　グループ討論1　就職活動と学校教育との違いを意識する
第3回　グループ討論2　時間内に結論を導く方法
第4回　グループ討論3　商品開発をデザインする
第5回　レジュメ作成と報告1　専門文献を読む
第6回　レジュメ作成と報告2　一人で報告する
第7回　レジュメ作成と報告3　報告から質問する
第8回　レジュメ作成と報告4　自分の報告と比べる
第9回　図書館の積極的利用1　書誌情報とは
第10回　図書館の積極的利用2　知的興味と文献探索
第11回　図書館の積極的利用3　夏休みレポートの素材探し
第12回　図書館の積極的利用4　研究対象の確定と参考文献の把握
第13回　夏休みレポートの準備1　焦点の絞られたテーマ設定
第14回　夏休みレポートの準備2　引用文献の探索
第15回　夏休みレポートの準備3　執筆準備の工夫

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 90 ）	授業中発表等（ ）

参加度（ 10 ）
学外授業を実施する場合も授業中課題を課します。

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ（都）<＊D>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　土井　脩史	

テーマ

建築・まちづくりに関する基本的な学習法の習得

授業の到達目標

・大学で建築やまちづくりを学ぶにあたっての基本的な学習法を習得すること。
・建築・都市の魅力を発見する能力を習得すること。
・自分の考えを他者に伝える発表方法を習得すること。

授業の概要

本演習では、まちあるきや建築見学などを通じて、まちの魅力・建築の魅力に対する「気付き」を発表してもらいます。自分の「気付き」を共感してもらうためには、どのように他者に伝えれば良いか試行錯誤してください。
また、議論の時間では、教員だけではなく学生からも積極的な発言を求めます。失敗を恐れずに楽しく議論していきましょう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

京都の建築や都市空間を日頃から注意深く観察するようにしてください。気になったことは文献で調べてみる、他人に質問をするなど自主的に学習する習慣をつけましょう。
発表準備などで困ったことがあれば、演習外でも遠慮なく相談に来てください。

内　容

第1回　ゼミの進め方と自己紹介
第2回　相互インタビューと他己紹介
第3回　建築・まちづくり分野における学習法の基礎
第4回　まちあるきの準備
第5回　まちあるきの実施
第6回　まちあるきを終えてワークショプ
第7回　まちあるき報告1
第8回　まちあるき報告2
第9回　建築見学の準備
第10回　建築見学
第11回　建築見学を終えてワークショップ
第12回　建築見学報告1
第13回　建築見学報告2
第14回　夏休みレポートの作成計画1
第15回　夏休みレポートの作成計画2

履修上の注意点

当然ながら、出席は必須です。やむを得ず欠席する場合には、教員まで連絡すること。
なお、この授業では、必要に応じて学外での授業を行うことがある。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

講義内で適宜紹介します。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ（都）〈＊E〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　政木　哲也	

テーマ

ありふれたものの収集とその分析／大学生の思考法

授業の到達目標

・情報の収集、分類、分析方法を習得し実践する
・他者と知識の共有を図るための手法を身につける
・考えをまとめて発表する方法を学ぶ

授業の概要

私たちはたくさんのものや情報に囲まれて生活しています。この授業では、普段はあまり意識することのないありふれたものに目を向け、それを題材とします。授業の出席者全員がひとつのテーマに基づいて身の回りのもの・情報を収集をします。そうして集めたものを授業で共有したのち、分類・比較を行い、知的思考の習得を試みます。学外授業を行う場合は下記日程の中で適宜調整します。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

あなたが日常の中で気づいた小さな発見を、忘れてしまわないようにメモをとり、言葉に変えて心に留めておく習慣を身につけましょう。また、この授業では出席者による発表をたくさん行いますが、あなたが伝えようとしていることを他の人にうまく伝わる工夫を日頃から心がけることが重要となります。

内　　容

第1回　自己紹介・ガイダンスおよびテーマの発表
第2回　学外授業
第3回　収集した素材の発表とディスカッション1
第4回　収集した素材の発表とディスカッション2
第5回　収集した素材の発表とディスカッション3
第6回　ワークショップ1
第7回　収集した素材の発表とディスカッション4
第8回　収集した素材の発表とディスカッション5
第9回　収集した素材の発表とディスカッション6
第10回　ワークショップ2
第11回　学外授業
第12回　プレゼンテーション1
第13回　プレゼンテーション2
第14回　プレゼンテーション3
第15回　まとめとレポート課題の発表

履修上の注意点

この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがあります。詳しい日程等は授業の中で周知します。また、基本的に無断欠席を認めません。欠席する場合は必ず事前に知らせる必要があります。

教科書

テキストは使用しません。授業では適宜資料を配布します。

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

知的トレーニングの技術〔完全独習版〕
著者:　花村太郎
出版社:　筑摩書房
出版年:　2015　　ISBN:

知的複眼思考法
著者:　苅谷剛彦
出版社:　講談社
出版年:　2002　　ISBN:

a50201aa15

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ（都）＜＊F＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　半海　宏一	

テーマ

大学における学習の方法を学ぶ

授業の到達目標

・論理的な思考方法を学ぶ。
・発表、討論の仕方を身に付ける。
・レポートの書き方を学ぶ。
・京都の建築・インテリアを知る。

授業の概要

京都には見るべき建築・インテリアが多数ある。この授業では、代表的な作品を幾つか取り上げ、それに関する資料（図面、解説書など）を丁寧に読み解き、実際に現地に赴いて見学する。随時レポート提出、発表、討論を行なう。一人一人が、資料や作品の何に着目し、何を思い、それを人にどのように伝えるのか、ということについて自覚的であるよう心掛けること。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日常的に京都のまちを散策し、歴史、文化、デザインに触れ、スケッチや写真撮影などを通して、それらを丁寧に観察すること。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　グループワーク
第3回　グループワーク
第4回　発表
第5回　事前学習1
第6回　見学会1
第7回　見学報告会1
第8回　事前学習2
第9回　見学会2
第10回　見学報告会2
第11回　事前学習3
第12回　見学会3
第13回　見学報告会3
第14回　レポート発表
第15回　授業まとめ

履修上の注意点

※この授業では、必要に応じて、学外での授業を行なうことがある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 70 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ（都）＜＊A＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山岸　達矢	

テーマ

都市政策に関するフィールドワークを企画する

授業の到達目標

・大学で研究する心構えと方法について理解して研究を始める。
・フィールドワークをグループで実施する。
・フィールドワークの学びを情報発信できるようになる。

授業の概要

都市政策に関するフィールドワークを通じて、大学で研究する心構えと方法について学ぶ。都市が抱える社会問題の解決策について考察するためのフィールドワークを学生自ら企画し実施する。さらにフィールドワークから得た知見を小論文にまとめて情報発信する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　前期の実施内容の振り返りと今後の計画
第2回　仮説の再考
第3回　レポートの作成方法と情報発信の方法
第4回　フィールドワーク先の選定
第5回　フィールドワーク先の選定
第6回　フィールドワークの事前学習
第7回　フィールドワークの事前学習
第8回　フィールドワークの事前学習
第9回　フィールドワークの実施
第10回　フィールドワークから得た学びの発表
第11回　フィールドワークから得た学びの再整理
第12回　フィールドワークから得た学びの発表
第13回　情報発信に向けた作業
第14回　情報発信に向けた作業
第15回　総論

履修上の注意点

教科書

政策リサーチ入門―仮説検証による問題解決の技法
著者:　伊藤修一郎
出版社:　東京大学出版会
出版年:　2011　　ISBN:

参考書

都市の再生を考える1~8
著者:　植田 和弘・西村 幸夫・神野 直彦・間宮 陽介編
出版社:　岩波書店
出版年:　2005　　ISBN:

市民社会論―理論と実証の最前線
著者:　坂本治也編
出版社:　法律文化社
出版年:　2017　　ISBN:

住環境保全の公共政策―都市景観とまちづくり条例の観点から
著者:　山岸達矢
出版社:　法政大学出版局
出版年:　2016　　ISBN:

a50201ab50

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ（都）＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　木下　達文	

テーマ

都市環境デザインを総合的に考える
～大学における個人研究を深める～

授業の到達目標

本演習では、今後の専門演習に向け大学における研究と実践の基礎としての課題設定、情報（文献）収集、レポート・原稿の書き方、調査（フィールドワーク）の方法など、基礎的な方法論を学ぶ。また、企画力、表現力、行動力、コミュニケーション力の基礎を高めることもあわせて行う。加えて、他者の発表を聞くことで、多様な学びの視点を身につけていくことを意識的に身につけていく。

授業の概要

基本的には、個人研究発表を中心として行っていく。事前に簡単な予習シートを作成し、発表対象への関心を高めるとともに、授業においては簡単なディスカッション等を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

メールグループやメーリングリストなどインターネット環境使ったコミュニケーションと指導も合わせて行う予定である。日頃の生活では、身の回りの出来事を観察することが大切です。研究と実践に繋がる事象をこまめに観察したり、可能な範囲で体験できることはしてみましょう。なお、課題等に対しては授業中やメール等でのフィードバックを行う。

内　容

第1回　オリエンテーション（授業目標・自他理解）
第2回　個人研究発表1
第3回　個人研究発表2
第4回　個人研究発表3
第5回　個人研究発表4
第6回　個人研究発表5
第7回　個人研究発表6
第8回　個人研究発表7
第9回　個人研究発表8
第10回　インターゼミナールに向けた準備
第11回　インターゼミナールに向けた準備
第12回　学科インターゼミナールの実施
第13回　授業企画1
第14回　授業企画2
第15回　総括
※状況によって多少変更をする場合もある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）
特に出席を重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ（都）＜＊C＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　金武 創	

テーマ

アカデミックスキルとベーシックスキルの取得

授業の到達目標

研究テーマを絞る方法を身につける
自らの経験を通して、観察する／理解する／伝えるための言語力を伸ばす

授業の概要

アカデミック・スキルとソーシャル・スキルの習得

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業課題を復習として取り組む（1時間）。図書館の積極的利用を通して、専門学習への準備をする。授業課題のフィードバックについては次回の授業で講評するか、後の課題内容に反映させます。

内　容

第1回　夏休みレポートの再作業①　作業の反省
第2回　夏休みレポートの再作業②　図書館でのさらなる文献探索
第3回　夏休みレポートの再作業③　5分間スピーチに向けて
第4回　夏休みレポートの再作業④　レジュメの作成
第5回　自分なりの研究テーマを考える1　視点を持つこと
第6回　自分なりの研究テーマを考える2　視点を変える
第7回　自分なりの研究テーマを考える3　逆演算
第8回　自分なりの研究テーマを考える4　条件を変えてみる
第9回　自分なりの研究テーマを考える5　要素と構造
第10回　自分なりの研究テーマを考える6　自分の尺度を持つ
第11回　自分なりの研究テーマを考える7　アナロジーを使う
第12回　自分なりの研究テーマを考える8　伝える場合、伝えない場合
第13回　自分なりの研究テーマを考える9　個で考えて集団で共有する
第14回　もう一度レジュメを作ってみる
第15回　まとめ
※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 100 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
学外授業を実施する場合も授業中課題を課します。

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ（都）＜＊D＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　土井　脩史	

テーマ

建築・都市空間におけるフィールドワークを元に小論文を作成・発表する

授業の到達目標

・建築や都市空間のフィールドワークを通じて、自分なりの「問題」を発見する能力を習得する
・論理的な思考法を学び、論文の書き方を習得する

授業の概要

前期で学んだフィールドワーク中の「気づき」をさらに深め、自分なりの論文テーマを設定してもらった上で、小論文の作成・発表を行ってもらいます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

論文はいきなり書けるものではありません。教員や他の受講生と何度も議論を重ねて完成させるようにしましょう。講義外であっても、遠慮なく相談に来てください。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　夏休みレポートの発表と修正①
第3回　夏休みレポートの発表と修正②
第4回　夏休みレポートの発表と修正③
第5回　フィールドワーク1
第6回　フィールドワーク1の振り返り
第7回　小論文の研究テーマ検討①
第8回　小論文の研究テーマ検討②
第9回　小論文の研究テーマ検討②
第10回　フィールドワーク2
第11回　フィールドワーク2の振り返り
第12回　小論文の成果発表①
第13回　小論文の成果発表②
第14回　小論文の成果発表③
第15回　1年間のまとめ

履修上の注意点

当然ながら、出席は必須です。やむを得ず欠席する場合には、教員まで連絡すること。
なお、この授業では必要に応じて学外授業を行います。

教科書

参考書

講義内で適宜紹介します
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ（都）＜＊E＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　政木　哲也	

テーマ

都市空間観察とその記述の実践

授業の到達目標

・都市空間の観察を通じて景観・環境の成り立ちについて考察する
・都市空間を自らの言葉で記述し抽象化を試みる
・都市空間に対する独自の視点を見つけ出し、他者と共有する方法を学ぶ

授業の概要

私たちが暮らす都市は様々な要素が重なって構成されています。この授業では、身近な都市空間をフィールドに据えて、観察＝路上採集を行います。都市空間を構成している部分を自ら取り出し、分析を加えることを通して、景観や環境がどのようにして成り立っているかを探ります。また、授業では参加者がそれぞれ路上採集したものを発表し、得られた知見を全員で共有することを目指します。学外授業を行う場合は下記日程の中で適宜調整します。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

あなたが普段過ごしているまち＝都市空間に対して、それがどのような要素によって作られているのか、意識的になって観察する姿勢が重要です。日頃から都市の細部までよく見ることを心がけてください。

内　容

第1回　レポート課題の講評・ガイダンス
第2回　学外授業1
第3回　路上採集の発表とディスカッション1
第4回　路上採集の発表とディスカッション2
第5回　路上採集の発表とディスカッション3
第6回　ワークショップ1
第7回　学外授業2
第8回　路上採集の発表とディスカッション4
第9回　路上採集の発表とディスカッション5
第10回 路上採集の発表とディスカッション6
第11回 ワークショップ2
第12回 学外授業3
第13回 プレゼンテーション1
第14回 プレゼンテーション2
第15回 プレゼンテーション3・まとめ

履修上の注意点

この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがあります。詳しい日程等は授業の中で周知します。また、基本的に無断欠席を認めません。欠席する場合は必ず事前に知らせる必要があります。

教科書

テキストは使用しません。授業では適宜資料を配布します。

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

考現学入門
著者:　今和次郎
出版社:　筑摩書房
出版年:　1987　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ（都）＜＊F＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　半海　宏一	

テーマ

小論文の作成とプレゼンテーション

授業の到達目標

文献調査とフィールドワークを行うことで、調査方法の基本を学ぶ。また小論文の作成と発表を行い、プレゼンテーション能力を身につける。

授業の概要

夏休みレポートをもとにして、各自、小論文を作成する。論文作成にあたり、必要な調査方法、論文の書き方、プレゼンテーション能力を身に付ける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日常的に新聞、雑誌、本などを読むこと。気になるところに傍線を引く、メモ書きをするなど、それぞれの仕方で理解するよう努めること。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　小論文のテーマを発表
第3回　文献調査
第4回　文献調査
第5回　文献調査
第6回　プレゼンテーション
第7回　フィールドワーク1
第8回　フィールドワーク2
第9回　フィールドワークの反省会
第10回　小論文の発表
第11回　小論文の発表
第12回　小論文の発表
第13回　小論文の発表
第14回　小論文の発表
第15回　授業まとめ

履修上の注意点

※この授業では、必要に応じて学外での授業を行うことがある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 70 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**造形基礎**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河野　良平	

テーマ

デッサンや色彩の演習を通じ「色」や「かたち」を表現する基礎を学習する

授業の到達目標

デッサンにおいては素材感の違いや素材同士の相性を見極める能力を養い、幾何学図形の色面構成では形と色の持つバランス感覚を身に付ける。立体の組合せでは建築的な空間の構成を念頭に、建築を立体的に思考する練習を重ねる。
以上の課題をこなすことから、建築空間を総合的にデザインしていく能力を修得する。

授業の概要

演習を通じ生活環境や建築空間における「色」や「かたち」を表現する基礎を学習する。自分の手を動かしていくことで体験的に観察力を養うとともに、もののもつ形態的な特徴や素材感などを把握し表現する能力を高め、建築をはじめ、あらゆる造形表現の基礎能力を獲得する。
また、鉛筆を使ったデッサン、色紙を使用する平面構成、ペーパーを使った立体構成を行い、適宜事例の解説なども織りまぜる。各自の作品発表を行うこともある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

普段から「物をよく見る」という姿勢が重要。また、美術館に出向いたりして先人のよい作品などを積極的に観賞することも効果的である。家にある色々なものを最低限1日10分でも毎日描くなどして予習復習し、手や目に「慣れ」を作っていくのも良い方法。

内　容

第1回　ガイダンス　道具の使い方、デッサンの基礎
第2回　デッサン1　立方体を描く
第3回　デッサン2　静物を描く①
第4回　デッサン3　静物を描く②
第5回　デッサン4　手を描く①
第6回　デッサン5　手を描く②
第7回　平面構成　課題説明　事例紹介
第8回　平面構成1　幾何学形態の組合せ①
第9回　平面構成2　幾何学形態の組合せ②
第10回　平面構成3　幾何学平面の色面構成①
第11回　平面構成4　幾何学平面の色面構成②
第12回　立体構成　課題説明　事例紹介
第13回　立体構成1　立方体の制作
第14回　立体構成2　立方体と他の立体の組合せ
第15回　立体構成3　まとめと発表:これまでの内容を振返る。

履修上の注意点

クリエイティブな教室の空気を醸成するために私語などは厳禁です、謹んでください。私語などを含む授業態度や受講のマナーもチェックしていますので評価対象になります。尚、全授業回数の1/3以上の欠席をもって授業放棄と見なすので注意してください。
尚、受講に必要なスケッチブック、鉛筆数本、その他画材（合わせて1000～2000円程度）を購入して頂く必要があります。これについては、初回の授業で説明します。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中都度紹介します
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

a50201d110

授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 50 ）

授業中の課題を50%、授業への取り組み、態度、出席状況等を50%、総合判断して100%とします。

2018 Syllabus

科 目 名　**建築・インテリア設計演習Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「建築・インテリア設計演習Ⅰ」および「建築・インテリア設計演習Ⅱ」をセットで登録すること	クラス指定
担 当 者　松本　正富	

テーマ

建築・インテリアの基礎を修得する。

授業の到達目標

建築・インテリアの基礎を習得するために、図面を描く練習を中心に行う。線の引き方から始め、平面、立面、断面図や展開図など基本的な図面を教科書に沿ってトレースする。次にスケール感覚を養うため身近な空間を実測し、実際に図面化する。最後に規模の小さい住宅などの設計を行い、講評を実施する。

授業の概要

建築・インテリアの基礎を習得するために、図面を描く練習を中心に行う。線の引き方から始め、平面、立面、断面図や展開図など基本的な図面を教科書に沿ってトレースする。次にスケール感覚を養うため身近な空間を実測し、実際に図面化する。最後に規模の小さい住宅などの設計を行い、講評を実施する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

身の回りの空間や物の寸法に関心を持つ。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　線の引き方
第3回　木造住宅のトレース1、平面図
第4回　木造住宅のトレース2、立面図・断面図
第5回　木造住宅のトレース3、矩計図
第6回　部屋の改装1、実測とエスキース
第7回　部屋の改装2、平面図・展開図
第8回　部屋の改装3、模型制作
第9回　部屋の改装4、模型制作
第10回　小住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース
第11回　小住宅の設計2、エスキース、平面図の作成
第12回　小住宅の設計3、立面図・断面図の作成
第13回　小住宅の設計4、模型制作
第14回　小住宅の設計5、模型制作
第15回　講評とまとめ

履修上の注意点

教科書

名作住宅で学ぶ建築製図
著者:　藤木庸介　他
出版社:　学芸出版社
出版年:　2008年　　ISBN:　9784761524388

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）
7割以上の出席が単位取得の条件です。

2018 Syllabus

科 目 名　**建築・インテリア設計演習Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「建築・インテリア設計演習Ⅰ」および「建築・インテリア設計演習Ⅱ」をセットで登録すること	クラス指定
担 当 者　半海　宏一	

テーマ

建築・インテリアの基礎を修得する。

授業の到達目標

建築・インテリアの基礎を習得するために、図面を描く練習を中心に行う。線の引き方から始め、平面、立面、断面図や展開図など基本的な図面を教科書に沿ってトレースする。次にスケール感覚を養うため身近な空間を実測し、実際に図面化する。最後に規模の小さい住宅などの設計を行い、講評を実施する。

授業の概要

建築・インテリアの基礎を習得するために、図面を描く練習を中心に行う。線の引き方から始め、平面、立面、断面図や展開図など基本的な図面を教科書に沿ってトレースする。次にスケール感覚を養うため身近な空間を実測し、実際に図面化する。最後に規模の小さい住宅などの設計を行い、講評を実施する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

身の回りの空間や物の寸法に関心を持つ。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　線の引き方
第3回　木造住宅のトレース1、平面図
第4回　木造住宅のトレース2、立面図・断面図
第5回　木造住宅のトレース3、矩計図
第6回　部屋の改装1、実測とエスキース
第7回　部屋の改装2、平面図・展開図
第8回　部屋の改装3、模型制作
第9回　部屋の改装4、模型制作
第10回　小住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース
第11回　小住宅の設計2、エスキース、平面図の作成
第12回　小住宅の設計3、立面図・断面図の作成
第13回　小住宅の設計4、模型制作
第14回　小住宅の設計5、模型制作
第15回　講評とまとめ

履修上の注意点

教科書

名作住宅で学ぶ建築製図
著者:　藤木庸介　他
出版社:　学芸出版社
出版年:　2008年　　ISBN:　9784761524388

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）
7割以上の出席が単位取得の条件です。

2018 Syllabus

科 目 名　**建築・インテリア設計演習Ⅰ〈c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「建築・インテリア設計演習Ⅰ」および「建築・インテリア設計演習Ⅱ」をセットで登録すること	クラス指定
担 当 者　伊藤　健一	

テーマ

建築・インテリアの基礎を修得する。

授業の到達目標

建築・インテリアの基礎を習得するために、図面を描く練習を中心に行う。線の引き方から始め、平面、立面、断面図や展開図など基本的な図面を教科書に沿ってトレースする。次にスケール感覚を養うため身近な空間を実測し、実際に図面化する。最後に規模の小さい住宅などの設計を行い、講評を実施する。

授業の概要

建築・インテリアの基礎を習得するために、図面を描く練習を中心に行う。線の引き方から始め、平面、立面、断面図や展開図など基本的な図面を教科書に沿ってトレースする。次にスケール感覚を養うため身近な空間を実測し、実際に図面化する。最後に規模の小さい住宅などの設計を行い、講評を実施する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

身の回りの空間や物の寸法に関心を持つ。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　線の引き方
第3回　木造住宅のトレース1、平面図
第4回　木造住宅のトレース2、立面図・断面図
第5回　木造住宅のトレース3、矩計図
第6回　部屋の改装1、実測とエスキース
第7回　部屋の改装2、平面図・展開図
第8回　部屋の改装3、模型制作
第9回　部屋の改装4、模型制作
第10回　小住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース
第11回　小住宅の設計2、エスキース、平面図の作成
第12回　小住宅の設計3、立面図・断面図の作成
第13回　小住宅の設計4、模型制作
第14回　小住宅の設計5、模型制作
第15回　講評とまとめ

履修上の注意点

教科書

名作住宅で学ぶ建築製図
著者:　藤木庸介　他
出版社:　学芸出版社
出版年:　2008年　　ISBN:　9784761524388

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）
7割以上の出席が単位取得の条件です。

2018 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　員　40
履修条件　「建築・インテリア設計演習Ⅰ」および「建築・インテリア設計演習Ⅱ」をセットで登録すること	クラス指定
担当者　半海 宏一	

テーマ

建築・インテリアの基礎を修得する。

授業の到達目標

建築・インテリアの基礎を習得するため、図面と模型の制作を行う。前半にインテリアの基礎として、一点透視図、二点透視図、アクソノメトリック図や家具図などの描き方を練習する。後半には一般的な戸建て住宅の設計を行い、講評を実施する。設計の途中段階で模型を制作し、空間と機能についてさまざまな角度から検討する。

授業の概要

建築・インテリアの基礎を習得するため、図面と模型の制作を行う。前半にインテリアの基礎として、一点透視図、二点透視図、アクソノメトリック図や家具図などの描き方を練習する。後半には一般的な戸建て住宅の設計を行い、講評を実施する。設計の途中段階で模型を制作し、空間と機能についてさまざまな角度から検討する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

生活するイメージを持ち設計できるように、自分の生活にも関心を持つ。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　インテリア・パースの練習1、一点透視図
第3回　インテリア・パースの練習2、二点透視図1
第4回　インテリア・パースの練習3、二点透視図2
第5回　アクソノメトリック図の作成1
第6回　アクソノメトリック図の作成2
第7回　講評
第8回　戸建て住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース
第9回　戸建て住宅の設計2、エスキース
第10回　戸建て住宅の設計3、平面図の作成
第11回　戸建て住宅の設計4、立面図の作成
第12回　戸建て住宅の設計5、断面図の作成
第13回　戸建て住宅の設計6、模型
第14回　戸建て住宅の設計7、模型
第15回　講評とまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

名作住宅で学ぶ建築製図
著者:　藤木庸介　他
出版社:　学芸出版社
出版年:　2008　　ISBN:　9784761524388

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40）	授業中発表等（30）
参加度（30）	

2018 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習Ⅱ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　員　40
履修条件　「建築・インテリア設計演習Ⅰ」および「建築・インテリア設計演習Ⅱ」をセットで登録すること	クラス指定
担当者　伊藤　健一	

テーマ

建築・インテリアの基礎を修得する。

授業の到達目標

建築・インテリアの基礎を習得するため、図面と模型の制作を行う。前半にインテリアの基礎として、一点透視図、二点透視図、アクソノメトリック図や家具図などの描き方を練習する。後半には一般的な戸建て住宅の設計を行い、講評を実施する。設計の途中段階で模型を制作し、空間と機能についてさまざまな角度から検討する。

授業の概要

建築・インテリアの基礎を習得するため、図面と模型の制作を行う。前半にインテリアの基礎として、一点透視図、二点透視図、アクソノメトリック図や家具図などの描き方を練習する。後半には一般的な戸建て住宅の設計を行い、講評を実施する。設計の途中段階で模型を制作し、空間と機能についてさまざまな角度から検討する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

生活するイメージを持ち設計できるように、自分の生活にも関心を持つ。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　インテリア・パースの練習1、一点透視図
第3回　インテリア・パースの練習2、二点透視図1
第4回　インテリア・パースの練習3、二点透視図2
第5回　アクソノメトリック図の作成1
第6回　アクソノメトリック図の作成2
第7回　講評
第8回　戸建て住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース
第9回　戸建て住宅の設計2、エスキース
第10回　戸建て住宅の設計3、平面図の作成
第11回　戸建て住宅の設計4、立面図の作成
第12回　戸建て住宅の設計5、断面図の作成
第13回　戸建て住宅の設計6、模型
第14回　戸建て住宅の設計7、模型
第15回　講評とまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

名作住宅で学ぶ建築製図
著者:　藤木庸介　他
出版社:　学芸出版社
出版年:　2008　　ISBN:　9784761524388

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40）	授業中発表等（30）
参加度（30）	

2018 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習Ⅱ〈c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　員　40
履修条件　「建築・インテリア設計演習Ⅰ」および「建築・インテリア設計演習Ⅱ」をセットで登録すること	クラス指定
担当者　福田　浩明	

テーマ

建築・インテリアの基礎を修得する。

授業の到達目標

建築・インテリアの基礎を習得するため、図面と模型の制作を行う。前半にインテリアの基礎として、一点透視図、二点透視図、アクソノメトリック図や家具図などの描き方を練習する。後半には一般的な戸建て住宅の設計を行い、講評を実施する。設計の途中段階で模型を制作し、空間と機能についてさまざまな角度から検討する。

授業の概要

建築・インテリアの基礎を習得するため、図面と模型の制作を行う。前半にインテリアの基礎として、一点透視図、二点透視図、アクソノメトリック図や家具図などの描き方を練習する。後半には一般的な戸建て住宅の設計を行い、講評を実施する。設計の途中段階で模型を制作し、空間と機能についてさまざまな角度から検討する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

生活するイメージを持ち設計できるように、自分の生活にも関心を持つ。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　インテリア・パースの練習1、一点透視図
第3回　インテリア・パースの練習2、二点透視図1
第4回　インテリア・パースの練習3、二点透視図2
第5回　アクソノメトリック図の作成1
第6回　アクソノメトリック図の作成2
第7回　講評
第8回　戸建て住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース
第9回　戸建て住宅の設計2、エスキース
第10回　戸建て住宅の設計3、平面図の作成
第11回　戸建て住宅の設計4、立面図の作成
第12回　戸建て住宅の設計5、断面図の作成
第13回　戸建て住宅の設計6、模型
第14回　戸建て住宅の設計7、模型
第15回　講評とまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

名作住宅で学ぶ建築製図
著者:　藤木庸介　他
出版社:　学芸出版社
出版年:　2008　　ISBN:　9784761524388

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40）	授業中発表等（30）
参加度（30）	

2018 Syllabus

科 目 名　**CAD演習Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松本　正富	

テーマ

2次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション

授業の到達目標

コンピューターの基本的な操作を習得する。データの保存方法や保存形式の違い、印刷設定や印刷方法、データの切り取りや貼付け、フォント名称やサイズの変更など、コンピューター操作全般に関わる基本的な知識を身に付ける。さらに、CADの基本的な操作方法について学ぶ。

授業の概要

コンピューターの基本的な操作を習得する。データの保存方法や保存形式の違い、印刷設定や印刷方法、データの切り取りや貼付け、フォント名称やサイズの変更など、コンピューター操作全般に関わる基本的な知識を身に付ける。さらに、CADの基本的な操作方法について学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　CADソフトについて　CAD製図の基礎とオブジェクトの操作（1）
第2回　CAD製図の基礎とオブジェクトの操作（2）　平面図の作図（1）
第3回　平面図の作図（2）
第4回　平面図の作図（3）
第5回　平面図の作図（4）
第6回　平面図の作図（5）
第7回　家具、窓等の作図
第8回　課題の作図、提出
第9回　立面図の作図（1）
第10回　立面図の作図（2）
第11回　立面図の作図（3）
第12回　断面図の作図（1）
第13回　断面図の作図（2）
第14回　敷地図の作図、レイアウト
第15回　図面の設定、印刷　総括

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

適宜レジュメを配布する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**CAD演習 I <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中山　大介	

テーマ

2次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション

授業の到達目標

コンピューターの基本的な操作を習得する。データの保存方法や保存形式の違い、印刷設定や印刷方法、データの切り取りや貼付け、フォント名称やサイズの変更など、コンピューター操作全般に関わる基本的な知識を身に付ける。さらに、CADの基本的な操作方法について学ぶ。

授業の概要

コンピューターの基本的な操作を習得する。データの保存方法や保存形式の違い、印刷設定や印刷方法、データの切り取りや貼付け、フォント名称やサイズの変更など、コンピューター操作全般に関わる基本的な知識を身に付ける。さらに、CADの基本的な操作方法について学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　CADソフトについて　CAD製図の基礎とオブジェクトの操作（1）
第2回　CAD製図の基礎とオブジェクトの操作（2）　平面図の作図（1）
第3回　平面図の作図（2）
第4回　平面図の作図（3）
第5回　平面図の作図（4）
第6回　平面図の作図（5）
第7回　家具、窓等の作図
第8回　課題の作図、提出
第9回　立面図の作図（1）
第10回　立面図の作図（2）
第11回　立面図の作図（3）
第12回　断面図の作図（1）
第13回　断面図の作図（2）
第14回　敷地図の作図、レイアウト
第15回　図面の設定、印刷　　総括

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

適宜レジュメを配布する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**建築構造**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　福田　浩明	

テーマ

建築の構成の基礎を学ぶ

授業の到達目標

建築における構造の仕組みや役割を学ぶ。木質構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造、壁式鉄筋コンクリート構造、コンクリートブロック構造など基本的な構法を取り上げ、それらの特性について理解する。

授業の概要

建築における構造の仕組みや役割を学ぶ。木質構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造、壁式鉄筋コンクリート構造、コンクリートブロック構造など基本的な構法を取り上げ、それらの特性について理解する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

最終日の試験に備えて、とにかくノートを自筆でしっかりとってください。

内　容

第1回　ガイダンス、建築構造と倫理
第2回　地盤特性について
第3回　基礎について、免震構造
第4回　木質構造1
第5回　木質構造2
第6回　コンクリートブロック構造、組石造
第7回　壁式鉄筋コンクリート構造
第8回　鉄筋コンクリート構造1
第9回　鉄筋コンクリート構造2
第10回　鉄骨構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造
第11回　建築の各部構造1、屋根
第12回　建築の各部構造2、床と壁
第13回　建築の各部構造3、天井と階段
第14回　建築の各部構造4、造作と開口部
第15回　まとめ

履修上の注意点

3回以上の欠席は原則認めません。欠席理由は必ず前後で申し出ること

教科書

やさしい建築一般構造
著者:　今村仁美　他
出版社:　学芸出版社
出版年:　2013年第3版発行　　ISBN:

参考書

建築構造概論
著者:　桑村仁　他
出版社:　実況出版
出版年:　2014年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）

人数、その他の状況で評価方法が変わることもありますが、原則出席をしてのノートの記録を重要視します。100点満点のペーパーテスト（ノートの持ち込みも可、コピーは不可）と一緒に成績の評価とします。

2018 Syllabus

科 目 名　**構造力学Ⅰ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山本　康彦	

テーマ

建築物に働く力の基礎を理解する。

授業の到達目標

力に関する基本的な知識を学び、構造物について詳しく理解する。力学で使われる用語の解説から、構造物に生じる反力と応力の求め方、構造物の判別、静定構造物の弾性解析、断面の性質などについて練習問題を通して具体的に理解を深める。

授業の概要

力に関する基本的な知識を学び、構造物について詳しく理解する。力学で使われる用語の解説から、構造物に生じる反力と応力の求め方、構造物の判別、静定構造物の弾性解析、断面の性質などについて練習問題を通して具体的に理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

次回講義範囲をテキストを使って予習し、プリントで復習する。
予習、復習で週1時間程度。また、常に建物に興味を持ち、建築途中の現場等では、建物がどのように建てられているのかを考えながら見るようにする。

内　容

第1回　構造力学について
第2回　力のつり合い
第3回　外力と内力のつりあい
第4回　構造物の分類とモデル化
第5回　構造部材に生じる応力と応力図
第6回　静定骨組みの応力計算1　片持ちはり
第7回　静定骨組みの応力計算2　単純はり
第8回　断面の性質1
第9回　断面の性質2
第10回　静定ラーメンの応力計算1　片持はり型ラーメン
第11回　静定ラーメンの応力計算2、単純はり型ラーメン
第12回　静定ラーメンの応力計算3、3ヒンジラーメン
第13回　静定トラスの解析1、節点法
第14回　静定トラスの解析2、切断法
第15回　まとめ

履修上の注意点

構造力学は、1回1回の受講の積み重ねで、理解が進んでいく科目です。欠席する事なく、受講に際しては、毎回ノートを取り、しっかりと復習するようにしてください。
欠席した際には、講義範囲をテキストを使って学習し、理解不十分な所は、講師に質問し、次回以降の講義に支障のないように努めてください。

教科書

改訂版　図説　やさしい構造力学
著者:　浅野清昭
出版社:（株)学芸出版社
出版年:　2017年　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 50 ）
講義時に使用するプリント類からも、試験問題を出題するため、毎回の講義にしっかりと出席することが、好成績を取る事にも繋がります。

2018 Syllabus

科 目 名　**インテリアデザイン論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今井　裕夫	

テーマ

インテリアデザインに関する基礎知識を修得する。

授業の到達目標

インテリアのデザインに関する基礎的な知識を修得する。建物の内装を構成する色彩、形態、空間、家具、建具、設備やそれらの性質、機能や構造などについて学ぶ。また、実際の事例について解説し、カタログ・見本帳・サンプルなどを実際に見ることで理解を深め、快適なインテリア空間の在り方について考える。

授業の概要

インテリアのデザインに関する基礎的な知識を修得する。建物の内装を構成する色彩、形態、空間、家具、建具、設備やそれらの性質、機能や構造などについて学ぶ。また、実際の事例について解説し、カタログ・見本帳・サンプルなどを実際に見ることで理解を深め、快適なインテリア空間の在り方について考える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日常生活においてもインテリアデザインに関心をもち、多くの情報を得るよう心掛けること。

内　容

第1回　暮らしとインテリア
第2回　日本の住まいとインテリア　西洋のインテリアと家具の様式
第3回　インテリアと寸法
第4回　インテリアの性能と安全性
第5回　空間のデザイン
第6回　インテリアの色彩、テクスチャー
第7回　インテリアの仕上げ材料
第8回　家具の種類、配置、インテリアファブリック
第9回　照明計画と照明器具
第10回　インテリアの構法とデザイン
第11回　室内環境の計画
第12回　インテリアの計画演習1
第13回　インテリアの計画演習2
第14回　インテリアの計画演習3
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**インテリアエレメント**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今井　裕夫	

テーマ

インテリア空間を構成する要素についての基礎知識を修得する。

授業の到達目標

インテリアにおいて、構造から仕上げに至るまでの基本的な知識を修得する。規格や性質等を含め、さまざまなインテリアエレメントについて学ぶ。構成要素・素材の総合的な知識を身に付け、材料・空間・生活の相互関連メカニズムを論じる。また、ユニバーサルデザイン、サスティナブルデザインにも言及する。

授業の概要

インテリアにおいて、構造から仕上げに至るまでの基本的な知識を修得する。規格や性質等を含め、さまざまなインテリアエレメントについて学ぶ。構成要素・素材の総合的な知識を身に付け、材料・空間・生活の相互関連メカニズムを論じる。また、ユニバーサルデザイン、サスティナブルデザインにも言及する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

見学や、雑誌・写真集の閲覧などを通して、なるべく多くの作品に触れること。

内　容

第1回　インテリアエレメント・マテリアル概論
第2回　文化としての生活・建築・環境づくり：インテリア空間の基本的構成エレメント1
第3回　文化としての生活・建築・環境づくり：インテリア空間の基本的構成エレメント2
第4回　要素と構成：要素から室内空間へ1・・・・（エレメント-1）
第5回　要素と構成：要素から室内空間へ2・・・・（エレメント-2）
第6回　重要素の種類と性格・・・・・・・・・・・（エレメント-3）
第7回　内外環境計画の現場を知る【学外研修】：エレメントとマテリアルへの注目
第8回　空間構成と計画・・・（エレメントとマテリアル-1）
第9回　空間構成と表現・・・（エレメントとマテリアル-2）
第10回　要素と構築-1：石と壁組から・・・・・・（マテリアル-1）
第11回　要素と構築-2：木と軸組から・・・・・・（マテリアル-2）
第12回　重要材の種類と性質・・・・・・・・・・（マテリアル-3）
第13回　エレメントとマテリアルによる統合-1：ユニバーサルデザイン
第14回　エレメントとマテリアルによる統合-2：サスティナブルデザイン
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**観光文化論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　金武 創	

テーマ

観光学の基本的理解（主として観光文化の視点から）

授業の到達目標

観光学の基礎を学び理解すること 観光現象における文化と経済の緊張関係を考えること 地域の主体的自立を自分の問題として考えること

授業の概要

観光文化について、人類学や社会学、民俗学などを中心に学習する。受講人数によって、グループワークと文献購読あるいはツーリズム・コンテンツを組み合わせたPBL型授業を行うか、VTR+新聞資料+専門用語の説明を中心とした講義を進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

復習として、インターネットなどを活用しながら、観光文化の最新動向を理解する（1時間）

内　容

第1回　観光学の基礎1
第2回　観光学の基礎2
第3回　観光学の基礎3
第4回　観光とメディア
第5回　個人化する観光
第6回　観光経験　ブーアスティンとマキャーネルの論考から
第7回　ホストとゲスト
第8回　「大きな物語」と文化遺産観光（1）
第9回　「大きな物語」と文化遺産観光（2）
第10回 「大きな物語」と文化遺産観光（3）
第11回 戦争と観光
第12回 アニメ・マンガ・ゲーム観光
第13回 ボランティア観光
第14回 エコツーリズム
第15回 総括 ※なお、この授業では必要に応じて講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

観光経験の人類学
著者:　橋本和也
出版社:　世界思想社
出版年:　2011　　ISBN:

観光文化学
著者:　山下晋司
出版社:　新陽社
出版年:　2007　　ISBN:

ふるさと資源化と民俗学
著者:　岩本通弥編
出版社:　吉川弘文館
出版年:　2007　　ISBN:

a50201e350

祭りのゆくえ
著者: 松平誠
出版社: 中央口論新社
出版年: ISBN:

n次創作観光
著者: 岡本健
出版社: 北海道冒険芸術出版
出版年: 2013 ISBN:

観光学ガイドブック
著者: 大橋昭一ほか
出版社: ナカニシヤ出版
出版年: 2014 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）
小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 70 ）
授業中発表等（ ）
参加度（ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**文化プロデュース入門Ⅰ〈Z〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小暮　宣雄	

テーマ

現代ビジネス学部都市環境デザイン学科公共政策コースの扉を開く

授業の到達目標

文化と都市、プロデュースと公共政策≒環境デザインの関係を広く柔軟に学ぶ。地域公共政策と文化プロデュースの関係を知る。映画（アニメ、ホラーなど）を事例として、文化をプロデュースする世界を垣間見る。

授業の概要

都市環境デザイン学科の主に公共政策コースを学びたい学生さんの最初の一歩。でも、他の学修にも役に立つと思います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

地元の自治体のニュースや情報を知るようにすること。また、古典となった映画を系統的に紹介するので、それを、ただぼんやり見るのではなく、どういうプロデュース手法がとられているのか、監督の特質とはなんだろうかなど、分析的かつ批評的に鑑賞すること。メディアセンターなどに設置してあります。東部文化会館にいって実際に鑑賞を行うので、よく地理を調べておくこと。参考文献をいくつか購入して読むこと。そのために生協読書奨励制度を活用すること。ソーシャルメディアもfacebookを活用したりブログなどを手がけたりうまく利用したりするようにしてください。名作映画の鑑賞の時間のほか、新聞など毎日公共政策などのニュースをチェックする時間を作ってください。学外授業についてのレポートについてコメントすることにします。

内　容

第1回　はじめに・・地域公共政策士の初級プログラム「文化プロデュース力養成講座」とはなにか
第2回　文化ってなんだろう～静的な捉え方と動的（社会構成的）な捉え方
第3回　地域とはなにか―都市と地方、国と国際との概念を明確にするために―
第4回　政策とはなにか、行政とはなにか
第5回　学外授業　地域の公共的ないし文化的環境を視察しイベントを体験する（東部文化会館などが候補）
第6回　地域と政策と文化との関係（互いの関係とすみわけ）
第7回　文化と政策との概略史
第8回　誕生日のあるアーツ、それが映画だ（活動写真からトーキーへ）
第9回　アニメ映画への接近（原恵一監督～「河童のクゥの夏休み」から分かること）、アニメと文化プロデュース、まちおこしとの関係
第10回　実写映画への接近1（黒沢清監督～ホラー映画は映画の本質を示すというのは本当か？）
第11回　実写映画への接近2（黒沢清監督～心理とアクション～）「東京ソナタ」を題材にして、映画は時代をどう映すのか？
第12回　映画プロデュースと地域公共との関係
第13回　文化プロデュースはまちに何をもたらすのか
第14回　私たちのまちと文化の未来へ、文化行政と企業メセナへの提案
第15回　まとめ・・・これからの公共政策コース、文化プロデュース力養成講座の予告 文化プロデュースに関わる学外での活動を随時説明する。ゲストで飛び入りのアーティストなどが夏休みのボランティア募集などに来ることも可能性あり。

履修上の注意点

大学の図書館やメディアセンターを活用すると、資料や映画なども観ることができるので、空き時間などを無駄に使わないで自習すること。1回生のときから、文化プロデュースや地域公共政策に強い関心を持つ学生は、学外活動に参加することが出来るので、申し出ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

アニメーション監督　原恵一

著者:　浜野保樹

出版社:　晶文社

出版年:　2005年　　ISBN:　4-7949-6677-6

a50201e410

これからのアートマネジメント

著者: 中川真・小暮宣雄ほか

出版社: フィルムアート社

出版年: 2011年　　ISBN: 9784845911639

黒沢清の映画術

著者: 黒沢清

出版社: 新潮社

出版年: 2006年　　ISBN: 4-10-302851-3

新版 行政ってなんだろう

著者: 新藤宗幸

出版社: 岩波書店

出版年: 2008年　　ISBN: 4005005861

現職人事が書いた「公務員になりたい人へ」の本

著者: 大賀英徳

出版社: 実務教育出版

出版年: 2015年　　ISBN: 9784788975590

アーツマネジメント学

著者: 小暮宣雄

出版社: 水曜社

出版年: 2013年　　ISBN: 9784880653129

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 20 ）

授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 0 ）

参加度 （ 40 ）

参加度には、学外授業や文化ボランティア参加なども考慮することにします。

2018 Syllabus

科 目 名　**建築・インテリア入門**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河野　良平	

テーマ

授業の到達目標

建築・インテリア分野に関連する専門家の現状を知り、建築設計や工事監理等の業務について考える場を提供する。本学で学ぶ建築・インテリアに関する知識が、実社会においてどのように役立つのかを理解する。建築・インテリアに関する様々な業種の知識を得て、各自の考えをまとめる。また、その他の授業との関係についても考えていく。

授業の概要

建築・インテリア分野に関連する専門家の現状を知り、建築設計や工事監理等の業務について考える場を提供する。本学で学ぶ建築・インテリアに関する知識が、実社会においてどのように役立つのかを理解する。建築・インテリアに関する様々な業種の知識を得て、各自の考えをまとめる。また、その他の授業との関係についても考えていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　建築家による住宅の設計過程（1）設計全般
第3回　建築家による住宅の設計過程（2）デザイン
第4回　建築家による一般建築の設計過程
第5回　インテリアコーディネーターの実務
第6回　建設会社での実務（1）住宅の建設現場
第7回　建設会社での実務（2）一般建築の建設現場
第8回　ハウスメーカーにおける実務（1）設計
第9回　ハウスメーカーにおける実務（2）営業
第10回 リフォームにおける建築工事過程（1）住宅
第11回 リフォームにおける建築工事過程（2）一般建築
第12回 まちづくりの現状（1）仙台の事例
第13回 まちづくりの現状（2）長浜・高松の事例
第14回 不動産業界における実務
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**建築デザイン基礎**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　福本　絹代	

テーマ

三次元空間を表現できる建築パースを、スケッチで簡単に描けるようになること。

授業の到達目標

透視図法を理解し、デッサンやスケッチを通して遠近法を実感する。
　一通り下書きから着色まで学び、10分くらいで描く早描きも身につける。
　カリキュラムの最後には学内他授業の設計課題のパースを各自作成し、まとめとする。

授業の概要

透視図法を理解し、デッサンやスケッチを通して遠近法を実感する。
　一通り下書きから着色まで学び、10分くらいで描く早描きも身につける。
　カリキュラムの最後には学内他授業の設計課題のパースを各自作成し、まとめとする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　ガイダンス・透視図の理解
第2回　デッサン・スケッチ（インテリア①）
第3回　インテリアパースの下書き（一消点）
第4回　インテリアの点景
第5回　インテリアパースのマーカー着色（一消点）
第6回　デッサン・スケッチ（外観）
第7回　外観パースの下書き（二消点）
第8回　外観の点景
第9回　外観パースのマーカー着色（二消点）
第10回　デッサン・スケッチ（インテリア②）
第11回　インテリアパースの下書き（二消点）
第12回　インテリアパースのマーカー着色（二消点）
第13回　設計課題のパース作成1
第14回　設計課題のパース作成2
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

なぞっておぼえる遠近法スケッチパース　インテリア編
著者:　宮後浩
出版社:　秀和システム
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）
成績は2～3回行う試験と授業中行う課題で評価します。

2018 Syllabus

科 目 名　**観光学入門**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　谷口　知司	

テーマ

観光学の全体像を知る。

授業の到達目標

さまざまな観光の現況と、それらが社会の情報化の中でどのように変容してきたかについて理解する。

授業の概要

観光学の全般について論述する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

さまざまな調査・文献研究を授業外で要求する。それらは基本的にレポートとして提出する。

内　　容

第1回　観光とは（歴史を含む）①
第2回　観光とは（歴史を含む）②
第3回　旅行業と観光①
第4回　旅行業と観光②
第5回　鉄道会社と観光①
第6回　鉄道会社と観光②
第7回　航空産業と観光①
第8回　航空産業と観光②
第9回　ホテル・旅館業と観光①
第10回　ホテル・旅館業と観光②
第11回　土産品と観光①
第12回　土産品と観光②
第13回　ニューツーリズム①
第14回　ニューツーリズム②
第15回　まとめ

履修上の注意点

レポート等の提出機会も多くなるので積極的に取り組んでください。

教科書

これからの観光を考える
著者:　谷口知司編著
出版社:　晃洋書房
出版年:　2017　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 20 ）
3分の2以上の出席が必要です。

2018 Syllabus

科 目 名　**観光資源論Ⅰ（国内）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　福井　弘幸	

テーマ

日本の国内の観光資源について概観する。

授業の到達目標

国内の主要な観光地理を概観し、国内観光資源の全体像を理解できることを目的とする。

授業の概要

ワークブックを用いて行う。グループ発表を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回授業で小テスト及びグループ発表を行うので予習・復習が必要です。

内　　容

第1回　イントロダクション（授業の進め方、グループ分け）
第2回　北海道エリア①
第3回　北海道エリア②
第4回　東北エリア①
第5回　東北エリア②
第6回　関東エリア①
第7回　関東エリア②
第8回　中部エリア①
第9回　中部エリア②
第10回　関西エリア①
第11回　関西エリア①
第12回　中国/四国エリア①
第13回　中国/四国エリア②
第14回　九州/沖縄エリア①
第15回　九州/沖縄エリア②

履修上の注意点

毎回小テストを行うため復習が必要です。

教科書

国内観光地理（第14版）
著者:
出版社: JTB総合研究所
出版年: 2016　　ISBN:

参考書

「これからの観光を考える」
著者:　谷口知司/福井弘幸
出版社: 晃洋書房
出版年: 2017　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 10 ）	小テスト （ 60 ）
授業中課題 （ 0 ）	授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 10 ）	

3分の2以上の出席が必要です。

2018 Syllabus

科 目 名　**観光資源論Ⅱ（国外）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　谷口　知司	

テーマ

海外の観光資源について学ぶ。

授業の到達目標

海外の観光資源について概略的な知識を身に付ける。

授業の概要

グループごとに指定された地域、国の観光資源について調べ、発表する。毎回授業の初めに前の週に学んだ内容について小テストを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループごとに指定された国、地域の観光資源について報告できるように事前学習を進める。また、毎回授業開始時に小テストを行うので復習を怠らないこと。

内　容

第1回　授業の進め方。グループ発表など。
第2回　ヨーロッパの観光資源
第3回　ヨーロッパの観光資源
第4回　ヨーロッパの観光資源
第5回　アジアの観光資源
第6回　アジアの観光資源
第7回　アジアの観光資源
第8回　アメリカの観光資源
第9回　アメリカの観光資源
第10回　アメリカの観光資源
第11回　オセアニアの観光資源
第12回　オセアニアの観光資源
第13回　その他の観光資源
第14回　その他の観光資源
第15回　まとめ

履修上の注意点

授業時間の三分の二以上の出席が必要である。

教科書

海外観光地理サブノート
著者:
出版社: JTB総合研究所
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20 ）	小テスト （ 60 ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**公共政策入門**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小暮　宣雄	

テーマ

現代ビジネス学部都市環境デザイン学科公共政策コースの扉を開く

授業の到達目標

文化と都市、プロデュースと公共政策≒環境デザインの関係を広く柔軟に学ぶ。地域公共政策と文化プロデュースの関係を知る。映画（アニメ、ホラーなど）を事例として、文化をプロデュースする世界を垣間見る。

授業の概要

都市環境デザイン学科の主に公共政策コースを学びたい学生さんの最初の一歩。でも、他の学修にも役に立つと思います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

地元の自治体のニュースや情報を知るようにすること。また、古典となった映画を系統的に紹介するので、それを、ただぼんやり見るのではなく、どういうプロデュース手法がとられているのか、監督の特質とはなんだろうかなど、分析的かつ批評的に鑑賞すること。メディアセンターなどに設置してあります。東部文化会館にいって実際に鑑賞を行うので、よく地理を調べておくこと。参考文献をいくつか購入して読むこと。そのために生協読書奨励制度を活用すること。ソーシャルメディアもfacebookを活用したりブログなどを手がけたりうまく利用したりするようにしてください。名作映画の鑑賞の時間のほか、新聞など毎日公共政策などのニュースをチェックする時間を作ってください。学外授業についてのレポートについてコメントすることにします。

内　容

第1回　はじめに・・地域公共政策士の初級プログラム「文化プロデュース力養成講座」とはなにか
第2回　文化ってなんだろう～静的な捉え方と動的（社会構成的）な捉え方
第3回　地域とはなにか―都市と地方、国と国際との概念を明確にするために―
第4回　政策とはなにか、行政とはなにか
第5回　学外授業　地域の公共的ないし文化的環境を視察しイベントを体験する（東部文化会館などが候補）
第6回　地域と政策と文化との関係（互いの関係とすみわけ）
第7回　文化と政策との概略史
第8回　誕生日のあるアーツ、それが映画だ（活動写真からトーキーへ）
第9回　アニメ映画への接近（原恵一監督～「河童のクゥの夏休み」から分かること）、アニメと文化プロデュース、まちおこしとの関係
第10回　実写映画への接近1（黒沢清監督～ホラー映画は映画の本質を示すというのは本当か？）
第11回　実写映画への接近2（黒沢清監督～心理とアクション～）「東京ソナタ」を題材にして、映画は時代をどう映すのか？
第12回　映画プロデュースと地域公共との関係
第13回　文化プロデュースはまちに何をもたらすのか
第14回　私たちのまちと文化の未来へ、文化行政と企業メセナへの提案
第15回　まとめ・・・これからの公共政策コース、文化プロデュース力養成講座の予告 文化プロデュースに関わる学外での活動を随時説明する。ゲストで飛び入りのアーティストなどが夏休みのボランティア募集などに来ることも可能性あり。

履修上の注意点

大学の図書館やメディアセンターを活用すると、資料や映画なども観ることができるので、空き時間などを無駄に使わないで自習すること。1回生のときから、文化プロデュースや地域公共政策に強い関心を持つ学生は、学外活動に参加することが出来るので、申し出ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

アニメーション監督　原恵一

著者:　浜野保樹

出版社:　晶文社

出版年:　2005年　　ISBN:　4-7949-6677-6

a50201f210

これからのアートマネジメント

著者: 中川真・小暮宣雄ほか

出版社: フィルムアート社

出版年: 2011年　　ISBN: 9784845911639

黒沢清の映画術

著者: 黒沢清

出版社: 新潮社

出版年: 2006年　　ISBN: 4-10-302851-3

新版　行政ってなんだろう

著者: 新藤宗幸

出版社: 岩波書店

出版年: 2008年　　ISBN: 4005005861

現職人事が書いた「公務員になりたい人へ」の本

著者: 大賀英徳

出版社: 実務教育出版

出版年: 2015年　　ISBN: 9784788975590

アーツマネジメント学

著者: 小暮宣雄

出版社: 水曜社

出版年: 2013年　　ISBN: 9784880653129

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 20 ）

授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 0 ）

参加度（ 40 ）

参加度には、学外授業や文化ボランティア参加なども考慮することにします。

2018 Syllabus

科 目 名　**文化経済・政策論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　金武 創	

テーマ

・文化と経済との関係から、公共政策の理解を深める ・生活の豊かさと個人の自立について考える

授業の到達目標

・文化的な活動が経済によって支えられていることを理解する ・現在の経済活動が文化的な活動無しに成立し得ないことを理解する ・経済学的な視点からものを見ることができるようになる

授業の概要

・文化と経済の関係を理解し、文化経済学の基礎を身につける

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・復習として授業後の課題に取り組む（1時間）
・新聞、経済週刊誌を日常的に読むこと。特に日経流通新聞（キャリアセンターに所蔵）は就職活動にも役立ちます。

内　　容

第1回　イントロダクション：なぜ文化経済学を勉強するのか？
第2回　文化と経済との関係：経済学とはどんな学問か？
第3回　芸術と経済のジレンマ：実演芸術は商売にならない。
第4回　「コスト病」の考え方：実演芸術と共通の性質を持つ産業をさがしてみよう。
第5回　芸術作品の価格とオークション：芸術作品の値段はどのように決まるのか？
第6回　芸術作品の価格と価値：「高い」芸術作品は「よい」芸術作品か？
第7回　資産としての芸術作品：将来値上がりする芸術作品とは？
第8回　芸術文化の消費行動：蓼食う虫も好き好き？
第9回　スローライフの経済学：時間をフルに活用するということ。
第10回 創造的生産者としての芸術家：金儲けだけが仕事ではない。
第11回 文化と非営利組織の役割：文化施設は誰が運営すべきか
第12回 文化と情報の経済学：情報は誰のものか？
第13回 著作権の経済学：追求権は芸術家の味方になるか？
第14回 芸術文化の公的支援：経済的支援と表現の自由のジレンマ。
第15回 アームズ・レングスの原則：芸術支援政策とは？ ＊なお、学外講師を招いた特別授業を実地することもある

履修上の注意点

日常評価に結びつく授業中課題が毎回あります。指定された方法／手続きで課題を提出しないと出席、日常点評価は0点です。

教科書

文化経済論
著者：　金武創・阪本崇
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2005　　ISBN：

参考書

必要に応じて紹介する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 60 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅲ（都）＜＊a＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　　小暮　宣雄	

テーマ

公共政策・文化プロデュース入門(1)

授業の到達目標

公共政策の概要を知る。
文化のなかのアーツの概要と特質を知る。
公共政策のなかの文化政策の現場を体験する

授業の概要

公共政策の現場体験や文化実践とともに、教科書を音読し、文章理解を努めるようにする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中、学外授業のほか、自主的活動、アーツ鑑賞などにおいても、ノートをつけること。評価の対象とする可能性あり。授業として、数回、休日に学外にでるので、休日の予定を調整する必要がある。
授業以外にも、アーツ鑑賞、アーツボランティア、アーツマネジメント・インターンシップを行ってもらうことが必須になるので、そういう学生を歓迎する。この内容の授業順序は行事予定、アーティストなどの事情で自由に入れ替わる。ゼミなので、テストやレポート発表へのコメントの他、毎回、フィールドバックするようにする。時間をかけて独自のフィールドワークをすること。それとともに、日頃から新聞を読む事。

内　　容

第1回　オリエンテーション・・・話すこと、メモること、聞き取ること
第2回　文化概論・・・自然と文化、地域と公共と文化との関係
第3回　アーツ概論・・文化の分類、術の分類、アーツの分類、行政、公共政策と芸術文化の関係
第4回　行政とは・・・三権分立、国の省庁の仕組み
第5回　学外授業1・・・まち歩きしながら地域の公共文化施設を見学する
第6回　『地方自治講義』を輪読する①　行政サービスと暮らし
第7回　『地方自治講義』を輪読する②　地方自治の意義
第8回　『地方自治講義』を輪読する③　地域経済政策とは何か
第9回　『地方自治講義』を輪読する④　自治体の組織
第10回 『地方自治講義』を輪読する⑤　自治体の財政
第11回 『地方自治講義』を輪読する⑥　国と自治体の関係
第12回 学外授業2・・・文化イベントに参加する
第13回 確認テスト
第14回 学生自身の発表
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

地方自治講義
著者:　今井照
出版社: 筑摩書房
出版年: 2017　　ISBN:　9784480069467

参考書

ローカル志向の時代 働き方、産業、経済を考えるヒント
著者:　松永桂子
出版社: 光文社
出版年: 2015年　　ISBN:　9784334038915

奇跡の村―地方は「人」で再生する
著者:　相川俊英
出版社: 集英社
出版年: 2015年　　ISBN:　9784087208047

成績評価

a50202aa10

試験・レポート （ 0 ）　　小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ 0 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 50 ）
記録として、ノート、ブログ、ツイッターなどを活用していく。
めくるめく紙芝居プロジェクト　https://www.facebook.com/mekmekY

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅲ（都）＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　谷口　知司	

テーマ

観光文化、観光ビジネス、観光情報、文化資源の情報化

授業の到達目標

世界中で年間10億人近くの人々が観光目的で移動していると言われています。こうした現状から観光は、それを担う21世紀最大の産業と言われています。本年度は観光情報を主テーマとして研究するとともに、ゼミプロジェクトである「こだわり市場」や「修学旅行プロジェクト」などについて3年生ゼミ生とともに取り組む。

授業の概要

シラバスの順番に授業を進めるが、あわせてゼミで展開するいろいろな企画等の学習をおこなう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループに分けて、各種課題について調査・研究および発表を課すので、授業時間外の学習は必須である。

内　容

第1回　基礎演習の進め方
第2回　観光情報について
第3回　観光情報誌等の分析1
第4回　観光情報誌等の分析2
第5回　観光情報誌等の分析3
第6回　観光情報誌等の分析4
第7回　課題報告
第8回　課題報告
第9回　こだわり市場、修学旅行プロジェクトなどの説明
第10回 こだわり市場、修学旅行プロジェクトなどの活動
第11回 こだわり市場、修学旅行プロジェクトなどの活動
第12回 こだわり市場、修学旅行プロジェクトなどの活動
第13回 こだわり市場、修学旅行プロジェクトなどの活動
第14回 活動についての報告
第15回 活動についての報告、まとめ
※なお、この授業では必要に応じて特別講演会を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

これからの観光を考える
著者:　谷口知司編著
出版社:　晃洋書房
出版年:　2017　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 30 ）
3分の2以上の出席が必要です。

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅲ（都）〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　福井　弘幸	

テーマ

社会や地域の課題に対しての観光による解決を図る基礎学力の習得。

授業の到達目標

政府は観光振興を21世紀の日本の重要な政策の柱として明確に位置づけ施策を計画的に推進しており、観光振興と地域振興が一帯であることも示している。
ゼミでは、観光による課題解決へのプロセスを構築できる基礎学力を身につけることを目標とする。

授業の概要

・グループで教科書の輪講を行い、全体での議論を行う。
・学外企画への参加、調査・研究等を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・グループに分け、調査・研究、場合により上級生との合同研究もあ るため授業時間外の学習は必須になる。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　輪講1（観光マーケティングマネジメント①）
第3回　輪講1（観光マーケティングマネジメント②）
第4回　輪講2（地域の観光まちづくり事業①）
第5回　輪講2（地域の観光まちづくり事業②）
第6回　輪講3（地域ブランドの構築①）
第7回　輪講3（地域ブランドの構築②）
第8回　輪講4（地域のインバウンド事業①）
第9回　輪講4（地域のインバウンド事業②）
第10回　課題発表
第11回　観光によるまちづくり研究①
第12回　観光によるまちづくり研究②
第13回　観光によるまちづくり研究③
第14回　観光によるまちづくり研究④
第15回　まとめ

履修上の注意点

・発表等を重視するので、授業の出席が前提となる。
・英語Ⅲ（観光英語）は履修指定になります。
・必要に応じて学外授業/特別講演会ををを行う場合がある。

教科書

1からの観光事業論
著者:　高橋一夫/柏木千春
出版社:　碩学社
出版年:　2016　　ISBN:

参考書

これからの観光を考える
著者:　谷口知司/福井弘幸
出版社:　晃洋書房
出版年:　2017　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（０）　　小テスト（０）
授業中課題（３０）　　授業中発表等（４０）
参加度（３０）

a50202aa13

・参加度（出席状況、受講態度、ゼミでの役割分担、運営上の貢献度等を含　む）と、教科書要約・発表内容等を重視し、その他のレポートも含め総合　的にみて評価する。
・3分の2以上の出席が必要です。

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅲ（都）＜＊d＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　北村　義典	

テーマ

建築設計と環境デザインの理解(1)
（美しく居心地の良い空間を理解する）

授業の到達目標

美しく居心地の良い空間を住宅や小型商業施設の中に求め、その魅力の源泉を探る。さらに設計図をトレースすることで空間創作力を養う。

授業の概要

前半は提示された課題を検討し、後半は自らの課題を設定し調査発表する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

関連図書・作品集の読解や建築・芸術系展示会等の見学を通じ、自らの創作意欲を高める。

内　容

第1回　ガイダンス（住宅の歴史と地域性について）
第2回　伝統建築（民家）
第3回　伝統建築（商家）
第4回　モダニズム住宅（1）
第5回　モダニズム住宅（2）
第6回　ポストモダン住宅
第7回　コンテクシャリズム（1）
第8回　コンテクシャリズム（2）
第9回　住宅・商業施設の調査（1）
第10回　住宅・商業施設の調査（2）
第11回　トレース、空間把握
第12回　プレゼンテーションボード制作
第13回　発表・ディスカッション（1）
第14回　発表・ディスカッション（2）
第15回　講評

履修上の注意点

調査にはカメラ、スケッチブックを携行する。

教科書

毎回、必要な資料を配布する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅲ（都）＜＊e＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　河野　良平	

テーマ

建築家やインテリアデザイナーについて調べる

授業の到達目標

普段から興味を持っている建築家やインテリアデザイナーについて時間をかけて調べ、自分の関心がどこにあるのかを確認する。

授業の概要

各自が調べたことをレジュメを用いて発表する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　見学
第3回　見学
第4回　発表1
第5回　発表1
第6回　発表1
第7回　発表1
第8回　発表2
第9回　発表2
第10回　発表2
第11回　発表2
第12回　発表3
第13回　発表3
第14回　発表3
第15回　発表3 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅲ（都）＜＊f＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　　半海　宏一	

テーマ

住まいを探る

授業の到達目標

興味のある「住まい」調べることで、住宅設計の基礎知識を身につけ、これからの住まいのあり方を考える。普段の生活を意識し、身の周りの空間寸法や暮らしについての知識習得を目指す。頭で考え、手を動かし、相手に伝えるためのプレゼンテーション能力を習得する。

授業の概要

文献等を中心に「住まい」について調べ、実際にプランをトレースする 。トレース後に空間分析を行った上で、各自まとめたことを発表する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

「住まい」を意識することで普段の生活についても関心をもつ。また、身の周りの空間寸法の確認や興味のある住まい・住宅・空間を集めたり、調べたりする。

内　　容

第1回　ガイダンス・住まいについて
第2回　発表・質疑応答
第3回　発表・質疑応答
第4回　発表・質疑応答
第5回　発表・質疑応答
第6回　発表・質疑応答
第7回　図面トレース
第8回　図面トレース
第9回　図面トレース・空間分析
第10回　図面トレース・空間分析
第11回　発表・質疑応答
第12回　発表・質疑応答
第13回　発表・質疑応答
第14回　発表・質疑応答
第15回　発表・質疑応答・授業まとめ

履修上の注意点

※この授業では、必要に応じて、学外での授業を行うことがある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ（都）＜＊a＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　　小暮　宣雄	

テーマ

公共政策・文化プロデュース入門(2)

授業の到達目標

公共政策の事例を調べ語れるようになる
文化プロデュースとまちづくりの関係が分かるようになる
公共政策のなかの文化政策の現場から学ぶようになる

授業の概要

公共政策の現場体験や文化実践とともに、教科書を音読し、要点をまとめ、専門研究の基礎を形成する。
文献をきちんと読み、レジュメづくりができ、丁寧に発表、質問とその応答ができるように授業を実施する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中、学外授業のほか、自主的活動、アーツ鑑賞などにおいても、ノートをつけること。評価の対象とする可能性あり。授業として、数回、休日に学外にでるので、休日の予定を調整する必要がある。
授業以外にも、アーツ鑑賞、アーツボランティア、アーツマネジメント・インターンシップを行ってもらうことが必須になるので、そういう学生を歓迎する。この内容の授業順序は行事予定、アーティストなどの事情で自由に入れ替わる。ゼミなので、テストやレポート発表へのコメントの他、毎回、フィールドバックするようにする。時間をかけて独自のフィールドワークをすること。それとともに、日頃から新聞を読むこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　夏休みの体験報告
第3回　文化プロデュースと公共政策の概要を話し合う
第4回　芸術と行政の関係についての概要をチェックする
第5回　『稼ぐまちが地方を変える』を輪読する①　自立型まちづくり
第6回　『稼ぐまちが地方を変える』を輪読する②　まち会社
第7回　『稼ぐまちが地方を変える』を輪読する③　域内循環
第8回　『稼ぐまちが地方を変える』を輪読する④　　自立した「民」
第9回　『稼ぐまちが地方を変える』を輪読する⑤　行政と協働
第10回 企業経営と地域経営の関係を具体例を使って理解する
第11回 学外授業：まちの芸術文化環境づくりを知ろう（予定は京都市内）
第12回 文献レジュメづくりワーク
第13回 レジュメによる発表の心得と発表1
第14回 レジュメによる発表2
第15回 レジュメによる発表3　まとめ～地域の自立と文化の役割

履修上の注意点

教科書を早めに買って熟読し、毎回教室に持参すること。

教科書

稼ぐまちが地方を変える―誰も言わなかった10の鉄則―
著者：　木下斉
出版社：NHK出版
出版年：2015年　　ISBN：　978414088460

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 10 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ（都）＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　谷口　知司	

テーマ

観光文化、観光ビジネス、観光情報、文化資源の情報化

授業の到達目標

世界中で年間10億人近くの人々が観光目的で移動していると言われています。こうした現状から観光は、それを担う21世紀最大の産業と言われています。本年度は観光情報を主テーマとして研究するとともに、ゼミプロジェクトである「こだわり市場」や「修学旅行プロジェクト」などについて3年生ゼミ生とともに取り組む。

授業の概要

観光情報を駆使しさまざまな観光地について調べるとともに、各種プロジェクトを進める。シラバス上では別個に記述されているが、並行して行う場合がある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループ学習で、ゼミの授業時間外の活動も多くあるので積極的に参加する必要がある。

内　容

第1回　各種観光情報を駆使して観光地について調べる。
第2回　各種観光情報を駆使して観光地について調べる。
第3回　各種観光情報を駆使して観光地について調べる。
第4回　各種観光情報を駆使して観光地について調べる。
第5回　研究報告
第6回　研究報告
第7回　こだわり市場、修学旅行プロジェクトなどの活動を行う。
第8回　こだわり市場、修学旅行プロジェクトなどの活動を行う。
第9回　こだわり市場、修学旅行プロジェクトなどの活動を行う。
第10回　こだわり市場、修学旅行プロジェクトなどの活動を行う。
第11回　京都まちなかアーカイブ事前研究1
第12回　京都まちなかアーカイブ事前研究2
第13回　京都まちなかアーカイブ事前研究3
第14回　京都まちなかアーカイブを行う。
第15回　課題発表
※なお、この授業では必要に応じて外部講師による特別講演会を行うことがある。

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。

教科書

使用しない。

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

これからの観光を考える

著者:　谷口知司・福井弘幸編著
出版社:　晃洋書房
出版年:　2017　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 30 ）
学外研修への参加も成績評価に入ります。

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ（都）＜＊c＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　福井　弘幸	

テーマ

社会や地域の課題に対しての観光による解決を図る基礎学力の習得。

授業の到達目標

政府は観光振興を21世紀の日本の重要な政策の柱として明確に位置づけ施策を計画的に推進しており、観光振興と地域振興が一帯であることも示している。
ゼミでは、観光による課題解決へのプロセスを構築できる基礎学力を身につけることを目標とする。

授業の概要

・グループで教科書の輪講を行い、全体での議論を行う。
・学外企画への参加、調査・研究等を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・グループに分け、調査・研究、場合により上級生との合同研究もあるため授業時間外の学習は必須になる。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　観光によるまちづくり研究⑤
第3回　観光によるまちづくり研究⑥
第4回　観光によるまちづくり研究⑦
第5回　観光によるまちづくり研究⑧
第6回　輪講5（旅行業①）
第7回　輪講5（旅行業②）
第8回　輪講6（観光マネジメント特性①）
第9回　輪講6（観光マネジメント特性②）
第10回　学外授業
第11回　将来の進路学習会
第12回　海外旅行商品造成①
第13回　海外旅行商品造成②
第14回　海外旅行商品造成③
第15回　まとめ

履修上の注意点

・発表等を重視するので授業の出席が前提となる。
・英語Ⅳ（観光英語）は履修指定になります。
・必要に応じて学外授業/特別講演会を行う場合がある。

教科書

1からの観光事業論
著者:　高橋一夫/柏木千春
出版社:　碩学社
出版年:　2016　　ISBN:

参考書

これからの観光を考える
著者:　谷口知司/福井弘幸
出版社:　晃洋書房
出版年:　2017　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（０）　　小テスト（０）
授業中課題（３０）　　授業中発表等（４０）
参加度（３０）

a50202ab53

・参加度（出席状況、受講態度、ゼミでの役割分担、運営上の貢献度等を含　む）と、教科書要約・発表内容等を重視し、その他のレポートも含め総合　的にみて評価する。学外授業を行う場合がある。
・3分の2以上の出席が必要です。

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ（都）＜＊d＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　北村　義典	

テーマ

建築設計と環境デザインの理解（2）
（建築と環境の関連性を理解する）

授業の到達目標

暮らしと環境の関連を自然や風土の視点から学習し、環境共生型デザインを理解し、その設計手法を習得する。

授業の概要

前半は提示された課題を検討し、後半は自ら課題を設定し調査発表する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

関連図書・作品集の読解や建築・芸術系展示会等の見学を通じ、自らの創作意欲を高める。

内　容

第1回　ガイダンス（環境デザインについて）
第2回　地域性と生活文化（森と砂漠の文化圏）
第3回　都市住宅の課題
第4回　環境共生型デザイン（ロングライフ）
第5回　環境共生型住宅（エコハウス）
第6回　ランドスケープデザイン（造園）
第7回　環境デザイン（街並み整備）
第8回　京都の環境
第9回　環境デザインの調査（1）
第10回　環境デザインの調査（2）
第11回　トレース、空間把握
第12回　プレゼンテーションボード制作
第13回　発表、ディスカッション（1）
第14回　発表、ディスカッション（2）
第15回　講評

履修上の注意点

調査にはカメラ、スケッチブックを携行する

教科書

毎回、必要な資料を配布
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ（都）＜＊e＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　河野　良平	

テーマ

建築の見学と駅ナカアートの制作

授業の到達目標

建築や空間の良さを知り、実際に制作することからアイデアを形にする楽しさを学ぶ。

授業の概要

京都にある建築やインテリアを見学し、実際の空間とその特徴や良さを体験する。地下鉄・椥辻駅の壁面装飾作品を制作し、作品の制作過程を知る。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

普段から建築やインテリアの情報を積極的に収集すること。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　見学1
第3回　見学2
第4回　見学3
第5回　発表1
第6回　発表1
第7回　発表1
第8回　発表2
第9回　発表2
第10回　発表2
第11回　作品制作1
第12回　作品制作2
第13回　作品制作3
第14回　作品制作4
第15回　まとめ、作品の設置など　※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ（都）＜＊f＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　半海　宏一	

テーマ

グループで建築を考える

授業の到達目標

グループワークを通じて、コミュニケーション能力を高める。協調性が必要となるが、その中でも自分の意見がしっかりと発言できること。他人の意見をしっかりと受け止められる環境をグループでつくり出せるようにする。

授業の概要

3、4人でグループを組み、ひとつのテーマについて考える。コンセプトワークから設計や製作、プレゼンテーションまでグループで行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループワークを基本にゼミを展開するので、グループ内で決まりごとをつくる。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　グループワーク
第3回　グループワーク
第4回　グループワーク
第5回　グループワーク
第6回　コンセプト検討・エスキース
第7回　コンセプト検討・エスキース
第8回　コンセプト検討・エスキース
第9回　設計製作
第10回　設計製作
第11回　設計製作
第12回　設計製作
第13回　発表・質疑応答
第14回　発表・質疑応答
第15回　グループワーク反省会・授業まとめ

履修上の注意点

※この授業では、必要に応じて学外での授業を行うことがある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**まちづくり論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山岸　達矢	

テーマ

社会問題の解決に向けた地域での取り組み

授業の到達目標

・都市で起きている社会問題について理解し、説明できるようになる。
・社会問題の解決や地域の魅力を高めるための仕組みと事業について理解し、説明できるようになる。
・まちづくりを実施する際に生じている課題を理解し、成功させるための提案ができるようになる。

授業の概要

「まちづくり」とは、社会問題の解決や地域の魅力向上に向けて地域で展開される事業と仕組みのことである。まちづくりは、多様な主体が資源を持ち寄って連携することで実現する。この授業では、まちづくりが必要とされるテーマの背景について学びつつ、まちづくりの実践から、まちづくりが促進する要素を探求する。地域で起きていることに日頃から意識的に着目するために、授業内で発表する機会を設ける。必要に応じて現場への訪問や、現場で活躍する方をゲストスピーカーとして招くことがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　「まちづくり」とは何か
第3回　まちづくりの担い手
第4回　日本社会の都市化の変遷
第5回　高齢社会のまちづくり
第6回　人口減少社会のまちづくり
第7回　日本の都市空間の成り立ち
第8回　都市計画に関連する法制度
第9回　NPOによる取り組み
第10回　産官学民の協働による取り組み
第11回　自治体政策への市民参加
第12回　条例によるまちづくり
第13回　景観保全
第14回　住環境の保全策
第15回　総論

履修上の注意点

教科書

都市計画とまちづくりがわかる本　第二版
著者:　伊藤雅春・小林郁雄ほか
出版社: 彰国社
出版年: 2017　　ISBN:

参考書

まちづくりの仕事ガイドブック まちの未来をつくる63の働き方
著者:　饗庭伸・山崎亮・小泉瑛一編著
出版社: 学芸出版社
出版年: 2016　　ISBN:

人口減少時代の都市計画 まちづくり制度と戦略
著者:　大西隆編著
出版社: 学芸出版社
出版年: 2011　　ISBN:

a50202d150

京都の地域力再生と協働の実践

著者: 新川達郎編

出版社: 法律文化社

出版年: 2013 ISBN:

住環境保全の公共政策―都市景観とまちづくり条例の観点から

著者: 山岸達矢

出版社: 法政大学出版局

出版年: 2016 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 70 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ 30 ）

参加度 （ ）

2018 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習Ⅲ <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　員　40
履修条件　「建築・インテリア設計演習Ⅰ」および「建築・インテリア設計演習Ⅱ」を修得済みであること。	クラス指定
担当者　松本　正富	

テーマ

居住をテーマとした建築やインテリアのデザイン演習

授業の到達目標

木造戸建て住宅の設計を行う。実在する敷地を想定し、容積率・建蔽率など基本的な建築基準法を満たす計画とする。建築計画や動線について考慮し、主要な室については展開図、内観パースやアクソノメトリック図を作成する。また、周辺環境に配慮し、建物の規模、形態、仕上材料や外構計画についても具体的に計画する。建築の立地する背景、都市、町並み、地形、気候などや利用者の条件等、建築を設計する上で考慮すべき条件や建築に求められる要件について学ぶ。また、木造住宅などの設計を通して、木造の架構方法を学ぶ。

授業の概要

木造戸建て住宅の設計を行う。実在する敷地を想定し、容積率・建蔽率など基本的な建築基準法を満たす計画とする。建築計画や動線について考慮し、主要な室については展開図、内観パースやアクソノメトリック図を作成する。また、周辺環境に配慮し、建物の規模、形態、仕上材料や外構計画についても具体的に計画する。建築の立地する背景、都市、町並み、地形、気候などや利用者の条件等、建築を設計する上で考慮すべき条件や建築に求められる要件について学ぶ。また、木造住宅などの設計を通して、木造の架構方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業は個人ごとのエスキスチェックが中心になるので，時間外の設計作業が多く必要になります。

内　容

第1回　課題主旨説明、設計のポイント
第2回　配置計画案の作成
第3回　平面計画案の作成
第4回　立面・断面計画案の作成
第5回　架構計画案の作成
第6回　中間発表
第7回　配置図・平面図の作成1
第8回　平面図の作成2
第9回　立面図の作成
第10回　断面図の作成
第11回　展開図、パースまたはアクソノメトリック図の作成
第12回　模型1
第13回　模型2
第14回　模型3
第15回　講評とまとめ

履修上の注意点

製図や模型製作に必要な用具，設計の参考資料等，授業準備をしっかり行ってください。
7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（0）	小テスト（0）
授業中課題（80）	授業中発表等（0）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習Ⅲ <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　員　40
履修条件　「建築・インテリア設計演習Ⅰ」および「建築・インテリア設計演習Ⅱ」を修得済みであること。	クラス指定
担当者　河野 良平	

テーマ

居住をテーマとした建築やインテリアのデザイン演習

授業の到達目標

木造戸建て住宅の設計を行う。実在する敷地を想定し、容積率・建蔽率など基本的な建築基準法を満たす計画とする。建築計画や動線について考慮し、主要な室については展開図、内観パースやアクソノメトリック図を作成する。また、周辺環境に配慮し、建物の規模、形態、仕上材料や外構計画についても具体的に計画する。建築の立地する背景、都市、町並み、地形、気候などや利用者の条件等、建築を設計する上で考慮すべき条件や建築に求められる要件について学ぶ。また、木造住宅などの設計を通して、木造の架構方法を学ぶ。

授業の概要

木造戸建て住宅の設計を行う。実在する敷地を想定し、容積率・建蔽率など基本的な建築基準法を満たす計画とする。建築計画や動線について考慮し、主要な室については展開図、内観パースやアクソノメトリック図を作成する。また、周辺環境に配慮し、建物の規模、形態、仕上材料や外構計画についても具体的に計画する。建築の立地する背景、都市、町並み、地形、気候などや利用者の条件等、建築を設計する上で考慮すべき条件や建築に求められる要件について学ぶ。また、木造住宅などの設計を通して、木造の架構方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業は個人ごとのエスキスチェックが中心になるので，時間外の設計作業が多く必要になります。

内　容

第1回　課題主旨説明、設計のポイント
第2回　配置計画案の作成
第3回　平面計画案の作成
第4回　立面・断面計画案の作成
第5回　架構計画案の作成
第6回　中間発表
第7回　配置図・平面図の作成1
第8回　平面図の作成2
第9回　立面図の作成
第10回　断面図の作成
第11回　展開図、パースまたはアクソノメトリック図の作成
第12回　模型1
第13回　模型2
第14回　模型3
第15回　講評とまとめ

履修上の注意点

製図や模型製作に必要な用具，設計の参考資料等，授業準備をしっかり行ってください。
7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（0）	小テスト（0）
授業中課題（80）	授業中発表等（0）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**建築・インテリア設計演習Ⅳ <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「建築・インテリア設計演習Ⅰ」および「建築・インテリア設計演習Ⅱ」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　北村　義典	

テーマ

授業の到達目標

4階以上の中または高層集合住宅の設計を行う。現代の様々な居住者に対応した建築計画を提案する。各住戸の平面計画と同時に周辺環境に配慮した全体計画を行う。あわせて建築基準法、設備計画や内装などの検討も行う。構造はRC造とする。他の事例について研究し、計画に反映させる。図面・模型の表現を工夫し、プレゼンテーション能力を身に付ける。

授業の概要

4階以上の中または高層集合住宅の設計を行う。現代の様々な居住者に対応した建築計画を提案する。各住戸の平面計画と同時に周辺環境に配慮した全体計画を行う。あわせて建築基準法、設備計画や内装などの検討も行う。構造はRC造とする。他の事例について研究し、計画に反映させる。図面・模型の表現を工夫し、プレゼンテーション能力を身に付ける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　課題趣旨説明、事例紹介、設計のポイント
第2回　集合住宅の事例調査発表
第3回　配置計画、全体計画案の作成
第4回　構造計画案の作成
第5回　設備計画案の作成
第6回　全体計画案の修正、建築基準法の確認
第7回　基本住戸平面計画案の作成
第8回　立面・断面・内装計画案の作成
第9回　中間発表
第10回　配置図の作成
第11回　平面図の作成
第12回　立面・断面図の作成
第13回　模型1
第14回　模型2
第15回　講評とまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 80 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**建築・インテリア設計演習Ⅳ <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「建築・インテリア設計演習Ⅰ」および「建築・インテリア設計演習Ⅱ」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　河野　良平	

テーマ

授業の到達目標

4階以上の中または高層集合住宅の設計を行う。現代の様々な居住者に対応した建築計画を提案する。各住戸の平面計画と同時に周辺環境に配慮した全体計画を行う。あわせて建築基準法、設備計画や内装などの検討も行う。構造はRC造とする。他の事例について研究し、計画に反映させる。図面・模型の表現を工夫し、プレゼンテーション能力を身に付ける。

授業の概要

4階以上の中または高層集合住宅の設計を行う。現代の様々な居住者に対応した建築計画を提案する。各住戸の平面計画と同時に周辺環境に配慮した全体計画を行う。あわせて建築基準法、設備計画や内装などの検討も行う。構造はRC造とする。他の事例について研究し、計画に反映させる。図面・模型の表現を工夫し、プレゼンテーション能力を身に付ける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　課題趣旨説明、事例紹介、設計のポイント
第2回　集合住宅の事例調査発表
第3回　配置計画、全体計画案の作成
第4回　構造計画案の作成
第5回　設備計画案の作成
第6回　全体計画案の修正、建築基準法の確認
第7回　基本住戸平面計画案の作成
第8回　立面・断面・内装計画案の作成
第9回　中間発表
第10回　配置図の作成
第11回　平面図の作成
第12回　立面・断面図の作成
第13回　模型1
第14回　模型2
第15回　講評とまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 80 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**建築計画 I**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　土井　脩史	

テーマ

建築計画の基礎を学ぶ

授業の到達目標

居住施設の計画について基本的な知識を習得する。人間の基本動作とそれに伴う必要寸法、戸建て住宅の歴史や様々な形式、各室の計画、配置計画、動線計画さらには集合住宅の種類と計画まで学ぶ。また、住宅の基本計画を実際に行うことで理解を深める。

授業の概要

居住施設の計画について基本的な知識を習得する。人間の基本動作とそれに伴う必要寸法、戸建て住宅の歴史や様々な形式、各室の計画、配置計画、動線計画さらには集合住宅の種類と計画まで学ぶ。また、住宅の基本計画を実際に行うことで理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

身の回りの寸法に関心を持ち、心地よい空間や場所の写真を撮ったり、スケッチしてみる。

内　容

第1回　ガイダンス、建築計画の役割
第2回　住活様式と住宅の変化
第3回　人間の基本動作1
第4回　人間の基本動作2
第5回　戸建住宅の配置計画
第6回　戸建住宅の平面計画
第7回　戸建住宅の各室計画
第8回　戸建住宅の基本計画1
第9回　戸建住宅の基本計画2
第10回　団地計画
第11回　集合住宅の形式と配置計画
第12回　集合住宅の平面計画
第13回　集合住宅の住戸計画1
第14回　集合住宅の住戸計画2
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

図説 やさしい建築計画
著者:　深水 浩
出版社:　学芸出版社
出版年:　2011年　　ISBN:　4761525223

参考書

住むための建築計画
著者:　佐々木誠
出版社:　彰国社
出版年:　2013年　　ISBN:

初学者の建築講座 建築計画
著者:　佐藤 考一
出版社:　市ヶ谷出版社
出版年:　2017年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）

a50202d410

授業中課題として簡単な即日設計を実施する。

2018 Syllabus

科 目 名　**建築計画Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　政木　哲也	

テーマ

ビルディングタイプ：空間ユニットの集合と公共的施設の仕組みについて

授業の到達目標

居住施設以外のビルディングタイプの計画について基本的な知識を習得する。学校教育施設、社会教育施設、医療・福祉施設、商業施設や劇場等について、具体的な事例を挙げながら検証し、簡単な基本計画を行うことで各施設の機能、動線や配置計画についての理解を深める。

授業の概要

居住施設以外のビルディングタイプの計画について基本的な知識を習得する。学校教育施設、社会教育施設、医療・福祉施設、商業施設や劇場等について、具体的な事例を挙げながら検証し、簡単な基本計画を行うことで各施設の機能、動線や配置計画についての理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

建築の計画やデザインを学ぶ上で、建築図書やマスコミ・インターネット・展覧会などを利用して魅力的な空間イメージやデザインに常日頃から触れることが重要である。また、普段何気なく利用したり目にしたりしている身近な施設を、改めて観察し、その成り立ちについて考える習慣を身につけよう。

内　容

第1回　ガイダンス、建築計画における共通事項
第2回　学校建築の歴史、学校における教育システムと各室計画
第3回　小学校の計画、計画事例
第4回　図書館の歴史、規模類型、全体計画、各室計画
第5回　図書館の計画、計画事例
第6回　美術館の歴史、全体計画、各室計画
第7回　美術館の計画、計画事例
第8回　医療福祉施設の役割、部門構成、各室計画
第9回　医療福祉施設の計画、計画事例
第10回　劇場の歴史、劇場空間の機能的特性、全体計画
第11回　演劇・音楽の場、舞台と客席の設計計画と寸法
第12回　劇場、音楽ホールの計画、計画事例
第13回　事務所の全体計画、平面計画、モヂュール計画
第14回　事務所の計画、計画事例
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

建築計画 改訂版（第三版）
著者：　佐藤考一　五十嵐太郎
出版社：　市ヶ谷出版
出版年：　2017　　ISBN：

第3版コンパクト建築設計資料集成
著者：　日本建築学会
出版社：　丸善
出版年：　2005　　ISBN：

a50202d550

図説やさしい建築計画

著者: 深水浩

出版社: 学芸出版社

出版年: 2011 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 50 ） 授業中発表等（ ）

参加度（ ）

授業は毎回出席することが望ましい。授業内課題の出題方法、出題時期、出題回数に関しては授業内において都度周知する。試験は原則最終講義後に実施する。

2018 Syllabus

科 目 名　**建築環境工学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　土井　脩史	

テーマ

地球環境と人間にやさしい建築デザインのあり方を学ぶ。

授業の到達目標

人体や建物を取り巻く多くの環境について考えることで、建築環境に関する理解を深める。建築環境工学に関する基礎的な内容を中心とする。

授業の概要

人体や建物を取り巻く多くの環境について考えることで、建築環境に関する理解を深める。建築環境工学に関する基礎的な内容を中心とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストおよびノートを用いて，予習・復習を行うこと。

内　容

第1回　ガイダンス　建築環境の概要
第2回　熱環境　　気候
第3回　熱環境　　室内気候
第4回　熱環境　　伝熱
第5回　熱環境　　結露
第6回　空気環境　　室内空気質
第7回　空気環境　　換気と通風
第8回　熱・光環境　日照と日射と建築計画
第9回　熱・光環境　日影の検討と日照調整
第10回　光環境　　採光
第11回　光環境　　照明
第12回　光環境　　色彩
第13回　音環境　　音の性質
第14回　音環境　　音響計画
第15回　都市環境　　都市環境と建築
第16回　試験

履修上の注意点

授業中は私語をしないこと。

教科書

建築環境工学（初学者の建築講座）
著者:　倉渕 隆
出版社: 市ケ谷出版社
出版年: 2011年　　ISBN:

参考書

住宅設計と環境デザイン
著者:　小泉 雅生
出版社: オーム社
出版年: 2015年　　ISBN:

世界で一番やさしいエコ住宅
著者:　ソフトユニオン
出版社: エクスナレッジ
出版年: 2014年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 70 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**都市計画論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　土井　脩史	

テーマ

都市計画に関する知識について計画理論を中心に体系的に学ぶ。都市計画の政策、動向について理解し、また都市計画による実践例を学び、現代都市のかかえる課題および将来への計画方針、手法について理解を深める。

授業の到達目標

都市計画に関する知識について都市計画法を中心に体系的に学ぶ。都市計画の政策、動向について理解し、また都市計画による実践例を学び、現代都市のかかえる課題および将来への計画方針、手法について理解を深める。加えて、都市の成り立ちや現状について国内外の事例を紹介し、都市計画を総合的に把握する。

授業の概要

都市計画に関する知識について都市計画法を中心に体系的に学ぶ。都市計画の政策，動向について理解し、また都市計画による実践例を学び，現代都市のかかえる課題および将来への計画方針，手法について理解を深める。加えて、都市の成り立ちや現状について国内外の事例を紹介し、都市計画を総合的に把握する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

講義の流れで実施する「臨地研修」などを通じて、実践例も各種紹介するので十分に参照すること。

内　容

第1回　ガイダンス　都市計画について
第2回　都市の歴史
第3回　土地利用計画
第4回　都市の交通
第5回　都市の公園緑地
第6回　都市の上下水道
第7回　都市の防災
第8回　都市の景観
第9回　都市計画の事例1　近代以前　都城
第10回　都市計画の事例2　自治都市　京都
第11回　都市計画の事例3　日本の商工都市　その1.京都
第12回　都市計画の事例4　日本の商工都市　その2.長浜
第13回　都市計画の事例5　西欧の世界都市　その1.ベルリン、ウィーン
第14回　都市計画の事例6　西欧の世界都市　その2.ロンドンほか
第15回　まとめ

履修上の注意点

※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがあります。

教科書

参考書

都市計画 第3版
著者:　川上光彦
出版社:　森北出版
出版年:　2017年　　ISBN:

職住共存の都心再生—創造的規制・誘導を目指す京都の試み
著者:　青山吉隆
出版社:　学芸出版社
出版年:　2002年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 40% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 20% ）
授業中課題としてグループ課題を実施する。グループの中で積極的に役割を担うこと。

2018 Syllabus

科 目 名　**構造計画**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　福田　浩明	

テーマ

構造と意匠（デザイン）と建築計画の相互の関係性を学ぶ

授業の到達目標

構造と意匠（デザイン）と建築計画の相互の関係性を学ぶ。
面と軸の構造概念の理解を通し、構造が直接意匠に及ぼす影響や、意匠を成立させる為の構造の重要性など具体例をあげ、業務レベルでの構造計画を実感し、理解を深める。

授業の概要

構造と意匠（デザイン）と建築計画の相互の関係性を学ぶ。
面と軸の構造概念の理解を通し、構造が直接意匠に及ぼす影響や、意匠を成立させる為の構造の重要性など具体例をあげ、業務レベルでの構造計画を実感し、理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

中間及び最終日の試験に備えて、とにかくノートを自筆でしっかりとってください。

内　容

第1回　構造計画とは
第2回　面構造と軸構造の話
第3回　柱、梁の話
第4回　木構造　在来工法
第5回　木構造　民家型工法
第6回　木構造　2×4工法
第7回　木構造　その他の工法
第8回　鉄筋コンクリート造　ラーメン構造
第9回　鉄筋コンクリート造　壁式構造
第10回 鉄筋コンクリート造　その他
第11回 鉄骨造、SRC造、他
第12回 混構造
第13回 その他の構造、工法
第14回 演習（構造模型作製等）
第15回 まとめ

履修上の注意点

3回以上の欠席は原則認めません。欠席理由は必ず前後で申し出ること

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

図説テキスト　建築構造
著者:　建築構造システム研究会
出版社: 彰国社
出版年: 2011年　第2版　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ ）

参加度 （ 40 ）
テストの点数、出席数及び興味の持ち方、発想力、コミュニケーション力などを見ます。

2018 Syllabus

科 目 名　**構造力学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　「構造力学Ｉ」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　山本　康彦	

テーマ

構造力学Ｉで学習した内容を基礎にして、構造物に生じた力が、各部材にどのように作用するかを考える。

授業の到達目標

構造物に働く力についての基本的な知識を習得し、構造物を合理的に設計する上で必要な事項を学ぶ。部材や構造物に作用する力に対して、どのように力が伝わり、どのように変形するかなどを理解するために、部材の応力度やひずみ、柱の座屈、静定構造物の変形、不静定構造物の弾性解析について練習問題を通して具体的に理解を深める。

授業の概要

構造物に働く力についての基本的な知識を習得し、構造物を合理的に設計する上で必要な事項を学ぶ。部材や構造物に作用する力に対して、どのように力が伝わり、どのように変形するかなどを理解するために、部材の応力度やひずみ、柱の座屈、静定構造物の変形、不静定構造物の弾性解析について練習問題を通して具体的に理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

次回講義範囲を、テキストを使って予習し、プリントを使って、復習する。
予習、復習で毎週1時間程度。建築物に興味を持ち、建築途中の建物があれば、どのような骨組みになっているかを常に意識し、見るようにする。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　応力度
第3回　弾性とひずみ
第4回　柱の理論1、短柱
第5回　柱の理論2、長柱
第6回　静定構造物の変形1、片持ちはり1
第7回　静定構造物の変形1、片持ちはり2
第8回　静定構造物の変形2、単純はり1
第9回　静定構造物の変形2、単純はり2
第10回　不静定構造物と解法について
第11回　不静定構造物の解析1　たわみ角法1
第12回　不静定構造物の解析1　たわみ角法2
第13回　不静定構造物の解析2　固定法1
第14回　不静定構造物の解析2　固定法2
第15回　まとめ

履修上の注意点

構造力学は、1回1回の講義の積み重ねで、理解していく科目です。毎回受講の際には必ずノートを取り、確実に理解してください。欠席した際は、講義範囲をテキストを使って学習し、理解不十分な範囲は、必ず講師に質問をし、次回の講義に支障の無いように努めてください。

教科書

改訂版　図説　やさしい構造力学
著者:　浅野清昭
出版社: (株)学芸出版社
出版年: 2017年　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 50 ）

a50202d910

講義時に使用するプリント類からも、試験問題を出題するため、毎回の講義にしっかりと出席することが、好成績を取る事にも繋がります。

2018 Syllabus

科 目 名　**CAD演習Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　松本 正富	

テーマ

3次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション

授業の到達目標

建築製図用のCADソフトを使用した3次元CADをまなぶ。
モデリングの基本操作の習得から始め、照明の効果などについても学ぶことを通じて、空間デザインのスタディをさまざまに行う。

授業の概要

建築製図用のCADソフトを使用した3次元CADをまなぶ。
モデリングの基本操作の習得から始め、照明の効果などについても学ぶことを通じて、空間デザインのスタディをさまざまに行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　2次元CADの基本操作　復習
第2回　3次元CADの基本操作(1)
第3回　3次元CADの基本操作(2)
第4回　3次元CADの基本操作(3)
第5回　演習1:空間のかたちと光のかたちをデザインする(1)
第6回　演習1:空間のかたちと光のかたちをデザインする(2)
第7回　演習1:空間のかたちと光のかたちをデザインする(3)
第8回　講評
第9回　3次元CADの応用
第10回　演習2:いのりの空間をデザインする(1)
第11回　演習2:いのりの空間をデザインする(2)
第12回　演習2:いのりの空間をデザインする(3)
第13回　演習2-2:いのりの空間内を移動する(1)
第14回　演習2-2:いのりの空間内を移動する(2)
第15回　講評

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。
「CAD演習Ⅰ」を習得済みであること。

教科書

参考書

VectorworksではじめるCAD
著者:　五十嵐進
出版社:　ソーテック社
出版年:　ISBN:　9784881667330

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**CAD演習Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中山　大介	

テーマ

3次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション

授業の到達目標

建築製図用のCADソフトを使用した3次元CADをまなぶ。
モデリングの基本操作の習得から始め、照明の効果などについても学ぶことを通じて、空間デザインのスタディをさまざまに行う。

授業の概要

建築製図用のCADソフトを使用した3次元CADをまなぶ。
モデリングの基本操作の習得から始め、照明の効果などについても学ぶことを通じて、空間デザインのスタディをさまざまに行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　2次元CADの基本操作　復習
第2回　3次元CADの基本操作（1）
第3回　3次元CADの基本操作（2）
第4回　3次元CADの基本操作（3）
第5回　演習1：空間のかたちと光のかたちをデザインする（1）
第6回　演習1：空間のかたちと光のかたちをデザインする（2）
第7回　演習1：空間のかたちと光のかたちをデザインする（3）
第8回　講評
第9回　3次元CADの応用
第10回　演習2：いのりの空間をデザインする（1）
第11回　演習2：いのりの空間をデザインする（2）
第12回　演習2：いのりの空間をデザインする（3）
第13回　演習2-2：いのりの空間内を移動する（1）
第14回　演習2-2：いのりの空間内を移動する（2）
第15回　講評

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。
「CAD演習Ⅰ」を習得済みであること。

教科書

参考書

VectorworksではじめるCAD
著者：　五十嵐進
出版社：ソーテック社
出版年：　　ISBN：　9784881667330

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（　）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**都市建築文化史Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河野　良平	

テーマ

授業の到達目標

都市や建築と文化の関わりについて考察し、実務設計デザインの質を向上させる。高度に発展した都市や建築のあるところに、優れた文化が存在する。「都市建築文化Ⅰ」では海外の代表的な都市文化や建築文化の事例を中心に検証し、都市や建築の意匠上の特徴を理解しながらデザインの手法を学ぶ。

授業の概要

都市や建築と文化の関わりについて考察し、実務設計デザインの質を向上させる。高度に発展した都市や建築のあるところに、優れた文化が存在する。「都市建築文化Ⅰ」では海外の代表的な都市文化や建築文化の事例を中心に検証し、都市や建築の意匠上の特徴を理解しながらデザインの手法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　教会建築
第3回　「ローマの休日」とローマ
第4回　新古典主義と建築家
第5回　近代建築
第6回　摩天楼
第7回　パリと芸術
第8回　移動する建築
第9回　近代へのアンチテーゼ
第10回　村上春樹の小説空間
第11回　アートと都市・建築
第12回　都市と郊外
第13回　アメリカの西海岸
第14回　未来都市
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**都市建築文化史Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　伊藤　健一	

テーマ

日本の都市と建築の空間的特性

授業の到達目標

日本は島国であり，海外からの文明の流入によってさまざまな芸術が発展する一方で，文明の流入の抑制によって，芸術・文化が深まるということを繰り返してきた。この授業ではその中でも都市・建築におけるこれらの進化と深化を空間的な特性を軸に理解することを目指す。

授業の概要

毎回の授業では，いくつかの建物を取り上げ，時代的背景，社会的背景，土地の特性に加えて，作者が明らかな場合はその作者の人間性に踏み込んで，建築を分析することを特徴とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

普段より古建築を訪ねるなど，実際の体験を積み重ねていく機会をもつことを心がけて欲しい。

内　容

第1回　イントロダクション：今をよりよく行く抜くための歴史
第2回　陰影と半隔離――日本建築の構造と空間の質
第3回　概念（伽藍配置）としての建築経験――「転換期」の建築1
　　奈良時代の寺院建築
第4回　日本らしさの追求――「転換期」の建築2
　　伊勢神宮
第5回　仏教伝来以前の日本的な空間――神社建築1
第6回　場所の経験――平安初期の山岳寺院の空間
第7回　仮想現実の建築経験――「転換期」の建築3
　　平等院鳳凰堂と嚴島神社
第8回　神と仏と人間の関わりとその空間――社会・宗教と構造
第9回　プラグマティズム（実際主義）の建築――「転換期」の建築4
　　浄土寺浄土堂
第10回　居場所の自覚――住居の空間①
　　中世の支配階層のすまい
第11回　利休の茶と茶室の成立――「転換期」の建築5
第12回　桂離宮の空間
第13回　建築におけるリアリティ――――親しみを感じる空間
　　内藤廣・堀口捨己・閑谷学校
第14回　まとめ・レポート課題
　　喜びを又は悲しみを受け止めてくれる空間について
第15回　人間の野性と野生の建築――住居の空間2
　　「非」支配階層のすまい，民家

履修上の注意点

教科書

日本建築史図集
著者：　日本建築学会
出版社：彰国社
出版年：1980　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
最後の授業でレポートを作成する。

2018 Syllabus

科 目 名　**観光政策論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　金武 創	

テーマ

観光政策の基礎を理解する

授業の到達目標

観光振興の利点と問題点を学習することを通して、「観光は地域振興の万能薬ではなく、時には地域社会を混乱させる原因となりうる」ことを理解する

授業の概要

一昨年度は観光交通と観光情報、都道府県の観光戦略を重視した。昨年度は鉄道会社が果たす役割に注目した。今年度も学生の関心分野や知的水準を勘案して、シラバスで示した分野を網羅しながらも、重点分野を設けてみたい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

復習として、経済新聞や経済系週刊誌の読解を通して、最新動向を把握する（1時間）

内　容

第1回　観光の基本構造
第2回　観光とレクリエーション
第3回　観光商品
第4回　事例研究　文化遺産と観光
第5回　旅行に対する需要
第6回　パック旅行の長所と短所
第7回　旅行代理店の長所と短所
第8回　観光産業の競争
第9回　観光行動
第10回　観光交通
第11回　国際観光
第12回　観光の経済効果
第13回　観光による受益と負担
第14回　持続可能な観光　自然環境保全と市場規制
第15回　観光振興を推進する主体 ※なお、講師を招いて講演会を実施することがある。

履修上の注意点

・自分の知らない地域の観光政策、名所旧跡、時事問題にも積極的に関心をもつこと。 ・日常評価に結びつく授業中課題が毎回あります。指定された方法／手続きで課題を提出しないと出席、日常点評価は0点です。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ ）

参加度（ ）

受講人数によるが、毎回の課題提出を日常点評価（授業中課題）とするので、単に教室にいるだけでは評価の対象とならない。受講人数によって、授業内容、授業方法を変更することがある。

2018 Syllabus

科 目 名　**観光施設論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　福井　弘幸	

テーマ

観光産業の重要な役割を担う施設について理解することによる観光産業全体像の理解

授業の到達目標

観光施設で重要なホスピタリティの概念とユニバーサルデザインの理解、そして主な観光施設から最近話題のIR（統合型リゾート）まで、観光施設全般について理解を深めることを目的とします。

授業の概要

・できるだけ事例を取り上げます。
・観光施設関係のニュースについて意見を求めることがあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・課題については、期日までに提出すること。
・日頃より課題意識をもって、観光施設関係のニュース等を捉えておくこと。

内　　容

第1回　イントロダクション（授業の全体構成の説明、授業で取扱う観光施設の説明）
第2回　ホスピタリティの概念とビジネス用語としての「ホスピタリティ」
第3回　サービスの一般的意味と構造
第4回　サービスの用語法分析と観光におけるサービス、観光地におけるホスピタリティ
第5回　宿泊産業①
第6回　宿泊産業②
第7回　宿泊産業③
第8回　宿泊産業④
第9回　ブライダル産業
第10回　テーマパーク
第11回　動物園、水族館、博物館
第12回　空港及び航空関連施設
第13回　カジノと統合型リゾート（IR）
第14回　観光施設におけるユニバーサルデザイン
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

・3分の2以上の出席が必要です。 業時間外の調査・研究を課する場合があります。・講演会実施する場合があります。

教科書

プリントを配布します。

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

都度指示します。

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 60 ）
授業中課題 （ 0 ）	授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**観光ビジネス論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　福井　弘幸	

テーマ

観光ビジネスの全体像を理解する。

授業の到達目標

観光産業や自治体等におけるまちづくりで活躍できる中核的な人材を想定し、観光ビジネスの現状、仕組み、将来への展望・課題などを理解することを目標とする。

授業の概要

・現代社会において観光ビジネスがどのような役割や意義を持ち、どのような事象と関わりを持っているのか、更に観光を支え促進する仕組みに　はどのようなものがあるかなど、現代の観光に係わる様々な内容を多角　的に理解する。　・テーマに沿ってグループワークを行う。・観光ビジネスに関係のニュースについて意見を求めることがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・課題については期日までに提出すること。　・日頃より問題意識をもって、観光ビジネス関係のニュース等を捉えておくこと。

内　　容

第1回　イントロダクション（授業の全体構成の説明、観光ビジネスの意義と役割）
第2回　観光を概観する
第3回　旅行業と観光
第4回　交通機関と観光
第5回　宿泊業と観光
第6回　観光対象としての観光資源
第7回　観光情報とメディア
第8回　ニューツーリズム
第9回　インバウンド（訪日外国人旅行）
第10回　土産品と観光ビジネス（プリント）
第11回　着地型観光と日本版DMO
第12回　観光戦略ブランドと観光戦略（プリント）
第13回　世界遺産と観光
第14回　スポーツマーケティングと観光ビジネス（プリント）
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

・3分の2以上の出席が必要です。・授業時間外の調査/研究を課する場合があります。・特別講演会を行う場合があります。

教科書

これからの観光を考える
著者:　谷口知司/福井弘幸
出版社:　晃洋書房
出版年:　2017　　ISBN:

参考書

都度指示します。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 10 ）	小テスト （ 30 ）
授業中課題 （ 0 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**ニューツーリズム研究**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　金武 創	

テーマ

新版「ニューツーリズム」と観光マーケティング

授業の到達目標

観光マーケティング・消費者行動論を基礎にしながら、2000年以降の新たなニューツーリズムの利点と問題点を学習することを通して、「観光は地域振興の万能薬ではなく、時には地域社会を混乱させる原因となりうる」ことを理解する。

授業の概要

(1)国土交通省や観光庁が提唱する「ニューツーリズム」は古い概念に過ぎない。最新のニュース映像や新聞資料を活用しながら、最新事例を紹介し、ニューツーリズムのあり方を考える。(2)(1)の理解を深めるために、同時に消費者行動論からみたニューツーリズムの事例を説明する(目標達成のため、1,2回のアクティブ・ラーニングを水曜午後の学外授業として計画している)。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

復習として、経済新聞や経済系週刊誌を読んで最新動向を把握する(1時間)

内　容

第1回　観光の基本構造　マスツーリズムと古いニューツーリズム
第2回　購買プロセスと心理的プロセス1
第3回　購買プロセスと心理的プロセス2
第4回　問題認識
第5回　情報検索1
第6回　情報検索2
第7回　評価選択1
第8回　評価選択2
第9回　動機づけ
第10回　態度形成1
第11回　態度形成2
第12回　知覚1
第13回　知覚2
第14回　フロー状態と観光行動
第15回　観光まちづくりとまちづくり観光 ※なお、この授業では必要に応じて講演会を実施することがある。

履修上の注意点

日常評価に結びつく授業中課題が毎回あります。指定された方法／手続きで課題を提出しないと出席、日常点評価は0点です。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

消費者行動論
著者:　平久保直人
出版社:　ダイヤモンド社
出版年:　2005年　　ISBN:

ことばとマーケティング
著者:　松井剛
出版社:　碩学舎
出版年:　2013年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 20 ）

a50202f250

授業中課題（ 80 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

授業中の課題をまじめに取り組み、期限内に提出しないと出席が認められない

2018 Syllabus

科 目 名　**観光ビジネス実務演習Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　福井　弘幸	

テーマ

旅行業を中心に観光ビジネスの実務全般に触れることにより、その理解を深め、観光産業で求めらている人物像をイメージさせ、今後の学習、研究の指針を示す。

授業の到達目標

観光ビジネスの実務を通じ、その実務を遂行するために必要である多種多様な知識、能力のレベルを把握する。

授業の概要

観光ビジネス実務を個人単位、グループ単位でプレゼンターション及びロールプレイングを行って頂く機会が多いため積極的に参加することが必要です。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業時間外の調査が必要になってくる場合があります。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　観光ビジネス全般について
第3回　ツアーコンダクター実務①（講義）
第4回　ツアーコンダクター実務②（講義とロールプレイング）
第5回　ツアーコンダクター実務③（講義とロールプレイング）
第6回　旅行カウンター販売実務①（講義）
第7回　旅行カウンター販売実務②（講義とロールプレイング）
第8回　旅行カウンター販売実務③（講義とロールプレイング）
第9回　旅行商品造成実務①
第10回　旅行商品造成実務②
第11回　旅行商品造成実務③
第12回　旅行商品造成実務④
第13回　MICE（ Meeting：会議・研修・セミナー、Incentive travel：報奨・招待旅行、 Convention ：大会・国際会議、Event/Exhibition：イベント/展示会）ビジネス実務①
第14回　MICE（ Meeting：会議・研修・セミナー、Incentive travel：報奨・招待旅行、 Convention ：大会・国際会議、Event/Exhibition：イベント/展示会）ビジネス実務②
第15回　まとめ

履修上の注意点

・3分の2以上の出席が必要です。・外部講師を招いて特別公演/学外授業を行う場合があります。・演習の内容により計画を多少変更する場合があります。

教科書

プリントを配布します。

著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

都度指示します。

著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

「JTB時刻表」（B5版）＊旅行商品造成実務演習で使用する場合がある。

著者：
出版社：JTBパブリッシング
出版年：2018年3月号以降なら可　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

a50202f380

授業中課題（30）　　授業中発表等（30）

参加度（40）

2018 Syllabus

科 目 名　**観光ビジネス実務演習Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　福井　弘幸	

テーマ

旅行業を中心に観光ビジネスの実務全般に触れることにより、その理解を深め、観光産業で求めらている人物像をイメージさせ、今後の学習、研究の指針を示す。

授業の到達目標

観光ビジネスの実務を通じ、その実務を遂行するために必要である多種多様な知識、能力のレベルを把握する。

授業の概要

観光ビジネス実務を個人単位、グループ単位でプレゼンターション及びロールプレイングを行って頂く機会が多いため積極的に参加することが必要です。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業時間外の調査が必要になってくる場合があります。

内　　容

第1回　旅行業一般営業実務①（講義）
第2回　旅行業一般営業実務②（講義、プラン作成とロールプレイング）
第3回　旅行業一般営業実務③（講義、プラン作成とロールプレイング）
第4回　宿泊施設ビジネス実務とホスピタリティ①（講義）
第5回　宿泊施設ビジネス実務とホスピタリティ②（講義とロールプレイング）
第6回　宿泊施設ビジネス実務とホスピタリティ③（講義とロールプレイング）
第7回　中間のまとめ
第8回　訪日旅行（インバウンドビジネス）ビジネス実務①
第9回　訪日旅行（インバウンドビジネス）ビジネス実務②
第10回 ブライダルビジネス実務①
第11回 ブライダルビジネス実務②
第12回 エアポートビジネス実務①
第13回 エアポートビジネス実務②
第14回 ビジネス実務ブライダル＆エアポートビジネス実務（ロールプレイング）
第15回 まとめ

履修上の注意点

・3分の2以上の出席が必要です。前期の「観光ビジネス実務Ⅰ」を受講 しておくこと。・外部講師を招いて特別公演/学外授業を行う場合があります。・演習の内容により計画を多少変更する場合があります。

教科書

プリントを配布します。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

都度指示します。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**観光法規・経営論**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　福井 弘幸

テーマ

観光関連事業の基本的な経営とそれに関連する法規等の理解。

授業の到達目標

観光関連の各種事業活動を概観し、主として旅行業を中心に、どのような法規等の規制の中で事業活動を行っているかを理解することを目的とする。

授業の概要

・観光関連の各種事業活動を経営の面から概観し上で、具体的に法規などの規制を考察します。 ・観光法規・経営のニュースについて意見を求めることがあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・日頃より課題意識を持って観光法規・経営のニュースを捉えておくこと。

内　容

第1回　イントロダクション（授業の全体構成の説明、授業で取扱う内容の説明）
第2回　観光経営の基礎
第3回　観光政策・行政
第4回　観光まちづくり
第5回　観光行動と観光市場
第6回　交通産業経営
第7回　旅行産業経営
第8回　宿泊産業経営
第9回　旅行業法の概要1
第10回　旅行業法の概要2
第11回　旅行業約款の概要1
第12回　旅行業約款の概要2
第13回　旅行業以外の法規1
第14回　旅行業以外の法規2
第15回　まとめ

履修上の注意点

・3分の2以上の出席が必要です。

教科書

プリントを配布します。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

都度指示します。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 10 ）　　小テスト（ 60 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度 （ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**アーツマネジメント論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小暮　宣雄	

テーマ

アーツマネジメントを学ぶ入り口

授業の到達目標

アーツマネジメントが都市環境デザインにどう位置づけられるかを知る。アーツマネジメントの基礎的用語を理解し説明できる。アーツマネジメントの分類ができる。

授業の概要

古典の世界を重視して、芸術リテラシー向上に資する。アーティストやアーツマネージャーが呼びかけに来てくれることもあるので、楽しみに。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

アーツマネジメントの基本文献を紹介したり配布するので、時間外によく読んでおくこと。生協の読書奨励制度を積極的に活用するととても役立つ。芸術鑑賞と文化ボランティアの学外での活動を評価するため、その必要時間をつくること。レポートは最終日よりも前に提出してもらうことにし、それについてコメントする。

内　容

第1回　これからの予定の紹介（冒頭に、これからの演劇ダンス公演のPRだとか、美術関係のボランティア募集などの呼びかけが随時行われることがあり、そこに登場する方々は、それぞれ新進気鋭のアーツマネージャーなので、適宜、生のアーツマネジメントの姿を挿入することを促進する。）
第2回　アーツマネジメント（芸術営）の基本、本質、実践
第3回　アーツマネジメント（芸術営の定義と文化政策、まちづくりとの関係
第4回　芸術場（劇場ホール、美術館）芸術団（劇団、楽団など）
第5回　学外授業―芸術鑑賞（予定としては、栗東芸術文化会館さきらにおける障害者芸術イベント）
第6回　アーツプレース論～劇場、コンサートホール、ライブハウス、美術館、画廊の真実～
第7回　アーツ（諸芸術）の分類
第8回　伝統芸術概論―雅楽、能楽、文楽、歌舞伎
第9回　日本実演芸術概論―落語、講談、浪曲（できれば、浄瑠璃、長唄も）
第10回 アーツマネジメントの分類と歴史
第11回 文化芸術振興法と劇場法など法制度と芸術営
第12回 イベントプロデュースと芸術営の関係
第13回 非営利民間活動の公共性～アーツNPOと企業メセナ
第14回 限界芸術と先端芸術、伝統芸術、市場芸術の関係
第15回 まとめ・・・提出レポートへんもコメント

履修上の注意点

学外授業はもとより、できるだけ、現地での鑑賞・体験を行うようにすること めくるめく紙芝居プロジェクト（略してMEK）には参加が有効。 https://www.facebook.com/mekmekY

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

アーツマネジメント学
著者:　小暮宣雄
出版社:　水曜社
出版年:　2013　　ISBN:　9784880653129

文化政策学の展開
著者:　池上惇ほか
出版社:　晃洋書房
出版年:　2003　　ISBN:

a50202f610

アーツ･マネジメント概論三訂版

著者: 伊藤裕夫ほか

出版社: 水曜社

出版年: 2009 ISBN:

アーツマネジメントみち

著者: 小暮宣雄

出版社: 晃洋書房

出版年: 2003 ISBN:

分権時代の自治体文化政策

著者: 中川幾郎

出版社: 勁草書房

出版年: 2001 ISBN:

限界芸術論

著者: 鶴見俊輔

出版社: 筑摩書房

出版年: 1999 ISBN:

著作権とは何か

著者: 福井健策

出版社: 集英社

出版年: 2005 ISBN:

地域再生の罠

著者: 久繁哲之介

出版社: 筑摩書房

出版年: 2010 ISBN:

未来型サバイバル音楽論

著者: 牧村憲一ほか

出版社: 中央公論新社

出版年: 2010 ISBN:

これからのアートマネジメント

著者: 中川真ほか

出版社: フィルムアート社

出版年: 2011 ISBN:

成績評価

試験･レポート （ 40 ） 小テスト （ 20 ）

授業中課題 （ 0 ） 授業中発表等 （ 0 ）

参加度 （ 40 ）

毎回、A5版程度の用紙（出席確認を兼ねるもの）に感想や意見、時にはミニテストなどをして提出してもらう。欠席の場合はそれに替わるものをA5用紙で提出して15回をクリアすることをめざす。

2018 Syllabus

科 目 名　**展示デザイン論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　木下　達文	

テーマ

展示メディアの理解と創造

授業の到達目標

展示という空間メディアには様々なものがあるが、中でも文化空間としての展示会やイベントなどを中心とし、それら空間を伴うメディアがどのようにして企画され作られているのかを基礎理論・歴史ならび手法等を含めて学ぶ。と同時に、可能な範囲で独自の展示企画を具体的に提案し実践する（1月予定）。

授業の概要

展示の歴史，展示メディア，展示による教育活動，展示の諸形態等に関する理論および方法に関する知識・技術を習得し、展示機能に関する基礎的能力を養うとともに、簡単な展示実践を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

身の回りにはさまざまな空間があり、何らかの意図をもって作られている。美術館や博物館などの文化的空間から、イベント・ショールームなどの商業的空間に至るまでの展示メディア表現に関心をもち社会を見つめてみる。

内　容

第1回　展示メディアとは（展示の概念）
展示を一つのコミュニケーションメディアとしてとらえ、その空間的時間的特性について考える。

第2回　展示の種類（形態）
展示には閉ざされた空間における小さいものから、インスタレーションのような環境展示というものもある。大まかな展示の種類を説明する。

第3回　展示および展示論の歴史
展示の世界は日本では1970年の大阪万博から開花していく、その後の展示の歴史と、展示学の流れについての概略を説明する。

第4回　展示の政治性と社会性
展示はその規模が大きくなればなるほど政治的特色が強くなる。とくに大型展示などを例にあげながら政治性・社会性について説明する。

第5回　展示のプロセス（企画・設計・製作等）
展示をつくるプロセスは映画制作とよく似ている。基本調査構想から製作までの一連の流れについて概説する。

第6回　展示の手法（展示技術）
展示は実物を使うケース展示から、1分の1実大再構成展示に至るまで様々である。そうした基本的な展示手法について説明する。

第7回　展示と研究
展示は固定的なものであり、嘘ができない。そのため時代考証など緻密な研究の裏付けが必要であり、また研究成果の場でもあることを説明する

第8回　展示と運営
展示は完成すれば終わりではない。そこから様々な運営サービス・管理が行われる。ここでは基本的な展示場での活動について説明する。

第9回　展示と解説
展示はコミュニケーションメディアであるから、その伝え方も多様である。パネルによる解説から機械・人による解説までの手法を説明する。

第10回　展示とその記録（図録、解説、資料等）
とくに仮設的な展示は、そのイベントが終了すると何も残らない。そこで、展示記録としての図録や解説などの資料について説明する。

第11回　特別講義
実際に展示を企画・設計・製作している人から、ある例を題材としながら具体的な展開とその問題点などについて考える。

第12回　展示の企画実践
これまでの学習をもとに自分たちでオリジナルな展示企画を考える。考えてものを企画資料としてまとめてみる。

第13回　展示の製作実践
企画で考えた展示について実際に簡単な製作を行う。自分たちなりにできる素材を集め、展示そのものをつくりあげてみる。

第14回　展示の運営実践
つくりあげた展示を利用者に提供する。運営管理を学びながら、教育プログラムやアンケートなどもとり、展示評価の素材としていく。

第15回　展示の評価と改善・更新
展示は実施して終わりではなく、いろんな場面でチェック（評価）をしていくことがつぎの改善に繋がる。実践例をもとに評価について考える。

履修上の注意点

※授業の内容によって多少変更をする場合もある。
※グループワークを主体として授業を進めるため、オリエンテーションを除き欠席は3回までとしているのと、後半は授業外の調整や制作作業（かなり大変です）などがあるため、良く考えて履修をすること。

a50202g050

教科書

参考書

展示学事典

著者: 日本展示学会編

出版社: ぎょうせい

出版年: 1996 ISBN:

イベント講座

著者: 日本イベント産業振興協会

出版社: 日本イベント産業振興協会

出版年: 2004 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ） 小テスト（ 0 ）

授業中課題（ 30 ） 授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 40 ）

グループワークを組み合わせた授業方法にて進めるのと、展示創造に必要な責任感の向上を図るため、出席点をかなり厳しくしている。また、後半の展示創造プログラムでは授業外での連絡調整や制作作業などがある。

2018 Syllabus

科 目 名　**ビジュアルアーツ演習 〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　清水　俊洋	

テーマ

美的表現が感動を起こす作用の理解とデザイン制作実践（※主に視覚芸術の領域における）

授業の到達目標

昨今の「美」の基準が多様化する中で、「発案としての芸術」と「解決としてのデザイン」はそれぞれの影響を受け、進化し続けている。「芸術」と「デザイン」と便宜上領域が分けられているそれぞれの作品のあいだでも、その感動をもよおす効果が共通している例が多く見受けられる。舞台公演の宣伝美術（ちらし）デザイナー・舞台写真家として活動してきた講師が芸術とデザイン双方を横断しつつ、美しさとは／芸術性とは何かを学生の皆さんと一緒に探りつつ、デザイン・写真撮影スキルの習得も目指します。

授業の概要

（1）視覚芸術の名作（現代美術・グラフィックデザイン・写真・映像など）の鑑賞と分析・説明　（2）Illustrator・Photoshopを用いたデザイン制作の実践　（3）写真撮影実習とPhotoshopをつかった修整作業の実践

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

PhotoshopやIllustratorといったソフトは触っている時間が長ければ長いほど上達します。情報メディアセンターのPCを可能な限り使ってPhotoshopやIllustratorに慣れるようにしてください。

内　容

第1回　文字をみる・文字をつくる … タイポグラフィー制作
第2回　文字をみる・文字をつくる … 自分のシンボルマークを考える
第3回　文字をみる・文字をつくる … 自分のシンボルマークをつくってみる
第4回　Illustratorでイラストを描く
第5回　文字をみる・文字をつくる … ABCのデザイン
第6回　文字をみる・文字をつくる … ABCのデザイン
第7回　文字をみる・文字をつくる … ABCのデザイン
第8回　文字をみる・文字をつくる … 名刺制作
第9回　文字をみる・文字をつくる … 名刺制作
第10回　店舗企画とデザイン … スイーツのお店の宣伝ちらしデザイン
第11回　店舗企画とデザイン … スイーツのお店の宣伝ちらしデザイン
第12回　商品広告写真を撮る
第13回　心にひびくことばを考える …キャッチコピー
第14回　見る人に伝わる商品広告をつくる
第15回　見る人に伝わる商品広告をつくる
第16回　最終試験（60分ほどの時間内でデザイン作品制作・提出）

履修上の注意点

PhotoshopやIllustratorといったソフトは触っている時間が長ければ長いほど上達します。情報メディアセンターのPCを可能な限り使ってPhotoshopやIllustratorに慣れるようにしてください。

教科書

参考書

フライヤーのレイアウト
著者:　志賀 隆生
出版社: ビー・エヌ・エヌ新社
出版年: 2007　　ISBN:　978-4861005442

タイポグラフィの基本ルール
著者:　大崎 善治
出版社: ソフトバンククリエイティブ
出版年: 2010　　ISBN:　978-4797359220

a50202g250

なぜ、これがアートなの?

著者: アメリア アレナス

出版社: 淡交社

出版年: 1998 ISBN: 978-4473015785

成績評価

試験・レポート（ 30 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 30 ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 40 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**ビジュアルアーツ演習 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　清水 俊洋	

テーマ

美的表現が感動を起こす作用の理解とデザイン制作実践（※主に視覚芸術の領域における）

授業の到達目標

昨今の「美」の基準が多様化する中で、「発案としての芸術」と「解決としてのデザイン」はそれぞれの影響を受け、進化し続けている。「芸術」と「デザイン」と便宜上領域が分けられているそれぞれの作品のあいだでも、その感動をもよおす効果が共通している例が多く見受けられる。舞台公演の宣伝美術（ちらし）デザイナー・舞台写真家として活動してきた講師が芸術とデザイン双方を横断しつつ、美しさとは／芸術性とは何かを学生の皆さんと一緒に探りつつ、デザイン・写真撮影スキルの習得も目指します。

授業の概要

（1）視覚芸術の名作（現代美術・グラフィックデザイン・写真・映像など）の鑑賞と分析・説明　（2）Illustrator・Photoshopを用いたデザイン制作の実践　（3）写真撮影実習とPhotoshopをつかった修整作業の実践

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

PhotoshopやIllustratorといったソフトは触っている時間が長ければ長いほど上達します。情報メディアセンターのPCを可能な限り使ってPhotoshopやIllustratorに慣れるようにしてください。

内　容

第1回　文字をみる・文字をつくる … タイポグラフィー制作
第2回　文字をみる・文字をつくる … 自分のシンボルマークを考える
第3回　文字をみる・文字をつくる … 自分のシンボルマークをつくってみる
第4回　Illustratorでイラストを描く
第5回　文字をみる・文字をつくる … ABCのデザイン
第6回　文字をみる・文字をつくる … ABCのデザイン
第7回　文字をみる・文字をつくる … ABCのデザイン
第8回　文字をみる・文字をつくる … 名刺制作
第9回　文字をみる・文字をつくる … 名刺制作
第10回　店舗企画とデザイン … スイーツのお店の宣伝ちらしデザイン
第11回　店舗企画とデザイン … スイーツのお店の宣伝ちらしデザイン
第12回　商品広告写真を撮る
第13回　心にひびくことばを考える …キャッチコピー
第14回　見る人に伝わる商品広告をつくる
第15回　見る人に伝わる商品広告をつくる
第16回　最終試験（60分ほどの時間内でデザイン作品制作・提出）

履修上の注意点

PhotoshopやIllustratorといったソフトは触っている時間が長ければ長いほど上達します。情報メディアセンターのPCを可能な限り使ってPhotoshopやIllustratorに慣れるようにしてください。

教科書

参考書

フライヤーのレイアウト
著者:　志賀 隆生
出版社: ビー・エヌ・エヌ新社
出版年: 2007　　ISBN:　978-4861005442

タイポグラフィの基本ルール
著者:　大崎 善治
出版社: ソフトバンククリエイティブ
出版年: 2010　　ISBN:　978-4797359220

a50202g252

なぜ、これがアートなの?

著者: アメリア アレナス

出版社: 淡交社

出版年: 1998 ISBN: 978-4473015785

成績評価

試験・レポート（ 30 ）
小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）
授業中発表等（ ）
参加度 （ 40 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**建築施工**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　笠井　俊明.松本　孝文	

テーマ

建築物が造り出される過程や施工のポイントについて、具体的にやさしく学ぶ。建築積算についても平行して学ぶ。

授業の到達目標

建築施工における基礎的な知識を学び、一般的な建築工事のプロセスについて理解する。各工程、工種での基本的な工事内容、技術的な手法や積算方法について具体的に知ることで、施工計画や工程管理などの重要性を認識する。

授業の概要

建築施工における基礎的な知識を学び、一般的な建築工事のプロセスについて理解する。各工程、工種での基本的な工事内容、技術的な手法や積算方法について具体的に知ることで、施工計画や工程管理などの重要性を認識する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストの予習　テキスト・配布資料の復習。（毎回、前回授業の小テストをします。）日常生活から興味をもって建築施工について考える。工事現場を注意して観察する。

内　　容

第1回　建築施工について
第2回　建築生産に関わる各種業務;設計・工事発注・施工など
第3回　施工の流れと工程計画作成
第4回　仮設工事について、および、地盤強度と地盤調査
第5回　土工事と、地業工事の種類と施工法
第6回　鉄筋工事と型枠工事
第7回　コンクリートの配合と、その打設手順
第8回　鉄骨の種類と、その接合や建て方について
第9回　メーソンリー（組積）工事とプレキャストパネル
第10回　建具工事
第11回　内外装の機能材料と仕上工事
第12回　給排水・空調・電気設備工事
第13回　工事費の積算の手順
第14回　簡単な構造物の積算演習
第15回　まとめ

履修上の注意点

受講中は私語厳禁　質問は随時受けます。欠席については成績評価の対象になります。授業では配布資料の空欄を埋める。

教科書

初学者の建築講座建築施工（第三版）
著者:　中澤明夫　角田誠　砂田武則
出版社:　市ヶ谷出版社
出版年:　2017/2/10　　ISBN:　978-4-87071-4

参考書

成績評価

試験・レポート（　）　　小テスト（ 70 ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 30 ）
前回授業の小テストを毎回します。

2018 Syllabus

科 目 名　**建築法規**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　大戸　寛	

テーマ

より良い街づくりや、良い環境、安全な建物づくりをするための考え方やその法規を学ぶ。

授業の到達目標

建築物、地域や都市を計画し、それを実現するために必要な建築基準法や
関連する法令について基礎的な知識を習得する。

授業の概要

建築物、地域や都市を計画し、それを実現するために必要な建築基準法や関連する法令について基礎的な知識を習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

街を歩いているときには常に建築物の形状、周辺環境等に気を配っておくこと。授業後その細目について街や、建築の構造について再確認しておくことが大事です。

内　　容

第1回　建築基準法の概要1
第2回　建築基準法の概要2
第3回　用途と形態の制限1
第4回　用途と形態の制限2
第5回　防火対策と内装の規制1
第6回　防火対策と内装の規制2
第7回　避難施設の基準
第8回　構造強度の規制1
第9回　構造強度の規制2
第10回　環境と整備に関する基準1
第11回　環境と整備に関する基準2
第12回　建築協定・建築士法
第13回　ハートビル法・耐震改修促進法、建築業
第14回　消防法、都市計画法、品確法、その他の法令
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書を必ず準備してください。またメジャー（2m程度）を用意しておいてください。板書をする場合がありますのでノートを準備してください。

教科書

First Stage　建築法規概論
著者:　大村謙二郎　他
出版社:　実教出版株式会社
出版年:　2016年9月25日　　ISBN:　9784407340228

参考書

基本建築関係法令集
著者:
出版社:　霞ヶ関出版社
出版年:　平成28年度版　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**色彩環境論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　渡辺　安人	

テーマ

色彩感覚の世界と思われがちな色彩だが、色彩は人間の心理生理に多大な影響を及ぼす。色彩調和手法や色彩と心理生理の関係を理論的に把握し、望ましい快適環境創出の一助にする。

授業の到達目標

配色テクニックや色彩と心理生理の関係などを把握し、加えてセンスアップも図り、自分の色彩に対する考え方を明確にして実践的に応用できる力をつける。

授業の概要

色彩に関する基礎的な知識を学ぶ。色の特徴や性質、配色などを具体的な事例を見ながら理解し、建築やインテリアにおける色彩の効果や役割について考える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日頃から身の回りの色彩に意識を持つこと。理論の理解のために演習も行うので、テキストと共に、「配色カード158a(199a)日本色研事業(株)を購入すること。

内　容

第1回　ガイダンス、色とは、色彩に意識を向けよう
第2回　戦後の時代変遷と色彩に意識変遷
第3回　光と色。色の三属性(色相環)
第4回　三属性、色立体など、色彩の持つ要素の整理表現と把握の仕方(1)
第5回　三属性、混色、色彩把握の仕方(2)、トーンとイメージ
第6回　美しさとは? 実践的配色のコツ(1)
第7回　実践的配色のコツ(2)
第8回　美的形式、センスアップ方法
第9回　色彩心理、色の感情効果
第10回　色彩生理、色と知覚
第11回　目の構造、人工光源と色
第12回　嗜好色、流行色
第13回　目の仕組みや働きとユニバーサルデザイン
第14回　日本の気候風土と色彩感覚
第15回　全般解説補足　期末テスト

履修上の注意点

当然、授業中の私語は慎むこと。毎回大切な内容を講義するので、極力欠席しないように心がけること。

教科書

色彩学の実践
著者:　渡辺安人
出版社:　学芸出版社
出版年:　2005年　　ISBN:
配色カード158a(199a)
著者:
出版社:　日本色研事業(株)
出版年:　　ISBN:

参考書

色彩
著者:
出版社:　日本色研事業(株)
出版年:　　ISBN:

a50202g81g

色彩学入門

著者:

出版社: 日本色研事業(株)

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 30 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 70 ）

毎回の出席カード件コメント用紙のコメントも成績評価に反映させる。

2018 Syllabus

科 目 名　**観光情報演習 I**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　谷口　知司	

テーマ

観光にかかわるさまざまな情報および情報媒体について学ぶ。

授業の到達目標

観光という巨大産業では、観光素材や観光商品の流通・販売のためにさまざまな情報がかかわっている。これらを総合的に理解することを目的とする。

授業の概要

講義と受講者による発表で構成される。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループを編成し、指定された課題について調査、研究すること、またその成果を発表することを要求するので、調査、研究やプレゼンテーション資料等の作成は授業時間外で行う必要がある。

内　容

第1回　観光情報とは
第2回　観光情報とメディア
第3回　観光ビジネスと情報活用について①
第4回　観光ビジネスと情報活用について②
第5回　観光ビジネスと情報活用について③
第6回　観光ビジネスと情報活用について④
第7回　いろいろな観光情報
第8回　観光情報について分析する（発表を含む）①
第9回　観光情報について分析する（発表を含む）②
第10回　観光情報について分析する（発表を含む）③
第11回　観光情報について分析する（発表を含む）④
第12回　観光情報について分析する（発表を含む）⑤
第13回　観光情報について分析する（発表を含む）⑥
第14回　観光情報について分析する（発表を含む）⑦
第15回　まとめ

履修上の注意点

グループ活動による授業時間外での学習が必要になるので、積極的に参加されることを期待する。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

これからの観光を考える
著者:　谷口知司他
出版社:　晃洋書房
出版年:　2017　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 20 ）
授業時間外の活動についても参加度において加味する。

2018 Syllabus

科 目 名　**観光情報演習Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　谷口　知司	

テーマ

観光関連の歴史的な書籍や資料をデジタル情報化し公開する。

授業の到達目標

デジタル情報記録管理の一連の流れを理解する。

授業の概要

講義ののち演習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業時間外に各種の調査や作業が必要である。

内　　容

第1回　授業の概要説明、進め方など。
第2回　観光関連の歴史的な書籍、資料について。
第3回　観光関連の歴史的な書籍、資料について。
第4回　デジタルおよびデジタル情報記録について。
第5回　デジタルおよびデジタル情報記録について。
第6回　デジタルおよびデジタル情報記録について。
第7回　デジタルおよびデジタル情報記録について。
第8回　著作権および著作権処理について
第9回　著作権および著作権処理について
第10回　著作権および著作権処理について
第11回　資料のデジタル情報化と公開について作業する。
第12回　資料のデジタル情報化と公開について作業する。
第13回　資料のデジタル情報化と公開について作業する。
第14回　資料のデジタル情報化と公開について作業する。
第15回　まとめ。

履修上の注意点

授業時間の三分の二以上の出席が必要である。

教科書

デジタルアーカイブの資料基盤と開発技法
著者:　水嶋英治、谷口知司他編著
出版社: 晃洋書房
出版年: 2016　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**公共施設論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　秋期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　笠井　敏光	

テーマ

国や自治体の文化政策の変遷と公共施設の計画と運営について学ぶ。

授業の到達目標

国や自治体の文化政策と公共施設について学ぶ。法律・制度や国や自治体の文化政策の変遷の中で国公立の公共施設のあり方が大きく変わってきている。文化ホール・博物館・公民館・図書館などの事例を取り上げ、公共施設の計画と運営の課題とあり方について学ぶ。

授業の概要

国や自治体の文化政策と公共施設について学ぶ。法律・制度や国や自治体の文化政策の変遷の中で国公立の公共施設のあり方が大きく変わってきている。文化ホール・博物館・公民館・図書館などの事例を取り上げ、公共施設の計画と運営の課題とあり方について学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

図書館、博物館、文化ホールなどを利用するときには、公共施設の計画と課題の視点から観察しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション―公共施設の種類について―
第2回　日本の文化政策の変遷
第3回　文化芸術振興基本法について
第4回　文化関係予算の現状
第5回　公共施設の運営主体について
第6回　指定管理者制度の現状と課題
第7回　文化ホールの計画・運営
第8回　博物館の計画・運営
第9回　公民館の計画・運営
第10回　生涯学習センターの計画・運営
第11回　図書館の計画・運営
第12回　生涯学習センターの実際（学外現地授業）
第13回　複合型文化施設の実際（学外現地授業）
第14回　市立歴史民俗資料館の実際（学外現地授業）
第15回　まとめ

履修上の注意点

学外現地授業は、必ず出席すること。

教科書

テキストはありません
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

講義中に指示
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**法律学研究**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山岸　達矢	

テーマ

法律と社会との繋がりについて研究する

授業の到達目標

生活の中で起きる身近な出来事と法律との関わりについて説明できるようになる。

授業の概要

法律と社会の接点から生活を捉える視点を養う。そのために、憲法のなかでも主に人権に関する法制度と日常生活で起こりうる事柄との関係性について考察していく。また、それらの社会問題に対応した公共政策や行政サービスにも着目しながら学ぶ。先行研究を参照する以外に、実際に法律が関わる現場から思考するために、裁判を授業期間内に1度は傍聴し、傍聴した裁判の概略とそこで考えたことを授業で発表する機会を設ける。必要に応じて、実際の現場で活躍する方をゲストスピーカーとして招いたり、現場を訪問することがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

身近な出来事や社会で話題となっている事柄について関心を持ちながら、法律のことを学ぶ。学びをパソコンやノートに整理する。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　憲法と社会の結びつき
第3回　立憲主義とは何か
第4回　幸福追求権
第5回　法の下の平等
第6回　思想良心の自由
第7回　信仰の自由
第8回　表現の自由
第9回　学問の自由
第10回　職業選択の自由
第11回　財産権
第12回　人身の自由
第13回　国家による自由
第14回　人権を実現するための人権
第15回　国家への自由

履修上の注意点

教科書

18歳から考える人権
著者:　宍戸常寿編著
出版社: 法律文化社
出版年: 2015　　ISBN:

参考書

憲法 第六版
著者:　芦部信喜
出版社: 岩波書店
出版年: 2015　　ISBN:

地方自治講義
著者:　今井照
出版社: 筑摩書房
出版年: 2017　　ISBN:

a50202h210

憲法とは何か

著者: 長谷部恭男

出版社: 岩波書店

出版年: 2006 ISBN:

18歳からはじめる憲法 第2版

著者: 水島朝穂

出版社: 法律文化社

出版年: 2016 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ 50 ）

参加度 （ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**観光臨地演習**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　谷口　知司	

テーマ

海外観光地での臨地演習

授業の到達目標

計画に基づいて臨地演習(海外)を行う。

授業の概要

海外観光地への臨地演習のために目的地に必要な事前情報や現地情報を精査し、目的地を設定し、実際に訪問するための様々な計画を行い臨地演習を行う。なお、2017年度の臨地演習の訪問地はポルトガルであった。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業時間外での活動にも多くの時間を費やす。

内　　容

第1回　臨地演習のための事前情報や現地情報の精査ならびに実施のための計画
第2回　臨地演習のための事前情報や現地情報の精査ならびに実施のための計画
第3回　臨地演習のための事前情報や現地情報の精査ならびに実施のための計画
第4回　臨地演習のための事前情報や現地情報の精査ならびに実施のための計画
第5回　臨地演習のための事前情報や現地情報の精査ならびに実施のための計画
第6回　臨地演習のための事前情報や現地情報の精査ならびに実施のための計画
第7回　臨地演習のための事前情報や現地情報の精査ならびに実施のための計画
第8回　臨地演習のための事前情報や現地情報の精査ならびに実施のための計画
第9回　臨地演習
第10回　臨地演習
第11回　臨地演習
第12回　臨地演習
第13回　臨地演習
第14回　臨地演習
第15回　臨地演習

履修上の注意点

臨地演習は2月の中下旬(4日～7日程度)に実施する。演習のための費用は自己負担になる。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 60 ）
全般的な取り組みについて総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**建築デザイン演習 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　　相波　幸治	

テーマ

建築設計においてプレゼンテーションとは自分の「思考」をイメージや図面、テキストを用いて目に見える「かたち」に表現し、より広く伝える方法のことである。
平面図や断面図等の設計図面は表現方法の一つであるが、透視図、模型、ダイアグラム、コンセプト文を図面とあわせて表現することで、自分の思考より広く・深く伝えることができる。
本授業では建築設計のプレゼンテーションスキルを習得することを目的とする。

授業の到達目標

建築設計におけるプレゼンテーション能力の向上を目指す。CADソフトウェア及び模型作成技術、プレゼンテーションスキルを習得し、建築設計で必要な平面表現及び立体表現の技法を身につける。
　CADソフトウェアを用いて図面作成から模型作成の一連のプロセスを行い、建築設計に必要なCADの表現技法を身につけ、プレゼンテーションボードを作成する。
　進行中の設計課題あるいは、過去の設計課題、または20世紀以降の名作建築などから1作品を選びCADソフトを使用して一枚のプレゼンテーションボードを作成する。

授業の概要

建築設計におけるプレゼンテーション能力の向上を目指す。CADソフトウェア及び模型作成技術、プレゼンテーションスキルを習得し、建築設計で必要な平面表現及び立体表現の技法を身につける。
　CADソフトウェアを用いて図面作成から模型作成の一連のプロセスを行い、建築設計に必要なCADの表現技法を身につけ、プレゼンテーションボードを作成する。
　進行中の設計課題あるいは、過去の設計課題、または20世紀以降の名作建築などから1作品を選びCADソフトを使用して一枚のプレゼンテーションボードを作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

建築家の作品集または建築雑誌を各自で1冊以上手に入れる。
建築家の表現方法を広く知っておくことで、受講内容についての理解が深まるようにしておくこと。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　CAD [配置図]
第3回　CAD [外構図1-配置計画]
第4回　CAD [外構図2-植栽計画]
第5回　模型制作 [スタディモデル]
第6回　模型制作 [模型写真撮影]
第7回　Photoshop演習 1
第8回　Photoshop演習 2
第9回　Illustrator演習 1
第10回　Illustrator演習 2
第11回　課題発表
第12回　プレゼンテーション　作業1
第13回　プレゼンテーション　作業2
第14回　プレゼンテーション　レイアウト
第15回　プレゼンテーション　最終講評

履修上の注意点

課題が未提出の場合は成績が付かないので注意すること。

教科書

参考書

新建築
著者:
出版社: 新建築社
出版年:　　ISBN:

a50202h41g

a+u

著者:

出版社: 新建築社

出版年: ISBN:

住宅特集

著者:

出版社: 新建築社

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 60 ） 授業中発表等（ 10 ）

参加度（ 30 ）

課題成果品の表現力及び授業への参加度、授業内容・課題趣旨の理解度、その他総合的に評価し成績の採点する

2018 Syllabus

科 目 名　**建築デザイン演習 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　　相波　幸治	

テーマ

建築設計においてプレゼンテーションとは自分の「思考」をイメージや図面、テキストを用いて目に見える「かたち」に表現し、より広く伝える方法のことである。
平面図や断面図等の設計図面は表現方法の一つであるが、透視図、模型、ダイアグラム、コンセプト文を図面とあわせて表現することで、自分の思考より広く・深く伝えることができる。
本授業では建築設計のプレゼンテーションスキルを習得することを目的とする。

授業の到達目標

建築設計におけるプレゼンテーション能力の向上を目指す。CADソフトウェア及び模型作成技術、プレゼンテーションスキルを習得し、建築設計で必要な平面表現及び立体表現の技法を身につける。
　CADソフトウェアを用いて図面作成から模型作成の一連のプロセスを行い、建築設計に必要なCADの表現技法を身につけ、プレゼンテーションボードを作成する。
　進行中の設計課題あるいは、過去の設計課題、または20世紀以降の名作建築などから1作品を選びCADソフトを使用して一枚のプレゼンテーションボードを作成する。

授業の概要

建築設計におけるプレゼンテーション能力の向上を目指す。CADソフトウェア及び模型作成技術、プレゼンテーションスキルを習得し、建築設計で必要な平面表現及び立体表現の技法を身につける。
　CADソフトウェアを用いて図面作成から模型作成の一連のプロセスを行い、建築設計に必要なCADの表現技法を身につけ、プレゼンテーションボードを作成する。
　進行中の設計課題あるいは、過去の設計課題、または20世紀以降の名作建築などから1作品を選びCADソフトを使用して一枚のプレゼンテーションボードを作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

建築家の作品集または建築雑誌を各自で1冊以上手に入れる。
建築家の表現方法を広く知っておくことで、受講内容についての理解が深まるようにしておくこと。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　CAD [配置図]
第3回　CAD [外構図1-配置計画]
第4回　CAD [外構図2-植栽計画]
第5回　模型制作 [スタディモデル]
第6回　模型制作 [模型写真撮影]
第7回　Photoshop演習 1
第8回　Photoshop演習 2
第9回　Illustrator演習 1
第10回　Illustrator演習 2
第11回　課題発表
第12回　プレゼンテーション　作業1
第13回　プレゼンテーション　作業2
第14回　プレゼンテーション　レイアウト
第15回　プレゼンテーション　最終講評

履修上の注意点

課題が未提出の場合は成績が付かないので注意すること。

教科書

参考書

新建築
著者:
出版社: 新建築社
出版年:　　ISBN:

a50202h41h

a+u

著者:

出版社: 新建築社

出版年: ISBN:

住宅特集

著者:

出版社: 新建築社

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 60 ） 授業中発表等（ 10 ）

参加度（ 30 ）

課題成果品の表現力及び授業への参加度、授業内容・課題趣旨の理解度、その他総合的に評価し成績の採点する

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ（都）＜＊a＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　小辻　寿規	

テーマ

都市環境デザイン専門研究（1）～自己テーマの確立と基礎知識の習得～

授業の到達目標

本演習においては、個人研究だけでなくゼミ生相互の交流と共同研究を促進するためのプログラムを実施している。その過程でテーマを比較検討しながら明確にし、文献を通じて基礎的知識を養う。なお、夏休みには、アパレンティスシップ（研修活動）として、将来設計に応じたインターン的プログラムを自分自身で設計し、それらを達成していくことを目的としている。

授業の概要

前期は主にプレ共同研究の企画立案とその専門知識の学習・発表を中心として行い、個人研究についてはテーマ決めならびに文献の調査を行う。また、就職に向けた夏休みの研修活動の設計指導を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業前の復習および個人研究は基本的に学生自ら行うことなので、計画的に時間をとって進めること。ゼミでは、研究だけでなく、就職支援も積極的に行うので、将来のことを早くから考えるようにする。また、当ゼミではメールグループやメーリングリストなどインターネット環境使ったコミュニケーションと指導を適宜行う。

内　容

第1回　オリエンテーション（授業目標）、研究倫理について
第2回　自己関心発見ワークショップ
第3回　個人研究およびプレ共同研究の進め方
第4回　個人研究・将来目標の設定・夏休みの計画
第5回　プレ共同研究の企画1
第6回　プレ共同研究の企画2
第7回　プレ共同研究の企画コンペ実施
第8回　プレ共同研究の振り返り
第9回　基礎文献の収集
第10回　基礎研究の発表1
第11回　基礎研究の発表2
第12回　基礎研究の発表3
第13回　基礎研究の発表4
第14回　個人研究および就職に向けた夏休み計画の発表
第15回　総括

履修上の注意点

※演習の内容によって多少変更をする場合もある。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（0）　　小テスト（0）
授業中課題（30）　　授業中発表等（30）
参加度（40）
特に出席と授業中課題を重視します。

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ（都）＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　　小暮　宣雄	

テーマ

芸術やその他の文化を中心とした公共政策、地域づくりを研究する(1)

授業の到達目標

1)地域公共政策、文化プロデュースなどから自らの卒業研究テーマを探す
2)キャリアづくりに必要な知識や態度を形成できるようになる
3)グループ学習によって、研究する醍醐味を知る

授業の概要

教室でのディスカッションや発表のほか、個別相談も適宜行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

就職活動との連動に配慮する。アクティブ・ラーニングにも取り組む。研究発表にはそのつどフィールドバックする。研究のためにグループごとに時間を賭けることになる。
て、自分が購読すべき文献リストとスケジュールを作る課題を出すので、それに従って努力すること。
また、学外で研究成果を発表する機会を作る（紹介する）ので、積極的に参加すること。

内　容

第1回　オリエンテーション、研究倫理について
第2回　グループ研究①　4班ぐらいにグループを作り、共通の研究テーマを決める
第3回　グループ研究②　テーマのうち、政策研究発表会に出す班と、京都文化ベンチャーコンペティションに出す班を決める
第4回　グループ研究③　基礎データの調査とまとめ
第5回　グループ研究④　プレゼンテーション化（パワーポイントづくりとレポートづくり）
第6回　グループ研究⑤　4班の発表と反省会
第7回　グループ研究⑥　発表後の修正と課題確認
第8回　卒業研究に関わる準備作業①　図書館の使い方
第9回　卒業研究に関わる準備作業②　データベース、サイニー（CiNii Articles）の探し方
第10回　卒業研究に関わる準備作業③　としあえずのレジュメづくり
第11回　卒業研究に関わる準備作業④　発表と交互の質問応答によって、主題を深める
第12回　学外授業　グループごとに場所を選ぶこともできるように工夫する
第13回　キャリア体験・・・グループディスカッションや合同面接など
第14回　キャリア研究・・・キャリアセンターや公務員死線センターとの連携でキャリアづくりの意識を高める
第15回　まとめ　3回生の夏休みを研究と就活に上手に活かすために　どこかで、学外授業をもう1回することもありうる

履修上の注意点

遅刻や欠席のときは、事前に連絡すること。
13時ジャストに授業が初められるように、その前に着席しておくこと。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本映画史110年
著者:　四方田犬彦
出版社:　集英社
出版年:　2014年　　ISBN:　4087207528

J・POP文化論
著者:　宮入恭平
出版社:　彩流社
出版年:　2015年　　ISBN:　9784779170317

a50203a112

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 50 ）
日ごろの実践活動をノートに記録すること。

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ（都）<＊c>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　山岸　達矢	

テーマ

都市政策に関するテーマを見つけ卒業論文の準備を始める

授業の到達目標

・個々の学生が持っている問題意識と社会問題との接点を、より具体的に把握して他者に説明できるようになる。
・熱意の持てるテーマを見つけ、仮説を立てて研究を始める。
・卒業論文の下地となる小論文を執筆する。

授業の概要

都市政策に関する卒業論文の執筆に向けて準備する。論文を書くための方法について教科書を参照しながら、実際に作成していく。さらに、社会や都市政策に目を向けるのに有用な文献を輪読する。演習の後期では、卒業論文の下地となる小論文を執筆して発表する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　ガイダンス、研究倫理について
第2回　個々の関心のあるテーマについて発表
第3回　個々の関心のあるテーマについて発表
第4回　仮説の立て方
第5回　図書館とデータベースの活用方法
第6回　文献リストの作成
第7回　社会調査の方法
第8回　文献の輪読
第9回　文献の輪読
第10回　文献の輪読
第11回　文献の輪読
第12回　文献の輪読
第13回　文献の輪読
第14回　文献の輪読
第15回　文献の輪読

履修上の注意点

教科書

政策リサーチ入門―仮説検証による問題解決の技法
著者:　伊藤 修一郎
出版社:　東京大学出版会
出版年:　2011　　ISBN:

参考書

都市の再生を考える1~8
著者:　植田 和弘・西村 幸夫・神野 直彦・間宮 陽介編
出版社:　岩波書店
出版年:　2005　　ISBN:

市民社会論―理論と実証の最前線
著者:　坂本治也編
出版社:　法律文化社
出版年:　2017　　ISBN:

住環境保全の公共政策―都市景観とまちづくり条例の観点から
著者:　山岸達矢
出版社:　法政大学出版局
出版年:　2016　　ISBN:

a50203a113

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ（都）<＊d>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　谷口　知司	

テーマ

観光ビジネス、観光文化、観光情報と観光資源・文化資源の情報化に関する研究

授業の到達目標

観光メディア、観光情報、観光ビジネス、観光文化についての総合的な知識を身につけるとともに、観光資源や文化資源等の情報化のための基礎的な理論や技術と、その周辺的な知識・技術を習得する。また、卒業研究への発展性を考慮し、早い時点から興味のあるテーマを見つけ出すことを、あわせて要求する。
なお、併せてゼミの取り組みである「こだわり市場」や「修学旅行プロジェクト」等に積極的に取り組む。

授業の概要

演習であるため、学生の活動が中心になる。なお、シラバスではそれぞれの活動が個別に記されているが、いずれの活動も並行して進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

様々な観光資源や地域資料等の収集やその方法を身につけるためのフィールドワークを行う。

内　容

第1回　オリエンテーション、研究とその倫理について考える。
第2回　ゼミの活動と役割について。
第3回　旅（調査）をプランニングする。
　夏休み中に観光地の現地調査（観光資源調査を含む）を行う。そのための①現地予備調査（書籍・雑誌・Web・ビデオ等）をする。②現地予備調査を基に旅（調査）のプランニングをする。なお、ゼミメンバー各人が責任分担し全体を構成する。
第4回　旅（調査）をプランニングする。
第5回　旅（調査）をプランニングする。
第6回　旅（調査）をプランニングする。
第7回　旅（調査）をプランニングする。
第8回　課題についての発表
第9回　課題についての発表
第10回　こだわり市場、修学旅行プロジェクトの活動を行う。
第11回　こだわり市場、修学旅行プロジェクトの活動を行う。
第12回　こだわり市場、修学旅行プロジェクトの活動を行う。
第13回　こだわり市場、修学旅行プロジェクトの活動を行う。
第14回　こだわり市場、修学旅行プロジェクトの活動を行う。
第15回　まとめ
　※なお、この授業では必要に応じて特別講演会を行うことがある。

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。また研修旅行に参加することが必修である。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

これからの観光を考える
著者:　谷口知司・福井弘幸編著
出版社:　晃洋書房
出版年:　2017　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（0）	小テスト（0）
授業中課題（30）	授業中発表等（40）
参加度（30）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ（都）＜＊e＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　福井　弘幸	

テーマ

社会や地域の課題に対しての観光による解決を図る応用力の習得。

授業の到達目標

政府は観光振興を21世紀の日本の重要な政策の柱として明確に位置づけ施策を計画的に推進しており、観光振興と地域振興が一帯であることも示している。
ゼミでは、観光による課題解決へのプロセスを構築できる基礎学力を身につけることを目標とする。社会や地域の課題に対しての観光による解決を図る応用力の習得。

授業の概要

・グループで教科書の輪講を行い、全体での議論を行う。
・学生主体で学外企画への参加、調査・研究等を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・グループに分け、調査・研究があるため授業時間外の学習は必須になる。

内　容

第1回　ガイダンス、研究倫理について
第2回　国内旅行商品造成
第3回　国内旅行商品造成（グループワーク）1
第4回　関空旅行博覧会見学
第5回　国内旅行商品造成（グループワーク）2
第6回　国内旅行商品造成（グループ発表）3
第7回　インバウンド研究
第8回　インバウンド研究（グループワーク）1
第9回　インバウンド研究（グループワーク）2
第10回　インバウンド研究（グループ発表）3
第11回　観光によるまちづくり研究1
第12回　観光によるまちづくり研究（グループワーク）2
第13回　観光によるまちづくり研究（グループワーク）3
第14回　観光によるまちづくり研究（グループ発表）4
第15回　まとめ

履修上の注意点

・3分の2以上の出席が必要です。
・必要に応じて学外授業/特別講演会を行う場合がある。
・研究倫理授業を行いますので必ず出席のこと。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

これからの観光を考える
著者:　谷口知司/福井弘幸
出版社:　晃洋書房
出版年:　2017　　ISBN:

1からの観光事業論
著者:　高橋一夫/柏木千春
出版社:　碩学社
出版年:　2016　　ISBN:

a50203a115

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 40 ）

参加度 （ 30 ）

・参加度（出席状況、受講態度、ゼミでの役割分担、運営上の貢献度等を含　む）と、教科書要約・発表内容等を重視し、その他のレポートも含め総合　的にみて評価する。
・3分の2以上の出席が必要です。

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ（都）<＊f>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　金武 創	

テーマ

観光/文化と現代ビジネス

授業の到達目標

ビジネス・マインドを基礎に文化観光の理解を深める

授業の概要

①基本文献講読、②討論による企画立案、③卒論準備のための文章力訓練（専門演習Ⅰ，Ⅱ共通）前後期ともに都市環境デザイン学科2コースの専門的な学習を予定しているが、詳しい内容はゼミ生と相談して決める。
　他と比べて、2倍以上のゼミ学習量なので、1コース集中の他ゼミと遜色ない水準を維持できるのではないか。条件が整えば、らくたび文庫プロジェクトを実施予定である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

復習のために、経済新聞や経済誌を読んで時事問題の把握と理解に努める（1時間）

内　容

第1回　「ハイ・コンセプト」を読む①、研究倫理について
第2回　「ハイ・コンセプト」を読む②
第3回　「祭りのゆくえ」を読む①
第4回　「祭りのゆくえ」を読む②
第5回　「モチベーション3.0」を読む①
第6回　「モチベーション3.0」を読む②
第7回　観光ビジネス改善提案①
第8回　観光ビジネス改善提案②
第9回　観光ビジネス改善提案③
第10回　観光ガイド実習（基礎）準備①
第11回　観光ガイド実習（基礎）準備②
第12回　観光ガイド実習（基礎）準備③
第13回　観光ガイド実習（基礎）
第14回　高校生向けワークショップ準備
第15回　観光と公共政策のまとめ
　　※尚、この授業では必要に応じて学外授業を行う

履修上の注意点

学会大会への参加、地域連携活動への参加、サブゼミ実施、ワークショップの開催、㈱らくたびによる観光ガイド実習など、学外/時間外活動があります。事前に予定を調整します。ゼミ登録にあたり、授業登録上の注意をすでに説明済みです。不明であれば、担当教員にメールで質問してください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

ハイ・コンセプト
著者:　ピンク
出版社:　講談社
出版年:　2006　　ISBN:

モチベーション3.0
著者:　ピンク
出版社:　三笠書房
出版年:　2010　　ISBN:

成績評価

a50203a116

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 20 ）
授業出席と授業(中)課題は成績評価の最低条件です。

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ（都）<＊g>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　　土井　脩史	

テーマ

住まい・まちづくりに関するグループ研究

授業の到達目標

① 卒業論文・卒業設計の土台となる研究能力・設計能力を身につける
② グループで提案をまとめる能力を身につける

授業の概要

本ゼミでは、卒業研究（論文・設計）に向けた基礎的な検討として、3-4人1チームでグループ研究に取り組んでもらいます。研究テーマは「住まい・まちづくり」に関するものであれば自由に設定してもらって構いません。
また、必要に応じて住まい・まちづくりの先進事例の見学会を開催します。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループのメンバーとしっかりと議論をして提案をまとめてください。そのためには、講義外でのディスカッションは不可欠です。
グループの中で責任感をもって役割を担ってください。

内　容

第1回　ガイダンス、研究倫理について
第2回　研究テーマの検討
第3回　グループ作業
第4回　研究の進捗報告①
第5回　研究の進捗報告②
第6回　見学会①
第7回　見学会①の振り返り
第8回　グループ作業
第9回　研究の進捗報告③
第10回　研究の進捗報告④
第11回　見学会②
第12回　見学会②の振り返り
第13回　グループ作業
第14回　研究成果の発表①
第15回　研究成果の発表②とまとめ

履修上の注意点

当然ながら、出席は必須です。やむを得ず欠席する場合には、教員まで連絡すること。
なお、この授業では、必要に応じて学外で授業する場合があります。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

講義の中で適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 30 ）
グループの中での貢献度を重視します。

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ（都）<＊h>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　北村　義典	

テーマ

「環境構成要素」の学習及び設計演習

授業の到達目標

私たちが日常的に接している生活環境は、様々な「もの」や「こと」によって構成されている。そうした建築や都市を形作る人工環境を多面的な視点で考察することで、デザイン上の構成要素とその構造を学習し、環境造形のあり方を理解する。

授業の概要

前半は、環境構成要素の調査を通じ街の姿を学習する。後半は、具体的なテーマに沿ったグループによる環境設計演習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

関連図書・作品集の読解や建築・芸術系展示会等の見学を通じ、自らの創作意欲を高める

内　容

第1回　ガイダンス（学習領域及び授業構成の説明）、研究倫理について
第2回　環境造形の歴史及び手法論
第3回　環境構成要素（G.カレン「都市の景観」）
第4回　調査テーマ設定
第5回　調査
第6回　調査結果レポート提出及び発表
第7回　建築、環境デザイン見学
第8回　設計課題講義（国内コンペを予定）
第9回　コンセプト検討（1）
第10回　コンセプト検討（2）
第11回　設計制作（1）
第12回　設計制作（2）
第13回　ドローイング（1）
第14回　ドローイング（2）
第15回　作品発表、講評

履修上の注意点

調査にはカメラ、スケッチブックを携行する

教科書

毎回、必要な資料を配布
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

都市のイメージ
著者:　ケヴィン・リンチ
出版社:　岩波書店
出版年:　2007　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ（都）<＊i>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　松本　正富	

テーマ

現代建築家のデザイン手法についての検討

授業の到達目標

当ゼミでは，卒業研究として建築・インテリア設計作品の制作を前提とする。
様々な建築家のデザイン手法や設計に対する概念を学ぶことで，建築・インテリア設計やデザインという行為に対する興味と見識を広げる。
効果的なプレゼンテーションの技能を習得する。
ものづくりやデザインという行為の楽しさを見つけ出す。
先輩と後輩を含めたゼミ生同士の交流を深め，デザインワークを協同することの大切さを学ぶ。

授業の概要

1)各自が興味を持った建築家とその作品について調査し，パワーポイントによるプレゼンテーションを行う。
2)数回の建築見学会を開催する。
3)建築やデザイン系のコンペへの参加を奨励し，これに関わるアドバイスと支援を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

建築・美術関係の展覧会や講演会への参加，見学旅行等，デザインを学ぶ者としての積極的な活動を望む。その中で，モノを創造する際の自分なりの“こだわり”を見つけ出してくれることを期待する。
レポートやデザイン課題の多くは，授業時間外での作業となる（概ね，授業時間と同等の予習時間が必要）。
課題に関しては，その制作途中も含め，個人ごとにアドバイスを返す。

内　容

第1回　ガイダンス、研究倫理について
第2回　調査テーマの設定
第3回　プレゼンテーション-1
第4回　プレゼンテーション-2
第5回　プレゼンテーション-3
第6回　プレゼンテーション-4
第7回　プレゼンテーション-5
第8回　プレゼンテーション-6
第9回　建築見学会-1
第10回　コンペ課題コンセプト検討-1
第11回　コンペ課題コンセプト検討-2
第12回　コンペ課題ドローイング-1
第13回　コンペ課題ドローイング-2
第14回　建築見学会-2
第15回　まとめと講評
※なお、この授業では必要に応じて学外授業・特別講演会を行うことがある。

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

参考書

コンパクト設計資料集成
著者:　日本建築学会編
出版社:　丸善株式会社
出版年:　2005　　ISBN:　9784621075098

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ（都）＜＊j＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　河野　良平	

テーマ

建築作品の制作

授業の到達目標

アイデアやコンセプトを形にし、プレゼンテーションを行う。

授業の概要

コンペやアートの制作から作品を制作する過程を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

普段から建築やインテリアの情報収集を行う。

内　容

第14回　ゼミ合宿
第15回　まとめ
第1回　ガイダンス、研究倫理について
第2回　発表1
第3回　発表1
第4回　発表1
第5回　発表2
第6回　発表2
第7回　発表2
第8回　作品制作1
第9回　作品制作2
第10回　作品制作3
第11回　作品制作4
第12回　作品制作5
第13回　ゼミ合宿

履修上の注意点

ゼミ合宿を行う。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ（都）<＊k>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　政木　哲也	

テーマ

都市空間の文脈を読む

授業の到達目標

・都市空間の観察・調査を方法を実践的に身につける
・都市空間のなかから「文脈（コンテクスト）」を読み取る
・都市に対して独自性のある視点を獲得する

授業の概要

当授業では、私達を取り巻く現実の都市空間を観察・調査対象として取扱います。実際の都市空間はそのまま読み取るにはあまりに複雑で情報過多ですが、フィールドに出て新たな眼差しで都市を見つめ直すことによって、独自の都市像の獲得を試みます。基本的に、学外において観察・調査を実施し、そのあとで得た情報を言語化・図式化を行う、というプロセスを繰り返します。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日常的に自分の置かれた環境を客観的にとらえるにはどうすればよいか意識をしてください。知らない場所ではその土地の住民のように、よく知っている場所では初めて訪問した客のように都市を感じるトレーニングをしてください。

内　容

第1回　自己紹介・ガイダンスおよびテーマの発表、研究倫理について
第2回　学外授業
第3回　学外授業
第4回　ディスカッション
第5回　学外授業
第6回　学外授業
第7回　ディスカッション
第8回　学外授業
第9回　学外授業
第10回　ディスカッション
第11回　学外授業
第12回　学外授業
第13回　ディスカッション
第14回　ワークショップ
第15回　ワークショップ

履修上の注意点

この授業では、必要に応じて学外授業を行います。詳しい日程等は初回授業の中で周知します。

教科書

見えない都市
著者:　イタロ・カルヴィーノ
出版社:　河出書房
出版年:　2003　　ISBN:

参考書

都市のイメージ
著者:　ケヴィン・リンチ
出版社:　岩波書店
出版年:　2007　　ISBN:

考現学入門
著者:　今和次郎
出版社:　筑摩書房
出版年:　1987　　ISBN:

成績評価

a50203a121

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 50 ）
当授業では参加度を重視します。可能な限り出席すること。

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ（都）＜＊a＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　木下　達文	

テーマ

共同研究＆個人研究（2）
～専門研究の展開と仕事研究の準備～

授業の到達目標

本演習では、まず夏休みに実施した各自のアパレンティスシップの報告を通じて、
各々の経験を共有し、自分たちの将来について考えることを行う。また、後半で
は各自のテーマ内容をより深め、基礎知識から専門知識へと高めていく。卒業論
文と同時に就職の準備サポートも可能な限り行う。あわせて、共同研究の実践を本格的に行っていく。

授業の概要

後期の最初は夏の研修プログラムの報告と情報共有を行い、その後、個人研究と共同研究を同時並行的に進めていく形式をとる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

個別研究課題を設定するのに時間がかかる人が多いため、なるべく早くから
さまざまな社会的関心をもち、候補をいくつか考えるようにしてほしい。また、文献も収集するのに時間がかかるため、日頃から情報アンテナを広げる癖をつけるようにしてほしい。また、前期に引き続き、メーリングリストなどインターネット環境使ったコミュニケーションと指導を行うのと、全体で行う共同研究プログラムを継続実施する。課題等に対しては授業中やメール等でのフィードバックを行う。なお、必要に応じてゼミ会も行う。

内　容

第1回　オリエンテーション（授業目標）
第2回　アパレンティスシップ報告（1）
第3回　アパレンティスシップ報告（2）
第4回　アパレンティスシップ報告（3）
第5回　共同研究プロジェクトの立ち上げ
第6回　個人研究発表＆共同プロジェクト実施（1）
第7回　個人研究発表＆共同プロジェクト実施（2）
第8回　個人研究発表＆共同プロジェクト実施（3）
第9回　個人研究発表＆共同プロジェクト実施（4）
第10回　個人研究発表＆共同プロジェクト実施（5）
第11回　個人研究発表＆共同プロジェクト実施（6）
第12回　個人研究発表＆共同プロジェクト実施（7）
第13回　個人研究発表＆共同プロジェクト実施（8）
第14回　個人研究発表＆共同プロジェクト実施（9）
第15回　評価とまとめ

履修上の注意点

※演習の内容によって多少変更をする場合もある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）	

とくに出席を重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ（都）＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　　小暮　宣雄	

テーマ

芸術やその他の文化を中心とした公共政策、地域づくりを研究する(2)

授業の到達目標

1)地域公共政策、文化プロデュースなどから自らの卒業研究テーマを確立する
2)卒業後の自分の仕事イメージを形成できるようにする
3)自分の研究テーマを他者に説明できるとともに、他者のテーマについて、適切な問いを発することができる

授業の概要

教室でのディスカッションや発表のほか、個別相談も適宜行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

就職活動との連動に配慮する。アクティブ・ラーニングにも取り組む。研究発表にはそのつどフィールドバックする。研究のためにグループごとに時間を賭けることになる。
て、自分が購読すべき文献リストとスケジュールを作る課題を出すので、それに従って努力すること。
また、学外で研究成果を発表する機会を作る（紹介する）ので、積極的に参加すること。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　4回生の卒業研究中間報告に参加①・・・発表を聞いて自分の卒業研究の課題に気づく
第3回　4回生の卒業研究中間報告に参加②・・・自分の卒業研究スケジュールを考える
第4回　地域公共政策の諸テーマを知る
第5回　行政と公務員の仕事を知る
第6回　芸術領域を政策にするときに注意することを学ぶ
第7回　文化やスポーツと公共政策との関係を掘り下がる
第8回　卒業研究に関わるレジュメを作って発表する①
第9回　卒業研究に関わるレジュメを作って発表する②
第10回 卒業研究に関わるレジュメを作って発表する③
第11回 学外授業・・・文化プロデュースの実践の仕方・・・めくるめく紙芝居など、現地でのワークショップ
第12回 キャリア研究①　自分のキャリアとアーツマネジメント
第13回 キャリア研究②　生活と文化プロデュース分野を探る
第14回 キャリア研究③　限界芸術と冠婚葬祭
第15回 まとめ　卒業研究をこれから深めるために

履修上の注意点

遅刻や欠席のときは、事前に連絡すること。
13時ジャストに授業が初められるように、その前に着席しておくこと。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本映画史110年
著者:　四方田犬彦
出版社:　集英社
出版年:　2014年　　ISBN:　4087207528

J・POP文化論
著者:　宮入恭平
出版社:　彩流社
出版年:　2015年　　ISBN:　9784779170317

成績評価

a50203a252

試験・レポート （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）

授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 50 ）

日ごろの実践活動をノートやブログ、ツイッターなどにして見えるようにすること。その自分の行動のプロセスを客体化している様子を評価に加えたい。

めくるめく紙芝居プロジェクト　https://www.facebook.com/mekmekY

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ（都）＜＊c＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　　山岸　達矢	

テーマ

都市政策に関するテーマを見つけ卒業論文の準備を始める

授業の到達目標

・個々の学生が持っている問題意識と社会問題との接点を、より具体的に把握して他者に説明できるようになる。
・熱意の持てるテーマを見つけ、仮説を立てて研究を始める。
・卒業論文の下地となる小論文を執筆する。

授業の概要

都市政策に関する卒業論文の執筆に向けて準備する。論文を書く方法について教科書を参照しながら、実際に作成していく。さらに、社会や都市政策に目を向けるのに有用な文献を輪読する。演習の後期では、卒業論文の下地となる小論文を執筆して発表する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　論文の構想の発表
第2回　文献の輪読
第3回　文献の輪読
第4回　文献の輪読
第5回　文献の輪読
第6回　文献の輪読
第7回　文献の輪読
第8回　文献の輪読
第9回　文献の輪読
第10回　小論文の発表
第11回　小論文の発表
第12回　小論文の発表
第13回　小論文の発表
第14回　小論文の発表
第15回　小論文の発表

履修上の注意点

教科書

政策リサーチ入門―仮説検証による問題解決の技法
著者:　伊藤修一郎
出版社:　東京大学出版会
出版年:　2011　　ISBN:

参考書

都市の再生を考える1~8
著者:　植田 和弘・西村 幸夫・神野 直彦・間宮 陽介編
出版社:　岩波書店
出版年:　2005　　ISBN:

市民社会論―理論と実証の最前線
著者:　坂本治也編
出版社:　法律文化社
出版年:　2017　　ISBN:

住環境保全の公共政策―都市景観とまちづくり条例の観点から
著者:　山岸達矢
出版社:　法政大学出版局
出版年:　2016　　ISBN:

a50203a253

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ（都）＜＊d＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　谷口　知司	

テーマ

観光ビジネス、観光文化、観光情報と観光資源・文化資源の情報化に関する研究

授業の到達目標

観光メディア、観光情報、観光ビジネス、観光文化についての総合的な知識を身につけるとともに、観光資源や文化資源等の情報化のための基礎的な理論や技術と、その周辺的な知識・技術を習得する。また、卒業研究への発展性を考慮し、早い時点から興味のあるテーマを見つけ出すことを、あわせて要求する。
なお、ゼミのプロジェクトである「こだわり市場」や「修学旅行プロジェクト」に積極的に参加すること。

授業の概要

演習であるため、学生の活動が中心になる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループ活動での授業時間外の活動が多くなる。主体的に取り組むように。

内　容

第1回　こだわり市場、修学旅行プロジェクトなどの活動を行う。
第2回　こだわり市場、修学旅行プロジェクトなどの活動を行う。
第3回　こだわり市場、修学旅行プロジェクトなどの活動を行う。
第4回　こだわり市場、修学旅行プロジェクトなどの活動を行う。
第5回　こだわり市場、修学旅行プロジェクトなどの活動を行う。
第6回　こだわり市場、修学旅行プロジェクトなどの活動を行う。
第7回　こだわり市場、修学旅行プロジェクトなどの活動を行う。
第8回　こだわり市場、修学旅行プロジェクトなどの活動を行う。
第9回　こだわり市場、修学旅行プロジェクトなどの活動を行う。
第10回　こだわり市場、修学旅行プロジェクトなどの活動を行う。
第11回　課題発表
第12回　卒業論文のテーマについて考える。
第13回　卒業論文のテーマについて考える。
第14回　卒業論文のテーマについて考える。
第15回　まとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

これからの観光を考える
著者:　谷口知司・福井弘幸編著
出版社:　晃洋書房
出版年:　2017　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ（都）＜＊e＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　福井　弘幸	

テーマ

社会や地域の課題に対しての観光による解決を図る応用力の習得。

授業の到達目標

政府は観光振興を21世紀の日本の重要な政策の柱として明確に位置づけ施策を計画的に推進しており、観光振興と地域振興が一帯であることも示している。
ゼミでは、観光による課題解決へのプロセスを構築できる応用力を身につけることを目標とする。あるテーマに沿って空間をデザインする。

授業の概要

・グループで教科書の輪講を行い、全体での議論を行う。
・学生主体で学外企画への参加、調査・研究等を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・グループに分け、調査・研究があるため授業時間外の学習は必須になる。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　地域の課題解決研究1
第3回　地域の課題解決研究（グループワーク）2
第4回　地域の課題解決研究（グループワーク）3
第5回　地域の課題解決研究（グループ発表）4
第6回　中間のまとめ
第7回　4回生の卒論中間発表見学。
第8回　海外旅行商品造成1
第9回　海外旅行商品造成（グループワーク）2
第10回　海外旅行商品造成（グループワーク）3
第11回　将来の進路学習会。
第12回　海外旅行商品造成（グループ発表ワーク）4
第13回　卒業論文のテーマ検討
第14回　卒業論文のテーマ検討
第15回　まとめ

履修上の注意点

・3分の2以上の出席が必要です。
・必要に応じて学外授業/特別講演会を行う場合がある。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

これからの観光を考える
著者:　谷口知司/福井弘幸
出版社:　晃洋書房
出版年:　2017　　ISBN:

1からの観光事業論
著者:　高橋一夫/柏木千春
出版社:　碩学社
出版年:　2016　　ISBN:

成績評価

a50203a255

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 40 ）

参加度 （ 30 ）

・参加度（出席状況、受講態度、ゼミでの役割分担、運営上の貢献度等を含　む）と、教科書要約・発表内容等を重視し、その他のレポートも含め総合　的にみて評価する。学外授業を行う場合がある。
・3分の2以上の出席が必要です。

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ（都）＜＊f＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　　金武　創	

テーマ

観光/文化とビジネスマインド

授業の到達目標

ビジネス・マインドを基礎にした文化プロデュースを学ぶ姿勢を確立する

授業の概要

①基本文献講読、②討論による企画立案、③卒論準備のための文章力訓練（専門演習Ⅰ，Ⅱ共通）・読む、書く、話す、考える、伝える等、様々な学習方法を通して、専門領域の学習はいうまでもなく、オリジナルな卒論執筆に向けた準備を進める。㈱らくたびによる観光ガイド実習はより発展的な内容となります。
苦手分野を平均レベルにあげることを念頭に、授業外で就職活動についての相互サポートを積極的に実施し、学生生活の充実を共通目標に定めて、4回生春の内定獲得を副次的目標とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

復習のために、経済新聞や経済誌を読んで時事問題の把握と理解に努める（1時間）

内　容

第1回　「場のマネジメント」を読む①
第2回　「場のマネジメント」を読む②
第3回　「観光文化学」を読む①
第4回　「観光文化学」を読む②
第5回　「人を助けるとはどういうことか」を読む①
第6回　「人を助けるとはどういうことか」を読む②
第7回　政策交流大会準備①
第8回　政策交流大会準備②
第9回　政策交流大会準備③
第10回　観光ガイド実習（発展）準備①
第11回　観光ガイド実習（発展）準備②
第12回　観光ガイド実習（発展）準備③
第13回　観光ガイド実習（発展）
第14回　卒論準備書誌情報作成①
第15回　卒論準備書誌情報作成②
※なお、この授業では必要に応じて学外授業および学外講師を招いた講演会を行うことがある。

履修上の注意点

専門演習1と同じです。ゼミ登録にあたり、授業登録上の注意をすでに説明済みです。不明であれば、担当教員にメールで質問してください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

実践知
著者:　金井壽宏/楠見孝
出版社:　有斐閣
出版年:　2012　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 20 ）
授業出席と授業（中）課題は成績評価の最低条件です。

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ（都）＜＊g＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　　土井　脩史	

テーマ

建築・まちづくりの専門家に聞いたことを元に卒業研究のテーマを探す

授業の到達目標

・建築やまちづくりを専門とする働き方を理解する
・自分が将来どのように働きたいかを探る
・卒業研究に向けたテーマ探し

授業の概要

実際に建築やまちづくりを専門として働いている人へのインタビュー調査を行います。各自のこれからの働き方を考えるきっかけづくりにすると同時に、建築やまちづくりの現場で起こっている実情を理解し、卒業研究のテーマ設定へと繋げていきます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

卒業研究のテーマ探しにあたっては、講義外の文献収集やフィールドワークは不可欠です。建築・都市の現場に研究テーマは隠されています。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　建築・まちづくり分野の働き方1
第3回　建築・まちづくり分野の働き方2
第4回　インタビュー調査の計画発表1
第5回　インタビュー調査の計画発表2
第6回　インタビュー調査1
第7回　インタビュー調査2
第8回　インタビュー調査3
第9回　インタビュー調査の結果発表1
第10回　インタビュー調査の結果発表2
第11回　インタビュー調査の結果発表3
第12回　卒業研究に向けた計画発表1
第13回　卒業研究に向けた計画発表2
第14回　卒業研究に向けた計画発表3
第15回　1年間のまとめ

履修上の注意点

当然ながら、出席は必須です。やむを得ず欠席する場合には、教員まで連絡すること。
なお、この授業では、必要に応じて学外で授業する場合があります。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ（都）＜＊h＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　北村　義典	

テーマ

「空間構成」の学習及び設計演習

授業の到達目標

インテリアは建築に内包され、建築は地域に含まれる。そして地域は地球上に存在する。空間のヒエラルキーと関係性を把握し、また「空間」の質が「時」によって変化する、いわゆるエージングの視点を理解することで、多様な空間デザインの制作力を習得する。

授業の概要

前半は、環境構成の調査を通じ街の構造を学習する。後半は、具体的なテーマに沿ったグループによる環境設計演習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

関連図書・作品集の読解や建築・芸術系展覧会等の見学を通じ、自らの創作意欲を高める。

内　容

第1回　ガイダンス（学習領域及び授業構成）
第2回　空間のヒエラルキー
第3回　空間のエージング
第4回　調査テーマ設定
第5回　調査
第6回　調査結果のレポート提出及び発表
第7回　建築、環境デザイン見学
第8回　設計課題講義（国際コンペを予定）
第9回　コンセプト検討（1）
第10回　コンセプト検討（2）
第11回　設計制作（1）
第12回　設計制作（2）
第13回　ドローイング（1）
第14回　ドローイング（2）
第15回　作品発表、講評

履修上の注意点

調査にはカメラ、スケッチブックを携行する

教科書

毎回、必要な資料を配布
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

街並みの美学
著者:　芦原義信
出版社:　岩波書店
出版年:　2001　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ（都）＜＊i＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　松本　正富	

テーマ

卒業制作・論文に向けたテーマとコンセプトの模索

授業の到達目標

当ゼミでは，卒業研究として建築・インテリア設計作品の制作を前提とする。
生活環境や空間デザインを扱う分野において自分の興味対象を絞り込み，魅力とやりがいのある卒業制作のテーマを設定する。

授業の概要

1）各自の興味を抱いた内容について調査分析し，ビジュアル的に配慮したプレゼンテーションに纏める。これに対するディスカッションを繰り返すなかで，テーマの絞り込みとコンセプトの構想につなげる。
2）“社会的な問題を提起し，その解決に向けた建築的仕掛けを考察する” といった一連の行為についての練習を重ねる。
3）数回の建築見学会を開催する。
4）4回生の卒業制作を補助するなかで，先輩の技術を修得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

建築・美術関係の展覧会や講演会への参加，見学旅行等，デザインを学ぶ者としての積極的な活動を望む。その中で，モノを創造する際の自分なりの“こだわり”を見つけ出してくれることを期待する。
レポートやデザイン課題の多くは，授業時間外での作業となる（概ね，授業時間と同等の予習時間が必要）。
課題に関しては，その制作途中も含め，個人ごとにアドバイスを返す。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　課題の設定
第3回　プレゼンテーション-1
第4回　プレゼンテーション-2
第5回　プレゼンテーション-3
第6回　プレゼンテーション-4
第7回　プレゼンテーション-5
第8回　建築見学会-1
第9回　卒業制作・論文のテーマ設定-1
第10回　卒業制作・論文のテーマ設定-2
第11回　卒業制作・論文のテーマ設定-3
第12回　卒業制作・論文のテーマ設定-4
第13回　卒業制作・論文のテーマ設定-5
第14回　建築見学会-2
第15回　まとめと講評
※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

参考書

建築系学生のための卒業設計の進め方
著者：　日本建築学会 編
出版社：井上書院
出版年：2009　　ISBN：9784753010554

コンパクト設計資料集成
著者：　日本建築学会編
出版社：丸善株式会社
出版年：2005　　ISBN：9784621075098

成績評価

a50203a259

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ（都）＜＊j＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　河野　良平	

テーマ

卒業制作と就職活動の準備

授業の到達目標

建築やインテリアに関して、普段から興味のあることを言語化し、作品として提案する。

授業の概要

卒業制作におけるアイデアやコンセプトについて考え、それに沿った設計条件を提示する。
業界研究を行い、発表する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　発表1
第3回　発表1
第4回　発表1
第5回　発表2
第6回　発表2
第7回　発表2
第8回　発表3
第9回　発表3
第10回　発表3
第11回　発表4
第12回　発表4
第13回　発表4
第14回　見学
第15回　まとめ

履修上の注意点

専門演習1と同じです。ゼミ登録にあたり、授業登録上の注意をすでに説明済みです。不明であれば、担当教員にメールで質問してください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 40 ）

参加度（ 40 ）
授業出席と授業（中）課題は成績評価の最低条件です。

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ（都）＜＊k＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　政木　哲也	

テーマ

都市空間の文脈を記述する

授業の到達目標

・都市の成り立ち・構造に対する理解を深める
・都市空間のなかから読み取った「文脈（コンテクスト）」を言語化・図式化する
・自ら獲得した都市像をアウトプットに結びつける
・（与えられた課題だけでなく）都市からオリジナルな問題を発見できる能力を身につける

授業の概要

前期に引き続き、学外における観察・調査と、得た情報の言語化・図式化のプロセスを繰り返します。さらに後半では、これまでに獲得した知識を、他人と共有できるようなアウトプット（プレゼンテーションまたは論文）に結びつける作業を行います。これまでのような与えられた課題に対して答えを出すのではなく、自ら現実の都市の中から問い見出して、考える試みとなります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日常的に自分の置かれた環境を客観的にとらえるにはどうすればよいか意識をしてください。知らない場所ではその土地の住民のように、よく知っている場所では初めて訪問した客のように都市を感じるトレーニングをしてください。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　学外授業
第3回　学外授業
第4回　ディスカッション
第5回　学外授業
第6回　学外授業
第7回　ディスカッション
第8回　学外授業
第9回　学外授業
第10回　ディスカッション
第11回　学外授業
第12回　学外授業
第13回　ディスカッション
第14回　ワークショップ
第15回　ワークショップ

履修上の注意点

この授業では、必要に応じて学外授業を行います。詳しい日程等は初回授業の中で周知します。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

都市のイメージ
著者:　ケヴィン・リンチ
出版社:　岩波書店
出版年:　2007　　ISBN:

考現学入門
著者:　今和次郎
出版社:　筑摩書房
出版年:　1987　　ISBN:

成績評価

a50203a261

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 50 ）
当授業では参加度を重視します。可能な限り出席すること。

2018 Syllabus

科 目 名　**景観・アメニティ論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山岸　達矢	

テーマ

現代における景観やアメニティについて考える。

授業の到達目標

・景観・アメニティの保全が必要とされる背景について理解し、説明できるようになる。
・景観・アメニティを保全する公共政策について理解し、説明できるようになる。
・景観・アメニティを保全に関わる多様な担い手とその連携の在り方について考察し、課題解決のために提案できるようになる。

授業の概要

景観・アメニティは、過ごしやすい地域的な環境を形成するために近年注目され、一部法整備も進められている。また、産官学民による事業や自治体の条例による取り組みもなされている。しかし現状では、景観・アメニティが加速度に保全されてはいない。この背景にある要因を分析するとともに、景観とアメニティの保全を促進する政策について考察していく。地域で起きる出来事について日頃から意識的に着目するために、授業内で発表する機会を設ける。必要に応じて現場への訪問や、現場で活躍する方をゲストスピーカーとして招くことがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　景観・アメニティとは何か
第3回　日本の多様な景観と保全対象
第4回　海外の景観保全策
第5回　景観をめぐる紛争
第6回　都市計画が景観に与える影響
第7回　景観保全に関連する法制度
第8回　京都の景観保全の現状と課題
第9回　地域の住環境と景観保全
第10回　自治体政策による景観保全
第11回　景観保全策への市民参加
第12回　協働による景観保全
第13回　震災復興と景観
第14回　景観保全に関わる専門性
第15回　総論

履修上の注意点

教科書

適宜示す
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

建築紛争―行政・司法の崩壊現場
著者:　五十嵐敬喜
出版社:　岩波書店
出版年:　2006　　ISBN:

人口減少時代の都市計画 まちづくり制度と戦略
著者:　大西隆編著
出版社:　学芸出版社
出版年:　2011　　ISBN:

a50203d110

まちづくりと景観
著者: 田村明
出版社: 岩波書店
出版年: 2005 ISBN:

景観形成と地域コミュニティ―地域資本を増やす景観政策
著者: 鳥越皓之・藤村美穂・家中茂
出版社: 農山漁村文化協会
出版年: 2009 ISBN:

自治体都市計画の最前線
著者: 柳沢厚・日置雅晴・野口和雄編著
出版社: 学芸出版社
出版年: 2007 ISBN:

住環境保全の公共政策－都市景観とまちづくり条例の観点から
著者: 山岸達矢
出版社: 法政大学出版局
出版年: 2016 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 70 ）
小テスト（ ）
授業中課題（ ）
授業中発表等（ 30 ）
参加度（ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**建築・インテリア設計演習Ⅴ〈a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　建築・インテリア設計演習Ⅰ・Ⅱを修得済み	クラス指定
担 当 者　北村　義典	

テーマ

授業の到達目標

店舗などの付属した鉄筋コンクリート造併用住宅の設計を行う。敷地は商業地域などの高密度な都市を設定する。建築基準法をみたし適切な構造計画を踏まえた上で、快適な居住空間を実現するよう検討を重ねる。店舗等の付属部分と居住部分の関係について、時間をかけて計画をすすめる。しかし、平面だけでなく、上下階の繋がりなど立体的な構成についても配慮しつつ検討を重ねる。最終講評に向けて自分の提案を整理し、図面と模型を制作する。

授業の概要

店舗などの付属した鉄筋コンクリート造併用住宅の設計を行う。敷地は商業地域などの高密度な都市を設定する。建築基準法をみたし適切な構造計画を踏まえた上で、快適な居住空間を実現するよう検討を重ねる。店舗等の付属部分と居住部分の関係について、時間をかけて計画をすすめる。しかし、平面だけでなく、上下階の繋がりなど立体的な構成についても配慮しつつ検討を重ねる。最終講評に向けて自分の提案を整理し、図面と模型を制作する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　課題主旨説明、設計のポイント
第2回　配置計画案の作成
第3回　平面計画案の作成
第4回　立面・断面計画案の作成
第5回　構造計画案の作成1
第6回　構造計画案の作成2
第7回　建築基準法の確認
第8回　中間発表
第9回　配置図・平面図の作成1
第10回　平面図の作成2
第11回　立面図の作成
第12回　断面図の作成
第13回　模型1
第14回　模型2
第15回　講評とまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（80）	授業中発表等（ ）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**建築・インテリア設計演習Ⅴ〈b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　建築・インテリア設計演習Ⅰ・Ⅱを修得済み	クラス指定
担 当 者　土井　脩史	

テーマ

授業の到達目標

店舗などの付属した鉄筋コンクリート造併用住宅の設計を行う。敷地は商業地域などの高密度な都市を設定する。建築基準法をみたし適切な構造計画を踏まえた上で、快適な居住空間を実現するよう検討を重ねる。店舗等の付属部分と居住部分の関係について、時間をかけて計画をすすめる。しかし、平面だけでなく、上下階の繋がりなど立体的な構成についても配慮しつつ検討を重ねる。最終講評に向けて自分の提案を整理し、図面と模型を制作する。

授業の概要

店舗などの付属した鉄筋コンクリート造併用住宅の設計を行う。敷地は商業地域などの高密度な都市を設定する。建築基準法をみたし適切な構造計画を踏まえた上で、快適な居住空間を実現するよう検討を重ねる。店舗等の付属部分と居住部分の関係について、時間をかけて計画をすすめる。しかし、平面だけでなく、上下階の繋がりなど立体的な構成についても配慮しつつ検討を重ねる。最終講評に向けて自分の提案を整理し、図面と模型を制作する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　課題主旨説明、設計のポイント
第2回　配置計画案の作成
第3回　平面計画案の作成
第4回　立面・断面計画案の作成
第5回　構造計画案の作成1
第6回　構造計画案の作成2
第7回　建築基準法の確認
第8回　中間発表
第9回　配置図・平面図の作成1
第10回　平面図の作成2
第11回　立面図の作成
第12回　断面図の作成
第13回　模型1
第14回　模型2
第15回　講評とまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（80）	授業中発表等（ ）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**建築・インテリア設計演習Ⅵ <a>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　建築・インテリア設計演習 Ⅰ・Ⅱを修得済み	クラス指定
担 当 者　松本　正富	

テーマ

建築・インテリア設計演習を総括し，卒業制作への橋渡しとすべくデザインワークを行う。

授業の到達目標

公共施設（コミュニティーセンター・図書館・学校）の設計を行う。地域に密着した小規模の公共施設を想定し、他の事例を参考にしながら新しい公共空間を提案する。主要室は美しく快適で機能的な空間となるよう配慮する。建築計画に関して、公共部分と管理・事務部門を明確に区分けし、動線について十分検討する。建築基準法に関して、容積率・建蔽率に加え二方向避難を確認する。構造はRC造または鉄骨造とする。

授業の概要

公共施設（コミュニティーセンター・図書館・学校）の設計を行う。地域に密着した小規模の公共施設を想定し、他の事例を参考にしながら新しい公共空間を提案する。主要室は美しく快適で機能的な空間となるよう配慮する。建築計画に関して、公共部分と管理・事務部門を明確に区分けし、動線について十分検討する。建築基準法に関して、容積率・建蔽率に加え二方向避難を確認する。構造はRC造または鉄骨造とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業は個人ごとのエスキスチェックが中心になるので，時間外の設計作業が多く必要になります。（概ね，授業時間と同等の作業時間が必要）
課題は，その制作途中も含め，個人ごとに適宜アドバイスを返します。

内　容

第1回　課題趣旨説明、事例紹介、設計のポイント
第2回　コミュニティーセンターの事例調査発表
第3回　配置計画、全体計画、構造・設備計画案の作成
第4回　平面・立面・断面図の作成
第5回　講評
第6回　図書館の事例調査発表
第7回　配置計画、全体計画、構造・設備計画案の作成
第8回　平面計画図の作成
第9回　立面・断面図の作成
第10回　講評
第11回　学校の事例調査発表
第12回　配置計画、全体計画、構造・設備計画案の作成
第13回　平面計画図の作成
第14回　立面・断面図の作成
第15回　講評
※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

製図や模型製作に必要な用具，設計の参考資料等，授業準備をしっかり行ってください。
卒業研究として建築・インテリアの制作を行う予定の人は，必ず受講するようにしてください。
7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 80 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**建築・インテリア設計演習Ⅵ <b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　建築・インテリア設計演習 Ⅰ・Ⅱを修得済み	クラス指定
担 当 者　政木　哲也	

テーマ

建築・インテリア設計演習を総括し，卒業制作への橋渡しとすべくデザインワークを行う。

授業の到達目標

公共施設（コミュニティーセンター・図書館・学校）の設計を行う。地域に密着した小規模の公共施設を想定し、他の事例を参考にしながら新しい公共空間を提案する。主要室は美しく快適で機能的な空間となるよう配慮する。建築計画に関して、公共部分と管理・事務部門を明確に区分けし、動線について十分検討する。建築基準法に関して、容積率・建蔽率に加え二方向避難を確認する。構造はRC造または鉄骨造とする。

授業の概要

公共施設（コミュニティーセンター・図書館・学校）の設計を行う。地域に密着した小規模の公共施設を想定し、他の事例を参考にしながら新しい公共空間を提案する。主要室は美しく快適で機能的な空間となるよう配慮する。建築計画に関して、公共部分と管理・事務部門を明確に区分けし、動線について十分検討する。建築基準法に関して、容積率・建蔽率に加え二方向避難を確認する。構造はRC造または鉄骨造とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業は個人ごとのエスキスチェックが中心になるので，時間外の設計作業が多く必要になります。（概ね，授業時間と同等の作業時間が必要）
課題は，その制作途中も含め，個人ごとに適宜アドバイスを返します。

内　容

第1回　課題趣旨説明、事例紹介、設計のポイント
第2回　コミュニティーセンターの事例調査発表
第3回　配置計画、全体計画、構造・設備計画案の作成
第4回　平面・立面・断面図の作成
第5回　講評
第6回　図書館の事例調査発表
第7回　配置計画、全体計画、構造・設備計画案の作成
第8回　平面計画図の作成
第9回　立面・断面図の作成
第10回　講評
第11回　学校の事例調査発表
第12回　配置計画、全体計画、構造・設備計画案の作成
第13回　平面計画図の作成
第14回　立面・断面図の作成
第15回　講評
※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

製図や模型製作に必要な用具，設計の参考資料等，授業準備をしっかり行ってください。
卒業研究として建築・インテリアの制作を行う予定の人は，必ず受講するようにしてください。
7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 80 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**住宅計画**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　土井　脩史	

テーマ

健康的で文化的、機能的な理想の住まいをデザインする。

授業の到達目標

住宅とは、決して単なる物ではなく、人間の多様で豊かな生活のための空間であること、そのためには、住宅というハードと使いかたのソフトを融合させ、安全で快適、健康的かつ衛生的、また便利で文化的な住宅設計の基本を修得する。

授業の概要

住宅を生活と環境の側面からとらえ、既往の建築計画学の成果である寸法計画、規模や形態に関する計画、地域計画などの知見も取り入れながら、住宅の設計の基本と応用を学ぶ。具体的な住宅作品を解説・評価し、住まい手について安全で快適、かつ健康的で文化的な住宅とはどのようなものかを考察する。また、設計や管理計画に関する知見についても学び、将来の実務に役立つ知識を修得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

教科書を早めに入手し、一読しておいてください。配布資料は設計の参考になるので、保管してください。簡単な平面設計を行う予定です。住宅・建築系以外の学生は、かなりの自主学習が必要となることは了解したうえで受講してください。

内　容

第1回　住宅の定義および生活と住環境。
第2回　住宅計画学の体系と計画のプロセス
第3回　住空間の形態と設計
第4回　住宅計画のための調査の種類と進め方
第5回　人間の寸法と設計の方法
第6回　法規と設計
第7回　平面計画の方法
第8回　構造計画の方法
第9回　室内環境の計画
第10回　住宅設計実例の研究①
第11回　住宅設計実例の研究②
第12回　地域計画における住宅計画と景観づくり
第13回　住宅の管理
第14回　住み手参加による集合住宅デザイン
第15回　まとめ

履修上の注意点

出席を重視します。受講マナーの悪い学生は、厳重注意をしますが、ひどい場合は成績評価でマイナス評価されます。
※この授業では、必要に応じて学外授業・講演会を行います。

教科書

参考書

住むための建築計画
著者:　佐々木誠
出版社:　彰国社
出版年:　2013年　　ISBN:

現代集合住宅のリ・デザイン
著者:　日本建築学会編
出版社:　彰国社
出版年:　2010年　　ISBN:

事例で読む現代集合住宅のデザイン
著者:　日本建築学会住宅小委員会編
出版社:　彰国社
出版年:　2004年　　ISBN:

a50203d510

少子高齢時代の都市住宅学 家族と住まいの新しい関係

著者: 広原盛明

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2002年 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ） 小テスト（ 0 ）

授業中課題（ 80 ） 授業中発表等（ 0 ）

参加度（ 20 ）

授業中課題として即日設計を実施する。

2018 Syllabus

科 目 名　**建築設備**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　福坂　誠	

テーマ

建築設備の基礎を学ぶ

授業の到達目標

快適な建築空間を構築するために、建築と建築設備との関わりを理解した上で、給排水・衛生設備、空気調和設備、電気設備、搬送設備について、基礎的な知識を得ることとする。

授業の概要

快適な建築空間を構築するために、建築と建築設備との関わりを理解した上で、給排水・衛生設備、空気調和設備、電気設備、搬送設備について、基礎的な知識を得ることとする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習としては、事前に次回の授業の教科書を読んでくること。復習は授業時に重要な用語を示すので、意味を理解して覚えていくこと。

内　　容

第1回　建築と建築設備との関わり、地球環境と建築設備との関わり
第2回　給排水・衛生設備　給水設備について
第3回　給排水・衛生設備　給湯設備・ガス設備について
第4回　給排水・衛生設備　排水・通気設備について
第5回　給排水・衛生設備　排水処理設備・衛生器具設備について
第6回　給排水・衛生設備　消火設備について
第7回　空気調和設備　空気調和と室内環境について
第8回　空気調和設備　空気線図の使い方について
第9回　空気調和設備　空調負荷について
第10回　空気調和設備　空気調和方式の種類・特徴について
第11回　空気調和設備　熱源・熱搬送設備と機器部材について
第12回　空気調和設備　換気・排煙・自動制御設備について
第13回　空気設備　受変電・幹線設備と動力設備について
第14回　空気設備　照明・コンセント設備と情報・通信設備について
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

建築設備（第三版）
著者:　大塚　雅之
出版社:　市ヶ谷出版
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 35 ）　　小テスト （ 35 ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 30 ）
小テストは中間で習熟度の確認。参加度は出席と授業態度

2018 Syllabus

科 目 名　**建築材料**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河野　良平	

テーマ

授業の到達目標

建築に用いられる主な材料の基本的な性質について理解する。木材、コンクリート、鉄といった構造材と木質系材料、石、ガラス、金属、プラスチック、各種ボード類、左官材、塗料などの仕上材について材料ごとに特徴、施工法や注意点などサンプルや事例を示しながら具体的に説明していく。また、コンクリート製造工場にて供試体の作成や圧縮試験の見学を行う。

授業の概要

建築に用いられる主な材料の基本的な性質について理解する。木材、コンクリート、鉄といった構造材と木質系材料、石、ガラス、金属、プラスチック、各種ボード類、左官材、塗料などの仕上材について材料ごとに特徴、施工法や注意点などサンプルや事例を示しながら具体的に説明していく。また、コンクリート製造工場にて供試体の作成や圧縮試験の見学を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　木（1）種類と性質
第3回　木（2）木の使われ方
第4回　木（3）木質系材料
第5回　鉄筋コンクリート（1）材料、製法と性質など
第6回　鉄筋コンクリート（2）調合と試験、セメントの種類など
第7回　鉄筋コンクリート（3）施工と維持管理など
第8回　鉄筋コンクリート（4）様々なコンクリート（PC、ALC、SRCとCBなど）
第9回　金属材料（1）鉄の性質、鉄骨造など
第10回　金属材料（2）ステンレス・アルミ・銅など
第11回　仕上材（1）石材・タイル
第12回　仕上材（2）ガラス・プラスチック・ボード類
第13回　仕上材（3）ビニール系材料・左官材・塗料・断熱・防水材など
第14回　コンクリート材料実験　供試体の作成、空気量の測定など
第15回　コンクリート材料実験　圧縮試験、施設見学など

履修上の注意点

教科書

図説やさしい建築材料
著者:　松本進
出版社: 学芸出版社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**観光・まちづくり事例研究 〈Z〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　土井　脩史	

テーマ

京都における観光まちづくりのあり方を問い直す

授業の到達目標

1.観光とまちづくりの関係性について理解する
2.京都における観光まちづくりの現状と課題を理解する
3.京都の具体的な地域・テーマを題材に観光まちづくりの戦略を提案する

授業の概要

近年、地域環境の維持・向上活動を新たな観光資源の獲得に結びつけるという「観光まちづくり」が注目されている。本授業では、「観光」と「まちづくり」の関係性について、京都の事例を紹介しながら理解を深める。さらに、グループに分かれて、京都が抱えている観光まちづくりの課題について文献やフィールドワークによる調査を行い、新たな観光まちづくりの戦略を提案してもらう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

本授業は、京都を対象とした授業であり、日常生活から京都のまちに関心を持っておくこと。また、本授業では、グループ研究を実施するため、授業時間外に自主的に集まって現地調査やワーキング作業をしてもらう場合がある。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　まちづくりの生成と歴史
第3回　まちづくりのプロセス
第4回　まちづくりの体制・組織
第5回　観光まちづくりとは①（まちづくりから観光へ）
第6回　観光まちづくりとは②（観光からまちづくりへ）
第7回　京都のまちづくり活動の現状
第8回　京都の観光政策の現状
第9回　事例紹介1（京都市内の事例）
第10回　事例紹介2（京都市外の事例）
第11回　グループ研究の課題発表
第12回　フィールドワーク
第13回　グループ作業
第14回　観光まちづくりの提案発表1
第15回　観光まちづくりの提案発表2＋全体のまとめ

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業およびゲストスピーカーによる特別講演を行うことがある。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

観光まちづくり−まち自慢からはじまる地域マネジメント−
著者:　西村幸夫
出版社:　学芸出版社
出版年:　2009年　　ISBN:　4761531681

観光学事始め−「脱観光的」観光のススメ−
著者:　井口貢
出版社:　法律文化社
出版年:　2015年　　ISBN:

a50203d910

場所でつながる／場所とつながる

著者: 田所承己

出版社: 弘文堂

出版年: 2017年 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 40 ） 授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 30 ）

定期試験やレポート課題を実施しないため、授業に対する参加度を重視する。授業内で実施するグループワークでは、グループで協力して役割分担することを求める。グループ内での役割を担わなかった場合、大幅に減点するので気をつけるこ

2018 Syllabus

科 目 名　**空間デザイン演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　井上　信太	

テーマ

空間デザインとワークショップ

授業の到達目標

1、五感で感じる空間を体験する 2、即興的にオリジナルの発想力を養う 3、ワークショップを通してコミュニケーション能力を養う
上記三点の課題を軸に据え、空間から「感じる力」を習得する。

授業の概要

テーマに基づいた課題を通し、デザイン、ダンス、音楽、美術の表現方法を約90分のワークショップでディスカッションしながら学びます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

いつでも、どこでも、どんなときでも、自己の空間をたのしむ。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　空間ワークショップ1（絵を描く）
第3回　空間ワークショップ2（音を奏でる）
第4回　空間ワークショップ3（コンテンポラリーダンスを見る、体験する）
第5回　空間ワークショップ4（立体制作）
第6回　空間ワークショップ5（映像と光と影）
第7回　空間ワークショップ6（絵を描く:コラージュ）
第8回　空間ワークショップ7（即興で演奏する）
第9回　ピクニック演習
第10回　空間ワークショップ8（粘土で遊ぶ）
第11回　空間ワークショップ9（新しいスポーツを考える1）
第12回　空間ワークショップ10（新しいスポーツを考える2）
第13回　空間ワークショップ11（即興で空間で遊ぶ）
第14回　空間ワークショップ12（光と影で遊ぶ）
第15回　空間ワークショップ13（発表会）※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 100 ）	

実践中心の演習です。

2018 Syllabus

科 目 名　**パフォーミングアーツ演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　岡村　宏懇	

テーマ

演劇の「ライブな表現」について知識を深め、人前で緊張せずにパフォーマンスできる力を身につける。

授業の到達目標

「演技」は何も俳優や声優に限られた特別な技能ではなく、私たちは普段から「いろんな自分」をフツーに演じて生きています。何気ない自分の表現に少し自覚的になることで「表現力」はUPします。「表現とは何か」について、幅広い視点で考えることができるようになろう。

授業の概要

演劇は、古典芸能から現代劇まで、その表現方法は違っても、人前で演じる「ライブな表現」活動であることに変わりはありません。この授業では「表現」について基礎的な知識を習得し、人前で何かを発表する体験を重視します。映像資料を用いたり、講師の実演を織り交ぜながら、皆さんにもチャレンジしていただく機会を設けたい。表現は頭で考えてるだけでは分かりません。実際にやってみることで実感できるものです。先ずは、失敗を恐れず楽しみながらチャレンジしてみましょう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

TVドラマや映画を、演出や俳優の演技に注目して観る。リメイクされた同じ作品の邦画と洋画の違いにも留意してみよう。（60分）

内　容

第1回　ガイダンス。（表現についての基礎知識）
第2回　自己PRと自分Speech
第3回　演技①（演技のタイプ）
第4回　演技②（舞台演技と映像演技の違い）
第5回　声優①（声優の演技）
第6回　声優②（声劇を演じてみよう）
第7回　現代劇（台本の読み方）
第8回　現代演劇のメイキングドキュメンタリー（DVD）
第9回　現代演劇観賞（DVD）
第10回　創作①（上演台本を読む）
第11回　創作②（キャスト決定）
第12回　創作③（台詞を覚える）
第13回　創作④（役作り）
第14回　創作⑤（演じてみよう）
第15回　成果発表

履修上の注意点

毎回、コミュニケーションカードの提出を求めます。「演劇」の創作は継続的な練習が必須のため、学生諸君の積極的な授業参加を求めます。履修人数などにより、集団創作（芝居）ではなく個人発表（古典芸能の舞など）に替えることがある。

教科書

適宜、プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 50 ）
成果よりも、取り組み姿勢などプロセスを重視します。履修に際して、演劇経験の有無は関係ありません。

2018 Syllabus

科 目 名　**イベントデザイン演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小暮　宣雄	

テーマ

文化と地域を大切にするイベントプロデュースを学ぶ

授業の到達目標

イベントとは何か、そのあり方を知る。
音楽ジャンルや冠婚葬祭のイベント諸相を体験的に学修する。
初級地域公共政策士になるための文化プロデュース能力を得る.

授業の概要

イベントを実際に企画する実態を学びつつ、イベントの基本的要素を抑えていく。そのために、アーティストがゲストとして来ることがあるので、積極的に現場感覚を学ぶことができる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

京都における文化活動を紹介するのでできるだけ、時間外において参加し記録すること。アーツマネジメント論を学修していることが望ましい。グループや個人でのフィールドワークするための時間をつくること。また、イベントについての情報を毎日チェックし、その目的はなにかということを常に問い続けること。発表時にコメントを行うとともに、学習者間での評価も行う。

内　容

第1回　はじめに～アーツマネジメント（芸術営）の基本理解の確認
第2回　イベントの要件・目的・手段について
第3回　限界芸術としての冠婚葬祭、そのイベントとの関係
第4回　音楽という文化は都市にどのように関わるのか・・ライブハウス、音楽ホール以外に音楽はどこで鳴っている？
第5回　まちの文化イベントを探し、自らの調査対象を選ぶ（第14回に繋げる作業）
第6回　劇団・ダンスカンパニーの歴史と現状
第7回　演劇ダンスプロデュース公演のあり方
第8回　ベントとしての公演と非イベントとしてのワークショップ
　　グループ学習になる予定
第9回　学外授業　関西のイベントへの参加（京都など）
第10回　観察したイベントの効果と問題点を検証する
第11回　学外授業・・まちなかアーツイベントめぐり（京都国際写真展予定）
　　タイミングが合わないときは、映像を観察することに
第12回　グループ学習①　イベントの企画会議
第13回　グループ学習②　イベントプログラムづくり
第14回　グループ学習③　イベント企画の発表（1）
第15回　グループ学習④　イベント企画の発表（2）

履修上の注意点

学外授業はもとより、できるだけ、現地での鑑賞・体験を行うようにすること

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

アーツマネジメント学
著者:　小暮宣雄
出版社:　水曜社
出版年:　2013年　　ISBN:　9784880653129

限界芸術論
著者:　鶴見俊輔
出版社:　筑摩書房
出版年:　1999年　　ISBN:　9784480085252

成績評価

a50203e410

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**京都の観光とまちづくり**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　土井　脩史	

テーマ

京都における観光まちづくりのあり方を問い直す

授業の到達目標

1.観光とまちづくりの関係性について理解する
2.京都における観光まちづくりの現状と課題を理解する
3.京都の具体的な地域・テーマを題材に観光まちづくりの戦略を提案する

授業の概要

近年、地域環境の維持・向上活動を新たな観光資源の獲得に結びつけるという「観光まちづくり」が注目されている。本授業では、「観光」と「まちづくり」の関係性について、京都の事例を紹介しながら理解を深める。さらに、グループに分かれて、京都が抱えている観光まちづくりの課題について文献やフィールドワークによる調査を行い、新たな観光まちづくりの戦略を提案してもらう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

本授業は、京都を対象とした授業であり、日常生活から京都のまちに関心を持っておくこと。また、本授業では、グループ研究を実施するため、授業時間外に自主的に集まって現地調査やワーキング作業をしてもらう場合がある。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　まちづくりの生成と歴史
第3回　まちづくりのプロセス
第4回　まちづくりの体制・組織
第5回　観光まちづくりとは①（まちづくりから観光へ）
第6回　観光まちづくりとは②（観光からまちづくりへ）
第7回　京都のまちづくり活動の現状
第8回　京都の観光政策の現状
第9回　事例紹介1（京都市内の事例）
第10回　事例紹介2（京都市外の事例）
第11回　グループ研究の課題発表
第12回　フィールドワーク
第13回　グループ作業
第14回　観光まちづくりの提案発表1
第15回　観光まちづくりの提案発表2＋全体のまとめ

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業およびゲストスピーカーによる特別講演を行うことがある。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

観光まちづくり−まち自慢からはじまる地域マネジメント−
著者:　西村幸夫
出版社:　学芸出版社
出版年:　2009年　　ISBN:　4761531681

観光学事始め−「脱観光的」観光のススメ−
著者:　井口貢
出版社:　法律文化社
出版年:　2015年　　ISBN:

a50203e510

場所でつながる／場所とつながる

著者: 田所承己

出版社: 弘文堂

出版年: 2017年 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 40 ） 授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 30 ）

定期試験やレポート課題を実施しないため、授業に対する参加度を重視する。授業内で実施するグループワークでは、グループで協力して役割分担することを求める。グループ内での役割を担わなかった場合、大幅に減点するので気をつけるこ

2018 Syllabus

科 目 名　**行政学研究**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹内　直人	

テーマ

行政学の基礎と主要論点

授業の到達目標

国と自治体の行政の基礎を理解するとともに、その変化を行政学の基本的な概念を用いて説明できるようにする。

授業の概要

行政の役割の拡大や政治との関係およびその変化について解説する。国や自治体行政の実例を通して、近年の行政改革や地方分権改革の背景や意味を理解する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業のポイントを1週間前に配布するので読んでおくこと。
KT-noteにテキストの関連部分をあらかじめ示すので、予習・復習に活用すること（各1時間）。重要ポイントに関する小テストを2回実施し、理解を確認します。

内　　容

第1回　イントロダクション：政府の必要性と役割
第2回　行政とは何か
第3回　福祉国家の成立と課題
第4回　官僚制と行政国家
第5回　行政学の発展①
第6回　行政学の発展②
第7回　行政の新しい見方：NPMとガバナンス
第8回　内閣制度と首長制度
第9回　日本の選挙制度：国政選挙と地方選挙
第10回　行政組織
第11回　公務員制度
第12回　国と自治体の制度改革
第13回　予算編成のしくみとプロセス
第14回　法律・条例はどう作られるか
第15回　政策の執行と評価

履修上の注意点

事前に配布する資料をあらかじめ読んでおくこと。随時小テストを行うので欠席しないこと。
※この授業は、必要に応じてゲストスピーカーによる講演会をおこないます。

教科書

はじめての行政学
著者：　伊藤正次　他
出版社：有斐閣ストゥディア
出版年：2016　　ISBN：

参考書

新版　現代の行政
著者：　森田朗
出版社：第一法規
出版年：2017　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

小テストおよび最終テストの結果を重視します。

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ（都）＜＊a＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　土井　脩史	

テーマ

卒業研究のテーマ設定と調査の実施

授業の到達目標

（1）各自の卒業研究のテーマを設定すること。（2）卒業研究のテーマを深めるために、調査（資料収集、フィールドワークなど）を実施すること。

授業の概要

卒業研究の作成に向けた全体レクチャーと各自の研究進捗発表・議論を中心に行います。本ゼミでは、教員が一方的な指導をするのではなく、学生同士が自由に意見を出し合える雰囲気を作っていきたいと考えています。自分の研究だけではなく、他人の研究発表についても関心をもってゼミに参加するように心がけて下さい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日頃から自分の研究テーマに関連する文献を読むようにすること。

内　　容

第1回　ゼミの進め方
第2回　ショートプレゼンテーション：大学3年間の振り返りと現在の研究的関心
第3回　研究テーマについての発表と議論（1）
第4回　研究テーマについての発表と議論（2）
第5回　研究テーマについての発表と議論（3）
第6回　研究テーマについての発表と議論（4）
第7回　フィールドワーク（1）
第8回　調査計画についての発表と議論（1）
第9回　調査計画についての発表と議論（2）
第10回　調査報告と議論（1）
第11回　調査報告と議論（2）
第12回　調査報告と議論（3）
第13回　調査報告と議論（4）
第14回　フィールドワーク（2）
第15回　まとめ：ゼミ内中間発表

履修上の注意点

当然ながら、出席は必須です。やむを得ず欠席する場合には、教員まで連絡すること。なお、この授業では、必要に応じて学外で授業する場合があります。

教科書

指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

必要に応じて紹介する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ（都）＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小暮　宣雄	

テーマ

公共政策・文化プロデュース研究を形にしていく

授業の到達目標

共政策・文化プロデュース研究を自分の研究、制作として形にするための計画をつくること
卒業研究（論文・制作）の準備と着手をきちんとおこないこと

授業の概要

教室でのディスカッションや発表のほか、個別指導も行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

卒業研究の作業は授業中ではできるものではないので、授業外で文献を読み、フィールドワークにおいてはインタビューや観察を丹念にし、記録すること。発表に対してコメントするようにする。就活との兼ね合いはあるが、常日頃自分の卒業研究テーマの文献などを読むようにすること。

内　　容

第1回　はじめに
第2回　自分の卒業研究の内容確認
第3回　卒業研究の作法の確認
第4回　卒業制作と卒業研究の違い、共通事項
第5回　卒業研究の企画書発表（1）
第6回　卒業研究の企画書発表（2）
第7回　卒業研究の企画書発表（3）
第8回　学外授業（公共政策あるいはアーツマネジメントの現場にいく）
第9回　卒業研究のための先行事例と文献の確認
第10回 フィールドワークの作法とノーツの確認
第11回 卒業研究の概要発表（1）
第12回 卒業研究の概要発表（2）
第13回 卒業研究の概要発表（3）
第14回 卒業研究の概要発表（4）
第15回 まとめ、夏休みの確認

履修上の注意点

遅刻や欠席の際には、事前に連絡すること

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

アーツマネジメント学
著者:　小暮宣雄
出版社:　水曜社
出版年:　2013年　　ISBN:　9784880653129

アーツ･マネジメント概論三訂版
著者:　伊藤裕夫ほか
出版社:　水曜社
出版年:　2009年　　ISBN:

アーツマネジメントみち
著者:　小暮宣雄
出版社:　晃洋書房
出版年:　2003年　　ISBN:

a50204a112

限界芸術論
著者: 鶴見俊輔
出版社: 筑摩書房
出版年: 1999年 ISBN: 4480085254

地域再生の罠
著者: 久繁哲之介
出版社: 筑摩書房
出版年: 2010年 ISBN:

コミュニティを問いなおす
著者: 広井良典
出版社: 筑摩書房
出版年: 2009年 ISBN:

メディアミックス化する日本
著者: 大塚英志
出版社: イースト・プレス
出版年: 2014年 ISBN: 4781650392

成績評価

試験・レポート（ 0 ） 小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ） 授業中発表等（ 60 ）
参加度（ 40 ）
積極的に1週間で研究したことを断片でもいいので発表する姿勢を評価します。

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ（都）＜＊c＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　谷口　知司	

テーマ

卒業論文を完成させる（1）テーマの設定と調査

授業の到達目標

論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。

授業の概要

卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導をする。受講生の研究の進捗状況によって各回の内容は異なるが、第1回から第15回にわたり、以下の内容で指導を進める。
〇テーマのしぼり方、その他につき討論・公表し、最終テーマを決定させる。
　・論理の構成、目次の作成
　・論理的な文章を書く方法
〇文献・資料検索についての具体的指導を行う。
　・研究テーマの深め方、より専門的な資料の調査
〇順次各自の研究テーマについて発表させる。
〇中間発表に向けての指導。
　・レジュメの作成方法
　・質疑応答の仕方

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

卒論を作成するための資料調査などに授業外でも多くの時間と手間を要求する。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　発表1
第3回　発表1
第4回　発表1
第5回　発表2
第6回　発表2
第7回　発表2
第8回　発表3
第9回　発表3
第10回　発表3
第11回　発表4
第12回　発表4
第13回　発表4
第14回　ゼミ合宿等
第15回　ゼミ合宿等
※なお、この授業では必要に応じて特別講演会を行うことがある。

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

随時指示します。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 40 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ（都）＜＊d＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　福井　弘幸	

テーマ

卒業論文の準備（テーマの設定と調査）

授業の到達目標

論文の書き方と調査方法を習得する。

授業の概要

1、テーマの絞り方、目次の作成、文献・資料検索、調査方法の指導。
2、論理的文章の作成方法の指導。
3、順次研究テーマの発表。
4、レジュメの作成方法及び発表方（質疑・応答）の指導。
5、順次研究の進捗状況の発表。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

卒論作成のための資料収集、フィールドワークなど授業外の学習を要求する。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　発表1
第3回　発表1
第4回　発表1
第5回　発表2
第6回　発表2
第7回　発表2
第8回　発表3
第9回　発表3
第10回　発表3
第11回　発表4
第12回　発表4
第13回　発表4
第14回　発表5
第15回　まとめ

履修上の注意点

・3分の2以上の出席が必要。
・必要に応じ特別講演会/学外授業を行う場合がある。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

随時指示する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（０）	小テスト（０）
授業中課題（３０）	授業中発表等（４０）
参加度（３０）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ（都）＜＊e＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　金武 創	

テーマ

観光/文化と現代ビジネス

授業の到達目標

ビジネス・マインドを基礎に文化観光の理解を深める

授業の概要

①基本文献講読、②討論による企画立案、③卒論準備のための文章力訓練（専門演習Ⅰ，Ⅱ共通）前後期ともに都市環境デザイン学科2コースの専門的な学習を予定しているが、詳しい内容はゼミ生と相談して決める。
　他と比べて、2倍以上のゼミ学習量なので、1コース集中の他ゼミと遜色ない水準を維持できるのではないか。㈱らくたびによる観光ガイド実習も含めて、条件が整えば、らくたび文庫プロジェクトを実施予定です。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

復習のために、経済新聞や経済誌を読んで時事問題の把握と理解に努める（1時間）

内　　容

第1回　卒論書誌情報検索①
第2回　卒論書誌情報検索②
第3回　学会ポスター報告準備①
第4回　学会ポスター報告準備②
第5回　「モチベーション3.0」を読む①
第6回　「モチベーション3.0」を読む②
第7回　観光ビジネス改善提案①
第8回　観光ビジネス改善提案②
第9回　観光ガイド実習
第10回 『ワークショップと学び（全3巻）』を読む①
第11回 『ワークショップと学び（全3巻）』を読む②
第12回 『ワークショップと学び（全3巻）』を読む③
第13回 「ふるさと資源化と民俗学」を読む①
第14回 「ふるさと資源化と民俗学」を読む②
第15回 「ふるさと資源化と民俗学」を読む③
　　※尚、この授業では必要に応じて学外授業を行う

履修上の注意点

学会大会への参加、地域連携活動への参加、ワークショップの開催、学外研修など、キャンパス外/時間外活動があります。
事前に予定を調整します。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

ハイ・コンセプト
著者:　ピンク
出版社:　講談社
出版年:　2006　　ISBN:

モチベーション3.0
著者:　ピンク
出版社:　三笠書房
出版年:　2010　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ ）

a50204a115

授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ 20 ）

参加度 （ 20 ）

授業出席と授業中課題は成績評価の最低条件です。

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ（都）＜＊f＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山岸　達矢	

テーマ

卒業論文の完成に向けて試作原稿を執筆する

授業の到達目標

・卒業論文のテーマを見つける。
・卒業論文の大枠を確定し説明できるようになる。
・卒業論文の試作原稿を作成する。

授業の概要

この演習は、後期に木下先生が担当する演習で卒業論文を執筆する学生が、前期に履修する演習である。個々の研究テーマを確認しながら、実際に試作原稿を書き始めていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　各自の研究テーマと研究手法について発表（1）
第3回　各自の研究テーマと研究手法について発表（2）
第4回　各自の研究テーマと研究手法について発表（3）
第5回　参考文献リストの作成
第6回　論文の仮説の発表（1）
第7回　論文の仮説の発表（2）
第8回　理論枠組みの発表（1）
第9回　理論枠組みの発表（2）
第10回　論文構想の発表（1）
第11回　論文構想の発表（2）
第12回　試作原稿の発表（1）
第13回　試作原稿の発表（2）
第14回　試作原稿の再考と今後の研究の見通し（1）
第15回　試作原稿の再考と今後の研究の見通し（2）

履修上の注意点

教科書

適宜示す
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜示す
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ（都）＜＊g＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　北村 義典

テーマ

建築・環境デザイン分野における卒業研究（1）

授業の到達目標

卒業論文執筆のスキル、及び卒業作品制作の技法・プレゼンテーション力を習得する。

授業の概要

1. 卒業研究テーマの設定
2. 文献調査・事例調査
3. 論文執筆、作品制作の手法技術を習得

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　課題提起（1）
第3回　課題提起（2）
第4回　テーマディスカッション（1）
第5回　テーマディスカッション（2）
第6回　テーマディスカッション（3）
第7回　テーマディスカッション（4）
第8回　建築・環境デザイン見学会（1）
第9回　文献調査・事例調査報告（1）
第10回 文献調査・事例調査報告（2）
第11回 文献調査・事例調査報告（3）
第12回 文献調査・事例調査報告（4）
第13回 ゴールイメージ設定
第14回 建築・環境デザイン見学会（2）
第15回 講評

履修上の注意点

教科書

適宜、資料を配布する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

コンパクト設計資料集成
著者:　日本建築学会編
出版社:　丸善（株）
出版年:　2005　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ（都）＜＊h＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松本　正富	

テーマ

建築・インテリアを題材とした卒業研究（1）

授業の到達目標

研究論文作成のためのスキルを習得する。
コンセプトある卒業制作を効果的にプレゼンテーションするためのスキルを習得する。

授業の概要

1）テーマ設定と絞込みに関するディスカッション
2）論文構成や論理的文章作成のためのアドバイス
3）文献調査・事例調査のアドバイス
4）コンセプトに沿ったデザイン手法についてのアドバイス

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

建築・美術関係の展覧会や講演会への参加，見学旅行等，デザインを学ぶ者としての積極的な活動を望む。その中で，モノを創造する際の自分なりの“こだわり”を見つけ出してくれることを期待する。
レポートやデザイン課題の多くは，授業時間外での作業となる（概ね，授業時間と同等の予習時間が必要）。
課題に関しては，その制作途中も含め，個人ごとにアドバイスを返す。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　テーマについてのディスカッション-1
第3回　テーマについてのディスカッション-2
第4回　テーマについてのディスカッション-3
第5回　テーマについてのディスカッション-4
第6回　テーマについてのディスカッション-5
第7回　テーマについてのディスカッション-6
第8回　建築見学会-1
第9回　文献調査・事例調査報告-1
第10回　文献調査・事例調査報告-2
第11回　文献調査・事例調査報告-3
第12回　文献調査・事例調査報告-4
第13回　文献調査・事例調査報告-5
第14回　建築見学会-2
第15回　まとめと講評
※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

参考書

建築系学生のための卒業設計の進め方
著者：　日本建築学会 編
出版社：井上書院
出版年：2009　　ISBN：　9784753010554

コンパクト設計資料集成
著者：　日本建築学会編
出版社：丸善株式会社
出版年：2005　　ISBN：　9784621075098

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）

a50204a118

参加度 （ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ(都)＜＊i＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河野　良平	

テーマ

卒業制作を行う。

授業の到達目標

制作・研究を通して論理的な思考を修得する。

授業の概要

テーマに沿った資料を収集し、アイデアやコンセプトをまとめ、作品を提案する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　テーマ発表
第3回　テーマ発表
第4回　テーマ発表
第5回　事例調査
第6回　事例調査
第7回　事例調査
第8回　敷地調査
第9回　敷地調査
第10回　敷地調査
第11回　作品制作
第12回　作品制作
第13回　作品制作
第14回　ゼミ合宿
第15回　ゼミ合宿

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ（都）＜＊j＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今井　裕夫	

テーマ

卒業論文を完成させる（1）テーマの設定と調査

授業の到達目標

論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。

授業の概要

卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導をする。受講生の研究の進捗状況によって各回の内容は異なるが、第1回から第15回にわたり、以下の内容で指導を進める。
〇テーマのしぼり方、その他につき討論・公表し、最終テーマを決定させる。
　・論理の構成、目次の作成
　・論理的な文章を書く方法
〇文献・資料検索についての具体的指導を行う。
　・研究テーマの深め方、より専門的な資料の調査
〇順次各自の研究テーマについて発表させる。
〇中間発表に向けての指導。
　・レジュメの作成方法
　・質疑応答の仕方

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　発表1
第3回　発表1
第4回　発表1
第5回　発表2
第6回　発表2
第7回　発表2
第8回　発表3
第9回　発表3
第10回　発表3
第11回　発表4
第12回　発表4
第13回　発表4
第14回　ゼミ合宿
第15回　ゼミ合宿
※尚、この授業では必要に応じて学外での授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ（救急）＜＊＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　夏目　美樹.北小屋　裕.関根　和弘.千田　いずみ.深澤　雄二.福岡　範恭	

テーマ

公務員を目指す為に必要な知識の習得

授業の到達目標

救急救命士の最大就職先である地方公務員の採用試験突破を目標に一般教養から社会・人文科学および時事問題等の理解を目指す。

授業の概要

公務員試験に即した実践形式な講義と問題解答。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　ガイダンス、公務員試験対策
第2回　公務員試験対策
第3回　公務員試験対策
第4回　公務員試験対策
第5回　公務員試験対策
第6回　公務員試験対策
第7回　公務員試験対策
第8回　公務員試験対策
第9回　公務員試験対策
第10回　公務員試験対策
第11回　公務員試験対策
第12回　公務員試験対策
第13回　公務員試験対策
第14回　公務員試験対策
第15回　まとめ

履修上の注意点

無断欠席者については、成績評価をしないので必ず学生自身が担当教員に連絡すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 100 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
講義参加度および授業中課題の提出度が規定に達していない者は成績評価を実施しない。

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ（都）＜＊a＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　土井　脩史	

テーマ

卒業研究を完成させる

授業の到達目標

各自の卒業研究（論文・制作）を完成させること。

授業の概要

卒業研究についての進捗発表と議論を中心に行います。本ゼミでは、教員が一方的な指導を行うのではなく、学生同士が自由に意見交換できる雰囲気を作りたいと考えています。自分の研究だけではなく、他人の研究発表にも関心をもってゼミに参加するようにしてください。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

卒業研究は付け焼き刃では完成しません。日頃からコツコツと進めるように心がけましょう。

内　容

第1回　夏休み中の進捗報告と今後の進め方について（1）
第2回　夏休み中の進捗報告と今後の進め方について（2）
第3回　研究の進捗発表と議論（1）
第4回　研究の進捗発表と議論（2）
第5回　研究の進捗発表と議論（3）
第6回　研究の進捗発表と議論（4）
第7回　完成原稿の発表と議論（1）
第8回　完成原稿の発表と議論（2）
第9回　完成原稿の発表と議論（3）
第10回　完成原稿の発表と議論（4）
第11回　修正原稿の発表と議論（1）
第12回　修正原稿の発表と議論（2）
第13回　口頭試問に向けた発表練習（1）
第14回　口頭試問に向けた発表練習（2）
第15回　まとめ

履修上の注意点

当然ながら、出席は必須です。やむを得ず欠席する場合には、教員まで連絡すること。なお、この授業では必要に応じて学外で授業する場合があります。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

必要に応じて紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 40 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ（都）＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小暮　宣雄	

テーマ

文化プロデュース・アーツマネジメント研究の完成

授業の到達目標

文化プロデュース・アーツマネジメント研究として卒業研究（論文・制作）の作業を続け完成させること
卒業研究（論文・制作）を要約して対外的に提示できるようにすること

授業の概要

教室でのディスカッションや発表のほか、個別指導も行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

卒業制作の場合は、現場の作業となる。卒業論文の場合は現地調査などのあと、自分自身の論稿をまとめる作業を各自行うこと。研究室で個別添削。卒業研究の作業は授業中ではできるものではないので、授業外で文献を読み、フィールドワークにおいてはインタビューや観察を丹念にし、記録すること。発表に対してコメントするようにする。就活との兼ね合いはあるが、常日頃自分の卒業研究テーマの文献などを時間をかけて読むようにすること。 卒業研究にはかなりの時間が必要であるので、早めに着すること。

内　　容

第1回　はじめに
第2回　夏休みの作業の報告とこれからのスケジュールづくり
第3回　卒業研究の進捗状況の把握と疑問点の解消
第4回　卒業研究中間報告
第5回　中間報告についての反省と課題摘出
第6回　卒業論文の部分的発表と点検（1）
第7回　卒業論文の部分的発表と点検（2）
第8回　卒業論文の部分的発表と点検（3）
第9回　学外授業（公共政策あるいはアーツマネジメントの現場にいく）
第10回　これからのアーツマネジメントと私たち（総括的に）
※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
第11回　卒業論文の完成と添削（1）
第12回　卒業論文の完成と添削（2）
第13回　卒業論文の完成と添削（3）
第14回　卒業研究を要約し対外的に伝えるために
第15回　まとめ

履修上の注意点

遅刻や欠席の際には、事前に連絡すること

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 0 ）	授業中発表等 （ 50 ）
参加度 （ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ（都）＜＊c＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　谷口　知司	

テーマ

卒業論文を完成させる（2）調査の整理と論文の完成

授業の到達目標

卒業論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。

授業の概要

卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。各受講生の進捗状況によって各回の内容は異なるが、第1回から第15回にわたり、以下の内容で指導を進める。
〇進捗状況を相互に確認する。
〇10月中を目途に中間発表を実施する。
〇中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。
〇卒業研究を進めるための個別指導を行う。
・論理構成および文章のチェック
・資料の再点検
〇口頭試問に向けてのプレゼンテーションと質疑応答の方法を指導する。
・レジュメの作成方法
・質疑応答の仕方

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

卒論を作成するための資料調査などに授業外でも多くの時間と手間を要求する。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　発表1
第3回　発表1
第4回　発表1
第5回　発表2
第6回　発表2
第7回　発表2
第8回　発表3
第9回　発表3
第10回　発表3
第11回　発表4
第12回　発表4
第13回　発表4
第14回　発表または見学
第15回　まとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

随時指示します。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 40 ）

a50204a253

参加度 （ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ（都）＜＊d＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　福井　弘幸	

テーマ

卒業論文を完成させる。

授業の到達目標

卒業論文の書き方及び論理の展開を習得し卒業論文を完成させる。

授業の概要

・卒業研究を進めるための一般指導と個々の進捗状況に応じた個別指導を　行う。
・11月上旬を目処に中間発表を実施する。
・中間発表後、執筆要領、注意事項など指導する。
・卒業研究を進めるための個別指導を行う（論理展開、文章チェック、
　資料の確認）。
・口頭試問に向けての指導（プレゼン方、レジュメの作成方、質疑応答の
　要領）。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

卒論作成のための資料収集、フィールドワークなど授業外の学習を要求する。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　発表1
第3回　発表1
第4回　発表1
第5回　発表2
第6回　発表2
第7回　発表2
第8回　発表3
第9回　発表3
第10回　発表3
第11回　発表4
第12回　発表4
第13回　発表4
第14回　発表または見学
第15回　まとめ

履修上の注意点

・3分の2以上の出席が必要です。
・必要に応じ特別講演会、学外授業を行う場合がある。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

随時指示する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（０）	小テスト（０）
授業中課題（３０）	授業中発表等（４０）
参加度（３０）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ（都）＜＊e＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　金武 創	

テーマ

水準の高い卒業論文を書こう

授業の到達目標

（1）質の高い中間報告を準備すること
（2）毎月設定される卒論原稿文字数を必ずクリアすること
（3）仲間の論文批評の成果を自らの論文に生かすこと

授業の概要

中間報告および卒業研究に向けてのグループ学習

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

卒論完成に向けて、復習として、図書館を積極的に利用し、文献調査を実施する（1時間）

内　　容

第1回　中間報告準備（1）
第2回　中間報告準備（2）
第3回　中間報告準備（3）
第4回　中間報告会
第5回　中間報告会
第6回　卒業論文に関するグループ学習（1）
第7回　卒業論文に関するグループ学習（2）
第8回　卒業論文に関するグループ学習（3）
第9回　卒業論文に関するグループ学習（4）
第10回　卒業論文に関するグループ学習（5）
第11回　論文執筆の反省
第12回　卒業ゼミ研究プロジェクト（1）
第13回　卒業ゼミ研究プロジェクト（2）
第14回　卒業ゼミ研究プロジェクト（3）
第15回　卒業ゼミ研究プロジェクト（4）
※なお、この授業では必要に応じて学外授業および学外講師を招いた講演会を行うことがある。

履修上の注意点

卒論執筆については、個人作業に加えて、34回生との協働作業も積極的に推進する

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）　　小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 50% ）　　授業中発表等 （ 20% ）
参加度 （ 30% ）
学外授業を実施する場合も授業中課題を課します。

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ（都）＜＊f＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　木下　達文	

テーマ

卒業論文を完成する。

授業の到達目標

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成する。

授業の概要

基本的には個人研究発表および報告を行い、それに対する討議、コメント等を逐次行う。ケースバイケースで、個人面談になることもある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

発表者のテーマに対して事前調べを行い、リアクションシート等を作成する。課題等に対しては授業中やメール等でのフィードバックを行う。

内　容

第1回　卒論進捗報告（結論）
第2回　卒論進捗報告（結論）
第3回　卒論進捗報告（結論）
第4回　卒論進捗報告（結論）
第5回　卒論中間報告会
第6回　卒論最終報告（全体）
第7回　卒論最終報告（全体）
第8回　卒論最終報告（全体）
第9回　卒論最終報告（全体）
第10回　卒論ドラフト相互チェック
第11回　卒論ドラフト相互チェック
第12回　口頭試問の準備
第13回　口頭試問の準備
第14回　口頭試問の準備
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 55 ）
参加度（ 45 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ（都）＜＊g＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　北村 義典

テーマ

建築・環境デザイン分野における卒業研究(2)

授業の到達目標

質の高い卒業研究を完成させる

授業の概要

1. 適正な論理構成を持つ論文指導
2. 作品制作及びプレゼンテーション技法の指導
3. スケジュールコントロール

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　個別指導（1）
第3回　個別指導（2）
第4回　個別指導（3）
第5回　個別指導（4）
第6回　個別指導（5）
第7回　個別指導（6）
第8回　建築、環境デザイン見学会
第9回　卒業研究ゼミ中間発表
第10回 卒業研究手直し（1）
第11回 卒業研究手直し（2）
第12回 卒業研究手直し（3）
第13回 卒業研究ゼミ内発表（1）
第14回 卒業研究ゼミ内発表（2）
第15回 講評

履修上の注意点

教科書

適宜、資料を配布する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

コンパクト設計資料集成
著者:　日本建築学会編
出版社:　丸善(株)
出版年:　2005　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 50 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ(都)＜＊h＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松本　正富	

テーマ

建築・インテリアを題材とした卒業研究(2)

授業の到達目標

4年間の学習の集大成として，完成度の高い卒業研究を仕上げる。

授業の概要

1)完成に向けてのスケジュールコントロール
2)論文構成や論理的文章作成のためのアドバイス
3)効果的プレゼンテーションについてのアドバイス

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

建築・美術関係の展覧会や講演会への参加，見学旅行等，デザインを学ぶ者としての積極的な活動を望む。その中で，モノを創造する際の自分なりの“こだわり”を見つけ出してくれることを期待する。
レポートやデザイン課題の多くは，授業時間外での作業となる(概ね，授業時間と同等の予習時間が必要)。
課題に関しては，その制作途中も含め，個人ごとにアドバイスを返す。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　進捗報告・個別指導-1
第3回　進捗報告・個別指導-2
第4回　進捗報告・個別指導-3
第5回　進捗報告・個別指導-4
第6回　進捗報告・個別指導-5
第7回　建築見学会-1
第8回　卒業研究の仮完成チェック
第9回　卒業研究の手直しとレベルアップ-1
第10回　卒業研究の手直しとレベルアップ-2
第11回　卒業研究の手直しとレベルアップ-3
第12回　ゼミ内プレゼンテーション-1
第13回　ゼミ内プレゼンテーション-2
第14回　建築見学会-2
第15回　まとめと講評
※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

参考書

建築系学生のための卒業設計の進め方
著者:　日本建築学会 編
出版社:　井上書院
出版年:　2009　　ISBN:　9784753010554

コンパクト設計資料集成
著者:　日本建築学会編
出版社:　丸善株式会社
出版年:　2005　　ISBN:　9784621075098

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （40）	授業中発表等 （30）
参加度 （30）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ（都）＜＊i＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河野　良平	

テーマ

卒業研究を完成させる。

授業の到達目標

卒業研究を通して論理的思考を修得する。

授業の概要

設計条件に従って作品を制作する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　進捗状況報告1
第3回　進捗状況報告1
第4回　進捗状況報告1
第5回　進捗状況報告2
第6回　進捗状況報告2
第7回　進捗状況報告2
第8回　進捗状況報告3
第9回　進捗状況報告3
第10回　進捗状況報告3
第11回　プレゼンテーション
第12回　プレゼンテーション
第13回　プレゼンテーション
第14回　プレゼンテーション
第15回　まとめ
※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ（都）＜＊j＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今井　裕夫	

テーマ

卒業論文を完成させる（2）調査の整理と論文の完成

授業の到達目標

卒業論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。

授業の概要

卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。各受講生の進捗状況によって各回の内容は異なるが、第1回から第15回にわたり、以下の内容で指導を進める。
〇進捗状況を相互に確認する。
〇10月中を目途に中間発表を実施する。
〇中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。
〇卒業研究を進めるための個別指導を行う。
・論理構成および文章のチェック
・資料の再点検
〇口頭試問に向けてのプレゼンテーションと質疑応答の方法を指導する。
・レジュメの作成方法
・質疑応答の仕方

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　発表1
第3回　発表1
第4回　発表1
第5回　発表2
第6回　発表2
第7回　発表2
第8回　発表3
第9回　発表3
第10回　発表3
第11回　発表4
第12回　発表4
第13回　発表4
第14回　発表または見学
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ（救急）＜＊＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　夏目　美樹.北小屋　裕.久保山　一敏.千田　いずみ.西本　泰久.深澤　雄二.福岡　範恭.冨士原　彰	

テーマ

救急救命士国家試験対策

授業の到達目標

救急救命士国家試験に合格できる知識を習得することを目的とする。

授業の概要

問題を解き、正文を作成し知識の定着を進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　ガイダンス、救急救命士国家試験対策
第2回　救急救命士国家試験対策
第3回　救急救命士国家試験対策
第4回　救急救命士国家試験対策
第5回　救急救命士国家試験対策
第6回　救急救命士国家試験対策
第7回　救急救命士国家試験対策
第8回　救急救命士国家試験対策
第9回　救急救命士国家試験対策
第10回　救急救命士国家試験対策
第11回　救急救命士国家試験対策
第12回　救急救命士国家試験対策
第13回　救急救命士国家試験対策
第14回　救急救命士国家試験対策
第15回　まとめ

履修上の注意点

講義参加度および授業中課題の提出度が規定に達していない者は成績評価を実施しない。

教科書

参考書

第37回救急救命士国家試験問題解答・解説集
著者:　監修　山本保博
出版社:　へるす出版
出版年:　2014年　　ISBN:　9784892698415

第38回救急救命士国家試験問題解答・解説集
著者:　監修　山本保博
出版社:　へるす出版
出版年:　2015年　　ISBN:　9784892698651

第39回救急救命士国家試験問題解答・解説集
著者:　監修　山本保博
出版社:　へるす出版
出版年:　2016年　　ISBN:　9784892698897

第40回救急救命士国家試験問題解答・解説集
著者:　監修　山本保博
出版社:　へるす出版
出版年:　2017年　　ISBN:　9784892699245

a50204a290

第41回救急救命士国家試験問題解答・解説集

著者: 監修 山本保博

出版社: へるす出版

出版年: 2018年予定 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）

参加度（ ）

講義参加度および授業中課題の提出度が規定に達していない者は成績評価を実施しない。

2018 Syllabus

科 目 名　**看護学原論 I**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　梶谷　佳子	

テーマ

実践科学としての看護学の成り立ちおよび本質について理解する。人々の健康への取り組みを支援する支援、社会的観点からを支援する看護簿役割と、看護実践を支える看護学の構築のための学問的探求の方法についての基礎を得る。

授業の到達目標

1.看護（助産・公衆衛生看護含む）の核となる要素であるケアの概念について説明できる。
2.健康・不健康の連続性を踏まえて、健康を総合的に捉え説明できる。
3.多様な価値観や人生経験を有している人々を尊重することの意味を説明できる。
4.人間の健康と生活、基本的ニードとセルフケアの諸概念および関連について具体的に説明できる。
5.看護理論の発展を概観し、看護についての考えを深め、自分の言葉で表現できる。
6.医療・看護に携わる者として自己を見つめ、理想像を明確にしてその実現に努める姿勢を獲得する。

授業の概要

実践科学としての看護学（助産学・公衆衛生看護学含む）の成り立ちおよび本質について理解する。人々の健康への取り組みを社会的観点から支援する看護の役割と、看護実践を支える看護学の構築のための学問的探求の方法についての基礎を得る。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・毎回、次回講義の事前学習があります。それを持参して講義に臨みます。
・後半にはグループディスカッションがあります。積極的に意見を出してください。

内　容

第1回　看護学の目的と看護（助産、公衆衛生看護含む）実践について考える
第2回　看護学を構成する主要な概念を検討する(看護における人間のとらえ方と健康へのニーズ)
第3回　看護学を構成する主要な概念を検討する（健康に影響する環境の諸要因と看護の役割）
第4回　多様な看護実践の場と看護サービスの提供の仕方、多職種連携について検討する
第5回　看護の展開方法について知る
第6回　看護実践に関わる倫理的な課題を探求する
第7回　時代/社会による看護の役割機能の違いを検討し、自身の看護への探求姿勢を深める
第8回　闘病記、出産体験記や地域の住民活動等を通して、具体的な看護の展開について考える。（グループ編成を行
第9回　看護実践および看護学の探究方法としての看護理論への理解を深める（GW）ナイチンゲール、ロジャーズ、ロイ、ヘンダーソン、オレム、ペプロー、マーサー、ペンダー等
第10回　理論家による理論構築の背景を知り理論の持つ強みについて、事例を用いて検討する(GW1)
第11回　理論家による理論構築の背景を知り理論の持つ強みについて、事例を用いて検討する(GW2)
第12回　理論にもとづき事例展開した内容をプレゼンテーションする（その1）
第13回　理論にもとづき事例展開した内容をプレゼンテーションする（その2）
第14回　いくつかの看護理論への理解を深める（その1）
第15回　いくつかの看護理論への理解を深める（その2）

履修上の注意点

看護を学ぶうえでの重要な入門の意味のある科目です。毎回の学習内容を積み重ねることでより学習内容が深まります。グループディスカッションもありますので、積極的に参加してください。

教科書

看護の基本となるもの
著者:　V・ヘンダーソン
出版社:　日本看護協会出版会
出版年:　最新年　　ISBN:

看護覚え書き
著者:　F・ナイチンゲール
出版社:　日本看護協会出版会
出版年:　最新年　　ISBN:

看護学概論
著者:　松木光子編
出版社:　ヌーベルHIROKAWA
出版年:　最新年　　ISBN:

a70101a110

新　愛深き淵に

著者:　星野富弘

出版社: GAKKEN

出版年: 最新年　　ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 30 ）

ペーパー試験、授業中の課題や取り組みなど総合的に評価します。

2018 Syllabus

科 目 名　**災害看護学Ⅰ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野島　敬祐.川口　淳.河原　宣子.竹下　夏美.千田　いずみ.夏目　美樹.堀　妙子	

テーマ

授業の到達目標

1.災害看護に関する基本的知識と援助技術を理解する。
2.ライフサイクル各期の災害看護活動を理解する。
3.国内諸地域および国際協力における健康危機管理とその対策、災害看護活動を理解する。
4.救命救急活動に必要なBLS、応急手当等を習得する。

授業の概要

災害看護に関する基本的知識を学び、災害サイクル各期のさまざまな看護の場における看護活動についてライフサイクルを踏まえて理解する。また、救命救急活動における基本的技術を習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　災害看護とは、災害に関する基礎知識、災害サイクル各期における災害看護活動、健康危機発生時の緊急対応、心的外傷後ストレス障害
第2回　地域ケアの体制づくりー災害への備えと減災に向けた地域連携システムと看護の役割
第3回　災害看護活動における国際協力
第4回　ライフサイクル各期における災害看護活動①：新生児期から小児期，妊産褥婦
第5回　ライフサイクル各期における災害看護活動②：成人期から老年期，健康障害を有する人
第6回　救命救急処置技術の基本：新生児期から老年期まで，妊産褥婦を対象として
第7回　救命救急処置技術の演習（BLS、応急手当等）①：新生児期から老年期まで，妊産褥婦を対象として
第8回　救命救急処置技術の演習（BLS、応急手当等）②：新生児期から老年期まで，妊産褥婦を対象として

履修上の注意点

教科書

災害看護第3版
著者：　酒井明子
出版社：南江堂
出版年：　　ISBN：

参考書

災害看護学習テキスト概論編
著者：　南裕子
出版社：日本看護協会出版会
出版年：　　ISBN：

災害看護学習テキスト実践編
著者：　南裕子
出版社：日本看護協会出版会
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ 70 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**ヘルスプロモーション**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小西　奈美.河原　宣子.神﨑　光子.工藤　里香.黒瀧　安紀子.竹下　夏美.野島　敬祐.堀　妙子	

テーマ

健康の概念およびヘルスプロモーションの概念を学び,ライフサイクル各期において、対象の尊厳と権利を擁護することを前提とし、人々が自らの健康をコントロールし、改善する過程を支援する看護方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.健康の概念を理解する。2.ヘルスプロモーションの概念を理解する。3.人の誕生からライフサイクル各期における健康課題を明らかにし、ヘルスプロモーション活動を理解する。4.現代社会の保健医療福祉におけるヘルスプロモーション活動を理解し、その中における看護の役割を理解する。5.それぞれの地域における健康課題を明らかにし、ヘルスプロモーションと政策について理解する。

授業の概要

健康の概念およびヘルスプロモーションの概念を学び、ライフサイクル各期において、対象の尊厳と権利を擁護されることを前提とし、人々が自らの健康をコントロールし、改善する過程を支援する看護方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習:ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、授業に望むこと。
復習:各授業で学んだ内容の要点を整理する。

内　容

第1回　健康の概念
第2回　ヘルスプロモーションの概念
第3回　地域を基盤とした疾病予防の考え方と対応の比較
第4回　人々の健康行動の特性・効果的な介入方法と技術
第5回　健康教育の定義・歴史と変遷
第6回　健康教育の理論とモデル
第7回　健康教育活動展開の実施例－地域－
第8回　健康教育活動展開の実施例－母性・助産－
第9回　健康教育活動展開の実施例－小児－
第10回　回 健康教育活動展開の実施例－成人－
第11回　現代社会、現代文化におけるヘルスプロモーションと政策
第12回　健康教育活動展開の実施例－精神－
第13回　健康教育活動展開の実施例－老年－
第14回　健康教育活動展開の実施例－成人－
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

最新　保健学講座＜別巻1＞健康教育論
著者:　宮坂忠夫、川田智恵子、吉田亨
出版社:　メヂカルフレンド社
出版年:　2006　　ISBN:　9784839221782

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
課題が未提出であれば評価対象とならないため注意すること。

2018 Syllabus

科 目 名　**ヘルスプロモーション演習 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　マルティネス　真喜子	

テーマ

前期に実施したヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

授業の到達目標

1.健康教育の理論を理解する。2.看護・助産技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3.人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4.地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：ヘルスプロモーション、ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、初回の授業に望むこと。
復習：各授業で学んだ内容、グループワークの内容等要点を整理すること。

内　　容

第1回　健康教育企画・実施・評価について講義
第2回　オリエンテーション
第3回　グループワーク　対象のニーズの理解
第4回　グループワーク　対象のニーズの理解
第5回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第6回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第7回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第8回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第9回　グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第10回 グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第11回 グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第12回 グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第13回 各グループの健康教育の実施及び活動の評価
第14回 活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ
第15回 活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

課題が未提出であれば評価対象とならないため注意すること。

2018 Syllabus

科 目 名　**ヘルスプロモーション演習 〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹下　夏美	

テーマ

前期に実施したヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

授業の到達目標

1.健康教育の理論を理解する。2.看護・助産技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3.人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4.地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：ヘルスプロモーション、ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、初回の授業に望むこと。
復習：各授業で学んだ内容、グループワークの内容等要点を整理すること。

内　　容

第1回　健康教育企画・実施・評価について講義
第2回　オリエンテーション
第3回　グループワーク　対象のニーズの理解
第4回　グループワーク　対象のニーズの理解
第5回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第6回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第7回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第8回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第9回　グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第10回 グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第11回 グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第12回 グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第13回 各グループの健康教育の実施及び活動の評価
第14回 活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ
第15回 活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 40 ）
課題が未提出であれば評価対象とならないため注意すること。

2018 Syllabus

科 目 名　**ヘルスプロモーション演習 <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　神﨑　光子	

テーマ

前期に実施したヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

授業の到達目標

1.健康教育の理論を理解する。2.看護・助産技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3.人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4.地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：ヘルスプロモーション、ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、初回の授業に望むこと。
復習：各授業で学んだ内容、グループワークの内容等要点を整理すること。

内　　容

第1回　健康教育企画・実施・評価について講義
第2回　オリエンテーション
第3回　グループワーク　対象のニーズの理解
第4回　グループワーク　対象のニーズの理解
第5回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第6回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第7回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第8回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第9回　グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第10回 グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第11回 グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第12回 グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第13回 各グループの健康教育の実施及び活動の評価
第14回 活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ
第15回 活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 40 ）
課題が未提出であれば評価対象とならないため注意すること。

2018 Syllabus

科 目 名　**ヘルスプロモーション演習 <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　深山　つかさ	

テーマ

前期に実施したヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

授業の到達目標

1.健康教育の理論を理解する。2.看護・助産技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3.人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4.地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：ヘルスプロモーション、ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、初回の授業に望むこと。
復習：各授業で学んだ内容、グループワークの内容等要点を整理すること。

内　　容

第1回　健康教育企画・実施・評価について講義
第2回　オリエンテーション
第3回　グループワーク　対象のニーズの理解
第4回　グループワーク　対象のニーズの理解
第5回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第6回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第7回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第8回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第9回　グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第10回 グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第11回 グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第12回 グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第13回 各グループの健康教育の実施及び活動の評価
第14回 活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ
第15回 活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 40 ）
課題が未提出であれば評価対象とならないため注意すること。

2018 Syllabus

科 目 名　**ヘルスプロモーション演習 〈e〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中橋　苗代	

テーマ

前期に実施したヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

授業の到達目標

1.健康教育の理論を理解する。2.看護・助産技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3.人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4.地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：ヘルスプロモーション、ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、初回の授業に望むこと。
復習：各授業で学んだ内容、グループワークの内容等要点を整理すること。

内　容

第1回　健康教育企画・実施・評価について講義
第2回　オリエンテーション
第3回　グループワーク　対象のニーズの理解
第4回　グループワーク　対象のニーズの理解
第5回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第6回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第7回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第8回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第9回　グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第10回 グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第11回 グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第12回 グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第13回 各グループの健康教育の実施及び活動の評価
第14回 活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ
第15回 活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 40 ）
課題が未提出であれば評価対象とならないため注意すること。

2018 Syllabus

科 目 名　**ヘルスプロモーション演習 <f>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　工藤　里香	

テーマ

前期に実施したヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

授業の到達目標

1.健康教育の理論を理解する。2.看護・助産技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3.人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4.地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：ヘルスプロモーション、ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、初回の授業に望むこと。
復習：各授業で学んだ内容、グループワークの内容等要点を整理すること。

内　　容

第1回　健康教育企画・実施・評価について講義
第2回　オリエンテーション
第3回　グループワーク　対象のニーズの理解
第4回　グループワーク　対象のニーズの理解
第5回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第6回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第7回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第8回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第9回　グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第10回 グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第11回 グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第12回 グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第13回 各グループの健康教育の実施及び活動の評価
第14回 活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ
第15回 活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 40 ）
課題が未提出であれば評価対象とならないため注意すること。

2018 Syllabus

科 目 名　**ヘルスプロモーション演習 〈g〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　岡田　純子	

テーマ

前期に実施したヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

授業の到達目標

1.健康教育の理論を理解する。2.看護・助産技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3.人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4.地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：ヘルスプロモーション、ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、初回の授業に望むこと。
復習：各授業で学んだ内容、グループワークの内容等要点を整理すること。

内　　容

第1回　健康教育企画・実施・評価について講義
第2回　オリエンテーション
第3回　グループワーク　対象のニーズの理解
第4回　グループワーク　対象のニーズの理解
第5回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第6回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第7回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第8回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第9回　グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第10回 グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第11回 グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第12回 グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第13回 各グループの健康教育の実施及び活動の評価
第14回 活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ
第15回 活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

課題が未提出であれば評価対象とならないため注意すること。

2018 Syllabus

科 目 名　**ヘルスプロモーション演習 <h>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小西　奈美	

テーマ

前期に実施したヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

授業の到達目標

1.健康教育の理論を理解する。2.看護・助産技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3.人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4.地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：ヘルスプロモーション、ライフサイクル論で行った内容を復習した上で、初回の授業に望むこと。
復習：各授業で学んだ内容、グループワークの内容等要点を整理すること。

内　　容

第1回　健康教育企画・実施・評価について講義
第2回　オリエンテーション
第3回　グループワーク　対象のニーズの理解
第4回　グループワーク　対象のニーズの理解
第5回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第6回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第7回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第8回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第9回　グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第10回 グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第11回 グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第12回 グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第13回 各グループの健康教育の実施及び活動の評価
第14回 活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ
第15回 活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 40 ）
課題が未提出であれば評価対象とならないため注意すること。

2018 Syllabus

科 目 名　**プライマリケア論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　餅田　敬司.河原　宣子.小林　啓治.竹下　夏美.堀　妙子.松本　賢哉	

テーマ

授業の到達目標

1.プライマリケアとプライマリヘルスケアの概念を理解する。
2.保健・医療・福祉における看護の機能と看護活動のあり方の基礎を理解する。
3.ライフサイクル各期の保健医療福祉対策と看護活動を理解できる。
4.保健・医療・福祉における協働と連携の意義を理解する。

授業の概要

プライマリケアの基本概念である、人々を取り巻く環境とあらゆる健康や疾病に対する総合的・継続的、全人的に対応する地域の政策と機能について学ぶ。ライフサイクル論やヘルスプロモーションを踏まえ、ライフサイクル各期における様々な健康レベルにある人と政策や施策等との関連および看護活動を理解する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　プライマリケアの理念
　プライマリケアとは、プライマリヘルスケアとは、人々の尊厳と権利を擁護する社会の仕組み、社会・文化と健康
第2回　地域の特性と健康課題のアセスメントと看護介入
　コミュニティ・アズ・パートナーモデル、健康に影響する環境と社会的要因の理解
　山科区の地区視診課題提示（プライマリケア実習Ⅰ関連）
第3回　プライマリヘルスケアと看護職の役割－国際看護の視点から
　プライマリヘルスケア、社会・文化と健康
第4回　保健医療福祉における看護機能
　保健医療福祉制度と法律（概論）、看護の機能、組織論、保健医療福祉における協働と連携
第5回　在宅看護の理念・目的・歴史と看護の実際－個人と家族の生活アセスメントと看護援助
第6回　地域ケアの構築と看護機能①
　地域ケアに関わる医療政策、地域ケアの体制づくり、地域組織活動、ケアネットワークづくり、支援システムの構築
第7回　地域ケアの構築と看護機能②
　地域組織活動とその育成の実際、健康課題に対する地域の組織的取り組み、集団の形成・発達、自立・自律支援、個人・グループ・機関との調整
第8回　母子における保健医療福祉対策の現状と課題、看護活動①～②
第9回　〃
第10回　地域保健と学校保健①～②
第11回　〃
第12回　精神疾病の発症予防から再発予防までを含めた保健医療福祉対策の現状と課題、看護活動-個人・家族・地域のメンタルヘルスの促進
第13回　身体的疾病の発症予防から再発予防までを含めた保健医療福祉対策の現状と課題、看護活動-医療の仕組み、医療保険制度、診療報酬制度
第14回　高齢者における保健医療福祉対策の現状と課題、看護活動
第15回　まとめ-2回生「プライマリケア実習Ⅰ」に向けて
　地域特性や社会資源に関する資料を活用して地域の健康課題を把握する意義
　学校や職場などの健康課題を把握する意義
第16回　試験

履修上の注意点

教科書

保健医療福祉行政論
著者:　編集　野村陽子
出版社:　メヂカルフレンド社
出版年:　2016　　ISBN:　9784839221850

参考書

成績評価

試験・レポート（ 70 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

a70101a550

参加度 （ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**ライフサイクル論（看護）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀　妙子.河原　宣子.工藤　里香.松本　賢哉	

テーマ

人のライフサイクルの特徴とそれに関連した健康課題について学ぶ

授業の到達目標

1.人のライフサイクルと発達について説明できる。
2.人の発達段階各期における保健統計から健康課題の特徴を説明できる。
3.人の発達段階各期における、身体的変化、認知や感情、心理社会的変化について説明できる。
4.人を生活している人ととらえ、発達段階各期におけるその特徴を説明できる。
5.妊娠・産婦・褥婦の生理、胎児・新生児・乳幼児の生理について説明できる。
6.人の発達段階各期における健康課題について理解し、健康の保持増進、疾病予防のために必要な看護援助方法について説明できる。
7.自己分析を行い、自己理解できる。

授業の概要

人のライフサイクルと発達について学び、それぞれのライフサイクルにおける生活のあり方や健康課題の特徴を学び看護の対象となる人々を理解するための基礎的な能力を養う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

第1回目の授業の際に説明を行う

内　　容

第1回　ライフサイクル論概説（1）～（2）　教科書：小児看護学概論
第2回　ライフサイクル論概説（1）～（2）　教科書：小児看護学概論
第3回　ライフサイクル論概説（3）　教科書：成人看護学概論
第4回　青年期の成長・発達課題と健康課題（1）～（3）　教科書：成人看護学概論
第5回　青年期の成長・発達課題と健康課題（1）～（3）　教科書：成人看護学概論
第6回　青年期の成長・発達課題と健康課題（1）～（3）　教科書：成人看護学概論
第7回　青年期の成長・発達課題と健康課題（4）　教科書：母性看護学概論
第8回　青年期の成長・発達課題と健康課題（5）　教科書：精神看護の基礎
第9回　成人前期の成長・発達課題と健康課題（1）　教科書：成人看護学概論
第10回　成人前期の成長・発達課題と健康課題（2）　教科書：母性看護学概論
第11回　成人中期の成長・発達課題と健康課題（1）　教科書：成人看護学概論
第12回　小児期の成長・発達課題と健康課題（1）　教科書：小児看護学概論
第13回　成人中期の成長・発達課題と健康課題（2）教科書：成人看護学
第14回　小児期の成長・発達課題と健康課題（2）　教科書：小児看護学概論
第15回　成熟期の成長・発達課題と健康課題（1）　教科書：成人看護学概論
第16回　成熟期の成長・発達課題と健康課題（2）～（3）教科書：母性看護学概論
第17回　成熟期の成長・発達課題と健康課題（2）～（3）教科書：母性看護学概論
第18回　小児期の成長・発達課題と健康課題（3）～（6）　教科書：小児看護学概論
第19回　小児期の成長・発達課題と健康課題（3）～（6）　教科書：小児看護学概論
第20回　小児期の成長・発達課題と健康課題（3）～（6）　教科書：小児看護学概論
第21回　小児期の成長・発達課題と健康課題（3）～（6）　教科書：小児看護学概論
第22回　成熟期の成長・発達課題と健康課題（4）　教科書：成人看護学概論
第23回　小児期の成長・発達課題と健康課題（7）　教科書：小児看護学概論
第24回　成熟期の成長・発達課題と健康課題（5）　教科書：精神看護学の基礎
第25回　老年期の成長・発達課題と健康課題（1）～（5）　教科書：老年看護学
第26回　老年期の成長・発達課題と健康課題（1）～（5）　教科書：老年看護学
第27回　老年期の成長・発達課題と健康課題（1）～（5）　教科書：老年看護学
第28回　老年期の成長・発達課題と健康課題（1）～（5）　教科書：老年看護学
第29回　老年期の成長・発達課題と健康課題（1）～（5）　教科書：老年看護学
第30回　ライフサイクル論　まとめ

履修上の注意点

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学総
著者：　小松浩子他
出版社：医学書院

a70101a610

出版年: 最新刊 ISBN:
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論
著者: 奈良間美保他
出版社: 医学書院
出版年: 最新刊 ISBN:
体系看護学全書 母性看護学①母性看護学概論/ウィメンズヘルスと看護
著者: 新道幸恵他
出版社: メヂカルフレンド社
出版年: 最新刊 ISBN:
新体系看護学全書 母性看護学②マタニティサイクルにおける母子の健康と看護
著者: 新道幸恵他
出版社: メヂカルフレンド社
出版年: 最新刊 ISBN:
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1]
著者: 武井麻子他
出版社: 医学書院
出版年: 最新刊 ISBN:
最新保健学講座別巻1 健康教育論
著者: 宮坂忠夫他
出版社: メヂカルフレンド社
出版年: 最新刊 ISBN:
成人看護学 ヘルスプロモーション
著者: 大西和子他
出版社: ヌーヴェルヒロカワ
出版年: 最新刊 ISBN:
老年看護学 概論と看護の実践
著者: 奥野茂代他
出版社: ヌーヴェルヒロカワ
出版年: 最新刊 ISBN:
公衆衛生マニュアル
著者: 柳川洋他
出版社: 南山堂
出版年: 最新刊 ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ） 小テスト（ 50 ）
授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）
参加度（ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**フィジカルアセスメントⅠ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　天野　博夫.梶谷　佳子.川上　ゆかり.小尾口　邦彦.福井　道彦	

テーマ

解剖学、生理学、微生物学の基礎医学を系統的に学び、身体の健康状態をアセスメントするための基礎的知識を修得する。

授業の到達目標

1.人体の構造を系統的・立体的に理解できる。
2.人体の各組織や器官の正常機能およびそれらの協調による恒常性の維持などの調節機構を理解できる。
3.看護に必要な人体の防御システムについて説明できる。

授業の概要

解剖学、微生物学の基礎医学を系統的に学び、身体の健康状態をアセスメントするための基礎的知識を修得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・予習・復習を確実に行って知識を身につけてください。
・自分なりの振り返りノートを作成するなど工夫してください。

内　容

第1回　生命とは(生命現象、人体のつくり)細胞、組織、器官と器官系、身体の区分と生命現象を維持するからだの基本構造（解剖1）
第2回　生命とは(生命現象、人体のつくり)細胞、組織、器官と器官系、身体の区分と生命現象を維持するからだの基本構造(解剖1）
第3回　筋系からだの枠組みをつくり、力を発揮する～骨格系①(解剖3）
骨格、関節、骨格筋の構造と機能、全身の骨と関節
第4回　筋系からだの枠組みをつくり、力を発揮する～筋肉系②(解剖4）
全身の骨格筋
第5回　刺激を伝達し、情報を処理･指令する ～神経系(解剖5）
第6回　生体を包み、外界と内部機構との応答を促進するシステム～皮膚、感覚器(解剖6）
視覚器、聴覚器、味覚器、嗅覚器、皮膚、体性感覚、痛覚、内臓感覚
第7回　血液恒常性維持のため生体内を流動し、物質を運搬する(解剖7)①～血液･リンパ液･循環器系血液の成分と機能、血管、リンパ管、心臓、血管系、血圧･血流･脈拍、循環の調整、リンパ循環
第8回　血液恒常性維持のため生体内を流動し、物質を運搬する(解剖8)②～血液･リンパ液･循環器系血液の成分と機能、血管、リンパ管、心臓、血管系、血圧･血流･脈拍、循環の調整、リンパ循環
第9回　気体を取り込み、代謝産物を排出する ～呼吸器系（解剖9）
呼吸器系の構造と機能、ガス交換とガスの運搬、呼吸運動、呼吸運動の調整
第10回　食物を取り入れ生体を栄養する～消化･吸収系①(解剖10）
消化･吸収栄養と代謝
第11回　食物を取り入れ生体を栄養する～消化･吸収系②(解剖11）
消化･吸収栄養と代謝
第12回　内分泌系恒常性維持のためにホルモンにより液性調節を促す ～内分泌系(解剖12）
第13回　泌尿器系残渣物･老廃物をより分け排出する ～排泄系(解剖13）
第14回　生殖器系子孫を残す ～生殖と発生、個体の維持、生命のおわり(解剖14)生殖とは、男性生殖器、女性生殖器、授精･妊娠･分娩
第15回　発生(解剖15）
第16回　微生物学概論
第17回　感染の定義と経路
第18回　細菌学総論
第19回　細菌学各論1
第20回　細菌学各論2
第21回　ウイルス学総論
第22回　ウイルス学各論1
第23回　ウイルス学各論2
第24回　真核生物とプリオンによる感染症
第25回　感染に対する防御機構1
第26回　感染に対する防御機構2
第27回　感染症の診断と治療
第28回　感染症の予防
第29回　まとめおよび実習(細菌検査）
第30回　感染看護:感染看護の動向(ゲストスピーカー）
なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

・授業への参加は試験の前提条件です。

a70101a810

教科書

ナーシング・グラフィカ解剖生理学
著者: 林正健二
出版社: メディカ出版
出版年: 最新版 ISBN:

ビジュアル微生物学 第2版
著者: 小田紘
出版社: ヌーヴェルヒロカワ
出版年: 最新版 ISBN:

参考書

日本人体解剖学改訂19版(上・下)
著者: 金子丑之助
出版社: 南山堂
出版年: ISBN:

プロメテウス解剖学アトラス(解剖学総論、運動器系)
著者: 坂井建雄他監訳
出版社: 医学書院
出版年: ISBN:

ギャノング生理学原書第24版
著者: 岡田泰伸監訳
出版社: 丸善
出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート (100) 小テスト ( )
授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( )
参加度 ( )
・授業に参加するのは前提です。出席状態が悪い場合は試験を受けることができない場合もあります。

2018 Syllabus

科 目 名　**フィジカルアセスメントⅡ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　天野　博夫.梶谷　佳子.川上　ゆかり.工藤　里香.小尾口　邦彦.西　彰子	

テーマ

看護に必要な解剖学、生理学、薬理学、病理学、栄養学等を系統的に学び、身体の健康状態をアセスメントするための基礎的知識を修得する。

授業の到達目標

1.看護に必要な人体の構造と機能を関連付けて説明できる。
2.薬物療法の種類と効果について説明できる。
3.組織や器官の正常な状態との比較から異常な状態を説明できる。
4.看護に必要な栄養と代謝について説明できる。
5.主要な疾患の症状、病因、病態、治療、予後について説明できる。

授業の概要

看護に必要な生理学、薬理学、病理学、栄養学等を系統的に学び、身体の健康状態をアセスメントするための基礎的知識を修得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・予習をして臨むこと、また配付資料やテキストを用いて復習をしかりと行ってください。

内　容

第1回　筋系からだの枠組みをつくり、力を発揮する～骨･筋肉系(生理1)①
骨格、関節、骨格筋の構造と機能、運動の調節、全身の骨と関節、全身の骨格筋
第2回　筋系からだの枠組みをつくり、力を発揮する～骨･筋肉系(生理2)②
骨格、関節、骨格筋の檎造と機能、運動の調節、全身の骨と関節、全身の骨格筋
第3回　刺激を伝達し、情報を処理･指令する～神経系(生理3)①
第4回　刺激を伝達し、情報を処理･指令する～神経系(生理4)②
第5回　生体を包み、外界と内部機構との応答を促進するシステム～皮膚、感覚器(生理5)①
視覚器、聴覚器、味覚器、嗅覚器、皮膚、体性感覚、痛覚、内臓感覚
第6回　生体を包み、外界と内部機構との応答を促進するシステム～皮膚、感覚器(生理6)②
視覚器、聴覚器、味覚器、嗅覚器、皮膚、体性感覚、痛覚、内臓感覚
第7回　血液恒常性維持のため生体内を流動し、物質を運搬する(生理7)①～血液･リンパ液･循環器系血液の成分と機能、
血管、リンパ管、心臓、血管系、血圧･血流･脈拍、循環の調整、リンパ循環
第8回　血液恒常性維持のため生体内を流動し物質を運搬する(生理8)②～血液･リンパ液･循環器系血液の成分と機能、
血管、リンパ管、心臓、血管系、血圧･血流･脈拍、循環の調整、リンパ循環
第9回　気体を取り込み、代謝産物を排出する～呼吸器系①(生理9)
呼吸器系の構造と機能、ガス交換とガスの運搬、呼吸運動、呼吸運動の調整
第10回　回気体を取り込み、代謝産物を排出する～呼吸器系②(生理10)
呼吸器系の構造と機能、ガス交換とガスの運搬、呼吸運動、呼吸運動の調整
第11回　食物を取り入れ生体を栄養する～消化･吸収系①(生理11)
消化･吸収栄養と代謝
第12回　食物を取り入れ生体を栄養する～消化･吸収系②(生理12)
消化･吸収栄義と代謝
第13回　内分泌系恒常性維持のためにホルモンにより液性調節を促す ～内分泌系(生理13)
第14回　泌尿器系残渣物･老廃物をより分け排出する ～排泄系(生理14)
第15回　生殖器系子孫を残す ～生殖と発生、個体の維持、生命のおわり(生理15)
生殖とは、男性生殖器、女性生殖器、授精･妊娠･分娩
第16回　生体機能の変調 ～病理学の基礎
病理学とは、病因論
第17回　生体機能の変調 ～病理学の基礎
病理学とは、病因論
第18回　先天異常と遺伝子異常
第19回　代謝障害
第20回　循環障害
第21回　炎症と修復
第22回　腫瘍
第23回　生体機能を補う～薬学の基礎
第24回　薬物療法と看護
第25回　薬物の作用と作用機序
第26回　薬物動態
第27回　薬物相互作用
第28回　薬物療法に影響を与える因子
第29回　薬物の有害作用
第30回　医薬品の管理

a70101a910

履修上の注意点

・予習・復習をしっかり行うことが大切です。
・自分で振り返りノートを作成するなど学習の工夫してください。

教科書

ナーシング・グラフィカ解剖生理学
著者: 林正健二編
出版社: メディカ出版
出版年: 最新版 ISBN:

ナーシング・グラフィカ臨床栄養学
著者: 関戸啓子編
出版社: メディカ出版
出版年: 最新版 ISBN:

系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 13版
著者: 吉岡充弘
出版社: 医学書院
出版年: 最新版 ISBN:

系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 第5版
著者: 大橋健一編
出版社: 医学書院
出版年: 最新版 ISBN:

参考書

日本人体解剖学改訂19版(上・下)
著者: 金子丑之助
出版社: 南山堂
出版年: 最新版 ISBN:

プロメテウス解剖学アトラス(解剖学総論、運動器系)
著者: 坂井建雄他監訳
出版社: 医学書院
出版年: 最新版 ISBN:

ギャノング生理学原書第24版
著者: 岡田泰伸監訳
出版社: 丸善
出版年: 最新版 ISBN:

成績評価

試験・レポート (100) 小テスト ( )
授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( )
参加度 ( )
・授業への参加は試験の前提条件です。

2018 Syllabus

科 目 名　**フィジカルアセスメント演習 I**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　岡田　純子.奥野　信行.河原　宣子.小西　奈美.中橋　苗代.堀　妙子.松本　賢哉.深山　つかさ.餅田　敬司	

テーマ

フィジカルアセスメントⅠで学んだ身体の機能と構造の知識に基づいて、身体の状態を理解し、健康状態を把握するための基本的技術を獲得する。

授業の到達目標

1.看護に必要な人体の構造と機能を系統的な知識を活用できる。
2.成長発達の視点に基づき、身体についての情報収集ができる。
3.情報収集に必要な診察技法(問診、視診、聴診、打診、触診)が活用できる。
4.身体及び精神の状態の正常が理解できる。
5.身体及び精神の状態の代表的な異常が理解できる。
6.対象との援助的なコミュニケーションを展開できる。
7.アセスメント過程での援助的関係を形成できる。

授業の概要

フイジカルアセスメントIで学んだ身体の機能と構造の知識に基づいて、身体の状態を理解し、健康状態を把握するための基本的技術を獲得する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

教科書や参考書、提示された資料をもとに、指示された事前課題に取り組み、授業に出席すること。復習として、授業で扱った理論や実践の要点を振り返り、ポイントを整理しておくこと。

内　容

第1回　科目の構造と位置づけ(関連学問との関係)
フィジカルアセスメントとは
看護におけるフイジカルアセスメントの意義
看護における身体及び精神状態の観察の意義、観察の種類、観察の方法
第2回　演習における諸注意
実習室の使用方法
第3回　演習に必要な基本的技術(衛生学手洗い、ボディメカニクス、ベッドメイキング)
第4回　バイタルサインの測定(講義):バイタルサイン(脈拍、血圧、呼吸、体温、意識)測定の意義、測定に必要な知識と測定方法
第5回　〃
第6回　バイタルサインの測定(演習)
第7回　〃
第8回　気体を取り込み、代謝産物を排出するシステムについてのアセスメント;呼吸器系の問診、視診、打診、触診、呼吸音の聴取、異常呼吸の観察、肺活量
第9回　〃
第10回　恒常性維持のため生体内を流動し、物質を運搬するシステムについてのアセスメント;循環器系の問診、視診、打診、触診、心音の聴取、異常心音の観察
第11回　〃
第12回　生体を包み、外界と内部機構との応答を促進するシステム(感覚器)のアセスメント;各器管の形態の観察(眼・鼻・耳・皮膚、爪、毛髪、頭皮)
第13回　〃
第14回　小児のフィジカルアセスメント
第15回　〃
第16回　試験

履修上の注意点

授業に欠席、遅刻するという事態が発生した場合は、その単元の担当教員に速やかに連絡を入れること。後日、その単元の担当教員から課題等の指示をうけること。

教科書

看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術
著者:　角濱春美、梶谷佳子
出版社:　メヂカルフレンド社
出版年:　2015　　ISBN:

a70101b010

フィジカルアセスメントガイドブック第2版

著者: 山内豊明

出版社: 医学書院

出版年: 2011 ISBN:

参考書

ナーシ ング・グラフィカ基礎看護学(2)ヘルスアセススメント 第5版

著者: 松尾ミヨ子他編

出版社: メディカ出版

出版年: 2018 ISBN:

成績評価

試験・レポート (70) 小テスト ( )

授業中課題 (30) 授業中発表等 ( )

参加度 ( )

授業に出席することは、成績評価の前提条件とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**フィジカルアセスメント演習Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　岡田　純子.梶谷　佳子.河原　宣子.神﨑　光子.工藤　里香.小西　奈美.中橋　苗代.松本　賢哉.深山　つかさ.餅田　敬司	

テーマ

フィジカルアセスメントⅡで学んだ身体の機能と構造の知識に基づいて、身体の状態を理解し、健康状態を把握するための基本的技術を獲得する。

授業の到達目標

1.看護(助産含む)に必要な人体の構造と機能を系統的な知識を活用できる。
2.成長発達をふまえた視点に基づき身体についての情報収集ができる。
3.情報収集に必要な診察技法(問診、視診、聴診、打診、触診)が活用できる。
4.身体の状態の正常が理解できる。
5.身体の状態の代表的な異常が理解できる。
6.対象との援助的なコミュニケーションを展開できる。
7.アセスメント過程での援助的関係を形成できる。

授業の概要

実習室で行う演習を中心とする科目です。
フィジカルアセスメントI・Ⅱの内容を基に発展させる科目となります。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

教科書や参考書、提示された資料をもとに、指示された事前課題に取り組み、授業に出席すること。復習として、授業で扱った理論や実践の要点を振り返り、ポイントを整理しておくこと。

内　容

第1回　食物を取り入れ生体を栄養するシステムのアセスメント:消化器系のアセスメント;腹部の問診、視診、触診、打診、聴診、骨密度
第2回　〃
第3回　栄養状態のアセスメント(身体計測、食生活の評価:身長・体重測定、肥満度測定、肥脂厚測定、頭囲・腹囲測定
第4回　〃
第5回　残渣物・老廃物をより分け排出するシステムのアセスメント:尿の観察(尿検査)、便の観察
第6回　〃
第7回　からだの枠組みをつくり、力を発揮するシステムのアセスメント:ROM測定、MMT測定、ADLのアセスメント
第8回　〃
第9回　刺激を伝達し、情報を処理・指令するシステムのアセスメント(神経系);生命維持機能、小脳機能の判定、腱反射の評価、高次機能の評価精神のアセスメント
第10回　〃
第11回　脳神経の観察;嗅覚、対光反射、視野、眼球運動、触覚、味覚、聴覚、深部知覚
第12回　〃
第13回　模擬患者へのバイタルサイン測定
第14回　〃
第15回　小テスト・まとめ
第16回　実技試験
・時間割内のだけで技術の習得は困難です。主体的に実習室にて練習してください。
・内容の理解を深めるために視聴覚教材も準備していますので活用してください。

履修上の注意点

授業に欠席、遅刻するという事態が発生した場合は、その単元の担当教員に速やかに連絡を入れること。後日、その単元の担当教員から課題等の指示をうけること。

教科書

看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術
著者:　角濱春美、梶谷佳子
出版社:　メヂカルフレンド社
出版年:　2015　　ISBN:

フィジカルアセスメントガイドブック第2版
著者:　山内豊明
出版社:　医学書院
出版年:　2011　　ISBN:

参考書

a70101b150

ナーシ ンググラフィカ基礎看護学(2)ヘルスアセススメント　第5版

著者:　松尾ミヨ子他編

出版社: メディカ出版

出版年: 2018　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 70 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ ）

参加度（ ）

授業に出席することは、成績評価の前提条件とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**異文化コミュニケーション論（看護）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹下　夏美	

テーマ

多文化共生社会におけるあらゆるコミュニケーションを異文化コミュニケーションとしてとらえた上でさまざまな文化をグローバルな視点で考える。その上で看護職者として多文化共生社会における対象理解のための異文化看護と異文化コミュニケーション技術を養う。

授業の到達目標

1.文化・異文化とコミュニケーションの概念を総体的に理解し、看護（助産・公衆衛生看護を含む、以下、看護）における異文化理解の意義と必要性を認識する。
2.看護の対象となる人々の生活・ライフサイクルにおける（文化）現象を多様な角度から理解する。
3.文化の違いに由来する看護アセスメントやコミュニケーション技術を学ぶ。
4.1～4について学びながら、多文化共生社会における看護職者の役割について考える。

授業の概要

多文化共生社会におけるあらゆるコミュニケーションを異文化コミュニケーションとしてとらえた上でさまざまな文化をグローバルな視点で考える。その上で看護職者として多文化共生社会における対象理解のための異文化看護と異文化コミュニケーション技術を養う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業でわからない点は自分で調べる、教員に確認する等、随時行ってください。異文化理解や異文化コミュニケーションに関連した情報をメディアや図書館での文献検索、日常の家族、友人、接するいろんな方々とのコミュニケーション(言語、非言語問わず)から得て、そこから何を学ぶかを能動的にいかすように心がけてください。資料収集や、書き留めることも大事な作業です。

内　容

第1回　授業ガイダンス、文化・異文化・コミュニケーション・異文化コミュニケーションの定義
第2回　看護における対象理解と異文化コミュニケーションを学ぶことの意義
第3回　多文化社会における異文化への対応と適応モデル
第4回　人々の生活・ライフサイクルにおける文化現象と異文化コミュニケーション
第5回　文化の違いに由来する看護アセスメントと異文化コミュニケーション
第6回　在日外国人医療・看護と異文化コミュニケーション
第7回　「外国人看護師として働くこと」あるいは「外国人看護師とともに働くこと」と異文化コミュニケーション
第8回　まとめ、多文化共生社会における看護職者の役割と異文化コミュニケーション

履修上の注意点

授業でわからない点は自分で調べる、教員に確認する等、随時行ってください。授業中、参加型以外の講義時は静かに聴講してください。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

改訂版国際看護学
著者:　柳澤　理子
出版社:　PILAR PRESS
出版年:　2017　　ISBN:　9784861941764

交錯する多文化社会 / 異文化コミュニケーションを捉え直す
著者:　河合優子/工藤正子
出版社:　ナカニシヤ出版
出版年:　2016　　ISBN:　99784779511141

a70101b210

大学生のための異文化・国際理解 / 差異と多様性への誘い

著者: 高城玲

出版社: 丸善出版

出版年: 2017 ISBN: 9784621301258

国際看護学

著者: 田村やよひ編

出版社: メヂカルフレンド社

出版年: 2012 ISBN: 9784839232825

レイニンガー看護論

著者: マデリン M レイニンガー

出版社: 医学書院

出版年: 1995 ISBN: 9784260341943

多文化社会と異文化コミュニケーション

著者: 伊佐雅子監修

出版社: 三修社

出版年: 2007 ISBN: 9784384039429

ケースで学ぶ異文化コミュニケーション

著者: 長谷川典子・久米昭元

出版社: 有斐閣選書

出版年: 2007 ISBN: 9784641281080

異文化理解

著者: 青木保

出版社: 岩波新書

出版年: 2001 ISBN: 4004307406

多文化理解

著者: 青木保

出版社: 岩波新書

出版年: 2003 ISBN: 4004308402

よくわかる異文化コミュニケーション

著者: 池田理知子

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2010 ISBN: 9784623056095

成績評価

試験・レポート（ 70 ） 小テスト（ ）

授業中課題 （ 20 ） 授業中発表等 （ ）

参加度 （ 10 ）

授業中配布のレジメ、課題、講義内容等を統合し、総合的に考える力を確認するために筆記試験を行います。また授業中の課題レポート、リアクションペーパー等も評価の対象とします。

2018 Syllabus

科 目 名　**家族看護学**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河原　宣子.堀　妙子.松本　賢哉	

テーマ

授業の到達目標

1.家族とは何か、また個人とどのように関連しているかを考える
2.家族理解のための諸理論を知る
3.家族看護に関する代表的な諸理論を知る
4.ライフサイクル各期における家族の生活と健康障害との関連、疾病・傷害が家族生活に及ぼす影響について理解する
5.ライフサイクル各期における家族への看護の役割を理解する

授業の概要

家族看護に関する理論的知識体系を学び、ライフサイクルに沿って個人と家族の生活とその関連を把握し、家族の持つ健康課題に取り組む看護の役割を考える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　家族とは、家族機能とは、家族看護学の軌跡と対象
第2回　家族理解のための諸理論
第3回　家族アセスメントモデル・介入モデル、家族看護過程
第4回　ライフサイクル各期における家族看護（家族形成期の家族の援助）
第5回　ライフサイクル各期における家族看護（病児を持つ家族の援助）
第6回　ライフサイクル各期における家族看護（成人期の慢性的健康課題を有する療養者を抱える家族の援助）
第7回　ライフサイクル各期における家族看護（精神障害者を持つ家族の援助）
第8回　ライフサイクル各期における家族看護（在宅で高齢者を介護する家族の援助）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 100 ）	授業中発表等（　）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**情報科学Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小西　康子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　パソコンの基本操作
オリエンテーション（学内ネットワークの説明など）、Windows7（OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作

第2回　セキュリティと情報モラル（1）
セキュリティとは、コンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺、情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット

第3回　Word2007（1）チラシの作成
《主な機能》フォント、中央揃え、インデント、タブ、表作成、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷

第4回　Word2007（2）レポート作成
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、ページ番号、Excelの表とグラフの挿入、脚注、引用、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第5回　Excel2007（1）スコア表の作成
《主な機能》AVERAGE関数、IF関数、絶対参照、合計、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数

第6回　Excel2007（2）スコア表の作成
《主な機能》小数点以下の表示桁数を減らす/増やす、桁区切りスタイル、フォントサイズ、セルを結合して中央揃え、罫線、ページ設定、印刷

第7回　Excel2007（3）グラフの作成
《主な機能》シートの操作、並べ替え、積み上げ横棒グラフの作成、グラフの編集、改ページ、印刷

第8回　PowerPoint（1）スライド作成の注意点、スライドの作成
《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行

第9回　Word2007（3）
レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能

第10回　Excel2007（4）アンケート結果の集計1
《主な機能》リスト形式、アンケート結果の数値化、COUNTIF関数、SUMIF関数、積み上げ縦棒グラフの作成、グラフの編集

第11回　Excel2007（5）アンケート結果の集計2
《主な機能》列単位で並べ替え、シートを分けてアンケート結果を検証
文章とは、分かりやすい文（1文が短い、主語と述語の関係が分かりやすい、誤解されない、文に矛盾がない、品格がある）、良い文章のポイント（文体の統一、用語の統一と確認）

第12回　Word2007（4）アンケート結果レポートの作成
《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注

第13回　PowerPoint（2）アンケート結果スライドの作成
《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更、画面切り替え効果、アニメーションの設定

第14回　PowerPoint（3）スライドショーの実行発表
《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル

第15回　テストとまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)

a70101b410

著者: noa出版
出版社: noa出版
出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者: noa出版
出版社: noa出版
出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174
参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度 （ 30 ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報科学Ⅰ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　味田 治子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　パソコンの基本操作
オリエンテーション（学内ネットワークの説明など）、Windows7（OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作

第2回　セキュリティと情報モラル（1）
セキュリティとは、コンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺、情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット

第3回　Word2007（1）チラシの作成
《主な機能》フォント、中央揃え、インデント、タブ、表作成、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷

第4回　Word2007（2）レポート作成
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、ページ番号、Excelの表とグラフの挿入、脚注、引用、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第5回　Excel2007（1）スコア表の作成
《主な機能》AVERAGE関数、IF関数、絶対参照、合計、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数

第6回　Excel2007（2）スコア表の作成
《主な機能》小数点以下の表示桁数を減らす/増やす、桁区切りスタイル、フォントサイズ、セルを結合して中央揃え、罫線、ページ設定、印刷

第7回　Excel2007（3）グラフの作成
《主な機能》シートの操作、並べ替え、積み上げ横棒グラフの作成、グラフの編集、改ページ、印刷

第8回　PowerPoint（1）スライド作成の注意点、スライドの作成
《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行

第9回　Word2007（3）
レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能

第10回　Excel2007（4）アンケート結果の集計1
《主な機能》リスト形式、アンケート結果の数値化、COUNTIF関数、SUMIF関数、積み上げ縦棒グラフの作成、グラフの編集

第11回　Excel2007（5）アンケート結果の集計2
《主な機能》列単位で並べ替え、シートを分けてアンケート結果を検証
文章とは、分かりやすい文（1文が短い、主語と述語の関係が分かりやすい、誤解されない、文に矛盾がない、品格がある）、良い文章のポイント（文体の統一、用語の統一と確認）

第12回　Word2007（4）アンケート結果レポートの作成
《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注

第13回　PowerPoint（2）アンケート結果スライドの作成
《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更、画面切り替え効果、アニメーションの設定

第14回　PowerPoint（3）スライドショーの実行発表
《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル

第15回　テストとまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)

a70101b412

著者： noa出版
出版社： noa出版
出版年： 2016年　　ISBN： 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者： noa出版
出版社： noa出版
出版年： 2016年　　ISBN： 978-4908434174
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30 ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 30 ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報科学Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小西　康子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。
本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。これらの情報活用力をもとに、地域保健・看護活動に役立つ保健統計調査の知識と方法を学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。
保健統計調査の基礎的な知識、活用できる能力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

内　容

第1回　情報活用力とは
第2回　ICT利活用力診断テストRasti試験
第3回　情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
第4回　情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第5回　数値分析Ⅰ:数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
第7回　データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
第9回　保健統計学の基礎を理解する。(人口統計の基礎:主な健康指標)
第10回　保健統計学の基礎を理解する。
(人口静態統計:日本の人口、年少人口、老年人口、世界の人口)
第11回　保健統計学の基礎を理解する。
(人口動態統計:死亡と生命表、出生と人口再生産、死産、婚姻と離婚)
第12回　保健統計学の基礎を理解する。(保健統計調査:業務統計、調査統計)
第13回　保健統計学の基礎を理解する。
(指定統計:国勢調査、国民生活基礎調査、患者調査医療施設調査、学校保健統計)
第14回　保健統計学の基礎を理解する。
(その他の統計調査:感染症発生動向調査、食中毒統計、国民健康・栄養調査、身体障害者(児)実態調査)
第15回　まとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者(居眠り、受講態度不良者など)は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　2017年　　ISBN:　978-4908434259

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応(※前期使用テキスト)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　2016年　　ISBN:　978-4908434174

参考書

a70101b550

成績評価	
試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 10 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**情報科学Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　味田 治子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。
本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。これらの情報活用力をもとに、地域保健・看護活動に役立つ保健統計調査の知識と方法を学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。
保健統計調査の基礎的な知識、活用できる能力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

内　容

第1回　情報活用力とは
第2回　ICT利活用力診断テストRasti試験
第3回　情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
第4回　情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第5回　数値分析Ⅰ:数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
第7回　データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
第9回　保健統計学の基礎を理解する。(人口統計の基礎:主な健康指標)
第10回　保健統計学の基礎を理解する。
(人口静態統計:日本の人口、年少人口、老年人口、世界の人口)
第11回　保健統計学の基礎を理解する。
(人口動態統計:死亡と生命表、出生と人口再生産、死産、婚姻と離婚)
第12回　保健統計学の基礎を理解する。(保健統計調査:業務統計、調査統計)
第13回　保健統計学の基礎を理解する。
(指定統計:国勢調査、国民生活基礎調査、患者調査医療施設調査、学校保健統計)
第14回　保健統計学の基礎を理解する。
(その他の統計調査:感染症発生動向調査、食中毒統計、国民健康・栄養調査、身体障害者(児)実態調査)
第15回　まとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者(居眠り、受講態度不良者など)は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　2017年　　ISBN:　978-4908434259
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応(※前期使用テキスト)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　2016年　　ISBN:　978-4908434174

参考書

a70101b552

成績評価	
試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 10 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**論理的思考**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　梅本　裕	

テーマ

看護学学習と研究および一般教養として必要な論理的思考の基礎を講義と演習によって身につける。

授業の到達目標

看護の研究と実践に必要な論理的思考の基礎を身につける。（1）思考を深めるための定型を、書きことばと話しことばの両面にわたって身につける。（2）作文と作文の添削という二つの方法により、見学や実習の体験を文章化する技法に習熟する。

授業の概要

前半は、受講生がひとまとまりの文章を書き、それをクラスで検討する。翻訳書や論文の文章も検討する。後半はディベートを学ぶことにより主張と根拠の関係を理解し、論理的な文章やディスコースの特質を理解する。授業には常に国語辞書（電子辞書でよい）を持参すること。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日ごろより本をたくさん読もう。また、文章を書く時には、常に一文一義の文体で書くように心がけよう

内　容

第1回　400字で論評文を書く（その1）
第2回　400字で論評文を書く（その2）
第3回　思考単位としての文
第4回　文章書き換えの練習（その1）
第5回　文章書き換えの練習（その2）
第6回　段落のはたらき・つくり方
第7回　800字で論評文を書く（その1）
第8回　800字で論評文を書く（その2）
第9回　語句の選び方と使い方（その1）
第10回　語句の選び方と使い方（その1）
第11回　演習：ブックレビューを書く
第12回　演習：案内文を書く
第13回　ディベートの立論を書く（その1）
第14回　ディベートの立論を書く（その2）
第15回　アカデミックスキルとしての論理的文章

履修上の注意点

教科書

新版論理的思考
著者：　宇佐美寛
出版社：メディカルフレンド社
出版年：1989　　ISBN：

参考書

論理トレーニング101題
著者：　野矢茂樹
出版社：産業図書
出版年：2001　　ISBN：

レポート・論文の書き方入門　第3版
著者：　河野哲也
出版社：慶應義塾大学出版会
出版年：2002　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（60%）
授業中課題（40%）	授業中発表等（　）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**統計学基礎論(看護)**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　髙谷　真城	

テーマ

医療統計学の基礎を身につける。

授業の到達目標

看護、地域保健に関する調査報告・論文を理解するために求められるデータ分析の基本的な知識を習得する。

授業の概要

統計学の概念と方法を理解し、看護、地域保健に役立てる基礎的な知識を修得する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

予習としてシラバス内容の確認をすること。
復習として配布プリント内容の確認をすること。

内　　容

第1回　日常生活の中の統計から見える看護の課題や成果
第2回　調査方法とデータの種類
第3回　度数分布表とヒストグラム
第4回　基本統計量:代表値
第5回　基本等計量:ちらばり
第6回　確率分布(二項分布)
第7回　確率分布(正規分布)
第8回　グラフ化と分割表
第9回　散布図と相関係数
第10回　回帰分析(回帰式)
第11回　回帰分析(分散分析表)
第12回　分割表の分析(オッズ比、連関係数)
第13回　分割表の検定(カイ2乗検定)
第14回　偏差値
第15回　総括

履修上の注意点

日頃、新聞などに掲載されている統計データを解釈してみる。

教科書

看護系学生のためのやさしい統計学
著者:　石村貞夫・今福恵子・田沼美杉
出版社:　共立出版
出版年:　2010　　ISBN:

参考書

よくわかる統計学Ⅰ基礎編
著者:　金子治平・上藤一郎
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2007　　ISBN:

ナースの統計学
著者:　田久浩志・小島隆矢
出版社:　オーム社
出版年:　2006　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 70 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（看護）＜＊A＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野島　敬祐.神﨑　光子	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
2. 知的好奇心をもつことができる
3. キャリアデザインが描ける

授業の概要

興味関心のあるテーマについて、オンラインデータベースを用いて文献検索や情報収集を行う。情報収集した文献を読みこみ、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。その上でテーマについて教員やクラスメートに対してプレゼンテーションを実施し、レポートにまとめる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・キャリア開発演習Ⅱ（後期）には、自らの健康や生活について振り返ります。他講義（フィジカルアセスメント・看護学原論・ライフサイクル論等）で学習した内容を踏まえて、自分の生活や健康を振り返られるような準備を行っていきましょう。
・コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行います。

内　容

第1回　科目オリエンテーション、大学での学び方
第2回　文献検索、文献検討、プレゼンテーション【前半教員】
　　図書館オリエンテーション
第3回　文献検索、文献検討、プレゼンテーション【前半教員】
　　図書館オリエンテーション
第4回　人の健康に関するディスカッションを通して、テーマの選定を行う【前半教員】
第5回　人の健康に関するディスカッションを通して、テーマの選定を行う【前半教員】
第6回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第7回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第8回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第9回　後半オリエンテーション
　　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第12回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第13回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第14回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第15回　前期のまとめ【前半教員】

履修上の注意点

前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目のため、事前学習を含めた準備をしっかり行ってから授業に参加しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 30% ）
前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（看護）＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　黒瀧　安紀子.野島　敬祐	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
2. 知的好奇心をもつことができる
3. キャリアデザインが描ける

授業の概要

興味関心のあるテーマについて、オンラインデータベースを用いて文献検索や情報収集を行う。情報収集した文献を読みこみ、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。その上でテーマについて教員やクラスメートに対してプレゼンテーションを実施し、レポートにまとめる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・キャリア開発演習Ⅱ（後期）には、自らの健康や生活について振り返ります。他講義（フィジカルアセスメント・看護学原論・ライフサイクル論等）で学習した内容を踏まえて、自分の生活や健康を振り返られるような準備を行っていきましょう。
・コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行います。

内　容

第1回　科目オリエンテーション、大学での学び方
第2回　文献検索、文献検討、プレゼンテーション【前半教員】
　　図書館オリエンテーション
第3回　文献検索、文献検討、プレゼンテーション【前半教員】
　　図書館オリエンテーション
第4回　人の健康に関するディスカッションを通して、テーマの選定を行う【前半教員】
第5回　人の健康に関するディスカッションを通して、テーマの選定を行う【前半教員】
第6回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第7回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第8回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第9回　後半オリエンテーション
　　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第12回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第13回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第14回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第15回　前期のまとめ【前半教員】

履修上の注意点

前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目のため、事前学習を含めた準備をしっかり行ってから授業に参加しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 30% ）
前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（看護）＜＊C＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　常田　裕子.黒瀧　安紀子	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
2. 知的好奇心をもつことができる
3. キャリアデザインが描ける

授業の概要

興味関心のあるテーマについて、オンラインデータベースを用いて文献検索や情報収集を行う。情報収集した文献を読みこみ、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。その上でテーマについて教員やクラスメートに対してプレゼンテーションを実施し、レポートにまとめる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・キャリア開発演習Ⅱ（後期）には、自らの健康や生活について振り返ります。他講義（フィジカルアセスメント・看護学原論・ライフサイクル論等）で学習した内容を踏まえて、自分の生活や健康を振り返られるような準備を行っていきましょう。
・コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行います。

内　容

第1回　科目オリエンテーション、大学での学び方
第2回　文献検索、文献検討、プレゼンテーション【前半教員】
　　図書館オリエンテーション
第3回　文献検索、文献検討、プレゼンテーション【前半教員】
　　図書館オリエンテーション
第4回　人の健康に関するディスカッションを通して、テーマの選定を行う【前半教員】
第5回　人の健康に関するディスカッションを通して、テーマの選定を行う【前半教員】
第6回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第7回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第8回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第9回　後半オリエンテーション
　　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第12回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第13回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第14回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第15回　前期のまとめ【前半教員】

履修上の注意点

前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目のため、事前学習を含めた準備をしっかり行ってから授業に参加しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 30% ）
前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（看護）＜＊D＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小西　奈美.常田　裕子	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
2. 知的好奇心をもつことができる
3. キャリアデザインが描ける

授業の概要

興味関心のあるテーマについて、オンラインデータベースを用いて文献検索や情報収集を行う。情報収集した文献を読みこみ、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。その上でテーマについて教員やクラスメートに対してプレゼンテーションを実施し、レポートにまとめる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・キャリア開発演習Ⅱ（後期）には、自らの健康や生活について振り返ります。他講義（フィジカルアセスメント・看護学原論・ライフサイクル論等）で学習した内容を踏まえて、自分の生活や健康を振り返られるような準備を行っていきましょう。
・コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行います。

内　容

第1回　科目オリエンテーション、大学での学び方
第2回　文献検索、文献検討、プレゼンテーション【前半教員】
　　図書館オリエンテーション
第3回　文献検索、文献検討、プレゼンテーション【前半教員】
　　図書館オリエンテーション
第4回　人の健康に関するディスカッションを通して、テーマの選定を行う【前半教員】
第5回　人の健康に関するディスカッションを通して、テーマの選定を行う【前半教員】
第6回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第7回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第8回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第9回　後半オリエンテーション
　　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第12回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第13回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第14回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第15回　前期のまとめ【前半教員】

履修上の注意点

前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目のため、事前学習を含めた準備をしっかり行ってから授業に参加しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 30% ）
前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（看護）＜＊E＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中橋　苗代.小西　奈美	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
2. 知的好奇心をもつことができる
3. キャリアデザインが描ける

授業の概要

興味関心のあるテーマについて、オンラインデータベースを用いて文献検索や情報収集を行う。情報収集した文献を読みこみ、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。その上でテーマについて教員やクラスメートに対してプレゼンテーションを実施し、レポートにまとめる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・キャリア開発演習Ⅱ（後期）には、自らの健康や生活について振り返ります。他講義（フィジカルアセスメント・看護学原論・ライフサイクル論等）で学習した内容を踏まえて、自分の生活や健康を振り返られるような準備を行っていきましょう。
・コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行います。

内　容

第1回　科目オリエンテーション、大学での学び方
第2回　文献検索、文献検討、プレゼンテーション【前半教員】
　　図書館オリエンテーション
第3回　文献検索、文献検討、プレゼンテーション【前半教員】
　　図書館オリエンテーション
第4回　人の健康に関するディスカッションを通して、テーマの選定を行う【前半教員】
第5回　人の健康に関するディスカッションを通して、テーマの選定を行う【前半教員】
第6回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第7回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第8回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第9回　後半オリエンテーション
　　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第12回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第13回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第14回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第15回　前期のまとめ【前半教員】

履修上の注意点

前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目のため、事前学習を含めた準備をしっかり行ってから授業に参加しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 30% ）
前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（看護）＜＊F＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹下　夏美.中橋　苗代	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
2. 知的好奇心をもつことができる
3. キャリアデザインが描ける

授業の概要

興味関心のあるテーマについて、オンラインデータベースを用いて文献検索や情報収集を行う。情報収集した文献を読みこみ、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。その上でテーマについて教員やクラスメートに対してプレゼンテーションを実施し、レポートにまとめる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・キャリア開発演習Ⅱ（後期）には、自らの健康や生活について振り返ります。他講義（フィジカルアセスメント・看護学原論・ライフサイクル論等）で学習した内容を踏まえて、自分の生活や健康を振り返られるような準備を行っていきましょう。
・コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行います。

内　容

第1回　科目オリエンテーション、大学での学び方
第2回　文献検索、文献検討、プレゼンテーション【前半教員】
　　図書館オリエンテーション
第3回　文献検索、文献検討、プレゼンテーション【前半教員】
　　図書館オリエンテーション
第4回　人の健康に関するディスカッションを通して、テーマの選定を行う【前半教員】
第5回　人の健康に関するディスカッションを通して、テーマの選定を行う【前半教員】
第6回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第7回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第8回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第9回　後半オリエンテーション
　　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第12回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第13回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第14回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第15回　前期のまとめ【前半教員】

履修上の注意点

前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目のため、事前学習を含めた準備をしっかり行ってから授業に参加しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 30% ）
前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（看護）＜＊G＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　工藤　里香.竹下　夏美	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
2. 知的好奇心をもつことができる
3. キャリアデザインが描ける

授業の概要

興味関心のあるテーマについて、オンラインデータベースを用いて文献検索や情報収集を行う。情報収集した文献を読みこみ、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。その上でテーマについて教員やクラスメートに対してプレゼンテーションを実施し、レポートにまとめる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・キャリア開発演習Ⅱ（後期）には、自らの健康や生活について振り返ります。他講義（フィジカルアセスメント・看護学原論・ライフサイクル論等）で学習した内容を踏まえて、自分の生活や健康を振り返られるような準備を行っていきましょう。
・コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行います。

内　容

第2回　文献検索、文献検討、プレゼンテーション【前半教員】
　　図書館オリエンテーション
第3回　文献検索、文献検討、プレゼンテーション【前半教員】
　　図書館オリエンテーション
第4回　人の健康に関するディスカッションを通して、テーマの選定を行う【前半教員】
第5回　人の健康に関するディスカッションを通して、テーマの選定を行う【前半教員】
第6回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第7回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第8回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第9回　後半オリエンテーション
　　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第12回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第13回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第14回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第15回　前期のまとめ【前半教員】
第1回　科目オリエンテーション、大学での学び方

履修上の注意点

前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目のため、事前学習を含めた準備をしっかり行ってから授業に参加しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）	授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 30% ）	

前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（看護）＜＊H＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　藤本　幸三.工藤　里香	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
2. 知的好奇心をもつことができる
3. キャリアデザインが描ける

授業の概要

興味関心のあるテーマについて、オンラインデータベースを用いて文献検索や情報収集を行う。情報収集した文献を読みこみ、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。その上でテーマについて教員やクラスメートに対してプレゼンテーションを実施し、レポートにまとめる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・キャリア開発演習Ⅱ（後期）には、自らの健康や生活について振り返ります。他講義（フィジカルアセスメント・看護学原論・ライフサイクル論等）で学習した内容を踏まえて、自分の生活や健康を振り返られるような準備を行っていきましょう。
・コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行います。

内　容

第1回　科目オリエンテーション、大学での学び方
第2回　文献検索、文献検討、プレゼンテーション【前半教員】
　　図書館オリエンテーション
第3回　文献検索、文献検討、プレゼンテーション【前半教員】
　　図書館オリエンテーション
第4回　人の健康に関するディスカッションを通して、テーマの選定を行う【前半教員】
第5回　人の健康に関するディスカッションを通して、テーマの選定を行う【前半教員】
第6回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第7回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第8回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第9回　後半オリエンテーション
　　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第12回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第13回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第14回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第15回　前期のまとめ【前半教員】

履修上の注意点

前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目のため、事前学習を含めた準備をしっかり行ってから授業に参加しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 30% ）
前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（看護）＜＊I＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　岡田　純子.藤本　幸三	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
2. 知的好奇心をもつことができる
3. キャリアデザインが描ける

授業の概要

興味関心のあるテーマについて、オンラインデータベースを用いて文献検索や情報収集を行う。情報収集した文献を読みこみ、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。その上でテーマについて教員やクラスメートに対してプレゼンテーションを実施し、レポートにまとめる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・キャリア開発演習Ⅱ（後期）には、自らの健康や生活について振り返ります。他講義（フィジカルアセスメント・看護学原論・ライフサイクル論等）で学習した内容を踏まえて、自分の生活や健康を振り返られるような準備を行っていきましょう。
・コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行います。

内　容

第1回　科目オリエンテーション、大学での学び方
第2回　文献検索、文献検討、プレゼンテーション【前半教員】
　　図書館オリエンテーション
第3回　文献検索、文献検討、プレゼンテーション【前半教員】
　　図書館オリエンテーション
第4回　人の健康に関するディスカッションを通して、テーマの選定を行う【前半教員】
第5回　人の健康に関するディスカッションを通して、テーマの選定を行う【前半教員】
第6回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第7回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第8回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第9回　後半オリエンテーション
　　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第12回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第13回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第14回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第15回　前期のまとめ【前半教員】

履修上の注意点

前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目のため、事前学習を含めた準備をしっかり行ってから授業に参加しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）	授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 30% ）	

前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（看護）＜＊J＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　神﨑　光子.岡田　純子	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
2. 知的好奇心をもつことができる
3. キャリアデザインが描ける

授業の概要

興味関心のあるテーマについて、オンラインデータベースを用いて文献検索や情報収集を行う。情報収集した文献を読みこみ、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。その上でテーマについて教員やクラスメートに対してプレゼンテーションを実施し、レポートにまとめる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・キャリア開発演習Ⅱ（後期）には、自らの健康や生活について振り返ります。他講義（フィジカルアセスメント・看護学原論・ライフサイクル論等）で学習した内容を踏まえて、自分の生活や健康を振り返られるような準備を行っていきましょう。
・コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行います。

内　容

第1回　科目オリエンテーション、大学での学び方
第2回　文献検索、文献検討、プレゼンテーション【前半教員】
　　図書館オリエンテーション
第3回　文献検索、文献検討、プレゼンテーション【前半教員】
　　図書館オリエンテーション
第4回　人の健康に関するディスカッションを通して、テーマの選定を行う【前半教員】
第5回　人の健康に関するディスカッションを通して、テーマの選定を行う【前半教員】
第6回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第7回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第8回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【前半教員】
第9回　後半オリエンテーション
　　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる【後半教員】
第12回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第13回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第14回　テーマについてプレゼンテーション【後半教員】
第15回　前期のまとめ【前半教員】

履修上の注意点

前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目のため、事前学習を含めた準備をしっかり行ってから授業に参加しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 30% ）
前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（看護）＜＊A＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　岡田　純子.藤本　幸三	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ－自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける－

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
2. 知的好奇心をもつことができる
3. キャリアデザインが描ける
4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

キャリア開発演習Ⅰ（前期）に収集していた文献に基づいて、自身の健康や生活を振り返り、問題や課題となる事象を把握する。それらの解決に向けた取り組み内容を決定し、実践する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・前期科目（フィジカルアセスメント・ヘルスプロモーション・ライフサイクル論・看護学原論等）を通して学習した健康状態を捉える指標について再度確認する。
・コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　容

第1回　科目オリエンテーション,研究倫理,自分の健康や生活に関するディスカッションを通してテーマを選定する【前半教員】
第2回　自分の健康や生活に関するディスカッションを通してテーマを選定する【前半教員】
第3回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第4回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第5回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第6回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第7回　卒業研究発表会に向けてグループディスカッション【前半教員】
第8回　卒業研究発表会への参加
第9回　後半オリエンテーション
　　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第10回　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第11回　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第12回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第13回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第14回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第15回　1年間のまとめ【前半教員】

履修上の注意点

後期前半、後期後半の担当教員は交代します。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 30% ）
参加度（ 30% ）
後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（看護）＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　神﨑　光子.岡田　純子	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ－自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける－

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
2. 知的好奇心をもつことができる
3. キャリアデザインが描ける
4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

キャリア開発演習Ⅰ（前期）に収集していた文献に基づいて、自身の健康や生活を振り返り、問題や課題となる事象を把握する。それらの解決に向けた取り組み内容を決定し、実践する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・前期科目（フィジカルアセスメント・ヘルスプロモーション・ライフサイクル論・看護学原論等）を通して学習した健康状態を捉える指標について再度確認する。
・コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　容

第1回　科目オリエンテーション,研究倫理,自分の健康や生活に関するディスカッションを通してテーマを選定する【前半教員】
第2回　自分の健康や生活に関するディスカッションを通してテーマを選定する【前半教員】
第3回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第4回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第5回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第6回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第7回　卒業研究発表会に向けてグループディスカッション【前半教員】
第8回　卒業研究発表会への参加
第9回　後半オリエンテーション
　　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第10回　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第11回　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第12回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第13回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第14回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第15回　1年間のまとめ【前半教員】

履修上の注意点

後期前半、後期後半の担当教員は交代します。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 30% ）
参加度（ 30% ）
後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（看護）＜＊C＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野島　敬祐.神﨑　光子	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ－自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける－

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
2. 知的好奇心をもつことができる
3. キャリアデザインが描ける
4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

キャリア開発演習Ⅰ（前期）に収集していた文献に基づいて、自身の健康や生活を振り返り、問題や課題となる事象を把握する。それらの解決に向けた取り組み内容を決定し、実践する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・前期科目（フィジカルアセスメント・ヘルスプロモーション・ライフサイクル論・看護学原論等）を通して学習した健康状態を捉える指標について再度確認する。
・コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　容

第1回　科目オリエンテーション,研究倫理,自分の健康や生活に関するディスカッションを通してテーマを選定する【前半教員】
第2回　自分の健康や生活に関するディスカッションを通してテーマを選定する【前半教員】
第3回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第4回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第5回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第6回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第7回　卒業研究発表会に向けてグループディスカッション【前半教員】
第8回　卒業研究発表会への参加
第9回　後半オリエンテーション
　　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第10回　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第11回　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第12回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第13回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第14回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第15回　1年間のまとめ【前半教員】

履修上の注意点

後期前半、後期後半の担当教員は交代します。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 30% ）
参加度（ 30% ）
後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（看護）＜＊D＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　黒瀧　安紀子.野島　敬祐	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ－自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける－

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
2. 知的好奇心をもつことができる
3. キャリアデザインが描ける
4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

キャリア開発演習Ⅰ（前期）に収集していた文献に基づいて、自身の健康や生活を振り返り、問題や課題となる事象を把握する。それらの解決に向けた取り組み内容を決定し、実践する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・前期科目（フィジカルアセスメント・ヘルスプロモーション・ライフサイクル論・看護学原論等）を通して学習した健康状態を捉える指標について再度確認する。
・コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　容

第1回　科目オリエンテーション,研究倫理,自分の健康や生活に関するディスカッションを通してテーマを選定する【前半教員】
第2回　自分の健康や生活に関するディスカッションを通してテーマを選定する【前半教員】
第3回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第4回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第5回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第6回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第7回　卒業研究発表会に向けてグループディスカッション【前半教員】
第8回　卒業研究発表会への参加
第9回　後半オリエンテーション
　　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第10回　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第11回　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第12回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第13回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第14回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第15回　1年間のまとめ【前半教員】

履修上の注意点

後期前半、後期後半の担当教員は交代します。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 30% ）
参加度（ 30% ）
後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（看護）＜＊E＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　常田　裕子.黒瀧　安紀子	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ－自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける－

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
2. 知的好奇心をもつことができる
3. キャリアデザインが描ける
4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

キャリア開発演習Ⅰ（前期）に収集していた文献に基づいて、自身の健康や生活を振り返り、問題や課題となる事象を把握する。それらの解決に向けた取り組み内容を決定し、実践する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・前期科目（フィジカルアセスメント・ヘルスプロモーション・ライフサイクル論・看護学原論等）を通して学習した健康状態を捉える指標について再度確認する。
・コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　容

第1回　科目オリエンテーション,研究倫理,自分の健康や生活に関するディスカッションを通してテーマを選定する【前半教員】
第2回　自分の健康や生活に関するディスカッションを通してテーマを選定する【前半教員】
第3回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第4回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第5回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第6回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第7回　卒業研究発表会に向けてグループディスカッション【前半教員】
第8回　卒業研究発表会への参加
第9回　後半オリエンテーション
　　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第10回　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第11回　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第12回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第13回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第14回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第15回　1年間のまとめ【前半教員】

履修上の注意点

後期前半、後期後半の担当教員は交代します。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 30% ）
参加度（ 30% ）
後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（看護）＜＊F＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小西　奈美.常田　裕子	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ－自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける－

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
2. 知的好奇心をもつことができる
3. キャリアデザインが描ける
4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

キャリア開発演習Ⅰ（前期）に収集していた文献に基づいて、自身の健康や生活を振り返り、問題や課題となる事象を把握する。それらの解決に向けた取り組み内容を決定し、実践する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・前期科目（フィジカルアセスメント・ヘルスプロモーション・ライフサイクル論・看護学原論等）を通して学習した健康状態を捉える指標について再度確認する。
・コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　容

第1回　科目オリエンテーション,研究倫理,自分の健康や生活に関するディスカッションを通してテーマを選定する【前半教員】
第2回　自分の健康や生活に関するディスカッションを通してテーマを選定する【前半教員】
第3回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第4回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第5回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第6回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第7回　卒業研究発表会に向けてグループディスカッション【前半教員】
第8回　卒業研究発表会への参加
第9回　後半オリエンテーション
　　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第10回　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第11回　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第12回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第13回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第14回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第15回　1年間のまとめ【前半教員】

履修上の注意点

後期前半、後期後半の担当教員は交代します。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 30% ）
参加度（ 30% ）
後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（看護）＜＊G＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中橋　苗代.小西　奈美	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ－自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける－

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
2. 知的好奇心をもつことができる
3. キャリアデザインが描ける
4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

キャリア開発演習Ⅰ（前期）に収集していた文献に基づいて、自身の健康や生活を振り返り、問題や課題となる事象を把握する。それらの解決に向けた取り組み内容を決定し、実践する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・前期科目（フィジカルアセスメント・ヘルスプロモーション・ライフサイクル論・看護学原論等）を通して学習した健康状態を捉える指標について再度確認する。
・コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　容

第1回　科目オリエンテーション,研究倫理,自分の健康や生活に関するディスカッションを通してテーマを選定する【前半教員】
第2回　自分の健康や生活に関するディスカッションを通してテーマを選定する【前半教員】
第3回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第4回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第5回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第6回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第7回　卒業研究発表会に向けてグループディスカッション【前半教員】
第8回　卒業研究発表会への参加
第9回　後半オリエンテーション
　　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第10回　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第11回　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第12回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第13回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第14回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第15回　1年間のまとめ【前半教員】

履修上の注意点

後期前半、後期後半の担当教員は交代します。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 30% ）
参加度（ 30% ）
後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（看護）＜＊H＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹下　夏美.中橋　苗代	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ－自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける－

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
2. 知的好奇心をもつことができる
3. キャリアデザインが描ける
4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

キャリア開発演習Ⅰ（前期）に収集していた文献に基づいて、自身の健康や生活を振り返り、問題や課題となる事象を把握する。それらの解決に向けた取り組み内容を決定し、実践する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・前期科目（フィジカルアセスメント・ヘルスプロモーション・ライフサイクル論・看護学原論等）を通して学習した健康状態を捉える指標について再度確認する。
・コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　容

第1回　科目オリエンテーション,研究倫理,自分の健康や生活に関するディスカッションを通してテーマを選定する【前半教員】
第2回　自分の健康や生活に関するディスカッションを通してテーマを選定する【前半教員】
第3回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第4回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第5回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第6回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第7回　卒業研究発表会に向けてグループディスカッション【前半教員】
第8回　卒業研究発表会への参加
第9回　後半オリエンテーション
　　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第10回　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第11回　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第12回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第13回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第14回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第15回　1年間のまとめ【前半教員】

履修上の注意点

後期前半、後期後半の担当教員は交代します。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 30% ）
参加度（ 30% ）
後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（看護）＜＊I＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　工藤　里香.竹下　夏美	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ－自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける－

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
2. 知的好奇心をもつことができる
3. キャリアデザインが描ける
4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

キャリア開発演習Ⅰ（前期）に収集していた文献に基づいて、自身の健康や生活を振り返り、問題や課題となる事象を把握する。それらの解決に向けた取り組み内容を決定し、実践する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・前期科目（フィジカルアセスメント・ヘルスプロモーション・ライフサイクル論・看護学原論等）を通して学習した健康状態を捉える指標について再度確認する。
・コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　容

第1回　科目オリエンテーション,研究倫理,自分の健康や生活に関するディスカッションを通してテーマを選定する【前半教員】
第2回　自分の健康や生活に関するディスカッションを通してテーマを選定する【前半教員】
第3回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第4回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第5回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第6回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第7回　卒業研究発表会に向けてグループディスカッション【前半教員】
第8回　卒業研究発表会への参加
第9回　後半オリエンテーション
　　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第10回　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第11回　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第12回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第13回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第14回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第15回　1年間のまとめ【前半教員】

履修上の注意点

後期前半、後期後半の担当教員は交代します。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 30% ）
参加度（ 30% ）
後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（看護）＜＊J＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　藤本　幸三.工藤　里香	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ－自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける－

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
2. 知的好奇心をもつことができる
3. キャリアデザインが描ける
4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

キャリア開発演習Ⅰ（前期）に収集していた文献に基づいて、自身の健康や生活を振り返り、問題や課題となる事象を把握する。それらの解決に向けた取り組み内容を決定し、実践する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・前期科目（フィジカルアセスメント・ヘルスプロモーション・ライフサイクル論・看護学原論等）を通して学習した健康状態を捉える指標について再度確認する。
・コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　容

第1回　科目オリエンテーション,研究倫理,自分の健康や生活に関するディスカッションを通してテーマを選定する【前半教員】
第2回　自分の健康や生活に関するディスカッションを通してテーマを選定する【前半教員】
第3回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第4回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第5回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第6回　テーマに基づいて、自分の健康や生活に関するデータをまとめる【前半教員】
第7回　卒業研究発表会に向けてグループディスカッション【前半教員】
第8回　卒業研究発表会への参加
第9回　後半オリエンテーション
　　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第10回　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第11回　自分の健康や生活への改善策を実践する【後半教員】
第12回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第13回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第14回　テーマのプレゼンテーション【後半教員】
第15回　1年間のまとめ【前半教員】

履修上の注意点

後期前半、後期後半の担当教員は交代します。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 30% ）
参加度（ 30% ）
後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**国際看護学 I**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹下　夏美.河原　宣子.近藤　松子.常田　裕子	

テーマ

国際看護の概念を理解し、多文化共生社会における看護の役割について考え、看護実践の場でいかせる人材育成を目指す。

授業の到達目標

1.国際看護・異文化看護について理解するとともに、基礎的な知識を習得する
2.医療（主として看護）における国際協力の実際を知る
3.多文化共生社会における看護活動の考え方を理解することができる

授業の概要

国際看護の概念を理解し、多文化共生社会における看護の役割について考える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

様々なメディアを通じて、世界の動向について、日常的に考える習慣を身につけましょう。また、国内外を問わず、医療や看護に関連した内容について興味・関心をもって考えてみましょう。不明な用語や内容は自ら調べるようにしてください。

内　容

第1回　授業ガイダンス、国際保健・国際看護とは何か
第2回　国際看護の主要概念
第3回　国際看護と異文化看護
第4回　国際協力機関と協力の仕組み
第5回　NGOの役割と動向
第6回　世界における身体・心理・社会的健康問題の現状と諸要因
第7回　保健医療システムと看護職の役割
第8回　国際協力の実際①プライマリ・ヘルス・ケア
第9回　国際協力の実際②子どもの健康，メンタルヘルス
第10回　国際協力の実際③～④ジェンダー、リプロダクティブヘルス（1）～（2）
第11回　国際協力の実際③～④ジェンダー、リプロダクティブヘルス（1）～（2）
第12回　国際協力の実際⑤感染症対策
第13回　国際協力の実際⑥社会的・文化的背景の異なる看護職との協働
第14回　国際協力の実際⑦日本に居住する外国人に対する看護の役割
第15回　多文化共生社会における看護について考える（まとめ）

履修上の注意点

授業の内容と日程は、外部講師との関連で変更する場合があります。授業に関連した事前学習について、授業中掲示したいと思っています。また、学生の皆さん自身も様々なメディアを通じて、世界の動向について、日常的に考える習慣を身につけましょう。また、国内外を問わず、医療や看護に関連した内容について興味・関心を持って考えてみましょう。

教科書

改訂版国際看護学 看護の統合と実践 開発途上国への看護実践を踏まえて　改訂版
著者：　柳澤理子編
出版社：PILAR Press
出版年：2017　　ISBN：　9784861941764

参考書

国際看護学入門
著者：　国際看護研究会編
出版社：医学書院
出版年：1999　　ISBN：　978426033014-5

国際看護学
著者：　柳澤理子・川野雅資編
出版社：日本放射線技師会
出版年：2007　　ISBN：　978486157025-4

a70102a150

国際看護学　看護の統合と実践

著者:　柳澤理子

出版社: PILAR　PRESS

出版年: 2015　　ISBN:　9784861941146

国際看護学

著者:　田村やよひ編

出版社: メヂカルフレンド社

出版年: 2012　　ISBN:　9784839230999

国際保健医療学第3版

著者:　日本国際保健医療学会編

出版社: 杏林書院

出版年: 2013　　ISBN:　9784764405318

やさしく学べる国際保健・看護の基礎と実践

著者:　山﨑　明美

出版社: 桐書房

出版年: 2015　　ISBN:　9784876478491

看護学テキスト統合と実践　国際看護

著者:　一戸　真子

出版社: 学研メディカル秀潤社

出版年: 2016　　ISBN:　9784780912227

ワークブック　国際保健・看護基礎論

著者:　田代　順子

出版社: ピラールプレス

出版年: 2016　　ISBN:　9784861941498

図表でみる世界の保健医療 / OECDインディケータ. 2015年版

著者:　OECD/鐘ケ江葉子

出版社: 明石書店

出版年: 2017　　ISBN:　9784750345406

国際セクシュアリティ教育ガイダンス / 教育・福祉・医療・保健現場で活かすために

著者:　ユネスコ/浅井春夫

出版社: 明石書店

出版年: 2017　　ISBN:　9784750344751

成績評価

試験・レポート（ 70 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ ）

参加度（ 10 ）

講義内容を統合し、総合的に考える力を確認するための筆記試験を行います。授業中に講師が講義した内容をよく聞き、記述してください。不明な点は自ら調べるか、教員に確認するようにし、内容理解に努めてください。授業中課題やリアクションペーパー等も評価の対象にいたします。

2018 Syllabus

科 目 名　**実践看護学Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　マルティネス　真喜子.岡田　純子.奥野　信行.神﨑　光子.小板橋　喜久代.小西　奈美.中橋　苗代.堀　妙子.深山　つかさ	

テーマ

既習の学習を踏まえ，発達段階や人間の基本的ニードと関連させながら，さまざまな看護の対象とその家族，多様な看護の場における健康レベルに応じた看護過程を病態・治療の理解を含めて学ぶ.

授業の到達目標

1.ライフサイクル各期における人間の基本的ニードを理解できる。
2.ライフサイクル各期における日常生活援助を中心とした看護方法を理解できる。
3.看護にける安全性・安楽性の重要性について理解できる。
4.看護におけるコミュニケーションのプロセスの意義を考える。
5.対人関係におけるコミュニケーションのありようを知る。
6.コミュニケーションにおける自己の傾向を知る。
7.根拠に基づいた看護を提供するための看護過程の意義および必要性を理解できる。
8.根拠に基づいた看護を提供するための情報を探索し活用できる。
9.批判的思考や分析的方法を活用して、看護計画を立案できる。
10.問題解決思考を活用し看護計画を立案できる。

授業の概要

既習の学習を踏まえ、発達段階や人間の基本的ニードと関連させながら、さまざまな看護の対象とその家族、多様な看護の場における健康レベルに応じた看護過程を病態・治療の理解を含めて学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実践看護学演習Ⅰと連動した科目です。予習・復習をしっかり行い授業に参加してください。

内　容

第1回　看護過程の意義－看護の目的･対象･方法を再確認する
第2回　対人関係プロセスとコミュニケーション
第3回　対人関係プロセスとコミュニケーション
第4回　対人関係プロセスとコミュニケーション
第5回　看護過程の要素－情報収集
第6回　看護過程の要素－情報収集
第7回　看護過程の要素－情報の整理
第8回　看護過程の要素－情報の整理
第9回　看護過程の要素－情報の分析
第10回 看護過程の要素－情報の分析
第11回 看護過程の要素－健康問題･課題の明確化
第12回 看護過程の要素－健康問題･課題の明確化
第13回 看護過程の要素－看護計画
第14回 看護遇程の要素－実施、評価
第15回 看護過程と記録
第16回 看護の方法論－ライフサイクル各期の心身の特徴を理解した日常生活援助の意義
第17回 看護技術の安全性･安楽性･経済性
第18回 環境とは－生活環境の安全性･安楽性、環境を整えることの意義
第19回 スタンダードプリコーションの考え方
第20回 ボディメカニクス 廃用性症候群
第21回 身体活動の援助－活動の意義、ライフサイクル各期の特徴
第22回 身体活動の援助－健康レベルに応じた身体活動の方法
第23回 身体の清潔の援助－清潔の意義、ライフサイクル各期の特徴
第24回 身体の清潔の援助－ライフサイクル各期の身体の清潔方法
第25回 身体の清潔の援助－健康レベルに応じた清潔方法
第26回 食事の援助－食事の意義、ライフサイクル各期の特徴
第27回 食事の援助－ライフサイクル各期の食事方法、健康レベルに応じた食事の方法
第28回 排泄を整える援助－排泄の意義、ライフサイクル各期の特徴
第29回 排泄を整える援助－ライフサイクル各期の排泄方法
第30回 排泄を整える援助－健康レベルに応じた排泄方法

履修上の注意点

教科書

a70102a210

根拠がかわる基礎看護技術
著者: 角濱春美・梶谷佳子編
出版社: メヂカルフレンド社
出版年: 2015 ISBN:

事例でわかる看護理論を看護過程に生かす本
著者: 小田正枝編
出版社: 照林社
出版年: 2008 ISBN:

看護の基本となるもの
著者: ・ヴァージニア・ヘンダーソン著/湯槇ます・小玉香津子訳
出版社: 日本看護協会出版社
出版年: 2006 ISBN:

参考書

看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第4版
著者: 秋葉公子他
出版社: ヌーベルヒロカワ
出版年: 2005 ISBN:

看護診断のアセスメント力をつける－臨床判断力をみがく看護過程
著者: 岡﨑美智子・道重文子編
出版社: メヂカルフレンド社
出版年: 2013 ISBN:

実習記録の書き方がわかる！看護過程展開ガイド
著者: 任和子編
出版社: 照林社
出版年: 2009 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 60(実技30、ペーパー30) ）
小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）
授業中発表等（ ）
参加度（ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**実践看護学演習Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　岡田　純子.奥野　信行.神﨑　光子.小西　奈美.中橋　苗代.堀　妙子.マルティネス　真喜子.深山　つかさ	

テーマ

実践看護学Ⅰと対応しながら、多様な看護の場における看護の対象とその家族に対して、発達段階や人間の基本的ニードに応じた必要な看護技術とその適応方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.ライフサイクル各期における日常生活援助の看護方法を修得する。
2.様々な場における日常生活援助の看護方法を修得する。
3.対象の身体的・精神的状態に合わせて看護の方法を説明できる。
4.看護の実施において、対象の意思決定を支援することができる。
5.対象と援助的なコミュニケーションを展開することができる。
6.安全性・安楽性を配慮しながら看護を実践できる。
7.患者（妊産褥婦）のプライバシーを守りながら、看護実践できる。
8.看護実践において、理論的知識を活用できる。
9.対象と援助的な関係を形成することができる
10.看護・助産実践を評価し記録できる。

授業の概要

実践看護学Iと対応しながら、さまざまな看護（助産含む）の対象とその家族、多様な看護の場における発達段階や人間の基本的ニードに応じた必要な看護技術とその適用方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

教科書や参考書、提示された資料をもとに、指示された事前課題に取り組み、授業に出席すること。復習として、授業で扱った理論や実践の要点を振り返り、ポイントを整理しておくこと。

内　容

第1回　【環境調整技術】基本的なベッドメイキング
第2回　基本的なベッドメイキング
第3回　リネンチェンジ、環境整備
第4回　リネンチエンジ、環境整備
第5回　臥床患者の寝衣交換
第6回　発達段階に応じたリネン;サークルベッドのベッドメイキング
第7回　【活動・休息援助技術】安楽な体位
第8回　体位変換(ベッド上での体位を変える。ベッド上で移動する）
第9回　車椅子での移乗・移送
第10回　ストレッチャーでの移乗・移送
第11回　発達段階に応じた移動:杖・歩行器・老人カー・おんぶひも(スリング）
第12回　廃用性症候群の予防
第13回　臥床患者の洗髪
第14回　臥床患者の洗髪
第15回　【清潔・衣生活の援助】臥床患者の清拭
第16回　臥床患者の清拭
第17回　部分浴:足浴、手浴、陰部洗浄
第18回　部分浴:足浴、手浴、陰部洗浄
第19回　口腔ケア
第20回　口腔ケア
第21回　発達段階に応じた清潔の援助;沐浴・寝衣交換
第22回　整容:ひげ剃り、爪きり、アルコール結髪、義歯の手入れ
第23回　【食事の援助技術】患者の状態に応じた食事援助
第24回　患者の状態に応じた食事援助
第25回　発達段階に応じた食事の援助;離乳食、調乳
第26回　【排泄援助技術】便器・尿器での援助
第27回　便器・尿器での援助、ポータブルトイレでの援助
第28回　発達段階に応じた排泄の援助;おむつ、おまるの援助
第29回　発達段階に応じた排泄の援助;おむつ、おまるの援助
第30回　まとめ

履修上の注意点

授業に出席することは、成績評価の前提条件とする。

教科書

a70102a410

看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術

著者:　角濱春美、梶谷佳子編

出版社: メヂカルフレンド社

出版年: 2015　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）

参加度（ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**実践看護学演習Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期集中	定　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　中橋　苗代.岡田　純子.奥野　信行.梶谷　佳子.河原　宣子.神﨑　光子.工藤　里香.黒瀧　安紀子.小西　奈美.竹下　夏美.野島　敬祐.松本　賢哉.マルティネス　真喜子.深山　つかさ.餅田　敬司	

テーマ

実践看護学Ⅱと対応しながら，さまざまな看護の対象とその家族，多様な看護の場における健康レベルに応じた必要な看護技術とその適用方法についてライフサイクルを踏まえて学ぶ.

授業の到達目標

1.ライフサイクルに合わせた健康レベルの各期（急性期･回復期･リハビリテーション期･慢性期･終末期）における看護援助技術を適切に実施する能力を修得する。
2.安全なケア環境を提供するための基礎的能力を修得する。

授業の概要

実践看護学Ⅱと対応しながら、さまざまな看護（助産含む）の対象とその家族、多様な看護の場における健康レベルに応じた必要な看護技術とその適用方法についてライフサイクルを踏まえて学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実践看護学Ⅱと連動した科目です。予習・復習をしっかり行い授業に参加してください。

内　容

第1回　救命救急処置技術・診療に伴う援助技術－患肢の固定・包帯法
第2回　安楽促進・苦痛の緩和－罨法
第3回　情動・認知・行動への働きかけ－病歴聴取・観察・モニタリング・コミュニケーション①
第4回　情動・認知・行動への働きかけ－病歴聴取・観察・モニタリング・コミュニケーション②
第5回　感染予防、安全・自己防止の技術－無菌操作、ガウンテクニック、滅菌手袋の装着脱①
第6回　感染予防、安全・自己防止の技術－無菌操作、ガウンテクニック、滅菌手袋の装着脱②
第7回　感染予防、安全・自己防止の技術－無菌操作、ガウンテクニック、滅菌手袋の装着脱③
第8回　感染予防、安全・自己防止の技術－無菌操作、ガウンテクニック、滅菌手袋の装着脱④
第9回　感染予防、安全・自己防止の技術－無菌操作、ガウンテクニック、滅菌手袋の装着脱⑤
第10回 感染予防、安全・自己防止の技術－無菌操作、ガウンテクニック、滅菌手袋の装着脱⑥
第11回 医療処置の実施・管理－採血①
第12回 医療処置の実施・管理－採血②
第13回 医療処置の実施・管理－採血③
第14回 医療処置の実施・管理－採血④
第15回 医療処置の実施・管理－注射①
第16回 医療処置の実施・管理－注射②
第17回 医療処置の実施・管理－注射③
第18回 医療処置の実施・管理－注射④
第19回 医療処置の実施・管理－輸液①
第20回 医療処置の実施・管理－輸液②
第21回 医療処置の実施・管理－輸液③
第22回 医療処置の実施・管理－輸液④
第23回 医療処置の実施・管理－導尿①
第24回 医療処置の実施・管理－導尿②
第25回 医療処置の実施・管理－導尿③
第26回 医療処置の実施・管理－酸素療法の管理、吸入①
第27回 医療処置の実施・管理－酸素療法の管理、吸入②
第28回 医療処置の実施・管理－浣腸、消毒薬の準備①
第29回 医療処置の実施・管理－浣腸、消毒薬の準備②
第30回 まとめ

履修上の注意点

教科書

根拠がわかる基礎看護技術
著者:　角濱春美･梶谷佳子
出版社:　メヂカルフレンド社
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

a70102a550

看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術

著者: 医療情報科学研究所

出版社: メディックメディア

出版年: 2014 ISBN:

看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術

著者: 医療情報科学研究所

出版社: メディックメディア

出版年: 2013 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 50 ） 授業中発表等（ ）

参加度（ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**実践看護学実習Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　春期集中	定　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　中橋　苗代.岡田　純子.奥野　信行.梶谷　佳子.黒瀧　安紀子.小西　奈美.常田　裕子.野島　敬祐.堀　妙子.松本　賢哉.マルティネス　真喜子.深山　つかさ.餅田　敬司	

テーマ

授業の到達目標

看護過程の理論を活用し、対象者が自らの健康問題を解決するために根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を培う。

授業の概要

実践看護学I・実践看護学演習I・実践看護学Ⅱ・実践看護学演習Ⅱ・実践看護学実習Iを踏まえ、医療施設をフィールドとして、看護過程を展開し、看護の理論と実践を統合する能力を養う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　患者の健康障害の関連、疾病・障害が生活に及ぼす影響について説明できる。
第2回　対象者の健康上の問題を解決するために既習の知識を活用し看護を展開することができる。
第3回　日常生活援助の基本技術を実施できる。
第4回　安全・安楽の基本技術を実施できる。
第5回　環境整備・環境調整の基本技術を実施できる。
第6回　根拠に基づいた看護を提供することの必要性が説明できる。
第7回　根拠に基づいた看護を提供するための情報を探索し、活用できる。
第8回　看護記録の目的と法的意義について説明できる。
第9回　対象者との人間関係を構築することができる。
第10回　患者の権利、プライバシーの保護に配慮できる。
第11回　守秘義務を遵守できる。
第12回　医療チームメンバーの一員として適切な人間関係を形成できる。
第13回　自己の看護の向上に向けて、実習実践を振り返り、自己を洞察し、看護観を自らの言葉で説明できる。

履修上の注意点

2週間の病院実習を行う。
受け持ち患者を1人受けもつ。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

参加度（ ）

実習の到達度、実習態度、出席状況などを総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**ヘルスケアシステムⅠ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　常田　裕子.河原　宣子.黒瀧　安紀子.藤井　誠	

テーマ

地域の看護活動を理解し、資料・健康指標を用いて地域の健康課題を解決する過程を学ぶ。

授業の到達目標

1.地域の人々の生活、地域の環境、社会経済構造を把握し、地域の特性を基盤とした看護活動を説明できる。2.保健医療福祉制度の歴史から看護の現状と動向、地域の保健医療福祉政策について理解し、その中で看護職が担う活動や役割を説明できる。3.疫学調査、分析活用方法、統計上とその活用方法について理解する。4.行政における組織や財政の仕組みを理解するとともに、住民の健康ニーズの把握方法や施策を実施するための財源や人的資源の確保，評価など基本構造を説明できる。 5.地域の保健医療福祉制度、健康に関する情報や指標を理解し、地域の健康課題を導く方法について説明できる

授業の概要

ヘルスプロモーション、ヘルスプロモーション演習、プライマリケア論、プライマリケア実習Ⅰを踏まえ、人々を取り巻くヘルスケアシステムとその基盤となる保健医療福祉の関連法規および財政の理解、施策等行政組織について、看護の視点からライフサイクル各期の特徴を踏まえて理解する。
また統計学基礎論、情報科学を踏まえ、 地域の特性や社会資源に関する資料・健康指標を活用して、地域の健康課題を解決する過程を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習:ヘルスプロモーション、ヘルスプロモーション演習、プライマリケア論、プライマリケア実習Ⅰで行った内容を復習した上で、初回の授業に臨む。
　復習:各授業で学んだ内容の要点を整理する。

内　　容

第1回　地域を基盤とした看護活動①－地域看護の成立基盤
第2回　地域を基盤とした看護活動②－地域看護の活動方法
第3回　地域保健行政における看護職の役割
第4回　我が国の保健医療福祉の変遷①－公衆衛生の歴史と体系
第5回　我が国の保健医療福祉の変遷②－看護の現状と動向
第6回　地域の看護活動の実際
第7回　地域看護管理①－保健医療福祉分野における計画策定と施策化
第8回　地域看護管理②－地域保健行政における情報管理システム，予算管理と人材育成
第9回　地域看護管理③－行政評価と事業評価
第10回 地域の看護活動の展開における疫学・保健統計の活用① 集団の健康状態の把握
第11回 地域の看護活動の展開における疫学・保健統計の活用② 疫学的研究方法
第12回 地域の看護活動の展開における疫学・保健統計の活用③ 疾病の予防とスクリーニング
第13回 地域の看護活動の展開における疫学・保健統計の活用④ 感染症の疫学
第14回 地域の看護活動の展開における疫学・保健統計の活用⑤ おもな疾患の疫学
第15回 まとめ
　　なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

最新公衆衛生看護学第2版2017年版総論
著者:　宮﨑美紗子ら編
出版社:　日本看護協会出版社
出版年:　2017　　ISBN:

参考書

最新公衆衛生看護学第2版2017年版各論1
著者:　宮﨑美紗子ら編
出版社:　日本看護協会出版社
出版年:　2017　　ISBN:

a70102a910

最新公衆衛生看護学第2版2017年版各論2

著者: 宮﨑美紗子ら編

出版社: 日本看護協会出版社

出版年: 2017 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 100 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 0 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**ヘルスケアシステムⅡ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　常田　裕子.河原　宣子.黒瀧　安紀子	

テーマ

地域の健康管理と公衆衛生看護活動に必要な制度や法規、健康危機管理について理解する。

授業の到達目標

1. 地域における健康危機管理およびその対策に関わる看護職の役割について理解できる。
2. 社会保障制度の体系と保健医療福祉の関連法規を説明できる。
3. 保健医療福祉における看護の機能と役割を理解できる。
4. 健康管理と公衆衛生看護活動に必要な支援技術を説明できる。

授業の概要

ヘルスケアシステムⅠを踏まえ、人々を取り巻くヘルスケアシステムとその基盤となる社会保障制度の体系と保健医療福祉の関連法規および財政の理解、施策等行政組織について、看護の視点からライフサイクル各期の特徴を踏まえて理解する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習:ヘルスケアシステムⅠで行った内容を復習した上で、初回の授業に臨む。
復習:各授業で学んだ内容の要点を整理する。

内　容

第1回　社会保障制度①理念・体系
第2回　社会保障制度②高齢者福祉・介護保険制度a
第3回　社会保障制度②高齢者福祉・介護保険制度b
第4回　社会保障制度④障害児・者
第5回　社会保障制度⑤児童
第6回　社会保障制度⑥医療保障制度
第7回　社会保障制度⑦所得保障・年金制度
第8回　地域保健と健康危機管理①－地域における日常的な健康危機管理
第9回　地域保健と健康危機管理②－災害と保健師活動
第10回　母子における保健医療福祉対策の現状と課題
第11回　地域における保健事業の展開
第12回　地区診断の実際①:コミュニティ・アズ・パートナーモデルと保健事業の施策化
第13回　地区診断の実際②:疫学・保健統計のデータの活用と実際
第14回　地区診断の実際③:対象別（母子・成人・高齢者等）の情報の活用と実際
第15回　まとめ
なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

国民衛生の動向2018/2019
著者:
出版社: 厚生労働統計協会
出版年: 2018　　ISBN:

医療福祉総合ガイドブック 2018年度版
著者:
出版社: 医学書院
出版年:　　ISBN:

参考書

最新公衆衛生看護学第2版2017年版総論
著者:　宮﨑美紗子ら編
出版社: 日本看護協会出版社
出版年: 2017　　ISBN:

a70102b050

最新公衆衛生看護学第2版2017年版各論1

著者: 宮﨑美紗子ら編

出版社: 日本看護協会出版社

出版年: 2017 ISBN:

最新公衆衛生看護学第2版2017年版各論2

著者: 宮﨑美紗子ら編

出版社: 日本看護協会出版社

出版年: 2017 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 60 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 40 ） 授業中発表等（ ）

参加度（ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ（看護）＜＊A＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野島　敬祐	

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる
2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる
3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ
自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。
2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ
学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、CiNii）
専門分野における文献講読の方法について学ぶ
文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。
3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ
テーマに沿い、理解した内容を表現する
テーマに沿って探究したことを伝達する

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業の進捗に合わせて適時説明する。コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　容

第1回　オリエンテーション,研究倫理について
第2回　文献検索について(1)
　　図書館オリエンテーション（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii）
第3回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第4回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第5回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　テーマに基づき文献検索を行う
第9回　テーマに基づき文献検索を行う
第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回 文献講読及びディスカッション
第13回 文献講読及びディスカッション
第14回 文献講読及びディスカッション
第15回 まとめ
　　なお、学外授業を実施することがある。

履修上の注意点

プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の授業です。リーダーシップおよびメンバーシップを発揮し、主体的に授業運営をしましょう。
「看護学生のためのよくわかる大学での学び方」を持参してください。

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子・遠藤俊子
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 30 ）

a70102b110

参加度 （ 30 ）

試験は実施しません。課題としてレポート作成を求めることがあります。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ（看護）＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　黒瀧　安紀子	

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる
2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる
3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ
自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。
2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ
学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、CiNii）
専門分野における文献講読の方法について学ぶ
文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。
3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ
テーマに沿い、理解した内容を表現する
テーマに沿って探究したことを伝達する

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業の進捗に合わせて適時説明する。コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　容

第1回　オリエンテーション,研究倫理について
第2回　文献検索について(1)
　　図書館オリエンテーション（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii）
第3回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第4回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第5回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　テーマに基づき文献検索を行う
第9回　テーマに基づき文献検索を行う
第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回 文献講読及びディスカッション
第13回 文献講読及びディスカッション
第14回 文献講読及びディスカッション
第15回 まとめ
　　なお、学外授業を実施することがある。

履修上の注意点

プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の授業です。リーダーシップおよびメンバーシップを発揮し、主体的に授業運営をしましょう。
「看護学生のためのよくわかる大学での学び方」を持参してください。

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子・遠藤俊子
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 30 ）

a70102b112

参加度 （ 30 ）

試験は実施しません。課題としてレポート作成を求めることがあります。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ（看護）＜＊C＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　常田　裕子	

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる
2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる
3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ
自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。
2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ
学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、CiNii）
専門分野における文献講読の方法について学ぶ
文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。
3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ
テーマに沿い、理解した内容を表現する
テーマに沿って探究したことを伝達する

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業の進捗に合わせて適時説明する。コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　容

第1回　オリエンテーション,研究倫理について
第2回　文献検索について(1)
　　図書館オリエンテーション（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii）
第3回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第4回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第5回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　テーマに基づき文献検索を行う
第9回　テーマに基づき文献検索を行う
第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回 文献講読及びディスカッション
第13回 文献講読及びディスカッション
第14回 文献講読及びディスカッション
第15回 まとめ
　　なお、学外授業を実施することがある。

履修上の注意点

プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の授業です。リーダーシップおよびメンバーシップを発揮し、主体的に授業運営をしましょう。
「看護学生のためのよくわかる大学での学び方」を持参してください。

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子・遠藤俊子
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）

a70102b113

参加度 （ 30 ）

試験は実施しません。課題としてレポート作成を求めることがあります。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ（看護）＜＊D＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小西　奈美	

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる
2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる
3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ
自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。
2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ
学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、CiNii）
専門分野における文献講読の方法について学ぶ
文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。
3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ
テーマに沿い、理解した内容を表現する
テーマに沿って探究したことを伝達する

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業の進捗に合わせて適時説明する。コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　容

第1回　オリエンテーション,研究倫理について
第2回　文献検索について(1)
　　図書館オリエンテーション（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii）
第3回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第4回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第5回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　テーマに基づき文献検索を行う
第9回　テーマに基づき文献検索を行う
第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回 文献講読及びディスカッション
第13回 文献講読及びディスカッション
第14回 文献講読及びディスカッション
第15回 まとめ
　　なお、学外授業を実施することがある。

履修上の注意点

プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の授業です。リーダーシップおよびメンバーシップを発揮し、主体的に授業運営をしましょう。
「看護学生のためのよくわかる大学での学び方」を持参してください。

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子・遠藤俊子
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 30 ）

a70102b114

参加度 （ 30 ）

試験は実施しません。課題としてレポート作成を求めることがあります。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ（看護）＜＊E＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中橋　苗代	

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる
2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる
3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ
自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。
2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ
学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、CiNii）
専門分野における文献講読の方法について学ぶ
文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。
3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ
テーマに沿い、理解した内容を表現する
テーマに沿って探究したことを伝達する

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業の進捗に合わせて適時説明する。コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　容

第1回　オリエンテーション,研究倫理について
第2回　文献検索について(1)
　　図書館オリエンテーション（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii）
第3回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第4回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第5回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　テーマに基づき文献検索を行う
第9回　テーマに基づき文献検索を行う
第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回 文献講読及びディスカッション
第13回 文献講読及びディスカッション
第14回 文献講読及びディスカッション
第15回 まとめ
　　なお、学外授業を実施することがある。

履修上の注意点

プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の授業です。リーダーシップおよびメンバーシップを発揮し、主体的に授業運営をしましょう。
「看護学生のためのよくわかる大学での学び方」を持参してください。

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子・遠藤俊子
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）

a70102b115

参加度 （ 30 ）

試験は実施しません。課題としてレポート作成を求めることがあります。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ（看護）＜＊F＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹下　夏美	

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる
2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる
3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ
自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。
2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ
学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、CiNii）
専門分野における文献講読の方法について学ぶ
文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。
3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ
テーマに沿い、理解した内容を表現する
テーマに沿って探究したことを伝達する

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業の進捗に合わせて適時説明する。コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　容

第1回　オリエンテーション,研究倫理について
第2回　文献検索について(1)
　　図書館オリエンテーション（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii）
第3回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第4回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第5回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　テーマに基づき文献検索を行う
第9回　テーマに基づき文献検索を行う
第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回 文献講読及びディスカッション
第13回 文献講読及びディスカッション
第14回 文献講読及びディスカッション
第15回 まとめ
　　なお、学外授業を実施することがある。

履修上の注意点

プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の授業です。リーダーシップおよびメンバーシップを発揮し、主体的に授業運営をしましょう。
「看護学生のためのよくわかる大学での学び方」を持参してください。

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子・遠藤俊子
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）

a70102b116

参加度 （ 30 ）

試験は実施しません。課題としてレポート作成を求めることがあります。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ（看護）＜＊G＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　工藤　里香	

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる
2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる
3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ
自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。
2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ
学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、CiNii）
専門分野における文献講読の方法について学ぶ
文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。
3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ
テーマに沿い、理解した内容を表現する
テーマに沿って探究したことを伝達する

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業の進捗に合わせて適時説明する。コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　容

第13回　文献講読及びディスカッション
第14回　文献講読及びディスカッション
第15回　まとめ
　　なお、学外授業を実施することがある。
第1回　オリエンテーション,研究倫理について
第2回　文献検索について(1)
　　図書館オリエンテーション（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii）
第3回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第4回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第5回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　テーマに基づき文献検索を行う
第9回　テーマに基づき文献検索を行う
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回　文献講読及びディスカッション

履修上の注意点

　プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の授業です。リーダーシップおよびメンバーシップを発揮し、主体的に授業運営をしましょう。
「看護学生のためのよくわかる大学での学び方」を持参してください。

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子・遠藤俊子
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）

a70102b117

参加度 （ 30 ）

試験は実施しません。課題としてレポート作成を求めることがあります。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ（看護）＜＊H＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　藤本　幸三	

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる
2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる
3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ
自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。
2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ
学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、CiNii）
専門分野における文献講読の方法について学ぶ
文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。
3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ
テーマに沿い、理解した内容を表現する
テーマに沿って探究したことを伝達する

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業の進捗に合わせて適時説明する。コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　容

第1回　オリエンテーション,研究倫理について
第2回　文献検索について(1)
　　図書館オリエンテーション（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii）
第3回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第4回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第5回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　テーマに基づき文献検索を行う
第9回　テーマに基づき文献検索を行う
第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回 文献講読及びディスカッション
第13回 文献講読及びディスカッション
第14回 文献講読及びディスカッション
第15回 まとめ
　　なお、学外授業を実施することがある。

履修上の注意点

プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の授業です。リーダーシップおよびメンバーシップを発揮し、主体的に授業運営をしましょう。
「看護学生のためのよくわかる大学での学び方」を持参してください。

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子・遠藤俊子
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）

a70102b118

参加度 （ 30 ）

試験は実施しません。課題としてレポート作成を求めることがあります。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ（看護）＜＊I＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　岡田　純子	

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる
2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる
3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ
自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。
2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ
学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、CiNii）
専門分野における文献講読の方法について学ぶ
文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。
3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ
テーマに沿い、理解した内容を表現する
テーマに沿って探究したことを伝達する

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業の進捗に合わせて適時説明する。コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　容

第1回　オリエンテーション,研究倫理について
第2回　文献検索について(1)
　　図書館オリエンテーション（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii）
第3回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第4回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第5回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　テーマに基づき文献検索を行う
第9回　テーマに基づき文献検索を行う
第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回 文献講読及びディスカッション
第13回 文献講読及びディスカッション
第14回 文献講読及びディスカッション
第15回 まとめ
　　なお、学外授業を実施することがある。

履修上の注意点

プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の授業です。リーダーシップおよびメンバーシップを発揮し、主体的に授業運営をしましょう。
「看護学生のためのよくわかる大学での学び方」を持参してください。

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子・遠藤俊子
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）

a70102b119

参加度 （ 30 ）

試験は実施しません。課題としてレポート作成を求めることがあります。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ（看護）＜＊J＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　神﨑　光子	

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる
2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる
3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ
自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。
2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ
学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、CiNii）
専門分野における文献講読の方法について学ぶ
文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。
3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ
テーマに沿い、理解した内容を表現する
テーマに沿って探究したことを伝達する

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業の進捗に合わせて適時説明する。コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　容

第1回　オリエンテーション,研究倫理について
第2回　文献検索について(1)
　　図書館オリエンテーション（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii）
第3回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第4回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第5回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　テーマに基づき文献検索を行う
第9回　テーマに基づき文献検索を行う
第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回 文献講読及びディスカッション
第13回 文献講読及びディスカッション
第14回 文献講読及びディスカッション
第15回 まとめ
　　なお、学外授業を実施することがある。

履修上の注意点

プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の授業です。リーダーシップおよびメンバーシップを発揮し、主体的に授業運営をしましょう。
「看護学生のためのよくわかる大学での学び方」を持参してください。

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子・遠藤俊子
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）

a70102b120

参加度 （ 30 ）

試験は実施しません。課題としてレポート作成を求めることがあります。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅳ（看護）＜＊A＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　神﨑　光子	

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる
2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる
3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の概要

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ
学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、GiNii）
2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ
各自で文献ノート（RefWorks）を作成する。
文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。
3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業の進捗に合わせて適時説明する。コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
第3回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
第4回　テーマに基づき文献検索を行う
第5回　テーマに基づき文献検索を行う
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　4回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション
第9回　4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加（1、2回生合同）
第10回　4回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換
第11回　文献講読及びディスカッション
第12回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第13回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第14回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第15回　まとめ（2回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む）

履修上の注意点

プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の授業です。リーダーシップおよびメンバーシップを発揮し、主体的に授業運営をしましょう。
「看護学生のためのよくわかる大学での学び方」を持参してください。

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子・遠藤俊子
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）
試験は実施しません。課題としてレポート作成を求めることがあります。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅳ（看護）＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野島　敬祐	

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる
2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる
3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の概要

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ
学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、GiNii）
2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ
各自で文献ノート（RefWorks）を作成する。
文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。
3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業の進捗に合わせて適時説明する。コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
第3回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
第4回　テーマに基づき文献検索を行う
第5回　テーマに基づき文献検索を行う
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　4回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション
第9回　4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加（1、2回生合同）
第10回　4回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換
第11回　文献講読及びディスカッション
第12回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第13回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第14回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第15回　まとめ（2回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む）

履修上の注意点

プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の授業です。リーダーシップおよびメンバーシップを発揮し、主体的に授業運営をしましょう。
「看護学生のためのよくわかる大学での学び方」を持参してください。

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子・遠藤俊子
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）
試験は実施しません。課題としてレポート作成を求めることがあります。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅳ（看護）＜＊C＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　黒瀧　安紀子	

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる
2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる
3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の概要

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ
学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、GiNii）
2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ
各自で文献ノート（RefWorks）を作成する。
文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。
3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業の進捗に合わせて適時説明する。コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
第3回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
第4回　テーマに基づき文献検索を行う
第5回　テーマに基づき文献検索を行う
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　4回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション
第9回　4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加（1、2回生合同）
第10回　4回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換
第11回　文献講読及びディスカッション
第12回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第13回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第14回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第15回　まとめ（2回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む）

履修上の注意点

プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の授業です。リーダーシップおよびメンバーシップを発揮し、主体的に授業運営をしましょう。
「看護学生のためのよくわかる大学での学び方」を持参してください。

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子・遠藤俊子
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）
試験は実施しません。課題としてレポート作成を求めることがあります。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅳ（看護）＜＊D＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　常田　裕子	

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる
2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる
3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の概要

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ
学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、GiNii）
2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ
各自で文献ノート（RefWorks）を作成する。
文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。
3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業の進捗に合わせて適時説明する。コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
第3回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
第4回　テーマに基づき文献検索を行う
第5回　テーマに基づき文献検索を行う
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　4回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション
第9回　4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加（1、2回生合同）
第10回　4回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換
第11回　文献講読及びディスカッション
第12回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第13回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第14回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第15回　まとめ（2回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む）

履修上の注意点

プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の授業です。リーダーシップおよびメンバーシップを発揮し、主体的に授業運営をしましょう。
「看護学生のためのよくわかる大学での学び方」を持参してください。

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子・遠藤俊子
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）
試験は実施しません。課題としてレポート作成を求めることがあります。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅳ（看護）＜＊E＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小西　奈美	

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる
2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる
3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の概要

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ
学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、GiNii）
2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ
各自で文献ノート（RefWorks）を作成する。
文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。
3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業の進捗に合わせて適時説明する。コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
第3回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
第4回　テーマに基づき文献検索を行う
第5回　テーマに基づき文献検索を行う
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　4回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション
第9回　4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加（1、2回生合同）
第10回　4回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換
第11回　文献講読及びディスカッション
第12回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第13回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第14回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第15回　まとめ（2回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む）

履修上の注意点

プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の授業です。リーダーシップおよびメンバーシップを発揮し、主体的に授業運営をしましょう。
「看護学生のためのよくわかる大学での学び方」を持参してください。

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子・遠藤俊子
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）
試験は実施しません。課題としてレポート作成を求めることがあります。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅳ（看護）＜＊F＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中橋　苗代	

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる
2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる
3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の概要

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ
学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、GiNii）
2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ
各自で文献ノート（RefWorks）を作成する。
文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。
3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業の進捗に合わせて適時説明する。コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
第3回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
第4回　テーマに基づき文献検索を行う
第5回　テーマに基づき文献検索を行う
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　4回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション
第9回　4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加（1、2回生合同）
第10回　4回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換
第11回　文献講読及びディスカッション
第12回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第13回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第14回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第15回　まとめ（2回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む）

履修上の注意点

プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の授業です。リーダーシップおよびメンバーシップを発揮し、主体的に授業運営をしましょう。
「看護学生のためのよくわかる大学での学び方」を持参してください。

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子・遠藤俊子
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）
試験は実施しません。課題としてレポート作成を求めることがあります。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅳ（看護）＜＊G＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹下　夏美	

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる
2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる
3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の概要

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ
学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、GiNii）
2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ
各自で文献ノート（RefWorks）を作成する。
文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。
3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業の進捗に合わせて適時説明する。コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
第3回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
第4回　テーマに基づき文献検索を行う
第5回　テーマに基づき文献検索を行う
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　4回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション
第9回　4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加（1、2回生合同）
第10回　4回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換
第11回　文献講読及びディスカッション
第12回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第13回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第14回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第15回　まとめ（2回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む）

履修上の注意点

プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の授業です。リーダーシップおよびメンバーシップを発揮し、主体的に授業運営をしましょう。
「看護学生のためのよくわかる大学での学び方」を持参してください。

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子・遠藤俊子
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）
試験は実施しません。課題としてレポート作成を求めることがあります。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅳ（看護）＜＊H＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　工藤　里香	

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる
2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる
3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の概要

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ
学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、GiNii）
2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ
各自で文献ノート（RefWorks）を作成する。
文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。
3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業の進捗に合わせて適時説明する。コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
第3回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
第4回　テーマに基づき文献検索を行う
第5回　テーマに基づき文献検索を行う
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　4回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション
第9回　4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加（1、2回生合同）
第10回　4回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換
第11回　文献講読及びディスカッション
第12回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第13回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第14回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第15回　まとめ（2回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む）

履修上の注意点

プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の授業です。リーダーシップおよびメンバーシップを発揮し、主体的に授業運営をしましょう。
「看護学生のためのよくわかる大学での学び方」を持参してください。

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子・遠藤俊子
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）
試験は実施しません。課題としてレポート作成を求めることがあります。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅳ（看護）＜＊I＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　藤本　幸三	

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる
2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる
3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の概要

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ
学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、GiNii）
2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ
各自で文献ノート（RefWorks）を作成する。
文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。
3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業の進捗に合わせて適時説明する。コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
第3回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
第4回　テーマに基づき文献検索を行う
第5回　テーマに基づき文献検索を行う
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　4回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション
第9回　4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加（1、2回生合同）
第10回　4回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換
第11回　文献講読及びディスカッション
第12回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第13回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第14回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第15回　まとめ（2回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む）

履修上の注意点

プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の授業です。リーダーシップおよびメンバーシップを発揮し、主体的に授業運営をしましょう。
「看護学生のためのよくわかる大学での学び方」を持参してください。

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子・遠藤俊子
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）
試験は実施しません。課題としてレポート作成を求めることがあります。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅳ（看護）＜＊J＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　岡田　純子	

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる
2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる
3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の概要

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ
学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、GiNii）
2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ
各自で文献ノート（RefWorks）を作成する。
文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。
3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業の進捗に合わせて適時説明する。コミュニケーションペーパーも活用し、授業や課題のフィードバックを行う。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
第3回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
第4回　テーマに基づき文献検索を行う
第5回　テーマに基づき文献検索を行う
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　4回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション
第9回　4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加（1、2回生合同）
第10回　4回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換
第11回　文献講読及びディスカッション
第12回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第13回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第14回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第15回　まとめ（2回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む）

履修上の注意点

プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の授業です。リーダーシップおよびメンバーシップを発揮し、主体的に授業運営をしましょう。
「看護学生のためのよくわかる大学での学び方」を持参してください。

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者:　前原澄子・遠藤俊子
出版社:　金芳堂
出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）
試験は実施しません。課題としてレポート作成を求めることがあります。

2018 Syllabus

科 目 名　**生命・医療倫理**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　荒木　正見	

テーマ

生命と医療に関する倫理的課題を、知識・実践・態度などの諸側面から考察し、倫理的に高いレベルでの医療人をめざす。

授業の到達目標

医療人としての生命観、倫理観を、存在論の根底や倫理の根拠などから厳密に展開するとともに、現実の医療現場の生命、倫理に関する諸問題を理解し解決策を探求することによって、より発展的に磨く。特に、理論として知るとともに、自らの人格発達によって全人格的に対応できることを目指す。なお、随時ナイチンゲール誓詞、ヘルシンキ宣言などの資料や、昔話などにおける価値観を挿入して、社会的理解を深める。

授業の概要

医療人としての生命観、倫理観を養う

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

前回の内容を復習し、前もって次回の内容のテキストを読み、実際の場面を想定しつつ具体的に考えてみる。予習時間の目安は毎回4時間をめどとする。・

内　　容

第1回　哲学とバイオエシックスに関する総論的概説
第2回　医療を取り巻く現実的諸問題と倫理学との関係
第3回　人格発達論と自己理解の目安
第4回　生命誕生の科学的、存在論的、倫理学的意味
第5回　生命の終末とホスピス、ターミナルケアの問題と倫理学的、人間学的意味
第6回　医療倫理をめぐる諸問題とその根本的解決
第7回　優生学と遺伝子診断をめぐる諸問題とその人類学的意味
第8回　真の健康とスポーツをめぐる倫理学的諸問題
　　評価用レポート作成
第9回　人間の尊厳と安楽死、クローン生殖などの諸問題
　　（教育効果を考慮して前後期にわけて授業を行うので、この回以降は、それ以前の内容の確認を交えて講義を行う。）
第10回　医療倫理の教育と理解をめぐる諸問題
第11回　医療倫理理解のための訓練と技法
第12回　チーム医療における医療専門職者としての根拠と自覚
第13回　患者、家族、関係者とのかかわりの社会的意味と在り方
第14回　倫理的諸規定、宣言、法的根拠
第15回　医療従事者としてのQOL
　　評価用レポート作成

履修上の注意点

テキストを読むとともに、美術館、博物館、寺社、旧跡などを訪れて見識を深め、自らの癒しを得ることを期待する。

教科書

系統看護学講座　別巻　看護倫理
著者:　松葉祥一（代表）
出版社:　医学書院
出版年:　最新刊　　ISBN:　978-4-260-01813

参考書

医療倫理学　第2版
著者:　丸山マサ美（編著）
出版社:　中央法規
出版年:　2012　　ISBN:　978-4-8058-3163

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 20 ）
授業理解の助けとして授業中に行うワーキングなども評価の対象となる。

2018 Syllabus

科 目 名　**災害看護学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　野島　敬祐.奥野　信行.河原　宣子.黒瀧　安紀子.竹下　夏美.堀　妙子.松本　賢哉.マルティネス　真喜子	

テーマ

災害看護学Ⅰを踏まえ，災害看護に関する実践方法論を学ぶ．さまざまな看護の対象とその家族，多様な看護の場における災害サイクル各期の看護の役割を考察する．授業にはトリアージ訓練や避難所運営シミュレーションの演習形式を中心とした防災・減災訓練を含む．

授業の到達目標

1.災害看護の実例を学び，災害サイクル各期およびライフサイクル各期の特徴を踏まえた看護の役割を理解する．2.トリアージ訓練や避難所運営シミュレーションの準備・実施に参加し，準備期における看護の役割を理解する．

授業の概要

災害支援活動の実例を通した講義とトリアージ訓練や避難所運営シミュレーションなどの演習により，災害サイクル各期の看護師の役割について考える．

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・必ず授業前の予習及び演習前の事前課題に取り組むこと
・演習課題に対して、講義中のプレゼンテーションを通してフィードバックを行う

内　容

第1回　災害支援活動の実際①　災害サイクル中長期におけるケア
第2回　災害支援活動の実際②　メンタルヘルス
第3回　災害支援活動の実際③　子どもへの支援
第4回　演習：避難所運営シミュレーション①
第5回　演習：避難所運営シミュレーション②
第6回　災害支援活動の実際④ 災害トリアージ
第7回　演習：防災・減災訓練の準備と実施ートリアージ訓練等
第8回　演習：防災・減災訓練の準備と実施ートリアージ訓練等

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（60）	授業中発表等（　）
参加度（40）	

2018 Syllabus

科 目 名　**学校保健**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　寺口　佐與子.近藤　恵	

テーマ

学校保健の基礎を学ぶ

授業の到達目標

1）学校教育における学校保健の目的について理解できる 2）学校保健の行政と制度,学校保健関係職員について理解 できる 3）学校における保健管理と保健教育,保健組織活動の内容 について理解できる 4）児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題について理 解できる 5）学校保健の今日的課題と展望について考察できる

授業の概要

毎回の授業の前半は講義中心に進める。後半は、アクティブラーニングを取り入れたグループ ワークや課題に取り組む演習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日頃より児童生徒やその保護者となる対象に関連する ニュースや一般書などを読み学校保健の対象に関心をよせること。異なる意見をもつ学生と討議ができるようにグループワークに主体的に取り組むこと。

内　容

第1回　学校保健の概要、学校保健の歴史
第2回　学校保健の今日的課題①
第3回　保健教育
第4回　保健情報・保健指導①IBL
第5回　保健情報・保健指導②IBL
第6回　疾病管理
第7回　健康診断・健康観察
第8回　学校環境衛 生
第9回　学校安全、応急手当
第10回 学校保健の今日的課題②
第11回 児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題①
第12回 児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題②
第13回 児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題③
第14回 児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題④
第15回 児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題⑤

履修上の注意点

授業中の私語は慎んでください。欠席時は自分で講義資料をコピーするなどの対応をしてください。初回に詳細なスケジュールを説明しますので必須の発表やテストなどの回は必ず参加してください。

教科書

学校保健概論
著者:　渡邊正樹
出版社: 光正館
出版年: 2017　　ISBN:　9784332520221

参考書

成績評価

試験・レポート （ 10 ）　　小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 10 ）
グループ発表などの必須の発表においては、グループ評価をします。

2018 Syllabus

科 目 名　**養護概説**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐藤　浩子	

テーマ

学校教育及び学校保健活動における養護教諭の役割と、専門性を理解する。

授業の到達目標

学校教育及び学校保健活動における養護教諭の役割を理解し、養護教諭としての基礎的な知識と技術について学び、専門職としての能力を習得する。

授業の概要

健康教育実践を通してより深く具体的に理解し、保健指導演習を行い養護教諭としての資質と力量を高める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

子どもの健康情報を収集し、子どもの健康課題を考えておくこと。それを保健指導演習に生かす。

内　　容

第1回　養護の本質と概念
第2回　養護教諭の専門性・子どもの発達と健康
第3回　養護教諭と学校保健活動
第4回　養護教諭と保健室・保健室経営
第5回　養護活動の過程
第6回　教育としての健康診断①
第7回　教育としての健康診断②
第8回　保健指導演習
第9回　養護活動の方法・健康実態の把握と支援(健康管理)
第10回　健康問題に応じた養護活動(内科的な訴えを持つ子ども)
第11回　健康問題に応じた養護活動(外科的な訴えを持つ子ども)
第12回　健康問題に応じた養護活動(慢性疾患を抱えた子ども)
第13回　健康問題に応じた養護活動(心の問題を抱えた子ども)
第14回　学校の特性に応じた養護活動・研究活動の意義
第15回　レポート作成・まとめ

履修上の注意点

養護教諭免許状取得のための必須科目であるため、教育的観点を踏まえて学ぶこと。

教科書

養護学概論
著者:　岡田加奈子　　河田史宝
出版社:　東山書房
出版年:　2016年2月12日　　ISBN:

参考書

教育としての学校保健
著者:　数見隆生
出版社:　青木書店
出版年:　　ISBN:

養護教諭の役割と教育実践
著者:　宍戸洲美
出版社:　学事出版
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 20 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 15 ）
参加度（ 45 ）
・授業出席度45%・保健指導演習20%・授業中発表15%・レポート20%

2018 Syllabus

科 目 名　**精神保健**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　加藤　直人	

テーマ

学校における精神保健問題への対応について

授業の到達目標

◎子どもの成長過程に伴う精神保健の諸問題に対する問題意識を持ち知識を得る。
◎養護教諭として関わる、精神保健の課題の背景にある心理的課題・生活問題への視点・相談・連携に関する基礎を身につける。

授業の概要

学校における精神保健の課題は、生徒の心の発達メカニズムと様々な生活の問題が複合的に関与していることを取り上げ概説する。養護教諭として、精神保健ニーズへ対応することに必要な基本姿勢を学ぶ場とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前学習として、指定テキスト『ルポ保健室』を通読しておくこと。事前学習をしていることを前提に、第１回目オリエンテーションを実施する。授業を通じて知る事例・資料から、問題の背景を読み解くスキルを獲得する意欲を向上させること。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　保健室という＜こころ＞の共同世界
第3回　精神保健の基本的な視点（1）＜児童精神医学の基礎知識＞
第4回　精神保健の基本的な視点（2）＜「私」のなりたち＞
第5回　精神保健の基本的な視点（3）＜操作的診断分類＞
第6回　精神保健の基本的な視点（4）＜児童精神医学における診断分類＞
第7回　精神保健の基本的な視点（5）＜精神の発達＞
第8回　発達障害について
第9回　ストレスとメンタルヘルス
第10回　ストレスとメンタルヘルス（2）
第11回　精神保健における人間関係の調整について
第12回　養護教諭に求められる精神保健上のアセスメントと他職種連携
第13回　養護教諭に求められる児童虐待の対応について
第14回　精神保健と治療共同体
第15回　捕捉・まとめ

履修上の注意点

事例性に基づいた講義・ワーク・ディスカッションを実施するため、出席・参加姿勢による評価を重視する。

教科書

ルポ保健室
著者:　秋山千佳
出版社:　朝日新書
出版年:　2016　　ISBN:　9784022736765

子どものための精神医学
著者:　滝川一廣
出版社:　医学書院
出版年:　2017　　ISBN:　9784260030373

参考書

養護教諭の精神保健術
著者:　清水將之
出版社:　北大路書房
出版年:　2013　　ISBN:　9784762827976

a70102d450

心をみつめる養護教諭たち
著者: カウンセリング研究会
出版社: ミネルヴァ書房
出版年: 2012 ISBN: 9784623062553

魂の殺人 親は子どもに何をしたか
著者: A・ミラー著 山下公子訳
出版社: 新曜社
出版年: 1983 ISBN: 4788501732

ドラッグ問題をどう教えるか
著者: 寶田穂・大久保圭策 監修
出版社: 解放出版社
出版年: 2013 ISBN: 9784759267587

いじめ損なわれた関係を築きなおす 修復的対話というアプローチ
著者: 山下英三郎
出版社: 学苑社
出版年: 2010 ISBN: 9784761407322

愛着障害
著者: 岡田尊司
出版社: 光文社新書
出版年: 2011 ISBN: 9784334036430

スクールソーシャルワーカー養成テキスト
著者: 日本学校ソーシャルワーク学会
出版社: 中央法規
出版年: 2008 ISBN: 9784805830758

若者の貧困・居場所・セカンドチャンス
著者: 青砥恭 さいたまユースサポート
出版社: 太郎次郎社エディタス
出版年: 2015 ISBN: 9784811807829

発達障害の豊かな世界
著者: 杉山登志郎
出版社: 日本評論社
出版年: 2000 ISBN: 4535561559

子ども虐待 介入と支援のはざまで
著者: 小林美智子 松本伊智朗
出版社: 明石書店
出版年: 2007 ISBN: 9784750326757

成績評価

試験・レポート（ レポート 30% ）　小テスト（ ）
授業中課題 （ 10% ）　授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 30% ）
講義・ワーク・ディスカッション等、参加型学習方式とするため、授業を通じて習得した知識を基に、問題意識と議論に対する習熟度を評価の軸とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習 I**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　神﨑　光子	

テーマ

看護研究を行うために必要な基本的知識を獲得する

授業の到達目標

1.看護における研究の意義を理解する 2.看護研究のプロセスを知る 3.文献検討の意義と方法を理解し、自ら必要な文献が収集できる 4.研究デザインと研究方法について知る 5.データの収集と分析方法を知る 6.研究計画書の意義と立案について知る 7.研究論文の書き方を知る 8.研究における倫理を知る

授業の概要

看護研究に必要な基本的知識を理解する

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に教科書をよく読んで講義に臨むこと。課題、レポートの提出期限を厳守すること。課題、レポートは紙ベースとし、評価後に返却する。

内　容

第1回　看護研究とは？研究の意義
第2回　看護研究のプロセス
第3回　研究の問い
第4回　文献検索と文献検討
第5回　研究における倫理的配慮
第6回　研究における設計と方法の選択
第7回　研究計画書の作成
第8回　データ収集とデータの分析
第9回　研究結果の記載と考察
第10回 研究成果の伝え方（学会発表、論文作成）
第11回 文献購読のグループ内発表
第12回 文献購読の全体発表①
第13回 文献購読の全体発表②
第14回 文献購読の全体発表③
第15回 文献購読の全体発表④ まとめ

履修上の注意点

課題提出期限は、厳守すること。

教科書

看護研究
著者:　坂下玲子、宮芝智子、小野博史
出版社: 医学書院
出版年: 2017　　ISBN:　9784260021821

参考書

看護における研究
著者:　南裕子、野嶋佐由美
出版社: 日本看護協会出版会
出版年: 2017　　ISBN:　9784818020665

成績評価

試験・レポート （ 50 ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ ）
全日出席が原則、出席 2/3以上の参加がない場合、単位認定をしない。
各課題の未提出、遅延提出は、評価の対象とならないため0点となる。

2018 Syllabus

科 目 名　**看護管理学 I**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　餅田　敬司.桑原　安江.半場　江利子	

テーマ

看護管理の基礎概念と患者中心志向の医療における看護サービスのマネジメントを学ぶ。

授業の到達目標

1. マネジメント及び看護におけるマネジメントの主要概念を理解する.
2. 看護におけるマネジメントに必要な理論的知識体系を理解する.
3. 医療施設の看護におけるマネジメントの実際を理解する.
4. 患者中心志向医療における看護職の役割を理解する.

授業の概要

本講は、看護管理の基礎的知識および21世紀に期待される患者中心志向の医療における看護サービスのマネジメントについて理解することを意図している。
授業内容は、近代看護における看護管理の発想はF。ナイチンゲールの看護の概念･方法論にあることを認識した上で、「看護管理」についての基礎知識を概説する。これらを論拠として、医療施設におけるケアのマネジメントと看護サービスのマネジメントの実際、患者中心志向の医療サービス提供体制や運営にかかわる看護職・看護管理者のあり方を、資料・映像学習、課題学習によって学習する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・専門用語，定義，概念が多いため，「授業の計画」に沿って，テキストの該当箇所を読み，講義に臨む.
・受講後は，臨地実習や社会生活における自身の経験と結び付けて，理解するよう努める.

内　容

第1回　看護管理学とは何か、なぜ看護管理学を学ぶのか
第2回　看護におけるマネジメント1（管理におけるマネジメントとその変遷）
第3回　看護におけるマネジメント2（マネジメントが行われる場）
第4回　ケアのマネジメント（看護職の機能、患者の権利）
第5回　看護業務実践の基本的なしくみ1（組織とは何か）
第6回　看護業務実践の基本的なしくみ2（看護職との協働、他職種との協働）
第7回　看護サービスのマネジメント1（組織の有効な維持、運営、変革）
第8回　看護サービスのマネジメント2（人材の育成と活用）
第9回　看護サービスのマネジメント3（安全管理、情報管理と医療情報システム）
第10回 看護をとりまく諸制度1（看護職と法制度）
第11回 看護をとりまく諸制度2（看護実践の領域、医療制度）
第12回 マネジメントに必要な知識と技術（リーダーシップとマネジメント、組織・個人の調整）
第13回 医療サービスと看護職の役割1（患者本位の医療における看護職の役割拡大）
第14回 医療サービスと看護職の役割2（医療施設における環境と建築設備）
第15回 医療サービスにおける看護サービスマネジメントの展望

履修上の注意点

・看護，医療，福祉に関する動向について，ホームページや新聞等のメディアを活用して，厚生労働省や日本看護協会などが発信する情報から把握する.
・新聞や他のメディアを活用し，日本や世界の経済，経営の動きをキャッチする.

教科書

看護管理
著者:　吉田千文等
出版社: メディカ出版
出版年: 2018　　ISBN:　984840461351

参考書

看護管理
著者:　上泉　和子など
出版社: 医学書院
出版年: 2017年　　ISBN:　97260015738

a70103a210

看護管理

著者: 小林 美亜

出版社: 学研メディカル秀潤社

出版年: 2013年　　ISBN: 978-4780911022

組織で生きる

著者: 勝原裕美子

出版社: 医学書院

出版年: 2017年　　ISBN: 9784260030137

明日を支配するもの

著者: P･F･ドラッカー

出版社: ダイヤモンド社

出版年: 1999年　　ISBN: 44372632

成績評価

試験･レポート（ 70 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ 10 ）

参加度（ 10 ）

新聞や他メディアで報道される保健医療福祉に関係する政治や政策などに関心を持ち，それらについて考えてみるよう，心がける．授業内でのグループワークや発表も評価の対象とします．

2018 Syllabus

科 目 名　**看護教育学Ⅰ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　梶谷　佳子	

テーマ

看護の教育的機能を理解し、看護教育についての考察を深める。

授業の到達目標

1.看護の対象への教育的支援について理解する。
2.看護教育について理解する。

授業の概要

看護教育の歴史、看護の教育的機能、授業の構造化や教授学習過程について学ぶ。また、集団を対象とした教育方法や集団力学を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・これまで自分の受けてきた様々な教育について振り返り、学習者にとってより効果的な教育について考えてみる。

内　　容

第1回　オリエンテーション、授業の進め方、看護の教育的機能
第2回　教育に関連する概念や定義（学習、教育、指導等）
第3回　看護の対象への教育
第4回　患者教育のプロセス
第5回　グループ学習①－グループ編成、課題設定
第6回　グループ学習②－授業案の作成
第7回　グループ学習③－教育方法の検討、教材作成
第8回　グループ学習④－授業評価の媒体の作成
第9回　グループ学習⑤－模擬授業の準備
第10回　模擬授業と評価①
第11回　模擬授業と評価②
第12回　模擬授業と評価③
第13回　看護教育の発達と看護教育制度
第14回　キャリア開発と看護継続教育
第15回　まとめ

履修上の注意点

・模擬授業の教育内容等については、グループで積極的にディスカッションを行ってください。
・グループワークでは参加度を重視します。

教科書

看護教育学
著者:　グレッグ美鈴，池西悦子
出版社:　南江堂
出版年:　最新版　　ISBN:

看護教育における授業設計
著者:　佐藤みつ子，宇佐美千恵子，青木康子
出版社:　医学書院
出版年:　最新版　　ISBN:

参考書

患者教育のポイント　アセスメントから評価まで
著者:　Barbara McVan（武山満智子訳
出版社:　医学書院
出版年:　最新版　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 20 ）

a70103a310

・試験は最終レポートとします。
・グループワークの参加度を重視します。

2018 Syllabus

科 目 名　**実践看護学Ⅲ－1**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　奥野　信行.天野　博夫.喜多　伸幸.小西　奈美.鈴木　要子.常田　裕子.長尾　匡子.野島　敬祐.堀　妙子.松本　賢哉.マルティネス　真喜子.深山　つかさ.村上　節	

テーマ

授業の到達目標

1.健康破綻をもたらす病態や疾患とその治療を理解する
2.ライフサイクルを踏まえ、さまざまな健康課題と健康レベルについて理解する
3.健康に影響する生活環境の把握と健康な環境づくりについて理解する

授業の概要

さまざまな健康課題をもつ対象とその家族、多様な看護の場における、人によりそう看護に必要な病態・治療についてライフサイクルを踏まえて理解する

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　がんとは　がんの予防と検査
第2回　手術療法①　がん事例を中心に
第3回　手術療法②　がん事例を中心に
第4回　放射線療法・化学療法　がん事例を中心に
第5回　悪性腫瘍をもつ小児の看護　白血病
第6回　消化・吸収障害とは　肝・移植
第7回　糖代謝障害とは　糖尿病を中心に
第8回　内分泌疾患をもつ小児の看護　糖尿病
第9回　排泄機能障害とは　腎疾患を中心に
第10回　循環機能障害とは　心疾患を中心に
第11回　呼吸機能障害とは　呼吸器疾患を中心に
第12回　呼吸機能障害をもつ高齢者の看護
第13回　小児によくみられる腎・呼吸器疾患と治療　ネフローゼ・喘息
第14回　運動機能障害とは　脳神経系疾患を中心に
第15回　小児によくみられる循環器・筋・骨疾患と治療
第16回　泌尿器系の障害をもつ高齢者の看護
第17回　感覚器系の障害をもつ 高齢者の看護
第18回　感染症とは
第19回　感染症の小児の看護
第20回　認知症の診断と治療①
第21回　認知症の診断と治療②
第22回　高齢者の薬物療法
第23回　統合失調症患者の特徴と治療
第24回　気分障害患者の特徴と治療
第25回　アルコール依存症患者の特徴と治療
第26回　薬物療法、心理社会療法
第27回　生殖生理
第28回　周産期の診断と検査
第29回　地区診断①
第30回　地区診断②
なお、外部講師を招いて講演会を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学[2]小児臨床看護各論　第12版
著者:　奈良間美保
出版社:　医学書院
出版年:　　ISBN:

a70103a410

系統看護学講座　別巻　臨床外科看護学各論
著者:　北島政樹
出版社: 医学書院
出版年:　　ISBN:
新体系看護学全書母性看護学①母性看護学概論ウィメンズヘルスと看護
著者:　新道幸恵
出版社: メジカルフレンド社
出版年:　　ISBN:
老年看護学 概論と看護の実践
著者:　奥野茂代
出版社: ヌーヴェルヒロカワ
出版年:　　ISBN:
パーフェクト臨床実習ガイド　成人看護2　慢性期　第2版
著者:　野並葉子
出版社: 照林社
出版年: 2018　　ISBN:　未定
これからの精神看護学
著者:　森千鶴
出版社: ピラール
出版年:　　ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート（ 100 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**実践看護学演習Ⅲ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　奥野　信行.河原　宣子.神﨑　光子.工藤　里香.鈴木　要子.常田　裕子.長尾　匡子.野島　敬祐.堀　妙子.松本　賢哉.マルティネス　真喜子.深山　つかさ	

テーマ

授業の到達目標

1.ライフサイクルを踏まえ、さまざまな健康課題と看護の場に応じたアセスメントの方法について理解できる。
2.ライフサイクルを踏まえ、さまざまな健康課題と看護の場に応じた看護技術を修得することができる。
3.がん看護、精神看護、地域看護、老年看護、小児看護、母性看護、慢性疾患看護、急性・重症患者看護、感染症看護、家族支援看護等のさまざまな看護の場における看護活動と専門性を理解する。

授業の概要

実践看護学Ⅲ-2と対応しながら、さまざまな看護の対象とその家族、多様な看護の場において必要な看護技術とその適用方法についてライフサイクルを踏まえて学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　新生児期のアセスメントと看護②
第2回　低出生体重児の看護技術
第3回　統合失調症患者の地域生活支援
第4回　周産期の看護技術(実技演習：妊婦と褥婦のﾌｨｼﾞｶﾙ系)
第5回　周産期の看護技術(実技演習:新生児と授乳系)
第6回　周産期の看護技術(実技演習:新生児と授乳系)
第7回　感染看護　在宅・臨床看護演習
第8回　精神障害をもつ人の地域生活支援の実際①
第9回　入院によりADLが低下した高齢者の看護事例演習①
第10回　入院によりADLが低下した高齢者の看護事例演習②
第11回　排泄経路を変更した人への看護
第12回　在宅・臨床看護演習①
第13回　在宅・臨床看護演習②
第14回　在宅・臨床看護演習③
第15回　小児に特有の看護技術
第16回　小児の権利を守るための看護技術
第17回　小児に特有の症状に対する看護
第18回　がんの終末期の看護
第19回　入院によりADLが低下した高齢者の看護事例演習③
第20回　入院によりADLが低下した高齢者の看護事例演習④
第21回　在宅・臨床看護演習④
第22回　在宅・臨床看護演習⑤
第23回　在宅・臨床看護演習⑥
第24回　小児の終末期の看護
第25回　看取りと看護①
第26回　看取りと看護②
第27回　精神障害をもつ人の地域生活支援の実際②
第28回　在宅・臨床看護演習⑦
第29回　在宅・臨床看護演習⑧
第30回　在宅・臨床看護演習⑨
なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

a70103a610

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 70% ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 30% ）	

授業中課題：70%、参加度（出席前提）：30%

2018 Syllabus

科 目 名　**看護倫理Ⅰ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　梶谷　佳子	

テーマ

看護の場における倫理課題に対応する知識を得るとともに、倫理的行動を探求する態度を養う。

授業の到達目標

1.看護倫理の重要概念であるケアリング、アドボカシー等について概念的実践的に説明できる。
2.看護の場における看護職としての倫理的判断を導く原則や綱領を説明できる。
3.患者の権利を尊重し、擁護するアドボケイトとしての看護の役割を説明できる。
4.看護の場における倫理問題とその解決の道筋を説明できる。

授業の概要

看護は社会制度・政策の枠内で、さらには実践現場の様々な制約のなかで提供されるものでもあるため、看護者が対象者の「求めに応じる」のは、思いの外難しく、看護者に期待される対象者の権利擁護の役割を果たしていくには、明確な倫理観が求められる。看護者の第三者的立場ではなく、当事者性（つまり、責任感）の獲得を目指す。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

既習の生命倫理に関する内容を再度振り返っておく。
実習での日々の看護実践における看護倫理について事例を考える

内　　容

第1回　看護倫理とは 看護実践と看護倫理 看護専門職と看護倫理
　　医療(生命)倫理と看護倫理(理原則･ケアリングの倫理)
　　レポート提出「実習で体験した倫理問題」A4版1枚程度(1000字～1200字程度)
　　＊これまでの実習のなかで、「患者さんの権利が損なわれているのでは」「これでは患者さんが気の毒だ」と感じたできごと、患者の背景情報や自分はその時どうしたかも、含めて記述すること
　　＊2部作成し、1部提出、1部は手元に
第2回　患者の権利(リスボン宣言）看護者の倫理綱領(日本看護協会）倫理的問題分析と解決への道筋
第3回　看護倫理ワークショップ
第4回　看護倫理ワークショップ
第5回　看護倫理ワークショップ
第6回　全体発表
　　グループワークの成果発表 質疑応答 コメント
第7回　全体発表
第8回　まとめ
　　権利擁護者としての看護師の役割

履修上の注意点

・グループワークに積極的に参加してください。
・持参事例についての解決策を見いだせるように、他者の意見や自分の意見をしっかりと融合してください。

教科書

看護者の基本的責務
著者:　日本看護協会出版会
出版社: 日本看護協会出版会
出版年: 最新版　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 60 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 20 ）	

事前課題レポート(個人点)　　10点
グループワーク発表(グループ点) 20点
グループワーク貢献(相互評価点) 10点
最終レポート　　60点
「事前課題事例に関する、倫理的問題の分析と解決のためにとる行動」タイトルを考え、表紙をつけること／A4版 1～2枚（1400字～2000字程度） ワープロ使用のこと

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅴ（看護）**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　マルティネス　真喜子.河原　宣子.神﨑　光子.野島　敬祐.松本　賢哉.深山　つかさ.餅田　敬司	

テーマ

授業の到達目標

1.さまざまな健康課題について、ライフサイクルと看護の場を踏まえてアセスメントすることができる
2.自らの学習上の課題を見出し、解決方法を考えて取り組むことができる

授業の概要

2回生までの学びを踏まえて、実践看護学実習に向けて事例検討を行い、自らの課題を明確化する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　妊婦事例看護過程演習
第2回　産褥・新生児期事例の看護過程演習①
第3回　産褥・新生児期事例の看護過程演習②
第4回　健康障害をもつ高齢者と家族の事例展開①
第5回　健康障害をもつ高齢者と家族の事例展開②
第6回　健康障害をもつ高齢者と家族の事例展開③
第7回　精神障がいをもつ人と家族の事例展開①
第8回　精神障がいをもつ人と家族の事例展開②
第9回　精神障がいをもつ人と家族の事例展開③
第10回　地区活動計画と評価①
第11回　地区活動計画と評価②
第12回　地区活動計画と評価③
第13回　地区活動計画と評価④
第14回　地区活動計画と評価⑤
第15回　地区活動計画と評価⑥

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**看護管理学ⅡA**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　餅田　敬司.川添　高志	

テーマ

医療の場における看護マネジメントの実際

授業の到達目標

1. 医療の場における看護マネジメントの実際を学ぶ.
2.看護マネジメントにかかわる諸理論，技法，政策を理解する.
3.リーダーとマネージャーの役割を理解する.
4.経営参画者として，組織・チームの一員としての看護職者の役割を理解する.

授業の概要

本講は，看護管理学Ⅰでの学びを踏まえ，医療チームの一員として，身近な看護マネジメントのテーマを設定し，それにかかわる諸理論，技法，政策等を理解する. これらにより，医療の場における看護マネジメントの実際を多様な側面から学び，看護サービスのあり方や医療経営への参画者として，また組織・チームの一員としての看護職者の役割について学習する.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・看護管理学Ⅰでの学習内容(看護におけるマネジメント，看護をとりまく諸制度)について復習し，本講に臨む. ・グループごとのテーマに沿って，各メンバーが必要な事前学習を行う. 新聞やHPなどあらゆる情報から自らの課題について日頃から入手しておく. 政策や政治・経済などにも目を向けておく ・提出された課題にはコメントを入れて返却する

内　　容

第1回　オリエンテーション(学習目標，授業の進め方) テーマの設定とグループ編成
第2回　グループごとにテーマに基づく文献検索，グループ学習①
　　実習経験を通して、管理に関する問題や疑問を出し合い取り組む課題を明確にする
第3回　グループごとにテーマに基づく文献検索，グループ学習②
第4回　グループごとにテーマに基づく文献検索，グループ学習③
第5回　グループごとにテーマに基づく文献検索，グループ学習④
第6回　グループごとにテーマに基づく文献検索，グループ学習⑤
第7回　グループごとにプレゼンテーション準備①
第8回　グループごとにプレゼンテーション準備②
第9回　学習成果のプレゼンテーション，討議①
第10回　学習成果のプレゼンテーション，討議②
第11回　学習成果のプレゼンテーション，討議③
第12回　学習成果のプレゼンテーション，討議④
第13回　学習成果のプレゼンテーション，討議⑤
第14回　これからの看護マネジメント
第15回　まとめ

履修上の注意点

・学びたいテーマを自ら提案する姿勢を持つ. ・医療，看護マネジメントに関する動向について，先行研究，文献のほか，ホームページ，新聞等のメディアを活用しキャッチする.

教科書

特に指定しない.

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30% ）　　授業中発表等（ 20% ）
参加度（ 30% ）
グループ学習における課題への取り組み，参加の度合，発表，レポートにより総合的に評価する.

2018 Syllabus

科 目 名　**看護管理学ⅡB**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期集中	定　　員　10
履修条件	クラス指定
担 当 者　　上澤　悦子.工藤　里香.常田　裕子	

テーマ

助産実践のケア環境とチーム体制整備に関する看護実践能力を養う

授業の到達目標

1　日本および世界の母子保健の動向における助産のあり方を理解できる 2　我が国の母子保健制度と施策および助産業務を理解できる 3　施設における助産業務と地域母子保健の連携を理解できる 4　助産サービスの質の管理および改善の取り組みについて理解できる 5　周産期における医療の安全とリスクマネージメントの方法を理解できる 6　病院、診療所、助産所における助産業務管理の実際を理解できる

授業の概要

講義およびグループワーク

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

課題や試験・レポートは必要時フィードバックする

内　　容

第1回　助産師の定義と業務・役割
第2回　助産師が行うケアを支える理論
第3回　助産実践の倫理
第4回　周産期における質と安全の保証
第5回　周産期におけるリスクマネージメント
第6回　助産業務管理と地域母子保健
第7回　院内助産システム
第8回　助産サービスの質管理－病院･診療所
第9回　助産サービスの質管理－助産所
第10回 助産の歴史と助産師教育
第11回 女性と子ども、家族の健康と人権
第12回 日本の母子保健の動向
第13回 世界の母子保健の動向
第14回 わが国の母子保健制度と関連法
第15回 保健師助産師看護師法とその他の助産師関連法
第16回 テスト

履修上の注意点

教科書

助産師基礎教育テキスト1　助産概論
著者:　山本あい子
出版社: 日本看護協会出版会
出版年: 2019　　ISBN:

助産師基礎教育テキスト2　女性の健康とケア
著者:　吉沢豊予子
出版社: 日本看護協会出版会
出版年: 2019　　ISBN:

助産師基礎教育テキスト3　周産期における医療の質と安全
著者:　成田伸
出版社: 日本看護協会出版会
出版年: 2019　　ISBN:

新版助産師業務要覧第3版 I
著者:　福井トシ子
出版社: 日本看護協会出版会
出版年: 2018　　ISBN:

a70103d210

新版助産師業務要覧第3版Ⅱ
著者: 福井ﾄｼ子
出版社: 日本看護協会出版会
出版年: 2018 ISBN:

参考書

国民衛生の動向
著者:
出版社:
出版年: 2019 ISBN:

新版助産師業務要覧第3版Ⅲ
著者: 福井ﾄｼ子
出版社: 日本看護協会出版会
出版年: 2018 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 80 ）
小テスト（ ）
授業中課題（ ）
授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）
全回出席を原則とする

2018 Syllabus

科 目 名　**ヘルスケアシステムⅢ**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河原　宣子.黒瀧　安紀子.常田　裕子	

テーマ

授業の到達目標

1.公衆衛生看護活動の基本となる、個人・家族・集団・組織・地域を対象とした活動の方法論と、具体的な支援技術について理解する。
2.地区踏査や地域診断を通して地域に顕在・潜在する健康課題を導き出すと同時に、その課題に対し住民とのパートナーシップのもと、効果的な介入の展開方法について理解を深める。
3.地方行政における人的管理・人材確保など公衆衛生看護管理について説明できる。
4.地域におけるヘルスケアシステムづくりの方法と実際について、理解できる。

授業の概要

ヘルスケアシステムⅠ・ヘルスケアシステムⅡを踏まえ、地域における個人・家族・集団・組織・地域を対象とした公衆衛生看護活動の理論と実践についての理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　健康管理体制と支援技術①（各種健診）
第2回　健康管理体制と支援技術②（保健指導：個別保健指導）
第3回　健康管理体制と支援技術③（保健指導：個別・集団保健指導）
第4回　健康管理体制と支援技術④（健康相談）
第5回　健康管理体制と支援技術⑤（家庭訪問：乳幼児）
第6回　健康管理体制と支援技術⑥（家庭訪問：乳幼児）
第7回　健康管理体制と支援技術⑦（家庭訪問：結核）
第8回　健康管理体制と支援技術⑧（家庭訪問：結核）
第9回　地区踏査①
第10回　地区踏査②
第11回　地区踏査③
第12回　地区踏査④
第13回　地区踏査⑤
第14回　地区踏査の発表とまとめ
第15回　地域におけるグループ活動
第16回　地区組織活動とヘルスケアシステム
第17回　地域診断①（地域別・対象別の情報収集）
第18回　地域診断②（地域別・対象別の情報収集）
第19回　地域診断③（地域別・対象別の情報収集）
第20回　地域診断④（地域別・対象別の情報収集）
第21回　地域診断⑤（地域別・対象別のアセスメント）
第22回　地域診断⑥（地域別・対象別のアセスメント）
第23回　地域診断⑦（対象別健康課題の抽出：母子・成人・感染症）
第24回　地域診断⑧（対象別健康課題の抽出：母子・成人・感染症）
第25回　地域診断⑨（健康課題に基づく保健事業計画の立案）
第26回　地域診断⑩（健康課題に基づく保健事業計画の立案）
第27回　地域診断の発表とふりかえり
第28回　公衆衛生看護管理①（理論と方法）
第29回　公衆衛生看護管理②（組織・人材・社会資源・情報・予算）
第30回　まとめ

履修上の注意点

教科書

最新公衆衛生看護学　第2版　総論
著者：　宮崎美砂子他
出版社：日本看護協会出版会
出版年：2018年最新版　　ISBN：

a70103d410

最新公衆衛生看護学　第2版　各論1
著者:　宮崎美砂子他
出版社: 日本看護協会出版会
出版年: 2018年最新版　　ISBN:
最新公衆衛生看護学　第2版　各論2
著者:　宮崎美砂子他
出版社: 日本看護協会出版会
出版年: 2018年最新版　　ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート（ 30% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30% ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 40% ）
参加度(出席前提):40%, 課題:30%, レポート:30%

2018 Syllabus

科 目 名　**助産診断学**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　春期集中	定　員　10
履修条件	クラス指定
担 当 者　常田　裕子.上澤　悦子.工藤　里香	

テーマ

周産期看護を根拠に基づいて計画的に実践するための基礎的な助産診断力を養う

授業の到達目標

1．女性のライフサイクルにおけるウェルネスにもとづいた看護を考えることができる
2．ライフサイクルにおける周産期の特徴を理解する
3．周産期の健康の保持増進および異常の予防のために必要な知識を獲得する
4．周産期の母児と家族の健康状態や健康課題・発達課題について、身体的・心理的・社会的側面から理解し、診断ができる
5．個人の特性および地域の特性に応じたニーズを診断し、支援を考えることができる

授業の概要

リプロダクティブヘルス／リプロダクティブライツの概念を理解し、女性の健康について学ぶ
周産期における母児とその家族の健康の保持増進と異常の予防・早期発見を目指して、ウェルネスの視点から助産診断を学ぶ

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

既修得の看護理論について説明できるようにしておくこと
既修得の周産期看護に関連する知識の復習を行ってから授業に臨むこと
授業の感想意見をふまえて授業時にフィードバックしたり各種発表には適宜フィードバックする

内　容

第1回　オリエンテーション
　　女性のライフサイクルとウェルネスにもとづいた看護（1）
第2回　女性のライフサイクルとウェルネスにもとづいた看護（2）
第3回　妊娠期の生理、診断
第4回　妊婦経過（1）
第5回　妊婦経過（2）
第6回　ハイリスク妊娠
第7回　妊娠経過に対応した看護（1）
第8回　妊娠経過に対応した看護（2）
第9回　妊娠経過に対応した看護（3）
第10回　妊娠経過に対応した看護（4）
第11回　分娩経過（1）
第12回　分娩経過（2）
第13回　分娩経過（3）
第14回　分娩期の助産診断と看護（1）
第15回　分娩期の助産診断と看護（2）（胎児心拍モニタリングを含む）
第16回　出生直後の新生児のアセスメントと看護
第17回　分娩期の異常のアセスメントと看護（1）
第18回　分娩期の異常のアセスメントと看護（2）
第19回　バースレビュー（産褥期の心理変化を含む）
第20回　産褥期の身体的変化とフィジカルアセスメント
第21回　進行性変化と母乳育児支援
第22回　産褥期の異常のアセスメントと看護
第23回　新生児の健康診査と子宮外適応のアセスメントと看護
第24回　新生児の異常のアセスメントと看護
第25回　産褥・新生児期の家族のアセスメントと看護
第26回　帝王切開術
　　－分娩期・産褥期・新生児期のアセスメントと看護
第27回　不妊治療を受けている人
　　子どもを失った人と家族への看護
第28回　一か月健診のアセスメントと看護
第29回　まとめ（授業中課題の発表）
第30回　まとめ

履修上の注意点

事前に指示された課題は必ず行ってから授業に臨むこと
グループワークでは、メンバー全員で協力して課題に取り組むこと

教科書

a70103d550

未定

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

参考書

助産師基礎教育テキスト4～7巻2019年版

著者:

出版社: 日本看護協会出版会

出版年: 2019 ISBN:

最新産科学 正常編 改訂第22版

著者: 荒木 勤

出版社: 文光堂

出版年: 2008 ISBN:

最新産科学 異常編 改訂第22版

著者: 荒木 勤

出版社: 文光堂

出版年: 2012 ISBN:

今日の助産-マタニティサイクルの助産診断・実践過程 第3版

著者: 北川 眞理子 他

出版社: 南江堂

出版年: 2013 ISBN:

新訂第3版 マタニティアセスメントガイド

著者: 吉沢 豊予子 他

出版社: 真興交易医書出版部

出版年: 2016 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）
小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）
授業中発表等（ 20 ）
参加度（ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**生徒指導論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　秋期集中	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　井ノ口　貴史	

テーマ

生徒の自己実現を保障する生徒指導のあり方を考える

授業の到達目標

生徒指導の意義と必要性、生徒指導の領域と内容、生徒指導の組織と年間計画など概念上の理解を深めた上で、生徒指導の今日的課題に気づき学校現場での具体的な生徒指導事例を分析できる。

授業の概要

生徒指導上、学校現場で養護教諭に期待される役割、学級担任のクラス経営の事例、個別の課題を抱える生徒への指導のあり方について学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新聞やテレビで報道される教育問題について関心を持って切り抜きなどを行う。また、講義テーマについての関連図書を読み込むこと。

内　容

第1回　課題集中校における教師の1日：そこで行われている生徒指導の項目、生徒指導の原理、懲戒の種類、懲戒中の教師の指導を知る。
第2回　校内体制における生徒指導、教育相談の基礎的な考え方及び相互補完的関係を知る。
第3回　課題集中校における3年間の生徒の変容：学校目標に「わかって楽しい授業づくり」と「自治的なクラスづくり」を位置づけることが自立する生徒を育てることを知る。
第4回　生徒指導の方法―カウンセリングとゼロ・トレランス方式を考える。
第5回　養護教諭の一日　－　養護教諭が生徒指導に果たす役割を考えてみよう
第6回　グループ討議：養護教諭は生徒指導場面でどのような役割を果たせるだろか？
第7回　『生徒指導提要』を読み、「いじめ」事象における生徒指導のあり方を学ぶ。
第8回　事例研究：「いじめ」事象が疑われる不登校生徒に対する担任教師の指導のあり方を検討する。
第9回　4月発行の「保健室便り」の内容を考える：基本的な生活習慣と健康・安全
第10回　清掃指導に取り組んだ中学校養護教諭の実践：生徒との信頼関係を築くことで生徒の自己指導力を育てる。
第11回　専門機関「ダルク」と連携して薬物異存の生徒の更正に取り組んだ実践に学ぶ。
第12回　事例研究：「カンニング」疑惑を指導した教師の対応を生徒指導の観点から検討する。
第13回　「部活動における体罰事件」「頭髪指導に対する訴訟」を取り上げ、生徒指導をめぐる法的問題を考える。
第14回　学校におけるジェンダーの問題を考える：LGBTの生徒に対する指導
第15回　子どもの学校参加の取り組みに学ぶ：問題行動（校則違反、いじめや暴力行為）を克服するための試み

履修上の注意点

教科書

生徒指導提要
著者：　文部科学省
出版社：教育図書
出版年：平成25年　　ISBN：

参考書

授業内で紹介する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（60）	授業中発表等（10）
参加度（30）	

a701040250

2018 Syllabus

科 目 名　**看護学原論Ⅱ <Z>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　梶谷 佳子	

テーマ

これまでの学び、自らの経験を総括して、看護を通しての自立・共生・臨床智を活かした創造活動としての看護(学)について内省し探求する機会とする。改めて、実践科学の担い手として、社会の中での仕事の意味を考えることで、自らを発展させる能力と自己研鑽の必要性を確認し、職業人としての使命を自覚し涵養する。

授業の到達目標

1.保健医療福祉における看護の機能と看護活動のあり方について説明できる。
2.社会政策やの変革の方向を理解し、看護を発展させていくことの重要性を説明できる。
3.専門職としてのキャリア発達の過程や生涯学習の意義について説明できる。
4.専門職としての自己学習、自己教育力の意義を説明できる。
5.看護職の発展の方向性について自分なりの意見を説明できる。

授業の概要

卒業を控え、4年間の学習の振り返り、看護の専門性と機能・役割を再考する。看護専門職としての社会における役割を認識し、社会に出た後も自ら発展できる能力を養う素地を培う。そのために、看護を取り巻く社会や政策、自己の研鑽の必要性を確認し、また、看護の対象である人々の声に耳を傾け、看護職者に求められる使命を追究する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

・事前テーマが与えられます。それに基づいてレポートを作成し、授業に持参します。それを資料にしながらグループワークをし、考えを深めます。

内　容

第1回　看護における法的側面1
第2回　看護における法的側面2
第3回　社会政策と看護政策
第4回　専門職としての看護組織(京都府看護協会ゲストスピーカー)
第5回　薬害被害について(ゲストスピーカー)
第6回　患者の立場から考える医療(ゲストスピーカー)
第7回　21世紀に求められる看護
第8回　まとめ
　　なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

みなさんには、初めての授業を担当します、基礎看護学領域の、小板橋です。
　4回生になり学習内容も深まるとともに、大きな疑問も出てきていることでしょうか。看護学原論Ⅱでは、1回生に入ったころからの学びの総決算として、もう一度、看護の原点を問い直すという作業に取り組んでみたいと思います。
　授業概要と、授業の展開方法についてご案内します。有意義なグループワークを進めるために、事斬学習課題を持ち寄ってください。
＜展開の仕方＞
・4回(各2コマ)に分けて授業展開します。
・毎回のテーマについて、個人個人が事前学習とそのレポートを作成します。
・事前学習課題のレポートを作成するときには、個人のサブテーマ(焦点となる課題)を決めて、なぜその課題を取り上げたのか、どのような疑問があるのか、提案したいことは何か、参考文献(インターネット情報も含む)、など具体的に述べてください。毎回のテーマと検討の視点を参考にしてください。しかし、独自の検討の視点を挙げてもらうことを大いに推奨します。
・グループへの話題提供を行うとともに、ディスカッションの焦点課題を明示します。当日のグループワークにより、持ち寄ったレポートを検討し、課題を深め、グループとしての成果をまとめ、発表します。
・実習体験からの疑問やマスコミあるいは社会の変化、社会のニーズ、広く看護を取り巻く状況についての情報を受けて、検討してみたいと思うことを、積極的に取り上げてみましょう。
・グループ編成は、キャリアⅥのグループで行います。

教科書

適宜提示する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

適宜提示する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

a701040250

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
グループディスカッション、事前学習等を鑑みて総合的に評価する。

a701043110

2018 Syllabus

科 目 名　**看護管理学Ⅱ〈Z〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　餅田　敬司.川添　高志	

テーマ

医療の場における看護マネジメントの実際

授業の到達目標

1. 医療の場における看護マネジメントの実際を学ぶ.
2.看護マネジメントにかかわる諸理論，技法，政策を理解する.
3.リーダーとマネージャーの役割を理解する.
4.経営参画者として，組織・チームの一員としての看護職者の役割を理解する.

授業の概要

本講は，看護管理学Ⅰでの学びを踏まえ，医療チームの一員として，身近な看護マネジメントのテーマを設定し，それにかかわる諸理論，技法，政策等を理解する. これらにより，医療の場における看護マネジメントの実際を多様な側面から学び，看護サービスのあり方や医療経営への参画者として，また組織・チームの一員としての看護職者の役割について学習する.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・看護管理学Ⅰでの学習内容(看護におけるマネジメント，看護をとりまく諸制度)について復習し，本講に臨む. ・グループごとのテーマに沿って，各メンバーが必要な事前学習を行う. 新聞やHPなどあらゆる情報から自らの課題について日頃から入手しておく. 政策や政治・経済などにも目を向けておく ・提出された課題にはコメントを入れて返却する

内　　容

第1回　オリエンテーション(学習目標，授業の進め方) テーマの設定とグループ編成
第2回　グループごとにテーマに基づく文献検索，グループ学習①
　　実習経験を通して、管理に関する問題や疑問を出し合い取り組む課題を明確にする
第3回　グループごとにテーマに基づく文献検索，グループ学習②
第4回　グループごとにテーマに基づく文献検索，グループ学習③
第5回　グループごとにテーマに基づく文献検索，グループ学習④
第6回　グループごとにテーマに基づく文献検索，グループ学習⑤
第7回　グループごとにプレゼンテーション準備①
第8回　グループごとにプレゼンテーション準備②
第9回　学習成果のプレゼンテーション，討議①
第10回　学習成果のプレゼンテーション，討議②
第11回　学習成果のプレゼンテーション，討議③
第12回　学習成果のプレゼンテーション，討議④
第13回　学習成果のプレゼンテーション，討議⑤
第14回　これからの看護マネジメント
第15回　まとめ

履修上の注意点

・学びたいテーマを自ら提案する姿勢を持つ. ・医療，看護マネジメントに関する動向について，先行研究，文献のほか，ホームページ，新聞等のメディアを活用しキャッチする.

教科書

特に指定しない.

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30% ）　　授業中発表等（ 20% ）
参加度（ 30% ）
グループ学習における課題への取り組み，参加の度合，発表，レポートにより総合的に評価する.

2018 Syllabus

科 目 名　**看護学原論Ⅱ**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　梶谷　佳子	

テーマ

これまでの学び、自らの経験を総括して、看護を通しての自立・共生・臨床智を活かした創造活動としての看護(学)について内省し探求する機会とする。改めて、実践科学の担い手として、社会の中での仕事の意味を考えることで、自らを発展させる能力と自己研鑽の必要性を確認し、職業人としての使命を自覚し涵養する。

授業の到達目標

1.保健医療福祉における看護の機能と看護活動のあり方について説明できる。
2.社会政策やの変革の方向を理解し、看護を発展させていくことの重要性を説明できる。
3.専門職としてのキャリア発達の過程や生涯学習の意義について説明できる。
4.専門職としての自己学習、自己教育力の意義を説明できる。
5.看護職の発展の方向性について自分なりの意見を説明できる。

授業の概要

卒業を控え、4年間の学習の振り返り、看護の専門性と機能・役割を再考する。看護専門職としての社会における役割を認識し、社会に出た後も自ら発展できる能力を養う素地を培う。そのために、看護を取り巻く社会や政策、自己の研鑽の必要性を確認し、また、看護の対象である人々の声に耳を傾け、看護職者に求められる使命を追究する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

・事前テーマが与えられます。それに基づいてレポートを作成し、授業に持参します。それを資料にしながらグループワークをし、考えを深めます。

内　容

第1回　看護における法的側面1
第2回　看護における法的側面2
第3回　社会政策と看護政策
第4回　専門職としての看護組織(京都府看護協会ゲストスピーカー)
第5回　薬害被害について(ゲストスピーカー)
第6回　患者の立場から考える医療(ゲストスピーカー)
第7回　21世紀に求められる看護
第8回　まとめ
　　なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

みなさんには、初めての授業を担当します、基礎看護学領域の、小板橋です。
　4回生になり学習内容も深まるとともに、大きな疑問も出てきていることでしょうか。看護学原論Ⅱでは、1回生に入ったころからの学びの総決算として、もう一度、看護の原点を問い直すという作業に取り組んでみたいと思います。
　授業概要と、授業の展開方法についてご案内します。有意義なグループワークを進めるために、事斬学習課題を持ち寄ってください。
＜展開の仕方＞
・4回(各2コマ)に分けて授業展開します。
・毎回のテーマについて、個人個人が事前学習とそのレポートを作成します。
・事前学習課題のレポートを作成するときには、個人のサブテーマ(焦点となる課題)を決めて、なぜその課題を取り上げたのか、どのような疑問があるのか、提案したいことは何か、参考文献(インターネット情報も含む)、など具体的に述べてください。毎回のテーマと検討の視点を参考にしてください。しかし、独自の検討の視点を挙げてもらうことを大いに推奨します。
・グループへの話題提供を行うとともに、ディスカッションの焦点課題を明示します。当日のグループワークにより、持ち寄ったレポートを検討し、課題を深め、グループとしての成果をまとめ、発表します。
・実習体験からの疑問やマスコミあるいは社会の変化、社会のニーズ、広く看護を取り巻く状況についての情報を受けて、検討してみたいと思うことを、積極的に取り上げてみましょう。
・グループ編成は、キャリアⅥのグループで行います。

教科書

適宜提示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜提示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

a70104a150

成績評価

試験・レポート（ 60 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ ）	

グループディスカッション、事前学習等を鑑みて総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <b>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中橋　苗代	

テーマ

保健医療福祉チームの一員として，様々な健康課題をもつ人々に対して，根拠に基づくヒューマンケアを実践し，看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う.

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

実習内容は，担当教員の指示に従う

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

それぞれの実習要項を参照する

2018 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <c>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　岡田　純子	

テーマ

保健医療福祉チームの一員として，様々な健康課題をもつ人々に対して，根拠に基づくヒューマンケアを実践し，看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う.

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

実習内容は，担当教員の指示に従う

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

それぞれの実習要項を参照する

2018 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <d>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　奥野　信行	

テーマ

保健医療福祉チームの一員として，様々な健康課題をもつ人々に対して，根拠に基づくヒューマンケアを実践し，看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う.

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

実習内容は，担当教員の指示に従う

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

それぞれの実習要項を参照する

2018 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 〈e〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野島　敬祐	

テーマ

保健医療福祉チームの一員として，様々な健康課題をもつ人々に対して，根拠に基づくヒューマンケアを実践し，看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う.

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

実習内容は，担当教員の指示に従う

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

それぞれの実習要項を参照する

2018 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <f>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　マルティネス　真喜子	

テーマ

保健医療福祉チームの一員として，様々な健康課題をもつ人々に対して，根拠に基づくヒューマンケアを実践し，看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う.

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

実習内容は，担当教員の指示に従う

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

それぞれの実習要項を参照する

2018 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 〈g〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀　妙子	

テーマ

保健医療福祉チームの一員として，様々な健康課題をもつ人々に対して，根拠に基づくヒューマンケアを実践し，看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う.

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

実習内容は，担当教員の指示に従う

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

それぞれの実習要項を参照する

2018 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <h>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　深山　つかさ	

テーマ

保健医療福祉チームの一員として，様々な健康課題をもつ人々に対して，根拠に基づくヒューマンケアを実践し，看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う.

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

実習内容は，担当教員の指示に従う

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

それぞれの実習要項を参照する

2018 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <i>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松本　賢哉	

テーマ

保健医療福祉チームの一員として，様々な健康課題をもつ人々に対して，根拠に基づくヒューマンケアを実践し，看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う.

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

実習内容は，担当教員の指示に従う

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

それぞれの実習要項を参照する

2018 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 〈j〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小西　奈美	

テーマ

保健医療福祉チームの一員として，様々な健康課題をもつ人々に対して，根拠に基づくヒューマンケアを実践し，看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う.

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

実習内容は，担当教員の指示に従う

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

それぞれの実習要項を参照する

2018 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 〈k〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　餅田　敬司	

テーマ

保健医療福祉チームの一員として，様々な健康課題をもつ人々に対して，根拠に基づくヒューマンケアを実践し，看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う.

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

実習内容は，担当教員の指示に従う

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

それぞれの実習要項を参照する

2018 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <I>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河原　宣子.竹下　夏美	

テーマ

保健医療福祉チームの一員として，様々な健康課題をもつ人々に対して，根拠に基づくヒューマンケアを実践し，看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う.

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

実習内容は，担当教員の指示に従う

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

それぞれの実習要項を参照する

2018 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <m>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　黒瀧　安紀子	

テーマ

保健医療福祉チームの一員として，様々な健康課題をもつ人々に対して，根拠に基づくヒューマンケアを実践し，看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う.

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

実習内容は，担当教員の指示に従う

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

それぞれの実習要項を参照する

2018 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <n>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　上澤　悦子	

テーマ

保健医療福祉チームの一員として，様々な健康課題をもつ人々に対して，根拠に基づくヒューマンケアを実践し，看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う.

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

実習内容は，担当教員の指示に従う

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

それぞれの実習要項を参照する

2018 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <o>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　工藤　里香	

テーマ

保健医療福祉チームの一員として，様々な健康課題をもつ人々に対して，根拠に基づくヒューマンケアを実践し，看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う.

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

実習内容は，担当教員の指示に従う

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

それぞれの実習要項を参照する

2018 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <p>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　神﨑　光子	

テーマ

保健医療福祉チームの一員として，様々な健康課題をもつ人々に対して，根拠に基づくヒューマンケアを実践し，看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う.

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

実習内容は，担当教員の指示に従う

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

それぞれの実習要項を参照する

2018 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <q>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　常田　裕子	

テーマ

保健医療福祉チームの一員として，様々な健康課題をもつ人々に対して，根拠に基づくヒューマンケアを実践し，看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う.

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

実習内容は，担当教員の指示に従う

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

それぞれの実習要項を参照する

2018 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　梶谷　佳子	

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。
2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。
3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。
4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。
5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。
6.論文を作成することができる。
7.研究を発表することができる。
8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内　　容

第1回　講義：看護研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2018 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中橋　苗代	

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。
2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。
3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。
4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。
5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。
6.論文を作成することができる。
7.研究を発表することができる。
8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内　容

第1回　講義：看護研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2018 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　岡田　純子	

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。
2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。
3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。
4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。
5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。
6.論文を作成することができる。
7.研究を発表することができる。
8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内　容

第1回　講義：看護研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2018 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ〈＊d〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　奥野　信行	

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。
2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。
3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。
4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。
5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。
6.論文を作成することができる。
7.研究を発表することができる。
8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内　容

第1回　講義：看護研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2018 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ〈＊e〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野島　敬祐	

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。
2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。
3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。
4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。
5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。
6.論文を作成することができる。
7.研究を発表することができる。
8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内　容

第1回　講義：看護研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2018 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ〈＊f〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　マルティネス　真喜子	

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。
2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。
3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。
4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。
5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。
6.論文を作成することができる。
7.研究を発表することができる。
8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内　容

第1回　講義：看護研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2018 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ〈＊g〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀　妙子	

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。
2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。
3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。
4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。
5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。
6.論文を作成することができる。
7.研究を発表することができる。
8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内　容

第1回　講義：看護研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2018 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ〈＊h〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　深山　つかさ	

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。
2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。
3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。
4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。
5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。
6.論文を作成することができる。
7.研究を発表することができる。
8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内　容

第1回　講義：看護研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2018 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ〈＊i〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松本　賢哉	

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。
2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。
3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。
4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。
5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。
6.論文を作成することができる。
7.研究を発表することができる。
8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内　容

第1回　講義：看護研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2018 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ〈＊j〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小西　奈美	

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。
2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。
3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。
4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。
5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。
6.論文を作成することができる。
7.研究を発表することができる。
8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内　容

第1回　講義：看護研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2018 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ〈＊k〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　餅田　敬司	

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。
2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。
3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。
4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。
5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。
6.論文を作成することができる。
7.研究を発表することができる。
8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内　容

第1回　講義：看護研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2018 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ〈＊Ⅰ〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河原　宣子.竹下　夏美	

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。
2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。
3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。
4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。
5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。
6.論文を作成することができる。
7.研究を発表することができる。
8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内　容

第1回　講義：看護研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2018 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ〈＊m〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　黒瀧　安紀子	

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。
2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。
3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。
4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。
5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。
6.論文を作成することができる。
7.研究を発表することができる。
8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内　容

第1回　講義：看護研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2018 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ〈＊n〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　上澤　悦子	

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。
2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。
3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。
4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。
5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。
6.論文を作成することができる。
7.研究を発表することができる。
8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内　　容

第1回　講義：看護研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2018 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ〈＊o〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　工藤　里香	

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。
2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。
3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。
4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。
5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。
6.論文を作成することができる。
7.研究を発表することができる。
8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内　容

第1回　講義：看護研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2018 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ〈＊p〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　神﨑　光子	

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。
2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。
3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。
4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。
5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。
6.論文を作成することができる。
7.研究を発表することができる。
8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内　容

第1回　講義：看護研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2018 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ〈＊q〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　常田　裕子	

テーマ

自分自身が関心を持ったテーマについて看護研究の方法を学ぶ。

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。
2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。
3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。
4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。
5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。
6.論文を作成することができる。
7.研究を発表することができる。
8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

関心を持ったテーマを事前に提出する。そのテーマを基に担当教員を決定する。以後は、担当教員と連絡をとりながら進める。

内　容

第1回　講義：看護研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）<a>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　梶谷　佳子	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。
2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。
3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。
4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ
　　なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。
（現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。）

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（　）	
参加度　2/3以上	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）<b>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中橋　苗代	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。
2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。
3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。
4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ
　　なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。
（現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。）

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（　）	
参加度　2/3以上	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）<c>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　岡田　純子	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。
2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。
3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。
4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ
　　なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。
（現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。）

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（　）	
参加度　2/3以上	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）<d>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　奥野　信行	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。
2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。
3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。
4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ
　　なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。
（現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。）

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（　）	
参加度　2/3以上	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）〈e〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野島　敬祐	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。
2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。
3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。
4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ
　　なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。
（現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。）

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（　）	
参加度　2/3以上	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）〈f〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　マルティネス　真喜子	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。
2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。
3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。
4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ
　　なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。
（現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。）

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（　）	
参加度　2/3以上	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）〈g〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀　妙子	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。
2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。
3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。
4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ
　　なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。
（現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。）

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（　）	
参加度　2/3以上	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）<h>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　深山　つかさ	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。
2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。
3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。
4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ
　　なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。
（現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。）

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（　）	
参加度　2/3以上	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）〈i〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松本　賢哉	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。
2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。
3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。
4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ
　　なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。
（現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。）

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（　）	
参加度　2/3以上	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）〈j〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小西　奈美	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。
2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。
3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。
4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ
　　なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。
（現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。）

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（　）	
参加度　2/3以上	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）<k>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　餅田　敬司	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。
2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。
3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。
4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ
　　なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。
（現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。）

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（　）	
参加度　2/3以上	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）〈I〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河原　宣子	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。
2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。
3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。
4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ
　　なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。
（現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。）

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（　）	
参加度　2/3以上	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）<m>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　黒瀧　安紀子	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。
2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。
3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。
4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ
　　なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。
（現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。）

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（　）	
参加度　2/3以上	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）<n>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　上澤　悦子	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。
2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。
3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。
4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ
　　なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。
（現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。）

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（　）	
参加度　2/3以上	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）<o>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　工藤　里香	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。
2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。
3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。
4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ
　　なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。
（現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。）

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（　）	
参加度　2/3以上	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）<p>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　神﨑　光子	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。
2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。
3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。
4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ
　　なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。
（現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。）

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（　）	
参加度　2/3以上	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）〈q〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　常田　裕子	

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。
2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。
3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。
4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループで積極的に進めてください。自分たちで実施したい内容等を申し出てください。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ
　　なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。
（現行の国試対策をさらに強化し、教員が週1回の学習会を支援するなど。実施評価は模試結果を活用しながら、学習計画の指導などを行う。）

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ ）	
参加度　2/3以上	

2018 Syllabus

科 目 名　**看護教育学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　梶谷　佳子	

テーマ

1.看護継続教育 2.看護職のキャリア発達・開発

授業の到達目標

1.看護基礎教育・看護継続教育について理解する. 2.看護職のキャリア発達・開発と教育機会について理解する.

授業の概要

・テーマに記載している内容から各自でテーマを絞ります。類似テーマをもつ学生でグルーピングし、内容を深めて、全体で発表を行います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・各自で興味関心をもつ領域に関して学びを深めます。
・これまでの学びを振り返って、深めたい内容を焦点化しておいてください。

内　容

第1回　オリエンテーション，授業の進め方
第2回　看護教育についての外観
第3回　看護基礎教育
第4回　キャリア発達・開発
第5回　看護継続教育①－制度化された教育
第6回　看護継続教育②－現任教育
第7回　キャリア発達・開発につながる教育機会 グループによる課題学習①大学院，海外留学，現任教育，資格取得（専門看護師，認定看護師，認定看護管理者等），起業等
第8回　グループによる課題学習②
第9回　グループによる課題学習③
第10回 グループによる課題学習④
第11回 学習内容の共有－発表①
第12回 学習内容の共有－発表②
第13回 学習内容の共有－発表③
第14回 看護教育の視点からのキャリア発達・開発
第15回 まとめ

履修上の注意点

グループによる課題学習は，図書館，インターネット等の情報を活用する.

教科書

参考書

看護師のキャリア論
著者:　勝原裕美子
出版社: ライフサポート社
出版年: 2007　　ISBN:

キャリア・ダイナミクス
著者:　Schein, Edbar H.（二村敏子，三善勝代訳）
出版社: 白桃書房
出版年: 1991　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 20% ）
参加度 （ 20% ）
個人ワーク・グループワークをトータルで評価します。

2018 Syllabus

科 目 名　**助産技術学**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期集中	定　　員　10
履修条件	クラス指定
担 当 者　　工藤　里香.上澤　悦子.神﨑　光子.常田　裕子	

テーマ

周産期看護を根拠に基づいて計画的に実践するための基礎的な助産技術を養う

授業の到達目標

1. 周産期にある母児とその家族の健康の保持増進および異常の予防・早期発見のため、妊娠・分娩・産褥経過に沿ったアセスメントを行い、看護を実践することができる
2. 家族形成期にある母児とその家族の発達課題についてアセスメントを行い、看護を実践できる
3. 正常分娩の介助を実践できる基礎的な技術を身につける
4. 異常分娩について理解できる
5. 社会資源を活用する準備ができる

授業の概要

周産期にある母児とその家族の健康の保持増進および異常の予防・早期発見のために、妊娠・分娩・産褥経過に沿った看護を展開するための知識と技術を身につける
授業は、提示する事例への看護展開を中心に進めていく

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

既修得の看護技術、特に母児のバイタルサインの測定、清拭、浣腸、導尿、ガウンテクニック、滅菌操作、手洗い、手袋の装着、レオポルド触診法、乳房観察は、授業開始前に復習しておくこと
授業で学習した技術は、自己演習を十分に行い、手技の習得に努めること
わからないこと、不確実なことは、教員に声をかけ積極的にアドバイスを求めること
提出物に関しては、授業中もしくは返却時にコメントをする

内　容

第1回　オリエンテーション
　　基礎看護技術の復習
第2回　基礎看護技術の復習
第3回　分娩介助法（1）
第4回　分娩介助法（2）
第5回　分娩介助法（3）
第6回　分娩介助法（4）
第7回　分娩介助法（5）
第8回　分娩介助法（6）
第9回　分娩介助法（7）
第10回　分娩介助法（8）
第11回　分娩介助法（9）
第12回　分娩介助法（10）
第13回　分娩介助法（11）
第14回　分娩介助法（12）
第15回　分娩経過の診断と技術（1）
第16回　分娩経過の診断と技術（2）
第17回　分娩経過の診断と技術（3）
第18回　分娩経過の診断と技術（4）
第19回　分娩経過の診断と技術（5）
第20回　分娩経過の診断と技術（6）
第21回　模擬患者演習（1）
第22回　模擬患者演習（2）
第23回　妊娠期～産褥期の継続的な看護（1）
第24回　妊娠期～産褥期の継続的な看護（2）
第25回　妊娠期～産褥期の継続的な看護（3）
第26回　妊娠期～産褥期の継続的な看護（4）
第27回　新生児蘇生法（1）
第28回　新生児蘇生法（2）
第29回　新生児蘇生法（3）
第30回　胎児心拍モニタリング判読法
　　なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

演習およびグループワークが中心となります。リーダーシップおよびメンバーシップの発揮を求めます
実習室での授業は、実習着・靴の着用をお願いします
授業や自己演習で用いるモデルや物品の管理方法は授業で提示します。各自責任をもって管理してください

教科書

助産師基礎教育テキスト2017年版第6
著者: 横尾京子
出版社: 日本看護協会出版会
出版年: 2018 ISBN:

助産師基礎教育テキスト2017年版第7
著者: 遠藤俊子
出版社: 日本看護協会出版会
出版年: 2018 ISBN:

新生児蘇生法テキスト第3版
著者: 細野茂春
出版社: メジカルビュー社
出版年: 2016 ISBN:

新生児の観察と看護技術第2版
著者: 櫛引美代子
出版社: 医歯薬出版株式会社
出版年: 2017 ISBN:

助産師基礎教育テキスト2018年度版第4巻
著者: 森恵美
出版社: 日本看護協会出版会
出版年: 2018 ISBN:

助産師基礎教育テキスト2018年版第5
著者: 町浦美智子
出版社: 日本看護協会出版会
出版年: 2018 ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (70) 小テスト ( )
授業中課題 (10) 授業中発表等 (10)
参加度 (10)

試験は、筆記試験および技術試験(分娩介助に関する実技およびアセスメント)を行います。本試験に合格(60点以上取得する)することが、助産学実習に参加する必須条件となります。
試験の詳細は、授業中に説明します。

2018 Syllabus

科 目 名　**助産学実習**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　員　10
履修条件	クラス指定
担 当 者　工藤　里香.上澤　悦子	

テーマ

母子看護活動における助産師の役割ならびに社会的責任を理解し、周産期にある母児ならびにその家族の尊厳と権利を擁護しながら、健康レベルかつニードに応じた看護を実践できる能力を養う

授業の到達目標

1　周産期にある母児とその家族について妊娠・分娩・産褥経過に沿ってアセスメントし、健康の増進、疾病予防に必要な看護を実践できる
1)妊婦と胎児の妊娠経過をアセスメントし、看護が実践できる
2)産婦と胎児の分娩経過をアセスメントし、看護が実践できる
3)褥婦の産褥経過をアセスメントし、看護が実践できる
4)新生児の子宮外生活の適応をアセスメントし、看護が実践できる
5)母児とその家族の退院後の生活をアセスメントし、育児支援が実践できる
6)一か月健診における母児とその家族をアセスメントし、看護が実践できる
2　母子看護活動における医療・社会資源、チーム医療のあり方について理解し、保健医療福祉サービスの継続性(連携)について考えることができる
3　産科救急の特徴と救急処置ならびに産科手術の特徴と介助方法を理解できる
4　看護理論を踏まえた看護実践ができる
5　助産師としての倫理観、看護観を述べることができる

授業の概要

周産期看護を理論と根拠に基づいて計画的に実践し、妊娠期・分娩期・産褥期の看護過程の展開を行う

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

実践看護学Ⅲ-5、助産診断学、助産技術学、看護管理学ⅡB等で指定したテキストや参考書の他、周産期関連の書籍を用いて知識をまとめた上で実習に臨むこと
分娩介助実施後は、できる限り早く実習指導者もしくは教員と共に分娩介助評価を行うこと。
実習記録は記載後、できる限り早く教員もしくは実習指導者に提出のこと。その際、教員もしくは実習指導者はコメントを記入して返却を行う。

内　容

第1回　【実習予定期間】
6月1日～7月31日(分娩介助が10例に達しない場合は、実習期間を延長する)
【実習内容】
1　10例の分娩介助
2　間接介助、新生児介助
3　産褥期の看護過程の展開
4　1例の妊娠期から1か月健診までの継続事例の受け持ち
5　カンファレンス
1)実習病院において、適宜カンファレンスを実施する
2)学内カンファレンスは、実習期間中に2回実施する(実習状況により開催日程や回数を変更することがある)
6　レポート:実習総括として、レポートを作成する

履修上の注意点

1　教員が必要と認めた場合は補習講義を行うことがある
2　再実習は行わない

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

助産師基礎教育テキスト1～7
著者:　遠藤俊子　他
出版社:　日本看護協会出版
出版年:　2018　　ISBN:

a70104d410

新訂第4版　マタニティアセスメントガイド

著者:　吉沢豊予子　他

出版社: 真興交易(株)医書出版部

出版年: 2016　　ISBN:

改訂2版 胎児心拍数モニタリング講座　大事なサインを見逃さない！

著者:　藤森敬也

出版社: メディカ出版

出版年: 2011　　ISBN:

今日の助産−マタニティサイクルの助産診断・実践過程　改訂第3版

著者:　北川眞理子　他

出版社: 南江堂

出版年: 2013　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度（ ）

実習評価票に基づく評価（60%）
記録（20%）
レポート（10%）
カンファレンス（10%）
実習の到達度、実習態度などを総合的に評価する。
具体的な評価内容は、実習要項を参照のこと。

2018 Syllabus

科 目 名　**医療リスクマネジメント(理学)**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山野　薫	

テーマ

・医療における安全とその管理の概要について。
・理学療法士が臨床で対応するリスクマネジメントについて。

授業の到達目標

1. 医療における安全とその管理の概要を理解し説明できる。
2. 医療の質の向上とリスクマネジメントの関係性について理解し説明できる。
3. 各種治療におけるリスクおよび事故防止方法について理解し説明できる。
4. 理学療法士の業務に関わる感染症とその対策について理解し説明できる。

授業の概要

医療における安全とその管理を講義し、医療の質を高めることとリスクマネジメントの関係性について教授する。具体的には、医療安全における患者側の要因と病院施設側の要因について講義し、理解を深める。また、理学療法士の業務に関わる感染症とその対策について解説する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業後にテキストや参考書で知識を深め、ノートの内容を充実させるため、補足しておくこと。

内　容

第1回　医療における安全とその管理の概要
第2回　医療の質とリスクマネジメントの関係
第3回　診療記録の共有(公開)とリスクマネジメント
第4回　医療安全における患者側の要因と病院施設側の要因
第5回　チーム医療におけるリスクマネジメントのあり方
第6回　理学療法士の業務における感染症の概要と対策
第7回　理学療法士の業務における医療機器の安全管理
第8回　病院施設の管理体制(医療安全・感染症管理)と理学療法士の業務
第9回　単位認定試験

履修上の注意点

本授業は、理学療法士(医療職)の養成の一端を担っています。理学療法士(医療職)は、患者さんやその家族との信頼関係を構築することが何よりも重要です。それには、その人の誠実さが第一ですので、「繰り返す遅刻」、「授業中の私語」、「あからさまな居眠り」、「度重なる学生証の不携帯」等は厳しくチェックし、参加度20%に含めて成績に反映させます。

教科書

リハビリテーション リスク管理ハンドブック 第3版
著者:　亀田メディカルセンター(編集)
出版社:　MEDICAL VIEW
出版年:　2017　　ISBN:　9784758317245

参考書

理学療法リスク管理・ビューポイント
著者:　丸山仁司(編集)
出版社:　文光堂
出版年:　2007　　ISBN:　9784830643415

在宅・訪問リハビリテーション　リスク管理実践テキスト
著者:　石黒友康・他(監修)
出版社:　診断と治療社
出版年:　2009　　ISBN:　9784787817488

リスク管理　その統合と解釈
著者:　嶋田智明・他(常任編集)
出版社:　文光堂
出版年:　2010　　ISBN:　9784830643705

成績評価

a90101a150

試験・レポート （ 80% ）　　小テスト （ 実施しない ）

授業中課題 （ 実施しない ）　　授業中発表等 （ 参考にする ）

参加度 （ 20% ）

全授業回数の3分の2以上の出席がないものは、単位認定試験の受験資格を与えないものとする。忌引きや登校停止処置（感染症）等は、教務部に申請の上、科目担当者へ届け出ることとする。

2018 Syllabus

科 目 名　**人体の構造と機能演習Ⅰ（骨・関節・筋・神経など）（理学）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　木村　智子	

テーマ

理学療法士として、すべての医療行為の基礎となる人体の構造（解剖学）と機能（生理学）について、その重要生を認識し、学ぶことの意義を理解した上で、知識を深めていく。

授業の到達目標

1．理学療法の基礎となる「人体の構造と機能」の重要生を認識し、これを学ぶ意義を自分の言葉で述べられる。
2．ヒトの身体の構成と機能を統合理解し、生体特有の合目的性と恒常性について概説できる。
3．身体構造の位置や運動の方向などを表現するための専門用語を理解し、適切に使用することができる。
4．筋・骨格系ならびに神経系の構造と機能を理解し、他者に説明することができる。

授業の概要

グループで骨模型や様々なモデルを用いながら学習を進めていく。双方向性の授業で進めていく。予習課題を遂行し演習に臨むことで、各自積極的に学ぶ姿勢を持ち、ヒトの動きを主な治療対象とする理学療法士の諸活動に生かしてくことができる基礎知識を習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

人体の不思議に興味を持ち、教授されたことを鵜呑みにするのではなく、素朴な疑問を抱くことが重要である。どんなことでも躊躇せず質問していく姿勢が求められる。セクション毎に具体的な行動目標を提示するので、これをもとに復習していくことが重要となる。

内　容

第1回　細胞と組織
第2回　運動器の構造と機能（総論）
第3回　運動器の構造と機能（各論1：頭・頸部）
第4回　運動器の構造と機能（各論2：体幹）
第5回　運動器の構造と機能（各論3：上肢帯）
第6回　運動器の構造と機能（各論4：上肢1）
第7回　運動器の構造と機能（各論5：上肢2）
第8回　運動器の構造と機能（各論6：骨盤帯）
第9回　運動器の構造と機能（各論6：下肢1）
第10回　運動器の構造と機能（各論6：下肢2）
第11回　神経の構造と機能（総論）
第12回　神経の構造と機能（各論：中枢神経系）
第13回　神経の構造と機能（各論：末梢神経系）
第14回　感覚器の構造と機能（総論）
第15回　感覚器の構造と機能（各論：特殊感覚、内臓感覚、体性感覚）

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。
医療人として倫理に欠ける行為や授業妨害に繋がる行為が認められた場合、受講をお断りする。

教科書

標準理学療法学･作業療法学　専門基礎分野　解剖学　第4版
著者：　野村嶬(編)
出版社：医学書院
出版年：2015　　ISBN：
標準理学療法学･作業療法学　専門基礎分野　生理学　第4版
著者：　岡田隆夫･他
出版社：医学書院
出版年：2013　　ISBN：

参考書

プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系　第2版
著者：　坂井建雄･他(訳)
出版社：医学書院
出版年：2011　　ISBN：

a90101a210

プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部/神経解剖 第2版
著者: 坂井建雄･他(訳)
出版社: 医学書院
出版年: 2014 ISBN:

プロメテウス解剖学アトラス 胸部/腹部･骨盤部 第2版
著者: 坂井建雄･他(訳)
出版社: 医学書院
出版年: 2014 ISBN:

トートラ人体の構造と機能 第4版
著者: 桑木共之･他(編訳)
出版社: 丸善出版
出版年: 2012 ISBN:

ネッター解剖生理学アトラス
著者: 相磯貞和(訳)
出版社: 南江堂
出版年: 2006 ISBN:

人体機能生理学 改定第5版
著者: 杉晴夫(編)
出版社: 南江堂
出版年: 2009 ISBN:

成績評価

試験･レポート （ 90 ）
小テスト （ ）
授業中課題 （ 5 ）
授業中発表等 （ ）
参加度 （ 5 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**人体の構造と機能演習Ⅱ（呼吸・循環系、消化系など）（理学）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　木村　智子	

テーマ

理学療法士として、すべての医療行為の基礎となる人体の構造（解剖学）と機能（生理学）について、その重要生を認識し、学ぶことの意義を理解した上で、知識を深めていく。

授業の到達目標

1. 理学療法の基礎となる「人体の構造と機能」の重要生を認識し、これを学ぶ意義を自分の言葉で述べられる。
2. ヒトの身体の構成と機能を統合理解し、生体特有の合目的性と恒常性について概説できる。
3. 呼吸・循環器系、消化器系、泌尿生殖器系、内分泌系、免疫系の構造と機能を理解し、他者に説明することができる。

授業の概要

グループで模型やモデルを用いながら学習を進めていく。双方向性の授業で進めていく。予習課題を遂行し演習に臨むことで、各自積極的に学ぶ姿勢を持ち、理学療法士の諸活動に生かしてくことができる基礎知識を習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

人体の不思議に興味を持ち、教授されたことを鵜呑みにするのではなく、素朴な疑問を抱くことが重要である。どんなことでも躊躇せず質問していく姿勢が求められる。セクション毎に具体的な行動目標を提示するので、これをもとに復習していくことが重要となる。

内　容

第1回　消化器系（食欲と咀嚼・嚥下、口腔、歯、咽頭、食道）
第2回　消化器系（胃、小腸、膵臓、肝臓、胆嚢の構造と機能）
第3回　消化器系（消化と吸収、大腸の構造と機能）
第4回　呼吸器系（鼻、咽頭、喉頭、気管・気管支、肺）
第5回　呼吸器系（ガス交換とガスの運搬、内呼吸と外呼吸、呼吸の調節）
第6回　血液蘇生と機能（血球、血漿、造血、凝固、線維素溶解、血液型）
第7回　循環器系（心臓の構造と機能）
第8回　循環器系（末梢血管の構造と機能、リンパとリンパ管）
第9回　泌尿器系（腎臓の構造と機能、排尿路の構造と機能、体液の調節、排尿の生理）
第10回 生殖器系（男性生殖器の構造と機能、女性生殖器の構造と機能）
第11回 生殖器系（乳腺の構造と機能、性周期、受精と胎児の発生）
第12回 内分泌系（視床下部、下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体）
第13回 内分泌系（副腎、性腺、消化管、腎臓、胸腺、その他）
第14回 免疫系
第15回 その他（体温調節、成長と老化）

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。
医療人として倫理に欠ける行為や授業妨害に繋がる行為が認められた場合、受講をお断りする。

教科書

標準理学療法学･作業療法学　専門基礎分野　解剖学　第4版
著者:　野村嶬(編)
出版社:　医学書院
出版年:　2015　　ISBN:

標準理学療法学･作業療法学　専門基礎分野　生理学　第4版
著者:　岡田隆夫･他
出版社:　医学書院
出版年:　2013　　ISBN:

参考書

プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系　第2版
著者:　坂井建雄･他(訳)
出版社:　医学書院
出版年:　2011　　ISBN:

a90101a350

プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部/神経解剖 第2版

著者: 坂井建雄･他(訳)

出版社: 医学書院

出版年: 2014 ISBN:

プロメテウス解剖学アトラス 胸部/腹部･骨盤部 第2版

著者: 坂井建雄･他(訳)

出版社: 医学書院

出版年: 2014 ISBN:

トートラ人体の構造と機能 第4版

著者: 桑木共之･他(編訳)

出版社: 丸善出版

出版年: 2012 ISBN:

ネッター解剖生理学アトラス

著者: 相磯貞和(訳)

出版社: 南江堂

出版年: 2006 ISBN:

人体機能生理学 改定第5版

著者: 杉晴夫(編)

出版社: 南江堂

出版年: 2009 ISBN:

成績評価

試験･レポート (90)
小テスト ( )
授業中課題 (5)
授業中発表等 ( )
参加度 (5)

2018 Syllabus

科 目 名　**運動学(理学)**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　甲斐　義浩	

テーマ

四肢・体幹における関節の解剖学的構造とその運動について理解する。

授業の到達目標

1.身体運動に関与する骨格筋の解剖学的作用および運動学的作用について理解できる。
2.身体の動作における各筋の相互作用について理解できる。
3.運動学で得た知識に基づき、運動障害分析の基礎を理解できる。
4.運動学に関する過去の国家試験問題を解き、解説することができる。

授業の概要

解剖生理学で学んだ知識をベースにしながら、運動器を主とする障害学の基礎となる、人間の正常状態における身体運動のメカニズムについて理解を深める。具体的にはまず、身体運動を理解するために必要な力学、骨・関節・筋・神経系を中心とした運動器の構造と機能を教授し、その上で、上肢、下肢および体幹の各部位における運動学について概説する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

当該科目における国家試験の過去問において、どのような問題が出題されているか十分に確認しておくこと。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　キネシオロジーの基本原理(1)
第3回　キネシオロジーの基本原理(2)
第4回　骨関節の構造と機能(1)
第5回　骨関節の構造と機能(2)
第6回　骨格筋の構造と機能(1)
第7回　骨格筋の構造と機能(2)
第8回　肩関節複合体の構造と機能(1)
第9回　肩関節複合体の構造と機能(2)
第10回　肩関節複合体の構造と機能(3)
第11回　肘・前腕複合体の構造と機能(1)
第12回　肘・前腕複合体の構造と機能(2)
第13回　手関節の構造と機能(1)
第14回　手関節の構造と機能(2)
第15回　総まとめ

履修上の注意点

授業の進行を妨げる行為(私語、携帯電話の使用など)や、受講態度に明らかな問題がある場合(うつ伏せ居眠り、内職、スマートフォンの使用など)は受講をお断りします。

教科書

基礎運動学　第6版
著者:　中村　隆一・他
出版社:　医歯薬出版株式会社
出版年:　2013　　ISBN:

エッセンシャル・キネシオロジー　第2版
著者:　Mansfield PJ・他(著)弓岡光徳・他(訳)
出版社:　南江堂
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論／運動器系　第2版
著者:　坂井建雄・他
出版社:　医学書院
出版年:　2011　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 100% ）　　小テスト（ ）

a90101a450

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

期末試験の受験は、講義の3分の2以上の出席を必要とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**病理学（理学）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮本　尚	

テーマ

疾病の成り立ち、徴候，予後について

授業の到達目標

疾病の本質を探究する学問である「病理学」に関する正しい知識を身に付ける。

授業の概要

病理学の概要、疾病の総論的解説、更に諸臓器の障害を引き起こす様々な疾病につき解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　総論1−6：概要
第2回　総論7−8：免疫、炎症・感染症
第3回　総論4：腫瘍
第4回　総論11：老化
第5回　総論10：放射線障害
第6回　総論12：先天異常、奇形
第7回　各論1：循環器
第8回　各論2：呼吸器
第9回　各論3：消化器
第10回　各論4：神経系
第11回　各論5：運動器
第12回　各論6：泌尿器・生殖器
第13回　各論7：代謝・内分泌系
第14回　各論8：造血器
第15回　各論9：皮膚・感覚器

履修上の注意点

3分の1以上の欠席を認めない（原則として）

教科書

標準理学療法学・作業療法学「病理学」第3版
著者：　梶原博毅・横井豊治編
出版社：医学書院
出版年：2010　　ISBN：

参考書

カラーで学べる病理学
著者：　渡辺照男
出版社：ヌーベルヒロカワ
出版年：平成21年　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ 80 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**リハビリテーション概論（理学）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　兒玉　隆之.冨田　素子.中谷　謙.平本　憲二	

テーマ

「リハビリテーション」とは何か，その本質と仕組みの理解

授業の到達目標

リハビリテーション医学が，歴史的にどのように発展したかを考察することにより，リハビリテーションが医師や作業療法士などの異業種を包括したチームとして活動するチームアプローチであることを理解する。その中で，理学療法士がどのようにチーム活動に寄与できるかを考えながら，これから学んでいく理学療法についてその道しるべとなるよう全体像を形成する。

授業の概要

（富田素子・他／8回）リハビリテーション医学の定義と歴史を講義した上で，脳・脊髄・神経・運動器・外傷・内部障害・小児疾患などの障害に関する診断・検査・評価および治療プロセスについて学び，関連職との関わりについて教授する。（兒玉隆之／7回）リハビリテーションの定義・理念・目的・歴史，障害の概念と分類，障害の心理・社会的側面，リハビリテーションのプロセス・段階・職種，リハビリテーションとチーム医療の関わりなど，リハビリテーションの現状を教授する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　リハビリテーション医学の歴史
第2回　リハビリテーション医学の定義・概念
第3回　リハビリテーション医学における理学療法①
第4回　リハビリテーション医学における理学療法②
第5回　リハビリテーション医学における作業療法①
第6回　リハビリテーション医学における作業療法②
第7回　リハビリテーション医学における言語聴覚療法①
第8回　リハビリテーション医学における言語聴覚療法②
第9回　リハビリテーションの概念・理念・定義
第10回 「健康と障害」の概念と分類
第11回 障害の心理，心理的・社会的問題と受容
第12回 リハビリテーション過程
第13回 リハビリテーションの諸段階
第14回 リハビリテーション専門職種とチームアプローチ
第15回 ADL，QOLの概念

履修上の注意点

講義資料は適宜配布する

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 80 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保健医療福祉論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　窓場　勝之.並河　孝	

テーマ

日本における保健医療福祉に関する政策・制度・法律についての基礎的理解

授業の到達目標

1. 地域で生活する人々の健康の保持・増進、疾病予防のための活動を説明できる。
2. 地域の保健医療福祉論政策について理解し、保健、医療、福祉の連携やその中で専門職が担う活動や役割を説明できる。

授業の概要

授業方法は座学やグループディスカッションを考えています。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　我が国での社会保険制度について
第2回　リハビリテーションにおける医療制度Ⅰ
第3回　リハビリテーションにおける医療制度Ⅱ
第4回　今後の医療保険制度について

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 80 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）
3分の1以上の欠席を認めない。

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法概論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松尾　奈々	

テーマ

理学療法学および理学療法士の職能について基礎的な理解を促進する。

授業の到達目標

本講義では、理学療法の歴史や定義、理学療法士の職能や倫理、エトス、治療のプロセスや方法をはじめ、4年間のうちに習得する知識、技術の基礎となる事柄を学習する。

授業の概要

我が国の社会保障制度の概要、リハビリテーション医学および理学療法の歴史や定義、理学療法士の職能や倫理、エトス、障害評価や治療のプロセスおよび方法など、4年間の理学療法教育の基礎的事項を学習する.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

教科書、参考書にとどまらず、興味のあるリハビリテーション関連書籍を読み、理解を深めて欲しい。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　リハビリテーションと理学療法－その歴史と思想－
第3回　理学療法の対象（日本の人口動態、障害の構造－ICIDHとICF－、対象）
第4回　理学療法の手段について（運動療法、ADL、義肢装具、物理療法）
第5回　理学療法の手段について（運動療法、ADL、義肢装具、物理療法）
第6回　理学療法士の関連職種と関連領域およびチーム医療について
第7回　理学療法士の関連職種と関連領域およびチーム医療について
第8回　施設基準と診療報酬、分野
第9回　世界の理学療法とリハビリテーションの情勢
第10回　理学療法士に関する法律
第11回　理学療法士の資質について考える
第12回　理学療法士の資質について考える
第13回　理学療法士の資質について共有する
第14回　理学療法士の資質について共有する
第15回　まとめ

履修上の注意点

遅刻や欠席の際は、分かった時点で必ず担当教員に連絡すること。

教科書

シンプル理学療法学シリーズ 理学療法概論テキスト
著者:　細田多穂
出版社:　南江堂
出版年:　2013　　ISBN:　9784524269464

参考書

リハビリテーションの思想―人間復権の医療を求めて
著者:　上田敏
出版社:　医学書院
出版年:　2004　　ISBN:

リハビリテーション　新しい生き方を創る医学
著者:　上田敏
出版社:　講談社
出版年:　1996　　ISBN:

ICF(国際生活機能分類)の理解と活用―人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか
著者:　上田敏
出版社:　きょうされん
出版年:　2005　　ISBN:

a90101a810

ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版

著者: 障害者福祉研究会

出版社: 中央法規出版

出版年: 2002 ISBN:

ICF(国際生活機能分類)活用の試み

著者: 国立特別支援教育総合研究所

出版社: ジアース教育新社

出版年: 2005 ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 80% ） 小テスト （ ）

授業中課題 （ 10% ） 授業中発表等 （ ）

参加度 （ 10% ）

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。試験成績のみならず、レポート課題成績も成績評価に含まれる。連絡なき遅刻・欠席は参加度評価の対象となります。

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法技術学入門演習Ⅰ（骨・関節の触察）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮﨑　純弥.松尾　奈々	

テーマ

骨関節疾患の評価・治療ができるようになるために、機能解剖学と体表からの触診を演習形式で学習する。

授業の到達目標

1. 学習者が演習を理解するために、解剖学的構造の名称および形を知る。
2. 学習者が視診・触診を行うために、人体での体表の解剖学的構造の形を認識する。
3. 学習者が評価、治療の実施ができるために、解剖学的構造を実際の身体で視診・触診する技術を修得する。

授業の概要

理学療法士は、関節を操作することで身体運動の改善を促す専門家である。そのためには、その原点である関節を構成する組織について、解剖学・運動学・生体力学などの観点から理解していることが望ましい。この講義では、骨・関節を中心にそれらの解剖学的知識を学び、それらを触り部位を確認できる能力を習得することを目的とする。また、実際の治療では対象者の身体を扱うため、触られたときの感覚を知っておくことも重要である。そのため、触られている感覚を言語化してフィードバックすることで相互の学習効果が期待できる。演習への姿勢、受講態度を通じて医療人としての意識を芽生えさせることもねらいとする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　総論（運動方向、運動の軸と面、骨の名称、骨・関節の形、触診法）
第3回　骨の視診・触診（指骨、手根骨）
第4回　手関節の触診
第5回　骨の視診・触診（橈骨、尺骨、上腕骨）
第6回　肘関節の触診
第7回　骨の視診・触診（肩甲骨、鎖骨）
第8回　上肢帯と肩関節の触診
第9回　骨の視診・触診（脛骨、腓骨、足根骨）
第10回　足関節の触診
第11回　骨の視診・触診（大腿骨、膝蓋骨）
第12回　膝関節の触診
第13回　骨の視診・触診（寛骨）
第14回　股関節の触診
第15回　骨の視診・触診（脊柱）

履修上の注意点

茶髪等・ピアス等のアクセサリー着用は厳禁とする。パートナーを傷つけないように爪を短く切ること。
いつでも実習に行ける服装で来ること。

教科書

改訂第2版　運動療法のための機能解剖学的触診技術　上肢
著者:　林典雄
出版社:　メジカルビュー
出版年:　2011　　ISBN:　9784758311366
改訂第2版　運動療法のための機能解剖学的触診技術　下肢・体幹
著者:　林典雄
出版社:　メジカルビュー
出版年:　2011　　ISBN:　9784758311373
プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系第3版
著者:　坂井建雄
出版社:　医学書院
出版年:　2011　　ISBN:　9784260010689

参考書

a90101a950

成績評価

試験・レポート（ 50% ）　　小テスト（ 実技試験50% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

2018 Syllabus

科 目 名　**臨床基礎実習**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　宮﨑　純弥.安彦　鉄平.小田桐　匡.甲斐　義浩.兒玉　隆之.崎田　正博.白岩　加代子.濱出　茂治.堀江　淳.松尾　奈々.村田　伸	

テーマ

授業の到達目標

1)社会人・専門職としての基本的態度を身につける。
2)対象者とのコミュニケーションをとることができる。
3)医療従事者として責任および節度のある態度と行動を身につける。
4)自身が目指す理学療法士像を具体化できる。
5)理学療法士が勤務する施設の機能・概要を把握できる。
6)学内での講義・実習の意義を理解し学習意欲を高める。

授業の概要

第一段階の「入門的」な実習であり、実習指導者の指導・教育のもと見学を中心とした実習を行う。本実習を通して、理学療法士が勤務する病院や施設が果たす社会的役割とその病院、施設における理学療法士の役割や機能の概要を把握する。また、医療従事者間の関係や医療従事者と患者・利用者との関係を見学し、コミュニケーションの重要性についても体験する。自分が目指すべき理学療法士のイメージを形づくり、以降の学習への動機づけとする。さらに理学療法士の業務内容と義務および責任について学び、社会人・保健医療専門職としてのあり方、資質についての理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　オリエンテーション：実習概要を理解し、実習に取り組む際の注意事項などについて確認する。
第2回　現場実習
第3回　現場実習
第4回　現場実習
第5回　現場実習
第6回　現場実習
第7回　現場実習
第8回　現場実習
第9回　現場実習
第10回　現場実習
第11回　現場実習
第12回　現場実習
第13回　現場実習
第14回　現場実習
第15回　現場実習
第16回　現場実習
第17回　現場実習
第18回　現場実習
第19回　現場実習
第20回　現場実習
第21回　現場実習
第22回　現場実習
第23回　現場実習
第24回　現場実習
第25回　現場実習
第26回　現場実習
第27回　現場実習
第28回　現場実習
第29回　現場実習
第30回　実習終了後セミナー：実習経験報告、集団討議、事例検討・報告などから成る。学生は、実習課題を中心に、実習施設の特徴や実習した内容および経験について要点をまとめて簡潔に発表する。

履修上の注意点

教科書

参考書

a90101b050

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 20 ）
実習の出席は80%以上で単位認定の資格を得る。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（理学）＜＊a＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　村田　伸	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
 1）文章を読み、理解する
 2）文章の書き方、レポート作成の基礎
 3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）
 4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）
 5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）
2. キャリアデザインが描ける
 1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ
 2）理学療法学に関心をもつ

授業の概要

大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学ぶ。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容であり、大学における学びを理解した上で，グループディスカッションを通して，学生自身の自覚と責任を高める.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前資料に目を通しておくこと．分からないことはそのままにせず、担当教員に確認すること.

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　大学で理学療法を学ぶ（1）；全体講義
第3回　大学で理学療法を学ぶ（2）；グループディスカッション
第4回　1回生次の学び（1）；全体講義
第5回　1回生次の学び（2）；グループディスカッション
第6回　講義ノートの取り方（1）；全体講義
第7回　講義ノートの取り方（2）；教科書中心型
第8回　講義ノートの取り方（3）；スライド中心型
第9回　講義ノートの取り方（4）；板書中心型
第10回 レポートの書き方（1）；全体講義
第11回 レポートの書き方（2）；グループディスカッション
第12回 グループ発表（1）
第13回 グループ発表（2）
第14回 グループ発表（3）
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

理学療法キャリア教育テキスト 大学で理学療法を学ぶ
著者:　京都橘大学健康科学部理学療法学科
出版社: 学術研究出版／ブックウェイ
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 50 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（理学）＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀江　淳	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
 1）文章を読み、理解する
 2）文章の書き方、レポート作成の基礎
 3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）
 4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）
 5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）
2. キャリアデザインが描ける
 1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ
 2）理学療法学に関心をもつ

授業の概要

大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学ぶ。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容であり、大学における学びを理解した上で，グループディスカッションを通して，学生自身の自覚と責任を高める.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前資料に目を通しておくこと．分からないことはそのままにせず、担当教員に確認すること.

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　大学で理学療法を学ぶ（1）；全体講義
第3回　大学で理学療法を学ぶ（2）；グループディスカッション
第4回　1回生次の学び（1）；全体講義
第5回　1回生次の学び（2）；グループディスカッション
第6回　講義ノートの取り方（1）；全体講義
第7回　講義ノートの取り方（2）；教科書中心型
第8回　講義ノートの取り方（3）；スライド中心型
第9回　講義ノートの取り方（4）；板書中心型
第10回 レポートの書き方（1）；全体講義
第11回 レポートの書き方（2）；グループディスカッション
第12回 グループ発表（1）
第13回 グループ発表（2）
第14回 グループ発表（3）
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

理学療法キャリア教育テキスト 大学で理学療法を学ぶ
著者:　京都橘大学健康科学部理学療法学科
出版社: 学術研究出版／ブックウェイ
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 50 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（理学）＜＊c＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮﨑　純弥	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
 1）文章を読み、理解する
 2）文章の書き方、レポート作成の基礎
 3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）
 4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）
 5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）
2. キャリアデザインが描ける
 1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ
 2）理学療法学に関心をもつ

授業の概要

大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学ぶ。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容であり、大学における学びを理解した上で，グループディスカッションを通して，学生自身の自覚と責任を高める.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前資料に目を通しておくこと．分からないことはそのままにせず、担当教員に確認すること.

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　大学で理学療法を学ぶ（1）；全体講義
第3回　大学で理学療法を学ぶ（2）；グループディスカッション
第4回　1回生次の学び（1）；全体講義
第5回　1回生次の学び（2）；グループディスカッション
第6回　講義ノートの取り方（1）；全体講義
第7回　講義ノートの取り方（2）；教科書中心型
第8回　講義ノートの取り方（3）；スライド中心型
第9回　講義ノートの取り方（4）；板書中心型
第10回 レポートの書き方（1）；全体講義
第11回 レポートの書き方（2）；グループディスカッション
第12回 グループ発表（1）
第13回 グループ発表（2）
第14回 グループ発表（3）
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

理学療法キャリア教育テキスト 大学で理学療法を学ぶ
著者:　京都橘大学健康科学部理学療法学科
出版社: 学術研究出版／ブックウェイ
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 50 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（理学）＜＊d＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　木村　智子	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
 1）文章を読み、理解する
 2）文章の書き方、レポート作成の基礎
 3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）
 4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）
 5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）
2. キャリアデザインが描ける
 1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ
 2）理学療法学に関心をもつ

授業の概要

大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学ぶ。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容であり、大学における学びを理解した上で，グループディスカッションを通して，学生自身の自覚と責任を高める.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前資料に目を通しておくこと．分からないことはそのままにせず、担当教員に確認すること.

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　大学で理学療法を学ぶ（1）；全体講義
第3回　大学で理学療法を学ぶ（2）；グループディスカッション
第4回　1回生次の学び（1）；全体講義
第5回　1回生次の学び（2）；グループディスカッション
第6回　講義ノートの取り方（1）；全体講義
第7回　講義ノートの取り方（2）；教科書中心型
第8回　講義ノートの取り方（3）；スライド中心型
第9回　講義ノートの取り方（4）；板書中心型
第10回 レポートの書き方（1）；全体講義
第11回 レポートの書き方（2）；グループディスカッション
第12回 グループ発表（1）
第13回 グループ発表（2）
第14回 グループ発表（3）
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

理学療法キャリア教育テキスト 大学で理学療法を学ぶ
著者:　京都橘大学健康科学部理学療法学科
出版社: 学術研究出版／ブックウェイ
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 50 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（理学）＜＊e＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　甲斐　義浩	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
 1）文章を読み、理解する
 2）文章の書き方、レポート作成の基礎
 3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）
 4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）
 5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）
2. キャリアデザインが描ける
 1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ
 2）理学療法学に関心をもつ

授業の概要

大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学ぶ。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容であり、大学における学びを理解した上で，グループディスカッションを通して，学生自身の自覚と責任を高める.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前資料に目を通しておくこと．分からないことはそのままにせず、担当教員に確認すること.

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　大学で理学療法を学ぶ（1）；全体講義
第3回　大学で理学療法を学ぶ（2）；グループディスカッション
第4回　1回生次の学び（1）；全体講義
第5回　1回生次の学び（2）；グループディスカッション
第6回　講義ノートの取り方（1）；全体講義
第7回　講義ノートの取り方（2）；教科書中心型
第8回　講義ノートの取り方（3）；スライド中心型
第9回　講義ノートの取り方（4）；板書中心型
第10回 レポートの書き方（1）；全体講義
第11回 レポートの書き方（2）；グループディスカッション
第12回 グループ発表（1）
第13回 グループ発表（2）
第14回 グループ発表（3）
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

理学療法キャリア教育テキスト 大学で理学療法を学ぶ
著者:　京都橘大学健康科学部理学療法学科
出版社: 学術研究出版／ブックウェイ
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 50 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（理学）＜＊f＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　兒玉 隆之	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
 1）文章を読み、理解する
 2）文章の書き方、レポート作成の基礎
 3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）
 4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）
 5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）
2. キャリアデザインが描ける
 1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ
 2）理学療法学に関心をもつ

授業の概要

大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学ぶ。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容であり、大学における学びを理解した上で，グループディスカッションを通して，学生自身の自覚と責任を高める.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前資料に目を通しておくこと．分からないことはそのままにせず、担当教員に確認すること.

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　大学で理学療法を学ぶ（1）；全体講義
第3回　大学で理学療法を学ぶ（2）；グループディスカッション
第4回　1回生次の学び（1）；全体講義
第5回　1回生次の学び（2）；グループディスカッション
第6回　講義ノートの取り方（1）；全体講義
第7回　講義ノートの取り方（2）；教科書中心型
第8回　講義ノートの取り方（3）；スライド中心型
第9回　講義ノートの取り方（4）；板書中心型
第10回 レポートの書き方（1）；全体講義
第11回 レポートの書き方（2）；グループディスカッション
第12回 グループ発表（1）
第13回 グループ発表（2）
第14回 グループ発表（3）
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

理学療法キャリア教育テキスト 大学で理学療法を学ぶ
著者:　京都橘大学健康科学部理学療法学科
出版社: 学術研究出版／ブックウェイ
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 50 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（理学）＜＊g＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　崎田　正博	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
 1）文章を読み、理解する
 2）文章の書き方、レポート作成の基礎
 3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）
 4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）
 5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）
2. キャリアデザインが描ける
 1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ
 2）理学療法学に関心をもつ

授業の概要

大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学ぶ。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容であり、大学における学びを理解した上で，グループディスカッションを通して，学生自身の自覚と責任を高める.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前資料に目を通しておくこと．分からないことはそのままにせず、担当教員に確認すること.

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　大学で理学療法を学ぶ（1）；全体講義
第3回　大学で理学療法を学ぶ（2）；グループディスカッション
第4回　1回生次の学び（1）；全体講義
第5回　1回生次の学び（2）；グループディスカッション
第6回　講義ノートの取り方（1）；全体講義
第7回　講義ノートの取り方（2）；教科書中心型
第8回　講義ノートの取り方（3）；スライド中心型
第9回　講義ノートの取り方（4）；板書中心型
第10回 レポートの書き方（1）；全体講義
第11回 レポートの書き方（2）；グループディスカッション
第12回 グループ発表（1）
第13回 グループ発表（2）
第14回 グループ発表（3）
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

理学療法キャリア教育テキスト 大学で理学療法を学ぶ
著者:　京都橘大学健康科学部理学療法学科
出版社: 学術研究出版／ブックウェイ
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 50 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（理学）＜＊h＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　白岩　加代子	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
 1）文章を読み、理解する
 2）文章の書き方、レポート作成の基礎
 3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）
 4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）
 5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）
2. キャリアデザインが描ける
 1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ
 2）理学療法学に関心をもつ

授業の概要

大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学ぶ。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容であり、大学における学びを理解した上で，グループディスカッションを通して，学生自身の自覚と責任を高める.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前資料に目を通しておくこと．分からないことはそのままにせず、担当教員に確認すること.

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　大学で理学療法を学ぶ（1）；全体講義
第3回　大学で理学療法を学ぶ（2）；グループディスカッション
第4回　1回生次の学び（1）；全体講義
第5回　1回生次の学び（2）；グループディスカッション
第6回　講義ノートの取り方（1）；全体講義
第7回　講義ノートの取り方（2）；教科書中心型
第8回　講義ノートの取り方（3）；スライド中心型
第9回　講義ノートの取り方（4）；板書中心型
第10回 レポートの書き方（1）；全体講義
第11回 レポートの書き方（2）；グループディスカッション
第12回 グループ発表（1）
第13回 グループ発表（2）
第14回 グループ発表（3）
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

理学療法キャリア教育テキスト 大学で理学療法を学ぶ
著者:　京都橘大学健康科学部理学療法学科
出版社: 学術研究出版／ブックウェイ
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 50 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（理学）＜＊i＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安彦　鉄平	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
 1）文章を読み、理解する
 2）文章の書き方、レポート作成の基礎
 3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）
 4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）
 5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）
2. キャリアデザインが描ける
 1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ
 2）理学療法学に関心をもつ

授業の概要

大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学ぶ。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容であり、大学における学びを理解した上で，グループディスカッションを通して，学生自身の自覚と責任を高める.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前資料に目を通しておくこと．分からないことはそのままにせず、担当教員に確認すること.

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　大学で理学療法を学ぶ（1）；全体講義
第3回　大学で理学療法を学ぶ（2）；グループディスカッション
第4回　1回生次の学び（1）；全体講義
第5回　1回生次の学び（2）；グループディスカッション
第6回　講義ノートの取り方（1）；全体講義
第7回　講義ノートの取り方（2）；教科書中心型
第8回　講義ノートの取り方（3）；スライド中心型
第9回　講義ノートの取り方（4）；板書中心型
第10回 レポートの書き方（1）；全体講義
第11回 レポートの書き方（2）；グループディスカッション
第12回 グループ発表（1）
第13回 グループ発表（2）
第14回 グループ発表（3）
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

理学療法キャリア教育テキスト 大学で理学療法を学ぶ
著者:　京都橘大学健康科学部理学療法学科
出版社: 学術研究出版／ブックウェイ
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 50 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（理学）＜＊j＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小田桐　匡	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
 1）文章を読み、理解する
 2）文章の書き方、レポート作成の基礎
 3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）
 4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）
 5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）
2. キャリアデザインが描ける
 1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ
 2）理学療法学に関心をもつ

授業の概要

大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学ぶ。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容であり、大学における学びを理解した上で，グループディスカッションを通して，学生自身の自覚と責任を高める.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前資料に目を通しておくこと．分からないことはそのままにせず、担当教員に確認すること.

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　大学で理学療法を学ぶ（1）；全体講義
第3回　大学で理学療法を学ぶ（2）；グループディスカッション
第4回　1回生次の学び（1）；全体講義
第5回　1回生次の学び（2）；グループディスカッション
第6回　講義ノートの取り方（1）；全体講義
第7回　講義ノートの取り方（2）；教科書中心型
第8回　講義ノートの取り方（3）；スライド中心型
第9回　講義ノートの取り方（4）；板書中心型
第10回 レポートの書き方（1）；全体講義
第11回 レポートの書き方（2）；グループディスカッション
第12回 グループ発表（1）
第13回 グループ発表（2）
第14回 グループ発表（3）
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

理学療法キャリア教育テキスト 大学で理学療法を学ぶ
著者:　京都橘大学健康科学部理学療法学科
出版社: 学術研究出版／ブックウェイ
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 50 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（理学）＜＊k＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松尾　奈々	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける
 1）文章を読み、理解する
 2）文章の書き方、レポート作成の基礎
 3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）
 4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）
 5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）
2. キャリアデザインが描ける
 1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ
 2）理学療法学に関心をもつ

授業の概要

大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学ぶ。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容であり、大学における学びを理解した上で，グループディスカッションを通して，学生自身の自覚と責任を高める.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前資料に目を通しておくこと．分からないことはそのままにせず、担当教員に確認すること.

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　大学で理学療法を学ぶ（1）；全体講義
第3回　大学で理学療法を学ぶ（2）；グループディスカッション
第4回　1回生次の学び（1）；全体講義
第5回　1回生次の学び（2）；グループディスカッション
第6回　講義ノートの取り方（1）；全体講義
第7回　講義ノートの取り方（2）；教科書中心型
第8回　講義ノートの取り方（3）；スライド中心型
第9回　講義ノートの取り方（4）；板書中心型
第10回 レポートの書き方（1）；全体講義
第11回 レポートの書き方（2）；グループディスカッション
第12回 グループ発表（1）
第13回 グループ発表（2）
第14回 グループ発表（3）
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

理学療法キャリア教育テキスト 大学で理学療法を学ぶ
著者:　京都橘大学健康科学部理学療法学科
出版社: 学術研究出版／ブックウェイ
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 50 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（理学）＜＊a＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　村田　伸	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1．主体的に学ぶ姿勢を身につける
　1）文章を読み、理解する
　2）文章の書き方、レポート作成の基礎、研究倫理について学ぶ
　3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）
　4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）
　5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）
2．キャリアデザインが描ける
　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ
　2）理学療法学に関心をもつ

授業の概要

前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につける。大学における学びを理解した上で，グループディスカッションを通して，学生自身の自覚と責任を高める.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に資料に目を通しておくこと.

内　　容

第1回　2回生次の学び（1）；全体講義
第2回　2回生次の学び（2）；グループディスカッション
第3回　3回生次の学び
第4回　4回生次の学び
第5回　情報リテラシー（1）；全体講義（研究倫理教育含む）
第6回　情報リテラシー（2）；グループディスカッション
第7回　パワーポイントの作り方（1）；全体講義
第8回　パワーポイントの作り方（2）；グループディスカッション
第9回　プレゼンテーションの方法（1）；全体講義
第10回 プレゼンテーションの方法（2）；グループディスカッション
第11回 コミュニケーションスキル（1）；全体講義
第12回 コミュニケーションスキル（2）；グループディスカッション
第13回 グループ発表（1）
第14回 グループ発表（2）
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（理学）＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀江　淳	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1．主体的に学ぶ姿勢を身につける
　1）文章を読み、理解する
　2）文章の書き方、レポート作成の基礎、研究倫理について学ぶ
　3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）
　4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）
　5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）
2．キャリアデザインが描ける
　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ
　2）理学療法学に関心をもつ

授業の概要

前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につける。大学における学びを理解した上で，グループディスカッションを通して，学生自身の自覚と責任を高める．

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に資料に目を通しておくこと．

内　　容

第1回　2回生次の学び（1）；全体講義
第2回　2回生次の学び（2）；グループディスカッション
第3回　3回生次の学び
第4回　4回生次の学び
第5回　情報リテラシー（1）；全体講義（研究倫理教育含む）
第6回　情報リテラシー（2）；グループディスカッション
第7回　パワーポイントの作り方（1）；全体講義
第8回　パワーポイントの作り方（2）；グループディスカッション
第9回　プレゼンテーションの方法（1）；全体講義
第10回 プレゼンテーションの方法（2）；グループディスカッション
第11回 コミュニケーションスキル（1）；全体講義
第12回 コミュニケーションスキル（2）；グループディスカッション
第13回 グループ発表（1）
第14回 グループ発表（2）
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（理学）＜＊c＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮﨑　純弥	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1．主体的に学ぶ姿勢を身につける
　1）文章を読み、理解する
　2）文章の書き方、レポート作成の基礎、研究倫理について学ぶ
　3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）
　4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）
　5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）
2．キャリアデザインが描ける
　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ
　2）理学療法学に関心をもつ

授業の概要

前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につける。大学における学びを理解した上で，グループディスカッションを通して，学生自身の自覚と責任を高める.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に資料に目を通しておくこと.

内　　容

第1回　2回生次の学び（1）；全体講義
第2回　2回生次の学び（2）；グループディスカッション
第3回　3回生次の学び
第4回　4回生次の学び
第5回　情報リテラシー（1）；全体講義（研究倫理教育含む）
第6回　情報リテラシー（2）；グループディスカッション
第7回　パワーポイントの作り方（1）；全体講義
第8回　パワーポイントの作り方（2）；グループディスカッション
第9回　プレゼンテーションの方法（1）；全体講義
第10回 プレゼンテーションの方法（2）；グループディスカッション
第11回 コミュニケーションスキル（1）；全体講義
第12回 コミュニケーションスキル（2）；グループディスカッション
第13回 グループ発表（1）
第14回 グループ発表（2）
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（理学）＜＊d＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　木村　智子	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1．主体的に学ぶ姿勢を身につける
　1）文章を読み、理解する
　2）文章の書き方、レポート作成の基礎、研究倫理について学ぶ
　3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）
　4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）
　5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）
2．キャリアデザインが描ける
　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ
　2）理学療法学に関心をもつ

授業の概要

前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につける。大学における学びを理解した上で，グループディスカッションを通して，学生自身の自覚と責任を高める.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に資料に目を通しておくこと.

内　　容

第1回　2回生次の学び（1）；全体講義
第2回　2回生次の学び（2）；グループディスカッション
第3回　3回生次の学び
第4回　4回生次の学び
第5回　情報リテラシー（1）；全体講義（研究倫理教育含む）
第6回　情報リテラシー（2）；グループディスカッション
第7回　パワーポイントの作り方（1）；全体講義
第8回　パワーポイントの作り方（2）；グループディスカッション
第9回　プレゼンテーションの方法（1）；全体講義
第10回 プレゼンテーションの方法（2）；グループディスカッション
第11回 コミュニケーションスキル（1）；全体講義
第12回 コミュニケーションスキル（2）；グループディスカッション
第13回 グループ発表（1）
第14回 グループ発表（2）
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（理学）＜＊e＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　甲斐　義浩	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1．主体的に学ぶ姿勢を身につける
　1）文章を読み、理解する
　2）文章の書き方、レポート作成の基礎、研究倫理について学ぶ
　3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）
　4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）
　5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）
2．キャリアデザインが描ける
　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ
　2）理学療法学に関心をもつ

授業の概要

前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につける。大学における学びを理解した上で，グループディスカッションを通して，学生自身の自覚と責任を高める.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に資料に目を通しておくこと.

内　　容

第1回　2回生次の学び（1）；全体講義
第2回　2回生次の学び（2）；グループディスカッション
第3回　3回生次の学び
第4回　4回生次の学び
第5回　情報リテラシー（1）；全体講義（研究倫理教育含む）
第6回　情報リテラシー（2）；グループディスカッション
第7回　パワーポイントの作り方（1）；全体講義
第8回　パワーポイントの作り方（2）；グループディスカッション
第9回　プレゼンテーションの方法（1）；全体講義
第10回 プレゼンテーションの方法（2）；グループディスカッション
第11回 コミュニケーションスキル（1）；全体講義
第12回 コミュニケーションスキル（2）；グループディスカッション
第13回 グループ発表（1）
第14回 グループ発表（2）
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（理学）＜＊f＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　兒玉 隆之	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1．主体的に学ぶ姿勢を身につける
　1）文章を読み、理解する
　2）文章の書き方、レポート作成の基礎、研究倫理について学ぶ
　3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）
　4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）
　5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）
2．キャリアデザインが描ける
　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ
　2）理学療法学に関心をもつ

授業の概要

前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につける。大学における学びを理解した上で，グループディスカッションを通して，学生自身の自覚と責任を高める.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に資料に目を通しておくこと.

内　容

第1回　2回生次の学び（1）；全体講義
第2回　2回生次の学び（2）；グループディスカッション
第3回　3回生次の学び
第4回　4回生次の学び
第5回　情報リテラシー（1）；全体講義（研究倫理教育含む）
第6回　情報リテラシー（2）；グループディスカッション
第7回　パワーポイントの作り方（1）；全体講義
第8回　パワーポイントの作り方（2）；グループディスカッション
第9回　プレゼンテーションの方法（1）；全体講義
第10回 プレゼンテーションの方法（2）；グループディスカッション
第11回 コミュニケーションスキル（1）；全体講義
第12回 コミュニケーションスキル（2）；グループディスカッション
第13回 グループ発表（1）
第14回 グループ発表（2）
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（理学）＜＊g＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　崎田　正博	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1．主体的に学ぶ姿勢を身につける
　1）文章を読み、理解する
　2）文章の書き方、レポート作成の基礎、研究倫理について学ぶ
　3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）
　4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）
　5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）
2．キャリアデザインが描ける
　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ
　2）理学療法学に関心をもつ

授業の概要

前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につける。大学における学びを理解した上で，グループディスカッションを通して，学生自身の自覚と責任を高める.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に資料に目を通しておくこと.

内　　容

第1回　2回生次の学び（1）；全体講義
第2回　2回生次の学び（2）；グループディスカッション
第3回　3回生次の学び
第4回　4回生次の学び
第5回　情報リテラシー（1）；全体講義（研究倫理教育含む）
第6回　情報リテラシー（2）；グループディスカッション
第7回　パワーポイントの作り方（1）；全体講義
第8回　パワーポイントの作り方（2）；グループディスカッション
第9回　プレゼンテーションの方法（1）；全体講義
第10回 プレゼンテーションの方法（2）；グループディスカッション
第11回 コミュニケーションスキル（1）；全体講義
第12回 コミュニケーションスキル（2）；グループディスカッション
第13回 グループ発表（1）
第14回 グループ発表（2）
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（理学）＜＊h＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　白岩　加代子	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1．主体的に学ぶ姿勢を身につける
　1）文章を読み、理解する
　2）文章の書き方、レポート作成の基礎、研究倫理について学ぶ
　3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）
　4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）
　5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）
2．キャリアデザインが描ける
　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ
　2）理学療法学に関心をもつ

授業の概要

前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につける。大学における学びを理解した上で，グループディスカッションを通して，学生自身の自覚と責任を高める.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に資料に目を通しておくこと.

内　　容

第1回　2回生次の学び（1）；全体講義
第2回　2回生次の学び（2）；グループディスカッション
第3回　3回生次の学び
第4回　4回生次の学び
第5回　情報リテラシー（1）；全体講義（研究倫理教育含む）
第6回　情報リテラシー（2）；グループディスカッション
第7回　パワーポイントの作り方（1）；全体講義
第8回　パワーポイントの作り方（2）；グループディスカッション
第9回　プレゼンテーションの方法（1）；全体講義
第10回 プレゼンテーションの方法（2）；グループディスカッション
第11回 コミュニケーションスキル（1）；全体講義
第12回 コミュニケーションスキル（2）；グループディスカッション
第13回 グループ発表（1）
第14回 グループ発表（2）
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（理学）＜＊i＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安彦　鉄平	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1．主体的に学ぶ姿勢を身につける
　1）文章を読み、理解する
　2）文章の書き方、レポート作成の基礎、研究倫理について学ぶ
　3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）
　4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）
　5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）
2．キャリアデザインが描ける
　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ
　2）理学療法学に関心をもつ

授業の概要

前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につける。大学における学びを理解した上で，グループディスカッションを通して，学生自身の自覚と責任を高める.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に資料に目を通しておくこと.

内　　容

第1回　2回生次の学び（1）；全体講義
第2回　2回生次の学び（2）；グループディスカッション
第3回　3回生次の学び
第4回　4回生次の学び
第5回　情報リテラシー（1）；全体講義（研究倫理教育含む）
第6回　情報リテラシー（2）；グループディスカッション
第7回　パワーポイントの作り方（1）；全体講義
第8回　パワーポイントの作り方（2）；グループディスカッション
第9回　プレゼンテーションの方法（1）；全体講義
第10回 プレゼンテーションの方法（2）；グループディスカッション
第11回 コミュニケーションスキル（1）；全体講義
第12回 コミュニケーションスキル（2）；グループディスカッション
第13回 グループ発表（1）
第14回 グループ発表（2）
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（理学）＜＊j＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小田桐　匡	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1．主体的に学ぶ姿勢を身につける
　1）文章を読み、理解する
　2）文章の書き方、レポート作成の基礎、研究倫理について学ぶ
　3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）
　4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）
　5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）
2．キャリアデザインが描ける
　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ
　2）理学療法学に関心をもつ

授業の概要

前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につける。大学における学びを理解した上で，グループディスカッションを通して，学生自身の自覚と責任を高める.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に資料に目を通しておくこと.

内　　容

第1回　2回生次の学び（1）；全体講義
第2回　2回生次の学び（2）；グループディスカッション
第3回　3回生次の学び
第4回　4回生次の学び
第5回　情報リテラシー（1）；全体講義（研究倫理教育含む）
第6回　情報リテラシー（2）；グループディスカッション
第7回　パワーポイントの作り方（1）；全体講義
第8回　パワーポイントの作り方（2）；グループディスカッション
第9回　プレゼンテーションの方法（1）；全体講義
第10回 プレゼンテーションの方法（2）；グループディスカッション
第11回 コミュニケーションスキル（1）；全体講義
第12回 コミュニケーションスキル（2）；グループディスカッション
第13回 グループ発表（1）
第14回 グループ発表（2）
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（理学）＜＊k＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松尾　奈々	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1．主体的に学ぶ姿勢を身につける
　1）文章を読み、理解する
　2）文章の書き方、レポート作成の基礎、研究倫理について学ぶ
　3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）
　4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）
　5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）
2．キャリアデザインが描ける
　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ
　2）理学療法学に関心をもつ

授業の概要

前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につける。大学における学びを理解した上で，グループディスカッションを通して，学生自身の自覚と責任を高める.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に資料に目を通しておくこと.

内　　容

第1回　2回生次の学び（1）；全体講義
第2回　2回生次の学び（2）；グループディスカッション
第3回　3回生次の学び
第4回　4回生次の学び
第5回　情報リテラシー（1）；全体講義（研究倫理教育含む）
第6回　情報リテラシー（2）；グループディスカッション
第7回　パワーポイントの作り方（1）；全体講義
第8回　パワーポイントの作り方（2）；グループディスカッション
第9回　プレゼンテーションの方法（1）；全体講義
第10回 プレゼンテーションの方法（2）；グループディスカッション
第11回 コミュニケーションスキル（1）；全体講義
第12回 コミュニケーションスキル（2）；グループディスカッション
第13回 グループ発表（1）
第14回 グループ発表（2）
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**統計学基礎論（理学・心理・救急）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　永井　宏達	

テーマ

統計学の基礎的な知識を修得する

授業の到達目標

・実生活において、目の前のデータを統計学的視点をもって捉えることができる。・調査報告や論文を理解するために求められるデータ分析の基本的な知識を習得する。・統計学的視点に基づいた、理論的思考能力を身につける。

授業の概要

統計学の基本的知識を習得するための講義形式の授業に加え、グループワークを交えた演習形式のアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れる。また、PCを使用した演習も実施する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各授業ごとに適宜指示する

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　研究のデザイン
第3回　統計のものさしと基本知識
第4回　有意水準と仮説
第5回　復習&連続データの差の検定（t検定）
第6回　連続データの差の検定（t検定）　演習
第7回　復習&あるなしデータの差の検定（カイ二乗検定）
第8回　あるなしデータの差の検定（カイ二乗検定）　演習
第9回　オッズ比とリスク比、相関と回帰
第10回　オッズ比とリスク比、相関と回帰　演習
第11回　分散分析　多変量解析　ノンパラメトリック検定
第12回　分散分析　演習　　総合演習グループワーク
第13回　グループごとの統計調査プレゼンテーション①
第14回　グループごとの統計調査プレゼンテーション②
第15回　まとめ

履修上の注意点

毎回の授業でグループごとに課題を課します。課題は次回の講義までにメールで提出してもらいます。

教科書

「医療統計」わかりません！！
著者:　五十嵐　中
出版社:　東京図書
出版年:　2010　　ISBN:　4489020791

参考書

統計学の図鑑
著者:　涌井良幸
出版社:　技術評論社
出版年:　2015　　ISBN:　4774173312

統計と確率ケーススタディ30
著者:
出版社:　ニュートンプレス
出版年:　2014　　ISBN:　4315519901

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 10 ）

a90101d210

毎回の課題の出来具合を成績評価に含めます。グループ発表の評価にはルーブリック等を使用します。内容は、授業中に教示します。授業中に発表or質問した班には、その度点数加算を行いますので、積極的に意見を述べて下さい。

2018 Syllabus

科 目 名　**統計学基礎論（作業・検査）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　藤原　勇	

テーマ

統計学の基礎知識の理解

授業の到達目標

統計学の基礎知識を習得するため、講義形式で授業を進める。

授業の概要

論文を読み、研究を進めるうえで、統計学の知識は欠かせない。
この授業では、統計学の基礎知識や基本的な統計手法について理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各授業のテキストの該当箇所を読むこと。加えて、参考書に挙げた書籍も合わせて読むことが望ましい。
課題に対するフィードバックは適宜授業内でアナウンスする。

内　容

第1回　ガイダンス
　テキスト:Chapter1-2
第2回　研究デザイン
　テキスト:Chapter2
第3回　データとグラフ
　テキスト:Chapter3-4
第4回　分布と標準化
　テキスト:Chapter5
第5回　推定と検定
　テキスト:Chapter8-9
第6回　データの範囲と外れ値
　テキスト:Chapter10
第7回　t検定
　テキスト:Chapter11
第8回　分散分析（1）
　テキスト:Chapter12
第9回　分散分析（2）
　テキスト:Chapter12
第10回　ノンパラメトリック検定
　テキスト:Chapter15-16
第11回　共分散と相関
　テキスト:Chapter6
第12回　相関分析と回帰分析（1）
　テキスト:Chapter17-18
第13回　相関分析と回帰分析（2）
　テキスト:Chapter17-18
第14回　構造方程式モデリング
　テキスト:Chapter19-20,22
第15回　統計知識の活用を目指して

履修上の注意点

統計手法を理解するためには、この授業の前半の統計学の基本知識が必須である。
そのため、わからないことがあればすぐに質問するか、自分で調べるかするように努めてください。

教科書

人間科学のための統計分析　こころに関心があるすべての人のために

著者:　石井秀宗

出版社:　医歯薬出版

出版年:　2014　　ISBN:　9784263731611

参考書

よくわかる心理統計

著者:　山田剛史・村井潤一郎

出版社:　ミネルヴァ書房

a90101d212

出版年: 2004 ISBN: 9784623039999

成績評価

試験・レポート（ 75 ） 小テスト（ 25 ）
授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**臨床心理学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　濱田　智崇	

テーマ

対人援助職に必要な臨床心理学の知識や考え方を身につける

授業の到達目標

対人援助職として人とかかわるために必要な、臨床心理学の知識や考え方を身につけることを目的とする。理論だけではなく、それをバックボーンとして「自分が」どのように相手へかかわる存在になっていくのか、それぞれが、主体的に考えられるようになることを目指す。

授業の概要

いくつかの心理療法の基礎となる理論的枠組みと、さまざまな精神的障害に関する基本的な知識を学ぶ。知識だけにとどまらず、自分が現場にコミットして、相手との関係の中で考える「臨床の知」としての思考力を身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中に紹介する参考文献を読んでおくと理解が深まる

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　臨床心理学とは何か
第3回　カウンセリングの基礎とロジャーズ①
第4回　カウンセリングの基礎とロジャーズ②
第5回　フロイトの精神分析理論（防衛機制）
第6回　フロイトの精神分析理論（転移）
第7回　記憶・学習・行動療法①
第8回　記憶・学習・行動療法②
第9回　その他の心理療法
第10回　対人援助職として必要な態度
第11回　発達理論（フロイト・エリクソン・ピアジェ）①
第12回　発達理論（フロイト・エリクソン・ピアジェ）②
第13回　心理検査（人格検査・知能検査）①
第14回　心理検査（人格検査・知能検査）②
第15回　まとめ
第16回　期末試験

履修上の注意点

欠席はしないようにしてください。毎回練習問題を解きながら進めますので、その都度内容は頭に入れるようにしてください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 60% ）	小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**人体の構造と機能実習Ⅰ（構造系）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　木村　智子	

テーマ

多岐にわたる理学療法対象疾患への臨床応用を念頭に置き、筋・骨格系ならびに神経系を中心とした基礎知識を統合し、臨床推論へと導く知識を習得する。

授業の到達目標

1．運動器の触察手技を身に付ける。
2．運動器疾患のうち、臨床で遭遇する機会の多い障害に関連する身体構造を機能解剖学的視点で捉えることができる。
3．神経疾患の臨床症状を解剖・生理学的な視点で捉え、臨床推論していく糸口を見出せる。

授業の概要

1年次に学習した人体の構造と機能演習ⅠおよびⅡの知識を整理しながら、骨模型や様々なモデルを用いて互いの身体を使いながら学習を進めていく。一部デモンストレーションや供覧を行いながら、解剖・生理学的知識が臨床活動へどのように繋がるのか教授していく。1年次の復習を十分に行った上で実習に臨むことで、各自積極的に学ぶ姿勢を持ち、ヒトの動きを主な治療対象とする理学療法士の諸活動に生かしてくことができる知識と技術を習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

人体の構造と障害の成り立ちを理解すべく、さまざまな取り組みを積極的に実行していく姿勢が求められる。疑問点があれば、その場で解決していくことが重要となる。

内　容

第1回　運動器の触察と運動の理解（上肢帯・上肢）
第2回　運動器の触察と運動の理解（頭頚部）
第3回　頸肩腕障害に関連する身体構造の機能解剖学的特徴
第4回　肘・手関節障害に関連する身体構造の機能解剖学的特徴
第5回　運動器の触察と運動の理解（胸腰部）
第6回　腰痛（背部痛を含む）に関連する身体構造の機能解剖学的特徴
第7回　運動器の触察と運動の理解（骨盤帯・股関節）
第8回　仙腸関節機能障害・股関節疾患に関連する身体構造の機能解剖学的特徴
第9回　運動器の触察と運動の理解（膝・足）
第10回　膝関節ならびに足関節・足部の障害に関連する身体構造の機能解剖学的特徴
第11回　中枢神経と末梢神経の構造と機能の関連性
第12回　中枢神経障害に関連する身体構造の機能解剖学的理解
第13回　末梢神経障害に関連する身体構造の機能解剖学的理解
第14回　反射の成り立ちとその障害からわかること
第15回　まとめ

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。
医療人として倫理に欠ける行為や授業妨害に繋がる行為が認められた場合、受講をお断りする。

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系　第2版
著者:　坂井建雄･他(訳)
出版社:　医学書院
出版年:　2011　　ISBN:

プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部/神経解剖 第2版
著者:　坂井建雄･他(訳)
出版社:　医学書院
出版年:　2014　　ISBN:

a90102a210

プロメテウス解剖学アトラス 胸部/腹部・骨盤部 第2版
著者: 坂井建雄・他(訳)
出版社: 医学書院
出版年: 2014 ISBN:

トートラ人体の構造と機能 第4版
著者: 桑木共之・他(編訳)
出版社: 丸善出版
出版年: 2012 ISBN:

ネッター解剖生理学アトラス
著者: 相磯貞和(訳)
出版社: 南江堂
出版年: 2006 ISBN:

人体機能生理学 改定第5版
著者: 杉晴夫(編)
出版社: 南江堂
出版年: 2009 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 40 ）
授業中課題 （ 40 ）
参加度 （ 20 ）
小テスト（ ）
授業中発表等 （ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**人体の構造と機能実習Ⅱ（機能系）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　木村　智子	

テーマ

生体内で引き起こされる様々な機能を理解するため、基本的な検査を体験し、臨床応用するための基礎知識を習得する。

授業の到達目標

1. バイタルサインを測定し、データの意味を述べられる。
2. 呼吸・循環器系、筋骨格系、神経系の機能検査の概要が説明できる。
3. 呼吸・循環器系、筋骨格系、神経系の機能検査データの意味を述べられる。

授業の概要

バイタルサインの測定、呼吸機能の検査、心電図、筋電図、筋力検査などを実施し、ここで得られたデータを分析し、レポートを作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

人体の機能を理解すべく、さまざまな取り組みを積極的に実行していく姿勢が求められる。疑問点があれば、その場で解決していくことが重要となる。

内　容

第1回　脈拍測定、血圧測定、心音聴取、呼吸音聴取
第2回　心電図1
第3回　心電図2
第4回　呼吸機能検査1
第5回　呼吸機能検査2
第6回　呼吸機能検査3
第7回　筋力検査1
第8回　筋力検査2
第9回　筋力検査3
第10回　筋電図1
第11回　筋電図2
第12回　筋電図3
第13回　脳波1
第14回　脳波2
第15回　まとめ

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。
医療人として倫理に欠ける行為や授業妨害に繋がる行為が認められた場合、受講をお断りする。

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系　第2版
著者:　坂井建雄･他(訳)
出版社:　医学書院
出版年:　2011　　ISBN:

プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部/神経解剖 第2版
著者:　坂井建雄･他(訳)
出版社:　医学書院
出版年:　2014　　ISBN:

a90102a350

プロメテウス解剖学アトラス 胸部/腹部・骨盤部 第2版
著者: 坂井建雄・他(訳)
出版社: 医学書院
出版年: 2014 ISBN:

トートラ人体の構造と機能 第4版
著者: 桑木共之・他(編訳)
出版社: 丸善出版
出版年: 2012 ISBN:

ネッター解剖生理学アトラス
著者: 相磯貞和(訳)
出版社: 南江堂
出版年: 2006 ISBN:

人体機能生理学 改定第5版
著者: 杉晴夫(編)
出版社: 南江堂
出版年: 2009 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 40 ）
授業中課題 （ 40 ）
参加度 （ 20 ）
小テスト（ ）
授業中発表等 （ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**運動生理学演習**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀江　淳.甲斐　義浩	

テーマ

運動における神経系、筋骨格系、呼吸循環器系、代謝系の変化を理解し理学療法へ応用する。

授業の到達目標

本授業の目的は以下のこととする。
・神経細胞の構造と情報伝達のメカニズムについて理解すること。
・骨格筋の構造と筋収縮のメカニズムについて理解すること。
・呼吸器系の解剖、生理学を復習し、運動時の呼吸器系の変化を理解すること。
・循環器系の解剖、生理学を復習し、運動時の循環器系の変化を理解すること。
・代謝、体温調節など生体における運動中の変化を理解すること。

授業の概要

講義による座学を中心とするが、測定方法などを理解する場合は実技、実習を取り入れていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

当該科目における国家試験の過去問において、どのような問題が出題されているか十分に確認しておくこと。

内　容

第1回　第1回
　呼吸①　呼吸器の構造と機能、呼吸調節、血液ガスの解釈について学習する。
第2回　呼吸②　呼吸機能検査（フローボリューム検査と肺気量分画検査）の解釈と実際について学習する。
第3回　循環①　循環器の構造と機能、循環調節
第4回　循環②　運動時の心拍変動について学習する。
第5回　運動耐容能　酸素輸送系における循環応答（呼気ガス分析による酸素摂取量測定）の解釈と実際について学習する。
第6回　代謝　基礎代謝と運動時エネルギー代謝の理解する。
第7回　体温調節　体温、熱産生、熱放散の理解する。
第8回　運動を支配する機能[神経系]①　神経系総論
第9回　運動を支配する機能[神経系]②　神経細胞の構造と機能
第10回　運動を支配する機能[神経系]③　膜電位（静止膜電位と活動電位）
第11回　運動を発現する機能[神経系]④　興奮の伝導と伝達
第12回　運動を発現する機能[骨格筋]①　骨格筋の収縮メカニズム
第13回　運動を発現する機能[骨格筋]②　筋収縮のエネルギー
第14回　運動を発現する機能[骨格筋]③　筋電図の基礎
第15回　総まとめ

履修上の注意点

講義の進行を妨げる行為（私語、携帯電話の使用など）や、受講態度に明らかな問題がある場合（うつ伏せ居眠り、内職、スマートフォンの使用など）は受講をお断りします。

教科書

標準理学療法学・作業療法学　生理学
著者:　岡田隆夫・他
出版社: 医学書院
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 90 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 10 ）
期末試験の受験は堀江担当範囲、甲斐担当範囲のそれぞれの講義の3分の2以上の出席を必要とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**運動学演習**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　甲斐　義浩.野中　紘士	

テーマ

四肢・体幹における関節の解剖学的構造と運動について理解する。

授業の到達目標

1.身体運動に関与する骨格筋の解剖学的作用および運動学的作用について理解できる。
2.身体の動作における各筋の相互作用について理解できる。
3.運動学で得た知識に基づき、運動障害分析の基礎を理解できる。
4.運動学に関する過去の国家試験問題を解き、解説することができる。

授業の概要

運動学の講義内容をもとにした演習を行う。身体運動を定量化する手法について学ぶとともに、四肢・体幹における運動の計測を通して正常な関節運動について理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

当該科目における国家試験の過去問において、どのような問題が出題されているか十分に確認しておくこと。

内　　容

第1回　手の構造と機能（1）
第2回　手の構造と機能（2）
第3回　手の構造と機能（3）
第4回　脊柱の構造と機能（1）
第5回　脊柱の構造と機能（2）
第6回　脊柱の構造と機能（3）
第7回　股関節の構造と機能（1）
第8回　股関節の構造と機能（2）
第9回　股関節の構造と機能（3）
第10回　膝関節の構造と機能（1）
第11回　膝関節の構造と機能（2）
第12回　膝関節の構造と機能（3）
第13回　足関節・足部の構造と機能（1）
第14回　足関節・足部の構造と機能（2）
第15回　総まとめ

履修上の注意点

講義の進行を妨げる行為（私語、携帯電話の使用など）や、受講態度に明らかな問題がある場合（うつ伏せ居眠り、内職、スマートフォンの使用など）は受講をお断りします。

教科書

基礎運動学　第6版補訂
著者:　中村　隆一・他
出版社: 医歯薬出版株式会社
出版年: 2013　　ISBN:

エッセンシャル・キネシオロジー　第2版
著者:　Mansfield PJ・他（著）弓岡光徳・他（訳）
出版社: 南江堂
出版年: 2015　　ISBN:

参考書

プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論／運動器系　第2版
著者:　坂井建雄（監訳）
出版社: 医学書院
出版年: 2011　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 100% ）　　小テスト（ ）

a90102a510

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

期末試験の受験は、講義の3分の2以上の出席を必要とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**臨床運動学演習**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　甲斐　義浩.野中　紘士	

テーマ

生体力学の基礎を学び，重力環境下における姿勢や歩行のメカニズムを理解する。

授業の到達目標

1. 身体運動に関与する力学的要素（力，加速度，重心，モーメントなど）を理解できる。
2. 姿勢や歩行の力学的メカニズムについて理解できる。
3. 運動学習の理論について理解できる。

授業の概要

人間の動作や運動にかかわる人体の解剖学的構造と生理学的機能、および生体力学的変数と臨床上の問題との関係について解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

当該科目における国家試験の過去問において、どのような問題が出題されているか十分に確認しておくこと。

内　　容

第1回　生体力学の基礎（1）－身体に作用する力、重心について
第2回　生体力学の基礎（2）－床反力と重心の加速度について
第3回　生体力学の基礎（3）－関節モーメントについて
第4回　歩行の基礎（1）－歩行周期および相，基本的な機能について
第5回　歩行の基礎（2）－歩き始めの歩行力学
第6回　歩行の基礎（3）－足関節および足部における歩行力学 1
第7回　歩行の基礎（4）－足関節および足部における歩行力学 2
第8回　歩行の基礎（5）－膝関節における歩行力学
第9回　歩行の基礎（6）－股関節における歩行力学
第10回　力の合成と分解について
第11回　仕事と力学的エネルギーについて
第12回　姿勢の基礎（1）－姿勢と安定性について
第13回　姿勢の基礎（2）－姿勢制御について
第14回　運動学習
第15回　総まとめ

履修上の注意点

講義の進行を妨げる行為（私語、携帯電話の使用など）や、受講態度に明らかな問題がある場合（うつ伏せ居眠り、内職、スマートフォンの使用など）は受講をお断りします。

教科書

基礎運動学　第6版補訂
著者:　中村隆一・他
出版社: 医歯薬出版株式会社
出版年: 2012　　ISBN:

歩行分析　正常歩行と異常歩行　原著第2版
著者:　Perry J（著），武田功（訳）
出版社: 医歯薬出版株式会社
出版年: 2012　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 100% ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）
期末試験の受験は、講義の3分の2以上の出席を必要とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**人間発達学（理学）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　崎田　正博.村田　伸	

テーマ

人間の誕生から死に至るまでの生涯を発達という視点からとらえ、身体・心理両面における人間発達に関する基礎的知識を教授する。その際、人間が発達する上で欠かせない外界との関わりにも言及する。

授業の到達目標

1. 人間の胎生期、新生児期、乳児期に焦点をあて、発達的視点を理解する。　2. 身体や運動機能、知的、心理的、社会的発達を理解する。

授業の概要

発表形式の授業も含みます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

ヒトの発達を学ぶことは、リハビリテーション対象者の回復を学ぶことと同等であるので、主体的に参加すること。

内　容

第1回　総論1：定義と目的、発達理論、発達の法則
第2回　総論2：定義と目的、発達理論、発達の法則
第3回　反射と運動1：中枢神経の階層性1
第4回　反射と運動2：中枢神経の階層性2
第5回　知覚・認知の発達1：胎児・新生児の知覚・認知
第6回　知覚・認知の発達2：乳幼児の知覚・認知
第7回　知覚・認知の発達3：学童の知覚・認知
第8回　知覚・認知の発達4：成人期以降の知覚・認知
第9回　運動発達1：新生児・乳幼児の運動発達1
第10回　運動発達2：新生児・乳幼児の運動発達2
第11回　運動発達3：新生児・乳幼児の運動発達3
第12回　社会性の発達1：乳幼児の社会性
第13回　社会性の発達2：学童の社会性
第14回　社会性の発達3：青年期・成人期の社会性
第15回　まとめ

履修上の注意点

1／3以上の欠席で単位なし

教科書

リハビリテーションのための人間発達学
著者：　大城昌平
出版社：メディカルプレス
出版年：　　ISBN：　9784944026609

参考書

成績評価

試験・レポート（ 90% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 10% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**検査・測定実習**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期集中	定　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　宮﨑　純弥.安彦　鉄平.小田桐　匡.甲斐　義浩.兒玉　隆之.崎田　正博.白岩　加代子.濱出　茂治.堀江　淳.松尾　奈々.村田　伸	

テーマ

授業の到達目標

1)社会人・専門職としての基本的態度を身につける。
2)対象者とのコミュニケーションをとることができる。
3)医療従事者として責任および節度のある態度と行動を身につける。
4)対象者に対して、基本的な評価項目を正しく実施できる。
5)基本的な評価結果を記録し、報告することができる
6)学内での講義・実習の意義を理解し学習意欲を高める。

授業の概要

基礎医学および疾病と障害に関する知識と「臨床基礎実習」の経験をふまえて、実習指導者の指導・教育のもと、理学療法士の評価・治療場面の見学のほか、初歩的な検査・測定の手順についても体験し、統合と解釈の重要性を理解する。本実習を通して、理学療法の対象者の障害の多様性を認識すると共に、疾病や障害に応じた評価および障害像の捉え方を学び、専門知識と技術の重要性について認識する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　オリエンテーション：実習概要を理解し、実習に取り組む際の注意事項などについて確認する。
第2回　現場実習
第3回　現場実習
第4回　現場実習
第5回　現場実習
第6回　現場実習
第7回　現場実習
第8回　現場実習
第9回　現場実習
第10回　現場実習
第11回　現場実習
第12回　現場実習
第13回　現場実習
第14回　現場実習
第15回　現場実習
第16回　現場実習
第17回　現場実習
第18回　現場実習
第19回　現場実習
第20回　現場実習
第21回　現場実習
第22回　現場実習
第23回　現場実習
第24回　現場実習
第25回　現場実習
第26回　現場実習
第27回　現場実習
第28回　現場実習
第29回　現場実習
第30回　実習終了後セミナー：実習経験報告、集団討議、事例検討・報告などから成る。学生は、実習課題を中心に、実習施設の特徴や実習した内容および経験について要点をまとめて簡潔に発表する。

履修上の注意点

教科書

参考書

a90102aa50

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50% ）　　授業中発表等（ 30% ）
参加度 （ 20% ）
実習の出席は80%以上で単位認定の資格を得る。

2018 Syllabus

科 目 名　**物理療法学演習**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　濱出　茂治.中野　英樹	

テーマ

物理療法の適切な使用法を学修することを目的とする。また、各種物理療法が生体に与える影響についても実習を通して学習し、物理療法機器の危険性と安全性の理解を図る。

授業の到達目標

物理療法における疼痛抑制、温熱、痙性抑制等の治療効果に関する基本的特性を実験によって修得する。

授業の概要

・治療機器の操作を理解する。・物理エネルギーがどのような影響を生体に与えるかを理解する。・多様な機能障害への臨床適用技術を修得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

物理療法学に関する教科書、文献等の自己学習、レポート課題の学習

内　　容

第1回　電気療法におけるモーターポイント探索実習（上肢）
第2回　電気療法におけるモーターポイント探索実習（上肢）
第3回　電気療法におけるモーターポイント探索実習（下肢）
第4回　電気療法におけるモーターポイント探索実習（下肢）
第5回　温熱・寒冷療法における生体皮膚温度の測定実習(1)
第6回　温熱・寒冷療法における生体皮膚温度の測定実習(2)
第7回　温熱・寒冷療法における生体皮膚温度の測定実習(3)
第8回　水治療法における生体皮膚温度の測定実習(1)
第9回　水治療法における生体皮膚温度の測定実習(2)
第10回　光線療法における皮膚紅斑反応測定実習(1)
第11回　光線療法における皮膚紅斑反応測定実習(2)
第12回　電気療法における治療シミュレーション実習(1)
第13回　電気療法における治療シミュレーション実習(2)
第14回　牽引療法におけるシミュレーション実習(1)
第15回　牽引療法におけるシミュレーション実習(2)

履修上の注意点

教科書

参考書

テキスト物理療法学
著者:　濱出茂治
出版社:　医歯薬
出版年:　2016　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 80% ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法技術学入門演習Ⅱ（筋・神経の触察）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮﨑　純弥.松尾　奈々	

テーマ

筋・神経の機能解剖学を学び、検査・測定や治療に必要な触診を演習形式で学習する。

授業の到達目標

1. 学習者が演習を理解するために、解剖学的構造の名称および形などの基礎知識を修得することができる。
2. 学習者が視診・触診を行うために、人体での体表の解剖学的構造の形について認識できる。
3. 学習者が評価・治療の実施ができるために、解剖学的構造を実際の身体で視診・触診する技術を修得できる。

授業の概要

理学療法士は、関節を操作することで身体運動の改善を促す専門家である。そのためには、その原点である関節を構成する組織について、解剖学・運動学・生体力学などの観点から理解していることが望ましい。この講義では、筋・神経の解剖学的知識を学び、それらを触り部位を確認できる能力を習得することを目的とする。また、実際の治療では対象者の身体を扱うため、触られたときの感覚を知っておくことも重要である。そのため、触られている感覚を言語化してフィードバックすることで相互の学習効果が期待できる。演習への姿勢、受講態度を通じて医療人としての意識を芽生えさせることもねらいとする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

内　容

第1回　オリエンテーション、総論（筋の形、触診法）
第2回　肩甲帯筋の触診
第3回　肩甲帯筋の触診
第4回　上腕筋の触診
第5回　上腕筋の触診
第6回　前腕筋の触診
第7回　前腕筋・手の内在筋の触診
第8回　頸筋・頭部の筋の触診
第9回　体幹筋の触診
第10回　体幹筋の触診
第11回　骨盤筋の触診
第12回　大腿筋の触診
第13回　大腿筋・下腿筋の触診
第14回　下腿筋の触診
第15回　足の内在筋の触診

なお、外部講師を招いて講演会を実施することがある

履修上の注意点

実技を行いますので、臨床実習に行けるような身だしなみで参加すること。茶髪などやアクセサリーなどの着用は禁止する。

教科書

改訂第2版　運動療法のための機能解剖学的触診技術　上肢
著者:　林典雄
出版社:　メジカルビュー
出版年:　2011　　ISBN:　9784758311366

改訂第2版　運動療法のための機能解剖学的触診技術　下肢・体幹
著者:　林典雄
出版社:　メジカルビュー
出版年:　2011　　ISBN:　9784758311367

プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系第3版
著者:　坂井建雄
出版社:　医学書院
出版年:　2011　　ISBN:　9784260010689

参考書

a90102b310

成績評価

試験・レポート（ 50% ）　　小テスト（ 実技試験50% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法評価学総論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小田桐　匡.安福　祐一	

テーマ

理学療法評価を総論的に学習する. また形態測定および関節可動域の測定については技術的な学習も合わせて行う.

授業の到達目標

1. 障害モデルと生活モデルを説明できる。2. 理学療法における検査・測定、治療の流れを説明できる。3. 形態測定の方法と関節可動域の測定を実施できる。

授業の概要

理学療法における検査・測定、治療の流れを理解し、基本的な検査・測定の意義や手技について学習する。また、リハビリテーションの観点から障害評価を理解し、患者の問題を考える指標となる障害モデルについて学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

第6回～15回は授業前にその日に行う実技に関する小テスト（成績に含む）を行うので, 事前に予習しておくこと.

内　容

第1回　臨床における診ること、聴くこと、触ること。臨床におけるコミュニケーション
第2回　障害モデルと生活モデルの歴史と理解。理学療法評価の意義
第3回　情報の収集と検査、測定について
第4回　動作分析、統合と解釈について
第5回　問題点の抽出と治療計画の設定、理学療法の中間評価と最終評価について
第6回　形態測定（肢長）
第7回　形態測定（周径）
第8回　関節可動域の測定の基礎（ゴニオメータの使用方法、記録の方法など） 関節可動域の測定（肩甲帯）
第9回　関節可動域の測定（肩）
第10回　関節可動域の測定（肘・前腕）
第11回　関節可動域の測定（手・母指・指）
第12回　関節可動域の測定（股）
第13回　関節可動域の測定（膝・足・足部）
第14回　関節可動域の測定（足指・体幹）
第15回　関節可動域の測定（まとめ）

履修上の注意点

医療従事者として患者さんに接するのに相応しい身だしなみで受講すること.

教科書

リハビリテーション基礎評価学（PT・OT）ビジュアルテキスト
著者:　潮見泰藏、下田信明
出版社:　羊土社
出版年:　2014　　ISBN:　4758107939

参考書

成績評価

試験・レポート （ 40 ）　　小テスト （ 30 ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 0 ）
単位認定試験を受験するためには3分の2以上の出席を条件とする

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法評価学総論実習**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小田桐　匡.松尾　奈々	

テーマ

理学療法評価における検査測定の実際について学習する。理学療法評価を施行する上で必要な基礎的知識の理解と技術の習得を中心に、各種検査・評価を演習形式で教授する。

授業の到達目標

1. 各種検査・評価の意義や目的を説明することができる。
2. 各種検査・評価の手順および注意点について説明することができる。
3. 適した検査法が具体的に実施することができる。
4. 各種検査・評価の結果が記録できる。

授業の概要

理学療法評価とは、対象者にとってその障害がどういう意味をなすかを解釈し判断する過程である。理学療法はその過程を通して、適宜必要と判断された治療行為に結び付けていく。この授業では、評価の意義、またその目的を理解し、治療行為に結び付けていく考え方について判断できるようになることを目標とする。また、理学療法評価でも基本的な評価項目である徒手筋力検査法(MMT)をはじめとする理学療法評価の実習を行い、各種理学療法評価技術の習得を目指す。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

実技が講義の大半を占める。実技のみならず実施上の要点が詳細に記載された内容等を確認し，しっかりと予習復習すること。実技に関しては学生同士時間を見つけて積極的に練習に励むことをお勧めする。

内　　容

第1回　オリエンテーション、神経学的検査:感覚検査(意義、目的)
第2回　神経学的検査:感覚検査(方法について)
第3回　神経学的検査:感覚検査(学生間での実習)
第4回　筋力検査(意義、目的)
第5回　粗大筋力検査
第6回　徒手筋力検査(原理について)
第7回　徒手筋力検査(肩関節)
第8回　徒手筋力検査(肩関節)
第9回　徒手筋力検査(肘関節)
第10回　徒手筋力検査(肩甲骨)
第11回　徒手筋力検査(肩甲骨)
第12回　徒手筋力検査(前腕、手関節)
第13回　徒手筋力検査(頚筋、頭部)
第14回　徒手筋力検査(頚筋、頭部、顔面)
第15回　徒手筋力検査(体幹)
第16回　徒手筋力検査(体幹)
第17回　徒手筋力検査(股関節)
第18回　徒手筋力検査(股関節)
第19回　徒手筋力検査(膝関節)
第20回　徒手筋力検査(足関節)
第21回　まとめ・記述試験
第22回　まとめ・実技試験
第23回　まとめ・実技試験

履修上の注意点

3分の2以上の出席が単位離愁の条件である。

教科書

リハビリテーション基礎評価学(PT・OT)ビジュアルテキスト
著者:　潮見泰藏、下田信明
出版社:　羊土社
出版年:　2014　　ISBN:　9784758107938

新・徒手筋力検査法　原著第9版
著者:　津山直一、他(訳)
出版社:　協同医書出版社
出版年:　2014　　ISBN:　9784763900388

a90102b510

参考書

運動療法のための機能解剖学的触診技術　上肢

著者:　林　典雄

出版社: メジカルビュー社

出版年: 2011　　ISBN:　978-4758311366

動療法のための機能解剖学的触診技術　下肢・体幹

著者:　林　典雄

出版社: メジカルビュー社

出版年: 2912　　ISBN:　978-4758311373

成績評価

試験・レポート（ 100(実技試験は40%)）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度（ ）

試験は筆記試験と実技試験となる。筆記試験では特に教科書の内容をよく理解すること。授業で指摘された項目についても曖昧な点がないように復習してほしい。 実技試験は沢山実践を積むことが試験をパスするためには近道である。内容を頭で確認しながら何度も練習しておくこと。

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法評価学各論演習**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松尾　奈々.安彦　鉄平	

テーマ

本講義は、理学療法の対象となる代表的な疾患の検査方法の意義と方法論を学び、各疾患の評価結果を踏まえた理学療法の流れについて学ぶ。

授業の到達目標

1. 各種検査を実施するにあたり解剖学、生理学、神経内科学などの基礎知識を整理することができる。
2. 疾患・部位別の代表的な理学療法評価を理解することができる。
3. 各種検査・評価の意義および目的や注意点を説明することができる。
4. 各種検査における種類と方法を正しく理解することができる。
5. 疾患・部位別に適した検査法が具体的に実施することができる。
6. 各種検査・評価の結果が記録できる。
7. 適切なオリエンテーションができる。
8. 医療人としての基本的態度を身につけ、患者様に実践できる準備をする。

授業の概要

理学療法評価とは、対象者にとってその障害がどういう意味をなすかを解釈し判断する過程である。理学療法はその過程を通して、適宜必要と判断された治療行為に結び付けていく。この授業では、評価の意義、またその目的を理解し、治療行為に結び付けていく考え方について判断できるようになることを目標とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習:テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて理学療法評価に必要な専門基礎科目の復習を行う。
復習:各自の理解度に応じて学生間で理学療法評価の概要及び実技の復習を行う。

内　　容

第1回　オリエンテーション、神経学的検査:筋緊張検査
第2回　神経学的検査:筋緊張検査
第3回　神経学的検査:筋緊張検査
第4回　神経学的検査:筋緊張検査
第5回　神経学的検査:反射検査
第6回　神経学的検査:反射検査
第7回　神経学的検査:反射検査
第8回　協調性検査
第9回　協調性検査
第10回　神経障害系疾患の評価:片麻痺機能検査
第11回　神経障害系疾患の評価:片麻痺機能検査
第12回　神経障害系疾患の評価:片麻痺機能検査
第13回　神経障害系疾患の評価:片麻痺機能検査
第14回　神経障害系疾患の評価:脳神経検査
第15回　神経障害系疾患の評価:脳神経検査
第16回　神経障害系疾患の評価:脳神経検査
第17回　神経障害系疾患の評価:高次脳機能検査
第18回　神経障害系疾患の評価:高次脳機能検査
第19回　神経障害系疾患の評価:高次脳機能検査
第20回　神経障害系疾患の評価:高次脳機能検査
第21回　平衡機能検査
第22回　平衡機能検査
第23回　平衡機能検査
第24回　平衡機能検査
第25回　運動器疾患の評価:整形外科的検査（頚部・体幹疾患）
第26回　運動器疾患の評価:整形外科的検査（上肢疾患）
第27回　運動器疾患の評価:整形外科的検査（下肢疾患）
第28回　痛みの評価
第29回　痛みの評価
第30回　まとめ、記述テスト
なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

実技の際の身だしなみや服装は、病院実習時に準ずること。

教科書

a90102b650

病気がみえる〈vol.7〉脳・神経
著者: 医療情報科学研究所(編)
出版社: メディックメディア
出版年: ISBN:

リハビリテーション基礎評価学(PT・OT)ビジュアルテキスト
著者: 潮見泰藏、下田信明
出版社: 羊土社
出版年: 2014 ISBN: 9784758107938

参考書

ベッドサイドの神経の診かた
著者: 田崎義昭, 斎藤佳雄著
出版社: 南山堂
出版年: 2016 ISBN: 9784525247980

片麻痺の運動療法
著者: Signe Brunnstrom著 ; 佐久間穣爾,松村秩訳
出版社: 医歯薬出版
出版年: 1990 ISBN: 9784263210116

成績評価

試験・レポート (95%) 小テスト (0)
授業中課題 (0) 授業中発表等 (0)
参加度 (5%)
授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法評価学各論実習**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松尾　奈々.安彦　鉄平	

テーマ

本講義は、理学療法評価学各論演習で学んだ各種理学療法評価について、疾患および障害に適した検査・測定を選択できるようになる。また、評価方法について実習し、技術の習得や結果の解釈について学ぶ。また、学生同士で練習することで、対象者への配慮やリスク管理などについても理解する。

授業の到達目標

1. 各種疾患の障害メカニズムを説明することができる。
2. 各種疾患の代表的評価項目を述べることができる。
3. 各種疾患の評価手順に沿って実施することができる。
4. 各種疾患とICFにもとづく障害の整理ができる。
5. 対象者への配慮やリスク管理に留意して検査・測定を遂行することができる。

授業の概要

理学療法評価とは、対象者にとってその障害がどういう意味をなすかを解釈し判断する過程である。理学療法はその過程を通して、適宜必要と判断された治療行為に結び付けていく。この授業では、各疾患ごとの病態に応じた評価の意義、またその目的を理解し、評価項目の抽出および治療行為に結び付けていく考え方について理解できるようになることを目標とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習:テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて理学療法評価に必要な専門基礎科目の復習を行う。
復習:各自の理解度に応じて学生間で理学療法評価の概要及び実技の復習を行う。

内　容

第1回　オリエンテーション　神経・筋疾患（パーキンソン病）の障害像の理解と理学療法評価
第2回　神経・筋疾患（パーキンソン病）の障害像の理解と理学療法評価
第3回　神経・筋疾患（パーキンソン病）の障害像の理解と理学療法評価
第4回　神経・筋疾患（パーキンソン病）の障害像の理解と理学療法評価
第5回　運動器疾患（大腿骨頸部骨折）の障害像の理解と理学療法評価
第6回　運動器疾患（大腿骨頸部骨折）の障害像の理解と理学療法評価
第7回　運動器疾患（関節リウマチ）の障害像の理解と理学療法評価
第8回　運動器疾患（関節リウマチ）の障害像の理解と理学療法評価
第9回　運動器疾患（変形性関節症）の障害像の理解と理学療法評価
第10回　運動器疾患（変形性関節症）の障害像の理解と理学療法評価
第11回　運動器疾患（腰痛症）の障害像の理解と理学療法評価
第12回　運動器疾患（腰痛症・肩関節周囲炎）の障害像の理解と理学療法評価
第13回　運動器疾患（肩関節周囲炎）の障害像の理解と理学療法評価
第14回　神経障害系疾患（小脳疾患）の障害像の理解と理学療法評価
第15回　神経障害系疾患（小脳疾患）の障害像の理解と理学療法評価
第16回　神経障害系疾患（脳血管障害）の障害像の理解と理学療法評価
第17回　神経障害系疾患（脳血管障害）の障害像の理解と理学療法評価
第18回　神経障害系疾患（脳血管障害）の障害像の理解と理学療法評価
第19回　神経障害系疾患（脳血管障害）の障害像の理解と理学療法評価
第20回　神経障害系疾患（脊髄損傷）の障害像の理解と理学療法評価
第21回　神経障害系疾患（脊髄損傷）の障害像の理解と理学療法評価
第22回　神経障害系疾患（脊髄損傷）の障害像の理解と理学療法評価
第23回　まとめ
　　なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

授業日程の3分の2以上の出席が原則
実技の際の身だしなみや服装は、病院実習時に準ずること。

教科書

病気がみえる〈vol.7〉脳・神経
著者:　医療情報科学研究所（編）
出版社:　メディックメディア
出版年:　　ISBN:

a90102b750

3日間で行う理学療法臨床評価プランニング

著者: 中山 恭秀

出版社: 南江堂

出版年: ISBN:

リハビリテーション基礎評価学(PT・OT)ビジュアルテキスト

著者: 潮見泰藏、下田信明

出版社: 羊土社

出版年: 2014 ISBN: 9784758107938

参考書

ベッドサイドの神経の診かた

著者: 田崎義昭, 斎藤佳雄著

出版社: 南山堂

出版年: 2016 ISBN: 9784525247980

理学療法学ゴールド・マスター・テキスト1 理学療法評価学

著者: 柳澤健(編)

出版社: MEDICAL VIEW

出版年: 2010 ISBN: 9784758311083

成績評価

試験・レポート (90%) 小テスト (0)

授業中課題 (10%) 授業中発表等 (0)

参加度 (0)

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

2018 Syllabus

科 目 名　**運動療法学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　甲斐　義浩.合田　明生	

テーマ

理学療法の中核的な治療手段である運動療法について、その理論的背景と基本的技術を理解する。

授業の到達目標

1) 運動療法の目的について理解する。
2) 運動療法を行う上でのリスク管理ができる。
3) 運動療法の原理原則を理解する。
4) 各種治療方法の目的を理解し、基本的技術を身につける。
5) 運動療法学に関する過去の国家試験問題を解き、解説することができる。

授業の概要

理学療法の中核をなす「運動療法」を理解するために、これまでに学習した解剖学、運動学、生理学などの知識を統括しながら、運動療法に関する基礎知識と基本的技術を身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

これまにで学習した基礎科目（解剖学、運動学、生理学）の知識を整理したうえで講義に臨むこと。また、当該科目における国家試験の過去問において、どのような問題が出題されているか十分に確認しておくこと。

内　容

第1回　運動療法の概念（歴史、定義、理学療法における運動療法の位置づけ）
第2回　運動療法の基礎知識①
第3回　運動療法の基礎知識②
第4回　筋力維持・増強運動の原理について
第5回　筋力維持・増強運動の理論と方法
第6回　持久力の維持・向上運動の原理について
第7回　持久力の維持・向上運動の理論と方法
第8回　関節可動域制限に対する運動療法
第9回　実技：ストレッチング　－上肢①－
第10回　実技：ストレッチング　－上肢②－
第11回　実技：ストレッチング　－上肢③－
第12回　実技：ストレッチング　－下肢①－
第13回　実技：ストレッチング　－下肢②－
第14回　実技：ストレッチング　－下肢③－
第15回　総まとめ

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。　講義の進行を妨げる行為や、受講態度に明らかな問題がある場合は受講をお断りします。

教科書

運動療法学―障害別アプローチの理論と実際
著者：　市橋則明
出版社：文光堂
出版年：2014　　ISBN：4830645032

IDストレッチング　第2版
著者：　鈴木重行・平野幸伸・鈴木敏和
出版社：三輪書店
出版年：2006　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（100%）　　小テスト（　）
授業中課題（　）　　授業中発表等（　）
参加度（　）

2018 Syllabus

科 目 名　**物理療法学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　濱出　茂治	

テーマ

物理療法における治療技術、治療特性、適応と禁忌等の知識を理解する。さらに骨・関節、神経・筋疾患に対する臨床適用技術法を修得する。

授業の到達目標

1. 物理療法における評価方法および治療量の適切な決定基準を理解する。2. 疼痛症状、創傷、骨・関節障害、神経・筋障害等の病態を理解する。3. 治療リスクおよび事故防止方法を理解する。4. 基本的治療技術方法を理解する。

授業の概要

物理療法における治療技術、治療特性、適応と禁忌などの知識を理解する。さらに種々の疾患における臨床適用方法を修得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

物理療法学に関する教科書、文献等の自己学習、レポート課題の学習

内　　容

第1回　物理療法の歴史、定義、体系
第2回　物理療法における評価法
第3回　表在温熱療法Ⅰ:伝導熱、輻射熱、対流熱
第4回　表在温熱療法Ⅱ:パラフイン浴、赤外線療法
第5回　深部温熱療法Ⅰ:エネルギー変換熱（超短波、極超短波）
第6回　深部温熱療法Ⅱ:エネルギー変換熱（超音波療法、低出力超音波療法）
第7回　寒冷療法:冷却法、痙性抑制法、神経・筋促通法
第8回　極低温療法:局部冷却、全身冷却
第9回　水治療法:ハバードタンク、過流浴、圧注法、交代浴、灌注法
第10回 光線療法:紫外線、ソフトレーザー療法
第11回 電気刺激療法Ⅰ:経皮的末梢神経電気刺激、高電圧刺激、干渉電流刺激
第12回 電気刺激療法Ⅱ:神経・筋電気刺激、機能的電気刺激法
第13回 牽引療法:四肢牽引、頸椎牽引、腰椎牽引
第14回 電気診断:時間ー強さ曲線作図法、誘発筋電図（M波、H波、F波、運動誘発電位）
第15回 まとめ

履修上の注意点

1/3以上の欠席は認めない。

教科書

テキスト物理療法学　ー基礎と臨床ー
著者:　濱出茂治、烏野大
出版社:　医歯薬出版
出版年:　2016　　ISBN:　9784263217153

参考書

成績評価

試験・レポート（ 80 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**生活技術学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安彦　鉄平.合田　明生	

テーマ

理学療法の大きな目標の一つである日常生活活動の自立を目指すための理学療法の一連の流れを学習する。

授業の到達目標

1. 基本的ADLと手段的ADLを説明できる。2. ADLの代表的な評価方法を実践できる。3. ADLの自立に向けた基本的なアプローチ方法を説明できる。4. 疾患特有のADL障害を理解し、そのアプローチ方法を説明できる。

授業の概要

ADLの評価について講義および演習形式で学習する。また、補装具やADL自立に向けた基本的なアプローチに関しては、体験や実技を加えながら学習を進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習:テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて理学療法評価に必要な専門基礎科目の復習を行う。復習:各自の理解度に応じて復習を行う。

内　容

第1回　日常生活活動（ADL）の概念
第2回　ADLの評価の実際（BI）
第3回　ADLの評価の実際（FIM）
第4回　ADLの評価の実際（FIM）
第5回　手段的日常生活活動（IADL）の評価
第6回　補装具（杖と車いす）
第7回　起居・移動動作
第8回　身の回り動作
第9回　ADLを支援する機器
第10回　疾患別ADL（脳卒中）
第11回　疾患別ADL（脊髄損傷）
第12回　疾患別ADL（関節リウマチ）
第13回　疾患別ADL（大腿骨頸部骨折）
第14回　疾患別ADL（変形性関節症）
第15回　疾患別ADL（下肢切断）

履修上の注意点

3分の2以上の出席をもって、成績判定を行う。実技の授業に関しては，実習と同等の身だしなみで参加をすること。

教科書

日常生活活動テキスト
著者:　河元岩男・他偏
出版社:　南江堂
出版年:　2014　　ISBN:　4524266097

参考書

成績評価

試験・レポート（ 90 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 10 ）
授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

2018 Syllabus

科 目 名　**運動器障害系理学療法学基礎演習**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮﨑　純弥.安彦　鉄平.野中　紘士	

テーマ

運動器障害系理学療法の基礎的な知識と技術の習得を促進

授業の到達目標

運動器系疾患に対する理学療法を実施するうえで必要な基礎知識を学び、基本的な治療手技を学ぶ。講義と実技を行う。

授業の概要

運動器系疾患に対する理学療法を実施するうえで必要な基礎知識を学び、基本的な治療手技を学ぶ。講義と実技を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストや参考書を使用して、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

内　容

第1回　理学療法プロセスとは
第2回　理学療法プロセス（障害の階層性）
第3回　理学療法プロセス（情報収集～検査測定の意味）
第4回　理学療法プロセス（統合解釈～治療計画立案）
第5回　骨折に関する基礎知識
第6回　大腿骨頸部骨折の理学療法
第7回　大腿骨頸部骨折の理学療法実技
第8回　変形性股関節症の理学療法
第9回　変形性股関節症の理学療法実技
第10回　変形性膝関節症の理学療法
第11回　変形性膝関節症の理学療法実技
第12回　腰痛症の理学療法1
第13回　腰痛症の理学療法2
第14回　腰痛症の理学療法実技
第15回　腰部疾患の理学療法
第16回　腰部疾患の理学療法実技
第17回　肩関節疾患の理学療法1
第18回　肩関節疾患の理学療法2
第19回　肩関節疾患の理学療法実技
第20回　関節リウマチの理学療法
第21回　関節リウマチの理学療法実技
第22回　下肢骨折の理学療法
第23回　下肢骨折の理学療法実技
第24回　上肢骨折の理学療法
第25回　上肢骨折の理学療法実技
第26回　脊椎疾患の理学療法
第27回　脊椎疾患の理学療法実技
第28回　靭帯損傷の理学療法
第29回　靭帯損傷の理学療法実技
第30回　総括
なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

茶髪等・ピアス等のアクセサリーの着用は厳禁です。いつでも実技が出来る服装で参加して下さい。

教科書

運動器障害理学療法学改定2版
著者:　編集）高柳清美・中川法一・木藤伸宏
出版社:　南江堂
出版年:　2016　　ISBN:　9784524242542

a90102c150

ここがポイント！整形外科疾患の理学療法改訂第2版

著者: 監修)冨士武史

出版社: 金原出版

出版年: 2006 ISBN: 9784307251334

参考書

成績評価

試験・レポート（ 90% ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ 5% ）

参加度 （ 5% ）

授業日程の2/3以上出席した者を成績評価の対象とします。

2018 Syllabus

科 目 名　**内部障害基礎論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀江　淳.宮本　尚	

テーマ

臨床現場で内科学の知識を活用しながら、理学療法、合併症管理、リスク管理に応用する。

授業の到達目標

内科学の知識を活用しながら、理学療法、合併症管理、リスク管理に応用できる湯にする。医師のリハビリテーション処方箋が正確に理解できるようにする。チーム医療の一員としての共通の知識を身につける。

授業の概要

最新医学の知見を入れながら、教材も教科書にとどまらず、DVDによる視聴覚授業も取り入れていく。また、ロールプレイ等も随時取り入れていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

教科書の予習、復習をしておく

内　　容

第1回　オリエンテーション、内科学概論、診断、治療、症候学とな何かを学ぶ
第2回　呼吸、循環器疾患について学ぶ
第3回　消化管、肝胆膵疾患について学ぶ
第4回　血液・造血器疾患、代謝性疾患について学ぶ
第5回　内分泌疾患、腎・泌尿器疾患について学ぶ
第6回　膠原病、アレルギー疾患、感染症について学ぶ
第7回　中毒性疾患、皮膚疾患について学ぶ
第8回　内科系疾患と障害学のかかわりについて学ぶ
第9回　循環器疾患と障害学のかかわりについて学ぶ−その1
第10回　循環器疾患と障害学のかかわりについて学ぶ−その2
第11回　呼吸器疾患と障害学のかかわりについて学ぶ−その1
第12回　呼吸器疾患と障害学のかかわりについて学ぶ−その2
第13回　代謝性疾患と障害学のかかわりについて学ぶ
第14回　腎疾患、膠原病と障害学のかかわりについて学ぶ
第15回　疾患から障害への展開（授業の総括）

履修上の注意点

教科書

標準理学療法学・作業療法学「内科学」
著者:　前田眞治他
出版社:　医学書院
出版年:　2014　　ISBN:　9784260017077

参考書

成績評価

試験・レポート（ 100 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
期末試験により評価する。3分の1以上欠席した者の期末試験は認めない。

2018 Syllabus

科 目 名　**発達障害基礎論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　崎田　正博.岡本　茂	

テーマ

小児疾患に関する診断と治療について学び、さらに小児疾患由来の障害とその障害像について把握する。

授業の到達目標

理学療法の対象となる小児疾患を理解する。小児疾患から生じる障害とその障害像を理解する。

授業の概要

前半は小児疾患について小児科医の見地から概説し、後半は小児疾患由来の障害について理学療法士の見地から概説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

コツコツと復習を行ってください。

内　容

第1回　脳性麻痺について
第2回　進行性筋ジストロフィー症について
第3回　二分脊椎について
第4回　ダウン症候群について
第5回　精神発達遅滞について
第6回　低出生体重児・ハイリスク児について
第7回　発達障害（自閉症、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害）について
第8回　脳性麻痺の障害の障害について-1
第9回　脳性麻痺の障害の障害について-2
第10回　進行性筋ジストロフィー症の障害について
第11回　二分脊椎の障害について
第12回　ダウン症候群の障害について
第13回　精神発達遅滞の障害について
第14回　低出生体重児・ハイリスク児の障害について
第15回　自閉症、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害の障害像について

履修上の注意点

15回授業で3分の1以上の欠席で履修認可は不可

教科書

こどもの理学療法
著者:　千住秀明
出版社:　神陵文庫
出版年:　　ISBN:　9784915814204

参考書

成績評価

試験・レポート（ 90% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 10% ）
前半と後半の2回に分けて試験を実施する。

2018 Syllabus

科 目 名　**運動器障害基礎論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　青山　朋樹.宮﨑　純弥	

テーマ

整形外科の歴史や理学療法との関わりを明らかにし、理学療法が、研究や臨床において、整形外科学の良きパートナーであることを認識することを主目的とする。
そのため、講義では、整形外科学における診断・検査の概要と、外傷性疾患、炎症性疾患、先天性疾患、代謝・内分泌系疾患、腫瘍などの主要疾患と理学療法の役割を解説する。

授業の到達目標

研究・臨床における理学療法と整形外科との関連の重要性について理解し、次に、整形外科臨床においてよく見られる、各種疾患における理学療法の要点を理解する。

授業の概要

まず、整形外科の歴史や理学療法との関わりを明らかにし、理学療法が、研究や臨床において、整形外科学の良きパートナーであることを認識することを主目的とする。そのため、講義では、整形外科学における診断・検査の概要と、外傷性疾患、炎症性疾患、先天性疾患、代謝・内分泌系疾患、腫瘍などの主要疾患と理学療法の役割を解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストや参考書を使用して、各自の理解度に応じて予習・復習を行う。

内　容

第1回　総論　整形外科学とリハビリテーションの関連
第2回　総論　整形外科学における診断法・検査法・治療法
第3回　総論　整形外科疾病論　①炎症性疾患
第4回　総論　整形外科疾病論　②代謝・内分泌性疾患
第5回　総論　整形外科疾病論　③骨・関節性疾患
第6回　総論　整形外科疾病論　④骨・軟部腫瘍
第7回　総論　整形外科疾病論　⑤神経・筋疾患
第8回　各論　外傷性疾患　①骨折
第9回　各論　外傷性疾患　②脊髄損傷
第10回　各論　外傷性疾患　③関節の損傷
第11回　各論　外傷性疾患　④腱・人体の損傷
第12回　各論　外傷性疾患　⑤末梢神経の損傷
第13回　各論　外傷性疾患　⑥スポーツ障害
第14回　各論　外傷性疾患　⑦熱傷と凍傷
第15回　各論　外傷性疾患　⑧切断と離断

履修上の注意点

教科書

標準整形外科学
著者:　中村利孝・松野丈夫
出版社: 医学書院
出版年: 2017　　ISBN:　9784260025379

参考書

成績評価

試験・レポート （ 90% ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ 5% ）
参加度 （ 5% ）
授業日程の2/3以上出席した者を成績評価の対象とします。

2018 Syllabus

科 目 名　**精神障害基礎論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　川岸　久也.市田　忍.四方　公康	

テーマ

適切な保健医療福祉活動を行うために必要な基本的な精神医学の知識を習得する。

授業の到達目標

理学療法士に必要な精神医学の基本を学ぶ。①症状を理解し、精神医学用語で説明できるようになる。②代表的な精神疾患の症状・経過・診断・治療などの基本事項を理解する。精神症状を合併した患者へのリハビリテーションを理解する。

授業の概要

レジュメに沿って、各事項について具体的な症例を交えながら説明する。各回の授業の最後で小テストを実施し、知識の整理に役立てる。最終的に期末テストを実施し、知識の確認を図る。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業後、参考書などで知識を整理すること。

内　容

第1回　精神医学の歴史、異常とは何か、精神科症候学
第2回　内因性の精神障害―統合失調症
第3回　内因性の精神障害―気分障害
第4回　心因性の精神障害―神経症、トラウマ関連障害
第5回　物質関連障害―アルコール依存と中毒、薬物依存と中毒
　　器質性精神病―認知症
第6回　児童思春期の精神障害、摂食障害
第7回　睡眠障害、精神科治療学
第8回　精神疾患・薬物療法の基礎
第9回　精神保健福祉とリハビリテーション
第10回　入院・外来の治療とリハビリテーション
第11回　地域生活支援について
第12回　精神科における身体リハビリテーション
第13回　眠剤および精神薬が身体に及ぼす影響
第14回　精神症状への環境調整
第15回　認知症状への対応

履修上の注意点

授業はレジュメに沿って進めるが、知識を整理するうえで参考書があったほうが望ましい。

教科書

参考書

精神医学 第4版 (標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野)
著者:　奈良 勲
出版社:　医学書院
出版年:　2015　　ISBN:　4260024345

成績評価

試験・レポート （ 80 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 10 ）	授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**神経障害基礎論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　兒玉　隆之.本城　靖之	

テーマ

リハビリテーション領域に関連する脳・脊髄・神経系疾患の診断・治療に関する 基礎的知識を教授する。

授業の到達目標

リハビリテーション領域に関連する脳・脊髄・神経系疾患の診断・治療に関する基礎的知識を教授する。講義では、医師の見地から脳・脊髄・神経系学の症候学、診断、救急処置法や薬物療法を含む治療法について概説する。更に理学療法士の見地から中枢神経系疾患及び神経・筋疾患の特性と障害像について教授する。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　総論（解剖、診断法）
第2回　総論（神経症候1）
第3回　総論（神経症候2）
第4回　総論（神経症候3）
第5回　各論（脳血管障害、認知症、脳腫瘍）
第6回　各論（脊髄疾患、変性疾患、脱髄疾患）
第7回　各論（末梢神経障害、筋疾患、その他の疾患）
第8回　まとめ①
第9回　脳の局在機能について①
第10回 脳の局在機能について②
第11回 神経障害に対する理学療法評価の基本
第12回 脳外傷の理学療法
第13回 小脳障害の理学療法
第14回 Parkinson病の理学療法
第15回 まとめ②

履修上の注意点

教科書

中枢神経疾患の理学療法
著者:　千住秀明
出版社: 神陵文庫
出版年: 2013　　ISBN:　978-4-915814-26

標準理学療法・作業療法 専門基礎分野 神経内科学 第4版
著者:　奈良 勲
出版社: 医学書院
出版年: 2013　　ISBN:　978-4-260-01866

参考書

成績評価

試験・レポート （ 80 ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20 ）
3分の1以上の欠席を認めない.

2018 Syllabus

科 目 名　**中枢神経障害系理学療法学基礎演習**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　兒玉　隆之.小田桐　匡.中野　英樹	

テーマ

中枢性・末梢性神経障害に対する理学療法学を学ぶ。

授業の到達目標

脳血管疾患や神経変性疾患など、特に中枢神経疾患の病態を教授し、その障害に対する理学療法について、障害評価の方法、治療トレーニングの方法の視点から演習形式にて学習を進める。本科目は、解剖学、生理学、臨床医学の知識を土台に、その基礎的な臨床応用能力を習得することが目的である。

授業の概要

解剖学、生理学、臨床医学などで学んだ神経系の知識を基礎に、それらの損傷がもたらす中枢性疾患の病態を理解し、その障害に対する理学療法(評価方法や治療トレーニング)の知識を演習形式にて学習する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

神経障害学に関する参考書、文献等の自己学習、レポート課題の学習

内　容

第1回　脳血管障害①　頭蓋内出血の発症機序とその症状
第2回　脳血管障害②　脳梗塞の発症機序とその症状
第3回　脳血管障害③　身体に解放されるいわゆる“陽性徴候”
第4回　脳血管障害④　身体から消えたいわゆる“陰性徴候”
第5回　脳血管障害⑤　高次脳機能障害「失語」
第6回　脳血管障害⑥　高次脳機能障害「失行・失認」
第7回　脳血管障害⑦　合併症
第8回　小脳の構造と機能①
第9回　小脳の構造と機能②
第10回　小脳の構造と機能③
第11回　小脳疾患の病態
第12回　小脳疾患に対する評価
第13回　小脳疾患に対する理学療法
第14回　小脳疾患に対するクリニカルリーズニング
第15回　大脳基底核の構造と機能①
第16回　大脳基底核の構造と機能②
第17回　視床の構造と機能①
第18回　視床の構造と機能②
第19回　脳幹の構造と機能①
第20回　脳幹の構造と機能②
第21回　大脳基底核障害のクリニカルリーズニング
第22回　大脳基底核疾患に対する評価
第23回　大脳基底核と理学療法：グループディスカッション
第24回　視床損傷のクリニカルリーズニング
第25回　脳幹損傷のクリニカルリーズニング
第26回　大脳深部損傷の理学療法：ディスカッション
第27回　脊髄＆末梢神経の構造と機能①
第28回　脊髄＆末梢神経の構造と機能②
第29回　脊髄＆末梢神経損傷のクリニカルリーズニング
第30回　脊髄＆末梢神経損傷の理学療法：ディスカッション

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 80 ）　　小テスト（ ）

a90102c910

授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 10 ）

3分の1以上の欠席を認めない.

2018 Syllabus

科 目 名　**公衆衛生学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　伊藤　健一	

テーマ

理学療法士に必要な公衆衛生の基礎的な知識を身につける。

授業の到達目標

公衆衛生の前提となる集団・社会の健康の意義、社会医学の考え方、公衆衛生学の発展過程を理解した上で、公衆衛生活動の人口・疾病統計と健康指標、疫学、健康管理の基礎を身につける。地域保健、成人保健、母子保健、老人保健、産業保健、学校保健の各分野における保健活動について理解する。

授業の概要

公衆衛生学の中でも，とりわけ理学療法と関連が深い内容を抽出し，教授を行う。授業はオリジナルの資料に基づき行い，随時演習も取り入れる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

普段から日本の医療・保健における現状と問題点を気にかけること。

内　　容

第1回　集団の健康の定義と社会医学の考え方
第2回　公衆衛生学の発展過程
第3回　人口統計の健康指標
第4回　疫学の定義、疫学の調査方法
第5回　環境保健・健康管理
第6回　地域保健・母子保健
第7回　成人保健・老人保健福祉
第8回　学校保健・産業保健

履修上の注意点

受け身姿勢で受講するのではなく，授業に積極的に参加すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 80 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**画像診断学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　甲斐　義浩.佐藤　晋.中野　英樹.西川　仁史	

テーマ

基本的な画像診断学の知識を習得する。

授業の到達目標

・画像診断のための各種検査法の原理と診断方法を理解する。・各領域における医用診断画像の読影法を学び、理学療法評価や治療プログラム遂行上の病態把握、リスク管理に欠かせない情報であることを理解する。・理学療法士に必要な画像の見方を習得する。

授業の概要

授業による座学と演習を中心とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

当該科目における国家試験の過去問題において、どのような問題が出題されているか確認しておくこと。

内　容

第1回　正常関節における単純X線画像の読影：上肢の関節①
第2回　正常関節における単純X線画像の読影：上肢の関節②
第3回　正常関節における単純X線画像の読影：下肢の関節①
第4回　正常関節における単純X線画像の読影：下肢の関節②
第5回　正常関節における単純X線画像の読影：脊柱
第6回　整形外科領域の画像の見方：代表的な外傷性疾患について学ぶ
第7回　整形外科領域の画像の見方：高齢者の4大骨折について学ぶ
第8回　整形外科領域の画像の見方：変形性関節症と関節リウマチについて学ぶ
第9回　整形外科領域の画像の見方：若年者とスポーツ障害について学ぶ
第10回　内部障害の画像の見方①
第11回　内部障害の画像の見方②
第12回　中枢神経疾患の画像の見方①
第13回　中枢神経疾患の画像の見方②
第14回　中枢神経疾患の画像の見方③
第15回　中枢神経疾患の画像の見方④

履修上の注意点

講義の進行を妨げる行為（私語、携帯電話の使用など）や、受講態度に明らかな問題がある場合（うつ伏せ居眠り、内職、スマートフォンの使用など）は受講をお断りします。

教科書

参考書

PT・OT基礎から学ぶ画像の読み方
著者：　中島雅美・中島喜代彦
出版社：医歯薬出版株式会社
出版年：2016　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ 80% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 20% ）
定期試験の受験は、講義の3分の2以上の出席を必要とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**スポーツ障害基礎論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　沼澤　俊.北條　達也.吉村　直心	

テーマ

スポーツ障害に係わる疾患・病態の診断・治療とリハビリテーション

授業の到達目標

1. 幅広いスポーツ医学の見地から，整形外科疾患から内科疾患までのスポーツ障害に係わる疾患特性を理解する.
2. スポーツ障害に係わる疾患のリハビリテーションを理解する.

授業の概要

医師(整形外科医・スポーツドクター)により，スポーツ障害の症候学，診断と治療，ドーピング等のスポーツ医学に関する問題について概説する.　さらに日本体育協会公認アスレティックトレーナーの資格を有する理学療法士より，代表的なスポーツ障害のリハビリテーションについて解説する.

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

事前に講義資料が配布された場合には，予習・復習に活用すること. また専門用語等は確認しておくこと.

内　容

第1回　スポーツ医学概論
第2回　スポーツ外傷・障害総論(救急処置を含む)
第3回　スポーツ外傷・障害各論1;下肢
第4回　スポーツ外傷・障害各論2;上肢
第5回　スポーツ外傷・障害各論3;体幹・他
第6回　メディカルチェックとドーピング
第7回　アスレティックリハビリテーション1;概論
第8回　アスレティックリハビリテーション2;下肢(1)
第9回　アスレティックリハビリテーション3;下肢(2)
第10回　アスレティックリハビリテーション4;下肢(3)
第11回　アスレティックリハビリテーション5;下肢(4)
第12回　アスレティックリハビリテーション6;上肢(1)
第13回　アスレティックリハビリテーション7;上肢(2)
第14回　アスレティックリハビリテーション8;体幹(1)
第15回　アスレティックリハビリテーション9;体幹(2)

履修上の注意点

2／3以上の出席を求めます.
第7回以降は実習着を着用すること.

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**老年期障害基礎論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　白岩　加代子.宮本　尚	

テーマ

超高齢化社会における高齢者の身体的・精神的特徴を理解し、対応策について学ぶ

授業の到達目標

高齢者が抱える問題について理解し、高齢者の身体的・精神的特徴に配慮した診療が実践できるための基礎的知識を獲得する

授業の概要

高齢者の様々な疾患の病態や治療について教授する

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　加齢と老化
第2回　老年症候群
第3回　骨・運動器疾患
第4回　神経疾患
第5回　循環器疾患
第6回　消化器疾患
第7回　精神疾患
第8回　廃用症候群
第9回　高齢者の環境
第10回　高齢者へのアプローチ
第11回　高齢者のリハビリテーション：総論
第12回　高齢者のリハビリテーション：各論
第13回　高齢者のリスク管理
第14回　高齢者の健康支援
第15回　まとめ

履修上の注意点

3分の1以上の欠席を認めない（原則として）3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

標準理学療法学・作業療法学「老年期」
著者:
出版社: 医学書院
出版年: 最新版　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 80 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅰ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　村田 伸	

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内　容

第1回　理学療法分野における研究について学ぶ
第2回　研究課題と見つけ方について学ぶ
第3回　研究計画の立て方について学ぶ
第4回　研究デザインの種類について学ぶ
第5回　評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
第6回　研究倫理について学ぶ
第7回　文献の収集方法と読解方法について学ぶ
第8回　研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
第9回　研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
第10回　研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
第11回　研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
第12回　統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
第13回　統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
第14回　研究成果の公表方法について学ぶ
第15回　プレゼンテーション方法について学ぶ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 80 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ ）	

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅰ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀江　淳	

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内　容

第1回　理学療法分野における研究について学ぶ
第2回　研究課題と見つけ方について学ぶ
第3回　研究計画の立て方について学ぶ
第4回　研究デザインの種類について学ぶ
第5回　評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
第6回　研究倫理について学ぶ
第7回　文献の収集方法と読解方法について学ぶ
第8回　研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
第9回　研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
第10回　研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
第11回　研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
第12回　統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
第13回　統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
第14回　研究成果の公表方法について学ぶ
第15回　プレゼンテーション方法について学ぶ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 80 ）	授業中発表等（ 20 ）

参加度（ ）

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅰ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　白岩　加代子	

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内　容

第1回　理学療法分野における研究について学ぶ
第2回　研究課題と見つけ方について学ぶ
第3回　研究計画の立て方について学ぶ
第4回　研究デザインの種類について学ぶ
第5回　評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
第6回　研究倫理について学ぶ
第7回　文献の収集方法と読解方法について学ぶ
第8回　研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
第9回　研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
第10回　研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
第11回　研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
第12回　統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
第13回　統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
第14回　研究成果の公表方法について学ぶ
第15回　プレゼンテーション方法について学ぶ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 80 ）	授業中発表等（ 20 ）

参加度（ ）

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅰ〈＊d〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安彦　鉄平	

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内　容

第1回　理学療法分野における研究について学ぶ
第2回　研究課題と見つけ方について学ぶ
第3回　研究計画の立て方について学ぶ
第4回　研究デザインの種類について学ぶ
第5回　評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
第6回　研究倫理について学ぶ
第7回　文献の収集方法と読解方法について学ぶ
第8回　研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
第9回　研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
第10回　研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
第11回　研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
第12回　統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
第13回　統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
第14回　研究成果の公表方法について学ぶ
第15回　プレゼンテーション方法について学ぶ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 80 ）	授業中発表等（ 20 ）

参加度（ ）

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅰ〈＊e〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　木村　智子	

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる.
②研究倫理について学ぶ
③研究成果を理解した上で，論考することができる.
④研究発表のプレゼンテーションを行うことができる.
⑤論文作成過程を理解し，実践できる.
⑥研究倫理（倫理委員会審査方法など）を理解すること.

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて，論文作成を目指します.
論文指導は，コース毎に複数教員による指導体制のもと，行います.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する. さらに論文作成の過程を十分に習得してください.

内　容

第1回　オリエンテーション、研究の進め方と研究倫理について学ぶ
第2回　卒業論文発表準備（1）
第3回　卒業論文発表準備（2）
第4回　卒業論文発表準備（3）
第5回　卒業論文発表準備（4）
第6回　卒業論文発表準備（5）
第7回　卒業論文発表準備（6）
第8回　卒業論文発表準備（7）
第9回　卒業論文発表準備（8）
第10回　卒業論文発表準備（9）
第11回　卒業論文発表準備（10）
第12回　卒業論文発表検討会
第13回　卒業論文発表準備（11）
第14回　卒業論文発表準備（12）
第15回　卒業論文発表準備（13）
第16回　卒業論文発表準備（14）
第17回　卒業論文発表準備（15）
第18回　卒業論文発表準備（16）
第19回　卒業論文発表会（1）
第20回　卒業論文発表会（2）
第21回　卒業論文発表会（3）
第22回　卒業論文発表会（4）
第23回　卒業論文発表会（5）
第24回　卒業論文発表会（6）
第25回　卒業論文作成（1）
第26回　卒業論文作成（2）
第27回　卒業論文作成（3）
第28回　卒業論文作成（4）
第29回　卒業論文作成（5）
第30回　卒業論文作成（6）
　　なお、外部講師を招いて講演会を実施することがある。

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 20 ）	

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します．
試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ−ション能力，ディスカッション能力で構成します．

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅰ〈＊f〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　甲斐 義浩	

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる.
②研究倫理について学ぶ
③研究成果を理解した上で, 論考することができる.
④研究発表のプレゼンテーションを行うことができる.
⑤論文作成過程を理解し, 実践できる.
⑥研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること.

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて, 論文作成を目指します.
論文指導は, コース毎に複数教員による指導体制のもと, 行います.

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する. さらに論文作成の過程を十分に習得してください.

内　容

第1回　オリエンテーション、研究の進め方と研究倫理について学ぶ
第2回　卒業論文発表準備(1)
第3回　卒業論文発表準備(2)
第4回　卒業論文発表準備(3)
第5回　卒業論文発表準備(4)
第6回　卒業論文発表準備(5)
第7回　卒業論文発表準備(6)
第8回　卒業論文発表準備(7)
第9回　卒業論文発表準備(8)
第10回　卒業論文発表準備(9)
第11回　卒業論文発表準備(10)
第12回　卒業論文発表検討会
第13回　卒業論文発表準備(11)
第14回　卒業論文発表準備(12)
第15回　卒業論文発表準備(13)
第16回　卒業論文発表準備(14)
第17回　卒業論文発表準備(15)
第18回　卒業論文発表準備(16)
第19回　卒業論文発表会(1)
第20回　卒業論文発表会(2)
第21回　卒業論文発表会(3)
第22回　卒業論文発表会(4)
第23回　卒業論文発表会(5)
第24回　卒業論文発表会(6)
第25回　卒業論文作成(1)
第26回　卒業論文作成(2)
第27回　卒業論文作成(3)
第28回　卒業論文作成(4)
第29回　卒業論文作成(5)
第30回　卒業論文作成(6)
　　なお、外部講師を招いて講演会を実施することがある。

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 20 ）	

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します．
試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ−ション能力，ディスカッション能力で構成します．

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅰ〈＊g〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松尾　奈々	

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる.
②研究倫理について学ぶ
③研究成果を理解した上で，論考することができる.
④研究発表のプレゼンテーションを行うことができる.
⑤論文作成過程を理解し，実践できる.
⑥研究倫理（倫理委員会審査方法など）を理解すること.

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて，論文作成を目指します.
論文指導は，コース毎に複数教員による指導体制のもと，行います.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する. さらに論文作成の過程を十分に習得してください.

内　容

第1回　オリエンテーション、研究の進め方と研究倫理について学ぶ
第2回　卒業論文発表準備（1）
第3回　卒業論文発表準備（2）
第4回　卒業論文発表準備（3）
第5回　卒業論文発表準備（4）
第6回　卒業論文発表準備（5）
第7回　卒業論文発表準備（6）
第8回　卒業論文発表準備（7）
第9回　卒業論文発表準備（8）
第10回　卒業論文発表準備（9）
第11回　卒業論文発表準備（10）
第12回　卒業論文発表検討会
第13回　卒業論文発表準備（11）
第14回　卒業論文発表準備（12）
第15回　卒業論文発表準備（13）
第16回　卒業論文発表準備（14）
第17回　卒業論文発表準備（15）
第18回　卒業論文発表準備（16）
第19回　卒業論文発表会（1）
第20回　卒業論文発表会（2）
第21回　卒業論文発表会（3）
第22回　卒業論文発表会（4）
第23回　卒業論文発表会（5）
第24回　卒業論文発表会（6）
第25回　卒業論文作成（1）
第26回　卒業論文作成（2）
第27回　卒業論文作成（3）
第28回　卒業論文作成（4）
第29回　卒業論文作成（5）
第30回　卒業論文作成（6）
　　なお、外部講師を招いて講演会を実施することがある。

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 20 ）	

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します．
試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ−ション能力，ディスカッション能力で構成します．

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅰ〈＊h〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮﨑　純弥	

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる.
②研究倫理について学ぶ
③研究成果を理解した上で，論考することができる.
④研究発表のプレゼンテーションを行うことができる.
⑤論文作成過程を理解し，実践できる.
⑥研究倫理（倫理委員会審査方法など）を理解すること.

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて，論文作成を目指します.
論文指導は，コース毎に複数教員による指導体制のもと，行います.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する. さらに論文作成の過程を十分に習得してください.

内　　容

第1回　オリエンテーション、研究の進め方と研究倫理について学ぶ
第2回　卒業論文発表準備（1）
第3回　卒業論文発表準備（2）
第4回　卒業論文発表準備（3）
第5回　卒業論文発表準備（4）
第6回　卒業論文発表準備（5）
第7回　卒業論文発表準備（6）
第8回　卒業論文発表準備（7）
第9回　卒業論文発表準備（8）
第10回　卒業論文発表準備（9）
第11回　卒業論文発表準備（10）
第12回　卒業論文発表検討会
第13回　卒業論文発表準備（11）
第14回　卒業論文発表準備（12）
第15回　卒業論文発表準備（13）
第16回　卒業論文発表準備（14）
第17回　卒業論文発表準備（15）
第18回　卒業論文発表準備（16）
第19回　卒業論文発表会（1）
第20回　卒業論文発表会（2）
第21回　卒業論文発表会（3）
第22回　卒業論文発表会（4）
第23回　卒業論文発表会（5）
第24回　卒業論文発表会（6）
第25回　卒業論文作成（1）
第26回　卒業論文作成（2）
第27回　卒業論文作成（3）
第28回　卒業論文作成（4）
第29回　卒業論文作成（5）
第30回　卒業論文作成（6）
　　なお、外部講師を招いて講演会を実施することがある。

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 20 ）	

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します．
試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ−ション能力，ディスカッション能力で構成します．

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅰ〈＊i〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　濱出　茂治	

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる.
②研究倫理について学ぶ
③研究成果を理解した上で，論考することができる.
③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる.
④論文作成過程を理解し，実践できる.

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて，論文作成を目指します．論文指導は，コース毎に複数教員による指導体制のもと，行います.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する. さらに論文作成の過程を十分に習得してください.

内　　容

第1回　オリエンテーション、研究の進め方と研究倫理について学ぶ
第2回　卒業論文発表準備(1)
第3回　卒業論文発表準備(2)
第4回　卒業論文発表準備(3)
第5回　卒業論文発表準備(4)
第6回　卒業論文発表準備(5)
第7回　卒業論文発表準備(6)
第8回　卒業論文発表準備(7)
第9回　卒業論文発表準備(8)
第10回　卒業論文発表準備(9)
第11回　卒業論文発表準備(10)
第12回　卒業論文発表検討会
第13回　卒業論文発表準備(11)
第14回　卒業論文発表準備(12)
第15回　卒業論文発表準備(13)
第16回　卒業論文発表準備(14)
第17回　卒業論文発表準備(15)
第18回　卒業論文発表準備(16)
第19回　卒業論文発表会(1)
第20回　卒業論文発表会(2)
第21回　卒業論文発表会(3)
第22回　卒業論文発表会(4)
第23回　卒業論文発表会(5)
第24回　卒業論文発表会(6)
第25回　卒業論文作成(1)
第26回　卒業論文作成(2)
第27回　卒業論文作成(3)
第28回　卒業論文作成(4)
第29回　卒業論文作成(5)
第30回　卒業論文作成(6)

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

a90103a119

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ 0 ）

授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ 20 ）

参加度 （ 20 ）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します．試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ−ション能力，ディスカッション能力で構成します．

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅰ〈＊j〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　崎田　正博	

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる.
②研究倫理について学ぶ
③研究成果を理解した上で，論考することができる.
③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる.
④論文作成過程を理解し，実践できる.

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて，論文作成を目指します．論文指導は，コース毎に複数教員による指導体制のもと，行います.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する. さらに論文作成の過程を十分に習得してください.

内　　容

第1回　オリエンテーション、研究の進め方と研究倫理について学ぶ
第2回　卒業論文発表準備(1)
第3回　卒業論文発表準備(2)
第4回　卒業論文発表準備(3)
第5回　卒業論文発表準備(4)
第6回　卒業論文発表準備(5)
第7回　卒業論文発表準備(6)
第8回　卒業論文発表準備(7)
第9回　卒業論文発表準備(8)
第10回　卒業論文発表準備(9)
第11回　卒業論文発表準備(10)
第12回　卒業論文発表検討会
第13回　卒業論文発表準備(11)
第14回　卒業論文発表準備(12)
第15回　卒業論文発表準備(13)
第16回　卒業論文発表準備(14)
第17回　卒業論文発表準備(15)
第18回　卒業論文発表準備(16)
第19回　卒業論文発表会(1)
第20回　卒業論文発表会(2)
第21回　卒業論文発表会(3)
第22回　卒業論文発表会(4)
第23回　卒業論文発表会(5)
第24回　卒業論文発表会(6)
第25回　卒業論文作成(1)
第26回　卒業論文作成(2)
第27回　卒業論文作成(3)
第28回　卒業論文作成(4)
第29回　卒業論文作成(5)
第30回　卒業論文作成(6)

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

a90103a120

成績評価

試験・レポート （ 50 ）　　小テスト （ 0 ）

授業中課題 （ 10 ）　　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 20 ）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します．試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ−ション能力，ディスカッション能力で構成します．

2018 Syllabus

科目名 **理学療法研究法Ⅰ〈＊k〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　員
履修条件	クラス指定
担当者　兒玉 隆之	

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる.
②研究倫理について学ぶ
③研究成果を理解した上で，論考することができる.
③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる.
④論文作成過程を理解し，実践できる.

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて，論文作成を目指します．論文指導は，コース毎に複数教員による指導体制のもと，行います.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する. さらに論文作成の過程を十分に習得してください.

内　容

第1回　オリエンテーション、研究の進め方と研究倫理について学ぶ
第2回　卒業論文発表準備(1)
第3回　卒業論文発表準備(2)
第4回　卒業論文発表準備(3)
第5回　卒業論文発表準備(4)
第6回　卒業論文発表準備(5)
第7回　卒業論文発表準備(6)
第8回　卒業論文発表準備(7)
第9回　卒業論文発表準備(8)
第10回　卒業論文発表準備(9)
第11回　卒業論文発表準備(10)
第12回　卒業論文発表検討会
第13回　卒業論文発表準備(11)
第14回　卒業論文発表準備(12)
第15回　卒業論文発表準備(13)
第16回　卒業論文発表準備(14)
第17回　卒業論文発表準備(15)
第18回　卒業論文発表準備(16)
第19回　卒業論文発表会(1)
第20回　卒業論文発表会(2)
第21回　卒業論文発表会(3)
第22回　卒業論文発表会(4)
第23回　卒業論文発表会(5)
第24回　卒業論文発表会(6)
第25回　卒業論文作成(1)
第26回　卒業論文作成(2)
第27回　卒業論文作成(3)
第28回　卒業論文作成(4)
第29回　卒業論文作成(5)
第30回　卒業論文作成(6)

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

a90103a121

成績評価

試験・レポート （ 50 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 10 ）	授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 20 ）	

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します．試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ−ション能力，ディスカッション能力で構成します．

2018 Syllabus

科目名 **理学療法研究法Ⅰ〈＊Ⅰ〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　員
履修条件	クラス指定
担当者　小田桐 匡	

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる.
②研究倫理について学ぶ
③研究成果を理解した上で，論考することができる.
③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる.
④論文作成過程を理解し，実践できる.

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて，論文作成を目指します．論文指導は，コース毎に複数教員による指導体制のもと，行います.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する. さらに論文作成の過程を十分に習得してください.

内　容

第1回　オリエンテーション、研究の進め方と研究倫理について学ぶ
第2回　卒業論文発表準備(1)
第3回　卒業論文発表準備(2)
第4回　卒業論文発表準備(3)
第5回　卒業論文発表準備(4)
第6回　卒業論文発表準備(5)
第7回　卒業論文発表準備(6)
第8回　卒業論文発表準備(7)
第9回　卒業論文発表準備(8)
第10回　卒業論文発表準備(9)
第11回　卒業論文発表準備(10)
第12回　卒業論文発表検討会
第13回　卒業論文発表準備(11)
第14回　卒業論文発表準備(12)
第15回　卒業論文発表準備(13)
第16回　卒業論文発表準備(14)
第17回　卒業論文発表準備(15)
第18回　卒業論文発表準備(16)
第19回　卒業論文発表会(1)
第20回　卒業論文発表会(2)
第21回　卒業論文発表会(3)
第22回　卒業論文発表会(4)
第23回　卒業論文発表会(5)
第24回　卒業論文発表会(6)
第25回　卒業論文作成(1)
第26回　卒業論文作成(2)
第27回　卒業論文作成(3)
第28回　卒業論文作成(4)
第29回　卒業論文作成(5)
第30回　卒業論文作成(6)

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

a90103a122

成績評価

試験・レポート （ 50 ）　　小テスト （ 0 ）

授業中課題 （ 10 ）　　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 20 ）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します．試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ−ション能力，ディスカッション能力で構成します．

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅱ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　村田　伸	

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内　容

第1回　理学療法分野における研究について学ぶ
第2回　研究課題と見つけ方について学ぶ
第3回　研究計画の立て方について学ぶ
第4回　研究デザインの種類について学ぶ
第5回　評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
第6回　研究倫理について学ぶ
第7回　文献の収集方法と読解方法について学ぶ
第8回　研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
第9回　研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
第10回　研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
第11回　研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
第12回　統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
第13回　統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
第14回　研究成果の公表方法について学ぶ
第15回　プレゼンテーション方法について学ぶ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 80 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ ）	

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅱ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀江　淳	

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内　容

第1回　理学療法分野における研究について学ぶ
第2回　研究課題と見つけ方について学ぶ
第3回　研究計画の立て方について学ぶ
第4回　研究デザインの種類について学ぶ
第5回　評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
第6回　研究倫理について学ぶ
第7回　文献の収集方法と読解方法について学ぶ
第8回　研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
第9回　研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
第10回　研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
第11回　研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
第12回　統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
第13回　統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
第14回　研究成果の公表方法について学ぶ
第15回　プレゼンテーション方法について学ぶ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 80 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ ）
3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅱ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　白岩　加代子	

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内　容

第1回　理学療法分野における研究について学ぶ
第2回　研究課題と見つけ方について学ぶ
第3回　研究計画の立て方について学ぶ
第4回　研究デザインの種類について学ぶ
第5回　評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
第6回　研究倫理について学ぶ
第7回　文献の収集方法と読解方法について学ぶ
第8回　研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
第9回　研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
第10回　研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
第11回　研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
第12回　統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
第13回　統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
第14回　研究成果の公表方法について学ぶ
第15回　プレゼンテーション方法について学ぶ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 80 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ ）	

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅱ〈＊d〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　安彦 鉄平

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること ②研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること ③データから統計学的分析ができること ④わかりやすくプレゼンテーションできること 以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内　容

第1回　理学療法分野における研究について学ぶ
第2回　研究課題と見つけ方について学ぶ
第3回　研究計画の立て方について学ぶ
第4回　研究デザインの種類について学ぶ
第5回　評価指標の選択方法について学ぶ(信頼性、妥当性とは)
第6回　研究倫理について学ぶ
第7回　文献の収集方法と読解方法について学ぶ
第8回　研究の進め方1(基礎研究)について学ぶ
第9回　研究の進め方2(介入研究)について学ぶ
第10回　研究の進め方3(疫学研究、調査研究)について学ぶ
第11回　研究の進め方4(質的研究)について学ぶ
第12回　統計手法1(関係性を検証する)について学ぶ
第13回　統計手法2(群間の比較をする)について学ぶ
第14回　研究成果の公表方法について学ぶ
第15回　プレゼンテーション方法について学ぶ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 80 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ ）
3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅱ〈＊e〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　木村　智子	

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる.
②研究成果を理解した上で, 論考することができる.
③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる.
④論文作成過程を理解し, 実践できる.
⑤研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること.

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて, 論文作成を目指します.
論文指導は, コース毎に複数教員による指導体制のもと, 行います.

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する. さらに論文作成の過程を十分に習得してください.

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文発表準備(1)
第3回　卒業論文発表準備(2)
第4回　卒業論文発表準備(3)
第5回　卒業論文発表準備(4)
第6回　卒業論文発表準備(5)
第7回　卒業論文発表準備(6)
第8回　卒業論文発表準備(7)
第9回　卒業論文発表準備(8)
第10回　卒業論文発表準備(9)
第11回　卒業論文発表準備(10)
第12回　卒業論文発表検討会
第13回　卒業論文発表準備(11)
第14回　卒業論文発表準備(12)
第15回　卒業論文発表準備(13)
第16回　卒業論文発表準備(14)
第17回　卒業論文発表準備(15)
第18回　卒業論文発表準備(16)
第19回　卒業論文発表会(1)
第20回　卒業論文発表会(2)
第21回　卒業論文発表会(3)
第22回　卒業論文発表会(4)
第23回　卒業論文発表会(5)
第24回　卒業論文発表会(6)
第25回　卒業論文作成(1)
第26回　卒業論文作成(2)
第27回　卒業論文作成(3)
第28回　卒業論文作成(4)
第29回　卒業論文作成(5)
第30回　卒業論文作成(6)
　　なお、外部講師を招いて講演会を実施することがある。

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 20 ）	

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します．
試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ−ション能力，ディスカッション能力で構成します．

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅱ〈＊f〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　甲斐 義浩	

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる.
②研究成果を理解した上で, 論考することができる.
③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる.
④論文作成過程を理解し, 実践できる.
⑤研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること.

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて, 論文作成を目指します.
論文指導は, コース毎に複数教員による指導体制のもと, 行います.

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する. さらに論文作成の過程を十分に習得してください.

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文発表準備(1)
第3回　卒業論文発表準備(2)
第4回　卒業論文発表準備(3)
第5回　卒業論文発表準備(4)
第6回　卒業論文発表準備(5)
第7回　卒業論文発表準備(6)
第8回　卒業論文発表準備(7)
第9回　卒業論文発表準備(8)
第10回　卒業論文発表準備(9)
第11回　卒業論文発表準備(10)
第12回　卒業論文発表検討会
第13回　卒業論文発表準備(11)
第14回　卒業論文発表準備(12)
第15回　卒業論文発表準備(13)
第16回　卒業論文発表準備(14)
第17回　卒業論文発表準備(15)
第18回　卒業論文発表準備(16)
第19回　卒業論文発表会(1)
第20回　卒業論文発表会(2)
第21回　卒業論文発表会(3)
第22回　卒業論文発表会(4)
第23回　卒業論文発表会(5)
第24回　卒業論文発表会(6)
第25回　卒業論文作成(1)
第26回　卒業論文作成(2)
第27回　卒業論文作成(3)
第28回　卒業論文作成(4)
第29回　卒業論文作成(5)
第30回　卒業論文作成(6)
　　なお、外部講師を招いて講演会を実施することがある。

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 20 ）	

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します．
試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ−ション能力，ディスカッション能力で構成します．

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅱ〈＊g〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松尾　奈々	

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる.
②研究成果を理解した上で, 論考することができる.
③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる.
④論文作成過程を理解し, 実践できる.
⑤研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること.

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて, 論文作成を目指します.
論文指導は, コース毎に複数教員による指導体制のもと, 行います.

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する. さらに論文作成の過程を十分に習得してください.

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文発表準備(1)
第3回　卒業論文発表準備(2)
第4回　卒業論文発表準備(3)
第5回　卒業論文発表準備(4)
第6回　卒業論文発表準備(5)
第7回　卒業論文発表準備(6)
第8回　卒業論文発表準備(7)
第9回　卒業論文発表準備(8)
第10回　卒業論文発表準備(9)
第11回　卒業論文発表準備(10)
第12回　卒業論文発表検討会
第13回　卒業論文発表準備(11)
第14回　卒業論文発表準備(12)
第15回　卒業論文発表準備(13)
第16回　卒業論文発表準備(14)
第17回　卒業論文発表準備(15)
第18回　卒業論文発表準備(16)
第19回　卒業論文発表会(1)
第20回　卒業論文発表会(2)
第21回　卒業論文発表会(3)
第22回　卒業論文発表会(4)
第23回　卒業論文発表会(5)
第24回　卒業論文発表会(6)
第25回　卒業論文作成(1)
第26回　卒業論文作成(2)
第27回　卒業論文作成(3)
第28回　卒業論文作成(4)
第29回　卒業論文作成(5)
第30回　卒業論文作成(6)
　　なお、外部講師を招いて講演会を実施することがある。

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 20 ）	

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します．
試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ−ション能力，ディスカッション能力で構成します．

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅱ〈＊h〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮﨑　純弥	

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる.
②研究成果を理解した上で, 論考することができる.
③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる.
④論文作成過程を理解し, 実践できる.
⑤研究倫理(倫理委員会審査方法など)を理解すること.

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて, 論文作成を目指します.
論文指導は, コース毎に複数教員による指導体制のもと, 行います.

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する. さらに論文作成の過程を十分に習得してください.

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文発表準備(1)
第3回　卒業論文発表準備(2)
第4回　卒業論文発表準備(3)
第5回　卒業論文発表準備(4)
第6回　卒業論文発表準備(5)
第7回　卒業論文発表準備(6)
第8回　卒業論文発表準備(7)
第9回　卒業論文発表準備(8)
第10回　卒業論文発表準備(9)
第11回　卒業論文発表準備(10)
第12回　卒業論文発表検討会
第13回　卒業論文発表準備(11)
第14回　卒業論文発表準備(12)
第15回　卒業論文発表準備(13)
第16回　卒業論文発表準備(14)
第17回　卒業論文発表準備(15)
第18回　卒業論文発表準備(16)
第19回　卒業論文発表会(1)
第20回　卒業論文発表会(2)
第21回　卒業論文発表会(3)
第22回　卒業論文発表会(4)
第23回　卒業論文発表会(5)
第24回　卒業論文発表会(6)
第25回　卒業論文作成(1)
第26回　卒業論文作成(2)
第27回　卒業論文作成(3)
第28回　卒業論文作成(4)
第29回　卒業論文作成(5)
第30回　卒業論文作成(6)
　　なお、外部講師を招いて講演会を実施することがある。

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 20 ）	

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します．
試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ−ション能力，ディスカッション能力で構成します．

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅱ〈＊i〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　濱出　茂治	

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる．②研究成果を理解した上で，論考することができる．③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる．④論文作成過程を理解し，実践できる．

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて，論文作成を目指します．論文指導は，コース毎に複数教員による指導体制のもと，行います．

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する．さらに論文作成の過程を十分に習得してください．

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文発表準備（1）
第3回　卒業論文発表準備（2）
第4回　卒業論文発表準備（3）
第5回　卒業論文発表準備（4）
第6回　卒業論文発表準備（5）
第7回　卒業論文発表準備（6）
第8回　卒業論文発表準備（7）
第9回　卒業論文発表準備（8）
第10回　卒業論文発表準備（9）
第11回　卒業論文発表準備（10）
第12回　卒業論文発表検討会
第13回　卒業論文発表準備（11）
第14回　卒業論文発表準備（12）
第15回　卒業論文発表準備（13）
第16回　卒業論文発表準備（14）
第17回　卒業論文発表準備（15）
第18回　卒業論文発表準備（16）
第19回　卒業論文発表会（1）
第20回　卒業論文発表会（2）
第21回　卒業論文発表会（3）
第22回　卒業論文発表会（4）
第23回　卒業論文発表会（5）
第24回　卒業論文発表会（6）
第25回　卒業論文作成（1）
第26回　卒業論文作成（2）
第27回　卒業論文作成（3）
第28回　卒業論文作成（4）
第29回　卒業論文作成（5）
第30回　卒業論文作成（6）

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

a90103a259

試験・レポート （ 50 ）　　小テスト （ 0 ）

授業中課題 （ 10 ）　　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 20 ）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します．試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ−ション能力，ディスカッション能力で構成します．

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅱ〈＊j〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　崎田　正博	

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる．②研究成果を理解した上で，論考することができる．③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる．④論文作成過程を理解し，実践できる．

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて，論文作成を目指します．論文指導は，コース毎に複数教員による指導体制のもと，行います．

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する．さらに論文作成の過程を十分に習得してください．

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文発表準備（1）
第3回　卒業論文発表準備（2）
第4回　卒業論文発表準備（3）
第5回　卒業論文発表準備（4）
第6回　卒業論文発表準備（5）
第7回　卒業論文発表準備（6）
第8回　卒業論文発表準備（7）
第9回　卒業論文発表準備（8）
第10回　卒業論文発表準備（9）
第11回　卒業論文発表準備（10）
第12回　卒業論文発表検討会
第13回　卒業論文発表準備（11）
第14回　卒業論文発表準備（12）
第15回　卒業論文発表準備（13）
第16回　卒業論文発表準備（14）
第17回　卒業論文発表準備（15）
第18回　卒業論文発表準備（16）
第19回　卒業論文発表会（1）
第20回　卒業論文発表会（2）
第21回　卒業論文発表会（3）
第22回　卒業論文発表会（4）
第23回　卒業論文発表会（5）
第24回　卒業論文発表会（6）
第25回　卒業論文作成（1）
第26回　卒業論文作成（2）
第27回　卒業論文作成（3）
第28回　卒業論文作成（4）
第29回　卒業論文作成（5）
第30回　卒業論文作成（6）

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

a90103a260

試験・レポート （ 50 ）　　小テスト （ 0 ）

授業中課題 （ 10 ）　　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 20 ）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します．試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ−ション能力，ディスカッション能力で構成します．

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅱ〈＊k〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　兒玉 隆之	

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる．②研究成果を理解した上で，論考することができる．③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる．④論文作成過程を理解し，実践できる．

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて，論文作成を目指します．論文指導は，コース毎に複数教員による指導体制のもと，行います．

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する．さらに論文作成の過程を十分に習得してください．

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文発表準備(1)
第3回　卒業論文発表準備(2)
第4回　卒業論文発表準備(3)
第5回　卒業論文発表準備(4)
第6回　卒業論文発表準備(5)
第7回　卒業論文発表準備(6)
第8回　卒業論文発表準備(7)
第9回　卒業論文発表準備(8)
第10回　卒業論文発表準備(9)
第11回　卒業論文発表準備(10)
第12回　卒業論文発表検討会
第13回　卒業論文発表準備(11)
第14回　卒業論文発表準備(12)
第15回　卒業論文発表準備(13)
第16回　卒業論文発表準備(14)
第17回　卒業論文発表準備(15)
第18回　卒業論文発表準備(16)
第19回　卒業論文発表会(1)
第20回　卒業論文発表会(2)
第21回　卒業論文発表会(3)
第22回　卒業論文発表会(4)
第23回　卒業論文発表会(5)
第24回　卒業論文発表会(6)
第25回　卒業論文作成(1)
第26回　卒業論文作成(2)
第27回　卒業論文作成(3)
第28回　卒業論文作成(4)
第29回　卒業論文作成(5)
第30回　卒業論文作成(6)

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

a90103a261

試験・レポート （ 50 ）　　小テスト （ 0 ）

授業中課題 （ 10 ）　　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 20 ）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します．試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ−ション能力，ディスカッション能力で構成します．

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅱ〈＊Ⅰ〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小田桐　匡	

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる．②研究成果を理解した上で，論考することができる．③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる．④論文作成過程を理解し，実践できる．

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて，論文作成を目指します．論文指導は，コース毎に複数教員による指導体制のもと，行います．

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する．さらに論文作成の過程を十分に習得してください．

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文発表準備（1）
第3回　卒業論文発表準備（2）
第4回　卒業論文発表準備（3）
第5回　卒業論文発表準備（4）
第6回　卒業論文発表準備（5）
第7回　卒業論文発表準備（6）
第8回　卒業論文発表準備（7）
第9回　卒業論文発表準備（8）
第10回　卒業論文発表準備（9）
第11回　卒業論文発表準備（10）
第12回　卒業論文発表検討会
第13回　卒業論文発表準備（11）
第14回　卒業論文発表準備（12）
第15回　卒業論文発表準備（13）
第16回　卒業論文発表準備（14）
第17回　卒業論文発表準備（15）
第18回　卒業論文発表準備（16）
第19回　卒業論文発表会（1）
第20回　卒業論文発表会（2）
第21回　卒業論文発表会（3）
第22回　卒業論文発表会（4）
第23回　卒業論文発表会（5）
第24回　卒業論文発表会（6）
第25回　卒業論文作成（1）
第26回　卒業論文作成（2）
第27回　卒業論文作成（3）
第28回　卒業論文作成（4）
第29回　卒業論文作成（5）
第30回　卒業論文作成（6）

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

a90103a262

試験・レポート （ 50 ）　　小テスト （ 0 ）

授業中課題 （ 10 ）　　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 20 ）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します．試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ−ション能力，ディスカッション能力で構成します．

2018 Syllabus

科 目 名　**動作分析学演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　甲斐　義浩.野中　紘士	

テーマ

動作分析に必要な運動力学の原理を学び、重力環境下における基本動作の成り立ちについて理解を促進する。

授業の到達目標

1.動作分析のおおまかな流れを理解することができる。
2.動作分析に必要な運動力学の要素を理解することができる。
3.基本動作（立ち上がりや歩行など）の運動要素を理解し、説明することができる。
4.3次元動作解析装置を用いた動作分析の基礎を理解することができる。

授業の概要

正常から逸脱した異常姿勢や異常歩行の原因と影響について力学的な視点から解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

臨床運動学演習で学んだ歩行の基礎を十分に復習して講義に臨むこと。

内　　容

第1回　動作分析の進め方・まとめ方
第2回　制約条件下（膝関節固定）における歩行分析①
第3回　制約条件下（膝関節固定）における歩行分析②
第4回　制約条件下（足関節固定）における歩行分析①
第5回　制約条件下（足関節固定）における歩行分析②
第6回　片麻痺症例の歩行分析①
第7回　片麻痺症例の歩行分析②
第8回　変形性膝関節症症例の歩行分析①
第9回　変形性膝関節症症例の歩行分析②
第10回　歩行パラメーター（時間距離因子）の測定実習
第11回　寝返り動作の分析
第12回　起き上がり動作の分析①
第13回　起き上がり動作の分析②
第14回　立ち上がり動作の分析①
第15回　立ち上がり動作の分析②

履修上の注意点

講義の進行を妨げる行為（私語、携帯電話の使用など）や、受講態度に明らかな問題がある場合（うつ伏せ居眠り、内職、スマートフォンの使用など）は受講をお断りします。3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

歩行分析　正常歩行と異常歩行　原著第2版
著者:　Perry J（著）, 武田功（訳）
出版社:　医歯薬出版株式会社
出版年:　2012　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50% ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 50% ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**運動療法学演習**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小田桐　匡.合田　明生	

テーマ

理学療法の中核的な治療手段である運動療法について，その基本的技術と実践遂行能力を修得する。

授業の到達目標

1) 各種治療方法の目的を理解し、基本的技術を身につける。2) 各疾患に対して適切な治療方法を選択し、その理由を説明することができる。3) 各疾患に対して適切な治療方法を選択し、実施できる。

授業の概要

理学療法の中核をなす「運動療法」を理解するために、運動療法学で学んだ知識に基いて、その基本的技術と方法論を理解する。また、実技を通して、運動療法の基本的な知識、技術、態度、実践遂行能力の体得を目指す。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

該当する教科書の章はよく復習すること。積極的に質問することが望ましい。

内　容

第1回　実技：ストレッチング　－頚部・体幹①－
第2回　実技：ストレッチング　－頚部・体幹②－
第3回　関節運動学と関節モビライゼーション①
第4回　関節運動学と関節モビライゼーション②
第5回　筋膜リリースの基礎
第6回　全身調整運動
第7回　リラクセーション運動
第8回　協調動作：協調動作のメカニズムを学習する
第9回　協調動作の獲得に向けた運動療法：協調動作の向上を意図した各種運動療法の紹介と、その幾つかについて体験を通して学習する
第10回　姿勢とバランス機能：姿勢保持やバランスの障害を考える上で基本となる理論や視点について学習する
第11回　姿勢保持とバランスのための運動療法：姿勢保持やバランスを向上させるための基本的な運動療法について体験を通して学習する
第12回　神経筋再教育と基本動作の習得①：神経筋教育は中枢神経障害等において重要な課題となる。神経筋再教育の方法や歴史、理論的背景について学習する
第13回　神経筋再教育と基本動作の習得および運動学習①：神経筋再教育の幾つかについて実際に体験し学習を深める
第14回　神経筋再教育と基本動作の習得および運動学習②：基本的動作に対する神経筋再教育について、実践的に学習する
第15回　総まとめ

履修上の注意点

座学と実技、演習を交えて行う。3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。 講義の進行を妨げる行為や、受講態度に明らかな問題がある場合は受講をお断りします。

教科書

IDストレッチング
著者：　平野幸伸、鈴木敏和、鈴木重行
出版社：三輪書店
出版年：2006　　ISBN：4895902390

運動療法学―障害別アプローチの理論と実際
著者：　市橋則明
出版社：文光堂
出版年：2014　　ISBN：4830645032

参考書

成績評価

試験・レポート（ 85 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 5 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**生活技術学演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安彦　鉄平.合田　明生	

テーマ

本講義は、生活技術学で学んだ各種の日常生活動作の評価について、疾患別の検査・測定と、その結果の解釈について学ぶ。また、各疾患特有のADL障害の要因について理解し、その指導方法や理学療法プログラムについて学ぶ。

授業の到達目標

1. 疾患特有の機能障害とADL障害を理解し、説明できる。　2. 各疾患ごとにADL制限の要因を説明できる。3. ADLの自立に向けた基本的なアプローチ方法を説明、実施できる。

授業の概要

理学療法の大きな目標の一つである日常生活活動の自立を目指すための理学療法の一連の流れを学習する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストや参考文献を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

内　容

第1回　脳血管障害者のADL（評価の実践：BI）
第2回　脳血管障害者のADL（評価の実践：FIM）
第3回　脳血管障害者のADL（動作分析）
第4回　脳血管障害者のADL（基本動作の指導）
第5回　脳血管障害者のADL（IADLの指導）
第6回　下肢運動器障害者のADL評価
第7回　下肢運動器障害者のADL評価（大腿骨頚部骨折）
第8回　下肢運動器障害者のADL評価（変形性股関節症）
第9回　下肢運動器障害者のADL評価（変形性膝関節症）
第10回　体幹運動器障害者のADL評価
第11回　体幹運動器障害者のADL評価（腰痛症）
第12回　その他の疾患による障害者のADL評価
第13回　その他の疾患による障害者のADL評価（関節リウマチ）
第14回　その他の疾患による障害者のADL評価（パーキンソン病）
第15回　その他の疾患による障害者のADL評価（下肢切断）

履修上の注意点

授業日程の3分の2以上の出席が原則。

教科書

疾患別日常生活活動学テキスト
著者：　村田伸
出版社：学術研究出版
出版年：2015　　ISBN：　4865841008

参考書

成績評価

試験・レポート（ 90 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

2018 Syllabus

科 目 名　**義肢装具学演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　安彦　鉄平.岩瀬　弘明.坂本　明信.吉田　剛	

テーマ

義肢・装具に関する基礎と臨床

授業の到達目標

①義肢・装具の適応，使用目的，構成要素等の基礎知識を身につける.
②疾患別に対する義肢・装具，スプリント等の種類とチェックアウトについて説明できる.

授業の概要

本講義は，オムニバス形式にて演習と施設見学を組み合わせて展開する.
義肢装具士の講師を招いて，義肢・装具の製作過程の実演および義肢制作過程の見学を行う.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

講義範囲について，事前にテキストを熟読しておいてください.

内　容

第1回　装具学総論
第2回　装具(頚部・体幹)
第3回　装具(下肢)１
第4回　装具(下肢)２
第5回　装具(下肢)３
第6回　装具(下肢)４
第7回　装具(上肢)１
第8回　装具(上肢)２
第9回　スプリント・自助具(１)
第10回　スプリント・自助具(２)
第11回　義肢学総論
第12回　断端管理と理学療法
第13回　義肢(上肢)１
第14回　義肢(上肢)２
第15回　義肢(上肢)３
第16回　義肢(下肢)１
第17回　義肢(下肢)２
第18回　義肢(下肢)３
第19回　義肢(下肢)４
第20回　義足装着時の異常歩行とその対策(１)
第21回　義足装着時の異常歩行とその対策(２)
第22回　義肢装具トピックス(１)
第23回　義肢装具トピックス(２)
第24回　機能代償機器の種別／義肢装具製作所見学(１)
第25回　機能代償機器の種別／義肢装具製作所見学(２)
第26回　義肢装具製作所見学／機能代償機器の種別(１)
第27回　義肢装具製作所見学／機能代償機器の種別(２)
第28回　簡易式短下肢装具作製実習(１)
第29回　簡易式短下肢装具作製実習(２)
第30回　まとめ

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

義肢装具学テキスト
著者:　磯崎　弘司
出版社:　南江堂
出版年:　2013　　ISBN:　978-4524268399

参考書

a90103a750

成績評価	
試験・レポート（ 80 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**内部障害系理学療法学基礎演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀江　淳.安福　祐一	

テーマ

内部障害系(呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患)理学療法学の基礎的な知識、技術の理解を促進する。

授業の到達目標

本講義は、呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患に関係する解剖学、運動学、生理学(運動生理学)の知識を整理し、それら疾患における理学療法評価法、治療法、リスク管理についての基礎的な知識、技術の習得を目標とする。

授業の概要

これまで学習した呼吸、循環の解剖、生理、運動学の知識を整理しつつ、呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患に対する理学療法の評価、治療の基礎を座学を中心として学習する。また、簡単な実習を通じて知識を深めていく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

臨床実習、国家試験対策として「覚える」ことを授業以外の学習の主眼とする。特に、自宅での復習を重視し、確認のための質疑応答を随時行う。

内　容

第1回　呼吸リハビリテーションと理学療法
第2回　呼吸器系の生理学、解剖学、運動学
第3回　呼吸リハビリテーションの対象疾患とその病態 、治療
第4回　呼吸理学療法のための評価(問診、視診、聴診、触診、測定)
第5回　呼吸理学療法のための評価(運度耐容能評価)
第6回　呼吸理学療法のための治療プログラム
第7回　酸素療法と人工呼吸療法
第8回　循環器系の生理学、解剖学
第9回　心電図の診かた
第10回　心臓リハビリテーション の対象疾患とその病態、治療
第11回　循環器理学療法のための評価(リスクの層別化)
第12回　循環器理学療法のための治療プログラム
第13回　糖尿病の病態、検査、治療
第14回　糖尿病のための理学療法評価と治療プログラム
第15回　講義のまとめと最新トピックス なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

内部障害理学療法学
著者:　松尾善美
出版社:　羊土社
出版年:　2016　　ISBN:　9784758102179

参考書

成績評価

試験・レポート　(100)　　小テスト　( )
授業中課題　( )　　授業中発表等　( )
参加度　( )

期末に実施する筆記試験にて評価する。3分の1以上の欠席のあるものは筆記試験を受験できない。出席点は減点方式とし欠席1回につき2点減点、無断欠席は4点減点とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**スポーツ障害系理学療法学基礎演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野田　優希	

テーマ

スポーツ障害に対する評価法と理学療法

授業の到達目標

①スポーツ動作のバイオメカニクスやスポーツ障害の疾患特性を十分に理解する.
②スポーツ障害に対する理学療法評価および治療プログラムを説明できる.
③スポーツ障害の予防に向けた取り組みを説明できる.

授業の概要

部位別におけるスポーツ障害の発生機序, 病態・疾病特性について解説します. さらにはスポーツ障害に対する理学療法評価および治療プログラムを実践できるように実技も取り入れながら講義を進めます.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各回において, 評価や治療・指導が実践できるレベルを目指します. このため事前に取り上げる疾患を告知しますので, 疾患特性や病態等について, 十分に予習しておいてください. さらに講義を行った範囲で確認テストを実施しますので, 復習してください.

内　容

第1回　スポーツ理学療法総論
第2回　足関節疾患（1）; 足関節外側側副靱帯損傷
第3回　足関節疾患（2）; 足関節外側側副靱帯損傷
第4回　膝関節疾患（1）
第5回　膝関節疾患（2）
第6回　膝関節疾患（3）
第7回　腰部疾患（1）
第8回　腰部疾患（2）
第9回　股関節疾患
第10回　大腿部・下腿部・足部疾患（1）
第11回　大腿部・下腿部・足部疾患（2）
第12回　肘・手関節疾患
第13回　肩関節疾患（1）
第14回　肩関節疾患（2）
第15回　まとめ

履修上の注意点

実習着を着用して出席してください. 3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

スポーツ外傷学　Ⅰ～Ⅳ
著者:　黒沢　尚・他　編集
出版社: 医歯薬出版
出版年: 2001　　ISBN:

復帰をめざすスポーツ整形外科
著者:　宗田　大　編集
出版社: MEDICAL VIEW
出版年: 2011　　ISBN:　9784758310406

成績評価

試験・レポート（ 80 ）	小テスト（ 10 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 5 ）
参加度（ 5 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**発達障害系理学療法学基礎演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　崎田　正博.小田桐　匡	

テーマ

発達障害における理学療法の基本的な知識の理解、評価および治療を学ぶ。

授業の到達目標

1)正常運動発達を理解し、発達障害の異常発達との違いを明確にする。2)理学療法の対象疾患の障害を理解する。3)各疾患による障害の病態･発達及び複合障害を理解する。4)代表的疾患についての基本的な評価･動作分析･治療を身につける。

授業の概要

発達障害における理学療法の基本的な知識の理解、評価および治療を学ぶ。

準備学習(予習･復習･課題に対するフィードバック)

事前に授業資料を配布するため予習して授業に参加

内　容

第1回　乳幼児の正常運動発達(1)
第2回　乳幼児の正常運動発達(2)
第3回　乳幼児の正常運動発達と姿勢反射･反応(1)
第4回　乳幼児の正常運動発達と姿勢反射･反応(2)
第5回　姿勢反射･反応検査の技法:原始反射
第6回　姿勢反射･反応検査の技法:立ち直り反応･平衡反応
第7回　運動発達検査･評価(1)
第8回　運動発達検査･評価(2)
第9回　疾患別姿勢･運動分析とその記録(1)
第10回　疾患別姿勢･運動分析とその記録(2)
第11回　疾患別姿勢･運動分析とその記録(3)
第12回　疾患別発達障害理学療法における問題解決方法(1)
第13回　疾患別発達障害理学療法における問題解決方法(2)
第14回　疾患別発達障害理学療法における問題解決方法(3)
第15回　まとめ

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

こどもの理学療法
著者:　千住秀明
出版社:　神陵文庫
出版年:　　ISBN:　9784915814204

参考書

成績評価

試験･レポート　(70%)	小テスト　(20%)
授業中課題　( )	授業中発表等　( )
参加度　(10%)	

2018 Syllabus

科 目 名　**ヘルスプロモーション理学療法学基礎演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　白岩　加代子.堀江　淳.村田　伸	

テーマ

ヘルスプロモーションの理念と実践について学ぶ

授業の到達目標

従来の理学療法に加え、疾病予防や介護予防、健康増進を含んだ包括的なヘルスプロモーション理学療法について学び、ヘルスプロモーションを推進するための理学療法の知識と技術を獲得する。

授業の概要

ヘルスプロモーションの定義を理解し、地域で生活する高齢者に対し病気やけがの予防、虚弱予防、介護予防の観点から、理学療法士ができる役割について学習する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　ヘルスプロモーション総論
第2回　高齢者の評価（総論）
第3回　高齢者の身体機能評価1
第4回　高齢者の身体機能評価2
第5回　高齢者の身体機能評価3
第6回　高齢者の認知機能、精神・心理機能およびQOLの評価
第7回　ヘルスプロモーションの実践（虚弱予防）
第8回　ヘルスプロモーションの実践（転倒予防）
第9回　ヘルスプロモーションの実践（認知症予防）
第10回　ヘルスプロモーションの実践（生活習慣病予防・改善）
第11回　行動科学とヘルスプロモーション
第12回　要介護高齢者のヘルスプロモーション
第13回　ヘルスプロモーションのための住環境整備
第14回　ヘルスプロモーション関係法規
第15回　ヘルスプロモーション研究の進め方

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

「理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション-理論と実践」
著者:
出版社: 南江堂
出版年: 2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 90 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**生活環境論**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　白岩 加代子

テーマ

障害を持つ人が自立した生活を送るのに必要となる環境整備の理論と実際について学ぶ。

授業の到達目標

障害を持つ人の生活環境整備の方法や障害を通して関係してくる法制度、福祉用具やユニバーサル・デザイン住宅について学ぶ。理学療法士として障害を持つ人が安心した生活を営むために必要な知識を習得し、アドバイスできるようになることが目標となる。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　高齢者・障害者を取り巻く社会状況と住環境
第3回　学外研修（福祉用具・リハ関連機器について学ぶ）
第4回　学外研修（福祉用具・リハ関連機器について学ぶ）
第5回　福祉住環境コーディネーターの役割と機能
第6回　福祉住環境整備の進め方
第7回　福祉住環境整備の共通基本技術
第8回　生活行為別にみた福祉住環境整備の手法
第9回　福祉住環境整備の実践に必要な基礎知識
第10回 障害別にみた福祉住環境
第11回 福祉用具の意味と活用
第12回 生活行為別にみた福祉用具の活用
第13回 ケーススタディを用いた住宅改修1
第14回 ケーススタディを用いた住宅改修2
第15回 まとめ

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

生活環境学テキスト
著者:
出版社: 南江堂
出版年: 2016　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 80 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 10 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**神経・筋疾患理学療法学基礎演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　武田　功.濱出　茂治	

テーマ

神経・筋疾患、脊髄損傷に対する理学療法の理解を促進する。

授業の到達目標

神経・筋疾患、脊髄損傷の病態それらに起因する障害、回復過程、予後に関する知識を学び、それらをもとにした障害の回復促進および増悪の予防に対する理学療法の基本原理と治療体系を修得することが目標となる。

授業の概要

プレゼンテーションによる講義及び治療技術演習形式で行う

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　ニューロパチーの病態
第2回　ニューロパチーの理学療法
第3回　脱髄・運動ニューロン障害の病態
第4回　脱髄・運動ニューロン障害の理学療法
第5回　ミオパチーの病態
第6回　ミオパチーの理学療法
第7回　フレイル、サルコペニアの病態と理学療法
第8回　脊髄損傷の理学療法概論
第9回　脊髄損傷の理学療法に関する評価
第10回　脊髄損傷の高位診断，脊髄不全損傷とその特殊型
第11回　痙性麻痺の定義、概念、評価、治療，脊髄損傷に関する自律神経障害
第12回　回復期初期から後期における理学療法（1）
第13回　回復期初期から後期における理学療法（2）
第14回　慢性期における理学療法（1）
第15回　慢性期における理学療法（2），泌尿器系における理学療法

履修上の注意点

2/3以上の出席により、成績評価対象とする。

教科書

PTマニュアル 脊髄損傷の理学療法 第3版 Web動画付
著者:　武田功
出版社:　医歯薬出版
出版年:　2017　　ISBN:　978-4263214831

参考書

成績評価

試験・レポート （ 80% ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**地域理学療法学**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　白岩　加代子.村田　伸	

テーマ

「地域で暮らす」ことに必要な事項を学び、主体的に地域における理学療法士の役割について学習する。

授業の到達目標

地域理学療法学の理念に基づき、地域社会を基盤として行われるリハビリテーション分野で、地域社会に貢献できる理学療法士の育成を目指す。

授業の概要

地域で暮らすために必要な知識だけでなく、主体的に情報収集する体験（学外研修）も含めて授業を行う予定。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

自分が住んでいる地域や育った環境での保険・福祉制度や地域理学療法の現状などについて調べてみる。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　地域理学療法の考え方
第3回　学外研修（福祉・リハ関連機器）
第4回　学外研修（福祉・リハ関連機器）
第5回　障害を取り巻く社会状況
第6回　介護保険制度の仕組み
第7回　介護保険制度における住宅改修
第8回　介護保険制度における福祉用具のサービス
第9回　障害の捉え方
第10回　急性期から維持期における理学療法
第11回　維持期理学療法の実際（入所・通所サービス）
第12回　維持期理学療法の実際（訪問サービス）
第13回　障害予防への取り組み方
第14回　地域における活動紹介
第15回　まとめ
外部講師を招いて講演会を開催する場合がある。

履修上の注意点

3分の2以上出席した者、課題などの提出者を成績評価の対象とする。

教科書

地域理学療法学テキスト
著者:
出版社: 学術出版
出版年: 2015　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 80 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**臨床評価実習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　宮﨑　純弥.安彦　鉄平.小田桐　匡.甲斐　義浩.兒玉　隆之.崎田　正博.白岩　加代子.濱出　茂治.堀江　淳.松尾　奈々.村田　伸	

テーマ

授業の到達目標

1)対象者に対して、適切な態度で対応することができる。
2)医療専門職として責任および節度のある態度と行動をとることができる。
3)基本的な理学療法の情報収集、評価方法の選択、検査・測定を正しく実施することができる。
4)得られた評価結果から対応課題を抽出し、初歩的な治療プログラムを立案できる。
5)理学療法の基本的な記録をすることができる。
6)担当症例の評価報告書をまとめ、提出することができる。

授業の概要

実習指導者の指導・教育のもと、対象者に対する評価を中心とした実習を行う。対象者に応じた情報の収集、評価方法の選択、検査・測定の実施、結果の記録、統合と解釈、対応課題の抽出までの一連の評価過程を体験することにより、評価技術の習得のみならず、対応課題の解決を図る思考過程を学習する。一連の過程で得られた情報に基づき初歩的な治療プログラムの作成方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　オリエンテーション：実習概要を理解し、実習に取り組む際の注意事項などについて確認する
第2回　現場実習
第3回　現場実習
第4回　現場実習
第5回　現場実習
第6回　現場実習
第7回　現場実習
第8回　現場実習
第9回　現場実習
第10回　現場実習
第11回　現場実習
第12回　現場実習
第13回　現場実習
第14回　現場実習
第15回　現場実習
第16回　現場実習
第17回　現場実習
第18回　現場実習
第19回　現場実習
第20回　現場実習
第21回　現場実習
第22回　現場実習
第23回　現場実習
第24回　現場実習
第25回　現場実習
第26回　現場実習
第27回　現場実習
第28回　現場実習
第29回　現場実習
第30回　実習終了後セミナー：実習経験報告、集団討議、事例検討・報告などから成る。学生は、実習課題を中心に、実習施設の特徴や実習した内容および経験について要点をまとめて簡潔に発表する。

履修上の注意点

教科書

参考書

a90103c110

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 20 ）
実習の出席は80%以上で単位認定の資格を得る。

2018 Syllabus

科 目 名　**運動器障害系理学療法学応用演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮﨑　純弥	

テーマ

運動器系疾患理学療法のより詳細な評価・治療を考え、臨床能力の向上を図る

授業の到達目標

運動器系疾患に対する理学療法を多角的に捉え、評価・治療を行う。より臨床に即した一連の理学療法を実践するにあたって、必要な運動器疾患の知識・解剖学的知識・運動学的知識を統合して捉えることが出来るようにする。

授業の概要

症例を通して、患者の全体像を把握して検査測定・問題点抽出・治療プログラム立案して実施するところまでを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　姿勢の評価①
第3回　姿勢の評価②
第4回　下肢疾患の症例検討①
第5回　下肢疾患の症例検討②
第6回　下肢疾患の症例検討③
第7回　下肢疾患の症例検討④
第8回　上肢疾患の症例検討①
第9回　上肢疾患の症例検討②
第10回　上肢疾患の症例検討③
第11回　上肢疾患の症例検討④
第12回　脊椎疾患の症例検討①
第13回　脊椎疾患の症例検討②
第14回　脊椎疾患の症例検討③
第15回　総括 なお、外部講師を招いて講演会を開催することがある

履修上の注意点

講義の前にテキストの指示された部分について最低でも3回は熟読し、分からない単語等は各自で調べておくこと。実技の出来る服装で参加すること。

教科書

ケースで学ぶ徒手理学療法クリニカルリーズニング
著者:　編集　藤縄理
出版社:　文光堂
出版年:　2017　　ISBN:　9784830645587

マッスルインバランスの理学療法
著者:　荒木茂
出版社:　運動と医学の出版社
出版年:　　ISBN:　9784904862285

参考書

成績評価

試験・レポート （ 80% ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 10% ）	授業中発表等 （ 5% ）
参加度 （ 5% ）	

授業日程の2/3以上出席した者を成績評価の対象とします。

2018 Syllabus

科目名 **内部障害系理学療法学応用演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　員
履修条件	クラス指定
担当者　堀江　淳.安福　祐一	

テーマ

内部障害系(呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患)理学療法学の高度な知識、技術の習得を促進する。

授業の到達目標

本講義は、呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患に関係する特異的な留意点を整理し、それら疾患における理学療法評価法、治療法、リスク管理、および薬物療法、酸素療法、人工呼吸療法と理学療法の関わりについて学び、その知識、技術の習得を目標とする。

授業の概要

呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患に関係する特異的な留意点を整理し、それら疾患における理学療法評価法、治療法、リスク管理、および薬物療法、酸素療法、人工呼吸療法と理学療法の関わりについて学び、その知識、技術を習得する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

教員作成資料、内部障害関連学術雑誌の抄読、理学療法士対象の関連勉強会、講習会への参加促進

内　容

第1回　COPDの病態
第2回　COPDにおける動的肺過膨張、薬物療法と理学療法
第3回　間質性肺炎や気管支拡張症の病態
第4回　間質性肺炎や気管支拡張症の理学療法
第5回　急性期(ICU、CCUなど)における呼吸、循環動態
第6回　急性期(ICU、CCUなど)における呼吸器疾患の病態、評価と治療
第7回　酸素療法、非侵襲的、侵襲的人工呼吸療法と理学療法
第8回　胸部、腹部外科術後における理学療法とリスク管理
第9回　心筋梗塞、狭心症における心臓リハビリテーション
第10回　急性期(ICU、CCUなど)における循環器疾患の病態、評価と治療
第11回　心臓血管外科術後における心臓リハビリテーションの評価と治療
第12回　回復期から慢性期における心臓リハビリテーションの評価と治療
第13回　Ⅱ型糖尿病の病態、検査、治療
第14回　Ⅱ型糖尿病のための理学療法評価と治療プログラム
第15回　講義のまとめと最新トピックス なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

内部障害理学療法学
著者:　松尾善美
出版社:　羊土社
出版年:　2016　　ISBN:　9784758102179

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度（ 25 ）
授業中に課された課題の遂行能力、授業内容に関する発表会での完成度、実技授業への参加度にて総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**スポーツ障害系理学療法学応用演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野田　優希	

テーマ

スポーツ障害の再発防止に向けた理学療法

授業の到達目標

①スポーツ障害に関連する関節の機能不全や運動異常を説明できる．②スポーツ障害の再発防止に向けたアプローチを実践できる.

授業の概要

スポーツ動作からみた障害発生要因について検討するとともに，スポーツ障害で重要となる各関節の機能評価および機能改善アプローチ方法，自己管理の指導について実践的に解説します．また、スポーツ現場実習も行い、実際に選手の治療・コンディショニングを行います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　総論；マルアライメントとスポーツ障害
第2回　アライメント評価（1）
第3回　アライメント評価（2）
第4回　下腿・足関節の機能改善アプローチ
第5回　膝関節の機能改善アプローチ
第6回　股関節の機能改善アプローチ
第7回　体幹の機能改善アプローチ
第8回　肩関節の機能改善アプローチ
第9回　肘・手関節の機能改善アプローチ
第10回　まとめ
第11回　スポーツ現場における障害予防教育（1）
第12回　スポーツ現場における障害予防教育（2）
第13回　スポーツ現場における障害予防教育（3）
第14回　スポーツ現場における障害予防教育（4）
第15回　スポーツ現場における障害予防教育（5）

履修上の注意点

実技を交えながら行いますので，実習着に着替えて参加してください．スポーツ現場の見学実習も行います．3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

ファンクショナル・エクササイズ
著者：　川野哲英
出版社：ブックハウスHD
出版年：2004　　ISBN：4938335123

リアライン・トレーニング
著者：　蒲田和芳
出版社：講談社
出版年：2014　　ISBN：9784062806589

復帰をめざすスポーツ整形外科
著者：　宗田　大
出版社：MEDICAL VIEW
出版年：2011　　ISBN：9784758310406

参考書

成績評価

試験・レポート（ 80 ）　　小テスト（ 10 ）

a90103d450

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 5 ）

参加度 （ 5 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**発達障害系理学療法学応用演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　崎田　正博.小田桐　匡	

テーマ

発達障害における理学療法の応用的な知識の理解、評価および治療を学ぶ。

授業の到達目標

1)脳性麻痺の多様な病態と異常発達を理解する。　2)脳性麻痺の各病型別動作分析の視点を学ぶ。　3)重度障害の病態･発達及び複合障害を理解する。　4)応用的な評価･動作分析･治療を身につける。

授業の概要

実技を中心に実施します。

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

事前に授業資料を配布するため予習して授業に参加

内　容

第1回　脳性麻痺の概念:脳性麻痺とは？
第2回　脳性麻痺の病型分類と麻痺分布
第3回　脳性麻痺の評価
第4回　脳性麻痺の評価（動作分析を中心に）①
第5回　脳性麻痺の評価（動作分析を中心に）②
第6回　脳性麻痺の治療（神経生理学的アプローチを中心に）①
第7回　脳性麻痺の治療（神経生理学的アプローチを中心に）②
第8回　脳性麻痺の評価（実習）①
第9回　脳性麻痺の評価（実習）②
第10回　脳性麻痺の評価、統合と解釈①
第11回　脳性麻痺の評価、統合と解釈②
第12回　脳性麻痺理学療法における問題解決方法（1）
第13回　脳性麻痺理学療法における問題解決方法（2）
第14回　脳性麻痺理学療法における問題解決方法（3）
第15回　まとめとテスト対策

履修上の注意点

1／3以上の欠席で単位なし

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験･レポート （ 60% ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 10% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**老年期障害理学療法学演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　白岩　加代子.村田　伸	

テーマ

老人疾患の特徴や機能低下の特徴に合わせた理学療法について学ぶ。

授業の到達目標

加齢に伴う身体機能の変化や老化の特徴について学び、個々に合わせた対応策を考案できるようになることを目標とする。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

高齢者の動作分析や特徴などを観察してみる

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　老年期の特徴と老年期に生じやすい障害
第3回　廃用症候群
第4回　視覚・聴覚・言語障害
第5回　骨粗鬆症と骨折
第6回　脳血管障害
第7回　高次脳機能障害
第8回　認知症
第9回　関節リウマチ
第10回　パーキンソン病
第11回　内部障害
第12回　糖尿病
第13回　悪性新生物
第14回　切断
第15回　脊髄損傷

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

老年期障害理学療法学テキスト
著者:
出版社: 学術研究出版
出版年: 2016　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 90 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**ヘルスプロモーション理学療法学応用演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　村田　伸.合田　明生.白岩　加代子.堀江　淳.安福　祐一	

テーマ

演習授業に積極的に参加し、各グループ内での活発な意見交換を通して、主体的にヘルスプロモーションを促進するための理学療法士の役割を学習する。

授業の到達目標

ヘルスプロモーション理学療法学基礎演習で学んだ知識を活かし、より実践的な事項について学び、医療機関や地域の関係諸機関においても活躍できる理学療法士をめざす。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　生活習慣病予防のための運動処方
第2回　生活習慣病予防のための運動処方（運動指針と運動処方）
第3回　生活習慣病予防のための運動処方（効果的なウォーキング方法）
第4回　介護予防のための運動処方（介護予防と身体活動）
第5回　介護予防のための運動処方（骨粗鬆症の予防）
第6回　介護予防のための運動処方（転倒予防）
第7回　介護予防のための運動処方（認知症予防）
第8回　運動実施時の注意点（健康チェック）
第9回　運動実施時の注意点（環境と健康）
第10回 運動実施時の注意点（肥満者への運動指導）
第11回 運動実施時の注意点（腰・膝・肩に痛みがある人への運動指導）
第12回 運動実施時の注意点（筋力低下・虚弱高齢者への運動指導）
第13回 運動実施時の注意点（運動習慣の形成方法）
第14回 生活習慣病・介護予防に対する運動効果のエビデンス
第15回 生活習慣病・介護予防に対する運動効果のエビデンス

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

「理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション-理論と実践」
著者:
出版社: 南江堂
出版年: 2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 90 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法技術学Ⅰ（運動器障害）**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮﨑　純弥	

テーマ

運動器系疾患理学療法に関する治療・研究の方向性について紹介し、整形徒手理学療法の理論と技術を学ぶ

授業の到達目標

整形徒手理学療法（Kaltenborn-Evjenth Concept）の理論を理解し、基本的な技術を習得し、この基本的技術を患者に使用できるようにすることを目的とする。また、その過程で必要な学術論文が読めるようになることを目的とする。

授業の概要

講義形式とグループワークを行ってもらう

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　整形徒手理学療法の理論
第3回　上肢の徒手療法1
第4回　上肢の徒手療法2
第5回　下肢の徒手療法1
第6回　下肢の徒手療法2
第7回　脊柱の徒手療法
第8回　まとめ
第9回　なお、外部講師を招いて講演会を実施することがある

履修上の注意点

実技が可能な服装で参加すること。

教科書

整形徒手理学療法
著者:　富雅男・砂川勇監修
出版社:　医歯薬出版
出版年:　2011　　ISBN:　9784263213872

参考書

成績評価

試験・レポート （ 80% ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 15% ）

参加度 （ 5% ）

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法技術学Ⅱ（神経障害）**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　兒玉 隆之	

テーマ

授業の到達目標

神経科学の視点から認知、運動などの高次脳機能を理解するとともに、機能回復のために必要な、脳内神経ネットワークの再構築を神経基盤とする運動学習メカニズムに基づいた理学療法技術（神経リハビリテーション）を学ぶことを目的にする。

授業の概要

機能回復の促進、援助、さらに残存機能と代償機能を利用した理学療法技術を教授する。神経障害に対する訓練機器を応用した治療も学習する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　神経リハビリテーションとは
第2回　運動学習とは①
第3回　運動学習とは②
第4回　神経障害に対する基本的な理学療法アプローチ
第5回　神経リハビリテーション（運動イメージ）について①
第6回　神経リハビリテーション（振動刺激）について②
第7回　神経リハビリテーション（ニューロフィードバック）について③
第8回　まとめ

履修上の注意点

講義資料は適宜配布します。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法技術学Ⅲ（内部障害）**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀江　淳	

テーマ

内部障害患者に対する代表的な検査、治療の技術を、より深く探求する。より臨床的、かつ最新の治療、論理を学習する。

授業の到達目標

内部障害患者に対する代表的な検査、治療の技術を学び、臨床実習で活用できることを目標とする。また、より臨床的な内容に着目した知識、技術を習得することを目標とする。

授業の概要

教科書的な内容よりも、より臨床的な内容で授業を展開する。学術論文など最新のトピックスなども合わせて読み解く。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

前期で学んだ内部障害系理学療法学基礎演習の内容を事前に復習しておく。

内　容

第1回　呼吸機能検査（肺気量分画）の技術と理論を学ぶ
第2回　呼吸機能検査（フローボリューム）の技術と理論を学ぶ
第3回　フィールド歩行テスト（6分間歩行距離テスト）の技術と理論を学ぶ
第4回　フィールド歩行テスト（シャトルウォーキングテスト）の技術と理論を学ぶ
第5回　心肺運動負荷テストの技術と理論を学ぶ（最高酸素摂取量と嫌気性代謝作業閾値）
第6回　心肺運動負荷テストの技術と理論を学ぶ（換気と循環）
第7回　運動処方の実際と理論を学ぶ
第8回　気道クリアランスを高める技術と理論（排痰手技）を学ぶ なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

3分の2以上の出席により、成績評価対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 60 ）
参加度（ 10 ）	

授業中の課題とその発表内容にて評価する。3分の1以上の欠席のあるものは発表を認めない。出席点は減点方式とし欠席1回につき2点減点、無断欠席は4点減点とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法技術学Ⅴ（発達障害）**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　崎田　正博	

テーマ

各疾患別発達障害理学療法を症例を中心にディスカッション形式で授業を展開し、理学療法プロセスの思考を養う。

授業の到達目標

1）脳性麻痺の動作分析を学ぶ。　2）近年のトピック的な評価・治療を学ぶ。
3）発達障害の加齢による退行を学ぶ。

授業の概要

ディスカッション形式で実施します。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に授業資料を配布するため予習して授業に参加

内　容

第1回　痙直型脳性麻痺の近年の評価・治療
第2回　アテトーゼ型脳性麻痺の近年の評価・治療
第3回　ジストニア型脳性麻痺の近年の評価・治療
第4回　失調型脳性麻痺の近年の評価・治療
第5回　症例1．ディスカッション
第6回　症例2．ディスカッション
第7回　症例3．ディスカッション
第8回　症例4．ディスカッション

履修上の注意点

1／3以上の欠席で単位なし

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50% ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 40% ）
参加度 （ 10% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**地域理学療法学演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　白岩　加代子.村田　伸	

テーマ

演習授業に積極的に参加し、各グループ内での活発な意見交換を通して、主体的に地域での理学療法士の役割について学習する。

授業の到達目標

地域理学療法学の理念に基づき、地域社会を基盤として行われるリハビリテーション分野で、地域社会に貢献できる理学療法士の育成を目指す。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　地域包括ケア
第3回　自立支援
第4回　在宅介護
第5回　地域連携とネットワーク作り
第6回　福祉住環境整備1
第7回　福祉住環境整備2
第8回　地域における健康増進のための取り組み1
第9回　地域における健康増進のための取り組み2
第10回　学外研修（地域における住環境整備、地域事業への参加）
第11回　学外研修（地域における福祉用具の活用、地域事業への参加）
第12回　学外研修（訪問リハビリテーション、地域事業への参加）
第13回　学外研修（訪問リハビリテーション、地域事業への参加）
第14回　まとめ（意見交換、グループ発表など）
第15回　まとめ（意見交換、グループ発表など）
外部講師を招いて講演会を開催することがある

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 90 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**中枢神経障害系理学療法学応用演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　兒玉　隆之.小田桐　匡	

テーマ

中枢神経性の神経障害に対する理学療法について学びを一層深める.

授業の到達目標

中枢神経障害系理学療法学基礎演習で学んだ知識を基礎に，より臨床に近いレベルでの疾患の病態，障害のメカニズム（回復，予後を含む），治療戦略に関する知識を演習形式にて指導する．さらに，研究的視点でそれらに対する理学療法に必要な専門的理論に対する思考過程の習熟を図る．

授業の概要

2回生で学んだ内容の復習を行いつつ，座学，グループ活動も含めた演習形式など多様な形態で進める．レポート課題も適宜行う．

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　「痙縮と固縮」のメカニズムを考える
第2回　脳血管障害の「急性期」における理学療法
第3回　脳血管障害の「回復期」における理学療法
第4回　脳血管障害の「維持期」における理学療法
第5回　脳卒中リハビリテーションのこれからを考える（Sharmaの治療コンセプトから）
第6回　臨床推論（事例検討）
第7回　中枢神経に由来する“痛み”とは
第8回　大脳基底核障害由来の病態を考える①
第9回　大脳基底核障害由来の病態を考える②
第10回　臨床推論②　事例検討
第11回　臨床推論③　事例検討
第12回　小脳障害由来の病態を考える
第13回　臨床推論④　事例検討
第14回　中枢神経障害と理学療法
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 80 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**神経・筋疾患理学療法学応用演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　兒玉　隆之.武田　功.小田桐　匡	

テーマ

神経原性疾患，脱髄性疾患および免疫性疾患に対する理学療法を理解を促進する.

授業の到達目標

神経原性疾患，脱髄性疾患および免疫性疾患の病態、それらに起因する障害、回復過程、予後に関する知識を学び、それらをもとにした障害の回復促進および増悪の予防に対する理学療法の基本原理と治療体系を修得することが目標となる.

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

講義内容に関するレポート作成

内　　容

第1回　神経原性疾患①　ALSの発症機序と症状
第2回　神経原性疾患②　ALSに対する理学療法
第3回　神経原性疾患③　MSの発症機序と症状
第4回　神経原性疾患④　MSに対する理学療法
第5回　神経原性疾患⑤　大脳基底核障害に対する理学療法

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 80 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法総合演習 <＊a>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　村田　伸	

テーマ

理学療法に係る基礎的および応用的知識とその臨床活用

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　オリエンテーション、グループ編成
第2回　グループワーク1
第3回　グループワーク2
第4回　グループワーク3
第5回　グループワーク4
第6回　小テスト1
第7回　グループワーク5
第8回　グループワーク6
第9回　グループワーク7
第10回 グループワーク8
第11回 グループワーク9
第12回 小テスト2
第13回 グループワーク10
第14回 グループワーク11
第15回 グループワーク12
第16回 グループワーク13
第17回 グループワーク14
第18回 小テスト3
第19回 グループワーク15
第20回 グループワーク16
第21回 グループワーク17
第22回 グループワーク18
第23回 グループワーク19
第24回 小テスト4
第25回 グループワーク20
第26回 グループワーク21
第27回 グループワーク22
第28回 グループワーク23
第29回 グループワーク24
第30回 小テスト5

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 70 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

a90104a150

参加度 （ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法総合演習 <＊b>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　木村　智子	

テーマ

理学療法に係る基礎的および応用的知識とその臨床活用

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　オリエンテーション、グループ編成
第2回　グループワーク1
第3回　グループワーク2
第4回　グループワーク3
第5回　グループワーク4
第6回　小テスト1
第7回　グループワーク5
第8回　グループワーク6
第9回　グループワーク7
第10回 グループワーク8
第11回 グループワーク9
第12回 小テスト2
第13回 グループワーク10
第14回 グループワーク11
第15回 グループワーク12
第16回 グループワーク13
第17回 グループワーク14
第18回 小テスト3
第19回 グループワーク15
第20回 グループワーク16
第21回 グループワーク17
第22回 グループワーク18
第23回 グループワーク19
第24回 小テスト4
第25回 グループワーク20
第26回 グループワーク21
第27回 グループワーク22
第28回 グループワーク23
第29回 グループワーク24
第30回 小テスト5

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 70 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

a90104a152

参加度 （ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法総合演習 <＊c>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　甲斐　義浩	

テーマ

理学療法に係る基礎的および応用的知識とその臨床活用

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　オリエンテーション、グループ編成
第2回　グループワーク1
第3回　グループワーク2
第4回　グループワーク3
第5回　グループワーク4
第6回　小テスト1
第7回　グループワーク5
第8回　グループワーク6
第9回　グループワーク7
第10回 グループワーク8
第11回 グループワーク9
第12回 小テスト2
第13回 グループワーク10
第14回 グループワーク11
第15回 グループワーク12
第16回 グループワーク13
第17回 グループワーク14
第18回 小テスト3
第19回 グループワーク15
第20回 グループワーク16
第21回 グループワーク17
第22回 グループワーク18
第23回 グループワーク19
第24回 小テスト4
第25回 グループワーク20
第26回 グループワーク21
第27回 グループワーク22
第28回 グループワーク23
第29回 グループワーク24
第30回 小テスト5

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 70 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

a90104a153

参加度 （ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法総合演習 <＊d>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　崎田　正博	

テーマ

理学療法に係る基礎的および応用的知識とその臨床活用

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　オリエンテーション、グループ編成
第2回　グループワーク1
第3回　グループワーク2
第4回　グループワーク3
第5回　グループワーク4
第6回　小テスト1
第7回　グループワーク5
第8回　グループワーク6
第9回　グループワーク7
第10回 グループワーク8
第11回 グループワーク9
第12回 小テスト2
第13回 グループワーク10
第14回 グループワーク11
第15回 グループワーク12
第16回 グループワーク13
第17回 グループワーク14
第18回 小テスト3
第19回 グループワーク15
第20回 グループワーク16
第21回 グループワーク17
第22回 グループワーク18
第23回 グループワーク19
第24回 小テスト4
第25回 グループワーク20
第26回 グループワーク21
第27回 グループワーク22
第28回 グループワーク23
第29回 グループワーク24
第30回 小テスト5

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 70 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

a90104a154

参加度 （ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法総合演習 <＊e>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　白岩　加代子	

テーマ

理学療法に係る基礎的および応用的知識とその臨床活用

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　オリエンテーション、グループ編成
第2回　グループワーク1
第3回　グループワーク2
第4回　グループワーク3
第5回　グループワーク4
第6回　小テスト1
第7回　グループワーク5
第8回　グループワーク6
第9回　グループワーク7
第10回 グループワーク8
第11回 グループワーク9
第12回 小テスト2
第13回 グループワーク10
第14回 グループワーク11
第15回 グループワーク12
第16回 グループワーク13
第17回 グループワーク14
第18回 小テスト3
第19回 グループワーク15
第20回 グループワーク16
第21回 グループワーク17
第22回 グループワーク18
第23回 グループワーク19
第24回 小テスト4
第25回 グループワーク20
第26回 グループワーク21
第27回 グループワーク22
第28回 グループワーク23
第29回 グループワーク24
第30回 小テスト5

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 70 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

a90104a155

参加度 （ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法総合演習 <＊f>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小田桐　匡	

テーマ

理学療法に係る基礎的および応用的知識とその臨床活用

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　オリエンテーション、グループ編成
第2回　グループワーク1
第3回　グループワーク2
第4回　グループワーク3
第5回　グループワーク4
第6回　小テスト1
第7回　グループワーク5
第8回　グループワーク6
第9回　グループワーク7
第10回 グループワーク8
第11回 グループワーク9
第12回 小テスト2
第13回 グループワーク10
第14回 グループワーク11
第15回 グループワーク12
第16回 グループワーク13
第17回 グループワーク14
第18回 小テスト3
第19回 グループワーク15
第20回 グループワーク16
第21回 グループワーク17
第22回 グループワーク18
第23回 グループワーク19
第24回 小テスト4
第25回 グループワーク20
第26回 グループワーク21
第27回 グループワーク22
第28回 グループワーク23
第29回 グループワーク24
第30回 小テスト5

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 70 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

a90104a156

参加度 （ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法総合演習 <＊g>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松尾　奈々	

テーマ

理学療法に係る基礎的および応用的知識とその臨床活用

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　オリエンテーション、グループ編成
第2回　グループワーク1
第3回　グループワーク2
第4回　グループワーク3
第5回　グループワーク4
第6回　小テスト1
第7回　グループワーク5
第8回　グループワーク6
第9回　グループワーク7
第10回 グループワーク8
第11回 グループワーク9
第12回 小テスト2
第13回 グループワーク10
第14回 グループワーク11
第15回 グループワーク12
第16回 グループワーク13
第17回 グループワーク14
第18回 小テスト3
第19回 グループワーク15
第20回 グループワーク16
第21回 グループワーク17
第22回 グループワーク18
第23回 グループワーク19
第24回 小テスト4
第25回 グループワーク20
第26回 グループワーク21
第27回 グループワーク22
第28回 グループワーク23
第29回 グループワーク24
第30回 小テスト5

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 70 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

a90104a157

参加度 （ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法総合演習 <＊h>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮﨑　純弥	

テーマ

理学療法に係る基礎的および応用的知識とその臨床活用

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　オリエンテーション、グループ編成
第2回　グループワーク1
第3回　グループワーク2
第4回　グループワーク3
第5回　グループワーク4
第6回　小テスト1
第7回　グループワーク5
第8回　グループワーク6
第9回　グループワーク7
第10回 グループワーク8
第11回 グループワーク9
第12回 小テスト2
第13回 グループワーク10
第14回 グループワーク11
第15回 グループワーク12
第16回 グループワーク13
第17回 グループワーク14
第18回 小テスト3
第19回 グループワーク15
第20回 グループワーク16
第21回 グループワーク17
第22回 グループワーク18
第23回 グループワーク19
第24回 小テスト4
第25回 グループワーク20
第26回 グループワーク21
第27回 グループワーク22
第28回 グループワーク23
第29回 グループワーク24
第30回 小テスト5

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 70 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

a90104a158

参加度 （ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法総合演習 <＊i>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　兒玉 隆之	

テーマ

理学療法に係る基礎的および応用的知識とその臨床活用

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　オリエンテーション、グループ編成
第2回　グループワーク1
第3回　グループワーク2
第4回　グループワーク3
第5回　グループワーク4
第6回　小テスト1
第7回　グループワーク5
第8回　グループワーク6
第9回　グループワーク7
第10回 グループワーク8
第11回 グループワーク9
第12回 小テスト2
第13回 グループワーク10
第14回 グループワーク11
第15回 グループワーク12
第16回 グループワーク13
第17回 グループワーク14
第18回 小テスト3
第19回 グループワーク15
第20回 グループワーク16
第21回 グループワーク17
第22回 グループワーク18
第23回 グループワーク19
第24回 小テスト4
第25回 グループワーク20
第26回 グループワーク21
第27回 グループワーク22
第28回 グループワーク23
第29回 グループワーク24
第30回 小テスト5

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 70 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法総合演習 <＊j>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀江　淳	

テーマ

理学療法に係る基礎的および応用的知識とその臨床活用

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　オリエンテーション、グループ編成
第2回　グループワーク1
第3回　グループワーク2
第4回　グループワーク3
第5回　グループワーク4
第6回　小テスト1
第7回　グループワーク5
第8回　グループワーク6
第9回　グループワーク7
第10回 グループワーク8
第11回 グループワーク9
第12回 小テスト2
第13回 グループワーク10
第14回 グループワーク11
第15回 グループワーク12
第16回 グループワーク13
第17回 グループワーク14
第18回 小テスト3
第19回 グループワーク15
第20回 グループワーク16
第21回 グループワーク17
第22回 グループワーク18
第23回 グループワーク19
第24回 小テスト4
第25回 グループワーク20
第26回 グループワーク21
第27回 グループワーク22
第28回 グループワーク23
第29回 グループワーク24
第30回 小テスト5

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 70 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

a90104a160

参加度 （ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法総合演習 <＊k>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安彦　鉄平	

テーマ

理学療法に係る基礎的および応用的知識とその臨床活用

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　オリエンテーション、グループ編成
第2回　グループワーク1
第3回　グループワーク2
第4回　グループワーク3
第5回　グループワーク4
第6回　小テスト1
第7回　グループワーク5
第8回　グループワーク6
第9回　グループワーク7
第10回 グループワーク8
第11回 グループワーク9
第12回 小テスト2
第13回 グループワーク10
第14回 グループワーク11
第15回 グループワーク12
第16回 グループワーク13
第17回 グループワーク14
第18回 小テスト3
第19回 グループワーク15
第20回 グループワーク16
第21回 グループワーク17
第22回 グループワーク18
第23回 グループワーク19
第24回 小テスト4
第25回 グループワーク20
第26回 グループワーク21
第27回 グループワーク22
第28回 グループワーク23
第29回 グループワーク24
第30回 小テスト5

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 70 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

a90104a161

参加度 （ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法総合演習 <＊I>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　濱出　茂治	

テーマ

理学療法に係る基礎的および応用的知識とその臨床活用

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　オリエンテーション、グループ編成
第2回　グループワーク1
第3回　グループワーク2
第4回　グループワーク3
第5回　グループワーク4
第6回　小テスト1
第7回　グループワーク5
第8回　グループワーク6
第9回　グループワーク7
第10回 グループワーク8
第11回 グループワーク9
第12回 小テスト2
第13回 グループワーク10
第14回 グループワーク11
第15回 グループワーク12
第16回 グループワーク13
第17回 グループワーク14
第18回 小テスト3
第19回 グループワーク15
第20回 グループワーク16
第21回 グループワーク17
第22回 グループワーク18
第23回 グループワーク19
第24回 小テスト4
第25回 グループワーク20
第26回 グループワーク21
第27回 グループワーク22
第28回 グループワーク23
第29回 グループワーク24
第30回 小テスト5

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 70 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

a90104a162

参加度 （ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**理学療法管理学**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　濱出　茂治	

テーマ

理学療法部門における管理運営者としての業務や他部門との連携の在り方について教授する。

授業の到達目標

理学療法部門における管理運営の在り方について学ぶ。

授業の概要

理学療法部門における人材育成や治療技術の向上を目的とした臨床研修教員、研究体制、さらに部門管理者としてのマネージメント理論について講義する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　理学療法施設基準
第2回　認定理学療法士制度
第3回　専門理学療法士制度
第4回　医療保険制度
第5回　介護保険制度
第6回　回復期病棟における理学療法の役割
第7回　理学療法とコミュニケーション
第8回　研究と教育

履修上の注意点

2/3以上の出席により、成績評価対象とする。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 80% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**総合臨床実習Ⅰ**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期集中	定　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　宮﨑　純弥.安彦　鉄平.小田桐　匡.甲斐　義浩.兒玉　隆之.崎田　正博.白岩　加代子.濱出　茂治.堀江　淳.松尾　奈々.村田　伸	

テーマ

授業の到達目標

1)対象者に対して、適切な態度で対応することができる。
2)医療専門職として責任および節度ある態度と行動をとることができる。
3)対象者の課題解決を図るための基本的な理学療法（評価から治療計画の立案、治療プログラムの実施までの一連の過程）を総合的に学ぶ。
4)学生として必要な記録と報告ができる。
5)症例報告書をまとめ、発表・提出することができる。

授業の概要

実習指導者の指導・教育のもと、学内で習得した専門知識と技術を基礎として、総合的な理学療法の実習を行う。複数の対象者に対して、それぞれに応じた評価、治療計画立案、治療といった一連の過程を体験する。この実習を通して、各種疾患の障害像や生活機能を理解するとともに背景因子（環境因子や個人因子、等）を考慮した理学療法の実践力を養う。さらにリハビリテーションチームの一員としての役割を自覚し、医療従事者として節度ある態度と協調性を身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　オリエンテーション：実習概要を理解し、実習に取り組む際の注意事項などについて確認する。
第2回　現場実習
第3回　現場実習
第4回　現場実習
第5回　現場実習
第6回　現場実習
第7回　現場実習
第8回　現場実習
第9回　現場実習
第10回　現場実習
第11回　現場実習
第12回　現場実習
第13回　現場実習
第14回　現場実習
第15回　現場実習
第16回　現場実習
第17回　現場実習
第18回　現場実習
第19回　現場実習
第20回　現場実習
第21回　現場実習
第22回　現場実習
第23回　現場実習
第24回　現場実習
第25回　現場実習
第26回　現場実習
第27回　現場実習
第28回　現場実習
第29回　現場実習
第30回　実習終了後セミナー：実習経験報告、集団討議、事例検討・報告などから成る。学生は、実習課題を中心に、担当患者の理学療法評価・問題点・治療目標・治療内容・効果判定などを報告する。

履修上の注意点

教科書

参考書

a90104a310

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 20 ）
実習の出席は80%以上で単位認定の資格を得る。

2018 Syllabus

科 目 名　**総合臨床実習Ⅱ**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期集中	定　員
履修条件	クラス指定

担 当 者　宮﨑 純弥.安彦 鉄平.小田桐 匡.甲斐 義浩.兒玉 隆之.崎田 正博.白岩 加代子.濱出 茂治.堀江 淳.松尾 奈々.村田 伸

テーマ

授業の到達目標

1)対象者に対して、適切な態度で対応することができる。
2)医療専門職として責任および節度ある態度と行動をとることができる。
3)対象者の課題解決を図るための基本的な理学療法(評価から治療計画の立案、治療プログラムの実施までの一連の過程)を総合的に学ぶ。
4)学生として必要な記録と報告ができる。
5)症例報告書をまとめ、発表・提出することができる。

授業の概要

実習指導者の指導・教育のもと、学内で習得した専門知識と技術を基礎として、総合的な理学療法の実習を行う。対象者に対して、それぞれに応じた評価、治療計画立案、治療といった一連の過程を体験する。この実習を通して、各種疾患の障害像や生活機能を理解するとともに背景因子(環境因子や個人因子、等)を考慮した理学療法の実践力を養う。さらにリハビリテーションチームの一員としての役割を身につける。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

内　容

第1回　オリエンテーション:実習概要を理解し、実習に取り組む際の注意事項などについて確認する。
第2回　現場実習
第3回　現場実習
第4回　現場実習
第5回　現場実習
第6回　現場実習
第7回　現場実習
第8回　現場実習
第9回　現場実習
第10回　現場実習
第11回　現場実習
第12回　現場実習
第13回　現場実習
第14回　現場実習
第15回　現場実習
第16回　現場実習
第17回　現場実習
第18回　現場実習
第19回　現場実習
第20回　現場実習
第21回　現場実習
第22回　現場実習
第23回　現場実習
第24回　現場実習
第25回　現場実習
第26回　現場実習
第27回　現場実習
第28回　現場実習
第29回　現場実習
第30回　実習終了後セミナー:実習経験報告、集団討議、事例検討・報告などから成る。学生は、実習課題を中心に、担当患者の理学療法評価・問題点・治療目標・治療内容・効果判定などを報告する。

履修上の注意点

教科書

参考書

a90104a450

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 20 ）
実習の出席は80%以上で単位認定の資格を得る。

2018 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅰ（心）<Ha>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　スミス, ジョン	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions,daily activities and transportation.（友達･家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）This course will be taught in English.

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

Please do all the homework, preview and review the textbook.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet and Introduce People（初対面･自己紹介）
第3回　Unit 1 (B/C): Family members / Describing people（家族･人の外見を描写する）
第4回　Unit 2 (A/B): Jobs（仕事について話す）
第5回　Unit 2 (C): Countries（世界の国々ついて話す）
第6回　Unit 3 (A/B): Your house（家を描写する）
第7回　Unit 3 (C): Household objects（家具や家庭用品について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A/B): Personal possessions（持ち物について話す）
第10回　Unit 4 (C): Buy a present（ギフトを選ぶ）
第11回　Unit 5 (A/B): Daily routine（日課を描写する）
第12回　Unit 5 (C): Work activities（仕事内容について話す）
第13回　Unit 6 (A/B): Giving directions（道案内をする）
第14回　Unit 6 (C): Transportation（交通機関について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089518

参考書

成績評価

試験･レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅰ（心）<Hb>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ハビブ, ジェラード	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations.（人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (C): Describe Different Occupations（さまざまな職業について話す）
第4回　Unit 2 (A): Talk About a Typical Day（典型的な一日について話す）
第5回　Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival（祭り･祝いについて話す）
第6回　Unit 3 (A): Identify Possessions（誰の持ち物か）
第7回　Unit 3 (C): Give Travel Advice（旅行についてアドバイスする）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A): Give a Recipe（レシピを説明する）
第10回　Unit 4 (C): Talk About Diets（食事について話す）
第11回　Unit 5 (A): Describe activities happening now（今やっている活動について話す）
第12回　Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports（好きなスポーツについて話す）
第13回　Unit 6 (A): Discuss Past Vacations（過去の休暇について話す）
第14回　Unit 6 (C): Describe a Personal Experience（個人の体験を話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅰ（心）<Hc>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ホリグチ, タケシ	

テーマ

理学療法や心理療法など、ライフサイエンス的な分野を専攻する学生が、自身の専攻に関わるテーマについて情報を的確にインプットし、それらの情報を自身の言葉に置き換えて発信するために必要な総合的な英語運用力（英語の四技能）をバランスよく身に付ける。

授業の到達目標

・医療用語の理解（必須単語・表現は約100）
・医療的な文章（300－400語程度）の読解力を上げる。
・医療的な文章（150－300語程度）の聴解力を上げる。
・インプットした情報を自身で整理し、それらを自分の言葉で書いたり話したりして伝えられるようになる。

授業の概要

・日本人講師と外国人講師が交互に担当するティームティーチング
・学生の積極的な参加によるアクティブラーニング形式
・日本人講師パートでは、単語の説明や読解、聴解などのインプット部分を中心に取り扱う
・外国人講師パートではインプットした情報を相手に伝えるリテリングや療法士と患者との会話のロールプレイなど、アウトプット中心に取り扱う

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

その日習った単語の復習（単語テストへの準備）とロールプレイなどのアクティビティーの準備

内　容

第1回　外国人講師クラスの講義の進め方について説明します。
第2回　人間の体
第3回　高カロリーと健康
第4回　伝染病
第5回　個人と公衆の衛生管理
第6回　日本の医療の改善策
第7回　医療における針刺し損傷
第8回　北里柴三郎と日本の医療
第9回　臨床検査技師の仕事
第10回　臨床工学技師の仕事
第11回　診療放射線技師
第12回　理学療法士とその仕事
第13回　作業療法士の仕事とは
第14回　言語聴覚士とその仕事
第15回　総合問題演習を通した復習

履修上の注意点

教科書

The Hospital Team
著者:　高津　昌宏
出版社: 南雲堂
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅰ（心）<Hd>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾃﾞｨｰｸﾞﾙ, ｼﾞｪｰﾑｽ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations.（人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.
I am available to talk to stud myself between classes and also hand back reports with scores giving suggestions during class for improvement on speaking and grammar skills.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (C): Describe Different Occupations（さまざまな職業について話す）
第4回　Unit 2 (A): Talk About a Typical Day（典型的な一日について話す）
第5回　Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival（祭り･祝いについて話す）
第6回　Unit 3 (A): Identify Possessions（誰の持ち物か）
第7回　Unit 3 (C): Give Travel Advice（旅行についてアドバイスする）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A): Give a Recipe（レシピを説明する）
第10回　Unit 4 (C): Talk About Diets（食事について話す）
第11回　Unit 5 (A): Describe activities happening now（今やっている活動について話す）
第12回　Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports（好きなスポーツについて話す）
第13回　Unit 6 (A): Discuss Past Vacations（過去の休暇について話す）
第14回　Unit 6 (C): Describe a Personal Experience（個人の体験を話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験･レポート（ ）　　小テスト（ 15 ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 15 ）
参加度（ 45 ）

2018 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅰ（心）<He>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ハビブ, ジェラード	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations.（人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (C): Describe Different Occupations（さまざまな職業について話す）
第4回　Unit 2 (A): Talk About a Typical Day（典型的な一日について話す）
第5回　Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival（祭り･祝いについて話す）
第6回　Unit 3 (A): Identify Possessions（誰の持ち物か）
第7回　Unit 3 (C): Give Travel Advice（旅行についてアドバイスする）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A): Give a Recipe（レシピを説明する）
第10回　Unit 4 (C): Talk About Diets（食事について話す）
第11回　Unit 5 (A): Describe activities happening now（今やっている活動について話す）
第12回　Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports（好きなスポーツについて話す）
第13回　Unit 6 (A): Discuss Past Vacations（過去の休暇について話す）
第14回　Unit 6 (C): Describe a Personal Experience（個人の体験を話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅰ（心）<Hf>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　フリン, マイケル	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations.（人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet and Introduce People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (C): Describing People（人の特徴を描写する）
第4回　Unit 2 (A): Identify Jobs（仕事について）
第5回　Unit 2 (C): Talk About Countries（世界の国々について話す）
第6回　Unit 3 (A): Identify Places in a Home（家のなかのいろいろな場所）
第7回　Unit 3 (C): Identify Household Objects（家具や家庭用品について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A): Identify Personal Possessions（持ち物について話す）
第10回　Unit 4 (C): Buy a Present（ギフトを選ぶ）
第11回　Unit 5 (A): Tell Time（時間を言う）
第12回　Unit 5 (C): Talk About What You DO at Work or School（仕事内容・学校について話す）
第13回　Unit 6 (A): Ask for and Give Directions（道案内をする）
第14回　Unit 6 (C): Describe Transportation（交通機関について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089518

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 55 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 45 ）

Participation score is a composite score that includes homework and participation in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

2018 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅰ（心）<Hg>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾊﾞｽｶｳﾞｨﾙ, ﾌﾞﾗｲｱﾝ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations.（人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (C): Describe Different Occupations（さまざまな職業について話す）
第4回　Unit 2 (A): Talk About a Typical Day（典型的な一日について話す）
第5回　Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival（祭り･祝いについて話す）
第6回　Unit 3 (A): Identify Possessions（誰の持ち物か）
第7回　Unit 3 (C): Give Travel Advice（旅行についてアドバイスする）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A): Give a Recipe（レシピを説明する）
第10回　Unit 4 (C): Talk About Diets（食事について話す）
第11回　Unit 5 (A): Describe activities happening now（今やっている活動について話す）
第12回　Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports（好きなスポーツについて話す）
第13回　Unit 6 (A): Discuss Past Vacations（過去の休暇について話す）
第14回　Unit 6 (C): Describe a Personal Experience（個人の体験を話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅰ（心）<Hh>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ソーソン, マーカス	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations.（人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (C): Describe Different Occupations（さまざまな職業について話す）
第4回　Unit 2 (A): Talk About a Typical Day（典型的な一日について話す）
第5回　Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival（祭り･祝いについて話す）
第6回　Unit 3 (A): Identify Possessions（誰の持ち物か）
第7回　Unit 3 (C): Give Travel Advice（旅行についてアドバイスする）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A): Give a Recipe（レシピを説明する）
第10回　Unit 4 (C): Talk About Diets（食事について話す）
第11回　Unit 5 (A): Describe activities happening now（今やっている活動について話す）
第12回　Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports（好きなスポーツについて話す）
第13回　Unit 6 (A): Discuss Past Vacations（過去の休暇について話す）
第14回　Unit 6 (C): Describe a Personal Experience（個人の体験を話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 20 ）
B5 notebook is required.

2018 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅰ（心）<R>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　杉山 泰	

テーマ

英語が分かれば日本語も分かる ― 日英語対照をしながら学ぶ基礎英語

授業の到達目標

「原爆が落ちた」とか「山の音が聞こえた」「ビールが飲みたい」のように＜主語＞と＜動詞＞が曖昧なまま理解できる日本語になれていると、An atomic bomb was dropped.だとか、I heard the sound of the mountain. I want to drink beer.といった「主語」と「動詞」がきわめて論理的になりたっている英語的発想が分からない日本人が出てくる。そうした発想の違いを学んでいく。

授業の概要

教科書の問題を丁寧にやっていきながら、毎回日英語の違いの小テスト「プリント」を仕上げて退出してもらう。翌週、添削して返却し、英語の発想について学んでもらう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回問題を授業中にやっていくので、辞書と教科書が必要。

内　容

第1回　自己紹介。Lesson 1 日英語の違い。（I love you.構文と「あなたが好き」という形容詞構文の違い）
第2回　Lesson 2 「私」からの発想。（I have a good time.と「楽しい」）
第3回　Lesson 3 「命令文」（On your mark. Get set. Go. 主語がなければ命令文）
第4回　Lesson 4 「be動詞という曲者（1）」（なぜ、I am illness.と言えないのか？）
第5回　Lesson 5 「be動詞という曲者（2）」（なぜ、It is hard.と言えるのに、It is happy.とは言えないのか？）
第6回　Lesson 6 「未来」を示す英語（なぜ、「先生、酒を飲みに行きますか」はWill you go for a drink?なのか？）
第7回　Lesson 7 「不定詞」構文（I have no need to hurry.とI have difficulty finding a job.の構文の違いは？）
第8回　Lesson 8 「現在完了形」構文（Have you eaten sushi?とDid you eat sushi?はどう違うのか？）
第9回　Lesson 9 「能動態」と「受動態」（I am excited.とFootball is exciting.はどう違うのか？）
第10回　Lesson 10 5W1Hで始まる疑問文（Do / Does / Did / Willの使い方がわかりますか？）
第11回　Lesson 11 「動名詞」構文（I enjoy driving a new car.のように動名詞を取る同氏は<Megafeps>です）
第12回　Lesson 12 「比較級」構文（The sooner, the better.という比較級が日本語にはなぜないのか？）
第13回　Lesson 13 「Tere is(are)」構文（新聞に多用されるThere is構文。「ある」と「いる」の違いを留学生に教えられますか？）
第14回　Lesson 14 「仮定法」構文（原子力発電所事故が起こりえないものであれば、だからこそ起こった時のシュミレーションが必要なのです）
第15回　Lesson 15 「て・に・を・は」と英語の前置詞（日本文学の英訳はなぜむずかしい？）

履修上の注意点

毎回、授業中に作業をやるので出席することが重要。欠席した場合、「プリント」をもらい、解答して提出すれば、遅れの出席とみなすこともある。

教科書

Discover English Grammar
著者:　杉山 泰
出版社: 朝日出版社
出版年: 2006　　ISBN:

参考書

日本人はなぜ英語ができないのか
著者:　鈴木孝夫
出版社: 岩波新書
出版年: 1999　　ISBN:

日本語教室
著者:　大野晋
出版社: 岩波新書
出版年: 2002　　ISBN:

a90201a190

日本語教のすすめ
著者: 鈴木孝夫
出版社: 新潮新書
出版年: 2009 ISBN:

英語化は愚民化
著者: 施光恒
出版社: 集英社新書
出版年: 2015 ISBN:

英語のツボ
著者: マーク・ピーターセン
出版社: 光文社文庫
出版年: 2011 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ 20% ）
授業中課題 （ 40% ） 授業中発表等 （ 20% ）
参加度 （ 20% ）
毎回「小テスト」をやり、翌週に添削して返却する。この「小テスト」を受けなかった学生は、欠席扱いになるので要注意。

2018 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅱ（心）<Ha>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　スミス, ジョン	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving.（余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住とったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A/B): What's happening now（現在進行形を使う）
第3回　Unit 7 (C): Abilities（できること・できないことについて話す）
第4回　Unit 8 (A/B): Clothes（洋服・買い物・服装の描写）
第5回　Unit 8 (C): Likes and dislikes（好みを表現する）
第6回　Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party（レストランでの注文・パーティーの計画を立てる）
第7回　Unit 9 (C): Healthy diet（健康な食事について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A/B): The body and symptoms（体と症状を描写する）
第10回　Unit 10 (C): Remedies and advice（治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える）
第11回　Unit 11 (A/B): Plan special days（誕生日や休日の予定を立てる）
第12回　Unit 11 (C): Life plans（人生設計について話す）
第13回　Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past（出身、過去の引っ越しを説明する）
第14回　Unit 12 (C): Preparations for moving（引っ越しの準備について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Martin Milner
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅱ（心）<Hb>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ハビブ, ジェラード	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness.（コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A): Identify Activities that Are Happening Now（現在進行形を使う）
第3回　Unit 7 (C): Talk About Abilities（できること・できないことについて話す）
第4回　Unit 8 (A): Identify and Shop for Clothes（洋服・買い物・服装の描写）
第5回　Unit 8 (C): Express Likes and Dislikes（好みを表現する）
第6回　Unit 9 (A): Order a Meal（レストランでの注文）
第7回　Unit 9 (C): Describe Your Diet（自分の食生活について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A): Identify Parts of the Body to Say How You Feel（体調を伝えるために体の各部を描写する）
第10回　Unit 10 (C): Identify Remedies and Give Advice（治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える）
第11回　Unit 11 (A): Plan Special Days（特別な日の予定を立てる）
第12回　Unit 11 (C): Make Life Plans（人生設計について話す）
第13回　Unit 12 (A): Use the Simple Past（過去形で話す）
第14回　Unit 12 (C): Describe a Move（引っ越しについて話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅱ（心）<Hc>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ホリグチ, タケシ	

テーマ

理学療法や心理療法など、ライフサイエンス的な分野を専攻する学生が、自身の専攻に関わるテーマについて情報を的確にインプットし、それらの情報を自身の言葉に置き換えて発信するために必要な総合的な英語運用力（英語の四技能）をバランスよく身に付ける。

授業の到達目標

・医療用語の理解（必須単語・表現は約100）
・医療的な文章（300－400語程度）の読解力を上げる。
・医療的な文章（150－300語程度）の聴解力を上げる。
・インプットした情報を自身で整理し、それらを自分の言葉で書いたり話したりして伝えられるようになる。

授業の概要

・日本人講師と外国人講師が交互に担当するティームティーチング
・学生の積極的な参加によるアクティブラーニング形式
・日本人講師パートでは、単語の説明や読解、聴解などのインプット部分を中心に取り扱う
・外国人講師パートではインプットした情報を相手に伝えるリテリングや療法士と患者との会話のロールプレイなど、アウトプット中心に取り扱う

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

その日習った単語の復習（単語テストへの準備）とロールプレイなどのアクティビティーの準備

内　容

第1回　後期の教材の進め方を説明します。
第2回　高次脳機能障害
第3回　パーキンソン病
第4回　骨粗鬆症
第5回　脳卒中
第6回　これまでの中身の復習
第7回　循環器疾患
第8回　糖尿病
第9回　呼吸器疾患
第10回　慢性関節リウマチ
第11回　大腿骨頸部骨折
第12回　背隋損傷
第13回　脳性麻痺
第14回　事例研究
第15回　これまでの中身の復習

履修上の注意点

教科書

Art of Healing
著者:　荒金　房子
出版社:　南雲堂
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅱ（心）<Hd>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾃｨｰｸﾞﾙ, ｼﾞｪｰﾑｽ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness.（コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.
I am available to talk to stud myself between classes and also hand back reports with scores giving suggestions during class for improvement on speaking and grammar skills.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A): Talk About Personal Communication （コミュニケーション手段について話す）
第3回　Unit 7 (C): Describe Characteristics and Qualities（特徴と質を描写する）
第4回　Unit 8 (A): Talk About Plans（予定について話す）
第5回　Unit 8 (C): Make Weather Predictions（天気の予想をする）
第6回　Unit 9 (A): Make Comparisons（服装を比べる）
第7回　Unit 9 (C): Talk About Clothing Materials（洋服の素材について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A): Give Advice on Healthy Habits（健康な習慣のアドバイスをする）
第10回 Unit 10 (C): Ask About Lifestyles（ライフスタイルについて尋ねる）
第11回 Unit 11 (A): Talk About Today's Chores（今日の雑用について話す）
第12回 Unit 11 (C): Talk About Personal Accomplishments（個人の到達点について話す）
第13回 Unit 12 (A): Talk About Managing Your Money（お金の管理について話す）
第14回 Unit 12 (C): Talk About Cause and Effect（原因と結果について話す）
第15回 Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験･レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 15 ）
参加度（ 45 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%。

2018 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅱ（心）<He>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ハビブ, ジェラード	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness.（コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A): Identify Activities that Are Happening Now（現在進行形を使う）
第3回　Unit 7 (C): Talk About Abilities（できること・できないことについて話す）
第4回　Unit 8 (A): Identify and Shop for Clothes（洋服・買い物・服装の描写）
第5回　Unit 8 (C): Express Likes and Dislikes（好みを表現する）
第6回　Unit 9 (A): Order a Meal（レストランでの注文）
第7回　Unit 9 (C): Describe Your Diet（自分の食生活について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A): Identify Parts of the Body to Say How You Feel（体調を伝えるために体の各部を描写する）
第10回　Unit 10 (C): Identify Remedies and Give Advice（治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える）
第11回　Unit 11 (A): Plan Special Days（特別な日の予定を立てる）
第12回　Unit 11 (C): Make Life Plans（人生設計について話す）
第13回　Unit 12 (A): Use the Simple Past（過去形で話す）
第14回　Unit 12 (C): Describe a Move（引っ越しについて話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅱ（心）<Hf>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　フリン, マイケル	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness.（コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A): Identify Activities that Are Happening Now（現在進行形を使う）
第3回　Unit 7 (C): Talk About Abilities（できること・できないことについて話す）
第4回　Unit 8 (A): Identify and Shop for Clothes（洋服・買い物・服装の描写）
第5回　Unit 8 (C): Express Likes and Dislikes（好みを表現する）
第6回　Unit 9 (A): Order a Meal（レストランでの注文）
第7回　Unit 9 (C): Describe Your Diet（自分の食生活について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A): Identify Parts of the Body to Say How You Feel（体調を伝えるために体の各部を描写する）
第10回　Unit 10 (C): Identify Remedies and Give Advice（治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える）
第11回　Unit 11 (A): Plan Special Days（特別な日の予定を立てる）
第12回　Unit 11 (C): Make Life Plans（人生設計について話す）
第13回　Unit 12 (A): Use the Simple Past（過去形で話す）
第14回　Unit 12 (C): Describe a Move（引っ越しについて話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 35 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 45 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%. Participation score is a composite score that includes homework and participation in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

2018 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅱ（心）<Hg>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾊﾞｽｶｳﾞｨﾙ, ﾌﾞﾗｲｱﾝ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness.（コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A): Talk About Personal Communication （コミュニケーション手段について話す）
第3回　Unit 7 (C): Describe Characteristics and Qualities（特徴と質を描写する）
第4回　Unit 8 (A): Talk About Plans（予定について話す）
第5回　Unit 8 (C): Make Weather Predictions（天気の予想をする）
第6回　Unit 9 (A): Make Comparisons（服装を比べる）
第7回　Unit 9 (C): Talk About Clothing Materials（洋服の素材について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A): Give Advice on Healthy Habits（健康な習慣のアドバイスをする）
第10回　Unit 10 (C): Ask About Lifestyles（ライフスタイルについて尋ねる）
第11回　Unit 11 (A): Talk About Today's Chores（今日の雑用について話す）
第12回　Unit 11 (C): Talk About Personal Accomplishments（個人の到達点について話す）
第13回　Unit 12 (A): Talk About Managing Your Money（お金の管理について話す）
第14回　Unit 12 (C): Talk About Cause and Effect（原因と結果について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅱ（心）<Hh>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ソーソン, マーカス	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness.（コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A): Talk About Personal Communication （コミュニケーション手段について話す）
第3回　Unit 7 (C): Describe Characteristics and Qualities（特徴と質を描写する）
第4回　Unit 8 (A): Talk About Plans（予定について話す）
第5回　Unit 8 (C): Make Weather Predictions（天気の予想をする）
第6回　Unit 9 (A): Make Comparisons（服装を比べる）
第7回　Unit 9 (C): Talk About Clothing Materials（洋服の素材について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A): Give Advice on Healthy Habits（健康な習慣のアドバイスをする）
第10回　Unit 10 (C): Ask About Lifestyles（ライフスタイルについて尋ねる）
第11回　Unit 11 (A): Talk About Today's Chores（今日の雑用について話す）
第12回　Unit 11 (C): Talk About Personal Accomplishments（個人の到達点について話す）
第13回　Unit 12 (A): Talk About Managing Your Money（お金の管理について話す）
第14回　Unit 12 (C): Talk About Cause and Effect（原因と結果について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験･レポート（ 15 ）	小テスト（ 15 ）
授業中課題（ 15 ）	授業中発表等（ 15 ）
参加度（ 20 ）	

上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅱ（心）<R>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　杉山 泰	

テーマ

Cultural Literacy（文化的基礎知識）を生かして学ぶ英語

授業の到達目標

「パン」や「アルバイト」が大和言葉の日本語でないことは誰でも知っているが、「フリーター」だとか「カンヌング」を英語だと勘違いしてはいないだろうか。今は日本語は英語の基礎知識なしにはAKB48も正しい発音すらできない。筆記体の書き方から始まり、大学生として当然知っておくべき日英語対照基礎英文法を毎回教科書の問題と、プリントを仕上げることで学んで行きたい。

授業の概要

毎回が手作業なので、教科書と辞書を持ってきて授業中にっ教科書の問題を解き、応用のプリント問題を仕上げてもらう。翌週添削して返却する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

教科書の問題を自宅でやっておけば、毎回のプリントを仕上げる時間が短くなり、授業をスムーズに済ませることができる。

内　容

第1回　自己紹介。文化的基礎知識の説明と「氏名カード」の記入。
第2回　Lesson 1 アルファベットの不思議。パスポート、ランディングカードの記入と筆記体の書き方。
第3回　Lesson 2 「私」からの発送（S+V+O構文による現在/過去/未来の文）
第4回　Lesson 3 「同名詞構文」（Would you mind opening the window?）
第5回　Lesson 4 客観的存在表現There is 構文（There is no problem of ...ing）
第6回　Lesson 5 The sooner, the better.の比較構文
第7回　Lesson 6 I am your mind reader.（S+V+C構文）
第8回　Lesson 7 be 動詞と「不定詞」構文（I am pleased to see you.）構文。
第9回　Lesson 8 S+V+O構文と受動態（An A-bomb was dropped on Hiroshima.）
第10回　Lesson 9 英語の時制と受動態
第11回　Lesson 10 S+V+C構文と比較級。じゃんけんの論理と最上級。
第12回　Lesson 11 have動詞を用いた役にたつ表現。
第13回　Lesson 12 現在完了形構文と「時間の幅」
第14回　Lesson 13 仮定法構文。起こりえないことをどう表現するか。
第15回　Lesson 14 Why-because logicの研究。まとめ。

履修上の注意点

毎回最後のプリントを配布し仕上げてもらうので、辞書が必要。翌週添削して返却するので、プリントを提出していないと出席にならない。

教科書

Do You Kow This?
著者:　杉山 泰
出版社:　朝日出版社
出版年:　2005　　ISBN:

参考書

「イギリス社会」入門
著者:　コリン・ジョイス
出版社:　NHK出版
出版年:　2011　　ISBN:

英語化は愚民化
著者:　施 光恒
出版社:　集英社新書
出版年:　2015　　ISBN:

a90201a290

実践日本人の英語

著者: マーク・ピーターセン

出版社: 岩波新書

出版年: 2013 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ 20 ）

授業中課題（ 40 ） 授業中発表等（ 20 ）

参加度（ 20 ）

毎回「プリント」を仕上げてもらうので、欠席した場合は必ず次週に「プリント」をもらい、仕上げて提出すること。その場合は、遅れの出席として認める場合がある。

2018 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅰ（心）<Ha>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　山﨑 清水	

テーマ

国際語としての英語を通して世界を学び発信する。

授業の到達目標

世界のニュースを読んで異文化理解と英語力の向上を目指す。

授業の概要

社会、文化、政治経済、情報、言語、教育、科学、医学、環境、娯楽、スポーツなどのあらゆる分野に関するニュースを読んで英語能力の向上を目指す。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Teaching Web-Savvy Students to Develop Fake-News Filters
第3回　Japan's Population is Projected to Plunge to 88 Million by 2065
第4回　Anime's Master of Missed Connections
第5回　How to Stop Populism's Carnage
第6回　復習
第7回　The Parachute Generation
第8回　E-Cigarette Use by Young Is Major Concern, U.S. Says
第9回　Trump Has New Fans in China: Maoists
第10回　Trade on the Streets, and Off the Books, Keeps Zimbabwe Afloat
第11回　復習
第12回　Evidence That Robots Are Winning the Race for American Jobs
第13回　Canada, Leading the Free World
第14回　Bangladesh's Creeping Islamism
第15回　New Prospects for Growing Transplantable Organs for People in Animals

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。必ず予習して下さい。テストは随時実施します。

教科書

English through the News Media
著者:　高橋優身／伊藤典子／Richard Powell
出版社:　朝日出版社
出版年:　2018　　ISBN:　9784255156248

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅰ（心）<Hb>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　高居 佐紀	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (B): Ask For and Give Personal Information 個人の情報を求める、与える
第3回　Unit 1 (D): (Reading) People from around the World、(Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる
第4回　Unit 2 (B): Talk About Free Time 余暇の過ごし方を述べる
第5回　Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong、(Writing/Speaking) 様々なコミュニティーの日常生活を描写する
第6回　Unit 3 (B): Ask For and Give Personal Travel Information 旅行情報を求める、与える
第7回　Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler、(Writing/Speaking) 旅行のアドバイス
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (B): Order a Meal 食事を注文する
第10回　Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food、(Writing/Speaking) 食べ物について話す
第11回　Unit 5 (B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities 日課を比較する
第12回　Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す
第13回　Unit 6 (B): Exchange Information About Vacations 休暇についての情報交換
第14回　Unit 6 (D): (Reading) The Cradle of the Inca Empire、(Writing/Speaking) 旅行ブログを書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅰ（心）<Hc>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　占部　幹也	

テーマ

理学療法や心理療法など、ライフサイエンス的な分野を専攻する学生が、自身の専攻に関わるテーマについて情報を的確にインプットし、それらの情報を自身の言葉に置き換えて発信するために必要な総合的な英語運用力（英語の四技能）をバランスよく身に付ける。

授業の到達目標

・医療用語の理解（必須単語・表現は約100）
・医療的な文章（300－400語程度）の読解力を上げる。
・医療的な文章（150－300語程度）の聴解力を上げる。
・インプットした情報を自身で整理し、それらを自分の言葉で書いたり話したりして伝えられるようになる。

授業の概要

日本人講師と外国人講師が交互に担当するティームティーチング
・学生の積極的な参加によるアクティブラーニング形式
・日本人講師パートでは、単語の説明や読解、聴解などのインプット部分を中心に取り扱う
・外国人講師パートではインプットした情報を相手に伝えるリテリングや療法士と患者との会話のロールプレイなど、アウトプット中心に取り扱う

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

その日習った単語の復習（単語テストへの準備）とロールプレイなどのアクティビティーの準備

内　容

第1回　日本人講師クラスの講義の進め方について説明します。
第2回　人間の体
第3回　高カロリーと健康
第4回　伝染病
第5回　これまでの中身の復習
第6回　個人と公衆の衛生管理
第7回　日本の医療の改善策
第8回　医療における針刺し損傷
第9回　北里柴三郎と日本の医療
第10回　臨床検査技師の仕事
第11回　臨床工学技師の仕事
第12回　医療放射線技師
第13回　理学療法士とその仕事
第14回　作業療法士とその仕事
第15回　言語聴覚士とその仕事

履修上の注意点

教科書

The Hospital Team
著者:　高津　昌宏
出版社:　南雲堂
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅰ（心）<Hd>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　松村 優子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (B): Ask For and Give Personal Information 個人の情報を求める、与える
第3回　Unit 1 (D): (Reading) People from around the World、(Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる
第4回　Unit 2 (B): Talk About Free Time 余暇の過ごし方を述べる
第5回　Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong、(Writing/Speaking) 様々なコミュニティーの日常生活を描写する
第6回　Unit 3 (B): Ask For and Give Personal Travel Information 旅行情報を求める、与える
第7回　Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler、(Writing/Speaking) 旅行のアドバイス
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (B): Order a Meal 食事を注文する
第10回　Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food、(Writing/Speaking) 食べ物について話す
第11回　Unit 5 (B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities 日課を比較する
第12回　Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す
第13回　Unit 6 (B): Exchange Information About Vacations 休暇についての情報交換
第14回　Unit 6 (D): (Reading) The Cradle of the Inca Empire、(Writing/Speaking) 旅行ブログを書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0% ）　　小テスト（ 60% ）
授業中課題（ 10% ）　　授業中発表等（ 15% ）
参加度（ 15% ）
小テストは、14回、15回目の復習テストが中心である。参加度とは出席だけでなく、授業態度なども含まれる。

2018 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅰ（心）<He>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　小川 享子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従うこと。
各ユニットで学ぶ語彙、英語表現は予習・復習を介して覚えること（小テストやまとめのテストにおいて確認し、採点をして返す）。
提出した課題は個人的に添削したり、クラスの中で全体的なコメントをしてフィードバック。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (B): Ask For and Give Personal Information 個人の情報を求める、与える
第3回　Unit 1 (D): (Reading) People from around the World、(Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる
第4回　Unit 2 (B): Talk About Free Time 余暇の過ごし方を述べる
第5回　Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong、(Writing/Speaking) 様々なコミュニティーの日常生活を描写する
第6回　Unit 3 (B): Ask For and Give Personal Travel Information 旅行情報を求める、与える
第7回　Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler、(Writing/Speaking) 旅行のアドバイス
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (B): Order a Meal 食事を注文する
第10回　Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food、(Writing/Speaking) 食べ物について話す
第11回　Unit 5 (B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities 日課を比較する
第12回　Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す
第13回　Unit 6 (B): Exchange Information About Vacations 休暇についての情報交換
第14回　Unit 6 (D): (Reading) The Cradle of the Inca Empire、(Writing/Speaking) 旅行ブログを書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者：　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社：Cengage Learning
出版年：2015　　ISBN：　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50% ）　　小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ 0~15% ）　　授業中発表等 （ 15~0% ）
参加度 （ 15% ）
試験はまとめのテスト、小テストは語彙や実技のテスト、授業中の課題と発表は合わせて15%とする。

2018 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅰ（心）<Hf>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　櫃本　一美	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。･世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

･人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ･各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (B): Identify Family Members 家族を紹介する
第3回　Unit 1 (D): (Reading) Families around the World, (Writing/Speaking) 自分の家族の情報を与える
第4回　Unit 2 (B): Talking About Jobs 仕事について話す
第5回　Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers, (Writing/Speaking) 仕事を描写する
第6回　Unit 3 (B): Describe Your House 家を描写する
第7回　Unit 3 (D): (Reading) Kent Larson: Brilliant Designs to Fit More People in Every City, (Writing/Speaking) 住居を描写する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (B): Talk About Other People's Possessions 他人の持ち物について話す
第10回　Unit 4 (D): (Reading) Jewelry, (Writing/Speaking) クラスでの調査を要約する
第11回　Unit 5 (B): Talk About People's Daily Activities 日々の活動について話す
第12回　Unit 5 (D): (Reading) Karen Bass: Unseen Footage, Untamed Nature, (Writing/Speaking) 仕事内容について書く
第13回　Unit 6 (B): Create and Use a Tour Route 旅行のルートを考える
第14回　Unit 6 (D): (Reading,) Journey to Antarctica, (Writing/Speaking) 旅程表を書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。テキストを持参していない者、授業中の課題に取り組まない者は出席とみなしません。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089518

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
授業中課題は、小テストも含める。

2018 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅰ（心）<Hg>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　小川 享子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従うこと。
各ユニットで学ぶ語彙、英語表現は予習・復習を介して覚えること（小テストやまとめのテストでの確認し、採点をして返却）。
提出した課題は個人的に添削したり、クラスの中で全体的なコメントをしてフィードバック。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (B): Ask For and Give Personal Information 個人の情報を求める、与える
第3回　Unit 1 (D): (Reading) People from around the World、(Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる
第4回　Unit 2 (B): Talk About Free Time 余暇の過ごし方を述べる
第5回　Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong、(Writing/Speaking) 様々なコミュニティーの日常生活を描写する
第6回　Unit 3 (B): Ask For and Give Personal Travel Information 旅行情報を求める、与える
第7回　Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler、(Writing/Speaking) 旅行のアドバイス
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (B): Order a Meal 食事を注文する
第10回　Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food、(Writing/Speaking) 食べ物について話す
第11回　Unit 5 (B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities 日課を比較する
第12回　Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す
第13回　Unit 6 (B): Exchange Information About Vacations 休暇についての情報交換
第14回　Unit 6 (D): (Reading) The Cradle of the Inca Empire、(Writing/Speaking) 旅行ブログを書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者：　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社：Cengage Learning
出版年：2015　　ISBN：　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50% ）　　小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ 0~15% ）　　授業中発表等 （ 15~0% ）
参加度 （ 15% ）
試験はまとめのテスト、小テストは語彙や実技のテスト、授業中の課題と発表は合わせて15%とする。

2018 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅰ（心）<Hh>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　高田 悦子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (B): Ask For and Give Personal Information 個人の情報を求める、与える
第3回　Unit 1 (D): (Reading) People from around the World、(Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる
第4回　Unit 2 (B): Talk About Free Time 余暇の過ごし方を述べる
第5回　Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong、(Writing/Speaking) 様々なコミュニティーの日常生活を描写する
第6回　Unit 3 (B): Ask For and Give Personal Travel Information 旅行情報を求める、与える
第7回　Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler、(Writing/Speaking) 旅行のアドバイス
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (B): Order a Meal 食事を注文する
第10回　Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food、(Writing/Speaking) 食べ物について話す
第11回　Unit 5 (B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities 日課を比較する
第12回　Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す
第13回　Unit 6 (B): Exchange Information About Vacations 休暇についての情報交換
第14回　Unit 6 (D): (Reading) The Cradle of the Inca Empire、(Writing/Speaking) 旅行ブログを書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。
辞書を必ず持ってきて下さい。（評価の対象になります。）

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者：　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社：　Cengage Learning
出版年：　2015　　ISBN：　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（ 40% ）
授業中課題（ 15% ）	授業中発表等（ 30% ）
参加度（ 15% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅰ（心）<R>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　杉山 泰	

テーマ

基礎英語（Basic English）、特に「基礎動詞＋前置詞」というやさしい英語で日本文化を伝えよう

授業の到達目標

中学校で学んだ基礎英語（850語）で、日本文化を伝えることができる。基礎動詞（go/come,give/get,let/keep,put/take,make,have,do,sayなど）を徹底的に利用して、やさしい英語で自由に日本文化を伝える訓練をしていきたい。

授業の概要

教科書の問題を最初からやっていく。毎回「プリント」を配布して、解答してもらうので、毎回の参加が大事になる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回プリントを提出し、その添削をして点数をつけて返却するので、返却されたプリントを次回までに完全なものにしておく必要がある。

内　容

第1回　自己紹介。Lesson 1 一語一文で英語は通じる。（No work, no money.のアジアの英語も役に立つ。Long time, no see.の意味は？）
第2回　Lesson 2 動詞＋er＝～する人、～する道具（I am a mind reader.＝君の心が読めるんだ）
第3回　Lesson 3 動詞＋...ing＝（現在分詞と動名詞の違い＝I am feeling well.とI gave up smoking.の違いは？）
第4回　Lesson 4 動詞＋ed＝過去分詞（I love fried rice and smoked salmon.とAn A-bomb was dropped on Hiroshima.）
第5回　Lesson 5 be動詞＋形容詞（I am pleased to see you.とIt is pleasant to get all my credits.）
第6回　Lesson 6 InとOut（in controlとout of controlの違いは？　命令文Get in my car.とGet out of the room.の違いは？）
第7回　Lesson 7 OnとOff（Is the switch on? No, it's off.）
第8回　Lesson 8 Haveの構文（We had nothing to do with it.の構文）
第9回　Lesson 9 Comeの構文（Dinner is ready. I am coming.＝今行きます＝近づいていくニュアンス）
第10回　Lesson 10 Goの構文（Dinner is ready. I am going.＝用事があるから出かけます＝離れていくニュアンス）
第11回　Lesson 11 Takeの構文（I'll take this.＝これください）
第12回　Lesson 12 Putの構文（Don't put off till tommorow what you can do today.）
第13回　Lesson 13 Giveの構文（魔法の杖のGiveとGet＝on/offやin/outを用いたイディオムの意味は？）
第14回　Lesson 14 Getの構文（基礎動詞＝go-come / let-keep / put- take / give-get / make / have / do / sayを使いこなそう）
第15回　Lesson 15 Makeの構文（基礎動詞を用いて、履歴書で自己アピール文を書こう）

履修上の注意点

毎回教科書の説明と問題を仕上げた後で、プリントをやってもらう。授業への参加が重視される。

教科書

Putting Common Verbs to Work
著者:　鳥飼慎一郎
出版社: 朝日出版社
出版年: 2010　　ISBN:

参考書

英語の壁
著者:　マーク・ピーターセン
出版社: 文春新書
出版年: 2003　　ISBN:

日本語教のすすめ
著者:　鈴木孝夫
出版社: 新潮新書
出版年: 2009　　ISBN:

a90201a390

j実践日本人の英語

著者: マーク・ピーターセン

出版社: 岩波新書

出版年: 2013 ISBN:

日本語は敬語があって主語がないん

著者: 金谷武洋

出版社: 光文社新書

出版年: 2010 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ 20% ）

授業中課題 （ 40% ） 授業中発表等 （ 20% ）

参加度 （ 20% ）

毎回の出席と毎回の提出物を最大限重視する。毎回授業に参加できない場合は、各自教科書の問題を自宅でやり、プリントをもらって提出すれば、遅れの出席として評価する場合がある。

2018 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅱ（心）<Ha>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　山﨑 清水	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

世界のニュースを読んで異文化理解と英語力の向上を目指す。

授業の概要

社会、文化、政治経済、情報、言語、教育、科学、医学、環境、娯楽、スポーツなどのあらゆる分野に関するニュースを読んで英語能力の向上を目指す。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　2017: A Year for Sumo Nostalgia
第3回　How to Listen to Trump Every Day
第4回　Past is Bittersweet in Cuban Town
第5回　Tokyo Cell Scientist Gets Nobel Prize
第6回　復習
第7回　Will London Fall?
第8回　Money, Power and Family: Inside the Chaebol of South Korea
第9回　Why ″Sorry″ is So Hard to Say
第10回　The Radical Right's United Front
第11回　復習
第12回　WhatsApp Becomes Migrants' Lingua Franca
第13回　Kosher, Vegan or Gluten-Free?
第14回　Orbiting a Near Star, Potential Havens for Alien Life
第15回　″No Regrets″ as Mao bids Farewell

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。必ず予習して下さい。テストは随時実施します。

教科書

English through the News Media
著者:　高橋優身／伊藤典子／Richard Powell
出版社:　朝日出版社
出版年:　2018　　ISBN:　9784255156248

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 10 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅱ（心）<Hb>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　高居 佐紀	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。･世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

･コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ･各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内での指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (B): Exchange Contact Information 連絡先を交換する
第3回　Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?、(Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する
第4回　Unit 8 (B): Discuss Long-and Short-Term Plans 短期、長期計画について話す
第5回　Unit 8 (D): (Reading) Future Energy、(Writing/Speaking) 未来について語る
第6回　Unit 9 (B): Explain Preferences 好みを説明する
第7回　Unit 9 (D): (Reading) Silk、(Writing/Speaking) 質と価値を評価する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (B): Compare Lifestyles ライフスタイルを比較する
第10回　Unit 10 (D): (Reading) The Secrets of Long Life、(Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する
第11回　Unit 11 (B): Interview for a Job 就職の面接をする
第12回　Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements、(Writing/Speaking) 人類の偉大な到達点について語る
第13回　Unit 12 (B): Make Choices on How to Spend Your Money お金の使い道を決める
第14回　Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness、(Writing/Speaking) お金と幸福を評価する
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30 ）	小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 30 ）	

上記に加えて学期末英語テスト20%。

2018 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅱ（心）<Hc>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　占部　幹也	

テーマ

理学療法や心理療法など、ライフサイエンス的な分野を専攻する学生が、自身の専攻に関わるテーマについて情報を的確にインプットし、それらの情報を自身の言葉に置き換えて発信するために必要な総合的な英語運用力（英語の四技能）をバランスよく身に付ける。

授業の到達目標

・医療用語の理解（必須単語・表現は約100）
・医療的な文章（300－400語程度）の読解力を上げる。
・医療的な文章（150－300語程度）の聴解力を上げる。
・インプットした情報を自身で整理し、それらを自分の言葉で書いたり話したりして伝えられるようになる。

授業の概要

日本人講師と外国人講師が交互に担当するティームティーチング
・学生の積極的な参加によるアクティブラーニング形式
・日本人講師パートでは、単語の説明や読解、聴解などのインプット部分を中心に取り扱う
・外国人講師パートではインプットした情報を相手に伝えるリテリングや療法士と患者との会話のロールプレイなど、アウトプット中心に取り扱う

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

その日習った単語の復習（単語テストへの準備）とロールプレイなどのアクティビティーの準備

内　容

第1回　高次脳機能障害
第2回　パーキンソン病
第3回　骨粗鬆症
第4回　脳卒中
第5回　これまでの中身の復習
第6回　循環器疾患
第7回　糖尿病
第8回　呼吸器疾患
第9回　これまでの中身の復習
第10回　慢性関節リウマチ
第11回　大腿骨頸部骨折
第12回　脊髄損傷
第13回　脳性麻痺
第14回　事例研究
第15回　総合問題演習を通した復習

履修上の注意点

教科書

Art of Healing
著者:　荒金　房子
出版社:　南雲堂
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅱ（心）<Hd>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　松村 優子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内での指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (B): Exchange Contact Information 連絡先を交換する
第3回　Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?、(Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する
第4回　Unit 8 (B): Discuss Long-and Short-Term Plans 短期、長期計画について話す
第5回　Unit 8 (D): (Reading) Future Energy、(Writing/Speaking) 未来について語る
第6回　Unit 9 (B): Explain Preferences 好みを説明する
第7回　Unit 9 (D): (Reading) Silk、(Writing/Speaking) 質と価値を評価する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (B): Compare Lifestyles ライフスタイルを比較する
第10回　Unit 10 (D): (Reading) The Secrets of Long Life、(Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する
第11回　Unit 11 (B): Interview for a Job 就職の面接をする
第12回　Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements、(Writing/Speaking) 人類の偉大な到達点について語る
第13回　Unit 12 (B): Make Choices on How to Spend Your Money お金の使い道を決める
第14回　Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness、(Writing/Speaking) お金と幸福を評価する
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）	小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 10% ）	授業中発表等 （ 15% ）
参加度 （ 15% ）	

上記に加えて学期末英語テスト
小テストは、14回、15回目の復習テストが中心である。参加度とは出席だけでなく、授業態度なども含まれる。

2018 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅱ（心）<He>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　小川　享子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内での指示に従うこと。
各ユニットで学ぶ語彙、英語表現は予習・復習を介して覚えること（小テストやまとめのテストにおいて確認し、採点をして返す）。
提出した課題は個人的に添削したり、クラスの中で全体的なコメントをしてフィードバック。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (B): Exchange Contact Information 連絡先を交換する
第3回　Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?、(Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する
第4回　Unit 8 (B): Discuss Long-and Short-Term Plans 短期、長期計画について話す
第5回　Unit 8 (D): (Reading) Future Energy、(Writing/Speaking) 未来について語る
第6回　Unit 9 (B): Explain Preferences 好みを説明する
第7回　Unit 9 (D): (Reading) Silk、(Writing/Speaking) 質と価値を評価する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (B): Compare Lifestyles ライフスタイルを比較する
第10回　Unit 10 (D): (Reading) The Secrets of Long Life、(Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する
第11回　Unit 11 (B): Interview for a Job 就職の面接をする
第12回　Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements、(Writing/Speaking) 人類の偉大な到達点について語る
第13回　Unit 12 (B): Make Choices on How to Spend Your Money お金の使い道を決める
第14回　Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness、(Writing/Speaking) お金と幸福を評価する
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験・レポート （ 45% ）　　小テスト （ 10% ）
授業中課題 （ 10~0% ）　　授業中発表等 （ 0~10% ）
参加度 （ 15% ）
上記に加えて学期末英語テスト20%。
試験はまとめのテスト、小テストは語彙や実技のテスト、授業中の課題と発表は合わせて10%とする。

2018 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅱ（心）<Hf>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　櫃本　一美	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。･世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

･コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ･各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内での指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (B): Make a Phone Call 電話をかける
第3回　Unit 7 (D): (Reading) Soccer–The Beautiful Game, (Writing/Speaking) 自分の能力に関して書く
第4回　Unit 8 (B): Buy Clothes 服を買う
第5回　Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes, (Writing/Speaking) 人の衣服を描写する
第6回　Unit 9 (B): Plan a Party パーティーの計画を立てる
第7回　Unit 9 (D): (Reading)“Ron Finley: A Guerilla Gardener in South Central L.A., (Writing/Speaking) 食習慣について書
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (B):Ask About and Describe Symptom 症状を描写する
第10回　Unit 10 (D): (Reading) Preventing Disease, (Writing/Speaking) 病気の防止について話す
第11回　Unit 11 (B): Describe Holiday Traditions 祝祭日について描写する
第12回　Unit 11 (D): (Reading) Derek Sivers: Keep Your Goals to Yourself, (Writing/Speaking) 夢と計画を語る
第13回　Unit 12 (B): Give Biographical Information 生物の情報を伝える
第14回　Unit 12 (D): (Reading) Human Migration, (Writing/Speaking) 休暇中の葉書を書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。テキストを持参していない者、授業中の課題に取り組まない者は出席とみなしません。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
上記に加えて学期末英語テスト20%。授業中課題は小テストも含める。

2018 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅱ（心）<Hg>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　小川　享子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内での指示に従うこと。
各ユニットで学ぶ語彙、英語表現は予習・復習を介して覚えること（小テストやまとめのテストにおいて確認し、採点をして返す）。
提出した課題は個人的に添削したり、クラスの中で全体的なコメントをしてフィードバック。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (B): Exchange Contact Information 連絡先を交換する
第3回　Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?、(Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する
第4回　Unit 8 (B): Discuss Long-and Short-Term Plans 短期、長期計画について話す
第5回　Unit 8 (D): (Reading) Future Energy、(Writing/Speaking) 未来について語る
第6回　oUnit 9 (B): Explain Preferences 好みを説明する
第7回　Unit 9 (D): (Reading) Silk、(Writing/Speaking) 質と価値を評価する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (B): Compare Lifestyles ライフスタイルを比較する
第10回　Unit 10 (D): (Reading) The Secrets of Long Life、(Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する
第11回　Unit 11 (B): Interview for a Job 就職の面接をする
第12回　Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements、(Writing/Speaking) 人類の偉大な到達点について語る
第13回　Unit 12 (B): Make Choices on How to Spend Your Money お金の使い道を決める
第14回　Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness、(Writing/Speaking) お金と幸福を評価する
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験・レポート （ 45% ）　　小テスト （ 10% ）
授業中課題 （ 10~0% ）　　授業中発表等 （ 0~10% ）
参加度 （ 15% ）
上記に加えて学期末英語テスト20%。
試験はまとめのテスト、小テストは語彙や実技のテスト、授業中の課題と発表は合わせて10%とする。

2018 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅱ（心）<Hh>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　高田 悦子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内での指示に従うこと.

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (B): Exchange Contact Information 連絡先を交換する
第3回　Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?、(Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する
第4回　Unit 8 (B): Discuss Long-and Short-Term Plans 短期、長期計画について話す
第5回　Unit 8 (D): (Reading) Future Energy、(Writing/Speaking) 未来について語る
第6回　Unit 9 (B): Explain Preferences 好みを説明する
第7回　Unit 9 (D): (Reading) Silk、(Writing/Speaking) 質と価値を評価する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (B): Compare Lifestyles ライフスタイルを比較する
第10回　Unit 10 (D): (Reading) The Secrets of Long Life、(Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する
第11回　Unit 11 (B): Interview for a Job 就職の面接をする
第12回　Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements、(Writing/Speaking) 人類の偉大な到達点について語る
第13回　Unit 12 (B): Make Choices on How to Spend Your Money お金の使い道を決める
第14回　Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness、(Writing/Speaking) お金と幸福を評価する
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。
辞書を必ず持ってきて下さい。（評価の対象になります。）

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 40% ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 25% ）
参加度（ 15% ）	

上記に加えて学期末英語テスト20%。

2018 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅱ（心）<R>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　杉山 泰	

テーマ

文化的基礎知識（Cultural Literacy）を最大限活かしながら、基礎英語を利用して日本文化を発信していく。

授業の到達目標

日本人が海外に出る場合、まずパスポートが必要だ。このパスポートは北朝鮮を除いてあらゆる国で有効、と書かれている。国連加盟国は193か国、日本語だけでは理解できないことを知れば、第二外国語が必要になってくる。中学校で学んだ基礎英語だけで、日本のことをかなり紹介できる。発信型英語を学び、英語の楽しさを学んでもらう。

授業の概要

テキストの問題をやるだけでなく、毎回プリントを配布し、それを時間内に仕上げてもらう。翌週添削し返却する。毎回辞書の持参が必要。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

添削された「プリント」を毎回手直ししておく必要がある。

内　容

第1回　英語で自己紹介。「氏名カード」の記入と英語で「履歴書」を書いてもらう。
第2回　Lesson 1 There si構文。（京都に何があるのか。京料理を説明できるか？）
第3回　Lesson 2 オノマトピア研究（「春の海ひねもすのたりのたりかな」を英語で訳せるか？）
第4回　Lesson 3 「こ・そ・あ・ど体系のの日本語」の英訳は？
第5回　Lesson 4 能動態と受動態（I am excited.とSumo is exciting.の違いは？）
第6回　Lesson 5 同格のthat（I have a feeling that...の構文）
第7回　Lesson 6 現在分詞と過去分詞（「現在進行形」と「受動態」と「現在完了形」）
第8回　Lesson 7 分詞構文（接続詞がなくても文がつながる）
第9回　Lesson 8 仮定法（起こりえないことのシュミレーションが可能）
第10回　Lesson 9 接続詞（It is ...that...の3つの構文）
第11回　Lesson 10 形容詞の研究（光っく休のない日本語）
第12回　Lesson 11 動名詞構文（I have fun visiting the U.K.構文）
第13回　Lesson 12 動詞＋er＝～する人（もの）構文
第14回　Lesson 13 前置詞と後置詞（て・に・を・はをどう訳すのか？）
第15回　Lesson 14 不定詞構文（日栄語比較研究のまとめ）

履修上の注意点

毎回作業をやるので、参加できなかった学生は、必ずプリントをもらって、自宅で解答し、提出すること。添削して返却するので、60点以上なければ、遅れの出席にはならないので、要注意。

教科書

Eye Opening Facts
著者:　杉山 泰
出版社:　朝日出版社
出版年:　2005　　ISBN:

参考書

日本人はなぜ英語ができないのか
著者:　鈴木孝夫
出版社:　新潮新書
出版年:　2009　　ISBN:

沈みゆく大国アメリカ
著者:　包未果
出版社:　集英社新書
出版年:　2015　　ISBN:

a90201a490

英語科は愚民化

著者: 施光恒

出版社: 集英社新書

出版年: 2015 ISBN:

日本語は敬語があって主語がない

著者: 金谷 武洋

出版社: 光文社新書

出版年: 2010 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題 （ 40% ） 授業中発表等 （ 20% ）

参加度 （ 20% ）

これに加えて、後期末英語テスト20%。出席不足の学生は、教科書の問題を全てやって提出するか、プリントを全て仕上げて提出すれば、遅れの出席として認める場合もある。

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックスキルズ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西野　毅朗	

テーマ

「学びの基礎力を高める」 本科目では、4年間の大学生活の基礎力を養います。大学での学びをより有意義なものにするための考え方や姿勢、大学で学ぶにあたって必要な基本的知識や基本的能力を養います。またこの科目では大学を卒業してからの社会生活も意識した指導を行います。

授業の到達目標

①高校までの学びと大学での学びの違いを説明できる。②ノートやメモをとる習慣をつくる。③わかりやすいレジュメが作成できる。④わかりやすく説得力のあるプレゼンテーションができる。⑤自らの主張を客観的根拠を伴って主張できるレポートが作成できる。⑥他者と協力し合い、高め合うことができる。⑦計画的に物事を進めることができるようになる。⑧自分の興味関心を元に探究し、他者の探求に学び、教養を深める。

授業の概要

この授業は、前半と後半で分かれています。前半は大学での学びの成果をより高めるための考え方や基本的な技法を学んでいただきます。後半は、前半学んだことを活かして、自らの興味関心を元に自ら探究し、他者と共に教養を深めていく探究活動をしていただきます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

ほぼ毎回課題を出します。課題に対するフィードバックは授業中に学生同士、そして教員からも行います。

内　　容

第1回　オリエンテーション　―大学で学ぶとは？
第2回　ノートテイキング技法　―大学授業でのノートの取り方
第3回　リーディング技法　―本の探し方、読み方
第4回　レジュメ作成技法　―コンパクトなまとめ方
第5回　情報収集分析技法　―様々な情報収集と分析の方法
第6回　プレゼンテーション技法　―伝わる伝え方のポイント
第7回　レポート作成技法　―大学でのレポートの書き方
第8回　ディスカッション技法　―議論をし、高め合う力の向上
第9回　探究活動①　探究テーマの設定と探究計画の策定
第10回　探究活動②　レジュメ作成
第11回　探究活動③　レジュメ修正①
第12回　探究活動④　レジュメ修正②
第13回　探究活動⑤　プレゼンテーション
第14回　探究活動⑥　レポート修正ディスカッション
第15回　総括―これまでの学び、これからの学び―

履修上の注意点

●とにかく出席しましょう。大変だと思いますが、やれば力がつきます。●課題はきちんとやりましょう。自分が困るだけでなく、他者に迷惑をかけてしまうからです。●困ったら、友達や教員に遠慮なく相談してください。●「わからない」「もやもやする」ということが多々あるはずです。大学での学びは複雑なので、すぐに「わかった！」とならないことも多いものです。諦めず、自分なりに考えて、一歩踏み出しましょう。●授業内容は進捗に応じて変更したり、入れ替える場合があります。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

大学基礎講座改増版－充実した大学生活をおくるために

著者:　藤田哲也

出版社:　北大路書房

出版年:　2006　　ISBN:

a90201a510

知へのステップ第3版―大学生からのスタディ・スキルズ
著者: 学習技術研究会
出版社: くろしお出版
出版年: 2011 ISBN:

ゼミで学ぶスタディスキル【改訂版】
著者: 南田勝也・矢田部圭介・山下玲子
出版社: 北樹出版
出版年: 2013 ISBN:

大学生の学習テクニック第3版
著者: 森靖雄
出版社: 大月書店
出版年: 2014 ISBN:

アカデミック・スキルズ第2版―大学生のための知的技法入門
著者: 佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦
出版社: 丸井工文社
出版年: 2012 ISBN:

スタートアップセミナー学習マニュアル なせば成る！
著者: 立松潔・大島武・下平裕介・山本陽史
出版社: 山形大学出版会
出版年: 2010 ISBN:

広げる和の世界 大学でのまなびのレッスン
著者: 北尾謙治他
出版社: ひつじ書房
出版年: 2005 ISBN:

知のナビゲーター
著者: 中澤務・森貴史・本村康哲
出版社: くろしお出版
出版年: 2007 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 30 ）
小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 10 ）
授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）
評価基準などの詳細は授業中に示します。

2018 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅰ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中西　龍一	

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義･体験学習による気づき･学びについて、振り返り･言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内　容

第1回　体験学習から学ぶことの意味（濱田）
第2回　「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド（濱田）
第3回　Tグループについて（濱田）
第4回　「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド（中西）
第5回　自己理解を深めるための「学習ジャーナル」（中西）
第6回　体験学習と引き裂く学習（中西）
第7回　プロセスとコンテント（菱田）
第8回　グループプロセス①（菱田）
第9回　グループプロセス②（青木）
第10回　組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習（青木）
第11回　体験プログラム①（大久保）
第12回　体験プログラム②（大久保）
第13回　集団規範（ジェイムス）
第14回　集団における意志決定（ジェイムス）
第15回　リーダーシップ（ジェイムス）

履修上の注意点

毎回の授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度が評価の大きな要素となります。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験･レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅰ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　大久保　千恵	

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義･体験学習による気づき･学びについて、振り返り･言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内　容

第1回　体験学習から学ぶことの意味（濱田）
第2回　「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド（濱田）
第3回　Tグループについて（濱田）
第4回　「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド（中西）
第5回　自己理解を深めるための「学習ジャーナル」（中西）
第6回　体験学習と引き裂く学習（中西）
第7回　プロセスとコンテント（菱田）
第8回　グループプロセス①（菱田）
第9回　グループプロセス②（青木）
第10回　組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習（青木）
第11回　体験プログラム①（大久保）
第12回　体験プログラム②（大久保）
第13回　集団規範（ジェイムス）
第14回　集団における意志決定（ジェイムス）
第15回　リーダーシップ（ジェイムス）

履修上の注意点

毎回の授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度が評価の大きな要素となります。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験･レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40）	授業中発表等（30）
参加度（30）	

2018 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅰ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　ジェイムス　朋子	

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義･体験学習による気づき･学びについて、振り返り･言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内　容

第1回　体験学習から学ぶことの意味（濱田）
第2回　「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド（濱田）
第3回　Tグループについて（濱田）
第4回　「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド（中西）
第5回　自己理解を深めるための「学習ジャーナル」（中西）
第6回　体験学習と引き裂く学習（中西）
第7回　プロセスとコンテント（菱田）
第8回　グループプロセス①（菱田）
第9回　グループプロセス②（青木）
第10回　組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習（青木）
第11回　体験プログラム①（大久保）
第12回　体験プログラム②（大久保）
第13回　集団規範（ジェイムス）
第14回　集団における意志決定（ジェイムス）
第15回　リーダーシップ（ジェイムス）

履修上の注意点

毎回の授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度が評価の大きな要素となります。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験･レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅰ〈＊d〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　菱田　一仁	

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義･体験学習による気づき･学びについて、振り返り･言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内　容

第1回　体験学習から学ぶことの意味（濱田）
第2回　「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド（濱田）
第3回　Tグループについて（濱田）
第4回　「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド（中西）
第5回　自己理解を深めるための「学習ジャーナル」（中西）
第6回　体験学習と引き裂く学習（中西）
第7回　プロセスとコンテント（菱田）
第8回　グループプロセス①（菱田）
第9回　グループプロセス②（青木）
第10回　組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習（青木）
第11回　体験プログラム①（大久保）
第12回　体験プログラム②（大久保）
第13回　集団規範（ジェイムス）
第14回　集団における意志決定（ジェイムス）
第15回　リーダーシップ（ジェイムス）

履修上の注意点

毎回の授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度が評価の大きな要素となります。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験･レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40）	授業中発表等（30）
参加度（30）	

2018 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅰ〈＊e〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　濱田　智崇	

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義･体験学習による気づき･学びについて、振り返り･言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内　容

第1回　体験学習から学ぶことの意味（濱田）
第2回　「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド（濱田）
第3回　Tグループについて（濱田）
第4回　「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド（中西）
第5回　自己理解を深めるための「学習ジャーナル」（中西）
第6回　体験学習と引き裂く学習（中西）
第7回　プロセスとコンテント（菱田）
第8回　グループプロセス①（菱田）
第9回　グループプロセス②（青木）
第10回　組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習（青木）
第11回　体験プログラム①（大久保）
第12回　体験プログラム②（大久保）
第13回　集団規範（ジェイムス）
第14回　集団における意志決定（ジェイムス）
第15回　リーダーシップ（ジェイムス）

履修上の注意点

毎回の授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度が評価の大きな要素となります。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験･レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40）	授業中発表等（30）
参加度（30）	

2018 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅰ〈＊f〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　井上　裕樹	

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義･体験学習による気づき･学びについて、振り返り･言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内　容

第1回　体験学習から学ぶことの意味（濱田）
第2回　「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド（濱田）
第3回　Tグループについて（濱田）
第4回　「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド（中西）
第5回　自己理解を深めるための「学習ジャーナル」（中西）
第6回　体験学習と引き裂く学習（中西）
第7回　プロセスとコンテント（菱田）
第8回　グループプロセス①（菱田）
第9回　グループプロセス②（青木）
第10回　組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習（青木）
第11回　体験プログラム①（大久保）
第12回　体験プログラム②（大久保）
第13回　集団規範（ジェイムス）
第14回　集団における意志決定（ジェイムス）
第15回　リーダーシップ（ジェイムス）

履修上の注意点

毎回の授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度が評価の大きな要素となります。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験･レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅱ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中西　龍一	

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義･体験学習による気づき･学びについて、振り返り･言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下のような15のテーマについての講義･体験学習を行い、それに基づいて、体験を振り返り、概念化し、グループで発表･討論を行う。

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内　容

第1回　社会的相互作用の循環過程（濱田）
第2回　ジョハリの窓（濱田）
第3回　成長のためのフィードバック（濱田）
第4回　グループの発達（中西）
第5回　コミュニケーションのプロセスと留意点①（中西）
第6回　コミュニケーションのプロセスと留意点②（中西）
第7回　援助的なコミュニケーション（菱田）
第8回　効果的コミュニケーションのための要素（菱田）
第9回　対話の中での聞き手の留意点（青木）
第10回　感情とのつきあい方（青木）
第11回　ことばによるコミュニケーション（大久保）
第12回　非言語コミュニケーション（大久保）
第13回　からだとことば（ジェイムス）
第14回　自己概念･経験･成長（ジェイムス）
第15回　私たちの主観的世界（ジェイムス）

履修上の注意点

授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度などが評価の要素となります。積極的に取り組んでください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験･レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅱ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　大久保　千恵	

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義･体験学習による気づき･学びについて、振り返り･言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下のような15のテーマについての講義･体験学習を行い、それに基づいて、体験を振り返り、概念化し、グループで発表･討論を行う。

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内　容

第1回　社会的相互作用の循環過程（濱田）
第2回　ジョハリの窓（濱田）
第3回　成長のためのフィードバック（濱田）
第4回　グループの発達（中西）
第5回　コミュニケーションのプロセスと留意点①（中西）
第6回　コミュニケーションのプロセスと留意点②（中西）
第7回　援助的なコミュニケーション（菱田）
第8回　効果的コミュニケーションのための要素（菱田）
第9回　対話の中での聞き手の留意点（青木）
第10回　感情とのつきあい方（青木）
第11回　ことばによるコミュニケーション（大久保）
第12回　非言語コミュニケーション（大久保）
第13回　からだとことば（ジェイムス）
第14回　自己概念･経験･成長（ジェイムス）
第15回　私たちの主観的世界（ジェイムス）

履修上の注意点

授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度などが評価の要素となります。積極的に取り組んでください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験･レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅱ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　ジェイムス　朋子	

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義･体験学習による気づき･学びについて、振り返り･言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下のような15のテーマについての講義･体験学習を行い、それに基づいて、体験を振り返り、概念化し、グループで発表･討論を行う。

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内　容

第1回　社会的相互作用の循環過程（濱田）
第2回　ジョハリの窓（濱田）
第3回　成長のためのフィードバック（濱田）
第4回　グループの発達（中西）
第5回　コミュニケーションのプロセスと留意点①（中西）
第6回　コミュニケーションのプロセスと留意点②（中西）
第7回　援助的なコミュニケーション（菱田）
第8回　効果的コミュニケーションのための要素（菱田）
第9回　対話の中での聞き手の留意点（青木）
第10回　感情とのつきあい方（青木）
第11回　ことばによるコミュニケーション（大久保）
第12回　非言語コミュニケーション（大久保）
第13回　からだとことば（ジェイムス）
第14回　自己概念･経験･成長（ジェイムス）
第15回　私たちの主観的世界（ジェイムス）

履修上の注意点

授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度などが評価の要素となります。積極的に取り組んでください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験･レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅱ <＊d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　菱田　一仁	

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義･体験学習による気づき･学びについて、振り返り･言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下のような15のテーマについての講義･体験学習を行い、それに基づいて、体験を振り返り、概念化し、グループで発表･討論を行う。

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内　容

第1回　社会的相互作用の循環過程（濱田）
第2回　ジョハリの窓（濱田）
第3回　成長のためのフィードバック（濱田）
第4回　グループの発達（中西）
第5回　コミュニケーションのプロセスと留意点①（中西）
第6回　コミュニケーションのプロセスと留意点②（中西）
第7回　援助的なコミュニケーション（菱田）
第8回　効果的コミュニケーションのための要素（菱田）
第9回　対話の中での聞き手の留意点（青木）
第10回　感情とのつきあい方（青木）
第11回　ことばによるコミュニケーション（大久保）
第12回　非言語コミュニケーション（大久保）
第13回　からだとことば（ジェイムス）
第14回　自己概念･経験･成長（ジェイムス）
第15回　私たちの主観的世界（ジェイムス）

履修上の注意点

授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度などが評価の要素となります。積極的に取り組んでください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験･レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅱ〈＊e〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　濱田　智崇	

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義･体験学習による気づき･学びについて、振り返り･言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下のような15のテーマについての講義･体験学習を行い、それに基づいて、体験を振り返り、概念化し、グループで発表･討論を行う。

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内　容

第1回　社会的相互作用の循環過程（濱田）
第2回　ジョハリの窓（濱田）
第3回　成長のためのフィードバック（濱田）
第4回　グループの発達（中西）
第5回　コミュニケーションのプロセスと留意点①（中西）
第6回　コミュニケーションのプロセスと留意点②（中西）
第7回　援助的なコミュニケーション（菱田）
第8回　効果的コミュニケーションのための要素（菱田）
第9回　対話の中での聞き手の留意点（青木）
第10回　感情とのつきあい方（青木）
第11回　ことばによるコミュニケーション（大久保）
第12回　非言語コミュニケーション（大久保）
第13回　からだとことば（ジェイムス）
第14回　自己概念･経験･成長（ジェイムス）
第15回　私たちの主観的世界（ジェイムス）

履修上の注意点

授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度などが評価の要素となります。積極的に取り組んでください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験･レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅱ <＊f>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　井上　裕樹	

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義･体験学習による気づき･学びについて、振り返り･言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下のような15のテーマについての講義･体験学習を行い、それに基づいて、体験を振り返り、概念化し、グループで発表･討論を行う。

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内　容

第1回　社会的相互作用の循環過程（濱田）
第2回　ジョハリの窓（濱田）
第3回　成長のためのフィードバック（濱田）
第4回　グループの発達（中西）
第5回　コミュニケーションのプロセスと留意点①（中西）
第6回　コミュニケーションのプロセスと留意点②（中西）
第7回　援助的なコミュニケーション（菱田）
第8回　効果的コミュニケーションのための要素（菱田）
第9回　対話の中での聞き手の留意点（青木）
第10回　感情とのつきあい方（青木）
第11回　ことばによるコミュニケーション（大久保）
第12回　非言語コミュニケーション（大久保）
第13回　からだとことば（ジェイムス）
第14回　自己概念･経験･成長（ジェイムス）
第15回　私たちの主観的世界（ジェイムス）

履修上の注意点

授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度などが評価の要素となります。積極的に取り組んでください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験･レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学研究法Ⅰ（概論）<Z>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　上北　朋子.田中　芳幸	

テーマ

心理学研究の方法論の概要、および量的研究と質的研究の理解

授業の到達目標

心理学が目標とする「実証（データ）に基づく客観的な行動理解」を実現するための方法論について理解を深める。

授業の概要

心理学の方法論である、実験法、調査法、観察法などを理解するともに、心理学における研究計画を身につける。またそれぞれの研究法において用いられる統計的方法（量的データへの分析方法の適用と解釈）や研究倫理についても理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

教科書や参考文献に示すものなど心理学研究法関連図書による自学自習、および、心理学関連の研究論文で実際に用いられている研究方法や統計学的解析方法への考察。小テストについて後の授業内でコメント。

内　容

第1回　心理学における実証的方法および研究倫理
第2回　量的研究と質的研究の違い
第3回　実験法①（実験計画の立案）
第4回　実験法②（実験における従属測度）
第5回　実験法③（操作チェック）
第6回　実験法④（実験データの統計解析）
第7回　調査法①（概要の説明）
第8回　調査法②（調査計画の立案）
第9回　調査法③（サンプリング）
第10回　調査法④（訪問面接調査の方法）
第11回　調査法⑤（調査データの統計解析）
第12回　観察法①（観察データの意義）
第13回　観察法②（観察法における測度）
第14回　観察法③（観察データの統計解析）
第15回　論文作成の方法

履修上の注意点

授業中の私語を慎む、スマートフォンの操作をしないなど、基本的な受講態度を守ってください。

教科書

Progress & Application 心理学研究法
著者:　村井潤一郎
出版社:　サイエンス社
出版年:　　ISBN:

参考書

心理学研究法入門
著者:　南風原朝和　市川伸一　下山晴彦
出版社:　東京大学出版会
出版年:　　ISBN:

心理学マニュアル 要因計画法
著者:　後藤 宗理・中沢 潤・大野木 裕明　著
出版社:　北大路書房
出版年:　　ISBN:

心理学マニュアル 質問紙法
著者:　鎌原 雅彦・大野木 裕明・宮下 一博・中沢 潤　著
出版社:　北大路書房
出版年:　　ISBN:

a90201a850

心理学マニュアル 観察法

著者: 中沢 潤・南 博文・大野木 裕明 著

出版社: 北大路書房

出版年: ISBN:

パソコンによるデータ分析

著者: 大西 正和 編著

出版社: 建帛社

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　小テスト（ 40 ）

授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）

参加度 （ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅰ〈ZRa〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験計画の立案から実験の実施、収集したデータの解析を行う。各実験についてレポートを作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。提出されたレポートは添削して返却するので、よく復習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　マウスの活動性の測定（1）実験計画の立案
第3回　マウスの活動性の測定（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　マウスの学習実験（1）実験計画の立案
第6回　マウスの学習実験（2）実験の実施
第7回　マウスの学習実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　ストループカラーワードテスト（1）実験計画の立案
第10回　ストループカラーワードテスト（2）実験の実施
第11回　ストループカラーワードテスト（3）実験の実施
第12回　データ解析とレポートの説明
第13回　性格検査（1）実験計画の立案
第14回　性格検査（2）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

出席を重視します。レポートは必ず提出すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅰ〈ZRb〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験計画の立案から実験の実施、収集したデータの解析を行う。各実験についてレポートを作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。提出されたレポートは添削して返却するので、よく復習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　マウスの活動性の測定（1）実験計画の立案
第3回　マウスの活動性の測定（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　マウスの学習実験（1）実験計画の立案
第6回　マウスの学習実験（2）実験の実施
第7回　マウスの学習実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　ストループカラーワードテスト（1）実験計画の立案
第10回　ストループカラーワードテスト（2）実験の実施
第11回　ストループカラーワードテスト（3）実験の実施
第12回　データ解析とレポートの説明
第13回　性格検査（1）実験計画の立案
第14回　性格検査（2）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

出席を重視します。レポートは必ず提出すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学Ⅰ〈Z〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎	

テーマ

心理学の基礎的領域の概説

授業の到達目標

心理学の成り立ち、心理学の研究方法について概観し、心理学がどのような学問分野であるかを理解する。心理学の中でも、科学的に明らかにされてきた知覚、認知、学習、感情、動機づけなどの基礎心理学領域について理解を深める。

授業の概要

感覚・知覚・学習、記憶・動機づけ・情動・認知といった実験や観察によって明らかにされてきた心の基本的な仕組みや働きについて、わかりやすく概説する。パワーポイントを使用し、講義をする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストの熟読と講義ノートを復習すること。 復習プリントを宿題とし、次回に解答・解説を行う。

内　容

第1回　ガイダンス　現代心理学とは
第2回　心理学の歴史と研究方法
第3回　こころの数量化、実験計画法
第4回　感覚と知覚
第5回　錯視と運動の知覚・注意
第6回　学習理論・古典的条件づけ
第7回　オペラント条件づけ
第8回　記憶
第9回　情動
第10回　こころの生物学的基盤（神経系のしくみ）
第11回　動機づけ理論と生理的動機づけ
第12回　社会的動機づけと達成動機
第13回　思考と言語
第14回　推論とメタ認知・意思決定
第15回　全体のまとめ

履修上の注意点

私語をしない、スマートフォンは机上に出さない等、常識的な態度で受講すること。

教科書

心理学概論（第2版）
著者:　岡市廣成・鈴木直人（監修）
出版社:　ナカニシヤ出版
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 60 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学Ⅱ〈Z〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　永野　光朗	

テーマ

「社会的過程」や「社会への応用」をテーマとする心理学

授業の到達目標

「社会的過程」や「社会への応用」をテーマとする心理学

授業の概要

過去の心理学研究における研究の流れを概観した上で、実証に基づき人間の心と行動の仕組みを理解するという心理学の学問的目標が、人間の社会生活や産業場面においてどのように役立つのかを理解する。また、以上を達成するための心理学的方法論の有用性についても理解をする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

社会や企業活動のなかで生じる問題を常に注視した上で、心理学の立場からその問題を解決する方策を立案してほしい。
毎回の授業時に実施する小テストを次回授業時に返却するが、そのなかにコメントを記入してフィードバックを行う。

内　容

第1回　心理学の目標
第2回　人間理解と心理学
第3回　心理学と社会生活とのつながり
第4回　これまでの心理学の取り組み（1）　実証科学としての心理学の確立
第5回　これまでの心理学の取り組み（2）　学習理論
第6回　これまでの心理学の取り組み（3）　認知理論
第7回　社会を理解するための心理学（1）　社会的相互作用としての人間行動
第8回　社会を理解するための心理学（2）　対人認知と印象形成
第9回　社会を理解するための心理学（3）　対人行動
第10回　社会を理解するための心理学（4）　集合行動
第11回　社会を理解するための心理学（5）　社会的認知理論
第12回　心理学の応用（1）　社会生活への応用
第13回　心理学の応用（2）　企業活動への応用（組織行動）
第14回　心理学の応用（3）　企業活動への応用（消費者行動）
第15回　心理学の応用（4）　環境配慮行動の促進

履修上の注意点

社会や企業活動のなかで生じる問題を常に注視した上で、心理学の立場からその問題を解決する方策を立案してほしい。
授業には真摯に取り組むこと。スマホ使用、私語など他の受講者に迷惑となる行為については厳重に注意します。睡眠についても授業の雰囲気を損なう行為となるので注意します。

教科書

心理学概論（第2版）
著者:　岡市廣成・鈴木直人（監修）
出版社:　ナカニシヤ出版
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ 50 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
毎回の授業の終了時に小テストを実施する。

2018 Syllabus

科 目 名　**心理統計学Ⅰ〈Z〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　前田　洋光	

テーマ

基礎的な統計学の理解

授業の到達目標

基礎的な統計手法や概念について理解し、心理統計学Ⅱ以降で前提となる知識の基盤をつくる。また、統計の必要性について理解を深める。

授業の概要

心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。この授業では、統計の基礎的なテーマについて、講義形式と演習形式を併用しながら、理解を深めていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

下記参考書をはじめとする統計学関連の書籍の講読

内　　容

第1回　イントロダクション：統計学の必要性について
第2回　尺度水準（Stevensの4つの尺度水準）
第3回　度数分布
第4回　さまざまな代表値
第5回　散布度(1)：分散と標準偏差
第6回　散布度(2)：四分位偏差などその他の散布度
第7回　前半部分のまとめと確認
第8回　変数変換（標準得点と偏差値）
第9回　共分散とピアソンの相関係数(1)
第10回　共分散とピアソンの相関係数(2)
第11回　順位相関係数
第12回　クロス集計と連関係数
第13回　後半部分のまとめと確認
第14回　データ分析演習
第15回　授業全体のまとめ

履修上の注意点

本科目は、知識を積み上げていくという性質のものです。そのため、遅刻・欠席によって各回の内容を修得できなければ、その後の授業を理解することが困難になっていきます。欠席したり、わからないことがあれば、いつでも質問にきてください。

教科書

使用しない

著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本

著者：　吉田寿夫 著
出版社：北大路書房
出版年：　　ISBN：

よくわかる心理統計

著者：　山田剛史・村井潤一郎 著
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ 50 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**臨床心理学Ⅰ〈Z〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　日比野　英子.濱田　智崇.松下　幸治	

テーマ

臨床心理学の概論の理解

授業の到達目標

臨床心理学の基本的な理論・援助法・査定法について理解する。

授業の概要

臨床心理学は、現代社会が抱えている心理的問題のみならず、教育の問題、高齢者・障害者のケアとリハビリテーション、犯罪被害者のケアなどのさまざまな問題の解決や改善を要請されている学問領域であるが、本科目ではその基礎理論と心理アセスメント・心理的援助を概観して、その理念・歴史・構造・実践活動を理解することをねらいとする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

以下の授業計画に沿って、授業前に教科書を読んで授業に臨むこと。わかりにくいことは積極的に担当者に質問してほしい。授業後に再度教科書を読んで理解できないことは質問すること。授業中の課題については、各担当者が次回の授業でフィードバックする。

内　容

第1回　臨床心理学とは
第2回　臨床心理学の歴史
第3回　臨床心理学の主な学問分野
第4回　臨床心理学の基礎理論①　精神分析学
第5回　臨床心理学の基礎理論②　人間性心理学
第6回　臨床心理学の基礎理論③　認知・行動理論
第7回　心の発達と心の病理①　乳幼児期の心と心のつまずき
第8回　心の発達と心の病理②　児童期・思春期の心理的問題
第9回　心の発達と心の病理③青年期の心と心の迷い
第10回　心の発達と心の病理④大人の心と心のゆがみ
第11回　心の状態を測る―心理アセスメントとは―
第12回　心理アセスメントの倫理
第13回　心裡アセスメントの方法①面接法
第14回　心理アセスメントの技法②観察法
第15回　心理アセスメントの方法③心理検査法

履修上の注意点

授業中に紹介する専門書を最低3冊読んでみよう。

教科書

臨床心理学を基本から学ぶ
著者:　丸島令子、日比野英子
出版社:　北大路書房
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**臨床心理学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中西　龍一	

テーマ

精神分析学派による主要な2つの人格理論についてその基礎を学ぶ

授業の到達目標

S.Freud による心理性的理論（Psychosexual theory）及び E.H.Erikson による心理社会的理論（Psychosocial theory）について、その基礎を理解する。

授業の概要

臨床心理学の対象は、乳幼児から老人までその年齢を問わない。本講座では、臨床心理学の基礎的視座とも呼べるS.Freudによる心理性的理論（Psychosexual theory）及びE.H.Eriksonによる心理社会的理論（Psychosocial theory）について講義していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回の講義内容の復習を中心に行うこと（1時間程度）

内　　容

第1回　オリエンテーション/精神分析学
第2回　精神分析学　防衛機制
第3回　心理性的理論　口唇期　肛門期
第4回　心理性的理論　幼児性器期　潜在期
第5回　心理性的理論　成熟性器期　/　まとめ
第6回　ケースから学ぶ精神分析
第7回　心理性的理論の視点からの自分史
第8回　心理社会的理論　第一の危機
第9回　心理社会的理論　第二の危機　第三の危機
第10回　心理社会的理論　第四の危機　第五の危機
第11回　心理社会的理論　第六の危機　第七の危機
第12回　心理社会的理論　第八の危機　/　まとめ
第13回　ケースから学ぶ心理社会的理論
第14回　心理社会的理論の視点からの自分史
第15回　心理性的理論　心理社会的理論　まとめ

履修上の注意点

理由なく1/3以上欠席した学生は、不合格とします。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 100 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 0 ）	

「まとめ」の回に小テストを2度行います。
テキストに代わり、初回の授業でハンドアウト（プリント）を配ります。

2018 Syllabus

科 目 名　**こころとからだの臨床学Ⅱ〈Z〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中西　龍一.安彦　鉄平.田中　芳幸.西本　泰久.平本　憲二.松尾　奈々	

テーマ

こころとからだを「心身一如」、ホリスティック(Holistic)な視点から捉える。

授業の到達目標

心と身体、そしてその関係について、各担当者により語られる様々な視点・視座を学び、全体として分かち難く結びつく心と身体についての理解を深める。

授業の概要

健康科学部、心理学科、理学療法学科、救急救命学科の3分野の教員によるオムニバス科目です。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

内　容

第1回　運動器疾患に対するこころとからだのリハビリテーション(1)【安彦　鉄平】
第2回　運動器疾患に対するこころとからだのリハビリテーション(2)【安彦　鉄平】
第3回　運動器疾患に対するこころとからだのリハビリテーション(3)【安彦　鉄平】
第4回　心身のストレスに関する基礎理論 【田中　芳幸】
第5回　ストレスへの対処 【田中　芳幸】
第6回　ストレスマネジメントの実際 【田中　芳幸】
第7回　様々なストレッサー(心理社会的ストレスを中心に)【中西　龍一】
第8回　ストレスと反応(こころとからだの結びつき)【中西　龍一】
第9回　心理療法と心理社会的ストレッサー【中西　龍一】
第10回 高齢者の救急医療【西本　泰久】
第11回 応急手当実施者のストレス【西本　泰久】
第12回 災害医療の問題点【西本　泰久】
第13回 脳血管障害患者の心と体のリハビリテーション1【松尾　奈々】
第14回 脳血管障害患者の心と体のリハビリテーション2【松尾　奈々】
第15回 脳血管障害患者の心と体のリハビリテーション3【松尾　奈々】

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 60% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**こころとからだの健康科学Ⅰ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　190
履修条件	クラス指定
担 当 者　日比野　英子.小田桐　匡.坂本　敏郎.夏目　美樹.米田　孝司	

テーマ

こころとからだの健康と臨床

授業の到達目標

健康科学部の学びの目的とその基礎知識として、こころとからだの健康と臨床についての研究とその応用である実践活動への理解を深める。

授業の概要

心理学科・理学療法学科・救急救命学科・臨床検査学科の教員がオムニバスで担当し、こころとからだの健康と臨床の研究と実践活動を紹介する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

下欄に掲げた参考書にうち、興味ある本を1冊以上読むこと。

内　容

第1回　オリエンテーション　心と脳（日比野）
第2回　人間の生物学特殊性とコミュニケーション能力（日比野）
第3回　人の子の「顔」をめぐる能力（日比野）
第4回　男の女の脳科学（坂本）
第5回　絆を育む感情の科学（坂本）
第6回　どうすれば人の行動は変わるのか（坂本）
第7回　脳障害者の心の世界：神経心理学へのいざない（小田桐）
第8回　伸び縮みする身体と心：切断者の幻肢痛および道具使用について（小田桐）
第9回　″自分″の身体と″他人″の身体：自己所属感と自己主体感（小田桐）
第10回 いのちの教育①いのちとは何故大切にしなければならないか（夏目）
第11回 いのちの教育②いのちを守るために必要なこと（夏目）
第12回 防災の話　京の都の防災（夏目）
第13回 心と身体に関係する未病とは。未病と健康に関する栄養・食生活や身体活動・運動と関連する検査について（米田）
第14回 未病や健康に関係するストレスと関連する検査について（米田）
第15回 飲酒、喫煙の健康被害と関連する検査（遺伝子検査・生化学検査）について（米田）

履修上の注意点

大きなサイズのクラスになるが、すべての受講生が静穏な環境で受講できるようマナーを守りましょう。

教科書

各教員からの配付資料
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

心と脳
著者:　安西祐一郎
出版社:　岩波新書1331
出版年:　2011　　ISBN:　9784004313311

生存する脳：心と脳と身体の神秘
著者:　アントニオ・R・ダマシオ
出版社:　講談社
出版年:　　ISBN:

ミラーニューロン
著者:　ジャコモ・リゾラッティ＆コラド・シニガリア
出版社:　紀伊國屋書店
出版年:　　ISBN:

a90201b710

脳のなかの幽霊

著者： V.S.ラマチャンドラン

出版社： 角川書店

出版年： ISBN：

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 100% ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

オムニバス科目であり、複数の教員が担当するので、欠席の場合に課題提出がなされていないと最終的な成績にマイナスの影響がおよびます。気を付けましょう。

2018 Syllabus

科 目 名　**こころとからだの健康科学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　190
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中西　龍一.安彦　鉄平.田中　芳幸.西本　泰久.平本　憲二.松尾　奈々	

テーマ

こころとからだを「心身一如」、ホリスティック(Holistic)な視点から捉える。

授業の到達目標

心と身体、そしてその関係について、各担当者により語られる様々な視点・視座を学び、全体として分かち難く結びつく心と身体についての理解を深める。

授業の概要

健康科学部、心理学科、理学療法学科、救急救命学科の3分野の教員によるオムニバス科目です。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

内　容

第1回　運動器疾患に対するこころとからだのリハビリテーション(1)【安彦　鉄平】
第2回　運動器疾患に対するこころとからだのリハビリテーション(2)【安彦　鉄平】
第3回　運動器疾患に対するこころとからだのリハビリテーション(3)【安彦　鉄平】
第4回　心身のストレスに関する基礎理論 【田中　芳幸】
第5回　ストレスへの対処 【田中　芳幸】
第6回　ストレスマネジメントの実際 【田中　芳幸】
第7回　様々なストレッサー(心理社会的ストレスを中心に)【中西　龍一】
第8回　ストレスと反応(こころとからだの結びつき)【中西　龍一】
第9回　心理療法と心理社会的ストレッサー【中西　龍一】
第10回 高齢者の救急医療【西本　泰久】
第11回 応急手当実施者のストレス【西本　泰久】
第12回 災害医療の問題点【西本　泰久】
第13回 脳血管障害患者の心と体のリハビリテーション1【松尾　奈々】
第14回 脳血管障害患者の心と体のリハビリテーション2【松尾　奈々】
第15回 脳血管障害患者の心と体のリハビリテーション3【松尾　奈々】

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 60% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学研究法 I**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　上北　朋子.田中　芳幸	

テーマ

心理学研究の方法論の概要、および量的研究と質的研究の理解

授業の到達目標

心理学が目標とする「実証（データ）に基づく客観的な行動理解」を実現するための方法論について理解を深める。

授業の概要

心理学の方法論である、実験法、調査法、観察法などを理解するともに、心理学における研究計画を身につける。またそれぞれの研究法において用いられる統計的方法（量的データへの分析方法の適用と解釈）や研究倫理についても理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

教科書や参考文献に示すものなど心理学研究法関連図書による自学自習、および、心理学関連の研究論文で実際に用いられている研究方法や統計学的解析方法への考察。小テストについて後の授業内でコメント。

内　容

第1回　心理学における実証的方法および研究倫理
第2回　量的研究と質的研究の違い
第3回　実験法①（実験計画の立案）
第4回　実験法②（実験における従属測度）
第5回　実験法③（操作チェック）
第6回　実験法④（実験データの統計解析）
第7回　調査法①（概要の説明）
第8回　調査法②（調査計画の立案）
第9回　調査法③（サンプリング）
第10回　調査法④（訪問面接調査の方法）
第11回　調査法⑤（調査データの統計解析）
第12回　観察法①（観察データの意義）
第13回　観察法②（観察法における測度）
第14回　観察法③（観察データの統計解析）
第15回　論文作成の方法

履修上の注意点

授業中の私語を慎む、スマートフォンの操作をしないなど、基本的な受講態度を守ってください。

教科書

Progress & Application 心理学研究法
著者:　村井潤一郎
出版社:　サイエンス社
出版年:　　ISBN:

参考書

心理学研究法入門
著者:　南風原朝和　市川伸一　下山晴彦
出版社:　東京大学出版会
出版年:　　ISBN:

心理学マニュアル 要因計画法
著者:　後藤 宗理・中沢 潤・大野木 裕明　著
出版社:　北大路書房
出版年:　　ISBN:

心理学マニュアル 質問紙法
著者:　鎌原 雅彦・大野木 裕明・宮下 一博・中沢 潤　著
出版社:　北大路書房
出版年:　　ISBN:

a90201b910

心理学マニュアル 観察法

著者: 中沢 潤・南 博文・大野木 裕明 著

出版社: 北大路書房

出版年: ISBN:

パソコンによるデータ分析

著者: 大西 正和 編著

出版社: 建帛社

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　小テスト（ 40 ）

授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）

参加度（ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学実験Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎.上北　朋子.坂本　久美	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。心理学での基礎実験を通して、科学的研究の手法を学び、論文作成の基礎をつくる。

授業の概要

小グループに分かれて実験計画の立案から実験の実施、収集したデータの解析を行う。各実験についてレポートを作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。提出されたレポートは添削して返却するので、よく復習しておくこと。

内　容

第1回　実験演習のオリエンテーション
第2回　錯視実験（1）実験計画の立案
第3回　錯視実験（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　鏡映描写実験（1）実験計画の立案
第6回　鏡映描写実験（2）実験の実施
第7回　鏡映描写実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　コミュニケーション実験（1）実験計画の立案
第10回 コミュニケーション実験（2）実験の実施
第11回 データ解析とレポートの説明
第12回 記憶実験（1）実験計画の立案
第13回 記憶実験（2）実験の実施
第14回 記憶実験（3）実験の実施
第15回 データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

レポートの提出および出席を重視します。遅刻しないよう、授業開始時までに着席しておくこと。実験中の私語を慎み、スマートフォンの操作を行わないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（　）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学実験Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎.上北　朋子.坂本　久美	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。心理学での基礎実験を通して、科学的研究の手法を学び、論文作成の基礎をつくる。

授業の概要

小グループに分かれて実験計画の立案から実験の実施、収集したデータの解析を行う。各実験についてレポートを作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。提出されたレポートは添削して返却するので、よく復習しておくこと。

内　容

第1回　実験演習のオリエンテーション
第2回　錯視実験（1）実験計画の立案
第3回　錯視実験（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　鏡映描写実験（1）実験計画の立案
第6回　鏡映描写実験（2）実験の実施
第7回　鏡映描写実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　コミュニケーション実験（1）実験計画の立案
第10回 コミュニケーション実験（2）実験の実施
第11回 データ解析とレポートの説明
第12回 記憶実験（1）実験計画の立案
第13回 記憶実験（2）実験の実施
第14回 記憶実験（3）実験の実施
第15回 データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

レポートの提出および出席を重視します。遅刻しないよう、授業開始時までに着席しておくこと。実験中の私語を慎み、スマートフォンの操作を行わないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（　）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学実験Ⅰ〈c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　細谷　周史.田中　芳幸.藤原　勇	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。心理学での基礎実験を通して、科学的研究の手法を学び、論文作成の基礎をつくる。

授業の概要

小グループに分かれて実験計画の立案から実験の実施、収集したデータの解析を行う。各実験についてレポートを作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。提出されたレポートは添削して返却するので、よく復習しておくこと。

内　容

第1回　実験演習のオリエンテーション
第2回　錯視実験（1）実験計画の立案
第3回　錯視実験（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　鏡映描写実験（1）実験計画の立案
第6回　鏡映描写実験（2）実験の実施
第7回　鏡映描写実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　コミュニケーション実験（1）実験計画の立案
第10回　コミュニケーション実験（2）実験の実施
第11回　データ解析とレポートの説明
第12回　記憶実験（1）実験計画の立案
第13回　記憶実験（2）実験の実施
第14回　記憶実験（3）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

レポートの提出および出席を重視します。遅刻しないよう、授業開始時までに着席しておくこと。実験中の私語を慎み、スマートフォンの操作を行わないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（50）	授業中発表等（　）
参加度（50）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学実験Ⅰ <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田中　芳幸.藤原　勇.細谷　周史	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。心理学での基礎実験を通して、科学的研究の手法を学び、論文作成の基礎をつくる。

授業の概要

小グループに分かれて実験計画の立案から実験の実施、収集したデータの解析を行う。各実験についてレポートを作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。提出されたレポートは添削して返却するので、よく復習しておくこと。

内　容

第1回　実験演習のオリエンテーション
第2回　錯視実験（1）実験計画の立案
第3回　錯視実験（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　鏡映描写実験（1）実験計画の立案
第6回　鏡映描写実験（2）実験の実施
第7回　鏡映描写実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　コミュニケーション実験（1）実験計画の立案
第10回 コミュニケーション実験（2）実験の実施
第11回 データ解析とレポートの説明
第12回 記憶実験（1）実験計画の立案
第13回 記憶実験（2）実験の実施
第14回 記憶実験（3）実験の実施
第15回 データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

レポートの提出および出席を重視します。遅刻しないよう、授業開始時までに着席しておくこと。実験中の私語を慎み、スマートフォンの操作を行わないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 50 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学実験Ⅰ〈e〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎.上北　朋子.坂本　久美	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。心理学での基礎実験を通して、科学的研究の手法を学び、論文作成の基礎をつくる。

授業の概要

小グループに分かれて実験計画の立案から実験の実施、収集したデータの解析を行う。各実験についてレポートを作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。提出されたレポートは添削して返却するので、よく復習しておくこと。

内　容

第1回　実験演習のオリエンテーション
第2回　錯視実験（1）実験計画の立案
第3回　錯視実験（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　鏡映描写実験（1）実験計画の立案
第6回　鏡映描写実験（2）実験の実施
第7回　鏡映描写実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　コミュニケーション実験（1）実験計画の立案
第10回 コミュニケーション実験（2）実験の実施
第11回 データ解析とレポートの説明
第12回 記憶実験（1）実験計画の立案
第13回 記憶実験（2）実験の実施
第14回 記憶実験（3）実験の実施
第15回 データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

レポートの提出および出席を重視します。遅刻しないよう、授業開始時までに着席しておくこと。実験中の私語を慎み、スマートフォンの操作を行わないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（　）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学実験Ⅰ〈f〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎.上北　朋子.坂本　久美	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。心理学での基礎実験を通して、科学的研究の手法を学び、論文作成の基礎をつくる。

授業の概要

小グループに分かれて実験計画の立案から実験の実施、収集したデータの解析を行う。各実験についてレポートを作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。提出されたレポートは添削して返却するので、よく復習しておくこと。

内　容

第1回　実験演習のオリエンテーション
第2回　錯視実験（1）実験計画の立案
第3回　錯視実験（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　鏡映描写実験（1）実験計画の立案
第6回　鏡映描写実験（2）実験の実施
第7回　鏡映描写実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　コミュニケーション実験（1）実験計画の立案
第10回　コミュニケーション実験（2）実験の実施
第11回　データ解析とレポートの説明
第12回　記憶実験（1）実験計画の立案
第13回　記憶実験（2）実験の実施
第14回　記憶実験（3）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

レポートの提出および出席を重視します。遅刻しないよう、授業開始時までに着席しておくこと。実験中の私語を慎み、スマートフォンの操作を行わないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（50）	授業中発表等（　）
参加度（50）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学実験Ⅰ〈g〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　細谷　周史.田中　芳幸.藤原　勇	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。心理学での基礎実験を通して、科学的研究の手法を学び、論文作成の基礎をつくる。

授業の概要

小グループに分かれて実験計画の立案から実験の実施、収集したデータの解析を行う。各実験についてレポートを作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。提出されたレポートは添削して返却するので、よく復習しておくこと。

内　容

第1回　実験演習のオリエンテーション
第2回　錯視実験（1）実験計画の立案
第3回　錯視実験（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　鏡映描写実験（1）実験計画の立案
第6回　鏡映描写実験（2）実験の実施
第7回　鏡映描写実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　コミュニケーション実験（1）実験計画の立案
第10回　コミュニケーション実験（2）実験の実施
第11回　データ解析とレポートの説明
第12回　記憶実験（1）実験計画の立案
第13回　記憶実験（2）実験の実施
第14回　記憶実験（3）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

レポートの提出および出席を重視します。遅刻しないよう、授業開始時までに着席しておくこと。実験中の私語を慎み、スマートフォンの操作を行わないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（50）	授業中発表等（　）
参加度（50）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学実験Ⅰ <h>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田中　芳幸.藤原　勇.細谷　周史	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。心理学での基礎実験を通して、科学的研究の手法を学び、論文作成の基礎をつくる。

授業の概要

小グループに分かれて実験計画の立案から実験の実施、収集したデータの解析を行う。各実験についてレポートを作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。提出されたレポートは添削して返却するので、よく復習しておくこと。

内　容

第1回　実験演習のオリエンテーション
第2回　錯視実験（1）実験計画の立案
第3回　錯視実験（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　鏡映描写実験（1）実験計画の立案
第6回　鏡映描写実験（2）実験の実施
第7回　鏡映描写実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　コミュニケーション実験（1）実験計画の立案
第10回 コミュニケーション実験（2）実験の実施
第11回 データ解析とレポートの説明
第12回 記憶実験（1）実験計画の立案
第13回 記憶実験（2）実験の実施
第14回 記憶実験（3）実験の実施
第15回 データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

レポートの提出および出席を重視します。遅刻しないよう、授業開始時までに着席しておくこと。実験中の私語を慎み、スマートフォンの操作を行わないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（　）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学概論 I**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎	

テーマ

心理学の基礎的領域の概説

授業の到達目標

心理学の成り立ち、心理学の研究方法について概観し、心理学がどのような学問分野であるかを理解する。心理学の中でも、科学的に明らかにされてきた知覚、認知、学習、感情、動機づけなどの基礎心理学領域について理解を深める。

授業の概要

感覚・知覚・学習、記憶・動機づけ・情動・認知といった実験や観察によって明らかにされてきた心の基本的な仕組みや働きについて、わかりやすく概説する。パワーポイントを使用し、講義をする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストの熟読と講義ノートを復習すること。 復習プリントを宿題とし、次回に解答・解説を行う。

内　　容

第1回　ガイダンス　現代心理学とは
第2回　心理学の歴史と研究方法
第3回　こころの数量化、実験計画法
第4回　感覚と知覚
第5回　錯視と運動の知覚・注意
第6回　学習理論・古典的条件づけ
第7回　オペラント条件づけ
第8回　記憶
第9回　情動
第10回　こころの生物学的基盤（神経系のしくみ）
第11回　動機づけ理論と生理的動機づけ
第12回　社会的動機づけと達成動機
第13回　思考と言語
第14回　推論とメタ認知・意思決定
第15回　全体のまとめ

履修上の注意点

私語をしない、スマートフォンは机上に出さない等、常識的な態度で受講すること。

教科書

心理学概論（第2版）
著者:　岡市廣成・鈴木直人（監修）
出版社:　ナカニシヤ出版
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 60 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学概論Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　永野　光朗	

テーマ

「社会的過程」や「社会への応用」をテーマとする心理学

授業の到達目標

「社会的過程」や「社会への応用」をテーマとする心理学

授業の概要

過去の心理学研究における研究の流れを概観した上で、実証に基づき人間の心と行動の仕組みを理解するという心理学の学問的目標が、人間の社会生活や産業場面においてどのように役立つのかを理解する。また、以上を達成するための心理学的方法論の有用性についても理解をする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

社会や企業活動のなかで生じる問題を常に注視した上で、心理学の立場からその問題を解決する方策を立案してほしい。
毎回の授業時に実施する小テストを次回授業時に返却するが、そのなかにコメントを記入してフィードバックを行う。

内　容

第1回　心理学の目標
第2回　人間理解と心理学
第3回　心理学と社会生活とのつながり
第4回　これまでの心理学の取り組み（1）　実証科学としての心理学の確立
第5回　これまでの心理学の取り組み（2）　学習理論
第6回　これまでの心理学の取り組み（3）　認知理論
第7回　社会を理解するための心理学（1）　社会的相互作用としての人間行動
第8回　社会を理解するための心理学（2）　対人認知と印象形成
第9回　社会を理解するための心理学（3）　対人行動
第10回　社会を理解するための心理学（4）　集合行動
第11回　社会を理解するための心理学（5）　社会的認知理論
第12回　心理学の応用（1）　社会生活への応用
第13回　心理学の応用（2）　企業活動への応用（組織行動）
第14回　心理学の応用（3）　企業活動への応用（消費者行動）
第15回　心理学の応用（4）　環境配慮行動の促進

履修上の注意点

社会や企業活動のなかで生じる問題を常に注視した上で、心理学の立場からその問題を解決する方策を立案してほしい。
授業には真摯に取り組むこと。スマホ使用、私語など他の受講者に迷惑となる行為については厳重に注意します。睡眠についても授業の雰囲気を損なう行為となるので注意します。

教科書

心理学概論（第2版）
著者:　岡市廣成・鈴木直人（監修）
出版社: ナカニシヤ出版
出版年: 2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50 ）　　小テスト （ 50 ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）
毎回の授業の終了時に小テストを実施する。

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学統計法 Ⅰ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　前田　洋光	

テーマ

基礎的な統計学の理解

授業の到達目標

基礎的な統計手法や概念について理解し、心理統計学Ⅱ以降で前提となる知識の基盤をつくる。また、統計の必要性について理解を深める。

授業の概要

心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。この授業では、統計の基礎的なテーマについて、講義形式と演習形式を併用しながら、理解を深めていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

下記参考書をはじめとする統計学関連の書籍の講読

内　　容

第1回　イントロダクション：統計学の必要性について
第2回　尺度水準（Stevensの4つの尺度水準）
第3回　度数分布
第4回　さまざまな代表値
第5回　散布度(1)：分散と標準偏差
第6回　散布度(2)：四分位偏差などその他の散布度
第7回　前半部分のまとめと確認
第8回　変数変換（標準得点と偏差値）
第9回　共分散とピアソンの相関係数(1)
第10回　共分散とピアソンの相関係数(2)
第11回　順位相関係数
第12回　クロス集計と連関係数
第13回　後半部分のまとめと確認
第14回　データ分析演習
第15回　授業全体のまとめ

履修上の注意点

本科目は、知識を積み上げていくという性質のものです。そのため、遅刻・欠席によって各回の内容を修得できなければ、その後の授業を理解することが困難になっていきます。欠席したり、わからないことがあれば、いつでも質問にきてください。

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本

著者：　吉田寿夫 著

出版社：北大路書房

出版年：　　ISBN：

よくわかる心理統計

著者：　山田剛史・村井潤一郎 著

出版社：ミネルヴァ書房

出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ 50 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

参加度 （ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学実験Ⅱ <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　細谷　周史.濱田　大佐	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験計画の立案から実験の実施、収集したデータの解析を行う。各実験についてレポートを作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。提出されたレポートは添削して返却するので、よく復習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　マウスの活動性の測定（1）実験計画の立案
第3回　マウスの活動性の測定（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　マウスの学習実験（1）実験計画の立案
第6回　マウスの学習実験（2）実験の実施
第7回　マウスの学習実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　ストループカラーワードテスト（1）実験計画の立案
第10回　ストループカラーワードテスト（2）実験の実施
第11回　ストループカラーワードテスト（3）実験の実施
第12回　データ解析とレポートの説明
第13回　性格検査（1）実験計画の立案
第14回　性格検査（2）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

出席を重視します。レポートは必ず提出すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学実験Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　濱田　大佐.細谷　周史	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験計画の立案から実験の実施、収集したデータの解析を行う。各実験についてレポートを作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。提出されたレポートは添削して返却するので、よく復習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　マウスの活動性の測定（1）実験計画の立案
第3回　マウスの活動性の測定（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　マウスの学習実験（1）実験計画の立案
第6回　マウスの学習実験（2）実験の実施
第7回　マウスの学習実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　ストループカラーワードテスト（1）実験計画の立案
第10回　ストループカラーワードテスト（2）実験の実施
第11回　ストループカラーワードテスト（3）実験の実施
第12回　データ解析とレポートの説明
第13回　性格検査（1）実験計画の立案
第14回　性格検査（2）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

出席を重視します。レポートは必ず提出すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学実験Ⅱ <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎.上北　朋子.坂本　久美	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験計画の立案から実験の実施、収集したデータの解析を行う。各実験についてレポートを作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。提出されたレポートは添削して返却するので、よく復習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　マウスの活動性の測定（1）実験計画の立案
第3回　マウスの活動性の測定（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　マウスの学習実験（1）実験計画の立案
第6回　マウスの学習実験（2）実験の実施
第7回　マウスの学習実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　ストループカラーワードテスト（1）実験計画の立案
第10回　ストループカラーワードテスト（2）実験の実施
第11回　ストループカラーワードテスト（3）実験の実施
第12回　データ解析とレポートの説明
第13回　性格検査（1）実験計画の立案
第14回　性格検査（2）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

出席を重視します。レポートは必ず提出すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学実験Ⅱ <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎.上北　朋子.坂本　久美	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験計画の立案から実験の実施、収集したデータの解析を行う。各実験についてレポートを作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。提出されたレポートは添削して返却するので、よく復習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　マウスの活動性の測定（1）実験計画の立案
第3回　マウスの活動性の測定（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　マウスの学習実験（1）実験計画の立案
第6回　マウスの学習実験（2）実験の実施
第7回　マウスの学習実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　ストループカラーワードテスト（1）実験計画の立案
第10回　ストループカラーワードテスト（2）実験の実施
第11回　ストループカラーワードテスト（3）実験の実施
第12回　データ解析とレポートの説明
第13回　性格検査（1）実験計画の立案
第14回　性格検査（2）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

出席を重視します。レポートは必ず提出すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学実験Ⅱ〈e〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　細谷　周史.濱田　大佐	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験計画の立案から実験の実施、収集したデータの解析を行う。各実験についてレポートを作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。提出されたレポートは添削して返却するので、よく復習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　マウスの活動性の測定（1）実験計画の立案
第3回　マウスの活動性の測定（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　マウスの学習実験（1）実験計画の立案
第6回　マウスの学習実験（2）実験の実施
第7回　マウスの学習実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　ストループカラーワードテスト（1）実験計画の立案
第10回　ストループカラーワードテスト（2）実験の実施
第11回　ストループカラーワードテスト（3）実験の実施
第12回　データ解析とレポートの説明
第13回　性格検査（1）実験計画の立案
第14回　性格検査（2）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

出席を重視します。レポートは必ず提出すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学実験Ⅱ〈f〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　濱田　大佐.細谷　周史	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験計画の立案から実験の実施、収集したデータの解析を行う。各実験についてレポートを作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。提出されたレポートは添削して返却するので、よく復習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　マウスの活動性の測定（1）実験計画の立案
第3回　マウスの活動性の測定（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　マウスの学習実験（1）実験計画の立案
第6回　マウスの学習実験（2）実験の実施
第7回　マウスの学習実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　ストループカラーワードテスト（1）実験計画の立案
第10回　ストループカラーワードテスト（2）実験の実施
第11回　ストループカラーワードテスト（3）実験の実施
第12回　データ解析とレポートの説明
第13回　性格検査（1）実験計画の立案
第14回　性格検査（2）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

出席を重視します。レポートは必ず提出すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学実験Ⅱ <g>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎.上北　朋子.坂本　久美	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験計画の立案から実験の実施、収集したデータの解析を行う。各実験についてレポートを作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。提出されたレポートは添削して返却するので、よく復習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　マウスの活動性の測定（1）実験計画の立案
第3回　マウスの活動性の測定（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　マウスの学習実験（1）実験計画の立案
第6回　マウスの学習実験（2）実験の実施
第7回　マウスの学習実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　ストループカラーワードテスト（1）実験計画の立案
第10回　ストループカラーワードテスト（2）実験の実施
第11回　ストループカラーワードテスト（3）実験の実施
第12回　データ解析とレポートの説明
第13回　性格検査（1）実験計画の立案
第14回　性格検査（2）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

出席を重視します。レポートは必ず提出すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学実験Ⅱ <h>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎.上北　朋子.坂本　久美	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験計画の立案から実験の実施、収集したデータの解析を行う。各実験についてレポートを作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。提出されたレポートは添削して返却するので、よく復習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　マウスの活動性の測定（1）実験計画の立案
第3回　マウスの活動性の測定（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　マウスの学習実験（1）実験計画の立案
第6回　マウスの学習実験（2）実験の実施
第7回　マウスの学習実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　ストループカラーワードテスト（1）実験計画の立案
第10回　ストループカラーワードテスト（2）実験の実施
第11回　ストループカラーワードテスト（3）実験の実施
第12回　データ解析とレポートの説明
第13回　性格検査（1）実験計画の立案
第14回　性格検査（2）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

出席を重視します。レポートは必ず提出すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**臨床心理学概論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　日比野　英子.濱田　智崇.松下　幸治	

テーマ

臨床心理学の概論の理解

授業の到達目標

臨床心理学の基本的な理論・援助法・査定法について理解する。

授業の概要

臨床心理学は、現代社会が抱えている心理的問題のみならず、教育の問題、高齢者・障害者のケアとリハビリテーション、犯罪被害者のケアなどのさまざまな問題の解決や改善を要請されている学問領域であるが、本科目ではその基礎理論と心理アセスメント・心理的援助を概観して、その理念・歴史・構造・実践活動を理解することをねらいとする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

以下の授業計画に沿って、授業前に教科書を読んで授業に臨むこと。わかりにくいことは積極的に担当者に質問してほしい。授業後に再度教科書を読んで理解できないことは質問すること。授業中の課題については、各担当者が次回の授業でフィードバックする。

内　容

第1回　臨床心理学とは
第2回　臨床心理学の歴史
第3回　臨床心理学の主な学問分野
第4回　臨床心理学の基礎理論①　精神分析学
第5回　臨床心理学の基礎理論②　人間性心理学
第6回　臨床心理学の基礎理論③　認知・行動理論
第7回　心の発達と心の病理①　乳幼児期の心と心のつまずき
第8回　心の発達と心の病理②　児童期・思春期の心理的問題
第9回　心の発達と心の病理③青年期の心と心の迷い
第10回　心の発達と心の病理④大人の心と心のゆがみ
第11回　心の状態を測る―心理アセスメントとは―
第12回　心理アセスメントの倫理
第13回　心裡アセスメントの方法①面接法
第14回　心理アセスメントの技法②観察法
第15回　心理アセスメントの方法③心理検査法

履修上の注意点

授業中に紹介する専門書を最低3冊読んでみよう。

教科書

臨床心理学を基本から学ぶ
著者:　丸島令子、日比野英子
出版社:　北大路書房
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅰ（心理）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期集中	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　トウ カ	

テーマ

中国語入門

授業の到達目標

発音の基礎と基本的表現を身につける。 中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったり下がったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。

授業の概要

教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。 週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中（中国語Ⅰ）に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新しい単語は、必ず覚えてください。

内　容

第1回　中国語について、授業について
第2回　発音1　母音
第3回　発音2　子音
第4回　発音3　鼻音
第5回　発音4　声調
第6回　第1課　あいさつと自己紹介　　（こんにちは。私は田中といいます。）
第7回　練習
第8回　練習
第9回　第2課　～する　　（大学へ行きます。）
第10回　練習
第11回　練習
第12回　第3課　～したい　　（ウーロン茶を飲みたい。）
第13回　練習
第14回　練習
第15回　第1課～3課の復習
第16回　第4課　場所・時間＋～する　　（レストランで何を食べますか。）
第17回　練習
第18回　練習
第19回　第5課　曜日　　（水曜日の午後に来ます。）
第20回　練習
第21回　練習
第22回　第4課～5課の復習
第23回　第6課　様子、状態　　（すごくおいしい。）
第24回　練習
第25回　練習
第26回　第7課　所有、存在　　（彼は北京にいます。）
第27回　練習
第28回　練習
第29回　第6課～7課の復習
第30回　小テストの再テスト

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

a90201d110

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 90 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度 （ 10 ）	

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。また朗読試験を行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅱ（心理）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期集中	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　トウ カ	

テーマ

中国語入門

授業の到達目標

中国語Ｉの授業を継続し、第15課までで、基本的な文法事項の習得を終える。

授業の概要

週に2回ずつ授業を行う。
教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。
3回の授業で1課ずつ進む。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新しい単語は、必ず覚えてください。

内　容

第1回　前期の復習
第2回　第8課　数量
　　（本を5冊買います。）
第3回　練習
第4回　練習
第5回　第9課　月日と時刻
　　（今日は11月2日です。）
第6回　練習
第7回　練習
第8回　第8課～9課の復習
第9回　第10課　完了と経験
　　（中国へ行ったことがあります。）
第10回　練習
第11回　練習
第12回　第11課　時間の長さ、回数
　　（2時間勉強します。）
第13回　練習
第14回　練習
第15回　第10課～11課の復習
第16回　第12課　結果補語、可能補語
　　（書き間違えました。）
第17回　練習
第18回　練習
第19回　第13課　方向補語
　　（駆け上がっていきます。）
第20回　練習
第21回　練習
第22回　第12課～13課の復習
第23回　第14課　～から、～と、～まで
　　（いつから冬休みですか。）
第24回　練習
第25回　練習
第26回　第15課　様態補語
　　（彼は歩くのがはやい。）
第27回　練習
第28回　練習
第29回　第14課～15課の復習
第30回　小テストの再テスト

履修上の注意点

教科書

a90201d250

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）　　小テスト （ 90 ）

授業中課題 （ 0 ）　　授業中発表等 （ 0 ）

参加度 （ 10 ）

各課が終わるごとに、小テストを行う。
成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。
そのほか、朗読試験を行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**ヨーロッパの歴史 <eL>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　南　直人	

テーマ

ヨーロッパの歴史の基礎的理解をはかる

授業の到達目標

16世紀以降のヨーロッパの歴史についての基礎的理解をはかると同時に、新しい歴史学の視点を紹介し、西洋世界をより深く理解することにつなげる。

授業の概要

[メディア授業／全15回]
近代世界システム論の視角から近現代のヨーロッパ史（西洋史）を考察する。最初に近代世界システム論を紹介し、その後16世紀から20世紀にいたるヨーロッパ史（西洋史）の流れをたどっていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

近現代ヨーロッパ史のさまざまな文献を読むこと

内　　容

第12回　19世紀ヨーロッパ社会
第13回　20世紀のヨーロッパ（1）
第14回　20世紀のヨーロッパ（2）
第15回　20世紀のヨーロッパ（3）
第1回　世界史の新しい見方－世界システム
第2回　近代世界システムの形成
第3回　ポルトガルのアジア進出
第4回　スペインの新大陸支配
第5回　ハプスブルク「世界帝国」の盛衰
第6回　17世紀の危機とオランダのヘゲモニー（1）
第7回　17世紀の危機とオランダのヘゲモニー（2）
第8回　イギリスの商業革命と大西洋貿易
第9回　英仏のヘゲモニー争いと植民地戦争
第10回　産業革命とフランス革命の新解釈
第11回　大英帝国のヘゲモニー

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

ヨーロッパと近代世界
著者:　川北稔
出版社:　放送大学教育振興会
出版年:　　ISBN:

大学で学ぶ西洋史　近現代
著者:　小山哲、他
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　　ISBN:

インディアスの破壊についての簡潔な考察
著者:　ラス・カサス
出版社:　岩波書店
出版年:　　ISBN:

a90201d410

成績評価

試験・レポート（ 100% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**文学にみる京都**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　熊谷　昭宏	

テーマ

京都が舞台となっている小説を読む。

授業の到達目標

①明治以降、伝統文化と近代都市文化が交錯してきた京都が、小説でどのように描かれ、その中でどのような物語が生成されてきたかを考える。②21世紀の作家である森見登美彦の小説の中で、京都を舞台とする作品を読み、近代の名作との共通点と相違点を考える。

授業の概要

前半では京都を舞台とした近代日本の重要な作品を紹介する。後半では森見登美彦の作品を紹介する。基本的には講義形式だが、授業中に受講生に質問することもある。毎回、授業の最後に、授業内容に関する分析的なコメントを所定の用紙に書いて提出してもらう。事前配布資料により授業の予習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

①事前配布資料を熟読し、作品の問題点や疑問点を整理しておく。②事前配布資料の引用が抜粋の場合は、さらに自主的に作品全体に目を通しておくことが望ましい。③期末レポートに向けて、授業で扱った作品への理解を深め、関係する京都の具体的な場所についての 調査を行う。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　森鴎外「高瀬舟」①
第3回　森鴎外「高瀬舟」②
第4回　芥川龍之介「羅生門」①
第5回　芥川龍之介「羅生門」②
第6回　川端康成「美しさと哀しみと」①
第7回　川端康成「美しさと哀しみと」②
第8回　森見登美彦『新釈 走れメロス』より「山月記」
第9回　森見登美彦『新釈 走れメロス』より「藪の中」
第10回　森見登美彦『新釈 走れメロス』より「走れメロス」①
第11回　森見登美彦『新釈 走れメロス』より「走れメロス」②
第12回　森見登美彦「有頂天家族」①
第13回　森見登美彦「有頂天家族」②
第14回　森見登美彦「有頂天家族」③
第15回　まとめとレポート指導

履修上の注意点

大学生として、授業における基本的なマナーを守ること。出席の確認は授業中課題のコメント用紙によって行うので、出席した場合には必ず提出すること。授業資料の解説終了後（映像資料の紹介中など）に入室した場合、出席とはみなさないので注意すること。忌引、特定の感染症、教育実習（その他大学の授業に関係する事柄）等に限って公欠を認め、参加度の加点を考慮する（担当者に申し出ること）。詳細については初回授業で配布する資料を参照すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50% ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20% ）

期末レポート（内容と形式については授業中に説明する）を試験とする。毎回提出するコメント用紙を授業中課題とする。鋭い質問、授業内容を他の作品の読解に結びつける意見を含むコメントに対しては、より高い評価を与える。インターネット上の文章を紹介することなくコピー＆ペースト（あるいはそうみなされる方法）していることが分かった場合は、コメントもレポートも評価対象外とする。詳細については初回授業で配布する資料を参照すること。

2018 Syllabus

科 目 名　**京都の歴史・文化 〈eL〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田端　泰子.細川　涼一	

テーマ

京の都の盛衰とそれぞれの時代に生きた人々

授業の到達目標

”都”と呼ばれる政治・経済の中心の位置に京都がすわることによって、どのような歴史のうねりが生じたのか、またそこに住んだ人々の生活にどのような変化が生まれたのかを学びとってほしい。

授業の概要

［メディア授業／全15回］ 古代以来の都の変遷から説き起こし、京の都がどのような経緯を辿って成立し、発展し、その後の変化を迎えたのかを基軸に、そこに住む人々、京に入った人々に焦点を合わせて歴史の流れを解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

京都に関する書物を読み、また授業に登場した場所を実際に訪れてみると、理解が深まる。

内　容

第1回　都城の変遷
第2回　平安京の成立
第3回　平安京に暮らす人々
第4回　院政期の京都
第5回　京ー鎌倉をつなぐ人々
第6回　「このごろ都にはやるもの」ー南北朝期の京都
第7回　室町幕府の成立と京の都
第8回　土一揆の時代
第9回　京の商工業者
第10回 『洛中洛外図』に描かれた京都
第11回 小野小町伝説と京都
第12回 後白河院・源頼朝と山科
第13回 織田信長と京都
第14回 豊臣政権と京の町
第15回 元禄時代の京都

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

物語　京都の歴史
著者:　脇田修・晴子
出版社:　中央公論新社
出版年:　　ISBN:

中世寺院の風景
著者:　細川涼一
出版社:　新曜社
出版年:　　ISBN:

平家物語の女たち
著者:　細川涼一
出版社:　吉川弘文館
出版年:　　ISBN:

a90201d680

秀吉の経済感覚

著者: 脇田修

出版社: 中央公論社

出版年: ISBN:

北政所おね

著者: 田端泰子

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: ISBN:

足利義政と日野富子

著者: 田端泰子

出版社: 山川出版社

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 100% ）　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）

参加度（ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**政治学概説**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　田代　和也	

テーマ

政治学に関する基礎知識の習得

授業の到達目標

本講義は、政治学への入門段階において習得しておく必要がある政治的現象や用語を、現代日本政治の具体的な事例の中から、受講生に理解してもらうことを目指す。

授業の概要

政治学を学ぶ入門段階において、理解する必要がある事柄を扱う。主に日本政治の展開の中から、政治アクターや政治学上の基本的概念を説明し、受講生に理解してもらう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　イントロダクション・選挙について
第2回　投票行動・メディアと政治
第3回　政治家
第4回　日本政治史①　～戦後政治と55年体制～
第5回　日本政治史②　～疑似政権交代・55年体制の崩壊～
第6回　政党
第7回　官僚制
第8回　利益団体
第9回　国会（議会）
第10回　政策過程
第11回　首相～強い首相と弱い首相～
第12回　地方自治①～地方自治制度の変遷を中心に～
第13回　地方自治②～地方自治体の政策課題を中心に
第14回　国際政治
第15回　本講義のまとめ
第16回　定期試験

履修上の注意点

教科書

ポリティカル・サイエンス事始め
著者：　伊藤光利
出版社：有斐閣
出版年：2012　　ISBN：9784641183728

参考書

図説世界を変えた50の政治
著者：　アン・パーキンズ著、小林朋則訳
出版社：原書房
出版年：2014　　ISBN：4562049995

政治学大図鑑
著者：　ポール・ケリー著、堀田義太郎監修、豊島実和訳
出版社：三省堂
出版年：2014　　ISBN：4385162263

はじめて学ぶ政治学
著者：　岡崎晴輝、木村俊道
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2008　　ISBN：4623050548

a90201d710

独裁者のためのハンドブック

著者: ブルース・ブエノ・デ・メスキータ、アラスター・スミス著、四本健二、浅野宜之訳

出版社: 亜紀書房

出版年: 2013 ISBN: 4750513318

政治

著者: ラスウェル著、久保田きぬ子訳

出版社: 岩波書店

出版年: 1959 ISBN: 4000012029

成績評価

試験・レポート（ 100 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）

参加度（ ）

詳細については第一回のイントロダクションで説明する。

2018 Syllabus

科 目 名　**経済学概説**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今久保　幸生	

テーマ

経済現象を認識する手段としての経済学を学ぶ

授業の到達目標

身の回りに始まり国や世界に至るまでの経済現象は、どれも、人々のくらしに密接に関わっている。こうした様々な経済現象を、経済学の概念や思考方法を学習しながら、自分自身で論理的に理解し、かつ考える力を身につける。

授業の概要

まず、現代の社会に生きる私たちになじみの様々な経済現象の内容を知り、その上で、それらの経済現象や、そこから生じる多様な経済問題－地球環境の問題、国際金融の問題、格差の問題など－に、経済学がどのように取り組んでいるかを学ぶ。授業は教科書に即して進められるが、教科書以外の説明も行われる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

教科書の予習・復習は必須である。少なくとも各1時間は費やすこと。課題へのフィードバックは以後の授業中に行う。

内　容

第1回　経済の成長と個人の成長
第2回　TPP－なぜ賛否両論になるのか
第3回　なぜギリシャを日本が助けなければならないのか
第4回　誰が、なぜ貧困なのか
第5回　日本の財政を考える
第6回　「大学生が多すぎる」？
第7回　今の医療でいいのか
第8回　廃棄物の値段はどう決まるか
第9回　イノベーションをどう促すか
第10回　効率と公平について
第11回　需要と供給の世界
第12回　経済全体を丸ごとつかむ！
第13回　社会をデザインする
第14回　増税も国債も同じこと？
第15回　まとめ：自立して生きるための経済学

履修上の注意点

私語は厳禁。部活や就活での欠席は出席扱いとはしない。

教科書

教養としての経済学
著者：　一橋大学経済学部
出版社：有斐閣
出版年：最新版　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 70 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**国際マーケティング論（心理）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　近藤　文男	

テーマ

日本企業の国際マーケティングの特徴について

授業の到達目標

国際マーケティングの概念について理解した上で、日本企業の持つ国際マーケティングの特徴を理解する。

授業の概要

講義の前半では、国際マーケティングについての一般的な理論について理解する。そのうえで、日本企業の代表的産業である家電産業のパナソニック、ソニーを中心として、化粧品産業の資生堂、小売業の代表ファミリーマート、中堅企業の大戸屋における国際マーケティングについて説明する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業に臨むにあたって、日常的に、新聞や雑誌を意識的に読み、そこから日本企業の動向、とりわけ、マーケティング活動についてできるだけ多くの知識を蓄積しておくよう心がける。最後に参考書を掲載してあるので、講義の前後でいいから、しっかり読むこと。

内　容

第1回　国際マーケティングとは何か、その概念について理解する。
第2回　国際マーケティングにおける商品戦略についての説明する。
第3回　国際マーケティングにおける価格戦略について説明する。
第4回　国際マーケティングにおける流通チャネル戦略について説明する。
第5回　三洋電機の対米輸出マーケティングについて説明する。
第6回　松下電器の対米輸出マーケティングについて説明する。
第7回　ソニーの対米輸出マーケティングについて説明する。
第8回　先進国市場を対象とする家電企業パナソニックのグローバル・マーケティングについて説明する。
第9回　新興国・中国市場における中堅外食企業大戸屋と8番らーめんの国際マーケティングについて説明する。
第10回　新興国・中国市場における化粧品企業資生堂のグローバル・マーケティングについて説明する。
第11回　ASEAN市場のタイ・ベトナム・インドネシアにおける小売企業ファミリーマートのグローバル・マーケティングについて説明する。
第12回　新興国・中国市場におけるアパレル企業ユニクロのグローバル・マーケティングについて説明する。
第13回　新興国・インド市場における家電企業ソニーのグローバル・マーケティングについて説明する。
第14回　新興国・中国市場における家電企業パナソニックのグローバル・マーケティングについて説明する
第15回　日本企業の国際マーケティングについてのまとめ
第16回　試験

履修上の注意点

テキストと参考文献を掲載しているので、最低これだけは予習、復習をすること。マーケティングに関する科目や国際経営、広告論などの関連科目をできるだけ受講すること。マーケティングや国際経営に関する予備知識を持っていることを希望する。

教科書

日本企業のアジア・マーケティング戦略
著者:　マーケティング史研究会編
出版社:　同文館
出版年:　2004年　　ISBN:　9784495646714

参考書

日本企業の国際マーケティング
著者:　近藤文男
出版社:　有斐閣
出版年:　2004年　　ISBN:　4-641-16199-2

成績評価

試験・レポート（ 30% ）　　小テスト（ 70% ）
授業中課題（ 0% ）　　授業中発表等（ 0% ）
参加度（ 0% ）
成績評価は試験と小テストの総計で評価する。小テストは毎回の講義の最後の10分間で行う。ここでは講義で学んだことと質問を中心に書く。

a90201d950

2018 Syllabus

科 目 名　**高齢者のヘルスプロモーション**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　真下 いずみ	

テーマ

高齢者の心身の特徴を踏まえたうえで高齢者に対するヘルスプロモーションを学ぶ

授業の到達目標

1. ヘルスプロモーションの概念について理解できる
2. 高齢者の心身の特徴とアセスメントについて理解できる
3. 高齢者のヘルスプロモーションについて自身の考えを構築できる

授業の概要

講義・演習（グループディスカッション）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

配布資料を読んでおくこと

内　　容

第1回　総論：ヘルスプロモーションと健康
第2回　総論：ヘルスプロモーションの変遷と理論
第3回　総論：ヘルスプロモーションと環境・社会
第4回　小テスト1（1～3）
　　高齢者の身体疾患
第5回　高齢者の身体疾患とアセスメント
第6回　高齢者の精神疾患
第7回　高齢者の精神疾患とアセスメント
第8回　高齢者の身体・精神疾患に対する医療・福祉サービスの実例
第9回　高齢者を取り巻く社会問題
第10回　高齢者を支える政策
第11回　高齢者を支える政策
第12回　小テスト2（10～11）
　　ヘルスプロモーションの実践：京都オレンジカフェ・介護予防事業の取り組み
第13回　ヘルスプロモーションの実践：在宅高齢者に対する取り組み
第14回　ヘルスプロモーションの実践：介護施設保健施設入所者・入院中の高齢者に対する取り組み
第15回　まとめ

履修上の注意点

レポート提出の要件は出席率2/3以上のとします。

教科書

未定
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成人看護学　ヘルスプロモーション
著者：　大西和子
出版社：　ヌーヴェルヒロカワ
出版年：　平成18年　　ISBN：

高齢者総合的機能評価ガイドライン
著者：　（監）鳥羽研二
出版社：　厚生科学研究所
出版年：　2004年　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ レポート　40% ）	小テスト（ 30% ）
授業中課題（ 15% ）	授業中発表等（ ）

a90201e412

参加度 （ 15% ）

知識の習熟度は小テスト(2回)で確認します。レポート課題は、高齢者のヘルスプロモーションの実例に関する文献を配布しますので、これを読み、自身の考えを述べていただきます。

2018 Syllabus

科 目 名　**パーソナリティ心理学Ⅰ〈Z〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　大久保　千恵	

テーマ

パーソナリティ(人格)心理学の基礎理論を学び、パーソナリティの発達や環境との関係、アセスメントについて理解する

授業の到達目標

1. パーソナリティを理解するための代表的な理論を知り、パーソナリ1. パーソナリティを理解するための代表的な理論を知り、パーソナリ　　ティとはなにかについて説明できるようになる
2. パーソナリティの発達について説明できるようになる
3. パーソナリティの測定方法について、概要を理解する
4. パーソナリティが対人関係に与える影響について理解する
5. パーソナリティの病理について学び、健康なパーソナリティについて　考えることができる

授業の概要

パワーポイントと配布資料を使った講義を行います
心理アセスメントを体験していただきます

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

事前、事後学習として、ご自分が興味をもった関連図書を読んでください
毎回授業終了時に提出していただリアクションペーパーに書かれた質問につきましては、次の授業の冒頭でお答えします

内　容

第1回　オリエンテーション　パーソナリティ心理学で学ぶこととは
第2回　パーソナリティ心理学の理論(1)
第3回　パーソナリティ心理学の理論(2)
第4回　パーソナリティ心理学の理論(3)
第5回　パーソナリティの発達(1)
第6回　パーソナリティの発達(2)
第7回　パーソナリティの発達(3)
第8回　パーソナリティ理解の方法　心理的アセスメント(1)
第9回　パーソナリティ理解の方法　心理的アセスメント(2)
第10回　パーソナリティ理解の方法　心理的アセスメント(3)
第11回　パーソナリティと対人関係・文化
第12回　パーソナリティと健康(1)
第13回　パーソナリティと健康(2)
第14回　パーソナリティと健康(3)
第15回　パーソナリティと健康(4)
　　まとめ

履修上の注意点

わからないことは自分で調べたり、積極的に質問したりしてください
授業で心理アセスメントの実習を行うことがあります。自分のパーソナリティについて客観的に考え、自己理解を深めるチャンスにしてください
授業中に会話をするなど、他の学生に迷惑な行為を行わないようにしてください

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

はじめて学ぶパーソナリテイ心理学

著者:　小塩真司

出版社:　ミネルヴァ書房

出版年:　2010　　ISBN:　978462305684-2

a90201f050

パーソナリティー心理学概論
著者: 鈴木公啓編
出版社: ナカニシヤ出版
出版年: 2012 ISBN: 78477950638-3

性格心理学への招待【改訂版】
著者: 託摩武俊ほか
出版社: サイエンス社
出版年: 2003 ISBN: 4781910440

パーソナリティの心理学
著者: 岡田康伸ほか著
出版社: 有斐閣
出版年: 2013 ISBN: 978464107244-2

人格心理学
著者: 大山泰宏
出版社: 放送大学教育振興会
出版年: 2015 ISBN: 97845951539-8

成績評価

試験・レポート（ 50% ） 小テスト（ ）
授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）
参加度 （ 50% ）
参加度には、授業中の課題への取り組みやリアクションペーパーの内容を含みます

2018 Syllabus

科 目 名　**家族の心理・社会学 〈Z〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮井　研治	

テーマ

家族機能の後退、家族の役割の見直し、果ては家族悪玉論まで、「家族」をめぐる論議は現代ほど活発な時代はないと言えるし、また、昔から繰り返されてきた命題ともいえる。それでもなぜ家族という形態はなくならないのかを、主にシステム論の立場から考えたい。

授業の到達目標

ジェノグラムや、システム論を用い考える中で、自身の家族も含め、「家族という形態」の持つ意味や必要性を理解する。

授業の概要

講義形式とエクササイズをすることによる授業参加。ペアワーク、ロールプレイを多用する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

エクササイズなどを通しての授業への積極的参加。

内　容

第1回　全体のオリエンテーション。いまなぜ「家族」なのかを考える。
第2回　ジェノグラム①　自分の家族のジェノグラムを描いてみる。そこからイマジネーションをふくらます。課題として自身の家族について知らなかったことを調べてくる。
第3回　ジェノグラム②　他人のジェノグラムを描く。インタビューをしてみること。ペアワーク。
第4回　システム論①　システム論概論。その考え方を学ぶ。
第5回　システム論②　システム論を使った家族理解。家族構造をいろいろなタームを使って考える。
第6回　家族をめぐる問題①　子育てをめぐること。児童虐待のとこ。
第7回　家族をめぐる問題②　引き続き、児童をめぐる家族の問題について－児童虐待についての対応－
第8回　家族をめぐる問題③　家族の高齢化の問題。介護をめぐる家族の問題。
第9回　家族のアセスメント　あるジェノグラムを使って、そこからの見立てを考える。アセスメントとしてのサインズ・オブ・セイフティ―アプローチの手法を紹介する。
第10回　サインズを使って自分の家族をアセスメントする。ペアワーク。
第11回　家族をめぐる心理療法①　家族療法　それ以前の心理療法との比較。
第12回　家族をめぐる心理療法②　家族療法から解決志向へ。
第13回　家族をめぐる心理療法③　家族内のコミュニケーションに焦点をあてた心理療法の実際
第14回　解決に焦点を絞った心理療法のエクササイズによる体験。
第15回　まとめと確認。

履修上の注意点

携帯の取り扱いは言わずもがな、他の受講生に迷惑をかけない、不快感を与えない。これだけです。

教科書

家族理解入門
著者:　団士郎
出版社:　中央法規
出版年:　2013年　　ISBN:

参考書

家族が変わる子育てが変わるコミュニケーションのヒント
著者:　岡田隆介
出版社:　明石書店
出版年:　2011年　　ISBN:

面接の技とコツ
著者:　宮井研治編
出版社:　明石書店
出版年:　2012年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 70% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

a90201f150

参加度 （ 30% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**人体の構造と機能及び疾病**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　久保山　一敏	

テーマ

将来臨床現場で心理士としての活動を目ざす学生諸君に、必要かつ最小限の医学に関する知識を理解・習得してもらうことを目標にしている。疾病や傷害は多様であり、心理士が介入すべき場面は従来考えられていたより幅広いはずである。そのいずれの局面でも有用な活動げ出来るようになるための基礎を目指す。

授業の到達目標

1）医学の基礎となる人体の構造と機能について学習する。
2）誕生から老化・死に至るライフステージごとの身体の変移を理解する。
3）人体の構造と機能に関して得られた知識をもとに、重要な疾病、社会環境の変化によって出現した新たな疾病、生命を脅かす疾病、重大な感染症、社会参加を阻む心身の障害などについて考え、これらがどのようにして生じて来るのか、また予防や治療などの克服法について説明出来るようにする。

授業の概要

講義を中心として授業を行う。また授業内容の確認の意味で、適宜小テストを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各授業の予習・復習を30～60分程度行うこと。理解を深めるため、参考書の自習が望まれる。

内　容

第1回　臨床医学へのいざない
　　人体の基本構造と恒常性
第2回　呼吸器系の構造と機能
　　呼吸器系の疾患：肺炎・気管支喘息・COPD（慢性閉塞性肺疾患）など
第3回　免疫系の構造と機能
　　免疫系の疾患：アレルギー、膠原病など
第4回　循環器系の機能
　　循環器系の疾患：虚血性心疾患、不整脈、高血圧、心不全など
第5回　腎・尿路系の構造と機能
　　腎・尿路系の疾患：慢性腎不全、糖尿病性腎症、慢性腎臓病など
第6回　成長と加齢
　　人生の最終段階における医療、脳死
第7回　脳・神経系の構造と機能
　　脳・神経系の疾患：脳卒中、てんかん、変性疾患など
第8回　代謝系の構造と機能
　　代謝系の疾患：糖尿病、脂質代謝異常症、痛風など
第9回　消化器系の構造と機能
　　消化器系の疾患：嘔吐、下痢、消化性潰瘍、肝硬変、胆石症など
第10回　内分泌系の構造と機能
　　内分泌系の疾患：バセドウ病など
第11回　血液系・リンパ系の構造と機能
　　血液系・新派系の疾患：白血病、汎発性血管内凝固症候群（DIC）、悪性リンパ腫など
第12回　病原微生物：細菌、ウイルスなど
　　感染症：インフルエンザ、風、結核、HIVなど
第13回　骨・運動器系の構造と機能
　　骨・運動器系の疾患：骨粗鬆症、変形性関節疾患、大腿骨頸部骨折など、リハビリテーション
第14回　感覚器系の構造と機能
　　感覚器系の疾患：白内障・緑内障、網膜剥離、難聴、めまいなど
第15回　悪性腫瘍：胃癌、肺がん、大腸がん、脳腫瘍など
　　救急疾患：外傷、急性中毒、熱中症、災害医療など
第16回　期末テスト

履修上の注意点

出欠、受講マナーは最終成績に反映される。
テキストは検討中であり、夏期をめどに決定する予定。

教科書

「未定」
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

a90201f210

ナーシンググラフィカ「解剖生理学」

著者: 林正健二(編)

出版社: メディカ出版

出版年: 2016年 ISBN:

ナーシンググラフィカ「疾病と治療」

著者: 林正健二・山内豊明(編)

出版社: メディカ出版

出版年: 2018年 ISBN:

公認心理士現任者講習会テキスト

著者: 一般財団法人日本心理研修センター(監修)

出版社: 金剛出版

出版年: 2018年 ISBN:

成績評価

試験・レポート (50%) 小テスト (35%)

授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( )

参加度 (15%)

小テストを事前告知の上で授業中に複数回実施する。
全授業終了時に期末テストを実施する。

2018 Syllabus

科 目 名　**パーソナリティ心理学**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　大久保　千恵	

テーマ

パーソナリティ（人格）心理学の基礎理論を学び、パーソナリティの発達や環境との関係、アセスメントについて理解する

授業の到達目標

1．パーソナリティを理解するための代表的な理論を知り、パーソナリ1．パーソナリティを理解するための代表的な理論を知り、パーソナリ　　ティとはなにかについて説明できるようになる
2．パーソナリティの発達について説明できるようになる
3．パーソナリティの測定方法について、概要を理解する
4．パーソナリティが対人関係に与える影響について理解する
5．パーソナリティの病理について学び、健康なパーソナリティについて　考えることができる

授業の概要

パワーポイントと配布資料を使った講義を行います
心理アセスメントを体験していただきます

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前、事後学習として、ご自分が興味をもった関連図書を読んでください
毎回授業終了時に提出していただリアクションペーパーに書かれた質問につきましては、次の授業の冒頭でお答えします

内　容

第1回　オリエンテーション　パーソナリティ心理学で学ぶこととは
第2回　パーソナリティ心理学の理論（1）
第3回　パーソナリティ心理学の理論（2）
第4回　パーソナリティ心理学の理論（3）
第5回　パーソナリティの発達（1）
第6回　パーソナリティの発達（2）
第7回　パーソナリティの発達（3）
第8回　パーソナリティ理解の方法　心理的アセスメント（1）
第9回　パーソナリティ理解の方法　心理的アセスメント（2）
第10回　パーソナリティ理解の方法　心理的アセスメント（3）
第11回　パーソナリティと対人関係・文化
第12回　パーソナリティと健康（1）
第13回　パーソナリティと健康（2）
第14回　パーソナリティと健康（3）
第15回　パーソナリティと健康（4）
　　まとめ

履修上の注意点

わからないことは自分で調べたり、積極的に質問したりしてください
授業で心理アセスメントの実習を行うことがあります。自分のパーソナリティについて客観的に考え、自己理解を深めるチャンスにしてください
授業中に会話をするなど、他の学生に迷惑な行為を行わないようにしてください

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

はじめて学ぶパーソナリテイ心理学

著者:　小塩真司

出版社:　ミネルヴァ書房

出版年:　2010　　ISBN:　978462305684-2

a90201f310

パーソナリティー心理学概論
著者: 鈴木公啓編
出版社: ナカニシヤ出版
出版年: 2012 ISBN: 78477950638-3

性格心理学への招待【改訂版】
著者: 託摩武俊ほか
出版社: サイエンス社
出版年: 2003 ISBN: 4781910440

パーソナリティの心理学
著者: 岡田康伸ほか著
出版社: 有斐閣
出版年: 2013 ISBN: 978464107244-2

人格心理学
著者: 大山泰宏
出版社: 放送大学教育振興会
出版年: 2015 ISBN: 97845951539-8

成績評価

試験・レポート（ 50% ） 小テスト（ ）
授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）
参加度 （ 50% ）
参加度には、授業中の課題への取り組みやリアクションペーパーの内容を含みます

2018 Syllabus

科 目 名　**公認心理師の職責**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田中　芳幸.大久保　千恵.ジェイムス　朋子.中西　龍一.濱田　智崇.宮井　研治	

テーマ

心理的な支援を要する人々やその関係者への援助、および、心理査定や心の健康教育を実践するための基礎と素養に関する論考

授業の到達目標

心理的な支援を要する人々やその関係者への援助、および、心理査定や心の健康教育を実践するための基礎と素養について考える。公認心理師に求められる役割や法的義務、倫理について学びながら、心理に関する支援を実践するうえで必要な自己課題の発見力や解決力、生涯にわたる学びと研鑽の必要性についても理解する。さらに、保健医療、福祉、教育などの各分野における具体的な心理的支援の業務内容に触れつつ、支援を受ける人々の安全への配慮や多職種間または地域での連携の在り方についても論考する。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　ガイダンス：公認心理師とは
第2回　公認心理師の役割の理解
第3回　公認心理師の法的義務
第4回　公認心理師の倫理
第5回　心理に関する支援を要する者等の安全の確保
第6回　情報の適切な取扱い
第7回　自己課題発見・解決能力
第8回　保健医療分野の業務
第9回　産業分野の業務
第10回　福祉分野の業務
第11回　司法分野の業務
第12回　教育分野の業務
第13回　生涯学習と自己研鑽
第14回　多職種連携、地域連携、チームとしての活動
第15回　公認心理師の職責のまとめ

履修上の注意点

授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為を慎むこと。

教科書

「公認心理師の基礎と実践」シリーズ（全23巻）野島一彦・繁桝算男監修 ①公認心理師の職責
著者：　野島一彦（編）
出版社：
出版年：　　ISBN：　9784866160511

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50% ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 30% ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　細谷　周史.濱田　大佐	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内　　容

第1回　オリエンテーション　レポート作成および研究倫理に関するガイダンス
第2回　マウスの活動性の測定（1）概要説明
第3回　マウスの活動性の測定（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　マウスの学習実験（1）概要説明
第6回　マウスの学習実験（2）実験の実施
第7回　マウスの学習実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　ストループカラーワードテスト（1）概要説明
第10回　ストループカラーワードテスト（2）実験の実施
第11回　ストループカラーワードテスト（3）実験の実施
第12回　データ解析とレポートの説明
第13回　性格検査（1）概要説明
第14回　性格検査（2）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（　）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅱ〈b〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　濱田　大佐.細谷　周史	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内　　容

第1回　オリエンテーション　レポート作成および研究倫理に関するガイダンス
第2回　マウスの活動性の測定（1）概要説明
第3回　マウスの活動性の測定（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　マウスの学習実験（1）概要説明
第6回　マウスの学習実験（2）実験の実施
第7回　マウスの学習実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　ストループカラーワードテスト（1）概要説明
第10回　ストループカラーワードテスト（2）実験の実施
第11回　ストループカラーワードテスト（3）実験の実施
第12回　データ解析とレポートの説明
第13回　性格検査（1）概要説明
第14回　性格検査（2）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（　）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅱ〈c〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　上北　朋子.石山　裕菜.畑　敏道	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内　容

第1回　オリエンテーション　レポート作成および研究倫理に関するガイダンス
第2回　マウスの活動性の測定（1）概要説明
第3回　マウスの活動性の測定（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　マウスの学習実験（1）概要説明
第6回　マウスの学習実験（2）実験の実施
第7回　マウスの学習実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　ストループカラーワードテスト（1）概要説明
第10回　ストループカラーワードテスト（2）実験の実施
第11回　ストループカラーワードテスト（3）実験の実施
第12回　データ解析とレポートの説明
第13回　性格検査（1）概要説明
第14回　性格検査（2）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅱ〈d〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　上北　朋子.石山　裕菜.畑　敏道	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内　容

第1回　オリエンテーション　レポート作成および研究倫理に関するガイダンス
第2回　マウスの活動性の測定（1）概要説明
第3回　マウスの活動性の測定（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　マウスの学習実験（1）概要説明
第6回　マウスの学習実験（2）実験の実施
第7回　マウスの学習実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　ストループカラーワードテスト（1）概要説明
第10回　ストループカラーワードテスト（2）実験の実施
第11回　ストループカラーワードテスト（3）実験の実施
第12回　データ解析とレポートの説明
第13回　性格検査（1）概要説明
第14回　性格検査（2）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅱ〈e〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　細谷　周史.濱田　大佐	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内　　容

第1回　オリエンテーション　レポート作成および研究倫理に関するガイダンス
第2回　マウスの活動性の測定（1）概要説明
第3回　マウスの活動性の測定（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　マウスの学習実験（1）概要説明
第6回　マウスの学習実験（2）実験の実施
第7回　マウスの学習実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　ストループカラーワードテスト（1）概要説明
第10回　ストループカラーワードテスト（2）実験の実施
第11回　ストループカラーワードテスト（3）実験の実施
第12回　データ解析とレポートの説明
第13回　性格検査（1）概要説明
第14回　性格検査（2）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（　）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅱ〈f〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　濱田　大佐.細谷　周史	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内　　容

第1回　オリエンテーション　レポート作成および研究倫理に関するガイダンス
第2回　マウスの活動性の測定（1）概要説明
第3回　マウスの活動性の測定（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　マウスの学習実験（1）概要説明
第6回　マウスの学習実験（2）実験の実施
第7回　マウスの学習実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　ストループカラーワードテスト（1）概要説明
第10回　ストループカラーワードテスト（2）実験の実施
第11回　ストループカラーワードテスト（3）実験の実施
第12回　データ解析とレポートの説明
第13回　性格検査（1）概要説明
第14回　性格検査（2）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（　）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅱ〈g〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　上北　朋子.石山　裕菜.畑　敏道	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内　容

第1回　オリエンテーション　レポート作成および研究倫理に関するガイダンス
第2回　マウスの活動性の測定（1）概要説明
第3回　マウスの活動性の測定（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　マウスの学習実験（1）概要説明
第6回　マウスの学習実験（2）実験の実施
第7回　マウスの学習実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　ストループカラーワードテスト（1）概要説明
第10回　ストループカラーワードテスト（2）実験の実施
第11回　ストループカラーワードテスト（3）実験の実施
第12回　データ解析とレポートの説明
第13回　性格検査（1）概要説明
第14回　性格検査（2）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅱ〈h〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　上北　朋子.石山　裕菜.畑　敏道	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内　容

第1回　オリエンテーション　レポート作成および研究倫理に関するガイダンス
第2回　マウスの活動性の測定（1）概要説明
第3回　マウスの活動性の測定（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　マウスの学習実験（1）概要説明
第6回　マウスの学習実験（2）実験の実施
第7回　マウスの学習実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　ストループカラーワードテスト（1）概要説明
第10回　ストループカラーワードテスト（2）実験の実施
第11回　ストループカラーワードテスト（3）実験の実施
第12回　データ解析とレポートの説明
第13回　性格検査（1）概要説明
第14回　性格検査（2）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理検査法 I**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田中　芳幸	

テーマ

心理検査法に関する基礎理論の理解、および心理検査施行における基本姿勢の検討

授業の到達目標

心理検査(Psychological test)とは、心理査定(Psychological assessment)を行うための方法の一つであり、「ひと」(client)を「全人的に理解しようとする活動」の一部である。そこで本講義では、(1)各種心理検査の信頼性と妥当性を含めた特徴、(2)心理検査の選び方や検査施行時の環境の整え方、(3)心理検査結果の報告やフィードバックの仕方などを学ぶとともに、(4)心理検査施行時の検査者の姿勢・態度について考えることも目的とする。

授業の概要

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

各回の内容に該当する教科書の熟読、および、心理検査・心理査定・心理測定などの関連図書による自学自習を行うこと。

内　容

第1回　心理検査とは －心理検査と心理査定－
第2回　心理検査開発の歴史的背景
第3回　心理検査の信頼性と妥当性
第4回　検査者の基本的姿勢・態度
第5回　「性格」理解のための諸理論
第6回　性格検査(1)質問紙法
第7回　性格検査(2)投影法
第8回　性格検査(3)作業検査法
第9回　知能検査(1)知能とは
第10回　知能検査(2)知能検査の種類
第11回　発達に関する諸検査
第12回　行動・社会性に関する諸検査
第13回　心理的な症状に関する諸検査
第14回　その他の心理検査
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為を慎むこと。

教科書

図表で学ぶ心理テスト
著者:　長尾 博
出版社:　ナカニシヤ出版
出版年:　　ISBN:

参考書

心理臨床アセスメント入門－心の治療のための臨床判断学－
著者:　赤塚大樹・森谷寛之・豊田洋子・鈴木国文
出版社:　培風館
出版年:　　ISBN:

心理測定への招待－測定からみた心理学入門－
著者:　市川伸一
出版社:　サイエンス社
出版年:　　ISBN:

各種心理検査の手引書
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

a90202a250

成績評価

試験・レポート（ 40% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40% ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**社会心理学Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　前田　洋光	

テーマ

社会心理学という学問の基礎的な考え方を理解する。

授業の到達目標

理論の習得はもちろんのことながら、受講者にとってきわめて身近なテーマであるため、日常生活と照らし合わせて考えることによって、「よりよい人間関係」「自分にとってより望ましいこれからの生き方」を考える。

授業の概要

社会心理学者Aronsonは、人間を「社会的動物（The social animal）」と呼んだ。その言葉の通り、私たちは日常生活を営む上で、他者や社会から多大な影響を受けており、同時に他者や社会に多大な影響を及ぼしている。本講では、社会的認知や社会的影響の問題を中心に、様々な自己と他者のかかわりを、心理学的視点から論考していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　イントロダクション
第2回　原因帰属
第3回　対人認知
第4回　対人魅力
第5回　性役割
第6回　社会的欲求
第7回　自尊感情
第8回　自己開示と自己呈示
第9回　対人不安と自己意識
第10回　態度
第11回　説得的コミュニケーション1：受け手・送り手・メッセージ内容に着目した検討
第12回　説得的コミュニケーション2：説得への抵抗と説得技法
第13回　言語的コミュニケーション
第14回　非言語的コミュニケーション
第15回　まとめと確認

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**発達心理学Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中村　和夫	

テーマ

胎生期から成人期までの人間の発達の様相の理解

授業の到達目標

胎生期から成人期までの人間の発達の様相の理解

授業の概要

発達心理学についての基礎的知識と発達的な見方が理解できること、および人間の発達上の重要なトピックスについて、それぞれの発達段階におけるその意味を理解するとともに、具体的なイメージをもつことができるようになること。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストによる予習と配布資料による復習

内　　容

第1回　出生前期の感覚の発達と胎児診断の問題
第2回　ヒトの生理的早産と社会的存在としての人間
第3回　新生児期の共鳴動作と新生児反射の意味
第4回　乳児期の姿勢・運動、手指の操作性の発達
第5回　前言語的コミュニケーションと共同注意・三項関係の発達
第6回　愛着理論と愛着の発達
第7回　幼児期の表象的思考と話し言葉の発達
第8回　こころの理論と他者の心の理解、自己抑制の発達
第9回　児童期の内言と書き言葉の発達
第10回　具体的操作の発達と9・10歳の節
第11回　思春期の第二次性徴と自己意識的感情、形式的操作の発達
第12回　青年期のアイデンティティの発達、アイデンティティ・ステイタス
第13回　時間的展望と親密性の発達、アイデンティティの拡散
第14回　成人期のキャリア発達とジェネラティヴィティの発達
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

発達心理学関連図書による自学自習

教科書

よくわかる認知発達とその支援[第2版]
著者:　子安　増生
出版社: ミネルヴァ書房
出版年: 2016　　ISBN:　9784623078134

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 10 ）	

欠席が3分の1を超えると試験への受験を認めない。

2018 Syllabus

科目名 **心理学基礎研究Ⅰ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担当者　坂本　敏郎.上北　朋子.永野　光朗	

テーマ

卒業研究に向けて心理学の研究（特に実証研究）を進めていくための知識、経験、技術を習得する。論文検索、論文読み、調査・実験の実施、データの分析、レポート作成、研究内容の発表と討議までを行う。

授業の到達目標

卒業研究に向けて、心理学研究の進め方の知識、技術を習得する。

授業の概要

少人数生のクラスにおいての演習授業である。5回の授業を1つのまとまりとし（1人の教員が担当し）、成果物（レポートもしくはプレゼンテーション等）を作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業において宿題が出る場合があるので、教員の指示に従い、必ず遂行すること。レポート課題の場合は添削をして返却する。発表課題の場合は、授業中に適宜指導する。

内　容

第1回　ガイダンス/興味ある領域の研究論文を選定　（以下、坂本担当分5回）
第2回　研究論文の読み込みとプレゼンテーションの準備
第3回　研究論文のプレゼンテーション
第4回　研究論文の発表と内容についてのディスカッション
第5回　研究を発展させた新規の実験計画の作成とプレゼンテーション
第6回　広告効果測定という課題の理解　（以下、永野担当分5回）
第7回　研究課題の設定（広告効果測定に使用する題材の選定と実験計画の立案）
第8回　広告効果測定実験の実施①
第9回　広告効果測定実験の実施②
第10回 データ分析作業
第11回 教育心理学・発達心理学の研究やプレゼンテーションの仕方の説明 （以下、奈田担当分5回）
第12回 興味ある領域の研究論文の選定・読み込み
第13回 読み込み・プレゼンテーションの準備
第14回 研究論文のプレゼンテーション①
第15回 研究論文のプレゼンテーション②

履修上の注意点

演習授業であるので基本的に全回出席し、必要な宿題、成果物を仕上げること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（50%）	授業中発表等（　）
参加度（50%）	

演習へ参加と、宿題、発表等の成果物の両方によって評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学基礎研究Ⅰ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎.上北　朋子.田中　芳幸	

テーマ

卒業研究に向けて心理学の研究（特に実証研究）を進めていくための知識、経験、技術を習得する。論文検索、論文読み、調査・実験の実施、データの分析、レポート作成、研究内容の発表と討議までを行う。

授業の到達目標

卒業研究に向けて、心理学研究の進め方の知識、技術を習得する。

授業の概要

少人数生のクラスにおいての演習授業である。5回の授業を1つのまとまりとし（1人の教員が担当し）、成果物（レポートもしくはプレゼンテーション等）を作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業において宿題が出る場合があるので、教員の指示に従い、必ず遂行すること。レポート課題の場合は添削をして返却する。発表課題の場合は、授業中に適宜指導する。

内　容

第1回　ガイダンス/興味ある領域の研究論文を選定　（以下、坂本担当分5回）
第2回　研究論文の読み込みとプレゼンテーションの準備
第3回　研究論文のプレゼンテーション
第4回　研究論文の発表と内容についてのディスカッション
第5回　研究を発展させた新規の実験計画の作成とプレゼンテーション
第6回　広告効果測定という課題の理解　（以下、永野担当分5回）
第7回　研究課題の設定（広告効果測定に使用する題材の選定と実験計画の立案）
第8回　広告効果測定実験の実施①
第9回　広告効果測定実験の実施②
第10回 データ分析作業
第11回 教育心理学・発達心理学の研究やプレゼンテーションの仕方の説明 （以下、奈田担当分5回）
第12回 興味ある領域の研究論文の選定・読み込み
第13回 読み込み・プレゼンテーションの準備
第14回 研究論文のプレゼンテーション①
第15回 研究論文のプレゼンテーション②

履修上の注意点

演習授業であるので基本的に全回出席し、必要な宿題、成果物を仕上げること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 50% ）	授業中発表等 （ ）

参加度 （ 50% ）

演習へ参加と、宿題、発表等の成果物の両方によって評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学基礎研究Ⅰ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　上北　朋子.田中　芳幸.前田　洋光	

テーマ

卒業研究に向けて心理学の研究（特に実証研究）を進めていくための知識、経験、技術を習得する。論文検索、論文読み、調査・実験の実施、データの分析、レポート作成、研究内容の発表と討議までを行う。

授業の到達目標

卒業研究に向けて、心理学研究の進め方の知識、技術を習得する。

授業の概要

少人数生のクラスにおいての演習授業である。5回の授業を1つのまとまりとし（1人の教員が担当し）、成果物（レポートもしくはプレゼンテーション等）を作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業において宿題が出る場合があるので、教員の指示に従い、必ず遂行すること。レポート課題の場合は添削をして返却する。発表課題の場合は、授業中に適宜指導する。

内　容

第1回　ガイダンス/興味ある領域の研究論文を選定　（以下、坂本担当分5回）
第2回　研究論文の読み込みとプレゼンテーションの準備
第3回　研究論文のプレゼンテーション
第4回　研究論文の発表と内容についてのディスカッション
第5回　研究を発展させた新規の実験計画の作成とプレゼンテーション
第6回　広告効果測定という課題の理解　（以下、永野担当分5回）
第7回　研究課題の設定（広告効果測定に使用する題材の選定と実験計画の立案）
第8回　広告効果測定実験の実施①
第9回　広告効果測定実験の実施②
第10回 データ分析作業
第11回 教育心理学・発達心理学の研究やプレゼンテーションの仕方の説明 （以下、奈田担当分5回）
第12回 興味ある領域の研究論文の選定・読み込み
第13回 読み込み・プレゼンテーションの準備
第14回 研究論文のプレゼンテーション①
第15回 研究論文のプレゼンテーション②

履修上の注意点

演習授業であるので基本的に全回出席し、必要な宿題、成果物を仕上げること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 50% ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 50% ）
演習へ参加と、宿題、発表等の成果物の両方によって評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学基礎研究Ⅰ〈＊d〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田中　芳幸.奈田　哲也.前田　洋光	

テーマ

卒業研究に向けて心理学の研究（特に実証研究）を進めていくための知識、経験、技術を習得する。論文検索、論文読み、調査・実験の実施、データの分析、レポート作成、研究内容の発表と討議までを行う。

授業の到達目標

卒業研究に向けて、心理学研究の進め方の知識、技術を習得する。

授業の概要

少人数生のクラスにおいての演習授業である。5回の授業を1つのまとまりとし（1人の教員が担当し）、成果物（レポートもしくはプレゼンテーション等）を作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業において宿題が出る場合があるので、教員の指示に従い、必ず遂行すること。レポート課題の場合は添削をして返却する。発表課題の場合は、授業中に適宜指導する。

内　容

第1回　ガイダンス/興味ある領域の研究論文を選定　（以下、坂本担当分5回）
第2回　研究論文の読み込みとプレゼンテーションの準備
第3回　研究論文のプレゼンテーション
第4回　研究論文の発表と内容についてのディスカッション
第5回　研究を発展させた新規の実験計画の作成とプレゼンテーション
第6回　広告効果測定という課題の理解　（以下、永野担当分5回）
第7回　研究課題の設定（広告効果測定に使用する題材の選定と実験計画の立案）
第8回　広告効果測定実験の実施①
第9回　広告効果測定実験の実施②
第10回 データ分析作業
第11回 教育心理学・発達心理学の研究やプレゼンテーションの仕方の説明 （以下、奈田担当分5回）
第12回 興味ある領域の研究論文の選定・読み込み
第13回 読み込み・プレゼンテーションの準備
第14回 研究論文のプレゼンテーション①
第15回 研究論文のプレゼンテーション②

履修上の注意点

演習授業であるので基本的に全回出席し、必要な宿題、成果物を仕上げること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 50% ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 50% ）	

演習へ参加と、宿題、発表等の成果物の両方によって評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学基礎研究Ⅰ〈＊e〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　前田　洋光.永野　光朗.奈田　哲也	

テーマ

卒業研究に向けて心理学の研究（特に実証研究）を進めていくための知識、経験、技術を習得する。論文検索、論文読み、調査・実験の実施、データの分析、レポート作成、研究内容の発表と討議までを行う。

授業の到達目標

卒業研究に向けて、心理学研究の進め方の知識、技術を習得する。

授業の概要

少人数生のクラスにおいての演習授業である。5回の授業を1つのまとまりとし（1人の教員が担当し）、成果物（レポートもしくはプレゼンテーション等）を作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業において宿題が出る場合があるので、教員の指示に従い、必ず遂行すること。レポート課題の場合は添削をして返却する。発表課題の場合は、授業中に適宜指導する。

内　容

第1回　ガイダンス/興味ある領域の研究論文を選定　（以下、坂本担当分5回）
第2回　研究論文の読み込みとプレゼンテーションの準備
第3回　研究論文のプレゼンテーション
第4回　研究論文の発表と内容についてのディスカッション
第5回　研究を発展させた新規の実験計画の作成とプレゼンテーション
第6回　広告効果測定という課題の理解　（以下、永野担当分5回）
第7回　研究課題の設定（広告効果測定に使用する題材の選定と実験計画の立案）
第8回　広告効果測定実験の実施①
第9回　広告効果測定実験の実施②
第10回 データ分析作業
第11回 教育心理学・発達心理学の研究やプレゼンテーションの仕方の説明 （以下、奈田担当分5回）
第12回 興味ある領域の研究論文の選定・読み込み
第13回 読み込み・プレゼンテーションの準備
第14回 研究論文のプレゼンテーション①
第15回 研究論文のプレゼンテーション②

履修上の注意点

演習授業であるので基本的に全回出席し、必要な宿題、成果物を仕上げること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 50% ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 50% ）	

演習へ参加と、宿題、発表等の成果物の両方によって評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学基礎研究Ⅰ〈＊f〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎.永野　光朗.奈田　哲也	

テーマ

卒業研究に向けて心理学の研究（特に実証研究）を進めていくための知識、経験、技術を習得する。論文検索、論文読み、調査・実験の実施、データの分析、レポート作成、研究内容の発表と討議までを行う。

授業の到達目標

卒業研究に向けて、心理学研究の進め方の知識、技術を習得する。

授業の概要

少人数生のクラスにおいての演習授業である。5回の授業を1つのまとまりとし（1人の教員が担当し）、成果物（レポートもしくはプレゼンテーション等）を作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業において宿題が出る場合があるので、教員の指示に従い、必ず遂行すること。レポート課題の場合は添削をして返却する。発表課題の場合は、授業中に適宜指導する。

内　容

第1回　ガイダンス/興味ある領域の研究論文を選定　（以下、坂本担当分5回）
第2回　研究論文の読み込みとプレゼンテーションの準備
第3回　研究論文のプレゼンテーション
第4回　研究論文の発表と内容についてのディスカッション
第5回　研究を発展させた新規の実験計画の作成とプレゼンテーション
第6回　広告効果測定という課題の理解　（以下、永野担当分5回）
第7回　研究課題の設定（広告効果測定に使用する題材の選定と実験計画の立案）
第8回　広告効果測定実験の実施①
第9回　広告効果測定実験の実施②
第10回 データ分析作業
第11回 教育心理学・発達心理学の研究やプレゼンテーションの仕方の説明 （以下、奈田担当分5回）
第12回 興味ある領域の研究論文の選定・読み込み
第13回 読み込み・プレゼンテーションの準備
第14回 研究論文のプレゼンテーション①
第15回 研究論文のプレゼンテーション②

履修上の注意点

演習授業であるので基本的に全回出席し、必要な宿題、成果物を仕上げること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 50% ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 50% ）	

演習へ参加と、宿題、発表等の成果物の両方によって評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学基礎研究Ⅱ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田中　芳幸.奈田　哲也.前田　洋光	

テーマ

卒業研究に向けて心理学の研究（特に実証研究）を進めていくための知識、経験、技術を習得する。論文検索、論文読み、調査・実験の実施、データの分析、レポート作成、研究内容の発表と討議までを行う。

授業の到達目標

卒業研究に向けて、心理学研究の進め方の知識、技術を習得する。

授業の概要

少人数生のクラスにおいての演習授業である。5回の授業を1つのまとまりとし（1人の教員が担当し）、成果物（レポートもしくはプレゼンテーション等）を作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業において宿題が出る場合があるので、教員の指示に従い、必ず遂行すること。レポート課題の場合は添削をして返却する。発表課題の場合は、授業中に適宜指導する。

内　容

第1回　ガイダンス/心理学基礎実験について （以下5回上北担当分）
第2回　実験の選定
第3回　実験場面の撮影①
第4回　実験場面の撮影②
第5回　実験映像編集
第6回　実験のテーマ説明、グループ決め　（以下5回前田担当分）
第7回　実験デザインの決定、実験刺激の作成
第8回　データ収集、分析
第9回　分析の続き、プレゼン準備
第10回 プレゼン
第11回 健康心理学研究論文の検索 （以下5回田中担当分）
第12回 リサーチクエスチョンの設定から仮説の導出
第13回 研究方法の検討
第14回 研究計画のプレゼンテーション
第15回 各研究計画に関するディスカッション

履修上の注意点

演習授業であるので基本的に全回出席し、必要な宿題、成果物を仕上げること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 50% ）	授業中発表等 （ ）

参加度 （ 50% ）

演習へ参加と、宿題、発表等の成果物の両方によって評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学基礎研究Ⅱ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　前田　洋光.田中　芳幸.奈田　哲也	

テーマ

卒業研究に向けて心理学の研究（特に実証研究）を進めていくための知識、経験、技術を習得する。論文検索、論文読み、調査・実験の実施、データの分析、レポート作成、研究内容の発表と討議までを行う。

授業の到達目標

卒業研究に向けて、心理学研究の進め方の知識、技術を習得する。

授業の概要

少人数生のクラスにおいての演習授業である。5回の授業を1つのまとまりとし（1人の教員が担当し）、成果物（レポートもしくはプレゼンテーション等）を作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業において宿題が出る場合があるので、教員の指示に従い、必ず遂行すること。レポート課題の場合は添削をして返却する。発表課題の場合は、授業中に適宜指導する。

内　容

第1回　ガイダンス/心理学基礎実験について （以下5回上北担当分）
第2回　実験の選定
第3回　実験場面の撮影①
第4回　実験場面の撮影②
第5回　実験映像編集
第6回　実験のテーマ説明、グループ決め　（以下5回前田担当分）
第7回　実験デザインの決定、実験刺激の作成
第8回　データ収集、分析
第9回　分析の続き、プレゼン準備
第10回 プレゼン
第11回 健康心理学研究論文の検索 （以下5回田中担当分）
第12回 リサーチクエスチョンの設定から仮説の導出
第13回 研究方法の検討
第14回 研究計画のプレゼンテーション
第15回 各研究計画に関するディスカッション

履修上の注意点

演習授業であるので基本的に全回出席し、必要な宿題、成果物を仕上げること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 50% ）	授業中発表等 （ ）

参加度 （ 50% ）

演習へ参加と、宿題、発表等の成果物の両方によって評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学基礎研究Ⅱ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　奈田　哲也.田中　芳幸.前田　洋光	

テーマ

卒業研究に向けて心理学の研究（特に実証研究）を進めていくための知識、経験、技術を習得する。論文検索、論文読み、調査・実験の実施、データの分析、レポート作成、研究内容の発表と討議までを行う。

授業の到達目標

卒業研究に向けて、心理学研究の進め方の知識、技術を習得する。

授業の概要

少人数生のクラスにおいての演習授業である。5回の授業を1つのまとまりとし（1人の教員が担当し）、成果物（レポートもしくはプレゼンテーション等）を作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業において宿題が出る場合があるので、教員の指示に従い、必ず遂行すること。レポート課題の場合は添削をして返却する。発表課題の場合は、授業中に適宜指導する。

内　容

第1回　ガイダンス/心理学基礎実験について （以下5回上北担当分）
第2回　実験の選定
第3回　実験場面の撮影①
第4回　実験場面の撮影②
第5回　実験映像編集
第6回　実験のテーマ説明、グループ決め　（以下5回前田担当分）
第7回　実験デザインの決定、実験刺激の作成
第8回　データ収集、分析
第9回　分析の続き、プレゼン準備
第10回 プレゼン
第11回 健康心理学研究論文の検索 （以下5回田中担当分）
第12回 リサーチクエスチョンの設定から仮説の導出
第13回 研究方法の検討
第14回 研究計画のプレゼンテーション
第15回 各研究計画に関するディスカッション

履修上の注意点

演習授業であるので基本的に全回出席し、必要な宿題、成果物を仕上げること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 50% ）	授業中発表等 （ ）

参加度 （ 50% ）

演習へ参加と、宿題、発表等の成果物の両方によって評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学基礎研究Ⅱ〈＊d〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎.上北　朋子.永野　光朗	

テーマ

卒業研究に向けて心理学の研究（特に実証研究）を進めていくための知識、経験、技術を習得する。論文検索、論文読み、調査・実験の実施、データの分析、レポート作成、研究内容の発表と討議までを行う。

授業の到達目標

卒業研究に向けて、心理学研究の進め方の知識、技術を習得する。

授業の概要

少人数生のクラスにおいての演習授業である。5回の授業を1つのまとまりとし（1人の教員が担当し）、成果物（レポートもしくはプレゼンテーション等）を作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業において宿題が出る場合があるので、教員の指示に従い、必ず遂行すること。レポート課題の場合は添削をして返却する。発表課題の場合は、授業中に適宜指導する。

内　容

第1回　ガイダンス/心理学基礎実験について （以下5回上北担当分）
第2回　実験の選定
第3回　実験場面の撮影①
第4回　実験場面の撮影②
第5回　実験映像編集
第6回　実験のテーマ説明、グループ決め　（以下5回前田担当分）
第7回　実験デザインの決定、実験刺激の作成
第8回　データ収集、分析
第9回　分析の続き、プレゼン準備
第10回 プレゼン
第11回 健康心理学研究論文の検索 （以下5回田中担当分）
第12回 リサーチクエスチョンの設定から仮説の導出
第13回 研究方法の検討
第14回 研究計画のプレゼンテーション
第15回 各研究計画に関するディスカッション

履修上の注意点

演習授業であるので基本的に全回出席し、必要な宿題、成果物を仕上げること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 50% ）	授業中発表等 （ ）

参加度 （ 50% ）

演習へ参加と、宿題、発表等の成果物の両方によって評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学基礎研究Ⅱ〈＊e〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎.上北　朋子.永野　光朗	

テーマ

卒業研究に向けて心理学の研究（特に実証研究）を進めていくための知識、経験、技術を習得する。論文検索、論文読み、調査・実験の実施、データの分析、レポート作成、研究内容の発表と討議までを行う。

授業の到達目標

卒業研究に向けて、心理学研究の進め方の知識、技術を習得する。

授業の概要

少人数生のクラスにおいての演習授業である。5回の授業を1つのまとまりとし（1人の教員が担当し）、成果物（レポートもしくはプレゼンテーション等）を作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業において宿題が出る場合があるので、教員の指示に従い、必ず遂行すること。レポート課題の場合は添削をして返却する。発表課題の場合は、授業中に適宜指導する。

内　容

第1回　ガイダンス/心理学基礎実験について （以下5回上北担当分）
第2回　実験の選定
第3回　実験場面の撮影①
第4回　実験場面の撮影②
第5回　実験映像編集
第6回　実験のテーマ説明、グループ決め　（以下5回前田担当分）
第7回　実験デザインの決定、実験刺激の作成
第8回　データ収集、分析
第9回　分析の続き、プレゼン準備
第10回 プレゼン
第11回 健康心理学研究論文の検索 （以下5回田中担当分）
第12回 リサーチクエスチョンの設定から仮説の導出
第13回 研究方法の検討
第14回 研究計画のプレゼンテーション
第15回 各研究計画に関するディスカッション

履修上の注意点

演習授業であるので基本的に全回出席し、必要な宿題、成果物を仕上げること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 50% ）	授業中発表等 （ ）

参加度 （ 50% ）

演習へ参加と、宿題、発表等の成果物の両方によって評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学基礎研究Ⅱ 〈＊f〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　上北　朋子.田中　芳幸.前田　洋光	

テーマ

卒業研究に向けて心理学の研究（特に実証研究）を進めていくための知識、経験、技術を習得する。論文検索、論文読み、調査・実験の実施、データの分析、レポート作成、研究内容の発表と討議までを行う。

授業の到達目標

卒業研究に向けて、心理学研究の進め方の知識、技術を習得する。

授業の概要

少人数生のクラスにおいての演習授業である。5回の授業を1つのまとまりとし（1人の教員が担当し）、成果物（レポートもしくはプレゼンテーション等）を作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業において宿題が出る場合があるので、教員の指示に従い、必ず遂行すること。レポート課題の場合は添削をして返却する。発表課題の場合は、授業中に適宜指導する。

内　容

第1回　ガイダンス/心理学基礎実験について （以下5回上北担当分）
第2回　実験の選定
第3回　実験場面の撮影①
第4回　実験場面の撮影②
第5回　実験映像編集
第6回　実験のテーマ説明、グループ決め　（以下5回前田担当分）
第7回　実験デザインの決定、実験刺激の作成
第8回　データ収集、分析
第9回　分析の続き、プレゼン準備
第10回 プレゼン
第11回 健康心理学研究論文の検索 （以下5回田中担当分）
第12回 リサーチクエスチョンの設定から仮説の導出
第13回 研究方法の検討
第14回 研究計画のプレゼンテーション
第15回 各研究計画に関するディスカッション

履修上の注意点

演習授業であるので基本的に全回出席し、必要な宿題、成果物を仕上げること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 50% ）	授業中発表等 （ ）

参加度 （ 50% ）

演習へ参加と、宿題、発表等の成果物の両方によって評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理応用演習 I**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期集中	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　深津　富栄	

テーマ

Excelを使用し、業務データを目的に応じて効率良く活用・分析する方法を習得する。

授業の到達目標

Excelを使用し、効率の良い業務データの処理分析、業務目的に応じた適切な資料作成の技術を習得し、企業実務で
通用する実践的な能力を身につける。また、ネットワークを使用した事務処理、情報収集・発信などIT利活用のための実践的な
知識を習得し、『日商PC検定試験3級（データ活用）』資格の取得をめざす。

授業の概要

現在、最もシェアの高い表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、データの集計処理やグラフ化、データベース分析などを行い、
効率よく目的に応じた資料を作成する方法を習得する。操作方法だけでなく、取引の仕組みや業務データの流れなどもあわせて学習し、総合的なデータの処理分析能力の向上を図る。ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークなどIT利活用のための基本的な
知識も学習し、『日商PC検定試験3級（データ活用）』受験レベルのスキルを身につける。
授業は実習形式で、基本的操作の振り返りからスタートし、段階的に操作技術を向上させる。授業日程は、各日1～4講時とし、
最終回のみ1～3講時とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

パソコンの基本スキル（入力、保存など）がある、もしくは、パソコン基本スキル習得の授業をあわせて受講することが望ましい。授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席した授業の範囲を学内パソコン教室・自宅などで学習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション／日商PC検定とは
　　知識科目対策
　　・電子商取引、電子政府・電子自治体、ハードウェア、ソフトウェア
第2回　知識科目対策
　　・ネットワーク、セキュリティ、情報システム
第3回　Excelの基本操作
　　・データ入力、修正、削除、移動、コピー、オートフィル、書式設定、計算式の作成
第4回　Excelの基本操作
　　・グラフ作成、データベース
第5回　知識科目対策
　　・取引の仕組みと業務の流れ
第6回　知識科目対策
　　・業務に応じた計算・集計処理
第7回　実技科目対策
　　・実務における表計算
　　　業務会計、相対参照、絶対参照
第8回　実技科目対策
　　・実務における表計算
　　　数式の入力、関数の入力
　　・実技科目問題演習
第9回　知識科目対策
　　・業務データの管理
第10回　知識科目問題演習
第11回　実技科目対策
　　・実務におけるグラフ作成
　　　グラフ作成と編集、複合グラフ
第12回　実技科目対策
　　・実務におけるデータの集計
　　　並べ替え、フィルタ、集計、ピボットテーブル、関数
第13回　実技科目問題演習
第14回　検定対策
　　・模擬試験と解説
第15回　試験
　　・知識科目+実技科目

履修上の注意点

教科書

a90202d310

日商PC検定試験 データ活用 3級 公式テキスト＆問題集 Microsoft Excel2013対応 【FPT1510】

著者： 富士通エ フ・オー・エム（株）

出版社： FOM出版

出版年： 2015年 ISBN： 978-4865102345

繰り返して慣れる!完全マスター Excel2016 練習問題全335題

著者： noa出版

出版社： noa出版

出版年： 2016年 ISBN： 978-4908434105

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50% ） 小テスト （ 0% ）

授業中課題 （ 50% ） 授業中発表等 （ 0% ）

参加度 （ 0% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理応用演習Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期集中	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　深津　富栄	

テーマ

Wordを使用し、質の高いビジネス文書を効率よく作成する方法を習得する。

授業の到達目標

Wordを使用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書の作成、業務目的に応じた適切な資料作成の技術を習得し、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。また、ネットワークを使用した事務処理、情報収集・発信などIT利活用のための実践的な知識を習得し、『日商PC検定試験3級（文書作成）』資格の取得をめざす。

授業の概要

現在、最もシェアの高いワープロソフト「Microsoft Word」を使用し、効率よく適切なビジネス文書を作成する方法を習得する。
操作方法だけでなく、ビジネス文書の形式や、文書作成の上で必要となる文法や文章表現などもあわせて学習し、総合的な文書作成能力の向上を図る。ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークなどIT利活用のための基本的な知識も学習し、『日商PC検定試験3級（文書作成）』受験レベルのスキルを身につける。
授業は実習形式で、基本的操作の振り返りからスタートし、段階的に操作技術を向上させる。
授業日程は、各日1～4講時とし、最終日のみ1～3講時とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

パソコンの基本スキル（入力、保存など）がある、もしくは、パソコン基本スキル習得の授業をあわせて受講することが望ましい。授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席した授業の範囲を学内パソコン教室・自宅などで学習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション／日商PC検定とは
　　知識科目対策
　　・電子商取引、電子政府・電子自治体、ハードウェア、ソフトウェア
第2回　知識科目対策
　　・ネットワーク、セキュリティ、情報システム
第3回　Wordの基本操作
　　・社外文書作成
第4回　Wordの基本操作
　　・表作成
第5回　知識科目対策
　　・ビジネス文書の基本、社内文書の書き方、社外文書の書き方
第6回　知識科目対策
　　・ビジネス文書のライティング技術
　　・知識科目問題演習
第7回　実技科目対策
　　・基本的なビジネス文書の作成
第8回　実技科目対策
　　・表のあるビジネス文書の作成
第9回　知識科目対策
　　・電子メールのライティング技術
　　・ビジネス図解の基本
第10回　知識科目対策
　　・ビジネス文書の管理
　　・知識科目問題演習
第11回　実技科目対策
　　・図形のあるビジネス文書の作成
第12回　実技科目問題演習
第13回　検定対策　1
　　・模擬試験と解説
第14回　検定対策　2
　　・模擬試験と解説
第15回　試験
　　・知識科目+実技科目

履修上の注意点

教科書

日商PC検定試験 文書作成3級 公式テキスト&問題集　Microsoft Word 2013対応 【FPT1509】

著者:　富士通エ フ・オー・エム（株）

出版社:　FOM出版

a90202d450

出版年: 2015年　　ISBN: 978-4865102338

繰り返して慣れる!完全マスター Word2016 練習問題全307題

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434112

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50% ）	小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 50% ）	授業中発表等 （ 0% ）
参加度 （ 0% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学研究法Ⅱ（質的調査）**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中村　和夫	

テーマ

質的研究方法を理解し、一連の手続きを取得すること

授業の到達目標

インタビューや観察を通して得られたデータに基づいて、ボトムアップ的に研究領域に密着した理論や概念モデルを構成していく質的研究方法を理解し、一連の手続きを取得すること。

授業の概要

質的な研究方法として、具体的には、グラウンデッド・セオリー・アプローチ（GTA）に基づいて、データの収集（とくに、半構造化面接）、データのコード化、カテゴリーの関係づけによる理論（ストーリーライン）の生成について、それらの手続き・方法を実習する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

とくに復習が重要

内　　容

第1回　質的研究、質的心理学とは何か
第2回　グラウンデッド・セオリー・アプローチ（GTA）とは何か
第3回　インタビュー・観察によるデータ収集について
第4回　プロパティとディメンションによる概念把握について
第5回　ラベル名をつける――オープンコーディングについて
第6回　カテゴリーにまとめる――アクシャルコーディングについて
第7回　比較と理論的サンプリングについて
第8回　カテゴリーの関係をとらえる――セレクティブコーディングについて
第9回　インタビューによるデータの収集
第10回 トランスクリプトの作成
第11回 オープンコーディング
第12回 アクシャルコーディング
第13回 セレクティブコーディング
第14回 研究発表（前段の班）
第15回 研究発表（後段の班）と授業のまとめ

履修上の注意点

欠席・遅刻は認めない。やむを得ぬ事情で欠席する（欠席した）場合には、事前に（事後に）理由を届け出ること。

教科書

質的研究法ゼミナール・第2版・グラウンデット・セオリー・アプローチを学ぶ
著者:　戈木クレイグヒル滋子 編
出版社:　医学書院
出版年:　2013　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**実験計画法**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　上北　朋子.奈田　哲也	

テーマ

実験計画の基礎と実践

授業の到達目標

この講義では、受講生が実験計画法の基礎を理解し、実際に実験を実施できるようになることを目標とする。

授業の概要

知覚、記憶、学習、動機づけに関するテーマについて実験計画を立案し、データ収集、統計処理までを実践的に学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

心理統計の基礎的事項について復習をしておくこと。各自の選択テーマによって、必要な場合は資料およびデータ収集を授業時間以外に行う。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　実験計画法の基礎
第3回　実験計画法の実際（1）
第4回　実験計画法の実際（2）
第5回　1要因の実験計画の立案（1元配置）
第6回　実験実施
第7回　データ整理と解析
第8回　発表資料の作成
第9回　発表とディスカッション
第10回　2要因の実験計画の立案（2元配置）
第11回　実験実施
第12回　データ整理
第13回　データ解析
第14回　発表資料の作成
第15回　発表とディスカッション

履修上の注意点

グループでの作業が中心となるため、授業への出席はもちろん、課題への積極的な参加が求められる。

教科書

参考書

よくわかる心理統計
著者:　山田剛史、村井潤一郎
出版社: ミネルヴァ書房
出版年:　　ISBN:

SPSSのススメ
著者:　竹原卓真
出版社: 北大路書房
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 10 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 50 ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理統計学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　前田　洋光	

テーマ

推測統計学の理解

授業の到達目標

心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。本講義では、実際の心理学研究において頻繁に用いられる種々の統計解析について、具体的な問題を解きながら理解を深めていく。それによって、各分析手法の概念について理解することを、第一の目的とする。加えて、与えられたデータ分析し、適切な結論を導くことができる実践力を獲得することを目標とする。

授業の概要

心理統計学Ⅰで習得した内容を踏まえ、本講では、卒業研究において自らで心理学研究をまとめるにあたり最低限必要となる、より発展的・実践的な統計学の概念について学んでいく。また、種々の統計手法について、電卓を用いて手計算をおこなう演習を併用することによって、一層の理解を深めていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

下記参考書をはじめとする統計学関連の書籍の講読

内　容

第1回　イントロダクション：統計学の基礎の復習
第2回　標本と母集団、及び正規分布と中心極限定理(1)
第3回　標本と母集団、及び正規分布と中心極限定理(2)
第4回　統計的検定の基礎
第5回　t検定(1)：対応のない場合のt検定
第6回　t検定(2)：対応のある場合のt検定
第7回　ここまでの確認とまとめ
第8回　一元配置分散分析(1)：一要因被験者間検定
第9回　一元配置分散分析(2)：多重比較
第10回　ノンパラメトリック検定(1)
第11回　ノンパラメトリック検定(2)
第12回　ここまでの確認とまとめ
第13回　種々の統計的検定の実践例(1)
第14回　種々の統計的検定の実践例(2)
第15回　授業全体のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

よくわかる心理統計
著者：　山田 剛史・村井 潤一郎
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：　　ISBN：

本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本
著者：　吉田 寿夫
出版社：北大路書房
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ 40 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学データ解析 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中川　由理	

テーマ

SPSSを用いた統計解析の基礎

授業の到達目標

心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。本講義では、統計解析ソフト「SPSS」を用いて、得られたデータを解析していく手順について学んでいく。加えて、得られた結果を適切に読み取り、論文やレポートにまとめる力を身につけていく。

授業の概要

本講では、心理統計学Ⅱまでで習得した分析手法（t検定、分散分析等）について、統計ソフト「SPSS」を用いたデータ解析手法を学んでいく。単なるソフトの使用方法のみならず、得られた結果から情報を適切に読み取る力、および、それらを論文やレポートにまとめる力を身につけることに力点を置き、次年度以降の専門科目につなげていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業時間内に終わらなかった課題については、一定期間内に提出しなければならない。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　記述統計
第3回　相関係数
第4回　ここまでのまとめと演習
第5回　対応のない場合のt検定
第6回　対応のある場合のt検定
第7回　対応のない場合の一要因分散分析
第8回　対応のある場合の一要因分散分析
第9回　ここまでのまとめと演習
第10回　対応のない場合の二要因分散分析（1）主効果の理解
第11回　対応のない場合の二要因分散分析（2）交互作用の理解
第12回　ここまでのまとめと演習
第13回　総合演習（1）
第14回　総合演習（2）
第15回　総合演習（3）

履修上の注意点

教科書

参考書

SPSSのススメ＜1＞2要因の分散分析をすべてカバー
著者:　竹原卓真
出版社:　北大路書房
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（　）

参加度　（ 20 ）
参加度は出席回数と同等ではない。受講態度によって相応の評価を行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学データ解析 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中川　由理	

テーマ

SPSSを用いた統計解析の基礎

授業の到達目標

心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。本講義では、統計解析ソフト「SPSS」を用いて、得られたデータを解析していく手順について学んでいく。加えて、得られた結果を適切に読み取り、論文やレポートにまとめる力を身につけていく。

授業の概要

本講では、心理統計学Ⅱまでで習得した分析手法（t検定、分散分析等）について、統計ソフト「SPSS」を用いたデータ解析手法を学んでいく。単なるソフトの使用方法のみならず、得られた結果から情報を適切に読み取る力、および、それらを論文やレポートにまとめる力を身につけることに力点を置き、次年度以降の専門科目につなげていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業時間内に終わらなかった課題については、一定期間内に提出しなければならない。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　記述統計
第3回　相関係数
第4回　ここまでのまとめと演習
第5回　対応のない場合のt検定
第6回　対応のある場合のt検定
第7回　対応のない場合の一要因分散分析
第8回　対応のある場合の一要因分散分析
第9回　ここまでのまとめと演習
第10回　対応のない場合の二要因分散分析（1）主効果の理解
第11回　対応のない場合の二要因分散分析（2）交互作用の理解
第12回　ここまでのまとめと演習
第13回　総合演習（1）
第14回　総合演習（2）
第15回　総合演習（3）

履修上の注意点

教科書

参考書

SPSSのススメ＜1＞2要因の分散分析をすべてカバー
著者:　竹原卓真
出版社:　北大路書房
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（　）

参加度　（ 20 ）
参加度は出席回数と同等ではない。受講態度によって相応の評価を行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**知覚・認知心理学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　細谷　周史	

テーマ

知覚心理学および認知心理学に関する基礎的な知識・考え方の理解

授業の到達目標

実験心理学、生理学の研究によって明らかにされてきた感覚、知覚、認知領域の心理学理論について理解する。ヒトや動物は環境内の刺激をどのように知覚し、認知するのかについて理解を深める。

授業の概要

ヒトを含む動物は、環境内の刺激（視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚）をどのように知覚し、認知しているのだろうか。動物の行動は、環境刺激を知覚、認知し、意志決定することにより表出される。講義の前半では、ヒトや動物が持つ感覚、知覚の特性を理解する。講義の後半では、感覚、知覚情報を動物がどうように理解、認知するかという情報処理システムについて解説する。動物による道具の使用、ヒトの言語、推論や意志決定など高次の認知機能についても解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストを使用しないので、講義後にノートや配付プリントを復習して理解を深めておくこと。

内　　容

第1回　感覚、知覚とは？
第2回　錯視と恒常性
第3回　色覚と明るさの知覚
第4回　運動視と立体視
第5回　聴覚
第6回　嗅覚と味覚
第7回　知覚運動学習
第8回　時間と注意知覚
第9回　意識とは？　ワーキングメモリー
第10回　会話、発話
第11回　言語の理解（読み書きリテラシー）
第12回　思考と問題解決
第13回　意志決定
第14回　デザインの認知
第15回　メタ認知とこころの制御

履修上の注意点

授業内容の性質上、講義に出席して知覚現象を実際に体験しないと理解が困難なものが多いので、欠席しないようにすること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

知覚心理学の基礎
著者:　松田隆夫
出版社:　培風館
出版年:　　ISBN:

認知心理学　―知のアーキテクチャを探る―
著者:　道又爾　他
出版社:　有斐閣アルマ
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ ）

a90202d950

授業中課題（40）　　授業中発表等（ ）

参加度（ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**感情心理学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　久美	

テーマ

授業の到達目標

人や動物のこころのはたらきの重要な機能のひとつである感情・情動のメカニズムについて理解する。なぜ感情が生起するのか、感情と身体反応（脳の活動、生理反応、免疫反応）はどのような関係をもつのかについて理解を深める。

授業の概要

ヒトを含む動物は感情・情動という心理的機能を生得的に有している。情動は比較的短期の感情の動きと定義され、快と不快の情動に分類される。食欲や性欲などが充足された時には快の情動が生じ、恐怖、嫌悪、怒りなどは不快情動が生じる。本講義では、情動の起源、情動の分類、情動を制御する脳内機構、情動障害のメカニズムについて、ヒトや動物から得られた知見を紹介し、解説する。さらに、二個体以上の相互作用からなる行動、社会行動（攻撃行動、性行動、養育行動、愛着行動）の心理的メカニズムおよびそれを制御する脳内機構、神経内分泌機構についても解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予復習は特に求めませんが，その分授業時間内で集中して取り組んで下さい。

内　容

第1回　感情とは？
第2回　情動と感情
第3回　情動理論
第4回　進化と情動
第5回　快の情動
第6回　快の情動と神経回路
第7回　不快の情動
第8回　不快の情動の神経回路
第9回　情動障害1
第10回　情動障害2
第11回　攻撃行動の基礎
第12回　つがい形成行動、愛着行動の基礎
第13回　養育行動の基礎
第14回　他個体の認知
第15回　こころの絆の形成

履修上の注意点

遅刻をしないで下さい。
皆さんの主体的な取り組みに期待します。

教科書

感情と心理学
著者:　高橋雅延・谷口高士
出版社:　北大路書房
出版年:　2009　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**実験心理学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　上北　朋子	

テーマ

心理学実験の方法論と意義

授業の到達目標

行動や心を科学的に分析するための心理学実験の基礎について学ぶ。各自が研究に取り組む際に適切な手法を選択し、実験を実施出来るようになることを目標とする。

授業の概要

実証的な研究を行うときに、どのように変数を操作して行動を測定すればよいのか、また、統制すべきものは何かが問題になる。これらを様々な実験場面にあわせて、体系的に学習する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

教科書を読み、講義中に作成したノートを充実させる。レポートはコメントをつけ返却する。

内　容

第1回　心理学実験の意義
第2回　実験法の基本
第3回　信頼性と妥当性
第4回　被験者間計画と被験者内計画
第5回　剰余変数の統制
第6回　カウンターバランスと無作為化
第7回　要因計画（1）要因と水準
第8回　要因計画（2）主効果と交互作用
第9回　実験計画の実際（1）
第10回　実験計画の実際（2）
第11回　実験計画の実際（3）
第12回　記述統計
第13回　推測統計（1）
第14回　推測統計（2）
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

パワーポイントのハンドアウトは配布しません。自筆ノートを作成してください。

教科書

心理学研究法　心を見つめる科学のまなざし
著者:　高野陽太郎、岡隆
出版社:　有斐閣
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 60 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**行動分析学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　上北　朋子	

テーマ

こころを理解するための行動分析学:基礎から応用まで

授業の到達目標

こころを科学的にとらえる手法を提示した行動分析学の考え方を理解する。その上で、この理論が教育、医療、福祉、および子育ての場面でいかに活用されてきたのかを学ぶ。

授業の概要

自分を理解し、他者を理解するには、まず人間の行動がどのようなものであるかについての知識が必要である。これまでの研究で得られた実証的事実やそれに基づく理論を解説し、それらが我々にとってどのような意味を持ち、夜会において機能しているかについて考える。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業後に教科書や参考書を読み、理解の不十分だった点を補うこと。レポートおよび授業中課題について、後の授業内でコメントを述べる。

内　容

第1回　行動分析学とは
第2回　行動分析学における行動の捉え方
第3回　行動のきっかけとなる環境変化
第4回　確立操作
第5回　レスポンデント条件付け(1)成立過程
第6回　レスポンデント条件付け(2)情動反応
第7回　レスポンデント条件付け(3)消去と恐怖症の治療
第8回　オペラント条件付け(1)行動随伴生
第9回　オペラント条件付け(2)強化スケジュール
第10回　オペラント条件付け(3)消去
第11回　オペラント条件付け(4)オペラントクラスと行動次元
第12回　事例をもとにした機能分析
第13回　言語行動
第14回　模倣行動
第15回　迷信行動

履修上の注意点

パワーポイントのハンドアウトは配布しない。自筆ノートを作成すること。

教科書

行動の基礎 豊かな人間理解のために
著者:　小野浩一
出版社:　培風館
出版年:　　ISBN:

参考書

行動分析
著者:　大河内浩人、武藤崇
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 80 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**パーソナリティ心理学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　井上　裕樹	

テーマ

パーソナリティ心理学への理解をさらに深めていく

授業の到達目標

臨床心理学の基礎となるパーソナリティ理論について学びつつ、人間への理解、自分とはいったい何者かということに対しても多面的な理解を深めていくことを目標とする。

授業の概要

パーソナリティの研究においては、それらがどのように形成され、変容していくのか、人格に関する諸理論を紹介しながら概説する。また簡易な検査や測定などの体験によって、自分自身についての理解も深めていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に配布するレジュメに目を通して授業に臨んでください。また、授業中に紹介する参考文献も積極的に読んでもらいたい。

内　容

第1回　パーソナリティという概念について
第2回　パーソナリティの 類型論と特性論
第3回　パーソナリティ発達の諸要因
第4回　パーソナリティの諸理論(1)
第5回　パーソナリティの諸理論(2)
第6回　パーソナリティの変化
第7回　パーソナリティと文化
第8回　発達とパーソナリティの形成(1)
第9回　発達とパーソナリティの形成(2)
第10回　人格と適応(1)
第11回　人格と適応(2)
第12回　パーソナリティ理解の方法(1)
第13回　パーソナリティ理解の方法(2)
第14回　パーソナリティ障害について
第15回　まとめ
第16回　期末試験

履修上の注意点

講義をしっかり聴き、学ぶ意志のあること。授業内で少人数グループでのディスカッションを適宜取り入れていくので、積極的に参加してもらいたい。また授業への受講態度の不適切な者には退出を求めることがあります。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 60% ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 20% ）	授業中発表等 （ ）

参加度 （ 20% ）
授業内での発言、コメントカードへの記述など積極的な授業参加を評価します。

2018 Syllabus

科 目 名　**対人援助論B**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松下　幸治	

テーマ

心理・福祉・教育・医療等の種々の領域で展開されている「対人援助行為」について広く概観する。

授業の到達目標

対人援助行為の上で必要な態度・根本姿勢（attitude）、理論（theory）、技術・技法（technique）について3種のアプローチから学ぶ。

授業の概要

心理・福祉・教育・医療の種々の領域で求められる対人援助行為の根本的な態度・姿勢（attitude）を理解する。その中で内面探求型アプローチ・ネットワーク活用型アプローチ・システム形成型アプローチについて学び、理論(theory)に基づいた技術・技法（technique)について知る。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　オリエンテーション①～対人援助行為とは～
第2回　オリエンテーション②～対人援助の「光」と「影」～
第3回　心理学への興味とその後の展開
第4回　「臨床の知」と「科学の知」
第5回　内面探求型アプローチの実際
第6回　ネットワーク活用型アプローチの実際
第7回　システム形成型アプローチの実際
第8回　対人援助行為における根本姿勢（attitude）について
第9回　対人援助行為における理論(theory)の展開
第10回　対人援助行為における技術・技法（technique）について
第11回　それぞれの人生をいかに見ていかに意味づけるかということ
第12回　イメージの援助論的意義について
第13回　メタファーの援助論的活用について
第14回　まとめ①～「精神科心理臨床」と「日常的心理臨床」～
第15回　まとめ②～「良識」に基づいた「当たり前の行為」としての対人援助～

履修上の注意点

教科書

参考書

現実に介入しつつ心に関わる
著者:　田嶌誠一
出版社:　金剛出版
出版年:　2009年　　ISBN:　978-7724-1103-5

嘘を生きる人妄想を生きる人ー個人神話の創造と病ー
著者:　武野俊弥
出版社:　新曜社
出版年:　2005年　　ISBN:　4-7885-0960-1

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 50% ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 50% ）
毎回の講義の感想を自由に書いてもらう。

2018 Syllabus

科 目 名　**カウンセリング**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　大久保　千恵	

テーマ

カウンセリングの理論についての基礎知識を習得し、カウンセリングの実践についての理解を深める

授業の到達目標

ストレス社会と言われる現代社会では、多くの人が様々な問題で悩んでいます。そうした悩み解決の一つの方法としして「カウンセリング」があります。本講義では、カウンセリングの基本的な知識を学び、実践現場の様子を知っていただきますが、カウンセリングの技法を用いた「話の聴き方」というのは、日常生活での人間関係を円滑にすることにも役立つものです。したがって、こころの問題やカウンセリングの技法について専門的な知識を習得していただくとともに、自己理解を深め、日常場面でも役立つことを目指します。

授業の概要

第1回から9回までは、カウンセリング・心理療法の理論のいくつかを取り上げ概要を説明した後、カウンセリングの経過について講義を進めます。第10回から13回は、臨床の各領域でのカウンセリング・心理療法についての授業です。第14回では、みなさんのこころの健康保持に役立つようなカウンセリング・心理療法の技法を紹介します。
パワーポイントを用いて授業を行います。テキストは特に指定せず、毎回資料を配布します。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

社会で起きている「人のこころに関わる問題」に目を向けてください。授業後の復習をしっかり行い、疑問に思ったことやわからないことは自分で調べたり、積極的に質問をしたりするようにしてください。ご紹介した参考書籍を読んでみてください。

内　容

第1回　オリエンテーション カウンセリングとは　カウンセリングの定義と目的
第2回　カウンセリングの理論と技法 Ⅰ　クライアント中心療法 ①カール・ロジャーズの生涯とクライアント中心療法
第3回　カウンセリングの理論と技法 Ⅰ　クライアント中心療法 ②クライアント中心療法の基本的な考え方
第4回　カウンセリングの理論と技法 Ⅰ　クライアント中心療法 ③クライアント中心療法の基本的な考え方
第5回　カウンセリングの理論と技法 Ⅱ　精神分析的心理療法
第6回　カウンセリングの理論と技法 Ⅲ　認知行動論的立場に立つカウンセリング　ほか
第7回　カウンセリングの段階とプロセス ①カウンセリングの初期
第8回　カウンセリングの段階とプロセス ②カウンセリングの中期
第9回　カウンセリングの段階とプロセス ③カウンセリングの後期
第10回 カウンセリングの実践 ①医療におけるカウンセリング
第11回 カウンセリングの実践 ②学校におけるカウンセリング
第12回 カウンセリングの実践 ③発達臨床におけるカウンセリング
第13回 カウンセリングの実践 ④産業領域におけるカウンセリング
第14回 日常に役立つカウンセリング
第15回 まとめと学習のふりかえり

履修上の注意点

授業中に意見や考えを求めることがあります。積極的なご発言を期待します。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

カウンセリングプロセスハンドブック
著者:　福島脩美・田上不二夫・沢崎達夫・諸富祥彦　編
出版社:　金子書房
出版年:　2004　　ISBN:　9784760823178

カウンセリング・心理療法の基礎
著者:　金沢吉展　編
出版社:　有斐閣アルマ
出版年:　2007　　ISBN:　9784641123373

a90202e710

新版 カウンセリングの話

著者: 平木典子

出版社: 朝日選書

出版年: 2004 ISBN: 9784022598448

新しいカウンセリングの技法

著者: 諸富祥彦

出版社: 誠信書房

出版年: 2014 ISBN: 9784414403756

カウンセリングを学ぶ 第2版 理論・体験・実習

著者: 佐治守夫・岡村達也・保坂了 編

出版社: 東京大学出版会

出版年: 2007 ISBN: 9784130120456

成績評価

試験・レポート（ 70% ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 30% ）

授業各回のリアクションペーパーの内容や授業中の発言など、授業に積極的に参加する姿勢を参加度の評価の参考とします。

2018 Syllabus

科 目 名　**コミュニティ心理学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮井　研治	

テーマ

地域社会に生かす臨床心理学

授業の到達目標

人間を生活者として、環境を含めて理解し、その視点での心理的援助を学ぶ

授業の概要

コミュニティ心理学の歴史的背景、基本的な発想、背景となるいくつかの理論、介入と援助について理解する。家庭や地域、学校教育、産業領域といった各分野での実践例にふれることを通じて、理解を深める。さらに、社会的文脈から人間の心理を理解できるようになり、さらに心理学を学んだ者として、自分自身が社会に対しどうかかわるかを考えることができるようになる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　コミュニティ心理学とは何か・その概念と理念
第3回　コミュニティ心理学の歴史的背景
第4回　基本的発想（1）人と環境の適合を目指して
第5回　基本的発想（2）エンパワメントとサービス提供のあり方
第6回　背景となる理論（1）危機理論・ストレス理論等
第7回　背景となる理論（2）ソーシャルサポートをめぐって
第8回　介入と援助（1）危機介入・コンサルテーション
第9回　介入と援助（2）さまざまなアプローチ
第10回　子育て支援の実践から
第11回　DV対応における実践から
第12回　学校・教育における実践から
第13回　産業・職場における実践から
第14回　男性のための悩み相談の実践から
第15回　まとめ～学んだ皆さん自身の社会とのかかわりを考える

履修上の注意点

毎回の授業内容を復習し、それに対する自分の考え方をまとめておく。行政やNPO団体、ボランティア団体などが行っている市民活動にも関心を向けておき、授業中に紹介した実践に関連するものについて調べてみる。自分が関心をもてるものには、余裕があれば参加してみる。

教科書

面接の技とコツ
著者:　宮井研治編著
出版社:　明石書店
出版年:　2012年　　ISBN:

参考書

そだちと臨床vol1～12
著者:　そだちと臨床編集委員会
出版社:　明石書店
出版年:　2006年～2012年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 70% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30% ）
場合によっては、小レポートの提出を求めます。

2018 Syllabus

科 目 名　**社会心理学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　前田　洋光	

テーマ

対人関係・対人行動・集団行動など、社会心理学の中心的テーマの概要を理解する

授業の到達目標

理論の習得はもちろんのことながら、受講者にとってきわめて身近なテーマであるため、日常生活と照らし合わせて考えることによって、「よりよい人間関係」「自分にとってより望ましいこれからの生き方」を考える。

授業の概要

本講では、社会心理学Ⅰの内容を踏まえた上で、特に対人関係・集団行動を中心に論考していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　イントロダクション
第2回　援助行動
第3回　攻撃行動
第4回　対人関係の諸相
第5回　恋愛
第6回　対人葛藤、社会的ジレンマ
第7回　孤独とソーシャルサポート
第8回　集団と個人
第9回　集団行動
第10回　リーダーシップ
第11回　群集行動
第12回　流言・デマ
第13回　流行
第14回　マスメディアの影響
第15回　まとめと確認

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**産業心理学Ⅰ（組織行動論）〈Z〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　石田　正浩	

テーマ

組織における人に関する問題を理解する心理学的な視点を獲得する。

授業の到達目標

組織において人を動かす上で生じる問題を、心理学的な観点から適切に理解し、効果的な対処が考えられるようになる。現在進行中の働きかたの変化に対しても、その心理学的な意味を理解し、説明できるようになる。

授業の概要

組織に生きる人々の心理・行動の問題として、ワークモチベーション・集団生産性・リーダーシップ・ストレスを取り上げ、心理学的な人間理解とはどのようなものかを学ぶ。自分が所属する集団での経験を参照できるように身近な事例を多く取り入れて講義する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

自分が所属している（した）集団での経験を振り返り、概念の意味を実感する。

内　容

第1回　組織行動論・組織心理学とは
第2回　ワーク・モチベーション1　基本概念、欲求階層理論
第3回　ワーク・モチベーション2　2要因理論と達成動機づけ
第4回　ワーク・モチベーション3　内発的動機づけ
第5回　ワーク・モチベーション4　公平理論・期待理論
第6回　ワークモチベーションの理論と実践　目標設定理論、目標管理とジョブデザイン
第7回　応用行動分析
第8回　集団生産性1　基本的な枠組み、社会的促進、規範の影響
第9回　集団生産性2　シュタイナーの課題分類と生産性
第10回　集団生産性3　集団意思決定
第11回　リーダーシップ1　リーダーシップとは、特性論・行動論
第12回　リーダーシップ2　条件即応理論
第13回　リーダーシップ3　変革型リーダーシップ理論、LMX
第14回　組織ストレス1　組織ストレス理解の基本的枠組み、ラザルスのストレス理論
第15回　組織ストレス2　バーンアウト、ストレスの管理

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

産業・組織心理学エッセンシャルズ　改訂三版
著者:　田中堅一郎編
出版社:　ナカニシヤ出版
出版年:　2011　　ISBN:

新版　組織行動のマネジメント
著者:　スティーブン P. ロビンス著、高木晴夫訳
出版社:　ダイヤモンド社
出版年:　2009　　ISBN:

心理学の世界　基礎編10　組織心理学
著者:　古川久敬
出版社:　培風館
出版年:　2011　　ISBN:

a90202f510

成績評価

試験・レポート（ 60% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20% ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**産業心理学Ⅱ（消費者行動論）〈Z〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　永野　光朗	

テーマ

消費と広告の心理学

授業の到達目標

心理学研究に基づいて消費者の心理・行動についての客観的理解を深める。このような理解は自身の消費生活の向上に寄与し、同時に企業人としての能力を高めるであろう。

授業の概要

企業が実施している広告戦略や販売促進活動の実例をあげながら、企業が消費者の心理・行動をどのように理解しているのかを心理学理論をベースにしながら考察する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

消費者としての自分自身のあり方を振り返り，その心理や行動についての素朴な疑問（なぜ消費者はこんな商品に惹かれるのか？なぜ消費者はこんなときにこんな行動をとってしまうのか？）をつねに持ちながら授業に臨んで欲しい．このような疑問を思いつく限りメモ書きにしておくこと．
毎回実施する小テストを次回の授業時に返却をするが、その中にコメントを書くことでフィードバックを行う。

内　容

第1回　消費者行動研究の目的と意義・消費者行動とマーケティング
第2回　消費者の購買意思決定過程①（EBMモデルの紹介）
第3回　消費者の購買意思決定過程②（ブランド選択過程を中心にして）
第4回　価格の心理学①（価格の心理的機能）
第5回　価格の心理学②（心理的財布理論・行動経済学）
第6回　広告の社会心理学①（広告効果モデル・広告の類型）
第7回　広告の社会心理学②（タレント・専門家起用広告
第8回　広告の社会心理学③（恐怖喚起広告）
第9回　広告の社会心理学④（弱点開示広告・比較広告）
第10回　販売場面における説得のテクニック①（foot in the door techniqueなど）
第11回　販売場面における説得のテクニック②（Cialdiniの「影響力の武器」）
第12回　店舗内の消費者行動①（店舗内における行動のコントロール）
第13回　店舗内の消費者行動②（店舗内における販売促進の方法）
第14回　ブランドと消費者行動
第15回　まとめと確認

履修上の注意点

授業には真摯に取り組むこと。スマホ使用や私語など他の受講者に迷惑となる行為については厳重に注意します。また授業中の睡眠についても雰囲気を損なう行為なので注意します。

教科書

新・消費者理解のための心理学
著者:　杉本徹雄編著
出版社:　福村出版
出版年:　2012　　ISBN:　4571250401

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50% ）	小テスト （ 50% ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）	

毎回の授業において小テストを実施する。

2018 Syllabus

科 目 名　**発達心理学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　奈田　哲也	

テーマ

青年期以降(小学校高学年/思春期以降)における人間の発達の様相の理解

授業の到達目標

エリ・エス・ヴィゴーツキーにより基本的枠組みが提唱された「高次心理機能の発達の文化-歴史的理論」について学び、人間の発達理解にとって、その理論の意義を理解できる。

授業の概要

最初に、ヴィゴーツキーの生涯とその心理学理論の概略について説明をする。続いて、ヴィゴーツキー理論を構成するよく知られた2つの重要な概念である「最近接発達の領域」と「内言」の概念を取り上げ、ヴィゴーツキー理論の体系の中でこれらの概念が真に意味するところは何かについて解説をおこなう。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

幅広く本を読み，自分が如何に形成されてきたかを考える。また，授業中に分からなかった事柄がでてきた場合は，インターネットや本を通して理解しておく。

内　容

第1回　ヴィゴーツキーの生涯とその研究について
第2回　発達の文化-歴史的理論の概要
第3回　最近接発達の領域」の概念をめぐって
第4回　(1)問題の設定
第5回　(2)教授と最近接発達の領域と科学的概念の発達
第6回　(3)科学的概念の発達とは何が発達することか
第7回　(4)書き言葉の発達
第8回　(5)結論
第9回　「内言」の概念をめぐって
第10回　(1)問題の設定
第11回　(2)内言の意味の分析
第12回　(3)意味の作用とイメージの運動法則
第13回　(4)想像の発達
第14回　(5)まとめ
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

講義において分からない点がでてきたりした場合は，速やかに教員に質問し，理解するように努める。私語はしない。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 10 ）	

期末テストまたはレポート(70%)

2018 Syllabus

科 目 名　**学習心理学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎	

テーマ

ヒトおよび動物の学習のメカニズムを理解する。

授業の到達目標

ヒトを含む動物が環境内の刺激をどのように学習し、記憶するのか、そのメカニズムを理解する。学習と記憶に関わる脳神経回路を学ぶことで、学習・記憶障害のメカニズムを理解する。

授業の概要

心理学において、“学習”とは、“経験による比較的永続的な行動の変容”と定義される。ヒトを含む動物は、環境内の様々な刺激から、餌のある場所、捕食者の足音や匂い、危険な場所など、様々な事象を学習し、記憶する。情動や社会行動が生得的な性質を持つのに対して、学習、記憶は経験によって獲得していく後発的な心理機能である。本講義では、様々な学習の種類（報酬学習、運動学習、逃避・回避学習、空間認知学習）とその理論を解説する。さらに学習・記憶を担う神経回路についても解析し、学習障害、記憶障害、認知障害が生起するメカニズムを紹介する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストの熟読、講義ノートの復習、関連図書の精読

内　　容

第1回　学習とは
第2回　馴化と鋭敏化
第3回　古典的条件づけの獲得
第4回　古典的条件づけの消去
第5回　オペラント条件づけの基礎
第6回　オペラント条件づけ（強化スケジュール）
第7回　消去と罰
第8回　随伴性
第9回　弁別と般化
第10回　運動学習
第11回　観察学習と概念学習
第12回　記憶と学習
第13回　学習障害
第14回　記憶障害
第15回　行動療法

履修上の注意点

遅刻をしない、講義中に私語をしないなど常識ある態度で受講して下さい。

教科書

学習の心理
著者:　実森正子・中島定彦
出版社:　サイエンス社
出版年:　2000　　ISBN:

参考書

メイザーの学習と行動
著者:　メイザー
出版社:　二瓶社
出版年:　2008　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 60 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育心理学（心理）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中村　和夫	

テーマ

学校教育における子どもの発達と教育との関係についての理解

授業の到達目標

教育心理学についての基礎的知識を理解すること。および子どもの発達にとって学校教育の持つ重要な意味を、学校での基本的な教育活動との関係において理解できるようになること。

授業の概要

教育心理学の領域の内、発達の領域、教授-学習の領域、教育評価の領域について講義をする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

特になし。

内　　容

第1回　教育心理学の基本領域
第2回　発達の規定要因
第3回　発達における初期経験、発達の可塑性
第4回　発達と教育の関係
第5回　発達のプロセスーピアジェの知能の発達段階論
第6回　発達のプロセスーフロイトの心理-性的発達段階論
　　ーエリクソンの心理-社会的発達段階論
第7回　学習の基礎過程ー連合説
第8回　学習の基礎過程ー認知説
第9回　学校での学習、教科学習の前提ー生活的概念と科学的概念
第10回 学習の動機づけ
第11回 知識獲得と問題解決
第12回 発見学習と有意味受容学習
第13回 集団準拠評価
第14回 目標準拠評価
第15回 生徒指導要録、通知表、調査書、学校評価

履修上の注意点

欠席が6回に達した時点で、後の受講と試験の受験は認めない。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 90パーセント ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 10パーセント ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**よそおいの心理学（心理）<a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　190
履修条件	クラス指定
担 当 者　　日比野　英子	

テーマ

外見と心の関係

授業の到達目標

本講義では、粧いと装いという外見のデザインや印象管理を行うことが、人の心の有り様や心の健康とどのような関係があるのか、人と人とのコミュニケーションにどのような影響をおよぼすのかを理解し、さらに、福祉や医療の場でのこれらを用いたサポートの実践例についても理解を深める。

授業の概要

以下のように、装いと化粧についての心理学各領域における基礎研究を紹介し、後にそれらを用いた実践例を紹介するとともに臨床心理学的見地からのよそおいについての考察を展開する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

化粧や服装について、多岐にわたる視点からアプローチするため、特に1冊の教科書を用いないが、下記の参考書や授業中に紹介する書籍を精読して興味を深めてもらいたい。授業中に提出を求める課題についてはコメントを添えて返却する。

内　容

第1回　オリエンテーション 外見をめぐる諸問題、よそおいとは、本授業のねらい・方針
第2回　装いの社会・心理的機能①
第3回　装いの社会・心理的機能②
第4回　顔について①　顔とは（乳幼児期における顔認知などから）
第5回　顔について②　こども顔とおとな顔、女顔とお男顔
第6回　顔について③　顔認知のステレオタイプ
第7回　化粧とは　化粧の文化誌、メーキャップの心理学
第8回　社会心理学における化粧研究
第9回　感情心理学・生理心理学における化粧研究①
第10回　感情心理学・生理心理学における化粧研究②
第11回　化粧とパーソナリティ
第12回　化粧の臨床的応用①　精神障害者を対象として
第13回　化粧の臨床的応用②　高齢者を対象として
第14回　化粧と装いの臨床的応用③　身体障害者を対象として
第15回　まとめ　臨床心理学的視点からみたよそおいの意味　なお、外部講師を招いて講演会を開催することがある。

履修上の注意点

受講生は、授業中のすべての配布資料をファイルしておくこと。定期試験に使用することがあります。

教科書

参考書

被服と化粧の社会心理学―人はなぜ装うのか
著者:　大坊郁夫・神山進他
出版社:　北大路書房
出版年:　1996年　　ISBN:　978-4762820588

化粧行動の社会心理学
著者:　大坊郁夫他
出版社:　北大路書房
出版年:　2001年　　ISBN:　4－7628－2226－4

個と向き合う介護
著者:　西本典良・日比野英子他
出版社:　誠信書房
出版年:　2006年　　ISBN:　4－414－60137－1

成績評価

a90202g310

試験・レポート（ 50% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 50% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**よそおいの心理学（教養）<b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　190
履修条件	クラス指定
担 当 者　　日比野　英子	

テーマ

外見と心の関係

授業の到達目標

本講義では、粧いと装いという外見のデザインや印象管理を行うことが、人の心の有り様や心の健康とどのような関係があるのか、人と人とのコミュニケーションにどのような影響をおよぼすのかを理解し、さらに、福祉や医療の場でのこれらを用いたサポートの実践例についても理解を深める。

授業の概要

以下のように、装いと化粧についての心理学各領域における基礎研究を紹介し、後にそれらを用いた実践例を紹介するとともに臨床心理学的見地からのよそおいについての考察を展開する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

化粧や服装について、多岐にわたる視点からアプローチするため、特に1冊の教科書を用いないが、下記の参考書や授業中に紹介する書籍を精読して興味を深めてもらいたい。授業中に提出を求めた課題には次回の授業でコメントしてフィードバックとする。

内　容

第1回　オリエンテーション 外見をめぐる諸問題、よそおいとは、本授業のねらい・方針
第2回　装いの社会・心理的機能①
第3回　装いの社会・心理的機能②
第4回　顔について①　顔とは（乳幼児期における顔認知などから）
第5回　顔について②　こども顔とおとな顔、女顔とお男顔
第6回　顔について③　顔認知のステレオタイプ
第7回　化粧とは　化粧の文化誌、メーキャップの心理学
第8回　社会心理学における化粧研究
第9回　感情心理学・生理心理学における化粧研究①
第10回　感情心理学・生理心理学における化粧研究②
第11回　化粧とパーソナリティ
第12回　化粧の臨床的応用①　精神障害者を対象として
第13回　化粧の臨床的応用②　高齢者を対象として
第14回　化粧と装いの臨床的応用③　身体障害者を対象として
第15回　まとめ　臨床心理学的視点からみたよそおいの意味　なお、外部講師を招いて講演会を開催することがある。

履修上の注意点

受講生は、授業中のすべての配布資料をファイルしておくこと。定期試験に使用することがあります。

教科書

参考書

被服と化粧の社会心理学―人はなぜ装うのか
著者：　大坊郁夫・神山進他
出版社：北大路書房
出版年：1996年　　ISBN：978-4762820588

化粧行動の社会心理学
著者：　大坊郁夫他
出版社：北大路書房
出版年：2001年　　ISBN：4－7628－2226－4

個と向き合う介護
著者：　西本典良・日比野英子他
出版社：誠信書房
出版年：2006年　　ISBN：4－414－60137－1

成績評価

a90202g312

試験・レポート（ 50% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 50% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**産業心理学A（組織行動論）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　石田　正浩	

テーマ

組織における人に関する問題を理解する心理学的な視点を獲得する。

授業の到達目標

組織において人を動かす上で生じる問題を、心理学的な観点から適切に理解し、効果的な対処が考えられるようになる。現在進行中の働きかたの変化に対しても、その心理学的な意味を理解し、説明できるようになる。

授業の概要

組織に生きる人々の心理・行動の問題として、ワークモチベーション・集団生産性・リーダーシップ・ストレスを取り上げ、心理学的な人間理解とはどのようなものかを学ぶ。自分が所属する集団での経験を参照できるように身近な事例を多く取り入れて講義する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

自分が所属している（した）集団での経験を振り返り、概念の意味を実感する。

内　容

第1回　組織行動論・組織心理学とは
第2回　ワーク・モチベーション1　基本概念、欲求階層理論
第3回　ワーク・モチベーション2　2要因理論と達成動機づけ
第4回　ワーク・モチベーション3　内発的動機づけ
第5回　ワーク・モチベーション4　公平理論・期待理論
第6回　ワークモチベーションの理論と実践　目標設定理論、目標管理とジョブデザイン
第7回　応用行動分析
第8回　集団生産性1　基本的な枠組み、社会的促進、規範の影響
第9回　集団生産性2　シュタイナーの課題分類と生産性
第10回　集団生産性3　集団意思決定
第11回　リーダーシップ1　リーダーシップとは、特性論・行動論
第12回　リーダーシップ2　条件即応理論
第13回　リーダーシップ3　変革型リーダーシップ理論、LMX
第14回　組織ストレス1　組織ストレス理解の基本的枠組み、ラザルスのストレス理論
第15回　組織ストレス2　バーンアウト、ストレスの管理

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

産業・組織心理学エッセンシャルズ　改訂三版
著者:　田中堅一郎編
出版社:　ナカニシヤ出版
出版年:　2011　　ISBN:

新版　組織行動のマネジメント
著者:　スティーブン P. ロビンス著、高木晴夫訳
出版社:　ダイヤモンド社
出版年:　2009　　ISBN:

心理学の世界　基礎編10　組織心理学
著者:　古川久敬
出版社:　培風館
出版年:　2011　　ISBN:

a90202g510

成績評価

試験・レポート（ 60% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20% ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**産業心理学B（消費者行動論）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　永野　光朗	

テーマ

消費と広告の心理学

授業の到達目標

心理学研究に基づいて消費者の心理・行動についての客観的理解を深める。このような理解は自身の消費生活の向上に寄与し、同時に企業人としての能力を高めるであろう。

授業の概要

企業が実施している広告戦略や販売促進活動の実例をあげながら、企業が消費者の心理・行動をどのように理解しているのかを心理学理論をベースにしながら考察する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

消費者としての自分自身のあり方を振り返り，その心理や行動についての素朴な疑問（なぜ消費者はこんな商品に惹かれるのか？なぜ消費者はこんなときにこんな行動をとってしまうのか？）をつねに持ちながら授業に臨んで欲しい．このような疑問を思いつく限りメモ書きにしておくこと．
毎回実施する小テストを次回の授業時に返却をするが、その中にコメントを書くことでフィードバックを行う。

内　容

第1回　消費者行動研究の目的と意義・消費者行動とマーケティング
第2回　消費者の購買意思決定過程①（EBMモデルの紹介）
第3回　消費者の購買意思決定過程②（ブランド選択過程を中心にして）
第4回　価格の心理学①（価格の心理的機能）
第5回　価格の心理学②（心理的財布理論・行動経済学）
第6回　広告の社会心理学①（広告効果モデル・広告の類型）
第7回　広告の社会心理学②（タレント・専門家起用広告
第8回　広告の社会心理学③（恐怖喚起広告）
第9回　広告の社会心理学④（弱点開示広告・比較広告）
第10回　販売場面における説得のテクニック①（foot in the door techniqueなど）
第11回　販売場面における説得のテクニック②（Cialdiniの「影響力の武器」）
第12回　店舗内の消費者行動①（店舗内における行動のコントロール）
第13回　店舗内の消費者行動②（店舗内における販売促進の方法）
第14回　ブランドと消費者行動
第15回　まとめと確認

履修上の注意点

授業には真摯に取り組むこと。スマホ使用や私語など他の受講者に迷惑となる行為については厳重に注意します。また授業中の睡眠についても雰囲気を損なう行為なので注意します。

教科書

新・消費者理解のための心理学
著者：　杉本徹雄編著
出版社：福村出版
出版年：2012　　ISBN：　4571250401

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50% ）　　小テスト（ 50% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
毎回の授業において小テストを実施する。

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学特殊講義**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　永野　光朗.井上　裕樹.大久保　千恵.坂本　敏郎.宮井　研治	

テーマ

心理学が社会において果たす役割の理解

授業の到達目標

・心理学が社会でどのように活かされているのかを理解する。
・心理学を活かして社会に貢献する方法を考える。
・卒業後の職業選択について具体的にイメージできる。

授業の概要

心理学的理論や技術が社会生活の向上のために利用されていることについて具体的な事例を通して理解する。このために大学および大学院で心理学を専門分野として学びの専門的知識を生かして業務を遂行している方をゲストスピーカーとして招聘し講演をしていただく。心理学科の学生にとって「心理学と社会の接点」を理解することは不可欠であり、このことは卒業後の将来的な指針を与えるうえでも不可欠である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

心理学に関連した職種や仕事について、基本的な情報を収集し理解をしておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション（授業の内容と進め方）
第2回　犯罪捜査と心理学（警察・科学捜査研究所担当者）
第3回　製品開発と心理学（企業・製品開発担当者）
第4回　営業企画と心理学（企業・営業企画担当者）
第5回　広告と心理学（企業・広告担当者）
第6回　企業のコンサルティング業務と心理学（企業・コンサルティング業務担当者）
第7回　臨床心理士の仕事（臨床心理士）
第8回　スクールカウンセラーの仕事（臨床心理士）
第9回　企業におけるカウンセラーの仕事（臨床心理士）
第10回　児童療育施設の仕事と心理学（臨床心理士）
第11回　児童養護施設の仕事と心理学（臨床心理士）
第12回　子どもの福祉と心理学（臨床心理士）
第13回　心理学における基礎研究（心理学基礎分野研究者）
第14回　リサーチ会社の仕事と心理学（調査会社担当者）
第15回　職業と心理学（人材資源開発担当者）

履修上の注意点

各回の授業終了後にレポートの提出を求める。ゲストスピーカーの都合で土曜日に開講される場合がある。
授業中の睡眠、スマホ使用、私語など、ゲストスピーカーに対して失礼な行為については厳重に注意します。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

参加度 （ 50% ）

各回の授業終了後にレポートの提出を求める。レポート提出が一定回数以下の場合は単位を取得できない。

2018 Syllabus

科 目 名　**家族心理学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮井　研治	

テーマ

家族機能の後退、家族の役割の見直し、果ては家族悪玉論まで、「家族」をめぐる論議は現代ほど活発な時代はないと言えるし、また、昔から繰り返されてきた命題ともいえる。それでもなぜ家族という形態はなくならないのかを、主にシステム論の立場から考えたい。

授業の到達目標

ジェノグラムや、システム論を用い考える中で、自身の家族も含め、「家族という形態」の持つ意味や必要性を理解する。

授業の概要

講義形式とエクササイズをすることによる授業参加。ペアワーク、ロールプレイを多用する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

エクササイズなどを通しての授業への積極的参加。

内　容

第1回　全体のオリエンテーション。いまなぜ「家族」なのかを考える。
第2回　ジェノグラム①　自分の家族のジェノグラムを描いてみる。そこからイマジネーションをふくらます。課題として自身の家族について知らなかったことを調べてくる。
第3回　ジェノグラム②　他人のジェノグラムを描く。インタビューをしてみること。ペアワーク。
第4回　システム論①　システム論概論。その考え方を学ぶ。
第5回　システム論②　システム論を使った家族理解。家族構造をいろいろなタームを使って考える。
第6回　家族をめぐる問題①　子育てをめぐること。児童虐待のとこ。
第7回　家族をめぐる問題②　引き続き、児童をめぐる家族の問題について－児童虐待についての対応－
第8回　家族をめぐる問題③　家族の高齢化の問題。介護をめぐる家族の問題。
第9回　家族のアセスメント　あるジェノグラムを使って、そこからの見立てを考える。アセスメントとしてのサインズ・オブ・セイフティ―アプローチの手法を紹介する。
第10回　サインズを使って自分の家族をアセスメントする。ペアワーク。
第11回　家族をめぐる心理療法①　家族療法　それ以前の心理療法との比較。
第12回　家族をめぐる心理療法②　家族療法から解決志向へ。
第13回　家族をめぐる心理療法③　家族内のコミュニケーションに焦点をあてた心理療法の実際
第14回　解決に焦点を絞った心理療法のエクササイズによる体験。
第15回　まとめと確認。

履修上の注意点

携帯の取り扱いは言わずもがな、他の受講生に迷惑をかけない、不快感を与えない。これだけです。

教科書

家族理解入門
著者:　団士郎
出版社:　中央法規
出版年:　2013年　　ISBN:

参考書

家族が変わる子育てが変わるコミュニケーションのヒント
著者:　岡田隆介
出版社:　明石書店
出版年:　2011年　　ISBN:

面接の技とコツ
著者:　宮井研治編
出版社:　明石書店
出版年:　2012年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 70% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

a90202g810

参加度 （ 30% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**社会調査法(社会心理調査)**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　藤原　勇	

テーマ

社会調査法に関する基礎知識の習得

授業の到達目標

社会調査の意義や類型、歴史、調査倫理、方法など、社会調査の基本についてわかりやすく解説する。また、実際の多様な調査例を紹介することで、社会調査に対する理解を深める。

授業の概要

パワーポイントの資料をスクリーンに提示し、講義形式で授業を進める。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

各回の授業内容に関して参考書等で予習することが望ましい(各回30分)。
また、復習として、参考書内の前回の授業内容に相当する箇所を読み、理解を深めることが望ましい(各回60分)。
課題に対するフィードバックは、講義内において行う。

内　　容

第1回　社会調査の目的と意義
第2回　社会調査史
第3回　調査倫理
第4回　フィールドワーク
第5回　質的調査と量的調査(1)　質問調査法(面接調査法、郵送調査法、留置調査法、集合調査法)
第6回　質的調査と量的調査(2)　観察法(参与観察法、非参与観察法)、アクション・リサーチ
第7回　質的調査と量的調査(3)　パネル調査、コホート、ケース・スタディ
第8回　実際の調査例(1)　行政調査(国勢調査、官庁統計)
第9回　実際の調査例(2)　世論調査
第10回　実際の調査例(3)　マーケティング･リサーチ
第11回　実際の調査例(4)　インターネット調査
第12回　実際の調査例(5)　聞き取り調査
第13回　実際の調査例(6)　訪問調査
第14回　資料・データの収集から分析へ
第15回　社会調査に向けて

履修上の注意点

授業に対して自発的・積極的に取り組むこと。
私語などの他の学生に迷惑になる行為は慎むこと。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

新・社会調査へのアプローチ
著者:　大谷信介他
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2013年　　ISBN:　9784623066544

よくわかる質的社会調査技法編
著者:　谷富夫・芦田徹郎(編著)
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2005年　　ISBN:　9784623058440

a90202g910

よくわかる社会調査法～基礎から統計分析まで～

著者: 黒田宣代・東巧

出版社: 大学教育出版

出版年: 2006年　　ISBN: 9784887306820

成績評価

試験・レポート（ 50% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30% ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**健康心理学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田中　芳幸	

テーマ

健康心理学に関わる諸理論の理解

授業の到達目標

健康心理学の基本的な知識を学び、心理・社会・身体的な要因が様々な心身の問題にどの様に関連しているのかを把握する。また、心身疾患やストレスへの予防および心身の健康の維持増進方法について、健康心理学的な視点に基づいて考察する。さらに、自分自身や他者の健康関連行動や生活習慣について考える機会とすることも目的とする。これらの理解を通じて、医療や保健活動の現場、災害時等で生じる心理社会的な課題や支援の在りようについても考える。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各回の内容に該当する教科書の熟読、および、健康心理学関連図書や関連論文による自学自習を行うこと。

内　　容

第1回　オリエンテーション　健康心理学とは＆「健康」のとらえ方
第2回　健康心理学の基盤となる心理学理論
第3回　健康行動の諸理論と心身不調の予防
第4回　ストレスと健康
第5回　ストレスへの対処とストレス関連身体疾患
第6回　トランスセオレティカルモデルに基づくストレスマネジメント
第7回　パーソナリティ・生活習慣と健康
第8回　健康生成に役立つソーシャルサポートとヘルスケアシステム
第9回　発達段階に応じた健康教育
第10回　生活場面に応じた健康教育
第11回　健康心理学に基づくアセスメント
第12回　健康心理カウンセリングの理論
第13回　健康心理カウンセリングの実際
第14回　健康的な生活習慣の形成
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為を慎むこと。

教科書

新版健康心理学
著者:　野口京子
出版社:　金子書房
出版年:　　ISBN:

参考書

健康心理学・入門　健康なこころ・身体・社会づくり
著者:　島井哲史・長田久雄・小玉正博(編)
出版社:　有斐閣
出版年:　　ISBN:

健康心理学概論（健康心理学基礎シリーズ1）
著者:　日本健康心理学会(編)
出版社:　実務教育出版
出版年:　　ISBN:

健康心理アセスメント概論（健康心理学基礎シリーズ2）
著者:　日本健康心理学会(編)
出版社:　実務教育出版
出版年:　　ISBN:

a90203d110

健康心理カウンセリング概論（健康心理学基礎シリーズ3）

著者： 日本健康心理学会(編)

出版社： 実務教育出版

出版年： ISBN：

健康教育概論（健康心理学基礎シリーズ4」）

著者： 日本健康心理学会(編)

出版社： 実務教育出版

出版年： ISBN：

成績評価

試験・レポート （ 40% ）
授業中課題 （ 40% ）
参加度 （ 20% ）
小テスト （ ）
授業中発表等 （ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**心理検査法Ⅱ <a>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　仲倉　高広	

テーマ

心理検査の実際について、検査用具を用いて施行法・結果の処理・結果の解釈を学習する。

授業の到達目標

心理検査の中から、特に投映法の代表的な検査であるロールシャッハ法と、児童心理臨床の現場で用いられることの多い新版K式発達検査2001とウェクスラー知能検査を取り上げ、実際に検査用具を用いて、施行法・結果の整理・結果の解釈について習得する。

授業の概要

前半はロールシャッハ・テストについて、後半は新版K式発達検査2001とウェクスラー知能検査について、施行法・結果の整理法・結果の解釈について学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

ロールシャッハ・テストのスコアリングの練習はできるだけ多くの事例にあたることが望ましい。授業以外の時間にも、すでに刊行されている書籍の中の事例のスコアリングを試みることを勧める。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　ロールシャッハ・テスト① ロールシャッハ・テストの被検
第3回　ロールシャッハ・テスト② 基礎技法
第4回　ロールシャッハ・テスト③ スコアリングの基礎知識（反応領域・反応決定因）
第5回　ロールシャッハ・テスト④ スコアリングの基礎知識（反応内容・形態水準）
第6回　ロールシャッハ・テスト⑤ スコアリング練習
第7回　ロールシャッハ・テスト⑥ スコアリング練習
第8回　ロールシャッハ・テスト⑦ 結果の整理・解釈
第9回　発達検査とは～子どもの姿をとらえる
第10回　やってみよう！新版K式発達検査①
第11回　やってみよう！新版K式発達検査②
第12回　やってみよう！ウェクスラー知能検査①
第13回　やってみよう！ウェクスラー知能検査②
第14回　その他の発達検査
第15回　まとめ～検査結果をどう生かしていくか

履修上の注意点

ロールシャッハ・テストのスコアリング練習は、毎回の受講の前にあらかじめ2－3時間の予習を前提としているので、十分な準備をして出席すること。

教科書

参考書

改訂新・心理診断法―ロールシャッハ・テストの解説と研究
著者:　片口安史
出版社:　金子書房
出版年:　1987年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 50% ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 25% ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 25% ）
上記の試験50%とは、前半と後半に合計2回のレポート提出の課題を与えることを示す。

2018 Syllabus

科 目 名　**心理検査法Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　室　紀子	

テーマ

心理検査の実際について、検査用具を用いて施行法・結果の処理・結果の解釈を学習する。

授業の到達目標

心理検査の中から、特に投映法の代表的な検査であるロールシャッハ法と、児童心理臨床の現場で用いられることの多い新版K式発達検査2001とウェクスラー知能検査を取り上げ、実際に検査用具を用いて、施行法・結果の整理・結果の解釈について習得する。

授業の概要

前半はロールシャッハ・テストについて、後半は新版K式発達検査2001とウェクスラー知能検査について、施行法・結果の整理法・結果の解釈について学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

ロールシャッハ・テストのスコアリングの練習はできるだけ多くの事例にあたることが望ましい。授業以外の時間にも、すでに刊行されている書籍の中の事例のスコアリングを試みることを勧める。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　ロールシャッハ・テスト① ロールシャッハ・テストの被検
第3回　ロールシャッハ・テスト② 基礎技法
第4回　ロールシャッハ・テスト③ スコアリングの基礎知識（反応領域・反応決定因）
第5回　ロールシャッハ・テスト④ スコアリングの基礎知識（反応内容・形態水準）
第6回　ロールシャッハ・テスト⑤ スコアリング練習
第7回　ロールシャッハ・テスト⑥ スコアリング練習
第8回　ロールシャッハ・テスト⑦ 結果の整理・解釈
第9回　発達検査とは～子どもの姿をとらえる
第10回　やってみよう！新版K式発達検査①
第11回　やってみよう！新版K式発達検査②
第12回　やってみよう！ウェクスラー知能検査①
第13回　やってみよう！ウェクスラー知能検査②
第14回　その他の発達検査
第15回　まとめ～検査結果をどう生かしていくか

履修上の注意点

ロールシャッハ・テストのスコアリング練習は、毎回の受講の前にあらかじめ2－3時間の予習を前提としているので、十分な準備をして出席すること。

教科書

参考書

改訂新・心理診断法―ロールシャッハ・テストの解説と研究
著者:　片口安史
出版社:　金子書房
出版年:　1987年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 50% ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 25% ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 25% ）
上記の試験50%とは、前半と後半に合計2回のレポート提出の課題を与えることを示す。

2018 Syllabus

科 目 名　**心理統計学Ⅲ（多変量解析）**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　永野 光朗	

テーマ

統計ソフトSPSSを用いておこなう多変量解析の修得

授業の到達目標

心理学データ解析で修得した内容を踏まえ、心理学研究において多用されている因子分析・重回帰分析をはじめとする種々の多変量解析を理解し、取得されたデータを適切に分析する能力を身につける。

授業の概要

各種の多変量解析の手法について適用事例を含めながら説明をし、模擬的なデータを使って各自でSPSSを用いて分析を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

下記参考書をはじめとする統計学関連の書籍の講読
各分析の終了時に提出を求めるレポートを確認したうえで、総合的なコメントを伝えることでフィードバックを行う。

内　容

第1回　多変量解析とは
第2回　因子分析（理論の説明）
第3回　因子分析（適用例の紹介）
第4回　因子分析（演習①）
第5回　因子分析（演習②）
第6回　重回帰分析（理論の説明）
第7回　重回帰分析（適用例の紹介）
第8回　重回帰分析（演習）
第9回　判別分析（理論の説明と適用例の紹介）
第10回　判別分析（演習）
第11回　クラスター分析（理論の説明と適用例の紹介）
第12回　クラスター分析（演習）
第13回　MDS（多次元尺度構成法）（理論の説明と適用例の紹介）
第14回　MDS（多次元尺度構成法）（演習）
第15回　課題の説明

履修上の注意点

教科書

使用しない（資料配付）
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

SPSSとAmosによる心理･調査データ解析---因子分析・共分散構造分析まで
著者:　小塩真司
出版社:　東京図書
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50% ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 50% ）
各分析の終了後にレポート（分析）課題を与え、期末課題も与える。

2018 Syllabus

科 目 名　**英書講読**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　中川 明仁

テーマ

心理学領域の英語の文献（図書）の講読

授業の到達目標

①英書に対する抵抗感を少なくすること
②心理学領域における専門用語の英語に慣れ親しむこと
③心理学領域における英語表現に慣れ親しむこと

授業の概要

心理学領域の英語の文献（図書）の講読を通して、心理学用語の英語での表現のされ方に慣れ親しむ

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

初回授業時に授業の進め方を説明する

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　臨床心理学領域の英書の講読（1）
第3回　臨床心理学領域の英書の講読（2）
第4回　臨床心理学領域の英書の講読（3）
第5回　臨床心理学領域の英書の講読（4）
第6回　臨床心理学領域の英書の講読（5）
第7回　健康心理学領域の英書の講読（1）
第8回　健康心理学領域の英書の講読（2）
第9回　健康心理学領域の英書の講読（3）
第10回　健康心理学領域の英書の講読（4）
第11回　健康心理学領域の英書の講読（5）
第12回　健康心理学領域の英書の講読（6）
第13回　健康心理学領域の英書の講読（7）
第14回　健康心理学領域の英書の講読（8）
第15回　授業の振り返りと試験

履修上の注意点

・主に臨床心理学や健康心理学領域の英書を講読予定のため、当該領域の知識の振り返りをしておくことが望ましい
・遅刻3回で欠席1回とみなす
・2/3以上の出席がない場合は、試験を受けることを認めない

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 20 ）

本授業では毎回、担当者を決めて指定された範囲の英書を講読した上で、その翻訳を発表する。したがって、毎回の宿題への取り組みと出席が前提となる。

2018 Syllabus

科 目 名　**生理心理学**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎	

テーマ

こころや行動に関わる神経系のはたらきを理解する。

授業の到達目標

中枢神経系である脳の作用に加えて、末梢神経、性ホルモン、免疫系などのはたらきを理解する。感覚・知覚・記憶・学習・情動、ストレス、動機づけなどの心的機能との関係を理解する。さらに、生理心理学、行動神経科学に関わる心理学的トピックを紹介する。

授業の概要

講義形式とする。パワーポイントスライドを提示し、資料を配付する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

配布プリントの熟読、講義ノートの復習、関連図書の精読。 復習プリントを宿題とし、時間の授業中に解答・解説をする。

内　容

第1回　ガイダンス　神経系と神経内分泌系のはたらき
第2回　脳の構造と神経系の情報伝達
第3回　神経細胞内の情報伝導と神経細胞間の情報伝達
第4回　視覚と脳
第5回　聴覚・嗅覚・味覚・体性感覚と脳
第6回　記憶・学習と脳
第7回　情動・ストレスと脳
第8回　前半のまとめ
第9回　動機づけ・睡眠と脳
第10回　こころの疾患と脳
第11回　発達障害と脳
第12回　ホルモン分泌の神経調節　／　母親の認知機能の変化
第13回　ホメオスタシスと行動　／　父親の養育行動と脳の変化
第14回　生育環境と行動　／　種内のコミュニケーション・遊びの重要性
第15回　全体のまとめ

履修上の注意点

遅刻をしない、私語をしない、スマトフォンを出さない等の常識ある態度で受講すること。

教科書

生理心理学第2版
著者:　廣中直行・岡田隆
出版社:　サイエンス社
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

脳とホルモンの行動学－行動神経内分泌学への招待－
著者:　近藤保彦他　編
出版社:　西村書店
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 60% ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 20% ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**こころの脳科学**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　上北　朋子	

テーマ

我々の心や行動をつくる脳の仕組みについて学ぶ。

授業の到達目標

ヒトがどのように感じ、考え、行動するのかを神経科学の視点から理解することを目標とする。

授業の概要

神経科学の基礎的な事項を行動との関連に焦点をあてながら概説する。パワーポイントやプリントによる図解により、イメージしやすいよう工夫する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

ノートへの追加事項の書き込み、配布プリントの読み込みなど、復習を重視する。小テストのフィードバックを後半の授業内に行う。

内　容

第1回　オリエンテーション　心理学における脳科学の位置づけ
第2回　脳の構造と機能（1） 骨格、膜
第3回　脳の構造と機能（2） 大脳皮質
第4回　脳の構造と機能（3） 大脳辺縁系
第5回　情報の伝導
第6回　情報の伝達
第7回　中間まとめ（小テスト）
第8回　神経伝達物質（1）
第9回　神経伝達物質（2）
第10回 学習と記憶
第11回 視覚
第12回 聴覚
第13回 言語、社会性
第14回 脳の障害と可塑性
第15回 全体のまとめ

履修上の注意点

私語やスマートフォンの使用は慎んでください。

教科書

参考書

神経科学テキスト 脳と行動
著者: カールソン
出版社: 丸善株式会社
出版年:　　ISBN:

神経科学 脳の探求
著者: ベアー コノーズ パラディーソ
出版社: 西村書店
出版年:　　ISBN:

脳神経科学 イラストレイテッド
著者: 森寿 真鍋俊也 渡辺雅彦 岡野栄之 宮川剛
出版社: 羊土社
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ 20 ）

a90203d710

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （20）

期末試験を重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**心理的援助論B <Z>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　濱田　智崇	

テーマ

「表現」を通じて心理的援助とは何かを考える

授業の到達目標

心理的援助における「表現」を取り扱う。ここで言う「表現」には言語による表現も、描画や箱庭、遊戯療法の遊びといったものも含まれるが、そうした「表現」に援助者としてどう向きあうのかを考えていく。他者の内面を理解しようとすることは、自ずと自分自身の内面と向きあうことにもなる。そうした姿勢の中から体験的に気づきを得ることを目標とする。

授業の概要

この授業では主に風景構成法と箱庭療法、遊戯療法に関して取り上げる。まずそれぞれの技法の成り立ちや特徴を解説し、その後、実際に描いたり、作成したりするワークを行う。実際に自分が表現してみること、そしてそれを自分で分析してみることで学びを深めていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実習・ワークの前に、講義の内容をよく理解しておかないと、せっかくの実習・ワークの体験を活かすことができなかったり、他の受講者に迷惑をかけたりしますので、よく理解しておいてください。

内　容

第1回　オリエンテーション～心理的援助と表現
第2回　心理療法における象徴的イメージとは
第3回　箱庭療法とは
第4回　箱庭を使ったワーク（1）
第5回　箱庭を使ったワーク（2）
第6回　箱庭療法の事例から学ぶ（1）
第7回　箱庭療法の事例から学ぶ（2）
第8回　心理療法における描画法
第9回　風景構成法とは
第10回　風景構成法の体験（1）
第11回　風景構成法の体験（2）
第12回　遊戯療法とは
第13回　遊戯療法の実際
第14回　遊戯療法の事例から学ぶ
第15回　まとめ～改めて心理的援助とは

履修上の注意点

講義の回に出席できていない（実習やワークに必要なことを理解できていない）場合、その後の実習やワークの回の受講を制限せざるを得ないこともありますので、気をつけてください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

風景構成法―その基礎と実践

著者:　皆藤章

出版社:　誠信書房

出版年:　1994　　ISBN:　978-4414401691

遊戯療法の実際

著者:　河合隼雄

出版社:　誠信書房

出版年:　2005　　ISBN:　978-4414400212

a90203d950

箱庭療法の事例と展開

著者: 岡田康伸(編)

出版社: 創元社

出版年: 2007 ISBN: 978-4422113647

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 40% ） 授業中発表等（ 30% ）

参加度（ 30% ）

主に授業中のミニレポート作成により評価します。

2018 Syllabus

科 目 名　**犯罪心理学**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　ジェイムス　朋子	

テーマ

犯罪心理学基礎理論の理解および矯正心理学の臨床心理学的理解

授業の到達目標

本講義においては、主に臨床心理学的な視点から、反社会的行動化としての犯罪を理解することをめざす。犯罪臨床領域では、特定の犯罪理論に依拠して統計的に犯罪を分析をすることよりも、多次元的な観点から一人ひとりの犯罪者・非行少年の人格的特徴や問題性を理解し、矯正心理教育を模索する。臨床的援助としての犯罪防止および矯正心理教育の実際を理解することを目標とする。

授業の概要

授業では、講義、質疑応答、ディスカッション、簡単な演習を中心に展開する。それらの理解の確認のため、適宜小レポートや小テストを課す場合がある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

配布資料や参考文献を読み、授業の理解を深める。

内　容

第1回　イントロダクション：犯罪心理学とは
第2回　生物学的側面からみた犯罪
第3回　生物学的側面からみた犯罪
第4回　パーソナリティと犯罪
第5回　精神障害と犯罪
第6回　アディクションと犯罪
第7回　犯罪に関わる被害体験
第8回　日本における犯罪理論
第9回　犯罪プロファイリング
第10回　矯正施設における心理学の活用
第11回　犯罪者の更生と社会システム
第12回　行動療法
第13回　認知行動療法
第14回　力動的心理療法
第15回　事例からの学び

履修上の注意点

教科書

参考書

コンパクト犯罪心理学
著者：　河野荘子/岡本英生
出版社：北大路書房
出版年：2013　　ISBN：

犯罪心理学－行動科学のアプローチ―
著者：　C. R. バートル/A. M. バートル
出版社：北大路書房
出版年：2006　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（　）　　小テスト（ 40% ）
授業中課題（ レポート40% ）　　授業中発表等（　）
参加度 （ 20% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**広告心理学**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　前田　洋光	

テーマ

広告を科学的見地から理解する

授業の到達目標

広告の心理・社会的機能を、客観的な視点から論考することができる。

授業の概要

私たちは日々、多くの広告に接触しながら生活している。本講では、心理学や行動科学の研究成果を中心に、これら広告の心理・社会的機能を学習し、広告の送り手・受け手の双方の視点から種々のトピックについて論考していく。加えて、広告を通して人間（消費者）理解を深めることによって、さまざまなマーケティング戦略について議論していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・日常生活において、さまざまな広告に接触すること　・下記参考書をはじめとする広告心理学に関連する書籍の講読

内　　容

第1回　イントロダクション
第2回　広告効果
第3回　ブランドと広告
第4回　メディアによる差異
第5回　広告表現と戦略：タレント起用広告
第6回　広告表現と戦略：比較広告
第7回　広告表現と戦略：ユーモア広告
第8回　広告表現と戦略：その他の広告表現（性的表現・恐怖アピール等）
第9回　店舗内購買行動（POP広告）
第10回　店舗内購買行動（パッケージ）
第11回　公共広告
第12回　インターネット広告
第13回　プロダクト・プレイスメント
第14回　広告の倫理：広告苦情
第15回　まとめと確認

履修上の注意点

社会心理学の知識を有している方が望ましい。

教科書

参考書

広告心理
著者：　仁科貞文ほか
出版社：　電通
出版年：　　ISBN：

新・消費者理解のための心理学
著者：　杉本徹雄（編）
出版社：　福村出版
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート （ 80% ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 20% ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**消費者コミュニケーション論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　前田　洋光	

テーマ

現代社会における消費者行動の理解

授業の到達目標

現代における消費者コミュニケーションの意義・機能について、客観的な視点から理解することができる

授業の概要

消費者行動とは、消費者が購買し、使用・維持を経て廃棄に至るすべての行動プロセスを含んだものである。私たちは、このすべてのプロセスにおいて、他者とくちコミ情報を授受しあう、企業から情報を入手する、企業に苦情を伝える、Web上で情報交換をおこなう等、種々のコミュニケーション活動をおこなっている。本講では、これらの消費者をめぐるコミュニケーション活動に焦点をあて、そのプロセス・機能・役割について明らかにしていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・日常生活における消費者行動に注意を向ける
・下記参考書をはじめとする関連書籍の講読

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　消費者間コミュニケーション①：他メディアとの効果差異を中心に
第3回　消費者間コミュニケーション②：くちコミの受け手・メッセージ内容を中心に
第4回　消費者間コミュニケーション③：くちコミの送り手に関する検討
第5回　消費者間コミュニケーション④：Webくちコミ
第6回　企業と消費者間のコミュニケーション①：消費者の問題認識
第7回　企業と消費者間のコミュニケーション②：消費者の購買意思決定過程
第8回　企業と消費者間のコミュニケーション③：購買意思決定を左右する種々の要因
第9回　企業と消費者間のコミュニケーション④：不合理な消費者の購買意思決定
第10回　企業と消費者間のコミュニケーション⑤：選択肢評価
第11回　企業と消費者間のコミュニケーション⑥：消費者満足
第12回　消費者とモノとのコミュニケーション①：モノの意味
第13回　消費者とモノとのコミュニケーション②：被服心理学
第14回　現代社会における消費者コミュニケーション：環境配慮行動
第15回　まとめと確認

履修上の注意点

社会心理学の知識を有している方が望ましい。

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

消費者・コミュニケーション戦略
著者：　田中洋・清水聰
出版社：　有斐閣
出版年：　　ISBN：

新・消費者理解のための心理学
著者：　杉本徹雄（編）
出版社：　福村出版
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ 80% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20% ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**マーケティング調査演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　永野　光朗	

テーマ

マーケティング遂行に必要な情報収集手段としての消費者調査

授業の到達目標

マーケティング遂行の手段としての「来街者調査」の企画立案，実施，結果の分析，報告書の作成を自らが行うことで，社会調査についての「体験的理解」を深めると同時に実務的・実践的スキルを身につける.

授業の概要

商店街など地域社会の活性化を目指してプランを立案する場合にしばしば行われる来街者調査（地域への来訪者を対象とした面接調査，行動観察調査など）のプロセスを体験する.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

商店街や店舗での販売促進の事例を収集し、その遂行のためにはどのような情報が必要になるのかを自分なりに考える。
調査計画の立案や調査報告の進展についてチェックしたうえで、適切なアドバイスとフィードバックを行う。

内　容

第1回　来街者調査とは？
第2回　来街者調査の事例紹介
第3回　来街者調査の方法①（面接調査）
第4回　来街者調査の方法②（通行量調査）
第5回　質問紙の設計と調査計画の作成
第6回　来街者調査の実施①
第7回　来街者調査の実施②
第8回　来街者調査の実施③
第9回　来街者調査の実施④
第10回　来街者調査の実施⑤
第11回　来街者調査の実施⑥
第12回　データの入力
第13回　データの分析
第14回　調査結果の検討
第15回　調査報告書の作成

履修上の注意点

教科書

教科書はなし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30% ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 70% ）

・10月または11月の土曜日及び日曜日に商店街などにおいて来街者調査を行う。また事前の現地への下見や事後の報告会なども実施する。・現地への交通費はすべて自己負担とする。・上記の詳細（調査実施場所など）については未定であるが決まり次第通知をする。・報告会については授業終了後の2月または3月に実施する予定である。これについても参加することを原則とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**環境心理学**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　太子　のぞみ	

テーマ

現実の様々な環境における人間の心理・行動についての知識や考え方を習得

授業の到達目標

本講義では、環境心理学の考え方を踏まえた上で、住環境や教育環境、対人社会環境、自然環境など様々なテーマについて論じる。受講者は環境心理学の概念や理論を知識として得て、さらに人間を取り巻く様々な環境を心理学の視点から把握できるように理解を深める。

授業の概要

一回もしくは二回の講義で一つのテーマについて講義を行う。また、講義に際して出欠をとる。講義の途中で小レポートを課し、数週間後に提出する必要がある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

講義で学習したことを踏まえた上で、身近な環境に対してよく注意を払うように心がけて、人間と環境の相互作用について考えてみましょう。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　環境心理学の考え方
第3回　環境の認知①
第4回　環境の認知②
第5回　環境の評価①
第6回　環境の評価②
第7回　対人・社会環境①
第8回　対人・社会環境②
第9回　住環境
第10回　教育環境
第11回　職場環境①
第12回　職場環境②
第13回　犯罪環境
第14回　自然環境
第15回　まとめと理解の確認
第16回　試験

履修上の注意点

質問があれば授業中だけでなく、授業前後に気軽にお越しください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

環境心理学―人間と環境の調和のために（ライブラリ 実践のための心理学）
著者:　羽生和紀
出版社:　サイエンス社
出版年:　2008年　　ISBN:　4781911943

環境心理学（朝倉心理学講座）
著者:　佐古順彦・小西啓史
出版社:　朝倉書店
出版年:　2007年　　ISBN:　4254526725

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ ）

a90203e510

授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 30 ）

成績は、試験50点、授業中に課される課題20点、出欠を含む参加度30点の合計得点を算出して評価を行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**コーチング心理学**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　本山　雅英	

テーマ

卒業後に企業で働くことを前提としていた講座である。企業活動における生産性向上に、コーチング、ファシリテーションがどう役立っているかを学ぶ。

授業の到達目標

企業におけるヒューマンマネジメント(人的資源管理)は、心理学の諸理論の援用により構成、運用されている。静的アプローチとしての人事制度設計には、主として動機づけ理論。目標管理を中心とした、動的アプローチにはコーチング、ファシリテーションなどの行動科学の考え方が援用されている。本講座では、コーチング、ファシリテーションが企業内でどう活用され、どのような効果をあげているかを理解し、心理学を学んだものが企業内で、それをどう活用すべきかのポイントを習得する。

授業の概要

連続した三日間の集中講義により、企業社会で求められているコーチングとファシリテーションの基本スキルを習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　企業社会で期待される心理学とは?　大学で学ぶ心理学と、社会人が勉強したい心理学とのギャップ。企業が期待する「スキルとしての心理学」を理解しよう。
第2回　コーチングの本質である、人の話をよく聴いて、仕事に役立てるスキル。例えば、モノが受ける営業マンになるためのヒヤリングにコーチングを活用する。良い人材を見つけるための採用面接に役立つコーチングを理解しよう。
第3回　企業でよく使われている心理学の諸理論のうち、TA理論について理解する。TA理論が、企業での人財育成に使われる理由と、その活用法のポイントを理解する。
第4回　TA理論の具体的理解のため、エゴグラム分析を体験する。エリック・バーンの自我状態分析の考え方と、企業におけるその活用法を理解する。
第5回　TA理論のうち、ストローク/ディスカウント分析について学ぶ。企業での一般的なストローク活用法や、ゲーミフィケションと連動させて全社を活性化させた事例などを理解する。
第6回　優良企業では従業員のキャリア開発についても熱心なトレーニングか行われている。代表的な援用理論である、エドガー・社員の自己成長のためのキャリア・アンカー理論ついて理解する。
第7回　企業で行われている人材教育としてのコーチングの位置づけを理解する。なぜ企業がコーチングを必要としているか、他者に語り説得するスキルを習得する。
第8回　他者への支援スキルとしてのコーチングにおける、他者理解のためのTA、エゴグラムの活用法を理解する。併せて、学生としてのコーチングの具体的な練習法を理解する。
第9回　企業における組織活性化と動機づけ理論の関係を理解する。ハーツバーグの二要因理論と、マズローの五段階説のおさらいを兼ねる。
第10回　ファシリテーションおよびチェンジエージェントという考え方を知り、企業における会議やミーティング時のファシリテーションの具体的な活用法を理解する。
第11回　企業から期待されるファシリテーションの基本的なスキルと、そのトレーニングの方法を会する。
第12回　企業に入ると必ず出会う目標管理とその基本的な考え方を理解する。企業社会に与えているドラッカー理論の影響と、その考え方のポイントを理解する。(1)
第13回　企業に入ると必ず出会う目標管理とその基本的な考え方を理解する。企業社会に与えているドラッカー理論の影響と、その考え方のポイントを理解する。(2)
第14回　目標管理とリーダーシップ、企業が求める人材へのコンピテンシー概念を理解し、その中でコーチングがどういう役割を果たしているのかを理解する。
第15回　自分自身が学んだ心理学やカウンセリングを、自分の人生にどう役立てようとするかを考察する。エドガー・シャインのキャリアアンカーモデルを援用して、受講者自身のキャリアデザインを体験することで、その技法を習得する。

履修上の注意点

教科書

大学生のためのコーチングとファシリテーションの心理学
著者:　本山雅英
出版社:　北大路書房
出版年:　2014年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

a90203e750

参加度 （ 50% ）

第15回終了時に、レポート課題を課す。50%

2018 Syllabus

科 目 名　**メンタルヘルス・マネジメント**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　菱田　一仁	

テーマ

こころもからだもウエルビーイングな生活を維持増進するために重要な諸理論と技法について学ぶ。

授業の到達目標

心身の健康の維持増進や疾病への対処について、心理・社会・身体的な要因がどのような役割をもつのかを心理学の側面から学ぶ。ストレス、ライフスタイル、生活習慣病、疾病予防、食物・嗜好品の摂取や運動などといった健康関連行動など、現代社会で問題になっている事柄についての具体的な理解を深める。また、職場におけるメンタルヘルスの重要性について、事例を参照しながら講義する。さらに、人間性のネガティブな側面についてのみではなく、ポジティブな側面についても言及し、それらが心身の健康や疾病に対してどの様な関わりをもつのかを考察する。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

ニュースや新聞記事などに目を向け、現代社会でおきているメンタルヘルス関連問題に関心をもっていただきたい。

内　容

第1回　オリエンテーション　メンタルヘルスと心身の健康
第2回　心身のストレス反応と健康
第3回　ストレス緩和要因としてのコーピングと行動パターン
第4回　ストレスに強いパーソナリティ
第5回　社会への意識と心身の健康
第6回　楽観主義・完璧主義と心身の健康
第7回　メンタルヘルス・マネジメントに役立つ理論と方法　(1)リラクセーション
第8回　メンタルヘルス・マネジメントに役立つ理論と方法　(2)問題解決と時間の節約
第9回　メンタルヘルス・マネジメントに役立つ理論と方法　(3)認知への働きかけ
第10回　メンタルヘルス・マネジメントに役立つ理論と方法　(4)自己主張(アサーション)と社会的スキル
第11回　メンタルヘルス・マネジメントに役立つ理論と方法　(5)セルフ・マネジメント法
第12回　ストレス理論とメンタルヘルスマネジメント理論・技法のまとめ
第13回　勤労者におけるストレス関連問題　(1)社会における勤労者のメンタルヘルス問題の実態と対処
第14回　勤労者おけるストレス関連問題　(2)ハラスメント問題の実態と対処
第15回　勤労者におけるストレス関連問題　(3)勤労者への支援

履修上の注意点

授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為を慎むこと。

教科書

ストレス・マネジメント入門　自己診断と対処法を学ぶ
著者:　中野敬子　著
出版社:　金剛出版
出版年:　2013　　ISBN:

参考書

ストレスマネジメントと職場カウンセリング　主要な方法論とアプローチ
著者:　内山喜久雄　監訳
出版社:　川島書店
出版年:　2002　　ISBN:

健康の心理学　心と体の健康のために
著者:　春木豊ほか　著
出版社:　サイエンス社
出版年:　2007　　ISBN:

産業心理臨床入門
著者:　CPI研究会
出版社:　ナカニシヤ出版
出版年:　2006　　ISBN:

a90203e810

成績評価

試験・レポート（ 30% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50% ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**発達臨床心理学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮井　研治	

テーマ

人間の生にまつわるありとあらゆる事象を扱うことが可能な学問だと考えられるが、ここでは「児童福祉臨床」に関わることを中心に学ぶ。

授業の到達目標

参加する学生のそれぞれの立場に即した目標を獲得できること。たとえば、将来福祉現場を目指す学生には、ガイド的な役割を得られることが目標であろうし、ある学生にとっては将来の自分の子育てに役立てられることが目標になるであろう。

授業の概要

パワーポイントを使った講義を中心に、グループワークやロールプレイを多く取り入れたい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

身近な社会的事象に敏感になっておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　人の発達　－　いくつかの理論を踏まえてーピアジェ、エリクソンなど。
第3回　家族の成長と変化、そしてシステム　－　ミニューチン、アドラーなど。
第4回　社会的養護　－　家族に代わるものとしての施設、里親の可能性と限界。
第5回　人の発達に潜む危機①　－　暴力としての児童虐待、DVなど。
第6回　人の発達に潜む危機②　－　社会の中ではやり言葉としての「発達障害」「愛着障害」などをとりあげる。
第7回　人の発達に潜む危機③　－　老いと発達
第8回　発達の場として「児童福祉施設」と、それと連携する「児童相談所」の成り立ちについて。
第9回　発達臨床を支えるアセスメントの方法のいくつか。
第10回　発達臨床に役立つ視点　－　メタポジション、システム論など　－
第11回　人の発達を知るための道具としての「発達検査・知能検査」
第12回　発達臨床をコミュニケーションの視点で考え、体験する。
第13回　「わたしの育てられ方、家族、私の将来の子育て、あるいは子どもはいらないこと」ついてのグループワーク。
第14回　発達相談の実際
第15回　まとめと確認

履修上の注意点

携帯の取り扱いは言わずもがな、他の受講生に迷惑をかけない、不快感を与えない。これだけです。

教科書

アセスメントの技とコツ
著者:　川畑隆編著
出版社:　明石書店
出版年:　2015年　　ISBN:

参考書

そだちと臨床vol.1～12
著者:　そだちと臨床編集委員会編
出版社:　明石書店
出版年:　2006年～20121年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 70% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 30% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**医療と生命の倫理 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鶴田　尚美	

テーマ

生命倫理学の基本的問題

授業の到達目標

1. 生命倫理の基礎的な知識を習得する。
2. 自分自身で倫理的問題について考える力を養う。

授業の概要

教科書は使用しない. 毎回レジュメを配布し、それに基づいて授業を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

生命倫理に関わる問題はしばしばニュースで報道されるので、日頃からそういった情報をチェックしておくこと。

内　　容

第1回　授業の概要説明、生命倫理学の成立
第2回　インフォームド・コンセント
第3回　医療情報
第4回　安楽死（1）
第5回　安楽死（2）
第6回　安楽死（3）
第7回　人工妊娠中絶（1）
第8回　人工妊娠中絶（2）
第9回　人工妊娠中絶（3）
第10回　生殖補助医療（1）
第11回　生殖補助医療（2）
第12回　出生前診断
第13回　脳死と臓器移植（1）
第14回　脳死と臓器移植（2）
第15回　授業のまとめと試験の説明
第16回　試験

履修上の注意点

私語は慎むこと。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

はじめて学ぶ生命倫理
著者:　小林亜津子
出版社:　筑摩書房
出版年:　2011　　ISBN:　978-4480688682

看護のための生命倫理
著者:　小林亜津子
出版社:　ナカニシヤ出版
出版年:　2010　　ISBN:　978-4779504792

成績評価

試験・レポート（ 100 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）

a90203f150

論述式の試験をおこなう。

2018 Syllabus

科 目 名　**医療と生命の倫理 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　児玉　正幸	

テーマ

生命と倫理
1.命をサポートする医療従事者に求められる倫理的決断力の涵養
2.先端生殖医療の進展に随伴する障がい者支援や社会保障に関わる生命倫理的配慮の養成
3.臨床医療現場の諸問題に対する批判的思考力の錬磨
4.自己見解を的確かつ簡潔に伝達する表現力の錬磨
5.医療従事者としての高い倫理観の習得

授業の到達目標

医療従事者を目指す学生たちに、将来医療現場で遭遇する「医療と生命倫理」のジレンマ（インフォームド・コンセントや医療職と患者との正しい関係等）を疑似体験させて、医学的・倫理的・法的・社会的観点から総合的に問題解決するための思考訓練を徹底させる。

授業の概要

現代社会の先端医療が「生命に対する社会的行動基準」を私たちに問いかけている。臨床医療現場の「医療と生命倫理」の諸問題について正面から向き合い、その解決策を探る。毎回パワーポイント・スライド（PPS）授業を行い、その内容に即して受講生と討議。全受講生参加型の討論授業。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日々のマスコミ情報の中から生命倫理に関する情報（新聞の切り抜きやインターネット情報など）を収集し、レポートの資料とすること。

内　容

第1回　授業ガイダンス（概要、目標、成績評価等）+生命と倫理 (1)：医学と倫理
第2回　生命と倫理（2）：新生命倫理学入門
第3回　生命と倫理（3）：生命倫理学入門
第4回　生命と倫理（4）：医事法学入門
第5回　生命と倫理（5）：生殖補助医療
第6回　生命と倫理（6）：性と倫理
第7回　生命と倫理（7）：日本医学と倫理
第8回　生命と倫理（8）：終末期医療を考える（1）
第9回　生命と倫理（9）：終末期医療を考える（2）
第10回 生命と倫理（10）：終末期医療（平穏死の権利）を考える（3）
第11回 生命と倫理（11）：東洋医学（代替医療）の基礎と倫理
第12回 生命と倫理（12）：終末期医療(ユマニチュード)を考える（4）
第13回 生命と倫理（13）：終末期医療(ユマニチュード)を考える（5）
第14回 生命と倫理（14）：終末期医療(ユマニチュード)を考える（6）
第15回 生命と倫理（15）：海外の代理出産を考える
第16回 定期試験

履修上の注意点

「生命と倫理」を巡る討論授業に参加して、問題解決のための自立的学習方法を習得しよう。

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

生命倫理学とは何か　新いのちの法律学　　大谷實　　悠々社　　2011　欧米に寝たきり老人はいない　　宮本顕二　　中央公論社　　2015

著者：　アラステア・V・キャンベル
出版社：勁草書房
出版年：2016　　ISBN：

a90203f152

新いのちの法律学

著者: 大谷實

出版社: 悠々社

出版年: 2011 ISBN:

欧米に寝たきり老人はいない

著者: 宮本顕二

出版社: 中央公論社

出版年: 2015 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 65% ） 小テスト（ 20% ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 15% ）

小テストと小論文試験をそれぞれ実施する。

2018 Syllabus

科 目 名　**精神医学Ⅰ**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　川岸　久也	

テーマ

精神疾患の症状を理解するための各種用語をまず学び、その上で精神疾患の概要と基本的な対応法、関連する法律について理解します。

授業の到達目標

最初に総論として精神医学の歴史と現状の概略について学びます。その後各論として、様々な精神疾患について、成因、診断、治療法について学びます。その中で、入院治療を行う上で必要な法律についても理解します。本人や家族への支援について最新の知見と、当事者の視点も入れながら理解を深めます。将来、資格試験を受験することを予定している学生にも、現場での勤務を検討している学生にも対応できるような授業の内容になっている。

授業の概要

講義形式で進めます。呈示スライドを講義資料として毎回配布します。総論では、精神医学の歴史ならび用語を症例を通して説明し、各論では代表的な疾患について説明します。授業では、講義毎に適宜レポートを出題します。授業中の活発な発言を期待します。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

特に予習は必要としないが、授業後、専門用語の理解に努めてください。

内　容

第1回　オリエンテーション、 精神医学、精神医療の歴史
第2回　精神症候学Ⅰ（意識、知覚、思考、感情）～症例から学ぶ～
第3回　精神症候学Ⅱ（記憶、知能、意欲、自我意識）～症例から学ぶ～
第4回　代表的な疾患について1　症状性を含む器質性精神障害（認知症）
第5回　代表的な疾患について2　精神作用物質使用による精神および行動の障害
第6回　代表的な疾患について3　統合失調症、統合失調症型および妄想性障害
第7回　代表的な疾患について5　気分障害　うつ病、双極性障害
第8回　代表的な疾患について8　神経症性障害、ストレス関連障害
第9回　代表的な疾患について9　　解離性障害、身体表現性障害
第10回 代表的な疾患について10　パーソナリティ障害、摂食障害
第11回 代表的な疾患について12　　発達障害（総論と知的障害、学習障害）
第12回 代表的な疾患について13　　発達障害（自閉症スペクトラム）
第13回 代表的な疾患について15　　発達障害（注意欠陥多動性障害）
第14回 病院精神医療の実際　　歴史と現状、司法精神医学、精神保健福祉法（入院形態、行動制限）
第15回 精神科治療学　薬物療法・精神療法・心理療法

履修上の注意点

授業中、資料を配布します。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

新・精神保健福祉士養成講座　精神疾患とその治療第2版
著者:　日本精神保健福祉士養成校協会編
出版社:　中央法規
出版年:　2016　　ISBN:　9784805853122

成績評価

試験・レポート（ 60 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理的援助論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　濱田　智崇	

テーマ

「表現」を通じて心理的援助とは何かを考える

授業の到達目標

心理的援助における「表現」を取り扱う。ここで言う「表現」には言語による表現も、描画や箱庭、遊戯療法の遊びといったものも含まれるが、そうした「表現」に援助者としてどう向きあうのかを考えていく。他者の内面を理解しようとすることは、自ずと自分自身の内面と向きあうことにもなる。そうした姿勢の中から体験的に気づきを得ることを目標とする。

授業の概要

この授業では主に風景構成法と箱庭療法、遊戯療法に関して取り上げる。まずそれぞれの技法の成り立ちや特徴を解説し、その後、実際に描いたり、作成したりするワークを行う。実際に自分が表現してみること、そしてそれを自分で分析してみることで学びを深めていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実習・ワークの前に、講義の内容をよく理解しておかないと、せっかくの実習・ワークの体験を活かすことができなかったり、他の受講者に迷惑をかけたりしますので、よく理解しておいてください。

内　容

第1回　オリエンテーション～心理的援助と表現
第2回　心理療法における象徴的イメージとは
第3回　箱庭療法とは
第4回　箱庭を使ったワーク（1）
第5回　箱庭を使ったワーク（2）
第6回　箱庭療法の事例から学ぶ（1）
第7回　箱庭療法の事例から学ぶ（2）
第8回　心理療法における描画法
第9回　風景構成法とは
第10回　風景構成法の体験（1）
第11回　風景構成法の体験（2）
第12回　遊戯療法とは
第13回　遊戯療法の実際
第14回　遊戯療法の事例から学ぶ
第15回　まとめ～改めて心理的援助とは

履修上の注意点

講義の回に出席できていない（実習やワークに必要なことを理解できていない）場合、その後の実習やワークの回の受講を制限せざるを得ないこともありますので、気をつけてください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

風景構成法―その基礎と実践

著者:　皆藤章

出版社:　誠信書房

出版年:　1994　　ISBN:　978-4414401691

遊戯療法の実際

著者:　河合隼雄

出版社:　誠信書房

出版年:　2005　　ISBN:　978-4414400212

a90203f610

箱庭療法の事例と展開

著者: 岡田康伸(編)
出版社: 創元社
出版年: 2007 ISBN: 978-4422113647

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）
授業中課題（ 40% ） 授業中発表等（ 30% ）
参加度（ 30% ）
主に授業中のミニレポート作成により評価します。

2018 Syllabus

科 目 名　**社会心理学実験演習 I**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　前田　洋光	

テーマ

グループで決定した研究テーマについて、実証研究を実施する。

授業の到達目標

本講では、受講生をいくつかのグループに分け、グループ研究を実施していく。具体的には、グループごとで研究テーマを決定し、文献を講読し、研究仮説を構築する。その後、調査によって収集されたデータを分析し、レポートにまとめる。こうした一連の研究プロセスを直接体験することによって、卒業研究で活用すべきスキルを習得していく。

授業の概要

社会心理学分野における実証研究を共同でおこなう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で作業が完了しない場合、授業時間外でもグループで議論する必要がある。

内　　容

第1回　オリエンテーション（グループの決定）?
第2回　研究テーマの決定と文献検索の方法?
第3回　文献講読?
第4回　仮説の設定?
第5回　質問項目の設計?
第6回　質問紙の設計?
第7回　調査準備（印刷）?
第8回　調査の実施?
第9回　データ入力?
第10回　データ分析（基礎集計）?
第11回　データ分析（仮説の検討）?
第12回　データ分析（発展的検討）?
第13回　レポートのまとめ方?
第14回　結果のまとめと考察?
第15回　プレゼンテーション?

履修上の注意点

グループ作業が中心のため、遅刻・欠席は厳禁である。
フリーライダーに対しても厳正に評価をおこなう。

教科書

参考書

適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**精神医学**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　川岸　久也	

テーマ

精神疾患の症状を理解するための各種用語をまず学び、その上で精神疾患の概要と基本的な対応法、関連する法律について理解します。

授業の到達目標

最初に総論として精神医学の歴史と現状の概略について学びます。その後各論として、様々な精神疾患について、成因、診断、治療法について学びます。その中で、入院治療を行う上で必要な法律についても理解します。本人や家族への支援について最新の知見と、当事者の視点も入れながら理解を深めます。将来、資格試験を受験することを予定している学生にも、現場での勤務を検討している学生にも対応できるような授業の内容になっている。

授業の概要

講義形式で進めます。呈示スライドを講義資料として毎回配布します。総論では、精神医学の歴史ならび用語を症例を通して説明し、各論では代表的な疾患について説明します。授業では、講義毎に適宜レポートを出題します。授業中の活発な発言を期待します。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

特に予習は必要としないが、授業後、専門用語の理解に努めてください。

内　容

第1回　オリエンテーション、 精神医学、精神医療の歴史
第2回　精神症候学Ⅰ（意識、知覚、思考、感情）～症例から学ぶ～
第3回　精神症候学Ⅱ（記憶、知能、意欲、自我意識）～症例から学ぶ～
第4回　代表的な疾患について1　症状性を含む器質性精神障害（認知症）
第5回　代表的な疾患について2　精神作用物質使用による精神および行動の障害
第6回　代表的な疾患について3　統合失調症、統合失調症型および妄想性障害
第7回　代表的な疾患について5　気分障害　うつ病、双極性障害
第8回　代表的な疾患について8　神経症性障害、ストレス関連障害
第9回　代表的な疾患について9　　解離性障害、身体表現性障害
第10回 代表的な疾患について10　パーソナリティ障害、摂食障害
第11回 代表的な疾患について12　　発達障害（総論と知的障害、学習障害）
第12回 代表的な疾患について13　　発達障害（自閉症スペクトラム）
第13回 代表的な疾患について15　　発達障害（注意欠陥多動性障害）
第14回 病院精神医療の実際　　歴史と現状、司法精神医学、精神保健福祉法（入院形態、行動制限）
第15回 精神科治療学　薬物療法・精神療法・心理療法

履修上の注意点

授業中、資料を配布します。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

新・精神保健福祉士養成講座　精神疾患とその治療第2版
著者:　日本精神保健福祉士養成校協会編
出版社:　中央法規
出版年:　2016　　ISBN:　9784805853122

成績評価

試験・レポート（ 60 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**異常心理学**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中川　明仁	

テーマ

主に臨床心理学の知識に基づきながら異常心理学に関する知識を概観する

授業の到達目標

①心理学領域における「異常」という言葉の正確な理解
②心理学領域における「異常心理学」の位置づけの理解
③異常心理学の知識に基づいた種々の疾患の理解

授業の概要

本講義では「異常心理学」についての基礎的な知識とそれに基づいた種々の疾患についての解説を行う

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前学習は特に必要はないが、これまでに学んできた心理学に関する知識（特に臨床心理学領域）を復習しておく。毎回の授業の最初に前回の授業の復習の時間を設ける。

内　　容

第1回　オリエンテーション
　　異常心理学とは何か
第2回　異常心理学の歴史
第3回　正常と異常を分ける基準（1）
第4回　正常と異常を分ける基準（2）
第5回　不安に関連した障がい（1）
　　全般性不安障がい
第6回　不安に関連した障がい（2）
　　パニック障がいと強迫性障がい
第7回　不安に関連した障がい（3）
　　心的外傷後ストレス障がい
第8回　発達過程に関連した障がい（1）
　　知的障がいと学習障がい
第9回　発達過程に関連した障がい（2）
　　広汎性発達障がいとADHD
第10回　抑うつに関連した障がい
第11回　統合失調症
第12回　人格の障がいと人格理論（1）
　　種々の人格理論
第13回　人格の障がいと人格理論（2）
　　境界性人格障がい
第14回　人格の障がいと人格理論（3）
　　その他の人格障がい
第15回　授業の振り返りと試験

履修上の注意点

・臨床心理学領域をはじめ、これまで学んできた知識を復習しておく
・遅刻3回で1回の欠席とみなす
・2/3以上の出席がない場合は、試験を受けることを認めない

教科書

参考書

講座 臨床心理学〈3〉異常心理学(1)
著者:　下山 晴彦 ・丹野 義彦
出版社: 東京大学出版会
出版年: 2002　　ISBN:

a90203f910

講座 臨床心理学〈4〉異常心理学(2)

著者: 下山 晴彦 ・丹野 義彦

出版社: 東京大学出版会

出版年: 2002 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 60 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 20 ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅰ（心）＜＊Na＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

心理学の様々な領域を学んだ経験をもとにして、卒業研究のテーマを模索する。数多くの文献に触れ、自己の追究したい内容を絞り込み、問題意識と研究の目的を明確にし、その研究方法を検討する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行う。研究テーマを決定し、研究方法を検討する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内　容

第1回　オリエンテーション；研究および研究倫理について
第2回　卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
第3回　文献の検索と収集①
第4回　文献の検索と収集②
第5回　文献の要約の発表と討論①
第6回　文献の要約の発表と討論②
第7回　文献の要約の発表と討論③
第8回　文献の要約の発表と討論④
第9回　文献の要約の発表と討論⑤
第10回　文献の要約の発表と討論⑥
第11回　研究テーマの決定と研究法の検討①
第12回　研究テーマの決定と研究法の検討②
第13回　研究テーマの決定と研究法の検討③
第14回　研究テーマの決定と研究法の検討④
第15回　研究テーマの決定と研究法の検討⑤

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行いますが、自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40%）	授業中発表等（30%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅰ（心）＜＊Nb＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中西　龍一	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

心理学の様々な領域を学んだ経験をもとにして、卒業研究のテーマを模索する。数多くの文献に触れ、自己の追究したい内容を絞り込み、問題意識と研究の目的を明確にし、その研究方法を検討する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行う。研究テーマを決定し、研究方法を検討する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内　容

第1回　オリエンテーション；研究および研究倫理について
第2回　卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
第3回　文献の検索と収集①
第4回　文献の検索と収集②
第5回　文献の要約の発表と討論①
第6回　文献の要約の発表と討論②
第7回　文献の要約の発表と討論③
第8回　文献の要約の発表と討論④
第9回　文献の要約の発表と討論⑤
第10回　文献の要約の発表と討論⑥
第11回　研究テーマの決定と研究法の検討①
第12回　研究テーマの決定と研究法の検討②
第13回　研究テーマの決定と研究法の検討③
第14回　研究テーマの決定と研究法の検討④
第15回　研究テーマの決定と研究法の検討⑤

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行いますが、自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40%）	授業中発表等（30%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅰ（心）＜＊Nc＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　永野　光朗	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

心理学の様々な領域を学んだ経験をもとにして、卒業研究のテーマを模索する。数多くの文献に触れ、自己の追究したい内容を絞り込み、問題意識と研究の目的を明確にし、その研究方法を検討する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行う。研究テーマを決定し、研究方法を検討する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内　容

第1回　オリエンテーション；研究および研究倫理について
第2回　卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
第3回　文献の検索と収集①
第4回　文献の検索と収集②
第5回　文献の要約の発表と討論①
第6回　文献の要約の発表と討論②
第7回　文献の要約の発表と討論③
第8回　文献の要約の発表と討論④
第9回　文献の要約の発表と討論⑤
第10回　文献の要約の発表と討論⑥
第11回　研究テーマの決定と研究法の検討①
第12回　研究テーマの決定と研究法の検討②
第13回　研究テーマの決定と研究法の検討③
第14回　研究テーマの決定と研究法の検討④
第15回　研究テーマの決定と研究法の検討⑤

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行いますが、自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40%）	授業中発表等（30%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅰ（心）＜＊Nd＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松下　幸治	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

心理学の様々な領域を学んだ経験をもとにして、卒業研究のテーマを模索する。数多くの文献に触れ、自己の追究したい内容を絞り込み、問題意識と研究の目的を明確にし、その研究方法を検討する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行う。研究テーマを決定し、研究方法を検討する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内　容

第1回　オリエンテーション；研究および研究倫理について
第2回　卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
第3回　文献の検索と収集①
第4回　文献の検索と収集②
第5回　文献の要約の発表と討論①
第6回　文献の要約の発表と討論②
第7回　文献の要約の発表と討論③
第8回　文献の要約の発表と討論④
第9回　文献の要約の発表と討論⑤
第10回　文献の要約の発表と討論⑥
第11回　研究テーマの決定と研究法の検討①
第12回　研究テーマの決定と研究法の検討②
第13回　研究テーマの決定と研究法の検討③
第14回　研究テーマの決定と研究法の検討④
第15回　研究テーマの決定と研究法の検討⑤

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行いますが、自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40%）	授業中発表等（30%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅰ（心）＜＊Ne＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮井　研治	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

心理学の様々な領域を学んだ経験をもとにして、卒業研究のテーマを模索する。数多くの文献に触れ、自己の追究したい内容を絞り込み、問題意識と研究の目的を明確にし、その研究方法を検討する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行う。研究テーマを決定し、研究方法を検討する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内　容

第1回　オリエンテーション；研究および研究倫理について
第2回　卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
第3回　文献の検索と収集①
第4回　文献の検索と収集②
第5回　文献の要約の発表と討論①
第6回　文献の要約の発表と討論②
第7回　文献の要約の発表と討論③
第8回　文献の要約の発表と討論④
第9回　文献の要約の発表と討論⑤
第10回　文献の要約の発表と討論⑥
第11回　研究テーマの決定と研究法の検討①
第12回　研究テーマの決定と研究法の検討②
第13回　研究テーマの決定と研究法の検討③
第14回　研究テーマの決定と研究法の検討④
第15回　研究テーマの決定と研究法の検討⑤

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行いますが、自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40%）	授業中発表等（30%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅰ（心）＜＊Nf＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　上北　朋子	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

心理学の様々な領域を学んだ経験をもとにして、卒業研究のテーマを模索する。数多くの文献に触れ、自己の追究したい内容を絞り込み、問題意識と研究の目的を明確にし、その研究方法を検討する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行う。研究テーマを決定し、研究方法を検討する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内　容

第5回　文献の要約の発表と討論①
第6回　文献の要約の発表と討論②
第7回　文献の要約の発表と討論③
第8回　文献の要約の発表と討論④
第9回　文献の要約の発表と討論⑤
第10回 文献の要約の発表と討論⑥
第11回 研究テーマの決定と研究法の検討①
第12回 研究テーマの決定と研究法の検討②
第13回 研究テーマの決定と研究法の検討③
第14回 研究テーマの決定と研究法の検討④
第15回 研究テーマの決定と研究法の検討⑤
第1回　オリエンテーション；研究および研究倫理について
第2回　卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
第3回　文献の検索と収集①
第4回　文献の検索と収集②

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行いますが、自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40%）	授業中発表等（30%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅰ（心）＜＊Ng＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　大久保　千恵	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

心理学の様々な領域を学んだ経験をもとにして、卒業研究のテーマを模索する。数多くの文献に触れ、自己の追究したい内容を絞り込み、問題意識と研究の目的を明確にし、その研究方法を検討する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行う。研究テーマを決定し、研究方法を検討する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内　容

第1回　オリエンテーション；研究および研究倫理について
第2回　卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
第3回　文献の検索と収集①
第4回　文献の検索と収集②
第5回　文献の要約の発表と討論①
第6回　文献の要約の発表と討論②
第7回　文献の要約の発表と討論③
第8回　文献の要約の発表と討論④
第9回　文献の要約の発表と討論⑤
第10回　文献の要約の発表と討論⑥
第11回　研究テーマの決定と研究法の検討①
第12回　研究テーマの決定と研究法の検討②
第13回　研究テーマの決定と研究法の検討③
第14回　研究テーマの決定と研究法の検討④
第15回　研究テーマの決定と研究法の検討⑤

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行いますが、自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40%）	授業中発表等（30%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅰ（心）＜＊Nh＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　ジェイムス　朋子	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

心理学の様々な領域を学んだ経験をもとにして、卒業研究のテーマを模索する。数多くの文献に触れ、自己の追究したい内容を絞り込み、問題意識と研究の目的を明確にし、その研究方法を検討する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行う。研究テーマを決定し、研究方法を検討する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内　　容

第1回　オリエンテーション；研究および研究倫理について
第2回　卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
第3回　文献の検索と収集①
第4回　文献の検索と収集②
第5回　文献の要約の発表と討論①
第6回　文献の要約の発表と討論②
第7回　文献の要約の発表と討論③
第8回　文献の要約の発表と討論④
第9回　文献の要約の発表と討論⑤
第10回　文献の要約の発表と討論⑥
第11回　研究テーマの決定と研究法の検討①
第12回　研究テーマの決定と研究法の検討②
第13回　研究テーマの決定と研究法の検討③
第14回　研究テーマの決定と研究法の検討④
第15回　研究テーマの決定と研究法の検討⑤

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行いますが、自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40%）	授業中発表等（30%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅰ（心）＜＊Ni＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田中　芳幸	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

心理学の様々な領域を学んだ経験をもとにして、卒業研究のテーマを模索する。数多くの文献に触れ、自己の追究したい内容を絞り込み、問題意識と研究の目的を明確にし、その研究方法を検討する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行う。研究テーマを決定し、研究方法を検討する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内　容

第1回　オリエンテーション；研究および研究倫理について
第2回　卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
第3回　文献の検索と収集①
第4回　文献の検索と収集②
第5回　文献の要約の発表と討論①
第6回　文献の要約の発表と討論②
第7回　文献の要約の発表と討論③
第8回　文献の要約の発表と討論④
第9回　文献の要約の発表と討論⑤
第10回　文献の要約の発表と討論⑥
第11回　研究テーマの決定と研究法の検討①
第12回　研究テーマの決定と研究法の検討②
第13回　研究テーマの決定と研究法の検討③
第14回　研究テーマの決定と研究法の検討④
第15回　研究テーマの決定と研究法の検討⑤

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行いますが、自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40%）	授業中発表等（30%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅰ（心）<＊Nj>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　濱田　智崇	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

心理学の様々な領域を学んだ経験をもとにして、卒業研究のテーマを模索する。数多くの文献に触れ、自己の追究したい内容を絞り込み、問題意識と研究の目的を明確にし、その研究方法を検討する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行う。研究テーマを決定し、研究方法を検討する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内　容

第1回　オリエンテーション；研究および研究倫理について
第2回　卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
第3回　文献の検索と収集①
第4回　文献の検索と収集②
第5回　文献の要約の発表と討論①
第6回　文献の要約の発表と討論②
第7回　文献の要約の発表と討論③
第8回　文献の要約の発表と討論④
第9回　文献の要約の発表と討論⑤
第10回　文献の要約の発表と討論⑥
第11回　研究テーマの決定と研究法の検討①
第12回　研究テーマの決定と研究法の検討②
第13回　研究テーマの決定と研究法の検討③
第14回　研究テーマの決定と研究法の検討④
第15回　研究テーマの決定と研究法の検討⑤

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行いますが、自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40%）	授業中発表等（30%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅰ（心）＜＊Nk＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　前田　洋光	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

心理学の様々な領域を学んだ経験をもとにして、卒業研究のテーマを模索する。数多くの文献に触れ、自己の追究したい内容を絞り込み、問題意識と研究の目的を明確にし、その研究方法を検討する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行う。研究テーマを決定し、研究方法を検討する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内　容

第1回　オリエンテーション；研究および研究倫理について
第2回　卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
第3回　文献の検索と収集①
第4回　文献の検索と収集②
第5回　文献の要約の発表と討論①
第6回　文献の要約の発表と討論②
第7回　文献の要約の発表と討論③
第8回　文献の要約の発表と討論④
第9回　文献の要約の発表と討論⑤
第10回　文献の要約の発表と討論⑥
第11回　研究テーマの決定と研究法の検討①
第12回　研究テーマの決定と研究法の検討②
第13回　研究テーマの決定と研究法の検討③
第14回　研究テーマの決定と研究法の検討④
第15回　研究テーマの決定と研究法の検討⑤

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行いますが、自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40%）	授業中発表等（30%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ（心）＜＊Na＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰにおいて明確にした研究目的と検討した研究方法を基軸に、研究論文を作成する上での研究計画を立案する。研究目的に内包される仮説の構築と仮説を明らかにするための計画を考案する。

授業の概要

各受講生の設定したテーマについて、研究目的、研究の方法を含めた研究計画を検討する。研究データや研究の収集の準備をする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業時間以外に、自己の研究に関連する論文の収集と精読を行うこと。授業でそれらを発表し、その内容については適宜指導する。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　研究計画の発表と討論①
第3回　研究計画の発表と討論②
第4回　研究計画の発表と討論③
第5回　研究計画の発表と討論④
第6回　研究計画の発表と討論⑤
第7回　研究計画の発表と討論⑥
第8回　研究計画の発表と討論⑦
第9回　研究計画の発表と討論⑧
第10回　データ収集についての指導①
第11回　データ収集についての指導②
第12回　データ収集についての指導③
第13回　データ収集のための準備①
第14回　データ収集のための準備②
第15回　データ収集のための準備③

履修上の注意点

研究テーマと関連する文献を熟読し、研究の目的と研究計画について深く考え吟味すること。また、他のゼミ生の研究計画にも興味を持ち、研究目的を明らかにするための研究方法、研究計画について積極的に議論すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40%）	授業中発表等（30%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ（心）＜＊Nb＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中西　龍一	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰにおいて明確にした研究目的と検討した研究方法を基軸に、研究論文を作成する上での研究計画を立案する。研究目的に内包される仮説の構築と仮説を明らかにするための計画を考案する。

授業の概要

各受講生の設定したテーマについて、研究目的、研究の方法を含めた研究計画を検討する。研究データや研究の収集の準備をする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業時間以外に、自己の研究に関連する論文の収集と精読を行うこと。授業でそれらを発表し、その内容については適宜指導する。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　研究計画の発表と討論①
第3回　研究計画の発表と討論②
第4回　研究計画の発表と討論③
第5回　研究計画の発表と討論④
第6回　研究計画の発表と討論⑤
第7回　研究計画の発表と討論⑥
第8回　研究計画の発表と討論⑦
第9回　研究計画の発表と討論⑧
第10回　データ収集についての指導①
第11回　データ収集についての指導②
第12回　データ収集についての指導③
第13回　データ収集のための準備①
第14回　データ収集のための準備②
第15回　データ収集のための準備③

履修上の注意点

研究テーマと関連する文献を熟読し、研究の目的と研究計画について深く考え吟味すること。また、他のゼミ生の研究計画にも興味を持ち、研究目的を明らかにするための研究方法、研究計画について積極的に議論すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40%）	授業中発表等（30%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ（心）＜＊Nc＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　永野　光朗	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰにおいて明確にした研究目的と検討した研究方法を基軸に、研究論文を作成する上での研究計画を立案する。研究目的に内包される仮説の構築と仮説を明らかにするための計画を考案する。

授業の概要

各受講生の設定したテーマについて、研究目的、研究の方法を含めた研究計画を検討する。研究データや研究の収集の準備をする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業時間以外に、自己の研究に関連する論文の収集と精読を行うこと。授業でそれらを発表し、その内容については適宜指導する。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　研究計画の発表と討論①
第3回　研究計画の発表と討論②
第4回　研究計画の発表と討論③
第5回　研究計画の発表と討論④
第6回　研究計画の発表と討論⑤
第7回　研究計画の発表と討論⑥
第8回　研究計画の発表と討論⑦
第9回　研究計画の発表と討論⑧
第10回　データ収集についての指導①
第11回　データ収集についての指導②
第12回　データ収集についての指導③
第13回　データ収集のための準備①
第14回　データ収集のための準備②
第15回　データ収集のための準備③

履修上の注意点

研究テーマと関連する文献を熟読し、研究の目的と研究計画について深く考え吟味すること。また、他のゼミ生の研究計画にも興味を持ち、研究目的を明らかにするための研究方法、研究計画について積極的に議論すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40%）	授業中発表等（30%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ（心）＜＊Nd＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松下　幸治	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰにおいて明確にした研究目的と検討した研究方法を基軸に、研究論文を作成する上での研究計画を立案する。研究目的に内包される仮説の構築と仮説を明らかにするための計画を考案する。

授業の概要

各受講生の設定したテーマについて、研究目的、研究の方法を含めた研究計画を検討する。研究データや研究の収集の準備をする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業時間以外に、自己の研究に関連する論文の収集と精読を行うこと。授業でそれらを発表し、その内容については適宜指導する。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　研究計画の発表と討論①
第3回　研究計画の発表と討論②
第4回　研究計画の発表と討論③
第5回　研究計画の発表と討論④
第6回　研究計画の発表と討論⑤
第7回　研究計画の発表と討論⑥
第8回　研究計画の発表と討論⑦
第9回　研究計画の発表と討論⑧
第10回　データ収集についての指導①
第11回　データ収集についての指導②
第12回　データ収集についての指導③
第13回　データ収集のための準備①
第14回　データ収集のための準備②
第15回　データ収集のための準備③

履修上の注意点

研究テーマと関連する文献を熟読し、研究の目的と研究計画について深く考え吟味すること。また、他のゼミ生の研究計画にも興味を持ち、研究目的を明らかにするための研究方法、研究計画について積極的に議論すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40%）	授業中発表等（30%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ（心）＜＊Ne＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮井　研治	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰにおいて明確にした研究目的と検討した研究方法を基軸に、研究論文を作成する上での研究計画を立案する。研究目的に内包される仮説の構築と仮説を明らかにするための計画を考案する。

授業の概要

各受講生の設定したテーマについて、研究目的、研究の方法を含めた研究計画を検討する。研究データや研究の収集の準備をする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業時間以外に、自己の研究に関連する論文の収集と精読を行うこと。授業でそれらを発表し、その内容については適宜指導する。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　研究計画の発表と討論①
第3回　研究計画の発表と討論②
第4回　研究計画の発表と討論③
第5回　研究計画の発表と討論④
第6回　研究計画の発表と討論⑤
第7回　研究計画の発表と討論⑥
第8回　研究計画の発表と討論⑦
第9回　研究計画の発表と討論⑧
第10回　データ収集についての指導①
第11回　データ収集についての指導②
第12回　データ収集についての指導③
第13回　データ収集のための準備①
第14回　データ収集のための準備②
第15回　データ収集のための準備③

履修上の注意点

研究テーマと関連する文献を熟読し、研究の目的と研究計画について深く考え吟味すること。また、他のゼミ生の研究計画にも興味を持ち、研究目的を明らかにするための研究方法、研究計画について積極的に議論すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40%）	授業中発表等（30%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ（心）＜＊Nf＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　上北　朋子	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰにおいて明確にした研究目的と検討した研究方法を基軸に、研究論文を作成する上での研究計画を立案する。研究目的に内包される仮説の構築と仮説を明らかにするための計画を考案する。

授業の概要

各受講生の設定したテーマについて、研究目的、研究の方法を含めた研究計画を検討する。研究データや研究の収集の準備をする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業時間以外に、自己の研究に関連する論文の収集と精読を行うこと。授業でそれらを発表し、その内容については適宜指導する。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　研究計画の発表と討論①
第3回　研究計画の発表と討論②
第4回　研究計画の発表と討論③
第5回　研究計画の発表と討論④
第6回　研究計画の発表と討論⑤
第7回　研究計画の発表と討論⑥
第8回　研究計画の発表と討論⑦
第9回　研究計画の発表と討論⑧
第10回　データ収集についての指導①
第11回　データ収集についての指導②
第12回　データ収集についての指導③
第13回　データ収集のための準備①
第14回　データ収集のための準備②
第15回　データ収集のための準備③

履修上の注意点

研究テーマと関連する文献を熟読し、研究の目的と研究計画について深く考え吟味すること。また、他のゼミ生の研究計画にも興味を持ち、研究目的を明らかにするための研究方法、研究計画について積極的に議論すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40%）	授業中発表等（30%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ（心）＜＊Ng＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　大久保　千恵	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰにおいて明確にした研究目的と検討した研究方法を基軸に、研究論文を作成する上での研究計画を立案する。研究目的に内包される仮説の構築と仮説を明らかにするための計画を考案する。

授業の概要

各受講生の設定したテーマについて、研究目的、研究の方法を含めた研究計画を検討する。研究データや研究の収集の準備をする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業時間以外に、自己の研究に関連する論文の収集と精読を行うこと。授業でそれらを発表し、その内容については適宜指導する。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　研究計画の発表と討論①
第3回　研究計画の発表と討論②
第4回　研究計画の発表と討論③
第5回　研究計画の発表と討論④
第6回　研究計画の発表と討論⑤
第7回　研究計画の発表と討論⑥
第8回　研究計画の発表と討論⑦
第9回　研究計画の発表と討論⑧
第10回　データ収集についての指導①
第11回　データ収集についての指導②
第12回　データ収集についての指導③
第13回　データ収集のための準備①
第14回　データ収集のための準備②
第15回　データ収集のための準備③

履修上の注意点

研究テーマと関連する文献を熟読し、研究の目的と研究計画について深く考え吟味すること。また、他のゼミ生の研究計画にも興味を持ち、研究目的を明らかにするための研究方法、研究計画について積極的に議論すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40%）	授業中発表等（30%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ（心）＜＊Nh＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　ジェイムス　朋子	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰにおいて明確にした研究目的と検討した研究方法を基軸に、研究論文を作成する上での研究計画を立案する。研究目的に内包される仮説の構築と仮説を明らかにするための計画を考案する。

授業の概要

各受講生の設定したテーマについて、研究目的、研究の方法を含めた研究計画を検討する。研究データや研究の収集の準備をする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業時間以外に、自己の研究に関連する論文の収集と精読を行うこと。授業でそれらを発表し、その内容については適宜指導する。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　研究計画の発表と討論①
第3回　研究計画の発表と討論②
第4回　研究計画の発表と討論③
第5回　研究計画の発表と討論④
第6回　研究計画の発表と討論⑤
第7回　研究計画の発表と討論⑥
第8回　研究計画の発表と討論⑦
第9回　研究計画の発表と討論⑧
第10回　データ収集についての指導①
第11回　データ収集についての指導②
第12回　データ収集についての指導③
第13回　データ収集のための準備①
第14回　データ収集のための準備②
第15回　データ収集のための準備③

履修上の注意点

研究テーマと関連する文献を熟読し、研究の目的と研究計画について深く考え吟味すること。また、他のゼミ生の研究計画にも興味を持ち、研究目的を明らかにするための研究方法、研究計画について積極的に議論すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40%）	授業中発表等（30%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ（心）＜＊Ni＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田中　芳幸	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰにおいて明確にした研究目的と検討した研究方法を基軸に、研究論文を作成する上での研究計画を立案する。研究目的に内包される仮説の構築と仮説を明らかにするための計画を考案する。

授業の概要

各受講生の設定したテーマについて、研究目的、研究の方法を含めた研究計画を検討する。研究データや研究の収集の準備をする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業時間以外に、自己の研究に関連する論文の収集と精読を行うこと。授業でそれらを発表し、その内容については適宜指導する。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　研究計画の発表と討論①
第3回　研究計画の発表と討論②
第4回　研究計画の発表と討論③
第5回　研究計画の発表と討論④
第6回　研究計画の発表と討論⑤
第7回　研究計画の発表と討論⑥
第8回　研究計画の発表と討論⑦
第9回　研究計画の発表と討論⑧
第10回　データ収集についての指導①
第11回　データ収集についての指導②
第12回　データ収集についての指導③
第13回　データ収集のための準備①
第14回　データ収集のための準備②
第15回　データ収集のための準備③

履修上の注意点

研究テーマと関連する文献を熟読し、研究の目的と研究計画について深く考え吟味すること。また、他のゼミ生の研究計画にも興味を持ち、研究目的を明らかにするための研究方法、研究計画について積極的に議論すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40%）	授業中発表等（30%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ（心）＜＊Nj＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　濱田　智崇	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰにおいて明確にした研究目的と検討した研究方法を基軸に、研究論文を作成する上での研究計画を立案する。研究目的に内包される仮説の構築と仮説を明らかにするための計画を考案する。

授業の概要

各受講生の設定したテーマについて、研究目的、研究の方法を含めた研究計画を検討する。研究データや研究の収集の準備をする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業時間以外に、自己の研究に関連する論文の収集と精読を行うこと。授業でそれらを発表し、その内容については適宜指導する。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　研究計画の発表と討論①
第3回　研究計画の発表と討論②
第4回　研究計画の発表と討論③
第5回　研究計画の発表と討論④
第6回　研究計画の発表と討論⑤
第7回　研究計画の発表と討論⑥
第8回　研究計画の発表と討論⑦
第9回　研究計画の発表と討論⑧
第10回　データ収集についての指導①
第11回　データ収集についての指導②
第12回　データ収集についての指導③
第13回　データ収集のための準備①
第14回　データ収集のための準備②
第15回　データ収集のための準備③

履修上の注意点

研究テーマと関連する文献を熟読し、研究の目的と研究計画について深く考え吟味すること。また、他のゼミ生の研究計画にも興味を持ち、研究目的を明らかにするための研究方法、研究計画について積極的に議論すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40%）	授業中発表等（30%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ（心）＜＊Nk＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　前田　洋光	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰにおいて明確にした研究目的と検討した研究方法を基軸に、研究論文を作成する上での研究計画を立案する。研究目的に内包される仮説の構築と仮説を明らかにするための計画を考案する。

授業の概要

各受講生の設定したテーマについて、研究目的、研究の方法を含めた研究計画を検討する。研究データや研究の収集の準備をする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業時間以外に、自己の研究に関連する論文の収集と精読を行うこと。授業でそれらを発表し、その内容については適宜指導する。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　研究計画の発表と討論①
第3回　研究計画の発表と討論②
第4回　研究計画の発表と討論③
第5回　研究計画の発表と討論④
第6回　研究計画の発表と討論⑤
第7回　研究計画の発表と討論⑥
第8回　研究計画の発表と討論⑦
第9回　研究計画の発表と討論⑧
第10回　データ収集についての指導①
第11回　データ収集についての指導②
第12回　データ収集についての指導③
第13回　データ収集のための準備①
第14回　データ収集のための準備②
第15回　データ収集のための準備③

履修上の注意点

研究テーマと関連する文献を熟読し、研究の目的と研究計画について深く考え吟味すること。また、他のゼミ生の研究計画にも興味を持ち、研究目的を明らかにするための研究方法、研究計画について積極的に議論すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40%）	授業中発表等（30%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**社会心理学実験演習Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　前田　洋光	

テーマ

グループで決定した研究テーマについて、実証研究を実施する。

授業の到達目標

本講では、受講生をいくつかのグループに分け、グループ研究を実施していく。具体的には、グループごとで研究テーマを決定し、文献を講読し、研究仮説を構築する。その後、調査によって収集されたデータを分析し、レポートにまとめる。こうした一連の研究プロセスを直接体験することによって、卒業研究で活用すべきスキルを習得していく。

授業の概要

社会心理学分野における実証研究を共同でおこなう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で作業が完了しない場合、授業時間外でもグループで議論する必要がある。

内　　容

第1回　オリエンテーション（グループの決定）?
第2回　研究テーマの決定と文献検索の方法?
第3回　文献講読?
第4回　仮説の設定?
第5回　質問項目の設計?
第6回　質問紙の設計?
第7回　調査準備（印刷）?
第8回　調査の実施?
第9回　データ入力?
第10回　データ分析（基礎集計）?
第11回　データ分析（仮説の検討）?
第12回　データ分析（発展的検討）?
第13回　レポートのまとめ方?
第14回　結果のまとめと考察?
第15回　プレゼンテーション?

履修上の注意点

グループ作業が中心のため、遅刻・欠席は厳禁である。
フリーライダーに対しても厳正に評価をおこなう。

教科書

参考書

適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ（心）＜＊a＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

文献の読み込みや実験計画については宿題となる場合もある。授業でそれらを発表し、その内容については適宜指導する。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　データ収集についての指導①
第3回　データ収集についての指導②
第4回　データ処理①
第5回　データ処理②
第6回　データ処理③
第7回　データの分析①
第8回　データの分析②
第9回　データの分析③
第10回　データの分析④
第11回　分析結果の検討①
第12回　分析結果の検討②
第13回　データの再分析
第14回　結果の発表と討論①
第15回　結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報が守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に充分に留意すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40% ）	授業中発表等（ 30% ）
参加度（ 30% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ（心）＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　日比野　英子	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

文献の読み込みや実験計画については宿題となる場合もある。授業でそれらを発表し、その内容については適宜指導する。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　データ収集についての指導①
第3回　データ収集についての指導②
第4回　データ処理①
第5回　データ処理②
第6回　データ処理③
第7回　データの分析①
第8回　データの分析②
第9回　データの分析③
第10回　データの分析④
第11回　分析結果の検討①
第12回　分析結果の検討②
第13回　データの再分析
第14回　結果の発表と討論①
第15回　結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報が守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に充分に留意すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40%）	授業中発表等（30%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ（心）＜＊c＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　永野　光朗	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

文献の読み込みや実験計画については宿題となる場合もある。授業でそれらを発表し、その内容については適宜指導する。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　データ収集についての指導①
第3回　データ収集についての指導②
第4回　データ処理①
第5回　データ処理②
第6回　データ処理③
第7回　データの分析①
第8回　データの分析②
第9回　データの分析③
第10回　データの分析④
第11回　分析結果の検討①
第12回　分析結果の検討②
第13回　データの再分析
第14回　結果の発表と討論①
第15回　結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報が守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に充分に留意すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40%）	授業中発表等（30%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ（心）＜＊d＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中西　龍一	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

文献の読み込みや実験計画については宿題となる場合もある。授業でそれらを発表し、その内容については適宜指導する。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　データ収集についての指導①
第3回　データ収集についての指導②
第4回　データ処理①
第5回　データ処理②
第6回　データ処理③
第7回　データの分析①
第8回　データの分析②
第9回　データの分析③
第10回　データの分析④
第11回　分析結果の検討①
第12回　分析結果の検討②
第13回　データの再分析
第14回　結果の発表と討論①
第15回　結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報が守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に充分に留意すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40%）	授業中発表等（30%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ（心）＜＊e＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中村　和夫	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

文献の読み込みや実験計画については宿題となる場合もある。授業でそれらを発表し、その内容については適宜指導する。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　データ収集についての指導①
第3回　データ収集についての指導②
第4回　データ処理①
第5回　データ処理②
第6回　データ処理③
第7回　データの分析①
第8回　データの分析②
第9回　データの分析③
第10回　データの分析④
第11回　分析結果の検討①
第12回　分析結果の検討②
第13回　データの再分析
第14回　結果の発表と討論①
第15回　結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報が守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に充分に留意すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40% ）	授業中発表等（ 30% ）
参加度（ 30% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ（心）<＊f>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松下　幸治	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

文献の読み込みや実験計画については宿題となる場合もある。授業でそれらを発表し、その内容については適宜指導する。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　データ収集についての指導①
第3回　データ収集についての指導②
第4回　データ処理①
第5回　データ処理②
第6回　データ処理③
第7回　データの分析①
第8回　データの分析②
第9回　データの分析③
第10回　データの分析④
第11回　分析結果の検討①
第12回　分析結果の検討②
第13回　データの再分析
第14回　結果の発表と討論①
第15回　結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報が守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に充分に留意すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40% ）	授業中発表等（ 30% ）
参加度（ 30% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ（心）＜＊g＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　ジェイムス　朋子	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

文献の読み込みや実験計画については宿題となる場合もある。授業でそれらを発表し、その内容については適宜指導する。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　データ収集についての指導①
第3回　データ収集についての指導②
第4回　データ処理①
第5回　データ処理②
第6回　データ処理③
第7回　データの分析①
第8回　データの分析②
第9回　データの分析③
第10回　データの分析④
第11回　分析結果の検討①
第12回　分析結果の検討②
第13回　データの再分析
第14回　結果の発表と討論①
第15回　結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報が守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に充分に留意すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40% ）	授業中発表等（ 30% ）
参加度（ 30% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ（心）＜＊h＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　上北　朋子	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

文献の読み込みや実験計画については宿題となる場合もある。授業でそれらを発表し、その内容については適宜指導する。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　データ収集についての指導①
第3回　データ収集についての指導②
第4回　データ処理①
第5回　データ処理②
第6回　データ処理③
第7回　データの分析①
第8回　データの分析②
第9回　データの分析③
第10回　データの分析④
第11回　分析結果の検討①
第12回　分析結果の検討②
第13回　データの再分析
第14回　結果の発表と討論①
第15回　結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報が守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に充分に留意すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40% ）	授業中発表等（ 30% ）
参加度（ 30% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ（心）＜＊i＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田中　芳幸	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

文献の読み込みや実験計画については宿題となる場合もある。授業でそれらを発表し、その内容については適宜指導する。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　データ収集についての指導①
第3回　データ収集についての指導②
第4回　データ処理①
第5回　データ処理②
第6回　データ処理③
第7回　データの分析①
第8回　データの分析②
第9回　データの分析③
第10回　データの分析④
第11回　分析結果の検討①
第12回　分析結果の検討②
第13回　データの再分析
第14回　結果の発表と討論①
第15回　結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報が守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に充分に留意すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（40%）	授業中発表等（30%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ（心）<＊j>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　前田　洋光	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

文献の読み込みや実験計画については宿題となる場合もある。授業でそれらを発表し、その内容については適宜指導する。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　データ収集についての指導①
第3回　データ収集についての指導②
第4回　データ処理①
第5回　データ処理②
第6回　データ処理③
第7回　データの分析①
第8回　データの分析②
第9回　データの分析③
第10回　データの分析④
第11回　分析結果の検討①
第12回　分析結果の検討②
第13回　データの再分析
第14回　結果の発表と討論①
第15回　結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報が守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に充分に留意すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40% ）	授業中発表等（ 30% ）
参加度（ 30% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ（心）＜＊k＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　濱田　智崇	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

卒業研究Ⅰで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

文献の読み込みや実験計画については宿題となる場合もある。授業でそれらを発表し、その内容については適宜指導する。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　データ収集についての指導①
第3回　データ収集についての指導②
第4回　データ処理①
第5回　データ処理②
第6回　データ処理③
第7回　データの分析①
第8回　データの分析②
第9回　データの分析③
第10回　データの分析④
第11回　分析結果の検討①
第12回　分析結果の検討②
第13回　データの再分析
第14回　結果の発表と討論①
第15回　結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報が守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に充分に留意すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40% ）	授業中発表等（ 30% ）
参加度（ 30% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅲ（心）＜＊a＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的、〉(序論)、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり、議論を交わしたりして、その内容を深めていく。

内　容

第1回　データの分析結果に基づく考察①
第2回　データの分析結果に基づく考察②
第3回　卒業論文の構成
第4回　卒業論文の構成
第5回　〈方法〉の執筆指導
第6回　〈結果〉の執筆指導①
第7回　〈結果〉の執筆指導②
第8回　〈考察〉の執筆指導①
第9回　〈考察〉の執筆指導②
第10回　卒業論文完成
第11回　卒業論文提出
第12回　卒業論文要旨の提出
第13回　卒業研究発表準備①
第14回　卒業研究発表準備②
第15回　卒業研究発表会

履修上の注意点

データの収集をした後などに、いったんとりかかった卒業論文の作成を途中で投げ出さないこと。卒業論文の提出と発表までやり抜くこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 卒業論文70% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 10% ）　　授業中発表等（ 10% ）
参加度（ 10% ）
卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅲ（心）＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　日比野　英子	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的、〉(序論)、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり、議論を交わしたりして、その内容を深めていく。

内　容

第1回　データの分析結果に基づく考察①
第2回　データの分析結果に基づく考察②
第3回　卒業論文の構成
第4回　卒業論文の構成
第5回　〈方法〉の執筆指導
第6回　〈結果〉の執筆指導①
第7回　〈結果〉の執筆指導②
第8回　〈考察〉の執筆指導①
第9回　〈考察〉の執筆指導②
第10回　卒業論文完成
第11回　卒業論文提出
第12回　卒業論文要旨の提出
第13回　卒業研究発表準備①
第14回　卒業研究発表準備②
第15回　卒業研究発表会

履修上の注意点

データの収集をした後などに、いったんとりかかった卒業論文の作成を途中で投げ出さないこと。卒業論文の提出と発表までやり抜くこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 卒業論文70% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 10% ）	授業中発表等（ 10% ）
参加度（ 10% ）	

卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅲ（心）＜＊c＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　永野　光朗	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的、〉(序論)、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり、議論を交わしたりして、その内容を深めていく。

内　容

第1回　データの分析結果に基づく考察①
第2回　データの分析結果に基づく考察②
第3回　卒業論文の構成
第4回　卒業論文の構成
第5回　〈方法〉の執筆指導
第6回　〈結果〉の執筆指導①
第7回　〈結果〉の執筆指導②
第8回　〈考察〉の執筆指導①
第9回　〈考察〉の執筆指導②
第10回　卒業論文完成
第11回　卒業論文提出
第12回　卒業論文要旨の提出
第13回　卒業研究発表準備①
第14回　卒業研究発表準備②
第15回　卒業研究発表会

履修上の注意点

データの収集をした後などに、いったんとりかかった卒業論文の作成を途中で投げ出さないこと。卒業論文の提出と発表までやり抜くこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 卒業論文70% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 10% ）　　授業中発表等（ 10% ）
参加度（ 10% ）
卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅲ（心）＜＊d＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中西　龍一	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的、〉(序論)、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり、議論を交わしたりして、その内容を深めていく。

内　容

第1回　データの分析結果に基づく考察①
第2回　データの分析結果に基づく考察②
第3回　卒業論文の構成
第4回　卒業論文の構成
第5回　〈方法〉の執筆指導
第6回　〈結果〉の執筆指導①
第7回　〈結果〉の執筆指導②
第8回　〈考察〉の執筆指導①
第9回　〈考察〉の執筆指導②
第10回　卒業論文完成
第11回　卒業論文提出
第12回　卒業論文要旨の提出
第13回　卒業研究発表準備①
第14回　卒業研究発表準備②
第15回　卒業研究発表会

履修上の注意点

データの収集をした後などに、いったんとりかかった卒業論文の作成を途中で投げ出さないこと。卒業論文の提出と発表までやり抜くこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 卒業論文70% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 10% ）　　授業中発表等（ 10% ）
参加度（ 10% ）
卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅲ（心）＜＊e＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中村　和夫	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的、〉(序論)、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり、議論を交わしたりして、その内容を深めていく。

内　容

第1回　データの分析結果に基づく考察①
第2回　データの分析結果に基づく考察②
第3回　卒業論文の構成
第4回　卒業論文の構成
第5回　〈方法〉の執筆指導
第6回　〈結果〉の執筆指導①
第7回　〈結果〉の執筆指導②
第8回　〈考察〉の執筆指導①
第9回　〈考察〉の執筆指導②
第10回　卒業論文完成
第11回　卒業論文提出
第12回　卒業論文要旨の提出
第13回　卒業研究発表準備①
第14回　卒業研究発表準備②
第15回　卒業研究発表会

履修上の注意点

データの収集をした後などに、いったんとりかかった卒業論文の作成を途中で投げ出さないこと。卒業論文の提出と発表までやり抜くこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 卒業論文70% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 10% ）	授業中発表等（ 10% ）
参加度（ 10% ）	

卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅲ（心）＜＊f＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松下　幸治	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的、〉(序論)、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり、議論を交わしたりして、その内容を深めていく。

内　容

第1回　データの分析結果に基づく考察①
第2回　データの分析結果に基づく考察②
第3回　卒業論文の構成
第4回　卒業論文の構成
第5回　〈方法〉の執筆指導
第6回　〈結果〉の執筆指導①
第7回　〈結果〉の執筆指導②
第8回　〈考察〉の執筆指導①
第9回　〈考察〉の執筆指導②
第10回　卒業論文完成
第11回　卒業論文提出
第12回　卒業論文要旨の提出
第13回　卒業研究発表準備①
第14回　卒業研究発表準備②
第15回　卒業研究発表会

履修上の注意点

データの収集をした後などに、いったんとりかかった卒業論文の作成を途中で投げ出さないこと。卒業論文の提出と発表までやり抜くこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 卒業論文70% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 10% ）　　授業中発表等（ 10% ）
参加度（ 10% ）
卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅲ（心）〈＊g〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　ジェイムス　朋子	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的、〉(序論)、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり、議論を交わしたりして、その内容を深めていく。

内　容

第1回　データの分析結果に基づく考察①
第2回　データの分析結果に基づく考察②
第3回　卒業論文の構成
第4回　卒業論文の構成
第5回　〈方法〉の執筆指導
第6回　〈結果〉の執筆指導①
第7回　〈結果〉の執筆指導②
第8回　〈考察〉の執筆指導①
第9回　〈考察〉の執筆指導②
第10回　卒業論文完成
第11回　卒業論文提出
第12回　卒業論文要旨の提出
第13回　卒業研究発表準備①
第14回　卒業研究発表準備②
第15回　卒業研究発表会

履修上の注意点

データの収集をした後などに、いったんとりかかった卒業論文の作成を途中で投げ出さないこと。卒業論文の提出と発表までやり抜くこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 卒業論文70% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 10% ）　　授業中発表等（ 10% ）
参加度（ 10% ）
卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅲ（心）＜＊h＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　上北　朋子	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的、〉(序論)、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり、議論を交わしたりして、その内容を深めていく。

内　容

第1回　データの分析結果に基づく考察①
第2回　データの分析結果に基づく考察②
第3回　卒業論文の構成
第4回　卒業論文の構成
第5回　〈方法〉の執筆指導
第6回　〈結果〉の執筆指導①
第7回　〈結果〉の執筆指導②
第8回　〈考察〉の執筆指導①
第9回　〈考察〉の執筆指導②
第10回　卒業論文完成
第11回　卒業論文提出
第12回　卒業論文要旨の提出
第13回　卒業研究発表準備①
第14回　卒業研究発表準備②
第15回　卒業研究発表会

履修上の注意点

データの収集をした後などに、いったんとりかかった卒業論文の作成を途中で投げ出さないこと。卒業論文の提出と発表までやり抜くこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 卒業論文70% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 10% ）　　授業中発表等（ 10% ）
参加度（ 10% ）
卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅲ（心）＜＊i＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田中　芳幸	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的、〉(序論)、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり、議論を交わしたりして、その内容を深めていく。

内　容

第1回　データの分析結果に基づく考察①
第2回　データの分析結果に基づく考察②
第3回　卒業論文の構成
第4回　卒業論文の構成
第5回　〈方法〉の執筆指導
第6回　〈結果〉の執筆指導①
第7回　〈結果〉の執筆指導②
第8回　〈考察〉の執筆指導①
第9回　〈考察〉の執筆指導②
第10回　卒業論文完成
第11回　卒業論文提出
第12回　卒業論文要旨の提出
第13回　卒業研究発表準備①
第14回　卒業研究発表準備②
第15回　卒業研究発表会

履修上の注意点

データの収集をした後などに、いったんとりかかった卒業論文の作成を途中で投げ出さないこと。卒業論文の提出と発表までやり抜くこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 卒業論文70% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 10% ）　　授業中発表等（ 10% ）
参加度（ 10% ）
卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅲ（心）＜＊j＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　前田　洋光	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的、〉(序論)、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり、議論を交わしたりして、その内容を深めていく。

内　容

第1回　データの分析結果に基づく考察①
第2回　データの分析結果に基づく考察②
第3回　卒業論文の構成
第4回　卒業論文の構成
第5回　〈方法〉の執筆指導
第6回　〈結果〉の執筆指導①
第7回　〈結果〉の執筆指導②
第8回　〈考察〉の執筆指導①
第9回　〈考察〉の執筆指導②
第10回　卒業論文完成
第11回　卒業論文提出
第12回　卒業論文要旨の提出
第13回　卒業研究発表準備①
第14回　卒業研究発表準備②
第15回　卒業研究発表会

履修上の注意点

データの収集をした後などに、いったんとりかかった卒業論文の作成を途中で投げ出さないこと。卒業論文の提出と発表までやり抜くこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 卒業論文70% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 10% ）　　授業中発表等（ 10% ）
参加度（ 10% ）
卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

2018 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅲ（心）＜＊k＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　濱田　智崇	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的、〉(序論)、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり、議論を交わしたりして、その内容を深めていく。

内　容

第1回　データの分析結果に基づく考察①
第2回　データの分析結果に基づく考察②
第3回　卒業論文の構成
第4回　卒業論文の構成
第5回　〈方法〉の執筆指導
第6回　〈結果〉の執筆指導①
第7回　〈結果〉の執筆指導②
第8回　〈考察〉の執筆指導①
第9回　〈考察〉の執筆指導②
第10回　卒業論文完成
第11回　卒業論文提出
第12回　卒業論文要旨の提出
第13回　卒業研究発表準備①
第14回　卒業研究発表準備②
第15回　卒業研究発表会

履修上の注意点

データの収集をした後などに、いったんとりかかった卒業論文の作成を途中で投げ出さないこと。卒業論文の提出と発表までやり抜くこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 卒業論文70% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 10% ）　　授業中発表等（ 10% ）
参加度（ 10% ）
卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（作業）＜＊＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　近藤　敏.小川　敬之.齋藤　慶一郎.佐川　佳南枝.永井　邦明.原田　瞬.平本　憲二.森本　誠司	

テーマ

生徒から学生に移行するために必要となる心構えや学修態度を醸成する.

授業の到達目標

1. アクティブな学修習慣を身につける.
 1）教科書を繰り返し音読する.
 2）読み手に配慮した文章が書ける.
 3）自分の意見をもちグループ討議に参加できる.
 4）週2回以上，図書館に足を運ぶ.
2. 四年間8学期毎の学修計画を作成し目に触れるところに貼る.

授業の概要

座学だけでなく演習やディスカッションおよび発表を重視する. 作業療法士はもとより社会人として必要なコミュニケーション能力等について、作業療法士の実務経験を有する専任教員が、自らの経験をもとにした課題を提供し演習形式で学びます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

家族や学校の先生，友達以外の世代の異なる人と話す機会をもって下さい. 患者さんや障害者の多くは大人です.

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　作業療法士として必要なスキルについて―先輩作業療法士から
第3回　作業療法士となるために大学で身につけておくべきこと―若手作業療法士から
第4回　大学と高校の生活・学修の違いについて（ディスカッション）
第5回　作業療法学科のカリキュラムと特徴について教員が説明した後，学生は自分の大学四年間8セメスター（学期）の学修計画を作成する.
第6回　学生は自分の大学四年間8セメスター（学期）の学修計画について，グループ別に発表する. グループのなかの1つ選び全体で発表する.
第7回　解剖学等の医学的基礎知識の反復学修の必要性と記憶術について
第8回　情報リテラシー―図書，学術誌，情報検索と収集，出典，守秘義務について
第9回　授業の受け方―身だしなみ（特に実習），授業ノートについて，授業ノート作成上の工夫，資料の整理の仕方について
第10回 レポート―レポートの形式，作成の仕方について
第11回 グループ課題の選択・実施
第12回 グループ課題の実施
第13回 グループ課題の発表1
第14回 グループ課題の発表2
第15回 まとめ

履修上の注意点

人前で話したりコミュニケーションの苦手な人もいると思います. 失敗しても構いません. 勇気を出し一歩前に踏み出してください. 欠席はグループ・メンバーに迷惑をかけますので事前にその旨，連絡して下さい.

教科書

参考書

大学で理学療法を学ぶ
著者:　京都橘大学健康科学部理学療法学科
出版社: 学術研究出版
出版年: 2017　　ISBN:　978-4-86584-229

PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド　第2版
著者:　山口美和
出版社: 医学書院
出版年: 2016　　ISBN:　978-4-260-02787

成績評価

a90351a110

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（作業）＜＊＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　近藤　敏.小川　敬之.齋藤　慶一郎.佐川　佳南枝.永井　邦明.原田　瞬.平本　憲二.森本　誠司	

テーマ

作業療法士となるために必要なコミュニケーション能力とプレゼンテーション技能を醸成する.

授業の到達目標

1. アクティブな学修習慣を身につける.
 1）人前で大きな声で発表できる.
 2）他の人の発表や意見を真摯に聞くことができる.
 3）他の人の発表に対して質問ができる.
 4）話上手な人をあげ，なぜ上手か分析できる.
 5）週2回以上，図書館に足を運ぶ.
2. 作業療法士の仕事について友人や家族に簡潔に説明できる.

授業の概要

医療職として必要なコミュニケーション能力とプレゼンテーション技能を育成するために，グループ・ディスカッションや人前での発表の体験を通して，集団のなかで自身の役割を果たす力，考え抜く力、前へ踏み出す力などヒューマンスキルを身につけることをめざす。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

人生の答えは一つではありません．悩むことができる自分を褒めてください．この授業では発表等，負荷をかけますが，それを楽しむ気持ちで臨んでください．

内　容

第1回　大学の教員の仕事について
第2回　作業療法士の仕事と職域拡大について
第3回　コミュニケーション能力について（グループ・ディスカッション）
第4回　コミュニケーション能力について（グループ・ディスカッション）
第5回　コミュニケーション能力について（全体発表）．目標設定シートによる自己評価1回目
第6回　話がうまい人（政治家，落語家，人気アーチスト等）や人を惹きつける魅力をもった人物（西郷隆盛等）の特徴について
第7回　作業療法士は，クライアントの自信をとりもどす仕事である．自信を高める方法について
第8回　プレゼンテーション―口頭発表，ポスター発表，板書について
第9回　プレゼンテーション―パワーポイントの使い方について
第10回　カレント・トピックス（最近の話題）を選び，それについて発表準備
第11回　発表1
第12回　発表2
第13回　発表3
第14回　発表4
第15回　発表5，まとめ，目標設定シートによる自己評価2回目

履修上の注意点

教科書

参考書

PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド　第2版
著者：　山口美和
出版社：医学書院
出版年：2016　　ISBN：978-4-260-02787

大学で理学療法を学ぶ
著者：　京都橘大学健康科学部理学療法学科
出版社：学術研究出版
出版年：2017　　ISBN：978-4-86584-229

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

a90351a250

授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**人体の構造と機能演習Ⅰ（骨・関節・筋・神経など）（作業）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　木村　智子	

テーマ

作業療法士として、すべての医療行為の基礎となる人体の構造（解剖学）と機能（生理学）について、その重要生を認識し、学ぶことの意義を理解した上で、知識を深めていく。

授業の到達目標

1．作業療法の基礎となる「人体の構造と機能」の重要生を認識し、これを学ぶ意義を自分の言葉で述べられる。
2．ヒトの身体の構成と機能を統合理解し、生体特有の合目的性と恒常性について概説できる。
3．身体構造の位置や運動の方向などを表現するための専門用語を理解し、適切に使用することができる。
4．筋・骨格系ならびに神経系の構造と機能を理解し、他者に説明することができる。

授業の概要

グループで骨模型や様々なモデルを用いながら学習を進めていく。双方向性の授業で進めていく。予習課題を遂行し演習に臨むことで、各自積極的に学ぶ姿勢を持ち、ヒトの活動を主な治療対象とする作業療法士の諸活動に生かしてくことができる基礎知識を習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

人体の不思議に興味を持ち、教授されたことを鵜呑みにするのではなく、素朴な疑問を抱くことが重要である。どんなことでも躊躇せず質問していく姿勢が求められる。セクション毎に具体的な行動目標を提示するので、これをもとに復習していくことが重要となる。

内　容

第1回　細胞と組織
第2回　運動器の構造と機能（総論）
第3回　運動器の構造と機能（各論1：頭・頸部）
第4回　運動器の構造と機能（各論2：体幹）
第5回　運動器の構造と機能（各論3：上肢帯）
第6回　運動器の構造と機能（各論4：上肢1）
第7回　運動器の構造と機能（各論5：上肢2）
第8回　運動器の構造と機能（各論6：骨盤帯）
第9回　運動器の構造と機能（各論6：下肢1）
第10回　運動器の構造と機能（各論6：下肢2）
第11回　神経の構造と機能（総論）
第12回　神経の構造と機能（各論：中枢神経系）
第13回　神経の構造と機能（各論：末梢神経系）
第14回　感覚器の構造と機能（総論）
第15回　感覚器の構造と機能（各論：特殊感覚、内臓感覚、体性感覚）

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。
医療人として倫理に欠ける行為や授業妨害に繋がる行為が認められた場合、受講をお断りする。

教科書

標準理学療法学･作業療法学　専門基礎分野　解剖学　第4版
著者：　野村嶬(編)
出版社：医学書院
出版年：2015　　ISBN：
標準理学療法学･作業療法学　専門基礎分野　生理学　第4版
著者：　岡田隆夫･他
出版社：医学書院
出版年：2013　　ISBN：

参考書

プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系　第2版
著者：　坂井建雄･他(訳)
出版社：医学書院
出版年：2011　　ISBN：

a90351a310

プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部/神経解剖 第2版
著者: 坂井建雄･他(訳)
出版社: 医学書院
出版年: 2014 ISBN:

プロメテウス解剖学アトラス 胸部/腹部･骨盤部 第2版
著者: 坂井建雄･他(訳)
出版社: 医学書院
出版年: 2014 ISBN:

トートラ人体の構造と機能 第4版
著者: 桑木共之･他(編訳)
出版社: 丸善出版
出版年: 2012 ISBN:

ネッター解剖生理学アトラス
著者: 相磯貞和(訳)
出版社: 南江堂
出版年: 2006 ISBN:

人体機能生理学 改定第5版
著者: 杉晴夫(編)
出版社: 南江堂
出版年: 2009 ISBN:

成績評価

試験･レポート （ 90 ）
小テスト （ ）
授業中課題 （ 5 ）
授業中発表等 （ ）
参加度 （ 5 ）

2018 Syllabus

科目名 **人体の構造と機能演習Ⅱ（呼吸・循環系、消化系など）（作業）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　員
履修条件	クラス指定
担当者　木村　智子	

テーマ

作業療法士として、すべての医療行為の基礎となる人体の構造（解剖学）と機能（生理学）について、その重要生を認識し、学ぶことの意義を理解した上で、知識を深めていく。

授業の到達目標

1. 作業療法の基礎となる「人体の構造と機能」の重要生を認識し、これを学ぶ意義を自分の言葉で述べられる。
2. ヒトの身体の構成と機能を統合理解し、生体特有の合目的性と恒常性について概説できる。
3. 呼吸・循環器系、消化器系、泌尿生殖器系、内分泌系、免疫系の構造と機能を理解し、他者に説明することができる。

授業の概要

グループで模型やモデルを用いながら学習を進めていく。双方向性の授業で進めていく。予習課題を遂行し演習に臨むことで、各自積極的に学ぶ姿勢を持ち、作業療法士の諸活動に生かしてくことができる基礎知識を習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

人体の不思議に興味を持ち、教授されたことを鵜呑みにするのではなく、素朴な疑問を抱くことが重要である。どんなことでも躊躇せず質問していく姿勢が求められる。セクション毎に具体的な行動目標を提示するので、これをもとに復習していくことが重要となる。

内　容

第1回　消化器系（食欲と咀嚼・嚥下、口腔、歯、咽頭、食道）
第2回　消化器系（胃、小腸、膵臓、肝臓、胆嚢の構造と機能）
第3回　消化器系（消化と吸収、大腸の構造と機能）
第4回　呼吸器系（鼻、咽頭、喉頭、気管・気管支、肺）
第5回　呼吸器系（ガス交換とガスの運搬、内呼吸と外呼吸、呼吸の調節）
第6回　血液蘇生と機能（血球、血漿、造血、凝固、線維素溶解、血液型）
第7回　循環器系（心臓の構造と機能）
第8回　循環器系（末梢血管の構造と機能、リンパとリンパ管）
第9回　泌尿器系（腎臓の構造と機能、排尿路の構造と機能、体液の調節、排尿の生理）
第10回 生殖器系（男性生殖器の構造と機能、女性生殖器の構造と機能）
第11回 生殖器系（乳腺の構造と機能、性周期、受精と胎児の発生）
第12回 内分泌系（視床下部、下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体）
第13回 内分泌系（副腎、性腺、消化管、腎臓、胸腺、その他）
第14回 免疫系
第15回 その他（体温調節、成長と老化）

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。
医療人として倫理に欠ける行為や授業妨害に繋がる行為が認められた場合、受講をお断りする。

教科書

標準理学療法学･作業療法学　専門基礎分野　解剖学　第4版
著者：　野村嶬(編)
出版社：医学書院
出版年：2015　　ISBN：

標準理学療法学･作業療法学　専門基礎分野　生理学　第4版
著者：　岡田隆夫･他
出版社：医学書院
出版年：2013　　ISBN：

参考書

プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系　第2版
著者：　坂井建雄･他(訳)
出版社：医学書院
出版年：2011　　ISBN：

a90351a450

プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部/神経解剖 第2版
著者: 坂井建雄･他(訳)
出版社: 医学書院
出版年: 2014 ISBN:

プロメテウス解剖学アトラス 胸部/腹部･骨盤部 第2版
著者: 坂井建雄･他(訳)
出版社: 医学書院
出版年: 2014 ISBN:

トートラ人体の構造と機能 第4版
著者: 桑木共之･他(編訳)
出版社: 丸善出版
出版年: 2012 ISBN:

ネッター解剖生理学アトラス
著者: 相磯貞和(訳)
出版社: 南江堂
出版年: 2006 ISBN:

人体機能生理学 改定第5版
著者: 杉晴夫(編)
出版社: 南江堂
出版年: 2009 ISBN:

成績評価

試験･レポート （ 90 ）
小テスト （ ）
授業中課題 （ 5 ）
授業中発表等 （ ）
参加度 （ 5 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**運動生理学**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　齋藤　慶一郎.永井　邦明	

テーマ

身体運動と運動生理機能の関連

授業の到達目標

一般目標(GIO)
ヒトの身体運動における適応反応を考察していくために，人体の正常な構造や生理機能について学び，身体運動時の生理機能変化について理解する.

行動目標(SBOs)
1. 身体・生命活動と運動生理機能について説明することができる
2. 骨・関節組織組成と身体活動について説明することができる
3. 筋・関節周囲組織について説明することができる
4. 神経組織組成と身体活動について説明することができる
5. 呼吸運動における運動生理について説明することができる
6. 循環における運動生理について説明することができる
7. 栄養および内分泌における運動生理について説明することができる

授業の概要

指定教科書「運動生理学」を用いて講義する. また，必要に応じて資料を提示する.

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

ヒトの基本的構造や機能については解剖学や生理学で学んだ知識を基に講義を展開していくため，該当項目に関連する内容を復習しておくこと.

内　容

第1回　身体・生命活動と運動生理学(齋藤)
第2回　骨・関節組成と運動生理学(齋藤)
第3回　筋・関節周囲組織組成と運動生理学①(齋藤)
第4回　筋・関節周囲組織組成と運動生理学②(齋藤)
第5回　筋・骨格器障害と運動(齋藤)
第6回　末梢神経組織組成と運動生理学①(齋藤)
第7回　末梢神経組織組成と運動生理学②(齋藤)
第8回　末梢神経障害と運動(齋藤)
第9回　中枢神経組織組成と運動生理学(永井)
第10回　中枢神経障害と運動(永井)
第11回　呼吸の運動生理学(永井)
第12回　呼吸機能障害と運動(永井)
第13回　循環の運動生理学(永井)
第14回　循環機能障害と運動(永井)
第15回　栄養・内分泌の運動生理学(永井)

履修上の注意点

教科書

リハビリテーション運動生理学
著者:　玉木彰監修
出版社: メジカルビュー社
出版年: 2017　　ISBN:　9784758317191

参考書

成績評価

試験・レポート（ 80% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**運動学（作業）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　齋藤　慶一郎	

テーマ

身体運動と身体構造との関連

授業の到達目標

一般目標(GIO)
人の身体運動や動作を分析していくために，必要な基礎知識や概念を学び，健常者の身体構造やその機能について理解する.

行動目標(SBOs)
1.関節運動の原則について説明することができる
2.体幹・肢節関節運動を機能・構造的観点から説明することができる
3.骨，靱帯，筋組織の関節運動における役割について説明することができる
4.関節の一般的構造物を可動性と安定性の要素で分類することができる
5.身体運動とエネルギー代謝について説明することができる

授業の概要

指定教科書「基礎運動学」および「カパンジー機能解剖学」を併用して講義する. 更に関連項目について資料提示する.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

身体運動の基本的構造や機能については解剖学や生理学で学んだ知識を基に講義を展開していくため，該当項目に関連する内容を復習しておくこと.

内　　容

第1回　運動学総論　作業療法と運動学
第2回　運動学各論
　　運動の原則　関節運動・運動の連鎖
第3回　運動の原則　生体力学・筋収縮様態
第4回　骨・関節・靱帯　　形態と機能
第5回　上肢の機能解剖1　肩甲帯の構造と運動機能
第6回　上肢の機能解剖2　肩関節の構造と運動機能
第7回　上肢の機能解剖3　肘関節の構造と運動機能
第8回　上肢の機能解剖4　手部関節の構造と運動機能
第9回　下肢の機能解剖1　骨盤の構造と運動機能
第10回　下肢の機能解剖2　股関節の構造と運動機能
第11回　下肢の機能解剖3　膝関節の構造と運動機能
第12回　下肢の機能解剖4　足部関節の構造と運動機能
第13回　体幹の機能解剖1　脊椎の構造と運動機能
第14回　体幹の機能解剖2　胸郭の構造と運動機能
第15回　代謝　身体運動とエネルギー代謝

履修上の注意点

対人援助職を目指す学生として相応しい受講態度で臨むこと

教科書

基礎運動学
著者:　中村隆一他著
出版社:　医歯薬出版
出版年:　2017　　ISBN:　978426821153-3

カパンジー機能解剖学1 上肢
著者:　A.I.Kapandji著
出版社:　医歯薬出版
出版年:　2017　　ISBN:　978426321181-6

カパンジー機能解剖学2 下肢
著者:　A.I.Kapandji著
出版社:　医歯薬出版
出版年:　2017　　ISBN:　978426321182-3

a90351a650

カパンジー機能解剖学3 脊椎・体幹・頭部

著者： A.I.Kapandji著

出版社： 医歯薬出版

出版年： 2017 ISBN： 978426321183-0

参考書

成績評価

試験・レポート （ 70% ） 小テスト （ 20% ）

授業中課題 （ ） 授業中発表等 （ ）

参加度 （ 10% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**人間発達学(作業)**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森本　誠司	

テーマ

人間の生涯にわたる心身の構造・機能の変化について理解し、人間理解を深める。

授業の到達目標

1. 主な発達理論を理解し、人間の発達概念を知ることができる。
2. 胎生期から老年期までの心身の発達と成長と衰退の変遷を知り、生涯発達について理解を深めることができる。
3. 発達の背景にある障害の出現とそれに対する支援の考え方の基礎を理解できる。

授業の概要

人間は生涯にわたり心身の構造、機能が変化する。人間の発達段階ごとの、特に幼児期の特徴や発達課題を理解いし、さらに、ライフ・サイクルにおける成熟と衰退という観点を踏まえ、医療従事者として人間理解を深め、援助活動に生かせるように知識を習得する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

各回の講義前に、テーマに関連する教科書の該当範囲を熟読しておくこと

内　容

第1回　発達とは何か
第2回　発達理論
第3回　各論1　出生前から新生児期
第4回　各論2　乳児期①身体の発達と機能(運動)・原始反射
第5回　各論3　乳児期②こころの発達と機能(言語・認知)
第6回　各論4　乳児期③こころの発達と機能(情緒機能)
第7回　各論5　乳児期④母子関係と心理的発達
第8回　各論6　幼児期①身体の発達・運動機能
第9回　各論7　幼児期②認知の発達・ことばの発達
第10回　各論8　幼児期③情緒の発達・生活技能としつけ
第11回　各論9　児童期①身体の発達・知能の発達・認知の発達
第12回　各論10　児童期②社会性の発達・学校社会・家族関係・いじめ・前思春期
第13回　各論11　思春期・青年期
第14回　各論12　成人期①身体と運動・ライフスタイルの変化・新しい家族の形成
第15回　各論13　成人期②健康と代表的疾患・心身機能の変化・認知や情緒の変化・老化
第16回　試験

履修上の注意点

2/3以上の出席がない場合は、試験を受けることを認めない。

教科書

リハビリテーションのための人間発達学　第2版
著者:　大城昌平編集
出版社: メディカルプレス
出版年: 2016　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 80 ）	小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**病理学（作業）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮本　尚	

テーマ

疾病の成り立ち、徴候，予後について

授業の到達目標

疾病の本質を探究する学問である「病理学」に関する正しい知識を身に付ける。

授業の概要

病理学の概要、疾病の総論的解説、更に諸臓器の障害を引き起こす様々な疾病につき解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　総論1−6：概要
第2回　総論7−8：免疫、炎症・感染症
第3回　総論4：腫瘍
第4回　総論11：老化
第5回　総論10：放射線障害
第6回　総論12：先天異常、奇形
第7回　各論1：循環器
第8回　各論2：呼吸器
第9回　各論3：消化器
第10回　各論4：神経系
第11回　各論5：運動器
第12回　各論6：泌尿器・生殖器
第13回　各論7：代謝・内分泌系
第14回　各論8：造血器
第15回　各論9：皮膚・感覚器

履修上の注意点

3分の1以上の欠席を認めない（原則として）

教科書

標準理学療法学・作業療法学「病理学」第3版
著者：　梶原博毅・横井豊治編
出版社：医学書院
出版年：2010　　ISBN：

参考書

カラーで学べる病理学
著者：　渡辺照男
出版社：ヌーベルヒロカワ
出版年：平成21年　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ 80 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**リハビリテーション概論（作業）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　兒玉　隆之.冨田　素子.中谷　謙.平本　憲二	

テーマ

「リハビリテーション」とは何か，その本質と仕組みの理解

授業の到達目標

リハビリテーション医学が，歴史的にどのように発展したかを考察することにより，リハビリテーションが医師や作業療法士などの異業種を包括したチームとして活動するチームアプローチであることを理解する。その中で，理学療法士がどのようにチーム活動に寄与できるかを考えながら，これから学んでいく理学療法についてその道しるべとなるよう全体像を形成する。

授業の概要

（富田素子・他／8回）リハビリテーション医学の定義と歴史を講義した上で，脳・脊髄・神経・運動器・外傷・内部障害・小児疾患などの障害に関する診断・検査・評価および治療プロセスについて学び，関連職との関わりについて教授する。（兒玉隆之／7回）リハビリテーションの定義・理念・目的・歴史，障害の概念と分類，障害の心理・社会的側面，リハビリテーションのプロセス・段階・職種，リハビリテーションとチーム医療の関わりなど，リハビリテーションの現状を教授する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　リハビリテーション医学の歴史
第2回　リハビリテーション医学の定義・概念
第3回　リハビリテーション医学における理学療法①
第4回　リハビリテーション医学における理学療法②
第5回　リハビリテーション医学における作業療法①
第6回　リハビリテーション医学における作業療法②
第7回　リハビリテーション医学における言語聴覚療法①
第8回　リハビリテーション医学における言語聴覚療法②
第9回　リハビリテーションの概念・理念・定義
第10回 「健康と障害」の概念と分類
第11回 障害の心理，心理的・社会的問題と受容
第12回 リハビリテーション過程
第13回 リハビリテーションの諸段階
第14回 リハビリテーション専門職種とチームアプローチ
第15回 ADL，QOLの概念

履修上の注意点

講義資料は適宜配布する

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 80 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**作業療法学概論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小川　敬之	

テーマ

作業療法とは何か？作業療法士はどのように働くのか？など作業療法に関連する様々な事柄の理解を深め、これから学ぶ「作業療法学・実践」の道標としての理解を促進する。

授業の到達目標

①作業療法の歴史的変遷とそこから作られてきた役割、今後の展望を説明できる。
②作業療法の「作業」の意義・意味を説明できる。
③作業療法の対象・疾患や実施場所について説明できる
④作業療法の過程を説明できる。
⑤作業療法の対象となる人々への共感的理解について習得する。
⑥作業療法部門の管理・運営を説明できる

授業の概要

教科書を中心に進めていくが、内容によってはアクティブラーニングを取り入れ、教員、学生間でディスカッションしながら学んでいく場も設ける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

随時、必要に応じてレポート課題を出す。予習・復習に関しては授業内で適宜話をする。

内　容

第1回　オリエンテーション・作業療法の紹介
第2回　作業療法とは何か？
第3回　作業療法の歴史
第4回　作業療法の現状と課題
第5回　作業療法の対象
第6回　作業療法の実際（原理・理論）
第7回　領域別作業療法の実際（医療領域・保健領域）
第8回　領域別作業療法の実際（福祉領域・教育・就労領域）
第9回　病期別作業療法の実際（急性期・回復期）
第10回　病期別作業療法の実際（生活期・ターミナル）
第11回　作業療法の過程
第12回　作業療法部門の管理運営
第13回　作業療法士の養成、臨床と研究、発信
第14回　作業療法士の組織
第15回　作業療法の実際（臨床）

履修上の注意点

授業は2/3以上の出席で試験を受けることができる。

教科書

作業療法概論(作業療法学全書)
著者:　杉原素子
出版社:　協働医書出版
出版年:　2010　　ISBN:　4763921185

参考書

作業療法の世界
著者:　鎌倉矩子
出版社:　三輪書店
出版年:　2001　　ISBN:　895902026

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 10 ）	

期末テスト、レポート、小テストを総合して評価する

2018 Syllabus

科 目 名　**作業科学**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　近藤　敏	

テーマ

「作業occupation」のもつ力と魅力，奥深さを知る.

授業の到達目標

1. 機械論（還元主義）的な考えについて説明できる.
2. 作業科学の発展に貢献した人の名を二人あげることができる.
3. 自己の作業歴や作業バランスを作成することができる.
4. 作業的公正・作業的不公正4つについて説明できる.
5. カナダ作業遂行測定COPMを実施できる.
6. 作業を通して貢献（解決）できそうな社会的課題（問題）をあげることができる.

授業の概要

「作業的存在としての人間」を理解するために必要な知識を学びます。これまでの作業科学の学問的蓄積を基に，作業が人の心身機能や生活に与える影響について解説し，治療，健康推進，社会適応のため，作業を有効に使うための知識を学修します。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

作業に関する新しい用語が沢山でてきます. いずれもこれからの作業療法の世界を語る上で鍵となるものですので，その意味するところをしっかり理解してください. 必ず事前に教科書を読んで授業に臨んで下さい.

内　容

第1回　作業科学の誕生：人生を左右する作業，作業を促進したり制限する社会の力，体験を通して学ぶことの重要性，新しい作業による日常生活の変化について
第2回　学問としての作業科学：作業科学の創始者達，作業科学の発展，専門学術誌，研究会，作業の定義について
第3回　作業の意味1：作業によって引き起こされる感情，作業による世界とのつながり，作業よる自分らしさ，作業による生活の構造化について
第4回　作業の意味2：作業と健康との関連性，作業の社会的意味，作業の類型化について
第5回　作業科学の諸概念1：作業がもつ階層性，人類の進化における作業の変化，個人・集団の作業，作業的存在としての人間について
第6回　作業科学の諸概念2：作業的公正・不公正，質的研究について
第7回　作業科学と作業療法1：健康の定義，オタワ憲章，作業療法の歴史と発展，作業療法における作業科学の応用について
第8回　作業科学と作業療法2：作業中心の実践の普及，人間作業モデル，カナダ作業遂行モデル，作業療法介入プロセスモデルについて
第9回　作業科学と作業療法3：作業療法実践の道具，カナダ作業遂行測定COPM，生活行為向上マネッジメントMTDLP，作業療法実践を阻む壁について
第10回　カナダ作業遂行測定COPMの実施（演習）
第11回　カナダ作業遂行測定COPMの実施（演習）
第12回　作業に焦点をあてた作業療法の事例を紹介する.
第13回　「七人の侍（黒澤明・監督）」「陽だまりハウスでマラソンを（キリアン・リートホーフ・監督）」を人−作業−環境の視点で分析する.
第14回　障害をもちながら作業に打ち込む，楽しむ人たちの紹介
第15回　作業科学の夢，作業科学のまとめ
第16回　試験

履修上の注意点

配布したプリントや作成したノート，自分で収集した資料等をすべてファイル化し残せるようにして下さい.

教科書

「作業」って何だろう
著者：　吉川ひろみ
出版社：医歯薬
出版年：2017　　ISBN：978-4-263-21667

参考書

成績評価

試験・レポート（ 80 ）　　小テスト（ ）

a90351b150

授業中課題（20）　　授業中発表等（ ）

参加度（ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**作業学**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉田　健	

テーマ

作業活動分析の基礎を学ぶ

授業の到達目標

(1)人間の暮らしに目を向け，その行為の意味と機能とを関連付けて話し合うことができる.
(2)普段の生活の中における「作業活動」の工程や必要な道具の機能や特性について説明することができる.
(3)作業活動のにおける活動の要素(時間，頻度，リスク，特性など)に分けてまとめることができる.

授業の概要

作業療法士が，治療・指導・援助の際に用いる「作業活動」についての基本的な知識や技術を体系的に学びます．作業活動の特性や環境と課題の関わりを分析し，対象者の持っている能力をどのように作業療法士が引き出し，高めているか学んでいきます.

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

講義終了時に次回の講義範囲を提示するので，その部分を予習すること．復習は講義資料のworkの部分を中心に講義ノートを作成し，まとめること.

内　容

第1回　人間と作業
第2回　作業の種類と分類
第3回　日常生活活動の分類
第4回　ライフステージと作業療法
第5回　作業とコミュニケーション
第6回　作業と道具
第7回　個人作業と集団作業の特徴と効果
第8回　作業分析と治療効果①(時間，場所など治療構造について)
第9回　作業分析と治療効果②(身体面，精神面の分析について)
第10回　作業と運動学
第11回　作業と神経生理学
第12回　基本動作の分析①(作業分析シートの内容とまとめ方)
第13回　基本動作の分析②(基本動作の動作分析)
第14回　作業活動の分析①(分析方法)
第15回　作業活動の分析②(考察方法)

履修上の注意点

2／3以上の出席がない場合は，試験を受けることを認めない.
遅刻3回で欠席1回とみなす.
遅刻の場合，参加度は通常の1/2とする.

教科書

標準作業療法学 専門分野　基礎作業学　第3版
著者:　濱口豊太
出版社: 医学書院
出版年: 2017　　ISBN:　9784260030557

参考書

講義内で提示します.
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 80% ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 10% ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 10% ）
参加度は，授業への参加態度や回答，発表への積極性を鑑みて，総合的に判断する.

2018 Syllabus

科 目 名　**作業学演習 I**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　平本　憲二.永井　邦明	

テーマ

作業療法で活用頻度の高い作業を体験する。

授業の到達目標

1. 必要な材料、道具を準備できる。
2. 手順や工程を述べることができる。
3. ひとりで作業を遂行することができる。
4. 課題を完成することができる。
5. 作業工程分析を行うことができる。
6. 素材・材料の特性と作業が心身に与える影響を述べることができる。

授業の概要

作業療法で活用頻度の高い織物、手工芸、絵画を実際に体験してみる。その中で材料、道具、工程に関する知識を習得し、作業の治療的活用について学習する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

次回行う作業活動について材料、道具、手順を予習しておく。

内　容

第1回　オリエンテーション　作業と作業療法（平本）
第2回　織物－材料、道具、手順の説明。演習（平本）
第3回　織物－演習（平本）
第4回　織物－演習（平本）
第5回　織物－演習（平本）
第6回　革細工－材料、道具、手順の説明。演習（平本）
第7回　革細工－演習（平本）
第8回　革細工－演習（平本）
第9回　絵画-材料、道具、手順の説明。演習（永井）
第10回　絵画-演習（永井）
第11回　絵画-演習（永井）
第12回　絵画-演習（永井）
第13回　モザイク・タイル-材料、道具、手順の説明。演習（永井）
第14回　モザイク・タイル-演習（永井）
第15回　モザイク・タイル-演習（永井）

履修上の注意点

なるべく時間内に作品を完成させることが望ましいが、時間内に終わりそうにない場合は担当教員の許可を得て時間外に作業することができる。

教科書

作業活動実習マニュアル
著者:　監修　古川宏
出版社:　医歯薬出版
出版年:　2012　　ISBN:

参考書

基礎作業学 第3版（標準作業療法学 専門分野）
著者:
出版社:　医学書院
出版年:　2017　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**作業学演習Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐川　佳南枝.永井　邦明	

テーマ

作業療法で活用頻度の高い作業を体験する。

授業の到達目標

1. 必要な材料、道具を準備できる。
2. 手順や工程を述べることができる。
3. ひとりで作業を遂行することができる。
4. 課題を完成することができる。
5. 作業工程分析を行うことができる。
6. 素材・材料の特性と作業が心身に与える影響を述べることができる。

授業の概要

作業療法で活用頻度の高い木工、金工、粘土細工、陶芸を実際に体験してみる。その中で材料、道具、工程に関する知識を習得し、作業の治療的活用について学習する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

次回行う作業活動について材料、道具、手順を予習しておく。

内　　容

第1回　オリエンテーション　作業と作業療法（佐川）
第2回　木工－材料、道具、手順の説明。演習（佐川）
第3回　木工－演習（佐川）
第4回　木工―演習（佐川）
第5回　木工－演習（佐川）
第6回　金工－材料、道具、手順の説明。演習（佐川）
第7回　金工－演習（佐川）
第8回　金工－演習（佐川）
第9回　粘土細工-材料、道具、手順の説明。演習（永井）
第10回　粘土細工-演習（永井）
第11回　陶芸-材料、道具、手順の説明。演習（永井）
第12回　陶芸-演習（永井）
第13回　陶芸-演習（永井）
第14回　陶芸-演習（永井）
第15回　陶芸-演習（永井）

履修上の注意点

1.各課題終了毎に工程分析レポートを提出してもらう。
2.なるべく時間内に作品を完成させることが望ましいが、時間内に終わりそうにない場合は担当教員の許可を得て時間外に作業することができる。

教科書

作業活動実習マニュアル
著者:　古川宏
出版社:　医歯薬出版
出版年:　2012　　ISBN:　9784263213971

参考書

標準作業療法学 専門分野　基礎作業学　第3版
著者:　濱口　豊太編
出版社:　医学書院
出版年:　2017　　ISBN:　9784260030557

作業療法学　ゴールド・マスター・テキスト　作業学（改訂第2版）
著者:　浅沼辰志編
出版社:　メジカルビュー社
出版年:　2015　　ISBN:　9784758316712

a90351b410

作業-その治療的応用 改訂第2版

著者: 日本作業療法士協会

出版社: 協同医書

出版年: 2003 ISBN: 9784763921049

成績評価

試験・レポート（ 70 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 20 ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 10 ）

授業中課題とは作品と課題終了毎に提出する工程分析レポートを指す

2018 Syllabus

科 目 名　**レクリエーション演習**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐川　佳南枝.原田　瞬	

テーマ

年齢や障害を考慮したレクリエーションを企画するうえで必要な知識と技術を演習を通して学習する。

授業の到達目標

1.作業療法におけるレクリエーションの意義について説明することができる。
2.対象者別の支援方法について説明することができる。
3.グループで協力し、レクリエーションプログラムの作成ができる。
4.グループで協力し、レクリエーションプログラムの実施ができる。
5.自分たちのグループ活動を振り返り、そこで起きていたグループダイナミクスについて2つ以上説明できる。

授業の概要

レクリエーションの意義、目的、計画、実施についての知識と技術を演習を通して学ぶ。さまざまなレクリエーションを体験し、グループダイナミクスや指導のポイント、サポーターの役割、注意事項等について学習する。
前半は精神科や高齢期を対象としたレクリエーション、後半は小児を対象とした遊具を用いた活動や感覚遊び、レクリエーションを学ぶ。最後はグループでレクリエーションを企画し実施し、学生同士で評価する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に指示した箇所を予習して参加する。

内　容

第1回　オリエンテーション、コミュニケーション・ゲーム （佐川）
第2回　コミュニケーションのグループワーク① （佐川）
第3回　コミュニケーションのグループワーク② （佐川）
第4回　スポーツ （佐川）
第5回　音楽・ダンス （佐川）
第6回　創作活動 （佐川）
第7回　自閉スペクトラム症・注意欠如／多動症などに対する遊具を用いた個別活動（前庭覚系） （原田）
第8回　自閉スペクトラム症・注意欠如／多動症などに対する遊具を用いた個別活動（固有覚系） （原田）
第9回　自閉スペクトラム症・注意欠如／多動症などに対する遊具を用いた個別活動（触覚系） （原田）
第10回 自閉スペクトラム症・注意欠如／多動症などに対する集団活動 （原田）
第11回 脳性麻痺に対する遊具を用いた活動 （原田）
第12回 重症心身障害児（者）に対する遊具を用いた活動 （原田）
第13回 レクリエーションプログラムの企画（グループでひとつのプログラムを企画） （原田）
第14回 発表・実施・評価（グループ毎に企画を発表、実施し学生同士で評価する） （佐川）
第15回 発表・実施・評価（グループ毎に企画を発表、実施し学生同士で評価する） （佐川）

履修上の注意点

身体活動の際は動きやすい服装・シューズで参加のこと

教科書

レクリエーション　社会参加を促す治療的レクリエーション　改訂第2版
著者:　寺山久美子監修
出版社: 三輪書店
出版年: 2004　　ISBN:　9784895902168
ひとと集団・場　第2版
著者:　山根寛
出版社: 三輪書店
出版年: 2007　　ISBN:　9784895902823

参考書

授業中に指示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

a90351b550

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 20 ）
授業中課題とは授業後に提出するリアクションペーパーを指す

2018 Syllabus

科 目 名　**医療リスクマネジメント（作業）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山野　薫	

テーマ

・医療における安全とその管理の概要について。
・作業療法士が臨床で対応するリスクマネジメントについて。

授業の到達目標

1. 医療における安全とその管理の概要を理解し説明できる。
2. 医療の質の向上とリスクマネジメントの関係性について理解し説明できる。
3. 各種治療技術におけるリスクおよび事故防止方法について理解し説明できる。
4. 作業療法士の業務に関わる感染症とその対策について理解し説明できる。

授業の概要

医療における安全とその管理を講義し、医療の質を高めることとリスクマネジメントの関係性について教授する。具体的には、医療安全における患者側の要因と病院施設側の要因について講義し、理解を深める。また、作業療法士の業務に関わる感染症とその対策について解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業後にテキストや参考書で知識を深め、ノートの内容を充実させるため、補足しておくこと。

内　容

第1回　医療における安全とその管理の概要
第2回　医療の質とリスクマネジメントの関係
第3回　診療記録の共有（公開）とリスクマネジメント
第4回　医療安全における患者側の要因と病院施設側の要因
第5回　チーム医療におけるリスクマネジメントのあり方
第6回　作業療法士の業務における感染症の概要と対策
第7回　作業療法士の業務における各種治療用具の安全管理
第8回　病院施設の管理体制（医療安全・感染症管理）と作業療法士の業務
第9回　単位認定試験

履修上の注意点

本授業は、作業療法士（医療職）の養成の一端を担っています。作業療法士（医療職）は、患者さんやその家族との信頼関係を構築することが何よりも重要です。それには、その人の誠実さが第一ですので、「繰り返す遅刻」、「授業中の私語」、「あからさまな居眠り」、「度重なる学生証の不携帯」等は厳しくチェックし、参加度20%に含めて成績に反映させます。

教科書

リハビリテーション リスク管理ハンドブック 第3版
著者:　亀田メディカルセンター（編集）
出版社:　MEDICAL VIEW
出版年:　2017　　ISBN:　9784758317245

参考書

在宅・訪問リハビリテーション　リスク管理実践テキスト
著者:　石黒友康・他（監修）
出版社:　診断と治療社
出版年:　2009　　ISBN:　9784787817488

リスク管理　その統合と解釈
著者:　嶋田智明・他（常任編集）
出版社:　文光堂
出版年:　2010　　ISBN:　9784830643705

成績評価

試験・レポート （ 80% ）　　小テスト （ 実施しない ）
授業中課題 （ 実施しない ）　　授業中発表等 （ 参考にする ）
参加度 （ 20% ）

全授業回数の3分の2以上の出席がないものは、単位認定試験の受験資格を与えないものとする。忌引きや登校停止処置（感染症）等は、教務部に申請の上、科目担当者へ届け出ることとする。

2018 Syllabus

科 目 名　**救急救命キャリア開発演習Ⅰ〈＊A〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山﨑　将文	

テーマ

一般市民としてのみならず公務員として必要とされる政治的・法的・社会的な知識と教養の修得

授業の到達目標

主体的な学習姿勢やマナーなどを身につけるとともに、学習の仕方を修得する。また、幅広い知識を身につけるだけでなく、いろいろな社会問題を多面的に見て、関連付けることのできる論理的思考力を養う。

授業の概要

大学で学修するための基本的な態度（主体的な学習姿勢、マナーなど）と学習能力（文献の探し方、読み方、書き方、意見のまとめ方、発表の仕方など）を身につけるとともに、将来救急救命士として働くために必要となる論理的思考力や社会に関する基礎的な知識を修得する。社会に関する基礎的な知識としては、日本国憲法や戦後の政治・経済の変遷など、現代社会に関する基礎的な知識を演習形式で修得し、あわせて憲法およびその他の法律、政治、行政、経済、人権、福祉などの重要な問題や時事問題について文献を読解したうえでレポートを作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

常日頃からテレビやネットでニュースを見たり、新聞を読み、日本や世界で起きている出来事を知るように努める。また、授業終了後に復習をするとともに、毎回出された問題を解く。

内　容

第1回　授業を受けるにあたっての注意事項の説明 勉強の仕方の説明
第2回　政治 民主政治の思想、議院内閣制と大統領制
第3回　行政 行政学の基礎理論、官僚制
第4回　法学 比較憲法、民法
第5回　憲法の基本原理 国民主権、平和主義、憲法改正
第6回　基本的人権 基本的人権の適用範囲・制約、幸福追求権、法の下の平等
第7回　国会 国権の最高機関、国会議員、立法府の活動
第8回　裁判所 違憲法令審査権、裁判所の組織と権能、裁判官の独立
第9回　国際政治 国際連盟と国際連合、国際社会と国際法
第10回 ミクロ経済 需要と供給、不完全競争市場、市場の失敗
第11回 マクロ経済 経済循環と国民所得、日銀の景気政策
第12回 国際経済 国際分業と国際経済、貿易政策
第13回 社会保障 日本の社会保障制度史、医療保険制度
第14回 現代社会の諸相 女性・家族問題、環境・エネルギー問題
第15回 レポートの作成と完成

履修上の注意点

皆勤を目指し、授業に積極的に参加する。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

必要に応じ適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 10 ）
三分の二以上出席しないと単位が認定されない場合がある。ほぼ毎回小テストを実施する。

2018 Syllabus

科 目 名　**救急救命キャリア開発演習Ⅰ〈＊B〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山﨑　将文	

テーマ

一般市民としてのみならず公務員として必要とされる政治的・法的・社会的な知識と教養の修得

授業の到達目標

主体的な学習姿勢やマナーなどを身につけるとともに、学習の仕方を修得する。また、幅広い知識を身につけるだけでなく、いろいろな社会問題を多面的に見て、関連付けることのできる論理的思考力を養う。

授業の概要

大学で学修するための基本的な態度（主体的な学習姿勢、マナーなど）と学習能力（文献の探し方、読み方、書き方、意見のまとめ方、発表の仕方など）を身につけるとともに、将来救急救命士として働くために必要となる論理的思考力や社会に関する基礎的な知識を修得する。社会に関する基礎的な知識としては、日本国憲法や戦後の政治・経済の変遷など、現代社会に関する基礎的な知識を演習形式で修得し、あわせて憲法およびその他の法律、政治、行政、経済、人権、福祉などの重要な問題や時事問題について文献を読解したうえでレポートを作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

常日頃からテレビやネットでニュースを見たり、新聞を読み、日本や世界で起きている出来事を知るように努める。また、授業終了後に復習をするとともに、毎回出された問題を解く。

内　容

第1回　授業を受けるにあたっての注意事項の説明 勉強の仕方の説明
第2回　政治 民主政治の思想、議院内閣制と大統領制
第3回　行政 行政学の基礎理論、官僚制
第4回　法学 比較憲法、民法
第5回　憲法の基本原理 国民主権、平和主義、憲法改正
第6回　基本的人権 基本的人権の適用範囲・制約、幸福追求権、法の下の平等
第7回　国会 国権の最高機関、国会議員、立法府の活動
第8回　裁判所 違憲法令審査権、裁判所の組織と権能、裁判官の独立
第9回　国際政治 国際連盟と国際連合、国際社会と国際法
第10回 ミクロ経済 需要と供給、不完全競争市場、市場の失敗
第11回 マクロ経済 経済循環と国民所得、日銀の景気政策
第12回 国際経済 国際分業と国際経済、貿易政策
第13回 社会保障 日本の社会保障制度史、医療保険制度
第14回 現代社会の諸相 女性・家族問題、環境・エネルギー問題
第15回 レポートの作成と完成

履修上の注意点

皆勤を目指し、授業に積極的に参加する。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

必要に応じ適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 60 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 10 ）	

三分の二以上出席しないと単位が認定されない場合がある。ほぼ毎回小テストを実施する。

2018 Syllabus

科 目 名　**救急救命キャリア開発演習Ⅱ〈＊A〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　森原 則男

テーマ

数学への興味関心、特に救急救命士をめざす者に必要な数学的思考力を身につける

授業の到達目標

救急救命士をめざす者が、仕事の上で必要となる数学的思考を身につけるとともに、公務員試験などをクリアーするための基礎的な数学を学習する

授業の概要

基礎的な数学の演習、できる限り学生の活動を入れるつもりである

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

特になし

内　容

第1回　レディネス診断、授業についてのガイダンス、アイスブレイク等
第2回　約数・倍数に関すること
第3回　整数に関すること
第4回　記数法に関すること
第5回　数列に関すること
第6回　年齢算に関すること
第7回　覆面算・方陣に関すること
第8回　1次方程式・不等式に関すること
第9回　連立方程式に関すること
第10回　量の問題に関すること
第11回　割合・比に関すること
第12回　速さに関すること
第13回　濃度に関すること
第14回　総復習1
第15回　総復習2

履修上の注意点

授業で出す課題にしっかりと取組むこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 10 ）
授業中課題とはプリントを毎回提出してもらう。小テストは宿題提出で代用することもある。

2018 Syllabus

科 目 名　**救急救命キャリア開発演習Ⅱ〈＊B〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　森原 則男

テーマ

数学への興味関心、特に救急救命士をめざす者に必要な数学的思考力を身につける

授業の到達目標

救急救命士をめざす者が、仕事の上で必要となる数学的思考を身につけるとともに、公務員試験などをクリアーするための基礎的な数学を学習する

授業の概要

基礎的な数学の演習、できる限り学生の活動を入れるつもりである

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

特になし

内　容

第1回　レディネス診断、授業についてのガイダンス、アイスブレイク等
第2回　約数・倍数に関すること
第3回　整数に関すること
第4回　記数法に関すること
第5回　数列に関すること
第6回　年齢算に関すること
第7回　覆面算・方陣に関すること
第8回　1次方程式・不等式に関すること
第9回　連立方程式に関すること
第10回　量の問題に関すること
第11回　割合・比に関すること
第12回　速さに関すること
第13回　濃度に関すること
第14回　総復習1
第15回　総復習2

履修上の注意点

授業で出す課題にしっかりと取組むこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 10 ）
授業中課題とはプリントを毎回提出してもらう。小テストは宿題提出で代用することもある。

2018 Syllabus

科 目 名　**基礎解剖学**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　西本 泰久

テーマ

授業の到達目標

正常な人体の形態と構造について学ぶ

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　概論
第2回　細胞・組織
第3回　骨格系
第4回　筋系
第5回　神経系
第6回　神経系（自律神経、伝導路）、感覚系
第7回　循環器系
第8回　血液、脈管系
第9回　呼吸器系
第10回　消化器系Ⅰ
第11回　消化器系Ⅱ
第12回　内分泌系
第13回　泌尿器系
第14回　生殖器系
第15回　発生

履修上の注意点

教科書

救急救命士標準テキスト
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

救急救命士標準テキスト
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 80 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**生理学**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　西本 泰久.藤野 和典

テーマ

授業の到達目標

基礎生理学・病態生理学

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　生体システムⅠ　生体の構成、細胞の構造、体液の組成
第2回　生体システムⅡ　生体維持機能
第3回　神経系の機能Ⅰ　中枢神経系
第4回　神経系の機能Ⅱ　末梢神経系、運動、知覚
第5回　神経系の機能Ⅲ　自律神経系、感覚系
第6回　呼吸系の機能Ⅰ　気道、胸郭
第7回　呼吸系の機能Ⅱ　肺、酸・塩基平衡
第8回　循環器系の機能Ⅰ　循環システム
第9回　循環器系の機能Ⅱ　心臓
第10回　血液の機能Ⅰ　血球成分と血漿成分
第11回　血液の機能Ⅱ　止血線溶機能と擬固因子
第12回　消化系機能Ⅰ　消化管機能
第13回　消化系機能Ⅱ　肝・胆・膵機能
第14回　その他　泌尿器系、生殖系、内分泌系、免疫機能
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

救急救命士標準テキスト
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 80 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**病理学（救急）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　川上　ゆかり	

テーマ

授業の到達目標

身体的変化、組織学的変化から病気の原因、発症のメカニズムを知る。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　概論
第2回　先天異常と遺伝子異常
第3回　老化と死、細胞・組織の障害
第4回　代謝障害
第5回　循環障害
第6回　炎症、発熱
第7回　腫瘍
第8回　感染症
第9回　免疫
第10回　循環器系、血液、造血系
第11回　呼吸器系
第12回　消化器系
第13回　泌尿器系、生殖器系
第14回　脳・神経系・内分泌系
第15回　筋、骨・関節、感覚器系、熱傷

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 100 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 0 ）
合否判定時、小テスト結果加味。

2018 Syllabus

科 目 名　**生化学･微生物学**

クラス　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　定　員

履修条件　クラス指定

担 当 者　鈴木 陽一

テーマ

生化学･微生物学

授業の到達目標

生命現象を分子から解明する。

授業の概要

生命現象を分子から解明する

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

講師指示テキスト及び救急救命士標準テキスト

内　容

第1回　生化学序論
第2回　生体のエネルギー代謝
第3回　糖質
第4回　脂質
第5回　タンパク質とアミノ酸
第6回　酵素･ホルモン･ビタミン
第7回　微生物序論
第8回　細菌の分類について
第9回　主なウィルスについて
第10回 感染症について
第11回 免疫学（その1）
第12回 免疫学（その2）
第13回 免疫学（その3）
第14回 生化学･微生物学･免疫学
第15回 まとめ

履修上の注意点

受講のマナー:学外の医師の講義である。
実際の現場や臨床の診察、傷病者の状態などを聴講できる重要な機会である。
講師に対して失礼のない授業態度を期待する。
無断欠席は試験の受講を認めない。

教科書

救急救命士標準テキスト 改訂第9版 上巻
著者: 救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社: へるす出版
出版年: 2015　ISBN: 9784892698699
救急救命士標準テキスト 改訂第9版 下巻
著者: 救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社: へるす出版
出版年: 2015　ISBN: 9784892698705

参考書

成績評価

試験･レポート（ 100 ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
出席100%で試験の受講が可能

2018 Syllabus

科 目 名　**救急医学総論Ⅰ（救急救命士の使命）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　夏目　美樹	

テーマ

救急救命士の使命・基礎知識と代表的応急処置

授業の到達目標

救急救命士の使命，救急医療体制の理解

授業の概要

救急救命士の業務遂行には、その社会的使命の理解や救急医療制度の理解、そして救急医学を中心とした医学全般の知識が必要となる。本講義では、救急救命の歴史や現代の救急医療について概観し、救急救命士の業務を担保する科学的思考の基礎知識や人間の体、心、くらしへの理解を深める。さらに、救急救命士の行う応急処置と種類、代表的な処置としての心肺蘇生法までを習得し、一連の講義を通して、職業としての救急救命士の具体的なイメージを持てるようにする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　オリエンテーション、医の倫理と生命論理
第2回　救急業務とは・救急業務の沿革
第3回　心肺蘇生法・病院前救護
第4回　科学的思考の基礎・人間と人間生活
第5回　救急救命士の役割と責任
第6回　救急医療体制とは
第7回　救急医療システムとは
第8回　メディカルコントロールとは
第9回　救急救命士に関する法規
第10回　救急活動要領について
第11回　救急活動要領について
第12回　死者の対応要領について
第13回　医療保険等について
第14回　消防救急の現状について
第15回　総括

履修上の注意点

第1回目の講義時にガイダンスを実施するので注意事項を遵守すること。

教科書

改訂第9版　救急救命士標準テキスト　上巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698699

改訂第9版　救急救命士標準テキスト　下巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698705

改訂第4版 救急隊員標準テキスト
著者:　救急隊員用教本作成委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2013　　ISBN:　9784892697951

参考書

新版　からだの地図帳
著者:　監:佐藤　達夫
出版社:　講談社
出版年:　2013年　　ISBN:　9784062610254

a90401a710

成績評価

試験・レポート（ 100 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

受講態度が不良のもの、休みの回数が一定以上のものは成績評価を行わない。

2018 Syllabus

科 目 名　**救急医学総論Ⅱ（救急医療体制①）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　夏目　美樹	

テーマ

プレホスピタルケアと救急救命

授業の到達目標

救急医療においては、医療機関での受診を待たず、少しでも発症時にさかのぼって医療が開始されなければならない。また救急現場での観察・応急処置と病院内での診断治療が、一貫して傷病者に提供される救急医療体制をつくることが必要である。このようなプレホスピタルケアの中心的な担い手である消防隊員としての救急救命士の役割と責務について学習する。さらに病院前救護の質を管理する事後検証についても理解を深める。また通常の救急医療体制での対応が困難となる災害発生時の、組織的な救命救急医療についても学習する。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　救急医療体制とは
第2回　人工呼吸と気道確保資機材
第3回　外傷処置
第4回　特定行為とは
第5回　大規模災害とは・トリアージとは
第6回　現場救護所の運営方法について
第7回　NBC災害とは・NBC災害対応要領について
第8回　国内の災害事例について
第9回　国外の災害事例について
第10回　ストレスマネージメント
第11回　救急活動事例と医事紛争
第12回　法医学総論・死体現象について
第13回　命を守る仕事
第14回　まとめ
第15回　総括

履修上の注意点

第1回目の講義時にガイダンスを実施するので注意事項を遵守すること。

教科書

救急救命士標準テキスト　改訂第9版　上巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698699
救急救命士標準テキスト　改訂第9版　下巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698705

参考書

新版　からだの地図帳
著者:　佐藤　達夫
出版社:　講談社
出版年:　2013　　ISBN:　978-4062610254

成績評価

試験・レポート（ 100 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
受講態度が不良のもの、休みの回数が一定以上のものは成績評価を行わない。

2018 Syllabus

科 目 名　**救急救命実習 I**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　関根　和弘.北小屋　裕.千田　いずみ.深澤　雄二.福岡　範恭	

テーマ

救急活動の基礎を学ぶ

授業の到達目標

救急活動の基礎を学ぶ

授業の概要

尊い人命を救助するための知識や技術を日常生活において実践して、自他の生命を尊重し、安全で健康な生活を営めるようにする。また、事故を防止し、災害時などにお互い助け合えるようなボランティアの精神を育てるとともに、医療人である救急救命士としての自覚を養う。一次救急処置の理論と基本的実技および、観察用資機材を用いた救急救命処置等の理論・技術について具体的な実習を通じて習得する。また、救急医療を担う医療施設および消防施設等の実地見学により救急救命の最前線の活動をイメージする。そのために通年講義実習のほか、夏期および春期学休期等に学外実習を実施する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

翌週に実施する項目の課題(300文字～500文字にまとめる)を与える。その項目のテキストを熟読及びまとめること。その日の項目の実技が習得できない場合は、翌週の授業までに各班で全員が個人練習を実施すること。

内　容

第1回　第1回～3回 オリエンテーション、各個訓練(訓練礼式)
第2回　第4回～6回 一次救命処置(一般市民が行う心肺蘇生法、成人)、1人法、AED取扱い
第3回　第7回～9回 一次救命処置(一般市民が行う心肺蘇生法、成人・小児・乳児)
1人法・2人法、AED取り扱い、ポケットマスク使用法
第4回　第10回～12回 一次救命処置(救急隊活動)、BVM(バックバルブマスク)の使用法
第5回　第13回～15回 一次救命処置(救急隊活動)、気道閉塞の対応
第6回　第16回～18回 器具を使用した人工呼吸(経鼻エアーウエイ、経口エアーウエイ)、酸素投与法
第7回　第19回～21回 救急隊員が行う一次救命処置・救急隊活動
第8回　第22回～24回 一次救命処置(一般市民が行う心肺蘇生法)の効果測定
第9回　第25回～27回 三角巾法・止血法・副子固定、徒手搬送法
第10回　第28回～30回 三角巾法・止血法・副子固定、徒手搬送法
第11回　第31回～33回 傷病者観察資機材の取扱い方法(聴診器、検眼灯、血圧計等)
第12回　第34回～36回 搬送資機材の取扱い(メインストレッチャー、スクープストレッチャー、エアーストレッチャー)
第13回　第37回～39回 外傷処置の固定　基本手技(JPTEC準拠)
第14回　第40回～42回 外傷活動の基本 （JPTEC準拠）
第15回　第43回～45回 前期まとめ、水難実習におけるロープワーク
第16回　第46回～49回 消防学校見学（学外） ＊授業期間外
第17回　第50回～52回 傷病者観察の基本1 (外傷初療・JPTEC準拠の基本活動)
基本手技の徹底(ログロール、BB固定、ストレッチャーへの積載方法)
第18回　第53回～55回 傷病者観察の基本1 (外傷初療・JPTEC準拠の基本活動)
①緊急処置 ②ヘルメット離脱方法 ③立位BB、Fire-man Lift、Frat Lift ④KED
第19回　第56回～58回 傷病者観察器具 (心電図の基本を学ぶ)
心電図機器(除細動器)の使用方法、各人への取り付け方法、心肺停止傷病者の心電図波形
第20回　第59回～61回 傷病者観察器具 （喉頭鏡、喉頭展開、異物除去）
ダミーを用いた喉頭鏡の使用方法、基本的手技
第21回　第62回～64回 傷病者観察器具 （喉頭鏡、喉頭展開、異物除去）
喉頭鏡使用による異物除去、吸引、BVM、酸素投与等の隊活動準拠
第22回　第65回～67回 外傷活動の基本 (JPTEC準拠)
状況評価と初期評価 通信指令室からの情報聴取と確認
第23回　第68回～70回 外傷活動の基本 (JPTEC準拠)
車内活動要領と病院報告 GUNBAやMISTの取得方法と報告要領
第24回　第71回～73回 外傷活動の基本 (JPTEC準拠)
シナリオにそった隊活動
第25回　第74回～76回 外傷活動の基本 (JPTEC準拠)
シナリオにそった隊活動
第26回　第77回～79回 外傷活動の基本 (JPTEC準拠)
まとめ
第27回　第80回～82回 傷病者観察の基本2 (内因性疾患傷病者への対応)
医療面接とコミニュケーション
第28回　第83回～85回 傷病者観察の基本2 (内因性疾患傷病者への対応)
状況評価から初期評価、重点観察
第29回　第86回～88回 傷病者観察の基本2 (内因性疾患傷病者への対応)
内因性疾患傷病者への隊活動 (CPAでない傷病者対応、急変あり)

a90401a910

第30回　第89回～91回 傷病者観察の基本2（内因性疾患傷病者への対応）
内因性疾患傷病者への隊活動 シナリオ開示訓練（CPAでない傷病者対応、急変あり）
第92回～110回 介護高齢者とコミュニケーション（学外）＊平常授業日外
第111回～113回 後期まとめ・総括
実技と講義の効果測定

履修上の注意点

履修態度・頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。無断欠席は認めない。

教科書

救急隊員標準テキスト 改訂第3版
著者: 救急隊員用教本作成委員会
出版社: へるす出版
出版年: 2007　ISBN: 9784892695902

救急救命士標準テキスト 改訂第9版 上巻
著者: 救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社: へるす出版
出版年: 2015　ISBN: 9784892698699

救急救命士標準テキスト 改訂第9版 下巻
著者: 救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社: へるす出版
出版年: 2015　ISBN: 9784892698705

改定2版JPTECガイドブック
著者: 一般社団法人JPTEC協議会
出版社: へるす出版
出版年: 2015　ISBN: 9784892698859

PEMECガイドブック2017
著者: 日本臨床救急医学会 PMEC検討小委員会
出版社: へるす出版
出版年: 2017　ISBN: 9784892699191

参考書

成績評価

試験・レポート（ 100 ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
成績評価は知識に関する試験に加え、実技試験を実施する。なお、試験の受験にあたっては原則、すべての授業に参加していることを条件とし、無断欠席、無断遅刻があった場合や態度不良の場合は受験を認めないものとする。

2018 Syllabus

科 目 名　**救急救命実習（水難）<a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　秋期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　関根　和弘.福岡　範恭	

テーマ

水難救助実習

授業の到達目標

特殊な救急活動に対する理解を深めるため、水難救助法を学ぶ。実習を通して基本的な泳法、水に対する安全法と救助法、資器材を使っての救助法、応急手当、水難事故の実際とその対策を習得する。

授業の概要

遭遇することを想定して、救急救命士として出来る基本的な対応から、高度なものまでを実践する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

講義と実習、特に実習は課題が習得できなければ次に進めない。

内　容

第1回　座学
第2回　実習1日目(プール)
第3回　実習2日目(プール)
第4回　実習3日目(プール)
第5回　筆記試験

履修上の注意点

※この単位履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。また、安全管理上から実習中における担当教員の指示には従うことを原則とする。

教科書

水難救助マニュアル
著者:　国士舘大学ウエルネス・リサーチセンター
出版社:
出版年:　　ISBN:

改定第2版JPTECガイドブック
著者:　一般社団法人JPTEC協議会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698859

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20 ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 50 ）
実習中の参加度や態度を重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**救急救命実習（水難）<b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　秋期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　喜熨斗　智也	

テーマ

水難救助実習

授業の到達目標

特殊な救急活動に対する理解を深めるため、水難救助法を学ぶ。実習を通して基本的な泳法、水に対する安全法と救助法、資器材を使っての救助法、応急手当、水難事故の実際とその対策を習得する。

授業の概要

遭遇することを想定して、救急救命士として出来る基本的な対応から、高度なものまでを実践する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

講義と実習、特に実習は課題が習得できなければ次に進めない。

内　　容

第1回　座学
第2回　実習1日目(プール)
第3回　実習2日目(プール)
第4回　実習3日目(プール)
第5回　筆記試験

履修上の注意点

※この単位履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。また、安全管理上から実習中における担当教員の指示には従うことを原則とする。

教科書

水難救助マニュアル
著者:　国士舘大学ウエルネス・リサーチセンター
出版社:
出版年:　　ISBN:

改定第2版JPTECガイドブック
著者:　一般社団法人JPTEC協議会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698859

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 50 ）	

実習中の参加度や態度を重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**救急救命キャリア開発演習Ⅲ〈＊A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森原　則男	

テーマ

数学における問題解決に挑戦します。救急救命士を目指すものに必要な数学的思考力・判断力を身につけます。

授業の到達目標

救急救命士を目指すものに必要な数学的思考力・判断力を身につけるとともに、公務員試験などをクリアーするための数学を学習する。

授業の概要

問題の解答を説明するのでなく、各時間のテーマに関する問題をグループ毎に考えてもらうつもりである。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

特になし

内　　容

第1回　イントロダクション
第2回　数列・規則性の問題に挑戦
第3回　場合の数・順列・組合せの問題に挑戦
第4回　確率の問題に挑戦
第5回　判断推理①「嘘つき問題」に挑戦
第6回　判断推理②対応関係の問題に挑戦
第7回　判断推理③順序関係の問題に挑戦
第8回　判断推理④位置関係の問題に挑戦
第9回　判断推理⑤試合の勝敗問題に挑戦
第10回　判断推理⑥数量推理の問題に挑戦
第11回　図形問題①展開図の問題に挑戦
第12回　図形問題②軌跡の問題に挑戦
第13回　図形問題③分割・構成問題に挑戦
第14回　まとめと振り返り①
第15回　まとめと振り返り②

履修上の注意点

出席することが基本です。グループ学習ですので、協力し合って問題解決に挑戦してください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）	小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 10 ）
参加度 （ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**救急救命キャリア開発演習Ⅲ〈＊B〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　森原 則男

テーマ

数学における問題解決に挑戦します。救急救命士を目指すものに必要な数学的思考力・判断力を身につけます。

授業の到達目標

救急救命士を目指すものに必要な数学的思考力・判断力を身につけるとともに、公務員試験などをクリアーするための数学を学習する。

授業の概要

問題の解答を説明するのでなく、各時間のテーマに関する問題をグループ毎に考えてもらうつもりである。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

特になし

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　数列・規則性の問題に挑戦
第3回　場合の数・順列・組合せの問題に挑戦
第4回　確率の問題に挑戦
第5回　判断推理①「嘘つき問題」に挑戦
第6回　判断推理②対応関係の問題に挑戦
第7回　判断推理③順序関係の問題に挑戦
第8回　判断推理④位置関係の問題に挑戦
第9回　判断推理⑤試合の勝敗問題に挑戦
第10回　判断推理⑥数量推理の問題に挑戦
第11回　図形問題①展開図の問題に挑戦
第12回　図形問題②軌跡の問題に挑戦
第13回　図形問題③分割・構成問題に挑戦
第14回　まとめと振り返り①
第15回　まとめと振り返り②

履修上の注意点

出席することが基本です。グループ学習ですので、協力し合って問題解決に挑戦してください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度 （ 10 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**救急救命キャリア開発演習Ⅳ〈＊A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山﨑　将文	

テーマ

一般市民としてのみならず公務員として必要とされる幅広い知識を深め、教養を高める

授業の到達目標

救急救命士として活躍するために必要とされる幅広い知識と深い教養を修得しながら、いろいろなテーマについて論理的に考える能力を高め、文章や言葉で表現する能力を発展させる。

授業の概要

救急救命キャリア開発演習Ⅲに引き続き、救急救命士として活躍するために必要となる幅広い知識と深い教養を修得しながら、より高度なテーマについても論理的に考える能力、文章等で表現する力を修得するとともにプレゼンテーション能力を発展させる。この授業では、現代の法律、政治、行政、経済、人権、福祉などに関する知識をさらに深めるとともに、学習した内容から関心のあるテーマを自らの発表テーマとして決め、情報収集し、意見をまとめてプレゼンテーションを行う。また、学習内容を小論文としてまとめる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

常日頃からテレビやネットでニュースを見たり、新聞を読み、日本や世界で起きている出来事を知るように努める。また、授業終了後に復習をするとともに、発表・小論文のテーマについて自分で調べる。

内　容

第1回　政治 選挙制度、政党と政党政治
第2回　行政 地方自治、住民の権利、公務員制度
第3回　法学 罪刑法定主義、最近の法律の制定と改正
第4回　基本的人権 精神的自由権、経済的自由権、身体的自由権、社会権、国務請求権
第5回　国会 国会の権限、衆議院の解散
第6回　内閣 内閣の組織、内閣総理大臣の地位と権限
第7回　経済 金融政策、信用創造、為替相場と円高・円安
第8回　財政 財政の役割、財政政策、租税制度
第9回　経済事情 日本の経済事情、世界の経済事情、地域的経済統合
第10回 労働問題 雇用・失業対策
第11回 社会保障 少子・高齢化問題
第12回 現代社会の諸相 農業・食料問題、消費者問題
第13回 テーマの決定と発表（1）
第14回 テーマの決定と発表（2）
第15回 小論文の作成と完成

履修上の注意点

皆勤を目指し、授業に積極的に参加する。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

必要に応じ適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 10 ）
三分の二以上出席しないと単位が認定されない場合がある。12回の授業まではほぼ毎回小テストを実施する。

2018 Syllabus

科 目 名　**救急救命キャリア開発演習Ⅳ〈＊B〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山﨑　将文	

テーマ

一般市民としてのみならず公務員として必要とされる幅広い知識を深め、教養を高める

授業の到達目標

救急救命士として活躍するために必要とされる幅広い知識と深い教養を修得しながら、いろいろなテーマについて論理的に考える能力を高め、文章や言葉で表現する能力を発展させる。

授業の概要

救急救命キャリア開発演習Ⅲに引き続き、救急救命士として活躍するために必要となる幅広い知識と深い教養を修得しながら、より高度なテーマについても論理的に考える能力、文章等で表現する力を修得するとともにプレゼンテーション能力を発展させる。この授業では、現代の法律、政治、行政、経済、人権、福祉などに関する知識をさらに深めるとともに、学習した内容から関心のあるテーマを自らの発表テーマとして決め、情報収集し、意見をまとめてプレゼンテーションを行う。また、学習内容を小論文としてまとめる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

常日頃からテレビやネットでニュースを見たり、新聞を読み、日本や世界で起きている出来事を知るように努める。また、授業終了後に復習をするとともに、発表・小論文のテーマについて自分で調べる。

内　容

第1回　政治 選挙制度、政党と政党政治
第2回　行政 地方自治、住民の権利、公務員制度
第3回　法学 罪刑法定主義、最近の法律の制定と改正
第4回　基本的人権 精神的自由権、経済的自由権、身体的自由権、社会権、国務請求権
第5回　国会 国会の権限、衆議院の解散
第6回　内閣 内閣の組織、内閣総理大臣の地位と権限
第7回　経済 金融政策、信用創造、為替相場と円高・円安
第8回　財政 財政の役割、財政政策、租税制度
第9回　経済事情 日本の経済事情、世界の経済事情、地域的経済統合
第10回 労働問題 雇用・失業対策
第11回 社会保障 少子・高齢化問題
第12回 現代社会の諸相 農業・食料問題、消費者問題
第13回 テーマの決定と発表（1）
第14回 テーマの決定と発表（2）
第15回 小論文の作成と完成

履修上の注意点

皆勤を目指し、授業に積極的に参加する。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

必要に応じ適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 10 ）
三分の二以上出席しないと単位が認定されない場合がある。12回の授業まではほぼ毎回小テストを実施する。

2018 Syllabus

科 目 名　**公衆衛生**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　島　正之.余田　佳子	

テーマ

保健医療制度、社会保障・社会福祉の仕組みについて学ぶ。

授業の到達目標

(1) 社会構造(家族、地域社会)と健康・疾病との関係を説明できる。
(2) 生活環境と健康・疾病との関係を説明できる。
(3) 各ライフステージにおける主な健康問題とその対策を説明できる。
(4) 社会保障・社会福祉の制度とそれを支える仕組みを説明できる。

授業の概要

公衆衛生学全般についての講義を行う。原則として教科書に準じて進めるが、講義では必要に応じて最新の資料等を提示する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業前に教科書をよく読み、キーワードについて事前に理解しておくこと。
授業後には教科書や講義資料を用いて復習し、講義で出された課題や演習問題をもう一度解くこと。

内　容

第1回　公衆衛生の仕組み
第2回　医療を取り巻く環境
第3回　医療供給体制
第4回　産業保健
第5回　疫学
第6回　環境保健
第7回　学校保健
第8回　母子保健
第9回　地域保健
第10回　高齢者保健
第11回　精神保健福祉
第12回　社会保障・社会福祉
第13回　社会保険と制度
第14回　社会福祉と制度
第15回　国際保健
第16回　試験

履修上の注意点

公衆衛生学は、地域社会において保健・医療活動を展開し、問題解決を図るための応用科学である。できるだけ実際のデータや素材を紹介する予定であるので、積極的に授業に参加し、理解するように努めること。

教科書

改訂第9版　救急救命士標準テキスト上巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698699

参考書

シンプル衛生公衆衛生学
著者:　小山洋、辻一郎
出版社:　南江堂
出版年:　2018　　ISBN:　9784524240197

厚生の指標臨時増刊　国民衛生の動向2017/2018
著者:
出版社:　厚生労働統計協会
出版年:　2017　　ISBN:

a90402a310

環境による健康リスク

著者: 車谷典男

出版社: 診断と治療社

出版年: 2017 ISBN: 9784787823076

成績評価

試験・レポート（ 70 ） 小テスト（ 10 ）

授業中課題（ 10 ） 授業中発表等（ 5 ）

参加度 （ 5 ）

成績は試験結果を重視するが、授業への積極的な取り組みも評価の対象とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**救急疾病Ⅰ（呼吸器・循環器系総論）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小尾口　邦彦.福井　道彦	

テーマ

呼吸器系（総論）・循環器系（総論）・神経系の解剖生理・疾病

授業の到達目標

呼吸器系（総論）・循環器系（総論）・神経系の疾病について理解する。

授業の概要

呼吸器系・循環器系・神経系の解剖生理から疾病、観察、処置に至るまでを学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各授業回に該当する教科書の内容は事前に確認する。

内　　容

第1回　呼吸器①解剖と生理1
第2回　呼吸器②解剖と生理2
第3回　呼吸器③呼吸器疾患の病態生理
第4回　呼吸器④疾患の診断、問診・症状・理学所見、検査、喀血、呼吸困難、胸痛など
第5回　循環器①解剖と生理1
第6回　循環器②解剖と生理2
第7回　循環器③病態生理、循環電気生理
第8回　循環器④病態生理疾患の診断、問診・症状・理学所見、胸痛、呼吸困難、動機・不整脈、発熱
第9回　神経系①解剖・生理1、脳神経
第10回　神経系②解剖生理2、脊髄・末梢神経
第11回　神経系③主要な神経症候、神経感染症、脳血管障害、脊髄疾患感覚系疾患、その他神経疾患
第12回　神経系④脳血管障害、神経外傷学
第13回　高齢者に特有の疾患①　原因と病態
第14回　高齢者に特有の疾患②　高齢者をめぐる社会状況、観察・判断、処置・搬送
第15回　まとめ

履修上の注意点

学外の医師の講義である。実際の現場や臨床の診察、傷病者の状態などを聴講できる重要な機会である。講師に対して失礼のない授業態度を期待する。
無断欠席は試験の受講を認めない。

教科書

改訂第9版　救急救命士標準テキスト　上巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　　ISBN:
改訂第9版　救急救命士標準テキスト　下巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（　）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**救急疾病Ⅱ（呼吸器・循環器系各論）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　冨士原　彰.mitei	

テーマ

循環器、呼吸器、消化器系の理解

授業の到達目標

循環器系・呼吸器系・消化器系の疾病の理解

授業の概要

循環器系・呼吸器系の救急疾病について主な疾患を取り上げてその特徴と応急処置などを詳しく学ぶ。循環器系は心不全、虚血性疾患、不整脈、先天性心疾患、心筋疾患など、呼吸器は呼吸不全、呼吸器感染症、気管支喘息、肺炎、肺血管疾患その他の疾患の病態、診断、処置などを習得する。また消化器系の疾患の病態についても理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

救急救命標準テキストに準じる

内　　容

第1回　循環器系疾患各論①基本的な病態及び診断・検査方法、治療に用いる薬剤
第2回　循環器系疾患各論②心不全、虚血性心疾患
第3回　循環器系疾患各論③虚血性心疾患の救急医療　高血圧
第4回　循環器系疾患各論④不整脈
第5回　循環器系疾患各論⑤先天性心疾患、心臓弁膜症
第6回　循環器系疾患各論⑥心筋疾患、血管系疾患（動脈、静脈）
第7回　呼吸器系疾患各論①呼吸器感染症
第8回　呼吸器系疾患各論②気管支喘息とCOPD、肺腫瘍
第9回　呼吸器系疾患各論③間質性肺炎と周辺疾患、呼吸不全
第10回 呼吸器系疾患各論④肺血管疾患、胸膜・横隔疾患、その他の呼吸器疾患
第11回 消化器系疾患各論①食道・胃・十二指腸疾患
第12回 消化器系疾患各論②肝炎・肝硬変、肝腫瘍、胆石症
第13回 消化器系疾患各論③大腸・小腸疾患
第14回 消化器系疾患各論④腫瘍、腹痛、吐血・下血
第15回 消化器系疾患各論⑤腸閉塞・ヘルニア他

履修上の注意点

受講のマナー:学外の医師の講義である。
実際の現場や臨床の診察、傷病者の状態などを聴講できる重要な機会である。
講師に対して失礼のない授業態度を期待する。
無断欠席は試験の受講を認めない。

教科書

救急救命士標準テキスト　改訂第9版　上巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698699
救急救命士標準テキスト　改訂第9版　下巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698705

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 0 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**救急の検査**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西本　泰久.竹下　仁	

テーマ

授業の到達目標

救急疾患と臨床検査の関係を理解する。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　検査総論
第2回　血液の基礎
第3回　出血／失血性ショックと検査
第4回　凝固異常（血栓・塞栓）と検査
第5回　肺動脈塞栓症と検査
第6回　黄疸と検査
第7回　血液ガス分析検査（基礎）
第8回　血液ガス分析検査（代謝性異常）
第9回　血液ガス分析検査（呼吸性異常）
第10回　糖尿病と検査
第11回　胸部痛救急の検査
第12回　心電図検査（基礎）
第13回　心電図検査（心筋梗塞と不整脈）
第14回　腹痛救急と検査
第15回　まとめ（超音波・X線撮影・CT・MRI・内視鏡）
第16回　試験

履修上の注意点

教科書

参考書

救急救命士標準テキスト
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 80 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**救急症候学Ⅰ（外傷①）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　久保山　一敏	

テーマ

外傷総論

授業の到達目標

外傷総論を理解する

授業の概要

救急外傷学の総論を学ぶ。外傷とは機械的外力により身体が形態的、機能的に障害を被ることであり、その種類や緊急度・重症度により適切な処置が異なる。そのためには外傷の原因・メカニズムや病態を理解しておく必要があり、多発外傷や特殊な傷病者に対する理解も必要となる。その上で、観察と応急処置などを習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

標準テキストの予習・復習を各30分程度行う。

内　　容

第1回　外傷総論　外傷の定義と種類、疫学
第2回　出血と止血機構、創傷と感染　出血の種類と病態生理、創傷の治療機転
第3回　受傷機転、損傷の特徴　外傷別発生機序とそれらの特徴
第4回　多発外傷の病態と観察・処置
第5回　妊婦・小児・高齢者の外傷　特徴と観察・処置
第6回　外傷性ショックについて　原因と分類
第7回　ショックの病態生理　生体反応と重症度
第8回　観察と判断
第9回　重症度評価　状況評価と重症度評価のポイント
第10回 応急処置と搬送①　初期評価と応急処置
第11回 応急処置と搬送②　搬送時の注意点
第12回 外傷とトリアージ
第13回 多数傷病者対応
第14回 実例紹介
第15回 まとめ

履修上の注意点

欠席・授業中のマナーは最終成績に反映させる。また「死」「感染症」の章も取り扱う。

教科書

救急救命士標準テキスト　改訂第9版　第1巻～第5巻
著者:
出版社: へるす出版
出版年: 2015　　ISBN:

参考書

改訂第2版JPTECガイドブック
著者:
出版社: へるす出版
出版年: 2016　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 50% ）　　小テスト （ 35% ）
授業中課題 （ 0 ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 15% ）
小テストは、授業の進捗状況によって事前アナウンスのうえ適宜実施する。

2018 Syllabus

科 目 名　**救急医学総論Ⅲ（在宅医療）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　mitei.河原　宣子.千田　いずみ	

テーマ

在宅医療

授業の到達目標

生命の尊厳について理解する。
在宅医療に関連する疾患や観察・処置、看護、リスクマネジメントなどについて理解する。

授業の概要

生命倫理、在宅医療（疾患の観察や処置、看護、リスクマネジメント）について学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各授業回に該当する教科書の内容は事前に確認する。

内　　容

第1回　生命倫理とは
第2回　安全管理とリスクマネジメント（1）
第3回　安全管理とリスクマネジメント（2）
第4回　観察（局所）（1）
第5回　観察（局所）（2）
第6回　観察（局所）（3）
第7回　接遇演習（1）
第8回　接遇演習（2）
第9回　感染症とは
第10回　消毒と滅菌について、清潔操作
第11回　看護について（1）
第12回　看護について（2）
第13回　在宅療養者に対する処置（1）
第14回　在宅療養者に対する処置（2）
第15回　在宅療養者に対する処置（3）／まとめ

履修上の注意点

教科書

改訂第9版　救急救命士標準テキスト　上巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　　ISBN:
改訂第9版　救急救命士標準テキスト　下巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 70 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
受講態度が不良のもの、欠席回数が一定以上のものは成績評価を行いません。

2018 Syllabus

科 目 名　**救急医学総論Ⅳ（救急医療体制②）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　関根　和弘	

テーマ

救急現場活動に必要な知識と技術・コミニュケーションカ

授業の到達目標

救急現場活動に必要なコミュニケーションスキル、救急隊等の編成や関連する法律・公務災害等についての理解

授業の概要

救急現場活動を行うために必要なコミュニケーションスキル、救急隊の編成、救急自動車装備、通信体制、搬送法や救急活動に関連する法律や公務災害・参事ストレスについて理解する。講義と実習の組み合わせで実施する。実習は、小グループでの班編成としてグループワークを実施する。グループ毎に発表をする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

前半は、改訂8版救急救命士標準テキスト第2版を使用する。中盤は資料を作成したものを前週に配布し、翌週に演習を行う。配布した資料を熟読しておくこと。

内　容

第1回　救急活動の概論（DVD閲覧における救急体制の理解、ディスカッション）、研究の倫理
第2回　救急現場活動（救急医療システム、救急搬送システム、救急情報システム、概論）
第3回　救急現場活動（周産期医療、医療計画と救急救護体制、救急医療情報システム、各論）
第4回　救急現場活動（病院前救護体制、救急活動の基本）
第5回　救急現場活動（救急の無線交信と出場）
第6回　救急現場のコミュニケーションスキル（コミュニケーションスキルの概論）講義と実習
第7回　救急現場のコミュニケーションスキル（消防・救急における情報の伝達）講義と実習
第8回　救急現場のコミュニケーションスキル（医療面接）講義と実習
第9回　救急現場のコミュニケーションスキル（医療面接と情報伝達）講義と実習
第10回 救急行政と救急関連法規（メディカルコントロールと事後検証制度）
第11回 救急活動と法律問題（医療業務に係る体系、救急救命士の名称独占と業務独占について）
第12回 惨事ストレスマネージメント（救助救急隊員のための惨事ストレス対策）
第13回 救急現場等の安全管理（危険予知訓練:KYT）講義と実習
第14回 海外の病院前救護体制（米国・英国や仏国等と日本の病院前救護体制の違い）
第15回 まとめ

履修上の注意点

前週に知識やルールを得て、翌週に演習を実施するので、配布資料を熟読してこないと同じテーブルになった他の者に迷惑をかけることとなる。無断欠席は試験の受講を認めない。

教科書

救急隊員標準テキスト　改訂第3版
著者:　救急隊員用教本作成委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2007　　ISBN:　9784892695902

救急救命士標準テキスト　改訂第9版　上巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698699

救急救命士標準テキスト　改訂第9版　下巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698705

交通救助のテクニック
著者:　関根　和弘
出版社:　イカロス出版
出版年:　2011　　ISBN:　9784863205222

a90402a910

参考書

救急活動コミニュケーションスキル
著者: 坂本哲也/畑中哲生/松本尚
出版社: ㈱メディカルサンエンス
出版年: 2009 ISBN: 9784903843063

惨事ストレスへのケア
著者: 松井 豊
出版社: ㈱おうふう
出版年: 2009 ISBN: 9784273035341

はじめての医療面接
著者: 斉藤清二
出版社: 医学書院
出版年: 2000 ISBN: 4260138677

成績評価

試験・レポート（ 40 ） 小テスト（ ）
授業中課題 （ 10 ） 授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 30 ）
まとめの試験60%以上、課題提出など授業中の発表や態度など考慮をする。

2018 Syllabus

科 目 名　**救急症候学Ⅱ（外傷②）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　久保山　一敏	

テーマ

外傷各論、外因性損傷（熱傷・化学損傷・電撃傷・雷撃傷・縊頸・絞頸・刺咬症）

授業の到達目標

各部位の外傷、熱傷等の外因性損傷について理解する

授業の概要

救急外傷学の各論、および熱傷等の外因性損傷を学ぶ。外傷は受傷部位によってさまざまな特徴があり、各外因性損傷もそれぞれが顕著な特徴を持つ。それらを理解した上で初めて緊急度・重症度の判定が可能になり、適切な処置や現場活動が判断できる。これら救急救命士として欠かせない知識を習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

標準テキストの復習を30～60分行う

内　容

第1回　頭部外傷Ⅰ
第2回　〃　Ⅱ
第3回　顔面・頸部外傷Ⅰ
第4回　〃　Ⅱ
第5回　胸部外傷Ⅰ
第6回　〃　Ⅱ
第7回　腹部外傷Ⅰ
第8回　〃　Ⅱ
第9回　熱傷Ⅰ
第10回　〃　Ⅱ
第11回　化学損傷
第12回　電撃傷・雷撃傷
第13回　縊頸・絞頸
第14回　刺咬症（傷）
第15回　まとめ、テスト

履修上の注意点

欠席、授業中のマナーは最終成績に反映させる

教科書

救急救命士標準テキスト　改訂第9版
著者:
出版社: へるす出版
出版年: 2015　　ISBN:

参考書

JPTECガイドブック　改訂第2版
著者:
出版社: へるす出版
出版年: 2016　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 50% ）　　小テスト （ 35% ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 15% ）
小テストは授業の進捗状況によって、事前アナウンスのうえ適宜行う

2018 Syllabus

科 目 名　**環境障害**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　久保山 一敏

テーマ

急性中毒学・環境障害

授業の到達目標

急性中毒学・熱中症や放射線障害などの環境障害を理解する。

授業の概要

標準テキストを中心に講義し、適宜参考資料を提示する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

標準テキストの復習を30～60分行うこと。

内　容

第1回　中毒総論
第2回　中毒各論Ⅰ
第3回　中毒各論Ⅱ
第4回　中毒各論Ⅲ
第5回　異物・溺水
第6回　熱中症・偶発性低体温症
第7回　放射線障害
第8回　その他の環境障害
第9回　まとめ・試験

履修上の注意点

欠席、授業中のマナーは最終成績に反映させる。

教科書

改訂第9版救急救命士標準テキスト
著者:
出版社: へるす出版
出版年: 2015年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 60% ）　　小テスト （ 30% ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 10% ）
小テストは授業の進捗状況に従い、事前アナウンスの上適宜実施する。

2018 Syllabus

科 目 名　**救急救命実習Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　関根　和弘.北小屋　裕.夏目　美樹.深澤　雄二.福岡　範恭	

テーマ

救急隊活動と救急救命士の基本手技・知識を学ぶ

授業の到達目標

救急隊活動と救急救命士の救急救命処置の基本を習得する

授業の概要

救急救命士として職務遂行にあたり1回生で修得した基本行動要領を基礎とした救急救命行為を用いた救急隊活動を行うために必要な基本処置および技術を理解し、習得することを目標とする。そのために通年講義実習のほか、夏期および春期学休期等に学外・学内実習を実施する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

救急救命標準テキストに準ずる

内　　容

第1回　第1回～3回　ガイダンス、基本CPA対応活動
第2回　第4回～6回　基本CPA対応活動
第3回　第7回～9回　基本CPA対応活動
第4回　第8回～12回　基本外傷処置
第5回　第13回～15回　基本外傷処置
第6回　第16回～18回　外傷処置総合
第7回　第19回～21回　傷病者観察
第8回　第22回～24回　傷病者観察
第9回　第25回～27回　傷病者観察
第10回　第28回～30回　傷病者観察
第11回　第31回～33回　外傷シナリオ想定
第12回　第34回～36回　外傷シナリオ想定
第13回　第37回～39回　CPAシナリオ想定
第14回　第40回～42回　CPAシナリオ想定
第15回　第43回～45回　前期まとめ
第16回　第46回～49回　総合演習、傷病者理解　＊授業期間外
第17回　第50回～52回　集団災害、トリアージ
第18回　第53回～55回　静脈ライン、静脈路確保準備
第19回　第56回～58回　静脈路確保基本手技
第20回　第59回～61回　静脈路確保基本手技
第21回　第62回～64回　静脈路確保基本手技
第22回　第65回～67回　静脈路確保基本手技
第23回　第68回～70回　器具を使用した気道確保
第24回　第71回～73回　器具を使用した気道確保
第25回　第74回～76回　気管挿管基本手技
第26回　第77回～79回　気管挿管基本手技
第27回　第80回～82回　気管挿管基本手技
第28回　第83回～85回　気管挿管基本手技
第29回　第86回～88回　気管挿管基本手技
第30回　第89回～91回　後期まとめ
第92回～110回　介護高齢者とコミュニケーション（学外）＊平常授業日外
第111回～113回　総括

履修上の注意点

欠席は認めない。教員の指示指導に従えない場合は単位を取り消す場合がある。

教科書

JPTECガイドブック
著者:　一般社団法人JPTEC協議会
出版社:　へるす出版
出版年:　2010　　ISBN:　9784892697036

a90402b310

救急救命士標準テキスト 改訂第9版 上巻
著者: 救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社: へるす出版
出版年: 2015 ISBN: 9784892698699
救急救命士標準テキスト 改訂第9版 下巻
著者: 救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社: へるす出版
出版年: 2015 ISBN: 9784892698705
改定第4版 救急隊員標準テキスト
著者: 救急隊員用教本作成委員会
出版社: へるす出版
出版年: 2013 ISBN: 9784892697951
PEMECガイドブック2017
著者: 日本臨床救急医学会 PMEC検討小委員会
出版社: へるす出版
出版年: 2017 ISBN: 978489269919
PSLSガイドブック2015
著者: PCEC・PSLS改訂小委員会
出版社: へるす出版
出版年: 2015 ISBN: 9784892698668
PCECガイドブック2016
著者: PCEC・PSLS改訂小委員会
出版社: へるす出版
出版年: 2015 ISBN: 9784892698781
参考書

成績評価

試験・レポート（ 100 ） 小テスト（ ）
授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
成績評価は知識に関する試験に加え、実技試験を実施する。なお、試験の受験にあたっては原則、すべての授業に参加していることを条件とし、無断欠席、無断遅刻があった場合や態度不良の場合は受験を認めないものとする。

2018 Syllabus

科 目 名　**薬理学（救急）＜a＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　天野 博夫

テーマ

日常生活と薬・救急医療と薬

授業の到達目標

「薬の働き」との関連から、人間の生理機能やその障害に関する理解を深める。日常生活と薬の存在に関して、「有効性」と「安全性」の意味を認識できる。

授業の概要

前半7回は薬理学に関する基本的な概念を中心に、後半は救急医療に関連の深い薬物の働きを中心に解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

その日の講義内容がこれまでに他の科目で学んだ事柄に関連していないかを思い出してみることが望ましい。

内　容

第1回　基礎知識の確認と整理1
第2回　基礎知識の確認と整理2
第3回　薬理作用の基礎・薬の作用点
第4回　薬物投与と薬物動態1
第5回　薬物投与と薬物動態2
第6回　自律神経系作用薬1
第7回　自律神経系作用薬2・ホルモン
第8回　薬物の有害作用
第9回　中毒
第10回　心肺蘇生の薬理
第11回　救急医療の薬理1
第12回　救急医療の薬理2
第13回　よく用いられる日常薬1
第14回　よく用いられる日常薬2
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 100 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**救急救命特別実習Ⅰ ＜a＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期集中	定　員　0
履修条件	クラス指定
担 当 者　関根 和弘.福岡 範恭	

テーマ

水難救助実習（海）

授業の到達目標

1回生時のプール実習の特殊な救急活動に対する理解を深めた知識、技術を自然の中の水難救助法を学ぶ。実習を通して基本的な泳法、海に対する安全法と海の危険・生物、潮の流れ等を理解し資器材を使用しての救助法、応急手当、水難事故の実際とその対策を習得する。

授業の概要

水難事故に遭遇することを想定して、救急救命士として出来る基本的な対応から高度なものまでを実践する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

1回生時のプール実習の基本的手技・知識を実際の自然の海で実践するため、水難救助マニュアルの熟読復習が必須

内　容

第1回　移動、オリエンテーション・講義（夜）
第2回　開校式、浜清掃、潮汐、バディシステム、シグナル、泳力確認、セルフレスキュー、PFD実習、搬送法、講義（夜）
第3回　潮汐、着衣泳、着衣泳のセルフレスキュー、シュノーケリング、シーカヤック、講義（夜）
第4回　潮汐、遠泳、チューブレスキュー、ボードレスキュー、スパイナルケア、歴史を学ぶ、講義（夜）
第5回　潮汐、総合訓練、浜清掃、閉講式、移動

履修上の注意点

学外実習となるため時刻の厳守、社会人としての行動を期待する。体調管理は十分にしておくこと。担当教員の指示に従うことを原則とする。

教科書

水難救助マニュアル
著者:　国士舘大学ウエルネスリサーチセンター
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 50 ）	

実習中の参加度や態度を重視する

2018 Syllabus

科 目 名　**救急救命特別実習Ⅰ ＜b＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期集中	定　　員　0
履修条件	クラス指定
担 当 者　　喜熨斗　智也	

テーマ

水難救助実習（海）

授業の到達目標

1回生時のプール実習の特殊な救急活動に対する理解を深めた知識、技術を自然の中の水難救助法を学ぶ。実習を通して基本的な泳法、海に対する安全法と海の危険・生物、潮の流れ等を理解し資器材を使用しての救助法、応急手当、水難事故の実際とその対策を習得する。

授業の概要

水難事故に遭遇することを想定して、救急救命士として出来る基本的な対応から高度なものまでを実践する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

1回生時のプール実習の基本的手技・知識を実際の自然の海で実践するため、水難救助マニュアルの熟読復習が必須

内　容

第1回　移動、オリエンテーション・講義（夜）
第2回　開校式、浜清掃、潮汐、バディシステム、シグナル、泳力確認、セルフレスキュー、PFD実習、搬送法、講義（夜）
第3回　潮汐、着衣泳、着衣泳のセルフレスキュー、シュノーケリング、シーカヤック、講義（夜）
第4回　潮汐、遠泳、チューブレスキュー、ボードレスキュー、スパイナルケア、歴史を学ぶ、講義（夜）
第5回　潮汐、総合訓練、浜清掃、閉講式、移動

履修上の注意点

学外実習となるため時刻の厳守、社会人としての行動を期待する。体調管理は十分にしておくこと。担当教員の指示に従うことを原則とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 50 ）	

実習中の参加度や態度を重視する

2018 Syllabus

科 目 名　**救急救命特別実習Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　秋期集中	定　　員　20
履修条件	クラス指定
担 当 者　　夏目　美樹.千田　いずみ	

テーマ

海外先進地の救急体制の視察

授業の到達目標

海外先進地の救急体制を学ぶことで、より高度な実践力を身につけ、救急救命士としての視野を広げ、知識技能の向上を図ることを目的とします。

授業の概要

海外の消防（救急）の実際を視察するとともに、現地のパラメディックスクールでの講義履修など技術の習得を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前学習では、日本の消防組織の仕組と活動を理解し、相互の共通点や相違点を明らかにできるようにしておくこと。

内　容

第1回　事前学習及びガイダンス
第2回　海外視察
第3回　海外視察
第4回　海外視察
第5回　海外視察
第6回　海外視察
第7回　海外視察
第8回　事後報告会

履修上の注意点

事前学習およびガイダンスに不参加の学生は、海外視察には参加させないこともある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 60 ）
事前課題およびレポート、研修中の態度等を総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**危機管理論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　秋期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中田　敬司	

テーマ

危機管理、リスクマネジメント、トラブルシューティング、ダメージコントロール、情報管理

授業の到達目標

1, 危機管理の概念について、実践的意味を持つものであることを理解できる。2, ダリトメソッド（ダメージコントロール・リスクマネジメント・トラブルシューティング）の考え方を理解でき、自分自身の具体的体験に基づいて説明できるようになる。3,リスクアセスメントについて、発生の可能性・結果の重要性からリスクの大きさ評価されることについて説明できる。　4, 目的達成のための情報収集・整理・発信等管理の仕方や評価の方法について理解できる。5, 組織の中で危機管理体制が重要であることを理解できる。

授業の概要

危機管理の概念や組織目標達成に必要な要件について学び、どのような組織が生産性が高く組織目標達成につながっていくのか、また危機的状況を回避できるのか、過去の事例を検討し講義およびディスカッションを取り入れながら授業を実施する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前および事後学習にそれぞれ1時間。

内　　容

第1回　ガイダンス 危機管理論の講義が目指すものについての理解と授業の進め方や評価、スタートに当たってのティーアップを実施する。
第2回　危機管理の概念と定義 危機管理のイメージ及び捉え方を学び、自分たちで定義を作成するとで危機管理の求めるものを理解する。
第3回　ダリトメソッド 危機管理のわかりやすい考え方である、ダメージコントロール・リスクマネジメント・トラブルシューティングについて理解する。
第4回　ダリトメソッド 危機管理のわかりやすい考え方である、ダメージコントロール・リスクマネジメント・トラブルシューティングについて理解する。
第5回　ダリトメソッド ダメージコントロールの理解と事例研究
第6回　リスクマネジメント リスクマネジメント及びリスクアセスメントと危機対策プラン作成
第7回　企業・団体の危機事例検討① トラブルシューティングの理解と事例研究
第8回　学んだ内容の整理と確認 第7回までの学習内容を振り返り整理する。
第9回　パーソナリティ分析・リーダーシップスタイル 自分自身の特徴について理解し、組織活動における自分の役割や課題を確認する。
第10回　危機管理と組織論 組織の定義や組織の原則の理解
第11回　情報管理・情報の種類及び情報収集と評価・伝達 インフォメーションとインテリジェンスの違いおよび収集・評価・伝達について理解する。
第12回　3C本部とネットワークセントリックオペレーション 危機対応の組織と情報管理戦術
第13回　企業・団体の危機事例検討とシミュレーション② 事例に基づく危機管理シミュレーションを実施し実用レベルの考え方を身につける。
第14回　企業・団体の危機事例検討とシミュレーション③ 事例に基づく危機管理シミュレーションを実施し実用レベルの考え方を身につける。
第15回　学んだ内容の整理と確認 学習内容を整理し知識の定着を図る。

履修上の注意点

授業出席・グループワークへの積極的参加が重要。

教科書

授業ごとにプリント配布。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

危機管理のノウハウ1-3
著者:　佐々　淳行
出版社:　PHP出版
出版年:　　ISBN:

成績評価

a90402d310

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**救急救命キャリア開発演習Ⅴ〈＊〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　夏目　美樹.関根　和弘	

テーマ

公務員試験対策

授業の到達目標

救急救命士の最大就職先である地方公務員の採用試験突破を目標に一般教養から社会・人文科学および時事問題等の理解を目指す。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　ガイダンス、公務員試験対策
第2回　公務員試験対策
第3回　公務員試験対策
第4回　公務員試験対策
第5回　公務員試験対策
第6回　公務員試験対策
第7回　公務員試験対策
第8回　公務員試験対策
第9回　公務員試験対策
第10回　公務員試験対策
第11回　公務員試験対策
第12回　公務員試験対策
第13回　公務員試験対策
第14回　公務員試験対策
第15回　まとめ

履修上の注意点

欠席する際は、講義開始10分前までに学生本人が単位責任者まで電話で連絡を入れること。
（事故や急病で本人が電話できない場合は除く。）

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）

講義参加度（開講回数5分の1以上の欠席、無断欠席）および授業中課題の提出が規定数以上提出されていない者は成績評価を実施しない。

2018 Syllabus

科 目 名　**救急救命キャリア開発演習Ⅵ〈＊〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　夏目　美樹.関根　和弘	

テーマ

公務員試験対策

授業の到達目標

救急救命士の最大就職先である地方公務員の採用試験突破を目標に一般教養から社会・人文科学および時事問題等の理解を目指す。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　ガイダンス、公務員試験対策
第2回　公務員試験対策
第3回　公務員試験対策
第4回　公務員試験対策
第5回　公務員試験対策
第6回　公務員試験対策
第7回　公務員試験対策
第8回　公務員試験対策
第9回　公務員試験対策
第10回　公務員試験対策
第11回　公務員試験対策
第12回　公務員試験対策
第13回　公務員試験対策
第14回　公務員試験対策
第15回　まとめ

履修上の注意点

欠席する際は、講義開始10分前までに学生本人が単位責任者まで電話で連絡を入れること。
（事故や急病で本人が電話できない場合は除く。）

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）

講義参加度（開講回数5分の1以上の欠席、無断欠席）および授業中課題の提出が規定数以上提出されていない者は成績評価を実施しない。

2018 Syllabus

科 目 名　**救急症候学Ⅲ(呼吸器・循環器・神経系)**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　冨士原　彰.大石　泰男.小畑　仁司.西本　泰久	

テーマ

症候別に病態を学ぶ

授業の到達目標

救急症候・病態生理学

授業の概要

救急で遭遇する救急疾患

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

救急救命士テキストの該当する箇所を予習しておくこと。講義終了後は不明な点をなくしておくこと。

内　容

第1回　胸痛・動悸・不整脈　【大石　泰男】
第2回　心肺停止①　【西本　泰久】
第3回　喀血・痙攣　【大石　泰男】
第4回　心肺停止②　【西本　泰久】
第5回　意識障害　【小畑　仁司】
第6回　頭痛・めまい　【小畑　仁司】
第7回　運動障害･感覚障害　【小畑　仁司】
第8回　ショック・循環不全　【西本　泰久】
第9回　喀血・痙攣　【大石　泰男】
第10回　呼吸困難・発熱　【西本　泰久】
第11回　性器出血・鼻出血　【大石　泰男】
第12回　腹痛・吐下血・血尿　【冨士原　彰】
第13回　嘔吐・下痢・歯痛　【冨士原　彰】
第14回　鑑別診断(外科)　【冨士原　彰】
第15回　まとめ　【冨士原　彰】

履修上の注意点

外部講師の講義もあるため真摯に授業を受けること。

教科書

救急救命士標準テキスト　改訂第9版　上巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698699
救急救命士標準テキスト　改訂第9版　下巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698705

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**救急症候学Ⅳ（筋骨格系）**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　石津　恒彦.田中　英夫	

テーマ

整形外科・脳神経外科の病態を学ぶ

授業の到達目標

整形外科・脳神経外科の病態を学び救急処置ができるようになる。

授業の概要

救急で遭遇する外傷

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

救急救命士標準テキストに準じる

内　　容

第1回　スポーツ外傷①　解剖・発生機序と病態
第2回　スポーツ外傷②　症状と観察、判断・応急処置等
第3回　皮膚・軟部組織外傷①　局所解剖、皮膚の損傷
第4回　皮膚・軟部組織外傷②　皮膚の損傷、特殊な外傷
第5回　骨盤・四肢外傷①　骨盤骨折
第6回　骨盤・四肢外傷②　四肢外傷
第7回　脳神経①　神経系の構造・機能、観察・判断等
第8回　脳神経②　応急処置、おもな疾患等
第9回　脊椎・脊髄外傷①　解剖、発生機序、主な外傷
第10回　脊椎・脊髄外傷②　症状と観察・応急処置、運送等
第11回　筋・骨格系の疾患①　構造と機能、観察と判断
第12回　筋・骨格系の疾患②　おもな疾患、応急処置と搬送
第13回　腰痛・背部痛①　原因と解剖生理、問診のポイント
第14回　腰痛・背部痛②　観察と判断、応急処置・搬送等
第15回　まとめ

履修上の注意点

外部講師であるため、不真面目な態度や遅刻などがあった場合は、受講と認めない場合がある。

教科書

救急救命士標準テキスト第9版 上巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698699
救急救命士標準テキスト第9版 下巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698705

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20 ）	小テスト （ 30 ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**救急処置各論Ⅰ（薬理）**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西本　泰久.西本　香王里	

テーマ

薬剤投与とメディカルコントロール

授業の到達目標

薬剤の作用・効果などを知り、実際の救急現場での投与方法を知る。
また、救急現場におけるメディカルコントロール体制に関して説明できる。
各種プロトコールに関して学習する。

授業の概要

講義

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　心肺停止前後の病態
第2回　特定行為が適応となる心肺停止の病態
第3回　薬物の作用
第4回　薬物の吸収・代謝・排泄
第5回　薬剤の投与経路と投与法、薬物の有害作用
第6回　薬剤の投与の原則、薬事法と医薬品
第7回　輸液製剤、自律神経薬
第8回　心肺停止に用いられる代表的な薬剤
第9回　医療機関で行われる二次救命処置
第10回 心肺停止と特定行為のプロトコル1
第11回 心肺停止と特定行為のプロトコル2
第12回 事後検証とウツタイン様式
第13回 救急救命処置とメディカルコントロール1
第14回 救急救命処置とメディカルコントロール2
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

救急救命士標準テキスト
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**救急処置各論Ⅱ（災害）**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　久保山　一敏.関根　和弘	

テーマ

救急処置や現場での判断の背景を理解する。

授業の到達目標

救急処置を行うに当たって、その背景にあるハードウエア、ソフトウエア、社会的因子の理解を深める。

授業の概要

講義、演習、グループワークを適宜取り入れて行う。なおそのときどきのホットな社会的話題は積極的に取り上げる。そのため授業の内容・順番は臨機応変に変更することがありうる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各授業の復習を30～60分程度行うこと。理解を深めるため、図書館での参考書の自習が望まれる。

内　　容

第1回　最近の社会の話題Ⅰ（久保山）
第2回　わが国の災害時医療体制（久保山）
第3回　災害現場における現場活動（関根）
第4回　災害医療における救急救命士の業務（関根）
第5回　情報伝達演習（久保山）
第6回　最近の社会の話題Ⅱ（久保山）
第7回　BVMの構造と機能Ⅰ（久保山）
第8回　BVMの構造と機能Ⅱ（久保山）
第9回　最近の文献紹介Ⅰ（久保山）
第10回　最近の文献紹介Ⅱ（久保山）
第11回　終末期と病院前救護（久保山）
第12回　バイタルサイン記録演習（久保山）
第13回　最近の社会の話題Ⅲ（久保山）
第14回　最近の社会の話題Ⅳ（久保山）
第15回　まとめ、試験

履修上の注意点

出欠、受講マナーは最終成績に反映される。

教科書

救急救命士標準テキスト改訂第9版
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

JPTECガイドブック　改訂第2版
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 55% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30% ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 15% ）
提出課題は授業中に適宜指定する。

2018 Syllabus

科 目 名　**救急症候学Ⅴ（顔面・頸部）**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　久保山　一敏	

テーマ

外傷・外因性損傷総覧

授業の到達目標

外傷・外因性損傷全般について、提示された実症例を通じて理解を深める。

授業の概要

救急症候学Ⅰ・Ⅱ、環境障害の各授業で学んだ知識を深めるため、実症例を提示して重要点・問題点について考察する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

標準テキストの復習を30～60分程度行う。

内　　容

第1回　外傷総論
第2回　頭部外傷
第3回　顔面・頸部外傷
第4回　脊椎・脊髄外傷
第5回　胸部外傷
第6回　腹部外傷
第7回　骨盤外傷
第8回　四肢外傷
第9回　皮膚・軟部組織外傷
第10回 熱傷
第11回 化学損傷、電撃傷・雷撃傷
第12回 急性中毒Ⅰ
第13回　〃　Ⅱ
第14回 環境障害
第15回 まとめ・試験

履修上の注意点

出欠、授業中のマナーは最終成績に反映させる。

教科書

改訂第9版救急救命士標準テキスト
著者:
出版社: へるす出版
出版年: 2015　　ISBN:

参考書

JPTECガイドブック 改訂第2版
著者:
出版社: へるす出版
出版年: 2016　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 70% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30% ）
小テストは、授業の進捗状況に従って事前アナウンスのうえ適宜実施する。

2018 Syllabus

科 目 名　**救急症候学Ⅵ（ショック・意識障害）**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西本　泰久	

テーマ

授業の到達目標

整形外科・脳神経外科の理解

授業の概要

整形外科・脳神経外科について主な外傷や疾病を取り上げてその特徴と応急処置などを詳しく学ぶ。整形外科はスポーツ外傷、皮膚・軟部組織外傷、骨盤・四肢外など、脳神経外科は頭部外傷や疾患、脊椎・脊髄外傷などの病態、診断、処置などを習得する。また筋・骨格系の疾患や腰痛・背部痛の病態についても理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　スポーツ外傷①　解剖・発生機序と病態
第2回　スポーツ外傷②　症状と観察、判断・応急処置等
第3回　皮膚・軟部組織外傷①　局所解剖、皮膚の損傷
第4回　皮膚・軟部組織外傷②　皮膚の損傷、特殊な外傷
第5回　骨盤・四肢外傷①　骨盤骨折
第6回　骨盤・四肢外傷②　四肢外傷
第7回　脳神経①　神経系の構造・機能、観察・判断等
第8回　脳神経②　応急処置、おもな疾患等
第9回　脊椎・脊髄外傷①　解剖、発生機序、主な外傷
第10回　脊椎・脊髄外傷②　症状と観察・応急処置、運送等
第11回　筋・骨格系の疾患①　構造と機能、観察と判断
第12回　筋・骨格系の疾患②　おもな疾患、応急処置と搬送
第13回　腰痛・背部痛①　原因と解剖生理、問診のポイント
第14回　腰痛・背部痛②　観察と判断、応急処置・搬送等
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 100% ）	小テスト（ o% ）
授業中課題（ o% ）	授業中発表等（ o% ）

参加度（ o% ）

試験の受験にあたっては原則、すべての授業に参加していることを条件とし、無断欠席があった場合は受験を認めないものとする。

2018 Syllabus

科 目 名　**精神医学**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹村　隆太	

テーマ

精神医学総論(ICD10に準拠し、具体的なケースを通じた精神疾患の病態への理解、精神医学の歴史、関連する社会制度など)

授業の到達目標

様々な精神疾患について具体的なイメージが持て、救急救命の現場に生かせるようになること

授業の概要

講義形式、スライドの提示、プリントの配布

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

精神医学に関連した、ご自身が興味の持てるテーマを一つ決めて追求してみましょう。第8回目のテスト時に、その成果を記述していただいても構いません。

内　容

第1回　精神医学総論(関連する社会制度、その歴史、対象となる状態像:興奮・混迷・自殺企図ほか)
第2回　いろいろな病態　①統合失調症圏
第3回　いろいろな病態　②躁うつ病圏
第4回　いろいろな病態　③神経症圏、児童・青年期精神障害、人格障害
第5回　いろいろな病態　④薬物依存、老年期精神障
第6回　いろいろな病態　⑤摂食障害、児童青年期精神障害
第7回　いろいろな病態　⑥器質性精神障害など
第8回　まとめとテスト

履修上の注意点

受講のマナー:学外の医師の講義である。実際の現場や臨床の診察、傷病者の状態などを聴講できる重要な機会である。講師に対して失礼のない授業態度を期待する。無断欠席は試験の受講を認めない。

教科書

救急救命士標準テキスト　改訂第9版　上巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698699
救急救命士標準テキスト　改訂第9版　下巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698705

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**産婦人科学**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　常田　裕子	

テーマ

臨床産科学

授業の到達目標

救急救命士に必要な産科・周産期救急医療を学ぶと共に、臨床産科学・婦人科学を学ぶ。

授業の概要

講義を通して、妊娠期・分娩期・産褥期の女性と胎児・新生児の正常な状態と病態を学ぶ。　　演習を通して、救急搬送時に必要となる病歴の聴取方法、観察項目・方法、対処方法について、理解を深める。そして医療機関の選定や搬送時に注意すべき事項などについて理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・各授業回に該当する教科書の内容は事前に確認する。
・演習（将来的な実践）に向けて講義内容を復習する。

内　　容

第1回　我が国の産科（周産期）救急医療の実態
第2回　生殖器の解剖・生理・妊娠時の母体と胎児の変化（1）
第3回　妊娠時の母体と胎児の変化（2）
第4回　分娩経過（1）
第5回　分娩経過（2）産後の変化
第6回　周産期医療にかかわる搬送とその対応（演習）
第7回　周産期医療にかかわる搬送とその対応（演習）
第8回　婦人科疾患とまとめ

履修上の注意点

・事前課題を期日までに提出の上、履修ください。
・「わが国の周産期救急」に関するメディア、新聞などの記事を1つ以上集めてレポートする （A4レポート用紙2枚以内）
・本科目は演習があります。座学を欠席し、演習に参加できる知識を有しない場合には、演習に参加できないことがありますので、注意してください

教科書

改訂第9版　救急救命士標準テキスト　上巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社: へるす出版
出版年:　　ISBN:

改訂第9版　救急救命士標準テキスト　下巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社: へるす出版
出版年:　　ISBN:

参考書

病気がみえる10　産科
著者:　井上裕美ら
出版社: メディックメディア
出版年: 2013　　ISBN:

改訂7版　母子保健マニュアル
著者:　高野陽
出版社: 南山堂
出版年: 2010　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 50 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ ）

a90403b210

参加度 （ 20 ）

母体安全の提言2016

http://www.jaog.or.jp/wp/wp-content/uploads/2017/08/botai_2016.pdf

例年8月に新たな報告書が発行されるので、最新版をご確認ください。

2018 Syllabus

科 目 名　**救急救命実習Ⅲ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年	定　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　冨士原　彰.北小屋　裕.関根　和弘.千田　いずみ.夏目　美樹.深澤　雄二.福岡　範恭	

テーマ

救急救命士の現場活動の知識・技術・思考力の修得

授業の到達目標

救急救命士が救急現場において実施する救急救命行為を修得する

授業の概要

救急救命士の活動に必要な知識・技術をシミュレーションし、各事例における基本活動プロトコールの修得とともに隊活動を通して総合的な実践力を養うことを目標とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

他の座学講義において習得した知識を行動に移すことが出来るよう予習をしておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、CPA対応基本活動
第2回　CPA対応基本活動
第3回　静脈路確保および薬剤投与プロトコル
第4回　静脈路確保および薬剤投与プロトコル
第5回　静脈路確保および薬剤投与プロトコル
第6回　器具を用いた気道確保プロトコル
第7回　器具を用いた気道確保プロトコル
第8回　気管挿管プロトコル
第9回　気管挿管プロトコル
第10回　CPA対応総合活動
第11回　CPA対応総合活動
第12回　CPA対応総合活動
第13回　病院内でのCPA対応（ICLS）
第14回　病院内でのCPA対応（ICLS）
第15回　前期まとめ
第16回　病態別対応（胸部痛対応活動）
第17回　病態別対応（胸部痛対応活動）
第18回　病態別対応（胸部痛対応活動）
第19回　病態別対応（胸部痛対応活動）
第20回　病態別対応（腰背部部痛対応活動）
第21回　病態別対応（腰背部部痛対応活動）
第22回　病態別対応（呼吸困難対応活動）
第23回　病態別対応（呼吸困難対応活動）
第24回　病態別対応（神経感覚系対応活動）
第25回　病態別対応（頭蓋内病変対応活動）
第26回　病態別対応（頭蓋内病変・意識消失対応活動）
第27回　気管挿管プロトコル病態別対応（頭蓋内病変・意識消失対応活動）
第28回　病態別対応（意識消失対応活動）
第29回　病態別対応（意識消失対応活動）
第30回　総括・総合活動

履修上の注意点

受講態度、服装、頭髪等が実習学生として不適切な者は、成績評価の対象としないことがある。
授業時に実施する確認テストが基準点数に達していない者は、成績評価の対象としないことがある。

教科書

救急救命士のための二次救命処置テキスト
著者:　小林國男・益子邦洋・坂本哲也
出版社:　へるす出版
出版年:　2007　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 100% ）	小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 0% ）	授業中発表等 （ 0% ）
参加度 （ 0% ）	

成績評価は知識に関する試験に加え、実技試験を実施する。なお、試験の受験にあたっては原則、すべての授業に参加していることを条件とし、無断欠席があった場合は受験を認めないものとする。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ〈＊〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中村　竜也.内堀　恵美.岡田　光貴	

テーマ

大学における基本と姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1．受講の心得を身につける。
1）文章を読み、理解する
2）文章の書き方、レポート作成の基礎
3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）
4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）
5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）
2．キャリアデザインが描ける。
1）医療に関心をもつ
2）臨床検査学に関心をもつ

授業の概要

大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学ぶ。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容であり、大学における学びを理解した上で，グループディスカッションを通して，学生自身の自覚と責任を高める。
大学で主体的に学ぶ姿勢を身につけることを目的に、グループ学習を中心に演習形式で実施する。まず、図書館の利用方法や文献の探し方などのオリエンテーションを行う。その後、最近の保健医療や医療現場に関連するテーマを選び、それについて図書館やインターネットなどから情報収集を実際に行う。また、検索した資料を読み込み、学生自身の理解や疑問、関心のあることなどをグループで討議してまとめ発表する。この過程において、コンピュータリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、効果的なプレゼンテーション方法)、ディスカッションの方法(論理的な発言、他者の意見の理解)などの能力を身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループ学習では、より多くの意見が提案できるように意識する。
分からないことはそのままにせず、担当教員に確認する。

内　容

第1回　オリエンテーション(この演習の目的と方針、ピペット使用説明)
第2回　講義ノートの取り方（1）；全体講義
第3回　講義ノートの取り方（2）；教科書中心型
第4回　講義ノートの取り方（3）；スライド中心型
第5回　講義ノートの取り方（4）；板書中心型
第6回　レポートの書き方（1）；全体講義
第7回　レポートの書き方（2）；グループディスカッション
第8回　要約の仕方
第9回　文献の調査方法や図書館の利用
第10回　情報収集の仕方
第11回　グループ発表の仕方
第12回　グループ発表（1）
第13回　グループ発表（2）
第14回　グループ発表（3）
第15回　グループ発表（4）

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ〈＊〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　兜森　修.内堀　恵美.岡田　光貴	

テーマ

グループ学習を積極的に行う能力を獲得し、根拠に基づく医療の考え方を学習する。

授業の到達目標

1. 受講の心得を身につける。
2. 医療分野の学術的文献の情報収集方法について説明ができる。
3. 情報収集した資料を評価することができる。
4. 根拠に基づく医療(EBM=evidence-based medicine)についての概要が説明できる。

授業の概要

大学で主体的に学ぶ姿勢、および社会人や医療組織の一員としてのルールやマナー遵守の姿勢を身につけることを目的に、グループ学習を中心に演習形式で実施する。授業では、臨床検査や臨床検査現場などに関連する文献を選び、図書館の蔵書やオンラインデータベースなどを活用し、グループで情報を収集して討議を行い、結論を導いて発表する。また、グループで取り上げたテーマについて、学生一人ひとりが自らの考えや課題意識をまとめたレポートを作成する。この過程を通じて、根拠に基づく医療(EBM=evidence-based medicine)の考え方を理解する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習として、各回のテーマについて、事前に概要を調べ、把握しておく。

内　　容

第1回　主体的に学ぶ姿勢と社会人、医療従事者としてのルールやマナー遵守
第2回　臨床検査における基本的な統計
第3回　根拠に基づく医療(EBM=evidence-based medicine)の基礎
第4回　各グループに分かれて臨床検査関連のテーマについて討論
第5回　各グループに分かれて取り上げたテーマの情報収集作業(1)
第6回　各グループに分かれて取り上げたテーマの情報収集作業(2)
第7回　各グループに分かれて取り上げたテーマの情報収集作業(3)
第8回　取り上げたテーマと得られた資料との整合性と内容の吟味(1)
第9回　取り上げたテーマと得られた資料との整合性と内容の吟味(2)
第10回　各グループで取り上げたテーマの討議した内容の進捗状況を報告(1)
第11回　各グループで取り上げたテーマの討議した内容の進捗状況を報告(2)
第12回　各グループで取り上げたテーマの討議した内容の進捗状況を報告(3)
第13回　各グループで取り上げたテーマの結論を発表後、内容について討論(1)
第14回　各グループで取り上げたテーマの結論を発表後、内容について討論(2)
第15回　各グループで取り上げたテーマの結論を発表後、内容について討論(3)

履修上の注意点

3分の2以上の出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 20 ）

「レポートは、A4横書きで2000字程度をワードファイルで作成し、授業最終日に提出すること。」「参加度」は、授業への参加態度や積極性について評価。

2018 Syllabus

科 目 名　**人体の構造演習 I**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　服部　学	

テーマ

人体を構成する細胞・組織、器官系の構造について基礎的な理解をする。

授業の到達目標

人体の概要について理解し、各器官ごとの形態と構造を説明できる。

授業の概要

臨床検査技師として医療に携わるために必要な人体の正常な形態と構造について演習形式を取り入れて学ぶ。人体の基本構造を理解することは、各種疾患の診断や症状の程度を理解することにとどまらず、どのようなメカニズムによって疾患が生じるかという病態生理学への道筋を知ることにつながる。授業では、細胞と組織、器官に関する基礎的理解を得た後、筋・骨格系、神経系、皮膚・感覚器系、消化器系、呼吸器系、循環器系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系など器官ごとの形態と構造を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

人体の構造で学ぶ内容は多いので教科書の充分な予習と復習を行うこと。

内　容

第1回　細胞、組織と発生(細胞、組織の種類、発生)
第2回　骨格系(総論・各論)
第3回　筋系(総論・各論)
第4回　循環器系-1(心臓と血管系)
第5回　循環器系-2(動脈、静脈、リンパ系、胸腺と脾臓)
第6回　呼吸器系:(鼻・咽頭・喉頭、気管と気管支、肺、胸腔、縦隔)
第7回　消化器系-1(口腔、咽頭、食道)
第8回　消化器系-2(胃、小腸、大腸)
第9回　消化器系-3(肛門、肝臓、胆嚢、膵臓、腹腔)
第10回　内分泌系(視床下部、下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、性腺、膵臓、腎臓)
第11回　生殖器系(男性生殖器、女性生殖器)
第12回　泌尿器系(腎臓、尿管、膀胱、尿道、尿生殖三角)
第13回　神経系-1(中枢神経系)
第14回　神経系-2(末梢神経系)
第15回　感覚器系(視覚、聴覚、味覚、嗅覚、皮膚)

履修上の注意点

3分の2以上の出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

臨床検査講座(第2版)　解剖学
著者:　佐藤健次
出版社:　医歯薬出版
出版年:　　ISBN:

参考書

配付プリント
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 80 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 0 ）	授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**人体の構造演習Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　服部　学	

テーマ

人体を構成する細胞・組織、器官系の構造について組織学的な理解を深める。

授業の到達目標

人体と構造演習1の理解を深め、各細胞組織の形態と構造を説明できる。

授業の概要

人体の構造演習Ⅰに引き続き、臨床検査技師として医療に携わるために必要な人体の正常な形態と構造について演習形式を取り入れて学ぶ。人体の基本構造を理解することは、各種疾患の診断や症状の程度を理解することにとどまらず、どのようなメカニズムによって疾患が生じるかという病態生理学への道筋を知ることにつながる。特に、この授業では、光学顕微鏡を用いる組織学を主に扱う。具体的には、筋・骨格系、神経系、皮膚・感覚器系、消化器系、呼吸器系、循環器系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系などの細胞組織の形態と構造について学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

人体の構造で学ぶ内容は多いので教科書の充分な予習と復習を行うこと。

内　容

第1回　細胞、組織と発生(細胞、組織の種類、発生)
第2回　骨格系(総論・各論)
第3回　筋系(総論・各論)
第4回　循環器系-1(心臓と血管系)
第5回　循環器系-2(動脈、静脈、リンパ系、胸腺と脾臓)
第6回　呼吸器系:(鼻・咽頭・喉頭、気管と気管支、肺、胸腔、縦隔)
第7回　消化器系-1(口腔、咽頭、食道)
第8回　消化器系-2(胃、小腸、大腸)
第9回　消化器系-3(肛門、肝臓、胆嚢、膵臓、腹腔)
第10回　内分泌系(視床下部、下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、性腺、膵臓、腎臓)
第11回　生殖器系(男性生殖器、女性生殖器)
第12回　泌尿器系(腎臓、尿管、膀胱、尿道、尿生殖三角)
第13回　神経系-1(中枢神経系)
第14回　神経系-2(末梢神経系)
第15回　感覚器系(視覚、聴覚、味覚、嗅覚、皮膚)

履修上の注意点

3分の2以上の出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

臨床検査講座(第2版)　解剖学
著者:　佐藤健次
出版社:　医歯薬出版
出版年:　　ISBN:

参考書

配付プリント
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 80 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**人体の機能演習 I**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池田　哲也	

テーマ

人体を構成する細胞・組織、器官系の機能について基礎的な理解をする

授業の到達目標

1. 細胞膜の構造と機能が説明できる
2. 神経と筋肉の構造と機能が説明できる
3. 神経系による人体の生理機能の維持と調節を理解する

授業の概要

人体の機能演習は、人体の構成および人体各部の機能について概説する。人体の機能演習 I では生命維持の基盤となる機能の中でも、神経系の構造と機能、感覚と運動、記憶学習といった高次脳機能について、その生理学的意義をふまえて授業を行う。細胞膜の構造、浸透圧、膜の興奮は生物の機能の基本であり、これを理解することが重要である。また、これらの講義により、生命の不思議について考える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

人体の機能で学ぶ内容は多いので教科書の充分な予習と復習を行うこと

内　　容

第1回　生理学の基礎
第2回　細胞膜の構造と性質
第3回　神経細胞の興奮とイオンチャンネル
第4回　シナプスと興奮の伝達
第5回　神経細胞におけるシナプス活動の統合、活性化と抑制
第6回　神経系の概要ー末梢神経と中枢神経
第7回　感覚神経ー体性感覚
第8回　感覚神経ー視覚・聴覚・平衡感覚・味覚・嗅覚
第9回　筋肉の構造とその収縮
第10回　筋肉の種類ー骨格筋・平滑筋・心筋
第11回　運動神経
第12回　自律神経
第13回　脳の役割ー感覚と運動の統合
第14回　高次脳機能ー情動・記憶・学習
第15回　代表的な神経伝達物質

履修上の注意点

教科書

はじめの一歩　イラスト生理学（第2版）
著者:　照井直人（編）
出版社: 羊土社
出版年:　　ISBN:

参考書

標準生理学(第8版)
著者:　小澤瀞司・福田康一郎（監修）
出版社: 医学書院
出版年:　　ISBN:

臨床検査講座 生理学(第2版)
著者:　佐藤健次・北村清吉
出版社: 医歯薬出版
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 80 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 0 ）	授業中発表等 （ 0 ）

参加度 （ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**人体の機能演習Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池田　哲也	

テーマ

人体を構成する細胞・組織、器官系の機能について理解を深める

授業の到達目標

1. 循環系、呼吸系、消化器系の構造と機能が説明できる
2. 血液、体液、尿の生成と排泄が説明できる
3. 免疫系、内分泌系による人体の生理機能の維持と調節を理解する

授業の概要

人体の機能演習は、人体の構成および人体各部の機能について概説する。人体の機能演習Ⅱでは、生命維持の基盤となる機能の中でも、血液、循環系、呼吸系、消化器系について解説すると共に、排泄、内分泌、睡眠、生殖といったテーマについて、生理学的な意義をふまえて授業を行う。また、前期の神経系と並んで、免疫系、内分泌系は生体の維持に極めて重要な仕組みであり、着実に理解していくことが重要である

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

人体の機能で学ぶ内容は多いので教科書の充分な予習と復習を行うこと

内　　容

第1回　血液と体液
第2回　免疫系ー炎症反応と防御機構
第3回　循環系ー心臓・血管
第4回　循環系ー循環調節
第5回　呼吸ー呼吸器の構造
第6回　呼吸ー呼吸運動の調節
第7回　消化器と消化の調節
第8回　栄養と代謝
第9回　尿の生成と排泄ー腎臓の構造と機能
第10回　体温とその調節
第11回　内分泌系ー内分泌器官とホルモンの種類
第12回　内分泌系ー恒常性の維持
第13回　睡眠
第14回　生殖ー配偶子の形成
第15回　生殖ー授精と着床、器官形成

履修上の注意点

教科書

はじめの一歩　イラスト生理学（第2版）
著者:　照井直人（編）
出版社:　羊土社
出版年:　　ISBN:

参考書

標準生理学(第8版)
著者:　小澤瀞司・福田康一郎（監修）
出版社:　医学書院
出版年:　　ISBN:

臨床検査講座 生理学(第2版)
著者:　佐藤健次・北村清吉
出版社:　医歯薬出版
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 80 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 0 ）

参加度 （ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**生化学 I**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池田　哲也	

テーマ

生命を科学で捉える＜生体を構成する化学物質＞

授業の到達目標

1. 生体を構成する化学物質を説明できる。
2. タンパク質、糖質、脂質、核酸の機能や代謝について分子レベルで説明できる。
3. 代謝の調節、異常、病態について説明できる。

授業の概要

生命の最小単位は細胞である。細胞はタンパク質、糖質、脂質、核酸、ビタミン、ミネラル等種々の生体分子から構成されている。細胞はこれらの物質を取り込み代謝し、新たな分子を合成したり、成長や生命維持に必要なエネルギーを得ている。生化学Iでは細胞の基本構造や機能、生体分子の構造や性質、エネルギー代謝について順次学習する。さらに、これら生体分子が細胞内においてどのような形で機能しているのか、細胞の集合である生体の生命維持にどのような形で機能しているのか学習する。授業は教科書を中心に進めていく。必要であればプリント等を配布し、パソコンを用いて画像や映像を提示する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

高校程度の生物学と有機化学は理解しておく事。教科書を中心に復習を心がけること。毎回の授業でミニレポートを行うが、そこに書かれた授業内容への質問等は次回の授業でフィードバックする。

内　容

第1回　細胞と細胞内小器官
第2回　細胞説の確立　細胞学・遺伝学の歴史
第3回　生体分子の構造と機能　糖質・脂質
第4回　生体分子の構造と機能　タンパク質・核酸
第5回　代謝の基礎　酵素の役割
第6回　糖質の代謝
第7回　クエン酸回路と電子伝達系
第8回　脂質の代謝
第9回　タンパク質の代謝
第10回　核酸の代謝
第11回　ビタミンの種類と機能
第12回　ホルモンの種類
第13回　ホルモンの作用機序
第14回　代謝の調節と統合
第15回　代謝の異常と病態・栄養学

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

標準生化学
著者:　藤田道也
出版社:　医学書院
出版年:　2012　　ISBN:　978-4260008013

はじめの一歩　生化学・分子生物学　第3版
著者:　前野正夫・磯川桂太郎
出版社:　羊土社
出版年:　2016　　ISBN:　978-4758120722

参考書

イラストレイテッド生化学　原書第6版（リッピンコットシリーズ）
著者:　Denise R. Ferrier（著）、石崎泰樹・丸山 敬（監修, 翻訳）
出版社:　丸善出版
出版年:　2015　　ISBN:　978-4621088975

a90501a710

Essential細胞生物学　原書第4版

著者:　Bruce Alberts他（著）、中村 桂子・松原 謙一（監修, 翻訳）

出版社: 南江堂

出版年: 2016　　ISBN:　978-4524261994

臨床検査学講座生化学　第2版

著者:　阿部喜代司・原諭吉・岡村 直道

出版社: 医歯薬出版

出版年: 2006　　ISBN:　978-4263229071

わかりやすい生化学―疾病と代謝・栄養の理解のために　第5版

著者:　篠原力雄・斉藤 邦明・石黒 伊三雄

出版社: ヌーヴェルヒロカワ

出版年: 2017　　ISBN:　978-4861740695

栄養生化学（新体系看護学全書）第4版

著者:　脊山 洋右・山田 信博（著・編）

出版社: メヂカルフレンド社

出版年: 2014　　ISBN:　978-4839232900

成績評価

試験・レポート（ 80 ）　　小テスト（ 0 ）

授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）

参加度（ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**生化学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池田　哲也	

テーマ

生命を科学で捉える＜生体の維持とその連続性＞

授業の到達目標

1. 遺伝子について説明ができる。
2. DNAの複製、転写、翻訳について説明ができる。
3. 遺伝子発現の調節について説明ができる。

授業の概要

生命の最小単位は細胞である。細胞はタンパク質、糖質、脂質、核酸、ビタミン、ミネラル等種々の生体分子から構成されている。細胞はこれらの物質を取り込み代謝し、新たな分子を合成したり、成長や生命維持に必要なエネルギーを得ている。生化学Ⅱでは遺伝子の構造と機能、複製、転写、翻訳について順次学習し、遺伝子発現調節の仕組みを理解する。さらに、生命の連続性の理解の為に、細胞分裂、減数分裂、細胞周期について学習する。授業は教科書を中心に進めていく。必要であればプリント等を配布し、パソコンを用いて画像や映像を提示する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

高校程度の生物学と有機化学は理解しておく事。教科書を中心に復習を心がけること。毎回の授業でミニレポートを行うが、そこに書かれた授業内容への質問等は次回の授業でフィードバックする。

内　容

第1回　細胞の中の何が遺伝子なのか
第2回　DNAの構造
第3回　DNAの複製　半保存的複製
第4回　DNAの複製　テロメア
第5回　転写　メッセンジャーRNAの合成
第6回　翻訳　リボゾームの機能
第7回　翻訳　細胞内でのタンパク質の移動
第8回　遺伝子発現の調節　原核生物のオペロン
第9回　遺伝子発現の調節　真核生物の場合
第10回 体細胞分裂と細胞周期
第11回 減数分裂と配偶子の形成
第12回 ヒトの初期発生
第13回 DNAの損傷と突然変異
第14回 ガンと遺伝病
第15回 遺伝子の操作と遺伝子治療

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

標準生化学
著者:　藤田道也
出版社: 医学書院
出版年: 2012　　ISBN:　978-4260008013

はじめの一歩　生化学・分子生物学　第3版
著者:　前野正夫・磯川桂太郎
出版社: 羊土社
出版年: 2016　　ISBN:　978-4758120722

参考書

イラストレイテッド生化学　原書第6版 (リッピンコットシリーズ)
著者:　Denise R. Ferrier(著)、石崎泰樹・丸山 敬(監修, 翻訳)
出版社: 丸善出版
出版年: 2015　　ISBN:　978-4621088975

a90501a850

Essential細胞生物学　原書第4版

著者:　Bruce Alberts他（著）、中村 桂子・松原 謙一（監修, 翻訳）

出版社: 南江堂

出版年: 2016　　ISBN:　978-4524261994

臨床検査学講座生化学　第2版

著者:　阿部喜代司・原諭吉・岡村 直道

出版社: 医歯薬出版

出版年: 2006　　ISBN:　978-4263229071

ラングマン人体発生学 原著第11版

著者:　Thomas W. Sadler（著）、安田峯生・山田重人 (翻訳)

出版社: ディカルサイエンスインターナショナル

出版年: 2016　　ISBN:　978-4895928397

成績評価

試験・レポート （ 80 ）　　小テスト （ 0 ）

授業中課題 （ 0 ）　　授業中発表等 （ 0 ）

参加度 （ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**臨床検査学 I**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　米田　孝司.兜森　修.南部　昭	

テーマ

臨床検査に関する心構えと一般的注意、採取法、各種検査の基本的事項ついて学習する

授業の到達目標

1.臨床検査技師の役割や使命を正しく認識した上で、一般検査への興味を抱く
2.各種一般検査法と検査成績の臨床的意義についての知識を深める

授業の概要

臨床検査の意義、臨床検査およびその教育の歴史、臨床検査技師の役割や使命感などを知り、臨床検査学への意欲を醸成する。また、検体取扱い方、採取や保存の方法が検査データに及ぼす影響についても学ぶ。さらに、臨床検査における各検査学の概要や医療・病院における位置づけや重要性および役割について理解し、医療分野における専門知識と検査の技術を修得するための基礎的内容を学ぶ

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習として、各回のテーマについて、事前に概要を調べ、把握しておく

内　容

第1回　臨床検査の意義:診断方法の変遷、臨床検査の目的　（兜森）
第2回　各種の検査:診察前検査、緊急検査、日常検査　（兜森）
第3回　臨床検査発展の歴史:臨床検査の重要性と歴史　（兜森）
第4回　臨床検査技師教育の歴史:臨床検査技師教育と国家試験　（兜森）
第5回　臨床検査の役割:検査業務範囲　（兜森）
第6回　臨床検査技師と採血:法的根拠、採血法、採血に関する注意事項　（南部）
第7回　検体の取り扱い:尿・便・喀痰・血液・胆汁・髄液・穿刺液などの取り扱い　（南部）
第8回　鼻腔・咽頭からの検体採取:法的根拠、検体採取法、採取に関する注意事項　（南部）
第9回　尿検査と尿沈査:基礎知識、各種検査法　（南部）
第10回　糞便・脳脊髄液・その他の体液:基礎知識、各種検査法　（南部）
第11回　医療機関での臨床検査技師の位置付け:医療機関の機能と組織　（米田）
第12回　検査部門の組織と業務:検査体制、POCT、OCT、在宅検査、衛生検査所　（米田）
第13回　臨床検査技師の業務管理:各種のマニュアルと精度保証　（米田）
第14回　臨床検査技師の生涯教育と資格:卒前・卒後教育、学術活動、各種認定資格　（米田）
第15回　各種疾患における臨床検査と検査診断:重症度と検査項目の値との関係　（米田）

履修上の注意点

3分の2以上の出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

最新　臨床検査学講座　医療安全管理学
著者:　諏訪部　章、高木　康、松本　哲哉
出版社:　医歯薬出版株式会社
出版年:　2016　　ISBN:　9784263223659
最新　臨床検査学講座　一般検査学
著者:
出版社:　医歯薬出版株式会社
出版年:　　ISBN:　9784263223673

参考書

最新　臨床検査講座　検査総合管理学
著者:　高木　康・三村邦裕
出版社:　医歯薬出版
出版年:　2016年　　ISBN:　9784263223666

a90501a910

標準臨床検査学 臨床検査総論

著者: 伊藤機一・松尾収二

出版社: 医学書院

出版年: 2015年 ISBN: 9784260016650

成績評価

試験・レポート（ 80 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**臨床検査学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　米田　孝司	

テーマ

臨床検査における専門分野の基礎知識を総合的に学ぶ

授業の到達目標

1.各疾患と臨床検査の概要について説明することができる
2.代表的な疾患の病態と臨床検査項目・臨床検査値を関連付けて理解する

授業の概要

健康診断の検査、各疾患の病態と検査値を測定方法や結果解釈まで含めて講義するとともに、Reversed C.P.C.(各疾患における症例検討)による臨床検査データの読み方の基礎を身につける

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

基礎的な臨床検査値を予習・復習・理解しておく

内　　容

第1回　健康診断検査−1:基本健診や総合健診(小児や高齢者)
第2回　健康診断検査−2:メタボリックシンドロームの検査項目と読み方、臨床検査の知識の活用法
第3回　肝機能検査−1:肝機能検査(酵素など)の基礎、肝機能障害、脂肪肝、肝炎
第4回　肝機能検査−2:ウイルス性肝炎マーカーの基礎、急性及び慢性肝炎
第5回　糖尿病検査:血糖値と糖尿病検査の基礎、高血糖や診断合併症における検査
第6回　腎機能検査:腎機能検査(尿成分、含窒素、電解質など)の基礎、腎疾患と尿検査
第7回　血液疾患検査:血液検査(赤血球、白血球、血小板など)の基礎、貧血など
第8回　輸血検査:血液型検査(ABO,Rh)や輸血検査の基礎、血液製剤や輸血副作用
第9回　心機能検査:心疾患検査(酵素アイソザイム、構造蛋白質など)の基礎、心筋梗塞や心不全
第10回　動脈硬化検査:動脈硬化や脂質検査の基礎、脂質異常症
第11回　腫瘍検査:腫瘍マーカーの非特異反応や疾患特異的検査、悪性腫瘍や腫瘍部位
第12回　膵機能検査と内分泌検査:膵疾患の特徴と検査の基礎、内分泌におけるホルモン検査
第13回　感染症検査と自己免疫検査:免疫の仕組みと検査方法、各種感染症の結果解釈、自己免疫疾患の病態
第14回　Reversed C.P.C症例検討による臨床検査データ読み方
第15回　臨床検査学における専門基礎知識のまとめ

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする

教科書

わかりやすい臨床検査
著者:　高木康
出版社:　じほう
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 80 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 0 ）	授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**臨床検査学基礎実習 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　米田　孝司.池田　哲也.内堀　恵美.岡田　光貴.兜森　修.中村　竜也.南部　昭.藤原　麻有	

テーマ

大学で実習する姿勢、検体検査実習の基礎的な知識と技術を学ぶ

授業の到達目標

臨床検査における検体検査の基本原理やレポート作成方法を理解した上で、基本的な実験操作や器具及び装置の取扱い方を修得する。更に、実習する上での問題解決能力や主体的に実習する姿勢を身につける。

授業の概要

臨床検査における専門分野の実習を行う上で必要となる検体検査の基礎的な知識と技術を学ぶ。授業では化学容量器、天秤、遠心分離器、撹拌器、恒温槽、分光光度計、pHメータ、顕微鏡などの共通検査機器を組み入れた実習を行う。これにより、臨床化学検査など検体検査で使用することが多い実験器具の正しい使い方から緩衝溶液の調製までを身につけるとともに、病理検査・尿沈渣・血液検査・微生物検査などで必要となる顕微鏡の基本構造の理解や操作技術を修得する。また、抗原抗体反応における凝集反応やELISA法の基礎的な知識と技術を修得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実習に関連科目を事前に予習し、分からないことはそのままにせず、担当教員に確認すること

内　容

第1回　基本的なガラス器具の種類と使い方、化学天秤（電子天秤）の使い方①（池田・南部・岡田）
第2回　基本的なガラス器具の種類と使い方、化学天秤（電子天秤）の使い方②（池田・南部・岡田）
第3回　基本的なガラス器具の種類と使い方、化学天秤（電子天秤）の使い方③（池田・南部・岡田）
第4回　標準溶液とpH標準液の調整、pHメーターの使い方、pHメーターを用いた緩衝溶液の調整と中和反応①（池田・南部・岡田）
第5回　標準溶液とpH標準液の調整、pHメーターの使い方、pHメーターを用いた緩衝溶液の調整と中和反応②（池田・南部・岡田）
第6回　標準溶液とpH標準液の調整、pHメーターの使い方、pHメーターを用いた緩衝溶液の調整と中和反応③（池田・南部・岡田）
第7回　分光光度計を用いた分析法の基本学習、試験溶液の透過率や吸光度、吸収スペクトル①（池田・南部・岡田）
第8回　分光光度計を用いた分析法の基本学習、試験溶液の透過率や吸光度、吸収スペクトル②（池田・南部・岡田）
第9回　分光光度計を用いた分析法の基本学習、試験溶液の透過率や吸光度、吸収スペクトル③（池田・南部・岡田）
第10回　採血法の学習、血液検体の取り扱い①（兜森・内堀・藤原）
第11回　採血法の学習、血液検体の取り扱い②（兜森・内堀・藤原）
第12回　採血法の学習、血液検体の取り扱い③（兜森・内堀・藤原）
第13回　顕微鏡の原理と基本構造および操作方法①（兜森・内堀・藤原）
第14回　顕微鏡の原理と基本構造および操作方法②（兜森・内堀・藤原）
第15回　顕微鏡の原理と基本構造および操作方法③（兜森・内堀・藤原）
第16回　病理検査・尿沈渣・血液検査・微生物検査における各種試料の顕微鏡使用による検査の方法①（兜森・内堀・藤原）
第17回　病理検査・尿沈渣・血液検査・微生物検査における各種試料の顕微鏡使用による検査の方法②（兜森・内堀・藤原）
第18回　病理検査・尿沈渣・血液検査・微生物検査における各種試料の顕微鏡使用による検査の方法③（兜森・内堀・藤原）
第19回　微生物における基礎技術:消毒・滅菌、菌の分離・同定、培養と観察①（米田・中村・内堀）
第20回　微生物における基礎技術:消毒・滅菌、菌の分離・同定、培養と観察②（米田・中村・内堀）
第21回　微生物における基礎技術:消毒・滅菌、菌の分離・同定、培養と観察③（米田・中村・内堀）
第22回　免疫検査における基礎技術:抗原抗体反応、凝集反応、マイクロプレートリーダーなど①（米田・中村・内堀）
第23回　免疫検査における基礎技術:抗原抗体反応、凝集反応、マイクロプレートリーダーなど②（米田・中村・内堀）
第24回　免疫検査における基礎技術:抗原抗体反応、凝集反応、マイクロプレートリーダーなど③（米田・中村・内堀）

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする

教科書

参考書

成績評価

a90501b110

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**臨床検査学基礎実習 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　米田　孝司.池田　哲也.内堀　恵美.岡田　光貴.兜森　修.中村　竜也.南部　昭.藤原　麻有	

テーマ

大学で実習する姿勢、検体検査実習の基礎的な知識と技術を学ぶ

授業の到達目標

臨床検査における検体検査の基本原理やレポート作成方法を理解した上で、基本的な実験操作や器具及び装置の取扱い方を修得する。更に、実習する上での問題解決能力や主体的に実習する姿勢を身につける。

授業の概要

臨床検査における専門分野の実習を行う上で必要となる検体検査の基礎的な知識と技術を学ぶ。授業では化学容量器、天秤、遠心分離器、撹拌器、恒温槽、分光光度計、pHメータ、顕微鏡などの共通検査機器を組み入れた実習を行う。これにより、臨床化学検査など検体検査で使用することが多い実験器具の正しい使い方から緩衝溶液の調製までを身につけるとともに、病理検査・尿沈渣・血液検査・微生物検査などで必要となる顕微鏡の基本構造の理解や操作技術を修得する。また、抗原抗体反応における凝集反応やELISA法の基礎的な知識と技術を修得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実習に関連科目を事前に予習し、分からないことはそのままにせず、担当教員に確認すること

内　容

第1回　基本的なガラス器具の種類と使い方、化学天秤（電子天秤）の使い方①（池田・南部・岡田）
第2回　基本的なガラス器具の種類と使い方、化学天秤（電子天秤）の使い方②（池田・南部・岡田）
第3回　基本的なガラス器具の種類と使い方、化学天秤（電子天秤）の使い方③（池田・南部・岡田）
第4回　標準溶液とpH標準液の調整、pHメーターの使い方、pHメーターを用いた緩衝溶液の調整と中和反応①（池田・南部・岡田）
第5回　標準溶液とpH標準液の調整、pHメーターの使い方、pHメーターを用いた緩衝溶液の調整と中和反応②（池田・南部・岡田）
第6回　標準溶液とpH標準液の調整、pHメーターの使い方、pHメーターを用いた緩衝溶液の調整と中和反応③（池田・南部・岡田）
第7回　分光光度計を用いた分析法の基本学習、試験溶液の透過率や吸光度、吸収スペクトル①（池田・南部・岡田）
第8回　分光光度計を用いた分析法の基本学習、試験溶液の透過率や吸光度、吸収スペクトル②（池田・南部・岡田）
第9回　分光光度計を用いた分析法の基本学習、試験溶液の透過率や吸光度、吸収スペクトル③（池田・南部・岡田）
第10回　採血法の学習、血液検体の取り扱い①（兜森・内堀・藤原）
第11回　採血法の学習、血液検体の取り扱い②（兜森・内堀・藤原）
第12回　採血法の学習、血液検体の取り扱い③（兜森・内堀・藤原）
第13回　顕微鏡の原理と基本構造および操作方法①（兜森・内堀・藤原）
第14回　顕微鏡の原理と基本構造および操作方法②（兜森・内堀・藤原）
第15回　顕微鏡の原理と基本構造および操作方法③（兜森・内堀・藤原）
第16回　病理検査・尿沈渣・血液検査・微生物検査における各種試料の顕微鏡使用による検査の方法①（兜森・内堀・藤原）
第17回　病理検査・尿沈渣・血液検査・微生物検査における各種試料の顕微鏡使用による検査の方法②（兜森・内堀・藤原）
第18回　病理検査・尿沈渣・血液検査・微生物検査における各種試料の顕微鏡使用による検査の方法③（兜森・内堀・藤原）
第19回　微生物における基礎技術:消毒・滅菌、菌の分離・同定、培養と観察①（米田・中村・内堀）
第20回　微生物における基礎技術:消毒・滅菌、菌の分離・同定、培養と観察②（米田・中村・内堀）
第21回　微生物における基礎技術:消毒・滅菌、菌の分離・同定、培養と観察③（米田・中村・内堀）
第22回　免疫検査における基礎技術:抗原抗体反応、凝集反応、マイクロプレートリーダーなど①（米田・中村・内堀）
第23回　免疫検査における基礎技術:抗原抗体反応、凝集反応、マイクロプレートリーダーなど②（米田・中村・内堀）
第24回　免疫検査における基礎技術:抗原抗体反応、凝集反応、マイクロプレートリーダーなど③（米田・中村・内堀）

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする

教科書

参考書

成績評価

a90501b112

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**臨床検査学基礎実習 <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　米田　孝司.池田　哲也.内堀　恵美.岡田　光貴.兜森　修.中村　竜也.南部　昭.藤原　麻有	

テーマ

大学で実習する姿勢、検体検査実習の基礎的な知識と技術を学ぶ

授業の到達目標

臨床検査における検体検査の基本原理やレポート作成方法を理解した上で、基本的な実験操作や器具及び装置の取扱い方を修得する。更に、実習する上での問題解決能力や主体的に実習する姿勢を身につける。

授業の概要

臨床検査における専門分野の実習を行う上で必要となる検体検査の基礎的な知識と技術を学ぶ。授業では化学容量器、天秤、遠心分離器、撹拌器、恒温槽、分光光度計、pHメータ、顕微鏡などの共通検査機器を組み入れた実習を行う。これにより、臨床化学検査など検体検査で使用することが多い実験器具の正しい使い方から緩衝溶液の調製までを身につけるとともに、病理検査・尿沈渣・血液検査・微生物検査などで必要となる顕微鏡の基本構造の理解や操作技術を修得する。また、抗原抗体反応における凝集反応やELISA法の基礎的な知識と技術を修得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実習に関連科目を事前に予習し、分からないことはそのままにせず、担当教員に確認すること

内　容

第1回　基本的なガラス器具の種類と使い方、化学天秤（電子天秤）の使い方①（池田・南部・岡田）
第2回　基本的なガラス器具の種類と使い方、化学天秤（電子天秤）の使い方②（池田・南部・岡田）
第3回　基本的なガラス器具の種類と使い方、化学天秤（電子天秤）の使い方③（池田・南部・岡田）
第4回　標準溶液とpH標準液の調整、pHメーターの使い方、pHメーターを用いた緩衝溶液の調整と中和反応①（池田・南部・岡田）
第5回　標準溶液とpH標準液の調整、pHメーターの使い方、pHメーターを用いた緩衝溶液の調整と中和反応②（池田・南部・岡田）
第6回　標準溶液とpH標準液の調整、pHメーターの使い方、pHメーターを用いた緩衝溶液の調整と中和反応③（池田・南部・岡田）
第7回　分光光度計を用いた分析法の基本学習、試験溶液の透過率や吸光度、吸収スペクトル①（池田・南部・岡田）
第8回　分光光度計を用いた分析法の基本学習、試験溶液の透過率や吸光度、吸収スペクトル②（池田・南部・岡田）
第9回　分光光度計を用いた分析法の基本学習、試験溶液の透過率や吸光度、吸収スペクトル③（池田・南部・岡田）
第10回　採血法の学習、血液検体の取り扱い①（兜森・内堀・藤原）
第11回　採血法の学習、血液検体の取り扱い②（兜森・内堀・藤原）
第12回　採血法の学習、血液検体の取り扱い③（兜森・内堀・藤原）
第13回　顕微鏡の原理と基本構造および操作方法①（兜森・内堀・藤原）
第14回　顕微鏡の原理と基本構造および操作方法②（兜森・内堀・藤原）
第15回　顕微鏡の原理と基本構造および操作方法③（兜森・内堀・藤原）
第16回　病理検査・尿沈渣・血液検査・微生物検査における各種試料の顕微鏡使用による検査の方法①（兜森・内堀・藤原）
第17回　病理検査・尿沈渣・血液検査・微生物検査における各種試料の顕微鏡使用による検査の方法②（兜森・内堀・藤原）
第18回　病理検査・尿沈渣・血液検査・微生物検査における各種試料の顕微鏡使用による検査の方法③（兜森・内堀・藤原）
第19回　微生物における基礎技術:消毒・滅菌、菌の分離・同定、培養と観察①（米田・中村・内堀）
第20回　微生物における基礎技術:消毒・滅菌、菌の分離・同定、培養と観察②（米田・中村・内堀）
第21回　微生物における基礎技術:消毒・滅菌、菌の分離・同定、培養と観察③（米田・中村・内堀）
第22回　免疫検査における基礎技術:抗原抗体反応、凝集反応、マイクロプレートリーダーなど①（米田・中村・内堀）
第23回　免疫検査における基礎技術:抗原抗体反応、凝集反応、マイクロプレートリーダーなど②（米田・中村・内堀）
第24回　免疫検査における基礎技術:抗原抗体反応、凝集反応、マイクロプレートリーダーなど③（米田・中村・内堀）

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする

教科書

参考書

成績評価

a90501b113

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**医療概論(健康)**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　越山　雅文.菅沼　信彦.髙橋　健太郎	

テーマ

医療システムを理解し、医療の過去・現在・未来を知り、医療が誰のものかを学習する。

授業の到達目標

1. 医療がたどってきた歴史的背景と将来展望について理解する。
2. 医療に関連する保険・政策・経済などのシステムを理解する。
3. 医療における臨床検査技師の役割を認識する。

授業の概要

医療を支える職種や医療の保険・政策・経済についてのシステムについて理解し、在宅・高齢者ケアや災害医療についても理解を深める。また、健康とは何かを改めて考え、医療がたどってきた歴史的背景と医療の将来展望についても学ぶ。これらにより現代医療の構造と特徴がはっきり理解でき、医療事故の認識や予防医学の重要性について自ら考察でき、医療における臨床検査技師の役割を認識する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

幅広い内容なので、講義時間には制約があり自己学習が重要となる。

内　容

第1回　医療の歴史と将来展望①
第2回　医療の歴史と将来展望②
第3回　チーム医療の方法論
第4回　医療事故・医療安全①
第5回　医療事故・医療安全②
第6回　患者の権利、個人情報保護
第7回　医療従事者と生命倫理①
第8回　医療従事者と生命倫理②
第9回　ターミナルケア
第10回　医療システムを理解しよう①
第11回　医療システムを理解しよう②
第12回　健康とは何だろう①
第13回　健康とは何だろう②
第14回　医療がたどってきた道と未来の展望・医療は誰のものか①
第15回　医療がたどってきた道と未来の展望・医療は誰のものか②

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

学生のための医療概論
著者:
出版社: 医学書院
出版年: 2012　　ISBN: 9784260015400

参考書

成績評価

試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 (100)	授業中発表等 ( )
参加度 ( )	

2018 Syllabus

科 目 名　**微生物検査学 I**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中村　竜也.藤原　麻有	

テーマ

微生物検査に関する知識および感染症診療に対する考え方を習得する

授業の到達目標

1) 微生物の命名から構造や代謝・発育を理解する。
2) 病原微生物の基本的な検査方法について演習を通じて習得する。
3) 病原微生物の形態、培養方法、同定方法について理解する。
4) 病原菌に対する化学療法や予防について理解する。
5) 好気性菌、通性嫌気性菌の、感染様式、形態、培養法、生化学的性状、抗菌薬治療を理解し、感染症診断・治療へ応用する。

授業の概要

病原微生物の形態学的特徴、生化学的性状、代謝、病原性などの基礎的事項を学習し、習得した知識を感染症診療に応用できるように学ぶ。授業は、前半(60分)はテキスト中心に行い、後半(30分)はその項に関する臨床応用について学習する。
前半終了後に各回小テストあり。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

テキストによる予習と小テストを理解しておくこと。

内　容

第1回　臨床微生物検査概論
第2回　一般微生物および病原微生物の分類と命名、微生物の形態と構造、代謝と発育
　　和名と学名の紐づけ演習
第3回　微生物の観察法、染色法、発育、培養
　　グラム染色顕微鏡観察演習
第4回　細菌の同定、遺伝・変異と遺伝子診断
第5回　化学療法、ワクチン
第6回　正常細菌叢とその変動、病原性と抵抗力
第7回　バイオセーフティー、医療関連感染
　　PPEの使用方法演習
第8回　細菌検査の精度管理、感染症関係法規
第9回　好気性または通性嫌気性グラム陽性菌
　　同定演習
第10回　グラム陰性球菌および球桿菌
第11回　腸内細菌科細菌①
　　同定演習
第12回　腸内細菌科細菌②、ビブリオ科
　　同定演習
第13回　その他、通性嫌気性グラム陰性桿菌
第14回　好気性グラム陰性桿菌
第15回　まとめ・質疑応答

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

最新臨床検査学講座　臨床微生物学
著者:　松本哲也、他
出版社:　医歯薬出版
出版年:　2017　　ISBN:　978426322370-3

参考書

成績評価

試験・レポート（ 90 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
受講態度が不良のもの、出席は一定数以上ないものは成績評価を行わない。

2018 Syllabus

科 目 名　**免疫検査学 I**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　内堀　恵美	

テーマ

免疫系のしくみと働きを学び、抗原抗体反応が免疫学的検査にどのように応用されているのかを知る。

授業の到達目標

1）免疫系の生体防御に対する役割について理解する。
2）免疫系の組織・器官、免疫担当細胞について理解する。
3）抗原・抗体・補体について理解する。
4）抗原抗体反応の特質、免疫学的検査法の原理と種類を理解する。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　免疫系のしくみと働き(1)
　免疫系の役割と特徴、自然免疫、獲得免疫、自然免疫と獲得免疫の連携について解説する。
第2回　免疫系のしくみと働き(2)
　免疫担当細胞（リンパ球・単球・マクロファージ・樹状細胞等）について解説する。
第3回　免疫系のしくみと働き(3)
　免疫系の組織・器官（骨髄・胸腺・リンパ節・脾臓）について解説する。
第4回　免疫系のしくみと働き(4)
　リンパ球の発生と多様性の獲得機構について解説する。
第5回　免疫系のしくみと働き(5)
　リンパ球の抗原認識と活性化機構について解説する。
第6回　抗原と免疫グロブリン
　抗原と免疫グロブリン、抗体の構造と活性、抗体の作製法について解説する。
第7回　補体系の役割について解説する。
第8回　生体防御反応のしくみについて解説する。
第9回　免疫検査の基礎知識(1)
　抗原抗体反応の特質について解説する。
第10回　免疫検査の基礎知識(2)
　沈降反応、凝集反応の原理と検査の使い分けについて解説する。
第11回　免疫検査の基礎知識(3)
　溶解反応、中和反応の原理と検査の使い分けについて解説する。
第12回　免疫検査の基礎知識(4)
　標識抗原抗体反応の原理と検査の使い分けについて解説する。
第13回　免疫検査の基礎知識(5)
　抗原抗体反応の機器測定（比濁法と比ろう法、標識抗原抗体反応）について解説する。
第14回　免疫検査の基礎知識(6)
　細胞表面分子の測定法（フローサイトメトリー：FCM)、ウエスタンブロット法と遺伝子検査技術について解説する。
第15回　免疫検査学・基礎のまとめ

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

新版臨床免疫学(第3版)
著者：　山田俊幸・大戸　斉・渥美達也・三宅幸子・山内一由　編者
出版社：講談社サイエンティフィク
出版年：2014年　　ISBN：9784061398412

参考書

臨床検査学講座「免疫検査学」(第2版)
著者：　窪田哲朗・加藤亮二・藤田清貴　ほか編著
出版社：医歯薬出版株式会社
出版年：2016年　　ISBN：9784263223147

a90501b450

≪標準臨床検査学≫免疫検査学

著者: 折笠 道昭 編集
出版社: 医学書院
出版年: 2013年 ISBN: 9784260016483

成績評価

試験・レポート（ 80 ） 小テスト（ ）
授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**臨床細胞学総論 I**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　服部　学.大澤　幸希光.大西　崇文	

テーマ

早期エキスポージャーにより、臨床細胞学の勉学に対する学生の積極性、自主性を引き出すことを目的とする

授業の到達目標

臨床細胞学総論 I は、本学科における細胞検査士コースに必要な科目として位置づけられている。細胞診断学の序論として、まず、細胞診断学の概要について総論的に学ぶ。また、正確な細胞診断を行うために欠かす事のできない重要な課題となる標本作製のために必要な知識を習得する。その上で、本講義における臨床細胞学の分野では、特に子宮頸部に関する総合的知識と細胞の形態学的特徴を学ぶ。

授業の概要

講義中に代表的な細胞の説明・提示を行うとともに後半の実習で実際の細胞の検鏡実習にて確認を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

細胞の基本的構造について参考書を調べて理解しておくこと。特に細胞初見は参考書に掲載されている多くの写真を見ておくことが望ましい。また、パパニコロウ染色やギムザ染色などの原理や標本作製手順を確認しておく。

内　容

第1回　細胞診断学総論1　細胞診の目的、発達史、適用範囲、腫瘍学
第2回　細胞診断学総論2　細胞診の判定基準、用語説明、長短所・結果報告
第3回　細胞診に必要な解剖・組織学　細胞診の基礎となる基本的な解剖・組織学
第4回　細胞診標本作製1　細胞採取、塗抹、固定方法
第5回　細胞診標本作製2　染色、封入、顕微鏡
第6回　細胞診標本作製3　LBC法やセルブロック等、細胞診の新技術
第7回　婦人科細胞診1　子宮の発生、解剖・組織および子宮頸部の正常細胞
第8回　婦人科細胞診2　子宮頸部の炎症性疾患、ヘルペス感染およびそれに随伴する良性変化像（扁平上皮化生細胞、組織修復細胞等）
第9回　婦人科細胞診3　ホルモン細胞診
第10回　実習の説明　細胞観察の仕方（スクリーニング・同定）
第11回　実習1　標本観察・スケッチ
第12回　実習2　標本観察・スケッチ
第13回　実習3　標本観察・スケッチ
第14回　実習4　標本観察・スケッチ
第15回　臨床細胞学総論1まとめ

履修上の注意点

スケッチブックおよび色鉛筆を初回実習時までに各自で用意する。私語、遅刻は厳禁。3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

最新臨床検査学講座　病理学／病理検査学
著者:　松原修・他
出版社:　医歯薬出版
出版年:　2016年　　ISBN:　9784263223642

細胞診を学ぶ人のために第5版
著者:　坂本穆彦
出版社:　医学書院
出版年:　2011年　　ISBN:　9784260011853

a90501d150

スタンダード細胞診テキスト第3版

著者: 水口國雄

出版社: 医歯薬出版

出版年: 2007年　　ISBN: 9784263221631

細胞診ガイドライン1婦人科・泌尿器

著者: 公益社団法人日本臨床細胞学会

出版社: 金原出版

出版年: 2015年　　ISBN: 9784307050432

成績評価

試験・レポート（ 90 ）　　小テスト（ 0 ）

授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）

参加度（ 10 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Aa〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　米澤　洋子	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 25 ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度（ 25 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Ab〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　古澤　夕起子	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 25 ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度 （ 25 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Ac〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　三上　聡太	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 25 ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度（ 25 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Ad〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　権藤　愛順	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 25 ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度 （ 25 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Ae〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　名和　久仁子	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Af〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　熊谷　昭宏	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 25 ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度 （ 25 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Ag〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　正志	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Ah〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　章彦	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 25 ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度（ 25 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Ai〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　伊藤　典文	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Aj〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鳥谷　善史	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 25 ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度（ 25 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Ak〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　辻本　千鶴	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈AI〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　川畑　和成	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 25 ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度（ 25 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Am〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉岡　歩美	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 25 ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度 （ 25 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈An〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾添　陽平	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 25 ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度 （ 25 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Ao〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐藤　貴之	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 25 ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度（ 25 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Ba〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　米澤　洋子	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Bb〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　古澤　夕起子	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 25 ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度 （ 25 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Bc〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　三上　聡太	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 25 ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度（ 25 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Bd〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　権藤　愛順	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 25 ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度 （ 25 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Be〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　名和　久仁子	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 25 ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度（ 25 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Bf〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　熊谷　昭宏	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 25 ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度（ 25 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Bg〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　正志	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 25 ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度（ 25 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Bh〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　章彦	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Bi〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　伊藤　典文	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Bj〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鳥谷　善史	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 25 ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度（ 25 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Bk〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　辻本　千鶴	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 25 ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度 （ 25 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈BI〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　川畑　和成	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 25 ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度（ 25 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Bm〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉岡　歩美	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 25 ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度（ 25 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Bn〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾添　陽平	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 25 ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度（ 25 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Bo〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐藤　貴之	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Aa〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　米澤　洋子	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Ab〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　古澤　夕起子	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Ac〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　三上　聡太	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Ad〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　権藤　愛順	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Ae〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　名和 久仁子	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Af〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　熊谷　昭宏	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Ag〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　正志	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Ah〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　章彦	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Ai〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　伊藤　典文	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Aj〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鳥谷　善史	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Ak〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　辻本　千鶴	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈AI〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　川畑　和成	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Am〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉岡　歩美	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートＩ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈An〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾添　陽平	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Ao〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐藤　貴之	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Ba〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　米澤　洋子	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Bb〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　古澤　夕起子	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Bc〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　三上　聡太	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ <Bd>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　権藤　愛順	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Be〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　名和　久仁子	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ <Bf>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　熊谷　昭宏	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートＩ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Bg〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　正志	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートＩ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Bh〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　章彦	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ <Bi>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　伊藤　典文	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ <Bj>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鳥谷　善史	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートＩ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Bk〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　辻本　千鶴	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ <BI>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　川畑　和成	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Bm〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉岡　歩美	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートＩ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Bn〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾添　陽平	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Bo〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐藤　貴之	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング〈Aa〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　米澤　洋子	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング〈Ab〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　古澤　夕起子	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング〈Ac〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　三上　聡太	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング〈Ad〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　権藤　愛順	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第15回　まとめ
第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング〈Ae〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　名和　久仁子	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング〈Af〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　熊谷　昭宏	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング〈Ag〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　正志	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング〈Ah〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　章彦	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング〈Ai〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　伊藤　典文	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング〈Aj〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鳥谷　善史	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング〈Ak〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　辻本　千鶴	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング〈AI〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　川畑　和成	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング〈Am〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉岡　歩美	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング〈An〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾添　陽平	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング〈Ao〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐藤　貴之	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング〈Ba〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　米澤　洋子	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング〈Bb〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　古澤　夕起子	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング〈Bc〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　三上　聡太	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング〈Bd〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　権藤　愛順	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング〈Be〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　名和　久仁子	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング〈Bf〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　熊谷　昭宏	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング〈Bg〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　正志	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング〈Bh〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　章彦	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング〈Bi〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　伊藤　典文	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング〈Bj〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鳥谷　善史	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング〈Bk〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　辻本　千鶴	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング <BI>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　川畑　和成	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング〈Bm〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉岡　歩美	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング <Bn>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾添　陽平	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アカデミックライティング〈Bo〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐藤　貴之	

テーマ

日本語運用能力の習得

授業の到達目標

大学での学修を始めるにあたって必要とされる日本語運用能力を習得する

授業の概要

テキストにしたがって講義を進めていく予定である。前半は教員による講義、後半は課題への取り組みを予定している。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく

内　　容

第1回　概要説明
第2回　「私」を伝える（1）
第3回　「私」を伝える（2）
第4回　「私」を伝える（3）
第5回　贈ることば
第6回　1回生の私のアクションプラン
第7回　ディベート
第8回　プレゼンテーション
第9回　待遇表現
第10回　面接と自己アピール
第11回　原稿用紙の使い方
第12回　手紙と葉書
第13回　履歴書とエントリーシート
第14回　ビジネス文書
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（25）
授業中課題（25）	授業中発表等（25）
参加度（25）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ〈Aa〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　米澤　洋子	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ〈Ab〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　古澤　夕起子	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ〈Ac〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　三上　聡太	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ〈Ad〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　権藤　愛順	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ〈Ae〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　名和 久仁子	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ〈Af〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　熊谷　昭宏	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ〈Ag〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　正志	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ〈Ah〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　章彦	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ〈Ai〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　伊藤　典文	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ <Aj>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鳥谷　善史	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ〈Ak〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　辻本　千鶴	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ〈AI〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　川畑　和成	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ〈Am〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉岡　歩美	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ〈An〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾添　陽平	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ〈Ao〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐藤　貴之	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ〈Ba〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　米澤　洋子	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ〈Bb〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　古澤　夕起子	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ〈Bc〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　三上　聡太	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ〈Bd〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　権藤　愛順	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ〈Be〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　名和　久仁子	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ <Bf>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　熊谷　昭宏	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ〈Bg〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　正志	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ〈Bh〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　章彦	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ <Bi>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　伊藤　典文	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ <Bj>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鳥谷　善史	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ〈Bk〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　辻本　千鶴	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ <BI>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　川畑　和成	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:
スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ〈Bm〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉岡　歩美	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ〈Bn〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾添　陽平	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養ゼミ〈Bo〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐藤　貴之	

テーマ

なぜ教養は必要なのか

授業の到達目標

文章表現力およびび読解力の基礎の修得をまず目指す。次にそれを元に、さまざまな学問領域の批評の読解を試み、教養教育の意義や価値について学んでいく。

授業の概要

専門教育と異なり、教養教育を学ぶ意義については、日常の中で実感する機会は少ないのではないか。しかし、市民としての健全な人格の育成や、正しい世界認識の獲得のためには、教養教育は不可欠である。この講義ではそのような教養の意義や価値についてグループワークなどを交えつつ学んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で随時、指示していく。

内　　容

第1回　概要説明
第2回　文のしくみ
第3回　文章構成
第4回　文章の要約
第5回　レポート・小論文
第6回　論説文と批評文
第7回　哲学・社会学に触れてみよう
第8回　法律・政治学に触れてみよう
第9回　経済学や経営学に触れてみよう
第10回　文学に触れてみよう
第11回　歴史学に触れてみよう
第12回　心理学に触れてみよう
第13回　数学や論理学に触れてみよう
第14回　化学や生物学に触れてみよう
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

スタートⅠ京都橘の教養テキスト
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアコミュニケーションⅠ〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　100
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉田　真知子	

テーマ

「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの習得を目的とする

授業の到達目標

1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の習得
2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く
3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける
4. 正しい日本語の運用についての知識の習得

授業の概要

講義とワーク、トレーニング、小テストにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ。
期末テストの代わりに、習熟度テスト・小テスト等で成績を評価する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　オリエンテーション　話しことばを学ぶ意義　挨拶と受け答え
第2回　発声と発音　腹式呼吸　発音　日本語の音
第3回　発音を正しく　発音の基本練習　声の大きさ・高低・速度・リズム　音声表現
第4回　話しことばの特徴　話しことばと書きことば　パブリックスピーキング　共通語
第5回　～敬語Ⅰ～　人間関係の認識　使う場面　種類と働き
第6回　～敬語Ⅱ～　尊敬語と謙譲語　一般的なパターンと特別な形
第7回　～敬語Ⅲ～　第三者についての敬語表現　間違いやすい例
第8回　～話す・聞くⅠ～　話し手・聞き手　場面・内容　話の種類　話すときのポイント　聞くときのポイント
第9回　～話す・聞くⅡ～　わかりやすい表現　正しく話す　豊かな表現
第10回　～読む・話す～　お知らせ文を読む　内容を話す　聞きながら一緒に読む
第11回　習熟度テスト
第12回　～スピーチⅠ～　話を組み立てる　就活のための自己PR
第13回　～スピーチⅡ～　自己PR発表1
第14回　～スピーチⅢ～　自己PR発表2
第15回　総まとめ

履修上の注意点

教科書

話しことばとコミュニケーション
著者:　NPO法人　日本話しことば協会
出版社:　NPO法人　日本話しことば協会
出版年:　2017　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアコミュニケーション Ⅰ 〈b〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　100
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松本　広美	

テーマ

「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの習得を目的とする

授業の到達目標

1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の習得
2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く
3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける
4. 正しい日本語の運用についての知識の習得

授業の概要

講義とワーク、トレーニング、小テストにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ。
期末テストの代わりに、習熟度テスト・小テスト等で成績を評価する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第3回　発音を正しく　発音の基本練習　声の大きさ・高低・速度・リズム　音声表現
第4回　話しことばの特徴　話しことばと書きことば　パブリックスピーキング　共通語
第5回　～敬語Ⅰ～　人間関係の認識　使う場面　種類と働き
第6回　～敬語Ⅱ～　尊敬語と謙譲語　一般的なパターンと特別な形
第7回　～敬語Ⅲ～　第三者についての敬語表現　間違いやすい例
第8回　～話す・聞くⅠ～　話し手・聞き手　場面・内容　話の種類　話すときのポイント　聞くときのポイント
第9回　～話す・聞くⅡ～　わかりやすい表現　正しく話す　豊かな表現
第10回　～読む・話す～　お知らせ文を読む　内容を話す　聞きながら一緒に読む
第11回　習熟度テスト
第12回　～スピーチⅠ～　話を組み立てる　就活のための自己PR
第13回　～スピーチⅡ～　自己PR発表1
第14回　～スピーチⅢ～　自己PR発表2
第15回　総まとめ
第1回　オリエンテーション　話しことばを学ぶ意義　挨拶と受け答え
第2回　発声と発音　腹式呼吸　発音　日本語の音

履修上の注意点

教科書

話しことばとコミュニケーション
著者:　NPO法人　日本話しことば協会
出版社:　NPO法人　日本話しことば協会
出版年:　2017　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 30 ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアコミュニケーションⅠ〈c〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　100
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉田　真知子	

テーマ

「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの習得を目的とする

授業の到達目標

1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の習得
2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く
3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける
4. 正しい日本語の運用についての知識の習得

授業の概要

講義とワーク、トレーニング、小テストにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ。
期末テストの代わりに、習熟度テスト・小テスト等で成績を評価する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　オリエンテーション　話しことばを学ぶ意義　挨拶と受け答え
第2回　発声と発音　腹式呼吸　発音　日本語の音
第3回　発音を正しく　発音の基本練習　声の大きさ・高低・速度・リズム　音声表現
第4回　話しことばの特徴　話しことばと書きことば　パブリックスピーキング　共通語
第5回　～敬語Ⅰ～　人間関係の認識　使う場面　種類と働き
第6回　～敬語Ⅱ～　尊敬語と謙譲語　一般的なパターンと特別な形
第7回　～敬語Ⅲ～　第三者についての敬語表現　間違いやすい例
第8回　～話す・聞くⅠ～　話し手・聞き手　場面・内容　話の種類　話すときのポイント　聞くときのポイント
第9回　～話す・聞くⅡ～　わかりやすい表現　正しく話す　豊かな表現
第10回　～読む・話す～　お知らせ文を読む　内容を話す　聞きながら一緒に読む
第11回　習熟度テスト
第12回　～スピーチⅠ～　話を組み立てる　就活のための自己PR
第13回　～スピーチⅡ～　自己PR発表1
第14回　～スピーチⅢ～　自己PR発表2
第15回　総まとめ

履修上の注意点

教科書

話しことばとコミュニケーション
著者:　NPO法人　日本話しことば協会
出版社:　NPO法人　日本話しことば協会
出版年:　2017　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアコミュニケーション Ⅰ 〈d〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　100
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松本　広美	

テーマ

「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの習得を目的とする

授業の到達目標

1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の習得
2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く
3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける
4. 正しい日本語の運用についての知識の習得

授業の概要

講義とワーク、トレーニング、小テストにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ。
期末テストの代わりに、習熟度テスト・小テスト等で成績を評価する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　オリエンテーション　話しことばを学ぶ意義　挨拶と受け答え
第2回　発声と発音　腹式呼吸　発音　日本語の音
第3回　発音を正しく　発音の基本練習　声の大きさ・高低・速度・リズム　音声表現
第4回　話しことばの特徴　話しことばと書きことば　パブリックスピーキング　共通語
第5回　～敬語Ⅰ～　人間関係の認識　使う場面　種類と働き
第6回　～敬語Ⅱ～　尊敬語と謙譲語　一般的なパターンと特別な形
第7回　～敬語Ⅲ～　第三者についての敬語表現　間違いやすい例
第8回　～話す・聞くⅠ～　話し手・聞き手　場面・内容　話の種類　話すときのポイント　聞くときのポイント
第9回　～話す・聞くⅡ～　わかりやすい表現　正しく話す　豊かな表現
第10回　～読む・話す～　お知らせ文を読む　内容を話す　聞きながら一緒に読む
第11回　習熟度テスト
第12回　～スピーチⅠ～　話を組み立てる　就活のための自己PR
第13回　～スピーチⅡ～　自己PR発表1
第14回　～スピーチⅢ～　自己PR発表2
第15回　総まとめ

履修上の注意点

教科書

話しことばとコミュニケーション
著者:　NPO法人　日本話しことば協会
出版社:　NPO法人　日本話しことば協会
出版年:　2017　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 30 ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアコミュニケーションⅠ〈e〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　100
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉田　真知子	

テーマ

「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの習得を目的とする

授業の到達目標

1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の習得
2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く
3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける
4. 正しい日本語の運用についての知識の習得

授業の概要

講義とワーク、トレーニング、小テストにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ。
期末テストの代わりに、習熟度テスト・小テスト等で成績を評価する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　オリエンテーション　話しことばを学ぶ意義　挨拶と受け答え
第2回　発声と発音　腹式呼吸　発音　日本語の音
第3回　発音を正しく　発音の基本練習　声の大きさ・高低・速度・リズム　音声表現
第4回　話しことばの特徴　話しことばと書きことば　パブリックスピーキング　共通語
第5回　～敬語Ⅰ～　人間関係の認識　使う場面　種類と働き
第6回　～敬語Ⅱ～　尊敬語と謙譲語　一般的なパターンと特別な形
第7回　～敬語Ⅲ～　第三者についての敬語表現　間違いやすい例
第8回　～話す・聞くⅠ～　話し手・聞き手　場面・内容　話の種類　話すときのポイント　聞くときのポイント
第9回　～話す・聞くⅡ～　わかりやすい表現　正しく話す　豊かな表現
第10回　～読む・話す～　お知らせ文を読む　内容を話す　聞きながら一緒に読む
第11回　習熟度テスト
第12回　～スピーチⅠ～　話を組み立てる　就活のための自己PR
第13回　～スピーチⅡ～　自己PR発表1
第14回　～スピーチⅢ～　自己PR発表2
第15回　総まとめ

履修上の注意点

教科書

話しことばとコミュニケーション
著者:　NPO法人　日本話しことば協会
出版社:　NPO法人　日本話しことば協会
出版年:　2017　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアコミュニケーションⅡ〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　100
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松岡　とお子	

テーマ

コミュニケーション能力・ビジネスマナーを身につけ、社会で有用な人材になることを目的とする

授業の到達目標

1. 知性と教養のある大人の社会人としての話し方やマナーを身につける。
2. 自信を持って自分をアピールできるスキルを習得する。
3. 社会の中で自分の立場や場面を的確に把握し、よい人間関係を築く。

授業の概要

基本的なビジネスマナーをはじめ、ことばのマナー・ビジネス文書の書き方・効果的な自己紹介など、幅広いスキルを学びます。また、話すための発声・発音、笑顔・アイコンタクト・姿勢など、ワークを中心にした実践的な授業を行います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　オリエンテーション
　　～ビジネスマナー1～　好感度アップに欠かせない基本態度
第2回　～ビジネスマナー2～　清潔感を大事にする服装と身だしなみ
第3回　～ビジネスマナー3～　就活で一目置かれる立ち居振る舞い
第4回　～ことばのマナー1～　社会人のエチケット「敬語」
第5回　～ことばのマナー2～　コミュニケーションに役立つ話し方
第6回　～コミュニケーション1～　効果的な自己紹介
第7回　～コミュニケーション2～　自己紹介発表
第8回　～コミュニケーション3～　スピーチ発表
第9回　～コミュニケーション4～　相手の心を開く心理テクニック
第10回　～ビジネスマナー4～　基本的マナー
第11回　～ビジネスマナー5～　電話応対の基本
第12回　～ビジネスマナー6～　ビジネスメール・ビジネス文書の書き方
第13回　～魅力を引き出す印象管理1～　顔色がよく見えるパーソナルカラー
第14回　～魅力を引き出す印象管理2～　表情ぐせチェック・人相学・ナチュラルメイクのポイント
第15回　総復習

履修上の注意点

《欠席について》
①授業開始から5分までは出席、6分から29分は遅刻、30分以降は欠席。

②出席認証されていても、当日の小テストや課題が未提出の場合は欠席。

③出欠確認時、不在の場合は欠席。

《学生証忘れについて》
当日のみ受け付ける。所定の用紙（講師がその場で手渡し）に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。

《出席したのに出席が認証されていなかった時》
翌週のみ受け付ける。所定の用紙（講師がその場で手渡し）に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。出席したとみられる日の提出物などを確認して、出席と確認できた場合のみ講師が記録を変更する。

《その他》
◆教育実習などで欠席する場合は「事前連絡表」を出すこと。但し、出したからといって出席扱いにはならない。

◆小テストや課題の提出・返却の受け取りは、本人のみ可能。不正が明らかになった場合は本人と代行者が減点。

◆居眠り、スマートフォン操作、周りに迷惑をかける私語は、減点。

教科書

好感度を上げる！ビジネスマナーとコミュニケーション

著者：　NPO法人　日本話しことば協会

出版社：NPO法人　日本話しことば協会

出版年：　　ISBN：

aks102a250

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 15 ）
授業中課題（ 15 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 50 ）
期末テストの代わりに、授業中に行う小テストやワークの参加等で成績を評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアコミュニケーションⅡ〈b〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　100
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀　由紀	

テーマ

コミュニケーション能力・ビジネスマナーを身につけ、社会で有用な人材になることを目的とする

授業の到達目標

1. 知性と教養のある大人の社会人としての話し方やマナーを身につける。
2. 自信を持って自分をアピールできるスキルを習得する。
3. 社会の中で自分の立場や場面を的確に把握し、よい人間関係を築く。

授業の概要

基本的なビジネスマナーをはじめ、ことばのマナー・ビジネス文書の書き方・効果的な自己紹介など、幅広いスキルを学びます。また、話すための発声・発音、笑顔・アイコンタクト・姿勢など、ワークを中心にした実践的な授業を行います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　オリエンテーション
　　～ビジネスマナー1～　好感度アップに欠かせない基本態度
第2回　～ビジネスマナー2～　清潔感を大事にする服装と身だしなみ
第3回　～ビジネスマナー3～　就活で一目置かれる立ち居振る舞い
第4回　～ことばのマナー1～　社会人のエチケット「敬語」
第5回　～ことばのマナー2～　コミュニケーションに役立つ話し方
第6回　～コミュニケーション1～　効果的な自己紹介
第7回　～コミュニケーション2～　自己紹介発表
第8回　～コミュニケーション3～　スピーチ発表
第9回　～コミュニケーション4～　相手の心を開く心理テクニック
第10回　～ビジネスマナー4～　基本的マナー
第11回　～ビジネスマナー5～　電話応対の基本
第12回　～ビジネスマナー6～　ビジネスメール・ビジネス文書の書き方
第13回　～魅力を引き出す印象管理1～　顔色がよく見えるパーソナルカラー
第14回　～魅力を引き出す印象管理2～　表情ぐせチェック・人相学・ナチュラルメイクのポイント
第15回　総復習

履修上の注意点

《欠席について》
①授業開始から5分までは出席、6分から29分は遅刻、30分以降は欠席。

②出席認証されていても、当日の小テストや課題が未提出の場合は欠席。

③出欠確認時、不在の場合は欠席。

《学生証忘れについて》
当日のみ受け付ける。所定の用紙（講師がその場で手渡し）に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。

《出席したのに出席が認証されていなかった時》
翌週のみ受け付ける。所定の用紙（講師がその場で手渡し）に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。出席したとみられる日の提出物などを確認して、出席と確認できた場合のみ講師が記録を変更する。

《その他》
◆教育実習などで欠席する場合は「事前連絡表」を出すこと。但し、出したからといって出席扱いにはならない。

◆小テストや課題の提出・返却の受け取りは、本人のみ可能。不正が明らかになった場合は本人と代行者が減点。

◆居眠り、スマートフォン操作、周りに迷惑をかける私語は、減点。

教科書

好感度を上げる！ビジネスマナーとコミュニケーション

著者：　NPO法人　日本話しことば協会

出版社：NPO法人　日本話しことば協会

出版年：　　ISBN：

aks102a252

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 15 ）
授業中課題（ 15 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 50 ）
期末テストの代わりに、授業中に行う小テストやワークの参加等で成績を評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアコミュニケーションⅡ〈c〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　100
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松岡　とお子	

テーマ

コミュニケーション能力・ビジネスマナーを身につけ、社会で有用な人材になることを目的とする

授業の到達目標

1. 知性と教養のある大人の社会人としての話し方やマナーを身につける。
2. 自信を持って自分をアピールできるスキルを習得する。
3. 社会の中で自分の立場や場面を的確に把握し、よい人間関係を築く。

授業の概要

基本的なビジネスマナーをはじめ、ことばのマナー・ビジネス文書の書き方・効果的な自己紹介など、幅広いスキルを学びます。また、話すための発声・発音、笑顔・アイコンタクト・姿勢など、ワークを中心にした実践的な授業を行います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　オリエンテーション
　　～ビジネスマナー1～　好感度アップに欠かせない基本態度
第2回　～ビジネスマナー2～　清潔感を大事にする服装と身だしなみ
第3回　～ビジネスマナー3～　就活で一目置かれる立ち居振る舞い
第4回　～ことばのマナー1～　社会人のエチケット「敬語」
第5回　～ことばのマナー2～　コミュニケーションに役立つ話し方
第6回　～コミュニケーション1～　効果的な自己紹介
第7回　～コミュニケーション2～　自己紹介発表
第8回　～コミュニケーション3～　スピーチ発表
第9回　～コミュニケーション4～　相手の心を開く心理テクニック
第10回　～ビジネスマナー4～　基本的マナー
第11回　～ビジネスマナー5～　電話応対の基本
第12回　～ビジネスマナー6～　ビジネスメール・ビジネス文書の書き方
第13回　～魅力を引き出す印象管理1～　顔色がよく見えるパーソナルカラー
第14回　～魅力を引き出す印象管理2～　表情ぐせチェック・人相学・ナチュラルメイクのポイント
第15回　総復習

履修上の注意点

《欠席について》
①授業開始から5分までは出席、6分から29分は遅刻、30分以降は欠席。

②出席認証されていても、当日の小テストや課題が未提出の場合は欠席。

③出欠確認時、不在の場合は欠席。

《学生証忘れについて》
当日のみ受け付ける。所定の用紙（講師がその場で手渡し）に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。

《出席したのに出席が認証されていなかった時》
翌週のみ受け付ける。所定の用紙（講師がその場で手渡し）に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。出席したとみられる日の提出物などを確認して、出席と確認できた場合のみ講師が記録を変更する。

《その他》
◆教育実習などで欠席する場合は「事前連絡表」を出すこと。但し、出したからといって出席扱いにはならない。

◆小テストや課題の提出・返却の受け取りは、本人のみ可能。不正が明らかになった場合は本人と代行者が減点。

◆居眠り、スマートフォン操作、周りに迷惑をかける私語は、減点。

教科書

好感度を上げる！ビジネスマナーとコミュニケーション

著者：　NPO法人　日本話しことば協会

出版社：NPO法人　日本話しことば協会

出版年：　　ISBN：

aks102a253

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 15 ）
授業中課題（ 15 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 50 ）	

期末テストの代わりに、授業中に行う小テストやワークの参加等で成績を評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアコミュニケーションⅡ〈d〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　100
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀　由紀	

テーマ

コミュニケーション能力・ビジネスマナーを身につけ、社会で有用な人材になることを目的とする

授業の到達目標

1. 知性と教養のある大人の社会人としての話し方やマナーを身につける。
2. 自信を持って自分をアピールできるスキルを習得する。
3. 社会の中で自分の立場や場面を的確に把握し、よい人間関係を築く。

授業の概要

基本的なビジネスマナーをはじめ、ことばのマナー・ビジネス文書の書き方・効果的な自己紹介など、幅広いスキルを学びます。また、話すための発声・発音、笑顔・アイコンタクト・姿勢など、ワークを中心にした実践的な授業を行います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　オリエンテーション
　　～ビジネスマナー1～　好感度アップに欠かせない基本態度
第2回　～ビジネスマナー2～　清潔感を大事にする服装と身だしなみ
第3回　～ビジネスマナー3～　就活で一目置かれる立ち居振る舞い
第4回　～ことばのマナー1～　社会人のエチケット「敬語」
第5回　～ことばのマナー2～　コミュニケーションに役立つ話し方
第6回　～コミュニケーション1～　効果的な自己紹介
第7回　～コミュニケーション2～　自己紹介発表
第8回　～コミュニケーション3～　スピーチ発表
第9回　～コミュニケーション4～　相手の心を開く心理テクニック
第10回　～ビジネスマナー4～　基本的マナー
第11回　～ビジネスマナー5～　電話応対の基本
第12回　～ビジネスマナー6～　ビジネスメール・ビジネス文書の書き方
第13回　～魅力を引き出す印象管理1～　顔色がよく見えるパーソナルカラー
第14回　～魅力を引き出す印象管理2～　表情ぐせチェック・人相学・ナチュラルメイクのポイント
第15回　総復習

履修上の注意点

《欠席について》
①授業開始から5分までは出席、6分から29分は遅刻、30分以降は欠席。

②出席認証されていても、当日の小テストや課題が未提出の場合は欠席。

③出欠確認時、不在の場合は欠席。

《学生証忘れについて》
当日のみ受け付ける。所定の用紙（講師がその場で手渡し）に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。

《出席したのに出席が認証されていなかった時》
翌週のみ受け付ける。所定の用紙（講師がその場で手渡し）に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。出席したとみられる日の提出物などを確認して、出席と確認できた場合のみ講師が記録を変更する。

《その他》
◆教育実習などで欠席する場合は「事前連絡表」を出すこと。但し、出したからといって出席扱いにはならない。

◆小テストや課題の提出・返却の受け取りは、本人のみ可能。不正が明らかになった場合は本人と代行者が減点。

◆居眠り、スマートフォン操作、周りに迷惑をかける私語は、減点。

教科書

好感度を上げる！ビジネスマナーとコミュニケーション

著者：　NPO法人　日本話しことば協会

出版社：NPO法人　日本話しことば協会

出版年：　　ISBN：

aks102a254

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 15 ）
授業中課題（ 15 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 50 ）	

期末テストの代わりに、授業中に行う小テストやワークの参加等で成績を評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアコミュニケーションⅡ〈e〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　100
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松岡　とお子	

テーマ

コミュニケーション能力・ビジネスマナーを身につけ、社会で有用な人材になることを目的とする

授業の到達目標

1. 知性と教養のある大人の社会人としての話し方やマナーを身につける。
2. 自信を持って自分をアピールできるスキルを習得する。
3. 社会の中で自分の立場や場面を的確に把握し、よい人間関係を築く。

授業の概要

基本的なビジネスマナーをはじめ、ことばのマナー・ビジネス文書の書き方・効果的な自己紹介など、幅広いスキルを学びます。また、話すための発声・発音、笑顔・アイコンタクト・姿勢など、ワークを中心にした実践的な授業を行います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　オリエンテーション
　　～ビジネスマナー1～　好感度アップに欠かせない基本態度
第2回　～ビジネスマナー2～　清潔感を大事にする服装と身だしなみ
第3回　～ビジネスマナー3～　就活で一目置かれる立ち居振る舞い
第4回　～ことばのマナー1～　社会人のエチケット「敬語」
第5回　～ことばのマナー2～　コミュニケーションに役立つ話し方
第6回　～コミュニケーション1～　効果的な自己紹介
第7回　～コミュニケーション2～　自己紹介発表
第8回　～コミュニケーション3～　スピーチ発表
第9回　～コミュニケーション4～　相手の心を開く心理テクニック
第10回　～ビジネスマナー4～　基本的マナー
第11回　～ビジネスマナー5～　電話応対の基本
第12回　～ビジネスマナー6～　ビジネスメール・ビジネス文書の書き方
第13回　～魅力を引き出す印象管理1～　顔色がよく見えるパーソナルカラー
第14回　～魅力を引き出す印象管理2～　表情ぐせチェック・人相学・ナチュラルメイクのポイント
第15回　総復習

履修上の注意点

《欠席について》
①授業開始から5分までは出席、6分から29分は遅刻、30分以降は欠席。

②出席認証されていても、当日の小テストや課題が未提出の場合は欠席。

③出欠確認時、不在の場合は欠席。

《学生証忘れについて》
当日のみ受け付ける。所定の用紙（講師がその場で手渡し）に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。

《出席したのに出席が認証されていなかった時》
翌週のみ受け付ける。所定の用紙（講師がその場で手渡し）に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。出席したとみられる日の提出物などを確認して、出席と確認できた場合のみ講師が記録を変更する。

《その他》
◆教育実習などで欠席する場合は「事前連絡表」を出すこと。但し、出したからといって出席扱いにはならない。

◆小テストや課題の提出・返却の受け取りは、本人のみ可能。不正が明らかになった場合は本人と代行者が減点。

◆居眠り、スマートフォン操作、周りに迷惑をかける私語は、減点。

教科書

好感度を上げる！ビジネスマナーとコミュニケーション

著者：　NPO法人　日本話しことば協会

出版社：NPO法人　日本話しことば協会

出版年：　　ISBN：

aks102a255

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 15 ）
授業中課題（ 15 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 50 ）
期末テストの代わりに、授業中に行う小テストやワークの参加等で成績を評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　増田　聖日恵	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。･世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

･人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ･各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (B): Ask For and Give Personal Information 個人の情報を求める、与える
第3回　Unit 1 (D): (Reading) People from around the World、(Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる
第4回　Unit 2 (B): Talk About Free Time 余暇の過ごし方を述べる
第5回　Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong、(Writing/Speaking) 様々なコミュニティーの日常生活を描写する
第6回　Unit 3 (B): Ask For and Give Personal Travel Information 旅行情報を求める、与える
第7回　Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler、(Writing/Speaking) 旅行のアドバイス
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (B): Order a Meal 食事を注文する
第10回　Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food、(Writing/Speaking) 食べ物について話す
第11回　Unit 5 (B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities 日課を比較する
第12回　Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す
第13回　Unit 6 (B): Exchange Information About Vacations 休暇についての情報交換
第14回　Unit 6 (D): (Reading) The Cradle of the Inca Empire、(Writing/Speaking) 旅行ブログを書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30 ）	小テスト （ 30 ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　占部　幹也	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
（受験有無や受講生知識のヒアリング、試験構成確認等）
第2回　単語、Part 2対策, Part 5対策
第3回　単語、Part 4対策, Part 7対策
第4回　単語、Part 2対策, Part 7対策
第5回　単語、Part 4対策, Part 7対策
第6回　単語、Part 2対策, Part 5対策
第7回　単語、Part 1対策, Part 5対策
第8回　単語、Part 2対策, Part 5対策
第9回　単語、Part 4対策, Part 6対策
第10回 単語、Part 2対策, Part 7対策
第11回 単語、Part 4対策, Part 7対策
第12回 リスニングPart3①、リーディングPart6
第13回 リスニングPart4①、リーディングPart7②
第14回 リスニングテスト演習及び解答解説
第15回 リーディングテスト解説続き

履修上の注意点

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Emerald
著者:　ECC
出版社: ECC
出版年: 2016年　　ISBN:

TOEICテスト新形式問題補助教材 α（アルファ）
著者:　ECC
出版社: ECC
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
上記に加えて期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　高田　悦子	

テーマ

国際語としての英語を使うことに自信を持とう。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

･新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動 ･各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従うこと

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (C) 出身地や仕事について話す。
第3回　Unit 1 (D) 人の名前と仕事について述べる。
第4回　Unit 2 (C) 家族とその年齢を表現する。
第5回　Unit 2 (D) 家族や友達について情報を与える。
第6回　Unit 3 (C) 衣服や持ち物について話す。
第7回　Unit 3 (D) 好きな持ち物を描写する。
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (C) 日課について話す。
第10回　Unit 4 (D) 週末にしていることを描写する。
第11回　Unit 5 (C) 余暇活動について話す。
第12回　Unit 5 (D) IT機器の使い方について話し合う。
第13回　Unit 6 (C) 自分の才能や能力を説明する。
第14回　Unit 6 (D) 留学や海外インターンについて話す。
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。
辞書を必ず持ってきて下さい。（評価の対象になります。）

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM
著者:　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社:　Cambridge University Press
出版年:　2013　　ISBN:　9780521126151

Four Corners, 1, Workbook
著者:　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社:　Cambridge University Press
出版年:　2013　　ISBN:　9780521126540

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（ 40% ）
授業中課題（ 15% ）	授業中発表等（ 30% ）
参加度（ 15% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　川口　玲子	

テーマ

将来的にTOEICスコアアップを目指す為の英語基礎力養成

授業の到達目標

TOEIC試験スコアを50点アップを目指す。リスニング到達目標：発音力を高めることで、リスニング力の向上を目指す。リーディング到達目標：主語と述語を見分けることでリーディング力の向上を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングスキルの基礎力を養成する。TOEICの演習問題を通じ、各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
（受験有無や受講生知識のヒアリング、試験構成確認等）
第2回　Listening 対策；母音（1）
Reading対策：文のエッセンス（1）
第3回　Listening対策：リンキング
Reading対策：チャンク・リーディング（1）
第4回　復習
第5回　Listening対策：子音（2）
Reading対策：予測（1）
第6回　Listening対策：音の脱落
Reading対策：まとまり毎の意味を捉える
第7回　Listening対策：短縮形（2）
Reading対策：スキミング（2）
第8回　Listening対策：単語の音声変化（1）
Reading対策：単語の意味を推測（2）
第9回　Listening対策：復習（3）
Reading対策：予測（2）
第10回　Listening対策：Part1・2総合問題（2）
Reading対策：主題文を見つける
第11回　Part3演習
第12回　Part4演習
第13回　Part5演習
第14回　Part6演習、Part7新形式を補助教材にて紹介
第15回　模擬試験リスニングパート実施・解答・解説

履修上の注意点

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Ruby
著者：　ECC
出版社：ECC
出版年：2016年　　ISBN：

ECC TOEIC TEST CLINIC Ruby　模試
著者：　ECC
出版社：ECC
出版年：2014年　　ISBN：

参考書

成績評価

aks201a114

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）	

上記に加えて期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ〈e〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　金子　秋子	

テーマ

TOEIC受験対策を通して英語運用能力を向上させる。

授業の到達目標

TOEICのリスニング・リーディングパートに対応できる語彙・文法力、リスニング力、読解力の養成を目的とする。

授業の概要

TOEICテストの問題形式や出題傾向を念頭に置きながら、各パートの問題演習を行います。語彙についてはユニットごとの単語リストで意味の確認をしながら問題演習を行います。随時、学習した範囲の復習テストを行います。終盤ではTOEICテストの模擬演習を行います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

語彙、文法事項の予習復習。
リスニング教材の聞き直し。
小テストは採点して返し、必要に応じて解答、解説を行います。

内　容

第1回　Unit 1 Travel
第2回　Unit 3 Media
第3回　Unit 5 Purchasing
第4回　Unit 7 Recruiting
第5回　Unit 9 Advertising
第6回　Unit 11 Finance
第7回　Unit 13 Daily Life
第8回　Unit 15 Events
第9回　模擬テスト演習
第10回　模擬テスト演習
第11回　模擬テスト演習
第12回　模擬テスト演習
第13回　模擬テスト演習
第14回　まとめのテスト
第15回　もてなしの英語にトライ

履修上の注意点

3分の2の出席を必要とする。
辞書を持ってくること。

教科書

The High Road to the TOEIC Listening and Reading Test
著者:　早川幸治他
出版社:　金星堂
出版年:　2017　　ISBN:　9784764740457

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30% ）　　小テスト（ 20% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30% ）
上記に加えて期末英語テスト20%。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ〈f〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾃｨｰｸﾞﾙ, ｼﾞｪｰﾑｽ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations.（人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.
I am available to talk to stud myself between classes and also hand back reports with scores giving suggestions during class for improvement on speaking and grammar skills.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet and Introduce People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (C): Describing People（人の特徴を描写する）
第4回　Unit 2 (A): Identify Jobs（仕事について）
第5回　Unit 2 (C): Talk About Countries（世界の国々について話す）
第6回　Unit 3 (A): Identify Places in a Home（家のなかのいろいろな場所）
第7回　Unit 3 (C): Identify Household Objects（家具や家庭用品について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A): Identify Personal Possessions（持ち物について話す）
第10回　Unit 4 (C): Buy a Present（ギフトを選ぶ）
第11回　Unit 5 (A): Tell Time（時間を言う）
第12回　Unit 5 (C): Talk About What You DO at Work or School（仕事内容・学校について話す）
第13回　Unit 6 (A): Ask for and Give Directions（道案内をする）
第14回　Unit 6 (C): Describe Transportation（交通機関について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089518

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 15 ）
授業中課題（ 25 ）	授業中発表等（ 15 ）
参加度（ 45 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<g>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小川　享子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。･世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

･人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解(読解)活動 ･各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業中の指示に従うこと。
各ユニットで学ぶ語彙、英語表現は予習・復習を介して覚えること(小テストやまとめのテストでの確認し、採点をして返却)。
提出した課題は個人的に添削したり、クラスの中で全体的なコメントをしてフィードバック。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (B): Ask For and Give Personal Information 個人の情報を求める、与える
第3回　Unit 1 (D): (Reading) People from around the World、(Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる
第4回　Unit 2 (B): Talk About Free Time 余暇の過ごし方を述べる
第5回　Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong、(Writing/Speaking) 様々なコミュニティーの日常生活を描写する
第6回　Unit 3 (B): Ask For and Give Personal Travel Information 旅行情報を求める、与える
第7回　Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler、(Writing/Speaking) 旅行のアドバイス
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (B): Order a Meal 食事を注文する
第10回　Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food、(Writing/Speaking) 食べ物について話す
第11回　Unit 5 (B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities 日課を比較する
第12回　Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す
第13回　Unit 6 (B): Exchange Information About Vacations 休暇についての情報交換
第14回　Unit 6 (D): (Reading) The Cradle of the Inca Empire、(Writing/Speaking) 旅行ブログを書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート　(50%)　　小テスト　(20%)
授業中課題　(0~15%)　　授業中発表等　(15~0%)
参加度　(15%)
試験はまとめのテスト、小テストは語彙や実技のテスト、授業中の課題と発表は合わせて15%とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<h>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　櫃本　一美	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。･世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

･人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ･各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (B): Identify Family Members 家族を紹介する
第3回　Unit 1 (D): (Reading) Families around the World, (Writing/Speaking) 自分の家族の情報を与える
第4回　Unit 2 (B): Talking About Jobs 仕事について話す
第5回　Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers, (Writing/Speaking) 仕事を描写する
第6回　Unit 3 (B): Describe Your House 家を描写する
第7回　Unit 3 (D): (Reading) Kent Larson: Brilliant Designs to Fit More People in Every City, (Writing/Speaking) 住居を描写する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (B): Talk About Other People's Possessions 他人の持ち物について話す
第10回　Unit 4 (D): (Reading) Jewelry, (Writing/Speaking) クラスでの調査を要約する
第11回　Unit 5 (B): Talk About People's Daily Activities 日々の活動について話す
第12回　Unit 5 (D): (Reading) Karen Bass: Unseen Footage, Untamed Nature, (Writing/Speaking) 仕事内容について書く
第13回　Unit 6 (B): Create and Use a Tour Route 旅行のルートを考える
第14回　Unit 6 (D): (Reading,) Journey to Antarctica, (Writing/Speaking) 旅程表を書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。テキストを持参していない者、授業中の課題に取り組まない者は出席とみなしません。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089518

参考書

成績評価

試験･レポート（ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
授業中課題は、小テストも含める。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ〈i〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ドール, モーガン	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations.（人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (C): Describe Different Occupations（さまざまな職業について話す）
第4回　Unit 2 (A): Talk About a Typical Day（典型的な一日について話す）
第5回　Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival（祭り･祝いについて話す）
第6回　Unit 3 (A): Identify Possessions（誰の持ち物か）
第7回　Unit 3 (C): Give Travel Advice（旅行についてアドバイスする）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A): Give a Recipe（レシピを説明する）
第10回　Unit 4 (C): Talk About Diets（食事について話す）
第11回　Unit 5 (A): Describe activities happening now（今やっている活動について話す）
第12回　Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports（好きなスポーツについて話す）
第13回　Unit 6 (A): Discuss Past Vacations（過去の休暇について話す）
第14回　Unit 6 (C): Describe a Personal Experience（個人の体験を話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験･レポート（ 30 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ〈j〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　野口　博代	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。･世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

･人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ･各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

リーディング課題については事前にわからない単語の意味などを調べておくこと。ライティング課題提出は指定された期日を厳守すること。提出物は全て成績評価の対象となるため、間違った箇所は訂正し再提出する必要がある。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (B): Ask For and Give Personal Information 個人の情報を求める、与える
第3回　Unit 1 (D): (Reading) People from around the World、(Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる
第4回　Unit 2 (B): Talk About Free Time 余暇の過ごし方を述べる
第5回　Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong、(Writing/Speaking) 様々なコミュニティーの日常生活を描写する
第6回　Unit 3 (B): Ask For and Give Personal Travel Information 旅行情報を求める、与える
第7回　Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler、(Writing/Speaking) 旅行のアドバイス
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (B): Order a Meal 食事を注文する
第10回　Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food、(Writing/Speaking) 食べ物について話す
第11回　Unit 5 (B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities 日課を比較する
第12回　Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す
第13回　Unit 6 (B): Exchange Information About Vacations 休暇についての情報交換
第14回　Unit 6 (D): (Reading) The Cradle of the Inca Empire、(Writing/Speaking) 旅行ブログを書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）　　小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 20% ）
参加度 （ 20% ）
授業中発表、参加度にはペアやグループでの作業に積極的に参加する姿勢が評価に含まれる。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<k>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　原　俊樹	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。･世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

･人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ･各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (B): Ask For and Give Personal Information 個人の情報を求める、与える
第3回　Unit 1 (D): (Reading) People from around the World、(Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる
第4回　Unit 2 (B): Talk About Free Time 余暇の過ごし方を述べる
第5回　Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong、(Writing/Speaking) 様々なコミュニティーの日常生活を描写する
第6回　Unit 3 (B): Ask For and Give Personal Travel Information 旅行情報を求める、与える
第7回　Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler、(Writing/Speaking) 旅行のアドバイス
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (B): Order a Meal 食事を注文する
第10回　Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food、(Writing/Speaking) 食べ物について話す
第11回　Unit 5 (B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities 日課を比較する
第12回　Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す
第13回　Unit 6 (B): Exchange Information About Vacations 休暇についての情報交換
第14回　Unit 6 (D): (Reading) The Cradle of the Inca Empire、(Writing/Speaking) 旅行ブログを書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

高校時代の辞書・英語参考書
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 50% ）　　小テスト （ 15% ）
授業中課題 （ 15% ）　　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 10% ）
授業中の態度(私語・スマホ・携帯電話の使用など)も評価に入れます。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ〈I〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田中　美和子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。･世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

･人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ･各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション　Unit 1 (D): (Reading) Families around the World, (Writing/Speaking) 自分の家族の情報を与える
第2回　Unit 1 (E): Identify Family Members 家族を紹介する
第3回　Unit 2 (B): Talking About Jobs 仕事について話す
第4回　Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers, (Writing/Speaking) 仕事を描写する
第5回　Unit 3 (D): Describe Your House 家を描写する
第6回　Unit 3 (E): (Reading) Kent Larson: Brilliant Designs to Fit More People in Every City, (Writing/Speaking) 住居を描写する
第7回　Unit 4 (D): Talk About Other People's Possessions 他人の持ち物について話す
第8回　Unit 4 (E): (Reading) Jewelry, (Writing/Speaking) クラスでの調査を要約する
第9回　Unit 5 (D): Talk About People's Daily Activities 日々の活動について話す
第10回　Unit 5 (E): (Reading) Karen Bass: Unseen Footage, Untamed Nature, (Writing/Speaking) 仕事内容について書く
第11回　Unit 6 (D): (Reading,) Journey to Antarctica, (Writing/Speaking) 旅程表を書く
第12回　Unit 6 (E): Create and Use a Tour Route 旅行のルートを考える
第13回　英語を日本語にしてみよう（1）
第14回　英語を日本語にしてみよう（2）
第15回　まとめと復習

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。電子辞書、また紙の辞書、どちらでもよいので、毎回持参するようにしてください。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者：　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社：　Cengage Learning
出版年：　2015　　ISBN：　9781305089518

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 30 ）
遅刻3回で、欠席1回に換算します。なお、辞書（電子辞書、紙の辞書）を、毎回持参するようにしてください。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<m>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　山﨑 清水	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。･世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

･人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解(読解)活動 ･各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業中の指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (B): Ask For and Give Personal Information 個人の情報を求める、与える
第3回　Unit 1 (D): (Reading) People from around the World、(Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる
第4回　Unit 2 (B): Talk About Free Time 余暇の過ごし方を述べる
第5回　Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong、(Writing/Speaking) 様々なコミュニティーの日常生活を描写する
第6回　Unit 3 (B): Ask For and Give Personal Travel Information 旅行情報を求める、与える
第7回　Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler、(Writing/Speaking) 旅行のアドバイス
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (B): Order a Meal 食事を注文する
第10回　Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food、(Writing/Speaking) 食べ物について話す
第11回　Unit 5 (B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities 日課を比較する
第12回　Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す
第13回　Unit 6 (B): Exchange Information About Vacations 休暇についての情報交換
第14回　Unit 6 (D): (Reading) The Cradle of the Inca Empire、(Writing/Speaking) 旅行ブログを書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<n>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ドール, モーガン	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations.（人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (C): Describe Different Occupations（さまざまな職業について話す）
第4回　Unit 2 (A): Talk About a Typical Day（典型的な一日について話す）
第5回　Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival（祭り･祝いについて話す）
第6回　Unit 3 (A): Identify Possessions（誰の持ち物か）
第7回　Unit 3 (C): Give Travel Advice（旅行についてアドバイスする）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A): Give a Recipe（レシピを説明する）
第10回　Unit 4 (C): Talk About Diets（食事について話す）
第11回　Unit 5 (A): Describe activities happening now（今やっている活動について話す）
第12回　Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports（好きなスポーツについて話す）
第13回　Unit 6 (A): Discuss Past Vacations（過去の休暇について話す）
第14回　Unit 6 (C): Describe a Personal Experience（個人の体験を話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<o>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　占部　幹也	

テーマ

「環境」や「健康」問題について、今世界で人々が直面している現状を知り、その解決に人々が努力している様子を理解する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング・ライティング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。・英字新聞に慣れ英語記事を読めるようになる。

授業の概要

Pre-reading, Reading, Post-readingの3つのパートでリーディングスキルを効果的に修得する。CDを利用して音読練習を行う。
Key Wordsコーナーで語彙を修得し、英作文の練習をする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit1 Scientists Zap Coral Reefs with Electricity to Save Team
第3回　Unit1 電流を流した金属で復活するサンゴ礁-インドネシア発
第4回　Unit2 "Humble" Potato Emerging as World's Next Food Source
第5回　Unit2 食糧難を救うじゃがいも-ペルー発
第6回　Unit3 Offices Use Ice to Cool Down and Save Power
第7回　Unit3 オフィスに氷の塊を置いて夏の省エネ-アメリカ発
第8回　Unit4 Study: Exercise in Middle Age Cuts Risk of Alzheimer's
第9回　Unit4 運動がアルツハイマー予防に効果-イギリス発
第10回　Unit5 Egyptians Look Desert for Hot Residential Property
第11回　Unit5 サハラ砂漠を緑化して、増える人口に土地を確保-エジプト発
第12回　Unit6 College Students Feel Better After Screaming Together
第13回　Unit6 テスト勉強中のストレス、叫んで解消-アメリカ発
第14回　Unit7 Indian Dam Drowns Valley,Angering Famers
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

Better Health for Every Day
著者:　西原俊明/西原真弓/Amy Mukamuri
出版社:　金星堂
出版年:　　ISBN:　9784764739833

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<p>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野口　博代	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。･世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

･人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解(読解)活動 ･各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

リーディング課題については、事前にわからない単語の意味などを調べておくこと。ライティング課題提出は指定された期日を厳守する事。提出物は全て成績評価の対象となるため、間違った箇所は訂正して再提出する必要がある。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (B): Ask For and Give Personal Information 個人の情報を求める、与える
第3回　Unit 1 (D): (Reading) People from around the World、(Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる
第4回　Unit 2 (B): Talk About Free Time 余暇の過ごし方を述べる
第5回　Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong、(Writing/Speaking) 様々なコミュニティーの日常生活を描写する
第6回　Unit 3 (B): Ask For and Give Personal Travel Information 旅行情報を求める、与える
第7回　Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler、(Writing/Speaking) 旅行のアドバイス
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (B): Order a Meal 食事を注文する
第10回　Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food、(Writing/Speaking) 食べ物について話す
第11回　Unit 5 (B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities 日課を比較する
第12回　Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す
第13回　Unit 6 (B): Exchange Information About Vacations 休暇についての情報交換
第14回　Unit 6 (D): (Reading) The Cradle of the Inca Empire、(Writing/Speaking) 旅行ブログを書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）　　小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 20% ）
参加度 （ 20% ）
授業中発表、参加度にはペアやグループでの作業に積極的に参加する姿勢が評価に含まれる。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<q>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　増田　聖日恵	

テーマ

国際語としての英語を使うことに自信を持とう。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

･新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動 ･各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (C) 出身地や仕事について話す。
第3回　Unit 1 (D) 人の名前と仕事について述べる。
第4回　Unit 2 (C) 家族とその年齢を表現する。
第5回　Unit 2 (D) 家族や友達について情報を与える。
第6回　Unit 3 (C) 衣服や持ち物について話す。
第7回　Unit 3 (D) 好きな持ち物を描写する。
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (C) 日課について話す。
第10回　Unit 4 (D) 週末にしていることを描写する。
第11回　Unit 5 (C) 余暇活動について話す。
第12回　Unit 5 (D) IT機器の使い方について話し合う。
第13回　Unit 6 (C) 自分の才能や能力を説明する。
第14回　Unit 6 (D) 留学や海外インターンについて話す。
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM
著者:　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社:　Cambridge University Press
出版年:　2013　　ISBN:　9780521126151

Four Corners, 1, Workbook
著者:　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社:　Cambridge University Press
出版年:　2013　　ISBN:　9780521126540

参考書

成績評価

試験･レポート （ 30 ）	小テスト （ 30 ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ〈r〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　金子　秋子	

テーマ

TOEIC対策を通して英語運用能力を向上させる。

授業の到達目標

TOEICのリスニング・リーディングパートに対応できる語彙・文法力、リスニング力、読解力の養成を目的とする。

授業の概要

TOEICテストの問題形式や出題傾向を念頭に置きながら、各パートの問題演習を行います。語彙についてはユニットごとの単語リストで意味の確認をしながら問題演習を行います。随時、学習した範囲の復習テストを行います。終盤ではTOEICテストの模擬演習を行います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

語彙、文法事項の予習復習。
リスニング教材の聞き直し。
小テストは採点して返し、必要に応じて解答、解説を行います。

内　容

第1回　Unit 1 Travel
第2回　Unit 3 Media
第3回　Unit 5 Purchasing
第4回　Unit 7 Recruiting
第5回　Unit 9 Advertizing
第6回　Unit 11 Finance
第7回　Unit 13 Daily Life
第8回　Unit 15 Events
第9回　模擬テスト演習
第10回　模擬テスト演習
第11回　模擬テスト演習
第12回　模擬テスト演習
第13回　模擬テスト演習
第14回　まとめのテスト
第15回　おもてなしの英語にトライ

履修上の注意点

3分の2の出席を必要とする。
辞書を持ってくること。

教科書

The High Road to the TOEIC Listening and Reading Test
著者:　早川幸治他
出版社:　金星堂
出版年:　2017　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30% ）　　小テスト（ 20% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30% ）
上記に加えて期末英語テスト20%。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<s>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小川　享子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。･世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

･人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ･各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従うこと。
各ユニットで学ぶ語彙、英語表現は予習・復習を介して覚えること（小テストやまとめのテストでの確認し、採点をして返却）。
提出した課題は個人的に添削したり、クラスの中で全体的なコメントをしてフィードバック。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (B): Ask For and Give Personal Information 個人の情報を求める、与える
第3回　Unit 1 (D): (Reading) People from around the World、(Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる
第4回　Unit 2 (B): Talk About Free Time 余暇の過ごし方を述べる
第5回　Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong、(Writing/Speaking) 様々なコミュニティーの日常生活を描写する
第6回　Unit 3 (B): Ask For and Give Personal Travel Information 旅行情報を求める、与える
第7回　Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler、(Writing/Speaking) 旅行のアドバイス
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (B): Order a Meal 食事を注文する
第10回　Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food、(Writing/Speaking) 食べ物について話す
第11回　Unit 5 (B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities 日課を比較する
第12回　Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す
第13回　Unit 6 (B): Exchange Information About Vacations 休暇についての情報交換
第14回　Unit 6 (D): (Reading) The Cradle of the Inca Empire、(Writing/Speaking) 旅行ブログを書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50% ）　　小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ 0~15% ）　　授業中発表等 （ 15~0% ）
参加度 （ 15% ）
試験はまとめのテスト、小テストは語彙や実技のテスト、授業中の課題と発表は合わせて15%とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ〈t〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田中　美和子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。･世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

･人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ･各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (B): Identify Family Members 家族を紹介する
第3回　Unit 1 (D): (Reading) Families around the World, (Writing/Speaking) 自分の家族の情報を与える
第4回　Unit 2 (B): Talking About Jobs 仕事について話す
第5回　Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers, (Writing/Speaking) 仕事を描写する
第6回　Unit 3 (B): Describe Your House 家を描写する
第7回　Unit 3 (D): (Reading) Kent Larson: Brilliant Designs to Fit More People in Every City, (Writing/Speaking) 住居を描写する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (B): Talk About Other People's Possessions 他人の持ち物について話す
第10回　Unit 4 (D): (Reading) Jewelry, (Writing/Speaking) クラスでの調査を要約する
第11回　Unit 5 (B): Talk About People's Daily Activities 日々の活動について話す
第12回　Unit 5 (D): (Reading) Karen Bass: Unseen Footage, Untamed Nature, (Writing/Speaking) 仕事内容について書く
第13回　Unit 6 (B): Create and Use a Tour Route 旅行のルートを考える
第14回　Unit 6 (D): (Reading,) Journey to Antarctica, (Writing/Speaking) 旅程表を書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089518

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 30 ）
遅刻3回で、欠席1回に換算します。なお、辞書（電子辞書、紙の辞書）を、毎回持参するようにしてください。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<u>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　原　俊樹	

テーマ

ーコミュニケーションの道具としての英語を身につけるー
英語の基本知識の確認・拡充

授業の到達目標

基本的な英文の解釈（読解・聴解）や表現（作文・発話）を通して、また日本語・英語双方の表現方法の違いや文法的理解を「感性」ではなく「論理的」に考えて、国際人として世界的に活躍するために必須となる「伝達の手段としての英語」に必要な4技能の幅広い実践的な運用能力を習得することを目的とする。同時に医療従事者（co-medical）として専門課程で学ぶ知識への橋渡しになることを望んでいる。

授業の概要

基本的には、テキストの各ユニットに沿って授業を展開する。習熟度・理解力を判断するための小テスト・実力テスト・課題も用意する。授業スケジュールは一応の目安として各回で学ぶ「学習重要ポイント」と考えてください。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

基本的な外国語を学ぶ体制になるように、予習・復習を確実にやりなさい。

内　容

第1回　講義内容・テキストの利用法の説明、基礎力判定テスト
第2回　フォニックス（アルファベットや単語の発音） 英文の基本表現構造①：述語動詞と態（能動態と受動態）
第3回　英文の基本表現構造②：述語動詞と時制1
第4回　英文の基本表現構造③：述語動詞と時制2
第5回　英文の基本表現構造④：基本5文型（自動詞と他動詞）
第6回　英文の基本表現構造⑤：文の要素・修飾語句・語の品詞
第7回　準動詞の用法①：不定詞
第8回　準動詞の用法②：動名詞
第9回　準動詞の用法3：分詞
第10回　冠詞・名詞・代名詞
第11回　形容詞・副詞
第12回　前置詞と句
第13回　接続詞と節
第14回　関係詞
第15回　前期のまとめ・到達度の確認

履修上の注意点

教科書

LIFESAVER Basic English in Medical Situation
著者：　Maki Inoue/Toshiya Sato
出版社：MACMILLANLANGUAGEHOUSE
出版年：2005　　ISBN：9784777360369

参考書

高校時代の辞書・英語参考書
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ 50% ）　　小テスト（ 20% ）
授業中課題（ 10% ）　　授業中発表等（ 10% ）
参加度（ 10% ）
個人成績表を持たせるつもりです。
授業中の態度(私語・スマホ・携帯電話の使用など)も評価に入れます。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ〈v〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　高居　佐紀	

テーマ

「医療」や「健康」問題について、今世界で人々が直面している現状を知り、その解決に人々が努力している様子を理解する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

医療やhealth careの題材でリーディングスキルを効率的に修得する。CDを利用して音読練習を行う。患者と医者、患者と看護婦の意思疎通に役立つ表現を覚える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit1 Summer weight Gain ①
第3回　Unit1 Summer weight Gain ②
第4回　Unit2 Sugar in Danger ①
第5回　Unit2 Sugar in Danger ②
第6回　Useful Expressions1: Making an Appointment
第7回　Unit3 Adult Diapers Outsell Baby Diapers ①
第8回　Unit3 Adult Diapers Outsell Baby Diapers ②
第9回　Unit4 Medical Robots ①
第10回　Unit4 Medical Robots ②
第11回　Unit5 Coffee Drinking Tied to Lower Risk of Suicide ①
第12回　Unit5 Coffee Drinking Tied to Lower Risk of Suicide ②
第13回　Unit6 How Emergency Rooms Work ①
第14回　Unit6 How Emergency Rooms Work ②
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

Caregiver New Edition（新訂版）
著者:　近藤進　Gerald R.Gordon
出版社:　朝日出版社
出版年:　2015年　　ISBN:　9784255155654

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30 ）　　小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ 0 ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ〈w〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　川口　玲子	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
（受験有無や受講生知識のヒアリング、試験構成確認等）
第2回　単語、Part 2対策, Part 5対策
第3回　単語、Part 4対策, Part 7対策
第4回　単語、Part 2対策, Part 7対策
第5回　単語、Part 4対策, Part 7対策
第6回　単語、Part 2対策, Part 5対策
第7回　単語、Part 1対策, Part 5対策
第8回　単語、Part 2対策, Part 5対策
第9回　単語、Part 4対策, Part 6対策
第10回 単語、Part 2対策, Part 7対策
第11回 単語、Part 4対策, Part 7対策
第12回 リスニングPart3①、リーディングPart6
第13回 リスニングPart4①、リーディングPart7②
第14回 リスニングテスト演習及び解答解説
第15回 リーディングテスト解説続き

履修上の注意点

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Emerald
著者:　ECC
出版社: ECC
出版年: 2016年　　ISBN:

TOEICテスト新形式問題補助教材 α（アルファ）
著者:　ECC
出版社: ECC
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
上記に加えて期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ〈x〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　櫃本　一美	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。･世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

･人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ･各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (B): Identify Family Members 家族を紹介する
第3回　Unit 1 (D): (Reading) Families around the World, (Writing/Speaking) 自分の家族の情報を与える
第4回　Unit 2 (B): Talking About Jobs 仕事について話す
第5回　Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers, (Writing/Speaking) 仕事を描写する
第6回　Unit 3 (B): Describe Your House 家を描写する
第7回　Unit 3 (D): (Reading) Kent Larson: Brilliant Designs to Fit More People in Every City, (Writing/Speaking) 住居を描写する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (B): Talk About Other People's Possessions 他人の持ち物について話す
第10回　Unit 4 (D): (Reading) Jewelry, (Writing/Speaking) クラスでの調査を要約する
第11回　Unit 5 (B): Talk About People's Daily Activities 日々の活動について話す
第12回　Unit 5 (D): (Reading) Karen Bass: Unseen Footage, Untamed Nature, (Writing/Speaking) 仕事内容について書く
第13回　Unit 6 (B): Create and Use a Tour Route 旅行のルートを考える
第14回　Unit 6 (D): (Reading,) Journey to Antarctica, (Writing/Speaking) 旅程表を書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。テキストを持参していない者、授業中の課題に取り組まない者は出席とみなしません。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089518

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
授業中課題は、小テストも含める。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ〈y〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾃｨｰｸﾞﾙ, ｼﾞｪｰﾑｽ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations.（人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.
I am available to talk to stud myself between classes and also hand back reports with scores giving suggestions during class for improvement on speaking and grammar skills.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet and Introduce People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (C): Describing People（人の特徴を描写する）
第4回　Unit 2 (A): Identify Jobs（仕事について）
第5回　Unit 2 (C): Talk About Countries（世界の国々について話す）
第6回　Unit 3 (A): Identify Places in a Home（家のなかのいろいろな場所）
第7回　Unit 3 (C): Identify Household Objects（家具や家庭用品について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A): Identify Personal Possessions（持ち物について話す）
第10回　Unit 4 (C): Buy a Present（ギフトを選ぶ）
第11回　Unit 5 (A): Tell Time（時間を言う）
第12回　Unit 5 (C): Talk About What You DO at Work or School（仕事内容・学校について話す）
第13回　Unit 6 (A): Ask for and Give Directions（道案内をする）
第14回　Unit 6 (C): Describe Transportation（交通機関について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089518

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 15 ）
授業中課題（ 25 ）	授業中発表等（ 15 ）
参加度（ 45 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ〈z〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　山﨑 清水	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。･世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

･人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ･各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (B): Ask For and Give Personal Information 個人の情報を求める、与える
第3回　Unit 1 (D): (Reading) People from around the World、(Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる
第4回　Unit 2 (B): Talk About Free Time 余暇の過ごし方を述べる
第5回　Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong、(Writing/Speaking) 様々なコミュニティーの日常生活を描写する
第6回　Unit 3 (B): Ask For and Give Personal Travel Information 旅行情報を求める、与える
第7回　Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler、(Writing/Speaking) 旅行のアドバイス
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (B): Order a Meal 食事を注文する
第10回　Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food、(Writing/Speaking) 食べ物について話す
第11回　Unit 5 (B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities 日課を比較する
第12回　Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す
第13回　Unit 6 (B): Exchange Information About Vacations 休暇についての情報交換
第14回　Unit 6 (D): (Reading) The Cradle of the Inca Empire、(Writing/Speaking) 旅行ブログを書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ〈Ha〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山﨑　清水	

テーマ

国際語としての英語を通して世界を学び発信する。

授業の到達目標

世界のニュースを読んで異文化理解と英語力の向上を目指す。

授業の概要

社会、文化、政治経済、情報、言語、教育、科学、医学、環境、娯楽、スポーツなどのあらゆる分野に関するニュースを読んで英語能力の向上を目指す。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Teaching Web-Savvy Students to Develop Fake-News Filters
第3回　Japan's Population is Projected to Plunge to 88 Million by 2065
第4回　Anime's Master of Missed Connections
第5回　How to Stop Populism's Carnage
第6回　復習
第7回　The Parachute Generation
第8回　E-Cigarette Use by Young Is Major Concern, U.S. Says
第9回　Trump Has New Fans in China: Maoists
第10回　Trade on the Streets, and Off the Books, Keeps Zimbabwe Afloat
第11回　復習
第12回　Evidence That Robots Are Winning the Race for American Jobs
第13回　Canada, Leading the Free World
第14回　Bangladesh's Creeping Islamism
第15回　New Prospects for Growing Transplantable Organs for People in Animals

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。必ず予習して下さい。テストは随時実施します。

教科書

English through the News Media
著者:　高橋優身／伊藤典子／Richard Powell
出版社:　朝日出版社
出版年:　2018　　ISBN:　9784255156248

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ〈Hb〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　高居 佐紀	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。･世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

･人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ･各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (B): Ask For and Give Personal Information 個人の情報を求める、与える
第3回　Unit 1 (D): (Reading) People from around the World、(Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる
第4回　Unit 2 (B): Talk About Free Time 余暇の過ごし方を述べる
第5回　Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong、(Writing/Speaking) 様々なコミュニティーの日常生活を描写する
第6回　Unit 3 (B): Ask For and Give Personal Travel Information 旅行情報を求める、与える
第7回　Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler、(Writing/Speaking) 旅行のアドバイス
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (B): Order a Meal 食事を注文する
第10回　Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food、(Writing/Speaking) 食べ物について話す
第11回　Unit 5 (B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities 日課を比較する
第12回　Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す
第13回　Unit 6 (B): Exchange Information About Vacations 休暇についての情報交換
第14回　Unit 6 (D): (Reading) The Cradle of the Inca Empire、(Writing/Speaking) 旅行ブログを書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30 ）	小テスト （ 30 ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ〈Hc〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　占部　幹也	

テーマ

理学療法や心理療法など、ライフサイエンス的な分野を専攻する学生が、自身の専攻に関わるテーマについて情報を的確にインプットし、それらの情報を自身の言葉に置き換えて発信するために必要な総合的な英語運用力（英語の四技能）をバランスよく身に付ける。

授業の到達目標

・医療用語の理解（必須単語・表現は約100）
・医療的な文章（300－400語程度）の読解力を上げる。
・医療的な文章（150－300語程度）の聴解力を上げる。
・インプットした情報を自身で整理し、それらを自分の言葉で書いたり話したりして伝えられるようになる。

授業の概要

日本人講師と外国人講師が交互に担当するティームティーチング
・学生の積極的な参加によるアクティブラーニング形式
・日本人講師パートでは、単語の説明や読解、聴解などのインプット部分を中心に取り扱う
・外国人講師パートではインプットした情報を相手に伝えるリテリングや療法士と患者との会話のロールプレイなど、アウトプット中心に取り扱う

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

その日習った単語の復習（単語テストへの準備）とロールプレイなどのアクティビティーの準備

内　容

第1回　日本人講師クラスの講義の進め方について説明します。
第2回　人間の体
第3回　高カロリーと健康
第4回　伝染病
第5回　これまでの中身の復習
第6回　個人と公衆の衛生管理
第7回　日本の医療の改善策
第8回　医療における針刺し損傷
第9回　北里柴三郎と日本の医療
第10回　臨床検査技師の仕事
第11回　臨床工学技師の仕事
第12回　医療放射線技師
第13回　理学療法士とその仕事
第14回　作業療法士とその仕事
第15回　言語聴覚士とその仕事

履修上の注意点

教科書

The Hospital Team
著者:　高津　昌宏
出版社:　南雲堂
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30 ）	小テスト （ 30 ）
授業中課題 （ 0 ）	授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<Hd>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾃﾞｨｰｸﾞﾙ, ｼﾞｪｰﾑｽ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations.（人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.
I am available to talk to stud myself between classes and also hand back reports with scores giving suggestions during class for improvement on speaking and grammar skills.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (C): Describe Different Occupations（さまざまな職業について話す）
第4回　Unit 2 (A): Talk About a Typical Day（典型的な一日について話す）
第5回　Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival（祭り･祝いについて話す）
第6回　Unit 3 (A): Identify Possessions（誰の持ち物か）
第7回　Unit 3 (C): Give Travel Advice（旅行についてアドバイスする）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A): Give a Recipe（レシピを説明する）
第10回　Unit 4 (C): Talk About Diets（食事について話す）
第11回　Unit 5 (A): Describe activities happening now（今やっている活動について話す）
第12回　Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports（好きなスポーツについて話す）
第13回　Unit 6 (A): Discuss Past Vacations（過去の休暇について話す）
第14回　Unit 6 (C): Describe a Personal Experience（個人の体験を話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験･レポート（ ）　　小テスト（ 15 ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 15 ）
参加度（ 45 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ〈R〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉山　泰	

テーマ

英語が分かれば日本語も分かる ― 日英語対照をしながら学ぶ基礎英語

授業の到達目標

「原爆が落ちた」とか「山の音が聞こえた」「ビールが飲みたい」のように＜主語＞と＜動詞＞が曖昧なまま理解できる日本語になれていると、An atomic bomb was dropped.だとか、I heard the sound of the mountain. I want to drink beer.といった「主語」と「動詞」がきわめて論理的になりたっている英語的発想が分からない日本人が出てくる。そうした発想の違いを学んでいく。

授業の概要

教科書の問題を丁寧にやっていきながら、毎回日英語の違いの小テスト「プリント」を仕上げて退出してもらう。翌週、添削して返却し、英語の発想について学んでもらう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回問題を授業中にやっていくので、辞書と教科書が必要。

内　容

第1回　自己紹介。Lesson 1 日英語の違い。（I love you.構文と「あなたが好き」という形容詞構文の違い）
第2回　Lesson 2 「私」からの発想。（I have a good time.と「楽しい」）
第3回　Lesson 3 「命令文」（On your mark. Get set. Go. 主語がなければ命令文）
第4回　Lesson 4 「be動詞という曲者（1）」（なぜ、I am illness.と言えないのか？）
第5回　Lesson 5 「be動詞という曲者（2）」（なぜ、It is hard.と言えるのに、It is happy.とは言えないのか？）
第6回　Lesson 6 「未来」を示す英語（なぜ、「先生、酒を飲みに行きますか」はWill you go for a drink?なのか？）
第7回　Lesson 7 「不定詞」構文（I have no need to hurry.とI have difficulty finding a job.の構文の違いは？）
第8回　Lesson 8 「現在完了形」構文（Have you eaten sushi?とDid you eat sushi?はどう違うのか？）
第9回　Lesson 9 「能動態」と「受動態」（I am excited.とFootball is exciting.はどう違うのか？）
第10回　Lesson 10 5W1Hで始まる疑問文（Do / Does / Did / Willの使い方がわかりますか？）
第11回　Lesson 11 「動名詞」構文（I enjoy driving a new car.のように動名詞を取る同氏は<Megafeps>です）
第12回　Lesson 12 「比較級」構文（The sooner, the better.という比較級が日本語にはなぜないのか？）
第13回　Lesson 13 「Tere is(are)」構文（新聞に多用されるThere is構文。「ある」と「いる」の違いを留学生に教えられますか？）
第14回　Lesson 14 「仮定法」構文（原子力発電所事故が起こりえないものであれば、だからこそ起こった時のシュミレーションが必要なのです）
第15回　Lesson 15 「て・に・を・は」と英語の前置詞（日本文学の英訳はなぜむずかしい？）

履修上の注意点

毎回、授業中に作業をやるので出席することが重要。欠席した場合、「プリント」をもらい、解答して提出すれば、遅れの出席とみなすこともある。

教科書

Discover English Grammar
著者:　杉山　泰
出版社:　朝日出版社
出版年:　2006　　ISBN:

参考書

日本人はなぜ英語ができないのか
著者:　鈴木孝夫
出版社:　岩波新書
出版年:　1999　　ISBN:

日本語教室
著者:　大野晋
出版社:　岩波新書
出版年:　2002　　ISBN:

aks201a141

日本語教のすすめ
著者: 鈴木孝夫
出版社: 新潮新書
出版年: 2009 ISBN:

英語化は愚民化
著者: 施光恒
出版社: 集英社新書
出版年: 2015 ISBN:

英語のツボ
著者: マーク・ピーターセン
出版社: 光文社文庫
出版年: 2011 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ 20% ）
授業中課題 （ 40% ） 授業中発表等 （ 20% ）
参加度 （ 20% ）
毎回「小テスト」をやり、翌週に添削して返却する。この「小テスト」を受けなかった学生は、欠席扱いになるので要注意。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ〈Tb〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　高居　佐紀	

テーマ

将来的にTOEICスコアアップを目指す為の英語基礎力養成

授業の到達目標

TOEIC試験スコアを50点アップを目指す。リスニング到達目標：発音力を高めることで、リスニング力の向上を目指す。リーディング到達目標：主語と述語を見分けることでリーディング力の向上を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングスキルの基礎力を養成する。TOEICの演習問題を通じ、各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　オリエンテーション
（受験有無や受講生知識のヒアリング、試験構成確認等）
第2回　Listening 対策；母音（1）
Reading対策：文のエッセンス（1）
第3回　Listening対策：リンキング
Reading対策：チャンク・リーディング（1）
第4回　復習
第5回　Listening対策：子音（2）
Reading対策：予測（1）
第6回　Listening対策：音の脱落
Reading対策：まとまり毎の意味を捉える
第7回　Listening対策：短縮形（2）
Reading対策：スキミング（2）
第8回　Listening対策：単語の音声変化（1）
Reading対策：単語の意味を推測（2）
第9回　Listening対策：復習（3）
Reading対策：予測（2）
第10回　Listening対策：Part1・2総合問題（2）
Reading対策：主題文を見つける
第11回　Part3演習
第12回　Part4演習
第13回　Part5演習
第14回　Part6演習、Part7新形式を補助教材にて紹介
第15回　模擬試験リスニングパート実施・解答・解説

履修上の注意点

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Ruby
著者：　ECC
出版社：ECC
出版年：2016　　ISBN：

ECC TOEIC TEST CLINIC Ruby 模試
著者：　ECC
出版社：ECC
出版年：2014　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）

aks201a142

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （30）

上記に加えて期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ〈He〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ハビブ, ジェラード	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations.（人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (C): Describe Different Occupations（さまざまな職業について話す）
第4回　Unit 2 (A): Talk About a Typical Day（典型的な一日について話す）
第5回　Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival（祭り･祝いについて話す）
第6回　Unit 3 (A): Identify Possessions（誰の持ち物か）
第7回　Unit 3 (C): Give Travel Advice（旅行についてアドバイスする）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A): Give a Recipe（レシピを説明する）
第10回　Unit 4 (C): Talk About Diets（食事について話す）
第11回　Unit 5 (A): Describe activities happening now（今やっている活動について話す）
第12回　Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports（好きなスポーツについて話す）
第13回　Unit 6 (A): Discuss Past Vacations（過去の休暇について話す）
第14回　Unit 6 (C): Describe a Personal Experience（個人の体験を話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ〈Hf〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　櫃本　一美	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。･世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

･人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ･各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (B): Identify Family Members 家族を紹介する
第3回　Unit 1 (D): (Reading) Families around the World, (Writing/Speaking) 自分の家族の情報を与える
第4回　Unit 2 (B): Talking About Jobs 仕事について話す
第5回　Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers, (Writing/Speaking) 仕事を描写する
第6回　Unit 3 (B): Describe Your House 家を描写する
第7回　Unit 3 (D): (Reading) Kent Larson: Brilliant Designs to Fit More People in Every City, (Writing/Speaking) 住居を描写する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (B): Talk About Other People's Possessions 他人の持ち物について話す
第10回　Unit 4 (D): (Reading) Jewelry, (Writing/Speaking) クラスでの調査を要約する
第11回　Unit 5 (B): Talk About People's Daily Activities 日々の活動について話す
第12回　Unit 5 (D): (Reading) Karen Bass: Unseen Footage, Untamed Nature, (Writing/Speaking) 仕事内容について書く
第13回　Unit 6 (B): Create and Use a Tour Route 旅行のルートを考える
第14回　Unit 6 (D): (Reading,) Journey to Antarctica, (Writing/Speaking) 旅程表を書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。テキストを持参していない者、授業中の課題に取り組まない者は出席とみなしません。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089518

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
授業中課題は、小テストも含める。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ〈Hg〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小川　享子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解(読解)活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業中の指示に従うこと。
各ユニットで学ぶ語彙、英語表現は予習・復習を介して覚えること(小テストやまとめのテストでの確認し、採点をして返却)。
提出した課題は個人的に添削したり、クラスの中で全体的なコメントをしてフィードバック。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (B): Ask For and Give Personal Information 個人の情報を求める、与える
第3回　Unit 1 (D): (Reading) People from around the World、(Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる
第4回　Unit 2 (B): Talk About Free Time 余暇の過ごし方を述べる
第5回　Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong、(Writing/Speaking) 様々なコミュニティーの日常生活を描写する
第6回　Unit 3 (B): Ask For and Give Personal Travel Information 旅行情報を求める、与える
第7回　Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler、(Writing/Speaking) 旅行のアドバイス
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (B): Order a Meal 食事を注文する
第10回　Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food、(Writing/Speaking) 食べ物について話す
第11回　Unit 5 (B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities 日課を比較する
第12回　Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す
第13回　Unit 6 (B): Exchange Information About Vacations 休暇についての情報交換
第14回　Unit 6 (D): (Reading) The Cradle of the Inca Empire、(Writing/Speaking) 旅行ブログを書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート　(50%)　　小テスト　(20%)
授業中課題　(0~15%)　　授業中発表等　(15~0%)
参加度　(15%)
試験はまとめのテスト、小テストは語彙や実技のテスト、授業中の課題と発表は合わせて15%とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ〈Hh〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　高田 悦子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。･世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

･人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ･各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (B): Ask For and Give Personal Information 個人の情報を求める、与える
第3回　Unit 1 (D): (Reading) People from around the World、(Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる
第4回　Unit 2 (B): Talk About Free Time 余暇の過ごし方を述べる
第5回　Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong、(Writing/Speaking) 様々なコミュニティーの日常生活を描写する
第6回　Unit 3 (B): Ask For and Give Personal Travel Information 旅行情報を求める、与える
第7回　Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler、(Writing/Speaking) 旅行のアドバイス
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (B): Order a Meal 食事を注文する
第10回　Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food、(Writing/Speaking) 食べ物について話す
第11回　Unit 5 (B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities 日課を比較する
第12回　Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す
第13回　Unit 6 (B): Exchange Information About Vacations 休暇についての情報交換
第14回　Unit 6 (D): (Reading) The Cradle of the Inca Empire、(Writing/Speaking) 旅行ブログを書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。
辞書を必ず持ってきて下さい。（評価の対象になります。）

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者：　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社：　Cengage Learning
出版年：　2015　　ISBN：　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（ 40% ）
授業中課題（ 15% ）	授業中発表等（ 30% ）
参加度（ 15% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ<a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ホリグチ, タケシ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations.（人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (C): Describe Different Occupations（さまざまな職業について話す）
第4回　Unit 2 (A): Talk About a Typical Day（典型的な一日について話す）
第5回　Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival（祭り･祝いについて話す）
第6回　Unit 3 (A): Identify Possessions（誰の持ち物か）
第7回　Unit 3 (C): Give Travel Advice（旅行についてアドバイスする）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A): Give a Recipe（レシピを説明する）
第10回　Unit 4 (C): Talk About Diets（食事について話す）
第11回　Unit 5 (A): Describe activities happening now（今やっている活動について話す）
第12回　Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports（好きなスポーツについて話す）
第13回　Unit 6 (A): Discuss Past Vacations（過去の休暇について話す）
第14回　Unit 6 (C): Describe a Personal Experience（個人の体験を話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ<b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　占部　幹也	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション、Part 1対策、宿題説明
第2回　単語、Part 3対策, Part 6対策
第3回　進度調整/Review/弱点強化
第4回　単語、Part 3対策, Part 5対策
第5回　進度調整/Review/弱点強化
第6回　単語、Part 3対策, Part 5対策
第7回　進度調整/Review/弱点強化
第8回　単語、Part 1対策, Part 5対策
第9回　進度調整/Review/弱点強化
第10回 単語、Part 3対策, Part 7対策
第11回 進度調整/Review/弱点強化
第12回 リスニングPart3②、リーディングPart7①
第13回 リスニングPart4②、リーディングPart7③、模試前総まとめ
第14回 リーディングテスト演習及び解答解説
第15回 授業のまとめと学習到達度確認テスト

履修上の注意点

教科書

新形式問題対応 TOEICテスト 直前対策模試
著者:　早川幸治+ロス・タロック
出版社: 語研
出版年: 2016年　　ISBN:　9784876153121

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
上記に加えて期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ<c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　クーラン, コーリ	

テーマ

Build confidence in using English as a global language.（国際語としての英語を使うことに自信を持とう。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）

授業の概要

･Various activities for understanding content in English involving the topics of new friends, people and places, personal possessions, daily life, free time, and work and play.（新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

How to Feedback to Students:
Students' grades are monitored every week and feedback/advice is given whenever necessary.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A) 名前を聞く・教える
第3回　Unit 1 (B) スペルを聞く・教える
第4回　Unit 2 (A) 出身・国籍について話す
第5回　Unit 2 (B) メールアドレスと電話番号を交換する
第6回　Unit 3 (A) 身の回りのものについて話す
第7回　Unit 3 (B) 英語での言い方を尋ねる
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A) 移動の手段・交通機関について話す
第10回　Unit 4 (B) 時間を尋ねる・表現する
第11回　Unit 5 (A) インターネット利用について話す
第12回　Unit 5 (B) 買い物をする
第13回　Unit 6 (A) 職業・仕事について話す
第14回　Unit 6 (B) 電話をかける・電話にでる
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM
著者:　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社:　Cambridge University Press
出版年:　2013　　ISBN:　9780521126151

Four Corners, 1, Workbook
著者:　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社:　Cambridge University Press
出版年:　2013　　ISBN:　9780521126540

参考書

成績評価

試験・レポート（ 25 ）　　小テスト（ 15 ）

aks201a213

授業中課題 （ 10 ）　　授業中発表等 （ 10 ）

参加度 （ 40 ）

Since this is a a speaking class, there is a heavy grading influence on in-class participation, performance, and attitude.

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ<d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　川口　玲子	

テーマ

将来的にTOEICスコアアップを目指す為の英語基礎力養成

授業の到達目標

TOEIC試験スコアを50点アップを目指す。リスニング到達目標：発音力を高めることで、リスニング力の向上を目指す。リーディング到達目標：主語と述語を見分けることでリーディング力の向上を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングスキルの基礎力を養成する。TOEICの演習問題を通じ、各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション、Reading対策：英文の読み方
第2回　Listening対策：子音（1）
　　Reading対策：単語の意味を推測（1）
第3回　Listening対策：t/dの弱音化
　　Reading対策：スキャニング（1）
第4回　Listening対策：Listening対策：母音（2）
　　Reading対策：テーマの把握
第5回　Listening対策：短縮形（1）
　　Reading対策：単語の位置と成り立ち
第6回　復習
第7回　Listening対策：ストレス・イントネーション
　　Reading対策：文のエッセンス（2）
第8回　Listening対策：単語の音声変化（2）
　　Reading対策：チャンクリーディング（2）
第9回　Listening対策：Part1・2総合問題（1）
　　Reading対策：複雑な文章
第10回　Part3（会話問題）の問題形式、ポイントを学ぶ ※新形式は補助教材にて紹介
第11回　Part4(説明文問題)の問題形式、ポイントを学ぶ ※新形式は補助教材にて紹介
第12回　Part5（短文穴埋め問題）の問題形式、ポイントを学ぶ
第13回　Part6（長文穴埋め問題）の問題形式、ポイントを学ぶ　※新形式は補助教材にて紹介
第14回　模擬試験リーディングパート実施・解答
第15回　授業のまとめと学習到達度確認テスト

履修上の注意点

教科書

新形式問題対応 TOEICテスト 直前対策模試
著者：　早川幸治+ロス+タロック
出版社：語研
出版年：2016年　　ISBN：9784876153121

TOEICテスト新形式問題補助教材α
著者：　ECC
出版社：ECC
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）

aks201a214

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （30）

上記に加えて期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈e〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　金子　秋子	

テーマ

TOEICテスト受験対策を通じて、英語運用力を向上させる。

授業の到達目標

TOEIC テストのリスニング・リーディングパートの問題に対応できる語彙・文法力・読解力の獲得を目的とする

授業の概要

TOEICテストの問題形式、出題傾向を経験しながら、各パートの問題演習を行います。語彙、文法については、毎回小テストを行うのでしっかりと復習をすることが必要です。そのうえで、まとめのテストを行い、終盤では模擬テスト演習を行います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

語彙、文法事項の予習・復習をすること。
小テストは採点して返し、必要に応じて解答、解説を行います。

内　容

第1回　Unit 2 Travel
第2回　Unit 4 Entertainment
第3回　Unit 6 Clients
第4回　Unit 8 Personnel
第5回　Unit 10 Meetings
第6回　Unit 12 Offices
第7回　Unit 14 Sales & Marketing
第8回　模擬テスト演習
第9回　模擬テスト演習
第10回　模擬テスト演習
第11回　模擬テスト演習
第12回　模擬テスト演習
第13回　まとめのテスト
第14回　おもてなしの英語にトライ
第15回　おもてなしの英語にトライ

履修上の注意点

語彙・文法事項の予習・復習をしっかり行うこと。
3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

The High Road to the TOEIC Listening and Reading Test
著者:　早川幸治、他
出版社:　金星堂
出版年:　2017　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30% ）　　小テスト（ 20% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30% ）
上記に加えて、期末英語テスト20%。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈f〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松村　優子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。･世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

･人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ･各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (B): Identify Family Members 家族を紹介する
第3回　Unit 1 (D): (Reading) Families around the World, (Writing/Speaking) 自分の家族の情報を与える
第4回　Unit 2 (B): Talking About Jobs 仕事について話す
第5回　Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers, (Writing/Speaking) 仕事を描写する
第6回　Unit 3 (B): Describe Your House 家を描写する
第7回　Unit 3 (D): (Reading) Kent Larson: Brilliant Designs to Fit More People in Every City, (Writing/Speaking) 住居を描写する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (B): Talk About Other People's Possessions 他人の持ち物について話す
第10回　Unit 4 (D): (Reading) Jewelry, (Writing/Speaking) クラスでの調査を要約する
第11回　Unit 5 (B): Talk About People's Daily Activities 日々の活動について話す
第12回　Unit 5 (D): (Reading) Karen Bass: Unseen Footage, Untamed Nature, (Writing/Speaking) 仕事内容について書く
第13回　Unit 6 (B): Create and Use a Tour Route 旅行のルートを考える
第14回　Unit 6 (D): (Reading,) Journey to Antarctica, (Writing/Speaking) 旅程表を書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089518

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）　　小テスト （ 60% ）
授業中課題 （ 10% ）　　授業中発表等 （ 15% ）
参加度 （ 15% ）
小テストは、14回、15回目の復習テストが中心である。参加度とは出席だけでなく、授業態度なども含まれる。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ<g>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾊﾞｽｶｳﾞｨﾙ, ﾌﾞﾗｲｱﾝ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations.（人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (C): Describe Different Occupations（さまざまな職業について話す）
第4回　Unit 2 (A): Talk About a Typical Day（典型的な一日について話す）
第5回　Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival（祭り･祝いについて話す）
第6回　Unit 3 (A): Identify Possessions（誰の持ち物か）
第7回　Unit 3 (C): Give Travel Advice（旅行についてアドバイスする）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A): Give a Recipe（レシピを説明する）
第10回　Unit 4 (C): Talk About Diets（食事について話す）
第11回　Unit 5 (A): Describe activities happening now（今やっている活動について話す）
第12回　Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports（好きなスポーツについて話す）
第13回　Unit 6 (A): Discuss Past Vacations（過去の休暇について話す）
第14回　Unit 6 (C): Describe a Personal Experience（個人の体験を話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験･レポート（ ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題 （ 40 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ <h>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　フリン, マイケル	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations.（人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet and Introduce People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (C): Describing People（人の特徴を描写する）
第4回　Unit 2 (A): Identify Jobs（仕事について）
第5回　Unit 2 (C): Talk About Countries（世界の国々について話す）
第6回　Unit 3 (A): Identify Places in a Home（家のなかのいろいろな場所）
第7回　Unit 3 (C): Identify Household Objects（家具や家庭用品について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A): Identify Personal Possessions（持ち物について話す）
第10回　Unit 4 (C): Buy a Present（ギフトを選ぶ）
第11回　Unit 5 (A): Tell Time（時間を言う）
第12回　Unit 5 (C): Talk About What You DO at Work or School（仕事内容・学校について話す）
第13回　Unit 6 (A): Ask for and Give Directions（道案内をする）
第14回　Unit 6 (C): Describe Transportation（交通機関について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089518

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 55 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 45 ）

Participation score is a composite score that includes homework and participation in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈i〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小川　享子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。･世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

･人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ･各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従うこと。
各ユニットで学ぶ語彙、英語表現は予習・復習を介して覚えること（小テストやまとめのテストにおいて確認し、採点をして返す）。
提出した課題は個人的に添削したり、クラスの中で全体的なコメントをしてフィードバック。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (B): Ask For and Give Personal Information 個人の情報を求める、与える
第3回　Unit 1 (D): (Reading) People from around the World、(Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる
第4回　Unit 2 (B): Talk About Free Time 余暇の過ごし方を述べる
第5回　Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong、(Writing/Speaking) 様々なコミュニティーの日常生活を描写する
第6回　Unit 3 (B): Ask For and Give Personal Travel Information 旅行情報を求める、与える
第7回　Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler、(Writing/Speaking) 旅行のアドバイス
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (B): Order a Meal 食事を注文する
第10回　Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food、(Writing/Speaking) 食べ物について話す
第11回　Unit 5 (B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities 日課を比較する
第12回　Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す
第13回　Unit 6 (B): Exchange Information About Vacations 休暇についての情報交換
第14回　Unit 6 (D): (Reading) The Cradle of the Inca Empire、(Writing/Speaking) 旅行ブログを書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50% ）　　小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ 0~15% ）　　授業中発表等 （ 15~0% ）
参加度 （ 15% ）
試験はまとめのテスト、小テストは語彙や実技のテスト、授業中の課題と発表は合わせて15%とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈j〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾋｴﾀﾗﾋﾃｨ, ｴﾚｷ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations.（人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

How to Feedback to Students:
Homework will be checked together in class. The teacher first checks that it's been done. After that the homework is covered question by question, students taking turns answering. The teacher gives correct answers if the students make mistakes in their answers.
Classwork feedback is given directly to the students during the class. This involves plus points for good work done and minus points for poor work or bad class behavior, such as sleeping in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (C): Describe Different Occupations（さまざまな職業について話す）
第4回　Unit 2 (A): Talk About a Typical Day（典型的な一日について話す）
第5回　Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival（祭り･祝いについて話す）
第6回　Unit 3 (A): Identify Possessions（誰の持ち物か）
第7回　Unit 3 (C): Give Travel Advice（旅行についてアドバイスする）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A): Give a Recipe（レシピを説明する）
第10回　Unit 4 (C): Talk About Diets（食事について話す）
第11回　Unit 5 (A): Describe activities happening now（今やっている活動について話す）
第12回　Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports（好きなスポーツについて話す）
第13回　Unit 6 (A): Discuss Past Vacations（過去の休暇について話す）
第14回　Unit 6 (C): Describe a Personal Experience（個人の体験を話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 30 ）

aks201a220

授業中課題（10） 授業中発表等（20）

参加度（10）

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈k〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　スミス, ジョン	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations.（人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (C): Describe Different Occupations（さまざまな職業について話す）
第4回　Unit 2 (A): Talk About a Typical Day（典型的な一日について話す）
第5回　Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival（祭り･祝いについて話す）
第6回　Unit 3 (A): Identify Possessions（誰の持ち物か）
第7回　Unit 3 (C): Give Travel Advice（旅行についてアドバイスする）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A): Give a Recipe（レシピを説明する）
第10回　Unit 4 (C): Talk About Diets（食事について話す）
第11回　Unit 5 (A): Describe activities happening now（今やっている活動について話す）
第12回　Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports（好きなスポーツについて話す）
第13回　Unit 6 (A): Discuss Past Vacations（過去の休暇について話す）
第14回　Unit 6 (C): Describe a Personal Experience（個人の体験を話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈I〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田中　美和子	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations.（人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）Unit 1 (A): Meet and Introduce People（初対面・自己紹介）
第2回　Unit 1 (B,C): Describing People（人の特徴を描写する）
第3回　Unit 2 (A): Identify Jobs（仕事について）
第4回　Unit 2 (B,C): Talk About Countries（世界の国々について話す）
第5回　Unit 3 (A): Identify Places in a Home（家のなかのいろいろな場所）
第6回　Unit 3 (B, C): Identify Household Objects（家具や家庭用品について話す）
第7回　Unit 4 (A): Identify Personal Possessions（持ち物について話す）
第8回　Unit 4 (B, C): Buy a Present（ギフトを選ぶ）
第9回　Unit 5 (A): Tell Time（時間を言う）
第10回　Unit 5 (B, C): Talk About What You DO at Work or School（仕事内容・学校について話す）
第11回　Unit 6 (A): Ask for and Give Directions（道案内をする）
第12回　Unit 6 (B): Create and Use a Tour Route（旅行のルートを考える）
第13回　Unit 6 (C): Describe Transportation（交通機関について話す）
第14回　英語でドラマを演じよう！
第15回　まとめと復習

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者：　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社：Cengage Learning
出版年：2015　　ISBN：　9781305089518

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 50 ）
授業中課題 （ 10 ）　　授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 30 ）
遅刻3回で、欠席1回に換算します。なお、辞書（電子辞書、紙の辞書）を、毎回持参するようにしてください。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ<m>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ソーソン, マーカス	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations.（人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (C): Describe Different Occupations（さまざまな職業について話す）
第4回　Unit 2 (A): Talk About a Typical Day（典型的な一日について話す）
第5回　Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival（祭り･祝いについて話す）
第6回　Unit 3 (A): Identify Possessions（誰の持ち物か）
第7回　Unit 3 (C): Give Travel Advice（旅行についてアドバイスする）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A): Give a Recipe（レシピを説明する）
第10回　Unit 4 (C): Talk About Diets（食事について話す）
第11回　Unit 5 (A): Describe activities happening now（今やっている活動について話す）
第12回　Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports（好きなスポーツについて話す）
第13回　Unit 6 (A): Discuss Past Vacations（過去の休暇について話す）
第14回　Unit 6 (C): Describe a Personal Experience（個人の体験を話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験･レポート（ 20 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 20 ）
B5 notebook is required for homework.

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ<n>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小川　享子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。･世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

･人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ･各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従うこと。
各ユニットで学ぶ語彙、英語表現は予習・復習を介して覚えること（小テストやまとめのテストにおいて確認し、採点をして返す）。
提出した課題は個人的に添削したり、クラスの中で全体的なコメントをしてフィードバック。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (B): Ask For and Give Personal Information 個人の情報を求める、与える
第3回　Unit 1 (D): (Reading) People from around the World、(Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる
第4回　Unit 2 (B): Talk About Free Time 余暇の過ごし方を述べる
第5回　Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong、(Writing/Speaking) 様々なコミュニティーの日常生活を描写する
第6回　Unit 3 (B): Ask For and Give Personal Travel Information 旅行情報を求める、与える
第7回　Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler、(Writing/Speaking) 旅行のアドバイス
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (B): Order a Meal 食事を注文する
第10回　Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food、(Writing/Speaking) 食べ物について話す
第11回　Unit 5 (B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities 日課を比較する
第12回　Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す
第13回　Unit 6 (B): Exchange Information About Vacations 休暇についての情報交換
第14回　Unit 6 (D): (Reading) The Cradle of the Inca Empire、(Writing/Speaking) 旅行ブログを書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50% ）　　小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ 0~15% ）　　授業中発表等 （ 15~0% ）
参加度 （ 15% ）
試験はまとめのテスト、小テストは語彙や実技のテスト、授業中の課題と発表は合わせて15%とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ<o>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　占部　幹也	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の概要

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリスニング、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　Unit 1 Computers and Society（コンピューター社会）
第2回　Unit 2 Business Transaction（ビジネス）
第3回　Unit 3 At the Office（オフィス）
第4回　Unit 4 Cars and Society（車社会）
第5回　Unit 5 Eating and Drinking（食生活）
第6回　Unit 6 Shopping（ショッピング）
第7回　Unit 7 Entertainmnet（娯楽）
第8回　Unit 8 Accidents & Crimes（事故・犯罪）
第9回　Unit 9 Teaching & Learning（教育・学問）
第10回　Unit 10 Medicine & Hospitals（医療・病院）
第11回　Unit 11 Finance and Banks（金融・銀行）
第12回　Unit 12 Economy and Industry（経済・産業）
第13回　Unit 13 Geography and Travels（地理・旅行）
第14回　Unit 14 Weather and Climate（気象・気候）
第15回　授業のまとめと学習到達度確認テスト

履修上の注意点

教科書

Total Strategy for the TOEIC Test
著者:　石井隆之
出版社:　成美堂
出版年:　2006年　　ISBN:　9784791905539

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ <p>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾋｴﾀﾗﾋﾃｨ, ｴﾚｷ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations.（人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

How to Feedback to Students:
Homework will be checked together in class. The teacher first checks that it's been done. After that the homework is covered question by question, students taking turns answering. The teacher gives correct answers if the students make mistakes in their answers.
Classwork feedback is given directly to the students during the class. This involves plus points for good work done and minus points for poor work or bad class behavior, such as sleeping in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (C): Describe Different Occupations（さまざまな職業について話す）
第4回　Unit 2 (A): Talk About a Typical Day（典型的な一日について話す）
第5回　Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival（祭り･祝いについて話す）
第6回　Unit 3 (A): Identify Possessions（誰の持ち物か）
第7回　Unit 3 (C): Give Travel Advice（旅行についてアドバイスする）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A): Give a Recipe（レシピを説明する）
第10回　Unit 4 (C): Talk About Diets（食事について話す）
第11回　Unit 5 (A): Describe activities happening now（今やっている活動について話す）
第12回　Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports（好きなスポーツについて話す）
第13回　Unit 6 (A): Discuss Past Vacations（過去の休暇について話す）
第14回　Unit 6 (C): Describe a Personal Experience（個人の体験を話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 30 ）

aks201a226

授業中課題（10） 授業中発表等（20）

参加度（10）

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ<q>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　クーラン, コーリ	

テーマ

Build confidence in using English as a global language.（国際語としての英語を使うことに自信を持とう。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）

授業の概要

･Various activities for understanding content in English involving the topics of new friends, people and places, personal possessions, daily life, free time, and work and play.（新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

How to Feedback to Students:
Students' grades are monitored every week and feedback/advice is given whenever necessary.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A) 名前を聞く・教える
第3回　Unit 1 (B) スペルを聞く・教える
第4回　Unit 2 (A) 出身・国籍について話す
第5回　Unit 2 (B) メールアドレスと電話番号を交換する
第6回　Unit 3 (A) 身の回りのものについて話す
第7回　Unit 3 (B) 英語での言い方を尋ねる
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A) 移動の手段・交通機関について話す
第10回　Unit 4 (B) 時間を尋ねる・表現する
第11回　Unit 5 (A) インターネット利用について話す
第12回　Unit 5 (B) 買い物をする
第13回　Unit 6 (A) 職業・仕事について話す
第14回　Unit 6 (B) 電話をかける・電話にでる
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM
著者:　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社:　Cambridge University Press
出版年:　2013　　ISBN:　9780521126151

Four Corners, 1, Workbook
著者:　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社:　Cambridge University Press
出版年:　2013　　ISBN:　9780521126540

参考書

成績評価

試験・レポート（ 25 ）　　小テスト（ 15 ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ 10 ）

aks201a227

参加度 （ 40 ）

Since this is a a speaking class, there is a heavy grading influence on in-class participation, performance, and attitude.

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈r〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　金子　秋子	

テーマ

TOEICテスト受験対策を通じて、英語運用力を向上させる。

授業の到達目標

TOEIC テストのリスニング・リーディングパートの問題に対応できる語彙・文法力・読解力の獲得を目的とする。

授業の概要

TOEICテストの問題形式、出題傾向を経験しながら、各パートの問題演習を行います。語彙、文法については、毎回小テストを行うのでしっかりと復習をすることが必要です。そのうえで、まとめのテストを行い、終盤では模擬テスト演習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

語彙・文法事項の予習・復習をしっかり行うこと。
小テストは採点して返し、必要に応じて解答、解説を行います。

内　容

第1回　Unit 2 Travel
第2回　Unit 4 Entertainment
第3回　Unit 6 Clients
第4回　Unit 8 Personnel
第5回　Unit 10 Meetings
第6回　Unit 12 Offices
第7回　Unit 14 Sales & Marketing
第8回　模擬テスト演習
第9回　模擬テスト演習
第10回　模擬テスト演習
第11回　模擬テスト演習
第12回　まとめのテスト
第13回　おもてなしの英語にトライ
第14回　おもてなしの英語にトライ
第15回　おもてなしの英語にトライ

履修上の注意点

語彙・文法事項の予習・復習をしっかり行うこと。
辞書を携帯すること。
3分の2以上の出席が必要。

教科書

The High Road to the TOEIC Listening and Reading Test
著者:　早川幸治、他
出版社:　金星堂
出版年:　2017　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30% ）　　小テスト（ 20% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30% ）
上記に加えて、期末英語テスト20%。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ<s>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾊﾞｽｶｳﾞｨﾙ, ﾌﾞﾗｲｱﾝ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations.（人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (C): Describe Different Occupations（さまざまな職業について話す）
第4回　Unit 2 (A): Talk About a Typical Day（典型的な一日について話す）
第5回　Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival（祭り･祝いについて話す）
第6回　Unit 3 (A): Identify Possessions（誰の持ち物か）
第7回　Unit 3 (C): Give Travel Advice（旅行についてアドバイスする）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A): Give a Recipe（レシピを説明する）
第10回　Unit 4 (C): Talk About Diets（食事について話す）
第11回　Unit 5 (A): Describe activities happening now（今やっている活動について話す）
第12回　Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports（好きなスポーツについて話す）
第13回　Unit 6 (A): Discuss Past Vacations（過去の休暇について話す）
第14回　Unit 6 (C): Describe a Personal Experience（個人の体験を話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題 （ 40 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈t〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　田中　美和子	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations.（人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet and Introduce People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (C): Describing People（人の特徴を描写する）
第4回　Unit 2 (A): Identify Jobs（仕事について）
第5回　Unit 2 (C): Talk About Countries（世界の国々について話す）
第6回　Unit 3 (A): Identify Places in a Home（家のなかのいろいろな場所）
第7回　Unit 3 (C): Identify Household Objects（家具や家庭用品について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A): Identify Personal Possessions（持ち物について話す）
第10回　Unit 4 (C): Buy a Present（ギフトを選ぶ）
第11回　Unit 5 (A): Tell Time（時間を言う）
第12回　Unit 5 (C): Talk About What You DO at Work or School（仕事内容・学校について話す）
第13回　Unit 6 (A): Ask for and Give Directions（道案内をする）
第14回　Unit 6 (C): Describe Transportation（交通機関について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089518

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 50 ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 30 ）
遅刻3回で、欠席1回に換算します。なお、辞書（電子辞書、紙の辞書）を、毎回持参するようにしてください。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈u〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　スミス, ジョン	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions,daily activities and transportation.（友達･家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）This course will be taught in English.

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

Please do all the homework, preview and review the textbook.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet and Introduce People（初対面･自己紹介）
第3回　Unit 1 (B/C): Family members / Describing people（家族･人の外見を描写する）
第4回　Unit 2 (A/B): Jobs（仕事について話す）
第5回　Unit 2 (C): Countries（世界の国々ついて話す）
第6回　Unit 3 (A/B): Your house（家を描写する）
第7回　Unit 3 (C): Household objects（家具や家庭用品について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A/B): Personal possessions（持ち物について話す）
第10回　Unit 4 (C): Buy a present（ギフトを選ぶ）
第11回　Unit 5 (A/B): Daily routine（日課を描写する）
第12回　Unit 5 (C): Work activities（仕事内容について話す）
第13回　Unit 6 (A/B): Giving directions（道案内をする）
第14回　Unit 6 (C): Transportation（交通機関について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089518

参考書

成績評価

試験･レポート（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈v〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　高居　佐紀	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の概要

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリスニング、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　Unit 1 Eating Out　文の構造
第2回　Unit 2 Amusement　名詞Ｉ：　名詞・代名詞
第3回　Unit 3 Daily Life　名詞Ⅱ：　加算/不可算名詞
第4回　Unit 4 Directions　形容詞・副詞
第5回　Unit 5 Travel　動詞・助動詞
第6回　Unit 6　Advertising　時制
第7回　Unit 7 Personnel　イディオムＩ
第8回　Unit 8 Purchases　一致
第9回　Unit 9 Office Work　分詞・動名詞・不定詞
第10回　Unit 10　Employment　関係詞
第11回　Unit 11 Business　接続詞・前置詞
第12回　Unit 12 Finance & Banking　特殊構文
第13回　Unit 13 Health & Welfare　比較
第14回　Unit 14 Computers & The Internet　仮定法　　Unit 15　Media　イディオムⅡ
第15回　授業のまとめと学習到達度確認テスト

履修上の注意点

教科書

Power Charge for the TOEIC Test
著者:　西田晴美　Brian Covert
出版社:　金星堂
出版年:　2009年　　ISBN:　9784764738744

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈w〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　川口　玲子	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション、Part 1対策、宿題説明
第2回　単語、Part 3対策, Part 6対策
第3回　進度調整/Review/弱点強化
第4回　単語、Part 3対策, Part 5対策
第5回　進度調整/Review/弱点強化
第6回　単語、Part 3対策, Part 5対策
第7回　進度調整/Review/弱点強化
第8回　単語、Part 1対策, Part 5対策
第9回　進度調整/Review/弱点強化
第10回　単語、Part 3対策, Part 7対策
第11回　進度調整/Review/弱点強化
第12回　リスニングPart3②、リーディングPart7①
第13回　リスニングPart4②、リーディングPart7③、模試前総まとめ
第14回　リーディングテスト演習及び解答解説
第15回　授業のまとめと学習到達度確認テスト

履修上の注意点

教科書

新形式問題対応 TOEICテスト 直前対策模試
著者:　早川幸治+ロス・タロック
出版社: 語研
出版年: 2016年　　ISBN:　9784876153121

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
上記に加えて期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈x〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　フリン, マイケル	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations.（人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet and Introduce People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (C): Describing People（人の特徴を描写する）
第4回　Unit 2 (A): Identify Jobs（仕事について）
第5回　Unit 2 (C): Talk About Countries（世界の国々について話す）
第6回　Unit 3 (A): Identify Places in a Home（家のなかのいろいろな場所）
第7回　Unit 3 (C): Identify Household Objects（家具や家庭用品について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A): Identify Personal Possessions（持ち物について話す）
第10回　Unit 4 (C): Buy a Present（ギフトを選ぶ）
第11回　Unit 5 (A): Tell Time（時間を言う）
第12回　Unit 5 (C): Talk About What You DO at Work or School（仕事内容・学校について話す）
第13回　Unit 6 (A): Ask for and Give Directions（道案内をする）
第14回　Unit 6 (C): Describe Transportation（交通機関について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089518

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 55 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 45 ）

Participation score is a composite score that includes homework and participation in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈y〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松村　優子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。･世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

･人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ･各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (B): Identify Family Members 家族を紹介する
第3回　Unit 1 (D): (Reading) Families around the World, (Writing/Speaking) 自分の家族の情報を与える
第4回　Unit 2 (B): Talking About Jobs 仕事について話す
第5回　Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers, (Writing/Speaking) 仕事を描写する
第6回　Unit 3 (B): Describe Your House 家を描写する
第7回　Unit 3 (D): (Reading) Kent Larson: Brilliant Designs to Fit More People in Every City, (Writing/Speaking) 住居を描写する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (B): Talk About Other People's Possessions 他人の持ち物について話す
第10回　Unit 4 (D): (Reading) Jewelry, (Writing/Speaking) クラスでの調査を要約する
第11回　Unit 5 (B): Talk About People's Daily Activities 日々の活動について話す
第12回　Unit 5 (D): (Reading) Karen Bass: Unseen Footage, Untamed Nature, (Writing/Speaking) 仕事内容について書く
第13回　Unit 6 (B): Create and Use a Tour Route 旅行のルートを考える
第14回　Unit 6 (D): (Reading,) Journey to Antarctica, (Writing/Speaking) 旅程表を書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089518

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）　　小テスト （ 60% ）
授業中課題 （ 10% ）　　授業中発表等 （ 15% ）
参加度 （ 15% ）
小テストは、14回、15回目の復習テストが中心である。参加度とは出席だけでなく、授業態度なども含まれる。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈z〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ソーソン, マーカス	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations.（人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (C): Describe Different Occupations（さまざまな職業について話す）
第4回　Unit 2 (A): Talk About a Typical Day（典型的な一日について話す）
第5回　Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival（祭り･祝いについて話す）
第6回　Unit 3 (A): Identify Possessions（誰の持ち物か）
第7回　Unit 3 (C): Give Travel Advice（旅行についてアドバイスする）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A): Give a Recipe（レシピを説明する）
第10回　Unit 4 (C): Talk About Diets（食事について話す）
第11回　Unit 5 (A): Describe activities happening now（今やっている活動について話す）
第12回　Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports（好きなスポーツについて話す）
第13回　Unit 6 (A): Discuss Past Vacations（過去の休暇について話す）
第14回　Unit 6 (C): Describe a Personal Experience（個人の体験を話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験･レポート（ 20 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 20 ）
B5 Notebook is required.

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈Ha〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　スミス, ジョン	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions,daily activities and transportation.（友達･家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）This course will be taught in English.

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

Please do all the homework, preview and review the textbook.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet and Introduce People（初対面･自己紹介）
第3回　Unit 1 (B/C): Family members / Describing people（家族･人の外見を描写する）
第4回　Unit 2 (A/B): Jobs（仕事について話す）
第5回　Unit 2 (C): Countries（世界の国々ついて話す）
第6回　Unit 3 (A/B): Your house（家を描写する）
第7回　Unit 3 (C): Household objects（家具や家庭用品について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A/B): Personal possessions（持ち物について話す）
第10回　Unit 4 (C): Buy a present（ギフトを選ぶ）
第11回　Unit 5 (A/B): Daily routine（日課を描写する）
第12回　Unit 5 (C): Work activities（仕事内容について話す）
第13回　Unit 6 (A/B): Giving directions（道案内をする）
第14回　Unit 6 (C): Transportation（交通機関について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089518

参考書

成績評価

試験･レポート（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈Hb〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ハビブ, ジェラード	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations.（人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (C): Describe Different Occupations（さまざまな職業について話す）
第4回　Unit 2 (A): Talk About a Typical Day（典型的な一日について話す）
第5回　Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival（祭り･祝いについて話す）
第6回　Unit 3 (A): Identify Possessions（誰の持ち物か）
第7回　Unit 3 (C): Give Travel Advice（旅行についてアドバイスする）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A): Give a Recipe（レシピを説明する）
第10回　Unit 4 (C): Talk About Diets（食事について話す）
第11回　Unit 5 (A): Describe activities happening now（今やっている活動について話す）
第12回　Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports（好きなスポーツについて話す）
第13回　Unit 6 (A): Discuss Past Vacations（過去の休暇について話す）
第14回　Unit 6 (C): Describe a Personal Experience（個人の体験を話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験･レポート（ 30 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈Hc〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ホリグチ, タケシ	

テーマ

理学療法や心理療法など、ライフサイエンス的な分野を専攻する学生が、自身の専攻に関わるテーマについて情報を的確にインプットし、それらの情報を自身の言葉に置き換えて発信するために必要な総合的な英語運用力（英語の四技能）をバランスよく身に付ける。

授業の到達目標

・医療用語の理解（必須単語・表現は約100）
・医療的な文章（300－400語程度）の読解力を上げる。
・医療的な文章（150－300語程度）の聴解力を上げる。
・インプットした情報を自身で整理し、それらを自分の言葉で書いたり話したりして伝えられるようになる。

授業の概要

・日本人講師と外国人講師が交互に担当するティームティーチング
・学生の積極的な参加によるアクティブラーニング形式
・日本人講師パートでは、単語の説明や読解、聴解などのインプット部分を中心に取り扱う
・外国人講師パートではインプットした情報を相手に伝えるリテリングや療法士と患者との会話のロールプレイなど、アウトプット中心に取り扱う

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

その日習った単語の復習（単語テストへの準備）とロールプレイなどのアクティビティーの準備

内　容

第1回　外国人講師クラスの講義の進め方について説明します。
第2回　人間の体
第3回　高カロリーと健康
第4回　伝染病
第5回　個人と公衆の衛生管理
第6回　日本の医療の改善策
第7回　医療における針刺し損傷
第8回　北里柴三郎と日本の医療
第9回　臨床検査技師の仕事
第10回　臨床工学技師の仕事
第11回　診療放射線技師
第12回　理学療法士とその仕事
第13回　作業療法士の仕事とは
第14回　言語聴覚士とその仕事
第15回　総合問題演習を通した復習

履修上の注意点

教科書

The Hospital Team
著者:　高津　昌宏
出版社: 南雲堂
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈Hd〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松村　優子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。･世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

･人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ･各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (B): Ask For and Give Personal Information 個人の情報を求める、与える
第3回　Unit 1 (D): (Reading) People from around the World、(Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる
第4回　Unit 2 (B): Talk About Free Time 余暇の過ごし方を述べる
第5回　Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong、(Writing/Speaking) 様々なコミュニティーの日常生活を描写する
第6回　Unit 3 (B): Ask For and Give Personal Travel Information 旅行情報を求める、与える
第7回　Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler、(Writing/Speaking) 旅行のアドバイス
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (B): Order a Meal 食事を注文する
第10回　Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food、(Writing/Speaking) 食べ物について話す
第11回　Unit 5 (B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities 日課を比較する
第12回　Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す
第13回　Unit 6 (B): Exchange Information About Vacations 休暇についての情報交換
第14回　Unit 6 (D): (Reading) The Cradle of the Inca Empire、(Writing/Speaking) 旅行ブログを書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）　　小テスト （ 60% ）
授業中課題 （ 10% ）　　授業中発表等 （ 15% ）
参加度 （ 15% ）
小テストは、14回、15回目の復習テストが中心である。参加度とは出席だけでなく、授業態度なども含まれる。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈R〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉山　泰	

テーマ

基礎英語（Basic English）、特に「基礎動詞＋前置詞」というやさしい英語で日本文化を伝えよう

授業の到達目標

中学校で学んだ基礎英語（850語）で、日本文化を伝えることができる。基礎動詞（go/come,give/get,let/keep,put/take,make,have,do,sayなど）を徹底的に利用して、やさしい英語で自由に日本文化を伝える訓練をしていきたい。

授業の概要

教科書の問題を最初からやっていく。毎回「プリント」を配布して、解答してもらうので、毎回の参加が大事になる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回プリントを提出し、その添削をして点数をつけて返却するので、返却されたプリントを次回までに完全なものにしておく必要がある。

内　容

第1回　自己紹介。Lesson 1 一語一文で英語は通じる。（No work, no money.のアジアの英語も役に立つ。Long time, no see.の意味は？）
第2回　Lesson 2 動詞＋er＝～する人、～する道具（I am a mind reader.＝君の心が読めるんだ）
第3回　Lesson 3 動詞＋...ing＝（現在分詞と動名詞の違い＝I am feeling well.とI gave up smoking.の違いは？）
第4回　Lesson 4 動詞＋ed＝過去分詞（I love fried rice and smoked salmon.とAn A-bomb was dropped on Hiroshima.）
第5回　Lesson 5 be動詞＋形容詞（I am pleased to see you.とIt is pleasant to get all my credits.）
第6回　Lesson 6 InとOut（in controlとout of controlの違いは？　命令文Get in my car.とGet out of the room.の違いは？）
第7回　Lesson 7 OnとOff（Is the switch on? No, it's off.）
第8回　Lesson 8 Haveの構文（We had nothing to do with it.の構文）
第9回　Lesson 9 Comeの構文（Dinner is ready. I am coming.＝今行きます＝近づいていくニュアンス）
第10回　Lesson 10 Goの構文（Dinner is ready. I am going.＝用事があるから出かけます＝離れていくニュアンス）
第11回　Lesson 11 Takeの構文（I'll take this.＝これください）
第12回　Lesson 12 Putの構文（Don't put off till tommorow what you can do today.）
第13回　Lesson 13 Giveの構文（魔法の杖のGiveとGet＝on/offやin/outを用いたイディオムの意味は？）
第14回　Lesson 14 Getの構文（基礎動詞＝go-come / let-keep / put- take / give-get / make / have / do / sayを使いこなそう）
第15回　Lesson 15 Makeの構文（基礎動詞を用いて、履歴書で自己アピール文を書こう）

履修上の注意点

毎回教科書の説明と問題を仕上げた後で、プリントをやってもらう。授業への参加が重視される。

教科書

Putting Common Verbs to Work
著者:　鳥飼慎一郎
出版社: 朝日出版社
出版年: 2010　　ISBN:

参考書

英語の壁
著者:　マーク・ピーターセン
出版社: 文春新書
出版年: 2003　　ISBN:

日本語教のすすめ
著者:　鈴木孝夫
出版社: 新潮新書
出版年: 2009　　ISBN:

aks201a241

j実践日本人の英語

著者: マーク・ピーターセン

出版社: 岩波新書

出版年: 2013 ISBN:

日本語は敬語があって主語がないん

著者: 金谷武洋

出版社: 光文社新書

出版年: 2010 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ 20% ）

授業中課題 （ 40% ） 授業中発表等 （ 20% ）

参加度 （ 20% ）

毎回の出席と毎回の提出物を最大限重視する。毎回授業に参加できない場合は、各自教科書の問題を自宅でやり、プリントをもらって提出すれば、遅れの出席として評価する場合がある。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈Tb〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　高居　佐紀	

テーマ

将来的にTOEICスコアアップを目指す為の英語基礎力養成

授業の到達目標

TOEIC試験スコアを50点アップを目指す。リスニング到達目標：発音力を高めることで、リスニング力の向上を目指す。リーディング到達目標：主語と述語を見分けることでリーディング力の向上を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングスキルの基礎力を養成する。TOEICの演習問題を通じ、各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション、Reading対策：英文の読み方
第2回　Listening対策：子音（1）
　　Reading対策：単語の意味を推測（1）
第3回　Listening対策：t/dの弱音化
　　Reading対策：スキャニング（1）
第4回　Listening対策：Listening対策：母音（2）
　　Reading対策：テーマの把握
第5回　Listening対策：短縮形（1）
　　Reading対策：単語の位置と成り立ち
第6回　復習
第7回　Listening対策：ストレス・イントネーション
　　Reading対策：文のエッセンス（2）
第8回　Listening対策：単語の音声変化（2）
　　Reading対策：チャンクリーディング（2）
第9回　Listening対策：Part1・2総合問題（1）
　　Reading対策：複雑な文章
第10回　Part3（会話問題）の問題形式、ポイントを学ぶ ※新形式は補助教材にて紹介
第11回　Part4(説明文問題)の問題形式、ポイントを学ぶ ※新形式は補助教材にて紹介
第12回　Part5（短文穴埋め問題）の問題形式、ポイントを学ぶ
第13回　Part6（長文穴埋め問題）の問題形式、ポイントを学ぶ　※新形式は補助教材にて紹介
第14回　模擬試験リーディングパート実施・解答
第15回　授業のまとめと学習到達度確認テスト

履修上の注意点

教科書

新形式問題対応 TOEICテスト 直前対策模試
著者：　早川幸治+ロス+タロック
出版社：語研
出版年：2016年　　ISBN：

TOEICテスト新形式問題補助教材α
著者：　ECC
出版社：ECC
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）

aks201a242

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （30）

上記に加えて期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈He〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小川　享子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。･世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

･人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ･各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中の指示に従うこと。
各ユニットで学ぶ語彙、英語表現は予習・復習を介して覚えること（小テストやまとめのテストにおいて確認し、採点をして返す）。
提出した課題は個人的に添削したり、クラスの中で全体的なコメントをしてフィードバック。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (B): Ask For and Give Personal Information 個人の情報を求める、与える
第3回　Unit 1 (D): (Reading) People from around the World、(Writing/Speaking) 仕事の良い点、悪い点を述べる
第4回　Unit 2 (B): Talk About Free Time 余暇の過ごし方を述べる
第5回　Unit 2 (D): (Reading) A Virtual Choir 2,000 Voices Strong、(Writing/Speaking) 様々なコミュニティーの日常生活を描写する
第6回　Unit 3 (B): Ask For and Give Personal Travel Information 旅行情報を求める、与える
第7回　Unit 3 (D): (Reading) Smart Traveler、(Writing/Speaking) 旅行のアドバイス
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (B): Order a Meal 食事を注文する
第10回　Unit 4 (D): (Reading) Bugs as Food、(Writing/Speaking) 食べ物について話す
第11回　Unit 5 (B): Compare Everyday and Presnet-Time Activities 日課を比較する
第12回　Unit 5 (D): (Reading) My Mind-shifting Everest Swim, (Writing/Speaking) メールで冒険について話す
第13回　Unit 6 (B): Exchange Information About Vacations 休暇についての情報交換
第14回　Unit 6 (D): (Reading) The Cradle of the Inca Empire、(Writing/Speaking) 旅行ブログを書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50% ）　　小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ 0~15% ）　　授業中発表等 （ 15~0% ）
参加度 （ 15% ）
試験はまとめのテスト、小テストは語彙や実技のテスト、授業中の課題と発表は合わせて15%とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈Hf〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　フリン, マイケル	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations.（人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet and Introduce People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (C): Describing People（人の特徴を描写する）
第4回　Unit 2 (A): Identify Jobs（仕事について）
第5回　Unit 2 (C): Talk About Countries（世界の国々について話す）
第6回　Unit 3 (A): Identify Places in a Home（家のなかのいろいろな場所）
第7回　Unit 3 (C): Identify Household Objects（家具や家庭用品について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A): Identify Personal Possessions（持ち物について話す）
第10回　Unit 4 (C): Buy a Present（ギフトを選ぶ）
第11回　Unit 5 (A): Tell Time（時間を言う）
第12回　Unit 5 (C): Talk About What You DO at Work or School（仕事内容・学校について話す）
第13回　Unit 6 (A): Ask for and Give Directions（道案内をする）
第14回　Unit 6 (C): Describe Transportation（交通機関について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089518

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 55 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 45 ）

Participation score is a composite score that includes homework and participation in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈Hg〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾊﾞｽｶｳﾞｨﾙ, ﾌﾞﾗｲｱﾝ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations.（人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (C): Describe Different Occupations（さまざまな職業について話す）
第4回　Unit 2 (A): Talk About a Typical Day（典型的な一日について話す）
第5回　Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival（祭り･祝いについて話す）
第6回　Unit 3 (A): Identify Possessions（誰の持ち物か）
第7回　Unit 3 (C): Give Travel Advice（旅行についてアドバイスする）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A): Give a Recipe（レシピを説明する）
第10回　Unit 4 (C): Talk About Diets（食事について話す）
第11回　Unit 5 (A): Describe activities happening now（今やっている活動について話す）
第12回　Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports（好きなスポーツについて話す）
第13回　Unit 6 (A): Discuss Past Vacations（過去の休暇について話す）
第14回　Unit 6 (C): Describe a Personal Experience（個人の体験を話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題 （ 40 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈Hh〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ソーソン, マーカス	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations.（人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (C): Describe Different Occupations（さまざまな職業について話す）
第4回　Unit 2 (A): Talk About a Typical Day（典型的な一日について話す）
第5回　Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival（祭り･祝いについて話す）
第6回　Unit 3 (A): Identify Possessions（誰の持ち物か）
第7回　Unit 3 (C): Give Travel Advice（旅行についてアドバイスする）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A): Give a Recipe（レシピを説明する）
第10回　Unit 4 (C): Talk About Diets（食事について話す）
第11回　Unit 5 (A): Describe activities happening now（今やっている活動について話す）
第12回　Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports（好きなスポーツについて話す）
第13回　Unit 6 (A): Discuss Past Vacations（過去の休暇について話す）
第14回　Unit 6 (C): Describe a Personal Experience（個人の体験を話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089495

参考書

成績評価

試験･レポート（ 20 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 20 ）
B5 notebook is required.

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　増田　聖日恵	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解)活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業内での指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (B): Exchange Contact Information 連絡先を交換する
第3回　Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?、(Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する
第4回　Unit 8 (B): Discuss Long-and Short-Term Plans 短期、長期計画について話す
第5回　Unit 8 (D): (Reading) Future Energy、(Writing/Speaking) 未来について語る
第6回　Unit 9 (B): Explain Preferences 好みを説明する
第7回　Unit 9 (D): (Reading) Silk、(Writing/Speaking) 質と価値を評価する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (B): Compare Lifestyles ライフスタイルを比較する
第10回　Unit 10 (D): (Reading) The Secrets of Long Life、(Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する
第11回　Unit 11 (B): Interview for a Job 就職の面接をする
第12回　Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements、(Writing/Speaking) 人類の偉大な到達点について語る
第13回　Unit 12 (B): Make Choices on How to Spend Your Money お金の使い道を決める
第14回　Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness、(Writing/Speaking) お金と幸福を評価する
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30 ）	小テスト （ 30 ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　占部　幹也	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
（受験有無や受講生知識のヒアリング、試験構成確認等）
第2回　単語、Part 1対策, Part 2対策, Part 6対策
第3回　単語、Part 4対策, Part 7対策
第4回　リスニングPart3②、リーディングPart7①
第5回　リスニングPart4②、リーディングPart7③、模試前まとめ
第6回　リーディングテスト演習及び解答解説
第7回　単語、Part 3対策, Part 5対策
第8回　単語、Part 4対策, Part 7対策
第9回　単語、Part 2対策, Part 6対策
第10回　進度調整/Review/弱点強化
第11回　単語、Part 3対策, Part 7対策
第12回　単語、Part 2対策, Part 6対策
第13回　単語、Part 4対策, Part 7対策
第14回　リスニングテスト演習及び解答解説
第15回　リーディングテスト解説

履修上の注意点

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Sapphire
著者:　ECC
出版社:　ECC
出版年:　2016年　　ISBN:
TOEICテスト新形式問題補助教材 β（ベータ）
著者:　ECC
出版社:　ECC
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　高田　悦子	

テーマ

国際語としての英語を使うことに自信を持とう。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

·新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動 ·各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内での指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (C) 食習慣について話す。
第3回　Unit 7 (D) 好きな食べ物について話す。
第4回　Unit 8 (C) 自分の町の面白い場所について話す。
第5回　Unit 8 (D) 観光スポットについてプレゼンテーションをする。
第6回　Unit 9 (C) 人が最近していることを説明する。
第7回　Unit 9 (D) 人が最近していることについて話し合う。
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (C) 日課を話す（過去）。
第10回　Unit 10 (D) 過去の活動を説明する。
第11回　Unit 11 (C) 過去の休暇について話す。
第12回　Unit 11 (D) 旅行の経験を説明する。
第13回　Unit 12 (C) 計画について話し合う。
第14回　Unit 12 (D) 伝統的な誕生日の過ごし方を説明する。
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。
辞書を必ず持ってきて下さい。（評価の対象になります。）

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM
著者:　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社:　Cambridge University Press
出版年:　2013　　ISBN:　9780521126151

Four Corners, 1, Workbook
著者:　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社:　Cambridge University Press
出版年:　2013　　ISBN:　9780521126540

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 40% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 25% ）
参加度（ 15% ）
上記に加えて学期末英語テスト20%。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　川口　玲子	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
（受験有無や受講生知識のヒアリング、試験構成確認等）
第2回　単語、Part 2対策, Part 5対策
第3回　単語、Part 4対策, Part 7対策
第4回　リスニングPart3②、リーディングPart7①
第5回　リスニングPart4②、リーディングPart7③、模試前まとめ
第6回　リーディングテスト演習及び解答解説
第7回　単語、Part 2対策, Part 7対策
第8回　単語、Part 4対策, Part 7対策
第9回　単語、Part 3対策, Part 5対策
第10回　進度調整/Review/弱点強化
第11回　単語、Part 1対策, Part 5対策
第12回　単語、Part 2対策, Part 7対策
第13回　単語、Part 4対策, Part 7対策
第14回　リスニングテスト演習及び解答解説
第15回　リーディングテスト解説続き

履修上の注意点

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Emerald
著者:　ECC
出版社:　ECC
出版年:　2016年　　ISBN:

TOEICテスト新形式問題補助教材β
著者:　ECC
出版社:　ECC
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <e>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　金子　秋子	

テーマ

TOEIC受験対策を通して英語運用能力を向上させる。

授業の到達目標

前期に引き続き、TOEICテストのリスニング・リーディングパートに対応できる語彙・文法力、リスニング力、読解力の養成を目的とする。

授業の概要

TOEICテストの問題形式や出題傾向を念頭に置きながら、各パートの問題演習を行います。語彙についてはユニットごとの単語リストで意味の確認をしながら問題演習を行います。随時、学習した範囲の復習テストを行います。終盤ではTOEICテストの模擬演習を行います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

語彙、文法事項の予習復習。
リスニング教材の聞き直し。小テストは採点して返し、必要に応じて解答、解説を行います。

内　容

第1回　Unit 2 Travel
第2回　Unit 4 Meetings
第3回　Unit 6 Shopping
第4回　Unit 8 Daily Life
第5回　Unit 10 Business
第6回　Unit 12 Finance and Banking
第7回　Unit 14 Health and Welfare
第8回　模擬テスト演習
第9回　模擬テスト演習
第10回　模擬テスト演習
第11回　模擬テスト演習
第12回　まとめのテスト
第13回　映画の英語にトライアル
第14回　おもてなしの英語にトライ
第15回　おもてなしの英語にトライ

履修上の注意点

語彙・文法事項の予習・復習をしっかり行うこと。
辞書を持ってくること。3分の2以上の出席が必要。

教科書

Step-up Skills for the TOEIC Listening and Reading Test
著者:　北尾泰幸、ほか
出版社: 朝日出版
出版年: 2017　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ）　　小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 30% ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <f>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾃｨｰｸﾞﾙ, ｼﾞｪｰﾑｽ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness.（コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.
I am available to talk to stud myself between classes and also hand back reports with scores giving suggestions during class for improvement on speaking and grammar skills.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A): Identify Activities that Are Happening Now（現在進行形を使う）
第3回　Unit 7 (C): Talk About Abilities（できること・できないことについて話す）
第4回　Unit 8 (A): Identify and Shop for Clothes（洋服・買い物・服装の描写）
第5回　Unit 8 (C): Express Likes and Dislikes（好みを表現する）
第6回　Unit 9 (A): Order a Meal（レストランでの注文）
第7回　Unit 9 (C): Describe Your Diet（自分の食生活について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A): Identify Parts of the Body to Say How You Feel（体調を伝えるために体の各部を描写する）
第10回 Unit 10 (C): Identify Remedies and Give Advice（治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える）
第11回 Unit 11 (A): Plan Special Days（特別な日の予定を立てる）
第12回 Unit 11 (C): Make Life Plans（人生設計について話す）
第13回 Unit 12 (A): Use the Simple Past（過去形で話す）
第14回 Unit 12 (C): Describe a Move（引っ越しについて話す）
第15回 Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験･レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 15 ）
参加度（ 45 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <g>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小川　享子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解)活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業内での指示に従うこと
各ユニットで学ぶ語彙、英語表現は予習・復習を介して覚えること(小テストやまとめのテストにおいて確認し、採点をして返す)。
提出した課題は個人的に添削したり、クラスの中で全体的なコメントをしてフィードバック。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (B): Exchange Contact Information 連絡先を交換する
第3回　Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?、(Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する
第4回　Unit 8 (B): Discuss Long-and Short-Term Plans 短期、長期計画について話す
第5回　Unit 8 (D): (Reading) Future Energy、(Writing/Speaking) 未来について語る
第6回　oUnit 9 (B): Explain Preferences 好みを説明する
第7回　Unit 9 (D): (Reading) Silk、(Writing/Speaking) 質と価値を評価する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (B): Compare Lifestyles ライフスタイルを比較する
第10回　Unit 10 (D): (Reading) The Secrets of Long Life、(Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する
第11回　Unit 11 (B): Interview for a Job 就職の面接をする
第12回　Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements、(Writing/Speaking) 人類の偉大な到達点について語る
第13回　Unit 12 (B): Make Choices on How to Spend Your Money お金の使い道を決める
第14回　Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness、(Writing/Speaking) お金と幸福を評価する
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験・レポート　(45%)　　小テスト　(10%)
授業中課題　(10~0%)　　授業中発表等　(0~10%)
参加度　(15%)
上記に加えて学期末英語テスト20%。
試験はまとめのテスト、小テストは語彙や実技のテスト、授業中の課題と発表は合わせて10%とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <h>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　櫃本　一美	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解)活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業内での指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (B): Make a Phone Call 電話をかける
第3回　Unit 7 (D): (Reading) Soccer–The Beautiful Game, (Writing/Speaking) 自分の能力に関して書く
第4回　Unit 8 (B): Buy Clothes 服を買う
第5回　Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes, (Writing/Speaking) 人の衣服を描写する
第6回　Unit 9 (B): Plan a Party パーティーの計画を立てる
第7回　Unit 9 (D): (Reading)"Ron Finley: A Guerilla Gardener in South Central L.A., (Writing/Speaking) 食習慣について書
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (B):Ask About and Describe Symptom 症状を描写する
第10回　Unit 10 (D): (Reading) Preventing Disease, (Writing/Speaking) 病気の防止について話す
第11回　Unit 11 (B): Describe Holiday Traditions 祝祭日について描写する
第12回　Unit 11 (D): (Reading) Derek Sivers: Keep Your Goals to Yourself, (Writing/Speaking) 夢と計画を語る
第13回　Unit 12 (B): Give Biographical Information 生物の情報を伝える
第14回　Unit 12 (D): (Reading) Human Migration, (Writing/Speaking) 休暇中の葉書を書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。テキストを持参していない者、授業中の課題に取り組まない者は出席とみなしません。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
上記に加えて学期末英語テスト20%。授業中課題は小テストも含める。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <i>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ドール, モーガン	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness.（コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A): Identify Activities that Are Happening Now（現在進行形を使う）
第3回　Unit 7 (C): Talk About Abilities（できること・できないことについて話す）
第4回　Unit 8 (A): Identify and Shop for Clothes（洋服・買い物・服装の描写）
第5回　Unit 8 (C): Express Likes and Dislikes（好みを表現する）
第6回　Unit 9 (A): Order a Meal（レストランでの注文）
第7回　Unit 9 (C): Describe Your Diet（自分の食生活について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A): Identify Parts of the Body to Say How You Feel（体調を伝えるために体の各部を描写する）
第10回　Unit 10 (C): Identify Remedies and Give Advice（治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える）
第11回　Unit 11 (A): Plan Special Days（特別な日の予定を立てる）
第12回　Unit 11 (C): Make Life Plans（人生設計について話す）
第13回　Unit 12 (A): Use the Simple Past（過去形で話す）
第14回　Unit 12 (C): Describe a Move（引っ越しについて話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <j>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　野口　博代	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解)活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

リーディング課題については、事前にわからない単語の意味などを調べておくこと。ライティング課題提出は指定された期日を厳守すること。提出物は全て成績評価の対象となるため、間違った箇所は訂正して再提出する必要がある。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (B): Exchange Contact Information 連絡先を交換する
第3回　Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?、(Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する
第4回　Unit 8 (B): Discuss Long-and Short-Term Plans 短期、長期計画について話す
第5回　Unit 8 (D): (Reading) Future Energy、(Writing/Speaking) 未来について語る
第6回　Unit 9 (B): Explain Preferences 好みを説明する
第7回　Unit 9 (D): (Reading) Silk、(Writing/Speaking) 質と価値を評価する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (B): Compare Lifestyles ライフスタイルを比較する
第10回　Unit 10 (D): (Reading) The Secrets of Long Life、(Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する
第11回　Unit 11 (B): Interview for a Job 就職の面接をする
第12回　Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements、(Writing/Speaking) 人類の偉大な到達点について語る
第13回　Unit 12 (B): Make Choices on How to Spend Your Money お金の使い道を決める
第14回　Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness、(Writing/Speaking) お金と幸福を評価する
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験・レポート (0%)	小テスト (20%)
授業中課題 (20%)	授業中発表等 (20%)
参加度 (20%)	

上記に加えて学期末英語テスト20%。
授業中発表、参加度にはペアやグループでの作業に積極的に参加する姿勢が評価に含まれる。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <k>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　原　俊樹	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解)活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業内での指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (B): Exchange Contact Information 連絡先を交換する
第3回　Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?、(Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する
第4回　Unit 8 (B): Discuss Long-and Short-Term Plans 短期、長期計画について話す
第5回　Unit 8 (D): (Reading) Future Energy、(Writing/Speaking) 未来について語る
第6回　Unit 9 (B): Explain Preferences 好みを説明する
第7回　Unit 9 (D): (Reading) Silk、(Writing/Speaking) 質と価値を評価する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (B): Compare Lifestyles ライフスタイルを比較する
第10回　Unit 10 (D): (Reading) The Secrets of Long Life、(Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する
第11回　Unit 11 (B): Interview for a Job 就職の面接をする
第12回　Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements、(Writing/Speaking) 人類の偉大な到達点について語る
第13回　Unit 12 (B): Make Choices on How to Spend Your Money お金の使い道を決める
第14回　Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness、(Writing/Speaking) お金と幸福を評価する
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

高校時代の辞書・英語参考書
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート　(40%)　　小テスト　(10%)
授業中課題　(10%)　　授業中発表等　(10%)
参加度　(10%)
上記に加えて学期末英語テスト20%。
"上記に加えて学期末英語テスト20%
授業中の態度(私語・スマホ・携帯電話の使用など)も評価に入れます。"

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <I>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田中　美和子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解)活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習·復習·課題に対するフィードバック)

授業内での指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (B): Make a Phone Call 電話をかける
第3回　Unit 7 (D): (Reading) Soccer–The Beautiful Game, (Writing/Speaking) 自分の能力に関して書く
第4回　Unit 8 (B): Buy Clothes 服を買う
第5回　Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes, (Writing/Speaking) 人の衣服を描写する
第6回　Unit 9 (B): Plan a Party パーティーの計画を立てる
第7回　Unit 9 (D): (Reading)"Ron Finley: A Guerilla Gardener in South Central L.A., (Writing/Speaking) 食習慣について書
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (B):Ask About and Describe Symptom 症状を描写する
第10回　Unit 10 (D): (Reading) Preventing Disease, (Writing/Speaking) 病気の防止について話す
第11回　Unit 11 (B): Describe Holiday Traditions 祝祭日について描写する
第12回　Unit 11 (D): (Reading) Derek Sivers: Keep Your Goals to Yourself, (Writing/Speaking) 夢と計画を語る
第13回　Unit 12 (B): Give Biographical Information 生物の情報を伝える
第14回　Unit 12 (D): (Reading) Human Migration, (Writing/Speaking) 休暇中の葉書を書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験·レポート（ ）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 20 ）
遅刻3回で、欠席1回に換算します。なお、辞書(電子辞書、紙の辞書)を、毎回持参するようにしてください。なお、上記に加えて学期末英語テスト20%。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <m>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　山﨑 清水	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解)活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業内での指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (B): Exchange Contact Information 連絡先を交換する
第3回　Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?、(Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する
第4回　Unit 8 (B): Discuss Long-and Short-Term Plans 短期、長期計画について話す
第5回　Unit 8 (D): (Reading) Future Energy、(Writing/Speaking) 未来について語る
第6回　oUnit 9 (B): Explain Preferences 好みを説明する
第7回　Unit 9 (D): (Reading) Silk、(Writing/Speaking) 質と価値を評価する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (B): Compare Lifestyles ライフスタイルを比較する
第10回　Unit 10 (D): (Reading) The Secrets of Long Life、(Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する
第11回　Unit 11 (B): Interview for a Job 就職の面接をする
第12回　Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements、(Writing/Speaking) 人類の偉大な到達点について語る
第13回　Unit 12 (B): Make Choices on How to Spend Your Money お金の使い道を決める
第14回　Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness、(Writing/Speaking) お金と幸福を評価する
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験・レポート （ 40 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 10 ）	

上記に加えて学期末英語テスト20%。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <n>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定

担 当 者　ドール, モーガン

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness.（コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A): Identify Activities that Are Happening Now（現在進行形を使う）
第3回　Unit 7 (C): Talk About Abilities（できること・できないことについて話す）
第4回　Unit 8 (A): Identify and Shop for Clothes（洋服・買い物・服装の描写）
第5回　Unit 8 (C): Express Likes and Dislikes（好みを表現する）
第6回　Unit 9 (A): Order a Meal（レストランでの注文）
第7回　Unit 9 (C): Describe Your Diet（自分の食生活について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A): Identify Parts of the Body to Say How You Feel（体調を伝えるために体の各部を描写する）
第10回　Unit 10 (C): Identify Remedies and Give Advice（治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える）
第11回　Unit 11 (A): Plan Special Days（特別な日の予定を立てる）
第12回　Unit 11 (C): Make Life Plans（人生設計について話す）
第13回　Unit 12 (A): Use the Simple Past（過去形で話す）
第14回　Unit 12 (C): Describe a Move（引っ越しについて話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <o>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　占部　幹也	

テーマ

「環境」や「健康」問題について、今世界で人々が直面している現状を知り、その解決に人々が努力している様子を理解する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング・ライティング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。・英字新聞に慣れ英語記事を読めるようになる。

授業の概要

Pre-reading,Reading,Post-readingの3つのパートでリーディングスキルを効率的に修得する。CDを利用して音読練習を行う。Key Wordsコーナーで語彙を修得し、英作文の練習をする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　Unit8 Smoking Bans Could Cut into Cuban Cigar Sales
第2回　Unit8 世界的な禁煙傾向、タバコ産業の将来は-キューバ発
第3回　Unit9 Global Warming Claiming Next Victim:Andes Water
第4回　Unit9 溶ける氷河におびやかされる人々の生活-ボリビア発
第5回　Unit10 Aborigines Still Rely on Bush Medicines for Remedies
第6回　Unit10 アボリジニの命の綱、伝統的な薬草医療-オーストラリア発
第7回　Unit11 African Farmers Seek Ways to Survive Droughts
第8回　Unit11 温暖化で干ばつ続き⇒早い、強い作物に栽培転換-ザンビア発
第9回　Unit12 Study:Fruity Cocktails May Be Good for Health
第10回　Unit12 フルーツカクテルで健康に？アルコールで抗酸化作用の効果アップか-アメリカ発
第11回　Unit13 Rising Seas May Force Island Nations to Evacuate
第12回　Unit13 住民を国外へ追いやる海面上昇-モルディブ発
第13回　Unit14 Malaysians Getting Appetite for Healthier Eating
第14回　Unit15 Planned Chinese City wants all Eco-Friedly Power
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

Healing Our World
著者:　小笠原　真司 Pino Cutrone
出版社: 南雲堂
出版年: 2010　　ISBN:　9784523176473

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30 ）　　小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ 0 ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <p>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　野口　博代	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解)活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

リーディング課題については、事前にわからない単語などを調べておくこと。ライティング課題提出は指定された期日を厳守すること。提出物は全て成績評価の対象となるため、間違った個所は訂正して再提出する必要がある。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (B): Exchange Contact Information 連絡先を交換する
第3回　Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?、(Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する
第4回　Unit 8 (B): Discuss Long-and Short-Term Plans 短期、長期計画について話す
第5回　Unit 8 (D): (Reading) Future Energy、(Writing/Speaking) 未来について語る
第6回　Unit 9 (B): Explain Preferences 好みを説明する
第7回　Unit 9 (D): (Reading) Silk、(Writing/Speaking) 質と価値を評価する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (B): Compare Lifestyles ライフスタイルを比較する
第10回　Unit 10 (D): (Reading) The Secrets of Long Life、(Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する
第11回　Unit 11 (B): Interview for a Job 就職の面接をする
第12回　Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements、(Writing/Speaking) 人類の偉大な到達点について語る
第13回　Unit 12 (B): Make Choices on How to Spend Your Money お金の使い道を決める
第14回　Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness、(Writing/Speaking) お金と幸福を評価する
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験・レポート (0%)	小テスト (20%)
授業中課題 (20%)	授業中発表等 (20%)
参加度 (20%)	

上記に加えて学期末英語テスト20%
授業中発表、参加度には、ペアやグループでの作業に積極的に参加する姿勢が評価に含まれる。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <q>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　増田　聖日恵	

テーマ

国際語としての英語を使うことに自信を持とう。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

·新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動 ·各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内での指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (C) 食習慣について話す。
第3回　Unit 7 (D) 好きな食べ物について話す。
第4回　Unit 8 (C) 自分の町の面白い場所について話す。
第5回　Unit 8 (D) 観光スポットについてプレゼンテーションをする。
第6回　Unit 9 (C) 人が最近していることを説明する。
第7回　Unit 9 (D) 人が最近していることについて話し合う。
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (C) 日課を話す（過去）。
第10回　Unit 10 (D) 過去の活動を説明する。
第11回　Unit 11 (C) 過去の休暇について話す。
第12回　Unit 11 (D) 旅行の経験を説明する。
第13回　Unit 12 (C) 計画について話し合う。
第14回　Unit 12 (D) 伝統的な誕生日の過ごし方を説明する。
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM
著者:　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社:　Cambridge University Press
出版年:　2013　　ISBN:　9780521126151

Four Corners, 1, Workbook
著者:　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社:　Cambridge University Press
出版年:　2013　　ISBN:　9780521126540

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30 ）　　小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <r>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　金子　秋子	

テーマ

TOEICテスト受験対策を通して英語運用能力を向上させる。

授業の到達目標

前期に引き続き、TOEICのリスニング・リーディングパートに対応できる語彙・文法力、リスニング力、読解力の養成を目的とする。

授業の概要

TOEICテストの問題形式や出題傾向を念頭に置きながら、各パートの問題演習を行います。語彙についてはユニットごとの単語リストで意味の確認をしながら問題演習を行います。随時、学習した範囲の復習テストを行います。終盤ではTOEICテストの模擬演習を行います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

語彙、文法事項の予習復習。
リスニング教材の聞き直し。小テストは採点して返し、必要に応じて解答、解説を行います。

内　容

第1回　Unit 2 Travel
第2回　Unit 4 Meetings
第3回　Unit 6 Shopping
第4回　Unit 8 Daily Lifr
第5回　Unit 10 Business
第6回　Unit 12 Finance and Banking
第7回　Unit 14 Health and Welfare
第8回　模擬テスト演習
第9回　模擬テスト演習
第10回　模擬テスト演習
第11回　模擬テスト演習
第12回　まとめのテスト
第13回　映画の英語にトライ
第14回　おもてなしの英語にトライ
第15回　おもてなしの英語にトライ

履修上の注意点

語彙・文法事項の予習・復習をしっかり行うこと。辞書を携帯すること。
3分の2の出席を必要とする。

教科書

Step-up Skills for the TOEIC Listening and Reading Test
著者:　北尾泰幸、ほか
出版社:　朝日出版
出版年:　2017　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ）　　小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 30% ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <s>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小川　享子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解)活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業内での指示に従うこと.
各ユニットで学ぶ語彙、英語表現は予習・復習を介して覚えること(小テストやまとめのテストにおいて確認し、採点をして返す)。
提出した課題は個人的に添削したり、クラスの中で全体的なコメントをしてフィードバック。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (B): Exchange Contact Information 連絡先を交換する
第3回　Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?、(Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する
第4回　Unit 8 (B): Discuss Long-and Short-Term Plans 短期、長期計画について話す
第5回　Unit 8 (D): (Reading) Future Energy、(Writing/Speaking) 未来について語る
第6回　oUnit 9 (B): Explain Preferences 好みを説明する
第7回　Unit 9 (D): (Reading) Silk、(Writing/Speaking) 質と価値を評価する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (B): Compare Lifestyles ライフスタイルを比較する
第10回　Unit 10 (D): (Reading) The Secrets of Long Life、(Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する
第11回　Unit 11 (B): Interview for a Job 就職の面接をする
第12回　Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements、(Writing/Speaking) 人類の偉大な到達点について語る
第13回　Unit 12 (B): Make Choices on How to Spend Your Money お金の使い道を決める
第14回　Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness、(Writing/Speaking) お金と幸福を評価する
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験・レポート　(45%)　　小テスト　(10%)
授業中課題　(10~0%)　　授業中発表等　(0~10%)
参加度　(15%)
上記に加えて学期末英語テスト20%。
試験はまとめのテスト、小テストは語彙や実技のテスト、授業中の課題と発表は合わせて10%とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA〈t〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田中　美和子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解)活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業内での指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (B): Make a Phone Call 電話をかける
第3回　Unit 7 (D): (Reading) Soccer–The Beautiful Game, (Writing/Speaking) 自分の能力に関して書く
第4回　Unit 8 (B): Buy Clothes 服を買う
第5回　Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes, (Writing/Speaking) 人の衣服を描写する
第6回　Unit 9 (B): Plan a Party パーティーの計画を立てる
第7回　Unit 9 (D): (Reading)"Ron Finley: A Guerilla Gardener in South Central L.A., (Writing/Speaking) 食習慣について書
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (B):Ask About and Describe Symptom 症状を描写する
第10回　Unit 10 (D): (Reading) Preventing Disease, (Writing/Speaking) 病気の防止について話す
第11回　Unit 11 (B): Describe Holiday Traditions 祝祭日について描写する
第12回　Unit 11 (D): (Reading) Derek Sivers: Keep Your Goals to Yourself, (Writing/Speaking) 夢と計画を語る
第13回　Unit 12 (B): Give Biographical Information 生物の情報を伝える
第14回　Unit 12 (D): (Reading) Human Migration, (Writing/Speaking) 休暇中の葉書を書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 20 ）

遅刻3回で、欠席1回に換算します。なお、辞書(電子辞書、紙の辞書)を、毎回持参するようにしてください。なお、上記に加えて学期末英語テスト20%。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <u>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　原　俊樹	

テーマ

ー英語を普段使いにしようー
実践的な英語の利用

授業の到達目標

ＩAと同様に基本的な英語の理解・表現に必要な語彙・文法的知識・語法を身につける。

授業の概要

基本的にはテキストの各ユニットに沿って英語学習のための基礎力をつける。中学・高校で学んできたいわゆる「学校英文法」を今一度体系的に確認・拡充する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習・復習を確実にやりこなすこと。

内　　容

第1回　テキスト前半部（ＩA範囲）の学習内容の整理と確認。基礎力判定テスト。
第2回　英文の基本表現の確認Ⅰ：英文の成り立ち・主語と述語動詞・態・時制。
第3回　英文の基本表現の確認Ⅱ：文の要素と5文型・修飾語句。
第4回　叙法の確認：命令法・直説法・仮定法
第5回　助動詞の用法1
第6回　助動詞の用法2
第7回　不定詞、動名詞と分詞
第8回　話法1
第9回　話法2
第10回　比較：構文と級変化
第11回　複雑な構造を持つ文の理解1：分詞構文
第12回　複雑な構造を持つ文の理解2：接続語句と重文・複文
第13回　否定：部分否定と全否定
第14回　疑問詞と疑問文
第15回　後期学習事項のまとめと確認

履修上の注意点

教科書

LIFESAVER Basic English in Medical Situation
著者：　Maki Inoue/ Toshiya Sato
出版社：　MACMILLANLANGUAGEHOUSE
出版年：　2005　　ISBN：　9784777360369

参考書

高校時代の辞書・英語参考書
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート （ 40% ）　　小テスト （ 10% ）
授業中課題 （ 10% ）　　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 10% ）
上記に加えて学期末英語テスト20%
授業中の態度(私語・スマホ・携帯電話の使用など)も評価に入れます。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <v>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　高居　佐紀	

テーマ

「医療」や「健康」問題について、今世界で人々が直面している現状を知り、その解決に人々が努力している様子を理解する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

医療やhealth careの題材でリーディングスキルを効率的に修得する。CDを利用して音読練習を行う。患者と医者、患者と看護婦の意思疎通に役立つ表現を覚える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　Unit7 Keep Your Heart Moving ①
第2回　Unit7 Keep Your Heart Moving ②
第3回　Unit8 Teens Light Up E-Cigarettes ①
第4回　Unit8　Teens Light Up E-Cigarettes ②
第5回　Useful Expressions: Examination Language and General Exam Instructions
第6回　Unit9 Curing Peanut Allergies ①
第7回　Unit9 Curing Peanut Allergies ②
第8回　Unit10 Cancer and Poverty ①
第9回　Unit10 Cancer and Poverty ②
第10回　Useful Expressions: Pains and Sensations
第11回　Unit11 AED ①
第12回　UNit11 AED ②
第13回　Unit12 Global Warming Triggers Disease ①
第14回　Unit11 Global Warming Triggers Disease ②
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

Caregiver New Edition 新訂版
著者:　近藤進　Gerald R.Gordon
出版社:　朝日出版社
出版年:　2015　　ISBN:　9784255155654

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30 ）　　小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ 0 ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA〈w〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　川口　玲子	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
（受験有無や受講生知識のヒアリング、試験構成確認等）
第2回　単語、Part 1対策, Part 2対策, Part 6対策
第3回　単語、Part 4対策, Part 7対策
第4回　リスニングPart3②、リーディングPart7①
第5回　リスニングPart4②、リーディングPart7③、模試前まとめ
第6回　リーディングテスト演習及び解答解説
第7回　単語、Part 3対策, Part 5対策
第8回　単語、Part 4対策, Part 7対策
第9回　単語、Part 2対策, Part 6対策
第10回　進度調整/Review/弱点強化
第11回　単語、Part 3対策, Part 7対策
第12回　単語、Part 2対策, Part 6対策
第13回　単語、Part 4対策, Part 7対策
第14回　リスニングテスト演習及び解答解説
第15回　リーディングテスト解説

履修上の注意点

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Sapphire
著者:　ECC
出版社:　ECC
出版年:　2016年　　ISBN:

TOEICテスト新形式問題補助教材β
著者:　ECC
出版社:　ECC
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA〈x〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　櫃本　一美	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解)活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業内での指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (B): Make a Phone Call 電話をかける
第3回　Unit 7 (D): (Reading) Soccer–The Beautiful Game, (Writing/Speaking) 自分の能力に関して書く
第4回　Unit 8 (B): Buy Clothes 服を買う
第5回　Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes, (Writing/Speaking) 人の衣服を描写する
第6回　Unit 9 (B): Plan a Party パーティーの計画を立てる
第7回　Unit 9 (D): (Reading)"Ron Finley: A Guerilla Gardener in South Central L.A., (Writing/Speaking) 食習慣について書
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (B):Ask About and Describe Symptom 症状を描写する
第10回　Unit 10 (D): (Reading) Preventing Disease, (Writing/Speaking) 病気の防止について話す
第11回　Unit 11 (B): Describe Holiday Traditions 祝祭日について描写する
第12回　Unit 11 (D): (Reading) Derek Sivers: Keep Your Goals to Yourself, (Writing/Speaking) 夢と計画を語る
第13回　Unit 12 (B): Give Biographical Information 生物の情報を伝える
第14回　Unit 12 (D): (Reading) Human Migration, (Writing/Speaking) 休暇中の葉書を書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。テキストを持参していない者、授業中の課題に取り組まない者は出席とみなしません。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
上記に加えて学期末英語テスト20%。授業中課題は小テストも含める。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <y>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ディーグル, ジェームス	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness.（コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.
I am available to talk to stud myself between classes and also hand back reports with scores giving suggestions during class for improvement on speaking and grammar skills.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　it 7 (A): Identify Activities that Are Happening Now（現在進行形を使う）
第3回　Unit 7 (C): Talk About Abilities（できること・できないことについて話す）
第4回　Unit 8 (A): Identify and Shop for Clothes（洋服・買い物・服装の描写）
第5回　Unit 8 (C): Express Likes and Dislikes（好みを表現する）
第6回　Unit 9 (A): Order a Meal（レストランでの注文）
第7回　Unit 9 (C): Describe Your Diet（自分の食生活について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A): Identify Parts of the Body to Say How You Feel（体調を伝えるために体の各部を描写する）
第10回　Unit 10 (C): Identify Remedies and Give Advice（治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える）
第11回　Unit 11 (A): Plan Special Days（特別な日の予定を立てる）
第12回　Unit 11 (C): Make Life Plans（人生設計について話す）
第13回　Unit 12 (A): Use the Simple Past（過去形で話す）
第14回　Unit 12 (C): Describe a Move（引っ越しについて話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 15 ）
参加度（ 45 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA〈z〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　山﨑 清水	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解)活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業内での指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (B): Exchange Contact Information 連絡先を交換する
第3回　Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?、(Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する
第4回　Unit 8 (B): Discuss Long-and Short-Term Plans 短期、長期計画について話す
第5回　Unit 8 (D): (Reading) Future Energy、(Writing/Speaking) 未来について語る
第6回　Unit 9 (B): Explain Preferences 好みを説明する
第7回　Unit 9 (D): (Reading) Silk、(Writing/Speaking) 質と価値を評価する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (B): Compare Lifestyles ライフスタイルを比較する
第10回　Unit 10 (D): (Reading) The Secrets of Long Life、(Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する
第11回　Unit 11 (B): Interview for a Job 就職の面接をする
第12回　Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements、(Writing/Speaking) 人類の偉大な到達点について語る
第13回　Unit 12 (B): Make Choices on How to Spend Your Money お金の使い道を決める
第14回　Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness、(Writing/Speaking) お金と幸福を評価する
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 10 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <Ha>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山﨑　清水	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

世界のニュースを読んで異文化理解と英語力の向上を目指す。

授業の概要

社会、文化、政治経済、情報、言語、教育、科学、医学、環境、娯楽、スポーツなどのあらゆる分野に関するニュースを読んで英語能力の向上を目指す。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　2017: A Year for Sumo Nostalgia
第3回　How to Listen to Trump Every Day
第4回　Past is Bittersweet in Cuban Town
第5回　Tokyo Cell Scientist Gets Nobel Prize
第6回　復習
第7回　Will London Fall?
第8回　Money, Power and Family: Inside the Chaebol of South Korea
第9回　Why ″Sorry″ is So Hard to Say
第10回　The Radical Right's United Front
第11回　復習
第12回　WhatsApp Becomes Migrants' Lingua Franca
第13回　Kosher, Vegan or Gluten-Free?
第14回　Orbiting a Near Star, Potential Havens for Alien Life
第15回　″No Regrets″ as Mao bids Farewell

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。必ず予習して下さい。テストは随時実施します。

教科書

English through the News Media
著者:　高橋優身／伊藤典子／Richard Powell
出版社:　朝日出版社
出版年:　2018　　ISBN:　9784255156248

参考書

成績評価

試験・レポート （ 40 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 10 ）	

上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <Hb>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　高居　佐紀	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解)活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業内での指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (B): Exchange Contact Information 連絡先を交換する
第3回　Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?、(Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する
第4回　Unit 8 (B): Discuss Long-and Short-Term Plans 短期、長期計画について話す
第5回　Unit 8 (D): (Reading) Future Energy、(Writing/Speaking) 未来について語る
第6回　Unit 9 (B): Explain Preferences 好みを説明する
第7回　Unit 9 (D): (Reading) Silk、(Writing/Speaking) 質と価値を評価する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (B): Compare Lifestyles ライフスタイルを比較する
第10回　Unit 10 (D): (Reading) The Secrets of Long Life、(Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する
第11回　Unit 11 (B): Interview for a Job 就職の面接をする
第12回　Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements、(Writing/Speaking) 人類の偉大な到達点について語る
第13回　Unit 12 (B): Make Choices on How to Spend Your Money お金の使い道を決める
第14回　Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness、(Writing/Speaking) お金と幸福を評価する
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験・レポート　(30)　　小テスト　(20)
授業中課題　( )　　授業中発表等　( )
参加度　(30)
上記に加えて学期末英語テスト20%。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <Hc>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　占部　幹也	

テーマ

理学療法や心理療法など、ライフサイエンス的な分野を専攻する学生が、自身の専攻に関わるテーマについて情報を的確にインプットし、それらの情報を自身の言葉に置き換えて発信するために必要な総合的な英語運用力（英語の四技能）をバランスよく身に付ける。

授業の到達目標

・医療用語の理解（必須単語・表現は約100）
・医療的な文章（300－400語程度）の読解力を上げる。
・医療的な文章（150－300語程度）の聴解力を上げる。
・インプットした情報を自身で整理し、それらを自分の言葉で書いたり話したりして伝えられるようになる。

授業の概要

日本人講師と外国人講師が交互に担当するティームティーチング
・学生の積極的な参加によるアクティブラーニング形式
・日本人講師パートでは、単語の説明や読解、聴解などのインプット部分を中心に取り扱う
・外国人講師パートではインプットした情報を相手に伝えるリテリングや療法士と患者との会話のロールプレイなど、アウトプット中心に取り扱う

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

その日習った単語の復習（単語テストへの準備）とロールプレイなどのアクティビティーの準備

内　容

第1回　高次脳機能障害
第2回　パーキンソン病
第3回　骨粗鬆症
第4回　脳卒中
第5回　これまでの中身の復習
第6回　循環器疾患
第7回　糖尿病
第8回　呼吸器疾患
第9回　これまでの中身の復習
第10回　慢性関節リウマチ
第11回　大腿骨頸部骨折
第12回　脊髄損傷
第13回　脳性麻痺
第14回　事例研究
第15回　総合問題演習を通した復習

履修上の注意点

教科書

Art of Healing
著者:　荒金　房子
出版社:　南雲堂
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30 ）	小テスト （ 30 ）
授業中課題 （ 0 ）	授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <Hd>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾃｨｰｸﾞﾙ, ｼﾞｪｰﾑｽ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness.（コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.
I am available to talk to stud myself between classes and also hand back reports with scores giving suggestions during class for improvement on speaking and grammar skills.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A): Talk About Personal Communication （コミュニケーション手段について話す）
第3回　Unit 7 (C): Describe Characteristics and Qualities（特徴と質を描写する）
第4回　Unit 8 (A): Talk About Plans（予定について話す）
第5回　Unit 8 (C): Make Weather Predictions（天気の予想をする）
第6回　Unit 9 (A): Make Comparisons（服装を比べる）
第7回　Unit 9 (C): Talk About Clothing Materials（洋服の素材について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A): Give Advice on Healthy Habits（健康な習慣のアドバイスをする）
第10回 Unit 10 (C): Ask About Lifestyles（ライフスタイルについて尋ねる）
第11回 Unit 11 (A): Talk About Today's Chores（今日の雑用について話す）
第12回 Unit 11 (C): Talk About Personal Accomplishments（個人の到達点について話す）
第13回 Unit 12 (A): Talk About Managing Your Money（お金の管理について話す）
第14回 Unit 12 (C): Talk About Cause and Effect（原因と結果について話す）
第15回 Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験･レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 15 ）
参加度（ 45 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <R>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　杉山 泰	

テーマ

Cultural Literacy（文化的基礎知識）を生かして学ぶ英語

授業の到達目標

「パン」や「アルバイト」が大和言葉の日本語でないことは誰でも知っているが、「フリーター」だとか「カンヌング」を英語だと勘違いしてはいないだろうか。今は日本語は英語の基礎知識なしにはAKB48も正しい発音すらできない。筆記体の書き方から始まり、大学生として当然知っておくべき日英語対照基礎英文法を毎回教科書の問題と、プリントを仕上げることで学んで行きたい。

授業の概要

毎回が手作業なので、教科書と辞書を持ってきて授業中にっ教科書の問題を解き、応用のプリント問題を仕上げてもらう。翌週添削して返却する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

教科書の問題を自宅でやっておけば、毎回のプリントを仕上げる時間が短くなり、授業をスムーズに済ませることができる。

内　容

第1回　自己紹介。文化的基礎知識の説明と「氏名カード」の記入。
第2回　Lesson 1 アルファベットの不思議。パスポート、ランディングカードの記入と筆記体の書き方。
第3回　Lesson 2 「私」からの発送（S+V+O構文による現在/過去/未来の文）
第4回　Lesson 3 「同名詞構文」（Would you mind opening the window?）
第5回　Lesson 4 客観的存在表現There is 構文（There is no problem of ...ing）
第6回　Lesson 5 The sooner, the better.の比較構文
第7回　Lesson 6 I am your mind reader.（S+V+C構文）
第8回　Lesson 7 be 動詞と「不定詞」構文（I am pleased to see you.）構文。
第9回　Lesson 8 S+V+O構文と受動態（An A-bomb was dropped on Hiroshima.）
第10回　Lesson 9 英語の時制と受動態
第11回　Lesson 10 S+V+C構文と比較級。じゃんけんの論理と最上級。
第12回　Lesson 11 have動詞を用いた役にたつ表現。
第13回　Lesson 12 現在完了形構文と「時間の幅」
第14回　Lesson 13 仮定法構文。起こりえないことをどう表現するか。
第15回　Lesson 14 Why-because logicの研究。まとめ。

履修上の注意点

毎回最後のプリントを配布し仕上げてもらうので、辞書が必要。翌週添削して返却するので、プリントを提出していないと出席にならない。

教科書

Do You Kow This?
著者:　杉山 泰
出版社:　朝日出版社
出版年:　2005　　ISBN:

参考書

「イギリス社会」入門
著者:　コリン・ジョイス
出版社:　NHK出版
出版年:　2011　　ISBN:

英語化は愚民化
著者:　施 光恒
出版社:　集英社新書
出版年:　2015　　ISBN:

aks201a381

実践日本人の英語

著者: マーク・ピーターセン

出版社: 岩波新書

出版年: 2013 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ 20 ）

授業中課題（ 40 ） 授業中発表等（ 20 ）

参加度（ 20 ）

毎回「プリント」を仕上げてもらうので、欠席した場合は必ず次週に「プリント」をもらい、仕上げて提出すること。その場合は、遅れの出席として認める場合がある。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <Tb>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　高居 佐紀	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　オリエンテーション
（受験有無や受講生知識のヒアリング、試験構成確認等）
第2回　単語、Part2対策、Part5対策
第3回　単語、Part4対策、Part7対策
第4回　リスニングPart3②、リーディングPart7①
第5回　リスニングPart4②、リーディングPart7③、模試前まとめ
第6回　リーディングテスト演習及び解答解説
第7回　単語、Part2対策、Part7対策
第8回　単語、Part4対策、Part7対策
第9回　単語、Part3対策、Part5対策
第10回　進度調整/Review/弱点強化
第11回　単語、Part1対策、Part5対策
第12回　単語、Part2対策、Part7対策
第13回　単語、Part4対策、Part7対策
第14回　リスニングテスト演習及び解答解説
第15回　リーディングテスト解説続き

履修上の注意点

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Emerald
著者:　ECC
出版社:　ECC
出版年:　2016年　　ISBN:
TOEICテスト新形式問題補助教材β
著者:　ECC
出版社:　ECC
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
上記に加えて期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <He>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ハビブ, ジェラード	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness. (コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation (オリエンテーション)
第2回　Unit 7 (A): Identify Activities that Are Happening Now (現在進行形を使う)
第3回　Unit 7 (C): Talk About Abilities (できること・できないことについて話す)
第4回　Unit 8 (A): Identify and Shop for Clothes (洋服・買い物・服装の描写)
第5回　Unit 8 (C): Express Likes and Dislikes (好みを表現する)
第6回　Unit 9 (A): Order a Meal (レストランでの注文)
第7回　Unit 9 (C): Describe Your Diet (自分の食生活について話す)
第8回　Review 1 (前半の復習とまとめ)
第9回　Unit 10 (A): Identify Parts of the Body to Say How You Feel (体調を伝えるために体の各部を描写する)
第10回　Unit 10 (C): Identify Remedies and Give Advice (治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える)
第11回　Unit 11 (A): Plan Special Days (特別な日の予定を立てる)
第12回　Unit 11 (C): Make Life Plans (人生設計について話す)
第13回　Unit 12 (A): Use the Simple Past (過去形で話す)
第14回　Unit 12 (C): Describe a Move (引っ越しについて話す)
第15回　Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験・レポート (30)　　小テスト (20)
授業中課題 ( )　　授業中発表等 ( )
参加度 (30)
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <Hf>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　櫃本　一美	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解)活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業内での指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (B): Make a Phone Call 電話をかける
第3回　Unit 7 (D): (Reading) Soccer–The Beautiful Game, (Writing/Speaking) 自分の能力に関して書く
第4回　Unit 8 (B): Buy Clothes 服を買う
第5回　Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes, (Writing/Speaking) 人の衣服を描写する
第6回　Unit 9 (B): Plan a Party パーティーの計画を立てる
第7回　Unit 9 (D): (Reading)"Ron Finley: A Guerilla Gardener in South Central L.A., (Writing/Speaking) 食習慣について書
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (B):Ask About and Describe Symptom 症状を描写する
第10回　Unit 10 (D): (Reading) Preventing Disease, (Writing/Speaking) 病気の防止について話す
第11回　Unit 11 (B): Describe Holiday Traditions 祝祭日について描写する
第12回　Unit 11 (D): (Reading) Derek Sivers: Keep Your Goals to Yourself, (Writing/Speaking) 夢と計画を語る
第13回　Unit 12 (B): Give Biographical Information 生物の情報を伝える
第14回　Unit 12 (D): (Reading) Human Migration, (Writing/Speaking) 休暇中の葉書を書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。テキストを持参していない者、授業中の課題に取り組まない者は出席とみなしません。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
上記に加えて学期末英語テスト20%。授業中課題は小テストも含める。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <Hg>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小川　享子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解)活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業内での指示に従うこと。
各ユニットで学ぶ語彙、英語表現は予習・復習を介して覚えること(小テストやまとめのテストにおいて確認し、採点をして返す)。
提出した課題は個人的に添削したり、クラスの中で全体的なコメントをしてフィードバック。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (B): Exchange Contact Information 連絡先を交換する
第3回　Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?、(Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する
第4回　Unit 8 (B): Discuss Long-and Short-Term Plans 短期、長期計画について話す
第5回　Unit 8 (D): (Reading) Future Energy、(Writing/Speaking) 未来について語る
第6回　oUnit 9 (B): Explain Preferences 好みを説明する
第7回　Unit 9 (D): (Reading) Silk、(Writing/Speaking) 質と価値を評価する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (B): Compare Lifestyles ライフスタイルを比較する
第10回　Unit 10 (D): (Reading) The Secrets of Long Life、(Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する
第11回　Unit 11 (B): Interview for a Job 就職の面接をする
第12回　Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements、(Writing/Speaking) 人類の偉大な到達点について語る
第13回　Unit 12 (B): Make Choices on How to Spend Your Money お金の使い道を決める
第14回　Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness、(Writing/Speaking) お金と幸福を評価する
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験・レポート　(45%)　　小テスト　(10%)
授業中課題　(10~0%)　　授業中発表等　(0~10%)
参加度　(15%)
上記に加えて学期末英語テスト20%。
試験はまとめのテスト、小テストは語彙や実技のテスト、授業中の課題と発表は合わせて10%とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <Hh>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　高田 悦子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解)活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業内での指示に従うこと.

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (B): Exchange Contact Information 連絡先を交換する
第3回　Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?、(Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する
第4回　Unit 8 (B): Discuss Long-and Short-Term Plans 短期、長期計画について話す
第5回　Unit 8 (D): (Reading) Future Energy、(Writing/Speaking) 未来について語る
第6回　Unit 9 (B): Explain Preferences 好みを説明する
第7回　Unit 9 (D): (Reading) Silk、(Writing/Speaking) 質と価値を評価する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (B): Compare Lifestyles ライフスタイルを比較する
第10回　Unit 10 (D): (Reading) The Secrets of Long Life、(Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する
第11回　Unit 11 (B): Interview for a Job 就職の面接をする
第12回　Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements、(Writing/Speaking) 人類の偉大な到達点について語る
第13回　Unit 12 (B): Make Choices on How to Spend Your Money お金の使い道を決める
第14回　Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness、(Writing/Speaking) お金と幸福を評価する
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。
辞書を必ず持ってきて下さい。(評価の対象になります。)

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験・レポート ( )　　小テスト (40%)
授業中課題 ( )　　授業中発表等 (25%)
参加度 (15%)
上記に加えて学期末英語テスト20%。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定

担 当 者　ホリグチ, タケシ

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness.（コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A): Identify Activities that Are Happening Now（現在進行形を使う）
第3回　Unit 7 (C): Talk About Abilities（できること・できないことについて話す）
第4回　Unit 8 (A): Identify and Shop for Clothes（洋服・買い物・服装の描写）
第5回　Unit 8 (C): Express Likes and Dislikes（好みを表現する）
第6回　Unit 9 (A): Order a Meal（レストランでの注文）
第7回　Unit 9 (C): Describe Your Diet（自分の食生活について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A): Identify Parts of the Body to Say How You Feel（体調を伝えるために体の各部を描写する）
第10回　Unit 10 (C): Identify Remedies and Give Advice（治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える）
第11回　Unit 11 (A): Plan Special Days（特別な日の予定を立てる）
第12回　Unit 11 (C): Make Life Plans（人生設計について話す）
第13回　Unit 12 (A): Use the Simple Past（過去形で話す）
第14回　Unit 12 (C): Describe a Move（引っ越しについて話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　占部　幹也	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション、Part 5対策、宿題説明
第2回　単語、Part 3対策, Part 7対策
第3回　リスニングPart3①、リーディングPart6
第4回　リスニングPart4①、リーディングPart7②
第5回　リスニングテスト演習及び解答解説
第6回　リーディングテスト解説続き
第7回　単語、Part 3対策, Part 6対策
第8回　単語、Part 1対策, Part 5対策
第9回　単語、Part 3対策, Part 7対策
第10回　単語、Part 2対策, Part 5対策
第11回　単語、Part 4対策, Part 5対策
第12回　単語、Part 3対策, Part 7対策
第13回　模試前総まとめ
第14回　リーディングテスト演習及び解答
第15回　授業のまとめと学習到達度確認テスト

履修上の注意点

教科書

はじめてのTOEIC LISTENING AND READINGテスト本番模試 改訂版：新形式対応
著者：　入江 泉
出版社：旺文社
出版年：2016　　ISBN：9784010944486

参考書

成績評価

試験・レポート（30）　　小テスト（20）
授業中課題（　）　　授業中発表等（　）
参加度（30）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　クーラン, コーリ	

テーマ

Build confidence in using English as a global language.（国際語としての英語を使うことに自信を持とう。）

授業の到達目標

tudents will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）

授業の概要

･Various activities for understanding content in English involving the topics of new friends, people and places, personal possessions, daily life, free time, and work and play.（新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.
How to Feedback to Students:
Students' grades are monitored every week and feedback/advice is given whenever necessary.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A) 食事を描写する
第3回　Unit 7 (B) 好き嫌いを述べる
第4回　Unit 8 (A) 近所にある店等の位置を説明する
第5回　Unit 8 (B) 道案内を聞く・述べる
第6回　Unit 9 (A) 今していることを述べる
第7回　Unit 9 (B) 電話で話す時間があるかを尋ねる・今話せない理由を言う
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A) 先週末について話す
第10回　Unit 10 (B) 相槌を打つ・驚きを示す
第11回　Unit 11 (A) どこに居たのかを説明する
第12回　Unit 11 (B) 人の話に反応する
第13回　Unit 12 (A) 予定について話す
第14回　Unit 12 (B) 招待に応じる・断る
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM
著者:　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社:　Cambridge University Press
出版年:　2013　　ISBN:　9780521126151

Four Corners, 1, Workbook
著者:　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社:　Cambridge University Press
出版年:　2013　　ISBN:　9780521126540

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）

aks201a453

上記に加えて学期末英語テスト20%

Since this is a a speaking class, there is a heavy grading influence on in-class participation, performance, and attitude.

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　川口　玲子	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション、Part 1対策、宿題説明
第2回　単語、Part 3対策, Part 6対策
第3回　リスニングPart3①、リーディングPart6
第4回　リスニングPart4①、リーディングPart7②
第5回　リスニングテスト演習及び解答解説
第6回　リーディングテスト解説続き
第7回　単語、Part 3対策, Part 5対策
第8回　単語、Part 2対策, Part 5対策
第9回　単語、Part 1対策, Part 5対策
第10回　単語、Part 2対策, Part 5対策
第11回　単語、Part 4対策, Part 6対策
第12回　単語、Part 3対策, Part 7対策
第13回　模試前総まとめ
第14回　リーディングテスト演習及び解答解説
第15回　授業のまとめと学習到達度確認テスト

履修上の注意点

教科書

はじめてのTOEIC LISTENING AND READINGテスト本番模試 改訂版：新形式対応
著者：　入江 泉
出版社：旺文社
出版年：2016　　ISBN：　9784010944486

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <e>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　金子　秋子	

テーマ

TOEICテスト受験対策を通じて、英語運用力を向上させる。

授業の到達目標

TOEIC テストのリスニング・リーディングパートの問題に対応できる語彙・文法力・読解力の獲得を目的とする。

授業の概要

前期に引き続き、TOEICテストの問題形式、出題傾向を経験しながら、各パートの問題演習を行います。語彙についてはユニットごとの単語リストで意味の確認をしながら問題演習を行います。そのうえで、まとめのテストを行い、終盤では模擬テスト演習を行います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

語彙・文法事項の予習・復習をしっかり行うこと。
小テストは採点して返し、必要に応じて解答、解説を行います。

内　容

第1回　授業方法の説明。
Unit 1 Eating Out
第2回　Unit 3 Amusement
第3回　Unit 5 Personnel
第4回　Unit 7 Advertisement
第5回　Unit 9 Office Work
第6回　Unit 11 Traffic
第7回　Unit 13 Media
第8回　模擬テスト演習
第9回　模擬テスト演習
第10回　模擬テスト演習
第11回　模擬テスト演習
第12回　まとめのテスト
第13回　映画の英語にトライ
第14回　おもてなしの英語にトライ
第15回　おもてなしの英語にトライ

履修上の注意点

辞書を携帯すること。3分の2以上の出席が必要。

教科書

Step-up Skills for the TOEIC Listening and Reading Test
著者:　北尾泰幸、ほか
出版社:　朝日出版
出版年:　2017　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ）　　小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 30% ）
上記に加えて、期末英語テスト20%。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <f>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松村　優子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

·コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解（読解）活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内での指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (B): Make a Phone Call 電話をかける
第3回　Unit 7 (D): (Reading) Soccer–The Beautiful Game, (Writing/Speaking) 自分の能力に関して書く
第4回　Unit 8 (B): Buy Clothes 服を買う
第5回　Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes, (Writing/Speaking) 人の衣服を描写する
第6回　Unit 9 (B): Plan a Party パーティーの計画を立てる
第7回　Unit 9 (D): (Reading)“Ron Finley: A Guerilla Gardener in South Central L.A., (Writing/Speaking) 食習慣について書
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (B):Ask About and Describe Symptom 症状を描写する
第10回　Unit 10 (D): (Reading) Preventing Disease, (Writing/Speaking) 病気の防止について話す
第11回　Unit 11 (B): Describe Holiday Traditions 祝祭日について描写する
第12回　Unit 11 (D): (Reading) Derek Sivers: Keep Your Goals to Yourself, (Writing/Speaking) 夢と計画を語る
第13回　Unit 12 (B): Give Biographical Information 生物の情報を伝える
第14回　Unit 12 (D): (Reading) Human Migration, Writing/Speaking) 休暇中の葉書を書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）	小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 10% ）	授業中発表等 （ 15% ）
参加度 （ 15% ）	

上記に加えて学期末英語テスト
小テストは、14回、15回目の復習テストが中心である。参加度とは出席だけでなく、授業態度なども含まれる。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <g>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾊﾞｽｶｳﾞｨﾙ, ﾌﾞﾗｲｱﾝ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness. (コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation (オリエンテーション)
第2回　Unit 7 (A): Talk About Personal Communication (コミュニケーション手段について話す)
第3回　Unit 7 (C): Describe Characteristics and Qualities (特徴と質を描写する)
第4回　Unit 8 (A): Talk About Plans (予定について話す)
第5回　Unit 8 (C): Make Weather Predictions (天気の予想をする)
第6回　Unit 9 (A): Make Comparisons (服装を比べる)
第7回　Unit 9 (C): Talk About Clothing Materials (洋服の素材について話す)
第8回　Review 1 (前半の復習とまとめ)
第9回　Unit 10 (A): Give Advice on Healthy Habits (健康な習慣のアドバイスをする)
第10回　Unit 10 (C): Ask About Lifestyles (ライフスタイルについて尋ねる)
第11回　Unit 11 (A): Talk About Today's Chores (今日の雑用について話す)
第12回　Unit 11 (C): Talk About Personal Accomplishments (個人の到達点について話す)
第13回　Unit 12 (A): Talk About Managing Your Money (お金の管理について話す)
第14回　Unit 12 (C): Talk About Cause and Effect (原因と結果について話す)
第15回　Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験・レポート ( )　　小テスト (20)
授業中課題 (30)　　授業中発表等 ( )
参加度 (30)
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <h>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　フリン, マイケル	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness.（コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A): Identify Activities that Are Happening Now（現在進行形を使う）
第3回　Unit 7 (C): Talk About Abilities（できること・できないことについて話す）
第4回　Unit 8 (A): Identify and Shop for Clothes（洋服・買い物・服装の描写）
第5回　Unit 8 (C): Express Likes and Dislikes（好みを表現する）
第6回　Unit 9 (A): Order a Meal（レストランでの注文）
第7回　Unit 9 (C): Describe Your Diet（自分の食生活について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A): Identify Parts of the Body to Say How You Feel（体調を伝えるために体の各部を描写する）
第10回　Unit 10 (C): Identify Remedies and Give Advice（治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える）
第11回　Unit 11 (A): Plan Special Days（特別な日の予定を立てる）
第12回　Unit 11 (C): Make Life Plans（人生設計について話す）
第13回　Unit 12 (A): Use the Simple Past（過去形で話す）
第14回　Unit 12 (C): Describe a Move（引っ越しについて話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 35 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 45 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%Participation score is a composite score that includes homework and participation in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <i>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小川　享子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解)活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業内での指示に従うこと。
各ユニットで学ぶ語彙、英語表現は予習・復習を介して覚えること(小テストやまとめのテストにおいて確認し、採点をして返す)。
提出した課題は個人的に添削したり、クラスの中で全体的なコメントをしてフィードバック。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (B): Exchange Contact Information 連絡先を交換する
第3回　Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?、(Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する
第4回　Unit 8 (B): Discuss Long-and Short-Term Plans 短期、長期計画について話す
第5回　Unit 8 (D): (Reading) Future Energy、(Writing/Speaking) 未来について語る
第6回　Unit 9 (B): Explain Preferences 好みを説明する
第7回　Unit 9 (D): (Reading) Silk、(Writing/Speaking) 質と価値を評価する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (B): Compare Lifestyles ライフスタイルを比較する
第10回　Unit 10 (D): (Reading) The Secrets of Long Life、(Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する
第11回　Unit 11 (B): Interview for a Job 就職の面接をする
第12回　Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements、(Writing/Speaking) 人類の偉大な到達点について語る
第13回　Unit 12 (B): Make Choices on How to Spend Your Money お金の使い道を決める
第14回　Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness、(Writing/Speaking) お金と幸福を評価する
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験・レポート　(45%)　　小テスト　(10%)
授業中課題　(10~0%)　　授業中発表等　(0~10%)
参加度　(15%)

上記に加えて学期末英語テスト20%。
試験はまとめのテスト、小テストは語彙や実技のテスト、授業中の課題と発表は合わせて10%とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <j>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾋｴﾀﾗﾋﾃｨ, ｴﾚｷ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness.（コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

How to Feedback to Students:
Homework will be checked together in class. The teacher first checks that it's been done. After that the homework is covered question by question, students taking turns answering. The teacher gives correct answers if the students make mistakes in their answers.
Classwork feedback is given directly to the students during the class. This involves plus points for good work done and minus points for poor work or bad class behavior, such as sleeping in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A): Talk About Personal Communication （コミュニケーション手段について話す）
第3回　Unit 7 (C): Describe Characteristics and Qualities（特徴と質を描写する）
第4回　Unit 8 (A): Talk About Plans（予定について話す）
第5回　Unit 8 (C): Make Weather Predictions（天気の予想をする）
第6回　Unit 9 (A): Make Comparisons（服装を比べる）
第7回　Unit 9 (C): Talk About Clothing Materials（洋服の素材について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A): Give Advice on Healthy Habits（健康な習慣のアドバイスをする）
第10回　Unit 10 (C): Ask About Lifestyles（ライフスタイルについて尋ねる）
第11回　Unit 11 (A): Talk About Today's Chores（今日の雑用について話す）
第12回　Unit 11 (C): Talk About Personal Accomplishments（個人の到達点について話す）
第13回　Unit 12 (A): Talk About Managing Your Money（お金の管理について話す）
第14回　Unit 12 (C): Talk About Cause and Effect（原因と結果について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験・レポート（ 24 ）　　小テスト（ 24 ）

aks201a460

授業中課題（ 9 ）　　授業中発表等（ 16 ）

参加度（ 8 ）

上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <k>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　スミス, ジョン	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness.（コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A): Talk About Personal Communication （コミュニケーション手段について話す）
第3回　Unit 7 (C): Describe Characteristics and Qualities（特徴と質を描写する）
第4回　Unit 8 (A): Talk About Plans（予定について話す）
第5回　Unit 8 (C): Make Weather Predictions（天気の予想をする）
第6回　Unit 9 (A): Make Comparisons（服装を比べる）
第7回　Unit 9 (C): Talk About Clothing Materials（洋服の素材について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A): Give Advice on Healthy Habits（健康な習慣のアドバイスをする）
第10回　Unit 10 (C): Ask About Lifestyles（ライフスタイルについて尋ねる）
第11回　Unit 11 (A): Talk About Today's Chores（今日の雑用について話す）
第12回　Unit 11 (C): Talk About Personal Accomplishments（個人の到達点について話す）
第13回　Unit 12 (A): Talk About Managing Your Money（お金の管理について話す）
第14回　Unit 12 (C): Talk About Cause and Effect（原因と結果について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <I>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　田中　美和子	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness.（コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A): Identify Activities that Are Happening Now（現在進行形を使う）
第3回　Unit 7 (C): Talk About Abilities（できること・できないことについて話す）
第4回　Unit 8 (A): Identify and Shop for Clothes（洋服・買い物・服装の描写）
第5回　Unit 8 (C): Express Likes and Dislikes（好みを表現する）
第6回　Unit 9 (A): Order a Meal（レストランでの注文）
第7回　Unit 9 (C): Describe Your Diet（自分の食生活について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A): Identify Parts of the Body to Say How You Feel（体調を伝えるために体の各部を描写する）
第10回　Unit 10 (C): Identify Remedies and Give Advice（治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える）
第11回　Unit 11 (A): Plan Special Days（特別な日の予定を立てる）
第12回　Unit 11 (C): Make Life Plans（人生設計について話す）
第13回　Unit 12 (A): Use the Simple Past（過去形で話す）
第14回　Unit 12 (C): Describe a Move（引っ越しについて話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 50 ）
授業中課題（ 5 ）　　授業中発表等（ 5 ）
参加度（ 20 ）
遅刻3回で、欠席1回に換算します。なお、辞書（電子辞書、紙の辞書）を、毎回持参するようにしてください。なお、上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <m>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ソーソン, マーカス	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness. (コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation (オリエンテーション)
第2回　Unit 7 (A): Talk About Personal Communication (コミュニケーション手段について話す)
第3回　Unit 7 (C): Describe Characteristics and Qualities (特徴と質を描写する)
第4回　Unit 8 (A): Talk About Plans (予定について話す)
第5回　Unit 8 (C): Make Weather Predictions (天気の予想をする)
第6回　Unit 9 (A): Make Comparisons (服装を比べる)
第7回　Unit 9 (C): Talk About Clothing Materials (洋服の素材について話す)
第8回　Review 1 (前半の復習とまとめ)
第9回　Unit 10 (A): Give Advice on Healthy Habits (健康な習慣のアドバイスをする)
第10回　Unit 10 (C): Ask About Lifestyles (ライフスタイルについて尋ねる)
第11回　Unit 11 (A): Talk About Today's Chores (今日の雑用について話す)
第12回　Unit 11 (C): Talk About Personal Accomplishments (個人の到達点について話す)
第13回　Unit 12 (A): Talk About Managing Your Money (お金の管理について話す)
第14回　Unit 12 (C): Talk About Cause and Effect (原因と結果について話す)
第15回　Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験・レポート (15)　　小テスト (15)
授業中課題 (15)　　授業中発表等 (15)
参加度 (20)
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <n>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小川　享子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解)活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業内での指示に従うこと。
各ユニットで学ぶ語彙、英語表現は予習・復習を介して覚えること(小テストやまとめのテストにおいて確認し、採点をして返す)。
提出した課題は個人的に添削したり、クラスの中で全体的なコメントをしてフィードバック。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (B): Exchange Contact Information 連絡先を交換する
第3回　Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?、(Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する
第4回　Unit 8 (B): Discuss Long-and Short-Term Plans 短期、長期計画について話す
第5回　Unit 8 (D): (Reading) Future Energy、(Writing/Speaking) 未来について語る
第6回　Unit 9 (B): Explain Preferences 好みを説明する
第7回　Unit 9 (D): (Reading) Silk、(Writing/Speaking) 質と価値を評価する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (B): Compare Lifestyles ライフスタイルを比較する
第10回　Unit 10 (D): (Reading) The Secrets of Long Life、(Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する
第11回　Unit 11 (B): Interview for a Job 就職の面接をする
第12回　Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements、(Writing/Speaking) 人類の偉大な到達点について語る
第13回　Unit 12 (B): Make Choices on How to Spend Your Money お金の使い道を決める
第14回　Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness、(Writing/Speaking) お金と幸福を評価する
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験・レポート　(45%)　　小テスト　(10%)
授業中課題　(10~0%)　　授業中発表等　(0~10%)
参加度　(15%)

上記に加えて学期末英語テスト20%。
試験はまとめのテスト、小テストは語彙や実技のテスト、授業中の課題と発表は合わせて10%とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <o>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　占部　幹也	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の概要

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリスニング、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　Unit 1 Entertainment 映画や音楽などの娯楽
第2回　Unit 2 Personnel　求人広告や社内人事
第3回　Unit 3 Office Work & Supplies オフィス業務や備品など
第4回　Unit 4 Office Messages 電話やEメールなどのオフィスメッセージ
第5回　Unit 5 Eating Out ランチやパーティーなどの外食
第6回　Unit 6 Technololgy　コンピューターなどの化学技術
第7回　Unit 7 Research & Merchnadise Development 調査研究や商品開発
第8回　Unit 8 Finance & Budgets 銀行業務や経理などの財務
第9回　Unit 9 Purchases ショッピングや注文・出荷など
第10回 Unit 10 Manufacturing 工場管理や生産ラインなどの製造
第11回 Unit 11 Marketing & Sales マーケティングや販売
第12回 Unit 12 Travel 交通機関や旅行関連
第13回 Unit 13 Contracts & Negotiations 契約や交渉など
第14回 Unit 14 Housing & Properties 住宅やビルなどの不動産　Unit 15 Health　医療や健康
第15回 授業のまとめと学習到達度確認テスト

履修上の注意点

教科書

Successful Steps for the TOEIC Test Revised Edition
著者: 塚野壽一 Rovert VanBenthuysen
出版社: 成美堂
出版年: 2007　　ISBN: 9784791910465

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <p>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾋｴﾀﾗﾋﾃｨ, ｴﾚｷ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness.（コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

How to Feedback to Students:
Homework will be checked together in class. The teacher first checks that it's been done. After that the homework is covered question by question, students taking turns answering. The teacher gives correct answers if the students make mistakes in their answers.
Classwork feedback is given directly to the students during the class. This involves plus points for good work done and minus points for poor work or bad class behavior, such as sleeping in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A): Talk About Personal Communication （コミュニケーション手段について話す）
第3回　Unit 7 (C): Describe Characteristics and Qualities（特徴と質を描写する）
第4回　Unit 8 (A): Talk About Plans（予定について話す）
第5回　Unit 8 (C): Make Weather Predictions（天気の予想をする）
第6回　Unit 9 (A): Make Comparisons（服装を比べる）
第7回　Unit 9 (C): Talk About Clothing Materials（洋服の素材について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A): Give Advice on Healthy Habits（健康な習慣のアドバイスをする）
第10回　Unit 10 (C): Ask About Lifestyles（ライフスタイルについて尋ねる）
第11回　Unit 11 (A): Talk About Today's Chores（今日の雑用について話す）
第12回　Unit 11 (C): Talk About Personal Accomplishments（個人の到達点について話す）
第13回　Unit 12 (A): Talk About Managing Your Money（お金の管理について話す）
第14回　Unit 12 (C): Talk About Cause and Effect（原因と結果について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験・レポート（ 24 ）　　小テスト（ 24 ）

aks201a466

授業中課題（８）　　授業中発表等（16）

参加度（８）

上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <q>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　クーラン, コーリ	

テーマ

Build confidence in using English as a global language.（国際語としての英語を使うことに自信を持とう。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）

授業の概要

･Various activities for understanding content in English involving the topics of new friends, people and places, personal possessions, daily life, free time, and work and play.（新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

How to Feedback to Students:
Students' grades are monitored every week and feedback/advice is given whenever necessary.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A) 食事を描写する
第3回　Unit 7 (B) 好き嫌いを述べる
第4回　Unit 8 (A) 近所にある店等の位置を説明する
第5回　Unit 8 (B) 道案内を聞く・述べる
第6回　Unit 9 (A) 今していることを述べる
第7回　Unit 9 (B) 電話で話す時間があるかを尋ねる・今話せない理由を言う
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A) 先週末について話す
第10回　Unit 10 (B) 相槌を打つ・驚きを示す
第11回　Unit 11 (A) どこに居たのかを説明する
第12回　Unit 11 (B) 人の話に反応する
第13回　Unit 12 (A) 予定について話す
第14回　Unit 12 (B) 招待に応じる・断る
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM
著者:　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社:　Cambridge University Press
出版年:　2013　　ISBN:　9780521126151

Four Corners, 1, Workbook
著者:　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社:　Cambridge University Press
出版年:　2013　　ISBN:　9780521126540

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ ）

aks201a467

参加度 （ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

Since this is a a speaking class, there is a heavy grading influence on in-class participation, performance, and attitude.

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <r>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　金子　秋子	

テーマ

TOEICテスト受験対策を通じて、英語運用力を向上させる。

授業の到達目標

前期に引き続き、TOEIC テストのリスニング・リーディングパートの問題に対応できる語彙・文法力・読解力の獲得を目的とする。

授業の概要

TOEICテストの問題形式、出題傾向を経験しながら、各パートの問題演習を行います。語彙、文法については、毎回小テストを行うのでしっかりと復習をすることが必要です。そのうえで、まとめのテストを行い、終盤では模擬テスト演習を行います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

語彙・文法事項の予習・復習をしっかり行うこと。

内　容

第1回　授業方法の説明
Unit 1 Eating Out
第2回　Unit 3 Amusement
第3回　Unit 5 Personnel
第4回　Unit 7 Advertisement
第5回　Unit 9 Office Work
第6回　Unit 11 Traffic
第7回　Unit 13 Media
第8回　模擬テスト演習
第9回　模擬テスト演習
第10回 模擬テスト演習」
第11回 模擬テスト演習
第12回 まとめテスト
第13回 映画の英語にトライ
第14回 おもてなしの英語にトライ
第15回 おもてなしの英語にトライ

履修上の注意点

辞書を携帯すること。3分の2以上の出席が必要。

教科書

Step-up Skills for the TOEIC Listening and Reading Test
著者:　北尾泰幸、ほか
出版社:　朝日出版
出版年:　2017　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ）　　小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 30% ）
上記に加えて、期末英語テスト20%。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <s>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾊﾞｽｶｳﾞｨﾙ, ﾌﾞﾗｲｱﾝ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness. (コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation (オリエンテーション)
第2回　Unit 7 (A): Talk About Personal Communication (コミュニケーション手段について話す)
第3回　Unit 7 (C): Describe Characteristics and Qualities (特徴と質を描写する)
第4回　Unit 8 (A): Talk About Plans (予定について話す)
第5回　Unit 8 (C): Make Weather Predictions (天気の予想をする)
第6回　Unit 9 (A): Make Comparisons (服装を比べる)
第7回　Unit 9 (C): Talk About Clothing Materials (洋服の素材について話す)
第8回　Review 1 (前半の復習とまとめ)
第9回　Unit 10 (A): Give Advice on Healthy Habits (健康な習慣のアドバイスをする)
第10回　Unit 10 (C): Ask About Lifestyles (ライフスタイルについて尋ねる)
第11回　Unit 11 (A): Talk About Today's Chores (今日の雑用について話す)
第12回　Unit 11 (C): Talk About Personal Accomplishments (個人の到達点について話す)
第13回　Unit 12 (A): Talk About Managing Your Money (お金の管理について話す)
第14回　Unit 12 (C): Talk About Cause and Effect (原因と結果について話す)
第15回　Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験・レポート ( )　　小テスト (20)
授業中課題 (30)　　授業中発表等 ( )
参加度 (30)
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <t>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　田中　美和子	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness.（コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A): Identify Activities that Are Happening Now（現在進行形を使う）
第3回　Unit 7 (C): Talk About Abilities（できること・できないことについて話す）
第4回　Unit 8 (A): Identify and Shop for Clothes（洋服・買い物・服装の描写）
第5回　Unit 8 (C): Express Likes and Dislikes（好みを表現する）
第6回　Unit 9 (A): Order a Meal（レストランでの注文）
第7回　Unit 9 (C): Describe Your Diet（自分の食生活について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A): Identify Parts of the Body to Say How You Feel（体調を伝えるために体の各部を描写する）
第10回　Unit 10 (C): Identify Remedies and Give Advice（治療に関する語彙；アドバイスを聞く・与える）
第11回　Unit 11 (A): Plan Special Days（特別な日の予定を立てる）
第12回　Unit 11 (C): Make Life Plans（人生設計について話す）
第13回　Unit 12 (A): Use the Simple Past（過去形で話す）
第14回　Unit 12 (C): Describe a Move（引っ越しについて話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者：　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社：Cengage Learning
出版年：2015　　ISBN：　9781305089501

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 50 ）
授業中課題（ 5 ）　　授業中発表等（ 5 ）
参加度（ 20 ）
遅刻3回で、欠席1回に換算します。なお、辞書（電子辞書、紙の辞書）を、毎回持参するようにしてください。なお、上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <u>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　スミス, ジョン	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving.（余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住とったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A/B): What's happening now（現在進行形を使う）
第3回　Unit 7 (C): Abilities（できること・できないことについて話す）
第4回　Unit 8 (A/B): Clothes（洋服・買い物・服装の描写）
第5回　Unit 8 (C): Likes and dislikes（好みを表現する）
第6回　Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party（レストランでの注文・パーティーの計画を立てる）
第7回　Unit 9 (C): Healthy diet（健康な食事について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A/B): The body and symptoms（体と症状を描写する）
第10回　Unit 10 (C): Remedies and advice（治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える）
第11回　Unit 11 (A/B): Plan special days（誕生日や休日の予定を立てる）
第12回　Unit 11 (C): Life plans（人生設計について話す）
第13回　Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past（出身、過去の引っ越しを説明する）
第14回　Unit 12 (C): Preparations for moving（引っ越しの準備について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Martin Milner
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <v>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　高居　佐紀	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の概要

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリスニング、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　Chapter 1　人物の動作、状態
第2回　Chapter 2　名詞の数え方
第3回　Chapter 3　5W1H の疑問文
第4回　Chapter 4　書き手と読み手の推測
第5回　Chapter 5　話し手と聞き手の推測
第6回　Chapter 6　名詞をつくる接頭辞
第7回　Chapter 7　周辺の状況
第8回　Chapter 8　読み手の次の行動を予測
第9回　Chapter 9　依頼の文に対する適切な答え
第10回　Chapter 10　パラフレーズに注意
第11回　Chapter 11　写真の細部に注目
第12回　Chapter 12　助動詞をおさえる
第13回　模擬試験
第14回　模擬試験
第15回　授業のまとめと学習到達度確認テスト

履修上の注意点

教科書

Practical Tips for the TOEIC Test
著者:　杉田麻哉　Jeff Smith
出版社:　成美堂
出版年:　2010　　ISBN:　9784791931231
新形式問題対応 TOEICテスト 直前対策模試
著者:　早川幸治+ロス・タロック
出版社:　語研
出版年:　2016　　ISBN:　9784876153121

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30 ）	小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ 0 ）	授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 30 ）	

上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <w>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　川口　玲子	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション、Part 5対策、宿題説明
第2回　単語、Part 3対策, Part 7対策
第3回　リスニングPart3①、リーディングPart6
第4回　リスニングPart4①、リーディングPart7②
第5回　リスニングテスト演習及び解答解説
第6回　リーディングテスト解説続き
第7回　単語、Part 3対策, Part 6対策
第8回　単語、Part 1対策, Part 5対策
第9回　単語、Part 3対策, Part 7対策
第10回　単語、Part 2対策, Part 5対策
第11回　単語、Part 4対策, Part 5対策
第12回　単語、Part 3対策, Part 7対策
第13回　模試前総まとめ
第14回　リーディングテスト演習及び解答
第15回　授業のまとめと学習到達度確認テスト

履修上の注意点

教科書

はじめてのTOEIC LISTENING AND READINGテスト本番模試 改訂版：新形式対応
著者：　入江 泉
出版社：旺文社
出版年：2016　　ISBN：9784010944486

参考書

成績評価

試験・レポート（30）　　小テスト（20）
授業中課題（　）　　授業中発表等（　）
参加度（30）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <x>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　フリン, マイケル	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness. (コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation (オリエンテーション)
第2回　Unit 7 (A): Identify Activities that Are Happening Now (現在進行形を使う)
第3回　Unit 7 (C): Talk About Abilities (できること・できないことについて話す)
第4回　Unit 8 (A): Identify and Shop for Clothes (洋服・買い物・服装の描写)
第5回　Unit 8 (C): Express Likes and Dislikes (好みを表現する)
第6回　Unit 9 (A): Order a Meal (レストランでの注文)
第7回　Unit 9 (C): Describe Your Diet (自分の食生活について話す)
第8回　Review 1 (前半の復習とまとめ)
第9回　Unit 10 (A): Identify Parts of the Body to Say How You Feel (体調を伝えるために体の各部を描写する)
第10回　Unit 10 (C): Identify Remedies and Give Advice (治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える)
第11回　Unit 11 (A): Plan Special Days (特別な日の予定を立てる)
第12回　Unit 11 (C): Make Life Plans (人生設計について話す)
第13回　Unit 12 (A): Use the Simple Past (過去形で話す)
第14回　Unit 12 (C): Describe a Move (引っ越しについて話す)
第15回　Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験・レポート ( )　　小テスト (35)
授業中課題 ( )　　授業中発表等 ( )
参加度 (45)
上記に加えて学期末英語テスト20%. Participation score is a composite score that includes homework and participation in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <y>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松村　優子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解)活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業内での指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (B): Make a Phone Call 電話をかける
第3回　Unit 7 (D): (Reading) Soccer–The Beautiful Game, (Writing/Speaking) 自分の能力に関して書く
第4回　Unit 8 (B): Buy Clothes 服を買う
第5回　Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes, (Writing/Speaking) 人の衣服を描写する
第6回　Unit 9 (B): Plan a Party パーティーの計画を立てる
第7回　Unit 9 (D): (Reading)"Ron Finley: A Guerilla Gardener in South Central L.A., (Writing/Speaking) 食習慣について書
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (B):Ask About and Describe Symptom 症状を描写する
第10回　Unit 10 (D): (Reading) Preventing Disease, (Writing/Speaking) 病気の防止について話す
第11回　Unit 11 (B): Describe Holiday Traditions 祝祭日について描写する
第12回　Unit 11 (D): (Reading) Derek Sivers: Keep Your Goals to Yourself, (Writing/Speaking) 夢と計画を語る
第13回　Unit 12 (B): Give Biographical Information 生物の情報を伝える
第14回　Unit 12 (D): (Reading) Human Migration, Writing/Speaking) 休暇中の葉書を書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）	小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 10% ）	授業中発表等 （ 15% ）
参加度 （ 15% ）	

上記に加えて学期末英語テスト
小テストは、14回、15回目の復習テストが中心である。参加度とは出席だけでなく、授業態度なども含まれる。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <z>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定

担 当 者　ソーソン, マーカス

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness.（コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A): Talk About Personal Communication （コミュニケーション手段について話す）
第3回　Unit 7 (C): Describe Characteristics and Qualities（特徴と質を描写する）
第4回　Unit 8 (A): Talk About Plans（予定について話す）
第5回　Unit 8 (C): Make Weather Predictions（天気の予想をする）
第6回　Unit 9 (A): Make Comparisons（服装を比べる）
第7回　Unit 9 (C): Talk About Clothing Materials（洋服の素材について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A): Give Advice on Healthy Habits（健康な習慣のアドバイスをする）
第10回　Unit 10 (C): Ask About Lifestyles（ライフスタイルについて尋ねる）
第11回　Unit 11 (A): Talk About Today's Chores（今日の雑用について話す）
第12回　Unit 11 (C): Talk About Personal Accomplishments（個人の到達点について話す）
第13回　Unit 12 (A): Talk About Managing Your Money（お金の管理について話す）
第14回　Unit 12 (C): Talk About Cause and Effect（原因と結果について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験･レポート（ 15 ）　　小テスト（ 15 ）
授業中課題（ 15 ）　　授業中発表等（ 15 ）
参加度（ 20 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <Ha>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　スミス, ジョン	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving.（余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住とったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A/B): What's happening now（現在進行形を使う）
第3回　Unit 7 (C): Abilities（できること・できないことについて話す）
第4回　Unit 8 (A/B): Clothes（洋服・買い物・服装の描写）
第5回　Unit 8 (C): Likes and dislikes（好みを表現する）
第6回　Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party（レストランでの注文・パーティーの計画を立てる）
第7回　Unit 9 (C): Healthy diet（健康な食事について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A/B): The body and symptoms（体と症状を描写する）
第10回　Unit 10 (C): Remedies and advice（治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える）
第11回　Unit 11 (A/B): Plan special days（誕生日や休日の予定を立てる）
第12回　Unit 11 (C): Life plans（人生設計について話す）
第13回　Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past（出身、過去の引っ越しを説明する）
第14回　Unit 12 (C): Preparations for moving（引っ越しの準備について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Martin Milner
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <Hb>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ハビブ, ジェラード	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness. (コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation (オリエンテーション)
第2回　Unit 7 (A): Identify Activities that Are Happening Now (現在進行形を使う)
第3回　Unit 7 (C): Talk About Abilities (できること・できないことについて話す)
第4回　Unit 8 (A): Identify and Shop for Clothes (洋服・買い物・服装の描写)
第5回　Unit 8 (C): Express Likes and Dislikes (好みを表現する)
第6回　Unit 9 (A): Order a Meal (レストランでの注文)
第7回　Unit 9 (C): Describe Your Diet (自分の食生活について話す)
第8回　Review 1 (前半の復習とまとめ)
第9回　Unit 10 (A): Identify Parts of the Body to Say How You Feel (体調を伝えるために体の各部を描写する)
第10回　Unit 10 (C): Identify Remedies and Give Advice (治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える)
第11回　Unit 11 (A): Plan Special Days (特別な日の予定を立てる)
第12回　Unit 11 (C): Make Life Plans (人生設計について話す)
第13回　Unit 12 (A): Use the Simple Past (過去形で話す)
第14回　Unit 12 (C): Describe a Move (引っ越しについて話す)
第15回　Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験・レポート (30)　　小テスト (20)
授業中課題 ( )　　授業中発表等 ( )
参加度 (30)
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <Hc>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ホリグチ, タケシ	

テーマ

理学療法や心理療法など、ライフサイエンス的な分野を専攻する学生が、自身の専攻に関わるテーマについて情報を的確にインプットし、それらの情報を自身の言葉に置き換えて発信するために必要な総合的な英語運用力（英語の四技能）をバランスよく身に付ける。

授業の到達目標

・医療用語の理解（必須単語・表現は約100）
・医療的な文章（300－400語程度）の読解力を上げる。
・医療的な文章（150－300語程度）の聴解力を上げる。
・インプットした情報を自身で整理し、それらを自分の言葉で書いたり話したりして伝えられるようになる。

授業の概要

・日本人講師と外国人講師が交互に担当するティームティーチング
・学生の積極的な参加によるアクティブラーニング形式
・日本人講師パートでは、単語の説明や読解、聴解などのインプット部分を中心に取り扱う
・外国人講師パートではインプットした情報を相手に伝えるリテリングや療法士と患者との会話のロールプレイなど、アウトプット中心に取り扱う

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

その日習った単語の復習（単語テストへの準備）とロールプレイなどのアクティビティーの準備

内　容

第1回　後期の教材の進め方を説明します。
第2回　高次脳機能障害
第3回　パーキンソン病
第4回　骨粗鬆症
第5回　脳卒中
第6回　これまでの中身の復習
第7回　循環器疾患
第8回　糖尿病
第9回　呼吸器疾患
第10回　慢性関節リウマチ
第11回　大腿骨頸部骨折
第12回　背隋損傷
第13回　脳性麻痺
第14回　事例研究
第15回　これまでの中身の復習

履修上の注意点

教科書

Art of Healing
著者:　荒金　房子
出版社:　南雲堂
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30 ）	小テスト （ 30 ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <Hd>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松村　優子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解)活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業内での指示に従うこと

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (B): Exchange Contact Information 連絡先を交換する
第3回　Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?、(Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する
第4回　Unit 8 (B): Discuss Long-and Short-Term Plans 短期、長期計画について話す
第5回　Unit 8 (D): (Reading) Future Energy、(Writing/Speaking) 未来について語る
第6回　Unit 9 (B): Explain Preferences 好みを説明する
第7回　Unit 9 (D): (Reading) Silk、(Writing/Speaking) 質と価値を評価する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (B): Compare Lifestyles ライフスタイルを比較する
第10回　Unit 10 (D): (Reading) The Secrets of Long Life、(Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する
第11回　Unit 11 (B): Interview for a Job 就職の面接をする
第12回　Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements、(Writing/Speaking) 人類の偉大な到達点について語る
第13回　Unit 12 (B): Make Choices on How to Spend Your Money お金の使い道を決める
第14回　Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness、(Writing/Speaking) お金と幸福を評価する
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験・レポート　(0%)	小テスト　(40%)
授業中課題　(10%)	授業中発表等　(15%)
参加度　(15%)	

上記に加えて学期末英語テスト
小テストは、14回、15回目の復習テストが中心である。参加度とは出席だけでなく、授業態度なども含まれる。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <R>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　杉山 泰	

テーマ

文化的基礎知識（Cultural Literacy）を最大限活かしながら、基礎英語を利用して日本文化を発信していく。

授業の到達目標

日本人が海外に出る場合、まずパスポートが必要だ。このパスポートは北朝鮮を除いてあらゆる国で有効、と書かれている。国連加盟国は193か国、日本語だけでは理解できないことを知れば、第二外国語が必要になってくる。中学校で学んだ基礎英語だけで、日本のことをかなり紹介できる。発信型英語を学び、英語の楽しさを学んでもらう。

授業の概要

テキストの問題をやるだけでなく、毎回プリントを配布し、それを時間内に仕上げてもらう。翌週添削し返却する。毎回辞書の持参が必要。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

添削された「プリント」を毎回手直ししておく必要がある。

内　容

第1回　英語で自己紹介。「氏名カード」の記入と英語で「履歴書」を書いてもらう。
第2回　Lesson 1 There si構文。（京都に何があるのか。京料理を説明できるか？）
第3回　Lesson 2 オノマトピア研究（「春の海ひねもすのたりのたりかな」を英語で訳せるか？）
第4回　Lesson 3 「こ・そ・あ・ど体系のの日本語」の英訳は？
第5回　Lesson 4 能動態と受動態（I am excited.とSumo is exciting.の違いは？）
第6回　Lesson 5 同格のthat（I have a feeling that...の構文）
第7回　Lesson 6 現在分詞と過去分詞（「現在進行形」と「受動態」と「現在完了形」）
第8回　Lesson 7 分詞構文（接続詞がなくても文がつながる）
第9回　Lesson 8 仮定法（起こりえないことのシュミレーションが可能）
第10回　Lesson 9 接続詞（It is ...that...の3つの構文）
第11回　Lesson 10 形容詞の研究（光っく休のない日本語）
第12回　Lesson 11 動名詞構文（I have fun visiting the U.K.構文）
第13回　Lesson 12 動詞＋er＝～する人（もの）構文
第14回　Lesson 13 前置詞と後置詞（て・に・を・はをどう訳すのか？）
第15回　Lesson 14 不定詞構文（日栄語比較研究のまとめ）

履修上の注意点

毎回作業をやるので、参加できなかった学生は、必ずプリントをもらって、自宅で解答し、提出すること。添削して返却するので、60点以上なければ、遅れの出席にはならないので、要注意。

教科書

Eye Opening Facts
著者:　杉山 泰
出版社: 朝日出版社
出版年: 2005　　ISBN:

参考書

日本人はなぜ英語ができないのか
著者:　鈴木孝夫
出版社: 新潮新書
出版年: 2009　　ISBN:

沈みゆく大国アメリカ
著者:　包未果
出版社: 集英社新書
出版年: 2015　　ISBN:

aks201a481

英語科は愚民化

著者: 施光恒

出版社: 集英社新書

出版年: 2015 ISBN:

日本語は敬語があって主語がない

著者: 金谷 武洋

出版社: 光文社新書

出版年: 2010 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題 （ 40% ） 授業中発表等 （ 20% ）

参加度 （ 20% ）

これに加えて、後期末英語テスト20%。出席不足の学生は、教科書の問題を全てやって提出するか、プリントを全て仕上げて提出すれば、遅れの出席として認める場合もある。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <Tb>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　高居　佐紀	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション、Part1対策、宿題説明
第2回　単語、Part3対策、Part6対策
第3回　リスニングPart3①、リーディングPart6
第4回　リスニングPart4①、リーディングPart7②
第5回　リスニングテスト演習及び解答解説
第6回　リーディングテスト解説続き
第7回　単語、Part3対策、Part5対策
第8回　単語、Part2対策、Part5対策
第9回　単語、Part1対策、Part5対策
第10回　単語、Part2対策、Part5対策
第11回　単語、Part4対策、Part6対策
第12回　単語、Part3対策、Part7対策
第13回　模試前総まとめ
第14回　リーディングテスト演習及び解答解説
第15回　授業のまとめと学修到達度確認テスト

履修上の注意点

教科書

はじめてのTOEIC LISTENING AND READINGテスト本番模試 改訂版：新形式対応
著者：　入江　泉
出版社：旺文社
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <He>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小川　享子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

·基礎的な読解·リスニング技能を獲得する。·基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。·世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

·コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金などに関する世界各地からの話題の理解(読解)活動 ·各テーマに関連する発信活動

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業内での指示に従うこと。
各ユニットで学ぶ語彙、英語表現は予習・復習を介して覚えること(小テストやまとめのテストにおいて確認し、採点をして返す)。
提出した課題は個人的に添削したり、クラスの中で全体的なコメントをしてフィードバック。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (B): Exchange Contact Information 連絡先を交換する
第3回　Unit 7 (D): (Reading) The Interspecies Internet?、(Writing/Speaking) 異なるコミュニケーション媒体を比較する
第4回　Unit 8 (B): Discuss Long-and Short-Term Plans 短期、長期計画について話す
第5回　Unit 8 (D): (Reading) Future Energy、(Writing/Speaking) 未来について語る
第6回　Unit 9 (B): Explain Preferences 好みを説明する
第7回　Unit 9 (D): (Reading) Silk、(Writing/Speaking) 質と価値を評価する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (B): Compare Lifestyles ライフスタイルを比較する
第10回　Unit 10 (D): (Reading) The Secrets of Long Life、(Writing/Speaking) 自分のライフスタイルを評価する
第11回　Unit 11 (B): Interview for a Job 就職の面接をする
第12回　Unit 11 (D): (Reading) Humanity's Greatest Achievements、(Writing/Speaking) 人類の偉大な到達点について語る
第13回　Unit 12 (B): Make Choices on How to Spend Your Money お金の使い道を決める
第14回　Unit 12 (D): (Reading) How to Buy Happiness、(Writing/Speaking) お金と幸福を評価する
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験・レポート　(45%)　　小テスト　(10%)
授業中課題　(10~0%)　　授業中発表等　(0~10%)
参加度　(15%)

上記に加えて学期末英語テスト20%。
試験はまとめのテスト、小テストは語彙や実技のテスト、授業中の課題と発表は合わせて10%とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <Hf>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　フリン, マイケル	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will: ･Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness.（コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A): Identify Activities that Are Happening Now（現在進行形を使う）
第3回　Unit 7 (C): Talk About Abilities（できること・できないことについて話す）
第4回　Unit 8 (A): Identify and Shop for Clothes（洋服・買い物・服装の描写）
第5回　Unit 8 (C): Express Likes and Dislikes（好みを表現する）
第6回　Unit 9 (A): Order a Meal（レストランでの注文）
第7回　Unit 9 (C): Describe Your Diet（自分の食生活について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A): Identify Parts of the Body to Say How You Feel（体調を伝えるために体の各部を描写する）
第10回　Unit 10 (C): Identify Remedies and Give Advice（治療に関する語彙; アドバイスを聞く・与える）
第11回　Unit 11 (A): Plan Special Days（特別な日の予定を立てる）
第12回　Unit 11 (C): Make Life Plans（人生設計について話す）
第13回　Unit 12 (A): Use the Simple Past（過去形で話す）
第14回　Unit 12 (C): Describe a Move（引っ越しについて話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 35 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 45 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%. Participation score is a composite score that includes homework and participation in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <Hg>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾊﾞｽｶｳﾞｨﾙ, ﾌﾞﾗｲｱﾝ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness. (コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation (オリエンテーション)
第2回　Unit 7 (A): Talk About Personal Communication (コミュニケーション手段について話す)
第3回　Unit 7 (C): Describe Characteristics and Qualities (特徴と質を描写する)
第4回　Unit 8 (A): Talk About Plans (予定について話す)
第5回　Unit 8 (C): Make Weather Predictions (天気の予想をする)
第6回　Unit 9 (A): Make Comparisons (服装を比べる)
第7回　Unit 9 (C): Talk About Clothing Materials (洋服の素材について話す)
第8回　Review 1 (前半の復習とまとめ)
第9回　Unit 10 (A): Give Advice on Healthy Habits (健康な習慣のアドバイスをする)
第10回　Unit 10 (C): Ask About Lifestyles (ライフスタイルについて尋ねる)
第11回　Unit 11 (A): Talk About Today's Chores (今日の雑用について話す)
第12回　Unit 11 (C): Talk About Personal Accomplishments (個人の到達点について話す)
第13回　Unit 12 (A): Talk About Managing Your Money (お金の管理について話す)
第14回　Unit 12 (C): Talk About Cause and Effect (原因と結果について話す)
第15回　Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験・レポート ( )　　小テスト (20)
授業中課題 (30)　　授業中発表等 ( )
参加度 (30)
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <Hh>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ソーソン, マーカス	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language. (国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。)

授業の到達目標

Students will: ・Gain basic reading and listening skills (基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。) ・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary. (基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。) ・Gain a global outlook by engaging with information from around the world. (世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。)

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of communication, future, clothing, lifestyles, achievements, and money and happiness. (コミュニケーション、計画、衣服、ライフスタイル、業績、お金と幸福といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動) ・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics. (各テーマに関連するトピックの発信活動)

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

Details will be given in class.

内　容

第1回　Orientation (オリエンテーション)
第2回　Unit 7 (A): Talk About Personal Communication (コミュニケーション手段について話す)
第3回　Unit 7 (C): Describe Characteristics and Qualities (特徴と質を描写する)
第4回　Unit 8 (A): Talk About Plans (予定について話す)
第5回　Unit 8 (C): Make Weather Predictions (天気の予想をする)
第6回　Unit 9 (A): Make Comparisons (服装を比べる)
第7回　Unit 9 (C): Talk About Clothing Materials (洋服の素材について話す)
第8回　Review 1 (前半の復習とまとめ)
第9回　Unit 10 (A): Give Advice on Healthy Habits (健康な習慣のアドバイスをする)
第10回　Unit 10 (C): Ask About Lifestyles (ライフスタイルについて尋ねる)
第11回　Unit 11 (A): Talk About Today's Chores (今日の雑用について話す)
第12回　Unit 11 (C): Talk About Personal Accomplishments (個人の到達点について話す)
第13回　Unit 12 (A): Talk About Managing Your Money (お金の管理について話す)
第14回　Unit 12 (C): Talk About Cause and Effect (原因と結果について話す)
第15回　Review 2 (後半の復習とまとめ)

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split 1B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089488

参考書

成績評価

試験・レポート (15)　　小テスト (15)
授業中課題 (15)　　授業中発表等 (15)
参加度 (20)
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　櫃本　一美	

テーマ

TOEICの英語を素材に、得点アップと英語でのコミュニケーション力を高める。

授業の到達目標

基本的な文法を復習しながら、4技能の向上とTOEICでは50 点アップを目指す。

授業の概要

テキストを中心に、個人あるいはペアやグループでタスクに取り組む。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中、自宅での課題を確実にこなす。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　1) 基礎文法　2) Part 1 対策
第3回　1) 基礎文法　2) Part 2 対策
第4回　1) 基礎文法　2) Part 2 対策
第5回　1) 基礎文法　2) Part 2　対策
第6回　1) 基礎文法　2) Part 5 対策
第7回　1) Part 5 対策　2) Part 3 対策
第8回　1)　Part 6 対策　2) Part 3 対策
第9回　1) Part 6　対策　2) Part 3 対策
第10回　1) Part 7 対策　2) Part 4 対策
第11回　1) Part 7 対策　2) Part 4 対策
第12回　1) Part 7 対策 2) Part 4 対策
第13回　模擬試験
第14回　復習
第15回　復習

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。授業中の課題に取り組まない者、テキストを持参していない者は出席と認めない。

教科書

公式TOEIC Listening&Reading 2
著者:
出版社: ETS
出版年: 2017　　ISBN: 4906033504

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
授業中課題は小テストも含める。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　ハビブ, ジェラード	

テーマ

An Introduction to international business English

授業の到達目標

This course aims to give you confidence in communicating in everyday business situations, use and understand international English, and understand global business culture.

授業の概要

The course will require lots of spoken interaction with classmates as well as listening practice.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

There will be regular conversation assessments based on the material studied in the textbook. Students are advised to regularly review the material and actively participate in class. Please view class activities as opportunities to improve your spoken English. A positive attitude will make learning English more enjoyable.

内　容

第1回　Introduction
第2回　Unit 1: Meeting people
第3回　Unit 1: Meeting people(cont'd),
Conversation Check 1
第4回　Unit 2: Telephoning
第5回　Unit 2: Telephoning(cont'd),
Conversation Check 2
第6回　Unit 3: Schedules and appointments
第7回　Unit 3: Schedules and appointments(cont'd),　Conversation Check 3
第8回　Review 1-3
第9回　Unit 4: Company performance
第10回　Unit 4: Company performance(cont'd),
Conversation Check 4
第11回　Unit 5: Products and services
第12回　Unit 5: Products and services(cont'd),
Conversation Check 5
第13回　Unit 6: Talking about decisions
第14回　Unit 6: Talking about decisions(cont'd),　Conversation Check 6
第15回　Review 4-6, Final speaking test

履修上の注意点

This course will be conducted in English. You must attend at least 2/3rds of the classes to pass.

教科書

Business Venture 2 (3/E) Student Book + Multi=ROM
著者:
出版社: Oxford University Press
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <c>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　原 俊樹	

テーマ

ー どこでも使える英語力を身につけるー
英語表現の基本を確認しながら、英語を自分のものにする！

授業の到達目標

国際人として世界的に活躍するために必須の「伝達手段としての英語」を理解するために必要な4技能の幅広い実践的運営能力を身につける。また同時に医療従事者としても必要な英語力も身につけることを目標とする。

授業の概要

基本的にはテキストの各ユニットに沿った形で授業を進める。習熟度・理解度を判断する小テスト・実力テスト・課題を用意する。授業予定は、あくまでも一応の目安で、各回の「重要学習ポイント」と考えてください。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習・復習を確実にこなすこと

内　容

第1回　講義内容・テキストの利用法の説明 基礎力判定テスト
第2回　フォニックス（アルファベットと単語の発音）
第3回　英文の基本構造1：述語動詞と態
第4回　英文の基本構造2：時制表現1
第5回　英文の基本構造3：時制表現2
第6回　英文の基本構造4：基本5文型
第7回　英文の基本構造5：文の要素・修飾語句・語と品詞
第8回　準動詞の用法1：不定詞
第9回　準動詞の用法2：動名詞
第10回　準動詞の用法3：分詞
第11回　冠詞・名詞・代名詞
第12回　形容詞・副詞
第13回　前置詞と句
第14回　接続詞と節
第15回　前期の学習のまとめ・到達度の確認

履修上の注意点

教科書

English through the News Media 2018 Edition
著者：　MasamiTakahashi/ Noriko Itoh/ RichardPowell
出版社：　Asahi Press
出版年：　2018　　ISBN：　9784255156248

参考書

高校時代の辞書・英語参考書
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート （ 50% ）　　小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ 10% ）　　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 10% ）
授業中の態度(私語・スマホ・携帯電話の使用など)も評価に入れます。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <d>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語Ⅱ A」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　高居　佐紀	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
（受験有無や受講生知識のヒアリング、試験構成確認等）
第2回　Unit1
第3回　Unit2
第4回　Unit3
第5回　Unit4
第6回　Unit6
第7回　Unit7
第8回　進度調整/Review/弱点強化
第9回　Unit10
第10回　Unit11
第11回　進度調整/Review/弱点強化
第12回　Unit14
第13回　模試前全体まとめ確認
第14回　Listening Section 解説続き
第15回　Reading Section 解説続き

履修上の注意点

教科書

SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST1 GOAL500
著者:
出版社: 桐原書店
出版年:　　ISBN:
新形式対応問題 TOEICテスト直前対策模試
著者:　早川 幸治＋ロス・タロック 著
出版社: 語研
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <e>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　田中　美和子	

テーマ

国際語としての英語を身に付けて、世界に発信する

授業の到達目標

グローバルに活躍するために、英語でのプレゼンテーションを訓練するコースです。この授業では、プレゼンテーションを数多く実践することを通して、英語力と表現力を身に付けます。発信するためのライティングとスピーキング、受容するためのリスニングとリーディングの英語四技能を、総合的に、プロジェクト・ベーストで学びます。前期は、テーマに沿って論理的に、伝えたいことを自分なりに、英語で表現することができるようになることを目標とします。

授業の概要

「自己紹介」など複数のテーマで、1人で英語プレゼンテーションを、前期に3回やります。ライティング2週間、スライド作成1週間、印刷とリハーサル1週間と、準備に4週間かけ、5週目に発表です。発表は全て英語です。授業内で準備が終わらない場合は、宿題です。実際にプレゼンを何度もやりながら、学んでいくので、やりがいがあります。ただ講義を聞いていたら良いというコースではなく、積極的に自分で発表準備をして、自分で発表をするコースです。グループでも発表をするので、クラスで仲良くなります。欠席する場合は、期限内に提出物を学内のPドライブにパソコンを通して提出する必要があります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の発表原稿をライティングするのに2週間とってありますが、ライティングそのものに時間がかかるため、英語の文法学習としては、1年生で学んだ内容を復習して、参考書をみたり、自主的に勉強する必要があります。また、英語の辞書が授業中のライティングに必要となりますので、必ず用意して下さい。また、プレゼンテーションにおいては、発音が大切になります。発音記号の読み方も復習します。

内　容

第1回　プロジェクト①自己紹介：発表原稿ライティング(1)
第2回　プロジェクト①自己紹介：発表原稿ライティング(2)
第3回　プロジェクト①自己紹介：スライド作成
第4回　プロジェクト①自己紹介：印刷とリハーサル
第5回　第1回プレゼンテーション
第6回　プロジェクト②ニュース番組：発表原稿ライティング(1)
第7回　プロジェクト②ニュース番組：発表原稿ライティング(2)
第8回　プロジェクト②ニュース番組：スライド作成
第9回　プロジェクト②ニュース番組：印刷とリハーサル
第10回　第2回プレゼンテーション
第11回　プロジェクト③休暇の過ごし方：発表原稿ライティング(1)
第12回　プロジェクト③休暇の過ごし方：発表原稿ライティング(2)
第13回　プロジェクト③休暇の過ごし方：スライド作成
第14回　プロジェクト③休暇の過ごし方：印刷とリハーサル
第15回　第3回プレゼンテーション

履修上の注意点

原稿、パワーポイントは提出期限があり、期限内提出で加点です。なお、遅刻3回で欠席1回に換算されます。授業には必ず英和辞書を持参してください。また、この授業では、まじめな授業態度、グループ作業における協調性が必須となります。

教科書

使用しない(プリント配布)

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

aks202a115

プレゼンのクラスでは、発表準備をする場合、そして発表を聞く場合、マナーが大切となります。クラス全体で良い雰囲気を作り上げていくことが必要となりますので、雰囲気を悪くするような授業態度は、かなり減点しますので、ご注意ください。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA 〈f〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　野口　博代	

テーマ

アメリカCBSのニュース報道番組を通して、英語力向上に励むだけでなく世界の様々な出来事や問題に関心を持ちましょう。

授業の到達目標

世界の様々な現代社会の問題に関心を持ち、英語で聞いたり議論することにより、英語の総合的な力の向上を目標とする。

授業の概要

アメリカCBSのニュース報道番組を教材に用いて、語彙力の強化、読解力及びリスニングの力の向上を目指す。また各ユニットで取り上げられたトピックについてクラス全体やグループで話し合う機会が多いので、積極的な授業参加を心掛けてほしい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各ユニットの単語練習問題は必ず予習しておくこと。授業外でも、Web動画によるニュース映像を予習復習に活用すること。
提出物として回収するものは全て成績評価の対象となるため、間違いを訂正し、必要に応じて再提出が必要となる。

内　容

第1回　オリエンテーション
Unit1の導入
第2回　Unit 1 What's for Lunch? In Japanese Schools It's Always Healthy 語彙問題、ニュースリスニング、要約
第3回　Unit 1 What's for Lunch? In Japanese Schools It's Always Healthy 内容把握 ディスカッション
第4回　Unit 2 BYOB: California Bans Single-Use Plastic Bags
語彙問題、ニュースリスニング、要約
第5回　Unit 2 BYOB: California Bans Single-Use Plastic Bags
内容把握、ディスカッション
第6回　Unit 3 How a Dog Can Improve Your Health
語彙問題、ニュースリスニング、要約
第7回　Unit 3 How a Dog Can Improve Your Health
内容把握、ディスカッション
第8回　Unit 4 The Shoe That Grows:Expandable Shoes Aim to Keep Up with Kids' Growing Feet 語彙問題、ニュースリスニング、要約
第9回　Unit 4 The Shoe That Grows:Expandable Shoes Aim to Keep Up with Kids' Growing Feet 内容把握、ディスカッション
第10回　Unit 5 "Cat Library" Offers Purrfect Solution to Stress
語彙問題、ニュースリスニング、要約
第11回　Unit 5 "Cat Library" Offers Purrfect Solution to Stress
内容把握、ディスカッション
第12回　Unit 6 The Evolution of Comic Books in the Digital Age
語彙問題、ニュースリスニング、要約
第13回　Unit 6 The Evolution of Comic Books in the Digital Age
内容把握、ディスカッション
第14回　Review
第15回　前期授業のまとめ

履修上の注意点

単位取得には2/3以上の出席が必要。

教科書

CBS NewsBreak 3
著者:　熊井信弘、Stephen Timson
出版社:　成美堂
出版年:　2017　　ISBN:　9784791960330

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）　　小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 20% ）
参加度 （ 20% ）

aks202a116

上記評価の授業中課題には授業外課題も含まれ、全て評価対象となる。参加度とは積極的な姿勢で授業に取り組む授業態度により評価される。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <g>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　山﨑 清水	

テーマ

総合的な英語運用能力を習得

授業の到達目標

基本的な観光英語を学習し日常会話が可能になる英語運用能力を習得することを目指す。

授業の概要

海外旅行において最低限必要な英会話を演習する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

詳細は授業で説明する。

内　容

第1回　機内で
第2回　両替所で
第3回　復習
第4回　ホテルで　1
第5回　ホテルで　2
第6回　電車やバスで
第7回　復習
第8回　観光　1
第9回　買い物　1
第10回　買い物　2
第11回　復習
第12回　郵便局で
第13回　観光　2
第14回　レストランで
第15回　病院や薬局で

履修上の注意点

私語は慎むこと。

教科書

My First Trip
著者:　工藤多恵
出版社:　センゲージラーニング
出版年:　2014　　ISBN:　9784863122420

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 10 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <h>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　増田　聖日恵	

テーマ

時事英語への導入。

授業の到達目標

比較的平易な英語で書かれた英文記事が読めるようになる。時事英語に関連した基本語彙を学習する。授業で検討したそれぞれの社会的問題についての意識を高める。英語の音とリズムに慣れる。

授業の概要

最新のニュースをもとに新聞記事の構成や簡単な時事用語を学び英語でニュースを読んだり聞いたりする事に慣れる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

語彙の復習は欠かさず行い定着させ、授業外でも音読をするなどして毎日英語に触れる習慣を付けるようにして下さい。

内　容

第1回　オリエンテーション（講義の進め方や成績評価方法等）
第2回　人口知能、日常の判断に「客観的」助言を提供
第3回　フィンランド、失業者に月587ドルの基礎所得支給へ
第4回　料理人、和食給食の普及えお援助
第5回　オックスファム:8人の富、世界の半数に匹敵
第6回　復習
第7回　東京の神社、電子マネーの賽銭を受け入れ
第8回　読書用メガネ、過去のものになる可能性
第9回　日本、2020年五輪へ向け、農家の「食の安全」認証取得支援へ
第10回　復習
第11回　乳児の脳の画像で自閉症のリスク診断が可能に
第12回　相乗りタクシーアプリ、実証実験へ
第13回　故郷の味、東京で大きなビジネスに
第14回　復習
第15回　総合問題演習を通した復習

履修上の注意点

単語テストを定期的に行うので、出席は大切です。

教科書

メディアで学ぶ日本と世界2018
著者:　若有　康彦
出版社:　成美堂
出版年:　　ISBN:　9784791934256

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）
小テストや復習テストを定期的に行い習熟度をチェックして行きます。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <i>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　占部　幹也	

テーマ

TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEICリーディングに必要な語彙力および文法、読解力の育成を目的とする。

授業の概要

Part 5 に必要な文法項目の確認をしてから、問題を解く。また、Part6, 7 に出題される様々な英語文書を読み、必要な情報をスピーディに読み取るためのスキルを習得していく。ペアワークを通じて理解を深め、スキルの定着を計る。語彙については事前に学習をして単語テストで確認をすることにより、リーディングのスピードアップを促す。終盤では実践演習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習:語彙学習をする(30分から1時間程度)。Webなどを利用して日頃から英語で情報を取り入れる習慣をつける。宿題として課されたリーディング問題に取り組む（30分から1時間程度）

内　容

第1回　オリエンテーション（テキストの使い方、成績評価、宿題について）
第2回　文法問題と語彙問題
第3回　リーディングパートの時間配分
第4回　英文の基本構造を見抜く/ 表とフォーム
第5回　品詞問題 / チャット
第6回　形容詞と副詞 / 広告文
第7回　能動態と受動態 / Eメールと社内文書
第8回　動詞の時制 / ビジネスレター
第9回　接続詞と前置詞 / 記事
第10回　関係詞 / 複数パッセージ
第11回　接続副詞 / 照合が必要な設問
第12回　語彙問題 / NOTを含む設問
第13回　総合問題演習（1）
第14回　総合問題演習（2）
第15回　総合問題演習（3）

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。辞書を持ってくる。ペアワークや音読に積極的に取り組む。毎回たくさんの問題を解くので集中力を持って授業に臨む。TOEIC自己目標スコアを設定して、必ず達成しましょう。

教科書

SUCCESSFUL KES TO THE TOEIC TEST2 GOAL600
著者:　水本 篤/Mark D. Stafford
出版社: 桐原書店
出版年:　　ISBN:

新形式問題対応 TOEICテスト直前対策模試
著者:　早川 幸治＋ロス・タロック
出版社: 語研
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ）	小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 30% ）	

上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA 〈j〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語Ⅱ A」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　川口　玲子	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
（受験有無や受講生知識のヒアリング、試験構成確認等）
第2回　Unit1
第3回　Unit2
第4回　Unit3
第5回　Unit4
第6回　Unit6
第7回　Unit7
第8回　進度調整/Review/弱点強化
第9回　Unit10
第10回　Unit11
第11回　進度調整/Review/弱点強化
第12回　Unit14
第13回　模試前全体まとめ確認
第14回　Listening Section 解説続き
第15回　Reading Section 解説続き

履修上の注意点

教科書

SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST1 GOAL500
著者:
出版社: 桐原書店
出版年:　　ISBN:
新形式対応問題 TOEIC テスト直前対策模試
著者:
出版社: 語研
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <k>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　金子　秋子	

テーマ

日常的なことを英語で表現できる力を身につけよう。

授業の到達目標

日常的な状況の中で、英語で説明をしたり、感じ方や意見が述べられる力を身に着けることが目標です。語彙を養成する問題、ミニ英会話、リスニング、英作などに取り組み、英語で表現できる力を向上します。

授業の概要

語彙の練習、ミニ英会話、リスニング問題をしながら、一定の状況下における表現を学んだあとで、自分でも、英語で説明をしたり、作文をしたりします。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

語彙・表現の復習を行うこと。
課題に関しては、添削や教室内での答え合わせを通じて、例解を示します。

内　容

第1回　授業方法の説明
第2回　Unit 1 Introduction
第3回　Unit 1 Introduction
第4回　Unit 2 What a Life!
第5回　Unit 2 What a Life!
第6回　Unit 3 Free Time
第7回　Unit 3 Free TIme
第8回　まとめのテスト
第9回　Unit 4 Places
第10回　Unit 4 Places
第11回　Unit 5 Getting around
第12回　Unit 5 Getting around
第13回　Unit 6 Shopping
第14回　Unit 6 Shopping
第15回　まとめのテスト

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。辞書を持ってくること。
授業中に携帯電話を触ったり、見る者は成績から減点する。

教科書

Breakthrough Plus 1
著者:　Miles Craven
出版社:　McMillan Education
出版年:　2013　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ）　　小テスト （ 30% ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 40% ）
試験はまとめのテストを意味し、小テストは語彙のテストとなる。参加度には授業中の発表が含まれる。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <I>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　ﾃﾞｨｰｸﾞﾙ, ｼﾞｪｰﾑｽ	

テーマ

Global Events and Topics

授業の到達目標

Students should be able to improve upon their reading, writing, speaking, and listening skills by discussing topics that are important on a global level and how they affect their lives and the lives of others

授業の概要

There will be varioius activities targeting the four skills through a variety of units. There will be a special concentration on comprehension and understanding of content and expression of ideas and thoughts regarding each of the units. There will also be supplementary materials when appropriate in addition to the text for various topics that will be introduced to and responsible for. This course will be taught in English

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

This is designed to be a communication class so a large focus will be upon communicating with other members of the class in various ways – so students should try their best to improve upon their ability in this regard.
I am available to talk to stud myself between classes and also hand back reports with scores giving suggestions during class for improvement on speaking and grammar skills.

内　容

第1回　Orientation
第2回　People 1
第3回　People 2
第4回　Work, Rest, and Play 1
第5回　Work, Rest, and Play 2
第6回　Going Places 1
第7回　Going Places 2
第8回　Review
第9回　Food 1
第10回　Food 2
第11回　Sports 1
第12回　Sports 2
第13回　Destinations
第14回　Destinations 2
第15回　Final Review

履修上の注意点

教科書

World English 1 Student Book with Online Workbook1A
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:　9781305089549

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <n>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　原　俊樹	

テーマ

どこでも使える英語力を身につける

授業の到達目標

国際人として世界的に活躍するために必須の「伝達手段としての英語」を理解するために必要な4技能の幅広い実践的運営能力を身につける。また同時に医療従事者としても必要な英語力も身につけることを目標とする。

授業の概要

基本的にはテキストの各ユニットに沿った形で授業を進める。習熟度・理解度を判断する小テスト・実力テスト・課題を用意する。授業予定は、あくまでも一応の目安で、各回の「重要学習ポイント」と考えてください。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習・復習を確実にこなすこと

内　容

第1回　講義内容・テキストの利用法の説明 基礎力判定テスト
第2回　フォニックス（アルファベットと単語の発音）
第3回　英文の基本構造1：述語動詞と態
第4回　英文の基本構造2：時制表現1
第5回　英文の基本構造3：時制表現2
第6回　英文の基本構造4：基本5文型
第7回　英文の基本構造5：文の要素・修飾語句・語と品詞
第8回　準動詞の用法1：不定詞
第9回　準動詞の用法2：動名詞
第10回　準動詞の用法3：分詞
第11回　冠詞・名詞・代名詞
第12回　形容詞・副詞
第13回　前置詞と句
第14回　接続詞と節
第15回　前期の学習のまとめ・到達度の確認

履修上の注意点

教科書

Understanding Health Care
著者：　Tsukimaro Nishimura/ David I. Brooks/ Akiko Sekiguchi　ほか
出版社：　Asahi Press
出版年：　2011　　ISBN：　9784255155036

参考書

高校時代の辞書・英語参考書
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート （ 50% ）　　小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ 10% ）　　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 10% ）
授業中の態度(私語・スマホ・携帯電話の使用など)も評価に入れます。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <o>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　川口　玲子	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
（受験有無や受講生知識のヒアリング、試験構成確認等）
第2回　Unit 1 Daily Life
第3回　Unit 2 Places
第4回　Unit 3 People
第5回　進度調整/Review/弱点強化
第6回　Unit 4 Travel
第7回　Unit 5 Business
第8回　Unit 6 Office
第9回　Unit 7 Technology
第10回　進度調整/Review/弱点強化/模試前全体まとめ確認
第11回　Listening Section実施＋解説
第12回　Listening Section 解説続き
第13回　Reading Section実施＋解説
第14回　Reading Section 解説続き
第15回　授業のまとめと学習到達度確認テスト

履修上の注意点

教科書

SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST2 GOAL600
著者:　水本　篤/mark D. Stafford
出版社:　桐原書店
出版年:　　ISBN:

TOEICテスト予想模試 新形式問題対応
著者:　入江 泉 /　宮野智靖
出版社:　旺文社
出版年:　　ISBN:　9784010942383

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <p>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　野口　博代	

テーマ

アメリカCBSのニュース報道番組を通して、英語力向上に励むだけでなく世界の様々な出来事や問題に関心を持ちましょう。

授業の到達目標

世界の様々な現代社会の問題に関心を持ち、英語で聞いたり議論することにより、英語の総合的な力の向上を目標とする。

授業の概要

アメリカCBSのニュース報道番組を教材に用いて、語彙力の強化、読解力及びリスニングの力の向上を目指す。また各ユニットで取り上げられたトピックについてクラス全体やグループで話し合う機会が多いので、積極的な授業参加を心掛けてほしい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各ユニットの単語練習問題は必ず予習しておくこと。授業外でも、Web動画によるニュース映像を予習復習に活用すること。
提出物として回収するものは全て成績評価の対象となるため、間違いを訂正し、必要に応じて再提出が必要となる。

内　容

第1回　オリエンテーション
Unit1の導入
第2回　Unit 1 What's for Lunch? In Japanese Schools It's Always Healthy 語彙問題、ニュースリスニング、要約
第3回　Unit 1 What's for Lunch? In Japanese Schools It's Always Healthy 内容把握 ディスカッション
第4回　Unit 2 BYOB: California Bans Single-Use Plastic Bags
語彙問題、ニュースリスニング、要約
第5回　Unit 2 BYOB: California Bans Single-Use Plastic Bags
内容把握、ディスカッション
第6回　Unit 3 How a Dog Can Improve Your Health
語彙問題、ニュースリスニング、要約
第7回　Unit 3 How a Dog Can Improve Your Health
内容把握、ディスカッション
第8回　Unit 4 The Shoe That Grows:Expandable Shoes Aim to Keep Up with Kids' Growing Feet 語彙問題、ニュースリスニング、要約
第9回　Unit 4 The Shoe That Grows:Expandable Shoes Aim to Keep Up with Kids' Growing Feet 内容把握、ディスカッション
第10回　Unit 5 "Cat Library" Offers Purrfect Solution to Stress
語彙問題、ニュースリスニング、要約
第11回　Unit 5 "Cat Library" Offers Purrfect Solution to Stress
内容把握、ディスカッション
第12回　Unit 6 The Evolution of Comic Books in the Digital Age
語彙問題、ニュースリスニング、要約
第13回　Unit 6 The Evolution of Comic Books in the Digital Age
内容把握、ディスカッション
第14回　Review
第15回　前期授業のまとめ

履修上の注意点

単位取得には2/3以上の出席が必要。

教科書

CBS NewsBreak 3
著者:　熊井信弘、Stephen Timson
出版社:　成美堂
出版年:　2017　　ISBN:　9784791960330

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）　　小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 20% ）
参加度 （ 20% ）

aks202a126

上記評価の授業中課題には授業外課題も含まれ、全て評価対象となる。参加度とは積極的な姿勢で授業に取り組む授業態度により評価される。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <R>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語Ⅱ A」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　杉山　泰	

テーマ

基礎英語(Basic English)を学びながら俵万智の短歌を英訳していく。

授業の到達目標

中学時代に学んだ基礎英文法の知識さえあれば、俵万智の短歌も楽しく英訳できることを学んでいく。「主語なし日本語」で「時制のない日本語」をどうしたらS+V+O構文の英語にできるのか、毎回プリントを配り、英訳し、それを翌週に添削して返却する。最後に、自分が英訳した俵万智の英訳を、すべて提出してもらう。

授業の概要

毎回「プリント」を配布し、各自辞書を利用して英訳し、提出する。英訳する前に、「翻訳英文法」を教え、ポイントを指摘するので、毎回の参加が大切になる。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

自宅では、添削して修正された英訳を、自分なりにもう一度最適と思われる英語に書き換える作業が必要。

内　容

第1回　自己紹介(I am Japanese. I am from Nagasaki.)から始めよう。
第2回　「氏名カード」の提出。その際、翻訳しづらい日本語(「がんばれ日本」など)を10ほど上げて、英語に翻訳してもらう。
第3回　＜be動詞＞「この味がいいね」と君が言ったから七月六日はサラダ記念日
第4回　＜be動詞＞「寒いね」と言えば「寒いね」と答える人のいるあたたかさ
第5回　＜主語と動詞＞愛してる愛していない花びらの数だけ愛があればいいのに
第6回　＜主語と動詞＞焼肉とグラタンが好きという少女よ私はあなたのお父さんが好き
第7回　＜過去形＞この部屋で君と暮らしていた女の髪の長さを知りたい夕べ
第8回　＜未来の文＞「三〇で俺は死ぬよ」と言う君とそれなら吾もそれまで生きん
第9回　＜疑問文＞ガーベラの首を両手で持ち上げておまえ一番好きなのは誰
第10回　＜否定文＞電話から少し離れてお茶を飲む聞いていないよと言うように飲む
第11回　＜進行形＞「また恋の歌作っているのか」と面白そうに心配そうに
第12回　＜疑問文と冠詞＞わが髪を三度切りたる美容師に「初めてですか」と聞かれて座る
第13回　＜能動態と受動態＞食べたいでもやせたいというコピーあり愛されたいでも愛したくない
第14回　＜助動詞＞思い出はミックスベジタブルのようだけれど解凍してはいけない
第15回　＜全体のまとめ＞これまで書き上げた、俵万智の短歌の英訳を再度推敲して全て仕上げて提出する。

履修上の注意点

4回生、5回生など卒業に必要な単位である場合、出席不足の学生は遅れても提出物を必ず仕上げて提出すること。最終的に遅れの出席として認める。

教科書

杉山「プリント」
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

英語対訳版サラダ記念日
著者:　俵万智・J・スタム訳
出版社:　河出文庫
出版年:　1989　　ISBN:

チョコレート革命
著者:　俵万智
出版社:　河出書房新車
出版年:　1997　　ISBN:

aks202a148

日本語で読む万葉集

著者: リービ英雄

出版社: 岩波新書

出版年: 2004 ISBN:

実践日本人の英語

著者: マーク・ピーターセン

出版社: 岩波新書

出版年: 2013 ISBN:

英文翻訳術

著者: 安西徹雄

出版社: ちくま学芸文庫

出版年: 1995 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ 20% ）

授業中課題 （ 40% ） 授業中発表等 （ 20% ）

参加度 （ 20% ）

学部によっては、10回以上の出席がなければ、合格にならないので、欠席した場合も必ず、提出用のプリントを遅れても提出すること。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩB」または「英語Ⅱ B」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　　櫃本　一美	

テーマ

TOEICの英語を素材に、得点アップと英語でのコミュニケーション力を高める。

授業の到達目標

基本的な文法を復習しながら、4技能の向上とTOEICでは50 点アップを目指す。

授業の概要

テキストを中心に、個人あるいはペアやグループでタスクに取り組む。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中、自宅での課題を確実にこなす。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　1) 基礎文法　2) Part 2 対策
第3回　1) 基礎文法　2) Part 2 対策
第4回　1) 基礎文法　2) Part 2 対策
第5回　1) 基礎文法　2) Part 2　対策
第6回　1) 基礎文法　2) Part 5 対策
第7回　1) Part 5 対策　2) Part 3 対策
第8回　1)　Part 6 対策　2) Part 3 対策
第9回　1) Part 6　対策　2) Part 3 対策
第10回　1) Part 7 対策　2) Part 4 対策
第11回　1) Part 7 対策　2) Part 4 対策
第12回　1) Part 7 対策 2) Part 4 対策
第13回　模擬試験
第14回　復習
第15回　復習

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。授業中の課題に取り組まない者、テキストを持参していない者は出席と認めない。

教科書

公式TOEIC Listening&Reading 2
著者:
出版社: ETS
出版年: 2017　　ISBN: 4906033504

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
授業中課題は小テストも含める。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　田中　美和子	

テーマ

国際語としての英語を身に付けて、世界に発信する

授業の到達目標

グローバルに活躍するために、英語でのプレゼンテーションを訓練するコースです。この授業では、プレゼンテーションを数多く実践することを通して、英語力と表現力を身に付けます。発信するためのライティングとスピーキング、受容するためのリスニングとリーディングの英語四技能を、総合的に、プロジェクト・ベーストで学びます。前期は、テーマに沿って論理的に、伝えたいことを自分なりに、英語で表現することができるようになることを目標とします。

授業の概要

「自己紹介」など複数のテーマで、1人で英語プレゼンテーションを、前期に3回やります。ライティング2週間、スライド作成1週間、印刷とリハーサル1週間と、準備に4週間かけ、5週目に発表です。発表は全て英語です。授業内で準備が終わらない場合は、宿題です。実際にプレゼンを何度もやりながら、学んでいくので、やりがいがあります。ただ講義を聞いていたら良いというコースではなく、積極的に自分で発表準備をして、自分で発表をするコースです。グループでも発表をするので、クラスで仲良くなります。欠席する場合は、期限内に提出物を学内のPドライブにパソコンを通して提出する必要があります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の発表原稿をライティングするのに2週間とってありますが、ライティングそのものに時間がかかるため、英語の文法学習としては、1年生で学んだ内容を復習して、参考書をみたり、自主的に勉強する必要があります。また、英語の辞書が授業中のライティングに必要となりますので、必ず用意して下さい。また、プレゼンテーションにおいては、発音が大切になります。発音記号の読み方も復習します。

内　容

第1回　プロジェクト①自己紹介：発表原稿ライティング(1)
第2回　プロジェクト①自己紹介：発表原稿ライティング(2)
第3回　プロジェクト①自己紹介：スライド作成
第4回　プロジェクト①自己紹介：印刷とリハーサル
第5回　第1回プレゼンテーション
第6回　プロジェクト②ニュース番組：発表原稿ライティング(1)
第7回　プロジェクト②ニュース番組：発表原稿ライティング(2)
第8回　プロジェクト②ニュース番組：スライド作成
第9回　プロジェクト②ニュース番組：印刷とリハーサル
第10回　第2回プレゼンテーション
第11回　プロジェクト③休暇の過ごし方：発表原稿ライティング(1)
第12回　プロジェクト③休暇の過ごし方：発表原稿ライティング(2)
第13回　プロジェクト③休暇の過ごし方：スライド作成
第14回　プロジェクト③休暇の過ごし方：印刷とリハーサル
第15回　第3回プレゼンテーション

履修上の注意点

原稿、パワーポイントは提出期限があり、期限内提出で加点です。なお、遅刻3回で欠席1回に換算されます。授業には必ず英和辞書を持参してください。また、この授業では、まじめな授業態度、グループ作業における協調性が必須となります。

教科書

使用しない(プリント配布)

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

aks202a212

プレゼンのクラスでは、発表準備をする場合、そして発表を聞く場合、どちらもマナーが大切となります。クラス全体で良い雰囲気を作り上げていくことが必要となりますので、雰囲気を悪くするような授業態度は、かなり減点しますので、ご注意ください。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <c>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語Ⅱ B」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　スミス, ジョン	

テーマ

This is an English communication course that will focus on speaking and listening skills to improve communication ability.

授業の到達目標

By the end of the semester, students will have increased their confidence in their ability to communicate in English with the instructor and their classmates.

授業の概要

This course will be taught in English. There are are a variety of motivating topics that will be meaningful to the learners in their everyday lives.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Please do all the homework, preview and review the textbook.

内　容

第1回　Self-introduction
第2回　Getting to know the teacher and classmates
第3回　Describing occupations
第4回　Talking about a work day and free time
第5回　Describing festivals and celebrations
第6回　Talking about favorite celebrities
第7回　Identify possessions
第8回　Giving travel advice
第9回　Food and favorite kinds of restaurants
第10回　Count and noncount nouns
第11回　Activities happening now
第12回　Favorite sports
第13回　Adventure holidays
第14回　Past vacation experiences
第15回　Summer plans and course review.

履修上の注意点

You must attend 10 or more classes to pass the course.

教科書

World English 1
著者:　Martin Milner
出版社:　Heinle Cengage
出版年:　2015　　ISBN:　9781285848693

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）

The students need to show a positive desire to communicate in English. Preparation and completion of homework is also required.

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <d>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語Ⅱ B」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　高居　佐紀	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　Unit1
第2回　Unit2
第3回　Unit3
第4回　Unit4
第5回　Unit5
第6回　進度調整/Review/弱点強化
第7回　Unit8
第8回　Unit9
第9回　進度調整/Review/弱点強化
第10回　Unit12
第11回　Unit13
第12回　Unit15
第13回　Listening Section実施＋解説
第14回　Reading Section実施＋解説
第15回　授業のまとめと学習到達度確認テスト

履修上の注意点

教科書

SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST1 GOAL500
著者:
出版社: 桐原書店
出版年:　　ISBN:

新形式対応問題 TOEICテスト直前対策模試
著者:
出版社: 語研
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <e>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　ﾊﾞｽｶｳﾞｨﾙ, ﾌﾞﾗｲｱﾝ	

テーマ

Expressing Your Ideas in English

授業の到達目標

The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills.

授業の概要

This course will be taught in English

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

If you forgot to bring your textbook and dictionary, you must make a copy of the next pages in the textbook and borrow a dictionary BEFORE class starts. Also, review the last lesson, look ahead at the next pages and check your dictionary for any new words.

内　容

第1回　introductions
第2回　classroom English
第3回　student interviews-A
第4回　student interviews-B
第5回　getting acquainted
第6回　experiences-A
第7回　experiences-B
第8回　sports & leisure
第9回　money
第10回　shopping
第11回　food-A
第12回　food-B
第13回　travel-A
第14回　travel-B
第15回　review

履修上の注意点

If you forget your textbook, you must photocopy the necessary pages from a classmate's book BEFORE class starts.

教科書

Let's Chat
著者:　John Pak
出版社:　EFL Press
出版年:　2007　　ISBN:　4580244420056

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <f>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語Ⅱ B」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　ﾋｴﾀﾗﾋﾃｨ, ｴﾚｷ	

テーマ

Oral English with Culture Content

授業の到達目標

Learn to speak about culture of countries around the world in basic to elementary level English.

授業の概要

– THIS COURSE WILL BE TAUGHT IN ENGLISH –
You'll learn about interesting culture events and customs in countries all over the waorld. Also, practical skills such as ordering food in a restaurant.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

It's a big help to preview and review every lesson. Especially, check textbook's difficult words.

内　容

第1回　Class introduction and preview excercises
第2回　Start Unit 1 "Where are you from?"
第3回　Continue Unit 1
第4回　Finish Unit 1
第5回　Start Unit 2 "What do you do?"
第6回　Continue Unit 2
第7回　Finish Unit 2
第8回　Review and reflection on Units 1 and 2
第9回　Start Unit 3 "How much are these?"
第10回　Continue Unit 3
第11回　Finish Unit 3
第12回　Start Unit 4 "Do you play the guitar?"
第13回　Continue Unit 4
第14回　Finish Unit 4
第15回　Review and reflection on Units 3 and 4

履修上の注意点

You must attend 10 or more classes to pass the course.

教科書

Interchange Level 1A Full Contact with Online Self-Study
著者:　Jack C. Richards
出版社:　Cambridge University Press
出版年:　2017　　ISBN:　9781316623916

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 10 ）

You will enjoy and have fun in this class. But to get a good grade, you have to do well on tests and also perform well in class.

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <g>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　クーラン, コーリ	

テーマ

Travel English

授業の到達目標

Learn the basics of travel English and survival English

授業の概要

Follow four young Japanese students as they travel abroad and introduce Japan to overseas guests. The course introduces key language needed for speaking English at home or abroad. This course will be taught in English

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Whenever possible, the teacher will introduce new methods (through free smartphone apps, free online English learning websites, DVDs, etc) for the students to take advantage of to further their Travel English studies in their free time.

内　容

第1回　Class introduction and preview an begin Unit 1 "Would you like some more?"
第2回　Finish Unit 1
第3回　Begin Unit 2 "What should we do first?"
第4回　Finish Unit 2
第5回　Begin Unit 3 "We're going to visit Chinatown"
第6回　Finish Unit 3
第7回　Review and reflection of Units 1 to 3
第8回　Begin Unit 4 "Are you good at skiing?"
第9回　Finish Unit 4
第10回　Begin Unit 5 "This one is cheaper"
第11回　Finish Unit 5
第12回　Begin Unit 6 "Don't forget your money!"
第13回　Finish Unit 6
第14回　Review and reflection of Units 4 to 6
第15回　Semester review and recap

履修上の注意点

**You must attend 10 or more classes to receive credit for the course. **More than half of your grade will be based on your in-class performance.

教科書

My First Passport 2
著者:　Tanja McCandie
出版社:　Oxford
出版年:　2006　　ISBN:　9780194718004

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 15 ）
授業中課題（ 15 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 20 ）

This will be a very fun class, but to get a good grade, you must do well on exams and quizzes as well as have good class performance

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <h>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定

担 当 者　フリン, マイケル

テーマ

Using English for Communication

授業の到達目標

Improved speaking, listening and writing skills in a cross cultural communicative context

授業の概要

This course will be taught in English.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Do assigned homework, preview and review textbook.

内　容

第1回　Orientation
第2回　Introductions
第3回　Introducting others
第4回　Exchanging personal information
第5回　How do you spend your day?
第6回　Work and school
第7回　Daily schedules
第8回　Review
第9回　Meaning of colors
第10回　Clothes shopping
第11回　Making Comparisons
第12回　Music
第13回　Entertainment
第14回　Invitations
第15回　Review

履修上の注意点

You must attend 10 or more classes to pass the course.

教科書

Interchange I Student's Book A(fourth Edition)
著者：　Jack C. Richards
出版社：Cambridge University Press
出版年：　　ISBN：　9780521601757
Interchange I Workbook Book A(4th Edition)
著者：　Jack C. Richards
出版社：Cambridge University Press
出版年：　　ISBN：　9780521601788

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 55 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 45 ）

Participation score is a composite score that includes homework and participation in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <i>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語Ⅱ B」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　占部　幹也	

テーマ

TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEICリスニングに必要なリスニングスキルの修得を目標とする。

授業の概要

各パートの特徴を理解し、必要なスキルと語彙を確認した後、練習問題のリスニングをする。部分ディクテーションをして解答を確認後、スクリプトの音読やシャドーイングなどを通じて理解を深める。中盤以降は実践演習を行う。単語テスト、復習テストを随時行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習:語彙学習［30分から1時間程度］ 復習：音声をダウンロードしてスクリプトを確認しながら聴く。同時シャドーイングを行う。［30分］

内　容

第1回　Part 1の攻略ポイント
第2回　Part 2の攻略ポイント
第3回　Parrt3の攻略ポイント
第4回　全体を問う問題に強くなる
第5回　様々な疑問文の聴き取り
第6回　正解の言い換えパターン
第7回　頻出テーマ：注文確認・留守電メッセージ
第8回　頻出テーマ：スケジュール変更・交通情報
第9回　頻出テーマ：イベントへの誘い・交通機関のアナウンス
第10回　頻出テーマ：仕事の依頼・広告
第11回　頻出テーマ：求人と採用・ツアーの事前説明
第12回　頻出テーマ：トラブル処理・会議のスピーチ
第13回　総合問題演習（1）
第14回　総合問題演習（2）
第15回　総合問題演習（3）

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。ペアワークや音読に積極的に取り組む。毎回たくさんの英語を聴くので集中力を持って授業に臨む。TOEIC自己目標スコアを設定して、必ず達成しましょう。

教科書

SUCCESSFUL KES TO THE TOEIC TEST2 GOAL600
著者：　水本 篤/Mark D. Stafford
出版社：桐原書店
出版年：　　ISBN：

新形式問題対応 TOEICテスト直前対策模試
著者：　早川 幸治＋ロス・タロック
出版社：語研
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30% ）　　小テスト（ 20% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30% ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <j>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語Ⅱ B」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　川口　玲子	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　Unit1
第2回　Unit2
第3回　Unit3
第4回　Unit4
第5回　Unit5
第6回　進度調整/Review/弱点強化
第7回　Unit8
第8回　Unit9
第9回　進度調整/Review/弱点強化
第10回　Unit12
第11回　Unit13
第12回　Unit15
第13回　Listening Section実施＋解説
第14回　Reading Section実施＋解説
第15回　授業のまとめと学習到達度確認テスト

履修上の注意点

教科書

SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST1 GOAL500
著者:
出版社: 桐原書店
出版年:　　ISBN:

新形式対応問題 TOEIC テスト直前対策模試
著者:
出版社: 語研
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <k>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　ソーソン, マーカス	

テーマ

Acting English Drama

授業の到達目標

This class is designed to improve vocabulary, listening comprehension and pronunciation by studying and acting natural speaking situations in a video drama.

授業の概要

Using video from a popular drama and supported by interesting exercises concerning new vocaulary, pronunciation, idiomatic expression and usage, the class will inspire student learning. This course will be taught in English.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Preview next lesson before each class and extra for tests.

内　容

第1回　Introductions, Class Objectives
第2回　Journals Homework #1 Introduction.
第3回　The Alien Truth – Story Research
第4回　Journals week 3 Pronunciation Pg. 5
第5回　Leaving Normal – Acting Scene.
第6回　Episode 5 Missing Q – A
第7回　Journals week 6 Kyle and Liz Scene
第8回　Episode 7 Riverdog – Acting
第9回　Story Review – Tell the story.
第10回　Episode 9 Heat Wave
第11回　Final Journals week 10
第12回　Presentations – Reports
第13回　Toy House – Acting Scene
第14回　Into the Woods
第15回　The Convention – Q and A

履修上の注意点

You must attend 10 classes to pass. B5 Notebook is required homework.

教科書

Acting English Drama
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <I>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　松村 優子	

テーマ

英字新聞を読み・聴き、現代社会の様々な問題・現象を理解し、読解・リスニング・語彙を中心とした英語総合力を向上させることを目指す。

授業の到達目標

1. 英字新聞ニュースの構造や表現などに慣れる。2. ニュースで扱われている現代社会の様々な問題に対する認識、関心を高める。3. ニュース・トピックに関する語彙力、聴解力、読解力、文法力などの総合力を伸ばす。

授業の概要

各章について、以下の順通りに進める。1. Before Reading 1,2 [トピック提示,語彙問題]、2.記事の読解、3. While Reading 1,2,3,4,5 [記事に関する読解問題]、 4 After Reading 1,2,3 [英作文, 語彙問題]
さらに、発表形式も取り入れていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキスト指定箇所の予習、復習をすること。
重要語彙をノートにまとめておくこと。

内　容

第1回　Introduction（授業の概要や進め方などの説明も含む）
第2回　プリントなど
第3回　Unit 1 AI gives 'objective' advice for daily decisions
人工知能、日常の判断に「客観的」助言を提供
第4回　Unit 2 Finland to pay unemployed basic monthly income of $587
フィンランド、失業者に月587ドルの基礎所得支給へ
第5回　Unit 3 Chef helping spread washoku school lunches
料理人、和食給食の普及を援助
第6回　Unit 4 Oxfam: 8 men as rich as half the world
オックスファム: 8人の富、世界の半数に匹敵
第7回　Unit 5 Shrine in Tokyo accepts e-money offerings
東京の神社、電子マネーの賽銭を受け入れ
第8回　Unit 6 Reading glasses may become a past thing
読書用メガネ、過去のものになる可能性
第9回　Unit 7Japan to help farmers obtain food safety certificates for 2020
日本、2020年五輪へ向け、農家の「食の安全」認証取得支援へ
第10回　Unit 8 Study: Baby brain scans may reveal autism risk
乳児の脳の画像で自閉症のリスク診断が可能に
第11回　Unit 9 Tax-sharing services app to be tested
相乗りタクシーアプリ、実証実験へ
第12回　Unit 10 Hometown flavors big business in Tokyo
故郷の味、東京で大きなビジネスに
第13回　プリントなど
第14回　復習、復習テスト
第15回　復習、復習テスト

履修上の注意点

1. テキスト指定箇所を予習してきたことを前提に授業を進める。
2. 1回の授業でテキスト1章のペースで進む予定であるが、学習状況により進め方の変更や調整もある。
3. 学習状況によりUnitの順番を変えることもあるが、前期は10章まで進む予定である。

教科書

Meet the World 2018—English through Newspapers メディアで学ぶ日本と世界 2017
著者:　若有保彦
出版社:　成美堂
出版年:　2018　　ISBN:　9784791934256

参考書

成績評価

aks202a222

試験・レポート （ 0% ）　　小テスト （ 60% ）

授業中課題 （ 10% ）　　授業中発表等 （ 15% ）

参加度 （ 15% ）

小テストは、14回、15回目の復習テストが中心である。参加度とは出席だけでなく、授業態度なども含まれる。発表形式も取り入れる。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <n>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　クーラン, コーリ	

テーマ

Beginner level English for students of nursing.

授業の到達目標

The aim of this course is to enable students to communicate in English in everyday situations and gain the knowledge and confidence they need to use English in a wide variety of situations in and around the hospital.

授業の概要

Different topics related to nursing will be addressed and discussed through speaking, reading, writing, and listening exercises.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

In class, teacher will point out useful websites, videos, and other educational materials that pertain to the class. The students may use these for their own personal improvement in the fields of nursing and medicine.

内　容

第1回　Introductions and class explanation
第2回　"The Nurse" printout
第3回　Hospital departments
第4回　Hospital departments
第5回　Reasons for entering the nursing field
第6回　Describing illness
第7回　Review and recap of weeks 2 to 6
第8回　Parts of the body and their functions
第9回　Parts of the body and thier functions
第10回　Illnesses
第11回　Illnesses
第12回　Symptoms of illness
第13回　Video
第14回　Review and recap of weeks 11 to 13
第15回　Review and recap of course

履修上の注意点

You must attend 10 or more classes to receive credit for the course. **60%of your grade will be based on your in-class performance.Text material prints will be given out only ONCE. If you lose them, you must photocopy the pages needed before the start of the next class.

教科書

Vital Signs 2
著者: E. Morooka, T. Sugiura
出版社: 南雲堂
出版年: 2014　　ISBN: 978-4523177555

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）
Although review test exercises will be given, coming to class prepared and ready to participate is also very important.

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <o>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　員　40
履修条件　「英語ＩB」または「英語Ⅱ B」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　櫃本　一美	

テーマ

TOEICの英語を素材に、得点アップと英語でのコミュニケーション力を高める。

授業の到達目標

基本的な文法を復習しながら、4技能の向上とTOEICでは50 点アップを目指す。

授業の概要

テキストを中心に、個人あるいはペアやグループでタスクに取り組む。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中、自宅での課題を確実にこなす。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　1) 基礎文法　2) Part 1 対策
第3回　1) 基礎文法　2) Part 2 対策
第4回　1) 基礎文法　2) Part 2 対策
第5回　1) 基礎文法　2) Part 2 対策
第6回　1) 基礎文法　2) Part 5 対策
第7回　1) Part 5 対策　2) Part 3 対策
第8回　1) Part 6 対策　2) Part 3 対策
第9回　1) Part 6　対策　2) Part 3 対策
第10回　1) Part 7 対策　2) Part 4 対策
第11回　1) Part 7 対策　2) Part 4 対策
第12回　1) Part 7 対策　2) Part 4 対策
第13回　模擬試験
第14回　復習
第15回　復習

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。授業中の課題に取り組まない者、テキストを持参していない者は出席と認めない。

教科書

公式TOEIC Listening&Reading 2
著者:
出版社: ETS
出版年: 2017　　ISBN: 4906033504

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
授業中課題は小テストも含める。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <p>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語Ⅱ B」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　ﾋｴﾀﾗﾋﾃｨ, ｴﾚｷ	

テーマ

Nursing English

授業の到達目標

Learn the basics of healthcare English.

授業の概要

– THIS COURSE WILL BE TAUGHT IN ENGLISH – This course will teach you how to speak in usual hospital and clinic situations. You will learn special healthcare words, too.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

It's important to preview and review every lesson. Especially, check textbook's difficult words.

内　容

第1回　Class introduction and preview exercises
第2回　Start Unit 1 "Hospital Departments"
第3回　Finish Unit 1
第4回　Start Unit 2 "Application Forms"
第5回　Finish Unit 2
第6回　Start Unit 3 "Parts of the Body"
第7回　Finish Unit 3
第8回　Review and reflection of Units 1 to 3
第9回　Start Unit 4 "Illnesses"
第10回　Finish Unit 4
第11回　Start Unit 5 "Daily Routine"
第12回　Finish Unit 5
第13回　Start Unit 6 "Hospital Objects"
第14回　Finish Unit 6
第15回　Review and reflection of Units 4 to 6

履修上の注意点

You must attend 10 or more classes to pass the course.

教科書

Vital Signs (Revised Edition)
著者:　Morooka & Sugiura
出版社:　Nan'un-do
出版年:　2018　　ISBN:　9784523178682

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30 ）　　小テスト （ 30 ）
授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 10 ）

You will enjoy and have fun in this class. But to get a good grade, you have to do well on tests and also perform well in class.

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <R>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　杉山　泰	

テーマ

新聞英語を読みながら、英語構文と国際ニュースの理解の仕方を学ぶ

授業の到達目標

TPPだとか、skypeを日本語に訳しているだろうか。smartphoneもCDも日本語に訳していない。逆に、「自衛隊」だとか「後方支援」、「専守防衛」といった日本語を英語に置き換えることははなはだむずかしい。literatureを「文学」、economicsを「経済」と日本語に翻訳した明治時代の日本人の偉大さを学びながら、最近の新聞英語を徹底的に日本語に翻訳する作業を行なう。国際情勢を学ぶことを最大の目標とする。

授業の概要

毎回、やさしい英字新聞を提示して、それを日本語に翻訳してもらう。日頃から新聞を読んでいれば、そうむずかしくはない。翻訳した日本語を添削して、翌週に返却する。毎回それをファイルして、国際情勢の知識を高めてもらう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回新聞英語を翻訳してもらうので、辞書の持参が必要。

内　容

第1回　自己紹介。「氏名カード」の記入。最近の10大ニュースを書いてもらう。
第2回　それぞれが書いた10大ニュースを英語に翻訳してもらう。
第3回　新聞英語の英文法と使用頻度の高い短い英単語を丸暗記してもらう。
第4回　英語の時制（新聞英語の中で、時制に注意すべき英文の翻訳実践）
第5回　完了形の英語（時間の幅がある場合の英文の翻訳実践）
第6回　不定詞の英語（未来志向の不定詞の英文の翻訳実践）
第7回　There is構文の英語（客観的存在表現の英文の翻訳実践）
第8回　比較級の英語（比較表現の英文の翻訳実践）
第9回　仮定法の英語（ありえないことの仮定をする英文の翻訳実践）
第10回　仮定法の英語（If節がない仮定をする英文の翻訳実践）
第11回　日本語に訳せない英語（日本語では表現できない英文の翻訳実践）
第12回　文化の違いを示している英語（文化の違いが明らかな英文の翻訳実践）
第13回　英字新聞で書かれているPrime Minister Shinzo Abeをどう考えるか？
第14回　英字新聞で「紫式部」や「清少納言」はどう翻訳されているのか？
第15回　今年度の英字新聞に現れた新しい英語を10以上あげてその日本語訳を考える

履修上の注意点

毎回英字新聞からの切り抜きをプリントして翻訳していくので、必ず辞書を持参すること。また、毎回添削返却するので、返却された答案用紙を必ずファイルしておくこと。

教科書

杉山「プリント」
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

「超基本」の英単語
著者:　尾崎哲夫
出版社:　角川新書
出版年:　2002　　ISBN:

大世界史
著者:　池上彰・佐藤優
出版社:　文春新書
出版年:　2015　　ISBN:

aks202a248

翻訳教室

著者: 鴻巣友季子

出版社: ちくまプリマー新書

出版年: 2013 ISBN:

英文翻訳術

著者: 安西徹男

出版社: ちくま学芸文庫

出版年: 1995 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ 20% ）

授業中課題 （ 40% ） 授業中発表等 （ 20% ）

参加度 （ 20% ）

欠席した場合、「プリント」を自宅で仕上げ提出すれば、遅れとしての出席を認める場合がある。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　櫃本　一美	

テーマ

TOEICの英語を素材に、得点アップと英語でのコミュニケーション力を高める

授業の到達目標

4技能の向上とTOEICでは50 点アップを目指す。

授業の概要

テキストを中心に、個人あるいはペアやグループでタスクに取り組む。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中、自宅での課題を確実にこなす。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　1）Part 1対策　2）Part 5対策
第3回　1）Part 2対策　2）Part 7対策
第4回　1）Part 3対策　2）Part 7対策
第5回　1）Part 3対策　2）Part 7対策
第6回　1）Part 4対策　2）Part 6対策
第7回　1）Part 4対策　2）Part 6対策
第8回　模擬試験
第9回　1）Part 1対策　2）Part 5対策
第10回　1）Part 2対策　2）Part 7対策
第11回　1）Part 3対策　2）Part 7対策
第12回　1）Part 4対策　2）Part 6対策
第13回　模擬試験
第14回　復習
第15回　復習

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。授業中の課題に取り組まない者、テキストを持参していない者は出席と認めない。

教科書

公式TOEIC Listening&Reading 3
著者:
出版社: ETS
出版年: 2017　　ISBN: 4906033539

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
授業中課題は小テストも含める。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　ハビブ, ジェラード	

テーマ

An introduction to international business English

授業の到達目標

This course aims to give you confidence in communicating in everyday business situations, use and understand international English, and understand global business culture.

授業の概要

The course will require lots of spoken interaction with classmates as well as listening practice.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

There will be regular conversation assessments based on the material studied in the textbook. Students are advised to regularly review the material and actively participate in class. Please view class activities as opportunities to improve your spoken English. A positive attitude will make learning English more enjoyable.

内　容

第1回　Introduction
第2回　Unit 7: Complaints and problems
第3回　Unit 7: Complaints and problems(cont'd),
Conversation Check 7
第4回　Unit 8: Checking progress
第5回　Unit 8: Checking progress(cont'd),
Conversation check 8
第6回　Unit 9: Future prospects
第7回　Unit 9: Future prospects(cont'd),
Conversation Check 9
第8回　Review 7-9
第9回　Unit 10: Regulations and advice
第10回　Unit 10: Regulations and advice(cont'd),
Conversation check 10
第11回　Unit 11: Meeting and discussions
第12回　Unit 11: Meeting and discussions(cont'd),
Conversation Check 11
第13回　Unit 12: Speaking in public
第14回　Unit 12: Speaking in public(cont'd),
Conversation check 12
第15回　Review10-12, Final speaking test

履修上の注意点

This course will be conducted in English. you must attend at least 2/3rds of the classes to pass.

教科書

Business Venture 2 (3/E) Student Book + Multi-ROM
著者:
出版社: Oxford University Press
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20 ）	小テスト （ 30 ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <c>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　原 俊樹	

テーマ

一段上の英語力を身につけよう一
多少ブロークンでもよいから通じる英語を使いこなしなさい！

授業の到達目標

ⅢAと同様に、実践的な英語運用能力を身につける

授業の概要

基本的には各ユニットに沿って授業を進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習・復習を確実にしてくること。

内　容

第1回　テキスト前半部の学習内容の整理と確認
第2回　基礎力判定実力テスト 英文の基本表現の確認1：英文の成り立ち・主語と述語動詞のとらえ方
第3回　英文の基本表現の確認2：5文型
第4回　英文の基本表現の確認3：文の要素・修飾語句
第5回　叙法
第6回　関係詞（関係代名詞と関係副詞）
第7回　助動詞の用法1
第8回　助動詞の用法2
第9回　話法
第10回　比較
第11回　否定
第12回　疑問
第13回　複雑な構造を持つ文の理解1：接続語句と重文・複文
第14回　複雑な構造を持つ文の理解2：分詞構文
第15回　後期のまとめ・到達度の確認

履修上の注意点

教科書

English through the News Media 2018 Edition
著者：　MasamiTakahashi/ Noriko Itoh/ RichardPowell
出版社：　Asahi Press
出版年：　2018　　ISBN：　9784255156248

参考書

高校時代の辞書・英語参考書
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート （ 50% ）　　小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ 10% ）　　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 10% ）
授業中の態度(私語・スマホ・携帯電話の使用など)も評価に入れます。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <d>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　高居　佐紀	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
（受験有無や受講生知識のヒアリング、試験構成確認等）
第2回　Unit2 Placesをテーマにした問題を学ぶ
第3回　進度調整/Review/弱点強化
第4回　Unit5 Businessをテーマにした問題を学ぶ
第5回　進度調整/Review/弱点強化/模試前全体まとめ確認
第6回　Listening Section 解説続き
第7回　Reading Section 解説続き
第8回　Unit8　Personnelをテーマにした問題を学ぶ
第9回　進度調整/Review/弱点強化
第10回　Unit11　Financesをテーマにした問題を学ぶ
第11回　進度調整/Review/弱点強化
第12回　Unit14　Healthをテーマにした問題を学ぶ
第13回　進度調整/Review/弱点強化/模試前全体まとめ確認
第14回　Listening Section 解説続き
第15回　Reading Section 解説続き

履修上の注意点

教科書

SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST2　GOAL600
著者:　水本 篤/Mark D. Stafford
出版社:　桐原書店
出版年:　　ISBN:

はじめてのTOEIC LISTENING AND READING テスト本番模試　改訂版:新形式対応
著者:　入江 泉
出版社:　旺文社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <e>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　田中　美和子	

テーマ

国際語としての英語を身に付けて、世界に発信する

授業の到達目標

グローバルに活躍するために、英語でのプレゼンテーションを訓練するコースです。この授業では、プレゼンテーションを数多く実践することを通して、英語力と表現力を身に付けます。発信するためのライティングとスピーキング、受容するためのリスニングとリーディングの英語四技能を、総合的に、プロジェクト・ベーストで学びます。後期は、自分の個性を知り、その個性が活きるように、英語で表現することができるようになることを目標とします。

授業の概要

「日本の魅力」など複数のテーマで、2分間以上（150 words～）のプレゼンテーションを、後期も3回やります。前期同様、準備に4週間かけ、5週目に発表です。発表は全て英語です。実際にプレゼンを何度もやりながら、後期は、できるだけ、発表原稿を見ないで発表する方法を学んでいきます。特に、発音やイントネーションに注意していきましょう。ただ講義を聞いていたら良いというコースではなく、積極的に自分で発表準備をして、自分で発表をするコースです。グループでも発表をするので、クラスで仲良くなります。欠席する場合は、期限内に提出物を学内のPドライブにパソコンを通して提出する必要があります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

発表原稿のライティングには2週間とってありますが、授業中に英文法を学ぶ時間が少ないので、授業外に自分でそれを補って下さい。また、後期は、プレゼンテーションの練習に時間をかけて、読めない単語が無いように、スムーズに英語の発音ができるようになることを目標の1つにしましょう。英語の歌やドラマ、また映画などに、普段から触れておくもの良いでしょう。

内　容

第1回　プロジェクト①日本の魅力：発表原稿ライティング1
第2回　プロジェクト①日本の魅力：発表原稿ライティング2
第3回　プロジェクト①日本の魅力：スライド作成
第4回　プロジェクト①日本の魅力：印刷とリハーサル
第5回　第1回プレゼンテーション
第6回　プロジェクト②日本の社会問題：発表原稿ライティング1
第7回　プロジェクト②日本の社会問題：発表原稿ライティング2
第8回　プロジェクト②日本の社会問題：スライド作成
第9回　プロジェクト②日本の社会問題：印刷とリハーサル
第10回　第2回プレゼンテーション
第11回　プロジェクト③未来の計画：発表原稿ライティング1
第12回　プロジェクト③未来の計画：発表原稿ライティング2
第13回　プロジェクト③未来の計画：スライド作成
第14回　プロジェクト③未来の計画：印刷とリハーサル
第15回　第3回プレゼンテーション

履修上の注意点

原稿、パワーポイントは提出期限があり、期限内提出で加点です。なお、遅刻3回で欠席1回に換算されます。授業には必ず英和辞書を持参してください。また、この授業では、まじめな授業態度、グループ作業における協調性が必須となります。

教科書

使用しない(プリント配布)。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

「意味順」英語学習法
著者:　田地野彰
出版社:　(株)ディスカバー・トゥエンティワン
出版年:　2011　　ISBN:　9784799310995

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）

aks202a355

参加度 （ 30 ）

プレゼンのクラスでは、発表準備をする場合、そして発表を聞く場合、どちらもマナーが大切となります。クラス全体で良い雰囲気を作り上げていくことが必要となりますので、雰囲気を悪くするような授業態度は、かなり減点しますのでご注意ください。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <f>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　野口　博代	

テーマ

アメリカCBSのニュース報道番組を通して、英語力向上に励むだけでなく世界の様々な出来事や問題に関心を持ちましょう。

授業の到達目標

世界の様々な現代社会の問題に関心を持ち、英語で聞いたり議論することにより、英語の総合的な力の向上を目標とする。

授業の概要

アメリカCBSのニュース報道番組を教材に用いて、語彙力の強化、読解力及びリスニングの力の向上を目指す。また各ユニットで取り上げられたトピックについてクラス全体やグループで話し合う機会が多いので、積極的な授業参加を心掛けてほしい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各ユニットの単語練習問題は必ず予習しておくこと。授業外でも、Web動画によるニュース映像を予習復習に活用すること。
提出物として回収するものは全て成績評価の対象となるため、間違いを訂正し、必要に応じて再提出が必要となる。

内　容

第1回　オリエンテーション
Unit7の導入
第2回　Unit 7 Can Drinking Soda Make You Age Faster?
語彙問題、ニュースリスニング、要約
第3回　Unit 7 Can Drinking Soda Make You Age Faster?
内容把握 ディスカッション
第4回　Unit 8 What You Like on Facebook Could Affect Your Job Search
語彙問題、ニュースリスニング、要約
第5回　Unit 8 What You Like on Facebook Could Affect Your Job Search
内容把握、ディスカッション
第6回　Unit 9 Is Sitting the New Smoking?
語彙問題、ニュースリスニング、要約
第7回　Unit 9 Is Sitting the New Smoking?
内容把握、ディスカッション
第8回　Unit 10 Matcha Madness Sparks New Tea Craze
語彙問題、ニュースリスニング、要約
第9回　Unit 10 Matcha Madness Sparks New Tea Craze
内容把握、ディスカッション
第10回　Unit 11 Daddy Duty:Stay-at-Home Dads Putting Kids Before Careers
語彙問題、ニュースリスニング、要約
第11回　Unit 11 Daddy Duty:Stay-at-Home Dads Putting Kids Before Careers
内容把握、ディスカッション
第12回　Unit 12 One Man's Long Journey to Help a Stranger Walk Again
語彙問題、ニュースリスニング、要約
第13回　Unit 12 One Man's Long Journey to Help a Stranger Walk Again
内容把握、ディスカッション
第14回　Review
第15回　前期授業のまとめ

履修上の注意点

単位取得には2/3以上の出席が必要。

教科書

CBS NewsBreak 3
著者:　熊井信弘、Stephen Timson
出版社: 成美堂
出版年: 2017　　ISBN:　9784791960330

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）　　小テスト （ 40% ）

aks202a356

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 20% ）

参加度 （ 20% ）

上記評価の授業中課題には授業外課題も含まれ、全て評価対象となる。参加度とは積極的な姿勢で授業に取り組む授業態度により評価される。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <g>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　山﨑 清水	

テーマ

総合的な英語運用能力の向上

授業の到達目標

英語運用能力を向上することを目指す。

授業の概要

英語運用能力を養いながら日本や世界の観光名所をビデオで学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

詳細は授業で説明する。

内　容

第1回　Carving the History of the Earth: Grand Canyon National Park
第2回　The Lying Dragon: The Great Wall of China
第3回　Monument to the Beloved: Taj Mahal
第4回　Where Ancient Spirits Live: Uluru-Kata Tjuta National Park
第5回　Beautiful Paris, Forever: Paris and the Banks of the Seine
第6回　Hidden City: Historic Site of Machu Picchu
第7回　The Challenge to Find Longitude: Greenwich
第8回　The Maze City: The Medina of Fez
第9回　A Tragic Masquerade: The Royal Palace of Drottningholm
第10回　Underground Towns: Goreme National Park and the Rock Sites of Cappadocia
第11回　A Nation of Civility: Gusuku Sites and Related Properties of the Kingdom of Ryukyu
第12回　The Water Palace: Alhambra, Granada
第13回　A Landscape Shaped by Glaciers: Te Wahipounamu
第14回　Reawakened-Ancient City: Archaeological Areas of Pompeii
第15回　The Memory of the Holocaust: Auschwitz

履修上の注意点

私語は慎むこと。

教科書

Exploring World Heritage on DVD
著者:　塚野壽一 / Robert Van Benthuysen
出版社: 成美堂
出版年: 2010　　ISBN:　9784791931187

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <h>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　増田　聖日恵	

テーマ

時事英語への発展。

授業の到達目標

比較的平易な英語で書かれた英文記事を読めるようになる。時事英語に関連した基本語彙を学習する。授業で検討したそれぞれの社会的問題についての意識を高める。英語の音とリズムに慣れる。

授業の概要

最新のニュースをもとに新聞記事の構成や簡単な時事用語を学び英語でニュースを読んだり聞いたりする事に慣れる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

語彙の復習は欠かさず行い定着させ、授業外でも音読をするなどして毎日英語に触れる習慣を付けて下さい。

内　容

第1回　地球と同じ大きさの惑星、7つ発見
第2回　古代の人類の祖先、背筋を伸ばして立っていた
第3回　ロボット、より高度な感情を獲得中
第4回　復習
第5回　ペンギンの祖先、ティラノサウルスに出会っていた可能性
第6回　中国でアニメブームが加熱、冷えた日中関係にも影響せず
第7回　限りある人材をよりよく生かす方法
第8回　復習
第9回　山の向こうに浮かぶ月は45億1000万歳
第10回　新幹線の清掃員、神業の仕事ぶりで脚光を浴びる
第11回　復習
第12回　新しい虫対策の罠、有害種のみを捕獲
第13回　ADHD、単なる良くない行動ではなく「脳の障害」
第14回　復習
第15回　総合問題演習を通した復習

履修上の注意点

単語テストを定期的に行うので、出席は大切です。

教科書

メディアで学ぶ日本と世界2018
著者:　若有　康彦
出版社:　成美堂
出版年:　　ISBN:　9784791934256

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）
小テストや復習テストを定期的行い習熟度をチェックします。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <i>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　占部　幹也	

テーマ

TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEICリーディングに必要な語彙力および文法、読解力の育成を目的とする。

授業の概要

TOEIC頻出の文法項目の再確認をしつつ、リーディングパートを量的にこなすことに主眼を置き、スピーディにしかも正確に英文を処理する力の育成をめざす。問題を解いた後、ペアワークで、構文の理解やキーセンテンスの確認などを行い、確実に英文を理解する力をつけて行く。終盤では総合演習を行い、適宜時事英語も扱う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

語彙学習 （予習・30分程度） リーディングタスク（宿題・40分程度）、日ごろから英語で情報を取り入れることを習慣化すること。

内　容

第1回　TOEIC頻出英文法（1）動詞
第2回　TOEIC頻出英文法（2）品詞
第3回　TOEIC 頻出英文法（3）接続詞と前置詞
第4回　TOEIC頻出英文法（4）分詞
第5回　Part 5 (1)
第6回　Part 5 (2)
第7回　Part 6
第8回　Part 7 シングルパッセージ（1）
第9回　Part 7 シングルパッセージ（2）
第10回 Part 7 ダブルパッセージ
第11回 Part 7 トリプルパッセージ
第12回 これまでの学習事項の復習
第13回 総合問題演習（1）
第14回 総合問題演習（2）
第15回 総合問題演習（3）

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。辞書を持ってくること。TOEIC自己目標スコアを設定し、集中力を持って授業に臨むこと。

教科書

SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST3 GOAL700
著者:　水本 篤/Mark D. Stafford
出版社: 桐原書店
出版年:　　ISBN:
はじめてのTOEIC LISTENING AND READING テスト本番模試　改訂版:新形式対応
著者:　入江 泉
出版社: 旺文社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ）　　小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 30% ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA 〈j〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　川口　玲子	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
（受験有無や受講生知識のヒアリング、試験構成確認等）
第2回　Unit2 Placesをテーマにした問題を学ぶ
第3回　進度調整/Review/弱点強化
第4回　Unit5 Businessをテーマにした問題を学ぶ
第5回　進度調整/Review/弱点強化/模試前全体まとめ確認
第6回　Listening Section 解説続き
第7回　Reading Section 解説続き
第8回　Unit8　Personnelをテーマにした問題を学ぶ
第9回　進度調整/Review/弱点強化
第10回　Unit11　Financesをテーマにした問題を学ぶ
第11回　進度調整/Review/弱点強化
第12回　Unit14　Healthをテーマにした問題を学ぶ
第13回　進度調整/Review/弱点強化/模試前全体まとめ確認
第14回　Listening Section 解説続き
第15回　Reading Section 解説続き

履修上の注意点

教科書

SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST2 GOAL600
著者:　水本 篤/Mark D. Stafford
出版社:　桐原書店
出版年:　　ISBN:
はじめてのTOEIC LISTENING AND READING テスト本番模試　改訂版:新形式対応
著者:　入江 泉
出版社:　旺文社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <k>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　金子　秋子	

テーマ

日常的なことを英語で表現できる力を身につけよう。

授業の到達目標

日常的な状況の中で、英語で説明をしたり、感じ方や意見が述べられる力を身に着けることが目標です。語彙を養成する問題、ミニ英会話、リスニング、英作などに取り組み、英語で表現できる力を向上させます。

授業の概要

語彙の練習、ミニ英会話、リスニング問題をしながら、一定の状況下における表現を学んだあとで、自分でも、英語で説明をしたり、作文をしたりします。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

語彙・英語表現の復習をする。
課題に関しては、添削や教室内での答え合わせを通じて、例解を示します。

内　容

第1回　Talking about your summer vacation
第2回　Unit 7 What's Happening?
第3回　Unit 7 What's Happening?
第4回　Unit 8 People
第5回　Unit 8 People
第6回　Unit 9 Having Fun
第7回　Unit 9 Having Fun
第8回　まとめのテスト
第9回　Unit 10 Vacation
第10回　Unit 10 Vacation
第11回　Unit 11 Life Stories
第12回　Unit 11 Life Stories
第13回　Unit 12 Hopes and Intensions
第14回　Unit 12 HOpes and Intentions
第15回　まとめのテスト

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。辞書を携帯する。授業中に携帯を触った場合、成績から減点する

教科書

Breakthrough Plus 1
著者:　Miles Craven
出版社:　McMillan Education
出版年:　2013　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30% ）　　小テスト（ 30% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 40% ）
試験はまとめのテストを意味し、小テストは語彙中心のテストとなる。参加度には授業中の発表が含まれる。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <I>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　ﾃﾞｨｰｸﾞﾙ, ｼﾞｪｰﾑｽ	

テーマ

Global Events and Topics

授業の到達目標

Students should be able to improve upon their reading, writing, speaking, and listening skills by discussing topics that are important on a global level and how they affect their lives and the lives of others

授業の概要

There will be varioius activities targeting the four skills through a variety of units. There will be a special concentration on comprehension and understanding of content and expression of ideas and thoughts regarding each of the units. There will also be supplementary materials when appropriate in addition to the text for various topics that will be introduced to and responsible for. This course will be taught in English

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

This is designed to be a communication class so a large focus will be upon communicating with other members of the class in various ways – so students should try their best to improve upon their ability in this regard.
I am available to talk to stud myself between classes and also hand back reports with scores giving suggestions during class for improvement on speaking and grammar skills.

内　容

第1回　Orientation
第2回　Communication 1
第3回　Communication 2
第4回　The Future 1
第5回　The Future 2
第6回　Shopping For Clothes 1
第7回　Shopping For Clothes 2
第8回　Review
第9回　Lifestyles 1
第10回　Lifestyles 2
第11回　Achievements 1
第12回　Achievements 2
第13回　Consequences 1
第14回　Consequences 2
第15回　Final Review

履修上の注意点

教科書

World English 1 Student Book with Online Workbook 1B
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:　9781305089549

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <n>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　原　俊樹	

テーマ

一段上の英語の運営能力を身につける

授業の到達目標

ⅢAと同様に、英語の理解・運用の能力を身につける。

授業の概要

ⅢA同様に基本的にはテキストの各ユニットに沿って授業を進める 習熟度・理解度をみるための小テスト・実力テスト・課題を用意します

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習・復習を確実にすること

内　容

第1回　テキスト前半部（ⅢA範囲）の学習内容の整理と確認
第2回　基礎力判定テスト 英文の基本表現の確認1：英文の成り立ち・主語と述語動詞のとらえ方
第3回　英文の基本表現の確認2：5文型
第4回　英文の基本構造の確認3：文の要素と修飾語句
第5回　叙法：直説法・命令法・仮定法
第6回　関係詞：関係代名詞と関係副詞
第7回　助動詞の用法1
第8回　助動詞の用法2
第9回　話法
第10回　比較
第11回　否定
第12回　疑問
第13回　複雑な構造を持つ文の理解1：接続語句と重文・複文
第14回　複雑な構造を持つ文の理解2：分詞構文
第15回　後期のまとめ・到達度の確認

履修上の注意点

教科書

Understanding Health Care
著者：　Tsukimaro Nishimura/ David I. Brooks/ Akiko Sekiguchi　ほか
出版社：　Asahi Press
出版年：　2011　　ISBN：　9784255155036

参考書

高校時代の辞書・英語参考書
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート （ 50% ）　　小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ 10% ）　　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 10% ）
授業中の態度(私語・スマホ・携帯電話の使用など)も評価に入れます。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <o>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　川口　玲子	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　後期オリエンテーション/前期の復習
第2回　Unit8 Personnel
第3回　Unit9 Management
第4回　Unit10 Purchasing
第5回　Unit11 Finances
第6回　Unit12 Media
第7回　Unit13 Entertainment
第8回　Unit14 Health
第9回　Unit15 Restaurants
第10回　進度調整/Review/弱点強化/模試前全体まとめ確認
第11回　Listening Section実施＋解説
第12回　Listening Section 解説続き
第13回　Reading Section実施＋解説
第14回　Reading Section 解説続き
第15回　授業のまとめと学習到達度確認テスト

履修上の注意点

教科書

SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST2 GOAL600
著者:　水本　篤/Mark D. Stafford
出版社:　桐原書店
出版年:　　ISBN:

TOEICテスト予想模試 新形式問題対応
著者:　入江 泉 /　宮野智靖
出版社:　旺文社
出版年:　　ISBN:　9784010942383

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <p>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　野口　博代	

テーマ

アメリカCBSのニュース報道番組を通して、英語力向上に励むだけでなく世界の様々な出来事や問題に関心を持ちましょう。

授業の到達目標

世界の様々な現代社会の問題に関心を持ち、英語で聞いたり議論することにより、英語の総合的な力の向上を目標とする。

授業の概要

アメリカCBSのニュース報道番組を教材に用いて、語彙力の強化、読解力及びリスニングの力の向上を目指す。また各ユニットで取り上げられたトピックについてクラス全体やグループで話し合う機会が多いので、積極的な授業参加を心掛けてほしい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各ユニットの単語練習問題は必ず予習しておくこと。授業外でも、Web動画によるニュース映像を予習復習に活用すること。
提出物として回収するものは全て成績評価の対象となるため、間違いを訂正し、必要に応じて再提出が必要となる。

内　容

第1回　オリエンテーション
Unit7の導入
第2回　Unit 7 Can Drinking Soda Make You Age Faster?
語彙問題、ニュースリスニング、要約
第3回　Unit 7 Can Drinking Soda Make You Age Faster?
内容把握 ディスカッション
第4回　Unit 8 What You Like on Facebook Could Affect Your Job Search
語彙問題、ニュースリスニング、要約
第5回　Unit 8 What You Like on Facebook Could Affect Your Job Search
内容把握、ディスカッション
第6回　Unit 9 Is Sitting the New Smoking?
語彙問題、ニュースリスニング、要約
第7回　Unit 9 Is Sitting the New Smoking?
内容把握、ディスカッション
第8回　Unit 10 Matcha Madness Sparks New Tea Craze
語彙問題、ニュースリスニング、要約
第9回　Unit 10 Matcha Madness Sparks New Tea Craze
内容把握、ディスカッション
第10回　Unit 11 Daddy Duty:Stay-at-Home Dads Putting Kids Before Careers
語彙問題、ニュースリスニング、要約
第11回　Unit 11 Daddy Duty:Stay-at-Home Dads Putting Kids Before Careers
内容把握、ディスカッション
第12回　Unit 12 One Man's Long Journey to Help a Stranger Walk Again
語彙問題、ニュースリスニング、要約
第13回　Unit 12 One Man's Long Journey to Help a Stranger Walk Again
内容把握、ディスカッション
第14回　Review
第15回　前期授業のまとめ

履修上の注意点

単位取得には2/3以上の出席が必要。

教科書

CBS NewsBreak 3
著者:　熊井信弘、Stephen Timson
出版社: 成美堂
出版年: 2017　　ISBN:　9784791960330

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）　　小テスト （ 40% ）

aks202a366

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 20% ）

参加度 （ 20% ）

上記評価の授業中課題には授業外課題も含まれ、全て評価対象となる。参加度とは積極的な姿勢で授業に取り組む授業態度により評価される。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <R>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　杉山　泰	

テーマ

新聞英語を読みながら、英語構文と国際ニュースの理解の仕方を学ぶ

授業の到達目標

TPPだとか、skypeを日本語に訳しているだろうか。smartphoneもCDも日本語に訳していない。逆に、「自衛隊」だとか「後方支援」、「専守防衛」といった日本語を英語に置き換えることははなはだむずかしい。literatureを「文学」、economicsを「経済」と日本語に翻訳した明治時代の日本人の偉大さを学びながら、最近の新聞英語を徹底的に日本語に翻訳する作業を行なう。国際情勢を学ぶことを最大の目標とする。

授業の概要

毎回、やさしい英字新聞を提示して、それを日本語に翻訳してもらう。日頃から新聞を読んでいれば、そうむずかしくはない。翻訳した日本語を添削して、翌週に返却する。毎回それをファイルして、国際情勢の知識を高めてもらう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回新聞英語を翻訳してもらうので、辞書の持参が必要。

内　容

第1回　自己紹介。「氏名カード」の記入。最近の10大ニュースを書いてもらう。
第2回　それぞれが書いた10大ニュースを英語に翻訳してもらう。
第3回　新聞英語の英文法と使用頻度の高い短い英単語を丸暗記してもらう。
第4回　英語の時制（新聞英語の中で、時制に注意すべき英文の翻訳実践）
第5回　完了形の英語（時間の幅がある場合の英文の翻訳実践）
第6回　不定詞の英語（未来志向の不定詞の英文の翻訳実践）
第7回　There is構文の英語（客観的存在表現の英文の翻訳実践）
第8回　比較級の英語（比較表現の英文の翻訳実践）
第9回　仮定法の英語（ありえないことの仮定をする英文の翻訳実践）
第10回　仮定法の英語（If節がない仮定をする英文の翻訳実践）
第11回　日本語に訳せない英語（日本語では表現できない英文の翻訳実践）
第12回　文化の違いを示している英語（文化の違いが明らかな英文の翻訳実践）
第13回　英字新聞で書かれているPrime Minister Shinzo Abeをどう考えるか？
第14回　英字新聞で「紫式部」や「清少納言」はどう翻訳されているのか？
第15回　今年度の英字新聞に現れた新しい英語を10以上あげてその日本語訳を考える

履修上の注意点

毎回英字新聞からの切り抜きをプリントして翻訳していくので、必ず辞書を持参すること。また、毎回添削返却するので、返却された答案用紙を必ずファイルしておくこと。

教科書

杉山「プリント」
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

「超基本」の英単語
著者:　尾崎哲夫
出版社:　角川新書
出版年:　2002　　ISBN:

大世界史
著者:　池上彰・佐藤優
出版社:　文春新書
出版年:　2015　　ISBN:

aks202a369

翻訳教室

著者: 鴻巣友季子

出版社: ちくまプリマー新書

出版年: 2013 ISBN:

英文翻訳術

著者: 安西徹男

出版社: ちくま学芸文庫

出版年: 1995 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ 20% ）

授業中課題 （ 40% ） 授業中発表等 （ 20% ）

参加度 （ 20% ）

欠席した場合、「プリント」を自宅で仕上げ提出すれば、遅れとしての出席を認める場合がある。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語Ⅱ B」を修得済みであること。	クラス指定

担 当 者　櫃本　一美

テーマ

TOEICの英語を素材に、得点アップと英語でのコミュニケーション力を高める

授業の到達目標

4技能の向上とTOEICでは50 点。アップを目指す

授業の概要

テキストを中心に、個人あるいはペアやグループでタスクに取り組む。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中、自宅での課題を確実にこなす。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　1）Part 1対策　2）Part 5対策
第3回　1）Part 2対策　2）Part 7対策
第4回　1）Part 3対策　2）Part 7対策
第5回　1）Part 3対策　2）Part 7対策
第6回　1）Part 4対策　2）Part 6対策
第7回　1）Part 4対策　2）Part 6対策
第8回　模擬試験
第9回　1）Part 1対策　2）Part 5対策
第10回　1）Part 2対策　2）Part 7対策
第11回　1）Part 3対策　2）Part 7対策
第12回　1）Part 4対策　2）Part 6対策
第13回　模擬試験
第14回　復習
第15回　復習

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。授業中の課題に取り組まない者、テキストを持参していない者は出席と認めない。

教科書

公式TOEIC Listening&Reading 3
著者:
出版社: ETS
出版年: 2017　　ISBN: 4906033539

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
授業中課題は小テストも含める。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　田中　美和子	

テーマ

国際語としての英語を身に付けて、世界に発信する

授業の到達目標

グローバルに活躍するために、英語でのプレゼンテーションを訓練するコースです。この授業では、プレゼンテーションを数多く実践することを通して、英語力と表現力を身に付けます。発信するためのライティングとスピーキング、受容するためのリスニングとリーディングの英語四技能を、総合的に、プロジェクト・ベーストで学びます。後期は、自分の個性を知り、その個性が活きるように、英語で表現することができるようになることを目標とします。

授業の概要

「日本の魅力」など複数のテーマで、2分間以上（150 words～）のプレゼンテーションを、後期も3回やります。前期同様、準備に4週間かけ、5週目に発表です。発表は全て英語です。実際にプレゼンを何度もやりながら、後期は、できるだけ、発表原稿を見ないで発表する方法を学んでいきます。特に、発音やイントネーションに注意していきましょう。ただ講義を聞いていたら良いというコースではなく、積極的に自分で発表準備をして、自分で発表をするコースです。グループでも発表をするので、クラスで仲良くなります。欠席する場合は、期限内に提出物を学内のPドライブにパソコンを通して提出する必要があります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

発表原稿のライティングには2週間とってありますが、授業中に英文法を学ぶ時間が少ないので、授業外に自分でそれを補って下さい。また、後期は、プレゼンテーションの練習に時間をかけて、読めない単語が無いように、スムーズに英語の発音ができるようになることを目標の1つにしましょう。英語の歌やドラマ、また映画などに、普段から触れておくもの良いでしょう。

内　容

第1回　プロジェクト①日本の魅力：発表原稿ライティング1
第2回　プロジェクト①日本の魅力：発表原稿ライティング2
第3回　プロジェクト①日本の魅力：スライド作成
第4回　プロジェクト①日本の魅力：印刷とリハーサル
第5回　プレゼンテーション1
第6回　プロジェクト②日本の社会問題：発表原稿ライティング1
第7回　プロジェクト②日本の社会問題：発表原稿ライティング2
第8回　プロジェクト②日本の社会問題：スライド作成
第9回　プロジェクト②日本の社会問題：印刷とリハーサル
第10回 プレゼンテーション2
第11回 プロジェクト③未来の計画：発表原稿ライティング1
第12回 プロジェクト③未来の計画：発表原稿ライティング2
第13回 プロジェクト③未来の計画：スライド作成
第14回 プロジェクト③未来の計画：印刷とリハーサル
第15回 プレゼンテーション3

履修上の注意点

原稿、パワーポイントは提出期限があり、期限内提出で加点です。なお、遅刻3回で欠席1回に換算されます。授業には必ず英和辞書を持参してください。また、この授業では、まじめな授業態度、グループ作業における協調性が必須となります。

教科書

使用しない（プリント配布）。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

「意味順」英語学習法
著者:　田地野彰
出版社:（株)ディスカバー・トゥエンティワン
出版年: 2011　　ISBN:　9784799310995

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 30 ）

aks202a452

参加度 （ 30 ）

プレゼンのクラスでは、発表準備をする場合、そして発表を聞く場合、どちらもマナーが大切となります。クラス全体で良い雰囲気を作り上げていくことが必要となりますので、雰囲気を悪くするような授業態度は、かなり減点します。逆に、良い雰囲気を作るチームプレイには加点しますので、頑張ってください。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <c>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　スミス, ジョン	

テーマ

This is an English communication course that will focus on speaking and listening skills to improve communication ability.

授業の到達目標

By the end of the semester, students will have increased their confidence in their ability to communicate in English with the instructor and their classmates.

授業の概要

This course will be taught in English. There are are a variety of motivating topics that will be meaningful to the learners in their everyday lives.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　Summer vacation reports
第2回　Describing characteristics and qualities
第3回　Comparing different types of communication styles
第4回　Halloween and superstitions
第5回　Talking about weekend plans
第6回　Making weather predictions
第7回　Making comparisons
第8回　Talking about clothing and shopping styles
第9回　Healthy habits
第10回　Making suggestions
第11回　Evaluating one's lifestyle
第12回　Interviewing for a job
第13回　Christmas around the world
第14回　Making financial choices
第15回　Actions and consequences and course review

履修上の注意点

教科書

World English 1
著者:　Martin Milner
出版社:　Cengage　Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781285848693

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）

The students need to show a positive desire to communicate in English. Preparation and completion of homework is also required.

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <d>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語Ⅱ B」を修得済みであること。	クラス指定

担 当 者　高居 佐紀

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　Unit1Daily Lifeをテーマにした問題を学ぶ
第2回　Unit3 Peopleをテーマにした問題を学ぶ
第3回　Unit4 Travelをテーマにした問題を学ぶ
第4回　Unit6　Officeをテーマにした問題を学ぶ
第5回　Listening Section実施＋解説
第6回　Reading Section実施＋解説
第7回　Unit7　Technologyをテーマにした問題を学ぶ
第8回　Unit9　Managementをテーマにした問題を学ぶ
第9回　Unit10　Purchasingをテーマにした問題を学ぶ
第10回　Unit12　Mediaをテーマにした問題を学ぶ
第11回　Unit13　Entertainmentをテーマにした問題を学ぶ
第12回　Unit15　Restaurantsをテーマにした問題を学ぶ
第13回　Listening Section実施＋解説
第14回　Reading Section実施＋解説
第15回　授業のまとめと学習到達度確認テスト

履修上の注意点

教科書

SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST2 GOAL600
著者:　水本 篤/Mark D. Stafford
出版社:　桐原書店
出版年:　　ISBN:

はじめてのTOEIC LISTENING AND READING テスト本番模試　改訂版:新形式対応
著者:　入江 泉
出版社:　旺文社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <e>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　ﾊﾞｽｶｳﾞｨﾙ, ﾌﾞﾗｲｱﾝ	

テーマ

Expressing More of Your Ideas in English

授業の到達目標

The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills.

授業の概要

This course will be taught in English

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

If you forgot to bring your textbook and dictionary, you must make a copy of the next pages in the textbook and borrow a dictionary BEFORE class starts. Also, review the last lesson, look ahead at the next pages and check your dictionary for any new words.

内　容

第1回　introductions
第2回　classroom English
第3回　movies
第4回　television
第5回　work-A
第6回　work-B
第7回　health-A
第8回　health-B
第9回　love & marriage
第10回　music
第11回　books
第12回　places in Japan
第13回　Japanese culture
第14回　talking about Japan
第15回　review

履修上の注意点

If you forget your textbook, you must photocopy the necessary pages from a classmate's book BEFORE class starts.

教科書

Let's Chat
著者:　John Pak
出版社:　EFL Press
出版年:　2007　　ISBN:　4580244420056

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <f>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語Ⅱ B」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　ﾋｴﾀﾗﾋﾃｨ, ｴﾚｷ	

テーマ

Oral English with Culture Content

授業の到達目標

Learn to speak about culture of countries around the world in basic to elementary level English.

授業の概要

– THIS COURSE WILL BE TAUGHT IN ENGLISH – You'll learn about interesting culture events and customs in countries all over the world. Also, practical skills such as using basic verb tenses.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

It's a big help to preview and review every lesson. Especially, check textbook's difficult words.

内　容

第1回　Start Unit 5 "What an interesting family!"
第2回　Continue Unit 5
第3回　Finish Unit 5
第4回　Start Unit 6 "How often do you run?"
第5回　Continue Unit 6
第6回　Finish Unit 6
第7回　Review and reflection of Units 5 and 6
第8回　Start Unit 7 "We went dancing!"
第9回　Continue Unit 7
第10回　Finish Unit 7
第11回　Start Unit 8 "How's the neighborhood?"
第12回　Continue Unit 8
第13回　Finish Unit 8
第14回　Review and reflection of Units 7 and 8
第15回　Semester review and recap

履修上の注意点

You must attend 10 or more classes to pass the course.

教科書

Interchange Level 1A Full Contact with Online Self-Study
著者:　Jack C. Richards
出版社:　Cambridge University Press
出版年:　2017　　ISBN:　9781316623916

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 10 ）

You will enjoy and have fun in this class. But to get a good grade, you have to do well on tests and also perform well in class.

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <g>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語Ⅱ B」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　クーラン, コーリ	

テーマ

Travel English

授業の到達目標

Continue to learn and improve on the basics of travel and survival English.

授業の概要

This course will be taught in English We will continue to follow four young Japanese students as they travel abroad and introduce Japan to overseas guests. The course introduces key language needed for speaking English at home or abroad.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Whenever possible, the teacher will introduce new methods (through free smartphone apps, free online English learning websites, DVDs, etc) for the students to take advantage of to further their Travel English studies in their free time.

内　容

第1回　Welcome back, fall semester preview, and begin Unit 7 "Do you want to go to a concert?"
第2回　Finish Unit 7
第3回　Begin Unit 8 "I have to study."
第4回　Finish Unit 8
第5回　Begin Unit 9 "Did you go on the rollercoaster?"
第6回　Finish Unit 9
第7回　Review and reflection of Units 7 to 9
第8回　Begin Unit 10 "I think I'm lost!"
第9回　Finish Unit 10
第10回　Begin Unit 11 "Have you been to Kyoto?"
第11回　Finish Unit 11
第12回　Begin Unit 12 "Are the hotdogs ready yet?"
第13回　Finish Unit 12
第14回　Review and reflection of Units 10 to 12
第15回　Review and recap of semester

履修上の注意点

**You must attend 10 or more classes to receive credit for the course. **More than half of your grade will be based on your in-class performance.

教科書

My First Passport 2
著者:　Tanja McCandie
出版社:　Oxford
出版年:　2006　　ISBN:　9780194718004

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）
In this semester, more emphasis will be put on in-class performance compared to the spring semester.

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <h>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語Ⅱ B」を修得済みであること。	クラス指定

担 当 者　フリン, マイケル

テーマ

Using English for Communication

授業の到達目標

Improved speaking, listening and writing skills in a cross cultural communicative context

授業の概要

This course will be taught in English.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Do assigned homework, preview and review textbook.

内　容

第1回　Orientation and Summer vacation
第2回　Your Family
第3回　Typical families
第4回　Making generalizations
第5回　Sports
第6回　Fitness
第7回　Talking about quantity and frequency
第8回　Review
第9回　Leisure activities
第10回　Weekends
第11回　Vacations
第12回　Your neighborhood
第13回　Places
第14回　Complaints
第15回　Review

履修上の注意点

You must attend 10 or more classes to pass the course.

教科書

Interchange I Student's Book A(fourth Edition)
著者:　Jack C. Richards
出版社:　Cambridge University Press
出版年:　　ISBN:　9780521601757
Interchange I Workbook A(4th Edition)
著者:　Jack C. Richards
出版社:　Cambridge University Press
出版年:　　ISBN:　9780521601788

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 55 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 45 ）

Participation score is a composite score that includes homework and evaulation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB 〈i〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語Ⅱ B」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　占部　幹也	

テーマ

TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEICリスニングに必要なリスニングスキルの修得を目標とする。

授業の概要

各パートで必要なスキルの確認後、リスニング問題を量的にこなすことに主眼を置き、英語の音声情報を正確に処理する力の育成を目指す。頻出のビジネスシーン会話やアナウンスメントのシャドーイング、暗唱を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：語彙学習（30分程度）。復習：課題のリスニングタスクを行う（30分程度）。Web 等を利用して、身近なニュースを英語で聴く習慣をつける。

内　容

第1回　オリエンテーション（テキストの使い方、宿題、成績評価について）
第2回　Part 1で必要なスキルの確認と問題演習
第3回　Part 2で必要なスキルの確認と問題演習
第4回　Part 2 問題演習・解説
第5回　Part 3で必要なスキルの確認と問題演習
第6回　Part 3 問題演習
第7回　Part 4で必要なスキルの確認と問題演習
第8回　Part 4 問題演習
第9回　身近なニュースを英語で聞く（1）
第10回　Part 1 実践練習・解説
第11回　Part 2 実践練習・解説
第12回　Part 3 実践練習・解説
第13回　Part 4 実践練習・解説
第14回　身近なニュースを英語で聞く(2)
第15回　復習（語彙とスキルのまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。TOEICの自己目標スコアを設定し、集中力を持って授業に臨んでください。

教科書

SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST3 GOAL700
著者：　水本 篤/Mark D Stafford
出版社：桐原書店
出版年：　　ISBN：

はじめてのTOEIC LISTENING AND READINGテスト本番模試　改訂版：新形式対応
著者：　入江 泉
出版社：旺文社
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30% ）　　小テスト（ 20% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30% ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB 〈j〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語Ⅱ B」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　川口　玲子	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　Unit1Daily Lifeをテーマにした問題を学ぶ
第2回　Unit3 Peopleをテーマにした問題を学ぶ
第3回　Unit4 Travelをテーマにした問題を学ぶ
第4回　Unit6　Officeをテーマにした問題を学ぶ
第5回　Listening Section実施＋解説
第6回　Reading Section実施＋解説
第7回　Unit7　Technologyをテーマにした問題を学ぶ
第8回　Unit9　Managementをテーマにした問題を学ぶ
第9回　Unit10　Purchasingをテーマにした問題を学ぶ
第10回　Unit12　Mediaをテーマにした問題を学ぶ
第11回　Unit13　Entertainmentをテーマにした問題を学ぶ
第12回　Unit15　Restaurantsをテーマにした問題を学ぶ
第13回　Listening Section実施＋解説
第14回　Reading Section実施＋解説
第15回　授業のまとめと学習到達度確認テスト

履修上の注意点

教科書

SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST2 GOAL600
著者:　水本 篤/Mark D. Stafford
出版社:　桐原書店
出版年:　　ISBN:

はじめてのTOEIC LISTENING AND READING テスト本番模試　改訂版:新形式対応
著者:　入江 泉
出版社:　旺文社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <k>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定

担 当 者　ソーソン, マーカス

テーマ

Acting English Drama

授業の到達目標

This class is designed to improve vocabulary, listening comprehension and pronunciation by studying and acting natural speaking situations in a video drama.

授業の概要

Using video from a popular drama and supported by interesting exercises concerning new vocaulary, pronunciation, idiomatic expression and usage, the class will inspire student learning. This course will be taught in English.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

Preview next lesson before each class and extra for tests.

内　容

第1回　Introductions, Class Objectives
第2回　Journals Homework #1 Introduction.
第3回　The Alien Truth – Story Research
第4回　Journals week 3 Pronunciation Pg. 5
第5回　Leaving Normal – Acting Scene.
第6回　Episode 5 Missing Q – A
第7回　Journals week 6 Kyle and Liz Scene
第8回　Episode 7 Riverdog – Acting
第9回　Story Review – Tell the story.
第10回　Episode 9 Heat Wave
第11回　Final Journals week 10
第12回　Presentations – Reports
第13回　Toy House – Acting Scene
第14回　Into the Woods
第15回　The Convention – Q and A

履修上の注意点

You must attend 10 classes to pass. B5 Notebook is required homework.

教科書

Acting English Drama
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <I>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　松村　優子	

テーマ

英字新聞を読み・聴き、現代社会の様々な問題・現象を理解し、読解・リスニング・語彙を中心とした英語総合力を向上させることを目指す。

授業の到達目標

1. 英字新聞ニュースの構造や表現などに慣れる。2. ニュースで扱われている現代社会の様々な問題に対する認識、関心を高める。3. ニュース・トピックに関する語彙力、聴解力、読解力、文法力などの総合力を伸ばす。

授業の概要

各章について、以下の順通りに進める。1. Before Reading 1,2 [トピック提示,語彙問題]、2.記事の読解、3. While Reading 1,2,3,4,5 [記事に関する読解問題]、 4 After Reading 1,2,3 [英作文, 語彙問題]
さらに、発表形式も取り入れていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキスト指定箇所の予習、復習をすること。
重要語彙をノートにまとめておくこと。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　Unit 11 Britain approves gene-editing experiments 英国、遺伝子編集実験を容認
第3回　Unit 12 Sports help bridge nations, cultural divides スポーツ、国や文化の隔たりを埋める助けに
第4回　Unit 13 70% of emergency calls to 119 considered needless 119番への緊急通報、70%が不必要とみなされる
第5回　Unit 14 University study finds a 'whitewashed' Hollywood 大学の研究、「白人化」されたハリウッドを発見
第6回　Unit 15 Downloaded music causing legal headache for wedding parties ダウンロードした音楽、披露宴で法的な頭痛の種に
第7回　Unit 16 Learning from wisdom, spirit of ninja 忍者の知恵と精神から学ぶ
第8回　Unit 17 Hong Kong's growing problem with plastic 香港で深刻化するプラスチックの問題
第9回　Unit 18 Brazil defends treasures of its 'Blue Amazon' ブラジル、「ブルーアマゾン」という宝を保護
第10回　Unit 19 3-D printers shape dreams 3Dプリンターが夢を形に
第11回　Unit 20 Obama moves to tighten gun control オバマ大統領、銃規制強化に動く
第12回　プリント等
第13回　プリント等
第14回　復習、復習テスト
第15回　復習、復習テスト

履修上の注意点

1. テキスト指定箇所を予習してきたことを前提に授業を進める。
2. 1回の授業でテキスト1章のペースで進む予定であるが、学習状況により進め方の変更や調整もある。
3. 学習状況によりUnit の順番を変えることもあるが、後期は11章から20章まで進む予定である。

教科書

Meet the World 2018—English through Newspapers メディアで学ぶ日本と世界 2018
著者:　若有保彦
出版社:　成美堂
出版年:　2018　　ISBN:　9784791934164

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）　　小テスト （ 60% ）
授業中課題 （ 10% ）　　授業中発表等 （ 15% ）
参加度 （ 15% ）
小テストは、14回、15回目の復習テストが中心である。参加度とは出席だけでなく、授業態度なども含まれる。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <n>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　クーラン, コーリ	

テーマ

Beginner level English for students of nursing.

授業の到達目標

The aim of this course is to enable students to communicate in English in everyday situations and gain the knowledge and confidence they need to use English in a wide variety of situations in and around the hospital.

授業の概要

Different topics related to nursing will be addressed and discussed through speaking, reading, writing, and listening exercises. This course will be taught in English

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

In class, teacher will point out useful websites, videos, and other educational materials that pertain to the class. The students may use these for their own personal improvement in the fields of nursing and medicine.

内　容

第1回　Review of materials covered in Semester 1
第2回　"Catching a cold" printout
第3回　Hospital routine
第4回　Hospital routine
第5回　Parts of the body
第6回　Parts of the body
第7回　Review and recap of weeks 2 t o6
第8回　"The pharmacist" printout
第9回　Hospital routine
第10回　Hospital routine
第11回　Hospital objects
第12回　Hospital objects
第13回　Count and no-count of hospital objects
第14回　Review and recap of weeks 11 to 13
第15回　Review and recap of course

履修上の注意点

**You must attend 10 or more classes to receive credit for the course. **60% of your grade will be based on your in-class performance. **Text material prints will be given out only ONCE. If you lose them, you must photocopy the pages needed before the start of the next class. **There will be a heavier focus on medical procedure and medical vocabulary in this semester.

教科書

Vital Signs 2
著者:　V. Morooka, T. Sugiura
出版社: 南雲堂
出版年: 2014　　ISBN:　978-4523177555

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）

Although review test exercises will be given, coming to class prepared and ready to participate is also very important.

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <o>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語Ⅱ B」を修得済みであること。	クラス指定

担 当 者　櫃本　一美

テーマ

TOEICの英語を素材に、得点アップと英語でのコミュニケーション力を高める。

授業の到達目標

4技能の向上とTOEICでは50 点アップを目指す。

授業の概要

テキストを中心に、個人あるいはペアやグループでタスクに取り組む。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中、自宅での課題を確実にこなす。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　1）Part 1対策　2）Part 5対策
第3回　1）Part 2対策　2）Part 7対策
第4回　1）Part 3対策　2）Part 7対策
第5回　1）Part 3対策　2）Part 7対策
第6回　1）Part 4対策　2）Part 6対策
第7回　1）Part 4対策　2）Part 6対策
第8回　模擬試験
第9回　1）Part 1対策　2）Part 5対策
第10回　1）Part 2対策　2）Part 7対策
第11回　1）Part 3対策　2）Part 7対策
第12回　1）Part 4対策　2）Part 6対策
第13回　模擬試験
第14回　復習
第15回　復習

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。授業中の課題に取り組まない者、テキストを持参していない者は出席と認めない。

教科書

公式TOEIC Listening&Reading 3
著者:
出版社: ETS
出版年: 2017　　ISBN: 4906033539

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
授業中課題は小テストも含める。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <p>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　ﾋｴﾀﾗﾋﾃｨ, ｴﾚｷ	

テーマ

Nursing English

授業の到達目標

Learn the basics of healthcare English.

授業の概要

– THIS COURSE WILL BE TAUGHT IN ENGLISH – This course will teach you how to speak in usual hospital and clinic situations. You will also learn special healthcare words.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

It's important to preview and review every lesson. Especially, check textbook's difficult words.

内　容

第1回　Start Unit 7 "Locations of Hospital Objects"
第2回　Finish Unit 7
第3回　Start Unit 8 "Hospital Directions and Instructions"
第4回　Finish Unit 8
第5回　Start Unit 9 "Directions (Outside the Hospital)"
第6回　Finish Unit 9
第7回　Review and reflection of Units 7 to 9
第8回　Start Unit 10 "Chatting with a Patient"
第9回　Finish Unit 10
第10回　Start Unit 11 "Taking a Medical History"
第11回　Finish Unit 11
第12回　Start Unit 12 "Hospital Procedures"
第13回　Finish Unit 12
第14回　Review and reflection of Units 10 to 12
第15回　Semester review and recap

履修上の注意点

You must attend 10 or more classes to pass the course.

教科書

Vital Signs (Revised Edition)
著者:　Morooka & Sugiura
出版社:　Nan'un-do
出版年:　2018　　ISBN:　9784523178682

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 10 ）

You will enjoy and have fun in this class. But to get a good grade, you have to do well on tests and also perform well in class.

2018 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <R>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語Ⅱ B」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　杉山 泰	

テーマ

基礎英語(Basic English)をフルに活用して、日本人への外国人の質問(なぜ＝Why)に答える

授業の到達目標

「これください」をI'll take this.とはなかなか言えない。「私」を主語にして、自己主張をしないと、英語という言語は機能しない。「ここはどこですか」にしてもWhere am I?と表現する。英語では常に「私」が必要となる。「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」という主語なし日本語を話している日本人は、変身しないと英語は話せない。そのことを毎回プリントを英訳することで実践していきたい。

授業の概要

「基礎英語文法」を15回にわたって学んでもらい、実際に毎回「プリント」を仕上げていくことで、中学校で学んだ英文法を整理してもらう。役に立つ表現(There is構文/ It is easy to構文 / 比較級構文 / 仮定法構文 / Why構文)を学んでいく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

毎回プリントを仕上げてもらうので、辞書が必要。

内　容

第1回　自己紹介。「氏名カード」の記入。
第2回　「私」からの発想(I need your credits.)
第3回　S+V+O構文＝have動詞による役に立つ表現(Do you have a pain?)
第4回　英語的発想＝S+V+O構文(I have a fever.＝熱があります)
第5回　英語的発想＝現在/過去/未来(Did you have much information?)
第6回　英語的発想＝S+V+C構文(Where are you from?)
第7回　英語的発想＝S+V+C構文(動詞＋ingと動詞＋ed構文)
第8回　There is構文＝「～があります」という存在構文(英詩を書こう)
第9回　日本文学の英訳を再度日本語に訳そう(川端康成、村上春樹、石牟礼道子など)
第10回　There is 構文で高級な英語を作ろう(There is no way of stopping the leak of polluted water in the nuke stations.)
第11回　There is構文で俵万智を英訳する(愛している愛していない花びらの数だけ愛があればいいのに)
第12回　仮定法(ありえないことを仮定する)＝シュミレーションが苦手な日本人
第13回　仮定法(もし世界が100人の村ならば)＝各自ネットから英語でIf the world were a vilage of 100 peopleを引いてきて翻訳してもらう。
第14回　Why-Because thiory(なぜ日本人は漫画が好きなのですか)＝外国人の質問に各自ユニークに答えてもらう。
第15回　英語的発想のまとめ。特に、外国人の日本人への質問にやさしい英語で各自答えてもらい、提出してもらう。

履修上の注意点

毎回「プリント」を仕上げていくので、辞書を持参して参加することが大切。

教科書

杉山「プリント」
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本は世界で第何位？
著者:　岡崎大五
出版社:　新潮新書
出版年:　2007　　ISBN:

ラーメン屋VSマクドナルド
著者:　竹中正治
出版社:　新潮新書
出版年:　2008　　ISBN:

aks202a478

京都ぎらい

著者: 井上章一

出版社: 朝日新書

出版年: 2015 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ 20% ）

授業中課題（ 40% ） 授業中発表等（ 20% ）

参加度（ 20% ）

毎回作業をやるので、欠席した学生は「プリント」をもらい自宅で必ずやり、提出すること。その場合、遅れの出席として評価する場合がある。

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ〈Aa〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　味田 治子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a110

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434099

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

2018年度版 情報倫理ハンドブック

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2018年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ）　　小テスト （ 40% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 10% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ〈Ab〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小西　康子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a112

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年　　ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ）　　小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ〈Ac〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　味田 治子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a113

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年 ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ） 小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ） 授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ〈Ad〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小西　康子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a114

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年 ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ） 小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ） 授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ〈Ae〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　味田 治子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a115

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年 ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ） 小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ） 授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ〈Af〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小西　康子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a116

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年 ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ） 小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ） 授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅰ〈Ag〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　員　50
履修条件	クラス指定
担当者　味田 治子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a117

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年 ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ） 小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ） 授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅰ〈Ah〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　員　50
履修条件	クラス指定
担当者　小西 康子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a118

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年 ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ） 小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ） 授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ〈Ai〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小西　康子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a119

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年 ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ） 小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ） 授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ〈Aj〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　味田 治子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a120

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年 ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ） 小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ） 授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅰ〈Ak〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　員　50
履修条件	クラス指定
担当者　小西 康子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a121

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年 ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ） 小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ） 授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ〈AI〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　井上 薫	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a122

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年 ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ） 小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ） 授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅰ〈Am〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　員　50
履修条件	クラス指定
担当者　小西 康子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a123

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年 ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ） 小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ） 授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅰ〈An〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　員　50
履修条件	クラス指定
担当者　井上 薫	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a124

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年 ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ） 小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ） 授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅰ〈Ao〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　員　50
履修条件	クラス指定
担当者　小西 康子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a125

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年　ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年　ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年　ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ）　小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ）　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅰ〈Ap〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　員　50
履修条件	クラス指定
担当者　井上 薫	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a126

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年 ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ） 小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ） 授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅰ〈Aq〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担当者　小西 康子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a127

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年 ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ） 小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ） 授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅰ〈Ar〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　員　50
履修条件	クラス指定
担当者　井上 薫	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a128

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年　ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年　ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年　ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ）　小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ）　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ〈As〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　味田 治子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a129

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年　ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年　ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年　ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ）　小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ）　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ〈At〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　井上 薫	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a130

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年 ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ） 小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ） 授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ〈Au〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　味田 治子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a131

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年　ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年　ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年　ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ）　小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ）　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅰ〈Av〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　員　50
履修条件	クラス指定
担当者　井上 薫	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a132

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年 ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ） 小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ） 授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅰ〈Aw〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　員　50
履修条件	クラス指定
担当者　味田 治子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a133

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年 ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ） 小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ） 授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅰ〈Ax〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担当者　井上 薫	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a134

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年 ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ） 小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ） 授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ〈Ay〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　味田 治子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a135

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年　ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年　ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年　ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ）　小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ）　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅰ〈Az〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　員　50
履修条件	クラス指定
担当者　味田 治子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a136

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年 ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ） 小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ） 授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅰ〈Ba〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　員　50
履修条件	クラス指定
担当者　井上 薫	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a137

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年 ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ） 小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ） 授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科目名　**情報処理演習Ⅰ〈月2〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　員　50
履修条件	クラス指定
担当者　（ー）	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a187

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年　ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年　ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年　ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ）　小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ）　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ〈月3〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　（ー）	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a188

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年　　ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ）　　小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ〈月4〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　（ー）	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a189

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年 ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ） 小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ） 授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科目名　**情報処理演習Ⅰ〈月5〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　員　50
履修条件	クラス指定
担当者　（ー）	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a190

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年 ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ） 小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ） 授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅰ〈火4〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担当者　（ー）	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a191

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年　ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年　ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年　ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ）　小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ）　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅰ〈木2〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担当者　（ー）	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a192

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年 ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ） 小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ） 授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ〈木3〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　（ー）	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a193

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年 ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ） 小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ） 授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅰ〈木4〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担当者　（ー）	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a194

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年　　ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ）　　小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科目名　**情報処理演習Ⅰ〈木5〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　員　50
履修条件	クラス指定
担当者　（ー）	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a195

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年 ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ） 小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ） 授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅰ〈金3〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　員　50
履修条件	クラス指定
担当者　（ー）	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a196

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年　ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年　ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年　ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ）　小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ）　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科目名　**情報処理演習Ⅰ〈金4〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　員　50
履修条件	クラス指定
担当者　（ー）	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a197

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年　ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年　ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年　ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ）　小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ）　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科目名　**情報処理演習Ⅰ〈金5〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　員　50
履修条件	クラス指定
担当者　（ー）	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a198

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年 ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ） 小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ） 授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅰ〈金2〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　員　50
履修条件	クラス指定
担当者　（ー）	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を 防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、パソコン基本操作
・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション
・学内システム（ActiveMailなど）について

第2回　セキュリティと情報モラル
情報を利用する・情報を正しく取り扱う・情報の安全性を守る・ネットワーク上のトラブル事例

第3回　Word2016（1）基本操作
≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング

第4回　Word2016（2）　Wordの基本操作、チラシの作成
≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成

第5回　Word2016（3）レポート作成(1)
《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷

第6回　Word2016（4）レポートの作成(2)
≪主な機能≫目次、脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第7回　Word2016（5）小テスト
Word（レポート作成）、小テストの実施

第8回　Excel2016（1）Excelの基本操作、表作成（1）
≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷

第9回　Excel2016（2）　計算式、関数(1)
≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）

第10回　Excel2016（3）　関数(2)
≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数

第11回　Excel2016（4）　グラフ作成
≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集

第12回　Excel2016（5）小テスト、関数(3)
EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）、小テストの実施
≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷

第13回　PowerPoint2016（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)
≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト

第14回　PowerPoint2016（2）　スライド作成（2）
≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成

第15回　PowerPoint2016（3）　スライド作成（3）
≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表

第16回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。

教科書

aks301a199

Office基礎と情報モラル(Office2016対応)
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434099
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年 ISBN: 978-4908434174
2018年度版 情報倫理ハンドブック
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2018年 ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ） 小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ） 授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）
・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈Aa〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　味田 治子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
情報収集とは、様々な情報収集方法
・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き)
情報活用力診断テストRasti(1回目)

第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習
・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回　数値分析Ⅱ:ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う

第7回　小テスト
データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第10回　小テスト
ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)

第12回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第13回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備

第14回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2

第15回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者(居眠り、受講態度不良者など)は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者:

出版社:　noa出版

出版年:　2017年　　ISBN:　978-4908434259

aks301a250

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈Ab〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小西　康子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
情報収集とは、様々な情報収集方法
　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
　・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
　・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き)
情報活用力診断テストRasti(1回目)
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習
　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
第7回　小テスト
データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　小テスト
ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)
第12回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第13回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第14回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第15回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者(居眠り、受講態度不良者など)は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者:

出版社:　noa出版

出版年:　2017年　　ISBN:　978-4908434259

aks301a252

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈Ac〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　味田 治子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
情報収集とは、様々な情報収集方法
・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き)
情報活用力診断テストRasti(1回目)

第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習
・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回　数値分析Ⅱ:ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う

第7回　小テスト
データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第10回　小テスト
ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)

第12回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第13回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備

第14回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2

第15回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者(居眠り、受講態度不良者など)は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2017年　　ISBN: 978-4908434259

aks301a253

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈Ad〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小西　康子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
情報収集とは、様々な情報収集方法
　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
　・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
　・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き)
情報活用力診断テストRasti(1回目)
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習Ⅰ Excel復習
　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
第7回　小テスト
データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　小テスト
ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)
第12回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第13回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第14回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第15回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者(居眠り、受講態度不良者など)は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者:

出版社:　noa出版

出版年:　2017年　　ISBN:　978-4908434259

aks301a254

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈Ae〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　味田 治子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
情報収集とは、様々な情報収集方法
　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
　・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
　・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き)
情報活用力診断テストRasti(1回目)
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習
　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
第7回　小テスト
データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　小テスト
ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)
第12回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第13回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第14回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第15回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者(居眠り、受講態度不良者など)は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者:

出版社:　noa出版

出版年:　2017年　　ISBN:　978-4908434259

aks301a255

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈Af〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小西　康子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
情報収集とは、様々な情報収集方法
　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
　・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
　・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き)
情報活用力診断テストRasti(1回目)
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習Ⅰ Excel復習
　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
第7回　小テスト
データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　小テスト
ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)
第12回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第13回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第14回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第15回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者(居眠り、受講態度不良者など)は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者:

出版社:　noa出版

出版年:　2017年　　ISBN:　978-4908434259

aks301a256

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈Ag〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　味田 治子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
情報収集とは、様々な情報収集方法
　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
　・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
　・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き)
情報活用力診断テストRasti(1回目)
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習
　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
第7回　小テスト
データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　小テスト
ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)
第12回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第13回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第14回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第15回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者(居眠り、受講態度不良者など)は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者:

出版社:　noa出版

出版年:　2017年　　ISBN:　978-4908434259

aks301a257

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈Ah〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小西　康子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
情報収集とは、様々な情報収集方法
　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
　・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
　・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き)
情報活用力診断テストRasti(1回目)
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習
　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
第7回　小テスト
データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　小テスト
ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)
第12回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第13回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第14回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第15回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者(居眠り、受講態度不良者など)は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者:

出版社:　noa出版

出版年:　2017年　　ISBN:　978-4908434259

aks301a258

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈Ai〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小西　康子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
情報収集とは、様々な情報収集方法
　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
　・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
　・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き)
情報活用力診断テストRasti(1回目)
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習
　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
第7回　小テスト
データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　小テスト
ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)
第12回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第13回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第14回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第15回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者(居眠り、受講態度不良者など)は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者:

出版社:　noa出版

出版年:　2017年　　ISBN:　978-4908434259

aks301a259

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ <Aj>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　味田 治子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
情報収集とは、様々な情報収集方法
・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き)
情報活用力診断テストRasti(1回目)

第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習
・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回　数値分析Ⅱ:ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う

第7回　小テスト
データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第10回　小テスト
ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)

第12回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第13回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備

第14回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2

第15回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者(居眠り、受講態度不良者など)は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2017年　　ISBN: 978-4908434259

aks301a260

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈Ak〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小西　康子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
情報収集とは、様々な情報収集方法
　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
　・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
　・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き)
情報活用力診断テストRasti(1回目)
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習
　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
第7回　小テスト
データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　小テスト
ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)
第12回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第13回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第14回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第15回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者(居眠り、受講態度不良者など)は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者:

出版社:　noa出版

出版年:　2017年　　ISBN:　978-4908434259

aks301a261

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈AI〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　井上 薫	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
情報収集とは、様々な情報収集方法
・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き)
情報活用力診断テストRasti(1回目)

第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習
・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回　数値分析Ⅱ:ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う

第7回　小テスト
データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第10回　小テスト
ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)

第12回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第13回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備

第14回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2

第15回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者(居眠り、受講態度不良者など)は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2017年　　ISBN: 978-4908434259

aks301a262

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈Am〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小西　康子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
情報収集とは、様々な情報収集方法
　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
　・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
　・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き)
情報活用力診断テストRasti(1回目)
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習
　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
第7回　小テスト
データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　小テスト
ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)
第12回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第13回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第14回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第15回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者(居眠り、受講態度不良者など)は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者:

出版社:　noa出版

出版年:　2017年　　ISBN:　978-4908434259

aks301a263

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈An〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　井上 薫	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
情報収集とは、様々な情報収集方法
・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き)
情報活用力診断テストRasti(1回目)

第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習
・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回　数値分析Ⅱ:ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う

第7回　小テスト
データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第10回　小テスト
ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)

第12回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第13回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備

第14回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2

第15回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者(居眠り、受講態度不良者など)は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2017年　　ISBN: 978-4908434259

aks301a264

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈Ao〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小西　康子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り

・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
情報収集とは、様々な情報収集方法
・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き)
情報活用力診断テストRasti(1回目)

第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習Ⅰ Excel復習
・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回　数値分析Ⅱ:ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う

第7回　小テスト
データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第10回　小テスト
ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)

第12回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第13回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備

第14回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2

第15回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者(居眠り、受講態度不良者など)は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者:

出版社:　noa出版

出版年:　2017年　　ISBN:　978-4908434259

aks301a265

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈Ap〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　井上 薫	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
情報収集とは、様々な情報収集方法
　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
　・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
　・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き)
情報活用力診断テストRasti(1回目)
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習
　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
第7回　小テスト
データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　小テスト
ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)
第12回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第13回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第14回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第15回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者(居眠り、受講態度不良者など)は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2017年　　ISBN: 978-4908434259

aks301a266

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈Aq〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小西　康子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
情報収集とは、様々な情報収集方法
　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
　・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
　・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き)
情報活用力診断テストRasti(1回目)
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習Ⅰ Excel復習
　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
第7回　小テスト
データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　小テスト
ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)
第12回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第13回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第14回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第15回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者(居眠り、受講態度不良者など)は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者:

出版社:　noa出版

出版年:　2017年　　ISBN:　978-4908434259

aks301a267

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈Ar〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　井上 薫	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
情報収集とは、様々な情報収集方法
・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き)
情報活用力診断テストRasti(1回目)

第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習
・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回　数値分析Ⅱ:ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う

第7回　小テスト
データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第10回　小テスト
ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)

第12回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第13回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備

第14回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2

第15回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者(居眠り、受講態度不良者など)は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2017年　　ISBN: 978-4908434259

aks301a268

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈As〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　味田 治子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
情報収集とは、様々な情報収集方法
・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き)
情報活用力診断テストRasti(1回目)

第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習
・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回　数値分析Ⅱ:ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う

第7回　小テスト
データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第10回　小テスト
ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)

第12回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第13回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備

第14回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2

第15回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者(居眠り、受講態度不良者など)は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者:

出版社:　noa出版

出版年:　2017年　　ISBN:　978-4908434259

aks301a269

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈At〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　井上 薫	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
情報収集とは、様々な情報収集方法
　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
　・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
　・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き)
情報活用力診断テストRasti(1回目)
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習
　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
第7回　小テスト
データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　小テスト
ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)
第12回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第13回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第14回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第15回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者(居眠り、受講態度不良者など)は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2017年　　ISBN: 978-4908434259

aks301a270

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈Au〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　味田 治子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
情報収集とは、様々な情報収集方法
　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
　・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
　・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き)
情報活用力診断テストRasti(1回目)
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習
　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
第7回　小テスト
データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　小テスト
ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)
第12回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第13回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第14回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第15回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者(居眠り、受講態度不良者など)は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者:

出版社:　noa出版

出版年:　2017年　　ISBN:　978-4908434259

aks301a271

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈Av〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　井上 薫	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
情報収集とは、様々な情報収集方法
・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き)
情報活用力診断テストRasti(1回目)

第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習Ⅰ Excel復習
・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回　数値分析Ⅱ:ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う

第7回　小テスト
データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第10回　小テスト
ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)

第12回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第13回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備

第14回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2

第15回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者(居眠り、受講態度不良者など)は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2017年　　ISBN: 978-4908434259

aks301a272

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈Aw〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　味田 治子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
情報収集とは、様々な情報収集方法
　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
　・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
　・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き)
情報活用力診断テストRasti(1回目)
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習Ⅰ Excel復習
　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
第7回　小テスト
データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　小テスト
ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)
第12回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第13回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第14回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第15回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者(居眠り、受講態度不良者など)は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者:

出版社:　noa出版

出版年:　2017年　　ISBN:　978-4908434259

aks301a273

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈Ax〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　井上 薫	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
情報収集とは、様々な情報収集方法
・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き)
情報活用力診断テストRasti(1回目)

第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習Ⅰ Excel復習
・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回　数値分析Ⅱ:ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う

第7回　小テスト
データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第10回　小テスト
ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)

第12回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第13回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備

第14回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2

第15回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者(居眠り、受講態度不良者など)は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2017年　　ISBN: 978-4908434259

aks301a274

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈Ay〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　味田 治子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
情報収集とは、様々な情報収集方法
　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
　・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
　・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き)
情報活用力診断テストRasti(1回目)
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習
　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
第7回　小テスト
データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　小テスト
ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)
第12回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第13回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第14回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第15回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者(居眠り、受講態度不良者など)は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者:

出版社:　noa出版

出版年:　2017年　　ISBN:　978-4908434259

aks301a275

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈Az〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　味田 治子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
情報収集とは、様々な情報収集方法
　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
　・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
　・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き)
情報活用力診断テストRasti(1回目)
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習Ⅰ Excel復習
　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
第7回　小テスト
データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　小テスト
ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)
第12回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第13回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第14回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第15回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者(居眠り、受講態度不良者など)は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者:

出版社:　noa出版

出版年:　2017年　　ISBN:　978-4908434259

aks301a276

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈Ba〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　井上 薫	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
情報収集とは、様々な情報収集方法
・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法(第1回続き)
情報活用力診断テストRasti(1回目)

第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習ⅠExcel復習
・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回　数値分析Ⅱ:ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う

第7回　小テスト
データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第10回　小テスト
ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)

第12回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第13回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備

第14回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2

第15回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者(居眠り、受講態度不良者など)は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2017年　　ISBN: 978-4908434259

aks301a277

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ 〈月2〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　（ー）	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
　・ファイル・データ管理：汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う（ファイル容量とメディア、ファイル形式）。
情報収集とは、様々な情報収集方法
　・情報検索：検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
　・情報運用（法律・モラル・セキュリティ）：著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
　・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法（第1回続き）
情報活用力診断テストRasti(1回目)
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
　・メールの活用（CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等）や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-（1）：情報処理演習ⅠExcel復習
　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-（2）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-（3）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ：ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
第7回　小テスト
データベース：表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現（1）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現（2）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　小テスト
ビジュアル表現：図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)
第12回　プレゼンテーションⅠ：プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第13回　プレゼンテーションⅡ：プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第14回　プレゼンテーションⅢ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第15回　プレゼンテーションⅣ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力（情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む）

著者：

出版社：noa出版

出版年：2017年　　ISBN：978-4908434259

aks301a287

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ 〈月3〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　（ー）	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
　・ファイル・データ管理：汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う（ファイル容量とメディア、ファイル形式）。
情報収集とは、様々な情報収集方法
　・情報検索：検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
　・情報運用（法律・モラル・セキュリティ）：著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
　・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法（第1回続き）
情報活用力診断テストRasti(1回目)
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
　・メールの活用（CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等）や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-（1）：情報処理演習ⅠExcel復習
　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-（2）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-（3）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ：ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
第7回　小テスト
データベース：表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現（1）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現（2）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　小テスト
ビジュアル表現：図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)
第12回　プレゼンテーションⅠ：プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第13回　プレゼンテーションⅡ：プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第14回　プレゼンテーションⅢ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第15回　プレゼンテーションⅣ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力（情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む）

著者：

出版社：noa出版

出版年：2017年　　ISBN：978-4908434259

aks301a288

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈月4〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　（ー）	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
・ファイル・データ管理：汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う（ファイル容量とメディア、ファイル形式）。
情報収集とは、様々な情報収集方法
・情報検索：検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
・情報運用（法律・モラル・セキュリティ）：著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法（第1回続き）
情報活用力診断テストRasti(1回目)

第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
・メールの活用（CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等）や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-（1）：情報処理演習ⅠExcel復習
・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第4回　数値分析Ⅰ-（2）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第5回　数値分析Ⅰ-（3）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回　数値分析Ⅱ：ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う

第7回　小テスト
データベース：表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回　文書表現（1）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第9回　文書表現（2）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第10回　小テスト
ビジュアル表現：図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)

第12回　プレゼンテーションⅠ：プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第13回　プレゼンテーションⅡ：プレゼンテーション資料の作成および発表準備

第14回　プレゼンテーションⅢ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2

第15回　プレゼンテーションⅣ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力（情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む）

著者：

出版社：noa出版

出版年：2017年　　ISBN：978-4908434259

aks301a289

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ 〈月5〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　（ー）	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
　・ファイル・データ管理：汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う（ファイル容量とメディア、ファイル形式）。
情報収集とは、様々な情報収集方法
　・情報検索：検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
　・情報運用（法律・モラル・セキュリティ）：著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
　・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法（第1回続き）
情報活用力診断テストRasti(1回目)
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
　・メールの活用（CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等）や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-（1）：情報処理演習Ⅰ Excel復習
　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-（2）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-（3）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ：ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
第7回　小テスト
データベース：表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現（1）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現（2）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　小テスト
ビジュアル表現：図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)
第12回　プレゼンテーションⅠ：プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第13回　プレゼンテーションⅡ：プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第14回　プレゼンテーションⅢ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第15回　プレゼンテーションⅣ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力（情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む）

著者：

出版社：noa出版

出版年：2017年　　ISBN：978-4908434259

aks301a290

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈火4〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　（ー）	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
・ファイル・データ管理：汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う（ファイル容量とメディア、ファイル形式）。
情報収集とは、様々な情報収集方法
・情報検索：検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
・情報運用（法律・モラル・セキュリティ）：著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法（第1回続き）
情報活用力診断テストRasti(1回目)

第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
・メールの活用（CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等）や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-（1）：情報処理演習ⅠExcel復習
・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第4回　数値分析Ⅰ-（2）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第5回　数値分析Ⅰ-（3）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回　数値分析Ⅱ：ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う

第7回　小テスト
データベース：表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回　文書表現（1）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第9回　文書表現（2）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第10回　小テスト
ビジュアル表現：図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)

第12回　プレゼンテーションⅠ：プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第13回　プレゼンテーションⅡ：プレゼンテーション資料の作成および発表準備

第14回　プレゼンテーションⅢ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2

第15回　プレゼンテーションⅣ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力（情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む）

著者：

出版社：noa出版

出版年：2017年　　ISBN：978-4908434259

aks301a291

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈木2〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　（ー）	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
　・ファイル・データ管理：汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う（ファイル容量とメディア、ファイル形式）。
情報収集とは、様々な情報収集方法
　・情報検索：検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
　・情報運用（法律・モラル・セキュリティ）：著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
　・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法（第1回続き）
情報活用力診断テストRasti(1回目)
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
　・メールの活用（CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等）や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-（1）：情報処理演習ⅠExcel復習
　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-（2）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-（3）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ：ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
第7回　小テスト
データベース：表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現（1）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現（2）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　小テスト
ビジュアル表現：図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)
第12回　プレゼンテーションⅠ：プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第13回　プレゼンテーションⅡ：プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第14回　プレゼンテーションⅢ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第15回　プレゼンテーションⅣ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力（情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む）

著者：

出版社：noa出版

出版年：2017年　　ISBN：978-4908434259

aks301a292

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈木3〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　（ー）	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
　・ファイル・データ管理：汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う（ファイル容量とメディア、ファイル形式）。
情報収集とは、様々な情報収集方法
　・情報検索：検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
　・情報運用（法律・モラル・セキュリティ）：著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
　・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法（第1回続き）
情報活用力診断テストRasti(1回目)
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
　・メールの活用（CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等）や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-（1）：情報処理演習Ⅰ Excel復習
　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-（2）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-（3）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ：ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
第7回　小テスト
データベース：表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現（1）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現（2）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　小テスト
ビジュアル表現：図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)
第12回　プレゼンテーションⅠ：プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第13回　プレゼンテーションⅡ：プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第14回　プレゼンテーションⅢ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第15回　プレゼンテーションⅣ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力（情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む）

著者：

出版社：noa出版

出版年：2017年　　ISBN：978-4908434259

aks301a293

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈木4〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　（ー）	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
・ファイル・データ管理：汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う（ファイル容量とメディア、ファイル形式）。
情報収集とは、様々な情報収集方法
・情報検索：検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
・情報運用（法律・モラル・セキュリティ）：著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法（第1回続き）
情報活用力診断テストRasti(1回目)

第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
・メールの活用（CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等）や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-（1）：情報処理演習ⅠExcel復習
・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第4回　数値分析Ⅰ-（2）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第5回　数値分析Ⅰ-（3）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回　数値分析Ⅱ：ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う

第7回　小テスト
データベース：表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回　文書表現（1）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第9回　文書表現（2）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第10回　小テスト
ビジュアル表現：図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)

第12回　プレゼンテーションⅠ：プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第13回　プレゼンテーションⅡ：プレゼンテーション資料の作成および発表準備

第14回　プレゼンテーションⅢ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2

第15回　プレゼンテーションⅣ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力（情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む）

著者：

出版社：noa出版

出版年：2017年　　ISBN：978-4908434259

aks301a294

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈木5〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　（ー）	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
・ファイル・データ管理：汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う（ファイル容量とメディア、ファイル形式）。
情報収集とは、様々な情報収集方法
・情報検索：検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
・情報運用（法律・モラル・セキュリティ）：著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。

第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法（第1回続き）
情報活用力診断テストRasti(1回目)

第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
・メールの活用（CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等）や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-（1）：情報処理演習ⅠExcel復習
・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第4回　数値分析Ⅰ-（2）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第5回　数値分析Ⅰ-（3）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。

第6回　数値分析Ⅱ：ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う

第7回　小テスト
データベース：表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。

第8回　文書表現（1）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第9回　文書表現（2）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。

第10回　小テスト
ビジュアル表現：図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。

第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)

第12回　プレゼンテーションⅠ：プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。

第13回　プレゼンテーションⅡ：プレゼンテーション資料の作成および発表準備

第14回　プレゼンテーションⅢ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2

第15回　プレゼンテーションⅣ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力（情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む）

著者：

出版社：noa出版

出版年：2017年　　ISBN：978-4908434259

aks301a295

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈金3〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　（ー）	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
　・ファイル・データ管理：汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う（ファイル容量とメディア、ファイル形式）。
情報収集とは、様々な情報収集方法
　・情報検索：検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
　・情報運用（法律・モラル・セキュリティ）：著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
　・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法（第1回続き）
情報活用力診断テストRasti(1回目)
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
　・メールの活用（CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等）や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-（1）：情報処理演習Ⅰ Excel復習
　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-（2）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-（3）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ：ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
第7回　小テスト
データベース：表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現（1）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現（2）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　小テスト
ビジュアル表現：図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)
第12回　プレゼンテーションⅠ：プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第13回　プレゼンテーションⅡ：プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第14回　プレゼンテーションⅢ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第15回　プレゼンテーションⅣ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力（情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む）

著者：

出版社：noa出版

出版年：2017年　　ISBN：978-4908434259

aks301a296

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈金4〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　（ー）	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
　・ファイル・データ管理：汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う（ファイル容量とメディア、ファイル形式）。
情報収集とは、様々な情報収集方法
　・情報検索：検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
　・情報運用（法律・モラル・セキュリティ）：著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
　・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法（第1回続き）
情報活用力診断テストRasti(1回目)
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
　・メールの活用（CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等）や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-（1）：情報処理演習Ⅰ Excel復習
　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-（2）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-（3）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ：ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
第7回　小テスト
データベース：表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現（1）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現（2）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　小テスト
ビジュアル表現：図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)
第12回　プレゼンテーションⅠ：プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第13回　プレゼンテーションⅡ：プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第14回　プレゼンテーションⅢ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第15回　プレゼンテーションⅣ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力（情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む）

著者：

出版社：noa出版

出版年：2017年　　ISBN：978-4908434259

aks301a297

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈金5〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　（ー）	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
　・ファイル・データ管理：汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う（ファイル容量とメディア、ファイル形式）。
情報収集とは、様々な情報収集方法
　・情報検索：検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
　・情報運用（法律・モラル・セキュリティ）：著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
　・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法（第1回続き）
情報活用力診断テストRasti(1回目)
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
　・メールの活用（CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等）や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-（1）：情報処理演習Ⅰ Excel復習
　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-（2）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-（3）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ：ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
第7回　小テスト
データベース：表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現（1）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現（2）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　小テスト
ビジュアル表現：図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)
第12回　プレゼンテーションⅠ：プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第13回　プレゼンテーションⅡ：プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第14回　プレゼンテーションⅢ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第15回　プレゼンテーションⅣ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力（情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む）

著者：

出版社：noa出版

出版年：2017年　　ISBN：978-4908434259

aks301a298

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈金2〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　（ー）	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

休んだ場合は、講義で配布されたファイルをPドライブよりUドライブにコピーし、授業範囲を自習しておくこと。

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り
　・ファイル・データ管理：汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う（ファイル容量とメディア、ファイル形式）。
情報収集とは、様々な情報収集方法
　・情報検索：検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
　・情報運用（法律・モラル・セキュリティ）：著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。
　・不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法（第1回続き）
情報活用力診断テストRasti(1回目)
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ
　・メールの活用（CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等）や掲示板の特性や利用マナーを理解する。
数値分析Ⅰ-（1）：情報処理演習Ⅰ Excel復習
　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-（2）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-（3）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ：ピボットテーブル機能を使用し、データの集計や分析を行う
第7回　小テスト
データベース：表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現（1）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現（2）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　小テスト
ビジュアル表現：図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　情報活用力診断テストRasti(2回目)
第12回　プレゼンテーションⅠ：プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第13回　プレゼンテーションⅡ：プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第14回　プレゼンテーションⅢ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第15回　プレゼンテーションⅣ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
これまでのまとめ

履修上の注意点

・欠席の場合は、事前に「欠席連絡票」を提出すること。
　欠席連絡票にて連絡できなかった場合は、講師にメールにて欠席の連絡をすること。
・欠席配慮の場合は「欠席連絡票」の提出を必須とする。
・授業に出席していても、内容を理解したと認められない者（居眠り、受講態度不良者など）は出席と認めない。
・テキストに情報活用力診断テストRastiの2回分受験料が含まれているため、購入しなければ単位認定が困難となる。必ず購入してから授業に臨むこと。

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力（情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む）

著者：

出版社：noa出版

出版年：2017年　　ISBN：978-4908434259

aks301a299

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術2016対応（※前期使用テキスト）

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434174

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 0% ）

・3分の2以下の出席授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下（6回以上の欠席）の場合は原則、単位認定は不可

2018 Syllabus

科 目 名　**日本事情Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者　河村　静江	

テーマ

日本語運用能力の向上

授業の到達目標

日本語を用いたビジネス場面で必要となる表現・マナー・メールの書き方などの基礎を身に付ける。

授業の概要

ビジネス敬語の理解・ビジネス会話・ビジネスメールの書き方を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

会話がスムーズにできるまで復習を行う。

内　容

第1回　面接場面を意識した自己紹介
第2回　敬語の復習
第3回　敬語を使ってプレゼンをしよう・ビジネスメール（1）
第4回　ビジネス会話　第5課「頼む・断る」
第5回　聴解練習（1）・ビジネス会話　第5課
第6回　ビジネス会話　第6課「許可をもらう」
第7回　ビジネスメール（2）・ビジネス会話　第6課
第8回　聴解練習（2）・ビジネス会話　第7課「アポイントをとる」
第9回　ビジネス会話　第7課
第10回 ビジネスメール（3）・ビジネス会話　第8課「訪問する」
第11回 ビジネス会話　第8課
第12回 聴解練習（3）・ビジネス会話　第8課
第13回 冠婚葬祭のマナー
第14回 ビジネスマナー
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

にほんごで働く！ビジネス日本語30時間
著者:　宮崎道子他
出版社:　スリーエーネットワーク
出版年:　2009年　　ISBN:

しごとの日本語（メールの書き方編）
著者:　奥村真紀他
出版社:　アルク
出版年:　2008年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 60% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 40% ）

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する（詳細は授業時に説明）。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本事情Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者　河村　静江	

テーマ

日本語運用能力の向上

授業の到達目標

日本語を用いたビジネス場面で必要となる表現・マナー・メールの書き方などの基礎を身に付ける。

授業の概要

ビジネス敬語の理解・ビジネス会話・ビジネスメールの書き方を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

会話がスムーズにできるまで復習を行う。

内　容

第1回　面接場面を想定した自己紹介
第2回　敬語の復習
第3回　敬語を使ってプレゼンをしよう・ビジネスメール（1）
第4回　ビジネス会話　第5課「頼む・断る」
第5回　聴解練習（1）・ビジネス会話　第5課
第6回　ビジネス会話　第6課「許可をもらう」
第7回　ビジネスメール（2）・ビジネス会話　第6課
第8回　聴解練習（2）・ビジネス会話　第7課「アポイントをとる」
第9回　ビジネス会話　第7課
第10回 ビジネスメール（3）・ビジネス会話　第8課「訪問する」
第11回 ビジネス会話　第8課
第12回 聴解練習（3）・ビジネス会話　まとめ
第13回 冠婚葬祭のマナー
第14回 ビジネスマナー
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

にほんごで働く！ビジネス日本語30時間
著者:　宮崎道子他
出版社:　スリーエーネットワーク
出版年:　2009年　　ISBN:

しごとの日本語（メールの書き方編）
著者:　奥村真紀他
出版社:　アルク
出版年:　2008年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 60% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 40% ）

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する（詳細は授業時に説明）。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本事情Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者　河村　静江	

テーマ

日本語運用能力の向上

授業の到達目標

日本語を用いたビジネス場面で必要となるマナー・会話・電話応対などの基礎を身に付ける。

授業の概要

ビジネス用語の理解・会話の聴解・会話の練習等を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

会話がスムーズにできるまで復習を行う。

内　容

第1回　自己紹介してみよう
第2回　ビジネスマナー(1)・敬語の基本(1)
第3回　敬語の基本(2)
第4回　敬語を使って友人を紹介しよう
第5回　店員になってみよう
第6回　ビジネスマナー(2)・ビジネス会話　第1課「紹介する」
第7回　ビジネス会話　第1課
第8回　ビジネスマナー(3)・ビジネス会話　第2課「挨拶」
第9回　ビジネス会話　第2課
第10回 ビジネスマナー(4)・ビジネス会話　第3課「電話」
第11回 ビジネス会話　第3課
第12回 ビジネスマナー(5)・ビジネス会話　第4課「注意」
第13回 ビジネス会話　第4課
第14回 ビジネス敬語の復習・ビジネス会話　まとめ
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

しごとの日本語ビジネスマナー編
著者:　釜渕優子
出版社:　アルク
出版年:　2008年　　ISBN:

にほんごで働く！ビジネス日本語30時間
著者:　宮崎道子
出版社:　スリーエーネットワーク
出版年:　2009年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 60% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 40% ）

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する(詳細は授業時に説明)。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本事情Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者　河村 静江	

テーマ

日本語運用能力の向上

授業の到達目標

日本語を用いたビジネス場面で必要となるマナー・会話・電話応対などの基礎を身に付ける。

授業の概要

ビジネス用語の理解・会話の聴解・会話の練習等を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

会話がスムーズにできるまで復習を行う。

内　容

第1回　自己紹介してみよう
第2回　ビジネスマナー(1)敬語の基本(1)
第3回　敬語の基本(2)
第4回　敬語を使って友人を紹介しよう
第5回　店員になってみよう
第6回　ビジネスマナー(2)・ビジネス会話　第1課「紹介する」
第7回　ビジネス会話　第1課
第8回　ビジネスマナー(3)・ビジネス会話　第2課「挨拶」
第9回　ビジネス会話　第2課
第10回 ビジネスマナー(4)・ビジネス会話　第3課「電話」
第11回 ビジネス会話　第3課
第12回 ビジネスマナー(5)・ビジネス会話　第4課「注意」
第13回 ビジネス会話　第4課
第14回 ビジネス敬語復習・ビジネス会話まとめ
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

しごとの日本語ビジネスマナー編
著者:　釜渕優子
出版社:　アルク
出版年:　2008年　　ISBN:

にほんごで働く！ビジネス日本語30時間
著者:　宮崎道子
出版社:　スリーエーネットワーク
出版年:　2009年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 60% ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 40% ）

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する(詳細は授業時に説明)。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本事情Ⅲ <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者　佐野　裕子	

テーマ

日本語能力試験N1対策

授業の到達目標

日本語能力試験N1に合格することを目指し、決められた短時間で、能力試験の問題を解けるようにする。また、能力試験の問題集を解くことで、発話・作文の基礎となる、言語知識（語彙・文法）、読解、聴解の能力の向上を目指していく。

授業の概要

演習形式で日本語能力試験N1問題集を受講生が解いたのちに、解説を担当者が行う。また、全3回に分けてN1語彙の小テストを実施する。この科目では日本語能試験模試も2回実施し、現在のレベルや弱点を受講生自身が把握する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

N1語彙プリントを配布するので、小テストの勉強を行うこと。毎回その回に行った問題の関連プリントを配布するので、きちんと復習すること。「日本語」の授業で学んだ言語知識やストラテジーを活かすようにすること。

内　容

第1回　授業説明・評価説明・第2回模試（聴解）
第2回　第2回目模試（言語知識・読解）
第3回　能力試験対策1（言語知識①読解①）／語彙小テスト1
第4回　能力試験対策2（言語知識②聴解①）
第5回　能力試験対策3（言語知識③読解②）／語彙小テスト2
第6回　能力試験対策4（言語知識④聴解②）
第7回　能力試験対策5（言語知識⑤読解③）／語彙小テスト3
第8回　能力試験対策6（言語知識⑥読解④）
第9回　模試3回目（言語知識・読解）
第10回　模試3回目（聴解・フィードバック）
第11回　活動1
第12回　活動2
第13回　活動3
第14回　まとめテスト
第15回　前期終了時・留学終了時アンケート／フィードバック

履修上の注意点

＊日本語能力試験N1に合格している者は、担当教員に申し出ること。他の科目に受講振り替えを行う。

教科書

授業時配布プリント

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

授業時適宜紹介

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 15 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 15 ）

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する（詳細は授業時に説明）。模試2回分の成績を「試験」として、計50点のうち各10点×2＝計20点分に換算する。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本事情Ⅲ <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者　佐野　裕子	

テーマ

日本語能力試験N1対策

授業の到達目標

日本語能力試験N1に合格することを目指し、決められた短時間で、能力試験の問題を解けるようにする。また、能力試験の問題集を解くことで、発話・作文の基礎となる、言語知識（語彙・文法）、読解、聴解の能力の向上を目指していく。

授業の概要

演習形式で日本語能力試験N1問題集を受講生が解いたのちに、解説を担当者が行う。また、全3回に分けてN1語彙の小テストを実施する。この科目では日本語能力試験模試も2回実施し、現在のレベルや弱点を受講生自身が把握する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

N1語彙プリントを配布するので、小テストの勉強を行うこと。毎回その回に行った問題の関連プリントを配布するので、きちんと復習すること。「日本語」の授業で学んだ言語知識やストラテジーを活かすようにすること。

内　容

第1回　授業説明・評価説明・第2回模試（聴解）
第2回　第2回目模試（言語知識・読解）
第3回　能力試験対策1（言語知識①読解①）／語彙小テスト1
第4回　能力試験対策2（言語知識②聴解①）
第5回　能力試験対策3（言語知識③読解②）／語彙小テスト2
第6回　能力試験対策4（言語知識④聴解②）
第7回　能力試験対策5（言語知識⑤読解③）／語彙小テスト3
第8回　能力試験対策6（言語知識⑥読解④）
第9回　模試3回目（言語知識・読解）
第10回　模試3回目（聴解・フィードバック）
第11回　活動1
第12回　活動2
第13回　活動3
第14回　まとめテスト
第15回　前期終了時・留学終了時アンケート／フィードバック

履修上の注意点

＊日本語能力試験N1に合格している者は、担当教員に申し出ること。他の科目に受講振り替えを行う。

教科書

授業時配布プリント

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

授業時適宜紹介

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 15 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 15 ）

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する（詳細は授業時に説明）。模試2回分の成績を「試験」として、計50点のうち各10点×2＝計20点分に換算する。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本事情Ⅳ <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者　佐野　裕子	

テーマ

日本語能力試験N1対策

授業の到達目標

日本語能力試験N1に合格することを目指し、N1問題集のうち、N1文型を中心に解いていく。またこれらの問題を解くことで、発話・作文の基礎となる、言語知識（語彙・文法）、読解、聴解の能力の向上を目指していく。

授業の概要

主に演習形式で日本語能力試験N1問題集を受講生が解いたのちに、解説を担当者が行う。また、全3回に分けてN1・N2語彙の小テストを実施する。この科目では日本語能力試験模試も1回実施し、現在のレベルや弱点を受講生自身が把握する。
さらに、聴解についてはプリントと教材を配布し、毎回課題として提示する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

N1・N2語彙プリントを配布するので、小テストの勉強を行うこと。毎回その回に行った問題の関連プリントを配布するので、きちんと復習すること。「日本語」の授業で学んだ言語知識やストラテジーを活かすようにすること。

内　容

第1回　授業説明・評価説明／大学のマナー・生活のマナー
第2回　能力試験対策1（言語知識①読解①）／語彙小テスト1
第3回　能力試験対策2（言語知識②読解②）
第4回　能力試験対策3（言語知識③読解③）語彙小テスト2
第5回　能力試験対策4（言語知識④読解④）
第6回　能力試験対策5（言語知識⑤）／語彙小テスト3
第7回　能力試験対策6（言語知識⑥読解⑤）
第8回　模試1回目（言語知識・読解）
第9回　模試1回目（聴解・フィードバック）
第10回　能力試験対策7（言語知識⑦読解⑥）
第11回　能力試験対策8（言語知識⑧）
第12回　能力試験対策9（言語知識⑨）
第13回　能力試験対策10（言語知識⑩）
第14回　まとめテスト
第15回　後期終了時・留学終了時アンケート／フィードバック

履修上の注意点

＊日本語能力試験N1に合格している者は、担当教員に申し出ること。他の科目に受講振り替えを行う。

教科書

授業時配布プリント

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

授業時適宜紹介

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 45 ）　　小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ 25 ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 10 ）

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する（詳細は授業時に説明）。 模試の成績を「試験」として、10点分に換算する。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本事情Ⅳ <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者　佐野　裕子	

テーマ

日本語能力試験　N2対策

授業の到達目標

2019年7月の日本語能力試験N1に合格することを目指し、N2レベルの語彙や文法などの問題を中心に解いていく。またこれらの問題を解くことで、発話・作文の基礎となる、言語知識（語彙・文法）、読解、聴解の能力の向上を目指していく。また、日本で必要な防災知識や人間関係についてのマナーも学ぶ。

授業の概要

主に演習形式で日本語能力試験N2問題集を受講生が解いたのちに、解説を担当者が行う。また、全3回に分けてN2語彙の小テストを実施する。この科目では日本語能力試験模試も1回実施し、現在のレベルや弱点を受講生自身が把握する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

N2語彙プリントを配布するので、小テストの勉強を行うこと。毎回その回に行った問題の関連プリントを配布するので、きちんと復習すること。「日本語」の授業で学んだ言語知識やストラテジーを活かすようにすること。

内　容

第1回　授業説明・評価説明／大学のマナー・生活のマナー
第2回　防災の知識・人間関係のマナー
第3回　能力試験対策1（言語知識①）／語彙小テスト1
第4回　能力試験対策2（言語知識②）
第5回　能力試験対策3（言語知識③）語彙小テスト2
第6回　能力試験対策4（言語知識④読解①）
第7回　模試1回目（言語知識・読解）
第8回　模試1回目（聴解・フィードバック）
第9回　能力試験対策5（言語知識⑤読解②）／語彙小テスト3
第10回　能力試験対策6（言語知識⑥読解③）／語彙小テスト4
第11回　能力試験対策7（言語知識⑦読解④）
第12回　能力試験対策8（言語知識⑧／読解⑤）
第13回　能力試験対策9（言語知識⑨／読解⑥）
第14回　まとめテスト
第15回　後期終了時・留学終了時アンケート／フィードバック

履修上の注意点

＊日本語能力試験N1に合格している者は、担当教員に申し出ること。他の科目に受講振り替えを行う。

教科書

授業時配布プリント

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

授業時適宜紹介

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 45 ）　　小テスト （ 20 ）

授業中課題 （ 25 ）　　授業中発表等 （ 0 ）

参加度 （ 10 ）

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する（詳細は授業時に説明）。 模試の成績を「試験」として、10点分に換算する。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本文化演習 Ⅰ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生および履修許可を得た日本人学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者　辻本　千鶴	

テーマ

体験・実践する日本文化

授業の到達目標

①日本文化について、体験・実践的に知る。
②①について、自分の体験・実践をグループ内で(あるいはクラス全体に)発信することが出来る。
③日常生活の中で、日本文化により興味をもち(留学生)、他国の人に紹介できる(日本人学生)ようになる。

授業の概要

グループワークを中心に展開する。学外研修と調理実習を二つの柱とし、その事前学習と振り返りを行う。(時間に余裕が生じた場合は、英訳を手掛かりに万葉集の歌や日本の現代小説などに親しむ機会を設ける。)

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

振り返りレポートは、グループ内で発表して相互の参考とする。提出後、添削やコメントを付して返却する。

内　容

第1回　オリエンテーション・グループ分け
第2回　学外研修事前学習(その1)
第3回　学外研修(その1)　随心院
第4回　学外研修(その1)　振り返り・調理実習ガイダンス〈その Ⅰ〉
第5回　調理実習〈その Ⅰ〉　和風中華そば
第6回　調理実習〈その Ⅰ〉 振り返り・学外研修事前学習(その2)
第7回　学外研修(その2)　祇園・八坂神社・円山公園界隈
第8回　学外研修(その2)　振り返り・学外研修(その3)事前学習
第9回　学外研修(その3)　南禅寺
第10回 学外研修(その3)振り返り・調理実習ガイダンス〈その Ⅱ〉
第11回 調理実習〈その Ⅱ〉　お麩じゃが
第12回 調理実習〈その Ⅱ〉 振り返り・学外研修(その4)事前学習
第13回 学外研修(その4)　京都国際マンガミュージアム
第14回 学外研修(その4)　振り返り・日本文学に親しむ
第15回 まとめ　及び　日本文学に親しむ

履修上の注意点

①学外研修(交通費は自己負担となります。)の行き先や順番は、変更される場合があります。学外研修の時は、例えば「午前9時に山科駅集合」などの場合があります。一限目の授業は空けておいて下さい。
②実習室の空き状況により、調理実習に献立の変更や取り止め(内容の差替え)が生じる場合があります。
③調理室の利用に際しては、決められたルールを守って下さい。(授業中に説明。)
④調理実習の材料はグループ内で分担して持ち寄ることになります。

教科書

(使用しない。)
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

英語でよむ万葉集
著者:　リービ英雄
出版社:　岩波新書
出版年:　2004年　　ISBN:　4-00-430920-4

成績評価

試験・レポート ( )	小テスト ( )
授業中課題 (60%)	授業中発表等 (20%)
参加度 (20%)	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本文化演習Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生および履修許可を得た日本人学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者　辻本　千鶴	

テーマ

体験・実践する日本文化

授業の到達目標

①日本文化について、体験・実践的に知る。
②①について、自分の体験・実践をグループ内で(あるいはクラス全体に)発信することが出来る。
③日常生活の中で、日本文化により興味をもち(留学生)、他国の人に紹介できる(日本人学生)ようになる。

授業の概要

グループワークを中心に展開する。サークル訪問と調理実習を二つの柱とし、その事前学習と振り返りを行う。(時間に余裕が生じた場合は、英訳を手掛かりに万葉集の歌や啄木の歌などに親しむ機会を設ける。)

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

振り返りレポートは、グループ内で発表して相互の参考とする。提出後、添削やコメントを付して返却する。

内　容

第1回　オリエンテーション・グループ分け
第2回　調理実習ガイダンス〈Ⅰ〉・サークル訪問事前学習(1)
第3回　調理実習〈Ⅰ〉　日本茶と白玉だんご
第4回　サークル訪問(1)　書道部(仮)
第5回　調理実習〈Ⅰ〉の振り返りと〈Ⅱ〉の事前学習・サークル訪問(1)の振り返りと(2)の事前学習
第6回　調理実習〈Ⅱ〉　ごはんとお味噌汁
第7回　サークル訪問(2)　和太鼓部(仮)
第8回　調理実習〈Ⅱ〉の振り返りと〈Ⅲ〉の事前学習・サークル訪問(2)の振り返りと(3)の事前学習
第9回　調理実習〈Ⅲ〉　温うどん(そば)
第10回　サークル訪問(3)　弓道部(仮)
第11回　調理実習〈Ⅲ〉の振り返りと〈Ⅳ〉のガイダンス・サークル訪問(3)の振り返りと(4)の事前学習
第12回　調理実習〈Ⅳ〉　木の葉丼
第13回　サークル訪問(4)　裏千家茶道部(仮)
第14回　調理実習〈Ⅳ〉の振り返り・サークル訪問(4)の振り返り
第15回　まとめ・次年度に向けてのガイダンス
英訳万葉集(など)鑑賞

履修上の注意点

①サークル訪問の日程(順番)は見学先の都合により変更されます。
②実習室の空き状況により、調理実習に献立の変更や取り止め(内容の差替え)が生じる場合があります。
③調理室の利用に際しては、決められたルールを守って下さい。(授業中に説明。)
④調理実習の材料はグループ内で分担して持ち寄ることになります。

教科書

(使用しない。)
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

英語でよむ万葉集
著者:　リービ英雄
出版社:　岩波新書
出版年:　2004年　　ISBN:　4-00-430920-4

英語で読む啄木
著者:　ロジャー・パルバース
出版社:　河出書房新社
出版年:　2015年　　ISBN:　978-4-02377-9

aks403d250

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 60% ）	授業中発表等（ 20% ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教養入門 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　150
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　阪本　崇.アンガス, ノーマン.後藤　敦史.西野　毅朗.西村　徳寿.禧美　智章	

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が卒業後の進路について考える機会を設ける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
第2回　「自由貿易と私たちのくらし」
第3回　「お金とどう向き合うか」
第4回　「教養としての歴史」
第5回　「異文化理解」
第6回　「数学はどこからきたのか？数学の起源を知る」
第7回　「数学の学び方、生かし方を考えよう！」
第8回　「世界の言語」
第9回　「東洋と西洋の考え方」
第10回　「社会を学問する意義とは？」
第11回　「社会問題としての環境問題」
第12回　「現代の思想」
第13回　外部講師による講演
第14回　「メディアと情報」
第15回　総括、各自のキャリア・卒業後の進路について

履修上の注意点

学科横断的にクラスに分け、それぞれの教室に配当されるので、自分のクラスがどれであるのか確認すること。また教室では座席は指定される。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 70 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
授業担当教員が多いので合議して成績を決める。

2018 Syllabus

科 目 名　**教養入門 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　150
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　西野　毅朗.アンガス, ノーマン.河原　宣子.後藤　敦史.西村　徳寿.禧美　智章	

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が卒業後の進路について考える機会を設ける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
第2回　「社会を学問する意義とは？」
第3回　「社会問題としての環境問題」
第4回　「現代の思想」
第5回　「メディアと情報」
第6回　「教養としての歴史」
第7回　「異文化理解」
第8回　「数学はどこからきたのか？数学の起源を知る」
第9回　「数学の学び方、生かし方を考えよう！」
第10回「世界の言語」
第11回「東洋と西洋の考え方」
第12回「人と死」
第13回「人と脳」
第14回 外部講師による講演
第15回 総括、各自のキャリア・卒業後の進路について

履修上の注意点

学科横断的にクラスに分け、それぞれの教室に配当されるので、自分のクラスがどれであるのか確認すること。また教室では座席は指定される。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 70 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）
授業担当教員が多いので合議して成績を決める。

2018 Syllabus

科 目 名　**教養入門 <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　150
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　後藤　敦史.河原　宣子.阪本　崇.西野　毅朗.西村　徳寿.禧美　智章	

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が卒業後の進路について考える機会を設ける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
第2回　「教養としての歴史」
第3回　「異文化理解」
第4回　「人と死」
第5回　「人と脳」
第6回　「現代の思想」
第7回　「メディアと情報」
第8回　「社会を学問する意義とは？」
第9回　「社会問題としての環境問題」
第10回「数学はどこからきたのか？数学の起源を知る」
第11回「数学の学び方、生かし方を考えよう！」
第12回「自由貿易と私たちのくらし」
第13回「お金とどう向き合うか」
第14回 外部講師による講演
第15回 総括、各自のキャリア・卒業後の進路について

履修上の注意点

学科横断的にクラスに分け、それぞれの教室に配当されるので、自分のクラスがどれであるのか確認すること。また教室では座席は指定される。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 70 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）
授業担当教員が多いので合議して成績を決める。

2018 Syllabus

科 目 名　**教養入門 <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　150
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　河原　宣子.アンガス, ノーマン.後藤　敦史.西野　毅朗.西村　徳寿.禧美　智章	

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が卒業後の進路について考える機会を設ける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
第2回　「人と死」
第3回　「人と脳」
第4回　「数学はどこからきたのか？数学の起源を知る」
第5回　「数学の学び方、生かし方を考えよう！」
第6回　「世界の言語」
第7回　「東洋と西洋の考え方」
第8回　「教養としての歴史」
第9回　「異文化理解」
第10回　「現代の思想」
第11回　「メディアと情報」
第12回　「社会を学問する意義とは？」
第13回　「社会問題としての環境問題」
第14回　外部講師による講演
第15回　総括、各自のキャリア・卒業後の進路について

履修上の注意点

学科横断的にクラスに分け、それぞれの教室に配当されるので、自分のクラスがどれであるのか確認すること。また教室では座席は指定される。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 70 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
授業担当教員が多いので合議して成績を決める。

2018 Syllabus

科 目 名　**教養入門 <e>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　150
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　アンガス, ノーマン.河原　宣子.後藤　敦史.阪本　崇.西村　徳寿.禧美　智章	

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が卒業後の進路について考える機会を設ける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
第2回　「世界の言語」
第3回　「東洋と西洋の考え方」
第4回　「自由貿易と私たちのくらし」
第5回　「お金とどう向き合うか」
第6回　「人と死」
第7回　「人と脳」
第8回　「現代の思想」
第9回　「メディアと情報」
第10回「教養としての歴史」
第11回「異文化理解」
第12回「数学はどこからきたのか？数学の起源を知る」
第13回 外部講師による講演
第14回「数学の学び方、生かし方を考えよう！」
第15回 総括、各自のキャリア・卒業後の進路について

履修上の注意点

学科横断的にクラスに分け、それぞれの教室に配当されるので、自分のクラスがどれであるのか確認すること。また教室では座席は指定される。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 70 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）
授業担当教員が多いので合議して成績を決める。

2018 Syllabus

科 目 名　**教養入門 <f>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　150
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　阪本　崇.アンガス, ノーマン.後藤　敦史.西野　毅朗.西村　徳寿.禧美　智章	

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が卒業後の進路について考える機会を設ける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
第2回　「自由貿易と私たちのくらし」
第3回　「お金とどう向き合うか」
第4回　「教養としての歴史」
第5回　「異文化理解」
第6回　「数学はどこからきたのか？数学の起源を知る」
第7回　「数学の学び方、生かし方を考えよう！」
第8回　「世界の言語」
第9回　「東洋と西洋の考え方」
第10回「社会を学問する意義とは？」
第11回「社会問題としての環境問題」
第12回「現代の思想」
第13回 外部講師による講演
第14回「メディアと情報」
第15回 総括、各自のキャリア・卒業後の進路について

履修上の注意点

学科横断的にクラスに分け、それぞれの教室に配当されるので、自分のクラスがどれであるのか確認すること。また教室では座席は指定される。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）	

授業担当教員が多いので合議して成績を決める。

2018 Syllabus

科 目 名　**教養入門 <g>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　150
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　西野　毅朗.アンガス, ノーマン.河原　宣子.後藤　敦史.西村　徳寿.禧美　智章	

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が卒業後の進路について考える機会を設ける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
第2回　「社会を学問する意義とは？」
第3回　「社会問題としての環境問題」
第4回　「現代の思想」
第5回　「メディアと情報」
第6回　「教養としての歴史」
第7回　「異文化理解」
第8回　「数学はどこからきたのか？数学の起源を知る」
第9回　「数学の学び方、生かし方を考えよう！」
第10回「世界の言語」
第11回「東洋と西洋の考え方」
第12回「人と死」
第13回「人と脳」
第14回 外部講師による講演
第15回 総括、各自のキャリア・卒業後の進路について

履修上の注意点

学科横断的にクラスに分け、それぞれの教室に配当されるので、自分のクラスがどれであるのか確認すること。また教室では座席は指定される。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 70 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）
授業担当教員が多いので合議して成績を決める。

2018 Syllabus

科 目 名　**教養入門 <h>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　150
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　後藤　敦史.河原　宣子.阪本　崇.西野　毅朗.西村　徳寿.禧美　智章	

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が卒業後の進路について考える機会を設ける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
第2回　「教養としての歴史」
第3回　「異文化理解」
第4回　「人と死」
第5回　「人と脳」
第6回　「現代の思想」
第7回　「メディアと情報」
第8回　「社会を学問する意義とは？」
第9回　「社会問題としての環境問題」
第10回「数学はどこからきたのか？数学の起源を知る」
第11回「数学の学び方、生かし方を考えよう！」
第12回「自由貿易と私たちのくらし」
第13回「お金とどう向き合うか」
第14回 外部講師による講演
第15回 総括、各自のキャリア・卒業後の進路について

履修上の注意点

学科横断的にクラスに分け、それぞれの教室に配当されるので、自分のクラスがどれであるのか確認すること。また教室では座席は指定される。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 70 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）
授業担当教員が多いので合議して成績を決める。

2018 Syllabus

科 目 名　**教養入門 <i>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　150
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　河原　宣子.アンガス, ノーマン.後藤　敦史.西野　毅朗.西村　徳寿.禧美　智章	

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が卒業後の進路について考える機会を設ける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
第2回　「人と死」
第3回　「人と脳」
第4回　「数学はどこからきたのか？数学の起源を知る」
第5回　「数学の学び方、生かし方を考えよう！」
第6回　「世界の言語」
第7回　「東洋と西洋の考え方」
第8回　「教養としての歴史」
第9回　「異文化理解」
第10回　「現代の思想」
第11回　「メディアと情報」
第12回　「社会を学問する意義とは？」
第13回　「社会問題としての環境問題」
第14回　外部講師による講演
第15回　総括、各自のキャリア・卒業後の進路について

履修上の注意点

学科横断的にクラスに分け、それぞれの教室に配当されるので、自分のクラスがどれであるのか確認すること。また教室では座席は指定される。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 70 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
授業担当教員が多いので合議して成績を決める。

2018 Syllabus

科 目 名　**教養入門 <j>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　150
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　アンガス, ノーマン.河原　宣子.後藤　敦史.阪本　崇.西村　徳寿.禧美　智章	

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が卒業後の進路について考える機会を設ける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
第2回　「世界の言語」
第3回　「東洋と西洋の考え方」
第4回　「自由貿易と私たちのくらし」
第5回　「お金とどう向き合うか」
第6回　「人と死」
第7回　「人と脳」
第8回　「現代の思想」
第9回　「メディアと情報」
第10回「教養としての歴史」
第11回「異文化理解」
第12回「数学はどこからきたのか？数学の起源を知る」
第13回 外部講師による講演
第14回「数学の学び方、生かし方を考えよう！」
第15回 総括、各自のキャリア・卒業後の進路について

履修上の注意点

学科横断的にクラスに分け、それぞれの教室に配当されるので、自分のクラスがどれであるのか確認すること。また教室では座席は指定される。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 70 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）
授業担当教員が多いので合議して成績を決める。

2018 Syllabus

科 目 名　**地域課題研究（日）<a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安達　太郎.重松　恵美.野村　幸一郎.林　久美子	

テーマ

京都と日本文化

授業の到達目標

学内で文学作品や日本文化に関する講義を行った後、実際にそのテーマに関連する名所旧跡を見学することで理解を深めていく

授業の概要

毎回、1限目に学内で講義、2限目の間に移動し、3限目に見学を実施する予定である。グループ訳を行い、年度末には、グループでの発表を予定しているので、パワーポイントを用意しておくこと。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、振り返りシートを課題として提出を求める予定である

内　　容

第1回　概要説明（学内）
第2回　岩屋神社奥宮見学
第3回　琵琶湖疎水と日本の近代化（学内）
第4回　インクライン・無鄰庵見学
第5回　門跡寺院と文化（学内）
第6回　毘沙門堂見学
第7回　『平家物語』と六波羅（学内）
第8回　六波羅蜜寺見学

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（60）	授業中発表等（　）
参加度（40）	

2018 Syllabus

科 目 名　**地域課題研究（書）<b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾西　正成.橋本　二三	

テーマ

「地域」で学ぶ、「地域」から学ぶ－地域課題を知り、その解決法を考える－

授業の到達目標

前期「教養入門」の学修により得た、地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、その実践として、実際に地域に出かけていく。そのことを通じ、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

授業の概要

京都から滋賀にかけての地域に残されている書道作品を見学し，書として鑑賞，分析するにとどまらず，その書の歴史的・文化的背景についても学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

訪問する場所，施設について事前に各自で調べておくこと。

内　容

第1回　京都を中心とした書の歴史について
第2回　京都国立博物館見学（1）
第3回　京都国立博物館見学（2）
第4回　京都国立博物館見学（3）
第5回　近代の京都滋賀を地盤として活躍した書人について
第6回　京都市美術館見学（1）
第7回　京都市美術館見学（2）
第8回　東山に隣接する美術館博物館見学

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**地域課題研究（歴）<c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾下　成敏.王　衛明.小野　浩.後藤　敦史.増渕　徹.松浦　京子	

テーマ

「地域」で学ぶ、「地域」から学ぶ－地域課題を知り、その解決法を考える－

授業の到達目標

地域社会と大学および大学生の役割について考えるために、実際に地域に出かけていく。そのことを通じ、１　地域課題を発見する力、２　地域課題の解決法について考える力を身につける。

授業の概要

この授業では、京都とその周辺の地域性を歴史の観点を重点に置いて追うことを目的としている。具体的には、講義や学外研究、報告会を通して、京都とその周辺の地域性を追うことになろう。なお、報告会のさい、教員がコメントを加える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

京都府・滋賀県の歴史遺産をなるべく見学すること、また京都・滋賀に関する本を少しでも多く読むこと。

内　容

第1回　総論（京都の歴史遺産と歳時記など）
第2回　グループワークの説明と企画
第3回　学外研究、その1（祭礼の見学）
第4回　学外研究、その1（祭礼の見学）
第5回　学外研究、その2（京都市内の歴史遺産の見学）
第6回　学外研究、その2（京都市内の歴史遺産の見学）
第7回　研究入門ゼミ単位での学外研究に関する報告会
第8回　研究入門ゼミ単位での学外研究に関する報告会

履修上の注意点

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなるので、この点をよく心得て欲しい。

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

京都府の歴史散歩（全3冊）
著者:　京都府歴史遺産研究会
出版社:　山川出版社
出版年:　2011年　　ISBN:

滋賀県の歴史散歩（全2冊）
著者:　滋賀県歴史散歩編集委員会
出版社:　山川出版社
出版年:　2008年　　ISBN:

京都　知られざる歴史探検（上・下）
著者:　山田邦和
出版社:　新泉社
出版年:　2017年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**地域課題研究（遺）<d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　村上　裕道	

テーマ

歴史遺産を継承している修理現場の状況を知るとともに、その継承に向けた「貢献する心」を養う

授業の到達目標

各部名称・作業工程等、基本的視点を踏まえた歴史遺産の見方を知る。

授業の概要

歴史遺産の規模形式・構造形式を知り、作業工程の概要を理解した上で、文化遺産を見る能力を養う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　歴史遺産の見学準備　　延暦寺他見学の予備学習
第2回　歴史遺産の見学　　延暦寺他実査　（学外授業）
第3回　同見学のまとめ　　観察チェックリストの作成提出
第4回　歴史遺産の見学準備　　清水寺本堂の予備学習
第5回　歴史遺産の見方研修　　清水寺本堂檜皮葺工事の学習
第6回　歴史遺産の見学　　清水寺実査　（学外授業）
第7回　同見学のまとめ　　観察チェックリストの作成提出

履修上の注意点

※なお、この授業は必要に応じて学外授業を行うことがある。

教科書

参考書

朝日百科　日本の国宝　7巻
著者:
出版社: 朝日新聞社
出版年: 1999　　ISBN:

朝日百科　日本の国宝　8巻
著者:
出版社: 朝日新聞社
出版年: 1999　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 30 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 50 ）	

見学会の参加を必須とする

2018 Syllabus

科 目 名　**地域課題研究（国）<e>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐久間　浩司	

テーマ

山科や京都という歴史ある街の魅力と課題を探る。

授業の到達目標

地域に生活する者としての視点を持ち、愛着を持って地元を観察する。地元の人とのコミュニケーションを通じて、地域が持つ歴史的魅力、産業的魅力、住環境としての魅力を考え、同時にどんな課題を抱えるかを研究する。全体を通じて、社会問題を観察する視点、問題の整理の仕方、解決方法などの方法論を学ぶ。

授業の概要

地域から講師を招聘して教わったり、現場訪問をする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日頃から身の回りのお店、ポスターなどを関心を持って観察してください。

内　容

第1回　オリエンテーション：　班分け、自分の地元の魅力を調べる。
第2回　オリエンテーション：　班分け、自分の地元の魅力を調べる。
第3回　ゲストスピーカー　1
第4回　ゲストスピーカー　2
第5回　山科の歴史を学ぶ
第6回　山科の歴史を学ぶ
第7回　京都山科地区の魅力と課題　発表
第8回　京都山科地区の魅力と課題　発表

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**地域課題研究（経）<f>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松石　泰彦	

テーマ

「地域」で学ぶ、「地域」から学ぶ－地域課題を知りその解決法を考える－

授業の到達目標

前期「教養入門」の学修により得た、地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、その実践として、実際に地域について調べ、情報を得、発表する。そのことを通じ、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

授業の概要

京都、とくに山科地域はどのような特性を持つ地域なのか、それが日本全国の中や世界との接点においてはどのように位置づけられるのかについて、総合的に学習をおこなう。各種の地域統計、メディアでの情報、地域で活躍する人々の話などを題材とし、実践的なグループ学習を通じて山科地域の特徴や課題を理解する。なお、以下の通りの講義計画を予定しているが、講師の都合等により 順番やテーマを入れ替えることがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に支持された課題を準備してくるとともに、授業中のワークを仕上げて事後に提出すること。また、最後にグループ別にプレゼンテーションをしてもらい、教員からコメントする。

内　容

第1回　地域を理解するための諸概念を学ぶ。特に、人口、財政、行政、産業などを中心に、地域の特性の見方や現状を理解する。
第2回　第1回を踏まえて、さまざまな資料から地域をめぐる論点を整理し、まとめる。
第3回　京都府・京都市の産業、企業、それらの歴史など地域特性を学ぶ。地域からのゲスト講師による講演を聴く。
第4回　京都市、特に山科地域の産業の特性や歴史、具体的活動を学ぶ。地域からのゲスト講師による講演を聴く。
第5回　地域企業の具体的活動や課題を学ぶ。地域から招いたゲストの講演を聴く。
第6回　第3,4,5回を踏まえて、地域の現状や特性について、レポートを作成する。
第7回　地域の経済と企業について具体的様相を学ぶ。特に山科地域の企業や産業について資料を見て、その存在や特色を調べる。
第8回　第7回を踏まえて、グループ単位でディスカッションをして内容をまとめ、それらを発表する。

履修上の注意点

ゲスト講師の調整等で、実施日程が後日発表になるので、掲示に注意すること。また、それに伴い内容にも若干の変更が生じる場合がある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**地域課題研究（都）<g>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小辻　寿規	

テーマ

「地域」で学ぶ、「地域」から学ぶ－地域課題を知り、その解決法を考える－

授業の到達目標

前期「教養入門」の学修により得た、地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、その実践として、実際に地域に出かけていく。そのことを通じ、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

授業の概要

「地域」で学ぶという視点から地域でのフィールドワークを行うとともに、「地域」から学ぶという視点から地域で活動されている方々を大学にお招きしお話しを聞くとともに、それをもとに地域の課題についてディスカッションを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

当該科目以外の科目や、新聞・雑誌・インターネットなどから地域の課題についてつねに情報を仕入れておく。

内　容

第1回　①　地域から課題を発見する方法について
第2回　②　ゲストを招き若者が参加するまちづくりの事例紹介及び教員とゲストのディスカッション
第3回　③　ゲストを招き山科区清水焼団地の事例紹介（山科区）
第4回　④　③を受けての学生ディスカッション及び発表
第5回　⑤　ゲストを招き京都における観光産業の検討
第6回　⑥　⑤を受けての学生ディスカッション及び発表
第7回　⑦　ゲストを招き京都市で活躍するまちづくり実践者の話を聞く（住民＋役所職員）
第8回　⑧　⑦を受けてのディスカッション及び発表

履修上の注意点

必修科目のため、遅刻及び欠席に関してはご注意ください。

教科書

知のフロンティア　生存をめぐる研究の現場
著者:　渡辺克典編、立命館大学生存学研究センター監修
出版社:　ハーベスト社
出版年:　2017　　ISBN:

参考書

文化政策と臨地まちづくり
著者:　織田直文
出版社:　水曜社
出版年:　2009　　ISBN:　4880652180

知っとこ見とこ山科ガイド
著者:　木下達文
出版社:　つむぎ出版
出版年:　2009　　ISBN:　4876681643

京・まちづくり史
著者:　高橋康夫・中川理
出版社:　昭和堂
出版年:　2003　　ISBN:　4812203147

京都・山科まちづくり物語
著者:　織田直文・廣川桃子・鈴木好美
出版社:　晃洋書房
出版年:　2009　　ISBN:　4771020809

aky101a287

地域再生 滋賀の挑戦

著者: 近江環人地域再生学座

出版社: 新評論

出版年: 2011 ISBN: 4794808887

成績評価

試験・レポート（ 50 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ 30 ）

参加度 （ 20 ）

教科書に関しては、出版が正式確定次第お知らせします。

2018 Syllabus

科 目 名　**地域課題研究（救）<h>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　関根　和弘	

テーマ

過去の災害を知ること。その災害を、昔の人々はどのように知らせたかを学ぶことで、地域から学ぶ、地域を学ぶ。

授業の到達目標

「地域」で学ぶ、「地域」から学ぶ　−地域課題を知り、その解決法を考える−

授業の概要

前記「教養入門」の学修により得た、地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、その実践として、実際に地域に出かけていく。そのことを通じ、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

京都府、京都市・特に山科区や大津市の過去の災害をwebや新聞を通じて調べておくこと。

内　　容

第1回　オリエンテーション、災害についての講義
第2回　地域の危険地区や危険な状況の観察や評価方法を伝授し、自ら調査する。
第3回　地域の今を知る。京都市消防局　山科消防署・消防団、京都橘大学学生消防団との協働実習
第4回　地域の今を知る。京都市消防局　山科消防署・消防団、京都橘大学学生消防団との協働実習
第5回　災害時の対応を学ぶ。過去の災害を探り、どのような行動を実施しどのような対応をするのかを学ぶ。
第6回　地域の今を知る。新聞や地域情報誌、webなどから山科・大津地域の過去の災害を探り、模造紙などにまとめる。
第7回　地域を数字で理解する。京都・大津市の地域統計を利用して、山科・大津地域が京都市や滋賀県のなかでどのような特徴を持つ地域なのかを数字から明らかにする。
第8回　まとめ。山科地域の現況と課題。課題に対する企画の立案をし、グループ毎に発表する。

履修上の注意点

前週に知識やルールを得て、翌週に演習を実施するので、配布資料を熟読してこないと同じテーブルになった他の者に迷惑をかけることとなる。無断欠席は試験の受講を認めない。

教科書

救急隊員標準テキスト　改訂第3版
著者:　救急隊員用教本作成委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2007　　ISBN:　9784892695902

救急救命士標準テキスト　改訂第9版　上巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698699

救急救命士標準テキスト　改訂第9版　下巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698705

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 10 ）	

aky101a288

成績評価は知識や課題に対するプレゼンテーションやグループ間での発表を考査する。またグループを代表しての共通演題のプレゼンテーションを実施する。なお、考査については、原則、すべての授業に参加していることを条件とし、無断欠席があった場合は受験を認めないものとする。

2018 Syllabus

科 目 名　**地域課題研究(看) <i>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松本　賢哉	

テーマ

他学部と統一テーマ

授業の到達目標

他学部と統一テーマ

授業の概要

山科・醍醐地区の地域を知り，人々の暮らしと健康について考える

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

内　　容

第1回　オリエンテーション「地域から学ぶ」意義について
第2回　「地域を知る」ための方法論　アンケートのつくり方　インタビューの仕方
第3回　山科・醍醐地区を知る① 自然環境 （地域を歩く）
第4回　山科・醍醐地区を知る② 安全 （住民との会話から）
第5回　山科・醍醐地区を知る③ 行政，保健・医療・福祉サービス （データ分析・住民との会話から）
第6回　山科・醍醐地区を知る④ 教育，レクリエーション
第7回　山科・醍醐地区を知る⑤ この地域に暮らす人びと
第8回　まとめ・発表

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 50 ）	授業中発表等 （ 50 ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**地域課題研究（心）〈j〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　永野　光朗.石山　裕菜.井上　裕樹.大久保　千惠.濱田　智崇.日比野　英子	

テーマ

「地域」で学ぶ、「地域」から学ぶ　―地域課題を知り、その解決法を考える―

授業の到達目標

地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎にして、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

授業の概要

心理的支援や地域の活性化など地域課題の解決に取り組む事例について、ゲストスピーカーを含め8名の担当者の講義を受講する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

他の科目や新聞・雑誌・インターネットなどから地域の課題について常に情報を仕入れておく。とくに地域の課題を解決した実践的事例（町おこし、地域内ネットワークの形成、環境問題の解決など）についても注意をしておく。
レポート課題については全体的なコメントなどによって、できる限りのフィードバックを行う。

内　容

第1回　オリエンテーション・地域における課題とは？
第2回　地域における心理的支援①（地域における子育て支援）
第3回　地域における心理的支援②（地域における虐待問題）
第4回　地域における心理的支援③（男性の支援およびDVについて）
第5回　地域における心理的支援④（過疎地域における支援）
第6回　地域における心理的支援⑤（若者への支援活動）
第7回　地域における心理的支援⑥（地域における精神科医療）
第8回　地方自治体における地域課題とその解決のための実践（行政担当者）

履修上の注意点

授業には真摯に取り組むこと。授業中の睡眠、スマホ使用、私語など、ゲストスピーカーに対して失礼であるとみなされる行為については厳重に注意する。

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

ワークショップ　住民主体のまちづくりへの方法論
著者:　木下勇
出版社:　学芸出版社
出版年:　2007　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 30% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20% ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 50% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**地域課題研究（理）<k>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　崎田　正博.安彦　鉄平.小田桐　匡	

テーマ

高齢化社会を迎えている我が国において、地域に根付いた医療とケアが益々必要となっている。そこで、京都・滋賀の地域医療の現状を把握し、今後の展望も含めた課題を提案する。

授業の到達目標

京都・滋賀地域で地域医療に携わる現職者から各分野（地域政策、訪問看護、訪問リハビリテーション）の現状を聞き、今後の課題を見出す。

授業の概要

前半は授業形式、後半はグループワーク

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　地域医療概論（オリエンテーション）
第2回　地域政策の現状
第3回　地域医療（訪問医療主体）の現状
第4回　地域の健康施策・訪問リハビリテーションの現状
第5回　グループワーク
第6回　グループワーク
第7回　グループワーク
第8回　課題の発表　なお、外部講師を招いて講演会を開催することがある。

履修上の注意点

1/3以下の出席率で単位認定不可

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 50% ）
参加度 （ 10% ）
グループワークでは、メンバーと積極的にディスカッションし、課題提案を行うこと。

2018 Syllabus

科 目 名　**地域課題研究（児）<I>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　青木　美智子	

テーマ

地域で学ぶ、地域から学ぶ。－地域課題を知り、その解決法を考える－

授業の到達目標

山科地域における子どもたちの育ちについて、自然・歴史・文化・教育・産業などの面からとらえ、①子どもの健康、安全、環境面における魅力と課題を発見する力、②同じ地域にある大学として子どもや子育て家庭と交流し、教育・保育的な課題の解決法について考える力を身につける。具体的には、キャンパスを利用した子どもを対象とした活動を企画しこれを実施する。

授業の概要

地域の子どもたちと一緒に楽しめる活動について考察し、ちびっこランドの取り組み等において実際に企画運営する。次年度以降の専門領域の学びへとつながるよう、実施した企画の成果と課題をまとめ、研究発表会を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

地域における子どもが集まる公共空間を探し、実際に足を運び、どのような年齢層の子どもたちが、どのような活動をしているのか調査する。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　山科地域をとらえる視点、フィールドワークの方法、計画づくり
第3回　山科地域の子どもと教育 「山科地域の子どもたち」ゲストスピーカー
第4回　子どもの遊びを企画する ゲストスピーカー
第5回　子どもたちのための企画を考える①
第6回　子どもたちのための企画を考える②
第7回　山科地域の魅力と課題の発表①
第8回　山科地域の魅力と課題の発表②

履修上の注意点

欠席者は事前に申し出ること。連絡の方法は授業初回に示す。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 25 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 25 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**地域課題研究（英）〈Ze〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐久間　浩司	

テーマ

山科や京都という歴史ある街の魅力と課題を探る。

授業の到達目標

地域に生活する者としての視点を持ち、愛着を持って地元を観察する。地元の人とのコミュニケーションを通じて、地域が持つ歴史的魅力、産業的魅力、住環境としての魅力を考え、同時にどんな課題を抱えるかを研究する。全体を通じて、社会問題を観察する視点、問題の整理の仕方、解決方法などの方法論を学ぶ。

授業の概要

地域から講師を招聘して教わったり、現場訪問をする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日頃から身の回りのお店、ポスターなどを関心を持って観察してください。

内　容

第1回　オリエンテーション：　班分け、自分の地元の魅力を調べる。
第2回　オリエンテーション：　班分け、自分の地元の魅力を調べる。
第3回　ゲストスピーカー　1
第4回　ゲストスピーカー　2
第5回　山科の歴史を学ぶ
第6回　山科の歴史を学ぶ
第7回　京都山科地区の魅力と課題　発表
第8回　京都山科地区の魅力と課題　発表

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**地域課題研究（作）<m>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小川　敬之.近藤　敏.齋藤　慶一郎.佐川　佳南枝.平本　憲二.森本　誠司	

テーマ

地域が抱える課題に触れ、保健・医療・福祉の視点で課題解決に向けた思考力を養う

授業の到達目標

①地域課題を発見する力を身につける
②地域課題の解決法について考える力を身につける

授業の概要

日本の社会的課題である少子高齢化は地域における様々な問題の根源的課題だといえる。今後、地域を活性化させ、新しいまちづくりを進めるためには若者の力と発想力が何より必要となる。この授業では本学が置かれる京滋地区（京都・滋賀）一帯についてどのような問題点があるのか、その解決には何が必要か、作業療法はどのような役割が果たせるのか等、グループで情報の収集や整理を行い、まとめたものをクラス内にて発表する

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

少子高齢化、貧困、8050問題、ダブルケアなど社会が抱えている課題に対する情報にアンテナを張っておく

内　容

第1回　日本の社会的課題について（少子高齢化、貧困、ダブルケアなど）
第2回　保健・医療の視点から地域課題を考える
第3回　福祉等の視点から地域課題を考える
第4回　行政の視点から地域課題を考える
第5回　地域課題の調査・検討（グループワーク）
第6回　地域課題の調査・検討（グループワーク）
第7回　地域課題の調査・検討（グループワーク）
第8回　報告会（各グループで取りまとめたものを発表）

履修上の注意点

1/3以下の出席率で単位取得不可
外部講師を招いて講演会を開催することがある

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 10 ）	

グループディスカッションの参加、レポート課題等

2018 Syllabus

科 目 名　**地域課題研究（検）<n>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　米田　孝司.内堀　恵美.兜森　修.竹下　仁.中村　竜也.藤原　麻有	

テーマ

演習授業に積極的に参加し、各グループ内での活発な意見交換を通して、主体的に地域での臨床検査に関わる役割について学習する

授業の到達目標

1.地域社会に貢献できる臨床検査技師の育成をめざす
2.地域社会における臨床検査技師の役割を体験する
3.地域における臨床検査領域の現状について調べて考える

授業の概要

京都には臨床検査関連の試薬や分析装置を製造する会社、臨地実習では学べない特殊検査等を扱う検査センターのラボ等が多く存在する。臨床検査の仕事場は病院だけでなく、こうした企業もその一つである。この授業では京都市とその周辺にある企業を見学し、各企業の特徴や臨床検査との関係について学ぶ。特に、患者や病気が見えない検体検査における検査技師の使命感および医療の担い手として何が必要かを学び、地域に密着した課題、課題を解決するための方法と計画、課題解決の限界について考える。見学後には、学生が3グループに分かれて意見をまとめ発表することで、学びを共有するとともに、学外授業を通じて学生と教員とが接点を持つ機会とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に行く企業のことを調べ、分からないことはそのままにせず、担当教員に確認すること

内　容

第1回　地域課題研究における演習の仕方と考え方
第2回　学外研修に際してのオリエンテーション(服装・マナー等の注意点も含む)
第3回　各自が見学する企業での準備:事業内容・製品・特徴等を調べて討論
第4回　地域の企業を実際に訪問、社会・医療・臨床検査に関わり
第5回　地域の企業を実際に訪問、社会・医療・臨床検査に関わり
第6回　3グループの討論により共有化
第7回　各グループの発表、それぞれの違いと共通点
第8回　各グループの発表、それぞれの違いと共通点

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 40 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 0 ）	授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**哲学概論 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　岩崎 豪人	

テーマ

哲学の広がりと深さを学ぶ。

授業の到達目標

哲学とは何かをできるだけ身近な問いに引きつけて理解すること。

授業の概要

哲学は何を問題にしてきたのか、またそれにどのように取り組んできたか、そしてその問いは私達にとってどんな意味をもつのかについて、様々な哲学者の著作を通して考える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

現代の諸問題を、自らの生き方との関係でとらえる習慣をつけておくこと。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　哲学とはなにか？
第3回　哲学の問い
第4回　哲学の問いの意味
第5回　哲学的思考
第6回　自由と社会
第7回　自由と教育
第8回　社会と教育
第9回　社会哲学
第10回　労働と社会
第11回　社会と競争
第12回　現代哲学(1)
第13回　現代哲学(2)
第14回　現代正義論
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

哲学思考トレーニング
著者:　伊勢田哲治
出版社:　筑摩書房
出版年:　2005　　ISBN:

論理トレーニング
著者:　野矢 茂樹
出版社:　産業図書
出版年:　2006　　ISBN:

哲学ディベート
著者:　高橋 昌一郎
出版社:　NHK出版
出版年:　2007　　ISBN:

これからの「正義」の話をしよう
著者:　マイケル サンデル
出版社:　早川書房
出版年:　2011　　ISBN:

aky201d210

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 35 ）	授業中発表等（ 15 ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**哲学概論 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　岩崎 豪人	

テーマ

哲学の広がりと深さを学ぶ。

授業の到達目標

哲学とは何かをできるだけ身近な問いに引きつけて理解すること。

授業の概要

哲学は何を問題にしてきたのか、またそれにどのように取り組んできたか、そしてその問いは私達にとってどんな意味をもつのかについて、様々な哲学者の著作を通して考える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

現代の諸問題を、自らの生き方との関係でとらえる習慣をつけておくこと。

内　　容

第1回　イントロダクション
第2回　哲学とはなにか？
第3回　哲学の問い
第4回　哲学の問いの意味
第5回　哲学的思考
第6回　自由と社会
第7回　自由と教育
第8回　社会と教育
第9回　社会哲学
第10回　労働と社会
第11回　社会と競争
第12回　現代哲学（1）
第13回　現代哲学（2）
第14回　現代正義論
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

哲学思考トレーニング
著者：　伊勢田哲治
出版社：筑摩書房
出版年：2005　　ISBN：

論理トレーニング
著者：　野矢 茂樹
出版社：産業図書
出版年：2006　　ISBN：

哲学ディベート
著者：　高橋 昌一郎
出版社：NHK出版
出版年：2007　　ISBN：

これからの「正義」の話をしよう
著者：　マイケル サンデル
出版社：早川書房
出版年：2011　　ISBN：

aky201d212

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 35 ）	授業中発表等（ 15 ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**哲学概論 <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　岩崎 豪人	

テーマ

哲学の広がりと深さを学ぶ。

授業の到達目標

哲学とは何かをできるだけ身近な問いに引きつけて理解すること。

授業の概要

哲学は何を問題にしてきたのか、またそれにどのように取り組んできたか、そしてその問いは私達にとってどんな意味をもつのかについて、様々な哲学者の著作を通して考える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

現代の諸問題を、自らの生き方との関係でとらえる習慣をつけておくこと。

内　　容

第1回　イントロダクション
第2回　哲学とはなにか？
第3回　哲学の問い
第4回　哲学の問いの意味
第5回　哲学的思考
第6回　自由と社会
第7回　自由と教育
第8回　社会と教育
第9回　社会哲学
第10回　労働と社会
第11回　社会と競争
第12回　現代哲学（1）
第13回　現代哲学（2）
第14回　現代正義論
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

哲学思考トレーニング
著者：　伊勢田哲治
出版社：筑摩書房
出版年：2005　　ISBN：

論理トレーニング
著者：　野矢 茂樹
出版社：産業図書
出版年：2006　　ISBN：

哲学ディベート
著者：　高橋 昌一郎
出版社：NHK出版
出版年：2007　　ISBN：

これからの「正義」の話をしよう
著者：　マイケル サンデル
出版社：早川書房
出版年：2011　　ISBN：

aky201d213

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 35 ）	授業中発表等（ 15 ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**倫理学概論 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　岩崎 豪人	

テーマ

倫理学とは何か、倫理学にどのような意義があるのかを理解する。

授業の到達目標

倫理学的な考え方を身につけることを目標とする。

授業の概要

近代以降の倫理学の学説を中心として、倫理学的な考え方の基礎を歴史的背景を含めて理解し、現代社会の諸問題を考える上で倫理学的な思考法の意義と重要性を知る。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

応用倫理の各領域については、メディアでもしばしば話題となるので、日ごろからテレビや新聞、雑誌などの情報に注意しておくこと。

内　容

第1回　イントロダクション――倫理学とは何か
第2回　倫理学の基礎
第3回　近代の倫理学
第4回　功利主義(1)――功利主義とは何か？
第5回　功利主義(2)――功利主義の意義と限界
第6回　義務論(1)――カントの倫理学
第7回　義務論(2)――義務論の意義と限界
第8回　義務論と功利主義の展開
第9回　自由主義
第10回　生命倫理学（1）
第11回　生命倫理学（2）
第12回　環境倫理学（1）
第13回　環境倫理学（2）
第14回　現代社会と倫理
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

講義形式であるが、主体的に自らの問題意識を大事にして、講義内容を今後の生き方に生かしていくこと。
毎講義後の復習をつよく推奨する。

教科書

参考書

現代倫理学入門
著者:　加藤 尚武
出版社:　講談社
出版年:　1997　　ISBN:

現実をみつめる道徳哲学
著者:　ジェームズ レイチェルズ
出版社:　晃洋書房
出版年:　2003　　ISBN:

功利主義入門―はじめての倫理学
著者:　児玉 聡
出版社:　筑摩書房
出版年:　2012　　ISBN:

aky201d350

入門講義 倫理学の視座

著者: 新田 孝彦

出版社: 世界思想社

出版年: 2000 ISBN:

ぼくたちの倫理学教室

著者: E.トゥーゲントハット

出版社: 平凡社

出版年: 2016 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 35 ） 授業中発表等（ 15 ）

参加度（ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**倫理学概論 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　岩崎 豪人	

テーマ

倫理学とは何か、倫理学にどのような意義があるのかを理解する。

授業の到達目標

倫理学的な考え方を身につけることを目標とする。

授業の概要

近代以降の倫理学の学説を中心として、倫理学的な考え方の基礎を歴史的背景を含めて理解し、現代社会の諸問題を考える上で倫理学的な思考法の意義と重要性を知る。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

応用倫理の各領域については、メディアでもしばしば話題となるので、日ごろからテレビや新聞、雑誌などの情報に注意しておくこと。

内　容

第1回　イントロダクション――倫理学とは何か
第2回　倫理学の基礎
第3回　近代の倫理学
第4回　功利主義（1）――功利主義とは何か？
第5回　功利主義（2）――功利主義の意義と限界
第6回　義務論（1）――カントの倫理学
第7回　義務論（2）――義務論の意義と限界
第8回　義務論と功利主義の展開
第9回　自由主義
第10回　生命倫理学（1）
第11回　生命倫理学（2）
第12回　環境倫理学（1）
第13回　環境倫理学（2）
第14回　現代社会と倫理
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

講義形式であるが、主体的に自らの問題意識を大事にして、講義内容を今後の生き方に生かしていくこと。
毎講義後の復習をつよく推奨する。

教科書

参考書

現代倫理学入門
著者:　加藤 尚武
出版社:　講談社
出版年:　1997　　ISBN:

現実をみつめる道徳哲学
著者:　ジェームズ レイチェルズ
出版社:　晃洋書房
出版年:　2003　　ISBN:

功利主義入門―はじめての倫理学
著者:　児玉 聡
出版社:　筑摩書房
出版年:　2012　　ISBN:

aky201d352

入門講義 倫理学の視座

著者: 新田 孝彦

出版社: 世界思想社

出版年: 2000 ISBN:

ぼくたちの倫理学教室

著者: E.トゥーゲントハット

出版社: 平凡社

出版年: 2016 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 35 ） 授業中発表等（ 15 ）

参加度（ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本人と宗教**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　章彦	

テーマ

日本人はの宗教観の原理的性格を考える

授業の到達目標

日本人は、無宗教だとよく言われる。確かに西欧のキリスト教的な意味での「宗教」は存在しなかったかもしれない。だが仏教は確かに日本に定着したし、また様々な事物に対する「信仰」というものがなかったわけではない。日本人もやはり信心深い性格を強烈に有していたのである。その意味では「宗教」は確かにあったと言えるだろう。だが、今日では科学的な合理性を重んじるが故に本来的に不合理な面を持つ「宗教」や「信仰」が社会全体で急激に希薄になっている。だが人間はすぐれて宗教的な性格を持った存在でもある。結局は日常において宗教もしくは宗教的なものに触れざるを得ないといっても過言ではない。一方で宗教を否定しつつも他方ではそれを無視し得ないのである。そうした矛盾が今日起きている問題の背景のひとつにあるといってよい。本講義では、日本人の宗教観を支える原理的な側面を探り出し、人は宗教とどのように関わるべきかについて考えてみたい。したがって諸君の到達目標は、一つには日本人の宗教観の原理的側面を知ることであり、二つには自分たちが宗教とどのように関係を取り結ぶべきかについて一定の考えを持つ、ということになる。

授業の概要

生活の中にあるさまざまな宗教現象を材料として上記の目標に近づきたい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

宗教学の基礎的な知識を得てほしい。また日常のなかで折に触れて宗教と自身の関係について考えてほしい。

内　容

第1回　ガイダンスと導入
第2回　日本人の先祖信仰から―その根底にあるもの・タマ―
第3回　仏教と邂逅した日本人はどのようにそれを受容したか―仏教公伝に学ぶ・カミ―
第4回　神仏関係論ー生き物は神の供物となって救われるー（1）
第5回　神仏関係論ー生き物は神の供物となって救われるー（2）
第6回　観音の誘惑―庶民にとっての観音信仰（1）
第7回　観音の誘惑―庶民にとっての観音信仰（2）
第8回　野の石仏が「地蔵」と呼ばれる理由（1）
第9回　野の石仏が「地蔵」と呼ばれる理由（2）
第10回　日本人としてのゴジラ（1）―シリーズ概要と映画鑑賞ー
第11回　日本人としてのゴジラ（2）―怪獣VSゴジラの地下水脈・祓いの構造①ー
第12回　日本人としてのゴジラ（3）―怪獣VSゴジラの地下水脈・祓いの構造②ー
第13回　水神の制御と仏教的神（1）―神峯山寺;仏教土着の現場より―
第14回　水神の制御と仏教的神（2）―神峯山寺;仏教土着の現場より―
第15回　まとめとふりかえり

履修上の注意点

欠席のないように受講すること。また常に考えながら授業を受けてほしい。

教科書

授業内で提示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

宗教学
著者:　岸本英夫
出版社:　大明堂
出版年:　1991　　ISBN:

宗教学入門
著者:　棚次正和・山中弘 編著
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2005　　ISBN:

aky201d450

日本人の一生
著者: 吉田 清
出版社: 清文堂出版
出版年: 2009 ISBN:

宗教民俗学入門
著者: 宮家 準
出版社: 丸善
出版年: 2002 ISBN:

日本仏教と庶民信仰
著者: 五來 重
出版社: 大法輪閣
出版年: 2014 ISBN:

その他授業内で提示
著者:
出版社:
出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ） 小テスト（ ）
授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）
参加度 （ 50 ）
参加度とはコメントペーパーなどの授業ツールに対して積極的な姿勢を示しているかによる。

2018 Syllabus

科 目 名　**ジェンダー研究**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　芝原　妙子	

テーマ

ジェンダーは人種、民族、階級、社会、文化、宗教とともに、人間の歴史的経験を作り上げる最も基本的な要素である。この授業では社会・文化・政治・宗教・教育において、ジェンダーがどのように作用してきたかを考察する。また、人間の差異によって作りだされる支配関係を明らかにするジェンダーの視点を用いて今日的な課題を考える。

授業の到達目標

ジェンダーに関する基本的な概念を理解すると共に、ジェンダーの視点を用いて歴史・文化・社会を理解する力を養うことを目的とする。

授業の概要

講義中心の授業である。テキストは用いず講義に必要な資料を適時配布する。その資料に基づいての予習と復習が講義の理解のために不可欠である。また 講義の理解を深めるため映像資料を用いることがある。 講義中に配布するコメント用紙への記入を求める。コメントの内容は評価の対象となる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日常から授業内容に関連するメディア（新聞・雑誌・報道番組など）に目を通す。授業中に紹介された参考文献を読み進めること。講義の理解のためには配付した資料の予習と復習が必要である。

内　容

第1回　オリエンテーション、ジェンダー史・ジェンダー研究の概観
第2回　ジェンダー研究キー・コンセプト
第3回　ジェンダーと家族 （1）
第4回　ジェンダーと家族 （2）
第5回　ジェンダーと法・社会規範
第6回　ジェンダーと宗教
第7回　ジェンダーと戦争
第8回　ジェンダーと戦争
第9回　ジェンダーと政治
第10回 ジェンダーと平和運動
第11回 ジェンダーと平和運動
第12回 ジェンダーと労働・経済
第13回 ジェンダーと経済・教育
第14回 ジェンダーと表象文化
第15回 ジェンダーとセクシュアリティー まとめ

履修上の注意点

テキストを用いず、必要な資料を配付する。受講者は講義の内容を各自記録する必要がある。講義中は携帯電話・スマートホーンの電源を切る。講義の内容を写真に撮ることを禁止する。

教科書

参考書

女性の目からみたアメリカ史
著者:　エレン・キャロル・ディチュボイス、リン・ディメニル
出版社:　明石書店
出版年:　2009　　ISBN:

知らないと恥ずかしいジェンダー入門
著者:　加藤秀一
出版社:　朝日新聞社
出版年:　2006　　ISBN:

aky201d550

Japanese Women and the Transnational Feminist Movement before World War II
著者: Taeko Shibahara
出版社: Temple University Press
出版年: 2014 ISBN:

アメリカ・ジェンダー研究入門
著者: 有賀夏紀、小檜山ルイ編
出版社: 青木書店
出版年: 2010 ISBN:

近代日本女性論の系譜
著者: 金子幸子
出版社: 不二出版
出版年: 1999 ISBN:

ジェンダーから世界を読むII
著者: 中野知律、越智博美編
出版社: 明石書店
出版年: 2008 ISBN:

ジェンダーで学ぶ社会学
著者: 伊藤公雄、牟田和恵編
出版社: 世界思想社
出版年: 2006 ISBN:

キーコンセプト ジェンダー・スタディーズ
著者: ジェイン・ピルチャー、イメルダ・ウィラハン 著
出版社: 新曜社
出版年: 2009 ISBN:

マンガでわかる男性学 ジェンダーレス時代を生きるために
著者: 水島新太郎
出版社: 行路社
出版年: 2016 ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 30% ） 小テスト （ 30% ）
授業中課題 （ 40% ） 授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）
授業中課題40%は、講義時に複数回提出を求めるコメントを意味する。試験は期末レポート試験を意味する。

2018 Syllabus

科 目 名　**宗教学概論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　章彦	

テーマ

宗教と向き合うより良き方法を考える

授業の到達目標

宗教とはいったい何なのか、そして人はなぜ宗教を求めるのか、といった問題を考えることを通じて、私たちは宗教とどのように向き合っていくのがもっとも適切なのかについて、自分なりの考えを形成してほしい。

授業の概要

以下の予定で授業を行う

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

宗教の基礎を学ぶ

内　容

第1回　総論Ⅰ　宗教と宗教学―宗教にどのようにアプローチするか―
第2回　総論Ⅱ　宗教をどのように定義するか
第3回　総論Ⅲ　宗教の構造と機能
第4回　総論Ⅳ　個人において宗教はどのように顕れるか―信仰ということ―
第5回　総論Ⅴ　宗教現象の諸相―祈るということ―
第6回　総論Ⅵ　宗教の人間観と世界観
第7回　各論Ⅰ　仏教（1） 仏教―釈迦とその後の展開―
第8回　各論Ⅰ　仏教（2） 仏教教義の基礎
第9回　各論Ⅱ　イスラーム（1）
第10回　各論Ⅱ　イスラーム（2）
第11回　各論Ⅲ　キリスト教の歴史
第12回　各論Ⅳ　儒教
第13回　各論Ⅴ　日本の民族信仰―神祇信仰―
第14回　各論Ⅳ　新宗教―天理教など―
第15回　各論Ⅴ　まとめ―宗教とどのように向き合うか

履修上の注意点

「日本人と宗教」を同時に受講することが望ましい

教科書

特に指定しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

宗教学
著者:　岸本英夫
出版社:　大明堂
出版年:　1961　　ISBN:

宗教学入門
著者:　棚次正和、山中弘
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2005　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 50 ）
＊参加度は授業各回の理解状況と積極的姿勢を持って臨んでいるかどうかをリアクションペーパーなどで評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**心理学概論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　濱田　智崇	

テーマ

心理学の諸分野に触れ基礎的な知識を身につける

授業の到達目標

「こころ」は誰もが毎日働かせているものであり、対人関係や社会生活について考える上でも「こころ」を抜きにすることはできない。こうした身近な存在であるがゆえに、関心を持つ人は多いが、誤解されることや表層的な理解にとどまることも多いと考えられる。そこでこの講義では、自然科学の一種としての心理学の全体像を概観する。そのことで、受講者の持っていた興味や関心が正確な知識とつながり、さらに自らで考えることができるようになるための基礎づくりを目標とする。

授業の概要

生理、知覚、認知、社会、教育、発達、人格、臨床といった心理学の諸分野にわたって広く概説し、心理学の基礎的な知識や、その考え方を身につけられるように進めていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

普段の自分の生活と講義内容を結びつけて考えてみてください。

内　容

第1回　オリエンテーション 「こころ」とは何か？「心理学」とは何か？
第2回　こころとからだ～生きている上で実感すること
第3回　「動物」としての人間
第4回　「機械」としての人間～行動主義の心理学
第5回　学習と知能
第6回　認知と記憶
第7回　子どものこころの世界
第8回　こころの成長とは？
第9回　ライフサイクルから人生を考える
第10回　社会や集団を考える心理学
第11回　対人関係を考える心理学
第12回　パーソナリティとは？～自分の性格について考える
第13回　感情とは何か？～自分の感情に気づく
第14回　カウンセリングの基礎
第15回　まとめ
第16回　期末試験

履修上の注意点

授業中に紹介する参考文献を読んでおくと理解が深まる

教科書

心理学概論（仮）
著者:　日比野英子（監修）
出版社: ナカニシヤ出版
出版年: 2018年春予定　　ISBN:　未定

参考書

成績評価

試験・レポート （ 70% ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）
授業中課題（レポート）は抜き打ちで実施します。

2018 Syllabus

科 目 名　**言語コミュニケーション論 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐野　裕子	

テーマ

コミュニケーションを行う際に見られる言語の様々な役割を学ぶ。

授業の到達目標

日常あらゆる人が行うコミュニケーションにおいて、言語がどのような役割を担っているのかを知る。言語を客観的に捉える姿勢を身に付ける。

授業の概要

言語学の諸分野について講義を行い、その中でコミュニケーション上の言語の役割について説明していく。また必要に応じ、感想などの提出を求める場合がある

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業の復習は学期末だけでなく日常的に行うこと。授業の内容に照らして、自身のコミュニケーションをふり返ること

内　　容

第1回　授業説明・評価説明／イントロダクション
第2回　動物のコミュニケーション／非言語コミュニケーション
第3回　言語の特徴1　言語学の基礎
第4回　言語の特徴2　語と意味
第5回　コミュニケーション能力
第6回　語用論1　基礎
第7回　語用論2　文章・談話
第8回　語用論3　協調の原理
第9回　語用論4　発話行為
第10回　ポライトネス1
第11回　ポライトネス2
第12回　ポライトネス3
第13回　やさしい日本語
第14回　方言
第15回　まとめ

履修上の注意点

出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合、また学期末のまとめにおける課題を未提出の場合は、評価の対象としない
遅刻は9:00:00～9:14:59までとし、9:15:00以降の入室は「欠席」の扱いとする。また「遅刻」3回で「欠席」1回とする。ただし、電車による遅延等については、遅延証明書を提出すれば「出席」扱いとする。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

授業中適時提示

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 15 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 15 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**言語コミュニケーション論 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐野　裕子	

テーマ

コミュニケーションを行う際に見られる言語の様々な役割を学ぶ。

授業の到達目標

日常あらゆる人が行うコミュニケーションにおいて、言語がどのような役割を担っているのかを知る。言語を客観的に捉える姿勢を身に付ける。

授業の概要

言語学の諸分野について講義を行い、その中でコミュニケーション上の言語の役割について説明していく。また必要に応じ、感想などの提出を求める場合がある

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業の復習は学期末だけでなく日常的に行うこと。授業の内容に照らして、自身のコミュニケーションをふり返ること

内　　容

第1回　授業説明・評価説明／イントロダクション
第2回　動物のコミュニケーション／非言語コミュニケーション
第3回　言語の特徴1　言語学の基礎
第4回　言語の特徴2　語と意味
第5回　コミュニケーション能力
第6回　語用論1　基礎
第7回　語用論2　文章・談話
第8回　語用論3　協調の原理
第9回　語用論4　発話行為
第10回　ポライトネス1
第11回　ポライトネス2
第12回　ポライトネス3
第13回　やさしい日本語
第14回　方言
第15回　まとめ

履修上の注意点

出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合、また学期末のまとめにおける課題を未提出の場合は、評価の対象としない
遅刻は9:00:00～9:14:59までとし、9:15:00以降の入室は「欠席」の扱いとする。また「遅刻」3回で「欠席」1回とする。ただし、電車による遅延等については、遅延証明書を提出すれば「出席」扱いとする。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

授業中適時提示

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 15 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 15 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**現代のメディアと表現 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　禧美　智章	

テーマ

宮崎駿と細田守のアニメーションを「読む」

授業の到達目標

宮崎駿・細田守が作品に込めたメッセージや思想を理解する

授業の概要

「風の谷のナウシカ」や「サマーウォーズ」等の作品分析を中心として講義形式で授業を行う（なお、授業規模・進行等によって、授業内容・取り上げる作品を変更する場合がある）。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予めテキストを読んだ上で、講義に臨むこと。

内　容

第1回　宮崎駿の思想
第2回　「風の谷のナウシカ」読解（1）
第3回　「風の谷のナウシカ」読解（2）
第4回　「風の谷のナウシカ」読解（3）
第5回　「風の谷のナウシカ」読解（4）
第6回　「紅の豚」読解
第7回　「ハウルの動く城」読解
第8回　宮崎駿まとめ
第9回　細田守の演出
第10回 「サマーウォーズ」読解（1）
第11回 「サマーウォーズ」読解（2）
第12回 「サマーウォーズ」読解（3）
第13回 「おおかみこどもの雨と雪」読解
第14回 「バケモノの子」読解
第15回 まとめ

履修上の注意点

講義中の私語やスマホの使用は禁止。大学生として相応しい態度で授業に臨むこと。また、不定期に授業中課題を課すので、授業にはきちんと参加すること。

教科書

宮崎駿の地平
著者：　野村幸一郎
出版社：新典社
出版年：2018/3　　ISBN：　978-4787968371

参考書

サマーウォーズ
著者：　岩井恭平
出版社：角川書店
出版年：2009/7　　ISBN：　4044288224

おおかみこどもの雨と雪
著者：　細田守
出版社：角川書店
出版年：2012/6　　ISBN：　978-4044288228

バケモノの子
著者：　細田守
出版社：角川書店
出版年：2015/6　　ISBN：　978-4041030004

aky301d210

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**現代のメディアと表現 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　禧美　智章	

テーマ

宮崎駿と細田守のアニメーションを「読む」

授業の到達目標

宮崎駿・細田守が作品に込めたメッセージや思想を理解する

授業の概要

「風の谷のナウシカ」や「サマーウォーズ」等の作品分析を中心として講義形式で授業を行う（なお、授業規模・進行等によって、授業内容・取り上げる作品を変更する場合がある）。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予めテキストを読んだ上で、講義に臨むこと。

内　容

第1回　宮崎駿の思想
第2回　「風の谷のナウシカ」読解（1）
第3回　「風の谷のナウシカ」読解（2）
第4回　「風の谷のナウシカ」読解（3）
第5回　「風の谷のナウシカ」読解（4）
第6回　「紅の豚」読解
第7回　「ハウルの動く城」読解
第8回　宮崎駿まとめ
第9回　細田守の演出
第10回 「サマーウォーズ」読解（1）
第11回 「サマーウォーズ」読解（2）
第12回 「サマーウォーズ」読解（3）
第13回 「おおかみこどもの雨と雪」読解
第14回 「バケモノの子」読解
第15回 まとめ

履修上の注意点

講義中の私語やスマホの使用は禁止。大学生として相応しい態度で授業に臨むこと。また、不定期に授業中課題を課すので、授業にはきちんと参加すること。

教科書

宮崎駿の地平
著者：　野村幸一郎
出版社：新典社
出版年：2018/3　　ISBN：　978-4787968371

参考書

サマーウォーズ
著者：　岩井恭平
出版社：角川書店
出版年：2009/7　　ISBN：　4044288224

おおかみこどもの雨と雪
著者：　細田守
出版社：角川書店
出版年：2012/6　　ISBN：　978-4044288228

バケモノの子
著者：　細田守
出版社：角川書店
出版年：2015/6　　ISBN：　978-4041030004

aky301d212

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**現代のメディアと表現 <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　禧美　智章	

テーマ

宮崎駿と細田守のアニメーションを「読む」

授業の到達目標

宮崎駿・細田守が作品に込めたメッセージや思想を理解する

授業の概要

「風の谷のナウシカ」や「サマーウォーズ」等の作品分析を中心として講義形式で授業を行う（なお、授業規模・進行等によって、授業内容・取り上げる作品を変更する場合がある）。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予めテキストを読んだ上で、講義に臨むこと。

内　容

第1回　宮崎駿の思想
第2回　「風の谷のナウシカ」読解（1）
第3回　「風の谷のナウシカ」読解（2）
第4回　「風の谷のナウシカ」読解（3）
第5回　「風の谷のナウシカ」読解（4）
第6回　「紅の豚」読解
第7回　「ハウルの動く城」読解
第8回　宮崎駿まとめ
第9回　細田守の演出
第10回 「サマーウォーズ」読解（1）
第11回 「サマーウォーズ」読解（2）
第12回 「サマーウォーズ」読解（3）
第13回 「おおかみこどもの雨と雪」読解
第14回 「バケモノの子」読解
第15回 まとめ

履修上の注意点

講義中の私語やスマホの使用は禁止。大学生として相応しい態度で授業に臨むこと。また、不定期に授業中課題を課すので、授業にはきちんと参加すること。

教科書

宮崎駿の地平
著者：　野村幸一郎
出版社：新典社
出版年：2018/3　　ISBN：　978-4787968371

参考書

サマーウォーズ
著者：　岩井恭平
出版社：角川書店
出版年：2009/7　　ISBN：　4044288224

おおかみこどもの雨と雪
著者：　細田守
出版社：角川書店
出版年：2012/6　　ISBN：　978-4044288228

バケモノの子
著者：　細田守
出版社：角川書店
出版年：2015/6　　ISBN：　978-4041030004

aky301d213

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**現代のメディアと表現 <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　取屋　淳子	

テーマ

日本アニメ作品を読み解く

授業の到達目標

主に、宮崎駿作品と新海誠作品を読み解き、作品にみる思想やテーマなどを分析し、作品をより深く理解する。

授業の概要

講義形式で、作品の分析・考察を行う(クラス規模・進行具合によっては、変更の可能性あり)。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

あらかじめテキストを読んでから、授業に臨むこと。

内　容

第1回　アニメーション監督・宮崎駿について
第2回　「風の谷のナウシカ」を読み解く①
第3回　「風の谷のナウシカ」を読み解く②
第4回　「風の谷のナウシカ」を読み解く③
第5回　「風の谷のナウシカ」を読み解く④
第6回　「風の谷のナウシカ」を読み解く⑤
第7回　まとめ一(1)
第8回　新海誠監督について
第9回　新海誠作品を読み解く①
第10回　新海誠作品を読み解く②
第11回　新海誠作品を読み解く③
第12回　新海誠作品を読み解く④
第13回　新海誠作品を読み解く⑤
第14回　まとめ一(2)
第15回　総まとめ

履修上の注意点

授業中の私語・スマートフォンは厳禁。
不定期に課題を課すので、きちんと出席をすること。

教科書

宮崎駿の地平
著者:　野村幸一郎
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (50)	小テスト ( )
授業中課題 (50)	授業中発表等 ( )
参加度 ( )	

2018 Syllabus

科 目 名　**情報社会論 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉浦　昌	

テーマ

情報通信（情報通信技術:ICT）と社会とのかかわりを理解する。

授業の到達目標

情報通信技術が現代社会をどのように支えているのか、また、現在どのような課題があり、今後社会をどのように変えていくのかを学ぶ。

授業の概要

テキストを中心に、適宜スライドや配布資料、政府や団体の公開資料等を用いる。授業は講義を中心に行うが、理解の深化と確認のため、ディスカッションやレポート提出を実施する場合がある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストの予習、復習と授業内容の復習を欠かさないこと。授業の中で指定された資料は必ず読んで理解すること。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　情報通信と社会
第3回　メディアと社会
第4回　情報通信の発展
第5回　情報通信と経済
第6回　情報通信と地域活性化
第7回　情報通信の未来
第8回　セキュリティとプライバシー
第9回　情報通信と産業
第10回 情報社会を支える基盤
第11回 情報通信と科学
第12回 情報社会と個人
第13回 デジタルコンテンツと著作権
第14回 情報倫理と知的財産
第15回 持続可能な情報社会

履修上の注意点

継続してこつこつと勉強すること。
あきらめず頑張ること。

教科書

進化する情報社会（改訂版）
著者:　児玉晴男、小牧省三
出版社: 放送大学教育振興会
出版年: 2015年3月　　ISBN:　9784595315749

参考書

よくわかる社会情報学
著者:　西垣通、伊藤守
出版社: ミネルヴァ書房
出版年: 2015年05月　　ISBN:　9784623073597

成績評価

試験・レポート （ 40 ）	小テスト （ 30 ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Aa〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　武田　春美	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。

この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。

授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認
第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ－京都橘のポートフォリオ（数学編）－

著者：

出版社：京都橘大学

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Ab〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　富岡　康	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。

この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。

授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ－京都橘のポートフォリオ（数学編）－

著者：

出版社：京都橘大学

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Ac〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　福一　由紀	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。

この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。

授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ －京都橘のポートフォリオ（数学編）－
著者：
出版社：京都橘大学
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Ad〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　狩野　秀樹	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。

この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。

授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ－京都橘のポートフォリオ（数学編）－
著者：
出版社：京都橘大学
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Ae〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鶴谷　直樹	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。

この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。

授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ －京都橘のポートフォリオ（数学編）－
著者：
出版社：京都橘大学
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Af〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池本　浩章	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。

この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。

授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ－京都橘のポートフォリオ（数学編）－

著者：

出版社：京都橘大学

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Ag〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　厳樫　昌弘	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。

この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。

授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ－京都橘のポートフォリオ（数学編）－

著者：

出版社：京都橘大学

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Ah〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中谷　喜久男	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。

この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。

授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ －京都橘のポートフォリオ（数学編）－
著者：
出版社：京都橘大学
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Ai〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西村　文一	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。

この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。

授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ －京都橘のポートフォリオ（数学編）－
著者：
出版社：京都橘大学
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Ba〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　武田　春美	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。

この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。

授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ－京都橘のポートフォリオ（数学編）－
著者：
出版社：京都橘大学
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Bb〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　富岡 康	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。

この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。

授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ －京都橘のポートフォリオ（数学編）－
著者：
出版社：京都橘大学
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Bc〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　福一　由紀	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。

この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。

授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ －京都橘のポートフォリオ（数学編）－

著者：

出版社：京都橘大学

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Bd〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　狩野　秀樹	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。

この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。

授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ －京都橘のポートフォリオ（数学編）－
著者：
出版社：京都橘大学
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Be〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鶴谷　直樹	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。

この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。

授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ －京都橘のポートフォリオ（数学編）－

著者：

出版社：京都橘大学

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート （ 40 ）	小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Bf〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池本　浩章	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。

この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。

授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ－京都橘のポートフォリオ（数学編）－
著者：
出版社：京都橘大学
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Bg〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　厳樫　昌弘	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。

この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。

授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ－京都橘のポートフォリオ（数学編）－
著者：
出版社：京都橘大学
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Bh〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中谷　喜久男	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。

この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。

授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ －京都橘のポートフォリオ（数学編）－
著者：
出版社：京都橘大学
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Bi〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西村　文一	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。

この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。

授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ－京都橘のポートフォリオ（数学編）－
著者：
出版社：京都橘大学
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　森川　作右門	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。

この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。

授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ－京都橘のポートフォリオ（数学編）－

著者：

出版社：京都橘大学

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　森川　作右門	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。

この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。

授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ－京都橘のポートフォリオ（数学編）－
著者：
出版社：京都橘大学
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池本　浩章	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。

この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。

授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ－京都橘のポートフォリオ（数学編）－
著者：
出版社：京都橘大学
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池本　浩章	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。

この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。

授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ －京都橘のポートフォリオ（数学編）－
著者：
出版社：京都橘大学
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート （ 40 ）	小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈e〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西村　文一	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。

この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。

授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ－京都橘のポートフォリオ（数学編）－
著者：
出版社：京都橘大学
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈f〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　西村　文一	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。

この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。

授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ－京都橘のポートフォリオ（数学編）－

著者：

出版社：京都橘大学

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈Aa〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　武田　春美	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。
授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈Ab〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　富岡　康	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。
授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈Ac〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　福一　由紀	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。
授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈Ad〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　狩野　秀樹	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。
授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈Ae〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鶴谷　直樹	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。
授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈Af〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池本　浩章	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。
授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈Ag〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　厳樫　昌弘	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。
授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈Ah〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中谷　喜久男	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。
授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈Ai〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西村　文一	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。
授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈Ba〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　武田　春美	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。
授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈Bb〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　富岡　康	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。
授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈Bc〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　福一　由紀	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。
授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ <Bd>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　狩野　秀樹	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。
授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈Be〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鶴谷　直樹	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。
授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈Bf〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池本　浩章	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。
授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈Bg〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　厳樫　昌弘	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。
授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈Bh〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中谷　喜久男	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。
授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈Bi〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西村　文一	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。
授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　森川　作右門	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。
授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森川　作右門	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。
授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈e〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西村　文一	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。
授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ 〈f〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西村　文一	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。
授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅲ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期集中	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　深津　富栄	

テーマ

Excelを使用し、業務データを目的に応じて効率良く活用・分析する方法を習得する。

授業の到達目標

Excelを使用し、効率の良い業務データの処理分析、業務目的に応じた適切な資料作成の技術を習得し、企業実務で
通用する実践的な能力を身につける。また、ネットワークを使用した事務処理、情報収集・発信などIT利活用のための実践的な
知識を習得し、『日商PC検定試験3級（データ活用）』資格の取得をめざす。

授業の概要

現在、最もシェアの高い表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、データの集計処理やグラフ化、データベース分析などを行い、
効率よく目的に応じた資料を作成する方法を習得する。操作方法だけでなく、取引の仕組みや業務データの流れなどもあわせて学習し、総合的なデータの処理分析能力の向上を図る。ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークなどIT利活用のための基本的な
知識も学習し、『日商PC検定試験3級（データ活用）』受験レベルのスキルを身につける。
授業は実習形式で、基本的操作の振り返りからスタートし、段階的に操作技術を向上させる。授業日程は、各日1～4講時とし、
最終回のみ1～3講時とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

パソコンの基本スキル（入力、保存など）がある、もしくは、パソコン基本スキル習得の授業をあわせて受講することが望ましい。授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席した授業の範囲を学内パソコン教室・自宅などで学習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション／日商PC検定とは
　　知識科目対策
　　・電子商取引、電子政府・電子自治体、ハードウェア、ソフトウェア
第2回　知識科目対策
　　・ネットワーク、セキュリティ、情報システム
第3回　Excelの基本操作
　　・データ入力、修正、削除、移動、コピー、オートフィル、書式設定、計算式の作成
第4回　Excelの基本操作
　　・グラフ作成、データベース
第5回　知識科目対策
　　・取引の仕組みと業務の流れ
第6回　知識科目対策
　　・業務に応じた計算・集計処理
第7回　実技科目対策
　　・実務における表計算
　　　業務会計、相対参照、絶対参照
第8回　実技科目対策
　　・実務における表計算
　　　数式の入力、関数の入力
　　・実技科目問題演習
第9回　知識科目対策
　　・業務データの管理
第10回　知識科目問題演習
第11回　実技科目対策
　　・実務におけるグラフ作成
　　　グラフ作成と編集、複合グラフ
第12回　実技科目対策
　　・実務におけるデータの集計
　　　並べ替え、フィルタ、集計、ピボットテーブル、関数
第13回　実技科目問題演習
第14回　検定対策
　　・模擬試験と解説
第15回　試験
　　・知識科目+実技科目

履修上の注意点

教科書

aky302d110

日商PC検定試験 データ活用 3級 公式テキスト＆問題集　Microsoft Excel2013対応 【FPT1510】

著者:　富士通エ フ･オー･エム(株)

出版社: FOM出版

出版年: 2015年　　ISBN:　978-4865102345

繰り返して慣れる!完全マスター Excel2016　練習問題全335題

著者:　noa出版

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN:　978-4908434105

参考書

成績評価

試験･レポート （ 50% ）　　小テスト （ 0% ）

授業中課題 （ 50% ）　　授業中発表等 （ 0% ）

参加度 （ 0% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅳ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期集中	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　深津　富栄	

テーマ

Wordを使用し、質の高いビジネス文書を効率よく作成する方法を習得する。

授業の到達目標

Wordを使用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書の作成、業務目的に応じた適切な資料作成の技術を習得し、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。また、ネットワークを使用した事務処理、情報収集・発信などIT利活用のための実践的な知識を習得し、『日商PC検定試験3級（文書作成）』資格の取得をめざす。

授業の概要

現在、最もシェアの高いワープロソフト「Microsoft Word」を使用し、効率よく適切なビジネス文書を作成する方法を習得する。
操作方法だけでなく、ビジネス文書の形式や、文書作成の上で必要となる文法や文章表現などもあわせて学習し、総合的な文書作成能力の向上を図る。ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークなどIT利活用のための基本的な知識も学習し、『日商PC検定試験3級（文書作成）』受験レベルのスキルを身につける。
授業は実習形式で、基本的操作の振り返りからスタートし、段階的に操作技術を向上させる。
授業日程は、各日1～4講時とし、最終日のみ1～3講時とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

パソコンの基本スキル（入力、保存など）がある、もしくは、パソコン基本スキル習得の授業をあわせて受講することが望ましい。授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席した授業の範囲を学内パソコン教室・自宅などで学習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション／日商PC検定とは
　　知識科目対策
　　・電子商取引、電子政府・電子自治体、ハードウェア、ソフトウェア
第2回　知識科目対策
　　・ネットワーク、セキュリティ、情報システム
第3回　Wordの基本操作
　　・社外文書作成
第4回　Wordの基本操作
　　・表作成
第5回　知識科目対策
　　・ビジネス文書の基本、社内文書の書き方、社外文書の書き方
第6回　知識科目対策
　　・ビジネス文書のライティング技術
　　・知識科目問題演習
第7回　実技科目対策
　　・基本的なビジネス文書の作成
第8回　実技科目対策
　　・表のあるビジネス文書の作成
第9回　知識科目対策
　　・電子メールのライティング技術
　　・ビジネス図解の基本
第10回　知識科目対策
　　・ビジネス文書の管理
　　・知識科目問題演習
第11回　実技科目対策
　　・図形のあるビジネス文書の作成
第12回　実技科目問題演習
第13回　検定対策　1
　　・模擬試験と解説
第14回　検定対策　2
　　・模擬試験と解説
第15回　試験
　　・知識科目+実技科目

履修上の注意点

教科書

日商PC検定試験 文書作成3級 公式テキスト&問題集　Microsoft Word 2013対応 【FPT1509】

著者:　富士通エ フ・オー・エム（株）

出版社:　FOM出版

aky302d250

出版年: 2015年　　ISBN: 978-4865102338

繰り返して慣れる!完全マスター Word2016 練習問題全307題

著者:

出版社: noa出版

出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434112

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50% ）	小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 50% ）	授業中発表等 （ 0% ）
参加度 （ 0% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅴ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　北邑 直己	

テーマ

プレゼンテーションについて、基礎から学び、「伝わるプレゼン」について理解し実践していく。

授業の到達目標

本講義では、大学だけでなく、社会に出てからも必要とされる「プレゼンテーション」について、
情報収集の基礎からプレゼン資料作成、プレゼンテーションの在り方までを実践することができる。
プレゼンテーションの観点から、情報とは何かということに関心を持つことができ、
発表者の側でなく聴衆の側に立った思考ができることを目指します。

授業の概要

15回の講義の中でプレゼンテーションに必要な基礎技術などを概説します。講義初回に各自が伝えたいテーマを設定し、講義を通じて一つのプレゼンテーションを作り上げ講義終盤にはそれぞれの発表を行います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習として各回の授業で必要な情報を調べて、いつでも発表できるように準備してくること。

内　容

第1回　ガイダンス（1） プレゼンテーションはなぜ必要か
第2回　3分でプレゼンテーションを行ってみよう
第3回　必要な情報を集めよう ～情報の真偽と出典について～
第4回　powerpointについて知ろう
第5回　資料作成について知ろう
第6回　実践事例 ： プレゼン資料を作成してみよう
第7回　実践事例 ： 表やグラフを使った資料を作成してみよう
第8回　実践事例 ： 発表の準備をしよう
第9回　プレゼンを組み立ててみよう①（企画立案・情報収集など）
第10回 プレゼンを組み立ててみよう②（発表内容・資料作成など）
第11回 プレゼンを組み立ててみよう②（発表準備・レジュメ作成など）
第12回 リハーサルを行おう ～聞く人に聞いてもらうための工夫～
第13回 実際にプレゼンを行おう①
第14回 実際にプレゼンを行おう②（前回を踏まえて）
第15回 まとめ（自分が行ったプレゼンテーションに対するレポートの作成）

履修上の注意点

教科書

ドリルでマスター! PowerPoint2016&プレゼンテーション
著者:
出版社: noa出版
出版年: 2016年　　ISBN: 978-4908434129

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ）	小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 20% ）	授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅵ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　北邑 直己	

テーマ

チーム単位で行うプレゼンを通じて、コミュニケーション能力、プレゼンテーションスキル、グループ活動力を身につける。

授業の到達目標

本講義では、グループを設定し、グループ別にテーマに基づきプレゼンテーションを実施することでグループとしての制作を実践することできます。
個人ではなくグループでの制作を行うことで、ソーシャルネットワークなど情報共有ツールなどの利用についての知識の向上と社会人として求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーションスキルの向上を目指します。

授業の概要

初回講義でグループ分けを行い、グループで1つのテーマについて、プレゼンテーションを仕上げることを目的とします。複数名で取り組むグループワーク手法などについても概説し実践を通じて学んでいきます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習として各回の授業で必要な情報を調べて共有できるように準備してくること。

内　容

第1回　ガイダンス（1） グループで実際にグループワークを行おう
第2回　グループワークの手法をどのように取り入れるか
第3回　テーマ・役割を決めてみよう（グループワーク）
第4回　スケジュール・作業工程を組み立てる（グループワーク）
第5回　情報収集し発表内容を考える（グループワーク）
第6回　必要なビジュアル要素を考える（グループワーク）
第7回　発表内容・資料の作成（グループワーク）
第8回　中間発表に向けて内容をまとめる（グループワーク）
第9回　中間発表（グループワーク）
第10回 中間発表を踏まえて修正作業（グループワーク）
第11回 本発表に向けて プレゼンのポイントを確認しよう（グループワーク）
第12回 リハーサルを行おう ～プレゼンの問題点の抽出と対策の確認～（グループワーク）
第13回 実際にプレゼンを行おう①
第14回 実際にプレゼンを行おう②（前回を踏まえて）
第15回 まとめ（自分たちが行ったプレゼンテーションに対するレポートの作成）

履修上の注意点

教科書

使用しない（必要があれば授業中に指示する）
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ）	小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 20% ）	授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**比較文化論（教養）<a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　浅井 雅志	

テーマ

文化が分かれば自分がわかる／かわる

授業の到達目標

1. 世界の諸文化についての知識を深める。2. 世界で起こっている様々な問題の原因を知り、そうした問題と自分がどう関わるのかを考える。3. 様々な文化について理解するとは、すなわち自分が変わることであることを体得する。

授業の概要

世界は「謎」に満ちている。私たちの想像や理解を超えたことが頻発する（2001年のアメリカでのテロ以来、それは単なるレトリックではなくなった）。そうした「謎」を、自分には関係ないと簡単に退けず、自分を、そして自分を形作ってきた「文化」というとらえどころのないものを理解する最良の機会と考えられるようになれたら――これがこの授業の最大の目標である。世界と自分を知るには知識と思考が必要だ。この授業はその手助けをすることを念頭におき、ビデオなども使いながら進めたい。　受講生は、講義の内容についての感想、疑問、意見などを最低3回、関心をもったテーマについてのペイパーを1回提出すること。これらを授業にフィードバックしたい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

自分の周りに起こることに敏感になり、そうした出来事を「文化」と結びつけて考える習慣をつけてみよう。そのために、新聞の国際欄を読み、外国事情や文化を扱ったテレビの特集番組を見、参考文献をせっせと読もう。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　韓国（1）
第3回　韓国（2）
第4回　中国（1）
第5回　中国（2）
第6回　インド（1）
第7回　インド（2）
第8回　インド（3）
第9回　イスラーム世界（1）
第10回　イスラーム世界（2）
第11回　イスラーム世界（3）
第12回　ヨーロッパ（1）
第13回　ヨーロッパ（2）
第14回　アメリカ
第15回　総括

履修上の注意点

この科目では毎授業出席を取ります。欠席が6回以上になると単位が認められません。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 80 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）
出席回数、提出物の回数と内容、小ペイパーの内容で評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**比較文化論（教養）<b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　浅井 雅志	

テーマ

文化が分かれば自分がわかる／かわる

授業の到達目標

1. 世界の諸文化についての知識を深める。2. 世界で起こっている様々な問題の原因を知り、そうした問題と自分がどう関わるのかを考える。3. 様々な文化について理解するとは、すなわち自分が変わることであることを体得する。

授業の概要

世界は「謎」に満ちている。私たちの想像や理解を超えたことが頻発する（2001年のアメリカでのテロ以来、それは単なるレトリックではなくなった）。そうした「謎」を、自分には関係ないと簡単に退けず、自分を、そして自分を形作ってきた「文化」というとらえどころのないものを理解する最良の機会と考えられるようになれたら――これがこの授業の最大の目標である。世界と自分を知るには知識と思考が必要だ。この授業はその手助けをすることを念頭におき、ビデオなども使いながら進めたい。　受講生は、講義の内容についての感想、疑問、意見などを最低3回、関心をもったテーマについてのペイパーを1回提出すること。これらを授業にフィードバックしたい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

自分の周りに起こることに敏感になり、そうした出来事を「文化」と結びつけて考える習慣をつけてみよう。そのために、新聞の国際欄を読み、外国事情や文化を扱ったテレビの特集番組を見、参考文献をせっせと読もう。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　韓国（1）
第3回　韓国（2）
第4回　中国（1）
第5回　中国（2）
第6回　インド（1）
第7回　インド（2）
第8回　インド（3）
第9回　イスラーム世界（1）
第10回　イスラーム世界（2）
第11回　イスラーム世界（3）
第12回　ヨーロッパ（1）
第13回　ヨーロッパ（2）
第14回　アメリカ
第15回　総括

履修上の注意点

この科目では毎授業出席を取ります。欠席が6回以上になると単位が認められません。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 80 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）
出席回数、提出物の回数と内容、小ペイパーの内容で評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**異文化コミュニケーション論(人文) <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　蒲　豊彦	

テーマ

東アジアを題材とした異文化理解。

授業の到達目標

本授業は、コミュニケーションの理論を学ぶのではなく、東アジア、なかでも中国の文化や歴史をおもな題材として、異文化を実際にどのように理解すればいいのかを考える。そして、諸外国の文化や歴史を理解することの重要性と、それがまた日本を理解する鍵となることを学ぶ。

授業の概要

授業は異なったテーマで1回ごとに完結する。基本的には、パワーポイントで年表や各種の写真、画像などと紹介しながら進める。場合によっては、歴史的な史料や新聞記事などを適宜プリントで配布し、内容に関して受講者から意見を求める。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

新聞、テレビ等の東アジア関係のニュースには、日頃から注意をしておいて欲しい。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　あんパンはどこから来たのか？(あんパン(なかに小豆のアンが入ったパン)を通して、日本の現状を考える。)
第3回　日本に住む外国人、外国に住む日本人
第4回　貿易と食糧(貿易の状況から、世界の中での日本の位置を考える。)
第5回　中国の町と暮らし(スライドを使って、現在の中国を紹介する。)
第6回　日本語を書くということ(「中国由来のもの」を使わずに日本語を書くことができるかどうか、実験する。)
第7回　大航海時代(歴史と文化面から東アジアの近代史とそのなかでの日本の位置を確認する。)
第8回　アジアの近代と日本(歴史と文化面から東アジアの近代史とそのなかでの日本の位置を確認する。)
第9回　江戸時代の日韓交流(朝鮮通信使をめぐる日韓交流の文人の交流)
第10回　東アジアの近代と日本(歴史と文化面から東アジアの近代史とそのなかでの日本の位置を確認する。)
第11回　東アジアの国々(タイ、ベトナム、ネパールなどの文化と歴史)
第12回　1時間で読めるハングル(ハングルの仕組みを中心として、韓国語を紹介する)
第13回　中国語入門1(中国語の歴史)
第14回　中国語入門2(発音と簡単な文法)
第15回　おまけ－計画言語の夢(平等なコミュニケーションを目指して開発されたEsperantoやIdo等を通して、言語の問題を考える。)

履修上の注意点

授業内容にかんする本学サイトを、授業の最初に紹介する。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (80)	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 (20)	

2018 Syllabus

科 目 名　**異文化コミュニケーション論(人文) <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　蒲　豊彦	

テーマ

東アジアを題材とした異文化理解。

授業の到達目標

本授業は、コミュニケーションの理論を学ぶのではなく、東アジア、なかでも中国の文化や歴史をおもな題材として、異文化を実際にどのように理解すればいいのかを考える。そして、諸外国の文化や歴史を理解することの重要性と、それがまた日本を理解する鍵となることを学ぶ。

授業の概要

授業は異なったテーマで1回ごとに完結する。基本的には、パワーポイントで年表や各種の写真、画像などと紹介しながら進める。場合によっては、歴史的な史料や新聞記事などを適宜プリントで配布し、内容に関して受講者から意見を求める。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

新聞、テレビ等の東アジア関係のニュースには、日頃から注意をしておいて欲しい。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　あんパンはどこから来たのか？(あんパン(なかに小豆のアンが入ったパン)を通して、日本の現状を考える。)
第3回　日本に住む外国人、外国に住む日本人
第4回　貿易と食糧(貿易の状況から、世界の中での日本の位置を考える。)
第5回　中国の町と暮らし(スライドを使って、現在の中国を紹介する。)
第6回　日本語を書くということ(「中国由来のもの」を使わずに日本語を書くことができるかどうか、実験する。)
第7回　大航海時代(歴史と文化面から東アジアの近代史とそのなかでの日本の位置を確認する。)
第8回　アジアの近代と日本(歴史と文化面から東アジアの近代史とそのなかでの日本の位置を確認する。)
第9回　江戸時代の日韓交流(朝鮮通信使をめぐる日韓交流の文人の交流)
第10回　東アジアの近代と日本(歴史と文化面から東アジアの近代史とそのなかでの日本の位置を確認する。)
第11回　東アジアの国々(タイ、ベトナム、ネパールなどの文化と歴史)
第12回　1時間で読めるハングル(ハングルの仕組みを中心として、韓国語を紹介する)
第13回　中国語入門1(中国語の歴史)
第14回　中国語入門2(発音と簡単な文法)
第15回　おまけ－計画言語の夢(平等なコミュニケーションを目指して開発されたEsperantoやIdo等を通して、言語の問題を考える。)

履修上の注意点

授業内容にかんする本学サイトを、授業の最初に紹介する。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート (80)	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 (20)	

2018 Syllabus

科 目 名　**文化人類学**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　本林　靖久	

テーマ

ブータンの文化を通して、異文化理解と人類の幸福とは何かについて学ぶ。

授業の到達目標

文化人類学の方法論を学びながら、ブータンという仏教王国に暮らすブータン人の生活様式を理解する。そのうえで、現代の日本人との比較を通して、国や国民の幸福のカタチを考察する。

授業の概要

私たちは多様な生活習慣のなかで生きている。その生活習慣がさまざまな文化を作り上げている。文化人類学は人間の科学といわれ、個別文化の調査・分析から文化の普遍的な法則を見つけ出し、そこに写しだされる人間行動の諸相を明らかにすることを目的としている。 講義では、まず、文化人類学がどのような学問なのかを理解することから始め、その研究史、研究視角、調査方法について、やさしく解説する。そのうえで、アジアのなかでも、ブータンを中心に、そこに住む人々の生活観・価値観を学びながら、異文化に対する理解を深めていきたい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストを読んでしっかり復習をしてください。

内　　容

第1回　文化人類学におけるフィールドワークの意義
第2回　文化人類学における全体理解と比較理解
第3回　異文化理解の心得
第4回　異文化理解から学ぶ幸福
第5回　アジアの国々とブータンの地勢
第6回　ブータンのGNH（国民総幸福）
第7回　民族と言語
第8回　君主制と民主制
第9回　GNHと環境政策
第10回　人の一生と儀礼
第11回　宗教文化と祭礼
第12回　近代化と伝統文化
第13回　難民問題と国際社会
第14回　幸福論の実験国家
第15回　まとめ―人類にとっての幸福とは―

履修上の注意点

教科書

ブータンと幸福論―宗教文化と儀礼―
著者:　本林靖久
出版社:　法藏館
出版年:　2006年　　ISBN:　4-8318-5680-0

参考書

ブータン　スタイル―仏教文化の国から―
著者:　本林靖久
出版社:　京都書院
出版年:　1998年　　ISBN:

ブータンで本当の幸せについて考えてみました。「足るを知る」と経済成長は両立するのだろうか？
著者:　本林靖久・高橋孝郎
出版社:　阪急コミュニケーションズ
出版年:　2013年　　ISBN:

aky401d350

ブータンに魅せられて
著者: 今枝由郎
出版社: 岩波新書
出版年: 2008年 ISBN:

秘境ブータン
著者: 中尾佐助
出版社: 岩波書店
出版年: 2011年 ISBN:

現代ブータンを知るための60章
著者: 平山修一
出版社: 明石書店
出版年: 2005年 ISBN:

ブータン、これでいいのだ
著者: 御手洗瑞子
出版社: 新潮社
出版年: 2012年 ISBN:

ブータン神秘の王国
著者: 西岡京治・西岡里子
出版社: NTT出版
出版年: 1998年 ISBN:

ブータン小・中学校歴史教科書 ブータンの歴史
著者: ブータン国王教育省教育部編
出版社: 明石書店
出版年: 2008年 ISBN:

ブータン王室はなぜこんなに愛されるのか
著者: 田中敏恵
出版社: 小学館
出版年: 2012年 ISBN:

未来国家ブータン
著者: 高野秀行
出版社: 集英社
出版年: 2012年 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 80 ） 小テスト（ ）
授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）
定期試験80% 授業出席（感想文提出）20%

2018 Syllabus

科 目 名　**芸術と文化 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山本　善則	

テーマ

芸術を知ることで文化的価値の感じ方、自分自身の追求力を養う。

授業の到達目標

主に音楽の見地から芸術を広い目線と角度から感じ取り、芸術の目的や価値について知る。知識として「知る」だけでなく、実際に肌で芸術を感じ取ってもらう。

授業の概要

授業では音楽を中心に、各分野の芸術を映像や楽器、資料を参考にしながら実際 に感じてもらい、具体的に芸術の本質に触れてゆきます。毎回、小レポートなどで意見や感想を提出します。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業での学習をもとに、自主的に日常で芸術に触れる機会を増やしてください。

内　　容

第1回　音楽の芸術表現1
第2回　音楽の芸術表現2
第3回　音楽の芸術表現3
第4回　情報化と価値観1
第5回　情報化と価値観2
第6回　情報化と価値観3
第7回　五感芸術1
第8回　五感芸術2
第9回　五感芸術3
第10回　表現者心理と聴衆者心理1
第11回　表現者心理と聴衆者心理2
第12回　表現者心理と聴衆者心理3
第13回　自然性と芸術の関係1
第14回　自然性と芸術の関係2
第15回　まとめ

履修上の注意点

私語を慎んでください。欠席する場合は欠席連絡表を提出してください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 40 ）
毎回の出席、提出物は評価基準ですので、授業内容をよく理解し、必ず提出してください。

2018 Syllabus

科 目 名　**芸術と文化 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山本　善則	

テーマ

芸術を知ることで文化的価値の感じ方、自分自身の追求力を養う。

授業の到達目標

主に音楽の見地から芸術を広い目線と角度から感じ取り、芸術の目的や価値について知る。知識として「知る」だけでなく、実際に肌で芸術を感じ取ってもらう。

授業の概要

授業では音楽を中心に、各分野の芸術を映像や楽器、資料を参考にしながら実際 に感じてもらい、具体的に芸術の本質に触れてゆきます。毎回、小レポートなどで意見や感想を提出します。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業での学習をもとに、自主的に日常で芸術に触れる機会を増やしてください。

内　容

第1回　音楽の芸術表現1
第2回　音楽の芸術表現2
第3回　音楽の芸術表現3
第4回　情報化と価値観1
第5回　情報化と価値観2
第6回　情報化と価値観3
第7回　五感芸術1
第8回　五感芸術2
第9回　五感芸術3
第10回　表現者心理と聴衆者心理1
第11回　表現者心理と聴衆者心理2
第12回　表現者心理と聴衆者心理3
第13回　自然性と芸術の関係1
第14回　自然性と芸術の関係2
第15回　まとめ

履修上の注意点

私語を慎んでください。欠席する場合は欠席連絡表を提出してください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 40 ）
毎回の出席、提出物は評価基準ですので、授業内容をよく理解し、必ず提出してください。

2018 Syllabus

科 目 名　**芸術と文化 <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山本　善則	

テーマ

芸術を知ることで文化的価値の感じ方、自分自身の追求力を養う。

授業の到達目標

主に音楽の見地から芸術を広い目線と角度から感じ取り、芸術の目的や価値について知る。知識として「知る」だけでなく、実際に肌で芸術を感じ取ってもらう。

授業の概要

授業では音楽を中心に、各分野の芸術を映像や楽器、資料を参考にしながら実際 に感じてもらい、具体的に芸術の本質に触れてゆきます。毎回、小レポートなどで意見や感想を提出します。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業での学習をもとに、自主的に日常で芸術に触れる機会を増やしてください。

内　　容

第1回　音楽の芸術表現1
第2回　音楽の芸術表現2
第3回　音楽の芸術表現3
第4回　情報化と価値観1
第5回　情報化と価値観2
第6回　情報化と価値観3
第7回　五感芸術1
第8回　五感芸術2
第9回　五感芸術3
第10回　表現者心理と聴衆者心理1
第11回　表現者心理と聴衆者心理2
第12回　表現者心理と聴衆者心理3
第13回　自然性と芸術の関係1
第14回　自然性と芸術の関係2
第15回　まとめ

履修上の注意点

私語を慎んでください。欠席する場合は欠席連絡表を提出してください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 40 ）
毎回の出席、提出物は評価基準ですので、授業内容をよく理解し、必ず提出してください。

2018 Syllabus

科 目 名　**芸術と文化 <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山本　善則	

テーマ

芸術を知ることで文化的価値の感じ方、自分自身の追求力を養う。

授業の到達目標

主に音楽の見地から芸術を広い目線と角度から感じ取り、芸術の目的や価値について知る。知識として「知る」だけでなく、実際に肌で芸術を感じ取ってもらう。

授業の概要

授業では音楽を中心に、各分野の芸術を映像や楽器、資料を参考にしながら実際 に感じてもらい、具体的に芸術の本質に触れてゆきます。毎回、小レポートなどで意見や感想を提出します。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業での学習をもとに、自主的に日常で芸術に触れる機会を増やしてください。

内　容

第1回　音楽の芸術表現1
第2回　音楽の芸術表現2
第3回　音楽の芸術表現3
第4回　情報化と価値観1
第5回　情報化と価値観2
第6回　情報化と価値観3
第7回　五感芸術1
第8回　五感芸術2
第9回　五感芸術3
第10回　表現者心理と聴衆者心理1
第11回　表現者心理と聴衆者心理2
第12回　表現者心理と聴衆者心理3
第13回　自然性と芸術の関係1
第14回　自然性と芸術の関係2
第15回　まとめ

履修上の注意点

私語を慎んでください。欠席する場合は欠席連絡表を提出してください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 40 ）
毎回の出席、提出物は評価基準ですので、授業内容をよく理解し、必ず提出してください。

2018 Syllabus

科 目 名　**芸術と文化 <e>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山本　善則	

テーマ

芸術を知ることで文化的価値の感じ方、自分自身の追求力を養う。

授業の到達目標

主に音楽の見地から芸術を広い目線と角度から感じ取り、芸術の目的や価値について知る。知識として「知る」だけでなく、実際に肌で芸術を感じ取ってもらう。

授業の概要

授業では音楽を中心に、各分野の芸術を映像や楽器、資料を参考にしながら実際 に感じてもらい、具体的に芸術の本質に触れてゆきます。毎回、小レポートなどで意見や感想を提出します。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業での学習をもとに、自主的に日常で芸術に触れる機会を増やしてください。

内　　容

第15回　まとめ
第1回　音楽の芸術表現1
第2回　音楽の芸術表現2
第3回　音楽の芸術表現3
第4回　情報化と価値観1
第5回　情報化と価値観2
第6回　情報化と価値観3
第7回　五感芸術1
第8回　五感芸術2
第9回　五感芸術3
第10回　表現者心理と聴衆者心理1
第11回　表現者心理と聴衆者心理2
第12回　表現者心理と聴衆者心理3
第13回　自然性と芸術の関係1
第14回　自然性と芸術の関係2

履修上の注意点

私語を慎んでください。欠席する場合は欠席連絡表を提出してください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 40 ）
毎回の出席、提出物は評価基準ですので、授業内容をよく理解し、必ず提出してください。

2018 Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　トウ カ	

テーマ

中国語入門

授業の到達目標

発音の基礎と基本的表現を身につける。 中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったり下がったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。

授業の概要

教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。 週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中（中国語Ⅰ）に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新しい単語は、必ず覚えてください。

内　容

第1回　中国語について、授業について
第2回　発音1　母音
第3回　発音2　子音
第4回　発音3　鼻音
第5回　発音4　声調
第6回　第1課　あいさつと自己紹介　　（こんにちは。私は田中といいます。）
第7回　練習
第8回　練習
第9回　第2課　～する　　（大学へ行きます。）
第10回　練習
第11回　練習
第12回　第3課　～したい　　（ウーロン茶を飲みたい。）
第13回　練習
第14回　練習
第15回　第1課～3課の復習
第16回　第4課　場所・時間＋～する　　（レストランで何を食べますか。）
第17回　練習
第18回　練習
第19回　第5課　曜日　　（水曜日の午後に来ます。）
第20回　練習
第21回　練習
第22回　第4課～5課の復習
第23回　第6課　様子、状態　　（すごくおいしい。）
第24回　練習
第25回　練習
第26回　第7課　所有、存在　　（彼は北京にいます。）
第27回　練習
第28回　練習
第29回　第6課～7課の復習
第30回　小テストの再テスト

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

aky401d510

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 90 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度 （ 10 ）
各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。また朗読試験を行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　蒲 豊彦	

テーマ

中国語入門

授業の到達目標

発音の基礎と基本的表現を身につける。 中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったり下がったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。

授業の概要

教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。 週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中（中国語Ⅰ）に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新しい単語は、必ず覚えてください。

内　容

第1回　中国語について、授業について
第2回　発音1　母音
第3回　発音2　子音
第4回　発音3　鼻音
第5回　発音4　声調
第6回　第1課　あいさつと自己紹介　　（こんにちは。私は田中といいます。）
第7回　練習
第8回　練習
第9回　第2課　～する　　（大学へ行きます。）
第10回　練習
第11回　練習
第12回　第3課　～したい　　（ウーロン茶を飲みたい。）
第13回　練習
第14回　練習
第15回　第1課～3課の復習
第16回　第4課　場所・時間＋～する　　（レストランで何を食べますか。）
第17回　練習
第18回　練習
第19回　第5課　曜日　　（水曜日の午後に来ます。）
第20回　練習
第21回　練習
第22回　第4課～5課の復習
第23回　第6課　様子、状態　　（すごくおいしい。）
第24回　練習
第25回　練習
第26回　第7課　所有、存在　　（彼は北京にいます。）
第27回　練習
第28回　練習
第29回　第6課～7課の復習
第30回　小テストの再テスト

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

aky401d512

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 90 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度 （ 10 ）
各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。また朗読試験を行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅰ〈c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　トウ カ	

テーマ

中国語入門

授業の到達目標

発音の基礎と基本的表現を身につける。 中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったり下がったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。

授業の概要

教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。 週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中（中国語Ⅰ）に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新しい単語は、必ず覚えてください。

内　容

第1回　中国語について、授業について
第2回　発音1　母音
第3回　発音2　子音
第4回　発音3　鼻音
第5回　発音4　声調
第6回　第1課　あいさつと自己紹介　　（こんにちは。私は田中といいます。）
第7回　練習
第8回　練習
第9回　第2課　～する　　（大学へ行きます。）
第10回　練習
第11回　練習
第12回　第3課　～したい　　（ウーロン茶を飲みたい。）
第13回　練習
第14回　練習
第15回　第1課～3課の復習
第16回　第4課　場所・時間＋～する　　（レストランで何を食べますか。）
第17回　練習
第18回　練習
第19回　第5課　曜日　　（水曜日の午後に来ます。）
第20回　練習
第21回　練習
第22回　第4課～5課の復習
第23回　第6課　様子、状態　　（すごくおいしい。）
第24回　練習
第25回　練習
第26回　第7課　所有、存在　　（彼は北京にいます。）
第27回　練習
第28回　練習
第29回　第6課～7課の復習
第30回　小テストの再テスト

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

aky401d513

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 90 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度 （ 10 ）	

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。また朗読試験を行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅰ <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　トウ カ	

テーマ

中国語入門

授業の到達目標

発音の基礎と基本的表現を身につける。 中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったり下がったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。

授業の概要

教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。 週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中（中国語Ⅰ）に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新しい単語は、必ず覚えてください。

内　容

第1回　中国語について、授業について
第2回　発音1　母音
第3回　発音2　子音
第4回　発音3　鼻音
第5回　発音4　声調
第6回　第1課　あいさつと自己紹介　　（こんにちは。私は田中といいます。）
第7回　練習
第8回　練習
第9回　第2課　～する　　（大学へ行きます。）
第10回　練習
第11回　練習
第12回　第3課　～したい　　（ウーロン茶を飲みたい。）
第13回　練習
第14回　練習
第15回　第1課～3課の復習
第16回　第4課　場所・時間＋～する　　（レストランで何を食べますか。）
第17回　練習
第18回　練習
第19回　第5課　曜日　　（水曜日の午後に来ます。）
第20回　練習
第21回　練習
第22回　第4課～5課の復習
第23回　第6課　様子、状態　　（すごくおいしい。）
第24回　練習
第25回　練習
第26回　第7課　所有、存在　　（彼は北京にいます。）
第27回　練習
第28回　練習
第29回　第6課～7課の復習
第30回　小テストの再テスト

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

aky401d514

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 90 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度 （ 10 ）
各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。また朗読試験を行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅰ〈e〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　蒲 豊彦	

テーマ

中国語入門

授業の到達目標

発音の基礎と基本的表現を身につける。 中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったり下がったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。

授業の概要

教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。 週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中（中国語Ⅰ）に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新しい単語は、必ず覚えてください。

内　容

第1回　中国語について、授業について
第2回　発音1　母音
第3回　発音2　子音
第4回　発音3　鼻音
第5回　発音4　声調
第6回　第1課　あいさつと自己紹介　　（こんにちは。私は田中といいます。）
第7回　練習
第8回　練習
第9回　第2課　～する　　（大学へ行きます。）
第10回　練習
第11回　練習
第12回　第3課　～したい　　（ウーロン茶を飲みたい。）
第13回　練習
第14回　練習
第15回　第1課～3課の復習
第16回　第4課　場所・時間＋～する　　（レストランで何を食べますか。）
第17回　練習
第18回　練習
第19回　第5課　曜日　　（水曜日の午後に来ます。）
第20回　練習
第21回　練習
第22回　第4課～5課の復習
第23回　第6課　様子、状態　　（すごくおいしい。）
第24回　練習
第25回　練習
第26回　第7課　所有、存在　　（彼は北京にいます。）
第27回　練習
第28回　練習
第29回　第6課～7課の復習
第30回　小テストの再テスト

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

aky401d515

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 90 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度 （ 10 ）	

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。また朗読試験を行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件　中国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担 当 者　蒲 豊彦	

テーマ

中国語入門

授業の到達目標

中国語Ⅰの授業を継続し、第15課までで、基本的な文法事項の習得を終える。

授業の概要

週に2回ずつ授業を行う。
教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。
3回の授業で1課ずつ進む。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新しい単語は、必ず覚えてください。

内　容

第1回　前期の復習
第2回　第8課　数量
　　（本を5冊買います。）
第3回　練習
第4回　練習
第5回　第9課　月日と時刻
　　（今日は11月2日です。）
第6回　練習
第7回　練習
第8回　第8課～9課の復習
第9回　第10課　完了と経験
　　（中国へ行ったことがあります。）
第10回　練習
第11回　練習
第12回　第11課　時間の長さ、回数
　　（2時間勉強します。）
第13回　練習
第14回　練習
第15回　第10課～11課の復習
第16回　第12課　結果補語、可能補語
　　（書き間違えました。）
第17回　練習
第18回　練習
第19回　第13課　方向補語
　　（駆け上がっていきます。）
第20回　練習
第21回　練習
第22回　第12課～13課の復習
第23回　第14課　～から、～と、～まで
　　（いつから冬休みですか。）
第24回　練習
第25回　練習
第26回　第15課　様態補語
　　（彼は歩くのがはやい。）
第27回　練習
第28回　練習
第29回　第14課～15課の復習
第30回　小テストの再テスト

履修上の注意点

教科書

aky401d650

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）　　小テスト （ 90 ）

授業中課題 （ 0 ）　　授業中発表等 （ 0 ）

参加度 （ 10 ）

各課が終わるごとに、小テストを行う。
成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。
そのほか、朗読試験を行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件　中国語Ｉを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担 当 者　トウ カ	

テーマ

中国語入門

授業の到達目標

中国語Ｉの授業を継続し、第15課までで、基本的な文法事項の習得を終える。

授業の概要

週に2回ずつ授業を行う。
教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。
3回の授業で1課ずつ進む。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新しい単語は、必ず覚えてください。

内　容

第1回　前期の復習
第2回　第8課　数量
　　（本を5冊買います。）
第3回　練習
第4回　練習
第5回　第9課　月日と時刻
　　（今日は11月2日です。）
第6回　練習
第7回　練習
第8回　第8課～9課の復習
第9回　第10課　完了と経験
　　（中国へ行ったことがあります。）
第10回　練習
第11回　練習
第12回　第11課　時間の長さ、回数
　　（2時間勉強します。）
第13回　練習
第14回　練習
第15回　第10課～11課の復習
第16回　第12課　結果補語、可能補語
　　（書き間違えました。）
第17回　練習
第18回　練習
第19回　第13課　方向補語
　　（駆け上がっていきます。）
第20回　練習
第21回　練習
第22回　第12課～13課の復習
第23回　第14課　～から、～と、～まで
　　（いつから冬休みですか。）
第24回　練習
第25回　練習
第26回　第15課　様態補語
　　（彼は歩くのがはやい。）
第27回　練習
第28回　練習
第29回　第14課～15課の復習
第30回　小テストの再テスト

履修上の注意点

教科書

aky401d652

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）　　小テスト （ 90 ）

授業中課題 （ 0 ）　　授業中発表等 （ 0 ）

参加度 （ 10 ）

各課が終わるごとに、小テストを行う。
成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。
そのほか、朗読試験を行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅱ〈c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件　中国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担 当 者　蒲 豊彦	

テーマ

中国語入門

授業の到達目標

中国語Ⅰの授業を継続し、第15課までで、基本的な文法事項の習得を終える。

授業の概要

週に2回ずつ授業を行う。
教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。
3回の授業で1課ずつ進む。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新しい単語は、必ず覚えてください。

内　容

第1回　前期の復習
第2回　第8課　数量
　　（本を5冊買います。）
第3回　練習
第4回　練習
第5回　第9課　月日と時刻
　　（今日は11月2日です。）
第6回　練習
第7回　練習
第8回　第8課～9課の復習
第9回　第10課　完了と経験
　　（中国へ行ったことがあります。）
第10回　練習
第11回　練習
第12回　第11課　時間の長さ、回数
　　（2時間勉強します。）
第13回　練習
第14回　練習
第15回　第10課～11課の復習
第16回　第12課　結果補語、可能補語
　　（書き間違えました。）
第17回　練習
第18回　練習
第19回　第13課　方向補語
　　（駆け上がっていきます。）
第20回　練習
第21回　練習
第22回　第12課～13課の復習
第23回　第14課　～から、～と、～まで
　　（いつから冬休みですか。）
第24回　練習
第25回　練習
第26回　第15課　様態補語
　　（彼は歩くのがはやい。）
第27回　練習
第28回　練習
第29回　第14課～15課の復習
第30回　小テストの再テスト

履修上の注意点

教科書

aky401d653

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 90 ）
授業中課題 （ 0 ）	授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 10 ）	

各課が終わるごとに、小テストを行う。
成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。
そのほか、朗読試験を行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅲ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件　中国語Ⅱを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担 当 者　トウ カ	

テーマ

中国語中級

授業の到達目標

中国語Ⅰ、Ⅱで学んだことを復習しつつ、もう一段階上のレベルを目指す。非常にやさしい例文を使用しながら、日常生活に充分役立つ各種表現を身につけてほしい。

授業の概要

4回の授業で1課ずつ進む。とくに、口頭で受け答えの練習を行いたい。
プリントを使用するため、教科書を購入する必要はない。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

単語はすべて覚えてください。授業中の練習のためにも必要です。

内　容

第1回　発音の復習
第2回　第1課　中国の朝ご飯
第3回　会話（助動詞、方向補語等）
第4回　短文
第5回　練習
第6回　第2課　服装
第7回　会話（助動詞、兼語文等）
第8回　短文
第9回　練習
第10回　第1課～2課の復習
第11回　第3課　映画を見る
第12回　会話（完了、比較等）
第13回　短文
第14回　練習
第15回　第4課　割り勘
第16回　会話（受け身、比較等）
第17回　短文
第18回　練習
第19回　第3課～4課の復習
第20回　第5課　病気になる
第21回　会話（状態の持続等）
第22回　短文
第23回　練習
第24回　第6課　携帯電話
第25回　会話（～しながら等）
第26回　短文
第27回　練習
第28回　第5課～6課の復習
第29回　小テストの再テスト
第30回　全体の復習

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 60 ）

aky401d710

授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 0 ）

参加度 （ 20 ）

小テストを行います。この小テストが成績評価の中心となります。

2018 Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅳ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件　中国語Ⅲを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担 当 者　トウ カ	

テーマ

中国語中級

授業の到達目標

中国語Ⅲを継続する。
中国語Ⅰ、Ⅱで学んだことを復習しつつ、もう一段階上のレベルを目指す。非常にやさしい例文を使用しながら、日常生活に充分役立つ各種表現を身につけてほしい。

授業の概要

4回の授業で1課ずつ進む。とくに、口頭での受け答えの練習を行いたい。
プリントを配布するため、教科書を購入する必要はない。
教科書のほかに、中国各地の新聞を使い、現在の社会事情なども見てみたい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

単語はすべて覚えてください。授業中の練習のためにも必要です。

内　容

第1回　前期の復習
第2回　第7課　大学生活
第3回　会話（疑問詞等）
第4回　短文
第5回　練習
第6回　第8課　恋愛事情
第7回　会話（～でさえ等）
第8回　短文
第9回　練習
第10回　第7課～8課の復習
第11回　第9課　感謝の表現
第12回　会話（動作の回数等）
第13回　短文
第14回　練習
第15回　第10課　一人っ子
第16回　会話（可能補語等）
第17回　短文
第18回　練習
第19回　第9課～10課の復習
第20回　第11課　若者と職業
第21回　会話（～のために等）
第22回　短文
第23回　練習
第24回　第12課　外国語の学習
第25回　会話（～の他に、使役等）
第26回　短文
第27回　練習
第28回　第11課～12課の復習
第29回　小テストの再テスト
第30回　全体の復習

履修上の注意点

教科書

参考書

aky401d850

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 60 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 0 ）

参加度 （ 20 ）

小テストを行います。この小テストが成績評価の中心となります。

2018 Syllabus

科 目 名　**韓国語Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　朴 惠貞	

テーマ

韓国語の基礎を学ぶと同時に、韓国について理解する。

授業の到達目標

①韓国語の文字（ハングル）と発音の習得を目指す。 ②簡単な自己紹介と基本的な挨拶ができることを目指す。 ③ハングル能力検定試験5級レベルの力を付けるための基礎を学ぶ。

授業の概要

このクラスでは、文字と発音の学習から始めて、丁寧な表現、指定詞、存在詞、数詞などの文法事項を体系的に学ぶが、その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習していく。進度については基本的にシラバス通りに行うが、受講生の理解度に合わせて緩急をつけ、できるだけフォローしていきたい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

1. 円滑に授業を進められ、授業を楽しむためにもテキストのCDなどを活用し、必ず予習・復習を欠かさず行って欲しい。 2. NHKテレビ・ラジオ講座を視聴すること。 3. 韓国語のドラマ・映画とK-POPなどを楽しみながら、韓国社会を理解する。

内　容

第1回　授業の進め方について 韓国語とは？
第2回　子音字と母音字〈1〉－1
第3回　子音字と母音字〈1〉－2
第4回　子音字と母音字〈2〉－1
第5回　子音字と母音字〈2〉－2
第6回　子音字と母音字〈3〉－1
第7回　子音字と母音字〈3〉－2
第8回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう！ ①
第9回　パッチム1
第10回　パッチム2
第11回　日本の地名・人名のハングル表記
第12回　指定詞の表現
第13回　実践会話と検定対策 1
第14回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう！ ②
第15回　指定詞・疑問詞の表現
第16回　指示詞の否定の表現
第17回　漢数詞
第18回　月日・曜日の表現
第19回　存在詞・位置の表現
第20回　実践会話と検定対策 2
第21回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう！ ③
第22回　用言の「ハムニダ体」の表現
第23回　助詞
第24回　好き嫌いの表現
第25回　用言の「ハムニダ体」の否定の表現
第26回　固有数詞
第27回　実践会話と検定対策 3
第28回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう！ ④
第29回　「韓国語Ⅰ」の授業のまとめ ①
第30回　「韓国語Ⅰ」の授業のまとめ ②

履修上の注意点

成績の点数配分にかかわらず出席を重視するので、授業には必ず出席すること（詳細については第1回の授業で解説する）。授業への積極的・自発的な参加が求められるが、授業を楽しむためにも、必ず予習・復習を欠かさず行うこと。

教科書

サクサクっと韓国語　改訂版
著者:　金美華
出版社:　白帝社
出版年:　2017　　ISBN:

aky401d910

参考書

適宜、資料配布

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 20 ） 小テスト （ 50 ）

授業中課題 （ 15 ） 授業中発表等 （ ）

参加度 （ 15 ）

テスト、課題、出席、予習・復習、授業への積極的・自発的な参加など、学期全般の学習成果を総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**韓国語Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　朴 惠貞	

テーマ

韓国語の基礎を学ぶと同時に、韓国について理解する。

授業の到達目標

①韓国語の文字（ハングル）と発音の習得を目指す。 ②簡単な自己紹介と基本的な挨拶ができることを目指す。 ③ハングル能力検定試験5級レベルの力を付けるための基礎を学ぶ。

授業の概要

このクラスでは、文字と発音の学習から始めて、丁寧な表現、指定詞、存在詞、数詞などの文法事項を体系的に学ぶが、その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習していく。進度については基本的にシラバス通りに行うが、受講生の理解度に合わせて緩急をつけ、できるだけフォローしていきたい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

1. 円滑に授業を進められ、授業を楽しむためにもテキストのCDなどを活用し、必ず予習・復習を欠かさず行って欲しい。 2. NHKテレビ・ラジオ講座を視聴すること。 3. 韓国語のドラマ・映画とK-POPなどを楽しみながら、韓国社会を理解する。

内　容

第1回　授業の進め方について 韓国語とは？
第2回　子音字と母音字〈1〉－1
第3回　子音字と母音字〈1〉－2
第4回　子音字と母音字〈2〉－1
第5回　子音字と母音字〈2〉－2
第6回　子音字と母音字〈3〉－1
第7回　子音字と母音字〈3〉－2
第8回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう！ ①
第9回　パッチム1
第10回　パッチム2
第11回　日本の地名・人名のハングル表記
第12回　指定詞の表現
第13回　実践会話と検定対策 1
第14回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう！ ②
第15回　指定詞・疑問詞の表現
第16回　指示詞の否定の表現
第17回　漢数詞
第18回　月日・曜日の表現
第19回　存在詞・位置の表現
第20回　実践会話と検定対策 2
第21回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう！ ③
第22回　用言の「ハムニダ体」の表現
第23回　助詞
第24回　好き嫌いの表現
第25回　用言の「ハムニダ体」の否定の表現
第26回　固有数詞
第27回　実践会話と検定対策 3
第28回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう！ ④
第29回　「韓国語Ⅰ」の授業のまとめ ①
第30回　「韓国語Ⅰ」の授業のまとめ ②

履修上の注意点

成績の点数配分にかかわらず出席を重視するので、授業には必ず出席すること（詳細については第1回の授業で解説する）。授業への積極的・自発的な参加が求められるが、授業を楽しむためにも、必ず予習・復習を欠かさず行うこと。

教科書

サクサクっと韓国語　改訂版
著者:　金美華
出版社:　白帝社
出版年:　2017　　ISBN:

aky401d912

参考書

適宜、資料配布

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 20 ） 小テスト （ 50 ）

授業中課題 （ 15 ） 授業中発表等 （ ）

参加度 （ 15 ）

テスト、課題、出席、予習・復習、授業への積極的・自発的な参加など、学期全般の学習成果を総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**韓国語Ⅰ〈c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　崔 孝先	

テーマ

楽しく効果的に韓国語を学ぶ。

授業の到達目標

①韓国文字の発音と読み、書きの中心。②自己紹介と会話を目指す。③韓国語能力試験1級にでてくる単語と文法の学習　④動画を見ながら聞き取り練習。

授業の概要

韓国語を学びながら、文化・社会・歴史・飲食・芸能など、韓国に関する全般的な知識を伝えます。それから日本語と韓国語が文法的にどれほど似ているか、学べば学ぶほど驚くでしょう。当然母国語と近い韓国語が学生のみなさんにとって、いかに学びやすい外国語であるかがわかり、楽しくなるはずです。また、文字の発音を効果的に抑えるために、流行の韓国の歌、料理のレシピー旅行、美容などなどの動画を見ながらの授業となりますので、お互い楽しみながら学んでいきましょう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習は必要ありません。授業中に集中して学習するだけで、充分です。テストは二回します。一回目は発音をテストする会話暗唱テスト、二回目は文法と単語テストです。いずれも授業時間に何回も強調し、繰り返しますので、もう一度言いますが、授業時、集中すればだれでも通れるようなテストです。

内　容

第1回　オリエンテーション(各自、韓国語混ぜての自己紹介とこれからの授業の方針)
第2回　基本文字(母音子10文字の音と書き) + ソウル観光の動画
第3回　基本文字(子音子14文字の音と書き) + 歌「熊三匹」(映画『プールハウス』の中)
第4回　文字の組み合わせ ＋ 「トクポキ」レシピと動画
第5回　複母音子11文字の音と書き) ＋ K Popの動画
第6回　基本文字(複子音子5文字の音と書き) ＋ 文字の組み合わせ
第7回　パッチム① + 歌で読みと聞き練習
第8回　パッチム②
第9回　期末テストの会話暗唱に当たる〈自己紹介〉文を作成し、発音練習
第10回　パソコン教室に移動し〈自己紹介〉の韓国文章をwordで打ち込む。それから、韓国のサイトの開き方、閲覧の仕方を紹介。
第11回　(2部)1課 ＋ 数字①
第12回　2課 ＋ 韓国のお餅(動画)
第13回　3課 ＋ 数字②
第14回　3課復習 ＋ 韓国の代表的な民謡「アリラン」習う
第15回　4課 ＋ 練習問題
第16回　4課の復習 ＋ 会話「買い物
第17回　5課 ＋ 練習問題
第18回　5課の復習 ＋ 「豆腐なべ」レシピと動画
第19回　6課 ＋ 練習問題
第20回　6課の復習 ＋ 会話「ホテルにて」
第21回　7課 ＋ 練習問題
第22回　7課の復習 ＋ 長文1 訳
第23回　長文1 ＋ きれいな肌作り(動画)
第24回　長文2
第25回　長文2 ＋ ブサン観光(動画)
第26回　韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題
第27回　キムチ作りのレシピと動画の聞き取り
第28回　韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題
第29回　映画鑑賞
第30回　韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題

履修上の注意点

教科書

韓国語　これ一冊で終わり
著者:　金 文洙・崔 孝先
出版社:　文芸林
出版年:　2015/3　　ISBN:

aky401d913

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**韓国語Ⅰ <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　崔 孝先	

テーマ

楽しく効果的に韓国語を学ぶ。

授業の到達目標

①韓国文字の発音と読み、書きの中心。②自己紹介と会話を目指す。③韓国語能力試験1級にでてくる単語と文法の学習　④動画を見ながら聞き取り練習。

授業の概要

韓国語を学びながら、文化・社会・歴史・飲食・芸能など、韓国に関する全般的な知識を伝えます。それから日本語と韓国語が文法的にどれほど似ているか、学べば学ぶほど驚くでしょう。当然母国語と近い韓国語が学生のみなさんにとって、いかに学びやすい外国語であるかがわかり、楽しくなるはずです。また、文字の発音を効果的に抑えるために、流行の韓国の歌、料理のレシピー旅行、美容などなどの動画を見ながらの授業となりますので、お互い楽しみながら学んでいきましょう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習は必要ありません。授業中に集中して学習するだけで、充分です。テストは二回します。一回目は発音をテストする会話暗唱テスト、二回目は文法と単語テストです。いずれも授業時間に何回も強調し、繰り返しますので、もう一度言いますが、授業時、集中すればだれでも通れるようなテストです。

内　容

第1回　オリエンテーション(各自、韓国語混ぜての自己紹介とこれからの授業の方針)
第2回　基本文字(母音子10文字の音と書き) + ソウル観光の動画
第3回　基本文字(子音子14文字の音と書き) + 歌「熊三匹」(映画『プールハウス』の中)
第4回　文字の組み合わせ ＋ 「トクポキ」レシピと動画
第5回　複母音子11文字の音と書き) ＋ K Popの動画
第6回　基本文字(複子音子5文字の音と書き) ＋ 文字の組み合わせ
第7回　パッチム① + 歌で読みと聞き練習
第8回　パッチム②
第9回　期末テストの会話暗唱に当たる<自己紹介>文を作成し、発音練習
第10回　パソコン教室に移動し<自己紹介>の韓国文章をwordで打ち込む。それから、韓国のサイトの開き方、閲覧の仕方を紹介。
第11回　(2部)1課 ＋ 数字①
第12回　2課 ＋ 韓国のお餅(動画)
第13回　3課 ＋ 数字②
第14回　3課復習 ＋ 韓国の代表的な民謡「アリラン」習う
第15回　4課 ＋ 練習問題
第16回　4課の復習 ＋ 会話「買い物
第17回　5課 ＋ 練習問題
第18回　5課の復習 ＋ 「豆腐なべ」レシピと動画
第19回　6課 ＋ 練習問題
第20回　6課の復習 ＋ 会話「ホテルにて」
第21回　7課 ＋ 練習問題
第22回　7課の復習 ＋ 長文1 訳
第23回　長文1 ＋ きれいな肌作り(動画)
第24回　長文2
第25回　長文2 ＋ ブサン観光(動画)
第26回　韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題
第27回　キムチ作りのレシピと動画の聞き取り
第28回　韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題
第29回　映画鑑賞
第30回　韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題

履修上の注意点

教科書

韓国語　これ一冊で終わり
著者:　金 文洙・崔 孝先
出版社:　文芸林
出版年:　2015/3　　ISBN:

aky401d914

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**韓国語Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　員　50
履修条件　韓国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担 当 者　朴 惠貞	

テーマ

韓国語の基礎文法の学習と韓国社会に対する理解を深める。

授業の到達目標

①自己紹介ができ、韓国旅行が楽しめる韓国語レベルの習得を目指す。 ②ハングル能力検定試験5級レベルの力を付ける。

授業の概要

このクラスでは、「韓国語Ⅰ」クラスで学んだ文法事項を確認しながら新しい文法項目などを少しずつ積み上げていく。その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習しながら読む・書く・聴く・話すの4技能をバランスよく身に付けていく。進度については基本的にシラバス通りに行うが、受講生の理解度に合わせて緩急をつけ、できるだけフォローしていきたい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

1. 円滑に授業を進められ、授業を楽しむためにもテキストのCDなどを活用し、必ず予習・復習を欠かさず行って欲しい。 2. NHKテレビ・ラジオ講座を視聴すること。 3. 韓国語のドラマ・映画とK-POPなどを楽しみながら、韓国社会を理解する。

内　容

第1回　「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習①
第2回　「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習②
第3回　「ヘヨ体」1
第4回　代名詞の縮約形1
第5回　「ヘヨ体」2
第6回　代名詞の縮約形2
第7回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう ①
第8回　「ヘヨ体」3
第9回　実践会話と検定対策 4
第10回 「ヘヨ体」の過去形
第11回 接続詞の表現
第12回 時刻の表現
第13回 一日のスケジュール
第14回 DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう ②
第15回 助詞、疑問詞
第16回 実践会話と検定対策 5
第17回 変則活用1
第18回 変則活用1の過去形
第19回 変則活用2
第20回 変則活用2の過去形、副詞1
第21回 DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう ③
第22回 進行形、希望の表現
第23回 長文を読んでみよう！
第24回 尊敬の表現
第25回 特別な尊敬語の表現
第26回 副詞2、勧誘・意志の表現
第27回 実践会話と検定対策 6
第28回 DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう ④
第29回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ①
第30回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ②

履修上の注意点

成績の点数配分にかかわらず出席を重視するので、授業には必ず出席すること（詳細については第1回の授業で解説する）。授業への積極的・自発的な参加が求められるが、授業を楽しむためにも、必ず予習・復習を欠かさず行うこと。

教科書

サクサクっと韓国語　改訂版
著者:　金美華
出版社:　白帝社
出版年:　2017　　ISBN:

aky401e050

参考書

適宜、資料配布

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 20 ） 小テスト（ 50 ）

授業中課題（ 15 ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 15 ）

テスト、課題、出席、予習・復習、授業への積極的・自発的な参加など、学期全般の学習成果を総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**韓国語Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件　韓国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担 当 者　朴 惠貞	

テーマ

韓国語の基礎文法の学習と韓国社会に対する理解を深める。

授業の到達目標

①自己紹介ができ、韓国旅行が楽しめる韓国語レベルの習得を目指す。 ②ハングル能力検定試験5級レベルの力を付ける。

授業の概要

このクラスでは、「韓国語Ⅰ」クラスで学んだ文法事項を確認しながら新しい文法項目などを少しずつ積み上げていく。その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習しながら読む・書く・聴く・話すの4技能をバランスよく身に付けていく。進度については基本的にシラバス通りに行うが、受講生の理解度に合わせて緩急をつけ、できるだけフォローしていきたい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

1. 円滑に授業を進められ、授業を楽しむためにもテキストのCDなどを活用し、必ず予習・復習を欠かさず行って欲しい。 2. NHKテレビ・ラジオ講座を視聴すること。 3. 韓国語のドラマ・映画とK-POPなどを楽しみながら、韓国社会を理解する。

内　容

第1回　「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習①
第2回　「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習②
第3回　「ヘヨ体」1
第4回　代名詞の縮約形1
第5回　「ヘヨ体」2
第6回　代名詞の縮約形2
第7回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう ①
第8回　「ヘヨ体」3
第9回　実践会話と検定対策 4
第10回 「ヘヨ体」の過去形
第11回 接続詞の表現
第12回 時刻の表現
第13回 一日のスケジュール
第14回 DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう ②
第15回 助詞、疑問詞
第16回 実践会話と検定対策 5
第17回 変則活用1
第18回 変則活用1の過去形
第19回 変則活用2
第20回 変則活用2の過去形、副詞1
第21回 DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう ③
第22回 進行形、希望の表現
第23回 長文を読んでみよう！
第24回 尊敬の表現
第25回 特別な尊敬語の表現
第26回 副詞2、勧誘・意志の表現
第27回 実践会話と検定対策 6
第28回 DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう ④
第29回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ①
第30回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ②

履修上の注意点

成績の点数配分にかかわらず出席を重視するので、授業には必ず出席すること（詳細については第1回の授業で解説する）。授業への積極的・自発的な参加が求められるが、授業を楽しむためにも、必ず予習・復習を欠かさず行うこと。

教科書

サクサクっと韓国語　改訂版
著者:　金美華
出版社:　白帝社
出版年:　2017　　ISBN:

aky401e052

参考書

適宜、資料配布

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 20 ） 小テスト（ 50 ）

授業中課題（ 15 ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 15 ）

テスト、課題、出席、予習・復習、授業への積極的・自発的な参加など、学期全般の学習成果を総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**韓国語Ⅱ〈c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件　韓国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担 当 者　崔 孝先	

テーマ

楽しく効果的に韓国語を学ぶ。

授業の到達目標

前期の続きで、文法を抑えると当時に聞き取りと会話練習。韓国語能力試験中級以上の実力を目指す。

授業の概要

韓国語を学びながら、文化・社会・歴史・飲食・芸能など、韓国に関する全般的な知識を伝える。この際、韓国のいろんなジャンルの動画をみながら聞き取りと会話の練習をする。また、韓国語能力試験問題中級の問題紙を配り、文法・聞き取り・会話の練習を並行する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習は必要ありません。授業中に集中して学習するだけで、充分です。テストは二回します。一回目は発音をテストする会話暗唱テスト、二回目は文法と単語テストです。いずれも授業時間に何回も強調し繰り返しますので、授業時、集中すればだれでも通れるようなテストです。

内　容

第1回　オリエンテーションとテキスト1課から7課までの要約説明
第2回　長文3 ＋ 会話8「初めまして」
第3回　長文3 ＋ 慶州観光(動画)
第4回　韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題
第5回　長文4 ＋ 会話10「電話」
第6回　長文4 ＋ 夏の肌管理(動画)
第7回　韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題
第8回　長文5 ＋ 会話11「道を尋ねる」
第9回　長文5 ＋ 韓国の多世帯現状(動画)
第10回 韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題
第11回 期末テスト用韓国作文作り
第12回 期末テスト用韓国作文の発音練習
第13回 長文6 ＋ 会話12「趣味」
第14回 長文6 ＋ 韓国の保存食(動画)
第15回 韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題
第16回 長文7 ＋ 会話14「買い物」
第17回 長文7 ＋ 天然パク(動画)
第18回 韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題
第19回 韓国ニュースの日本語訳と聞き取り
第20回 「元旦になぜお雑煮をたべるの?」(動画)
第21回 韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題 ＋ 会話15「メール」
第22回 韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題 ＋ 会話16「病院にて」
第23回 韓国小説訳 ＋ 会話18「空港にて」
第24回 韓国小説訳 ＋ お雑煮作り(動画)
第25回 韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題 ＋ 会話19「レストランで」
第26回 韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題 ＋ 会話20「友達に会いに」
第27回 韓国ドラマの聞き取り(動画)
第28回 韓国ドラマの聞き取り(動画)
第29回 冬キムチ作り(動画)
第30回 映画鑑賞

履修上の注意点

教科書

韓国語　これ一冊で終わり
著者:　金　文洙・崔　孝先
出版社:　文芸林
出版年:　2015/3　　ISBN:

参考書

aky401e053

成績評価	
試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**韓国語Ⅱ <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件　韓国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担 当 者　崔 孝先	

テーマ

楽しく効果的に韓国語を学ぶ。

授業の到達目標

前期の続きで、文法を抑えると当時に聞き取りと会話練習。韓国語能力試験中級以上の実力を目指す。

授業の概要

韓国語を学びながら、文化・社会・歴史・飲食・芸能など、韓国に関する全般的な知識を伝える。この際、韓国のいろんなジャンルの動画をみながら聞き取りと会話の練習をする。また、韓国語能力試験問題中級の問題紙を配り、文法・聞き取り・会話の練習を並行する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習は必要ありません。授業中に集中して学習するだけで、充分です。テストは二回します。一回目は発音をテストする会話暗唱テスト、二回目は文法と単語テストです。いずれも授業時間に何回も強調し繰り返しますので、授業時、集中すればだれでも通れるようなテストです。

内　容

第1回　オリエンテーションとテキスト1課から7課までの要約説明
第2回　長文3 ＋ 会話8「初めまして」
第3回　長文3 ＋ 慶州観光(動画)
第4回　韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題
第5回　長文4 ＋ 会話10「電話」
第6回　長文4 ＋ 夏の肌管理(動画)
第7回　韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題
第8回　長文5 ＋ 会話11「道を尋ねる」
第9回　長文5 ＋ 韓国の多世帯現状(動画)
第10回 韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題
第11回 期末テスト用韓国作文作り
第12回 期末テスト用韓国作文の発音練習
第13回 長文6 ＋ 会話12「趣味」
第14回 長文6 ＋ 韓国の保存食(動画)
第15回 韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題
第16回 長文7 ＋ 会話14「買い物」
第17回 長文7 ＋ 天然パク(動画)
第18回 韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題
第19回 韓国ニュースの日本語訳と聞き取り
第20回 「元旦になぜお雑煮をたべるの?」(動画)
第21回 韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題 ＋ 会話15「メール」
第22回 韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題 ＋ 会話16「病院にて」
第23回 韓国小説訳 ＋ 会話18「空港にて」
第24回 韓国小説訳 ＋ お雑煮作り(動画)
第25回 韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題 ＋ 会話19「レストランで」
第26回 韓国語能力試験の文法問題と聞き取り問題 ＋ 会話20「友達に会いに」
第27回 韓国ドラマの聞き取り(動画)
第28回 韓国ドラマの聞き取り(動画)
第29回 冬キムチ作り(動画)
第30回 映画鑑賞

履修上の注意点

教科書

韓国語　これ一冊で終わり
著者:　金　文洙・崔　孝先
出版社:　文芸林
出版年:　2015/3　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**韓国語Ⅲ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件　韓国語Ⅱを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担 当 者　朴 惠貞	

テーマ

韓国語の習熟

授業の到達目標

①初・中級レベルの韓国語会話運用能力の獲得を目指す。 ②いろいろなシチュエーションでの多様な表現ができるように実践力を身につける。

授業の概要

様々な状況や話題に必要な語彙と表現を学び、ペアワークやグループワークなどの色々な会話練習を通して会話運用能力を高めながら生きた韓国語を楽しく学んでいきたい。また、CDやDVD・動画などの各種視聴覚資料を用いて韓国語を聞き取る力も向上させていくが、その際には、韓国の文化・社会などにも触れていく。進度については基本的にシラバス通りに行うが、受講生の理解度に合わせて 緩急をつけ、できるだけフォローしていきたい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

1. 円滑に授業を進められ、授業を楽しむためにもテキストのCDなどを活用し、必ず予習・復習を欠かさず行って欲しい。 2. NHKテレビ・ラジオ講座を視聴すること。 3. 辞書を用いて作文をしてみること。

内　容

第1回　授業の進め方について、お互いのことを知ろう！
第2回　指定詞の「ハムニダ体」の表現、指定詞の「ハムニダ体」の否定表現
第3回　用言の「ハムニダ体」の表現、用言の「ハムニダ体」の否定表現
第4回　存在詞の「ハムニダ体」の表現、疑問詞の表現
第5回　読んでみよう！①
第6回　指示、所有、位置表現
第7回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）に親しもう！ ①
第8回　用言の「ヘヨ体」の表現 ①
第9回　用言の「ヘヨ体」の表現 ②
第10回　用言の「ヘヨ体」の否定表現
第11回　指定詞、存在詞の「ハムニダ体」の過去形の表現
第12回　用言の「ハムニダ体」と「ヘヨ体」の過去形の表現
第13回　用言の変則活用形の表現①、文法①
第14回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）に親しもう！ ②
第15回　指定詞の「ヘヨ体」の表現と否定表現、文法②
第16回　読んでみよう！②
第17回　漢数詞の応用、文法③
第18回　固有数詞の応用
第19回　用言の変則活用形の表現②、文法④
第20回　理由・原因・丁寧なお願い・勧誘表現
第21回　願望・目的・逆説表現、文法⑤
第22回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）に親しもう！ ③
第23回　注文してみよう！、尊敬表現・特殊な尊敬語の表現
第24回　推量・推測・比較・感嘆表現
第25回　読んでみよう！③
第26回　尊敬表現の「ハムニダ体」と「ヘヨ体」の過去形、禁止表現
第27回　病気の症状を説明してみよう！、提案・順序表現
第28回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）に親しもう！ ④
第29回　「韓国語Ⅲ」の授業のまとめ ①
第30回　「韓国語Ⅲ」の授業のまとめ ②

履修上の注意点

成績の点数配分にかかわらず出席を重視するので、授業には必ず出席すること（詳細については第1回の授業で解説する）。授業への積極的・自発的な参加が求められるが、授業を楽しむためにも、必ず予習・復習を欠かさず行うこと。

教科書

キャンパス韓国語
著者:　曺美庚その他
出版社:　白帝社

aky401e110

出版年: 2016　　ISBN:

参考書

適宜、資料配布　＊必ず、辞書を持参すること

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ 20 ）

授業中課題（ 15 ）　　授業中発表等（ ）

参加度（ 15 ）

テスト、課題、出席、予習・復習、授業への積極的・自発的な参加など、学期全般の学習成果を総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**韓国語Ⅳ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件　韓国語Ⅲを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担 当 者　朴 惠貞	

テーマ

韓国語の習熟

授業の到達目標

①中級レベルの韓国語会話運用能力の獲得を目指す。 ②いろいろなシチュエーションでの多様な表現ができるように実践力を身につける。

授業の概要

様々な状況や話題に必要な語彙と表現を学び、ペアワークやグループワークなどの色々な会話練習を通して会話運用能力を高めながら生きた韓国語を楽しく学んでいきたい。また、CDやDVD・動画などの各種視聴覚資料を用いて韓国語を聞き取る力も向上させていくが、その際には、韓国の文化・社会などにも触れていく。進度については基本的にシラバス通りに行うが、受講生の理解度に合わせて 緩急をつけ、できるだけフォローしていきたい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

1. 円滑に授業を進められ、授業を楽しむためにもテキストのCDなどを活用し、必ず予習・復習を欠かさず行って欲しい。 2. NHKテレビ・ラジオ講座を視聴すること。 3. 辞書を用いて積極的に作文をしてみること。 4. 韓国の新聞・雑誌などを積極的に読むこと。

内　容

第1回　夏休みの自由談話、「韓国語Ⅲ」の授業内容の復習①
第2回　「韓国語Ⅲ」の授業内容の復習②
第3回　計画・予定・許可・承諾表現
第4回　意思表現、形容詞の連体形の表現
第5回　作文をしてみよう！①
第6回　DVD鑑賞　聴解能力を向上させよう！ ①
第7回　可能・不可能と能力の有無を表す表現、動作の進行表現
第8回　条件・選択表現、用言の変則活用形の表現①
第9回　理想のタイプについて話してみよう！　経験表現
第10回　動詞の連体形の表現
第11回　読解をしてみよう！①
第12回　買い物をしてみよう！用言の変則活用形の表現②
第13回　意図・許可表現、色についての表現
第14回　DVD鑑賞　聴解能力を向上させよう！ ②
第15回　道案内をしてみよう！　授受表現
第16回　丁寧な要請・状況の説明・方向表現
第17回　作文をしてみよう！②
第18回　当為・禁止表現
第19回　確認・感嘆表現、用言の変則活用形の表現③
第20回　日韓の文化の類似点・相違点について、韓国語で話してみよう！
第21回　読解をしてみよう！②
第22回　DVD鑑賞　聴解能力を向上させよう！ ③
第23回　推量・推測・同時動作の表現
第24回　作文をしてみよう！③
第25回　実際の場面を設定した会話を楽しんでみよう！①
第26回　実際の場面を設定した会話を楽しんでみよう！②
第27回　実際の場面を設定した会話を楽しんでみよう！③
第28回　DVD鑑賞　聴解能力を向上させよう！ ④
第29回　「韓国語Ⅳ」の授業のまとめ ①
第30回　「韓国語Ⅳ」の授業のまとめ ②

履修上の注意点

成績の点数配分にかかわらず出席を重視するので、授業には必ず出席すること（詳細については第1回の授業で解説する）。授業への積極的・自発的な参加が求められるが、授業を楽しむためにも、必ず予習・復習を欠かさず行うこと。授業への積極的・自発的な参加が求められるが、授業を楽しむためにも、必ず予習・復習を欠かさず行うこと。

教科書

キャンパス韓国語

著者:　曺美庚その他

aky401e250

出版社: 白帝社

出版年: 2016　　ISBN:

参考書

適宜、資料配布　＊必ず、辞書を持参すること

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ 20 ）

授業中課題（ 15 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 15 ）

テスト、課題、出席、予習・復習、授業への積極的・自発的な参加など、学期全般の学習成果を総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**フランス語 I**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　サラニョン，バンジャマン	

テーマ

フランス語の基礎

授業の到達目標

・「話す」だけはなく，「聞く」「読む」「書く」の能力も使って，フランス語で基本的なコミュニケーションがとれるようになることが目標である。
・初級レベルのフランス会話運用能力の獲得。

授業の概要

普通，人と初めて会うとき，名前，年齢，所業，好き嫌い，家族等について話をする。このクラスでフランス人と初めて会うときの場面を想定して，フランス語で基本的な会話が出来るように，必要な語彙，表現や文法のポイントを学んで，実際に会話の練習を多く行います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各回修了ごとに10－20分程度復習することが望ましい。

内　容

第1回　フランスとフランス語の紹介＋授業の進め方
第2回　フランス語の基礎1　Elements de base
第3回　フランス語の基礎2　Elements de base
第4回　フランス語の基礎3　Elements de base
第5回　自己紹介をする1　Premieres presentations
第6回　自己紹介をする2　Premieres presentations
第7回　今住んでいるところや出身地について話す1　Dire ou on habite et d'ou on vient
第8回　今住んでいるところや出身地について話す2　Dire ou on habite et d'ou on vient
第9回　交通手段について話す1　Parler des transports
第10回　交通手段について話す2　Parler des transports
第11回　まとめ1
第12回　アルバイトについて話す1　Parler des petits boulots
第13回　アルバイトについて話す2　Parler des petits boulots
第14回　ペットなどについて話す1　Parler de ses animaux domestiques, etc.
第15回　ペットなどについて話す2　Parler de ses animaux domestiques, etc.
第16回　科目・先生について話す1 Parler des matieres et des profs
第17回　科目・先生について話す2 Parler des matieres et des profs
第18回　家食べ物について話す1 Parler de ce qu'on mange
第19回　家食べ物について話す2　Parler de ce qu'on mange
第20回　まとめ2
第21回　クラブ活動について話す1 Parler des loisirs
第22回　クラブ活動について話す2 Parler des loisirs
第23回　習慣について話す1 Parler de ses habitudes
第24回　習慣について話す2 Parler de ses habitudes
第25回　家事について話す1 Parler des taches menageres
第26回　家事について話す2 Parler des taches menageres
第27回　家族について話す1 Parler de sa famille
第28回　家族について話す2 Parler de sa famille
第29回　クラブ活動について話す1 Parler des loisirs
第30回　クラブ活動について話す2 Parler des loisirs＋まとめ3

履修上の注意点

教科書

Moi, je… : コミュニケーション－Manuel de communication－
著者:　Vannieuwenhuyse/Azra/Serverin/Massoulier/Vuillot
出版社: ALMA
出版年: 2016　　ISBN:　9784905343035

参考書

成績評価	
試験・レポート（ ）	小テスト（ 100 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**フランス語 Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件　フランス語Ⅰを修得済み、 もしくは同等以上の者	クラス指定
担 当 者　サラニョン，バンジャマン	

テーマ

フランス語の基礎（2）

授業の到達目標

フランス語Iにづづいて、フランス語の基礎文法を学ぶこと。
会話をなめらかに展開させるために必要なフランス語の反射神経を身につけること。
自分の日常生活や興味のあることについて，フランス語で話せるようになること。

授業の概要

フランス語の基本文法を勉強しながら，自分自身の日常生活や興味を持っていることについてフランス語で話す練習をします。自然にフランス語が口をついて出るよう，教科書にそってペアでの会話練習とさまざまな練習問題を繰り返し行います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各回修了ごとに10－20分程度復習することが望ましい。

内　容

第1回　フランス語Iの復習1
第2回　フランス語Iの復習2
第3回　習慣について話す1 Parler de ses habitudes
第4回　習慣について話す2 Parler de ses habitudes
第5回　週末の過ごし方について話す1　Parler du week-end
第6回　週末の過ごし方について話す2　Parler du week-end
第7回　時間について話す1　Parler de l'heure
第8回　時間について話す2　Parler de l'heure
第9回　休暇中の活動について話す1　Parler des vacances
第10回　まとめ1
第11回　経験について話す1　Parler de ses experiences
第12回　経験について話す2　Parler de ses experiences
第13回　地理について話す1
第14回　地理について話す2
第15回　天候について話す1　Parler du temps
第16回　天候について話す2　Parler du temps
第17回　まとめ2
第18回　過去について話す (1)　Parler du passe
第19回　過去について話す (2)　Parler du passe
第20回　過去について話す (3)　Parler du passe
第21回　まとめ3
第22回　道を尋ねる1　Demander son chemin
第23回　道を尋ねる2　Demander son chemin
第24回　レストランで注文する1　Commander au restaurant
第25回　レストランで注文する2　Commander au restaurant
第26回　まとめ4
第27回　買い物をする1　Faire les courses
第28回　買い物をする2　Faire les courses
第29回　フランスの「シャンソン」を聞く1　Ecoute de chansons francaises
第30回　フランスの「シャンソン」を聞く2　Ecoute de chansons francaises

履修上の注意点

教科書

Moi, je… : コミュニケーションーManuel de communicationー
著者:　Vannieuwenhuyse/Azra/Serverin/Massoulier/Vuillot
出版社: ALMA
出版年: 2016　　ISBN:　9784905343035

参考書

aky401e450

成績評価	
試験・レポート（ ）	小テスト（ 100 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**ドイツ語Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　久下 泰弘	

テーマ

ドイツ語入門その1

授業の到達目標

ドイツ語の初級文法、講読、会話の習得　その1

授業の概要

このクラスでは、様々な状況ですぐに応用できる簡単な表現を学習すると同時にドイツの文化や社会についての話題も扱いながら、授業をすすめていく。必要に応じて各自補足記入することを怠らないように。辞書を毎回、持参のこと。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

CDを活用して予習、復習を怠らないようにすること。映画、音楽、インターネットなど、様々な機会あるごとに「ドイツ」に関心を向けること。

内　容

第1回　授業の進め方について、辞書の話
第2回　Das Alphabet, ドイツ語の綴りと発音
第3回　ドイツ語の綴りと発音　注意すべき母音の発音　挨拶表現
第4回　ドイツ語の綴りと発音　注意すべき子音の発音　曜日、月の表現
第5回　Lektion　1「ミュンヒェンで自己紹介」 動詞の現在人称変化 （規則変化）
第6回　Lektion　1「ミュンヒェンで自己紹介」語順、定動詞の位置
第7回　Lektion　1「ミュンヒェンで自己紹介」 自己紹介
第8回　Lektion　1「ミュンヒェンで自己紹介」　ことば、君はなに読派？！
第9回　Lektion 2 「ザルツブルクの美術館で」　名詞の性、冠詞、定冠詞と名詞の変化
第10回　Lektion 2 「ザルツブルクの美術館で」　名詞の性、不定冠詞と名詞の変化
第11回　Lektion 2 「ザルツブルクの美術館で」　格の用法　職業、身分をたづねるとき
第12回　Lektion 2 「ザルツブルクの美術館で」　～するのが好きです、　塩について
第13回　Lektion3 「ヴィーン市街で」人称代名詞の変化、不規則動詞現在人称変化
第14回　Lektion3 「ヴィーン市街で」命令形
第15回　Lektion3 「ヴィーン市街で」名詞の複数形、 非人称表現
第16回　Lektion3 「ヴィーン市街で」　場所をたづねるとき、 クールな都
第17回　Lektion4 「ハンブルクで買い物」 定冠詞類
第18回　Lektion4 「ハンブルクで買い物」 不定冠詞類
第19回　Lektion4 「ハンブルクで買い物」 否定冠詞
第20回　Lektion4 「ハンブルクで買い物」身につけるもの、家族をあらわす表現　買い物をするとき、 ハンスと太郎　名前のあれこれ
第21回　Lektion5 「バーゼルで」前置詞と格
第22回　Lektion5 「バーゼルで」前置詞と名詞の融合形
第23回　Lektion5 「バーゼルで」人称代名詞の3格と4格、その語順
第24回　Lektion5 「バーゼルで」　行きかたをたづねるとき、ドライな数　三・さん
第25回　前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
第26回　前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
第27回　前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
第28回　前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
第29回　前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
第30回　前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習

履修上の注意点

教科書

ブーメラン・エルエー
著者:　小野寿美子、中川明博、西巻丈児
出版社: 朝日出版社
出版年: 2015　ISBN:　9784255253800

参考書

aky401e510

アポロン独和辞典[第3版]

著者: 根本道也ほか

出版社: 同学社

出版年: 2010 ISBN: 9784810200065

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ 40 ）

授業中課題（ 20 ） 授業中発表等（ 40 ）

参加度 （ ）

授業出席重視。

2018 Syllabus

科 目 名　**ドイツ語Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　久下 泰弘	

テーマ

ドイツ語入門その1

授業の到達目標

ドイツ語の初級文法、講読、会話の習得　その1

授業の概要

このクラスでは、様々な状況ですぐに応用できる簡単な表現を学習すると同時にドイツの文化や社会についての話題も扱いながら、授業をすすめていく。必要に応じて各自補足記入することを怠らないように。辞書を毎回、持参のこと。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

CDを活用して予習、復習を怠らないようにすること。映画、音楽、インターネットなど、様々な機会あるごとに「ドイツ」に関心を向けること。

内　容

第1回　授業の進め方について、辞書の話
第2回　Das Alphabet, ドイツ語の綴りと発音
第3回　ドイツ語の綴りと発音　注意すべき母音の発音　挨拶表現
第4回　ドイツ語の綴りと発音　注意すべき子音の発音　曜日、月の表現
第5回　Lektion　1「ミュンヒェンで自己紹介」 動詞の現在人称変化 （規則変化）
第6回　Lektion　1「ミュンヒェンで自己紹介」語順、定動詞の位置
第7回　Lektion　1「ミュンヒェンで自己紹介」 自己紹介
第8回　Lektion　1「ミュンヒェンで自己紹介」　ことば、君はなに読派？！
第9回　Lektion 2 「ザルツブルクの美術館で」　名詞の性、冠詞、定冠詞と名詞の変化
第10回　Lektion 2 「ザルツブルクの美術館で」　名詞の性、不定冠詞と名詞の変化
第11回　Lektion 2 「ザルツブルクの美術館で」　格の用法　職業、身分をたづねるとき
第12回　Lektion 2 「ザルツブルクの美術館で」　～するのが好きです、　塩について
第13回　Lektion3 「ヴィーン市街で」人称代名詞の変化、不規則動詞現在人称変化
第14回　Lektion3 「ヴィーン市街で」命令形
第15回　Lektion3 「ヴィーン市街で」名詞の複数形、 非人称表現
第16回　Lektion3 「ヴィーン市街で」　場所をたづねるとき、 クールな都
第17回　Lektion4 「ハンブルクで買い物」 定冠詞類
第18回　Lektion4 「ハンブルクで買い物」 不定冠詞類
第19回　Lektion4 「ハンブルクで買い物」 否定冠詞
第20回　Lektion4 「ハンブルクで買い物」身につけるもの、家族をあらわす表現　買い物をするとき、 ハンスと太郎　名前のあれこれ
第21回　Lektion5 「バーゼルで」前置詞と格
第22回　Lektion5 「バーゼルで」前置詞と名詞の融合形
第23回　Lektion5 「バーゼルで」人称代名詞の3格と4格、その語順
第24回　Lektion5 「バーゼルで」　行きかたをたづねるとき、ドライな数　三・さん
第25回　前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
第26回　前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
第27回　前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
第28回　前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
第29回　前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
第30回　前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習

履修上の注意点

教科書

ブーメラン・エルエー
著者:　小野寿美子、中川明博、西巻丈児
出版社: 朝日出版社
出版年: 2015　ISBN:　9784255253800

参考書

aky401e512

アポロン独和辞典[第3版]

著者: 根本道也ほか

出版社: 同学社

出版年: 2010 ISBN: 9784810200065

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ 40 ）

授業中課題（ 20 ） 授業中発表等（ 40 ）

参加度 （ ）

授業出席重視。

2018 Syllabus

科 目 名　**ドイツ語Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　員　50
履修条件　ドイツ語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担 当 者　久下　泰弘	

テーマ

ドイツ語入門その2

授業の到達目標

ドイツ語の初級文法、講読、会話の習得　その2 ドイツ語検定5級合格を指標として

授業の概要

このクラスでは、様々な状況ですぐに応用できる簡単な表現を学習すると同時にドイツの文化や社会についての話題も扱いながら、授業をすすめていく。必要に応じて各自補足記入することを怠らないように。辞書を毎回、持参のこと。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

CDを活用して予習、復習を怠らないようにすること。映画、音楽、インターネットなど、様々な機会あるごとに「ドイツ」に関心を向けること。

内　容

第1回　Lektion 6 「コンサートに行きたい」話法の助動詞、未来形
第2回　Lektion 6 「コンサートに行きたい」従属接続詞と副文
第3回　Lektion 6 「コンサートに行きたい」分離動詞と非分離動詞
第4回　Lektion 6 「コンサートに行きたい」　チケットをかうとき、 森鴎外とドイツ ドイツ留学の先駆者
第5回　Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞の格変化、強変化、弱変化
第6回　Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞の格変化、混合変化
第7回　Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞、副詞の比較
第8回　Lektion 7 「レストランで食事」　料理を注文するとき　負のエネルギー 核から各へ
第9回　Lektion 8 「週末の外出」動詞の3基本形
第10回 Lektion 8 「週末の外出」現在完了形
第11回 Lektion 8 「週末の外出」時を表す副詞
第12回 Lektion 8 「週末の外出」枠構造　過去を語るとき（現在完了） 天職 思いの強さが生み出すもの
第13回 Lektion9 「ヴァイマルで」過去形
第14回 Lektion9 「ヴァイマルで」再帰代名詞と再帰動詞
第15回 Lektion9 「ヴァイマルで」「お互いに」の意味をもつ再帰代名詞
第16回 Lektion9 「ヴァイマルで」　過去を語るとき（過去形） マイスター 縦と横
第17回 Lektion10 「冬休みに」zu不定詞句
第18回 Lektion10 「冬休みに」関係代名詞
第19回 Lektion10 「冬休みに」お祝いの言葉
第20回 Lektion10 「冬休みに」　予定を言うとき　祭り 西と東
第21回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
第22回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
第23回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
第24回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
第25回 ステップアップのためのドイツ語、受動形
第26回 ステップアップのためのドイツ語、分詞の用法
第27回 ステップアップのためのドイツ語、接続法第1式
第28回 ステップアップのためのドイツ語、接続法第2式
第29回 補足練習問題、まとめ 今後のドイツ語学習への説明
第30回 補足練習問題、まとめ 今後のドイツ語学習への説明

履修上の注意点

教科書

ブーメラン・エルエー
著者:　小野寿美子、中川明博、西巻丈児
出版社: 朝日出版社
出版年: 2015　　ISBN:　9784255253800

参考書

aky401e650

アポロン独和辞典[第3版]

著者: 根本道也ほか

出版社: 同学社

出版年: 2010 ISBN: 9784810200065

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ 40 ）

授業中課題（ 20 ） 授業中発表等（ 40 ）

参加度（ ）

出席重視

2018 Syllabus

科 目 名　**ドイツ語Ⅱ 〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　員　50
履修条件　ドイツ語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担 当 者　久下 泰弘	

テーマ

ドイツ語入門その2

授業の到達目標

ドイツ語の初級文法、講読、会話の習得　その2 ドイツ語検定5級合格を指標として

授業の概要

このクラスでは、様々な状況ですぐに応用できる簡単な表現を学習すると同時にドイツの文化や社会についての話題も扱いながら、授業をすすめていく。必要に応じて各自補足記入することを怠らないように。辞書を毎回、持参のこと。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

CDを活用して予習、復習を怠らないようにすること。映画、音楽、インターネットなど、様々な機会あるごとに「ドイツ」に関心を向けること。

内　容

第1回　Lektion 6 「コンサートに行きたい」話法の助動詞、未来形
第2回　Lektion 6 「コンサートに行きたい」従属接続詞と副文
第3回　Lektion 6 「コンサートに行きたい」分離動詞と非分離動詞
第4回　Lektion 6 「コンサートに行きたい」　チケットをかうとき、 森鴎外とドイツ ドイツ留学の先駆者
第5回　Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞の格変化、強変化、弱変化
第6回　Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞の格変化、混合変化
第7回　Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞、副詞の比較
第8回　Lektion 7 「レストランで食事」　料理を注文するとき　負のエネルギー 核から各へ
第9回　Lektion 8 「週末の外出」動詞の3基本形
第10回 Lektion 8 「週末の外出」現在完了形
第11回 Lektion 8 「週末の外出」時を表す副詞
第12回 Lektion 8 「週末の外出」枠構造　過去を語るとき（現在完了） 天職 思いの強さが生み出すもの
第13回 Lektion9 「ヴァイマルで」過去形
第14回 Lektion9 「ヴァイマルで」再帰代名詞と再帰動詞
第15回 Lektion9 「ヴァイマルで」「お互いに」の意味をもつ再帰代名詞
第16回 Lektion9 「ヴァイマルで」　過去を語るとき（過去形） マイスター 縦と横
第17回 Lektion10 「冬休みに」zu不定詞句
第18回 Lektion10 「冬休みに」関係代名詞
第19回 Lektion10 「冬休みに」お祝いの言葉
第20回 Lektion10 「冬休みに」　予定を言うとき　祭り 西と東
第21回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
第22回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
第23回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
第24回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
第25回 ステップアップのためのドイツ語、受動形
第26回 ステップアップのためのドイツ語、分詞の用法
第27回 ステップアップのためのドイツ語、接続法第1式
第28回 ステップアップのためのドイツ語、接続法第2式
第29回 補足練習問題、まとめ 今後のドイツ語学習への説明
第30回 補足練習問題、まとめ 今後のドイツ語学習への説明

履修上の注意点

教科書

ブーメラン・エルエー
著者:　小野寿美子、中川明博、西巻丈児
出版社: 朝日出版社
出版年: 2015　　ISBN:　9784255253800

参考書

aky401e652

アポロン独和辞典[第3版]

著者: 根本道也ほか

出版社: 同学社

出版年: 2010 ISBN: 9784810200065

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ 40 ）

授業中課題（ 20 ） 授業中発表等（ 40 ）

参加度（ ）

出席重視

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史学入門**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾下　成敏.小野　浩	

テーマ

歴史学の方法と視点

授業の到達目標

歴史学の学問としての方法論を知るとともに、多様な視点から事象を理解する姿勢を身につける

授業の概要

前半は世界史分野の教員、後半は日本史分野の教員が担当し、歴史学を学ぶ上で必要な学問的方法論についての理解を深める。授業においてはとくに日本と異文化の接触・交流の視点や、文献史学以外の学問研究の視点に留意するとともに、史料を的確に読む重要性について徹底的に講義する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

参考文献は適宜紹介するので、それの精読を期待する

内　容

第1回　日本と西アジア文化の接点は？
第2回　前近代のイスラム世界は日本をどうとらえていたかーマルコ・ポーロ以前ー
第3回　鎌倉時代の一枚の文書から
第4回　法隆寺の香木
第5回　近代日本と西アジア・イスラム世界　その1　イラン
第6回　近代日本と西アジア・イスラム世界　その2　アラブ
第7回　近代日本と西アジア・イスラム世界　その3　トルコ
第8回　歴史学はどのような学問か
第9回　歴史研究の素材と手順
第10回　真正な史料は真実を伝えるか
第11回　史料を論理的に読む
第12回　伝達されるものと伝達されないものー情報は無条件に拡散するかー
第13回　事実の追求と事象の評価との関係
第14回　歴史叙述はどう変わるか
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 35 ）	小テスト（ 35 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**京都講座 I**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　永田 信一	

テーマ

京都の複合する遺跡から京都の歴史と文化を探る。

授業の到達目標

考古資料をもとに京都の地下の文化財に触れ、京文化の根源を学び、探り、理解し、考えてみる。そして京都の遺跡からわかる歴史と文化の表現方法の取得に向う。

授業の概要

平安京以前から現代まで、時系列で複合する京都の遺跡を学習する。適宜、歩き探る京都の街路を紹介し、京文化を理解できる文献資料を読み解く。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に日本史概説を読み解いておくこと。配布資料を熟読すること。授業後、歩いて文化財を確認すること。

内　容

第1回　京都の文化財ガイダンス。（地下の文化財と地上の文化財）
第2回　平安京以前の京都（旧石器時代→奈良時代）
第3回　長岡京（短命の都）
第4回　平安京の創設（平安京の構造と街路）
第5回　平安宮の遺跡と遺物（大内裏の構造）
第6回　羅城門と東寺、西寺（平安京の南辺）
第7回　平安京右京（平安前期・中期の遺跡）
第8回　平安京左京（平安後期の遺跡）
第9回　平安京の変質（郊外地への進展）
第10回　中世京都の成立（鎌倉・室町時代）
第11回　近世京都の始まり（安土桃山時代→江戸時代初期）
第12回　伏見城と城下町
第13回　江戸時代の京都
第14回　遺跡が語る京都の近代化
第15回　京都市考古資料館の見学（学外授業）

履修上の注意点

授業中、他人への迷惑行為のある場合は欠席とします。

教科書

適宜プリントを配布する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 40 ）
授業中に課題を設け、レポートの提出を求める。出席も重要視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**京都講座Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　熊谷　昭宏	

テーマ

京都が舞台となっている小説を読む。

授業の到達目標

①明治以降、伝統文化と近代都市文化が交錯してきた京都が、小説でどのように描かれ、その中でどのような物語が生成されてきたかを考える。②21世紀の作家である森見登美彦の小説の中で、京都を舞台とする作品を読み、近代の名作との共通点と相違点を考える。

授業の概要

前半では京都を舞台とした近代日本の重要な作品を紹介する。後半では森見登美彦の作品を紹介する。基本的には講義形式だが、授業中に受講生に質問することもある。毎回、授業の最後に、授業内容に関する分析的なコメントを所定の用紙に書いて提出してもらう。事前配布資料により授業の予習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

①事前配布資料を熟読し、作品の問題点や疑問点を整理しておく。②事前配布資料の引用が抜粋の場合は、さらに自主的に作品全体に目を通しておくことが望ましい。③期末レポートに向けて、授業で扱った作品への理解を深め、関係する京都の具体的な場所についての 調査を行う。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　森鴎外「高瀬舟」①
第3回　森鴎外「高瀬舟」②
第4回　芥川龍之介「羅生門」①
第5回　芥川龍之介「羅生門」②
第6回　川端康成「美しさと哀しみと」①
第7回　川端康成「美しさと哀しみと」②
第8回　森見登美彦『新釈 走れメロス』より「山月記」
第9回　森見登美彦『新釈 走れメロス』より「藪の中」
第10回　森見登美彦『新釈 走れメロス』より「走れメロス」①
第11回　森見登美彦『新釈 走れメロス』より「走れメロス」②
第12回　森見登美彦「有頂天家族」①
第13回　森見登美彦「有頂天家族」②
第14回　森見登美彦「有頂天家族」③
第15回　まとめとレポート指導

履修上の注意点

大学生として、授業における基本的なマナーを守ること。出席の確認は授業中課題のコメント用紙によって行うので、出席した場合には必ず提出すること。授業資料の解説終了後（映像資料の紹介中など）に入室した場合、出席とはみなさないので注意すること。忌引、特定の感染症、教育実習（その他大学の授業に関係する事柄）等に限って公欠を認め、参加度の加点を考慮する（担当者に申し出ること）。詳細については初回授業で配布する資料を参照すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50% ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20% ）

期末レポート（内容と形式については授業中に説明する）を試験とする。毎回提出するコメント用紙を授業中課題とする。鋭い質問、授業内容を他の作品の読解に結びつける意見を含むコメントに対しては、より高い評価を与える。インターネット上の文章を紹介することなくコピー＆ペースト（あるいはそうみなされる方法）していることが分かった場合は、コメントもレポートも評価対象外とする。詳細については初回授業で配布する資料を参照すること。

2018 Syllabus

科 目 名　**京都の歴史・文化Ⅰ〈eL〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田端　泰子.細川　涼一	

テーマ

京の都の盛衰とそれぞれの時代に生きた人々

授業の到達目標

”都”と呼ばれる政治・経済の中心の位置に京都がすわることによって、どのような歴史のうねりが生じたのか、またそこに住んだ人々の生活にどのような変化が生まれたのかを学びとってほしい。

授業の概要

［メディア授業／全15回］ 古代以来の都の変遷から説き起こし、京の都がどのような経緯を辿って成立し、発展し、その後の変化を迎えたのかを基軸に、そこに住む人々、京に入った人々に焦点を合わせて歴史の流れを解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

京都に関する書物を読み、また授業に登場した場所を実際に訪れてみると、理解が深まる。

内　容

第1回　都城の変遷
第2回　平安京の成立
第3回　平安京に暮らす人々
第4回　院政期の京都
第5回　京ー鎌倉をつなぐ人々
第6回　「このごろ都にはやるもの」ー南北朝期の京都
第7回　室町幕府の成立と京の都
第8回　土一揆の時代
第9回　京の商工業者
第10回 『洛中洛外図』に描かれた京都
第11回 小野小町伝説と京都
第12回 後白河院・源頼朝と山科
第13回 織田信長と京都
第14回 豊臣政権と京の町
第15回 元禄時代の京都

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

物語　京都の歴史
著者:　脇田修・晴子
出版社:　中央公論新社
出版年:　　ISBN:

中世寺院の風景
著者:　細川涼一
出版社:　新曜社
出版年:　　ISBN:

平家物語の女たち
著者:　細川涼一
出版社:　吉川弘文館
出版年:　　ISBN:

aky501f110

秀吉の経済感覚
著者: 脇田修
出版社: 中央公論社
出版年: ISBN:

北政所おね
著者: 田端泰子
出版社: ミネルヴァ書房
出版年: ISBN:

足利義政と日野富子
著者: 田端泰子
出版社: 山川出版社
出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 100% ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度（ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**京都の歴史・文化Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　仲田　順和	

テーマ

現代まで伝わる京都の文化財を信仰行事等を通じて学ぶ。

授業の到達目標

京都に伝わる文化財が、いかにして伝承されてきたを学ぶ。同時に文化財を生み出した京都の文化とその将来を考える。

授業の概要

この授業は、京都橘大学と総本山醍醐寺の学術交流協定に基づく授業である。現代まで受け継がれてきた様々な文化をそれぞれの専門家が担当して講義する。さらに醍醐寺に残る文化財、信仰行事に接する機会を設け、日本文化について考察を進める。　各回毎に専門の担当者が授業を行うリレー形式で行われる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

京都の伝統行事に参加あるは見学する。

内　　容

第1回　京都に残る有形文化財がどのように伝えられてきたか、さらに将来への保存に向けてどのような方法が取られているか、具体例を上げて講義する。
第2回　京都の歴史について（醍醐寺を中心に）＜その1＞
第3回　京都の歴史について（醍醐寺を中心に）＜その2＞
第4回　文化財にふれる（醍醐寺霊宝館見学・学外授業）
第5回　醍醐寺所蔵の文化財について＜その1＞
第6回　醍醐寺所蔵の文化財について＜その2＞
第7回　現代に生きる山岳信仰＜その1＞
第8回　現代に生きる山岳信仰＜その2＞
第9回　信仰行事にふれる（柴灯護摩見学・学外授業）
第10回　日本人の生活の中に生きる仏教
第11回　日本人の根底に流れる仏教の影響
第12回　桃山文化にふれる（醍醐寺三宝院見学・学外授業）
第13回　華やかな桃山文化について（醍醐の花見を中心に）＜その1＞
第14回　華やかな桃山文化について（醍醐の花見を中心に）＜その2＞
第15回　まとめ

履修上の注意点

学外授業は、できるだけ参加しやすい日時を選んで行うが、他の授業等で出席できない時は、申し出ること。

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 40 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 60 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**文学と京都**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　熊谷 昭宏	

テーマ

京都が舞台となっている小説を読む。

授業の到達目標

①明治以降、伝統文化と近代都市文化が交錯してきた京都が、小説でどのように描かれ、その中でどのような物語が生成されてきたかを考える。②21世紀の作家である万城目学と森見登美彦の小説の中で、京都を舞台とし、学生（主に大学生）が登場する作品を読み、近代の名作との共通点と相違点を考える。

授業の概要

前半では、京都を舞台とした近代日本の重要な作品を紹介する。後半では、万城目学と森見登美彦の作品を紹介する。基本的には講義形式だが、授業中に受講生に対して質問をすることもある。毎回、授業の最後に、授業内容に関する分析的なコメントを所定の用紙に書いて提出してもらう。事前配布資料によって授業の予習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

①事前配布資料を熟読し、作品の問題点や疑問点を整理しておく。②事前配布資料の引用が抜粋の場合は、さらに自主的に作品全体に目を通しておくことが望ましい。③期末レポートに向けて、授業で扱った作品への理解を深め、関係する京都の具体的な場所についての調査を行う。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　梶井基次郎「檸檬」①
第3回　梶井基次郎「檸檬」②
第4回　三島由紀夫「金閣寺」
第5回　川端康成「古都」①
第6回　川端康成「古都」②
第7回　万城目学「鴨川ホルモー」①
第8回　万城目学「鴨川ホルモー」②
第9回　万城目学『ホルモー六景』より「もっちゃん」
第10回　森見登美彦「太陽の塔」
第11回　森見登美彦「四畳半神話大系」①
第12回　森見登美彦「四畳半神話大系」②
第13回　森見登美彦「夜は短し歩けよ乙女」①
第14回　森見登美彦「夜は短し歩けよ乙女」②
第15回　まとめとレポート指導

履修上の注意点

大学生として、授業における基本的なマナーを守ること。出席の確認は授業中課題のコメント用紙によって行うので、出席した場合には必ず提出すること。授業資料の解説終了後（映像資料の紹介中など）に入室した場合、出席とはみなさないので注意すること。忌引、特定の感染症、教育実習（その他大学の授業に関係する事柄）等に限って公欠を認め、参加度の加点を考慮する（担当者に申し出ること）。詳細については初回授業で配布する資料を参照すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50% ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20% ）

期末レポートを試験（内容と形式については授業中に説明する）とする。毎回提出するコメント用紙を授業中課題とする。鋭い質問や授業中内容を他の作品の読解に結びつける意見を含むコメントに対しては、より高い評価を与える。インターネット上の文章を紹介することなくコピー＆ペースト（あるいはそうみなされる方法）していることが分かった場合は、コメントもレポートも評価対象外とする。詳細については初回授業で配布する資料を参照すること。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本国憲法 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　上出 浩	

テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

授業の到達目標

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

授業の概要

日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　日本国憲法の位置づけ
第2回　日本国憲法の3大原則
第3回　日本国憲法の人権（人権総論：主体、制限、公共の福祉）
第4回　日本国憲法の人権（幸福追求権、新しい権利）
第5回　日本国憲法の人権（人権の分類、精神的自由：思想／良心の自由）
第6回　日本国憲法の人権（信教の自由）
第7回　日本国憲法の人権（表現の自由）－表現の自由とプライバシー－
第8回　日本国憲法の人権（表現の自由）－検閲と事前抑制－
第9回　日本国憲法の人権（経済的自由）
第10回　日本国憲法の人権（社会権）
第11回　日本国憲法の人権（手続き的保証、そのほかの権利）
第12回　日本国憲法の統治（三権分立、議会）
第13回　日本国憲法の統治（内閣と議会）
第14回　日本国憲法の統治（裁判所）
第15回　到達度確認試験、復習
第16回　総まとめ

履修上の注意点

各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。また、講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。

教科書

いま日本国憲法は〔第5版〕: 原点からの検証
著者:　小林武、三並敏克編
出版社: 法律文化社
出版年: 2011　　ISBN:　9784589033529

参考書

ポケット六法　平成30年版
著者:　山下　友信　他編集代表
出版社: 有斐閣
出版年: 2017　　ISBN:　9784641009189

憲法 第六版
著者:　芦部　信喜 著 , 高橋　和之 補訂
出版社: 岩波書店
出版年: 2015　　ISBN:　9784000227995

成績評価

試験・レポート （ 70 ）　　小テスト （ 30 ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）
試験　70%、小テスト30%

2018 Syllabus

科 目 名　**日本国憲法 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　上出 浩	

テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

授業の到達目標

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

授業の概要

日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　日本国憲法の位置づけ
第2回　日本国憲法の3大原則
第3回　日本国憲法の人権（人権総論：主体、制限、公共の福祉）
第4回　日本国憲法の人権（幸福追求権、新しい権利）
第5回　日本国憲法の人権（人権の分類、精神的自由：思想／良心の自由）
第6回　日本国憲法の人権（信教の自由）
第7回　日本国憲法の人権（表現の自由）－表現の自由とプライバシー－
第8回　日本国憲法の人権（表現の自由）－検閲と事前抑制－
第9回　日本国憲法の人権（経済的自由）
第10回　日本国憲法の人権（社会権）
第11回　日本国憲法の人権（手続き的保証、そのほかの権利）
第12回　日本国憲法の統治（三権分立、議会）
第13回　日本国憲法の統治（内閣と議会）
第14回　日本国憲法の統治（裁判所）
第15回　到達度確認試験、復習
第16回　総まとめ

履修上の注意点

各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。また、講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。

教科書

いま日本国憲法は〔第5版〕: 原点からの検証
著者:　小林武、三並敏克編
出版社: 法律文化社
出版年: 2011　　ISBN:　9784589033529

参考書

ポケット六法　平成30年版
著者:　山下　友信　他編集代表
出版社: 有斐閣
出版年: 2017　　ISBN:　9784641009189

憲法 第六版
著者:　芦部　信喜 著，高橋　和之 補訂
出版社: 岩波書店
出版年: 2015　　ISBN:　9784000227995

成績評価

試験・レポート （ 70 ）　　小テスト （ 30 ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）
試験　70%、小テスト30%

2018 Syllabus

科 目 名　**日本国憲法 <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山﨑　将文	

テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

授業の到達目標

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

授業の概要

日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　日本国憲法の位置づけ
第2回　日本国憲法の3大原則
第3回　日本国憲法の人権（人権総論：主体、制限、公共の福祉）
第4回　日本国憲法の人権（幸福追求権、新しい権利）
第5回　日本国憲法の人権（人権の分類、精神的自由：思想／良心の自由）
第6回　日本国憲法の人権（信教の自由）
第7回　日本国憲法の人権（表現の自由）－表現の自由とプライバシー－
第8回　日本国憲法の人権（表現の自由）－検閲と事前抑制－
第9回　日本国憲法の人権（経済的自由）
第10回　日本国憲法の人権（社会権）
第11回　日本国憲法の人権（手続き的保証、そのほかの権利）
第12回　日本国憲法の統治（三権分立、議会）
第13回　日本国憲法の統治（内閣と議会）
第14回　日本国憲法の統治（裁判所）
第15回　到達度確認試験、復習
第16回　総まとめ

履修上の注意点

各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。また、講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。

教科書

プラクティス法学実践教室Ⅱ《憲法編》
著者：　高乗正臣・奥村文男編著
出版社：成文堂
出版年：2017年　　ISBN：　9784792306106

参考書

憲法　第6版
著者：　芦部信喜
出版社：岩波書店
出版年：2015年　　ISBN：　9784000227995

成績評価

試験・レポート（ 80 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 10 ）
三分の二以上出席しないと試験を受けることができない場合がある。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本国憲法 <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山﨑　将文	

テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

授業の到達目標

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

授業の概要

日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　日本国憲法の位置づけ
第2回　日本国憲法の3大原則
第3回　日本国憲法の人権（人権総論：主体、制限、公共の福祉）
第4回　日本国憲法の人権（幸福追求権、新しい権利）
第5回　日本国憲法の人権（人権の分類、精神的自由：思想／良心の自由）
第6回　日本国憲法の人権（信教の自由）
第7回　日本国憲法の人権（表現の自由）－表現の自由とプライバシー－
第8回　日本国憲法の人権（表現の自由）－検閲と事前抑制－
第9回　日本国憲法の人権（経済的自由）
第10回　日本国憲法の人権（社会権）
第11回　日本国憲法の人権（手続き的保証、そのほかの権利）
第12回　日本国憲法の統治（三権分立、議会）
第13回　日本国憲法の統治（内閣と議会）
第14回　日本国憲法の統治（裁判所）
第15回　到達度確認試験、復習
第16回　総まとめ

履修上の注意点

各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。また、講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。

教科書

プラクティス法学実践教室Ⅱ《憲法編》
著者：　高乗正臣・奥村文男編著
出版社：成文堂
出版年：2017年　　ISBN：　9784792306106

参考書

憲法　第6版
著者：　芦部信喜
出版社：岩波書店
出版年：2015年　　ISBN：　9784000227995

成績評価

試験・レポート（ 80 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 10 ）
三分の二以上出席しないと試験を受けることができない場合がある。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本国憲法 <e>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　秋期集中	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　上出 浩	

テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

授業の到達目標

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

授業の概要

日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　日本国憲法の位置づけ
第2回　日本国憲法の3大原則
第3回　日本国憲法の人権（人権総論：主体、制限、公共の福祉）
第4回　日本国憲法の人権（幸福追求権、新しい権利）
第5回　日本国憲法の人権（人権の分類、精神的自由：思想／良心の自由）
第6回　日本国憲法の人権（信教の自由）
第7回　日本国憲法の人権（表現の自由）－表現の自由とプライバシー－
第8回　日本国憲法の人権（表現の自由）－検閲と事前抑制－
第9回　日本国憲法の人権（経済的自由）
第10回　日本国憲法の人権（社会権）
第11回　日本国憲法の人権（手続き的保証、そのほかの権利）
第12回　日本国憲法の統治（三権分立、議会）
第13回　日本国憲法の統治（内閣と議会）
第14回　日本国憲法の統治（裁判所）
第15回　到達度確認試験、復習
第16回　総まとめ

履修上の注意点

各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。また、講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。

教科書

いま日本国憲法は〔第5版〕: 原点からの検証
著者:　小林武、三並敏克編
出版社: 法律文化社
出版年: 2011　　ISBN:　9784589033529

参考書

ポケット六法　平成30年版
著者:　山下　友信　他編集代表
出版社: 有斐閣
出版年: 2017　　ISBN:　9784641009189

憲法 第六版
著者:　芦部　信喜 著，高橋　和之 補訂
出版社: 岩波書店
出版年: 2015　　ISBN:　9784000227995

成績評価

試験・レポート（ 70 ）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
試験　70%、小テスト30%

2018 Syllabus

科 目 名　**法学概論Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山﨑　将文	

テーマ

現代社会と法の関わりを考察する

授業の到達目標

日常生活において、法が多様な分野で関連していることを理解する。分野別に、法の基本的な考え方、制度の仕組み、重要判例等について概観し、法的な基礎知識や思考力を習得する。これにより、社会全体における法の機能を把握する。

授業の概要

毎回レジュメと参考資料を配布し、これに沿って解説する。時事の内容は、適宜に講義に加えていく。小テストや課題の扱いについては、講義時に説明する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

常日頃から、法に関係する事件や裁判をニュースで見たり、新聞で読むようにする。また、授業終了後、どのような授業内容であったのかをノートを見ながら復習する。

内　　容

第1回　現代社会と法
第2回　人権と法
第3回　政治と法
第4回　司法と法
第5回　行政活動と法
第6回　雇用社会と法
第7回　消費者と法
第8回　まとめとテスト①（第1回～第7回分）
第9回　事故と法
第10回　医療と法
第11回　家族と法
第12回　犯罪と法
第13回　裁判と法
第14回　国際社会と法
第15回　まとめとテスト②（第9回～第14回分）

履修上の注意点

皆勤を目指すとともに、授業中は集中してノートをこまめに取るようにする。
新聞・テレビ等の報道に注意を払い、社会問題に留意すること。各制度に関連する法改正や判決について、解説を試みること。

教科書

使用しない

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

プラクティス法学実践教室Ⅰ《法学・民法・刑法編》第5版

著者:　高乗正臣・奥村文男編著
出版社:　成文堂
出版年:　2015年　　ISBN:　9784792305741

法学六法

著者:　池田真朗・宮島司
出版社:　信山社
出版年:　2017年　　ISBN:　9784797257489

成績評価

試験・レポート（ 80 ）　　小テスト（ 10 ）

aky601f510

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 10 ）

受講生の数、授業の進度などにより、割合（%）が若干調整されることがある。
三分の二以上出席しないと試験を受けることができない場合がある。

2018 Syllabus

科 目 名　**法学概論Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山﨑　将文	

テーマ

現代社会と法の関わりを考察する

授業の到達目標

日常生活において、法が多様な分野で関連していることを理解する。分野別に、法の基本的な考え方、制度の仕組み、重要判例等について概観し、法的な基礎知識や思考力を習得する。これにより、社会全体における法の機能を把握する。

授業の概要

毎回レジュメと参考資料を配布し、これに沿って解説する。時事の内容は、適宜に講義に加えていく。小テストや課題の扱いについては、講義時に説明する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

常日頃から、法に関係する事件や裁判をニュースで見たり、新聞で読むようにする。また、授業終了後、どのような授業内容であったのかをノートを見ながら復習する。

内　　容

第1回　現代社会と法
第2回　人権と法
第3回　政治と法
第4回　司法と法
第5回　行政活動と法
第6回　雇用社会と法
第7回　消費者と法
第8回　まとめとテスト①（第1回～第7回分）
第9回　事故と法
第10回　医療と法
第11回　家族と法
第12回　犯罪と法
第13回　裁判と法
第14回　国際社会と法
第15回　まとめとテスト②（第9回～第14回分）

履修上の注意点

皆勤を目指すとともに、授業中は集中してノートをこまめに取るようにする。
新聞・テレビ等の報道に注意を払い、社会問題に留意すること。各制度に関連する法改正や判決について、解説を試みること。

教科書

使用しない

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

プラクティス法学実践教室Ⅰ《法学・民法・刑法編》第5版

著者:　高乗正臣・奥村文男編著
出版社:　成文堂
出版年:　2015年　　ISBN:　9784792305741

法学六法

著者:　池田真朗・宮島司
出版社:　信山社
出版年:　2017年　　ISBN:　9784797257489

成績評価

試験・レポート（ 80 ）　　小テスト（ 10 ）

aky601f512

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 10 ）

受講生の数、授業の進度などにより、割合（%）が若干調整されることがある。
三分の二以上出席しないと試験を受けることができない場合がある。

2018 Syllabus

科 目 名　**法学概論Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山﨑　将文	

テーマ

現代社会と法の関わりを考察する

授業の到達目標

日常生活において、法が多様な分野で関連していることを理解する。分野別に、法の基本的な考え方、制度の仕組み、重要判例等について概観し、法的な基礎知識や思考力を習得する。これにより、社会全体における法の機能を把握する。本講義では、法学概論Ⅰと異なった内容・分野を展開していく。

授業の概要

毎回レジュメと参考資料を配布し、これに沿って解説する。時事の内容は、適宜に講義に加えていく。小テストや課題の扱いについては、講義時に説明する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

常日頃から、法に関係する事件や裁判をニュースで見たり、新聞で読むようにする。また、授業終了後、どのような授業内容であったのかをノートを見ながら復習する。

内　容

第1回　現代社会と法
第2回　人権と法
第3回　社会保障と法
第4回　行政救済と法
第5回　企業活動と法
第6回　労働者と法
第7回　情報と法
第8回　まとめとテスト①（第1回～第7回分）
第9回　契約と法
第10回　住居と法
第11回　財産と法
第12回　金融と法
第13回　事故と法
第14回　家族と法
第15回　まとめとテスト②（第9回～第14回分）

履修上の注意点

皆勤を目指すとともに、授業中は集中してノートをこまめに取るようにする。
新聞・テレビ等の報道に注意を払い、社会問題に留意すること。各制度に関連する法改正や判決について、解説を試みること。

教科書

使用しない

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

法学六法

著者:　池田真朗・宮島司
出版社:　信山社
出版年:　2017年　　ISBN:　9784797257489

成績評価

試験・レポート（ 80 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 10 ）
受講生の数、授業の進度などにより、割合（%）が若干調整されることがある。
三分の二以上出席しないと試験を受けることができない場合がある。

2018 Syllabus

科 目 名　**法学概論Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　近藤　実千代	

テーマ

現代社会と法の関わりを考察する

授業の到達目標

日常生活において、法が多様な分野で関連していることを理解する。分野別に、法の基本的な考え方、制度の仕組み、重要判例等について概観し、法的な基礎知識や思考力を習得する。これにより、社会全体における法の機能を把握する。本講義では、法学概論Ⅰと異なった内容・分野を展開していく。

授業の概要

毎回レジュメと参考資料を配布し、これに沿って解説する。時事の内容は、適宜に講義に加えていく。小テストや課題の扱いについては、講義時に説明する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　現代社会と法
第2回　人権と法
第3回　社会保障と法
第4回　行政救済と法
第5回　企業活動と法
第6回　労働者と法
第7回　情報と法
第8回　まとめとテスト①（第1回～第7回分）
第9回　契約と法
第10回　住居と法
第11回　財産と法
第12回　金融と法
第13回　事故と法
第14回　家族と法
第15回　まとめとテスト②（第9回～第14回分）

履修上の注意点

新聞・テレビ等の報道に注意を払い、社会問題に留意すること。各制度に関連する法改正や判決について、解説を試みること。

教科書

法学六法
著者:
出版社: 信山社
出版年: 2018　　ISBN:

参考書

法と現代社会
著者:　中川淳(編)
出版社: 世界思想社
出版年:　　ISBN:

新・なるほど公法入門
著者:　村上英明・小原清信(編)
出版社: 法律文化社
出版年:　　ISBN:

民事法入門
著者:　野村豊弘
出版社: 有斐閣
出版年:　　ISBN:

aky601f652

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 100 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ ）	

授業中に2回テストを実施し(六法の持込可能)、成績を評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**政治学概論Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田代　和也	

テーマ

政治学に関する基礎知識の習得

授業の到達目標

本講義は、政治学への入門段階において習得しておく必要がある政治的現象や用語を、現代日本政治の具体的な事例の中から、受講生に理解してもらうことを目指す。

授業の概要

政治学を学ぶ入門段階において、理解する必要がある事柄を扱う。主に日本政治の展開の中から、政治アクターや政治学上の基本的概念を説明し、受講生に理解してもらう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　イントロダクション・選挙について
第2回　投票行動・メディアと政治
第3回　政治家
第4回　日本政治史①　～戦後政治と55年体制～
第5回　日本政治史②　～疑似政権交代・55年体制の崩壊～
第6回　政党
第7回　官僚制
第8回　利益団体
第9回　国会（議会）
第10回　政策過程
第11回　首相～強い首相と弱い首相～
第12回　地方自治①～地方自治制度の変遷を中心に～
第13回　地方自治②～地方自治体の政策課題を中心に
第14回　国際政治
第15回　本講義のまとめ
第16回　定期試験

履修上の注意点

教科書

ポリティカル・サイエンス事始め
著者:　伊藤光利
出版社:　有斐閣
出版年:　2012　　ISBN:　9784641183728

参考書

図説世界を変えた50の政治
著者:　アン・パーキンズ著、小林朋則訳
出版社:　原書房
出版年:　2014　　ISBN:　4562049995

政治学大図鑑
著者:　ポール・ケリー著、堀田義太郎監修、豊島実和訳
出版社:　三省堂
出版年:　2014　　ISBN:　4385162263

はじめて学ぶ政治学
著者:　岡崎晴輝、木村俊道
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2008　　ISBN:　4623050548

aky601f710

独裁者のためのハンドブック

著者: ブルース・ブエノ・デ・メスキータ、アラスター・スミス著、四本健二、浅野宜之訳

出版社: 亜紀書房

出版年: 2013 ISBN: 4750513318

政治

著者: ラスウェル著、久保田きぬ子訳

出版社: 岩波書店

出版年: 1959 ISBN: 4000012029

成績評価

試験・レポート（ 100 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）

参加度（ ）

詳細については第一回のイントロダクションで説明する。

2018 Syllabus

科 目 名　**政治学概論Ⅰ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田代　和也	

テーマ

政治学に関する基礎知識の習得

授業の到達目標

本講義は、政治学への入門段階において習得しておく必要がある政治的現象や用語を、現代日本政治の具体的な事例の中から、受講生に理解してもらうことを目指す。

授業の概要

政治学を学ぶ入門段階において、理解する必要がある事柄を扱う。主に日本政治の展開の中から、政治アクターや政治学上の基本的概念を説明し、受講生に理解してもらう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　イントロダクション・選挙について
第2回　投票行動・メディアと政治
第3回　政治家
第4回　日本政治史①　～戦後政治と55年体制～
第5回　日本政治史②　～疑似政権交代・55年体制の崩壊～
第6回　政党
第7回　官僚制
第8回　利益団体
第9回　国会（議会）
第10回　政策過程
第11回　首相～強い首相と弱い首相～
第12回　地方自治①～地方自治制度の変遷を中心に～
第13回　地方自治②～地方自治体の政策課題を中心に
第14回　国際政治
第15回　本講義のまとめ
第16回　定期試験

履修上の注意点

教科書

ポリティカル・サイエンス事始め
著者:　伊藤光利
出版社:　有斐閣
出版年:　2012　　ISBN:　9784641183728

参考書

図説世界を変えた50の政治
著者:　アン・パーキンズ著、小林朋則訳
出版社:　原書房
出版年:　2014　　ISBN:　4562049995

政治学大図鑑
著者:　ポール・ケリー著、堀田義太郎監修、豊島実和訳
出版社:　三省堂
出版年:　2014　　ISBN:　4385162263

はじめて学ぶ政治学
著者:　岡崎晴輝、木村俊道
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2008　　ISBN:　4623050548

aky601f712

独裁者のためのハンドブック

著者: ブルース・ブエノ・デ・メスキータ、アラスター・スミス著、四本健二、浅野宜之訳

出版社: 亜紀書房

出版年: 2013 ISBN: 4750513318

政治

著者: ラスウェル著、久保田きぬ子訳

出版社: 岩波書店

出版年: 1959 ISBN: 4000012029

成績評価

試験・レポート（ 100 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）

参加度（ ）

詳細については第一回のイントロダクションで説明する。

2018 Syllabus

科 目 名　**政治学概論Ⅱ <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田代　和也	

テーマ

政治学体系の理解

授業の到達目標

本講義は、受講生に政治学を体系的に理解してもらい、政治学の概念や理論を自分の言葉で説明してもらうことを目指す。

授業の概要

本講義は、政治学を学ぶ上で、必要な概念や理論について扱う。特に、権力、民主主義、統治機構・地方自治に関する概念について詳しく説明する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　イントロダクション
第2回　民主政治の起源
第3回　民主政治の変容
第4回　福祉と政治
第5回　議院内閣制
第6回　大統領制
第7回　選挙制度①（小選挙区制度と大選挙区制度）
第8回　選挙制度②（比例代表と各国の選挙制度）
第9回　選挙制度③（選挙制度と政策）
第10回　議会制度と政党
第11回　政策過程と官僚・利益集団
第12回　世論とマスメディア
第13回　地方自治①（制度と機能）
第14回　地方自治②（現代行政の課題）
第15回　民主政治のこれから
第16回　定期試験

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

図説世界を変えた50の政治
著者:　アン・パーキンズ著、小林朋則訳
出版社:　原書房
出版年:　2014　　ISBN:　4562049995

政治学大図鑑
著者:　ポール・ケリー著、堀田義太郎監修、豊島実和訳
出版社:　三省堂
出版年:　2014　　ISBN:　4385162263

はじめて学ぶ政治学
著者:　岡崎晴輝、木村俊道
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2001　　ISBN:　4623050548

aky601f850

地政学で世界を読む

著者: ブレジンスキー著、山岡洋一訳

出版社: 日本経済新聞社

出版年: 2003 ISBN: 4532191696

危機の二十年

著者: カー著、原彬久訳

出版社: 岩波書店

出版年: 2011 ISBN: 4003402219

成績評価

試験・レポート（ 100 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

詳細は第一回のイントロダクションで説明する。

2018 Syllabus

科 目 名　**政治学概論Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田代　和也	

テーマ

政治学体系の理解

授業の到達目標

本講義は、受講生に政治学を体系的に理解してもらい、政治学の概念や理論を自分の言葉で説明してもらうことを目指す。

授業の概要

本講義は、政治学を学ぶ上で、必要な概念や理論について扱う。特に、権力、民主主義、統治機構・地方自治に関する概念について詳しく説明する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　イントロダクション
第2回　民主政治の起源
第3回　民主政治の変容
第4回　福祉と政治
第5回　議院内閣制
第6回　大統領制
第7回　選挙制度①（小選挙区制度と大選挙区制度）
第8回　選挙制度②（比例代表と各国の選挙制度）
第9回　選挙制度③（選挙制度と政策）
第10回　議会制度と政党
第11回　政策過程と官僚・利益集団
第12回　世論とマスメディア
第13回　地方自治①（制度と機能）
第14回　地方自治②（現代行政の課題）
第15回　民主政治のこれから
第16回　定期試験

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

図説世界を変えた50の政治
著者:　アン・パーキンズ著、小林朋則訳
出版社:　原書房
出版年:　2014　　ISBN:　4562049995

政治学大図鑑
著者:　ポール・ケリー著、堀田義太郎監修、豊島実和訳
出版社:　三省堂
出版年:　2014　　ISBN:　4385162263

はじめて学ぶ政治学
著者:　岡崎晴輝、木村俊道
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2001　　ISBN:　4623050548

aky601f852

地政学で世界を読む

著者: ブレジンスキー著、山岡洋一訳

出版社: 日本経済新聞社

出版年: 2003 ISBN: 4532191696

危機の二十年

著者: カー著、原彬久訳

出版社: 岩波書店

出版年: 2011 ISBN: 4003402219

成績評価

試験・レポート（ 100 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

詳細は第一回のイントロダクションで説明する。

2018 Syllabus

科 目 名　**民法**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　近藤　実千代	

テーマ

民法に関する基礎知識と初歩的な応用力の習得

授業の到達目標

1. 日常生活の各場面において、民法の関連や位置付けを理解する。2. 法的な思考方法に触れ、多面的な考え方を身につける。
3. 初歩的な問題発見能力と処理能力を身につける。

授業の概要

日常生活の各場面おいて、事例を用いながら、民法の基本的な制度とその背景にある考え方について講義する。講義時には、毎回レジュメや参考資料を配布し、これに沿って講義する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

普段から、新聞・テレビ等の報道に注意を払い、社会問題に留意するよう心掛けておくこと。授業後は、各制度について解説を試み、関連する法改正や判決のニュースがあれば、チェックしておく。

内　　容

第1回　民法の基本原理
第2回　意思表示(詐欺・強迫など)
第3回　未成年者と高齢者の契約
第4回　代理制度
第5回　契約総論
第6回　債務不履行責任
第7回　まとめとテスト①(第1回～第6回)
第8回　債権回収①(物的担保と抵当権)
第9回　債権回収②(人的担保と保証人)
第10回　不法行為責任
第11回　婚姻
第12回　離婚
第13回　親子
第14回　遺言と相続
第15回　まとめとテスト②(第8回～第14回)

履修上の注意点

受講時には、必ず小型の六法を持参すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

民事法入門
著者:　野村 豊弘
出版社:　有斐閣
出版年:　　ISBN:

民法への招待
著者:　池田真朗
出版社:　税務経理協会
出版年:　　ISBN:

新・キーワード民法
著者:　中田邦博・髙嶌英弘
出版社:　法律文化社
出版年:　　ISBN:

aky602d110

成績評価

試験・レポート（ 100 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
授業中に2回テストを実施し(六法の持込可能)、成績を評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**行政法**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小暮 宣雄	

テーマ

行政法に関する基礎知識と初歩的な応用力の習得

授業の到達目標

1.日常生活の各場面において、行政法の関連や位置づけを理解する。
2.現代の行政体制について、しくみを学び、問題意識をもつ。
3.法的な思考方法に触れ、多面的な考え方を身につける。

授業の概要

毎講義レジュメまたは参考資料を配布し、これに沿って講義する。
小テストや課題の扱いについては、適宜に説明する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業の前と後とにかかわらず、法学関係のニュースを丁寧に読むようにし、六法はアプリでもいいので、条文が出てきたら、授業外でも検索して確かめること。小テストの解説と学習の仕方を伝えるようにする。学習時間は公務員試験を受ける学生はより多くする分野。ただし、憲法や民法の基礎が前提であるので、体系的に勉強すること。公務員試験を受験しない学生も行政と関わることは多いし、企業におけるコンプライアンス（法令遵守）のためにも教科書の復習や欠席時における自分自身での学習を行うようにしてください。

内　容

第1回　行政法の領域と基本原理
第2回　行政主体と行政機関
第3回　行政作用の一般理論
第4回　行政活動(1)（行政立法・行政計画）
第5回　行政活動(2)（行政処分の効力）
第6回　行政活動(3)（行政処分の裁量）
第7回　行政活動(4)（行政指導・行政契約）
第8回　まとめとテスト①（第1回～第7回）
第9回　行政による強制手段
第10回　情報公開と個人情報保護
第11回　行政不服審査法
第12回　行政事件訴訟法(1)(訴訟の類型)
第13回　行政事件訴訟法(2)(訴訟要件)
第14回　国家補償制度
第15回　まとめとテスト（第9回～第14回）

履修上の注意点

新聞やテレビ等のニュースに注意を払い、社会問題について留意すること。

教科書

法律を読む技術・学ぶ技術
著者:　吉田利宏
出版社: ダイヤモンド社
出版年: 2016年　　ISBN:　9784478065099

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50 ）　　小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 30 ）
授業中に2回テストを実施し(六法の持込可能)、成績を評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**人権と教育 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　井手　幸喜	

テーマ

授業の到達目標

今日、部落問題、子どもや女性、障害者問題など、多様な人権問題が指摘されているが、相互の関係性も含めてそもそも人権問題とは何か、その基本的認識についての理解をはかり、これからの人権教育のあり方について考える。

授業の概要

日本社会の中で本格的に人権が論じられ始めるのは戦後になってからである。今日、部落問題をはじめとして様々な人権問題が指摘され、問題解決のための取り組みもおこなわれている。教育的な営みとして日本社会はこれまでどんな取り組みをおこなってきたか、主に同和教育の通ってきた道からその成果と課題を示す。かつ、世界人権宣言をはじめとした、普遍性を持つとされる人権の概念をどう受容してきたかも合わせて検討したい。その上でこれからの人権教育の方向性、特に指導する側の能力や態度について明らかにしたい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　世界的な人権の流れ－そもそも人権とは－
第2回　世界的な人権の流れ－人権の概略史－
第3回　明治期、人権なる言葉の導入とその理解
第4回　人権の変容－戦前期まで－
第5回　人権に対する戦後の理解
第6回　人権教育の提唱－国連人権教育10 カ年計画－
第7回　同和問題とは
第8回　同和（融和）教育の軌跡－戦前－
第9回　同和教育の軌跡－地域での独自の取り組み－
第10回 同和教育の軌跡－法の下での成果と課題－
第11回 同和教育の功罪
第12回 人権教育の現状とこれからの教育における人権－提唱されている人権教育－
第13回 人権教育の現状とこれからの教育における人権－その指導にあたって－
第14回 まとめ－教育実践と教材－
第15回 まとめ－教育実践、留意すべきこと－

履修上の注意点

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**人権と教育 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　井手　幸喜	

テーマ

授業の到達目標

今日、部落問題、子どもや女性、障害者問題など、多様な人権問題が指摘されているが、相互の関係性も含めてそもそも人権問題とは何か、その基本的認識についての理解をはかり、これからの人権教育のあり方について考える。

授業の概要

日本社会の中で本格的に人権が論じられ始めるのは戦後になってからである。今日、部落問題をはじめとして様々な人権問題が指摘され、問題解決のための取り組みもおこなわれている。教育的な営みとして日本社会はこれまでどんな取り組みをおこなってきたか、主に同和教育の通ってきた道からその成果と課題を示す。かつ、世界人権宣言をはじめとした、普遍性を持つとされる人権の概念をどう受容してきたかも合わせて検討したい。その上でこれからの人権教育の方向性、特に指導する側の能力や態度について明らかにしたい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　世界的な人権の流れ－そもそも人権とは－
第2回　世界的な人権の流れ－人権の概略史－
第3回　明治期、人権なる言葉の導入とその理解
第4回　人権の変容－戦前期まで－
第5回　人権に対する戦後の理解
第6回　人権教育の提唱－国連人権教育10 カ年計画－
第7回　同和問題とは
第8回　同和（融和）教育の軌跡－戦前－
第9回　同和教育の軌跡－地域での独自の取り組み－
第10回 同和教育の軌跡－法の下での成果と課題－
第11回 同和教育の功罪
第12回 人権教育の現状とこれからの教育における人権－提唱されている人権教育－
第13回 人権教育の現状とこれからの教育における人権－その指導にあたって－
第14回 まとめ－教育実践と教材－
第15回 まとめ－教育実践、留意すべきこと－

履修上の注意点

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**人権と教育 <c>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　井手　幸喜	

テーマ

授業の到達目標

今日、部落問題、子どもや女性、障害者問題など、多様な人権問題が指摘されているが、相互の関係性も含めてそもそも人権問題とは何か、その基本的認識についての理解をはかり、これからの人権教育のあり方について考える。

授業の概要

日本社会の中で本格的に人権が論じられ始めるのは戦後になってからである。今日、部落問題をはじめとして様々な人権問題が指摘され、問題解決のための取り組みもおこなわれている。教育的な営みとして日本社会はこれまでどんな取り組みをおこなってきたか、主に同和教育の通ってきた道からその成果と課題を示す。かつ、世界人権宣言をはじめとした、普遍性を持つとされる人権の概念をどう受容してきたかも合わせて検討したい。その上でこれからの人権教育の方向性、特に指導する側の能力や態度について明らかにしたい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　世界的な人権の流れ－そもそも人権とは－
第2回　世界的な人権の流れ－人権の概略史－
第3回　明治期、人権なる言葉の導入とその理解
第4回　人権の変容－戦前期まで－
第5回　人権に対する戦後の理解
第6回　人権教育の提唱－国連人権教育10 カ年計画－
第7回　同和問題とは
第8回　同和（融和）教育の軌跡－戦前－
第9回　同和教育の軌跡－地域での独自の取り組み－
第10回 同和教育の軌跡－法の下での成果と課題－
第11回 同和教育の功罪
第12回 人権教育の現状とこれからの教育における人権－提唱されている人権教育－
第13回 人権教育の現状とこれからの教育における人権－その指導にあたって－
第14回 まとめ－教育実践と教材－
第15回 まとめ－教育実践、留意すべきこと－

履修上の注意点

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 40 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**国際関係入門**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西山　由理花	

テーマ

国際関係の歴史・分析枠組みと国際社会の「多様性」

授業の到達目標

私たちは「世界の中の日本」で生きている。グローバル化の進展した今日では、ヒト・モノ・カネの移動を身近に感じ、国内のあらゆる事象が国際社会と密接につながっている。
国際問題を考える上で基礎となるものの見方・考え方を身につけることであり、本講義を通して、現代の国際関係について考える力を養うことが本講義の到達目標である。

授業の概要

はじめに、国際関係を理解するために必要な理論的分析枠組みと基本となる歴史的事実を学びながら、国家とはなにかという問いについて考える。それらを踏まえて、国際関係に影響を与える様々なアクター、制度、そしてそうした枠組みから漏れてしまう人々についても知見を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

シラバスに掲載されている参考文献や講義の各回で上げる文献を読み、配付資料で復習を行うこと。
常日頃から、新聞やテレビの報道に関心を持つこと。

内　　容

第1回　ガイダンス― 国際関係論の「理論」
第2回　主権国家システム
第3回　第一次世界大戦と国際規範の変化
第4回　近代的国際関係の成立
第5回　中東世界
第6回　政治分析の基礎概念
第7回　安全保障
第8回　外交
第9回　国際機構
第10回　冷戦という国際システム
第11回　ヨーロッパ統合と地域主義
第12回　「多様性」を考える
第13回　国際社会の課題
第14回　グローバリゼーション
第15回　人権

履修上の注意点

初回のガイダンスで説明します。

教科書

使用しない。授業時に配布する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

国際政治学をつかむ
著者:　村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将
出版社:　有斐閣
出版年:　2015　　ISBN:　9784641177222

国際政治学
著者:　中西寛、石田淳、田所昌幸
出版社:　有斐閣
出版年:　2013　　ISBN:　9784641053786

成績評価

aky602d410

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）
適宜出席をとる。

2018 Syllabus

科 目 名　**行政学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山岸　達矢	

テーマ

行政活動の多面性と社会問題の繋がり

授業の到達目標

・国と自治体の行政活動と社会問題の繋がりについて説明できるようになる。
・行政に関する制度と歴史について理解し、説明できるようになる。
・自治体が行う公共政策の実際について分析し、説明できるようになる。

授業の概要

教科書を中心に進めるが、参考文献と関連するニュースや事例なども参照しながら進める。行政は、変化し続ける社会への対応を迫られており、果たすべき役割は、社会との関係の中に位置づけられる。そのため、行政と外部との関係に着目しながら学んでいく。必要に応じて、実際の現場で活躍する方をゲストスピーカーとして招いたり、現場を訪問することがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　行政とは何か
第3回　議院内閣制と省庁
第4回　団体自治
第5回　住民自治
第6回　行政組織の管理論
第7回　行政計画のあり方
第8回　行財政論
第9回　多様な主体が担う公共サービス
第10回　政策形成過程の課題
第11回　政策評価のあり方
第12回　情報公開の現状と課題
第13回　市民参加の現状と課題
第14回　地方分権と地域内分権
第15回　総論

履修上の注意点

教科書

ホーンブック 基礎行政学[第3版]
著者:　今村都南雄・武藤博己ほか
出版社: 北樹出版
出版年: 2015　　ISBN:

参考書

地方自治講義
著者:　今井照
出版社: 筑摩書房
出版年: 2017　　ISBN:

新版 行政ってなんだろう
著者:　新藤宗幸
出版社: 岩波書店
出版年: 2008　　ISBN:

コミュニティ再生のための地域自治のしくみと実践
著者:　中川幾朗編著
出版社: 学芸出版社
出版年: 2011　　ISBN:

aky602d550

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**くらしと経済**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今久保　幸生	

テーマ

経済現象を認識する手段としての経済学を学ぶ

授業の到達目標

身の回りに始まり国や世界に至るまでの経済現象は、どれも、人々のくらしに密接に関わっている。こうした様々な経済現象を、経済学の概念や思考方法を学習しながら、自分自身で論理的に理解し、かつ考える力を身につける。

授業の概要

まず、現代の社会に生きる私たちになじみの様々な経済現象の内容を知り、その上で、それらの経済現象や、そこから生じる多様な経済問題－地球環境の問題、国際金融の問題、格差の問題など－に、経済学がどのように取り組んでいるかを学ぶ。授業は教科書に即して進められるが、教科書以外の説明も行われる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

教科書の予習・復習は必須である。少なくとも各1時間は費やすこと。課題へのフィードバックは以後の授業中に行う。

内　容

第1回　経済の成長と個人の成長
第2回　TPP－なぜ賛否両論になるのか
第3回　なぜギリシャを日本が助けなければならないのか
第4回　誰が、なぜ貧困なのか
第5回　日本の財政を考える
第6回　「大学生が多すぎる」？
第7回　今の医療でいいのか
第8回　廃棄物の値段はどう決まるか
第9回　イノベーションをどう促すか
第10回　効率と公平について
第11回　需要と供給の世界
第12回　経済全体を丸ごとつかむ！
第13回　社会をデザインする
第14回　増税も国債も同じこと？
第15回　まとめ：自立して生きるための経済学

履修上の注意点

私語は厳禁。部活や就活での欠席は出席扱いとはしない。

教科書

教養としての経済学
著者：　一橋大学経済学部
出版社：有斐閣
出版年：最新版　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 70 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**経営学概論 <eL>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期集中	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　仲田　正機	

テーマ

企業、経営、マネジメントの理論を学び、企業経営の実際を分析する手がかりにする。

授業の到達目標

「会社（企業）が事業を経営する」という基本命題を分析的に理解して、企業経営をめぐる社会の仕組み＝社会システムを理解することが、この科目の目標である。

授業の概要

［メディア授業／全15回］
会社の仕組みを明らかにし、経営のノウハウやスキルについても講義します。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中に示されたキーワード、概念、理論、事例（ケース）について、講義の前後には参考文献やインターネット等で再確認しよう。

内　　容

第1回　はじめに－企業とは何か、会社とは何か、「会社（企業）が事業を経営する」とは？その仕組みを理解する－
第2回　企業における様々な形態について－会社の基本を押さえる－
第3回　企業が営む事業の種類と業態に目を向けよう－自社の営む事業やその業態は、会社のどこで決めるのか－
第4回　企業における一般的な意思決定の仕組みについて
第5回　事業の経営に必要な具体的な仕事（1）―会社の側から見た仕事―
第6回　事業の経営に必要な具体的な仕事（2）―業種と業態、個人の入社から退職まで―
第7回　経営組織の基本を押さえる―職能部門組織と事業部制組織、ラインとスタッフ―
第8回　マネジメントの見方・考え方を知ろう―マネジメント論の源流と主流―
第9回　マネジメントへの工学的アプローチ（「科学的管理法」とその後の発展）
第10回　マネジメントへの心理・社会学的アプローチ（「人間関係論」とその後の発展）
第11回　現代マネジメントの基礎理論―C.I.バーナード『経営者の役割』で示されたこと―
第12回　経営における意思決定の理論―H.A.サイモン『経営行動』で示されたこと―
第13回　経営における個人と組織の関係―H.A.サイモン「貢献と誘因のシステム」が示すもの―
第14回　激変する環境へ適応する戦略的マネジメント、そして競争優位の経営戦略とは？―A.D.チャンドラー、H.I.アンゾフやM.ポーターが示したこと―
第15回　経営の国際化、グローバル化とは何か？―経営の今日的な課題とは？―

履修上の注意点

教科書

テキストは定めません。レジュメを配布して、授業を進めます。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

基礎コース　経営学
著者:　小松　章
出版社:　新世社
出版年:　　ISBN:

イラスト図解　会社のしくみ
著者:　坂田岳史
出版社:　日本実業出版社
出版年:　　ISBN:

現代アメリカ管理論史
著者:　仲田正機
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　　ISBN:

aky701d210

成績評価

試験・レポート（ 100% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**会計学概論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河野　充央	

テーマ

貸借平均の原理と経済活動をマネジメントする会計の役割を学ぶ

授業の到達目標

財務諸表の構造と仕組みを理解する

授業の概要

テキスト以外に，経済記事を活用しながら，常にグローバルビジネスの最前線に目を向けながら講義を進める。スケジュール等において，可能であれば，経営者をゲストスピーカーに招く場合もある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

復習に重点をおいてもらいたい。

内　　容

第1回　ガイダンス 会計的思考について
第2回　財務諸表について
第3回　貸借対照表とは1
第4回　貸借対照表とは2
第5回　貸借対照表とは3
第6回　貸借対照表とは4
第7回　損益計算書とは1
第8回　損益計算書とは2
第9回　損益計算書とは3
第10回　損益計算書とは4
第11回　キャッシュプロ―計算書とは1
第12回　キャッシュプロ―計算書とは2
第13回　財務諸表を読む1
第14回　財務諸表を読む2
第15回　講義全体のまとめ

履修上の注意点

私語は厳に慎んで下さい。他の受講者にとって，これ以上の迷惑はありません。

教科書

これだけは知っておきたい会計の基本と常識
著者:
出版社: フォレスト出版
出版年:　　ISBN:

参考書

グロービズMBAアカウンティング
著者:　グロービズ経営大学院
出版社: ダイヤモンド社
出版年:　　ISBN:

最新財務諸表論
著者:　武田隆二
出版社: 中央経済社
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 40 ）	小テスト （ 10 ）
授業中課題 （ 10 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**福祉とボランティア <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　高原　正興	

テーマ

社会福祉の歴史と住民参加・ボランティアのあり方

授業の到達目標

社会学の一分野としての社会福祉とその歴史を学習してから、住民参加やボランティアの諸形態とその意義・限界を理解する。

授業の概要

社会学の一分野としての「福祉」と「ボランティア」について、基本的な考え方と知識を学び、福祉制度への理解を深める中で、一人ひとりがどのように共生社会づくりに関われるかを考える。また、教育の基本である「人間の尊厳」への気づきと理解を深める。
なお、本科目は教員免許状取得に必須となる「介護等体験」の前提科目に位置づけられている。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　社会学とその一分野としての福祉・社会福祉・ボランティア・生涯教育・社会教育の定義
第2回　社会福祉の歴史（日本の場合1　概要と明治期まで）
第3回　社会福祉の歴史（日本の事例　石井十次と孤児院）
第4回　社会福祉の歴史（日本の場合2　大正期～現在）
第5回　社会福祉の歴史（英国の場合）
第6回　地域社会（学）と地域福祉・社会教育・生涯教育の考え方
第7回　社会学とボランティア活動について（総論）
第8回　社会学とボランティアについて（各論　委嘱ボランティアや教育ボランティア等の活動について）
第9回　子ども夜回りボランティア（地域における実践的ボランティア活動）
第10回 住民参加とは何か（社会学の主要論点）
第11回 夕張市と住民参加（住民参加型のまちづくりにおける現状と課題）
第12回 社会福祉協議会の役割
第13回 山科区社会福祉協議会（地域の福祉力：地域における社会福祉活動について）
第14回 まとめ1（レポート総括と山科区社協からのコメント）
第15回 まとめ2（コミュニティ問題、社協の今後、ボランティア活動）

履修上の注意点

ボランティア体験レポートを課すので、ボランティア受け入れ先について学習・準備すること。

教科書

参考書

新ボランティア学のすすめ
著者：　内海成治・中村安秀編
出版社：昭和堂
出版年：2014　　ISBN：　9784812214183

ボランティアの今を考える
著者：　守本友美・吉田忠彦編
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2013　　ISBN：　9784623066506

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）
授業中課題はレポートとボランティア体験レポートの2種類である。

2018 Syllabus

科 目 名　**福祉とボランティア <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　高原　正興	

テーマ

社会福祉の歴史と住民参加・ボランティアのあり方

授業の到達目標

社会学の一分野としての社会福祉とその歴史を学習してから、住民参加やボランティアの諸形態とその意義・限界を理解する。

授業の概要

社会学の一分野としての「福祉」と「ボランティア」について、基本的な考え方と知識を学び、福祉制度への理解を深める中で、一人ひとりがどのように共生社会づくりに関われるかを考える。また、教育の基本である「人間の尊厳」への気づきと理解を深める。
なお、本科目は教員免許状取得に必須となる「介護等体験」の前提科目に位置づけられている。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　社会学とその一分野としての福祉・社会福祉・ボランティア・生涯教育・社会教育の定義
第2回　社会福祉の歴史（日本の場合1　概要と明治期まで）
第3回　社会福祉の歴史（日本の事例　石井十次と孤児院）
第4回　社会福祉の歴史（日本の場合2　大正期～現在）
第5回　社会福祉の歴史（英国の場合）
第6回　地域社会（学）と地域福祉・社会教育・生涯教育の考え方
第7回　社会学とボランティア活動について（総論）
第8回　社会学とボランティアについて（各論　委嘱ボランティアや教育ボランティア等の活動について）
第9回　子ども夜回りボランティア（地域における実践的ボランティア活動）
第10回 住民参加とは何か（社会学の主要論点）
第11回 夕張市と住民参加（住民参加型のまちづくりにおける現状と課題）
第12回 社会福祉協議会の役割
第13回 山科区社会福祉協議会（地域の福祉力：地域における社会福祉活動について）
第14回 まとめ1（レポート総括と山科区社協からのコメント）
第15回 まとめ2（コミュニティ問題、社協の今後、ボランティア活動）

履修上の注意点

ボランティア体験レポートを課すので、ボランティア受け入れ先について学習・準備すること。

教科書

参考書

新ボランティア学のすすめ
著者：　内海成治・中村安秀編
出版社：昭和堂
出版年：2014　　ISBN：　9784812214183

ボランティアの今を考える
著者：　守本友美・吉田忠彦編
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2013　　ISBN：　9784623066506

成績評価

試験・レポート （ 40 ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20 ）
授業中課題はレポートとボランティア体験レポートの2種類である。

2018 Syllabus

科 目 名　**社会学概論Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　松田 いりあ	

テーマ

現代日本社会の諸問題を社会学理論とデータを参照しながら読み解く

授業の到達目標

現代日本は20 世紀につちかわれた「自明性」の感覚が空洞化し再編される時代を迎えている。私たちが「あたりまえ」と思ってきたことがもはや「あたりまえ」ではない時代に「まとも」に生きることは簡単ではない。この授業ではかつて「あたりまえ」と思われてきた事柄をメタレベルから再検討することによって、21世紀の社会で少しでも「まとも」に生きていく方法をともに模索していく。

授業の概要

自我、家族、コミュニティ、階級・階層、国民国家、グローバル化、情報化など社会学の基本概念の理解を通じて、現代の日常生活を社会学的に理解する方法の習得を目指す。社会学を学習する上での困難のひとつは、社会が空気のような当たり前の存在に思われがちな点にあるが、この授業では、社会の歴史的な形成を明らかにすると同時に、社会の自明性や秩序を守るために私たちには何が求められているのか、という問題意識を身につけることも目標になる

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　はじめに：この授業の概要の説明
第2回　社会学とは何か（1）：社会とは
第3回　社会学とは何か（2）：近代社会とは
第4回　社会学とは何か（3）：現代社会とは
第5回　家族をめぐる社会学（1）：家族を定義することの困難
第6回　家族をめぐる社会学（2）：現代家族をめぐる諸問題
第7回　ジェンダーをめぐる社会学
第8回　自己（自我）をめぐる社会学
第9回　仕事をめぐる社会学
第10回　地域をめぐる社会学
第11回　国家をめぐる社会学
第12回　グローバル化をめぐる社会学
第13回　メディアと情報化をめぐる社会学(1)：メディアの歴史的展開
第14回　メディアと情報化をめぐる社会学(2)：現代社会とメディア
第15回　まとめ：この授業の総括

履修上の注意点

授業中に指示するテキストの該当箇所を読んでおくこと

教科書

社会理論と社会システム
著者：　三本松政之・杉岡直人・武川正吾編著
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2009　　ISBN：9784623053782

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 70 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**社会学概論Ⅰ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松田 いりあ	

テーマ

現代日本社会の諸問題を社会学理論とデータを参照しながら読み解く

授業の到達目標

現代日本は20 世紀につちかわれた「自明性」の感覚が空洞化し再編される時代を迎えている。私たちが「あたりまえ」と思ってきたことがもはや「あたりまえ」ではない時代に「まとも」に生きることは簡単ではない。この授業ではかつて「あたりまえ」と思われてきた事柄をメタレベルから再検討することによって、21世紀の社会で少しでも「まとも」に生きていく方法をともに模索していく。

授業の概要

自我、家族、コミュニティ、階級・階層、国民国家、グローバル化、情報化など社会学の基本概念の理解を通じて、現代の日常生活を社会学的に理解する方法の習得を目指す。社会学を学習する上での困難のひとつは、社会が空気のような当たり前の存在に思われがちな点にあるが、この授業では、社会の歴史的な形成を明らかにすると同時に、社会の自明性や秩序を守るために私たちには何が求められているのか、という問題意識を身につけることも目標になる

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　はじめに：この授業の概要の説明
第2回　社会学とは何か（1）：社会とは
第3回　社会学とは何か（2）：近代社会とは
第4回　社会学とは何か（3）：現代社会とは
第5回　家族をめぐる社会学（1）：家族を定義することの困難
第6回　家族をめぐる社会学（2）：現代家族をめぐる諸問題
第7回　ジェンダーをめぐる社会学
第8回　自己（自我）をめぐる社会学
第9回　仕事をめぐる社会学
第10回　地域をめぐる社会学
第11回　国家をめぐる社会学
第12回　グローバル化をめぐる社会学
第13回　メディアと情報化をめぐる社会学(1)：メディアの歴史的展開
第14回　メディアと情報化をめぐる社会学(2)：現代社会とメディア
第15回　まとめ：この授業の総括

履修上の注意点

授業中に指示するテキストの該当箇所を読んでおくこと

教科書

社会理論と社会システム
著者：　三本松政之・杉岡直人・武川正吾編著
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2009　　ISBN：9784623053782

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（70）
授業中課題（　）	授業中発表等（　）
参加度（30）	

2018 Syllabus

科 目 名　**社会学概論Ⅰ〈c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松田　いりあ	

テーマ

現代日本社会の諸問題を社会学理論とデータを参照しながら読み解く

授業の到達目標

現代日本は20 世紀につちかわれた「自明性」の感覚が空洞化し再編される時代を迎えている。私たちが「あたりまえ」と思ってきたことがもはや「あたりまえ」ではない時代に「まとも」に生きることは簡単ではない。この授業ではかつて「あたりまえ」と思われてきた事柄をメタレベルから再検討することによって、21世紀の社会で少しでも「まとも」に生きていく方法をともに模索していく。

授業の概要

自我、家族、コミュニティ、階級・階層、国民国家、グローバル化、情報化など社会学の基本概念の理解を通じて、現代の日常生活を社会学的に理解する方法の習得を目指す。社会学を学習する上での困難のひとつは、社会が空気のような当たり前の存在に思われがちな点にあるが、この授業では、社会の歴史的な形成を明らかにすると同時に、社会の自明性や秩序を守るために私たちには何が求められているのか、という問題意識を身につけることも目標になる

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　はじめに：この授業の概要の説明
第2回　社会学とは何か（1）：社会とは
第3回　社会学とは何か（2）：近代社会とは
第4回　社会学とは何か（3）：現代社会とは
第5回　家族をめぐる社会学（1）：家族を定義することの困難
第6回　家族をめぐる社会学（2）：現代家族をめぐる諸問題
第7回　ジェンダーをめぐる社会学
第8回　自己（自我）をめぐる社会学
第9回　仕事をめぐる社会学
第10回　地域をめぐる社会学
第11回　国家をめぐる社会学
第12回　グローバル化をめぐる社会学
第13回　メディアと情報化をめぐる社会学(1)：メディアの歴史的展開
第14回　メディアと情報化をめぐる社会学(2)：現代社会とメディア
第15回　まとめ：この授業の総括

履修上の注意点

授業中に指示するテキストの該当箇所を読んでおくこと

教科書

社会理論と社会システム
著者：　三本松政之・杉岡直人・武川正吾編著
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2009　　ISBN：9784623053782

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（70）
授業中課題（　）	授業中発表等（　）
参加度（30）	

2018 Syllabus

科 目 名　**社会学概論Ⅱ <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松田 いりあ	

テーマ

現代日本社会の諸問題に関する社会学的想像力の習得

授業の到達目標

現在の日本では高度経済成長期につちかわれた「自明性」がもたらした副作用ともいうべき問題に対峙している。この授業では社会の「あたりまえ」という感覚の崩壊や空洞化の前に立ちすくむのではなく、新たな「自明性」の再構築あるいはバージョンアップを社会学的な知識と方法を通じて探究する。

授業の概要

近年社会学の研究対象として定着した中・後期親子関係、教育システム、親密性、記憶、情報技術などのテーマについて、それぞれの研究分野の第一人者によるテキストの読解を通じて、社会学的想像力の定着を目指す。企業、行政、コミュニティなどそれぞれの現場でのプロフェッショナルにこそ、日常業務と(社会学的)知識との間を往還が重要であることを授業を通じて実感してもらうことが目標である。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

内　容

第1回　はじめに:この授業の概要の説明
第2回　家族関係の現在
第3回　友人関係の現在
第4回　学校・教育の現在
第5回　親密性の現在
第6回　記憶の現在
第7回　ポピュラー文化の現在(1):ファン・オーディエンスの変容
第8回　ポピュラー文化の現在(2):コンテンツのグローバル化
第9回　情報技術の現在(1):インターネットの文化的前提
第10回　情報技術の現在(2):SNSの可能性と限界
第11回　情報技術の現在(3):アーキテクチャとしての重要性
第12回　現代社会と社会学(1):認識をめぐる問題
第13回　現代社会と社会学(2):実存をめぐる問題
第14回　現代社会と社会学(3):コミュニケーションをめぐる問題
第15回　まとめ:この授業の総括

履修上の注意点

授業中に指示するテキストの該当箇所を読んでおくこと

教科書

社会理論と社会システム
著者:　三本松政之・杉岡直人・武川正吾編著
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2009　　ISBN:　9784623053872

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 70 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**社会学概論Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松田 いりあ	

テーマ

現代日本社会の諸問題に関する社会学的想像力の習得

授業の到達目標

現在の日本では高度経済成長期につちかわれた「自明性」がもたらした副作用ともいうべき問題に対峙している。この授業では社会の「あたりまえ」という感覚の崩壊や空洞化の前に立ちすくむのではなく、新たな「自明性」の再構築あるいはバージョンアップを社会学的な知識と方法を通じて探究する。

授業の概要

近年社会学の研究対象として定着した中・後期親子関係、教育システム、親密性、記憶、情報技術などのテーマについて、それぞれの研究分野の第一人者によるテキストの読解を通じて、社会学的想像力の定着を目指す。企業、行政、コミュニティなどそれぞれの現場でのプロフェッショナルにこそ、日常業務と(社会学的)知識との間を往還が重要であることを授業を通じて実感してもらうことが目標である。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

内　容

第1回　はじめに:この授業の概要の説明
第2回　家族関係の現在
第3回　友人関係の現在
第4回　学校・教育の現在
第5回　親密性の現在
第6回　記憶の現在
第7回　ポピュラー文化の現在(1):ファン・オーディエンスの変容
第8回　ポピュラー文化の現在(2):コンテンツのグローバル化
第9回　情報技術の現在(1):インターネットの文化的前提
第10回　情報技術の現在(2):SNSの可能性と限界
第11回　情報技術の現在(3):アーキテクチャとしての重要性
第12回　現代社会と社会学(1):認識をめぐる問題
第13回　現代社会と社会学(2):実存をめぐる問題
第14回　現代社会と社会学(3):コミュニケーションをめぐる問題
第15回　まとめ:この授業の総括

履修上の注意点

授業中に指示するテキストの該当箇所を読んでおくこと

教科書

社会理論と社会システム
著者:　三本松政之・杉岡直人・武川正吾編著
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2009　　ISBN:　9784623053872

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 70 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <Aa>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　60
履修条件	クラス指定
担 当 者　　熊谷　昭宏	

テーマ

時事問題についての理解を深める

授業の到達目標

日頃、新聞や報道番組で取り上げられている時事問題について、その背景にまで遡って理解を深めていく。

授業の概要

前半は教員による解説、後半がグループワークを中心に講義を進めていく予定である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

随時授業内で指示していく

内　　容

第1回　授業計画の説明
第2回　アメリカ大統領選
第3回　TPP問題
第4回　野党再編
第5回　南シナ海問題
第6回　ISおよびヨーロッパの難民問題
第7回　年金問題
第8回　原発問題
第9回　憲法改正問題
第10回　沖縄普天間基地移設問題
第11回　アベノミックス
第12回　格差問題
第13回　AI
第14回　働き方改革
第15回　まとめ

履修上の注意点

時事問題のトピックは時々刻々と変化するので、授業開始の段階におけるテーマの変更については、あらためて授業内で告知する予定である。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <Ab>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　60
履修条件	クラス指定
担 当 者　　権藤　愛順	

テーマ

時事問題についての理解を深める

授業の到達目標

日頃、新聞や報道番組で取り上げられている時事問題について、その背景にまで遡って理解を深めていく。

授業の概要

前半は教員による解説、後半がグループワークを中心に講義を進めていく予定である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

随時授業内で指示していく

内　　容

第1回　授業計画の説明
第2回　アメリカ大統領選
第3回　TPP問題
第4回　野党再編
第5回　南シナ海問題
第6回　ISおよびヨーロッパの難民問題
第7回　年金問題
第8回　原発問題
第9回　憲法改正問題
第10回　沖縄普天間基地移設問題
第11回　アベノミックス
第12回　格差問題
第13回　AI
第14回　働き方改革
第15回　まとめ

履修上の注意点

時事問題のトピックは時々刻々と変化するので、授業開始の段階におけるテーマの変更については、あらためて授業内で告知する予定である。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <Ac>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　60
履修条件	クラス指定
担 当 者　　禧美　智章	

テーマ

時事問題についての理解を深める

授業の到達目標

日頃、新聞や報道番組で取り上げられている時事問題について、その背景にまで遡って理解を深めていく。

授業の概要

前半は教員による解説、後半がグループワークを中心に講義を進めていく予定である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

随時授業内で指示していく

内　　容

第1回　授業計画の説明
第2回　アメリカ大統領選
第3回　TPP問題
第4回　野党再編
第5回　南シナ海問題
第6回　ISおよびヨーロッパの難民問題
第7回　年金問題
第8回　原発問題
第9回　憲法改正問題
第10回　沖縄普天間基地移設問題
第11回　アベノミックス
第12回　格差問題
第13回　AI
第14回　働き方改革
第15回　まとめ

履修上の注意点

時事問題のトピックは時々刻々と変化するので、授業開始の段階におけるテーマの変更については、あらためて授業内で告知する予定である。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <Ae>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　60
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　章彦	

テーマ

時事問題についての理解を深める

授業の到達目標

日頃、新聞や報道番組で取り上げられている時事問題について、その背景にまで遡って理解を深めていく。

授業の概要

前半は教員による解説、後半がグループワークを中心に講義を進めていく予定である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

随時授業内で指示していく

内　　容

第1回　授業計画の説明
第2回　アメリカ大統領選
第3回　TPP問題
第4回　野党再編
第5回　南シナ海問題
第6回　ISおよびヨーロッパの難民問題
第7回　年金問題
第8回　原発問題
第9回　憲法改正問題
第10回　沖縄普天間基地移設問題
第11回　アベノミックス
第12回　格差問題
第13回　AI
第14回　働き方改革
第15回　まとめ

履修上の注意点

時事問題のトピックは時々刻々と変化するので、授業開始の段階におけるテーマの変更については、あらためて授業内で告知する予定である。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <Ga>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　60
履修条件	クラス指定
担 当 者　　畑山　博史	

テーマ

現役の新聞記者であり、吉本興業所属のテレビコメンテーターによる「生きたニュース」の研究と理解。簡潔明瞭なレポート執筆力の向上。

授業の到達目標

社会、政経、国際、スポーツ、エンタテインメントなどあらゆるジャンルに目配りできる社会性の育成。自己表現力を発揮できるレポート執筆力の育成。

授業の概要

担当者自身が執筆したタイムリーな新聞評論記事をもとにリアルな時事問題を考え、同級生とディスカッションし、自身の意見をまとめる。授業は記事資料配布とレポートまとめが、1週ごとに入れ替わる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業前週に起こったニュースを新聞、テレビ、スマホやパソコンでチェック。自身で興味を持てるテーマを考察しておく。

内　容

第1回　授業計画の説明。受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。第1回教材用記事掲載の新聞配布と内容解説。ﾚﾎﾟｰﾄﾃｰﾏ出題。
第2回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。個々の第1回ﾚﾎﾟｰﾄ内容に添って少人数班分け。ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ後、ﾚﾎﾟｰﾄ仕上げと提出。
第3回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。第2回教材用記事掲載の新聞配布と内容解説。ﾚﾎﾟｰﾄﾃｰﾏ出題。
第4回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。個々の第2回ﾚﾎﾟｰﾄ内容に添って少人数班分け。ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ後、ﾚﾎﾟｰﾄ仕上げと提出。この間に、第1回ﾚﾎﾟｰﾄを個々に返却し、口頭説明。
第5回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。第3回教材用記事掲載の新聞配布と内容解説。ﾚﾎﾟｰﾄﾃｰﾏ出題。
第6回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。個々の第3回ﾚﾎﾟｰﾄ内容に添って少人数班分け。ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ後、ﾚﾎﾟｰﾄ仕上げと提出。この間に、第2回ﾚﾎﾟｰﾄを個々に返却し、口頭説明。
第7回　折り返し点につき、第4回教材用記事掲載の新聞配布と内容解説。ﾚﾎﾟｰﾄﾃｰﾏ出題。短時間に各自でﾚﾎﾟｰﾄをまとめる短時間簡潔執筆のﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ。
第8回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。第5回教材用記事掲載の新聞配布と内容解説。ﾚﾎﾟｰﾄﾃｰﾏ出題。
第9回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。個々の第5回ﾚﾎﾟｰﾄ内容に添って少人数班分け。ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ後、ﾚﾎﾟｰﾄ仕上げと提出。この間に、第3回ﾚﾎﾟｰﾄを個々に返却し、口頭説明。
第10回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。第6回教材用記事掲載の新聞配布と内容解説。ﾚﾎﾟｰﾄﾃｰﾏ出題。
第11回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。個々の第6回ﾚﾎﾟｰﾄ内容に添って少人数班分け。ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ後、ﾚﾎﾟｰﾄ仕上げと提出。この間に、第5回ﾚﾎﾟｰﾄを個々に返却し、口頭説明。
第12回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。第7回教材用記事掲載の新聞配布と内容解説。ﾚﾎﾟｰﾄﾃｰﾏ出題。
第13回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。個々の第7回ﾚﾎﾟｰﾄ内容に添って少人数班分け。ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ後、ﾚﾎﾟｰﾄ仕上げと提出。この間に、第6回ﾚﾎﾟｰﾄを個々に返却し、口頭説明。
第14回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。第8回教材用記事掲載の新聞配布と内容解説。ﾚﾎﾟｰﾄﾃｰﾏ出題。
第15回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。個々の第8回ﾚﾎﾟｰﾄ内容に添って少人数班分け。ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ後、ﾚﾎﾟｰﾄ仕上げと提出。この間に、第7回ﾚﾎﾟｰﾄを個々に返却し、口頭説明。最終回のﾆｭｰｽの捉え方の説明。

履修上の注意点

自分の関心あるｼﾞｬﾝﾙだけでよいから、内容を予習として俯瞰し把握しておくこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 60 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 10 ）	授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <Gb>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　60
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀越　昭夫	

テーマ

現役の新聞記者であり、吉本興業所属のテレビコメンテーターによる「生きたニュース」の研究と理解。簡潔明瞭なレポート執筆力の向上。

授業の到達目標

社会、政経、国際、スポーツ、エンタテインメントなどあらゆるジャンルに目配りできる社会性の育成。自己表現力を発揮できるレポート執筆力の育成。

授業の概要

担当者自身が執筆したタイムリーな新聞評論記事をもとにリアルな時事問題を考え、同級生とディスカッションし、自身の意見をまとめる。授業は記事資料配布とレポートまとめが、1週ごとに入れ替わる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業前週に起こったニュースを新聞、テレビ、スマホやパソコンでチェック。自身で興味を持てるテーマを考察しておく。

内　容

第1回　授業計画の説明。受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。第1回教材用記事掲載の新聞配布と内容解説。ﾚﾎﾟｰﾄﾃｰﾏ出題。
第2回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。個々の第1回ﾚﾎﾟｰﾄ内容に添って少人数班分け。ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ後、ﾚﾎﾟｰﾄ仕上げと提出。
第3回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。第2回教材用記事掲載の新聞配布と内容解説。ﾚﾎﾟｰﾄﾃｰﾏ出題。
第4回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。個々の第2回ﾚﾎﾟｰﾄ内容に添って少人数班分け。ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ後、ﾚﾎﾟｰﾄ仕上げと提出。この間に、第1回ﾚﾎﾟｰﾄを個々に返却し、口頭説明。
第5回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。第3回教材用記事掲載の新聞配布と内容解説。ﾚﾎﾟｰﾄﾃｰﾏ出題。
第6回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。個々の第3回ﾚﾎﾟｰﾄ内容に添って少人数班分け。ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ後、ﾚﾎﾟｰﾄ仕上げと提出。この間に、第2回ﾚﾎﾟｰﾄを個々に返却し、口頭説明。
第7回　折り返し点につき、第4回教材用記事掲載の新聞配布と内容解説。ﾚﾎﾟｰﾄﾃｰﾏ出題。短時間に各自でﾚﾎﾟｰﾄをまとめる短時間簡潔執筆のﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ。
第8回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。第5回教材用記事掲載の新聞配布と内容解説。ﾚﾎﾟｰﾄﾃｰﾏ出題。
第9回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。個々の第5回ﾚﾎﾟｰﾄ内容に添って少人数班分け。ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ後、ﾚﾎﾟｰﾄ仕上げと提出。この間に、第3回ﾚﾎﾟｰﾄを個々に返却し、口頭説明。
第10回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。第6回教材用記事掲載の新聞配布と内容解説。ﾚﾎﾟｰﾄﾃｰﾏ出題。
第11回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。個々の第6回ﾚﾎﾟｰﾄ内容に添って少人数班分け。ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ後、ﾚﾎﾟｰﾄ仕上げと提出。この間に、第5回ﾚﾎﾟｰﾄを個々に返却し、口頭説明。
第12回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。第7回教材用記事掲載の新聞配布と内容解説。ﾚﾎﾟｰﾄﾃｰﾏ出題。
第13回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。個々の第7回ﾚﾎﾟｰﾄ内容に添って少人数班分け。ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ後、ﾚﾎﾟｰﾄ仕上げと提出。この間に、第6回ﾚﾎﾟｰﾄを個々に返却し、口頭説明。
第14回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。第8回教材用記事掲載の新聞配布と内容解説。ﾚﾎﾟｰﾄﾃｰﾏ出題。
第15回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。個々の第8回ﾚﾎﾟｰﾄ内容に添って少人数班分け。ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ後、ﾚﾎﾟｰﾄ仕上げと提出。この間に、第7回ﾚﾎﾟｰﾄを個々に返却し、口頭説明。最終回のﾆｭｰｽの捉え方の説明。

履修上の注意点

自分の関心あるｼﾞｬﾝﾙだけでよいから、内容を予習として俯瞰し把握しておくこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 60 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 10 ）　　授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <Ba>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　60
履修条件	クラス指定
担 当 者　　熊谷　昭宏	

テーマ

時事問題についての理解を深める

授業の到達目標

日頃、新聞や報道番組で取り上げられている時事問題について、その背景にまで遡って理解を深めていく。

授業の概要

前半は教員による解説、後半がグループワークを中心に講義を進めていく予定である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

随時授業内で指示していく

内　　容

第1回　授業計画の説明
第2回　アメリカ大統領選
第3回　TPP問題
第4回　野党再編
第5回　南シナ海問題
第6回　ISおよびヨーロッパの難民問題
第7回　年金問題
第8回　原発問題
第9回　憲法改正問題
第10回　沖縄普天間基地移設問題
第11回　アベノミックス
第12回　格差問題
第13回　AI
第14回　働き方改革
第15回　まとめ

履修上の注意点

時事問題のトピックは時々刻々と変化するので、授業開始の段階におけるテーマの変更については、あらためて授業内で告知する予定である。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <Bb>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　60
履修条件	クラス指定
担 当 者　　権藤　愛順	

テーマ

時事問題についての理解を深める

授業の到達目標

日頃、新聞や報道番組で取り上げられている時事問題について、その背景にまで遡って理解を深めていく。

授業の概要

前半は教員による解説、後半がグループワークを中心に講義を進めていく予定である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

随時授業内で指示していく

内　　容

第1回　授業計画の説明
第2回　アメリカ大統領選
第3回　TPP問題
第4回　野党再編
第5回　南シナ海問題
第6回　ISおよびヨーロッパの難民問題
第7回　年金問題
第8回　原発問題
第9回　憲法改正問題
第10回　沖縄普天間基地移設問題
第11回　アベノミックス
第12回　格差問題
第13回　AI
第14回　働き方改革
第15回　まとめ

履修上の注意点

時事問題のトピックは時々刻々と変化するので、授業開始の段階におけるテーマの変更については、あらためて授業内で告知する予定である。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <Bc>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　60
履修条件	クラス指定
担 当 者　　禧美　智章	

テーマ

時事問題についての理解を深める

授業の到達目標

日頃、新聞や報道番組で取り上げられている時事問題について、その背景にまで遡って理解を深めていく。

授業の概要

前半は教員による解説、後半がグループワークを中心に講義を進めていく予定である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

随時授業内で指示していく

内　　容

第1回　授業計画の説明
第2回　アメリカ大統領選
第3回　TPP問題
第4回　野党再編
第5回　南シナ海問題
第6回　ISおよびヨーロッパの難民問題
第7回　年金問題
第8回　原発問題
第9回　憲法改正問題
第10回　沖縄普天間基地移設問題
第11回　アベノミックス
第12回　格差問題
第13回　AI
第14回　働き方改革
第15回　まとめ

履修上の注意点

時事問題のトピックは時々刻々と変化するので、授業開始の段階におけるテーマの変更については、あらためて授業内で告知する予定である。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <Bd>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　60
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀越　昭夫	

テーマ

時事問題についての理解を深める

授業の到達目標

日頃、新聞や報道番組で取り上げられている時事問題について、その背景にまで遡って理解を深めていく。

授業の概要

前半は教員による解説、後半がグループワークを中心に講義を進めていく予定である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

随時授業内で指示していく

内　　容

第1回　授業計画の説明
第2回　アメリカ大統領選
第3回　TPP問題
第4回　野党再編
第5回　南シナ海問題
第6回　ISおよびヨーロッパの難民問題
第7回　年金問題
第8回　原発問題
第9回　憲法改正問題
第10回　沖縄普天間基地移設問題
第11回　アベノミックス
第12回　格差問題
第13回　AI
第14回　働き方改革
第15回　まとめ

履修上の注意点

時事問題のトピックは時々刻々と変化するので、授業開始の段階におけるテーマの変更については、あらためて授業内で告知する予定である。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <Be>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　60
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　章彦	

テーマ

時事問題についての理解を深める

授業の到達目標

日頃、新聞や報道番組で取り上げられている時事問題について、その背景にまで遡って理解を深めていく。

授業の概要

前半は教員による解説、後半がグループワークを中心に講義を進めていく予定である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

随時授業内で指示していく

内　　容

第1回　授業計画の説明
第2回　アメリカ大統領選
第3回　TPP問題
第4回　野党再編
第5回　南シナ海問題
第6回　ISおよびヨーロッパの難民問題
第7回　年金問題
第8回　原発問題
第9回　憲法改正問題
第10回　沖縄普天間基地移設問題
第11回　アベノミックス
第12回　格差問題
第13回　AI
第14回　働き方改革
第15回　まとめ

履修上の注意点

時事問題のトピックは時々刻々と変化するので、授業開始の段階におけるテーマの変更については、あらためて授業内で告知する予定である。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <Gc>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　60
履修条件	クラス指定
担 当 者　畑山 博史	

テーマ

現役の新聞記者であり、吉本興業所属のテレビコメンテーターによる「生きたニュース」の研究と理解。簡潔明瞭なレポート執筆力の向上。

授業の到達目標

社会、政経、国際、スポーツ、エンタテインメントなどあらゆるジャンルに目配りできる社会性の育成。自己表現力を発揮できるレポート執筆力の育成。

授業の概要

担当者自身が執筆したタイムリーな新聞評論記事をもとにリアルな時事問題を考え、同級生とディスカッションし、自身の意見をまとめる。授業は記事資料配布とレポートまとめが、1週ごとに入れ替わる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業前週に起こったニュースを新聞、テレビ、スマホやパソコンでチェック。自身で興味を持てるテーマを考察しておく。

内　容

第1回　授業計画の説明。受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。第1回教材用記事掲載の新聞配布と内容解説。ﾚﾎﾟｰﾄﾃｰﾏ出題。
第2回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。個々の第1回ﾚﾎﾟｰﾄ内容に添って少人数班分け。ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ後、ﾚﾎﾟｰﾄ仕上げと提出。
第3回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。第2回教材用記事掲載の新聞配布と内容解説。ﾚﾎﾟｰﾄﾃｰﾏ出題。
第4回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。個々の第2回ﾚﾎﾟｰﾄ内容に添って少人数班分け。ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ後、ﾚﾎﾟｰﾄ仕上げと提出。この間に、第1回ﾚﾎﾟｰﾄを個々に返却し、口頭説明。
第5回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。第3回教材用記事掲載の新聞配布と内容解説。ﾚﾎﾟｰﾄﾃｰﾏ出題。
第6回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。個々の第3回ﾚﾎﾟｰﾄ内容に添って少人数班分け。ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ後、ﾚﾎﾟｰﾄ仕上げと提出。この間に、第2回ﾚﾎﾟｰﾄを個々に返却し、口頭説明。
第7回　折り返し点につき、第4回教材用記事掲載の新聞配布と内容解説。ﾚﾎﾟｰﾄﾃｰﾏ出題。短時間に各自でﾚﾎﾟｰﾄをまとめる短時間簡潔執筆のﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ。
第8回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。第5回教材用記事掲載の新聞配布と内容解説。ﾚﾎﾟｰﾄﾃｰﾏ出題。
第9回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。個々の第5回ﾚﾎﾟｰﾄ内容に添って少人数班分け。ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ後、ﾚﾎﾟｰﾄ仕上げと提出。この間に、第3回ﾚﾎﾟｰﾄを個々に返却し、口頭説明。
第10回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。第6回教材用記事掲載の新聞配布と内容解説。ﾚﾎﾟｰﾄﾃｰﾏ出題。
第11回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。個々の第6回ﾚﾎﾟｰﾄ内容に添って少人数班分け。ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ後、ﾚﾎﾟｰﾄ仕上げと提出。この間に、第5回ﾚﾎﾟｰﾄを個々に返却し、口頭説明。
第12回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。第7回教材用記事掲載の新聞配布と内容解説。ﾚﾎﾟｰﾄﾃｰﾏ出題。
第13回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。個々の第7回ﾚﾎﾟｰﾄ内容に添って少人数班分け。ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ後、ﾚﾎﾟｰﾄ仕上げと提出。この間に、第6回ﾚﾎﾟｰﾄを個々に返却し、口頭説明。
第14回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。第8回教材用記事掲載の新聞配布と内容解説。ﾚﾎﾟｰﾄﾃｰﾏ出題。
第15回　受講生からのﾉﾐﾈｰﾄで、前週の主要ﾆｭｰｽ解説。個々の第8回ﾚﾎﾟｰﾄ内容に添って少人数班分け。ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ後、ﾚﾎﾟｰﾄ仕上げと提出。この間に、第7回ﾚﾎﾟｰﾄを個々に返却し、口頭説明。最終回のﾆｭｰｽの捉え方の説明。

履修上の注意点

自分の関心あるｼﾞｬﾝﾙだけでよいから、内容を予習として俯瞰し把握しておくこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ 0 ）

aky701d766

授業中課題 （ 10 ）　　授業中発表等 （ 10 ）

参加度 （ 20 ）

個々のレポート提出の内容と回数、ディスカッション参加度で総合判定し、単独での試験は行いません。

2018 Syllabus

科 目 名　**経済学概論 I**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　金武 創	

テーマ

現代日本経済の諸問題

授業の到達目標

経済学の基礎知識を理解し、専門文献を十分活用できる能力を養う

授業の概要

映像資料や新聞資料を活用した経済学の学びを通して、論理的思考の訓練を行う

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習として、経済新聞や経済週刊誌を読んでおく（1時間）

内　　容

第1回　ミクロとマクロの経済学
第2回　財政と金融
第3回　市場取引の前提としての競争と共感
第4回　経済モデルから考える倫理観・価値観
第5回　経済的意思決定と性差
第6回　差別と偏見のメカニズム
第7回　経済統計と希望学
第8回　中間まとめとチェック試験
第9回　お金と幸福の関係
第10回　社会的豊かさと幸福感
第11回　サービスとイノベーション
第12回　日本組織と心理的契約
第13回　自己決定権とモチベーション
第14回　雇用慣行とメンタルヘルス
第15回　全体の概説とまとめテスト

履修上の注意点

・前年度と授業担当者が交代している。
・毎回、授業課題を課した上で、その内容と提出回数を日常点評価に反映させる。
・教科書は必ず持参する。教科書が手元になくて授業内容を理解できない。授業中課題をできない場合は欠席と同じ扱いとなる。
・履修人数と学生の理解度に応じて、シラバスで予定していた授業内容を変更する場合がある

教科書

やさしい行動経済学
著者:　日本経済新聞社
出版社:　日本経済新聞出版社（日経ビジネス人文庫）
出版年:　2017　　ISBN:　978532198473

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30% ）	小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 30% ）	授業中発表等 （ ）

参加度 （ ）
日常点評価が悪いとD評価に直結することに注意する。

2018 Syllabus

科 目 名　**経済学概論Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　金武 創	

テーマ

理論/歴史/政策から経済学を理解する

授業の到達目標

経済学の基礎知識を理解し、専門文献を十分活用できる能力を養う

授業の概要

映像資料や新聞資料を活用した経済学の規範的検討を中心に、論理的思考の訓練を行う。取得した知識を使って自分の経験をふりかえり、考えを文章化する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習として、経済新聞や経済週刊誌を読んでおく（1時間）

内　容

第1回　ミクロとマクロの経済学
第2回　外部性
第3回　平等と効率
第4回　イノベーション
第5回　独占と寡占
第6回　中間まとめと試験
第7回　性差と経済学
第8回　差別と偏見のメカニズム
第9回　競争と公平な観察者
第10回　行動経済学の基本
第11回　中間まとめと試験
第12回　財政赤字
第13回　金融恐慌
第14回　福祉国家
第15回　全体の概説とまとめテスト

履修上の注意点

・前期開講した「経済学概論Ⅰ」の続きですが、前期受講していなくても構いません。
・毎回授業課題を課した上で、その内容と提出回数を日常点評価に反映させる。
・履修人数と学生の理解度に応じて、シラバスで予定していた授業内容を変更する場合がある

教科書

やさしい行動経済学
著者:　日本経済新聞社
出版社:　日本経済新聞出版社
出版年:　2017　　ISBN:

参考書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 30% ）　　小テスト（ 40% ）
授業中課題（ 30% ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
日常点評価が悪いとD評価に直結することに注意する。

2018 Syllabus

科 目 名　**健康に生きるⅠ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹下　夏美	

テーマ

「健康」「生きる」「健康に生きる」について、グローバルな視点で考える。自分自身の健康に生きるについて考えることはもちろん、家族、コミュニティ、日本国内、世界の健康に生きるについても考える。

授業の到達目標

1.「健康」「生きる」「健康に生きる」とは何かを理解する
2.「健康」「健康に生きる」に対して、関心を持つことができる
3. 健康に生きるために何が必要かについて考える事ができる

授業の概要

「健康」「生きる」「健康に生きる」について、政治、経済、文化、社会、教育、保健医療システム等、様々な視点から現象をとらえ、自分自身の健康に生きるについて考えることはもちろん、家族、コミュニティ、日本国内、世界の健康に生きるについても考える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

「健康」「生きる」「健康に生きる」に関する情報は巷に溢れています。常日頃からアンテナを張り、情報を得、考える習慣を身に着けてください。課題を出す場合は、事前にご連絡いたします。

内　容

第1回　授業ガイダンス、健康の定義とは何か？健康観の歴史的変遷
　　自分自身の健康課題について考えてみよう。
第2回　「生きる」「健康に生きる」とは？
　　「健康に生きる」ための準備(計画)をしてみよう。
第3回　世界の保健の潮流と健康
　　「健康に生きる」ために実際にやってみよう。
第4回　プライマリヘルスケアと健康
　　「健康に生きる」ために実際にやってみよう。
第5回　健康と文化について考える
　　「健康に生きる」ために実際にやってみよう。
第6回　健康格差社会について考える
　　「健康に生きる」ために実際にやってみよう。
第7回　ストレスと健康について考える
　　「健康に生きる」ために実際にやってみよう。
第8回　性と健康について考える
　　「健康に生きる」ための実施事項の中間評価
第9回　母子健康手帳と健康について考える
　　「健康に生きる」ために実際にやってみよう。
第10回　環境と健康について考える
　　「健康に生きる」ために実際にやってみよう。
第11回　食生活と健康について考える
　　「健康に生きる」ために実際にやってみよう。
第12回　喫煙と健康について考える
　　「健康に生きる」ために実際にやってみよう。
第13回　飲酒と健康について考える
　　「健康に生きる」ために実際にやってみよう。
第14回　運動と健康について考える
　　「健康に生きる」ために実際にやってみよう。
第15回　まとめ
　　「健康に生きる」ための実施事項の最終評価をやってみよう。

履修上の注意点

・参加型の授業形態を心掛けますが講義しているときは清聴してください。小さな話し声も他者の集中力への妨げになります。ご協力よろしくお願いします。但し、途中で不明な点がある場合は遠慮なく、お伝えください。
・授業内容の順番は、外部講師の都合に合わせて、変更する場合があります。また、皆さんの興味・関心事項を確認し、一部変更する場合がありますのでご了承ください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

aky801d110

参考書

ヘルスプロモーション
著者: 大西和子編
出版社: ヌーヴェルヒロカワ
出版年: 2017 ISBN:

健康教育論
著者: 宮坂忠夫編
出版社: メヂカルフレンド社
出版年: 2017 ISBN:

公衆衛生がみえる
著者: 医療情報科学研究所
出版社: メディックメディア
出版年: 2018 ISBN:

健康格差社会への処方箋
著者: 近藤克則
出版社: 医学書院
出版年: 2017 ISBN:

「生きる」を考える
著者: 長江弘子
出版社: 日本看護協会出版会
出版年: 2017 ISBN:

改訂版 国際看護学
著者: 柳澤理子
出版社: PILAR PRESS
出版年: 2017 ISBN:

国際保健医療学第3版
著者: 日本国際保健医療学会
出版社: 杏林書院
出版年: 2013 ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 50% ） 小テスト （ ）
授業中課題 （ 40% ） 授業中発表等 （ ）
参加度 （ 10 ）

・授業内容は、ノートをきちんと取っておくこと、また不明な点は自分で図書館の蔵書を利用するなどして、まとめ直し、内容理解に努めるようにしてください。試験の時に大いに活用できると思われます。
・「健康に生きる」ために自分自身で計画、実施、評価を中間、最終とやっていただきます。それも評価の対象となります。自分自身のセルフケアです。楽しくやってみましょう。具体的には授業中に説明します。

2018 Syllabus

科 目 名　**健康に生きるⅡ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西　彰子	

テーマ

健康を食生活の視点から学び、食生活の自己管理能力を高める。

授業の到達目標

1. 健康と栄養の関連を理解する。2. 食の安全性に関心を持つ。3. 健康的な食生活を志向する。

授業の概要

健康を食の視点から考察する。はじめに、栄養素と健康について解説する。次に、最近話題となっている健康情報について考察する。最後に自らの食生活を顧みて健康的な食生活を営むための基本的知識を整理する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日頃から食に関連する事項に関心を持ち、様々な情報を入手してほしい。次に、その事項に対して疑問を持ち、本当にそうなのかよく考えてほしい。その疑問を授業で検証しよう。

内　容

第1回　オリエンテーション　健康と栄養
第2回　健康と栄養　－糖質と糖類－
第3回　健康と栄養　－脂肪－
第4回　健康と栄養　-コレステロールとDHA-
第5回　健康と栄養　－アミノ酸とたんぱく質－
第6回　健康と栄養　－ミネラルと骨密度－
第7回　健康と栄養　－ビタミンと美容－
第8回　健康と食トピックス　－色と食品－
第9回　健康と食トピックス　－腸内細菌と健康－
第10回　健康と食生活　－生活習慣病と食事－
第11回　健康と食生活　－運動と食べ方－
第12回　健康と食生活　－ダイエット－
第13回　健康と食生活　－安全な食事－
第14回　健康と食生活　－自分の食生活を改善しよう－
第15回　まとめ　（小テスト）

履修上の注意点

①積極的に授業に参加すること。②毎回出席することが望ましく、1/3以上の欠席では評価が極めて低い。③授業中のミニ課題も評価対象としていることに留意。④授業中の飲食、私語、スマホ、メールなどのマナー違反は厳禁。

教科書

三訂　栄養と健康
著者:　フードスペシャリスト協会編
出版社:　建帛社
出版年:　2015年　　ISBN:　9784767905396

参考書

成績評価

試験・レポート（０）	小テスト（７０）
授業中課題（２０）	授業中発表等（０）
参加度（１０）	

2018 Syllabus

科 目 名　**健康に生きるⅢ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田中　芳幸	

テーマ

精神的な「健康」（メンタルヘルス）の概要とその維持増進に役立つ心理学・行動科学理論の理解

授業の到達目標

個人の「健康」について精神的な側面（メンタルヘルス）を中心に学ぶ。心理学や医療行動科学の分野で研究されている様々なメンタルヘルスの理論や、その歴史的背景を学び、現代人が健康に生活するうえでのメンタルヘルスの重要性を理解する。健康に関する精神的側面を主軸としながら、個人の心理社会生物学的な健康を包括的に理解する。さらに、メンタルヘルスの維持増進や予防に役立つとされる様々な理論・技法についても考察する。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

教科書や参考文献に示すものなどといった心理学・医療行動科学関連図書や講義中に配布する資料による自学自習、および、講義内容を踏まえての自分自身の心身の健康への考察

内　容

第1回　オリエンテーション 「健康」の捉え方
第2回　メンタルヘルスの関連学問領域
第3回　パーソナリティと健康
第4回　パーソナリティやメンタルヘルスの測定方法
第5回　ストレスのメカニズムと健康
第6回　ストレスへの対処
第7回　様々なストレスマネジメント技法
第8回　社会・集団とメンタルヘルス
第9回　様々な健康関連行動
第10回　健康関連行動と生活習慣
第11回　メンタルヘルスの維持・増進に役立つ諸理論・技法Ⅰ：認知・学習心理学の視点から
第12回　メンタルヘルスの維持・増進に役立つ諸理論・技法Ⅱ：学習・行動心理学の視点から
第13回　メンタルヘルスの維持・増進に役立つ諸理論・技法Ⅲ：精神分析学の視点から
第14回　メンタルヘルスの維持・増進に役立つ諸理論・技法Ⅳ：人間性心理学の視点から
第15回　健康に生きるⅢ（メンタルヘルス）のまとめ

履修上の注意点

授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為を慎むこと。

教科書

医療の行動科学Ⅰ　医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー
著者：　山田　冨美雄（編）
出版社：北大路書房
出版年：　　ISBN：

参考書

健康とくらしに役立つ心理学
著者：　金政　祐司・大竹　恵子
出版社：北樹出版
出版年：　　ISBN：

新版健康心理学
著者：　野口　京子
出版社：金子書房
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ 50% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30% ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 20% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**体育理論 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　新野　守	

テーマ

体育科教育の概要とスポーツ文化の継承・発展を考える

授業の到達目標

①体育科教育の概要を理解する。
②体育やスポーツについて、文化的、社会的、歴史的側面の理解を深める。
③これらを踏まえ、体育やスポーツについて理解する力、仲間と共に考える力、創造する力を身に付ける。

授業の概要

近代スポーツの成立と変遷を、文化的・社会的背景を視野に入れて講義する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日頃から新聞やニュースで体育、スポーツ、健康の記事を読んでおくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　前近代スポーツ
第3回　イギリスのスポーツ教育
第4回　日本の学校体育
第5回　体育科教育
第6回　子どもの遊び
第7回　スポーツ部活動
第8回　職場のスポーツ
第9回　女性のスポーツ
第10回　アメリカのスポーツ
第11回　アジア・アフリカのスポーツ
第12回　プロスポーツ
第13回　オリンピック
第14回　生涯スポーツ
第15回　体育・スポーツの行方

履修上の注意点

新聞やテレビのスポーツ関係の記事や番組を見る時、ひいきのチームや選手の試合や記録の結果ばかりでなく、学校教育との関連で見てみましょう。プロスポーツやオリンピックなどのビッグイベントは、青少年の人間形成にどのような影響を与えているのでしょう。皆さんは、どのような影響を受けてきたのでしょうか。考えてみましょう。状況に応じて、講義テーマは変更されることがあります。

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

スポーツと教育の歴史
著者:　成田十次郎編
出版社:　不味堂出版
出版年:　1988　　ISBN:

スポーツとは何か
著者:　玉木　正之
出版社:　講談社新書
出版年:　1999　　ISBN:

aky801d410

スポーツ文化論シリーズ

著者: 中村敏雄編

出版社: 創文企画

出版年: 1993 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 90 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 10 ）

評価方法は、状況に応じて、変更の可能性もあるので、オリエンテーションや補足説明の時間に確認すること。

2018 Syllabus

科 目 名　**体育理論 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　新野　守	

テーマ

体育科教育の概要とスポーツ文化の継承・発展を考える

授業の到達目標

①体育科教育の概要を理解する。
②体育やスポーツについて、文化的、社会的、歴史的側面の理解を深める。
③これらを踏まえ、体育やスポーツについて理解する力、仲間と共に考える力、創造する力を身に付ける。

授業の概要

近代スポーツの成立と変遷を、文化的・社会的背景を視野に入れて講義する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日頃から新聞やニュースで体育、スポーツ、健康の記事を読んでおくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　前近代スポーツ
第3回　イギリスのスポーツ教育
第4回　日本の学校体育
第5回　体育科教育
第6回　子どもの遊び
第7回　スポーツ部活動
第8回　職場のスポーツ
第9回　女性のスポーツ
第10回 アメリカのスポーツ
第11回 アジア・アフリカのスポーツ
第12回 プロスポーツ
第13回 オリンピック
第14回 生涯スポーツ
第15回 体育・スポーツの行方

履修上の注意点

新聞やテレビのスポーツ関係の記事や番組を見る時、ひいきのチームや選手の試合や記録の結果ばかりでなく、学校教育との関連で見てみましょう。プロスポーツやオリンピックなどのビッグイベントは、青少年の人間形成にどのような影響を与えているのでしょう。皆さんは、どのような影響を受けてきたのでしょうか。考えてみましょう。状況に応じて、講義テーマは変更されることがあります。

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

スポーツと教育の歴史
著者:　成田十次郎編
出版社:　不味堂出版
出版年:　1988　　ISBN:

スポーツとは何か
著者:　玉木　正之
出版社:　講談社新書
出版年:　1999　　ISBN:

aky801d412

スポーツ文化論シリーズ

著者: 中村敏雄編

出版社: 創文企画

出版年: 1993 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 90 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 10 ）

評価方法は、状況に応じて、変更の可能性もあるので、オリエンテーションや補足説明の時間に確認すること。

2018 Syllabus

科 目 名　**体育理論 <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　新野　守	

テーマ

体育科教育の概要とスポーツ文化の継承・発展を考える

授業の到達目標

①体育科教育の概要を理解する。
②体育やスポーツについて、文化的、社会的、歴史的側面の理解を深める。
③これらを踏まえ、体育やスポーツについて理解する力、仲間と共に考える力、創造する力を身に付ける。

授業の概要

近代スポーツの成立と変遷を、文化的・社会的背景を視野に入れて講義する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日頃から新聞やニュースで体育、スポーツ、健康の記事を読んでおくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　前近代スポーツ
第3回　イギリスのスポーツ教育
第4回　日本の学校体育
第5回　体育科教育
第6回　子どもの遊び
第7回　スポーツ部活動
第8回　職場のスポーツ
第9回　女性のスポーツ
第10回　アメリカのスポーツ
第11回　アジア・アフリカのスポーツ
第12回　プロスポーツ
第13回　オリンピック
第14回　生涯スポーツ
第15回　体育・スポーツの行方

履修上の注意点

新聞やテレビのスポーツ関係の記事や番組を見る時、ひいきのチームや選手の試合や記録の結果ばかりでなく、学校教育との関連で見てみましょう。プロスポーツやオリンピックなどのビッグイベントは、青少年の人間形成にどのような影響を与えているのでしょう。皆さんは、どのような影響を受けてきたのでしょうか。考えてみましょう。状況に応じて、講義テーマは変更されることがあります。

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

スポーツと教育の歴史
著者:　成田十次郎編
出版社:　不味堂出版
出版年:　1988　　ISBN:

スポーツとは何か
著者:　玉木　正之
出版社:　講談社新書
出版年:　1999　　ISBN:

aky801d413

スポーツ文化論シリーズ

著者: 中村敏雄編

出版社: 創文企画

出版年: 1993 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 90 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 10 ）

評価方法は、状況に応じて、変更の可能性もあるので、オリエンテーションや補足説明の時間に確認すること。

2018 Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅠ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　　新野　守	

テーマ

生涯スポーツとしてのバレーボール

授業の到達目標

①バレーボールの基礎的な技術・戦術とルールを獲得する。②多様な要求や能力の参加者が協力して練習やゲームの運営ができる。

授業の概要

①性別、能力を均等に班分けして共通の練習とゲームを行う。②第7，8週目で班の再編を行い、新しいチームで練習とゲームを行う。③ゲームは班対抗の他に、男女別や能力別のゲームを行うことがある。④練習はパス、スパイク、ブロック、サーブなどの技術練習の他に腕立て伏せや腹筋などの軽い筋トレや体幹トレーニングを行い技能向上とけがの防止に努める。⑤ゲームは25点のセット制だけでなく、時間制や特定の技能の制限、サーブの限定など状況に応じて変更する。⑥最後に実技テスト（サーブ他）とルールテストを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

規則正しい生活習慣と通学や課外時間などを有効に利用して日常的に運動とストレッチに努めることが望ましい。

内　容

第1回　ガイダンス（授業の目標、内容、方法、評価などの説明）
第2回　チーム編成（体力、運動能力、性別などに基づきチームに分ける）
第3回　練習①基礎的な練習とゲーム（パス、スパイク、ブロック、サーブ）
第4回　練習②基礎的な練習とゲーム（セッターとセンターの固定）
第5回　練習③リーグ戦
第6回　練習④リーグ戦
第7回　練習⑤リーグ戦
第8回　チーム再編
第9回　練習①応用的な練習とゲーム（レシーブ・トス・スパイクの連続）
第10回　練習②応用的な練習とゲーム（速攻とバックアタック、カバーリングとポジションチェンジ）
第11回　練習③リーグ戦
第12回　練習④リーグ戦
第13回　練習⑤リーグ戦
第14回　実技・ルールテスト①
第15回　実技・ルールテスト②

履修上の注意点

教科書

参考書

バレーボール
著者:　小磯靖紀著
出版社: ベースボールマガジン社
出版年: 2014年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）
①参加活動（50）は出席、遅刻、早退、見学、準備片付けなどを含む。②授業中の活動（30）は技能や体力、協調性を含む。③小テスト（20）は実技・ルールテストを含む。

2018 Syllabus

科 目 名　**スポーツコース Ⅰ 〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　　新野　守	

テーマ

生涯スポーツとしてのバレーボール

授業の到達目標

①バレーボールの基礎的な技術・戦術とルールを獲得する。②多様な要求や能力の参加者が協力して練習やゲームの運営ができる。

授業の概要

①性別、能力を均等に班分けして共通の練習とゲームを行う。②第7，8週目で班の再編を行い、新しいチームで練習とゲームを行う。③ゲームは班対抗の他に、男女別や能力別のゲームを行うことがある。④練習はパス、スパイク、ブロック、サーブなどの技術練習の他に腕立て伏せや腹筋などの軽い筋トレや体幹トレーニングを行い技能向上とけがの防止に努める。⑤ゲームは25点のセット制だけでなく、時間制や特定の技能の制限、サーブの限定など状況に応じて変更する。⑥最後に実技テスト（サーブ他）とルールテストを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

規則正しい生活習慣と通学や課外時間などを有効に利用して日常的に運動とストレッチに努めることが望ましい。

内　容

第1回　ガイダンス（授業の目標、内容、方法、評価などの説明）
第2回　チーム編成（体力、運動能力、性別などに基づきチームに分ける）
第3回　練習①基礎的な練習とゲーム（パス、スパイク、ブロック、サーブ）
第4回　練習②基礎的な練習とゲーム（セッターとセンターの固定）
第5回　練習③リーグ戦
第6回　練習④リーグ戦
第7回　練習⑤リーグ戦
第8回　チーム再編
第9回　練習①応用的な練習とゲーム（レシーブ・トス・スパイクの連続）
第10回　練習②応用的な練習とゲーム（速攻とバックアタック、カバーリングとポジションチェンジ）
第11回　練習③リーグ戦
第12回　練習④リーグ戦
第13回　練習⑤リーグ戦
第14回　実技・ルールテスト①
第15回　実技・ルールテスト②

履修上の注意点

教科書

参考書

バレーボール
著者:　小磯靖紀著
出版社: ベースボールマガジン社
出版年: 2014年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）
①参加活動（50）は出席、遅刻、早退、見学、準備片付けなどを含む。②授業中の活動（30）は技能や体力、協調性を含む。③小テスト（20）は実技・ルールテストを含む。

2018 Syllabus

科 目 名　**スポーツコース Ⅰ 〈c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　　新野　守	

テーマ

生涯スポーツとしてのバレーボール

授業の到達目標

①バレーボールの基礎的な技術・戦術とルールを獲得する。②多様な要求や能力の参加者が協力して練習やゲームの運営ができる。

授業の概要

①性別、能力を均等に班分けして共通の練習とゲームを行う。②第7，8週目で班の再編を行い、新しいチームで練習とゲームを行う。③ゲームは班対抗の他に、男女別や能力別のゲームを行うことがある。④練習はパス、スパイク、ブロック、サーブなどの技術練習の他に腕立て伏せや腹筋などの軽い筋トレや体幹トレーニングを行い技能向上とけがの防止に努める。⑤ゲームは25点のセット制だけでなく、時間制や特定の技能の制限、サーブの限定など状況に応じて変更する。⑥最後に実技テスト（サーブ他）とルールテストを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

規則正しい生活習慣と通学や課外時間などを有効に利用して日常的に運動とストレッチに努めることが望ましい。

内　　容

第1回　ガイダンス（授業の目標、内容、方法、評価などの説明）
第2回　チーム編成（体力、運動能力、性別などに基づきチームに分ける）
第3回　練習①基礎的な練習とゲーム（パス、スパイク、ブロック、サーブ）
第4回　練習②基礎的な練習とゲーム（セッターとセンターの固定）
第5回　練習③リーグ戦
第6回　練習④リーグ戦
第7回　練習⑤リーグ戦
第8回　チーム再編
第9回　練習①応用的な練習とゲーム（レシーブ・トス・スパイクの連続）
第10回　練習②応用的な練習とゲーム（速攻とバックアタック、カバーリングとポジションチェンジ）
第11回　練習③リーグ戦
第12回　練習④リーグ戦
第13回　練習⑤リーグ戦
第14回　実技・ルールテスト①
第15回　実技・ルールテスト②

履修上の注意点

教科書

参考書

バレーボール
著者:　小磯靖紀著
出版社: ベースボールマガジン社
出版年: 2014年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 50 ）
①参加活動（50）は出席、遅刻、早退、見学、準備片付けなどを含む。②授業中の活動（30）は技能や体力、協調性を含む。③小テスト（20）は実技・ルールテストを含む。

2018 Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅠ〈d〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宇部　一	

テーマ

スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化。

授業の到達目標

バスケットボール、バレーボールの基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツの継続化による生涯スポーツの必要性を学ぶ。また、レクリエーションスポーツの体験やグループ活動を通してコミュニケーションスキルの向上をはかる。

授業の概要

バスケットボールとバレーボールは全体での基礎練習やリーグ戦形式でのゲームを楽しむ。また、ウォーミングアップも含めて様々な運動や、いくつかのレクリエーションスポーツの体験を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

スポーツ種目に関わるルールや基礎技術等について、各自で事前に学習すること。

内　容

第1回　授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力、健康状態の確認、出席カードの作成など。
第2回　バスケットボールの基礎技術、ハンドリング、パス、シュート、ミニゲーム
第3回　バスケットボールのルールの理解、ゲームの進め方、審判
第4回　バスケットボール、グループ単位での練習、リーグ戦形式でのゲーム1
第5回　バスケットボール、グループ単位での練習、リーグ戦形式でのゲーム2
第6回　バスケットボール、グループ単位での練習、リーグ戦形式でのゲーム3
第7回　レクリエーションスポーツの体験1
第8回　レクリエーションスポーツの体験2
第9回　バレーボールの基礎練習、パス、レシーブ、スパイク等の基礎
第10回　バレーボールのルールの理解、ゲームの進め方、審判
第11回　バレーボール、グループ単位での練習、リーグ戦形式でのゲーム1
第12回　バレーボール、グループ単位での練習、リーグ戦形式でのゲーム2
第13回　バレーボール、グループ単位での練習、リーグ戦形式でのゲーム3
第14回　レクリエーションスポーツの体験3
第15回　レクリエーションスポーツの体験4、レポートの作成

履修上の注意点

積極的に運動ができる服装やシューズを準備すること。体調不良等については必ず申し出ること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 10 ）　　小テスト（ 5 ）
授業中課題（ 5 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 60 ）
授業実施回数の3分の2以上を出席しなければ、成績評価の対象とはしない。

2018 Syllabus

科 目 名　**スポーツコース Ⅰ 〈ラクト〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐々木 雅人	

テーマ

フィットネスクラブでの基礎体力づくり運動とダイエット

授業の到達目標

ラクトスポーツプラザを利用し、厚生労働省におけるヘルスプラン「運動」・「栄養」・「休養」の生涯スポーツの一環として楽しく、正しいフィットネス知識を身に付けます。基礎体力づくり、グループエクササイズ、運動ダイエットプログラムを中心にテーマに沿った授業で健康的なフィットネススポーツを学び実践します。

授業の概要

JR・京阪山科駅前のラクトB　5・6階の「ラクトスポーツプラザ」での授業になる為、キャンパスから移動して17:15～18:45までの時間帯授業になります

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業日時外に京都橘大学生は、JR・京阪山科駅前ラクトスポーツプラザを特別料金で利用できます（学生証提示）『学生生活の手引き』-（課外活動）を参照

内　容

第1回　オリエンテーション: フィットネスを始める前に（運動に適切な服装・靴　水分補給　メディカルチェック）
第2回　ストレッチ実践: 柔軟性の向上と準備・整理体操
第3回　体力・形態測定: 自分の体力は実質何歳でしょう。厚生労働省のデーターとの比較
第4回　マシンジム: オリエンテーション。機器の扱いと利用方法を学ぶ
第5回　ストレッチ理論: ストレッチとは。ラジオ体操との違いは。やわらかいしなやかな体づくり
第6回　ダイエットの為の栄養と理論: 体脂肪とはなんぞや？正しい運動ダイエット。リバウンドについて体脂肪率について
第7回　有酸素運動: 体脂肪を燃焼させるメカニズムについて
第8回　バランスボール＆ストレッチポール：大ボール、ポールを利用して全身筋力バランス向上を行います。筋力アップ、ストレッチ、姿勢改善も目指します。
第9回　無酸素運動: ウェイトトレーニング、部位ひきしめシェイプアップと「基礎代謝熱量」
第10回　自律訓練法: ストレッチと自律訓練法で心身のストレス解消法・眠れない夜に
第11回　マシンジム実践: ジム機器を利用して運動
第12回　腹部ひきしめ体操: 腹筋群、背筋群、コアトレーニング
第13回　ヨガ：紀元前からあった修行です。現代は柔軟、筋力、バランス運動を兼ねた健康運動として普及しました。
第14回　脚部ひきしめ体操: 脚筋群、臀部を強化、スクワット
第15回　マシンジム実践: ジム機器を利用して運動と体脂肪測定

履修上の注意点

実技授業です。出席し身体能力を高めることで単位取得となります。
就職活動、必修セミナーなどで出席することが出来ない場合は『欠席連絡表』を提出のこと。

教科書

教室でハンドアウト（プリント）を配布する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本食品標準成分表
著者:
出版社:　出版社は問いません
出版年:　最新版　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 0 ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 60 ）
（技能20%）（態度20%）

2018 Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅡ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　　新野　守	

テーマ

生涯スポーツとしてのバレーボール

授業の到達目標

①バレーボールの基礎的な技術・戦術とルールを獲得する。②多様な要求や能力の参加者が協力して練習やゲームの運営ができる。

授業の概要

①性別、能力を均等に班分けして共通の練習とゲームを行う。②第7，8週目で班の再編を行い、新しいチームで練習とゲームを行う。③ゲームは班対抗の他に、男女別や能力別のゲームを行うことがある。④練習はパス、スパイク、ブロック、サーブなどの技術練習の他に腕立て伏せや腹筋などの軽い筋トレや体幹トレーニングを行い技能向上とけがの防止に努める。⑤ゲームは25点のセット制だけでなく、時間制や特定の技能の制限、サーブの限定など状況に応じて変更する。⑥最後に実技テスト（サーブ他）とルールテストを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

規則正しい生活習慣と通学や課外時間などを有効に利用して日常的に運動とストレッチに努めることが望ましい。

内　容

第1回　ガイダンス（授業の目標、内容、方法、評価などの説明）
第2回　チーム編成（体力、運動能力、性別などに基づきチームに分ける）
第3回　練習①基礎的な練習とゲーム（パス、スパイク、ブロック、サーブ）
第4回　練習②基礎的な練習とゲーム（セッターとセンターの固定）
第5回　練習③リーグ戦
第6回　練習④リーグ戦
第7回　練習⑤リーグ戦
第8回　チーム再編
第9回　練習①応用的な練習とゲーム（レシーブ・トス・スパイクの連続）
第10回　練習②応用的な練習とゲーム（速攻とバックアタック、カバーリングとポジションチェンジ）
第11回　練習③リーグ戦
第12回　練習④リーグ戦
第13回　練習⑤リーグ戦
第14回　実技・ルールテスト①
第15回　実技・ルールテスト②

履修上の注意点

教科書

参考書

バレーボール
著者:　小磯靖紀著
出版社: ベースボールマガジン社
出版年: 2014年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）
①参加活動（50）は出席、遅刻、早退、見学、準備片付けなどを含む。②授業中の活動（30）は技能や体力、協調性を含む。③小テスト（20）は実技・ルールテストを含む。

2018 Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅡ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　　新野　守	

テーマ

生涯スポーツとしてのバレーボール

授業の到達目標

①バレーボールの基礎的な技術・戦術とルールを獲得する。②多様な要求や能力の参加者が協力して練習やゲームの運営ができる。

授業の概要

①性別、能力を均等に班分けして共通の練習とゲームを行う。②第7，8週目で班の再編を行い、新しいチームで練習とゲームを行う。③ゲームは班対抗の他に、男女別や能力別のゲームを行うことがある。④練習はパス、スパイク、ブロック、サーブなどの技術練習の他に腕立て伏せや腹筋などの軽い筋トレや体幹トレーニングを行い技能向上とけがの防止に努める。⑤ゲームは25点のセット制だけでなく、時間制や特定の技能の制限、サーブの限定など状況に応じて変更する。⑥最後に実技テスト（サーブ他）とルールテストを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

規則正しい生活習慣と通学や課外時間などを有効に利用して日常的に運動とストレッチに努めることが望ましい。

内　容

第1回　ガイダンス（授業の目標、内容、方法、評価などの説明）
第2回　チーム編成（体力、運動能力、性別などに基づきチームに分ける）
第3回　練習①基礎的な練習とゲーム（パス、スパイク、ブロック、サーブ）
第4回　練習②基礎的な練習とゲーム（セッターとセンターの固定）
第5回　練習③リーグ戦
第6回　練習④リーグ戦
第7回　練習⑤リーグ戦
第8回　チーム再編
第9回　練習①応用的な練習とゲーム（レシーブ・トス・スパイクの連続）
第10回　練習②応用的な練習とゲーム（速攻とバックアタック、カバーリングとポジションチェンジ）
第11回　練習③リーグ戦
第12回　練習④リーグ戦
第13回　練習⑤リーグ戦
第14回　実技・ルールテスト①
第15回　実技・ルールテスト②

履修上の注意点

教科書

参考書

バレーボール
著者:　小磯靖紀著
出版社: ベースボールマガジン社
出版年: 2014年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）
①参加活動（50）は出席、遅刻、早退、見学、準備片付けなどを含む。②授業中の活動（30）は技能や体力、協調性を含む。③小テスト（20）は実技・ルールテストを含む。

2018 Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅡ〈c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　　新野　守	

テーマ

生涯スポーツとしてのバレーボール

授業の到達目標

①バレーボールの基礎的な技術・戦術とルールを獲得する。②多様な要求や能力の参加者が協力して練習やゲームの運営ができる。

授業の概要

①性別、能力を均等に班分けして共通の練習とゲームを行う。②第7，8週目で班の再編を行い、新しいチームで練習とゲームを行う。③ゲームは班対抗の他に、男女別や能力別のゲームを行うことがある。④練習はパス、スパイク、ブロック、サーブなどの技術練習の他に腕立て伏せや腹筋などの軽い筋トレや体幹トレーニングを行い技能向上とけがの防止に努める。⑤ゲームは25点のセット制だけでなく、時間制や特定の技能の制限、サーブの限定など状況に応じて変更する。⑥最後に実技テスト（サーブ他）とルールテストを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

規則正しい生活習慣と通学や課外時間などを有効に利用して日常的に運動とストレッチに努めることが望ましい。

内　容

第1回　ガイダンス（授業の目標、内容、方法、評価などの説明）
第2回　チーム編成（体力、運動能力、性別などに基づきチームに分ける）
第3回　練習①基礎的な練習とゲーム（パス、スパイク、ブロック、サーブ）
第4回　練習②基礎的な練習とゲーム（セッターとセンターの固定）
第5回　練習③リーグ戦
第6回　練習④リーグ戦
第7回　練習⑤リーグ戦
第8回　チーム再編
第9回　練習①応用的な練習とゲーム（レシーブ・トス・スパイクの連続）
第10回　練習②応用的な練習とゲーム（速攻とバックアタック、カバーリングとポジションチェンジ）
第11回　練習③リーグ戦
第12回　練習④リーグ戦
第13回　練習⑤リーグ戦
第14回　実技・ルールテスト①
第15回　実技・ルールテスト②

履修上の注意点

教科書

参考書

バレーボール
著者:　小磯靖紀著
出版社: ベースボールマガジン社
出版年: 2014年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）
①参加活動（50）は出席、遅刻、早退、見学、準備片付けなどを含む。②授業中の活動（30）は技能や体力、協調性を含む。③小テスト（20）は実技・ルールテストを含む。

2018 Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅡ〈d〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宇部　一	

テーマ

スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化。

授業の到達目標

バドミントン、卓球の基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツの継続化による生涯スポーツの必要性を学ぶ。また、レクリエーションスポーツの体験やグループ活動を通してコミュニケーションスキルの向上をはかる。

授業の概要

バドミントンと卓球は全体での基礎練習やシングルス、ダブルスのリーグ戦形式でのゲームを楽しむ。また、ウォーミングアップも含めて様々な運動や、いくつかのレクリエーションスポーツの体験を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

スポーツ種目に関わるルールや基礎技術等について、各自で事前に学習すること。

内　容

第1回　授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力、健康状態の確認、出席カードの作成など。
第2回　バドミントンの基礎技術、ハイクリア、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ等
第3回　バドミントンのルールの理解、ダブルスゲームの進め方
第4回　バドミントンダブルス、リーグ戦形式でのゲーム1
第5回　バドミントンダブルス、リーグ戦形式でのゲーム2
第6回　バドミントンシングルス、リーグ戦形式でのゲーム
第7回　レクリエーションスポーツの体験1
第8回　レクリエーションスポーツの体験2
第9回　レクリエーションスポーツの体験3
第10回 レクリエーションスポーツの体験4
第11回 卓球の基礎技術、フォアハンド、バックハンド基本打ち、
第12回 卓球の基礎技術、ルールの理解、ダブルスゲームの進め方
第13回 卓球ダブルス、リーグ戦形式でのゲーム1
第14回 卓球ダブルス、リーグ戦形式でのゲーム2
第15回 卓球シングルス、リーグ戦形式でのゲーム

履修上の注意点

積極的に運動ができる服装やシューズを準備すること。体調不良等については必ず申し出ること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 10 ）　　小テスト（ 5 ）
授業中課題（ 5 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 60 ）
授業実施回数の3分の2以上を出席しなければ、成績評価の対象とはしない。

2018 Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅡ〈ラクト〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐々木　雅人	

テーマ

フィットネスクラブでの基礎体力づくり運動と柔軟性の向上

授業の到達目標

ラクトスポーツプラザを利用し、厚生労働省におけるヘルスプラン「運動」・「栄養」・「休養」の生涯スポーツの一環として楽しく、正しいフィットネス知識を身に付けます。基礎体力づくり、グループエクササイズ、柔軟性向上プログラムを中心にテーマに沿った授業で健康的なフィットネススポーツを学び実践します。

授業の概要

JR・京阪山科駅前のラクトB　5・6階の「ラクトスポーツプラザ」での授業になる為、キャンパスから移動して17:15～18:45までの時間帯授業になります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業日時外に京都橘大学生は、JR・京阪山科駅前ラクトスポーツプラザを特別料金で利用できます（学生証提示）『学生生活の手引き』-（課外活動）を参照

内　容

第1回　オリエンテーション フィットネスを始める前に（運動に適切な服装・靴　水分補給　メディカルチェック）
第2回　ストレッチⅠ 柔軟性の向上と準備・整理体操
第3回　体力・形態測定 ：自分の体力は実質何歳でしょう。厚生労働省のデーターとの比較
第4回　マシンジム ：オリエンテーション。機器の扱いと利用方法を学ぶ
第5回　ストレッチ理論：ストレッチとは。ラジオ体操との違いは。柔らかい、しなやかな体づくり
第6回　ストレッチⅡ：スタティックストレッチとは。その他のストレッチ方法。体前屈で良い結果をだす
第7回　マシンジム実践：ジム機器を利用して運動
第8回　バランスボール＆ストレッチポール：大ボール、ポールを利用して全身筋力バランス向上を行います。筋力アップ、ストレッチ、姿勢改善も目指します。
第9回　ストレッチⅢ：ストレッチで柔軟性を向上する
第10回　ペアストレッチ：ペアになってストレッチを実践する
第11回　自律訓練法：ストレッチと自律訓練法で心身のストレス解消法・眠れない夜に
第12回　ボールストレッチ：バランスボールを使ったストレッチ
第13回　ヨガ：紀元前からあった修行です。現代は柔軟、筋力、バランス運動を兼ねた健康運動として普及しました。
第14回　肩こり・腰痛体操：柔軟・筋力不足の肩こり、腰痛を解消する
第15回　マシンジム実践：ジム機器を利用して運動

履修上の注意点

実技授業です。出席し身体能力を高めることで単位取得となります。 就職活動、必修セミナーなどで出席することが出来ない場合は『欠席連絡表』を提出のこと。

教科書

教室でハンドアウト（プリント）を配布する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

日本食品標準成分表
著者：
出版社：出版社は問いません
出版年：最新版　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（0）　　小テスト（0）
授業中課題（0）　　授業中発表等（0）
参加度（60）
（技能20%）（態度20%）

2018 Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅢ 〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宇部　一	

テーマ

スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化（※2011年度以前入学生は2単位です。）

授業の到達目標

バレーボールとバスケットボールの基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。

授業の概要

バレーボール、バスケットボール両種目ともに全体での基礎練習から始め、グループ単位での練習を行い、リーグ戦形式でゲームを楽しむ。バレーボールは6人制を基本に男女混合のチーム構成で行う。バスケットボールは男女別とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通した情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。

内　容

第1回　授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認など
第2回　バレーボールの基礎技能（パス、サービス）
第3回　バレーボールの基礎技能（サーブレシーブ、スパイク）、ミニゲーム
第4回　グルーピング、チームでの練習の取り組み
第5回　リーグ戦形式でのゲーム（ルールの確認と審判法について）
第6回　リーグ戦形式でのゲーム（フォーメーションに関わるチーム練習）
第7回　リーグ戦形式でのゲーム（チーム力の分析と反省）
第8回　バレーボールの基礎的なスキルテスト、まとめ
第9回　バスケットボールの基礎技能（ボールハンドリング）
第10回　バスケットボールの基礎技能（シュート、ドリブル、パス）、ミニゲーム
第11回　グルーピング、チームでの練習の取り組み
第12回　リーグ戦形式でのゲーム（ルールの確認と審判法について）
第13回　リーグ戦形式でのゲーム（組織的なディフェンスの活用）
第14回　リーグ戦形式でのゲーム（チーム力の分析と反省）
第15回　バスケットボールの基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ

履修上の注意点

積極的に運動に取り組める服装、シューズ等を準備すること。体調のすぐれないときは必ず申し出ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 10 ）　　小テスト （ 5 ）
授業中課題 （ 5 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 60 ）
授業実施回数の3分の2以上出席しないと成績評価の対象としない。

2018 Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅢ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宇部　一	

テーマ

スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化（※2011年度以前入学生は2単位です。）

授業の到達目標

バレーボールとバスケットボールの基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。

授業の概要

バレーボール、バスケットボール両種目ともに全体での基礎練習から始め、グループ単位での練習を行い、リーグ戦形式でゲームを楽しむ。バレーボールは6人制を基本に男女混合のチーム構成で行う。バスケットボールは男女別とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通した情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。

内　容

第1回　授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認など
第2回　バレーボールの基礎技能（パス、サービス）
第3回　バレーボールの基礎技能（サーブレシーブ、スパイク）、ミニゲーム
第4回　グルーピング、チームでの練習の取り組み
第5回　リーグ戦形式でのゲーム（ルールの確認と審判法について）
第6回　リーグ戦形式でのゲーム（フォーメーションに関わるチーム練習）
第7回　リーグ戦形式でのゲーム（チーム力の分析と反省）
第8回　バレーボールの基礎的なスキルテスト、まとめ
第9回　バスケットボールの基礎技能（ボールハンドリング）
第10回　バスケットボールの基礎技能（シュート、ドリブル、パス）、ミニゲーム
第11回　グルーピング、チームでの練習の取り組み
第12回　リーグ戦形式でのゲーム（ルールの確認と審判法について）
第13回　リーグ戦形式でのゲーム（組織的なディフェンスの活用）
第14回　リーグ戦形式でのゲーム（チーム力の分析と反省）
第15回　バスケットボールの基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ

履修上の注意点

積極的に運動に取り組める服装、シューズ等を準備すること。体調のすぐれないときは必ず申し出ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 10 ）	小テスト （ 5 ）
授業中課題 （ 5 ）	授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 60 ）

授業実施回数の3分の2以上出席しないと成績評価の対象としない。

2018 Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅢ <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宇部　一	

テーマ

スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化（※2011年度以前入学生は2単位です。）

授業の到達目標

バレーボールとバスケットボールの基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。

授業の概要

バレーボール、バスケットボール両種目ともに全体での基礎練習から始め、グループ単位での練習を行い、リーグ戦形式でゲームを楽しむ。バレーボールは6人制を基本に男女混合のチーム構成で行う。バスケットボールは男女別とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通した情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。

内　容

第1回　授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認など
第2回　バレーボールの基礎技能（パス、サービス）
第3回　バレーボールの基礎技能（サーブレシーブ、スパイク）、ミニゲーム
第4回　グルーピング、チームでの練習の取り組み
第5回　リーグ戦形式でのゲーム（ルールの確認と審判法について）
第6回　リーグ戦形式でのゲーム（フォーメーションに関わるチーム練習）
第7回　リーグ戦形式でのゲーム（チーム力の分析と反省）
第8回　バレーボールの基礎的なスキルテスト、まとめ
第9回　バスケットボールの基礎技能（ボールハンドリング）
第10回　バスケットボールの基礎技能（シュート、ドリブル、パス）、ミニゲーム
第11回　グルーピング、チームでの練習の取り組み
第12回　リーグ戦形式でのゲーム（ルールの確認と審判法について）
第13回　リーグ戦形式でのゲーム（組織的なディフェンスの活用）
第14回　リーグ戦形式でのゲーム（チーム力の分析と反省）
第15回　バスケットボールの基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ

履修上の注意点

積極的に運動に取り組める服装、シューズ等を準備すること。体調のすぐれないときは必ず申し出ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 10 ）　　小テスト（ 5 ）
授業中課題（ 5 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 60 ）
授業実施回数の3分の2以上出席しないと成績評価の対象としない。

2018 Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅢ 〈ラクト〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐々木　雅人	

テーマ

フィットネスクラブでの基礎体力づくり運動と柔軟性の向上

授業の到達目標

ラクトスポーツプラザを利用し、厚生労働省におけるヘルスプラン「運動」・「栄養」・「休養」の生涯スポーツの一環として楽しく、正しいフィットネス知識を身に付けます。基礎体力づくり、グループエクササイズ、柔軟性向上プログラムを中心にテーマに沿った授業で健康的なフィットネススポーツを学び実践します。

授業の概要

JR・京阪山科駅前のラクトB　5・6階の「ラクトスポーツプラザ」での授業になる為、キャンパスから移動して17:15～18:45までの時間帯授業になります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業日時外に京都橘大学生は、JR・京阪山科駅前ラクトスポーツプラザを特別料金で利用できます（学生証提示）『学生生活の手引き』-（課外活動）を参照

内　　容

第1回　オリエンテーション フィットネスを始める前に（運動に適切な服装・靴　水分補給　メディカルチェック）
第2回　ストレッチⅠ 柔軟性の向上と準備・整理体操
第3回　体力・形態測定 ：自分の体力は実質何歳でしょう。厚生労働省のデーターとの比較
第4回　マシンジム ：オリエンテーション。機器の扱いと利用方法を学ぶ
第5回　ストレッチ理論：ストレッチとは。ラジオ体操との違いは。やわらかいしなやかな体づくり
第6回　ストレッチⅡ：スタティックストレッチとは。その他のストレッチ方法。体前屈で良い結果をだす
第7回　マシンジム実践：ジム機器を利用して運動
第8回　バランスボール＆ストレッチポール：大ボール、ポールを利用して全身筋力バランス向上を行います。筋力アップ、ストレッチ、姿勢改善も目指します。
第9回　ストレッチⅢ：ストレッチで柔軟性を向上する
第10回　ペアストレッチ：ペアになってストレッチを実践する
第11回　自律訓練法：ストレッチと自律訓練法で心身のストレス解消法・眠れない夜に
第12回　ボールストレッチ：バランスボールを使ったストレッチ
第13回　ヨガ：紀元前からあった修行です。現代は柔軟、筋力、バランス運動を兼ねた健康運動として普及しました。
第14回　肩こり・腰痛体操：柔軟・筋力不足の肩こり、腰痛を解消する
第15回　マシンジム実践：ジム機器を利用して運動

履修上の注意点

実技授業です。出席し身体能力を高めることで単位取得となります。 就職活動、必修セミナーなどで出席することが出来ない場合は『欠席連絡表』を提出のこと。

教科書

教室でハンドアウト（プリント）を配布する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

日本食品標準成分表
著者：
出版社：出版社は問いません
出版年：最新版　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（0）　　小テスト（0）
授業中課題（0）　　授業中発表等（0）
参加度（60）
（技能20%）（態度20%）

2018 Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅣ 〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宇部　一	

テーマ

スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化（※2011年度以前入学生は2単位です。）

授業の到達目標

バドミントンと卓球の基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。

授業の概要

バドミントンと卓球について各7時間行う。それぞれの種目の基本的な技術練習とルールの理解から始め、後半はシングルスおよびダブルスでのリーグ戦形式でのゲームを中心に行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通した情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。

内　容

第1回　授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認。
第2回　バドミントンの基礎技能練習（ハイクリア、スマッシュ、ヘアピンなど）
第3回　バドミントンの基礎技能練習（ドロップ、ドライブ、サービスなど）
第4回　シングルスのルールの理解、リーグ戦形式ゲーム
第5回　シングルスの戦術とリーグ戦形式ゲーム
第6回　ダブルスのルールの理解と基礎練習、ルールの理解
第7回　ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム、戦術
第8回　ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム（ミックスダブルス、チーム対抗など）
第9回　卓球の基礎技術練習（フォアハンドの基本、バックショートなど）
第10回　卓球の基礎技術練習（サービスの打ち分け、ドライブ、カットの理解）
第11回　シングルスのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム
第12回　ダブルスのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム
第13回　ダブルスの戦術の理解とリーグ戦形式でのゲーム
第14回　チーム対抗形式でのゲーム
第15回　卓球の基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ

履修上の注意点

積極的に運動に取り組める服装・シューズ等を準備すること。体調がすぐれないときは必ず申し出ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 10 ）　　小テスト（ 5 ）
授業中課題（ 5 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 60 ）
授業実施回数の3分の2以上の出席がないと成績評価の対象としない。

2018 Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅣ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宇部　一	

テーマ

スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化（※2011年度以前入学生は2単位です。）

授業の到達目標

バドミントンと卓球の基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。

授業の概要

バドミントンと卓球について各7時間行う。それぞれの種目の基本的な技術練習とルールの理解から始め、後半はシングルスおよびダブルスでのリーグ戦形式でのゲームを中心に行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通した情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。

内　容

第1回　授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認。
第2回　バドミントンの基礎技能練習（ハイクリア、スマッシュ、ヘアピンなど）
第3回　バドミントンの基礎技能練習（ドロップ、ドライブ、サービスなど）
第4回　シングルスのルールの理解、リーグ戦形式ゲーム
第5回　シングルスの戦術とリーグ戦形式ゲーム
第6回　ダブルスのルールの理解と基礎練習、ルールの理解
第7回　ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム、戦術
第8回　ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム（ミックスダブルス、チーム対抗など）
第9回　卓球の基礎技術練習（フォアハンドの基本、バックショートなど）
第10回　卓球の基礎技術練習（サービスの打ち分け、ドライブ、カットの理解）
第11回　シングルスのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム
第12回　ダブルスのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム
第13回　ダブルスの戦術の理解とリーグ戦形式でのゲーム
第14回　チーム対抗形式でのゲーム
第15回　卓球の基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ

履修上の注意点

積極的に運動に取り組める服装・シューズ等を準備すること。体調がすぐれないときは必ず申し出ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 10 ）　　小テスト（ 5 ）
授業中課題（ 5 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 60 ）
授業実施回数の3分の2以上の出席がないと成績評価の対象としない。

2018 Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅣ <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宇部　一	

テーマ

スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化（※2011年度以前入学生は2単位です。）

授業の到達目標

バドミントンと卓球の基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。

授業の概要

バドミントンと卓球について各7時間行う。それぞれの種目の基本的な技術練習とルールの理解から始め、後半はシングルスおよびダブルスでのリーグ戦形式でのゲームを中心に行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通した情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。

内　容

第1回　授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認。
第2回　バドミントンの基礎技能練習（ハイクリア、スマッシュ、ヘアピンなど）
第3回　バドミントンの基礎技能練習（ドロップ、ドライブ、サービスなど）
第4回　シングルスのルールの理解、リーグ戦形式ゲーム
第5回　シングルスの戦術とリーグ戦形式ゲーム
第6回　ダブルスのルールの理解と基礎練習、ルールの理解
第7回　ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム、戦術
第8回　ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム（ミックスダブルス、チーム対抗など）
第9回　卓球の基礎技術練習（フォアハンドの基本、バックショートなど）
第10回　卓球の基礎技術練習（サービスの打ち分け、ドライブ、カットの理解）
第11回　シングルスのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム
第12回　ダブルスのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム
第13回　ダブルスの戦術の理解とリーグ戦形式でのゲーム
第14回　チーム対抗形式でのゲーム
第15回　卓球の基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ

履修上の注意点

積極的に運動に取り組める服装・シューズ等を準備すること。体調がすぐれないときは必ず申し出ること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 10 ）	小テスト （ 5 ）
授業中課題 （ 5 ）	授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 60 ）

授業実施回数の3分の2以上の出席がないと成績評価の対象としない。

2018 Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅣ 〈ラクト〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐々木　雅人	

テーマ

フィットネスクラブでの基礎体力づくり運動とダイエット

授業の到達目標

ラクトスポーツプラザを利用し、厚生労働省におけるヘルスプラン「運動」・「栄養」・「休養」の生涯スポーツの一環として楽しく、正しいフィットネス知識を身に付けます。基礎体力づくり、グループエクササイズ、運動ダイエットプログラムを中心にテーマに沿った授業で健康的なフィットネススポーツを学び実践します。

授業の概要

JR山科駅前のラクトB　5・6階の「ラクトスポーツプラザ」での授業になる為、キャンパスから移動して17:15～18:45までの時間帯授業になります

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業日時外に京都橘大学生は、JR・京阪山科駅前ラクトスポーツプラザを特別料金で利用できます（学生証提示）『学生生活の手引き』-（課外活動）を参照

内　容

第1回　オリエンテーション：フィットネスを始める前に（運動に適切な服装・靴　水分補給　メディカルチェック）
第2回　ストレッチ実践：柔軟性の向上と準備・整理体操
第3回　体力・形態測定：自分の体力は実質何歳でしょう。厚生労働省のデーターとの比較
第4回　マシンジム：オリエンテーション。機器の扱いと利用方法を学ぶ
第5回　ストレッチ理論：ストレッチとは。ラジオ体操との違いは。柔らかい、しなやかな体づくり
第6回　ダイエットの為の栄養と理論 ：体脂肪とはなんぞや？正しい運動ダイエット。リバウンドについて体脂肪率について
第7回　有酸素運動：体脂肪を燃焼させるメカニズムについて
第8回　バランスボール＆ストレッチポール：大ボール、ポールを利用して全身筋力バランス向上を行います。筋力アップ、ストレッチ、姿勢改善も目指します。。
第9回　無酸素運動 ：ウェイトトレーニング、部位ひきしめシェイプアップと「基礎代謝熱量」
第10回 自律訓練法：ストレッチと自律訓練法で心身のストレス解消法・眠れない夜に
第11回 ヨガ：紀元前からあった修行です。現代は柔軟、筋力、バランス運動を兼ねた健康運動として普及しました。
第12回 マシンジム実践：ジム機器を利用して運動
第13回 腹部ひきしめ体操：腹筋群、背筋群、コアトレーニング
第14回 脚部ひきしめ体操：脚筋群、臀部を強化、スクワット
第15回 マシンジム実践：ジム機器を利用して運動。体脂肪測定

履修上の注意点

実技授業です。出席し身体能力を高めることで単位取得となります。 就職活動、必修セミナーなどで出席することが出来ない場合は『欠席連絡表』を提出のこと。

教科書

教室でハンドアウト（プリント）を配布する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

日本食品標準成分表
著者：
出版社：出版社は問いません
出版年：最新版　　ISBN：

成績評価

試験・レポート （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 0 ）	授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 60 ）	

（技能20%）（態度20%）

2018 Syllabus

科 目 名　**地球生命論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　秋期集中	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　趙　哲済	

テーマ

生命の発生から人類が進化・発展して現在に至った地球と生物の歴史の基礎的理解

授業の到達目標

地球の誕生から現在に至るまでの地球と生物の歴史を学ぶ。その中でも特に、人類が進化・発展してきた第四紀と呼ぶ現代社会と密接に関係する時代を、人類の諸特徴とともに、氷河の消長、海水準変動、植生変遷などの古地理に係る変遷、および生物地理と人類の拡散などの事象を通して理解することを目標にする。これらは地層そのものと地層中に含まれる化石や考古遺物などの証拠に基づくものであるから、層序と地層の対比、地質学・堆積学の諸法則、化石の二面性、堆積と浸食、堆積構造と変形構造などの地層学の基礎事項の理解を図るとともに、現代生活にも係る火山噴火や地震、土石流などの地盤災害の事例と、その原因も合わせて学習する。

授業の概要

人類史を含む地球と生物の歴史、およびそれらの証拠となる化石や考古遺物を理解するために必要な地層学の基礎事項について、スライドを用いた講義を主体に行うとともに、スライド内容を資料として配布する。なお、授業の進捗状況により、内容を一部変更する場合がある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業が始まるまでに、大阪市立自然史博物館、滋賀県立琵琶湖博物館、兵庫県立人と自然の博物館、国立科学博物館などの、自然と人間の歴史をテーマとする施設を見学しておくこと（入館券の半券を残すこと）。参考書3-10の中から1冊を読んでおくこと。

内　容

第1回　先カンブリア時代（1） 地球の年代区分、地球と月の形成、生命の発生と化学進化
第2回　先カンブリア時代（2） 原核生物と真核生物、細菌の光合成による遊離酸素の発生、全球凍結、 多細胞生物の出現、地球の構造と大陸の移動
第3回　古生代（1）骨格をもった多細胞生物・脊椎動物の出現、コケ類・地衣類の水辺への進出、シダ植物の上陸と繁栄
第4回　古生代（2）魚類の繁栄、硬骨魚類から両生類への進化、最初に上陸した動物、生物の5大大量死（大量絶滅）事件
第5回　中生代（1） 超大陸パンゲア、アンモナイト類の進化、羊膜類、爬虫類の大分類、恐竜、空の爬虫類・古鳥類、海の爬虫類
第6回　中生代（2） 日本列島の中生代爬虫類、裸子植物から被子植物への景観変遷、中生代末の大量死
第7回　新生代（1） ヒマラヤ山脈とモンスーン気候、環南極海流、氷河時代と無氷河時代、日本海と日本列島の成立
第8回　新生代（2） 哺乳類の系統と進化、被子植物がもたらした霊長類進化への影響
第9回　新生代（3） 長鼻類の繁栄、霊長類の進化
第10回　第四紀（1） 第四紀とは、層序学の基礎、氷期と間氷期の編年 、酸素同位体比、火山灰編年
第11回　第四紀（2） 氷期の景観、鮮新統・更新統（大阪層群・古琵琶湖層群を中心にして）、遺存種（レリック）
第12回　人類の進化（1） 人類の系統、猿人、華奢型猿人、頑丈型猿人、年代の調べ方
第13回　人類の進化（2） 原人、石器の発達、第1次出アフリカ、火の使用、旧人、原人のレリック
第14回　人類の進化（3） 遺伝子情報からみる分子系統、新人、第2次出アフリカ、東～東南アジア・日本列島の新人、石器の文化、抽象的思考（言語と芸術の発生）
第15回　人類の進化（4） 晩氷期以降の古気候・古地理変遷、定住・農耕・牧畜、地球温暖化、活断層（黄檗断層）、狂牛病、核エネルギー、地球の未来

履修上の注意点

授業中に問いかけをすることがあるので、積極的な応答を期待する。ただし、授業に関係のない私語は慎むこと。
疑問点があれば授業の最後に質問を受ける。また、質問用紙に書いて提出してもよい。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

地球生物学
著者:　池谷仙之・北里洋
出版社:　東京大学出版会
出版年:　2004年　　ISBN:　4-13-062711-2

aky901d950

人類紀自然学
著者: 人類紀自然学編集委員会
出版社: 共立出版
出版年: 2007年 ISBN: 978-4-320-

リズミカルな地球の変動
著者: 増田富士雄
出版社: 岩波書店
出版年: 1993年 ISBN: 4-00-007903-4

生命の逆襲
著者: 福岡伸一
出版社: 朝日新聞出版
出版年: 2013年 ISBN: 978-4-02-

進化の大爆発…動物のルーツを探る
著者: 大森昌衛
出版社: 新日本出版社
出版年: 2000年 ISBN: 4-406-02756-4

「退化」の進化学
著者: 犬塚則久
出版社: ブルーバックス
出版年: 2006年 ISBN: 4-06-257537-X

人類進化の700万年
著者: 三井誠
出版社: 講談社現代新書
出版年: 2005年 ISBN: 4-06-149805-3

人類がたどってきた道
著者: 海部陽介
出版社: NHKブックス
出版年: 2005年 ISBN: 4-14-091028-3

気候変動はなぜ起こるのか
著者: ウォーレス・ブロッカー
出版社: ブルーバックス
出版年: 2006年 ISBN: 4-320-04682-X

古代文明と気候変動
著者: ブライアン・ファイガン
出版社: 河出書房新社
出版年: 2005年 ISBN: 4-309-25192-7

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ 35 ）
授業中課題（ 20 ） 授業中発表等（ ）
参加度（ 45 ）
参加度と授業の中で行う基礎事項に関する小テストで評価する。授業中課題の提出は自由。

2018 Syllabus

科 目 名　**地球環境論 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　100
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山岸　達矢	

テーマ

環境問題を発生させる社会的な要因と解決に向けた取り組み

授業の到達目標

・国内外の環境問題の発生要因について理解し、説明できるようになる。
・環境政策を形成する主体と方法について理解し、説明できるようになる。
・環境問題を解決するための個々人と政策による解決策の糸口を見出し説明できるようになる。

授業の概要

政策と個々人の取り組みとの両面から、環境問題の解決に向けた取り組みについて考察する。環境問題を発生させ拡大さる社会的な要因について分析し、それらへ対応策について研究する。そして、個々の生活と環境問題の関係性について学び、さらに市民、NPO、行政、企業などの多様な主体が連携して進める持続可能な社会に向けた取り組みの現状と課題について学ぶ。必要に応じて、実際の現場で活躍する方をゲストスピーカーとして招いたり、現場を訪問することがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

何回かレポート作成の課題を課す。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　様々な環境問題
第3回　公害による被害
第4回　公害の発生と被害の拡大要因
第5回　地球環境問題の発生メカニズム
第6回　地球環境問題に対する国際的な枠組み
第7回　地球環境問題の改善に向けた消費活動
第8回　環境NPOによる取り組み
第9回　環境NPOが直面する課題
第10回　企業のCSRと環境保全活動の現状
第11回　原発事故の被害
第12回　エネルギー政策のゆくえ
第13回　廃棄物問題の現状と課題
第14回　食品をめぐる環境問題への対策
第15回　総論

履修上の注意点

教科書

新訂 地球環境の教科書10講
著者:　九里徳泰 ・平山明彦・左巻健男ほか
出版社: 東京書籍
出版年: 2014　　ISBN:

参考書

適宜示す
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 70 ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**地球環境論 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　100
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山岸　達矢	

テーマ

環境問題を発生させる社会的な要因と解決に向けた取り組み

授業の到達目標

・国内外の環境問題の発生要因について理解し、説明できるようになる。
・環境政策を形成する主体と方法について理解し、説明できるようになる。
・環境問題を解決するための個々人と政策による解決策の糸口を見出し説明できるようになる。

授業の概要

政策と個々人の取り組みとの両面から、環境問題の解決に向けた取り組みについて考察する。環境問題を発生させ拡大さる社会的な要因について分析し、それらへ対応策について研究する。そして、個々の生活と環境問題の関係性について学び、さらに市民、NPO、行政、企業などの多様な主体が連携して進める持続可能な社会に向けた取り組みの現状と課題について学ぶ。必要に応じて、実際の現場で活躍する方をゲストスピーカーとして招いたり、現場を訪問することがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

何回かレポート作成の課題を課す。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　様々な環境問題
第3回　公害による被害
第4回　公害の発生と被害の拡大要因
第5回　地球環境問題の発生メカニズム
第6回　地球環境問題に対する国際的な枠組み
第7回　地球環境問題の改善に向けた消費活動
第8回　環境NPOによる取り組み
第9回　環境NPOが直面する課題
第10回　企業のCSRと環境保全活動の現状
第11回　原発事故の被害
第12回　エネルギー政策のゆくえ
第13回　廃棄物問題の現状と課題
第14回　食品をめぐる環境問題への対策
第15回　総論

履修上の注意点

教科書

新訂 地球環境の教科書10講
著者:　九里徳泰・平山明彦・左巻健男ほか
出版社: 東京書籍
出版年: 2014　　ISBN:

参考書

適宜示す
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 70 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**エコロジー研究 〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　谷内　久美子	

テーマ

人間を生態系を構成する一員として捉え、人間と環境、社会、経済の相互関係を学ぶ。

授業の到達目標

・環境政策とはどんなものなのかということを理解する。
・地球環境問題に取り組むことの重要性を理解する。
・持続可能な発展に向けた国際的な取組み、国内や地域での取組み、そしてその連携を理解する。

授業の概要

本講義では、環境問題の解決、持続可能な発展のために何が必要なのか、どんな人や組織が関わるのかということを講義する。特に、環境問題の解決に不可欠な環境運動、市民活動・NGO/NPOについて重点的に講義を行う。テーマとして、主に地球温暖化問題と公害問題について学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

ノートを用いて，復習を行うこと。テレビの環境番組などを見れば、興味がわき理解がわくのおすすめです。

内　容

第1回　ガイダンスおよび環境問題について
第2回　資本主義経済と環境問題
第3回　環境政策と国家
第4回　国境を超える環境問題
第5回　地球環境問題への取組み
第6回　環境問題と交通
第7回　公害問題を学ぶ(1)　公害入門
第8回　公害問題を学ぶ(2)　アクティブラーニング
第9回　公害問題を学ぶ(3)　水俣病
第10回　公害問題を学ぶ(4)　大気汚染公害
第11回　公害問題を学ぶ(5)　公害地域の再生
第12回　環境問題におけるNPOの役割（フィールドワークまたは見学）
第13回　エネルギーと環境問題
第14回　オーフス条約ー環境政策の市民参加を定めた条約
第15回　持続可能な社会をめざして

履修上の注意点

出席は3分の2以上。私語厳禁、スマホ・ケータイ厳禁、居眠り・内職厳禁。見学またはフィールドワークを1回行う予定。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

不都合な真実
著者:　アル・ゴア
出版社:　ランダムハウス講談社
出版年:　2007　　ISBN:　440855393X

環境の政治経済学
著者:　除本 理史　ほか
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2010　　ISBN:　4623058654

aky901e110

持続可能な発展
著者: 淡路 剛久ほか
出版社: 有斐閣
出版年: 2006 ISBN: 4641071918

戦後日本公害史論
著者: 宮本 憲一
出版社: 岩波書店
出版年: 2014 ISBN: 4000259849

環境経済学 新版
著者: 宮本 憲一
出版社: 岩波書店
出版年: 2007 ISBN: 4000224816

成績評価

試験・レポート（ ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 50 ）
授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**エコロジー研究 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　谷内　久美子	

テーマ

人間を生態系を構成する一員として捉え、人間と環境、社会、経済の相互関係を学ぶ。

授業の到達目標

・環境政策とはどんなものなのかということを理解する。
・地球環境問題に取り組むことの重要性を理解する。
・持続可能な発展に向けた国際的な取組み、国内や地域での取組み、そしてその連携を理解する。

授業の概要

本講義では、環境問題の解決、持続可能な発展のために何が必要なのか、どんな人や組織が関わるのかということを講義する。特に、環境問題の解決に不可欠な環境運動、市民活動・NGO/NPOについて重点的に講義を行う。テーマとして、主に地球温暖化問題と公害問題について学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

ノートを用いて，復習を行うこと。テレビの環境番組などを見れば、興味がわき理解がわくのおすすめです。

内　　容

第1回　ガイダンスおよび環境問題について
第2回　資本主義経済と環境問題
第3回　環境政策と国家
第4回　国境を超える環境問題
第5回　地球環境問題への取組み
第6回　環境問題と交通
第7回　公害問題を学ぶ(1)　公害入門
第8回　公害問題を学ぶ(2)　アクティブラーニング
第9回　公害問題を学ぶ(3)　水俣病
第10回　公害問題を学ぶ(4)　大気汚染公害
第11回　公害問題を学ぶ(5)　公害地域の再生
第12回　環境問題におけるNPOの役割（フィールドワークまたは見学）
第13回　エネルギーと環境問題
第14回　オーフス条約ー環境政策の市民参加を定めた条約
第15回　持続可能な社会をめざして

履修上の注意点

出席は3分の2以上。私語厳禁、スマホ・ケータイ厳禁、居眠り・内職厳禁。見学またはフィールドワークを1回行う予定。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

不都合な真実
著者:　アル・ゴア
出版社:　ランダムハウス講談社
出版年:　2007　　ISBN:　440855393X

環境の政治経済学
著者:　除本 理史　ほか
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2010　　ISBN:　4623058654

aky901e112

持続可能な発展
著者: 淡路 剛久ほか
出版社: 有斐閣
出版年: 2006 ISBN: 4641071918

戦後日本公害史論
著者: 宮本 憲一
出版社: 岩波書店
出版年: 2014 ISBN: 4000259849

環境経済学 新版
著者: 宮本 憲一
出版社: 岩波書店
出版年: 2007 ISBN: 4000224816

成績評価

試験・レポート（ ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 50 ）
授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**自然の探求 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　岡野 淳一	

テーマ

現在の生物の多様さは数十億年の月日をかけて形成されてきたが、近年、人間活動による生物多様性の急激な減少が危惧されている。本講義では、生態学の基礎を学びながら、生物多様性とはなにかを理解する。またその応用として、生態系の保全についても考えていく。

授業の到達目標

生態学の基礎を習得し、生物多様性の意味を理解する。また、その理解を通じて生態系の保全について自分なりの考えを持つ。

授業の概要

生物多様性の構成要素である、遺伝子の多様性、種の多様性、生態系の多様性について生態学的視点から解説していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

基本的には予習なく授業内で理解できるよう講義するため、授業後の復習をしっかりと行うこと。また、新聞などのメディアで野生生物に関するニュースがあれば、授業内容と照らし合わせ自分なりに考えてみることが望まれる。

内　容

第1回　授業ガイダンス～生態系とは何か
第2回　生態系の恩恵
第3回　生態系を調べる方法
第4回　種の多様性1 「種」とは何か？
第5回　種の多様性2 植物と虫の送粉関係を例に
第6回　種の多様性3 水質浄化を例に
第7回　種の多様性4 有機栽培を例に
第8回　種の多様性5 役に立たない生き物はいるのか？
第9回　生態系の多様性1 里山
第10回 生態系の多様性2 遷移
第11回 外来種1 外来種の定義
第12回 外来種2 外来種の定着理由
第13回 外来種3 外来種の現状と対策
第14回 遺伝的多様性
第15回 生態系の保全・小テスト

履修上の注意点

疑問などがあればその都度、遠慮なく質問してください。また、授業中に質問をすることがあり、評価対象となります。間違っていても積極的に答えた場合、評価します。

教科書

参考書

生物多様性概論－自然のしくみと社会のとりくみ－
著者:　宮下直・瀧本岳・鈴木牧・佐野光彦
出版社: 朝倉書店
出版年: 2017　　ISBN:　4254171641

生物多様性のしくみを解く
著者:　宮下 直
出版社: 工作舎
出版年: 2014　　ISBN:　4875024568

大学1年生の なっとく!生態学
著者:　鷲谷いずみ
出版社: 講談社
出版年: 2017　　ISBN:　4061538977

成績評価

aky901e210

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 10 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**自然の探求 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　岡野 淳一	

テーマ

現在の生物の多様さは数十億年の月日をかけて形成されてきたが、近年、人間活動による生物多様性の急激な減少が危惧されている。本講義では、生態学の基礎を学びながら、生物多様性とはなにかを理解する。またその応用として、生態系の保全についても考えていく。

授業の到達目標

生態学の基礎を習得し、生物多様性の意味を理解する。また、その理解を通じて生態系の保全について自分なりの考えを持つ。

授業の概要

生物多様性の構成要素である、遺伝子の多様性、種の多様性、生態系の多様性について生態学的視点から解説していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

基本的には予習なく授業内で理解できるよう講義するため、授業後の復習をしっかりと行うこと。また、新聞などのメディアで野生生物に関するニュースがあれば、授業内容と照らし合わせ自分なりに考えてみることが望まれる。

内　容

第1回　授業ガイダンス～生態系とは何か
第2回　生態系の恩恵
第3回　生態系を調べる方法
第4回　種の多様性1 「種」とは何か？
第5回　種の多様性2 植物と虫の送粉関係を例に
第6回　種の多様性3 水質浄化を例に
第7回　種の多様性4 有機栽培を例に
第8回　種の多様性5 役に立たない生き物はいるのか？
第9回　生態系の多様性1 里山
第10回 生態系の多様性2 遷移
第11回 外来種1 外来種の定義
第12回 外来種2 外来種の定着理由
第13回 外来種3 外来種の現状と対策
第14回 遺伝的多様性
第15回 生態系の保全・小テスト

履修上の注意点

疑問などがあればその都度、遠慮なく質問してください。また、授業中に質問をすることがあり、評価対象となります。間違っていても積極的に答えた場合、評価します。

教科書

参考書

生物多様性概論－自然のしくみと社会のとりくみ－
著者:　宮下直・瀧本岳・鈴木牧・佐野光彦
出版社: 朝倉書店
出版年: 2017　　ISBN:　4254171641

生物多様性のしくみを解く
著者:　宮下 直
出版社: 工作舎
出版年: 2014　　ISBN:　4875024568

大学1年生の なっとく!生態学
著者:　鷲谷いずみ
出版社: 講談社
出版年: 2017　　ISBN:　4061538977

成績評価

aky901e212

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 10 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**地理学概論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中西　和子	

テーマ

地理学の成立を学び、世界・日本の諸地域について理解を深める。あわせて、地理教育に関する諸問題について考える。

授業の到達目標

「地理学」は他の研究分野とどのように異なり、どのように類似するのか考え,「地理学的発想」および「地理学的手法」を取得する。
さらに上記を踏まえたうえで、現代社会に必要な地理知識について検証する力を養う。

授業の概要

教科書は指定せず、配布プリントにて行うものとする。パワーポイントも使用するが、一部、全体でのディスカッション含む。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テレビの横にアトラスを配備して、地図を見る習慣をつけて下さい。

内　　容

第1回　イントロダクション：いままでの地理で習ったこと、覚えていますか？―“ジャングル大帝レオ”って 、正しいですか？
第2回　地理学と地図1　人は何故、地図を描くのか－“文字”が先か“地図”が先か？
第3回　地理学と地図2　日本で最初の地図とそれから―何を何に描いたのか？
第4回　地理学と地図3　地理学の必殺技！“地図化する”ということ
第5回　地理学の成立と展開1　王子様の必須科目！―ヘカタイオスからアレクサンダーの東方遠征
第6回　地理学の成立と展開2　教養人の必須科目へ―エデンの園と新世界発見
第7回　地理学の成立と展開3　近代地理学の成立―「環境決定論」と「環境可能論」の仁義なき戦い
第8回　日本における地理学の成立
第9回　新しい（？）「環境決定論」―『銃・病原菌・鉄』
第10回　アジア諸地域と人びとのくらし　ギョーザは主食？それともおかず？
第11回　ヨーロッパ諸地域と人びとのくらし　ショコラティエは、夏、何やってるの？
第12回　現代の日本の諸地域と人びとのくらし1　日本の農業の不思議について
第13回　現代の日本の諸地域と人びとのくらし2　大都市の“電力”の不思議について
第14回　かつての街道と現代の高速道路―地理条件と社会条件、勝つのはどっち？
第15回　「地理教育」の問題点―どうして“地理嫌い”が多いの？

履修上の注意点

授業中に紹介する本を読み、事前に次回テーマに関して下調べをしておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 10 ）	授業中発表等 （ ）

参加度 （ 50 ）

授業中の質疑応答に積極的に答えて下さい。また、試験に関しては、従来説など既往の研究をまとめるだけではなく、自分の意見を明確にして論じて下さい。

2018 Syllabus

科 目 名　**生活の中の数学**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森原　則男	

テーマ

小中高で学んできた算数・数学は自然や生活の中に深くかかわっているということを確認し、数学への興味関心を高め、市民としての数学的リテラシーを培う。

授業の到達目標

数学と自然や社会との関わり、数学の内容の深みや面白さを掴む。

授業の概要

授業者の講義を聴くだけでなく、対話をしたり、仲間と学び合うことで理解を深めていくような形式で授業を行いたいと考える。また、いくつかの課題を投げかけるので、それを通して数学の中身や課題解決の方法の工夫などを作り上げる授業を行うつもりである。操作や作業なども取り入れたい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

小学校・中学校・高校で学んできた算数・数学の内容を復習しておく。授業中に授業内容に関連した書籍を紹介したりするので参考にしてもらいたい。

内　容

第1回　アイスブレイク、担当者の自己紹介、オリエンテーション
第2回　折り紙で数学①三角定規の謎②自己相似形
第3回　九九の表で数遊・数楽
第4回　多角形の内角の和と星形多角形の内角の和
第5回　三角形の5心・一刀切り
第6回　量と面積図（かけ算・割り算・微分・積分）・パズル面積迷路
第7回　エコタングラムで数遊・数楽
第8回　折り紙で数学③オイラーの多面体定理④辺の長さが3，4，5の三角形
第9回　三角パズルとピックの定理・額賀の定理・森原の定理（格子点図形の面積）
第10回　バーコードの謎に迫る
第11回　不思議な計算（フィボナッチ数列）、数列マジック
第12回　パスカルの数三角形は組み合せの母
第13回　確率に潜むパラドックスいくつか
第14回　折り紙で数学⑤三角関数⑥包絡線（2次曲線）
第15回　振り返り、スマホで数遊・数楽（大回りの旅を計画する）

履修上の注意点

授業終了時に質問や授業の感想を求めることがある。

教科書

別になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

別になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**物理学基礎 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　富岡 康	

テーマ

専門科目を学ぶ前の教養科目として物理学の基礎について学ぶ。

授業の到達目標

高等学校で学習した物理の内容を再確認するとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。物理学が日常生活や社会とどのように関連しているかを知り、科学技術への関心を高め、市民として必要な科学的な知識・能力・態度を身につける。

授業の概要

運動とエネルギー、電気、波について、原理・法則を学び、日常的な現象や先端科学技術との関連を考える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　物体の運動
第2回　力のつりあい（1）
第3回　力のつりあい（2）
第4回　運動の法則（1）
第5回　運動の法則（2）
第6回　仕事とエネルギー（1）
第7回　仕事とエネルギー（2）
第8回　仕事とエネルギー（3） −力のモーメント
第9回　温度と熱
第10回 仕事と熱エネルギー
第11回 電気（1）
第12回 電気（2）
第13回 波動
第14回 音波
第15回 光波

履修上の注意点

教科書

Primary　大学テキスト　これだけはおさえたい物理
著者:　金原粲
出版社: 実教出版
出版年: 2009年　　ISBN:　978-4407316421

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）	小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ）	授業中発表等 （ 0% ）
参加度 （ 40% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**物理学基礎 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　富岡　康	

テーマ

専門科目を学ぶ前の教養科目として物理学の基礎について学ぶ。

授業の到達目標

高等学校で学習した物理の内容を再確認するとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。物理学が日常生活や社会とどのように関連しているかを知り、科学技術への関心を高め、市民として必要な科学的な知識・能力・態度を身につける。

授業の概要

運動とエネルギー、電気、波について、原理・法則を学び、日常的な現象や先端科学技術との関連を考える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　物体の運動
第2回　力のつりあい（1）
第3回　力のつりあい（2）
第4回　運動の法則（1）
第5回　運動の法則（2）
第6回　仕事とエネルギー（1）
第7回　仕事とエネルギー（2）
第8回　仕事とエネルギー（3） −力のモーメント
第9回　温度と熱
第10回 仕事と熱エネルギー
第11回 電気（1）
第12回 電気（2）
第13回 波動
第14回 音波
第15回 光波

履修上の注意点

教科書

Primary　大学テキスト　これだけはおさえたい物理
著者:　金原粲
出版社: 実教出版
出版年: 2009年　　ISBN:　978-4407316421

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）	小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ）	授業中発表等 （ 0% ）
参加度 （ 40% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**化学基礎 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　富岡 康	

テーマ

私たちの日常生活において利用されている様々な物質（マクロ）の変化を微視的（ミクロ）な目で見ていく。

授業の到達目標

私たちは化学変化を利用して生活している。その変化は決して偶発的なものでなく必然性があり、その必然性を知ることで、化学変化を利用することができる。文明をこのように進化させてきた化学を深く学ぶことにより、学生に興味を持たせるとともに今後の様々な可能性にチャレンジできる人材の育成を目的とする。

授業の概要

化学の基礎概念を教材に沿い丁寧に解説するとともに、日常生活への化学の利用を具体例をあげ解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

必ず、前回の復習をすること。予習はしなくて良い。

内　容

第1回　なぜ化学を学ぶか。物質は何からできているか。
第2回　物質の最小単位について・・・原子・イオン・分子
第3回　原子とイオン
第4回　分子の形はどうして決まるか・・・電子軌道
第5回　異性体と立体構造
第6回　物質の三態・・・固体・液体・気体
第7回　溶液について（1）
第8回　溶液について（2）
第9回　化学変化はなぜ起こるか
第10回 触媒・化学平衡
第11回 酸と塩基（1）
第12回 酸と塩基（2）
第13回 酸化と還元
第14回 日常の中の化学（1）
第15回 日常の中の化学（2）

履修上の注意点

教科書

新化学「もの」を見る目
著者:　大野惇吉　安井伸郎他
出版社:　三共出版
出版年:　2015年　　ISBN:　978-4782706824

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）	小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ）	授業中発表等 （ 0% ）
参加度 （ 40% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**化学基礎 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　富岡　康	

テーマ

私たちの日常生活において利用されている様々な物質（マクロ）の変化を微視的（ミクロ）な目で見ていく。

授業の到達目標

私たちは化学変化を利用して生活している。その変化は決して偶発的なものでなく必然性があり、その必然性を知ることで、化学変化を利用することができる。文明をこのように進化させてきた化学を深く学ぶことにより、学生に興味を持たせるとともに今後の様々な可能性にチャレンジできる人材の育成を目的とする。

授業の概要

化学の基礎概念を教材に沿い丁寧に解説するとともに、日常生活への化学の利用を具体例をあげ解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

必ず、前回の復習をすること。予習はしなくて良い。

内　容

第1回　なぜ化学を学ぶか。物質は何からできているか。
第2回　物質の最小単位について・・・原子・イオン・分子
第3回　原子とイオン
第4回　分子の形はどうして決まるか・・・電子軌道
第5回　異性体と立体構造
第6回　物質の三態・・・固体・液体・気体
第7回　溶液について（1）
第8回　溶液について（2）
第9回　化学変化はなぜ起こるか
第10回　触媒・化学平衡
第11回　酸と塩基（1）
第12回　酸と塩基（2）
第13回　酸化と還元
第14回　日常の中の化学（1）
第15回　日常の中の化学（2）

履修上の注意点

教科書

新化学「もの」を見る目
著者:　大野惇吉　安井伸郎他
出版社:　三共出版
出版年:　2015年　　ISBN:　978-4782706824

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）	小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ）	授業中発表等 （ 0% ）
参加度 （ 40% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**生物学基礎 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　富岡　康	

テーマ

専門科目を学ぶ前の教養科目として生物学の基礎について学ぶ。

授業の到達目標

高等学校における生物の内容を再確認するとともに専門科目を学ぶために必要な生物学の基礎知識を身につけることを目標とする。

授業の概要

生物学の中でも主にヒトに焦点を当てた生命化学について概説する。生命現象の科学的な解析、解明が急速に進展する現代において、できるだけ最新のトピックスをまじえて解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回の授業テーマについて教科書または事前に配布するレジュメを予習しておくこと

内　容

第1回　細胞生物学（1） 細胞の構造と役割
第2回　細胞生物学（2） 細胞を構成する物質ー1
第3回　細胞生物学（3） 細胞を構成する物質ー2
第4回　細胞生物学（4） エネルギー、酵素、代謝
第5回　細胞生物学（5） エネルギー獲得
第6回　遺伝（1）メンデル遺伝学とその後
第7回　遺伝（2）DNAと遺伝におけるその役割
第8回　遺伝（3）DNAからタンパク合成まで
第9回　発生と老化（1）
第10回　発生と老化（2）
第11回　脳の構造と機能
第12回　がん
第13回　食と健康（1）
第14回　食と健康（2）
第15回　感染と免疫

履修上の注意点

教科書

やさしい基礎生物学 第2版
著者:　南雲　保　編
出版社:　羊土社
出版年:　2014年　　ISBN:　978-4758120517

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）	小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ）	授業中発表等 （ 0% ）
参加度 （ 40% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**生物学基礎 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　富岡　康	

テーマ

専門科目を学ぶ前の教養科目として生物学の基礎について学ぶ。

授業の到達目標

高等学校における生物の内容を再確認するとともに専門科目を学ぶために必要な生物学の基礎知識を身につけることを目標とする。

授業の概要

生物学の中でも主にヒトに焦点を当てた生命化学について概説する。生命現象の科学的な解析、解明が急速に進展する現代において、できるだけ最新のトピックスをまじえて解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回の授業テーマについて教科書または事前に配布するレジュメを予習しておくこと

内　容

第1回　細胞生物学（1） 細胞の構造と役割
第2回　細胞生物学（2） 細胞を構成する物質ー1
第3回　細胞生物学（3） 細胞を構成する物質ー2
第4回　細胞生物学（4） エネルギー、酵素、代謝
第5回　細胞生物学（5） エネルギー獲得
第6回　遺伝（1）メンデル遺伝学とその後
第7回　遺伝（2）DNAと遺伝におけるその役割
第8回　遺伝（3）DNAからタンパク合成まで
第9回　発生と老化（1）
第10回　発生と老化（2）
第11回　脳の構造と機能
第12回　がん
第13回　食と健康（1）
第14回　食と健康（2）
第15回　感染と免疫

履修上の注意点

教科書

やさしい基礎生物学 第2版
著者:　南雲　保　編
出版社:　羊土社
出版年:　2014年　　ISBN:　978-4758120517

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）	小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ）	授業中発表等 （ 0% ）
参加度 （ 40% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**生物学基礎 <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　富岡　康	

テーマ

専門科目を学ぶ前の教養科目として生物学の基礎について学ぶ。

授業の到達目標

高等学校における生物の内容を再確認するとともに専門科目を学ぶために必要な生物学の基礎知識を身につけることを目標とする。

授業の概要

生物学の中でも主にヒトに焦点を当てた生命化学について概説する。生命現象の科学的な解析、解明が急速に進展する現代において、できるだけ最新のトピックスをまじえて解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回の授業テーマについて教科書または事前に配布するレジュメを予習しておくこと

内　容

第1回　細胞生物学（1） 細胞の構造と役割
第2回　細胞生物学（2） 細胞を構成する物質ー1
第3回　細胞生物学（3） 細胞を構成する物質ー2
第4回　細胞生物学（4） エネルギー、酵素、代謝
第5回　細胞生物学（5） エネルギー獲得
第6回　遺伝（1）メンデル遺伝学とその後
第7回　遺伝（2）DNAと遺伝におけるその役割
第8回　遺伝（3）DNAからタンパク合成まで
第9回　発生と老化（1）
第10回　発生と老化（2）
第11回　脳の構造と機能
第12回　がん
第13回　食と健康（1）
第14回　食と健康（2）
第15回　感染と免疫

履修上の注意点

教科書

やさしい基礎生物学 第2版
著者:　南雲　保　編
出版社:　羊土社
出版年:　2014年　　ISBN:　978-4758120517

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）	小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ）	授業中発表等 （ 0% ）
参加度 （ 40% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアゼミⅠ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹中　美貴	

テーマ

大学生活の目標および目標達成のためのプランをつくり、行動できる人を育てる。

授業の到達目標

①自分史ワークによる自己理解
②大学生活の目標設定と実行プランの策定
③卒業後の目標設定
④主体的な学習習慣の体得

授業の概要

自己理解や目標設定、プラン設定などの解説を行う。
また課題として授業内外でのワークと、授業内でのプレゼンテーションを課す。
また、毎週学習記録レポートをKT-note上で作成・提出する必要がある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

①週ごとの目標・予定をきちんと立て、実践すること。
②KT-note上でだされる課題を通じて、予復習を行うこと。
③習慣的な学習の一つとして、多読百遍にも習慣的に取り組むこと。

内　容

第1回　オリエンテーション（授業の目的と概要、KT-note課題の説明）
　　自分史作成ワーク①
第2回　自分史作成ワーク②
第3回　先輩体験談を聴こう①　※合同授業
第4回　大学生活の目標設定①
第5回　大学生活の目標設定②
第6回　大学生活の目標設定③
第7回　大学生活の目標設定④
第8回　PROGテスト解説会　※合同授業
第9回　目標実現のためのプランニング①
第10回　目標実現のためのプランニング②
第11回　目標実現のためのプランニング③
第12回　目標実現のためのプランニング④
第13回　先輩体験談を聴こう②　※合同授業
第14回　大学卒業後を考える
第15回　半期を振り返って

履修上の注意点

授業での解説・ワーク・プレゼンテーション・KT-note課題への取組みが基本サイクルの授業である。したがって、出席することが大前提である。
また、課題はKT-noteでの提出となるので、使いこなせるように触って慣れておくこと。

教科書

授業でワークブックを配布する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 50 ）

本科目は学習習慣を身につけつつ、目標をもった大学生活を主体的に送れるようになることを目的とした授業である。そのため「授業での解説とワーク、プレゼンテーション」と「課題の提出」は、重大な要素である。したがって、授業欠席や課題未提出については、大きな減点となることを留意しておくこと。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアゼミⅠ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小川　明美	

テーマ

大学生活の目標および目標達成のためのプランをつくり、行動できる人を育てる。

授業の到達目標

①自分史ワークによる自己理解
②大学生活の目標設定と実行プランの策定
③卒業後の目標設定
④主体的な学習習慣の体得

授業の概要

自己理解や目標設定、プラン設定などの解説を行う。
また課題として授業内外でのワークと、授業内でのプレゼンテーションを課す。
また、毎週学習記録レポートをKT-note上で作成・提出する必要がある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

①週ごとの目標・予定をきちんと立て、実践すること。
②KT-note上でだされる課題を通じて、予復習を行うこと。
③習慣的な学習の一つとして、多読百遍にも習慣的に取り組むこと。

内　容

第1回　オリエンテーション（授業の目的と概要、KT-note課題の説明）
　　自分史作成ワーク①
第2回　自分史作成ワーク②
第3回　先輩体験談を聴こう①　※合同授業
第4回　大学生活の目標設定①
第5回　大学生活の目標設定②
第6回　大学生活の目標設定③
第7回　大学生活の目標設定④
第8回　PROGテスト解説会　※合同授業
第9回　目標実現のためのプランニング①
第10回　目標実現のためのプランニング②
第11回　目標実現のためのプランニング③
第12回　目標実現のためのプランニング④
第13回　先輩体験談を聴こう②　※合同授業
第14回　大学卒業後を考える
第15回　半期を振り返って

履修上の注意点

授業での解説・ワーク・プレゼンテーション・KT-note課題への取組みが基本サイクルの授業である。したがって、出席することが大前提である。
また、課題はKT-noteでの提出となるので、使いこなせるように触って慣れておくこと。

教科書

授業でワークブックを配布する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 50 ）

本科目は学習習慣を身につけつつ、目標をもった大学生活を主体的に送れるようになることを目的とした授業である。そのため「授業での解説とワーク、プレゼンテーション」と「課題の提出」は、重大な要素である。したがって、授業欠席や課題未提出については、大きな減点となることを留意しておくこと。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアゼミⅠ〈c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中村　純	

テーマ

大学生活の目標および目標達成のためのプランをつくり、行動できる人を育てる。

授業の到達目標

①自分史ワークによる自己理解
②大学生活の目標設定と実行プランの策定
③卒業後の目標設定
④主体的な学習習慣の体得

授業の概要

自己理解や目標設定、プラン設定などの解説を行う。
また課題として授業内外でのワークと、授業内でのプレゼンテーションを課す。
また、毎週学習記録レポートをKT-note上で作成・提出する必要がある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

①週ごとの目標・予定をきちんと立て、実践すること。
②KT-note上でだされる課題を通じて、予復習を行うこと。
③習慣的な学習の一つとして、多読百遍にも習慣的に取り組むこと。

内　容

第1回　オリエンテーション（授業の目的と概要、KT-note課題の説明）
　　自分史作成ワーク①
第2回　自分史作成ワーク②
第3回　先輩体験談を聴こう①　※合同授業
第4回　大学生活の目標設定①
第5回　大学生活の目標設定②
第6回　大学生活の目標設定③
第7回　大学生活の目標設定④
第8回　PROGテスト解説会　※合同授業
第9回　目標実現のためのプランニング①
第10回　目標実現のためのプランニング②
第11回　目標実現のためのプランニング③
第12回　目標実現のためのプランニング④
第13回　先輩体験談を聴こう②　※合同授業
第14回　大学卒業後を考える
第15回　半期を振り返って

履修上の注意点

授業での解説・ワーク・プレゼンテーション・KT-note課題への取組みが基本サイクルの授業である。したがって、出席することが大前提である。
また、課題はKT-noteでの提出となるので、使いこなせるように触って慣れておくこと。

教科書

授業でワークブックを配布する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 50 ）

本科目は学習習慣を身につけつつ、目標をもった大学生活を主体的に送れるようになることを目的とした授業である。そのため「授業での解説とワーク、プレゼンテーション」と「課題の提出」は、重大な要素である。したがって、授業欠席や課題未提出については、大きな減点となることを留意しておくこと。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアゼミⅠ〈d〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　石田　恵子	

テーマ

大学生活の目標および目標達成のためのプランをつくり、行動できる人を育てる。

授業の到達目標

①自分史ワークによる自己理解
②大学生活の目標設定と実行プランの策定
③卒業後の目標設定
④主体的な学習習慣の体得

授業の概要

自己理解や目標設定、プラン設定などの解説を行う。
また課題として授業内外でのワークと、授業内でのプレゼンテーションを課す。
また、毎週学習記録レポートをKT-note上で作成・提出する必要がある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

①週ごとの目標・予定をきちんと立て、実践すること。
②KT-note上でだされる課題を通じて、予復習を行うこと。
③習慣的な学習の一つとして、多読百遍にも習慣的に取り組むこと。

内　容

第1回　オリエンテーション（授業の目的と概要、KT-note課題の説明）
　　自分史作成ワーク①
第2回　自分史作成ワーク②
第3回　先輩体験談を聴こう①　※合同授業
第4回　大学生活の目標設定①
第5回　大学生活の目標設定②
第6回　大学生活の目標設定③
第7回　大学生活の目標設定④
第8回　PROGテスト解説会　※合同授業
第9回　目標実現のためのプランニング①
第10回　目標実現のためのプランニング②
第11回　目標実現のためのプランニング③
第12回　目標実現のためのプランニング④
第13回　先輩体験談を聴こう②　※合同授業
第14回　大学卒業後を考える
第15回　半期を振り返って

履修上の注意点

授業での解説・ワーク・プレゼンテーション・KT-note課題への取組みが基本サイクルの授業である。したがって、出席することが大前提である。
また、課題はKT-noteでの提出となるので、使いこなせるように触って慣れておくこと。

教科書

授業でワークブックを配布する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 50 ）

本科目は学習習慣を身につけつつ、目標をもった大学生活を主体的に送れるようになることを目的とした授業である。そのため「授業での解説とワーク、プレゼンテーション」と「課題の提出」は、重大な要素である。したがって、授業欠席や課題未提出については、大きな減点となることを留意しておくこと。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアゼミⅠ〈e〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　川島　将希	

テーマ

大学生活の目標および目標達成のためのプランをつくり、行動できる人を育てる。

授業の到達目標

①自分史ワークによる自己理解
②大学生活の目標設定と実行プランの策定
③卒業後の目標設定
④主体的な学習習慣の体得

授業の概要

自己理解や目標設定、プラン設定などの解説を行う。
また課題として授業内外でのワークと、授業内でのプレゼンテーションを課す。
また、毎週学習記録レポートをKT-note上で作成・提出する必要がある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

①週ごとの目標・予定をきちんと立て、実践すること。
②KT-note上でだされる課題を通じて、予復習を行うこと。
③習慣的な学習の一つとして、多読百遍にも習慣的に取り組むこと。

内　容

第1回　オリエンテーション（授業の目的と概要、KT-note課題の説明）
　　自分史作成ワーク①
第2回　自分史作成ワーク②
第3回　先輩体験談を聴こう①　※合同授業
第4回　大学生活の目標設定①
第5回　大学生活の目標設定②
第6回　大学生活の目標設定③
第7回　大学生活の目標設定④
第8回　PROGテスト解説会　※合同授業
第9回　目標実現のためのプランニング①
第10回　目標実現のためのプランニング②
第11回　目標実現のためのプランニング③
第12回　目標実現のためのプランニング④
第13回　先輩体験談を聴こう②　※合同授業
第14回　大学卒業後を考える
第15回　半期を振り返って

履修上の注意点

授業での解説・ワーク・プレゼンテーション・KT-note課題への取組みが基本サイクルの授業である。したがって、出席することが大前提である。
また、課題はKT-noteでの提出となるので、使いこなせるように触って慣れておくこと。

教科書

授業でワークブックを配布する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 50 ）

本科目は学習習慣を身につけつつ、目標をもった大学生活を主体的に送れるようになることを目的とした授業である。そのため「授業での解説とワーク、プレゼンテーション」と「課題の提出」は、重大な要素である。したがって、授業欠席や課題未提出については、大きな減点となることを留意しておくこと。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアゼミⅠ〈f〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹中　美貴	

テーマ

大学生活の目標および目標達成のためのプランをつくり、行動できる人を育てる。

授業の到達目標

①自分史ワークによる自己理解
②大学生活の目標設定と実行プランの策定
③卒業後の目標設定
④主体的な学習習慣の体得

授業の概要

自己理解や目標設定、プラン設定などの解説を行う。
また課題として授業内外でのワークと、授業内でのプレゼンテーションを課す。
また、毎週学習記録レポートをKT-note上で作成・提出する必要がある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

①週ごとの目標・予定をきちんと立て、実践すること。
②KT-note上でだされる課題を通じて、予復習を行うこと。
③習慣的な学習の一つとして、多読百遍にも習慣的に取り組むこと。

内　容

第1回　オリエンテーション（授業の目的と概要、KT-note課題の説明）
　　自分史作成ワーク①
第2回　自分史作成ワーク②
第3回　先輩体験談を聴こう①　※合同授業
第4回　大学生活の目標設定①
第5回　大学生活の目標設定②
第6回　大学生活の目標設定③
第7回　大学生活の目標設定④
第8回　PROGテスト解説会　※合同授業
第9回　目標実現のためのプランニング①
第10回　目標実現のためのプランニング②
第11回　目標実現のためのプランニング③
第12回　目標実現のためのプランニング④
第13回　先輩体験談を聴こう②　※合同授業
第14回　大学卒業後を考える
第15回　半期を振り返って

履修上の注意点

授業での解説・ワーク・プレゼンテーション・KT-note課題への取組みが基本サイクルの授業である。したがって、出席することが大前提である。
また、課題はKT-noteでの提出となるので、使いこなせるように触って慣れておくこと。

教科書

授業でワークブックを配布する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 50 ）

本科目は学習習慣を身につけつつ、目標をもった大学生活を主体的に送れるようになることを目的とした授業である。そのため「授業での解説とワーク、プレゼンテーション」と「課題の提出」は、重大な要素である。したがって、授業欠席や課題未提出については、大きな減点となることを留意しておくこと。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアゼミⅠ〈g〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小川　明美	

テーマ

大学生活の目標および目標達成のためのプランをつくり、行動できる人を育てる。

授業の到達目標

①自分史ワークによる自己理解
②大学生活の目標設定と実行プランの策定
③卒業後の目標設定
④主体的な学習習慣の体得

授業の概要

自己理解や目標設定、プラン設定などの解説を行う。
また課題として授業内外でのワークと、授業内でのプレゼンテーションを課す。
また、毎週学習記録レポートをKT-note上で作成・提出する必要がある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

①週ごとの目標・予定をきちんと立て、実践すること。
②KT-note上でだされる課題を通じて、予復習を行うこと。
③習慣的な学習の一つとして、多読百遍にも習慣的に取り組むこと。

内　容

第1回　オリエンテーション（授業の目的と概要、KT-note課題の説明）
　　自分史作成ワーク①
第2回　自分史作成ワーク②
第3回　先輩体験談を聴こう①　※合同授業
第4回　大学生活の目標設定①
第5回　大学生活の目標設定②
第6回　大学生活の目標設定③
第7回　大学生活の目標設定④
第8回　PROGテスト解説会　※合同授業
第9回　目標実現のためのプランニング①
第10回　目標実現のためのプランニング②
第11回　目標実現のためのプランニング③
第12回　目標実現のためのプランニング④
第13回　先輩体験談を聴こう②　※合同授業
第14回　大学卒業後を考える
第15回　半期を振り返って

履修上の注意点

授業での解説・ワーク・プレゼンテーション・KT-note課題への取組みが基本サイクルの授業である。したがって、出席することが大前提である。
また、課題はKT-noteでの提出となるので、使いこなせるように触って慣れておくこと。

教科書

授業でワークブックを配布する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 50 ）

本科目は学習習慣を身につけつつ、目標をもった大学生活を主体的に送れるようになることを目的とした授業である。そのため「授業での解説とワーク、プレゼンテーション」と「課題の提出」は、重大な要素である。したがって、授業欠席や課題未提出については、大きな減点となることを留意しておくこと。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアゼミⅠ〈h〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中村　純	

テーマ

大学生活の目標および目標達成のためのプランをつくり、行動できる人を育てる。

授業の到達目標

①自分史ワークによる自己理解
②大学生活の目標設定と実行プランの策定
③卒業後の目標設定
④主体的な学習習慣の体得

授業の概要

自己理解や目標設定、プラン設定などの解説を行う。
また課題として授業内外でのワークと、授業内でのプレゼンテーションを課す。
また、毎週学習記録レポートをKT-note上で作成・提出する必要がある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

①週ごとの目標・予定をきちんと立て、実践すること。
②KT-note上でだされる課題を通じて、予復習を行うこと。
③習慣的な学習の一つとして、多読百遍にも習慣的に取り組むこと。

内　容

第1回　オリエンテーション（授業の目的と概要、KT-note課題の説明）
　　自分史作成ワーク①
第2回　自分史作成ワーク②
第3回　先輩体験談を聴こう①　※合同授業
第4回　大学生活の目標設定①
第5回　大学生活の目標設定②
第6回　大学生活の目標設定③
第7回　大学生活の目標設定④
第8回　PROGテスト解説会　※合同授業
第9回　目標実現のためのプランニング①
第10回　目標実現のためのプランニング②
第11回　目標実現のためのプランニング③
第12回　目標実現のためのプランニング④
第13回　先輩体験談を聴こう②　※合同授業
第14回　大学卒業後を考える
第15回　半期を振り返って

履修上の注意点

授業での解説・ワーク・プレゼンテーション・KT-note課題への取組みが基本サイクルの授業である。したがって、出席することが大前提である。
また、課題はKT-noteでの提出となるので、使いこなせるように触って慣れておくこと。

教科書

授業でワークブックを配布する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 50 ）

本科目は学習習慣を身につけつつ、目標をもった大学生活を主体的に送れるようになることを目的とした授業である。そのため「授業での解説とワーク、プレゼンテーション」と「課題の提出」は、重大な要素である。したがって、授業欠席や課題未提出については、大きな減点となることを留意しておくこと。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアゼミⅠ〈i〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　石田　恵子	

テーマ

大学生活の目標および目標達成のためのプランをつくり、行動できる人を育てる。

授業の到達目標

①自分史ワークによる自己理解
②大学生活の目標設定と実行プランの策定
③卒業後の目標設定
④主体的な学習習慣の体得

授業の概要

自己理解や目標設定、プラン設定などの解説を行う。
また課題として授業内外でのワークと、授業内でのプレゼンテーションを課す。
また、毎週学習記録レポートをKT-note上で作成・提出する必要がある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

①週ごとの目標・予定をきちんと立て、実践すること。
②KT-note上でだされる課題を通じて、予復習を行うこと。
③習慣的な学習の一つとして、多読百遍にも習慣的に取り組むこと。

内　容

第1回　オリエンテーション（授業の目的と概要、KT-note課題の説明）
　　自分史作成ワーク①
第2回　自分史作成ワーク②
第3回　先輩体験談を聴こう①　※合同授業
第4回　大学生活の目標設定①
第5回　大学生活の目標設定②
第6回　大学生活の目標設定③
第7回　大学生活の目標設定④
第8回　PROGテスト解説会　※合同授業
第9回　目標実現のためのプランニング①
第10回　目標実現のためのプランニング②
第11回　目標実現のためのプランニング③
第12回　目標実現のためのプランニング④
第13回　先輩体験談を聴こう②　※合同授業
第14回　大学卒業後を考える
第15回　半期を振り返って

履修上の注意点

授業での解説・ワーク・プレゼンテーション・KT-note課題への取組みが基本サイクルの授業である。したがって、出席することが大前提である。
また、課題はKT-noteでの提出となるので、使いこなせるように触って慣れておくこと。

教科書

授業でワークブックを配布する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 50 ）

本科目は学習習慣を身につけつつ、目標をもった大学生活を主体的に送れるようになることを目的とした授業である。そのため「授業での解説とワーク、プレゼンテーション」と「課題の提出」は、重大な要素である。したがって、授業欠席や課題未提出については、大きな減点となることを留意しておくこと。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアゼミⅠ〈j〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　川島　将希	

テーマ

大学生活の目標および目標達成のためのプランをつくり、行動できる人を育てる。

授業の到達目標

①自分史ワークによる自己理解
②大学生活の目標設定と実行プランの策定
③卒業後の目標設定
④主体的な学習習慣の体得

授業の概要

自己理解や目標設定、プラン設定などの解説を行う。
また課題として授業内外でのワークと、授業内でのプレゼンテーションを課す。
また、毎週学習記録レポートをKT-note上で作成・提出する必要がある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

①週ごとの目標・予定をきちんと立て、実践すること。
②KT-note上でだされる課題を通じて、予復習を行うこと。
③習慣的な学習の一つとして、多読百遍にも習慣的に取り組むこと。

内　容

第1回　オリエンテーション（授業の目的と概要、KT-note課題の説明）
　　自分史作成ワーク①
第2回　自分史作成ワーク②
第3回　先輩体験談を聴こう①　※合同授業
第4回　大学生活の目標設定①
第5回　大学生活の目標設定②
第6回　大学生活の目標設定③
第7回　大学生活の目標設定④
第8回　PROGテスト解説会　※合同授業
第9回　目標実現のためのプランニング①
第10回　目標実現のためのプランニング②
第11回　目標実現のためのプランニング③
第12回　目標実現のためのプランニング④
第13回　先輩体験談を聴こう②　※合同授業
第14回　大学卒業後を考える
第15回　半期を振り返って

履修上の注意点

授業での解説・ワーク・プレゼンテーション・KT-note課題への取組みが基本サイクルの授業である。したがって、出席することが大前提である。
また、課題はKT-noteでの提出となるので、使いこなせるように触って慣れておくこと。

教科書

授業でワークブックを配布する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 50 ）

本科目は学習習慣を身につけつつ、目標をもった大学生活を主体的に送れるようになることを目的とした授業である。そのため「授業での解説とワーク、プレゼンテーション」と「課題の提出」は、重大な要素である。したがって、授業欠席や課題未提出については、大きな減点となることを留意しておくこと。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発講座Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　100
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山脇　康彦	

テーマ

大学生活やビジネス・キャリア・デザインを考えるきっかけとする

授業の到達目標

自分を知るとともに、世の中にどんなビジネスがあるのか、また、これからの企業経営に求められる人材について理解する。加えて、話題の現代用語などについても理解を深める。

授業の概要

講義を中心に、適宜、演習などを交えて進める

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　オリエンテーション（授業の進め方、参考書籍紹介など）
第2回　キャリア開発と大学生活
第3回　自分を知る
第4回　社会を知る①（すでに始まっている未来など）
第5回　社会を知る②（インターネット社会など）
第6回　衣料品やペットボトル飲料を私たちが手にするまでのしくみ
第7回　会社のしくみ、いろいろな職種
第8回　＜演習＞机上インターンシップ体験（営業企画体験）
第9回　社会人基礎力を磨く（言葉遣い、考える力、伝える力など）
第10回 求められる資質、人材像①（学生の思い、企業の思い）
第11回 求められる資質、人材像②（面接担当者の話から）
第12回 ＜演習＞伝える力（文章力）を磨く
第13回 いろいろな働き方とキャリア開発（公務員、NPOほか）
第14回 私のキャリアデザイン
第15回 まとめ（総括）

履修上の注意点

①日ごろから日本経済新聞や業界地図などに目をとおしておく ②日常の買い物で感動したこと、ガッカリしたことをメモしておく

教科書

使用しません
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本の優良企業パーフェクトガイドブック2019年度版
著者:　日経HR
出版社:　日本経済新聞出版社
出版年:　　ISBN:　9784532692087

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 60 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発講座Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　100
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山脇　康彦	

テーマ

大学生活やビジネス・キャリア・デザインを考えるきっかけとする

授業の到達目標

自分を知るとともに、世の中にどんなビジネスがあるのか、また、これからの企業経営に求められる人材について理解する。加えて、話題の現代用語などについても理解を深める。

授業の概要

講義を中心に、適宜、演習などを交えて進める

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　オリエンテーション（授業の進め方、参考書籍紹介など）
第2回　キャリア開発と大学生活
第3回　自分を知る
第4回　社会を知る①（すでに始まっている未来など）
第5回　社会を知る②（インターネット社会など）
第6回　衣料品やペットボトル飲料を私たちが手にするまでのしくみ
第7回　会社のしくみ、いろいろな職種
第8回　＜演習＞机上インターンシップ体験（営業企画体験）
第9回　社会人基礎力を磨く（言葉遣い、考える力、伝える力など）
第10回　求められる資質、人材像①（学生の思い、企業の思い）
第11回　求められる資質、人材像②（面接担当者の話から）
第12回　＜演習＞伝える力（文章力）を磨く
第13回　いろいろな働き方とキャリア開発（公務員、NPOほか）
第14回　私のキャリアデザイン
第15回　まとめ（総括）

履修上の注意点

①日ごろから日本経済新聞や業界地図などに目をとおしておく ②日常の買い物で感動したこと、ガッカリしたことをメモしておく

教科書

使用しません
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本の優良企業パーフェクトガイドブック2019年度版
著者:　日経HR
出版社:　日本経済新聞出版社
出版年:　　ISBN:　9784532692087

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 60 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習 I**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山岸　達矢	

テーマ

地域政策・公務員の仕事

授業の到達目標

・地域政策を担う自治体の仕組みと現状について理解し、説明できるようになる。
・地方公務員として働くことを念頭に置きながら、地方公務員の職務内容について説明できるようになる。
・地方公務員に求められる資質について理解し、説明できるようになる。

授業の概要

公務員試験を受験することを前提にして学んでいくが、個々の自己実現や問題意識と関連させながら、自治体とそこで働く職員が果たす役割につい学んでいく。必要に応じて、実際の現場で活躍する方をゲストスピーカーとして招いたり、現場を訪問することがある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　国と自治体の関係
第3回　政治と自治体の関係
第4回　自治体政策と地域社会の接点
第5回　政策形成過程
第6回　自治体と市民参加
第7回　協働論
第8回　地域内分権の現状と課題
第9回　自治体財政論
第10回　自治体改革の動向1：自治基本条例
第11回　自治体改革の動向：議会基本条例
第12回　自治体改革の動向：政策法務
第13回　行政職員の資質
第14回　自治体職員のキャリア形成
第15回　総論

履修上の注意点

教科書

地方自治論―2つの自律性のはざまで
著者：　北村亘・青木栄一 ・平野 淳一
出版社：有斐閣
出版年：2017　　ISBN：

参考書

地方自治講義
著者：　今井照
出版社：筑摩書房
出版年：2017　　ISBN：

新版 行政ってなんだろう
著者：　新藤宗幸
出版社：岩波書店
出版年：2008　　ISBN：

コミュニティ再生のための地域自治のしくみと実践
著者：　中川幾朗編著
出版社：学芸出版社
出版年：2011　　ISBN：

ask101d350

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ〈教職〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西村　徳寿	

テーマ

教職に就くにあたって求められる基本的な数学の力を育てる。

授業の到達目標

教員採用試験に出題される数学の問題が解けるように、数Ⅰや数Aの復習と問題演習等を通じて、判断力、推理力、思考力を養う。

授業の概要

教材は教員採用試験の過去問題等、判断力、推理力、思考力を養う問題を取り扱う。授業進行は以下の2通りのどちらかの方法で行う予定。ケース1:前半は各自で解いてから後半は授業者が講評と解説を行う。ケース2:前半は各自で解いてからグループ毎に教え合い、後半は解法をグループ毎に発表し合う。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

*数Ⅰと数Aの内容を復習し、わからない点を質問すること。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　文字式Ⅰ
第3回　文字式Ⅱ
第4回　関数Ⅰ
第5回　関数Ⅱ
第6回　図形Ⅰ
第7回　図形Ⅱ
第8回　順列・組合せ
第9回　確率
第10回　数の性質Ⅰ:素数・倍数・約数、剰余の問題
第11回　数の性質Ⅱ　N進法、数列
第12回　割合と比、濃度
第13回　採用試験問題の過去問　都道府県別Ⅰ
第14回　採用試験問題の過去問　都道府県別Ⅱ
第15回　採用試験問題の過去問　都道府県別Ⅲ

履修上の注意点

講義の最初にウォーミングアップとしてパズル問題に取り組むこと。

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

関野喬のパターンでわかる判断推理 まるごと講義生中継 第4版 (公務員試験 まるごと講義生中継シリーズ)
著者:　TAC公務員講座、関野 喬
出版社:　TAC出版
出版年:　2013　　ISBN:　978-4813248729

関野喬のパターンでわかる数的推理 まるごと講義生中継 第4版 (公務員試験 まるごと講義生中継シリーズ)
著者:　TAC公務員講座、関野 喬
出版社:　TAC出版
出版年:　2013　　ISBN:　978-4813248712

ask101d485

関野喬のパターンでわかる空間把握・資料解釈 まるごと講義生中継 第3版（公務員試験 まるごと講義生中継シリーズ）

著者： TAC公務員講座、関野 喬

出版社： TAC出版

出版年： 2013　　ISBN： 978-4813248736

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 20 ）

参加度（ 20 ）

「参加度」とは、授業への参加態度や積極性などを総合的に判断したもの。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアゼミⅡ 〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹中　美貴	

テーマ

グループワークの基本の4類型（グループディスカッション、チームワーク演習、ディベート、問題解決提案）について、基礎的な演習を行う。

授業の到達目標

各演習での他者との対話・協働を通じて、異なる立場や背景をもつ他者を理解し、より良い結論を導き出す・より良い成果を生み出す方法・姿勢を身につけること。

授業の概要

グループワークがメインの科目である。グループディスカッション、チームワーク演習、ディベート、問題解決提案の4つのグループワーク演習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業後の課題：毎回「KT-note」上で課題を課す。課題に対しては講師から「KT-note」上でフィードバックを行う。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　グループディスカッション①合意形成
第3回　グループディスカッション②論理的選択
第4回　グループディスカッション③アイデア双発
第5回　チームワーク演習①役割の発見と遂行
第6回　チームワーク演習②メンバーシップ
第7回　ディベート①　ディベート理解
第8回　ディベート②　ディベート準備
第9回　ディベート③　ディベート試合その1
第10回　ディベート④　ディベート試合その2
第11回　問題解決提案①　現状分析
第12回　問題解決提案②　課題発見
第13回　問題解決提案③　課題解決策立案
第14回　問題解決提案④　プレゼンと振り返り
第15回　まとめ

履修上の注意点

グループワークによる演習がメインの科目であるため、当然のことながら、出席して参加することがまず前提となる。
他者理解・他者協働がテーマの科目であるため、当然、受講生の中でも得手不得手があろう。グループでフォローし合えるよう、心がけて欲しい。

教科書

オリジナルテキストを配布する

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（　）　　小テスト（　）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）
出席し、グループワークに参加することは、最低限の前提である。グループワークへ一生懸命参加・貢献し、授業後課題への取組み・提出することを評価上、重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアゼミⅡ <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小川　明美	

テーマ

グループワークの基本の4類型（グループディスカッション、チームワーク演習、ディベート、問題解決提案）について、基礎的な演習を行う。

授業の到達目標

各演習での他者との対話・協働を通じて、異なる立場や背景をもつ他者を理解し、より良い結論を導き出す・より良い成果を生み出す方法・姿勢を身につけること。

授業の概要

グループワークがメインの科目である。グループディスカッション、チームワーク演習、ディベート、問題解決提案の4つのグループワーク演習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業後の課題：毎回「KT-note」上で課題を課す。課題に対しては講師から「KT-note」上でフィードバックを行う。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　グループディスカッション①合意形成
第3回　グループディスカッション②論理的選択
第4回　グループディスカッション③アイデア双発
第5回　チームワーク演習①役割の発見と遂行
第6回　チームワーク演習②メンバーシップ
第7回　ディベート①　ディベート理解
第8回　ディベート②　ディベート準備
第9回　ディベート③　ディベート試合その1
第10回　ディベート④　ディベート試合その2
第11回　問題解決提案①　現状分析
第12回　問題解決提案②　課題発見
第13回　問題解決提案③　課題解決策立案
第14回　問題解決提案④　プレゼンと振り返り
第15回　まとめ

履修上の注意点

グループワークによる演習がメインの科目であるため、当然のことながら、出席して参加することがまず前提となる。
他者理解・他者協働がテーマの科目であるため、当然、受講生の中でも得手不得手があろう。グループでフォローし合えるよう、心がけて欲しい。

教科書

オリジナルテキストを配布する

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（　）　　小テスト（　）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）
出席し、グループワークに参加することは、最低限の前提である。グループワークへ一生懸命参加・貢献し、授業後課題への取組み・提出することを評価上、重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアゼミⅡ <c>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中村　純	

テーマ

グループワークの基本の4類型（グループディスカッション、チームワーク演習、ディベート、問題解決提案）について、基礎的な演習を行う。

授業の到達目標

各演習での他者との対話・協働を通じて、異なる立場や背景をもつ他者を理解し、より良い結論を導き出す・より良い成果を生み出す方法・姿勢を身につけること。

授業の概要

グループワークがメインの科目である。グループディスカッション、チームワーク演習、ディベート、問題解決提案の4つのグループワーク演習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業後の課題：毎回「KT-note」上で課題を課す。課題に対しては講師から「KT-note」上でフィードバックを行う。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　グループディスカッション①合意形成
第3回　グループディスカッション②論理的選択
第4回　グループディスカッション③アイデア双発
第5回　チームワーク演習①役割の発見と遂行
第6回　チームワーク演習②メンバーシップ
第7回　ディベート①　ディベート理解
第8回　ディベート②　ディベート準備
第9回　ディベート③　ディベート試合その1
第10回　ディベート④　ディベート試合その2
第11回　問題解決提案①　現状分析
第12回　問題解決提案②　課題発見
第13回　問題解決提案③　課題解決策立案
第14回　問題解決提案④　プレゼンと振り返り
第15回　まとめ

履修上の注意点

グループワークによる演習がメインの科目であるため、当然のことながら、出席して参加することがまず前提となる。
他者理解・他者協働がテーマの科目であるため、当然、受講生の中でも得手不得手があろう。グループでフォローし合えるよう、心がけて欲しい。

教科書

オリジナルテキストを配布する

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）

出席し、グループワークに参加することは、最低限の前提である。グループワークへ一生懸命参加・貢献し、授業後課題への取組み・提出することを評価上、重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアゼミⅡ <d>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　石田　恵子	

テーマ

グループワークの基本の4類型（グループディスカッション、チームワーク演習、ディベート、問題解決提案）について、基礎的な演習を行う。

授業の到達目標

各演習での他者との対話・協働を通じて、異なる立場や背景をもつ他者を理解し、より良い結論を導き出す・より良い成果を生み出す方法・姿勢を身につけること。

授業の概要

グループワークがメインの科目である。グループディスカッション、チームワーク演習、ディベート、問題解決提案の4つのグループワーク演習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業後の課題：毎回「KT-note」上で課題を課す。課題に対しては講師から「KT-note」上でフィードバックを行う。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　グループディスカッション①合意形成
第3回　グループディスカッション②論理的選択
第4回　グループディスカッション③アイデア双発
第5回　チームワーク演習①役割の発見と遂行
第6回　チームワーク演習②メンバーシップ
第7回　ディベート①　ディベート理解
第8回　ディベート②　ディベート準備
第9回　ディベート③　ディベート試合その1
第10回　ディベート④　ディベート試合その2
第11回　問題解決提案①　現状分析
第12回　問題解決提案②　課題発見
第13回　問題解決提案③　課題解決策立案
第14回　問題解決提案④　プレゼンと振り返り
第15回　まとめ

履修上の注意点

グループワークによる演習がメインの科目であるため、当然のことながら、出席して参加することがまず前提となる。
他者理解・他者協働がテーマの科目であるため、当然、受講生の中でも得手不得手があろう。グループでフォローし合えるよう、心がけて欲しい。

教科書

オリジナルテキストを配布する

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）
出席し、グループワークに参加することは、最低限の前提である。グループワークへ一生懸命参加・貢献し、授業後課題への取組み・提出することを評価上、重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアゼミⅡ 〈e〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　川島　将希	

テーマ

グループワークの基本の4類型（グループディスカッション、チームワーク演習、ディベート、問題解決提案）について、基礎的な演習を行う。

授業の到達目標

各演習での他者との対話・協働を通じて、異なる立場や背景をもつ他者を理解し、より良い結論を導き出す・より良い成果を生み出す方法・姿勢を身につけること。

授業の概要

グループワークがメインの科目である。グループディスカッション、チームワーク演習、ディベート、問題解決提案の4つのグループワーク演習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業後の課題：毎回「KT-note」上で課題を課す。課題に対しては講師から「KT-note」上でフィードバックを行う。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　グループディスカッション①合意形成
第3回　グループディスカッション②論理的選択
第4回　グループディスカッション③アイデア双発
第5回　チームワーク演習①役割の発見と遂行
第6回　チームワーク演習②メンバーシップ
第7回　ディベート①　ディベート理解
第8回　ディベート②　ディベート準備
第9回　ディベート③　ディベート試合その1
第10回　ディベート④　ディベート試合その2
第11回　問題解決提案①　現状分析
第12回　問題解決提案②　課題発見
第13回　問題解決提案③　課題解決策立案
第14回　問題解決提案④　プレゼンと振り返り
第15回　まとめ

履修上の注意点

グループワークによる演習がメインの科目であるため、当然のことながら、出席して参加することがまず前提となる。
他者理解・他者協働がテーマの科目であるため、当然、受講生の中でも得手不得手があろう。グループでフォローし合えるよう、心がけて欲しい。

教科書

オリジナルテキストを配布する

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（　）　　小テスト（　）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）
出席し、グループワークに参加することは、最低限の前提である。グループワークへ一生懸命参加・貢献し、授業後課題への取組み・提出することを評価上、重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアゼミⅢ 〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　幸一郎	

テーマ

台湾に滞在して異文化を体験するとともに、現地大学を拠点にグローバル社会・グローバル経済について実践的に学ぶ。

授業の到達目標

グローバル社会における日本の立ち位置や、これから自分がどのように学び、生きていくのかを考える機会とすること。

授業の概要

台湾に5日間滞在し、午前中は現地大学にて台湾に関する講義を受け、午後は学外で現地調査を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前学習：学習支援アプリ「educa」にて、事前課題を課す。現地研修参加前に反復して学習すること。

内　　容

第1回　講義①　台湾の歴史と経済1
第2回　講義②　台湾の歴史と経済2
第3回　学外見学①　淡水老街・紅毛城1
第4回　学外見学②　淡水老街・紅毛城2
第5回　講義③　台湾の歴史と経済3　学外見学振返り「日本人が好む台湾の食文化とは？台湾人が好む日本の食文化とは？」
第6回　講義④　台湾の歴史と経済3
第7回　学外見学③　台北天母周辺の日系百貨店1
第8回　学外見学④　台北天母周辺の日系百貨店2
第9回　講義⑤　台湾の歴史と経済5　学外見学振返り「日系百貨店における日本商品の売り方」
第10回　講義⑥　台湾の歴史と経済6
第11回　学外見学⑤　西門町周辺1
第12回　学外見学⑥　西門町周辺2
第13回　講義⑦　台湾の歴史と経済⑦　学外見学振返り「日本人が好む台湾の若者文化とは？／台湾人が好む日本の若者文化とは？」
第14回　講義⑧　まとめ・グローバル人材になろう
第15回　講義⑨　全体報告会　テーマ「台湾人のたまの京都観光開発」

履修上の注意点

海外渡航にあたって、当然ながらパスポートが必要である。早期に準備しておくこと。また参加費の入金期限等についても指示に従って必ず期日までに行うこと。
当然のことながら、飛行機の搭乗にあたっては厳格な時間的制約がある。どの場面においても、遅刻は厳禁である。定められた時間を必ず守ること。

教科書

適時、資料を配布する

著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 50 ）

参加度　（ 50 ）

振り返りや報告会において、積極的に参加をすること。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアゼミⅢ 〈b〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　後藤　敦史	

テーマ

事前学習を経た上で、地域でのインターンシップを経験する。インターンシップ後は振り返りの学習を通じ、学びを深める。

授業の到達目標

地域の産業・企業についての知識、理解を深めるとともに、自分自身の進路選択について視野を広げること。

授業の概要

複数回の事前学習を経て、各実習先にて5日間程度の実習を行う。実習後は事後学習を実施し、振り返りと発表を行う。
※山科地域か滋賀地域かにより、スケジュールは異なります。詳しくはオリエンテーションにて説明を行います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実際の企業・団体で社会人の方とともに学ばせていただく演習です。社会人としての振る舞い（身だしなみや言葉づかい、時間厳守など）が求められることをあらかじめ理解し、身につけておいてください。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　事前学習①
第3回　事前学習②
第4回　事前学習③
第5回　事前学習④
第6回　事前学習⑤
第7回　事前学習⑥
第8回　地域インターンシップ実習（5日間程度）
第9回　事後学習①
第10回　事後学習②
第11回　成果報告①
第12回　成果報告②

履修上の注意点

※上記のスケジュールは、山科地域か滋賀地域かにより、変動しますことをあらかじめご了承ください。詳しくはオリエンテーションで指示します。
服装については原則スーツで臨み、染髪やアクセサリー類（ピアス等）、香水等も禁止します。
注意事項や諸々の期限・時間についても厳格に扱い、守られない場合は受講登録を取り消す場合もありますので、心して臨んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 40 ）

参加度（ 60 ）
注意事項や諸々の期限・時間についても厳格に扱い、守られない場合は減点対象とします。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアゼミⅢ 〈c〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一瀬　和夫	

テーマ

事前学習を経た上で、ボランティア活動を経験する。活動は継続して行うが、中間総括にて振返りの学習を行い、学びを深める。

授業の到達目標

ボランティア活動を通じ、社会における自身の役割について、視野を広げること。

授業の概要

複数回の事前学習を経た後、ボランティア活動を経験します。ボランティア活動は継続的に行ってください。
秋季～冬季にかけ、中間総括として振返り学習を行います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

ただ単に「キャリアゼミⅢ」の単位取得を目指すための活動するのではなく、継続的にボランティア活動を続ける心構えを前提とします。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　事前学習①
第3回　事前学習②
第4回　ボランティア活動
第5回　振返り学習会①
第6回　振返り学習会②

履修上の注意点

上記のスケジュールは状況により、変動しますことをあらかじめご了承ください。詳しくはオリエンテーションで指示します。
また、ボランティア活動はあくまで先方の指示に従い、継続的な活動を行うようにしてください。

教科書

適宜、資料を配布する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 60 ）
注意事項や諸々の期限・時間についても厳格に扱い、守られない場合は減点対象とします。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアゼミⅢ <d>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹中　美貴	

テーマ

企業の現実的課題や新事業・新商品の企画等、与えられたテーマに対してグループで調査分析し、課題解決策や新事業・新商品の企画提案を楽しみながら行う。

授業の到達目標

調査分析・課題解決提案や企画提案を通じ、コミュニケーション能力や論理的思考力、分析力等を養いつつ、自身の将来について視野を広げる。

授業の概要

オリエンテーション後、グループごとに、与えられたテーマについて調査分析、解決策・企画提案をまとめ報告を行う。報告後、グループ交代を行い、新しいテーマについて調査分析、解決策・企画提案をまとめ、報告を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新聞やニュース、課題図書などで、社会や経済について幅広く知識を得ておくこと。

内　　容

第11回　グループワーク④
第12回　中間発表②
第13回　グループワーク⑤
第14回　プレゼンテーションと講評　振返り
第15回　全体の振り返り・まとめ　今後の目標
第1回　オリエンテーション　授業の趣旨・進め方について
第2回　議論やプレゼンテーション等のルール説明
第3回　課題提示①　役割設定・ゴールの設定
第4回　グループワーク①
第5回　中間発表①
第6回　グループワーク②
第7回　グループワーク③
第8回　プレゼンテーションと講評・振返り
第9回　前半の振返り
第10回　課題提示②　役割設定・ゴールの設定

履修上の注意点

グループワークをメインとした演習である。したがって、当然のことながら、出席してグループワークに取り組むことは最低限の前提である。また、グループワークである以上、グループでフォローし合うことが求められる。

教科書

適時、資料を配布する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 40 ）

参加度　（ 60 ）

当然のことながら、出席してグループワークに取り組むことは最低限の前提である。グループワークにおける取組姿勢（フォローも含む）を重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアゼミⅢ 〈e〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中村　純	

テーマ

公務・行政といった公共部門の現実的課題や新事業の企画等、与えられたテーマに対してグループで調査分析し、課題解決策や新事業の企画提案を楽しみながら行う。

授業の到達目標

調査分析。課題解決策提案や企画提案を通じ、コミュニケーション能力や論理的思考力、分析力等を養いつつ、自身の将来について視野を広げる。

授業の概要

オリエンテーション後、グループごとに、与えられたテーマについて調査分析、解決策・企画提案をまとめ報告を行う。報告後、グループ交代を行い、新しいテーマについて調査分析、解決策・企画提案をまとめ、報告を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新聞やニュース、課題図書などで、社会や経済について幅広く知識を得ておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション　授業の趣旨・進め方について
第2回　議論やプレゼンテーション等のルール説明
第3回　課題提示①　役割設定・ゴールの設定
第4回　グループワーク①
第5回　中間発表①
第6回　グループワーク②
第7回　グループワーク③
第8回　プレゼンテーションと講評　振返り
第9回　前半の振返り
第10回　課題提示②　役割設定・ゴールの設定
第11回　グループワーク④
第12回　中間発表②
第13回　グループワーク⑤
第14回　プレゼンテーションと講評　振返り
第15回　全体の振返り・まとめ　今後の目標

履修上の注意点

グループワークをメインとした演習である。したがって、当然のことながら、出席してグループワークに参加することは最低限の前提である。また、グループワークである以上、グループでフォローし合うことが求められる。

教科書

適時、資料を配布する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 40 ）

参加度（ 60 ）

当然のことながら、出席してグループワークに参加することは最低限の前提である。グループワークにおける取組姿勢（フォローも含む）を重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアゼミⅢ 〈f〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小川　明美	

テーマ

地域社会の現実的課題や生活の中の身近な課題について、与えられたテーマに対してグループで調査分析し、課題解決策や新事業・新商品の企画提案を楽しみながら行う。

授業の到達目標

調査分析・課題解決提案や企画提案を通じ、コミュニケーション能力や論理的思考力、分析力等を養いつつ、自身の将来について視野を広げる

授業の概要

オリエンテーション後、グループに分かれ、与えられたテーマについて調査分析、解決策・企画提案をまとめ報告を行う。報告後、グループ交代を行い、新しいテーマについて調査分析、解決策・企画提案をまとめ、報告を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新聞やニュース、課題図書などで、社会や経済について幅広く知識を得ておくこと。

内　　容

第1回　オリエンテーション　授業の趣旨・進め方について
第2回　議論やプレゼンテーション等のルール説明
第3回　課題提示①　役割設定・ゴールの設定
第4回　グループワーク①
第5回　中間発表①
第6回　グループワーク②
第7回　グループワーク③
第8回　プレゼンテーションと講評・振返り
第9回　前半の振返り
第10回　課題提示②　役割設定・ゴールの設定
第11回　グループワーク④
第12回　中間発表②
第13回　グループワーク⑤
第14回　プレゼンテーションと講評　振返り
第15回　全体の振返り　今後の目標

履修上の注意点

グループワークをメインとした演習である。したがって、当然のことながら、出席してグループワークに参加することは最低限の前提である。また、グループワークである以上、グループでフォローし合うことが求められる。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 40 ）

参加度　（ 60 ）

当然のことながら、出席してグループワークに参加することは最低限の前提である。また、グループワークにおける取組姿勢（フォローも含む）を重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアゼミⅢ 〈G〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　幸一郎	

テーマ

台湾に滞在して異文化を体験するとともに、現地大学を拠点にグローバル社会・グローバル経済について実践的に学ぶ。

授業の到達目標

グローバル社会における日本の立ち位置や、これから自分がどのように学び、生きていくのか考える機会とすること。

授業の概要

あらかじめ事前学習を受講した上で、台湾に5日間滞在し、現地の企業等を見学する。帰国後の事後学習会にて、振返りの授業を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前学習：学習支援アプリ「educa」にて、事前課題を課す。現地研修参加前に反復して学習すること。

内　　容

第1回　グローバル化する日本経済
第2回　日本経済と中国
第3回　日本経済とアジア
第4回　トランプ政権の誕生と反グローバリゼーション
第5回　研修事前学習　台湾の政治・経済・文化
第6回　台湾現地研修（5日間）
第7回　研修事後学習　グローバル化する世界とこれからのキャリア形成

履修上の注意点

事前・事後学習は前期水曜2限「キャリア開発研究Ⅱ〈Gb〉」と同じ動きになるため、この時限を空けておくこと。
また、事後学習の日程は別途調整する。

教科書

適時、資料を配布する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 50 ）	

振り返りや報告会において、積極的に参加をすること

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアデザイン入門 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　150
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小倉　寿雄	

テーマ

就職活動に必要な自己形成と社会人基礎力を身につけてもらいます。講義に参加して　自分で考え　人に伝える練習をします。

授業の到達目標

就職活動で企業に採用されるポイントを理解してもらいます。社会人としての世の中の仕組みを学んでもらいます

授業の概要

講義　グループ討議　発表の流れで理解を深めていきます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

時事問題に対する情報収集　ニュースに関心を持つこと

内　　容

第1回　スタートアップ講義の概要と評価方法
第2回　社会人の基礎力
第3回　私の価値観(キャリア)を考える①
第4回　私の価値観(ミッションステートメント)を考える②
第5回　留学体験発表会　(総合教育課)予定
第6回　就職活動とは　仕事とは
第7回　インターンシップ概要(マイナビ筒井)予定
第8回　ゲストスピーカー(企業)予定
第9回　ゲストスピーカー(企業)予定
第10回　企業研究DVD
第11回　企業研究DVD
第12回　少子高齢化社会が与える影響
第13回　グローバル経済とIOT時代
第14回　ゲストスピーカー(リクナビ登録会)予定
第15回　まとめ

履修上の注意点

ケーススタディ・ゲストスピーカーの日程は変更があります 遅刻・途中退出は減点対象です。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 50% ）　　授業中発表等（ 20% ）
参加度（ 30% ）
毎回の講義での提出物・発表で評価 テストはありません　出席が足りないと確実に不合格になります

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアデザイン入門 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　150
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀越　昭夫	

テーマ

就職活動に必要な自己形成と社会人基礎力を身につけてもらいます。講義に参加して　自分で考え　人に伝える練習をします。

授業の到達目標

就職活動で企業に採用されるポイントを理解してもらいます。社会人としての世の中の仕組みを学んでもらいます

授業の概要

講義　グループ討議　発表の流れで理解を深めていきます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

時事問題に対する情報収集　ニュースに関心を持つこと

内　　容

第1回　スタートアップ講義の概要と評価方法
第2回　社会人の基礎力
第3回　私の価値観(キャリア)を考える①
第4回　私の価値観(ミッションステートメント)を考える②
第5回　留学体験発表会　(総合教育課)予定
第6回　就職活動とは　仕事とは
第7回　インターンシップ概要(マイナビ筒井)予定
第8回　ゲストスピーカー(企業)予定
第9回　ゲストスピーカー(企業)予定
第10回　企業研究DVD
第11回　企業研究DVD
第12回　少子高齢化社会が与える影響
第13回　グローバル経済とIOT時代
第14回　ゲストスピーカー(リクナビ登録会)予定
第15回　まとめ

履修上の注意点

ケーススタディ・ゲストスピーカーの日程は変更があります 遅刻・途中退出は減点対象です。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 50% ）　　授業中発表等（ 20% ）
参加度（ 30% ）
毎回の講義での提出物・発表で評価 テストはありません　出席が足りないと確実に不合格になります

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアデザイン入門 <c>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　150
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀越　昭夫	

テーマ

就職活動に必要な自己形成と社会人基礎力を身につけてもらいます。講義に参加して　自分で考え　人に伝える練習をします。

授業の到達目標

就職活動で企業に採用されるポイントを理解してもらいます。社会人としての世の中の仕組みを学んでもらいます

授業の概要

講義　グループ討議　発表の流れで理解を深めていきます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

時事問題に対する情報収集　ニュースに関心を持つこと

内　　容

第1回　スタートアップ講義の概要と評価方法
第2回　社会人の基礎力
第3回　私の価値観(キャリア)を考える①
第4回　私の価値観(ミッションステートメント)を考える②
第5回　留学体験発表会　(総合教育課)予定
第6回　就職活動とは　仕事とは
第7回　インターンシップ概要(マイナビ筒井)予定
第8回　ゲストスピーカー(企業)予定
第9回　ゲストスピーカー(企業)予定
第10回　企業研究DVD
第11回　企業研究DVD
第12回　少子高齢化社会が与える影響
第13回　グローバル経済とIOT時代
第14回　ゲストスピーカー(リクナビ登録会)予定
第15回　まとめ

履修上の注意点

ケーススタディ・ゲストスピーカーの日程は変更があります 遅刻・途中退出は減点対象です。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 50% ）　　授業中発表等（ 20% ）
参加度（ 30% ）
毎回の講義での提出物・発表で評価 テストはありません　出席が足りないと確実に不合格になります

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアデザイン入門 <d>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　150
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小倉　寿雄	

テーマ

就職活動に必要な自己形成と社会人基礎力を身につけてもらいます。講義に参加して　自分で考え　人に伝える練習をします。

授業の到達目標

就職活動で企業に採用されるポイントを理解してもらいます。社会人としての世の中の仕組みを学んでもらいます

授業の概要

講義　グループ討議　発表の流れで理解を深めていきます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

時事問題に対する情報収集　ニュースに関心を持つこと

内　　容

第1回　スタートアップ講義の概要と評価方法
第2回　社会人の基礎力
第3回　私の価値観(キャリア)を考える①
第4回　私の価値観(ミッションステートメント)を考える②
第5回　留学体験発表会　(総合教育課)予定
第6回　就職活動とは　仕事とは
第7回　インターンシップ概要(マイナビ筒井)予定
第8回　ゲストスピーカー(企業)予定
第9回　ゲストスピーカー(企業)予定
第10回　企業研究DVD
第11回　企業研究DVD
第12回　少子高齢化社会が与える影響
第13回　グローバル経済とIOT時代
第14回　ゲストスピーカー(リクナビ登録会)予定
第15回　まとめ

履修上の注意点

ケーススタディ・ゲストスピーカーの日程は変更があります 遅刻・途中退出は減点対象です。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 50% ）　　授業中発表等（ 20% ）
参加度（ 30% ）
毎回の講義での提出物・発表で評価 テストはありません　出席が足りないと確実に不合格になります

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアデザイン入門 <G>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　150
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小倉　寿雄	

テーマ

将来の目的・目標に応じた自己形成と社会人基礎力を身につけ、自らのキャリアを方向付けることができる「基礎・基盤作り」をテーマとし、また、大学で学ぶ意義、働くことの意義を理解し、学びによる成長を支援します。

授業の到達目標

キャリア形成していく上で、大学4年間はとても重要で貴重な時間です。1460日（1年間＝365日）を使い、「授業を基本とするさまざまな経験や活動、体験を通じて〝何を〟学び、どんなことに気づき、どのような知識を獲得するか」。これらのことが、今後のキャリア（人生）に大きな影響を与えることになるかを考え,働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の概要

(1)順序立てたスケジュールとなっているため、すべての授業に出席すること。(2)態度が悪い学生は退出してもらうこともあります。(3)積極的な発言、グループでの話し合いなどを通して探索・考察・発表することでより理解を深めて行きます。(4)スケジュールを変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新聞（特に日経新聞）、雑誌などから情報収集したり、また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

内　容

第1回　オリエンテーション／キャリアとは
第2回　社会人基礎力を身につけることの意義
第3回　これからの学生生活を考える
第4回　私の価値観を考える①
第5回　私の価値観を考える②
第6回　人生の目的・目標①
第7回　人生の目的・目標②
第8回　人生の目的・目標③
第9回　これからの日本の将来と私達のキャリア
第10回　キャリアとグローバル社会を考える
第11回　ケーススタディ①
第12回　ゲストスピーカー
第13回　ケーススタディ②
第14回　ケーススタディ③
第15回　まとめ

履修上の注意点

マナーを重要視しますので受講態度の悪い学生、特に講義中の私語や、主体的な参加・関与が見られない学生は退出、または履修をお断りする場合もあります。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）　　小テスト （ 0% ）

授業中課題 （ 60% ）　　授業中発表等 （ 0% ）

参加度 （ 40% ）

出席を最重要視するが講義中に実施するレポート、宿題などの提出期限、内容（質）及び、講義内で行われる実習などの積極的参加度合などを含めて評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリアデザイン入門 〈文B〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　150
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中村　純	

テーマ

みなさんが生きる現代社会について理解を深め、自身がどのように生きていくのか、考える科目です。

授業の到達目標

大学生に必要な、世の中の仕組みや教養を幅広く身につけること。物事に対して課題意識をもつこと。

授業の概要

前半は講義、後半は他クラスとの合同にてゲストスピーカー講演やケーススタディを行い、理解を深めます。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

時事問題に対する情報収集　ニュースに関心を持つこと

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　現代社会の論点とキャリア①
第3回　現代社会の論点とキャリア②
第4回　現代社会の論点とキャリア③
第5回　留学体験発表会（総合教育課）予定　※他クラス合同
第6回　現代社会の論点とキャリア④
第7回　企業研究DVD　※他クラス合同
第8回　企業研究DVD　※他クラス合同
第9回　現代社会の論点とキャリア⑤
第10回　ゲストスピーカー（企業）予定　※他クラス合同
第11回　ゲストスピーカー（企業）予定　※他クラス合同
第12回　現代社会の論点とキャリア⑥
第13回　ゲストスピーカー（企業）予定　※他クラス合同
第14回　現代社会の論点とキャリア⑦
第15回　まとめ

履修上の注意点

ケーススタディ・ゲストスピーカーの日程は変更の可能性があります。
合同授業日は教室変更がありますので、ご注意ください。
遅刻・途中退出は減点対象です。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 30 ）
出席が足りないと確実に不合格になります

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発講座Ⅲ 〈b〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件　キャリア開発講座Ⅳとセットで履修すること	クラス指定
担 当 者　濱田 剛	

テーマ

大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる一般社会常識を学ぶ。

授業の到達目標

・コミュニケーション能力の前提となる一般社会常識を学び、就職筆記試験対策だけでなく社会に順応できる力の養成を目指す。
・就職活動でよく実施される筆記試験の基礎内容を丁寧な解説で習得することを目指す。

授業の概要

授業計画に沿って、すでに学んできた一般常識問題を各単元ごとに再確認していく。ファイナルテスト60点未満の対象者については、補講授業の受講が必須になります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で出した課題の提出

内　容

第1回　ガイダンス・プレテスト
第2回　基礎国語① 国語力の基礎演習　Ⅰ
第3回　基礎国語② 国語力の基礎演習　Ⅱ
第4回　基礎国語③ 文章力育成　Ⅰ
第5回　基礎国語④ 文章力育成　Ⅱ
第6回　基礎国語⑤ 文章力育成　Ⅲ
第7回　基礎数学① 四則混合計算からの総復習
第8回　基礎数学② 単位変換、速さの計算等の総復習
第9回　基礎数学③ 速さに関する問題Ⅰ
第10回 基礎数学④ 速さに関する問題Ⅱ
第11回 基礎数学⑤ 金銭に関する問題Ⅰ
第12回 基礎数学⑥ 金銭に関する問題Ⅱ
第13回 基礎数学⑦ 場合の数・確率
第14回 基礎数学⑧ 資料の整理・集合
第15回 基礎数学⑨ 推論・ファイナルテスト

履修上の注意点

教科書

就職筆記試験対策～言語～
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:
就職筆記試験対策～非言語～
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発講座Ⅲ <d>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件　キャリア開発講座Ⅳとセットで履修すること	クラス指定
担 当 者　濱田　剛	

テーマ

大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる一般社会常識を学ぶ

授業の到達目標

・コミュニケーション能力の前提となる一般社会常識を学び、就職筆記試験対策だけでなく社会に順応できる力の養成を目指す。
・就職活動でよく実施される筆記試験の基礎内容を丁寧な解説で習得することを目指す。

授業の概要

授業計画に沿って、すでに学んできた一般常識問題を各単元ごとに再確認していく。ファイナルテスト60点未満の対象者については、補講授業の受講が必須になります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で出した課題の提出

内　容

第1回　ガイダンス・プレテスト
第2回　基礎国語① 国語力の基礎演習　Ⅰ
第3回　基礎国語② 国語力の基礎演習　Ⅱ
第4回　基礎国語③ 文章力育成　Ⅰ
第5回　基礎国語④ 文章力育成　Ⅱ
第6回　基礎国語⑤ 文章力育成　Ⅲ
第7回　基礎数学① 速さに関する問題Ⅰ
第8回　基礎数学② 速さに関する問題Ⅱ
第9回　基礎数学③ 金銭に関する問題Ⅰ
第10回 基礎数学④ 金銭に関する問題Ⅱ
第11回 基礎数学⑤ 場合の数・確率
第12回 基礎数学⑥ 資料の整理・集合
第13回 基礎数学⑦ 推論
第14回 基礎数学⑧ 総合演習Ⅰ
第15回 基礎数学⑨ 推論・ファイナルテスト

履修上の注意点

教科書

就職筆記試験対策～言語～
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:
就職筆記試験対策～非言語～
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ ）

参加度（ ）

授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発講座Ⅳ 〈b〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　濱田 剛	

テーマ

多様化する就職筆記試験に対するポイント授業により就職基礎能力を養成する

授業の到達目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。「SPI試験」を筆頭に、多様化する筆記試験対策授業を実施。言語分野、非言語分野ともに、膨大な範囲の中から頻出単元を抽出し、わかりやすい講義を実施。基礎力から応用まで対応できる学力を養成する。

授業の概要

授業計画に沿って、言語・非言語分野の頻出する単元ごとの解法を学び、問題演習を実践していく。ファイナルテスト60点未満の対象者については、補講授業の受講が必須になります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で出した課題の提出

内　容

第1回　ガイダンス・プレテスト
第2回　SPI試験とは　/　言語分野①　同意語、反意語、四字熟語
第3回　就職と言語能力　/　言語分野②　ことわざ、慣用句、二語の関係
第4回　コミュニケーション能力　/　言語分野③　敬語、謙譲語、丁寧語、文法、語彙力、国語常識、教養問題
第5回　自己分析と能力の磨き方　/　言語分野④　文の並び替え、文章読解基礎
第6回　伝える力を育てる　/　言語分野⑤　文章読解応用
第7回　非言語分野①　計算・計数の総復習
第8回　非言語分野②　速度算の基礎、速度算、旅人算、通過算、時刻表
第9回　非言語分野③　損益算、料金の割引、分割払い、代金の精算
第10回　非言語分野④　仕事算、年齢算、濃度算
第11回　非言語分野⑤　場合の数、確率
第12回　非言語分野⑥　集合、ブラックボックス
第13回　非言語分野⑦　資料の整理、長文読み取り
第14回　非言語分野⑧　推論
第15回　非言語分野⑨　物の流れと比率・ファイナルテスト

履修上の注意点

教科書

就職筆記試験対策～言語～
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:
就職筆記試験対策～非言語～
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発講座Ⅳ <d>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　濱田 剛	

テーマ

多様化する就職筆記試験に対するポイント授業により就職基礎能力を養成する

授業の到達目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。「SPI試験」を筆頭に、多様化する筆記試験対策授業を実施。言語分野、非言語分野ともに、膨大な範囲の中から頻出単元を抽出し、わかりやすい講義を実施。基礎力から応用まで対応できる学力を養成する。

授業の概要

授業計画に沿って、言語・非言語分野の頻出する単元ごとの解法を学び、問題演習を実践していく。ファイナルテスト60点未満の対象者については、補講授業の受講が必須になります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で出した課題の提出

内　容

第1回　ガイダンス・プレテスト
第2回　SPI試験とは　/　言語分野①　同意語、反意語、四字熟語
第3回　就職と言語能力　/　言語分野②　ことわざ、慣用句、二語の関係
第4回　コミュニケーション能力　/　言語分野③　敬語、謙譲語、丁寧語、文法、語彙力、国語常識、教養問題
第5回　自己分析と能力の磨き方　/　言語分野④　文の並び替え、文章読解基礎
第6回　伝える力を育てる　/　言語分野⑤　文章読解応用
第7回　非言語分野①　計算・計数の総復習
第8回　非言語分野②　速度算の基礎、速度算、旅人算、通過算、時刻表
第9回　非言語分野③　損益算、料金の割引、分割払い、代金の精算
第10回　非言語分野④　仕事算、年齢算、濃度算
第11回　非言語分野⑤　場合の数、確率
第12回　非言語分野⑥　集合、ブラックボックス
第13回　非言語分野⑦　資料の整理、長文読み取り
第14回　非言語分野⑧　推論
第15回　非言語分野⑨　物の流れと比率・ファイナルテスト

履修上の注意点

教科書

就職筆記試験対策～言語～
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:
就職筆記試験対策～非言語～
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 40 ）　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ 〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　150
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小倉　寿雄	

テーマ

就職活動に必要な自己形成と社会人基礎力を身につけてもらいます。講義に参加して　自分で考え　人に伝える練習をします。

授業の到達目標

就職活動で企業に採用されるポイントを理解してもらいます。社会人としての世の中の仕組みを学んでもらいます

授業の概要

実際の企業の仕事を理解してもらう。インターシップについて理解してもらうことで企業が求める人材に成長してもらう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

時事問題に対する情報収集　ニュースに関心を持つこと

内　　容

第1回　スタートアップ講義の概要と評価方法
第2回　人生の目的・目標
第3回　雇用の仕組み　正社員　非正規社員
第4回　キャリアメイト発表(キャリアセンター)予定
第5回　ゲストスピーカー(たけでん　橘OBプレゼン)予定
第6回　社会人としての常識　価値観　ビジネスマナー
第7回　業界研究　産業を考える　製造業
第8回　業界研究　産業を考える　商社　流通　小売　サービス
第9回　ゲストスピーカー　(就職支援マイナビ)予定
第10回　ゲストスピーカー　(公務員対策　大津市役所)予定
第11回　ゲストスピーカー　(企業)予定
第12回　コミュニケーション能力・表現力
第13回　履歴書・自己紹介の書き方
第14回　ゲストスピーカー(企業OB)予定
第15回　まとめ

履修上の注意点

ケーススタディ・ゲストスピーカーの日程は変更があります 遅刻・途中退出は減点対象です

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 30 ）
毎回の講義での提出物・発表で評価 テストはありません　出席が足りないと確実に不合格になります

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　150
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀越　昭夫	

テーマ

就職活動に必要な自己形成と社会人基礎力を身につけてもらいます。講義に参加して　自分で考え　人に伝える練習をします。

授業の到達目標

就職活動で企業に採用されるポイントを理解してもらいます。社会人としての世の中の仕組みを学んでもらいます

授業の概要

実際の企業の仕事を理解してもらう。インターシップについて理解してもらうことで企業が求める人材に成長してもらう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

時事問題に対する情報収集　ニュースに関心を持つこと

内　　容

第1回　スタートアップ講義の概要と評価方法
第2回　人生の目的・目標
第3回　雇用の仕組み　正社員　非正規社員
第4回　キャリアメイト発表(キャリアセンター)予定
第5回　ゲストスピーカー(たけでん　橘OBプレゼン)予定
第6回　社会人としての常識　価値観　ビジネスマナー
第7回　業界研究　産業を考える　製造業
第8回　業界研究　産業を考える　商社　流通　小売　サービス
第9回　ゲストスピーカー　(就職支援マイナビ)予定
第10回　ゲストスピーカー　(公務員対策　大津市役所)予定
第11回　ゲストスピーカー　(企業)予定
第12回　コミュニケーション能力・表現力
第13回　履歴書・自己紹介の書き方
第14回　ゲストスピーカー(企業OB)予定
第15回　まとめ

履修上の注意点

ケーススタディ・ゲストスピーカーの日程は変更があります 遅刻・途中退出は減点対象です

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 30 ）
毎回の講義での提出物・発表で評価 テストはありません　出席が足りないと確実に不合格になります

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ <c>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　150
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀越　昭夫	

テーマ

就職活動に必要な自己形成と社会人基礎力を身につけてもらいます。講義に参加して　自分で考え　人に伝える練習をします。

授業の到達目標

就職活動で企業に採用されるポイントを理解してもらいます。社会人としての世の中の仕組みを学んでもらいます

授業の概要

実際の企業の仕事を理解してもらう。インターシップについて理解してもらうことで企業が求める人材に成長してもらう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

時事問題に対する情報収集　ニュースに関心を持つこと

内　　容

第1回　スタートアップ講義の概要と評価方法
第2回　人生の目的・目標
第3回　雇用の仕組み　正社員　非正規社員
第4回　キャリアメイト発表(キャリアセンター)予定
第5回　ゲストスピーカー(たけでん　橘OBプレゼン)予定
第6回　社会人としての常識　価値観　ビジネスマナー
第7回　業界研究　産業を考える　製造業
第8回　業界研究　産業を考える　商社　流通　小売　サービス
第9回　ゲストスピーカー　(就職支援マイナビ)予定
第10回　ゲストスピーカー　(公務員対策　大津市役所)予定
第11回　ゲストスピーカー　(企業)予定
第12回　コミュニケーション能力・表現力
第13回　履歴書・自己紹介の書き方
第14回　ゲストスピーカー(企業OB)予定
第15回　まとめ

履修上の注意点

ケーススタディ・ゲストスピーカーの日程は変更があります 遅刻・途中退出は減点対象です

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 30 ）
毎回の講義での提出物・発表で評価 テストはありません　出席が足りないと確実に不合格になります

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ <d>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　150
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小倉　寿雄	

テーマ

就職活動に必要な自己形成と社会人基礎力を身につけてもらいます。講義に参加して　自分で考え　人に伝える練習をします。

授業の到達目標

就職活動で企業に採用されるポイントを理解してもらいます。社会人としての世の中の仕組みを学んでもらいます

授業の概要

実際の企業の仕事を理解してもらう。インターシップについて理解してもらうことで企業が求める人材に成長してもらう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

時事問題に対する情報収集　ニュースに関心を持つこと

内　　容

第1回　スタートアップ講義の概要と評価方法
第2回　人生の目的・目標
第3回　雇用の仕組み　正社員　非正規社員
第4回　キャリアメイト発表(キャリアセンター)予定
第5回　ゲストスピーカー(たけでん　橘OBプレゼン)予定
第6回　社会人としての常識　価値観　ビジネスマナー
第7回　業界研究　産業を考える　製造業
第8回　業界研究　産業を考える　商社　流通　小売　サービス
第9回　ゲストスピーカー　(就職支援マイナビ)予定
第10回　ゲストスピーカー　(公務員対策　大津市役所)予定
第11回　ゲストスピーカー　(企業)予定
第12回　コミュニケーション能力・表現力
第13回　履歴書・自己紹介の書き方
第14回　ゲストスピーカー(企業OB)予定
第15回　まとめ

履修上の注意点

ケーススタディ・ゲストスピーカーの日程は変更があります 遅刻・途中退出は減点対象です

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 30 ）
毎回の講義での提出物・発表で評価 テストはありません　出席が足りないと確実に不合格になります

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ〈G〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　150
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小倉　寿雄	

テーマ

企業や組織についての知識を広めることをテーマとします。

授業の到達目標

①企業組織についての知識を広めより深く理解する ②働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の概要

企業で、実際に行われている仕事がどのようなものかを理解しながら、興味を感じる仕事や企業について考える。また、企業が求める人材とはどのような人材かなどを理解していきます。*スケジュールを変更することもあります。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新聞（特に日経新聞）、雑誌などから情報収集すること。また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

内　容

第1回　オリエンテーション　講義の進め方
第2回　人生の目的・目標（振り返り）
第3回　日本の雇用の仕組みを考える
第4回　日本の産業を考える（業界・企業とは）①
第5回　日本の産業を考える（業界・企業とは）②
第6回　日本の産業を考える（業界・企業とは）③
第7回　三回生の向けての取り組み①
第8回　職種を考える
第9回　ゲストスピーカー①
第10回　ゲストスピーカー②
第11回　課題発表①
第12回　課題発表②
第13回　課題発表③
第14回　目標と時間管理
第15回　全体まとめ

履修上の注意点

マナーを重視しますので受講態度の悪い学生、特に私語や主体的な参加・関与が見られない学生は退出、または履修をお断わりすることもあります。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0% ）	小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 60% ）	授業中発表等 （ 0% ）

参加度 （ 40% ）

出席も重要視しますが、それに加えて宿題、講義内で実施するレポートの提出期限、内容（質）なども重要となります。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅳ〈Ga〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　通年	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　篭田 彰宏	

テーマ

就活実践力の養成に必要な社会人になるための素地を鍛え上げる。

授業の到達目標

グローバル人材に最低限求められる能力を、体現することから養成する。

授業の概要

プレゼンテーションの大会であるキャリアインカレに出場する講座。
sy怪人として必要となるプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、創造力、協調性をこの講座を通じて養う

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で出した課題の提出

内　　容

第1回　アイスブレイク・自己紹介・1分間スピーチ
第2回　プレゼンテーションの基本
第3回　プレゼンテーション発表
第4回　企画書の作成方法とは
第5回　提出書類作成スタート
第6回　提出書類完成
第7回　スピーチの基本～標準
第8回　書類の最終チェック・提出動画作成スタート
第9回　提出動画作成①
第10回　提出動画作成②
第11回　提出動画作成③
第12回　提出動画作成④
第13回　準決勝大会に向けて
第14回　決勝大会に向けて
第15回　総まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（60）	授業中発表等（40）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅳ〈Gb〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　幸一郎	

テーマ

世界から見た日本と日本文化――クールジャパンと日本のアニメーション

授業の到達目標

グローバル化が進行するこれからの時代を生きていくために、私たちは今、外国人とコミュニケーションをとり、ともに生き、働いていくような、「共生力」が求められている。この授業では、留学生とともグループワークやディスカッション、学外研修を行うことを通じて、これからの時代に必要とされる、国際感覚を養っていく。

授業の概要

日本のアニメーションは今や、世界的なコンテンツ産業に成長しつつあり、特に東アジアの少年少女たちは、アニメを通じて日本を理解している。アニメや漫画は、グローバルな視点から見た時、現代日本の一部を構成していると言ってよい。留学生とともに学ぶこの授業では、海外から見た見た日本文化という観点から、クール・ジャパーン・ジャパニメーションを考えていく。外国人留学生とともに学んでいくことで、今まで気付かなかった日本や日本人の姿を発見することになる。日本人が海外の人たちにどう見られているのか学んでいくことで、受講生たちがそれぞれに「共生」の道筋を発見するよう、指導していくつもりである。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で取り上げるアニメ作品はなるべく事前に視聴しておくこと。

内　容

第1回　クールジャパンの構造　アジアの中の日本アニメ
第2回　近代化と失われた日本人の信仰 『となりのトトロ』はなぜなつかしいのか？
第3回　学外授業　伏見稲荷
第4回　グループワーク　伏見稲荷見学の振り返り
第5回　京アニが描く現代の若者像（1）『涼宮ハルヒの憂鬱』
第6回　京アニが描く現代の若者像（2）『響け！ユーフォニアム』
第7回　京アニが描く現代の若者像（3）『響け！ユーフォニアム』
第8回　学外見学　宇治平等院界隈
第9回　グループワーク　宇治見学振り返り
第10回 有頂天家族と京都
第11回 学外見学　鴨川デルタ・下鴨神社・旧三井家邸宅
第12回 グループワーク　鴨川デルタ見学振り返り
第13回 学外研修　東山　六道珍皇寺・清水寺
第14回 グループワーク　東山　六道珍皇寺・清水寺見学振り返り
第15回 まとめ

履修上の注意点

グループワークには積極的に参加すること。学外見学の拝観料は大学負担だが交通費は個人負担になる。見学は水曜日1，2限目に行う予定。1限目にほかの授業が入っている場合は、欠席してもかまわない。ただし、グループワークまでに個人で見学に行っておくこと（拝観料は個人負担になるので注意）。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（60）	授業中発表等（ ）
参加度（40）	

2018 Syllabus

科 目 名　**インターンシップA（ビジネス）〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　100
履修条件	クラス指定
担 当 者　　香坂　千佳子	

テーマ

インターンシップの事前学習によって、職業観の醸成を図る。

授業の到達目標

本講義の到達目標は
①インターンシップの重要性を理解する。
②情報収集能力を養うことで就職活動のための、自分自身の軸を持つことを目標とする。
職業観、社会性、仕事や会社への具体的な理解とイメージ獲得ができ、これからの大学生活の学習目的や習得課題等が明確になることを目指す。

授業の概要

自らの職業観並びに職業意識を少しでも持つことができるようにインターシップの意義を学び、自らの学習意識の向上を図る。

大学時代の経験、体験は就職活動、および社会生活を営む上で大きく影響すると言われている。
大学では専門知識の修得は当然だが、自分の「働き方の軸」を就職活動前に知ることも重要である。そこで、「働き方の軸」を探る上で、インターンシップの参加がいかに重要であるかを学び、今後の「働き方の軸」を探るプロセスも学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

①最終テストを行わない代わりに、数回の課題に対して、レポート提出。
②後期にキャリアセンター主催の「キャリアフェア」に時間が許す限り参加、学外で開催される参加企業に関しての情報収集をする。
③グループに分かれ、企業について調べてもらい、発表を行う。

内　容

第1回　オリエンテーション　受講上の注意、講義の進め方、インターンシップの意義と効果
第2回　キャリア教育とインターンシップ
第3回　何のために・・・・。①
（大学、社会で働く、生きる）
第4回　何のために・・・・。②
（大学、社会で働く、生きる）
第5回　これからの日本、経済の視点から「働き方」を考える
第6回　企業から見たインターンシップ
第7回　これからの企業が求める人材像は？
企業や社会はどんな人材を求めいるのか？
第8回　京都橘大学のインターンシップの特徴
第9回　インターンシップ経験者が語る
第10回　インターンシップの学びをどのように活かすか
第11回　ゲストスピーカー①
第12回　ゲストスピーカー②
第13回　インターンシップの探し方
（大学−国内・国外、コンソーシアム、海外、自治体）
第14回　2回生時の今後の目標設定
第15回　まとめ

履修上の注意点

(1) 遅刻は厳禁（講義スタート時までに教室内に着席）
(2) 順序立てたスケジュールとなっているため、すべての授業に出席すること。
(3) 欠席・遅刻の多い学生は、単位取得は難しい。
(4) 私語、スマホ、居眠りは禁止
(5)態度の悪い学生に対しては、退出してもらう。
(6)履修人数により、シラバス内容が多少、変更される可能性もある。

社会人の基本ルールである「期限」「時間厳守」を徹底する。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 10 ）
参加度 （ 40 ）	

成績評価
出席日数及び、授業参加度+課題提出+プレゼンテーション（自己評価/他者評価）が加算されます。
欠席・遅刻の多い学生及び全出席をしても、その他の項目を満たしてない場合は、単位取得は難しくなります。

2018 Syllabus

科 目 名　**インターンシップA（ビジネス）<b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　100
履修条件	クラス指定
担 当 者　　香坂　千佳子	

テーマ

インターンシップの事前学習によって、職業観の醸成を図る。

授業の到達目標

本講義の到達目標は
①インターンシップの重要性を理解する。
②情報収集能力を養うことで就職活動のための、自分自身の軸を持つことを目標とする。
職業観、社会性、仕事や会社への具体的な理解とイメージ獲得ができ、これからの大学生活の学習目的や習得課題等が明確になることを目指す。

授業の概要

自らの職業観並びに職業意識を少しでも持つことができるようにインターシップの意義を学び、自らの学習意識の向上を図る。

大学時代の経験、体験は就職活動、および社会生活を営む上で大きく影響すると言われている。
大学では専門知識の修得は当然だが、自分の「働き方の軸」を就職活動前に知ることも重要である。そこで、「働き方の軸」を探る上で、インターンシップの参加がいかに重要であるかを学び、今後の「働き方の軸」を探るプロセスも学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

①最終テストを行わない代わりに、数回の課題に対して、レポート提出。
②後期にキャリアセンター主催の「キャリアフェア」に時間が許す限り参加、学外で開催される参加企業に関しての情報収集をする。
③グループに分かれ、企業について調べてもらい、発表を行う。

内　容

第1回　オリエンテーション　受講上の注意、講義の進め方、インターンシップの意義と効果
第2回　キャリア教育とインターンシップ
第3回　何のために・・・・。①
（大学、社会で働く、生きる）
第4回　何のために・・・・。②
（大学、社会で働く、生きる）
第5回　これからの日本、経済の視点から「働き方」を考える
第6回　企業から見たインターンシップ
第7回　これからの企業が求める人材像は？
企業や社会はどんな人材を求めいるのか？
第8回　京都橘大学のインターンシップの特徴
第9回　インターンシップ経験者が語る
第10回　インターンシップの学びをどのように活かすか
第11回　ゲストスピーカー①
第12回　ゲストスピーカー②
第13回　インターンシップの探し方
（大学−国内・国外、コンソーシアム、海外、自治体）
第14回　2回生時の今後の目標設定
第15回　まとめ

履修上の注意点

(1) 遅刻は厳禁（講義スタート時までに教室内に着席）
(2) 順序立てたスケジュールとなっているため、すべての授業に出席すること。
(3) 欠席・遅刻の多い学生は、単位取得は難しい。
(4) 私語、スマホ、居眠りは禁止
(5)態度の悪い学生に対しては、退出してもらう。
(6)履修人数により、シラバス内容が多少、変更される可能性もある。

社会人の基本ルールである「期限」「時間厳守」を徹底する。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 10 ）
参加度 （ 40 ）	

成績評価
出席日数及び、授業参加度+課題提出+プレゼンテーション（自己評価/他者評価）が加算されます。
欠席・遅刻の多い学生及び全出席をしても、その他の項目を満たしてない場合は、単位取得は難しくなります。

2018 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅰ〈初等〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐敷　惠威子	

テーマ

教職に就くための確かな見通しを持ち、教育実践の力量を培うために

授業の到達目標

教職を志す者は、今日の学校教育における課題を主体的に考察し、認識を深め、自らの資質･能力を高める必要がある。そのために、現在の学校教育をめぐる基本的な課題を取り上げ、その課題解決に向けて考察し、学校教育の現状について理解と認識を深め、実践的な課題克服を主体的に考える力を培うようにする。

授業の概要

今日の学校教育をめぐる状況とその課題を考察し、学校教育の現状について理解と認識を深め、自らの実践を主体的に考え、表出したり、グループ討議で考えを深めあったりする。

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

文部科学省のホームページや新聞等に記載されている教育関係の記事、教育専門月刊誌などを日頃から読むようにすること

内　容

第1回　オリエンテーション　教育（学校）の役割
第2回　学校教育の役割
第3回　教師に求められ資質･能力
第4回　教師の役割･仕事･学習指導
第5回　学習指導要領の特色
第6回　教師の仕事と生徒指導（子どもを見取る力）
第7回　教師の仕事と生徒指導（見取りから対応へ）
第8回　今日的な教育課題
第9回　学習指導要領の改訂
第10回　学校と学級
第11回　生きる力と確かな学力
第12回　授業づくり　指導案作成
第13回　全学年･全教科の指導内容とその概要1
第14回　全学年･全教科の指導内容とその概要2
第15回　目指す教師像

履修上の注意点

･これから社会人として生きていく上での常識をわきまえて臨むこと（講義中の携帯、飲食の禁止）
･自分なりに課題意識を持って臨むこと

教科書

小学校学習指導要領
著者:　文部科学省
出版社:　東京書籍
出版年:　最新版　　ISBN:

小学校学習指導要領解説総則編
著者:　文部科学省
出版社:　東洋館出版社
出版年:　最新版　　ISBN:

小学校学習指導要領解説道徳編
著者:　文部科学省
出版社:　東洋館出版社
出版年:　最新版　　ISBN:

生徒指導提要
著者:　文部科学省
出版社:　東洋館出版社
出版年:　　ISBN:

ask102e110

参考書

成績評価

試験・レポート（ なし ）	小テスト（ なし ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 15 ）
参加度 （ 15 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅰ〈中等〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　廣瀬　忠愛	

テーマ

学校教育実践論Ⅰ

授業の到達目標

これからの教職を志す者は，今日の学校教育における，具体的な課題を主体的に考察し，認識を深める資質･能力を身につける必要があります。そのために，現在の学校教育をめぐる基本的課題を取り上げ，多角的･複眼的に考察し，学校教育の現状についての認識･理解を深め，実践的な課題克服の方途を主体的に考える力を身につけることを目標とします。

授業の概要

今日の学校教育をめぐる基本的課題を多角的･複眼的に考察し，学校教育の現状についての認識･理解を深め，自らの実践を主体的に考え，発表する。基本的なことを学び、それをもとに関連した課題について考え、グループで討議し深める。グループで討議した内容を全体で報告する。

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

文部科学省のホームページを日頃から見ておくこと。一般の新聞等における教育関係の記事、教育専門誌、教育専門月刊誌など読んでおくこと

内　容

第1回　授業の説明等（教職を志す資質･能力及び教員採用試験）イントロダクション
第2回　教師の求められる資質･能力
第3回　ワークショップ
第4回　教育観について
第5回　ワークショップ
第6回　今日的な教育課題
第7回　ワークショップ
第8回　学習指導の在り方
第9回　ワークショップ
第10回　児童生徒の問題行動について
第11回　ワークショップ
第12回　これからの人権教育
第13回　ワークショップ
第14回　都道府県政令指定都市の教育方針や教育目標などに関する内容
第15回　ワークショップのまとめ

履修上の注意点

･授業中の飲食および携帯電話の使用、その他講義に支障があることは禁止。･欠席については、事前･事後に必ず連絡すること。（欠席届の提出）･講義は教員採用試験を受験する人、教員になる人を前提に行います。しかし、それら該当しない人の受講も可能ですので、申し出てください。

教科書

中学校学習指導要領本体
著者:　文部科学省
出版社:　東洋館出版社
出版年:　　ISBN:

中学校学習指導要領解説総則編
著者:　文部科学省
出版社:　東洋館出版社
出版年:　　ISBN:

中学校学習指導要領解説道徳編
著者:　文部科学省
出版社:　東洋館出版社
出版年:　　ISBN:

ask102e112

中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編
著者: 文部科学省
出版社: 東洋館出版社
出版年: ISBN:
中学校学習指導要領解説特別活動編
著者: 文部科学省
出版社: 東洋館出版社
出版年: ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ） 授業中発表等（ 15 ）
参加度 （ 15 ）
授業における課題のレポート，授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う

2018 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅰ〈幼a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一柳　敦子	

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

授業の到達目標

･保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めるとともに、自己課題を明確にし、将来の進路に向けて意欲と期待を高める。

授業の概要

･時代の変化に伴う保育所や幼稚園、認定こども園の新たな役割や子どもの実態に応じた、保育者としての必要な能力、知識について実技や実習体験等を通して学びを深める。･ゲスト講師の話や学生同士のディスカッションを通して自分自身の課題を意識化し　将来の保育者像の具体化につなぐ。

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

･積極的なボランティア活動等により子どもとの交わりや様々な保育者との出会いを豊富にしておく。･実習簿の記録や反省を基に得意分野を伸ばすとともに、自分の不得意分野の内容について整理をしたり克服方法を考える。

内　　容

第1回　発達段階に応じた教材研究①･･言葉領域関係(教材準備)
第2回　発達段階に応じた教材研究②･･言葉領域関係(実技演習)
第3回　発達段階に応じた教材研究③･･表現領域関係(教材準備)
第4回　発達段階に応じた教材研究④･･表現領域関係(実技演習)
第5回　発達段階に応じた教材研究⑤･･乳児に関わって(指導案づくりを通して)
第6回　発達段階に応じた教材研究⑥･･乳児に関わって(模擬保育を通して)
第7回　発達段階に応じた教材研究⑦･･幼児に関わって(指導案づくりを通して)
第8回　発達段階に応じた教材研究⑧･･幼児に関わって(模擬保育を通して)
第9回　素敵な保育者になるために①･･実習を振り返って自分を見つめる。その1 振り返りシートによる意見交流
第10回　素敵な保育者になるために②･･実習を振り返って自分を見つめる。その2 自己課題に関するレポート作成
第11回　素敵な保育者になるために③･･子どもの豊かな体験のために。その1 (ゲスト講師)
第12回　素敵な保育者になるために④･･子どもの豊かな体験のために。その2 実技交流やディスカッション
第13回　素敵な保育者になるために⑤･･保育者としての自覚に向けて。その1 全ての実習を振り返り報告会に向けて総まとめをする。
第14回　素敵な保育者になるために⑥･･保育者としての自覚に向けて。その2 2回生との合同授業による実習報告会をする。
第15回　※素敵な保育者になるために⑦･･まとめ ※外部講師を招いて講演会を実施することがある。(11回目で予定)

履修上の注意点

･実技による教材研究だけではなく、保育所、幼稚園、認定こども園の現場の状況を直接知ることができる場や自身の実習体験を活かした企画の場など4回生の就職活動につながる実践的体験的な授業が中心となるので欠席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説
著者:　文部科学省
出版社: フレーベル館
出版年: 2018　　ISBN:

保育所保育指針解説
著者:　厚生労働省
出版社: フレーベル館
出版年: 2018　　ISBN:

参考書

幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説
著者:　内閣府･文科省･厚労省

ask102e113

出版社: フレーベル館

出版年: 2018　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）

授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 40% ）

参加度 （ 20% ）

授業の参加度は授業中の態度や発表等への積極性を鑑みて総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅰ〈幼b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　太田　みつ枝	

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

授業の到達目標

･保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めるとともに、自己課題を明確にし、将来の進路に向けて意欲と期待を高める。

授業の概要

・時代の変化に伴う保育所や幼稚園、認定こども園の新たな役割や子どもの実態に応じた、保育者としての必要な能力、知識について実技や実習体験等を通して学びを深める。・ゲスト講師の話や学生同士のディスカッションを通して自分自身の課題を意識化し　将来の保育者像の具体化につなぐ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・積極的なボランティア活動等により子どもとの交わりや様々な保育者との出会いを豊富にしておく。・実習簿の記録や反省を基に得意分野を伸ばすとともに、自分の不得意分野の内容について整理をしたり克服方法を考える。

内　容

第1回　発達段階に応じた教材研究①･･言葉領域関係(教材準備)
第2回　発達段階に応じた教材研究②･･言葉領域関係(実技演習)
第3回　発達段階に応じた教材研究③･･表現領域関係(教材準備)
第4回　発達段階に応じた教材研究④･･表現領域関係(実技演習)
第5回　発達段階に応じた教材研究⑤･･乳児に関わって(指導案づくりを通して)
第6回　発達段階に応じた教材研究⑥･･乳児に関わって(模擬保育を通して)
第7回　発達段階に応じた教材研究⑦･･幼児に関わって(指導案づくりを通して)
第8回　発達段階に応じた教材研究⑧･･幼児に関わって(模擬保育を通して)
第9回　素敵な保育者になるために①･･実習を振り返って自分を見つめる。その1 振り返りシートによる意見交流
第10回　素敵な保育者になるために②･･実習を振り返って自分を見つめる。その2 自己課題に関するレポート作成
第11回　素敵な保育者になるために③･･子どもの豊かな体験のために。その1 (ゲスト講師)
第12回　素敵な保育者になるために④･･子どもの豊かな体験のために。その2 実技交流やディスカッション
第13回　素敵な保育者になるために⑤･･保育者としての自覚に向けて。その1 全ての実習を振り返り報告会に向けて総まとめをする。
第14回　素敵な保育者になるために⑥･･保育者としての自覚に向けて。その2 2回生との合同授業による実習報告会をする。
第15回　※素敵な保育者になるために⑦･･まとめ ※外部講師を招いて講演会を実施することがある。(11回目で予定)

履修上の注意点

・実技による教材研究だけではなく、保育所、幼稚園、認定こども園の現場の状況を直接知ることができる場や自身の実習体験を活かした企画の場など4回生の就職活動につながる実践的体験的な授業が中心となるので欠席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説
著者:　文部科学省
出版社: フレーベル館
出版年: 2018　　ISBN:

保育所保育指針解説
著者:　厚生労働省
出版社: フレーベル館
出版年: 2018　　ISBN:

参考書

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
著者:　内閣府・文科省・厚労省

ask102e114

出版社: フレーベル館

出版年: 2018　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）

授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 40% ）

参加度 （ 20% ）

授業の参加度は授業中の態度や発表等への積極性を鑑みて総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅰ〈幼c〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中島　裕子	

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

授業の到達目標

･保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めるとともに、自己課題を明確にし、将来の進路に向けて意欲と期待を高める。

授業の概要

・時代の変化に伴う保育所や幼稚園、認定こども園の新たな役割や子どもの実態に応じた、保育者としての必要な能力、知識について実技や実習体験等を通して学びを深める。・ゲスト講師の話や学生同士のディスカッションを通して自分自身の課題を意識化し　将来の保育者像の具体化につなぐ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・積極的なボランティア活動等により子どもとの交わりや様々な保育者との出会いを豊富にしておく。・実習簿の記録や反省を基に得意分野を伸ばすとともに、自分の不得意分野の内容について整理をしたり克服方法を考える。

内　容

第1回　発達段階に応じた教材研究①･･言葉領域関係(教材準備)
第2回　発達段階に応じた教材研究②･･言葉領域関係(実技演習)
第3回　発達段階に応じた教材研究③･･表現領域関係(教材準備)
第4回　発達段階に応じた教材研究④･･表現領域関係(実技演習)
第5回　発達段階に応じた教材研究⑤･･乳児に関わって(指導案づくりを通して)
第6回　発達段階に応じた教材研究⑥･･乳児に関わって(模擬保育を通して)
第7回　発達段階に応じた教材研究⑦･･幼児に関わって(指導案づくりを通して)
第8回　発達段階に応じた教材研究⑧･･幼児に関わって(模擬保育を通して)
第9回　素敵な保育者になるために①･･実習を振り返って自分を見つめる。その1 振り返りシートによる意見交流
第10回　素敵な保育者になるために②･･実習を振り返って自分を見つめる。その2 自己課題に関するレポート作成
第11回　素敵な保育者になるために③･･子どもの豊かな体験のために。その1 (ゲスト講師)
第12回　素敵な保育者になるために④･･子どもの豊かな体験のために。その2 実技交流やディスカッション
第13回　素敵な保育者になるために⑤･･保育者としての自覚に向けて。その1 全ての実習を振り返り報告会に向けて総まとめをする。
第14回　素敵な保育者になるために⑥･･保育者としての自覚に向けて。その2 2回生との合同授業による実習報告会をする。
第15回　※素敵な保育者になるために⑦･･まとめ ※外部講師を招いて講演会を実施することがある。(11回目で予定)

履修上の注意点

・実技による教材研究だけではなく、保育所、幼稚園、認定こども園の現場の状況を直接知ることができる場や自身の実習体験を活かした企画の場など4回生の就職活動につながる実践的体験的な授業が中心となるので欠席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説
著者:　文部科学省
出版社: フレーベル館
出版年: 2018　　ISBN:

保育所保育指針解説
著者:　厚生労働省
出版社: フレーベル館
出版年: 2018　　ISBN:

参考書

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
著者:　内閣府・文科省・厚労省

ask102e115

出版社: フレーベル館

出版年: 2018　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）

授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 40% ）

参加度 （ 20% ）

授業の参加度は授業中の態度や発表等への積極性を鑑みて総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅰ〈幼d〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉江　由紀子	

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

授業の到達目標

･保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めるとともに、自己課題を明確にし、将来の進路に向けて意欲と期待を高める。

授業の概要

･時代の変化に伴う保育所や幼稚園、認定こども園の新たな役割や子どもの実態に応じた、保育者としての必要な能力、知識について実技や実習体験等を通して学びを深める。･ゲスト講師の話や学生同士のディスカッションを通して自分自身の課題を意識化し　将来の保育者像の具体化につなぐ。

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

･積極的なボランティア活動等により子どもとの交わりや様々な保育者との出会いを豊富にしておく。･実習簿の記録や反省を基に得意分野を伸ばすとともに、自分の不得意分野の内容について整理をしたり克服方法を考える。

内　容

第1回　発達段階に応じた教材研究①･･言葉領域関係(教材準備)
第2回　発達段階に応じた教材研究②･･言葉領域関係(実技演習)
第3回　発達段階に応じた教材研究③･･表現領域関係(教材準備)
第4回　発達段階に応じた教材研究④･･表現領域関係(実技演習)
第5回　発達段階に応じた教材研究⑤･･乳児に関わって(指導案づくりを通して)
第6回　発達段階に応じた教材研究⑥･･乳児に関わって(模擬保育を通して)
第7回　発達段階に応じた教材研究⑦･･幼児に関わって(指導案づくりを通して)
第8回　発達段階に応じた教材研究⑧･･幼児に関わって(模擬保育を通して)
第9回　素敵な保育者になるために①･･実習を振り返って自分を見つめる。その1 振り返りシートによる意見交流
第10回　素敵な保育者になるために②･･実習を振り返って自分を見つめる。その2 自己課題に関するレポート作成
第11回　素敵な保育者になるために③･･子どもの豊かな体験のために。その1 (ゲスト講師)
第12回　素敵な保育者になるために④･･子どもの豊かな体験のために。その2 実技交流やディスカッション
第13回　素敵な保育者になるために⑤･･保育者としての自覚に向けて。その1 全ての実習を振り返り報告会に向けて総まとめをする。
第14回　素敵な保育者になるために⑥･･保育者としての自覚に向けて。その2 2回生との合同授業による実習報告会をする。
第15回　※素敵な保育者になるために⑦･･まとめ ※外部講師を招いて講演会を実施することがある。(11回目で予定)

履修上の注意点

･実技による教材研究だけではなく、保育所、幼稚園、認定こども園の現場の状況を直接知ることができる場や自身の実習体験を活かした企画の場など4回生の就職活動につながる実践的体験的な授業が中心となるので欠席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説
著者:　文部科学省
出版社: フレーベル館
出版年: 2018　　ISBN:

保育所保育指針解説
著者:　厚生労働省
出版社: フレーベル館
出版年: 2018　　ISBN:

参考書

幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説
著者:　内閣府･文科省･厚労省

ask102e116

出版社: フレーベル館

出版年: 2018　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）

授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 40% ）

参加度 （ 20% ）

授業の参加度は授業中の態度や発表等への積極性を鑑みて総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅰ〈幼e〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中﨑　あつ子	

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

授業の到達目標

･保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めるとともに、自己課題を明確にし、将来の進路に向けて意欲と期待を高める。

授業の概要

･時代の変化に伴う保育所や幼稚園、認定こども園の新たな役割や子どもの実態に応じた、保育者としての必要な能力、知識について実技や実習体験等を通して学びを深める。･ゲスト講師の話や学生同士のディスカッションを通して自分自身の課題を意識化し　将来の保育者像の具体化につなぐ。

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

･積極的なボランティア活動等により子どもとの交わりや様々な保育者との出会いを豊富にしておく。･実習簿の記録や反省を基に得意分野を伸ばすとともに、自分の不得意分野の内容について整理をしたり克服方法を考える。

内　容

第1回　発達段階に応じた教材研究①･･言葉領域関係(教材準備)
第2回　発達段階に応じた教材研究②･･言葉領域関係(実技演習)
第3回　発達段階に応じた教材研究③･･表現領域関係(教材準備)
第4回　発達段階に応じた教材研究④･･表現領域関係(実技演習)
第5回　発達段階に応じた教材研究⑤･･乳児に関わって(指導案づくりを通して)
第6回　発達段階に応じた教材研究⑥･･乳児に関わって(模擬保育を通して)
第7回　発達段階に応じた教材研究⑦･･幼児に関わって(指導案づくりを通して)
第8回　発達段階に応じた教材研究⑧･･幼児に関わって(模擬保育を通して)
第9回　素敵な保育者になるために①･･実習を振り返って自分を見つめる。その1 振り返りシートによる意見交流
第10回　素敵な保育者になるために②･･実習を振り返って自分を見つめる。その2 自己課題に関するレポート作成
第11回　素敵な保育者になるために③･･子どもの豊かな体験のために。その1 (ゲスト講師)
第12回　素敵な保育者になるために④･･子どもの豊かな体験のために。その2 実技交流やディスカッション
第13回　素敵な保育者になるために⑤･･保育者としての自覚に向けて。その1 全ての実習を振り返り報告会に向けて総まとめをする。
第14回　素敵な保育者になるために⑥･･保育者としての自覚に向けて。その2 2回生との合同授業による実習報告会をする。
第15回　※素敵な保育者になるために⑦･･まとめ ※外部講師を招いて講演会を実施することがある。(11回目で予定)

履修上の注意点

･実技による教材研究だけではなく、保育所、幼稚園、認定こども園の現場の状況を直接知ることができる場や自身の実習体験を活かした企画の場など4回生の就職活動につながる実践的体験的な授業が中心となるので欠席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説
著者:　文部科学省
出版社: フレーベル館
出版年: 2018　　ISBN:

保育所保育指針解説
著者:　厚生労働省
出版社: フレーベル館
出版年: 2018　　ISBN:

参考書

幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説
著者:　内閣府･文科省･厚労省

ask102e117

出版社: フレーベル館

出版年: 2018　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）

授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 40% ）

参加度 （ 20% ）

授業の参加度は授業中の態度や発表等への積極性を鑑みて総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅰ〈幼f〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山口　陽子	

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

授業の到達目標

･保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めるとともに、自己課題を明確にし、将来の進路に向けて意欲と期待を高める。

授業の概要

･時代の変化に伴う保育所や幼稚園、認定こども園の新たな役割や子どもの実態に応じた、保育者としての必要な能力、知識について実技や実習体験等を通して学びを深める。･ゲスト講師の話や学生同士のディスカッションを通して自分自身の課題を意識化し　将来の保育者像の具体化につなぐ。

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

･積極的なボランティア活動等により子どもとの交わりや様々な保育者との出会いを豊富にしておく。･実習簿の記録や反省を基に得意分野を伸ばすとともに、自分の不得意分野の内容について整理をしたり克服方法を考える。

内　容

第1回　発達段階に応じた教材研究①･･言葉領域関係(教材準備)
第2回　発達段階に応じた教材研究②･･言葉領域関係(実技演習)
第3回　発達段階に応じた教材研究③･･表現領域関係(教材準備)
第4回　発達段階に応じた教材研究④･･表現領域関係(実技演習)
第5回　発達段階に応じた教材研究⑤･･乳児に関わって(指導案づくりを通して)
第6回　発達段階に応じた教材研究⑥･･乳児に関わって(模擬保育を通して)
第7回　発達段階に応じた教材研究⑦･･幼児に関わって(指導案づくりを通して)
第8回　発達段階に応じた教材研究⑧･･幼児に関わって(模擬保育を通して)
第9回　素敵な保育者になるために①･･実習を振り返って自分を見つめる。その1 振り返りシートによる意見交流
第10回　素敵な保育者になるために②･･実習を振り返って自分を見つめる。その2 自己課題に関するレポート作成
第11回　素敵な保育者になるために③･･子どもの豊かな体験のために。その1 (ゲスト講師)
第12回　素敵な保育者になるために④･･子どもの豊かな体験のために。その2 実技交流やディスカッション
第13回　素敵な保育者になるために⑤･･保育者としての自覚に向けて。その1 全ての実習を振り返り報告会に向けて総まとめをする。
第14回　素敵な保育者になるために⑥･･保育者としての自覚に向けて。その2 2回生との合同授業による実習報告会をする。
第15回　※素敵な保育者になるために⑦･･まとめ ※外部講師を招いて講演会を実施することがある。(11回目で予定)

履修上の注意点

･実技による教材研究だけではなく、保育所、幼稚園、認定こども園の現場の状況を直接知ることができる場や自身の実習体験を活かした企画の場など4回生の就職活動につながる実践的体験的な授業が中心となるので欠席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説
著者:　文部科学省
出版社: フレーベル館
出版年: 2018　　ISBN:

保育所保育指針解説
著者:　厚生労働省
出版社: フレーベル館
出版年: 2018　　ISBN:

参考書

幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説
著者:　内閣府･文科省･厚労省

ask102e118

出版社: フレーベル館

出版年: 2018　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）

授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 40% ）

参加度（ 20% ）

授業の参加度は授業中の態度や発表等への積極性を鑑みて総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅰ〈幼g〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　須藤　智代子	

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

授業の到達目標

･保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めるとともに、自己課題を明確にし、将来の進路に向けて意欲と期待を高める。

授業の概要

・時代の変化に伴う保育所や幼稚園、認定こども園の新たな役割や子どもの実態に応じた、保育者としての必要な能力、知識について実技や実習体験等を通して学びを深める。・ゲスト講師の話や学生同士のディスカッションを通して自分自身の課題を意識化し　将来の保育者像の具体化につなぐ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・積極的なボランティア活動等により子どもとの交わりや様々な保育者との出会いを豊富にしておく。・実習簿の記録や反省を基に得意分野を伸ばすとともに、自分の不得意分野の内容について整理をしたり克服方法を考える。

内　容

第1回　発達段階に応じた教材研究①･･言葉領域関係(教材準備)
第2回　発達段階に応じた教材研究②･･言葉領域関係(実技演習)
第3回　発達段階に応じた教材研究③･･表現領域関係(教材準備)
第4回　発達段階に応じた教材研究④･･表現領域関係(実技演習)
第5回　発達段階に応じた教材研究⑤･･乳児に関わって(指導案づくりを通して)
第6回　発達段階に応じた教材研究⑥･･乳児に関わって(模擬保育を通して)
第7回　発達段階に応じた教材研究⑦･･幼児に関わって(指導案づくりを通して)
第8回　発達段階に応じた教材研究⑧･･幼児に関わって(模擬保育を通して)
第9回　素敵な保育者になるために①･･実習を振り返って自分を見つめる。その1 振り返りシートによる意見交流
第10回　素敵な保育者になるために②･･実習を振り返って自分を見つめる。その2 自己課題に関するレポート作成
第11回　素敵な保育者になるために③･･子どもの豊かな体験のために。その1 (ゲスト講師)
第12回　素敵な保育者になるために④･･子どもの豊かな体験のために。その2 実技交流やディスカッション
第13回　素敵な保育者になるために⑤･･保育者としての自覚に向けて。その1 全ての実習を振り返り報告会に向けて総まとめをする。
第14回　素敵な保育者になるために⑥･･保育者としての自覚に向けて。その2 2回生との合同授業による実習報告会をする。
第15回　※素敵な保育者になるために⑦･･まとめ ※外部講師を招いて講演会を実施することがある。(11回目で予定)

履修上の注意点

・実技による教材研究だけではなく、保育所、幼稚園、認定こども園の現場の状況を直接知ることができる場や自身の実習体験を活かした企画の場など4回生の就職活動につながる実践的体験的な授業が中心となるので欠席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説
著者:　文部科学省
出版社: フレーベル館
出版年: 2018　　ISBN:

保育所保育指針解説
著者:　厚生労働省
出版社: フレーベル館
出版年: 2018　　ISBN:

参考書

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
著者:　内閣府・文科省・厚労省

ask102e119

出版社: フレーベル館

出版年: 2018　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）

授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 40% ）

参加度 （ 20% ）

授業の参加度は授業中の態度や発表等への積極性を鑑みて総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅰ〈幼h〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉田　裕子	

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

授業の到達目標

･保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めるとともに、自己課題を明確にし、将来の進路に向けて意欲と期待を高める。

授業の概要

･時代の変化に伴う保育所や幼稚園、認定こども園の新たな役割や子どもの実態に応じた、保育者としての必要な能力、知識について実技や実習体験等を通して学びを深める。･ゲスト講師の話や学生同士のディスカッションを通して自分自身の課題を意識化し　将来の保育者像の具体化につなぐ。

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

･積極的なボランティア活動等により子どもとの交わりや様々な保育者との出会いを豊富にしておく。･実習簿の記録や反省を基に得意分野を伸ばすとともに、自分の不得意分野の内容について整理をしたり克服方法を考える。

内　容

第1回　発達段階に応じた教材研究①･･言葉領域関係(教材準備)
第2回　発達段階に応じた教材研究②･･言葉領域関係(実技演習)
第3回　発達段階に応じた教材研究③･･表現領域関係(教材準備)
第4回　発達段階に応じた教材研究④･･表現領域関係(実技演習)
第5回　発達段階に応じた教材研究⑤･･乳児に関わって(指導案づくりを通して)
第6回　発達段階に応じた教材研究⑥･･乳児に関わって(模擬保育を通して)
第7回　発達段階に応じた教材研究⑦･･幼児に関わって(指導案づくりを通して)
第8回　発達段階に応じた教材研究⑧･･幼児に関わって(模擬保育を通して)
第9回　素敵な保育者になるために①･･実習を振り返って自分を見つめる。その1 振り返りシートによる意見交流
第10回　素敵な保育者になるために②･･実習を振り返って自分を見つめる。その2 自己課題に関するレポート作成
第11回　素敵な保育者になるために③･･子どもの豊かな体験のために。その1 (ゲスト講師)
第12回　素敵な保育者になるために④･･子どもの豊かな体験のために。その2 実技交流やディスカッション
第13回　素敵な保育者になるために⑤･･保育者としての自覚に向けて。その1 全ての実習を振り返り報告会に向けて総まとめをする。
第14回　素敵な保育者になるために⑥･･保育者としての自覚に向けて。その2 2回生との合同授業による実習報告会をする。
第15回　※素敵な保育者になるために⑦･･まとめ ※外部講師を招いて講演会を実施することがある。(11回目で予定)

履修上の注意点

･実技による教材研究だけではなく、保育所、幼稚園、認定こども園の現場の状況を直接知ることができる場や自身の実習体験を活かした企画の場など4回生の就職活動につながる実践的体験的な授業が中心となるので欠席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説
著者:　文部科学省
出版社: フレーベル館
出版年: 2018　　ISBN:

保育所保育指針解説
著者:　厚生労働省
出版社: フレーベル館
出版年: 2018　　ISBN:

参考書

幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説
著者:　内閣府･文科省･厚労省

ask102e120

出版社: フレーベル館

出版年: 2018　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）

授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 40% ）

参加度 （ 20% ）

授業の参加度は授業中の態度や発表等への積極性を鑑みて総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅰ〈幼i〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　白井　昌子	

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

授業の到達目標

･保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めるとともに、自己課題を明確にし、将来の進路に向けて意欲と期待を高める。

授業の概要

･時代の変化に伴う保育所や幼稚園、認定こども園の新たな役割や子どもの実態に応じた、保育者としての必要な能力、知識について実技や実習体験等を通して学びを深める。･ゲスト講師の話や学生同士のディスカッションを通して自分自身の課題を意識化し　将来の保育者像の具体化につなぐ。

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

･積極的なボランティア活動等により子どもとの交わりや様々な保育者との出会いを豊富にしておく。･実習簿の記録や反省を基に得意分野を伸ばすとともに、自分の不得意分野の内容について整理をしたり克服方法を考える。

内　容

第1回　発達段階に応じた教材研究①･･言葉領域関係(教材準備)
第2回　発達段階に応じた教材研究②･･言葉領域関係(実技演習)
第3回　発達段階に応じた教材研究③･･表現領域関係(教材準備)
第4回　発達段階に応じた教材研究④･･表現領域関係(実技演習)
第5回　発達段階に応じた教材研究⑤･･乳児に関わって(指導案づくりを通して)
第6回　発達段階に応じた教材研究⑥･･乳児に関わって(模擬保育を通して)
第7回　発達段階に応じた教材研究⑦･･幼児に関わって(指導案づくりを通して)
第8回　発達段階に応じた教材研究⑧･･幼児に関わって(模擬保育を通して)
第9回　素敵な保育者になるために①･･実習を振り返って自分を見つめる。その1 振り返りシートによる意見交流
第10回　素敵な保育者になるために②･･実習を振り返って自分を見つめる。その2 自己課題に関するレポート作成
第11回　素敵な保育者になるために③･･子どもの豊かな体験のために。その1 (ゲスト講師)
第12回　素敵な保育者になるために④･･子どもの豊かな体験のために。その2 実技交流やディスカッション
第13回　素敵な保育者になるために⑤･･保育者としての自覚に向けて。その1 全ての実習を振り返り報告会に向けて総まとめをする。
第14回　素敵な保育者になるために⑥･･保育者としての自覚に向けて。その2 2回生との合同授業による実習報告会をする。
第15回　※素敵な保育者になるために⑦･･まとめ ※外部講師を招いて講演会を実施することがある。(11回目で予定)

履修上の注意点

･実技による教材研究だけではなく、保育所、幼稚園、認定こども園の現場の状況を直接知ることができる場や自身の実習体験を活かした企画の場など4回生の就職活動につながる実践的体験的な授業が中心となるので欠席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説
著者:　文部科学省
出版社: フレーベル館
出版年: 2018　　ISBN:

保育所保育指針解説
著者:　厚生労働省
出版社: フレーベル館
出版年: 2018　　ISBN:

参考書

幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説
著者:　内閣府･文科省･厚労省

ask102e121

出版社: フレーベル館

出版年: 2018　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）

授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 40% ）

参加度 （ 20% ）

授業の参加度は授業中の態度や発表等への積極性を鑑みて総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅰ〈幼j〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　辻　啓子	

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

授業の到達目標

･保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めるとともに、自己課題を明確にし、将来の進路に向けて意欲と期待を高める。

授業の概要

･時代の変化に伴う保育所や幼稚園、認定こども園の新たな役割や子どもの実態に応じた、保育者としての必要な能力、知識について実技や実習体験等を通して学びを深める。･ゲスト講師の話や学生同士のディスカッションを通して自分自身の課題を意識化し　将来の保育者像の具体化につなぐ。

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

･積極的なボランティア活動等により子どもとの交わりや様々な保育者との出会いを豊富にしておく。･実習簿の記録や反省を基に得意分野を伸ばすとともに、自分の不得意分野の内容について整理をしたり克服方法を考える。

内　容

第1回　発達段階に応じた教材研究①･･言葉領域関係(教材準備)
第2回　発達段階に応じた教材研究②･･言葉領域関係(実技演習)
第3回　発達段階に応じた教材研究③･･表現領域関係(教材準備)
第4回　発達段階に応じた教材研究④･･表現領域関係(実技演習)
第5回　発達段階に応じた教材研究⑤･･乳児に関わって(指導案づくりを通して)
第6回　発達段階に応じた教材研究⑥･･乳児に関わって(模擬保育を通して)
第7回　発達段階に応じた教材研究⑦･･幼児に関わって(指導案づくりを通して)
第8回　発達段階に応じた教材研究⑧･･幼児に関わって(模擬保育を通して)
第9回　素敵な保育者になるために①･･実習を振り返って自分を見つめる。その1 振り返りシートによる意見交流
第10回　素敵な保育者になるために②･･実習を振り返って自分を見つめる。その2 自己課題に関するレポート作成
第11回　素敵な保育者になるために③･･子どもの豊かな体験のために。その1 (ゲスト講師)
第12回　素敵な保育者になるために④･･子どもの豊かな体験のために。その2 実技交流やディスカッション
第13回　素敵な保育者になるために⑤･･保育者としての自覚に向けて。その1 全ての実習を振り返り報告会に向けて総まとめをする。
第14回　素敵な保育者になるために⑥･･保育者としての自覚に向けて。その2 2回生との合同授業による実習報告会をする。
第15回　※素敵な保育者になるために⑦･･まとめ ※外部講師を招いて講演会を実施することがある。(11回目で予定)

履修上の注意点

･実技による教材研究だけではなく、保育所、幼稚園、認定こども園の現場の状況を直接知ることができる場や自身の実習体験を活かした企画の場など4回生の就職活動につながる実践的体験的な授業が中心となるので欠席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説
著者:　文部科学省
出版社: フレーベル館
出版年: 2018　　ISBN:

保育所保育指針解説
著者:　厚生労働省
出版社: フレーベル館
出版年: 2018　　ISBN:

参考書

幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説
著者:　内閣府･文科省･厚労省

ask102e122

出版社: フレーベル館

出版年: 2018　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）

授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ 40% ）

参加度 （ 20% ）

授業の参加度は授業中の態度や発表等への積極性を鑑みて総合的に判断する。

2018 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅱ〈初等〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐敷　惠威子	

テーマ

教職に就くための確かな見通しを持ち、教育の意義と目的を明らかにするための理論の構築を目指す

授業の到達目標

これからの変化の激しい社会において、「生きる力」という概念はさらに重要度を増すことから、「生きる力」を形成する「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた育成が重視されている。教職を志す者は、単に学習指導要領の改善点の知識を獲得するだけでなく改訂の趣旨や背景、法制の改正なども踏まえて認識し、教師としての力量を高めることが大事である。教師として採用された後も、学習指導要領を始め、国レベルの答申や通知、報告などを常に意識し、継続的に理解し、社会の変化に対応する資質･能力を身につけることを目標とする。

授業の概要

学習指導要領の法制上の位置づけや教育課程を編成する際の基準等を理解する。

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

文部科学省のホームページや新聞等に記載されている教育関係の記事、教育専門月刊誌などを日頃から読むようにすること。

内　容

第1回　教育の意義と目的
第2回　教育課程の役割
第3回　教育課程の編成
第4回　教育課程の実施と学習評価
第5回　学習指導要領･その変遷
第6回　初等科教科教育法　外国語（英語）　外国語活動
第7回　初等科教科教育法　総合的な学習の時間　特別活動
第8回　児童の発達の支援
第9回　新学習指導要領について
第10回　学校運営と教育課程
第11回　学力と学習指導
第12回　教材研究と指導案づくり
第13回　学級経営について
第14回　全学年･全教科の指導内容
第15回　まとめ

履修上の注意点

･これから社会人として生きていく上での常識（講義中の携帯･飲食の禁止等）をわきまえて臨むこと
･自分なりに課題意識をもって臨むこと

教科書

小学校学習指導要領
著者:　文部科学省
出版社:　東京書籍
出版年:　最新版　　ISBN:

小学校学習指導要領解説総則編
著者:　文部科学省
出版社:　東洋館出版社
出版年:　最新版　　ISBN:

小学校学習指導要領解説道徳編
著者:　文部科学省
出版社:　東洋館出版社
出版年:　最新版　　ISBN:

参考書

ask102e250

成績評価

試験・レポート（ なし ）	小テスト（ なし ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 15 ）
参加度 （ 15 ）	

授業における課題レポート、授業中のプレゼンテーションおよび出席状況の総括的な成績評定を行う

2018 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅱ〈中等〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　廣瀬　忠愛	

テーマ

学校教育実践論Ⅱ

授業の到達目標

今回の学習指導要領改訂において，「生きる力」という概念は，知識基盤社会の時代においてますます重要となっていることから，これを継承し，「生きる力」を支える「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた育成が重視されている。これからの教職を志望する者は，教員採用試験のために，学習指導要領の改善点を単に暗記するだけではなく，改訂の趣旨及び背景（例えば，教育基本法の改正，学校教育法の改正など）も含めて理解し，教師としての実践力として身につけることが大切である。また，将来教師として採用された後も，学習指導要領をはじめ，国レベルで出される答申や通知，報告等を歴史的視点で継続的に理解し，時代の変化に対応できる資質・能力を身につけることなどを目標とする。

授業の概要

学習指導要領の法令上の位置づけや教育課程を編成する際の基準性等を理解する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

文部科学省のホームページを日頃から見ておくことや，一般の新聞等における教育関係の記事，教育専門誌，教育専門月刊誌などを読んでおくこと。

内　容

第1回　授業の説明等，イントロダクション
第2回　新学習指導要領の改善点
第3回　教育課程の編成，教育課程の意義，教育課程の概念など
第4回　教育課程とその基準，教育課程に関する法制など
第5回　教育課程編成の一般方針
第6回　内容等の取扱いに関する共通的事項
第7回　授業時数に関する知識1
第8回　授業時数に関する知識2
第9回　指導計画の作成
第10回　教育課程実施上の配慮事項1
第11回　教育課程実施上の配慮事項2
第12回　教育課程実施上の配慮事項3
第13回　道徳，外国語
第14回　総合的な学習の時間，特別活動
第15回　まとめ

履修上の注意点

・授業中の飲食および携帯電話の使用、その他講義に支障があることは禁止。・欠席については、事前・事後に必ず連絡すること。（欠席届の提出）・講義は教員採用試験を受験する人、教員になる人を前提に行います。しかし、それら該当しない人の受講も可能ですので、申し出てください。

教科書

中学校学習指導要領本体
著者:　文部科学省
出版社: 東洋館出版社
出版年:　　ISBN:

中学校学習指導要領解説総則編
著者:　文部科学省
出版社: 東洋館出版社
出版年:　　ISBN:

中学校学習指導要領解説道徳編
著者:　文部科学省
出版社: 東洋館出版社
出版年:　　ISBN:

ask102e252

中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編
著者: 文部科学省
出版社: 東洋館出版社
出版年: ISBN:
中学校学習指導要領解説特別活動編
著者: 文部科学省
出版社: 東洋館出版社
出版年: ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ） 授業中発表等（ 15 ）
参加度 （ 15 ）
授業における課題のレポート，授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**産業心理学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　永野　光朗	

テーマ

企業活動への心理学の応用

授業の到達目標

心理学基礎分野の知見を生かして産業における諸問題の解決に役立てるための視点と知識を備え、問題解決能力を育成するために、以下の3点を達成目標とする。・「心理学の応用」という視点について理解できる。・「組織行動」の仕組みについて心理学の立場から理解できる。・「消費者行動」の仕組みについて心理学の立場から理解できる。

授業の概要

高度に発達し複雑化・巨大化した現代の産業社会を構成している基本単位はいうまでもなく「個々の人間」であり、産業活動の効率化や、そこで生じる問題の解決をはかるためには、人間の行動や心理についての中立的で客観的な理解が欠かせない。産業心理学はこのような課題を達成するための研究分野である。産業場面での人間の行動を「組織行動」と「消費者行動」という2つの側面からとらえたうえで考察を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

つねに人事、消費、組織といったキーワードを中心にした産業活動に関心を持つこと。とくに興味を持ったものについては記録をしておくこと。
毎回実施する小テストを次回の授業時に返却をするが、その中にコメントを書くことでフィードバックを行う。

内　容

第1回　心理学の方法と目的
第2回　産業場面への「心理学の応用」について
第3回　産業心理学の歴史、目的と今日的課題
第4回　社会・集団と課題達成行動
第5回　社会・集団と意思決定
第6回　組織とリーダーシップ
第7回　消費者行動とマーケティング
第8回　消費者の購買意思決定過程①（購買意思決定モデル）
第9回　消費者の購買意思決定過程②（購買動機）
第10回　消費者の購買意思決定過程③（ブランド選択課程）
第11回　価格の心理学①（心理的財布理論）
第12回　価格の心理学②（行動経済学）
第13回　店舗内の消費者行動①（店舗内における行動のコントロール）
第14回　店舗内の消費者行動②（店舗内における販売促進の方法）
第15回　まとめと確認

履修上の注意点

授業には真摯に取り組むこと。スマホの使用や私語など他の受講者に迷惑となる行為については厳重に注意します。授業中の睡眠についても雰囲気を阻害する行為として注意します。

教科書

参考書

新・消費者理解のための心理学
著者:　杉本徹雄編著
出版社:　福村出版
出版年:　2012　　ISBN:　4571250401

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ 50 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
毎回の授業において小テストを実施する。単位については授業内に実施する試験（小テストを含む）の合計点が一定の点数以上であることを要件にする。正当な理由がある場合を除き追試験や追加のレポートなどは一切実施しない。

2018 Syllabus

科 目 名　**広告と消費の心理学**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　前田　洋光	

テーマ

現代社会における消費者行動の理解

授業の到達目標

・さまざまな消費行動を、客観的な視点から論考することができる。
・消費者の特性を理解した上で、マーケティング戦略との対応を考えることができる。
・消費という題材を通して、人間理解を深めることができる。

授業の概要

消費者行動とは、消費者が購買し、使用・維持を経て廃棄に至るすべての行動プロセスを含んだものであり、その行動は、消費者の個人内要因や環境からの外的要因など、多様な要因から影響を受けている。この授業では、消費者のブランド選択に関する意思決定や情報処理、価格判断など、幅広くトピックを取り上げ、消費者を取り巻く問題を論考していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

①日常生活における消費者行動に注意を向ける
②下記参考書をはじめとする関連書籍の講読

内　　容

第1回　イントロダクション：消費者行動とは？
第2回　消費者の購買意思決定過程（1）：消費者の問題認識と情報探索、多属性態度モデル
第3回　消費者の購買意思決定過程（2）：購買意思決定を左右する要因
第4回　消費者の購買意思決定過程（3）：不合理な購買意思決定
第5回　消費者満足
第6回　モノの意味と保有
第7回　広告効果
第8回　ブランドと広告
第9回　POP広告
第10回　プロダクトプレイスメント
第11回　公共広告
第12回　くちコミの概略
第13回　くちコミの効果を左右する要因（1）
第14回　くちコミの効果を左右する要因（2）
第15回　まとめと確認

履修上の注意点

社会人としてのマナーを遵守することを求める。

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

新・消費者理解のための心理学
著者：　杉本徹雄（編）
出版社：　福村出版
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅲ <初等>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　千葉　和子	

テーマ

教育的論理形成と具体的な教育実践及び評価

授業の到達目標

教育を目指す者に求められる専門的力量の中心課題は，児童生徒理解に基づく学級づくり･集団及び個別指導の力量形成である。学校教育に対する基本認識を深め推進していくうえでの知識･技術･能力･態度を身に着ける。

授業の概要

教育原理･教育心理･教育行政等の理論を学ぶと同時に，それらの理論が具現化された実際の教育活動についての理解を深める。

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

文部科学省のホームページ，一般の新聞に記載されている教育関係の記事，教育月刊誌などを読む。

内　容

第1回　オリエンテーション　　今，教師に求められる力
第2回　現在の学校の状況
第3回　教育課程の一般方針
第4回　様々な教育方法に関わる基本的な考え方
第5回　論作文
第6回　学習指導要領の改訂とその経過
第7回　学校教育改革
第8回　授業力を高める視点
第9回　学校運営･学級経営
第10回　道徳教育
第11回　特別支援教育
第12回　教職教養のポイント
第13回　発達と障害
第14回　教育時事
第15回　指導案作成

履修上の注意点

課題意識を持って臨むこと。振り返りを大事にすること。

教科書

小学校学習指導要領
著者:　文部科学省
出版社:　東京書籍
出版年:　　ISBN:
小学校学習指導要領解説総則編
著者:　文部科学省
出版社:　東洋館出版社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験･レポート（ なし ）	小テスト（ なし ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 15 ）

参加度（ 15 ）

授業における課題のレポート，授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な評定を行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅲ <中等>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　廣瀬　忠愛	

テーマ

客観的論理と主体的な教育実践

授業の到達目標

中央教育審議会答申は，教育の専門家としての確かな力量を具体的に「子ども理解力」「児童・生徒指導力」「集団指導の力」「学級づくりの力」「学習指導・授業づくりの力」「教材解釈の力」などを掲げている。教職を目指す学生・院生は，これらの知識や技能を身につけることはもちろんのこと，これらに加えて客観的論理に基づいた自己の考え方や，その論理から導き出された具体的な教育実践について，発信できる資質や能力を身につけることである。

授業の概要

客観的論理に基づいた自己の考え方や，その論理から導き出された教育実践についての表現力を身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

文部科学省のホームページを日頃から見ておくことや，一般の新聞等における教育関係の記事，教育専門誌，教育専門月刊誌などを読んでおくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション，本授業の構成要素等について
第2回　教師論について
第3回　学習指導について①（確かな学力・学習意欲・学習習慣・探究的な学習の重視
第4回　学習指導について②（学力向上・読書指導・言語活動の充実・体験活動の重視）
第5回　生徒指導について（生徒理解・自己肯定感・コミュニケーション能力）
第6回　生徒指導について（いじめ・教師と生徒の信頼関係・規範意識・社会性）
第7回　学級経営について
第8回　道徳指導について
第9回　人権教育について
第10回　進路指導について
第11回　キャリア教育について
第12回　地域や保護者の信頼について
第13回　家庭・地域の教育力について
第14回　安全教育について
第15回　体育・健康教育について

履修上の注意点

・授業中の飲食および携帯電話の使用、その他講義に支障があることは禁止。・欠席については、事前・事後に必ず連絡すること。（欠席届の提出）・講義は教員採用試験を受験する人、教員になる人を前提に行います。しかし、それら該当しない人の受講も可能ですので、申し出てください。

教科書

（中等）中学校学習指導要領本体
著者:　文部科学省
出版社:　東洋館出版社
出版年:　　ISBN:
（中等）中学校学習指導要領解説総則編
著者:　文部科学省
出版社:　東洋館出版社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）　　授業中発表等（ 15 ）
参加度（ 15 ）
授業における課題のレポート，授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。

ask103d412

2018 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅳ <初等>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　千葉　和子	

テーマ

「生きる力」を育む教育実践

授業の到達目標

教職を目指す者は，その専門職としての力量を高めることが求められている。専門的力量の大半は授業力である。児童の実態を踏まえ，学習指導要領に示される基本方針にのっとり，各教科の目標や内容は計画的に意図し取り組まれていることを理解する。また，各教科の特性，及びその系統性を理解し，指導の基礎･基本の力量を身に付ける。

授業の概要

「生きる力」をどのように育んでいくのかを教育実践･授業づくりを通して理解する。指導の根底にある学習指導要領，教育理論，教師の使命感，児童の現状等の理解は教育の重要な条件である。

準備学習（予習･復習･課題に対するフィードバック）

文部科学省のホームページ，一般の新聞に記載されている教育関係の記事，教育月刊誌などを読む。

内　容

第1回　オリエンテーション　教師の力量
第2回　学習指導要領について
第3回　特色のある学校教育活動
第4回　学校教育づくり
第5回　論作文
第6回　学習指導について
第7回　学校教育目標･学校評価･学習評価
第8回　指導案に学ぶ
第9回　生徒指導について　Ⅰ
第10回　生徒指導について　Ⅱ
第11回　特別活動
第12回　教職教養の重要ポイント　Ⅰ
第13回　教職教養の重要ポイント　Ⅱ
第14回　教育時事
第15回　指導案作成　　信頼される教師

履修上の注意点

課題意識を持って臨むこと。振り返りを大事にすること。

教科書

小学校学習指導要領
著者:　文部科学省
出版社:　東京書籍
出版年:　　ISBN:

小学校学習指導要領解説総則編
著者:　文部科学省
出版社:　東洋館出版
出版年:　　ISBN:

生徒指導提要
著者:　文部科学省
出版社:　教育図書
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験･レポート（ なし ）　　小テスト（ なし ）

ask103d510

授業中課題（ 70 ）　　授業中発表等（ 15 ）

参加度 （ 15 ）

授業における課題のレポート，授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅳ <中等>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　廣瀬　忠愛	

テーマ

教育サイクル（PDCA）の理解と「指導と評価の一体化」について

授業の到達目標

学校の教育活動は，PDCAという教育サイクルがスパイラルに繰り返されながら，生徒のよりよい成長を願った指導が展開される。授業は，生徒の実態を踏まえ，学習指導要領に示される基本方針や授業時間数，各教科等の目標・内容等を計画的に実施されることについて理解する。また，各教科等の内容・目標等及び教科等の系統性を理解し，学習指導案作成の基礎を身につける。一方，教育評価の結果によって今後の指導を改善し，さらに新しい指導の成果を再度評価するという，指導に生かす教育評価の基礎的・基本的な知識・技能を身につける。

授業の概要

各教科等の目標・内容等及び教科等の系統性を理解し，学習指導案作成の基礎を身につける。一方，教育評価の結果によって今後の指導を改善し，さらに新しい指導の成果を再度評価するという，指導に生かす教育評価の基礎的・基本的な知識・技能を身につける

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

文部科学省のホームページを日頃から見ておくことや，一般の新聞等における教育関係の記事，教育専門誌，教育専門月刊誌などを読んでおくこと。

内　　容

第1回　オリエンテーション，本授業の構成要素等について
第2回　中（高）学校学習指導要領　解説　教科編①
第3回　中（高）学校学習指導要領　解説　教科編②
第4回　中（高）学校学習指導要領　解説　教科編③
第5回　授業づくりについて
第6回　授業づくりの必要事項について
第7回　学習指導計画案作成①
第8回　授業設計について
第9回　学習指導計画案作成②
第10回　授業中の大切なことについて
第11回　学習指導計画案作成③
第12回　授業の評価と授業の改善（指導と評価の一体化）
第13回　中教審（報告）から評価規準作成の参考資料
第14回　教育評価の基本的用語
第15回　目標に準拠した評価」について

履修上の注意点

・授業中の飲食および携帯電話の使用、その他講義に支障があることは禁止。・欠席については、事前・事後に必ず連絡すること。（欠席届の提出）・講義は教員採用試験を受験する人、教員になる人を前提に行います。しかし、それら該当しない人の受講も可能ですので、申し出てください。

教科書

（中等）中・高学校学習指導要領専門教科の解説編

著者:　文部科学省

出版社:　東洋館出版社

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 15 ）

参加度（ 15 ）

授業における課題のレポート，授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発研究Ⅰ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹内　淳.豊福　千穂	

テーマ

正課授業と課外授業との連動による反復学習を実現し、就活実践力を養成する。

授業の到達目標

今後の就活実践力を養い、社会人として活躍するための基礎になる力を身に付け、抽象的な言葉を具体的にし、自分の特徴を表現する。

授業の概要

社会人に向けて、必要となる実践的なスキルや経験値を身に付けながら自己理解を深め各業界・企業について学習します。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で出した課題の提出

内　　容

第1回　就職活動の現状～進め方・仕事とは？
第2回　業界企業の研究方法1
第3回　業界企業の研究方法2
第4回　業界企業の研究方法3
第5回　自己PR1　作成のための基本
第6回　自己PR2　実践
第7回　志望動機1　作成のための基本
第8回　志望動機2　実践
第9回　先入観・固定概念からの脱却～人事の視点
第10回　就活の常識・非常識～採用現場の本音
第11回　グループディスカッションのルール～実践
第12回　グループディスカッション実践
第13回　ブラッシュアップ
第14回　集団面接実践1
第15回　集団面接実践2

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（60）	授業中発表等（40）
参加度（　）	

課外授業の参加状況を加味する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発研究Ⅰ〈救急〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山﨑　将文	

テーマ

消防官・警察官・自衛官など公安系の職に求められる知識と能力の修得

授業の到達目標

公務員、特に公安職とはどのようなものかを知るとともに、消防官・警察官・自衛官などに求められる知識と能力の修得と自らの職業観の育成と開発

授業の概要

消防官・警察官・自衛官など公務員に求められる専門知識の獲得と自らの職業観の育成・開発のために、各職種の仕事内容について講義や講演を通して学ぶ。公務員の一形態としての公安職の特徴と、求められる知識や能力について講義を通じて学び、消防官・警察官・自衛官など具体的な職種の業務について、現役者の講演などを通じて深く理解する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

常日頃から公務員に関するニュースや新聞記事を見るとともに、ワークシートや論文の作成などの課題を出された場合には必ず授業前に完成しておく。

内　容

第1回　公務員とはどのような者か？ 公務員の概念、全体の奉仕者としての公務員
第2回　公務員の種類と公安職の位置づけ 特別職公務員と一般職公務員、国家公務員と地方公務員、現業公務員と非現業公務員
第3回　公務員の勤務関係 特別権力関係、国家公務員法・地方公務員法における勤務関係
第4回　公務員の権利 身分保障の権利、給与請求権など財産に関する権利、労働基本権の制限
第5回　公務員の義務 法令及び上司の命令に従う義務、信用失墜行為の禁止、秘密を守る義務など
第6回　公安職の仕事内容と採用試験 消防官・警察官・自衛官の仕事の内容と採用試験の概要
第7回　公安職人事担当者講演会（1） 消防官人事担当者の講演
第8回　公安職人事担当者講演会（2） 警察官人事担当者の講演
第9回　公安職人事担当者講演会（3） 自衛官人事担当者の講演
第10回 ワークシート（1） ワークシート記入
第11回 ワークシート（2） ワークシート発表と質疑応答
第12回 面接試験対策講座（1） 面接試験に対する対策
第13回 面接試験対策講座（2） 模擬面接と面接の指導
第14回 論文試験対策講座（1） 論文の作成
第15回 論文試験対策講座（2） 論文の添削と指導

履修上の注意点

皆勤を目指すとともに、授業に積極的に参加する。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

必要な場合に適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 60 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 10 ）
公安職を含めた公務員に関する小テストを三回か四回実施する。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発研究Ⅱ〈Ga〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今久保　幸生	

テーマ

グローバル経済とグローバル企業・上場企業の研究とグループ・ディスカッション

授業の到達目標

グローバル経済とグローバル企業・一時上場企業の動向を把握させた上で、経済や企業のグローバル化のもとで不可欠となる、グループ活動のなかで個人が主体的・能動的に課題に取り組む力を身につけさせる。

授業の概要

経済のグローバル化、グローバル企業・一部上場企業の動向について講義で概観したあと、いくつかの調査研究グループを編成してグループ発表と討論を実施するとともに、グループワークによる特定課題に関する取り組みを行わせる。可能であれば、グローバル企業で活躍されているビジネスマンに、その豊かな経験を伺う機会も設けたい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

グループ発表の場合もグループワークの場合も、テーマに関する、専時事問題であれ経済や企業の根本問題であれ、グループ構成者全員がそれぞれ独自な解答を提示しうるよう、新聞、雑誌などあらゆる媒体が提示する情報にがむしゃらに取り組んで、問題感覚を研ぎ澄ましておくこと。これが必ず主体的な対応力を持つ自己形成に役立つからである。課題へのフィードバックは基本的に次回授業時に行う。

内　容

第1回　授業の狙いや進め方のガイダンスとグループ編成など
第2回　経済のグローバル化1
第3回　経済のグローバル化2
第4回　経済のグローバル化3
第5回　グローバル企業・一部上場企業の展開
第6回　グローバル企業・一部上場企業実務経験者による講義
第7回　グループ発表と討論1
第8回　グループ発表と討論2
第9回　グループ発表と討論3
第10回　グループ発表と討論4
第11回　グループワーク1
第12回　グループワーク2
第13回　グループワーク3
第14回　グループワーク4
第15回　グローバル企業・一部上場企業への就職について（まとめ）

履修上の注意点

私語は厳禁。部活や就活による欠席は出席扱いとはしない。

教科書

用いない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 70 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発研究Ⅱ〈Gb〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　幸一郎	

テーマ

グローバル化の中の日本とアジア

授業の到達目標

日本と中国・ASEANの関係を経済の観点から考えていく

授業の概要

グローバル化が進む世界状況の中でヒト・モノ・カネの往来がますます盛んになりつつある。日本人学生と留学生が合同で実施するこの授業では、グループワークを中心に、日本とアジアの関係を学び、留学生の知恵を借りながら、「メイド・イン・ジャパン」をさらにグローバル化していく方法を考えていく。また、アジアの中の京都という観点から京都の様々な観光地を訪れ、インバウンドやコト消費の様子を実地見学する予定である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で配布するプリントは事前に読んでくること。

内　　容

第1回　グループ分けと概要説明
第2回　現代日本のグローバリゼーション（1）テーマ　日本経済のグローバル化
第3回　現代日本のグローバリゼーション（2）　グループワーク
第4回　京都のインバウンドとコト消費（1）　学外研修　寺町界隈
第5回　京都のインバウンドとコト消費（2）　振り返り学習（学内）
第6回　現代日本のグローバリゼーション（3）テーマ　日本経済と中国
第7回　現代日本のグローバリゼーション（4）　グループワーク
第8回　京都のインバウンドとコト消費（3）　学外研修　嵐山・天竜寺
第9回　京都のインバウンドとコト消費（4）　振り返り学習（学内）
第10回　現代日本のグローバリゼーション（5）テーマ　　日本経済とASEAN
第11回　現代日本のグローバリゼーション（6）グループワーク
第12回　京都のインバウンドとコト消費（5）　学外研修　東山界隈・高台寺
第13回　京都のインバウンドとコト消費（6）　振り返り学習（学内）
第14回　現代日本のグローバリゼーション（7）テーマ　これからの世界と私たちのキャリア形成（1）
第15回　これからの世界と私たちのキャリア形成（8）グループワーク

履修上の注意点

学外見学は水曜日の1，2限で実施する。見学料は大学負担になるが交通費は個人の負担になる。水曜日の1限目にほかの授業が入っている場合は、学外見学は欠席することになるが、かならずグループワークまでに個人で見学に行っておくこと。この場合見学料は個人負担になるので注意すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（60）	授業中発表等（　）
参加度（40）	

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発研究Ⅲ〈Ga〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　吉田　斉.竹内　淳	

テーマ

就職筆記試験を突破するための総合的な学力の養成

授業の到達目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。「SPI試験」を中心に、多様化する筆記試験対策授業を実施。就職筆記試験で高得点で突破するために、最重要単元を中心に応用～発展レベルを確実に解法に導ける学力を養成する。

授業の概要

授業計画に沿って、重要単元における応用～発展的問題レベルまでを問題演習中心の授業を実施し、本番レベルの問題までを、改めてインプットしていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で出した課題の提出

内　容

第1回　ガイダンス・プレテスト
第2回　言語分野①　語彙・読解総合演習Ⅰ
第3回　言語分野②　語彙・読解総合演習Ⅱ
第4回　言語分野③　文章力養成　発展編Ⅰ
第5回　言語分野④　文章力養成　発展編Ⅱ
第6回　言語分野⑤　文章力養成　発展編Ⅲ
第7回　非言語分野①　SPI重要単元発展編　計算・計数Ⅰ
第8回　非言語分野②　SPI重要単元発展編　計算・計数Ⅰ Ⅱ
第9回　非言語分野③　SPI重要単元発展編　数的推理・論証Ⅰ
第10回　非言語分野④　SPI重要単元発展編　数的推理・論証Ⅱ
第11回　非言語分野⑤　SPI重要単元発展編　数的推理・論証Ⅲ
第12回　非言語分野⑥　SPI以外の筆記試験対策Ⅰ
第13回　非言語分野⑦　SPI以外の筆記試験対策Ⅱ
第14回　非言語分野⑧　SPI以外の筆記試験対策Ⅲ
第15回　非言語分野⑨　SPI以外の筆記試験対策Ⅳ

履修上の注意点

教科書

大学生のための日本語表現法
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発研究Ⅲ〈Gb〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　濱田　剛.児島　秀樹	

テーマ

就職筆記試験を突破するための総合的な学力の養成

授業の到達目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。「SPI試験」を中心に、多様化する筆記試験対策授業を実施。就職筆記試験で高得点で突破するために、最重要単元を中心に応用～発展レベルを確実に解法に導ける学力を養成する。

授業の概要

授業計画に沿って、重要単元における応用～発展的問題レベルまでを問題演習中心の授業を実施し、本番レベルの問題までを、改めてインプットしていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で出した課題の提出

内　容

第1回　ガイダンス・プレテスト
第2回　言語分野①　語彙・読解総合演習Ⅰ
第3回　言語分野②　語彙・読解総合演習Ⅱ
第4回　言語分野③　文章力養成　発展編Ⅰ
第5回　言語分野④　文章力養成　発展編Ⅱ
第6回　言語分野⑤　文章力養成　発展編Ⅲ
第7回　非言語分野①　SPI重要単元発展編　計算・計数Ⅰ
第8回　非言語分野②　SPI重要単元発展編　計算・計数Ⅰ Ⅱ
第9回　非言語分野③　SPI重要単元発展編　数的推理・論証Ⅰ
第10回　非言語分野④　SPI重要単元発展編　数的推理・論証Ⅱ
第11回　非言語分野⑤　SPI重要単元発展編　数的推理・論証Ⅲ
第12回　非言語分野⑥　SPI以外の筆記試験対策Ⅰ
第13回　非言語分野⑦　SPI以外の筆記試験対策Ⅱ
第14回　非言語分野⑧　SPI以外の筆記試験対策Ⅲ
第15回　非言語分野⑨　SPI以外の筆記試験対策Ⅳ

履修上の注意点

教科書

大学生のための日本語表現法
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発研究Ⅲ〈Gc〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　吉田　斉.竹内　淳	

テーマ

就職筆記試験を突破するための総合的な学力の養成

授業の到達目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。「SPI試験」を中心に、多様化する筆記試験対策授業を実施。就職筆記試験で高得点で突破するために、最重要単元を中心に応用～発展レベルを確実に解法に導ける学力を養成する。

授業の概要

授業計画に沿って、重要単元における応用～発展的問題レベルまでを問題演習中心の授業を実施し、本番レベルの問題までを、改めてインプットしていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で出した課題の提出

内　容

第1回　ガイダンス・プレテスト
第2回　言語分野①　語彙・読解総合演習Ⅰ
第3回　言語分野②　語彙・読解総合演習Ⅱ
第4回　言語分野③　文章力養成　発展編Ⅰ
第5回　言語分野④　文章力養成　発展編Ⅱ
第6回　言語分野⑤　文章力養成　発展編Ⅲ
第7回　非言語分野①　SPI重要単元発展編　計算・計数Ⅰ
第8回　非言語分野②　SPI重要単元発展編　計算・計数Ⅰ Ⅱ
第9回　非言語分野③　SPI重要単元発展編　数的推理・論証Ⅰ
第10回　非言語分野④　SPI重要単元発展編　数的推理・論証Ⅱ
第11回　非言語分野⑤　SPI重要単元発展編　数的推理・論証Ⅲ
第12回　非言語分野⑥　SPI以外の筆記試験対策Ⅰ
第13回　非言語分野⑦　SPI以外の筆記試験対策Ⅱ
第14回　非言語分野⑧　SPI以外の筆記試験対策Ⅲ
第15回　非言語分野⑨　SPI以外の筆記試験対策Ⅳ

履修上の注意点

教科書

参考書

大学生のための日本語表現法
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発研究Ⅳ〈Ga〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉田　斉.竹内　淳	

テーマ

就職筆記試験を高得点で突破するための実践力の養成

授業の到達目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。「SPI試験」を中心に、多様化する筆記試験対策授業を実施。本番での就職筆記試験を想定、答練形式の授業実施により、応用～発展レベルの問題を時間内に確実に解法に導ける実践力を養成する。

授業の概要

授業計画に沿って、キャリア開発講座Ⅱ、キャリア開発講座Ⅲ、及びキャリア開発研究Ⅲで学んだことを、模試・解答解説方式での実施。アウトプット中心の授業を実践していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で出した課題の提出

内　　容

第1回　ガイダンス・プレテスト
第2回　言語分野①　SPI　WEBテスト対策Ⅰ
第3回　言語分野②　SPI　WEBテスト対策Ⅱ
第4回　言語分野③　SPI　WEBテスト対策Ⅲ
第5回　言語分野④　SPI　模試式実践演習Ⅰ
第6回　言語分野⑤　SPI　模試式実践演習Ⅱ
第7回　非言語分野①　SPI　WEBテスト対策Ⅰ
第8回　非言語分野②　SPI　WEBテスト対策Ⅱ
第9回　非言語分野③　SPI　WEBテスト対策Ⅲ
第10回　非言語分野④　SPI　模試式実践演習Ⅰ
第11回　非言語分野⑤　SPI　模試式実践演習Ⅱ
第12回　非言語分野⑥　SPI　模試式実践演習Ⅲ
第13回　非言語分野⑦　SPI以外　模試式実践演習Ⅰ
第14回　非言語分野⑧　SPI以外　模試式実践演習Ⅱ
第15回　非言語分野⑨　SPI以外　模試式実践演習Ⅲ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ ）

参加度（ ）

授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発研究Ⅳ〈Gb〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　濱田　剛.児島　秀樹	

テーマ

就職筆記試験を高得点で突破するための実践力の養成

授業の到達目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。「SPI試験」を中心に、多様化する筆記試験対策授業を実施。本番での就職筆記試験を想定、答練形式の授業実施により、応用～発展レベルの問題を時間内に確実に解法に導ける実践力を養成する。

授業の概要

授業計画に沿って、キャリア開発講座Ⅱ、キャリア開発講座Ⅲ、及びキャリア開発研究Ⅲで学んだことを、模試・解答解説方式での実施。アウトプット中心の授業を実践していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で出した課題の提出

内　容

第1回　ガイダンス・プレテスト
第2回　言語分野①　SPI　WEBテスト対策Ⅰ
第3回　言語分野②　SPI　WEBテスト対策Ⅱ
第4回　言語分野③　SPI　WEBテスト対策Ⅲ
第5回　言語分野④　SPI　模試式実践演習Ⅰ
第6回　言語分野⑤　SPI　模試式実践演習Ⅱ
第7回　非言語分野①　SPI　WEBテスト対策Ⅰ
第8回　非言語分野②　SPI　WEBテスト対策Ⅱ
第9回　非言語分野③　SPI　WEBテスト対策Ⅲ
第10回　非言語分野④　SPI　模試式実践演習Ⅰ
第11回　非言語分野⑤　SPI　模試式実践演習Ⅱ
第12回　非言語分野⑥　SPI　模試式実践演習Ⅲ
第13回　非言語分野⑦　SPI以外　模試式実践演習Ⅰ
第14回　非言語分野⑧　SPI以外　模試式実践演習Ⅱ
第15回　非言語分野⑨　SPI以外　模試式実践演習Ⅲ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ ）

参加度（ ）

授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

2018 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発研究Ⅳ〈Gc〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　吉田　斉.竹内　淳	

テーマ

就職筆記試験を高得点で突破するための実践力の養成

授業の到達目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。「SPI試験」を中心に、多様化する筆記試験対策授業を実施。本番での就職筆記試験を想定、答練形式の授業実施により、応用～発展レベルの問題を時間内に確実に解法に導ける実践力を養成する。

授業の概要

授業計画に沿って、キャリア開発講座Ⅱ、キャリア開発講座Ⅲ、及びキャリア開発研究Ⅲで学んだことを、模試・解答解説方式での実施。アウトプット中心の授業を実践していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で出した課題の提出

内　容

第1回　ガイダンス・プレテスト
第2回　言語分野①　SPI　WEBテスト対策Ⅰ
第3回　言語分野②　SPI　WEBテスト対策Ⅱ
第4回　言語分野③　SPI　WEBテスト対策Ⅲ
第5回　言語分野④　SPI　模試式実践演習Ⅰ
第6回　言語分野⑤　SPI　模試式実践演習Ⅱ
第7回　非言語分野①　SPI　WEBテスト対策Ⅰ
第8回　非言語分野②　SPI　WEBテスト対策Ⅱ
第9回　非言語分野③　SPI　WEBテスト対策Ⅲ
第10回　非言語分野④　SPI　模試式実践演習Ⅰ
第11回　非言語分野⑤　SPI　模試式実践演習Ⅱ
第12回　非言語分野⑥　SPI　模試式実践演習Ⅲ
第13回　非言語分野⑦　SPI以外　模試式実践演習Ⅰ
第14回　非言語分野⑧　SPI以外　模試式実践演習Ⅱ
第15回　非言語分野⑨　SPI以外　模試式実践演習Ⅲ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**救急救命将来講座Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　春期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　mitei	

テーマ

政治の常識①

授業の到達目標

卒業後救急救命職（公務員）に就くことを前提に、救命士に相応しい数学および政治・経済の知識を身につける。

授業の概要

第1回の授業は、a・bクラス合同でオリエンテーションともに公務員試験を模擬体験し、第2回以降は、数学と政治の授業を隔週で実施する。
政治の授業では、各回ともノート作成用のシートを配布し、テーマにそってできるだけ詳しく講義する。受講生は、講義にもとづいてシートの空欄に必要事項を記入し、講義ノートを完成する。なお毎回宿題の小テストを配布するので、次回（2週間後）の授業でかならず提出すること。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各回とも終了時に小テストを配布するので、ノートをもとにしっかり復習し、小テストの解答を記入する。

内　容

第1回　合同：オリエンテーション＆公務員試験問題の体験
第2回　数の世界の不思議から文字へ
第3回　政治：国家とはなにか？――その思想と原則
第4回　文字式の計算を図で考えよう～展開、因数分解、平方完成、解の公式
第5回　政治：人権――原理と歴史
第6回　数の世界の拡張～有理数、無理数、正負の数
第7回　政治：いろいろな政治制度
第8回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第9回　政治：日本国憲法
第10回　方程式の活用～一次・連立・二次方程式
第11回　政治：憲法と人権①
第12回　不等式とその活用
第13回　政治：憲法と人権②
第14回　比・比例・割合
第15回　政治：まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（ 80 ）
授業中課題（　）	授業中発表等（　）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**救急救命将来講座Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　春期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　mitei	

テーマ

経済の常識①

授業の到達目標

卒業後救急救命職（公務員）に就くことを前提に、救命士に相応しい数学および政治・経済の知識を身につける。

授業の概要

第1回の授業から、数学と経済の授業を隔週で実施し、最終回には数学＆政治・経済の総合テストを実施する。
経済の授業では、各回ともノート作成用のシートを配布し、テーマにそってできるだけ詳しく講義する。受講生は、講義にもとづいてシートの空欄に必要事項を記入し、講義ノートを完成する。なお毎回宿題の小テストを配布するので、次回（2週間後）の授業でかならず提出すること。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各回とも終了時に小テストを配布するので、ノートをもとにしっかり復習し、小テストの解答を記入する。

内　容

第1回　場合の数
第2回　経済：経済体制
第3回　順列・組み合わせ
第4回　経済：経済理論①
第5回　確率
第6回　経済：経済理論②
第7回　平面図形の基礎
第8回　経済：経済理論③
第9回　相似
第10回　経済：戦後の日本経済
第11回　図形の計量
第12回　経済：その分野別問題
第13回　空間図形
第14回　政治：まとめ
第15回　合同：まとめのテスト

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教職入門 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　岩本 賢治	

テーマ

教職(教師)には、どのような資質・能力・役割が求められているのか

授業の到達目標

本授業では、教師の職務内容、教師の役割のあり方、その歴史的変遷などの理解を通じて、教師としての資質及び教師の果たすべき役割について多角的に考察する。また、適宜、教職への意欲を向上させ、進路選択に有効となる内容も組み込んでいく。
(1) 教科指導、特別活動、道徳・総合的な学習の時間の各分野にわたる教師の職務について、その概要を理解する。
(2) 教師の職務の特質・役割、教師の権利と責任について、その概要を理解する。
(3) 教育の諸問題について、自分の意見を持ち、グループで意見を交流し、意見表明ができる。

授業の概要

教育とは何か、学校とは何か、その中で教師の果たす役割とその意義はどこにあるかを教師の一日をつづりながら考えていきたい。学校を舞台にした映画とテレビドラマから代表的な3作品を視聴し、子どもたちにとって学校とは何かを考える。さらに教育領域としての総合的な学習の時間や道徳の時間を取りあげ、最近の教育動向とともに講義する。最後に学校教育を支える教育行政の役割を中心に、特に子どもの貧困化からくる諸問題と就学援助制度の果たす役割を考える。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

教育や保育、子どもの現状についての新聞報道やテレビのドキュメンタリーなどを積極的に見て考えるようにする。授業の後で、その日の授業で自分が考えたことなどを振り返り、疑問点などがあれば調べて深めていく努力をする。

内　容

第1回　学校とは―講義のガイダンスと今日の教育問題の概説。グループ分けをするので、かならず出席のこと。
第2回　教師の一日①―朝の会から終わりの会まで。生活指導
第3回　教師の一日②―教師の話術と授業づくり。教科指導
第4回　教師の一日③―保健室から見た学校と子どもたち
第5回　教師の一日④―特別な支援を要する子どもたち
第6回　物語のなかの教師①―テレビドラマ「3年B組金八先生」の視聴と分析
第7回　物語のなかの教師②―映画「学校」(前半)の視聴と分析
第8回　物語のなかの教師③―映画「学校」(後半)の視聴と分析
第9回　物語のなかの教師④―映画「フリーダムライターズ」の視聴と分析
第10回　教師のしごと①―道徳の教科化と『私たちの道徳』
第11回　教師のしごと②―道徳・総合的学習の時間とシティズンシップ教育
第12回　教師のしごと③―子どもの貧困と就学援助制度
第13回　教師と教育行政①―教育基本法全面改正と学校教育
第14回　教師と教育行政②―教育委員会、教員評価、教員研修
第15回　授業のまとめ
※この授業では必要に応じて講演会を開催することがある。

履修上の注意点

・グループでの討論と発表を行うので、出席を重視する。
・現代の教育の諸問題について日常から関心を持ち、新聞やテレビ・ラジオ・インターネット等による情報を得て、授業中に発表できるようにしておく。

教科書

授業中に配布する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 70 ）
授業中課題（ 15 ）　　授業中発表等（ 15 ）

ask201d110

参加度 （ ）
小テスト　第15回にそれまでの講義の要点を確認します。
授業中課題　各授業の最後に短いレポートを書きます。
授業中発表等　授業中にグループ討論をします。その際の発言や説明の内容で評価します。
参加度 授業中にグループ討論をします。その際の発言や説明の積極性で評価します。

2018 Syllabus

科 目 名　**教職入門 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　岩本 賢治	

テーマ

教職(教師)には、どのような資質・能力・役割が求められているのか

授業の到達目標

本授業では、教師の職務内容、教師の役割のあり方、その歴史的変遷などの理解を通じて、教師としての資質及び教師の果たすべき役割について多角的に考察する。また、適宜、教職への意欲を向上させ、進路選択に有効となる内容も組み込んでいく。
(1) 教科指導、特別活動、道徳・総合的な学習の時間の各分野にわたる教師の職務について、その概要を理解する。
(2) 教師の職務の特質・役割、教師の権利と責任について、その概要を理解する。
(3) 教育の諸問題について、自分の意見を持ち、グループで意見を交流し、意見表明ができる。

授業の概要

教育とは何か、学校とは何か、その中で教師の果たす役割とその意義はどこにあるかを教師の一日をつづりながら考えていきたい。学校を舞台にした映画とテレビドラマから代表的な3作品を視聴し、子どもたちにとって学校とは何かを考える。さらに教育領域としての総合的な学習の時間や道徳の時間を取りあげ、最近の教育動向とともに講義する。最後に学校教育を支える教育行政の役割を中心に、特に子どもの貧困化からくる諸問題と就学援助制度の果たす役割を考える。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

教育や保育、子どもの現状についての新聞報道やテレビのドキュメンタリーなどを積極的に見て考えるようにする。授業の後で、その日の授業で自分が考えたことなどを振り返り、疑問点などがあれば調べて深めていく努力をする。

内　容

第1回　学校とは―講義のガイダンスと今日の教育問題の概説。グループ分けをするので、かならず出席のこと。
第2回　教師の一日①―朝の会から終わりの会まで。生活指導
第3回　教師の一日②―教師の話術と授業づくり。教科指導
第4回　教師の一日③―保健室から見た学校と子どもたち
第5回　教師の一日④―特別な支援を要する子どもたち
第6回　物語のなかの教師①―テレビドラマ「3年B組金八先生」の視聴と分析
第7回　物語のなかの教師②―映画「学校」(前半)の視聴と分析
第8回　物語のなかの教師③―映画「学校」(後半)の視聴と分析
第9回　物語のなかの教師④―映画「フリーダムライターズ」の視聴と分析
第10回　教師のしごと①―道徳の教科化と『私たちの道徳』
第11回　教師のしごと②―道徳・総合的学習の時間とシティズンシップ教育
第12回　教師のしごと③―子どもの貧困と就学援助制度
第13回　教師と教育行政①―教育基本法全面改正と学校教育
第14回　教師と教育行政②―教育委員会、教員評価、教員研修
第15回　授業のまとめ
※この授業では必要に応じて講演会を開催することがある。

履修上の注意点

・グループでの討論と発表を行うので、出席を重視する。
・現代の教育の諸問題について日常から関心を持ち、新聞やテレビ・ラジオ・インターネット等による情報を得て、授業中に発表できるようにしておく。

教科書

授業中に配布する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 70 ）
授業中課題（ 15 ）　　授業中発表等（ 15 ）

ask201d112

参加度 （ ）

小テスト　第15回にそれまでの講義の要点を確認します。
授業中課題　各授業の最後に短いレポートを書きます。
授業中発表等　授業中にグループ討論をします。その際の発言や説明の内容で評価します。
参加度 授業中にグループ討論をします。その際の発言や説明の積極性で評価します。

2018 Syllabus

科 目 名　**教職入門 <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　夏期集中	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中井　弘一	

テーマ

学校教育の社会的意義と求められる資質・能力・役割、職務内容を理解し、多様な人々と連携して教育をめぐる諸課題に取り組めばよいか。

授業の到達目標

本授業では、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について、その歴史的変遷などの理解を通じて、多角的に考察する。また、適宜、教職への意欲を向上させ、進路選択に有効となる教職の在り方を理解する。

授業の概要

教育とは何か、学校とは何か、教科指導の在り方、教員の果たす役割とその意義はどこにあるかを、教員の体験や視聴覚資料から学ぶ。学級活動や総合的な学習の時間や特別の教科である道徳科を取りあげ、最近の教育動向とともに講義する。最後に学校教育を支える教育行政の役割を中心に、教員の研修と服務について論じる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　教職の意義・教員の役割：教員の職務、使命感と責任感、教育的愛情の形成
第2回　討論：事前指定課題図書『青い鳥』を読んで村内先生の教育や生徒との接し方を考える
第3回　いじめの指導にどう向き合う：映画『青い鳥』の視聴と村内先生の教育のあり方を考える
第4回　新聞記事に見る教育課題　――現代の教育課題を考える
第5回　討論：事前指定課題図書『灯し続けることば』を読んで　大村はまの教育哲学に学ぶ
第6回　これから求められる教育：主体的・対話的で深い学びの育成　思考力・判断力・表現力の育成
第7回　講演「中学生を教えながら教えられながら――生徒指導・教科指導」 現職中学校教員
第8回　討論：講演を聴いて――生徒指導で大切なこと、教科指導で大切なこと
第9回　学級集団をまとめていく手法：生徒理解や学級経営力の形成
第10回　校務運営の重要性：社会性や対人関係能力の形成（保護者対応含む）
第11回　講演「高校生を教えながら教えられながら――生徒指導・教科指導・進路指導」現職高等学校教員
第12回　討論：講演を聴いて――生徒指導で大切なこと、教科指導で大切なこと、進路指導で大切なこと
第13回　生徒の心を開くコミュニケーション活動
第14回　模擬練習：HR等で生徒の心に伝わる語り（スピーチ）やプレゼンテーションを行う
第15回　まとめ：教員になることで大切なことはなにか

履修上の注意点

教科書

担当教員による授業中配付資料
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

灯し続けることば
著者：　大村はま
出版社：　小学館
出版年：　2004　　ISBN：

青い鳥
著者：　重松清
出版社：　新潮社文庫
出版年：　2010　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 30% ）

ask201d113

参加度 （ 30% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**教育心理学 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　南 憲治	

テーマ

中等教育段階の子どもの発達と教育

授業の到達目標

中等教育段階の子ども(中学生・高校生)における発達と教育の問題に関する教育心理学領域における基本的な知見を理解するとともに、教職への関心・意欲を高めることを目的とする。

授業の概要

中学生・高校生の発達と教育の問題に焦点を当てて、新学習指導要領や学校教育現場での諸問題を踏まえ、教育心理学の基本領域における概念や研究成果について講義をする。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

予習の必要はありませんが、教科書と配布資料を基に、講義内容を自分で整理して下さい。

内　容

第1回　発達とは何か
第2回　発達段階と発達課題
第3回　学習のメカニズム
第4回　記憶のメカニズム
第5回　学習への動機づけと学力形成
第6回　授業の心理学
第7回　学習指導と評価
第8回　欲求不満とその解消
第9回　個人差の理解・その1(知的能力)
第10回　個人差の理解・その2(性格)
第11回　学級の心理学
第12回　不適応とカウンセリング
第13回　発達障害・その1(自閉症スペクトラム障害)
第14回　発達障害・その2(学習障害とADHD)
第15回　まとめの課題

履修上の注意点

予習の必要はないが、復習については、毎時間、配布資料を基に、講義内容の整理・確認をすること。

教科書

やさしい発達と学習
著者:　外山紀子・外山美樹
出版社:　有斐閣
出版年:　2010　　ISBN:　9784641123946

参考書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート (70%)　　小テスト (30%)
授業中課題 ( )　　授業中発表等 ( )
参加度 ( )

2018 Syllabus

科 目 名　**教育心理学 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　南 憲治	

テーマ

中等教育段階の子どもの発達と教育

授業の到達目標

中等教育段階の子ども(中学生・高校生)における発達と教育の問題に関する教育心理学領域における基本的な知見を理解するとともに、教職への関心・意欲を高めることを目的とする。

授業の概要

中学生・高校生の発達と教育の問題に焦点を当てて、新学習指導要領や学校教育現場での諸問題を踏まえ、教育心理学の基本領域における概念や研究成果について講義をする。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

予習の必要はありませんが、教科書と配布資料を基に、講義内容を自分で整理して下さい。

内　容

第1回　発達とは何か
第2回　発達段階と発達課題
第3回　学習のメカニズム
第4回　記憶のメカニズム
第5回　学習への動機づけと学力形成
第6回　授業の心理学
第7回　学習指導と評価
第8回　欲求不満とその解消
第9回　個人差の理解・その1(知的能力)
第10回　個人差の理解・その2(性格)
第11回　学級の心理学
第12回　不適応とカウンセリング
第13回　発達障害・その1(自閉症スペクトラム障害)
第14回　発達障害・その2(学習障害とADHD)
第15回　まとめの課題

履修上の注意点

予習の必要はないが、復習については、毎時間、配布資料を基に、講義内容の整理・確認をすること。

教科書

やさしい発達と学習
著者:　外山紀子・外山美樹
出版社:　有斐閣
出版年:　2010　　ISBN:　9784641123946

参考書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート (70%)	小テスト (30%)
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 ( )	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育原論 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉岡　真佐樹	

テーマ

教育の基本問題と教育改革

授業の到達目標

そもそも人間はなぜ学校で学習するのかといった本質論議をふまえながら、子どもの成長発達と教育がいかなる関係にあるのか、教育実践の展開に介在する契機にはどのようなものがあるのか、などについて、問題点の整理と教育実践のあるべき方向を検討し、教職科目全体の学習につながるおよそのイメージがつかめるようにすることを目的とする。

授業の概要

教師は何のために教え、子どもはなぜ学校で学ぶのか、といった永遠の問いとしての教育の理念・歴史・思想をふまえ、発達と教育の関係、内容・方法など教育実践における基本的単位の意義を考察する。そして、教科指導や生活指導、教養教育と職業（専門）教育などの領域に関する位置づけ、教育制度にかかわる公共性の意義や改革問題、接続問題や進路問題、教師専門職の在り方などについて概観する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中に配付した資料の管理・整理と資料の予復習を心がけて下さい。

内　容

第1回　導入　教育とは何か
第2回　人間理解と教育の考え方
第3回　人間の成長・発達と教育
第4回　教育思想の生成と展開
第5回　教育制度と学校の役割
第6回　近代社会と学校（1） 近代学校の誕生

第7回　近代社会と学校（2） 自由か統制か　戦時期と戦間期
第8回　戦後日本と教育（1） 戦後教育改革

第9回　戦後日本と教育（2） 経済成長と教育
第10回 現代日本と教育改革（1） 「第3の教育改革」と学校
第11回 現代日本と教育改革（2） 21世紀の教育・学校
第12回 世界の教育・学校（1） 欧米編
第13回 世界の教育・学校（2） アジア編
第14回 現代社会に生きる子どもと教育・教育の課題
第15回 まとめ　未来社会の教育・学校のあり方を考える

履修上の注意点

教育関係の文献を探索し学生同士で論議を深めることを薦めるが、直接に教育とは関係のないように思えるものでも、古典とされる文学書や社会科学書などには積極的に挑み、人間の理解を深めることを期待します。

教科書

現代教育の基礎理論
著者:　南新・鉾山・吉岡
出版社: ミネルヴァ書房
出版年: 2018　　ISBN:

参考書

西洋の教育の歴史
著者:　山崎英則
出版社: ミネルヴァ書房
出版年: 2010　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 70% ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ ）
最終時間に試験を実施します。授業出席と授業中の発表ならびにレスポンスカードを総合的に評価します。

2018 Syllabus

科 目 名　**道徳教育の理論と方法**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　秋期集中	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　岩本　賢治	

テーマ

学校教育における道徳教育の可能性

授業の到達目標

押し付けであっては、道徳教育の効果はない。学校教育を通して、子どもたちが自然と道徳性をいかに身につけるかを学ぶことを目標とする。

授業の概要

道徳概念の基本的意味を明らかにしながら、現代日本の学校教育においてどのような道徳教育が可能か、色々な角度から実践的に考えることを課題とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

現代の道徳教育の諸問題について日常から関心を持ち、新聞やテレビ・ラジオ・インターネット等による情報を得て、授業中に発表できるようにしておく。

内　容

第1回　道徳とは何か
第2回　中学生期の発達の特徴
第3回　道徳教育の歴史（明治～大正）
第4回　道徳教育の歴史（戦後）
第5回　全面主義と特設主義
第6回　他の教科と道徳教育の関連
第7回　道徳教育と特別活動
第8回　道徳教育と総合学習
第9回　道徳の内容の理解
第10回　家庭、地域と道徳教育
第11回　道徳の時間の年間計画
第12回　道徳の時間の教材研究
第13回　道徳の時間の指導案づくり
第14回　道徳教育の実践と評価の方法
第15回　まとめ

履修上の注意点

時事的な話題として取り上げられる、教育問題や現代の青少年の精神状況や行動の特徴などに絶えず、関心を払うこと。
学習指導要領解説　中学校　特別の教科　道徳編 」PDF(文部科学省HP)を印刷して、準備すること。
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2016/01/08/1356257_5.pdf

教科書

「履修上の注意点」に記載

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

その都度指示する

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 40 ）	小テスト （ 15 ）
授業中課題 （ 15 ）	授業中発表等 （ 15 ）
参加度 （ 15 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育制度論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　秋期集中	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　小田　義隆	

テーマ

現代日本の教育制度の基礎をなす原理とその展開について学び、課題を発見する。

授業の到達目標

現代日本の教育制度の基礎をなす制度原理とその展開について基礎的な理解と、教育改革の現状について考察し、課題を発見して学習研究を行うことを目標とする。

授業の概要

現代日本の教育の基本理念、学校制度、教育行政、教職員法制の原理と展開について概説し、学習研究の課題を提示する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストの該当箇所を熟読して参加すること（予習60分）。
テキストの該当箇所を熟読し理解を深めるべく復習する（復習60分）。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Ⅰ 憲法・教育基本法制 ①憲法の教育条項
第3回　Ⅰ 憲法・教育基本法制 ②教育基本法の制定と改正
第4回　Ⅰ 憲法・教育基本法制 ③国際教育法
第5回　Ⅱ 学校制度 ①初等・中等教育制度
第6回　Ⅱ 学校制度 ②就学奨励制度
第7回　Ⅱ 学校制度 ③教科書制度
第8回　Ⅱ 学校制度 ④学校の組織運営
第9回　Ⅲ 教育行政制度 ①中央教育行政組織
第10回　Ⅲ 教育行政制度 ②教育委員会制度の創設
第11回　Ⅲ 教育行政制度 ③教育委員会制度の展開
第12回　Ⅳ 教職員法制 ①教員養成・免許制度
第13回　Ⅳ 教職員法制 ②教員採用制度
第14回　Ⅳ 教職員法制 ③教員研修制度
第15回　Ⅳ 教職員法制 ④教員評価制度

履修上の注意点

講義を通じ、または自主的に発見した課題について、教育関係の雑誌、情報等で問題の所在と改革の課題を学習研究し、中間または最終的なレポートにまとめることが望ましい。

教科書

現代教育制度論　第4刷
著者:　土屋基規編
出版社: ミネルヴァ書房
出版年:　　ISBN:

参考書

現代教育法概説
著者:　平原・室井・土屋 共
出版社: 学陽書房
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育課程論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　春期集中	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　　森　枝美	

テーマ

教育課程の構造と実践

授業の到達目標

・教育課程の編成に関する基本的な理論と具体的な方法
・日本における教育課程の歴史的変遷
・教育課程編成における教育評価の意義と課題
以上3点について理解し、自らの実践に活かす手がかりを見いだすことができる。

授業の概要

教育課程の意義、果たす役割、および、教育課程に関わる基本的な概念について理解し、教育課程編成、授業づくりに関わる基礎的知識を身につけるとともに、授業づくりやカリキュラム・マネジメントのために必要な力量の基礎を養う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　教育課程とは何か
第2回　教育課程を編成するための構成要件
第3回　近代日本における教育課程の歴史
第4回　学習指導要領の変遷（1）経験主義と系統主義
第5回　学習指導要領の変遷（2）教育の現代化
第6回　学習指導要領の変遷（3）「ゆとり」への転換から生きる力の重視へ
第7回　国際学力調査と教育課程
第8回　教育課程と授業づくり
第9回　教科書の位置付けと採択システム
第10回　総合的な学習の時間について（中等）
第11回　今日的な課題への挑戦（中等）
第12回　教育評価の理論
第13回　多様な評価方法
第14回　教育課程の評価とその役割
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

講義で扱った内容をふまえてその後の講義を進めるため、復習をするとともに、不明な点があれば質問すること。

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

高等学校学習指導要領解説　総則編
著者:　文部科学省
出版社:　東山書房
出版年:　　ISBN:

中学校学習指導要領解説　総則編
著者:　文部科学省
出版社:　ぎょうせい
出版年:　　ISBN:

ask202d210

よくわかる教育課程

著者: 田中耕治編著

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2009年　　ISBN:

新しい時代の教育課程(第3版)

著者: 田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵

出版社: 有斐閣

出版年: 2011年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート (60)　　小テスト ( )

授業中課題 ( )　　授業中発表等 (40)

参加度 ( )

2018 Syllabus

科 目 名　**特別活動論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　秋期集中	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　池田　修	

テーマ

特別活動の具体的な事例を考察し、ワークショップを通して学ぶ。

授業の到達目標

特別活動の事例を理解し、指導計画を作成すること、体験することを目的とする。

授業の概要

特別活動が示す領域を理解し、その後、学級活動の指導、行事に関わる指導、安全指導について学ぶ。特に安全指導では、ワークショップを取り入れる。課題が多く出ることを予め告げておく。ワード、エクセル、e-mailはある程度使えることが望ましい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

母校に行く機会を作り、各種行事に関する職員会議資料を見せてもらうと良い。想像以上に綿密に計画が立てられていることが分かるだろう。また、それを参考に自分で計画を立ててみるのも勉強になるだろう。

内　容

第1回　特別活動とは 特別活動が扱う領域を学習指導要領で確認する。
第2回　学級活動 1 日常生活。当番活動、係り活動、教科係り、プロジェクトチーム。
学級開き（ゲーム、why-becausegame, 流れ）、学級収め、
どう言い返すのワーク（データ収集）、掃除指導、席替え、班長会議、連絡カード
第3回　学級活動 2 学級行事。転入生を迎える、転校生を送り出す、進路指導、進路宣言、安全指導
第4回　その他 学芸行事／体育大会／学年行事／学校行事／儀式など 担任の仕事
第5回　課題作成 遠足指導の実踏計画 遠足指導の実踏計画を作成する。
第6回　遠足指導の実踏計画を作成する。（アイデア出し）
第7回　遠足指導の実踏計画を作成する。（実地調査）
第8回　遠足指導の実踏計画を作成する。（まとめ）
第9回　課題回収 お礼状の書き方指導
第10回　特別授業 学校教育現場の第一線で活躍されている先生にお越しいただき、特別活動を中心に講義と演習をしていただく。（理論）
第11回　特別授業 学校教育現場の第一線で活躍されている先生にお越しいただき、特別活動を中心に講義と演習をしていただく。（実践）
第12回　特別授業 学校教育現場の第一線で活躍されている先生にお越しいただき、特別活動を中心に講義と演習をしていただく。（質疑応答）
第13回　特別授業まとめ 授業を受けて、自分の課題、学んだことについての文章を書く。
今村先生にお礼状を書く。
第14回　特別授業まとめ 特別授業の講義を受けての体験作文を書く。
第15回　まとめ 特別活動論を振り返りながら評価する。書き込み回覧作文で振り返る。
最終課題の提示。

履修上の注意点

出席くんと当日指定の課題の両方とも正しく出されていることで、当日出席があったと認めている。なお、出席くんを忘れた時は、池田は訂正しないので忘れることのないように。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

高等学校学習指導要領解説　特別活動編

著者:　文部科学省

出版社:　海文堂出版

出版年:　　ISBN:

ask202d380

中学校学習指導要領解説　特別活動編

著者:　文部科学省

出版社: ぎょうせい

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 50 ）

レポートは読んでいただくものである。指示に従い、書式に従い丁寧に仕上げること。

2018 Syllabus

科 目 名　**教育方法論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　梅本　裕	

テーマ

＜授業をつくる＞方法への理解とイメージを育む

授業の到達目標

教授＝学習過程としての授業過程を理論的に把握するための基礎概念と基礎技法を習得するとともに学習指導要領に示される内容を正確に理解するための知識を身につけること。より具体的には「教育目標」「教育内容」「教材」「教具」「教授行為」「理解構造」等の概念を用いて、ある授業を分析・診断でき、学習指導要領に即した改善のための処方的知見を得ることができるようになること。

授業の概要

80年代以降の日本の教育実践の中から典型的な授業と教材を選び、受講生諸君に可能な限り追体験してもらいながら、教育方法学の蓄積してきたカテゴリーシステムを活用して学習者が「生き生きと学べる授業」の要件を考察する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

自分の追求する免許教科の学習指導要領を手元に置き、熟読すると共に、授業において常に参照できるようにしておくこと。

内　容

第1回　「あの坂の名は？」:社会科における発信型の授業と学力とは何か？
第2回　「見たこと作文」:子どもが＜動く＞授業の条件とは？
第3回　「木の葉の駅で」:発問の構造
第4回　「発電所はどこにあるか？」:教授行為とは何か？
第5回　授業づくりのカテゴリーとしての＜指示・発問・説明・応答・調整＞
第6回　「お化け屋敷で算数を」:こどもたちの理解の構造をさぐる
第7回　「絵を描くのは苦手です」:教育内容と方法の開発論理
第8回　「声を育てる音楽の授業」:＜雰囲気のいい授業＞の構造は？
第9回　「世界とつながる、深く調べる」:タブレット端末の教育的活用法
第10回「蟹と戯れるのは誰か？」:言語技術としての＜分析ツールを教える＞国語の授業
第11回「琵琶湖で学ぶ」:総合学習とは何か？
第12回 授業づくりの記号論的構造:＜教育内容・教材・教具・授業行為・理解構造・評価＞
第13回「これからの学校・授業と情報機器」:授業の機能とICTの活用
第14回「地球の大きさはどれくらい？」:イメージをそだてる授業の構造
第15回 まとめ−＜授業をつくる＞方法への理解とイメージ

履修上の注意点

単位認定には3分の2以上の出席が前提となる。実習などで欠席する場合は、事前に欠席届を提出すること。

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 50 ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育相談 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　芦名　猛夫	

テーマ

カウンセリングマインドと人間関係づくり

授業の到達目標

心の病の諸相を知ること。教育相談関連の初歩的理論と技法を知ること。学校現場での人間関係づくりのためにカウンセリングマインドの活用を図る基礎力を身につける。

授業の概要

講義を主とするが、随時指名して発言を求めたり、バズ学習、人間関係づくりのエクササイズビデオ視聴などを入れながら進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　授業ガイダンス、教育相談の意義:“今なぜ教育相談？”
第2回　教育相談の機能と限界
第3回　教育相談の歩み
第4回　教育相談の事例検討（1）不登校、いじめ等
第5回　教育相談の事例検討（2）対人恐怖、神経症等
第6回　ストレスマネイジメント
第7回　教育相談に役立つ基礎的理論と技法（1）精神分析論（フロイト）
第8回　〃　（2）自己理論 （ロジャーズ）
第9回　〃　（3）行動理論、論理療法
第10回　〃　（4）交流分析、ゲシュタルト理論他
第11回　人間理解とカウンセリングマインド
第12回　人間関係づくりのエクササイズ
第13回　望ましいコミュニケーションのために
第14回　まとめと復習
第15回　試験

履修上の注意点

教育に関するニュースや情報を新聞やネットで知る。
小説・自伝・人物評論などの読書、引きこもり・対人恐怖・摂食障害など心の問題を扱った読書。さまざまな機会をとらえ、人間ウオッチング（いろんな人がいるなー！）に努める。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 70 ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 10 ）　　授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 10 ）
試験問題を含めて授業への集中参加が成績評価を左右します。

2018 Syllabus

科 目 名　**教育相談 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　芦名　猛夫	

テーマ

カウンセリングマインドと人間関係づくり

授業の到達目標

心の病の諸相を知ること。教育相談関連の初歩的理論と技法を知ること。学校現場での人間関係づくりのためにカウンセリングマインドの活用を図る基礎力を身につける。

授業の概要

講義を主とするが、随時指名して発言を求めたり、バズ学習、人間関係づくりのエクササイズビデオ視聴などを入れながら進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　授業ガイダンス、教育相談の意義:“今なぜ教育相談？”
第2回　教育相談の機能と限界
第3回　教育相談の歩み
第4回　教育相談の事例検討（1）不登校、いじめ等
第5回　教育相談の事例検討（2）対人恐怖、神経症等
第6回　ストレスマネイジメント
第7回　教育相談に役立つ基礎的理論と技法（1）精神分析論（フロイト）
第8回　〃　（2）自己理論 （ロジャーズ）
第9回　〃　（3）行動理論、論理療法
第10回　〃　（4）交流分析、ゲシュタルト理論他
第11回　人間理解とカウンセリングマインド
第12回　人間関係づくりのエクササイズ
第13回　望ましいコミュニケーションのために
第14回　まとめと復習
第15回　試験

履修上の注意点

教育に関するニュースや情報を新聞やネットで知る。
小説・自伝・人物評論などの読書、引きこもり・対人恐怖・摂食障害など心の問題を扱った読書。さまざまな機会をとらえ、人間ウオッチング（いろんな人がいるなー！）に努める。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 70 ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 10 ）　　授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 10 ）
試験問題を含めて授業への集中参加が成績評価を左右します。

2018 Syllabus

科 目 名　**教育相談 <c>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　大久保　千恵	

テーマ

カウンセリングマインドと人間関係づくり

授業の到達目標

心の病の諸相を知ること。教育相談関連の初歩的理論と技法を知ること。学校現場での人間関係づくりのためにカウンセリングマインドの活用を図る基礎力を身につける。

授業の概要

講義を主とするが、随時指名して発言を求めたり、バズ学習、人間関係づくりのエクササイズビデオ視聴などを入れながら進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　授業ガイダンス、教育相談の意義:“今なぜ教育相談？”
第2回　教育相談の機能と限界
第3回　教育相談の歩み
第4回　教育相談の事例検討（1）不登校、いじめ等
第5回　教育相談の事例検討（2）対人恐怖、神経症等
第6回　ストレスマネイジメント
第7回　教育相談に役立つ基礎的理論と技法（1）精神分析論（フロイト）
第8回　〃　（2）自己理論 （ロジャーズ）
第9回　〃　（3）行動理論、論理療法
第10回　〃　（4）交流分析、ゲシュタルト理論他
第11回　人間理解とカウンセリングマインド
第12回　人間関係づくりのエクササイズ
第13回　望ましいコミュニケーションのために
第14回　まとめと復習
第15回　試験

履修上の注意点

教育に関するニュースや情報を新聞やネットで知る。
小説・自伝・人物評論などの読書、引きこもり・対人恐怖・摂食障害など心の問題を扱った読書。さまざまな機会をとらえ、人間ウオッチング（いろんな人がいるなー！）に努める。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 70 ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 10 ）　　授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 10 ）
試験問題を含めて授業への集中参加が成績評価を左右します。

2018 Syllabus

科 目 名　**英語科教育法 I**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　中井 弘一	

テーマ

「実践的指導力」の育成：英語授業の構成力、展開力

授業の到達目標

・中学校・高等学校の英語科担当教員に必要とされる英語授業の基礎的な知識を得る
・実践的な英語指導の素地・基盤知識を身に付ける

授業の概要

テキストの英語授業展開の各章項目について学生による発表を行い、その発表をもとに何が大切なことかを話し合う。質疑応答や話し合いを通して、教育実習に赴くための英語授業・英語指導に関する素地・基盤知識を身に付ける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　第1章 英語科授業構成の基礎知識 中学校・高等学校学習指導要領・小学校外国語学習指導要領
第2回　第1章 英語科授業構成の基礎知識 シラバス、英語教員の役割
第3回　第5章 英語科授業の展開 指導案と授業の進め方・学習指導案の書き方
第4回　第2章 教材を見る視点(教材研究) 語彙・文構造の面からの分析、学習者の要因、学習心理
第5回　第2章 教材を見る視点(教材研究) 談話・文体・文章構成の面からの分析
第6回　第2章 教材を見る視点(教材研究) 文化理解の面からの分析発音練習（破裂音2）
第7回　第3章 教材を使う視点 学習者に応じた教材の選択
第8回　第3章 教材を使う視点 技能に応じた教材の選択
第9回　第3章 教材を使う視点 教材を見る視点
第10回 第4章 英語科授業構成の考え方 中・長期的な目標設定の重要性
第11回 第4章 英語科授業構成の考え方 伝統的な英語科授業構成
第12回 第4章 英語科授業構成の考え方 タスク中心の英語科授業構成発音練習（側音）
第13回 第4章 英語科授業構成の考え方 求められる統合型の英語科授業構成
第14回 第5章 英語科授業の展開 授業で行うアクティビティ・基本的指導技術
第15回 英語授業展開で大切なこと

履修上の注意点

数多くでている英語教育・教授法の本に目を通し、自分なりの考えを持って、授業づくりにのぞむこと。指定された文献を読む。

教科書

New Crown English Series New Edition(Book1, 2, 3)
著者：
出版社：三省堂
出版年：　ISBN：

担当教員による授業中配付資料
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

小学校学習指導要領解説 外国語活動編
著者：文科省
出版社：東洋館出版社
出版年：2008　ISBN：

中学校学習指導要領解説 外国語編
著者：文科省
出版社：開隆堂出版社
出版年：2008　ISBN：

ask203d110

高等学校学習指導要領解説　外国語編

著者:　文科省

出版社:

出版年:　2009　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度　（ ）

2018 Syllabus

科 目 名　**英語科教育法Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　　中井　弘一	

テーマ

「実践的指導力」の育成：授業実践力、指導案作成、模擬授業

授業の到達目標

・外国語習得について歴史的に思考錯誤されてきた教授法の長所・短所を理解する
・それぞれの教授法の根拠となったメカニズムを理解し、実際の授業で応用できるようにする

授業の概要

歴史的に思考錯誤されてきた外国語教授法の流れを概観し、それぞれの教授法が基づいている言語習得のメカニズムを理解する。それぞれの教授法を基にした模擬授業を通して、学習指導要領がめざす英語力育成にそのメカニズムを実際の授業の学習活動にどのように応用・活用するのかを探る。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　外国語教授法概観・オリエンテーション(英語教員に求められる資質能力)
第2回　文法訳読法の理解
第3回　模擬授業1：学校英語教育における文法訳読法の実際
第4回　オーディオ・リンガル・メソッドの理解
第5回　模擬授業2：学校英語教育におけるオーディオ・リンガル・メソッド応用の実際
第6回　オーラル・メソッドの理解
第7回　模擬授業3：学校英語教育におけるオーラル・メソッド応用の実際
第8回　トータル・フィジカル・リスポンス・ジャズチャンツの理解
第9回　模擬授業4：学校英語教育におけるトータル・フィジカル・リスポンス・ジャズチャンツ応用の実際
第10回 ヒューマニスティック・アプローチの理解
第11回 模擬授業5：学校英語教育におけるヒューマニスティック・アプローチ応用の実際
第12回 認知学習理論の理解
第13回 模擬授業6：学校英語教育における認知学習理論応用の実際
第14回 ナチュラル・アプローチの理解・タスク・ベースの活動の理解
第15回 模擬授業7：学校英語教育におけるナチュラル・アプローチの理解・タスク・ベースの活動の実際

履修上の注意点

数多くでている英語教育・教授法の本に目を通し、自分なりの考えを持って、授業づくりにのぞむこと。指定された文献を読む。

教科書

New Crown English Series New Edition(Book1, 2, 3)
著者：
出版社：三省堂
出版年：　　ISBN：

現代英語教授法総覧
著者：　田崎清忠 編著
出版社：大修館書店
出版年：1995　　ISBN：

参考書

中学校学習指導要領解説外国語編
著者：
出版社：開隆堂出版社
出版年：2008年　　ISBN：

ask203d250

高等学校学習指導要領解説　外国語編

著者:

出版社: 開隆堂出版社

出版年: 2009年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 40 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度 （ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**英語科教育法Ⅲ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　　中井　弘一	

テーマ

「実践的指導力」の育成：英語授業の構成力、展開力

授業の到達目標

・中学校・高等学校の英語科担当教員に必要とされる基本的な知識を得る
・教育現場での実践的な英語指導法を身につける

授業の概要

英語科教育法Ⅱの履修と並行し、英語授業・英語指導に関する素地・基盤知識をもとに、コミュニケーション能力育成のための4領域の指導はどうあるべきかなど、実践的な知識と指導技術を、模擬授業を行ったりして体得させるようにする。また、ティームティーチング、評価、授業案作成など実践的な課題を取り上げる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

なるべく多くの英文を読むこと。多読が英語学力の基礎である。

内　容

第1回　第6章　英語科評価の新動向　教育測定とデータの解釈・さまざまな評価の種類
第2回　第6章　英語科評価の新動向　観点別評価の考え方と進め方・新しい評価
第3回　中学校の模擬授業(1)授業研究（1年生の教科書）
第4回　中学校の模擬授業(2)授業研究（2年生の教科書）
第5回　中学校の模擬授業(3)授業研究（2年生の教科書・第4回の続きの教材を扱って）
第6回　中学校の模擬授業(4)授業研究（3年生の教科書）
第7回　高等学校の模擬授業(1)授業研究（コミュニケーション英語Ⅰ）
第8回　高等学校の模擬授業(2)授業研究(コミュニケーション英語Ⅰ・第7回と異なるレッスンを扱って）
第9回　高等学校の模擬授業(3)授業研究(英語表現Ⅰ）
第10回　高等学校の模擬授業(4)授業研究（英語表現Ⅰ・第9回と異なるレッスンを扱って）
第11回　第7章　開発する視点とその方法　教材の開発・カリキュラムの開発・テストの開発
第12回　第8章　これからの英語教育と英語教師に求められる力　海外の動向から
第13回　第8章　これからの英語教育と英語教師に求められる力　日本の最近動向から
第14回　第8章　これからの英語教育と英語教師に求められる力　これからの英語教師に求められる資質と能力
第15回　教育実習に向けて　ALTとのティームティーチングの在り方

履修上の注意点

毎回、授業に必要な学習用具をきちんと持参すること。筆記具や辞書、参考書以外の持参物は授業時に指示する。なお、授業は、当然、定刻に始めるので遅刻をしないこと。

教科書

New Crown 中学校英語教科書
著者：
出版社：三省堂
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**国語科教育法Ⅰ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　池田　修	

テーマ

国語科授業の基本的な指導法に触れる

授業の到達目標

学校現場に立った時すぐに行わなければならない国語科の基本的な指導について、具体的にその方法に触れる。具体的には、漢字、読書、作文、音読などの項目について学習集団に対しての指導法を理解する。

授業の概要

それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な参加を期待する。＊　受講生の取り組み具合、受講生のリクエストなどによって多少の変更は想定される。外部講師をお招きする可能性もある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

「国語が好き」「国語がわかる」では、国語の教師になれたとしても、やっていけない。「国語を教えることができる」でなければならない。そのためには教育雑誌にある授業の記録、学校現場での授業の見学、テレビ番組での授業など国語科に限らず、多くの授業に触れること。その際、学習集団としてのクラスに教師がどのように働きかけているのかに意識を向けること。また、実際に学んだ内容を塾などの指導で活用して使えるようにすること、ワープロや表計算ソフトの習得も勧める。

内　容

第1回　国語科って何？　授業ガイダンス。学習指導要領では？　どんな力をつける教科なの？　国語科教育の歴史　学習権宣言
第2回　国語の授業を作る基礎。発声の基礎、板書の基礎、教室の立ち位置、チョークの持ち方。
第3回　メモ指導。聞く生徒を育てるために。　箇条書き、マッピング、マンダラート、KJ法。
第4回　漢字指導　1。漢字カルタ、漢字ウォーリーを捜せ、津川式超記憶術、漢字ドリル、漢字ルーツプリント
第5回　漢字指導　2。自作漢字学習教材の相互評価　四字熟語でポン たほいや　簡単な学習ゲーム論。
第6回　読書指導　1。読むは、書くである。読書感想文、読書郵便、朝の読書、書き抜きエッセイ、読書へのアニマシオン。
第7回　読書指導　2。「書き込み回覧作文」による評価　和綴じ本づくり。
第8回　作文指導　1。体験作文指導の哲学。作文は、料理に似ている、原稿用紙の使い方。
第9回　作文指導　2。アイディア出し、リサーチ、タイトルの付け方、書きはじめの指示、推敲、評価。
第10回　作文指導　3。「書き込み回覧作文」による評価　テスト問題のつくり方。
第11回　小テストと定期考査。国語科で行うテストについて、具体的に考え、実際に作ってみる。
第12回　音読／プレゼン指導。滑舌調音、群読、ショウ＆テル、ことわざスピーチバトル、評価の実際。
第13回　句会方式による指導。句会、人生名言集、こんな本なら読んでみたいタイトルコンテスト。
第14回　小テストと定期考査と採点方法。第11回の授業で求められた課題としての考査問題を、お互いに解き合い、採点もする。相互評価を下してみる。
第15回　国語科教育法1を評価する。「書き込み回覧作文」による国語科教育法1の評価。

履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。 出席君と掲示板へ授業後の課題提出を合わせて、出席をカウントすることを理解すること。

教科書

白石範孝の国語授業の教科書
著者:　白石範孝
出版社:　東洋館出版社
出版年:　　ISBN:

スペシャリスト直伝! 中学校国語科授業成功の極意
著者:　向後千春
出版社:　明治図書
出版年:　　ISBN:　9784181342272

実践へのヒント　国語科授業用語の手引き　第二版
著者:　中原國明・大熊徹編
出版社:　教育出版
出版年:　　ISBN:

ask203d510

新しい国語表記ハンドブック　第八版

著者:

出版社: 三省堂

出版年: 2018　　ISBN: 9784385211398

参考書

中学校言語能力がぐーんと身につく学習ゲーム集

著者:　石川晋・平山雅一

出版社: 学事出版

出版年:　　ISBN:

みんな言葉を持っていた

著者:　柴田保之

出版社: オクムラ書店

出版年:　　ISBN:

一斉指導10の原理100の原則

著者:　堀 裕嗣

出版社: 学事出版

出版年:　　ISBN:

新版　教師になるということ

著者:　池田修

出版社: 学陽書房

出版年:　　ISBN:

読書で遊ぼうアニマシオン

著者:　モセラット・サルト

出版社: 柏書房

出版年:　　ISBN:

プレイフル・ラーニング

著者:　上田信行×中原淳

出版社: 三省堂

出版年:　　ISBN:

授業の作法

著者:　野口芳宏

出版社: 学陽書房

出版年:　　ISBN:

これだけは身につけたい　超定番！　授業づくりの基礎・基本

著者:　八木正一・上條晴夫

出版社: 学事出版

出版年:　　ISBN:

奇跡の教室

著者:　伊藤氏貴

出版社: 小学館

出版年:　　ISBN:

白川静さんに学ぶ　漢字は楽しい

著者:　小山鉄郎

出版社: 新潮文庫

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 10 ）

授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 30 ）

出席くんと当日指定の課題の両方とも正しく出されていることで、当日出席があったと認めている。出席くんを忘れた時は、池田は訂正しないので忘れることのないように。

2018 Syllabus

科 目 名　**国語科教育法Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　池田　修	

テーマ

実技教科としての国語科のあり方を探る

授業の到達目標

教師が「教科書を読んで板書して解説して」という国語科を脱却し、学習者が主体的に学びに参加する国語科の授業を構築するための観点と方法を手に入れることを目的とする。

授業の概要

それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。また、学習班を単位として「模擬授業」「教材作り」「学習ゲーム」などの活動を行う。＊　受講生の取り組み具合、受講生のリクエストなどによって多少の変更は想定される。外部講師をお招きする可能性もある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

「国語が好き」「国語がわかる」では、国語の教師になれたとしても、やっていけない。「国語を教えることができる」でなければならない。そのためには教育雑誌にある授業の記録、学校現場での授業の見学、テレビ番組での授業など国語科に限らず、多くの授業に触れること。その際、学習集団としてのクラスに教師がどのように働きかけているのかに意識を向けること。また、実際に学んだ内容を塾などの指導で活用して使えるようにすること、ワープロや表計算ソフトの習得も勧める。

内　容

第1回　国語科と教材作り　授業ガイダンス。夏休みの課題の相互評価。ワークシートの実例から、教材とは何かを考える。学習班づくり。 発問とは何か？
第2回　国語科を実技教科として考える。学習ゲーム、ワークシート、資料集作り、辞書作り、アンソロジーノート、対義語でポン、和綴じ本作りなど。
第3回　学習ゲームの実際。辞書しり取り、たほいや、why-becauseゲーム、無関係ゲーム、ディベート、J1百人一首など。人生名言集。
第4回　ワークシートの実際。短編問題集、漢字学習、言語事項学習など。実際にゲームを作ってみる　スピーチテスト。
第5回　指導案の書き方　1。授業のビデオを見て、その授業の指導案を書いてみる。
第6回　指導案の書き方　2。指導案の相互評価。
第7回　定番教材の指導　韻文。中学校の定番教材として扱われる韻文の指導方法を学習指導要領の5観点から検討する。
第8回　定番教材の指導　散文。中学校の定番教材として扱われる散文の指導方法を学習指導要領の5観点から検討する。
第9回　定番教材の指導　古典。中学校の定番教材として扱われる古典の指導方法を学習指導要領の5観点から検討する。
第10回　作成教材の検討　1。定番教材として提出した教材を実際に使って、定期考査を作る。
第11回　国語教育の現在　1。メディアリテラシー教育。メディア断食、CMの分析、番組作りなど。
第12回　国語教育の現在　2。コンピュータと国語。タッチタイプ、ブログ、デジタルストーリーテーリング、読書感想文など。
第13回　作成教材の検討　2。第10回の授業で求められた課題としての考査問題を、お互いに解き合い、採点もする。相互評価を下してみる。評価／評定指導。評価とは何か、評価から評定への実際。
第14回　模擬授業　1　5分程度の模擬授業を全員が行う。
第15回　模擬授業　2　5分程度の模擬授業を全員が行う。国語科教育法2のまとめ。

履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。

教科書

教師のための「教える技術」
著者:　向後千春
出版社:　明治図書
出版年:　　ISBN:

白石範孝の国語授業の教科書
著者:　白石範孝
出版社:　東洋館出版
出版年:　　ISBN:

スペシャリスト直伝 中学校国語科授業成功の極意
著者: 池田修
出版社: 明治図書
出版年: ISBN:

参考書

中学校言語能力がぐーんと身につく学習ゲーム集
著者: 石川晋・平山雅一
出版社: 学事出版
出版年: ISBN:

みんな言葉を持っていた
著者: 柴田保之
出版社: オクムラ書店
出版年: ISBN:

一斉指導10の原理100の原則
著者: 堀 裕嗣
出版社: 学事出版
出版年: ISBN:

新版 教師になるということ
著者: 池田修
出版社: 学陽書房
出版年: ISBN:

読書で遊ぼうアニマシオン
著者: モセラット・サルト
出版社: 柏書房
出版年: ISBN:

プレイフル・ラーニング
著者: 上田信行×中原淳
出版社: 三省堂
出版年: ISBN:

授業の作法
著者: 野口芳宏
出版社: 学陽書房
出版年: ISBN:

これだけは身につけたい 超定番！ 授業づくりの基礎・基本
著者: 八木正一・上條晴夫
出版社: 学事出版
出版年: ISBN:

奇跡の教室
著者: 伊藤氏貴
出版社: 小学館
出版年: ISBN:

白川静さんに学ぶ 漢字は面白い
著者: 小山鉄郎
出版社: 新潮文庫
出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　小テスト（ 10 ）
授業中課題 （ 40 ）　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 30 ）
グループで行う模擬授業と、個人で行う模擬授業を評価では重点とします。準備、実際、まとめとそれぞれを丁寧に取り組むこと。 また、出席くんと当日指定の課題の両方とも正しく出されていることで、当日出席があったと認めている。出席くんを忘れた時は、池田は訂正しないので忘れることのないように。

2018 Syllabus

科 目 名　**国語科教育法Ⅲ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　野村　倫子	

テーマ

中学校（発展的に高等学校の分野を含む）国語科の実践的な学習指導の研究（「自然と人間」を中心に）

授業の到達目標

中学校・高等学校における国語科の授業の構成・実施・評価に関わる知識・能力を習得する。特に「自然と人間」というテーマに絞り、高等学校での現代文・古典（古文・漢文）教育も念頭においた作品を素材に、読解力、授業計画を構成する力量を高める。

授業の概要

読解作業によって作品の主題（「自然と人間」）を明確にし、授業の組み立てを考える。模擬授業を通して、毎回指導案の練り直しを積み重ね、力を培う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に指定した教材作品を読み込み、課題を作成した上で授業に臨む。

内　容

第1回　基本事項の理解についての確認小テスト、授業の進め方ガイダンス
第2回　中学校・高等学校国語科教育の目標と内容―平成20年版学習指導要領から「読むこと」「書くこと」
第3回　中学校・高等学校国語科教育の目標と内容―平成20年版学習指導要領から「話すこと」「聞くこと」、特に古典の教育について
第4回　新しい学習指導要領
第5回　中学校文学的教材の学習指導1・読解を深める
第6回　中学校文学的教材の学習指導2・指導案作成第1回
第7回　中学校文学的教材の学習指導3・発表
第8回　中学校文学的教材の学習指導4・指導案作成第2回
第9回　模擬授業
第10回　高等学校文学的教材の学習指導1・読解を深める
第11回　高等学校文学的教材の学習指導2・指導案作
第12回　高等学校文学的教材の学習指導3・模擬授業
第13回　中学校古典教材の学習指導
第14回　高等学校古典学教材（古典芸能を含む）の学習指導
第15回　「自然と人間」に関わる教材の振り返り、他教科との連携について

履修上の注意点

作品読解における言語の習得が最重要事項であるので「国語辞典」は携帯しておくこと。

教科書

風の又三郎
著者：　宮沢賢治
出版社：KADOKAWA
出版年：1976　　ISBN：4-04-104009-6

神様
著者：　川上弘美
出版社：中央公論新社
出版年：2001　　ISBN：4-12-203905-3

すぐ実践できる！アクティブ・ラーニング　中学国語
著者：　西川純
出版社：学陽書房
出版年：2016　　ISBN：4-313-65320-7

参考書

〈新しい作品論〉へ、〈新しい教材論〉へ
著者：　田中実・須貝千里
出版社：右文書院

ask203d710

出版年: 1999　　ISBN: 4-8421-9809-5

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

著者: 文部科学省(平成20年)

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 40 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**国語科教育法Ⅳ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　野村　倫子	

テーマ

中学校（発展的に高等学校の分野を含む）国語科の実践的な学習指導の研究（「人間と社会」を中心に）

授業の到達目標

中学校・高等学校における国語科の授業の構成・実施・評価に関わる知識・能力を習得する。特に「人間と社会」というテーマに絞り、高等学校での現代文・古典（古文・漢文）教育も念頭においた作品を素材に、読解力、授業計画を構成する力量を高める。

授業の概要

読解作業によって作品の主題（「人間と社会」）を明確にし、授業の組み立てを考える。模擬授業を通して、毎回指導案の練り直しを積み重ね、力を培う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に指定した教材作品を読み込み、課題を作成した上で授業に臨む。

内　容

第1回　授業の進め方ガイダンス
第2回　中学校・高等学校国語科教育ー平成20年版学習指導要領の「読むこと」「書くこと」「話すこと」「聞くこと」を確認、新しい学習指導要領紹介
第3回　中学校文学的教材の学習指導1・読解を深める
第4回　中学校文学的教材の学習指導2・指導案作成第1回
第5回　中学校文学的教材の学習指導3・中間発表
第6回　中学校文学的教材の学習指導4・指導案作成第2回
第7回　模擬授業
第8回　中学校評論文教材の紹介・知識を広げる
第9回　高等学校文学的教材の学習指導1・読解を深める
第10回　高等学校文学的教材の学習指導2・指導案作成
第11回　模擬授業
第12回　高等学校評論文教材の紹介・知識を広げる
第13回　高等学校評論文補助教材（メディアを含む）の紹介・現代社会の問題と関わらせて
第14回　古典に見る「人間と社会」、あるいは「社会の中の人間」
第15回　「人間と社会」に関わる教材の振り返り、他教科との連携について

履修上の注意点

作品読解における言語の習得が最重要事項であるので「国語辞典」は携帯しておくこと。

教科書

山椒大夫・高瀬舟
著者：　森鷗外
出版社：新潮社
出版年：1968　　ISBN：4-10-102005-1

すぐ実践できる！アクティブ・ラーニング　中学国語
著者：　西川純
出版社：学陽書房
出版年：2016　　ISBN：4-313-65320-7

参考書

〈新しい作品論〉へ、〈新しい教材論〉へ
著者：　田中実・須貝千里
出版社：右文書院
出版年：1999　　ISBN：4-8421-9809-5

ask203d850

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

著者:　文部科学省（平成20年）

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**社会科教育法Ⅰ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　岩本　賢治	

テーマ

まず、「社会科は暗記するだけ」という考え方を捨てましょう。そうすると、「暗記ではなく何？」という疑問が出てきます。この疑問に対する答えを探すことがこの授業のテーマです。「なぜ学習するのか」を教師が理解していないと、「覚えなさい」というおもしろくない授業になります。「良い授業」を作るためには何が必要か考えていきます。

授業の到達目標

中学校社会科の授業を自ら構成し、「学習指導案」の形で表現できる。このためには、「社会科の基本的な内容を理解している」「社会科の教科としての目標や特徴を理解している」「教材研究や授業作りを自主的に行うことができる」ということが必要になります。

授業の概要

前半は講義を中心に、社会科について概略を学ぶ。その際、これまでに議論されていることや、現在も課題とされていることなどについて話し合いたい。
後半は設定した課題に取り組む形で、発表や互いに交流する機会を持ちたい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

高等学校（社会科：地歴科・公民科）の復習、特に履修していない科目などについては教科書を準備して少しずつ復習する。
社会科の内容は時事問題も含 まれるで、新聞やTVでニュースに注意する。
また、授業で扱った社会事象や社会問題を復習する。
このようなことを、毎日1時間程度行う。

内　　容

第1回　授業の進め方
第2回　社会科について　成立から現在まで　経験主義と系統主義　ゆとりと学力低下
第3回　社会科で育てる資質･能力、学力とは？　公民的資質と社会認識「理解する」と「覚える」
第4回　社会科と評価　相対評価と絶対評価　観点別学習状況
第5回　国際学力調査を踏まえたこれからの社会科の課題
第6回　中学校社会科の単元計画と授業（地域学習を手がかりに）
第7回　中学校社会科の3つの分野と単元構成
第8回　発表「私の住んでいる地域のようす」
第9回　地理的分野の目標・内容　①　世界の様々な地域
第10回　地理的分野の目標・内容　②　日本の様々な地域
第11回　歴史的分野の目標・内容　①　歴史のとらえ方～中世の日本
第12回　歴史的分野の目標・内容　②　近世の日本～現代の日本と世界
第13回　公民的分野の目標・内容　①　私たちと現代社会、私たちと経済
第14回　公民的分野の目標・内容　②　私たちと政治、私たちと国際社会の諸課題
第15回　授業のまとめ　模擬授業の作り方

履修上の注意点

図書館などにある授業実践を記録した書籍などに触れるようにしてほしい。

教科書

参考書

中学校学習指導要領解説 社会編
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 15 ）
参加度（ 15 ）	

ask203d910

小テスト　第5回、第10回、第15回に講義内容に関する小テストを実施します。
授業中課題　各授業の最後に短いレポートを書きます。
授業中発表等　毎時間社会科教育で使える教材を探してきて、どこでどのように使えそうか、説明する。
参加度 授業中にグループ討論をします。その際の発言や説明で評価します。

2018 Syllabus

科 目 名　**社会科教育法Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　岩本　賢治	

テーマ

中等社会科の目標、内容、方法について、教材分析と授業づくりを通じて基本的な理解を深める。

授業の到達目標

1　中等社会科の目標、内容、方法に関する基本的な理解を深めるために、中学校　・高等学校の社会科の歴史とすぐれた社会科実践の分析を行う中で、教材づくり　の視点と方法を学ぶ。2　中等社会科の授業案づくりを作成して、実践力を身につける。

授業の概要

中等社会科について戦後社会科の誕生から現在までの学習指導要領の歴史、民間の社会科実践のあゆみ、中学校教科書論、教材論、社会科の授業案を作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

高等学校の復習、特に履修していない科目などについては教科書を準備して少しずつ復習する。
社会科の内容は時事問題も含 まれるで、新聞やTVでニュースに注意する。
また、授業で扱った社会事象や社会問題を復習する。
このようなことを、毎日1時間程度行う。

内　容

第1回　戦後の中等社会科のあゆみ(1)－公民教育構想と初期社会科の誕生、問題解決学習と初期社会科実践、初期社会科教科書の内容
第2回　戦後の中等社会科のあゆみ(2)－1955年版学習指導要領から1977年版学習指導要領まで、系統学習と歴史・地理学習、民間社会科（歴教協と教科研）の実践、生産労働実践と系統的歴史・地理学習、中等社会科カリキュラムと高校の現代社会
第3回　戦後の中等社会科のあゆみ(3)－1989年版学習指導要領と社会科解体、生活科と高校の地歴科・公民科、1998年版学習指導要領と総合的学習の開始、社会科の総合性と総合学習論
第4回　戦後社会科教育史から学ぶ一社会科における問題解決学習と系統学習、課題探究型社会科学習、総合型の人権学習、平和教育と環境教育
第5回　民間社会科実践史から学ぶ(1)中学校社会科の授業づくりと学力一安井俊夫の戦争学習実践
第6回　民間社会科実践史から学ぶ(2)中学校歴史学習一安井俊夫『子どもと学ぶ歴史の授業』から『子どもが動く社会科』へ、発言を引き出す授業
第7回　民間社会科実践史から学ぶ(3)高校日本史の授業づくりと学力一加藤公明実践、「近世アイヌの実像に迫る」実践、『考える日本史』－討論型日本史学習、加藤の授業ビデオ視聴
第8回　日本とアメリカの歴史教育の比較－渡邊雅子論文、高校世界史学習一難波達興のアメリカ史実践
第9回　社会科教材づくりの視点と方法(1)教育内容と教材の区分、中学校の教科書分析、安井俊夫の授業づくり論
第10回　社会科教材づくりの視点と方法(2)各自の授業テーマに基づく授業案づくり、授業構想と教材研究
第11回　社会科教材づくりの視点と方法(3)各自の授業テーマに基づく授業案づくり、具体的な授業案づくり
第12回　社会科教材づくりの視点と方法(4)各自の授業テーマに基づく授業案づくり、具体的な授業案の発表と相互批評
第13回　社会科教材づくりの視点と方法(5)各自の授業テーマに基づく授業案づくり、具体的な授業案の発表と相互批評
第14回　社会科教材づくりの視点と方法(6)各自の授業テーマに基づく授業案づくり、具体的な授業案の発表と相互批評
第15回　中等社会科の歴史と実践のまとめ

履修上の注意点

1. この授業は出席を重視するので注意すること。
2. 授業の中でグループワークを通じて、意見形成、意見表明を求めるので、自分なりの考えを持ち、表現できるよう努めること。

教科書

授業の中で指示する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業の中で指示する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

ask203e050

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 15 ）

参加度 （ 15 ）

1. 各授業の最後に短いレポートを書きます(学習指導案および模擬授業を含む)。
2. 毎時間社会科教育で使える教材を探してきて、どこでどのように使えそうか、説明する。
3. 授業中にグループ討論をします。その際の発言や説明で評価します。

2018 Syllabus

科 目 名　**社会科教育法Ⅲ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　岩本　賢治	

テーマ

模擬授業の計画と実践を通して、教材研究や教科指導の力を養う。

授業の到達目標

教育実習での研究授業（公開授業）を念頭において、「学習指導案（細案）」を作成することができる。授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。協力して授業実践を行うことを通して、授業研究や授業改善の方法を知る。

授業の概要

小集団または個人によって教材を開発し、学習指導案を作成する。さらに模擬授業実践を行い、それを検討するまでを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

社会科の授業の教材や教具として利用できないかを考えるという視点を常にもつ。
普段から小中学生でもわかるような話し方を意識する。
各授業での発表について、内容や方法を検討し、感想や意見を交換できるよう準備をしておく。

内　容

第1回　授業の目標と進め方について
第2回　授業づくりと教材研究の方法　①　学習指導要領と教科書
第3回　授業づくりと教材研究の方法　②　教材と教具　発問と指示
第4回　地理的分野の授業分析
第5回　歴史的分野の授業分析
第6回　公民的分野の授業分析
第7回　模擬授業と講評、相互評価　①地理的分野 第1グループ
第8回　模擬授業と講評、相互評価　②地理的分野 第2グループ
第9回　模擬授業と講評、相互評価　③地理的分野 第3グループ
第10回　模擬授業と講評、相互評価　④歴史的分野 第4グループ
第11回　模擬授業と講評、相互評価　⑤歴史的分野 第5グループ
第12回　模擬授業と講評、相互評価　⑥歴史的分野 第6グループ
第13回　模擬授業と講評、相互評価　⑦公民的分野 第7グループ
第14回　模擬授業と講評、相互評価　⑧公民的分野 第8グループ
第15回　まとめ 模擬授業の振り返りと自己評価

履修上の注意点

教育委員会などでは、地域の優秀な指導案を収集･公開しています。地域によって形式なども異なるので、教育実習を意識し、あらかじめ確認しておきましょう。

教科書

授業中に指示をする。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に指示をする。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験･レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）　　授業中発表等（ 15 ）
参加度（ 15 ）

1. 各授業の最後に短いレポートを書きます。
2. 毎時間社会科教育で使える教材を探してきて、どこでどのように使えそうか、説明します。
3. 授業中にグループ討論をします。その際の発言や説明で評価します。

2018 Syllabus

科 目 名　**社会科教育法Ⅳ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　　本庄　豊	

テーマ

地理教育の内容理解と授業づくり

授業の到達目標

中等社会科の地理分野を中心に、中学校学習指導要領(地理的分野の目標、内容)、中学校の地理的分野の教科書構成を検討し、生徒の興味・関心を引き出しながら、地理的な見方や考え方を培うための地理的分野の教材開発と授業づくりの方法を学ぶ。

授業の概要

系統地理分野から地形図学習、地図学習、世界と日本の地形、環境問題、エネルギー問題を取り上げ教材構成と授業手法の検討を行う。地誌の分野では、世界の諸地域からアフリカ、アジア、ヨーロッパ、アメリカを取り上げ、グループで模擬授業を行い、授業研究を行う。また、日本の諸地域では、受講者が個人で学習テーマを設定して授業をつくり、模擬授業を行う。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

新聞やニュースなど時事的な問題を地理学習のなかでどう扱うかを常に考え、アンテナを貼っておくこと。

内　容

第1回　生徒が楽しく地形図学習と地図学習をする教材と授業方法を考える
第2回　生徒が楽しく世界の気候・日本の気候を学ぶことができる教材を考える。
第3回　地域統計に関する情報収集の仕方と主題図の作成と読解の手法を学ぶ。
第4回　【共同研究1】現代世界の環境問題／エネルギー問題について教材研究をする。
第5回　地球環境問題・エネルギー問題について教材構成と授業手法を検討する。
第6回　「世界の諸地域(1)－アフリカ：地下資源に恵まれたアフリカが貧しいのはなぜか」の授業を体験し、授業づくりの手法を学ぶ。
第7回　【共同研究2】世界の諸地域(2)アジア州とヨーロッパ州―食べ物を教材にした授業を考える
第8回　食べ物を教材にした地理の模擬授業と授業研究
第9回　【共同研究3】世界の諸地域(3)北アメリカ州－移民から見えてくるアメリカ社会を教材研究
第10回　アメリカ合衆国を教材にした模擬授業と教材研究
第11回　【共同研究4】日本の諸地域の範囲で、学生一人ひとりが学習テーマを設定して授業をつくる。
第12回　模擬授業と合評会(1)グループ①
第13回　模擬授業と合評会(2)グループ②
第14回　模擬授業と合評会(3)グループ③
第15回　身近な地域の調査－コンビニエンスストアを取り上げ、商業店舗の立地用件を学ぶ。

履修上の注意点

欠席が3回をこえる場合は原則として単位認定しない。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 60 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）	

基本的に全日程出席し、積極的に発言・発表にとりくみ、まとめのレポートを提出すること。

2018 Syllabus

科 目 名　**書道科教育法Ⅰ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　　西村　大輔	

テーマ

講義や模擬授業を通して、高等学校芸術科書道の確かな指導力を身につけるとともに、その現状と課題について考える。

授業の到達目標

高等学校の指導内容と現状を把握し、教科教材の研究・開発から、実際に現場でしっかりとした授業が行えるように準備・展開できるようにする。「書道科教育法Ⅱ」にあっては、書道Ⅱ、書道Ⅲ(漢字、かな、漢字仮名交じり他)を主として進める。また、いろいろな教材の可能性についての模索に取り組みたい。積極的な意見交換が行われ、書道教育の新たな展開を図りたい。

授業の概要

①高等学校芸術科書道の現状理解や指導案作成、指導方法等についての講義。②指導案(細案)及び年間指導計画の作成。③作成した指導案に基づく模擬授業及び相互講評。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

模擬授業での適正な計画や準備などのため、相当量の家庭での学習と取り組みが必要になる。また、教育実習に向けての諸準備も怠らないようにしたい。

内　容

第1回　基本的な内容の講義Ⅰ(①高等学校芸術科書道についての概説、②指導案作成法、③指導方法の基本、等)
第2回　基本的な内容の講義Ⅱ(①高等学校芸術科書道についての概説、②指導案作成法、③指導方法の基本、等)
第3回　授業の基本についての実践(短時間での模擬授業)
第4回　模範授業(指導者による授業)
第5回　模擬授業Ⅰ(指導案略案に基づく短時間での模擬授業及び講評)
第6回　模擬授業Ⅱ(指導案略案に基づく短時間での模擬授業及び講評)
第7回　模擬授業①(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第8回　模擬授業②(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第9回　模擬授業③(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第10回　模擬授業④(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第11回　模擬授業⑤(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第12回　模擬授業⑥(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第13回　模擬授業⑦(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第14回　模擬授業⑧(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第15回　模擬授業⑨(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)

履修上の注意点

教科書

書Ⅰ(文部科学省検定済教科書)
著者:　高木聖雨
出版社:　光村書店
出版年:　2016　　ISBN:　9784895289030

参考書

高等学校学習指導要領
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート　(0)　　小テスト　(0)
授業中課題　(40)　　授業中発表等　(40)
参加度　(20)
レポート、模擬授業での意欲的な取り組み、出席率等、総合的に評価することとする。

2018 Syllabus

科 目 名　**書道科教育法Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　　西村　大輔	

テーマ

講義や模擬授業を通して、高等学校芸術科書道の確かな指導力を身につけるとともに、その現状と課題について考える。

授業の到達目標

高等学校の指導内容と現状を把握し、教科教材の研究・開発から、実際に現場でしっかりとした授業が行えるように準備・展開できるようにする。「書道科教育法Ⅱ」にあっては、書道Ⅱ、書道Ⅲ(漢字、かな、漢字仮名交じり他)を主として進める。また、いろいろな教材の可能性についての模索に取り組みたい。積極的な意見交換が行われ、書道教育の新たな展開を図りたい。

授業の概要

①高等学校芸術科書道の現状理解や指導案作成、指導方法等についての講義。②指導案(細案)及び年間指導計画の作成。③作成した指導案に基づく模擬授業及び相互講評。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

模擬授業での適正な計画や準備などのため、相当量の家庭での学習と取り組みが必要になる。また、教育実習に向けての諸準備も怠らないようにしたい。

内　容

第1回　発展的な内容の講義Ⅰ(①高等学校芸術科書道についての現状と課題、②書道Ⅱ・Ⅲを含めた指導案作成法、③指導方法の基本、等)
第2回　発展的な内容の講義Ⅱ(①高等学校芸術科書道についての現状と課題、②書道Ⅱ・Ⅲを含めた指導案作成法、③指導方法の基本、等)
第3回　模擬授業①(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第4回　模擬授業②(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第5回　模擬授業③(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第6回　模擬授業④(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第7回　模擬授業⑤(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第8回　模擬授業⑥(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第9回　模擬授業⑦(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第10回　模擬授業⑧(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第11回　模擬授業⑨(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第12回　模擬授業⑩(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第13回　模擬授業⑪(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第14回　模擬授業⑫(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第15回　模擬授業⑬(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)

履修上の注意点

教科書

書Ⅰ(文部科学省検定済教科書)
著者:　高木聖雨
出版社:　光村書店
出版年:　2016　　ISBN:　9784895289030

参考書

高等学校学習指導要領
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート　(0)　　小テスト　(0)
授業中課題　(40)　　授業中発表等　(40)
参加度　(20)
レポート、模擬授業での意欲的な取り組み、出席率等、総合的に評価することとする。

2018 Syllabus

科 目 名　**地歴科教育法Ⅰ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　井ノ口　貴史	

テーマ

地歴科教育の意義・課題と授業方法

授業の到達目標

次期学習指導要領がめざす「育成すべき資質・能力」「主体的で対話的な深い学び」の考え方を理解した上で、生徒自身が「問い」を設定し、仲間と協働的に探究する問題解決型（仮説検証型）の授業をつくるために、史・資料を多面的、多角的に分析する力、その分析をもとに思考し判断する力、その判断を仲間に向かって説明する力などを育てるための授業方法を体験的に学ぶ。

授業の概要

教育実習に向けて、教材研究の仕方、地歴科の授業の作り方、指導案の書き方を学び、教材を作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

新聞やTVニュース、小説や映画などにふれ、歴史や地理についての関心を深めて欲しい

内　容

第1回　現行学習指導要領での地理歴史科各科目の目標や主な内容、全体構成を知る。また、新しい学習指導要領の考え方を理解する。
第2回　「ペリー来航」を素材に日本史と世界史を統合した授業をつくる。
第3回　「ペリー来航」についての教材研究と教材の作り方を学ぶ。
第4回　「ペリー来航」の学習指導案の作り方と学習評価の考え方をまなぶ。
第5回　日本史B「幕藩体制の動揺」単元を例に、教材観、単元構成、本時の目標、指導上の留意点などを作り、取り上げるべき史・資料の選定を行う。
第6回　GISを使った地理授業の実践事例を学ぶ。
第7回　地理授業「グローバル化とアフリカ」を事例に、映像使用や統計資料の扱い方を学ぶ。
第8回　地理と世界史で使えるイスラームの導入教材を作る。
第9回　世界史B「南北戦争」単元を素材に仮説検証型の授業をつくる。
第10回　グループ活動を通して、第2次世界大戦後の日米関係史の授業プランを構想する。
第11回　情報器機を使った導入教材の作成と模擬授業（1）
第12回　情報器機を使った導入教材の作成と模擬授業（2）
第13回　情報器機を使った導入教材の作成と模擬授業（3）
第14回　情報器機を使った導入教材の作成と模擬授業（4）
第15回　模擬授業の振り返り

履修上の注意点

教科書

社会認識を育てる教材・教具と社会科の授業づくり
著者:　井ノ口貴史・倉持祐二
出版社:　三学出版
出版年:　2015年　　ISBN:

高等学校学修指導要領解説地理歴史編
著者:　文部科学省
出版社:　教育出版
出版年:　平成22年　　ISBN:

参考書

中等社会科ハンドブック　―〈社会・地歴・公民〉授業づくりの手引き―』
著者:　二谷貞夫・和井田清司・小林汎・大野一夫・吉田俊弘編
出版社:　学文社
出版年:　2014年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0% ）	小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 60% ）	授業中発表等（ 10% ）

ask203e510

参加度 （ 30% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**地歴科教育法Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　井ノ口　貴史	

テーマ

地歴科の授業づくりと模擬授業

授業の到達目標

1時間の模擬授業にあたって、教材研究の方法、単元構成、1時間の授業展開、観点別評価の考え方、導入段階での「問い」の立て方、「問い」の解決のための史・資料の選定、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業構成など1時間の授業展開を構想できる。また、模擬授業を受けた後、授業研究を通じて改善点を指摘できる。

授業の概要

教育実習に向けて、教材研究の仕方、地歴科の授業の作り方、指導案の書き方を学び、教材を作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

全国の著名な実践家の授業実践報告を読んだり、民間の教育研究団体の研究会に参加して、現場で授業づくりをおこなっている教師の生の声を聞いて欲しい。

内　容

第1回　メディア情報を取り入れた同時代史学習の授業実践を検討する。
第2回　米同時多発テロ事件を扱った授業実践記録をもとに、生徒の意見表明をもとにした協働的な学習と討論授業の手法(アクティブ・ラーニングの手法)を学ぶ。
第3回　模擬授業と授業研究（1）
第4回　模擬授業と授業研究（2）
第5回　模擬授業と授業研究（3）
第6回　模擬授業と授業研究（4）
第7回　模擬授業と授業研究（5）
第8回　模擬授業と授業研究（6）
第9回　模擬授業と授業研究（7）
第10回　模擬授業と授業研究（8）
第11回　模擬授業と授業研究（9）
第12回　模擬授業と授業研究（10）
第13回　模擬授業と授業研究（11）
第14回　模擬授業と授業研究（12）
第15回　模擬授業と授業研究（13）

履修上の注意点

教科書

中等社会科ハンドブック　―〈社会・地歴・公民〉授業づくりの手引き―
著者:　二谷貞夫・和井田清司・小林汎・大野一夫・吉田俊弘編
出版社:　学文社
出版年:　2014年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0% ）	小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 60% ）	授業中発表等（ 10% ）
参加度（ 30% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**公民科教育法Ⅰ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　井ノ口　貴史	

テーマ

公民科教育の意義・内容・課題

授業の到達目標

多様化する現代社会について理解を深め、民主的で平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な 公民としての資質を養うために、高校公民科教育の意義や内容についての理解を深める。特に、高校での公民科の授業を追体験することで、カリキュラム作成、教材開発、授業評価の実際を学ぶ。

授業の概要

新聞の切り抜きをもとにした「社会科通信」づくりを通して、現代の社会が抱える諸問題を教材化させ、授業づくりの方法論、学習指導案の書き方、授業評価の方法を実践的に学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　学習指導要領のもとでの公民科の位置づけとそれを具体化する授業づくりを考える
第2回　「日本国憲法の成立」の授業づくりを通して学習指導案の書き方を学ぶ
第3回　身近なものを教材化するーコンビニから戦後の小売業を考える
第4回　身近なものを教材化するーコンビニから情報化社会を考える
第5回　身近なものを教材化するーコンビニから食糧自給を考える
第6回　メディアリテラシー：今日のニュースや国際紛争・事件をどのように教材化するか
第7回　新聞で学ぶ現代の社会ー「9．11」からイラク戦争を教材化する
第8回　新聞で学ぶ現代の社会ー「9．11」以降の実践記録の特徴を検討する
第9回　経済分野の授業：経済学入門をどう教材化するか
第10回　経済分野の授業：絵本『レモンをお金にかえる方』を教材化する
第11回　憲法の授業をつくる：日米安保条約と沖縄
第12回　憲法の授業をつくる：冷戦終結と日米安保条約
第13回　模擬授業と授業研究（1）
第14回　模擬授業と授業研究（2）
第15回　模擬授業と授業研究（3）

履修上の注意点

人間の生き方・あり方及び社会の現実と理想について関心を持ち、そうした分野の読書をすること。新聞を読み、時事問題に留意すること

教科書

中等社会科ハンドブック　―〈社会・地歴・公民〉授業づくりの手引き―
著者：　二谷貞夫・和井田清司・小林汎・大野一夫・吉田俊弘編
出版社：学文社
出版年：2014年　　ISBN：

社会認識を育てる教材・教具と社会科の授業づくり
著者：　井ノ口貴史・倉持祐二
出版社：三学出版
出版年：2015年　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（60）	授業中発表等（10）
参加度（30）	

2018 Syllabus

科 目 名　**公民科教育法Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　井ノ口　貴史	

テーマ

公民科教育の内容理解と授業づくり

授業の到達目標

模擬授業づくりを通して、教材開発の手法とカリキュラムデザインの実際を学ぶ。

授業の概要

「現代社会」「政治経済」「倫理」の中から個人で模擬授業を行い、授業後、授業研究を行う。また、学生が小グループでカリキュラム開発や教材開発を行い、模擬授業を行って、授業研究会を組織する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　学習指導案を検討する：食糧問題の授業づくり
第2回　生命倫理に関する授業を作る：ディベートの手法を学ぶ
第3回　倫理の授業をつくる：尾崎豊を教材に青年期の授業をつくる
第4回　模擬授業と授業研究（1）：第1グループ
第5回　模擬授業と授業研究（2）：第2グループ
第6回　模擬授業と授業研究（3）：第3グループ
第7回　模擬授業と授業研究（4）：第4グループ
第8回　共同研究1：「民主政治の基本原理と日本国憲法」単元の授業案を考える
第9回　模擬授業と授業研究（5）：第5グループ
第10回 模擬授業と授業研究（6）：第6グループ
第11回 共同研究2：「現代の経済」単元の授業案を考える
第12回 共同研究3：「現代の国際政治」単元の授業案を考える
第13回 「民主政治の基本原理と日本国憲法」の模擬授業
第14回 「現代の経済」単元の模擬授業
第15回 「現代の国際政治」の模擬授業

履修上の注意点

人間の生き方・あり方及び社会の現実と理想について関心を持ち、そうした分野の読書をすること。新聞を読み、時事問題に留意すること

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（60）	授業中発表等（10）
参加度（30）	

2018 Syllabus

科 目 名　**生徒・進路指導**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　井ノ口　貴史	

テーマ

生徒指導とそれを支える生活指導

授業の到達目標

生徒指導の意義と必要性、生徒指導の領域と内容、生徒指導の組織と計画など概念上の理解を深めた上で、生徒指導の今日的課題、クラス経営や生徒会づくりの具体的な指導事例、生徒の学校参加の事例、進路指導の在り方を学ぶことを目的とする。

授業の概要

基本的には、学校現場で見られる事象を紹介し、それについて学生が意見表明をすることを授業の柱にする。授業の中で提示される具体的な事例や資料をもとに、小グループで検討・意見交換をし、全体の場で交流した後に重要ポイントを抽出する。また、事例研究では、具体的な事例に現場教師がどのようにかかわっているかを読み解き、レポートとして提出を義務づける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　生徒指導の領域と内容:いわゆる「教育困難校」の１日
第2回　学校がどんな組織で運営されているか―校務分掌と組織（生徒指導体制？）
第3回　生徒指導の方法―ゼロ・トレランス方式を考える
第4回　子どもの学校参加の考え方を学ぶ
第5回　「いじめ」事象における生徒指導のあり方
第6回　事例研究「いじめ」事象が疑われる生徒に対する担任教師の指導のあり方を検討する
第7回　生徒指導提要を読む（1）:生徒指導の意義と原理
第8回　生徒指導提要を読む（2）:生徒会活動やホームルーム活動が生徒指導に果たす役割を考える
第9回　生徒指導提要を読む（3）:個別の課題を抱える児童生徒への指導をどうするか
第10回 生徒指導提要を読む（4）:生徒指導に関する法制度を知る
第11回 キャリア教育の理念を学ぶ:目標、進路指導の定義、中学校におけるキャリア教育の特徴
第12回 高校での進路指導の考え方を学ぶ:職業教育の考え方、3年間を見通した指導計画の在り方
第13回 グループ討議:高校時代の進路学習を振り返って、どのような進路指導が必要と考えるか
第14回 事例研究:「カンニング」疑惑を指導した教師の対応を生徒指導の観点から検討する
第15回 事例研究:「部活動における体罰」事例を教職員の連携という視点から検討する

履修上の注意点

新聞やテレビで報道される教育問題について関心を持って切り抜きなどを行う。また、講義テーマについての関連図書を読み込むこと。

教科書

生徒指導提要
著者:　文部科学省
出版社:
出版年:　平成22年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（60）	授業中発表等（10）
参加度（30）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習Ⅰ**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件　教育実習受講許可者のみ 登録可	クラス指定
担 当 者　岩本　賢治	

テーマ

実りのある教育実習

授業の到達目標

学校現場での実習を通して、学校教育についての正しい理解を深め、教師の役割や指導についての適切な認識と技術を身につけ、教師としての人間性を高めることをめざす。

授業の概要

教育実習生として期待することは3つある。
(1)実習校での学校づくりの内容を具体的に知り、そこにこめた願いをつかむこと。
(2)大学で学んでいることがらを、教育現場の具体的なとりくみを通して検討し、さらに深めること。
(3)教師として、社会人として自らを成長させていくうえでの課題をつかむこと。
実習中は、①毎日の教育の記録を書く、②学習指導案を作成し授業を行う、③生徒の様子や自らのとりくみを振り返る、が重点課題となる。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

内　容

第1回　〇第3週
・指導のねらいを明確にして、授業にとりくむ。
・児童の新しい面を見いだすように努める。
・児童会の組織や実際のとりくみについて知る。

第2回　〇第4週
・これまでに学んだことを生かして学習指導案を作成し、研究授業にとりくむ。
・実習のまとめをし、成果と課題を明らかにする。
なお、この授業の無断欠席は原則として認めない。やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ理由を記した欠席届を提出すること。届けがない場合は、教員免許状の取得を放棄したものとみなす。

履修上の注意点

公開授業や現場教師の研究会、子どもを対象とした催しやボランティアに参加することを勧める。「教育実習Ⅱ」を参照

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習Ⅱ（3回生枠）**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件　教育実習受講許可者のみ 登録可	クラス指定
担 当 者　岩本　賢治	

テーマ

実りある教育実習（教育実習事前指導）

授業の到達目標

教職関係学習の総決算として、教育実習体験報告会などに参加して、教師への志を確たるものにする

授業の概要

教育実習に向けて、教師として必要な資質、教師の社会的役割について講義、教育実習校決定までの手続きについてのガイダンスをする。その上で、3回生には、教育実習を終えた4回生の実習体験及び研究授業の報告会に参加させ、教育実習に向けての準備をさせる。また、各学校で行われる公開研究会に参加させ、現場教師の授業づくりや授業方法をまなばせる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　教員の適性について
・教育職員免許法について・教育実習について・免許取得の心構えについて
第2回　教員の資質について
・教育実習の実態について－実習生評価票、実習校訪問の結果等に基づいて
・教育実習受講の心構えについて・実習校事前訪問の意義と心構えについて
・教育実習受講資格について（内規）
第3回　ビデオによる教育実習の観察指導
第4回　先輩実習生の教育実習報告及び質疑応答
第5回　教育実習の心得
第6回　現場教員による講演
第7回　教育実習直前指導
第8回　実習簿記入指導と実習後のとるべき措置について及び教育実習反省会や適宜個別指導を行う
第9回　【実習】第1週
・学級担任の生徒に対する願いをつかむ。・生徒の名前を覚え、一人ひとりの人格をつかむ努力をする。・学校の一日のくらしの内容をつかむ。
第10回　【実習】第2週
・学習指導案の基本的な内容と様式を知る。・教科教育と教科以外のとりくみのそれ　ぞれの役割と具体的な内容をつかむ。・生徒相互の関係に目をむける。

履修上の注意点

公開授業や現場教師の研究会、子ども対象の催しやボランティア活動等に参加することを望む。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に指示をする。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 50 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教職実践演習（中等）〈a〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　岩本　賢治	

テーマ

教職課程における総まとめ

授業の到達目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、教育現場で教師として学級経営や教科指導に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の概要

学生は、履修カルテを読み返して4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。
1. 子ども理解（①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境）、2. 各教科の指導、3. 実践的な知識と技能（①学級経営、②生徒指導、）、4. コミュニケーション（①学校における個人の役割、②地域・保護者との関係）、5. 教育的愛情。
以上の視点に基づいて、履修カルテを読み解いて到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なのかを明確にする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

現代の教育の諸問題について日常から関心を持ち、新聞やテレビ・ラジオ・インターネット等による情報を得て、授業中に発表できるようにしておく。

内　容

第1回　オリエンテーション－本演習の目的と計画、履修カルテを読み返し自分の課題を明らかにする。
第2回　子ども理解－中学生・高校生を取り巻く社会の現状（グループ討論、発表）
第3回　学級経営－学級活動・ホームルーム活動の組織作りと指導（グループ討議、クラス討議）
第4回　学校行事・生徒会活動の指導（学校現場の調査、グループ討議、クラス討議）
第5回　事例研究（生徒指導）：いじめ問題への教師の対応（グループ討議と発表、クラス討議）
第6回　事例研究（教育相談）：不登校傾向の生徒への担任の関わり方（グループ討議と発表、クラス討議）
第7回　学校現場での進路指導・キャリア教育の在り方（グループ討議、クラス討論）
第8回　各教科（国語科、英語科、社会科、地歴・公民科）の指導力について考える（指導に当たる教員による講義とグループ討論）
第9回　学校訪問：公立高等学校等を訪問し、授業参観を行う。
第10回 学校訪問：公立高等学校等を訪問し、授業研究会に参加する。
第11回 学校訪問： 私立中学校等を訪問し、現場教師から生徒指導の現状を聞く。
第12回 学校訪問：私立中学校等を訪問し、現場教師から特別活動の実践報告を聞く。
第13回 学校訪問での学習成果について研究協議（グループ討議と発表）
第14回 道徳・総合的な学習の時間の指導（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第15回 教師の社会的役割について考え、履修カルテのまとめをする。

履修上の注意点

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業で指示をする。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）

ask204d150

授業中課題　各授業の最後に短いレポートを書きます。
授業中発表等　毎時間、教育問題について新聞記事などからレポートします。
参加度 授業中にグループ討論をします。その際の発言や説明で評価します。

2018 Syllabus

科 目 名　**教職実践演習（中等）<b>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中井　弘一	

テーマ

教職課程における総まとめ

授業の到達目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、教育現場で教師として学級経営や教科指導に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の概要

学生は、履修カルテを読み返して4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。
1. 子ども理解（①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境）、2. 各教科の指導、3. 実践的な知識と技能（①学級経営、②生徒指導、）、4. コミュニケーション（①学校における個人の役割、②地域・保護者との関係）、5. 教育的愛情。
以上の視点に基づいて、履修カルテを読み解いて到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なのかを明確にする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

現代の教育の諸問題について日常から関心を持ち、新聞やテレビ・ラジオ・インターネット等による情報を得て、授業中に発表できるようにしておく。

内　容

第1回　オリエンテーション－本演習の目的と計画、履修カルテを読み返し自分の課題を明らかにする。
第2回　子ども理解－中学生・高校生を取り巻く社会の現状（グループ討論、発表）
第3回　学級経営－学級活動・ホームルーム活動の組織作りと指導（グループ討議、クラス討議）
第4回　学校行事・生徒会活動の指導（学校現場の調査、グループ討議、クラス討議）
第5回　事例研究（生徒指導）：いじめ問題への教師の対応（グループ討議と発表、クラス討議）
第6回　事例研究（教育相談）：不登校傾向の生徒への担任の関わり方（グループ討議と発表、クラス討議）
第7回　学校現場での進路指導・キャリア教育の在り方（グループ討議、クラス討論）
第8回　各教科（国語科、英語科、社会科、地歴・公民科）の指導力について考える（指導に当たる教員による講義とグループ討論）
第9回　学校訪問：公立高等学校等を訪問し、授業参観を行う。
第10回 学校訪問：公立高等学校等を訪問し、授業研究会に参加する。
第11回 学校訪問： 私立中学校等を訪問し、現場教師から生徒指導の現状を聞く。
第12回 学校訪問：私立中学校等を訪問し、現場教師から特別活動の実践報告を聞く。
第13回 学校訪問での学習成果について研究協議（グループ討議と発表）
第14回 道徳・総合的な学習の時間の指導（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第15回 教師の社会的役割について考え、履修カルテのまとめをする。

履修上の注意点

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業で指示をする。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）

ask204d152

授業中課題　各授業の最後に短いレポートを書きます。
授業中発表等　毎時間、教育問題について新聞記事などからレポートします。
参加度 授業中にグループ討論をします。その際の発言や説明で評価します。

2018 Syllabus

科 目 名　**教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む）**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件　教育実習受講許可者のみ 登録可	クラス指定
担 当 者　岩本　賢治	

テーマ

実りある教育実習（教育実習事前指導）

授業の到達目標

教職関係学習の総決算として、教育実習体験報告会などに参加して、教師への志を確たるものにする

授業の概要

教育実習直前指導で実習での心構えと授業観察の要点指導、学習指導案の添削等、個別指導を行う。また、実習後の事後指導として教育実習報告会を行い、3回生へのアドバイスや質問に答える交流会を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　教員の適性について
・教育職員免許法について・教育実習について・免許取得の心構えについて
第2回　教員の資質について
・教育実習の実態について－実習生評価票、実習校訪問の結果等に基づいて
・教育実習受講の心構えについて・実習校事前訪問の意義と心構えについて
・教育実習受講資格について（内規）
第3回　ビデオによる教育実習の観察指導
第4回　先輩実習生の教育実習報告及び質疑応答
第5回　教育実習の心得
第6回　現場教員による講演
第7回　教育実習直前指導
第8回　実習簿記入指導と実習後のとるべき措置について及び教育実習反省会や適宜個別指導を行う
第9回　【実習】
第1週
・学級担任の生徒に対する願いをつかむ。・生徒の名前を覚え、一人ひとりの人格をつかむ努力をする。・学校の一日のくらしの内容をつかむ。
第10回　【実習】
第2週
・学習指導案の基本的な内容と様式を知る。・教科教育と教科以外のとりくみのそれ　ぞれの役割と具体的な内容をつかむ。・生徒相互の関係に目をむける。

履修上の注意点

公開授業や現場教師の研究会、子ども対象の催しやボランティア活動等に参加することを望む。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教職実践演習（養護）**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐藤　浩子	

テーマ

養護教諭として教育現場における教育実践について演習しながら学ぶ

授業の到達目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、学校保健に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資 質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の概要

学生は、4年間の学びをまとめ、大学での学習と養護実習を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の4点である。1. 児童生徒の理解（①児童生徒の発達と健康、②児童生徒を取り巻く社会と環境）、2. 健康問題支援、3. コミュニケー ション（①学校における養護教諭の役割、②地域・保護者との関係）、4. 教育的愛情。
以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完す る。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なのかを明確にする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　4年間の学習を振り返る
第2回　児童生徒の理解－児童生徒の発達と健康、児童生徒を取り巻く社会の実態と変化（グループ討議）
第3回　養護教諭の仕事を考えるNO1（グループ討議・演習）
第4回　演習発表
第5回　健康課題と健康教育一性と生の教育（講義）
第6回　健康課題と健康教育一性と生の教育(グループ討議)
第7回　学校保健活動の実際
第8回　学校保健活動の実際
第9回　心の健康を考える（講義）
第10回　健康相談の演習(グループ討議)
第11回　特別支援教育を考える(講義)
第12回　特別支援教育の実際（グループ討議）
第13回　養護教諭の仕事を考えるNO2(講義・グループ討議)
第14回　地域・保護者との関わりを考える(グループ討議)
第15回　養護教諭の役割と教育視点を考える
※なお、この授業では必要に応じて学外授業や講演会を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 15 ）	授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 45 ）	

レポート30%、授業課題(感想)の提出15%
授業中発表10%
参加度　45%

2018 Syllabus

科 目 名　**生涯学習概論Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　猿山　隆子	

テーマ

生涯学習・社会教育の基礎的理解

授業の到達目標

生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、地域社会における多様な課題を解決する市民の主体形成を支援する職員としての資質形成を目標とする。

授業の概要

わが国における生涯学習・社会教育の歴史的特質の理解を基礎に、社会教育・生涯学習の法制と行政、施設論、地域住民の諸階層の生活課題と学習課題、学校教育、社会福祉との連携協力等、今日的課題について解説し、学習支援に求められる課題を明らかにする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

身近な学習施設について見聞を広げておくこと

内　　容

第1回　生涯学習の意義および、学校教育、社会教育との関係を解説する
第2回　明治期通俗教育から大正期青年教育の成立までにいたる、日本の生涯学習の歴史的特質を解説する。
第3回　昭和期の女性に対する社会教育―婦人教育の成立およびその意義について解説する。
第4回　戦後の社会教育行政の法制と行政の特質について解説する。
第5回　公民館・生涯学習センター等の社会教育施設像の発展について事例に即して解説する。
第6回　社会教育施設としての図書館、博物館の発展について、事例に即して解説する。
第7回　女性の学習の発展および今日的課題としての女性問題の学習について、事例に即して解説する。
第8回　女性の学習としての子育て支援について、家庭教育学級の事例に即して解説する。
第9回　少子高齢社会における高齢者の学習について、今日の理論的実践的な到達点につき解説する
第10回　青少年教育における教育と福祉の連携の必要性および、とりわけ青少年施設運営の今日的到達点につき事例を交えて解説する
第11回　青少年の居場所づくりと地域社会の役割につき、多様な実践を紹介し理解を深める。
第12回　多様な実践を紹介し、校区社会教育の可能性について考察を深める
第13回　学校支援地域本部、PTA等などの地域の組織・団体の役割を解説し、学校教育と社会教育の分担と連携を考察する。
第14回　障がい者をはじめマイノリティの人々との共生を可能にする、社会教育・生涯学習と社会福祉の連携の課題を考察する。
第15回　これまでの講義をふりかえり、質疑応答を通じてまとめを行う。

履修上の注意点

私語を慎むこと。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業で指示
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 50% ）
参加度の中には授業でのコメント、小課題へのとり組みも含まれる

2018 Syllabus

科 目 名　**生涯学習概論Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　猿山　隆子	

テーマ

生涯学習・社会教育の基礎的理解

授業の到達目標

生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、地域社会における多様な課題を解決する市民の主体形成を支援する職員としての資質形成を目標とする。

授業の概要

わが国における生涯学習・社会教育の歴史的特質の理解を基礎に、社会教育・生涯学習の法制と行政、施設論、地域住民の諸階層の生活課題と学習課題、学校教育、社会福祉との連携協力等、今日的課題について解説し、学習支援に求められる課題を明らかにする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日本の近代史について高校教科書を読んでおくこと。身近な社会教育施設（公民館、図書館、博物館等）を最低一度は訪ねてみること。

内　容

第1回　生涯学習の意義および、学校教育、社会教育との関係を解説する
第2回　明治期通俗教育から大正期青年教育の成立までにいたる、日本の生涯学習の歴史的特質を解説する。
第3回　昭和期の女性に対する社会教育―婦人教育の成立およびその意義について解説する。
第4回　戦後の社会教育行政の法制と行政の特質について解説する。
第5回　公民館・生涯学習センター等の社会教育施設像の発展について事例に即して解説する。
第6回　社会教育施設としての図書館、博物館の発展について、事例に即して解説する。
第7回　女性の学習の発展および今日的課題としての女性問題の学習について、事例に即して解説する。
第8回　女性の学習としての子育て支援について、家庭教育学級の事例に即して解説する。
第9回　少子高齢社会における高齢者の学習について、今日の理論的実践的な到達点につき解説する
第10回　青少年教育における教育と福祉の連携の必要性および、とりわけ青少年施設運営の今日的到達点につき事例を交えて解説する
第11回　青少年の居場所づくりと地域社会の役割につき、多様な実践を紹介し理解を深める。
第12回　多様な実践を紹介し、校区社会教育の可能性について考察を深める
第13回　学校支援地域本部、PTA等などの地域の組織・団体の役割を解説し、学校教育と社会教育の分担と連携を考察する。
第14回　障がい者をはじめマイノリティの人々との共生を可能にする、社会教育・生涯学習と社会福祉の連携の課題を考察する。
第15回　これまでの講義をふりかえり、質疑応答を通じてまとめを行う。

履修上の注意点

私語は極力慎むこと。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業で指示
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 50% ）
参加度にはコメントや授業での小課題も含まれる

2018 Syllabus

科 目 名　**図書館概論 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　100
履修条件	クラス指定
担 当 者　　國松　完二	

テーマ

司書課程の導入科目として、公共図書館とそれに関連した事項について概観する。

授業の到達目標

司書課程の導入科目として、我国の公立図書館を中心に学校図書館、大学図書館、国立国会図書館、専門図書館等の制度、機能、現状や課題を理解させる。

授業の概要

図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　図書館の現状と動向
図書館数、貸出点数、資料費の変化、職員数の構成、管理運営の変化等について解説する。

第2回　図書館の構成要素と機能
図書館の定義、図書館の法的基盤(憲法、教育基本法、社会教育法等)、図書館システムの構成等について解説する。

第3回　図書館の社会的意義（ユネスコ公共図書館宣言、地域社会と図書館を含む）
ユネスコ公共図書館宣言、地域の情報拠点としての図書館、まちづくりと図書館、図書館づくりへの住民参加等について解説する。

第4回　知的自由と図書館（図書館の自由に関する宣言等）
アメリカの図書館の権利宣言や我国の図書館の自由に関する宣言の採択や図書館の自由に関する事例、略年表について解説する。

第5回　図書館の歴史
古代より近代公立図書館の成立及び我国の公立図書館100年の歴史を中心に解説する。

第6回　公立図書館の成立と展開
我国の図書館法(1950年)制定以降の「中小都市における公立図書館の運営」(1963年刊行)、「日野市立図書館の実践」(1965年)、「市民の図書館」(1970年刊行)を中心に解説する。

第7回　館種別図書館と利用者のニーズ(その1)
学校図書館及び大学図書館の制度と機能について解説する。

第8回　館種別図書館と利用者のニーズ(その2)
国立国会図書館、専門図書館、その他の図書館の制度と機能について解説する。

第9回　図書館職員の役割と資格
図書館長の役割、図書館員の資質と資格付与制度、司書の専門性(司書職制度)、司書の養成教育と研修等について解説する。

第10回　図書館の類縁機関・関係団体（文書館を含む）
類縁機関との協力、国際的図書館団体と図書館協会、日本の図書館団体、学会、研究会等について解説する。

第11回　図書館の課題と展望
直営から民間委託へ、予算の削減、厳しい職員体制(正規職員の減少)等を把握し、課題解決への方策を解説する。

第12回　外国の図書館
アメリカ、イギリス、北欧、中国、韓国の各図書館について解説する。

第13回　これからの図書館
生涯学習社会と図書館、情報化の進展、電子図書館等について解説する。

第14回　公共図書館をめぐる諸問題
サービス拠点の整備、特化したサービス(ビジネス支援、健康情報の提供、行政支援策の課題解決支援)等について解説する。

第15回　図書館を支える力
図書館協議会、図書館友の会、図書館ボランティア、議会運営等について解説する。

履修上の注意点

教科書

図書館概論
著者:　塩見昇
出版社:　日本図書館協会
出版年:　2015　　ISBN:　4-8204-1417-9

参考書

ask301d210

市民の図書館　増補版

著者:　日本図書館協会

出版社: 日本図書館協会

出版年: 1976　　ISBN:　4-8204-7600-9

移動図書館ひまわり号

著者:　前川恒雄

出版社: 夏葉社

出版年: 2016　　ISBN:　4-904816-20-2

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 70 ）　　授業中発表等（ ）

参加度（ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**図書館概論 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　100
履修条件	クラス指定
担 当 者　　國松　完二	

テーマ

司書課程の導入科目として、公共図書館とそれに関連した事項について概観する。

授業の到達目標

司書課程の導入科目として、我国の公立図書館を中心に学校図書館、大学図書館、国立国会図書館、専門図書館等の制度、機能、現状や課題を理解させる。

授業の概要

図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　図書館の現状と動向
図書館数、貸出点数、資料費の変化、職員数の構成、管理運営の変化等について解説する。

第2回　図書館の構成要素と機能
図書館の定義、図書館の法的基盤(憲法、教育基本法、社会教育法等)、図書館システムの構成等について解説する。

第3回　図書館の社会的意義（ユネスコ公共図書館宣言、地域社会と図書館を含む）
ユネスコ公共図書館宣言、地域の情報拠点としての図書館、まちづくりと図書館、図書館づくりへの住民参加等について解説する。

第4回　知的自由と図書館（図書館の自由に関する宣言等）
アメリカの図書館の権利宣言や我国の図書館の自由に関する宣言の採択や図書館の自由に関する事例、略年表について解説する。

第5回　図書館の歴史
古代より近代公立図書館の成立及び我国の公立図書館100年の歴史を中心に解説する。

第6回　公立図書館の成立と展開
我国の図書館法(1950年)制定以降の「中小都市における公立図書館の運営」(1963年刊行)、「日野市立図書館の実践」(1965年)、「市民の図書館」(1970年刊行)を中心に解説する。

第7回　館種別図書館と利用者のニーズ(その1)
学校図書館及び大学図書館の制度と機能について解説する。

第8回　館種別図書館と利用者のニーズ(その2)
国立国会図書館、専門図書館、その他の図書館の制度と機能について解説する。

第9回　図書館職員の役割と資格
図書館長の役割、図書館員の資質と資格付与制度、司書の専門性(司書職制度)、司書の養成教育と研修等について解説する。

第10回　図書館の類縁機関・関係団体（文書館を含む）
類縁機関との協力、国際的図書館団体と図書館協会、日本の図書館団体、学会、研究会等について解説する。

第11回　図書館の課題と展望
直営から民間委託へ、予算の削減、厳しい職員体制(正規職員の減少)等を把握し、課題解決への方策を解説する。

第12回　外国の図書館
アメリカ、イギリス、北欧、中国、韓国の各図書館について解説する。

第13回　これからの図書館
生涯学習社会と図書館、情報化の進展、電子図書館等について解説する。

第14回　公共図書館をめぐる諸問題
サービス拠点の整備、特化したサービス(ビジネス支援、健康情報の提供、行政支援策の課題解決支援)等について解説する。

第15回　図書館を支える力
図書館協議会、図書館友の会、図書館ボランティア、議会運営等について解説する。

履修上の注意点

教科書

図書館概論
著者:　塩見昇
出版社:　日本図書館協会
出版年:　2015　　ISBN:　4-8204-1417-9

参考書

ask301d212

市民の図書館　増補版

著者:　日本図書館協会

出版社: 日本図書館協会

出版年: 1976　　ISBN:　4-8204-7600-9

移動図書館ひまわり号

著者:　前川恒雄

出版社: 夏葉社

出版年: 2016　　ISBN:　4-904816-20-2

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 70 ）　　授業中発表等（ ）

参加度（ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**図書館制度・経営論 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　國松　完二	

テーマ

図書館の制度と図書館経営の意義と課題併せて最近の動向を理解させる。

授業の到達目標

図書館の制度と図書館経営の意義と課題併せて最近の動向を理解させる。

授業の概要

図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　図書館法（逐条解説）
1950年制定の「図書館法」の内容や特徴と戦前の「図書館令」との比較、「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」等の解説をする。

第2回　他館種の図書館に関する法律等（学校図書館法、国立国会図書館法、大学設置基準、身体障害者福祉法）
「公立図書館」以外の図書館に関する法律を解説し、学校図書館・大学図書館・国立国会図書館・専門図書館等の制度や機能を解説する。

第3回　図書館サービス関連法規（子どもの読書活動推進法、文字・活字文化振興法、著作権法、個人情報保護法、労働関係法規、民法等）
図書館サービスの提供には法に定められた権利や規制が関わる場合があり、トラブル発生の解決策や未然防止のための関連法規の解説をする。

第4回　図書館政策（国、地方公共団体）
国の図書館政策と都道府県レベルの図書館振興政策(1960年代の東京都や1980年代の振興策を中心に）を解説する。

第5回　公共機関・施設の経営方法（マーケティング,危機管理を含む）
新しい公共経営(ニュー、パブリック、マネージメント)と図書館マーケティングの歴史とマーケティングの計画・立案について解説する。

第6回　図書館の組織・職員（組織構成、館長の役割、人事管理、図書館協議会、ボランティアとの連携）
図書館の組織の類型の現状と傾向、職員体制、館長の職務、専門的職員の資質の向上や研修、図書館を支える人々について解説する。

第7回　図書館の施設・設備(その1)
図書館建築と図書館新設の課程(企画、構想、建築、施工、運営等)を解説する。

第8回　図書館の施設・設備(その2)
図書館のスペースの構成、配慮すべき装備、快適な空間の創造等について解説する。

第9回　図書館のサービス計画と予算の確保
図書館サービス計画の企画、作成と図書館の予算編成のしくみと実態について解説する。

第10回　図書館業務・サービスの調査と評価
調査の方法や評価の目的と対象、評価の方法、評価のための統計と指標等について解説する。

第11回　図書館の管理形態の多様化
図書のアウトソーシング(窓口業務の委託、指定管理者制度、PFI、市場化テスト等)の現状や問題点を解説する。

第12回　図書館業務の理論と実際(その1)
パブリックサービス(閲覧、奉仕業務)について解説する。

第13回　図書館業務の理論と実際(その2)
テクニカルサービス(資料整理)と管理業務等について解説する。

第14回　図書館協力とネットワークの形成
図書館協力とネットワークの意義、種類、運営と評価、相互貸借、相互利用、協力レファレンス、分担収集と保存等を解説する。

第15回　図書館経営の課題
図書館運営経費の大幅削減、直営から民営化、正規職員の削減と非正規化の推進等図書館経営の課題を解説する。

履修上の注意点

教科書

図書館制度・経営論
著者:　永田治樹
出版社:　日本図書館協会
出版年:　2016　　ISBN:　4-8204-1518-3

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**図書館制度・経営論 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　國松　完二	

テーマ

図書館の制度と図書館経営の意義と課題併せて最近の動向を理解させる。

授業の到達目標

図書館の制度と図書館経営の意義と課題併せて最近の動向を理解させる。

授業の概要

図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　図書館法（逐条解説）
1950年制定の「図書館法」の内容や特徴と戦前の「図書館令」との比較、「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」等の解説をする。

第2回　他館種の図書館に関する法律等（学校図書館法、国立国会図書館法、大学設置基準、身体障害者福祉法）
「公立図書館」以外の図書館に関する法律を解説し、学校図書館・大学図書館・国立国会図書館・専門図書館等の制度や機能を解説する。

第3回　図書館サービス関連法規（子どもの読書活動推進法、文字・活字文化振興法、著作権法、個人情報保護法、労働関係法規、民法等）
図書館サービスの提供には法に定められた権利や規制が関わる場合があり、トラブル発生の解決策や未然防止のための関連法規の解説をする。

第4回　図書館政策（国、地方公共団体）
国の図書館政策と都道府県レベルの図書館振興政策(1960年代の東京都や1980年代の振興策を中心に）を解説する。

第5回　公共機関・施設の経営方法（マーケティング,危機管理を含む）
新しい公共経営(ニュー、パブリック、マネージメント)と図書館マーケティングの歴史とマーケティングの計画・立案について解説する。

第6回　図書館の組織・職員（組織構成、館長の役割、人事管理、図書館協議会、ボランティアとの連携）
図書館の組織の類型の現状と傾向、職員体制、館長の職務、専門的職員の資質の向上や研修、図書館を支える人々について解説する。

第7回　図書館の施設・設備(その1)
図書館建築と図書館新設の課程(企画、構想、建築、施工、運営等)を解説する。

第8回　図書館の施設・設備(その2)
図書館のスペースの構成、配慮すべき装備、快適な空間の創造等について解説する。

第9回　図書館のサービス計画と予算の確保
図書館サービス計画の企画、作成と図書館の予算編成のしくみと実態について解説する。

第10回　図書館業務・サービスの調査と評価
調査の方法や評価の目的と対象、評価の方法、評価のための統計と指標等について解説する。

第11回　図書館の管理形態の多様化
図書のアウトソーシング(窓口業務の委託、指定管理者制度、PFI、市場化テスト等)の現状や問題点を解説する。

第12回　図書館業務の理論と実際(その1)
パブリックサービス(閲覧、奉仕業務)について解説する。

第13回　図書館業務の理論と実際(その2)
テクニカルサービス(資料整理)と管理業務等について解説する。

第14回　図書館協力とネットワークの形成
図書館協力とネットワークの意義、種類、運営と評価、相互貸借、相互利用、協力レファレンス、分担収集と保存等を解説する。

第15回　図書館経営の課題
図書館運営経費の大幅削減、直営から民営化、正規職員の削減と非正規化の推進等図書館経営の課題を解説する。

履修上の注意点

教科書

図書館制度・経営論
著者:　永田治樹
出版社:　日本図書館協会
出版年:　2016　　ISBN:　4-8204-1518-3

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**図書館情報技術論 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　米谷　優子	

テーマ

現代の図書館サービスの実施や図書館での諸業務の遂行に必要な基礎的情報技術について、理解を深め、知識と実践力を身につける

授業の到達目標

情報化の進展に伴い、図書館における各種の業務や図書館サービスのさまざまな側面で、情報技術が活用されるようになっている。さらに、電子情報の普及・拡大によって、図書館情報資源そのものに大きな変化がもたらされており、その収集・管理の在り方もまた大きく変わろうとしている。この授業では情報社会における図書館の業務遂行及びサービス実施に必要な基礎的情報技術について、理解を深めることをねらいとして、図書館現場に即した実践的な知識・技術を身につけることを目標とする。

授業の概要

情報技術と図書館サービスをテーマに、図書館業務における情報機器・情報技術の機能や利用、電子資料・デジタル情報源等について解説する。図書館業務に必要な基礎的な情報技術への理解を深め、情報の流通・管理等に関する知識の修得を図る。必要に応じて演習を取り入れる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

普段から、新たな情報技術について積極的に触れる機会を持つとともに、図書館の現場をよく観察しておくこと

内　容

第1回　授業の概要と授業計画　情報技術と社会
第2回　図書館における情報技術の活用
第3回　図書館業務システム
第4回　コンピュータに関する基礎知識
第5回　コンピュータに関する基礎知識2
第6回　コンピュータネットワークに関する基礎知識
第7回　データベースとその仕組み
第8回　検索エンジンとその仕組み
第9回　電子資料の管理と活用
第10回　インターネット上の情報発信
第11回　情報社会と情報管理・セキュリティ
第12回　情報社会と情報管理・セキュリティ2
第13回　デジタル情報の保存とアクセスをめぐる諸問題
第14回　情報化をめぐる問題と今後の図書館サービス
第15回　まとめ（試験を含む）

履修上の注意点

上記計画は、理解度その他の理由によって変更することがある

教科書

図書館情報技術論
著者:　斎藤ひとみ・二村健
出版社:　学文社
出版年:　2012　　ISBN:　9784762021923

参考書

成績評価

試験・レポート（ 65 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 10 ）
3分の2以上の出席ならびに演習課題提出を、まとめの試験の受験の要件とする

2018 Syllabus

科 目 名　**図書館情報技術論 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　米谷　優子	

テーマ

現代の図書館サービスの実施や図書館での諸業務の遂行に必要な基礎的情報技術について、理解を深め、知識と実践力を身につける

授業の到達目標

情報化の進展に伴い、図書館における各種の業務や図書館サービスのさまざまな側面で、情報技術が活用されるようになっている。さらに、電子情報の普及・拡大によって、図書館情報資源そのものに大きな変化がもたらされており、その収集・管理の在り方もまた大きく変わろうとしている。この授業では情報社会における図書館の業務遂行及びサービス実施に必要な基礎的情報技術について、理解を深めることをねらいとして、図書館現場に即した実践的な知識・技術を身につけることを目標とする。

授業の概要

情報技術と図書館サービスをテーマに、図書館業務における情報機器・情報技術の機能や利用、電子資料・デジタル情報源等について解説する。図書館業務に必要な基礎的な情報技術への理解を深め、情報の流通・管理等に関する知識の修得を図る。必要に応じて演習を取り入れる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

普段から、新たな情報技術について積極的に触れる機会を持つとともに、図書館の現場をよく観察しておくこと

内　容

第1回　授業の概要と授業計画　情報技術と社会
第2回　図書館における情報技術の活用
第3回　図書館業務システム
第4回　コンピュータに関する基礎知識
第5回　コンピュータに関する基礎知識2
第6回　コンピュータネットワークに関する基礎知識
第7回　データベースとその仕組み
第8回　検索エンジンとその仕組み
第9回　電子資料の管理と活用
第10回　インターネット上の情報発信
第11回　情報社会と情報管理・セキュリティ
第12回　情報社会と情報管理・セキュリティ2
第13回　デジタル情報の保存とアクセスをめぐる諸問題
第14回　情報化をめぐる問題と今後の図書館サービス
第15回　まとめ（試験を含む）

履修上の注意点

上記計画は、理解度その他の理由によって変更することがある

教科書

図書館情報技術論
著者:　齋藤ひとみ・二村健
出版社:　学文社
出版年:　2012　　ISBN:　9784762021923

参考書

成績評価

試験・レポート （ 65 ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 25 ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 10 ）
3分の2以上の出席ならびに演習課題提出を、まとめの試験の受験の要件とする

2018 Syllabus

科 目 名　**図書館情報資源特論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　明定　義人	

テーマ

児童資料の評価力をつける。

授業の到達目標

児童サービス論で詳しく紹介できなかった様々な分野の児童資料について学習することで、
児童資料の評価力をつける。

授業の概要

児童サービス論の概要を学んだ者に、一人ひとりの発達の違いや好奇心に対応した様々な内容や分野が児童資料にあることを知らせるとともに、実際に数多くの資料を紹介し、受講生にも読むことを課題とします。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　児童資料のひろがり
　物語や絵本から実用書、ゲームの攻略本まで、子どもを対象にした児童資料は多様化し続けている。同時に「子ども向け」と「大人向け」のボーダレス化も進んでいる。児童資料のひろがりを紹介する

第2回　絵本1—挿絵から絵本へ
　絵本の歴史をたどることで、挿絵から絵本への転換を解説する。読み継がれてきた絵本が「絵」と「文」の相乗効果による魅力を持ち得ていることを解説する。

第3回　絵本2—表現としてのひろがり
　絵本は子どものものだけではない。作者や出版社が想定している読者は乳幼児から大人まで幅広い。そのひろがりとメディアとしての絵本の「子ども離れ」の側面について紹介する。

第4回　児童文学1—童話から創作へ
　児童文学の歴史を解説し、大正期に発刊された「赤い鳥」などの童話の時代から、昭和期までの代表的な作品をその時代背景とともに解説する。

第5回　童文学2—児童文学批評
　清水真砂子『子どもの本の現在』が日本の児童文学に問いかけたことを中心に、日本の児童文学を考えるとともに、90年代から現在につながるアダルトチルドレンと児童文学との関係、外国の児童文学についてもふれる。

第6回　科学読み物1—歴史
　日本の科学読み物の歴史は、明治時代の数年前から始まり、大正デモクラシーの時期に数多く出版される。その背景について解説し、第二次世界大戦とそれ以降の科学読み物についても紹介する。また、教育との関わりのなかでの科学読み物についても考える。

第7回　科学読み物2—科学読み物とは
　科学読み物は、科学的に考えることの楽しさやすばらしさを伝えるものであるが、「科学読み物」のなかには「自然は美しい」「自然と親しくなろう」「自然界の不思議」といった類のものもある。その違いを解説する。

第8回　知識の絵本・資料集・事典
　「知識の絵本」の出版は月刊誌が発行されていることもあり、また「調べ学習」がひろがったことで、出版点数は多い。それらのなかから高い評価を受けている絵本を紹介する。
児童向け資料集においても、統計をグラフにして説明をすることがあるが、グラフを比べることにより、よりよいグラフについて考える。事典についても紹介する。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（　）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**図書館施設論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　國松　完二.土井　脩史	

テーマ

図書館施設のあり方について考察し、施設の面から図書館活動を理解する。あわせて、建築における機能、動線、配置、構造や設備といった基本的な知識にも触れる。

授業の到達目標

市民が自由に資料（情報）を利用し、有意義な時間を過ごす快適空間としての役割も求められている図書館施設のあり方について考察し、施設の面から図書館活動を理解する。あわせて、建築における機能、動線、配置、構造や設備といった基本的な知識にも触れる。

授業の概要

必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、図書館活動・サービスが展開される場としての図書館施設について、地域計画、建築計画、その構成要素等を解説する。代表的かつ具体的な事例を複数取り上げ、実地でも施設を確認することで様々な角度から図書館建築に関する知識を修得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　図書館活動を支える施設とは
　これまでの図書館が果たしてきた役割を考え、市民が求める図書館像の変遷とともに図書館施設がどのように変わりつつあるのかを説明
第2回　図書館運営方針と図書館建築計画
第3回　図書館建築の設計について
　図書館建築に必要な機能について解説し、デザイン、全体計画、動線計画や各部計画について詳しく解説する。
第4回　図書館建築の設計事例
　近年の代表的な図書館を中心に様々な図書館建築の事例に触れる。
第5回　館内環境の計画（家具、環境要素、サイン計画など）
第6回　図書館の設備と維持、防火対策や避難計画について
　図書館に用いられる一般的な設備形式、防火対策や二方向避難について建築基準法などを参照しながら確認していく。
第7回　実際の図書館を見学し、館長の話を聞く
　実際に使われている図書館を見学し、館長の話を聞くことによって
図書館が市民にどのように使われているのか、また改善したいことなども
率直に聞く。
第8回　見学後の評価とまとめ
授業では学生達が見学前と見学後の印象や意見が変わったかどうか、互いに議論を進める中で、「図書館とは何か」について深く考える場とする

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 50 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 50 ）	

施設見学は必要条件である。

2018 Syllabus

科 目 名　**図書館サービス概論 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　國松　完二	

テーマ

現在行われている図書館のさまざまなサービスを論理的に紹介し、サービスに通底する原理を明らかにするとともに、サービスに関する知識や技術を効果的に修得することを目標とする。

授業の到達目標

高度情報化社会にあって、激変する社会経済の影響のもと、図書館に求められる機能や役割が多様化している。このような状況のなか、「進化する図書館」を視野に入れて、「図書館サービスとは何か」を、さまざまな館種における現実の図書館サービスに根ざしながら、実証的に理解することを目指す。

授業の概要

館種ごとの図書館サービスを知り、その基盤となる考え方や、図書館機能とその構造を理解することを図る。具体的には、閲覧、資料提供、情報提供、予約、リクエスト、読書案内、レファレンス、問題解決支援などの働き、さらに児童・ヤングサービス、障害者、高齢者、多文化サービスなど、各種のサービスを扱い、それに関わる著作権や接遇の基本を解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回配布するプリントを熟読するとともに、各回のテーマについて参考文献を事前に読んでおく。

内　容

第1回　図書館サービスの開始までの建設と準備業務
第2回　図書館サービスの変遷
第3回　図書館サービスの意義と方法①　図書館の基本機能
第4回　図書館サービスの意義と方法②　図書館サービスの種類
第5回　資料、情報の提供①　資料、情報サービスの基本
第6回　資料、情報の提供②　利用案内、応対接遇とフロアワーク
第7回　読書案内と予約・リクエスト①　読書案内とレファレンス
第8回　読書案内と予約・リクエスト②　その処理過程と相互協力
第9回　ニーズに沿ったサービスの展開①　児童ヤングサービス
第10回　ニーズに沿ったサービスの展開②　障害者、高齢者、多文化サービス
第11回　ニーズに沿ったサービスの展開③　各種課題解決支援サービス
第12回　図書館ネットワーク協力と類縁機関等との連携
第13回　図書館サービスと著作権①
第14回　図書館サービスと著作権②
第15回　図書館サービス、現代の課題

履修上の注意点

成績については出席状況を参考とするので、欠席の場合は事前又は事後に理由を添えて報告すること。また、中間小テストと期末試験は必ず受験すること。

教科書

情報サービス論
著者:　小田光宏
出版社:　日本図書館協会
出版年:　2016　　ISBN:　4-8204-1211-3

参考書

成績評価

試験・レポート （ 40 ）	小テスト （ 40 ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**図書館サービス概論 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　國松　完二	

テーマ

現在行われている図書館のさまざまなサービスを論理的に紹介し、サービスに通底する原理を明らかにするとともに、サービスに関する知識や技術を効果的に修得することを目標とする。

授業の到達目標

高度情報化社会にあって、激変する社会経済の影響のもと、図書館に求められる機能や役割が多様化している。このような状況のなか、「進化する図書館」を視野に入れて、「図書館サービスとは何か」を、さまざまな館種における現実の図書館サービスに根ざしながら、実証的に理解することを目指す。

授業の概要

館種ごとの図書館サービスを知り、その基盤となる考え方や、図書館機能とその構造を理解することを図る。具体的には、閲覧、資料提供、情報提供、予約、リクエスト、読書案内、レファレンス、問題解決支援などの働き、さらに児童・ヤングサービス、障害者、高齢者、多文化サービスなど、各種のサービスを扱い、それに関わる著作権や接遇の基本を解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回配布するプリントを熟読するとともに、各回のテーマについて参考文献を事前に読んでおく。

内　容

第1回　図書館サービスの開始までの建設と準備業務
第2回　図書館サービスの変遷
第3回　図書館サービスの意義と方法①　図書館の基本機能
第4回　図書館サービスの意義と方法②　図書館サービスの種類
第5回　資料、情報の提供①　資料、情報サービスの基本
第6回　資料、情報の提供②　利用案内、応対接遇とフロアワーク
第7回　読書案内と予約・リクエスト①　読書案内とレファレンス
第8回　読書案内と予約・リクエスト②　その処理過程と相互協力
第9回　ニーズに沿ったサービスの展開①　児童ヤングサービス
第10回　ニーズに沿ったサービスの展開②　障害者、高齢者、多文化サービス
第11回　ニーズに沿ったサービスの展開③　各種課題解決支援サービス
第12回　図書館ネットワーク協力と類縁機関等との連携
第13回　図書館サービスと著作権①
第14回　図書館サービスと著作権②
第15回　図書館サービス、現代の課題

履修上の注意点

成績については出席状況を参考とするので、欠席の場合は事前又は事後に理由を添えて報告すること。また、中間小テストと期末試験は必ず受験すること。

教科書

情報サービス論
著者:　小田光宏
出版社:　日本図書館協会
出版年:　2016　　ISBN:　4-8204-1211-3

参考書

成績評価

試験・レポート （ 40 ）	小テスト （ 40 ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**情報サービス論 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　國松　完二	

テーマ

図書館における「情報サービス」とは何か、その意義や利用者のニーズへの理解、情報サービスを支える情報原の種類や評価などについて理解する。

授業の到達目標

インターネットや情報検索という言葉が普通に話される現代において、図書館における「情報サービス」とは何か、その意義や利用者のニーズへの理解、情報サービスを支える情報原の種類や評価などについて理解する。

授業の概要

図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　情報サービスの概要
情報サービスの意義について述べ、現代社会の情報サービス機関を概観する中で図書館の情報サービスについて考える

第2回　情報サービスの基礎（1）
レファレンスサービス、利用案内、レフェラルサービスについて説明

第3回　情報サービスの基礎（2）
カレントアウェアネス、オンライン検索、CD－ROM利用のサービスなどについて説明

第4回　情報サービスの展開
読書相談、学習情報提供、地域における情報サービス（館独自の二次資料作成も含めて）、図書館利用教育（情報リテラシーの育成を含む）について説明

第5回　情報源の種類と評価
印刷メディアと電子メディア、館内で作成・編成する情報源、情報源の構築および評価について説明

第6回　情報ニーズへの対応（1）
情報ニーズの理解、情報探索行動、レファレンスプロセスについて説明

第7回　情報ニーズへの対応（2）
レファレンス質問の意義と分析、レファレンスインタビューについて具体例を示しながら説明

第8回　情報の検索と回答（1）
検索戦略、情報源の選択、検索語の選定、データベースの検索機能
VHSなどの映像も見せながら検索式などのわかりやすい説明を試みる

第9回　情報の検索と回答（2）および情報サービスの管理
検索の実行、回答の提供と評価について説明
情報サービスの組織化、外部データベース利用の課題、担当者の資質と能力について説明

第10回　事実検索の情報源（1）
辞書・事典・便覧・図鑑の種類と特質について説明
（データベース等の情報原も含む）

第11回　事実検索の情報源（2）
歴史情報、統計情報の調べ方について具体的例を示しながら説明

第12回　事実検索の情報源（3）
地理・地名情報、人物・団体情報の調べ方について具体例を示しながら説明

第13回　文献検索の情報源
書誌・目録・記事索引の種類と特質について具体例を示しながら説明

第14回　電子メディアの活用
大学で使えるデータベースやCD－ROMを使って検索の実際を見せる、さらにインターネット利用の功罪にもふれる

第15回　発信型情報サービスの意義と方法
パスファインダーの実例など新しいサービスを紹介する

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

ask302d650

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 80 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**情報サービス論 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　國松　完二	

テーマ

図書館における「情報サービス」とは何か、その意義や利用者のニーズへの理解、情報サービスを支える情報原の種類や評価などについて理解する。

授業の到達目標

インターネットや情報検索という言葉が普通に話される現代において、図書館における「情報サービス」とは何か、その意義や利用者のニーズへの理解、情報サービスを支える情報原の種類や評価などについて理解する。

授業の概要

図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　情報サービスの概要
情報サービスの意義について述べ、現代社会の情報サービス機関を概観する中で図書館の情報サービスについて考える

第2回　情報サービスの基礎（1）
レファレンスサービス、利用案内、レフェラルサービスについて説明

第3回　情報サービスの基礎（2）
カレントアウェアネス、オンライン検索、CD－ROM利用のサービスなどについて説明

第4回　情報サービスの展開
読書相談、学習情報提供、地域における情報サービス（館独自の二次資料作成も含めて）、図書館利用教育（情報リテラシーの育成を含む）について説明

第5回　情報源の種類と評価
印刷メディアと電子メディア、館内で作成・編成する情報源、情報源の構築および評価について説明

第6回　情報ニーズへの対応（1）
情報ニーズの理解、情報探索行動、レファレンスプロセスについて説明

第7回　情報ニーズへの対応（2）
レファレンス質問の意義と分析、レファレンスインタビューについて具体例を示しながら説明

第8回　情報の検索と回答（1）
検索戦略、情報源の選択、検索語の選定、データベースの検索機能
VHSなどの映像も見せながら検索式などのわかりやすい説明を試みる

第9回　情報の検索と回答（2）および情報サービスの管理
検索の実行、回答の提供と評価について説明
情報サービスの組織化、外部データベース利用の課題、担当者の資質と能力について説明

第10回　事実検索の情報源（1）
辞書・事典・便覧・図鑑の種類と特質について説明
（データベース等の情報原も含む）

第11回　事実検索の情報源（2）
歴史情報、統計情報の調べ方について具体的例を示しながら説明

第12回　事実検索の情報源（3）
地理・地名情報、人物・団体情報の調べ方について具体例を示しながら説明

第13回　文献検索の情報源
書誌・目録・記事索引の種類と特質について具体例を示しながら説明

第14回　電子メディアの活用
大学で使えるデータベースやCD－ROMを使って検索の実際を見せる、さらにインターネット利用の功罪にもふれる

第15回　発信型情報サービスの意義と方法
パスファインダーの実例など新しいサービスを紹介する

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

ask302d652

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 80 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**児童サービス論 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　明定　義人	

テーマ

公共図書館や学校図書館における児童サービスの意義を理解し、児童・生徒を「本好き」にするための方策について知識を深め、その技術を理解する。

授業の到達目標

公共図書館や学校図書館における児童サービスの意義を理解し、児童・生徒を「本好き」にするための方策について知識を深め、その技術を理解する。また、自らたくさんの児童書に接し、その豊かさと魅力を体験する。

授業の概要

児童（乳幼児からヤングアダルトまで）を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせやブックトークなどの技術、学校や地域との協力等について解説し、必要に応じて演習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　発達と学習における読書の役割
児童の発達段階と読書興味、読書能力の段階について解説し、読書ばなれの原因と問題に言及し、読書の意義について考える。

第2回　児童サービスの意義と概要
これまでの公共図書館における児童サービスの歴史に触れ、今日的な流れの中で「なぜ児童サービスなのか」、その意義と概要について解説する

第3回　児童資料の特色と選択1　絵本
絵本は乳幼児から大人まで幅広く読まれているが、児童の発達に沿って、読みつがれている基本的な絵本を紹介しつつ、ジャンル別に紹介したい新しい絵本にもふれる。絵本の魅力とその留意点を解説する。

第4回　児童資料の特色と選択2　創作児童文学と詩
「読書ばなれ」が言われる今日、本当は読書能力に応じたおもしろい本は存在するということをもっと学生達に体験してほしい。さまざまな創作児童文学を、基本図書や新しい図書も含めて紹介する。また児童に「ことばの楽しさ」を体験してもらえる詩の本もたくさん紹介する。

第5回　児童資料の特色と選択3　昔話・伝承文学、知識の本
最近の児童は昔話を読書体験として育っていないように見られるが、昔話を含む伝承文学の豊かさを紹介し、創作児童文学と伝承文学の違いにも触れる。またノンフィクションや知識の本の特色を解説し、その評価方法を解説する。

第6回　児童資料の特色と選択4　児童資料の出版と流通
主に明治以降の児童資料出版の歴史に触れ、あわせて児童図書出版の流通の課題にも焦点をあてて解説する。

第7回　児童資料コレクションの形成と管理
児童資料の収集方針と評価方法、選書会議など、また維持管理のための方策などについて解説する。

第8回　児童サービスの業務1　資料提供サービス
資料提供の意義、貸出の意義、フロアーワークの重要性、児童のリクエストの扱いや「図書館の自由」の問題などについて解説し、討論する。

第9回　児童サービスの業務2　情報サービス
情報サービスの意義、レファレンス資料や「調べ学習」に役立つ情報ファイルの形成、パスファインダーなどについて解説する。

第10回　児童サービスの業務3　乳幼児サービス
ブックスタートや乳幼児サービスについて解説し、乳幼児向け資料の特色とわらべ歌や手遊びについても解説・実演する。

第11回　児童サービスの業務4　ヤングアダルト・サービス
子どもから大人へ移行するこの時期特有の世代に向けて、資料の特色や、そのサービスについて解説し、サービスの企画立案について考える。

第12回　児童サービスの方法・技術　1　読み聞かせ、ストーリーテリング
児童を読書に誘う方法として使われる代表的な技術について解説し、実演する。

第13回　児童サービスの方法・技術　2　ブックトーク、書評、ブックリスト
ブックトークの実演を見て、課題としてブックトーク案を作成する。またブックリスト用の「本の解題」を書いて提出させる。

第14回　児童サービスの展開（運営、施設と設備、児童図書館員の役割）
児童サービス関連法規、運営方針、児童の特徴をふまえた施設と設備のあり方、児童図書館員の役割などについて解説する。

第15回　学校、家庭、地域との連携・協力
学校図書館の活動（公共図書館との相違点を含む）、司書教諭・学校司書の役割について解説する。また、「子どもの読書活動推進に関する法律」を理解し、学校と公共図書館、家庭を含む地域および県立図書館や他の自治体を含めた連携・協力の実例を紹介し、その重要性と今後のあり方について解説する。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**児童サービス論 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　明定　義人	

テーマ

公共図書館や学校図書館における児童サービスの意義を理解し、児童・生徒を「本好き」にするための方策について知識を深め、その技術を理解する。

授業の到達目標

公共図書館や学校図書館における児童サービスの意義を理解し、児童・生徒を「本好き」にするための方策について知識を深め、その技術を理解する。また、自らたくさんの児童書に接し、その豊かさと魅力を体験する。

授業の概要

児童（乳幼児からヤングアダルトまで）を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせやブックトークなどの技術、学校や地域との協力等について解説し、必要に応じて演習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　発達と学習における読書の役割
児童の発達段階と読書興味、読書能力の段階について解説し、読書ばなれの原因と問題に言及し、読書の意義について考える。

第2回　児童サービスの意義と概要
これまでの公共図書館における児童サービスの歴史に触れ、今日的な流れの中で「なぜ児童サービスなのか」、その意義と概要について解説する

第3回　児童資料の特色と選択1　絵本
絵本は乳幼児から大人まで幅広く読まれているが、児童の発達に沿って、読みつがれている基本的な絵本を紹介しつつ、ジャンル別に紹介したい新しい絵本にもふれる。絵本の魅力とその留意点を解説する。

第4回　児童資料の特色と選択2　創作児童文学と詩
「読書ばなれ」が言われる今日、本当は読書能力に応じたおもしろい本は存在するということをもっと学生達に体験してほしい。さまざまな創作児童文学を、基本図書や新しい図書も含めて紹介する。また児童に「ことばの楽しさ」を体験してもらえる詩の本もたくさん紹介する。

第5回　児童資料の特色と選択3　昔話・伝承文学、知識の本
最近の児童は昔話を読書体験として育っていないように見られるが、昔話を含む伝承文学の豊かさを紹介し、創作児童文学と伝承文学の違いにも触れる。またノンフィクションや知識の本の特色を解説し、その評価方法を解説する。

第6回　児童資料の特色と選択4　児童資料の出版と流通
主に明治以降の児童資料出版の歴史に触れ、あわせて児童図書出版の流通の課題にも焦点をあてて解説する。

第7回　児童資料コレクションの形成と管理
児童資料の収集方針と評価方法、選書会議など、また維持管理のための方策などについて解説する。

第8回　児童サービスの業務1　資料提供サービス
資料提供の意義、貸出の意義、フロアーワークの重要性、児童のリクエストの扱いや「図書館の自由」の問題などについて解説し、討論する。

第9回　児童サービスの業務2　情報サービス
情報サービスの意義、レファレンス資料や「調べ学習」に役立つ情報ファイルの形成、パスファインダーなどについて解説する。

第10回　児童サービスの業務3　乳幼児サービス
ブックスタートや乳幼児サービスについて解説し、乳幼児向け資料の特色とわらべ歌や手遊びについても解説・実演する。

第11回　児童サービスの業務4　ヤングアダルト・サービス
子どもから大人へ移行するこの時期特有の世代に向けて、資料の特色や、そのサービスについて解説し、サービスの企画立案について考える。

第12回　児童サービスの方法・技術　1　読み聞かせ、ストーリーテリング
児童を読書に誘う方法として使われる代表的な技術について解説し、実演する。

第13回　児童サービスの方法・技術　2　ブックトーク、書評、ブックリスト
ブックトークの実演を見て、課題としてブックトーク案を作成する。またブックリスト用の「本の解題」を書いて提出させる。

第14回　児童サービスの展開（運営、施設と設備、児童図書館員の役割）
児童サービス関連法規、運営方針、児童の特徴をふまえた施設と設備のあり方、児童図書館員の役割などについて解説する。

第15回　学校、家庭、地域との連携・協力
学校図書館の活動（公共図書館との相違点を含む）、司書教諭・学校司書の役割について解説する。また、「子どもの読書活動推進に関する法律」を理解し、学校と公共図書館、家庭を含む地域および県立図書館や他の自治体を含めた連携・協力の実例を紹介し、その重要性と今後のあり方について解説する。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**情報サービス演習Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　秋期集中	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　近藤　友子	

テーマ

情報サービスの中心となるレファンレンスサービス演習や新たな情報発信サービスであるパスファインダーの作成

授業の到達目標

情報サービスの設計をはじめ、利用者の質問に対するレファレンスサービスやパスファインダー(調べ方案内)を作成することによって、より発展した情報サービス(情報発信型サービス)を含めた様々な図書館における情報サービスを実践できる能力を身につける。

授業の概要

情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、特にレファレンスサービスにおける情報資源の選択を中心に、積極的な発信型情報サービス(パスファインダーの作成)などの演習を行い、情報サービスを実践できる能力を養成する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

大学図書館の参考図書コーナーにある辞典・事典・書誌(目録)を眺め、手にとってみる。
また、図書館HPを閲覧し、「文献検索/電子コンテンツ」「役立つリンク集」をみて、自大学がどのような有料データベースを導入しているか、どのようなデータベースにリンクをはっているかを知る。

内　容

第1回　演習
情報サービスの設計 1(総論)
第2回　演習
情報サービスの設計 2(レファレンスサービスの設計)
第3回　演習
情報サービスの設計 3(レファレンスコレクションの整備)
第4回　演習
レファレンスインタビューの技法と実際
第5回　演習
各種情報源の選択－質問分析と回答1事実調査(言葉・歴史を調べる)
第6回　演習
各種情報源の選択－質問分析と回答2 事実調査(地名・人名を調べる)
第7回　演習
各種情報源の選択－質問分析と回答3 演習(グループ)発表
第8回　演習
各種情報源の選択－質問分析と回答4 事実調査(統計・法令をしらべる)
第9回　各種情報源の選択－質問分析と回答5 事実調査(その他)
第10回　各種情報源の選択－質問分析と回答6 文献調査(図書)
第11回　各種情報源の選択－質問分析と回答7 文献調査(雑誌)
第12回　各種情報源の選択－質問分析と回答8 文献調査(新聞)
第13回　各種情報源の選択－質問分析と回答9演習(グループ発表)
第14回　発信型情報サービスの実際(パスファインダーの作成)
第15回　情報サービスの評価(レファレンス事例の作成)

履修上の注意点

「グループ演習」や「個人演習」で、検索方法等がわからない場合は積極的に質問すること。やむを得ず授業を欠席するときは「欠席届」を提出すること。遅刻3回で欠席1回とみなす。演習では図書館を利用するが、大きな声で会話するなど他の利用者の迷惑になるようなことをしないこと。演習科目のため図書館を利用する場合もあり、授業の進捗状況によっては授業計画を進める順番が入れ替わる場合も考えられるが学ぶ内容に変更はない。

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

情報サービス論及び演習
著者:　中西裕　松本直樹　伊藤民雄
出版社:　学文社
出版年:　2012年　　ISBN:　9784762023187

ask302d880

情報サービス論(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望4)

著者: 竹之内禎

出版社: 学文社

出版年: 2013年 ISBN: 9784762021947

成績評価

試験・レポート (20) 小テスト (20)

授業中課題 (20) 授業中発表等 (20)

参加度 (20)

演習科目なので、普段の授業に取り組む態度、グループ演習の課題提出や結果発表態度、積極性などを評価する。また授業中に学んだことの理解や知識を確認するための筆記の小テストを2回行う(小テストは1回につき10%ずつの評価。)15回目には授業とともに授業全体の学習到達度確認の筆記の試験を行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**情報サービス演習Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　春期集中	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　近藤　友子	

テーマ

情報サービスの中心となるレファンレンスサービス演習や新たな情報発信サービスであるパスファインダーの作成

授業の到達目標

情報サービスの設計をはじめ、利用者の質問に対するレファレンスサービスやパスファインダ―(調べ方案内)を作成することによって、より発展した情報サービス(情報発信型サービス)を含めた様々な図書館における情報サービスを実践できる能力を身につける。

授業の概要

情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、特にレファレンスサービスにおける情報資源の選択を中心に、積極的な発信型情報サービス(パスファインダーの作成)などの演習を行い、情報サービスを実践できる能力を養成する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

大学図書館の参考図書コーナーにある辞典・事典・書誌(目録)を眺め、手にとってみる。
また、図書館HPを閲覧し、「文献検索/電子コンテンツ」「役立つリンク集」をみて、自大学がどのような有料データベースを導入しているか、どのようなデータベースにリンクをはっているかを知る。

内　容

第1回　演習
情報サービスの設計 1(総論)
第2回　演習
情報サービスの設計 2(レファレンスサービスの設計)
第3回　演習
情報サービスの設計 3(レファレンスコレクションの整備)
第4回　演習
レファレンスインタビューの技法と実際
第5回　演習
各種情報源の選択－質問分析と回答1事実調査(言葉・歴史を調べる)
第6回　演習
各種情報源の選択－質問分析と回答2 事実調査(地名・人名を調べる)
第7回　演習
各種情報源の選択－質問分析と回答3 演習(グループ)発表
第8回　演習
各種情報源の選択－質問分析と回答4 事実調査(統計・法令をしらべる)
第9回　各種情報源の選択－質問分析と回答5 事実調査(その他)
第10回　各種情報源の選択－質問分析と回答6 文献調査(図書)
第11回　各種情報源の選択－質問分析と回答7 文献調査(雑誌)
第12回　各種情報源の選択－質問分析と回答8 文献調査(新聞)
第13回　各種情報源の選択－質問分析と回答9演習(グループ発表)
第14回　発信型情報サービスの実際(パスファインダーの作成)
第15回　情報サービスの評価(レファレンス事例の作成)※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

「グループ演習」や「個人演習」で、検索方法等がわからない場合は積極的に質問すること。やむを得ず授業を欠席するときは「欠席届」を提出すること。遅刻3回で欠席1回とみなす。演習では図書館を利用するが、大きな声で会話するなど他の利用者の迷惑になるようなことをしないこと。演習科目のため図書館を利用する場合もあり、授業の進捗状況によっては授業計画を進める順番が入れ替わる場合も考えられるが学ぶ内容に変更はない。

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

情報サービス論及び演習
著者:　中西裕　松本直樹　伊藤民雄
出版社:　学文社
出版年:　2012年　　ISBN:　9784762023187

ask302d882

情報サービス論(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望4)

著者: 竹之内禎

出版社: 学文社

出版年: 2013年 ISBN: 9784762021947

成績評価

試験・レポート (20) 小テスト (20)

授業中課題 (20) 授業中発表等 (20)

参加度 (20)

演習科目なので、普段の授業に取り組む態度、グループ演習の課題提出や結果発表態度、積極性などを評価する。また授業中に学んだことの理解や知識を確認するための筆記の小テストを2回行う(小テストは1回につき10%ずつの評価。)15回目には授業とともに授業全体の学習到達度確認の筆記の試験を行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**情報サービス演習Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　秋期集中	定　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　米谷　優子	

テーマ

情報サービスのうち、データベース等の電子情報を検索して利用者からの質問に対応する、情報検索サービスについて学習する

授業の到達目標

情報サービスの概念・手順の基礎を確認したうえで、利用者の質問に対するレファレンスサービス・情報検索サービスの演習を通して、実践的な質問回答能力を養成する。

授業の概要

メディアの多様化、情報通信手段の発展により情報探索法も多様化している。大量・多様な情報の中から要求に応じた情報を探し出すには、情報検索の基礎的な知識を基盤に、情報要求を正確に把握して、適切な情報源を選択し的確な検索戦略を立て実行する実践力が必要とされる。この科目では、情報検索の基礎的理論についての理解を深めるとともに、実際の質問例に対する回答処理を演習して、主としてデジタル情報源を用いた情報探索の技術・実践的能力を育成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

積極的にさまざまなデータベースにアクセスし、いろいろな検索の実習経験を重ねてほしい。インターネット情報源はその作成者を確認して、信頼性の高いもののみを用いることが肝要である。

内　容

第1回　情報検索の概念、情報検索の手順、検索結果の評価
第2回　情報検索の理論（論理演算、トランケーション、検索式等）、データベース
第3回　検索エンジンのしくみ・全文検索
第4回　検索エンジンによる情報検索演習
第5回　図書情報（書誌情報、所蔵情報）の検索
第6回　図書情報検索演習
第7回　雑誌・新聞／雑誌記事・新聞記事の検索
第8回　雑誌・新聞／雑誌記事・新聞記事検索演習
第9回　人物情報・団体情報の検索
第10回　人物情報・団体情報の検索演習
第11回　統計情報・地理的情報の検索
第12回　統計情報・地理的情報の検索演習
第13回　法律情報等の検索
第14回　法律情報等の検索演習
第15回　まとめ（試験を含む）

履修上の注意点

教科書

適宜プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 45 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 45 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 10 ）

演習時に課す授業課題は必ず提出すること。課題提出が授業参加の必須条件である。また、3分の1以上欠席の場合は、失格とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**情報サービス演習Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　秋期集中	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　米谷　優子	

テーマ

情報サービスのうち、データベース等の電子情報を検索して利用者からの質問に対応する、情報検索サービスについて学習する

授業の到達目標

情報サービスの概念・手順の基礎を確認したうえで、利用者の質問に対するレファレンスサービス・情報検索サービスの演習を通して、実践的な質問回答能力を養成する。

授業の概要

メディアの多様化、情報通信手段の発展により情報探索法も多様化している。大量・多様な情報の中から要求に応じた情報を探し出すには、情報検索の基礎的な知識を基盤に、情報要求を正確に把握して、適切な情報源を選択し的確な検索戦略を立て実行する実践力が必要とされる。この科目では、情報検索の基礎的理論についての理解を深めるとともに、実際の質問例に対する回答処理を演習して、主としてデジタル情報源を用いた情報探索の技術・実践的能力を育成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

積極的にさまざまなデータベースにアクセスし、いろいろな検索の実習経験を重ねてほしい。インターネット情報源はその作成者を確認して、信頼性の高いもののみを用いることが肝要である。

内　容

第1回　情報検索の概念、情報検索の手順、検索結果の評価
第2回　情報検索の理論（論理演算、トランケーション、検索式等）、データベース
第3回　検索エンジンのしくみ・全文検索
第4回　検索エンジンによる情報検索演習
第5回　図書情報（書誌情報、所蔵情報）の検索
第6回　図書情報検索演習
第7回　雑誌・新聞／雑誌記事・新聞記事の検索
第8回　雑誌・新聞／雑誌記事・新聞記事検索演習
第9回　人物情報・団体情報の検索
第10回　人物情報・団体情報の検索演習
第11回　統計情報・地理的情報の検索
第12回　統計情報・地理的情報の検索演習
第13回　法律情報等の検索
第14回　法律情報等の検索演習
第15回　まとめ（試験を含む）

履修上の注意点

教科書

適宜プリントを配付する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 45 ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 45 ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 10 ）

演習時に課す授業課題は必ず提出すること。課題提出が授業参加の必須条件である。また、3分の1以上欠席の場合は、失格とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**情報サービス演習Ⅱ〈c〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　春期集中	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　米谷　優子	

テーマ

情報サービスのうち、データベース等の電子情報を検索して利用者からの質問に対応する、情報検索サービスについて学習する

授業の到達目標

情報サービスの概念・手順の基礎を確認したうえで、利用者の質問に対するレファレンスサービス・情報検索サービスの演習を通して、実践的な質問回答能力を養成する。

授業の概要

メディアの多様化、情報通信手段の発展により情報探索法も多様化している。大量・多様な情報の中から要求に応じた情報を探し出すには、情報検索の基礎的な知識を基盤に、情報要求を正確に把握して、適切な情報源を選択し的確な検索戦略を立て実行する実践力が必要とされる。この科目では、情報検索の基礎的理論についての理解を深めるとともに、実際の質問例に対する回答処理を演習して、主としてデジタル情報源を用いた情報探索の技術・実践的能力を育成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

積極的にさまざまなデータベースにアクセスし、いろいろな検索の実習経験を重ねてほしい。インターネット情報源はその作成者を確認して、信頼性の高いもののみを用いることが肝要である。

内　容

第1回　情報検索の概念、情報検索の手順、検索結果の評価
第2回　情報検索の理論（論理演算、トランケーション、検索式等）、データベース
第3回　検索エンジンのしくみ・全文検索
第4回　検索エンジンによる情報検索演習
第5回　図書情報（書誌情報、所蔵情報）の検索
第6回　図書情報検索演習
第7回　雑誌・新聞／雑誌記事・新聞記事の検索
第8回　雑誌・新聞／雑誌記事・新聞記事検索演習
第9回　人物情報・団体情報の検索
第10回　人物情報・団体情報の検索演習
第11回　統計情報・地理的情報の検索
第12回　統計情報・地理的情報の検索演習
第13回　法律情報等の検索
第14回　法律情報等の検索演習
第15回　まとめ（試験を含む）

履修上の注意点

教科書

適宜プリントを配付する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 45 ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 45 ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 10 ）

演習時に課す授業課題は必ず提出すること。課題提出が授業参加の必須条件である。また、3分の1以上欠席の場合は、失格とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**図書館情報資源概論 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹島 昭雄	

テーマ

公立図書館を中心とする図書館の所蔵資料の種類を知り、その収集と管理のあり方を学ぶ。また、出版流通のしくみについても理解を深める。

授業の到達目標

公立図書館をとりまく社会環境の変化と情報技術の進展は、図書館資料の概念や取り扱いにも大きな変化をもたらしている。この科目では、伝統的な印刷メディアと先端的な電子メディアを紹介しながら、市民の要求に応えてどのように蔵書を形成し、提供するかを知る。また、出版流通に関する基礎的知識と電子メディアの動向、資料の受入方法・蔵書管理の在り方についての知識を修得する。

授業の概要

印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

復習として配布資料を熟読するとともに、各授業のテーマについて事前に参考文献を読んでおくこと。

内　容

第1回　印刷資料・非印刷資料の類型と特質(1)　図書・雑誌・新聞、資料の歴史。
第2回　印刷資料・非印刷資料の類型と特質(2)　主要な一次・二次資料(小冊子、地図等)。
第3回　電子資料、ネットワーク情報源の類型と特質　電子資料の収集・選択・利用、課題　ネットワーク情報源の類型・特質、インターネットの運用・課題。
第4回　地域資料　地域資料の種類と内容、収集と提供、課題。
第5回　行政資料(政府刊行物)、灰色文献　行政資料、政府刊行物の種類と特徴、収集・提供、灰色文献の種類と特徴。
第6回　情報資源の生産(出版)と流通(1)　出版、書店、図書館、出版流通経路。
第7回　情報資源の生産(出版)と流通(2)　再販制度、主な出版社に関する基礎知識。
第8回　図書館業務と情報資源に関する知識（主な著者に関する基礎知識を含む)。
第9回　コレクション形成の理論　蔵書構成論、図書選択論。
第10回 コレクション形成の方法(1)　資料の選択・収集・評価。
第11回 コレクション形成の方法(2)　選択ツールの利用、選定、評価。
第12回 人文・社会科学分野の情報資源とその特質
第13回 科学技術分野の情報源とその特質
第14回 資料の管理(1)　資料の受入・除籍・保存・管理。
第15回 資料の管理(2)　資料の装備・補修・排架・展示・点検等。

履修上の注意点

成績には授業参加度を考慮するので、欠席の場合は事前か事後に報告すること。

教科書

参考書

図書館情報資源概論
著者:　馬場俊明
出版社: 日本図書館協会
出版年: 2012　　ISBN:　9784820412175

成績評価

試験・レポート（ 80 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）
出席回数が5回以下の者は、成績不可とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**図書館情報資源概論 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹島 昭雄	

テーマ

公立図書館を中心とする図書館の所蔵資料の種類を知り、その収集と管理のあり方を学ぶ。また、出版流通のしくみについても理解を深める。

授業の到達目標

公立図書館をとりまく社会環境の変化と情報技術の進展は、図書館資料の概念や取り扱いにも大きな変化をもたらしている。この科目では、伝統的な印刷メディアと先端的な電子メディアを紹介しながら、市民の要求に応えてどのように蔵書を形成し、提供するかを知る。また、出版流通に関する基礎的知識と電子メディアの動向、資料の受入方法・蔵書管理の在り方についての知識を修得する。

授業の概要

印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

復習として配布資料を熟読するとともに、各授業のテーマについて事前に参考文献を読んでおくこと。

内　容

第1回　印刷資料・非印刷資料の類型と特質(1)　図書・雑誌・新聞、資料の歴史。
第2回　印刷資料・非印刷資料の類型と特質(2)　主要な一次・二次資料(小冊子、地図等)。
第3回　電子資料、ネットワーク情報源の類型と特質　電子資料の収集・選択・利用、課題　ネットワーク情報源の類型・特質、インターネットの運用・課題。
第4回　地域資料　地域資料の種類と内容、収集と提供、課題。
第5回　行政資料(政府刊行物)、灰色文献　行政資料、政府刊行物の種類と特徴、収集・提供、灰色文献の種類と特徴。
第6回　情報資源の生産(出版)と流通(1)　出版、書店、図書館、出版流通経路。
第7回　情報資源の生産(出版)と流通(2)　再販制度、主な出版社に関する基礎知識。
第8回　図書館業務と情報資源に関する知識（主な著者に関する基礎知識を含む)。
第9回　コレクション形成の理論　蔵書構成論、図書選択論。
第10回 コレクション形成の方法(1)　資料の選択・収集・評価。
第11回 コレクション形成の方法(2)　選択ツールの利用、選定、評価。
第12回 人文・社会科学分野の情報資源とその特質
第13回 科学技術分野の情報源とその特質
第14回 資料の管理(1)　資料の受入・除籍・保存・管理。
第15回 資料の管理(2)　資料の装備・補修・排架・展示・点検等。

履修上の注意点

成績には授業参加度を考慮するので、欠席の場合は事前か事後に報告すること。

教科書

参考書

図書館情報資源概論
著者:　馬場俊明
出版社: 日本図書館協会
出版年: 2012　　ISBN:　9784820412175

成績評価

試験・レポート（ 80 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）
出席回数が5回以下の者は、成績不可とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**情報資源組織論 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　川瀬　綾子	

テーマ

図書館における情報資源の組織化について、その意義・目的・方法を学ぶ。

授業の到達目標

図書館情報学の内、学生にとって最もわかりにくいのが情報資源組織論であろう。情報検索を可能にしている仕組み、メタデータや書誌データの機能と活用を説明し、また図書館内における情報資源の組織化についても実際に図書館へ行って調べるなどして机上の理解だけでなく体験して理解できるようにする。

授業の概要

印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等を解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

本講では極めて専門的な内容を学ぶ。従って、事前に教科書の該当部分は勿論のこと、『日本目録規則』『日本十進分類法』『基本件名標目表』の該当箇所を精読した上で受講すること。講義終了後は復習をし、疑問点を確実に解消して次の授業に臨むこと。日頃から大学図書館や地域の公共図書館を利用し、それぞれのOPAC、カード目録を実際に利用してみる。また資料の排列についても注意して観察すること。

内　容

第1回　情報資源組織化の意義（1）
　図書館の機能と情報資源組織、図書館業務の中での位置づけなどを説明。
第2回　情報資源組織化の意義（2）
　多様化するメディアや資料アクセスと情報資源組織の関係について説明
第3回　資料コントロール
　意義、歴史、国際標準について説明
第4回　書誌情報の作成・流通・管理
　書誌ユーティリティ、OPAC，MARC等について、その歴史的経過から今日に至る現状と課題もあわせて説明
第5回　コンピュータによる目録作成の実際
　流用入力とオリジナル入力、総合目録、オンライン検索について説明
第6回　目録法の基礎
　記述目録法と主題目録法、目録の種類と機能、メタデータと書誌データ
　などの説明
第7回　記述目録法の基礎
　記述目録法の概要、記述の範囲、「日本目録規則1987年版改訂3版」の構成について説明
第8回　記述の単位と順序／記述目録作成の実際（1）
　書誌階層の考え方と階層化の利点、書誌記述の情報原、書誌的事項と記述の順序、記述ユニット方式、ISBD区切り記号について説明
第9回　記述目録作成の実際（2）
　各書誌的事項作成の説明
第10回　記述目録作成の実際（3）
　各書誌的事項および標目・排列について説明
第11回　主題目録法
　主題目録法の概要、「日本十進分類法」、「基本件名標目表」の概要説明
第12回　分類法の基礎（1）
　分類法の概要、書誌分類と書架分類、十進分類法と序列表示型分類法の説明
第13回　分類法の基礎（2）
　列挙型分類法と分析型分類法、ファセット分類法ほか世界の主要な分類法について説明
第14回　主題目録作成の実際
　「日本十進分類法」の適用、件名目録作成の実際について説明
第15回　まとめと補足
　情報資料の物理的排架に必要な補助記号としての図書記号・著者記号表、およびシソーラスと件名標目表など説明

履修上の注意点

一回一回の授業はすべて関連していて、前回の授業の上に、次回の授業が展開されるので、欠席は極力しないように。取り付きにくく分りにくい授業内容が一層理解し難くなるので注意すること。

教科書

改訂 情報資源組織論
著者:　田窪 直規
出版社:　樹村房
出版年:　2016年　　ISBN:　978488367259-2

ask302e110

参考書

成績評価

試験・レポート（ 90% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 10% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**情報資源組織論 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　川瀬　綾子	

テーマ

図書館における情報資源の組織化について、その意義・目的・方法を学ぶ。

授業の到達目標

図書館情報学の内、学生にとって最もわかりにくいのが情報資源組織論であろう。情報検索を可能にしている仕組み、メタデータや書誌データの機能と活用を説明し、また図書館内における情報資源の組織化についても実際に図書館へ行って調べるなどして机上の理解だけでなく体験して理解できるようにする。

授業の概要

印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等を解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

本講では極めて専門的な内容を学ぶ。従って、事前に教科書の該当部分は勿論のこと、「日本目録規則」「日本十進分類法」「基本件名標目表」の該当箇所を精読した上で受講すること。講義終了後は復習をし、疑問点を確実に解消して次の授業に臨むこと。日頃から大学図書館や地域の公共図書館を利用し、それぞれのOPAC、カード目録を実際に利用してみる。また資料の排列についても注意して観察すること。

内　容

第1回　情報資源組織化の意義（1）
　図書館の機能と情報資源組織、図書館業務の中での位置づけなどを説明。
第2回　情報資源組織化の意義（2）
　多様化するメディアや資料アクセスと情報資源組織の関係について説明
第3回　資料コントロール
　意義、歴史、国際標準について説明
第4回　書誌情報の作成・流通・管理
　書誌ユーティリティ、OPAC，MARC等について、その歴史的経過から今日に至る現状と課題もあわせて説明
第5回　コンピュータによる目録作成の実際
　流用入力とオリジナル入力、総合目録、オンライン検索について説明
第6回　目録法の基礎
　記述目録法と主題目録法、目録の種類と機能、メタデータと書誌データ
　などの説明
第7回　記述目録法の基礎
　記述目録法の概要、記述の範囲、「日本目録規則1987年版改訂3版」の構成について説明
第8回　記述の単位と順序／記述目録作成の実際（1）
　書誌階層の考え方と階層化の利点、書誌記述の情報原、書誌的事項と記述の順序、記述ユニット方式、ISBD区切り記号について説明
第9回　記述目録作成の実際（2）
　各書誌的事項作成の説明
第10回　記述目録作成の実際（3）
　各書誌的事項および標目・排列について説明
第11回　主題目録法
　主題目録法の概要、「日本十進分類法」、「基本件名標目表」の概要説明
第12回　分類法の基礎（1）
　分類法の概要、書誌分類と書架分類、十進分類法と序列表示型分類法の説明
第13回　分類法の基礎（2）
　列挙型分類法と分析型分類法、ファセット分類法ほか世界の主要な分類法について説明
第14回　主題目録作成の実際
　「日本十進分類法」の適用、件名目録作成の実際について説明
第15回　まとめと補足
　情報資料の物理的排架に必要な補助記号としての図書記号・著者記号表、およびシソーラスと件名標目表など説明

履修上の注意点

一回一回の授業は関連していて、前回の授業内容の上に次回の授業が展開されるので、欠席は極力しないように。とりつきにくく、わかりにくい授業内容が一層理解し難くなるので、注意すること。

教科書

改訂 情報資源組織論
著者:　田窪 直規
出版社:　樹村房
出版年:　2016年　　ISBN:　9784883672592

ask302e112

参考書

成績評価

試験・レポート（ 90% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 10% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**情報資源組織演習Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　川瀬　綾子	

テーマ

多様な情報資源(図書館資料)に関する書誌データ、メタデータの作成

授業の到達目標

多様な情報資源に関する書誌データの作成、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。

授業の概要

主に単行資料書誌データを作成することにより、継続資料や電子資料等多様な情報資源の書誌データを作成する能力を養い、集中化・共同化による書誌データの作成や、ネットワーク情報資源のメタデータの作成も実践する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

京都橘大学図書館OPACや、CiNii-BOOKS、NDL-OPACなどを検索し、検索結果のデータをみること。また、図書実物と検索結果のデータを見比べてみる。

内　容

第1回　書誌データ作成　1　(総則)
第2回　書誌データ作成　2　(タイトル・責任表示)
第3回　書誌データ作成　3　(版表示・出版事項)
第4回　書誌データ作成　4　(形態・シリーズ)
第5回　書誌データ作成　5　(注記)
第6回　書誌データ作成　6　(国際標準図書番号・入手条件)
第7回　書誌データ作成　7　(継続資料)
第8回　書誌データ作成　8　(継続資料)
第9回　書誌データ作成　9　(標目について)
第10回　集中化・共同化による書誌データ作成　1　(所蔵登録)
第11回　集中化・共同化による書誌データ作成　2　(書誌流用)
第12回　集中化・共同化による書誌データ作成　3　(新規登録)
第13回　ネットワーク情報資源のメタデータ作成　1　(概要)
第14回　ネットワーク情報資源のメタデータ作成　2　(作成)
第15回　書誌データ管理・検索システムの構築

履修上の注意点

「書誌データ作成」など、この授業は今まで経験のない演習である。授業中、不明な点があればそのつど質問すること。やむをえず授業欠席する場合は、「欠席届」を提出すること。

教科書

資料組織演習　改訂第4版
著者:　北克一、村上泰子
出版社:　エム・ビー・エー
出版年:　2017年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 確認試験　50% ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 10% ）
演習科目なので、授業中の成果や授業に取り組む態度に50%の評価を与える。

2018 Syllabus

科 目 名　**情報資源組織演習Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　川瀬　綾子	

テーマ

多様な情報資源(図書館資料)に関する書誌データ、メタデータの作成

授業の到達目標

多様な情報資源に関する書誌データの作成、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。

授業の概要

主に単行資料書誌データを作成することにより、継続資料や電子資料等多様な情報資源の書誌データを作成する能力を養い、集中化・共同化による書誌データの作成や、ネットワーク情報資源のメタデータの作成も実践する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

京都橘大学図書館OPACや、CiNii-BOOKS、NDL-OPACなどを検索し、検索結果のデータをみること。また、図書実物と検索結果のデータを見比べてみる。

内　容

第1回　書誌データ作成　1　(総則)
第2回　書誌データ作成　2　(タイトル・責任表示)
第3回　書誌データ作成　3　(版表示・出版事項)
第4回　書誌データ作成　4　(形態・シリーズ)
第5回　書誌データ作成　5　(注記)
第6回　書誌データ作成　6　(国際標準図書番号・入手条件)
第7回　書誌データ作成　7　(継続資料)
第8回　書誌データ作成　8　(継続資料)
第9回　書誌データ作成　9　(標目について)
第10回　集中化・共同化による書誌データ作成　1　(所蔵登録)
第11回　集中化・共同化による書誌データ作成　2　(書誌流用)
第12回　集中化・共同化による書誌データ作成　3　(新規登録)
第13回　ネットワーク情報資源のメタデータ作成　1　(概要)
第14回　ネットワーク情報資源のメタデータ作成　2　(作成)
第15回　書誌データ管理・検索システムの構築

履修上の注意点

「書誌データ作成」など、この授業は今まで経験のない演習である。授業中、不明な点があればそのつど質問すること。やむをえず授業欠席する場合は、「欠席届」を提出すること。

教科書

資料組織演習　改訂第4版
著者:　北克一、村上泰子
出版社:　エム・ビー・エー
出版年:　2017年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 確認試験　50% ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 10% ）
演習科目なので、授業中の成果や授業に取り組む態度に50%の評価を与える。

2018 Syllabus

科 目 名　**情報資源組織演習Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　川瀬　綾子	

テーマ

図書館情報資源の組織化業務の一つである資料分類法を中心に、件名法も含めて、その知識と技法を学ぶ。

授業の到達目標

NDC10版、BSH4版を使って、情報資源の主題を記号およびことば(統制語)で表現できるようにする。

授業の概要

多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。
この科目では、上記の内、主題分析、分類作業、統制語彙の適用の演習を行う。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

予習として教科書を精読し、その章のポイントは何かを整理しておく。復習には特に重点をおき、教科書の例題の分類記号や件名(統制語)について、NDCやBSHを使って確認する。余力があれば教科書の演習問題にチャレンジする。できるだけ数多くの事例を実践することにより、スキルアップをはかる。また大学図書館や公共図書館を積極的に利用し、排架されている資料の背ラベルに記されている数字や記号を意識的に見ること。

内　容

第1回　主題分析とその表示
　情報原の主題を分析し、要約主題と網羅的主題について説明
第2回　基本件名標目表の概略
　基本件名標目表の概略、階層構造の詳細について説明
第3回　基本件名標目表による件名作業
　細目の用い方、件名規程の説明
第4回　演習とまとめ
　ここまで学習したことを、演習を通してどこまで理解しているかを見る
第5回　日本十進分類法(NDC)の概略
　NDCの構成を説明
第6回　日本十進分類法による分類作業
　一般補助表(形式区分等)・固有補助表の用い方を説明
第7回　分類記号付与の実際
　分類規程の説明、教科書の問題も交えながら理解をさせる
第8回　演習とまとめ
第9回　分類記号付与の実際／人文科学(2類、1類)
　これら各類の特徴的な分類の展開と適用について説明
第10回　分類記号付与の実際／人文科学(7類、8類、9類)
第11回　演習とまとめ
第12回　分類記号付与の実際／社会科学(3類)
第13回　分類記号付与の実際／自然科学(4類)、技術(5類)
第14回　分類記号付与の実際／産業(6類)、総記(0類)
第15回　図書記号・別置記号の付与;演習とまとめ

履修上の注意点

一回一回の授業の積み重ねが大事なので、欠席はしないこと。

教科書

資料組織演習　改訂第4版
著者:　北克一、村上泰子
出版社:　エム・ビー・エー
出版年:　2017年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60% ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 10% ）

ask302e350

授業に積極的に参加する姿勢（出席率、課題発表等）を重視する。授業の中間（第8回）及び授業最終日に理解度を確認するためのテストを行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**情報資源組織演習Ⅱ〈b〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　川瀬　綾子	

テーマ

図書館情報資源の組織化業務の一つである資料分類法を中心に、件名法も含めて、その知識と技法を学ぶ。

授業の到達目標

NDC10版、BSH4版を使って、情報資源の主題を記号およびことば(統制語)で表現できるようにする。

授業の概要

多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。
この科目では、上記の内、主題分析、分類作業、統制語彙の適用の演習を行う。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

予習として教科書を精読し、その章のポイントは何かを整理しておく。復習には特に重点をおき、教科書の例題の分類記号や件名(統制語)について、NDCやBSHを使って確認する。余力があれば教科書の演習問題にチャレンジする。出来るだけ数多くの事例を実践することにより、スキルアップをはかる。また大学図書館や公共図書館を積極的に利用し、排架されている資料の背ラベルに記されている数字や記号を意識的に見ること。

内　容

第1回　主題分析とその表示
　情報原の主題を分析し、要約主題と網羅的主題について説明
第2回　基本件名標目表の概略
　基本件名標目表の概略、階層構造の詳細について説明
第3回　基本件名標目表による件名作業
　細目の用い方、件名規程の説明
第4回　演習とまとめ
　ここまで学習したことを、演習を通してどこまで理解しているかを見る
第5回　日本十進分類法(NDC)の概略
　NDCの構成を説明
第6回　日本十進分類法による分類作業
　一般補助表(形式区分等)・固有補助表の用い方を説明
第7回　分類記号付与の実際
　分類規程の説明、教科書の問題も交えながら理解をさせる
第8回　演習とまとめ
第9回　分類記号付与の実際／人文科学(2類、1類)
　これら各類の特徴的な分類の展開と適用について説明
第10回　分類記号付与の実際／人文科学(7類、8類、9類)
第11回　演習とまとめ
第12回　分類記号付与の実際／社会科学(3類)
第13回　分類記号付与の実際／自然科学(4類)、技術(5類)
第14回　分類記号付与の実際／産業(6類)、総記(0類)
第15回　図書記号・別置記号の付与;演習とまとめ

履修上の注意点

一回一回の授業の積み重ねが大事なので、欠席はしないこと。

教科書

資料組織演習　改訂第4版
著者:　北克一、村上泰子
出版社:　エム・ビー・エー
出版年:　2017年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60% ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 10% ）
授業中に行う課題も評価の対象となります。欠席の無いようにしてください。

2018 Syllabus

科 目 名　**図書館実習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　國松　完二	

テーマ

それまでの図書館学で学んだことを図書館現場で実習することにより、現実に対応できる能力を獲得する。

授業の到達目標

それまでの図書館学で学んだことを図書館現場で実習することを通じて、仕事をより深く理解し、今日の図書館が抱える課題についても問題意識を深めることが期待される。

授業の概要

図書館に関する科目で得た知識・技術を元にして、事前・事後学習の指導を受けつつ公立図書館業務を経験させる。実習は公立図書館で5日間（40時間）を基礎とする。実習の内容は下記の内容を中心にすえつつ順序等については実習館の都合にあわせる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　事前ガイダンス
第2回　実習先による図書館施設見学と概略説明
第3回　貸出・返却業務および配架作業
第4回　レファレンス業務およびリクエスト処理等
第5回　選書・発注作業および資料整理技術の実際を学ぶ
第6回　図書館行事（お話会や講演会等）補助作業および館長の話（まとめ）
第7回　学生からの報告と評価①
第8回　学生からの報告と評価②

履修上の注意点

実習館ごとに、運営・サービス内容に違いがあるので、事前に複数の図書館を見学しておくことが望ましい。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（　）

参加度　（ 50 ）

実習終了後に提出されたレポートを、授業中課題として評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**学校経営と学校図書館**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　家城　清美	

テーマ

学校図書館の理念と意義を学校教育の抱える課題の中に位置づけて理解する。

授業の到達目標

今日の学校教育の諸課題をふまえ、学校図書館の教育的意義及び司書教諭の果たすべき任務について　理解し、意欲的・創造的に活動する司書教諭をめざす。

授業の概要

当科目が講義科目全体の総論的な位置づけであることを踏まえ、まず学校教育における学校図書館の果たす役割等、学校図書館全般について論じ、基本的理解を図る。次に教師として、学校図書館経営の責任者としての司書教諭の任務と職務を明確にし、校内の協力体制づくり、司書教諭としての研修の重要性にふれる。さらに、学校図書館メディア・学校図書館活動・他の館種を含めた図書館ネットワーク等についての基本的理解を図る。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業後は、配布資料で復習をしておくこと。課題を出すことがあるので、記述内に提出すること。

内　　容

第1回　はじめに
　シラバスの説明
第2回　学校図書館の役割と意義
　三つのセンターとして
第3回　教育行政と学校図書館
　図書館法と学校図書館法
　学習指導要領と学校図書館
第4回　教育行政と学校図書館
　学校図書館をとり巻く政策
第5回　学校図書館の経営 1
　学校内の采井組織と学校図書館
　公務分掌での学校図書館の位置
　学校図書館に関わる組織
第6回　学校図書館の経営 2
　学校図書館の運営に関する基準
　海外の学校図書館の運営の基準に関する変遷
第7回　学校図書館運営の要素　1
　資料：メディアの種類
　資料の構築と管理
　選書
第8回　学校図書館運営の要素　2
　日本十進分類法と日本目録規則による排架
　件名～キーワード
　ラベリング、排架、見出し
　資料の点検
　除籍
第9回　学校図書館運営の要素　3
　施設・設備
　所蔵資料による設備・施設の変化
　利用者のための施設・設備
第10回　学校図書館運営の要素　4
　学校図書館スタッフ：司書教諭の任務と職務、他のスタッフとの関わり

第11回　学校図書館の活動
　学校図書館の活動とは
　教育計画と学校図書館
　学校図書館活動の内容と方法
第12回　学校図書館運営の評価法
　評価法の事例紹介
第13回　学校図書館をレイアウトする
　今までの授業内容を振り返り、三つのセンターを目指す学校図書館図を作成　する
第14回　学校図書館に関する情報の収集
　方法
　行事
第15回　まとめ
　これからの学校図書館と司書教諭のありかた

履修上の注意点

ask312d110

テキストで不足部分は授業時に適宜資料を配付する。

教科書

学校経営と学校図書館

著者: 大串夏身 渡邊重夫

出版社: 青弓社

出版年: 2015 ISBN: 9784787200556

参考書

教育改革の動向と学校図書館

著者: 坂田仰・河内祥子編著

出版社: 八千代出版

出版年: 2012 ISBN: 9784842915708

成績評価

試験・レポート（ 50 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 20 ） 授業中発表等（ 0 ）

参加度 （ 30 ）

出席・授業参加が大前提。25%以上の欠席は履修不可能。試験及び授業中の課題ペーパー、そして授業参加点を加味し、総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**学校図書館メディアの構成**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　明定　義人	

テーマ

学校図書館メディアの構成に必要な実務的知識を得る。

授業の到達目標

学校図書館メディアの構成に関する理解および実務能力の育成と、学校図書館メディアの専門職である司書教諭としての基本的な知識を獲得する。

授業の概要

先ず初めに、高度情報社会のおける学習環境の変化に伴うメディアの教育的意義と役割について論じ、同時に各種メディアの種別と特性について説明し、理解を図る。次に、より優れたメディアの構築について、さらにメディアの組織化の意義と展開について講義し、必要に応じて演習や実習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業後に、テキストと配布資料で復習をしておくこと。

内　　容

第1回　高度情報社会における学校図書館メディア
第2回　学校図書館におけるメディアの種類と特性
第3回　学校図書館メディア構築のための基本
第4回　学校図書館メディアの選択と収集方針（評価方法を含む）
第5回　学校図書館メディアの選択のための情報源と発注
第6回　情報ファイル資料の構築
第7回　学校図書館メディアの維持と発展（更新・廃棄を含む）
第8回　学校図書館メディアの組織化の意義とプロセス
第9回　学校図書館メディアの配架
第10回　学校図書館メディアの組織化の新しい展開
第11回　学校図書館メディアの目録
第12回　学校図書館メディアの目録法
第13回　学校図書館メディアの主題索引法
第14回　特別な支援のための学校図書館メディア
第15回　学校図書館メディアの充実と提供

履修上の注意点

小・中・高・大学の図書館及び公共図書館へ足を運ぶ。また、必要な事前学習については、適宜指示する。

教科書

参考書

学校図書館メディアの構成
著者:　小田光宏　編
出版社:　樹村房
出版年:　2016　　ISBN:　4-88367-252-3

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**学習指導と学校図書館**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　家城　清美	

テーマ

学習センター機能としての学校図書館は、教科学習や読書などと関連付けて活用されることが重要である。司書教諭は教師として、また多様なメディアの専門家として、その役割を果たすことが求められている。学校教育の目標と結びついた学習指導において学校図書館の活用を考えていく。

授業の到達目標

学習指導の基盤となる教育の理論を理解した上で、学校図書館メディアの活用方法を実践例を見ながら考察する。教科学習における担当教諭と司書教諭のコラボレーション、学習情報センターとしての学校図書館利用指導などについて事例を研究し、実際に自分で指導計画を作成する。情報リテラシー育成の一端を担う学校図書館活用の理論と実践のつながりを理解する。

授業の概要

講義中心であるが、課題をこなし、それに基づいた討論を行う。学習指導計画を実際に作成し、学校図書館を活用した授業を考える。最後に筆記試験を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業後に、テキストと配布資料で復習をしておくこと。発表はグループで行うので、グループで話し合い次回授業までに協力して仕上げる作品などがある。

内　容

第1回　はじめに
シラバスの説明
グループでの探究学習の準備

第2回　戦後教育史を知る1
1945年～1980年代　動画視聴
動画視聴あり

第3回　戦後教育史を知る2
1990年～現在　授業時数の変遷、学力観の変遷を知る　動画視聴

第4回　学習指導要領などに表れた学校図書館の表記
学校図書館利用指導の定義と変遷

第5回　海外の学校図書館の役割と司書教諭の役割の変遷

第6回　海外の学校図書館利用指導理論の変遷
様々な探究学習と情報活用プロセス（情報リテラシー）を知る

第7回　支援計画の立案の方法、支援ツールの開発と作成方法、グラフィックオーガナイザーの活用方法を知る　画像を見る

第8回　様々な教科の支援方法を事例から知る

第9回　探究学習に取り組む1
ブレインストーミング、課題設定、学習計画立案、情報探索・検索、情報収集

第10回　探究学習に取り組む2
情報の精査、情報の取捨、情報からの考察のまとめ、発表

第11回　様々な発表方法、動画視聴
成果物を作成する

第12回　探究学習の評価法を知る
Rubric、相互評価法

第13回　グループ発表1
9、10回での取り組みをグループで発表し、司書教諭の具体的な支援方法も発表する

第14回　グループ発表2
第13回の続き

第15回　発表の講評
まとめ：学習指導要領と学校図書館との関係
児童・生徒、教員を支援できる司書教諭のあり方

履修上の注意点

教育学、教科教育法の授業を履修した人は復習しておくこと。また、必要な、事前学習については、適宜指示する。

教科書

改訂新版　学習指導と学校図書館
著者：　堀川照代　塩谷京子
出版社：放送大学教育振興会
出版年：2016　　ISBN：　9784595316500

参考書

ask312d350

思考力の鍛え方

著者: 桑田てるみ編著

出版社: 静岡学術出版

出版年: 2010 ISBN: 9784903859385

成績評価

試験・レポート（ 50 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 20 ） 授業中発表等（ 0 ）

参加度 （ 30 ）

出席・授業参加が大前提。25%以上の欠席は履修不可能。試験及び授業中の課題ペーパー、授業中の発表内容、そして授業参加点を加味し、総合的に評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**読書と豊かな人間性**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　明定　義人	

テーマ

子どもが読書することの意義、子どもに読書を薦める意義について自分なりの考えを持つ。

授業の到達目標

子どもが読書することの意義、子どもに読書を薦める意義について自分なりの考えを持つ。また、学校図書館における読書教育の方策についての知識と理解を獲得する。子どもを本好きにするために何ができるか、読書教育と環境について考える

授業の概要

子どもの読書の意義について理解を深め、読書資料をジャンルごとに解説し、子供を本好きにするためのさまざまな技術や方法についても学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　子どもの読書の現状
第2回　子どもの読書と人間形成
第3回　学校教育における読書
第4回　発達段階と読書
第5回　小学生、中学生、高校生の読書
第6回　読書指導の実際
第7回　子どもを読書に誘う方法（1）読み聞かせとストーリーテリング
第8回　子どもを読書に誘う方法（2）ブックトーク
第9回　子どもを読書に誘う方法（3）朝の読書 ほか
第10回　読書資料の種類と活用（1）絵本
第11回　読書資料の種類と活用（2）児童文学 ほか
第12回　読書資料の種類と活用（3）昔話・伝承文学、知識の本
第13回　読書活動における司書教諭の役割、「図書館の自由」と「読書の秘密」
第14回　生涯学習への読書、家庭・地域・公共図書館との連携、協力
第15回　子ども読書活動の推進
第16回　試験

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ レポート　40 ）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**情報メディアの活用**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　　米谷　優子	

テーマ

存在するさまざまなメディアの特色を理解した上で、学校教育への活用を論じる。そして、児童生徒の情報リテラシーの育成について学ぶ。

授業の到達目標

司書教諭資格取得希望者、もしくは教職希望者が、情報メディアを授業で活用することを目標において行う講義である。実践に役立つ知識とスキルを身につけ、情報メディアの活用を目的とした教材の制作も行う。また、グループワークを取り入れ、コミュニケーションスキルの向上も図る。

授業の概要

現代社会におけるさまざまなメディアの特色を理解し、実際に学校教育に活用することができるような知識の習得をめざす。また著作権の問題やメディアに潜む「負」の要素を認識すると共に、併せて児童生徒への指導方法についても考える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

まず、自身が図書館をはじめとする情報源に親しむこと。また、司書教諭の科目は全てが関連し合っている。学校図書館や司書教諭について総合的に把握することができるよう、他の科目で学んだことも復習しておくこと。

内　容

第1回　情報メディアの発達と変化：情報社会と人間
第2回　学校教育における情報メディア、高度情報社会における図書館の役割
第3回　情報メディアの特性と選択
第4回　視聴覚メディアの活用・実例の紹介
第5回　電子メディアの活用・実例の紹介
第6回　学校図書館におけるコンピュータの利用
第7回　情報活用能力、メディアリテラシー
第8回　教育用ソフトウェアの活用
第9回　情報検索の仕組みと実際：データベースを用いて
第10回　情報検索の仕組みと実際：インターネットを用いて
第11回　インターネットの利用：ネチケット、フィルタリング
第12回　インターネット：情報の発信
第13回　プレゼンテーションと情報の評価
第14回　情報メディアと著作権およびテスト
第15回　テストの確認と自己評価

履修上の注意点

授業は講義のほか、演習も含む。情報検索演習はコンピュータの基本操作能力を前提として進める。授業中の課題は締切や形式等の指示を守って提出すること。なお、授業計画は理解度その他の理由によって変更することがある。
授業で紹介する資料およびURLへは各自で閲覧やアクセスを行っておいてください。

教科書

情報メディアの活用
著者：「シリーズ学校図書館学」編集委員会
出版社：全国学校図書館協議会
出版年：2010　　ISBN：9784479332246

参考書

成績評価

試験・レポート（60）　　小テスト（　）
授業中課題（30）　　授業中発表等（　）
参加度（10）
3分の1以上欠席した場合は失格とする

2018 Syllabus

科 目 名　**博物館学概論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中久保　辰夫	

テーマ

博物館理解のための基礎

授業の到達目標

博物館に関する基礎的知識を理解し、博物館の現状と問題点を学び、その解決法を考える。

授業の概要

受講生に現代の博物館、美術館が抱える問題点について理解させ、今後のあり方について考えさせる。さらに経験をふまえた展示や運営などの具体的な事例について講義する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　博物館学の目的・方法・構成
博物館学の目的・方法・構成を学ぶ。授業の進め方についてのガイダンスを兼ねる。
第2回　博物館学史
博物館学の歴史について学ぶ
第3回　博物館とは何か①
博物館の定義と種類（館種、設置者別、法的区分等）を学ぶ
第4回　博物館とは何か②
博物館の目的と機能を学ぶ
第5回　博物館の歴史と現状①
我が国の博物館・美術館
第6回　博物館の歴史と現状②
欧米の博物館・美術館1
第7回　博物館の歴史と現状③
欧米の博物館・美術館2
第8回　博物館の歴史と現状④
中国の博物館
第9回　博物館の歴史と現状⑤
韓国の博物館
第10回　博物館の歴史と現状⑥
博物館、美術館の問題―展覧会について
第11回　博物館の歴史と現状⑦
博物館、美術館の問題―収集について
第12回　学芸員の役割①
学芸員の定義・役割について学ぶ
第13回　学芸員の役割②
学芸員の実態について学ぶ
第14回　博物館関係法令
博物館関係法令について学ぶ
第15回　まとめ
21世紀の博物館、美術館のあり方
※なお、この授業では必要に応じて学外授業及びゲストスピーカーによる特別講演会を行うことがある。

履修上の注意点

本講義では座席指定制とする。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

ask401d110

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ 50 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**博物館教育論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一瀬　和夫	

テーマ

博物館という場のなかで、博物館資料素材を起点とした利用者へのよりよい教育シーンを探っていく

授業の到達目標

これまで日本の博物館では、収集資料重視の偏重があったため、館の使命の中に教育という側面がおろそかにされてきた。ところが、近年、利用者を重視する博物館運営にウエイトが増しており、普及部門の活動の中でも教育が必要不可欠な存在となってきた。本論では、博物館における教育展開の多方面にわたる手法と利用者の多様性を提示することで、よりよいカリキュラムの構築について考えてみたい。

授業の概要

博物館における教育活動の基盤となる理論や実践的な諸事例や方法を知り、それを展開する博物館がいかなる社会的存在となり得るかを探り、博物館機能の中に教育が参画できる基礎的な方策を立てることの能力を養う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

博物館行われている活動に接する

内　容

第1回　学びの意義（博物館の社会的存在感）
第2回　【博物館教育の意義と理念】
　①コミュニケーションの場として博物館教育
第3回　②博物館機能の1つとしての教育的意義
第4回　③展示開発の中での教育担当者として役割
第5回　④博物館教育の意義（生涯学習の場としての博物館、人材養成の場としての博物館、地域における博物館の教育機能、博物館リテラシーの涵養等）
第6回　⑤博物館教育の方針と評価
第7回　【博物館の利用と学び】
　①博物館の利用実態と利用者の博物館体験
第8回　②校外学習の場、アウトリーチの場としての博物館活動と利用方法
第9回　③博物館における有効な学びの特性－ハンズ・オン、ワークショップの展開
第10回【博物館教育の実際】
　①国立民族学博物館の見学
第11回 ②キッズプラザ大阪の見学
第12回 ③学校教育に生かす活動（展示ストーリー、収蔵資料と学習指導要領の関係）
第13回 ④博物館教育活動の企画案の作成
第14回 ⑤博物館教育活動の実施案の作成
第15回 ⑥博物館展示教育のカリキュラム案の作成
　※なお、この授業ではゲストスピーカーによる特別講演会を実施することがある。

履修上の注意点

博物館見学のマナーを留意しながら、博物館と接する。

教科書

博物館で学ぶ
著者：　G.E.ハイン
出版社：同成社
出版年：2010　　ISBN：　9784886215277

参考書

造形ワークショップの広がり
著者：　高橋陽一編
出版社：武蔵野美術大学出版局
出版年：2011　　ISBN：　9784901631983

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 40 ）

ask401d250

授業中の参加度を重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**博物館情報・メディア論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　木下　達文	

テーマ

メディアの意味を理解しつつ、視聴覚メディアの活用能力を磨く

授業の到達目標

博物館などの文化施設における視聴覚メディアの利用は、単なる視聴覚機器の時代から、デジタルテクノロジーを活用したマルチメディア時代へと大きく転換してきている。それに伴い、運営に携わるスタッフにもそれらを抵抗なく使いこなしていく能力が求められてきている。視聴覚メディアに関する歴史や意義を今一度振り返るとともに、文化施設等で実際に使用されている映像等を通じて、基礎的なメディア活用の能力を磨いていく。

授業の概要

博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

文化施設で開催される講演会やシンポジウム・映画鑑賞会などに出席したり、テーマパーク等のメディア技術の観察などを行うこと。課題等に対しては授業中やメール等でのフィードバックを行う。

内　容

第1回　メディアの意義
　今日、我々にとって様々なメディアは生活に不可欠となっており、文化施設等でも日常的に使用している。基本的なメディアの意義を説明する。

第2回　メディアの歴史と発展
　これまで人類が創造してきた広い意味でのメディアの歴史を紐解きながら、それが博物館等でどのように利用されてきたかを説明する。

第3回　メディアの未来とICT社会
　メディアは日々進化しており、ここでは最新のメディア機器とそれに関わる博物関東でのICT社会について説明する。

第4回　メディアと認知心理学
　情報を発信すれば良いのではなく、最も重要なのがどう認知するかである。認知心理学の理論から、主に記憶と認知の構造を説明する。

第5回　メディアの利用とその影響
　博物館にかぎらず、メディアの利用には気をつけなくてはならない点がある。過去の活用例をもとに、その影響力について説明する。

第6回　博物館におけるメディアの利用
　博物館において、利用者や職員が使う様々なメディアについて、その全体像について説明する。

第7回　視聴覚情報メディア機器の活用（静止画）
　おもに従来から使用されてきたスライドやOHPなど静止画を中心とする具体的な機器について博物館での事例を交えて説明を行う。

第8回　視聴覚情報メディア機器の活用（動画）
　ここでは教育用に利用されてきたフィルムやビデオテープなどの動画を中心とする機器について博物館での事例を交えて説明を行う。

第9回　デジタル型視聴覚情報メディアについて
　今日では、パソコンを含むデジタル型視聴覚情報メディアが利用されている。ここでは一般的な機器やインターネット等ついての説明を行う。

第10回　デジタル機器とデータベース
　情報コンテンツのデジタル化が一般化する中で、デジタルデータベース（＝デジタルアーカイブ）をどのように構築し、利用するかを説明する。

第11回　ドキュメンテーションとシソーラス
　デジタル環境におけるドキュメンテーションづくりについて、とくに既製分類のない博物館におけるシソーラスのあり方について説明する。

第12回　博物館と著作権
　博物館における知的財産権との関係の中で、とくに著作権を中心に日常業務で必要な事柄（版権処理等を含む）について説明を行う。

第13回　情報管理と情報公開
　おもにホームページ等への公開と管理を中心として、情報の管理形式とその公開について、ネットワークシステム論と併せて説明を行う。

第14回　学生によるプレゼンテーション（1）
　学生自身が施設からコンテンツを発信するという前提で、必要な視聴覚情報メディアを活用してプレゼンテーションを行い、それを評価する。

第15回　学生によるプレゼンテーション（2）
　学生自身が施設からコンテンツを発信するという前提で、必要な視聴覚情報メディアを活用してプレゼンテーションを行い、それを評価する。

履修上の注意点

ask401d350

※授業の内容によって多少変更をする場合もある。
※上記に関連して、山科地域を一つの地域博物館と仮定して、情報の取り上げ方の例とする。

教科書

山科ガイド
著者: 木下達文
出版社: つむぎ出版
出版年: 2008　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 40 ）
特に出席を重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**博物館経営論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　木下　達文	

テーマ

社会に役立つ博物館とは

授業の到達目標

現代の博物館は非常に多様化しており、また経営方法も変わってきた。一方で、財政的にも厳しくなっているため、従来の経営方法では立ちゆかなくなってきている。したがって、これからの学芸員は経営感覚が必須といわれるようになってきた。そこで、本講座を通じて経営的視点をもつ人材の養成を行う。

授業の概要

博物館の形態面と活動面における適切な管理･運営について理解し、博物館経営（ミュージアムマネジメント）に関する基礎的能力を養う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

できるだけ機会をつくっていろいろな博物館を見学したり活動に参加してほしい。また、広報誌やガイドブックを参考にそれぞれの博物館の特徴や社会サービスの内容を知ること。課題等に対しては授業中やメール等でのフィードバックを行う。

内　容

第1回　ミュージアムマネージメントの概念と必要性
　ここでは、ミュージアムマネジメントとは何かということから、なぜ博物館において「経営」的視点が必要になってきたのかということを解説する。

第2回　博物館の行財政（経営とその種類）
　近年、独立行政法人や指定管理者制度の導入によりその経営のあり方は大きく変化した。ここでは、そうした行財政制度の基本を説明する。

第3回　博物館の設置（主体）
　国や自治体のみならず、多様な市立博物館が今日たくさん設置されている。ここでは、設置主体毎の特徴をおおまかに説明していく。

第4回　博物館の施設・設備（ユニバーサル化を含む）
　そもそも博物館がどのように計画・設置されるのかというプロセスと同時に、博物館に必要な施設設備について解説する。

第5回　博物館の組織と職員
　博物館にとっての組織のあり方と同時に、学芸員を含む様々な職務スタッフについての概要を海外と比較しながら説明を行う。

第6回　博物館の使命と計画と評価
博物館は「何のために存在するのか」を常に自身および他者に問わなければならない。その使命と実施評価の方法について説明する。

第7回　博物館倫理（行動規範）
　博物館は公益活動を行うところであり、コレクションを持つという特色がある。業務の特色をふまえた行動規範について解説する。

第8回　博物館の危機管理
　東日本大震災の調査記録等を素材としながら、博物館の様々な事故とそれに対応する管理体制およびリカバリー等について解説する。

第9回　ミュージアムマーケティング
　社会には様々な娯楽があり、年々利用者獲得が難しくなってきている。ここでは、博物館の市場および利用者獲得のためのマネジメントを考える。

第10回　博物館と市民参画（友の会、ボランティア等）
　博物館をとりまく支援組織のあり方が変化している。おもに友の会と文化ボランティア活動についての概要を説明する。

第11回　博物館とサービス（ミュージアムショップ・レストラン等）
　博物館は法の定義にもあるように、レクリエーションの場でもある。ここでは、博物館サービスとしてのショップとレストラン等のあり方を考える。

第12回　博物館と地域連携
　博物館はもはや単独経営では成り立たなくなってきている。地域連携や博学連携などを例にあげながら、博物館の新たな役割について説明する。

第13回　博物館の財務（資金調達）
　これまでの博物館は一定の予算枠で活動を行うことが多かった。寄付に関する法律が変わっていくことで、今後の資金調達のあり方を考える。

第14回　特別講義
これまで博物館経営を行ってきている人、あるいは学芸員としての実績がある人をお招きし、その経験的視点からのケーススタディを考える。

第15回　博物館の見学
　実際に博物館の現場を訪れ、展示だけでなく経営的な視点から博物館の運営状況、スタッフ、ショップ・レストランに至るまで観察を行う。

履修上の注意点

ask402d150

教科書

ひろがる日本のミュージアム

著者:　千地万造・木下達文編

出版社: 晃洋書房

出版年: 2007　　ISBN:

参考書

新しい博物館学

著者:　全国大学博物館学講座協議会西日本部会編

出版社: 芙蓉書房出版

出版年: 2008　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ 0 ）

授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 0 ）

参加度（ 30 ）

学外授業や特別講師の授業は先方の都合により日程が前後します。

2018 Syllabus

科 目 名　**博物館資料論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　五十川　伸矢	

テーマ

博物館資料の収集保管・調査研究・整理活動の方法

授業の到達目標

博物館資料の収集，整理保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得し，また博物館の調査研究活動について理解することを通じて，博物館資料に関する基礎的能力を養う。

授業の概要

博物館における調査研究と資料公開の方法、すなわち、博物館資料の収集・調査研究・展示の方法を理解する。
博物館資料の種類（文献・考古・民俗・自然史など）ごとに、その特徴と研究方法、博物館での研究と公開の方法を解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　博物館資料には、どんなものがあるか
第2回　博物館資料の収集方法
第3回　見学実習①　学外授業　博物館参観
第4回　遺跡博物館の展示方法
第5回　博物館資料の調査研究①　考古資料(1)
第6回　博物館資料の調査研究②　考古資料(2)
第7回　博物館資料の調査研究③　民俗資料
第8回　博物館資料の調査研究④　歴史資料
第9回　博物館資料の調査研究⑤　美術資料
第10回　見学実習②　学外授業　博物館参観
第11回　博物館資料の調査研究⑥　自然史資料
第12回　博物館資料の調査報告書・図録の編集
第13回　博物館学芸員による資料収集・調査研究活動(講演会)
第14回　博物館資料の調査研究展示普及活動の課題
第15回　まとめとスライド

履修上の注意点

※なおこの授業は、必要に応じてゲストスピーカーによる講演をおこないます。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 40 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**博物館資料保存論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一瀬　和夫.植田　直見.川本　耕三.山田　卓司	

テーマ

博物館資料の保存に向けた加工法と劣化予防対策の実際を学ぶ

授業の到達目標

博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え，資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通じて，資料の保存に関する基礎的能力を養う

授業の概要

博物館等に所蔵の文化財資料について、その保存に関する科学的手法を学ぶとともに、実際の博物館における実態を学ぶことで文化財保存とその環境、博物館の役割について学ぶ

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

博物館を見学するとき、展示照明や空調、収蔵施設の位置といったものに注意することを心がける。

内　　容

第1回　資料保存の意義
第2回　文化財保存における国内外の状況①
第3回　文化財保存における国内外の状況②
第4回　資料の状態調査・現状把握
第5回　資料の修復・修理
第6回　資料の梱包と輸送1
第7回　資料の梱包と輸送2
第8回　博物館資料の保存環境事例1
第9回　博物館資料の保存環境事例2
第10回　学外授業①　博物館資料の保存環境事例3
第11回　地域文化資源の保存と活用事例1
第12回　地域文化資源の保存と活用事例2
第13回　学外授業②　地域文化資源の保存と活用事例3
第14回　環境保全と博物館
第15回　まとめ

履修上の注意点

授業中の参加度を重視する。

教科書

参考書

文化財の保存環境
著者:　東京文化財研究所編
出版社:　中央公論美術出版
出版年:　2011　　ISBN:　9784805506486

博物館学ハンドブック2
著者:　米田文孝他
出版社:　関西大学出版部
出版年:　2015　　ISBN:　9784873546162

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 40 ）	

授業中の参加度を重視する

2018 Syllabus

科 目 名　**博物館展示論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　木下　達文	

テーマ

展示メディアの理解と創造

授業の到達目標

展示という空間メディアには様々なものがあるが、中でも文化空間としての展示会やイベントなどを中心とし、それら空間を伴うメディアがどのようにして企画され作られているのかを基礎理論・歴史ならび手法等を含めて学ぶ。と同時に、可能な範囲で独自の展示企画を具体的に提案し実践する（1月予定）。

授業の概要

展示の歴史，展示メディア，展示による教育活動，展示の諸形態等に関する理論および方法に関する知識・技術を習得し、展示機能に関する基礎的能力を養うとともに、簡単な展示実践を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

身の回りにはさまざまな空間があり、何らかの意図をもって作られている。美術館や博物館などの文化的空間から、イベント・ショールームなどの商業的空間に至るまでの展示メディア表現に関心をもち社会を見つめてみる。

内　容

第1回　展示メディアとは（展示の概念）
展示を一つのコミュニケーションメディアとしてとらえ、その空間的時間的特性について考える。

第2回　展示の種類（形態）
展示には閉ざされた空間における小さいものから、インスタレーションのような環境展示というものもある。大まかな展示の種類を説明する。

第3回　展示および展示論の歴史
展示の世界は日本では1970年の大阪万博から開花していく、その後の展示の歴史と、展示学の流れについての概略を説明する。

第4回　展示の政治性と社会性
展示はその規模が大きくなればなるほど政治的特色が強くなる。とくに大型展示などを例にあげながら政治性・社会性について説明する。

第5回　展示のプロセス（企画・設計・製作等）
展示をつくるプロセスは映画制作とよく似ている。基本調査構想から製作までの一連の流れについて概説する。

第6回　展示の手法（展示技術）
展示は実物を使うケース展示から、1分の1実大再構成展示に至るまで様々である。そうした基本的な展示手法について説明する。

第7回　展示と研究
展示は固定的なものであり、嘘ができない。そのため時代考証など緻密な研究の裏付けが必要であり、また研究成果の場でもあることを説明する

第8回　展示と運営
展示は完成すれば終わりではない。そこから様々な運営サービス・管理が行われる。ここでは基本的な展示場での活動について説明する。

第9回　展示と解説
展示はコミュニケーションメディアであるから、その伝え方も多様である。パネルによる解説から機械・人による解説までの手法を説明する。

第10回　展示とその記録（図録、解説、資料等）
とくに仮設的な展示は、そのイベントが終了すると何も残らない。そこで、展示記録としての図録や解説などの資料について説明する。

第11回　特別講義
実際に展示を企画・設計・製作している人から、ある例を題材としながら具体的な展開とその問題点などについて考える。

第12回　展示の企画実践
これまでの学習をもとに自分たちでオリジナルな展示企画を考える。考えてものを企画資料としてまとめてみる。

第13回　展示の製作実践
企画で考えた展示について実際に簡単な製作を行う。自分たちなりにできる素材を集め、展示そのものをつくりあげてみる。

第14回　展示の運営実践
つくりあげた展示を利用者に提供する。運営管理を学びながら、教育プログラムやアンケートなどもとり、展示評価の素材としていく。

第15回　展示の評価と改善・更新
展示は実施して終わりではなく、いろんな場面でチェック（評価）をしていくことがつぎの改善に繋がる。実践例をもとに評価について考える。

履修上の注意点

※授業の内容によって多少変更をする場合もある。
※グループワークを主体として授業を進めるため、オリエンテーションを除き欠席は3回までとしているのと、後半は授業外の調整や制作作業（かなり大変です）などがあるため、良く考えて履修をすること。

ask402d450

教科書

参考書

展示学事典

著者: 日本展示学会編

出版社: ぎょうせい

出版年: 1996 ISBN:

イベント講座

著者: 日本イベント産業振興協会

出版社: 日本イベント産業振興協会

出版年: 2004 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ） 小テスト（ 0 ）

授業中課題（ 30 ） 授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 40 ）

グループワークを組み合わせた授業方法にて進めるのと、展示創造に必要な責任感の向上を図るため、出席点をかなり厳しくしている。また、後半の展示創造プログラムでは授業外での連絡調整や制作作業などがある。

2018 Syllabus

科 目 名　**博物館実習Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　五十川　伸矢.宇野　日出生	

テーマ

博物館資料の取り扱い方・研究のための資料化

授業の到達目標

実習Ⅰでは、考古資料の実測図や古文書の取り扱いを学ぶことを通じて、博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え，資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを目標とする。

授業の概要

考古資料の実測図・拓本・解説図の作成技術を身につける。また、古文書整理の技術習得をめざす。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　【事前指導1】実習に係る事前指導と、実測図と拓本の技術解説
第2回　実測図の意味と線画を描く基礎的練習
第3回　実測図の作成①
第4回　実測図の作成②
第5回　解説図の作成
第6回　拓本の作成
第7回　見学実習①　学外授業　博物館参観
第8回　【事後指導1】実習総括
第9回　【事前指導2】実習に係る事前指導と、古文書の扱い方
第10回　見学実習②　学外授業　博物館参観
第11回　古文書の解読と整理(冊子を中心に)
第12回　古文書の解読と整理(冊子を中心に)
第13回　古文書の解読と整理(状を中心に)
第14回　古文書の解読と整理(状を中心に)
第15回　【事後指導2】実習総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**博物館実習Ⅰ <b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　五十川　伸矢.宇野　日出生	

テーマ

博物館資料の取り扱い方・研究のための資料化

授業の到達目標

実習Ⅰでは、考古資料の実測図や古文書の取り扱いを学ぶことを通じて、博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え，資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを目標とする。

授業の概要

考古資料の実測図・拓本・解説図の作成技術を身につける。また、古文書整理の技術習得をめざす。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　【事前指導1】実習に係る事前指導と、実測図と拓本の技術解説
第2回　実測図の意味と線画を描く基礎的練習
第3回　実測図の作成①
第4回　実測図の作成②
第5回　解説図の作成
第6回　拓本の作成
第7回　見学実習①　学外授業　博物館参観
第8回　【事後指導1】実習総括
第9回　【事前指導2】実習に係る事前指導と、古文書の扱い方
第10回　見学実習②　学外授業　博物館参観
第11回　古文書の解読と整理(冊子を中心に)
第12回　古文書の解読と整理(冊子を中心に)
第13回　古文書の解読と整理(状を中心に)
第14回　古文書の解読と整理(状を中心に)
第15回　事後指導2】実習総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**博物館実習Ⅱ <a>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一瀬　和夫.戸花　亜利州.宮本　純二	

テーマ

博物館における資料の取り扱いと展示開発とともに借用、梱包、輸送の技術

授業の到達目標

実習Ⅱでは、資料台帳カード作成と展示・体験学習のﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞを行う。さらに、これらの作業を通して博物館業務の多様性を理解する。既存の博物館の資料台帳カード、要覧、図録、ホームページなどを参考に作業を進める。また、博物館における美術工芸品の取り扱い方法と調査方法を中心に講義を進め、学芸員に求められる知識と技術の修得を目指す。

授業の概要

講義形式で進めながら適宜資料を用いる。また、撮影の基礎(中判カメラの使用方法やライティング等)についても講義する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　【事前指導1】実習に係る事前指導、取り扱い資料に関する概説(民俗資料・美術工芸資料)
第2回　民俗資料台帳カード作成(資料情報記入、写真撮影)
第3回　民俗資料台帳カード作成(資料情報記入、画像処理)
第4回　見学実習①　学外授業　博物館参観
第5回　民俗資料展示・体験学習の原案検討
第6回　民俗資料展示企画書作成、展示場平面図作成
第7回　体験学習企画書作成
第8回　【事後指導1】実習総括
第9回　【事前指導2】実習に係る事前指導、展示環境の基礎
第10回　美術工芸資料（軸装、巻子・折本・冊子）の取り扱い
第11回　美術工芸資料（彫刻）の取り扱い
第12回　見学実習②　学外授業　博物館参観
第13回　撮影の基礎、中判カメラを用いた撮影
第14回　美術品の梱包、展示・図録編集作業
第15回　【事後指導2】実習総括

履修上の注意点

※この授業では、必要に応じて学外授業を行います。

教科書

参考書

博物館学ハンドブック2
著者:　米田文孝他
出版社:　関西大学出版部
出版年:　2015　　ISBN:　9784873546162

博物館学ハンドブック3
著者:　米田文孝他
出版社:　関西大学出版部
出版年:　2017　　ISBN:　9784873546490

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）	

授業への参加度を重視

2018 Syllabus

科 目 名　**博物館実習Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一瀬　和夫.戸花　亜利州.宮本　純二	

テーマ

博物館における資料の取り扱いと展示開発とともに借用、梱包、輸送の技術

授業の到達目標

実習Ⅱでは、資料台帳カード作成と展示・体験学習のﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞを行う。さらに、これらの作業を通して博物館業務の多様性を理解する。既存の博物館の資料台帳カード、要覧、図録、ホームページなどを参考に作業を進める。また、博物館における美術工芸品の取り扱い方法と調査方法を中心に講義を進め、学芸員に求められる知識と技術の修得を目指す。

授業の概要

講義形式で進めながら適宜資料を用いる。また、撮影の基礎(中判カメラの使用方法やライティング等)についても講義する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　【事前指導1】実習に係る事前指導、取り扱い資料に関する概説(民俗資料・美術工芸資料)
第2回　民俗資料台帳カード作成(資料情報記入、写真撮影)
第3回　民俗資料台帳カード作成(資料情報記入、画像処理)
第4回　見学実習①　学外授業　博物館参観
第5回　民俗資料展示・体験学習の原案検討
第6回　民俗資料展示企画書作成、展示場平面図作成
第7回　体験学習企画書作成
第8回　【事後指導1】実習総括
第9回　【事前指導2】実習に係る事前指導、展示環境の基礎
第10回　美術工芸資料（軸装、巻子・折本・冊子）の取り扱い
第11回　美術工芸資料（彫刻）の取り扱い
第12回　見学実習②　学外授業　博物館参観
第13回　撮影の基礎、中判カメラを用いた撮影
第14回　美術品の梱包、展示・図録編集作業
第15回　【事後指導2】実習総括

履修上の注意点

※この授業では、必要に応じて学外授業を行います。

教科書

参考書

博物館学ハンドブック2
著者:　米田文孝他
出版社:　関西大学出版部
出版年:　2015　　ISBN:　9784873546162

博物館学ハンドブック3
著者:　米田文孝他
出版社:　関西大学出版部
出版年:　2017　　ISBN:　9784873546490

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）
授業への参加度を重視

2018 Syllabus

科 目 名　**博物館実習Ⅲ <a>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　一瀬　和夫.田井中　洋介.髙木　叙子.山下　立.吉田　秀則	

テーマ

博物館学芸員としての共通の基礎的技術を身につける。

授業の到達目標

博物館学芸員としての自覚と共通の基礎的技術を身につける。とくにどのような博物館においても、二次資料としての写真、レプリカ、出版物(編集物)などは日常的に用いられるものであるため、それらの基本的な知識を学ぶとともに、小さな展示会をつうじて実際の制作を行うことで、理解を深めることを目標とする。
また、博物館の現場における実務を経験すること(館園実習)によって、博物館への理解をよりいっそう深める。

授業の概要

現在、博物館の種類は多様化しているが、学内における実習によって、共通して学芸員が身につけていなければならない基礎的技術(おもに二次資料の制作と利用)を習得する。同時に博物館の現場における実務を経験することによって、博物館への理解を深める。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

実務実習に入るまでに博物館たくさん見学をして、学芸員の日常業務を理解する努力をしてほしい。
また、外にでるため、さまざまな社会人としての素養を身につけておくことが望ましい。

内　容

第1回　写真機(カメラ)の構造
博物館で使用される写真機には多様なものがあり、その種類と基本的な構造について、テキストと実物を用いて説明する。

第2回　博物館における資料撮影について
博物館における撮影は、いわゆる芸術作品とは全く異なり、正確に資料を映し出す必要がある。図録などを用いてその意味を体験的に説明する。

第3回　写真機の取り扱い
ブローニカメラを用いて、グループ毎に実習用カメラの操作方法について体験的に学ぶ。ここではあくまでシミュレーションを中心に行う。

第4回　写真展の考え方
撮影する対象を考える。具体的な写真展を行うという設定で、自分たちの撮影モチーフ(資料)の設定と、展示展開を考える。

第5回　資料撮影の実際(1)
撮影モチーフをもちより、1人ひとり資料撮影を行う。とくに被写界深度を考え、絞りとの関係が理解できることを念頭において撮影指導する。

第6回　資料撮影の実際(2)
1回目できちんと撮影するのは難しいため、何度か撮影を繰り返したり、モチーフを変更することで、より質の高い撮影法の習得を指導する。

第7回　写真パネルの制作(1)
撮影した写真の現像を行い、グループ毎に以前決めたシナリオ毎に展開を考えながら、主となる写真のパネルをボードなどを利用し作成指導する。

第8回　写真パネルの制作(2)
写真パネルと同時に、その写真に付属する解説キャンプションボードや関連資料などの制作全てを行い、展示制作へとつなげていく。

第9回　図録編集の実務(1)
博物館では図録をはじめとする多種多様な出版物・印刷物の編集を行っている。ここでは、印刷までの流れについて実物を用いて体験的に説明する。

第10回　図録編集の実務(2)
編集の最終段階である「校正作業」について、校正記号の説明とともに、それらを使用して実際の編集物の校正を体験的に指導する。

第11回　レプリカ資料の制作(1)
博物館においては、写真とともにレプリカ(複製資料)も多く取り扱う。
ここでは、レプリカの意味と利用を知り、型どりを指導する。

第12回　レプリカ資料の制作(2)
ここでは、自然資料や歴史資料など、様々な型を利用してFRPのレプリカをまず成形する。その後、見本サンプルをもとに着色までを指導する。

第13回　写真展示の実際(1)
自らが撮影した写真を一定の展示ストーリーにしたがって動線・配色・レイアウト・分かりやすさなどを考慮し、完成させる。

第14回　写真展示の実際(2)
写真を設置するのみならず、多様な利用者サービスを考える。写真撮影の目的やモチーフの解説資料作成や人による解説などをも行う。

第15回　バリエーション(自己評価・他者評価)
自分たちが制作した写真や展示について、自己評価と他者評価のワークショップを通じて、今後の改善に向けた視点を学び取れるよう指導する。

ask404d110

第16回 【実習直前ガイダンス】
実習者の心得、大学側・実習館側との連絡、実習後のレポート、実習館との連絡と挨拶訪問、事前学修その他の指導
第17回 （各実習館でのスケジュールに準じる）
第18回 （各実習館でのスケジュールに準じる）
第19回 （各実習館でのスケジュールに準じる）
第20回 （各実習館でのスケジュールに準じる）
第21回 （各実習館でのスケジュールに準じる）
第22回 【事後指導】レポートの提出・実習まとめ

履修上の注意点

※授業の内容によって多少変更をする場合もある。
※レプリカ実習はレプリカ会社の都合により土曜日に行う（日程は早めに連絡する）。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）
小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 30 ）
授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）
特に出席を重視する

2018 Syllabus

科 目 名　**博物館実習Ⅲ <b>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　一瀬　和夫.田井中　洋介.髙木　叙子.山下　立.吉田　秀則	

テーマ

博物館学芸員としての共通の基礎的技術を身につける。

授業の到達目標

博物館学芸員としての自覚と共通の基礎的技術を身につける。とくにどのような博物館においても、二次資料としての写真、レプリカ、出版物（編集物）などは日常的に用いられるものであるため、それらの基本的な知識を学ぶとともに、小さな展示会をつうじて実際の制作を行うことで、理解を深めることを目標とする。
また、博物館の現場における実務を経験すること（館園実習）によって、博物館への理解をよりいっそう深める。

授業の概要

現在、博物館の種類は多様化しているが、学内における実習によって、共通して学芸員が身につけていなければならない基礎的技術（おもに二次資料の制作と利用）を習得する。同時に博物館の現場における実務を経験することによって、博物館への理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

実務実習に入るまでに博物館たくさん見学をして、学芸員の日常業務を理解する努力をしてほしい。
また、外にでるため、さまざまな社会人としての素養を身につけておくことが望ましい。

内　容

第1回　写真機（カメラ）の構造
博物館で使用される写真機には多様なものがあり、その種類と基本的な構造について、テキストと実物を用いて説明する。

第2回　博物館における資料撮影について
博物館における撮影は、いわゆる芸術作品とは全く異なり、正確に資料を映し出す必要がある。図録などを用いてその意味を体験的に説明する。

第3回　写真機の取り扱い
ブローニカメラを用いて、グループ毎に実習用カメラの操作方法について体験的に学ぶ。ここではあくまでシミュレーションを中心に行う。

第4回　写真展の考え方
撮影する対象を考える。具体的な写真展を行うという設定で、自分たちの撮影モチーフ（資料）の設定と、展示展開を考える。

第5回　資料撮影の実際（1）
撮影モチーフをもちより、1人ひとり資料撮影を行う。とくに被写界深度を考え、絞りとの関係が理解できることを念頭において撮影指導する。

第6回　資料撮影の実際（2）
1回目できちんと撮影するのは難しいため、何度か撮影を繰り返したり、モチーフを変更することで、より質の高い撮影法の習得を指導する。

第7回　写真パネルの制作（1）
撮影した写真の現像を行い、グループ毎に以前決めたシナリオ毎に展開を考えながら、主となる写真のパネルをボードなどを利用し作成指導する。

第8回　写真パネルの制作（2）
写真パネルと同時に、その写真に付属する解説キャンプションボードや関連資料などの制作全てを行い、展示制作へとつなげていく。

第9回　図録編集の実務（1）
博物館では図録をはじめとする多種多様な出版物・印刷物の編集を行っている。ここでは、印刷までの流れについて実物を用いて体験的に説明する。

第10回　図録編集の実務（2）
編集の最終段階である「校正作業」について、校正記号の説明とともに、それらを使用して実際の編集物の校正を体験的に指導する。

第11回　レプリカ資料の制作（1）
博物館においては、写真とともにレプリカ（複製資料）も多く取り扱う。
ここでは、レプリカの意味と利用を知り、型どりを指導する。

第12回　レプリカ資料の制作（2）
ここでは、自然資料や歴史資料など、様々な型を利用してFRPのレプリカをまず成形する。その後、見本サンプルをもとに着色までを指導する。

第13回　写真展示の実際（1）
自らが撮影した写真を一定の展示ストーリーにしたがって動線・配色・レイアウト・分かりやすさなどを考慮し、完成させる。

第14回　写真展示の実際（2）
写真を設置するのみならず、多様な利用者サービスを考える。写真撮影の目的やモチーフの解説資料作成や人による解説などをも行う。

第15回　バリエーション（自己評価・他者評価）
自分たちが制作した写真や展示について、自己評価と他者評価のワークショップを通じて、今後の改善に向けた視点を学び取れるよう指導する。

ask404d112

第16回 【実習直前ガイダンス】
実習者の心得、大学側・実習館側との連絡、実習後のレポート、実習館との連絡と挨拶訪問、事前学修その他の指導
第17回 （各実習館でのスケジュールに準じる）
第18回 （各実習館でのスケジュールに準じる）
第19回 （各実習館でのスケジュールに準じる）
第20回 （各実習館でのスケジュールに準じる）
第21回 （各実習館でのスケジュールに準じる）
第22回 【事後指導】レポートの提出・実習まとめ

履修上の注意点

※授業の内容によって多少変更をする場合もある。
※レプリカ実習はレプリカ会社の都合により土曜日に行う（日程は早めに連絡する）。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 0 ）
小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 30 ）
授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）
特に出席を重視する

2018 Syllabus

科 目 名　**生涯学習概論Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　秋期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉岡 いずみ	

テーマ

日本と世界の生涯学習

授業の到達目標

生涯学習を世界史的視野からとらえ、共通する現代的課題の国際的動向を把握する。

授業の概要

講義を主とするが、コメントシートを活用し意見交流を行う。配布プリントとVTRを教材とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中配布・紹介した文献を読み、世界の動向や教育改革の動きについて敏感になる。

内　容

第1回　ハンブルク宣言の意味するもの
第2回　イギリスにおける大学拡張
第3回　成人教育の成立と現在
第4回　ドイツにおける民衆大学
第5回　市民大学の現在
第6回　有給教育休暇の理念と制度
第7回　職業資格と生涯学習
第8回　社会的教育学の成立と青少年教育
第9回　少子高齢社会と生涯学習
第10回　多文化共生と生涯学習
第11回　世界と日本の環境・まちづくり学習
第12回　エコミュージアムと市民の学習
第13回　アジアの生涯学習 中国
第14回　アジアの生涯学習　韓国
第15回　まとめ　可能であれば学外授業を予定

履修上の注意点

高校の世界史教科書の近代以降を自習しておくこと。授業中のディスカッションに積極的に参加すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

世界の大学危機
著者:　潮木守一
出版社:　中央公論新社
出版年:　2004　　ISBN:　4-12-101764-1

現代世界の生涯学習
著者:　新海英行／牧野篤
出版社:　大学教育出版
出版年:　2002　　ISBN:　4-88730-477-3

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50% ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 50% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**社会教育計画 I**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　猿山　隆子	

テーマ

おとなの学習者の理解と学習支援

授業の到達目標

・成人の学習者の特性について理解を深める。
・成人の成長・発達の可能性を生涯学習の観点から検討することができる。
・成人の特性を活かした学習援助について理解を深める。

授業の概要

社会教育の主な担い手となるのは成人であろう。この授業では、社会教育計画策定の前提として、成人の学習者を理解するという観点から、生涯発達に関する理論を概観したうえで、成人の学習者としての特徴を踏まえた学習援助について検討する。講義を主とするが、コメントシートや授業内の作業を通じて交流を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中に随時資料を配布するので目を通すこと。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　おとなの学びとは？
第3回　ライフサイクルと生涯学習（1）生涯発達論と生涯学習
第4回　ライフサイクルと生涯学習（2）各期における学習の具体的場面
第5回　生涯学習の学習論（1）アンドラゴジー論
第6回　生涯学習の学習論（2）「自己主導型学習」
第7回　生涯学習の学習論（3）高齢社会を捉えた学習論
第8回　生涯学習の学習論（4）解放という発想
第9回　学習支援者の役割と学習方法
第10回　まちづくりと生涯学習
第11回　高齢社会に対応した生涯学習
第12回　おとなのボランティア活動と学び
第13回　生涯学習における評価と学習の成果の活用
第14回　課題発表とディスカッション
第15回　講義のまとめ

履修上の注意点

・コメントシートの記入・提出を求める。
・テーマを設定してディスカッションや課題発表を行う予定である。
・受講生の人数や授業の進行具合により、計画内容を調整する場合がある。

教科書

使用しない

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業で指示

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**社会教育計画Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　猿山　隆子	

テーマ

社会とつながる学び――地域づくりと生涯学習

授業の到達目標

・地域に根ざしたさまざまな学びについて理解を深める。
・生涯学習社会における現代の学校教育の役割について考えることができる。
・自らの学びの経験に照らし合わせながら学習といういとなみについて検討・吟味することができる。

授業の概要

人びとの学習は、取り巻く社会との関係を抜きに語ることはできない。社会の変化が学習に影響し、人びとは学習を通して社会とつながるといえる。また、地域や社会の変化は、子ども・若者の学習にも大きな影響を及ぼしている。この授業は、社会教育計画策定の前提として、地域に根ざす学びとはどのようなものかを検討するとともに、まちづくりや社会教育の視点で学校教育の新たな可能性を考える。
講義を主とするが、コメントシートや授業内の作業を通じて交流を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・必要に応じて随時資料を配布するので目を通すこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　地域という空間の意味――あなたと地域の関わり(1)
第3回　地域という空間の意味――あなたと地域の関わり(2)
第4回　学習社会における子ども・若者の学び(1)地域団体を育てる生涯学習思想
第5回　学習社会における子ども・若者の学び(2)こどものまち
第6回　地域に根ざした現代的課題の学習
第7回　地域に学ぶこと・地域に生きること
第8回　学校教育と社会教育の協働活動
第9回　学校教育とボランティア活動
第10回　生涯学習支援としての大学開放
第11回　補償としての生涯教育
第12回　生涯学習時代の学校教育の現代的意味
第13回　課題発表・ディスカッション
第14回　課題発表・ディスカッション
第15回　講義のまとめ

履修上の注意点

・コメントシートの記入・提出を求める。
・テーマを設定してディスカッションや課題発表を行う予定である。
・受講生の人数や授業の進行具合により、計画内容を調整する場合がある。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業で指示
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**社会教育演習**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　猿山　隆子	

テーマ

生涯学習支援のための多様な学習方法

授業の到達目標

・社会教育で用いられることの多い学習方法について理解を深めることができる。
・実際に特定の学習方法を用いた「講座」を計画・実施することで、さまざまな配慮点について理解を深めることができる。
・上記の作業を通じて、社会教育の特質や課題について理解を深めることができる。
・生涯学習・社会教育に関する方法や実践、および支援の課題について関心と意欲をもって意見を述べることができる。

授業の概要

生涯学習・社会教育では、一般的に、受講生が講師の話を聞くという講義形式で知識を習得することだけでなく、グループワークやフィールドワークといった「参加」や「体験」を重視した方法で、既成の概念を脱ぎ捨てたり、学んだことを発信するなど多種多様な学習方法が用いられている。この授業では、そうした多様な学習の方法論を検討する。前半は、教員主導で、実際にいくつかの学習方法を実践し、後半は、受講生主導の下、実際にさまざまな学習方法を用いた「講座」を計画・実施する予定である。そのなかで、社会教育の学習場面における各方法の有効性や限界、社会教育そのものの特質について考える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・課題に関しては必ず調べること。
・発表に関しては詳細にシミュレーションを行い、発表の準備をすること。
・機会をみつけて、社会教育施設に実際に足を運ぶことが望まれる。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　アイスブレイクとグループ分け
第3回　わたしと「学び」――これまで経験してきた「学び」のスタイルを振り返る（1）
第4回　わたしと「学び」――これまで経験してきた「学び」のスタイルを振り返る（2）
第5回　生涯学習の多様な学習方法
第6回　社会教育における評価の意味
第7回　さまざまな学習方法を試してみよう（1）
第8回　さまざまな学習方法を試してみよう（2）
第9回　さまざまな学習方法を試してみよう（3）
第10回　さまざまな学習方法を試してみよう（4）
第11回　受講生による「講座」の計画・実施、ディスカッション
第12回　受講生による「講座」の計画・実施、ディスカッション
第13回　受講生による「講座」の計画・実施、ディスカッション
第14回　受講生による「講座」の計画・実施、ディスカッション
第15回　受講生による発表の講評とまとめ

履修上の注意点

・グループワーク、課題発表・討論を行うため、積極的に参加することが原則。
・コメントシートの記入・提出を求めることがある。
・受講生の人数や授業の進行具合により、計画内容を調整する場合がある。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（30）	授業中発表等（30）
参加度（40）	

2018 Syllabus

科 目 名　**社会教育課題研究**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　猿山　隆子	

テーマ

生涯学習の支援方策――学習プログラムをデザインする

授業の到達目標

・地域社会の特性や課題、教育関連の基本方針に目を向けることができる。
・学習プログラム（個別事業計画）の作成手順や留意点について理解を深めることができる。
・上記を通じて、社会教育主事の役割や専門性についての理解を深めることができる。

授業の概要

社会教育主事とは社会教育の専門職であり、地域住民の学習を支援する役割を担う。この授業では、特定地域の社会教育主事になったという設定で、学習プログラム（個別事業計画）を作成し、発表してもらう予定である。当該地域の幅広い情報を収集し、それらを分析・整理しながら、事業を計画するという実践的プログラムの中で、社会教育主事の役割や専門性についての理解を深める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・課題に関しては必ず調べること。
・発表に関しては詳細にシミュレーションを行い、発表の準備をすること。
・機会をみつけて、社会教育施設に実際に足を運ぶことが望まれる。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　アイスブレイク、グループ分け
第3回　・社会教育計画とは？
　　・学習プログラムを企画・立案する対象地域の設定（1）
第4回　・学習プログラムの仕組みと構造
　　・学習プログラムを企画・立案する対象地域の設定（2）
第5回　・さまざまな学習課題・学習内容――学んでいる内容/学びたい内容/学ぶべき内容
　　・対象地域における情報の収集・整理、特性や現状の分析（1）
第6回　・現代社会における学習課題
　　・対象地域における情報の収集・整理、特性や現状の分析（2）
第7回　・対象地域の教育・学習に関する情報の収集・整理、特性や課題の分析（1）
第8回　・対象地域の教育・学習に関する情報の収集・整理、特性や課題の分析（2）
第9回　・対象地域で行う学習プログラム（個別事業計画）の作成――新たな講座を企画し、チラシを作成しよう（1）
第10回　・対象地域で行う学習プログラム（個別事業計画）の作成――新たな講座を企画し、チラシを作成しよう（2）
第11回　・課題発表とディスカッション
第12回　・課題発表とディスカッション
第13回　・課題発表とディスカッション
第14回　・課題発表とディスカッション
第15回　・課題発表の講評、講義のまとめ

履修上の注意点

・グループワークとそれにもとづく発表・討論を行うため、積極的に参加することが原則。
・受講生の人数や授業の進行具合により、計画内容を調整する場合がある。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業で指示
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

ask602d450

授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語教授法 I**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　100
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中川　裕子	

テーマ

日本語教育概論

授業の到達目標

日本語教育を理解する上で必要な基礎知識を身につける。

授業の概要

日本語教育の現状、日本語教育の歴史、外国語教授法、日本語教育の内容、言語の習得を主に扱う。授業は、基本的に講義形式であるが、内容によっては、課題を与え、発表(もしくは提出)を課す。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

日本語教育関係の文献を数多く読む。日本語教育関係のみならず、文化、日常社会生活に関する様々なものに多く接する。異文化理解に関する文献や、メディアからの情報に接する。日本語学習者との交流の機会に積極的に参加する。

内　　容

第1回　日本語教育の現状
第2回　日本語教育現場の実際と日本語教育に従事する人々の役割
第3回　日本語教育の歴史①
第4回　日本語教育の歴史②
第5回　日本語教育の歴史③
第6回　外国語教授法①(文法訳読法、直接法)
第7回　外国語教授法②(オーディオリンガルメソッド)
第8回　外国語教授法③(コミュニカティブアプローチ他)
第9回　日本語教育の内容①(初級で扱う文型)
第10回　日本語教育の内容②(入門期の発音指導)
第11回　日本語教育の内容③(入門期の文字、語彙の指導範囲とその方法)
第12回　日本語教育の内容④(指導の手順、指導の流れ)
第13回　日本語教育の内容⑤(指導準備、指導内容の知識の整理)
第14回　日本語教育の内容⑥(指導案作成～実践へ)、言語の習得
第15回　まとめ

履修上の注意点

三分の二以上の出席が原則。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

新・はじめての日本語教育　基本用語事典
著者:　高見澤孟監修
出版社:　アスク
出版年:　2004　　ISBN:

成績評価

試験・レポート　(30%)　　小テスト　(10%)
授業中課題　(30%)　　授業中発表等　(20%)
参加度　(10%)

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語教授法Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　100
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中川　裕子	

テーマ

日本語教育概論

授業の到達目標

日本語教育の現場で必要となる、基礎知識を身につける。

授業の概要

コースデザイン、ニーズ分析、シラバスデザイン、教材選択の基礎知識(種類、特徴)、日本語指導の方法、日本語指導の内容、評価法、異文化理解と日本事情を主に扱う。授業は、基本的に講義形式であるが、内容によっては、課題を与え、発表(もしくは提出)を課す。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

日本語教育関係の文献を数多く読む。基本的な用語を理解する。外国語教授法に関する文献を数多く読む。日本語学習者との交流の機会に積極的に参加する。提出物の一つである課題ノート(日本語指導の方法に関する)に取り組む。

内　　容

第1回　コースデザイン、ニーズ分析、シラバスデザイン
第2回　教材論①(教材の種類と特徴―初級、中級、上級)
第3回　教材論②(教材の種類と特徴―技能別、学習者別)
第4回　教材論③(視聴覚教材、絵教材作成練習、教具の使用法)
第5回　日本語指導の内容①(初級の指導内容)
第6回　日本語指導の内容②(指導のプロセスと指導案)
第7回　日本語指導の内容③(練習方法の種類とその具体的指導方法)
第8回　日本語指導の内容④(初級後半の指導内容の分析と具体的指導方法)
第9回　日本語指導の内容⑤(初級後半の指導内容の分析と具体的指導方法)
第10回　日本語指導の内容⑥(中級の会話指導)
第11回　日本語指導の内容⑦(中級の文型指導、作文指導)
第12回　日本語指導の内容⑧(中級～上級の読解指導、教材作成)
第13回　日本語指導の内容⑨(異文化理解と日本事情)
第14回　評価法
第15回　まとめ

履修上の注意点

三分の二以上の出席が原則。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

新・はじめての日本語教育　基本用語事典
著者:　高見澤孟監修
出版社:　アスク
出版年:　2004　　ISBN:

日本語の教え方ABC
著者:　寺田和子他
出版社:　アルク
出版年:　2001　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 30% ）	小テスト（ 10% ）
授業中課題（ 30% ）	授業中発表等（ 20% ）
参加度（ 10% ）	

ask702d650

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語教授法Ⅲ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐野　裕子	

テーマ

初級レベル（主に初級前期）の授業を想定し、実際に指導するための基礎的な技術を学ぶ。

授業の到達目標

これまで「日本語教授法Ⅰ」「日本語教授法Ⅱ」において学んだ日本語教育の基礎技術を応用し、英語などの媒介語を使用しない直接法で初級レベルの授業が行えるようになることを目標とする。

授業の概要

初級レベル（主に初級前期）の授業を想定し、実際に指導するための基礎的な技術を学ぶ。具体的には、模擬授業を通して、受講生同士コメントを加え、日本語初級文型の導入の仕方を学ぶ。授業は講義形式ではなく、毎回1～2名の学生が自分の担当する課の学習項目についての模擬授業を行い、その内容についてクラス全体でフィードバックする。その際各自の模擬授業は録画し、授業後はその映像を元に教案や教材を修正し、翌々週それらを担当教員に再提出する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習として、指導書や文型に関する書籍を自主的に調べるように心がけること。「日本語教授法Ⅰ」「同Ⅱ」や「日本語概説」など、関連科目で学んだ項目を再確認すること。復習としては、授業時の模擬授業へのフィードバック、ならびに録画DVDを見て、自分で自身の課題点を見いだすこと。
その他、自分が担当しない課でも、必ず文型の意味や導入、応用練習を考えること。日頃から留学生と接し、なるべく多くの時間を外国人と共有することを心掛けるように。特に本学に交換留学で来ている留学生とは、交流に勤めることを推奨する。特に日本語教員を志望する学生は、地域の日本語教室などへの見学や参加などを自主的に行うこと。

内　容

第1回　ガイダンス・授業方針・評価方法説明・模擬授業の担当課の決定
第2回　初級指導概説（初級の学習目標と指導の流れ）
第3回　初級指導概説（文型の定着方法と教案の作り方）
第4回　模擬授業1（みんなの日本語初級Ⅰ　1課と2課前半）
第5回　模擬授業2（みんなの日本語初級Ⅰ　2課後半と3課）
第6回　模擬授業3（みんなの日本語初級Ⅰ　4課と5課前半）
第7回　模擬授業3（みんなの日本語初級Ⅰ　4課と5課前半）
第8回　模擬授業5（みんなの日本語初級Ⅰ　7課と8課前半）
第9回　模擬授業1～5の振り返り
第10回　模擬授業6（みんなの日本語初級Ⅰ　8課後半と9課）
第11回　模擬授業7（みんなの日本語初級Ⅰ　10課と11課前半）
第12回　模擬授業8（みんなの日本語初級Ⅰ　11課後半と12課）
第13回　模擬授業9（みんなの日本語初級Ⅰ　13課と14課前半）
第14回　模擬授業10（みんなの日本語初級Ⅰ　14課後半と15課）
第15回　模擬授業6～10の振り返り、まとめ

履修上の注意点

「日本語教授法Ⅰ」「日本語教授法Ⅱ」を履修済みまたは今年度履修登録しており、かつ日本語教員養成に関する科目（日本語学概説など）をいくつか履修済みまたは登録している、文学部日本語日本文学科の学生を主な対象としている。
＊単なる卒業単位取得のための履修は認めない。基本的に「日本語教授法Ⅲ」以外の日本語教員養成に関する科目を履修しない学生に対しては、事前相談なしに履修を認めないので、登録前に担当教員と相談すること。

教科書

みんなの日本語初級Ⅰ第2版　本冊
著者:　スリーエーネットワーク
出版社:　スリーエーネットワーク
出版年:　2012　　ISBN:　9784883196036

参考書

授業時適宜紹介
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 25 ）　　小テスト（ 0 ）

ask703d110

授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 40 ）

参加度 （ 15 ）

出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。また、模擬授業の改善教案やフィードバックシートを提出しない場合も、成績評価の対象としない。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語教授法Ⅳ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐野　裕子	

テーマ

初級後期・初中級レベルの授業を想定し、実際に指導するための基礎的な技術を学ぶ。4回生時の「日本語教育実習」に備え、初中級～中級レベルの授業の内容・方法についての概要を学ぶ。

授業の到達目標

これまで学んだ日本語教育の基礎技術を応用し、初級後期・初中級レベルの授業が行えるようになることを目標とする。

授業の概要

授業は講義形式ではなく、毎回毎回1～2名の学生が自分の担当する課の学習項目についての模擬授業を行い、その内容についてクラス全体でフィードバックする。その際各自の模擬授業は録画し、授業後はその映像を元に教案や教材を修正し、翌々週それらを担当教員に再提出する。
また、大阪大学日本語日本文化教育センター（大阪大学CJLC）での授業見学に、11月の各自の都合の良い日に参加する。
さらに、次年度の「日本語教育実習」の模擬授業に備え、4回生の海外日本語教育実習で実施する模擬授業の練習を見学、また初中級・中級レベルの教材にあたることで、初中級・中級レベルの授業の具体的な内容・方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習として、指導書や文型に関する書籍を自主的に調べるように心がけること。「日本語教授法Ⅰ～Ⅲ」や「日本語概説」など、関連科目で学んだ項目を再確認すること。復習としては、授業時の模擬授業へのフィードバック、ならびに録画DVDを見て、自分で自身の課題点を見いだすこと。
その他、自分が担当しない課でも、必ず文型の意味や導入、応用練習を考えること。日頃から留学生と接し、なるべく多くの時間を外国人と共有することを心掛けるように。特に本学に交換留学で来ている留学生とは、交流に勤めることを推奨する。特に日本語教員を志望する学生は、地域の日本語教室などへの見学や参加などを自主的に行うこと。

内　容

第1回　ガイダンス・授業方針・評価方法説明・模擬授業の担当課決定
第2回　前期模擬授業の反省点と課題
第3回　大阪大学CJLC授業見学のガイダンス（予定）
第4回　4回生海外教育実習の練習見学1
第5回　4回生海外教育実習の練習見学2
第6回　中級授業概説1
第7回　中級授業概説2
第8回　初中級授業概説
第9回　模擬授業1（みんなの日本語初級Ⅱ 26課と27課と28課）
第10回　模擬授業2（みんなの日本語初級Ⅱ 29課と30課前半と30課後半）
第11回　模擬授業3（みんなの日本語初級Ⅱ 31課と32課と33課前半）
第12回　模擬授業4（みんなの日本語初級Ⅱ 33課後半と34課と35課前半）
第13回　模擬授業5（みんなの日本語初級Ⅱ 35課後半と36課と37課）
第14回　模擬授業6（みんなの日本語初級Ⅱ 38課と39課前半と39課後半）
第15回　学期末レポート提出／教育実習報告会（予定）

履修上の注意点

「日本語教授法Ⅰ」「日本語教授法Ⅱ」「日本語教授法Ⅲ」を履修済みまたは今年度履修登録しており、かつ日本語教員養成に関する科目(日本語学概説など)をいくつか履修済みまたは登録している、文学部日本語日本文学科の学生を主な対象としている。
＊単なる卒業単位取得のための履修は認めない。基本的に「日本語教授法Ⅳ」以外の日本語教員養成に関する科目を履修しない学生に対しては、事前相談なしに履修を認めないので、登録前に担当教員と相談すること。

教科書

みんなの日本語初級Ⅱ第2版本冊
著者:　スリーエーネットワーク
出版社:　スリーエーネットワーク
出版年:　2013　　ISBN:　9784883196463

参考書

授業時に適宜紹介
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

ask703d250

成績評価

試験・レポート（ 25 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度 （ 15 ）	

出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。また、模擬授業の改善教案やフィードバックシート、大阪大学CJLC授業見学レポートや学期末レポートを提出しない場合も、成績評価の対象としない。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語教材研究**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　夏期集中	定　　員　50
履修条件　日本語教授法Ⅰ～Ⅳ履修済みであること	クラス指定
担 当 者　佐野　裕子	

テーマ

日本語教育の様々な教材を分析し、学習レベルや学習目的による教材の特徴や違いを学ぶ。4技能ならびに他技能統合型授業の方法を習得する。

授業の到達目標

日本語の初級教材、中上級教材、初中級教材を分析し、各教材のレベルの相違点や扱われる内容の違いを理解する。また、年代の異なる教材を分析し、年代による日本語教授観、教材内容変化を把握する。最後に、4技能ならびに他技能統合型授業の方法を習得する。

授業の概要

授業は集中講義の形式で、8月上旬に実施する。本科目の授業内容は大きく3つに分かれる。まず、教材分析の方法を扱う回では、日本語教授における初級～上級までの各レベルの相違を確認する。次に、初級・中上級・初中級の各レベルの教材の分析を行う回では、各回前半にグループによる教材分析の発表、後半に各レベルおよび技能での大まかな授業の流れについての講義を行う。最後に、教材作成に関する回では、各自参加する教育実習で行う模擬授業を対象として、教材教案の作成を行ってもらう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

受講の前提として、以下の2点を提示する。
まず、大阪大学CJLCでの授業見学（6月実施予定）に必ず参加し、見学レポートを7月中に提出すること。したがって、授業見学ガイダンス（4月か5月実施予定）には必ず出席すること。
次に、前期中に1ヶ月に1度行う、初級～初中級の模擬授業に参加し、必ず2回自身の回を担当すること。この模擬授業については、受講生に対し日程調整を行うので、指導教員からの連絡には注意すること。これら2点は本科目ならびに「日本語教育実習」に対する予習であり、本科目の単位認定の条件でもある。
また、予習ならびに復習として、自分が担当しない教材についても、必ず教材研究を行うことが望ましい。

内　容

第15回　教材作成実習（教育実習用教材の作成）4
第1回　ガイダンス　授業方針・評価方法説明・担当教材の決定
第2回　教材分析の方法1（学習段階と到達目標）
第3回　教材分析の方法2（教材分析の観点）
第4回　初級教材（『日本語初歩』『初級日本語　げんき』）の分析・発表・討論1
第5回　初級教材（『新文化初級日本語』『みんなの日本語初級』）の分析・発表・討論2
第6回　初級教材（『まるごと　日本のことばと文化　初級1・2』）の分析・発表・討論3
第7回　中上級教材（『話す・書くにつながる！　日本語読解中級』）の分析・発表・討論1
第8回　中上級教材（『日本語上級話者への道』）の分析・発表・討論2
第9回　中上級教材（『留学生のためのアカデミックジャパニーズ聴解　中級』）の分析・発表・討論3
第10回　初中級教材（『できる日本語　初中級編』）の分析・発表・討論1
第11回　初中級教材（『日本語生中継　初中級編1』の分析・発表・討論2
第12回　教材作成実習（学習段階・学習項目の検討）1
第13回　教材作成実習（教材の選定）2
第14回　教材作成実習（教育実習用教材の作成）3

履修上の注意点

＊「日本語教授法Ⅰ～Ⅳ」をはじめとする、日本語教員養成課程科目の大部分が履修済みである学生を対象としている。日本語教員養成課程科目を履修していない学生に対しては、原則として履修を認めない。

教科書

授業時配布プリント

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

授業時適宜紹介

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

ask704d110

成績評価

試験・レポート （ 50 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 0 ）

出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。
また、以下の場合も成績評価の対象としない。
①発表や教材作成実習の課題を提出しなかった場合
②大阪大学CJLCにおける授業見学（6月実施予定）に参加しなかった、もしくはそれに関する事前レポートを提出しなかった場合
③前期中に実施する模擬授業や、本科目の教材分析の自身の担当回を欠席した場合

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語教育実習**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員　50
履修条件　日本語教材研究も同時に登録すること	クラス指定
担 当 者　佐野　裕子	

テーマ

日本語教育の授業見学、教案作成、教壇実習。

授業の到達目標

実際に日本語の授業の計画（教案作成、教材開発など）、実践、批判を行うことができる。

授業の概要

この授業においては教員はあくまでアドバイザーであり、学生に主体的に教案作成、教材開発を行ってもらう。事前授業における教員との個別指導は、原則週1～2回とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

円滑に実習が行えるよう、教材の選定や教案の作成を計画的に行うことが重要である。少なくとも夏休み中に教案の草案を完成させておくように。教案の作成について相談がある場合は、必ずオフィスアワーなどを利用し指導を求めること。その際、必ず事前にアポイントメントをとること。教員からの連絡に常に注意を払うこと。不定期に行われるガイダンスなどの授業を最優先とし、授業に参加すること。

内　容

第1回　第1回実習ガイダンス　海外実習、国内実習の概要説明・実習先決定調査（4月中旬～下旬予定）
第2回　第2回実習ガイダンス　実習担当クラス（指導教師）の決定（6月上旬予定）
第3回　第3回実習ガイダンス　実習の授業計画（8月上旬予定）
第4回　教案・教材作成（夏休み期間中）
第5回　事前授業　会話授業の概要（夏休み期間中）
第6回　事前授業　技能・レベルによる授業の相違の振り返り（夏休み期間中）
第7回　事前授業　教案・教材の提出・教員との個別指導（9～10月）
第8回　事前授業　模擬授業リハーサルとフィードバック
第9回　国内実習（10月下旬から11月上旬予定）
第10回　海外実習（10月下旬から11月上旬予定）
第11回　実習報告書作成（1月中旬から1月下旬予定）
第12回　事後授業　実習報告会[実習の感想や反省などを発表]、実習報告書などの課題提出（1月下旬予定）

履修上の注意点

日本語教員養成課程に関する大部分の科目を履修した学生を対象としている。特に「日本語教授法Ⅰ～Ⅳ」と「日本語教材研究」の計5科目を履修していない学生の受講は許可しない。

教科書

授業時配布プリント

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

授業時適宜紹介

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）

授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 55 ）

参加度（ 15 ）

実習ガイダンス（全3回を予定、ただし海外実習参加者は増える可能性あり）、事前・事後授業に「すべて」出席することが単位認定の要件である。特に事前事業、教育実習期間中の指導教員による授業見学に欠席した場合は、ただちに実習参加許可を取り消し、単位認定の対象としない。

2018 Syllabus

科 目 名　**教職入門(特例)**

クラス	配当回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉田　裕子.足立　登志也	

テーマ

教師の仕事についての認識を深め、教職を目指す目的や教師としての責任について考える。

授業の到達目標

今日の教育・学校(園)・子どもを取り巻く状況の中で、教師の仕事は何かを考え、教師としての責任と生きがいについて認識を深める。特に学習(保育)指導、生活指導、学校(園)づくりについて基本的な点を理解する。
さらに現在の教育課題を自分自身が主体的に考える姿勢を身に付ける。

授業の概要

具体的な事例をもとに講義する。一方的な講義だけではなく、参加者同士が学び合える授業とするために、授業の感想やレポートを全員に還元することなどに取り組む。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

教育を巡る様々な出来事や教育改革の報道に注目する。

内　　容

第1回　4日間の授業の進め方。～KJ法.ブレインストーミング～
第2回　最近の子ども論
第3回　教育とは
第4回　教師の役割
第5回　保幼小連携教育の現状と課題
第6回　保幼小の保育・教育をつなぐ生活科という教科
第7回　日本の教師の生き方と現状
第8回　教師の権利と責任
第9回　「教育」と「保育」
第10回　幼稚園教育の基本から
第11回　子どもを取り巻く現状と今後求められる保育者の専門性とは？
第12回　子どもの視点から保育者の専門性にせまる(事例研究1)
第13回　子どもの視点から保育者の専門性にせまる(事例研究2)
第14回　社会の変化に対応した保育者の専門性(ロールプレイ等)
第15回　社会の変化に対応した保育者の専門性(グループワーク等)
まとめ

履修上の注意点

教科書

幼稚園教育要領解説　平成30年3月
著者:　文部科学省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2018年　　ISBN:　9784577814475

参考書

授業中に適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 50% ）　　授業中発表等 （ 50% ）
参加度 （ ）
授業中課題には授業期間中に任意の時期に提出を求める小レポートも含んで評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**教育制度論(特例)**

クラス	配当回生
講義期間　秋期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　古田　薫	

テーマ

現代日本の教育制度の基礎をなす原理とその展開について学び、課題を発見する。

授業の到達目標

現代日本の教育制度の基礎をなす制度原理とその展開について基礎的事項および教育改革の現状について理解し、教育と社会の関係の中から課題を発見して自ら考察することを目標とする。

授業の概要

現代日本の教育の基本理念、学校制度、教育行政の原理と展開について概説し、学習研究の課題を提示する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業時間に指示された課題を行い、次の回の授業で提出すること。提出物にはコメントを付して返却する。その他、新聞やニュースで教育関係の話題をに関心を持ち、自身の仕事との関係を考察してみること。

内　容

第1回　オリエンテーション:教育制度の基礎知識
第2回　Ⅰ 憲法・教育基本法制 ①教育法規の体系
第3回　Ⅰ 憲法・教育基本法制 ②憲法と憲法・教育基本法制
第4回　Ⅰ 憲法・教育基本法制 ③教育基本法
第5回　Ⅱ 教育行政制度 ①教育行政組織とその職務権限
第6回　Ⅱ 教育行政制度 ②教育委員会制度
第7回　Ⅲ 学校制度 ①学校体系および学校の設置と管理・運営
第8回　Ⅲ 学校制度 ②学校評価
第9回　Ⅲ 学校制度 ③教育課程
第10回 Ⅲ 学校制度 ④就学前教育制度
第11回 Ⅳ 教員に関する制度 ①教員免許制度
第12回 Ⅳ 教員に関する制度 ②教員の身分と義務
第13回 Ⅳ 教員に関する制度 ③教員の任免と研修
第14回 Ⅳ 教育を受ける権利の保障 ①義務教育制度
第15回 Ⅳ 教育を受ける権利の保障 ②特別支援教育

履修上の注意点

小テストを3回実施します。自分の理解度を確認し、わからないことは調べたり質問したりしましょう。

教科書

使用しません
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**教育課程論(特例)**

クラス	配当回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森　枝美	

テーマ

教育課程の構造と実践

授業の到達目標

・教育課程の編成に関する基本的な理論と具体的な方法 ・教育課程編成における教育評価の意義と課題 について理解し、自らの実践に活かす手がかりを見いだすことができる。

授業の概要

教育課程の意義、果たす役割、および、教育課程に関わる基本的な概念について理解し、教育課程編成に関わる基礎的知識を身につけるとともに、保育計画の作成や、カリキュラム・マネジメントのために必要な力量の基礎を養う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　教育課程とは何か
第2回　教育課程を編成するための構成要件
第3回　学習指導要領　幼稚園教育要領の変遷
第4回　幼稚園教育要領における「教育課程」
第5回　長期指導計画の作成
第6回　短期指導計画の作成
第7回　教育評価
第8回　授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

よくわかる教育課程
著者:　田中耕治編著
出版社: ミネルヴァ書房
出版年: 2009　　ISBN:

新しい時代の教育課程　第3版
著者:　田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵
出版社: 有斐閣
出版年: 2011　　ISBN:

幼稚園教育要領解説
著者:　文部科学省
出版社: フレーベル社
出版年: 2008　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 40% ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 30% ）	授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習(言語)Ⅰ(特例)**

クラス	配当回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　伊藤　美和子	

テーマ

こどものことばに関係する現代的問題、教育的課題、支援方法について学ぶ。

授業の到達目標

保育実践を振り返りながら、乳幼児におけることばの発達と幼児期の思考と表現の独自性についての理解を深め、実新しい保育方法を実践する基礎的技術を習得する。

授業の概要

授業の目的に沿って講義するとともに、乳幼児に直接・間接にかかわる現場の保育者が受講生の中心であることを考慮し、授業の前半は受講生の発表にあてる。さまざまな子どものことばを考察しながら、子どもの思考の独自性について理解を深める。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

発表資料を用意してください。内容は、乳幼児のことばに関するその人の発見が望ましいが、それに限らず、各自の保育経験のなかで、子どもの表現とその保育について「眼が拓かれた」事例、問題と感じられた事例とその考察を報告されたい。その歳、受講生のあいだで討論しやすいように、何歳児クラスのどの時期の事例であるかを明記してほしい。授業初日に発表資料(A4サイズ)を提出すること。手書き可。(大学の方で全員分の印刷をおこなう)。

内　容

第1回　オリエンテーション。受講生からの発表:子どもの表現あるいは保育について「自分の眼が拓かれた」事例の報告(1)
第2回　受講生からの発表:子どもの表現あるいは保育について「自分の眼が拓かれた」事例の報告(2)
第3回　受講生からの発表:子どもの表現あるいは保育について「自分の眼が拓かれた」事例の報告(3)
第4回　現代社会におけることばの問題、教育的課題
第5回　子どもの思考とことば:詩的言語と論理的言語
第6回　子どもの思考とことば:話し言葉と書き言葉
第7回　論理的言語を育む言語教育の方法
第8回　論理的言語を育む言語教育の実践

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

絵本で育てる情報分析力―論理的に考える力を引き出す
著者:　三森ゆりか
出版社:　一声社
出版年:　2002　　ISBN:　978-4870771710

日本人は論理的に考えることが本当に苦手なのか
著者:　山祐嗣
出版社:　新曜社
出版年:　2015　　ISBN:　978-4788514522

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 50 ）
受講生が提出した発表資料と2日目の課題発表をもとに評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**教育方法論(特例)**

クラス	配当回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　梅本　裕	

テーマ

＜授業をつくる＞ことへのイメージを育む

授業の到達目標

教授＝学習過程としての授業過程を理論的に把握するための基礎概念と基礎技法を習得するとともに学習指導要領に示される内容を正確に理解するための知識を身につけること。具体的には「教育目標」「教育内容」「教材」「教具」「教授行為」「理解構造」等の概念を用いて、ある授業を分析・診断でき、学習指導要領に即した改善のための処方的知見を得ることができるようになること。

授業の概要

80年代以降の日本の教育実践の中から典型的な授業と教材を選び、受講生諸君に可能な限り追体験してもらいながら、教育方法学の蓄積してきたカテゴリーシステムを活用して「生き生き学べる授業」の要件を考察する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

教育問題を取り上げたテレビ番組や教師や学校を主題とするドラマを見てみよう。その中で授業がそのように伝えられ、描かれているかに留意しなさい。

内　　容

第1回　鉛筆対談：授業づくりにおける教材の機能
第2回　発電所はどこにあるか（その1）：授業記録の方法
第3回　発電所はどこにあるか（その2）：授業と教授行為の分析方法
第4回　木の葉の駅：教材解釈と発問づくりの方法
第5回　「絵を描くのは苦手です」：教育内容構成における＜制限＞の意味
第6回　カノンで遊ぶ：ICTの活用技法
第7回　5円玉の秘密：教授行為の構造
第8回　これからの授業づくりの課題：ICTと協同的な学び

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50% ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 50% ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**こども理解Ⅰ(特例)**

クラス	配当回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池上　貴美子	

テーマ

幼児理解の知識と理解の方法を身につけ、実践で幼児と向き合う大切さを学ぶ

授業の到達目標

幼児理解の基盤となる行為の意味の理解や、環境との関連性の理解、発達と学びの理解、そのつまずきと援助の方法、幼児がクラスで集う意味、保護者との信頼関係を築く大切さ等を事例を通して検討する。

授業の概要

幼児理解の意義と重要性を理解し、保育実践と結びつけて考察する力を身につける。幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法について、個と集団との関係や家庭との連携を含めて考える力を身につける

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

現場での保育を振り返り省察する機会を大切にすること

内　容

第1回　保育の出発点としての幼児理解、幼児の発達に関わる様々な課題
第2回　幼児の自己表現と受容する他者との関係
第3回　幼児の発達や学びを捉える視点 「自分」の世界と「友達」の世界の広がり
第4回　気になる子どもの事例からの学び
　　気になる行動への保育者の対応と周囲の幼児の受け止め
第5回　観察・記録の方法と分析・考察の視点
　　演習:観察・記録の実際
第6回　発表と協議:観察・記録のまとめについて協議
　　観察・記録からの幼児理解と学びの読み取り(評価)
第7回　カウンセリングの技法
　　演習:保護者への対応のロールプレイ
第8回　子育てに関わる現代的な課題の特徴
　　支援体制の整備と家庭や地域との連携

履修上の注意点

各自で独自のシミュレーションを重ねるような学びの発展を期待する

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に提示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート (50)	小テスト ( )
授業中課題 (50)	授業中発表等 ( )
参加度 ( )	

2018 Syllabus

科 目 名　**福祉と養護(特例)**

クラス	配当回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森本　美絵	

テーマ

現代社会における社会福祉・児童家庭福祉・社会的養護を理解する。

授業の到達目標

①保育の場で、虐待等の不適切な養育を早期に発見し対応できるようになる。②保育の場で、子どもの権利一特に意見表明権を意識した保育を今以上に実践できるようになる。③様々な課題を抱えた保護者に対して、共感的に関われるようになる。④保育の実践されている地域社会にある社会資源に今以上に関心を持ち繋がりを深めることができる。

授業の概要

社会福祉・児童家庭福祉・社会的養護の意義と役割、法体系や実施体系を概説する。また、社会的養護の実際について、DVD等を視聴して、具体的に理解する。授業の形態は講義形式となるが、適宜グループワークも取り入れ、意見交流を図る。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

第1回目に配布する講義レジュメに予習として目を通す（30分）、講義後に復習する（1時間）授業中に適宜質問を受ける。授業時に紹介した本を読む。

内　容

第1回　現代社会における社会福祉、児童家庭福祉及び社会的養護の意義と歴史的変遷
第2回　現代社会における社会福祉、児童家庭福祉及び社会的養護の意義と歴史的変遷
第3回　社会福祉と児童家庭福祉の役割
第4回　社会福祉と児童家庭福祉の役割
第5回　各制度の法体系・行財政と実施機関
第6回　社会的養護の仕組みと実施体系
第7回　社会福祉施設等と児童家庭福祉施設等（家庭養護と施設養護）
第8回　社会福祉施設等と児童家庭福祉施設等（家庭養護と施設養護）
第9回　児童家庭福祉の現状と課題
第10回　児童家庭福祉の現状と課題
第11回　児童家庭福祉の現状と課題
第12回　児童家庭福祉の現状と課題
第13回　施設養護の実際
第14回　施設養護の実際
第15回　全体の振り返りと授業内レポート

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 70 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**相談支援(特例)**

クラス	配当回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山口　陽子.村井　琢哉	

テーマ

現代社会における家庭支援のあり方と関係機関との連携
保育相談支援の理論と実践

授業の到達目標

保育を必要とする家庭、福祉課題(貧困・虐待・病気や障害)を抱える家庭、また地域での子育て支援における相談支援について必要な知識と支援の視点について具体的な事例から学んでいく。そして支援に必要な関係機関との連携について学ぶ。
保護者支援の意義や基本を学び保育相談支援の実際について理解を深める。

授業の概要

視聴覚教材を活用した事例や実践から学ぶ。第4回・第16回に講義内レポート試験を実施する。
保育相談支援の実際と保護者支援の方法を具体的事例から学ぶ。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

授業の計画のキーワードについて事前に調べておく

内　容

第1回　家庭支援の意義と役割について(前半8回:村井)
第2回　保育を必要とする家庭での事例から 【キーワード】就労　保育料・諸費　給食・弁当　参観　役員
第3回　福祉課題を抱える家庭での事例から 【キーワード】貧困　虐待　障害　ひとり親
第4回　家庭支援の意義と役割についてレポート試験
第5回　多様な支援の展開と関係機関の連携について
第6回　フォーマルな関係機関での連携について 【キーワード】児童相談所　要保護児童対策地域協議会　児童発達支援センター
第7回　インフォーマルな地域での支援について 【キーワード】NPO　民生児童委員
第8回　多様な支援の展開と関係機関の連携について
第9回　保育と保育相談支援(後半8回:山口)
第10回 相談支援の実際
第11回 保育相談支援の方法と技術
第12回 保育相談支援の進め方と連携
第13回 事例の概要と展開
第14回 事例検討
第15回 事例検討
第16回 まとめと理解度調査(後半部分:山口)

履修上の注意点

教科書

2017年告示保育所保育指針解説書
著者:　厚生労働省編
出版社:　フレーベル館
出版年:　2018春予定　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）

村井　琢哉／授業中課題(100%)
山口　陽子／授業中課題(50%)、参加度(50%)
※上記を100%に換算して成績評価を行う。

2018 Syllabus

科 目 名　**保健と食と栄養(特例)**

クラス	配当回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　齋藤　洋子.小川　亜紀	

テーマ

子どもの発育に応じた栄養と食生活(小川) 子どもの身体と心の健康について、健康増進及び疾病の予防について学びを深める。また、乳幼児の保育環境・衛生管理について理解を深める。(齋藤)

授業の到達目標

1. 子どもの健康状態の把握、子どもの病気と予防について知識を深める。2. 子どもの心の健康について知識を深め二次障害を防ぐ。3. より良い保育環境、安全と衛生管理について知識を深める。4. 子どもの保健の今日的課題と知識を習得する 栄養の基礎知識と子どもの発達を理解し、子どもの栄養と食生活を学ぶ。(小川)

授業の概要

子どもが健やかに発育するために必要な栄養の基本的な知識を身につける。子どもの発育に必要な栄養は成長とともに変化し、成人と異なる点も多い。各発達段階における栄養と食事を具体的に学ぶ。(小川) 乳幼児の身体・疾病の特徴と発育発達について、特に乳児にウェイトを置いて学び、集団保育の環境整備について、教科書とプリントの資料ですすめる。(齋藤)

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

事前に教科書を読んで授業に臨むこと。(齋藤)

内　容

第1回　栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能(小川)
第2回　食事摂取基準と献立作成・調理の基本(小川)
第3回　乳児期の授乳・離乳の意義と食生活(小川)
第4回　幼児期・学童期の心身の発達と食生活(小川)
第5回　食育の基本1:食育の意義、計画、評価(小川)
第6回　食育の基本2:地域の関係機関や職員間の連携と食生活指導、保護者への支援(小川)
第7回　疾病、体調不良・障害、食物アレルギーのある子どもへの対応(小川)
第8回　まとめ
第9回　子どもの健康と保健の意義(齋藤)
第10回　子どもの疾病と保育①健康状態の把握・症状と対処法(齋藤)
第11回　子どもの疾病と保育②予防接種(齋藤)
第12回　子どもの心の健康と精神保健(齋藤)
第13回　保育環境整備と衛生管理(齋藤)
第14回　母子保健対策と保育(齋藤)
第15回　保育所をとりまく安心・安全の環境整備(齋藤)
第16回　まとめ(齋藤)

履修上の注意点

教科書

子どもの保健Ⅰ(齋藤)
著者:　遠藤郁夫　他　編集
出版社:　学建書院
出版年:　　ISBN:

最新子どもの食と栄養～食生活の基礎を築くために～(小川)
著者:　飯塚美和子他
出版社:　学建書院
出版年:　　ISBN:

参考書

よくわかる子どもの保健
著者:　竹内義博・大矢紀昭　編著
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート ( )　　小テスト ( )

atk201d310

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

試験(60%)、小テスト(10%)、授業中課題(10%)、参加度(20%)(小川) 授業中課題(100%)レポート課題で評価する。(齋藤)

2018 Syllabus

科 目 名　**乳児保育(特例)**

クラス	配当回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山口　陽子.齋藤　洋子	

テーマ

現代社会における乳児保育の位置づけを理解し、乳児保育の内容と方法を学ぶ。

授業の到達目標

0歳から2歳児クラスまでの子どもの発達を理解し、それをふまえた保育の内容を理解する。また乳児保育の歴史と現状を知り、今後の課題を検討する視点を培う。

授業の概要

乳児保育の理念や歴史的変遷を学び、乳児保育の現状、課題とともに実際の保育現場での乳児の基本的生活と豊かな遊びをつくりだす視点を身につける。
3歳未満児の成長発達を学び、子どもへの関わり方、養護の技術の実習をする。
第1回～4回、12回～15回(山口)
第5回～11回(齋藤)

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

内　容

第1回　乳児保育とは何か
第2回　乳児保育の歴史と現状①
第3回　乳児保育の歴史と現状②
第4回　乳児の基本的生活と豊かな遊びをつくりだす視点
第5回　乳児の発達①
第6回　乳児の発達②
第7回　乳児の発達③
第8回　乳児の発達④
第9回　実習(調乳･授乳･離乳食、沐浴･オムツ交換･衣服の着脱)①
第10回 実習(調乳･授乳･離乳食、沐浴･オムツ交換･衣服の着脱)②
第11回 発達のまとめと確認
第12回 0歳児の生活と遊び
第13回 1歳児の生活と遊び
第14回 2歳児の生活と遊び
第15回 乳児保育の今後の課題　まとめ

履修上の注意点

教科書

2017告示保育所保育指針解説書
著者:　厚生労働省編
出版社: フレーベル館
出版年: 2018春　予定　　ISBN:

子どもの保健 I
著者:　遠藤郁夫　他
出版社: 学建書院
出版年: 2018　　ISBN:

参考書

成績評価

試験･レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
授業中課題(100%) レポート課題で評価する (齋藤)
授業中課題(50%) 授業中発表等(50%) (山口)

2018 Syllabus

科 目 名　**比較文化論Ⅰ〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　幸一郎	

テーマ

グローバル化の中の日本とアジア

授業の到達目標

日本と中国・ASEANの関係を経済の観点から考えていく

授業の概要

グローバル化が進む世界状況の中でヒト・モノ・カネの往来がますます盛んになりつつある。日本人学生と留学生が合同で実施するこの授業では、グループワークを中心に、日本とアジアの関係を学び、留学生の知恵を借りながら、「メイド・イン・ジャパン」をさらにグローバル化していく方法を考えていく。また、アジアの中の京都という観点から京都の様々な観光地を訪れ、インバウンドやコト消費の様子を実地見学する予定である。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で配布するプリントは事前に読んでくること。

内　　容

第1回　グループ分けと概要説明
第2回　現代日本のグローバリゼーション（1）テーマ　日本経済のグローバル化
第3回　現代日本のグローバリゼーション（2）　グループワーク
第4回　京都のインバウンドとコト消費（1）　学外研修　寺町界隈
第5回　京都のインバウンドとコト消費（2）　振り返り学習（学内）
第6回　現代日本のグローバリゼーション（3）テーマ　日本経済と中国
第7回　現代日本のグローバリゼーション（4）　グループワーク
第8回　京都のインバウンドとコト消費（3）　学外研修　嵐山・天竜寺
第9回　京都のインバウンドとコト消費（4）　振り返り学習（学内）
第10回　現代日本のグローバリゼーション（5）テーマ　　日本経済とASEAN
第11回　現代日本のグローバリゼーション（6）グループワーク
第12回　京都のインバウンドとコト消費（5）　学外研修　東山界隈・高台寺
第13回　京都のインバウンドとコト消費（6）　振り返り学習（学内）
第14回　現代日本のグローバリゼーション（7）テーマ　これからの世界と私たちのキャリア形成（1）
第15回　これからの世界と私たちのキャリア形成（8）グループワーク

履修上の注意点

学外見学は水曜日の1，2限で実施する。見学料は大学負担になるが交通費は個人の負担になる。水曜日の1限目にほかの授業が入っている場合は、学外見学は欠席することになるが、かならずグループワークまでに個人で見学に行っておくこと。この場合見学料は個人負担になるので注意すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（60）	授業中発表等（　）
参加度（40）	

2018 Syllabus

科 目 名　**特別研究Ⅰ（歴M1）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　王 衛明	

テーマ

修士論文の完成を指導する。

授業の到達目標

研究史料を読み込み、その内容を理解した上で修士論文の内容の組み立てを行う。

授業の概要

博物館見学への積極的に参加、常時に図書館で資料調査を行うこと。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中に適宜指示を行う。

内　　容

第1回　研究主旨を説明する。
第2回　文献史料講読
第3回　文献史料講読
第4回　文献史料講読
第5回　文献史料講読
第6回　文献史料講読
第7回　学外授業
第8回　文献史料講読
第9回　文献史料講読
第10回　文献史料講読
第11回　文献史料講読
第12回　文献史料講読
第13回　文献史料講読
第14回　論文内容を発表する。
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 100% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**特別研究Ⅰ（歴M1）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一瀬　和夫	

テーマ

本研究ではそれぞれの研究手法や専門性にもとづいて、基盤研究資料の整備からはじめる。議論し研究テーマを確定し、研究計画をたて、修士論文の見通しをつける。既発表の研究を批判的に検討することを通して、研究の問題提起を行う。

授業の到達目標

既発表の研究を批判的に検討することを通して、研究の問題提起を行う。関連するデータの収集を中心にあつかい方や情報を収集する。

授業の概要

文化遺産についての調査、記録・復原、保存、活用方法や社会的・歴史的な位置づけをおこなう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

研究計画を立て、それを遂行する。

内　　容

第1回　研究計画を立てる。
第2回　関連するデータの収集を中心にあつかい方や情報を収集する（1）。
第3回　関連するデータの収集を中心にあつかい方や情報を収集する（2）。
第4回　関連するデータの収集を中心にあつかい方や情報を収集する（3）。
第5回　関連するデータの収集を中心にあつかい方や情報を収集する（4）。
第6回　関連するデータの収集を中心にあつかい方や情報を収集する（5）。
第7回　関連するデータの収集を中心にあつかい方や情報を収集する（6）。
第8回　関連するデータの収集を中心にあつかい方や情報を収集する（7）。
第9回　既発表の研究を批判的に検討する（1）。
第10回　既発表の研究を批判的に検討する（2）。
第11回　既発表の研究を批判的に検討する（3）。
第12回　既発表の研究を批判的に検討する（4）。
第13回　既発表の研究を批判的に検討する（5）。
第14回　既発表の研究を批判的に検討する（6）。
第15回　既発表の研究を批判的に検討することを通して、研究の問題提起を行う。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**特別研究Ⅱ（歴M1）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　王 衛明	

テーマ

修士論文の完成を指導する。

授業の到達目標

研究史料を読み込み、その内容を理解した上で修士論文の内容の組み立てを行う。

授業の概要

博物館見学への積極的に参加、常時に図書館で資料調査を行うこと。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中に適宜指示を行う。

内　　容

第1回　研究主旨を説明する。
第2回　文献史料講読
第3回　文献史料講読
第4回　文献史料講読
第5回　文献史料講読
第6回　文献史料講読
第7回　学外授業
第8回　文献史料講読
第9回　文献史料講読
第10回　文献史料講読
第11回　文献史料講読
第12回　文献史料講読
第13回　文献史料講読
第14回　論文内容を発表する。
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（100%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**特別研究Ⅱ（歴M1）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一瀬　和夫	

テーマ

本研究ではそれぞれの研究手法や専門性にもとづいて、基盤研究資料の整備からはじめる。議論し研究テーマを確定し、研究計画をたて、修士論文の見通しをつける。既発表の研究を批判的に検討することを通して、研究の問題提起を行う。

授業の到達目標

既発表の研究を批判的に検討することを通して、研究の問題提起を行う。関連する
データの収集を中心にあつかい方や情報を収集する。

授業の概要

文化遺産についての調査、記録・復原、保存、活用方法などの基盤を精査し、社会的・歴史的な位置づけもおこなう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　基盤研究資料の整備をする（1）。
第2回　基盤研究資料の整備をする（2）。
第3回　基盤研究資料の整備をする（3）。
第4回　基盤研究資料の整備をする（4）。
第5回　基盤研究資料の整備をする（5）。
第6回　基盤研究資料の整備をする（6）。
第7回　基盤研究資料の整備をする（7）。
第8回　既発表の研究を批判的に検討する（1）。
第9回　既発表の研究を批判的に検討する（2）。
第10回 既発表の研究を批判的に検討する（3）。
第11回 既発表の研究を批判的に検討する（4）。
第12回 既発表の研究を批判的に検討する（5）。
第13回 既発表の研究を批判的に検討する（6）。
第14回 既発表の研究を批判的に検討する（7）。
第15回 既発表の研究を批判的に検討することを通して、研究の問題提起を行う。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**文化交流史論Ⅰ〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小野 浩	

テーマ

ユーラシアにおけるテュルク(トルコ)・モンゴルの歴史

授業の到達目標

ユーラシア大陸に興起したテュルク・モンゴル系遊牧民国家の足跡を紹介し、彼らの世界史上に果たした役割を考察する。

授業の概要

遊牧民は、定住民が主役の座を占める現代世界においては社会の隅に追いやられたような扱いを受け、高校の教科書などでもごく軽く扱われるにとどまり、その歴史的役割に対して正当な位置づけがなされていない。だが、大陸東方からざっと見渡しても、匈奴・鮮卑・柔然・突厥・ウイグル・契丹・カルルク・ハザル・ガズナ朝・カラハン朝・セルジュク朝・大モンゴル帝国とその後継勢力・ティムール朝・ムガル朝・サファヴィー朝・オスマン朝といった具合にテュルク・モンゴル系の人びとが築いた国家の版図はユーラシアの大部分を占めている。この授業ではかれらの歴史を通史的ではなくトピックごとにとりあげ、ときには関連論文の紹介もしつつ、世界市場に果たしたテュルク・モンゴル国家の役割を考察する。各回の予定は以下の通りだが、必ずこの通りに講義が進むとは限らない。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

関連図書は授業中に適宜指示する。

内　容

第1回　ユーラシアの歴史とは----ヨーロッパ中心史観からの脱皮　その1
第2回　ユーラシアの歴史とは----ヨーロッパ中心史観からの脱皮　その2
第3回　テュルク・モンゴル諸族の分布
第4回　匈奴の国家組織
第5回　突厥----世界史上初めて自らの記録を残した遊牧民　その1
第6回　突厥----世界史上初めて自らの記録を残した遊牧民　その2
第7回　突厥----世界史上初めて自らの記録を残した遊牧民　その4
第8回　ウイグルと唐
第9回　ウイグルとソグド人
第10回　西ウイグル王国と仏教
第11回　モンゴルの興起----チンギス・カンの征服活動
第12回　大モンゴル帝国----モンゴルが東西を結ぶ　その1
第13回　大モンゴル帝国----モンゴルが東西を結ぶ　その2
第14回　ティムールとティムール朝の文化
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（0）	小テスト（50）
授業中課題（0）	授業中発表等（0）
参加度（50）	

2018 Syllabus

科 目 名　**文化交流史論Ⅱ〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　王　衛明	

テーマ

東洋美術史の全体像を体系的に解説する

授業の到達目標

美術、考古資料を概観することによって、東アジアにおける美術造形発展の流れを把握する。

授業の概要

オリエント(東洋)という芸術史上の概念は、インド以東の中国、朝鮮、日本及び東南アジア諸国の造形美術を指す。この授業は、美術史通史の性格を持ち、中国古代文明を中心に、歴代王朝に生み出された代表的な絵画、彫刻、工芸、建築等を直接的考察対象にし、美術史学の学問体系から、これらの様々な様式特徴、表現主題、重要作家の事跡と歴史地位等をイメージ資料で通覧し、また中国における近年最新の考古発掘資料とその研究現状の紹介を加えながら、複雑で多様な美的歴史展開の輪郭を講じていきたい。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

場合によって授業内容にかかわる寺社や特別展の見学を実施する。事前に指示した参考書を基に調べておく。

内　容

第1回　概説・中国美術史発展の特徴と研究方法
第2回　史前・原始社会の美術一文明の形態
第3回　夏文明に関する諸説の検討
第4回　二里頭遺跡の発掘及び青銅文明の出現
第5回　商周の美術一青銅器の出現と文飾の意味
第6回　春秋・戦国時期の美術一帛画・青銅工芸品、漆器(美術副葬品の出現)
第7回　秦代の美術一始皇帝陵と兵馬俑
第8回　秦代美術の問題点一その源流を考える
第9回　漢代の美術一死後世界の憧憬とその表現
第10回　墓室壁画及び画像石、画像磚に見られる美術資料
第11回　東アジア地域における秦漢美術の意義
第12回　魏晋南北朝時代一職業仏教画家と士大夫画家及び墓室壁画の諸問題
第13回　中国古代の絵画史論一謝赫の「六法」から張彦遠の『歴代名画記』まで
第14回　魏晋南北朝時代の代表画家とその史料上の問題
第15回　内容総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻や途中退席をしないように。参考書は授業中に適時指示する。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 50 ）
授業中に紹介した、参考文献や論文、また配布資料を必ず週7時間以上読むこと。
この授業は受講生の授業態度を重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史学･歴史遺産学研究方法論Ⅰ〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　増渕　徹	

テーマ

日本史の研究方法の諸問題

授業の到達目標

博士課程前期1回生の授業であり、受講生それぞれの研究課題を聞いたうえで、それに応じての修士論文作成のための大まかな方法論と史料操作の方法などを中心に授業を進める。

授業の概要

修士論文作成までのプロセスを自覚化させるとともに、大学院生としての史料の収集方法、先行研究との対峙化、レジュメ作成方法、論文作成方法など徹底して討議する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　各人の研究テーマを聞き、質疑応答をする。
第2回　研究会レジュメ作成方法
第3回　研究会報告（1）
第4回　研究会報告（2）
第5回　各人の研究会課題の報告－1
第6回　各人の研究会課題の報告－2
第7回　各人の研究会課題の報告－3
第8回　各人の研究会課題の報告－4
第9回　研究方法論ー1
第10回　研究方法論ー2
第11回　研究方法論ー3
第12回　研究方法論ー4
第13回　研究方法論ー5
第14回　各人の修論作成までの予定を聞き、質疑応答をする。。
第15回　全体の総括
※なお、この授業では必要に応じて、学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（50）	授業中発表等（20）
参加度（30）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本言語文化研究Ⅰ〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　幸一郎	

テーマ

日本近現代文学

授業の到達目標

明治以降の代表的な日本近現代文学について読解を試みると同時に、日本近代文学史の中での位置づけを理解する

授業の概要

教員による講義が中心になるが随時課題を提示していくつもりである

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で取り上げる作品はかならず読んでくること。随時、小レポートの提出を求めていく予定である

内　　容

第1回　全体説明
第2回　夏目漱石「坊っちゃん」（1）
第3回　夏目漱石「坊っちゃん」（2）
第4回　夏目漱石「坊っちゃん」（3）
第5回　森鴎外「雁」（1）
第6回　森鴎外「雁」（2）
第7回　森鴎外「雁」（3）
第8回　芥川龍之介「地獄変」（1）
第9回　芥川龍之介「地獄変」（2）
第10回　芥川龍之介「地獄変」（3）
第11回　坂口安吾「桜の森の満開の下」（1）
第12回　坂口安吾「桜の森の満開の下」（2）
第13回　坂口安吾「桜の森の満開の下」（3）
第14回　坂口安吾「桜の森の満開の下」（4）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

作品で読む20世紀の日本文学
著者:
出版社: 白地社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 60 ）	授業中発表等（　）
参加度　（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本言語文化研究Ⅱ〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安達　太郎	

テーマ

言文一致運動期の文章日本語について考える

授業の到達目標

1）近代語と現代語を比較することによって言語事象を発見する方法を修得する。
2）明治時代の作家と文学作品について理解を深める。
3）近代語がどのように形成されていったのかについて理解を深める。

授業の概要

明治時代はさまざまな作家が近代的な文章語のありかたについて模索した時期である。この授業では，山田美妙や二葉亭四迷のような先駆者から始めて，デアル体を試みた尾崎紅葉を経て，夏目漱石，森鴎外に至る言語的試みをとおして，近代と現代の文章日本語について分析する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

指定されたテキストを事前に読んでおくこと。

内　　容

第1回　はじめに
第2回　スタイルから見た文章日本語の問題点
第3回　山田美妙によるダ体の試み
第4回　二葉亭四迷『浮雲』第一篇の分析（1）
第5回　二葉亭四迷『浮雲』第二篇の分析（2）
第6回　二葉亭四迷『浮雲』第三篇の分析（3）
第7回　二葉亭四迷の翻訳をめぐって
第8回　坪内逍遙「此処やかしこ」における不即不離体
第9回　明治20年代のダ体作品について
第10回　嵯峨の屋おむろ「薄命のすゞ子」におけるダ体の試み
第11回　尾崎紅葉の文体観と『二人女房』のデアル体
第12回　尾崎紅葉『多情多恨』におけるデアル体
第13回　スタイルから見た夏目漱石（1）
第14回　スタイルから見た夏目漱石（2）
第15回　スタイルから見た森鴎外

履修上の注意点

講義形式をとるが，積極的に意見を述べることを期待する。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 30% ）
参加度（ 70% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史研究Ⅷ（女性史）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田端　泰子	

テーマ

日本女性のあゆみ～原始から現代まで

授業の到達目標

日本の女性が歩んできた歴史を、人、時代背景、政治形態、などの面から会得する。

授業の概要

日本の歴史上のすべての時代を対象として、特に中世についてはより詳しく、社会と人とのつながりについて考察する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業後に、その授業に関係のある本あるいは論文を読むことが望ましい。

内　　容

第1回　原始・古代の女性労働
第2回　都城の変遷と女性の生活
第3回　律令制下の女性の地位
第4回　平安京の成立
第5回　女房としての紫式部
第6回　平安女性の財産相続権
第7回　平氏政権下の女性
第8回　院政期の女院と女房
第9回　武士の登場・武士の女性
第10回　鎌倉幕府法にみる娘、妻、母、後家
第11回　平安時代の出産、鎌倉時代の出産
第12回　北条政子の生涯とその役割
第13回　南北朝期の女性の地位変化
第14回　日野重子と日野富子
第15回　古代・中世の女性の地位をめぐって（前期のまとめ）

履修上の注意点

女性史の通史や人物研究に目を通しておくのがよい。

教科書

参考書

日本女性史
著者:　脇田・林・永原編
出版社:　吉川弘文館
出版年:　1987　　ISBN:

乳母の力
著者:　田端泰子著
出版社:　吉川弘文館
出版年:　2005　　ISBN:

日本中世女性史論
著者:　田端泰子著
出版社:　塙書房
出版年:　1994　　ISBN:

北政所おね
著者:　田端泰子著
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2007　　ISBN:

h10301e310

細川ガラシャ

著者: 田端泰子著

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2010 ISBN:

日本中世の村落・女性・社会

著者: 田端泰子著

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2011 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 80 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本史研究Ⅷ（女性史）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田端　泰子	

テーマ

日本女性のあゆみ～原始から現代まで

授業の到達目標

日本の女性が歩んできた歴史を、人、時代背景、政治形態などの面から会得する。

授業の概要

日本の歴史上のすべての時代を対象とし、特に中世についてはより詳しく、社会と人とのつながりについて考察する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業後に、その授業に関係のある本あるいは論文を読むことが望ましい。

内　　容

第1回　戦国～織豊期の女性①北政所おね
第2回　戦国～織豊期の女性②淀殿
第3回　戦国～織豊期の女性③細川ガラシャ
第4回　戦国～織豊期の女性④利家正室まつ
第5回　大坂落城に遭遇した二人のおきく
第6回　江戸幕府の成立と女性
第7回　春日局の一生とその役割
第8回　江戸時代の農村女性の生活
第9回　江戸時代の商家の女性
第10回　明治維新とは
第11回　大正デモクラシーと女性
第12回　戦時中の生活変化と女性の役割
第13回　戦後改革と女性の地位変化
第14回　現代社会の女性の地位
第15回　統一政権期から現代に至る日本女性のあゆみ（後期のまとめ）

履修上の注意点

女性史の通史や人物研究に目を通しておくのがよい。

教科書

参考書

日本女性史
著者:　脇田・林・永原編
出版社:　吉川弘文館
出版年:　1987　　ISBN:

乳母の力
著者:　田端泰子著
出版社:　吉川弘文館
出版年:　2005　　ISBN:

日本中世女性史論
著者:　田端泰子著
出版社:　塙書房
出版年:　1994　　ISBN:

北政所おね
著者:　田端泰子著
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2007　　ISBN:

h10301e450

細川ガラシャ

著者: 田端泰子著

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2010 ISBN:

日本中世の村落・女性・社会

著者: 田端泰子著

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2011 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 80 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本文化研究Ⅲ（古典文学）〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　林 久美子	

テーマ

物語草子の異界

授業の到達目標

日本の代表的な異界をめぐる物語を読むことで、豊かな想像力を育む。なぜこのような物語が生まれたのか、その背景について考察する力を養う。

授業の概要

テキストに沿って絵巻や絵本の内容を紹介し、日本人にとっての異界や怪異について考える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

（予習）授業前にテキストに目を通し、言葉や作品内容について調べておく。（復習）ワークシートに学習した内容と感想をまとめる。
（フィードバック）ワークシートを点検し、授業でコメントする。

内　容

第1回　授業の進め方について
第2回　序章
第3回　第一章
第4回　第二章
第5回　第三章
第6回　第四章
第7回　第五章
第8回　第六章
第9回　第七章
第10回　第八章
第11回　第九章
第12回　第一〇章
第13回　第一一章
第14回　終章
第15回　まとめ

履修上の注意点

必ずテキストを持参すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）
章が終わるごとに提出するワークシートで課題点が付きます。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本文化研究Ⅴ（近現代文学）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　幸一郎	

テーマ

20世紀の日本文学

授業の到達目標

20世紀以降の代表的な文学作品を読解していくことで、文学における近代日本に対する批判精神のありようを理解していく。

授業の概要

講義が中心になるが、グループワークを毎回行う予定である

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で取り上げる作品はあらかじめ読んでくること。随時、課題の提出を求めることになる。

内　　容

第1回　教養小説とは何か？
第2回　夏目漱石「坊っちゃん」を読む（1）
第3回　夏目漱石「坊っちゃん」を読む（2）
第4回　夏目漱石「坊っちゃん」を読む（3）
第5回　森鴎外「雁」を読む（1）
第6回　森鴎外「雁」を読む（2）
第7回　森鴎外「雁」を読む（3）
第8回　芥川龍之介「地獄変」を読む（1）
第9回　芥川龍之介「地獄変」を読む（2）
第10回　芥川龍之介「地獄変」を読む（3）
第11回　坂口安吾「桜の森の満開の下」を読む（1）
第12回　坂口安吾「桜の森の満開の下」を読む（2）
第13回　坂口安吾「桜の森の満開の下」を読む（3）
第14回　坂口安吾「桜の森の満開の下」を読む（4）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

作品で読む20世紀の日本文学
著者:　京都橘大学日本語日本文学科
出版社: 新典社
出版年: 2018　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 60 ）	授業中発表等（　）
参加度　（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**日本文化研究Ⅵ（近現代文学）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　幸一郎	

テーマ

宮沢賢治からジブリへ

授業の到達目標

宮沢賢治の文学を文明批判の書としてとらえ、読解を進めていくと同時に、同じテーマを扱ったジブリ作品、具体的には『風の谷のナウシカ』けんとうを通じて、賢治の追求した主題がどのようにジブリに引き継がれていったか。明らかにしていく。

授業の概要

宮沢賢治の童話は、現代に生きる私たちにも多くの問題を投げかけている。賢治童話の読解を通じて、彼が現代文明のどこに矛盾を感じていたか確認するとともに、賢治とともに、その矛盾を解決していく方法を考えていきたい。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業で取り上げる作品はあらかじめ読んでくること。随時小レポートの提出を求めていく予定である。

内　容

第1回　宮沢賢治の生涯と文学
第2回　『グスコーブドリの伝記』を読む（1）
第3回　『グスコーブドリの伝記』を読む（2）
第4回　『オツベルと象』を読む（1）
第5回　『オツベルと象』を読む（2）
第6回　『オツベルと象』を読む（3）
第7回　『なめとこ山の熊』を読む（1）
第8回　『なめとこ山の熊』を読む（2）
第9回　『なめとこ山の熊』を読む（3）
第10回 『なめとこ山の熊』を読む（4）
第11回 『銀河鉄道の夜』を読む（1）
第12回 『銀河鉄道の夜』を読む（2）
第13回 『銀河鉄道の夜』を読む（3）
第14回 宮沢賢治からジブリへ
第15回 まとめ

履修上の注意点

グループワークには積極的に参加すること

教科書

作品で読む宮沢賢治
著者:　京都橘大学日本語日本文学科
出版社: 新典社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 60 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**東洋史研究Ⅲ（文化）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　王 衛明	

テーマ

中国古代史の基本問題として、その成立と展開の特質を探る。

授業の到達目標

この授業では、中国における都市文明の起源から唐代までの歴史と、文化の形成から展開の諸問題を取り扱い、中国文明の原像を把握する。

授業の概要

中国文明の成立は、中国周辺の異民族にも大きな影響を与えた。古代中国の高度にすぐれた文化がこれらの地域に広く浸透し、文化的政治的な成長と中国化を促した。やがて中国を中心にして漢字文化を共有し、相互に密接な関係を有する東アジア世界が形成される。その文明の形成に大きな役割を果たした幾つかの事例を素材に、文献史学、更に近年新出の資料を美術史、考古学の立場から、中国古代史構造の基本問題とその考え方を探る。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

場合によって授業内容にかかわる寺社や特別展の見学を実施する。

内　容

第1回　中国文明を理解するためのキーワード総解説
第2回　夏文明の問題―考古と文献実証の間
第3回　夏文明と殷商文明―青銅器の発展の諸問題
第4回　春秋戦国時代の出土文献と文字出土資料
第5回　秦代中国統一の諸問題Ⅰ―万里長城の建設の意義
第6回　秦代中国統一の諸問題Ⅱ―皇帝陵墓の出現と陪葬俑
第7回　漢代の儒家思想とその文化Ⅰ
第8回　漢代の文物制度Ⅱ―蔵書と目録学の出現
第9回　漢代の思想と文化Ⅲ―考古資料からみる漢代の信仰
第10回　魏晋南北朝時代の諸問題Ⅰ―仏教の伝来と発展
第11回　魏晋南北朝時代の諸問題Ⅱ―漢訳仏教経典と寺院の成立及び伽藍配置の問題
第12回　魏晋南北朝時代の諸問題Ⅲ―漢字発展の諸問題
第13回　隋唐時期の文化Ⅰ―初唐・盛唐期の仏教文化
第14回　隋唐時期の文化Ⅱ―考古学資料からみる唐代の国際関係
第15回　内容総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻や途中退席をしないこと。場合によって、中国関係の遺物、博物館の所蔵品を見学する予定。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

参加度 （ 50 ）

授業中に紹介した、参考文献や論文、また配布資料を必ず週7時間以上読むこと。
この授業は受講生の授業態度を重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**東洋史研究Ⅳ（文化）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　王 衛明	

テーマ

東洋美術史上の仏教美術品諸問題

授業の到達目標

美術作品を実際に見ることによって、東洋では普遍的な意味を持つ仏教美術史の流れを把握する。

授業の概要

仏教美術史を研究するために、その前提となる素材と史料について、その見方や調査方法を身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業時に指定する参考書をよく読むことと日本・中国の仏教美術に関する特別展や寺院・仏像の見学を実施する予定。

内　容

第1回　ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
第2回　ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
第3回　ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
第4回　仏典の漢訳と仏像の制作
第5回　仏典の漢訳と仏像の制作
第6回　漢代における仏教美術の成立（文献と実物の両面から）
第7回　漢代における仏教美術の成立（文献と実物の両面から）
第8回　南北朝時代以前の仏教造像の成立
第9回　南北朝時代以前の仏教造像の成立
第10回　南北朝時代以前の仏教造像の成立
第11回　中国石窟寺院の総解説―仏教造像の考古学・様式学的考察（キジル石窟、敦煌石窟）
第12回　敦煌莫高窟からみる仏教美術の諸問題
第13回　河西地域からみる漢民族化仏教芸術の諸問題
第14回　雲岡石窟・龍門石窟からみる仏教造像の様式
第15回　内容総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないように。参考書は授業中に適時指示する。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 50 ）

授業中に紹介した、参考文献や論文、また配布資料を必ず週7時間以上読むこと。
この授業は受講生の授業態度を重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産研究Ⅴ（美術史学）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小林　裕子	

テーマ

世界遺産醍醐寺プロジェクト活動を歴史遺産研究の立場からパブリック化する。

授業の到達目標

本科目によって、学生個々の様々な能力を養成し、予測困難な時代に活躍できる人材育成を目標とする。

授業の概要

世界遺産醍醐寺を通じて、PBL（Project Based Learning）すなわち課題発見・解決型学習により自ら課題を発見し、解決策を提案する。なお、授業計画にあげた日程以外の集中講義予定（おもに土or日）については、ガイダンス時に発表する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

受講にあたっては、醍醐寺展図録や醍醐寺大観などによって各自基礎研究を進めておいてもらいたい。

内　容

第1回　ガイダンス及び醍醐寺見学（桜の咲いているうちに）
第2回　全体オリエンテーション（於コンソーシアム京都　5月20日（日））
第3回　課題発見、調査計画の立案のための事前調査①（於　醍醐寺）
第4回　課題発見、調査計画の立案のための事前調査②（於　醍醐寺）
第5回　課題発見、調査計画の立案のための事前調査③（於　京都橘大学）
第6回　草案作成（於　京都橘大学）
第7回　調査研究①（於　醍醐寺）
第8回　調査研究②（於　醍醐寺）
第9回　調査研究③（於　醍醐寺）
第10回　調査研究④（於　醍醐寺）
第11回　プレゼンテーショントレーニング（於コンソーシアム京都　10月21日（日））
第12回　研究成果集約と分析①（於　醍醐寺）
第13回　研究成果集約と分析②（於　京都橘大学）
第14回　研究成果集約と分析③（於　京都橘大学）
第15回　成果発表会（於コンソーシアム京都　12月9日（日））

履修上の注意点

教科書

参考書

醍醐寺大觀1
著者：　西川新次, 山根有三監修
出版社：岩波書店
出版年：2001　　ISBN：4000089161

醍醐寺大觀2
著者：　西川新次, 山根有三監修
出版社：岩波書店
出版年：　　ISBN：400008917X

醍醐寺大觀3
著者：　西川新次, 山根有三監修
出版社：岩波書店
出版年：　　ISBN：4000089188

国宝醍醐寺のすべて : 密教のほとけと聖教 : 醍醐寺文書聖教7万点国宝指定記念特別展
著者：　奈良国立博物館編
出版社：日本経済新聞社
出版年：2014　　ISBN：

h10301i710

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
学外の皆様にお世話になることが多い科目であるため、普段以上に節度ある行動で取り組んでもらいたい。

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産研究Ⅵ（美術史学）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小林　裕子	

テーマ

美術史学における論争史を把握し、自らの視点で分析する。

授業の到達目標

明治以来、実証学的立場により日本の美術史研究は発展してきた。すなわち、実物から得られる情報とともに文献を駆使することにより、作品の実態を深く理解してきたのである。本授業では、絵画や彫刻、工芸品など多様な対象にいかなる研究が蓄積熟成されてきたのか、あらゆる手段で先行研究を収集解析し、発表することで基礎研究能力を向上させることを目標とする。

授業の概要

美術史学におけるいくつかの論争から興味のあるテーマを選び、整理発表する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　研究発表①
第2回　研究発表①
第3回　研究発表②
第4回　研究発表②
第5回　研究発表③
第6回　研究発表③
第7回　研究発表④
第8回　研究発表④
第9回　研究発表⑤
第10回　研究発表⑤
第11回　研究発表⑥
第12回　研究発表⑥
第13回　学外見学
第14回　学外見学
第15回　学外見学

履修上の注意点

本授業は、月1回2コマ連続の実施とする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産研究Ⅶ（遺産修復・整備研究）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一瀬　和夫	

テーマ

世界遺産の文化財的な普遍的価値を見いだし、保存、公開、活用のあり方をさぐる。

授業の到達目標

日本での世界遺産の登録とはいったい何か、文化財保護といかなる関係にあるのか。世界遺産の文化財的な普遍的価値を中心に見学・検討することで、日本社会における文化財の保存、公開、活用のあり方を具体的に考えてみる。

授業の概要

世界遺産を調査して、文化財保護についての課題を検出し、その保存、公開、活用を考え、提案する。学外授業、講師を招いて講演会を含む。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　身のまわりの世界遺産の概要を知る（1）。
第2回　身のまわりの世界遺産の概要を知る（2）。
第3回　世界遺産の調査計画を立てる（1）。
第4回　世界遺産の調査計画を立てる（2）。
第5回　世界遺産の現地調査を実施（1）。
第6回　世界遺産の現地調査を実施（2）。
第7回　世界遺産の現地調査の結果を議論（1）。
第8回　世界遺産の現地調査の結果を議論（2）。
第9回　世界遺産について、保存、公開、活用の方向を検討する（1）。
第10回 世界遺産について、保存、公開、活用の方向を検討する（2）。
第11回 保存、公開、活用の方向について、世界遺産側に聞き込みをする（1）。
第12回 保存、公開、活用の方向について、世界遺産側に聞き込みをする（2）。
第13回 保存、公開、活用の方向について、提案を考える（1）。
第14回 保存、公開、活用の方向について、提案を考える（2）。
第15回 保存、公開、活用の方向について、提案をまとめる。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産研究Ⅷ（遺産修復・整備研究）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　一瀬　和夫	

テーマ

文化遺産の資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境について、資料を良好な状態での保存を考える。

授業の到達目標

博物館や史跡における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的にとらえ、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得する。

授業の概要

実際の博物館における収蔵、保存の実態を調査し学ぶ。そのあり方を習い、文化財保存とその環境、施設の役割について知るとともに、問題点についてもさぐる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

現地調査を主とする。

内　　容

第1回　博物館や収蔵施設の概要を知る（1）。
第2回　博物館や収蔵施設の概要を知る（1）。
第3回　博物館や収蔵施設における実態を調査する（1）。
第4回　博物館や収蔵施設における実態を調査する（1）。
第5回　博物館や収蔵施設のファシリティー・レポートを作成する（1）。
第6回　博物館や収蔵施設のファシリティー・レポートを作成する（2）。
第7回　保管・収蔵のあり方を検討する（1）。
第8回　保管・収蔵のあり方を検討する（2）。
第9回　科学的にとらえた資料の良好な保存を考える（1）。
第10回　科学的にとらえた資料の良好な保存を考える（2）。
第11回　資料の本質的価値に沿った資料の良好な保存を考える（1）。
第12回　資料の本質的価値に沿った資料の良好な保存を考える（2）。
第13回　文化財保存とその環境、施設の役割についての問題点を考える（1）。
第14回　文化財保存とその環境、施設の役割についての問題点を考える（2）。
第15回　資料を良好な状態での保存の方向をまとめる。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**特別研究Ⅲ（歴M2）<M>**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安達　太郎	

テーマ

修士論文作成

授業の到達目標

修士論文の作成をめざして資料収集と読解、論文構成の確立、分析、執筆までを指導する

授業の概要

受講生による報告が中心になる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で指示

内　　容

第1回　概要説明
第2回　受講生による発表と指導
第3回　受講生による発表と指導
第4回　受講生による発表と指導
第5回　受講生による発表と指導
第6回　受講生による発表と指導
第7回　受講生による発表と指導
第8回　受講生による発表と指導
第9回　受講生による発表と指導
第10回　受講生による発表と指導
第11回　受講生による発表と指導
第12回　受講生による発表と指導
第13回　受講生による発表と指導
第14回　受講生による発表と指導
第15回　まとめ

履修上の注意点

受講生は毎週、一週間の間に修士論文の作成はどれだけ進んだか進捗状況を報告すること

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**特別研究Ⅳ（歴M2）<M>**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安達　太郎	

テーマ

修士論文の作成

授業の到達目標

修士論文の完成をめざす

授業の概要

受講生による発表を中心として討論を行い，自らのテーマを修士論文という形でまとめていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内で指示する

内　　容

第1回　概要説明
第2回　受講生による発表と討論
第3回　受講生による発表と討論
第4回　受講生による発表と討論
第5回　受講生による発表と討論
第6回　受講生による発表と討論
第7回　受講生による発表と討論
第8回　受講生による発表と討論
第9回　受講生による発表と討論
第10回　受講生による発表と討論
第11回　受講生による発表と討論
第12回　受講生による発表と討論
第13回　受講生による発表と討論
第14回　受講生による発表と討論
第15回　まとめ

履修上の注意点

毎回受講生は修士論文作成の進捗状況を報告すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 70% ）
参加度（ 30% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**文化政策特論Ⅰ〈D〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今久保　幸生	

テーマ

ビジネス・ヒストリーを手掛かりに経営戦略を学ぶ。

授業の到達目標

ビジネス・ヒストリーに関する最新の研究を検討することにより、経営戦略の動態を把握させる。

授業の概要

ビジネス・ヒストリーに関する最新の研究を輪読し、これに基づく討論を行うかたちで授業を進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

輪読テクストの予習・復習は当然行う必要があるが、関連の文献についても積極的に参照するべきである。課題へのフィードバックは以後の授業中に行う。

内　容

第1回　授業のオリエンテーション
第2回　序論、ビジネス・ヒストリーと企業理論
第3回　企業家精神、産業革命以前の製造業
第4回　産業革命期の企業と企業家、技術・社会・工場制度
第5回　通信網と輸送網の整備、技術と組織
第6回　国別の発展パターン、複数事業部制企業と経営者資本主義
第7回　両大戦間期のヨーロッパ、日本の奇跡の源流
第8回　第2次世界大戦から第3次産業革命まで、アメリカの覇権とその余波
第9回　ソヴィエト連邦、日本
第10回　ハイブリッドなヨーロッパ・モデル、異なる「キャッチアップ」戦略
第11回　多国籍企業、企業の新しい形態
第12回　「活気ある1990年代」～アメリカの復活
第13回　減速～ヨーロッパと日本
第14回　新しい主役～中国とインド
第15回　ビジネスはどこに向かうのか

履修上の注意点

教科書

ビジネス・ヒストリー
著者:　F.アマトーリ他
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 70 ）
参加度（ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**文化政策特論Ⅱ〈D〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今久保　幸生	

テーマ

グローバル経営史を学ぶ。

授業の到達目標

国境を越える産業ダイナミズムを軸とした企業活動の国際化・グローバル化の動態に関する最新の研究動向を把握することにより、院生に学界の到達水準を学ばせる。

授業の概要

テーマに関する最新の研究を輪読等によって検討してゆく。初回に具体的な進め方について、院生と相談する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

関連の研究書・論文等を予習し、また輪読書を復習する際も、関連の研究を比較参照すること。課題に対するフィードバックは以後の授業のなかで行う。

内　容

第1回　授業のオリエンテーション
第2回　グローバル経営史とは何か
第3回　米欧アジア3大市場と競争力の3つの型～製紙
第4回　クォーツ時計からファッションへ～時計
第5回　ファストファッションの台頭と百貨店の岐路～アパレル
第6回　勃興する新興国市場と民族系メーカーの競争力～自動車I
第7回　選択的グローバル化による国境経済圏への集積～自動車II
第8回　絶えざる技術開発とグローバル競争優位～重電機器
第9回　多様な顧客に育まれた競争優位～電子部品
第10回 グローバルな産業形成と欧米優位の長期持続～産業ガス
第11回 シェール革命下の2正面作戦～化学
第12回 文化産業での競争とグローバル企業の成立～出版
第13回 競争力の源泉としての規制～生命保険
第14回 中小企業の国際競争力を決定するもの～金融
第15回 まとめ～「国の競争優位」から「地域の競争優位」へ

履修上の注意点

教科書

グローバル経営史
著者:　橘川武郎他編
出版社: 名古屋大学出版会
出版年: 2016　　ISBN:

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 70 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**文化経済特論Ⅰ〈D〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阪本　崇	

テーマ

文化経済学の近年の展開

授業の到達目標

近年の文化経済学の展開を理解し、自信の研究をその中に位置づけることができるようになる。

授業の概要

R.Towse, O. Velthuis, T.Cowen, H.Abbingなど、新しい世代の文化経済学の著作をとりあげ、著作権やメディア産業など比較的最近になって注目されるようになった領域についても触れながら、近年の文化経済学の展開について検討する。取り上げる文献は受講計画に示すが、受講生の要望によって変更も可能であるので、テキスト・参考書等は授業中に指示する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に指定された文献を読んで検討することが必要である。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　T.Cowen『アメリカはアートをどのように支援してきたか』（1）
第3回　T.Cowen『アメリカはアートをどのように支援してきたか』（2）
第4回　T.Cowen『アメリカはアートをどのように支援してきたか』（3）
第5回　H.Abbing『金と芸術』（1）
第6回　H.Abbing『金と芸術』（2）
第7回　H.Abbing『金と芸術』（3）
第8回　O.Velthuis,Talking Prices（1）
第9回　O.Velthuis,Talking Prices（2）
第10回　O.Velthuis,Talking Prices（3）
第11回　R.Towse, Advanced Introduction to Cultural Economics（1）
第12回　R.Towse, Advanced Introduction to Cultural Economics（2）
第13回　R.Towse, Advanced Introduction to Cultural Economics（3）
第14回　著作権とメディア（1）
第15回　著作権とメディア（2）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**文化経済特論Ⅱ〈D〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阪本　崇	

テーマ

ボーモルの「コスト病」の再検討

授業の到達目標

ボーモルの「コスト病」の意義について、マクロとミクロの両面から理解する。

授業の概要

ボーモルの「コスト病」およびサービス産業に関する経済学説の史的展開を踏まえた上で、サービス産業の生産性に関する近年の議論を手がかりに、ボーモルの「コスト病」についての再検討を行う。授業計画に文献を挙げておくが、受講生の要望も踏まえて変更する可能性があるので、テキスト・参考書等については授業中に指示する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

指定された文献については、精読し、事前に十分に理解しておく必要がある。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　W.J.Baumol, The Cost Disease（1）
第3回　W.J.Baumol, The Cost Disease（2）
第4回　W.J.Baumol, The Cost Disease（3）
第5回　W.J.Baumol, The Cost Disease（4）
第6回　J.-C.Delaunay & J.Gadrey,『サービス経済学説史』（1）
第7回　J.-C.Delaunay & J.Gadrey,『サービス経済学説史』（2）
第8回　J.-C.Delaunay & J.Gadrey,『サービス経済学説史』（3）
第9回　J.-C.Delaunay & J.Gadrey,『サービス経済学説史』（4）
第10回 森川正之『サービス立国論』（1）
第11回 森川正之『サービス立国論』（2）
第12回 森川正之『サービス産業の生産性分析』（1）
第13回 森川正之『サービス産業の生産性分析』（2）
第14回 コスト病の再検討（1）
第15回 コスト病の再検討（2）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**観光文化振興策特論Ⅰ〈D〉**

クラス　　配当回生　大学院1回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　谷口 知司

テーマ

観光研究をマネジメントの側面から考察する。

授業の到達目標

観光産業を概観し、マネージメントの側面からその全体像を把握できる。

授業の概要

講義と輪読ならびに発表で構成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に与えられたテーマについて発表に備え予習する。

内　容

第1回　観光の現状
第2回　旅行会社
第3回　旅行会社
第4回　輸送機関
第5回　輸送機関
第6回　輸送機関
第7回　宿泊施設
第8回　宿泊施設
第9回　世界遺産
第10回　世界遺産
第11回　インバウンド
第12回　インバウンド
第13回　発表
第14回　発表
第15回　発表

履修上の注意点

教科書

これからの観光を考える
著者:　谷口知司他
出版社: 晃洋書房
出版年: 2017　　ISBN:

参考書

観光ビジネス論
著者:　谷口知司他
出版社: ミネルヴァ書房
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**マネジメント研究の方法と倫理 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　髙山　一夫	

テーマ

マネジメント研究に関する研究計画の明確化と研究倫理の理解

授業の到達目標

・各自のマネジメント研究に関する研究計画を明確にするとともに、研究計画に沿って必要な文献調査や資料研究、研究発表、論文作成等を行うことができるよう、基礎的な研究能力を涵養する。・研究を進めるにあたって不可欠な倫理原則について学習し、研究倫理の原則や指針を遵守しつつ研究を展開する力を身につける。

授業の概要

研究計画の考え方についての解説するとともに、各自の研究計画について一般的な指導を行う。また、研究倫理の原則や指針について学習する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

必要な報告などの準備

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　研究計画について(1)　大学院における研究とは
第3回　研究計画について(2)　研究の種別と方法
第4回　研究計画書についての概説(3)　研究計画とは
第5回　研究計画書についての概説(4)　研究計画書作成上の留意点
第6回　図書館ガイダンス（予定）データベースの活用等
第7回　研究計画書の指導(1)
第8回　研究計画書の指導(2)
第9回　研究倫理について(1)　研究倫理の概要、責任ある研究活動
第10回　研究倫理について(2)　研究活動面における倫理問題
第11回　研究倫理について(3)　研究発表面における倫理問題
第12回　研究倫理について(4)　研究活動と社会の関わり
第13回　研究計画書の指導(3)
第14回　研究計画書の指導(4)
第15回　講義全体のまとめ

履修上の注意点

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

研究計画書の考え方
著者:　妹尾堅一郎
出版社:　ダイヤモンド社
出版年:　1999年　　ISBN:　9784478731758

福祉教育はいかにあるべきか
著者:　二木立
出版社:　勁草書房
出版年:　2013年　　ISBN:　9784326700783

人文・社会科学のための研究倫理ガイドブック
著者:　眞嶋俊造・奥田太郎・河野哲也
出版社:　慶應大学出版会
出版年:　2015年　　ISBN:　9784766422559

h52101a110

科学の健全な発展のために

著者: 日本学術振興会
出版社: 丸善出版
出版年: 2015年 ISBN: 9784621089149

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）
授業中課題（ ） 授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ 50 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**課題研究Ⅰ〈Me〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小暮　宣雄	

テーマ

文化政策・アーツマネジメント研究1

授業の到達目標

わが国中心に文化政策の担い手を研究するとともに、芸術と社会の出会いをアレンジするアーツマネジメントの実践現場を調査する。

授業の概要

少人数なので、院生の興味ある文化分野を中心にその行政や企業メセナ、公益法人などの活動を調べていく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日本の文化政策の概要はまず調べておくこと。授業で紹介した芸術鑑賞を行うこと（現地に行くのでかなりの時間が必要）。レポートについては発表してもらいコメントや議論をする。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　公共政策のなかにおける文化の位置づけ
第3回　文化政策のなかにおける芸術の位置づけ
第4回　文化行政論1・・・中央政府
第5回　文化行政論2・・・地方政府
第6回　企業メセナ論
第7回　アーツサービスオーガニゼーション論1
第8回　アーツサービスオーガニゼーション論2
第9回　各自の調査発表1
第10回　各自の調査発表2
第11回　学外授業1・・・視覚芸術
第12回　学外授業2・・・実演芸術
第13回　フィールドワークの振り返り
第14回　アウトリーチと社会的包摂
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**課題研究Ⅱ〈Me〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小暮　宣雄	

テーマ

文化政策・アーツマネジメント研究2

授業の到達目標

前期に続き、わが国中心に文化政策の担い手を研究するとともに、芸術と社会の出会いをアレンジするアーツマネジメントの実践現場を調査し、自らもイベントを企画できるようになる。

授業の概要

少人数なので、院生の興味ある文化分野を中心にその行政や企業メセナ、公益法人などの活動を調べていくとともに、企画づくりも行ってもらう。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日本の文化政策、とくに興味のある自治体における文化行政の概要をまず調べておくこと。授業で紹介した芸術鑑賞を行うこと（現地に行くのでかなりの時間が必要）。レポートについては発表してもらいコメントや議論をする。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　夏休みに課題としていた芸術場視察について、発表と議論
第3回　芸術場としての劇場文化論
第4回　障害者と視覚芸術
第5回　障害者と実演芸術
第6回　市民活動と文化政策
第7回　学外授業1・・・障害者の音楽祭に参加
第8回　学外授業2・・・障害者の展覧会に参加
第9回　各自の研究発表1
第10回　各自の研究発表2
第11回　フィールドワークに対するコメントと議論
第12回　指定管理者制度のいま
第13回　芸術フェスティバル論
第14回　芸術と観光、まちづくり、福祉政策の関係
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

アーツマネジメント学
著者:　小暮宣雄
出版社:　水曜社
出版年:　2013年　　ISBN:　9784880653129

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**経営戦略論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今久保　幸生	

テーマ

ビジネス・ヒストリーを手掛かりに経営戦略を学ぶ。

授業の到達目標

ビジネス・ヒストリーに関する最新の研究を検討することにより、経営戦略の動態を把握させる。

授業の概要

ビジネス・ヒストリーに関する最新の研究を輪読し、これに基づく討論を行うかたちで授業を進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

輪読テクストの予習・復習は当然行う必要があるが、関連の文献についても積極的に参照するべきである。課題へのフィードバックは以後の授業中に行う。

内　容

第1回　授業のオリエンテーション
第2回　序論、ビジネス・ヒストリーと企業理論
第3回　企業家精神、産業革命以前の製造業
第4回　産業革命期の企業と企業家、技術・社会・工場制度
第5回　通信網と輸送網の整備、技術と組織
第6回　国別の発展パターン、複数事業部制企業と経営者資本主義
第7回　両大戦間期のヨーロッパ、日本の奇跡の源流
第8回　第2次世界大戦から第3次産業革命まで、アメリカの覇権とその余波
第9回　ソヴィエト連邦、日本
第10回　ハイブリッドなヨーロッパ・モデル、異なる「キャッチアップ」戦略
第11回　多国籍企業、企業の新しい形態
第12回　「活気ある1990年代」～アメリカの復活
第13回　減速～ヨーロッパと日本
第14回　新しい主役～中国とインド
第15回　ビジネスはどこに向かうのか

履修上の注意点

教科書

ビジネス・ヒストリー
著者:　F.アマトーリ他
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 70 ）
参加度（ 30 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**組織マネジメント論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　平尾　毅	

テーマ

組織論の基本的な考え方と最新の組織研究の動向を理解する。

授業の到達目標

より深い専門知識を修得できる。
プレゼンテーション能力を磨くことができる。
議論を通して思考力を磨くことができる。

授業の概要

組織マネジメントプロセスである、計画、組織化、リーダーシップ、コントロールの各段階の経営原理を探求していく。計画の段階では、マネジメント環境分析、意思決定、計画策定の基本原理を学ぶ。組織化においては、組織構造と設計、人的資源管理、個人行動の原理について考察する。リーダーシップの段階においては、モチベーション論、リーダーシップ行動論の諸理論を身に付ける。コントロールのステージではオペレーションマネジメントの基本理論に触れる。特に、現代企業組織で急速に普及しつつあるチーム組織、マトリクス組織、バウンダリーレス組織の存在意義について学術的なレビューを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習として、配布資料をもとにレジュメを毎回作成し、発表してもらいます。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　組織をめぐる諸問題と組織研究
第3回　組織の合理性
第4回　組織の意思決定
第5回　組織化のプロセス
第6回　環境と組織
第7回　組織の構造、能力と組織デザイン
第8回　組織内外のコントロール
第9回　組織の非合理性
第10回　組織のシンボリックな側面
第11回　組織文化と組織学習
第12回　組織によるイノベーション
第13回　情報ネットワーク社会の組織変革
第14回　ポストモダンの組織論
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

特になし。配布資料で代用します。

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜紹介します。

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 60% ）　　小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 0% ）　　授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 10% ）
試験・レポートは、最終レポートを含みます。
授業中発表等は、発言内容を含みます。

2018 Syllabus

科 目 名　**経営史 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松石　泰彦	

テーマ

近現代経営史の研究基礎を学ぶ

授業の到達目標

修士論文作成や専門研究のバックグラウンドとしての知識や理論、実践方法の基礎を身につける

授業の概要

経営史の基本的な理論を学ぶ。米国および日本での研究蓄積を中心対象として、ベーシックな理論書とケーススタディの論文を合わせて学ぶ。また随時経済史の内容も参照する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

テキストやその都度指示された文献を事前に読み、内容をまとめておく。教員と討論する形で理解を深める。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　テキストの読解と討論、解説（1）
第3回　テキストの読解と討論、解説（2）
第4回　テキストの読解と討論、解説（3）
第5回　テキストの読解と討論、解説（4）
第6回　テキストの読解と討論、解説（5）
第7回　テキストの読解と討論、解説（6）
第8回　中間まとめ
第9回　テキストの読解と討論、解説（7）
第10回　テキストの読解と討論、解説（8）
第11回　テキストの読解と討論、解説（9）
第12回　テキストの読解と討論、解説（10）
第13回　テキストの読解と討論、解説（11）
第14回　テキストの読解と討論、解説（12）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

受講者の研究テーマに合わせて相談の上決定する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**会計・税理論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河野　充央	

テーマ

会計的視点から国家・財政を見る

授業の到達目標

国家運営を会計的に分析する方法を学ぶ

授業の概要

歳入および歳出の仕組みに会計的思考方法でアプローチする

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

日経新聞等を毎日欠かさず読み，アベノミクス（金融緩和，財政出動，成長戦略）等の政府・日銀の政策，および，政府・与党の税制調査会のなどに注意を向ける。

内　　容

第1回　国家の危機とは（1）
第2回　国家の危機とは（2）
第3回　国家の危機とは（3）
第4回　国家破綻への対応（1）
第5回　国家破綻への対応（2）
第6回　国家破綻への対応（3）
第7回　国家破綻への対応（4）
第8回　組織と行財政の改革（1）
第9回　組織と行財政の改革（2）
第10回　組織と行財政の改革（3）
第11回　組織と行財政の改革（4）
第12回　組織と行財政の改革（5）
第13回　税制改革の本質（1）
第14回　税制改革の本質（2）
第15回　税制改革の本質（3）

履修上の注意点

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

現代国家の危機―破綻を回避するモデル国家の構築―
著者:　河野充央他
出版社:　富嶽出版
出版年:　2012　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 70 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**人的資源管理論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　平尾　毅	

テーマ

人的資源管理の実践と理論を学ぶ。

授業の到達目標

より深い専門知識を修得できる。
プレゼンテーション能力を磨くことができる。
議論を通して思考力を磨くことができる。

授業の概要

人的資源管理論を学術的に探究するためには、教育、訓練、能力開発、考課といった組織人事制度の個別手法とその有効性の有無を学ぶにとどまらず、その根底にある普遍的な理論的枠組み、ひいては人間観にまで理解を深める必要がある。本科目では、モチベーション論、リーダーシップ論、学習、創造性論、組織行動論、集団ダイナミックスなどについても幅広いレビューを行い、人的資源管理の経営実践と理論的枠踏みを統合的に学習する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習として、配布資料をもとにレジュメを毎回作成し、発表してもらいます。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　人的資源管理の捉え方
第3回　戦略・組織と人的資源管理
第4回　社員区分制度と社員格付け制度
第5回　採用管理
第6回　配置と異動の管理
第7回　教育訓練
第8回　人事評価
第9回　昇進管理
第10回　報酬管理
第11回　福利厚生と退職給付
第12回　労働時間と勤務場所
第13回　人材活用とワーク・ライフ・バランス
第14回　雇用調整と退職の管理
第15回　パート社員や外部人材の活用

履修上の注意点

教科書

特になし。配布資料で代用します。

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜紹介します。

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 60% ）　　小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 0% ）　　授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 10% ）
試験・レポートは、最終レポートを含みます。
授業中発表等は、発言内容を含みます。

2018 Syllabus

科 目 名　**マーケティング論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今井　まりな	

テーマ

マーケティング・マネジメント

授業の到達目標

マーケティング・マネジメントに関する基礎概念を理解するとともに、各概念がなぜ必要とされてきたか、その背景について考察できる。

授業の概要

テキストの輪読を通じて、マーケティング・マネジメントの主要な論点に関する検討を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

輪読の担当者は、担当箇所に関する報告資料をあらかじめ作成する必要がある。また、報告資料の作成にあたっては、指定しているテキスト以外に、関連する文献を参照する必要がある。報告の中で、発表内容や資料の作り方等についてフィードバックを行う。

内　　容

第1回　マーケティング・マネジメントの基本枠組み
第2回　製品と価格のマネジメント
第3回　流通チャネルとプロモーションのマネジメント
第4回　マーケティング組織のデザイン
第5回　マーケティング資源の配分
第6回　事業の定義
第7回　消費者の理解
第8回　競争構造の理解
第9回　取引関係の理解
第10回　プロセスとしての競争
第11回　産業のライフサイクル
第12回　チャネル資産のマネジメント
第13回　顧客関係のマネジメント
第14回　ブランドのマネジメント
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

ゼミナールマーケティング入門
著者:　石井淳蔵, 嶋口充輝, 栗木契, 余田拓郎
出版社:　日本経済新聞出版社
出版年:　2013　　ISBN:　978-4532134396

参考書

現代マーケティング論
著者:　高嶋克義, 桑原秀史
出版社:　有斐閣
出版年:　2008　　ISBN:　978-4641123434

成績評価

試験・レポート （ 40 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 60 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**ファイナンス論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　近藤　隆則	

テーマ

資産選択理論や資産価格決定理論など証券投資理論の基礎を学ぶ。

授業の到達目標

資産選択理論や各種金融商品の資産価格決定理論を理解し説明できること

授業の概要

様々な投資対象があるとき資金を何にいくら配分したらよいか、資産価格を変動させる要因は何か等について、理論と実務の両面から基礎的な事柄を網羅して説明する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

株価や金利などファイナンスの基本指標の推移について、新聞、ニュースなどを通じて定期的に把握するようにしてください。

内　容

第1回　授業ガイダンス—この授業の目的、進め方など
第2回　基礎的な確率・統計についての復習
第3回　不確実性下の意思決定：期待効用理論と危険回避（1）
第4回　不確実性下の意思決定：期待効用理論と危険回避（2）
第5回　ポートフォリオの選択理論：平均−分散アプローチ（1）
第6回　ポートフォリオの選択理論：平均−分散アプローチ（2）
第7回　ポートフォリオの選択理論：平均−分散アプローチ（3）
第8回　前半のまとめ
第9回　資産価格の決定理論：CAPM、APT（1）
第10回　資産価格の決定理論：CAPM、APT（2）
第11回　資産価格の決定理論：CAPM、APT（3）
第12回　債券投資分析（1）
第13回　債券投資分析（2）
第14回　金融派生商品（先物・オプション）の価格評価理論
第15回　全体のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

「新・証券投資論Ⅰ　理論篇」
著者：　小林孝雄・芹田敏夫
出版社：東洋経済新報社
出版年：2009年　　ISBN：

「新・証券投資論Ⅱ　実務篇」
著者：　伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣・浅野 幸弘
出版社：東洋経済新報社
出版年：2009年　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（80%）	授業中発表等（　）
参加度（20%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**国際経営論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　今久保　幸生	

テーマ

グローバル経営史を学ぶ。

授業の到達目標

国境を越える産業ダイナミズムを軸とした企業活動の国際化・グローバル化の動態に関する最新の研究動向を把握することにより、院生に学界の到達水準を学ばせる。

授業の概要

テーマに関する最新の研究を輪読等によって検討してゆく。初回に具体的な進め方について、院生と相談する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

関連の研究書・論文等を予習し、また輪読書を復習する際も、関連の研究を比較参照すること。課題に対するフィードバックは以後の授業のなかで行う。

内　容

第1回　授業のオリエンテーション
第2回　グローバル経営史とは何か
第3回　米欧アジア3大市場と競争力の3つの型～製紙
第4回　クォーツ時計からファッションへ～時計
第5回　ファストファッションの台頭と百貨店の岐路～アパレル
第6回　勃興する新興国市場と民族系メーカーの競争力～自動車I
第7回　選択的グローバル化による国境経済圏への集積～自動車II
第8回　絶えざる技術開発とグローバル競争優位～重電機器
第9回　多様な顧客に育まれた競争優位～電子部品
第10回 グローバルな産業形成と欧米優位の長期持続～産業ガス
第11回 シェール革命下の2正面作戦～化学
第12回 文化産業での競争とグローバル企業の成立～出版
第13回 競争力の源泉としての規制～生命保険
第14回 中小企業の国際競争力を決定するもの～金融
第15回 まとめ～「国の競争優位」から「地域の競争優位」へ

履修上の注意点

教科書

グローバル経営史
著者:　橘川武郎他編
出版社: 名古屋大学出版会
出版年: 2016　　ISBN:

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 70 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**イノベーションマネジメント論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西村　成弘	

テーマ

知的財産管理とイノベーション

授業の到達目標

イノベーションの議論において特許をはじめとする知的財産が扱われることは多いがその管理(マネジメント)が問題にされることは少ない。本講義では、受講者が知的財産管理という新たな視角からイノベーションを論じられるようになること、あるいはそのような視角から現代企業経営を分析する専門的能力を会得することを獲得目標にする。

授業の概要

テキストの輪読を中心に進める。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

講義での発表・討論のために、事前に各回の輪読範囲を読んでおくこと。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　テキスト輪読(1)序章「日本の特許管理形成史を考える意義」
第3回　テキスト輪読(2)第1章「GEの国際経営と特許管理」
第4回　テキスト輪読(3)第2章「日本における電球事業と特許管理」
第5回　テキスト輪読(4)第3章「技術導入と特許管理の発生」
第6回　テキスト輪読(5)第4章「国際特許管理契約の締結」(前半)
第7回　テキスト輪読(6)第4章「国際特許管理契約の締結」(後半)
第8回　テキスト輪読(7)第5章「技術移転と技術交流」
第9回　テキスト輪読(8)第6章「日本企業による特許管理の展開(1)」
第10回　テキスト輪読(9)第7章「日本企業による特許管理の展開(2)」
第11回　テキスト輪読(10)第8章「日本企業による特許管理の展開(3)」
第12回　テキスト輪読(11)第9章「日米開戦と敵産処分」
第13回　テキスト輪読(12)第10章「占領政策と特許」
第14回　テキスト輪読(13)第11章「間接的な管理から直接的な管理へ」
第15回　まとめ討論

履修上の注意点

主体的・積極的な討論への貢献を求む

教科書

国際特許管理の日本的展開
著者:　西村成弘
出版社:　有斐閣
出版年:　2016　　ISBN:　9784641164819

参考書

成績評価

試験・レポート (60)	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 (40)
参加度 ( )	

2018 Syllabus

科 目 名　**アントレプレナーシップ論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西村　成弘	

テーマ

アントレプレナーシップの史的分析

授業の到達目標

グローバル化が急速に進む中で、アントレプレナーシップは各国のこれからの経済成長を左右するものとして重要な位置づけを高めつつある。本授業では、アントレプレナーシップを歴史的かつ国際比較の視点から検討し、その本質に迫ろうとするものである。資本主義のダイナミズムを把握する視点を会得することが到達目標である。

授業の概要

テキストの輪読をもとに討論を行います。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各授業前にテキストの該当箇所を読み、概要を把握しておくこと。また、関連する事象につき幅広く情報を収集しておくこと。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　第1章　序論
　　第2章　ビジネス・ヒストリーと企業理論
第3回　第3章　企業家精神
第4回　第4章　産業革命以前の製造業
　　第5章　第一次産業革命期の企業と企業家
　　第6章　技術、社会、工場制度
第5回　第7章　通信網と輸送網の整備
　　第8章　技術と組織
　　第9章　国別の発展パターン
第6回　第10章　複数事業部制企業と経営者資本主義
第7回　第11章　両大戦間期のヨーロッパ
　　第12章　日本の軌跡の源流
第8回　第13章　第二次世界大戦から第三次産業革命まで
第9回　第14章　アメリカの覇権とその余波
第10回　第15章　ソヴィエト連邦
　　第16章　日本
第11回　第17章　ハイブリッドなヨーロッパ・モデル
　　第18章　異なる「キャッチ・アップ」戦略
第12回　第19章　多国籍企業
　　第20章　企業の新しい形態
第13回　第21章　「活気ある1990年代」
　　第22章　減速
第14回　第23章　新しい主役
　　第24章　ビジネスはどこに向かうのか
第15回　まとめ討論

履修上の注意点

積極的な討論への参加を求める

教科書

ビジネス・ヒストリー
著者:　F・アマトーリ＆A・コリー
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2014　　ISBN:　9784623072088

参考書

成績評価

試験・レポート（ 60 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**地域マネジメント論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　高原　正興	

テーマ

地域福祉の視点から見る地域の組織化と運営

授業の到達目標

1.現代日本における地域社会の動向と特徴を理解する
2.地域福祉論の主な内容と課題を理解する
3.コミュニティワークの主な内容と課題を理解する
4.居住地域を調査・診断して、その課題解決の方法を検討する

授業の概要

上記の到達目標に沿って、レジュメ・プリント・視聴覚教材などを使用して講義を展開し、適宜討論の機会を設ける。また、地域調査と地域診断のレポートを課す。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

「地域福祉の理論と方法」に関する書籍を予習しつつ、日頃から居住地域に関する情報収集を心掛ける。

内　容

第1回　地域福祉とは何か（定義・概要・背景）
第2回　地域福祉の考え方と地域社会の現状（奥田モデルとコミュニティの概念）
第3回　地域の社会問題の事例（釜ヶ崎と夕張市のビデオ学習）
第4回　地域福祉とコミュニティワークの歴史（欧米と日本）
第5回　地域福祉の構成要素（地域組織化・コミュニティケア・予防的地域福祉）
第6回　地域福祉実践の事例（在宅福祉サービス・社会福祉協議会）
第7回　コミュニティワークとは何か（定義・意義・全体像）
第8回　コミュニティワークの特徴・役割・機能
第9回　地域調査レポートと地域診断レポートの作成方法、「サイレントプア」のビデオ鑑賞
第10回 コミュニティワークの主体（コミュニティワーカー・コミュニティグループ）
第11回 コミュニティワークの対象（地域住民組織・地域社会問題）
第12回 コミュニティワークのプロセス（1）（地域診断・計画策定）
第13回 コミュニティワークのプロセス（2）（実施過程・記録評価）
第14回 コミュニティワークの実践例（「サイレントプア」のビデオ鑑賞）
第15回 まとめ

履修上の注意点

履修する大学院生のニーズに応じてシラバスを多少変更することがある。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 60% ）
授業中課題の評価は上記の二つのレポートの評価による。

2018 Syllabus

科 目 名　**公共経営論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阪本　崇	

テーマ

文化政策と公共経営

授業の到達目標

1）公共部門の機能と役割についての基礎的な知識をみにつける
2）文化政策を事例に近年の公共部門の変化について理解する

授業の概要

本講義では、財政学をベースに公共部門の役割について学んだ上で、文化政策を事例として取り上げ、政府の機能に関する認識の変化と、近年の公共部門のあり方の変化について学ぶ。文献購読を中心に進めるが、希望に応じて受講生による研究発表を行うこととする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各回の授業で文献を指定するので、事前に読んでおくことが必要である。授業は、受講生の報告を中心に進めるので、報告に際して適宜フィードバックを行う。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　公共部門の機能と役割（1）：財政の3機能
第3回　公共部門の機能と役割（2）：予算原則と財政民主主義
第4回　公共部門の機能と役割（3）：市場の失敗と政府介入
第5回　文化政策（1）：文化政策の領域
第6回　文化政策（2）：文化政策と政策過程
第7回　文化政策（3）：文化産業
第8回　文化政策（4）：文化遺産と都市再生
第9回　文化政策（5）：知的財産
第10回　公共経営の変貌（1）：自治体文化行政と行政改革
第11回　公共経営の変貌（2）：基礎自治体の広域化と新しい市民活動の台頭
第12回　公共経営の変貌（3）：日本型NPMと指定管理者制度
第13回　公共経営の変貌（4）：「新しい公共」への注目
第14回　公共経営の変貌（5）：行政評価と政策過程
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

行政改革と文化創造のイニシアティヴ―新しい共創の模索
著者：　小林真理（編）
出版社：美学出版
出版年：2013　　ISBN：　490207835X

文化政策の経済学
著者：　デイヴィッド・スロスビー
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2014　　ISBN：　4623070697

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（60）	授業中発表等（40）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**観光マネジメント論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　谷口　知司	

テーマ

観光研究をマネジメントの側面から考察する。

授業の到達目標

観光産業を概観し、マネージメントの側面からその全体像を把握できる。

授業の概要

講義と輪読ならびに発表で構成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に与えられたテーマについて発表に備え予習する。

内　　容

第1回　観光の現状
第2回　旅行会社
第3回　旅行会社
第4回　輸送機関
第5回　輸送機関
第6回　輸送機関
第7回　宿泊施設
第8回　宿泊施設
第9回　世界遺産
第10回　世界遺産
第11回　インバウンド
第12回　インバウンド
第13回　発表
第14回　発表
第15回　発表

履修上の注意点

教科書

これからの観光を考える
著者:　谷口知司他
出版社: 晃洋書房
出版年: 2017　　ISBN:

参考書

観光ビジネス論
著者:　谷口知司他
出版社: ミネルヴァ書房
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 50 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**アーツマネジメント <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小暮　宣雄	

テーマ

芸術と社会の出会いをアレンジするアーツマネジメントの研究

授業の到達目標

アーツマネジメントについての概要が分かり、自分の関心のある芸術分野におけるアーツマネジメントの実際を分析できる用になる。

授業の概要

芸術と社会の出会いをアレンジするアーツマネジメントを学ぶために必要な芸術分野の基本的な鑑賞能力をまず高めるようにするとともに、アーツマネジメントの現場にも出かけることにする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

学外授業以外にも、芸術鑑賞の現場に行き、鑑賞するとともに、制作をしている人を観察し、できれば、インタビューするように心がける。レポートはそのあとにコメントをするようにする。常日頃、芸術に関するニュースを読むようにする。研究の時間は多いほどいいが、それよりは、頻度を多くすること。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　アーツマネジメント原論1
第3回　アーツマネジメント原論2
第4回　視覚芸術のアーツマネジメント
第5回　実演芸術のアーツマネジメント1
第6回　実演芸術のアーツマネジメント2
第7回　言語芸術のアーツマネジメント
第8回　視覚芸術鑑賞（学外授業）
第9回　アウトリーチと社会的包摂
第10回　様々な芸術のワークショップ
第11回　実演芸術鑑賞（学外授業）
第12回　各自のアーツマネジメント研究発表1
第13回　各自のアーツマネジメント研究発表12
第14回　レポートへの質疑とコメント
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**文化政策 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　金武 創	

テーマ

豊かさを実現する文化政策の可能性

授業の到達目標

1）文化政策の先進事例から複眼的思考の重要性を学ぶ
2）学生が自らの経験を基礎に考えることを促す
3）個人の自立を目指した文化政策を考える

授業の概要

生活の豊かさと個人の自立について考える

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

復習として、経済新聞などを読んで文化政策の最新動向を理解する（1時間）

内　　容

第1回　稀少性と選択の科学
第2回　価格メカニズム
第3回　文化生産
第4回　文化消費
第5回　文化資本
第6回　文化遺産観光
第7回　埋蔵文化財
第8回　JPOPと音楽消費
第9回　温泉文化
第10回　ギャンブルと文化支援
第11回　スポーツ振興（1）
第12回　スポーツ振興（2）
第13回　建築デザイン
第14回　パブリックアート
第15回　まとめ

履修上の注意点

学会参加を含めた、学外授業を実施予定であるので、履修前に事前相談されたい

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

文化経済論
著者:　金武創／阪本崇
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2005年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 10 ）　　小テスト （ 30 ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 10 ）
小テストも含めた日常点評価を重視する

2018 Syllabus

科 目 名　**観光情報 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　谷口　知司	

テーマ

観光と情報ならびにメディアの関係を学ぶ。

授業の到達目標

観光と情報ならびにメディアの関係について充分な見識を持つこと。

授業の概要

テキストの輪読ならびに課題、一部実習を含む。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

課題発表ならびに実習のための課外学習を課す。

内　　容

第1回　観光と情報1
第2回　観光と情報2
第3回　観光と情報3
第4回　観光と情報4
第5回　観光とメディア1
第6回　観光とメディア2
第7回　観光とメディア3
第8回　観光とメディア4
第9回　観光資料の情報化1
第10回　観光資料の情報化2
第11回　観光資料の情報化3
第12回　観光資料の情報化4
第13回　観光資料の情報化5
第14回　課題発表ならびにまとめ1
第15回　課題発表ならびにまとめ2

履修上の注意点

教科書

これからの観光を考える
著者:　谷口知司他
出版社: 晃洋書房
出版年: 2017　　ISBN:

デジタルアーカイブの資料基盤と開発技法
著者:　谷口知司他
出版社: 晃洋書房
出版年: 2016　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 50 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**イベントデザイン <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小暮　宣雄	

テーマ

文化にかかわるイベントの分析と企画

授業の到達目標

イベントとは何か、イベントの効用と弊害が分かり、実際に企画するための方法論を身につける。

授業の概要

少人数になるために、各自が興味を持つイベントについて検討するようにする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

現場に行くことを前提にして、そのフィールドワークと理論をマッチさせるように関連情報を調べておくこと。レポートについては、提出後の授業でコメントするとともに、陰性同士で質疑してもらうことにする。研究の時間は多いほどいいが、それよりは、頻度を多くすること。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　イベント原論1
第3回　イベント原論2
第4回　イベントと文化政策
第5回　イベントとまちづくり
第6回　イベントと観光
第7回　イベントと宗教、政治、行政
第8回　各自のイベント研究の中間発表1
第9回　各自のイベント研究の中間発表2
第10回　イベント現場にいく（学外授業）
第11回　イベント現場での観察の振り返り
第12回　提出されたレポートについての質疑、コメント
第13回　各自のイベント研究の最終発表1
第14回　各自のイベント研究の最終発表2
第15回　まとめとこれからの課題（討論）

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート （ 50 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**文化施設マネジメント <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　木下　達文	

テーマ

文化施設マネジメントに関する政策研究

授業の到達目標

これからの日本の文化政策において文化施設の存在意義を見直し新たな役割を見いだしていくような活動が求められている。この授業を通じて、既存の事業活動等をきちんと見つめつつ、その中から課題をみつけ新たな提案をしていくことで、現状認知、課題設定、政策立案に対応できる能力を身につける。

授業の概要

より実践的な政策立案と授業内で実施できる簡単な政策実施を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

身近な文化政策の状況とその評価を考える訓練をしておいて欲しい。また、課題等に対しては授業中やメール等でのフィードバックを行う。

内　　容

第1回　オリエンテーション・政策研究について
第2回　文化施設政策の考え方
第3回　文化施設の課題について
第4回　文化施設・マネジメントとテーマ研究
第5回　文化施設政策企画
第6回　文化施設政策の事例研究
第7回　文化施設政策コンペティション
第8回　文化施設の政策調査研究
第9回　文化施設の政策調査設計
第10回　文化施設の現状確認（現場調査）※期間中に調査を行う
第11回　文化施設の政策分析
第12回　新たな文化施設政策の立案
第13回　新たな文化施設政策の具体化
第14回　新たな文化施設政策に関する記録
第15回　総括

履修上の注意点

※授業の進行具合によって多少変更をする場合もある。※授業の性格上、集中して調査などを行う場合があるが、その際は受講生の都合を考慮して日程を決めていきたい。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 20 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 40 ）
とくに出席を重視する。

2018 Syllabus

科 目 名　**都市空間マネジメント <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松本　正富	

テーマ

空間創造におけるプログラムの解読とその評価

授業の到達目標

都市空間やそこに付随する環境をマネジメントするための機能的条件や文化的条件についての知識を深める。

授業の概要

施設や住宅を含めた現代の都市空間に関する多様な情報を対象にして，空間をデザインして供給する側とそれを利用する側双方の立場からのプログラム（＝設計方法と空間利用）の在り方について論考する。さらに建築計画学の視点から，各種ビルディングタイプや生活環境ごとの機能空間の時系列的な変遷を踏まえた評価の方法について検討を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

課題の多くは，授業時間外での作業となる（概ね，授業時間と倍程度の予習時間が必要）。
課題に関しては，その途中も含め，個人ごとにアドバイスを返す。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　事例研究1　コンセプトの概念
第3回　事例研究1　プログラムの概念
第4回　発表1
第5回　事例研究2　平面計画
第6回　事例研究2　機能と動線
第7回　発表2
第8回　事例研究3　平面計画
第9回　事例研究3　構造と設備
第10回　発表3
第11回　事例研究4　平面計画
第12回　事例研究4　断面と立面
第13回　発表4
第14回　事例研究5　空間機能の評価
第15回　発表5、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**課題研究Ⅲ <M>**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阪本　崇	

テーマ

修士論文の執筆に向けた研究を行う。

授業の到達目標

修士論文の論理展開を明らかにする。

授業の概要

課題研究Ⅱで選択した研究方法にしたがい、各自が設定したリサーチ・クエスチョンに対して回答を与えるための論理展開を明らかにする。必要であれば、この段階で研究方法や場合によってはリサーチ・クエスチョン自体の再考を行う。以上の実践に基づき、修士論文のアウトラインを作成し、執筆を開始する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回の授業で受講生各自が修士論文の進捗状況を報告する必要があるので、準備を進める必要がある。報告に対してフィードバックを行うので、毎回の授業のあとに各自の研究に反映しておく必要がある。

内　　容

第3回　受講生による報告と検討（1）
第4回　受講生による報告と検討（2）
第5回　受講生による報告と検討（3）
第6回　受講生による報告と検討（4）
第7回　受講生による報告と検討（5）
第8回　中間のまとめ
第9回　リサーチ・クエスチョンの点検
第10回　受講生による報告と検討（6）
第11回　受講生による報告と検討（7）
第12回　受講生による報告と検討（8）
第13回　受講生による報告と検討（9）
第14回　受講生による報告と検討（10）
第15回　まとめ
第1回　イントロダクション
第2回　修士論文における論理の展開について

履修上の注意点

受講生の積極的な研究が必要であるので、主体性を持って授業に参加すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（ 80 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**課題研究Ⅳ <M>**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阪本　崇	

テーマ

修士論文の完成

授業の到達目標

修士論文を完成させ、口頭試問と発表会に向けて必要な準備を終える。

授業の概要

修士論文の完成を目指し、各担当教員の指導を受けながら執筆を行う。各自が定期的に研究報告を行う中で、追加的な資料の必要性や、研究方法の修正の必要性についてチェックする。また、構成や表現のブラッシュ・アップを図り、より質の高い修士論文の完成を目指す。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

毎回の授業で受講生各自が修士論文の進捗状況を報告する必要があるので、準備を進める必要がある。報告に対してフィードバックを行うので、毎回の授業のあとに各自の研究に反映しておく必要がある。

内　　容

第1回　イントロダクション
第2回　修士論文の執筆における確認事項
第3回　序論部分の執筆と確認
第4回　本論部分の執筆と確認（1）
第5回　本論部分の執筆と確認（2）
第6回　結論部分の執筆と確認
第7回　脚注・参考文献等の確認
第8回　修士論文・初稿の提出
第9回　体裁の確認と内容のブラッシュアップ（1）
第10回　体裁の確認と内容のブラッシュアップ（2）
第11回　体裁の確認と内容のブラッシュアップ（3）
第12回　修士論文・完成稿の提出
第13回　口頭試問・報告会に向けての準備（1）
第14回　口頭試問・報告会に向けての準備（1）
第15回　修士論文報告会

履修上の注意点

受講生の積極的な研究が必要であるので、主体性を持って授業に参加すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 80 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**看護理論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河原　宣子.堀　妙子	

テーマ

看護理論および周辺諸理論を体系的に理解し看護実践 への活用をめざす。この活用に向けて、看護理論を体系的に概観し、諸理論の変遷と内容的構造及び特徴を理解する。主要な看護理論家の看護モデルについて、その哲学的基盤、概念及び看護の実践/教育/研究への活用について理解する。広範囲理論であるロイ適応理論により、これら理論の実践への活用をより具体的に理解する。また、自ら関心ある領域において、その看護理論及び諸理論の適用の妥当性を考察したうえで、実践/研究/教育への具体的な活用について検討する。

授業の到達目標

1　看護理論を体系的に概観し、諸理論の変遷と内容的構造及び特徴を理解する。
2　主要な看護理論家の看護モデルについて、その哲学的基盤、概念及び看護の実践／教育／研究への活用について理解する。
3　広範囲理論であるロイ適応モデルの理論構築、重要概念及び看護の実践／研究／教育への適用における具体的な活用について理解する。
4　自ら関心ある領域において、その看護理論及び諸理論の適用の妥当性を考察して、実践／研究／教育への具体的な活用について検討する。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　学びの希望、講義の進め方, 看護理論/諸理論に関する文献の活用の留意点, 看護理論の実践における活用上の課題
第2回　看護理論の哲学的基盤とその発達, 看護理論の構造, 看護理論の構成要素
第3回　守備範囲, 看護理論の分析・評価, 看護理論の看護実践/教育/研究への活用、専門的な分野における看護理論の適用とその活用
第4回　看護理論/看護モデルと関連する諸理論
第5回　看護理論/看護モデルの分類とその概括(1) プレゼンテーション（1）
第6回　看護理論/看護モデルの分類とその概括(2) プレゼンテーション（2）
第7回　看護理論/看護モデルの分類とその概括(3) プレゼンテーション（3）
第8回　看護理論/看護モデルの分類とその概括(3) プレゼンテーション（4）
第9回　広範囲理論の成り立ち, ロイ適応モデル概観, 理論構築の背景, 哲学的基盤
第10回 ロイ適応モデル重要概念（人間, 環境, 健康, 看護）
第11回 ロイモデル看護過程, 看護理論と看護過程との関係および実践への具体的な活用の仕方
第12回 ロイモデル（看護の実践/研究への適用、各専門領域における活用、評価）
第13回 自らの関心ある領域における看護理論及び諸理論の具体的な活用（1）の検討
第14回 自らの関心ある領域における看護理論及び諸理論の具体的な活用（2）の検討
第15回 看護理論に対する研究的な課題とアプローチ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
レポート40%, プレゼンテーション内容ディスカション状況40%, 参加態度と出席20%, から総合的に評価する.

2018 Syllabus

科 目 名　**看護研究 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　上澤　悦子.征矢野　あや子	

テーマ

看護における研究の意義と役割について理解するとともに、看護研究課題における概念の明確化、概念枠組みの構成、研究プロセス、研究倫理について修得する。看護現象を説明する研究方法としての質的研究および量的研究等について理解し、特に看護実践におけるに研究を展開するうえで必要となる、多様な研究方法を具体的に理解する。

授業の到達目標

1　看護における研究の意義と役割について理解できる。
2　看護研究課題における概念の明確化、概念枠組みの構成、研究方法の活用、論理的問題について理解できる。
3　2を通し、実践に結びついた具体的な研究方法の展開について具体的に理解できる。
4　看護現象を説明する研究方法としての質的研究および量的研究等について理解できる。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　看護学の発展と科学的アプローチについて文献検索し、看護研究の外観を学ぶ
第2回　看護研究における倫理的配慮について、事例を通して意見交換をする
第3回　倫理委員会の目的と役割
第4回　文献レビュー
第5回　研究の問いと研究デザイン
第6回　量的研究の研究デザイン
第7回　量的研究の実例　実験研究、質問紙調査研究の計画と分析
第8回　量的研究の実例　実験研究、質問紙調査研究の計画と分析
第9回　量的研究の実例　実験研究、質問紙調査研究の計画と分析
第10回 量的データのまとめ方
第11回 質的研究法の研究デザイン
第12回 グラウンデッドアプローチ
第13回 エスノグラフィーによるデータ収集方法
第14回 現象学的解釈法
第15回 質的研究のまとめ方

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

参加度（ ）

レポート50%，討論および授業への参加態度50%，から総合的に評価する.

2018 Syllabus

科 目 名　**看護教育論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　梶谷　佳子	

テーマ

看護学教育全体を概観したうえで、看護ケアの質を高めるために継続的にキャリア開発を進める教育を中心に理解する。教育の基本的な理論のもと、教育目標設定、教育計画の立案、教育活動、評価などの一連の過程を理解し、そのうえで、継続教育に特徴的なOFFおよびONのOJT、生涯学習の方法、学習の環境やシステムづくり等、看護の質を高めるために実践の場に実際に活用できるように、教育者側・学習者側の双方からの視点で、継続教育全体の知識・技術を理解する。

授業の到達目標

1　教育の本質を理解した上で，看護教育の特徴と課題について理解できる。
2　看護基礎教育と継続教育の特徴を理解し、その教育課程、方法、評価について理解できる。
3　生涯学習としての看護の継続教育の運用に関して、環境やシステムづくり、方法について理解できる。
4　看護の質を高めるために看護実践の場における教育計画立案と運営方法について具体的に理解できる。
5　看護教育の現状における課題と解決の方策について考察できる。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　教育の本質、意義、看護学の特徴と教育、看護教育制度の特徴と変遷
第2回　看護基礎教育と看護継続教育
第3回　看護基礎教育の看護教育課程の構造と意味
第4回　看護基礎教育の看護教育方法、教育評価
第5回　看護継続教育の看護教育課程の意味と構築の方法
第6回　看護継続教育の看護教育方法、教育評価
第7回　生涯学習の背景とシステムづくりの意義，方法；OFFおよびONのOJT
第8回　質向上を目指す看護実践の場における具体的な継続教育の教育企画と運営(1)
第9回　質向上を目指す看護実践の場における具体的な継続教育の教育企画と運営(2)
第10回　質向上を目指す看護実践の場における具体的な継続教育の教育企画と運営(3)
第11回　質向上を目指す看護実践の場における具体的な継続教育の教育方法（1）
第12回　質向上を目指す看護実践の場における具体的な継続教育の教育方法（2）
第13回　質向上を目指す看護実践の場における具体的な継続教育の教育方法（3）
第14回　質向上を目指す看護実践の場における具体的な継続教育の教育評価
第15回　看護教育における現在かかえている課題とその解決の方策

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
レポート50%，討議および授業への参加態度50%，から総合的に評価する.

2018 Syllabus

科 目 名　**コンサルテーション論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　藤本　幸三.木村　里美.吉田　智美	

テーマ

高度実践看護職は、ケアの対象者に直接かかわるだけでなく、看護職を含むケア提供者に対しても「相談」機能を果たす。その効果的な方法を体験的に学習するとともに、コンサルテーションの概念、プロセスや実践モデル、コンサルタントの役割等の知識を習得し課題を探究する。また、管理、教育的支援、コミュニケーション、評価等の機能をもって、かかわる人々の主体性や独自性を尊重しつつ、自らの専門性と他職種との連携について探究する。

授業の到達目標

CNS等の高度実践看護者にとって重要な役割のひとつである相談（コンサルテーション）は、働く組織を知り、マネジメント力を発揮しながら、高度実践力によってモデルとしての役割を示すことで、効果を上げる。そこで、この授業においてはコンサルテーションについての概念を理解し、その実践を可能にする方法論を学ぶと同時に、組織へのアプローチやマネジメント力等をコンサルテーションにどのように活用するかを理解することを目標とする。

授業の概要

コンサルテーションの概念、モデル等の知識を基に実際の医療分野におけるコンサルテーションプロセスを紹介する。各専門看護領域におけるコンサルテーション導入のための共通的な基礎を学び、学生各自の専門領域へ活用できるよ理論的知識や実践的知識の修得を目指す。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

専門看護師としての活動を見据え、常に組織への役割遂行の視点から講義、討論に臨んでほしい。

内　容

第1回　コンサルテーションとは（ガイダンス、学習の意義と専門看護師の役割）
第2回　コンサルテーション概論①（コンサルテーションの概念と歴史的背景）
第3回　コンサルテーション概念(スーパービジョンとプロセス/コンサルテーション）
第4回　コンサルテーション概論③（コミュニケーション技法と文化のかかわり）
第5回　コンサルタントの役割と機能、コンサルタントに必要な教育
第6回　コンサルテーションのプロセスとコンサルテーションモデル
第7回　コンサルテーション・コンサルタントに関する文献レビュー
第8回　医療分野におけるコンサルテーションの実際①
第9回　医療分野におけるコンサルテーションの実際①
第10回　医療分野におけるコンサルテーションの実際②
第11回　医療分野におけるコンサルテーションの実際②
第12回　医療分野におけるコンサルテーションの実際③（組織変革の推進）
第13回　医療分野におけるコンサルテーションの実際③（組織変革の推進）
第14回　マネジメントの活用
第15回　CNSのエンパワメント

履修上の注意点

教科書

参考書

リエゾン精神看護ー患者ケアとナース支援のために
著者：　野末聖香編
出版社：医歯薬出版
出版年：2004　　ISBN：9784263234501

精神看護エクスペール(16)リエゾン精神看護
著者：　坂田三允総編
出版社：中山書店
出版年：2006　　ISBN：

インターナショナルナーシングレビュ（雑誌）
著者：　Vol.18,No.5
出版社：日本看護協会出版会
出版年：1995　　ISBN：

h701010410

Advanced Practice Nursing

著者： Harmric, A. B.

出版社： Saunders

出版年： 2014 ISBN：

プロセス・コンサルテーション―援助関係を築くこと

著者： Shein, E. H.(稲葉、尾川訳)

出版社： 白桃書房

出版年： 2002 ISBN：

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）

参加度（ ）

レポート50%，討論および授業への参加態度50%，から総合的に評価する.

2018 Syllabus

科 目 名　**看護管理論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　藤本　幸三.餅田　敬司	

テーマ

看護管理に関する諸理論と看護サービス・マネジメント

授業の到達目標

看護管理に重要な諸理論，管理プロセス，実践システムについて学習し，効果的な看護サービス・マネジメントのあり方を探求する．

授業の概要

看護管理に関連する諸理論と関連学問領域の概念や諸理論について多角的に理解した上で，最近の看護管理の実践に関する研究動向を文献によって把握する．そして，看護管理の効果的な在り方および方向性や課題について探求する．

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

広く関連図書・専門誌等を読み，自らの関心領域．課題を明確にする．フィールドワークをする
討議における発表の準備をする．

内　　容

第1回　看護マネジメントに関わる主要な用語とその概念(藤本)
第2回　看護組織論1(藤本)
第3回　看護組織論2(藤本)
第4回　看護マネジメント論(藤本)
第5回　リーダーシップ論(餅田)
第6回　専門職論(藤本)
第7回　看護における人的資源活用論(藤本)
第8回　医療における安全管理論(餅田)
第9回　意思決定論(藤本)
第10回　医療における情報技術・情報管理論(藤本)
第11回　看護を取り巻く環境の変化(藤本)
第12回　保健・医療・福祉制度1(藤本)
第13回　保健・医療・福祉制度2(藤本)
第14回　看護制度・政策論(餅田)
第15回　まとめ(藤本)

履修上の注意点

教科書

看護管理学習テキスト第1巻～第8巻
著者:　井部俊子/中西睦子監修
出版社:　医学書院
出版年:　2017　　ISBN:
看護サービス管理第4版
著者:　中西睦子編
出版社:　医学書院
出版年:　2013　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 40% ）
参加度 （ 20% ）
レポートおよび授業への参加態度，プレゼンテーションから総合的に評価する．

2018 Syllabus

科 目 名　**看護倫理論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　梶谷　佳子.高田　早苗	

テーマ

看護倫理の意義とその必要性について哲学的、理論的、社会的な見地から考察でき、「倫理」の概念、本質、原則、倫理的なジレンマについて理解する。同時に、生命倫理の歴史的な背景、変遷と現在の社会的な要請の見地等についても理解する。また、医療および看護場面における倫理的ジレンマについて多様な観点から考察し、看護実践に活用出来るモチベーションを高めると共に、その専門領域に関する具体的な倫理的ジレンマについて、倫理的な調整等、解決策を含めた考察を深める。さらに看護倫理に対する研究的な課題とアプローチおよび看護倫理に関する組織的な取り組みについても理解する。

授業の到達目標

1　看護倫理の意義とその必要性について理論的、社会的な見地から考察きる。
2　伝統的倫理学と近代的倫理学の概括から理論的基盤に基づき、倫理の「倫理」の概念、原則、倫理的なジレンマについて理解する。
3　生命倫理の考え方の歴史的な背景、変遷と現在の社会的な要請の見地から、そのあり様を理解する。
4　看護倫理の概念、本質、哲学的な基盤、意義について理解する。
5　看護倫理を実践していく上で必要なコンピテンシー、方法について理解出来る。
6　医療および看護場面における倫理的ジレンマについて多様な観点から考察し、看護実践に活用出来るモチベーションを高める。専門看護師をめざすものについては、その領域に関する倫理的なジレンマについて考察を深める。
7　看護倫理に対する研究的な課題とアプローチ、看護倫理に関する組織的な取り組みについて理解する。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　学修内容の確認、学修希望、看護倫理に関して体験した問題、感じていること
第2回　看護倫理の意義とその必要性，医療倫理に対する社会からの要請
第3回　伝統的倫理学と近代的倫理学
第4回　「倫理」の概念、倫理の原則、倫理と法律との関係、倫理的なジレンマ
第5回　生命倫理に対する考え方の歴史的な背景、変遷と現在の社会的な要請の見地
第6回　看護倫理の概念、本質、哲学的な基盤、意義
第7回　看護実践における倫理的なコンピテンシー；倫理的な感受性、倫理的判断
第8回　看護実践における倫理的なコンピテンシー；倫理的なジレンマへの調整等アプローチ，アサーション能力
第9回　医療および看護場面における倫理的ジレンマとその対応についての事例の検討（2）
第10回　医療および看護場面における倫理的ジレンマとその対応についての事例の検討（2）
第11回　医療および看護場面における倫理的ジレンマとその対応についての事例の検討（3）
第12回　医療および看護場面における倫理的ジレンマとその対応についての事例のプレゼンテーションと討論（1）
第13回　医療および看護場面における倫理的ジレンマとその対応についてについてプレゼンテーションと討論（2）
第14回　看護倫理に対する研究的な課題とアプローチ、研究倫理の取り組み、組織上の取り組み
第15回　看護倫理の今後の課題と取り組み．まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 40% ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 30% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学特論Ⅰ（老年）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　沼本　教子.征矢野　あや子.鶴屋　邦江.村田　伸	

テーマ

高齢者の健康生活とその評価

授業の到達目標

健康障害を持つ高齢者が自律したその人らしい生活の実現を可能にするための看護実践を提供することを目的に、高齢者の生活機能を身体的・心理社会的側面から包括的に評価する方法について探究する。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　健康障害を持つ高齢者の健康生活を支援するための健康生活評価技術について考察する。
第2回　健康障害を持つ高齢者の健康生活を支援するための健康生活評価技術について考察する。
第3回　高齢者総合機能評価（CGA）の内容と評価の実際について探求する。
(1) 日常生活動作、行動機能について（基本的ADL、手段的ADL、FIM、身体バランス・柔軟性など）【村田】
第4回　高齢者総合機能評価（CGA）の内容と評価の実際について探求する。
(1) 日常生活動作、行動機能について（基本的ADL、手段的ADL、FIM、身体バランス・柔軟性など）【村田】
第5回　高齢者総合機能評価（CGA）の内容と評価の実際について探求する。
(2) 認知機能、気分、意欲について（MMSE、HDS-R、GDSなど）
第6回　高齢者総合機能評価（CGA）の内容と評価の実際について探求する。
(2) 認知機能、気分、意欲について（MMSE、HDS-R、GDSなど）
第7回　高齢者総合機能評価（CGA）の内容と評価の実際について探求する。
(3) モラール、生活の質について（主観的幸福感、生きがい、生活満足度など）【北村】
第8回　高齢者総合機能評価（CGA）の内容と評価の実際について探求する。
(3) モラール、生活の質について（主観的幸福感、生きがい、生活満足度など）【北村】
第9回　高齢者総合機能評価（CGA）の内容と評価の実際について探求する。
(4) 生活環境、社会関係、ソーシャルサポート、家族の介護力評価など【北村】
第10回　高齢者総合機能評価（CGA）の内容と評価の実際について探求する。
(4) 生活環境、社会関係、ソーシャルサポート、家族の介護力評価など【北村】
第11回　高齢者の生活機能の維持・回復のためのリハビリテーションと社会資源の活用（福祉用具・自助具の活用を含む）について探求する。【村田】
第12回　高齢者の生活機能の維持・回復のためのリハビリテーションと社会資源の活用（福祉用具・自助具の活用を含む）について探求する。【村田】
第13回　老年専門看護師として高齢者の健康生活を支援するための総合的アセスメントの実際について探求する。【藤田】
第14回　老年専門看護師として高齢者の健康生活を支援するための総合的アセスメントの実際について探求する。【藤田】
第15回　高齢者の健康生活評価に対する看護研究の動向と今後の課題について考察する。【北村】

履修上の注意点

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 30% ）	授業中発表等（ 30% ）
参加度（ 40% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学特論Ⅱ（成人・精神）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松本　賢哉.河原　宣子	

テーマ

看護アセスメント技術

授業の到達目標

1.成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題を，身体的・心理的・社会的側面から全人的に理解するためのアセスメント技術を修得する.
2.様々な健康レベルにある個人および家族のQOL向上に向けた効果的な看護実践方法を行うための諸理論と看護介入方法，支援システムについて説明できる.

授業の概要

成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題について，身体的・精神的・社会的側面から全人的に理解し，個人および家族のQOL向上に向けた効果的な看護実践方法を行うための諸理論と看護介入方法を考究する.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　オリエンテーション，成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題を理解するための包括的なアセスメント技術①：家族アセスメントモデル
第2回　成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題を理解するための包括的なアセスメント技術②：家族アセスメントモデル
第3回　成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題を理解するための包括的なアセスメント技術③：家族アセスメントモデル
第4回　成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題を理解するための包括的なアセスメント技術④：家族アセスメントモデル
第5回　成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題を理解するための包括的なアセスメント技術①：家族支援モデル
第6回　成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題を理解するための包括的なアセスメント技術②：家族支援モデル
第7回　成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題を理解するための包括的なアセスメント技術③：家族支援モデル
第8回　成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題を理解するための包括的なアセスメント技術④：家族支援モデル
第9回　精神障害者及び精神症状を呈する人に対しての援助の方法・看護介入の方法①
第10回　精神障害者及び精神症状を呈する人に対しての援助の方法・看護介入の方法②
第11回　精神障害者及び精神症状を呈する人に対しての援助の方法・看護介入の方法③
第12回　精神障害者及び精神症状を呈する人に対しての援助の方法・看護介入の方法④
第13回　精神障害者及び精神症状を呈する人に対しての援助の方法・看護介入の方法⑤
第14回　精神障害者及び精神症状を呈する人に対しての精神状態の査定とセルフケア理論と査定の方法①
第15回　精神障害者及び精神症状を呈する人に対しての精神状態の査定とセルフケア理論と査定の方法②

履修上の注意点

授業内容に関連する文献講読を主体的に実施すること

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（　）	

2018 Syllabus

科 目 名　**クリティカル看護学 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　奥野　信行	

テーマ

クリティカルな状況にある対象とその家族への看護について学ぶ

授業の到達目標

1. クリティカルの状況に置かれた対象とその家族の特徴を理解し、必要な看護援助について根拠にもとづき検討できる。
2. クリティカルケア看護に有用な理論やモデルについて理解し、看護援助への活用方法について考えられる
3. クリティカル場面での倫理的問題について理解し、看護援助の方法がわかる。
4. クリティカルケアを必要とする対象とその家族への適切な看護実践の遂行に必要なコンピテンシーについて理解することができる。

授業の概要

クリティカルな状況にある対象とその家族への看護について、各自で文献検討や事例展開等をおこなう。その上で資料を作成し、発表とディスカッションを通して探究していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

学生が主体的に文献検討や事例展開を行い、そのプレゼンテーションをもとにディスカッションしていきますので準備が必要です。

内　容

第1回　クリティカルケアの概念、特徴
第2回　クリティカルな状況に置かれた対象の身体的・心理社会的特徴
第3回　クリティカルな場面で活用される理論：危機理論・ストレスコーピング理論（定義、概要、事例演習）
第4回　クリティカルな場面で活用される理論：危機理論・ストレスコーピング理論（定義、概要、事例演習）
第5回　クリティカルな状況にある対象の反応とケア：悲嘆・喪失・ボディイメージ（定義、概要、事例演習）
第6回　クリティカルな状況にある対象の反応とケア：悲嘆・喪失・ボディイメージ（定義、概要、事例演習）
第7回　クリティカルな状況にある対象への看護：意識障害・呼吸不全・循環不全・感染・痛み
第8回　クリティカルな状況にある対象への看護：意識障害・呼吸不全・循環不全・感染・痛み
第9回　クリティカルな状況にある対象への看護：意識障害・呼吸不全・循環不全・感染・痛み
第10回 クリティカルな状況にある対象への看護：意識障害・呼吸不全・循環不全・感染・痛み
第11回 クリティカルな状況にある対象への看護：意識障害・呼吸不全・循環不全・感染・痛み
第12回 クリティカルケアにおけるインフォームドコンセントと倫理，意思決定に向けた支援
第13回 クリティカルケアにおける安楽・ケアリング
第14回 クリティカルケアにおける看護師のコンピテンシーと看護実践モデル

履修上の注意点

教科書

参考書

ベナー看護ケアの臨床知　行動しつつ考えること
著者：　Benner,P.,Hooper-Kyriakidis,P.&Stannard,D
出版社：医学書院
出版年：2012　　ISBN：

Synergy for Clinical Excellence: The AACN Synergy Model for Patient Care.
著者：　Hardin, S & Kaplow, R. (2005):
出版社：Jones and Bartlett Publishers.
出版年：2005　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 60 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**生活習慣系看護学 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河原　宣子	

テーマ

慢性疾患や慢性疾患を原因とする障害をもつ成人とその家族におよぼす影響

授業の到達目標

1.慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の健康問題を包括的に理解できる.
2.慢性疾患や障害を体験する成人とその家族を対象とした効果的な看護実践を行うための諸理論と看護介入方法を考究する.

授業の概要

慢性疾患や慢性疾患を原因とする障害をもつ成人とその家族におよぼす影響，特徴を理解する．それらの人々のもつ療養上の困難や問題について全人的にとらえ，効果的援助方法に関連する理論、看護理論について考察する.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　オリエンテーション，慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の健康問題の特徴①
第2回　慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の健康問題の特徴②
第3回　慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の健康問題の特徴③
第4回　慢性疾患や障害を体験する成人とその家族に適用される看護理論の背景および概念
第5回　慢性疾患や障害を体験する人を理解するための諸理論
第6回　慢性疾患や障害を体験する人と家族を理解するための諸理論
第7回　慢性疾患や障害を体験する人と家族を対象とした研究①：文献検索
第8回　慢性疾患や障害を体験する人と家族を対象とした研究②
第9回　慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討①
第10回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討②
第11回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討③
第12回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討④
第13回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討⑤
第14回 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討⑥
第15回 事例検討の結果を評価し，諸理論と看護介入方法の活用について自己の課題を明確にする.

履修上の注意点

授業内容に関連する文献の講読を主体的に実施すること

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 70 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学演習Ⅰ（成人・精神）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松本　賢哉.奥野　信行	

テーマ

精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法の検討

授業の到達目標

1．精神の健康状態のアセスメント及び援助方法を検討する。
2．精神看護における課題を明確にする。

授業の概要

精神の健康状態を包括的にアセスメントし、援助する方法を検討する。また、精神看護における倫理的な課題及び多職種間の連携、地域サポートシステムについて考察する。学生のプレゼンテーションを主として、文献検討及び事例検討を進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　精神の健康状態のアセスメント（1）文献検討
第3回　精神の健康状態のアセスメント（2）文献検討
第4回　精神の健康状態のアセスメント（3）文献検討
第5回　精神の健康状態のアセスメント（4）文献検討
第6回　精神の健康状態のアセスメント（5）文献検討
第7回　精神の健康状態のアセスメント（6）文献検討
第8回　精神の健康状態のアセスメント（7）文献検討
第9回　精神の健康状態のアセスメント（8）文献検討
第10回 精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法（1）文献
第11回 精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法（2）文献
第12回 精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法（3）文献
第13回 精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法（4）文献
第14回 精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法（5）文献
第15回 精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法（6）文献
第16回 精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法（1）事例検討
第17回 精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法（2）事例検討
第18回 精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法（3）事例検討
第19回 精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法（4）事例検討
第20回 精神看護における多職種間の連携、地域におけるサポートシステムの現状と課題 （1）
第21回 精神看護における多職種間の連携、地域におけるサポートシステムの現状と課題 （2）
第22回 精神看護における倫理的課題（1）
第23回 精神看護における倫理的課題（2）
第24回 精神看護における倫理的課題（3）
第25回 精神看護における倫理的課題（4）
第26回 精神看護における課題の明確化（1）
第27回 精神看護における課題の明確化（2）
第28回 精神看護における課題の明確化（3）
第29回 精神看護における課題の明確化（4）
第30回 まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

h701012010

参加度 （ ）

授業中課題試験50%　授業中発表等50%

2018 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学演習Ⅱ（成人・精神）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河原　宣子.中橋　苗代.野島　敬祐	

テーマ

慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人と家族の健康課題

授業の到達目標

1.慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族の療養上の課題を包括的に理解する方法を説明できる．2.慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族への効果的な看護実践方法について自らの考えを述べることができる．3.在宅で療養する身体障害者とその家族のQOLの維持・向上を目指した看護実践方法について自らの考えを述べることができる．

授業の概要

慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族の療養上の課題を包括的に理解し，効果的な看護実践方法を探求する．特に，在宅で療養する身体障害者のQOLの維持・向上を目指した看護実践方法を探究する．

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　オリエンテーション，慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族の療養上の課題に関する文献的検討
第2回　慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族の療養上の課題に関する文献的検討
第3回　在宅で療養する身体障害者とその家族の事例検討①
第4回　在宅で療養する身体障害者とその家族の事例検討②
第5回　在宅で療養する身体障害者とその家族の事例検討③
第6回　慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族への効果的な看護実践方法に関する文献的検討
第7回　在宅で療養する身体障害者とその家族の事例検討①
第8回　在宅で療養する身体障害者とその家族の事例検討②
第9回　在宅で療養する身体障害者とその家族の事例検討③
第10回　在宅で療養する身体障害者とその家族の事例検討④
第11回　慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族を対象とした研究疑問を明確にするための文献的検討①
第12回　慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族を対象とした研究疑問を明確にするための文献的検討②
第13回　慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族を対象とした研究疑問を解決するための理論的枠組みと研究方法を検討するための文献的検討①
第14回　慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族を対象とした研究疑問を解決するための理論的枠組みと研究方法を検討するための文献的検討②
第15回　発表，まとめ

履修上の注意点

授業内容に関連する文献の講読

教科書

参考書

授業中に紹介する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ ）	

h701012250

2018 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学演習Ⅲ（成人・精神）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　奥野　信行.河原　宣子.松本　賢哉	

テーマ

クリティカルな状況にある個人および家族への対応能力

授業の到達目標

1.クリティカルな状況にある個人および家族の身体的・心理社会的問題について、包括的に理解する。2.クリティカルな状況にある個人および家族への効果的な看護実践方法について考究できる。3.クリティカル領域での研究動向を把握し、看護の課題を探求する。

授業の概要

クリティカルな状況にある個人および家族への対応能力を養い、効果的な看護援助を提供するための方法・課題を探究する能力を養う。そのため、クリティカルな状況にある個人および家族の身体的・心理社会的問題について、包括的に理解し、クリティカルな状況にある個人および家族への効果的な看護実践方法について考究する。また、クリティカル領域での研究動向を把握し、看護の課題を探求する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内容に関連する文献の講読

内　　容

第1回　クリティカルな状況にある患者とその家族への看護アセスメントと支援①
第2回　クリティカルな状況にある患者とその家族への看護アセスメントと支援②
第3回　クリティカルな状況にある患者とその家族への看護アセスメントと支援③
第4回　クリティカルな状況にある患者とその家族への看護アセスメントと支援④
第5回　クリティカルな状況にある患者とその家族への看護アセスメントと支援⑤
第6回　クリティカルな状況にある患者とその家族への看護アセスメントと支援⑥
第7回　クリティカルな状況にある患者とその家族への看護アセスメントと支援⑦
第8回　国内外のクリティカル領域に関する文献検討①
第9回　国内外のクリティカル領域に関する文献検討②
第10回　国内外のクリティカル領域に関する文献検討③
第11回　国内外のクリティカル領域に関する文献検討④
第12回　国内外のクリティカル領域に関する文献検討⑤
第13回　国内外のクリティカル領域に関する文献検討⑥
第14回　国内外のクリティカル領域に関する文献検討⑦
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 70% ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 30% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学特別研究 <Ma>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　奥野　信行	

テーマ

特論、演習での学びを基盤とし、特定の健康課題をもった対象患者またその家族の健康増進、療養生活支援等に関する研究課題に取り組み、看護研究能力を高める

授業の到達目標

1．研究テーマの確認と先行研究の文献内容を把握する．2．研究の概念枠組みを明確にし，研究に必要なデータ収集を開始する．3．集めたデータを分析し，考察する．4．論文の作成．

授業の概要

自らのテーマに関して修士論文の完成に向けた準備を行う.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　研究テーマの確認と先行研究の文献内容を把握する①
第2回　研究テーマの確認と先行研究の文献内容を把握する②
第3回　研究テーマの確認と先行研究の文献内容を把握する③
第4回　研究の概念枠組みの明確化①
第5回　研究の概念枠組みの明確化②
第6回　研究の概念枠組みの明確化③
第7回　データ収集①
第8回　データ収集②
第9回　データ収集③
第10回　データ収集④
第11回　データ収集⑤
第12回　データ収集⑥
第13回　データ収集⑦
第14回　データ収集⑧
第15回　データ収集⑨
第16回　データ収集⑩
第17回　データ分析と考察①
第18回　データ分析と考察②
第19回　データ分析と考察③
第20回　データ分析と考察④
第21回　データ分析と考察⑤
第22回　データ分析と考察⑥
第23回　データ分析と考察⑦
第24回　データ分析と考察⑧
第25回　データ分析と考察⑨
第26回　データ分析と考察⑩
第27回　論文作成①
第28回　論文作成②
第29回　論文作成③
第30回　論文作成④

履修上の注意点

教科書

参考書

授業中に紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

h701012310

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ ）	

h701012312

2018 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学特別研究 <Mb>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　沼本　教子	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学特別研究 <Mc>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河原　宣子	

テーマ

修士論文完成に向けた準備

授業の到達目標

自らのテーマに関して修士論文の完成に向けた準備を行う.

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　研究テーマの確認と先行研究の文献内容を把握する(1).
第2回　研究テーマの確認と先行研究の文献内容を把握する(2).
第3回　研究テーマの確認と先行研究の文献内容を把握する(3).
第4回　研究テーマの確認と先行研究の文献内容を把握する(4).
第5回　研究テーマの確認と先行研究の文献内容を把握する(5).
第6回　研究テーマの確認と先行研究の文献内容を把握する(6).
第7回　研究テーマの確認と先行研究の文献内容を把握する(7).
第8回　研究テーマの確認と先行研究の文献内容を把握する(8).
第9回　研究疑問を明確にし，研究デザインを組み立てる(1).
第10回　研究疑問を明確にし，研究デザインを組み立てる(2).
第11回　研究疑問を明確にし，研究デザインを組み立てる(3).
第12回　研究疑問を明確にし，研究デザインを組み立てる(4).
第13回　研究疑問を明確にし，研究デザインを組み立てる(5).
第14回　研究疑問を明確にし，研究デザインを組み立てる(6).
第15回　研究疑問を明確にし，研究デザインを組み立てる(7).
第16回　研究計画書の作成(1)
第17回　研究計画書の作成(2)
第18回　研究計画書の作成(3)
第19回　研究計画書の作成(4)
第20回　研究計画書の作成(5)
第21回　研究計画書の作成(6)
第22回　研究計画書の作成(7)
第23回　研究計画書の作成(8)
第24回　データ収集・分析・考察(1)
第25回　データ収集・分析・考察(2)
第26回　データ収集・分析・考察(3)
第27回　データ収集・分析・考察(4)
第28回　データ収集・分析・考察(5)
第29回　データ収集・分析・考察(6)
第30回　修士論文作成準備

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 70 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**老年看護学Ⅰ〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　沼本　教子.長谷川　美智子	

テーマ

高齢者看護を実践するうえで必要な理論と看護の役割

授業の到達目標

高齢者看護を実践するうえで重要となる自己の高齢者観について追及する。さらに、高齢者の看護実践において発生する現象を分析し、援助の発展につなげるための基礎となる概念および理論を探求する。これらの学習を通して、老年看護を担う高度実践家としての役割について考える。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　老年期における発達課題および高齢者の健康の概念に関する理論を学び、高齢者の生活を支援するための援助者としてのあり方を探求する。【北村】
第2回　老年期における発達課題および高齢者の健康の概念に関する理論を学び、高齢者の生活を支援するための援助者としてのあり方を探求する。【北村】
第3回　高齢者看護を実践するうえで重要となる援助の視点に関する理論について学ぶ。【北村】
・ニード論、セルフケア論、ストレングスモデル、ICF生活機能評価モデルなど
第4回　高齢者看護を実践するうえで重要となる援助の視点に関する理論について学ぶ。【北村】
・ニード論、セルフケア論、ストレングスモデル、ICF生活機能評価モデルなど
第5回　高齢者看護を実践するうえで重要となる援助の視点に関する理論について学ぶ。【北村】
・ニード論、セルフケア論、ストレングスモデル、ICF生活機能評価モデルなど
第6回　高齢者看護を実践するうえで重要となる援助の視点に関する理論について学ぶ。【北村】
・ニード論、セルフケア論、ストレングスモデル、ICF生活機能評価モデルなど
第7回　高齢者看護を実践するうえで重要となる援助の視点に関する理論について学ぶ。【北村】
・ニード論、セルフケア論、ストレングスモデル、ICF生活機能評価モデルなど
第8回　高齢者看護を実践するうえで重要となる援助の視点に関する理論について学ぶ。【北村】
・ニード論、セルフケア論、ストレングスモデル、ICF生活機能評価モデルなど
第9回　高齢者看護を実践する中で起こる現象を理解し、援助の方向性を考えるための理論について学ぶ。【奥野】
・危機理論、役割理論、自尊感情、自己効力感など
第10回　高齢者看護を実践する中で起こる現象を理解し、援助の方向性を考えるための理論について学ぶ。【奥野】
・危機理論、役割理論、自尊感情、自己効力感など
第11回　高齢者看護を実践する中で起こる現象を理解し、援助の方向性を考えるための理論について学ぶ。【奥野】
・危機理論、役割理論、自尊感情、自己効力感など
第12回　高齢者看護を実践する中で起こる現象を理解し、援助の方向性を考えるための理論について学ぶ。【奥野】
・危機理論、役割理論、自尊感情、自己効力感など
第13回　老年専門看護師としての役割と機能について学ぶ。さらに老年専門看護師の活動の現状について探求し、自己の老年専門看護師としての役割について考える。
【得居】
第14回　老年専門看護師としての役割と機能について学ぶ。さらに老年専門看護師の活動の現状について探求し、自己の老年専門看護師としての役割について考える。
【得居】
第15回　高齢者看護実践における課題と今後の展望について探求する。【北村】

履修上の注意点

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 40% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**老年看護学Ⅱ <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　沼本　教子.田中　智子.藤岡　純一	

テーマ

高齢者の生活を支援する保健医療福祉制度・政策およびサポートシステム の現状

授業の到達目標

高齢者が健康な生活を送れるよう支援するために、世界・日本における高齢者の保健医療福祉制度・政策の現状について学び、日本における保健医療福祉制度・政策の課題について探究する。また高齢者の健康生活を支援するためのサポートシステムの現状と今後の課題について探求する。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　高齢者の健康生活を支援するために必要な社会資源およびサポートシステムの現状について学ぶ。【北村】
第2回　高齢者の健康生活を支援するために必要な社会資源およびサポートシステムの現状について学ぶ。【北村】
第3回　諸外国および日本における高齢者保健医療福祉制度・政策に関する歴史的変遷、諸外国と日本の共通点、相違点について学び、今後の課題について探求する。【青木】
第4回　諸外国および日本における高齢者保健医療福祉制度・政策に関する歴史的変遷、諸外国と日本の共通点、相違点について学び、今後の課題について探求する。【青木】
第5回　高齢者の自律した健康生活を支援するための看護職としてのケアマネジメントの役割とプロセスについて学ぶ。【小野塚】
第6回　高齢者の自律した健康生活を支援するための看護職としてのケアマネジメントの役割とプロセスについて学ぶ。【小野塚】
第7回　施設および在宅における看護職のケアマネジメントの現状、多職種との連携・協働の実際について学ぶ。【田中】
第8回　施設および在宅における看護職のケアマネジメントの現状、多職種との連携・協働の実際について学ぶ。【田中】
第9回　施設および在宅における看護職のケアマネジメントの現状、多職種との連携・協働の実際について学ぶ。【田中】
第10回　施設および在宅における看護職のケアマネジメントの現状、多職種との連携・協働の実際について学ぶ。【田中】
第11回　健康課題をもった高齢者の事例をもとに、健康生活を復権するためのケアマネジメント計画を立案する。その事例分析から、老年専門看護師としてのケアマネジメントの役割について探求する。【小野塚】
第12回　健康課題をもった高齢者の事例をもとに、健康生活を復権するためのケアマネジメント計画を立案する。その事例分析から、老年専門看護師としてのケアマネジメントの役割について探求する。【小野塚】
第13回　健康課題をもった高齢者の事例をもとに、健康生活を復権するためのケアマネジメント計画を立案する。その事例分析から、老年専門看護師としてのケアマネジメントの役割について探求する。【小野塚】
第14回　健康課題をもった高齢者の事例をもとに、健康生活を復権するためのケアマネジメント計画を立案する。その事例分析から、老年専門看護師としてのケアマネジメントの役割について探求する。【小野塚】
第15回　老年看護における保健医療福祉システムの今後の課題について探求する。【北村】

履修上の注意点

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30% ）	授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 40% ）	

h701012650

2018 Syllabus

科 目 名　**老年看護学Ⅲ <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　沼本　教子.花房　由美子	

テーマ

健康課題をもつ高齢者と介護家族に対する専門的な看護援助

授業の到達目標

健康課題をもつ高齢者のセルフケア能力を尊重した看護実践と、高齢者看護を担う家族の力を支援するために必要な看護援助について探求する。また、高齢者看護の現場で起こっている身体拘束や高齢者虐待について考察し、高齢者の権利や尊厳を守るための看護者としての在り方について追及する。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　老年期における疾病の回復過程の特徴とセルフケア能力に視点を当てた看護援助について探求する。
第2回　老年期における疾病の回復過程の特徴とセルフケア能力に視点を当てた看護援助について探求する。
第3回　急性期、慢性期、終末期など各健康段階にある高齢者に対する援助の特徴と課題について探求する。
第4回　急性期、慢性期、終末期など各健康段階にある高齢者に対する援助の特徴と課題について探求する。
第5回　家族形態の変遷と高齢者および家族の介護に対する意識の変化について考察し、家族介護力の実態について探求する。
第6回　家族形態の変遷と高齢者および家族の介護に対する意識の変化について考察し、家族介護力の実態について探求する。
第7回　高齢者および家族の生活再構築を支援するための方法について、エンパワメントの概念から考察する。
第8回　高齢者および家族の生活再構築を支援するための方法について、エンパワメントの概念から考察する。
第9回　家族システム理論を基盤に、家族を単位とした高齢者への援助および生活調整のあり方などの家族看護の実際とその評価について学ぶ。
第10回　家族システム理論を基盤に、家族を単位とした高齢者への援助および生活調整のあり方などの家族看護の実際とその評価について学ぶ。
第11回　高齢者看護の現場で起こっている高齢者に対する様々な看護実践の状況について、倫理的視点から考察する。
第12回　高齢者看護の現場で起こっている高齢者に対する様々な看護実践の状況について、倫理的視点から考察する。
第13回　高齢者看護の現場で起こっている身体拘束や高齢者虐待について考察し、高齢者の権利擁護と看護の在り方について学ぶ。
第14回　高齢者看護の現場で起こっている身体拘束や高齢者虐待について考察し、高齢者の権利擁護と看護の在り方について学ぶ。
第15回　高齢者看護実践の研究動向と今後の課題について展望する。

履修上の注意点

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）

授業中課題＜提出物・レポート＞（30%）、授業中発表・プレゼンテーション（30%）、授業中参加度・学習態度（40%）などを総合評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学演習Ⅰ（老年）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　沼本　教子.大畑　茂子	

テーマ

認知症高齢者および 介護家族の理解と専門的な看護援助

授業の到達目標

認知症高齢者および介護する家族が生活者としての権利や尊厳を守られ、高齢者が今まで培ってきた生き方や生活機能を重視し、より質の高い健康生活を送れるよう支援するために、認知症高齢者の理解を深め、専門的な看護について実証的に検討する。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　高齢社会における認知症高齢者の動向およびケアの倫理的視点について考察し、認知症に対する看護の課題について考える。【北村】
第2回　高齢社会における認知症高齢者の動向およびケアの倫理的視点について考察し、認知症に対する看護の課題について考える。【北村】
第3回　認知症の病態、診断法、治療法について学び、認知症の理解が看護とどのように結びつくのかを、経験した事例を通して理解を深める。【小野塚】
第4回　認知症の病態、診断法、治療法について学び、認知症の理解が看護とどのように結びつくのかを、経験した事例を通して理解を深める。【小野塚】
第5回　認知症高齢者の人権を尊重しながら、高齢者が安心して療養生活を送れるための生活環境の調整について事例をもとに検討し、高齢者が持つ生活機能を発揮できるための看護実践の実際を学ぶ。【小野塚】
第6回　認知症高齢者の人権を尊重しながら、高齢者が安心して療養生活を送れるための生活環境の調整について事例をもとに検討し、高齢者が持つ生活機能を発揮できるための看護実践の実際を学ぶ。【小野塚】
第7回　認知症高齢者の人権を尊重しながら、高齢者が安心して療養生活を送れるための生活環境の調整について事例をもとに検討し、高齢者が持つ生活機能を発揮できるための看護実践の実際を学ぶ。【小野塚】
第8回　認知症高齢者の人権を尊重しながら、高齢者が安心して療養生活を送れるための生活環境の調整について事例をもとに検討し、高齢者が持つ生活機能を発揮できるための看護実践の実際を学ぶ。【小野塚】
第9回　認知症高齢者のBPSDについて、その誘因となる高齢者の背景や動機を理解し、適切な対応ができるための、コミュニケーションの方法や環境調整について、事例を通し実際の看護現場で理解を深める。【得居】
第10回　認知症高齢者のBPSDについて、その誘因となる高齢者の背景や動機を理解し、適切な対応ができるための、コミュニケーションの方法や環境調整について、事例を通し実際の看護現場で理解を深める。【得居】
第11回　認知症高齢者のBPSDについて、その誘因となる高齢者の背景や動機を理解し、適切な対応ができるための、コミュニケーションの方法や環境調整について、事例を通し実際の看護現場で理解を深める。【得居】
第12回　認知症高齢者のBPSDについて、その誘因となる高齢者の背景や動機を理解し、適切な対応ができるための、コミュニケーションの方法や環境調整について、事例を通し実際の看護現場で理解を深める。【得居】
第13回　認知症高齢者を介護する家族の介護負担について理解を深める。さらに、介護家族が介護満足感を得ながら少しでも長く介護が継続できるための家族への疾患や対応に関する教育、家族関係の調整方法や相談など、介護家族を支援するサポートについての実際を学ぶ。【桑田】
第14回　認知症高齢者を介護する家族の介護負担について理解を深める。さらに、介護家族が介護満足感を得ながら少しでも長く介護が継続できるための家族への疾患や対応に関する教育、家族関係の調整方法や相談など、介護家族を支援するサポートについての実際を学ぶ。【桑田】
第15回　認知症高齢者および含家族に関する看護実践の研究の動向と課題について考察する。【北村】

履修上の注意点

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30% ）	授業中発表等 （ 30% ）

h701012710

参加度 （ 40% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学演習Ⅱ（老年）〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　沼本　教子.田中　智子	

テーマ

高齢者の健康課題と介護施設における専門的な看護援助

授業の到達目標

介護施設において健康課題をもつ高齢者とその家族に対し専門関連領域の理論等を活用した生活環境および生活行動の調整、健康行動の変容をめざした実践的なアセスメント、看護援助について探究する。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　多様な慢性疾患や障害を有しながら施設で暮らす高齢者に対するアセスメント能力を培い、生活環境を整えるための具体的な援助方法について探求する。【北村】

第2回　多様な慢性疾患や障害を有しながら施設で暮らす高齢者に対するアセスメント能力を培い、生活環境を整えるための具体的な援助方法について探求する。【北村】

第3回　介護施設で暮らしている高齢者に多い転倒、誤嚥、感染などのリスクを早期発見し、予防的ケアを提供するためのリスクマネジメントの現状について学び、高齢者の自立支援とリスクマネジメントの両側面から看護の課題を考える。【北村】

第4回　介護施設で暮らしている高齢者に多い転倒、誤嚥、感染などのリスクを早期発見し、予防的ケアを提供するためのリスクマネジメントの現状について学び、高齢者の自立支援とリスクマネジメントの両側面から看護の課題を考える。【北村】

第5回　介護施設で高齢者看護に携わる看護職者および介護家族の相談内容の実態について学び、看護職者と家族に対する老年専門看護師としての看護コンサルテーションの在り方について探求する。【小野塚】

第6回　介護施設で高齢者看護に携わる看護職者および介護家族の相談内容の実態について学び、看護職者と家族に対する老年専門看護師としての看護コンサルテーションの在り方について探求する。【小野塚】

第7回　高齢者の健康生活を支援するうえで発生する看護職の倫理的葛藤の現状について学び、介護施設における老年専門看護師としての倫理的な判断や関係職種との倫理的調整の在り方について検討する。【小野塚】

第8回　高齢者の健康生活を支援するうえで発生する看護職の倫理的葛藤の現状について学び、介護施設における老年専門看護師としての倫理的な判断や関係職種との倫理的調整の在り方について検討する。【小野塚】

第9回　介護施設に入所している高齢者の健康生活を包括的に援助していくために、看護職としての専門的立場から多職種間のコーディネーションを実践する方法について学ぶ。【小野塚】

第10回　介護施設に入所している高齢者の健康生活を包括的に援助していくために、看護職としての専門的立場から多職種間のコーディネーションを実践する方法について学ぶ。【小野塚】

第11回　介護施設に入所している高齢者の健康生活を支援するための看護管理システムと看護職者への教育の現状について学び、老年専門看護師として多職種との調整方法や施設で働く看護職者への高齢者看護についての教育方法について探求する。【田中】

第12回　介護施設に入所している高齢者の健康生活を支援するための看護管理システムと看護職者への教育の現状について学び、老年専門看護師として多職種との調整方法や施設で働く看護職者への高齢者看護についての教育方法について探求する。【田中】

第13回　介護施設に入所している高齢者の健康生活を支援するための看護管理システムと看護職者への教育の現状について学び、老年専門看護師として多職種との調整方法や施設で働く看護職者への高齢者看護についての教育方法について探求する。【田中】

第14回　介護施設に入所している高齢者の健康生活を支援するための看護管理システムと看護職者への教育の現状について学び、老年専門看護師として多職種との調整方法や施設で働く看護職者への高齢者看護についての教育方法について探求する。【田中】

第15回　施設で暮らす高齢者とその家族の健康課題に対する老年専門看護についての研究の動向と課題について考察する。【北村】

履修上の注意点

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

h701012850

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （30%）	授業中発表等 （30%）
参加度 （40%）	

h701012912

2018 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学課題研究 <Mb>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松本　賢哉	

テーマ

特論及び演習で学んだことを基盤とし実践看護応用学実習（精神）において精神病症状をもった人およびその家族に関する課題を見出し、最適な研究計画にもとづき研究成果を課題研究論文としてまとめ、専門看護師としての研究的能力を養う。

授業の到達目標

1.見出した課題に対して文献検討を加え最適な研究方法と対象を選択し、研究計画を立てる。 2.研究計画書を作成し、京都橘大学看護学部倫理委員会の承認をうける。 3.計画に基づき、かつ十分に倫理的配慮をした上でデータ収集を行う。 4.収集したデータを計画的、系統的、論理的に記述・整理し、分析して老年看護学における専門的知識・技術の向上や開に向けて考察する。 5.課題研究論文を作成する。6.課題研究論文は、発表会において発表する。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　研究課題の指導
第2回　研究課題の指導
第3回　研究課題の指導
第4回　研究課題の指導
第5回　研究課題の指導
第6回　研究課題の指導
第7回　研究課題の指導
第8回　研究課題の指導
第9回　研究課題の指導
第10回　研究課題の指導
第11回　研究課題の指導
第12回　研究課題の指導
第13回　研究課題の指導
第14回　研究課題の指導
第15回　研究課題の指導

履修上の注意点

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 20 ）

参加度（ ）

課題研究論文、発表会における発表内容、学習態度などを総合的に評価

2018 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学実習（老年）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　沼本　教子	

テーマ

講義・演習で学んだ理論、知識、技術を実践に適用・統合し、専門看護師として活動できる看護実践能力の形成・向上を図る。そのために施設で暮らしている健康課題をもつ高齢者（認知症高齢者を含む）とその家族に対し、専門的老年看護の実践、スタッフや他職種への教育、相談、保健医療福祉に関わる人々の調整、倫理的調整などに研究的視点をもって臨み、また老年看護活動を創意工夫･変革するため実践的研究に取り組む。

授業の到達目標

1) 介護施設を利用し生活する高齢者の生活活動とその調整に関する実践・相談・教育に必要な高度な実践能力を身につける。
2) 認知症高齢者の生活活動とその調整に関する実践・相談・教育に必要な高度な実践能力を身につける。
3) 高齢者と家族の関係調整に関する実践・相談・教育、コーディネーションなどの能力を身につける。
4) 高齢者ケアにおける看護活動・組織の検討と関係調整に必要なコーディネーション、リーダシップを発揮する能力を身につける。
5) 高齢者ケアにおける看護スタッフへの教育・相談の企画・実践・評価およびコンサルテーション、リーダシップを発揮する能力を身につける。
6) 高齢者ケアにおける倫理的課題について関係者間での倫理的調整に必要な能力を身につける。
7) 高齢者ケアにおける看護の創意工夫、開発を図る実践的実態的研究課題を見出し研究的能力を育成する。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　課　題
1) 施設における老年看護の事例，認知症高齢者の看護の事例について，看護実践を行いケースレポートを作成する。
（目標1.2 .3）
2) 病院・施設における実習において看護管理者と共に看護管理実践を行い、看護組織・機関における高齢者ケアに関
する実践的・実態的課題についてレポートを1例作成する。（目標4）
3) 病院・施設における実習において看護管理者と共に看護活動計画、スタッフ教育、相談、調整、コンサルテーションを行い論述するレポートを1例作成する。（目標5）
4) 病院・施設における実習において倫理的な問題･葛藤について倫理的調整、ｺｰﾃﾞｨﾈｰｼｮﾝについて論述するレポート
を1例作成する。（目標3､6）
5)　1)～5)のレポートのうち一つについては、高齢者ケアにおける看護の創意工夫、開発を図る実践的･実態的研究と
してまとめる。（目標7）

実習単位：10単位
実習時期：1年次後期～2年次前期・後期
実習施設・期間：各自の関心領域を中心に、高度な実践知識・スキルの修得、専門看護師の役割・機能などの内容を
網羅した実習計画を作成し、実習する。実習期間は1施設最低4週間とし全体で10週間以上を目安とするが、各自の専門的看護実践のための技術や能力の修得度によって調整する。

注：①実習期間は、専門看護師として院生の能力開発強化の必要性を考慮し決める。
②認知症高齢者の看護実践を体験する場合は、必要に応じ医療施設・介護施設・在宅での実習を継続して行う。

実習の進め方：
1) 実習目標にもとづき個別行動目標を明確にし、実習計画を立てる、さらに教員、指導者を交えて検討する。
2) 日々の実習記録を記載する。また、複雑な事例に関する臨床判断、実践的知識、他者との関係性、自己の気持ちや感情などについて、丁寧に記述し、経験の意味を考察する。
3) 高齢者や家族に対する倫理的配慮を行うと共に、予測される倫理的課題について指導者やスタッフと調整する。
4) 週1回定期的なカンファレンスにおいて、教員、実習指導者の助言をうけ、専門看護実践に関する自己評価を行うと共に、実習計画を修正する。

スーパービジョン：
1) 実習中は、担当教員より週1回のスーパービジョンを受ける。スーパービジョンは、実習施設におけるベットサイドおよび大学での両方を併用する。
2) 実習施設では、適宜カンファレンスを行い、実習指導者（専門看護師レベルに相当する看護職）や他の看護職などから、助言・フィードバックを受ける。

学習方法：臨床実習、文献学習、学生プレゼンテーション

履修上の注意点

h701013010

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

実習計画の作成（個別行動目標）、実習状況、実習目標の到達状況、プレゼンテーション、課題レポート、学習態度などを総合的に評価

2018 Syllabus

科 目 名　**次世代育成看護学演習Ⅲ（周産期）<M>**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　遠藤　俊子.中野　育子	

テーマ

今日のわが国の周産期医療の課題を踏まえ、周産期医療提供システムにおける看護職の新たな働き方を創造する力を養う。

授業の到達目標

1　変化の激しいわが国の周産期医療の実態を分析し、これからの母子援助のケアを組み込んだ周産期医療提供システムのあり方をチーム医療の観点からとらえる。
2　周産期医療の各々の現場に応じた多職種が協働できる接近法や、新たなシステム構築にむけての調整ができる基礎能力を獲得する。
3　周産期の母子援助のためのケアを政策へと結びつける手立てについて学ぶ。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　わが国と諸外国の周産期医療の歴史的推移
周産期医療統計、
周産期医療対策整備事業の方針、設置基準と実際、
母体搬送の定義、搬送理由、基準、手順
医療提供者の数と質等から,周産期医療体制の現状を分析し、課題の抽出
第2回　わが国と諸外国の周産期医療の歴史的推移
周産期医療統計、
周産期医療対策整備事業の方針、設置基準と実際、
母体搬送の定義、搬送理由、基準、手順
医療提供者の数と質等から,周産期医療体制の現状を分析し、課題の抽出
第3回　わが国と諸外国の周産期医療の歴史的推移
周産期医療統計、
周産期医療対策整備事業の方針、設置基準と実際、
母体搬送の定義、搬送理由、基準、手順
医療提供者の数と質等から,周産期医療体制の現状を分析し、課題の抽出
第4回　わが国と諸外国の周産期医療の歴史的推移
周産期医療統計、
周産期医療対策整備事業の方針、設置基準と実際、
母体搬送の定義、搬送理由、基準、手順
医療提供者の数と質等から,周産期医療体制の現状を分析し、課題の抽出
第5回　わが国と諸外国の現在の周産期医療提供システム
日本、英国、オーストラリア、ニュージーランドの実情から分析し、わが国のあり方を検討
第6回　わが国と諸外国の現在の周産期医療提供システム
日本、英国、オーストラリア、ニュージーランドの実情から分析し、わが国のあり方を検討
第7回　わが国と諸外国の現在の周産期医療提供システム
日本、英国、オーストラリア、ニュージーランドの実情から分析し、わが国のあり方を検討
第8回　わが国と諸外国の現在の周産期医療提供システム
日本、英国、オーストラリア、ニュージーランドの実情から分析し、わが国のあり方を検討
第9回　わが国と諸外国の周産期医療に関する看護・助産師教育制度
第10回　わが国と諸外国の周産期医療に関する看護・助産師教育制度
第11回　わが国と諸外国の周産期医療に関する看護・助産師教育制度
第12回　わが国と諸外国の周産期医療に関する看護・助産師教育制度
第13回　周産期医療における具体的な医療訴訟を取り上げ,検討する。
第14回　周産期医療における具体的な医療訴訟を取り上げ,検討する。
第15回　周産期医療における具体的な医療訴訟を取り上げ,検討する。
第16回　周産期医療における具体的な医療訴訟を取り上げ,検討する。
第17回　医療安全と助産師活動
周産期医療における機能評価、医療安全に関わるシステム
第18回　医療安全と助産師活動
周産期医療における機能評価、医療安全に関わるシステム
第19回　医療安全と助産師活動
周産期医療における機能評価、医療安全に関わるシステム
第20回　医療安全と助産師活動
周産期医療における機能評価、医療安全に関わるシステム
第21回　新たな周産期医療システムに関わる看護職（助産師）の役割と機能
助産師と産科医の協働の推進―チーム医療
院内助産システムの体制整備の経緯

h701014110

第22回 新たな周産期医療システムに関わる看護職(助産師)の役割と機能
助産師と産科医の協働の推進―チーム医療
院内助産システムの体制整備の経緯

第23回 新たな周産期医療システムに関わる看護職(助産師)の役割と機能
助産師と産科医の協働の推進―チーム医療
院内助産システムの体制整備の経緯

第24回 新たな周産期医療システムに関わる看護職(助産師)の役割と機能
助産師と産科医の協働の推進―チーム医療
院内助産システムの体制整備の経緯

第25回 新たな周産期医療システムに関わる看護職(助産師)の役割と機能
助産師と産科医の協働の推進―チーム医療
院内助産システムの体制整備の経緯

第26回 新たな周産期医療システムに関わる看護職(助産師)の役割と機能
助産師と産科医の協働の推進―チーム医療
院内助産システムの体制整備の経緯

第27回 新たな周産期医療システムに関わる看護職(助産師)の役割と機能
助産師と産科医の協働の推進―チーム医療
院内助産システムの体制整備の経緯

第28回 新たな周産期医療システムに関わる看護職(助産師)の役割と機能
助産師と産科医の協働の推進―チーム医療
院内助産システムの体制整備の経緯

第29回 新たな周産期医療システムに関わる看護職(助産師)の役割と機能
助産師と産科医の協働の推進―チーム医療
院内助産システムの体制整備の経緯

第30回 新たな周産期医療システムに関わる看護職(助産師)の役割と機能
助産師と産科医の協働の推進―チーム医療
院内助産システムの体制整備の経緯

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30% ）
小テスト（ ）
授業中課題（ ）
授業中発表等（ 30% ）
参加度 （ 40% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**次世代育成看護学課題研究 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　上澤　悦子	

テーマ

特論及び演習で学んだことを基盤とし、次世代育成看護学実習（母性）における妊産褥婦および健康問題をもった女性とその家族に関する課題を見出し、最適な研究計画に基づき研究成果を課題研究論文としてまとめ、専門看護師としての研究的能力を養う。

授業の到達目標

1. 見出した課題に対して文献検討を十分に行い、最適な研究方法と対象を選択し、研究計画を立てる。
2. 研究計画書を作成し、京都橘大学看護学部倫理委員会の承認を受ける。
3. 計画に基づき、かつ十分に倫理的配慮をしたうえで、データ収集を行う。
4. 収集したデータを計画的、系統的、倫理的に記述・整理し、分析して母性看護学における専門的知識・技術の向上や開拓に向けて考察する。
5. 課題研究論文を作成する。
6. 課題研究論文は、公開発表会で発表する。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　研究課題のしぼりこみ指導
第2回　研究計画書指導
第3回　研究計画書指導
第4回　倫理審査に向けての指導
第5回　研究実施におけるデータ収集に関する指導
第6回　研究データの分析指導
第7回　課題研究論文作成指導
第8回　課題研究論文作成指導
第9回　課題研究論文作成指導
第10回　課題研究論文作成指導
第11回　課題研究論文作成指導
第12回　課題研究論文作成指導
第13回　課題研究論文作成指導
第14回　課題研究論文作成指導
第15回　課題研究論文作成指導

履修上の注意点

教科書

適宜指導
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

h701014310

2018 Syllabus

科 目 名　**次世代育成看護学特別研究 <Ma>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　上澤　悦子	

テーマ

自分自身の体験を基に、講義や演習等で得られた知識を活用して、自己の研究課題に対する看護研究を実施する中で、看護研究の実践能力を身につける

授業の到達目標

1. 研究課題を見出す事ができる　2. 研究計画が作成できる　3. 研究が実施できる　4. 研究結果の分析ができる　5. 研究論文が作成できる　6. 論文の内容を発表できる

授業の概要

講義・演習で学習した事を基に、研究計画を立案し、実施する。研究計画にそって、得られたデータの分析を行い、論文を作成する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　研究指導（1）
第2回　研究指導（2）
第3回　研究指導（3）
第4回　研究指導（4）
第5回　研究指導（5）
第6回　研究指導（6）
第7回　研究指導（7）
第8回　研究指導（8）
第9回　研究指導（9）
第10回　研究指導（10）
第11回　研究指導（11）
第12回　研究指導（12）
第13回　研究指導（13）
第14回　研究指導（14）
第15回　研究指導（15）

履修上の注意点

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 100 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
課題研究論文、発表会における発表内容、学習態度などを総合的に評価

h701014850

2018 Syllabus

科 目 名　**看護教育学特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　梶谷　佳子	

テーマ

看護職の人材育成における教育のあり方

授業の到達目標

看護教育論での学びを踏まえ，自らの看護実践を通して捉えた教育的問題の考察を通して，教育の本質を探究する.

授業の概要

看護実践において自身が感じている教育的問題を提示し，文献講読や討議によりその問題の本質を探り，問題の本質とその解決の視点を探る. 1. 看護実践における教育的問題の提起 2. 問題の事実関係の再考 3. 文献講読及び討議による問題の本質の探究 4. 問題に対する解決の視点の発見 5. 提起した問題についての総括

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

看護実践において問題意識を持つ. 広く関連図書・専門誌等を読む. 討議における発表の準備をする.

内　容

第1回　オリエンテーション(学習目標，授業の進め方)
第2回　各自の看護実践における教育的問題の提起
第3回　問題の現状，背景などから問題の事実関係(プレゼンテーション，討議)
第4回　問題の本質の理解(文献講読，プレゼンテーション，討議)
第5回　問題の本質の理解(文献講読，プレゼンテーション，討議)
第6回　問題の本質の理解(文献講読，プレゼンテーション，討議)
第7回　問題の本質の理解(文献講読，プレゼンテーション，討議)
第8回　問題の本質の見極め
第9回　問題解決にむけた視点の理解
第10回　問題の解決にむけた方策の立案(文献講読，プレゼンテーション，討議)
第11回　問題の解決にむけた方策の立案(文献講読，プレゼンテーション，討議)
第12回　問題の解決にむけた方策の立案(文献講読，プレゼンテーション，討議)
第13回　問題の解決にむけた方策の立案(文献講読，プレゼンテーション，討議)
第14回　提起した問題及びその解決方策についての総括(プレゼンテーション，討議)
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内で提示する.
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）
プレゼンテーションおよび授業への参加態度から総合的に評価する.

h701014910

2018 Syllabus

科 目 名　**看護管理学特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　藤本　幸三	

テーマ

看護管理に関する国内外の研究について探索し、修士論文計画立案に活用する。

授業の到達目標

看護管理論で学んだ諸理論、管理プロセス、実践システムを踏まえ、看護サービス管理における研究の動向から、医療提供システムや看護への影響傭員や課題の認識を深め、ヘルスケアシステムにおける看護管理の在り方について探索する。

授業の概要

看護管理領域で多く用いられる研究方法についての理解を深め、修士論文の課題や研究方法論の選択についての示唆が得られるように、研究方法についての理解を深め、優れた研究文献のクリティークを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

自己の研究課題に関連した文献を読み込み、文献カードを作成し、クリティークを行う。

内　　容

第1回　学習目標・授業の進め方につちえのガイダンス
第2回　看護管理に関する量的・質的研究デザインによる研究論文の検索
第3回　看護管理に関する量的研究の検討①
第4回　看護管理に関する量的研究の検討②
第5回　看護管理に関する量的研究の検討③
第6回　看護管理に関する質的研究の検討①
第7回　看護管理に関する質的研究の検討②
第8回　看護管理に関する質的研究の検討③
第9回　研究テーマの設定に向けた文献検索とクリティーク①
第10回　研究テーマの設定に向けた文献検索とクリティーク②
第11回　研究テーマの設定に向けた文献検索とクリティーク③
第12回　研究テーマの設定に向けた文献検索とクリティーク④
第13回　研究テーマの設定に向けた文献検索とクリティーク⑤
第14回　研究テーマの設定に向けた文献検索とクリティーク⑥
第15回　まとめ

履修上の注意点

関連図書や専門誌などを幅広く読み、自らの関心領域、課題を明確にする。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 50% ）　　授業中発表等（ 30% ）
参加度（ 20% ）
3分の2以上の出席を前提とする。遅刻の場合には、事前に連絡をすること。

2018 Syllabus

科 目 名　**広域看護学特別研究 <Ma>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　梶谷　佳子	

テーマ

特論，演習での学びを基盤として，看護管理学領域における院生の研究課題について，一連の研究プロセスを通して，修士論文をまとめる.

授業の到達目標

1.研究課題に関連する先行研究・文献について検討を加え，研究課題を明確にする．2.研究計画書を作成し，倫理審査委員会の承認を受ける．3.研究計画に基づき，十分な倫理的配慮のもと研究を遂行する．4.得られた結果をもとに十分に考察を加え，修士論文にまとめる．5.修士論文について，効果的なプレゼンテーションを考え．発表する．6.1～5の一連の研究プロセスを通して，研究を遂行できる基礎能力を身につける.

授業の概要

研究課題の明確化，文献検討，研究テーマの決定，研究計画立案，研究倫理審査委員会への申請，研究の実施，データの収集，データの分析，データに基づく考察，修士論文の作成，論文の発表

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

自らの研究課題・テーマに沿って，主体的に学習を進める.

内　　容

第1回　研究課題の明確化
第2回　研究課題の明確化
第3回　文献の収集と検討
第4回　文献の収集と検討
第5回　研究テーマの決定
第6回　研究テーマに適した方法，倫理的配慮の検討の検討
第7回　研究テーマに適した方法，倫理的配慮の検討の検討
第8回　研究計画の立案，研究計画書の作成
第9回　研究計画の立案，研究計画書の作成
第10回 研究計画の立案，研究計画書の作成
第11回 研究協力依頼とデータ収集
第12回 データ収集
第13回 データ収集
第14回 データ分析
第15回 データ分析
第16回 データ分析
第17回 データ分析
第18回 データに基づく考察
第19回 データに基づく考察
第20回 データに基づく考察
第21回 論文作成
第22回 論文作成
第23回 論文作成
第24回 論文作成
第25回 論文作成
第26回 論文作成
第27回 論文の発表資料の作成
第28回 論文の発表資料の作成
第29回 論文の発表資料の作成
第30回 論文の発表

履修上の注意点

研究課題・テーマに関した文献等の情報収集につとめる.

教科書

参考書

h701015310

成績評価

試験・レポート（ 70% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 15% ）
参加度 （ 15% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**広域看護学特別研究 <Mb>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　藤本　幸三	

テーマ

修士論文の完成

授業の到達目標

修士論文の課題探索、研究計画所の作成、倫理審査申請書の作成、データ収集、データ分析、論文作成を経て、論文を完成させる。

授業の概要

看護管理学特論における学習を基に、修士論文を仕上げるためのプロセスに必要な知識や技術を積極的に習得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

文献を幅広く探索し、深く読み、指導教員との面談を主体的、計画的にうけ、論文完成の努力をする。

内　　容

第1回　研究課題の探索
第2回　研究課題の探索
第3回　研究方法論の探索
第4回　研究方法論の探索
第5回　研究計画書の作成
第6回　研究計画書の作成
第7回　研究計画書の作成
第8回　研究計画書の審査を受ける準備
第9回　倫理審査申請書の作成
第10回　倫理審査申請書の作成
第11回　研究データ収集のための事前準備、関連スキルの学習
第12回　研究データ収集のための準備、関連スキルの学習
第13回　研究データの収集及びデータ分析
第14回　研究データの収集及びデータ分析
第15回　研究データの収集及びデータ分析
第16回　研究データの収集及びデータ分析
第17回　結果のまとめ
第18回　結果のまとめ
第19回　結果の考察
第20回　結果の考察
第21回　結果の考察
第22回　論文の作成
第23回　論文の作成
第24回　論文の作成
第25回　公開発表の準備
第26回　公開発表の準備
第27回　公開発表
第28回　論文の見直し
第29回　学会発表などの準備
第30回　総まとめ

履修上の注意点

研究論文作成プロセスの全過程において、多くの文献や関係者の支援を積極的に受けて、優れた論文作成にベストを尽くすこと。

教科書

参考書

成績評価

h701015312

試験・レポート（ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
ゼミの参加状況を参考に成果物である論文で評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**フィジカルアセスメント <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　梶谷　佳子.髙橋　健太郎.村田　伸.四日　順子	

テーマ

対象（個人/集団）の健康状態/生命・生活過程における生理的な反応について、適切に臨床判断し、医療および看護の必要性を的確・迅速に判断できる、この一連のアセスメントに必要な知識・技術を修得する。このために、系統的全体的な対象の身体診査について的確な方法を修得する。また、それらのデータを統合して解釈・判断し、複雑な対象の健康状態について、優先度もふくめ、全体的な見地からアセスメントが適切にできるために、臨床的、統合的な知識およびクリティカルシンキングスキルの活用を修得する。

授業の到達目標

1　対象の生理的心理社会的な健康状態/生命・生活過程における生理的な反応について、適切に臨床判断することの意義を看護実践の視点から理解できる。
2　対象を生理的な全体としてアセスメントするための系統的な方法が理解できる。
3　身体診査（フィジカルイグザミネーション）の方法がわかり、実施できる。
4　3で得られたデータを統合し対象の健康状態/生命・生活過程における複雑な状況を、全体的な見地から的確にアセスメントすることができ、看護実践に活用できる。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　対象にとってフィジカルアセスメントの持つ意義，フィジカルアセスメントに必要な知識、技術、看護におけるフィジカルアセスメント
第2回　対象を全体的な見地からアセスメントするための診査方法、スクリーニング、システムレビュー、観察法、測定法、問診、聴診、打診、視診、触診，対象による診査の留意点
第3回　身体的系統的診査（イグザミネーション）とは
第4回　頭部、頸部、感覚器系の診査とそのデータの判定；聴診、打診、視診、触診
第5回　胸部(心臓・血管系)の診査とそのデータの判定；聴診、打診、心電図測定
第6回　胸部(呼吸器系)・の診査とそのデータの判定；聴診、打診、視診、触診
第7回　胸部（乳房）の診査とそのデータの判定；打診、視診、触診
第8回　腹部の診査とそのデータの判定；聴診、打診、視診、触診
第9回　腹部・泌尿器系の診査とそのデータの判定；聴診、打診、視診、触診
第10回　生殖器系の診査とそのデータの判定；聴診、打診、視診、触診
第11回　骨・筋肉系の診査とそのデータの判定；　打診、視診、触診
第12回　神経系の診査とそのデータの判定；聴診、打診、視診、触診
第13回　フィジカルイグザミネーション得られたデータの統合と看護における臨床判断（1）
第14回　フィジカルイグザミネーション得られたデータの統合と看護における臨床判断（2）
第15回　看護における臨床判断，全人的な見地からのフィジカルメントとその臨床での活用

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
レポート・実技60%，ディスカション状況20%，参加度と出席20%，から総合的に評価する.

h701015710

2018 Syllabus

科 目 名　**次世代育成看護学演習Ⅳ（周産期）<M>**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　神﨑　光子.中島　暢美	

テーマ

周産期の医療施設における家族の心理・社会的問題への援助方法を習得し、看護の質向上に向けたアプローチを学ぶ。

授業の到達目標

1　周産期の母子と家族をめぐる心理・社会的問題や倫理的問題と家族のメン タルヘルスとの関連を学ぶ。2　周産期のさまざまな問題に対する家族の意思決定が適切に行われるようケア（相談、助言、倫理的調整）の提供方法をカウンセリング理論、危機介入理論に基づいて習得する。3　事例分析を通して、心理社会的問題を抱えた家族への適切なケア（相談、助言、倫理調整）や他職種との連携を行う実践能力を養う。4　母子と家族への心理・社会的援助を適切に実践するための組織内の教育活動やスタッフへのコンサルテーション、連携システムの構築など看護の質向上のためのアプローチを考察する。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　周産期の家族の変容とリプロダクティブヘルスに関連した心理社会的問題
第2回　〃
第3回　心理社会的問題を抱えた家族のアセスメントと看護援助（相談・助言・倫理的調整）
第4回　〃
第5回　事例検討①：周産期の社会的ハイリスク家族への看護援助
第6回　〃
第7回　周産期の倫理的問題における家族の意思決定を支える看護援助
第8回　〃
第9回　事例検討②：周産期の倫理的問題への看護援助
第10回　〃
第11回　家族形成期のメンタルヘルスと看護援助
第12回　〃
第13回　妊産褥婦のメンタルヘルスと心理的援助および心理臨床家との連携
第14回　〃
第15回　妊産褥婦とその家族への援助（ケア、相談、助言）の実際
第16回　〃
第17回　事例検討③：精神疾患を持つ妊産婦と家族への援助
第18回　〃
第19回　周産期看護者のメンタルヘルスとコンサルテーション
第20回　〃
第21回　心理社会的な問題を抱える困難事例を担当するスタッフへの相談、助言、業務調整の実際
第22回　〃
第23回　事例検討④：妊産褥婦およびその家族への援助の実際（相談、助言、家族間の調整：実習受持事例への介入の分析）
第24回　〃
第25回　事例検討⑤：妊産褥婦およびその家族への援助の実際（相談、助言、家族間の調整：実習受持事例への介入の分析）
第26回　〃
第27回　事例検討⑥：周産期看護者へのカウンセリングとコンサルテーションの実際（相談、助言、スタッフ間の調整、教育：実習での活動の分析）
第28回　〃
第29回　心理社会的問題を抱えた困難事例における多職種間の協働にむけたCNSの役割と活動（実習受持事例へのコーディネーションの分析、連携システム構造の考察）
第30回　〃

履修上の注意点

教科書

参考書

h701015710

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学特論Ⅲ（老年）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　沼本　教子.安藤　忠.小川　敬之.mitei1	

テーマ

老年期の疾患と検査、治療

授業の到達目標

高齢者に特有な疾患や症候、およびそれらに関連する検査、治療を学び、看護アセスメント能力の向上を目指す。さらに老年期の回復過程の特徴をとらえながら、生活機能の維持・回復を目指した看護を探求する。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　老年期の生理的変化（エイジング）と病的変化について学ぶ。
第2回　老年期の生理的変化（エイジング）と病的変化について学ぶ。
第3回　高齢者に特有な疾患・検査・治療について学び、看護としてのアセスメント能力を培う。
(1) 骨・運動器疾患（骨粗しょう症、変形性骨関節疾患、大腿骨頸部骨折）
第4回　高齢者に特有な疾患・検査・治療について学び、看護としてのアセスメント能力を培う。
(1) 骨・運動器疾患（骨粗しょう症、変形性骨関節疾患、大腿骨頸部骨折）
第5回　高齢者に特有な疾患・検査・治療について学び、看護としてのアセスメント能力を培う。
(1) 骨・運動器疾患（骨粗しょう症、変形性骨関節疾患、大腿骨頸部骨折）
第6回　高齢者に特有な疾患・検査・治療について学び、看護としてのアセスメント能力を培う。
(1) 骨・運動器疾患（骨粗しょう症、変形性骨関節疾患、大腿骨頸部骨折）
第7回　高齢者に特有な疾患・検査・治療について学び、看護としてのアセスメント能力を培う。
(2) 糖尿病、心臓疾患、血管系疾患（心不全、末梢動脈疾患など）
第8回　高齢者に特有な疾患・検査・治療について学び、看護としてのアセスメント能力を培う。
(2) 糖尿病、心臓疾患、血管系疾患（心不全、末梢動脈疾患など）
第9回　高齢者に特有な疾患・検査・治療について学び、看護としてのアセスメント能力を培う。
(2) 糖尿病、心臓疾患、血管系疾患（心不全、末梢動脈疾患など）
第10回　高齢者に特有な疾患・検査・治療について学び、看護としてのアセスメント能力を培う。
(3) 腎・泌尿器系疾患（尿路感染症、前立腺肥大症、腎不全など）
第11回　高齢者に特有な疾患・検査・治療について学び、看護としてのアセスメント能力を培う。
(3) 腎・泌尿器系疾患（尿路感染症、前立腺肥大症、腎不全など）
第12回　高齢者に特有な疾患・検査・治療について学び、看護としてのアセスメント能力を培う。
(3) 腎・泌尿器系疾患（尿路感染症、前立腺肥大症、腎不全など）
第13回　高齢者に特有な症候に対する看護アセスメント能力を培い、生活の不活発化および寝たきりを予防するための高齢者の生活機能の維持・回復を目指した看護アセスメントとケアについて探求する。
第14回　高齢者に特有な症候に対する看護アセスメント能力を培い、生活の不活発化および寝たきりを予防するための高齢者の生活機能の維持・回復を目指した看護アセスメントとケアについて探求する。
第15回　高齢者に特有な症候に対する看護アセスメント能力を培い、生活の不活発化および寝たきりを予防するための高齢者の生活機能の維持・回復を目指した看護アセスメントとケアについて探求する。

履修上の注意点

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度（ ）

授業中課題＜提出物・レポート＞（30%）、授業中発表・プレゼンテーション（30%）、授業中参加度・学習態度（40%）などを総合評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**看護教育学演習Ⅰ〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　梶谷　佳子	

テーマ

看護基礎教育制度とその教育課程，教育方法，教育評価の特徴

授業の到達目標

看護専門職養成の土台となる看護基礎教育について，その制度，教育課程，教育方法，教育評価の特徴について，実証的に検討する．

授業の概要

「授業計画」の各テーマについて，関連文献や先行研究の文献検討を通して理解を深める．また，各テーマに関する研究の動向や方法について理解する．これらに基づき，自身の看護教育の経験を事例として，ディスカッションにより考察を深める．

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

自身が携わっている看護基礎教育について，各テーマの側面から関心を持ち，考察する姿勢を持つ．

内　　容

第1回　ガイダンス(演習の意義，授業目標の理解)
第2回　看護政策と看護基礎教育制度
第3回　教育対象の特徴①:文献検討，事例検討
第4回　教育対象の特徴②:文献検討，事例検討
第5回　教育課程(カリキュラム)の特徴①:文献検討，事例検討
第6回　教育課程(カリキュラム)の特徴②:文献検討，事例検討
第7回　教育方法の特徴①:文献検討，事例検討
第8回　教育方法の特徴②:文献検討，事例検討
第9回　教育評価の特徴①:文献検討，事例検討
第10回　教育評価の特徴②:文献検討，事例検討
第11回　授業形態(看護技術教育)の特徴①:文献検討，事例検討
第12回　授業形態(看護技術教育)の特徴②:文献検討，事例検討
第13回　授業形態(臨地実習)の特徴①:文献検討，事例検討
第14回　授業形態(臨地実習)の特徴②:文献検討，事例検討
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 50 ）	

h701018410

2018 Syllabus

科 目 名　**看護教育学演習Ⅱ〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　梶谷　佳子	

テーマ

看護継続教育制度とその教育課程，教育方法，教育評価の特徴

授業の到達目標

専門職養成のための看護継続教育について，その制度，教育課程，教育方法，教育評価の特徴について，実証的に探究する．

授業の概要

「授業計画」の各テーマについて，関連文献や先行研究の文献検討を通して理解を深める．また，各テーマに関する研究の動向や方法について理解する．これらに基づき，自身の看護教育の経験を事例として，ディスカッションにより考察を深める．

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

自身が携わっている，あるいは経験した看護継続教育について，各テーマの側面から関心を持ち，考察する姿勢を持つ．

内　　容

第1回　ガイダンス(演習の意義，授業目標の理解)
第2回　看護政策と看護継続教育
第3回　教育対象の特徴①:文献検討，事例検討
第4回　教育対象の特徴②:文献検討，事例検討
第5回　成人学習の特徴①:文献検討，事例検討
第6回　成人学習の特徴②:文献検討，事例検討
第7回　人材育成計画(人材フロー)の特徴①:文献検討，事例検討
第8回　人材育成計画(人材フロー)の特徴②:文献検討，事例検討
第9回　教育プログラムの特徴①:文献検討，事例検討
第10回　教育プログラムの特徴②:文献検討，事例検討
第11回　Off-JT及びOJTの教育プログラムと教育方法の特徴①:文献検討，事例検討
第12回　Off-JT及びOJTの教育プログラムと教育方法の特徴②:文献検討，事例検討
第13回　教育評価の特徴①:文献検討，事例検討
第14回　教育評価の特徴②:文献検討，事例検討
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**看護教育学演習Ⅲ <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　梶谷　佳子	

テーマ

専門職としてのキャリア開発

授業の到達目標

専門職としてのキャリア開発の視点から，看護基礎教育及び看護継続教育について，統合的に考察する．

授業の概要

「授業計画」の各テーマについて，関連文献や先行研究の文献検討を通して理解を深める．また，各テーマに関する研究の動向や方法について理解する．これらに基づき，自身の看護教育の経験を事例として，ディスカッションにより考察を深める．

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

シームレスな看護基礎教育及び看護継続教育の連携に基づく，キャリア開発を考察する姿勢を持つ．

内　　容

第1回　ガイダンス(演習の意義，授業目標の理解)
第2回　専門職とは
第3回　キャリアとは①
第4回　キャリアとは②
第5回　看護職の生涯学習①:文献検討，事例検討
第6回　看護職の生涯学習の特徴②:文献検討，事例検討
第7回　看護職のキャリアパスの特徴①:文献検討，事例検討
第8回　看護職のキャリアパスの特徴②:文献検討，事例検討
第9回　看護職のキャリア開発の特徴①:文献検討，事例検討
第10回 看護職のキャリア開発の特徴②:文献検討，事例検討
第11回 スペシャリストとジェネラリストの養成①:文献検討，事例検討
第12回 スペシャリストとジェネラリストの養成②:文献検討，事例検討
第13回 臨地実習指導の意義①:文献検討，事例検討
第14回 臨地実習指導の意義②:文献検討，事例検討
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 50 ）

h701018610

2018 Syllabus

科 目 名　**看護管理学演習Ⅰ〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　藤本　幸三.西村　路子.松浦　正子.餅田　敬司	

テーマ

医療機関等の経営と看護マネジメント

授業の到達目標

医療機関等の運営に必要な経営学の知識を学び、看護管理者として必要となる財務管理、経営分析、労務管理等を看護管理の実践に応用できる能力を獲得する

授業の概要

医療機関、訪問看護機関及び福祉施設の経営に必要な基本的な経営学の知識を学び、経営的な観点から看護管理に特有な課題について学ぶ

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

課題が事前に提示された場合は、資料を読み十分準備する

内　容

第1回　医療経営の基礎知識
第2回　医療保険と医療機関経営
第3回　介護保険と訪問看護機関・福祉施設経営
第4回　組織における経営学的視点
第5回　経営的観点と人材リソース
第6回　財務管理の基礎知識
第7回　経営組織分析とその応用（松浦）
第8回　組織変革論と組織評価とベンチマーキング（松浦）
第9回　看護組織と労務管理（　）
第10回　能力評価と人事管理システム（　）
第11回　人材フローに関するマネジメント（西村）
第12回　組織の危機管理(西村）
第13回　具体的事例に基づく危機管理
第14回　危機回避としての組織対策
第15回　まとめ　医療経営における看護の課題

履修上の注意点

3分の2以上の出席を原則とする。やむを得ず遅刻する場合は事前連絡する。

教科書

適宜、授業中に紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

看護管理学習テキスト第1～8巻
著者:　井部俊子等監修
出版社:　日本看護協会出版会
出版年:　2017　　ISBN:

看護サービス管理第4版
著者:　中西睦子他編
出版社:　医学書院
出版年:　2013　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）	授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 30% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**看護管理学演習Ⅱ〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　藤本　幸三.川添　高志.餅田　敬司	

テーマ

看護管理者に必要な経営知識と方法論

授業の到達目標

看護管理者、特に看護師長や看護部長に求められる経営意識・知識をもとに、それらの実戦への活用について演習・フィールドワークや国内外の文献をもとに学ぶ。

授業の概要

医療経営や看護経済等に関する理論をもとに、看護管理者に求められる経営者としての意識や行動をフィールドワーク、事例、文献などを用いた演習を通して学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習：課題が事前に提示された場合には、活発に討議に参加できるように準備する。

内　容

第1回　看護管理者に必要な経営意識、知識、能力
第2回　看護管理者としてのポジションパワーとその活用
第3回　看護管理者に求められる経営者としての役割
第4回　演習（トップマネジャーの経営意識や役割①）
第5回　演習（トップマネジャーの経営意識や役割②）
第6回　演習のレポートをもとに討議
第7回　看護管理者の倫理的ジレンマと意思決定
第8回　看護管理者の倫理的感受性と実践行動
第9回　看護事業の開発
第10回　起業家論（川添高志）
第11回　企業の実際（川添高志）
第12回　経営的側面からの看護部における組織分析
第13回　組織の実施と分析
第14回　経営改善計画
第15回　まとめ　経営者としての看護管理者の在り方について討議

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。やむを得ず遅刻する場合には、事前連絡をすること。

教科書

適宜授業前、中に紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

看護管理学習テキスト第2巻
著者：　井部俊子監修
出版社：日本看護協会出版会
出版年：2014　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（レポート40%）	小テスト（0%）
授業中課題（0%）	授業中発表等（30%）
参加度（30%）	

2018 Syllabus

科 目 名　**看護管理学演習Ⅲ <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　藤本　幸三.餅田　敬司	

テーマ

保健医療組織における経済学的組織論と看護の質保証

授業の到達目標

保健医療組織における看護管理者として経済学的な側面から組織の経済状況を理解するための基礎知識を学ぶ。また、保健医療組織は利用者の療養の場であり、保健医療職員の働く場であることから、快適に暮らし働ける環境を作り出すための組織デザイン論について学修する。また、組織が効果的・効率的に機能しアウトカムを保証するための方策について学修する。

授業の概要

医療経済学の専門家による医療経済と経済学的側面から組織論を学び、看護管理の結果としてのアウトカムマネジメントの方法について演習をとおして学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

提示された課題について真摯に取り組んでほしい。

内　容

第1回　医療経済学の基礎知識
第2回　医療経済学における保健医療組織の経済性
第3回　医証経済における政策とその効果
第4回　医療経済と診療報酬制度の課題
第5回　医療経済と診療情報管理
第6回　看護部門の経済学的組織論
第7回　経済学的観点からの看護部門の将来展望
第8回　看護管理におけるアウトカムマネジメント
第9回　看護管理における質管理の手法
第10回 クリニカルガバナンスと看護政策
第11回 看護管理を医療安全
第12回 医療安全政策に観る看護管理
第13回 医療組織における看護の質保証
第14回 看護部門各組織の経済性とアウトカム（討議）
第15回 まとめ　看護管理者として効率的・効果的な組織マネジメントと質保証

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。やむを得ず遅刻する場合は事前連絡する

教科書

適宜、授業中に紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

看護管理学習テキスト第2巻
著者:　井部俊子等監修
出版社:　日本看護協会出版会
出版年:　2017　　ISBN:

看護管理学習テキスト第3巻
著者:　井部俊子等監修
出版社:　日本看護協会出版会
出版年:　2017　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）	授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 30% ）	

h701018810

2018 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用課題研究（老年・精神）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　沼本　教子	

テーマ

特論及び演習で学んだことを基盤とし実践看護応用学実習（老年）において高齢者およびその家族に関する課題を見出し、最適な研究計画にもとづき研究成果を課題研究論文としてまとめ、専門看護師としての研究的能力を養う。

授業の到達目標

1.見出した課題に対して文献検討を加え最適な研究方法と対象を選択し、研究計画を立てる。2.研究計画書を作成し、京都橘大学看護学部倫理委員会の承認をうける。3.計画に基づき、かつ十分に倫理的配慮をした上でデータ収集を行う。4.収集したデータを計画的、系統的、論理的に記述・整理し、分析して老年看護学における専門的知識・技術の向上や開に向けて考察する。5.課題研究論文を作成する。6.課題研究論文は、発表会において発表する。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　研究課題の指導
第2回　研究課題の指導
第3回　研究課題の指導
第4回　研究課題の指導
第5回　研究課題の指導
第6回　研究課題の指導
第7回　研究課題の指導
第8回　研究課題の指導
第9回　研究課題の指導
第10回　研究課題の指導
第11回　研究課題の指導
第12回　研究課題の指導
第13回　研究課題の指導
第14回　研究課題の指導
第15回　研究課題の指導

履修上の注意点

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
課題研究論文、発表会における発表内容、学習態度などを総合的に評価

h701510110

2018 Syllabus

科 目 名　**看護実践イノベーション論 <D>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　遠藤　俊子.上澤　悦子.河原　宣子.堀　妙子.松本　賢哉	

テーマ

看護学を発展させるイノベーションについて、看護学の理論、研究、実践、政策の視点から取り上げ、既存の知識体系やモノの見方、価値観を超えて看護学を創造的に開発、開拓、変革していく方法について探求する。

授業の到達目標

1. 看護実践の変革モデルのプロセスと成果を理解する。
2. 看護の提供される場における多職種との連携やチーム医療の必要性を理解する。
3. 信頼に応える医療の実現に、看護実践におけるイノベーションとチーム医療が果たす役割を理解する。

授業の概要

長期的な視点で持続可能な医療を構築するために、看護の立場から信頼に応える医療の実現を支える看護実践の場の変革モデルとなる実践を取り上げ、そのプロセスと成果に焦点をおく。多職種との連携やチーム医療の成果を主に看護の提供される場での具体例から学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　イノベーションの概念
第2回　イノベーションの構成要素
第3回　看護学においてイノベーションが果たしてきた役割とその意義（1）看護教育改革
第4回　看護学においてイノベーションが果たしてきた役割とその意義（2）看護教育改革
第5回　看護学においてイノベーションが果たしてきた役割とその意義（1）看護理論と看護実践
第6回　看護学においてイノベーションが果たしてきた役割とその意義（2）看護理論と看護実践
第7回　生殖医療の進化に伴い、デザイン化された子どもや性別を超えたカップルから生じる新しい家族形成への支援を生殖看護の立場から探求する（1）
第8回　生殖医療の進化に伴い、デザイン化された子どもや性別を超えたカップルから生じる新しい家族形成への支援を生殖看護の立場から探求する（2）
第9回　「想定外の想定を」災害看護の視点から考える（1）
第10回「想定外の想定を」災害看護の視点から考える（2）
第11回 精神障害者の昔の生活を考察し、障碍者の住みよい社会を探求する（1）
第12回 精神障害者の昔の生活を考察し、障碍者の住みよい社会を探求する（2）
第13回 急増する医療的ケアを必要とする小児に対して包括的アプローチの在り方を探求する（1）
第14回 急増する医療的ケアを必要とする小児に対して包括的アプローチの在り方を探求する（2）
第15回 各自の専門領域におけるイノベーションへのアイデア（まとめ）

履修上の注意点

事前課題やレポートの提出はメール（ポータル配信）します。
文献も事前に提示しますので、担当教員に確認してください。

教科書

参考書

イノベーションとは何か
著者:　池田信夫
出版社: 東洋経済新報社
出版年: 2011　　ISBN:

イノベーターの条件
著者:　P. F. ドラッカー
出版社: ダイヤモンド社
出版年: 2010　　ISBN:

プロフェッショナルの条件
著者:　P. F. ドラッカー
出版社: ダイヤモンド社
出版年: 2000　　ISBN:

h701510110

看護教育学

著者: 杉森みどり

出版社: 医学書院

出版年: 2014 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 40% ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 30% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学特論演習 <D>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松本　賢哉.河原　宣子.沼本　教子	
テーマ	

授業の到達目標

1. 老年症候群を有する高齢者、地域で生活する療養者および精神保健上の課題をもつ人々に対する看護介入方法と支援システムの必要性について考究する。
2. 慢性疾患や精神疾患を抱える人々の質の高い療養生活を支援するための介入モデルの開発とその検証方法の開発に取り組むことができる。

授業の概要

〇概要：慢性疾患や精神疾患、老年症候群を有する人々および精神保健上の課題をもつ人々が質の高い入院・入所生活や地域生活を営めるようなヘルスケアシステムが求められている。このような健康課題をもつ個人や家族、集団に対して、質の高い療養生活を支援するための介入モデルの開発とその検証方法、支援システムについて探求する。
〇授業形式：プレゼンテーションをもとにセミナー形式で進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　「老いること」に関する哲学的考察：歴史的文脈を踏まえて考察
第2回　「老いること」に関する哲学的考察：歴史的文脈を踏まえて考察
第3回　生涯発達論をもとにした老年期のとらえ方について考察
第4回　生涯発達論をもとにした老年期のとらえ方について考察
第5回　生涯発達を支える老年看護のあり方と課題について考察
第6回　生涯発達を支える老年看護のあり方と課題について考察
第7回　高齢者の終末期をめぐる医療・看護モデルの再構築について考察
第8回　高齢者の終末期をめぐる医療・看護モデルの再構築について考察
第9回　高齢者ケアを担う連携・協働（医療・福祉チームワークのあり方、課題）について考察
第10回　高齢者ケアを担う連携・協働（医療・福祉チームワークのあり方、課題）について考察
第11回　在宅療養者とその家族における支援システムについて国内外の文献から考究
第12回　文献検討を踏まえ、在宅療養者の療養生活継続を可能にするための看護ケアについて家族看護の視点から事例検討
第13回　地域における災害時要援護者対策に関する支援システムについて国内外の文献から考究
第14回　文献検討と上記の検討内容を踏まえ、災害への減災ならびに災害時要援護者対策の支援システムについて事例検討を通して考察
第15回　文献検討と上記の検討内容を踏まえ、災害への減災ならびに災害時要援護者対策の支援システムについて事例検討を通して考察
第16回　疾病予防と看護：第一次、第二次、第三次予防の概念を踏まえ、人々の健康、中でも精神保健に焦点をあて、看護職の役割について探究
第17回　精神疾患と危険因子：精神保健について問題を抱える人々に関し、精神疾患の頻度と危険因子から考察
第18回　精神健康の測定尺度と評価：精神保健について問題を抱える人々へのアプローチ方法として、精神健康の測定尺度とその評価について考察
第19回　第一次予防の科学的根拠と対策：精神保健の第一次予防について、労働者に焦点をあて、科学的根拠に基づく保健対策について探究
第20回　第二次、三次予防の科学的根拠と対策：精神保健の第二次、三次予防について、労働者に焦点をあて、科学的根拠に基づく保健対策と看護職の役割について探究
第21回　精神の健康問題を抱えている人や家族の問題を文献検討
第22回　精神の健康問題を抱えている人の地域生活支援について文献検討
第23回　病状評価・社会生活技能に関する評価方法について事例検討を通して考察
第24回　精神の健康問題を抱えている人の地域生活を継続するための支援を考察
第25回　精神の健康問題を抱えている人とその家族への介入方法について事例検討を通して考察
第26回　悪性疾患を有しながら療養生活を営む人々ならびにその家族のセルフケア介入モデルについて国内外の文献から考究
第27回　生活習慣病を有しながら療養生活を営む人々ならびにその家族のセルフケア介入モデルについて国内外の文献から考究
第28回　文献検討の結果から、セルフケア介入モデルの課題の明確化および課題の適切性を検討
第29回　悪性疾患や生活習慣病を有しながら療養生活を営む人々ならびにその家族のセルフケア能力に焦点を当てた介入モデルの課題を解決するための方法論を検討
第30回　悪性疾患や生活習慣病を有しながら療養生活を営む人々ならびにその家族のセルフケア能力に焦点を当てた介入モデルについて事例検討を通して探究

履修上の注意点

h701510510

教科書

参考書

老いの近代
著者: 天野正子
出版社: 岩波書店
出版年: 1999 ISBN:

老年期
著者: E.H.エリクソン:朝長正徳ら訳
出版社: みすず書房
出版年: 1990 ISBN:

幼児期と社会Ⅰ,Ⅱ
著者: E.H.エリクソン:仁科弥生訳
出版社: みすず書房
出版年: 1977 ISBN:

老後がなぜ悲劇なのか
著者: ロバート・バトラー:グレッグ・中村文子訳
出版社: メジカルフレンド社
出版年: 1991 ISBN:

ケアの社会学
著者: 上野千鶴子
出版社: 太田出版
出版年: 2011 ISBN:

延命医療と臨床現場
著者: 会田薫子
出版社:
出版年: 2011 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 30% ）
小テスト（ ）
授業中課題（ ）
授業中発表等（ 40% ）
参加度（ 30% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**次世代育成看護学特論演習 <D>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　遠藤　俊子.上澤　悦子.神﨑　光子.堀　妙子	

テーマ

授業の到達目標

1. 女性や子ども、家族の立場を基軸に、様々な角度から社会における保健医療システムのあり方を考究する。
2. 女性と子ども、家族のニーズに沿った周産期・育児期の看護ケアを開発する必要性を理解できる。
3. ヘルスケアプロバイザーとして看護介入モデルの開発に取り組むことができる。

授業の概要

少子化が継続しているわが国の、子を産むこと・育てることを、女性や子ども、家族の立場を基軸に就業･雇用、教育など様々な角度から検討し、社会における保健医療のシステムのありかたも含めて、ヘルスケアプロバイザーとしての看護介入モデルの開発に取り組む。女性と子ども、家族のニーズに沿った周産期・育児期の看護ケアに焦点をあてる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　母性看護（Maternity Nursing ）、助産（Midwifery）に関する研究の動向を、わが国ならびに諸外国の主要論文5年間程度収集
論文から、妊娠・分娩・産褥(子育て)期の研究課題の抽出(1)

第2回　母性看護（Maternity Nursing ）、助産（Midwifery）に関する研究の動向を、わが国ならびに諸外国の主要論文5年間程度収集
論文から、妊娠・分娩・産褥(子育て)期の研究課題の抽出(2)

第3回　親役割獲得理論の概観(1)
(Klaus,M&Kennell1982)(Lutz,K&MayK2007)(Mercer,R2004,2006,),(Moore,E2009)
(Nelson,A2003)(Rubin,R1961)し、わが国の実践ならびに研究への活用性についての検討

第4回　親役割獲得理論の概観(2)
(Klaus,M&Kennell1982)(Lutz,K&MayK2007)(Mercer,R2004,2006,),(Moore,E2009)
(Nelson,A2003)(Rubin,R1961)し、わが国の実践ならびに研究への活用性についての検討

第5回　親役割獲得理論の概観(3)
(Klaus,M&Kennell1982)(Lutz,K&MayK2007)(Mercer,R2004,2006,),(Moore,E2009)
(Nelson,A2003)(Rubin,R1961)し、わが国の実践ならびに研究への活用性についての検討

第6回　わが国の妊娠・出産に関する安全性を保証するガイドライン、産婦人科ガイドライン産科編2011、助産所業務ガイドラインの理解

第7回　わが国の産科医療補償制度に沿った事例分析方法と結果・今後の取り組みについて理解
以上からのわが国の看護(助産)の方向性と研究課題への示唆

第8回　乳幼児虐待の実態と、周産期における予防的ケアについて検討

第9回　生殖補助医療の実態と、母子・家族の抱える課題

第10回　利用者の立場から考える「安全なお産、安心なお産」

第11回　母子関係の形成における介入研究の理論的基盤と成果変数抽出の課題について検討

第12回　母子関係の形成が家族の発達に及ぼす影響に関する研究論文をもとに、小児看護とヘルスケアシステムの課題について検討

第13回　発達理論をもとに子どもの発達上の課題を検討し、家族の関わりとの関連をふまえ、看護における介入研究の方向性を検討

第14回　発達理論を基盤とした介入研究における成果変数を抽出する課題、および看護介入の成果を実証する課題について検討

第15回　健康を患う子どもと家族に対する看護介入の理論的基盤と成果変数の抽出について検討

第16回　健康を患う子どもと家族に対する看護介入の研究成果をヘルスケアシステムに反映する方略を検討

第17回　早期産の母親に対する看護介入の理論的基盤と成果変数の抽出および介入に伴う倫理的課題について検討

第18回　早期産の母親に対する看護介入の研究成果を、ヘルスケアシステムに反映する方略を検討

第19回　早期産児の成長発達を支える看護介入の理論的基盤と成果変数の抽出、および発達を長期間フォローする研究デザインの構築と課題を検討

第20回　子どもと家族に対する看護介入の成果をヘルスケアシステムに反映する方略を検討

第21回　低出生体重児に関連した医療や看護の現状

第22回　Developmental Careの背景と臨床への応用

第23回　Patient and Family Centered care とは

第24回　在宅ケアを必要とする小児やその家族を取り巻く環境

第25回　在宅ケアを必要とする小児やその家族に対する包括的支援のあり方

第26回　家族についての理論と概念
家族を捉えるための理論を概観し、家族という概念について考察

第27回　家族看護理論
システム理論、構造的アプローチ、発達的アプローチ
家族看護の方法論としてのさまざまなアプローチについての考察

第28回　家族ヘルスアセスメント
家族のヘルスアセスメントの視点を理解し、家族のヘルスケア機能評価についての考察

h701510610

第29回　家族形成期の看護（1）
育児に関する研究と理論の発達
育児と親となる過程に関する研究と理論を概観し、家族看護における問題点の探索

第30回　家族形成期の看護（2）
ヘルスケア機能を高める看護の教育的アプローチ
家族形成期のヘルスケア機能を高める教育的アプローチに関する看護研究を概観し、研究動向を理解するとともに看護の役割や今後の課題を探索

履修上の注意点

教科書

参考書

Maternity &Women's Health Care10th
著者：　DeritraLowdermilk, ShannonPerry
出版社：Mosbyu ELSEVIER
出版年：2011　　ISBN：

産婦人科診療ガイドライン産科編2011
著者：　産婦人科診療ガイドライン産科編
出版社：
出版年：2011　　ISBN：

安全なお産、安心なお産「つながり」で気付く、壊れない医療
著者：　河合蘭
出版社：岩波書店
出版年：2012　　ISBN：

Nursing interventions for infants, children, and families
著者：　Craft-Rosenberg,M., Denehy,J.
出版社：Sage
出版年：2001　　ISBN：

家族看護学　理論と実践第3版
著者：　鈴木和子、渡辺裕子
出版社：日本看護協会出版会
出版年：2006　　ISBN：

次世代育成看護に関する研究論文を選定し授業資料とする。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験・レポート（ 30% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 40% ）
参加度（ 30% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**特別研究Ⅱ（3回生枠）<Dc>**

クラス	配当回生　大学院3回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　藤本　幸三	

テーマ

データ収集、分析、論文作成

授業の到達目標

特別研究Ⅰの研究計画を実施し、データ収集を経て分析し、新たな知の構築をめざして水準の高い研究論文を作成する。審査ならびに第2回公開発表会を経て、博士論文を完成する。これらの過程を経て、自立的に研究を実施、評価する能力を獲得する。

授業の概要

〇概要：特別研究Ⅰで立案した研究計画をもとに、主指導教員および副指導教員の指導を受けながら研究活動を実施する。研究活動によって得られたデータを分析し、新たな知の構築をめざして研究論文としてまとめ、審査ならびに公開発表を経て博士論文を完成させる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

積極的に指導教員とコンタクトを取り、計画の遂行を円滑に進める

内　　容

第1回　博士論文全体の要旨、骨子の整理したものを発表　合同セッション①
第2回　〃
第3回　博士論文の作成、予備審査準備
第4回　〃
第5回　〃
第6回　〃
第7回　〃
第8回　〃
第9回　〃
第10回　〃
第11回　予備審査
第12回　〃
第13回　博士論文の修正・洗練
第14回　〃
第15回　〃
第16回　〃
第17回　〃
第18回　〃
第19回　〃
第20回　〃
第21回　博士論文の修正と最終提出
第22回　〃
第23回　〃
第24回　〃
第25回　〃
第26回　博士論文　公開発表会／最終審査
第27回　〃
第28回　論文作成過程　合同セッション②
第29回　〃
第30回　〃

履修上の注意点

データ収集の経過報告を指導教員に適宜行うこと

教科書

参考書

The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)
著者:
出版社: American Nurses Association

h701511153

出版年: 2007　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ 50 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**健康科学特論Ⅰ〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　日比野　英子.兒玉　隆之.坂本　敏郎.中村　和夫.宮﨑　純弥.村田　伸	

テーマ

授業の到達目標

健康科学研究の理論的基礎を理解し、今後の研究課題についての展望を得る。

授業の概要

心理学と理学療法学を統合する健康科学への理解を促すために、本科目では、健康科学の基礎分野と位置づける脳科学について「脳を介して出会う心理学と理学療法学」というテーマで、脳の構造と機能に関する講義を行った後、心理学と理学療法学それぞれの視点から講義内容と関連した問題提起を行い、両分野の教員と学生とで討論し、今後の健康科学研究の可能性を探る。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　オリエンテーション－脳を介して出会う心理学と理学療法学－（日比野英子）
第2回　講義①：男と女の脳科学（性分化の進化生物学）（坂本敏郎）
第3回　講義②：記憶と学習の脳科学（神経可塑性のメカニズム）（坂本敏郎）
第4回　講義③：情動の脳科学（扁桃体と視床下部の相互作用）（坂本敏郎）
第5回　講義④：社会性の発達と脳科学（絆の形成とオキシトシン）（坂本敏郎）
第6回　問題提起①：生物行動安全制御システムとしての愛着（日比野英子）および討論
第7回　問題提起②：言語的思考の発達と実行機能との関連について（中村和夫）および討論
第8回　総合討論　（坂本敏郎・中村和夫・日比野英子）
第9回　講義①：脳機能状態としてのResting state networkからみた健康　（兒玉隆之）
第10回　講義②：ヒトの共感脳システムと行為の意図について　（兒玉隆之）
第11回　講義③：慢性的な痛みやストレスと、脳の関連について　（兒玉隆之）
第12回　講義④：脳の健康作りについて（ニューロフィードバックを用いて）（兒玉隆之）
第13回　問題提起①：気分・感情評価の現状と課題（村田伸）および討論
第14回　問題提起②：運動器機能改善に必要な認知・注意（宮﨑純弥）および討論
第15回　総合討論　（兒玉隆之・村田伸・宮崎純弥・日比野英子）

履修上の注意点

教科書

参考書

脳とホルモンの行動学－行動神経内分泌学への招待
著者：　近藤保彦他 編
出版社：西村書店
出版年：　　ISBN：

脳から見える心　臨床心理に生かす脳科学
著者：　岡野憲一郎 著
出版社：岩崎学術出版社
出版年：　　ISBN：

ミラーニューロンと〈心の理論〉
著者：　子安増生・大平英樹 編著
出版社：新曜社
出版年：　　ISBN：

メタ認知－学習力を支える高次認知機能－
著者：　三宮真智子 編著
出版社：北大路書房
出版年：　　ISBN：

h90101a110

運動機能障害症候群のマネジメントー理学療法評価・MSBアプローチ・ADL指導

著者： Shirley A. Sahrmann 著

出版社： 医歯薬出版

出版年： 2005　　ISBN：

成績評価

試験・レポート （ 50 ）　　小テスト （ 0 ）

授業中課題 （ 0 ）　　授業中発表等 （ 0 ）

参加度 （ 50 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅰ〈Mc〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松下　幸治	

テーマ

臨床心理学領域における、カウンセリング、イメージ療法や教育臨床動作法など、個人および集団に対する心理療法をテーマとした研究指導を行う。テーマの構想や内容をリスニング、ディスカッションや文献精読などを通して、専門領域での独自性・独創性のある研究として明確化・具体化できるよう指導する。

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。本科目では、指導教員によってテーマ探索、テーマ決定、研究計画の立案、パイロット研究等を指導するが、学生は研究計画について発表し、倫理的なチェックを受ける。発表によって主副研究指導教員以外の教員からの指導も参考にして研究計画を修正し完成させる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各人のテーマに沿った論文、文献等の精読および論文作成。

内　容

第1回　ガイダンス （合同）
第2回　研究テーマについて発表、討論 （合同）
第3回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第4回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第5回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第6回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第7回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第8回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第9回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第10回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第11回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第12回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第13回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第14回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第15回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第16回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第17回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第18回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第19回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第20回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第21回　研究計画書の作成
第22回　研究計画書の作成
第23回　研究計画書の作成
第24回　中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請（合同）
第25回　中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請（合同）
第26回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第27回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第28回　予備調査・パイロット実験等
第29回　予備調査・パイロット実験等
第30回　予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

教科書

参考書

h90101a253

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 40 ）
各人のテーマに沿った積極的な発表およびディスカッションへの参加度を総合評価する

2018 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅰ〈Md〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中西　龍一	

テーマ

研究テーマの探求

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。本科目では、指導教員によってテーマ探索、テーマ決定、研究計画の立案、パイロット研究等を指導するが、学生は研究計画について発表し、倫理的なチェックを受ける。発表によって主副研究指導教員以外の教員からの指導も参考にして研究計画を修正し完成させる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　ガイダンス （合同）
第2回　研究テーマについて発表、討論 （合同）
第3回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第4回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第5回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第6回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第7回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第8回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第9回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第10回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第11回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第12回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第13回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第14回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第15回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第16回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第17回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第18回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第19回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第20回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第21回　研究計画書の作成
第22回　研究計画書の作成
第23回　研究計画書の作成
第24回　中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請（合同）
第25回　中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請（合同）
第26回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第27回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第28回　予備調査・パイロット実験等
第29回　予備調査・パイロット実験等
第30回　予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

h90101a254

授業中課題（30）　　授業中発表等（30）

参加度（40）

2018 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅰ〈Me〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　永野　光朗	

テーマ

消費者行動に関する文献の講読と研究計画の立案

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。社会的関係の構築、維持や社会の中での個人の適切な位置づけは、心身の健康を維持するうえでたいへん重要である。この授業では衣服や消費といったテーマに関連づけながら、基礎分野の社会心理学を上記の問題に応用して問題解決を図るという視点での研究遂行を行うための文献講読と研究計画の立案および予備調査を行う。副研究指導教員より特に心身の相互作用という視点から文献の提供や研究法の提案を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

当該分野に関連する社会事象に留意して、関連する文献を確認する。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　研究テーマについて発表、討論
第3回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第4回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第5回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第6回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第7回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第8回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第9回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第10回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第11回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第12回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第13回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第14回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第15回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第16回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第17回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第18回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第19回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第20回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第21回　研究計画書の作成
第22回　研究計画書の作成
第23回　研究計画書の作成
第24回　中間報告・研究計画の発表と研究倫理委員会への申請指導　（合同）
第25回　中間報告・研究計画の発表と研究倫理委員会への申請指導　（合同）
第26回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第27回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第28回　予備調査・パイロット実験等
第29回　予備調査・パイロット実験等
第30回　予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

教科書

参考書

院生の計画する個々の研究テーマに即して随時文献を紹介する。

著者:

h90101a255

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅰ〈Mh〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　日比野　英子	

テーマ

心身の健康と新しい生き方の創造

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。本科目では、指導教員によってテーマ探索、テーマ決定、研究計画の立案、パイロット研究等を指導するが、学生は研究計画について発表し、倫理的なチェックを受ける。発表によって主副研究指導教員以外の教員からの指導も参考にして研究計画を修正し完成させる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

院生は、常日頃から自身の研究テーマに即した文献を収集して精読しておくことは当為のことである。授業では、それらの文献研究ついて報告してもらうので、用意しておくこと。研究計画や予備研究についても、積極的に要求された期限内に実施すること。授業では討論を中心に、フィードバックを行う。

内　　容

第1回　ガイダンス （合同）
第2回　研究テーマについて発表、討論 （合同）
第3回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第4回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第5回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第6回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第7回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第8回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第9回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第10回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第11回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第12回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第13回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第14回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第15回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第16回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第17回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第18回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第19回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第20回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第21回　研究計画書の作成
第22回　研究計画書の作成
第23回　研究計画書の作成
第24回　中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請（合同）
第25回　中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請（合同）
第26回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第27回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第28回　予備調査・パイロット実験等
第29回　予備調査・パイロット実験等
第30回　予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

院生自身の研究を実践するのであるから、自主的自律的に計画を実行すること。

教科書

参考書

h90101a258

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅰ〈Mi〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀江　淳	

テーマ

理学療法研究に必要な基礎的な知識および統計手法を理解し実践する。

授業の到達目標

研究テーマの立案、研究へ向けての準備について理解する。データの解析とその解釈の方法について理解する、データの公表方法、注意点を理解することとする。

授業の概要

本専攻で研究を進め、高度専門職業人、研究者として自立するために必要となる基本的な研究方法を学ぶ。具体的には、研究テーマの立案から研究準備、統計解析方法とその解釈、研究成果の公表までを実例を交えながら教授していく。特に、研究に欠かせない統計的解析法に重点を置いて授業を展開する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

基本的なエクセルの操作方法は習得しておくこと。

内　　容

第1回　健康科学研究の基本的要素について
第2回　研究倫理と研究倫理委員会、研究計画書の作成
第3回　情報収集の方法と整理
第4回　研究テーマの立案と研究デザインの構築
第5回　学会抄録、学会発表の技法、および論文の書き方
第6回　データ尺度の理解と活用
第7回　記述統計の理解と解釈、およびその活用
第8回　パラメトリック検定と種々の統計手法
第9回　ノンパラメトリック検定と種々の統計手法
第10回　クロス集計表とカイ二乗検定
第11回　平均の差の検定
第12回　相関と回帰分析
第13回　影響因子の抽出（重回帰分析、ロジスティック回帰分析）
第14回　分散分析とPost-hoc検定、共分散分析
第15回　健康科学における研究～臨床への展開～（まとめ）

履修上の注意点

無断欠席は厳禁！

教科書

参考書

医療系データのとり方・まとめ方
著者:　対馬栄輝、石田水里
出版社:　東京図書
出版年:　2010　　ISBN:　9784489021435

成績評価

試験・レポート（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅰ〈Mj〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮﨑　純弥	

テーマ

運動器系障害、特に脊柱の障害に対する理学療法の効果について研究する

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立す

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。本科目では、指導教員によってテーマ探索、テーマ決定、研究計画の立案、パイロット研究等を指導するが、学生は研究計画について発表し、倫理的なチェックを受ける。発表によって主副研究指導教員以外の教員からの指導も参考にして研究計画を修正し完成させる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

必要となる文献を事前に読んでおくこと

内　　容

第1回　ガイダンス （合同）
第2回　研究テーマについて発表、討論 （合同）
第3回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第4回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第5回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第6回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第7回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第8回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第9回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第10回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第11回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第12回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第13回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第14回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第15回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第16回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第17回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第18回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第19回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第20回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第21回　研究計画書の作成
第22回　研究計画書の作成
第23回　研究計画書の作成
第24回　中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請（合同）
第25回　中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請（合同）
第26回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第27回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第28回　予備調査・パイロット実験等
第29回　予備調査・パイロット実験等
第30回　予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

欠席を1/3以下にしてください。

教科書

参考書

成績評価

h90101a260

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 40 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅰ〈Mm〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　兒玉 隆之	

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。本科目では、指導教員によってテーマ探索、テーマ決定、研究計画の立案、パイロット研究等を指導するが、学生は研究計画について発表し、倫理的なチェックを受ける。発表によって主副研究指導教員以外の教員からの指導も参考にして研究計画を修正し完成させる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　ガイダンス （合同）
第2回　研究テーマについて発表、討論 （合同）
第3回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第4回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第5回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第6回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第7回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第8回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第9回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第10回 先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第11回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第12回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第13回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第14回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第15回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第16回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第17回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第18回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第19回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第20回 研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第21回 研究計画書の作成
第22回 研究計画書の作成
第23回 研究計画書の作成
第24回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請（合同）
第25回 中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請（合同）
第26回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第27回 研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第28回 予備調査・パイロット実験等
第29回 予備調査・パイロット実験等
第30回 予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 40 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**健康科学特論Ⅱ〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　村田　伸.白岩　加代子.田中　芳幸.中西　龍一.日比野　英子.堀江　淳	

テーマ

授業の到達目標

健康科学研究の理論的基礎を理解し、今後の研究課題についての展望を得る。

授業の概要

心理学と理学療法学を統合する健康科学への理解を促すために、本科目では、専攻の研究目的に関連して「健康の向上と新しい生き方への支援」というテーマで、実践を踏まえた講義を行った後、心理学と理学療法学それぞれの視点から講義内容と関連した問題提起を行い、両分野の教員と受講生とで討論し、今後の健康科学研究の方向性を探る。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　オリエンテーション－健康の向上と新しい生き方への支援－（村田伸）
第2回　講義①：心身のストレスとトータル・ヘルス （田中芳幸）
第3回　講義②：健康観の変遷とストレス研究の発展 （田中芳幸）
第4回　講義③：健康行動と精神的な健康 （田中芳幸）
第5回　講義④：身体的アプローチによるストレス・マネジメント （田中芳幸）
第6回　問題提起①：運動ストレスが及ぼす影響；性差について（白岩加代子）および討論
第7回　問題提起②：心理療法のボディーワーク（中西龍一）および討論
第8回　総合討論 （田中芳幸・白岩加代子・中西龍一・村田伸）
第9回　講義①：高齢者・障害者の身体・認知・精神心理機能の特性 （村田伸）
第10回 講義②：高齢者の介護予防対策の実際 （村田伸）
第11回 講義③：高齢者の生きがい支援対策の実際 （村田伸）
第12回 講義④：障害別健康支援対策の紹介 （村田伸）
第13回 問題提起①：喫煙行動における行動変容（堀江淳）および討論
第14回 問題提起②：高齢者・障害者のよそおいの支援（日比野英子）および討論
第15回 総合討論 （村田伸・堀江淳・日比野英子）

履修上の注意点

教科書

参考書

臨床ストレス心理学（叢書実証にもとづく臨床心理学）
著者：　津田彰ら 編
出版社：東京大学出版会
出版年：　　ISBN：

健康行動と健康教育―理論、研究、実践
著者：　曽根智史ら 編
出版社：医学書院
出版年：　　ISBN：

ゲシュタルト療法―その理論と心理臨床例
著者：　倉戸 ヨシヤ
出版社：駿河台出版
出版年：　　ISBN：

精神疾患と認知機能－最近の進歩－
著者：　山内俊雄
出版社：新興医学出版社
出版年：　　ISBN：

成績評価

h90101d150

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度 （ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**研究倫理学特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鶴田　尚美.山崎　先也	

テーマ

授業の到達目標

健康科学分野における倫理の諸問題について、生命倫理、および研究倫理の観点から理解を深め、高度専門職業人、研究者としての倫理的自覚を修得すること。

授業の概要

少子高齢化、核家族化、個人主義など多様な価値観によって、小児から成人、高齢者に至るまで、あらゆる世代の心身に関する健康的、社会的倫理問題が表在化している。高度専門職業人は、これら諸問題を理解した上で、新たな価値を創出するための行動が求められる。本講義では、生命倫理、研究倫理の両面からの視点で、倫理の基礎、社会的状況から研究に至るまでの幅広い倫理に関する知識を教授する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　生命倫理の成立と歴史、その概要
第2回　社会の中の生命倫理～知る権利（インフォームドコンセント）～
第3回　社会の中の生命倫理～生命の始まりと倫理（出生前診断、生殖補助医療）～
第4回　社会の中の生命倫理～生命の始まりと倫理（遺伝子診断、遺伝子治療）～
第5回　社会の中の生命倫理～死の概念（脳死と移植医療）～
第6回　社会の中の生命倫理～死の概念（尊厳死、安楽死）～
第7回　社会の中の生命倫理～死の概念（終末期医療）～
第8回　現代社会と研究倫理
第9回　研究計画における研究倫理
第10回　研究倫理とプライバシーの保護、および個人情報の保護
第11回　研究倫理委員会と利益相反委員会
第12回　研究成果の公表と研究倫
第13回　ヒトゲノム・遺伝子解析に関する研究における倫理
第14回　ヒトを対象とした疫学研究における研究倫理
第15回　動物実験における研究倫理

履修上の注意点

教科書

参考書

シリーズ生命倫理学 第4巻 終末期医療
著者:　安藤泰至・高橋都 編
出版社:　丸善出版
出版年:　　ISBN:

シリーズ生命倫理学 第5巻 安楽死・尊厳死
著者:　斐克則・谷田憲俊 編
出版社:　丸善出版
出版年:　　ISBN:

シリーズ生命倫理学 第15巻 医学研究
著者:　笹栗俊之・武藤香織 編
出版社:　丸善出版
出版年:　　ISBN:

h90101d210

生命倫理と医療倫理 改定3版

著者: 伏木信次他 編

出版社: 金芳堂

出版年: 2014 ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 80 ） 小テスト（ 0 ）

授業中課題（ 0 ） 授業中発表等（ 0 ）

参加度 （ 20 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**健康科学研究法特論Ⅰ〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀江　淳.甲斐　義浩	

テーマ

理学療法研究に必要な基礎的な知識および統計手法を理解し実践する。

授業の到達目標

研究テーマの立案、研究へ向けての準備について理解する。データの解析とその解釈の方法について理解する、データの公表方法、注意点を理解することとする。

授業の概要

本専攻で研究を進め、高度専門職業人、研究者として自立するために必要となる基本的な研究方法を学ぶ。具体的には、研究テーマの立案から研究準備、統計解析方法とその解釈、研究成果の公表までを実例を交えながら教授していく。特に、研究に欠かせない統計的解析法に重点を置いて授業を展開する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

基本的なエクセルの操作方法は習得しておくこと。

内　　容

第1回　健康科学研究の基本的要素について
第2回　研究倫理と研究倫理委員会、研究計画書の作成
第3回　情報収集の方法と整理
第4回　研究テーマの立案と研究デザインの構築
第5回　学会抄録、学会発表の技法、および論文の書き方
第6回　データ尺度の理解と活用
第7回　記述統計の理解と解釈、およびその活用
第8回　パラメトリック検定と種々の統計手法
第9回　ノンパラメトリック検定と種々の統計手法
第10回　クロス集計表とカイ二乗検定
第11回　平均の差の検定
第12回　相関と回帰分析
第13回　影響因子の抽出（重回帰分析、ロジスティック回帰分析）
第14回　分散分析とPost-hoc検定、共分散分析
第15回　健康科学における研究～臨床への展開～（まとめ）

履修上の注意点

無断欠席は厳禁！

教科書

参考書

医療系データのとり方・まとめ方
著者:　対馬栄輝、石田水里
出版社:　東京図書
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（　）	小テスト（　）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**健康科学研究法特論Ⅱ <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中村　和夫	

テーマ

質的研究方法を理解し、一連の手続きについて学ぶ。

授業の到達目標

インタビューや観察や各種記録を通して得られたデータに基づいて、ボトムアップ的に研究領域に密着した理論や概念モデルを構成していく質的研究方法を理解し、一連の手続きについて学ぶこと。質的研究方法の概要の説明では、GTA、M-GTA、TEM、SCATなどに言及するが、具体的な実践的能力としては、主としてGTA(グラウンデッド・セオリー・アプローチ)に基づいて、データの収集、データのコード化、カテゴリーの関係づけによる理論の生成について、それらの手続き・方法を実習を通して学び、理解すること。

授業の概要

GTA(グラウンデッド・セオリー・アプローチ)に基づいて、データの収集、データのコード化、カテゴリーの関係づけによる理論の生成について、それらの手続き・方法を実習を通して学び、理解する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

特になし。

内　容

第1回　質的調査とは何か:質的調査と量的調査の考え方、背景の理論、目的などの違いについて
第2回　GTA、M-GTAの概要
第3回　TEM、SCATの概要
第4回　質的調査法によりおこなわれた具体的研究例(学術論文)についての検討:GTA、M-GTAによる研究事例
第5回　質的調査法によりおこなわれた具体的研究例(学術論文)についての検討:TEM、SCATによる研究事例
第6回　インタビュー法によるデータ収集の手順
第7回　観察法によるデータ収集の手順
第8回　GTAを用いた分析の流れ
第9回　切片化、プロパティとディメンション:オープンコーディングの前提作業
第10回　ラベル名をつける:オープンコーディングの最初の手順
第11回　ラベルをカテゴリーにまとめる手順
第12回　カテゴリー同士の関係をとらえる:アキシャルコーディングの手順
第13回　カテゴリー関連図とストーリーラインによる理論構成の手順
第14回　理論的比較と理論的サンプリング:引き続くデータ収集のために
第15回　授業の振り返りと総括

履修上の注意点

基本的に欠席は認めない(欠席が3回になった時点で単位の認定はしない)。

教科書

質的研究方法ゼミナール[第2版]グラウンデッド・セオリー・アプローチを学ぶ』
著者:　戈木クレイグヒル滋子編
出版社:　医学書院
出版年:　2013　　ISBN:

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 20% ）
参加度 （ 40% ）
授業で課せられた課題に関するレポート・発表・討論、練習問題の回答など、それらを総合して評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**脳科学特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎.兒玉　隆之.本城　靖之	

テーマ

こころとからだの働きの基盤となる脳機能について概観する。

授業の到達目標

感覚、運動、情動、動機づけなどに関する脳機能を基盤にした、記憶・学習機構、社会的行動等について、神経生物学的および神経生理学的側面から理解する。

授業の概要

脳機能を解剖学的・生理学的・行動学的視点から理解することを基礎に、高次脳機能に関して脳機能の局在とその発現機構を学び最新の研究報告やレビュー等の分析を行い基礎知識を修得する。さらに感覚運動制御、動機づけなどの機能を神経生理学的・神経内分泌学的に解明するための方法論を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業中に積極的に質問や議論に参加することが望ましい。宿題が出る場合もある。

内　容

第1回　中枢神経系、末梢神経系、神経内分泌系
第2回　ニューロン内の信号伝導（イオンの流出入と活動電位）
第3回　ニューロン間の情報伝達（神経伝達物質と受容体）
第4回　知覚の神経回路（視覚、聴覚、嗅覚、味覚、体性感覚）
第5回　動機づけに関わる神経回路とホルモン（飲水、摂食、生殖、睡眠）
第6回　認知症（診断、治療）
第7回　認知症（介護）
第8回　認知症（開発中の新薬）
第9回　認知症（神経病理）
第10回　認知症（最前線の研究）
第11回　脳機能を神経生理学的に捉えるーニューロンの電気的活動ー
第12回　認知学習・運動学習と脳
第13回　運動実行時・運動イメージ時の脳機能状態
第14回　情動惹起時の脳機能状態
第15回　脳機能を捉えるための方法論およびまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

ギャノング生理学原著24版
著者:　岡田泰伸 監訳
出版社:　丸善出版
出版年:　2014年　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 30 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**精神医学特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉本　二郎	

テーマ

授業の到達目標

主な精神疾患について、保健医療、看護、福祉と連携し、適切な理解と援助ができるよう、その症状・経過・診断・治療など基本的なことがらを理解する。

授業の概要

代表的な精神疾患について、実際の症例をあげて紹介し、診断のみならず、精神科治療の実際について基本的な流れを解説する。また、精神医学の最近のトピックについても紹介する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　精神医学とは何か
第2回　統合失調症（1）
第3回　統合失調症（2）
第4回　気分障害（1）
第5回　気分障害（2）
第6回　様々な不安障害（1）（パニック障害、強迫性障害、恐怖症など）
第7回　様々な不安障害（2）（身体表現性障害、適応障害、PTSDなど）
第8回　産褥期精神障害（マタニティーブルー、産後鬱病、産後精神病）
第9回　小児期の精神障害（発達障害など）
第10回　青年期の精神障害（パーソナリティ障害、摂食障害など）
第11回　壮年期の精神障害（アルコール依存、ストレス）
第12回　老年期の精神障害（認知症、鬱病など）
第13回　精神科診断の実際
第14回　精神科治療の実際
第15回　日本の精神科医療

履修上の注意点

教科書

精神医学ハンドブック　第7版ー医学・保険・福祉の基礎知識
著者:　山下格
出版社:　日本評論社
出版年:　2010　　ISBN:　453598333X

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 0 ）	授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 70 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**精神薬理学特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹内　孝治	

テーマ

基礎および中枢・精神薬理学

授業の到達目標

薬理学の基礎を学んだ後、様々な中枢・精神疾患（神経症、気分障害、統合失調症、不眠症、癲癇、パーキンソン病、アルツハイマー・認知症、偏頭痛など）の病態とこれら疾患に対する薬物療法を理解する。

授業の概要

薬物療法を理解するためには、疾患の病態、適切な治療薬、それらの治療薬がなぜ効果を示すかを学ぶことが必要である。本特論では、薬理学の基礎的知識を学んだ後、様々な中枢・精神疾患の病態とこれら疾患に対する薬物療法を概説する。具体的には、抗鬱薬、抗不安薬、精神安定薬、鎮静薬、睡眠薬、睡眠導入薬、定型・非定型抗精神病薬、抗パーキンソン病薬、抗アルツハイマー病薬および抗癲癇薬などの作用機序に加えて、これら薬剤の副作用や有害性も教授する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

授業内容を復習を通じて理解する。疑問があれば次回の講義日に質問する。

内　容

第1回　薬理学の概論（薬理学とは？、薬物療法の目的、薬の効き方）
第2回　薬の作用と作用機序（薬物受容体、作動薬、拮抗薬、副作用）Ⅰ
第3回　薬の作用と作用機序（薬物受容体、作動薬、拮抗薬、副作用）Ⅱ
第4回　生理活性物質（生理活性アミン、神経性アミノ酸など）
第5回　中枢神経系の基礎的知識（構造と機能、神経伝達物質）
第6回　気分障害（鬱病、躁病）の病態と薬物療法（抗鬱薬）Ⅰ
第7回　気分障害（鬱病、躁病）の病態と薬物療法（抗鬱薬）Ⅱ
第8回　統合失調症の病態と薬物療法 Ⅰ
第9回　統合失調症の病態と薬物療法 Ⅱ
第10回 神経症、不眠症、心身症の病態と薬物療法
第11回 パーキンソン病の病態と薬物療法
第12回 癲癇（てんかん）の病態と薬物療法
第13回 アルツハイマー・認知症の病態と薬物療法
第14回 脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）の病態と薬物療法
第15回 偏頭痛の病態と薬物療法、全講義に対する質疑応答

履修上の注意点

基礎的事項に関する理解を徹底する。疑問点は積極的に質問する。

教科書

わかりやすい薬理学
著者:　安原　一、小口勝司 (編)
出版社: ヌーベルヒロカワ
出版年: 2014　　ISBN:　9784861740541

参考書

医療薬学I.病態と薬物治療(1): 神経、内分泌・循環器
著者:　井上圭三　監修
出版社: 東京化学同人
出版年: 2000　　ISBN:　80791166X

最新基礎薬理学
著者:　竹内孝治、岡淳一郎 (編)
出版社: 廣川書店
出版年: 2013　　ISBN:　9784567494526

成績評価

試験・レポート （ 50 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 0 ）　　授業中発表等 （ 0 ）

h90101d810

参加度 （ 50 ）

2018 Syllabus

科 目 名　**生活支援学特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　村田　伸.白岩　加代子	

テーマ

授業の到達目標

地域の概念を理解し、地域社会で自立した生活を営むために必要な支援法について理解し、自らの考えを主張できる。

授業の概要

地域社会生活に必要な支援法や障害予防への取り組みについて議論する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　授業のオリエンテーション、生活支援学とは
第2回　地域で生活することとは
第3回　地域における支援体制
第4回　障害予防の視点
第5回　安全で快適な暮らしについて考える
第6回　介護保険と生活支援
第7回　住環境整備1
第8回　住環境整備2
第9回　生活を支える福祉用具1
第10回　生活を支える福祉用具2
第11回　運動を習慣化させるためには
第12回　行動変容と多理論統合モデル
第13回　在宅におけるヘルスプロモーション
第14回　地域における障害予防への取り組み
第15回　学生によるプレゼンテーション、授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**発達障害特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安藤　忠.大久保　千恵	

テーマ

近年本邦では、発達障害についての正しい理解と適切な支援のありかたについて、医療・教育・福祉などの様々な領域において議論が盛んです。本講義では、DSM-5の神経発達症群の分類に含まれる発達障害と第四の発達障害ともいわれている被虐待児における特性について、臨床心理学、障害児教育学、児童福祉学・障害児福祉学などの関連分野から学際的接近を図ります。単に、理論を学ぶだけではなく、実際に何らかの障害を有し、生活や学習に困難を生じている障害児・者に対する臨床的実践力の形成を目指します。

授業の到達目標

発達障害および被虐待児の特性について理解を深め、医療・教育・福祉等各領域における支援のありかたについて臨床的実践力を習得していただきます。
生活や学習に困難を生じている障害児・者に対する臨床的実践力の形成をめざすため、アセスメントや応用行動分析など総合的・包括的な支援のあり方について習得していただくことをめざします。

授業の概要

発達障害や被虐待について、診断基準や行動面の特性について講義します。また、文献抄読を行います。発達障害の診断の補助的手段として用いられる検査についても紹介します。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　発達障害にかかわる医療・教育・福祉的視点
第2回　発達障害児・者の理解と支援(1) －自閉スペクトラム障害－
第3回　発達障害児・者の理解と支援(2) －注意欠如・多動性障害－
第4回　発達障害児・者の理解と支援(3) －限局性学習症・運動障害群－
第5回　発達障害児・者の理解と支援(4) －知的発達障害・コミュニケーション症群－
第6回　乳幼児期における発達障害の理解(1)－社会性の発達とその危機－
第7回　乳幼児期における発達障害の理解(2)－社会性発達のプロセススケール－
第8回　乳幼児期における発達障害の理解(3)－子どもの障害と発達援助の方法－
第9回　乳幼児期における発達障害の理解(4)－プロセススケールを用いた障害児保育－
第10回 乳幼児期における発達障害の理解(5)－発達障害の事例の検討－
第11回 被虐待児の理解と福祉領域における支援
第12回 家族への心理・福祉的的支援
第13回 医療・福祉・教育機関における発達障害のアセスメントツール
第14回 医療・福祉・教育機関における発達障害のアセスメントツールの活用
第15回 医療・福祉・教育機関における発達障害のアセスメントの実際

履修上の注意点

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート （ 50 ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 20 ）
授業の積極的参加度、発表内容および試験の総合評価とします。

2018 Syllabus

科 目 名　**生活機能障害理学療法学特論Ⅰ〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　白岩　加代子.堀江　淳	

テーマ

加齢に伴う身体・精神・認知機能の変化と特性を理解し、高齢者の障害予防につながる対策について内部障害を中心に考える

授業の到達目標

高齢者の生活機能障害予防につながる対策について考案できるようになる。また、内部障害に対するリハビリテーションにつながる対策ができるようになる

授業の概要

加齢に伴う身体機能、心理・精神機能の変化が生活機能へ及ぼす影響について検討し、障害予防につながる対処法を考察する。また、高齢者特有に見られる疾患、特に、呼吸器疾患、循環器疾患などによる内部障害に着目し、理解を深める。さらに、生活機能障害に対する評価とその分析、アプローチ方法について学習する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　加齢による身体機能の変化と特性
第2回　加齢による心理・精神機能の変化と特性
第3回　高齢者の身体機能評価および分析（演習）
第4回　高齢者の心理・精神機能およびQOLの評価と分析（演習）
第5回　老化による姿勢制御の変化から生活機能に及ぼす影響について考える
第6回　生活機能障害を有する高齢者に対する臨床的対処法
第7回　転倒予防の考え方と具体的な取り組み
第8回　呼吸器疾患とその障害の臨床的特徴
第9回　呼吸器疾患における生活機能障害の評価と分析（演習）
第10回　呼吸器疾患における生活機能障害の多次元的アプローチの展開
第11回　循環器疾患とその障害の臨床的特徴
第12回　循環器疾患における生活機能障害の評価と分析（演習）
第13回　循環器疾患における生活機能障害の多次元的アプローチの展開
第14回　代謝性疾患と生活機能障害の臨床的特徴とその評価と分析、多次元的アプローチの展開
第15回　加齢に伴う生活機能障害の捉え方と今後の展望（まとめ）

履修上の注意点

教科書

参考書

理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション
著者:　日本ヘルスプロモーション理学療法学会 編集
出版社: 南江堂
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 50 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**生活機能障害理学療法学特論Ⅱ〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　白岩　加代子.山野　薫.崎田　正博	

テーマ

授業の到達目標

地域在住高齢者および障害者のADLとQOLの向上をはかる上で、理学療法を推進するためのリーダーとして活躍できるような実践的能力の基礎理論を習得し、それらの評価方法・解析方法アプローチ法を学修する。

授業の概要

地域在住高齢者の障害予防や健康維持・向上に対する取り組みや障害者の生活活動における動作の問題点抽出、身体的支援および環境支援における評価・解析・介入方法を学修する。また、障害者や高齢者に必要な福祉用具や自助具の理解と工夫を学修する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　高齢者や障害者を取り巻く社会状況について
第2回　住環境整備の役割と進め方
第3回　住環境整備の基本技術と手法
第4回　生活行為別にみた生活機能障害に対する環境支援や整備
第5回　障害別にみた生活機能障害に対する臨床的対処法
第6回　生活機能障害における生体力学（バイオメカニクス）の基礎理論
第7回　補装具を用いた座位姿勢・立位・歩行の生体力学的解析（演習）
第8回　補装具を用いた座位姿勢・立位・歩行の解析結果の解釈と問題点の抽出
第9回　日常生活用具やシーティングを用いた臥位・座位の生体力学的解析（演習）
第10回　日常生活用具やシーティングを用いた臥位・座位の解析結果と問題点の抽出
第11回　家屋内における生活機能障害の改善を目的とした福祉用具の活用
第12回　障害別にみた生活機能の改善に必要な介入手段の実践（演習）
第13回　屋外環境における問題点の捉え方および改善方法
第14回　生活機能改善を目的とした屋外における環境整備の実践（演習）
第15回　学生によるプレゼンテーション、授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

生活環境学テキスト
著者:　村田伸・岡本加奈子・北島栄二 編集
出版社: 南江堂
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 40 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**運動器障害理学療法学特論Ⅰ〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　濱出　茂治.伊藤　浩充	

テーマ

運動器疾患における機能障害に関する理学療法の実践

授業の到達目標

運動器は，身体活動を遂行する上で常に重力の影響を受けている．このため筋や関節には機械的ストレスを受けて，さまざまな機能障害が引き起こされている．
本科目では，運動器障害の特性を理解した上で，理学療法評価から治療について学修する．

授業の概要

運動器障害を引き起こす整形外科疾患の病態特性について，身体運動の観点から理解を深めます．
さらにこれらの障害に対する理学療法の展開について議論します．

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

配付資料は，予習・復習に用いること

内　　容

第1回　足関節・足部の機能障害に関する理学療法評価
第2回　足関節・足部の機能障害に対する運動療法
第3回　膝関節の機能障害に関する理学療法評価
第4回　膝関節の機能障害に対する運動療法
第5回　股関節の機能障害に関する理学療法評価
第6回　股関節の機能障害に対する運動療法
第7回　脊柱・体幹の機能障害に関する理学療法評価
第8回　脊柱・体幹の機能障害に対する運動療法
第9回　筋萎縮に対する物理療法
第10回　関節拘縮に対する物理療法
第11回　筋・骨格系疼痛症状に対する物理療法
第12回　創傷に対する物理療法
第13回　運動機能再建を目的とした物理療法（1）
第14回　運動機能再建を目的とした物理療法（2）
第15回　運動器障害における理学療法の課題

履修上の注意点

2/3以上の出席を求めます．

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 80 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 15 ）
参加度（ 5 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**運動器障害理学療法学特論Ⅱ <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮崎　純弥.甲斐　義浩	

テーマ

運動器系障害理学療法の評価・分析と治療について検討する。

授業の到達目標

運動器障害、特に脊柱および四肢の関節障害に対する評価及び解析方法を学び、さらに効果的な理学療法について学修する。

授業の概要

運動器障害を解剖学的視点と運動学的視点から捉え、定量的評価を行い、その結果を解釈したうえで、原因を追究し運動器障害が身体機能に及ぼす影響について学修し、議論する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　講義のオリエンテーション・運動器障害の概念について
第2回　脊柱の運動器障害に対する評価（Spinal Mouseを使用した姿勢分析）（演習）
第3回　脊柱の運動器障害に対する評価（筋電図を使用した筋機能分析）（演習）
第4回　脊柱の運動器障害に対する評価（重心動揺計を使用したバランス能力分析）（演習）
第5回　解析方法と結果の解釈
第6回　腰椎すべり・分離症に対する理学療法
第7回　胸郭出口症候群に対する理学療法
第8回　上肢関節（肩・肘・手関節）のバイオメカニクス
第9回　上肢の3次元関節運動の測定（演習）
第10回　上肢の3次元関節運動の解析
第11回　上肢関節疾患に対する理学療法
第12回　下肢関節（股・膝・足関節）のバイオメカニクス
第13回　下肢の3次元関節運動の測定と解析（演習）
第14回　下肢関節疾患に対する理学療法
第15回　講義まとめ、学生によるプレゼンテーション

履修上の注意点

欠席は1/3以下にしてください。

教科書

参考書

理学療法のクリティカルパス 上巻
著者:　David C.Saidoff
出版社:　エルゼビア・ジャパン
出版年:　2008　　ISBN:

筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版
著者:　Donald A.Neumann
出版社:　医歯薬出版
出版年:　2012　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 70 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 10 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**脳機能障害理学療法学特論Ⅰ〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　兒玉　隆之.村田　伸	

テーマ

授業の到達目標

我々は日常生活のあらゆる場面において認知機能を必要とする。しかし、加齢や脳卒中などの疾病によりその機能が低下した場合、さまざまな障害が引き起こされる。本科目では、それらの障害がもたらす身体的・心理的・社会的側面の変化を理解するための理論を習得し、それらの評価方法・解析方法・アプローチ法を学修する。

授業の概要

認知機能の仕組みを理解することを基本に、それらが障害されることで引き起こされる病態(認知症、高次脳機能障害など)や、日常生活上での問題(転倒など)について理解する。評価における研究手法の基礎を習得し、実験の計画・実施、データの解析・解釈、研究成果の発表方法に関する指導を行う。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

内　容

第1回　授業のオリエンテーション、認知機能と身体・心理機能との関連
第2回　事象関連電位の神経生理学的基盤
第3回　認知・行動機能・情報処理と事象関連電位
第4回　ヒトの認知機能の評価方法(事象関連電位から考える)
第5回　認知機能を事象関連電位を用いて計測する①(演習)
第6回　認知機能を事象関連電位を用いて計測する②(演習)
第7回　解析方法と結果の解釈
第8回　高次脳機能障害への介入方法
第9回　注意課題と脳血流動態の計測(演習)
第10回　注意課題と脳血流動態(要介護高齢者の特徴)
第11回　解析方法と結果の解釈
第12回　認知機能・注意機能評価方法の検証・開発
第13回　認知症予防の介入方法(運動療法)
第14回　認知症予防の介入方法(運動療法以外の取り組み)
第15回　脳機能障害の捉え方と今後の展望(まとめ)

履修上の注意点

教科書

参考書

事象関連電位―事象関連電位と神経情報科学の発展
著者:　丹羽真一・鶴紀子 編
出版社:　新興医学出版社
出版年:　　ISBN:

健康・運動の科学　介護と生活習慣病予防のための運動処方
著者:　田口貞善 監修
出版社:　講談社
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**脳機能障害理学療法学特論Ⅱ <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　村田　伸.弓岡　光徳	

テーマ

授業の到達目標

脳機能障害、とくに脳血管障害やパーキンソン病による身体障害の特徴を理解し、身体障害の評価から解析方法、およびその効果的な理学療法について学修する。

授業の概要

脳機能障害から生じる身体障害の評価方法を整理し、効果的な評価の視点を理解する。また、脳機能障害から生じる身体障害に対する運動学的視点からの理学療法を考察し、ファシリテーションテクニックについても議論する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　授業のオリエンテーション、脳機能障害から生じる身体障害の特徴
第2回　脳機能障害から生じる身体障害の評価（視覚による歩行分析）（演習）
第3回　脳機能障害から生じる身体障害の評価（歩行分析装置を用いた評価）（演習）
第4回　脳機能障害から生じる身体障害の評価（生活機能の評価）（演習）
第5回　解析方法と結果の解釈
第6回　脳機能障害から生じる身体障害の簡易的評価の開発1
第7回　脳機能障害から生じる身体障害の簡易的評価の開発2
第8回　学生によるプレゼンテーション、障害評価のまとめ
第9回　脳機能障害から生じる身体障害の理学療法の考え方
第10回　運動学と神経筋促通手技（ファシリテーションテクニック）（演習）
第11回　脳機能障害から生じる歩行障害に対する理学療法テクニック1
第12回　脳機能障害から生じる歩行障害に対する理学療法テクニック2
第13回　脳機能障害から生じるADL障害に対する理学療法テクニック1
第14回　脳機能障害から生じるADL障害に対する理学療法テクニック2
第15回　学生によるプレゼンテーション、授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

ペリー歩行分析　正常歩行と異常歩行原著第2版
著者:　Jacquelin Perry 著／武田功 監訳
出版社:　医歯薬出版
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 30 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**発達心理学特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中村　和夫	

テーマ

L.S.Vygotskyの「発達の文化−歴史的理論」について学ぶ。

授業の到達目標

L.S.Vygotskyによって提唱された「発達の文化−歴史的理論」について、その本質的な内容について理解を深める。

授業の概要

L.S.Vygotskyによって提唱された「発達の文化−歴史的理論」について講義をする。Vygotskyの「発達の文化−歴史的理論」は、「人間の高次心理機能は言葉によって媒介されている」という命題をその中心に置くものだが、講義では、人間の高次心理機能の発達を理解するにあたってこの命題がなぜ重要なのか、その方法論的な意義について明らかにする。とくに言語的思考を取り上げて、言語的思考とそれに支えられた心理諸機能のシステムの発達について、その具体的な様相と特徴を明らかにする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

特に、事前に当該文献の当該箇所を読んで授業に臨むこと。

内　　容

第1回　L.S.Vygotsky：その生涯と業績
第2回　高次心理機能の言葉による媒介
第3回　高次心理機能の社会的起源
第4回　発生的・発達的・歴史的アプローチ
第5回　初期ヴィゴーツキー理論における意識論の特徴
第6回　心理学の危機の歴史的意味
第7回　なぜ言葉なのか
第8回　なぜ概念的思考なのか
第9回　なぜ「最近接発達の領域」なのか
第10回　なぜ感情なのか
第11回　なぜ内言の意味なのか
第12回　なぜ想像なのか
第13回　なぜ文化−歴史的理論なのか
第14回　人間の具体的心理学
第15回　ヴィゴーツキー理論の現代的意味

履修上の注意点

基本的に欠席・遅刻は認めない。やむを得ぬ事情で欠席する（欠席した）場合には、事前に（事後に）理由を申し出ること。

教科書

授業において指示する。

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験・レポート （ 40 ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 30 ）
欠席が目立った場合には成績を評価しない（0点とする）。

2018 Syllabus

科 目 名　**認知心理学特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　秋期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　川上　正浩	

テーマ

情報処理システムとしての人間

授業の到達目標

広く認知心理学の知識を獲得したうえで，特に単語認知や記憶の過程を中心に，実験の計画を通して認知心理学実験を主体的に体験することを授業の目的とする。

授業の概要

認知心理学では、人間をコンピュータのような情報処理システムであるとみなし、人間の知的行動の特徴を明らかにしようとしている。ここでいう知的行動とは、自分の周囲のさまざまな世界を知る、わかる、ことを指している。本授業では、特に単語認知や記憶の過程を中心に、こうしたトピックに関する講義や実験を通して、認知心理学を実践的に学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

疑問を持ち，それを解消しようとするクセをつけておくこと。授業内容については，最低でも60分はかけて，その全体的な見直しを行うことと，疑問に思ったことを調べるようにしておくこと。
課題については，基本的に授業内に全体に向けてのフィードバックを行う。

内　　容

第1回　イントロダクション：認知心理学とは
第2回　情報処理という考え方
第3回　知覚の成立過程
第4回　記憶のモデル（1）
第5回　記憶のモデル（2）
第6回　概念と知識（1）
第7回　概念と知識（2）
第8回　思考の過程（1）
第9回　思考の過程（2）
第10回　言語情報の処理（1）
第11回　言語情報の処理（2）
第12回　日本語情報処理の特殊性
第13回　実験の立案（1）
第14回　実験の立案（2）
第15回　総合討論

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 25 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 25 ）
参加度 （ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**学習・行動分析学特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　上北　朋子	

テーマ

科学的な検証により明らかになった行動の原理が、心理的諸問題の解決にどのように応用されているかについて学ぶ

授業の到達目標

動物の行動や学習に関する理論を基盤に、家庭、教育、医療現場におけるさまざまな問題の解決に対する行動分析学の実例を学び、方法論を身につける。

授業の概要

動物の行動が経験によってどのように形成され、変容するかについての理論を取り扱う。「レスポンデント条件づけ」「オペラント条件づけ」「観察学習」等の諸理論を、具体的な実験を紹介しながら解説する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各回の講義内容について教科書および参考書、事前配布プリントなどを予習しておくこと。発表内容について授業内でコメントを述べる。

内　　容

第1回　学習理論と行動分析学の概要説明
第2回　生得的行動と馴化
第3回　古典的条件づけの基本原理
第4回　古典的条件づけの理論と実験的研究
第5回　オペラント条件付けの基本原理
第6回　オペラント条件付けの理論と実験的研究
第7回　刺激性制御
第8回　刺激等価性
第9回　観察学習と模倣
第10回　行動分析と心理療法
第11回　言語行動
第12回　ルール支配行動
第13回　子どもの応用行動分析　家庭および教育現場における事例
第14回　成人の応用行動分析　　医療および福祉における事例
第15回　応用行動分析学と倫理

履修上の注意点

受け身で受講するのではなく、内容について積極的なディスカッションを行うようにしてください。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 40 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 30 ）	

授業中の積極的な発言や議論の内容についても評価の対象とします。

2018 Syllabus

科 目 名　**社会心理学特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　前田　洋光	

テーマ

近年における社会心理学の諸研究から、自らの研究を発展させる。

授業の到達目標

社会心理学の新しい研究に対して理解を深め、自身の修士論文をはじめとする研究を発展させる視点を養う。

授業の概要

以下に示したテーマについて講義を行うとともに、講義内容に対して発言を求め、討論をおこないながら進めていく。事前学習として、各回の授業内容について国内外の論文等を提示する。それらを読んでおき、議論に耐えうる知識を身につけておくことが求められる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　イントロダクション、現代における社会心理学の研究動向
第2回　社会的認知
第3回　社会的感情
第4回　自動性と無意識
第5回　身体化された認知
第6回　自己
第7回　二重過程理論
第8回　欺瞞的コミュニケーション
第9回　対人関係
第10回　社会的公正
第11回　信頼
第12回　ステレオタイプ・偏見・差別
第13回　集団討議
第14回　社会的ネットワーク
第15回　進化論的視点

履修上の注意点

基礎的な社会心理学の知識を有すること

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**臨床心理学特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　ジェイムス　朋子.菅　佐和子.中西　龍一.松下　幸治	

テーマ

授業の到達目標

臨床心理学の主要理論および実践論・技法論を理解する

授業の概要

広く臨床心理学すなわち精神力動モデル、認知行動モデル、人間性心理学モデルを概観し、担当教員それぞれの理論的背景に基づいた心理臨床学的実践論・技法論を教授する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　心理療法の本質とは何か
第2回　精神力動モデル･認知行動モデル･人間性心理学モデルの起源と発展経過（1）
第3回　精神力動モデル･認知行動モデル･人間性心理学モデルの起源と発展経過（2）
第4回　学派の枠を越えて重視される基本的技法
第5回　「現場」のニーズに即した心理臨床の実践(1)医療･看護･保健･リハビリ領域
第6回　「現場」のニーズに即した心理臨床の実践(2)教育領域
第7回　「現場」のニーズに即した心理臨床の実践(3)司法・福祉領域
第8回　「現場」のニーズに即した心理臨床の実践(4)産業領域
第9回　分析心理学と元型（archetype）
第10回　治療的援助行為の「光」と「影」
第11回　無意識の神話産生機能
第12回　個人神話（personal myth）と神話付与者としての治療者
第13回　布置（constellation）を読む
第14回　治療者の姿勢としてのタブラ・ラサ（tabula rasa）
第15回　個性化の過程と全体性（wholeness）への道
第16回　人間性心理学とゲシュタルト療法
第17回　ゲシュタルト療法の基礎的理論
第18回　コンタクトが生じる境界
第19回　ゲシュタルト療法が指す神経症
第20回　「今・ここ（here and now）」中心のセラピー、ゲシュタルト療法の過程
第21回　ゲシュタルト療法による症例検討1（個人セラピー）
第22回　ゲシュタルト療法による症例検討2（グループセラピー）
第23回　ゲシュタルト療法を体験する（ミニワーク）
第24回　力動的心理療法の主要概念
第25回　力動的アセスメント
第26回　臨床的態度
第27回　治療構造論
第28回　自由連想
第29回　転移と抵抗
第30回　徹底操作

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 40 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**臨床心理基礎実習 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中西　龍一.松下　幸治	

テーマ

臨床心理学実践の基礎的スキルを学ぶ

授業の到達目標

面接実習、グループ体験、査定、学外研修と心理臨床家に求められる必要な基礎的スキル、体験、知見の獲得を目指す。また、臨床心理業務に携わるために必要な基本的感性を種々の感受性訓練を通して体験的に学ぶ。

授業の概要

実習、体験、見学と内容は多義にわたるが、いずれも心理臨床家にとって不可欠なものである。心理療法の基礎となる傾聴技法をロールプレイによる実習形式で徹底的に体得するとともに、グループワークを通して学生個々が自己援助的内省を活性化でき、自己の気づきを高める。また以下の授業の他に受講生には、心理臨床センターのインテーク陪席、インテークカンファレンス、ケースカンファレンスへの参加が求められる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

十分な復習が必要となります。

内　容

第1回　第1-2回 傾聴することの意味とは
第2回　第3-4回 面接をリードする四つのポイント（視線、身体言語、声、言語的追跡）とは
第3回　第5-6回 ロールプレイ（記録を映像に残す）とふり返り（映像記録を再生して）
第4回　第7-8回 面接に構造を与えるための質問とは
第5回　第9-10回 ロールプレイ（記録を映像に残す）とふり返り（映像記録を再生して）
第6回　第11-12回 最小限の励まし、言い換えと確認とは
第7回　第13-14回 ロールプレイ（記録を映像に残す）とふり返り（映像記録を再生して）
第8回　第15-16回 傾聴技法を用いた面接実習　インテーク面接のロールプレイ
第9回　第17-18回 傾聴技法を用いた面接実習　コンサルテーションのロールプレイ
第10回　第19-20回 自己に気づく（構成的グループエンカウンター、及びSSTの体験）
第11回　第21-22回 自己に気づく（ゲシュタルトグループの体験）
第12回　第23-24回 心理臨床の実際　学外見学（医療）
第13回　第25-26回 心理臨床の実際　学外見学（医療）のふり返り
第14回　第27-28回 心理臨床の実際　学外見学（司法）
第15回　第29-30回 心理臨床の実際　学外見学（司法）のふり返り
第16回　第31-32回「臨床心理行為」の基本的姿勢
第17回　第33-34回 マイクロカウンセリングの実践
第18回　第35-36回 要約技法―要約と歪曲
第19回　第37-38回 感情の反映―感情と情動への応答
第20回　第39-40回 意味の反映と焦点のあてかた
第21回　第41-42回 積極技法と対決技法
第22回　第43-44回 心理査定概説
第23回　第45-46回 心理査定の実践
第24回　第47-48回 イメージグループと体験様式の理解
第25回　第49-50回「注意固定的」「外界志向的」姿勢から「内界志向的構え」の形成へ
第26回　第51-52回「イメージ直面段階」から「イメージ体験段階」への変容
第27回　第53-54回「イメージ受容段階」とイメージの自己治癒力
第28回　第55-56回「中核的イメージ体験」の創造性と危険性
第29回　第57-58回「臨床心理行為」の有害性と副作用
第30回　第59-60回 関わり技法に関するまとめと振り返り

履修上の注意点

基本的に全回出席が求められます。

教科書

参考書

h90101g150

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度 （ 80 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**分析心理学特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松下　幸治	

テーマ

分析心理学の理論および心理臨床実践を理解する。

授業の到達目標

C.G.Jungが提唱した分析心理学について概観し、その実践的有用性を理解する。

授業の概要

ともすれば治療者自身が「空想虚言症（pseudologia phantastica）」的になり、被援助者を自らの自己中心的な空想から意のままに操ってしまう危険性について考える。すなわち、治療者の歪んだ空想（fantasy）からではなく生きた想像（imagination）によってのみ被援助者の自己治癒力は活性化されるという臨床的事実を理解する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　C.G.Jungと分析心理
第2回　元型（archetype）について
第3回　布置（constellation）を読む
第4回　完全性（perfection）と全体性（wholeness,totality）
第5回　タイプ論―外向と内向、4つの心理機能
第6回　個人的無意識と普遍的無意識
第7回　夢分析の実際
第8回　「個性化の過程（purosess of individuation）」について
第9回　治療者の影（shadow）
第10回　空想（fantasy）と想像（imagination）
第11回　個人神話（personal myth）の創造と病
第12回　「記号的意味解釈」と「象徴的意味解釈」
第13回　神話付与としての解釈
第14回　「死と再生」のモチーフ
第15回　正しさのもつ破壊性、偽りにひそむ創造性

履修上の注意点

教科書

ユング派精神療法の実践
著者:　武野俊弥
出版社:　創元社
出版年:　2017年　　ISBN:　9784422116716

参考書

成績評価

試験・レポート （ 30 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**思春期臨床心理学特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　菅 佐和子	

テーマ

思春期という時期の理解と、その時期に適した心理療法のポイントを理解する。学校現場における心理的援助の実践について理解する。

授業の到達目標

成人期の児童期の間に位置する青年期の入り口である思春期は、成人に対する面接技法も児童に対する面接技法も通用しないことの多い、独特のむずかしさを持つ時期である。しかも、この時期の来談者はきわめて多い。すべてが学校に在籍している年齢であるため、学校現場の特性をふまえて適切かつ有効な心理的支援ができるようになることを目指す。

授業の概要

事例研究を熟読し、感じたことを話し合いながら面接のコツを会得する。思春期のケースについてのロールプレイを通して実践能力を磨く。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

思春期に関する優れた文学作品、映像作品などに幅広く触れてほしい。

内　容

第1回　発達段階に中での思春期の位置づけ
第2回　従来から知られた思春期の基本的特徴について
第3回　最近の思春期の特徴について----第２反抗期はどうなったのか？----
第4回　思春期心理療法の意義と課題----若手セラピストと出会う意味-----
第5回　事例研究を読む①
第6回　事例研究を読む（続）
第7回　ロールプレイを体験する
第8回　事例研究を読む②
第9回　事例研究を読む（続）
第10回 ロールプレイを体験する
第11回 事例研究を読む③
第12回 事例研究を読む（続）
第13回 ロールプレイを体験する
第14回 思春期に関する映像作品を鑑賞する
第15回 まとめ

履修上の注意点

積極的なコミュニケーションを期待する。

教科書

思春期心理臨床のチェックポイント
著者:　菅佐和子編著
出版社: 創元社
出版年: 2005年　　ISBN:　4-422-11335-6

参考書

授業中に指示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 25% ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 25% ）	授業中発表等 （ 25% ）
参加度 （ 25% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**グループアプローチ特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中西　龍一	

テーマ

グループ・アプローチ

授業の到達目標

家族や集団の関係性に働きかける知識と技法を理解し修得すること、およびセラピーグループを形成し展開するための知識と技法を理解し習得することを目的とする。

授業の概要

家族や集団を理解するためにシステムズ・アプローチを学んだ後、一般的なグループの形成、成長といったグループプロセスの理論、および様々なグループの展開技法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

自ら選んだグループにメンバーとして参加することを奨励します。

内　容

第1回　システムズアプローチとは何か
第2回　直線的思考と円環的思考
第3回　様々な技法
第4回　家族療法とブリーフセラピー
第5回　家族療法　事例から
第6回　臨床心理学におけるグループとは
第7回　療法的因子と対人学習
第8回　グループの凝集性
第9回　グループセラピストの基本的課題
第10回 グループプロセスとは
第11回 グループの構造
第12回 グループの形成的段階　初期
第13回 グループの形成的段階　中期
第14回 グループの形成的段階　後期　終結
第15回 様々なグループ

履修上の注意点

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

グループサイコセラピー
著者:　ヤーロム
出版社:　西村書店
出版年:　2012　　ISBN:　4890134220

PCAグループ入門
著者:　村山正治
出版社:　創元社
出版年:　2014　　ISBN:　4422115707

システムズアプローチによる家族療法のすすめ方
著者:　吉川悟　東豊
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2001　　ISBN:　4623033651

成績評価

h90101g550

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 60 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**心理統計学特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　前田　洋光	

テーマ

修士論文に必要な統計解析の理解

授業の到達目標

修士論文をはじめとする学術論文に必要なデータ解析を理解することができる。

授業の概要

本特論は、心理学研究において一般的に用いられる種々のデータ解析法について、統計ソフト（SPSSおよびAMOS）を実際に使用し、結果を適切にまとめるという演習形式で展開していく。具体的には、因子分析、重回帰分析、クラスタ分析、判別分析、パス解析、構造方程式モデリング等を取り上げる。受講者自らが、質問紙を作成し、実査をし、その得られたデータから解析を行うことにより、各自の研究に応用できる実践的な力を養成していく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　1. SPSSの復習：　記述統計、t検定、分散分析
第2回　2. 因子分析(1)：　理論の説明と適用例の紹介
第3回　3. 因子分析(2)：　演習と実践的な使用方法
第4回　4. 重回帰分析(1)：　理論の説明と適用例の紹介
第5回　5. 重回帰分析(2)：　演習と実践的な使用方法
第6回　6. パス解析(1)：　理論の説明と適用例の紹介
第7回　7. パス解析(2)：　演習と実践的な使用方法
第8回　8. 構造方程式モデリング(1)：　理論の説明と適用例の紹介
第9回　9. 構造方程式モデリング(2)：　演習と実践的な使用方法
第10回　10. 構造方程式モデリング(3)：　パーセル化
第11回　11. 構造方程式モデリング(4)：　多母集団同時分析
第12回　12. 構造方程式モデリング(5)：　さまざまな同値拘束
第13回　13. 総合演習(1)：　実際の調査データの解析
第14回　14. 総合演習(2)：　実際の調査データの解析
第15回　15. 総合演習(3)：　プレゼンテーションとディスカッション

履修上の注意点

学部授業で修得した統計の知識を復習して臨むこと

教科書

参考書

適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**健康心理学特論（＊）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田中　芳幸.大久保　千恵	

テーマ

健康心理学に関わる諸理論、および、心の健康教育に関する理論と実践

授業の到達目標

健康心理学は、心理学と健康関連諸科学とにまたがる応用的な領域にあたる学問分野である。このため、心身の健康に関する多種多様な問題について、心理・社会・身体的な要因がどのような役割を持つのかを包括的に理解できるようになることを目標とする。

授業の概要

健康を生物心理社会モデルでとらえる素養を養い、健康の維持増進や心身疾患の予防に対する健康心理学的支援についても学習を深める。生活習慣病やメンタルヘルスマネジメントなど現代社会で注目される諸問題を取り上げ、その健康心理学的な理解と研究および支援の方法について論考する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各回の内容に該当する健康心理学関連図書や関連論文による自学自習を行うこと。

内　容

第1回　健康心理学とは
第2回　健康心理学の基礎理論
第3回　ストレスと健康に関する諸理論
第4回　ストレスと健康に関する生理学的メカニズム
第5回　健康行動と生活習慣の形成
第6回　健康教育の場と方法
第7回　健康心理学における最近の動向
第8回　パーソナリティと心身の健康
第9回　生活習慣と心身の健康
第10回　健康の維持増進に関わる諸理論
第11回　健康教育の実際
第12回　ヘルスケアシステムの実際
第13回　健康心理アセスメントの実際
第14回　健康心理カウンセリングの実際
第15回　授業全体のまとめ

履修上の注意点

授業には真摯に取り組むこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

健康心理学概論（健康心理学基礎シリーズ1）

著者:　日本健康心理学会(編)

出版社:　実務教育出版

出版年:　　ISBN:

健康心理アセスメント概論（健康心理学基礎シリーズ2）

著者:　日本健康心理学会(編)

出版社:　実務教育出版

出版年:　　ISBN:

h90101g710

健康心理カウンセリング概論（健康心理学基礎シリーズ3）

著者： 日本健康心理学会(編)

出版社： 実務教育出版

出版年： ISBN：

健康教育概論（健康心理学基礎シリーズ4」）

著者： 日本健康心理学会(編)

出版社： 実務教育出版

出版年： ISBN：

成績評価

試験・レポート （ 60% ）
小テスト （ ）
授業中課題 （ 20% ）
授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**精神医学特論(＊)<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉本　二郎	

テーマ

授業の到達目標

主な精神疾患について、保健医療、看護、福祉と連携し、適切な理解と援助ができるよう、その症状・経過・診断・治療など基本的なことがらを理解する。

授業の概要

代表的な精神疾患について、実際の症例をあげて紹介し、診断のみならず、精神科治療の実際について基本的な流れを解説する。また、精神医学の最近のトピックについても紹介する。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

内　　容

第1回　精神医学とは何か
第2回　統合失調症(1)
第3回　統合失調症(2)
第4回　気分障害(1)
第5回　気分障害(2)
第6回　様々な不安障害(1)(パニック障害、強迫性障害、恐怖症など)
第7回　様々な不安障害(2)(身体表現性障害、適応障害、PTSDなど)
第8回　産褥期精神障害(マタニティーブルー、産後鬱病、産後精神病)
第9回　小児期の精神障害(発達障害など)
第10回　青年期の精神障害(パーソナリティ障害、摂食障害など)
第11回　壮年期の精神障害(アルコール依存、ストレス)
第12回　老年期の精神障害(認知症、鬱病など)
第13回　精神科診断の実際
第14回　精神科治療の実際
第15回　日本の精神科医療

履修上の注意点

教科書

精神医学ハンドブック　第7版ー医学・保険・福祉の基礎知識
著者:　山下格
出版社:　日本評論社
出版年:　2010　　ISBN:　453598333X

参考書

成績評価

試験・レポート（ 30 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度（ 70 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**運動機能学特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　崎田　正博.川口　浩太郎	

テーマ

運動機能に関わる骨・関節・筋の機能とその障害学

授業の到達目標

身体運動を生み出す運動器の構造と機能を理解した上で，その障害メカニズムを説明できる.

授業の概要

運動器障害に関与する専門知識から，評価・治療に至るまで講義と演習を交えながら進めて行く.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に資料を読んでおいてください.

内　　容

第1回　運動療法の基礎（エクササイズの位置づけを中心に）
第2回　二関節筋の機能
第3回　体幹の安定化筋について1
第4回　体幹の安定化筋について2
第5回　運動連鎖の考え方1
第6回　運動連鎖の考え方2
第7回　歩容を変えるためには1
第8回　歩容を変えるためには2
第9回　観察疫学研究の視点による転倒危険因子と運動機能の関連－身体機能的側面から－
第10回 観察疫学研究の視点による転倒危険因子と運動機能の関連－認知的側面から－
第11回 観察疫学研究の視点による転倒危険因子と運動機能の関連－神経生理学的側面から－
第12回 生活習慣病と転倒との関連性について
第13回 転倒危険因子改善プログラムのエビデンス①　運動プログラムを中心に
第14回 転倒危険因子改善プログラムのエビデンス②　心理・認知プログラムを中心に
第15回 危険因子改善プログラムのエビデンス③　動物実験モデルを中心に

履修上の注意点

2/3以上の出席を求めます.

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 80 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**発達障害特論（＊）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安藤　忠.大久保　千恵	

テーマ

近年本邦では、発達障害についての正しい理解と適切な支援のありかたについて、医療・教育・福祉などの様々な領域において議論が盛んです。本講義では、DSM-5の神経発達症群の分類に含まれる発達障害と第四の発達障害ともいわれている被虐待児における特性について、臨床心理学、障害児教育学、児童福祉学・障害児福祉学などの関連分野から学際的接近を図ります。単に、理論を学ぶだけではなく、実際に何らかの障害を有し、生活や学習に困難を生じている障害児・者に対する臨床的実践力の形成を目指します。

授業の到達目標

発達障害および被虐待児の特性について理解を深め、医療・教育・福祉等各領域における支援のありかたについて臨床的実践力を習得していただきます。
生活や学習に困難を生じている障害児・者に対する臨床的実践力の形成をめざすため、アセスメントや応用行動分析など総合的・包括的な支援のあり方について習得していただくことをめざします。

授業の概要

発達障害や被虐待について、診断基準や行動面の特性について講義します。また、文献抄読を行います。発達障害の診断の補助的手段として用いられる検査についても紹介します。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　発達障害にかかわる医療・教育・福祉的視点
第2回　発達障害児・者の理解と支援(1) －自閉スペクトラム障害－
第3回　発達障害児・者の理解と支援(2) －注意欠如・多動性障害－
第4回　発達障害児・者の理解と支援(3) －限局性学習症・運動障害群－
第5回　発達障害児・者の理解と支援(4) －知的発達障害・コミュニケーション症群－
第6回　乳幼児期における発達障害の理解(1)－社会性の発達とその危機－
第7回　乳幼児期における発達障害の理解(2)－社会性発達のプロセススケール－
第8回　乳幼児期における発達障害の理解(3)－子どもの障害と発達援助の方法－
第9回　乳幼児期における発達障害の理解(4)－プロセススケールを用いた障害児保育－
第10回 乳幼児期における発達障害の理解(5)－発達障害の事例の検討－
第11回 被虐待児の理解と福祉領域における支援
第12回 家族への心理・福祉的的支援
第13回 医療・福祉・教育機関における発達障害のアセスメントツール
第14回 医療・福祉・教育機関における発達障害のアセスメントツールの活用
第15回 医療・福祉・教育機関における発達障害のアセスメントの実際

履修上の注意点

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:
参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度（ 20 ）
授業の積極的参加度、発表内容および試験の総合評価とします。

2018 Syllabus

科 目 名　**社会心理学特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　永野　光朗	

テーマ

「応用」という観点からの社会心理学研究の理解

授業の到達目標

社会心理学研究の成果を社会生活の向上のために利用するための応用的観点や方法論を習得する。

授業の概要

心理学は社会におけるさまざまな問題の解決に利用されている。企業組織、マーケティング、環境問題、交通問題など、その内容は多岐にわたり、それらの多くの研究の基礎を形成しているのが社会心理学であるが、この講義では社会心理学をベースにした応用研究を順次紹介しながら、心理学を現実的な問題解決に利用するための視点や実践力を身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

産業や社会生活に関して心理学研究を踏まえた問題解決の事例を出来る限り収集しておく。受講者との討論の中で随時フィードバックを行う。

内　容

第1回　社会心理学研究の応用とは？
第2回　社会心理学研究を応用するための方法
第3回　社会心理学研究の応用事例①（組織行動）
第4回　社会心理学研究の応用事例②（マーケティング）
第5回　社会心理学研究の応用事例③（消費者保護）
第6回　社会心理学研究の応用事例④（交通行動）
第7回　社会心理学研究の応用事例⑤（環境問題）
第8回　社会心理学研究の応用事例⑥（ボランティア行動）
第9回　社会心理学研究の応用に関する論文購読①（組織行動）
第10回　社会心理学研究の応用に関する論文購読②（マーケティング）
第11回　社会心理学研究の応用に関する論文購読③（消費者保護）
第12回　社会心理学研究の応用に関する論文購読④（交通行動）
第13回　社会心理学研究の応用に関する論文購読⑤（環境問題）
第14回　社会心理学研究の応用に関する論文購読⑥（ボランティア行動）
第15回　総合討論

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**社会調査特別演習 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　前田　洋光	

テーマ

社会調査による実証研究の実施

授業の到達目標

調査研究(学会発表が可能なレベル)の一連のプロセスを理解することができる。

授業の概要

社会心理学に関するテーマについて、調査による実証研究をおこなう。仮説構築からデータ収集、分析、レポート化する一連のプロセスを経験することによって、調査法の理解を深めるとともに、修士論文で活用すべきスキルを習得していく。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

内　　容

第1回　1. イントロダクション:研究テーマの決定と今後の進め方
第2回　2. 文献講読と先行研究の理解
第3回　3. 仮説に関するディスカッション
第4回　4. 仮説構築
第5回　5. 項目の選定
第6回　6. 質問紙の作成
第7回　7. 質問紙の確定と調査準備
第8回　8. 実査
第9回　9. コーディングとデータ入力、分析計画の立案
第10回　10. 分析の実施
第11回　11. 分析の実施:記述統計をはじめ、基礎的な分析
第12回　12. 分析の実施:記述統計をはじめ、基礎的な分析:仮説の検討
第13回　13. 分析の実施:より発展的な分析
第14回　14. プレゼンテーション準備
第15回　15. プレゼンテーションとレポート作成

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 50 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**司法・犯罪心理学特論（＊）〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　ジェイムス　朋子	

テーマ

司法・犯罪分野に関わる心理職の態度と業務について実践的に学ぶ

授業の到達目標

①司法犯罪分野における心理職の臨床的態度を理解し、その基礎を体現できる。
②司法犯罪分野における心理アセスメントの基礎理論・技術を理解し、その基礎を実践できる。
③司法犯罪分野における心理臨床実践の基礎理論・技術を理解し、その基礎を実践できる。

授業の概要

授業では、講義、ディスカッション、事例検討を中心に展開する。それらの理解を補足するために、毎回小レポート課題を課す。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に資料を熟読し、毎回の小レポート課題に取り組んだ上で出席すること。

内　容

第1回　司法・犯罪臨床の課題
第2回　司法・犯罪臨床における心理職の臨床的態度
第3回　各種犯罪心理学理論の概説
第4回　司法・犯罪領域における臨床理論の概説
第5回　ケース研究①私設心理相談室の事例検討：アセスメント
第6回　ケース研究①私設心理相談室の事例検討：治療計画立案
第7回　ケース研究②刑事施設の事例検討：アセスメント
第8回　ケース研究②刑事施設の事例検討：治療計画立案
第9回　ケース研究③刑事施設における集団精神療法事例：治療計画立案
第10回　ケース研究③刑事施設における集団精神療法事例：シナリオによる検討
第11回　ケース研究④保護観察所における事例の検討
第12回　犯罪と予防心理教育の実践
第13回　司法・犯罪領域における心理面接法演習
第14回　司法・犯罪領域における集団心理教育面接法演習
第15回　司法・犯罪領域における課題再考

履修上の注意点

心理臨床家としての態度をもって授業に臨むこと

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 70% ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 30% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**産業・労働心理学特論（＊）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中西　龍一.菅　佐和子	

テーマ

産業・労働の現場におけるメンタルヘルスケア

授業の到達目標

ストレスとストレス反応について、理論と事例をもとに、その理解と対処法について学ぶ

授業の概要

本講義では、産業・労働の現場におけるメンタルヘルスケアを中心に、人間らしく働くためにはどうすればよいか、避けがたいストレスに対してどのように対処していけばよいか、すなわちストレスとその対処法（ストレス・コーピング）について学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第11回　産業・労働場面での事例を検討する（3）
第12回　産業・労働場面での事例を検討する（4）
第13回　産業・労働場面での事例を検討する（5）
第14回　産業・労働場面での事例を検討する（6）
第15回　まとめ
第1回　ストレスとは
第2回　ストレスと身体
第3回　産業・労働の現場におけるメンタルヘルスケア
第4回　認知療法（1）
第5回　認知療法（2）
第6回　アサーション・トレーニング
第7回　ソーシャル・スキル・トレーニング
第8回　事例から
第9回　産業・労働場面での事例を検討する（1）
第10回　産業・労働場面での事例を検討する（2）

履修上の注意点

教科書

はじめての認知療法
著者：　大野 裕
出版社：講談社
出版年：2011　　ISBN：4062881055

「うつ」を治す
著者：　大野 裕
出版社：PHP研究所
出版年：2014　　ISBN：4569821642

参考書

改訂版　アサーション・トレーニング
著者：　平木典子
出版社：金子書房
出版年：2009　　ISBN：4931317154

基本から学ぶSST
著者：　前田ケイ
出版社：星和書店
出版年：2013　　ISBN：4791108493

h90101h510

職場のメンタルヘルス相談室

著者: 菅佐和子

出版社: 新曜社

出版年: 2009 ISBN: 4788511797

成績評価

試験・レポート（ 25% ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ 25% ）

参加度 （ 50% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**臨床心理学面接特論Ⅰ（＊）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　菅 佐和子	

テーマ

心理面接の基本的な姿勢と技法について概略を理解する。

授業の到達目標

各論に入る前段階として、各学派やアプローチについての基本的知識を習得し、相談・助言・指導への応用力を身につける。

授業の概要

原則として資料配布が中心であるが、必要に応じて教材DVD等を活用する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

学んだことを定着させるため復習に力を注いでほしい。また、授業中に紹介する事例論文を熟読してほしい。

内　容

第1回　心理的援助として面接に臨む姿勢について
第2回　心理的支援を必要とする対象者の特性や状況に応じた支援の方法を理解する
第3回　意識レベルでの対応について
第4回　無意識レベルをも含む対応について
第5回　来談者中心療法について①
第6回　来談者中心療法について②
第7回　来談者中心療法について③
第8回　精神分析について①
第9回　精神分析について②
第10回　行動療法について
第11回　認知行動療法について
第12回　表現療法のいろいろ
第13回　子どもを対象としたプレイセラピーについて
第14回　相談・助言・指導への応用力をみがく
第15回　まとめ

履修上の注意点

積極的なコミュニケーションを期待する。

教科書

授業中に紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 30% ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 20% ）	授業中発表等 （ 20% ）
参加度 （ 30% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**臨床心理学面接特論Ⅱ〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松下　幸治	

テーマ

臨床心理学的面接における基本的な態度・根本姿勢を知る。

授業の到達目標

臨床心理学の理論に基づき、具体的な面接技法を習得する

授業の概要

臨床心理学的諸理論に基づき、より実践的な面接技法を教授する。ロールプレイを重視し、実際にカウンセラー体験およびクライエント体験を通して実践の場で治療的に活かせる面接技法を体得する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　面接における基本的心得―その質の向上のために
第2回　治療理論モデルの簡単な整理と「よくなる」ことについて
第3回　援助目的論と専門家の役割
第4回　治療者の聞く「耳」と患者の「耳」―心の声が聞こえやすくなるために
第5回　生きた「人」として面接に臨む―心の生き場としての面接
第6回　治療学としての休養学―休み上手にさす工夫
第7回　記述不能としての面接の本質―「心」の相互活性化に向けて
第8回　治療者の「心」の伝え方と相互人間化
第9回　「心の整理」としての面接―“ありのままの自分”とその治療的意義
第10回　体験過程と体験様式
第11回　体験様式と体験内容
第12回　「創造の病」と「創造による治癒」
第13回　イメージ面接と「自由にして保護された空間」
第14回　イメージ技法のさまざまな展開
第15回　「面接論」のまとめと振り返り
第16回
第17回

履修上の注意点

欠席の場合は要連絡（必須）。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 10 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 60 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**臨床心理査定演習Ⅰ（＊）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　日比野　英子.岩知道　志郎.田中　芳幸	

テーマ

臨床心理査定に関する理論や査定者としての態度の検討、理解、および査定技法の演習

授業の到達目標

心理的援助の方針決定や援助過程およびその効果の評価に関する情報収集のために実施される臨床心理査定の、理論モデルおよび種々の査定技法について学び、相談・助言・指導への応用を身に着けることを目的とする。

授業の概要

臨床心理査定の理論モデルや倫理的留意事項の理解を深めて、つぎに面接・観察・調査・心理検査等の技法について、実際的に学ぶ。特に、検査法の質問紙法、知能検査・発達検査、投映法について詳しく学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

参考書としてあげたもの等の臨床心理査定に関する図書や各種心理検査マニュアルの熟読、および、演習した査定に関する自分なりの解釈や論考。課題のフィードバックは授業完了後に個別に行う。

内　容

第1回　臨床心理査定概論
第2回　臨床心理行為全般における臨床心理査定
第3回　面接・観察・調査による臨床心理査定
第4回　臨床心理査定における心理検査の意義と限界
第5回　質問紙法に基づく心理検査の信頼性と妥当性
第6回　質問紙法に基づく心理検査の標準化
第7回　質問紙法に基づく心理検査の実際①　YG性格検査など
第8回　質問紙法に基づく心理検査の実際②　MMPIなど
第9回　臨床心理査定結果の報告
第10回 臨床心理査定における心理検査実施上の留意事項と倫理
第11回 知能検査と発達検査
第12回 WISC知能検査の知能観と特色、実施法
第13回 WISCの実施法の実際
第14回 WISCの集計と結果の解釈
第15回 新版K式発達検査2001の考え方と特色

履修上の注意点

授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為を慎み、討議や演習に積極的に参加すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**臨床心理査定演習Ⅱ〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　日比野　英子.岩知道　志郎.田中　芳幸	

テーマ

臨床心理査定に関する理論や査定者としての態度の検討、理解、および査定技法の演習

授業の到達目標

心理的援助の方針決定や援助過程およびその効果の評価に関する情報収集のために実施される臨床心理査定の、理論モデルおよび種々の査定技法について学び、実践的な活用力を身に着けることを目的とする。

授業の概要

臨床心理査定の理論モデルや倫理的留意事項の理解を深めて、つぎに面接・観察・調査・心理検査等の技法について、実際的に学ぶ。特に、検査法の質問紙法、知能検査・発達検査、投映法について詳しく学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

参考書としてあげたもの等の臨床心理査定に関する図書や各種心理検査マニュアルの熟読、および、演習した査定に関する自分なりの解釈や論考。課題のフィードバックは授業後に個別に行う。

内　容

第1回　新版K式発達検査2001の実施法
第2回　新版K式発達検査2001の集計法と結果の分析
第3回　新版K式発達検査2001の事例①
第4回　新版K式発達検査2001の事例②
第5回　知能検査・発達検査と発達相談
第6回　投映法の定義と分類・特徴
第7回　PFスタディ絵画欲求不満テストの基礎理論と実施法
第8回　PFスタディ絵画欲求不満テストの結果の処理と実施法
第9回　バウムテストの解釈と事例検討
第10回　ロールシャッハ・テストの実施法
第11回　ロールシャッハ・テストのさまざまな分析システム
第12回　ロールシャッハ・テストの片口法記号化
第13回　ロールシャッハ・テストの事例と記号化
第14回　ロールシャッハ・テストの解釈①カテゴリーとカテゴリー比率の解釈
第15回　ロールシャッハ・テストの解釈②継列分析

履修上の注意点

授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為を慎み、討議や演習に積極的に参加すること。

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**思春期臨床心理学特論(＊)〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　菅 佐和子	

テーマ

思春期という時期の理解と、その時期に適した心理療法のポイントを理解する。学校現場における心理的援助の実践について理解する。

授業の到達目標

成人期の児童期の間に位置する青年期の入り口である思春期は、成人に対する面接技法も児童に対する面接技法も通用しないことの多い、独特のむずかしさを持つ時期である。しかも、この時期の来談者はきわめて多い。すべてが学校に在籍している年齢であるため、学校現場の特性をふまえて適切かつ有効な心理的支援ができるようになることを目指す。

授業の概要

事例研究を熟読し、感じたことを話し合いながら面接のコツを会得する。思春期のケースについてのロールプレイを通して実践能力を磨く。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

思春期に関する優れた文学作品、映像作品などに幅広く触れてほしい。

内　容

第1回　発達段階に中での思春期の位置づけ
第2回　従来から知られた思春期の基本的特徴について
第3回　最近の思春期の特徴について----第2反抗期はどうなったのか？----
第4回　思春期心理療法の意義と課題----若手セラピストと出会う意味-----
第5回　事例研究を読む①
第6回　事例研究を読む(続)
第7回　ロールプレイを体験する
第8回　事例研究を読む②
第9回　事例研究を読む(続)
第10回　ロールプレイを体験する
第11回　事例研究を読む③
第12回　事例研究を読む(続)
第13回　ロールプレイを体験する
第14回　思春期に関する映像作品を鑑賞する
第15回　まとめ

履修上の注意点

積極的なコミュニケーションを期待する。

教科書

思春期心理臨床のチェックポイント
著者:　菅佐和子編著
出版社:　創元社
出版年:　2005年　　ISBN:　4-422-11335-6

参考書

授業中に指示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 25% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 25% ）	授業中発表等（ 25% ）
参加度（ 25% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**グループアプローチ特論（＊）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中西　龍一	

テーマ

グループ・アプローチ

授業の到達目標

家族や集団の関係性に働きかける知識と技法を理解し修得すること、およびセラピーグループを形成し展開するための知識と技法を理解し習得することを目的とする。

授業の概要

家族や集団を理解するためにシステムズ・アプローチを学んだ後、一般的なグループの形成、成長といったグループプロセスの理論、および様々なグループの展開技法を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

自ら選んだグループにメンバーとして参加することを奨励します。

内　容

第1回　システムズアプローチとは何か
第2回　直線的思考と円環的思考
第3回　様々な技法
第4回　家族療法とブリーフセラピー
第5回　家族療法　事例から
第6回　臨床心理学におけるグループとは
第7回　療法的因子と対人学習
第8回　グループの凝集性
第9回　グループセラピストの基本的課題
第10回 グループプロセスとは
第11回 グループの構造
第12回 グループの形成的段階　初期
第13回 グループの形成的段階　中期
第14回 グループの形成的段階　後期　終結
第15回 様々なグループ

履修上の注意点

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

グループサイコセラピー
著者:　ヤーロム
出版社:　西村書店
出版年:　2012　　ISBN:　4890134220

PCAグループ入門
著者:　村山正治
出版社:　創元社
出版年:　2014　　ISBN:　4422115707

システムズアプローチによる家族療法のすすめ方
著者:　吉川悟　東豊
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2001　　ISBN:　4623033651

成績評価

h90101i210

試験・レポート（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 60 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅱ〈Ma〉**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎	

テーマ

修士論文作成のための研究指導を行う。

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等を提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

健康科学特別研究Ⅰにおいて計画された研究を実施し、量的または質的なデータの収集と分析を行い、その結果を考察し、修士論文を執筆し、研究発表と討論を行うまでを指導する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

序論の組み立て、データの処理方法、データから読み取れる考察等、自身で考えること。それをもとにして、適宜、議論、添削等の指導を行う。

内　容

第1回　第1－18回 データ収集
第2回　第19－30回 データ入力と統計処理
第3回　第31－39回 結果の分析・考察
第4回　第40－42回 修士論文の骨子の作成
第5回　第43－45回 中間発表（合同）
第6回　第46－72回 修士論文の執筆
第7回　第73－80回 第1次修士論文の提出と主副研究指導教員による指導
第8回　第81－83回 修士論文の修正
第9回　第84－86回 第2次修士論文の提出と主査・副査による口頭試問
第10回　第87－90回 研究発表と討論（合同）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 20 ）	

試験、レポート、小テストには、修士論文のための研究、論文作成も含みます。

2018 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅱ〈Mb〉**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　菅　佐和子	

テーマ

授業の到達目標
修士論文の完成と発表。

授業の概要
面談による。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）
自助努力を期待する。

内　　容

第1回　文献検討、調査研究、考察などを適宜継続して行う。以下同文。

履修上の注意点

着実にステップアップできることを期待する。

教科書

無
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に指示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 60% ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 20% ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅱ〈Mc〉**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松下　幸治	

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等を提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

健康科学特別研究Ⅰにおいて計画された研究を実施し、量的または質的なデータの収集と分析を行い、その結果を考察し、修士論文を執筆し、研究発表と討論を行うまでを指導する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　第1－18回 データ収集
第2回　第19－30回 データ入力と統計処理
第3回　第31－39回 結果の分析・考察
第4回　第40－42回 修士論文の骨子の作成
第5回　第43－45回 中間発表（合同）
第6回　第46－72回 修士論文の執筆
第7回　第73－80回 第1次修士論文の提出と主副研究指導教員による指導
第8回　第81－83回 修士論文の修正
第9回　第84－86回 第2次修士論文の提出と主査・副査による口頭試問
第10回　第87－90回 研究発表と討論（合同）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅱ〈Mf〉**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中村　和夫	

テーマ

修士論文の指導

授業の到達目標

修士論文の完成

授業の概要

対象の院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

特になし

内　　容

第1回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導
第2回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導
第3回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導
第4回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導
第5回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導
第6回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導
第7回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導
第8回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導
第9回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導
第10回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導
第11回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導
第12回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導
第13回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導
第14回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導
第15回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導
第16回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導
第17回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導
第18回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導
第19回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導
第20回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導
第21回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導
第22回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導
第23回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導
第24回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導
第25回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導
第26回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導
第27回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導
第28回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導
第29回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導
第30回　院生の学習・研究の進行状況に合わせた指導

履修上の注意点

特になし

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（100パーセント）

h90102a116

参加度 （ ）

修士論文の完成をもって評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅱ〈Mh〉**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　日比野　英子	

テーマ

臨床心理学領域の研究と論文作成

授業の到達目標

健康科学特別研究Ⅰで作成された研究計画に基づき、量的あるいは質的データを収集し、データの分析・解釈、考察、修士論文の執筆の過程を遂行し、修士論文を完成させる。

授業の概要

ゼミ形式または個別的に、データの収集、データの処理・分析・解釈について指導し、討論を行う。修士論文作成について指導する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各自の設定したテーマの研究であるので、常に関連研究の文献をしらべて情報収集に努めることやディスカッションに積極的であることは当為の作業である。

内　容

第1回　予備調査のデータの処理・分析・解釈①
第2回　予備調査のデータの処理・分析・解釈②
第3回　予備調査のデータの処理・分析・解釈③
第4回　予備調査のデータの処理・分析・解釈④
第5回　予備調査のデータの処理・分析・解釈⑤
第6回　本調査の質問紙の作成①
第7回　本調査の質問紙の作成②
第8回　本調査の質問紙の作成③
第9回　本調査実施とデータ処理①
第10回　本調査実施とデータ処理②
第11回　本調査実施とデータ処理③
第12回　本調査のデータ分析①
第13回　本調査のデータ分析②
第14回　本調査のデータ分析③
第15回　本調査のデータ分析④
第16回　データ分析結果についての討論①
第17回　データ分析結果についての討論②
第18回　データ分析結果についての討論③
第19回　データ分析結果についての討論④
第20回　論文執筆指導①（序論）
第21回　論文執筆指導②（序論）
第22回　論文執筆指導③（方法）
第23回　論文執筆指導④（結果）
第24回　論文執筆指導⑤（結果）
第25回　論文執筆指導⑥（結果）
第26回　論文執筆指導⑦（結果）
第27回　論文執筆指導⑧（討論・考察）
第28回　論文執筆指導⑨（総合考察）
第29回　論文執筆指導⑩（総合考察）
第30回　修士論文の完成

履修上の注意点

研究・論文作成の各段階を計画に沿ってスムースに進めるために、短期的あるいは中期的期限を設けて作業するので、各段階の期限を厳守すること。

教科書

参考書

研究テーマに関する文献

著者:

h90102a118

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50% ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等 （ 20% ）

参加度 （ 30% ）

研究実施と修士論文作成、口頭試問を受けること、研究発表会で報告することを含めて評価する。

2018 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅱ〈Mj〉**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮﨑　純弥	

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等を提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

健康科学特別研究Ⅰにおいて計画された研究を実施し、量的または質的なデータの収集と分析を行い、その結果を考察し、修士論文を執筆し、研究発表と討論を行うまでを指導する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　第1－18回 データ収集
第2回　第19－30回 データ入力と統計処理
第3回　第31－39回 結果の分析・考察
第4回　第40－42回 修士論文の骨子の作成
第5回　第43－45回 中間発表（合同）
第6回　第46－72回 修士論文の執筆
第7回　第73－80回 第1次修士論文の提出と主副研究指導教員による指導
第8回　第81－83回 修士論文の修正
第9回　第84－86回 第2次修士論文の提出と主査・副査による口頭試問
第10回　第87－90回 研究発表と討論（合同）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 70% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 20% ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅱ〈Mk〉**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　村田　伸	

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等を提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

健康科学特別研究Ⅰにおいて計画された研究を実施し、量的または質的なデータの収集と分析を行い、その結果を考察し、修士論文を執筆し、研究発表と討論を行うまでを指導する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　第1－18回 データ収集
第2回　第19－30回 データ入力と統計処理
第3回　第31－39回 結果の分析・考察
第4回　第40－42回 修士論文の骨子の作成
第5回　第43－45回 中間発表（合同）
第6回　第46－72回 修士論文の執筆
第7回　第73－80回 第1次修士論文の提出と主副研究指導教員による指導
第8回　第81－83回 修士論文の修正
第9回　第84－86回 第2次修士論文の提出と主査・副査による口頭試問
第10回　第87－90回 研究発表と討論（合同）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 20 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅱ〈Mm〉**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　兒玉 隆之	

テーマ

授業の到達目標

健康科学特別研究Ⅰの内容を基礎に、心身の健康と新しい生き方を探求し健康科学研究の能力を確立する.

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う. 学生は研究計画について発表し、倫理的なチェックを受ける。発表によって主副研究指導教員以外の教員からの指導も参考にして研究計画を修正し完成させる.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　容

第1回　研究計画の見直しおよび再考
第2回　研究計画の見直しおよび再考
第3回　研究計画の見直しおよび再考
第4回　研究計画の立案
第5回　研究計画の立案
第6回　研究計画の立案
第7回　本実験の遂行
第8回　本実験の遂行
第9回　本実験の遂行
第10回　本実験の遂行
第11回　本実験の遂行
第12回　本実験の遂行
第13回　本実験の遂行
第14回　データの解析
第15回　データの解析
第16回　データの解析
第17回　データの解析
第18回　データの整理およびまとめ
第19回　データの整理およびまとめ
第20回　データの整理およびまとめ
第21回　論文の作成
第22回　論文の作成
第23回　論文の作成
第24回　論文の作成
第25回　論文の作成
第26回　論文の作成
第27回　論文の作成
第28回　まとめ
第29回　まとめ
第30回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度（ 30 ）	

2018 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅱ〈Mn〉**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　崎田　正博	

テーマ

修士論文作成にかかわるすべての過程について学習する

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。本科目では、指導教員によってテーマ探索、テーマ決定、研究計画の立案、パイロット研究等を指導するが、学生は研究計画について発表し、倫理的なチェックを受ける。発表によって主副研究指導教員以外の教員からの指導も参考にして研究計画を修正し完成させる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　ガイダンス （合同）
第2回　研究テーマについて発表、討論 （合同）
第3回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握1
第4回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握2
第5回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握3
第6回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握4
第7回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握5
第8回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握6
第9回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握7
第10回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握8
第11回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案1
第12回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案2
第13回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案3
第14回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案4
第15回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案5
第16回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案6
第17回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案7
第18回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案8
第19回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案9
第20回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案10
第21回　研究計画書の作成1
第22回　研究計画書の作成2
第23回　研究計画書の作成3
第24回　中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請（合同）
第25回　中間報告・研究計画の発表と倫理委員会への申請（合同）
第26回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正1
第27回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正2
第28回　予備調査・パイロット実験等1
第29回　予備調査・パイロット実験等2
第30回　予備調査・パイロット実験等3

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）

h90102a124

授業中課題（30）　　授業中発表等（30）

参加度（40）

2018 Syllabus

科 目 名　**修士論文（健）<Mb>**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　菅　佐和子	

テーマ

小学校のスクールカウンセラーに期待される役割

授業の到達目標

修士論文完成および学会誌への投稿

授業の概要

対話を中心に行う

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

質的研究法としてのKJ法について理解を深めておく

内　　容

第1回　研究テーマについて
第2回　研究方法について
第3回　インタビューガイドの吟味
第4回　インタビューガイドを用いた予備面接
第5回　インタビューガイドに基づく半構造化面接によるデータ収集について
第6回　インタビューガイドに基づく半構造化面接によるデータ収集について
第7回　逐語録の吟味
第8回　逐語録の吟味
第9回　逐語録からのラベル作成
第10回　逐語録からのラベル作成
第11回　逐語録からのラベル作成
第12回　KJ法の探検ネットづくり
第13回　KJ法の探検ネットづくり
第14回　KJ法の多段ピックアップ
第15回　KJ法の多段ピックアップ
第16回　KJ法の図解化
第17回　KJ法の図解化
第18回　KJ法の図解化
第19回　KJ法の叙述化
第20回　KJ法の叙述化
第21回　KJ法の叙述化
第22回　要旨をまとめる
第23回　総括
第24回　発表準備
第25回　発表準備
第26回　発表準備
第27回　学術誌への投稿準備
第28回　学術誌への投稿準備
第29回　学術誌への投稿準備
第30回　振り返り

履修上の注意点

自主的な学習を期待する

教科書

授業中に提示

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に提示

著者:

h90102a201

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 50% ） 授業中発表等（ 30% ）

参加度 （ 20% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**臨床心理実習 <Ma>**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　日比野　英子	

テーマ

臨床心理活動の実践的学習

授業の到達目標

臨床心理学的な知見と方法によって社会の人々の問題の予防と解決に貢献する臨床心理士に必要な専門性・責任性・倫理観を、実践的な鍛錬によって生きた知識として身につけることを目的とする。

授業の概要

学内実習および学外実習（病院・学校・福祉施設）において実際に事例を担当し、心理査定・心理面接・集団療法・インテークカンファレンスおよびケースカンファレンスでの報告と討論等を実践的に学ぶ。実際の事例担当については、臨床心理士教員によるスーパーヴィジョンを受け、自身の課題と向き合う。また、学内実習の担当事例についての事例報告を執筆し、その報告は『京都橘大学心理臨床センター心理相談研究』に掲載される。なお、学外実習は以下の授業時間の外で実施される。また、授業計画は学内外の実習機関や担当事例の都合により順序が変更される可能性がある。スーパーヴィジョンの日程に関しては、個々の院生の時間割に応じて、以下の授業時間以外にも実施される。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

学内実習については、京都橘大学心理臨床センターのさまざまな運営活動や学外者対象のセミナーに学生スタッフとして参加して、活
動の実際を学ぶ。その活動からも、記録およびスーパーヴィジョンやカンファレンスから学ぶ姿勢を持つこと。それらを通して事例を担当する臨床家としての素地を涵養しておく。事例担当およびその
スーパーヴィジョンは授業のない期間も継続して実施されるので、スケジュール調整に注意のこと。

内　容

第1回　オリエンテーション　学内実習と学外実習の事前指導
第2回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論①
第3回　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン①
第4回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論②
第5回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論③
第6回　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン②
第7回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論④
第8回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑤
第9回　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン③
第10回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑥
第11回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑦
第12回　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン④
第13回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑧
第14回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑨
第15回　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン⑤
第16回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑩
第17回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑪
第18回　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン⑥
第19回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑫
第20回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑬
第21回　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン⑦
第22回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑭
第23回　事例報告論文の指導①
第24回　事例報告論文の指導②
第25回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑮
第26回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑯
第27回　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン⑧
第28回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑰
第29回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑱
第30回　年間担当事例報告会

履修上の注意点

学内外の相談機関での実習やスタッフ活動、スーパーヴィジョン、事例担当報告の執筆など、多岐にわたる授業内容であるので、すべての課題を遂行できるよう、スケジュール調整に細心の注意をしておくこと。特に、学外施設とのやりとりについては、教員の指導に適ったものとすること。各回2講時連続で行い、年間60回実施する。

教科書

h90102g110

使用しない

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

参考書

適宜指示する。

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 30% ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 20% ） 授業中発表等（ 30% ）

参加度 （ 20% ）

成績は、学内実習、学外実習、カンファレンスでの発表・討論、スーパーヴィジョン、事例報告の執筆、心理臨床センターでのスタッフ活動などの総合点とする。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定

担 当 者

テーマ

日本語運用能力の向上

授業の到達目標

生活全般および大学での学習活動に必要な理解力、表現力を身につける。

授業の概要

ACTFL-OPI(全米外国語教育協会　口頭表現能力測定) advance(上級)からSuperior(超級)の口頭表現能力をめざす。 スピーチ、ロールプレー、ディスカッション、朗読練習などの活動を通して、必要な表現方法を身につける。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

次回の授業内容のプリントを配布するので予習すること。学習内容の復習問題を配布するので取り組むこと。スピーチ課題の準備をすること。学期内で3回実施する朗読練習のための準備や練習をすること。

内　容

第1回　詳細な情景描写
第2回　自分の国の行事紹介
第3回　困った状況への対応と交渉
第4回　構成を考えた簡潔で分かりやすい説明（場所の紹介）
第5回　複雑な内容をわかりやすく伝える　　朗読練習①
第6回　場面、状況に適した説明
第7回　異なる視点から意見を述べる　論理的な説明の方法
第8回　抽象的で複雑な制度を説明する　段落ごとの話題を明示する
第9回　討論(理由を述べて反論する　説得力のある話し方)
第10回　相談と助言(因果関係の説明　社会的な話題の論理的説明)　朗読練習②
第11回　他の人の話を引用して詳細に描写する
第12回　複眼的視点で意見を述べる(異なる意見を尊重した話し方)
第13回　朗読練習③
第14回　発表活動
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本語上級話者への道-きちんと伝える技術と表現
著者:　荻原稚佳子他
出版社:　スリーエーネットワーク
出版年:　2005　　ISBN:

日本語超級話者へのかけはし　きちんと伝える技術と表現
著者:　荻原稚佳子他
出版社:　スリーエーネットワーク
出版年:　2007　　ISBN:

1日10分の発音練習
著者:　河野俊之他
出版社:　くろしお出版
出版年:　2004　　ISBN:

q01401d310

中上級向け日本語教材　日本文化を読む

著者:　京都日本語教育センター

出版社: アルク

出版年: 2012　　ISBN:

上級者向け日本語教材　日本文化を読む

著者:　京都日本語教育センター

出版社: アルク

出版年: 2008　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 20% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 10% ）

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象としない。また、遅刻は授業開始15分まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティーを実施する(詳細は授業時に説明)。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定

担 当 者

テーマ

日本語を聞く力を伸ばす

授業の到達目標

・講義で使われる語彙、表現を身につける。
・ニュースやドキュメンタリー番組の視聴に慣れる。
・聞き取った内容をまとめる力をつける。

授業の概要

・講義の聞き取りを行い、使用されている語彙や表現を理解する。
・ドキュメンタリー番組を視聴し、タスクに答えるとともに内容についてディスカッションを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

語彙の意味を調べ、覚える。

内　　容

第1回　オリエンテーション
　　聴解教材（構成を理解する）
第2回　聴解教材（主張を理解する）
　　ニュース（経済・金融①）
第3回　聴解教材（「はじめに」の役割）
　　ニュース（経済・金融②）
第4回　ドキュメンタリー番組①
第5回　聴解教材（まとめる言葉）
　　ニュース（経済・金融③）
第6回　聴解教材（キーワードの見分け方）
　　ニュース（経済・金融④）
第7回　聴解教材（定義）
　　ニュース（経済・金融⑤）
第8回　ドキュメンタリー番組②
第9回　聴解教材（キーワードと難しい言葉）
　　ニュース（経済・金融⑥）
第10回　聴解教材（要約を書くには）
　　ニュース（経済・金融⑦）
第11回　聴解教材（体言止め）
　　ニュース（政治・行政①）
第12回　ドキュメンタリー番組③
第13回　聴解教材（縮約形）
　　ニュース（社会・生活①）
第14回　聴解教材（鼻濁音と母音の無声化）
　　ニュース（社会・生活②）
第15回　まとめのテスト

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解[中上級]

著者:　東京外国語大学留学生日本語教育センター

出版社:　スリーエーネットワーク

出版年:　2014　　ISBN:

q01401d312

ニュースの日本語聴解50

著者: 瀬川由美・紙谷幸子・北村貞幸

出版社: スリーエーネットワーク

出版年: 2010 ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 30% ） 小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ） 授業中発表等 （ ）

参加度 （ 20% ）

出席回数が全授業回数の3分の2に満たないものは評価の対象としない。
また、遅刻は授業開始の15分まで、早退は授業終了の15分前からとする。それを経過した場合は欠席とする。
なお、正当な理由のない遅刻・早退、欠席をした者はペナルティーを実施する（詳細は授業時に説明）。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定

担 当 者

テーマ

日本語運用能力の向上

授業の到達目標

生活全般および大学での学習活動に必要な、理解力、表現力を身につける。

授業の概要

ACTFL-OPI(全米外国語教育協会　口頭表現能力測定)　Advance(上級)以上の口頭表現能力をめざす。スピーチ、ディスカッション、ロールプレーなどの活動を通して、必要な表現を身につける。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

次回の授業内容のプリントを配布するので予習すること。学習内容の復習問題を配布するので取り組むこと。スピーチ課題などの準備をすること。

内　容

第1回　授業概要説明　今の自分の力を確認する　場面に応じた自己紹介の方法
第2回　構成を考えた話し方(町の様子を話す)
第3回　順序や手順の説明(動作の流れの説明、ゲームや料理などの手順の説明)
第4回　比較して良さを伝える(商品説明)
第5回　分かりやすい言葉への言い換え　自動詞と他動詞の使い分け
第6回　ストーリー説明(接続表現の効果的な使い方)
第7回　出来事をわかりやすく伝える。感情を生き生きと伝える
第8回　社会的な話題を論理的に話す
第9回　理由や背景とともに自分の考えを説明する
第10回　具体的な数値を示して社会の動きを説明する(グラフや表のわかりやすい説明)
第11回　心情を表す表現を使いこなす　感情的にならずに気持ちを客観的に示す
第12回　相談と助言(不満に対して異なる視点を示す　相手に同調して話を聞く)
第13回　朗読練習
第14回　発表活動
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本語上級話者への道―きちんと伝える技術と表現
著者:　荻原稚佳子他
出版社:　スリーエーネットワーク
出版年:　2005　　ISBN:

日本語超級話者へのかけはし―きちんと伝える技術技術と表現
著者:　荻原稚佳子他
出版社:　スリーエーネットワーク
出版年:　2008　　ISBN:

1日10分の発音練習
著者:　河野俊之他
出版社:　くろしお出版
出版年:　2004　　ISBN:

q01401d450

中上級向け日本語教材　日本文化を読む

著者:　京都日本語教育センター編

出版社: アルク

出版年: 2012　　ISBN:

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ 20% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 10% ）

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象としない。また、遅刻は授業開始15分まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティーを実施する(詳細は授業時に説明)。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者	

テーマ

聴解

授業の到達目標

1.自然なスピードの会話を聞き取ることができるようになる。
2.必要な語彙・表現を身につける。
2.日本語のニュースを聞き取る力をつける。

授業の概要

日常会話、ニュースなどを聞き、書き取りや内容についての問いに答える。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

語彙の意味を調べ、覚える。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　聴解教材（勧誘①）
　　ニュース①
第3回　聴解教材（勧誘②）
　　ニュース②
第4回　聴解教材（許可①）
　　ニュース③
第5回　聴解教材（許可②）
　　ニュース④
第6回　聴解教材（情報①）
　　ニュース⑤
第7回　聴解教材（情報②）
　　ニュース⑥
第8回　聴解教材（依頼・許可①）
　　ニュース⑦
第9回　聴解教材（依頼・許可②）
　　ニュース⑧
第10回　聴解教材（提案①）
　　ニュース⑨
第11回　聴解教材（提案②）
　　ニュース⑩
第12回　ニュース⑪
　　ニュースの視聴①
第13回　ニュース⑫
　　ニュースの視聴②
第14回　ニュース⑬
　　ニュースの視聴③
第15回　期末まとめテスト

履修上の注意点

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本語生中継・中～上級編
著者:　椙本聡子・宮谷敦美
出版社:　くろしお出版
出版年:　2004　　ISBN:

q01401d452

ニュースの日本語聴解40

著者: 瀬川由美・紙谷幸子・北村貞幸

出版社: スリーエーネットワーク

出版年: 2013 ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 40% ） 小テスト （ 20% ）

授業中課題 （ 20% ） 授業中発表等 （ ）

参加度 （ 20% ）

出席回数が全授業回数の3分の2に満たないものは評価の対象としない。
また、遅刻は授業開始の15分まで、早退は授業終了の15分前からとする。それを経過した場合は欠席とする。
なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する（詳細は授業時に説明）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語Ⅲ <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者	

テーマ

日本語運用能力の向上

授業の到達目標

映像教材、聴解教材及びニュースを通して、社会一般で扱われる内容が理解できることをめざす。また、それに必要となる基本的文法を理解し、運用できることをめざす。

授業の概要

講義、対談、日常会話、ニュースなどの聴解練習を通し、語彙、文法、表現の特徴などの基本を理解する。それらを踏まえて、日本語能力試験N1レベルで求められる、社会の幅広い場面での聴解能力を身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習： 次回の授業内容のプリントを事前配布するので取り組んでおく。 復習： 授業で扱った語彙や文法、表現などの復習問題に取り組む。

内　容

第1回　授業概要説明、今の自分の力を知る(ニュースを聞く、まとまった話を聞く)
第2回　映像教材(15分程度)の理解
第3回　聴解教材(対談、会話など)の理解
第4回　ニュースの内容の聞き取り
第5回　聴解教材(講義内容)の理解
第6回　映像教材(15分程度)の理解
第7回　ニュースの内容の聞き取り
第8回　聴解教材(対談、会話など)の理解
第9回　映像教材(15分程度)の理解
第10回　聴解教材(講義など)の理解
第11回　ニュースの内容の聞き取り
第12回　聴解教材(対談、会話など)の理解
第13回　映像教材(15分程度)の理解
第14回　ニュースの内容の聞き取り
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

留学生のためのアカデミックジャパニーズ　聴解　中上級
著者:　東京外国語大学留学生日本語教育センター
出版社:　ｽﾘｰｴｰﾈｯﾄﾜｰｸ
出版年:　2014　　ISBN:

留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ　聴解　上級
著者:　東京外国語大学留学生日本語教育センター
出版社:　ｽﾘｰｴｰﾈｯﾄﾜｰｸ
出版年:　2015　　ISBN:

ニュースの日本語聴解50
著者:　瀬川由美他
出版社:　ｽﾘｰｴｰﾈｯﾄﾜｰｸ
出版年:　2010　　ISBN:

q01402d110

成績評価

試験・レポート （ 30% ）　　小テスト （ 30% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 10% ）

参加度 （ 10% ）

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象としない。また、遅刻は授業開始15分まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティーを実施する(詳細は授業時に説明)。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語Ⅲ <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者	

テーマ

日本語を話す力を伸ばす。

授業の到達目標

・上級の会話能力をつける。
・ディスカッションに慣れる。
・様々な発表に慣れる。

授業の概要

発表・ディスカッションなどの口頭練習を行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

発表原稿を作り、発表の準備をする。

内　容

第1回　オリエンテーション
　　インタビュー準備
第2回　ディスカッション（合意形成①）
第3回　ディスカッション（合意形成②）
第4回　人物紹介（準備）
第5回　人物紹介（発表）
第6回　意見を述べる（準備）
第7回　意見を述べる（発表）
第8回　インタビュー中間まとめ
第9回　ディスカッション（反論する①）
第10回　ディスカッション（反論する②）
第11回　ディスカッション（議論を深める①）
第12回　ディスカッション（議論を深める②）
第13回　インタビューまとめ・発表練習
第14回　インタビュー発表
第15回　まとめテスト

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本語超級話者へのかけはし
著者:　萩原稚佳子・齋藤眞理子・伊藤とく美
出版社:　スリーエーネットワーク
出版年:　2007　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 20 ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 30 ）

出席回数が全授業回数の3分の2に満たないものは評価の対象としない。
また、遅刻は授業開始の15分まで、早退は授業終了の15分前からとする。それを経過した場合は欠席とする。
なお、正当な理由がない遅刻、早退、欠席をした者は、別途ペナルティを実施する（詳細は授業時に説明する）。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語Ⅳ <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者	

テーマ

日本語運用能力の向上

授業の到達目標

生活全般および大学での学習に必要な基礎的な理解力、表現力を身につける。

授業の概要

大学での勉学や生活に必要な、基本的な聴解能力の向上に重点を置く。映像教材、聴解教材、ニュースなどを通して、基本的な語彙、表現、文法などを身につける。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

予習： 次回授業で扱う内容のプリントを配布するので、その問題に取り組む。 復習： 授業で扱った内容の復習問題を配布するのでそれに取り組む。

内　容

第1回　今の自分の力を確認する。説明内容の聞き取り、会話内容の聞き取り練習。
第2回　数量、形状の聞き取り。カタカナ語の聞き取り。
第3回　順序・手順に関する聞き取り。まとまりのある内容の聞き取り。
第4回　ニュース①(事件、事故、気象情報)
第5回　ニュース②(経済)
第6回　ニュース③(社会一般)
第7回　ニュース④(政治)
第8回　ニュース⑤(科学技術)
第9回　ニュース⑥(医療、福祉)
第10回　ニュース⑦(医療、福祉)
第11回　ニュース⑧(教育)
第12回　ニュース⑨(文化)
第13回　ニュース⑩(身近な話題)
第14回　発表活動
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

ニュースで学ぶ日本語パートⅡ
著者:　堀歌子他
出版社:　凡人社
出版年:　1998　　ISBN:

ニュースの日本語聴解50
著者:　瀬川由美他
出版社:　ｽﾘｰｴｰﾈｯﾄﾜｰｸ
出版年:　2010　　ISBN:

中級からはじめるニュースの日本語聴解40
著者:　瀬川由美他
出版社:　ｽﾘｰｴｰﾈｯﾄﾜｰｸ
出版年:　2013　　ISBN:

成績評価

q01402d250

試験・レポート （ 30% ）	小テスト （ 10% ）
授業中課題 （ 30% ）	授業中発表等 （ 20% ）
参加度 （ 10% ）	

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象としない。また、遅刻は授業開始15分まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティーを実施する(詳細は授業時に説明)。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語Ⅳ <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者	

テーマ

日本語を話す力を伸ばす。

授業の到達目標

1.場面や意図に合わせた口頭表現能力を身につける。
2.談話構成に注意した話し方ができるようになる。
3.短い発表ができるようになる。

授業の概要

1.場面や意図に合わせた表現を確認し、実際に練習する。
2.クラスのメンバーとテーマに沿って会話する。
3.身近な話題のスピーチを考え、発表する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

語彙・表現を調べ覚える。
発表原稿を作成し、発表の準備をする。

内　容

第1回　オリエンテーション
　　会話教材（勧誘）
第2回　会話教材（許可）
第3回　会話教材（情報）
第4回　会話教材（依頼・指示）
第5回　会話教材（提案）
第6回　会話の表現①「よ・ね」など
第7回　スピーチの仕方①「自分の持ち物を自慢してみよう」
第8回　スピーチの仕方②「ストーリーを説明してみよう」
第9回　スピーチ準備「日本で驚いたこと」
第10回　会話の表現②「んです」など
第11回　スピーチ発表会「日本で驚いたこと」
第12回　スピーチ準備「私の好きな日本語」
第13回　スピーチの仕方③「コメントしてみよう」
第14回　スピーチ発表会「私の好きな日本語」
第15回　まとめテスト

履修上の注意点

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本語生中継～中上級
著者:　椙本聡子・宮谷敦美
出版社:　スリーエーネットワーク
出版年:　2004　　ISBN:

成績評価

試験・レポート （ 20% ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 20% ）
出席数が全授業回数の3分の2に満たないものは評価の対象としない。
遅刻は授業開始の15分まで、早退は授業終了の15分前からとする。それ以上経過した場合は欠席とする。
なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する（詳細は授業時に説明）。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者	

テーマ

日本語運用能力の向上

授業の到達目標

おもに生活全般、大学での学習活動に不可欠な表現能力を身につける。

授業の概要

テーマに沿った、まとまりのある文章を書く。最終的には、自分で調査をし、レポートにまとめる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

次回授業のプリントを配布するので、必ず予習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　説明文を書く①
第3回　説明文を書く②
第4回　意見の述べ方①
第5回　意見の述べ方②
第6回　賛成意見・反対意見①
第7回　賛成意見・反対意見②
第8回　レポート〈テーマ決定〉
第9回　レポート〈調査①〉
第10回　レポート〈調査②〉
第11回　レポート〈調査③〉
第12回　レポート作成①
第13回　レポート作成②
第14回　レポート作成③
第15回　まとめ/講評

履修上の注意点

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 30 ）

出席回数が全授業の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上経過した場合は欠席とする。（なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する（詳細は授業時に説明）。）

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者	

テーマ

日本語運用能力の向上

授業の到達目標

大学での学習に必要な理解力、表現力を身につける。

授業の概要

論文読解、レポート作成に必要な基礎知識を身につけ、形式を踏まえた文章が書けるようになることを目指す。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に教材を配布するので予習すること。授業終了後に練習問題を配布するので復習すること。課題(各自の興味に基づき内容をまとめる)に取り組むこと。予習・復習には1時間程度を要する。

内　容

第1回　文章構成（序論・本論・結論） 定義の表現
第2回　文章構成（起・承・転・結）　分類の表現
第3回　意見を述べる(問題点の指摘・解決策の提案・意見の主張) 図形の説明
第4回　意見を述べる(問題提起・意見の引用と反対の立場の提示・意見の主張)
第5回　文体の統一　大意要約
第6回　発言を引用し、具体的に述べる
第7回　分析して説明する
第8回　比較対照して説明する（共通点、相違点）
第9回　目的・理由を述べる
第10回　事実を報告する
第11回　要旨を述べる
第12回　要点を述べる（簡潔に書く）
第13回　プレゼンテーションの方法
第14回　発表活動
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

改訂版　大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編
著者:　アカデミックジャパニーズ研究会編
出版社:　アルク
出版年:　2015　　ISBN:

日本語の表現技術　読解と作文　上級
著者:　倉八順子
出版社:　古今書院
出版年:　2003　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 50 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 30 ）
出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は、評価の対象としない。また、遅刻は授業開始15分まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上経過した場合は欠席とする。なお正当な理由のない遅刻・早退・欠席をしたものは、別途ペナルティーを実施する（詳細は授業時に説明）。

q02401d312

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者	

テーマ

日本語運用能力の向上

授業の到達目標

文章作成に必要な基本事項を確認・復習し、一つのテーマに関しての小論文が書けるようになる。

授業の概要

テーマに合う文章を書く。最終的には自分で調査をし、レポートにまとめる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

次回授業でプリントを配布するので、必ず予習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　作文の基本①
第3回　作文の基本②
第4回　作文の基本③
第5回　作文の基本④
第6回　意見の述べ方①
第7回　意見の述べ方②
第8回　賛成意見・反対意見①
第9回　賛成意見・反対意見②
第10回　文の要約①
第11回　文の要約②
第12回　レポートを書く①
第13回　レポートを書く②
第14回　レポートを書く③
第15回　まとめ/講評

履修上の注意点

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）

出席回数が全授業回数の3文の2に満たないものは評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する（詳細は授業時に説明）。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者	

テーマ

日本語運用能力の向上

授業の到達目標

大学での学習に必要な理解力、表現力を身につける。

授業の概要

論文読解、レポート作成に必要な基礎知識を身につけ、形式を踏まえたレポートが書けるようになることを目指す。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前に教材を配布するので予習すること。授業終了後に練習問題を配布するので復習すること。課題(各自の興味に基づき内容をまとめる)に取り組むこと。予習・復習には1時間程度を要する。

内　容

第1回　話し言葉と書き言葉の使い分け
第2回　論文などで用いられる表現の特徴
第3回　段落構成練習ーアウトラインを組み立てる
第4回　序論(背景説明、問題提起、方向付け)/ 図形の表現
第5回　序論(背景説明、問題提起、方向付け)/ 文末表現
第6回　本論(論拠、結論提示、論の展開)/ 引用の方法
第7回　本論(論拠、結論提示、論の展開)/ 定義や分類の表現
第8回　本論(論拠、結論提示、論の展開)/ 要約練習
第9回　結論(全体のまとめ、評価、展望提示)/ 参考文献、資料など
第10回　論文読解練習①(全体構成、序論)
第11回　論文読解練習②(本論―実験調査型、理論型)
第12回　論文読解練習③(結論-まとめ、結論の要約、自己評価、今後の展望)
第13回　論文読解練習④(誤用訂正、よりよい表現への書き換え練習)
第14回　発表活動
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

改訂版　大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編
著者:　アカデミックジャパニーズ研究会編
出版社:　アルク
出版年:　2015　　ISBN:

日本語の表現技術　読解と作文　上級
著者:　倉八順子
出版社:　古今書院
出版年:　2003　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 50 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 30 ）
出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は、評価の対象としない。また、遅刻は授業開始15分まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上経過した場合は欠席とする。なお正当な理由のない遅刻・早退・欠席をしたものは、別途ペナルティーを実施する(詳細は授業時に説明)。

q02401d452

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語Ⅲ <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者	

テーマ

日本語運用能力の向上

授業の到達目標

自分になじみの薄い内容の文章でも、ある程度の内容を理解することができるようになる。

授業の概要

おもに日本・日本文化について書かれた文章を読んでいく。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

次回授業のプリントを配布するので、必ず読んでおくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　段落内の構造を知る①
第3回　段落内の構造を知る②
第4回　文章におけるメインアイデアとは①
第5回　文章におけるメインアイデアとは②
第6回　アウトライン①
第7回　アウトライン②
第8回　文章構成①
第9回　文章構成②
第10回　論の展開<事実と筆者の考察>
第11回　論の方向を示す表現・論の構造
第12回　引用①
第13回　引用②
第14回　期末試験
第15回　期末試験・解説

履修上の注意点

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ ）

出席回数が全授業回数の3文の2に満たないものは評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する（詳細は授業時に説明）。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語Ⅲ <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者	

テーマ

日本語運用能力の向上

授業の到達目標

生活および大学での学習活動に必要な読解力を身につける。

授業の概要

随筆、評論、小説、新聞や雑誌の記事などを用い、さまざまな分野の内容を読んで理解できる、基礎的な力を養う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

原則として事前に教材を配布するので、予習をすること。授業終了後に練習問題を配布するので復習すること。課題(各自の興味に基づき選択した内容をまとめる)に取り組むこと。予習・復習には1時間程度を要する。

内　容

第1回　授業概要説明 / 今の自分の力を知る（上級用読解教材を読む）
第2回　随筆①
第3回　随筆②
第4回　小説①
第5回　小説②
第6回　詩・短歌・俳句
第7回　新聞（時事問題①）
第8回　新聞（時事問題②）
第9回　評論①
第10回　評論②
第11回　新聞・雑誌（文化・芸術）
第12回　新聞・雑誌（科学）
第13回　新聞・雑誌（流通・経済）
第14回　発表活動
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

上級者向け日本語教材　日本文化を読む
著者:　京都日本語教育センター
出版社:　アルク
出版年:　2008　　ISBN:

中上級向け日本語教材　日本文化を読む
著者:　京都日本語教育センター
出版社:　アルク
出版年:　2012　　ISBN:

The Great Japanese　30の物語（中上級）－人物で学ぶ日本語－
著者:　石川智
出版社:　くろしお出版
出版年:　2016　　ISBN:

成績評価

q02402d112

試験・レポート （ ）　　小テスト （ 20% ）

授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ 20% ）

参加度 （ 30% ）

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は、評価の対象としない。また、遅刻は授業開始15分まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上経過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者は、別途ペナルティーを実施する（詳細は授業時に説明）。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語Ⅳ <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者	

テーマ

日本語運用能力の向上

授業の到達目標

ある程度まとまった文章を、辞書を使わずに内容を理解できるようになる。

授業の概要

日本について書かれた、まとまった文章を読み解く。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

次回授業のプリントを配布するので、読んでおくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　読解ー日常生活編①
第3回　読解ー日常生活編②
第4回　説明文を読む①
第5回　説明文を読む②
第6回　意見文を読む①
第7回　意見文を読む②
第8回　新聞を読む①
第9回　新聞を読む②
第10回　日本の歌①
第11回　日本の歌②
第12回　エッセイ①
第13回　エッセイ②
第14回　期末試験
第15回　期末試験・解説

履修上の注意点

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ ）

出席回数が全授業回数の3文の2に満たないものは評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する（詳細は授業時に説明）。

2018 Syllabus

科 目 名　**日本語Ⅳ <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者	

テーマ

日本語運用能力の向上

授業の到達目標

生活および大学での学習活動に必要な読解力を身につける。

授業の概要

随筆、評論、小説、新聞や雑誌の記事などを用い、さまざまな分野の内容を読んで理解できる、基礎的な力を養う。

準備学習(予習・復習・課題に対するフィードバック)

原則として事前に教材を配布するので、予習をすること。授業終了後に練習問題を配布するので復習すること。課題(各自の興味に基づき選択した内容をまとめる)に取り組むこと。予習・復習には1時間程度を要する。

内　容

第1回　授業概要説明 / 今の自分の力を知る(上級用読解教材を読む)
第2回　随筆①
第3回　随筆②
第4回　小説①
第5回　小説②
第6回　詩・短歌・俳句
第7回　新聞(時事問題①)
第8回　新聞(時事問題②)
第9回　評論①
第10回　評論②
第11回　新聞・雑誌(文化・芸術)
第12回　新聞・雑誌(科学)
第13回　新聞・雑誌(流通・経済)
第14回　発表活動
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

上級者向け日本語教材　日本文化を読む
著者:　京都日本語教育センター
出版社:　アルク
出版年:　2008　　ISBN:

中上級向け日本語教材　日本文化を読む
著者:　京都日本語教育センター
出版社:　アルク
出版年:　2012　　ISBN:

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ 20% ）
授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ 20% ）
参加度 （ 30% ）

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は、評価の対象としない。また、遅刻は授業開始15分まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上経過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者は、別途ペナルティーを実施する(詳細は授業時に説明)。

q02402d252

h701010610

2018 Syllabus

科 目 名　**看護政策論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　餅田　敬司.野村　陽子.長谷川　敏彦.半場　江利子	

テーマ

看護職の活動の場が拡大し、活動対象者が多様化している中で、質の高い看護活動の提供を保証する看護政策を理解する。また、看護政策の歴史的発展過程と看護職の抱える課題について、広い視点からクリティークしたうえで理解し、課題解決の時期、規模等考察したうえでの目標設定レベル、解決の方策について具体的に思考できる能力を養う。さらにわが国における看護制度・看護政策・看護教育制度・諸外国の看護政策について学習し、看護職を取り巻く国内外の環境について理解すると共に、政策と政策決定に関与する基本的な構造およびヘルスケア政策決定の過程とそこで直面する課題についても考察する。

授業の到達目標

1　看護職の活動の場が拡大、対象者が多様化と、質の高い看護活動を提供するための環境づくりとしての看護政策を理解できる。2　地域の保健医療福祉政策決定の過程と看護職の役割について理解できる。3　質の高い看護活動を保証するシステムに向けて、直面する課題について考察することが出来る。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　政策とは何か、政策過程とは何か、政治過程とは何か
第2回　看護職者と政策、看護における政策の重要性、専門職としての看護と政策
第3回　看護に関する政策（1）保健師助産師看護師法の変遷
第4回　看護に関する政策（1）保健師助産師看護師法の変遷
第5回　看護に関する政策（2）看護教育制度
第6回　看護に関する政策（2）看護教育制度
第7回　看護に関する政策（3）わが国の看護の人材：看護職員需給見通し、看護師等の人材確保の促進に関する法律、その他看護の人材確保に関する法令
第8回　看護に関する政策（4）保健医療福祉施策と看護保健医療福祉の法令、診療報酬、介護報酬
第9回　看護に関する政策（4）保健医療福祉施策と看護保健医療福祉の法令、診療報酬、介護報酬
第10回　政策過程への参画：政策形成のプロセスにおける意志決定・公共性の視座医療安全への取り組み
第11回　政策過程への参画：政策形成のプロセスにおける意志決定・公共性の視座医療安全への取り組み
第12回　政策過程への参画：政策エビデンスの意義、学際的アプローチ、多職種との協働
第13回　政策過程への参画：政策エビデンスの意義、学際的アプローチ、多職種との協働
第14回　政策過程への参画：政策エビデンスの意義、学際的アプローチ、多職種との協働
第15回　質の高い看護活動を保証するシステムに向けて、直面する課題と対応、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
授業中課題＜提出物・レポート＞（20%）参加度（30%）授業中発表等（50%），から総合的に評価する.

h701015550

2018 Syllabus

科 目 名　**臨床薬理学 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　奥野　信行.天野　博夫.西谷　葉子.山崎　武俊	

テーマ

対象の病態の回復への促進に向けた薬物療法について、薬剤の選択、管理等、その過程の臨床判断を含む知識および技術を修得する。薬物が人間におよぼす影響を薬物動態として理解し、病態に対応した薬理作用をエビデンスと共に理解する。そのうえで、救急処置、また、症状の調整や症状の変化に伴う薬物の選択、慢性疾患の管理に必要な薬剤等、対象が出会う多面的な薬物との問題に対応して、モニタリング、生活調整、回復力の促進や患者の服薬管理等の援助が適切にできるために必要な知識、技術を修得する。

授業の到達目標

1 薬物が人間におよぼす影響を、薬物動態（からだと薬の機能、動き、体の反応）として理解できる。2　病態に対応した薬理作用をエビデンスと共に理解できる。3　救急処置、症状の調整や症状の変化に伴う薬物の選択、慢性疾患の管理に必要な薬剤等、対象が出会う多面的な薬物との問題がわかる。4　対象が出会う多面的な薬物との問題に対応して、モニタリング、生活調整、回復力の促進や患者の服薬管理等の援助が適切にできる

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　人間と薬物；薬とは何か，人間にとって薬の持つ意味，医療における薬物療法，薬と毒（天野）
第2回　からだにおける薬の働き；薬理作用，容量と反応，受容体と薬理作用，薬物作用点（天野）
第3回　からだにおける薬の動き①；薬物の投与経路と体循環，薬物の吸収と代謝・組織への分布，薬物の排泄（天野）
第4回　からだにおける薬の動き②；薬物送達システム，治療薬物モニタリング，薬物動態パラメータ，からだと薬の反応；からだと薬の反応に影響を与える因子，薬物相互作用とからだ，（天野）
第5回　病態における薬物療法（1）神経，精神，循環，血液の働きに対応した薬物療法（天野）
第6回　病態における薬物療法（2）体液・電解質，ホルモン免疫，炎症，感染症に対応した薬物療法（天野）
第7回　病態における薬物療法（3）消化・吸収・代謝，呼吸の働きに対応した薬物療法（天野）
第8回　病態における薬物療法（4）悪性腫瘍，中毒に対応した薬物療法（天野）
第9回　病態における薬物療法（5）エイジング（妊婦，高齢者，小児），漢方医学に対応した薬物療法（天野）
第10回　薬物療法を受ける対象のからだ（細胞・分子レベル）と心理社会的な影響をアセスメントの意味，薬物療法を有効にする人間全体としての反応としての臨床判断の方法と対象が出会う多面的な薬物の問題（大島）
第11回　救急処置、症状の調整や症状の変化に伴う薬物の選択（磯見）
第12回　慢性疾患の管理に必要な薬剤（磯見）
第13回　モニタリング、生活調整、回復力の促進や患者の服薬管理等の援助（磯見）
第14回　対象が出会う多面的な薬物との問題に対応した適切なモニタリング、生活調整、回復力の促進や患者の服薬管理（磯見）
第15回　対象が有効な薬物療法を受け、回復への促進が継続的に進められる医療体制づくり、医療職者の連携システムの在り方，医薬品開発時のプロセスと倫理（大島）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート （ 60% ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 40% ）	

h701015650

2018 Syllabus

科 目 名　**病態生理学 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　奥野　信行.髙橋　健太郎.山崎　武俊	

テーマ

対象の病態を全体的、統合的に的確に理解できるために必要な知識を修得する。対象が示している徴候や症候から、その対象に起きている生理・生化学的なからだの仕組みおよび、変調である病態をエビデンスに基づいて適切に判断でき、その過程を通し、対象におきている病態について、今後の見通しも含めて統合的に理解することができる知識と技術を修得する。

授業の到達目標

1　からだの仕組みにおける生命維持のメカニズムについて、生理・生化学的な見地からエビデンスと共に理解できる。2　からだの仕組みの異常状態である病態について、どのようなメカニズムによりその異常が起こるか、その種類や程度に対する検査法や診断についてエビデンスと共に理解できる。3　その病態における修復、改善のため治療法について理解でき、看護ケアの根拠との関連を考察する。4　対象におきている病態をそのメカニズムと共に、今後の見通しも含めて統合的にとらえることができる。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　からだの仕組み/生命維持のメカニズム（1）細胞の働き，筋，神経系，体温調節，感覚系のはたらき
第2回　からだの仕組み/生命維持のメカニズム（2）体液バランスと腎機能，内分泌の調節
第3回　からだの仕組み/生命維持のメカニズム（3）呼吸，循環，消化吸収，代謝，免疫，血液のはたらき
第4回　病態のメカニズム，検査，診断、治療（1）糖尿病で腎機能，視機能，知覚障害，血管の変性をきたしている事例
第5回　病態のメカニズム，検査，診断、治療（1）糖尿病で腎機能，視機能，知覚障害，血管の変性をきたしている事例
第6回　病態のメカニズム，検査，診断、治療（1）糖尿病で腎機能，視機能，知覚障害，血管の変性をきたしている事例
第7回　病態のメカニズム，検査，診断、治療（1）糖尿病で腎機能，視機能，知覚障害，血管の変性をきたしている事例
第8回　病態のメカニズム，検査，診断、治療（2）慢性呼吸不全，心不全をきたしている事例
第9回　病態のメカニズム，検査，診断、治療（2）慢性呼吸不全，心不全をきたしている事例
第10回　病態のメカニズム，検査，診断、治療（2）慢性呼吸不全，心不全をきたしている事例
第11回　病態のメカニズム，検査，診断、治療（3）骨粗しょう症から骨折をきたした事例
第12回　病態のメカニズム，検査，診断、治療（3）骨粗しょう症から骨折をきたした事例
第13回　病態のメカニズム，検査，診断、治療（3）骨粗しょう症から骨折をきたした事例
第14回　対象におきている病態を、今後の見通しも含めて、そのメカニズムと共に統合的にとらえる。急激に発生したクリティカルな病態のメカニズムをもつ事例における検討
第15回　対象におきている病態を、今後の見通しも含めて、そのメカニズムと共に統合的にとらえる。慢性的複合的な病態のメカニズムをかかえる事例の検討

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験・レポート（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
レポート60%，プレゼンテーション内容ディスカション状況20%，参加度と出席20%，から総合的に評価する.

2018 Syllabus

科 目 名　**看護実践研究方法論 <D>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小板橋　喜久代.加藤　憲司.田代　順子	

テーマ

授業の到達目標

1. 看護における多様な研究方法論の特徴をふまえ、研究方法論が抱える課題を理解する。2. ヘルスケアの質改善等につながる研究の理論的基盤と方法論について学ぶ。

授業の概要

医療および看護における研究の重要性を理解し、多様な研究方法論の特徴をふまえ、研究方法論が抱える課題を検討し、今日、看護に求められているヘルスケアやヘルスケアシステムの質改善につながる研究方法を修得するため、ヘルスケアの質改善等に資した国内外の研究論文をもとに、ケアのアウトカムを明らかにする研究の理論的基盤と方法論について学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　看護研究における研究方法について、研究デザインの多様性と研究方法論が抱える課題
第2回　看護研究における概念枠組、研究の理論的基盤と研究方法論
第3回　アウトカムズモデル・サブストラクションを用いた研究論文の批評と研究方法論の検討
第4回　アウトカムズモデル・サブストラクションを用いた研究論文の批評と研究方法論の検討
第5回　ヘルスケアの質改善にアウトカムリサーチを適用する課題と有用性
第6回　子どもと家族に関する研究の理論的基盤と研究方法論
第7回　子どもと家族に関する成果指標抽出の課題と測定方法の妥当性
第8回　子どもと家族に関する研究論文をもとにヘルスケアの質を改善する方略について検討
第9回　労働職場環境特性と労働者の職業性ストレスに関する研究の理論的基盤と多変量解析を用いた量的研究方法論
第10回 労働職場環境特性と労働者の職業性ストレスに関する研究の理論的基盤と多変量解析を用いた量的研究方法論
第11回 労働者のストレス等に関する研究成果をもとに、ヘルスケアの質を改善する方略について検討
第12回 労働者のストレス等に関する研究成果をもとに、ヘルスケアの質を改善する方略について検討
第13回 リラクセーション等に関する研究の理論的基盤と研究方法論
第14回 リラクセーション等に関する研究の理論的基盤と研究方法論
第15回 リラクセーション等の研究論文をもとにヘルスケアの質を改善する方略について検討

履修上の注意点

教科書

参考書

バーンズ＆グローブ看護研究入門－実施・評価・活用－
著者:　Burns,N., Grove,S.K.:黒田裕子ら監訳
出版社:　エルゼビア・ジャパン
出版年:　2007　　ISBN:

看護研究ハンドブック ヘルスケアの質改善のために
著者:　Henry,B.M.:上田礼子監訳
出版社:　医学書院
出版年:　2004　　ISBN:

Handbook of qualitative research
著者:　Denzin,N.K., Lincoln,Y.S.
出版社:　Sage
出版年:　1994　　ISBN:

Advanced design in nursing research, second edition
著者:　Brink,P.,Wood,M.J.
出版社:　Sage
出版年:　1998　　ISBN:

h701510010

アウトカムズリサーチおよび介入研究に関する研究論文を選定し授業資料とする。

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 40% ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 30% ）

2018 Syllabus

科 目 名　**看護キャリア教育開発論 <D>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　梶谷　佳子.佐藤　紀子	

テーマ

授業の到達目標

1. 看護職の職業的発達を促す教育内容と教育方法を開発する必要性を理解する。2. 生涯にわたる看護学の基盤になる自己教育力および人を理解するという理論を体系的に修得する。

授業の概要

看護基礎教育ならびに卒後教育、継続教育等における看護職の職業的発達を促す教育内容・方法の開発を検討する。学士課程においては、生涯にわたる看護学の基盤になる自己教育力と共に、人を理解するという理論を基盤に組織的・体系的に学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内　　容

第1回　看護職者の生涯発達とキャリア形成支援
第2回　看護師のキャリアの可能性
第3回　看護師が臨床で用いる『知』の形成過程(1)
第4回　看護師が臨床で用いる『知』の形成過程(2)
第5回　看護生涯発達学研究：基礎教育におけるキャリア形成とその支援方法
第6回　看護生涯発達学研究：継続教育におけるキャリア形成とその支援方法
第7回　看護生涯発達学研究：卒後教育におけるキャリア形成とその支援方法
第8回　看護生涯発達学研究：看護職のキャリアの可能性
第9回　学士力と社会人基礎力としての看護実践能力
第10回　看護技術修得に向けた自己学習力と自己評価力(1)
第11回　看護技術修得に向けた自己学習力と自己評価力(2)
第12回　看護職業アイデンティティの形成と看護生涯学習
第13回　療養の場における人間関係、病める人々との関わり、感情労働としての看護について検討
第14回　看護職における援助的対人技術とストレスコーピング、患者理解と自己理解、看護師の感情と知性、及びこれらと看護職の職業的発達との関連について検討
第15回　様々なケアが提供されている場における看護行為を探究し、看護職の知の様式と知識創造について検討

履修上の注意点

教科書

参考書

看護師の臨床の『知』－看護職生涯発達学の視点から
著者：　佐藤紀子
出版社：医学書院
出版年：2007　　ISBN：

ベナー　ナースを育てる
著者：　パトリシア・ベナー:早野ZITO真佐子訳
出版社：医学書院
出版年：2011　　ISBN：

成人教育の現代的実践
著者：　マルカム・ノールズ:堀薫夫監訳
出版社：鳳書房
出版年：2008　　ISBN：

h701510310

キャリア教育開発に関する研究論文を授業資料とする。

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験・レポート（ 40% ）
小テスト（ ）
授業中課題（ ）
授業中発表等（ 30% ）
参加度 （ 30% ）

シ ラ バ ス

講義名称	EAP Ⅰ ＜a＞		
クラス		配当回生	学部１回生
講義期間	前期	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	エリス，メグ.西村　友美.マルヴィー，アラン		

テーマ

Foundation period course

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to activate the productive use of English already known, to promote active and collaborative learning both within and outside the classroom, and to establish a positive and consistent attitude to learning and study.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Speaking is emphasized and students are required to actively participate in activities in which they talk about familiar topics including self-introduction, and college and general life in Japan. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. Classes will be conducted in English only.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内容

第１回	Course information & expectations; class introductions; ice breakers
第２回	Intro to class and teacher; intro to pronunciation skills (phonemic chart)
第３回	Dictionary skills & vocab recording (vocab notebook)
第４回	Establishing group work structures
第５回	Intro to video class & teacher
第６回	Intro to reading skill development; intro to using X-reader; extensive reading expectations
第７回	Unit 1: People Vocab & grammar for meeting people internationally
第８回	Unit 1: People Listening; ask for / give personal information
第９回	Unit 1: People Possessive adjectives; describing different occupations
第 10 回	Unit 1: People Speaking & writing; describe positive / negative
第 11 回	Unit 1: People Video journal; discussion, grammar & vocab review
第 12 回	Intro to reading textbook; Part 1: Reading questionnaire, choosing the right book
第 13 回	Unit 2: Work, Rest and Play Vocab & grammar for daily habits
第 14 回	Unit 2: Work, Rest and Play Listening; pronunciation; talk about free time
第 15 回	Unit 2: Work, Rest and Play Language expansion; adverbs of frequency
第 16 回	Unit 2: Work, Rest and Play 'Daily life in different communities' writing & discussion
第 17 回	Unit 2: Work, Rest and Play Video journal; grammar &vocab review; discuss festivals
第 18 回	Part 2 Unit 1 Reading skills ― guidelines for learning vocabulary; Book discussion
第 19 回	Language & skills extension with TED Talks (Eric Whitacre)
第 20 回	Language & skills extension - TED Talks (Lewis Pugh)
第 21 回	Unit 3: Going Places Possessive adjecives & pronouns; vocab for travel
第 22 回	Unit 3: Going Places Listening; ask for / give personal travel info
第 23 回	Unit 3: Going Places Language expansion (travel); grammar for giving advice; conversation

第 24 回　Unit 3: Going Places 'Share travel tips' writing & discussion

第 25 回　Unit 3: Going Places Video journal; grammar & vocab review; discuss working animals

第 26 回　Pt 2 Unit 2 Reading skills — learning new words from your reading ; book discussion

第 27 回　Unit 4: Food Vocab for recipes; some & any; countable nouns

第 28 回　Unit 4: Food Listening; pronunciation; ordering a meal

第 29 回　Unit 4: Food Language expansion; quantifiers, how much, how many; discussing diets

第 30 回　Unit 4: Food 'Discuss unusual foods' writing & discussion

第 31 回　Unit 4: Food Video journal; grammar & vocab review; discuss dangerous foods

第 32 回　Pt 2 Unit 3 Reading skills — guessing word meanings; book discussion

第 33 回　Unit 5: Sports Vocab & grammar for activities happening now

第 34 回　Unit 5: Sports Listening; pronunciation; compare everyday & present-time activities

第 35 回　Unit 5: Sports Language expansion (sports); stative verbs; discussing likes and preferences

第 36 回　Unit 5: Sports 'Discuss adventures' writing & discussion

第 37 回　Unit 5: Sports Video journal; grammar & vocab review; discuss unusual sports

第 38 回　Class set book — activities

第 39 回　Unit 6: Destinations Vocab & grammar for discussing past vacations

第 40 回　Unit 6: Destinations Language expansion (emphatic adjectives); describing personal experiences

第 41 回　Review (1) and Mid-term speaking tests

第 42 回　Review (2) and Mid-term written test (incl. grammar & vocab)

第 43 回　Unit 6: Destinations Video journal; discussing national tourist attractions

第 44 回　Personal book choices — discussion, review and recommendations

第 45 回　Unit 7: Communication Vocab for personal communication; grammar — verbs with direct & indirect objects

第 46 回　Unit 7: Communication Listening; pronunciation; exchanging contact information

第 47 回　Unit 7: Communication Language expansion (sensory verbs); describe characteristics and qualities

第 48 回　Unit 7: Communication 'Compare types of communication' writing & discussion

第 49 回　Unit 7: Communication Video journal; unusual communication technologies

第 50 回　Pt 2 Unit 4 Reading skills — word parts; book discussion

第 51 回　Unit 8: Moving Forward Vocab & grammar for talking about plans

第 52 回　Unit 8: Moving Forward Listening; pronunciation; discuss long-term / short-term plans

第 53 回　Unit 8: Moving Forward Lang. expansion (weather); grammar for predictions/ immediate decisions

第 54 回　Unit 8: Moving Forward 'Discuss the future' writing & discussion

第 55 回　Unit 8: Moving Forward Video journal; solar cooking

第 56 回　Pt 2 Unit 5 Reading skills — how words are used together; book discussion

第 57 回　Unit 9: Types of Clothing Vocab for clothing & grammar for making comparisons

第 58 回　Unit 9: Types of Clothing Listening; pronunciation; explain preferences

第 59 回　Unit 9: Types of Clothing Lang. expansion (clothing); grammar - superlatives

第 60 回　Unit 9: Types of Clothing 'Silk — the queen of textiles' writing & discussion

第 61 回　Unit 9: Types of Clothing Video journal; manufacture & carbon footprint

第 62 回　Pt 2 Unit 6 Reading skills — How words work in sentences; book discussion

第 63 回　Unit 10: Lifestyles Vocab for habits & grammar — modals for obligation

第 64 回　Unit 10: Lifestyles Listening; pronunciation; comparing lifestyles

第 65 回　Unit 10: Lifestyles Lang. expansion (compound adjectives); 'How' questions

第 66 回　Unit 10: Lifestyles 'The secrets of a long life' writing & discussion

第 67 回　Unit 10: Lifestyles Video journal; the science of stress

第 68 回　Class set book - activities

第 69 回　Unit 11: Achievements Vocab for daily chores; grammar — present perfect tense

第 70 回	Unit 11: Achievements Listening; pronunciation; job interviews
第 71 回	Unit 11: Achievements Lang. expansion (accomplishments); present perfect vs past simple tense
第 72 回	Unit 11: Achievements 'Humanity's greatest achievements' writing & discussion
第 73 回	Unit 11: Achievements Video journal; scientific achievements
第 74 回	Personal book choice — discussion, review & recommendation
第 75 回	Unit 12: Consequences Vocab for money; grammar — first conditionals
第 76 回	Unit 12: Consequences Listening; pronunciation; planning travel budgets
第 77 回	Unit 12: Consequences Lang. expansion (habitats); conditionals continued
第 78 回	Unit 12: Consequences 'How to buy happiness' writing & discussion
第 79 回	Unit 12: Consequences Video journal; consequences of climate change
第 80 回	Poster presentation on personal book choice
第 81 回	Language & skills extension with TED Talks (Diana Reiss et al) (1)
第 82 回	Language & skills extension with TED Talks (Diana Reiss et al) (2)
第 83 回	Grammar & vocab review Units 1-4
第 84 回	Grammar & vocab review Units 5-8
第 85 回	Grammar & vocab review Units 9-12
第 86 回	Language & skills extension with TED Talks (Michael Norton)
第 87 回	Practice for speaking tests
第 88 回	Written vocab & grammar test Review
第 89 回	Speaking test Review
第 90 回	Self-evaluation of reading skills, progress and preferences

履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書	著者	出版社	出版年
Reading Power 2, Fourth edition	Linda Jeffries and Beatrice S. Mikulecky	Pearson	2009
World English 1, Second Edition, Combo Split 1B with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	
World English 1, Second edition, Combo Split 1A with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015
X-reading			
キングジム C ファイル透明 40P 186 TSPW 透明（362 円）	生協で購入してください		

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート	20	小テスト	10
授業中課題	30	授業中発表等	20

a20101a310

参加度	20

成績評価方法の備考

Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments. Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

シ ラ バ ス

講義名称	EAP Ⅰ <b>		
クラス		配当回生	学部 1 回生
講義期間	前期	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	弥永　啓子.末澤　奈津子.タット，クリスティナ.ツァオ，ドン		

テーマ

Foundation period course

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to activate the productive use of English already known, to promote active and collaborative learning both within and outside the classroom, and to establish a positive and consistent attitude to learning and study.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Speaking is emphasized and students are required to actively participate in activities in which they talk about familiar topics including self-introduction, and college and general life in Japan. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. Classes will be conducted in English only.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内容

第 1 回	Course information & expectations; class introductions; ice breakers
第 2 回	Intro to class and teacher; intro to pronunciation skills (phonemic chart)
第 3 回	Dictionary skills & vocab recording (vocab notebook)
第 4 回	Establishing group work structures
第 5 回	Intro to video class & teacher
第 6 回	Intro to reading skill development; intro to using X-reader; extensive reading expectations
第 7 回	Unit 1: People Vocab & grammar for meeting people internationally
第 8 回	Unit 1: People Listening; ask for / give personal information
第 9 回	Unit 1: People Possessive adjectives; describing different occupations
第 10 回	Unit 1: People Speaking & writing; describe positive / negative
第 11 回	Unit 1: People Video journal; discussion, grammar & vocab review
第 12 回	Intro to reading textbook; Part 1: Reading questionnaire, choosing the right book
第 13 回	Unit 2: Work, Rest and Play Vocab & grammar for daily habits
第 14 回	Unit 2: Work, Rest and Play Listening; pronunciation; talk about free time
第 15 回	Unit 2: Work, Rest and Play Language expansion; adverbs of frequency
第 16 回	Unit 2: Work, Rest and Play 'Daily life in different communities' writing & discussion
第 17 回	Unit 2: Work, Rest and Play Video journal; grammar &vocab review; discuss festivals
第 18 回	Part 2 Unit 1 Reading skills — guidelines for learning vocabulary; Book discussion
第 19 回	Language & skills extension with TED Talks (Eric Whitacre)
第 20 回	Language & skills extension - TED Talks (Lewis Pugh)
第 21 回	Unit 3: Going Places Possessive adjecives & pronouns; vocab for travel
第 22 回	Unit 3: Going Places Listening; ask for / give personal travel info
第 23 回	Unit 3: Going Places Language expansion (travel); grammar for giving advice; conversation

第 24 回　Unit 3: Going Places 'Share travel tips' writing & discussion

第 25 回　Unit 3: Going Places Video journal; grammar & vocab review; discuss working animals

第 26 回　Pt 2 Unit 2 Reading skills — learning new words from your reading ; book discussion

第 27 回　Unit 4: Food Vocab for recipes; some & any; countable nouns

第 28 回　Unit 4: Food Listening; pronunciation; ordering a meal

第 29 回　Unit 4: Food Language expansion; quantifiers, how much, how many; discussing diets

第 30 回　Unit 4: Food 'Discuss unusual foods' writing & discussion

第 31 回　Unit 4: Food Video journal; grammar & vocab review; discuss dangerous foods

第 32 回　Pt 2 Unit 3 Reading skills — guessing word meanings; book discussion

第 33 回　Unit 5: Sports Vocab & grammar for activities happening now

第 34 回　Unit 5: Sports Listening; pronunciation; compare everyday & present-time activities

第 35 回　Unit 5: Sports Language expansion (sports); stative verbs; discussing likes and preferences

第 36 回　Unit 5: Sports 'Discuss adventures' writing & discussion

第 37 回　Unit 5: Sports Video journal; grammar & vocab review; discuss unusual sports

第 38 回　Class set book — activities

第 39 回　Unit 6: Destinations Vocab & grammar for discussing past vacations

第 40 回　Unit 6: Destinations Language expansion (emphatic adjectives); describing personal experiences

第 41 回　Review (1) and Mid-term speaking tests

第 42 回　Review (2) and Mid-term written test (incl. grammar & vocab)

第 43 回　Unit 6: Destinations Video journal; discussing national tourist attractions

第 44 回　Personal book choices — discussion, review and recommendations

第 45 回　Unit 7: Communication Vocab for personal communication; grammar — verbs with direct & indirect objects

第 46 回　Unit 7: Communication Listening; pronunciation; exchanging contact information

第 47 回　Unit 7: Communication Language expansion (sensory verbs); describe characteristics and qualities

第 48 回　Unit 7: Communication 'Compare types of communication' writing & discussion

第 49 回　Unit 7: Communication Video journal; unusual communication technologies

第 50 回　Pt 2 Unit 4 Reading skills — word parts; book discussion

第 51 回　Unit 8: Moving Forward Vocab & grammar for talking about plans

第 52 回　Unit 8: Moving Forward Listening; pronunciation; discuss long-term / short-term plans

第 53 回　Unit 8: Moving Forward Lang. expansion (weather); grammar for predictions/ immediate decisions

第 54 回　Unit 8: Moving Forward 'Discuss the future' writing & discussion

第 55 回　Unit 8: Moving Forward Video journal; solar cooking

第 56 回　Pt 2 Unit 5 Reading skills — how words are used together; book discussion

第 57 回　Unit 9: Types of Clothing Vocab for clothing & grammar for making comparisons

第 58 回　Unit 9: Types of Clothing Listening; pronunciation; explain preferences

第 59 回　Unit 9: Types of Clothing Lang. expansion (clothing); grammar - superlatives

第 60 回　Unit 9: Types of Clothing 'Silk — the queen of textiles' writing & discussion

第 61 回　Unit 9: Types of Clothing Video journal; manufacture & carbon footprint

第 62 回　Pt 2 Unit 6 Reading skills — How words work in sentences; book discussion

第 63 回　Unit 10: Lifestyles Vocab for habits & grammar — modals for obligation

第 64 回　Unit 10: Lifestyles Listening; pronunciation; comparing lifestyles

第 65 回　Unit 10: Lifestyles Lang. expansion (compound adjectives); 'How' questions

第 66 回　Unit 10: Lifestyles 'The secrets of a long life' writing & discussion

第 67 回　Unit 10: Lifestyles Video journal; the science of stress

第 68 回　Class set book - activities

第 69 回　Unit 11: Achievements Vocab for daily chores; grammar — present perfect tense

第 70 回	Unit 11: Achievements Listening; pronunciation; job interviews
第 71 回	Unit 11: Achievements Lang. expansion (accomplishments); present perfect vs past simple tense
第 72 回	Unit 11: Achievements 'Humanity's greatest achievements' writing & discussion
第 73 回	Unit 11: Achievements Video journal; scientific achievements
第 74 回	Personal book choice — discussion, review & recommendation
第 75 回	Unit 12: Consequences Vocab for money; grammar — first conditionals
第 76 回	Unit 12: Consequences Listening; pronunciation; planning travel budgets
第 77 回	Unit 12: Consequences Lang. expansion (habitats); conditionals continued
第 78 回	Unit 12: Consequences 'How to buy happiness' writing & discussion
第 79 回	Unit 12: Consequences Video journal; consequences of climate change
第 80 回	Poster presentation on personal book choice
第 81 回	Language & skills extension with TED Talks (Diana Reiss et al) (1)
第 82 回	Language & skills extension with TED Talks (Diana Reiss et al) (2)
第 83 回	Grammar & vocab review Units 1-4
第 84 回	Grammar & vocab review Units 5-8
第 85 回	Grammar & vocab review Units 9-12
第 86 回	Language & skills extension with TED Talks (Michael Norton)
第 87 回	Practice for speaking tests
第 88 回	Written vocab & grammar test Review
第 89 回	Speaking test Review
第 90 回	Self-evaluation of reading skills, progress and preferences

履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書	著者	出版社	出版年
Reading Power 2, Fourth edition	Linda Jeffries and Beatrice S. Mikulecky	Pearson	2009
World English 1, Second Edition, Combo Split 1B with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	
World English 1, Second edition, Combo Split 1A with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015
X-reading			
キングジム C ファイル透明 40P 186 TSPW 透明（362 円）	生協で購入してください		

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート	20	小テスト	10
授業中課題	30	授業中発表等	20

a20101a312

参加度　20

成績評価方法の備考

Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments. Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

シ ラ バ ス

講義名称	EAP Ⅰ ＜c＞		
クラス		配当回生	学部１回生
講義期間	前期	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	小川　享子.タット，クリスティナ.ツァオ，ドン.マルヴィー，アラン		

テーマ

Foundation period course

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to activate the productive use of English already known, to promote active and collaborative learning both within and outside the classroom, and to establish a positive and consistent attitude to learning and study.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Speaking is emphasized and students are required to actively participate in activities in which they talk about familiar topics including self-introduction, and college and general life in Japan. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. Classes will be conducted in English only.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内容

第１回	Course information & expectations; class introductions; ice breakers
第２回	Intro to class and teacher; intro to pronunciation skills (phonemic chart)
第３回	Dictionary skills & vocab recording (vocab notebook)
第４回	Establishing group work structures
第５回	Intro to video class & teacher
第６回	Intro to reading skill development; intro to using X-reader; extensive reading expectations
第７回	Unit 1: People Vocab & grammar for meeting people internationally
第８回	Unit 1: People Listening; ask for / give personal information
第９回	Unit 1: People Possessive adjectives; describing different occupations
第 10 回	Unit 1: People Speaking & writing; describe positive / negative
第 11 回	Unit 1: People Video journal; discussion, grammar & vocab review
第 12 回	Intro to reading textbook; Part 1: Reading questionnaire, choosing the right book
第 13 回	Unit 2: Work, Rest and Play Vocab & grammar for daily habits
第 14 回	Unit 2: Work, Rest and Play Listening; pronunciation; talk about free time
第 15 回	Unit 2: Work, Rest and Play Language expansion; adverbs of frequency
第 16 回	Unit 2: Work, Rest and Play 'Daily life in different communities' writing & discussion
第 17 回	Unit 2: Work, Rest and Play Video journal; grammar &vocab review; discuss festivals
第 18 回	Part 2 Unit 1 Reading skills — guidelines for learning vocabulary; Book discussion
第 19 回	Language & skills extension with TED Talks (Eric Whitacre)
第 20 回	Language & skills extension - TED Talks (Lewis Pugh)
第 21 回	Unit 3: Going Places Possessive adjecives & pronouns; vocab for travel
第 22 回	Unit 3: Going Places Listening; ask for / give personal travel info
第 23 回	Unit 3: Going Places Language expansion (travel); grammar for giving advice; conversation

第 24 回　Unit 3: Going Places 'Share travel tips' writing & discussion

第 25 回　Unit 3: Going Places Video journal; grammar & vocab review; discuss working animals

第 26 回　Pt 2 Unit 2 Reading skills — learning new words from your reading ; book discussion

第 27 回　Unit 4: Food Vocab for recipes; some & any; countable nouns

第 28 回　Unit 4: Food Listening; pronunciation; ordering a meal

第 29 回　Unit 4: Food Language expansion; quantifiers, how much, how many; discussing diets

第 30 回　Unit 4: Food 'Discuss unusual foods' writing & discussion

第 31 回　Unit 4: Food Video journal; grammar & vocab review; discuss dangerous foods

第 32 回　Pt 2 Unit 3 Reading skills — guessing word meanings; book discussion

第 33 回　Unit 5: Sports Vocab & grammar for activities happening now

第 34 回　Unit 5: Sports Listening; pronunciation; compare everyday & present-time activities

第 35 回　Unit 5: Sports Language expansion (sports); stative verbs; discussing likes and preferences

第 36 回　Unit 5: Sports 'Discuss adventures' writing & discussion

第 37 回　Unit 5: Sports Video journal; grammar & vocab review; discuss unusual sports

第 38 回　Class set book — activities

第 39 回　Unit 6: Destinations Vocab & grammar for discussing past vacations

第 40 回　Unit 6: Destinations Language expansion (emphatic adjectives); describing personal experiences

第 41 回　Review (1) and Mid-term speaking tests

第 42 回　Review (2) and Mid-term written test (incl. grammar & vocab)

第 43 回　Unit 6: Destinations Video journal; discussing national tourist attractions

第 44 回　Personal book choices — discussion, review and recommendations

第 45 回　Unit 7: Communication Vocab for personal communication; grammar — verbs with direct & indirect objects

第 46 回　Unit 7: Communication Listening; pronunciation; exchanging contact information

第 47 回　Unit 7: Communication Language expansion (sensory verbs); describe characteristics and qualities

第 48 回　Unit 7: Communication 'Compare types of communication' writing & discussion

第 49 回　Unit 7: Communication Video journal; unusual communication technologies

第 50 回　Pt 2 Unit 4 Reading skills — word parts; book discussion

第 51 回　Unit 8: Moving Forward Vocab & grammar for talking about plans

第 52 回　Unit 8: Moving Forward Listening; pronunciation; discuss long-term / short-term plans

第 53 回　Unit 8: Moving Forward Lang. expansion (weather); grammar for predictions/ immediate decisions

第 54 回　Unit 8: Moving Forward 'Discuss the future' writing & discussion

第 55 回　Unit 8: Moving Forward Video journal; solar cooking

第 56 回　Pt 2 Unit 5 Reading skills — how words are used together; book discussion

第 57 回　Unit 9: Types of Clothing Vocab for clothing & grammar for making comparisons

第 58 回　Unit 9: Types of Clothing Listening; pronunciation; explain preferences

第 59 回　Unit 9: Types of Clothing Lang. expansion (clothing); grammar - superlatives

第 60 回　Unit 9: Types of Clothing 'Silk — the queen of textiles' writing & discussion

第 61 回　Unit 9: Types of Clothing Video journal; manufacture & carbon footprint

第 62 回　Pt 2 Unit 6 Reading skills — How words work in sentences; book discussion

第 63 回　Unit 10: Lifestyles Vocab for habits & grammar — modals for obligation

第 64 回　Unit 10: Lifestyles Listening; pronunciation; comparing lifestyles

第 65 回　Unit 10: Lifestyles Lang. expansion (compound adjectives); 'How' questions

第 66 回　Unit 10: Lifestyles 'The secrets of a long life' writing & discussion

第 67 回　Unit 10: Lifestyles Video journal; the science of stress

第 68 回　Class set book - activities

第 69 回　Unit 11: Achievements Vocab for daily chores; grammar — present perfect tense

第 70 回	Unit 11: Achievements Listening; pronunciation; job interviews
第 71 回	Unit 11: Achievements Lang. expansion (accomplishments); present perfect vs past simple tense
第 72 回	Unit 11: Achievements 'Humanity's greatest achievements' writing & discussion
第 73 回	Unit 11: Achievements Video journal; scientific achievements
第 74 回	Personal book choice — discussion, review & recommendation
第 75 回	Unit 12: Consequences Vocab for money; grammar — first conditionals
第 76 回	Unit 12: Consequences Listening; pronunciation; planning travel budgets
第 77 回	Unit 12: Consequences Lang. expansion (habitats); conditionals continued
第 78 回	Unit 12: Consequences 'How to buy happiness' writing & discussion
第 79 回	Unit 12: Consequences Video journal; consequences of climate change
第 80 回	Poster presentation on personal book choice
第 81 回	Language & skills extension with TED Talks (Diana Reiss et al) (1)
第 82 回	Language & skills extension with TED Talks (Diana Reiss et al) (2)
第 83 回	Grammar & vocab review Units 1-4
第 84 回	Grammar & vocab review Units 5-8
第 85 回	Grammar & vocab review Units 9-12
第 86 回	Language & skills extension with TED Talks (Michael Norton)
第 87 回	Practice for speaking tests
第 88 回	Written vocab & grammar test Review
第 89 回	Speaking test Review
第 90 回	Self-evaluation of reading skills, progress and preferences

履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書	著者	出版社	出版年
Reading Power 2, Fourth edition	Linda Jeffries and Beatrice S. Mikulecky	Pearson	2009
World English 1, Second Edition, Combo Split 1B with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	
World English 1, Second edition, Combo Split 1A with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015
X-reading			
キングジム C ファイル透明 40P 186 TSPW 透明（362 円）	生協で購入してください		

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート	20	小テスト	10
授業中課題	30	授業中発表等	20

a20101a313

参加度　20

成績評価方法の備考

Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments. Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

シ ラ バ ス

講義名称	EAP Ⅰ <d>		
クラス		配当回生	学部１回生
講義期間	前期	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	弥永　啓子.タット，クリスティナ.西村　友美.マルヴィー，アラン		

テーマ

Foundation period course

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to activate the productive use of English already known, to promote active and collaborative learning both within and outside the classroom, and to establish a positive and consistent attitude to learning and study.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Speaking is emphasized and students are required to actively participate in activities in which they talk about familiar topics including self-introduction, and college and general life in Japan. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. Classes will be conducted in English only.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内容

第１回	Course information & expectations; class introductions; ice breakers
第２回	Intro to class and teacher; intro to pronunciation skills (phonemic chart)
第３回	Dictionary skills & vocab recording (vocab notebook)
第４回	Establishing group work structures
第５回	Intro to video class & teacher
第６回	Intro to reading skill development; intro to using X-reader; extensive reading expectations
第７回	Unit 1: People Vocab & grammar for meeting people internationally
第８回	Unit 1: People Listening; ask for / give personal information
第９回	Unit 1: People Possessive adjectives; describing different occupations
第 10 回	Unit 1: People Speaking & writing; describe positive / negative
第 11 回	Unit 1: People Video journal; discussion, grammar & vocab review
第 12 回	Intro to reading textbook; Part 1: Reading questionnaire, choosing the right book
第 13 回	Unit 2: Work, Rest and Play Vocab & grammar for daily habits
第 14 回	Unit 2: Work, Rest and Play Listening; pronunciation; talk about free time
第 15 回	Unit 2: Work, Rest and Play Language expansion; adverbs of frequency
第 16 回	Unit 2: Work, Rest and Play 'Daily life in different communities' writing & discussion
第 17 回	Unit 2: Work, Rest and Play Video journal; grammar &vocab review; discuss festivals
第 18 回	Part 2 Unit 1 Reading skills — guidelines for learning vocabulary; Book discussion
第 19 回	Language & skills extension with TED Talks (Eric Whitacre)
第 20 回	Language & skills extension - TED Talks (Lewis Pugh)
第 21 回	Unit 3: Going Places Possessive adjecives & pronouns; vocab for travel
第 22 回	Unit 3: Going Places Listening; ask for / give personal travel info
第 23 回	Unit 3: Going Places Language expansion (travel); grammar for giving advice; conversation

第 24 回　Unit 3: Going Places 'Share travel tips' writing & discussion

第 25 回　Unit 3: Going Places Video journal; grammar & vocab review; discuss working animals

第 26 回　Pt 2 Unit 2 Reading skills — learning new words from your reading ; book discussion

第 27 回　Unit 4: Food Vocab for recipes; some & any; countable nouns

第 28 回　Unit 4: Food Listening; pronunciation; ordering a meal

第 29 回　Unit 4: Food Language expansion; quantifiers, how much, how many; discussing diets

第 30 回　Unit 4: Food 'Discuss unusual foods' writing & discussion

第 31 回　Unit 4: Food Video journal; grammar & vocab review; discuss dangerous foods

第 32 回　Pt 2 Unit 3 Reading skills — guessing word meanings; book discussion

第 33 回　Unit 5: Sports Vocab & grammar for activities happening now

第 34 回　Unit 5: Sports Listening; pronunciation; compare everyday & present-time activities

第 35 回　Unit 5: Sports Language expansion (sports); stative verbs; discussing likes and preferences

第 36 回　Unit 5: Sports 'Discuss adventures' writing & discussion

第 37 回　Unit 5: Sports Video journal; grammar & vocab review; discuss unusual sports

第 38 回　Class set book — activities

第 39 回　Unit 6: Destinations Vocab & grammar for discussing past vacations

第 40 回　Unit 6: Destinations Language expansion (emphatic adjectives); describing personal experiences

第 41 回　Review (1) and Mid-term speaking tests

第 42 回　Review (2) and Mid-term written test (incl. grammar & vocab)

第 43 回　Unit 6: Destinations Video journal; discussing national tourist attractions

第 44 回　Personal book choices — discussion, review and recommendations

第 45 回　Unit 7: Communication Vocab for personal communication; grammar — verbs with direct & indirect objects

第 46 回　Unit 7: Communication Listening; pronunciation; exchanging contact information

第 47 回　Unit 7: Communication Language expansion (sensory verbs); describe characteristics and qualities

第 48 回　Unit 7: Communication 'Compare types of communication' writing & discussion

第 49 回　Unit 7: Communication Video journal; unusual communication technologies

第 50 回　Pt 2 Unit 4 Reading skills — word parts; book discussion

第 51 回　Unit 8: Moving Forward Vocab & grammar for talking about plans

第 52 回　Unit 8: Moving Forward Listening; pronunciation; discuss long-term / short-term plans

第 53 回　Unit 8: Moving Forward Lang. expansion (weather); grammar for predictions/ immediate decisions

第 54 回　Unit 8: Moving Forward 'Discuss the future' writing & discussion

第 55 回　Unit 8: Moving Forward Video journal; solar cooking

第 56 回　Pt 2 Unit 5 Reading skills — how words are used together; book discussion

第 57 回　Unit 9: Types of Clothing Vocab for clothing & grammar for making comparisons

第 58 回　Unit 9: Types of Clothing Listening; pronunciation; explain preferences

第 59 回　Unit 9: Types of Clothing Lang. expansion (clothing); grammar - superlatives

第 60 回　Unit 9: Types of Clothing 'Silk — the queen of textiles' writing & discussion

第 61 回　Unit 9: Types of Clothing Video journal; manufacture & carbon footprint

第 62 回　Pt 2 Unit 6 Reading skills — How words work in sentences; book discussion

第 63 回　Unit 10: Lifestyles Vocab for habits & grammar — modals for obligation

第 64 回　Unit 10: Lifestyles Listening; pronunciation; comparing lifestyles

第 65 回　Unit 10: Lifestyles Lang. expansion (compound adjectives); 'How' questions

第 66 回　Unit 10: Lifestyles 'The secrets of a long life' writing & discussion

第 67 回　Unit 10: Lifestyles Video journal; the science of stress

第 68 回　Class set book - activities

第 69 回　Unit 11: Achievements Vocab for daily chores; grammar — present perfect tense

第 70 回	Unit 11: Achievements Listening; pronunciation; job interviews
第 71 回	Unit 11: Achievements Lang. expansion (accomplishments); present perfect vs past simple tense
第 72 回	Unit 11: Achievements 'Humanity's greatest achievements' writing & discussion
第 73 回	Unit 11: Achievements Video journal; scientific achievements
第 74 回	Personal book choice — discussion, review & recommendation
第 75 回	Unit 12: Consequences Vocab for money; grammar — first conditionals
第 76 回	Unit 12: Consequences Listening; pronunciation; planning travel budgets
第 77 回	Unit 12: Consequences Lang. expansion (habitats); conditionals continued
第 78 回	Unit 12: Consequences 'How to buy happiness' writing & discussion
第 79 回	Unit 12: Consequences Video journal; consequences of climate change
第 80 回	Poster presentation on personal book choice
第 81 回	Language & skills extension with TED Talks (Diana Reiss et al) (1)
第 82 回	Language & skills extension with TED Talks (Diana Reiss et al) (2)
第 83 回	Grammar & vocab review Units 1-4
第 84 回	Grammar & vocab review Units 5-8
第 85 回	Grammar & vocab review Units 9-12
第 86 回	Language & skills extension with TED Talks (Michael Norton)
第 87 回	Practice for speaking tests
第 88 回	Written vocab & grammar test Review
第 89 回	Speaking test Review
第 90 回	Self-evaluation of reading skills, progress and preferences

履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書	著者	出版社	出版年
Reading Power 2, Fourth edition	Linda Jeffries and Beatrice S. Mikulecky	Pearson	2009
World English 1, Second Edition, Combo Split 1B with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	
World English 1, Second edition, Combo Split 1A with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015
X-reading			
キングジム C ファイル透明 40P 186 TSPW 透明（362 円）	生協で購入してください		

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート	20	小テスト	10
授業中課題	30	授業中発表等	20

a20101a314

参加度　20

成績評価方法の備考

Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments. Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

シ ラ バ ス

講義名称	EAP Ⅰ ＜e＞		
クラス		配当回生	学部１回生
講義期間	前期	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	エリス，メグ.大久保　友博.小川　享子.ツァオ，ドン		

テーマ

Foundation period course

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to activate the productive use of English already known, to promote active and collaborative learning both within and outside the classroom, and to establish a positive and consistent attitude to learning and study.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Speaking is emphasized and students are required to actively participate in activities in which they talk about familiar topics including self-introduction, and college and general life in Japan. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. Classes will be conducted in English only.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内容

第１回	Course information & expectations; class introductions; ice breakers
第２回	Intro to class and teacher; intro to pronunciation skills (phonemic chart)
第３回	Dictionary skills & vocab recording (vocab notebook)
第４回	Establishing group work structures
第５回	Intro to video class & teacher
第６回	Intro to reading skill development; intro to using X-reader; extensive reading expectations
第７回	Unit 1: People Vocab & grammar for meeting people internationally
第８回	Unit 1: People Listening;　ask for / give personal information
第９回	Unit 1: People Possessive adjectives; describing different occupations
第 10 回	Unit 1: People Speaking & writing; describe positive / negative
第 11 回	Unit 1: People Video journal; discussion, grammar & vocab review
第 12 回	Intro to reading textbook; Part 1: Reading questionnaire, choosing the right book
第 13 回	Unit 2: Work, Rest and Play Vocab & grammar for daily habits
第 14 回	Unit 2: Work, Rest and Play Listening; pronunciation; talk about free time
第 15 回	Unit 2: Work, Rest and Play Language expansion; adverbs of frequency
第 16 回	Unit 2: Work, Rest and Play 'Daily life in different communities' writing & discussion
第 17 回	Unit 2: Work, Rest and Play Video journal; grammar &vocab review; discuss festivals
第 18 回	Part 2 Unit 1 Reading skills ― guidelines for learning vocabulary; Book discussion
第 19 回	Language & skills extension with TED Talks (Eric Whitacre)
第 20 回	Language & skills extension - TED Talks (Lewis Pugh)
第 21 回	Unit 3: Going Places Possessive adjecives & pronouns; vocab for travel
第 22 回	Unit 3: Going Places Listening;　ask for / give personal travel info
第 23 回	Unit 3: Going Places Language expansion (travel);　grammar for giving advice; conversation

第 24 回　Unit 3: Going Places 'Share travel tips' writing & discussion

第 25 回　Unit 3: Going Places Video journal; grammar & vocab review; discuss working animals

第 26 回　Pt 2 Unit 2 Reading skills — learning new words from your reading ; book discussion

第 27 回　Unit 4: Food Vocab for recipes; some & any; countable nouns

第 28 回　Unit 4: Food Listening; pronunciation; ordering a meal

第 29 回　Unit 4: Food Language expansion; quantifiers, how much, how many; discussing diets

第 30 回　Unit 4: Food 'Discuss unusual foods' writing & discussion

第 31 回　Unit 4: Food Video journal; grammar & vocab review; discuss dangerous foods

第 32 回　Pt 2 Unit 3 Reading skills — guessing word meanings; book discussion

第 33 回　Unit 5: Sports Vocab & grammar for activities happening now

第 34 回　Unit 5: Sports Listening; pronunciation; compare everyday & present-time activities

第 35 回　Unit 5: Sports Language expansion (sports); stative verbs; discussing likes and preferences

第 36 回　Unit 5: Sports 'Discuss adventures' writing & discussion

第 37 回　Unit 5: Sports Video journal; grammar & vocab review; discuss unusual sports

第 38 回　Class set book — activities

第 39 回　Unit 6: Destinations Vocab & grammar for discussing past vacations

第 40 回　Unit 6: Destinations Language expansion (emphatic adjectives); describing personal experiences

第 41 回　Review (1) and Mid-term speaking tests

第 42 回　Review (2) and Mid-term written test (incl. grammar & vocab)

第 43 回　Unit 6: Destinations Video journal; discussing national tourist attractions

第 44 回　Personal book choices — discussion, review and recommendations

第 45 回　Unit 7: Communication Vocab for personal communication; grammar — verbs with direct & indirect objects

第 46 回　Unit 7: Communication Listening; pronunciation; exchanging contact information

第 47 回　Unit 7: Communication Language expansion (sensory verbs); describe characteristics and qualities

第 48 回　Unit 7: Communication 'Compare types of communication' writing & discussion

第 49 回　Unit 7: Communication Video journal; unusual communication technologies

第 50 回　Pt 2 Unit 4 Reading skills — word parts; book discussion

第 51 回　Unit 8: Moving Forward Vocab & grammar for talking about plans

第 52 回　Unit 8: Moving Forward Listening; pronunciation; discuss long-term / short-term plans

第 53 回　Unit 8: Moving Forward Lang. expansion (weather); grammar for predictions/ immediate decisions

第 54 回　Unit 8: Moving Forward 'Discuss the future' writing & discussion

第 55 回　Unit 8: Moving Forward Video journal; solar cooking

第 56 回　Pt 2 Unit 5 Reading skills — how words are used together; book discussion

第 57 回　Unit 9: Types of Clothing Vocab for clothing & grammar for making comparisons

第 58 回　Unit 9: Types of Clothing Listening; pronunciation; explain preferences

第 59 回　Unit 9: Types of Clothing Lang. expansion (clothing); grammar - superlatives

第 60 回　Unit 9: Types of Clothing 'Silk — the queen of textiles' writing & discussion

第 61 回　Unit 9: Types of Clothing Video journal; manufacture & carbon footprint

第 62 回　Pt 2 Unit 6 Reading skills — How words work in sentences; book discussion

第 63 回　Unit 10: Lifestyles Vocab for habits & grammar — modals for obligation

第 64 回　Unit 10: Lifestyles Listening; pronunciation; comparing lifestyles

第 65 回　Unit 10: Lifestyles Lang. expansion (compound adjectives); 'How' questions

第 66 回　Unit 10: Lifestyles 'The secrets of a long life' writing & discussion

第 67 回　Unit 10: Lifestyles Video journal; the science of stress

第 68 回　Class set book - activities

第 69 回　Unit 11: Achievements Vocab for daily chores; grammar — present perfect tense

第 70 回	Unit 11: Achievements Listening; pronunciation; job interviews
第 71 回	Unit 11: Achievements Lang. expansion (accomplishments); present perfect vs past simple tense
第 72 回	Unit 11: Achievements 'Humanity's greatest achievements' writing & discussion
第 73 回	Unit 11: Achievements Video journal; scientific achievements
第 74 回	Personal book choice — discussion, review & recommendation
第 75 回	Unit 12: Consequences Vocab for money; grammar — first conditionals
第 76 回	Unit 12: Consequences Listening; pronunciation; planning travel budgets
第 77 回	Unit 12: Consequences Lang. expansion (habitats); conditionals continued
第 78 回	Unit 12: Consequences 'How to buy happiness' writing & discussion
第 79 回	Unit 12: Consequences Video journal; consequences of climate change
第 80 回	Poster presentation on personal book choice
第 81 回	Language & skills extension with TED Talks (Diana Reiss et al) (1)
第 82 回	Language & skills extension with TED Talks (Diana Reiss et al) (2)
第 83 回	Grammar & vocab review Units 1-4
第 84 回	Grammar & vocab review Units 5-8
第 85 回	Grammar & vocab review Units 9-12
第 86 回	Language & skills extension with TED Talks (Michael Norton)
第 87 回	Practice for speaking tests
第 88 回	Written vocab & grammar test Review
第 89 回	Speaking test Review
第 90 回	Self-evaluation of reading skills, progress and preferences

履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書	著者	出版社	出版年
Reading Power 2, Fourth edition	Linda Jeffries and Beatrice S. Mikulecky	Pearson	2009
World English 1, Second Edition, Combo Split 1B with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	
World English 1, Second edition, Combo Split 1A with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015
X-reading			
キングジム C ファイル透明 40P 186 TSPW 透明（362 円）	生協で購入してください		

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート	20	小テスト	10
授業中課題	30	授業中発表等	20

a20101a315

参加度	20

成績評価方法の備考

Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments. Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

シ ラ バ ス

講義名称	EAP Ⅰ <f>		
クラス		配当回生	学部1回生
講義期間	前期	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	エリス，メグ.大久保　友博.末澤　奈津子.ツァオ，ドン		

テーマ

Foundation period course

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to activate the productive use of English already known, to promote active and collaborative learning both within and outside the classroom, and to establish a positive and consistent attitude to learning and study.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Speaking is emphasized and students are required to actively participate in activities in which they talk about familiar topics including self-introduction, and college and general life in Japan. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. Classes will be conducted in English only.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内容

第1回	Course information & expectations; class introductions; ice breakers
第2回	Intro to class and teacher; intro to pronunciation skills (phonemic chart)
第3回	Dictionary skills & vocab recording (vocab notebook)
第4回	Establishing group work structures
第5回	Intro to video class & teacher
第6回	Intro to reading skill development; intro to using X-reader; extensive reading expectations
第7回	Unit 1: People Vocab & grammar for meeting people internationally
第8回	Unit 1: People Listening; ask for / give personal information
第9回	Unit 1: People Possessive adjectives; describing different occupations
第10回	Unit 1: People Speaking & writing; describe positive / negative
第11回	Unit 1: People Video journal; discussion, grammar & vocab review
第12回	Intro to reading textbook; Part 1: Reading questionnaire, choosing the right book
第13回	Unit 2: Work, Rest and Play Vocab & grammar for daily habits
第14回	Unit 2: Work, Rest and Play Listening; pronunciation; talk about free time
第15回	Unit 2: Work, Rest and Play Language expansion; adverbs of frequency
第16回	Unit 2: Work, Rest and Play 'Daily life in different communities' writing & discussion
第17回	Unit 2: Work, Rest and Play Video journal; grammar &vocab review; discuss festivals
第18回	Part 2 Unit 1 Reading skills — guidelines for learning vocabulary; Book discussion
第19回	Language & skills extension with TED Talks (Eric Whitacre)
第20回	Language & skills extension - TED Talks (Lewis Pugh)
第21回	Unit 3: Going Places Possessive adjecives & pronouns; vocab for travel
第22回	Unit 3: Going Places Listening; ask for / give personal travel info
第23回	Unit 3: Going Places Language expansion (travel); grammar for giving advice; conversation

第 24 回　Unit 3: Going Places 'Share travel tips' writing & discussion

第 25 回　Unit 3: Going Places Video journal; grammar & vocab review; discuss working animals

第 26 回　Pt 2 Unit 2 Reading skills — learning new words from your reading ; book discussion

第 27 回　Unit 4: Food Vocab for recipes; some & any; countable nouns

第 28 回　Unit 4: Food Listening; pronunciation; ordering a meal

第 29 回　Unit 4: Food Language expansion; quantifiers, how much, how many; discussing diets

第 30 回　Unit 4: Food 'Discuss unusual foods' writing & discussion

第 31 回　Unit 4: Food Video journal; grammar & vocab review; discuss dangerous foods

第 32 回　Pt 2 Unit 3 Reading skills — guessing word meanings; book discussion

第 33 回　Unit 5: Sports Vocab & grammar for activities happening now

第 34 回　Unit 5: Sports Listening; pronunciation; compare everyday & present-time activities

第 35 回　Unit 5: Sports Language expansion (sports); stative verbs; discussing likes and preferences

第 36 回　Unit 5: Sports 'Discuss adventures' writing & discussion

第 37 回　Unit 5: Sports Video journal; grammar & vocab review; discuss unusual sports

第 38 回　Class set book — activities

第 39 回　Unit 6: Destinations Vocab & grammar for discussing past vacations

第 40 回　Unit 6: Destinations Language expansion (emphatic adjectives); describing personal experiences

第 41 回　Review (1) and Mid-term speaking tests

第 42 回　Review (2) and Mid-term written test (incl. grammar & vocab)

第 43 回　Unit 6: Destinations Video journal; discussing national tourist attractions

第 44 回　Personal book choices — discussion, review and recommendations

第 45 回　Unit 7: Communication Vocab for personal communication; grammar — verbs with direct & indirect objects

第 46 回　Unit 7: Communication Listening; pronunciation; exchanging contact information

第 47 回　Unit 7: Communication Language expansion (sensory verbs); describe characteristics and qualities

第 48 回　Unit 7: Communication 'Compare types of communication' writing & discussion

第 49 回　Unit 7: Communication Video journal; unusual communication technologies

第 50 回　Pt 2 Unit 4 Reading skills — word parts; book discussion

第 51 回　Unit 8: Moving Forward Vocab & grammar for talking about plans

第 52 回　Unit 8: Moving Forward Listening; pronunciation; discuss long-term / short-term plans

第 53 回　Unit 8: Moving Forward Lang. expansion (weather); grammar for predictions/ immediate decisions

第 54 回　Unit 8: Moving Forward 'Discuss the future' writing & discussion

第 55 回　Unit 8: Moving Forward Video journal; solar cooking

第 56 回　Pt 2 Unit 5 Reading skills — how words are used together; book discussion

第 57 回　Unit 9: Types of Clothing Vocab for clothing & grammar for making comparisons

第 58 回　Unit 9: Types of Clothing Listening; pronunciation; explain preferences

第 59 回　Unit 9: Types of Clothing Lang. expansion (clothing); grammar - superlatives

第 60 回　Unit 9: Types of Clothing 'Silk — the queen of textiles' writing & discussion

第 61 回　Unit 9: Types of Clothing Video journal; manufacture & carbon footprint

第 62 回　Pt 2 Unit 6 Reading skills — How words work in sentences; book discussion

第 63 回　Unit 10: Lifestyles Vocab for habits & grammar — modals for obligation

第 64 回　Unit 10: Lifestyles Listening; pronunciation; comparing lifestyles

第 65 回　Unit 10: Lifestyles Lang. expansion (compound adjectives); 'How' questions

第 66 回　Unit 10: Lifestyles 'The secrets of a long life' writing & discussion

第 67 回　Unit 10: Lifestyles Video journal; the science of stress

第 68 回　Class set book - activities

第 69 回　Unit 11: Achievements Vocab for daily chores; grammar — present perfect tense

第 70 回	Unit 11: Achievements Listening; pronunciation; job interviews
第 71 回	Unit 11: Achievements Lang. expansion (accomplishments); present perfect vs past simple tense
第 72 回	Unit 11: Achievements 'Humanity's greatest achievements' writing & discussion
第 73 回	Unit 11: Achievements Video journal; scientific achievements
第 74 回	Personal book choice — discussion, review & recommendation
第 75 回	Unit 12: Consequences Vocab for money; grammar — first conditionals
第 76 回	Unit 12: Consequences Listening; pronunciation; planning travel budgets
第 77 回	Unit 12: Consequences Lang. expansion (habitats); conditionals continued
第 78 回	Unit 12: Consequences 'How to buy happiness' writing & discussion
第 79 回	Unit 12: Consequences Video journal; consequences of climate change
第 80 回	Poster presentation on personal book choice
第 81 回	Language & skills extension with TED Talks (Diana Reiss et al) (1)
第 82 回	Language & skills extension with TED Talks (Diana Reiss et al) (2)
第 83 回	Grammar & vocab review Units 1-4
第 84 回	Grammar & vocab review Units 5-8
第 85 回	Grammar & vocab review Units 9-12
第 86 回	Language & skills extension with TED Talks (Michael Norton)
第 87 回	Practice for speaking tests
第 88 回	Written vocab & grammar test Review
第 89 回	Speaking test Review
第 90 回	Self-evaluation of reading skills, progress and preferences

履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書	著者	出版社	出版年
Reading Power 2, Fourth edition	Linda Jeffries and Beatrice S. Mikulecky	Pearson	2009
World English 1, Second Edition, Combo Split 1B with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	
World English 1, Second edition, Combo Split 1A with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015
X-reading			
キングジム C ファイル透明 40P 186 TSPW 透明（362 円）	生協で購入してください		

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート	20	小テスト	10
授業中課題	30	授業中発表等	20

a20101a316

参加度	20

成績評価方法の備考

Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments. Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

シ ラ バ ス

講義名称	EAP Ⅱ ＜a＞		
クラス		配当回生	学部１回生
講義期間	後期	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	エリス，メグ.西村　友美.マルヴィー，アラン		

テーマ

Bridging period to Academic English (EAP III)

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to raise students' awareness of conscious and accurate language use through tasks across all skill areas, including grammar and writing. Active and collaborative learning continues.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Development of reading skill and grammar accuracy is emphasized.　Students are required to actively engage in tasks about a variety of topics including explaining and describing features of Japanese and world culture. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas.　Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. * Classes will be conducted in English only.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required.　In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内容

第１回	Unit 1: Food from the Earth, Vocab & grammar ― simple present & continuous; discussion
第２回	Unit 1: Food from the Earth, Focused listening ―　interview
第３回	Unit 1: Food from the Earth, Language expansion　― food staples; grammar ― simple past regular & irregular
第４回	Extensive Reading Intro; course outline and expectations; review of summer reading
第５回	Grammar and Writing Intro ― outline & expectations
第６回	Folio Introduction and outlines; beginning a journal & folio
第７回	Unit 2: Express yourself, Vocab & grammar ― present perfect; discussion
第８回	Unit 2: Express yourself, General listening ― small talk
第９回	Unit 2: Express yourself, Lang expansion ― small talk; grammar ― already, ever, never, yet
第 10 回	Reading: Pt 3 Unit 1 ― previewing skills; book discussion
第 11 回	Grammar: Pt 1 Units 1&2 ― 'Be' present tense; written, oral, pronunciation practice
第 12 回	Use the grammar to: Write about your favorite dishes & your local specialty food; edit grammar, 100-200 words
第 13 回	Unit 3: Cities, Vocab & grammar ― future　with 'will'; discussion
第 14 回	Unit 3: Cities, General & focused listening ― radio interview
第 15 回	Unit 3: Cities, Lang expansion ― maps; grammar ― will + time clauses
第 16 回	Reading, Pt 3 Unit 2 ― scanning skills; book discussion
第 17 回	Grammar: Pt 1 Unit 3 ― 'Be' past; written, oral, pron.
第 18 回	Interview partner about childhood, write description; edit grammar, 100+ words
第 19 回	TED intensive ― The shared experience of absurdity Vocab & video review; analysis (TED)
第 20 回	TED intensive ― The shared experience of absurdity Vocab, discussion & video (TED)
第 21 回	TED intensive ― The shared experience of absurdity Video review & project (TED)
第 22 回	Reading: Pt 3 Unit 3 ― inferring skills;　book discussion
第 23 回	Grammar: Pt II Units 4 & 5 ― countable / proper nouns, descriptive adj; written, oral, pron.

第 24 回 Folio: Describe your city, positives & negatives, edit grammar, 100—200 words

第 25 回 Unit 4: The Body, Vocab & grammar — comparatives, superlatives, equatives; discussion

第 26 回 Unit 4: The Body, Focused listening — lifestyle discussions

第 27 回 Unit 4: The Body, Lang expansion — everyday ailments; grammar — infinitive of purpose

第 28 回 Reading: Pt 3 Unit 4 — topic skills; book discussion

第 29 回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.

第 30 回 Folio: Make a brochure of your local area — where to go, what to do, map, food, why you like it, 100 — 200 words, edit grammar

第 31 回 Unit 5: Challenges, Vocab and grammar — Past continuous vs. simple past; discussion

第 32 回 Unit 5: Challenges, General listening — interview

第 33 回 Unit 5: Challenges, Lang expansion — phrasal verbs; grammar — past cont. with simple past

第 34 回 Reading: Class set book — activities

第 35 回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.

第 36 回 Folio: Advice for a healthy lifestyle, do/don't list, suggestions, 100—200 words Edit grammar

第 37 回 Unit 6: Transitions, Vocab & grammar —present perfect tense; discussion

第 38 回 Unit 6: Transitions, General & focused listening — radio program

第 39 回 Unit 6: Transitions, Lang expansion — adjectives for age; grammar — How + adj. or adv.

第 40 回 Reading: Personal book choices — discussion, review and recommendations

第 41 回 Grammar: Pt III Units 8,9,10 — simple present statements & ques; written, oral, pron.

第 42 回 Folio: Interview partner — hobbies & adventures; describe self & partner, similar / different, 100—200 words, edit grammar

第 43 回 Unit 1—6, Vocab & grammar review; Speaking test

第 44 回 Unit 1—6, Vocab & grammar review; Written test

第 45 回 Language review & Writing assessment task

第 46 回 Reading: Poster presentation on personal book choice

第 47 回 Grammar: Review / test Units 1—10

第 48 回 Folio: Review journal & folio — what have you learned? What are you good at? What will you work on? 100—200 words

第 49 回 Unit 7: Luxuries, Vocab & grammar — passive voice (present tense); discussion

第 50 回 Unit 7: Luxuries, Focused listening — discussions

第 51 回 Unit 7: Luxuries, Lang expansion — past participles of irregular verbs; grammar — passive voice with 'by'

第 52 回 Reading: Pt 3 Unit 5 — paragraph skills; book discussion

第 53 回 Grammar: Pt IV Units 11 & 12 — there is/are; possessives; written, oral, pron.

第 54 回 Folio: Write a detailed description of your room. 100 words, edit grammar

第 55 回 Unit 8, Nature, Vocab & grammar — real future conditionals; discussion

第 56 回 Unit 8, Nature, General & focused listening — radio program

第 57 回 Unit 8, Nature, Lang expansion — adverbs of manner; grammar — review of quantifiers

第 58 回 Reading: Pt 3 Unit 6 — organization patterns; book discussion

第 59 回 Grammar: Pt IV Units 13&14 — modals for ability & permission; written, oral, pron.

第 60 回 Folio: Homestay roleplay, letter home about homestay experience, 100—200 words, edit grammar

第 61 回 Unit 9, Life in the past, Vocab & grammar — 'used to'; discussion

第 62 回 Unit 9, Life in the past, General & focused listening — a lecture

第 63 回 Unit 9, Life in the past, Lang expansion — separable phrasal verbs; grammar — passive voice in the past

第 64 回 Reading: Pt 3 Unit 7 — thinking in English; book discussion

第 65 回 Grammar: Pt V Unit 15 & 16 — present progressive statements & questions; written, oral, pron.

第 66 回 Folio: Homestay roleplay, letter home about homestay experience, 100—200 words, edit grammar

第 67 回 Unit 10, Travel, Vocab & grammar — modals of necessity; discussion

第 68 回 Unit 10, Travel, General & focused listening — conversations

第 69 回 Unit 10, Travel, Lang expansion — at the airport; grammar — modals for prohibition

第 70 回	Reading: Class set book — activities
第 71 回	Grammar: Pt V Unit 17 — simple pres. vs. pres. progressive; written, oral, pron.
第 72 回	Folio: Journal — how do you feel about university? Write about your daily life at KTU. 100—200 words, edit grammar
第 73 回	Unit 11, Careers, Lang expansion — at the airport; grammar — modals for prohibition
第 74 回	Unit 11, Careers, General & focused listening — interview
第 75 回	Unit 11, Careers, Lang expansion — participial adjectives; grammar — indefinite pronouns
第 76 回	Reading: Personal book choice — discussion, review & recommendation
第 77 回	Grammar: Pt VI Units 18 & 19 — simple past; written, oral, pron.
第 78 回	Folio: Write about a great / terrible travel experience. 100—200 words, edit grammar
第 79 回	Unit 12, Celebrations, Vocab & grammar — comparisons with 'as….as'; discussion
第 80 回	Unit 12, Celebrations, General & focused listening — discussions
第 81 回	Unit 12, Celebrations, Lang expansion — expressions for celebrations; grammar — would rather
第 82 回	Reading: Poster presentation on personal book choice
第 83 回	Grammar: Pt VI Unit 20 — simple past questions; written, oral, pron.
第 84 回	Folio: Imagine — interview person from the past (e.g. Genghis Khan). 10 questions + 10 answers. Edit grammar
第 85 回	Unit 1-12 Review, Speaking test
第 86 回	Unit 1-12 Review, Written test
第 87 回	Language Review & Writing assessment task
第 88 回	Self—evaluation of reading skills, progress and preferences
第 89 回	Grammar Review and written test
第 90 回	Journal review & self—evaluation from week 1 to week 15

履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書	著者	出版社	出版年
World English 2, 2nd edition, Combo Split 2A with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015
World English 2, 2nd edition, Combo Split 2B with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015

X-reading (前期から継続使用)

Reading Power 2 (前期から継続使用)

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート	15	小テスト	5
授業中課題	35	授業中発表等	30
参加度	15		

成績評価方法の備考

Students are required to have passed EAP I in order to undertake this course. Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments. Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

シ ラ バ ス

講義名称	EAP Ⅱ <b>		
クラス		配当回生	学部 1 回生
講義期間	後期	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	弥永　啓子.末澤　奈津子.タット，クリスティナ.ツァオ，ドン		

テーマ

Bridging period to Academic English (EAP III)

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to raise students' awareness of conscious and accurate language use through tasks across all skill areas, including grammar and writing. Active and collaborative learning continues.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Development of reading skill and grammar accuracy is emphasized. Students are required to actively engage in tasks about a variety of topics including explaining and describing features of Japanese and world culture. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. * Classes will be conducted in English only.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内容

第 1 回	Unit 1: Food from the Earth, Vocab & grammar — simple present & continuous; discussion
第 2 回	Unit 1: Food from the Earth, Focused listening — interview
第 3 回	Unit 1: Food from the Earth, Language expansion — food staples; grammar — simple past regular & irregular
第 4 回	Extensive Reading Intro; course outline and expectations; review of summer reading
第 5 回	Grammar and Writing Intro — outline & expectations
第 6 回	Folio Introduction and outlines; beginning a journal & folio
第 7 回	Unit 2: Express yourself, Vocab & grammar — present perfect; discussion
第 8 回	Unit 2: Express yourself, General listening — small talk
第 9 回	Unit 2: Express yourself, Lang expansion — small talk; grammar — already, ever, never, yet
第 10 回	Reading: Pt 3 Unit 1 — previewing skills; book discussion
第 11 回	Grammar: Pt 1 Units 1&2 — 'Be' present tense; written, oral, pronunciation practice
第 12 回	Use the grammar to: Write about your favorite dishes & your local specialty food; edit grammar, 100-200 words
第 13 回	Unit 3: Cities, Vocab & grammar — future with 'will'; discussion
第 14 回	Unit 3: Cities, General & focused listening — radio interview
第 15 回	Unit 3: Cities, Lang expansion — maps; grammar — will + time clauses
第 16 回	Reading, Pt 3 Unit 2 — scanning skills; book discussion
第 17 回	Grammar: Pt 1 Unit 3 — 'Be' past; written, oral, pron.
第 18 回	Interview partner about childhood, write description; edit grammar, 100+ words
第 19 回	TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab & video review; analysis (TED)
第 20 回	TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab, discussion & video (TED)
第 21 回	TED intensive — The shared experience of absurdity Video review & project (TED)
第 22 回	Reading: Pt 3 Unit 3 — inferring skills; book discussion
第 23 回	Grammar: Pt II Units 4 & 5 — countable / proper nouns, descriptive adj; written, oral, pron.

第 24 回 Folio: Describe your city, positives & negatives, edit grammar, 100—200 words

第 25 回 Unit 4: The Body, Vocab & grammar — comparatives, superlatives, equatives; discussion

第 26 回 Unit 4: The Body, Focused listening — lifestyle discussions

第 27 回 Unit 4: The Body, Lang expansion — everyday ailments; grammar — infinitive of purpose

第 28 回 Reading: Pt 3 Unit 4 — topic skills; book discussion

第 29 回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.

第 30 回 Folio: Make a brochure of your local area — where to go, what to do, map, food, why you like it, 100 — 200 words, edit grammar

第 31 回 Unit 5: Challenges, Vocab and grammar — Past continuous vs. simple past; discussion

第 32 回 Unit 5: Challenges, General listening — interview

第 33 回 Unit 5: Challenges, Lang expansion — phrasal verbs; grammar — past cont. with simple past

第 34 回 Reading: Class set book — activities

第 35 回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.

第 36 回 Folio: Advice for a healthy lifestyle, do/don't list, suggestions, 100—200 words Edit grammar

第 37 回 Unit 6: Transitions, Vocab & grammar —present perfect tense; discussion

第 38 回 Unit 6: Transitions, General & focused listening — radio program

第 39 回 Unit 6: Transitions, Lang expansion — adjectives for age; grammar — How + adj. or adv.

第 40 回 Reading: Personal book choices — discussion, review and recommendations

第 41 回 Grammar: Pt III Units 8,9,10 — simple present statements & ques; written, oral, pron.

第 42 回 Folio: Interview partner — hobbies & adventures; describe self & partner, similar / different, 100—200 words, edit grammar

第 43 回 Unit 1—6, Vocab & grammar review; Speaking test

第 44 回 Unit 1—6, Vocab & grammar review; Written test

第 45 回 Language review & Writing assessment task

第 46 回 Reading: Poster presentation on personal book choice

第 47 回 Grammar: Review / test Units 1—10

第 48 回 Folio: Review journal & folio — what have you learned? What are you good at? What will you work on? 100—200 words

第 49 回 Unit 7: Luxuries, Vocab & grammar — passive voice (present tense); discussion

第 50 回 Unit 7: Luxuries, Focused listening — discussions

第 51 回 Unit 7: Luxuries, Lang expansion — past participles of irregular verbs; grammar — passive voice with 'by'

第 52 回 Reading: Pt 3 Unit 5 — paragraph skills; book discussion

第 53 回 Grammar: Pt IV Units 11 & 12 — there is/are; possessives; written, oral, pron.

第 54 回 Folio: Write a detailed description of your room. 100 words, edit grammar

第 55 回 Unit 8, Nature, Vocab & grammar — real future conditionals; discussion

第 56 回 Unit 8, Nature, General & focused listening — radio program

第 57 回 Unit 8, Nature, Lang expansion — adverbs of manner; grammar — review of quantifiers

第 58 回 Reading: Pt 3 Unit 6 — organization patterns; book discussion

第 59 回 Grammar: Pt IV Units 13&14 — modals for ability & permission; written, oral, pron.

第 60 回 Folio: Homestay roleplay, letter home about homestay experience, 100—200 words, edit grammar

第 61 回 Unit 9, Life in the past, Vocab & grammar — 'used to'; discussion

第 62 回 Unit 9, Life in the past, General & focused listening — a lecture

第 63 回 Unit 9, Life in the past, Lang expansion — separable phrasal verbs; grammar — passive voice in the past

第 64 回 Reading: Pt 3 Unit 7 — thinking in English; book discussion

第 65 回 Grammar: Pt V Unit 15 & 16 — present progressive statements & questions; written, oral, pron.

第 66 回 Folio: Homestay roleplay, letter home about homestay experience, 100—200 words, edit grammar

第 67 回 Unit 10, Travel, Vocab & grammar — modals of necessity; discussion

第 68 回 Unit 10, Travel, General & focused listening — conversations

第 69 回 Unit 10, Travel, Lang expansion — at the airport; grammar — modals for prohibition

第 70 回	Reading: Class set book — activities
第 71 回	Grammar: Pt V Unit 17 — simple pres. vs. pres. progressive; written, oral, pron.
第 72 回	Folio: Journal — how do you feel about university? Write about your daily life at KTU. 100–200 words, edit grammar
第 73 回	Unit 11, Careers, Lang expansion — at the airport; grammar — modals for prohibition
第 74 回	Unit 11, Careers, General & focused listening — interview
第 75 回	Unit 11, Careers, Lang expansion — participial adjectives; grammar — indefinite pronouns
第 76 回	Reading: Personal book choice — discussion, review & recommendation
第 77 回	Grammar: Pt VI Units 18 & 19 — simple past; written, oral, pron.
第 78 回	Folio: Write about a great / terrible travel experience. 100–200 words, edit grammar
第 79 回	Unit 12, Celebrations, Vocab & grammar — comparisons with 'as….as'; discussion
第 80 回	Unit 12, Celebrations, General & focused listening — discussions
第 81 回	Unit 12, Celebrations, Lang expansion — expressions for celebrations; grammar — would rather
第 82 回	Reading: Poster presentation on personal book choice
第 83 回	Grammar: Pt VI Unit 20 — simple past questions; written, oral, pron.
第 84 回	Folio: Imagine — interview person from the past (e.g. Genghis Khan). 10 questions + 10 answers. Edit grammar
第 85 回	Unit 1-12 Review, Speaking test
第 86 回	Unit 1-12 Review, Written test
第 87 回	Language Review & Writing assessment task
第 88 回	Self–evaluation of reading skills, progress and preferences
第 89 回	Grammar Review and written test
第 90 回	Journal review & self–evaluation from week 1 to week 15

履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書	著者	出版社	出版年
World English 2, 2nd edition, Combo Split 2A with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015
World English 2, 2nd edition, Combo Split 2B with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015

X-reading (前期から継続使用)

Reading Power 2 (前期から継続使用)

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート	15	小テスト	5
授業中課題	35	授業中発表等	30
参加度	15		

成績評価方法の備考

Students are required to have passed EAP I in order to undertake this course. Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments. Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

シ ラ バ ス

講義名称	EAP Ⅱ ＜c＞		
クラス		配当回生	学部１回生
講義期間	後期	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	小川　享子.タット，クリスティナ.ツァオ，ドン.マルヴィー，アラン		

テーマ

Bridging period to Academic English (EAP III)

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to raise students' awareness of conscious and accurate language use through tasks across all skill areas, including grammar and writing. Active and collaborative learning continues.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Development of reading skill and grammar accuracy is emphasized.　Students are required to actively engage in tasks about a variety of topics including explaining and describing features of Japanese and world culture. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas.　Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. * Classes will be conducted in English only.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required.　In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内容

第１回	Unit 1: Food from the Earth, Vocab & grammar ― simple present & continuous; discussion
第２回	Unit 1: Food from the Earth, Focused listening ―　interview
第３回	Unit 1: Food from the Earth, Language expansion　― food staples; grammar ― simple past regular & irregular
第４回	Extensive Reading Intro; course outline and expectations; review of summer reading
第５回	Grammar and Writing Intro ― outline & expectations
第６回	Folio Introduction and outlines; beginning a journal & folio
第７回	Unit 2: Express yourself, Vocab & grammar ― present perfect; discussion
第８回	Unit 2: Express yourself, General listening ― small talk
第９回	Unit 2: Express yourself, Lang expansion ― small talk; grammar ― already, ever, never, yet
第 10 回	Reading: Pt 3 Unit 1 ― previewing skills; book discussion
第 11 回	Grammar: Pt 1 Units 1&2 ― 'Be' present tense; written, oral, pronunciation practice
第 12 回	Use the grammar to: Write about your favorite dishes & your local specialty food; edit grammar, 100-200 words
第 13 回	Unit 3: Cities, Vocab & grammar ― future　with 'will'; discussion
第 14 回	Unit 3: Cities, General & focused listening ― radio interview
第 15 回	Unit 3: Cities, Lang expansion ― maps; grammar ― will + time clauses
第 16 回	Reading, Pt 3 Unit 2 ― scanning skills; book discussion
第 17 回	Grammar: Pt 1 Unit 3 ― 'Be' past; written, oral, pron.
第 18 回	Interview partner about childhood, write description; edit grammar, 100+ words
第 19 回	TED intensive ― The shared experience of absurdity Vocab & video review; analysis (TED)
第 20 回	TED intensive ― The shared experience of absurdity Vocab, discussion & video (TED)
第 21 回	TED intensive ― The shared experience of absurdity Video review & project (TED)
第 22 回	Reading: Pt 3 Unit 3 ― inferring skills;　book discussion
第 23 回	Grammar: Pt II Units 4 & 5 ― countable / proper nouns, descriptive adj; written, oral, pron.

第 24 回 Folio: Describe your city, positives & negatives, edit grammar, 100—200 words

第 25 回 Unit 4: The Body, Vocab & grammar — comparatives, superlatives, equatives; discussion

第 26 回 Unit 4: The Body, Focused listening — lifestyle discussions

第 27 回 Unit 4: The Body, Lang expansion — everyday ailments; grammar — infinitive of purpose

第 28 回 Reading: Pt 3 Unit 4 — topic skills; book discussion

第 29 回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.

第 30 回 Folio: Make a brochure of your local area — where to go, what to do, map, food, why you like it, 100 — 200 words, edit grammar

第 31 回 Unit 5: Challenges, Vocab and grammar — Past continuous vs. simple past; discussion

第 32 回 Unit 5: Challenges, General listening — interview

第 33 回 Unit 5: Challenges, Lang expansion — phrasal verbs; grammar — past cont. with simple past

第 34 回 Reading: Class set book — activities

第 35 回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.

第 36 回 Folio: Advice for a healthy lifestyle, do/don't list, suggestions, 100—200 words Edit grammar

第 37 回 Unit 6: Transitions, Vocab & grammar —present perfect tense; discussion

第 38 回 Unit 6: Transitions, General & focused listening — radio program

第 39 回 Unit 6: Transitions, Lang expansion — adjectives for age; grammar — How + adj. or adv.

第 40 回 Reading: Personal book choices — discussion, review and recommendations

第 41 回 Grammar: Pt III Units 8,9,10 — simple present statements & ques; written, oral, pron.

第 42 回 Folio: Interview partner — hobbies & adventures; describe self & partner, similar / different, 100—200 words, edit grammar

第 43 回 Unit 1—6, Vocab & grammar review; Speaking test

第 44 回 Unit 1—6, Vocab & grammar review; Written test

第 45 回 Language review & Writing assessment task

第 46 回 Reading: Poster presentation on personal book choice

第 47 回 Grammar: Review / test Units 1—10

第 48 回 Folio: Review journal & folio — what have you learned? What are you good at? What will you work on? 100—200 words

第 49 回 Unit 7: Luxuries, Vocab & grammar — passive voice (present tense); discussion

第 50 回 Unit 7: Luxuries, Focused listening — discussions

第 51 回 Unit 7: Luxuries, Lang expansion — past participles of irregular verbs; grammar — passive voice with 'by'

第 52 回 Reading: Pt 3 Unit 5 — paragraph skills; book discussion

第 53 回 Grammar: Pt IV Units 11 & 12 — there is/are; possessives; written, oral, pron.

第 54 回 Folio: Write a detailed description of your room. 100 words, edit grammar

第 55 回 Unit 8, Nature, Vocab & grammar — real future conditionals; discussion

第 56 回 Unit 8, Nature, General & focused listening — radio program

第 57 回 Unit 8, Nature, Lang expansion — adverbs of manner; grammar — review of quantifiers

第 58 回 Reading: Pt 3 Unit 6 — organization patterns; book discussion

第 59 回 Grammar: Pt IV Units 13&14 — modals for ability & permission; written, oral, pron.

第 60 回 Folio: Homestay roleplay, letter home about homestay experience, 100—200 words, edit grammar

第 61 回 Unit 9, Life in the past, Vocab & grammar — 'used to'; discussion

第 62 回 Unit 9, Life in the past, General & focused listening — a lecture

第 63 回 Unit 9, Life in the past, Lang expansion — separable phrasal verbs; grammar — passive voice in the past

第 64 回 Reading: Pt 3 Unit 7 — thinking in English; book discussion

第 65 回 Grammar: Pt V Unit 15 & 16 — present progressive statements & questions; written, oral, pron.

第 66 回 Folio: Homestay roleplay, letter home about homestay experience, 100—200 words, edit grammar

第 67 回 Unit 10, Travel, Vocab & grammar — modals of necessity; discussion

第 68 回 Unit 10, Travel, General & focused listening — conversations

第 69 回 Unit 10, Travel, Lang expansion — at the airport; grammar — modals for prohibition

第 70 回	Reading: Class set book — activities
第 71 回	Grammar: Pt V Unit 17 — simple pres. vs. pres. progressive; written, oral, pron.
第 72 回	Folio: Journal — how do you feel about university? Write about your daily life at KTU. 100–200 words, edit grammar
第 73 回	Unit 11, Careers, Lang expansion — at the airport; grammar — modals for prohibition
第 74 回	Unit 11, Careers, General & focused listening — interview
第 75 回	Unit 11, Careers, Lang expansion — participial adjectives; grammar — indefinite pronouns
第 76 回	Reading: Personal book choice — discussion, review & recommendation
第 77 回	Grammar: Pt VI Units 18 & 19 — simple past; written, oral, pron.
第 78 回	Folio: Write about a great / terrible travel experience. 100–200 words, edit grammar
第 79 回	Unit 12, Celebrations, Vocab & grammar — comparisons with 'as….as'; discussion
第 80 回	Unit 12, Celebrations, General & focused listening — discussions
第 81 回	Unit 12, Celebrations, Lang expansion — expressions for celebrations; grammar — would rather
第 82 回	Reading: Poster presentation on personal book choice
第 83 回	Grammar: Pt VI Unit 20 — simple past questions; written, oral, pron.
第 84 回	Folio: Imagine — interview person from the past (e.g. Genghis Khan). 10 questions + 10 answers. Edit grammar
第 85 回	Unit 1-12 Review, Speaking test
第 86 回	Unit 1-12 Review, Written test
第 87 回	Language Review & Writing assessment task
第 88 回	Self–evaluation of reading skills, progress and preferences
第 89 回	Grammar Review and written test
第 90 回	Journal review & self–evaluation from week 1 to week 15

履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書	著者	出版社	出版年
World English 2, 2nd edition, Combo Split 2A with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015
World English 2, 2nd edition, Combo Split 2B with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015

X-reading (前期から継続使用)

Reading Power 2 (前期から継続使用)

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート	15	小テスト	5
授業中課題	35	授業中発表等	30
参加度	15		

成績評価方法の備考

Students are required to have passed EAP I in order to undertake this course. Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments. Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

シ ラ バ ス

講義名称	EAP Ⅱ <d>		
クラス		配当回生	学部１回生
講義期間	後期	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	弥永　啓子.タット，クリスティナ.西村　友美.マルヴィー，アラン		

テーマ

Bridging period to Academic English (EAP III)

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to raise students' awareness of conscious and accurate language use through tasks across all skill areas, including grammar and writing. Active and collaborative learning continues.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Development of reading skill and grammar accuracy is emphasized.　Students are required to actively engage in tasks about a variety of topics including explaining and describing features of Japanese and world culture. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas.　Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. * Classes will be conducted in English only.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required.　In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内容

第１回	Unit 1: Food from the Earth, Vocab & grammar ― simple present & continuous; discussion
第２回	Unit 1: Food from the Earth, Focused listening ―　interview
第３回	Unit 1: Food from the Earth, Language expansion　― food staples; grammar ― simple past regular & irregular
第４回	Extensive Reading Intro; course outline and expectations; review of summer reading
第５回	Grammar and Writing Intro ― outline & expectations
第６回	Folio Introduction and outlines; beginning a journal & folio
第７回	Unit 2: Express yourself, Vocab & grammar ― present perfect; discussion
第８回	Unit 2: Express yourself, General listening ― small talk
第９回	Unit 2: Express yourself, Lang expansion ― small talk; grammar ― already, ever, never, yet
第 10 回	Reading: Pt 3 Unit 1 ― previewing skills; book discussion
第 11 回	Grammar: Pt 1 Units 1&2 ― 'Be' present tense; written, oral, pronunciation practice
第 12 回	Use the grammar to: Write about your favorite dishes & your local specialty food; edit grammar, 100-200 words
第 13 回	Unit 3: Cities, Vocab & grammar ― future　with 'will'; discussion
第 14 回	Unit 3: Cities, General & focused listening ― radio interview
第 15 回	Unit 3: Cities, Lang expansion ― maps; grammar ― will + time clauses
第 16 回	Reading, Pt 3 Unit 2 ― scanning skills; book discussion
第 17 回	Grammar: Pt 1 Unit 3 ― 'Be' past; written, oral, pron.
第 18 回	Interview partner about childhood, write description; edit grammar, 100+ words
第 19 回	TED intensive ― The shared experience of absurdity Vocab & video review; analysis (TED)
第 20 回	TED intensive ― The shared experience of absurdity Vocab, discussion & video (TED)
第 21 回	TED intensive ― The shared experience of absurdity Video review & project (TED)
第 22 回	Reading: Pt 3 Unit 3 ― inferring skills;　book discussion
第 23 回	Grammar: Pt II Units 4 & 5 ― countable / proper nouns, descriptive adj; written, oral, pron.

第 24 回 Folio: Describe your city, positives & negatives, edit grammar, 100–200 words

第 25 回 Unit 4: The Body, Vocab & grammar – comparatives, superlatives, equatives; discussion

第 26 回 Unit 4: The Body, Focused listening – lifestyle discussions

第 27 回 Unit 4: The Body, Lang expansion – everyday ailments; grammar – infinitive of purpose

第 28 回 Reading: Pt 3 Unit 4 – topic skills; book discussion

第 29 回 Grammar: Pt II Unit 6 – prepositions of place; written, oral, pron.

第 30 回 Folio: Make a brochure of your local area – where to go, what to do, map, food, why you like it, 100 – 200 words, edit grammar

第 31 回 Unit 5: Challenges, Vocab and grammar – Past continuous vs. simple past; discussion

第 32 回 Unit 5: Challenges, General listening – interview

第 33 回 Unit 5: Challenges, Lang expansion – phrasal verbs; grammar – past cont. with simple past

第 34 回 Reading: Class set book – activities

第 35 回 Grammar: Pt II Unit 6 – prepositions of place; written, oral, pron.

第 36 回 Folio: Advice for a healthy lifestyle, do/don't list, suggestions, 100–200 words Edit grammar

第 37 回 Unit 6: Transitions, Vocab & grammar –present perfect tense; discussion

第 38 回 Unit 6: Transitions, General & focused listening – radio program

第 39 回 Unit 6: Transitions, Lang expansion – adjectives for age; grammar – How + adj. or adv.

第 40 回 Reading: Personal book choices – discussion, review and recommendations

第 41 回 Grammar: Pt III Units 8,9,10 – simple present statements & ques; written, oral, pron.

第 42 回 Folio: Interview partner – hobbies & adventures; describe self & partner, similar / different, 100–200 words, edit grammar

第 43 回 Unit 1–6, Vocab & grammar review; Speaking test

第 44 回 Unit 1–6, Vocab & grammar review; Written test

第 45 回 Language review & Writing assessment task

第 46 回 Reading: Poster presentation on personal book choice

第 47 回 Grammar: Review / test Units 1–10

第 48 回 Folio: Review journal & folio – what have you learned? What are you good at? What will you work on? 100–200 words

第 49 回 Unit 7: Luxuries, Vocab & grammar – passive voice (present tense); discussion

第 50 回 Unit 7: Luxuries, Focused listening – discussions

第 51 回 Unit 7: Luxuries, Lang expansion – past participles of irregular verbs; grammar – passive voice with 'by'

第 52 回 Reading: Pt 3 Unit 5 – paragraph skills; book discussion

第 53 回 Grammar: Pt IV Units 11 & 12 – there is/are; possessives; written, oral, pron.

第 54 回 Folio: Write a detailed description of your room. 100 words, edit grammar

第 55 回 Unit 8, Nature, Vocab & grammar – real future conditionals; discussion

第 56 回 Unit 8, Nature, General & focused listening — radio program

第 57 回 Unit 8, Nature, Lang expansion — adverbs of manner; grammar — review of quantifiers

第 58 回 Reading: Pt 3 Unit 6 – organization patterns; book discussion

第 59 回 Grammar: Pt IV Units 13&14 – modals for ability & permission; written, oral, pron.

第 60 回 Folio: Homestay roleplay, letter home about homestay experience, 100–200 words, edit grammar

第 61 回 Unit 9, Life in the past, Vocab & grammar – 'used to'; discussion

第 62 回 Unit 9, Life in the past, General & focused listening – a lecture

第 63 回 Unit 9, Life in the past, Lang expansion – separable phrasal verbs; grammar – passive voice in the past

第 64 回 Reading: Pt 3 Unit 7 – thinking in English; book discussion

第 65 回 Grammar: Pt V Unit 15 & 16 – present progressive statements & questions; written, oral, pron.

第 66 回 Folio: Homestay roleplay, letter home about homestay experience, 100–200 words, edit grammar

第 67 回 Unit 10, Travel, Vocab & grammar – modals of necessity; discussion

第 68 回 Unit 10, Travel, General & focused listening – conversations

第 69 回 Unit 10, Travel, Lang expansion – at the airport; grammar – modals for prohibition

第 70 回	Reading: Class set book — activities
第 71 回	Grammar: Pt V Unit 17 — simple pres. vs. pres. progressive; written, oral, pron.
第 72 回	Folio: Journal — how do you feel about university? Write about your daily life at KTU. 100—200 words, edit grammar
第 73 回	Unit 11, Careers, Lang expansion — at the airport; grammar — modals for prohibition
第 74 回	Unit 11, Careers, General & focused listening — interview
第 75 回	Unit 11, Careers, Lang expansion — participial adjectives; grammar — indefinite pronouns
第 76 回	Reading: Personal book choice — discussion, review & recommendation
第 77 回	Grammar: Pt VI Units 18 & 19 — simple past; written, oral, pron.
第 78 回	Folio: Write about a great / terrible travel experience. 100—200 words, edit grammar
第 79 回	Unit 12, Celebrations, Vocab & grammar — comparisons with 'as….as'; discussion
第 80 回	Unit 12, Celebrations, General & focused listening — discussions
第 81 回	Unit 12, Celebrations, Lang expansion — expressions for celebrations; grammar — would rather
第 82 回	Reading: Poster presentation on personal book choice
第 83 回	Grammar: Pt VI Unit 20 — simple past questions; written, oral, pron.
第 84 回	Folio: Imagine — interview person from the past (e.g. Genghis Khan). 10 questions + 10 answers. Edit grammar
第 85 回	Unit 1-12 Review, Speaking test
第 86 回	Unit 1-12 Review, Written test
第 87 回	Language Review & Writing assessment task
第 88 回	Self—evaluation of reading skills, progress and preferences
第 89 回	Grammar Review and written test
第 90 回	Journal review & self—evaluation from week 1 to week 15

履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書	著者	出版社	出版年
World English 2, 2nd edition, Combo Split 2A with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015
World English 2, 2nd edition, Combo Split 2B with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015

X-reading (前期から継続使用)

Reading Power 2 (前期から継続使用)

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート	15	小テスト	5
授業中課題	35	授業中発表等	30
参加度	15		

成績評価方法の備考

Students are required to have passed EAP I in order to undertake this course. Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments. Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

シ ラ バ ス

講義名称	EAP Ⅱ ＜e＞		
クラス		配当回生	学部１回生
講義期間	後期	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	エリス，メグ.大久保　友博.小川　享子.ツァオ，ドン		

テーマ

Bridging period to Academic English (EAP III)

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to raise students' awareness of conscious and accurate language use through tasks across all skill areas, including grammar and writing. Active and collaborative learning continues.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Development of reading skill and grammar accuracy is emphasized.　Students are required to actively engage in tasks about a variety of topics including explaining and describing features of Japanese and world culture. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas.　Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. * Classes will be conducted in English only.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required.　In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内容

第１回	Unit 1: Food from the Earth, Vocab & grammar ― simple present & continuous; discussion
第２回	Unit 1: Food from the Earth, Focused listening ―　interview
第３回	Unit 1: Food from the Earth, Language expansion　― food staples; grammar ― simple past regular & irregular
第４回	Extensive Reading Intro; course outline and expectations; review of summer reading
第５回	Grammar and Writing Intro ― outline & expectations
第６回	Folio Introduction and outlines; beginning a journal & folio
第７回	Unit 2: Express yourself, Vocab & grammar ― present perfect; discussion
第８回	Unit 2: Express yourself, General listening ― small talk
第９回	Unit 2: Express yourself, Lang expansion ― small talk; grammar ― already, ever, never, yet
第 10 回	Reading: Pt 3 Unit 1 ― previewing skills; book discussion
第 11 回	Grammar: Pt 1 Units 1&2 ― 'Be' present tense; written, oral, pronunciation practice
第 12 回	Use the grammar to: Write about your favorite dishes & your local specialty food; edit grammar, 100-200 words
第 13 回	Unit 3: Cities, Vocab & grammar ― future　with 'will'; discussion
第 14 回	Unit 3: Cities, General & focused listening ― radio interview
第 15 回	Unit 3: Cities, Lang expansion ― maps; grammar ― will + time clauses
第 16 回	Reading, Pt 3 Unit 2 ― scanning skills; book discussion
第 17 回	Grammar: Pt 1 Unit 3 ― 'Be' past; written, oral, pron.
第 18 回	Interview partner about childhood, write description; edit grammar, 100+ words
第 19 回	TED intensive ― The shared experience of absurdity Vocab & video review; analysis (TED)
第 20 回	TED intensive ― The shared experience of absurdity Vocab, discussion & video (TED)
第 21 回	TED intensive ― The shared experience of absurdity Video review & project (TED)
第 22 回	Reading: Pt 3 Unit 3 ― inferring skills;　book discussion
第 23 回	Grammar: Pt II Units 4 & 5 ― countable / proper nouns, descriptive adj; written, oral, pron.

第 24 回 Folio: Describe your city, positives & negatives, edit grammar, 100—200 words

第 25 回 Unit 4: The Body, Vocab & grammar — comparatives, superlatives, equatives; discussion

第 26 回 Unit 4: The Body, Focused listening — lifestyle discussions

第 27 回 Unit 4: The Body, Lang expansion — everyday ailments; grammar — infinitive of purpose

第 28 回 Reading: Pt 3 Unit 4 — topic skills; book discussion

第 29 回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.

第 30 回 Folio: Make a brochure of your local area — where to go, what to do, map, food, why you like it, 100 — 200 words, edit grammar

第 31 回 Unit 5: Challenges, Vocab and grammar — Past continuous vs. simple past; discussion

第 32 回 Unit 5: Challenges, General listening — interview

第 33 回 Unit 5: Challenges, Lang expansion — phrasal verbs; grammar — past cont. with simple past

第 34 回 Reading: Class set book — activities

第 35 回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.

第 36 回 Folio: Advice for a healthy lifestyle, do/don't list, suggestions, 100—200 words Edit grammar

第 37 回 Unit 6: Transitions, Vocab & grammar —present perfect tense; discussion

第 38 回 Unit 6: Transitions, General & focused listening — radio program

第 39 回 Unit 6: Transitions, Lang expansion — adjectives for age; grammar — How + adj. or adv.

第 40 回 Reading: Personal book choices — discussion, review and recommendations

第 41 回 Grammar: Pt III Units 8,9,10 — simple present statements & ques; written, oral, pron.

第 42 回 Folio: Interview partner — hobbies & adventures; describe self & partner, similar / different, 100—200 words, edit grammar

第 43 回 Unit 1—6, Vocab & grammar review; Speaking test

第 44 回 Unit 1—6, Vocab & grammar review; Written test

第 45 回 Language review & Writing assessment task

第 46 回 Reading: Poster presentation on personal book choice

第 47 回 Grammar: Review / test Units 1—10

第 48 回 Folio: Review journal & folio — what have you learned? What are you good at? What will you work on? 100—200 words

第 49 回 Unit 7: Luxuries, Vocab & grammar — passive voice (present tense); discussion

第 50 回 Unit 7: Luxuries, Focused listening — discussions

第 51 回 Unit 7: Luxuries, Lang expansion — past participles of irregular verbs; grammar — passive voice with 'by'

第 52 回 Reading: Pt 3 Unit 5 — paragraph skills; book discussion

第 53 回 Grammar: Pt IV Units 11 & 12 — there is/are; possessives; written, oral, pron.

第 54 回 Folio: Write a detailed description of your room. 100 words, edit grammar

第 55 回 Unit 8, Nature, Vocab & grammar — real future conditionals; discussion

第 56 回 Unit 8, Nature, General & focused listening — radio program

第 57 回 Unit 8, Nature, Lang expansion — adverbs of manner; grammar — review of quantifiers

第 58 回 Reading: Pt 3 Unit 6 — organization patterns; book discussion

第 59 回 Grammar: Pt IV Units 13&14 — modals for ability & permission; written, oral, pron.

第 60 回 Folio: Homestay roleplay, letter home about homestay experience, 100—200 words, edit grammar

第 61 回 Unit 9, Life in the past, Vocab & grammar — 'used to'; discussion

第 62 回 Unit 9, Life in the past, General & focused listening — a lecture

第 63 回 Unit 9, Life in the past, Lang expansion — separable phrasal verbs; grammar — passive voice in the past

第 64 回 Reading: Pt 3 Unit 7 — thinking in English; book discussion

第 65 回 Grammar: Pt V Unit 15 & 16 — present progressive statements & questions; written, oral, pron.

第 66 回 Folio: Homestay roleplay, letter home about homestay experience, 100—200 words, edit grammar

第 67 回 Unit 10, Travel, Vocab & grammar — modals of necessity; discussion

第 68 回 Unit 10, Travel, General & focused listening — conversations

第 69 回 Unit 10, Travel, Lang expansion — at the airport; grammar — modals for prohibition

第 70 回	Reading: Class set book — activities
第 71 回	Grammar: Pt V Unit 17 — simple pres. vs. pres. progressive; written, oral, pron.
第 72 回	Folio: Journal — how do you feel about university? Write about your daily life at KTU. 100–200 words, edit grammar
第 73 回	Unit 11, Careers, Lang expansion — at the airport; grammar — modals for prohibition
第 74 回	Unit 11, Careers, General & focused listening — interview
第 75 回	Unit 11, Careers, Lang expansion — participial adjectives; grammar — indefinite pronouns
第 76 回	Reading: Personal book choice — discussion, review & recommendation
第 77 回	Grammar: Pt VI Units 18 & 19 — simple past; written, oral, pron.
第 78 回	Folio: Write about a great / terrible travel experience. 100–200 words, edit grammar
第 79 回	Unit 12, Celebrations, Vocab & grammar — comparisons with 'as….as'; discussion
第 80 回	Unit 12, Celebrations, General & focused listening — discussions
第 81 回	Unit 12, Celebrations, Lang expansion — expressions for celebrations; grammar — would rather
第 82 回	Reading: Poster presentation on personal book choice
第 83 回	Grammar: Pt VI Unit 20 — simple past questions; written, oral, pron.
第 84 回	Folio: Imagine — interview person from the past (e.g. Genghis Khan). 10 questions + 10 answers. Edit grammar
第 85 回	Unit 1-12 Review, Speaking test
第 86 回	Unit 1-12 Review, Written test
第 87 回	Language Review & Writing assessment task
第 88 回	Self–evaluation of reading skills, progress and preferences
第 89 回	Grammar Review and written test
第 90 回	Journal review & self–evaluation from week 1 to week 15

履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書	著者	出版社	出版年
World English 2, 2nd edition, Combo Split 2A with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015
World English 2, 2nd edition, Combo Split 2B with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015

X-reading (前期から継続使用)

Reading Power 2 (前期から継続使用)

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート	15	小テスト	5
授業中課題	35	授業中発表等	30
参加度	15		

成績評価方法の備考

Students are required to have passed EAP I in order to undertake this course. Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments. Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

a20101a556

シ ラ バ ス

講義名称	EAP Ⅱ <f>		
クラス		配当回生	学部1回生
講義期間	後期	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	エリス，メグ.大久保　友博.末澤　奈津子.ツァオ，ドン		

テーマ

Bridging period to Academic English (EAP III)

授業の到達目標

In order to improve students' proficiency in a short period of time before the 2nd year Study Abroad Program, this course aims to raise students' awareness of conscious and accurate language use through tasks across all skill areas, including grammar and writing. Active and collaborative learning continues.

授業の概要

Students learn English intensively in a small class size. Development of reading skill and grammar accuracy is emphasized. Students are required to actively engage in tasks about a variety of topics including explaining and describing features of Japanese and world culture. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students also must be engaged in learning outside the class to pass the course, including time spent in the Learning Commons and e-learning record. * Classes will be conducted in English only.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In addition, students will maintain a vocabulary notebook with daily updates. Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

内容

第1回	Unit 1: Food from the Earth, Vocab & grammar — simple present & continuous; discussion
第2回	Unit 1: Food from the Earth, Focused listening — interview
第3回	Unit 1: Food from the Earth, Language expansion — food staples; grammar — simple past regular & irregular
第4回	Extensive Reading Intro; course outline and expectations; review of summer reading
第5回	Grammar and Writing Intro — outline & expectations
第6回	Folio Introduction and outlines; beginning a journal & folio
第7回	Unit 2: Express yourself, Vocab & grammar — present perfect; discussion
第8回	Unit 2: Express yourself, General listening — small talk
第9回	Unit 2: Express yourself, Lang expansion — small talk; grammar — already, ever, never, yet
第10回	Reading: Pt 3 Unit 1 — previewing skills; book discussion
第11回	Grammar: Pt 1 Units 1&2 — 'Be' present tense; written, oral, pronunciation practice
第12回	Use the grammar to: Write about your favorite dishes & your local specialty food; edit grammar, 100-200 words
第13回	Unit 3: Cities, Vocab & grammar — future with 'will'; discussion
第14回	Unit 3: Cities, General & focused listening — radio interview
第15回	Unit 3: Cities, Lang expansion — maps; grammar — will + time clauses
第16回	Reading, Pt 3 Unit 2 — scanning skills; book discussion
第17回	Grammar: Pt 1 Unit 3 — 'Be' past; written, oral, pron.
第18回	Interview partner about childhood, write description; edit grammar, 100+ words
第19回	TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab & video review; analysis (TED)
第20回	TED intensive — The shared experience of absurdity Vocab, discussion & video (TED)
第21回	TED intensive — The shared experience of absurdity Video review & project (TED)
第22回	Reading: Pt 3 Unit 3 — inferring skills; book discussion
第23回	Grammar: Pt II Units 4 & 5 — countable / proper nouns, descriptive adj; written, oral, pron.

第 24 回 Folio: Describe your city, positives & negatives, edit grammar, 100—200 words

第 25 回 Unit 4: The Body, Vocab & grammar — comparatives, superlatives, equatives; discussion

第 26 回 Unit 4: The Body, Focused listening — lifestyle discussions

第 27 回 Unit 4: The Body, Lang expansion — everyday ailments; grammar — infinitive of purpose

第 28 回 Reading: Pt 3 Unit 4 — topic skills; book discussion

第 29 回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.

第 30 回 Folio: Make a brochure of your local area — where to go, what to do, map, food, why you like it, 100 — 200 words, edit grammar

第 31 回 Unit 5: Challenges, Vocab and grammar — Past continuous vs. simple past; discussion

第 32 回 Unit 5: Challenges, General listening — interview

第 33 回 Unit 5: Challenges, Lang expansion — phrasal verbs; grammar — past cont. with simple past

第 34 回 Reading: Class set book — activities

第 35 回 Grammar: Pt II Unit 6 — prepositions of place; written, oral, pron.

第 36 回 Folio: Advice for a healthy lifestyle, do/don't list, suggestions, 100—200 words Edit grammar

第 37 回 Unit 6: Transitions, Vocab & grammar —present perfect tense; discussion

第 38 回 Unit 6: Transitions, General & focused listening — radio program

第 39 回 Unit 6: Transitions, Lang expansion — adjectives for age; grammar — How + adj. or adv.

第 40 回 Reading: Personal book choices — discussion, review and recommendations

第 41 回 Grammar: Pt III Units 8,9,10 — simple present statements & ques; written, oral, pron.

第 42 回 Folio: Interview partner — hobbies & adventures; describe self & partner, similar / different, 100—200 words, edit grammar

第 43 回 Unit 1—6, Vocab & grammar review; Speaking test

第 44 回 Unit 1—6, Vocab & grammar review; Written test

第 45 回 Language review & Writing assessment task

第 46 回 Reading: Poster presentation on personal book choice

第 47 回 Grammar: Review / test Units 1—10

第 48 回 Folio: Review journal & folio — what have you learned? What are you good at? What will you work on? 100—200 words

第 49 回 Unit 7: Luxuries, Vocab & grammar — passive voice (present tense); discussion

第 50 回 Unit 7: Luxuries, Focused listening — discussions

第 51 回 Unit 7: Luxuries, Lang expansion — past participles of irregular verbs; grammar — passive voice with 'by'

第 52 回 Reading: Pt 3 Unit 5 — paragraph skills; book discussion

第 53 回 Grammar: Pt IV Units 11 & 12 — there is/are; possessives; written, oral, pron.

第 54 回 Folio: Write a detailed description of your room. 100 words, edit grammar

第 55 回 Unit 8, Nature, Vocab & grammar — real future conditionals; discussion

第 56 回 Unit 8, Nature, General & focused listening — radio program

第 57 回 Unit 8, Nature, Lang expansion — adverbs of manner; grammar — review of quantifiers

第 58 回 Reading: Pt 3 Unit 6 — organization patterns; book discussion

第 59 回 Grammar: Pt IV Units 13&14 — modals for ability & permission; written, oral, pron.

第 60 回 Folio: Homestay roleplay, letter home about homestay experience, 100—200 words, edit grammar

第 61 回 Unit 9, Life in the past, Vocab & grammar — 'used to'; discussion

第 62 回 Unit 9, Life in the past, General & focused listening — a lecture

第 63 回 Unit 9, Life in the past, Lang expansion — separable phrasal verbs; grammar — passive voice in the past

第 64 回 Reading: Pt 3 Unit 7 — thinking in English; book discussion

第 65 回 Grammar: Pt V Unit 15 & 16 — present progressive statements & questions; written, oral, pron.

第 66 回 Folio: Homestay roleplay, letter home about homestay experience, 100—200 words, edit grammar

第 67 回 Unit 10, Travel, Vocab & grammar — modals of necessity; discussion

第 68 回 Unit 10, Travel, General & focused listening — conversations

第 69 回 Unit 10, Travel, Lang expansion — at the airport; grammar — modals for prohibition

第 70 回	Reading: Class set book — activities
第 71 回	Grammar: Pt V Unit 17 — simple pres. vs. pres. progressive; written, oral, pron.
第 72 回	Folio: Journal — how do you feel about university? Write about your daily life at KTU. 100–200 words, edit grammar
第 73 回	Unit 11, Careers, Lang expansion — at the airport; grammar — modals for prohibition
第 74 回	Unit 11, Careers, General & focused listening — interview
第 75 回	Unit 11, Careers, Lang expansion — participial adjectives; grammar — indefinite pronouns
第 76 回	Reading: Personal book choice — discussion, review & recommendation
第 77 回	Grammar: Pt VI Units 18 & 19 — simple past; written, oral, pron.
第 78 回	Folio: Write about a great / terrible travel experience. 100–200 words, edit grammar
第 79 回	Unit 12, Celebrations, Vocab & grammar — comparisons with 'as….as'; discussion
第 80 回	Unit 12, Celebrations, General & focused listening — discussions
第 81 回	Unit 12, Celebrations, Lang expansion — expressions for celebrations; grammar — would rather
第 82 回	Reading: Poster presentation on personal book choice
第 83 回	Grammar: Pt VI Unit 20 — simple past questions; written, oral, pron.
第 84 回	Folio: Imagine — interview person from the past (e.g. Genghis Khan). 10 questions + 10 answers. Edit grammar
第 85 回	Unit 1-12 Review, Speaking test
第 86 回	Unit 1-12 Review, Written test
第 87 回	Language Review & Writing assessment task
第 88 回	Self–evaluation of reading skills, progress and preferences
第 89 回	Grammar Review and written test
第 90 回	Journal review & self–evaluation from week 1 to week 15

履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.

教科書	著者	出版社	出版年
World English 2, 2nd edition, Combo Split 2A with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015
World English 2, 2nd edition, Combo Split 2B with Online Workbook	Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase	Cengage	2015

X-reading (前期から継続使用)

Reading Power 2 (前期から継続使用)

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート	15	小テスト	5
授業中課題	35	授業中発表等	30
参加度	15		

成績評価方法の備考

Students are required to have passed EAP I in order to undertake this course. Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments. Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the Skype course to achieve a passing grade.

シ ラ バ ス

講義名称	EAP Ⅲ <T>		
クラス		配当回生	学部２回生
講義期間	前期	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	エリス，メグ.タット，クリスティナ.ドール，モーガン		

テーマ

Academic English (EAP III) provides skills for the students' Study Abroad Program, including both practical academic skills, and real life communication skills.

授業の到達目標

This aims to provide students with practical ability in using English in an academic setting, particularly with regard to writing and Presentation Skill Practice, while also improving reading, speaking and listening ability.　In addition, the use of natural spoken English in everyday situations will be improved.　This combination of academic and natural spoken English will prepare the students for all aspects of language use in their Study Abroad Program in the second semester of this year. Active and collaborative learning continues.

授業の概要

Students continue to learn English intensively in a small class size. Development of academic writing, presentation, and reading skills is emphasized. The advanced grammar required to produce and fully comprehend academic texts is learned. Students are required to actively engage in tasks about a variety of topics including explaining and describing features of Japanese and world culture, and discussing important social issues. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students will also practice the use of natural spoken English in real-life settings, with a focus on confident and natural production. * Classes will be conducted in English only.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In particular, weekly reading tasks are necessary preparation for writing, reading and presentation lessons. Regular writing and presentation assessment tasks throughout the semester pr

内容

第１回	Introduction to Academic Reading, Writing and Presentation Reading (1) Marketing 1
第２回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (1) Unit 1 Skill: Writing a descriptive paragraph
第３回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (1) Presentation Skill Practice
第４回	Grammar (1): Articles, determiners, qualifiers
第５回	Situational English (1): Introduction to Situational English
第６回	Situational English (2): Ice breaking role play activities
第７回	Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (2)　Marketing 2
第８回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (2) Unit 1 Writing task/practice
第９回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (2) Preparation for Presentation #1
第 10 回	Grammar (2): Adjectives
第 11 回	Situational English (3): Making new friends (ask and give opinions)
第 12 回	Situational English (4): Making new friends, role play activities
第 13 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (3)　Psychology of color 1
第 14 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (3) Unit 2 Skill: Brainstorming
第 15 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (3) Presentation #1
第 16 回	Grammar (3): Adverbs
第 17 回	Situational English (5): Introducing friends (departments and classes)
第 18 回	Situational English (6): Introducing, role play activities
第 19 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (4)　Psychology of color 2
第 20 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (4) Unit 2 Writing task/practice

第 21 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (4) Presentation Skill Practice

第 22 回　Grammar (4): Prepositions

第 23 回　Situational English (7): Hanging out (advice and information questions)

第 24 回　Situational English (8): Hanging out, role play activities

第 25 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (5)　Social psychology - politeness 1

第 26 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (5) Unit 3 Skill: Supporting your main idea with examples

第 27 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (5) Preparation for Presentation #2

第 28 回　Grammar (5): Linking verbs, passives, questions

第 29 回　Situational English (9): Shared experience (opinions and experiences)

第 30 回　Situational English (10): Shared experience, role play activities

第 31 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (6)　Social psychology - politeness 2

第 32 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (6) Unit 3 Writing task/practice

第 33 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (6) Presentation #2

第 34 回　Grammar (6): Adverbial clauses & conjunctions

第 35 回　Situational English (11): Classroom questions (ask for explanations)

第 36 回　Situational English (12): Classroom questions, role play activities

第 37 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (7)　Sociology - sports1

第 38 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (7) Unit 4 Skill: Writing an opinion paragraph

第 39 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (7) Presentation Skill Practice

第 40 回　Grammar (7): Adverbial clauses & conjunctions cont.

第 41 回　Situational English (13): Request to teacher (polite requests & reasons)

第 42 回　Situational English (14): Request to teacher, role play activities

第 43 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (8)　Sociology - sports 2

第 44 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (8) Unit 4 Writing task/practice

第 45 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (8) Preparation for Presentation #3

第 46 回　Grammar (8): Adverbial clauses & conjunctions cont.

第 47 回　Situational English (15): Explaining absence (future tense)

第 48 回　Situational English (16): Explaining absence, role play activities

第 49 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (9)　Business 1

第 50 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (9) Unit 5 Skill: Unity in a paragraph

第 51 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (9) Presentation #3

第 52 回　Grammar (9): Relative clauses

第 53 回　Situational English (17): Inviting friends (suggestions & plans)

第 54 回　Situational English (18): Inviting friends, role play activities

第 55 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (10)　Business 2

第 56 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (10) Unit 5 Writing task/practice

第 57 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (10) Presentation Skill Practice

第 58 回　Grammar (10): Relative clauses cont.

第 59 回　Situational English (19): Eating out (describing foods and present perfect)

第 60 回　Situational English (20): Eating out, role play activities

第 61 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (11)　Information Technology 1

第 62 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (11) Unit 6 Skill: Describing a process

第 63 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (11) Preparation for Presentation #4

第 64 回　Grammar (11): Organizing information

第 65 回　Situational English (21): Group conversations (opinions)

第 66 回　Situational English (22): Group conversations, role play activities

第 67 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (12)　Information Technology 2
第 68 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (12) Unit 6 Writing task/practice
第 69 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (12) Presentation #4
第 70 回	Grammar (12): Organizing information cont.
第 71 回	Situational English (23): Encourage friends (encouragement expressions)
第 72 回	Situational English (24): Encourage friends, role play activities
第 73 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (13)　Environmental Studies - Rubbish & recycling 1
第 74 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (13) Unit 7 Skill: Using sentence variety
第 75 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (13) Presentation Skill Practice
第 76 回	Grammar (13): Pronouns, substitutions, leaving out words
第 77 回	Situational English (25): Reaching group consensus (polite rejection, adding reasons)
第 78 回	Situational English (26): Reaching group consensus, role play activities
第 79 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (14)　Environmental Studies - Rubbish & recycling 2
第 80 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (14) Unit 7 Writing task/practice
第 81 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (14) Preparation for Presentation #5
第 82 回	Grammar (14): Pronouns, substitutions, leaving out words cont.
第 83 回	Situational English (27): Group tasks and event preparation (offers of help)
第 84 回	Situational English (28): Group tasks and event preparation, role play activities
第 85 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (15)　Consolidation & Feedback (Reading)
第 86 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (15)　Consolidation & Feedback (Writing)
第 87 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (15) Presentation #5
第 88 回	Grammar (15): Verb complementation, Common test and review
第 89 回	Situational English (29): Progress in meetings (offers of help)
第 90 回	Situational English (30): Progress in meetings, role play activities

履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.　Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

教科書	著者	出版社	出版年
Encounters on Campus	Michael P. Critchley	南雲堂	2018
Q: Skills for Success, Reading and Writing 2	Jennifer Bixby	Oxford University Press	
Inside Reading 2, 2nd edition	Lawrence J. Zwier	Oxford University Press	
Advanced Grammar in Use, book without answers, 3rd edition	Martin Hewings	Cambridge University Press	

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート	20	小テスト	5
授業中課題	30	授業中発表等	20
参加度	15		

成績評価方法の備考

Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments. Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the e-learning course to achieve a passing grade.

シ ラ バ ス

講義名称	EAP Ⅲ <E>		
クラス		配当回生	学部２回生
講義期間	前期	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	エリス，メグ.末澤　奈津子.マルヴィー，アラン		

テーマ

Academic English (EAP III) provides skills for the students' Study Abroad Program, including both practical academic skills, and real life communication skills.

授業の到達目標

This aims to provide students with practical ability in using English in an academic setting, particularly with regard to writing and Presentation Skill Practice, while also improving reading, speaking and listening ability.　In addition, the use of natural spoken English in everyday situations will be improved.　This combination of academic and natural spoken English will prepare the students for all aspects of language use in their Study Abroad Program in the second semester of this year. Active and collaborative learning continues.

授業の概要

Students continue to learn English intensively in a small class size. Development of academic writing, presentation, and reading skills is emphasized. The advanced grammar required to produce and fully comprehend academic texts is learned. Students are required to actively engage in tasks about a variety of topics including explaining and describing features of Japanese and world culture, and discussing important social issues. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students will also practice the use of natural spoken English in real-life settings, with a focus on confident and natural production. * Classes will be conducted in English only.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In particular, weekly reading tasks are necessary preparation for writing, reading and presentation lessons. Regular writing and presentation assessment tasks throughout the semester pr

内容

第１回	Introduction to Academic Reading, Writing and Presentation Reading (1) Marketing 1
第２回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (1) Unit 1 Skill: Writing a descriptive paragraph
第３回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (1) Presentation Skill Practice
第４回	Grammar (1): Articles, determiners, qualifiers
第５回	Situational English (1): Introduction to Situational English
第６回	Situational English (2): Ice breaking role play activities
第７回	Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (2)　Marketing 2
第８回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (2) Unit 1 Writing task/practice
第９回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (2) Preparation for Presentation #1
第 10 回	Grammar (2): Adjectives
第 11 回	Situational English (3): Making new friends (ask and give opinions)
第 12 回	Situational English (4): Making new friends, role play activities
第 13 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (3)　Psychology of color 1
第 14 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (3) Unit 2 Skill: Brainstorming
第 15 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (3) Presentation #1
第 16 回	Grammar (3): Adverbs
第 17 回	Situational English (5): Introducing friends (departments and classes)
第 18 回	Situational English (6): Introducing, role play activities
第 19 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (4)　Psychology of color 2
第 20 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (4) Unit 2 Writing task/practice

第 21 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (4) Presentation Skill Practice

第 22 回　Grammar (4): Prepositions

第 23 回　Situational English (7): Hanging out (advice and information questions)

第 24 回　Situational English (8): Hanging out, role play activities

第 25 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (5)　Social psychology - politeness 1

第 26 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (5) Unit 3 Skill: Supporting your main idea with examples

第 27 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (5) Preparation for Presentation #2

第 28 回　Grammar (5): Linking verbs, passives, questions

第 29 回　Situational English (9): Shared experience (opinions and experiences)

第 30 回　Situational English (10): Shared experience, role play activities

第 31 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (6)　Social psychology - politeness 2

第 32 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (6) Unit 3 Writing task/practice

第 33 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (6) Presentation #2

第 34 回　Grammar (6): Adverbial clauses & conjunctions

第 35 回　Situational English (11): Classroom questions (ask for explanations)

第 36 回　Situational English (12): Classroom questions, role play activities

第 37 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (7)　Sociology - sports1

第 38 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (7) Unit 4 Skill: Writing an opinion paragraph

第 39 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (7) Presentation Skill Practice

第 40 回　Grammar (7): Adverbial clauses & conjunctions cont.

第 41 回　Situational English (13): Request to teacher (polite requests & reasons)

第 42 回　Situational English (14): Request to teacher, role play activities

第 43 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (8)　Sociology - sports 2

第 44 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (8) Unit 4 Writing task/practice

第 45 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (8) Preparation for Presentation #3

第 46 回　Grammar (8): Adverbial clauses & conjunctions cont.

第 47 回　Situational English (15): Explaining absence (future tense)

第 48 回　Situational English (16): Explaining absence, role play activities

第 49 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (9)　Business 1

第 50 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (9) Unit 5 Skill: Unity in a paragraph

第 51 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (9) Presentation #3

第 52 回　Grammar (9): Relative clauses

第 53 回　Situational English (17): Inviting friends (suggestions & plans)

第 54 回　Situational English (18): Inviting friends, role play activities

第 55 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (10)　Business 2

第 56 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (10) Unit 5 Writing task/practice

第 57 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (10) Presentation Skill Practice

第 58 回　Grammar (10): Relative clauses cont.

第 59 回　Situational English (19): Eating out (describing foods and present perfect)

第 60 回　Situational English (20): Eating out, role play activities

第 61 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (11)　Information Technology 1

第 62 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (11) Unit 6 Skill: Describing a process

第 63 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (11) Preparation for Presentation #4

第 64 回　Grammar (11): Organizing information

第 65 回　Situational English (21): Group conversations (opinions)

第 66 回　Situational English (22): Group conversations, role play activities

第 67 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (12)　Information Technology 2
第 68 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (12) Unit 6 Writing task/practice
第 69 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (12) Presentation #4
第 70 回	Grammar (12): Organizing information cont.
第 71 回	Situational English (23): Encourage friends (encouragement expressions)
第 72 回	Situational English (24): Encourage friends, role play activities
第 73 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (13)　Environmental Studies - Rubbish & recycling 1
第 74 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (13) Unit 7 Skill: Using sentence variety
第 75 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (13) Presentation Skill Practice
第 76 回	Grammar (13): Pronouns, substitutions, leaving out words
第 77 回	Situational English (25): Reaching group consensus (polite rejection, adding reasons)
第 78 回	Situational English (26): Reaching group consensus, role play activities
第 79 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (14)　Environmental Studies - Rubbish & recycling 2
第 80 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (14) Unit 7 Writing task/practice
第 81 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (14) Preparation for Presentation #5
第 82 回	Grammar (14): Pronouns, substitutions, leaving out words cont.
第 83 回	Situational English (27): Group tasks and event preparation (offers of help)
第 84 回	Situational English (28): Group tasks and event preparation, role play activities
第 85 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (15)　Consolidation & Feedback (Reading)
第 86 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (15)　Consolidation & Feedback (Writing)
第 87 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (15) Presentation #5
第 88 回	Grammar (15): Verb complementation, Common test and review
第 89 回	Situational English (29): Progress in meetings (offers of help)
第 90 回	Situational English (30): Progress in meetings, role play activities

履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.　Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

教科書	著者	出版社	出版年
Encounters on Campus	Michael P. Critchley	南雲堂	2018
Q: Skills for Success, Reading and Writing 2	Jennifer Bixby	Oxford University Press	
Inside Reading 1, 2nd edition	Arline Burgmeier	Oxford University Press	
Advanced Grammar in Use, book without answers, 3rd edition	Martin Hewings	Cambridge University Press	

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート	20	小テスト	5
授業中課題	30	授業中発表等	20
参加度	15		

成績評価方法の備考

Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments. Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the e-learning course to achieve a passing grade.

シ ラ バ ス

講義名称	EAP Ⅲ <Ⅰ>		
クラス		配当回生	学部２回生
講義期間	前期	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	弥永　啓子.タット，クリスティナ.ツァオ，ドン		

テーマ

Academic English (EAP III) provides skills for the students' Study Abroad Program, including both practical academic skills, and real life communication skills.

授業の到達目標

This aims to provide students with practical ability in using English in an academic setting, particularly with regard to writing and Presentation Skill Practice, while also improving reading, speaking and listening ability.　In addition, the use of natural spoken English in everyday situations will be improved.　This combination of academic and natural spoken English will prepare the students for all aspects of language use in their Study Abroad Program in the second semester of this year. Active and collaborative learning continues.

授業の概要

Students continue to learn English intensively in a small class size. Development of academic writing, presentation, and reading skills is emphasized. The advanced grammar required to produce and fully comprehend academic texts is learned. Students are required to actively engage in tasks about a variety of topics including explaining and describing features of Japanese and world culture, and discussing important social issues. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students will also practice the use of natural spoken English in real-life settings, with a focus on confident and natural production. * Classes will be conducted in English only.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In particular, weekly reading tasks are necessary preparation for writing, reading and presentation lessons. Regular writing and presentation assessment tasks throughout the semester pr

内容

第１回	Introduction to Academic Reading, Writing and Presentation Reading (1) Business - Jobs 1
第２回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (1) Writing a main idea and supporting sentences
第３回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (1) Presentation Skill Practice
第４回	Grammar (1) Articles and nouns
第５回	Situational English (1): Introduction to Situational English
第６回	Situational English (2): Ice breaking role play activities
第７回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Reading (2) Business - Jobs 2
第８回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (2) Unit 1 Writing task/practice
第９回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (2) Preparation for Presentation #1
第 10 回	Grammar (2) Pronouns and determiners
第 11 回	Situational English (3): Making new friends (ask and give opinions)
第 12 回	Situational English (4): Making new friends, role play activities
第 13 回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Reading (3) Global studies - Immigration 1
第 14 回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (3) Writing compound sentences with but and so
第 15 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (3) Presentation #1
第 16 回	Grammar (3) Adjectives and adverbs
第 17 回	Situational English (5): Introducing friends (departments and classes)
第 18 回	Situational English (6): Introducing, role play activities
第 19 回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Reading (4) Global studies - Immigration 2
第 20 回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (4) Unit 2 task/practice

第 21 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (4) Presentation Skill Practice

第 22 回　Grammar (4) Conjunctions

第 23 回　Situational English (7): Hanging out (advice and information questions)

第 24 回　Situational English (8): Hanging out, role play activities

第 25 回　Academic Reading, Writing and Presentation:　Reading (5) Sociology - Work/life Balance 1

第 26 回　Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (5) Using correct paragraph structure

第 27 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (5) Preparation for Presentation #2

第 28 回　Grammar (5) Modals

第 29 回　Situational English (9): Shared experience (opinions and experiences)

第 30 回　Situational English (10): Shared experience, role play activities

第 31 回　Academic Reading, Writing and Presentation:　Reading (6) Sociology - Work/life Balance 2

第 32 回　Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (6) Unit 3 task/practice

第 33 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (6) Presentation #2

第 34 回　Grammar (6) If & Wish

第 35 回　Situational English (11): Classroom questions (ask for explanations)

第 36 回　Situational English (12): Classroom questions, role play activities

第 37 回　Academic Reading, Writing and Presentation:　Reading (7) Psychology - Laughter 1

第 38 回　Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (7) Writing a topic sentence

第 39 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (7) Presentation Skill Practice

第 40 回　Grammar (7) Passive

第 41 回　Situational English (13): Request to teacher (polite requests & reasons)

第 42 回　Situational English (14): Request to teacher, role play activities

第 43 回　Academic Reading, Writing and Presentation:　Reading (8) Psychology - Laughter 2

第 44 回　Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (8) Unit 4 task/practice

第 45 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (8) Preparation for Presentation #3

第 46 回　Grammar (8) Questions and auxiliary verbs

第 47 回　Situational English (15): Explaining absence (future tense)

第 48 回　Situational English (16): Explaining absence, role play activities

第 49 回　Academic Reading, Writing and Presentation:　Reading (9) Psychology - Sports 1

第 50 回　Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (9) Writing supporting sentences and details

第 51 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (9) Presentation #3

第 52 回　Grammar (9) Gerunds and Infinitives

第 53 回　Situational English (17): Inviting friends (suggestions & plans)

第 54 回　Situational English (18): Inviting friends, role play activities

第 55 回　Academic Reading, Writing and Presentation:　Reading (10) Psychology - Sports 2

第 56 回　Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (10) Unit 5 task/practice

第 57 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (10) Presentation Skill Practice

第 58 回　Grammar (10) Gerunds and Infinitives Cont.

第 59 回　Situational English (19): Eating out (describing foods and present perfect)

第 60 回　Situational English (20): Eating out, role play activities

第 61 回　Academic Reading, Writing and Presentation:　Reading (11) Ethics - Honesty/Lying 1

第 62 回　Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (11) Writing concluding sentences

第 63 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (11) Preparation for Presentation #4

第 64 回　Grammar (11) Prepositions

第 65 回　Situational English (21): Group conversations (opinions)

第 66 回　Situational English (22): Group conversations, role play activities

第 67 回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Reading (12) Ethics - Honesty/Lying 2
第 68 回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (12) Unit 6 task/practice
第 69 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (12) Presentation #4
第 70 回	Grammar (12) Prepositions continued
第 71 回	Situational English (23): Encourage friends (encouragement expressions)
第 72 回	Situational English (24): Encourage friends, role play activities
第 73 回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Reading (13) Behavioral Science - Childhood/Adulthood 1
第 74 回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (13) Making a timeline to plan your writing
第 75 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (13) Presentation Skill Practice
第 76 回	Grammar (13) Relative clauses
第 77 回	Situational English (25): Reaching group consensus (polite rejection, adding reasons)
第 78 回	Situational English (26): Reaching group consensus, role play activities
第 79 回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Reading (14) Behavioral Science - Childhood/Adulthood 2
第 80 回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (14) Contrasting ideas with however
第 81 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (14) Preparation for Presentation #5
第 82 回	Grammar (14) Relative clauses continued
第 83 回	Situational English (27): Group tasks and event preparation (offers of help)
第 84 回	Situational English (28): Group tasks and event preparation, role play activities
第 85 回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Reading (15) Consolidation & Feedback
第 86 回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (15) Unit 8 task/practice, feedback
第 87 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (15) Presentation #5
第 88 回	Grammar (15): Common test and review
第 89 回	Situational English (29): Progress in meetings (offers of help)
第 90 回	Situational English (30): Progress in meetings, role play activities

履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.　Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

教科書	著者	出版社	出版年
Encounters on Campus	Michael P. Critchley	南雲堂	2018
Q: Skills for Success, Reading and Writing 1, second edition	Jaimie Scanlon	Oxford University Press	
Inside Reading Intro, 2nd edition	Arline Burgmeier	Oxford University Press	
English Grammar in Use, Book without answers, Fourth Edition (British English)	Raymond Murphy	Cambridge University Press	

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート	20	小テスト	5
授業中課題	30	授業中発表等	20
参加度	15		

成績評価方法の備考

Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments. Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the e-learning course to achieve a passing grade.

シ ラ バ ス

講義名称	EAP Ⅲ <M>		
クラス		配当回生	学部２回生
講義期間	前期	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	小川　享子.西村　友美.マルヴィー，アラン		

テーマ

Academic English (EAP III) provides skills for the students' Study Abroad Program, including both practical academic skills, and real life communication skills.

授業の到達目標

This aims to provide students with practical ability in using English in an academic setting, particularly with regard to writing and Presentation Skill Practice, while also improving reading, speaking and listening ability.　In addition, the use of natural spoken English in everyday situations will be improved.　This combination of academic and natural spoken English will prepare the students for all aspects of language use in their Study Abroad Program in the second semester of this year. Active and collaborative learning continues.

授業の概要

Students continue to learn English intensively in a small class size. Development of academic writing, presentation, and reading skills is emphasized. The advanced grammar required to produce and fully comprehend academic texts is learned. Students are required to actively engage in tasks about a variety of topics including explaining and describing features of Japanese and world culture, and discussing important social issues. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students will also practice the use of natural spoken English in real-life settings, with a focus on confident and natural production. * Classes will be conducted in English only.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In particular, weekly reading tasks are necessary preparation for writing, reading and presentation lessons. Regular writing and presentation assessment tasks throughout the semester pr

内容

第１回	Introduction to Academic Reading, Writing and Presentation Reading (1) Business - Jobs 1
第２回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (1) Writing a main idea and supporting sentences
第３回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (1) Presentation Skill Practice
第４回	Grammar (1) Articles and nouns
第５回	Situational English (1): Introduction to Situational English
第６回	Situational English (2): Ice breaking role play activities
第７回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Reading (2) Business - Jobs 2
第８回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (2) Unit 1 Writing task/practice
第９回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (2) Preparation for Presentation #1
第 10 回	Grammar (2) Pronouns and determiners
第 11 回	Situational English (3): Making new friends (ask and give opinions)
第 12 回	Situational English (4): Making new friends, role play activities
第 13 回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Reading (3) Global studies - Immigration 1
第 14 回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (3) Writing compound sentences with but and so
第 15 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (3) Presentation #1
第 16 回	Grammar (3) Adjectives and adverbs
第 17 回	Situational English (5): Introducing friends (departments and classes)
第 18 回	Situational English (6): Introducing, role play activities
第 19 回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Reading (4) Global studies - Immigration 2
第 20 回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (4) Unit 2 task/practice

第 21 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (4) Presentation Skill Practice

第 22 回　Grammar (4) Conjunctions

第 23 回　Situational English (7): Hanging out (advice and information questions)

第 24 回　Situational English (8): Hanging out, role play activities

第 25 回　Academic Reading, Writing and Presentation:　Reading (5) Sociology - Work/life Balance 1

第 26 回　Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (5) Using correct paragraph structure

第 27 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (5) Preparation for Presentation #2

第 28 回　Grammar (5) Modals

第 29 回　Situational English (9): Shared experience (opinions and experiences)

第 30 回　Situational English (10): Shared experience, role play activities

第 31 回　Academic Reading, Writing and Presentation:　Reading (6) Sociology - Work/life Balance 2

第 32 回　Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (6) Unit 3 task/practice

第 33 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (6) Presentation #2

第 34 回　Grammar (6) If & Wish

第 35 回　Situational English (11): Classroom questions (ask for explanations)

第 36 回　Situational English (12): Classroom questions, role play activities

第 37 回　Academic Reading, Writing and Presentation:　Reading (7) Psychology - Laughter 1

第 38 回　Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (7) Writing a topic sentence

第 39 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (7) Presentation Skill Practice

第 40 回　Grammar (7) Passive

第 41 回　Situational English (13): Request to teacher (polite requests & reasons)

第 42 回　Situational English (14): Request to teacher, role play activities

第 43 回　Academic Reading, Writing and Presentation:　Reading (8) Psychology - Laughter 2

第 44 回　Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (8) Unit 4 task/practice

第 45 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (8) Preparation for Presentation #3

第 46 回　Grammar (8) Questions and auxiliary verbs

第 47 回　Situational English (15): Explaining absence (future tense)

第 48 回　Situational English (16): Explaining absence, role play activities

第 49 回　Academic Reading, Writing and Presentation:　Reading (9) Psychology - Sports 1

第 50 回　Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (9) Writing supporting sentences and details

第 51 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (9) Presentation #3

第 52 回　Grammar (9) Gerunds and Infinitives

第 53 回　Situational English (17): Inviting friends (suggestions & plans)

第 54 回　Situational English (18): Inviting friends, role play activities

第 55 回　Academic Reading, Writing and Presentation:　Reading (10) Psychology - Sports 2

第 56 回　Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (10) Unit 5 task/practice

第 57 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (10) Presentation Skill Practice

第 58 回　Grammar (10) Gerunds and Infinitives Cont.

第 59 回　Situational English (19): Eating out (describing foods and present perfect)

第 60 回　Situational English (20): Eating out, role play activities

第 61 回　Academic Reading, Writing and Presentation:　Reading (11) Ethics - Honesty/Lying 1

第 62 回　Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (11) Writing concluding sentences

第 63 回　Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (11) Preparation for Presentation #4

第 64 回　Grammar (11) Prepositions

第 65 回　Situational English (21): Group conversations (opinions)

第 66 回　Situational English (22): Group conversations, role play activities

第 67 回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Reading (12) Ethics - Honesty/Lying 2
第 68 回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (12) Unit 6 task/practice
第 69 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (12) Presentation #4
第 70 回	Grammar (12) Prepositions continued
第 71 回	Situational English (23): Encourage friends (encouragement expressions)
第 72 回	Situational English (24): Encourage friends, role play activities
第 73 回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Reading (13) Behavioral Science - Childhood/Adulthood 1
第 74 回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (13) Making a timeline to plan your writing
第 75 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (13) Presentation Skill Practice
第 76 回	Grammar (13) Relative clauses
第 77 回	Situational English (25): Reaching group consensus (polite rejection, adding reasons)
第 78 回	Situational English (26): Reaching group consensus, role play activities
第 79 回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Reading (14) Behavioral Science - Childhood/Adulthood 2
第 80 回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (14) Contrasting ideas with however
第 81 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (14) Preparation for Presentation #5
第 82 回	Grammar (14) Relative clauses continued
第 83 回	Situational English (27): Group tasks and event preparation (offers of help)
第 84 回	Situational English (28): Group tasks and event preparation, role play activities
第 85 回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Reading (15) Consolidation & Feedback
第 86 回	Academic Reading, Writing and Presentation:　Writing (15) Unit 8 task/practice, feedback
第 87 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (15) Presentation #5
第 88 回	Grammar (15): Common test and review
第 89 回	Situational English (29): Progress in meetings (offers of help)
第 90 回	Situational English (30): Progress in meetings, role play activities

履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.　Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

教科書	著者	出版社	出版年
Encounters on Campus	Michael P. Critchley	南雲堂	2018
Q: Skills for Success, Reading and Writing 1, second edition	Jaimie Scanlon	Oxford University Press	
Inside Reading Intro, 2nd edition	Arline Burgmeier	Oxford University Press	
English Grammar in Use, Book without answers, Fourth Edition (British English)	Raymond Murphy	Cambridge University Press	

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート	20	小テスト	5
授業中課題	30	授業中発表等	20
参加度	15		

成績評価方法の備考

Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments. Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the e-learning course to achieve a passing grade.

シ ラ バ ス

講義名称	EAP Ⅲ <C>		
クラス		配当回生	学部２回生
講義期間	前期	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	弥永　啓子.大久保　友博.ツァオ，ドン.ドール，モーガン		

テーマ

Academic English (EAP III) provides skills for the students' Study Abroad Program, including both practical academic skills, and real life communication skills.

授業の到達目標

This aims to provide students with practical ability in using English in an academic setting, particularly with regard to writing and Presentation Skill Practice, while also improving reading, speaking and listening ability.　In addition, the use of natural spoken English in everyday situations will be improved.　This combination of academic and natural spoken English will prepare the students for all aspects of language use in their Study Abroad Program in the second semester of this year. Active and collaborative learning continues.

授業の概要

Students continue to learn English intensively in a small class size. Development of academic writing, presentation, and reading skills is emphasized. The advanced grammar required to produce and fully comprehend academic texts is learned. Students are required to actively engage in tasks about a variety of topics including explaining and describing features of Japanese and world culture, and discussing important social issues. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students will also practice the use of natural spoken English in real-life settings, with a focus on confident and natural production. * Classes will be conducted in English only.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In particular, weekly reading tasks are necessary preparation for writing, reading and presentation lessons. Regular writing and presentation assessment tasks throughout the semester pr

内容

第１回	Introduction to Academic Reading, Writing and Presentation Reading (1) Textbook introduction
第２回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (1) Textbook introduction, Process and structure revision
第３回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (1) Presentation Skill Practice
第４回	Grammar (1) Articles and nouns
第５回	Situational English (1): Introduction to Situational English
第６回	Situational English (2): Ice breaking role play activities
第７回	Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (2) Chapter 1: Sleep
第８回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (2) Creating topic sentences
第９回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (2) Preparation for Presentation #1
第 10 回	Grammar (2) Pronouns and determiners
第 11 回	Situational English (3): Making new friends (ask and give opinions)
第 12 回	Situational English (4): Making new friends, role play activities
第 13 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (3) Chapter 2: Homestay
第 14 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (3) Improving topic sentences
第 15 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (3) Presentation #1
第 16 回	Grammar (3) Adjectives and adverbs
第 17 回	Situational English (5): Introducing friends (departments and classes)
第 18 回	Situational English (6): Introducing, role play activities
第 19 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (4) Chapter 3: Color idioms
第 20 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (4) Creating supporting sentences

第 21 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (4) Presentation Skill Practice

第 22 回 Grammar (4) Conjunctions

第 23 回 Situational English (7): Hanging out (advice and information questions)

第 24 回 Situational English (8): Hanging out, role play activities

第 25 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (5) Chapter 4: Co-operation

第 26 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (5) Improving supporting sentences

第 27 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (5) Preparation for Presentation #2

第 28 回 Grammar (5) Modals

第 29 回 Situational English (9): Shared experience (opinions and experiences)

第 30 回 Situational English (10): Shared experience, role play activities

第 31 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (6) Chapter 5: Generation Z: Digital Natives

第 32 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (6) Creating detail sentences

第 33 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (6) Presentation #2

第 34 回 Grammar (6) If & wish

第 35 回 Situational English (11): Classroom questions (ask for explanations)

第 36 回 Situational English (12): Classroom questions, role play activities

第 37 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (7) Chapter 6: Business Success

第 38 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (7) Improving detail sentences

第 39 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (7) Presentation Skill Practice

第 40 回 Grammar (7) Passive

第 41 回 Situational English (13): Request to teacher (polite requests & reasons)

第 42 回 Situational English (14): Request to teacher, role play activities

第 43 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (8) Chapter 7: Urban Farming

第 44 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (8) Creating concluding sentences

第 45 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (8) Preparation for Presentation #3

第 46 回 Grammar (8) Questions and auxiliary verbs

第 47 回 Situational English (15): Explaining absence (future tense)

第 48 回 Situational English (16): Explaining absence, role play activities

第 49 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (9) Chapter 8: Live Forever?

第 50 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (9) Format & structure review

第 51 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (9) Presentation #3

第 52 回 Grammar (9) Gerunds and Infinitives

第 53 回 Situational English (17): Inviting friends (suggestions & plans)

第 54 回 Situational English (18): Inviting friends, role play activities

第 55 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (10) Chapter 9: Baseball Fans

第 56 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (10) Unity

第 57 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (10) Presentation Skill Practice

第 58 回 Grammar (10) Gerunds and Infinitives Cont.

第 59 回 Situational English (19): Eating out (describing foods and present perfect)

第 60 回 Situational English (20): Eating out, role play activities

第 61 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (11) Chapter 10: Mobile phones

第 62 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (11) Coherence

第 63 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (11) Preparation for Presentation #4

第 64 回 Grammar (11) Prepositions

第 65 回 Situational English (21): Group conversations (opinions)

第 66 回 Situational English (22): Group conversations, role play activities

第 67 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (12) Chapter 11: Biography
第 68 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (12) Cohesion
第 69 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (12) Presentation #4
第 70 回	Grammar (12) Prepositions cont.
第 71 回	Situational English (23): Encourage friends (encouragement expressions)
第 72 回	Situational English (24): Encourage friends, role play activities
第 73 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (13) Chapter 12: Freshman life
第 74 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (13) Editing techniques and style review
第 75 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (13) Presentation Skill Practice
第 76 回	Grammar (13) Relative clauses
第 77 回	Situational English (25): Reaching group consensus (polite rejection, adding reasons)
第 78 回	Situational English (26): Reaching group consensus, role play activities
第 79 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (14) Chapter 13: Love
第 80 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (14) Elements of essay writing
第 81 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (14) Preparation for Presentation #5
第 82 回	Grammar (14) Relative clauses continued
第 83 回	Situational English (27): Group tasks and event preparation (offers of help)
第 84 回	Situational English (28): Group tasks and event preparation, role play activities
第 85 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (15) Chapter 14: Places to visit
第 86 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (15) Consolidation & feedback
第 87 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (15) Presentation #5
第 88 回	Grammar (15): Common test and review
第 89 回	Situational English (29): Progress in meetings (offers of help)
第 90 回	Situational English (30): Progress in meetings, role play activities

履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.　Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

教科書	著者	出版社	出版年
Encounters on Campus	Michael P. Critchley	南雲堂	2018
English Grammar in Use, Book without answers, Fourth Edition (British English)	Raymond Murphy	Cambridge University Press	2012
Writing Together	Mark D. Stafford	Kinseido	2016
Select Readings, Pre-Intermediate, 2nd edition	Lee, L & Cundersen, E	Oxford University Press	2011

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート	20	小テスト	5
授業中課題	30	授業中発表等	20
参加度	15		

成績評価方法の備考

a20102a215

Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments. Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the e-learning course to achieve a passing grade.

シ ラ バ ス

講義名称	EAP Ⅲ <O>		
クラス		配当回生	学部２回生
講義期間	前期	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	大久保　友博.末澤　奈津子.ドール，モーガン		

テーマ

Academic English (EAP III) provides skills for the students' Study Abroad Program, including both practical academic skills, and real life communication skills.

授業の到達目標

This aims to provide students with practical ability in using English in an academic setting, particularly with regard to writing and Presentation Skill Practice, while also improving reading, speaking and listening ability.　In addition, the use of natural spoken English in everyday situations will be improved.　This combination of academic and natural spoken English will prepare the students for all aspects of language use in their Study Abroad Program in the second semester of this year. Active and collaborative learning continues.

授業の概要

Students continue to learn English intensively in a small class size. Development of academic writing, presentation, and reading skills is emphasized. The advanced grammar required to produce and fully comprehend academic texts is learned. Students are required to actively engage in tasks about a variety of topics including explaining and describing features of Japanese and world culture, and discussing important social issues. One module consists of 8 weeks, at the end of which assessment is given across a range of skill areas. Classes are reorganized based on assessment results. Students will also practice the use of natural spoken English in real-life settings, with a focus on confident and natural production. * Classes will be conducted in English only.

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

A minimum of 2 hours per day of homework and review time is required. In particular, weekly reading tasks are necessary preparation for writing, reading and presentation lessons. Regular writing and presentation assessment tasks throughout the semester pr

内容

第１回	Introduction to Academic Reading, Writing and Presentation Reading (1) Textbook introduction
第２回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (1) Textbook introduction, Process and structure revision
第３回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (1) Presentation Skill Practice
第４回	Grammar (1) Articles and nouns
第５回	Situational English (1): Introduction to Situational English
第６回	Situational English (2): Ice breaking role play activities
第７回	Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (2) Chapter 1: Sleep
第８回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (2) Creating topic sentences
第９回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (2) Preparation for Presentation #1
第 10 回	Grammar (2) Pronouns and determiners
第 11 回	Situational English (3): Making new friends (ask and give opinions)
第 12 回	Situational English (4): Making new friends, role play activities
第 13 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (3) Chapter 2: Homestay
第 14 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (3) Improving topic sentences
第 15 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (3) Presentation #1
第 16 回	Grammar (3) Adjectives and adverbs
第 17 回	Situational English (5): Introducing friends (departments and classes)
第 18 回	Situational English (6): Introducing, role play activities
第 19 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (4) Chapter 3: Color idioms
第 20 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (4) Creating supporting sentences

第 21 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (4) Presentation Skill Practice

第 22 回 Grammar (4) Conjunctions

第 23 回 Situational English (7): Hanging out (advice and information questions)

第 24 回 Situational English (8): Hanging out, role play activities

第 25 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (5) Chapter 4: Co-operation

第 26 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (5) Improving supporting sentences

第 27 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (5) Preparation for Presentation #2

第 28 回 Grammar (5) Modals

第 29 回 Situational English (9): Shared experience (opinions and experiences)

第 30 回 Situational English (10): Shared experience, role play activities

第 31 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (6) Chapter 5: Generation Z: Digital Natives

第 32 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (6) Creating detail sentences

第 33 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (6) Presentation #2

第 34 回 Grammar (6) If & wish

第 35 回 Situational English (11): Classroom questions (ask for explanations)

第 36 回 Situational English (12): Classroom questions, role play activities

第 37 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (7) Chapter 6: Business Success

第 38 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (7) Improving detail sentences

第 39 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (7) Presentation Skill Practice

第 40 回 Grammar (7) Passive

第 41 回 Situational English (13): Request to teacher (polite requests & reasons)

第 42 回 Situational English (14): Request to teacher, role play activities

第 43 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (8) Chapter 7: Urban Farming

第 44 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (8) Creating concluding sentences

第 45 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (8) Preparation for Presentation #3

第 46 回 Grammar (8) Questions and auxiliary verbs

第 47 回 Situational English (15): Explaining absence (future tense)

第 48 回 Situational English (16): Explaining absence, role play activities

第 49 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (9) Chapter 8: Live Forever?

第 50 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (9) Format & structure review

第 51 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (9) Presentation #3

第 52 回 Grammar (9) Gerunds and Infinitives

第 53 回 Situational English (17): Inviting friends (suggestions & plans)

第 54 回 Situational English (18): Inviting friends, role play activities

第 55 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (10) Chapter 9: Baseball Fans

第 56 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (10) Unity

第 57 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (10) Presentation Skill Practice

第 58 回 Grammar (10) Gerunds and Infinitives Cont.

第 59 回 Situational English (19): Eating out (describing foods and present perfect)

第 60 回 Situational English (20): Eating out, role play activities

第 61 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (11) Chapter 10: Mobile phones

第 62 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (11) Coherence

第 63 回 Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (11) Preparation for Presentation #4

第 64 回 Grammar (11) Prepositions

第 65 回 Situational English (21): Group conversations (opinions)

第 66 回 Situational English (22): Group conversations, role play activities

第 67 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (12) Chapter 11: Biography
第 68 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (12) Cohesion
第 69 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (12) Presentation #4
第 70 回	Grammar (12) Prepositions cont.
第 71 回	Situational English (23): Encourage friends (encouragement expressions)
第 72 回	Situational English (24): Encourage friends, role play activities
第 73 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (13) Chapter 12: Freshman life
第 74 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (13) Editing techniques and style review
第 75 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (13) Presentation Skill Practice
第 76 回	Grammar (13) Relative clauses
第 77 回	Situational English (25): Reaching group consensus (polite rejection, adding reasons)
第 78 回	Situational English (26): Reaching group consensus, role play activities
第 79 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (14) Chapter 13: Love
第 80 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (14) Elements of essay writing
第 81 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (14) Preparation for Presentation #5
第 82 回	Grammar (14) Relative clauses continued
第 83 回	Situational English (27): Group tasks and event preparation (offers of help)
第 84 回	Situational English (28): Group tasks and event preparation, role play activities
第 85 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Reading (15) Chapter 14: Places to visit
第 86 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Writing (15) Consolidation & feedback
第 87 回	Academic Reading, Writing and Presentation: Presentation (15) Presentation #5
第 88 回	Grammar (15): Common test and review
第 89 回	Situational English (29): Progress in meetings (offers of help)
第 90 回	Situational English (30): Progress in meetings, role play activities

履修上の注意点

Absences from class without a medical or family need are not acceptable. Students who are more than 30 minutes late to class will be registered as absent.　Lessons missed through absence must be made up at the earliest opportunity (i.e. within the week).

教科書	著者	出版社	出版年
Encounters on Campus	Michael P. Critchley	南雲堂	2018
English Grammar in Use, Book without answers, Fourth Edition (British English)	Raymond Murphy	Cambridge University Press	2012
Writing Together	Mark D. Stafford	Kinseido	2016
Select Readings, Pre-Intermediate, 2nd edition	Lee, L & Cundersen, E	Oxford University Press	2011

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート	20	小テスト	5
授業中課題	30	授業中発表等	20
参加度	15		

成績評価方法の備考

Students are required to achieve a minimum score of 60% in each assessment area (Formal Exam, Quizzes, Class Assignments. Presentations, Attendance) plus teacher recommendation in order to pass the course. In addition, students must complete a minimum of 80% of the e-learning course to achieve a passing grade.

a90104a582

シ ラ バ ス

講義名称	卒業研究（理） ＜b＞		
クラス		配当回生	学部４回生
講義期間	後期集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	堀江　淳		

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる．②研究成果を理解した上で，論考することができる．③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる．④論文作成過程を理解し，実践できる．

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて，論文作成を目指します．論文指導は，コース毎に複数教員による指導体制のもと，行います．

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する．さらに論文作成の過程を十分に習得してください，

内容

第１回	オリエンテーション
第２回	卒業論文発表準備（1）
第３回	卒業論文発表準備（2）
第４回	卒業論文発表準備（3）
第５回	卒業論文発表準備（4）
第６回	卒業論文発表準備（5）
第７回	卒業論文発表準備（6）
第８回	卒業論文発表準備（7）
第９回	卒業論文発表準備（8）
第 10 回	卒業論文発表準備（9）
第 11 回	卒業論文発表準備（10）
第 12 回	卒業論文発表検討会
第 13 回	卒業論文発表準備（11）
第 14 回	卒業論文発表準備（12）
第 15 回	卒業論文発表準備（13）
第 16 回	卒業論文発表準備（14）
第 17 回	卒業論文発表準備（15）
第 18 回	卒業論文発表準備（16）
第 19 回	卒業論文発表会（1）
第 20 回	卒業論文発表会（2）
第 21 回	卒業論文発表会（3）
第 22 回	卒業論文発表会（4）
第 23 回	卒業論文発表会（5）
第 24 回	卒業論文発表会（6）
第 25 回	卒業論文作成（1）
第 26 回	卒業論文作成（2）
第 27 回	卒業論文作成（3）
第 28 回	卒業論文作成（4）
第 29 回	卒業論文作成（5）

a90104a582

第 30 回	卒業論文作成（6）
第 31 回	卒業論文作成（7）
第 32 回	卒業論文作成（8）
第 33 回	卒業論文作成（9）
第 34 回	卒業論文作成（10）
第 35 回	卒業論文作成（11）
第 36 回	卒業論文作成（12）
第 37 回	卒業論文作成（13）
第 38 回	卒業論文作成（14）
第 39 回	卒業論文作成（15）
第 40 回	卒業論文作成（16）
第 41 回	卒業論文作成（17）
第 42 回	卒業論文作成（18）
第 43 回	卒業論文作成（19）
第 44 回	卒業論文作成（20）
第 45 回	総括
第 46 回	
第 47 回	
第 48 回	
第 49 回	
第 50 回	
第 51 回	
第 52 回	
第 53 回	
第 54 回	
第 55 回	
第 56 回	
第 57 回	
第 58 回	
第 59 回	
第 60 回	

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年

a90104a582

成績評価			
試験・レポート	50	小テスト	
授業中課題	10	授業中発表等	20
参加度	20		

成績評価方法の備考

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します． 試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ-ション能力，ディスカッション能力で構成します．

a90104a580

シ ラ バ ス

講義名称	卒業研究（理） ＜a＞		
クラス		配当回生	学部４回生
講義期間	後期集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	村田　伸		

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる． ②研究成果を理解した上で，論考することができる． ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる． ④論文作成過程を理解し，実践できる．

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて，論文作成を目指します． 論文指導は，コース毎に複数教員による指導体制のもと，行います．

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する．さらに論文作成の過程を十分に習得してください，

内容

第１回　オリエンテーション
第２回　卒業論文発表準備（1）
第３回　卒業論文発表準備（2）
第４回　卒業論文発表準備（3）
第５回　卒業論文発表準備（4）
第６回　卒業論文発表準備（5）
第７回　卒業論文発表準備（6）
第８回　卒業論文発表準備（7）
第９回　卒業論文発表準備（8）
第 10 回　卒業論文発表準備（9）
第 11 回　卒業論文発表準備（10）
第 12 回　卒業論文発表検討会
第 13 回　卒業論文発表準備（11）
第 14 回　卒業論文発表準備（12）
第 15 回　卒業論文発表準備（13）
第 16 回　卒業論文発表準備（14）
第 17 回　卒業論文発表準備（15）
第 18 回　卒業論文発表準備（16）
第 19 回　卒業論文発表会（1）
第 20 回　卒業論文発表会（2）
第 21 回　卒業論文発表会（3）
第 22 回　卒業論文発表会（4）
第 23 回　卒業論文発表会（5）
第 24 回　卒業論文発表会（6）
第 25 回　卒業論文作成（1）
第 26 回　卒業論文作成（2）
第 27 回　卒業論文作成（3）
第 28 回　卒業論文作成（4）
第 29 回　卒業論文作成（5）

a90104a580

第 30 回	卒業論文作成（6）
第 31 回	卒業論文作成（7）
第 32 回	卒業論文作成（8）
第 33 回	卒業論文作成（9）
第 34 回	卒業論文作成（10）
第 35 回	卒業論文作成（11）
第 36 回	卒業論文作成（12）
第 37 回	卒業論文作成（13）
第 38 回	卒業論文作成（14）
第 39 回	卒業論文作成（15）
第 40 回	卒業論文作成（16）
第 41 回	卒業論文作成（17）
第 42 回	卒業論文作成（18）
第 43 回	卒業論文作成（19）
第 44 回	卒業論文作成（20）
第 45 回	総括
第 46 回	
第 47 回	
第 48 回	
第 49 回	
第 50 回	
第 51 回	
第 52 回	
第 53 回	
第 54 回	
第 55 回	
第 56 回	
第 57 回	
第 58 回	
第 59 回	
第 60 回	

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年

a90104a580

成績評価			
試験・レポート	50	小テスト	
授業中課題	10	授業中発表等	20
参加度	20		

成績評価方法の備考

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します． 試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ-ション能力，ディスカッション能力で構成します．

a90104a583

シ ラ バ ス

講義名称	卒業研究（理） ＜c＞		
クラス		配当回生	学部４回生
講義期間	後期集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	白岩　加代子		

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる． ②研究成果を理解した上で，論考することができる． ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる． ④論文作成過程を理解し，実践できる．

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて，論文作成を目指します． 論文指導は，コース毎に複数教員による指導体制のもと，行います．

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する．さらに論文作成の過程を十分に習得してください，

内容

第１回　オリエンテーション
第２回　卒業論文発表準備（1）
第３回　卒業論文発表準備（2）
第４回　卒業論文発表準備（3）
第５回　卒業論文発表準備（4）
第６回　卒業論文発表準備（5）
第７回　卒業論文発表準備（6）
第８回　卒業論文発表準備（7）
第９回　卒業論文発表準備（8）
第 10 回　卒業論文発表準備（9）
第 11 回　卒業論文発表準備（10）
第 12 回　卒業論文発表検討会
第 13 回　卒業論文発表準備（11）
第 14 回　卒業論文発表準備（12）
第 15 回　卒業論文発表準備（13）
第 16 回　卒業論文発表準備（14）
第 17 回　卒業論文発表準備（15）
第 18 回　卒業論文発表準備（16）
第 19 回　卒業論文発表会（1）
第 20 回　卒業論文発表会（2）
第 21 回　卒業論文発表会（3）
第 22 回　卒業論文発表会（4）
第 23 回　卒業論文発表会（5）
第 24 回　卒業論文発表会（6）
第 25 回　卒業論文作成（1）
第 26 回　卒業論文作成（2）
第 27 回　卒業論文作成（3）
第 28 回　卒業論文作成（4）
第 29 回　卒業論文作成（5）

a90104a583

第 30 回	卒業論文作成（6）
第 31 回	卒業論文作成（7）
第 32 回	卒業論文作成（8）
第 33 回	卒業論文作成（9）
第 34 回	卒業論文作成（10）
第 35 回	卒業論文作成（11）
第 36 回	卒業論文作成（12）
第 37 回	卒業論文作成（13）
第 38 回	卒業論文作成（14）
第 39 回	卒業論文作成（15）
第 40 回	卒業論文作成（16）
第 41 回	卒業論文作成（17）
第 42 回	卒業論文作成（18）
第 43 回	卒業論文作成（19）
第 44 回	卒業論文作成（20）
第 45 回	総括
第 46 回	
第 47 回	
第 48 回	
第 49 回	
第 50 回	
第 51 回	
第 52 回	
第 53 回	
第 54 回	
第 55 回	
第 56 回	
第 57 回	
第 58 回	
第 59 回	
第 60 回	

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年

a90104a583

成績評価			
試験・レポート	50	小テスト	
授業中課題	10	授業中発表等	20
参加度	20		

成績評価方法の備考

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します． 試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ-ション能力，ディスカッション能力で構成します．

a90104a584

シ ラ バ ス

講義名称	卒業研究（理） ＜d＞		
クラス		配当回生	学部４回生
講義期間	後期集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	安彦　鉄平		

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる． ②研究成果を理解した上で，論考することができる． ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる． ④論文作成過程を理解し，実践できる．

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて，論文作成を目指します． 論文指導は，コース毎に複数教員による指導体制のもと，行います．

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する．さらに論文作成の過程を十分に習得してください，

内容

第１回　オリエンテーション
第２回　卒業論文発表準備（1）
第３回　卒業論文発表準備（2）
第４回　卒業論文発表準備（3）
第５回　卒業論文発表準備（4）
第６回　卒業論文発表準備（5）
第７回　卒業論文発表準備（6）
第８回　卒業論文発表準備（7）
第９回　卒業論文発表準備（8）
第 10 回　卒業論文発表準備（9）
第 11 回　卒業論文発表準備（10）
第 12 回　卒業論文発表検討会
第 13 回　卒業論文発表準備（11）
第 14 回　卒業論文発表準備（12）
第 15 回　卒業論文発表準備（13）
第 16 回　卒業論文発表準備（14）
第 17 回　卒業論文発表準備（15）
第 18 回　卒業論文発表準備（16）
第 19 回　卒業論文発表会（1）
第 20 回　卒業論文発表会（2）
第 21 回　卒業論文発表会（3）
第 22 回　卒業論文発表会（4）
第 23 回　卒業論文発表会（5）
第 24 回　卒業論文発表会（6）
第 25 回　卒業論文作成（1）
第 26 回　卒業論文作成（2）
第 27 回　卒業論文作成（3）
第 28 回　卒業論文作成（4）
第 29 回　卒業論文作成（5）

a90104a584

第 30 回	卒業論文作成（6）
第 31 回	卒業論文作成（7）
第 32 回	卒業論文作成（8）
第 33 回	卒業論文作成（9）
第 34 回	卒業論文作成（10）
第 35 回	卒業論文作成（11）
第 36 回	卒業論文作成（12）
第 37 回	卒業論文作成（13）
第 38 回	卒業論文作成（14）
第 39 回	卒業論文作成（15）
第 40 回	卒業論文作成（16）
第 41 回	卒業論文作成（17）
第 42 回	卒業論文作成（18）
第 43 回	卒業論文作成（19）
第 44 回	卒業論文作成（20）
第 45 回	総括
第 46 回	
第 47 回	
第 48 回	
第 49 回	
第 50 回	
第 51 回	
第 52 回	
第 53 回	
第 54 回	
第 55 回	
第 56 回	
第 57 回	
第 58 回	
第 59 回	
第 60 回	

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年

a90104a584

成績評価			
試験・レポート	50	小テスト	
授業中課題	10	授業中発表等	20
参加度	20		

成績評価方法の備考

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します． 試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ-ション能力，ディスカッション能力で構成します．

a90104a586

シ ラ バ ス

講義名称	卒業研究（理） ＜f＞		
クラス		配当回生	学部４回生
講義期間	後期集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	甲斐　義浩		

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる． ②研究成果を理解した上で，論考することができる． ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる． ④論文作成過程を理解し，実践できる．

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて，論文作成を目指します． 論文指導は，コース毎に複数教員による指導体制のもと，行います．

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する．さらに論文作成の過程を十分に習得してください，

内容

第１回　オリエンテーション
第２回　卒業論文発表準備（1）
第３回　卒業論文発表準備（2）
第４回　卒業論文発表準備（3）
第５回　卒業論文発表準備（4）
第６回　卒業論文発表準備（5）
第７回　卒業論文発表準備（6）
第８回　卒業論文発表準備（7）
第９回　卒業論文発表準備（8）
第 10 回　卒業論文発表準備（9）
第 11 回　卒業論文発表準備（10）
第 12 回　卒業論文発表検討会
第 13 回　卒業論文発表準備（11）
第 14 回　卒業論文発表準備（12）
第 15 回　卒業論文発表準備（13）
第 16 回　卒業論文発表準備（14）
第 17 回　卒業論文発表準備（15）
第 18 回　卒業論文発表準備（16）
第 19 回　卒業論文発表会（1）
第 20 回　卒業論文発表会（2）
第 21 回　卒業論文発表会（3）
第 22 回　卒業論文発表会（4）
第 23 回　卒業論文発表会（5）
第 24 回　卒業論文発表会（6）
第 25 回　卒業論文作成（1）
第 26 回　卒業論文作成（2）
第 27 回　卒業論文作成（3）
第 28 回　卒業論文作成（4）
第 29 回　卒業論文作成（5）

a90104a586

第 30 回	卒業論文作成（6）
第 31 回	卒業論文作成（7）
第 32 回	卒業論文作成（8）
第 33 回	卒業論文作成（9）
第 34 回	卒業論文作成（10）
第 35 回	卒業論文作成（11）
第 36 回	卒業論文作成（12）
第 37 回	卒業論文作成（13）
第 38 回	卒業論文作成（14）
第 39 回	卒業論文作成（15）
第 40 回	卒業論文作成（16）
第 41 回	卒業論文作成（17）
第 42 回	卒業論文作成（18）
第 43 回	卒業論文作成（19）
第 44 回	卒業論文作成（20）
第 45 回	総括
第 46 回	
第 47 回	
第 48 回	
第 49 回	
第 50 回	
第 51 回	
第 52 回	
第 53 回	
第 54 回	
第 55 回	
第 56 回	
第 57 回	
第 58 回	
第 59 回	
第 60 回	

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年

a90104a586

成績評価			
試験・レポート	50	小テスト	
授業中課題	10	授業中発表等	20
参加度	20		

成績評価方法の備考

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します． 試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ-ション能力，ディスカッション能力で構成します．

a90104a587

シ ラ バ ス

講義名称	卒業研究（理） ＜g＞		
クラス		配当回生	学部４回生
講義期間	後期集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	松尾　奈々		

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる． ②研究成果を理解した上で，論考することができる． ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる． ④論文作成過程を理解し，実践できる．

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて，論文作成を目指します． 論文指導は，コース毎に複数教員による指導体制のもと，行います．

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する．さらに論文作成の過程を十分に習得してください，

内容

第１回　オリエンテーション
第２回　卒業論文発表準備（1）
第３回　卒業論文発表準備（2）
第４回　卒業論文発表準備（3）
第５回　卒業論文発表準備（4）
第６回　卒業論文発表準備（5）
第７回　卒業論文発表準備（6）
第８回　卒業論文発表準備（7）
第９回　卒業論文発表準備（8）
第 10 回　卒業論文発表準備（9）
第 11 回　卒業論文発表準備（10）
第 12 回　卒業論文発表検討会
第 13 回　卒業論文発表準備（11）
第 14 回　卒業論文発表準備（12）
第 15 回　卒業論文発表準備（13）
第 16 回　卒業論文発表準備（14）
第 17 回　卒業論文発表準備（15）
第 18 回　卒業論文発表準備（16）
第 19 回　卒業論文発表会（1）
第 20 回　卒業論文発表会（2）
第 21 回　卒業論文発表会（3）
第 22 回　卒業論文発表会（4）
第 23 回　卒業論文発表会（5）
第 24 回　卒業論文発表会（6）
第 25 回　卒業論文作成（1）
第 26 回　卒業論文作成（2）
第 27 回　卒業論文作成（3）
第 28 回　卒業論文作成（4）
第 29 回　卒業論文作成（5）

a90104a587

第 30 回	卒業論文作成（6）
第 31 回	卒業論文作成（7）
第 32 回	卒業論文作成（8）
第 33 回	卒業論文作成（9）
第 34 回	卒業論文作成（10）
第 35 回	卒業論文作成（11）
第 36 回	卒業論文作成（12）
第 37 回	卒業論文作成（13）
第 38 回	卒業論文作成（14）
第 39 回	卒業論文作成（15）
第 40 回	卒業論文作成（16）
第 41 回	卒業論文作成（17）
第 42 回	卒業論文作成（18）
第 43 回	卒業論文作成（19）
第 44 回	卒業論文作成（20）
第 45 回	総括
第 46 回	
第 47 回	
第 48 回	
第 49 回	
第 50 回	
第 51 回	
第 52 回	
第 53 回	
第 54 回	
第 55 回	
第 56 回	
第 57 回	
第 58 回	
第 59 回	
第 60 回	

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年

a90104a587

成績評価			
試験・レポート	50	小テスト	
授業中課題	10	授業中発表等	20
参加度	20		

成績評価方法の備考

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します． 試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ-ション能力，ディスカッション能力で構成します．

a90104a588

シ ラ バ ス

講義名称	卒業研究（理） <h>		
クラス		配当回生	学部４回生
講義期間	後期集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	宮﨑　純弥		

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる． ②研究成果を理解した上で，論考することができる． ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる． ④論文作成過程を理解し，実践できる．

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて，論文作成を目指します． 論文指導は，コース毎に複数教員による指導体制のもと，行います．

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する．さらに論文作成の過程を十分に習得してください，

内容

第１回　オリエンテーション
第２回　卒業論文発表準備（1）
第３回　卒業論文発表準備（2）
第４回　卒業論文発表準備（3）
第５回　卒業論文発表準備（4）
第６回　卒業論文発表準備（5）
第７回　卒業論文発表準備（6）
第８回　卒業論文発表準備（7）
第９回　卒業論文発表準備（8）
第 10 回　卒業論文発表準備（9）
第 11 回　卒業論文発表準備（10）
第 12 回　卒業論文発表検討会
第 13 回　卒業論文発表準備（11）
第 14 回　卒業論文発表準備（12）
第 15 回　卒業論文発表準備（13）
第 16 回　卒業論文発表準備（14）
第 17 回　卒業論文発表準備（15）
第 18 回　卒業論文発表準備（16）
第 19 回　卒業論文発表会（1）
第 20 回　卒業論文発表会（2）
第 21 回　卒業論文発表会（3）
第 22 回　卒業論文発表会（4）
第 23 回　卒業論文発表会（5）
第 24 回　卒業論文発表会（6）
第 25 回　卒業論文作成（1）
第 26 回　卒業論文作成（2）
第 27 回　卒業論文作成（3）
第 28 回　卒業論文作成（4）
第 29 回　卒業論文作成（5）

a90104a588

第 30 回	卒業論文作成（6）
第 31 回	卒業論文作成（7）
第 32 回	卒業論文作成（8）
第 33 回	卒業論文作成（9）
第 34 回	卒業論文作成（10）
第 35 回	卒業論文作成（11）
第 36 回	卒業論文作成（12）
第 37 回	卒業論文作成（13）
第 38 回	卒業論文作成（14）
第 39 回	卒業論文作成（15）
第 40 回	卒業論文作成（16）
第 41 回	卒業論文作成（17）
第 42 回	卒業論文作成（18）
第 43 回	卒業論文作成（19）
第 44 回	卒業論文作成（20）
第 45 回	総括
第 46 回	
第 47 回	
第 48 回	
第 49 回	
第 50 回	
第 51 回	
第 52 回	
第 53 回	
第 54 回	
第 55 回	
第 56 回	
第 57 回	
第 58 回	
第 59 回	
第 60 回	

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年

a90104a588

成績評価			
試験・レポート	50	小テスト	
授業中課題	10	授業中発表等	20
参加度	20		

成績評価方法の備考

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します． 試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ-ション能力，ディスカッション能力で構成します．

a90104a590

シ ラ バ ス

講義名称	卒業研究（理） ＜j＞		
クラス		配当回生	学部４回生
講義期間	後期集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	崎田　正博		

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる． ②研究成果を理解した上で，論考することができる． ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる． ④論文作成過程を理解し，実践できる．

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて，論文作成を目指します． 論文指導は，コース毎に複数教員による指導体制のもと，行います．

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する．さらに論文作成の過程を十分に習得してください，

内容

第１回　オリエンテーション
第２回　卒業論文発表準備（1）
第３回　卒業論文発表準備（2）
第４回　卒業論文発表準備（3）
第５回　卒業論文発表準備（4）
第６回　卒業論文発表準備（5）
第７回　卒業論文発表準備（6）
第８回　卒業論文発表準備（7）
第９回　卒業論文発表準備（8）
第 10 回　卒業論文発表準備（9）
第 11 回　卒業論文発表準備（10）
第 12 回　卒業論文発表検討会
第 13 回　卒業論文発表準備（11）
第 14 回　卒業論文発表準備（12）
第 15 回　卒業論文発表準備（13）
第 16 回　卒業論文発表準備（14）
第 17 回　卒業論文発表準備（15）
第 18 回　卒業論文発表準備（16）
第 19 回　卒業論文発表会（1）
第 20 回　卒業論文発表会（2）
第 21 回　卒業論文発表会（3）
第 22 回　卒業論文発表会（4）
第 23 回　卒業論文発表会（5）
第 24 回　卒業論文発表会（6）
第 25 回　卒業論文作成（1）
第 26 回　卒業論文作成（2）
第 27 回　卒業論文作成（3）
第 28 回　卒業論文作成（4）
第 29 回　卒業論文作成（5）

a90104a590

第 30 回	卒業論文作成（6）
第 31 回	卒業論文作成（7）
第 32 回	卒業論文作成（8）
第 33 回	卒業論文作成（9）
第 34 回	卒業論文作成（10）
第 35 回	卒業論文作成（11）
第 36 回	卒業論文作成（12）
第 37 回	卒業論文作成（13）
第 38 回	卒業論文作成（14）
第 39 回	卒業論文作成（15）
第 40 回	卒業論文作成（16）
第 41 回	卒業論文作成（17）
第 42 回	卒業論文作成（18）
第 43 回	卒業論文作成（19）
第 44 回	卒業論文作成（20）
第 45 回	総括
第 46 回	
第 47 回	
第 48 回	
第 49 回	
第 50 回	
第 51 回	
第 52 回	
第 53 回	
第 54 回	
第 55 回	
第 56 回	
第 57 回	
第 58 回	
第 59 回	
第 60 回	

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年

a90104a590

成績評価			
試験・レポート	50	小テスト	
授業中課題	10	授業中発表等	20
参加度	20		

成績評価方法の備考

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します． 試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ-ション能力，ディスカッション能力で構成します．

a90104a591

シ ラ バ ス

講義名称	卒業研究（理） ＜k＞		
クラス		配当回生	学部４回生
講義期間	後期集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	兒玉　隆之		

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる．　②研究成果を理解した上で，論考することができる．　③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる．　④論文作成過程を理解し，実践できる．

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて，論文作成を目指します．　論文指導は，コース毎に複数教員による指導体制のもと，行います．

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する．さらに論文作成の過程を十分に習得してください，

内容

第１回　　オリエンテーション
第２回　　卒業論文発表準備（1）
第３回　　卒業論文発表準備（2）
第４回　　卒業論文発表準備（3）
第５回　　卒業論文発表準備（4）
第６回　　卒業論文発表準備（5）
第７回　　卒業論文発表準備（6）
第８回　　卒業論文発表準備（7）
第９回　　卒業論文発表準備（8）
第 10 回　　卒業論文発表準備（9）
第 11 回　　卒業論文発表準備（10）
第 12 回　　卒業論文発表検討会
第 13 回　　卒業論文発表準備（11）
第 14 回　　卒業論文発表準備（12）
第 15 回　　卒業論文発表準備（13）
第 16 回　　卒業論文発表準備（14）
第 17 回　　卒業論文発表準備（15）
第 18 回　　卒業論文発表準備（16）
第 19 回　　卒業論文発表会（1）
第 20 回　　卒業論文発表会（2）
第 21 回　　卒業論文発表会（3）
第 22 回　　卒業論文発表会（4）
第 23 回　　卒業論文発表会（5）
第 24 回　　卒業論文発表会（6）
第 25 回　　卒業論文作成（1）
第 26 回　　卒業論文作成（2）
第 27 回　　卒業論文作成（3）
第 28 回　　卒業論文作成（4）
第 29 回　　卒業論文作成（5）

a90104a591

第 30 回	卒業論文作成（6）
第 31 回	卒業論文作成（7）
第 32 回	卒業論文作成（8）
第 33 回	卒業論文作成（9）
第 34 回	卒業論文作成（10）
第 35 回	卒業論文作成（11）
第 36 回	卒業論文作成（12）
第 37 回	卒業論文作成（13）
第 38 回	卒業論文作成（14）
第 39 回	卒業論文作成（15）
第 40 回	卒業論文作成（16）
第 41 回	卒業論文作成（17）
第 42 回	卒業論文作成（18）
第 43 回	卒業論文作成（19）
第 44 回	卒業論文作成（20）
第 45 回	総括
第 46 回	
第 47 回	
第 48 回	
第 49 回	
第 50 回	
第 51 回	
第 52 回	
第 53 回	
第 54 回	
第 55 回	
第 56 回	
第 57 回	
第 58 回	
第 59 回	
第 60 回	

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年

a90104a591

成績評価			
試験・レポート	50	小テスト	
授業中課題	10	授業中発表等	20
参加度	20		

成績評価方法の備考

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します． 試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ-ション能力，ディスカッション能力で構成します．

a90104a592

シ ラ バ ス

講義名称	卒業研究（理） ＜1＞		
クラス		配当回生	学部４回生
講義期間	後期集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	小田桐　匡		

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる． ②研究成果を理解した上で，論考することができる． ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる． ④論文作成過程を理解し，実践できる．

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて，論文作成を目指します． 論文指導は，コース毎に複数教員による指導体制のもと，行います．

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する．さらに論文作成の過程を十分に習得してください，

内容

第１回　オリエンテーション
第２回　卒業論文発表準備（1）
第３回　卒業論文発表準備（2）
第４回　卒業論文発表準備（3）
第５回　卒業論文発表準備（4）
第６回　卒業論文発表準備（5）
第７回　卒業論文発表準備（6）
第８回　卒業論文発表準備（7）
第９回　卒業論文発表準備（8）
第 10 回　卒業論文発表準備（9）
第 11 回　卒業論文発表準備（10）
第 12 回　卒業論文発表検討会
第 13 回　卒業論文発表準備（11）
第 14 回　卒業論文発表準備（12）
第 15 回　卒業論文発表準備（13）
第 16 回　卒業論文発表準備（14）
第 17 回　卒業論文発表準備（15）
第 18 回　卒業論文発表準備（16）
第 19 回　卒業論文発表会（1）
第 20 回　卒業論文発表会（2）
第 21 回　卒業論文発表会（3）
第 22 回　卒業論文発表会（4）
第 23 回　卒業論文発表会（5）
第 24 回　卒業論文発表会（6）
第 25 回　卒業論文作成（1）
第 26 回　卒業論文作成（2）
第 27 回　卒業論文作成（3）
第 28 回　卒業論文作成（4）
第 29 回　卒業論文作成（5）

a90104a592

第 30 回	卒業論文作成（6）
第 31 回	卒業論文作成（7）
第 32 回	卒業論文作成（8）
第 33 回	卒業論文作成（9）
第 34 回	卒業論文作成（10）
第 35 回	卒業論文作成（11）
第 36 回	卒業論文作成（12）
第 37 回	卒業論文作成（13）
第 38 回	卒業論文作成（14）
第 39 回	卒業論文作成（15）
第 40 回	卒業論文作成（16）
第 41 回	卒業論文作成（17）
第 42 回	卒業論文作成（18）
第 43 回	卒業論文作成（19）
第 44 回	卒業論文作成（20）
第 45 回	総括
第 46 回	
第 47 回	
第 48 回	
第 49 回	
第 50 回	
第 51 回	
第 52 回	
第 53 回	
第 54 回	
第 55 回	
第 56 回	
第 57 回	
第 58 回	
第 59 回	
第 60 回	

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年

a90104a592

成績評価			
試験・レポート	50	小テスト	
授業中課題	10	授業中発表等	20
参加度	20		

成績評価方法の備考

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します． 試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ-ション能力，ディスカッション能力で構成します．

h701510813

シ ラ バ ス

講義名称	特別研究Ⅰ <Dｃ>		
クラス		配当回生	大学院１回生
講義期間	通年集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	河原　宣子		

テーマ

授業の到達目標

看護学に関する新たな知の構築に向けて、アウトカムリサーチを志向した研究デザインを検討し、評価指標と研究方法を決定し、博士論文に向けて自立的に研究計画を立案する能力を獲得する。

授業の概要

１年次から２年次にかけて主指導教員および副指導教員の指導を受けながら、研究課題を特定のテーマに絞り込み、博士論文として取り組む準備を整える。文献レビューは最新の知見が明確になるよう国内外の論文を十分に批評し、独創性の高い研究となるよう研究目的を明確にする。アウトカムリサーチを志向した研究デザインと研究方法を検討し、研究における倫理的な検討を十分に行う。研究計画をより洗練するために第１回公開発表会（中間発表会）をもち、合格することで特別研究Ⅱの過程に進む。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内容

第１回　ガイダンス　合同
第２回　取り組みたい研究分野　研究疑問　合同セッション①
第３回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第４回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第５回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第６回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第７回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第８回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第９回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第 10 回　研究背景の報告会　合同セッション②
第 11 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 12 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 13 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 14 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 15 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 16 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 17 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 18 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 19 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 20 回　研究計画(案)の報告会　合同セッション③
第 21 回　研究計画書　作成
第 22 回　研究計画書　作成
第 23 回　研究計画書　作成
第 24 回　研究計画書　作成
第 25 回　研究計画書　作成
第 26 回　研究計画書　作成

第 27 回　研究計画書　作成

第 28 回　研究計画書　作成

第 29 回　研究計画書　作成

第 30 回　研究計画書の発表　合同セッション④

第 31 回　研究計画書の発表　合同セッション④

第 32 回　研究計画書　修正と完成

第 33 回　研究計画書　修正と完成

第 34 回　研究計画書　修正と完成

第 35 回　研究計画書　修正と完成

第 36 回　研究計画書　修正と完成

第 37 回　研究計画書　修正と完成

第 38 回　研究計画書　修正と完成

第 39 回　研究計画書　修正と完成

第 40 回　研究計画書　修正と完成

第 41 回　研究計画書　公開発表会

第 42 回　研究計画書　公開発表会

第 43 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 44 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 45 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 46 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 47 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 48 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 49 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 50 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 51 回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始

第 52 回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始

第 53 回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始

第 54 回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始

第 55 回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始

第 56 回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化

第 57 回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化

第 58 回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化

第 59 回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化

第 60 回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年
The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)	American Nurses Association		2007

h701510813

成績評価			
試験・レポート		小テスト	
授業中課題		授業中発表等	50%
参加度	50%		

成績評価方法の備考

h701510953

シ ラ バ ス

講義名称	特別研究Ⅱ <D c>		
クラス		配当回生	大学院２回生
講義期間	後期集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	松本　賢哉		

テーマ

授業の到達目標

特別研究Ⅰの研究計画を実施し、データ収集を経て分析し、新たな知の構築をめざして水準の高い研究論文を作成する。審査ならびに第２回公開発表会を経て、博士論文を完成する。これらの過程を経て、自立的に研究を実施、評価する能力を獲得する。

授業の概要

特別研究Ⅰで立案した研究計画をもとに、主指導教員および副指導教員の指導を受けながら研究活動を実施する。研究活動によって得られたデータを分析し、新たな知の構築をめざして研究論文としてまとめ、審査ならびに公開発表を経て博士論文を完成させる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内容

第１回　データ収集と分析
第２回　データ収集と分析
第３回　データ収集と分析
第４回　データ収集と分析
第５回　データ収集と分析
第６回　データ収集と分析
第７回　データ収集と分析
第８回　データ収集と分析
第９回　データ収集と分析
第 10 回　データ収集と分析
第 11 回　結果の論述
第 12 回　結果の論述
第 13 回　結果の論述
第 14 回　結果の論述
第 15 回　結果の論述
第 16 回　結果の論述
第 17 回　結果の論述
第 18 回　結果の論述
第 19 回　結果の論述
第 20 回　結果の論述
第 21 回　分析・考察して論文全体の作成
第 22 回　分析・考察して論文全体の作成
第 23 回　分析・考察して論文全体の作成
第 24 回　分析・考察して論文全体の作成
第 25 回　分析・考察して論文全体の作成
第 26 回　分析・考察して論文全体の作成
第 27 回　分析・考察して論文全体の作成
第 28 回　分析・考察して論文全体の作成

第 29 回	分析・考察して論文全体の作成
第 30 回	分析・考察して論文全体の作成
第 31 回	博士論文全体の要旨、骨子の整理したものを発表　合同セッション①
第 32 回	博士論文全体の要旨、骨子の整理したものを発表　合同セッション①
第 33 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 34 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 35 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 36 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 37 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 38 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 39 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 40 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 41 回	予備審査
第 42 回	予備審査
第 43 回	博士論文の修正・洗練
第 44 回	博士論文の修正・洗練
第 45 回	博士論文の修正・洗練
第 46 回	博士論文の修正・洗練
第 47 回	博士論文の修正・洗練
第 48 回	博士論文の修正・洗練
第 49 回	博士論文の修正・洗練
第 50 回	博士論文の修正・洗練
第 51 回	博士論文の修正と最終提出
第 52 回	博士論文の修正と最終提出
第 53 回	博士論文の修正と最終提出
第 54 回	博士論文の修正と最終提出
第 55 回	博士論文の修正と最終提出
第 56 回	博士論文　公開発表会／最終審査
第 57 回	博士論文　公開発表会／最終審査
第 58 回	論文作成過程　合同セッション②
第 59 回	論文作成過程　合同セッション②
第 60 回	論文作成過程　合同セッション②

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年
The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)	American Nurses Association		2007

h701510953

成績評価			
試験・レポート		小テスト	
授業中課題		授業中発表等	50%
参加度	50%		

成績評価方法の備考

h701510954

シ ラ バ ス

講義名称	特別研究Ⅱ <D d>		
クラス		配当回生	大学院２回生
講義期間	後期集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	遠藤　俊子		

テーマ

博士論文の完成

授業の到達目標

特別研究Ｉの研究計画を実施し、データ収集を経て分析し、新たな知の構築をめざして水準の高い研究論文を作成する。審査ならびに第２回公開発表会を経て、博士論文を完成する。これらの過程を経て、自立的に研究を実施、評価する能力を獲得する。

授業の概要

特別研究Ｉで立案した研究計画をもとに、主指導教員および副指導教員の指導を受けながら研究活動を実施する。研究活動によって得られたデータを分析し、新たな知の構築をめざして研究論文としてまとめ、審査ならびに公開発表を経て博士論文を完成させる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内容

第１回　データ収集と分析
第２回　データ収集と分析
第３回　データ収集と分析
第４回　データ収集と分析
第５回　データ収集と分析
第６回　データ収集と分析
第７回　データ収集と分析
第８回　データ収集と分析
第９回　データ収集と分析
第 10 回　データ収集と分析
第 11 回　結果の論述
第 12 回　結果の論述
第 13 回　結果の論述
第 14 回　結果の論述
第 15 回　結果の論述
第 16 回　結果の論述
第 17 回　結果の論述
第 18 回　結果の論述
第 19 回　結果の論述
第 20 回　結果の論述
第 21 回　分析・考察して論文全体の作成
第 22 回　分析・考察して論文全体の作成
第 23 回　分析・考察して論文全体の作成
第 24 回　分析・考察して論文全体の作成
第 25 回　分析・考察して論文全体の作成
第 26 回　分析・考察して論文全体の作成
第 27 回　分析・考察して論文全体の作成
第 28 回　分析・考察して論文全体の作成

第 29 回　分析・考察して論文全体の作成

第 30 回　分析・考察して論文全体の作成

第 31 回　博士論文全体の要旨、骨子の整理したものを発表　合同セッション①

第 32 回　博士論文全体の要旨、骨子の整理したものを発表　合同セッション①

第 33 回　博士論文の作成、予備審査準備

第 34 回　博士論文の作成、予備審査準備

第 35 回　博士論文の作成、予備審査準備

第 36 回　博士論文の作成、予備審査準備

第 37 回　博士論文の作成、予備審査準備

第 38 回　博士論文の作成、予備審査準備

第 39 回　博士論文の作成、予備審査準備

第 40 回　博士論文の作成、予備審査準備

第 41 回　予備審査

第 42 回　予備審査

第 43 回　博士論文の修正・洗練

第 44 回　博士論文の修正・洗練

第 45 回　博士論文の修正・洗練

第 46 回　博士論文の修正・洗練

第 47 回　博士論文の修正・洗練

第 48 回　博士論文の修正・洗練

第 49 回　博士論文の修正・洗練

第 50 回　博士論文の修正・洗練

第 51 回　博士論文の修正と最終提出

第 52 回　博士論文の修正と最終提出

第 53 回　博士論文の修正と最終提出

第 54 回　博士論文の修正と最終提出

第 55 回　博士論文の修正と最終提出

第 56 回　博士論文　公開発表会／最終審査

第 57 回　博士論文　公開発表会／最終審査

第 58 回　論文作成過程　合同セッション②

第 59 回　論文作成過程　合同セッション②

第 60 回　論文作成過程　合同セッション②

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年
The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)	American Nurses Association		2007

h701510954

成績評価

試験・レポート		小テスト	
授業中課題		授業中発表等	50%
参加度	50%		

成績評価方法の備考

h701511012

シ ラ バ ス

講義名称	特別研究Ⅰ（２回生枠） <Ｄｂ>		
クラス		配当回生	大学院２回生
講義期間	前期集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	沼本　教子		

テーマ

授業の到達目標

看護学に関する新たな知の構築に向けて、アウトカムリサーチを志向した研究デザインを検討し、評価指標と研究方法を決定し、博士論文に向けて自立的に研究計画を立案する能力を獲得する。

授業の概要

○概要：１年次から２年次にかけて主指導教員および副指導教員の指導を受けながら、研究課題を特定のテーマに絞り込み、博士論文として取り組む準備を整える。文献レビューは最新の知見が明確になるよう国内外の論文を十分に批評し、独創性の高い研究となるよう研究目的を明確にする。アウトカムリサーチを志向した研究デザインと研究方法を検討し、研究における倫理的な検討を十分に行う。研究計画をより洗練するために第１回公開発表会（中間発表会）をもち、合格することで特別研究Ⅱの過程に進む。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内容

第１回　ガイダンス　合同
第２回　取り組みたい研究分野　研究疑問　合同セッション①
第３回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第４回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第５回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第６回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第７回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第８回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第９回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第 10 回　研究背景の報告会　合同セッション②
第 11 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 12 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 13 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 14 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 15 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 16 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 17 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 18 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 19 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 20 回　研究計画(案)の報告会　合同セッション③
第 21 回　研究計画書　作成
第 22 回　研究計画書　作成
第 23 回　研究計画書　作成
第 24 回　研究計画書　作成
第 25 回　研究計画書　作成
第 26 回　研究計画書　作成

第 27 回　研究計画書　作成

第 28 回　研究計画書　作成

第 29 回　研究計画書　作成

第 30 回　研究計画書の発表　合同セッション④

第 31 回　研究計画書の発表　合同セッション④

第 32 回　研究計画書　修正と完成

第 33 回　研究計画書　修正と完成

第 34 回　研究計画書　修正と完成

第 35 回　研究計画書　修正と完成

第 36 回　研究計画書　修正と完成

第 37 回　研究計画書　修正と完成

第 38 回　研究計画書　修正と完成

第 39 回　研究計画書　修正と完成

第 40 回　研究計画書　修正と完成

第 41 回　研究計画書　公開発表会

第 42 回　研究計画書　公開発表会

第 43 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 44 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 45 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 46 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 47 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 48 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 49 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 50 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 51 回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始

第 52 回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始

第 53 回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始

第 54 回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始

第 55 回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始

第 56 回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化

第 57 回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化

第 58 回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化

第 59 回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化

第 60 回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化

履修上の注意点

この間に博士課程の副論文的な研究は別途、計画書と倫理委員会審査によって実施し、研究論文の作成をすることは可能である。

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年
The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)		American Nurses Association	2007

h701511012

成績評価			
試験・レポート		小テスト	
授業中課題		授業中発表等	50
参加度	50		

成績評価方法の備考

h701511013

シ ラ バ ス

講義名称	特別研究Ⅰ（２回生枠） <Ｄｃ>		
クラス		配当回生	大学院２回生
講義期間	前期集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	松本　賢哉		

テーマ

授業の到達目標

看護学に関する新たな知の構築に向けて、アウトカムリサーチを志向した研究デザインを検討し、評価指標と研究方法を決定し、博士論文に向けて自立的に研究計画を立案する能力を獲得する。

授業の概要

○概要：１年次から２年次にかけて主指導教員および副指導教員の指導を受けながら、研究課題を特定のテーマに絞り込み、博士論文として取り組む準備を整える。文献レビューは最新の知見が明確になるよう国内外の論文を十分に批評し、独創性の高い研究となるよう研究目的を明確にする。アウトカムリサーチを志向した研究デザインと研究方法を検討し、研究における倫理的な検討を十分に行う。研究計画をより洗練するために第１回公開発表会（中間発表会）をもち、合格することで特別研究Ⅱの過程に進む。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内容

第１回　研究計画書の発表　合同セッション④
第２回　研究計画書　修正と完成
第３回　〃
第４回　〃
第５回　〃
第６回　〃
第７回　〃
第８回　〃
第９回　〃
第 10 回　〃
第 11 回　研究計画書　公開発表会
第 12 回　〃
第 13 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出
第 14 回　〃
第 15 回　〃
第 16 回　〃
第 17 回　〃
第 18 回　〃
第 19 回　〃
第 20 回　〃
第 21 回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始
第 22 回　〃
第 23 回　〃
第 24 回　〃
第 25 回　〃
第 26 回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化

第 27 回　〃

第 28 回　〃

第 29 回　〃

第 30 回　〃

第 31 回

第 32 回

第 33 回

第 34 回

第 35 回

第 36 回

第 37 回

第 38 回

第 39 回

第 40 回

第 41 回

第 42 回

第 43 回

第 44 回

第 45 回

第 46 回

第 47 回

第 48 回

第 49 回

第 50 回

第 51 回

第 52 回

第 53 回

第 54 回

第 55 回

第 56 回

第 57 回

第 58 回

第 59 回

第 60 回

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年
The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)		American Nurses Association	2007

h701511013

成績評価			
試験・レポート		小テスト	
授業中課題		授業中発表等	50
参加度	50		

成績評価方法の備考

h701511014

シ ラ バ ス

講義名称	特別研究Ⅰ（２回生枠） <Ｄｄ>		
クラス		配当回生	大学院２回生
講義期間	前期集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	遠藤　俊子		

テーマ

授業の到達目標

看護学に関する新たな知の構築に向けて、アウトカムリサーチを志向した研究デザインを検討し、評価指標と研究方法を決定し、博士論文に向けて自立的に研究計画を立案する能力を獲得する。

授業の概要

○概要：１年次から２年次にかけて主指導教員および副指導教員の指導を受けながら、研究課題を特定のテーマに絞り込み、博士論文として取り組む準備を整える。文献レビューは最新の知見が明確になるよう国内外の論文を十分に批評し、独創性の高い研究となるよう研究目的を明確にする。アウトカムリサーチを志向した研究デザインと研究方法を検討し、研究における倫理的な検討を十分に行う。研究計画をより洗練するために第１回公開発表会（中間発表会）をもち、合格することで特別研究Ⅱの過程に進む。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内容

第１回　ガイダンス　合同
第２回　取り組みたい研究分野　研究疑問　合同セッション①
第３回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第４回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第５回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第６回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第７回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第８回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第９回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第 10 回　研究背景の報告会　合同セッション②
第 11 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 12 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 13 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 14 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 15 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 16 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 17 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 18 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 19 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 20 回　研究計画(案)の報告会　合同セッション③
第 21 回　研究計画書　作成
第 22 回　研究計画書　作成
第 23 回　研究計画書　作成
第 24 回　研究計画書　作成
第 25 回　研究計画書　作成
第 26 回　研究計画書　作成

第 27 回　研究計画書　作成

第 28 回　研究計画書　作成

第 29 回　研究計画書　作成

第 30 回　研究計画書の発表　合同セッション④

第 31 回　研究計画書の発表　合同セッション④

第 32 回　研究計画書　修正と完成

第 33 回　研究計画書　修正と完成

第 34 回　研究計画書　修正と完成

第 35 回　研究計画書　修正と完成

第 36 回　研究計画書　修正と完成

第 37 回　研究計画書　修正と完成

第 38 回　研究計画書　修正と完成

第 39 回　研究計画書　修正と完成

第 40 回　研究計画書　修正と完成

第 41 回　研究計画書　公開発表会

第 42 回　研究計画書　公開発表会

第 43 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 44 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 45 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 46 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 47 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 48 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 49 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 50 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 51 回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始

第 52 回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始

第 53 回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始

第 54 回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始

第 55 回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始

第 56 回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化

第 57 回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化

第 58 回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化

第 59 回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化

第 60 回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化

履修上の注意点

この間に博士課程の副論文的な研究は別途、計画書と倫理委員会審査によって実施し、研究論文の作成をすることは可能である。

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年

h701511014

成績評価			
試験・レポート		小テスト	
授業中課題		授業中発表等	50%
参加度	50%		

成績評価方法の備考

研究課題に応じた文献レビュー、解釈、理論枠組み、概念分析、サブストラクション などの学習成果とプレゼンテーション

h701511150

シ ラ バ ス

講義名称	特別研究Ⅱ（３回生枠） <D a>		
クラス		配当回生	大学院３回生
講義期間	通年集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	沼本　教子		

テーマ

授業の到達目標

特別研究Ⅰの研究計画を実施し、データ収集を経て分析し、新たな知の構築をめざして水準の高い研究論文を作成する。審査ならびに第２回公開発表会を経て、博士論文を完成する。これらの過程を経て、自立的に研究を実施、評価する能力を獲得する。

授業の概要

○概要：特別研究Ⅰで立案した研究計画をもとに、主指導教員および副指導教員の指導を受けながら研究活動を実施する。研究活動によって得られたデータを分析し、新たな知の構築をめざして研究論文としてまとめ、審査ならびに公開発表を経て博士論文を完成させる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内容

第１回　データ収集と分析
第２回　データ収集と分析
第３回　データ収集と分析
第４回　データ収集と分析
第５回　データ収集と分析
第６回　データ収集と分析
第７回　データ収集と分析
第８回　データ収集と分析
第９回　データ収集と分析
第 10 回　データ収集と分析
第 11 回　結果の論述
第 12 回　結果の論述
第 13 回　結果の論述
第 14 回　結果の論述
第 15 回　結果の論述
第 16 回　結果の論述
第 17 回　結果の論述
第 18 回　結果の論述
第 19 回　結果の論述
第 20 回　結果の論述
第 21 回　分析・考察して論文全体の作成
第 22 回　分析・考察して論文全体の作成
第 23 回　分析・考察して論文全体の作成
第 24 回　分析・考察して論文全体の作成
第 25 回　分析・考察して論文全体の作成
第 26 回　分析・考察して論文全体の作成
第 27 回　分析・考察して論文全体の作成
第 28 回　分析・考察して論文全体の作成

第 29 回　分析・考察して論文全体の作成

第 30 回　分析・考察して論文全体の作成

第 31 回　博士論文全体の要旨、骨子の整理したものを発表　合同セッション①

第 32 回　博士論文全体の要旨、骨子の整理したものを発表　合同セッション①

第 33 回　博士論文の作成、予備審査準備

第 34 回　博士論文の作成、予備審査準備

第 35 回　博士論文の作成、予備審査準備

第 36 回　博士論文の作成、予備審査準備

第 37 回　博士論文の作成、予備審査準備

第 38 回　博士論文の作成、予備審査準備

第 39 回　博士論文の作成、予備審査準備

第 40 回　博士論文の作成、予備審査準備

第 41 回　予備審査

第 42 回　予備審査

第 43 回　博士論文の修正・洗練

第 44 回　博士論文の修正・洗練

第 45 回　博士論文の修正・洗練

第 46 回　博士論文の修正・洗練

第 47 回　博士論文の修正・洗練

第 48 回　博士論文の修正・洗練

第 49 回　博士論文の修正・洗練

第 50 回　博士論文の修正・洗練

第 51 回　博士論文の修正と最終提出

第 52 回　博士論文の修正と最終提出

第 53 回　博士論文の修正と最終提出

第 54 回　博士論文の修正と最終提出

第 55 回　博士論文の修正と最終提出

第 56 回　博士論文　公開発表会／最終審査

第 57 回　博士論文　公開発表会／最終審査

第 58 回　論文作成過程　合同セッション②

第 59 回　論文作成過程　合同セッション②

第 60 回　論文作成過程　合同セッション②

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年
The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)		American Nurses Association	2007

h701511150

成績評価

試験・レポート		小テスト	
授業中課題		授業中発表等	50%
参加度	50%		

成績評価方法の備考

h701511152

シ ラ バ ス

講義名称	特別研究Ⅱ（３回生枠） <Ｄｂ>		
クラス		配当回生	大学院３回生
講義期間	通年集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	遠藤　俊子		

テーマ

博士論文の作成

授業の到達目標

特別研究Ｉの研究計画を実施し、データ収集を経て分析し、新たな知の構築をめざして水準の高い研究論文を作成する。審査ならびに第２回公開発表会を経て、博士論文を完成する。これらの過程を経て、自立的に研究を実施、評価する能力を獲得する。

授業の概要

○概要：特別研究Ｉで立案した研究計画をもとに、主指導教員および副指導教員の指導を受けながら研究活動を実施する。研究活動によって得られたデータを分析し、新たな知の構築をめざして研究論文としてまとめ、審査ならびに公開発表を経て博士論文を完成させる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内容

第１回　データ収集と分析
第２回　データ収集と分析
第３回　データ収集と分析
第４回　データ収集と分析
第５回　データ収集と分析
第６回　データ収集と分析
第７回　データ収集と分析
第８回　データ収集と分析
第９回　データ収集と分析
第 10 回　データ収集と分析
第 11 回　結果の論述
第 12 回　結果の論述
第 13 回　結果の論述
第 14 回　結果の論述
第 15 回　結果の論述
第 16 回　結果の論述
第 17 回　結果の論述
第 18 回　結果の論述
第 19 回　結果の論述
第 20 回　結果の論述
第 21 回　分析・考察して論文全体の作成
第 22 回　分析・考察して論文全体の作成
第 23 回　分析・考察して論文全体の作成
第 24 回　分析・考察して論文全体の作成
第 25 回　分析・考察して論文全体の作成
第 26 回　分析・考察して論文全体の作成
第 27 回　分析・考察して論文全体の作成
第 28 回　分析・考察して論文全体の作成

第 29 回　分析・考察して論文全体の作成

第 30 回　分析・考察して論文全体の作成

第 31 回　博士論文全体の要旨、骨子の整理したものを発表　合同セッション①

第 32 回　博士論文全体の要旨、骨子の整理したものを発表　合同セッション①

第 33 回　博士論文の作成、予備審査準備

第 34 回　博士論文の作成、予備審査準備

第 35 回　博士論文の作成、予備審査準備

第 36 回　博士論文の作成、予備審査準備

第 37 回　博士論文の作成、予備審査準備

第 38 回　博士論文の作成、予備審査準備

第 39 回　博士論文の作成、予備審査準備

第 40 回　博士論文の作成、予備審査準備

第 41 回　予備審査

第 42 回　予備審査

第 43 回　博士論文の修正・洗練

第 44 回　博士論文の修正・洗練

第 45 回　博士論文の修正・洗練

第 46 回　博士論文の修正・洗練

第 47 回　博士論文の修正・洗練

第 48 回　博士論文の修正・洗練

第 49 回　博士論文の修正・洗練

第 50 回　博士論文の修正・洗練

第 51 回　博士論文の修正と最終提出

第 52 回　博士論文の修正と最終提出

第 53 回　博士論文の修正と最終提出

第 54 回　博士論文の修正と最終提出

第 55 回　博士論文の修正と最終提出

第 56 回　博士論文　公開発表会／最終審査

第 57 回　博士論文　公開発表会／最終審査

第 58 回　論文作成過程　合同セッション②

第 59 回　論文作成過程　合同セッション②

第 60 回　論文作成過程　合同セッション②

履修上の注意点

毎週 1 回のゼミに参加し、主体的に研究進捗を図る

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年
The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)		American Nurses Association	2007

h701511152

成績評価			
試験・レポート		小テスト	
授業中課題		授業中発表等	50%
参加度	50%		

成績評価方法の備考

a70102a350

シ ラ バ ス

講義名称	実践看護学Ⅱ		
クラス		配当回生	学部２回生
講義期間	後期集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	野島　敬祐.岡田　純子.奥野　信行.小西　奈美.小淵　岳恒.常田　裕子.中橋　苗代.堀　妙子.マルティネス　真喜子.深山つかさ		
テーマ			

授業の到達目標

実践看護学Ｉを踏まえ、さまざまな看護（助産含む）の対象と家族、多様な看護の場における健康レベルに応じた看護過程を病態・治療の理解を含めて学ぶ。

授業の概要

1. 急性期･回復期･リハビリテーション期の健康レベルの考え方を理解する。 2. 健康レベルとライフサイクルを踏まえ、根拠に基づいた計画的な看護実践の基礎を理解する。 3. 特定の健康課題に対応する実践能力を養う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

講義では事例を通しての予習・復習に取り組むことが多いが、授業中のプレゼンテーションを通してフィードバックを行う。

内容

第１回	科目ガイダンス，事例「橘薫の一生」の説明，健康レベルの概念，健康レベルと看護過程，急激な健康破綻と回復過程にある人々への援助①-急性期の看護の特徴
第２回	科目ガイダンス，事例「橘薫の一生」の説明，健康レベルの概念，健康レベルと看護過程，急激な健康破綻と回復過程にある人々への援助①-急性期の看護の特徴
第３回	急激な健康破綻と回復過程にある人々への援助②-看護の実際 救急時の看護①：救急看護（助産含む）の特徴
第４回	急激な健康破綻と回復過程にある人々への援助②-看護の実際 救急時の看護①：救急看護（助産含む）の特徴
第５回	救急時の看護②：救急看護の実際 救急時の看護③：受傷・発症から入院まで
第６回	救急時の看護②：救急看護の実際 救急時の看護③：受傷・発症から入院まで
第７回	入院時の看護①：病歴聴取・全身状態の観察* 入院時の看護②：実施する看護についての説明と同意
第８回	入院時の看護①：病歴聴取・全身状態の観察* 入院時の看護②：実施する看護についての説明と同意
第９回	疼痛ケアと精神的ケア，家族へのケア，対人関係プロセス①：コミュニケーション
第 10 回	疼痛ケアと精神的ケア，家族へのケア，対人関係プロセス①：コミュニケーション
第 11 回	対人関係プロセス②：精神状態のアセスメント 対人関係プロセス③：精神状態のアセスメント・介入
第 12 回	対人関係プロセス②：精神状態のアセスメント 対人関係プロセス③：精神状態のアセスメント・介入
第 13 回	罨法，感染予防①②：無菌操作，ガウンテクニック，医療廃棄物の取り扱い， スタンダードプリコーション，手指培養実験
第 14 回	罨法，感染予防①②：無菌操作，ガウンテクニック，医療廃棄物の取り扱い， スタンダードプリコーション，手指培養実験
第 15 回	罨法，感染予防①②：無菌操作，ガウンテクニック，医療廃棄物の取り扱い， スタンダードプリコーション，手指培養実験
第 16 回	検査を受ける患者の看護①：生体検査 検査を受ける患者の看護②③④：画像診断，心電図等等
第 17 回	検査を受ける患者の看護①：生体検査 検査を受ける患者の看護②③④：画像診断，心電図等等
第 18 回	検査を受ける患者の看護①：生体検査 検査を受ける患者の看護②③④：画像診断，心電図等等
第 19 回	検査を受ける患者の看護①：生体検査 検査を受ける患者の看護②③④：画像診断，心電図等等
第 20 回	検査を受ける患者の看護⑤：放射線と放射線を使用する検査の理解 検査を受ける患者の看護⑥：放射線と放射線を使用する検査の理解－演習
第 21 回	検査を受ける患者の看護⑤：放射線と放射線を使用する検査の理解 検査を受ける患者の看護⑥：放射線と放射線を使用する検査の理解－演習
第 22 回	検査を受ける患者の看護⑦：検体検査(1)，検査を受ける患者の看護⑧：検体検査(2) 検査を受ける患者の看護⑨：採血 ER 入室時の看護過程　与薬

第 23 回　検査を受ける患者の看護⑦：検体検査(1)，検査を受ける患者の看護⑧：検体検査(2) 検査を受ける患者の看護⑨：採血 ER 入室時の看護過程　与薬

第 24 回　検査を受ける患者の看護⑦：検体検査(1)，検査を受ける患者の看護⑧：検体検査(2) 検査を受ける患者の看護⑨：採血 ER 入室時の看護過程　与薬

第 25 回　与薬の看護①：与薬の基本，与薬の看護②：特に小児看護における与薬

第 26 回　与薬の看護①：与薬の基本，与薬の看護②：特に小児看護における与薬

第 27 回　与薬の看護③：注射，与薬の看護④：特に小児看護における注射 与薬の看護⑤：輸液療法，与薬の看護⑥：特に小児看護における輸液療法

第 28 回　与薬の看護③：注射，与薬の看護④：特に小児看護における注射 与薬の看護⑤：輸液療法，与薬の看護⑥：特に小児看護における輸液療法

第 29 回　与薬の看護③：注射，与薬の看護④：特に小児看護における注射 与薬の看護⑤：輸液療法，与薬の看護⑥：特に小児看護における輸液療法

第 30 回　与薬の看護③：注射，与薬の看護④：特に小児看護における注射 与薬の看護⑤：輸液療法，与薬の看護⑥：特に小児看護における輸液療法

第 31 回　与薬の看護③：注射，与薬の看護④：特に小児看護における注射 与薬の看護⑤：輸液療法，与薬の看護⑥：特に小児看護における輸液療法

第 32 回　周手術期の看護の特徴：危機理論、ストレスコーピング等

第 33 回　周手術期の看護の特徴：危機理論、ストレスコーピング等

第 34 回　術前の看護過程　身体・精神面の評価と準備，観察・アセスメント

第 35 回　術前の看護過程　身体・精神面の評価と準備，観察・アセスメント

第 36 回　術中の看護①，術中の看護②

第 37 回　術中の看護①，術中の看護②

第 38 回　術中の看護①，術中の看護②

第 39 回　導尿・浣腸

第 40 回　導尿・浣腸

第 41 回　術後の看護－術後合併症に対する看護、痛みのケア、早期離床等

第 42 回　術後の看護－術後合併症に対する看護、痛みのケア、早期離床等

第 43 回　術後の看護－術後合併症に対する看護、痛みのケア、早期離床等

第 44 回　術後の看護－術後合併症に対する看護、痛みのケア、早期離床等

第 45 回　術後の看護－術後合併症に対する看護、痛みのケア、早期離床等

第 46 回　慢性期看護

第 47 回　慢性期看護

第 48 回　慢性期看護

第 49 回　回復期・リハビリテーション期～退院までの看護

第 50 回　回復期・リハビリテーション期～退院までの看護

第 51 回　周手術期の看護過程：情報収集・アセスメント・看護計画

第 52 回　周手術期の看護過程：情報収集・アセスメント・看護計画

第 53 回　周手術期の看護過程：情報収集・アセスメント・看護計画

第 54 回　周手術期の看護過程：情報収集・アセスメント・看護計画

第 55 回　周手術期の看護過程：情報収集・アセスメント・看護計画

第 56 回　周手術期の看護過程：情報収集・アセスメント・看護計画

第 57 回　周手術期の看護過程：情報収集・アセスメント・看護計画

第 58 回　周手術期の看護過程：情報収集・アセスメント・看護計画

第 59 回　周手術期の看護過程：情報収集・アセスメント・看護計画

第 60 回　まとめ

a70102a350

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年
成人看護学 慢性期看護論	鈴木志津枝編	ヌーヴェルヒロカワ	最新刊
系統看護学講座別巻．臨床外科看護総論	矢永勝彦＆小路美喜子編	医学書院	最新刊
系統看護学講座別巻，臨床外科看護各論	北島政樹＆江川幸二編	医学書院	最新刊
系統看護学講座専門分野Ⅱ，成人看護学[3]，循環器	上塚芳郎他著	医学書院	最新刊

参考書	著者	出版社	出版年
なし			

成績評価

試験・レポート	90	小テスト	
授業中課題	10	授業中発表等	
参加度			

成績評価方法の備考

a70103a510

シ ラ バ ス

講義名称	実践看護学Ⅲ－２		
クラス		配当回生	学部３回生
講義期間	前期集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	奥野　信行.神﨑　光子.小西　奈美.常田　裕子.長尾　匡子.野島　敬祐.堀　妙子.松本　賢哉.マルティネス　真喜子.深山つかさ		
テーマ			

授業の到達目標

実践看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ-1 を踏まえ、さまざまな健康課題をもつ対象とその家族、多様な看護の場における、人によりそう看護を理解する。同時に、看護活動の場の多様性を認識し、看護の専門性を考察する。

授業の概要

1.ライフサイクルを踏まえ、さまざまな健康課題と健康レベルに応じた看護を理解する。 2.がん看護、精神看護、地域看護、老年看護、小児看護、母性看護、急激な健康破綻と回復過程にある人々への看護、慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々への看護、終末期にある人々への看護、感染症看護、家族支援看護等のさまざまな看護の場における看護活動と専門性を理解する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

ケーススタディ等を行うことがあります。その中で自己の考えについてしっかりと発表できるように準備をして下さい。

内容

第１回	診断・治療期のがん看護①
第２回	診断・治療期のがん看護①
第３回	診断・治療期のがん看護②
第４回	診断・治療期のがん看護②
第５回	小児を対象とした看護の特徴
第６回	小児を対象とした看護の特徴
第７回	小児と家族が疾病から受ける影響
第８回	小児と家族が疾病から受ける影響
第９回	外来受診・入院する小児とその家族への看護
第 10 回	外来受診・入院する小児とその家族への看護
第 11 回	障がいのある小児とその家族への看護
第 12 回	障がいのある小児とその家族への看護
第 13 回	消化・吸収障害ももつ人への看護
第 14 回	消化・吸収障害ももつ人への看護
第 15 回	消化器疾患をもつ小児の看護　鎖肛その他
第 16 回	消化器疾患をもつ小児の看護　鎖肛その他
第 17 回	糖代謝障害をもつ人への看護
第 18 回	糖代謝障害をもつ人への看護
第 19 回	排泄機能障害とは　腎疾患をもつ人の看護
第 20 回	排泄機能障害とは　腎疾患をもつ人の看護
第 21 回	循環機能障害をもつ人への看護
第 22 回	循環機能障害をもつ人への看護
第 23 回	呼吸機能障害をもつ人への看護
第 24 回	呼吸機能障害をもつ人への看護
第 25 回	小児によくみられる腎・呼吸器疾患の看護
第 26 回	小児によくみられる腎・呼吸器疾患の看護

a70103a510

第 27 回	運動機能障害をもつ人への看護
第 28 回	運動機能障害をもつ人への看護
第 29 回	小児によくみられる循環器・筋・骨疾患をもつ小児の看護
第 30 回	小児によくみられる循環器・筋・骨疾患をもつ小児の看護
第 31 回	筋・骨格系の障害をもつ高齢者の看護
第 32 回	筋・骨格系の障害をもつ高齢者の看護
第 33 回	摂食・嚥下障害をもつ高齢者の看護
第 34 回	摂食・嚥下障害をもつ高齢者の看護
第 35 回	認知症の人とその家族の看護
第 36 回	認知症の人とその家族の看護
第 37 回	高齢者の性と QOL
第 38 回	高齢者の性と QOL
第 39 回	看取りと看護
第 40 回	看取りと看護
第 41 回	小児の終末期の看護
第 42 回	小児の終末期の看護
第 43 回	高齢者の終末期ケア
第 44 回	高齢者の終末期ケア
第 45 回	神経症性障害患者の看護
第 46 回	神経症性障害患者の看護
第 47 回	統合失調症患者の看護
第 48 回	統合失調症患者の看護
第 49 回	精神障がい者の地域生活支援の実際①
第 50 回	精神障がい者の地域生活支援の実際①
第 51 回	精神障がい者の地域生活支援の実際②
第 52 回	精神障がい者の地域生活支援の実際②
第 53 回	地区活動の展開①
第 54 回	地区活動の展開①
第 55 回	地区活動の展開②
第 56 回	地区活動の展開②
第 57 回	地区看護活動の実際①
第 58 回	地区看護活動の実際①
第 59 回	地区看護活動の実際②
第 60 回	地区看護活動の実際② ※なお、外部講師を招いて講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年

a70103a510

成績評価			
試験・レポート	100	小テスト	
授業中課題		授業中発表等	
参加度			

成績評価方法の備考

シ ラ バ ス

講義名称	臨床心理実習 <Mb>		
クラス		配当回生	大学院２回生
講義期間	通年	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	菅　佐和子		

テーマ

臨床心理活動の実践的学習

授業の到達目標

臨床心理学的な知見と方法によって社会の人々の問題の予防と解決に貢献する臨床心理士に必要な専門性・責任性・倫理観を、実践的な鍛錬によって生きた知識として身につけることを目的とする。

授業の概要

学内実習および学外実習（病院・学校・福祉施設）において実際に事例を担当し、心理査定・心理面接・集団療法・インテークカンファレンスおよびケースカンファレンスでの報告と討論等を実践的に学ぶ。実際の事例担当については、臨床心理士教員によるスーパーヴィジョンを受け、自身の課題と向き合う。また、学内実習の担当事例についての事例報告を執筆し､その報告は『京都橘大学心理臨床センター心理相談研究』に掲載される。なお、学外実習は以下の授業時間の外で実施される。また、授業計画は学内外の実習機関や担当事例の都合により順序が変更

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

学内実習については、京都橘大学心理臨床センターのさまざまな運営活動や学外者対象のセミナーに学生スタッフとして参加して、活 動の実際を学ぶ。その活動からも、記録およびスーパーヴィジョンやカンファレンスから学ぶ姿勢を持つこと。それらを通して事例を担当する臨床家としての素地を涵養しておく。事例担当およびその スーパーヴィジョンは授業のない期間も継続して実施されるので、スケジュール調整に注意のこと。

内容

第１回　オリエンテーション　学内実習と学外実習の事前指導
第２回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論①
第３回　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン①
第４回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論②
第５回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論③
第６回　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン②
第７回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論④
第８回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑤
第９回　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン③
第 10 回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑥
第 11 回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑦
第 12 回　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン④
第 13 回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑧
第 14 回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑨
第 15 回　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン⑤
第 16 回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑩
第 17 回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑪
第 18 回　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン⑥
第 19 回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑫
第 20 回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑬
第 21 回　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン⑦
第 22 回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑭
第 23 回　事例報告論文の指導①
第 24 回　事例報告論文の指導②

第 25 回　　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑮

第 26 回　　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑯

第 27 回　　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン⑧

第 28 回　　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑰

第 29 回　　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑱

第 30 回　　年間担当事例報告会

第 31 回

第 32 回

第 33 回

第 34 回

第 35 回

第 36 回

第 37 回

第 38 回

第 39 回

第 40 回

第 41 回

第 42 回

第 43 回

第 44 回

第 45 回

第 46 回

第 47 回

第 48 回

第 49 回

第 50 回

第 51 回

第 52 回

第 53 回

第 54 回

第 55 回

第 56 回

第 57 回

第 58 回

第 59 回

第 60 回

履修上の注意点

学内外の相談機関での実習やスタッフ活動、スーパーヴィジョン、事例担当報告の執筆など、多岐にわたる授業内容であるので、すべての課題を遂行できるよう､スケジュール調整に細心の注意をしておくこと。特に、学外施設とのやりとりについては、教員の指導に適ったものとすること。

各回２講時連続で行い、年間６０回実施する。

教科書	著者	出版社	出版年
使用しない			

参考書	著者	出版社	出版年

適宜指示する。

成績評価			
試験・レポート	３０％	小テスト	
授業中課題	２０％	授業中発表等	３０％
参加度	２０％		

成績評価方法の備考

成績は、学内実習、学外実習、カンファレンスでの発表・討論、スーパーヴィジョン、事例報告の執筆、心理臨床センターでのスタッフ活動などの総合点とする。

シ ラ バ ス

講義名称	臨床心理実習 <Mc>		
クラス		配当回生	大学院２回生
講義期間	通年	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	ジェイムス　朋子		

テーマ

臨床心理活動の実践的学習

授業の到達目標

臨床心理学的な知見と方法によって社会の人々の問題の予防と解決に貢献する臨床心理士に必要な専門性・責任性・倫理観を、実践的な鍛錬によって生きた知識として身につけることを目的とする。

授業の概要

学内実習および学外実習（病院・学校・福祉施設）において実際に事例を担当し、心理査定・心理面接・集団療法・インテークカンファレンスおよびケースカンファレンスでの報告と討論等を実践的に学ぶ。実際の事例担当については、臨床心理士教員によるスーパーヴィジョンを受け、自身の課題と向き合う。また、学内実習の担当事例についての事例報告を執筆し､その報告は『京都橘大学心理臨床センター心理相談研究』に掲載される。なお、学外実習は以下の授業時間の外で実施される。また、授業計画は学内外の実習機関や担当事例の都合により順序が変更

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

学内実習については、京都橘大学心理臨床センターのさまざまな運営活動や学外者対象のセミナーに学生スタッフとして参加して、活 動の実際を学ぶ。その活動からも、記録およびスーパーヴィジョンやカンファレンスから学ぶ姿勢を持つこと。それらを通して事例を担当する臨床家としての素地を涵養しておく。事例担当およびその スーパーヴィジョンは授業のない期間も継続して実施されるので、スケジュール調整に注意のこと。

内容

第１回　オリエンテーション　学内実習と学外実習の事前指導
第２回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論①
第３回　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン①
第４回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論②
第５回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論③
第６回　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン②
第７回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論④
第８回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑤
第９回　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン③
第 10 回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑥
第 11 回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑦
第 12 回　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン④
第 13 回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑧
第 14 回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑨
第 15 回　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン⑤
第 16 回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑩
第 17 回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑪
第 18 回　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン⑥
第 19 回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑫
第 20 回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑬
第 21 回　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン⑦
第 22 回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑭
第 23 回　事例報告論文の指導①
第 24 回　事例報告論文の指導②

第 25 回　　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑮

第 26 回　　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑯

第 27 回　　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン⑧

第 28 回　　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑰

第 29 回　　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑱

第 30 回　　年間担当事例報告会

第 31 回

第 32 回

第 33 回

第 34 回

第 35 回

第 36 回

第 37 回

第 38 回

第 39 回

第 40 回

第 41 回

第 42 回

第 43 回

第 44 回

第 45 回

第 46 回

第 47 回

第 48 回

第 49 回

第 50 回

第 51 回

第 52 回

第 53 回

第 54 回

第 55 回

第 56 回

第 57 回

第 58 回

第 59 回

第 60 回

履修上の注意点

学内外の相談機関での実習やスタッフ活動、スーパーヴィジョン、事例担当報告の執筆など、多岐にわたる授業内容であるので、すべての課題を遂行できるよう､スケジュール調整に細心の注意をしておくこと。特に、学外施設とのやりとりについては、教員の指導に適ったものとすること。

各回２講時連続で行い、年間６０回実施する。

教科書	著者	出版社	出版年
使用しない			

参考書	著者	出版社	出版年

適宜指示する。

成績評価			
試験・レポート	３０％	小テスト	
授業中課題	２０％	授業中発表等	３０％
参加度	２０％		

成績評価方法の備考

成績は、学内実習、学外実習、カンファレンスでの発表・討論、スーパーヴィジョン、事例報告の執筆、心理臨床センターでのスタッフ活動などの総合点とする。

h90102g114

シ ラ バ ス

講義名称	臨床心理実習 <Md>		
クラス		配当回生	大学院２回生
講義期間	通年	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	大久保　千恵		

テーマ

臨床心理活動の実践的学習

授業の到達目標

臨床心理学的な知見と方法によって社会の人々の問題の予防と解決に貢献する臨床心理士に必要な専門性・責任性・倫理観を、実践的な鍛錬によって生きた知識として身につけることを目的とする。

授業の概要

学内実習および学外実習（病院・学校・福祉施設）において実際に事例を担当し、心理査定・心理面接・集団療法・インテークカンファレンスおよびケースカンファレンスでの報告と討論等を実践的に学ぶ。実際の事例担当については、臨床心理士教員によるスーパーヴィジョンを受け、自身の課題と向き合う。また、学内実習の担当事例についての事例報告を執筆し､その報告は『京都橘大学心理臨床センター心理相談研究』に掲載される。なお、学外実習は以下の授業時間の外で実施される。また、授業計画は学内外の実習機関や担当事例の都合により順序が変更

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

学内実習については、京都橘大学心理臨床センターのさまざまな運営活動や学外者対象のセミナーに学生スタッフとして参加して、活 動の実際を学ぶ。その活動からも、記録およびスーパーヴィジョンやカンファレンスから学ぶ姿勢を持つこと。それらを通して事例を担当する臨床家としての素地を涵養しておく。事例担当およびその スーパーヴィジョンは授業のない期間も継続して実施されるので、スケジュール調整に注意のこと。

内容

第１回　オリエンテーション　学内実習と学外実習の事前指導
第２回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論①
第３回　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン①
第４回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論②
第５回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論③
第６回　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン②
第７回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論④
第８回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑤
第９回　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン③
第 10 回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑥
第 11 回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑦
第 12 回　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン④
第 13 回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑧
第 14 回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑨
第 15 回　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン⑤
第 16 回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑩
第 17 回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑪
第 18 回　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン⑥
第 19 回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑫
第 20 回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑬
第 21 回　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン⑦
第 22 回　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑭
第 23 回　事例報告論文の指導①
第 24 回　事例報告論文の指導②

第 25 回　　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑮

第 26 回　　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑯

第 27 回　　学内実習と学外実習のスーパーヴィジョン⑧

第 28 回　　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑰

第 29 回　　インテークカンファレンス・ケースカンファレンスでの報告と討論⑱

第 30 回　　年間担当事例報告会

第 31 回

第 32 回

第 33 回

第 34 回

第 35 回

第 36 回

第 37 回

第 38 回

第 39 回

第 40 回

第 41 回

第 42 回

第 43 回

第 44 回

第 45 回

第 46 回

第 47 回

第 48 回

第 49 回

第 50 回

第 51 回

第 52 回

第 53 回

第 54 回

第 55 回

第 56 回

第 57 回

第 58 回

第 59 回

第 60 回

履修上の注意点

学内外の相談機関での実習やスタッフ活動、スーパーヴィジョン、事例担当報告の執筆など、多岐にわたる授業内容であるので、すべての課題を遂行できるよう､スケジュール調整に細心の注意をしておくこと。特に、学外施設とのやりとりについては、教員の指導に適ったものとすること。

各回２講時連続で行い、年間６０回実施する。

教科書	著者	出版社	出版年
使用しない			

参考書	著者	出版社	出版年

適宜指示する。

成績評価			
試験・レポート	３０％	小テスト	
授業中課題	２０％	授業中発表等	３０％
参加度	２０％		

成績評価方法の備考

成績は、学内実習、学外実習、カンファレンスでの発表・討論、スーパーヴィジョン、事例報告の執筆、心理臨床センターでのスタッフ活動などの総合点とする。

シ ラ バ ス

講義名称	課題研究Ⅰ <Mｈ>		
クラス		配当回生	大学院１回生
講義期間	前期	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	高原　正興		

テーマ

社会問題・社会病理に関する研究

授業の到達目標

大学院生の研究テーマの決定を指導し、大学院生が計画的に研究を進められるようにする。

授業の概要

大学院生がそれぞれの研究成果を発表し、それを前提にして討論と指導を行う。社会問題・社会病理に関する具体的な課題に取り組みながら、研究方法と倫理、調査研究の方法を確認しつつ、アカデミック・ライティングのスキルを身につけて、課題研究Ⅱ以降で行う研究の準備を進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

社会問題・社会病理に関する文献の講読

内容

大学院生が社会問題・社会病理に関する調査・研究の成果を順次発表し、これを受けて、討論と指導を行う。

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年
使用しない			

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート		小テスト	
授業中課題	20%	授業中発表等	40%
参加度	40%		

成績評価方法の備考

シ ラ バ ス

講義名称	課題研究Ⅰ <Mk>		
クラス		配当回生	大学院1回生
講義期間	前期	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	平尾　毅		

テーマ

イノベーションに関する研究

授業の到達目標

院生の研究テーマ決定を指導し、かつアカデミック・ライティングのスキルをも学ばせることにより、院生が計画的に調査・研究を進められるようにする。

授業の概要

院生がそれぞれの研究成果や報告等を発表し、それを前提にして、討論と指導を行う 。 イノベーションに関する具体的な課題に取り組みながら、「マネジメント研究の方法と倫理」において学ぶ研究手法とも連携して、文献検索や資料調査などそれぞれの領域に応じた研究調査の方法を実践の中で修得するとともに、アカデミック・ライティングのスキルを身につけ、課題研究Ⅱ以降で各自が行う研究の準備を進める。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

イノベーションに関する日本語・英語の文献を、できるだけ幅広く読み進めます。

内容

院生が、イノベーションに関する調査・研究の成果を順次発表し、これを受けて、討論と指導を行う。

履修上の注意点

本読みは全員レジュメが必須です。

教科書	著者	出版社	出版年
イノベーション・マネジメント入門（第2版）	一橋大学イノベーション研究センター	日本経済新聞出版社	2017年

参考書	著者	出版社	出版年
適宜紹介します。			

成績評価

試験・レポート	0%	小テスト	0%
授業中課題	30%	授業中発表等	40%
参加度	30%		

成績評価方法の備考

h701015810

シ ラ バ ス

講義名称	次世代育成看護学実習Ⅰ（周産期） <M>		
クラス		配当回生	大学院２回生
講義期間	通年集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	上澤　悦子		

テーマ

講義･演習で学んだ理論･知識･技術を実践に応用･統合し、母性看護専門看護師と して活動するための能力形成を図る。専門看護師としての役割機能の視点を持ちながら、周産期ケアの質向上のための変革を担う力を育てる。

授業の到達目標

高度医療施設におけるプライマリケア提供部門における妊産婦と子どもとその家族の支援を妊娠中から一貫したケア提供システムにおける看護実践をアセスメントする。正常性の維持や予防的ケアが実践できる能力を高める。また、異常への移行事例等を中心に、専門領域スタッフからの相談、スタッフへの教育活動を実践する。多職種との調整や倫理調整の機能を学ぶ。 周産期ケア改善のために組織における看護活動をアセスメントし、改善に資する企画立案、実施、評価やその調整プロセス等を学ぶ。さらに、施設の行っている事例検討会やデータの整理・分析を通して、周産期看護の質改善へのアプローチを学ぶ。加えて、政策参加のための取り組みに発展させることを学ぶ。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内容

実習目標 １　身体的あるいは心理社会的に複雑な状況をもつ妊産婦と子どもと、その家族のケアを事例中心に高度実践看護師としての実践を行う。事例のもつ状況により、調整、倫理調整の機能を果たす。 ２　正常性を維持する予防的ケアの重要性やスキルを獲得する。 ３　実習指導者である専門看護師とともにスタッフからの相談、教育や周産期医療チームへの調整の機能を果たす。 ４　実習施設の行っている研究的取り組みや事例検討、課題カンファレンスへの参加を通じて、周産期看護の質の確保への取り組みを学ぶ。 ５　母子救急、とりわけ新生児の救急搬送に関する実践とその後の母子へのケアについての在り方を学ぶ。 ６　実習施設の行っている実践評価に関する検討に参画し、アウトカム指標に関する学びを深め、同時に政策参加の取り組みにまで関与する機会をもつ。　実習時期　２年次　実習施設 総合周産期母子医療センターである昭和大学病院（NICU）　　実習指導者 上記施設の母性看護ＣＮＳならびに卓越した能力をもつ助産師・医師 昭和大学病院　彦山師長　佐藤陽子（CNS）　医療安全管理体制 実習要項参照

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年

h701015810

成績評価

試験・レポート		小テスト
授業中課題	50	授業中発表等
参加度	50	

成績評価方法の備考

実習中課題＜実技・レポート＞（50%）参加度（50%） 実習状況、実践結果の自己評価、他者評価、課題レポートなどで総合的に評価

h52101a458

シ ラ バ ス

講義名称	課題研究Ⅱ <Mｈ>		
クラス		配当回生	大学院１回生
講義期間	後期	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	高原　正興		

テーマ

社会問題・社会病理に関する研究

授業の到達目標

大学院生の研究テーマの決定を指導し、大学院生が計画的に研究を進められるようにする。

授業の概要

大学院生がそれぞれの研究成果を発表し、それを前提にして討論と指導を行う。修士論文の作成に向けて、課題研究Ｉによって修得した研究方法を活用して、資料収集と文献購読を進める。特に、研究テーマに関連する先行研究をフォローして、修士論文の構成を検討する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

社会問題・社会病理に関する文献の講読

内容

大学院生が社会問題・社会病理に関する調査・研究の成果を順次発表し、これを受けて、討論と指導を行う。

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年
使用しない			

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート		小テスト	
授業中課題	20%	授業中発表等	40%
参加度	40%		

成績評価方法の備考

シ ラ バ ス

講義名称	課題研究Ⅱ <Mｋ>		
クラス		配当回生	大学院１回生
講義期間	後期	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	平尾　毅		

テーマ

イノベーションに関する研究

授業の到達目標

院生の研究テーマ決定を指導し、かつアカデミック・ライティングのスキルをも学ばせることにより、院生が計画的に調査・研究を進められるようにする。

授業の概要

院生がそれぞれの研究成果や報告等を発表し、それを前提にして、討論と指導を行う 。 修士論文の作成に向け、各自の研究課題を設定したうえで、課題研究Ｉにおける実践によって修得した調査研究方法を活用して、資料収集を行う。とくに、各自の研究課題に深く関連する先行研究について、調査、検討し、リサーチ・クエスチョンを明確にするとともに、それに適した研究方法について明らかにする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

各自の研究課題に関する日本語・英語の先行研究レビューを行います。

内容

院生が、イノベーションに関する調査・研究の成果を順次発表し、これを受けて、討論と指導を行う。

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年
特になし。			

参考書	著者	出版社	出版年
適宜紹介します。			

成績評価

試験・レポート	0%	小テスト	0%
授業中課題	30%	授業中発表等	40%
参加度	30%		

成績評価方法の備考

a70104a210

シ ラ バ ス

講義名称	総合看護学実習 ＜a＞		
クラス		配当回生	学部４回生
講義期間	通年集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	梶谷　佳子		

テーマ

保健医療福祉チームの一員として，様々な健康課題をもつ人々に対して，根拠に基づくヒューマンケアを実践し，看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な基礎的な能力を養う.

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.３回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。 2.根拠に基づいた看護を実施できる。 3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。 4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。 5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内容

総合看護学実習の希望領域を学生が提出する 希望結果から、担当教員を決定する 実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

実習内容は，担当教員の指示に従う

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート	小テスト
授業中課題	授業中発表等
参加度	

成績評価方法の備考

それぞれの実習要項を参照する

a70104d610

シ ラ バ ス

講義名称	プライマリケア実習Ⅳ		
クラス		配当回生	学部４回生
講義期間	通年集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	河原　宣子.黒瀧　安紀子.常田　裕子		

テーマ

授業の到達目標

1. 個人・家族・集団・組織・地域のセルフケア能力の向上を目指した公衆衛生看護活動の方法と技術について理解し、説明できる。 2. 家族を単位とし、対象の家庭・地域社会生活の場において提供される看護サービスについて理解できる。 3. 対象の多面的背景を理解し、地域に顕在・潜在する健康課題を明らかにすると同時に、解決方法として保健事業の計画から評価までの一連の過程を展開することができる。 4. 地域で行われている虐待や感染症など健康危機への介入を通して、地域の広域的な健康危機管理体制について理解できる。 5. 地域ケアシステムにおける地域の人々や社会資源である保健医療福祉機関や関係職種との連携を通して、個人や地域の特性に対応した看護活動の展開と環境づくりについて理解できる。同時に、地域における保健福祉行政の政策のあり方について、対象別に考察できる。 6. 対象や対象集団の健康に貢献できる看護観の発展と行動規範の遵守ができる。

授業の概要

個人・家族・集団・組織・地域のセルフケア能力の向上を目指した公衆衛生看護活動の方法と技術を学ぶとともに、公衆衛生看護の対象の多面的背景を理解し、地域に顕在・潜在する健康課題を導き出し、地域の多様な社会資源を用いて、個人や地域の特性に対応した保健事業の計画・実施・評価までの展開方法について学ぶ。さらに、地域における保健福祉行政の政策のあり方について、対象別に考察できる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

保健所、保健センターの概要と関連法規、保健医療福祉機関をはじめとする多様な社会資源について事前に学習しておくこと。

内容

実習期間および場所は、保健所・保健センター(3 週間)とする。 ＊詳細は、実習要項参照のこと

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート　　小テスト

a70104d610

授業中課題　　授業中発表等

参加度

成績評価方法の備考

実習場所それぞれに定める方法に基づいて、総合的に評価する。

a70102a610

シ ラ バ ス

講義名称	実践看護学実習Ⅰ		
クラス		配当回生	学部２回生
講義期間	前期集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	深山　つかさ.岡田　純子.梶谷　佳子.神﨑　光子.工藤　里香.黒瀧　安紀子.小西　奈美.竹下　夏美.常田　裕子.中橋　苗代.野島　敬祐.マルティネス　真喜子.餅田　敬司		
テーマ			

授業の到達目標

実践看護学Ⅰ・実践看護学演習Ⅰでの学習を踏まえ、高齢者施設をフィールドとして、主として日常生活援助を実施し、発達段階や人間の基本的ニード、健康レベルに応じた看護技術を適用する方法の基礎を学ぶ。また、実習での体験を通して、自らの看護観を養う。

授業の概要

1.根拠に基づいた援助を提供するための情報を探索し、活用できる。 2.対象の状態を配慮した日常生活援助を計画し、指導のもとで実施できる。 3.実施した援助内容を評価し記録できる。 4.対象と適切な援助的コミュニケーションをとることができる。 5.対象の権利、プライバシーや情報の保護に配慮できる。 6.ケアチームメンバーの一員として自覚と責任をもち、適切なコミュニケーションをとることができる。 7.自己の看護の向上に向けて、実習での体験を振り返り、自己を洞察し、看護観を自らの言葉で説明できる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前学習内容は実習ガイダンスにて説明する。

内容

授業内容 実習は、介護老人保健施設で２週間行う。 一人の対象を受け持ち、対象に適した日常生活援助を計画し、指導者・教員と共に実施する。

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート	小テスト
授業中課題	授業中発表等
参加度	

成績評価方法の備考

a70102a610

実習の到達度、実習態度、出席状況などを総合的に評価する。

a90351b650

シ ラ バ ス

講義名称	臨床基礎実習Ⅰ		
クラス		配当回生	学部１回生
講義期間	後期集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	小川　敬之.近藤　敏.齋藤　慶一郎.佐川　佳南枝.永井　邦明.原田　瞬.平本　憲二.森本　誠司		

テーマ

作業療法士の仕事内容や他職種との連携および病院や施設の果たす役割など、実際場面での体験を通して学んでいく

授業の到達目標

①病院・施設の概要を理解する。 ②対象者との関わりを通して社会人（前医療人）としての態度を学ぶ。 ③作業療法士の仕事、特に対象者理解（共感的理解）について理解する。 ④作業療法士の仕事、特に作業療法介入について理解する。 ⑤現実の作業療法士の仕事と自らの適正や志向性について理解する。

授業の概要

この授業は、臨床現場で作業療法士等が実際に働いている場面を見学し、病院・施設の果たす機能、作業療法士の仕事内容、そこで働く専門職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ケースワーカー等）の役割、連携等について理解を深めるアーリーエクスポージャー（早期体験学習）である。また同時に社会人・医療人としてのあり方や資質について考え・準備を行う機会でもある。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内容

【実習前オリエンテーション】　１週間の臨床実習（身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害、地域支援などの分野）　【実習後報告会】

履修上の注意点

身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害などからどれか１領域の実習となる

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート		小テスト	
授業中課題	50	授業中発表等	40
参加度	10		

成績評価方法の備考

臨床実習素点、報告会、出席等総合して 60 点以上を合格とする。

シ ラ バ ス

講義名称	養護実習(事前･事後指導を含む)		
クラス		配当回生	学部４回生
講義期間	集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	佐藤　浩子		

テーマ

実りある養護実習（養護実習事前・事後指導）

授業の到達目標

（獲得目標）教育課程の総決算として、教育現場で実習を行い、養護教諭としての専門的知識の習得と技術を磨き、教職に関する実践的研究的能力と態度を養い、養護教諭への志を確たるものにする。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内容

第１回（事前指導） 養護実習事前ガイダンス ・養護実習をはじめるにあたっての準備と関係書類作成 ・養護実習訪問指導までの流れ 第２回　養護実習事前指導 ・養護実習の意義と実態について ・養護実習の心得・心構えについて ・実習校事前訪問・事前打ち合わせについて ・養護実習内容について（定期健康診断・研究授業・実習日誌の書き方など） 第３回　養護実習事前指導　養護実習内容について　第４回　養護教諭の職務と実際について 第５回　養護実習反省会　養護実習体験報告を受けてのグループ討議・実践交流　　養護実習の成果と課題・まとめ

(４－３回生合同開催)

履修上の注意点

公開授業や現場教師の研究会、児童教育学科の学生との情報交流、子ども対象の催しや学校ボランティ活動などに積極的に参加する。

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート	20%	小テスト	
授業中課題	20%	授業中発表等	20%
参加度	40%		

成績評価方法の備考

ask204d480

教育実習評価 20%・授業の課題(感想)20%・授業演習 20%・授業参加 40%

a70103d710

シ ラ バ ス

講義名称	実践看護学実習Ⅲ－１・２		
クラス		配当回生	学部３回生
講義期間	後期集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	奥野　信行.河原　宣子.黒瀧　安紀子.野島　敬祐.マルティネス　真喜子		

テーマ

授業の到達目標

実践看護学Ⅰ～Ⅲ-1・2、実践看護学演習Ⅰ～Ⅲ、実践看護学実習Ⅰ～Ⅱを踏まえ、さまざまな健康課題をもつ対象とその家族への、人によりそう看護の理解を深める。チームの一員として看護実践活動を行い、看護の専門性を考察し、他職種との協働の重要性を学ぶ。 1.特定の健康課題を有する対象者とその家族への看護を実践するための基礎的能力を培う。 2.特定の健康課題を有する対象者とその家族への看護実践を通して、看護の専門性を考察し、多職種との協働の重要性を学ぶ。

授業の概要

1.特定の健康課題を有する対象者とその家族の権利や尊厳、価値観、信条を尊重し、援助的関係を形成することができる。 2.特定の健康課題を有する対象者とその家族を多面的・全体的に捉え、病気や治療によってどのような影響を受けているか査定できる。 3.特定の健康課題を有する対象者とその家族に関心を向け、必要な看護が実践できる。 4.特定の健康課題を有する対象者とその家族が活用できる社会資源について説明できる。 5.入院から退院支援を含めたチーム医療における看護及び他職種の役割を理解し、対象者を中心とした連携と協働

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前学習復習・課題の内容は、実習ガイダンスにて説明する。適宜、実習にてフィードバックを行う。

内容

実習内容 1.実習期間 4 週間 2.実習時間 原則として、8:30～16:00（9:00～16:30）。 ただし、受け持ち対象等の状況により、更する場合もある。 3.受け持ちの対象者 特定の健康課題を有する対象者を 1 名から 3 名程度受け持つ。 4.実習場所 病棟および対象に対して看護実践活動が展開されている様々な場所で実習を行う。 (例：手術室、集中治療室など外来、検査室、リハビリテーション室、栄養指導室、継続看護室、透析室など) 5.行動目標 1)特定の健康課題を有する対象者とその家族の権利や尊厳、価値観、信条を尊重し、援助的関係を形成することができる。 (1)対象者とその家族の権利や尊厳、価値観、信条を理解した行動がとれる。 (2)対象者とその家族の状況に合わせた適切なコミュニケーションができる。 (3)対象者とその家族の反応の意味を適切に理解し、援助的関係の形成に必要な関わりが遂行できる。

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート	小テスト
授業中課題	授業中発表等
参加度	

成績評価方法の備考

1）看護実践　2）実習への取り組み　3）実習記録　4）出席　を総合的に評価する。

シ ラ バ ス

講義名称	養護実習（３回生枠）		
クラス		配当回生	学部３回生
講義期間	集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	佐藤　浩子		

テーマ

実りある養護実習（養護実習事前指導）

授業の到達目標

（獲得目標）学校保健活動における養護教諭の職務の実態、養護実習体験報告などから、養護実習についてのイメージを膨らませて実習に臨み、養護教諭への志を確たるものにする。

授業の概要

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内容

教職課程ガイダンス ・教員の適性・資質について ・教育職員免許取得の心構えについて 第１回　養護実習事前指導 ・養護実習内諾依頼について ・養護実習の意義と計画について ・養護実習の準備と心構えについて 第２回　養護実習反省会　実習体験報告から学ぶ。グループ討議・実践交流　（４－３回生合同開催）第３回　養護実習事前指導 ・養護実習の内容について(実習の流れ・プロセスと心得、実習記録など) ・実習校への事前訪問、事前打ち合わせについて ・養護実習の目標と計画について考え交流する。 ・実習演習(保健指導・救急処置・保健だより)

履修上の注意点

公開授業や現場教師の研究会、４回生や児童教育科の学生との情報交流、子ども対象の催しや学校ボランティア活動などに積極的に参加する。

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート	0	小テスト	0
授業中課題	30%	授業中発表等	30%
参加度	40%		

成績評価方法の備考

ask203f280

シ ラ バ ス

講義名称	実践看護学実習Ⅲ－３		
クラス		配当回生	学部３回生
講義期間	後期集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	堀　妙子		

テーマ

健康上の課題をもつ小児とその家族に対し、発達段階や健康課題が及ぼす影響を考えながら、個別性に応じた看護が実践できる能力を養う。

授業の到達目標

1.小児に特有な疾患の病態生理を説明できる 2.小児の発達段階に応じた日常生活援助の方法を説明できる 3.小児の発達段階に応じた処置やケアの方法を説明できる 4.小児及び家族を理解するために必要な情報収集の方法を説明できる 5.小児及び家族を理解するために必要な情報が収集できる 6.収集した情報をもとに健康課題を査定する方法を説明できる 7.収集した情報をもとに健康課題を査定できる 8.査定した結果から個別性に応じた看護援助を考える方法を説明できる 9.査定した結果から個別性に応じた看護援助を考えられる 10.安全に配慮しながら個別性に応じた看護援助を実施する方法を説明できる 11.安全に配慮しながら個別性に応じた看護援助を実施できる 12.実施した自己の看護実践を評価する方法を説明できる 13.実施した自己の看護実践を評価できる 14.対象となる小児及びその家族を尊重した行動をとることができる

授業の概要

「実践看護学Ⅰ～Ⅲ-1・2、実践看護学演習Ⅰ～Ⅲ、実践看護学実習Ⅰ～Ⅱを踏まえ、さまざまな健康課題をもつ対象とその家族への、人によりそう看護の理解を深める。チームの一員として看護実践活動を行い、看護の専門性を考察し、他職種との協働の重要性を学ぶ。」 健康上の課題をもつ小児とその家族に対し、発達段階や健康課題が及ぼす影響を考えながら、個別性に応じた看護が実践できる能力を養う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

〇実習オリエンテーションで事前学習に関する説明を行う 〇適宜実習にてフィードバックを行う。

内容

実習概要 １．医療施設で患児を１名（状況により複数）受け持ち、看護過程を展開する ２．小児専門病院及び重症心身障がい児施設の見学実習

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート	小テスト
授業中課題	授業中発表等

a70103a950

参加度

成績評価方法の備考

出席 20%、実習態度 50%、記録物 20%、学びのレポート 10%

a70103b050

シ ラ バ ス

講義名称	実践看護学実習Ⅲ－４		
クラス		配当回生	学部３回生
講義期間	後期集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	松本　賢哉.小西　奈美		

テーマ

授業の到達目標

「実践看護学Ⅰ～Ⅲ-1・2、実践看護学演習Ⅰ～Ⅲ、実践看護学実習Ⅰ～Ⅱを踏まえ、さまざまな健康課題をもつ対象とその家族への、人によりそう看護の理解を深める。チームの一員として看護実践活動を行い、看護の専門性を考察し、他職種との協働の重要性を学ぶ。」 精神に障害をもつ対象者とのかかわりを通して、個人及びその家族への理解を深める。さらに、生活や対人関係に困難を抱えていることを理解し、自らをケアの道具として最大限に活かし、対象者とかかわるための基礎的実践能力を養う。

授業の概要

精神に障害をもつ人及びその家族への理解を深め、対象者とかかわるための基礎的能力を養う。 1. 対象者を身体的、心理的、社会的な存在として理解する。 2. 援助的な対人関係の基本的技法を学ぶ。 3. 対象者のセルフケアに焦点をあてて看護過程を展開する。 4. 精神保健医療福祉における看護職の役割と地域生活支援のあり方を学ぶ。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

事前学習・復習・課題等については実習ガイダンスにて説明する。また、適宜、実習にてフィードバックを行う。

内容

・主として医療施設で 2 週間行う。 ・患者を一人受け持ち、セルフケアへの援助を中心として看護過程を展開する。 ・受け持ち患者とのかかわりについてプロセスレコードを作成し、分析を行う。 ・リハビリテーションや地域生活支援を理解するために、デイケアなどにおいても実習を行う。 ・学びを共有するために、適宜カンファレンスを行う。 ※詳細については、実習要項を参照すること

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート		小テスト	
授業中課題	50	授業中発表等	

a70103b050

参加度　　50

成績評価方法の備考

目標の達成度、実習態度を含め総合的に評価する。詳細については実習要項を参照すること。

a70103b150

シ ラ バ ス

講義名称	実践看護学実習Ⅲ－５		
クラス		配当回生	学部３回生
講義期間	後期集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	神﨑　光子.工藤　里香		

テーマ

ライフサイクルにおける周産期の母児への看護実践を通して、生涯発達の視点から母児とその家族の健康の保持増進、疾病予防のために必要な看護援助について学び、対象の個別的ニーズに応じた看護を実践する基礎的な能力を養う

授業の到達目標

妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期にある母子とその家族を生理的、心理的、社会的な側面から総合的に理解し、母子や家族の状況に応じたセルフケア能力が獲得でき、育児の準備と実践ができるよう、チームの一員として支援する。

授業の概要

「実践看護学Ⅰ～Ⅲ-1・2、実践看護学演習Ⅰ～Ⅲ、実践看護学実習Ⅰ～Ⅱを踏まえ、さまざまな健康課題をもつ対象とその家族への、人によりそう看護の理解を深める。チームの一員として看護実践活動を行い、看護の専門性を考察し、他職種との協働の重要性を学ぶ。」 ライフサイクルにおける周産期（妊娠、分娩、産褥（新生児）各期）にある母児の看護実践を通じて、生涯発達の視点から周産期にある母児とその家族の健康の保持増進、疾病予防のために必要な看護援助について学び、対象の個別的ニーズに応じた看護を実践する基礎的な能力を養う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

〇妊娠期から産褥期までの看護展開に必要な知識や技術の復習・練習を充分に行ってから実習に臨むこと。 〇実習中は、適宜個別指導を行うことやカンファレンス時、実習記録へのコメントを通して実践についてのフィードバックを行う。

内容

１．　実習場所：産科病棟（産褥室、新生児室、分娩室）および産科外来

２．　実習期間：原則、２週間（月曜日～金曜日まで、初日、最終日は学内実習）

３．　実習方法

１）病棟：妊娠、産褥（新生児）期にある母子を 1～2 例 受け持ち、看護を実践する。機会があれば分娩を見学する。

※受け持ち事例の選定基準

①原則として感染症事例は除く

②産褥期の母子

③入院中の妊婦

※いずれも臨床指導者、教員の合議により選定し、 受け持ち妊産婦の承諾が得られた事例とする

２）産科外来： 妊婦健診、保健指導や産褥 1 ヵ月健康診査の実際を見学ｊし、周産期看護の役割について学ぶ。

３）カンファレンス

①デイリーカンファレンス：日々の実践、見学からの学びを振り返る

②中間・最終カンファレンス：1 週目および 2 週目の病棟実習最終日に実践を振り返る

③学内最終カンファレンス：実習最終日に２週間の実習全体を振り返り、学びを整理する

履修上の注意点

1.　実習上知り得た情報は、一切口外しない、またＳＮＳにおける情報流出を固く禁ずる

2.　実習中の記録の取り扱いに注意し、責任を持って管理すること

3. 風邪など感染症にり患した場合、実習参加が不可となる場合がある

教科書	著者	出版社	出版年

a70103b150

参考書	著者	出版社	出版年
パーフェクト臨床実習ガイド　母性看護	堀内成子	照林社	2017

成績評価

試験・レポート		小テスト	
授業中課題	10	授業中発表等	10
参加度	80		

成績評価方法の備考

実習評価表により評価し、実習記録、レポート、カンファレンス参加度、学習態度を加え総合的に評価する。原則、全日出席とし、補習は実施しない。

a90403b410

シ ラ バ ス

講義名称	救急救命実習（同乗）		
クラス		配当回生	学部３回生
講義期間	秋期集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	関根　和弘.北小屋　裕.千田　いずみ.夏目　美樹.深澤　雄二.福岡　範恭		

テーマ

救急車同乗実習

授業の到達目標

救急車同乗実習により、実際の救急現場活動を見学することによって、出動から現場活動、搬送、医療機関引き継ぎ、救急活動記録記載や救急訓練などの救急業務について習得することを目的とする。

授業の概要

救急車同乗実習協力消防本部にて、実際の救急隊に同乗し救急車出場から現場対応、救急車内活動・搬送、病院における活動を体験する。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

救急隊の活動の概要を web や様々な媒体で調査しておくこと。現場活動を実施した症例は、テキスト等で確認すること。

内容

第 1 回　事前学習及びガイダンス 第 2 回　救急車同乗実習 第 3 回　救急車同乗実習 第 4 回　救急車同乗実習 第 5 回　救急車同乗実習 第 6 回　救急車同乗実習 第 7 回　救急車同乗実習 第 8 回　救急車同乗実習

履修上の注意点

この単位履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。集中講義を行うこともある。

教科書	著者	出版社	出版年
救急救命士標準テキスト　改訂第 9 版　上巻	救急救命士標準テキスト編集委員会	へるす出版	2015
救急救命士標準テキスト　改訂第 9 版　下巻	救急救命士標準テキスト編集委員会	へるす出版	2015

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート	60	小テスト	
授業中課題		授業中発表等	20
参加度	20		

成績評価方法の備考

各消防本部からの個人の報告受けて評価を実施する。60%

シ ラ バ ス

講義名称	救急救命実習（病院）		
クラス		配当回生	学部３回生
講義期間	通年集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	夏目　美樹.北小屋　裕.関根　和弘.千田　いずみ.深澤　雄二.福岡　範恭		

テーマ

医療機関の現場にて展開される救急医療の現状の把握およびそれらに必要な技術の習得。

授業の到達目標

救急医療に関連した知識の応用と救急救命処置に係る技術の習得を主体とすること。さらに既習の知識および技術を駆使し介助等を通じて診療の補助に対する理解を深め観察・判断能力を高めることを目的とする。

授業の概要

救急医療に関連した知識の応用と救急救命処置に係る技術の習得を主体とすること。さらに既習の知識および技術を駆使し介助等を通じて診療の補助に対する理解を深め観察・判断能力を高めることを目的とする。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内容

第１回 学内オリエンテーション､成人看護座学　第２回 学内成人看護演習　第３回 夏期病院実習　第４回 春期病院実習　第５回 各期病院実習後報告検討会

履修上の注意点

この単位履修は、救急救命実習Ⅲの履修状況および履修態度身だしなみとうが実習に不適切と担当教員が判断した場合および、成人看護座学演習に欠席した者は、実習に参加することは出来ない。

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年
改訂第４版日本救急医学会 ICLS コースガイドブック	日本救急医学会 ICLS コース企画運営委員会 ICLS コース教材開発ワーキング	羊土社	2016 年

成績評価

試験・レポート		小テスト	
授業中課題	50	授業中発表等	
参加度	50		

a90403b510

成績評価方法の備考

医療機関実習担当者の評価を参考に学内講義・演習の受講姿勢などにより評価する。

a70102a810

シ ラ バ ス

講義名称	プライマリケア実習Ⅰ		
クラス		配当回生	学部２回生
講義期間	通年集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	堀　妙子.岡田　純子.中橋　苗代.松本　賢哉.深山　つかさ		

テーマ

地域で暮らしている人々の生活場面を実際に知り、人々を取り巻く環境と健康の関係について考える

授業の到達目標

1.地域・産業・学校の場の特性を理解するための方法が説明できる 2.地域・産業・学校の場で生活する人々の健康課題を査定する方法が説明できる 3.地域・産業・学校の場で生活する人々の健康課題の特徴を説明できる 4.保健医療福祉における看護の役割について説明できる 5.保健医療福祉における様々な職種との協働と連携の必要性を説明できる 6.様々な価値観・信条や生活背景をもつ人と接し、その人々を尊重する行動をとり、また守秘義務を遵守する事ができる 7.自己の実践を振り返り、今後の課題を見出す事ができる

授業の概要

看護の対象となる人々が生活している地域・産業・学校の場をとおし、それぞれがおかれている環境を理解したうえで、健康課題を査定し、根拠に基づいた看護援助を実践する基礎的な能力を養う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う。　・適宜、実習中や記録返却時などにフィードバックを行う。

内容

プライマリファミリー（山科区）1 週間 産業・学校　　1 週間 学内演習も含めて 2 週間行う ＊ 詳細は実習要項参照 なお、外部講師を招いて、講演会を開催することがある。

履修上の注意点

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う。

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート	小テスト
授業中課題	授業中発表等
参加度	

成績評価方法の備考

a70102a810

参加態度：50%、提出物：50%（それぞれの実習での評価を合わせて行う）

シ ラ バ ス

講義名称	プライマリケア実習Ⅱ		
クラス		配当回生	学部３回生
講義期間	通年集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	餅田　敬司.岡田　純子.河原　宣子.黒瀧　安紀子.常田　裕子.中橋　苗代.松本　賢哉.深山　つかさ		

テーマ

生活の営みの中で人々の健康生活を支えるための看護活動（PF の訪問活動、訪問看護ステーション、デイケア・デイサービスセンターまたは地域包括支援センターにおける看護活動）の体験を通して、地域の保健医療福祉機関の看護職の役割と関係職種との連携、さらに地域における保健福祉行政の政策のあり方について学ぶ。

授業の到達目標

1.プライマリーファミリーの訪問活動を通して、地域で暮らす人々の健康課題に対する援助方法と看護職の役割について理解する。　1）プライマリーファミリーの生活をより深く知り、健康の維持・増進のために必要な看護を考えることができる。　2）プライマリーファミリーとの援助的な対人関係を築くためのコミュニケーションについて考えることができる。 2.個人および家族の生活を把握し、健康状態との関連を考察するとともに、対象の生活の営みに即した地域での看護活動の展開方法を説明できる。 3.地域の特性や社会資源に関する資料・健康指標から健康課題を把握し、課題解決に必要な看護援助方法を説明できる。 4.地域における看護職、関係機関および関係職種の機能・役割について説明できる。 5.保健・医療・福祉などの専門職および地域の人々との協働活動の意義、地域における保健福祉行政の政策のあり方について理解できる。

授業の概要

・生活の営みの中で人々の健康生活を支えるための看護活動（PF の訪問活動、訪問看護ステーション、デイケア・デイサービスセンターまたは地域包括支援センターにおける看護活動）の体験を通して、地域の保健医療福祉機関の看護職の役割と関係職種との連携、さらに地域における保健福祉行政の政策のあり方について学ぶ。　・適宜、実習中や記録返却時などにフィードバックを行う。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

プライマリーファミリー、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、デイケア・デイサービス施設の概要と関連法規について事前に学習しておくこと。

内容

実習期間および場所は、プライマリーファミリー(1 週間)、訪問看護ステーション(1 週間)、デイケア・デイサービスまたは地域包括支援センター（1 週間)、計 3 週間とする。　＊詳細は、実習要項参照のこと

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年
地域療養を支えるケア	臺有桂・石田千絵・山下留理子	メディカ出版	2017

参考書	著者	出版社	出版年
在宅療養を支える技術	臺有桂・石田千絵・山下留理子	メディカ出版	2018

a70103b210

成績評価

試験・レポート	小テスト
授業中課題	授業中発表等
参加度	

成績評価方法の備考

実習場所それぞれに定める方法に基づいて、総合的に評価する。

シ ラ バ ス

講義名称	プライマリケア実習Ⅲ		
クラス		配当回生	学部４回生
講義期間	通年集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	松本　賢哉.岡田　純子.奥野　信行.梶谷　佳子.上澤　悦子.河原　宣子.神﨑　光子.工藤　里香.黒瀧　安紀子.小西　奈美.常田　裕子.中橋　苗代.野島　敬祐.堀　妙子.マルティネス　真喜子.深山　つかさ.餅田　敬司		

テーマ

授業の到達目標

人々を取り巻く環境とあらゆる健康や疾病に対して総合的・継続的・全人的に対応する地域の政策と機能について理解し、健康に関する社会問題を解決するための政策形成過程を学ぶ。

授業の概要

1.プライマリーファミリーの訪問活動を通して、地域で暮らす人々の健康課題に対する援助(実践)への評価を行い、地域に共通する健康課題を明らかにするとともに、解決するための方法を検討できる。 2.地域に暮らす人々の尊厳ある生活を継続するために、その営みに即した必要な支援を構築する方法を説明できる。 3.地域の保健・医療・福祉サービスや地域のインフォーマルサービスなど多様な社会資源を用いて、個人や地域の特性に対応した看護援助や健康環境づくりについて説明できる。 4.地域に暮らす人々の健康に関する社会問題を明らか

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・プライマリーファミリー、地域包括支援センター、地域介護予防推進センター、居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護支援事業所、ディケア、ディサービスの概要と関連法規について事前に学習しておくこと ・適宜実習計画作成時や実習中にフィードバックを行う。

内容

授業内容 実習期間および場所は、プライマリーファミリー(2 日間)および、地域包括支援センター・地域介護予防推進センター・居宅介護支援事業所・小規模多機能型居宅介護支援事業所・ディケア・ディサービス（5 日間)とする。 ＊詳細は、実習要項参照のこと

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート		小テスト	
授業中課題	40	授業中発表等	30
参加度	30		

a70104a410

成績評価方法の備考

実習場所それぞれに定める方法に基づいて，総合的に評価する。

シ ラ バ ス

講義名称	ライフサイクル論実習		
クラス		配当回生	学部１回生
講義期間	通年集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	堀　妙子.松本　賢哉.深山　つかさ		

テーマ

地域で生活している高齢者や乳幼児と接し成長発達の特徴に関して学ぶ

授業の到達目標

地域で生活するさまざまな発達段階の人と関わり、人の成長発達・健康・生活・環境の視点から対象を理解し、その健康課題を査定するために必要な基礎的能力を養う。

授業の概要

1.地域で暮らす乳幼児や高齢者の成長発達に応じた身体的変化、認知や感情、心理社会的変化を理解し、説明できる。 2.地域で暮らす乳幼児や高齢者の日常生活の様子、環境について理解し説明できる。 3.地域で暮らす乳幼児や高齢者の成長発達・生活・環境と健康課題の関係について説明できる。 4.地域で暮らす乳幼児や高齢者との関わりにおいて、適切なコミュニケーションをとることができる。 5.地域で暮らす乳幼児や高齢者との関わりにおいて、相手を尊重する行動をとり、また守秘義務を遵守できる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

・実習ガイダンスの際に説明を行う。 ・適宜、実習中や実習記録返却時などにフィードバックを行う。

内容

授業内容 学内演習（高齢者疑似体験、子どもの日常生活の世話） 老人クラブの活動(体力測定会など）に参加 こども園での実習 京あんしん子ども館見学実習 ライフサイクル論実習のまとめ これらを全てあわせて１週間の実習とする ＊詳細は実習要項参照

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年

成績評価

試験・レポート	小テスト
授業中課題	授業中発表等
参加度	

成績評価方法の備考

a70101a710

実習への参加態度：50%、提出物：50%で合わせて評価を行う。

h701510810

シ ラ バ ス

講義名称	特別研究Ⅰ <D a>		
クラス		配当回生	大学院１回生
講義期間	通年集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	上澤　悦子		

テーマ

博士論文研究計画書の作成

授業の到達目標

看護学に関する新たな知の構築に向けて、アウトカムリサーチを志向した研究デザインを検討し、評価指標と研究方法を決定し、博士論文に向けて自立的に研究計画を立案する能力を獲得する。

授業の概要

１年次から２年次にかけて主指導教員および副指導教員の指導を受けながら、研究課題を特定のテーマに絞り込み、博士論文として取り組む準備を整える。文献レビューは最新の知見が明確になるよう国内外の論文を十分に批評し、独創性の高い研究となるよう研究目的を明確にする。アウトカムリサーチを志向した研究デザインと研究方法を検討し、研究における倫理的な検討を十分に行う。研究計画をより洗練するために第１回公開発表会（中間発表会）をもち、合格することで特別研究Ⅱの過程に進む。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内容

第１回　ガイダンス　合同
第２回　取り組みたい研究分野　研究疑問　合同セッション①
第３回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第４回　〃
第５回　〃
第６回　〃
第７回　〃
第８回　〃
第９回　〃
第 10 回　研究背景の報告会　合同セッション②
第 11 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 12 回　〃
第 13 回　〃
第 14 回　〃
第 15 回　〃
第 16 回　〃
第 17 回　〃
第 18 回　〃
第 19 回　〃
第 20 回　研究計画(案)の報告会　合同セッション③
第 21 回　研究計画書　作成
第 22 回　〃
第 23 回　〃
第 24 回　〃
第 25 回　〃
第 26 回　〃

第 27 回	〃
第 28 回	〃
第 29 回	〃
第 30 回	研究計画書の発表　合同セッション④
第 31 回	
第 32 回	
第 33 回	
第 34 回	
第 35 回	
第 36 回	
第 37 回	
第 38 回	
第 39 回	
第 40 回	
第 41 回	
第 42 回	
第 43 回	
第 44 回	
第 45 回	
第 46 回	
第 47 回	
第 48 回	
第 49 回	
第 50 回	
第 51 回	
第 52 回	
第 53 回	
第 54 回	
第 55 回	
第 56 回	
第 57 回	
第 58 回	
第 59 回	
第 60 回	

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年

h701510810

成績評価			
試験・レポート		小テスト	
授業中課題		授業中発表等	50
参加度	50		

成績評価方法の備考

h701510812

シ ラ バ ス

講義名称	特別研究Ⅰ <D b>		
クラス		配当回生	大学院１回生
講義期間	通年集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	沼本　教子		

テーマ

授業の到達目標

看護学に関する新たな知の構築に向けて、アウトカムリサーチを志向した研究デザインを検討し、評価指標と研究方法を決定し、博士論文に向けて自立的に研究計画を立案する能力を獲得する。

授業の概要

１年次から２年次にかけて主指導教員および副指導教員の指導を受けながら、研究課題を特定のテーマに絞り込み、博士論文として取り組む準備を整える。文献レビューは最新の知見が明確になるよう国内外の論文を十分に批評し、独創性の高い研究となるよう研究目的を明確にする。アウトカムリサーチを志向した研究デザインと研究方法を検討し、研究における倫理的な検討を十分に行う。研究計画をより洗練するために第１回公開発表会（中間発表会）をもち、合格することで特別研究Ⅱの過程に進む。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内容

第１回　ガイダンス　合同
第２回　取り組みたい研究分野　研究疑問　合同セッション①
第３回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第４回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第５回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第６回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第７回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第８回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第９回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第 10 回　研究背景の報告会　合同セッション②
第 11 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 12 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 13 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 14 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 15 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 16 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 17 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 18 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 19 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 20 回　研究計画(案)の報告会　合同セッション③
第 21 回　研究計画書　作成
第 22 回　研究計画書　作成
第 23 回　研究計画書　作成
第 24 回　研究計画書　作成
第 25 回　研究計画書　作成
第 26 回　研究計画書　作成

第 27 回　研究計画書　作成

第 28 回　研究計画書　作成

第 29 回　研究計画書　作成

第 30 回　研究計画書の発表　合同セッション④

第 31 回　研究計画書の発表　合同セッション④

第 32 回　研究計画書　修正と完成

第 33 回　研究計画書　修正と完成

第 34 回　研究計画書　修正と完成

第 35 回　研究計画書　修正と完成

第 36 回　研究計画書　修正と完成

第 37 回　研究計画書　修正と完成

第 38 回　研究計画書　修正と完成

第 39 回　研究計画書　修正と完成

第 40 回　研究計画書　修正と完成

第 41 回　研究計画書　公開発表会

第 42 回　研究計画書　公開発表会

第 43 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 44 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 45 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 46 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 47 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 48 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 49 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 50 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 51 回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始

第 52 回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始

第 53 回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始

第 54 回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始

第 55 回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始

第 56 回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化

第 57 回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化

第 58 回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化

第 59 回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化

第 60 回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年
The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)	American Nurses Association		2007

h701510812

成績評価			
試験・レポート		小テスト	
授業中課題		授業中発表等	50%
参加度	50%		

成績評価方法の備考

h701510950

シ ラ バ ス

講義名称	特別研究Ⅱ <D a>		
クラス		配当回生	大学院２回生
講義期間	後期集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	小板橋　喜久代		

テーマ

授業の到達目標

特別研究Ⅰの研究計画を実施し、データ収集を経て分析し、新たな知の構築をめざして水準の高い研究論文を作成する。審査ならびに第２回公開発表会を経て、博士論文を完成する。これらの過程を経て、自立的に研究を実施、評価する能力を獲得する。

授業の概要

特別研究Ⅰで立案した研究計画をもとに、主指導教員および副指導教員の指導を受けながら研究活動を実施する。研究活動によって得られたデータを分析し、新たな知の構築をめざして研究論文としてまとめ、審査ならびに公開発表を経て博士論文を完成させる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内容

第１回　データ収集と分析
第２回　データ収集と分析
第３回　データ収集と分析
第４回　データ収集と分析
第５回　データ収集と分析
第６回　データ収集と分析
第７回　データ収集と分析
第８回　データ収集と分析
第９回　データ収集と分析
第 10 回　データ収集と分析
第 11 回　結果の論述
第 12 回　結果の論述
第 13 回　結果の論述
第 14 回　結果の論述
第 15 回　結果の論述
第 16 回　結果の論述
第 17 回　結果の論述
第 18 回　結果の論述
第 19 回　結果の論述
第 20 回　結果の論述
第 21 回　分析・考察して論文全体の作成
第 22 回　分析・考察して論文全体の作成
第 23 回　分析・考察して論文全体の作成
第 24 回　分析・考察して論文全体の作成
第 25 回　分析・考察して論文全体の作成
第 26 回　分析・考察して論文全体の作成
第 27 回　分析・考察して論文全体の作成
第 28 回　分析・考察して論文全体の作成

第 29 回	分析・考察して論文全体の作成
第 30 回	分析・考察して論文全体の作成
第 31 回	博士論文全体の要旨、骨子の整理したものを発表　合同セッション①
第 32 回	博士論文全体の要旨、骨子の整理したものを発表　合同セッション①
第 33 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 34 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 35 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 36 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 37 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 38 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 39 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 40 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 41 回	予備審査
第 42 回	予備審査
第 43 回	博士論文の修正・洗練
第 44 回	博士論文の修正・洗練
第 45 回	博士論文の修正・洗練
第 46 回	博士論文の修正・洗練
第 47 回	博士論文の修正・洗練
第 48 回	博士論文の修正・洗練
第 49 回	博士論文の修正・洗練
第 50 回	博士論文の修正・洗練
第 51 回	博士論文の修正と最終提出
第 52 回	博士論文の修正と最終提出
第 53 回	博士論文の修正と最終提出
第 54 回	博士論文の修正と最終提出
第 55 回	博士論文の修正と最終提出
第 56 回	博士論文　公開発表会／最終審査
第 57 回	博士論文　公開発表会／最終審査
第 58 回	論文作成過程　合同セッション②
第 59 回	論文作成過程　合同セッション②
第 60 回	論文作成過程　合同セッション②

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年
The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)	American Nurses Association		2007

h701510950

成績評価			
試験・レポート		小テスト	
授業中課題		授業中発表等	50%
参加度	50%		

成績評価方法の備考

h701510952

シ ラ バ ス

講義名称	特別研究Ⅱ <D b>		
クラス		配当回生	大学院２回生
講義期間	後期集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	沼本　教子		

テーマ

授業の到達目標

特別研究Ⅰの研究計画を実施し、データ収集を経て分析し、新たな知の構築をめざして水準の高い研究論文を作成する。審査ならびに第２回公開発表会を経て、博士論文を完成する。これらの過程を経て、自立的に研究を実施、評価する能力を獲得する。

授業の概要

特別研究Ⅰで立案した研究計画をもとに、主指導教員および副指導教員の指導を受けながら研究活動を実施する。研究活動によって得られたデータを分析し、新たな知の構築をめざして研究論文としてまとめ、審査ならびに公開発表を経て博士論文を完成させる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内容

第１回　データ収集と分析
第２回　データ収集と分析
第３回　データ収集と分析
第４回　データ収集と分析
第５回　データ収集と分析
第６回　データ収集と分析
第７回　データ収集と分析
第８回　データ収集と分析
第９回　データ収集と分析
第 10 回　データ収集と分析
第 11 回　結果の論述
第 12 回　結果の論述
第 13 回　結果の論述
第 14 回　結果の論述
第 15 回　結果の論述
第 16 回　結果の論述
第 17 回　結果の論述
第 18 回　結果の論述
第 19 回　結果の論述
第 20 回　結果の論述
第 21 回　分析・考察して論文全体の作成
第 22 回　分析・考察して論文全体の作成
第 23 回　分析・考察して論文全体の作成
第 24 回　分析・考察して論文全体の作成
第 25 回　分析・考察して論文全体の作成
第 26 回　分析・考察して論文全体の作成
第 27 回　分析・考察して論文全体の作成
第 28 回　分析・考察して論文全体の作成

第 29 回	分析・考察して論文全体の作成
第 30 回	分析・考察して論文全体の作成
第 31 回	博士論文全体の要旨、骨子の整理したものを発表　合同セッション①
第 32 回	博士論文全体の要旨、骨子の整理したものを発表　合同セッション①
第 33 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 34 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 35 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 36 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 37 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 38 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 39 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 40 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 41 回	予備審査
第 42 回	予備審査
第 43 回	博士論文の修正・洗練
第 44 回	博士論文の修正・洗練
第 45 回	博士論文の修正・洗練
第 46 回	博士論文の修正・洗練
第 47 回	博士論文の修正・洗練
第 48 回	博士論文の修正・洗練
第 49 回	博士論文の修正・洗練
第 50 回	博士論文の修正・洗練
第 51 回	博士論文の修正と最終提出
第 52 回	博士論文の修正と最終提出
第 53 回	博士論文の修正と最終提出
第 54 回	博士論文の修正と最終提出
第 55 回	博士論文の修正と最終提出
第 56 回	博士論文　公開発表会／最終審査
第 57 回	博士論文　公開発表会／最終審査
第 58 回	論文作成過程　合同セッション②
第 59 回	論文作成過程　合同セッション②
第 60 回	論文作成過程　合同セッション②

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年
The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)	American Nurses Association		2007

h701510952

成績評価

試験・レポート		小テスト	
授業中課題		授業中発表等	50%
参加度	50%		

成績評価方法の備考

h701511010

シ ラ バ ス

講義名称	特別研究Ⅰ（２回生枠） <Ｄａ>		
クラス		配当回生	大学院２回生
講義期間	前期集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	小板橋　喜久代		

テーマ

授業の到達目標

看護学に関する新たな知の構築に向けて、アウトカムリサーチを志向した研究デザインを検討し、評価指標と研究方法を決定し、博士論文に向けて自立的に研究計画を立案する能力を獲得する。

授業の概要

○概要：１年次から２年次にかけて主指導教員および副指導教員の指導を受けながら、研究課題を特定のテーマに絞り込み、博士論文として取り組む準備を整える。文献レビューは最新の知見が明確になるよう国内外の論文を十分に批評し、独創性の高い研究となるよう研究目的を明確にする。アウトカムリサーチを志向した研究デザインと研究方法を検討し、研究における倫理的な検討を十分に行う。研究計画をより洗練するために第１回公開発表会（中間発表会）をもち、合格することで特別研究Ⅱの過程に進む。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内容

第１回　ガイダンス　合同
第２回　取り組みたい研究分野　研究疑問　合同セッション①
第３回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第４回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第５回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第６回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第７回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第８回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第９回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第 10 回　研究背景の報告会　合同セッション②
第 11 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 12 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 13 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 14 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 15 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 16 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 17 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 18 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 19 回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第 20 回　研究計画(案)の報告会　合同セッション③
第 21 回　研究計画書　作成
第 22 回　研究計画書　作成
第 23 回　研究計画書　作成
第 24 回　研究計画書　作成
第 25 回　研究計画書　作成
第 26 回　研究計画書　作成

第 27 回　研究計画書　作成

第 28 回　研究計画書　作成

第 29 回　研究計画書　作成

第 30 回　研究計画書の発表　合同セッション④

第 31 回　研究計画書の発表　合同セッション④

第 32 回　研究計画書　修正と完成

第 33 回　研究計画書　修正と完成

第 34 回　研究計画書　修正と完成

第 35 回　研究計画書　修正と完成

第 36 回　研究計画書　修正と完成

第 37 回　研究計画書　修正と完成

第 38 回　研究計画書　修正と完成

第 39 回　研究計画書　修正と完成

第 40 回　研究計画書　修正と完成

第 41 回　研究計画書　公開発表会

第 42 回　研究計画書　公開発表会

第 43 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 44 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 45 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 46 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 47 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 48 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 49 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 50 回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出

第 51 回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始

第 52 回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始

第 53 回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始

第 54 回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始

第 55 回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整 必要によってはプレテスト的なデータ収集開始

第 56 回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化

第 57 回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化

第 58 回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化

第 59 回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化

第 60 回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化

履修上の注意点

この間に博士課程の副論文的な研究は別途、計画書と倫理委員会審査によって実施し、研究論文の作成をすることは可能である。

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年
The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)		American Nurses Association	2007

h701511010

成績評価			
試験・レポート		小テスト	
授業中課題		授業中発表等	50
参加度	50		

成績評価方法の備考

h701511154

シ ラ バ ス

講義名称	特別研究Ⅱ（３回生枠） <D d>		
クラス		配当回生	大学院３回生
講義期間	通年集中	定員	
履修条件		クラス指定	
担当者	小板橋　喜久代		

テーマ

授業の到達目標

特別研究Ｉの研究計画を実施し、データ収集を経て分析し、新たな知の構築をめざして水準の高い研究論文を作成する。審査ならびに第２回公開発表会を経て、博士論文を完成する。これらの過程を経て、自立的に研究を実施、評価する能力を獲得する。

授業の概要

○概要：特別研究Ｉで立案した研究計画をもとに、主指導教員および副指導教員の指導を受けながら研究活動を実施する。研究活動によって得られたデータを分析し、新たな知の構築をめざして研究論文としてまとめ、審査ならびに公開発表を経て博士論文を完成させる。

準備学習（予習・復習・課題に対するフィードバック）

内容

第１回　データ収集と分析
第２回　データ収集と分析
第３回　データ収集と分析
第４回　データ収集と分析
第５回　データ収集と分析
第６回　データ収集と分析
第７回　データ収集と分析
第８回　データ収集と分析
第９回　データ収集と分析
第 10 回　データ収集と分析
第 11 回　結果の論述
第 12 回　結果の論述
第 13 回　結果の論述
第 14 回　結果の論述
第 15 回　結果の論述
第 16 回　結果の論述
第 17 回　結果の論述
第 18 回　結果の論述
第 19 回　結果の論述
第 20 回　結果の論述
第 21 回　分析・考察して論文全体の作成
第 22 回　分析・考察して論文全体の作成
第 23 回　分析・考察して論文全体の作成
第 24 回　分析・考察して論文全体の作成
第 25 回　分析・考察して論文全体の作成
第 26 回　分析・考察して論文全体の作成
第 27 回　分析・考察して論文全体の作成
第 28 回　分析・考察して論文全体の作成

第 29 回	分析・考察して論文全体の作成
第 30 回	分析・考察して論文全体の作成
第 31 回	博士論文全体の要旨、骨子の整理したものを発表　合同セッション①
第 32 回	博士論文全体の要旨、骨子の整理したものを発表　合同セッション①
第 33 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 34 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 35 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 36 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 37 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 38 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 39 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 40 回	博士論文の作成、予備審査準備
第 41 回	予備審査
第 42 回	予備審査
第 43 回	博士論文の修正・洗練
第 44 回	博士論文の修正・洗練
第 45 回	博士論文の修正・洗練
第 46 回	博士論文の修正・洗練
第 47 回	博士論文の修正・洗練
第 48 回	博士論文の修正・洗練
第 49 回	博士論文の修正・洗練
第 50 回	博士論文の修正・洗練
第 51 回	博士論文の修正と最終提出
第 52 回	博士論文の修正と最終提出
第 53 回	博士論文の修正と最終提出
第 54 回	博士論文の修正と最終提出
第 55 回	博士論文の修正と最終提出
第 56 回	博士論文　公開発表会／最終審査
第 57 回	博士論文　公開発表会／最終審査
第 58 回	論文作成過程　合同セッション②
第 59 回	論文作成過程　合同セッション②
第 60 回	論文作成過程　合同セッション②

履修上の注意点

教科書	著者	出版社	出版年

参考書	著者	出版社	出版年
The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)		American Nurses Association	2007

h701511154

成績評価

試験・レポート		小テスト	
授業中課題		授業中発表等	50%
参加度	50%		

成績評価方法の備考